

**Basic Grammar a**

—SAクラス・SBクラス・SCクラス・SDクラス—

(SA)植野 達郎(SB)木口 圭子(SC)大関 啓子(SD)田丸 由美子

1年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

この授業では、今まで英語について学習した内容を踏まえ、基本的な文法事項の復習をしながら、英文学科の専門科目の学習に必要な読解力を高め、英語の効果的な学習方法を身につけることを目的とする。

**【授業における到達目標】**

2年次以降の学修の基礎となる英語の読解力を定着させるとともに、自律的に学習に取り組む姿勢と技術を身につけることを目標とする。これらを通じて「国際的視野」と「研鑽力」を身につける。

**【授業の内容】**

この授業は演習形式で進める。内容は以下の通りである。

- ・基本的な文法事項を再確認する。
- ・英文を正確に読む。
- ・英語の語彙を増やす。
- ・効果的な英語の学習方法を身につける。

上記の内容を踏まえ担当教員毎に15週に渡って授業が行われる。

- 第1週 インTRODクシヨン 英語の学習方法・辞書の使い方  
 第2週 文法の復習 品詞  
 第3週 文法の復習 時制  
 第4週 文法の復習 態  
 第5週 文法の復習 助動詞  
 第6週 文法の復習 不定詞  
 第7週 文法の復習 分詞  
 第8週 文法の復習 分詞構文  
 第9週 文法の復習 話法  
 第10週 文法の復習 比較  
 第11週 文法の復習 前置詞  
 第12週 読解の基礎  
 第13週 読解の応用  
 第14週 読解の実践  
 第15週 まとめ

上記の15週の内容は、クラスのレベルによって変更となる場合がある。各クラス担当教員の指示に従うこと。

**【事前・事後学修】**

毎回の授業前に、テキストの該当箇所をよく読み、単語の意味の確認、不明な点の洗い出しを済ませた上で出席すること。その他、授業内で指示のあった作業を済ませておくこと【週2時間】。授業後には、学習した単語や文法事項が他の箇所で使用されている例はないかなどを意識しながら、理解の定着を進めること。各回の授業に並行して、e-learningシステムを利用して語彙力向上に努めること【週2時間】。

**【テキスト・教材】**

授業時に担当教員より指示される。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業態度・課題・e-learning）50%

試験・レポート50%

フィードバックは翌回以降の授業時に行う。

**【参考書】**

必要に応じて担当教員より指示される。

**【注意事項】**

授業には英和辞典を必ず持参すること。

演習科目であるため、一方通行に終始することがないように積極的な参加が望まれる。

**Basic Grammar b**

—SAクラス・SBクラス・SCクラス・SDクラス—

(SA)木口 圭子(SB)田丸 由美子(SC)土屋 結城(SD)吉本 真由美

1年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

「Basic Grammar a」で学習した内容を踏まえ、文法事項の復習をしながら、主に2年次以降の専門科目の学習に必要な読解力を高め、英語の効果的な学習方法を身につけることを目標とする。

**【授業における到達目標】**

2年次以降の学修の基礎となる英語の読解力を定着させるとともに、自律的に学習に取り組む姿勢と技術を身につけることを目標とする。これらを通じて「国際的視野」と「研鑽力」を身につける。

**【授業の内容】**

この授業は演習形式で進める。内容は以下の通りである。

- ・基本的な文法事項を再確認する。
- ・英文をより早く、より正確に読む。
- ・英語の語彙を増やす。
- ・効果的な英語の学習方法を身につける。

上記の内容を踏まえ担当教員毎に15週に渡って授業が行われる。

- 第1週 インTRODクシヨン ささまざまな辞書の使い方  
 第2週 文法の復習 接続詞  
 第3週 文法の復習 法  
 第4週 文法の復習 関係詞  
 第5週 文法の復習 句  
 第6週 文法の復習 節  
 第7週 文法の復習 単文と複文  
 第8週 文法の復習 特殊構文  
 第9週 文法の復習 名詞  
 第10週 文法の復習 冠詞  
 第11週 文法の復習 動詞  
 第12週 長文読解の方法  
 第13週 長文読解の実践  
 第14週 長文の精読  
 第15週 まとめ

上記の15週の内容は、クラスのレベルによって変更となる場合がある。各クラス担当教員の指示に従うこと。

**【事前・事後学修】**

毎回の授業前に、テキストの該当箇所をよく読み、単語の意味の確認、不明な点の洗い出しを済ませた上で出席すること。その他、授業内で指示のあった作業を済ませておくこと【週2時間】。授業後には、学習した単語や文法事項が他の箇所で使用されている例はないかなどを意識しながら、理解の定着を進めること。各回の授業に並行して、e-learningシステムを利用して語彙力向上に努めること【週2時間】。

**【テキスト・教材】**

授業時に担当教員より指示される。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業態度・課題・e-learning）50%

試験・レポート50%

フィードバックは翌回以降の授業時に行う。

**【参考書】**

必要に応じて担当教員より指示される。

**【注意事項】**

授業には英和辞典を必ず持参すること。

演習科目であるため、一方通行に終始することがないように積極的な参加が望まれる。

**Basic Reading a**

—SAクラス・SBクラス・SCクラス・SDクラス—

(SA)田丸 由美子(SB)青砥 吉隆(SC)木口 圭子(SD)志渡岡 理恵

1年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

この授業では、今まで英語について学習した内容を踏まえ、基本的な語彙・文法事項の復習をしながら、英文学科の専門科目の学習に必要な読解力を高め、英語の効果的な学習方法を身につけることを目的とする。

**【授業における到達目標】**

2年次以降の学修の基礎となる英語の読解力を定着させるとともに、自律的に学習に取り組む姿勢と技術を身につけることを目標とする。これらを通じて「国際的視野」と「研鑽力」を身につける。

**【授業の内容】**

この授業は演習形式で進める。内容は以下の通りである。

- ・基本的な文法事項を再確認する。
- ・英文を正確に読む。
- ・英語の語彙を増やす。
- ・効果的な英語の学習方法を身につける。

上記の内容を踏まえ担当教員毎に15週に渡って授業が行われる。

第1週	イントロダクション	英語の学習方法・辞書の使い方
第2週	長文1	大意把握、語彙確認
第3週	長文1	精読、文法確認
第4週	長文1	精読、問題演習
第5週	長文2	大意把握、語彙確認
第6週	長文2	精読、文法確認
第7週	長文2	精読、問題演習
第8週	長文3	大意把握、語彙確認
第9週	長文3	精読、文法確認
第10週	長文3	精読、問題演習
第11週	長文4	大意把握、語彙確認
第12週	長文4	精読、文法確認
第13週	長文4	精読、問題演習
第14週	長文読解のポイント	
第15週	まとめ	

上記の15週の内容は、クラスのレベルによって変更となる場合がある。各クラス担当教員の指示に従うこと。

**【事前・事後学修】**

毎回の授業前に、テキストの該当箇所をよく読み、単語の意味の確認、不明な点の洗い出しを済ませた上で出席すること。その他、授業内で指示のあった作業を済ませておくこと【週2時間】。授業後には、学習した単語や文法事項が他の箇所で使用されている例はないかなどを意識しながら、理解の定着を進めること【週2時間】。

**【テキスト・教材】**

授業時に担当教員より指示される。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業態度・課題）50%

試験・レポート50%

フィードバックは翌回以降の授業時に行う。

**【参考書】**

必要に応じて担当教員より指示される。

**【注意事項】**

授業には英和辞典を必ず持参すること。

演習科目であるため、一方通行に終始することがないように積極的な参加が望まれる。

**Basic Reading b**

—SAクラス・SBクラス・SCクラス・SDクラス—

(SA)大関 啓子(SB)西野 方子(SC)田丸 由美子(SD)木口 圭子

1年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

「ペイシック・イングリッシュa」で学習した内容を踏まえ、語彙・文法事項の復習をしながら、主に2年次以降の専門科目の学習に必要な読解力を高め、英語の効果的な学習方法を身につけることを目標とする。

**【授業における到達目標】**

2年次以降の学修の基礎となる英語の読解力を定着させるとともに、自律的に学習に取り組む姿勢と技術を身につけることを目標とする。これらを通じて「国際的視野」と「研鑽力」を身につける。

**【授業の内容】**

この授業は演習形式で進める。内容は以下の通りである。

- ・基本的な文法事項を再確認する。
- ・英文をより早く、より正確に読む。
- ・英語の語彙を増やす。
- ・効果的な英語の学習方法を身につける。

上記の内容を踏まえ担当教員毎に15週に渡って授業が行われる。

第1週	イントロダクション	さまざまな辞書の使い方
第2週	長文1	大意把握、語彙確認
第3週	長文1	精読、文法確認
第4週	長文1	精読、問題演習
第5週	長文2	大意把握、語彙確認
第6週	長文2	精読、文法確認
第7週	長文2	精読、問題演習
第8週	長文3	大意把握、語彙確認
第9週	長文3	精読、文法確認
第10週	長文3	精読、問題演習
第11週	長文4	大意把握、語彙確認
第12週	長文4	精読、文法確認
第13週	長文4	精読、問題演習
第14週	長文読解の応用	
第15週	まとめ	

上記の15週の内容は、クラスのレベルによって変更となる場合がある。各クラス担当教員の指示に従うこと。

**【事前・事後学修】**

毎回の授業前に、テキストの該当箇所をよく読み、単語の意味の確認、不明な点の洗い出しを済ませた上で出席すること。その他、授業内で指示のあった作業を済ませておくこと【週2時間】。授業後には、学習した単語や文法事項が他の箇所で使用されている例はないかなどを意識しながら、理解の定着を進めること【週2時間】。

**【テキスト・教材】**

授業時に担当教員より指示される。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業態度・課題）50%

試験・レポート50%

フィードバックは翌回以降の授業時に行う。

**【参考書】**

必要に応じて担当教員より指示される。

**【注意事項】**

授業には英和辞典を必ず持参すること。

演習科目であるため、一方通行に終始することがないように積極的な参加が望まれる。

**Basic Speaking a**

—SAクラス・SBクラス・SCクラス・SDクラス・SEクラス—

(SA)パーティウム, D(SB)フルトン, スチュワート(SC)ラーソン, マイケル(SD)パーティウム, D(SE)ラーソン, マイケル  
1年 前期 1単位

◎: 国際的視野 ○: 行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

The purpose of this course is to provide students with basic English communication skills and a foundation for further studies in the English language. This course is a required one-semester course for first-year students.

**【授業における到達目標】**

Students, upon the completion of this course, will attain the basic ability of effectively communicating in English, and confidence in doing so. That will lead to developing 「国際的視野」 「行動力」 and 「協働力」 as a student of the English department.

**【授業の内容】**

The main focus will be on improving students' English proficiency skills through speaking and listening exercises. Students are also expected to do regular reading and writing exercises. Pronunciation and grammar will be emphasized.

1st week Introduction  
2nd week Pronunciation Vowels  
3rd week Pronunciation Consonants  
4th week Intonation  
5th week Self-introduction  
6th week Group Introduction  
7th week College Life  
8th week Part-time Jobs  
9th week Club Activities  
10th week Travel  
11th week Studying Abroad  
12th week Hobby  
13th week Future  
14th week Family  
15th week Group Work

The subjects will change according to the level of the class.

**【事前・事後学修】**

Students should preview the appropriate part in the textbook or handouts before each class, especially with regard to unfamiliar expressions, collocations and sentence patterns [2 hours]. Students should also try to use these items themselves in classes afterwards [2 hours].

**【テキスト・教材】**

Instructors will select a textbook or provide handouts from a variety of sources.

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

Students in this course are expected to (1) participate in all classroom projects and discussions, and (2) maintain good attendance for the semester. Final grades will be based upon a combination of classroom participation (70%), and completion of all assignments (30%). Feedback will be given on the assignments submitted. Also, every interaction in the class will function as feedback.

**【注意事項】**

Three tardies (coming to class late) equal one absence.

**Basic Speaking b**

—SAクラス・SBクラス・SCクラス・SD・SEクラス—

(SA)パーティウム, D(SB)フルトン, スチュワート(SC)ラーソン, マイケル(SD)パーティウム, D(SE)ラーソン, マイケル  
1年 後期 1単位

◎: 国際的視野 ○: 行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

This is a required one-semester course that continues where "Basic Speaking a" finished. (Note however that this course is independent of "Basic Speaking a.") The purpose of this course is to enhance first-year students' basic English proficiency skills.

**【授業における到達目標】**

Students, upon the completion of this course, will attain the basic ability of effectively communicating in English, and confidence in doing so. That will lead to developing 「国際的視野」 「行動力」 and 「研鑽力」 as a student of the English department.

**【授業の内容】**

The main focus will be on improving students' proficiency through speaking and listening exercises. Students are also expected to do regular reading and writing exercises. Pronunciation and grammar will be emphasized. The coursework will engage students in role-plays, information exchanges and group skits.

1st week Introduction  
2nd week Pronunciation Vowels  
3rd week Pronunciation Consonants  
4th week Intonation  
5th week Group Work  
6th week Group Presentation  
7th week Pair Work  
8th week Pair Presentation  
9th week Group Discussion  
10th week Group Writing  
11th week Pair Discussion  
12th week Pair Writing  
13th week Class Discussion  
14th week Class Presentation  
15th week Review

The subjects will change according to the level of the class.

**【事前・事後学修】**

Students should preview the appropriate part in the textbook or handouts before each class, especially with regard to unfamiliar expressions, collocations and sentence patterns [2 hours]. Students should also try to use these items themselves in classes afterwards [2 hours].

**【テキスト・教材】**

Instructors will select a textbook or provide handouts from a variety of sources.

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

Students in this course are expected to (1) participate in all classroom projects and discussions, and (2) maintain good attendance for the semester. Final grades will be based upon a combination of classroom participation(70%), and completion of all assignments(30%).

Feedback will be given on the assignments submitted. Also, every interaction in the class will function as feedback.

**【注意事項】**

Three tardies (coming to class late) equal one absence.

## Effective Communication A

デヴェラ, ローナ・V・L・パールドウィン, デイヴィッド・B  
・レビー, ロバート・C

1年 前期 1単位

◎: 国際的視野 ○: 行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

The objectives of this course is to strengthen all aspects of the students' English speaking ability, incorporating the other skills as well, writing, reading and listening. In this course students will be given the opportunity to discuss, write and present about current topics in Japan and in the world. Through taking this course students will gain the necessary skills and confidence to make themselves more marketable in the global world. By the end of this course the students will feel comfortable participating in daily conversations, as well as in academic or public speaking situations.

## 【授業における到達目標】

The overall objective of this course is to give students the opportunity to develop as internationally minded citizens and to cultivate their ability to actively apply problem-solving skills to gain deeper insights into the course content.

## 【授業の内容】

1. Course introduction- Self-introduction
2. Topic 1: Family - read/ vocabulary/summarize
3. Topic 1: Family - group work/presentation
4. Topic 2: Friends - watch/vocabulary/write
5. Topic 2: Friends - group work/presentation
6. Grammar Day
7. Grammar Test
8. Prepare for mid-term presentation
9. Mid-term presentation
10. Topic 3: Culture - read/vocabulary/summarize
11. Topic 3: Culture - group work/presentation
12. Topic 4: Education - watch/vocabulary/write
13. Topic 4: Education - group work/presentation
14. Prepare for final presentation
15. Final presentation

## 【事前・事後学修】

Students should come prepared and have an interest in English. Students are required to preview the next class contents for about 1 hour. Students are required to review the taught class contents for about 1 hour.

## 【テキスト・教材】

Original handouts will be provided.

Students should bring a notebook.

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Attitude 20%, Mid-term presentation 20%, Final presentation 20%, Writing/HW 20% and Listening and speaking 20%

Students will receive their feedback in the 15th class.

## 【注意事項】

ネームカード作成のため、証明写真（縦3cm×横4cm）を提出してください。

## Effective Communication B

デヴェラ, ローナ・V・L・パールドウィン, デイヴィッド・B  
・レビー, ロバート・C

1年 後期 1単位

◎: 国際的視野 ○: 行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

The objectives of this course is to strengthen all aspects of the students' English speaking ability, incorporating the other skills as well, writing, reading and listening. In this course students will be given the opportunity to discuss, write and present about current topics in Japan and in the world. Through taking this course students will gain the necessary skills and confidence to make themselves more marketable in the global world. By the end of this course the students will feel comfortable participating in daily conversations, as well as in academic or public speaking situations.

## 【授業における到達目標】

This course aims to give students the opportunity to develop as internationally minded citizens and to cultivate their ability to actively apply problem-solving skills to gain deeper insights into the course content.

## 【授業の内容】

1. Course introduction- Self-introduction
2. Topic 1: Sports - read/ vocabulary/summarize
3. Topic 1: Sports - group work/presentation
4. Topic 2: Work - watch/vocabulary/write
5. Topic 2: Work - group work/presentation
6. Grammar Day
7. Grammar Test
8. Prepare for mid-term presentation
9. Mid-term presentation
10. Topic 3: Food - read/vocabulary/summarize
11. Topic 3: Food - group work/presentation
12. Topic 4: Health - watch/vocabulary/write
13. Topic 4: Health - group work/presentation
14. Prepare for final presentation
15. Final presentation

## 【事前・事後学修】

Students should come prepared and have an interest in English. Students are required to preview the next class contents for 1 hour. Students are required to review the taught class contents for 1 hour.

## 【テキスト・教材】

Original handouts will be provided.

Students should bring a notebook.

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Attitude 20%, Mid-term presentation 20%, Final presentation 20%, Writing/HW 20% and Listening and speaking 20%

Students will receive their feedback in the 15th class.

## 【注意事項】

ネームカード作成のため、証明写真（縦3cm×横4cm）を提出してください。

**Effective Communication C**

Effective Communication C

パールドウィン, デイヴィッド・B

2年 前期 1単位

◎: 国際的視野、○: 行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

This course continues on where E.C 2 left off. By the end of the semester students will have had practice in various situations using English. They will practice reading out loud, pronunciation, and intonation. Students will prepare and take part in conversation exercises with partners or small groups.

**【授業における到達目標】**

By the end of the course students will have actively participated in dozens of conversations, learned international viewpoints and have pursued the beauty of English through conversation.

**【授業の内容】**

1. Introduction to class procedures, classroom English, introducing yourself (pp.12-13 in Textbook)
2. Unit 1: Have you two met? (pp.14-16)
3. Unit 1: Have you two met? (pp.17-19)
4. Unit 2: You must be excited! (pp.20-21)
5. Unit 2: You must be excited! (pp.23-27)
6. Quiz Units 1-2  
Unit 3: Where should I go? (pp.28-29)
7. Unit 3: Where should I go? (pp.30-35)
8. Prepare for speaking test  
Unit 3: Where should I go?
9. Speaking test  
Unit 4: I love that! (pp.36-37)
10. Unit 4: I love that! (pp.38-43)
11. Quiz Units 3-4  
Unit 5: What's your excuse? (pp.44-45)
12. Unit 5: What's your excuse? (pp.46-51)
13. Unit 6: What's it like there? (pp.52-55)
14. Final listening exam  
Preparation for speaking test 2
15. Speaking test 2  
Review

**【事前・事後学修】**

Read the Table of Contents for subject topics, do the "Extra Listening" exercise in the back of the textbook for Unit 1.

**【テキスト・教材】**

English Firsthand 2 (Pearson Publishing)  
ISBN: 9789813130234

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

Participation: 25%  
Quizzes and midterm: 25%  
Final exam: 25%  
Speaking tasks: 25%  
Class participation is a very important aspect of Effective Communication class. Come to every class to receive full marks.

**【参考書】**

(none)

**【注意事項】**

Bring to every class:  
Clear file for copies  
Pen, pencil, eraser, ruler  
Notebook or notepaper  
Textbook

**Effective Communication D**

レビー, ロバート・C

2年 後期 1単位

◎: 国際的視野、○: 行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

The objective of the Effective Communication course is to strengthen all aspects of the student's English speaking ability, increase student's self-confidence and improve their oral fluency and pronunciation.

**【授業における到達目標】**

The course outline for Effective Communication will cover a variety of techniques and phrases that will help participants take part in English discussions more confidently and effectively. Each week we will also go over different areas of basic pronunciation, intonation and stress.

**【授業の内容】**

Course Schedule  
Week 1 Orientation. Rejoinders. Follow-up questions  
Week 2 Effective presentation and PowerPoint techniques  
Week 3 Confirmation Questions  
Week 4 Clarifications with Question Words  
Week 5 PowerPoint Presentation 1 info  
Week 6 Expressing Probability  
Week 7 Expressing Opinions  
Week 8 PowerPoint Presentation 1  
Week 9 PowerPoint Presentation 2 info  
Week 10 Echoing instructions  
Week 11 Talking on the Telephone  
Week 12 PowerPoint Presentation 2  
Week 13 Review and speaking test info  
Week 14 Speaking test and interviews  
Week 15 Speaking test and interviews

**【事前・事後学修】**

For this course you should prepare yourself to participate actively in every class using only English.

**【テキスト・教材】**

All materials are provided by the instructor.

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

Evaluation  
Class participation 60%  
PowerPoint presentations 20%  
Speaking Test 20%

**【注意事項】**

Let's have fun speaking English in 2018!  
Cheers Chris : )

## Essential Listening

英語運用能力を高め、積極的な国際的交流への参加を目指します。

市毛 洋子

1年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

英語を聞き取る力を養成し、英語で意思伝達をするための土台作りをします。また、自分の伸ばすべき能力を発見し、その改善策を自ら探していきます。

### 【授業における到達目標】

リスニングをコミュニケーションに必要な要素の一つととらえ、聞くことだけに専念するのではなく、他3要素、話す、読む、書くを取り入れたタスクを行い英語運用能力全般の向上させながら、多様な価値観を理解し国際的感覚を身につけて世界に踏み出して活躍しようとする態度を養います。また、プロセスや成果を正しく評価するとともに学ぶ楽しみを知り、生涯にわたって学修する態度を育みます。

### 【授業の内容】

まず、英語を聴くこと、使うことに慣れるよう、教科書にあるいろいろなトピックに関する会話を中心に学習していきます。特に基本的な会話表現を習得し目的にあったリスニングのし方（主題をつかむ、詳細を聴き取る、推測をする等）を身につけます。また、日頃より自分の身の回りのことについて簡単な英語で話せるように副教材を使って練習をします。

1. Introduction Unit 1 Getting to know you
2. Unit 2 Going places
3. Unit 3 What's the number?
4. Unit 4 Body language
5. Unit 5 Appearances
6. Unit 7 International food
7. Unit 8 Vacations
8. Expansion
9. Unit 10 Getting there?
10. Unit 11 World market
11. Unit 12 Making a difference
12. Unit 13 Stress and health
13. Unit 14 Personalities
14. Unit 15 Youth culture
15. Review

### 【事前・事後学修】

英語リスニングにおける自分なりの目的・目標にむけての自主学修計画を立て、学修の記録・自己評価をしていただきます。また、副教材を使い英会話の練習をしてください。

事前学修、次回の未知の単語などは調べておくこと。自分の学修計画に沿って学修し記録をとる。（学修時間、週1時間）

事後学修、授業内容を教科書付属のCDを聴き復習すること。

（学修時間、週1時間）

### 【テキスト・教材】

『Active Listening 2』

Cambridge University Press 2786円 税込

中山誠一他 『脱文法100トピック実践英語トレーニング』

（ひつじ書房、2017年）1600円＋税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業参加度50% レポート10% グループプレゼンテーション20%  
期末試験20%

プレゼンテーションのフィードバックは、グループ発表後に各グループに対してコメントを配布する。

期末試験のフィードバックは、授業最終回に答え合わせと解説を行う。

### 【注意事項】

募集人数は40名です。

## Essential Listening

リアン, リッキー・チ・ヤン

1年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

The goal of this course is for students to practice their English listening, speaking, vocabulary, and communication skills. The activities students will do in class and the homework they will do outside of class will help them improve their English listening comprehension for practical and often talked about topics used in everyday life.

### 【授業における到達目標】

In participating in this course, students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem-solving skills to gain deeper insights into the course content.

### 【授業の内容】

1. Course Introduction and Personal Information 1
2. Personal Information 2
3. The Family
4. Daily Activities
5. Travel and Tourism
6. Food and Drink
7. Describing People
8. Describing Things
9. Friends and Relationships
10. Health and Fitness
11. Leisure Time
12. The World of Work
13. Money
14. Past Experiences and Stories
15. Final Class Activities

### 【事前・事後学修】

Students should spend 30 minutes to preview the vocabulary for each unit before class and 45 minutes to review and complete the homework task for each unit after class.

Students will also need to spend 90 minutes on a weekly listening journal.

### 【テキスト・教材】

All materials will be provided by the teacher.

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Participation Points - Teacher's Evaluation 30%

Homework Checks 30%

Listening Reports (3) 30%

Participation Points - Student's Self-Evaluation 5%

Attendance 5%

Students will receive in-class oral feedback and written feedback on homework assignments.

### 【注意事項】

Students must attend a minimum of 10 out of 15 classes in order to pass the class (6 or more absences = fail)

募集人数は40名です。

## Essential Listening

鈴木 卓

1年～ 前期・後期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

主な目標は英語の聞き取り能力の向上です。そのためにまず英語音声に関する基本的な知識を学び、実践練習を通して総合的な英語コミュニケーション能力の向上につなげていきます。聞き取り能力向上のためには、日常よく使われる語句や会話表現を多く知っておくことも不可欠なため、これも同時に学びます。さらに、聞き取った内容に対して応答したり、考えを述べたりといった活動を通じて、スピーキング能力の向上も視野に入れます。

### 【授業における到達目標】

この授業では、インテンシブ・リスニング（集中的な聞き取り）とエクステンシブ・リスニング（多量の聞き取り）の練習と、ピア・ラーニング、アクティブ・ラーニング等の手法を通じて、「聞く」「話す」能力を高めます。

また「100トピック」のテキストと音声を用いて、書き取りとQ&Aの練習をおこないます。

卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「問題解決のために主体的に行動する力」を養います。

### 【授業の内容】

英語を聞きとる活動、そして聞き取った内容に対して応答する活動、を主とします。毎回の授業で、英語を聞き取る際に使える各種ストラテジー（工夫・方法）を学んで、正確で効率的な聞き取りができるようにします。

また「100トピック」のテキストから毎回課題のユニットを予習し、次週のクイズに備えます（100トピックの使用ユニットは前週に指示します）

1. Introduction >Unit1 文脈からの予測
2. Unit1 続き
3. Unit 2 語句の言い換え
4. Unit 3 先読み
5. Unit 4 大意を理解する
6. Unit 5 スクリプト
7. Unit 7 要点に集中した聞き取り
8. まとめと振り返り > Unit 8 談話標識
9. Unit 9 背景知識
10. Unit 10 音の変化
11. Unit 11 固有名詞
12. Unit 12 視覚情報
13. Unit 13 語彙
14. Unit 14 数の表現
15. まとめと振り返り

上記に加えて、英語のポップスの聞き取り・書き取りをおこないます。

### 【事前・事後学修】

【事前学修】教材の付属CDを用いて、次回の授業範囲の音声を聞き、練習問題に答える。『100トピックで学ぶ実践英語トレーニング』の指定されたユニットで書き取り練習をする。（週一時間程度）

【事後学修】リピーティング、シャドウイング等による発音練習をおこなう。学期中に二回、自分で選んだインターネット上のビデオや音声等の聞き取りと書き取りをおこなって提出する。（週一時間程度）

### 【テキスト・教材】

Takeuchi他『Listening Partner』（Kinseido、2009年）2,000円＋税

ISBN 978-4-7647-3878-2

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（教室活動への積極的参加・課題や小テストの達成度）50%

試験（中間試験・期末試験）50%

中間試験は解答を返却して、期末試験は問題を見ながら、それぞれ振り返りをおこなう。小テストは各自が採点して、達成度を確認してから、教員が回収する。

### 【参考書】

『100トピックで学ぶ実践英語トレーニング』

### 【注意事項】

ただ黙々と英語を聞き取る講義ではなく、書き取ったりリピートしたり会話したりと、積極的に手や口を動かすことが求められる授業です。そのかわり実践的なコミュニケーション力が身につきますのでがんばりましょう。

※募集人数は40名です。

## Integrated English

### 担当教員全員

1年 前期・後期 2単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

The theme of this course is enhancing students' English speaking, listening, and reading skills in meaningful and practical ways.

この授業は、言語が実際に使われる実践場面を体験しながら、「話す」「聞く」「読む」「書く」能力を向上させることをテーマにしています。

### 【授業における到達目標】

This course aims to help students, through active learning methodology, advance their English speaking, listening, reading, and writing skills to a CEFR A2 or B1 level. In doing so, students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem solving skills to gain deeper insights into the course content.

この授業では、アクティブラーニングの手法を通じて、「話す」「聞く」「読む」「書く」能力をCEFR水準のA2あるいはB1レベルまで高め、卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「問題解決のために主体的に行動する力」を養います。

### 【授業の内容】

IE consists of two sections: (1) the IE Speaking/Listening Section and (2) the IE Presentation/Reading Section. The IE Speaking/Listening Section is taught by a native English language instructor on one day, while the IE Presentation / Reading Section is taught by a Japanese instructor on another day.

この授業は、(1)「スピーキング・リスニング」と(2)「プレゼンテーション・リーディング」の2つのセクションに分かれており、「スピーキング・リスニング」セクションはネイティブの教員が担当し、「プレゼンテーション・リーディング」は日本人の教員が担当します。

<IE Speaking/Listening Section> The goals of the IE Speaking/Listening Section are for students to become able to use English in a variety of situations that may occur while traveling abroad and to be capable of talking about daily conversational topics. Students will also have the opportunity to learn practical English expressions for the upcoming Olympics/Paralympics.

1. Course introduction
2. Culture 1
3. Culture 2 / Olympics/Paralympics 1
4. Culture 3
5. Life 1 / Olympics/Paralympics 2
6. Life 2
7. Life 3 / Olympics/Paralympics 3
8. Interview 1
9. Human relations 1
10. Human relations 2 / Olympics/Paralympics 4
11. School and study 1
12. Arts and hobbies 1 / Olympics/Paralympics 5
13. Arts and hobbies 2
14. Interview 2
15. Final course review

<IE Presentation / Reading Section>

The goals of the IE Presentation / Reading section are for students 1. to improve their presentation skills and 2. to develop their reading skills through the use of graded reader books.

Unit 0 What is a Presentation?

1. DAY 1:Practice the Sample Presentation

Unit 1 Describing Your Hometown

2. DAY 2:Make an Outline
3. DAY 3:Write a Presentation Script and Make a Presentation Poster

4. DAY 4:Presentation 1

Unit 2 Product Development

5. DAY 5:Write a Product Proposal
6. DAY 6:Write a Presentation Script and Make a Presentation Poster

7. DAY 7:Presentation 2

Unit 3 Which Hamburger Shop Do You Like the Best?

8. DAY 8:Read an Article and Make an Outline
9. DAY 9:Write a Presentation Script and Make a Presentation Poster

10. DAY 10:Presentation 3

Unit 4 Fashion: Let' s Look at the Data

11. DAY 11:Read an Article and Make an Outline
12. DAY 12:Write a Presentation Script and Make a Presentation Poster

13. DAY 13:Rehearse Presentation

14. DAY 14:Final Presentation 1

15. DAY 15:Final Presentation 2

### 【事前・事後学修】

<Before class>Students should go over the material they will cover in the next class, prepare answers and study for quizzes and presentation. (2 hours)

<事前学修> 次の授業までに、次回習う内容に関する質問の答えを準備し、小テスト・発表に備えること(2時間)。

<After class>Students should review the material they covered in the previous lesson before the next class meeting. (2 hours)

<事後学修> 次の授業までに、前回習った内容をしっかり復習し身につけておくこと(2時間)。

### 【テキスト・教材】

IE Speaking/Listening Textbook:

『100トピックで学ぶ実践英語トレーニング』by 中山誠一, Jacob Schnickel, Juergen Bulach, 山内博之(ひつじ書房) ¥ 1,728  
Olympic/Paralympic Language Reference Guide

IE Presentation/Reading Textbooks: 『Workbook for Presentation』by Tomokazu Nakayama, Jacob Schnickel, and Juergen Bulach (Asahi Press) ¥1,620yen.

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

<IE Speaking/Listening Section>

Interviews (2) - 20% 面接 (2回) - 20%

Classwork - 10% 課題 - 10%

Participation Points - 20% 平常点 (授業態度) - 20%

<IE Presentation /Reading Section>

Presentation (4) - 20% プレゼンテーション (4回) - 20%

Book Reviews - 15% ブックレビュー - 15%

Participation Points - 15% 平常点 (授業態度) - 15%

### 【注意事項】

\*Students must attend a total of two-thirds of both sections to pass the course.

\*Coming to class late three times equals one absence.

\*Japanese instructors teach in English.

\*「スピーキング・リスニング」と「プレゼンテーション・リーディング」のどちらのセクションでも、3分の2以上の出席が必要である。

\*遅刻3回で欠席1回となる。

\*日本人教員もすべて英語で授業を行います。



**Integrated English(人間社会学部)**

**担当教員全員 (人間社会学部)**

1年 前期・後期 2単位

○：国際的視野、行動力

**【授業のテーマ】**

The theme of this course is enhancing students' English speaking, listening, and reading skills in meaningful and practical ways.

この授業は、言語が実際に使われる実践場面を体験しながら、「話す」「聞く」「読む」「書く」能力を向上させることをテーマにしています。

**【授業における到達目標】**

This course aims to help students, through active learning methodology, advance their English speaking, listening, reading, and writing skills to a CEFR A2 or B1 level. In doing so, students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem-solving skills to gain deeper insights into the course content.

この授業では、アクティブラーニングの手法を通して、「話す」「聞く」「読む」「書く」能力をCEFR水準のA2あるいはB1レベルまで高め、卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち「国際的視野」と「問題解決のために主体的に行動する力」を養います。

**【授業の内容】**

英語運用能力を養うために、日本人教員によるリーディングとライティング、ネイティブ教員によるリスニングとスピーキングの学習を行います。二つのクラスは別のテキストを使用します。

Reading & Writing (Qテキスト[レベル\_2])

第1週 Guidance

第2週 Unit 1 Marketing/Reading 1: Unusual ideas to make a Buzz

第3週 Unit 1 Application

第4週 TOEIC Preparation (1)

第5週 Unit 2 Psychology/ Reading 1: How colors make us think and feel

第6週 Unit 2 Application

第7週 TOEIC Preparation (2)

第8週 Unit 3 Social Psychology/ Reading 1: Being polite from culture to culture

第9週 Unit 3 Application

第10週 TOEIC Preparation (3)

第11週 Unit 4 Sociology/ Reading 2: The technology advantage

第12週 Unit 4 Application

第13週 Review

第14週 Inclass Examination

第15週 TOEIC Sample Test

Listening & Speaking (テキスト[レベル\_1])

第1週 Guidance

第2週 Unit 1 Business/Listening 1: Looking for a job

第3週 Unit 1 Application

第4週 TOEIC Preparation (1)

第5週 Unit 2 Cultural Studies/ Listening 1: International advertising

第6週 Unit 2 Application

第7週 TOEIC Preparation (2)

第8週 Unit 3 Sociology/ Listening 1: Places in danger

第9週 Unit 3 Application

第10週 TOEIC Preparation (3)

第11週 Unit 4 Physiology/ Listening 1: What's your sense of humor

第12週 Unit 4 Application

第13週 Review

第14週 In-class Examination

第15週 Special activity

**【事前・事後学修】**

事前学修：R&W、L&S両クラスとも英語のみで書かれたテキストを使用します。両クラスのテキストとも、必ず学習するUnitの予習をし、わからない単語は調べてくること。毎回単語確認のクイズがあります。最低2時間程度の予習時間が必要です。

事後学修：宿題が毎回授業で出されます。またmanabaに課題が出ることがありますので、定期的にmanabaをチェックして下さい。最低2時間の事後学修時間が必要です。

**【テキスト・教材】**

①Reading & Writing (R&W) Class用

Q: Skills for Success READING AND WRITING [Level\_2]. Oxford University Press (2016年改訂版) 3,300円

②Listening & Speaking (L&S) Class用

Q: Skills for Success LISTENING AND SPEAKING [Level\_1]. Oxford University Press. (2016年改訂版) 3,300円

③『TOEIC (R) テスト公式問題集—新形式問題対応編』国際ビジネスコミュニケーション協会 (2016年出版のもの) 2,800円

注：③はR&W、L&Sのどちらのクラスでも使用します。

\*①②③のテキストは、後期の「英語コミュニケーションI」のクラスで継続して使用します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

R&Wクラス：試験(含ライティング)(25%)、単語クイズ(10%)、課題・宿題(10%)

L&S クラス：試験(含スピーキング)(25%)、単語クイズ(10%)、課題・宿題(10%)

TOEIC：10% \*TOEICテストは期末試験の一部です。

注意：最終評価はR&Wクラス(45%)、L&Sクラス(45%)とTOEIC(10%)を合計した点数(100%)となります。片方のクラスがよくても、もう一方が悪いと単位を取得できないことがあります。フィードバックは授業あるいはmanabaを使って行われます。

**【参考書】**

適宜指示します。

**【注意事項】**

週2回の授業を日本人と英語ネイティブの2名の教員が担当します。出席は両クラスを合わせたものではありません。どちらか片方のクラスが出席要件を満たさないと、もう一方が満たしていても単位を取得できません。

**Introduction to TOEFL**

海外留学にチャレンジ

深瀬 有希子・宮下 いづみ

1年 前期・後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

本授業は、TOEFL形式（ITPおよびiBT）の問題を用いて、海外留学の際に必要とされるリーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの4技能を総合的に習得することを目指します。海外留学のための情報収集の仕方や、英語による講義のノートテイキングの方法も学習します。

**【授業における到達目標】**

国際的視野の獲得：多様性を受容し、多角的な視点をもって世界に臨む態度を養うことを目標とします。

研鑽力の向上：学修を通して自己成長する力を身につけることを目標とします。

**【授業の内容】**

- 1 イントロダクション： 授業の内容、進め方、  
e-learningを用いた予習復習の仕方、評価方法の説明
- 2 Unit 1: Topic: Advertising Skill Focus: Skimming  
and Scanning
- 3 Unit 2: Topic: Sports Skill Focus: Making Inferences
- 4 Unit 3: Topic: Fraud Skill Focus: Using Context Clues
- 5 Unit 4: Topic: Storytelling Skill Focus: Identifying  
and Using Rhetorical Structure
- 6 Unit 5: Topic: Language Skill Focus: Identifying  
and Using Main Ideas and Details
- 7 発表 ①
- 8 まとめ ①
- 9 Unit 6: Topic: Tourism Skill Focus: Paraphrasing
- 10 Unit 7: Topic: Humor Skill Focus: Summarizing
- 11 Unit 8: Topic: Fashion Skill Focus: Comparing and  
Contrasting
- 12 Unit 9: Topic: Punishment Skill Focus: Using Detailed  
Examples
- 13 Unit 10: Topic: Marriage Skill Focus: Identifying  
and Using Cohesive Devices
- 14 発表 ②
- 15 まとめ ②

**【事前・事後学修】**

事前学修：e-learning 教材およびテキスト教材を使用して、指定された課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

事後学習：e-learning 教材およびテキスト教材を使用して、授業で学習したことや間違った箇所を再確認し、理解すること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

*North Star: Building Skills for the TOEFL iBT* (Intermediate, Student Book with Audio CDs) ISBN: 0-13-198576-0 約4000円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業態度・課題・e-learning）： 40%

発表（①②）： 30%      まとめ（①②）： 30%

発表やまとめ、そのほか授業中に指示された課題についてのフィードバックは、翌回以降の授業時に行う。

**【参考書】**

授業中に適宜指示する。

**【注意事項】**

e-learning教材とテキスト教材の両方を用いて必ず予習と復習を行い、積極的に参加すること。

## Academic Writing

中村 太一

1・2年 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

ある程度まとまった内容を効果的かつ明確に伝達するための基本的な英文構成法を習得することを主なねらいとします。

### 【授業における到達目標】

英文を構成する単位であるパラグラフの構造を理解するとともに、伝達内容に応じたさまざまなパラグラフの型に習熟することによって、正確に読み手にわかりやすい英文を書けるようになることを目標とします。課題作文に自主的に取り組むプロセスとフィードバックをとおして学修成果を実感できるようにし、自信をもって次の目標を自ら設定し、計画的に立案・実行できる力を養えるようにしていきます。

### 【授業の内容】

- 第1週 Course Introduction
- 第2週 Topic Sentence
- 第3週 Body 1: Major Support Sentences
- 第4週 Body 2: Minor Support Sentences
- 第5週 Conclusion
- 第6週 Review 1
- 第7週 Descriptive Paragraph
- 第8週 Illustration Paragraph
- 第9週 Narrative Paragraph
- 第10週 Definition Paragraph
- 第11週 Classification Paragraph
- 第12週 Cause and Effect Paragraph
- 第13週 Review 2
- 第14週 Individual Presentation (1)
- 第15週 Individual Presentation (2)

上記に加えて、『脱文法 100トピック実践英語トレーニング』を使用し、スピーキング・ライティング活動もおこないます。

### 【事前・事後学修】

事前学修：次回の授業範囲を予習し、未知の語（句）を調べておくとともに、課題作文のアウトライン（下書き）を作成しておくこと（学修時間 週2時間）

事後学修：授業であつかった語法・新出語（句）の復習をし、課題作文についてのフィードバックに基づいて最終稿を完成させること（学修時間 週1～2時間）

### 【テキスト・教材】

- 遠藤功樹著『A Passage to Paragraph Writing』（センゲージラーニング社 2012年）2,100円
- 中山誠一・Jacob Schnickel・Juergen Bulach・山内博之著『脱文法 100トピック実践英語トレーニング』（ひつじ書房 2017年）1,600円＋税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への貢献度（積極的な発言・発表など）20%、提出課題 50%、プレゼンテーション 30%  
提出課題に対するフィードバックは次回授業時に、プレゼンテーションに対するフィードバックは直後におこないます。

### 【注意事項】

1年生対象のクラスのため、並行履修しているIntegrated Englishとの関連を考慮し、第14・15週ではプレゼンテーションをしてもらう予定です。募集人数は40名です。

## Academic Writing

シュニッケル, ジェイコブ

1・2年 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

The theme of this course is basic academic writing in English.

### 【授業における到達目標】

This course aims to familiarize students with the basic components of writing a paragraph and to provide students the opportunity to complete several types of writing assignments. Through group and pair work activities, students will learn how to construct unified paragraphs with strong topic sentences and good supporting details. Moreover, students will experience writing as a process. In participating in this co-course, students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem-solving skills to gain deeper insights into the course content.

### 【授業の内容】

1. Course Introduction
2. Written Self-Introduction
3. Skill Building-Common Errors
4. Descriptive Writing (Events)
5. Skill Building-Common Errors
6. Writing about Inventions
7. Skill Building-Common Errors
8. Descriptive Writing (People)
9. Skill Building-Common Errors
10. Descriptive Writing (Abilities)
11. Skill Building-Common Errors
12. Life Lessons
13. Skill Building-Common Errors
14. Final In-Class Writing
15. Course Review and Conclusion

### 【事前・事後学修】

<Before class>

Students will have weekly writing assignments, which will take from one to three hours.

<After class>

Students should read feedback from the instructor and make revisions to writing assignments before resubmitting in the next class.

### 【テキスト・教材】

- Writing from Within 2  
Cambridge University Press (2012)
- Curtis Kelly and Arlen Gargagliano

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- Paragraph 1 20%
- Paragraph 2 20%
- Paragraph 3 20%
- Essay 25%
- Participation 15%

In class, students will be provided detailed feedback designed to help them improve their writing skills.

### 【注意事項】

\*Students must attend two-thirds of lessons to pass the course.

\*Coming to class late three times equals one absence.

\*募集人数は40名です。

## Academic Writing

カズウェル, イアン・マイケル

1・2年 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

In class, students will be provided detailed feedback designed to help them improve their writing skills.

### 【注意事項】

\*Students must attend two-thirds of lessons to pass the course.

\*Coming to class late three times equals one absence.

\*募集人数は40名です。

### 【授業のテーマ】

The theme of this course is basic academic writing in English.

### 【授業における到達目標】

This course aims to familiarize students with the basic components of writing a paragraph and to provide students the opportunity to complete several types of writing assignments. Through group and pair work activities, students will learn how to construct unified paragraphs with strong topic sentences and good supporting details. Moreover, students will experience writing as a process. In participating in this course, students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem-solving skills to gain deeper insights into the course content.

### 【授業の内容】

- Week 1 Introduction to Essay Writing
- Week 2 Working with Sources and Avoiding Plagiarism
- Week 3 Skill Building - Common Errors
- Week 4 Constructing Sentences
- Week 5 Skill Building - Combining Sentences
- Week 6 Descriptive Paragraphs
- Week 7 Skill Building - Elements of a good Paragraph
- Week 8 Narrative Paragraphs
- Week 9 Skill Building - Connectors
- Week 10 Informative Paragraphs
- Week 11 Skill Building - Unity
- Week 12 Persuasive Paragraphs
- Week 13 In-class Workshop
- Week 14 Review of Paragraph Writing
- Week 15 Course Review and Conclusion

Extra material will be taken from 100 Topics by Jacob Schnickel, Juergen Bulach and Hiroyuki Yamauchi.

### 【事前・事後学修】

<Before class>

students will have weekly writing assignments, which will take from one to three hours.

<After class>

students should read feedback from the instructor and make revisions to writing assignments before resubmitting in the next class.

### 【テキスト・教材】

There is no required textbook. All materials will be distributed in class.

However, you must bring Notebook and Dictionary to every class.

Extra material will be taken from 100 Topics by Jacob Schnickel, Juergen Bulach and Hiroyuki Yamauchi.

Published by Hitsuji Shobo, 2017. Price 1,600 yen + tax

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- Paragraph 1 20%
- Paragraph 2 20%
- Paragraph 3 20%
- Essay 25%
- Participation 15%

## Business English

リアン, リッキー・チ・ヤン

2年～ 前期・後期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

The goal of this course is to give students a general understanding of business communication in English. This class will help students develop English communication skills that can be used in real-life work situations. The activities and discussions we will do in this class will help prepare you to think about your future career and familiarize you with professional business-related communication and tasks.

### 【授業における到達目標】

We will learn, practice, and use these skills in this class:  
 Business communication in English (speaking, listening, reading, writing, vocabulary)  
 Planning  
 Discussion (sharing your ideas and opinions, listening and responding to others' ideas)  
 Creative thinking and design  
 Group work  
 Presentation (speaking and presenting ideas to audiences)

### 【授業の内容】

1. Course Introduction
2. Basic Communication Skills and Business Talk
3. Scheduling and Arranging Meetings and Appointments
4. Having Meetings and Making Agendas
5. Creating a Product
6. Talking on the Phone
7. Company and Career Choices
8. How to Write Business Emails
9. How to Write a Professional CV/Resume
10. Job Interviews 1
11. Job Interviews 2
12. Presentations
13. Course Review
14. Project Presentations
15. Final Class Activities

### 【事前・事後学修】

Students should spend 1 hour to preview each unit before class and 30-45 minutes to review and complete assigned homework for each unit after class.

### 【テキスト・教材】

All materials will be provided by the teacher.

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

In-class Student Participation - Teacher's Evaluation 35%  
 Business Writing Assignments (3) 30%  
 Homework Checks 10%  
 Group Project Presentation 10%  
 Group Project Submission 10%  
 Group Project Members' Peer Evaluation 5%  
 Students will receive in-class oral feedback and written feedback on homework assignments.

### 【注意事項】

Students must attend a minimum of 10 out of 15 classes in order to pass the class (6 or more absences = fail)  
 募集人数は35名です。

## Effective Speaking

めざせB1ユーザー

中山 誠一

1年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

本講座は、15回の授業を通じて英語で発話することに対する抵抗感を0にし、英語の発話力をCEFRスケールによるB1レベルまで高めることを目的としています。

### 【授業における到達目標】

この授業では、卒業までに身につけるべき能力のうち、国際的視野と行動力を育成します。具体的には、毎回設定される日本を中心としたテーマについて徹底的に英語で他の学生、教員とやりとりをし、英語による発話力と同時に国際感覚を養います。

### 【授業の内容】

- |      |                  |
|------|------------------|
| 第1回  | オリエンテーション (目標設定) |
| 第2回  | Topic 1-5        |
| 第3回  | Topic 6-10       |
| 第4回  | Topic 11-15      |
| 第5回  | Topic 16-20      |
| 第6回  | Topic 21-25      |
| 第7回  | Topic 26-30      |
| 第8回  | 到達度チェック 1        |
| 第9回  | Topic 31-35      |
| 第10回 | Topic 36-40      |
| 第11回 | Topic 41-45      |
| 第12回 | Topic 46-50      |
| 第13回 | Topic 51-55      |
| 第14回 | 到達度チェック 2        |
| 第15回 | まとめ              |

### 【事前・事後学修】

毎回設定されるトピックについて、事前学修として1時間、事後学修として1時間程度、回答を準備し口頭練習する必要があります。

### 【テキスト・教材】

中山誠一他『脱文法100トピック実践英語トレーニング』（ひつじ書房 2017年）1,500円＋税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回の課題提出 (テーマに対する自分の回答)	40%
平常点 (担当教員とのカウンセンリング)	20%
到達度チェック	40%

※到達度チェックの結果は、最後の授業で個別にフィードバックを行う。

### 【参考書】

授業内で指示します。

### 【注意事項】

受講に際して、英語のレベルは問いません。自分と向き合い、一緒に目標を達成してみたい方は是非受講してください。

募集人数は35名です。

## Effective Speaking

リアン, リッキー・チ・ヤン

1年～ 前期・後期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

The purpose of this course is to give students many opportunities to speak and practice using English. The speaking, listening, and vocabulary exercises and activities done in this class will help students develop their confidence in their English speaking abilities. Each week, we will discuss a topic that will let students openly express and discuss their ideas and opinions. There will be many opportunities for discussion, group work, and the use of critical and creative thinking so that students can become better communicators.

### 【授業における到達目標】

In participating in this course, students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem-solving skills to gain deeper insights into the course content.

### 【授業の内容】

1. Course Introduction
2. Unit 1: Personal profile
3. Unit 2: How often is often?
4. Unit 3: Who would say…?
5. Unit 4: Too many times!
6. Unit 5: Prove it!
7. Unit 6: Why did you…?
8. Unit 7: Aches and pains
9. Unit 8: Superheroes
10. Unit 11: Could you help me?
11. Unit 12: How romantic are you?
12. Unit 13: So do I!
13. Unit 14: I'm so embarrassed!
14. Final Speaking Test and Course Review
15. Final Class Activities

### 【事前・事後学修】

Students should spend 1 hour to preview each unit before class and 30 minutes to review each unit after class. Students will also need to spend about 30 minutes on a weekly homework assignment.

### 【テキスト・教材】

Title: Just Talk!  
 Authors: Kurt Scheibner and David Martin  
 ISBN: 4580244420025  
 Price: ¥2700

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

In-Class Participation - Teacher's Evaluation 45%  
 Homework Checks 5%  
 Speaking Assignments (3)30%  
 Final Speaking Test 15%  
 Attendance 5%

Students will receive in-class oral feedback and written feedback on homework assignments.

### 【注意事項】

Students must attend a minimum of 10 out of 15 classes in order to pass the class (6 or more absences = fail)  
 募集人数は35名です。

## Extensive Reading

めざせ100万語!

中山 誠一

1年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

本講座は、15回の授業を通じて累計読書語数100万語を目標に、英語多読本を読む楽しさを知り、本講座終了後も自発的に多読本を読み続ける習慣を身につけることをテーマにしています。

### 【授業における到達目標】

この授業では、卒業までに身につけるべき能力のうち、問題解決のために主体的に行動する能力を養成します。具体的には、再帰属訓練法に基づいて、主体的に多読本を読む習慣を身につけるとともに速読力を養成し、「読む」能力をCEFR水準のB1レベルまで高めることを目標にしています。再帰属訓練法とは、最初に各自の目標を定めて、その進捗状況を他者と共有しながら、目標を達成する学習法です。

### 【授業の内容】

- |      |  |
|------|--|
| 第1回  | オリエンテーション (目標設定)                           |
| 第2回  | Level 0 語彙250語レベル Oxford Reading Tree他     |
| 第3回  | Level 1 語彙500語レベル Penguin Readers 1他       |
| 第4回  | Level 2 語彙800語レベル Oxford Bookworms 1他      |
| 第5回  | Level 3 語彙1300語レベル Macmillan Elementary 他  |
| 第6回  | Level 3 語彙1300語レベル Oxford Bookworms 3 他    |
| 第7回  | Level 4 語彙2000語レベル Macmillan Intermediate他 |
| 第8回  | Level 4 語彙2000語レベル Oxford Bookworms 4 他    |
| 第9回  | Level 5 語彙2800語レベル Penguin Readers 5 他     |
| 第10回 | Level 5 語彙2800語レベル Oxford Bookworms 6 他    |
| 第11回 | Level 6 語彙3000語レベル Penguin Readers 6 他     |
| 第12回 | Level 6 語彙3000語レベル CER 6 他                 |
| 第13回 | Level 6 語彙3000語レベル ARS 他                   |
| 第14回 | Level 7 語彙5000語レベル Harry Potter Series 他   |
| 第15回 | まとめ  |

CER= Cambridge English Readers

ARS= Arthur Ransom Series

### 【事前・事後学修】

第1回のオリエンテーション時に作成するワークシートに基づいて、事前学修として1時間、事後学修として1時間程度、多読本を読み進める必要があります。

### 【テキスト・教材】

授業開始時に指示します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回のワークシート提出 (目標達成度)	40%
平常点 (担当教員とのカウンセリング)	20%
中間・まとめレポート	40%

※レポートは個別にカウンセリング時にフィードバックを行う。

### 【参考書】

授業内で指示します。

### 【注意事項】

受講に際して、英語のレベルは問いません。自分と向き合い、一緒に目標を達成してみたい方は是非受講してください。  
 募集人数は40名です。

## Extensive Reading

リアン, リッキー・チ・ヤン

1年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

The objective of this course is for each student to read a cumulative number of 1 million words from a variety of English books. It is also for students to derive pleasure and knowledge from extensively reading English books and acquire the habit of continuing to read books after the course is complete.

### 【授業における到達目標】

We will train our ability to read actively while increasing reading speed. This will also be time for discussions and writing short responses and reports to reflect upon and share information about the content that was read.

### 【授業の内容】

1. Course introduction
2. Level 0, 250 words, Oxford Reading Tree
3. Level 1, 500 words, Penguin Readers 1
4. Level 2, 800 words, Oxford Bookworms 1
5. Level 3, 1300 words, Macmillan Elementary
6. Level 3, 1300 words, Oxford Bookworms 3
7. Level 4, 2000 words, Macmillan Intermediate
8. Level 4, 2000 words, Oxford Bookworm 4
9. Level 5, 2800 words, Penguin Readers 5
10. Level 6, 3000 words, Penguin Readers 6
11. Level 6, 3000 words, Penguin Readers 6
12. Level 6, 3000 words, Cambridge English Readers 6
13. Level 7, 3000 words, Arthur Ransom Series
14. Level 7, 5000 words, Harry Potter Series
15. Final class activities

### 【事前・事後学修】

Students should spend 30 minutes to prepare for each class and 30 minutes to review each unit after class. Students will also need to spend about 30 minutes on a weekly homework book report.

### 【テキスト・教材】

All materials will be provided by the teacher.

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

In-class and homework book reports = 70%  
 In-class teacher interview sessions and discussions = 20%  
 In-class participation = 10%

Students will receive in-class oral feedback and written feedback on homework assignments.

### 【注意事項】

受講に際して、英語のレベルは問いません。自分と向き合い、一緒に目標を達成してみたい方は是非受講してください。  
 募集人数は40名です。

## Extensive Reading

小池 アニータ

1年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

This is a reading course designed to help students improve their English reading skills and comprehension and to increase their reading speed. We will use a variety of reading materials in class.

### 【授業における到達目標】

Students will build their confidence when reading in English and will get experience and confidence in reading a variety of material in English, such as graded reading texts, articles and business related texts from TOEIC Part 7.

### 【授業の内容】

- Class 1 Course Introduction
- Class 2 Effective Reading 1
- Class 3 Effective Reading 2
- Class 4 Speed Reading 1
- Class 5 Speed Reading 2
- Class 6 Article 1 (Culture)
- Class 7 Article 2 (Life)
- Class 8 Article 3 (Human Relations)
- Class 9 Article 4 (School and Study)
- Class 10 Presentation 1
- Class 11 Article 5 (Art and Hobbies)
- Class 12 Article 6 (Religion and Festivals)
- Class 13 Article 7 (Media)
- Class 14 Article 8 (Society)
- Class 15 Presentation 2

### 【事前・事後学修】

Class time is spent mainly reading various texts in English and it also involves students working in pairs and exchanging information.

Read the supplementary textbook weekly before the class. Learning how to read in English takes time and it is important for students to attend all classes to develop their reading skills and get used to read in English.

### 【テキスト・教材】

Worksheets will be prepared by the instructor and distributed in class.

In addition, students are only required to have the 100 Topics book

『脱文法100トピック実践英語トレーニング』  
 (ひつじ書房、2017年、1600円+税) as a supplemental text.

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Students are expected to participate actively by answering questions, giving opinions, presenting what they have understood and writing a weekly report for summary and their final thoughts.

Participation 30%

Reading Reports and Presentations 70%

### 【注意事項】

\*募集人数は40名です。

## Global Studies a

English as an International Language (EIL)

中山 誠一

2年 前期・後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

\*Students must attend two-thirds of lessons to pass this course.

\*Coming to class late three times equals one absence.

募集人数は40名です。

### 【授業のテーマ】

This course aims to familiarize the idea of English as an International Language. Through lectures, group and pair work activities, students will be given opportunities to deepen their understanding of English as an International Language.

### 【授業における到達目標】

This course aims to help students, through CLIL methodology, advance their English speaking, listening, reading, and writing skills to CEFR B1 level. In doing so, students will cultivate their ability to actively apply problem solving skills to gain deeper insights into the course content.

### 【授業の内容】

1. Course introduction
2. What is an English as an International Language? :  
Features of EIL and the number of English users
3. Historical background of EIL: Why is English diversified?
4. Sociolinguistic background of EIL: Who are the native speakers of English?
5. Language changes and varieties of English: What aspects of English are diversified?
6. What is culture in EIL?
7. What are the differences in objectives of English education among countries?
- 8 How do the Japanese perceive EIL?  
English education in Japan in the past.
9. Future English education 1: What are efficient methodologies? Collect ideas on methodologies.
10. Future English education 2 What are efficient methodologies? Make teaching plans.
11. Future English education 3 What are efficient methodologies? Demonstrate teaching plans.
12. Preparation for final presentation 1: Choose topics and make outlines.
13. Preparation for final presentation 2: Make posters.
14. Final Presentation
15. Course review and conclusion

### 【事前・事後学修】

<Before class>

Students should read the articles related to the course topic and prepare summaries of the article (1 hour)

<After class>

Students should review the class and write weekly reaction papers (1 hour)

### 【テキスト・教材】

There is no required textbook.

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Participation 40%

Weekly reaction papers 30%

Final presentation 30%

\*Comments on weekly reaction papers and final presentations will be given in class.

### 【注意事項】

\*This course will be taught all in English.



## Global Studies b

シュニッケル, ジェイコブ

2年 前期・後期 2単位

◎: 国際的視野 ○: 研鑽力

### 【授業のテーマ】

This course will introduce important concepts related to intercultural competence, which refers to a person's ability to interact respectfully and effectively with a member of another culture. Students will learn through a variety of engaging activities, including self assessment, role play, and group discussion. By participating in this course, students will learn more about their own cultures and how these might be similar to and different from other cultures.

This course is designed for students who plan to study abroad, those who have returned from studying abroad, international students visiting Japan from another country or anyone interested in the idea of intercultural communication.

### 【授業の内容】

1. Course Introduction
2. What is culture?
3. What is intercultural competence?
4. Role play 1
5. Intercultural competence: self reflection
6. Critical incidents 1
7. Cultural conditioning
8. Analogies for culture
9. Role play 2
10. Personal, cultural, universal
11. Objectivity and intercultural competence
12. Role play 3
13. Critical incidents 2
14. Student presentations
15. Course conclusion

### 【事前・事後学修】

Prior to each class meeting, students should write a reflection paper of the previous lesson, and they should read any assigned materials.

### 【テキスト・教材】

All materials will be distributed in class.

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Participation: 20%

Weekly reflections: 40%

Final paper: 40%

### 【注意事項】

\*Students must attend two-thirds of lessons to pass the course.

\*Coming to class late three times equals one absence.

募集人数は40名です。

## Global Studies c

Japanese Linguistics through Word Play

山内 博之

2年 前期・後期 2単位

◎: 国際的視野 ○: 研鑽力

### 【授業のテーマ】

During this course, students will learn about contemporary Japanese through word plays. Classes will be conducted on three related topics: 1) contemporary Japanese grammar, 2) speech sound of contemporary Japanese and 3) contemporary Japanese vocabulary.

### 【授業における到達目標】

The aim of this course is to acquire basic knowledge about contemporary Japanese and ability to explain the rules of Japanese to foreigners who are interested in it.

### 【授業の内容】

Class 1, Contemporary Japanese Grammar 1: Case Particle

Class 2, Contemporary Japanese Grammar 2: Focus Particle

Class 3, Contemporary Japanese Grammar 3: Causative

Class 4, Contemporary Japanese Grammar 4: Potential

Class 5, Contemporary Japanese Grammar 5: Benefactive

Class 6, Contemporary Japanese Grammar 6: Passive

Class 7, Contemporary Japanese Grammar 7: Tense

Class 8, Contemporary Japanese Grammar 8: Modality

Class 9, Contemporary Japanese Grammar 9: Complex Sentence

Class 10, Speech sound of Contemporary Japanese 1: Accent

Class 11, Speech sound of Contemporary Japanese 2:

Articulation

Class 12, Speech sound of Contemporary Japanese 3: Small "つ"

Class 13, Contemporary Japanese Vocabulary 1: Expression of Greeting

Class 14, Contemporary Japanese Vocabulary 2: Synonym

Class 15, Contemporary Japanese Vocabulary 3: Ambiguous

Expression

### 【事前・事後学修】

Prior learning: Two hours are required to do homework for the next class.

Post learning: Two hours are required to summarize the important points of the class in your notebook.

### 【テキスト・教材】

Materials will be provided.

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Class participation (50%), Presentation (50%).

### 【注意事項】

Students should have a basic understanding of English and a strong desire to learn about contemporary Japanese.

募集人数は40名です。

## Global Studies d

Ghostly Japan of Lafcadio Hearn and Akutagawa Ryunosuke

ブルナ, ルカーシュ

2年 前期 2単位

◎ : 国際的視野 ○ : 研鑽力

### 【授業のテーマ】

Lafcadio Hearn - European writer who came to Japan in 1890, fell in love with the old Japanese culture and customs and decided to spend the rest of his days in the Land of Rising Sun. Akutagawa Ryunosuke - Japanese novelist who while living in modern Japan sought often inspiration in the old literature. Both of them, Lafcadio Hearn and Akutagawa Ryunosuke, shared interest in the fantastic world of ghosts and demons described in old Japanese tales and both of them, in a different way, sought to revive this world in their stories.

### 【授業における到達目標】

In this class students will read some of Hearn and Akutagawa's stories and learn about their literary style.

### 【授業の内容】

1. Introduction I: Literature written in Japanese, Literature written by Japanese
2. Japanese Literature in the World: The Image of Japan in 19th century Europe
3. Japanese Literature in the World: Early Translations of Japanese Literature
4. Lafcadio Hearn: His Life and Work I
5. Lafcadio Hearn: His Life and Work II
6. Reading "Story of Mimi-nashi-Hoichi" I
7. Reading "Story of Mimi-nashi-Hoichi" II
8. Reading "Yuki-onna" I
9. Reading "Yuki-onna" II
10. Akutagawa Ryunosuke: His Life and Work I
11. Akutagawa Ryunosuke: His Life and Work II
12. Reading "The story of a head that fell off" I
13. Reading "The story of a head that fell off" II
14. Reading "The Spider Thread" I
15. Reading "The Spider Thread" II

### 【事前・事後学修】

Students are expected to read provided texts before each class. ( two hours )

Students are expected to review what they have learnt and prepare questions if necessary. ( two hours )

### 【テキスト・教材】

The instructor will provide materials in class.

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Participation 50%

Final Assignment 50%

### 【参考書】

Lafcadio Hearn : Kwaidan - Stories and Studies of Strange Things (Tuttle Classics, 2005)

Akutagawa Ryunosuke : Rashomon and Seventeen Other Stories ( Penguin Classics, 2009)

### 【注意事項】

募集人数は40名です。

## Global Studies d

Japanese Foods

松島 照彦・山崎 壮・於保 祐子

2年 後期 2単位

◎ : 国際的視野 ○ : 研鑽力

### 【授業のテーマ】

Students study English conversation through leaning about Japanese foods in this course. All classes will be student-centered. The classes will be composed of presentation and discussion by students along with lectures by teachers. Dictation of TV cooking programs and cooking practices with invited instructors are also planned.

Spoken language is only English in the classes and the textbook is in English and Japanese. Active class participation of the students is requested.

Before each class, students need preparation of words and paragraphs in chapters of the textbook to be taught.

In the first class, students will be requested a 3 minutes talk about self-introduction including the name, grade and department as well as hobbies or skills, the birth place, favorite foods, cooking good at, and special foods or cuisines in the birth place or in the family.

For the second class, the students must be prepared for the translation of words necessary to describe Japanese foods which are to be uploaded in "manaba course".

For the third class and after also, preparative works will appear on manaba course. Check them not to miss it.

### 【授業における到達目標】

The aim of this course is to encourage the students:

- (1) To cultivate the attitude to talk to and converse actively with foreign people, without hesitation and with pleasure.
- (2) To advance the ability of operational skill of English to CEFR A2 or B1 level and to broaden their international perspectives.
- (3) To acquire knowledge about Japanese foods and culture of Japan, so that you can introduce and propagate it to the world.

### 【授業の内容】

1. Self-introduction and ice braking.
2. Vocabularies to describe Japanese foods.
3. Japanese foods I: History.
4. Japanese foods II: Seasonal events.
5. Japanese foods III: Course dinner.
6. Japanese Foods IV: Gifts from nature.
7. "Shun": Sense of the seasons in Japanese foods
8. Tastes and flavors in Japanese foods
9. Manners and tips in Japanese foods
10. Hospitality conversation in restaurants
11. Japanese dishes good for health I (Tofu and miso soup)
12. Japanese dishes good for health II (Donburi and noodles)
13. Japanese dishes good for health III (Hot pot dishes)
14. Japanese dishes good for health IV (Bento)
15. Summary and presentation.

### 【事前・事後学修】

Precoutions about the preparative works are noted above in English.

第1回の授業では、英語で自己紹介をする。名前、学科学年、趣味、特技、出身地、好きな食べ物、得意な料理、出身地の特産物、名物料理など3分間くらいの話を準備すること。第2回は食材や料理法などの語彙を学ぶ。必要な用語をmanaba courseに掲載するので訳を調べておくこと(約500語あるので早めに着手すること)。第3回以降も予習をmanaba courseに掲載するので確認し準備すること。

【テキスト・教材】

英語で伝える和食 Eat and speak Washoku(マガジンランド, 2015)  
濱田伊織著, 1500円  
脱文法100トピック実践英語トレーニング(ひつじ書房, 2017)中山誠一著, 1600円

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Participation 50%, Presentation 30%, Homework 20%.  
Feedback will be given in the class for the activity, attitude, performance and submitted reports.

【参考書】

日本料理の歴史(吉川弘文館, 2007)熊倉功夫著, 1700円  
飲食店の接客英会話(三修社, 2016)デイビッド・セイン著, 1728円  
日本語から引く「食」ことば英語辞典(小学館, 2004)永井一彦ら著, 3240円  
和食の英語表現事典(丸善出版, 2016)亀田尚己ら著, 4104円  
日本の家庭料理をやさしい英語で教えてみませんか?(ベレ出版, 2016)富永恵美子, 1944円  
英語でレッスン!外国人に教える和食の基本(IBCパブリッシング, 2016)秋山亜裕子, 2160円  
Japanese foods and Cooking. (Lorentz Books, 2012) Emi Kazuko

【注意事項】

Cooking practice may be held on weekend or holidays.  
Cooking practice 等を行う時は、週末や祝日、休暇中に行う場合があります。  
募集人数は40名です。

Global Studies e

Japanese handicrafts

中山 誠一・塚原 肇

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

This course aims to deepen the understanding of culture in traditional Japanese handicrafts by making products. Students will be asked to demonstrate their understanding by producing actual handicrafts after lectures.

【授業における到達目標】

This course aims to help students, through CLIL methodology, advance their English speaking and listening skills to CEFR B1 level. In doing so, students will cultivate their ability to actively apply problem solving skills to gain deeper insights into the course content.

【授業の内容】

1. Course introduction
2. Making a wooden coaster 1: Lecture
3. Making a wooden coaster 2: Planning
4. Making a wooden coaster 3: Production
5. Making a LED lamp umbrella 1: Lecture
6. Making a LED lamp umbrella 2: Planning
7. Making a LED lamp umbrella 3: Production
8. Making wooden toys 1: Lecture
9. Making wooden toys 2: Planning
10. Making wooden toys 3: Production
11. Making a Shippoyaki (Cloisonne)1: Lecture
12. Making a Shippoyaki (Cloisonne)1: Planning
13. Making a Shippoyaki (Cloisonne)1: Production
14. Final reflection paper
15. Course review and conclusion

【事前・事後学修】

<Before class>  
Students should read the articles related to the course topic and prepare summaries of the articles (1 hour).  
<After class>  
Students should write weekly reaction papers (1 hour).

【テキスト・教材】

There is no required textbook.

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Participation 40%  
Product submission 30%  
Final reflection paper 30%

\*Comments on products and reflection paper will be given in class.

【注意事項】

\*This course will be taught all in English.  
\*Students must attend two-thirds of lessons to pass this course.  
\*Coming class late three times equals one absence.  
募集人数は20名です。

## Global Studies e

Introduction to Cross-cultural Pragmatics

山下 早代子

2年 前期 2単位

◎ : 国際的視野 ○ : 研鑽力

activities.

Date for a mini-research study may be collected outside of the class.

募集人数は40名です。

### 【授業のテーマ】

In this course, we will consider the negotiation of meaning between speaker and listener from a cross-cultural perspective.

### 【授業における到達目標】

The students will be able to:

- explain the meaning of pragmatics and cross-cultural pragmatics
- analyze any conversation as a piece of data
- compare pragmatics in Japanese and English from a cross-cultural pragmatics view
- discuss the differences and/or similarities of pragmatics in Japanese and English
- conduct a mini research study on cross-cultural pragmatics

### 【授業の内容】

This course will introduce students to the study of contextualized meaning, and show how we create meaning from utterances. Pragmatics accounts for how implicit meaning is recovered as speakers and listeners go beyond the literal meaning of each utterance, such as in: It's hot, isn't it? could mean a request for another person to open a window. We will try to see how people understand utterances when they come from different cultures and backgrounds.

Week 1 Introduction

Week 2 Phatic communion-Greetings

Week 3 Communicative Competence

Week 4 What is pragmatics?

Week 5 Speech Acts

Week 6 Speech act: Apology

Week 7 Conversational Implicature

Week 8 Indirect Speech Acts

Week 9 Politeness (1)

Week 10 Politeness (2)

Week 11 Politeness in Making a Request

Week 12 Cross-cultural Pragmatics

Week 13 Conducting Mini-research study

Week 14 Presentation

Week 15 Final Exam

### 【事前・事後学修】

Preparation: Read and prepare each unit of the textbook before the class.

Review: Submit a task/ homework on the due date.

Two to three hours will be required for preparation and review.

### 【テキスト・教材】

The textbook is bilingual (Japanese and English)-to be announced.

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Task or homework-30%, Mini-research-30%, Presentation-20%, Final Exam-20%

Feedback will be available upon students' request in class, during my office hour or by e-mail.

### 【参考書】

Articles regarding Japanese pragmatics (such as differences of "desu/masu" and plain form) will be printed by the teacher and distributed in class.

### 【注意事項】

Please participate actively in pair work and/or group

謝 淑愛

2年 前期・後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

## 【授業のテーマ】

**Course Description**

This course will discuss the definition of globalization and various issues in global studies such as the evolution of human rights. Global Studies outlines some of the internal and external threats facing the modern nation-state. The aim of this course is to enhance the understanding of global phenomena by bringing the methodologies and discourses from various disciplines. It also aims to develop students' understanding of the nature of globalization, its roles, structures and responsibilities to the world. The course provides framework that allows students to further develop lifelong learning skills of independent learning and study in relation to Global Studies.

**Method of Delivery:** Lectures and Hands-on assignment

## 【授業における到達目標】

1. To understand what constitute Global Studies, the structure, and relationships between international organizations and the nation-state
2. To learn the historical background to the development of the nation-state
3. To identify the impact of the variety of external and internal environmental influences on international and globalization
4. To apply concepts and management tools to some aspect of international business

## 【授業の内容】

**Week 1: Introduction to Global Studies**

Globalization as series of social process  
Interconnectedness: the local and the global

**Week2: Dimensions of Globalization**

Global Economic Environment & Trade patterns ( Merchandise Trade and Service Trade). International Trade Alliances

**Week 3: Social and Cultural Environment**

Basic aspect of society and culture & Crosscultural complications

**Week 4: Nation-state system**

Nations, States, and the Nationstate System

**Week 5: Understanding competitive Environment of Global Management**

Porter Diamond of National Advantage (part 1)

**Week 6: Understanding competitive Environment of Global Management**

Porter Diamond of National Advantage (part 2)

**Week 7: Mid Term test 20%****Week 8: International Organizations (part 1)**

Intergovernmental Organizations (IGOs)  
United Nations & World Trade Organization (WTO) & Regional organizations

**Week 9: International Organizations (part 2)**

NonGovernmental Organizations (NGOs)  
Types of international NGO, activities and effectiveness

**Week 10: The Natural Environment**

Global Climate Change & Ongoing Global Environmental challenges

**Week 11: Population and Consumption**

Global population & Population pressures  
Global consumption patterns

**Week 12: The Gendered World:** Gender, poverty and development

**Week 13: Global Business Channels and Distribution (part 1)**  
Consumer products & Global retailing

**Week 14: Global Business Channels and Distribution (part 2)**  
Manufacturerowned Store & Franchise Operation

**Week 15: Group Presentation 20%**

## 【事前・事後学修】

Students should be fully prepared to participate in class discussions. Before the lesson, students should spend at least 2 hours go through the notes and materials given. Topic related assignment will be given each week. Students are expected to complete the assignment before the next class (2 hours).

## 【テキスト・教材】

There will be no text book needed.

Handouts (ppt slides, notes, case studies) will be provided.

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

**Valuation**

Class Participation	10%
Group Presentation	20%
Written Assignment Individual	20%
Mid Term Test	20%
Final Exam	30%

## 【参考書】

**1. An Introduction to Global Studies**

Authors: Patricia J. Campbell, Aran Mackinnon, & Christy R. Stevens (2010)

ISBN: 978-1-4051-8736-7

**2. Japan: A Global Studies Handbook**

Author: Lucien Ellington (2002) (ISBN: 978-1-576072714)

**3. Cross-Cultural Business Behavior: A Guide for Global Management (5th Edition)**

Authors: Richard R. Gesteland, 2012

ISBN-10: 8763002388 / ISBN-13: 9788763002387

## 【注意事項】

*The lecture topics is subject to the class level*

必要の都度、適宜配布する一方的な講義形式ではなく、双方向の演習形式を基本として授業を進めます。

ペアワークなど、さまざまな課題を組み込みながら授業を進めます。授業貢献度10%（授業態度、質疑への積極性、ペアワークなどの積極性、課題）

募集人数は40名です。

## Grammar &amp; Usage A

藤原 正道・大島 幸治・河合 修一郎

1年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

## 【授業のテーマ】

英文の正しい使い方と意味を修得します。自分ではわかっているつもりでも、ライティングなどをしてみると基礎的な文法事項が身につけていなかったと気がつくことがあります。文法学習とライティングなどを同時に行うことで、文法知識のあいまいな部分を明らかにし、実際に使える英語力の修得を目指します。

## 【授業における到達目標】

文法学習とライティングなどの学習を同時に行うことで、英語の正確な理解力と発信力を高めることを目標としています。文法知識に裏打ちされた英語理解力と発信力を修得することで、コミュニケーション力、英語および英語圏の社会・文化に関する知識の修得、さらに我が国の伝統の美と文化・精神について世界に発信しようとする態度を養うことを目指します。

## 【授業の内容】

1. 文の成り立ち	各品詞とその働き
2. 文の要素	主語と述語動詞
3. 文の種類 1	平叙文、否定文、疑問文
4. 文の種類 2	命令文、感嘆文、付加疑問文
5. 文の種類 3	単文、重文、複文
6. 名詞 1	普通、固有、集合など
7. 名詞 2	主格、目的格など
8. 名詞 3	人称、性など
9. 代名詞	指示、疑問、関係代名詞
10. 関係副詞、不定代名詞	one, some, anyなど
11. 形容詞	数量など
12. 比較、最上級	
13. 冠詞	定冠詞、不定冠詞など
14. 動詞 1	動詞の種類と文の用法
15. 動詞 2	完全自動詞、不完全自動詞など

順番は変更される場合があります。

## 【事前・事後学修】

事前学修：授業で学ぶ範囲を予習し、わからないところを明確にしておいてください。週1時間以上

事後学修：授業中に学んだ内容を見直して、小テストや課題提出の準備をしてください。週1時間以上

## 【テキスト・教材】

河合 修一郎：Robert Hickling・市川泰弘著『大学生のための読解演習と基本文法』金星堂 2009年、1950円＋税

大島 幸治：作成したオリジナルプリントを使用します。

藤原 正道：作成したオリジナルプリントを使用します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

河合 修一郎：毎回授業の冒頭で、前回学んだ内容について的小テストを行い、その結果を集計して成績とする（100%）、小テストは翌週の授業でフィードバックを行う。

大島 幸治：小テスト40%、平常点（授業への積極参加）20%、授業内テスト40%、次回授業でフィードバックを行います。

藤原 正道：小テスト90%、平常点（授業への積極参加）10%。

次回授業でフィードバックを行います。

## 【参考書】

必要に応じて、クラスで紹介します。

## 【注意事項】

- ・辞書を常に携帯すること。
- ・私語などによる授業妨害があった場合は、退室を求めます。また、居眠りや携帯電話などの使用により授業への積極的参加が認められない場合は、成績へ大いに反映します。

## Grammar &amp; Usage B

藤原 正道・大島 幸治・河合 修一郎

1年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

## 【授業のテーマ】

Grammar&Usage Aで学習した内容について、一層定着、発展させて、正確な文法知識に基づいたライティングの力を養います。

## 【授業における到達目標】

文法学習とライティングなどの学習を同時に行うことで、英語の正確な理解力と発信力を高めることを目標としています。文法知識に裏打ちされた英語理解力と発信力を修得することで、コミュニケーション力、英語および英語圏の社会・文化に関する知識の修得、さらに我が国の伝統の美と文化・精神について世界に発信しようとする態度を養うことを目指します。

## 【授業の内容】

1. 完全他動詞と不完全他動詞
2. 助動詞と本動詞の関係
3. 人称、数の一致
4. 不規則動詞の活用
5. 時制
6. 進行形
7. 完了形
8. 時制の一致
9. 仮定法
10. 受動態
11. 助動詞 1 (do, have, willなど)
12. 助動詞 2 (can, may, mustなど)
13. 直接話法と間接話法
14. 不定詞、分詞、動名詞
15. 副詞、前置詞、接続詞

内容の順番に変更がある場合があります。

## 【事前・事後学修】

事前学修：授業で学ぶ範囲の問題を解いて予習し、わからないところを明確にしておいてください。週1時間以上

事後学修：授業中に学んだ内容を見直して、小テストや課題提出の準備をしてください。週1時間以上

## 【テキスト・教材】

河合 修一郎：Robert Hickling・市川泰弘著『大学生のための読解演習と基本文法』金星堂 2009年、1950円＋税

大島 幸治：作成したオリジナルプリントを使用します。

藤原 正道：作成したオリジナルプリントを使用します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

河合 修一郎：毎回授業の冒頭で、前回学んだ内容について的小テストを行い、その結果を集計して成績とする（100%）、小テストは翌週の授業でフィードバックを行う。

大島 幸治：小テスト40%、平常点（授業への積極参加）20%、授業内テスト40%、次回授業でフィードバックを行います。

藤原 正道：小テスト90%、平常点（授業への積極参加）10%。次回授業でフィードバックを行います。

## 【参考書】

必要に応じて、クラスで紹介します。

## 【注意事項】

- ・辞書を常に携帯すること。
- ・私語などによる授業妨害があった場合は、退室してもらいます。また、居眠りや携帯電話の使用による授業への積極的参加が見られない場合は成績へ大いに反映します。

**Grammar & Usage C**

卒業までにしっかり身に付けておきたい英文法の基礎

河合 修一郎

2年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

英語が使えるようになりたいと思いながら、いまでも英文法が苦手という人は多いでしょう。しかし、文法が身に付いていないと、他人の作った英文はマネできても、自分の言いたいことに英語のカタチを与えることは難しいのではないかと。そうした学生を対象に、習得する上でのポイントを押さえながら、英語の「しくみ」をわかりやすく解説していきます。

**【授業における到達目標】**

ただ日本語に訳して終わりの英語学習ではなくて、英語の論理のもとに、国際的視野を踏まえて客観的に自己を表現できる能力を身に着けることを目指します。学習を人生の目標と位置づけ、日々研鑽に励んでほしい。

**【授業の内容】**

1. 文の成り立ち
2. 文の種類
3. 動詞と文型
4. 動詞と時制
5. 完了形
6. 動詞の形の決め方・時制の一致
7. 助動詞
8. 態
9. 準動詞とは
10. 不定詞
11. 動名詞
12. 動名詞と不定詞
13. 分詞
14. 比較
15. 関係詞

**【事前・事後学修】**

今日はどんなことを学習するのか、テキストに目を通した上で授業に臨むこと。(週2時間) 授業後は付属の問題集を使って、理解した内容を確認。(週2時間)

**【テキスト・教材】**

『Evergreen』 (いっぴな書店 2017年) 1520円+税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

毎回授業の冒頭で、前回学んだ内容についての小テストを行い、その結果を集計して成績とします。(100%、採点済みの答案是翌週の授業で返却)

**【注意事項】**

授業を欠席したり遅刻した場合は、その回のテストの成績がゼロになります。結局、目標を諦めずに持続するかしないかが物事の勝ち負けを決定します。また、扱うテーマの性質上、前期、後期をあわせて受講することが望ましい。

受講人数制限40名。(制限人数を超えた場合は抽選)

**Grammar & Usage C**

英文法の必須事項の確認と問題演習

大島 幸治

2年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

すでに学習してきた英文法に関する必須事項を確認し、正確に英文を解釈したり、英語表現のニュアンスの違いを理解することで、英語で自信をもって情報発信できるようになることを目指します。TOEIC対策の英文法・語彙問題を演習し、問題解説を行いながら、英文法の重要項目について質疑応答しながら解説していきます。

**【授業における到達目標】**

単語訳をただ当てはめて英文を理解するのではなく、英語の論理や英文に込められた意図やニュアンスの違いをできるように、知識の補充と理解の深化を目指します。具体的にはTOEICで出題される英文法・語彙問題への解答演習を通じて、知識と語彙力を拡大してスコアの上昇を目指して自己の学習成果を確認します。これにより学生が修得すべき「研鑽力」のうち、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたって知を探求する姿勢を修得します。

**【授業の内容】**

- 第1週 動詞と文型
- 第2週 動詞と時制
- 第3週 法助動詞
- 第4週 仮定法
- 第5週 態
- 第6週 準動詞
- 第7週 名詞と冠詞
- 第8週 代名詞
- 第9週 形容詞
- 第10週 形容詞句
- 第11週 形容詞節
- 第12週 副詞
- 第13週 副詞句
- 第14週 副詞節
- 第15週 比較・否定

**【事前・事後学修】**

授業で先渡しされたプリントで次回の授業テーマを予習すること(週2時間)。授業後は、授業で演習した問題を復習し、理解した内容を確認し、解答力をアップすること(週2時間)。

**【テキスト・教材】**

プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

毎回授業の冒頭で、前回学んだ内容についての確認を行います。不定期に確認テストを5回実施し、その結果を集計して60%、期末試験40%、試験結果は授業最終回にフィードバックします。

**【注意事項】**

受講人数制限40名(制限を超えた場合は抽選)

## Grammar & Usage D

卒業までにしっかり身に付けておきたい英文法の基礎

河合 修一郎

2年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

英語が使えるようになりたいと思いつつ、いまでも英文法が苦手という人は多いでしょう。しかし、文法が身に付いていないと、他人の作った英文はマネできても、自分の言いたいことに英語のカタチを与えることは難しいのではないかと。そうした学生を対象に、習得する上でのポイントを押さえながら、英語の「しくみ」をわかりやすく解説していきます。

### 【授業における到達目標】

ただ日本語に訳して終わりの英語学習ではなくて、英語の論理をもとに、国際的視野を踏まえて客観的に自己を表現できる能力を身に着けることを目指します。学習を人生の目標と位置づけ、日々研鑽に励んでほしい。

### 【授業の内容】

1. 句と節
2. 仮定法
3. 疑問詞と疑問文
4. 否定
5. 話法
6. 名詞構文・無生物主語
7. 強調・倒置・挿入・省略・同格
8. 名詞
9. 限定詞とは
10. 冠詞
11. 代名詞
12. 形容詞
13. 副詞
14. 前置詞
15. 接続詞

### 【事前・事後学修】

今日はどんなことを学習するのか、テキストに目を通した上で授業に臨むこと。(週2時間) 授業後は付属の問題集を使って、理解した内容を確認。(週2時間)

### 【テキスト・教材】

『Evergreen』 (いいずな書店2017年) 1520円+税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回授業の冒頭で、前回学んだ内容についての小テストを行い、その結果を集計して成績とします。(100%、採点済みの答案は翌週の授業で返却)

### 【注意事項】

授業を欠席したり遅刻した場合は、その回のテストの成績がゼロになります。結局、目標を諦めずに持続するかしないかが物事の勝ち負けを決定します。また、扱うテーマの性質上、前期、後期をあわせて受講することが望ましい。

受講人数制限40名。(制限人数を超えた場合は抽選)

## Grammar & Usage D

久保田 佳枝

2年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

この授業では、英語を実用的に使うために必要な文法と構文の解説を行い、それらの構文を実際に使えるように覚え、練習をします。授業では、海外旅行等に行った際に必須となる言い回しから日本文化を紹介する文等、みなさんにとって比較的身近な題材を用いて学んでいきます。

### 【授業における到達目標】

基礎的な構文に関する文法の解説を行い、それらの構文を繰り返し演習し、実際に使えるようになることを目標とします。その上で、国際的視野と研鑽力の育成をも目指します。

### 【授業の内容】

1. オリエンテーション：授業の進め方・学習方法等の説明
2. 文①：主部・述部
3. 文②：目的語・補語
4. 文型①：S+V
5. 文型②：S+V+C
6. 文型③：S+V+O
7. 文型④：S+V+O+O
8. 文型⑤：S+V+O+C
9. 品詞
10. 句と節
11. 文の種類と肯定・否定文
12. 平叙文
13. 疑問文
14. 単文・複文
15. まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の学習範囲に目を通し、各構文の文法と日本語訳を書いてくること。(学修時間は週2時間)

【事後学修】 授業で学んだ内容を理解し、構文を暗記する。(学修時間は2時間)

### 【テキスト・教材】

プリントを配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験は行わず、毎回の授業において小テスト等を実施する。平常点25%、小テスト等75%として総合評価を行う。

### 【参考書】

必要に応じて呈示する。

### 【注意事項】

第一回目の授業の際に、各授業後の勉強の仕方等を詳しく解説する。そのため、履修希望者はできるだけ出席してほしい。



**ICT基礎演習**

コンピュータネットワークと私たちの暮らし

佐藤 健

2年 後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

現代は、「コンピュータ・ネットワーク」の正常稼働なくしてすべての社会活動がままならないほどにまで、我々の生活にネットワークが浸透している。しかし、ネットワークは通常「ブラックボックス」あるいは電気・ガス・水道・道路のような「社会インフラ」の一つとして扱われており、「中で何がどのように起こっているか」を理解した上で利用されていることはほとんどない。ビッグデータの解析、まちづくりや生活環境を保つためにICTが活用されている事例を研究し演習を行う。

**【授業における到達目標】**

ネットワークサービスの現状を正しく理解し、超スマート社会の実現にむけて課題を発見し、お互いが協力する「行動力（◎）」と「国際的視野（○）」を養うことを目標としている。

**【授業の内容】**

- 第1週 受講上の注意点
- 第2週 ネットワークの基礎
- 第3週 プロトコルとOSI参照モデル
- 第4週 TCP/IPの歴史と構成
- 第5週 ビッグデータの解析
- 第6週 IoTの現状
- 第7週 オンデマンド（レポート作成と提出）
- 第8週 サーバー環境を構築する（UNIXのインストール）
- 第9週 オンデマンド（サーバー環境の調査）
- 第10週 中間発表
- 第11週 ネットワーク環境を構築する
- 第12週 無線LAN環境の調査
- 第13週 オンデマンド（ネットワーク環境の調査）
- 第14週 アプリケーションの利用
- 第15週 まとめ（期末レポートの作成と提出）

**【事前・事後学修】**

コンピュータを正確に操作するには、様々な利用形態を体験することにある。様々な社会システムを支えているネットワークコンピュータについて興味をもつことから始まる。事前学修として、学習システム上に用語の小テストを実施する。また、各授業週の内容を理解しているか確認するテストを事後学修として、実施する。授業全体としては、約60時間の学修時間が必要となる。

**【テキスト・教材】**

別途教場で指示する

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

出席時の小テスト：30%、授業時のレポート：30%、  
期末課題：40%

レポートやデータの処理方法などは、随時フィードバックを行う

**【参考書】**

教場で別途提示します。

**【注意事項】**

ICTスキルを向上するためには、ネットワークを介した適切なコミュニケーションの機会が必要です。ぜひ、学外（自宅等）でもインターネットの利用ができる環境を持つようにしてください。

## Listening A

栗田 智子・田丸 由美子・霜田 敦子

1年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

## 【授業のテーマ】

リスニング用の機器・設備を使用して、多くの英語音声に触れることで、聞く力を高めるための基礎力を養います。聞く力の向上には、どれほど多くの単語や表現、文法の知識を身につけているか、自然な早さの発話を聞くことにどれほど慣れているか、などさまざまな事柄が関わってきます。また、音の変化に慣れることも重要です。この授業では、音の変化を中心にした聞き取り能力の向上につながる多くのヒントが得られるはずです。

## 【授業における到達目標】

学修を通して自己成長する力（研鑽力）によって得られた成果を実感して、自信を創出すること、英語を聞き取り、コミュニケーション能力を向上し、国際的視野から英語圏の言語と社会・文化を理解できるようになることを到達目標とします。

## 【授業の内容】

1. はじめに 英語のリズムの基本 1
2. 基本練習 1 英語のリズムの基本 2
3. 基本練習 2 弱く発音される音の基本 1
4. 基本練習 3 弱く発音される音の基本 2
5. 基本練習 4 聞こえなくなる音の基本 1
6. 基本練習 5 聞こえなくなる音の基本 2
7. 基本練習 6 なくなる音の基本 1
8. 基本練習 7 なくなる音の基本 2
9. 基本練習 8 ひとつになる音・変わる音の基本 1
10. 基本練習 9 ひとつになる音・変わる音の基本 2
11. 基本練習 10 つながる音の基本 1
12. 基本練習 11 つながる音の基本 2
13. 基本練習 12 アクセント・イントネーションの基本 1
14. 基本練習 13 アクセント・イントネーションの基本 2
15. まとめ

内容の順番に変更がある場合があります。

## 【事前・事後学修】

事前学修：課題やその他の聞き取り教材に取り組む。

事後学修：授業の復習や他の教材に取り組む。

（事前・事後学修を合わせて週 2 時間以上）

## 【テキスト・教材】

開講時に指示します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

栗田 智子：提出物40%＋平常点10%＋期末テスト50%

霜田 敦子：定期試験（50%）＋小テスト（20%）

＋oral test（20%）＋平常点（授業態度）（10%）

田丸由美子：定期試験（50%）＋小テスト（30%）＋課題（20%）

それぞれ次回授業か試験後または最終授業でフィードバックを行います。

## 【参考書】

必要に応じ、各クラスで授業時に適宜紹介します。

## 【注意事項】

授業内容は、担当教員によって多少異なることがあります。

私語などにより、他人への迷惑行為や授業の妨げになる行為があった場合は、退出してもらいます。また、居眠りや携帯電話の使用などによって、授業への積極的参加が認められない場合、成績に大いに影響があることを伝えておきます。

## Listening B

栗田 智子・田丸 由美子・霜田 敦子

1年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

## 【授業のテーマ】

「Listening A」に引き続き、リスニング用の機器・設備を使用して、多くの英語音声に触れることにより、聞く力をさらに高めるための演習を行います。聞く力の向上には、どれほど多くの単語や表現、文法の知識を身につけているか、自然な早さの発話を聞くことにどれほど慣れているか、などさまざまな事柄が関わります。また、音の変化に慣れることも重要です。この授業では、音の変化を中心にした聞き取り能力の向上につながる多くのヒントが得られるはずです。

## 【授業における到達目標】

学修を通して自己成長する力（研鑽力）によって得られた成果を実感して、自信を創出すること、英語を聞き取り、コミュニケーション能力を向上し、国際的視野から英語圏の言語と社会・文化を理解できるようになることを到達目標とします。

## 【授業の内容】

1. はじめに 英語のリズムの練習 1
2. 発展練習 1 英語のリズムの練習 2
3. 発展練習 2 弱く発音される音の練習 1
4. 発展練習 3 弱く発音される音の練習 2
5. 発展練習 4 聞こえなくなる音の練習 1
6. 発展練習 5 聞こえなくなる音の練習 2
7. 発展練習 6 なくなる音の練習 1
8. 発展練習 7 なくなる音の練習 2
9. 発展練習 8 ひとつになる音・変わる音の練習 1
10. 発展練習 9 ひとつになる音・変わる音の練習 2
11. 発展練習 10 つながる音の練習 1
12. 発展練習 11 つながる音の練習 2
13. 発展練習 12 アクセント・イントネーションの練習 1
14. 発展練習 13 アクセント・イントネーションの練習 2
15. まとめ

内容の順番に変更がある場合があります。

## 【事前・事後学修】

事前学修：課題やその他の聞き取り教材に取り組む。

事後学修：授業の復習や他の教材に取り組む。

（事前・事後学修を合わせて週 2 時間以上）

## 【テキスト・教材】

開講時に指示します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

栗田 智子：提出物40%＋平常点10%＋期末テスト50%

霜田 敦子：定期試験（50%）＋小テスト（20%）

＋oral test（20%）＋平常点（授業態度）（10%）

田丸由美子：定期試験（50%）＋小テスト（30%）＋課題（20%）

それぞれ次回授業か試験後または最終授業でフィードバックを行います。

## 【参考書】

必要に応じ、各クラスで授業時に適宜紹介します。

## 【注意事項】

授業内容は、担当要員によって多少異なることがあります。

私語などの他人への迷惑行為や授業の妨げになる行為があった場合は、退出してもらいます。また居眠りや、携帯電話の使用などによって、授業への積極的参加が認められない場合、成績に大いに影響があることを伝えておきます。

## Listening C

田丸 由美子

2年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

## 【授業のテーマ】

英米の映画を教材として使用することで「教科書英語」ではない生の英語に触れていきます。

## 【授業における到達目標】

台詞の聞き取り練習や、登場人物になりきって台詞を言う練習を繰り返すことでリスニング能力を高めることを目標とします。

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたって知を探求する姿勢を修得します。

## 【授業の内容】

- 第1週 授業の内容・予定の説明  
 第2週 『チャーリーズ・エンジェル』 (1) 気軽な挨拶  
 第3週 『チャーリーズ・エンジェル』 (2) 初対面の人への挨拶  
 第4週 『チャーリーズ・エンジェル』 (3) 別れるときの挨拶  
 第5週 『チャーリーズ・エンジェル』 (4) お礼の言い方と返答  
 第6週 『チャーリーズ・エンジェル』 (5) 謝るときの表現とその返答  
 第7週 『リアリティ・バイツ』 (1) 依頼の表現  
 第8週 『リアリティ・バイツ』 (2) 承諾するときの表現  
 第9週 『リアリティ・バイツ』 (3) 具体例の聞き方  
 第10週 『リアリティ・バイツ』 (4) 許可を求めるときの表現  
 第11週 『リアリティ・バイツ』 (5) 提案するときの表現  
 第12週 『恋人までの距離』 (1) ものをすすめるときの表現  
 第13週 『恋人までの距離』 (2) 前置き表現  
 第14週 『恋人までの距離』 (3) 丁寧な表現  
 第15週 『恋人までの距離』 (4) カジュアルな表現

## 【事前・事後学修】

【事前学修】毎回、授業のはじめに聞き取りテストを行います。前の週の授業で範囲になっていた部分の音声をよく聞いて、しっかり準備してきて下さい（学修時間 週1時間）。

【事後学修】その日に学習した表現はその日のうちに必ず覚えるようにしてください（学修時間 週1時間）。

## 【テキスト・教材】

Communicative English through Screenplays (2) 2,415円

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験（50%）、聞き取りテスト（25%）、提出物（15%）、発音練習（10%）。聞き取りテストと発音練習は毎回授業の最後に、提出物は次回授業時に、期末試験の結果は授業最終回にフィードバックを行います。

## 【注意事項】

「ListeningC」ではテキストの前半部分だけしか使用しません。後期に「ListeningD」を履修すると、残りの後半部分を使うので、後期に「ListeningD」を履修することをおすすめします。

受講人数制限（35名）があります。制限人数を超えた場合、抽選となります。

## Listening C

—話せれば聴ける！—

栗本 孝子

2年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

## 【授業のテーマ】

英語のリスニングは苦手だという人がたくさんいます。大学入試や英検やTOEICなどのリスニング問題がまったく聞き取れなかったのに、文字にしてみると全部知っている単語で「なあんだ、簡単じゃないか！」と腹立たしく思った経験はありませんか？それではなぜうまく聞き取れないのでしょうか？その原因のひとつは、「あなたの思っている発音が英語のネイティブの発音と違っている」からなのです。本講座では英語ネイティブの「母音」の発音を聞き取れるようにします。発音とリスニングの練習をすることで英語と日本語の母音の違いを知りましょう。そして正しく美しい英語の母音を発音できるようにします。そうです、「話せれば聴ける！」のです。

## 【授業における到達目標】

- ・辞書の発音記号を正しく読むことができるようになる。
- ・日本語と英語の母音発音の相違を認識できる。
- ・英語ネイティブによる音声を聞き、単語のDictation（書き取り）ができるようになる。
- ・正しい英語発音を身につけることで世界中の人々の英語を聞き取る力がつき、そのための努力を通して修得すべきディプロマ・ポリシーの「国際的視野」を広げようとする「研鑽力」を磨くことができる。
- ・言語は文化のひとつ。日本の文化と英語圏の文化の相違点を言語と発音の違いを通して客観的に認識する力を修得する。

## 【授業の内容】

- 第1週 講座説明（発音記号ってなに？）  
 第2週 カタカナ英語に気をつけろ！  
 第3週 母音1（赤の他人です！）  
 第4週 母音2（はい、絵です！）  
 第5週 母音3（アの仲間、集合！）  
 第6週 母音4（メールじゃないよ、メールだよ！）  
 第7週 母音5（Cの反転、どんな音？）  
 第8週 母音6（ウーの口はどんな形？）  
 第9週 母音7（二重母音ってなに？）  
 第10週 母音8（eの逆立ち、どんな音？）  
 第11週 母音9（母音のアールの勢揃い）  
 第12週 母音10（ラッパロとアール舌）  
 第13週 英語と米語はここが違う！  
 第14週 母音のアールが消える？  
 第15週 総まとめ

## 【事前・事後学修】

事前学修：次週に学ぶ教科書のページを指定しますので、そのページに出ている英単語をすべて辞書で引いて意味と発音記号を調べ、ノートに整理しておくこと。（学修時間 週1時間）

事後学修：その週に習った母音のCDを繰り返し聞いて声に出して練習しておくこと。（学修時間 毎日10分）

(1) 辞書、手鏡、配布プリントは毎授業に持参すること。

(2) 毎週、母音発音記号の課題があります。次週に授業内で発表（ホワイトボードに書き、正しく発音する）してもらいます。

## 【テキスト・教材】

- ・テキスト：栗本孝子『3万人の心をつかんだ栗本先生が教える英語発音』（ダイエックス出版 2011年）1,800円＋税
- ・その他の教材：リスニング練習プリントを毎週配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・平常点（毎週課題を発表）20%
- ・クラス内期末テスト80%
- ・課題発表は授業内に、期末テストは最終授業回にフィードバックを行います。

## 【注意事項】

- ・受講人数制限35名（制限人数を超えた場合、抽選）

## Listening D

田丸 由美子

2年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

## 【授業のテーマ】

英米の映画を教材として使用することで「教科書英語」ではない生の英語に触れていきます。

## 【授業における到達目標】

台詞の聞き取り練習や、登場人物になりきって台詞を言う練習を繰り返すことでリスニング能力を高めることを目標とします。

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたって知を探求する姿勢を修得します。

## 【授業の内容】

第1週 授業の内容・予定の説明

第2週 『僕たちのアナ・バナナ』 (1) 語彙力アップトレーニング

第3週 『僕たちのアナ・バナナ』 (2) よく使う表現を覚える

第4週 『僕たちのアナ・バナナ』 (3) よく使う表現を使ってみる

第5週 『僕たちのアナ・バナナ』 (4) 基本的な文法事項の確認

第6週 『僕たちのアナ・バナナ』 (5) スクリプトを読みながら聞く練習

第7週 『魅せられて』 (1) ディクテーションの練習

第8週 『魅せられて』 (2) 正しい発音を習得する

第9週 『魅せられて』 (3) 物真似するように発音する練習

第10週 『魅せられて』 (4) 感情移入しながら発音する練習

第11週 『魅せられて』 (5) 登場人物になりきって発音する練習

第12週 『シュルタリング・スカイ』 (1) スクリプトありで単文を発音する練習

第13週 『シュルタリング・スカイ』 (2) スクリプトなしで単文を発音する練習

第14週 『シュルタリング・スカイ』 (3) スクリプトありで長文を発音する練習

第15週 『シュルタリング・スカイ』 (4) スクリプトなしで長文を発音する練習

## 【事前・事後学修】

【事前学修】毎回、授業のはじめに聞き取りテストを行います。前の週の授業で範囲になっていた部分の音声をよく聞いて、しっかり準備してきて下さい(学修時間 週1時間)。

【事後学修】その日に学習した表現はその日のうちに必ず覚えるようにしてください(学修時間 週1時間)。

## 【テキスト・教材】

Communicative English through Screenplays (2) (DTP出版)  
2,415円

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験(50%)、聞き取りテスト(25%)、提出物(15%)、発音練習(10%)。聞き取りテストと発音練習は毎回授業の最後に、提出物は次回授業時に、期末試験の結果は授業最終回にフィードバックを行います。

## 【注意事項】

「ListeningD」ではテキストの後半部分だけしか使用しません。前期に「ListeningC」を履修していた方は、テキストを通して使用できるので、後期にこの「ListeningD」を履修することをおすすめします。

受講人数制限(35名)があります。制限人数を超えた場合、抽選となります。

## Listening D

栗本 孝子

2年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

## 【授業のテーマ】

「Listening C」では英語と日本語の「母音」の特徴や違いを学びました。この講座では英語の「子音」を聞き取る練習をします。

母音と違って英語の子音には日本語に存在しない音がたくさん含まれています。ですから、聞き取りも私たちにはとても難しいのです。でも、大丈夫。英語子音の特徴を知り、意識してリスニング練習を繰り返し、自分でも発音できるようにすることで、楽に聞き分けられるようになります。

日本人が英語のリスニングが苦手な理由のひとつは「英語特有のリズムに慣れていないこと」です。この講座では、英語のリズムを自分で体得することで英文を正しく聞き取り、内容を理解できるようにします。

## 【授業における到達目標】

- ・日本語に存在しない英語子音を正しく発音できるようになる。
- ・英語発音の特徴を知り、英語特有のリズムを体得できる。
- ・単語レベルの発音記号を自分で書くことができるようになる。
- ・正しく美しい英語発音を身につけることで世界中の人々の英語を聞き取ることができる。そのための努力を通して「国際的視野」を広げる「研鑽力」を磨くことができる。
- ・英語という異文化を学ぶ楽しみを発見する「能力」が培われ、英語の「音」の持つおもしろさを知れば知るほど、自分から進んで学ぼうとする意欲が湧いてくる。

## 【授業の内容】

第1週 講座説明(母音と子音との違い)

第2週 無声音と有声音

第3週 カタカナ英語に気をつけろ!

第4週 子音1(破裂音のペア集合!)

第5週 子音2(摩擦音のペア集合)

第6週 子音3(破擦音のペア!)

第7週 子音4(日本人が間違える音-1「シート」)

第8週 子音5(日本人が間違える音-2「チップ」)

第9週 子音6(日本人が間違える音-3「クローズ」)

第10週 子音7(日本人が間違える音-4「イヤー」)

第11週 子音8(日本人が間違える音-5「ファイト」)

第12週 子音9(鼻音3兄弟)

第13週 子音10(2種類のエル)

第14週 世界のいろいろな英語を聴き取る

第15週 総まとめ

## 【事前・事後学修】

事前学修: 次回の授業のために指定された教科書のページに出ている英単語の意味と発音記号をすべて辞書で引き、ノートに整理しておくこと。(学修時間 週1時間)

事後学修: その週に習った子音のCDを繰り返し聞いて声に出して練習すること。(学修時間 毎日10分)

- ・辞書、手鏡、配布プリントは毎週授業に持参すること。
- ・毎週、子音の発音記号の課題があります。次週の授業で発表(ホワイトボードに書き、正しく発音する)してもらいます。

## 【テキスト・教材】

・テキスト: 栗本孝子『3万人の心をつかんだ栗本先生が教える英語発音』(ダイエックス出版 2011年)1,800円+税

・その他の教材: リスニング練習プリントを毎週配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・平常点(毎週課題を発表)20%
- ・クラス内期末テスト80%
- ・課題発表は次週の授業内に、期末テストは最終授業回にフィードバックを行います。

## 【注意事項】

- ・受講人数制限35名(制限人数を超えた場合、抽選)

## NPO・NGO論

神山 静香

2年 前期 2単位

◎：国際的視野

## 【授業のテーマ】

グローバルにビジネスを展開する先進国企業の活動によって、アジアやアフリカなどの新興国や途上国において、サプライチェーンにおける労働・雇用問題や児童労働、資源の搾取、環境汚染、紛争地域における資源開発等、様々な問題が生じたことをきっかけに企業の社会的責任（Corporate Social Responsibility：CSR）の推進が強く求められています。CSRを推進し、地球規模の社会的課題を解決するためにNPO・NGOと企業の連携が求められています。

本講義は、NPO・NGOの基本的な仕組みを理解しながら、事例分析を通じて、企業の社会的責任（CSR）の推進においてNPO・NGOが果たす役割や活動の意義を理解することを目的とします。

## 【授業における到達目標】

地球規模で生じる社会、環境、人権等に関わる問題の現状や問題の解決に向けたNPO・NGOと企業の連携、国際的な取り組みについて学びます。ディプロマ・ポリシーとの関連については、国際感覚を身につけて世界に踏み出し社会を動かそうとする態度を核として、学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く力及び「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を発見する力を修得します。

## 【授業の内容】

- 第1週 インTRODクッション：授業のねらい、進め方、企業のCSRと国際的課題の解決におけるNPO・NGOの役割
- 第2週 NPO・NGOとは：法と制度、設立、運営、資金調達
- 第3週 企業の社会的責任（CSR）とは
- 第4週 NPO・NGOとCSR：ドキュメンタリーの鑑賞
- 第5週 CSRに関する国際的規範・ルール  
持続可能な開発目標（SDGs）
- 第6週 NPO・NGOと企業の連携
- 第7週 NPO・NGOとソーシャルビジネス（1）総論
- 第8週 ソーシャルビジネス（2）欧米における社会的企業
- 第9週 ソーシャルビジネス（3）BOPビジネス
- 第10週 連携事例研究（1）紛争鉱物
- 第11週 連携事例研究（2）人権
- 第12週 連携事例研究（3）貧困、認証制度
- 第13週 連携事例研究（4）労働問題
- 第14週 NPOをつくる：目的の設定、設立の手続きなど
- 第15週 まとめ：講義の講評

## 【事前・事後学修】

【事前】授業時にキーワードを提示するので、新聞やインターネット等で情報を収集したり、関連文献を読むなどして、自分の考えをまとめておいてください。（学修時間週2時間）

【事後】講義レジュメやノートを復習し、なにが問題なのか理解するようにしてください。（学修時間週2時間）

## 【テキスト・教材】

テキスト、教材については授業開始後、指示します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト、課題の提出、授業への積極的な参加等の平常点（40％）と期末レポート（60％）に基づいて評価します。小テストは次回授業でフィードバックを行います。

## 【参考書】

授業時に適宜紹介します。

## Reading A

栗本 孝子・霜田 敦子・河合 修一郎・猪又 久夫

1年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

## 【授業のテーマ】

この授業では、英文講読の演習を行います。テキストの難易度や内容は、クラスごとに適切なものが選ばれます。正確に読むことが、正確に書くこと、聞くこと、話すことにつながっていきます。あせらず休まずしっかり勉強していきましょう。

## 【授業における到達目標】

この科目では、さまざまな英文を正確に読むことによって、基礎的な単語と構文について理解力を深めます。文法事項の確認を基に読解力を高め、英語圏の多様な多文化社会に対応できる柔軟な思考を目指し、国際的な研鑽力を磨いていきます。

## 【授業の内容】

以下の文法項目を含む文を正確に読解する演習を行います。内容の順番に変更がある場合があります。

1. 主部と述部、主語と述語動詞、主語の探求
2. 主語の修飾語、述語動詞の修飾語、目的語、補語
3. 能動と受動、動作と状態
4. 冠詞の処理
5. 代名詞の処理、Itの用法について
6. 接続詞、関係代名詞、関係副詞
7. 前置詞について
8. 否定の研究
9. 比較の研究
10. 仮定法の研究
11. 命令文
12. 疑問文の研究
13. 感嘆文の研究
14. 特殊語法の研究
15. 省略語法

## 【事前・事後学修】

事前学修：授業で学ぶ範囲の英文を読み、出された課題を解き、単語をチェックしておいてください。（学修時間週1時間）

事後学修：授業中に学んだ内容を見直して、小テストや課題提出の準備をしてください。（学修時間週1時間）

## 【テキスト・教材】

栗本孝子：JoAnn Parochetti他共著『Cool Japan』南雲堂，2017年（1900円＋税）

河合修一郎：Bill Benfield・登美博之著『Polish up Your English 英文法から学ぶ基本英語』成美堂，2005年（1800円＋税）

猪又久夫：佐藤哲三・愛甲ゆかり著『English Primer』Revised Edition，南雲堂，2013年（1900円＋税）

霜田敦子：Robert Juppe & Yukio Umaba著『Premium Reader Elementary』金聖堂，2011年（1,700円＋税）

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

栗本孝子：毎回文法問題プリント50%＋授業内期末試験50%。プリント解答・解説は次週、期末試験解答・解説は最終授業。

河合修一郎：毎回授業冒頭での小テスト（前回内容確認）の集計が成績（100%）。小テストのフィードバックは翌週授業で。

猪又久夫：定期試験 50%＋平常点（授業態度、課題提出）50%、最終回にフィードバック。

霜田敦子：授業内定期試験50%＋小テスト10%＋課題プリント30%＋WPM記録表10%

## 【参考書】

必要に応じて、クラスで紹介します。

## 【注意事項】

必ず毎回辞書を持参してください。授業開始時に注意事項を説明します。しっかり聞いて守りましょう。

## Reading B

栗本 孝子・霜田 敦子・河合 修一郎・猪又 久夫

1年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

## 【授業のテーマ】

Reading Aで学習した知識を活かして、さらに多くの英文を読み、正確にそしてできるだけスピーディに英文を理解する力を身につけていきます。そのため、語彙力を増やすことはもちろんのこと、英語の文脈に注意を払いながらパラグラフ単位で大意を把握するなどの読み方についても学んでいきます。

## 【授業における到達目標】

さまざまな英文を読む作業を通じて、英文構造の理解と英文構造を支える語彙力を深めていきます。英語圏の多様な多文化社会に対応できる柔軟な思考を目指し、国際的な研鑽力を磨くとともに、国際的ま視野と英語運用能力の向上を目指します。

## 【授業の内容】

以下の文法項目を含む文を正確に読解する演習を行います。内容の順番に変更がある場合があります。

1. 助動詞の説明
2. 助動詞についての練習問題
3. 態についての説明
4. 態を含む文の練習問題
5. 不定詞の用法について
6. 不定詞を含む文の練習問題
7. 分詞の用法について
8. 分詞を含む文の練習問題
9. 動名詞の用法について
10. 動名詞を含む文の練習問題
11. 数詞についての説明
12. 数詞を含む文の練習問題
13. 完了時制について、その使い方
14. 完了形を含む文の練習問題
15. まとめ

## 【事前・事後学修】

事前学修：授業で学ぶ範囲の英文を読み、出された課題を解き、単語をチェックしておいてください。（学修時間週1時間）

事後学修：授業中に学んだ内容を見直して、小テストや課題提出の準備をしてください。（学修時間週1時間）

## 【テキスト・教材】

栗本孝子：JoAnn Parochetti他共著『Cool Japan』南雲堂，2017年（1900円＋税）

河合修一郎：Bill Benfield・登美博之著『英文法から学ぶ基本英語 Polish up Your English』成美堂，2005年（1800円＋税）

猪又久夫：佐藤哲三・愛甲ゆかり著『English Primer』Revised Edition，南雲堂，2013年（1900円＋税）

霜田敦子：Robert Juppe & Yukio Umaba著『Premium Reader Elementary』成美堂，2011年（1,700円＋税）

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

栗本孝子：毎回文法問題プリント50%＋授業内期末試験50%。プリント解答・解説は次週、期末試験解答・解説は最終授業。

河合修一郎：毎回授業冒頭での小テスト（前回内容確認）の集計が成績（100%）。小テストのフィードバックは翌週授業で。

猪又久夫：定期試験 50%＋平常点（授業態度、課題提出）50%、最終回にフィードバック。

霜田敦子：授業内定期試験50%＋小テスト10%＋課題プリント30%＋WPM記録表10%

## 【参考書】

必要に応じて、クラスで紹介します。

## 【注意事項】

必ず毎回辞書を持参してください。授業開始時に注意事項を説明します。しっかり聞いて守りましょう。

## Reading C

猪又 久夫

2年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

## 【授業のテーマ】

平易な構文で書かれている英文エッセイを読みながら英語読解能力を基礎から向上することを目指します。授業では、地球温暖化・人口過剰・技術革新・現代芸術など現代にかかわる多岐にわたるトピックを教材として用います。それゆえ、さまざまな分野で使われている多種多様な英語表現・語彙も同時に習得されるはずです。

## 【授業における到達目標】

世界の社会や文化事象を表現した英語を学ぶことを通し、現代世界に対する幅広い視点を獲得することを第一の目標とし、その視点から日本に対する新しい見方ができるようになることを第二の目標とする。

授業内で扱う多様な分野においては、多くの偉人たちが登場する。その人物たちがその生涯でどのようにして自己研鑽力を獲得し、自らの進路を切り開き、リーダーシップを発揮していったかを深く理解するならば、学生諸君自らが社会進出した時の強力な指針となるはずで

## 【授業の内容】

1. オリエンテーション  
Ethnic Stereotypes
2. Endangered Species Giant Pandas
3. Endangered Species The West Indian Manatee
4. Modern Masters of Art
5. Champions of Peace
6. Myspace and Wikipedia
7. Champions of Charity Bill Gates and Warren Buffett
8. Global Warming
9. Polar Bears on Thin Ice
10. Overpopulation
11. An Era of Adoption
12. Are Diamond Really a Girl's Best Friend
13. Gambling around the Globe
14. Obesity
15. まとめ・授業の総括

## 【事前・事後学修】

予習・復習用のプリントを配付します。授業の前後に必ずチェックすること。(学修時間 週2時間)

## 【テキスト・教材】

渡辺節子他著『A World of Change on the Web 変貌する世界』(南雲堂) 1,300円+税 2008年

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

配分基準：定期試験85%、平常点(授業態度、課題提出)15%  
定期試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

## 【注意事項】

授業には必ず英和辞典を持参すること。  
受講人数制限40名(制限人数を超えた場合、抽選)

## Reading C

英語の語順で理解しよう：速読へのステップ

霜田 敦子

2年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

## 【授業のテーマ】

これまで養ってきた語彙力・文法力を駆使して英文を意味のまとまり(チャンク)で区切って読み、英語の語順で理解するスキル「フレーズ・リーディング」を習得し英語の長文読解力養成を目標とします。

フレーズ・リーディングでは、英文を読むときに意味のまとまりごとに理解していきます。フレーズごとにスラッシュを入れ意味を確認していくことで、英語の語順で文章を素早く読むことができ、また、句や節のかたまりを意識することで文法構造も理解しやすくなります。また、言語は音を伴って初めて言語として機能します。授業では、黙読による速読に加えoverlapping やshadowingを練習します。

授業では各課の英文(about 400 words)を3回速読し、WPM(Words per Minute)を計り自分の読みを分析します。この演習に真摯に取り組むことで、英文読解に慣れ自信をつけます。

## 【授業における到達目標】

- ・英語長文を速読の技術を使って直読直解できるようになる。
- ・ディプロマ・ポリシーの中で特に、学修を通して自己成長する力「研鑽力」を修得する。

## 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション：授業の進めかた、評価基準、事前事後学習、授業中の注意の確認。Unit1 Extreme ... (1)
- 第2週 Unit 1 Extreme Ironing (2)
- 第3週 Unit 2 Food and Culture (1)
- 第4週 Unit 2 Food and Culture (2)
- 第5週 Unit 3 Life after Death (1)
- 第6週 Unit 3 Life after Death (2)
- 第7週 Review：理解度の確認
- 第8週 Unit 4 Addicted to the Mall (1)
- 第9週 Unit 4 Addicted to the Mall (2)
- 第10週 Unit 5 The Working Poor (1)
- 第11週 Unit 5 The Working Poor (2)
- 第12週 Unit 6 A Child Hero (1)
- 第13週 Unit 6 A Child Hero (2)
- 第14週 Review:理解度の確認
- 第15週 総括

## 【事前・事後学修】

【事前学修】指定された箇所の予習とプリント課題を完成させること(学修時間 週1時間)

【事後学修】小テストの課題に取り組むこと。Overlapping とshadowingを指定された回数行うこと。(学修時間週1時間)

## 【テキスト・教材】

田村朋子他『Phrase Reading』(センゲージ・ラーニング 2009年) 1,800円+税

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト 10%、和訳プリント 20%、音読テスト 10%、WPM記録表 5%、定期試験(2回) 50%、平常点(授業態度) 5%  
小テスト、音読テストはテスト後、試験結果は次回授業でフィードバックを行う。

## 【注意事項】

- ・辞書必携。必ず紙辞書か電子辞書を持参すること。授業中スマホによる辞書検索は禁止。自動翻訳による和訳は受け取らない
- ・事前・事後学修をおろそかにしないこと。
- ・理由のない欠席、遅刻はしないこと。
- ・授業中のスマートホン、タブレットの使用は禁止。必ず電源を切りカバンにしまうこと。
- ・受講人数制限40名(制限を超えた場合、抽選)

## Reading D

猪又 久夫

2年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

## 【授業のテーマ】

「一つひとつの単語の意味はわかる。構文も把握している。しかしながら、文が何を意味しているのかさっぱり理解できない。」というような悩みをもっていませんか。その理由はさまざまです。基本的な読解技法の欠如、読解経験不足などが真っ先に挙げられるでしょうが、日本人と英米人のもつ文化や伝統の大きな相違への理解欠如も無視できません。授業では、基本的英文読解能力の向上を図るのみならず、絶えず英米人の思考法・価値観等にも目も向け、英語圏の文化・伝統に慣れ親しめるようになることを目指します。リーディング素材としては、イギリスの小説家Graham Greeneの短編小説を使用します。彼の小説は、‘serious’（まじめ）なものとは‘entertainments’（娯楽）ものに大別できます。授業では後者のものを選び、くつろいだ気分で授業を進める予定です。

## 【授業における到達目標】

イギリス小説の読解を通し、小説の鑑賞能力の向上を第一の目標とし、同一テーマに対する文学的表現と映像的表現との差異が明確に理解できるようになることを第二の目標とする。小説はある意味社会を映し出す鏡です。外国の小説の読解・鑑賞を通して日本と世界との間に横たわる世界観・人生観・美意識などの相違が深く自覚されるようになります。その結果、多様な価値観の存在を知っていれば、学生諸君が社会進出した際、相互理解・相互尊重の精神に基づき自己の能力を十全に発揮し行動できるはずです。

## 【授業の内容】

1. ガイダンス 授業の進め方。評価方法の説明。
2. The innocent Part 1 の読解（46 ページ前半）
3. The innocent Part 2 の読解（46 ページ後半）
4. The innocent Part 3 の読解（47 ページ前半）
5. The innocent Part 4 の読解（47 ページ後半）
6. The innocent Part 5 の読解（48 ページ）
7. The innocent Part 6 の読解（49 ページ）
8. The innocent Part 7 の読解（50 ページ）
9. The innocent Part 8 の読解（51 ページ）
10. The innocent Part 9 の読解（52 ページ）
11. The Third Man Part 1 前半の読解（306ページ・その箇所のDVD視聴）
12. The Third Man Part 1 後半の読解（307ページ・その箇所のDVD視聴）
13. The Third Man Part 17前半の読解（380ページ・その箇所のDVD視聴）
14. The Third Man Part 17後半の読解（381ページ・その箇所のDVD視聴）
15. まとめ・授業の総括

## 【事前・事後学修】

予習・復習用のプリントを配布します。授業の前後に必ずチェックすること。事前学修には単語・文法に関するプリントを利用し和訳を試み、事後学修には模範訳を参考に自らの訳との差異を確認すること。事前学修・事後学修にはそれぞれ少なくとも1時間ずつかけることを要す。

## 【テキスト・教材】

Graham Greene 『The Basement Room & Other Stories 落ちた偶像』（南雲堂）1,500円＋税 1953年

The Third Manに関する資料は授業内に配付します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

配分基準：定期試験85%、平常点（授業態度、課題提出）15%  
試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

## 【注意事項】

大小は問わず、英語辞典を必ず授業に持参すること。  
受講人数制限40名（制限人数を超えた場合、抽選）

## Reading D

英語の語順で理解しよう：速読へのステップ

霜田 敦子

2年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

## 【授業のテーマ】

これまで養ってきた語彙力・文法力を駆使して、英文を意味のまとまり（チャンク）で区切って読み、英語の語順で理解するスキル「フレーズ・リーディング」を習得し英語の長文読解力養成を目標とします。

フレーズ・リーディングでは、英文を読むときに意味のまとまりごとに理解していきます。フレーズごとにスラッシュを入れ意味を確認していくことで、英語の語順で文章を素早く読むことができ、また、句や節のかたまりを意識することで文法構造も理解しやすくなります。また、言語は音を伴って初めて言語として機能します。授業では各課の英文（about 400 words）を3回速読し、WPM（Words per Minute）を計り自分の読みを分析します。この演習に真摯に取り組むことで、英文読解に慣れ自信をつけます。

## 【授業における到達目標】

- ・英語長文を速読の技術を使って直読直解できるようになる。
- ・ディプロマ・ポリシーの中で特に、学修を通して自己成長する力「研鑽力」を修得する。

## 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション：授業の進めかた、評価基準、事前事後学習、授業中の注意の確認。Unit 7 Don't Be .. (1)
- 第2週 Unit 7 Don't Be Fooled Again (2)
- 第3週 Unit 8 The Government Department of Dating and .. (1)
- 第4週 Unit 8 The Government Department of Dating and .. (2)
- 第5週 Unit 9 Undercover Marketing (1)
- 第6週 Unit 9 Undercover Marketing (2)
- 第7週 Review: 理解度の確認
- 第8週 Unit 10 A Healthy Diet for Everyone (1)
- 第9週 Unit 10 A Healthy Diet for Everyone (2)
- 第10週 Unit 11 Anger around the World (1)
- 第11週 Unit 11 Anger around the World (2)
- 第12週 Unit 12 Online Dating Goes Mainstream (1)
- 第13週 Unit 12 Online Dating Goes Mainstream (2)
- 第14週 Review: 理解度の確認
- 第15週 総括

## 【事前・事後学修】

【事前学修】指定された箇所の予習とプリント課題を完成させること。（学修時間 週1時間）

【事後学修】小テストの課題に取り組むこと。Overlappingとshadowingを指定された回数行うこと。（学修時間週1時間）

## 【テキスト・教材】

田村朋子他 『Phrase Reading』（センゲージ・ラーニング 2009年）1,800円＋税

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト10%、和訳プリント 20%、音読テスト 10%、WPM記録表 5%、定期試験（2回）50%、平常点（授業態度）5%  
小テスト、音読テストはテスト後、試験結果は次回授業でフィードバックを行う。

## 【注意事項】

- ・辞書必携。必ず紙辞書か電子辞書を持参すること。授業中はスマホによる辞書検索は禁止。自動翻訳による和訳は受け取らない。
- ・事前・事後学修をおろそかにしないこと。
- ・理由のない欠席・遅刻はしないこと。
- ・授業中のスマートホン、タブレットの使用は禁止。必ず電源を切りカバンにしまうこと。
- ・受講人数制限40名（制限を超えた場合、抽選）



## TOEIC 550

テスト準備を通して、国際的視野を養います。

市毛 洋子

2年～ 前期・後期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

TOEICテスト問題に慣れ、スコアUPのためのコツを身につけることを目的にしたコースです。TOEICテストはどんな特徴があるのか？どのような準備をしたらいいのか？ まず、TOEICテストの特色を知ることからはじめ、特色にあった練習をしていきます。また、スコアUP だけではなく、TOEICテストには欠かせない英語コミュニケーションのための基礎的な単語や表現を練習しながら英語運用能力UPを目指します。

### 【授業における到達目標】

TOEICテストに向けた学習を通して将来ビジネス場面等で必要となる実践的英語運用能力の向上を目指すとともに、国際的感覚を身につけ世界に踏み出そうとする態度を養います。また、そのために必要な課題を自ら発見し、問題解決のための目標を設定して主体的に行動する力を養います。また、情報を処理する能力だけではなく、自ら情報を発信する力をつけるため副教材を使いながら英会話の向上も目指します。

### 【授業の内容】

- 第1週 TOEICテストとは？ (Unit 1 Daily Life)
- 第2週 Unit 2 Places
- 第3週 Unit 3 People
- 第4週 Unit 4 Travel
- 第5週 Unit 5 Business
- 第6週 Unit 6 Office
- 第7週 Unit 7 Technology
- 第8週 Unit 8 Personnel
- 第9週 Unit 9 Management
- 第10週 Unit 10 Purchasing
- 第11週 Unit 11 Finances
- 第12週 Unit 12 Media
- 第13週 Unit 13 Entertainment
- 第14週 Unit 14 Health
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修、次回の内容を確認し、単語の意味、使い方を必ず調べておくこと。(学修時間 週1時間)

事後学修、付属のCDを活用しながら授業の復習をしてすること。(学修時間 週1時間)

副教材を使って英会話の練習をしてください。

### 【テキスト・教材】

『SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST 2』 Mark D. Stfford著 (桐原書店 2017年) 1944円

中山誠一他 『脱文法100トピック実践英語トレーニング』(ひつじ書房、2017年) 1600円+税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業参加度 50% 中間テスト 10% 期末テスト 20% レポート 20%

中間テスト結果は次回授業で、期末テストの結果は授業最終回にテストの答え合わせと解説をしてフィードバックを行う。

### 【注意事項】

募集人数は40名です。

## TOEIC 550

TOEIC Listening 550

カズウェル, イアン・マイケル

2年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

Increasing TOEIC test scores

### 【授業における到達目標】

By the end of this course students will have increased their ability in TOEIC and be able to listen and understand native English speakers and express themselves be more able to express themselves in a more natural, confident manner. The focus of this course will clearly be upon listening and reading, rather than writing.

### 【授業の内容】

- Week 1 Unit 1 Using the photo to predict what you will hear
- Week 2 Unit 2 Thinking about the meaning of factual questions
- Week 3 Unit 3 Skimming to predict the context before reading
- Week 4 Unit 4 Skimming to predict the context before reading
- Week 5 Unit 5 Identifying the part of speech and time management
- Week 6 Unit 6 Using context to choose the correct verb form and meaning
- Week 7 Unit 7 Scanning the questions to decide which ones to answer first
- Week 8 Unit 8 Listening for the correct verbs
- Week 9 Unit 9 Becoming familiar with different ways of answering questions
- Week 10 Unit 10 Being aware of same word distractors
- Week 11 Unit 11 Becoming familiar with different kinds of “what” questions
- Week 12 Unit 12 Choosing gerunds and infinitives correctly
- Week 13 Unit 13 Choosing the correct part of speech : adjectives and adverbs
- Week 14 Unit 14 Using context to answer questions
- Week 15 Unit 15 Listening carefully to every detail

### 【事前・事後学修】

Students should visit the BBC Learning site and try out the tabs that interest them.

100 Topics, Grammar Training. By Jacob Schnickel, Juergen Bulach and

### 【テキスト・教材】

#### Text Book

Tactics for TOEIC Listening and Reading Test, Grant Trew, Oxford University Press, ISBN 9780194529532  
Published 2016, 2,989 yen + tax

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

#### Evaluation

Student evaluations will be calculated by lesson participation (40%) and final end of year test (60%).  
Feedback will be ongoing, individual and class by class

### 【参考書】

Electronic Dictionary

### 【注意事項】

#### Other Information

This is a listening course therefore class participation is of critical importance. Students MUST participate fully to pass this course.

募集人数は40名です。

## TOEIC a

—TOEIC L&Rの傾向と対策、そしてスコアアップ（その1）

羽賀 芳秋

1・2年 前期 1単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

### 【授業のテーマ】

TOEICのスコアを上げるためには、1) 単語と文法の能力を高める、2) 数多く受験してテストに慣れる、3) 実際に使われている『現場の英語』に多数触れるという3点が必要です。

この授業では最新のTOEIC公式問題集を基本に、TOEICに“効く”語彙力や文法力を高めることによって、上記の3点をカバーし、TOEICとは何か、からスタートして、着実にスコアのアップにつなげることを目指します。

### 【授業における到達目標】

学科および本科目のディプロマ・ポリシーの指針に従い、このクラスのTOEICの学習によって、実務的な国際コミュニケーション能力を強化する一方で、英語文化圏の社会についての幅広い見識に触れることにより、国際社会の多様な価値観への理解、および広汎な研鑽力をも身に付けることを目指します。

### 【授業の内容】

★テキストの練習問題、および配付資料をもとに、TOEICの各項目を順次カバーし、合わせて語彙力や、基礎的な文法力を養います。毎回学習した単語・熟語の定着を図るため、次回の授業の際に『単語ミニクイズ』を実施します。

また、ビジネスや英語圏文化の周辺知識として毎回多様な『映像素材』を取り入れています。

★《各回の主要な学習項目と内容》

1. オリエンテーション（主要素材の紹介、進め方）
2. リスニング部分 サンプル問題（Part 1-4）
3. リーディング部分 サンプル問題（Part 5-7）
4. Part 1 練習問題、重要単語と文法
5. Part 5 練習問題、重要単語と文法
6. Part 2 練習問題、重要単語と文法
7. Part 6 練習問題、重要単語と文法
8. Part 3 練習問題、重要単語と文法
9. Review Quiz #1、正解と解説、および前半の総括
10. Part 4 練習問題（前半7問）
11. Part 4 練習問題（後半3問）、重要単語と文法（全体）
12. Part 7 練習問題（前半10問）
13. Part 7 練習問題（後半5問）、重要単語と文法（全体）
14. Review Quiz #2、正解と解説、および後半の総括
15. TOEICの傾向と対策、周辺知識

### 【事前・事後学修】

・授業前：毎回授業の前に発行される【manabaコースニュース】を読んで、指示に従って必要な準備をして授業に臨んでください。

・授業後：当日勉強した単語や熟語などのTOEIC頻出表現を、必ずレビューし、不明確なところは調べて、確実に身につけておくようにしてください。テスト準備の際に負担が軽くなります。

（事前事後学修、合わせて最低週2時間が目標）

### 【テキスト・教材】

『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集3』（CD2枚付：

国際ビジネスコミュニケーション協会、¥3,024）ISBN-13：978-4906033539

〔最新版が出版された場合には変更することがあります〕

上記を主教材とし、語彙力の補強にはプリントを配付します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

◆平常点(授業態度)30%・提出物20%・授業内試験等の結果50%、の比率で総合的に評価します。試験結果については授業内でフィードバックを行いますので、以後の学習に役立ててください。

### 【注意事項】

◆このクラスの在籍者には、年間数回実施される学内TOEICを受験することが強く推奨されます。履修の絶対条件ではありませんが、スコアアップのためには必須ですので、必ず受験すること。

◆受講人数制限50名（制限人数を超えた場合抽選）

## TOEIC b

—TOEIC L&Rの傾向と対策、そしてスコアアップ（その2）

羽賀 芳秋

1・2年 後期 1単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

### 【授業のテーマ】

TOEICのスコアを上げるためには、1) 単語と文法の能力を高める、2) 数多く受験してテストに慣れる、3) 実際に使われている『現場の英語』に多数触れるという3点が必要です。

この授業では最新のTOEIC公式問題集を基本に、TOEICに“効く”語彙力や文法力を高めることによって、上記の3点をカバーし、TOEICとは何か、からスタートして、着実にスコアのアップにつなげることを目指します。

### 【授業における到達目標】

学科および本科目のディプロマ・ポリシーの指針に従い、このクラスのTOEICの学習によって、実務的な国際コミュニケーション能力を強化する一方で、英語文化圏の社会についての幅広い見識に触れることにより、国際社会の多様な価値観への理解、および広汎な研鑽力をも身に付けることを目指します。

### 【授業の内容】

★テキストの練習問題、および配付資料をもとに、TOEICの各項目を順次カバーし、合わせて語彙力や、基礎的な文法力を養います。毎回学習した単語・熟語の定着を図るため、次回の授業の際に『単語ミニクイズ』を実施します。

また、ビジネスや英語圏文化の周辺知識として毎回多様な『映像素材』を取り入れています。

★《各回の主要な学習項目と内容》

1. オリエンテーション（主要素材の紹介、進め方）
2. リスニング部分 サンプル問題（part 1-4）
3. リーディング部分 サンプル問題（part 5-7）
4. Part 1 練習問題、重要単語と文法
5. Part 5 練習問題、重要単語と文法
6. Part 2 練習問題、重要単語と文法
7. Part 6 練習問題、重要単語と文法
8. Part 3 練習問題、重要単語と文法
9. Review Quiz #1、正解と解説、および前半の総括
10. Part 4 練習問題（前半7問）
11. Part 4 練習問題（後半3問）、重要単語と文法（全体）
12. Part 7 練習問題（前半10問）
13. Part 7 練習問題（後半5問）、重要単語と文法（全体）
14. Review Quiz #2、正解と解説、および後半の総括
15. TOEICの傾向と対策、周辺知識

### 【事前・事後学修】

・授業前：毎回授業の前に発行される【manabaコースニュース】を読んで、指示に従って必要な準備をして授業に臨んでください。

・授業後：当日勉強した単語や熟語などのTOEIC頻出表現を、必ずレビューし、不明確なところは調べて、確実に身につけておくようにしてください。テスト準備の際に負担が軽くなります。

（事前事後学修、合わせて最低週2時間が目標）

### 【テキスト・教材】

『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集2』（CD2枚付：

国際ビジネスコミュニケーション協会、¥3,024）ISBN-13：978-4906033508

〔最新版が出版された場合には変更することがあります〕

上記を主教材とし、語彙力の補強には別途プリントを配付します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

◆平常点(授業態度)30%・提出物20%・授業内試験等の結果50%、の比率で総合的に評価します。試験結果については授業内でフィードバックを行いますので、以後の学習に役立ててください。

### 【注意事項】

◆このクラスの在籍者には、年間数回実施される学内TOEICを受験することが強く推奨されます。履修の絶対条件ではありませんが、スコアアップのためには必須ですので、必ず受験すること。

◆受講人数制限50名（制限人数を超えた場合抽選）

## TOEICリーディング

中村 太一

2年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

英語の公的資格試験のひとつであるTOEIC Listening & Reading TestにおけるReading 問題への対策を重点的におこないます。

### 【授業における到達目標】

TOEICのリーディングセクションで問われる語彙・文法・語法に関する知識の確実な定着をはかると同時に、出題されるさまざまなタイプの英文（広告・手紙・記事・電子メールなど）に習熟するプロセスをとおして総合的な英文読解力を高めていくことが目標です。リーディング問題解法のコツを把握し正答の根拠を説明できるようになるばかりでなく、現状を正しく認識し、弱点を補強するための学習計画を立案して着実に実行する能力を身につけられるようになります。

### 【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 (文法・語法) 品詞&動詞の形① 時制
- 第3週 (文法・語法) 動詞の形② 能動態・受動態と分詞
- 第4週 (文法・語法) 動詞の形③ その他いろいろ
- 第5週 (文法・語法) 前置詞と接続詞
- 第6週 (文法・語法) 代名詞と関係詞
- 第7週 (文法・語法) 比較と可算・不可算名詞
- 第8週 (文法・語法) 長文穴埋め問題
- 第9週 (読解) Advertisements
- 第10週 (読解) Letters, E-mails, & Text message chains
- 第11週 (読解) Notices, Instructions, & Announcements
- 第12週 (読解) Articles & Web pages
- 第13週 (読解) Double Passages
- 第14週 (読解) Triple Passages
- 第15週 まとめ

上記に加えて、『脱文法 100トピック実践英語トレーニング』を使用し、リスニング・スピーキング活動もおこないます。

### 【事前・事後学修】

事前学修：次回の授業範囲を予習し、未知の語（句）を調べておくとともに、問題の解答を準備しておくこと（学修時間 週2時間）  
事後学修：授業であつかった文法・語法や新出語（句）の復習をし、英文を暗記するほど何回も読み込むこと（学修時間 週1～2時間）

### 【テキスト・教材】

西谷敦子・James G. Wong著『Effective Approaches to Grammar and Reading on the TOEIC Test -New Edition-』（朝日出版社 2018年）1,600円＋税  
中山誠一・Jacob Schnickel・Juergen Bulach・山内博之著『脱文法 100トピック実践英語トレーニング』（ひつじ書房 2017年）1,600円＋税  
他に、TOEIC頻出語彙プリントを配布します

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（積極的な発言・質問など）30%、小テスト 20%、期末テスト 50% 小テストは次回授業、テスト結果は最終授業時にフィードバックをおこないます。

### 【注意事項】

リスニング問題の得点にもよりますが、TOEIC L&R Testにおいて目標500点～600点を想定しています。初めて受験する学生はもとより、学習方法を見直して再度チャレンジする学生にも配慮していきます。募集人数は40名です。

## TOEICリーディング

テスト準備を通して、国際的な視野を養います。

市毛 洋子

2年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

TOEICテストの問題に慣れ、スコアUPのためのコツを身につけることを目的としたコースです。英文リーディング全般に必要な基礎的な語彙、英文法を復習しながら、TOEICテストのリーディング各パートの問題の解き方を学習していきます。どんな種類の英文を読むのか、どのような読み方をすればいいのかを学びながら、テスト問題に挑戦します。また、テストによく出題される分野の英文を授業で取り上げ、英文を読むことに慣れるようにしていきます。

### 【授業における到達目標】

TOEICテストを通し英語運用能力全般の向上を目指すとともに、多様な価値観に触れながら、国際的感覚を身につけ世界を視野に入れて活躍しようとする態度を育みます。また、現状を正しく把握し問題解決のための目標を設定し、それに向けて実行できる力を養います。また、リーディングによって得た情報を基に、自分から英語で発信できるように副教材を使って英会話の練習もしていきます。

### 【授業の内容】

- 第1週 TOEICテストとは？
- 第2週 Topic 1: Restaurant
- 第3週 Topic 2: Hotel
- 第4週 Topic 3: Shopping
- 第5週 Topic 4: Financing
- 第6週 Topic 5: Hospital
- 第7週 Topic 6: Airport
- 第8週 Topic 7: Transportation
- 第9週 Topic 8: Sightseeing
- 第10週 Topic 9: Office Issues
- 第11週 Topic 10: Business
- 第12週 Topic 11: Sports Events
- 第13週 Topic 12: Computers
- 第14週 Topic 13: Personnel
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修、未知の語句を調べておき、文法事項の確認を必ずすること。（学修時間 週1時間）  
事後学修、語句の知識や文法事項を見直し、確かなものにする。（学修時間 週1時間）  
副教材を使って英会話の練習をしておいてください。

### 【テキスト・教材】

授業開始時に指示する。

中山誠一他『脱文法100トピック実践英語トレーニング』（ひつじ書房、2017年）1600円＋税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業参加度 50% 中間テスト 10% 期末テスト 20% レポート 20%

中間テスト結果は次回授業、期末テスト結果は授業最終回にテストの答え合わせと解説をしてフィードバックを行う。

### 【注意事項】

募集人数は40名です。

## TOEICリーディング

若林 邦子

2年～ 前期・後期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

偉大な先人のプラス思考に触れ、成功の秘訣を探る。  
偉大な先人たちのものの考え方、取り組み方をやさしい英文で読み、プラス思考を身につける。思考力を強化する。  
論理的に読む訓練をし、リーディングスキルの上達を目指す。  
TOEIC（400～600）

### 【授業における到達目標】

英文の内容理解とリスニングの強化。  
TOEIC（600）以上を目指す。  
国際化の時代に対応出来る総合的な英語力を身につける。  
人類の知恵に触れ、教養を高め、自己を磨く。

### 【授業の内容】

CDで英文を聞き、読み、英文を訳し、英文の内容について各自で考え、意見を発表する機会を提供する。

1. ウォルト・ディズニー
2. コカ・コーラ
3. ニューヨークのウォール街
4. 創意工夫
5. 変化する時代への適応
6. プラス思考
7. 幸運
8. ビジネス界の成功物語
9. 独創的な芸術作品
10. 子供たちに提供するもの
11. ユダヤ人の教育
12. 歴史教育の焦点
13. 歴史の重み
14. 市民によるスピーチ
15. 改革者ナイチンゲール

### 【事前・事後学修】

『事前学修』

英文訳と意見発表の課題に取り組むこと。  
( 学修時間 週2時間 )

『事後学修』

英文訳を復習し、内容について思考を深めること。  
次回の授業範囲を予習し、専門用語などを理解しておくこと。  
( 学修時間 週2時間 )

### 【テキスト・教材】

小林純子 著

『The Secret of Success』

(朝日出版 2014年1月) 1700円+税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末テスト80%、平常点(授業への積極参加)20%  
フィードバックの課題は最終授業にて口頭で行います。

### 【注意事項】

\*募集人数は40名です。

## Workshop A

三田 薫

1年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

### 【授業のテーマ】

この授業では、毎時間スカイプを使用して、海外の人と25分間英会話をします。

英語を話せるようになるためには、英文法や単語を学習すると同時に、実際に話す機会を十分に確保すること、そして話す内容や表現を普段からストックしておくことが大切です。

この授業では自分のことを英語で語る「雑談英語力」を習得します。英語で雑談する力は、近年日本企業もその重要性に気づき始めています。TOEICで高得点であるだけでは、ビジネスを成功させることには必ずしもつながらないということが見えてきたのです。

授業では毎時間指定されたトピックについて、テキストの例文を参考にしながら自分のことを伝える英語を作り上げ、その内容について実際にフィリピン人講師と話します。

スカイプ英会話は英語学習の有効な手段ですが、自分一人で始めるのはなかなか勇気がいることです。授業では、その不安を取り除き、リラックスして会話に参加できるようサポートしていきます。

この授業でスカイプ英会話に慣れて、グローバル社会で役に立つコミュニケーション力を高めていきましょう。短期研修や短期留学への参加を考えている学生には、受講を強くお勧めします。

### 【授業における到達目標】

この科目の到達目標は、毎時間外国人講師と1対1の英会話を行うことにより、英会話力を高めることです。さらに国際的視野、特に多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度と日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度の育成を目指します。また研鑽力、特に学習成果を実感して、自信を創出することができるようになること、また毎週欠かさずにレッスンを予約して学習に励むことにより行動力、特に目標を設定して、計画を立案・実行できる力の育成を目指します。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 18, 19課 (父と母、彼氏と彼女)
- 第3週 20, 21課 (親と似ている、親友紹介)
- 第4週 自分で選んだトピック (名前の由来)
- 第5週 22, 23課 (親になる、子供のしつけ)
- 第6週 24, 25課 (配偶者、理想の結婚生活)
- 第7週 自分で選んだトピック (年齢)
- 第8週 26, 27課 (子供、起床時間)
- 第9週 28, 29課 (週末、長期休暇)
- 第10週 自分で選んだトピック (出身地)
- 第11週 30, 31課 (朝型・夜型、SNS)
- 第12週 32, 33課 (趣味、インドア派・アウトドア派)
- 第13週 自分で選んだトピック (身長・体重)
- 第14週 34課, 自分で選んだトピック (内向的・外向的)
- 第15週 自分で選んだトピック (体型)

(順番が変更になることがあります。)

TOEFL iBTやIELTS対策の英文を自分で作成して講師と話す準備をすることも可能です。

### 【事前・事後学修】

事前学修：毎回の授業のトピックについて、テキストを参考に10個のダイアログを作り、manaba「レッスン前オンラインレポート」に打ち込み、提出してください。

事後学修：manaba「レッスン後オンラインレポート」に、スカイプ英会話レッスンで学んだ表現を貼り付けて提出してください。また他の学生のレポートにコメントを出してください。

(事前・事後合わせて週2時間以上)

### 【テキスト・教材】

『About Me 第2版 (英語でスラスラ自分のことが言える本)』  
(株式会社アスク出版 2014年) 1800円 (税別)

あるいは自分で選んだTOEFL iBTやIELTS対策のテキスト

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レッスン事前事後のオンライン課題提出 (50%)、単語学習プログラムの達成度 (20%)、スカイプ英会話の積極性 (30%)  
毎回のオンラインレポートの課題達成状況や、単語学習プログラムの達成度をフィードバックします。

### 【注意事項】

受講人数制限40名 (制限人数を超えた場合、抽選)

スカイプ英会話サービスを利用するため、受講に1万円以上費用がかかります。費用はパピルスメイトで証紙を購入し、提出してください。同学期に他のスカイプ英会話授業を受講する場合は、重複して費用を支払う必要はありません。なお、Workshop AとWorkshop Bは同じ曜日にあるため、履修できるのはどちらかのみとします。

**Workshop A**

都市文化研究

大倉 恭輔

1年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

**【授業のテーマ】**

都市はさまざまな部分品から成り立っています。たとえば、オサレなカフェもそのひとつです。そうして、「ドトール」よりも「スタバ」でコーヒーを飲む方が気持ちよく感じる自分がいます。

この授業では、そうした都市にまつわるあれやこれやを、受講生各自が身体を動かし五感を澄ますことによって理解していきます。

**【授業における到達目標】**

都市文化のしくみと機能について学ぶとともに、受講生相互が、自分の体験を調べ直し比較することで、都市文化についてより深く理解することをめざします。

そうして、互いに協力して作業を進めながら、日本と諸外国の文化のあり方をきちんと把握し、広い視野と深い洞察力を身につけることが目標です。

**【授業の内容】**

- 01 はじめに 都市とは何か・文化とは何か
- 02 都市型ライフスタイルの成立と発展 a 消費文化とデパート
- 03 都市型ライフスタイルの成立と発展 b 小林一三と宝塚
- 04 メディアとしての都市 a 渋谷の発展
- 05 メディアとしての都市 b アメリカのストリート文化の成立
- 06 メディアとしての都市 c ホラーと実話怪談
- 07 イメージの中の生活と文化 a 欲望のかたち・幸せのかたち
- 08 イメージの中の生活と文化 b 広告の中の日本と日本人の生活
- 09 歌の中の東京
- 10 歌の中の大阪
- 11 都市の文化と伝統文化の接点：観光文化という視点
- 12 都市を歩く
- 13 都市をみる
- 14 都市を聴く
- 15 まとめ

注1 上記は授業内容のリストです。

注2 基本的に番号順に講義をしていきますが、学生の理解度や授業の進行状況にあわせて、内容や順番の入れ替えなどの変更がおこなわれる場合があります。

**【事前・事後学修】**

## ・事前学修

事前配付の資料を熟読し、不明な用語などは調べておくこと。  
また、資料中に設問がある場合は、回答を準備しておくこと。  
(週に2時間以上)

## ・事後学修

授業内容を自分で補足し、きちんとしたノート作成をおこなうこと。(週に2時間以上)

**【テキスト・教材】**

- ・教科書は使用しません。
- ・基本的に、manaba 上から資料を事前配付します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- ・総合評価：レポート70%・平常点30% (受講態度・ノート作成)  
manaba の利用度も平常点に加算されます。
- ・成績については manaba 上でフィードバックする予定です。

**【参考書】**

適宜、授業の中で紹介します。

**【注意事項】**

- ・この授業は、自ら身体を動かし調べ、他の受講生とともに学ぶことが主眼です。それができない場合、成績評価は低くなります。
- ・視聴覚教材を利用する際も、必ずノートをとること。
- ・短期大学部規定の標準受講マナーを守ること。  
(manaba上に掲示してあります)

**Workshop B**

スカイプ英会話

三田 薫

1年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

**【授業のテーマ】**

この授業では、毎時間スカイプを使用して、海外の人と25分間英会話をします。

英語を話せるようになるためには、英文法や単語を学習すると同時に、実際に話す機会を十分に確保すること、そして話す内容や表現を普段からストックしておくことが大切です。

この授業では自分のことを英語で語る「雑談英語力」を習得します。英語で雑談する力は、近年日本企業もその重要性に気づき始めています。TOEICで高得点であるだけでは、ビジネスを成功させることには必ずしもつながらないということが見えてきたのです。

授業では毎時間指定されたトピックについて、テキストの例文を参考にしながら自分のことを伝える英語を作り上げ、その内容について実際にフィリピン人講師と話します。

スカイプ英会話は英語学習の有効な手段ですが、自分一人で始めるのはなかなか勇気がいることです。授業では、その不安を取り除き、リラックスして会話に参加できるようサポートしていきます。

この授業でスカイプ英会話に慣れて、グローバル社会で役に立つコミュニケーション力を高めていきましょう。短期研修や短期留学への参加を考えている学生には、受講を強くお勧めします。

**【授業における到達目標】**

この科目の到達目標は、毎時間外国人講師と1対1の英会話をを行うことにより、英会話力を高めることです。その上で国際的視野、特に多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度と、日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度の育成を目指します。また研鑽力、特に学習成果を実感して、自信を創出することができるようになること、また毎週欠かさずにレッスンを予約して学習に励むことにより行動力、特に目標を設定して、計画を立案・実行できる力の育成を目指します。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 35、36課 (今の目標、退職後)
- 第3週 37、38課 (平日の過ごし方、朝食メニュー)
- 第4週 自分で選んだトピック (感動したこと)
- 第5週 39、40課 (自家用車、生活に満足)
- 第6週 41、42課 (今の習慣、好きなスポーツ)
- 第7週 自分で選んだトピック (悲しかったこと)
- 第8週 43、44課 (好きなテレビ番組、好きな映画)
- 第9週 45、46課 (好きな音楽、好きな本)
- 第10週 自分で選んだトピック (自分の夢)
- 第11週 47、48課 (楽器演奏、コレクション)
- 第12週 49、50課 (ネットショッピング、好きなタイプ)
- 第13週 自分で選んだトピック (将来の理想像)
- 第14週 51課、自分で選んだトピック (ボランティア活動)
- 第15週 自分で選んだトピック (兄弟)  
(順番が変更になることがあります。)

TOEFL iBTやIELTS対策の英文を自分で作成して講師と話す準備をすることも可能です。

**【事前・事後学修】**

事前学修：毎回の授業のトピックについて、テキストを参考に10個のダイアログを作り、manaba「レッスン前オンラインレポート」に打ち込み、提出してください。

事後学修：manaba「レッスン後オンラインレポート」に、スカイプ英会話レッスンで学んだ表現を貼り付けて提出してください。また他の学生のレポートにコメントを出してください。(事前・事後合わせて週2時間以上)

## 【テキスト・教材】

『About Me 第2版（英語でスラスラ自分のことが言える本）』  
（株式会社アスク出版 2014年）1800円（税別）

あるいは自分で選んだTOEFL iBTやIELTS対策のテキスト

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レッスン事前事後のオンライン課題提出（50%）、単語学習プログラムの達成度（20%）、スカイプ英会話の積極性（30%）毎回のオンラインレポートの課題達成状況や、単語学習プログラムの達成度をフィードバックします。

## 【注意事項】

受講人数制限40名（制限人数を超えた場合、抽選）

スカイプ英会話サービスを利用するため、受講に1万円以上費用がかかります。費用はパピルスメイトで証紙を購入し、提出してください。同学期に他のスカイプ英会話授業を受講する場合は、重複して費用を支払う必要はありません。なお、Workshop AとWorkshop Bは同じ曜日にあるため、履修できるのはどちらかのみとします。

## Workshop C

三田 薫

1年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

## 【授業のテーマ】

この授業では、毎時間スカイプを使用して、海外の人と25分間英会話をします。

英語を話せるようになるためには、英文法や単語を学習すると同時に、実際に話す機会を十分に確保すること、そして話す内容や表現を普段からストックしておくことが大切です。

この授業では自分のことを英語で語る「雑談英語力」を習得します。英語で雑談する力は、近年日本企業もその重要性に気づき始めています。TOEICで高得点であるだけでは、ビジネスを成功させることには必ずしもつながらないということが見えてきたのです。

授業では毎時間指定されたトピックについて、テキストの例文を参考にしながら自分のことを伝える英語を作り上げ、その内容について実際にフィリピン人講師と話します。

スカイプ英会話は英語学習の有効な手段ですが、自分一人で始めるのはなかなか勇気がいることです。授業では、その不安を取り除き、リラックスして会話に参加できるようサポートしていきます。

この授業でスカイプ英会話に慣れて、グローバル社会で役に立つコミュニケーション力を高めていきましょう。短期研修や短期留学への参加を考えている学生には、受講を強くお勧めします。

## 【授業における到達目標】

この科目の到達目標は、毎時間外国人講師と1対1の英会話を行うことにより、英会話力を高めることです。その上で国際的視野、特に多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度と日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度の育成を目指します。また研鑽力、特に学習成果を実感して、自信を創出することができるようになること、また毎週欠かさずにレッスンを予約して学習に励むことにより行動力、特に目標を設定して、計画を立案・実行できる力の育成を目指します。

## 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
  - 第2週 52, 53課（特技、好きな言葉）
  - 第3週 54, 55課（好きな街、あこがれの人）
  - 第4週 自分で選んだトピック（父の紹介）
  - 第5週 56, 57課（旅行、勤務時間）
  - 第6週 58, 59課（業界、会社）
  - 第7週 自分で選んだトピック（祖父母の紹介）
  - 第8週 60, 61課（仕事内容、上司との関係）
  - 第9週 62, 63課（仕事の満足感、自分の成長）
  - 第10週 自分で選んだトピック（ペット）
  - 第11週 64, 65課（職場を選んだ理由、会社の場所）
  - 第12週 66, 67課（通勤、大学の専攻）
  - 第13週 自分で選んだトピック（家族と会う）
  - 第14週 68課、自分で選んだトピック（クラブ参加）
  - 第15週 自分で選んだトピック（親のしつけ）
- （順番が変更になることがあります。）

TOEFL iBTやIELTS対策の英文を自分で作成して講師と話す準備をすることも可能です。

## 【事前・事後学修】

事前学修：毎回の授業のトピックについて、テキストを参考に10個のダイアログを作り、manaba「レッスン前オンラインレポート」に打ち込み、提出してください。

事後学修：manaba「レッスン後オンラインレポート」に、スカイプ英会話レッスンで学んだ表現を貼り付けて提出してください。また他の学生のレポートにコメントを出してください。（事前・事後合わせて週2時間以上）

**【テキスト・教材】**

『About Me 第2版（英語でスラスラ自分のことが言える本）』（株式会社アスク出版 2014年）1800円（税別）

あるいは自分で選んだTOEFL iBTやIELTS対策のテキスト

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レッスン事前事後のオンライン課題提出（50%）、単語学習プログラムの達成度（20%）、スカイプ英会話の積極性（30%）

毎回のオンラインレポートの課題達成状況や、単語学習プログラムの達成度をフィードバックします。

**【注意事項】**

受講人数制限40名（制限人数を超えた場合、抽選）

スカイプ英会話サービスを利用するため、受講に1万円以上費用がかかります。費用はパピルスメイトで証紙を購入し、提出してください。同学期に他のスカイプ英会話授業を受講する場合は、重複して費用を支払う必要はありません。

**WorkshopD**

マーケティング

大倉 恭輔

1年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

**【授業のテーマ】**

マーケティングは、企業や会社が利益を上げるための活動だと思われています。けれど、今日、マーケティングは非営利組織の運営にもかかわる、多様かつ広範囲な活動になっています。

この授業では基本的な考え方を学びながら、マーケティングがどのようなものであるのかを、グループワークをとおして体感していきます。

**【授業における到達目標】**

自分たちの社会や生活において、マーケティングがどのような影響を与えているのかを、受講生どうして調べまとめる過程で理解することをめざします。

そうして、互いに協力して作業を進めながら、日本と諸外国との共通点や相違点を理解・把握し、広い視野と深い洞察力を身につけることが目標です。

**【授業の内容】**

- 01 はじめに
- 02 マーケティングの基本的な考え方
- 03 ターゲット市場の設定
- 04 マーケティング・ミックス
- 05 4つのP … Product / 製品
- 06 4つのP … Price / 価格
- 07 4つのP … Promotion / プロモーション a 広告
- 08 4つのP … Promotion / プロモーション b 販売促進・PR
- 09 4つのP … Place / 流通チャネル
- 10 ブランド a ブランド構築
- 11 ブランド b ブランド組織
- 12 マーケティング・リサーチ
- 13 サービス・マーケティング
- 14 ソーシャル・マーケティング
- 15 まとめ

注1 上記は授業内容のリストです。

注2 基本的に番号順に講義をしていきますが、学生の理解度や授業の進行状況にあわせて、順番の入れ替えなどの変更が行われる場合があります。

**【事前・事後学修】**

- ・事前学修  
事前配付の資料に目をとおし、設問がある場合、それについて回答を準備しておくこと。（週2時間以上）
- ・事後学修  
授業内容を自分で補足し、きちんとしたノート作成をおこなうこと。（週2時間以上）

**【テキスト・教材】**

教科書は使用しません。

基本的に、manaba 上から資料を事前配付します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

総合評価：レポート70%・平常点30%（受講態度・ノート作成）

manaba の設定や利用の状況も平常点の参考とします。

試験結果については manaba 上でフィードバックする予定です。

**【参考書】**

適宜、授業の中で紹介します。

**【注意事項】**

- ・この授業は演習科目であり、自ら体を動かし調べ、他の受講生とともに学ぶことが主眼です。
- それができない場合、成績評価は低くなることを理解すること。
- ・視聴覚教材を利用する際も、必ずノートテイクをおこなうこと。
- ・短期大学部標準受講マナーを守ること。  
(manaba上に掲示してあります)



**Workshop D**

Workshop D

パールドウィン, デイヴィッド・B

1年 後期 1単位

◎ : 国際的視野 ○ : 研鑽力、行動力

Do not hesitate to take the class if you are not talkative. There are many ways to take part in discussions than being *loquacious*. You will learn these skills in class. Keep in mind that you will be graded on participation, so a minimal amount of talking is required. 饒舌家になる必要はありません。話し好きでなくてもこのクラスを取ることでディスカッションに参加する様々な技術と方法を学ぶことができます。

**【授業のテーマ】**

This is a limited enrollment discussion class providing real discussion opportunities and themes with a focus on individual attention. The main objective of the course will be communicative competence. Reading and writing will be implemented for each preparation stage. Students finishing this course will have improved skills in communication ability including knowledge of synonyms, antonyms, idioms, expressions, slang and metaphors. Students will gain the experience of speaking in pairs, groups and to an audience.

**【授業における到達目標】**

By the end of the term students will better understand international viewpoints and know how to actively participate in conversations. They will pursue the beauty of English in an engaging manner.

**【授業の内容】**

Each theme will be practiced in one class and presented in the next class giving them time to prepare.

1. Introduction to class procedures and basic communication practices
2. Self introductions & jobs
3. Jobs discussion & Homes
4. Discussion and Homes
5. Discussion & Manners
6. Discussion & Manners
7. Catch up & Free discussion
8. Instructional presentations
9. Instructional presentations
10. Discussion & Travel
11. Discussion & Travel
12. Discussion & News Reports
13. Presentation of News Reports
14. Final Presentation Pairs
15. Presentations & catch up

**【事前・事後学修】**

Check online for a list of possible questions on these topics at <[eslconversationquestions.com](http://eslconversationquestions.com)> and <[iteslj.org/](http://iteslj.org/)>

Prepare a topic you know about to teach the class.

**【テキスト・教材】**

All materials will be provided by the instructor

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

Participation and preparation 50%  
Discussions pair and group 25%  
Presentation 25%  
5+ absences = fail (Come to every class for the best experience)

**【参考書】**

Bring these to every class:  
Pen/pencil/ruler  
B5 notebook  
Clear file for handouts  
Smartphone (to be kept in your bag until needed)  
Dictionary

**【注意事項】**

## Workshop E

三田 薫

1年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

## 【授業のテーマ】

この授業では、毎時間スカイプを使用して、海外の人と25分間英会話をします。

英語を話せるようになるためには、英文法や単語を学習すると同時に、実際に話す機会を十分に確保すること、そして話す内容や表現を普段からストックしておくことが大切です。

この授業では自分のことを英語で語る「雑談英語力」を習得します。英語で雑談する力は、近年日本企業もその重要性に気づき始めています。TOEICで高得点であるだけでは、ビジネスを成功させることには必ずしもつながらないということが見えてきたのです。

授業では毎時間指定されたトピックについて、テキストの例文を参考にしながら自分のことを伝える英語を作り上げ、その内容について実際にフィリピン人講師と話します。

スカイプ英会話は英語学習の有効な手段ですが、自分一人で始めるのはなかなか勇気がいることです。授業では、その不安を取り除き、リラックスして会話に参加できるようサポートしていきます。

この授業でスカイプ英会話に慣れて、グローバル社会で役に立つコミュニケーション力を高めていきましょう。短期研修や短期留学への参加を考えている学生には、受講を強くお勧めします。

## 【授業における到達目標】

この科目の到達目標は、毎時間外国人講師と1対1の英会話を行うことにより、英会話力を高めることです。さらに国際的視野、特に多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度と日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度の育成を目指します。また研鑽力、特に学習成果を実感して、自信を創出することができるようになること、また毎週欠かさずにレッスンを予約して学習に励むことにより行動力、特に目標を設定して、計画を立案・実行できる力の育成を目指します。

## 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 69, 70課 (アルバイト、学生時代に力を入れたこと)
- 第3週 71, 72課 (挑戦したい勉強、料理)
- 第4週 自分で選んだトピック (父と母の性格)
- 第5週 73, 74課 (おすすめの日本食、好きな食べ物)
- 第6週 75, 76課 (好きな飲み物、どんな家に住んでいる)
- 第7週 自分で選んだトピック (彼氏の性格)
- 第8週 77, 78課 (洋服の好み、外見で気にしていること)
- 第9週 79, 80課 (健康、ジム通い)
- 第10週 自分で選んだトピック (親友)
- 第11週 81, 82課 (ストレス解消法、運動)
- 第12週 83課, 自分で選んだトピック (おすすめの健康法)
- 第13週 84課, 自分で選んだトピック (コンプレックス)
- 第14週 自分で選んだトピック (理想の結婚生活)
- 第15週 自分で選んだトピック (起きる時間)

(順番が変更になることがあります。)

TOEFL iBTやIELTS対策の英文を自分で作成して講師と話ず準備をすることも可能です。

## 【事前・事後学修】

事前学修：毎回の授業のトピックについて、テキストを参考に10個のダイアログを作り、manaba「レッスン前オンラインレポート」に打ち込み、提出してください。

事後学修：manaba「レッスン後オンラインレポート」に、スカイプ英会話レッスンで学んだ表現を貼り付けて提出してください。また他の学生のレポートにコメントを出してください。(事前・事後合わせて週2時間以上)

## 【テキスト・教材】

『About Me 第2版 (英語でスラスラ自分のことが言える本)』  
(株式会社アスク出版 2014年) 1800円 (税別)

あるいは自分で選んだTOEFL iBTやIELTS対策のテキスト

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レッスン事前事後のオンライン課題提出 (50%)、単語学習プログラムの達成度 (20%)、スカイプ英会話の積極性 (30%)  
毎回のオンラインレポートの課題達成状況や、単語学習プログラムの達成度をフィードバックします。

## 【注意事項】

受講人数制限40名 (制限人数を超えた場合、抽選)

スカイプ英会話サービスを利用するため、受講に1万円以上費用がかかります。費用はパピルスメイトで証紙を購入し、提出してください。同学期に他のスカイプ英会話授業を受講する場合は、重複して費用を支払う必要はありません。なお、Workshop EとWorkshop Fは同じ曜日にあるため、履修できるのはどちらかのみとします。

**Workshop**

三田 薫

1年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

**【授業のテーマ】**

この授業では、毎時間スカイプを使用して、海外の人と25分間英会話をします。

英語を話せるようになるためには、英文法や単語を学習すると同時に、実際に話す機会を十分に確保すること、そして話す内容や表現を普段からストックしておくことが大切です。

この授業では自分のことを英語で語る「雑談英語力」を習得します。英語で雑談する力は、近年日本企業もその重要性に気づき始めています。TOEICで高得点であるだけでは、ビジネスを成功させることには必ずしもつながらないということが見えてきたのです。

授業では毎時間指定されたトピックについて、テキストの例文を参考にしながら自分のことを伝える英語を作り上げ、その内容について実際にフィリピン人講師と話します。

スカイプ英会話は英語学習の有効な手段ですが、自分一人で始めるのはなかなか勇気がいることです。授業では、その不安を取り除き、リラックスして会話に参加できるようサポートしていきます。

この授業でスカイプ英会話に慣れて、グローバル社会で役に立つコミュニケーション力を高めていきましょう。短期研修や短期留学への参加を考えている学生には、受講を強くお勧めします。

**【授業における到達目標】**

この科目の到達目標は、毎時間外国人講師と1対1の英会話を行うことにより、英会話力を高めることです。さらに国際的視野、特に多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度と日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度の育成を目指します。また研鑽力、特に学習成果を実感して、自信を創出することができるようになること、また毎週欠かさずにレッスンを予約して学習に励むことにより行動力、特に目標を設定して、計画を立案・実行できる力の育成を目指します。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 85, 86課 (持病、怪我)
- 第3週 87, 88課 (日本の観光地、学習塾)
- 第4週 自分で選んだトピック (週末の過ごし方)
- 第5週 89, 90課 (礼儀作法、伝統的な結婚式)
- 第6週 91, 92課 (お正月、労働時間)
- 第7週 自分で選んだトピック (朝型、夜型)
- 第8週 93, 94課 (社会問題、日本の四季)
- 第9週 95, 96課 (日本の代表的な文化、日本のアニメ)
- 第10週 自分で選んだトピック (習い事)
- 第11週 97課, 自分で選んだトピック (政治への関心)
- 第12週 98課, 自分で選んだトピック (女性の活躍)
- 第13週 99課, 自分で選んだトピック (宗教)
- 第14週 100課, 自分で選んだトピック (干支の動物)
- 第15週 自分で選んだトピック (平日の過ごし方)

(順番が変更になることがあります。)

TOEFL iBTやIELTS対策の英文を自分で作成して講師と話す準備をすることも可能です。

**【事前・事後学修】**

事前学修：毎回の授業のトピックについて、テキストを参考に10個のダイアログを作り、manaba「レッスン前オンラインレポート」に打ち込み、提出してください。

事後学修：manaba「レッスン後オンラインレポート」に、スカイプ英会話レッスンで学んだ表現を貼り付けて提出してください。また他の学生のレポートにコメントを出してください。(事前・事後合わせて週2時間以上)

**【テキスト・教材】**

『About Me 第2版 (英語でスラスラ自分のことが言える本)』

(株式会社アスク出版 2014年) 1800円 (税別)

あるいは自分で選んだTOEFL iBTやIELTS対策のテキスト

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レッスン前事後のオンライン課題提出 (50%)、単語学習プログラムの達成度 (20%)、スカイプ英会話の積極性 (30%)

毎回のオンラインレポートの課題達成状況や、単語学習プログラムの達成度をフィードバックします。

**【注意事項】**

受講人数制限40名 (制限人数を超えた場合、抽選)

スカイプ英会話サービスを利用するため、受講に1万円以上費用がかかります。費用はパピルスメイトで証紙を購入し、提出してください。同学期に他のスカイプ英会話授業を受講する場合は、重複して費用を支払う必要はありません。なお、Workshop EとWorkshop Fは同じ曜日にあるため、履修できるのはどちらかのみとします。

## くらしの人間工学

暮らしの中のデザインと技術について

佐藤 健

1年～ 前期・後期 2単位

○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

日常生活の中で、私たちは、モノを使っています。モノには、手袋や被服のように日本人向けに作られたサイズがあるものから、自動車やスマートホンの様に世界中で使われるものまであります。モノづくりに関わる技術や人間行動を理解することで、私たちの暮らしがより安全で快適であることを理解していきます。さらに、私たちにとって、わかりやすいデザインや仕組みは、世界標準ではない場合もあります。それぞれのライフスタイルにあった、くらしを支えるデザインや人間行動について考えることで、広く人間生活をとらえることを目標としています。自動車や家電製品なども例にあげて、電子レンジや洗濯機のスイッチ等の位置関係や色などでのインターフェースの構成についても具体的に学びます。なお、前期と後期で開講するキャンパスが異なります。どちらの授業を受けても同一の内容です。

### 【授業における到達目標】

くらしの中で体験しているデザインやサービスには理由があります。現状を正しく把握し、課題を発見できる能力や問題解決のための「行動力(○)」について理解を助ける知識を習得する目標を持ちます。様々な背景のヒトについて理解をし、お互いを尊重し、高いコミュニケーション能力を持った「協働力(○)」を養うことを目標とします。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション（履修状況の確認）
- 第2週 くらしの中における人間工学
- 第3週 基本的な人体計測
- 第4週 電気や映像による計測
- 第5週 家電のデザイン
- 第6週 自動車のデザイン（インダストリアルデザイン）
- 第7週 子供の安全と人間工学（キッズデザイン）
- 第8週 高齢者と人間工学（ユニバーサルデザイン）
- 第9週 障害福祉と人間工学（ユニバーサルデザイン）
- 第10週 中間評価（デザイン案の作成）
- 第11週 ヒューマンエラー（些細な間違いから事故まで）
- 第12週 ヒューマンエラー（事故事例に学ぶ）
- 第13週 特殊環境における人間工学
- 第14週 未来の日常生活と人間工学の役割
- 第15週 期末レポートの発表

### 【事前・事後学修】

毎回の授業で事前に小テストを実施します。授業終了後に学習内容の評価をする小レポートを提出します。事前と事後および、中間評価、期末レポート作成等を合わせて60時間程度の学修時間が必要です。

### 【テキスト・教材】

教場でオリジナルの資料を提示またはダウンロード可能とします。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業時の小テスト45%（3点×15回分）、中間評価レポート25%、期末課題レポート30%とする。随時データ・レポート等のフィードバックを行う。

### 【参考書】

特になし

### 【注意事項】

特になし。ただし、聴覚や言語スキルによって理解を向上するために必要な対策は現場で調整します。

**ことばと社会**

日常生活から見出す言語と社会の関係

ウンサーシュッツ, ジャンカーラ

1年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

ことばを取得し、日常的に使いこなしている人からすると、その活用があまりに当然であり、分析の対象にすることはほとんどありません。しかし、ことばには不思議なことがたくさんあります。レポートを書くときに、「食べられる」と考えずに打つのに、友人の話すときに「食べれる」と言うことは誰にでもあるでしょうが、それはなぜなのかという説明を求められても答えられない人が多いでしょう。本講義では、そういった現象を理解するカギの一つである「社会」とことばの接点ということに着目しつつ、「ことばの不思議」を取り上げ、考察していきます。ことに英語圏の事情と日本の事情を比較しながら授業を進め、異なる社会的・文化的背景によって、言語活用がいかに変わるのかに注目を当てます。それを通し、社会とことばの影響を研究する社会言語学を学び始めるのに必要な基礎知識と理解を身につけます。

**【授業における到達目標】**

ことばと社会の関係の基礎を理解し、その知識を活用して簡単な分析を行うことができる。自分の勉学と生活の中で、ことばに意識・関心を持つようになり、まわりの言語的な現象への気づきができる。社会言語学を続けて勉強するために必要な知識を身につける。

**【授業の内容】**

【第1回】ことばと社会の再定義

【第2回】ニューヨーカーの英語を、日本語の方言に例えるなら…？：ことばと地域

【第3回】アメリカの女性も、女性らしいことば遣いをするか？：ことばと性差

【第4回】もしかして、自分の学んだ英語は若くない？：ことばと世代

【第5回】外国で下の名前で呼んでも、ボスはボス？：ポライトネス問題

【第6回】依頼を依頼として認めてもらうためには？：コミュニケーションスタイル

【第7回】旅する日本語、そこで出会う外国語は？：ことばとアイデンティティ

【第8回】「キュートだよねー」には違和感ないが、“She’s so kawaii!”は？：言語接触

【第9回】地図で見る“Mt. Takaosan”の表示は誰のため？：言語政策

【第10回】留学後、自分の日本語がどう変わるか？：言語の取得

【第11回】学校は英語、恋愛話はフランス語？：バイリンガリズム

【第12回】東京で道に迷っている外国人に会ったら、何語で話せばよいか？：言語と心理

【第13回】外国人が指摘される、日本人もする間違い？：言語とイメージ

【第14回】ハリウッド映画を見続ければ、どんな英語を習得するか？：言語とメディア

【第15回】まとめ：改めて「社会言語学」とは？

**【事前・事後学修】**

1) 各回指定された教科書の章・授業で配布されたプリントを読むこと(週2時間)

2) 各回指定された課題に取り組むこと(週2時間)

**【テキスト・教材】**

真田信治・ダニエル＝ロング編『社会言語学図集—日本語・中国語・英語解説』(秋山書店 2010年)2,000円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点(受講票・授業への積極的な参加):40%

課題:60%

1) 受講票を参考に、各回はいただいた学生の質問や疑問に答え

る。

2) 課題等の評価基準は明確にし、授業内で具体的に解説する。

**【参考書】**

授業中に適宜紹介する。

**【注意事項】**

課題等について質問・相談があった場合、giancarlauserschutz@ris.ac.jpまでお気軽にご連絡いただけます。原則として喜んで手伝うが、不切前日以降のメールには必ずしも答えられるとは限りないことをご了承下さい。

**ことばと生活**

—社会言語学入門—

**大塚 みさ**

1・2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

私たちの生活のさまざまな側面には、ことばが密接にかかわっています。まさに空気や水と同様に、私たちに不可欠な存在とすることができます。この点に着目して、社会生活におけることばの使用とその効果を具体的な人間の行動とのかかわりの中でとらえることが、この授業の主なねらいです。

前半は主に社会言語学のいくつかのトピックを取り上げて、その具体例をみなさんと分析していきます。6月末から7月初旬には、ネーミングをテーマにグループワークを行います。学期末には、各自が興味のあるテーマを選んで、さらに深く掘り下げてレポートにまとめます。

毎回の授業に教育支援ツールresponを活用して、活発な意見交換の場を多数設けます。受講者全員が積極的に授業に参加し、互いに学び合うことによって、ことばへの関心と学習意欲が高まることを期待しています。

**【授業における到達目標】**

- ・ことばと日常生活や社会との関係を正しくとらえ、それを外に向けて発信しようとする「国際的視野」を養います。
- ・日本語のあるべき姿とその実際とを比較することによって、新たな知を想像する「美の探究」ができるようになります。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODクシヨーン世論調査結果を分析しよう
- 第2週 気になる日本語 1 「日本語の乱れ」について考えよう
- 第3週 気になる日本語 2 ら抜き言葉は乱れか変化か?
- 第4週 気になる日本語 3 文法的に気になる表現を点検しよう
- 第5週 気になる日本語 4 新方言を探ってみよう
- 第6週 年齢によることばの違い 1 バイト敬語とことばの位相
- 第7週 年齢によることばの違い 2 若者ことばと短縮語
- 第8週 年齢によることばの違い 3 略語とアクセント
- 第9週 年齢によることばの違い 4 ことばの世代差
- 第10週 男女によることばの違い 1 一男女が使うことばの違い
- 第11週 男女によることばの違い 2 一男女を指すことばの違い
- 第12週 ネーミングの諸相 1 一ネーミングのしくみと機能
- 第13週 ネーミングの諸相 2 一ネーミング会議を開いてみよう
- 第14週 ネーミングの諸相 3 一会議結果をプレゼンしよう
- 第15週 まとめ

※学外講師による講義を予定しています（日程未定）。

**【事前・事後学修】**

【事前学修】教員から指示された課題に取り組むこと。

(学修時間 週2時間)

【事後学修】プリントとresponとで授業内容を振り返り、教員から

指示された課題に取り組むこと。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

ワークシートを配付します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート…70%、事前・事後学修課題…20%、

授業への積極的参加…10%

レポートは、後日個別にコメントして返却する形で、事前・事後学修課題は翌週授業時にフィードバックを行います。

**【参考書】**

トピックごとに紹介します。

**【注意事項】**

- ・短期大学部受講ルールを厳守しましょう。
- ・科目の性格柄、授業内容を一部変更する場合があります。
- ・最終回で各自のレポート内容についての報告会を行う予定です。

## ことばの科学

—ことばについての身近な疑問に答えます—

三田 薫

1・2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

ふだん何気なく使っていることばについて科学してみましょう。どうしてチンパンジーは言葉が話せないのか、赤ちゃんはどうやって言葉を覚えていくのか、右脳と左脳の違いは何か、なぜLとRの聞き取りができないのか、どうしたら英単語を効率的に覚えられるのかといった身近なテーマについて1週ごとに考えていくうちに、言葉の本質が少しずつ見えてくることと思います。古代エジプト文字やベビーサインにも挑戦します。チョムスキーやソシュールの理論もやさしく解説します。語学以外の専門の方でも大丈夫です。自分が言葉話をしたり理解したりできることの不思議を一から学んでいきましょう。

### 【授業における到達目標】

この科目は、ことばの身近なテーマについて理解を深めることによって、「物事の真理を探究することによって、「美の探求」、特に「新たな知を創造しようとする態度」を養います。また言語の面白さを知ることにより、「研鑽力」、特に「学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることができる」力を養うことを目指します。

### 【授業の内容】

1. 男と女の脳はこんなに違う
2. 右脳と左脳はこんなに違う
3. サルは頭がいいのになぜ話さない
4. 文字の歴史：ヒエログリフとハングル
5. 辞書対決：広辞苑とオックスフォード英語大辞典
6. LとRの聞き取りのメカニズム
7. ベビーサインと読み聞かせ
8. 子供は文法の天才？（オリジナル文法を作る3歳児）
9. 子供は文学の天才？（なぜ5歳児は物語が作れるのか？）
10. ヘレンケラーの言語習得（井戸水に触れてわかったこと）
11. 手話の不思議（日本手話と日本語対応手話）
12. 外国語（第二言語）習得（なぜ母語のようにいかないのか）
13. 単語記憶法（効果的な覚え方とは？）
14. 進化のプロセスと言語（共感の道具として発達した言語）
15. 人工知能の進歩の行方（どこまで人間言語に近づけるか）

### 【事前・事後学修】

- ・事前学修：各回の授業内容について、あらかじめ文献を読み理解を深めておいてください。
- ・事後学修：授業の最後に「確認テスト」のmanabaでの受験、授業後にオンラインレポートの提出があります。その他に、学期末レポートの提出があります。（事前・事後合わせて週4時間以上）

### 【テキスト・教材】

資料は必要に応じて配付します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度20%、確認テストとオンラインレポート40%、学期末レポート40%

毎週初めに、オンラインレポートについてフィードバックを行います。

## アート&パブリッシング

橋本 愛樹

3年～ 後期 2単位

◎：行動力 ○：協働力

### 【授業のテーマ】

出版界の現状、全体像を把握できるようにする。特に美術書の編集・出版について、必要な知識を理解してもらいたい。

書籍・雑誌・文集などを編集し、制作するための基本的な知識を与える。

実際の編集実務を教示するにあたっては、現在制作が進行中の書籍の実例も提供する。

授業の概要：編集とは、著者の書いた原稿の内容をまず編集者が十分に把握し、読者が理解しやすいように「料理」することである。そのための作業を、編集（原稿整理、レイアウト）、校正、印刷、装幀、製本の流れに沿って解説する。

### 【授業における到達目標】

出版界の構造（組織、出版物の流通形態）を把握する。

書籍・雑誌の構造について把握する。

特に美術における著作権について理解する。

DPに関して：積極的に出版界に進出・活躍しようとする「意欲」「行動力」を身につける。

### 【授業の内容】

第1週 あいさつ。出版とは何か。出版界とはどんな世界なのか。

現在の出版界の状況はどのようなのか。

第2週 編集とはどういう仕事なのか1：編集者になるための情報。

第3週 編集とはどういう仕事なのか2：様々な編集者の世界。

第4週 書籍・雑誌が誕生して、読者の手に渡るまでの流過程程について。

第5週 本の解剖 書籍（本）はどのようにできているのか。実際の本を解剖してみる。

第6週 編集実務1：原稿依頼、原稿入手から、本ができるまでの過程を解説。

第7週 編集実務2：様々な原稿の扱い方。日本語表記の方法。

第8週 編集実務3：美術書を編集するうえでの特別な知識と方法

第9週 特に美術書における著作権について。（1）いわゆる掲載権について。

第10週 特に美術書における著作権について。（2）著作権（著作権、著作者人格権）について。

第11週 レイアウトについての基本的な知識。校正についての注意事項と、実際のゲラ（校正紙）を用いての演習。

第12週 印刷についての基本的な知識。製本と装幀の知識。実例を示しながら。

第13週 あらためて編集・出版とは何か考えてみる。

第14週 期末レポート提出。

第15週 期末レポートを材料に、編集・出版に関する疑問、質問等について質疑応答。まとめ。

### 【事前・事後学修】

編集者の眼で本を「評価する」ことも大切である。

さらに、編集には専門知識のみならず、幅広い知識が必要である。事前学修として、とにかく本を読むこと（少なくとも週に4時間程度）。

事後学修として、授業ノートの復習を週2時間。

日頃から「本」について疑問に思っていることを、授業中に質問して欲しい。対話的に授業を進めたい。

### 【テキスト・教材】

テキスト、教材は特に必要ない。

授業内容に関連する参考図書、プリント、Website等はその都度閲覧、配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内でのレポート60%、平常点（授業への積極的な参加）40%

授業中に適宜フィードバックを行う。また、最後の授業時にレポートの講評を行う。



## アート&amp;パブリッシング

橋本 愛樹

3年～ 後期 2単位

## 【授業のテーマ】

出版界の現状、全体像を把握できるようにする。特に美術書の編集・出版について、必要な知識を理解してもらいたい。

書籍・雑誌・文集などを編集し、制作するための基本的な知識を与える。

実際的な編集実務を教示するにあたっては、現在制作が進行中の書籍の実例も提供する。

授業の概要：編集とは、著者の書いた原稿の内容をまず編集者が十分に把握し、読者が理解しやすいように「料理」することである。そのための作業を、編集（原稿整理、レイアウト）、校正、印刷、装幀、製本の流れに沿って解説する。

## 【授業における到達目標】

出版界の構造（組織、出版物の流通形態）を把握する。

書籍・雑誌の構造について把握する。

特に美術における著作権について理解する。

DPに関して：積極的に出版界に進出・活躍しようとする「意欲」「行動力」を身につける。

## 【授業の内容】

第1週 あいさつ。出版とは何か。出版界とはどんな世界なのか。現在の出版界の状況はどのようなのか。

第2週 編集とはどういう仕事なのか1：編集者になるための情報。

第3週 編集とはどういう仕事なのか2：様々な編集者の世界。

第4週 書籍・雑誌が誕生して、読者の手に渡るまでの流通過程について。

第5週 本の解剖 書籍（本）はどのようにできているのか。実際の本を解剖してみる。

第6週 編集実務1：原稿依頼、原稿入手から、本ができるまでの過程を解説。

第7週 編集実務2：様々な原稿の扱い方。日本語表記の方法。

第8週 編集実務3：美術書を編集するうえでの特別な知識と方法

第9週 特に美術書における著作権について。（1）いわゆる掲載権について。

第10週 特に美術書における著作権について。（2）著作権（著作権、著作者人格権）について。

第11週 レイアウトについての基本的な知識。校正についての注意事項と、実際のゲラ（校正紙）を用いた演習。

第12週 印刷についての基本的な知識。製本と装幀の知識。実例を示しながら。

第13週 あらためて編集・出版とは何か考えてみる。

第14週 期末レポート提出。

第15週 期末レポートを材料に、編集・出版に関する疑問、質問等について質疑応答。まとめ。

## 【事前・事後学修】

編集者の眼で本を「評価する」ことも大切である。

さらに、編集には専門知識のみならず、幅広い知識が必要である。事前学修として、とにかく本を読むこと（少なくとも週に4時間程度）。

事後学修として、授業ノートの復習を週2時間。

日頃から「本」について疑問に思っていることを、授業中に質問して欲しい。対話的に授業を進めたい。

## 【テキスト・教材】

テキスト、教材は特に必要ない。

授業内容に関連する参考図書、プリント、Website等はその都度閲覧、配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内でのレポート60%、平常点（授業への積極的な参加）40%

授業中に適宜フィードバックを行う。また、最後の授業時にレポートの講評を行う。

## アートコミュニケーション論

作品をみる、考える、語り合うことを通してやり取りされるもの

神野 真吾

2年～ 後期 2単位

◎：行動力 ○：美の探究

## 【授業のテーマ】

21世紀以降、従来の「アートワールド」内の論理だけでは十分理解出来ない作品が増えている。

そうしたものは、アート・プロジェクト、アート・フェスティバルなど様々なかたちで展開されているが、根拠やアプローチに違いはあるにせよ、社会におけるアートの意味を問う試みだと言える。本授業では、作品とは何か？作者とは何者か？作品を理解するとは何か？など、作品を通じたコミュニケーションの特質や可能性を理解することを目指す。

## 【授業における到達目標】

現代美術作品に触れ、美的体験に基づくその解釈の可能性について考え、他者と意見を交換し合うことにより、美術を通し多様性を理解するとともに、周りの人や環境に対する自らの寛容性を高める。

## 【美の探究】【国際的視野】

未知の対象を理解するために主体的にアプローチし続けることが出来るようになり【研鑽力】【行動力】、自分が感じ、考えた解釈可能性を他者と交換し、豊かなアート・コミュニケーションを展開することができる。【協働力】

## 【授業の内容】

第1週 ガイダンス（この授業の狙い、目標）

第2週 作品とは何か

第3週 作品が分かるとは何か（A.C. ダントほか）

第4週 作者とは何か（作品と作者の関係の変容）

第5週 コミュニケーションとは何か（ハーバーマスほか）

第6週 アートレス、ワーク・イン・プログレス（川俣正ほか）

第7週 コミュニティとアート①（公共性と作品）

第8週 コミュニティとアート②（経済性（観光、創造的資本）

第9週 コミュニティとアート③（個への働きかけ（寛容性））

第10週 社会の芸術（現実の社会とアートの関係）

第11週 教育としてのアート（鑑賞教育（対話型鑑賞ほか）

第12週 作品を読み解く（自分の持っているコードを問う）

第13週 マイノリティと表現活動（弱者の可視化）

第14週 多文化主義とアート、表現

第15週 総括（アートを通じたコミュニケーションとは）

## 【事前・事後学修】

授業の内容を踏まえ、現代美術系の美術館や、美術展を見て、作品を成立させている要素について考え、美術館の外で展開されるアート系のイベントにも参加するようにする。事前事後合わせて週4時間相当以上の学修が必要。

## 【テキスト・教材】

適宜指示する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

評価は以下の3点によって総合的に行う。

①授業毎のコメントペーパー30% ②中間レポート30% ③最終試験40% ※フィードバックは、それぞれ次回の授業冒頭に補足説明や回答を行う。

## 【参考書】

川俣正『アートレス』フィルムアート社

暮沢剛己『ビエンナーレの現在』青弓社

北田暁大、神野真吾ほか『社会の芸術/芸術という社会—社会とアートの関係、その再創造に向けて』フィルムアート社

## 【注意事項】

毎時提出のコメントペーパーは、授業内容を踏まえた意見や感想が求められる。そうでないものは評価しない。レポートは冬休みに課す。試験は記述式。

**アートマネジメント論**

社会における文化芸術のあり方を考える

杉浦 幹男

2年～ 前期 2単位

◎：行動力 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

近年、社会における文化芸術のあり方が変化しています。これまでの鑑賞して楽しむ“娯楽”ではなく、より社会の中で新しい、多様な価値と役割を担うようになっていきます。

わが国でも文化芸術振興基本法（平成13年）や劇場、音楽堂等の活性化に関する法律（劇場法、平成24年）が制定されるなどの法整備が進み、また、平成31年に向けて文化庁の京都への移転が決定し、文化省の設立が議論されるなど、文化芸術に対する社会からの期待が高まっているように見えます。

こうした近年の動向を踏まえ、文化芸術と社会をつなぐアートマネジメントへの期待も高まっていますが、それを担う人材がわが国では不足しています。

本授業では、アートマネジメントの定義とわが国における現状を学び、求められる役割についての理解を深めます。その上で、教育、福祉、観光、産業、まちづくりなど、社会における文化芸術の多面的な活用のあり方について、具体的なテーマ、課題による実習も取り入れ、考えていきます。

**【授業における到達目標】**

アートマネジメントを学ぶことにより、現在の文化芸術に求められる価値や役割を発見し、理解する能力を修得します。それにより文化芸術、アートマネジメントの視点から社会の多様な課題を見出し、解決する創造的な研鑽力と行動力を身に着けます。

あわせて、実習により文化芸術の現場等、社会において具体的に議論することのできる協働力を修得します。

**【授業の内容】**

- 第1週 アートマネジメントの定義①（概念と歴史的背景）
- 第2週 アートマネジメントの定義②（欧米における考え方）
- 第3週 アートマネジメントの定義③（わが国における考え方と近年の動向）
- 第4週 アートマネジメントの現場①（美術館、ギャラリー）
- 第5週 アートマネジメントの現場②（劇場、音楽堂）
- 第6週 アートマネジメントの現場③（地域アーツカウンシル）
- 第7週 事例研究①（教育、福祉）
- 第8週 事例研究②（観光、産業）
- 第9週 事例研究③（まちづくり、防災他）
- 第10週 実習①（課題設定）
- 第11週 実習②（事業企画作成）
- 第12週 実習③（実施計画作成）
- 第13週 実習④（広報計画作成）
- 第14週 実習⑤（予算計画作成）
- 第15週 プレゼンテーション・総評

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

各回で示すレポート課題（問題提起）の回答に取り組むこと。第10週の実習開始後は、各回で示される課題について、資料収集等、準備作業をすること。（学修時間 週2時間）

**【事後学修】**

授業後、レポート課題の見直しを行い、再提出すること。第10週の実習開始後は、時間内で完了しなかった作業を完了すること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを使用する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート課題40%、平常点（授業への積極的な参加、提出課題）60%。各回のレポート課題については、返却時に個別にコメント、評価（あるいは次の問題提起）をフィードバックする。

**【参考書】**

参考書は、適宜授業内で提示する。

## アサーティブコミュニケーション

自分も相手も大切にしたいコミュニケーション

森田 栄子

1・2年 前期 1単位

◎：協働力 ○：行動力

### 【授業のテーマ】

自己尊重のコミュニケーション、アサーティブを学びます。自分の意見を押し通すのではなく、自分の気持ちや意見を誠実に率直に対等に表現する力をつけます。

### 【授業における到達目標】

- ・自分のコミュニケーションの課題に気づき、問題解決のための発言や行動につなげる力を修得します。
- ・一人で抱え込まず、頼んだり、相談したりできる協働力を培います。
- ・伝わるように伝えるための学習と各週の振り返りを通して、普段の生活での実践力、自己成長力・研鑽力を鍛えます。

### 【授業の内容】

- 第1週 アサーティブとは
- 第2週 自分のコミュニケーションを点検する
- 第3週 事例を通して考えるアサーティブのマインド
- 第4週 相手と向き合うときの姿勢・自己主張の権利と責任
- 第5週 率直に頼む
- 第6週 伝える内容の整理のしかた
- 第7週 伝える時のポイント
- 第8週 自分の事例でロールプレー
- 第9週 振り返り・自分の変化を確認する
- 第10週 NOと言ってはつきり断る
- 第11週 事例を通して考える
- 第12週 何に対してNOなのかNOの的を絞る
- 第13週 自分の事例でロールプレー（相手を尊重しながら断る）
- 第14週 自己信頼をはぐくむ（自分のいいところを振り返る）
- 第15週 自己信頼をはぐくむ（ほめ言葉を伝える/受け取る練習）

### 【事前・事後学修】

【事前学修】自分のコミュニケーションを観察し、どのような場面が苦手か、どのようなコミュニケーションのクセがあるのか、自己認知をした上で授業に臨む。（学修時間 週1時間）

【事後学修】授業で学んだアサーティブ・コミュニケーションの実践。コミュニケーションの取り方を振り返り記録する。（学修時間 週1時間）

### 【テキスト・教材】

森田汐生著『アサーティブ・トレーニング 基礎講座』2017（特定非営利活動法人アサーティブジャパン）1000円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実践的授業のため授業内の取組みと各回のレポートは重視し、期末レポートと併せて総合的に評価します。平常点50% 期末レポート50%。

### 【参考書】

- 『心が軽くなる！気持ちのいい伝え方ー「アサーティブ」な表現で人生が変わる』森田汐生（主婦の友社）
- 『怒りの上手な伝え方』森田汐生（すばる舎）
- 『気まづくならない自己主張のしかた「できるひと」が使っている38のアサーティブな言い方』（大和出版）
- 『気持ち伝わる話しかた』森田汐生著（主婦の友社）
- 『言いづらいことが「サラリ」と言える本』森田汐生（PHP研究所）

### 【注意事項】

受講人数制限24名（制限を超えた場合抽選となります）。体験型授業のため、欠席をしないよう自己管理をお願いします。

## アジア経済・経営論

大木 博巳

3年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力

## 【授業のテーマ】

世界経済で高成長を持続してきたアジア経済は転換期を迎えている。中国経済は減速し、タイやマレーシアのASEAN先発国も中所得国の罫で成長は大きく低下している。他方で、ベトナムがアセアンの新輸出大国として躍進し、ミャンマーでは工業化開発が始まり注目が集まっている注目。また、インドも日本などの支援でインフラ整備が進み、新たな経済発展が見込まれている。他方で、アジア最大の輸出先である米国では保護貿易主義が強まる気配である。アジアの経済統合を巡っては、米国が抜けたTPP（環太平洋パートナーシップ協定）を日本が主導してTPP11として再構築した。アジア太平洋地域における自由貿易体制のモメンタムを維持した。他方、中国は、国内経済の成長減速を周辺地域との経済連携を通じて補う一帯一路構想を展開し、独自の経済圏の形成を狙っている。本講義では第1はアジアと日本の係りを貿易、直接投資の視点から確認し、第2にアジアの市場の動きを日本企業および競合する韓国、中国、台湾などのアジア企業の活動から捉え、第3は今後のアジア経済の行く末をアジアの地域経済統合の視点から、アジア経済の現状と直面している課題を把握し、明日のアジアと日本を展望する

## 【授業における到達目標】

アジアは日本の経済のみならず人的面の交流も活発化して緊密度を増している。アジアの現状と問題点、課題を正しく認識することは、日本における問題発掘にもつながる。アジアを通じて日本が抱えている問題点を把握し、アジアを通じた解決方法があるか、国際的視野の涵養と問題解決能力を磨く。

## 【授業の内容】

1. アジア経済・市場の見方
2. アジアと日本；貿易
3. アジアと日本；対外直接投資
4. アジアの投資環境と日本企業の活動
5. グローバルサプライチェーンとアジア：IT産業と台湾企業
6. グローバルサプライチェーンとアジア：タイの自動車産業
7. ベトナムの躍進
8. ミャンマーの可能性
9. インド市場開拓、韓国企業の秘密
10. 中国の対外経済戦略（走出去）
11. 中国が目指す陸の経済圏、一帯一路構想
12. 中国企業の優位性
13. アジア市場の経済統合：アセアン経済共同体
14. アジア市場の経済統合：TPP11、RCEP、APEC
15. まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前】 小テスト、レポートの課題に取り組むこと。指定した論文等を事前に目を通しておくこと。（学習時間 週1時間）

【事後】 紹介した文献を熟読すること。（学習時間 週1時間）

## 【テキスト・教材】

プリントを使用する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート（2回程度）50%、小テスト40%、平常点（授業への積極的参加）10%。

発表についてはその授業時間に、レポートについては授業最終回にフィードバックします。

## 【参考書】

季刊『国際貿易と投資』（国際貿易投資研究）収用論文  
ジェトロ『貿易投資報告書』各年版

## アジア文化論

高橋 美和

2年 前期 2単位

◎：国際的視野

## 【授業のテーマ】

東南アジアの文化に関する入門的な授業。東南アジアは近年、日本人観光客も非常に増え、テレビのバラエティ番組などでも取り上げられることが多く増えており、より身近に感じている方も多いと思う。しかし、東南アジア地域に住む人々の暮らしや世界観・人生観について体系的に学ぶ機会は意外に少ないのではないだろうか。東南アジアという地域は、自然地理的にも言語や宗教といった文化面でも、非常に多様性の高い地域である。この興味の尽きない東南アジア地域の諸文化を、歴史的な背景を含め、立体的に概説する。

## 【授業における到達目標】

東南アジア地域の地理・歴史・文化に関する基礎的な知識を身につけ、同時代に生きる東南アジアの人々の暮らしや世界観についての共感的な理解への糸口をつかむことが目標である。これにより、国際的視野つまり多様性を受容し、多角的な視点を以って世界に臨む態度を養う。

## 【授業の内容】

- 第1週 導入：身の回りの東南アジア
- 第2週 東南アジアを学ぶことの意義
- 第3週 東南アジアの自然地理
- 第4週 モンスーン気候での暮らし
- 第5週 東南アジアの歴史①：文化史を大きく捉える
- 第6週 東南アジアの歴史②：古代文明とインド化
- 第7週 東南アジアの歴史③：植民地時代
- 第8週 東南アジアの歴史④：独立と近代化
- 第9週 東南アジアの食文化①：伝統の食
- 第10週 東南アジアの食文化②：外来の食
- 第11週 東南アジアの言語と文字
- 第12週 宗教と暮らし①：上座仏教圏
- 第13週 宗教と暮らし②：イスラーム圏
- 第14週 宗教と暮らし③：精霊信仰、他
- 第15週 まとめ講義

## 【事前・事後学修】

事前：テキストの次回範囲に必ず目を通し、疑問点を明らかにしたうえで授業にのぞむこと。事前の調べ物課題を出した週は、次回授業時に提出すること（学修時間 週2時間）。

事後：学期中数回行うミニテストにそなえ、毎回復習をしっかりとしておくこと（学修時間 週2時間）。

## 【テキスト・教材】

今井昭夫・東京外国語大学東南アジア課程 編『東南アジアを知るための50章』（明石書店、2014）2,160円

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出物20%・ミニテスト20%・期末試験60%

提出物・テスト・試験ともに授業期間内にフィードバックする。

## 【参考書】

授業で紹介する。

## アニメ・マンガ英語

武内 一良

1年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：美の探求、研鑽力

## 【授業のテーマ】

現在、漫画という日本語は manga（マンガ）として海外に普及しています。最近では電子機器による配信も増えてきました。デジタル技術の発達に伴い、マンガとは別に動画（アニメーション）という形態が大きく成長し、anime（アニメ）という言葉が世界に紹介されるようになりました。そこでこの授業では、①英訳されたマンガの英語、②英語に吹き替えられたアニメの声優の表現、③アニメの英語字幕に焦点を当てながら、日本語と比較し英語の表現に潜む文化の違いについて学習していきます。

## 【授業における到達目標】

この科目は、以下の3つを主眼に置きます。

- 1 翻訳の本質を理解する。
- 2 言語に潜む文化の存在を確認する。
- 3 生きた英語表現を修得する。

ディプロマポリシーとの関係では、日本語と英語の新たな関係性を発見し英語を学ぶ楽しみを知ってもらう国際的視野に立ち、美の探求と研鑽力の向上を目指します。

## 【授業の内容】

- 第1週 授業の進め方と評価方法の説明
- 第2週 英語圏のマンガに使われる英語表記の確認
- 第3週 英語圏のマンガに使われる英語表記の分析
- 第4週 英語に翻訳されている日本のマンガの英語表記の確認
- 第5週 英語に翻訳されている日本のマンガの英語表記の分析
- 第6週 アニメ作品Aの声優の日本語と英語吹替えの分析
- 第7週 アニメ作品Aの英語吹替えと英語字幕の分析
- 第8週 アニメ作品Bの声優の日本語と英語吹替えの分析
- 第9週 アニメ作品Bの英語吹替えと英語字幕の分析
- 第10週 アニメ作品Cの声優の日本語と英語吹替えの分析
- 第11週 アニメ作品Cの英語吹替えと英語字幕の分析
- 第12週 アニメ作品Dの声優の日本語と英語吹替えの分析
- 第13週 アニメ作品Dの英語吹替えと英語字幕の分析
- 第14週 アニメ・マンガに見る言語と文化の研究報告
- 第15週 これまでの授業内容の確認

## 【事前・事後学修】

〔事前学修〕授業で配付された教材（何度か使用します）に登場する語彙や表現の意味範囲は、最低でも1時間は時間を取り、確実に理解しておくようにしてください。

〔事後学修〕また授業終了後も、引き続き記憶が新しい内に1時間程度の復習をして新たな英語表現の定着を図ってください。

## 【テキスト・教材】

毎回教材となる印刷物を配付します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業で行う議論の集大成として、言語と文化に関する独自の視点を研究報告書にまとめて提出してもらいます。評価はこの研究報告書（100%）を基に行います。なお、集大成として提出する研究報告書に対するフィードバックについては、各自アポを取って研究室を訪問してください。

## 【参考書】

必要に応じて授業で紹介します。

## 【注意事項】

第1回目の授業で、授業スケジュールと成績評価に関する細則を發表しますので、必ず出席してください。また、授業に必ず英和辞典あるいは英和辞典として機能する機器類を持参してください。

**アパレルCAD**

衣服の設計図・パターンをPCで作成する

上條 里江

3年 前期 1単位

◎：行動力

『ファッション造形 スカート・パンツ編』小倉文子監修 興陽館  
『衣服の構成 ブラウス・ワンピース編』江川澄子監修 興陽館**【注意事項】**

コンピューター、ソフトの操作の修得は使い慣れることが大切です。遅刻、欠席の無いように受講すること。

**【授業のテーマ】**

衣料の設計をコンピューターで行う為の専門ソフト『CAD』はアパレル業界でどのように活用されているのか、パターンデータのデジタル化によって広がるクリエイションを理解したうえで、CADの基本操作を修得し、衣服の設計を行う。ここではスカート、ブラウスを教材として衣服の構造、構成、素材（布）の扱い方、デザイン、裁断、縫製、製品の取扱方など衣料設計に必要な知識を深め、パターンメイキングを学修する。

**【授業における到達目標】**

CADソフトのアシストにより衣服設計のプロセスを探索し、構築していく中で、新たなデザインを創造する態度を修得できる。  
また、学生が習得すべき「行動力」のうち、問題解決につなげる力を修得できる。

**【授業の内容】**

- 第1週 アパレルCAD概論・作図の基本操作
- 第2週 タイトスカート作図・データの保存  
ハンガーイラストの描き方
- 第3週 タイトスカートの組立  
シルエット展開 フレアスカート  
課題 ハンガーイラスト・フレアスカートの立体化
- 第4週 シルエット展開 ギャザースカート  
課題 ハンガーイラスト
- 第5週 デザインスカート・縮小データの出力1  
課題 デザインスカートの立体化
- 第6週 縫代付け・実物データ出力  
課題 裁断とデザイン
- 第7週 囲み製図  
課題 ブラウスのリサーチ
- 第8週 ブラウスのシルエット（ストレート・Aライン）  
課題 ハンガーイラスト・Aラインブラウスの立体化
- 第9週 ブラウスのシルエット（フィット・プリンセスライン）  
課題 ハンガーイラスト
- 第10週 袖・衿のバリエーション  
課題 ハンガーイラスト ブラウスデザイン創作
- 第11週 ダーツを利用したデザイン  
縮小データの出力2
- 第12週 ハイウエスト・ローウエストの切り替  
課題 ハンガーイラスト ブラウスデザイン創作
- 第13週 応用課題・縮小データの出力3
- 第14週 応用課題
- 第15週 まとめ・縮小データの出力4

**【事前・事後学修】**

スカート・ブラウスの構成、設計について事前に復習しておく必要があります。

デザイン画を理解する力がパターン作成に欠かせない為、常に衣服を観察する事（デザインを構成する縫目、素材等）を心掛ける。  
（学修時間 週1時間）

作成したパターンから制作されるデザインをハンガーイラストとして描く事と出力した縮小パターンを紙立体にすることを事後学修とします。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

適宜プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

縮小データの出力4 50%、縮小データ1, 2, 3 30%、ハンガーイラスト・パターンの立体化 20%、で評価する。

縮小データ出力4に関しては授業内でのフィードバックを行う。  
その他の提出データは次回授業内でのフィードバックを行う。

**【参考書】**

## アパレルデザイン基礎

川上 梅  
2年 前期 2単位  
◎：研鑽力

### 【授業のテーマ】

衣服設計の基本となる人体の大きさや形、動作に伴う変化等を理解する。本授業では、人体の構造や運動機構、および体型把握法を学ぶ。次に、体型に関するデータを使用して、体型の男女差、加齢に伴う変化、地域差や人種差など、各集団の体型の特徴と差異について学ぶ。さらに、人体形態と衣服パターン・既製衣料サイズとの関連、パターンと衣服のシルエット・ディテールとの関連等、衣服設計の基礎事項について理解を深めることを目標とする。

### 【授業における到達目標】

機能的・装飾的観点から衣服設計を理解し、衣服の本質を見抜くことができる。

### 【授業の内容】

- 第1週 人体形態把握
- 第2週 人体区分と基準線
- 第3週 骨格と筋
- 第4週 運動機構、姿勢
- 第5週 計測点と計測部位
- 第6週 人体形態の把握法と計測誤差
- 第7週 成人体型
- 第8週 成長期の体型
- 第9週 動作に伴う体形変化と衣服のゆとり量
- 第10週 人体形態と既製衣料サイズシステム
- 第11週 人体形態と衣服パターンⅠ 胴原型
- 第12週 人体形態と衣服パターンⅡ 袖・衿原型
- 第13週 人体形態と衣服パターンⅢ パンツ・スカート原型
- 第14週 衣服のシルエットとディテール
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

〔事前学修〕小テスト・レポート・発表等の課題に取り組むこと。  
(学修時間 週2時間)

〔事後学修〕小テスト・発表等を復習すること。(学修時間 週2時間)

### 【テキスト・教材】

『アパレル設計論 アパレル生産論』(日本衣料管理協会)2013年発行、2,300円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験(60%)、小テスト・レポート等(40%)で総合的に評価。小テストは次回授業、試験は最終回でフィードバックを行う。

### 【注意事項】

アパレル生産論、アパレルデザイン実習を履修する学生は、本科目が基礎となりますので、是非、履修して下さい。

## アパレルデザイン基礎実験

川上 梅  
1年 前期 2単位 2時限連続  
◎：行動力

### 【授業のテーマ】

本授業では、布を使用した実験を通して、縫合や立体化、縁や開口部の処理、ポケットに関する縫製技術と理論的根拠を理解する。さらに、留め具や芯地・裏地等の副資材に関する知識を深め、衣服製作の基礎的技術を理解することを目標とする。

### 【授業における到達目標】

衣服の基本的な縫製技法を理解して習得し、それらを応用して簡単な衣服の製作ができる。

### 【授業の内容】

- 第1週 衣服製作に用いる道具
- 第2週 手縫いとミシン縫い
- 第3週 縫合と縫い代の処理
- 第4週 縁の処理Ⅰ縫い割り
- 第5週 縁の処理Ⅱ片返す
- 第6週 縁の処理Ⅲ前端的始末
- 第7週 立体化技法
- 第8週 明きと留め具Ⅰ コンシールファスナー
- 第9週 明きと留め具Ⅱ 片返しファスナー
- 第10週 ベンツとスリット
- 第11週 ボタンホール
- 第12週 芯地と裏地
- 第13週 ポケット
- 第14週 布を飾る技法
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

〔事前学修〕次回授業の予習をしておくこと。(学修時間 週1時間)

〔事後学修〕前回授業の課題を完成させ、習得しておくこと。(学修時間 週1時間)

### 【テキスト・教材】

資料を配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出物(80%)と授業への積極参加(20%)で総合的に評価。提出物返却時にフィードバックを行う。

## アパレルデザイン実習 a

川上 梅

2年 後期 2単位 2時限連続

◎：行動力 ○：美の探究

## 【授業のテーマ】

上衣と下衣の製作実習を通して、衣服設計の基礎的な知識を理解し、技法を習得する。平面である布素材を用いて、立体である人体を美しく被うための衣服パターン、各種衣服素材や芯地の取り扱い方、縫製技法などの基礎的事項を学び、これらを通して衣服製作の一連のプロセスを理解する。さらに、工業生産プロセスに沿った製作実習により、個別生産と工業生産の相違点や問題点を探る。

## 【授業における到達目標】

シャツブラウスとタイトスカートデザインし、製作することができる。

## 【授業の内容】

- 第1週 授業内容、用具の説明、衣服の構成と基礎パターン
- 第2週 衣服の構成
- 第3週 基礎パターン
- 第4週 基礎パターンからデザインパターンへの展開
- 第5週 下衣の製作実習1（裁断・印つけ）
- 第6週 下衣の製作実習2（仮縫い・試着・補正）
- 第7週 下衣の製作実習3（縫製）
- 第8週 下衣の製作実習4（縫製・作品の評価）
- 第9週 工業用パターンの製作（上衣）
- 第10週 縫製仕様書の作成、裁断、縫製作業の検討
- 第11週 縫製作業1（パーツ縫製1、身頃・衿の縫製）
- 第12週 縫製作業2（パーツ縫製2、袖の縫製）
- 第13週 縫製作業3（アSEMBリー縫製1、身頃と衿の組み立て）
- 第14週 縫製作業4（アSEMBリー縫製1、身頃と袖の組み立て）
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

〔事前学修〕次回授業の内容を予習しておくこと。（学修時間 週1時間）

〔事後学修〕前回授業の課題を完成させ、習得しておくこと。（学修時間 週1時間）

## 【テキスト・教材】

資料を配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出物（70%）と授業への積極参加（30%）で総合的に評価。提出物は返却時にフィードバックを行う。

## アパレルデザイン実習 b

松岡 久美子

3年 前期 2単位 2時限連続

◎：行動力 ○：美の探究

## 【授業のテーマ】

アパレルデザイン実習aを引継ぎ、さらに構成技法を発展させた実習を行う。具体的には、ワンピースの個別製作を予定している。個々にデザインした衣服を具体化するパターン設計、デザインに適した素材と芯地、裏地などのパーツの選び方、その取扱い方、縫製技法を学習し着装評価する。

さらに、より運動機能が求められるパンツについて、そのパターン設計と構成法について学習する。

## 【授業における到達目標】

アパレルデザイン実習bをさらに展開させた授業になります。衣服製作の一連のプロセス（デザイン・パターン製作・縫製・評価）が自分自身で出来るようになります。それにより、学修成果を実感し、自信を創出できます。それは、新たな知識を得たいという意欲と行動力につながります。

## 【授業の内容】

- 第1週 授業の内容、用具の説明、製作必要計測項目の人体計測、基礎パターンの設計
- 第2週 基礎パターンの適合度の確認、ワンピースの定義、構成のバリエーション、素材などについて
- 第3週 ワンピースパターンへの展開および応用デザインへの展開
- 第4週 個別製作ワンピースパターンの製作
- 第5週 ワンピース製作実習1ー裁断、印つけ
- 第6週 ワンピース製作実習2ー仮縫い組立て、試着補正
- 第7週 ワンピース製作実習3ー本縫い たて方向の縫い合わせ
- 第8週 ワンピース製作実習4ー本縫い よこ方向の縫い合わせ
- 第9週 ワンピース製作実習5ー本縫い 見返し 裾の処理
- 第10週 ワンピース製作実習6ー本縫い 裏身頃製作
- 第11週 ワンピース製作実習7ー本縫い 袖作り 袖つけ
- 第12週 ワンピース製作最終仕上げ
- 第13週 下腿部の基礎パターンからパンツパターンへの展開
- 第14週 パンツ製作実習1ー裁断、仮縫い組立て、試着補正
- 第15週 パンツ製作実習2ー組立て、試着、パターン設計の評価  
パンツは仮縫い用布使用 個人製作ではない  
パンツ製作と並行してワンピース製作遅延者の作業も行う

## 【事前・事後学修】

事前学修は、前回までの到達目標に達していない部分の取り組みを求めます。（学修時間 週1時間）

事後学修は、今回の実習内容についてプリントでの確認と要点の加筆をしてください。（学修時間 週1時間）

## 【テキスト・教材】

各課題ごとに担当者作成のプリント、資料を配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出物の評価80%、レポート20%の総合評価。

提出作品は全員で試着評価、多様な構成技法を認識させます。

レポートでは実習内容の要点を知識として蓄積しているか確認します。講師の所見を加えて返却します。

## 【参考書】

衣服の参考書だけでなく、雑誌、新聞、TVなどメディアの情報が参考になる。

## 【注意事項】

毎回、講義、実習の説明、実習の組合せになる。忘れ物、欠席は進路に差がつくことになるので注意すること。



## アパレルデザイン総合実習

松岡 久美子

3年 後期 2単位 2時限連続

◎：行動力 ○：美の探究

### 【授業のテーマ】

アパレルデザイン実習a、アパレルデザイン実習bで学習した衣服設計、衣服構成法を基礎に、衣服製作実習の総仕上げをする。

多層構造の衣服を設計、製作することにより、さらに高度の衣服立体化の技法を学ぶ。具体的には、ジャケットの個別製作により個々の人体にフィットしたパターン設計、デザインに適した素材、芯地の選択、取り扱い方、縫製法を学び着装評価する。

### 【授業における到達目標】

衣服製作の一連のプロセス（デザイン・パターン・縫製・評価）が自身で出来るようになる。技術の向上とともに、アパレル分野において知っておくべき専門用語、知識が習得できる。そして、新たな知識を得たいという意欲を生み、実際に実現しようとする行動力につなげることを目標とする。

### 【授業の内容】

- 第1週 授業の内容、用具の説明、製作必要計測項目の計測、CADによる上半身原型の抽出
- 第2週 ジャケットの定義、構成のパリエーション、素材について、上半身原型の適合度の確認
- 第3週 基礎パターンメイキング、製作ジャケットパターンへの展開
- 第4週 袖のパターンメイキング、パターンの確認
- 第5週 裁断、芯地のプレス
- 第6週 印つけ、仮縫い組立て、試着補正
- 第7週 本縫い1－身頃
- 第8週 本縫い2－ポケット製作
- 第9週 本縫い3－身頃
- 第10週 本縫い4－衿つけ
- 第11週 見返しの裁断、裏地の裁断
- 第12週 本縫い5－裏地、袖作り
- 第13週 本縫い6－表、裏身頃合わせ
- 第14週 本縫い7－袖つけ
- 第15週 最終仕上げ

### 【事前・事後学修】

事前学修は、前回までの到達目標に達していない部分の取り組みを求めます。（学修時間 週1時間）

事後学修は、今回の学修内容について、プリントでの確認と要点の加筆をしてください。（学修時間 週1時間）

### 【テキスト・教材】

作成プリントを配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出物の評価80%、レポート20%で評価します。  
作品は学生全員で評価し、他作品からの知識を吸収します。  
評価は毎回の講義、実技指導の理解度、完成度で評価します。  
レポートでは、15回の授業内容が言葉で表現できるか確認し、所見を加えて返却します。

### 【参考書】

『文化ファッション体系服飾基礎講座（4）スーツ・ベスト』  
（文化服装学院教科書出版部）

### 【注意事項】

毎回、実習の説明、実習の組合せになる。忘れ物、欠席は進路に遅れが出ることになるので注意すること。

## アパレル生産

大川 知子

2年 後期 2単位

◎：研鑽力

### 【授業のテーマ】

アパレル製品を量産化する為の、生産に関する基本的な知識を、原料/テキスタイル/副資材/縫製/編立と段階を踏みながら学ぶ。また、繊維機械の展示施設訪問等を通して、モノ作りの実態を知る。

### 【授業における到達目標】

1. アパレル生産に関与する業者等、調達の基本を学ぶ。
2. アパレル製品の生産工程に関する基本的知識を深める。
3. 優れた製品を作る為の要点を学ぶ。
4. 学習を通して、モノ作りに対する広い視野を身に付け、本質を見抜くことが出来る「研鑽力」を醸成する。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション—何故、アパレル生産を学ぶのか
- 第2週 アパレルメーカーにおける生産担当の役割①社内の連動
- 第3週 アパレルメーカーにおける生産担当の役割②社外との連動
- 第4週 テキスタイルの生産と調達
- 第5週 ニット製品の生産
- 第6週 生産の実態と品質  
※校外学修：東京農工大学科学博物館
- 第7週 校外学修後のディスカッション
- 第8週 副資材の種類と選定
- 第9週 縫製工程の理解
- 第10週 工業用縫製ミシンの理解  
※講師：縫製機器メーカーの実務担当者（予定）
- 第11週 量産に向けて必要な業務
- 第12週 縫製管理と効率化①工程分析
- 第13週 縫製管理と効率化②原価計算
- 第14週 物流の基礎
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

一回ずつの内容に対して、予習復習をしておくこと（学修時間各2時間）。また、事前に課題を提示する場合もある（学修時間 3時間程度）。

### 【テキスト・教材】

『アパレル設計論/アパレル生産論』（一社）日本衣料管理協会、2013年）2,190円（税別）

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験70%、課題レポート等30%で評価を行う。また、試験・課題共、原則的に提出の翌週以降に返却と解説を行う。

### 【参考書】

織研新聞、WWD JAPAN等の業界紙（図書館とファッションビジネス研究室で購読中）。

### 【注意事項】

欠席が事前に分かっている場合には、その時点で申し出ること。公欠は大学の規定で認められているもののみ、かつ申請書類は必ず事前に提出のこと。

## アメリカの文化と社会

実験国家にみるアイデンティティの構築

深瀬 有希子

1年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

アメリカ合衆国の文化社会について、複数の視点から総合的な理解を深めることを目標とする。広大な領土と多様な民族を抱えてきたアメリカ合衆国の、複雑かつユニークな歴史的背景から現代の文化や社会状況までを含む幅広い話題に触れ、異文化理解力を高めるとともに他者との協働のあり方を自ら検討する態度をも身につけることを目指す。

### 【授業における到達目標】

国際的視野：多様性を受容し、多角的な視点を以って世界に臨む態度を養うことを目標とします。

研鑽力：学修を通して自己成長する力を高めることを目標とします。

### 【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 コロニアリズム1—アメリカン・ドリームの起源
- 第3週 コロニアリズム2—大西洋奴隷貿易の始まり
- 第4週 ピューリタニズム1—ポカホンタス神話
- 第5週 ピューリタニズム2—セイラムの魔女狩り
- 第6週 リパブリカニズム1—アメリカ独立宣言
- 第7週 リパブリカニズム2—自伝の伝統
- 第8週 まとめ 1
- 第9週 ロマンティシズム1—アメリカ領土拡張と超絶主義
- 第10週 ロマンティシズム2—奴隷制度と自由
- 第11週 ダーヴィニズム、リアリズム、ナチュラリズム
- 第12週 コスモポリタニズム  
—イエロー・ペリルとパリのアメリカ人
- 第13週 ポストモダン・アメリカ1—米ソ冷戦と赤狩り
- 第14週 ポストモダン・アメリカ2—ヴェトナム戦争
- 第15週 まとめ 2

### 【事前・事後学修】

事前学修として、あらかじめ指定されたトピックについて情報を収集し整理しておくこと。（学修時間、2時間）

事後学修として、授業で提示された課題に関する資料（小説や映画など）を探し読むまたは観ておくこと。（学修時間、2時間）

### 【テキスト・教材】

プリントを配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業参加度・レスポンスシート）30%、試験70%で評価する。フィードバックはmanabaまたは試験答案返却時に行う。

### 【参考書】

杉野健太郎、稲垣伸一他著『アメリカ文化入門』三修社、2010年。  
異孝之著『アメリカ文学史のキーワード』講談社現代新書、2000年。

### 【注意事項】

特別な理由のない遅刻、欠席、授業中の私語は平常点より減点されるので注意すること。

## アメリカ文化事情

久保田 佳枝

1・2年 後期 2単位

◎：国際的視野、○：美の探究、研鑽力

### 【授業のテーマ】

この授業は、アメリカ文化を多角的に学びながら、アメリカへの理解を深めていきます。具体的には、さまざまな人種・民族が入り混ざりながらも互いの文化を共生・共存させている多様性の魅力を考察していきます。コースの後半では、ハワイ海外研修参加に向けて、学びの焦点をハワイ州に当て、ボランティア・ツーリズム等のホノルルフェスティバル参加の準備を行います。

### 【授業における到達目標】

アメリカ社会に関する幅広い知識を習得すると同時に、ハワイ海外研修で参加するホノルルフェスティバルの準備（ボランティアに必要な英語力習得・出店準備等）を行う。そのような種々の学習や活動を通じて国際的視野を養いながら、美の探究や研鑽力の育成も目指します。

### 【授業の内容】

1. オリエンテーション
  2. アメリカとは①（領土・国旗・国歌・人種等）
  3. アメリカとは②（歴史等）
  4. 日米文化の違い①（言語・非言語・コンテキスト等）
  5. 日米文化の違い②（文化的自己観等）
  6. 映像で見るアメリカ社会①（1世のアイデンティティ）
  7. 映像で見るアメリカ社会②（2世以降のアイデンティティ）
  8. 中間クイズ
  9. アメリカ社会における日系人・日本人（アイデンティティと適応）
  10. ハワイ州（ハワイの歴史と文化・日本とハワイの関わり）
  11. ホノルルフェスティバル
  12. ホノルルフェスティバル準備①（ボランティア英語）
  13. ホノルルフェスティバル準備②（出店等準備①）
  14. ホノルルフェスティバル準備③（出店等準備②）
  15. まとめ
- ※上記は授業内容の一覧である。クラスの状況によって、順番が変更される場合がある。
- ※外部講師を予定している（日程未定）。

### 【事前・事後学修】

【事前学修】新聞・テレビ・インターネット等のメディアを通して、アメリカに関連する情報を収集する。（学修時間は2時間）

【事後学修】授業内容をノート等にまとめ、理解を深める。（学修時間は2時間）

### 【テキスト・教材】

適宜プリントを配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点30%、中間クイズ30%、期末課題40%として総合評価を行う。

### 【参考書】

授業中に必要に応じて呈示する。

### 【注意事項】

ハワイ海外研修参加予定者は、この科目を必ず履修すること。

**アメリカ文学・文化講義 a**

アメリカの歴史と思想―植民地時代から南部再建まで

齋木 郁乃

2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

植民地時代から南北戦争を経て南部再建までの、アメリカの歴史と社会思想を、人種、階級、ジェンダー、そして民主主義に焦点をあてながら、文学作品や映画を用いて解説します。

**【授業における到達目標】**

17世紀から19世紀のアメリカの歴史と思想の流れを理解できるようになる。学生が修得すべき「国際的視野」のうち国際感覚を身につけて世界に踏み出し社会を動かそうとする態度と、「美の探求」のうち人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度を身につけ、「研鑽力」のうち学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続ける能力を養う。

**【授業の内容】**

- 第1週 イントロダクション
- 第2週 ポカホンタスと植民地時代 1 *The New World*
- 第3週 ポカホンタスと植民地時代 2 講義と解説
- 第4週 魔女狩りとピューリタニズム 1 *The Crucible*
- 第5週 魔女狩りとピューリタニズム 2 講義と解説
- 第6週 捕鯨と拡張主義 1 *In the Heart of the Sea*
- 第7週 捕鯨と拡張主義 2 講義と解説
- 第8週 プロテスタントイズムと資本主義 1 “Bartleby, the Scrivener”
- 第9週 プロテスタントイズムと資本主義 2 講義と解説
- 第10週 感傷主義と女性作家たち 1 *Uncle Tom's Cabin* 他
- 第11週 感傷主義と女性作家たち 2 講義と解説
- 第12週 奴隷解放運動と南北戦争 1 *Lincoln*
- 第13週 奴隷解放運動と南北戦争 2 講義と解説
- 第14週 南部再建
- 第15週 授業のまとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 その週で扱う映画や文学作品に目を通してください。  
(学修時間 週2時間)

【事後学修】 授業で学んだことを、ハンドアウトとノートを見ながら復習してください。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

毎回ハンドアウトを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験80%、授業内の提出物20%で評価します。試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

**【参考書】**

ハンドアウトに記載します。

**【注意事項】**

3分の2以上の授業に出席すると、試験の受験資格が得られます。

**アメリカ文学・文化講義 a**

アメリカの歴史と思想―植民地時代から南部再建まで

齋木 郁乃

2年～ 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

植民地時代から南北戦争を経て南部再建までの、アメリカの歴史と社会思想を、人種、階級、ジェンダー、そして民主主義に焦点をあてながら、文学作品や映画を用いて解説します。

**【授業における到達目標】**

17世紀から19世紀のアメリカの歴史と思想の流れを理解できるようになる。学生が修得すべき「国際的視野」のうち国際感覚を身につけて世界に踏み出し社会を動かそうとする態度と、「美の探求」のうち人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度を身につけ、「研鑽力」のうち学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続ける能力を養う。

**【授業の内容】**

- 第1週 イントロダクション
- 第2週 ポカホンタスと植民地時代 1 *The New World*
- 第3週 ポカホンタスと植民地時代 2 講義と解説
- 第4週 魔女狩りとピューリタニズム 1 *The Crucible*
- 第5週 魔女狩りとピューリタニズム 2 講義と解説
- 第6週 捕鯨と拡張主義 1 *In the Heart of the Sea*
- 第7週 捕鯨と拡張主義 2 講義と解説
- 第8週 プロテスタントイズムと資本主義 1 “Bartleby, the Scrivener”
- 第9週 プロテスタントイズムと資本主義 2 講義と解説
- 第10週 感傷主義と女性作家たち 1 *Uncle Tom's Cabin* 他
- 第11週 感傷主義と女性作家たち 2 講義と解説
- 第12週 奴隷解放運動と南北戦争 1 *Lincoln*
- 第13週 奴隷解放運動と南北戦争 2 講義と解説
- 第14週 南部再建
- 第15週 授業のまとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 その週で扱う映画や文学作品に目を通してください。  
(学修時間 週2時間)

【事後学修】 授業で学んだことを、ハンドアウトとノートを見ながら復習してください。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

毎回ハンドアウトを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験80%、授業内の提出物20%で評価します。試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

**【参考書】**

ハンドアウトに記載します。

**【注意事項】**

3分の2以上の授業に出席すると、試験の受験資格が得られます。

**アメリカ文学・文化講義b**

アメリカの光と影

植野 達郎

2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

アメリカの生活の一端をさまざまな角度から考察します。アメリカの文学や文化を知ることにより、私たち自身の文学や文化についての理解を深めます。

**【授業における到達目標】**

アメリカの生活や文化を知ることにより、自国の文化を相対的に見ることを選び、国際感覚を身につけることを目標とします。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 大統領
- 第3週 銃
- 第4週 車
- 第5週 食
- 第6週 教育・スポーツ
- 第7週 キャラクター
- 第8週 音楽（フォークソング）
- 第9週 音楽（ロック）
- 第10週 小説の中の若者
- 第11週 ハリウッド
- 第12週 アカデミー賞
- 第13週 ディズニー
- 第14週 小説の中の戦争
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：それぞれの授業に備えてトピックについて調べる。（学修時間 週3時間）

事後学修：トピックについてのレポートをmanabaで提出する。（学修時間 週1時間）

**【テキスト・教材】**

必要に応じて提示します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業態度・レポート）50%

期末試験 50%

**アメリカ文学・文化講義b**

アメリカの光と影

植野 達郎

2年～ 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

アメリカの生活の一端をさまざまな角度から考察します。アメリカの文学や文化を知ることにより、私たち自身の文学や文化についての理解を深めます。

**【授業における到達目標】**

アメリカの生活や文化を知ることにより、自国の文化を相対的に見ることを選び、国際感覚を身につけることを目標とします。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 大統領
- 第3週 銃
- 第4週 車
- 第5週 食
- 第6週 教育・スポーツ
- 第7週 キャラクター
- 第8週 音楽（フォークソング）
- 第9週 音楽（ロック）
- 第10週 小説の中の若者
- 第11週 ハリウッド
- 第12週 アカデミー賞
- 第13週 ディズニー
- 第14週 小説の中の戦争
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：それぞれの授業に備えてトピックについて調べる。（学修時間 週3時間）

事後学修：トピックについてのレポートをmanabaで提出する。（学修時間 週1時間）

**【テキスト・教材】**

必要に応じて提示します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業態度・レポート）50%

期末試験 50%

## アメリカ文学・文化講義c

—モダン・ジャズをとおして見る物語的美学—

難波 雅紀

3年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

モダン・ジャズをとおしてアメリカの文化や社会の有り様を考察する。音楽ジャンルとしての歴史や特徴を踏まえつつ、特にビバップからハードバップの時代に数多く産み出されたスタンダード曲に焦点を絞り、映像をとおして視覚的、聴覚的な理解を得つつ、歌詞に注目しながら、モダン・ジャズのもつ物語性、宗教性、芸術性を明らかにしていく。主に、Miles DavisやJohn Coltrane, Wynton Marsalis, Helen Merrill, Sarah Vaughan, Diana Krallなどの演奏や歌唱を取り上げる。

### 【授業における到達目標】

モダン・ジャズを音楽的（和声的）、文学的（詩的）に分析し、独特の芸術形式をとおして表現されている物語的美学を理解することを目指す。それにより、相対的に自分にとって美とは何かを探求する姿勢を育み、人間としての研鑽力を培っていく。

### 【授業の内容】

1. Prologue to Modern Jazz in American Culture
2. What Is Jazz? (1) —Origin and History
3. What Is Jazz? (2) — “Blues & Swing” by Wynton Marsallis
4. Standard Jazz Vocal (1) — “You’ d Be So Nice to Come Home to” by Helen Merrill
5. Standard Jazz Vocal (2) — “Summertime” by Helen Merrill and Sarah Vaughan
6. Standard Jazz Vocal (3) — “Day by Day” by Sarah Vaughan
7. Standard Jazz Vocal (4) — “Misty” by Sarah Vaughan
8. Standard Jazz Vocal (5) — “Autumn in New York” by Sarah Vaughan
9. Scenes from Jazz Vocal—Sarah Vaughan
10. Standard Jazz Vocal (6) — “Unforgettable” by Nat King Cole with Natalie Cole
11. Standard Jazz Vocal (7) — “Cry Me a River” by Diana Krall
12. Standard Jazz Vocal (8) — “Love Letters” by Diana Krall
13. Giants in Modern Jazz (1) —Miles Davis
14. Giants in Modern Jazz (2) — “The World of John Coltrane”
15. Epilogue to Modern Jazz in American Culture

### 【事前・事後学修】

【事前学修】 授業終了時に次回の授業で取り上げる演奏や歌唱を指定するので、試聴して音楽的、文学的な特徴を把握しておくこと。（学修時間 2時間）

【事後学修】 毎授業での小レポート・リアクションペーパーを次回の授業で返却するので、確認の上、理解不足の点を補うこと。また、音楽的な専門用語を理解しておくこと。（学修時間 2時間）

### 【テキスト・教材】

特になし。授業時にプリント配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小レポート・リアクション・ペーパー40%、学期末レポート60%により総合評価する。小レポート・リアクションペーパーは、添削した上、次回授業でフィードバックする。

### 【参考書】

相倉久人『新書で入門 ジャズの歴史』（新潮新書）

油井正一『ジャズの歴史物語』（アルテスパブリッシング）

### 【注意事項】

特になし。



**アメリカ文学・文化講義c**

—モダン・ジャズをとおして見る物語的美学—

難波 雅紀

3年～ 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

モダン・ジャズをとおしてアメリカの文化や社会の有り様を考察する。音楽ジャンルとしての歴史や特徴を踏まえつつ、特にビバップからハードバップの時代に数多く産み出されたスタンダード曲に焦点を絞り、映像をとおして視覚的、聴覚的な理解を得つつ、歌詞に注目しながら、モダン・ジャズのもつ物語性、宗教性、芸術性を明らかにしていく。主に、Miles DavisやJohn Coltrane、Wynton Marsalis、Helen Merrill、Sarah Vaughan、Diana Krallなどの演奏や歌唱を取り上げる。

**【授業における到達目標】**

モダン・ジャズを音楽的（和声的）、文学的（詩的）に分析し、独特の芸術形式をとおして表現されている物語的美学を理解することを目指す。それにより、相対的に自分にとって美とは何かを探求する姿勢を育み、人間としての研鑽力を培っていく。

**【授業の内容】**

1. Prologue to Modern Jazz in American Culture
2. What Is Jazz? (1) —Origin and History
3. What Is Jazz? (2) — “Blues & Swing” by Wynton Marsallis
4. Standard Jazz Vocal (1) — “You’ d Be So Nice to Come Home to” by Helen Merrill
5. Standard Jazz Vocal (2) — “Summertime” by Helen Merrill and Sarah Vaughan
6. Standard Jazz Vocal (3) — “Day by Day” by Sarah Vaughan
7. Standard Jazz Vocal (4) — “Misty” by Sarah Vaughan
8. Standard Jazz Vocal (5) — “Autumn in New York” by Sarah Vaughan
9. Scenes from Jazz Vocal—Sarah Vaughan
10. Standard Jazz Vocal (6) — “Unforgettable” by Nat King Cole with Natalie Cole
11. Standard Jazz Vocal (7) — “Cry Me a River” by Diana Krall
12. Standard Jazz Vocal (8) — “Love Letters” by Diana Krall
13. Giants in Modern Jazz (1) —Miles Davis
14. Giants in Modern Jazz (2) — “The World of John Coltrane”
15. Epilogue to Modern Jazz in American Culture

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 授業終了時に次回の授業で取り上げる演奏や歌唱を指定するので、試聴して音楽的、文学的な特徴を把握しておくこと。（学修時間 2時間）

【事後学修】 毎授業での小レポート・リアクションペーパーを次回の授業で返却するので、確認の上、理解不足の点を補うこと。また、音楽的な専門用語を理解しておくこと。（学修時間 2時間）

**【テキスト・教材】**

特になし。授業時にプリント配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

小レポート・リアクション・ペーパー40%、学期末レポート60%により総合評価する。小レポート・リアクションペーパーは、添削した上、次回授業でフィードバックする。

**【参考書】**

相倉久人『新書で入門 ジャズの歴史』（新潮新書）

油井正一『ジャズの歴史物語』（アルテスパブリッシング）

**【注意事項】**

特になし。

**アメリカ文学・文化講義 d**

1960年代にみる自由の諸相—公民権運動、核開発、ベトナム戦争

深瀬 有希子

3年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

公民権運動、核開発、ベトナム戦争といった多層的で複雑な1960年代の政治的展開を概観したのち、それらを受けて生み出されたアメリカ文学文化に見出される自由や国家の意味を考察する。人種・民族・ジェンダーなど複数の概念が交錯する60年代の文学文化に触れることにより、異文化理解はもちろんのこと、対象を多方面から分析する方法や論理的思考力を獲得することも目指す。

**【授業における到達目標】**

美の探究：知を求め、心の美を育む態度を養う。

研鑽力：学修を通して自己成長する力を高める。

**【授業の内容】**

- 1 インTRODクダクシヨン：「ジム・クロウ」について
- 2 公民権運動の展開 1：「分離すれども平等」について
- 3 公民権運動の展開 2：シット・インからワシントン大行進へ
- 4 公民権運動の展開 3：アフターマティヴ・アクション
- 5 マーチン・ルーサー・キングとマルコムX
- 6 公民権運動とジェンダー：アリス・ウォーカー『メリディアン』、キャスリン・ストケット『ヘルプ』、スパイク・リー『ゲット・オン・ザ・バス』
- 7 まとめ ①
- 8 ベトナム戦争の展開 1：米ソ冷戦
- 9 ベトナム戦争の展開 2：核開発、宇宙開発競争
- 10 ベトナム戦争の展開 3：ケネディ政権の動向
- 11 ベトナム戦争の展開 4：アメリカ国外からの反応
- 12 現代アメリカ戦争文学史概説
- 13 ポストモダン・アメリカの形成1：コーマック・マッカーシー『ザ・ロード』
- 14 ポストモダン・アメリカの形成2：『地獄の黙示録』、『7月4日に生まれて』、『フォレスト・ガンブ』
- 15 まとめ ②

**【事前・事後学修】**

事前学修：アメリカ（文学）史の基本的知識を確認しておくこと。

授業で扱う小説や映画をできる限り読むまたは観ておくこと。

学修時間 週2時間。

事後学修：授業で扱われた小説や映画をできる限り読むまたは観ておくこと。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。学修時間 週2時間。

**【テキスト・教材】**

プリントを使用する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レスポンスシート30%、試験70%で評価する。

フィードバックはmanabaまたは試験答案返却時に行う。

**【参考書】**

杉野健太郎、稲垣伸一他著『アメリカ文化入門』三修社、2010年

巽孝之著『アメリカ文学史—駆動する物語の時空間』

慶應義塾出版会、2003年

**【注意事項】**

特になし。

**アメリカ文学・文化講義d**

1960年代にみる自由の諸相—公民権運動、核開発、ベトナム戦争

深瀬 有希子

3年～ 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

公民権運動、核開発、ベトナム戦争といった多層的で複雑な1960年代の政治的展開を概観したのち、それらを受けて生み出されたアメリカ文学文化に見出される自由や国家の意味を考察する。人種・民族・ジェンダーなど複数の概念が交錯する60年代の文学文化に触れることにより、異文化理解はもちろんのこと、対象を多方面から分析する方法や論理的思考力を獲得することも目指す。

**【授業における到達目標】**

美の探究：知を求め、心の美を育む態度を養う。

研鑽力：学修を通して自己成長する力を高める。

**【授業の内容】**

- 1 インTRODクシヨン：「ジム・クロウ」について
- 2 公民権運動の展開 1：「分離すれども平等」について
- 3 公民権運動の展開 2：シット・インからワシントン大行進へ
- 4 公民権運動の展開 3：アフターマティヴ・アクション
- 5 マーチン・ルーサー・キングとマルコムX
- 6 公民権運動とジェンダー：アリス・ウォーカー『メリディアン』、キャスリン・ストケット『ヘルプ』、スパイク・リー『ゲット・オン・ザ・バス』
- 7 まとめ ①
- 8 ベトナム戦争の展開 1：米ソ冷戦
- 9 ベトナム戦争の展開 2：核開発、宇宙開発競争
- 10 ベトナム戦争の展開 3：ケネディ政権の動向
- 11 ベトナム戦争の展開 4：アメリカ国外からの反応
- 12 現代アメリカ戦争文学史概説
- 13 ポストモダン・アメリカの形成1：コーマック・マッカーシー『ザ・ロード』
- 14 ポストモダン・アメリカの形成2：『地獄の黙示録』、『7月4日に生まれて』、『フォレスト・ガンブ』
- 15 まとめ ②

**【事前・事後学修】**

事前学修：アメリカ（文学）史の基本的知識を確認しておくこと。

授業で扱う小説や映画をできる限り読むまたは観ておくこと。

学修時間 週2時間。

事後学修：授業で扱われた小説や映画をできる限り読むまたは観ておくこと。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。学修時間 週2時間。

**【テキスト・教材】**

プリントを使用する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レスポンスシート30%、試験70%で評価する。

フィードバックはmanabaまたは試験答案返却時に行う。

**【参考書】**

杉野健太郎、稲垣伸一他著『アメリカ文化入門』三修社、2010年  
異孝之著『アメリカ文学史—駆動する物語の時空間』

慶應義塾出版会、2003年

**【注意事項】**

特になし。

**アメリカ文学研究A**

南北戦争以前のアメリカにおける自然と文明

稲垣 伸一

英文学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

Mark Twain, *Adventures of Huckleberry Finn*を読み、南北戦争以前のアメリカにおける自然と(宗教や奴隷制を含む)文明について考える。

**【授業における到達目標】**

第一に作品の精読を通して英語を正確に読むことを目指す。第二に特定の視点から作品について考え、舞台となる時代や場所について理解を深めることを目指す。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 Chapter 1-3
- 第3週 Chapter 4-6
- 第4週 Chapter 7-9
- 第5週 Chapter 10-12
- 第6週 Chapter 13-15
- 第7週 Chapter 16-18
- 第8週 Chapter 19-21
- 第9週 Chapter 22-24
- 第10週 Chapter 25-27
- 第11週 Chapter 28-31
- 第12週 Chapter 32-35
- 第13週 Chapter 36-39
- 第14週 Chapter 40-42
- 第15週 Chapter the Last、まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】授業で読むことを予定している章を予習する。(学修時間 週2時間)

【事後学修】読んだ章について出された他人の意見や自分の意見を踏まえ、もう一度読んだ章の内容について考える。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

Mark Twain. *Adventures of Huckleberry Finn*. Norton Critical Edition, 3rd ed., 1999.

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点(授業での発表) 50%

レポート 50%

授業中のディスカッション時に、教員がコメントすることにより、出された意見についてフィードバックを行う。

**【参考書】**

授業中に適宜指示する。

**【注意事項】**

授業前に必ず予習を行い、授業ではディスカッション等に積極的に参加すること。

**アメリカ文学研究B**

文学批評理論入門

深瀬 有希子

英文学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

ジョナサン・カラー著 *Literary Theory: A Very Short Introduction* (1997)を読み、文学批評理論の基本的かつ重要概念を学ぶ。

**【授業における到達目標】**

第一に、本書の精読を通して、難解な英語を正確に読む力を養うことを目指す。第二に、修士論文の理論構築についてより意識的になることを目指す。

**【授業の内容】**

- ① インTRODクシヨン
- ② 第1章
- ③ 第2章
- ④ 第3章
- ⑤ 第4章
- ⑥ 先行研究論文の分析 1
- ⑦ 先行研究論文の分析 2
- ⑧ 批評理論の実践 1
- ⑨ 第5章
- ⑩ 第6章
- ⑪ 第7章
- ⑫ 第8章、9章
- ⑬ 先行研究論文の分析 3
- ⑭ 批評理論の実践 2
- ⑮ 批評理論の実践 3

**【事前・事後学修】**

事前学修: 指定された範囲を精読し、不明点を明確にしておく。(学修時間 週2時間)

事後学修: 教科書以外にも授業で紹介した文献を読み、重要概念の理解をより深める。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

Jonathan Culler, *Literary Theory: A Very Short Introduction*, Oxford UP, 2011 (new version).

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点(授業での発表とディスカッション) 50%

レポート(2回) 50%

フィードバックは、授業におけるディスカッションおよびレポート返却時に行う。

**【参考書】**

授業中に適宜指示する。

**【注意事項】**

必ず予習を行い、ディスカッションに積極的に参加すること。

## アメリカ文学研究C

ジェンダー規範の変容

佐々木 真理

英文学専攻 前期 2単位

## 【授業のテーマ】

19世紀に始まり21世紀の現在に続く女性の権利獲得と地位向上を求める運動の中で、多くの女性作家や活動家たちが優れた演説や著作を残してきました。この演習の目標は、19世紀から20世紀の女性作家の代表的な著作にふれながら、アメリカ社会における女性の権利問題とジェンダーに関する規範の変容を学びます。さらに、修士論文に向けて、研究方法・資料収集の方法についても学んでいきます。

## 【授業における到達目標】

アメリカ社会における女性の地位や権利の問題、ジェンダーに関する問題について理解を深め、分析を行い、自らの考察をまとめることを目標とします。それによって国際的視野と研鑽力を培います。

## 【授業の内容】

19世紀終わりに出版された女性作家の作品を読み、時代背景や関係する思想を踏まえた上で、重要な箇所や問題点について、議論を行います。

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 19世紀女性参政権運動の背景
- 第3週 19世紀女性参政権運動の流れ
- 第4週 19世紀女性参政権運動の思想
- 第5週 19世紀前半の女性活動家の背景
- 第6週 19世紀前半の女性活動家の流れ
- 第7週 19世紀前半の女性活動家の思想
- 第8週 19世紀後半の女性活動家の背景
- 第9週 19世紀後半の女性活動家の流れ
- 第10週 19世紀後半の女性活動家の思想
- 第11週 20世紀前半の女性活動家の背景
- 第12週 20世紀前半の女性活動家の流れ
- 第13週 20世紀前半の女性活動家の思想
- 第14週 20世紀後半への展開
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】発表者は担当箇所及び担当トピックについてハンドアウトを作成し、発表の準備をすること。発表者以外も授業で読む箇所を前もってよく読んでくること。（学修時間 週3時間）

【事後学修】その週に扱った箇所を読み直し、期末試験に向けて論点を整理すること。（学修時間 週1時間）

## 【テキスト・教材】

プリント配布

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・発表・課題）50%、期末試験50%。

課題については次回授業にてフィードバックを行う。

## 【参考書】

授業中に適宜指示します。

## 【注意事項】

授業の前に必ず予習を行い、授業には積極的に参加すること。

## アメリカ文学研究D

William Faulknerを読む

植野 達郎

英文学専攻 前期 2単位

## 【授業のテーマ】

William Faulknerの*Light in August*を読むことで、英語力の涵養を図るとともに、作品世界を味わう。

## 【授業における到達目標】

難解と言われているフォークナーの作品をしっかりと読むことで英語読解力の向上を目指す。

## 【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 第1章
- 第3週 第2章～第3章
- 第4週 第4章～第5章
- 第5週 第6章～第7章
- 第6週 第8章～第9章
- 第7週 第10章～第11章
- 第8週 第12章～第13章
- 第9週 第14章～第15章
- 第10週 第16章～第18章
- 第11週 第19章～第20章
- 第12週 第21章
- 第13週 エッセイを読む（Millgate）
- 第14週 エッセイを読む（Kartiganer）
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

事前学修としてテキストの精読（週2.5時間）

事後学修としてテキスト読解の復習・チェック（週1.5時間）

## 【テキスト・教材】

William Faulkner, *Light in August* (Vintage International, 2000)

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業での発表の回数）50%、期末試験 50%

## 【参考書】

適宜指示する。

## 【注意事項】

予習をしっかりとすること。

**アメリカ文学研究演習A**

Adventures of Huckleberry Finnの評論を読む

稲垣 伸一

英文学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

*Adventures of Huckleberry Finn*の評論を読むことにより、この作品について複数の角度から検討する。

**【授業における到達目標】**

英語で書かれた評論を正確に読み、作品についての複数のアプローチを知ると同時に、作品の舞台となった時代や場所について理解を深める。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 Shelley Fisher Fishkin, "Jimmy" pp. 375-77
- 第3週 Shelley Fisher Fishkin, "Jimmy" pp. 378-80
- 第4週 Shelley Fisher Fishkin, "Jimmy" pp. 381-83
- 第5週 James R. Kincaid, "Voices on the Mississippi"
- 第6週 Toni Morrison, "This Amazing, Troubling Book" pp. 385-87
- 第7週 Toni Morrison, "This Amazing, Troubling Book" pp. 388-90
- 第8週 Toni Morrison, "This Amazing, Troubling Book" pp. 391-92
- 第9週 Jane Smiley, "Say It Ain't So, Huck" pp. 354-57
- 第10週 Jane Smiley, "Say It Ain't So, Huck" pp. 358-60
- 第11週 Jane Smiley, "Say It Ain't So, Huck" pp. 361-62
- 第12週 David L. Smith, "Huck, Jim, and American Racial Discourse" pp. 362-66
- 第13週 David L. Smith, "Huck, Jim, and American Racial Discourse" pp. 367-70
- 第14週 David L. Smith, "Huck, Jim, and American Racial Discourse" pp. 371-74
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】読む予定の評論の該当部分をあらかじめ読んでおく。(学修時間 週2時間)

【事後学修】授業で評論を読んだ時、およびディスカッション時に出た意見を踏まえ、評論の内容に沿ってもう一度作品について考える。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

Mark Twain. *Adventures of Huckleberry Finn*. Norton Critical Edition, 3rd ed., 1999.

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点 (授業での発表) 50%  
レポート 50%

読んでいる評論の内容やディスカッション時に出た意見について、教員がコメントすることによりフィードバックを行う。

**【参考書】**

授業中に適宜指示する。

**【注意事項】**

授業前に必ず予習を行い、授業ではディスカッション等に積極的に参加すること。

**アメリカ文学研究演習B**

アメリカ黒人女性文学批評

深瀬 有希子

英文学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

ベル・フックス著 *Feminist Theory: From Margin to Center* (1984) を読み、公民権運動を経て構築されたアメリカ黒人女性文学批評の展開を辿り、その知識をもとに現代アメリカ黒人女性作家による詩および小説を分析する。

**【授業における到達目標】**

第一に、ベル・フックスの明快な英語を正確に読解できるようになることを目指す。第二に、アメリカ黒人文学批評やジェンダー批評の重要な概念を用いて、作品分析ができるようになることを目指す。

**【授業の内容】**

- ① 公民権運動の展開およびBlack Arts Movementについて
- ② 第1章
- ③ 第2章
- ④ 第3章
- ⑤ 第4章
- ⑥ 第5章
- ⑦ 黒人女性文学作品を読む (1)
- ⑧ まとめ (1)
- ⑨ 第6章
- ⑩ 第7章
- ⑪ 第8-9章
- ⑫ 第10-11章
- ⑬ 黒人女性文学作品を読む (2)
- ⑭ 第12章
- ⑮ まとめ (2)

**【事前・事後学修】**

【事前学修】予定されている章を読み、不明点を明確にしておく。(学修時間 週2時間)

【事後学修】重要な批評概念を、教科書および授業中に紹介する他の文献を用いて再考する。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

bell hooks, *Feminist Theory: From Margin to Center* (Pluto Press, 2000, second edition)

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点 (授業での発表とディスカッション) 50%  
レポート (二回) 50%  
フィードバックは、授業におけるディスカッションおよびレポート返却時に行う。

**【参考書】**

授業中に適宜指示する。

**【注意事項】**

必ず予習を行い、ディスカッションに積極的に参加すること。

**アメリカ文学研究演習C**

女性のライフ・スタイルとアメリカ社会

佐々木 真理

英文学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

19世紀に始まり21世紀の現在に続く女性の権利獲得と地位向上を求める運動の中で、多くの女性作家たちが数々の優れた著作を残してきました。この演習の目標は、20世紀後半の女性作家の代表的な著作にふれながら、アメリカ社会における女性のライフ・スタイルの変遷を学び、21世紀の新たな可能性を探ることにあります。また、先行研究を読むことで、資料の分析方法と論文の書き方も学んでいきます。

**【授業における到達目標】**

アメリカ社会における女性のライフ・スタイルの変遷について、女性に関する諸問題の知識を培い、また、論文を精読することで、分析力と考察力を培います。それによって国際的視野と研鑽力を養います。

**【授業の内容】**

20世紀後半から21世紀にかけて発表された女性作家の著作を読みます。毎回担当者を決め、発表してもらった上で、重要な箇所や問題点について議論を行います。

- 第1週 インTRODakション
- 第2週 20世紀女性運動の背景
- 第3週 20世紀女性運動の流れ
- 第4週 20世紀女性運動の思想
- 第5週 20世紀後半の女性活動家の背景
- 第6週 20世紀後半の女性活動家の流れ
- 第7週 20世紀後半の女性活動家の思想
- 第8週 21世紀の女性活動家の背景
- 第9週 21世紀の女性活動家の流れ
- 第10週 21世紀の女性活動家の思想
- 第11週 21世紀の女性活動家の活動
- 第12週 今後の女性活動家の思想
- 第13週 今後の女性活動家の展開
- 第14週 今後の女性活動家の展望
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】発表者は担当箇所及び担当トピックについてハンドアウトを作成し、発表の準備をすること。発表者以外も授業で読む箇所を前もってよく読んでくること。(学修時間 週3時間)

【事後学修】その週に扱った箇所を読み直し、期末試験に向けて論点を整理すること。(学修時間 週1時間)

**【テキスト・教材】**

プリント配布

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点(授業態度・発表・課題)50%、期末試験50%。  
課題については次回授業にてフィードバックを行う。

**【参考書】**

授業中に適宜指示します。

**【注意事項】**

授業の前に必ず予習を行い、授業には積極的に参加すること。

**アメリカ文学研究演習D**

William Faulknerを読む

植野 達郎

英文学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

William Faulknerの*Absalom, Absalom!*を読むことで、英語力の涵養を図るとともに、作品を味わう。

**【授業における到達目標】**

難解と言われているフォークナーの作品を読むことで、英語読解力を高めることを目標とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODakション
- 第2週 7～10ページ
- 第3週 10～16ページ
- 第4週 16～22ページ
- 第5週 22～26ページ
- 第6週 26～30ページ
- 第7週 第II章
- 第8週 第III章
- 第9週 第IV章
- 第10週 第V章
- 第11週 第VI章
- 第12週 第VII章
- 第13週 第VIII章
- 第14週 第IX章
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修としてテキストの予習(週2.5時間)

事後学修としてテキストの復習(週1.5時間)

**【テキスト・教材】**

William Faulkner, *Absalom, Absalom!* (Vintage International, 1993)

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点(発表、意見)50%、期末試験50%

フィードバックについてはmanabaによる講評を行う。

**【参考書】**

適宜指示する。

**【注意事項】**

予習、復習をきちんとすること。

**アメリカ文学史 a**

国民文学の創成から自然主義小説まで

稲垣 伸一

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

19世紀から20世紀初頭までにアメリカで活躍した作家や思想家の作品を紹介する。

**【授業における到達目標】**

それぞれの時代の文化的・文学的特徴を理解し、多くの作家・作品を知る。

また、アメリカにおける作家・思想家の思想に触れ、読んだ文章の内容について理解を深めて、考察した内容を文章にまとめる能力を養成する。

**【授業の内容】**

- 第1週 イン트로ダクション
- 第2週 国民文学の創世と成熟 (Washington Irving, James Fenimore Cooper)
- 第3週 国民文学の創世と成熟 (Edgar Allan Poe)
- 第4週 アメリカン・ルネッサンス (Ralph Waldo Emerson, Henry David Thoreau)
- 第5週 アメリカン・ルネッサンス (Walt Whitman)
- 第6週 アメリカン・ルネッサンス (Herman Melville)
- 第7週 アメリカン・ルネッサンス (Nathaniel Hawthorne)
- 第8週 奴隷制を巡る作品 (Harriet Beecher Stowe)
- 第9週 奴隷制を巡る作品 (Frederick Douglass, Harriet Jacobs)
- 第10週 1860～1880年代ーリアリズムの小説 (Mark Twain)
- 第11週 1860～1880年代ーリアリズムの小説 (Henry James)
- 第12週 1890～1910年代ー自然主義小説 (Stephen Crane)
- 第13週 1890～1910年代ー自然主義小説 (Frank Norris)
- 第14週 1890～1910年代ー自然主義小説 (Theodore Dreiser, Jack London)
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回の授業で扱う作家・作品を、テキストの該当箇所ですべて予習しておくこと。(学修時間 週1時間)

【事後学修】 授業各回の終了後、配付したプリントも参照して復習すること。また、授業で紹介された作品のうち関心を持ったものができるだけ多く読むようにすること。(学修時間 週3時間)

**【テキスト・教材】**

井上謙治『アメリカ小説入門』(研究社, 1995) 2,300円

その他の資料は授業時に適宜配付する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点(コメントペーパー)40%・試験60%で評価する。

コメントペーパーについては、書かれた質問等に対して次の回の授業冒頭で回答することによりフィードバックを行う。

**【参考書】**

授業時に提示する。

**【注意事項】**

ただ講義を聴くのではなく、授業中に作品の一部を読み、紹介されている作品の内容について受講者が考える機会を持つよう授業を進める。たくさんの方に気に入った作品に出会うために、紹介された作品を授業外で積極的に読むことを推奨する。

**アメリカ文学史 b**

20世紀から現代まで

佐々木 真理

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

20世紀初頭から現在までのアメリカ合衆国の文学の歴史と特色について、社会的・文化的背景を踏まえつつ、代表的な作家及び作品を取り上げながら学びます。

**【授業における到達目標】**

アメリカ文学の特徴と変遷に関する知識と理解を深めることを目標とします。それによって、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる研鑽力を養います。また、文学の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度を育みます。

**【授業の内容】**

毎回プリントを配布し、時代ごとにその歴史や社会的変化について説明した上で、作家及び作品について講義を行います。代表的な作品の抜粋のコピーを配布しますので、受講者はそれらを丹念に読み理解した上で、批評することが求められます。

- 第1週 第1次世界大戦前後① ガートルード・スタインとモダニズム
- 第2週 第1次世界大戦前後② アーネスト・ヘミングウェイと失われた世代
- 第3週 第1次世界大戦前後③ スコット・フィッツジェラルドとジャズ・エイジ
- 第4週 第1次世界大戦前後④ ネラ・ラーセンとハーレム・ルネサンス
- 第5週 第2次世界大戦前後① ウィリアム・フォークナーと南部文学
- 第6週 第2次世界大戦前後② ジョン・スタインベックと抵抗の文学
- 第7週 冷戦期① J・D・サリンジャーとシルヴィア・プラスと50年代
- 第8週 冷戦期② テネシー・ウィリアムズとサザン・ルネサンス
- 第9週 冷戦期③ トルーマン・カポーティとサザン・ルネサンス
- 第10週 ポスト冷戦期① SFとポストモダニズム
- 第11週 ポスト冷戦期② リチャード・ブローティガンとポストモダニズム
- 第12週 ポスト冷戦期③ レイモンド・カーヴァーとミニマリズム
- 第13週 21世紀② トニ・モリソンとマイノリティ文学
- 第14週 21世紀③ エイミ・タンとアジア系アメリカ文学
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 期末試験の課題図書を読むこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】 授業の内容を復習し、期末試験の課題についてリサーチを行うこと。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

プリント配布

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点(授業への積極参加・提出課題)50%、期末試験50%。

提出課題は次回の授業においてフィードバックを行う。



## イギリスの文化と社会

女性のライフスタイルの変化

志渡岡 理恵

1年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

イギリスの文化と社会を理解するために必要な基本事項を確認したうえで、女性のライフスタイルの変化をたどりながら、文化と社会の関係について考えていきます。授業で提示する青写真を手掛かりに、受講生がそれぞれの関心に基づいてイギリスの文化と社会についてリサーチを行い、関心を広げ、理解を深めていくことを目指します。

### 【授業における到達目標】

イギリスの歴史、国のありかた、社会のありように関する基本事項を踏まえ、女性のライフスタイルの変化にはどのような事柄が関係しているのか理解できるようになることを目指します。

### 【授業の内容】

- 第1週 イン트로ダクション
- 第2週 UKとコモンウェルス
- 第3週 スコットランド
- 第4週 ウェールズ
- 第5週 北アイルランド
- 第6週 王室と階級
- 第7週 植民地の女性
- 第8週 女性誌
- 第9週 ファッション
- 第10週 旅行
- 第11週 スポーツ
- 第12週 スクールガールと女子大生
- 第13週 サフラジェット
- 第14週 2つの世界大戦
- 第15週 総括

### 【事前・事後学修】

【事前学修】各回の授業の最後に、次の授業までに調べておくべき事柄を指示するので、それについて図書やインターネットで調べてくること（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業で関心を持ったこと、疑問に思ったことを図書館で調べ、分からなかったことについては質問にくること（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

プリントを配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（リアクションペーパー）50%、定期試験50%。リアクションペーパーへのフィードバックは、次回授業で行います。

### 【参考書】

- ・川上洋（編）『イギリス文化事典』（丸善出版2014年）
- ・ケイト・ハバード（著）『ヴィクトリア女王の王室——側近と使用人が語る大英帝国の象徴の真実』（原書房2014年）
- ・坂井妙子『レディの赤面——ヴィクトリア朝社会と化粧文化』（勁草書房2013年）
- ・林田敏子（著）『戦う女、戦えない女——第一次世界大戦期のジェンダーとセクシュアリティ』（人文書院2013年）
- ・堀内真由美（著）『大英帝国の女教師——イギリス女子教育と植民地』（白澤社2008年）
- ・井野瀬久美恵（著）『大英帝国という経験』（講談社2007年）

### 【注意事項】

自分なりの問題意識をもって授業に臨むこと。

**イギリス文化事情**

歴史から学ぶイギリス文化

太田 祐子

1・2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探求、研鑽力

**【授業のテーマ】**

この授業では、イギリスの文化について、その歴史的背景を学びながら、国民性や生活の様子、さらには社会制度や芸術などの知識を深める。

**【授業における到達目標】**

イギリスの文化について理解を深めることができるようになる。学生が修得すべき、多様性を受容し多角的な視点を以って世界に臨む「国際的視野」を修得する。また、異文化における「美の探求」を行い、広い視野と深い洞察力を向上させ「研鑽力」を身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週 イン트로ダクション：イギリスの文化
- 第2週 イギリスの歴史と風土
- 第3週 イギリスの社会と制度
- 第4週 イギリスの観光地
- 第5週 イギリスの自然
- 第6週 イギリスの料理
- 第7週 イギリスの娯楽
- 第8週 イギリスの住宅
- 第9週 イギリスの教育
- 第10週 イギリスの産業
- 第11週 イギリスの文学
- 第12週 イギリスの美術
- 第13週 イギリスの演劇
- 第14週 イギリスの女性
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：教科書を読み、レポート、発表等の課題に取り組むこと（学修時間 週2時間）

事後学修：授業で扱ったテーマの中から、興味を持ったことについて積極的に調査すること（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

近藤久雄、細川祐子、阿部美春著 『イギリスを知るための65章（第2版）』（明石書店 2014年）2,000円（税別）

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験 50%

平常点（発表、課題提出、コメントペーパー等）50%

課題は提出後コメントとともにフィードバックする。

**【参考書】**

『21世紀イギリス文化を知る事典』（東京書籍 2009年）

『イギリス文化入門』（三修社 2010年）

『概説 イギリス文化史』（ミネルヴァ書房 2002年）

## イギリス文学・文化講義 a

—現代表象文化にみるアーサー・ロマンスと女性達—

大関 啓子

2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

アーサー王伝説をテーマにした映像を中心に、アーサー王物語の世界を、「読む」だけではなく、「観て」「聞いて」広く鑑賞して、文学・音楽・美術など様々なジャンルから理解を深めます。

特に現代にも通じる女性たちの活躍に注目します。

### 【授業における到達目標】

1つの題材について、国・時代・ジャンルなどの、異なる研究方法をとりあげ、様々な角度から考察することにより、多角的に考え、文化の多様性を理解する方法を広げることを目標とします。

### 【授業の内容】

ケルト世界の伝説に起源するアーサー・ロマンスと総称されるロマンス群が、中世末期にトマス・マロリーにより集大成され、その後も、E. スペンサー、R. ワグナー等、多くの芸術家たちの限りない想像力をかき立て、特に19世紀、A. テニスンにより、ヴィクトリア朝の英雄崇拜理念に再構成されて、一般化しました。

その領域は文学にとどまらず、歴史・美術・音楽・演劇、そして現代では、映画の『スター・ウォーズ』やハリー・ポッター・シリーズ、さらにコンピュータ・ゲーム等、あらゆる分野に多大の刺激を与え、世界中に広まっていきました。20世紀以降の映像世界を見渡しただけでも、多くの名作があります。それらには、現代世界の様々な問題が反映されています。例えば、男性中心の中世社会の中で、文化・文学・教育等で輝いた女性達の存在に注目します。

以下の内容を予定しています。

1. Introduction
2. 歴史のアーサーと中世の女性達
3. 映画『スター・ウォーズ』と映画『アーサー』
4. 映画『エクスカリバー』と映画『トリスタンとイズー』
5. 中世に生き、導き、書いた女性マリー・ド・フランス
6. 中世装飾写本
7. 『ガウェイン卿と緑の騎士』における奥方の役割
8. トマス・マロリーの『アーサーの死』
9. 『シャロットの女』—ヴィクトリア朝の女性と教育
10. ウィリアム・モリスとアーサー王伝説—ラファエル前派
11. A. V. ビアズリーの *Morte Darthur*
12. リヒャルト・ワグナーの楽劇『トリスタンとイズー』
13. 夏目漱石の『菫露行』
14. ハリー・ポッターと『指輪物語』—現代の女性像
15. Conclusion

### 【事前・事後学修】

事前学修として各回の授業で取り上げる作品について、2時間程度、各自鑑賞し予習しておくこと。

事後学修として、前回の授業で扱った作品について2時間程度、復習をし、まとめておくこと。

### 【テキスト・教材】

テキストは使用せず、プリントを配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・リアクションペーパー・課題提出等）30%、レポート70%として評価します。課題は期日と場所を指定して、フィードバックします。

**イギリス文学・文化講義 a**

—現代表象文化にみるアーサー・ロマンスと女性達—

大関 啓子

2年～ 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

アーサー王伝説をテーマにした映像を中心に、アーサー王物語の世界を、「読む」だけではなく、「観て」「聞いて」広く鑑賞して、文学・音楽・美術など様々なジャンルから理解を深めます。

特に現代にも通じる女性たちの活躍に注目します。

**【授業における到達目標】**

1つの題材について、国・時代・ジャンルなどの、異なる研究方法をとりあげ、様々な角度から考察することにより、多角的に考え、文化の多様性を理解する方法を広げることを目標とします。

**【授業の内容】**

ケルト世界の伝説に起源するアーサー・ロマンスと総称されるロマンス群が、中世末期にトマス・マロリーにより集大成され、その後も、E. スペンサー、R. ワグナー等、多くの芸術家たちの限りない想像力をかき立て、特に19世紀、A. テニスンにより、ヴィクトリア朝の英雄崇拜理念に再構成されて、一般化しました。

その領域は文学にとどまらず、歴史・美術・音楽・演劇、そして現代では、映画の『スター・ウォーズ』やハリー・ポッター・シリーズ、さらにコンピュータ・ゲーム等、あらゆる分野に多大の刺激を与え、世界中に広まっていきました。20世紀以降の映像世界を見渡しただけでも、多くの名作があります。それらには、現代世界の様々な問題が反映されています。例えば、男性中心の中世社会の中で、文化・文学・教育等で輝いた女性達の存在に注目します。

以下の内容を予定しています。

1. Introduction
2. 歴史のアーサーと中世の女性達
3. 映画『スター・ウォーズ』と映画『アーサー』
4. 映画『エクスカリバー』と映画『トリスタンとイゾー』
5. 中世に生き、導き、書いた女性マリー・ド・フランス
6. 中世装飾写本
7. 『ガウェイン卿と緑の騎士』における奥方の役割
8. トマス・マロリーの『アーサーの死』
9. 『シャロットの女』—ヴィクトリア朝の女性と教育
10. ウィリアム・モリスとアーサー王伝説—ラファエル前派
11. A. V. ビアズリーの *Morte Darthur*
12. リヒャルト・ワグナーの楽劇『トリスタンとイゾー』
13. 夏目漱石の『菫露行』
14. ハリー・ポッターと『指輪物語』—現代の女性像
15. Conclusion

**【事前・事後学修】**

事前学修として各回の授業で取り上げる作品について、2時間程度、各自鑑賞し予習しておくこと。

事後学修として、前回の授業で扱った作品について2時間程度、復習をし、まとめておくこと。

**【テキスト・教材】**

テキストは使用せず、プリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業態度・リアクションペーパー・課題提出等）30%、レポート70%として評価します。課題は期日と場所を指定して、フィードバックします。

## イギリス文学・文化講義b

—ケルト「異界」への旅—

大関 啓子

2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

ヨーロッパ精神文化のルーツともいえるケルト民族の、異界と女性たちについての考え方を探り、その文学・文化への影響をたどります。

### 【授業における到達目標】

この講座では英文学を中心に、「読む」だけでなく、美術や音楽の世界にも触れながら、DVDやパワーポイントなどを使い、「見て」「聞いて」広く鑑賞して理解を深めることにより、多角的に考え、文化の多様性を理解する方法を広げることを目標とします。

### 【授業の内容】

古代ヨーロッパを支配していたケルト人は、文字を持たず、口承によって多くの神話や民話を伝えました。彼らは美と真理を愛し、驚くべき想像力を駆使して優れた芸術を遺しましたが、ローマ人とゲルマン人の勢力におされ、西に追いやられた結果、今日ではかろうじて緑の島アイルランドやウェールズに生きています。

森や泉や巨石を聖所とする彼らの自然信仰は、異教であるキリスト教を受け入れながら、独自の文化を生み出しました。文学の世界では、アーサー王伝説などの中世騎士物語や、多くの妖精伝承、そしてW. B. イエイツ、ジョナサン・スウィフト、ジェームズ・ジョイス、ラフカディオ・ハーンなどのアイリッシュ・ライターたちに、その想像力が受け継がれています。最近では、ハリー・ポッターの世界やJ. R. R. トールキンの『指輪物語』、C. S. ルイスの『ナルニア国物語』などにもその影響が見られます。特にケルト社会の女性たちの存在とその影響に注目します。

以下の内容を予定しています。

1. Introduction
2. 幻の民ケルトとは？
3. 激情と創造の伝説—ケルトの起源と勢力
4. イギリス人とケルト人
5. 民族国家の興亡
6. 神々の変貌(ケルトの宗教)
7. ケルトの女性達
8. ケルトの教育
9. ケルトの芸術
10. 装飾写本『ケルズの書』とジェームズ・ジョイス
11. ケルトを聴く—エンヤ、ケルティック・ウーマン
12. ケルトを読む1—W. B. イエイツ、O. ワイルド、サミュエル・ベケット
13. ケルトを読む2—ジョナサン・スウィフト、ラフカディオ・ハーン
14. ケルトを観る—ハリー・ポッターと『ナルニア国物語』
15. Conclusion

### 【事前・事後学修】

事前学修として各回の授業で取り上げる作品について、2時間程度、各自鑑賞し予習しておくこと。

事後学修として、前回の授業で扱った作品について、2時間程度復習をし、まとめておくこと。

### 【テキスト・教材】

テキストは使用せず、プリントを配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・リアクションペーパー・課題提出等）30%、レポート70%として評価します。

課題は期日と場所を指定して、フィードバックします。

**イギリス文学・文化講義b**

—ケルト「異界」への旅—

大関 啓子

2年～ 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

ヨーロッパ精神文化のルーツともいえるケルト民族の、異界と女性たちについての考え方を探り、その文学・文化への影響をたどります。

**【授業における到達目標】**

この講座では英文学を中心に、「読む」だけでなく、美術や音楽の世界にも触れながら、DVDやパワーポイントなどを使い、「見て」「聞いて」広く鑑賞して理解を深めることにより、多角的に考え、文化の多様性を理解する方法を広げることを目標とします。

**【授業の内容】**

古代ヨーロッパを支配していたケルト人は、文字を持たず、口承によって多くの神話や民話を伝えました。彼らは美と真理を愛し、驚くべき想像力を駆使して優れた芸術を遺しましたが、ローマ人とゲルマン人の勢力におされ、西に追いやられた結果、今日ではかろうじて緑の島アイルランドやウェールズに生きています。

森や泉や巨石を聖所とする彼らの自然信仰は、異教であるキリスト教を受け入れながら、独自の文化を生み出しました。文学の世界では、アーサー王伝説などの中世騎士物語や、多くの妖精伝承、そしてW. B. イエイツ、ジョナサン・スウィフト、ジェームズ・ジョイス、ラフカディオ・ハーンなどのアイリッシュ・ライターたちに、その想像力が受け継がれています。最近では、ハリー・ポッターの世界やJ. R. R. トールキンの『指輪物語』、C. S. ルイスの『ナルニア国物語』などにもその影響が見られます。特にケルト社会の女性たちの存在とその影響に注目します。

以下の内容を予定しています。

1. Introduction
2. 幻の民ケルトとは？
3. 激情と創造の伝説—ケルトの起源と勢力
4. イギリス人とケルト人
5. 民族国家の興亡
6. 神々の変貌(ケルトの宗教)
7. ケルトの女性達
8. ケルトの教育
9. ケルトの芸術
10. 装飾写本『ケルズの書』とジェームズ・ジョイス
11. ケルトを聴く—エンヤ、ケルティック・ウーマン
12. ケルトを読む1—W. B. イエイツ、O. ワイルド、サミュエル・ベケット
13. ケルトを読む2—ジョナサン・スウィフト、ラフカディオ・ハーン
14. ケルトを観る—ハリー・ポッターと『ナルニア国物語』
15. Conclusion

**【事前・事後学修】**

事前学修として各回の授業で取り上げる作品について、2時間程度、各自鑑賞し予習しておくこと。

事後学修として、前回の授業で扱った作品について、2時間程度復習をし、まとめておくこと。

**【テキスト・教材】**

テキストは使用せず、プリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点(授業態度・リアクションペーパー・課題提出等)30%、レポート70%として評価します。

課題は期日と場所を指定して、フィードバックします。

**イギリス文学・文化講義c**

物語絵画から読みとくヴィクトリア時代

土屋 結城

3年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

物語絵画と呼ばれるジャンルの作品からヴィクトリア時代のイギリスにおける女性像を探る。現代の日本ともイギリスとも異なる状況の社会で、女性がどのように生きることを求められたか、そしてどのように生きなければならなかったかを考察し、当時の女性の立場、生き方についての理解を深めることを目的とする。

**【授業における到達目標】**

ヴィクトリア時代のイギリス社会についての理解を深めることを目標とする。

全学ディプロマ・ポリシーのうち、知を求める「美の探究」の態度とリアクション・ペーパーやレポートを通して「研鑽力」を修得することを目標とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 ヴィクトリア女王をめぐる物語
- 第3週 家庭の天使
- 第4週 家庭の天使の影に
- 第5週 労働者と女性
- 第6週 ガヴァネスのイメージと実態
- 第7週 子供のイメージ
- 第8週 “fallen woman” (“The Bridge of Sigh”)
- 第9週 “fallen woman” (The Awakening Conscience)
- 第10週 信仰についての疑問
- 第11週 労働と社会
- 第12週 鉄道の発達
- 第13週 救貧院での生活
- 第14週 植民地へ
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

授業範囲を予習し、時代背景について理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

**【事後学修】**

授業で取り上げた内容について、各自復習し、自分なりの問題点を意識し、次回の授業にのぞむこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

リアクション・ペーパー40%、レポート60%で評価する。

フィードバックは次回以降の授業で行う。

**【注意事項】**

辞書を必ず持参すること。

**イギリス文学・文化講義c**

物語絵画から読みとくヴィクトリア時代

土屋 結城

3年～ 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

物語絵画と呼ばれるジャンルの作品からヴィクトリア時代のイギリスにおける女性像を探る。現代の日本ともイギリスとも異なる状況の社会で、女性がどのように生きることを求められたか、そしてどのように生きなければならなかったかを考察し、当時の女性の立場、生き方についての理解を深めることを目的とする。

**【授業における到達目標】**

ヴィクトリア時代のイギリス社会についての理解を深めることを目標とする。

全学ディプロマ・ポリシーのうち、知を求める「美の探究」の態度とリアクション・ペーパーやレポートを通して「研鑽力」を修得することを目標とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 ヴィクトリア女王をめぐる物語
- 第3週 家庭の天使
- 第4週 家庭の天使の影に
- 第5週 労働者と女性
- 第6週 ガヴァネスのイメージと実態
- 第7週 子供のイメージ
- 第8週 “fallen woman” (“The Bridge of Sigh”)
- 第9週 “fallen woman” (The Awakening Conscience)
- 第10週 信仰についての疑問
- 第11週 労働と社会
- 第12週 鉄道の発達
- 第13週 救貧院での生活
- 第14週 植民地へ
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

授業範囲を予習し、時代背景について理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

**【事後学修】**

授業で取り上げた内容について、各自復習し、自分なりの問題点を意識し、次回の授業にのぞむこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

リアクション・ペーパー40%、レポート60%で評価する。

フィードバックは次回以降の授業で行う。

**【注意事項】**

辞書を必ず持参すること。



## イギリス文学・文化講義 d

映画で知る現代イギリス

伊澤 高志

3年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

20世紀後半から21世紀にいたるイギリスの文化・社会の諸側面について、階級、ジェンダー、セクシュアリティ、そして人種といった様々な境界線の「越境」をキーワードに、映画を題材としながら講義します。ストライキ中の炭鉱町でバレエに挑戦する少年の物語『リトル・ダンサー』、ロンドンのセクシュアル・マイノリティとウェールズの炭鉱労働者との連帯を描く『パレードへようこそ』、ドラッグ・クィーン向けのブーツ制作に挑む『キンキーブーツ』、いずれも現代のイギリス文化の「多様性」を描き出した作品です。また、映画をもとにしたミュージカルについても紹介をします。

### 【授業における到達目標】

イギリスの文化・社会の「多様性」についての興味・理解を深め、文化研究的観点から考察ができるようになることを目標とします。また、全学ディプロマ・ポリシーのうち、「多様性を受容し、多角的な視点を以って世界に臨む態度」、「知を求め、心の美を育む態度」、および「学修を通して自己成長する力」を身につけることを目標とします。

### 【授業の内容】

- 第1週 イン트로ダクション
- 第2週 「イギリス」の成り立ちと戦後の文化と社会
- 第3週 『リトル・ダンサー』（1980年代のイギリス）
- 第4週 『リトル・ダンサー』（スポーツとジェンダー規範）
- 第5週 『リトル・ダンサー』（階級について）
- 第6週 『リトル・ダンサー』（ミュージカル版について）
- 第7週 『パレードへようこそ』（アイデンティティの政治）
- 第8週 『パレードへようこそ』（ウェールズの地域性）
- 第9週 『パレードへようこそ』（病とその隠喩）
- 第10週 『パレードへようこそ』（音楽と文化）
- 第11週 『キンキーブーツ』（異性装）
- 第12週 『キンキーブーツ』（移民について①）
- 第13週 『キンキーブーツ』（移民について②）
- 第14週 『キンキーブーツ』（ミュージカル版について）
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

#### 【事前学修】

授業範囲の予習として、図書館等を利用して各トピックについて自分なりに学ぶこと。（学修時間 2時間）

#### 【事後学修】

授業内容について復習し、理解を深めること。また不明な点は図書館等を利用して積極的に自分で調べること。（学修時間 2時間）

### 【テキスト・教材】

プリントを使用する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

リアクション・ペーパー30%、期末試験70%で評価を行う。リアクション・ペーパーに対しては翌週以降にフィードバックを行う。

### 【参考書】

- イギリス文化事典編集委員会編『イギリス文化事典』
- 板倉徹一郎他編『映画でわかるイギリス文化入門』
- 川端康雄他編『愛と戦いのイギリス文化史 1951-2010年』
- 武藤浩史他編『愛と戦いのイギリス文化史 1900-1950年』
- 森山至貴『LGBTを読み解く——クィア・スタディーズ入門』

**イギリス文学・文化講義 d**

映画で知る現代イギリス

伊澤 高志

3年～ 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

20世紀後半から21世紀にいたるイギリスの文化・社会の諸側面について、階級、ジェンダー、セクシュアリティ、そして人種といった様々な境界線の「越境」をキーワードに、映画を題材としながら講義します。ストライキ中の炭鉱町でバレエに挑戦する少年の物語『リトル・ダンサー』、ロンドンのセクシュアル・マイノリティとウェールズの炭鉱労働者との連帯を描く『パレードへようこそ』、ドラッグ・クィーン向けのブーツ制作に挑む『キンキーブーツ』、いずれも現代のイギリス文化の「多様性」を描き出した作品です。また、映画をもとにしたミュージカルについても紹介をします。

**【授業における到達目標】**

イギリスの文化・社会の「多様性」についての興味・理解を深め、文化研究的観点から考察ができるようになることを目標とします。また、全学ディプロマ・ポリシーのうち、「多様性を受容し、多角的な視点を以って世界に臨む態度」、「知を求め、心の美を育む態度」、および「学修を通して自己成長する力」を身につけることを目標とします。

**【授業の内容】**

- 第1週 イン트로ダクション
- 第2週 「イギリス」の成り立ちと戦後の文化と社会
- 第3週 『リトル・ダンサー』（1980年代のイギリス）
- 第4週 『リトル・ダンサー』（スポーツとジェンダー規範）
- 第5週 『リトル・ダンサー』（階級について）
- 第6週 『リトル・ダンサー』（ミュージカル版について）
- 第7週 『パレードへようこそ』（アイデンティティの政治）
- 第8週 『パレードへようこそ』（ウェールズの地域性）
- 第9週 『パレードへようこそ』（病とその隠喩）
- 第10週 『パレードへようこそ』（音楽と文化）
- 第11週 『キンキーブーツ』（異性装）
- 第12週 『キンキーブーツ』（移民について①）
- 第13週 『キンキーブーツ』（移民について②）
- 第14週 『キンキーブーツ』（ミュージカル版について）
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

授業範囲の予習として、図書館等を利用して各トピックについて自分なりに学ぶこと。（学修時間 2時間）

**【事後学修】**

授業内容について復習し、理解を深めること。また不明な点は図書館等を利用して積極的に自分で調べること。（学修時間 2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを使用する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

リアクション・ペーパー30%、期末試験70%で評価を行う。リアクション・ペーパーに対しては翌週以降にフィードバックを行う。

**【参考書】**

- イギリス文化事典編集委員会編『イギリス文化事典』
- 板倉巖一郎他編『映画でわかるイギリス文化入門』
- 川端康雄他編『愛と戦いのイギリス文化史 1951-2010年』
- 武藤浩史他編『愛と戦いのイギリス文化史 1900-1950年』
- 森山至貴『LGBTを読み解く——クィア・スタディーズ入門』

**イギリス文学研究C**

社会小説を読む

**志渡岡 理恵**

英文学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

エリザベス・ギヤスケルの社会小説『メアリ・バートン』を読みます。この小説は、19世紀中葉の工業都市マンチェスターで牧師の妻として労働者階級の過酷な生活状況をつぶさに見てきたギヤスケルが、それを社会に伝えようと書いた作品です。この作品を読みながら、階級問題、女性問題、植民地問題について考えていきます。

**【授業における到達目標】**

作品を精読することにより、19世紀中葉のイギリス社会が抱えていた問題を知り、とくに女性が女性ゆえに直面せざるを得なかった諸問題のありようとその背景を理解し、ギヤスケルが文筆活動を通してその問題といかに向き合ったかについて考察を深めることを目指します。

**【授業の内容】**

- 第1週：イントロダクション
- 第2週：メアリの仕事
- 第3週：メアリの家族
- 第4週：メアリの属するコミュニティ
- 第5週：メアリの恋愛
- 第6週：衝突
- 第7週：殺人
- 第8週：容疑者
- 第9週：真相解明
- 第10週：裁判
- 第11週：父の死
- 第12週：伯母の役割
- 第13週：メアリの結婚
- 第14週：カナダへ
- 第15週：総括

**【事前・事後学修】**

- ・事前学修：各回を読む箇所を精読し、問題点を整理して、必要なリサーチを行うこと（週2時間）。
- ・事後学修：授業で学んだことをもとに、さらなるリサーチを行って不足していた知識を補い、考察を深めること（週2時間）。

**【テキスト・教材】**

Elizabeth Gaskell, *Mary Barton* (Oxford University Press, 2008)

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

発表30%、ディスカッション30%、定期試験40%で評価します。発表、ディスカッションへのフィードバックは授業中にその場で行います。

**【参考書】**

授業時に提示します。

**【注意事項】**

毎回、自分なりの問題意識を持って授業に臨むこと。

**イギリス文学研究D**

パロディと諷刺の研究

**島 高行**

英文学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

Jonathan Swift *Gulliver's Travels* (Part 1、Part2) を読み、パロディ研究の観点からこの作品を分析する。

**【授業における到達目標】**

精読により英語の読解力を伸ばす。そして社会的、歴史的コンテキストにおいて作品を理解できるようになる。

**【授業の内容】**

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 スウィフトについて
- 第3回 テキスト序文
- 第4回 テキスト パラテキストについて
- 第5回 旅行記文学について
- 第6回 テキスト 第1部第1章
- 第7回 同上 第2章
- 第8回 同上 第3章
- 第9回 同上 第4章
- 第10回 同上 第5章
- 第11回 同上 第6章
- 第12回 同上 第7、8章
- 第13回 テキスト 第2部第1章～第3章
- 第14回 同上 第2部第4章～第8章
- 第15回 まとめ

**【事前・事後学修】**

- 事前学修：授業の予定範囲をよく読み、問題点を把握しておくこと。（2時間）
- 事後学修：授業で示された参考文献を次回の授業までに読んでおくこと。（2時間）

**【テキスト・教材】**

Jonathan Swift, *Gulliver's Travels* (Oxford World's Classics, 2015)を用いる。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート50%、平常点（授業への取り組み、発表）50%

## イギリス文学研究E

『フランケンシュタイン』誕生の背景を探る

土屋 結城

英文学専攻 前期 2単位

### 【授業のテーマ】

19世紀に活躍した女性作家メアリー・シェリー (Mary Shelley) の作品『Frankenstein, or The Modern Prometheus』(1818)のVolume1及び2を読む。

### 【授業における到達目標】

作品への理解を深めると同時に、出版当時の社会状況に鑑みつつ、女性作家が描いた作品がどのように受容されたかへの理解を深めることを目標とする。

### 【授業の内容】

- 第1週 インTRODクダクシヨ
- 第2週 作品誕生の背景
- 第3週 ゴシック小説について
- 第4週 ウォルトンの手紙 1 (序章)
- 第5週 ウォルトンの手紙 2 (出会い)
- 第6週 ヴィクターの回想 1 (ヴィクターとエリザベス)
- 第7週 ヴィクターの回想 2 (自然科学への興味)
- 第8週 ヴィクターの回想 3 (創造)
- 第9週 ヴィクターの回想 4 (ウィリアムの悲劇)
- 第10週 ヴィクターの回想 5 (拒絶)
- 第11週 怪物の告白 1 (生い立ち)
- 第12週 怪物の告白 2 (感情の芽生え)
- 第13週 怪物の告白 3 (ド・レイシー家との交流)
- 第14週 映像との比較
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

#### 【事前学修】

受講者は毎回の授業前に、テキストで該当箇所を予習しておく必要がある。(週2時間)

#### 【事後学修】

授業で精読した箇所を復習する。(週2時間)

### 【テキスト・教材】

授業時に指示する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業に取り組む態度20%、発表30%、レポート50%で評価する。

フィードバックは翌回以降行う。

## イギリス文学研究F

中世英文学研究 Geoffrey Chaucer

大関 啓子

英文学専攻 前期 2単位

### 【授業のテーマ】

中世英文学の名作を読み、イギリスのルーツともいべきその社会や文化を体験します。

### 【授業における到達目標】

Geoffrey Chaucerの*The Canterbury Tales*をとりあげ、その背景となる文化をふまえて、英文学における伝統と個性の問題を考えます。特に封建社会の中で、意外に強くなやかに生きた女性たちの生活に注目し、また英語・英文学史における英詩の父Chaucerを考える事により、その意義をとらえます。

学修による「研鑽力」を高め、文化の多様性を理解し、「国際的視野」を広げることを目標とします。

### 【授業の内容】

- 第1週 Introduction
- 第2週 中世イギリス社会、Geoffrey Chaucerとその時代について
- 第3週 中世イギリス文学の伝統
- 第4週 中世英語 (ME) と方言について
- 第5週 エルズミア写本
- 第6週 *The Canterbury Tales*の作品を選ぶ  
(とりあげる作品については、受講者の希望を聞いてから選択します)
- 第7週 Tale I - Part 1(巡礼)
- 第8週 Tale I - Part 2(悪徳)
- 第9週 Tale I - Part 3(容容)
- 第10週 Tale II - Part 1(中世英国の女性たち)
- 第11週 Tale II - Part 2(中世英国の庶民)
- 第12週 Tale II - Part 3(中世英国の支配階級)
- 第13週 Tale III - Part 1(死と再生)
- 第14週 Tale III - Part 2(遊戯の意味)
- 第15週 Conclusion

### 【事前・事後学修】

事前学修として各taleの予習を、2時間程度はしておくこと。また前回の授業で取り上げた作品について、各自鑑賞し、2時間程度はしっかり復習しておくこと。

### 【テキスト・教材】

教材は授業開始時に指示します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点 (授業態度・課題提出) 40%・レポート60%として評価。  
平常点については、毎週の授業時における貢献度 (作品理解を深めるような質問や発言) を高く評価します。  
課題は期日と場所を指定して、フィードバックします。

### 【参考書】

対象のtaleを選択した時点で、参考書を指示します。  
辞書については、基本的に下記の2種類を使用します。図書館または、英文学科研究室に備えてありますので、利用してください。

*Oxford English Dictionary* (Oxford University Press)

*Middle English Dictionary* (University of Michigan Press)

**イギリス文学研究演習C**

メイドの自伝を読む

**志渡岡 理恵**

英文学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

世界を旅したい—そんな夢を抱いたヨークシャーの石工の娘ローズに母親が勧めたのは、女主人のお供として旅する機会が多いレイディズ・メイドの仕事。イギリス初の女性下院議員レイディ・ナンシー・アスター付きメイドとして35年間働いたロジーナ・ハリソンのユーモア溢れる回想録『おだまり、ローズ』を読みます。

**【授業における到達目標】**

メイドの自伝を読むことにより、自分なりのスタイルでキャリアを築いていった女性たちの経験を学び、女性が社会の中でキャリアを形成すること、自分の生を語るることについて理解を深めることを目指します

**【授業の内容】**

- 第1週：イントロダクション
- 第2週：Girlhood 1
- 第3週：Girlhood 2
- 第4週：I Go into Service 1
- 第5週：I Go into service 2
- 第6週：Meeting the Astors
- 第7週：My Lady and My Duties
- 第8週：Coming to terms with My Job
- 第9週：Entertaining in the Grand Manner
- 第10週：The Astor Family
- 第11週：A Family in Wartime
- 第12週：Achieving My Ambition
- 第13週：Religion and Politics
- 第14週：Last Years
- 第15週：総括

**【事前・事後学修】**

- ・事前学修：各回を読む箇所を精読し、問題点を整理して、必要なリサーチを行うこと（週2時間）。
- ・事後学修：授業で学んだことをもとに、さらなるリサーチを行って不足していた知識を補い、考察を深めること（週2時間）。

**【テキスト・教材】**

Rosina Harrison, *My Life in Service to Lady Astor* (Penguin, 2011)

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

発表30%、ディスカッション30%、定期試験40%で評価します。発表、ディスカッションへのフィードバックは授業中にその場で行います。

**【参考書】**

- ・ルーシー・レスブリッジ（著）『使用人が見た二〇世紀イギリス』（原書房2014年）
- ・シャーン・エヴァンズ（著）『図説メイドと執事の文化誌——英国家事使用人たちの日常』（原書房2012年）
- ・新井潤美（著）『執事とメイドの裏表——イギリス文化における使用人のイメージ』（白水社2011年）
- ・村上リコ（著）『図説英国メイドの日常』（河出書房新社2011年）

**【注意事項】**

毎回、自分なりの問題意識を持って授業に臨むこと。

**イギリス文学研究演習D**

物語論研究

**島 高行**

英文学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

キャラクターとアダプテーションを中心に、物語論が提起する様々な問題を学ぶ。後半は短編小説を読み、これまで学んだ方法を実際に作品分析に応用してみる。

**【授業における到達目標】**

物語論の基本を押さえたうえで、文学におけるキャラクターについての分析方法を学ぶ。

**【授業の内容】**

- 第1週 イン트로ダクション
- 第2週 Character vs.action
- 第3週 Flat and round character
- 第4週 Can characters be real?
- 第5週 Types
- 第6週 Adaptation as creative destruction
- 第7週 Duration and pace
- 第8週 Figurative language
- 第9週 Gaps
- 第10週 Focalization
- 第11週 The Man with the Twisted Lip
- 第12週 The Speckled Band
- 第13週 The Noble Bachelor
- 第14週 The Copper Beeches
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

- 事前学修：テキストの該当箇所を読み、自分なりに問題を見つけておくこと。（2時間）
- 事後学修：指示された参考文献を読む。（2時間）

**【テキスト・教材】**

授業時に指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート50点、授業での発表50点。

**イギリス文学研究演習E**

『フランケンシュタイン』とその受容

土屋 結城

英文学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

19世紀に活躍した女性作家メアリー・シェリー (Mary Shelley) の作品『Frankenstein, or The Modern Prometheus』(1818) の Volume 3 及び批評を読む。

**【授業における到達目標】**

幅広い批評の対象となっている本作品を読み、さらにその批評を読むことにより、文学研究に必要な批判的な読解とはどのようなものか理解することを目標とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 作品の背景について
- 第3週 ヴィクターの回想 1 (怪物の要求)
- 第4週 ヴィクターの回想 2 (イングランドにて)
- 第5週 ヴィクターの回想 3 (婚礼の準備)
- 第6週 ヴィクターの回想 4 (旅行にて)
- 第7週 ウォルターの手紙 1 (船内での出来事)
- 第8週 ウォルターの手紙 2 (怪物との出会い)
- 第9週 ウォルターの手紙 3 (最期)
- 第10週 映像との比較
- 第11週 社会・文化背景への考察 1 (北極探検について)
- 第12週 社会・文化背景への考察 2 (文学作品への言及)
- 第13週 批評を読む 1 (作家研究の立場から)
- 第14週 批評を読む 2 (生命創造についての考察)
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

受講者は毎回の授業前に、テキストで該当箇所を予習しておく必要がある。(週2時間)

**【事後学修】**

授業時に精読した箇所を復習すること。(週2時間)

**【テキスト・教材】**

授業時に指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業に取り組む態度20%、発表30%、レポート50%で評価する。  
フィードバックは翌回以降の授業で行う。

**イギリス文学研究演習F**

中世ロマンス文学演習

大関 啓子

英文学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

中世ヨーロッパの口承文学の系譜として、アーサー王伝説の一環となる中世ロマンス文学作品を読み、その中にあるキリスト教的騎士道精神とケルト文化の影響を考えます。

**【授業における到達目標】**

表のギリシャ・ローマ文化に対し、ヨーロッパ文化の裏を成しているケルト民族の影響を探り、現代ヨーロッパ文化についての理解を深めます。また数少ない登場人物の女性に注目し、当時の女性の生き方についても考えたいと思います。

学修による「研鑽力」を高め、文化の多様性を理解し、「国際的視野」を広げることを目標とします。

**【授業の内容】**

以下の内容を予定しています。

ロマンス作品については、初回授業時に決めます。

- 第1週 Introduction
- 第2週 中世ロマンス文学
- 第3週 ケルト民族の歴史と伝統
- 第4週 古代ケルトの信仰と芸術
- 第5週 ロマンスⅠーPart 1(宮廷社会)
- 第6週 ロマンスⅠーPart 2(騎士概念と身分)
- 第7週 ロマンスⅠーPart 3(騎士道)
- 第8週 ロマンスⅡーPart 1(馬上槍試合)
- 第9週 ロマンスⅡーPart 2(貴婦人の掟)
- 第10週 ロマンスⅡーPart 3(宮廷風恋愛)
- 第11週 ロマンスⅢーPart 1(恋愛と婚姻)
- 第12週 ロマンスⅢーPart 2(叙事詩と抒情詩)
- 第13週 ロマンスⅢーPart 3(口承文学と文字伝承)
- 第14週 現代ヨーロッパにおけるケルト
- 第15週 Conclusion

**【事前・事後学修】**

事前学修として各回の授業で取り上げる作品について、2時間程予習し、大意をよみとること。

事後学修として、前回で取り上げた作品について、2時間程度鑑賞し、復習してまとめておくこと。

**【テキスト・教材】**

テキストは使用せず、プリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点(授業態度・課題等)40%、レポート60%で評価。平常点については、毎週の授業時における貢献度(作品の理解を深めるような意見や質問、発表など)を高く評価。

課題については、期日と場所を指定して、フィードバックします。

**イギリス文学史 a**

『ベオウルフ』から近代小説の誕生まで

島 高行

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

アングロ・サクソン時代から18世紀半ばにいたるイギリス文学の歴史を概観する。それぞれの時代を代表する作品を紹介しつつ、それらがどのような歴史的条件のもとで生み出されてきたのかを明らかにする。

**【授業における到達目標】**

『ベオウルフ』の時代から18世紀にいたるまでのイギリス文学の歴史を学び、その特質を理解する。そのことにより、多様性を受容し、多角的な視点を以って世界に臨む態度を身につける。また文学と社会、歴史との関連性を学ぶことにより、学ぶ楽しさを知ることを目指す。

**【授業の内容】**

- 第1週 イントロダクション
- 第2週 『ベオウルフ』と叙事詩の伝統
- 第3週 中世1 チョーサー
- 第4週 中世2 マロリイ他
- 第5週 ルネサンス1 スペンサー
- 第6週 ルネサンス2 シェイクスピア 喜劇
- 第7週 ルネサンス3 シェイクスピア 悲劇
- 第8週 ルネサンス4 シェイクスピア 四大悲劇
- 第9週 ルネサンス5 シェイクスピア ロマンズ劇
- 第10週 ルネサンス6 ジョン・ダン他
- 第11週 17世紀 革命と文学 ミルトン
- 第12週 18世紀 古典と文学 ポープ
- 第13週 18世紀 経済と文学 デフォー、スウィフト
- 第14週 18世紀 小説形式の多様化
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：授業で扱う範囲を教科書で読み、主要な作品に目を通しておくこと。週2時間。

事後学修：授業で取りあげた作品だけでなく、関連する作品をできるだけ多く読むこと。週2時間。

**【テキスト・教材】**

神山妙子編著『初めて学ぶイギリス文学史』（ミネルヴァ書房、2015年）2,800円。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験80パーセント、リアクションペーパー等授業内活動20パーセント。

リアクションペーパーによる質問については、次回の授業の冒頭で回答する。

**【参考書】**

授業時に指示する。

**【注意事項】**

授業内で紹介した作品はできるだけ自分で読んでみることに。

授業中の私語は厳禁。

遅刻の場合は、授業中であってもすぐに申し出ること。申し出のあった時間を記録する。

**イギリス文学史 b**

ロマン派から現代まで

土屋 結城

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

ロマン派から現代に至るまでのイギリス文学の作家、作品について学ぶとともに、作家、作品の背景にある思想、文化についても考察する。時代背景を色濃く映した作品を概観することにより、近代、現代のイギリス文学についての理解を深めることを目的とする。

**【授業における到達目標】**

近代、現代のイギリス文学についての理解を深め、全学ディプロマ・ポリシーのうち、「研鑽力」と知を求めようとする「美の探究」を修得することを目標とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 イントロダクション
- 第2週 ロマン派の詩
- 第3週 19世紀初期の小説（ゴシック小説）
- 第4週 19世紀初期の小説（Jane Austen, Walter Scott）
- 第5週 19世紀中期の小説（Charles Dickens, William Makepeace Thackeray）
- 第6週 19世紀中期の小説（ブロンテ姉妹）
- 第7週 19世紀の児童文学（Lewis Carrollなど）
- 第8週 19世紀中期の詩（Robert Browning, Alfred Tennyson）
- 第9週 19世紀後期的小説（Joseph Conrad, Thomas Hardy）
- 第10週 19世紀の演劇（Oscar Wilde, George Bernard Shaw）
- 第11週 20世紀初頭の小説（モダニズムの小説）
- 第12週 20世紀初頭の詩（モダニズムの詩）
- 第13週 20世紀の演劇（Samuel Beckettなど）
- 第14週 現代の小説（Kazuo Ishiguroなど）
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

授業前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。（学修時間 週2時間）

**【事後学修】**

授業内容を復習すること。授業で学んだ作品に触れること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

神山妙子編『はじめて学ぶイギリス文学史』（ミネルヴァ書房）2800円+税

その他、適宜プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

リアクション・ペーパー30%、試験70%で評価する。

フィードバックは次回以降の授業で行う。

**【注意事項】**

授業で解説する作品はなるべく手に入りやすい形態のものを紹介するので、できる限り多く読んだり見たりして作品そのものに触れること。

## インターンシップ

3年 集前 1単位  
○：行動力

### 【授業のテーマ】

学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行う。

### 【授業における到達目標】

インターンシップ演習で学んだことを企業、地方公共団体等における就業体験を通じて確認し、学生が修得すべき「行動力」のうち、課題を発見する力を修得する。インターンシップは以下、実習とする。

### 【授業の内容】

#### I. 実習期間及び時間数

大学が許可した同じ受入先で5日間以上、各日7時間を目安とした実習を終了することにより単位を認定する。

履修している授業に支障がないよう、原則として夏期休暇中の日程を設定すること。

実習のための欠席は公欠扱いにはならない。

#### II. 実習内容

受入機関によるが、アルバイトとは異なる就業体験をお願いすること。報酬については、原則として無報酬。

食費・交通費については、受入機関の規定によるため、本学指定のインターンシップ受入計画書に記載していただくこと。

実習内容決定後、受入機関と大学とでインターンシップに関する協定書等を締結する。

### 【事前・事後学修】

事前学修：受入機関の情報収集及び研究を行うこと。（2時間程度）

各日ごとの実習内容を意識し、実習当日の目標設定を行うこと。また、実習日ごとに振り返りと反省を行うこと。（各日1時間程度）

事後学修：インターンシップ報告書の作成を行うこと。（3時間程度）

### 【テキスト・教材】

インターンシップの手引き  
インターンシップ報告書

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実習内容および提出されたインターンシップ報告書をもとに単位を認定する。

### 【注意事項】

実習内容を的確にまとめ、インターンシップ報告書を作成し、受入機関から評価を記入・印をいただくこと。印がないものは無効となる。

単位認定を希望する場合は、所定の期間に教務課に申請すること。単位認定の申請をするためには、インターンシップ演習を修得していなければならない。

## インターンシップ演習

角本 伸晃・佐藤 健  
3年 前期 1単位  
○：協働力

### 【授業のテーマ】

インターンシップの意義を理解し、実社会におけるルールを知り、職業観・勤労観の育成を目指し、進路適性の確認と職業選択の機会とする。

### 【授業における到達目標】

組織の一員として活躍するために必要な態度やスキルをグループワーク、グループ発表等を通して身に付け、学生が修得すべき「協働力」のうち、互いに協力して物事を進めることができる力を修得する。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 社会を知る ～社会・企業の構造と仕組み～
- 第3週 社会を知る ～企業活動について考える～
- 第4週 インターンシップの探し方、業界・企業研究方法
- 第5週 インターンシップ事例紹介
- 第6週 マナー（挨拶、敬語等）
- 第7週 マナー（自己表現、身だしなみ、メイクアップ等）
- 第8週 自己分析の仕方
- 第9週 インターンシップの応募 ～応募書類の書き方①～  
学生時代に力を注いだこと・自己PRを中心に
- 第10週 インターンシップの応募 ～応募書類の書き方②～  
志望動機を中心に
- 第11週 インターンシップの応募 ～面接とは～
- 第12週 インターンシップの応募 ～面接練習～
- 第13週 インターンシップの目標設定
- 第14週 マナー（社会人としての立ち居振る舞い）
- 第15週 まとめ

※第2週から第14週の授業は、人事担当者等外部講師による講義を行う。なお、順番が変更になる場合もある。

### 【事前・事後学修】

事前学修：前回の授業を振り返り、授業内容の理解を深めておくこと。（週1時間程度）

事後学修：インターンシップ実習に向け、インターンシップ受入機関の情報収集及び研究を行うこと。（週1時間程度）

### 【テキスト・教材】

必要に応じて配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

演習結果についてフィードバックを行う。

平常点（授業への取り組み）：80% 提出課題：20%

### 【注意事項】

本講義はインターンシップ参加のために必要な基本的な心構えや社会に出るうえで必要な知識を身につけることを目的としているため、下記の事項を必ず守ること。

1. 欠席や遅刻は厳禁とし、節度ある態度で授業に臨む。
2. インターンシップの意義を理解し主体的かつ計画的に取り組む。
3. 社会人としていかにあるべきか、社会に学ぶという意識を常に持つ。

インターンシップの単位認定をするためには、この科目の修得が必須です。

※募集人数は70名です。



## インテグレートッド・イングリッシュ

### 担当教員全員

1年 前期・後期 2単位  
◎：国際的視野 ○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

インテグレートッド・イングリッシュは週2回の授業がセットで1つの科目になっています。1つは日本人教員、1つはネイティブ教員が担当します。

インテグレートッド・イングリッシュは、インプット・アウトプット・インタラクションの3つの柱をバランスよく配し、世界とコミュニケーションできる素地を養います。

日本人クラスでは、「グラマーマラソン」による文法学習、および3つのテーマについてシンプルで通じる英文のライティングを行います。ネイティブクラスでは、テーマについてのライティングとプレゼンテーションの演習を行います。どちらのクラスでも、適切な語彙、論理的な構成、自分の考えを含めた豊かな内容のライティングを目指し、学生の作成した英文を、海外に向けてiEARNを通じて発信し、海外から届くメッセージに答えるやりとりを体験します。

※iEARN（アイアーン）は世界140カ国の教育者が参加している安全で安心なグローバル教育ネットワークです。

### 【授業における到達目標】

この科目の到達目標は、英文法の正確な基礎知識を身につけた上で「国際的視野」、特に「多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度」と「日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度」の育成を目指します。また「研鑽力」、特に「学習成果を実感して、自信を創出することができる」ようになることを目指します。さらに「協働力」、特に「自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる」力の育成を目指します。

### 【授業の内容】

文法学習はテキストの各ユニットの問題を自分のペースで解いていく「グラマーマラソン」で学習します。さらにグローバルな視点を養成するため、自国の文化や社会問題を見直すテーマについてライティングを行い、海外に発信します。

日本人クラス（クラスによって順序が変わります。）

- 1 オリエンテーションと文法事前テスト
- 2 文法・ライティング Holidays 1（祝日のリサーチ）
- 3 文法・ライティング Holidays 2（祝日のドラフト作成）
- 4 文法・ライティング Holidays 3（祝日のドラフト作成）
- 5 文法・リスニング Holidays 4（祝日仕上げとアップ）
- 6 文法・ライティング Food 1（海外レシピのリサーチ）
- 7 文法・ライティング Food 2（レシピのドラフト作成）
- 8 文法・リスニング Food 3（レシピのドラフト作成）
- 9 文法・ライティング Food 4（レシピ仕上げとアップ）
- 10 文法・ライティング Education 1（海外教育のリサーチ）
- 11 文法・リーディング Education 2（教育ドラフト作成）
- 12 文法・ライティング Education 3（教育ドラフト作成）
- 13 文法・ライティング Education 4（教育ドラフト修正）
- 14 文法・ライティング Education 5（教育仕上げとアップ）
- 15 文法事後テスト・アンケート

ネイティブクラス（クラスによって順序が変わります。）

- 1 オリエンテーションとライティングテスト
- 2 文法復習・Holidays のリサーチ
- 3 文法復習・Holidays のドラフト点検
- 4 Holidays のドラフト点検・プレゼン準備
- 5 文法復習・Holidays のドラフト点検・プレゼン準備
- 6 Holidaysのプレゼンテーション
- 7 文法復習・Food のリサーチ
- 8 Foodのドラフト点検
- 9 文法復習・Food のドラフト点検
- 10 文法復習・Food のドラフト点検・プレゼン準備

- 11 Foodのプレゼンテーション
- 12 文法復習・Education のリサーチ
- 13 文法復習・Educationのドラフト点検・プレゼン準備
- 14 Educationのプレゼンテーション
- 15 ライティングテスト、ELPAテスト（後期のみ）

### 【事前・事後学修】

- ・事前学修：次の授業までに、各自の文法目標達成のため、できるだけ多くテキストの問題を解いて、わからない点、質問したい部分を明らかにしておいてください。（学修時間 週90分）
- ・事後学修：毎週の目標ユニットまでテキストの問題を解き、発表やエッセイの課題に取り組んでください。（学修時間 週90分）作成した英文は、修正点と共に返却され、改善されていきます。

### 【テキスト・教材】

『マーフィーのケンブリッジ英文法 初級編第3版』（Cambridge）2800円前後

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・日本人授業：課題：50%、平常点（授業態度・ライティング取り組み）：50%。文法問題のわからないところについて、毎時間質問に答えます。作成英文のミスは修正ポイントを示します。
- ・ネイティブ授業：課題：50%、平常点（授業態度・ライティングと発表取り組み）：50%。毎時間、作成英文の表現や構成についてアドバイスします。

### 【注意事項】

- ・日本人授業、ネイティブ授業のどちらでも、3分の2以上の出席が必要です。
- ・遅刻3回で欠席1回となります。
- ・成績は日本人授業、ネイティブ授業両方の評価を合わせた評価となります。

## インテリアグラフィック演習

## 槇 究

3年 前期 1単位

◎：行動力 ○：美の探究

## 【授業のテーマ】

店舗デザインやインテリアデザインをはじめ、グラフィックを活用することで効果的なプレゼンテーション資料が作成できる分野は多い。この授業では、画像処理ソフトを利用して画像を加工し、ポスターを作成する。

## 【授業における到達目標】

・上記の課題を通じて、Adobe Photoshop, Illustratorの実際的な使用方法を身に付け、プレゼンテーション資料を作成できるようになる。・デジタル画像の入出力について、基礎的な知識を身に付ける。→美を創出し、多様な視点からデザインを検討する深い洞察力を身に付け、インテリアのカラーデザインをする力を身に付ける

## 【授業の内容】

## 1. インテリア・コラージュ

インターネット等から室内、家具、照明などの素材を取り込み、それらを組み合わせ合わせた画像を作成する。Adobe Photoshopを使用する。

第1週 Adobe Photoshopの使用方法

第2週 背景画像の作成(1)

第3週 背景画像の作成(2)

第4週 背景画像の作成(3)

第5週 家具の挿入(1)

第6週 家具の挿入(2)

第7週 絵を掛ける

第8週 照明効果とタイトル挿入

## 2. ポスター制作

Adobe Illustratorの使用方法について概説した後、ロゴ制作を行う。作成したロゴとインテリア画像を用いて、ポスターを作成する。

第9週 Adobe Illustratorの基礎(1)

第10週 Adobe Illustratorの基礎(2)

第11週 ロゴマークの作成

第12週 ポスター作成(1)

第13週 ポスター作成(2)

第14週 名刺作成

## 3. デジタル画像の入出力と後処理

デジタルカメラ、スキャナーの使用方法、画像保存のファイル形式、モニターやプリンターへの出力などについて講述し、実際に画像の入出力を通じて、それらの概念を獲得する。

第15週 デジタル画像の入出力と後処理

## 【事前・事後学修】

事前に、配布プリントを良く読むこと。その他、演習に使用する素材の収集・撮影などを行うことがある。授業中に終了しなかった作業については、授業時間外に補い、進行に支障のないようにすること。(学修時間 週4時間)

## 【テキスト・教材】

プリントを配布する。また、manaba掲示板に作業のヒントについて書き込みをする。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

評価の基準を明示した上で、作成した画像をmanabaにアップして、相互評価を実施する。それに基づいて改善していく。その上で、提出された最終課題をもとに判定する。(課題：100%)

## 【参考書】

高野徹著『デザインに使うIllustrator』(MDN)

## 【注意事項】

欠席しないこと。これが最も重要である。また、Adobe Photoshopで画像処理を行った経験があるとよい。色彩設計演習aもしくはbを受講しておくことが望まれる。

## インテリアコーディネート演習

## 山口 照也

4年 前期 2単位

◎：行動力 ○：美の探究、研鑽力

## 【授業のテーマ】

インテリアコーディネート論で学んだ知識も生かし、インテリアコーディネートを実践していく上での基本技術を修得します。

「自分のため」から「他者のため」のインテリアコーディネートへとつなげ、インテリアの自由性と社会性も考えていく中で、「人・社会・自然」を考えた住環境デザインを目指します。

生活者がコーディネートしていることが多い「家具・照明・窓辺(ウィンドートリートメント)」と、専門家の知識も必要な「内装材・建具・造作部品・住宅設備機器・その他」を2つの課題でコーディネート案をつくり、プレゼンテーションしていきます。

## 【授業における到達目標】

【計画立案実行力や問題解決力である「行動力」を修得】

・自分が考えたインテリアコーディネートをもとにした具体的な計画案としてまとめられる計画力、図面表現力と伝達力を身につける。

【「美の探究」と「研鑽力」を修得】

・市場のインテリアエレメントの商品知識を深め、デザインバランスとコストバランスを身につける。

## 【授業の内容】

第1週 インテリアコーディネートの考え方と進め方

■課題Ⅰ：リファイン ～家具・照明・窓辺のコーディネート～

第2週 与条件からイメージやコンセプトをまとめる

第3週 家具・照明・窓辺に必要な商品情報を収集し整理する

第4週 計画案をプレゼンテーション図面にまとめる

第5週 プレゼンテーションと講評(自己評価+学生評価+講評)

■課題Ⅱ：リフォーム ～住まいのトータルコーディネート～

第6週 与条件から現状を分析し、問題点や改善案を考える

第7週 改善するインテリアエレメントの情報を収集し整理する

第8週 家具・照明のコーディネート計画をまとめる

第9週 内装材・建具のコーディネート計画をまとめる

第10週 造作部品・住宅設備機器のコーディネート計画をまとめる

第11週 その他必要な部分のコーディネート計画をまとめる

第12週 パースや模型で表現する

第13週 計画案をプレゼンテーション図面にまとめる

(現況図と計画図・カラースキーム・パースや模型写真)

第14週 プレゼンテーションと講評(自己評価+学生評価+講評)

第15週 総括

## 【事前・事後学修】

事前学修：2つの制作課題に必要な予習・調査・エスキス・製図・模型製作に取り組むこと。(学修時間：40時間以上)

事後学修：授業中および提出物・発表での指摘事項を検討して課題作品に生かすこと。(学修時間：20時間以上)

## 【テキスト・教材】

毎回、プリントを配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題最終提出物とプレゼンテーション80%、授業取組姿勢と途中提出物20%とで評価します。

途中提出物と課題Ⅰ作品は次回授業でフィードバックし、課題Ⅱ作品はコメントを添えて返却します。。

## 【参考書】

『インテリアコーディネーターハンドブック統合版上』4300円+税

『インテリアコーディネーターハンドブック統合版下』4300円+税

(インテリア産業協会 2013年)

『建築のインテリアデザイン』(市ヶ谷出版社2006年)2500円+税

## 【注意事項】

本講義を履修する前に「インテリアコーディネート論」を履修しておくことを薦めます。

## インテリアコーディネート論

山口 照也

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

## 【授業のテーマ】

インテリアコーディネーターという職能と資格が生まれのは1984年で、インテリアコーディネーターとは、「インテリアエレメントの流通過程において、消費者に対し、商品選択とインテリアの総合的構成等について適切な助言と提案を行う人」と定義されていて、現在でもその基本は変わっていないとされています。

本科目では、適切なインテリア商品選択力を身につけることを目的とし、インテリアコーディネーターを目指す人のテキストを参考書としつつ、インテリアエレメントごとにその基本知識とインテリアコーディネートのポイントを学修していきます。

ワークシートでは、インテリアコーディネーター資格試験練習問題とコーディネート演習問題があるので、資格試験にも役立ち、実践的なコーディネート手法も身につけられます。

## 【授業における到達目標】

- 【本質を見抜く「研鑽力」と課題を発見できる「行動力」を修得】
- ・インテリア空間を望ましくコーディネートするための分析力、考察力、問題解決力を身につける。
  - ・ワークシートを実施し、IC資格試験に役立たせたり、実践的コーディネート手法を身につける。

## 【授業の内容】

- 第1週 インテリアコーディネーターの誕生とその背景
- 第2週 インテリアコーディネーターの仕事
- 第3週 住宅用家具01 (分類・選び方・種類・基本構造)
- 第4週 住宅用家具02 (材料・家具金物・仕上げ・手入れ)
- 第5週 寝装・寝具
- 第6週 照明設備01 (光と感覚・光源と照明器具の種類)
- 第7週 照明設備02 (配光と照明方法・照明計画・施工・安全性)
- 第8週 建具製品・ウィンドトリートメント
- 第9週 造作部品・水回りの住宅設備機器
- 第10週 床仕上材・壁仕上材・天井仕上材
- 第11週 塗装仕上げ
- 第12週 テーブルウェアとキッチン用品・インテリアオーナメント
- 第13週 エクステリアエレメント
- 第14週 住まいのリフォーム
- 第15週 総括

## 【事前・事後学修】

事前学修：レポート課題に必要な現状調査分析・インテリア商品比較考察・問題解決改善検討や講義予習に取組むこと。(学修時間：30時間以上)

事後学修：講義復習となる10回のワークシートに取組むこと。(学修時間：30時間以上)

## 【テキスト・教材】

講義項目ごとに、プリントを配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート課題70%、授業取組姿勢とワークシート30%で評価します。ワークシートは次回授業でフィードバックし、レポート課題はコメントを添えて返却します。

## 【参考書】

- 『インテリアコーディネーターハンドブック統合版上』4300円＋税
  - 『インテリアコーディネーターハンドブック統合版下』4300円＋税 (インテリア産業協会 2013年)
  - 『やさしいインテリアコーディネート』(学芸出版社) 2600円＋税
  - 『建築のインテリアデザイン』(市ヶ谷出版社2006年) 2500円＋税
- その他、授業のなかで随時紹介します。

## 【注意事項】

本講義を履修する前に「インテリアデザイン論」を履修しておくことと講義内容の理解がスムーズになります。

## インテリアデザイン演習

山口 照也

3年 前期 2単位

◎：行動力 ○：美の探究、研鑽力

## 【授業のテーマ】

インテリアデザイン論で学んだ知識も生かし、インテリアデザインを実践する上での基本技術を修得していきます。「感じ取る・考える・つくる・伝える」を基本姿勢とし、身近なインテリア空間の問題点に目を向けて、改善案を考え、表現していく中で、「人・社会・自然」を考えたインテリアデザインを目指します。

建築の内部空間を考える演習と、モノ(インテリアエレメント)のあり方から内部空間を考える演習があるので、インテリアデザインだけでなく、建築デザインやプロダクトデザインを志す学生にも役立ちます。

## 【授業における到達目標】

- 【課題発見・計画立案実行・問題解決力である「行動力」を修得】
- ・自分が考えたインテリアデザインを具体的な計画案としてまとめる計画力・図面表現力と伝達力を身につける。
- 【「美の探究」と自信創出の「研鑽力」を修得】
- ・インテリアを形成する「かたち・素材・色彩・光」に関する知識を演習する中で深める。

## 【授業の内容】

- 第1週 インテリアデザインの考え方と進め方
  - 課題Ⅰ：空間で考えるインテリア
- 第2週 生理衛生空間の現状を分析し、改善案を考え、表現する
- 第3週 個人生活空間の現状を分析し、改善案を考え、表現する
- 第4週 共同生活空間の現状を分析し、改善案を考え、表現する
- 第5週 提案する空間の計画案をまとめる(平面計画・断面計画)
- 第6週 計画案をプレゼンテーション図面にまとめる(テーマ・コンセプト・平面図・断面図・パース等)
- 第7週 作品展示と講評(自己評価＋学生評価＋講評)
- 課題Ⅱ：モノから考えるインテリア
- 第8週 自分の身近にあるインテリア空間のモノの現状を分析し、問題点を考える(与条件の整理・現況図作成)
- 第9週 問題点の改善案を考えながら、コンセプトやイメージをまとめる(分析と考察・着眼点・計画概要)
- 第10週 必要な資料収集と整理
- 第11週 計画案をまとめる(三面図等での平面計画・断面計画)
- 第12週 模型で表現する
- 第13週 計画案をプレゼンテーション図面にまとめる(テーマ・コンセプト・平面図・断面図・パース等)
- 第14週 プレゼンテーションと講評(自己評価＋学生評価＋講評)
- 第15週 総括

## 【事前・事後学修】

事前学修：2つの制作課題に必要な予習・調査・エスキス・製図・模型製作に取り組むこと。(学修時間：40時間以上)

事後学修：授業中および提出物・発表での指摘事項を検討して課題作品に生かすこと。(学修時間：20時間以上)

## 【テキスト・教材】

毎回、プリントを配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題最終提出物とプレゼンテーション80%、授業取組姿勢と途中提出物20%で評価します。

途中提出物と課題Ⅰ作品は次回授業でフィードバックし、課題Ⅱ作品はコメントを添えて返却します。

## 【参考書】

- 建築計画・設計シリーズ41『新・住宅Ⅰ』(市ヶ谷出版社2003年) 2800円＋税

『建築のインテリアデザイン』(市ヶ谷出版社2006年) 2500円＋税

## 【注意事項】

本講義を履修するに当たって、事前に「インテリアデザイン論」を履修しておくことを薦めます。

## インテリアデザイン論

山口 照也

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

### 【授業のテーマ】

インテリアという言葉には、家具調度や室内装飾品等の「モノ」を指す場合と、内部（室内）の「空間」を指す場合があります。

本科目では、この2つの側面を考慮し、内部空間を構成している「モノ」であるインテリア構成部位（インテリアエレメント）のデザインから「内部空間」のあり方を考え、インテリア空間を計画するために必要な基礎とデザインのポイントを学修します。

人間の寸法・行為・心理の基本要素を基盤として、デザインの三大要素である形・素材・色彩を考え、インテリア構成部位（インテリアエレメント）ごとに人・社会・自然と関連させて、機能的役割と心理的役割を原点から考える授業です。

インテリア空間を構成部位ごとに考えていくので、モノのデザインであるプロダクトデザインにもつながり、モノとモノの関係から空間を考えていくことで、建築デザインにもつながります。

ワークシートを実施していくと、住宅のインテリア計画とインテリア製図の基礎的なスキルも身につきます。

### 【授業における到達目標】

【本質を見抜く「研鑽力」を修得】

インテリアエレメントの機能的役割と心理的役割を原点から考えていながら、デザインのポイントを身につける。

【「美の探究」と課題を発見できる「行動力」を修得】

インテリア空間をデザインするために必要な分析力・考察力・問題解決力を身につける。

### 【授業の内容】

- 第1週 インテリアデザインとは
- 第2週 人間（寸法・行為・心理）を考える
- 第3週 かたちの考え方
- 第4週 素材・色彩の考え方
- 第5週 現状の住まいのインテリアを考える
- 第6週 床のデザイン
- 第7週 壁のデザイン
- 第8週 天井・架構のデザイン
- 第9週 窓・出入口のデザイン
- 第10週 屋内環境・設備のデザイン
- 第11週 家具のデザイン
- 第12週 あかりのデザイン
- 第13週 ファブリックス・テキスタイル等のデザイン
- 第14週 これからの住まいのインテリアを考える
- 第15週 総括

### 【事前・事後学修】

事前学修：レポート課題に必要な現状実測・事例調査・比較検討考察・問題解決改善検討や講義予習に取り組むこと。（学修時間：30時間以上）

事後学修：講義復習となる10回のワークシートに取り組むこと。（学修時間：30時間以上）

### 【テキスト・教材】

『建築のインテリアデザイン』（市ヶ谷出版社2006年）2500円＋税  
講義項目ごとにプリントも配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート課題70%、授業取組姿勢とワークシート30%で評価します。  
ワークシートは次回授業でフィードバックし、レポート課題はコメントを添えて返却します。

### 【参考書】

『建築計画・設計シリーズ41 新・住宅Ⅰ』（市ヶ谷出版社）  
2800円＋税

『図解 住まいとインテリアデザイン』（彰国社）2400円＋税  
その他、授業のなかで随時紹介します。

## インテンシヴ・リーディング a

短編を読む

(SD)植野 達郎

2年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

Oscar Wildeの短編とRaymond Carverの短編を読みながら英語をきちんと読むことを学び、読解力を高めます。

### 【授業における到達目標】

英語をきちんと読むことを踏まえて、それを日本語として正しく表現するとともに、英米の文化を理解することを目指します。

### 【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 作品購読 95-96ページ
- 第3週 作品購読 96-97ページ
- 第4週 作品購読 97-98ページ
- 第5週 作品購読 98-99ページ
- 第6週 作品購読 99-100ページ
- 第7週 作品購読 100-101ページ
- 第8週 作品購読 101-103ページ
- 第9週 作品紹介
- 第10週 作品購読 47-49ページ
- 第11週 作品購読 49-51ページ
- 第12週 作品購読 51-53ページ
- 第13週 作品購読 53-55ページ
- 第14週 作品購読 55-56ページ
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：テキストの該当箇所の予習。（学修時間 週3時間）

事後学修：授業で行った箇所の復習。（学修時間 週1時間）

### 【テキスト・教材】

授業時に指示します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業に参加する態度、発表回数）50%

期末試験 50%

### 【注意事項】

授業前に必ず予習を行い、授業には積極的に参加すること。

## インテンシヴ・リーディング a

英語読解力強化のために

(SB)島 高行

2年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

まず比較的やさしい英語の文章を読み、文法事項と構文理解の基本を確認する。また語彙力の強化も行う。

後半は、イギリスの短編小説を取り上げて、上記の事柄が身についたか確かめてみる。またフィクションの読み方の基本を学ぶ。

### 【授業における到達目標】

様々な英文のスタイルに触れることで、多様なものの見方、表現方法を理解できるようになること。

フィクションの内容を理解するだけでなく、どのような点に注目し分析することができるか、またその作品が潜在的に持っている可能性をどのように引き出すことができるのかを学ぶ。

最終的には、三年次以降のどのような演習科目にも対応できる英語読解能力を身につけることを目標とする。

### 【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 課題プリントunit1
- 第3週 課題プリントunit2
- 第4週 課題プリントunit3
- 第5週 課題プリントunit4
- 第6週 課題プリントunit5
- 第7週 テクストchapter1
- 第8週 テクストchapter2
- 第9週 テクストchapter3
- 第10週 テクストchapter4
- 第11週 テクストchapter5
- 第12週 テクストchapter6
- 第13週 テクストchapter7
- 第14週 テクストchapter8
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修

授業内で行う小テスト、発表の準備を行うこと。（学修時間 週2時間）

事後学修

授業内容の復習と、授業で紹介された文献を読み進めること。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

授業開始時に指示する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験70%、平常点（小テスト、授業への積極的参加）30%

### 【注意事項】

授業時には辞書（英和または英英）を持参すること。

## インテンシヴ・リーディング a

Katherine Mansfield の短編を読む

(SA)多比羅 真理子

2年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

## 【授業のテーマ】

20世紀初頭のNew Zealand 出身の作家Katherine Mansfieldの短編小説『園遊会、人形の家』を読みます。作品のテーマをつかみながら、彼女の詩情あふれる文章、子供の視線から描かれる大人の世界を読み解く能力を養成します。また、現代社会との違いや、普遍性も見出し、国際的な視野を深めていきます。

## 【授業における到達目標】

【到達目標】原作を読み、作者が伝えたい情景、考えを直に想像し理解できる読解力を養成することを目標とします。

【ディプロマ・ポリシーとの関連】異文化圏の文学を読むことで感受性を豊かにし自己成長を目指します。そのためには、教材で取り上げる作品以外に、日本や他のイギリス人作家の作品や、DVDなどを鑑賞し、学生間で積極的に意見交換できる姿勢を修得していきます。

## 【授業の内容】

- 第1週 Katherine Mansfieldの生涯
- 第2週 子供を描いた他の作品紹介
- 第3週 『園遊会』 1～3頁購読（導入）
- 第4週 『園遊会』 4～6頁購読（展開1）
- 第5週 『園遊会』 7～9頁購読（展開2）
- 第6週 『園遊会』 10～12頁購読（展開3）
- 第7週 『園遊会』 13～15頁購読（展開4）
- 第8週 『園遊会』 16～18頁購読（展開5）
- 第9週 『園遊会』 19～21頁購読（展開6）
- 第10週 『園遊会』 22～23頁購読（結末）
- 第11週 まとめ（1）全体の意見交換
- 第12週 『人形の家』 82～85頁（導入）
- 第13週 『人形の家』 86～89頁（展開）
- 第14週 『人形の家』 90～93頁（結末）
- 第15週 まとめ（2）

単語力を増強する目的のため、前回学習した範囲の単語と、内容を問う小テストを毎回します。

## 【事前・事後学修】

【事前学習】上記範囲内を精読して内容を把握しておく。小テストの準備をする。（週2時間）。

【事後学習】事前学習や、授業の内容との相違の確認。本クラスで取り上げる作品以外の他の作家の作品や、DVDを鑑賞して知識を深め、学期末に提出するレポートの準備をする。（週2時間）

## 【テキスト・教材】

キャサリン・マンスフィールド『The Garden Party and Other Stories』（南雲堂 2009年）1800円

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト20% 平常点（授業への積極的参加度）15%  
レポート15% 定期試験50%

## 【注意事項】

必ず担当箇所の予習をしてきてください。  
テキストや本作品だけでなく、できるだけ多くの小説を普段から読んでください

## インテンシヴ・リーディング a

イギリス文学を読む

(SC)三井 淳子

2年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

## 【授業のテーマ】

Lewis Carolの“Alice’s Adventures in Wonderland”を英語独特の表現や日本語との構文の違いを理解しながら精読します。英語の読解力と語彙力を高めると同時に、作品が書かれた当時の歴史的・文化的背景にも理解を深め、様々な視点から作品を鑑賞、分析する力を養います。

## 【授業における到達目標】

到達目標：英文を正確に読み解く力を向上させると同時に、作品が書かれた当時の歴史的・文化的背景への造詣を深め、異文化への理解を促し、作品を多角的な視点から鑑賞する力を養うことを目標とします。

ディプロマ・ポリシーとの関連：異文化圏の文学作品を読むことにより国際的視野を養い、英文学作品を精読する学修を通じて自律的に学ぶ研鑽力を養成することを目標とします。

## 【授業の内容】

- 第1週：イントロダクション
- 第2週：作品の背景について
- 第3週：Chap. 1（1）前半（～p. 4）
- 第4週：Chap. 1（2）後半
- 第5週：Chap. 2
- 第6週：Chap. 3（1）前半（～p. 13）
- 第7週：Chap. 3（2）後半
- 第8週：Chap. 4（1）前半（～p. 19）
- 第9週：Chap. 4（2）後半
- 第10週：Chap. 5
- 第11週：Chap. 6（1）前半（～p. 30）
- 第12週：Chap. 6（2）後半
- 第13週：Chap. 7（1）前半（～p. 38）
- 第14週：Chap. 7（2）後半
- 第15週：まとめ

## 【事前・事後学修】

事前学習：次回該当箇所の予習（週2時間）

事後学習：授業で扱った内容の復習（週1時間）

## 【テキスト・教材】

Carol, Lewis. “Alice’s Adventures in Wonderland” Oxford Bookworms, Third Edition, 2008）¥772

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業貢献、提出課題など）50%、定期試験50%で総合的に評価する。フィードバックは翌回以降の授業で行う。

## 【注意事項】

テキスト、辞書は毎授業必携すること。

## インテンシヴ・リーディング b

テッド・チャン (Ted Chiang) 作品群の講読

(SC)青砥 吉隆

2年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

新進気鋭のSF作家であるテッド・チャン (Ted Chiang) の短編集を読んでみましょう。チャンは男性でありながら、女性を主人公とした短編を数多く執筆しており、“Stories of Your Life” は、2017年公開の映画『メッセージ』の原作となりました。この作品を読み込むことで英語力を高め、同時にSFという「未知なる物」を理解しようとする知的態度を身につけましょう。

この作品は、時制が入り乱れており、また難解な単語も頻出します。これまでに学習してきた英文法を復讐しながら、自分なりにこの作品を訳出して頂きたいと思います。一回の授業ごとに、前回の授業で取り扱った単語及び文法の確認テストを行います。

### 【授業における到達目標】

上述の通り、この作品は決して読むのが容易いものではありません。しかし、そのような文章を読み込むことで作品の構造を理解し、また同時に、多角的な視点から物事を考える能力を涵養することを到達目標に設定します。

### 【授業の内容】

- 第一週 イン트로ダクション
- 第二週 作品講読及び解説 (Section 1)
- 第三週 作品講読及び解説 (Section 2)
- 第四週 作品講読及び解説 (Section 3)
- 第五週 作品講読及び解説 (Section 4)
- 第六週 作品講読及び解説 (Section 5)
- 第七週 作品講読及び解説 (Section 6)
- 第八週 作品講読及び解説 (Section 7)
- 第九週 作品講読及び解説 (Section 8)
- 第十週 作品講読及び解説 (Section 9)
- 第十一週 作品講読及び解説 (Section 10)
- 第十二週 作品講読及び解説 (Section 11)
- 第十三週 作品講読及び解説 (Section 12)
- 第十四週 作品講読及び解説 (Section 13)
- 第十五週 総括

### 【事前・事後学修】

[事前学習]

毎回ごとに、該当ページに出てくる単語の意味を調べ、作品を訳出しておきましょう。単語及び文法確認テストの準備もして下さい。  
(週2-3時間)

[事後学習]

授業後は、物語の流れをもう一度確認し、テストについては間違った箇所の再確認をして下さい。(週2時間)

### 【テキスト・教材】

Ted Chiang 『*Stories of Your Life and Others*』 (New York: Vintage Books, A Division of Penguin Random House LLC, 2016)  
¥1,800-

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト20%、  
平常点30% (授業への積極的参加)、  
期末レポート50%

### 【注意事項】

必ず予習、復習を行いましょう。

## インテンシヴ・リーディング b

短編を読む

(SA)植野 達郎

2年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

Roald Dahlの短編とTruman Capoteの短編を読みながら、英語をきちんと読むことを学び、日本語との違いを学びます。

### 【授業における到達目標】

英語の読解力の経験値を高め、英文を正しく読み、その英文の内容を日本語で正しく表現するとともに、英米の文化を理解することを目指します。

### 【授業の内容】

- 第1週 イン트로ダクション
- 第2週 作品購読 58-59ページ
- 第3週 作品購読 59-61ページ
- 第4週 作品購読 61-63ページ
- 第5週 作品購読 63-65ページ
- 第6週 作品購読 65-67ページ
- 第7週 作家・作品紹介
- 第8週 作品購読 24-25ページ
- 第9週 作品購読 25-26ページ
- 第10週 作品購読 26-28ページ
- 第11週 作品購読 28-29ページ
- 第12週 作品購読 29-30ページ
- 第13週 作品購読 30-32ページ
- 第14週 作品購読 32-34ページ
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：テキストの該当箇所を精読し、しっかり調べます。(学修時間 週3時間)

事後学修：授業の内容を復習します。(学修時間 週1時間)

### 【テキスト・教材】

授業時に指示します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点 (授業に参加する態度、発表回数) 50%  
期末試験50%

### 【注意事項】

授業の前に必ず予習を行い、授業には積極的に参加すること。

**インテンシヴ・リーディング b**

社会・文化に関する英文を読む

(SD)稲垣 伸一

2年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

現代社会について解説した英文を読むことにより、リーディングの能力を高める。

**【授業における到達目標】**

文法事項の確認を行いながら、英文を正確に読むこと、できるだけ豊富な語彙を身につけることを目標とする。また、英語で書かれた内容を理解することにより、現代社会について考察することも目標とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODakシヨン
- 第2週 Unit 1 (現在完了)
- 第3週 Unit 2 (副詞節)
- 第4週 Unit 3 (形容詞+前置詞)
- 第5週 Unit 7 (接続詞、関係詞)
- 第6週 Unit 8 (形容詞、副詞)
- 第7週 Unit 11 (関係詞)
- 第8週 中間試験
- 第9週 Unit 12 (受動態)
- 第10週 Unit 13 (数量詞)
- 第11週 Unit 14 (派生語)
- 第12週 Unit 15 (形容詞Every, Any, All)
- 第13週 Unit 16 (前置詞To, For, With)
- 第14週 Unit 17 (名詞節)
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】次の授業で扱うUnitを予習する。(学修時間 週1時間)

【事後学習】授業でUnitの内容を復習する。(学修時間 週1時間)

**【テキスト・教材】**

授業初回に指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点(授業での発表等) 50%

試験(中間、期末) 50%

フィードバックは翌回以降の授業及びmanabaで行う。

**【注意事項】**

必ず予習すること。

中英和程度の辞書(本あるいは電子辞書)を必ず授業時に持参すること。スマートフォンのアプリ等は不可。

**インテンシヴ・リーディング b**

イギリス文学を読む

(SB)三井 淳子

2年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

チャールズ・ディケンズの“A Christmas Carol”を精読します。英語独特の表現や日本語との構文の違いをしっかりと把握し、読解力と語彙力を高めると同時に、作品の歴史的・文化的背景にも造詣を深め、作品を多角的な視点から鑑賞、分析する力を養います。

**【授業における到達目標】**

到達目標：英文を正確に読むと同時に、作品が書かれた当時の社会的背景にも造詣を深め、作品を様々な視点から読み解く力を養うことを目標とします。

ディプロマ・ポリシーとの関連：イギリスの文学作品を精読することにより、異文化圏への理解を深め、国際的な視野を養成する。精読という学修を通じて、自律的に学ぶ研鑽力を養う。

**【授業の内容】**

- 第1週： INTRODUCTION
- 第2週： 作品の背景について(ヴィクトリア時代のイギリス)
- 第3週： Chap. 1 (1) 序盤(～p.4)
- 第4週： Chap. 1 (2) 中盤(～p.8)
- 第5週： Chap. 1 (3) 終盤
- 第6週： Chap. 2 (1) 前半(～p.19)
- 第7週： Chap. 2 (2) 後半
- 第8週： Chap. 3 (1) 前半(～p.32)
- 第9週： Chap. 3 (2) 後半
- 第10週： Chap. 4 (1) 前半(～p.44)
- 第11週： Chap. 4 (2) 後半
- 第12週： Chap. 5 (1) 前半(～p.54)
- 第13週： Chap. 5 (2) 後半
- 第14週： 作品の背景について(ディケンズ)
- 第15週： まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学習：次回該当箇所の予習(週2時間)

事後学習：授業で扱った内容の復習(週1時間)

**【テキスト・教材】**

Dickens, Charles. “A Christmas Carol” (Oxford, Bookworms, 2008) ¥772

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点(授業貢献、課題提出など) 50%、定期試験(50%)で総合的に評価します。

フィードバックは翌回以降の授業時に行います。

**【注意事項】**

テキスト、辞書は毎回必携のこと。



**ウェディングコンサルティング演習**

阿部 マリ子

1・2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

**【授業のテーマ】**

ウェディングを取り巻くマーケットは、ブライダル施設だけではなく、さまざまなアイテム取扱い企業（ドレス・司会・ヘアメイク等）やその他のさまざまな環境から成り立っています。

新郎新婦と向き合うプランニングはもちろん、めまぐるしく変化するブライダルのマーケットや、トレンドのアイテムをある程度把握することも、ウェディングの業界では求められる事です。

この授業では、ブライダルのまさにトレンドを学び、より実務レベルで役に立つ「新規接客」や「プランニング」の力をつけていきます。

\*本授業はアクティブラーニングの手法を用いて行いますので受け身ではなく、主体的に参加して頂く必要があります。

ディスカッションや発表など毎授業実施します。

**【授業における到達目標】**

ウェディングにまつわる様々な知識を得た上で

【未来の自身のウェディングテーマ&ビジュアルボード】を完成させることにより、日本独特のウェディング文化への理解と共に、研鑽力、国際的視野、個々の感受性を高める。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 ウェディングマーケットのトレンド
- 第3週 ウェディングプランナーの役割
- 第4週 ウェディングを取り巻く一般常識
- 第5週 日本国内のウェディング施設
- 第6週 パーティ当日までの流れ
- 第7週 ウェディングの基礎知識（ドレス）
- 第8週 ウェディングの基礎知識（挙式）
- 第9週 ウェディングの基礎知識（招待状他ペーパーアイテム）
- 第10週 ウェディングの基礎知識（料理・ドリンク・ケーキ）
- 第11週 ウェディングの基礎知識（ヘア・メイク）
- 第12週 ウェディングの基礎知識（装花・コーディネート）
- 第13週 ウェディングの基礎知識（その他アイテム）
- 第14週 課題プレゼンテーション
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】ウェディングに関する雑誌やサイトを見て興味を持った内容について情報収集を行うこと。レポート・発表などの課題に取り組むこと。（学修時間週2時間）

【事後学修】提出レポートなどを復習すること。授業で紹介したサイトなどを見て復習し、専門用語等を理解しておくこと。（学修時間週2時間）

**【テキスト・教材】**

資料は授業内で配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業内小テスト30%・授業内レポート20%・授業態度20%・プレゼンテーション30%

**【参考書】**

授業内で紹介します。

**【注意事項】**

受講人数制限30名（制限人数を超えた場合、抽選）

**エアライン演習**

—思いやりを表現するために—

齋藤 明子・塩崎 純子

1年 後期 1単位

◎：協働力 ○：国際的視野、研鑽力

**【授業のテーマ】**

航空会社の事例を中心に「ホスピタリティマインド」とは何か、日常生活で日々目にしているさまざまなサービスや接遇の例を通しその基礎的な概念を学びます。

さらに、観光産業の一例として、主にエアラインを取り上げ求められる資質について考察すると共に、社会におけるコミュニケーション能力を高めるための具体的な知識の修得を目標とします。

**【授業における到達目標】**

ホスピタリティマインドやマナーを通じて、プロトコルを学び、DPに掲げた「国際的視野・共働力・研鑽力」を身につけて欲しい。

**【授業の内容】**

1. ホスピタリティ・マインドについての基礎知識
2. 基本のマナー：第一印象の重要性
3. 身だしなみ
4. 挨拶
5. 立ち居振る舞い
6. 言葉遣いの基本① 敬語の基本
7. エアラインの接客対応① サービスドリル（接客対応）
8. 面接対策①（基本動作）
9. エアラインの接客対応② サービスドリル（機内対応）
10. 言葉遣いの基本② 接遇話法
11. 面接対策②（集団面接）
12. 職場のマナー
13. エアラインのサービス（ビデオ視聴）
14. 演習
15. 解説

**【事前・事後学修】**

- ・事前学修 配付する資料を、次回授業までに予習しておくこと。（学修時間 約2時間）
- ・事後学修 講義内容を必ず復習をすること。（学修時間 約2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを使用します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験成績と平常点（授業への積極参加、小テスト、レポート、授業での表現力）で総合的に判断します。

配分基準：定期試験50%、平常点50%

試験結果は最終授業でフィードバックを行います。

**【参考書】**

適宜、授業中に紹介します。

**【注意事項】**

第1回目の授業で、授業スケジュールや注意事項などを発表します。

**エコビジネス演習**

菅野 元行

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

環境社会形成に伴う演習を幅広く行うことができます。具体的には、エコビジネスの事例研究などのプロジェクトの策定や、環境社会（eco）検定や3R・低炭素社会検定の問題演習を通して環境社会形成のための理解を深める授業内容について、履修生の希望に従い進めます。

**【授業における到達目標】**

①エコビジネスの事例研究などのプロジェクトの策定を通して、環境社会形成の方法を理解する。

②環境社会（eco）検定や3R・低炭素社会検定の問題演習を通して環境社会形成のための理解を深める。

以上により学生が習得すべき「研鑽力」「行動力」を身につけることを目的とする。

**【授業の内容】**

- 1 オリエンテーション
- 2 eco検定に対応した演習（温暖化）
- 3 eco検定に対応した演習（気候変動）
- 4 eco検定に対応した演習（オゾン層）
- 5 eco検定に対応した演習（生物多様性）
- 6 eco検定に対応した演習（国際的取り組み）
- 7 eco検定に対応した演習（各種条約）
- 8 eco検定に対応した演習（エネルギー）
- 9 3R検定に対応した演習
- 10 低炭素社会検定に対応した演習
- 11 プロジェクト（PJ）策定の流れ
- 12 エコビジネスPJの事例研究
- 13 エコビジネスPJの設定、調査
- 14 エコビジネスPJ提案発表・討論
- 15 振り返り・まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】各授業回に応じた準備学修を指示しますので、事前に取り組んでください。その際に分からない言葉は事前に調べておいてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】問題演習で分からなかった箇所については書籍やWebの検索により、周辺領域まで理解を深めてください。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

必要に応じてプリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業中のアクティビティ）80%、プロジェクトの発表内容20%。フィードバックは演習問題解答終了時やPJ提案発表の次の回に行います。

**【参考書】**

必要に応じて書籍を回覧します。

**【注意事項】**

※環境領域に関心があることが必要です。

※私語など他の受講者の迷惑となる行為を禁止します。授業の妨げになると判断した場合は、教室からの退席を求めることがあります。同様の理由により、授業開始後30分以上経過した後の入室を禁止します。その他の注意事項等の説明は初回の講義で行います。

※演習科目のため、履修生の積極性を重視します。演習科目で消極的な授業態度では力を伸ばすことができません。

※所属ゼミや学年は問いませんが、「生活ビジネスa（グリーンビジネス）」を修得・履修していることが望ましい。

## オーストラリア英語研修

1・2年 集中 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

## 【授業のテーマ】

この研修の目的は、オーストラリアメルボルンのストッツカレッジにおける英語研修と小学校におけるインターンシップ、ホームステイを通して、異国の言語と文化を体験し、参加学生の自立と英語力向上、視野の拡大を図ることにあります。

## 【授業における到達目標】

この科目の研修参加を通じて「国際的視野」、特に「多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度」を養います。また「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる」研鑽力や、「目標を設定して、計画を立案・実行できる」行動力の習得を目指します。

## 【授業の内容】

- 2019年2月頃。約1ヶ月間。
- 英語レッスン：現地の英語学校のクラスで受講
- アクティビティ：メルボルン市内見学
- インターンシップ：日本語教育を行っている地元小学校で、ティーチングアシスタントとして、第4週に5日間授業補助のインターンシップを行う。
- ホームステイ（3食込み）

## 【事前・事後学修】

事前学修：現地の英語クラスでは、あらかじめ指定された範囲の英文を読み、出された課題を解き、単語をチェックしておいてください。

事後学修：研修終了後に研修報告書を作成してください。

## 【テキスト・教材】

必要な資料は現地英語クラス内で配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

以下の資料に基づき選択科目として2単位が認定されます(100%)

- ①事前指導参加度
- ②現地での調査課題達成度
- ③現地英語レッスン参加度
- ④ホームステイ先での生活マナー
- ⑤ストッツカレッジ英語クラスの修了証

英語レッスンの教師から英語習得についてフィードバックがあります。

## 【注意事項】

①この科目履修は、1年生も2年生も専門教育科目「オーストラリア文化事情」「研修プレップ英語」の修得見込みが条件です。

②リスクマネジメントのために共通教育科目「海外研修」を履修することを強く勧めます。

③英会話練習のため「Workshop A～F」の履修を強く勧めます。

④事前指導参加態度が悪いと参加が認められなくなります。

⑤参加終了後に「研修報告書」を提出してもらいます。

⑥本研修は、GPAの成績によって応募できないこともあるので、履修要項を確認してください。

## オーストラリア文化事情

三田 薫

1年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探求、研鑽力

## 【授業のテーマ】

この授業ではオーストラリアのメルボルンに滞在することを想定して、その地で異文化交流するためのポイントを学んでいきます。私たち日本人はオーストラリアについてどんなイメージを持っているでしょうか。昼間はカンガルーやコアラとたわむれ、夕食は毎晩オージービーフのステーキ、マリンスポーツで遊んで暮らせる天国のような国というイメージを持っているとしたら、オーストラリア人に「それは違う」と言われてしまいます。そういった思い込みをできるだけ軌道修正しておきましょう。

滞在する国の文化を学ぶことはもちろん欠かせませんが、それと同時に自国の文化を知り、相手の国の人が日本について何を知らず何を考えているのかについて知っておくことも重要です。幸い海外には「日本が大好き」「日本はクール」と言ってくれる人がたくさんいます。そういう人たちの期待にこたえる異文化交流、日本紹介ができるようになりたいものです。

オーストラリアは世界中の人を受け入れ共存する道を模索している多文化主義の国です。研修で滞在するメルボルンでは、ESLクラスやホームステイ先、街中で、さまざまな国籍や文化の人と出会う機会があります。この授業で知識を深め、近い将来にオーストラリアを実際に訪れて、ぜひマルチカルチュラルな生活を体験してください。

## 【授業における到達目標】

この授業では、オーストラリアの生活、文化、社会について幅広く学ぶことにより、「国際的視野」、特に「多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度」を養うことを目指します。また「人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度」（美の探求）や「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる」研鑽力も養っていきます。

## 【授業の内容】

1. 異文化理解とは相手を知り、自分をより深く知ること
2. 国際色豊かな街、国際的イベントで賑わうメルボルン
3. 交通機関と公共施設の利用法
4. ホームステイ、水の使い方、病気の時は
5. ショッピングと防犯
6. 世界各国料理 グルメの街メルボルン
7. メルボルンでカフェ文化が発達した理由
8. オーストラリアの大自然
9. オーストラリアの小学校教育
10. 捕鯨問題：なぜあれほど反発されるのか
11. オーストラリアの高等教育
12. アボリジニーと移民の歴史、永住権取得
13. 太平洋戦争に対する各国の受け止め方
14. ESLクラスと文法用語
15. 学生レポート発表

(順序が変更になることがあります)

## 【事前・事後学修】

事前学修：各回の授業内容について、あらかじめ文献を読み理解を深めておいてください。

事後学修：授業の最後には「確認テスト」のmanabaでの受験、授業後にオンラインレポートを毎回提出します。その他に、学期末レポートを提出します。(事前・事後合わせて週4時間以上)

## 【テキスト・教材】

教材は必要に応じて配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度20%、確認テストとオンラインレポート40%、学期末レポート40%

オンラインレポートと学期末レポートのフィードバックを翌週の授業で行います。

**【注意事項】**

「オーストラリア英語研修」参加者およびいつかオーストラリアに行ってみたい学生向けの授業です。「オーストラリア英語研修」参加者は必ず受講してください。

## オープン講座 a

東京2020オリンピック・パラリンピック連携講座

深澤 晶久

1年～ 前期 2単位

### 【授業のテーマ】

- ◆東京2020オリンピック・パラリンピック連携講座とし、いよいよ2年半後に迫った開幕に向け、パートナー企業や組織委員会とも連携した特別講座とします。
- ◆前半では、大会のコンセプトである「多様性と調和」が求められる中で、観光産業・旅行業界のビジネスに関わる人材として必要な幅広い知識・技能を学び、自らの夢と可能性を広げるために、将来に向けて社会でどう生きていくのかを学びます。
- ◆後半では、大学生に期待がかかるボランティアについて、その概要や、必要な知識などについて学ぶことで、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に対する理解を深めます。
- ◆2年生から4年生の履修も歓迎します。

### 【授業における到達目標】

- ◆前半「オリンピック・パラリンピックと観光産業」  
ビジネスの現場や観光産業構造・マーケット事例などを学び、グループワークやプレゼンテーションなどを通じて創造力や企画力を高め、社会人として求められる主体性・課題解決力・コミュニケーション能力・異文化理解などの力を磨きます。
- ◆後半「東京2020におけるボランティアについて」  
その規模10万人とも言われるボランティアについて、その概要を学び、行動への第一歩を支援します。
- ◆ディプロマポリシーに照らし合わせた時、国際的視野・行動力の向上に結びつけることとします。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション(講座説明・自己紹介等)
- 第2週 観光産業・旅行会社について知る  
「ツーリズムビジネスと東京2020オフィシャル旅行サービスパートナーとしての役割」
- 第3週 インバウンド・訪日外国人へのおもてなしを知る  
「接遇について、異文化についての理解、インバウンド旅程管理とは」
- 第4週 ユニバーサルツーリズムを学ぶ  
「高齢者・障がい者など、誰もが楽しめるツアーとは何か、そのプランニングについて」
- 第5週 東京2020に向けた自治体との取組みについて学ぶ  
「旅行会社の視点からのアクセシビリティサポートとは」
- 第6週 グループワークに向けての課題設定
- 第7週 課題解決に向けたグループワーク①
- 第8週 課題解決に向けたグループワーク②
- 第9週 プレゼンテーションと企業からのフィードバック
- 第10週 「オリンピック・パラリンピックと観光産業」総括
- 第11週 東京2020大会のボランティアの概要
- 第12週 ボランティアの種類と必要な知識や経験について学ぶ
- 第13週 ボランティアの講演と体験
- 第14週 レポート作成
- 第15週 講座のまとめと総括

### 【事前・事後学修】

- ◆新聞、書籍などを読むなど、観光産業・旅行会社に関する動きについて情報にアンテナを張り巡らす習慣をつけて下さい。
- ◆東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に関心を持ち、とりわけボランティアに関する情報の収集を心がけて下さい。
- ◆事前・事後それぞれ週2時間の学修時間とします。

### 【テキスト・教材】

- ◆テキスト・教材は適宜配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(取組姿勢・感想文・小レポートなど)	70%
レポート	30%

フィードバック 授業内で前週の振り返りを行うとともに、manmabaアンケートにて総括的なフィードバックを行います。

### 【注意事項】

- ◆この講座では、レクチャー形式ではなく、グループワークを基本とした参加型の講座を目指します。
- ◆東京2020大会のボランティアに関心のある学生の履修を希望します。2～4年生の履修も大歓迎です。
- ◆募集人数は40名です。

### 【選考方法】

4月2日(月)から教務課窓口にてエントリーシートを配布します。履修希望者はあらかじめ記入し、初回授業当日に教員に提出、選考を受けて下さい。選考結果は、翌日に掲示およびWeb履修に自動登録されます。

**オープン講座①**

4年制大学進学のための小論文

三浦 宏文

1・2年 後期 1単位

◎：研鑽力

**【授業のテーマ】**

この講義は、4年制大学への編入試験対策として、小論文の考え方や書き方を学んでいき、同時に一般社会人として必要な論理的思考力と表現力を鍛えていく講座です。

**【授業における到達目標】**

(1)名門4年制大学の編入学試験に合格できる思考力と文章力を身に付けます。(2)社会人になる上で必要な論理的思考力と文章力を身に付けます。

**【授業の内容】**

私たちは、日本語を母語として生活しており、4年制大学へ進学する編入学試験ではもちろんのこと、社会人として働いていく上でも論理的な思考力と表現力は必要とされ続けます。この講義では、そういったこれからずっと必要とされ続けていく論理的思考力と表現力を養成していきます。具体的には、実際の編入学試験の過去問を使って一つのテーマについて考え、自分なりの意見を論理的にまとめたり、映画やテレビドラマを観てそれについて論じたりして、論理的思考力と表現力のトレーニングをしていきます。

<スケジュール>

- 第1週 ガイダンス・私という人間(思考の準備運動(1))
- 第2週 スマートフォンを考える(思考の準備運動(2))
- 第3週 文章表現・論理の基礎(1)表記のルール
- 第4週 文章表現・論理の基礎(2)文体・表現のルール
- 第5週 文体表現・論理の基礎(3)論理的文章のルール
- 第6週 読解力・記述力養成(1)テーマ型小論文演習
- 第7週 読解力・記述力養成(2)課題文型小論文演習
- 第8週 映画・ドラマを論じて見る(1)テレビドラマと倫理
- 第9週 読解力・記述力養成(3)図表資料型小論文演習
- 第10週 論理のトリックを見抜く
- 第11週 4年制大学編入試験過去問演習(1)実践女子大学各学部
- 第12週 4年制大学編入試験過去問演習(2)日東駒専等中堅大学
- 第13週 4年制大学編入試験過去問演習(3)早慶MARCH等難関大学
- 第14週 映画・ドラマを論じて見る(2)映画と現実
- 第15週 講座のまとめ

**【事前・事後学修】**

- ・事前学修 参考文献や関連書籍の調査をしておいてください。(学修時間週2時間)
- ・事後学修 授業内で与えられた課題は、必ず指定した期日までに提出してください。(学修時間2~3時間)志望校が確定したら、その志望校の過去問題も積極的に取り組んでください。過去問題の入手方法や、問題の解き方に関しては個別に相談に乗ります。

**【テキスト・教材】**

特定のテキストは使わず、随時プリントを配布したり板書して説明したりして進めていきますので、ノートやプリントを保存するファイルは準備しておいて下さい。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- ・成績評価の方法 定期テスト50%。授業中に与える課題30%。講義中の発言・発表・コメントシートの提出点20%。
- ・成績評価の基準 4年制大学編入試験に合格できる読解力・表現力が身につけているかで判断します。
- ・フィードバック 提出課題やコメントシート、及び定期テストは必ず添削を加えて返却し、必要があれば書き直しを指示します。

**【参考書】**

吉岡友治『大学院・大学編入学 社会人入試の小論文 改訂版 思考のメソッドとまとめ方』（実務教育出版2013年）1836円  
樋口裕一『まるごと図解 面白いほど点が取れる小論文』（青春出版2008年）1382円

**【注意事項】**

- ・受講人数制限50名（制限人数を超えた場合、抽選）

**オープン講座②**

大学編入試験 英語対策講座

後藤 英一郎

1・2年 前期 1単位

◎：研鑽力

**【授業のテーマ】**

この講座は、4年生大学への編入学試験を目指している学生を対象にしたものです。大学編入試験の中で最も重要な科目は英語になります。そこで、これまでに出题された編入試験での英語の問題の傾向を踏まえて、読解と解法の両方の技能を身につけながら編入試験に合格する実践力を効果的に磨いていきます。

なお、本講座では大学編入試験で出題が予想されるレベルの英文を扱うことになります。具体的には、センター試験で150点程度、英検2級程度の英語力が必要となります。1年生・2年生問わず、大学編入学を希望する意欲的な学生の参加を望みます。志望大学の合格を目指して頑張ってください。

**【授業における到達目標】**

中堅から上位大学への一般編入試験の合格レベルまで英語力を上げて行きます。主に国公立大学、私立は学習院・明治・青山学院・立教・中央・法政・フェリス女子・東京女子・日本女子・共立女子といった大学を目標とします。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション、編入学試験の英語の傾向と対策
- 第2週 長文読解の技能 演繹法構造
- 第3週 長文読解の技能 帰納法構造
- 第4週 長文読解の技能 一般論・特別論構造
- 第5週 長文読解の技能 比較構造
- 第6週 長文読解の技能 内容説明構造
- 第7週 英文和訳問題の解法(構文和訳①)
- 第8週 英文和訳問題の解法(構文和訳②)
- 第9週 要約問題の解法(単一パラグラフの要約)
- 第10週 要約問題の解法(複数パラグラフの要約)
- 第11週 下線部説明問題の解法(指示語)
- 第12週 下線部説明問題の解法(同意語)
- 第13週 客観問題の解法(空欄補充、パラフレーズ)
- 第14週 客観問題の解法(内容一致)
- 第15週 総合問題の解法

**【事前・事後学修】**

- ・事前学修：事前に授業資料を配付するので、予め自身で英文の内容を大まかに理解しながら英文を読み、併せて設問の解答を検討してください。(週1時間)
- ・事後学修：受講生の志望学部や大学などの個別事情に対応しつつ参考書や出題校などを紹介して、そのつど学修方法を指示します。(週1時間)

**【テキスト・教材】**

毎回、授業にて別途配付し指示します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験50% 課題30% 平常点(授業への積極参加)20%  
また、15回の半ばあたりで理解度チェックテストを実施いたします。課題、テストは次回にフィードバックします。

**【参考書】**

授業内にて、編入試験対策として有用な参考書、問題集等について紹介いたします。

**【注意事項】**

受験直前の2年生はもちろんのこと、特に1年生の受講を強く推奨します。英語はすぐに身につくものではありません。合格レベルまで達するには1年以上の継続的な学習が必要となるからです。

受講人数制限50名(制限人数を超えた場合、抽選)

### オープン講座③

渋谷研究入門

松尾 昇治・三田 薫

1・2年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：行動力、協働力

#### 【授業のテーマ】

大都市東京にある大学に通学する学生として、文化の発信拠点としての「渋谷」の知識を自然に身につけられる内容になっています。自分たちが通い、遊び、楽しむ、日本の代表的な街「渋谷」を知ることをテーマに授業を組み立てています。各分野の講師に「渋谷」を素材として「まち」を知るということについて学びます。

#### 【授業における到達目標】

授業で学んだ内容を生かし、それぞれの地域で様々な活動に積極的に参加することができるように、下記の点を到達目標として考えています。

- (1) 渋谷についての知識を身に付ける。
- (2) 渋谷で行われている地域の各種活動に参加し、学んだ知識を生かしてみる。
- (3) 自分たちの住んでいる地元の「まち」について、授業で学んだことを基本にして調べてみる。

#### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション、渋谷の江戸から戦後までの変遷
- 第2週 盛り場渋谷の歴史（特別講師）
- 第3週 盛り場渋谷の今（特別講師）
- 第4週 渋谷文化と再開発、交通（特別講師）
- 第5週 渋谷の行政・経済（特別講師）
- 第6週 渋谷と文学（特別講師）
- 第7週 渋谷の美術館（特別講師）
- 第8週 渋谷のカルチャーと観光スポット（特別講師）
- 第9週 渋谷と神々（特別講師）
- 第10週 渋谷の地域資料
- 第11週 渋谷と下田歌子と実践女子学園（特別講師）
- 第12週 2グループで別エリアをフィールドワーク
- 第13週 2グループ交替して別エリアをフィールドワーク
- 第14週 フィールドワークの発表準備
- 第15週 2グループの成果発表

※授業の順番は都合により変わります。

#### 【事前・事後学修】

〔事前学修〕 通学路を往復するだけでなく渋谷駅あるいは表参道駅とキャンパスとの間で、普段とは違う道を歩いてみてください。新しいものもしくは授業で聞いた場所・モノなどに気が付いたら写真を撮っておいてください。（週1時間）

〔事後学修〕 渋谷区内で行われている様々な活動を参観するなどして、渋谷についての知見・発見を深めましょう。（週1時間）

#### 【テキスト・教材】

- ・資料は担当される先生方がプリントを配付します。
- ・テキストは指定はしませんが、渋谷に関する図書など読んでみてください。

#### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・評価方法・基準  
授業態度：20%、授業中個人レポート提出(manaba)：30%、学期末発表：50%
- ・毎回担当講師が変わります。質問等は次の授業で本学担当教員より回答します。
- ・提出されたレポートにコメントを記しフィードバックします。
- ・授業中や授業外に提出された個人レポートの中から、興味深いものについては発表の機会を設ける場合があります。

#### 【参考書】

- 『渋谷学』石井研士著 弘文堂 2017 本体¥1,500  
『渋谷・実践・常磐松 ～知っていますか過去・現在・未来』井上一雄著 ブイツーソリューション 2017 本体¥926 (Kindle版有)

#### 【注意事項】

- ・受講人数制限40名（制限人数を超えた場合、抽選）

### オープン講座④

楽しい数学の基礎

村山 真一

1・2年 後期 1単位

◎：研鑽力

#### 【授業のテーマ】

身近な問題を取り上げ、基本的な数的処理について学びます。公式に当てはめるといった機械的な扱いではなく、数及びその計算の持つ意味をしっかりと理解することによって、得られた情報からの確に問題を解決する方法を学びます。SPI にも役に立つはずです。

#### 【授業における到達目標】

- ・数式やその計算の意味をよく理解し、慣れ親しむことができる。
- ・与えられた条件を正しく理解し、問題を解決できる力を修得する。
- ・身近な数、特に確率や統計などに関しても、その意味、本質を自ら臆することなく探求できる。

#### 【授業の内容】

- 第1週 単位当たりの量
- 第2週 様々な割合
- 第3週 方程式の基本とその考え方
- 第4週 方程式の利用1（基本）
- 第5週 方程式の利用2（日常生活の中で）
- 第6週 数え上げの方法1（基本）
- 第7週 数え上げの方法2（煩雑な場合）
- 第8週 数学的確率と統計的確率
- 第9週 確率を求める1（基本）
- 第10週 確率を求める2（応用）
- 第11週 資料の整理とその読み取り
- 第12週 座標と方程式
- 第13週 座標と領域
- 第14週 集合
- 第15週 まとめ

#### 【事前・事後学修】

- ・事前学修  
次回扱う問題の内容をよく理解し、どのように解くのかを考えておくこと。解ける問題は解いてみること。（学修時間 週1時間）
- ・事後学修

授業で扱った内容（基本的な公式や考え方）を復習し、授業で扱った問題は必ず解くことができるようにしておくこと。毎日最低でも30分位欠かさずに学修すること。

#### 【テキスト・教材】

プリントを使用する。

#### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト40%、試験60%、で総合的に評価します。小テストは次の授業でフィードバックします。

#### 【参考書】

授業中に紹介します。

#### 【注意事項】

- 数学が苦手な人、歓迎です。  
受講人数制限50名（制限人数を超えた場合、抽選）

## オープン講座⑤

－就職対策講座－

板倉 文彦

1年 後期 1単位

○：研鑽力、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

本学で学んだ実践力を企業等の組織で生かしていくためには、まずは就職活動に挑む必要があります。この科目では、その活動に必要なスキルを、キャリアセンター開催の就職対策講座を受講することで身に付けていきます。

この講義を受講することで、就職活動の準備を整えることができます。

■本講義と実践的な演習を行う「キャリアプロジェクト」を受講することで、就職対策を万全なものにすることができます。

### 【授業における到達目標】

社会において現状を正しく把握し課題発見できる「行動力」と、知を探究し学び続ける「研鑽力」を修得することができます。

また、組織での立居振舞を通して他人と協働する力も身に付けることが可能です。

### 【授業の内容】

第1週 ガイダンス

<第2週～第14週 キャリアセンター開催の就職対策講座受講>

第2週 採用試験解説と基礎学力ミニテスト

第3週 筆記試験対策①（計算力を問われる問題）

第4週 筆記試験対策②（論理的思考力を問われる問題）

第5週 筆記試験対策③（応用力を問われる問題）

第6週 筆記試験対策④（実践問題演習）

第7週 自己分析

第8週 自己PRの方法

第9週 業界・企業研究方法

第10週 就活書類の書き方

第11週 ビジネスマナー①（基本のマナー）

第12週 グループディスカッション対策

第13週 面接対策

第14週 ビジネスマナー②（自己表現法）

第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：SPI について、苦手分野を中心として取り組む（週1時間以上）

事後学修：SPI についての講座の場合は、演習問題等を復習する。  
その他の講座の場合は、自身の希望する企業に当てはめてシミュレーションを行う（週1時間以上）

### 【テキスト・教材】

必要に応じて資料を配付します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極的な取り組み）80%、課題（レポート）20%  
提出課題については授業最終回にフィードバックを行う。

### 【注意事項】

- ◆欠席や遅刻は厳禁とし、節度ある態度で授業に臨むこと。
- ◆各回の講座の意義を理解し、主体的に取り組むこと。
- ◆授業内容の順番や内容が、一部変更になる場合があります。



## カウンセリング演習

大内 佑子

2年 後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、協働力

### 【授業のテーマ】

心の健康の保持増進は社会的に大きな問題となっている。本講義は、心理学の専門知識を学び基礎的技術を身につけた学生を対象として、それらを自主的・継続的に深めて学び続けるための方法や、自身や他者の心の健康のために積極的に活用していくための実践的な方法について体験的に学ぶ。

### 【授業における到達目標】

心理に関する専門知識、技術と倫理観を持つ心理の専門家として、心理に関する支援を要する者を理解し、コミュニケーションや問題解決の豊かな能力を発揮して、そうした人々への援助活動を多様な領域においても各種の専門家及び非専門家と協働してかつ主体的に実践できるようになる。

### 【授業の内容】

- 第1週 イントロダクション：心の健康とカウンセリング
- 第2週 カウンセリングの前に：対人援助のための準備
- 第3週 コミュニケーションの基本実践
- 第4週 相手を理解する：観察法
- 第5週 相手を理解する：検査法
- 第6週 相手を理解する：面接法
- 第7週 相手を援助する：臨床心理学モデルの概説
- 第8週 相手を援助する：アセスメントの知識
- 第9週 相手を援助する：アセスメントの実践
- 第10週 相手を援助する：目標設定
- 第11週 相手を援助する：技法の実践
- 第12週 相手を援助する：フィードバック
- 第13週 援助の拡充：他職種協働のための基本的態度
- 第14週 援助の拡充：地域連携の方略
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】関連する文献を参照し講義で出す課題に取り組む（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義内容を中心に知識を復習する（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

プリントを配布する

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（ロールプレイやワークなどへの積極的参加・提出課題の評価）60%

期末課題40%

各回において全体への課題内容についてのフィードバック等を行う

### 【参考書】

毎回の講義内で各テーマに応じて紹介する

### 【注意事項】

履修に際し他の講義で学ぶことができる心理に関する基礎的専門知識を有していること。

講義内ではペアやグループワーク、ディスカッションを多用する。そのため基本的に全ての講義回への出席と、遅刻早退などをせず他の受講生と強調して学びを深める積極的な参加態度を求める。授業内でのリアクションペーパーへの記載、また授業時間外に取り組むレポート課題を課す。

## カウンセリング基礎

田中 佑樹

2年 前期 2単位

◎：協働力

### 【授業のテーマ】

カウンセリングの主要な理論や技法について概説し、人の心を理解し援助するアプローチとはどのようなものであるかについて学ぶ。また、心の健康教育の一環として、日常的に経験するストレスについての理論や対処の考え方も紹介する。このような学習の中で、カウンセリングの基礎知識を日常に活かし、自己および他者理解につながる視点をもてるようになることを目指す。

### 【授業における到達目標】

- ・代表的な心理療法ならびにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応および限界について理解する
  - ・クライアントとの関係形成を念頭に置いた、良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法の基礎について学ぶ
  - ・多様なカウンセラーの職域（訪問支援、地域支援、および心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援を含む）、および職業倫理（クライアントとの関係性、プライバシーへの配慮等）について理解する
- 学生が習得するべき「協働力」のうち、互いを尊重し信頼を醸成して、豊かな人間関係を構築する能力を高めることをめざす。

### 【授業の内容】

- 第1週 カウンセリングとは
- 第2週 カウンセリングのプロセス
- 第3週 傾聴技法
- 第4週 クライアント中心療法
- 第5週 構成的グループ・エンカウンター
- 第6週 精神分析
- 第7週 交流分析
- 第8週 行動療法
- 第9週 認知行動療法
- 第10週 カウンセラーの職域
- 第11週 カウンセラーの職業倫理
- 第12週 ストレスとは何か
- 第13週 ストレス対処の考え方
- 第14週 リラクゼーション法
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：次回のテーマについて、関連書籍などにあたり、問題意識をもって授業に臨めるようにすること（週2時間）。

事後学修：各回の内容および小テストを復習し、内容の理解を深めること（週2時間）。

### 【テキスト・教材】

テキストは指定しない。必要な資料は授業中にプリントとして配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・平常点（小テスト・小レポートなど）20%
- ・最終試験80%

小テスト、小レポートは次回授業時にフィードバックする。

### 【参考書】

講義内で必要に応じて紹介する。

### 【注意事項】

講義形式のみではなく、適宜グループでの話し合いやグループワークも取り入れながら、学習を進めていく。積極的に授業に参加する態度が望まれる。

## カリキュラム論 a

小学校における教育課程の意義及び編成の方法、評価を学ぶ

南雲 成二

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

### 【授業のテーマ】

「カリキュラム論a」は、教育職員免許法に定められた小学校一種免許状取得のために「教職に関する科目」群のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」に該当するものである。小学校における教育課程の意義及び編成の方法（評価・改善含）について理解することをねらいとする。

授業の主なテーマは、次のとおりである。

- ①教育課程（カリキュラム）の意義について学び、理解を深める。
- ②教育課程の歴史的変遷を踏まえ、各期の「学習指導要領の特徴と重点」をとらえる。
- ③教育課程の編成原理と教育実践の関わりについて理解を深める。「学び手も教え手も共に納得のいく学習構成の原理と方法研究」への理解も併せて深める。（教科書・教材の持つ機能の理解）
- ④学習指導要領に示された第1～6学年までのグランドデザインについての知見を高め、学習指導要領の要点理解を深める。中教審最終答申第197号の理解。（教育課程の評価・改善、教育課程開発と教師の役割、教育実践の意味と課題をとらえる。）
- ⑤幼保小連携と小中（高）一貫、高大接続を視野に入れた教育課程の探究。アクティブラーニングやデューラーニングについての基礎学習。

### 【授業における到達目標】

授業のテーマ「要点①～⑤」について、①②を土台に③と④と⑤について知識・理解を深め、第3学年の後期に控える「小学校教育実習4週間」と「幼稚園教育実習2週間」の基盤整備と実践現場への適応・最適化が図れるようにする。該当学年や担当クラスの学習内容や成長課題に対する教師の指導・支援内容の具体を修得する。また、学生が修得すべき「行動力」①現状を正しく把握し、課題を発見できる力と、③プロセスや成果を正しく評価し、課題解決につなげることができる力を修得する。

### 【授業の内容】

- 第1回 教育の目標とその計画、教育課程（カリキュラム）の意義
- 第2回 教育課程の法制①（学校教育法、学校教育施行令）
- 第3回 教育課程の法制②（学校教育施行規則）及びこれからのこれまでの状況把握 文科省『中央教育審議会最終答申』（平成28年12月21日第197号と補足資料）に学ぶ
- 第4回 教育課程の歴史的変遷～明治から昭和初期の教育課程～（幼稚園教育要領と小学校学習指導要領を中心に）
- 第5回 戦後の教育課程の変遷～戦後7回の学習指導要領の改訂内容と新学習指導要領の主要観点から学ぶ～
- 第6回 教育課程の内容（1）…方針、共通的な内容の取扱い
- 第7回 教育課程の内容（2）…授業時数の確保、総合的な学習の時間、教科「道徳」「特活」「外国語（英語）」等
- 第8回 教育課程の内容（3）…指導計画の作成。教育課程実施上の配慮事項や編集の手順について。
- 第9回 教育課程の評価・改善…（内部・関係者・第三者による学校評価～現状と課題（母校・実習校のHPを具体例に…）
- 第10回 「道徳」「特別活動」の教育課程編成と各学年教育実践。
- 第11回 「総合的な学習の時間」「外国語（英語）活動」の教育課程編成と各学年の授業実践（学級・学年経営デザイン）
- 第12回 学習指導要領に基づく小学校1年生から3年生までの教育課程編成と授業実践、及び学年・学級経営の課題
- 第13回 学習指導要領に基づく小学校4年生から6年生までの教育課程編成と授業実践、及び学年・学級経営の課題
- 第14回 教育課程（カリキュラム）の今日的課題と改革動向の理解 <中教審最終答申第197号と教育課程審議会の動向に注目>
- 第15回 今までの初等教育カリキュラム編成とこれからのカリキュラム編成について考察を深める。（ペダゴジーモデルとアンドラゴジーモデルの比較検討、状況的学習論、拡張的学習論、省察的学習論と学校教育カリキュラムの可能性を考

える。小学校教育におけるアクティブラーニング、デューラーニングと教育課程編成を展望する。）

### 【事前・事後学修】

【事前学修】教育方法・技術、特別活動、道徳、児童指導法、教科教育法、教育学演習等の学習内容と関連して考察を深める。既習事項の整理整頓とテキストの要点把握や発表資料の作成、課題レポートに積極的に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】レポートや学習資料への指摘内容をヒントに復習を深める。テキストや補助資料を基に次回の授業範囲を予習し、内容把握を基に自分の考え・意見をまとめておくこと。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

- ・文部科学省編『小学校学習指導要領及び解説編』（2008年版を基礎とし2017年版を修得。2017年版対応の新解説編は未刊）
  - ・国立政策研究所編『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 小学校編』（教育出版社 2011版を活用）
  - ・文部科学省編『幼稚園教育要領』（2017版）
  - ・中央教育審議会最終答申「第197号」（2016.12.21 文部科学省）
- ※学習指導要領の移行措置期間中の為、テキスト・教材についての詳細は授業時に説明・指示します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極的な参加及び発表・交流学习への参加態度）50%、課題レポートへの取り組みや発表内容、ポートフォリオの創意工夫50%で、総合的に評価する。実施した小テストやミニレポートは次回授業、課題レポートやポートフォリオは、まとめの授業や最終授業で解説し、フィードバックを行う。

### 【参考書】

- ・安彦忠彦『改訂版 教育課程編成論』放送大学教育振興会：2006
- ・柴田義松編『教育課程論』学文社：2008
- ・田中耕治編『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房：2009
- ・田中耕治編『新しい時代の教育課程（改訂版）』有斐閣：2009
- ・天笠茂『カリキュラムを基盤とする学校経営』ぎょうせい：2013
- ・佐藤学・秋田喜代美他・志水宏吉他編集 岩波講座『教育変革への展望全7巻』2017.2完結

### 【注意事項】

- ★3年次「小学校教育実習（4週間）」と「幼稚園教育実習（2週間）」で、教育課程（カリキュラム編成）の実際を体験を通して学ぶ。この体験的学びと、出身小学校等のHP視聴を通し、子どもの生活実態・学習実態と直接むすぶカリキュラムデザイン（教育課程の評価・改善）のあり方と教師の仕事について考察を深める。
- ★2年次履修の『児童教育法』『特別活動』『道徳』、3年次までに履修の『各教科教育法』、4年次履修『教職実践演習』の演習内容と深く関連。学習記録の相互活用に積極的に取り組む。この2点の強化徹底が、教員採用試験の一次二次対策に直結する。

## カリキュラム論b

田中 正浩

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

## 【授業のテーマ】

本授業では、乳幼児期にふさわしい生活がより充実し、一人ひとりの心身の発達が助長されるための教育課程・保育課程とはどのようなもので、また、その編成について理解を深める。さらに、指導計画（長・短期）の作成、展開、改善までを含め、実践例をもとに理論面への理解を深めながら、幼稚園や保育所での実習を視野に置き、指導案作成の基礎・基本を身につける。

## 【授業における到達目標】

本授業では、教育課程・保育課程、さらに指導計画の意味、意義、編成・作成の実際に関する基礎・基本について理解でき、保育の計画、実践、評価、改善のプロセスについて全体像を把握できることを最終的な目標とする。

## 【授業の内容】

- 第1週 保育における計画の意義
- 第2週 保育における計画の歴史的変遷
- 第3週 幼稚園における教育課程
- 第4週 幼稚園教育要領と教育課程
- 第5週 保育所における保育課程
- 第6週 保育所保育指針と保育課程
- 第7週 教育課程・保育課程に関する法的基準
- 第8週 教育課程・保育課程の編成
- 第9週 多様な教育課程・保育課程
- 第10週 指導計画作成の手順－年間－
- 第11週 指導計画作成の手順－期間－
- 第12週 指導計画作成の手順－月案－
- 第13週 指導計画作成の手順－週案－
- 第14週 指導計画作成の手順－日案－
- 第15週 総括

## 【事前・事後学修】

事前学修…小テスト・レポート・発表等の課題に取り組む。

(学修時間 週2時間)

事後学修…小テストの解答と解説、発表等に対する指摘について振り返り、確認する。テキストや資料プリントの次回授業範囲を読み、専門用語や人物について調べ、自分なりに理解しておく。(学修時間 週2時間)

## 【テキスト・教材】

文部科学省『幼稚園教育要領解説』  
 厚生労働省『保育所保育指針解説書』  
 内閣府、文部科学省、厚生労働省  
 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』  
 ※テキストについては、確定次第、指示する。

その他、資料プリントを適宜、配付する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト(20%)、試験(60% ※テキスト、資料プリント、ノートを持ち込みは不可)、平常点〔授業態度・課題提出〕(20%)  
 実施した小テストは次回授業、試験は最終授業で解説し、フィードバックを行う。

## 【参考書】

適宜、紹介、指示する。

## 【注意事項】

授業形態は講義形式となるが、極力、双方向的な授業となるように常に問いを発信し、発言を求めていくので、積極的に参加してほしい。

## キッズイングリッシュ

三田 薫

1・2年 前期 1単位

◎：行動力 ○：国際的視野、協働力

## 【授業のテーマ】

この授業では幼稚園、小学校、英語教室などで、子供に英語を教える方法を学んでいきます。年齢に合わせた英語指導法、子供を飽きさせない工夫、歌や絵本、ゲームやカードの活用法を学習し、模擬授業を行います。

また教師にならなくとも将来自分の子供と一緒に英語を楽しむコツ、高額教材を買わなくとも家庭で手軽にできる英語学習法、良い英語教室の選び方を紹介します。子供たちの不安を取り除き、子供たちが英語を好きになるきっかけとなれるようしっかり学び、楽しく練習していきましょう。

## 【授業における到達目標】

この授業で児童英語教育の様々な手法を学ぶことにより、児童の興味や発達段階に合わせて指導する力を身につけます。それを基にして行動力、特に現状を正しく把握し、課題を発見できる力や、目標を設定して、計画を立案・実行できる力の修得を目指します。また多様性を受容し、多角的な視点を以って世界に臨む態度（国際的視野）や、相互を活かして自らの役割を果たす力（協働力）の養成につながるようグループ活動を行います。

## 【授業の内容】

1. カードの効果的な使い方1（チャンツと組み合わせる）
2. カードの効果的な使い方2（ゲームと組み合わせる）
3. 歌による音声教育1（無理なく参加させる導入法）
4. 歌による音声教育2（遊び歌の活用法）
5. TPRの指導法1（その効果）
6. TPRの指導法2（導入法）
7. 子供の集中力を持続させる活動（ゲームやタスク）
8. 発音練習（母音と子音の弱点克服）
9. 絵本の読み聞かせ1（本の種類と導入法）
10. 絵本の読み聞かせ2（CDの活用）
11. Phonicsの教材と指導法
12. Phonemic Awarenessの教材と指導法
13. 外国の児童英語教育
14. 模擬授業（準備）
15. 模擬授業（発表）

（順序が変更になることがあります）

## 【事前・事後学修】

事前学修：あらかじめ指定された課題についてグループで考えて準備してください。

事後学修：授業中に学んだ内容を見直して、授業後提出の課題に取り組んでください。（事前・事後合わせて週2時間以上）

## 【テキスト・教材】

資料は必要に応じて配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度30%、授業内発表40%、模擬授業30%

グループの発表について、教師およびクラスメートからフィードバックを受けます。

## 【注意事項】

受講人数制限40名（制限人数を超えた場合、抽選）

## キャリア・デザイン論

高橋 意智郎

2年 前期 2単位

◎：行動力

## 【授業のテーマ】

この授業では「キャリアデザイン」について、理論と実践の両面から学んでいきます。さらには演習形式（参加型の授業方式）を採用しながら受講生自身のキャリアデザインを描いていきます。より具体的には「キャリアデザイン」、「就活計画」、「挑戦すべき資格」、「専門ゼミの選択」、「専門科目の選択」などについて受講生が自立的に意思決定出来るように支援していきたいと思っています。人社の学生のためのオリジナル講座です。

## 【授業における到達目標】

進路決定のための1つの方法を身につけることができる。

ディプロマポリシー：課題解決のために主体的に行動する力【行動力】

## 【授業の内容】

授業の内容は以下のとおりです。

- (1) オリエンテーション
- (2) キャリアデザインの体験的事例紹介
- (3) 「大学生のための総合的キャリアデザインモデル」の提示
- (4) 「環境条件」についての考え方と対応の仕方
- (5) 「運」についての考え方と対応の仕方
- (6) 自己分析ー1（ライフデザイン：自分の生き方について）
- (7) 自己分析ー2（ライフデザイン：働くことをどうとらえるか）
  - ※グループ研究（働くことの意義：ラベル集約法）
- (8) 自己分析ー2（ライフデザイン：働くことをどうとらえるか）
  - ※グループ研究（働くことの意義：報告会）
- (9) 自己分析ー3（関心事項について）
- (10) 自己分析ー4（能力・性格・適性について）
- (11) 業界・企業・業種の研究
- (12) マッチング
- (13) 就活の体験事例紹介
- (14) 目標遂行計画の作成
- (15) まとめ

なお、理論についてはHansen, L. S., Super, D. E., Schein, E. H., Holland, J. L., Krumboltz, J. D., Schlossberg, N. K., Rogers, C. R., Ellis, A. 等の研究を取りあげ、関連の深い授業テーマのところで紹介していきます。講義、個人研究、グループ研究、映像学習、体験事例紹介など、様々な手法を用いて進めていきます。講義を聴いているだけの授業ではなく、演習形式（参加型の授業方式）になりますのであらかじめ承知おき下さい。

## 【事前・事後学修】

事前学修：配布された資料・プリントを次回の授業までに読んでおくこと。（2時間）

事後学修：授業中にとったノート、授業で使った資料・プリントを参考にして授業内容を理解しているか確認すること。（2時間）

## 【テキスト・教材】

鈮地邦秀著、『大学1・2年から始めるキャリアデザイン』（日本経済新聞出版社 2010年）1,260円

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業時の課題（90%）、期末課題（10%）で評価します。課題のフィードバックは、課題の解説を行う。

## 【参考書】

授業の中で、必要なときに必要な文献を紹介します。

## 【注意事項】

- ・2年生限定の講座です。1・3・4年生は履修できません。
- ・この講座は演習形式（参加型の授業方式）を採用しますので1クラス30名を上限とします。30名を超える場合は抽選とさせていただきます。

## キャリア・マネジメント論

自分のキャリアデザインのヒントを探る

谷内 篤博

2年 後期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力

## 【授業のテーマ】

世の中には社会的ニーズによってさまざまな職業や仕事を作り出され、それらを通して人びとは多様な生き方や働き方をしています。こうした多様な職業や仕事は、社会的ニーズと個人の必要性、つまり個人の働き方がマッチングして生まれます。

本講義では、まずこうした職業の意義やその要素、職業観の変化を明らかにすることから始め、次に主に若年層と女性に焦点をあてて、生き方と職業の関係を解説し、最後に働く人にとって望ましいキャリア形成のあり方を解説する。講義のなかでは、最新のキャリア論の紹介やニート、フリーター問題などの若年層をめぐるトピックスなども取り上げ、解説をしていきます。

また、自己の職業適性やキャリア志向の診断なども講義のなかに入れていきたいと考えています。

この講義を通して、学生の皆さんは自分にとって働く意味とは何かを理解するとともに、望ましいキャリア形成やキャリアマネジメントのあり方を学ぶことができます。

## 【授業における到達目標】

この講義を通して、学生の皆さんは自分にとって働く意味とは何かを理解するとともに、自分にとって望ましいキャリア形成やキャリアマネジメントのあり方を修得することができます。本講義は学修を通して自己成長するためのヒントを得ることができます。

本講義を通してディプロマ・ポリシーの学習を通して自己成長する研鑽力を修得することができます。

さらに、自分の将来のキャリアのラフ・デザインを試みたり、身近な人にキャリアや働く意味などをヒアリングするなどの行動力までも修得することができる。

## 【授業の内容】

- 第1週 働く目的とは何か
- 第2週 職業の意義とその要素
- 第3週 職業観の変化（若年層と中高年層との比較）
- 第4週 良い仕事の条件
- 第5週 企業意識と職業意識
- 第6週 仕事と家事、ボランティアとの違い
- 第7週 若年層における仕事志向の高まり
- 第8週 プロフェッショナル志向の高まりとキャリア形成
- 第9週 多様な雇用形態と働き方
- 第10週 フリーターという働き方の光と影
- 第11週 コース別雇用管理の功罪（一般職、総合職の危うさ）
- 第12週 職業アイデンティティとキャリアアンカー
- 第13週 企業内におけるキャリア形成とCDP
- 第14週 ワークキャリアとライフキャリアの統合
- 第15週 自分にとって働く意味とは、望ましいキャリア形成とは

## 【事前・事後学修】

事前学修：講義テーマについて教科書、資料等を調べること（学修時間 週4時間）

事後学修：講義の振り返り（隔週1時間）と次回の授業範囲の予習（週4時間）

## 【テキスト・教材】

谷内篤博『大学生の職業意識とキャリア教育』（勁草書房、2005年）2,200円

谷内篤博『働く意味とキャリア形成』（勁草書房、2007年）2,200円

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価は、定期試験の得点（80%）、レポートの出来映え（20%）で評価します。

なお、授業中の積極的な発言は加点評価の対象とします。レポートのフィードバックは、優れたレポートの作成者を発表するとともに、全体的特徴（良かった点、工夫すべき点）について解説をします。

**【参考書】**

金井壽宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所

玄田有史『仕事のなかの曖昧な不安』中央公論新社

永野仁編『大学生の就職と採用』中央経済社

**【注意事項】**

本講義は極めて連続性が強いので、休まずに出席することを強く望みます。

なお、本講義は自分の将来に不安を抱いていたり、将来のキャリア形成に不安を抱いている学生には、有益な授業となります。

**キャリア・マネジメント論**

自分のキャリアデザインのヒントを探る

谷内 篤博

2年 後期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力

**【参考書】**

金井壽宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所

玄田有史『仕事のなかの曖昧な不安』中央公論新社

永野仁編『大学生の就職と採用』中央経済社

**【注意事項】**

本講義は極めて連続性が強いので、休まずに出席することを強く望みます。

なお、本講義は自分の将来に不安を抱いていたり、将来のキャリア形成に不安を抱いている学生には、有益な授業となります。

**【授業のテーマ】**

世の中には社会的ニーズによってさまざまな職業や仕事を作り出され、それらを通して人びとは多様な生き方や働き方をしています。こうした多様な職業や仕事は、社会的ニーズと個人の必要性、つまり個人の働き方がマッチングして生まれます。

本講義では、まずこうした職業の意義やその要素、職業観の変化を明らかにすることから始め、次に主に若年層と女性に焦点をあてて、生き方と職業の関係を解説し、最後に働く人にとって望ましいキャリア形成のあり方を解説する。講義のなかでは、最新のキャリア論の紹介やニート、フリーター問題などの若年層をめぐるトピックスなども取り上げ、解説をしていきます。

また、自己の職業適性やキャリア志向の診断なども講義のなかに入れていきたいと考えています。

この講義を通して、学生の皆さんは自分にとって働く意味とは何かを理解するとともに、望ましいキャリア形成やキャリアマネジメントのあり方を学ぶことができます。

**【授業における到達目標】**

この講義を通して、学生の皆さんは自分にとって働く意味とは何かを理解するとともに、自分にとって望ましいキャリア形成やキャリアマネジメントのあり方を修得することができます。本講義は学修を通して自己成長するためのヒントを得ることができます。

本講義を通してディプロマ・ポリシーの学習を通して自己成長する研鑽力を修得することができます。

さらに、自分の将来のキャリアのラフ・デザインを試みたり、身近な人にキャリアや働く意味などをヒアリングするなどの行動力までも修得することができる。

**【授業の内容】**

- 第1週 働く目的とは何か
- 第2週 職業の意義とその要素
- 第3週 職業観の変化（若年層と中高年層との比較）
- 第4週 良い仕事の条件
- 第5週 企業意識と職業意識
- 第6週 仕事と家事、ボランティアとの違い
- 第7週 若年層における仕事志向の高まり
- 第8週 プロフェッショナル志向の高まりとキャリア形成
- 第9週 多様な雇用形態と働き方
- 第10週 フリーターという働き方の光と影
- 第11週 コース別雇用管理の功罪（一般職、総合職の危うさ）
- 第12週 職業アイデンティティとキャリアアンカー
- 第13週 企業内におけるキャリア形成とCDP
- 第14週 ワークキャリアとライフキャリアの統合
- 第15週 自分にとって働く意味とは、望ましいキャリア形成とは

**【事前・事後学修】**

事前学修：講義テーマについて教科書、資料等を調べる（学修時間 週4時間）

事後学修：講義の振り返り（隔週1時間）と次回の授業範囲の予習（週4時間）

**【テキスト・教材】**

谷内篤博『大学生の職業意識とキャリア教育』（勁草書房、2005年）2,200円

谷内篤博『働く意味とキャリア形成』（勁草書房、2007年）2,200円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

成績評価は、定期試験の得点（80%）、レポートの出来映え（20%）で評価します。

なお、授業中の積極的な発言は加点評価の対象とします。レポートのフィードバックは、優れたレポートの作成者を発表するとともに、全体的特徴（良かった点、工夫すべき点）について解説をします。

**キャリア・マネジメント論**

自分のキャリアデザインのヒントを探る

谷内 篤博

2年 後期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力

**【参考書】**

金井壽宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所

玄田有史『仕事のなかの曖昧な不安』中央公論新社

永野仁編『大学生の就職と採用』中央経済社

**【注意事項】**

本講義は極めて連続性が強いので、休まずに出席することを強く望みます。

なお、本講義は自分の将来に不安を抱いていたり、将来のキャリア形成に不安を抱いている学生には、有益な授業となります。

**【授業のテーマ】**

世の中には社会的ニーズによってさまざまな職業や仕事を作り出され、それらを通して人びとは多様な生き方や働き方をしています。こうした多様な職業や仕事は、社会的ニーズと個人の必要性、つまり個人の働き方がマッチングして生まれます。

本講義では、まずこうした職業の意義やその要素、職業観の変化を明らかにすることから始め、次に主に若年層と女性に焦点をあてて、生き方と職業の関係を解説し、最後に働く人にとって望ましいキャリア形成のあり方を解説する。講義のなかでは、最新のキャリア論の紹介やニート、フリーター問題などの若年層をめぐるトピックスなども取り上げ、解説をしていきます。

また、自己の職業適性やキャリア志向の診断なども講義のなかに入れていきたいと考えています。

この講義を通して、学生の皆さんは自分にとって働く意味とは何かを理解するとともに、望ましいキャリア形成やキャリアマネジメントのあり方を学ぶことができます。

**【授業における到達目標】**

この講義を通して、学生の皆さんは自分にとって働く意味とは何かを理解するとともに、自分にとって望ましいキャリア形成やキャリアマネジメントのあり方を修得することができます。本講義は学修を通して自己成長するためのヒントを得ることができます。

本講義を通してディプロマ・ポリシーの学習を通して自己成長する研鑽力を修得することができます。

さらに、自分の将来のキャリアのラフ・デザインを試みたり、身近な人にキャリアや働く意味などをヒアリングするなどの行動力までも修得することができる。

**【授業の内容】**

- 第1週 働く目的とは何か
- 第2週 職業の意義とその要素
- 第3週 職業観の変化（若年層と中高年層との比較）
- 第4週 良い仕事の条件
- 第5週 企業意識と職業意識
- 第6週 仕事と家事、ボランティアとの違い
- 第7週 若年層における仕事志向の高まり
- 第8週 プロフェッショナル志向の高まりとキャリア形成
- 第9週 多様な雇用形態と働き方
- 第10週 フリーターという働き方の光と影
- 第11週 コース別雇用管理の功罪（一般職、総合職の危うさ）
- 第12週 職業アイデンティティとキャリアアンカー
- 第13週 企業内におけるキャリア形成とCDP
- 第14週 ワークキャリアとライフキャリアの統合
- 第15週 自分にとって働く意味とは、望ましいキャリア形成とは

**【事前・事後学修】**

事前学修：講義テーマについて教科書、資料等を調べること（学修時間 週4時間）

事後学修：講義の振り返り（隔週1時間）と次回の授業範囲の予習（週4時間）

**【テキスト・教材】**

谷内篤博『大学生の職業意識とキャリア教育』（勁草書房、2005年）2,200円

谷内篤博『働く意味とキャリア形成』（勁草書房、2007年）2,200円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

成績評価は、定期試験の得点（80%）、レポートの出来映え（20%）で評価します。

なお、授業中の積極的な発言は加点評価の対象とします。レポートのフィードバックは、優れたレポートの作成者を発表するとともに、全体的特徴（良かった点、工夫すべき点）について解説をします。



## キャリアデザイン

今、社会や企業が求める人材とは

深澤 晶久・眞鍋 清嗣

3年 前期 2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

■目まぐるしく変化する社会情勢にあつて、就職活動戦線を勝ち抜き、社会で輝き続ける女性となるために必要な「人間力」とは、知識・スキルとは何か、また、社会は今、何を求めているかなどを深く考えます。

■「自ら選択し、考え、行動し、やりきる」ための主体性を育み、そしてチームでディスカッションを重ね、多様性が重視される現代社会で活躍するための、自らの可能性の発見とコミュニケーション力を身につけます。

### 【授業における到達目標】

■常に産業界の動向に注視し、社会が求める人材について深く学ぶとともに、実際の社会人からの講話なども通じ、できる限りリアリティの感じられる授業内容を通じ、社会人基礎力の養成に繋げる。

■学部学科を横断した学生が、幅広い社会や企業について講義や実際の課題解決のワークショップを経験することで、多様性を受容し、多角的な視点をもって世界に臨む態度を身につけることなどでディプロマ・ポリシーの達成を目指す。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション（講義説明・プログラム・自己紹介）
- 第2週 時代背景と女性の働き方の変遷
- 第3週 働くということとは
- 第4週 女性とキャリア形成
- 第5週 業種・企業・職種・仕事を知る
- 第6週 企業の見方・選び方
- 第7週 就活への準備と心得
- 第8週 自分を知る・自分を伝える
- 第9週 社会人から学ぶ「社会で必要な力」（フィールドワーク）
- 第10週 社会人基礎力から学ぶ適性診断（アセスメント）
- 第11週 コミュニケーション力の強化（ワークショップ）
- 第12週 「今、社会が求める人材とは」（外部講師）
- 第13週 キャリアを描く・10年後の姿を描く
- 第14週 レポート作成・提出
- 第15週 講座のまとめと総括

### 【事前・事後学修】

事前学修：翌週への研究課題を提示します。（学修時間週2時間）

事後学修：キャリアプラン策定への各人の参考ポイントを整理する（学修時間週2時間）

### 【テキスト・教材】

テキスト・教材は適宜配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（取組姿勢・態度・感想文・小レポートなど）70点

レポート 30点

フィードバック 授業内で前週の振り返りを行うとともに、manabaアンケートにて総括的なフィードバックを行ないます。

### 【参考書】

深澤晶久著「仕事に大切な7つの基礎力」（かんき出版 2014年）

### 【注意事項】

○小テスト・小レポートも適宜実施します。

○グループワーク・ディスカッションなど参加型の授業とします。

○ゲストスピーカーも招聘し、リアリティのある授業とします。

【選考方法】4月2日（月）から教務課窓口でエントリーシートを配布します。履修希望者は、あらかじめ記入し、初回授業当日に教員に提出し、選考を受けてください。選考結果は、翌日に掲示およびWeb履修に自動登録されます。

※詳細は教務課掲示板にて確認すること。

募集人数は50名です。

## キャリアプロジェクト

－希望のキャリアを実現するために－

板倉 文彦・大島 雅浩

1年 後期 1単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

### 【授業のテーマ】

自分の希望するキャリアを歩むためには、まずはそれが実現可能な組織（企業・官公庁等）に入ることがその第一歩となります。

この科目ではそのために、社会人に向けての心構えから、就職活動において取り組むべき内容にどう対処していくかまでを実践的に学びます。これらの取り組みを通して希望の進路に近づくことで、将来的に社会で活躍できる人材となるためのスキルを身に付けていきます。

■この講義では、個人・グループワークを行います。自分の将来を考え、積極的に講義に参加する姿勢を求めます。

■本講義と就職活動の基礎を学ぶ「オープン講座⑤」を受講することで、就職対策を万全なものにすることができます。

■希望に合わせてクラス分けを行います（注意事項参照）。

- ・金融・大手企業志望クラス
- ・一般企業志望クラス

### 【授業における到達目標】

社会において現状を正しく把握し課題発見できる「行動力」と、知を探究し学び続ける「研鑽力」を修得することができます。

また、組織での立居振舞を通して他人と協働する力も身に付けることが可能です。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス、社会人に向けての準備
- 第2週 経験者から学ぶ（外部講師）
- 第3週 企業・官公庁を知る
- 第4週 企業研究1（企業概要調査）
- 第5週 企業研究2（調査結果発表）
- 第6週 企業へのPRを学ぶ1（エントリーシート）
- 第7週 企業へのPRを学ぶ2（履歴書を作成する）
- 第8週 企業へのPRを学ぶ3（履歴書を仕上げる）
- 第9週 企業とのコミュニケーション1（基本）
- 第10週 企業とのコミュニケーション2（面接を通した自己PR）
- 第11週 企業とのコミュニケーション3（面接演習）
- 第12週 企業とのコミュニケーション4（グループワーク）
- 第13週 キャリアプランの作成
- 第14週 企業へのPRの実践
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

- ・事前学修：自身が就職活動することを想定し、講義で想定される内容を自身の希望に合わせて考えてみる（週1時間以上）
- ・事後学修：講義で得た内容を、自分の活動に反映することをイメージして復習する（週1時間以上）

### 【テキスト・教材】

必要に応じて資料を配付します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

配分基準：成果物（課題等の提出物）60%、平常点（授業への積極参加、授業態度）40%

提出課題についてはその後の授業でフィードバックを行う。

### 【注意事項】

■履修希望者は、4月初旬から教務課にて配付されるエントリーシートを期日までに提出してください。

「金融・大手志望クラス」を希望する場合のみ、エントリーシートの提出に加え面接を行い選考します。

選考結果は4月上旬に掲示および Web 履修に登録する形で発表します。

## キャリア英語 a

英文メールを和訳し、英語で返事を書こう

飯泉 恵美子

1・2年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

前期の「キャリア英語 a」と後期の「キャリア英語 b」を通じて、グローバル化する社会に対応できる幅広い英語コミュニケーション能力の育成を目指します。

日々の生活や就職活動、会社内では、メールがあたりまえのように使用されています。この授業では、英語のメールを正しい日本語に訳し、返事を英語で書くことを通じて、状況に応じた英文和訳と英文ライティングの技法を学びます。メールを英語で書きたいと考えている学生や、就職後に英語のスキルをキャリアパスの一環として活用したいと考えている学生を歓迎します。この授業では、オンライン辞書や翻訳サイトの使い方のほか、正しいテキスト入力の方法も学習しますので、スカイプを用いて英語で会話をする、「キャリア英語 b」などのクラスを受講する際の準備用として、あるいは、この授業のみの履修もできます。

このクラスを受講するにあたっては、高校までの基本的な文法を習得できていることを条件とします。

### 【授業における到達目標】

学生が修得すべき「国際的視野」のうち、多様性を受容し、多角的な視点を以って世界に臨む態度を培い、相互の理解と協力を築こうとする「研鑽力」を育成します。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス  
オンライン辞書と翻訳サイトの利用方法／正しい英文入力の方法
- 第2週 Unit 1 自己紹介する
- 第3週 Unit 2 依頼する
- 第4週 Unit 3 アドバイスを求める
- 第5週 Unit 4 アドバイスや提案をする
- 第6週 Unit 5 約束する
- 第7週 Unit 1～4  
Let's Write のグループワーク発表と確認テスト
- 第8週 メールを使い方と送受信時のマナー
- 第9週 Unit 6 謝罪する
- 第10週 Unit 7 予約する
- 第11週 Unit 8 苦情を述べる
- 第12週 Unit 9 招待する
- 第13週 Unit 5～8  
Let's Write のグループワーク発表と確認テスト
- 第14週 Unit 10 道案内する
- 第15週 Unit 9～10の確認テスト

### 【事前・事後学修】

・事前学修：毎回の授業の範囲について、テキストの課題を予習してファイルにまとめ、指定された方法で提出してください。（学修時間 週1時間）

・事後学修：講義を受けた後、事前学修で提出したファイルに修正を加えて完成させ、小テストに備えてください。また、manaba を利用してグループワークを行い、発表の準備をしてください。（学修時間 週1時間）

### 【テキスト・教材】

『Write Me Back Soon!』（株式会社金星堂 2013年）2000円（税別）

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

予習レポートと復習レポート提出（50%）、確認テスト（28%）、グループワーク（12%）、講義への積極的な取組（10%）。

### 【注意事項】

- ①受講人数制限50名（制限人数を超えた場合、抽選）
- ②初回講義を欠席しないようにしてください。
- ③積み上げ式の学習内容です。欠席した場合の遅れは各自で必ず補ってください。

## キャリア英語 b

スカイプを使ってネイティブと英語で話そう

飯泉 恵美子

1・2年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

前期の「キャリア英語 a」と後期の「キャリア英語 b」を通じて、グローバル化する社会に対応できる幅広い英語コミュニケーション能力の育成を目指します。このクラスでは、情報を英語で積極的に発信する力、自分自身をアピールする力、会話の瞬発力という、英語を話すために必要な基礎力を身につけるためにスカイプを利用します。

英会話ができるようになりたいけれども自信がないとか、英語で話すのが怖い、何を話してよいかわからないといった、英語に苦手意識がある学生でも受講できるように、簡単なトピックの例文を用いて、自分を語るストーリーを事前に準備し、それをネイティブとスカイプで会話をして練習します。観光英語検定の対策としても最適です。まじめに取り組む意欲がある学生の受講を歓迎します。

### 【授業における到達目標】

学生が修得すべき「国際的視野」のうち、多様性を受容し、多角的な視点を以って世界に臨む態度を培い、「研鑽力」の、学修成果を実感して、自信を創出することができる力を育成します。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンスと英文入力の方法
- 第2週 スカイプを使ってみよう
- 第3週 001名前はなんていうの？／002おいくつですか？
- 第4週 003生まれはどちらですか？  
004身長はどのくらいあるの？
- 第5週 005自分のこと外交的だと思う？／006どんな体型？
- 第6週 007いままででいちばん感動したことって？  
008これまででいちばん悲しかった出来事は？
- 第7週 001～008小テスト／テキストから選んだテーマでの会話
- 第8週 グループワーク（日本の今を発信する）
- 第9週 009夢はある？／010自分の将来の理想像はある？
- 第10週 011ボランティア活動とかしたことがある？  
012兄弟や姉妹はいる？
- 第11週 013お父さんはなにをしているの？  
014祖父母といっしょに暮らしているの？／015ペットはいる？
- 第12週 016ご両親とはよく会うの？  
017親のしつけは厳しかった？
- 第13週 009～017小テスト／テキストから選んだテーマでの会話
- 第14週 グループワーク（日本の伝統を発信する）
- 第15週 まとめ ※ 順番が変更になることがあります。

### 【事前・事後学修】

- ・事前学修：毎回の授業のトピックについて、テキストを読み、自分の伝えたい英文や指定された内容を「レポート」に打ち込み、提出してください。（学修時間 週2時間）
- ・事後学修：事前学修で提出したファイルに、スカイプ英会話レッスンで学んだことや改善点を追加して「復習レポート」を完成し、指定された方法で提出してください。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

『About Me 第2版（英語でスラスラ自分のことが言える本）』  
（株式会社アスク出版 2014年）1800円（税別）

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

予習レポート提出（30%）、復習レポート提出（30%）、グループワークの積極的な取組（15%）、小テストと単語学習（25%）。

### 【注意事項】

- ①受講人数制限40名（制限人数を超えた場合、抽選）
- ②スカイプ英会話サービスを利用するため、受講に1万円以上費用がかかります。費用はパピルスメイトで証紙を購入し、提出してください。
- ③同学期に他のスカイプ英会話授業を受講する場合は、重複して費用を支払う必要はありませんので、注意してください。

## キャリア開発実践論

リーダーシップとファシリテーションを学ぶ夏季集中講座

深澤 晶久・眞鍋 清嗣

3年 集後 2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

(詳細は別途ご案内いたします。原則、全員が宿泊となります。)  
○履修者については、1人20,000円(プラス消費税)程度の自己負担が発生します。外部施設での宿泊代、食事代の実費です。

【選考方法】4月2日(月)から教務課窓口にてエントリーシートを配布いたします。後日、面談を行います。選考結果は4月上旬に掲示およびWeb履修に登録する形で発表いたします。

### 【授業のテーマ】

社会が求める力とは何か、企業研修レベルの内容で、

#### ◆「今の社会を知る」

～ダイバーシティとインクルージョンについて学ぶ～

#### ◆社会人基礎力の中でも、とりわけ今、社会が求めている

「リーダーシップ」と「ファシリテーション」について学ぶことを軸に、夏期休業期間中に2泊3日で外部研修施設を利用した集中講座形式で実施する授業です。4年生の参加も歓迎します。

### 【授業における到達目標】

◆企業研修レベルの内容で、「リーダーシップ」と「ファシリテーション」を学ぶことで、今、社会で必要とされる力、すなわち社会人基礎力が養成されます。

◆また、ディプロマ・ポリシーに照らし合わせた時、研鑽力、行動力、協働力の3つの能力が磨かれることを到達目標とします。

### 【授業の内容】

学外研修(第1週から第14週分)

1日目

■オリエンテーション(講座の進め方、講師紹介、自己紹介など)

■リーダーシップ講座

- ・社会人による基調講演「現代社会とリーダーシップ」
- ・リーダーシップの理論
- ・リーダーシップワークショップ

2日目

■ファシリテーション講座

- ・外部講師による基調講演「今、なぜファシリテーションか」
- ・ファシリテーションの理論
- ・ケーススタディから学ぶファシリテーション技術

3日目

■講座まとめ

第15週 講座全体のまとめ

※第1週から第14週分は、夏期休業中に外部研修施設で行います。

第15週は、渋谷キャンパスにて行います。

※夏期集中講座という特殊な形での授業となります。主体性を持って講座を履修する学生の参加を期待しています。

### 【事前・事後学修】

■夏期集中講座に向けて、リーダーシップならびにファシリテーションについての課題図書を読み、受講に向けてのプラン作成を行なう事前学修があります。

■事後学修は、夏期集中講座受講後、学内外において講座で学んだことを実際に活用し、レポートを作成いただきます。

■事前・事後、それぞれ約28時間程度の学修時間となります。

### 【テキスト・教材】

テキスト・教材は、夏期集中講座前に配布いたします。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(講座における取組み姿勢、講座後の取組み内容など) 70%

レポート 30%

講座において課せられた課題に取り組み、第15週の講座のまとめにおいて振り返るとともに、個別のフィードバックを行ないます。

### 【参考書】

岩田松雄著「MISSION 元スターバックスCEOが教える働く理由」  
(アスコム 2012年)

深澤晶久著「仕事に大切な7つの基礎力」(かんき出版 2014年)

### 【注意事項】

○少人数制(渋谷・日野キャンパス合わせて20名程度)です。

○集中講座実施日は、2018年9月9日からの2泊3日となります。

## キャリア実践演習

信頼される“できる”新入社員になるために

栗原 栄美

4年 後期 2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

社会では、みなさんがどんなに「やる気」や「能力」を持っていても、それをアピールするコミュニケーション能力やマナー（態度等）を知らなければ、みなさんの想いを伝えることができず、仕事で成果を十分に発揮することはできません。

この講座では、入社後、即戦力として活躍してもらうために、社会に出た際に必要な常識・情報・知識・スキルを学びます。

### 【授業における到達目標】

- ① 会社・組織について理解する
  - ② 女性として評価されるビジネスマナーを学ぶ
  - ③ 社会人としてのコミュニケーション能力を強化する
  - ④ 女性のための労働法規のポイントを理解する
- 以上により、社会で必要な「研鑽力」「行動力」「協働力」を身につけることを到達目標とします。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション（この講義の目的は？）
- 第2週 会社を知ろうⅠ（役割から組織について）
- 第3週 会社を知ろうⅡ（経営から利益について）
- 第4週 ビジネスマナーⅠ（敬語の知識）
- 第5週 ビジネスマナーⅡ（オフィスの基本マナー）
- 第6週 ビジネスマナーⅢ（電話・来客対応、名刺交換等の知識）
- 第7週 グループディスカッションⅠ（価値観とは）
- 第8週 グループディスカッションⅡ（コミュニケーションとは）
- 第9週 グループディスカッションⅢ（人が人を理解すること）
- 第10週 働く女性のための労働法Ⅰ（給料・手当等の基礎知識等）
- 第11週 働く女性のための労働法Ⅱ（妊娠・出産・育児）
- 第12週 働く女性のための労働法Ⅲ（職場のパワハラ・セクハラ）
- 第13週 上手に働く女性になるためにⅠ（長く安定して働く）
- 第14週 上手に働く女性になるためにⅡ（オフィスの人間関係）
- 第15週 上手に働く女性になるためにⅢ（ストレスとの付き合い方）

※授業の進捗如何で若干内容が変わることがあります。

### 【事前・事後学修】

【事前学修】次の授業内容を踏まえ、事前に関連するテーマを新聞等により、情報収集しておいてください。＜学修時間 週2時間＞

【事後学修】社会に出た際に役立つように授業内容を復習し、整理・理解に努め、自らの知識としてください。＜学修時間 週2時間＞

### 【テキスト・教材】

特にありません。授業前にレジュメを配布致します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極参加・リアクションペーパー）30%、小テスト30%、レポート40%の割合を基準として総合的に評価します。リアクションペーパー等のフィードバックは、授業の中で適宜行います。

### 【参考書】

授業の進行に応じて適宜指示します。

### 【注意事項】

この講座は社会人として、実践上求められるスキルを学び、習得することを目的としています。このスキルは、企業が学生に求めているものであり、その有無を把握するためにエントリーシートを提出させ、面接を実施しているのです。就職先が決まっている人にも、就活中の人にも役立つものと確信しています。

女性として、社会人として、今から身につけておきたいこと、知っておきたいことをさまざまな角度から紹介していきます。

新入社員でも一目おかれる社会人になりましょう。

## キャリア心理学

塚原 拓馬

3年 前期 2単位

◎：協働力 ○：研鑽力、行動力

### 【授業のテーマ】

キャリア心理学の理論的背景であるキャリア関連の諸理論・アプローチを紹介する。さらに理論を踏まえた上でキャリア形成支援のありかたについて具体的に事例を交えて深く学ぶ。キャリアカウンセリングに求められるカウンセリングの基本的姿勢を理解し、必要とされる場面において適切にクライアントの支援ができる力を理論的、技能的にも身に付けることを目的とする。また自身の「キャリア設計」につなげていくことも目標とする。

### 【授業における到達目標】

- ・キャリア形成支援のありかた及び自身のキャリア設計について修得する。
- ・学生が修得すべき「行動力」のうち、課題を発見する力を修得する。

### 【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 キャリア心理学の理論
- 第3回 キャリア心理学の実践
- 第4回 キャリア発達論
- 第5回 職業選択と適性
- 第6回 人間行動の理解
- 第7回 前半まとめ（特別講座）
- 第8回 前半の課題と解説
- 第9回 自己コントロール
- 第10回 自己肯定感
- 第11回 社会的学習理論・意思決定論
- 第12回 組織内キャリア発達
- 第13回 キャリアカウンセリングとメンタルケア
- 第14回 キャリア設計
- 第15回 後半まとめ（特別講座）

### 【事前・事後学修】

【事前学修】小テスト・レポート・発表等の課題に取り組むこと。心理学の基礎的な事項を理解しておくこと（学修時間 週2時間）

【事後学修】発表・小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

必要に応じてレジメを配布する。初回授業時に指示する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

前半試験（20%）および期末試験（80%）により評価する。小テストや課題は次回授業でフィードバックを行う。

### 【参考書】

宮城まり子 2002『キャリアカウンセリング』駿河台出版社 ¥1700（税別）

### 【注意事項】

外部講師により特別講座を行う予定である。

## キリスト教概論 a

聖書の世界

小林 真知子

1年～ 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

世界で最も親しまれている聖書はユダヤ＝キリスト教の信仰の書であり、信仰の表現の多様性を有する文学的形式においてもすぐれて重要な書物である。聖書から様々な断章を取り上げ、聖書の神観、人間観、自然観の特質を理解し、思想との対話において、また文学、美術、音楽などの表現において、聖書の価値がどのように受容され、生かされてきたかを考察する。神のリアリティに基づく物語の成立と解釈を通して聖書を貫いている神と人間との関係、信仰告白と讃美による歴史形成の証言を理解し、学んでいく。

### 【授業における到達目標】

聖書の神観、人間観、自然観を理解することにつとめ、ものの見方、考え方、生活の基本となっているキリスト教の特質を学ぶ。愛に基づく自由、人格の尊厳、基本的人権の精神的基礎づけとなる聖書の言葉から、地球市民の共生、公的私的様々な課題に取り組み、他者と連携、協働する知性の修得につとめる。聖書の文学的表現の多様性を学び、多面的な読解の可能性を探求する。

### 【授業の内容】

- 1 創造：存在と言語
- 2 楽園喪失、恩寵から墮罪の状態へ
- 3 洪水神話、バベルの塔の神話
- 4 アブラハム、イサク、ヤコブの神
- 5 ヨセフの夢と兄弟たち
- 6 出エジプトとモーセの十戒
- 7 サウルの悲劇とダビデの王国エルサレム
- 8 詩篇を読む
- 9 ヨブ記と知恵文学
- 10 正義と愛を語る預言者たち
- 11 イエスの神の国、福音書の和解と平和
- 12 パウロの書簡における愛と自由について
- 13 ヨハネ福音書のロゴス思想
- 14 受難物語
- 15 イエスをめぐる女性たち マリアの物語

### 【事前・事後学修】

事前学修として講義のテーマを確認し、自ら問いをたててみる。(週1時間程度)

事後学修として講義の復習ノートを作成し、文献表を参考に関連書籍を読み、自らの立脚点を探りながら研究課題を整理する。(週3時間程度)

### 【テキスト・教材】

旧新約聖書 (日本聖書協会発行)  
リーランド・ライケン『聖書の文学』山形和美監訳  
(すず書房、1990年) 5400円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 「授業の積極的参加」20%
- 「自己理解度を確認する小テスト」40%
- 「課題レポートの提出」40%

Manabaの小テスト参加によりフィードバックを行う。

### 【参考書】

小林 真知子著『C. S. ルイス研究』彩流社  
ヤン・ミリチ ロッホマン、Jan Milic Lochman『講義・使徒信条—キリスト教教理概説』、古屋 安雄、小林 真知子訳  
その他 随時 紹介

## キリスト教概論 b

キリスト教の歴史

小林 真知子

1年～ 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

キリスト教の歴史的展開を学ぶ。聖書に基づく神観・人間観・世界観がどのように理解され、解釈され、表現され、歴史的現実を動かしてきたのか。時代の制約と特質を考察しつつ、現代に至るまでのキリスト教共同体の成り立ち、価値観、思想的影響と文明の形成を辿る。

### 【授業における到達目標】

普遍的価値と歴史的相対性、啓示と理性、摂理と歴史意識、愛における自由、歴史を動かす存在の力などについての思考を練磨し、共同体の形成の本質を探る。

### 【授業の内容】

- I キリスト教の形成
  - 1 ヘブライズムとヘレニズム
  - 2 原始キリスト教共同体の形成
- II ヨーロッパ中世の形成
  - 1 中世の世界像
  - 2 スコラ哲学：アウグスティヌスとトマス・アクィナス
  - 3 ピュシスとノモス : アッシジのフランシスコ
  - 4 普遍論争と近代的思惟の萌芽
- III 近代市民社会の形成とキリスト教
  - 1 宗教改革 ルターとカルヴァン
  - 2 大航海時代 日本とキリスト教との出会い
  - 3 啓蒙思想 近代市民社会とキリスト教
  - 4 ロマン主義思潮とシュライエルマッハー
  - 5 普遍的統合の試み
- IV 現代とキリスト教
  - 1 自由主義キリスト教
  - 2 実存を問う信仰のあり方
  - 3 正統信仰への回帰と霊的な渴望
  - 4 平和への願い、多元的世界における諸宗教との対話

### 【事前・事後学修】

事前学修として講義のテーマを確認し、自ら問いをたててみる。(週1時間程度)

事後学修として講義の復習ノートを作成し、文献表を参考に関連書籍を読み、自らの立脚点を探りながら研究課題を整理する。(週3時間程度)

### 【テキスト・教材】

授業資料、補助資料、データベース  
manaba コースに掲載。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 「授業の積極的参加」20%
  - 「自己理解度を確認する小テスト」40%
  - 「課題レポートの提出」40%
- Manabaの小テスト参加によりフィードバックを行う。

### 【参考書】

The Pelican History of the Church  
Vol.1, Henry Chadwick The Early Church  
Vol.2, Western Society and the Church in the Middle Ages  
Vol.3, The Reformation  
Vol.4, The Church & the Age of Reason 1648-1789  
Vol.5, The Church in the Age of Revolution  
Vol.6, A History of Christian Missions

## グレートブックスセミナー1

より良き社会を築くための知的な基盤

須賀 由紀子

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

## 【授業のテーマ】

皆さんの未来ではきっと、今とは違う社会になっていることでしょう。その社会の一員となる皆さんには、それが今よりもより良きものとなるように学んでゆく責任があります。

プラトン、アリストテレス、セネカ、アウグスティヌス、トマス、パスカル、スピノザ……。古典を学ぶことは、人間にとって本当に大切なこと、自分が目指すべき社会のあり方について考えるための、具体的な手立てを与えてくれます。

グレートブックスセミナーは、古代から今日までの哲学者の思想に触れ、自分で思索し、そして議論することを楽しむ場です。読み、考え、語り合うことを通じて、社会で必要となる教養と批判的な思考能力を身につけましょう。

## 【授業における到達目標】

物事を理解し考えを深めるための基本的な概念を自分のものとし、論理的に考え、伝えることのできる能力を身につけます。今日のグローバル化した社会で大切にされる、知的基盤の形成を目的とします。「研鑽力」として、広い視野と深い洞察力に基づく本質を見抜く力を育成します。

## 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション：
- 第2週 テキスト討議：古代1 プラトン
- 第3週 テキスト討議：古代2 アリストテレス1
- 第4週 テキスト討議：古代3 アリストテレス2
- 第5週 テキスト討議：中世1 アウグスティヌス
- 第6週 テキスト討議：中世2 トマス1
- 第7週 テキスト討議：中世3 トマス2
- 第8週 テキスト討議：近代1 ペーコン
- 第9週 テキスト討議：近代2 ホッブス
- 第10週 テキスト討議：近代3 ロック
- 第11週 テキスト討議：近代4 モンテスキュー
- 第12週 テキスト討議：近代5 ルソー
- 第13週 テキスト討議：近代6 カント
- 第14週 テキスト討議：近代7 ヘーゲル
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

毎回、テキストごとに、担当者がテキスト解釈を行い、他のメンバーがそれについて討議するセミナー形式で授業を進めます。

事前：各テキストは少量ですが、関連情報を含め、講義前までに充分読み込んでください。テキストの読み方が身につけられるように進めます。（学修時間 週2時間）

事後：討論を経た結果として理解したことを小論としてまとめてください。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

the Great Booksから抜粋したテキストと日本語訳のテキストを事前に配布。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

事前事後学修の内容を記述したノートを提出 60%、授業中の発表内容 20%、期末の小論文 20%。

発表内容については授業中、課題論文については次回授業にフィードバックを行います。

## 【参考書】

授業時に適宜指示。

## グレートブックスセミナー2b

須賀 由紀子

2年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

## 【授業のテーマ】

1年次に学んだグレートブックスセミナーの手法を用い、古典の言葉に触れて、ことの本質を考えたり、社会を見つめるまなざしを豊かにしていきます。長い時を経て今日に伝えられている言葉を丁寧に読み込み、そこに言われていることの本質は何かを問いかけます。そして、言葉の多義的な意味世界を探索することを通して、多面的に発想する力を養います。また、自分の意見を発表したり、自分と異なる考えに耳を傾けて、場で作り上げていく知の空間を楽しみましょう。取り上げるテーマは、現代を豊かに生きる上で柱に置きたいもの（愛と美、幸福、自然、自由など）から選びます。西洋の古典書（グレートブックス）を柱としながら、日本の古典文学も対比的に取り入れ、より自分の生き方の問題に身近に感じられるようにしたいと考えています。大きな思想の体系の中に、「現在のわたし」を位置づけられるように取り組みます。

## 【授業における到達目標】

学生が身につけるべき「国際的視野」のうち、多様な価値観を持つ人々との相互理解と協力を築こうとする態度、「美の探究」のうち、物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度、および学修を通して自己成長する「研鑽力」のうち、学ぶ愉しみを知り、生涯にわたり知を探求する力を修得します。

## 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション（授業のねらい）
- 第2週 古典ギリシアの劇詩
- 第3週 ギリシア古典期1：プラトン
- 第4週 ギリシア古典期2：アリストテレス
- 第5週 ヘレニズム期：実践哲学と宗教哲学
- 第6週 聖書の文学的世界
- 第7週 中世教父の時代
- 第8週 中世最大の哲学・トマスの神学
- 第9週 ヒューマンイズムの時代の幕開け
- 第10週 ヒューマンイズムの文学
- 第11週 近代の思想から
- 第12週 日本の古典1：神話の世界
- 第13週 日本の古典2：歌謡の世界
- 第14週 詩歌の言葉の東西比較
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】事前にテキストをしっかりと読み、テキストの著者の意見を把握します。著者に関する関連情報も調べます。発表者は、発表レジメを用意します。（学修時間 週2.5時間）

【事後学修】その日の授業のまとめノートを作ります。（学修時間 週1.5時間）

## 【テキスト・教材】

the Great Booksから抜粋したテキストをもとに、日本語訳のテキストを、受講者でつくります。詳しくは、授業で指示します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業中のアクティビティ）30%、発表内容40%、期末のレポート30%。課題に対するフィードバックは、授業の中で適宜行います。

## 【参考書】

授業中に適宜指示します。



## グローバル・キャリアデザイン

21世紀のグローバル社会で活躍する女性を目指して

深澤 晶久

3年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、協働力

## 【注意事項】

- ◆この講座では、レクチャー形式ではなく、グループワークを基本とした参加型の講座を目指します。
- ◆40名程度のクラスで展開します。
- ◆「学生が、自ら授業を創る」そのような講座に共感する主体性のある学生の履修を期待しています。

## 【授業のテーマ】

■この講座では、「キャリアデザイン」を発展させ、グローバル化が一層加速する21世紀の日本社会で、実践女子大学の卒業生らしく働くための具体的なヒントを提示するとともに、国際社会で必要とされる「主体性」について共に学んで行くことをテーマとします。

■就職活動のテクニックやスキルを身につけるための講座ではありませんが、キャリアセンターとも連携して、就職活動に活きる内容を構築いたします。

■この講座を終えたときには、働くことにワクワク感を覚え、21世紀の社会を生き抜くための強さとしなやかさ、そして知性がさらに磨かれていることを目標とします。主体的な学生の受講を期待しています。

## 【授業における到達目標】

■産業界で求められている人材像を意識し、とりわけ加速度的にニーズの高まる女性として必要なキャリア意識を身につけると共に、数々の社会人のレクチャーから多様な働き方を理解し、社会人として活躍できる素養を養成します。

■ディプロマ・ポリシーに照らし合わせると、まさに「国際的視野」を兼ね備える態度を有し、同時にゲストスピーカーから社会で働くことの本質、即ち学修を通して自己成長する力を身につけ、数多く実施するワークショップなどを通じて、相互を活かして自らの役割を果たす力を養成することを目指します。

## 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション（講座説明、自己紹介等）
- 第2週 キャリアデザインの基礎
- 第3週 グローバル社会に求められる力とは
- 第4週 グローバル化が進む社会の理解とキャリア形成
- 第5週 企業人から学ぶコミュニケーション力（ワークショップ）
- 第6週 コミュニケーショントレーニング（グループワーク）
- 第7週 企業人から学ぶリーダーシップ（ワークショップ）
- 第8週 リーダーシップトレーニング（グループワーク）
- 第9週 先輩社員から学ぶ国際社会で必要な力
- 第10週 キャリアデザインを創る（自分史作り）
- 第11週 キャリアデザインを創る（キャリア戦略シート）
- 第12週 就職活動に向けての準備と心構え
- 第13週 先輩講話（就職活動を終えた先輩からの講話）
- 第14週 レポート作成
- 第15週 講座のまとめと総括

## 【事前・事後学修】

◆新聞やビジネス誌を読むなど、特に企業活動のグローバル化や女性の雇用に関する記事に着目して下さい。

◆また、授業外の時間などを使って、社会人との交流セッションなど、社会とのつながりを意識したカリキュラムを計画します。積極的に参加出来ることが望ましいと考えます。（詳細は、授業開始時のオリエンテーションでご案内します。）

事前・事後それぞれ週2時間の学修時間とします。

## 【テキスト・教材】

テキスト・教材は適宜配布します。

教材費として、900円程度の負担が発生します。

深澤晶久著「仕事に大切な7つの基礎力」（かんき出版 2014年）

1,300円＋税

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（取組姿勢・感想文・小レポートなど）70%

レポート 30%

フィードバック 授業内で前週の振り返りを行うとともに、manabaアンケートにて総括的なフィードバックを行ないます。

また、授業への出席を重視いたします。

**グローバル・スタディーズ**

グローバルビジネスと法

神山 静香

3年 後期 2単位

◎：国際的視野

**【授業のテーマ】**

企業組織、経営、取引、契約交渉、紛争解決など、グローバルにビジネスを展開する企業をめぐる様々な問題を実際の事例の分析を通して法的側面から考察します。ビジネスの常識として知っておくべき法律やルールについて知識を得るとともに、現代のビジネスの潮流を理解し、グローバリゼーションが急速に進展する現代のビジネス社会において求められるビジネスセンスを養います。

また、「説得の技術」と言われる法律を学ぶことで交渉力や論理的な思考力などを養い、様々なビジネスの舞台で活躍するための素養を身につけることを目的とします。

**【授業における到達目標】**

グローバルビジネスの潮流を理解すること、また、会社法、証券法、国際私法、国際商事法、国際取引法、アメリカ商事法など、関連する法律やルールについて基本的な知識を修得することを目的とします。ディプロマ・ポリシーとの関連については、国際感覚を身につけて、世界に踏み出し社会を動かそうとする態度を核として、学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く力及び「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を発見する力を修得します。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODクッション 講義の目的と概要、国境を越えるビジネスを規律する法律やルールの概要
- 第2週 国際売買取引
- 第3週 国際投資
- 第4週 クロスボーダーM&A（合併・買収）
- 第5週 グローバル企業のガバナンス
- 第6週 グローバルビジネスと契約交渉
- 第7週 グローバルビジネス紛争
- 第8週 グローバルビジネスの潮流（1）  
ビジネスエシックス（企業倫理）、CSR
- 第9週 グローバルビジネスの潮流（2）  
外国公務員贈賄防止とコンプライアンス
- 第10週 グローバルビジネスの潮流（3） 外国法の域外適用
- 第11週 アメリカの司法・裁判制度
- 第12週 アメリカ商事判例の検討（1）株主・株主総会
- 第13週 アメリカ商事判例の検討（2）取締役・取締役会
- 第14週 アメリカ商事判例の検討（3）M&A・企業結合
- 第15週 講義の総括

**【事前・事後学修】**

【事前学修】授業時にキーワードを提示するので、新聞やインターネットなどで情報を収集したり、関連文献を読むなどして、自分の考えをまとめておいてください（学修時間週2時間）。

【事後学修】講義レジュメやノートを復習し、なにが問題なのかを理解するようにしてください（学修時間週2時間）。

**【テキスト・教材】**

テキスト・教材については授業開始後、指示します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

小テスト、課題の提出、授業への積極的な参加等の平常点（40%）と期末レポート（60%）に基づいて評価します。小テストは次回授業でフィードバックします。

**【参考書】**

授業開始後に適宜、紹介します。

**グローバル社会**

映像で読み解く日本及び国際社会

行実 洋一

2・3年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

現代のグローバル化した社会において、インターネットやテレビ、映画などのメディア・コンテンツを使って行われるコミュニケーションには、様々な文化的コンテキストのもとに語られる意識的・無意識的なメッセージや解釈コードが存在しますが、時としてそうしたものはなかなか気づかれません。

そこで本授業では、グローバル社会の現状とからめつつ、具体的な事例を使いながら、そうした「映像やコンテンツを読み解く」作業を通じて、現代社会の諸相を掘り下げていきます。

題材としては、西欧社会の特徴を色濃く反映したハリウッド作品やディズニーアニメ、日本の歴史や文化、風土のコンテキストを踏まえた上で初めて理解できる宮崎アニメなども取り上げる予定です。

**【授業における到達目標】**

このような作業を通じて、将来のコミュニケーションのスペシャリスト（クリエイター、ジャーナリスト、企業広報・宣伝担当、プレス、通訳、作家、ジャーナリスト、アナウンサーなど）を志す人のみならず、グローバル化した時代における社会人・生活者として豊かな文化的素養をつちかい、「国際的視野」を広め、「研鑽力」の向上を図ります。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 グローバル社会とは何か
- 第3週 グローバル社会とメディア
- 第4週 テレビの文化的コンテキスト
- 第5週 映画の文化的コンテキスト
- 第6週 ネットの文化的コンテキスト
- 第7週 映像を読み解く～アメリカ社会と文化
- 第8週 映像を読み解く～ヨーロッパ社会と文化
- 第9週 映像を読み解く～日本社会と文化
- 第10週 映像を読み解く～IT社会における文化
- 第11週 映像を読み解く～欧米社会における女性
- 第12週 映像を読み解く～日本社会における女性
- 第13週 グローバリズムと人権
- 第14週 グローバリズムと環境社会
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

- <事前学修>授業で対象とする映画や番組、映像等を指示するので、可能な限り事前に見ておいて下さい。（学修時間 週120分）
- <事後学修>講義で教えられた内容についてインターネットや書籍を通じて、さらに理解を深めてください。（学修時間 週120分）

**【テキスト・教材】**

プリント資料を随時配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末課題70%、平常点（授業への積極参加、及び発表）30%。この割合を基準として総合的に評価します。  
期末課題等のフィードバックは授業の中で適宜行います。

**【参考書】**

授業内容に応じて参考資料（図書・DVD等）を適宜指定します。

## コーチング論

道谷 里英

3年 後期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

### 【授業のテーマ】

環境変化の激しい現代社会においては、前例や既存の方法だけにとらわれず、自ら主体的に考え、行動できる自律した人材が求められています。こうした人材を育成するには、従来型の画一的な育成手法や管理手法では困難です。最近では、個人の主体性を引き出す育成手法としてコーチングが注目されています。コーチングは、企業やマネジメントの領域だけでなく、スポーツの領域でも話題になっています。本講義では、これまでのわが国の人材育成のあり方を振り返りながら、コーチングの概念、他手法との違いを概説し、具体的なコーチング・スキルについて体験的に学びます。

### 【授業における到達目標】

本講義では以下の5点を達成することを目指します。

- ①人材育成の多様な方法と特徴について理解する。
- ②コーチングの基本的な概念や機能、原則を理解する。
- ③コーチングの基礎的なスキルを理解し、実践できる。
- ④コーチとしての倫理や求められる能力を理解する。
- ⑤コーチングが活用される領域とそれぞれの特徴を理解する。

以上を通じて、学生が修得すべき「協働力」のうち互いを尊重し信頼を醸成する力を身につけ、人間関係の構築能力を高めます。

### 【授業の内容】

- 第1週 わが国の人材開発の歴史
- 第2週 人材開発の体系、方法および課題
- 第3週 コーチングの定義および背景理論
- 第4週 コーチングの基盤にある人間理解のアプローチ
- 第5週 コーチングのモデル（原則とスキル、プロセス）
- 第6週 コーチングの基本スキル①（傾聴）
- 第7週 コーチングの基本スキル②（質問、問題の明確化）
- 第8週 コーチングの基本スキル③（目標設定）
- 第9週 コーチングの基本スキル④（行動化の支援）
- 第10週 コーチングスキルの総括
- 第11週 セルフコーチング
- 第12週 コーチのコア・コンピテンシー
- 第13週 メンタリングとコーチング
- 第14週 コーチングの実践現場への応用
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：あらかじめ指定された事前課題（毎週1時間）およびレポート課題に取り組むこと（隔週2時間）

事後学修：次回授業範囲の予習（毎週1時間）およびレポート課題の振り返り（隔週2時間）

### 【テキスト・教材】

テキストは使用しません。毎回、レジュメを配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価は定期試験80%、リアクション・ペーパー・課題レポート20%で実施します。なお、授業における積極的な発言等については、加点評価をします。レポートへのフィードバックは、提出2週間後に授業内で実施し、定期試験の結果は、最終回の授業でフィードバックします。

### 【参考書】

- ジョセフ・オコナー、アンドレア・ラゲス著（杉井要一郎訳）『コーチングのすべて』（英治出版 2012年）
- コーチ・エイ著 鈴木義幸監修 『この1冊ですべてわかる コーチングの基本』（日本実業出版社 2009年）

### 【注意事項】

本授業と関連性が深い「リーダーシップ論」をあわせて受講するとその学習効果が高まると思います。

**コミュニケーションと心理**

—対人関係とコミュニケーション—

**大塚 みさ**

1・2年 後期 2単位

○：国際的視野、美の探究

**【授業のテーマ】**

初対面の相手と会話するとき、あなたはどのようなことに注意しますか。その相手と親しくなるのにはどのような段階があるでしょうか。SNSによるやりとりは対面型のコミュニケーションとどのような相違があるでしょうか。また、ほめられたのに複雑な気持ちになったり、意図が正しく伝わらずにもやもやしたり、いらいらしたりするのはなぜなのでしょう。

この授業では、人と人とのコミュニケーションにおけることばの計り知れない役割を探ります。日頃は「ことば」に重点を置いて学ぶ機会の多いみなさんですが、「こころ」に関する研究成果についても積極的に学び、さらに視野を広げていきましょう。

授業に教育支援ツールresponを活用して、活発な意見交換の場を多数設けます。他の学生の意見から大いに刺激を受けて、さらに自分の考えを深めてほしいと願っています。

**【授業における到達目標】**

- ・日本人のコミュニケーションスタイルの特徴を学び、それを異文化の視点から観察することによって「国際的視野」を養います。
- ・周囲のコミュニケーション事例の考察を通して、他者とのよりよい関係を築く姿勢を培う「美の探究」ができるようになります。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTROダクション
- 第2週 配慮の示し方
- 第3週 対人関係の操作
- 第4週 諸表現と暗黙のルール
- 第5週 初対面会話での注意点
- 第6週 親しさのコミュニケーションとその原則
- 第7週 自分への気配り
- 第8週 ソーシャルメディアとコミュニケーション
- 第9週 ほめことばと応答
- 第10週 コミュニケーションの潤滑油—ユーモア
- 第11週 言語的な攻撃—クレマー
- 第12週 間接的な攻撃—皮肉
- 第13週 人の心は見抜けるのか—うその諸側面
- 第14週 マイナスの待遇表現
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】テキストの指定された部分を読むこと。また、次回の授業内容に関する課題に取り組み、responで他の受講生と意見交換を行って関心を深めること。(学修時間 週2時間)

【事後学修】テキストの指定された部分の読み込みと、授業中実施したrespon課題の振り返りによって学びを深めること。さらに授業内容を発展させる課題に取り組むこと。

(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

岡本真一郎『言語の社会心理学』（中公新書 2013年）950円  
毎回ワークシート式プリントを配付します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末試験…50%、manabaによる事後学修課題…20%、授業への積極的参加・事前学修課題…30%。

期末試験は、授業最終回または後日フィードバックを行います。respon課題は翌週授業時に、manaba課題は後日個別にフィードバックを行います。

**【参考書】**

岡本真一郎『ことばの社会心理学 第4版』  
(ナカニシヤ出版 2010年) 3,348円

その他、授業内で單元ごとに紹介します。

**【注意事項】**

- ・短期大学部受講ルールを厳守しましょう。

**コミュニケーション英語 a**

English for Communication

ダーリン, マーティン・フルトン, スチュワート

2年 前期 2単位

◎: 国際的視野 ○: 行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

The purpose of this elective one-semester course is to help second-year students develop their general English speaking and listening skills.

**【授業における到達目標】**

Students, upon the completion of this course, will attain the basic ability of effectively communicating in English, and confidence in doing so. That will lead to developing 「国際的視野」「行動力」and「協働力」 as a student of the English department.

**【授業の内容】**

This course will engage students in everyday conversational tasks and functions in which students will be expected to take part in pair-work, information exchanges and role-plays. In speaking, students will practice simple, controlled conversations and work for more independence in their ability to produce spoken English. Students will also practice listening to authentic English to improve their listening abilities. Students will be exposed to some reading and writing.

1st week Introduction  
2nd week Listening to authentic English  
3rd week Listening Abilities  
4th week Conversation Elementary Level  
5th week Questions  
6th week Talking with Friends  
7th week Conversation Intermediate Level  
8th week Travel  
9th week Reservation  
10th week Studying Abroad  
11th week Talking with Teachers  
12th week Explanation  
13th week Classification  
14th week Direction  
15th week Review

The subjects will change according to the level of each class.

**【事前・事後学修】**

Students should preview the appropriate part in the textbook or handouts before each class, especially with regard to unfamiliar expressions, collocations and sentence patterns [2 hours]. Students should also try to use these items themselves in classes afterwards [2 hours].

**【テキスト・教材】**

Instructors will select a textbook or provide handouts from a variety of sources.

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

1. Participation-60%
2. One test-40%

Feedback will be given in every class.

**【注意事項】**

Three tardies (coming to class late) equal one absence.

**コミュニケーション英語 b**

English for Communication

フルトン, スチュワート・ダーリン, マーティン

2年 後期 2単位

◎: 国際的視野 ○: 行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

This is an elective one-semester course that continues where “コミュニケーション英語a” finished. (Please note, however, that this course is independent of “コミュニケーション英語 a.”) The course is designed to help second-year students to further develop their general English speaking and listening skills.

**【授業における到達目標】**

Students, upon the completion of this course, will attain the basic ability of effectively communicating in English, and confidence in doing so. That will lead to developing 「国際的視野」「行動力」and「協働力」 as a student of the English department.

**【授業の内容】**

This course will engage students in everyday conversational tasks and functions in which students will be expected to take part in pair-work, information exchanges and role-plays. In speaking, students will practice simple, controlled conversations and work for more independence in their ability to produce spoken English. Students will also practice listening to authentic English to improve their listening abilities. Students will be exposed to some reading and writing.

1st week Introduction  
2nd week Listening to authentic English  
3rd week Listening Abilities  
4th week Conversation Advanced Level  
5th week Pair Work  
6th week Information Exchanges  
7th week Role Plays  
8th week Pair Presentation  
9th week Pair Review  
10th week Group Work  
11th week Group Presentation  
12th week Group Review  
13th week Class Discussion  
14th week Class Talk  
15th week Review

The subjects will change according to the level of each class.

**【事前・事後学修】**

Students should preview the appropriate part in the textbook or handouts before each class, especially with regard to unfamiliar expressions, collocations and sentence patterns [2 hours]. Students should also try to use these items themselves in classes afterwards [2 hours].

**【テキスト・教材】**

Instructors will select a textbook or provide handouts from a variety of sources.

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

1. Participation-60%
2. One test-40%

Feedback will be given in every class.

**【注意事項】**

Three tardies (coming to class late) equal one absence.

**コミュニケーション英語 c**

Communicate more confidently in English

ラーソン, マイケル

2年 前期 2単位

◎: 国際的視野 ○: 行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

The aim of this elective one semester course is for students to improve their general English skills. Especially, speaking and listening will be practised extensively. Students will also develop their discussion abilities and become more confident overall users of the English language.

**【授業における到達目標】**

This course will require students to engage in a number of speaking/listening activities - speeches, discussions, and presentations - on a number of topics linked to the ones in the textbook. These activities will lead to students broadening and widening their international perspective 「国際的視野」 and will help with their personal development 「行動力」 as students of the English department. Furthermore, students will be required to work on their investigative skills 「行動力」 and ultimately, they will be honing their collaborative and team working skills 「協働力」.

**【授業の内容】**

1st week Introduction  
2nd week Identity - speeches (preparation)  
3rd week Identity - speeches (activities)  
4th week Sports - speeches (preparation)  
5th week Sports - speeches (activities)  
6th week The Big Picture 1 - speeches  
7th week The night - discussions (preparation)  
8th week The night - discussions (activities)  
9th week Fashion - discussions (preparation)  
10th week Fashion - discussions (activities)  
11th week Fashion - discussions (review)  
12th week The Big Picture 2 - presentations  
13th week Homes - presentations (preparation)  
14th week Homes - presentations (activities)  
15th week Review

**【事前・事後学修】**

Students should preview the appropriate parts in the textbook or handouts before each class. Especially, with regard to unfamiliar expressions, collocations and sentence patterns - 2 hours. Students should also aim to use these items independently in classes afterwards - 2 hours.

**【テキスト・教材】**

Instructors will select a textbook or provide handouts from a variety of sources.

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

Students in this course are expected to participate in all classroom projects and discussions, and maintain good attendance for the semester. Final grades will be based upon a combination of classroom participation - 50%, and completion of all assignments - 50%.

Feedback will be given on the assignments submitted. Active listening, peer feedback and, peer assessment will also be integral parts of the overall grading.

**【参考書】**

Students must have access to a Japanese-English dictionary.

**【注意事項】**

- Students attending less than 70% of their class will fail.
- Exceptions are made for excused absences - via email in advance.
- Three tardies - coming to class late - equal one absence.

**コミュニケーション英語 d**

Communicate more confidently in English

ラーソン, マイケル

2年 後期 2単位

◎: 国際的視野 ○: 行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

This is an elective one-semester course that continues where コミュニケーション英語c finished - please note, however, that this course is independent of コミュニケーション英語c. The aim of this elective one semester course is for students to improve their general English skills. Especially, speaking and listening will be practised extensively. Students will also develop their discussion abilities and become more confident overall users of the English language.

**【授業における到達目標】**

This course will require students to engage in a number of speaking/listening activities - speeches, discussions, and presentations - on a number of topics linked to the ones in the textbook. These activities will lead to students broadening and widening their international perspective 「国際的視野」 and will help with their personal development 「行動力」 as students of the English department. Furthermore, students will be required to work on their investigative skills 「協働力」 and ultimately, they will be honing their collaborative and team working skills 「協働力」.

**【授業の内容】**

1st week Introduction  
2nd week Buying and Selling - speeches (preparation)  
3rd week Buying and Selling - speeches (activities)  
4th week Weather - speeches (preparation)  
5th week Weather - speeches (activities)  
6th week Mysteries - speeches (preparation)  
7th week Mysteries - speeches (activities)  
8th week The Big Picture 3 - discussions  
9th week Education - discussions (preparation)  
10th week Education - discussions (activities)  
11th week Education - discussions (review)  
12th week Water - presentations (preparation)  
13th week Water - presentations (activities)  
14th week The Big Picture 4 - presentations  
15th week Review

**【事前・事後学修】**

Students should preview the appropriate parts in the textbook or handouts before each class. Especially, with regard to unfamiliar expressions, collocations and sentence patterns - 2 hours. Students should also aim to use these items independently in classes afterwards - 2 hours.

**【テキスト・教材】**

Instructors will select a textbook or provide handouts from a variety of sources.

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

Students in this course are expected to participate in all classroom projects and discussions, and maintain good attendance for the semester. Final grades will be based upon a combination of classroom participation - 50%, and completion of all assignments - 50%.

Feedback will be given on the assignments submitted. Active listening, peer feedback and, peer assessment will also be integral parts of the overall grading.

**【参考書】**

Students must have access to a Japanese-English dictionary.

**【注意事項】**

- Students attending less than 70% of their class will fail.

- Exceptions are made for excused absences - via email in advance.

- Three tardies - coming to class late - equal one absence.

## コミュニケーション英語 e

More English for Communication

ダーリン, マーティン

3年 前期 2単位

◎: 国際的視野 ○: 行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

The aim of this course is for students to improve their English skills, especially speaking and listening. Students will also develop their discussion abilities and become more confident English speakers.

### 【授業における到達目標】

Each theme will present students with the opportunity to reflect on, discuss, and share their views with others. Students will learn to support their opinions and develop their critical thinking skills. In so doing, students will gain international perspectives and shape autonomous learning attitudes.

### 【授業の内容】

Week 1 - Introduction  
Week 2 - Cosmetic surgery  
Week 3 - Expressing opinions  
Week 4 - Household rules  
Week 5 - Analyzing problems  
Week 6 - Fashion  
Week 7 - Expressing preferences  
Week 8 - Preparing a presentation  
Week 9 - Presentations  
Week 10 - Parasite singles  
Week 11 - Giving advice  
Week 12 - Foreigners in Japan  
Week 13 - Japanese culture  
Week 14 - In-class proof  
Week 15 - Feedback

### 【事前・事後学修】

Read the assigned story and listen to it before class on the self-study CD. (4 hours per week on average)

### 【テキスト・教材】

*Impact Issues 3*  
Richard R Day, Joseph Shaules, Junko Yamanaka  
(Pearson Longman, 2011)  
978-962-01-9932-5  
3,316円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Quizzes 40%  
Presentations 40%  
Participation 20%  
Feedbacks will be provided in every class as needed.

### 【参考書】

Students must have an English-Japanese dictionary.

### 【注意事項】

Students need a B5 notebook.



**コミュニケーション英語 f**

More English for Communication

ダーリン, マーティン

3年 後期 2単位

◎: 国際的視野 ○: 行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

This course will develop students' language proficiency particularly in speaking and listening. Students will also learn the skills required to lead and fully participate in group discussions.

**【授業における到達目標】**

Students will discuss social issues relevant to their own lives. They will have many opportunities to discuss with their partner, in a group, and with the teacher. Students will have some input into class content and will be encouraged to take responsibility for their own learning. In so doing, students will gain international perspectives and shape autonomous learning attitudes.

**【授業の内容】**

Week 1 - Course introduction  
 Week 2 - Workplace relationships  
 Week 3 - Preparing an article for discussion  
 Week 4 - Career choices  
 Week 5 - Preparing for a job interview  
 Week 6 - Presentations  
 Week 7 - Women in society  
 Week 8 - Societal roles  
 Week 9 - Dating  
 Week 10 - Family relationships  
 Week 11 - Presentations (preparation)  
 Week 12 - Presentations (activities)  
 Week 13 - Tourism in Japan  
 Week 14 - In-class proof  
 Week 15 - Feedback

**【事前・事後学修】**

Read a short article related to the theme and study new vocabulary. (4 hours per week)

**【テキスト・教材】**

Materials will be supplied.

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

Presentations 40%

Quizzes 40%

Participation 20%

Feedback will be provided in class as needed.

**【参考書】**

Students must have an English-Japanese dictionary.

**【注意事項】**

Students need a B5 notebook and a clear plastic folder.

**コミュニケーション英語 g**

Advanced English for Communication

パーティウム, デイヴィッド

3年 前期 2単位

◎: 国際的視野 ○: 行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

This is an elective, one-semester course for students who would like a more challenging atmosphere in which they can use and improve their English speaking, listening, reading and writing skills at an accelerated level. The course is open to 3rd- and 4th-year students who meet two of the following three qualifications: a relatively high score on the TOEFL-ITP, an instructor's recommendation, and a high GPA. The class is limited to 30 students. The English Department will select the top 30 students from the pool of those who wish to register. A list of the names of the qualified students will be provided in the 2nd week of the course.

**【授業における到達目標】**

The course will require students to express their thoughts and opinions in debates, discussions and presentations on academic issues related to students' interests and will primarily focus on speaking and listening with some related reading and writing. In so doing, students will be able to play an independent role by applying what they already know to what they are learning.

**【授業の内容】**

1st week Family  
 2nd week Food  
 3rd week Time  
 4th week House  
 5th week Music  
 6th week Transportation  
 7th week Sports  
 8th week Numbers  
 9th week Best Friends  
 10th week TV  
 11th week Work  
 12th week Vacation  
 13th week School  
 14th week Movies  
 15th week Money

**【事前・事後学修】**

Students should preview the appropriate part in the textbook or handouts before each class, especially with regard to unfamiliar expressions, collocations and sentence patterns. Students should also try to use these items themselves in classes afterwards. (4 hours per week)

**【テキスト・教材】**

David Martin, 『Topic Talk, 2nd ed.,』 (EFL Press, 2000年)  
2700円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

Students in this course are expected to (1) participate in all classroom projects and discussions, and (2) maintain good attendance for the semester. Final grades will be based upon classroom participation (60%) and completion of all assignments and debates or presentations (40%)

Feedback will be provided through actual interactions in class.

**【注意事項】**

・ Students attending less than 70% of their classes will fail.

- Exceptions are made for excused absences.
- Three tardies (coming to class late) equal one absence.

## コミュニケーション英語h

Advanced English for Communication

パーティウム, デイヴィッド

3年 後期 2単位

◎ : 国際的視野 ○ : 行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

This is an elective, one-semester course for students who would like a more challenging atmosphere in which they can use and improve their English speaking, listening, reading and writing skills at an accelerated level. The course is open to 3rd- and 4th-year students who meet two of the following three qualifications: a relatively high score on the TOEFL-ITP, an instructor's recommendation, and a high GPA. The class is limited to 30 students. The English Department will select the top 30 students from the pool of those who wish to register. A list of the names of the qualified students will be provided in the 2nd week of the course.

### 【授業における到達目標】

The course will require students to express their thoughts and opinions in debates, discussions and presentations on academic issues related to students' interests and will primarily focus on speaking and listening with some related reading and writing. In so doing, students will be able to play an independent role by applying what they already know to what they are learning.

### 【授業の内容】

1st week Restaurants  
 2nd week Animals  
 3rd week Shopping  
 4th week Health  
 5th week Fashion  
 6th week Travel  
 7th week Books, Magazines and Newspapers  
 8th week Sickness  
 9th week Holidays  
 10th week Fears  
 11th week Dating  
 12th week Marriage  
 13th week Beliefs  
 14th week Crime  
 15th week Opinions

### 【事前・事後学修】

Students should preview the appropriate part in the textbook or handouts before each class, especially with regard to unfamiliar expressions, collocations and sentence patterns. Students should also try to use these items themselves in classes afterwards. (4 hours per week)

### 【テキスト・教材】

David Martin, 『Topic Talk, 2nd ed. 』 (EFL Press, 2000)  
 2700円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Students in this course are expected to (1) participate in all classroom projects and discussions, and (2) maintain good attendance for the semester. Final grades will be based upon classroom participation (60%) and completion of all assignments and debates or presentations (40%)

Feedback will be provided through actual interactions in class.

### 【注意事項】

- Students attending less than 70% of their classes will fail.

- Exceptions are made for excused absences.
- Three tardies (coming to class late) equal one absence.

**コミュニケーション概論**

高木 裕子

1年 前期・後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

20%、③期末課題レポート40%。①と②については終了後もしくは次週にフィードバックを行います。

**【参考書】**

授業中に紹介します。

**【注意事項】**

授業で学んだことはできるだけ実践、応用をしてみてください。

**【授業のテーマ】**

コミュニケーションは人間の営みには欠かせません。加速化する情報社会とグローバル化によって、必要性を感じない日はないでしょう。では、なぜ今、コミュニケーションが問われるのでしょうか。また、人はなぜ、コミュニケーションという行為を行うのでしょうか。そこに実体はあるのでしょうか。

人がその肉体に備わった諸器官と機能を最大に使って、人間同士がやり取りを行うのがコミュニケーションです。そして、そこに生きているのが私たち、人間です。人はコミュニケーションという手段や技能を使って、何かを行い、ある目標を達成し、夢や希望すらも手に入れようとします。無意識のうちに、人が人に伝えようとするものは、コミュニケーションという手段のうち、言語化される言葉や仕草、動作の中にそっと含まれたり、隠されたりします。

本授業では、この日常的なもの、でも、よくわからないコミュニケーションというものを、易しく学びながら、人が求める効果的なコミュニケーションのあり方について考えていきます。

**【授業における到達目標】**

人が行うコミュニケーション機能や目的、それに付随する現象・事象、効果的なあり方等を巡って、総合的かつ総括的に学ぶことを通じて、そこで必要な資質や態度、能力等を、基礎的に身に付けさせます。また、日常的に感じ、日々直面している「コミュニケーション」での問題や課題に対する示唆を得たり、解決力を身に付けたりすることを前提に、効果的かつ有益な「コミュニケーション」での態度を身に付けさせます。

**【授業の内容】**

第1週 ガイダンス

あなたのコミュニケーション力は？

第2週 コミュニケーションとは何か？

第3週 コミュニケーションでは何が問題になるのか、何が関係するのか

第4週 人間のコミュニケーションと人間間のコミュニケーション

第5週 人間関係とコミュニケーション

第6週 まとめクイズと「やってみましょう！」&amp;フィードバック

第7週 人間の諸器官と機能、そして、コミュニケーション

第8週 非言語コミュニケーション

第9週 脳と発達、そして、言語コミュニケーション

第10週 言語化の意味と能力

第11週 伝達と表象

第12週 機器の介在と言語化伝達の難しさ

第13週 脳内コミュニケーション

第14週 身近なコミュニケーション技術を付けてみよう！

第15週 総括

**【事前・事後学修】**

【事前学修】日常に在る（または潜む）コミュニケーションでの問題や現象、そこで問題や課題を意識化し、分析できるようにさせるため、レポートを課します。授業内容や専門用語等は、自身の振り返りの中で、実際場面や個人的な体験に置き換えた中で、感想や印象、単なる経験論ではないものにして下さい。理解と洞察力への変換を行うため、レポートを課します（週3時間）。

【事後学修】小課題等として、授業内容のまとめや振り返りレポートを課します（週1時間）。

**【テキスト・教材】**

テキスト『Active Listening』『Communication 大学生に求められるコミュニケーション力』（高木版）と、授業用ハンドアウト、及び、資料は、こちらで準備します。授業で紹介した本は必ず目を通しておき、指定の本は手元におくようにしてください。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

①小課題・小テスト40%、②「やってみよう！」（平常点を含む）

## コミュニケーション特論

高木 裕子

人間社会専攻 前期 2単位

## 【授業のテーマ】

コミュニケーションは、人にとって、いつ、いかなる時でも必要不可欠で、人間である限り、このコミュニケーションを取らずして、人間とは言えないとまで言われます。また、今日では、その人となりの基本（規範）行動も、このコミュニケーションのあり方によっており、それを操作することが、ビジネスにも繋がると考えられてもいます。

今期は、この「コミュニケーション」を、まずは次の4点から考えてみます。(1)「コミュニケーション」とは何かを、実体（概念）から総合的に捉え直してみる。(2)多様に定義され、規定概念化されている「コミュニケーション」を、専門化・細分化されている、各分野や各領域での扱いから考えてみる。また、そこでは何が問題なのかを整理してみる。(3)現代社会が抱える諸問題を解決し、それに対処する能力として、どうして「コミュニケーション」が求められるのか。その能力はどう規定でき、どう活用できるのを、事例をもって考える。(4)社会生活において、他者とのコミュニケーションは欠かせないが、多くの学問領域にわたるコミュニケーションは、実践や実体を対象化し、言語に置き換えてこそ初めて実感できるものでもある。では、それはそのような事象で、どう認識できるのか。

以上を踏まえ、この「コミュニケーション」を総括的に「コミュニケーション学」として捉え直す中で、それぞれが研究テーマとし、また、研究課題とするものに即し、研究して行きます。

## 【授業における到達目標】

日常生活の中で頻繁に耳にし、多種多様に使われる「コミュニケーション」を人はあまり意識して考えたことはありません。本授業では、各専門分野や学問領域によっても定義が様々な「コミュニケーション」を総体的かつ総括的に「コミュニケーション学」として捉え直す中で、専門的に学んでいきます。ここでの学びを通じ、来る時代に向け、世界で起こる諸問題に対する解決方法や社会技術論として、また、企業内組織や地域社会で活用できる応用論として、この「コミュニケーション」が使えるように学んでいきます。

## 【授業の内容】

- 第1週 本能としてのコミュニケーション力と人間のコミュニケーション
- 第2週 社会構造の複雑化と社会生活における他人コミュニケーションの必要性
- 第3週 人間のコミュニケーションと言語機能
- 第4週 人間のコミュニケーションと社会文化機能
- 第5週 人間のコミュニケーションとストラテジー戦略
- 第6週 コミュニケーション（学）と他者と取るコミュニケーション
- 第7週 人間のコミュニケーションと他者と取るコミュニケーション
- 第8週 伝達能力と仲間意識、コミュニケーション操作としてのマスコミとロコミ
- 第9週 コミュニケーション能力とは何か、技術としてのコミュニケーション力とは何か
- 第10週 コミュニケーションモデルとコミュニケーションスキル
- 第11週 コミュニケーションに係わる諸理論と周辺学際領域
- 第12週 コミュニケーション能力育成論と能力の定義
- 第13週 現代社会が抱える諸問題の解決や対処能力としてのコミュニケーション能力
- 第14週 コミュニケーション能力は付くのか、付けるのか
- 第15週 コミュニケーション能力は育成できるのか

## 【事前・事後学修】

【事前学修】コミュニケーションに係わる英文や邦文での文献は如何に関わらず事前に読んでおくこと。「英語が苦手」という者も英語で書かれた原文の読解は必読である。尚、今日、コミュニケーションに係わる問題や現象は数多く存在するが、それらに意識を向け、テーマ化するため、事前調査や事例分析は行う。（週2時間）

【事後学修】発表後のフィードバックを踏まえ、問題点や課題点を整理し、再度レポートして提出すること。（週2時間）

## 【テキスト・教材】

石井敏・久米昭元・遠山淳編著『異文化コミュニケーションの理論 新しいパラダイムを求めて』有斐閣ブック、2001年（現在絶版のため、配布資料としてこちらで準備する）

末田清子・福田浩子『コミュニケーション学 その展望と視点増補版』松柏社、2011年 2000円＋税

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

事前調査・事例分析の提出30%、発表とディスカッション20%、中間課題レポート20%・期末課題レポート30%。フィードバックは授業内で毎回行う。

## 【参考書】

適宜授業で掲げる。

**コミュニティ概論**

須賀 由紀子

1年 後期 2単位

◎：研鑽力

**【授業のテーマ】**

現代は、生活の質を問う成熟型・環境親和型の暮らしが求められる時代です。その中で、少子高齢化という現実、日々の暮らしの営みを支える地域コミュニティの充実の課題を伴います。また、高度情報化は、思いがけないネットワークの可能性を開く一方、自分自身の確かな拠り所となるコミュニティを持つことの必要ももたらします。人と人、人と自然が意味ある関係性を結び合うコミュニティを、現代社会の特性の中で、どのように考え、どうデザインしていくか。その考え方の基礎を持つことは、これからの時代の暮らしに不可欠です。

この授業では、こうした問題意識を背景に、現代社会におけるコミュニティのあり方についての基本的な視点を学びます。人間存在や日本の文化風土の伝統といった本質からの見方を踏まえつつ、現代社会の特徴、今日の代表的なまちづくりの考え方や事例、企業の新しい取り組みなど、現代的潮流の中にそれを捉えます。

全体を通じて、人間とコミュニティの本質に根ざしながら、現代の社会課題に応じたコミュニティを構想できるようになることがこの授業の目標です。できるだけ、皆さんの身近な生活感覚の中で捉えられるようにすすめていきます。

**【授業における到達目標】**

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究する力、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる力の修得をめざします。

**【授業の内容】**

1. オリエンテーション
2. 「社会」を必要とする人間本性
3. 現代社会とコミュニティ
4. 日本型共同体の伝統と「懐かしい未来」
5. 「生活者」の視点からみたコミュニティ
6. スマートシティとコミュニティ
7. スローシティとコミュニティ
8. コミュニティデザインの時代
9. 地域資源を活かしたまちづくり
10. アートを活かしたまちづくり
11. テーマ・コミュニティ
12. 地域活性化と企業
13. コミュニティ・ビジネスについて
14. これからのコミュニティと社会構想
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】提示する課題に取り組みます。（学修時間 2時間）

【事後学修】学んだことを復習し、内容の整理・理解に努めます。（学修時間 2時間）

**【テキスト・教材】**

適宜、プリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末レポート50%、平常点（授業内課題）50%。課題に対するフィードバックは、授業の中で適宜行います。

**【参考書】**

広井良典『コミュニティを問い直す』（筑摩書房）、内山節『共同体の基礎理論』（農文協）、天野正子『現代「生活者」論』（有志舎）、山崎亮『コミュニティデザインの時代』（中央公論新社）

**コミュニティ経済演習**

「個人」「地域」「世界」の視点から経済を考える

野津 喬

2・3年 前期 2単位

◎：協働力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

この授業ではケーススタディを通じて、地域コミュニティを支える「経済」が抱える課題への解決策について、「個人」「地域」「世界」の3つの視点から考え、自分の言葉で説明できるようになることを目的とします。

授業はグループワークとプレゼンテーション演習を繰り返し行い、情報の収集・分析、企画立案、プレゼンテーションなど、実社会で求められる能力の基礎を習得することを目指します。

**【授業における到達目標】**

- ①「個人」「地域」「世界」の3つの視点から、地域コミュニティの経済について自分の言葉で論理的に説明できるようになる。
  - ②情報の収集・分析、グループディスカッション、プレゼンテーションに関する基礎的能力を身につける。
- これにより、学生が習得すべき「行動力」「協働力」を身につけることを目的とします。

**【授業の内容】**

次の各テーマについて、15回の授業を行う予定です。

1. はじめに（講義の進め方及び目標、イントロダクション）
2. 女性が働きやすい職場①（事例研究）
3. 女性が働きやすい職場②（関連情報の分析）
4. 女性が働きやすい職場③（企画の検討）
5. 女性が働きやすい職場④（プレゼンテーション）
6. これまでの演習の振り返り（情報分析、発表の技法）
7. 地域の活性化①（事例研究）
8. 地域の活性化②（関連情報の分析）
9. 地域の活性化③（企画の検討）
10. 地域の活性化④（プレゼンテーション）
11. グローバル化と地域経済①（事例研究）
12. グローバル化と地域経済②（関連情報の分析）
13. グローバル化と地域経済③（企画の検討）
14. グローバル化と地域経済④（プレゼンテーション）
15. まとめ（これまでの授業の総括）

※授業に必要な範囲で、フィールドスタディ等の課題を課すことがあります。

**【事前・事後学修】**

【事前学修】次の授業の参考資料に事前に目を通しておいてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義で指摘を受けた事項等について、インターネットや書籍等によって各自に必要な情報を集めてください。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

manabaに講義で使用するプリント等を掲載しますので、各自で事前にプリントアウトして忘れずに授業に持参してください。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

グループワーク（80%）、プレゼンテーション（20%）により評価を行います。フィードバックは、各テーマのプレゼンテーションの次の回に行います。

**【参考書】**

それぞれのケーススタディごとに、講師から適宜指示します。

**【注意事項】**

他の受講者の迷惑となる行為（私語など）を禁止します。講義の妨げになると判断した場合は、成績評価に反映（減点）し、注意しても改善されない場合は講義からの退室を求める場合があります。講義開始後10分以上経過した後の入室は遅刻、30分以上経過した後の入室は欠席扱いとします。その他の注意事項等の説明は初回の講義で行います。

## コミュニティ心理学

菅原 育子

3年 後期 2単位

◎：協働力 ○：研鑽力、行動力

### 【授業のテーマ】

私たちの生活は、家庭、学校、職場、近隣地域、など、様々な社会集団の中で営まれています。私たち個々人が抱える様々な違和感や悩みは、一見プライベートな問題にみえて、実際には集団や社会の仕組みや決まりごとを理解し、それらに働きかけることが必要とされる場合が多く存在します。

コミュニティ心理学は、私たち一人ひとりがよりよく生きられる社会を目指して、個人だけでなく、その人が所属する集団やコミュニティに関与し、当事者とともに課題を解決することを目指す実践的な取り組みです。この授業では、コミュニティ心理学の基本的な考え方を学ぶとともに、実際の研究論文や報告書を読んで、学校、職場、地域社会などにおける実践例を深く掘り下げることで、課題解決への道すじを考えます。授業をとおして、コミュニティ心理学の考え方や課題への取り組み方を理解し、社会の問題を分析し、解決に向けた方略を考え、計画する力を養うことを目指します。

### 【授業における到達目標】

様々な立場や考えの人・機関と協力し、ともに課題解決をめざすことの大切さを学び「協働力」を修得します。加えて、身の周りの課題を発見、分析し行動にうつす「研鑽力」「行動力」の修得を目指します。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 コミュニティ心理学とは何か
- 第3週 コミュニティ心理学の基礎的な理論
- 第4週 予防・介入・コンサルテーション
- 第5週 ソーシャル・サポート
- 第6週 ソーシャル・ネットワーク
- 第7週 エンパワメントと協働
- 第8週 コミュニティ感覚
- 第9週 個人のウェルビーイングと生活の質
- 第10週 コミュニティ感覚、ウェルビーイングを測る
- 第11週 コミュニティ心理学の研究手法
- 第12週 実践例を学ぶ（1）子育てをめぐる例
- 第13週 実践例を学ぶ（2）高齢者をめぐる例
- 第14週 実践例を学ぶ（3）働き方や職場をめぐる例
- 第15週 実践例を学ぶ（4）地域社会をめぐる例

### 【事前・事後学修】

毎回の授業前にテキストの該当するテーマについて熟読してください。（学修時間週2時間）

授業中に課題（小レポート）を出します。授業内容を復習するとともに、課題に取り組み提出日までにレポートを提出してください。（学修時間週2時間）

### 【テキスト・教材】

植村勝彦・他（編著）『よくわかるコミュニティ心理学（第2版）』（ミネルヴァ書房、2012年）2,700円

上記テキスト以外に、プリントを適宜配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極的な参加、課題の提出）60%、最終レポート40%により、総合的に評価します。授業中の課題、および最終レポートのフィードバックは、各提出締切り後の授業内で行います。

### 【参考書】

高島克子（著）『コミュニティ・アプローチ』（東京大学出版会、2011年）

### 【注意事項】

授業の中では受講者でグループをつくり、グループ作業や討議、発表などを行います。これらの作業や発表への積極的な参加を望みます。

## 코리아語 1 a

朴 校熙

1年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

韓国語を初めて学ぶ人を対象に、文字と発音、あいさつ言葉と簡単な文型を学びます。

### 【授業における到達目標】

ごく簡単な短文レベル程度の文章理解力があり、簡単な内容であれば、自分の意思を単語あるいはフレーズで伝えられます。自分について、自分が何をしているか、自分が住んでいる場所を、述べることができます。学生が修得すべき「国際的視野」のうち、相互理解と協力を築こうとする態度を修得します。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション、韓国語についての概要
- 第2週 基本母音 1
- 第3週 基本子音 1
- 第4週 平音・激音・濃音
- 第5週 複合母音
- 第6週 終声子音 1
- 第7週 終声子音 2
- 第8週 辞書の調べ方、ハングル入力について
- 第9週 日本語のハングル表記
- 第10週 発音変化 1
- 第11週 発音変化 2
- 第12週 韓国語の文章の読み方
- 第13週 ～は～です。／～は～ですか。
- 第14週 総括
- 第15週 フィードバック

### 【事前・事後学修】

「事前学修」

毎回の授業前に、小テストに備えてテキストの該当箇所を予習しておいてください。（学修時間 週2時間）

「事後学修」

毎回の授業後に、授業で習った新しい語彙及び文法を復習し、なおCDを聞いて復習しておいてください。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

朴校熙・黄善英・崔昌玉・木村春菜 共著『トライ韓国語 1』（白帝社 2011年）2,400円  
ISBN：978-4-86398-041-9

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業中の発言、発表、課題）（20%）、小テスト（30%）、定期試験（50%）で評価します。小テストはテストの後、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

### 【注意事項】

募集人数は40名です。

## 코리아語 1 b

朴 校熙

1年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

코리아語1aで既習した文法知識を拡大しつつ、より新しい場面における会話の練習を通じ、韓国語のコミュニケーション能力を総合的に高めます。

### 【授業における到達目標】

ごく簡単な短文レベル程度の文章理解力があり、簡単な内容であれば、自分の意思を単語あるいはフレーズで伝えられます。自分について、自分が何をしているか、自分が住んでいる場所を、述べることができます。

学生が修得すべき「国際的視野」のうち、相互理解と協力を築こうとする態度を修得します。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーションおよび코리아語aの文法事項の復習
- 第2週 発音変化の総復習と韓国語文章の読みの練習
- 第3週 指示代名詞、疑問詞
- 第4週 指定詞の否定形
- 第5週 漢数字、年月日とお金の言い方
- 第6週 丁寧形（格式体）
- 第7週 基本動詞を用いた格式体文章の練習
- 第8週 固有数字、時間
- 第9週 基本形容詞を用いた格式体文章の練習
- 第10週 基本名詞を用いて「～に行きます。～で～をします。」文型の練習
- 第11週 動詞・形容詞・存在詞・指定詞の否定（格式体）
- 第12週 丁寧形（格式体）
- 第13週 用言語幹の活用形
- 第14週 総括
- 第15週 フィードバック

### 【事前・事後学修】

「事前学修」

毎回の授業前に、小テストに備えてテキストの該当箇所を予習しておいてください。（学修時間 週2時間）

「事後学修」

毎回の授業後に、授業で習った新しい語彙及び文法を復習し、なおCDを聞いて復習しておいてください。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

朴校熙・黄善英・崔昌玉・木村春菜 共著『トライ韓国語 1』（白帝社 2011年）2,400円  
ISBN：978-4-86398-041-9

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業中の発言、発表、課題）（20%）、小テスト（30%）、定期試験（50%）で評価します。小テストはテストの後、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

### 【注意事項】

코리아語1aを履修しておくことが望まれます。募集人数は40名です。



## コリア語 2 a

朴 校熙

2年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

コリア語1a・bで既習した文法知識をもとに、初級から中級レベルで必要となる新しい語彙や文型を学ぶとともに、コリア語a・bに比べて会話の練習と韓国文化の理解に重点を置きます。

### 【授業における到達目標】

日常の出来事程度の文章理解力があり、意思疎通が文レベルで行えます。

韓国語能力試験（TOPIK）初級語彙のうち、1,000語程度の語彙を用いた文章を理解できるようになります。

学生が修得すべき「国際的視野」のうち、相互理解と協力を築こうとする態度を修得します。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション及びコリア語1a・bの文法事項の復習
- 第2週 名詞文 ～は～です。
- 第3週 指示詞、疑問詞、接続詞
- 第4週 助詞（列挙）、疑問詞、助詞「の」の省略
- 第5週 疑問詞、家族
- 第6週 存在詞
- 第7週 漢数字、助数詞
- 第8週 動詞の丁寧形
- 第9週 変則と動詞の否定
- 第10週 固有数詞、時刻、位置
- 第11週 動詞の過去形
- 第12週 動詞の過去形否定
- 第13週 変則と形容詞の否定
- 第14週 総括
- 第15週 フィードバック

### 【事前・事後学修】

「事前学修」

毎回の授業前に、小テストに備えてテキストの該当箇所を予習しておいてください。（学修時間 週2時間）

「事後学修」

毎回の授業後に、授業で習った新しい語彙及び文法を復習し、なおCDを聞いて復習しておいてください。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

入佐信宏・金孝珍著『これで話せる韓国語STEP 1』（白帝社、2015年）2,300円＋税

ISBNコード 978-4-86398-181-2C3087

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業中の発言、発表、課題）（20%）、小テスト（30%）、定期試験（50%）で評価します。小テストはテストの後、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

### 【参考書】

授業中に適宜指示します。

### 【注意事項】

コリア語1a・1bを履修しておくことが望まれます。

募集人数は40名です。

## コリア語 2 a

高 恩淑

2年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

本講座は、コリア語1a・bで学んだ基本文法を確かめながら、初級後半レベルから中級レベルまでの重要文法・文型を身に付け、読む、書く、聞く・話す能力を高めていく。

### 【授業における到達目標】

日常生活に活かせる基本会話能力を身につけることを目標とする。CEFR水準のA2レベルまでの上達を目指す。

卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「問題解決のために主体的に行動する力」を養う。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション及びコリア語の発音ルールの復習
- 第2週 コリア語の基本文法・文型の復習
- 第3週 理由を表す表現（～から／～ので）
- 第4週 逆接表現（～けど／～のに）
- 第5週 推測、意志、誘いなどを表す文末表現Ⅰ
- 第6週 推測、意志、誘いなどを表す文末表現Ⅱ
- 第7週 総合練習Ⅰー用言の活用について
- 第8週 先行動作（～して／～してから）
- 第9週 仮定条件（～したら／～すれば）
- 第10週 動作進行を表す形式（～ている）
- 第11週 完了を表す表現（～ている／～である）
- 第12週 可能・不可能の表現
- 第13週 敬語表現Ⅰ
- 第14週 敬語表現Ⅱ
- 第15週 総合練習Ⅱ（総まとめ）

（以上は、進度およびクラスの状況などの事情により変更されることがある）

### 【事前・事後学修】

・コリア語1a・bを履修しておくことが望ましい。

【事前学修】（学修時間 週1時間）

・新しい単語や表現などを調べておくこと  
・授業の初めに前回の内容についてクイズを出すので、復習しておくこと。

【事後学修】（学修時間 週1時間）

・学習した基本語彙や文型・文法項目などを復習すること。  
・次回の授業範囲を予習し、会話の内容を理解しておくこと。

### 【テキスト・教材】

木内明『基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版』国書刊行会、2015、2100(+税)

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点65%（授業態度、質疑応答、小テスト、課題など）、定期試験35%で評価する。5回の欠席は、定期試験の結果がよくてもCとする。

小テストの解答は授業中フィードバックする。提出された課題は毎回添削して返却し、コメントと共にフィードバックする。

### 【参考書】

必要に応じてプリントを配る。

### 【注意事項】

・語学は繰り返しが大切なので、極力授業を休まないこと。  
・40分以上の遅刻は欠席扱いとする。  
・3回の遅刻で1回の欠席と見做す。  
※募集人数は40名です。

## コリア語 2 b

朴 校熙

2年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

コリア2aで既習した文法知識を拡大しつつ、より新しい場面における会話の練習を通じ、韓国語のコミュニケーション能力を総合的に高めます。そして韓国の文化への理解をもさらに深めていきます。

### 【授業における到達目標】

日常の出来事程度の文章理解力があり、意思疎通が文レベルで行えます。

韓国語能力試験（TOPIK）初級語彙のうち、2,300語程度の語彙を用いた文章を理解できるようになります。

学生が修得すべき「国際的視野」のうち、相互理解と協力を築こうとする態度を修得します。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション及びコリア語文化aの文法事項の復習
- 第2週 形容詞の過去形、名詞文の否定
- 第3週 助詞（手段、道具）、引用、依頼、助詞の連続
- 第4週 上手、得意、不可能、苦手、禁止
- 第5週 意志、予定、丁寧形
- 第6週 意向を尋ねる
- 第7週 希望、願望、意志、約束
- 第8週 注文
- 第9週 確認や同意を求める、感嘆、予測
- 第10週 丁寧形（格式体の現在と過去）
- 第11週 可能、不可能
- 第12週 経験、予測
- 第13週 提案、感嘆
- 第14週 総括
- 第15週 フィードバック

### 【事前・事後学修】

「事前学修」

毎回の授業前に、小テストに備えてテキストの該当箇所を予習しておいてください。（学修時間 週2時間）

「事後学修」

毎回の授業後に、授業で習った新しい語彙及び文法を復習し、なおCDを聞いて復習しておいてください。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

入佐信宏・金孝珍著『これで話せる韓国語STEP 1』（白帝社、2015年）2,300円＋税

ISBNコード 978-4-86398-181-2C3087

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業中の発言、発表、課題）（20%）、小テスト（30%）、定期試験（50%）で評価します。小テストはテストの後、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

### 【参考書】

授業時に適宜指示します

### 【注意事項】

コリア語1a・1b、コリア語2aを履修しておくことが望まれます。

募集人数は40名です。

## コリア語 2 b

高 恩淑

2年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

本講座は、コリア語2aで学んだ重要文法・文型を確かめながら、初中級文型の活用の練習、関連会話の練習を繰り返し、コミュニケーション能力を総合的に高める。

### 【授業における到達目標】

日常生活に活かせる基本会話能力を身につけることを目標とする。

「話す」「聞く」「読む」「書く」能力をCEFR水準のA2レベルまで高めていく。卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「問題解決のために主体的に行動する力」を養っていく。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション及びコリア語2aの文法項目の復習
- 第2週 コリア語2aの重要文型の復習
- 第3週 用言の不規則活用（1）
- 第4週 用言の不規則活用（2）
- 第5週 意志を表す表現
- 第6週 断定を表す表現
- 第7週 総合練習Ⅰー 用言の活用について
- 第8週 勧誘を表す表現
- 第9週 推量を表す表現
- 第10週 相手の許可・許容を求める表現
- 第11週 総合練習Ⅱー 会話中心の総復習（聴解問題を解く）
- 第12週 動作進行と状態の持続を表す表現
- 第13週 動作の試み、動作完了を表す表現
- 第14週 初中級レベルにおける文末表現の総まとめ
- 第15週 総合練習Ⅲー これまでの文法項目を使った会話練習

（学習した単語・フレーズを中心に）

（以上は、進度およびクラスの状況などの事情により変更されることがある）

### 【事前・事後学修】

・コリア語2aを履修しておくことが望ましい。

【事前学修】（学修時間 週1時間）

・新しい単語や表現などを調べておくこと  
・授業の初めに前回の内容についてクイズを出すので、復習しておくこと。

【事後学修】（学修時間 週1時間）

・学習した基本語彙や文型・文法項目などを復習すること。  
・次回の授業範囲を予習し、会話の内容を理解しておくこと。

### 【テキスト・教材】

木内明『基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版』国書刊行会、2015、2100(+税)

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点65%（授業態度、質疑応答、小テスト、課題、など）、定期試験35%で評価する。5回の欠席は、定期試験の結果がよくてもCとする。

小テストの解答は授業中フィードバックする。提出された課題は毎回添削して返却し、コメントと共にフィードバックする。

### 【参考書】

必要に応じてプリントを配る。

### 【注意事項】

・語学は繰り返しが大切なので、極力授業を休まないこと。  
・40分以上の遅刻は欠席扱いとする。  
・3回の遅刻で1回の欠席と見做す。

※募集人数は40名です。

## 코리아語で学ぶ코리아語 a

高 恩淑

1年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

本講座は、直接法によって正確な発音を学び、韓国語の文字や音に慣れることを目指す（基本的に코리아語で指導する）。また、一般会話で最も頻繁に使われる基本文型を繰り返し練習することにより、コミュニケーションの基本である会話の基礎を固めていく。

### 【授業における到達目標】

코리아語を全く知らない初心者を対象とし、文字や基本文法に慣れることを目標とする。CEFR水準のA1レベルまでの上達を目指す。

卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「問題解決のために主体的に行動する力」を養う。

### 【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション及びハングルの構造
- 第2回 基本母音と基本子音
- 第3回 子音の激音と濃音
- 第4回 複合母音
- 第5回 パッチム
- 第6回 発音の変化
- 第7回 総合練習Ⅰ（発音変化の総復習）
- 第8回 自己紹介と分かち書き
- 第9回 体言の肯定形
- 第10回 体言の疑問形
- 第11回 体言の否定形
- 第12回 用言の肯定形
- 第13回 用言の疑問形
- 第14回 体言と用言の普通形と丁寧形
- 第15回 総合練習Ⅱ— 会話中心総合練習  
（学習した単語・フレーズを中心に）

（以上は、進度およびクラスの状況などの事情により変更されることがある）

### 【事前・事後学修】

【事前学修】（学修時間 週1時間）

- ・新しい単語や表現などを調べておくこと
- ・授業の初めに前回の内容についてクイズを出すので、復習しておくこと。

【事後学修】（学修時間 週1時間）

- ・学習した基本語彙や文型・文法項目などを復習すること。
- ・次回の授業範囲を予習し、会話の内容を理解しておくこと。

### 【テキスト・教材】

新大久保学院『新装版 できる韓国語 初級Ⅰ』アスク、2016、2000（+税）

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点65%（授業態度、質疑応答、小テスト、課題など）、定期試験35%で評価する。5回の欠席は、定期試験の結果がよくてもCとする。

小テストの解答は授業中フィードバックする。提出された課題は毎回添削して返却し、コメントと共にフィードバックする。

### 【参考書】

必要に応じてプリントを配る。

### 【注意事項】

- ・何より、授業への参加と授業態度を重視する。
- ・40分以上の遅刻は欠席扱いとする。
- ・3回の遅刻で1回の欠席と見做す。

※募集人数は40名です。

## 코리아語で学ぶ코리아語 b

高 恩淑

1年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

本講座は、前期と後期の授業を通し、코리아語の文字と発音から始め、基本文法・文型を身に付け、코리아語の全般的な能力（読み・書き・聞き・話す）を養う。特に、会話能力の向上を目指す（基本的に코리아語で指導する）。

### 【授業における到達目標】

코리아語1aで既習した文法知識を拡大しつつ、様々な場面における会話練習を通じ、コミュニケーション能力を総合的に高めることを目標とする。「話す」「聞く」「読む」「書く」能力をCEFR水準のA1レベルまで高めていく。

卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「問題解決のために主体的に行動する力」を養う。

### 【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション及び코리아語aの文法事項の復習
- 第2回 発音変化の総復習と文章を読む練習
- 第3回 体言と用言の否定形
- 第4回 漢数詞（年月日とお金の言い方）
- 第5回 固有数詞（時間とお年の言い方）
- 第6回 助数詞
- 第7回 体言のヨ体
- 第8回 用言のヨ体Ⅰ
- 第9回 用言のヨ体Ⅱ
- 第10回 総合練習Ⅰ— 体言と用言の文末活用について
- 第11回 体言の過去形
- 第12回 用言の過去形
- 第13回 接続表現
- 第14回 仮定表現
- 第15回 総合練習Ⅱ— これまでの重要表現の総復習  
（日常生活に役立つフレーズを中心に）

（以上は、進度およびクラスの状況などの事情により変更されることがある）

### 【事前・事後学修】

- ・코리아語1aを履修しておくことが望ましい。

【事前学修】（学修時間 週1時間）

- ・新しい単語や表現などを調べておくこと
- ・授業の初めに前回の内容についてクイズを出すので、復習しておくこと。

【事後学修】（学修時間 週1時間）

- ・学習した基本語彙や文型・文法項目などを復習すること。
- ・次回の授業範囲を予習し、会話の内容を理解しておくこと。

### 【テキスト・教材】

新大久保学院『新装版 できる韓国語 初級Ⅰ』アスク、2016、2000（+税）

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点65%（授業態度、質疑応答、小テスト、課題、など）、定期試験35%で評価する。5回の欠席は、定期試験の結果がよくてもCとする。

小テストの解答は授業中フィードバックする。提出された課題は毎回添削して返却し、コメントと共にフィードバックする。

### 【参考書】

必要に応じてプリントを配る。

### 【注意事項】

- ・何より、授業への参加と授業態度を重視する。
- ・40分以上の遅刻は欠席扱いとする。
- ・3回の遅刻で1回の欠席と見做す。

※募集人数は40名です。

**コンシェルジュ論**

—コンシェルジュから学ぶホテルの仕事とホスピタリティー

池田 里香子

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

**【授業のテーマ】**

おもてなしの代名詞となっている“コンシェルジュ”という言葉の原点である国際的な仕事の舞台、究極のサービス業と言われる職業の代表＝ホテルにて活躍する“コンシェルジュ”に焦点を当てホテルエとして必要な基礎知識、仕事について学びながら、ホテル業界のみならず、接客業・サービス業全般に欠かすことの出来ないホスピタリティについて講義する。

ホテルでの実例や映像も利用し現場の業務を詳しく説明していく。

その他、おもてなしに欠かせない自分自身を美しく輝かせる為の身だしなみ講座やマナー演習を行う。

**【授業における到達目標】**

コンシェルジュという職業を通し、人間関係の基礎となるマナーとコミュニケーション能力を学び身に付け実践できる様にする。海外からのお客さまへホスピタリティを提供する為の国際的視野を養い、自身の心と外見を磨き向上させる態度を身に付ける。お客さまからのリクエストに対し、「Noと言わない」為に必要な真摯な対応、諦めずに解決の糸口を探しだす研鑽力、行動力、他者との惜しみない協働力を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 ホテルとは/コンシェルジュとは
- 第2週 ホテルの星による格付け/コンシェルジュの歴史と発展
- 第3週 客室のカテゴリー/コンシェルジュの規律、定義
- 第4週 アメニティとVIPゲスト/コンシェルジュの哲学
- 第5週 コンシェルジュの外見・資質
- 第6週 コンシェルジュの知識・常識
- 第7週 ホテルの組織/コンシェルジュの組織とデスク
- 第8週 ホテルエに必要な身だしなみ講座  
～日本メイクアップ協会認定講師 湯浅妙子氏
- 【注意事項】調整により、前後の週に変更になる場合もある
- 第9週 コンシェルジュの業務・役割
- 第10週 ホテルの各部門の仕事/同僚、他部署、マネジメントとの関係、ホテル外の人脈
- 第11週 コンシェルジュとお客さまとの関係
- 第12週 コンシェルジュ演習
- 第13週 ホテルエに必要なマナー演習、プロトコール
- 第14週 コンシェルジュの利点、一流のホスピタリティ
- 第15週 まとめ・総括

**【事前・事後学修】**

【事前学修】各回の授業内容を、テキストの該当箇所ですり習しておくこと。提出と発表の課題に取り組むこと。

(学修時間 週2時間程度)

【事後学修】毎回配布する資料・プリントを読み復習しておくこと。(学修時間 週2時間程度)

**【テキスト・教材】**

池田里香子著『お客さまが心を開く「おもてなしの鍵」』

(明日香出版社、2014年) 1,620円

プリント『LE HALL～読み継がれるコンシェルジュの愛読書～』

(オータパブリケーションズ、2007年～2008年)

HOTERES連載よりを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

配分基準：定期試験60%と平常点(授業態度、演習内での

表現力・積極性、提出課題)40%で総合的に判断する。

提出課題は次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

**【参考書】**

池田里香子著『スイートルームに泊まる人のたった1つの習慣』

(あさ出版、2012年) 1,512円

## コンピュータとプログラミング演習

小山 裕司

2年 前期 2単位 2時限連続

◎：研鑽力 ○：行動力

### 【授業のテーマ】

コンピュータのソフトウェア（プログラム）の動作を表現するプログラミングを学びます。プログラミングからソフトウェアの動作及び表現を理解することで、コンピュータ等の各種情報機器の動きを学びます。

### 【授業における到達目標】

この科目では以下の事項を修得することを到達目標にします。

- ・プログラミング（プログラムの読み書き）
- ・プログラミング環境の操作
- ・プログラムの動作の理解
- ・IT関係の基礎知識

学生が修得すべき「行動力」のうち、問題を解決する力を修得します。

### 【授業の内容】

ほとんどの回でPCを使った演習があります。

- 第1回：講義の概要
- 第2回：プログラミング言語
- 第3回：プログラムの作成・実行
- 第4回：開発環境
- 第5回：データの型
- 第6回：変数
- 第7回：四則演算
- 第8回：文字列演算
- 第9回：比較演算
- 第10回：条件分岐
- 第11回：繰り返し
- 第12回：関数、再帰処理
- 第13回：自由課題
- 第14回：発表
- 第15回：総括

### 【事前・事後学修】

（事前）各回の授業の内容を授業前に確認してください。（週1時間程度）

（事後）各回の授業の内容は次回までに復習してください。また、授業で取り扱った内容に関する課題を出しますので、次回までに組み込んでください。（週3時間程度）

### 【テキスト・教材】

講義時に適宜指示あるいはプリント・資料を配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験40点、レポート及び小テスト60点を基本として総合的に評価します。レポート・小テストは当日あるいは次回授業で、試験結果は当日あるいは授業最終回でフィードバックを行う。

### 【参考書】

講義時に適宜指示あるいはプリント・資料を配布します。

### 【注意事項】

演習室のパソコン台数の制約から、受講人数は40名を限度とします。上限以上の受講希望者があった場合には、次の順序で履修者を決定します。

1. 教職課程の資格取得希望者
2. 上記を除く受講希望者の中から抽選により決定します。

**コンピュータグラフィックス**

CGソフトの体験

**金井 宏水**

1・2年 後期 1単位

○：美の探究、研鑽力

**【授業のテーマ】**

社会生活をしていく上で、コンピュータとの関わりは欠かせない。特に社会で仕事をしていく中で必要性は言うまでもないが、ベーシックなエクセルやPPTに加え、AI、PSDなどのCG系の操作ができることはインセンティブとなり得る。この授業は、クリエイティブな想像力を掘り起こし、CGを活用したビジュアルライズ・テクニックを習得する。

**【授業における到達目標】**

この授業では、CGの基本と可能性を知り、AIとPSDを体験することでCGを身近に感じること、さらに興味を惹かれ専門領域への可能性をも考えるきっかけとなることを目標にする。ディプロマ・ポリシー（DP）においては、「美の探究」の中の「新たな知を創造しようとする態度」、「研鑽力」の中の「学修成果を実感して、自信を創出することができる」能力を養成することを目指す。

**【授業の内容】**

- 第1週：CGの可能性、さまざまなCGソフト  
（PPTで動くカード、三次元体験）
- 第2週：フォトショップの基本操作-1  
（1）写真を補正する  
（2）フィルタなどを体験
- 第3週：フォトショップの基本操作-2  
（1）スキャンイラストへの色刺し  
（2）テキスト機能で文字を打つ（変形や効果）
- 第4週：フォトショップの応用操作  
（1）写真を合成する（切り抜き、合成）  
（2）マスク・さまざまな効果
- 第5週：フォトショップで自由課題制作
- 第6週：課題の完成と発表、評価
- 第7週：イラストレーターの基本操作-1  
（1）曲線や図形を描く・着色  
（2）さまざまな変形加工など
- 第8週：イラストレーターの基本操作-2  
（1）CAD機能で正確な作図  
（2）包装紙をデザインする
- 第9週：イラストレーターの応用操作-1  
トレースでパス描画の練習
- 第10週：イラストレーターの応用操作-2  
（1）文字の編集と加工  
（2）マーク&ロゴタイプを創る
- 第11週：複合課題「パッケージを創る」  
（1）制作説明と必要な操作手法の練習  
（2）文字関係を創る
- 第12週：（3）イメージビジュアルを創る  
（4）レイアウトして完成
- 第13週：作品発表と評価  
最終課題の説明・各種保存形式と配置手法
- 第14週：パワーポイントでプレゼン制作
- 第15週：作品完成・発表と評価

**【事前・事後学修】**

事前学修：前の授業でテーマ説明があった時は、次の時間までにテーマ内容を考えておくこと。週 約90分  
事後学修：よく理解でなかった部分は質問し、よく復習しておく。学内や自宅のPCを使ってソフトの操作を練習しておく。週 約60分  
課題制作が提出期限に間に合わない時は、時間外を活用して期限に間に合わせる。

**【テキスト・教材】**

テキストは無し。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

ペーパーテストは行わない。

提出作品の評価・・・・・・・・・・70点

平常点（授業態度・取組み姿勢）・・・・30点

フィードバックは講評時の口頭評価と作品評価点（提出後1週間以内）

**【参考書】**

これからはじめるPhotoshopの本

**【注意事項】**

受講人数制限30名（制限人数を超えた場合、抽選）  
特に基本操作の週は休まないこと。

**コンピュータ会計**

—会計の知識と実務—

吉永 和弘

1・2年 前期 2単位

○：研鑽力、行動力

**【参考書】**

別途指示します。

**【注意事項】**

授業内容の順序は、理解状況に応じて随時変更します。  
 やむを得ず欠席したときは、テキスト該当ページの復習や質問により、次の週までに必ずフォローしてください。  
 受講人数制限40名（制限人数を超えた場合、抽選）

**【授業のテーマ】**

社会にはさまざまな業種・業態の企業が存在しますが、どのような企業でも行う必要があるのが会計業務です。そして、現代の企業会計はコンピュータを活用して行われています。

一方で、専門知識を必要とする会計知識とコンピュータのスキルを合わせ持つ人材は希少であり、企業からの即戦力のニーズが極めて高いものとなっています。

本講義では、基礎的な会計知識を習得すると共に、コンピュータを活用した会計システムの全体像を理解した上で、より実務に近い形式での会計実務の習得を目指します。

**【授業における到達目標】**

日商簿記3級レベルの基礎的な簿記の技能修得

コンピュータを活用した会計システムの全体像の理解

上記目標を達成するための自己学習を通じた研鑽力および行動力の修得

**【授業の内容】**

第1週：基本概念

- 会計の諸概念
- 会計システムのフレームワーク

第2週：現金・預金

- 現預金の会計処理
- 当座預金出納帳

第3週：商品売買

- 仕入帳、売上帳、商品有高帳

第4週：売掛金と買掛金

- 売掛金と売掛金元帳
- 買掛金と買掛金元帳

第5週：その他債権債務

第6週：手形

- 受取手形記入帳と支払手形記入帳

第7週：貸倒損失と貸倒引当金

- 貸倒れの発生と見積り

第8週：売買目的有価証券

- 有価証券の取得・売却・評価

第9週：固定資産

- 固定資産の取得と売却
- 減価償却の計算

第10週：費用・収益

第11週：純資産（資本）と税金

第12週：決算

第13週：損益計算書

第14週：貸借対照表

第15週：財務諸表の作成：総復習

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

テキストを事前に熟読し、簿記処理の前提となる商取引のイメージを把握しておくこと。（学修時間 週2時間）

**【事後学修】**

演習問題を繰り返し解くことにより、仕訳形式、使用する勘定科目を理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

日商簿記3級レベルのテキストを使用します。簡易の会計ソフトを利用し、会計実務業務を疑似体験します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

配分基準は試験80%を基礎に毎回の課題提出20%を加味します。

試験結果は授業最終回で、毎回の課題は授業内でフィードバックを行います。

**コンピュータ会計**

—会計の知識と実務—

吉永 和弘

2年 前期 2単位

○：研鑽力、行動力

**【参考書】**

別途指示します。

**【注意事項】**

授業内容の順序は、理解状況に応じて随時変更します。  
やむを得ず欠席したときは、テキスト該当ページの復習や質問により、次の週までに必ずフォローしてください。  
受講人数制限40名（制限人数を超えた場合、抽選）

**【授業のテーマ】**

社会にはさまざまな業種・業態の企業が存在しますが、どのような企業でも行う必要があるのが会計業務です。そして、現代の企業会計はコンピュータを活用して行われています。

一方で、専門知識を必要とする会計知識とコンピュータのスキルを合わせ持つ人材は希少であり、企業からの即戦力のニーズが極めて高いものとなっています。

本講義では、基礎的な会計知識を習得すると共に、コンピュータを活用した会計システムの全体像を理解した上で、より実務に近い形式での会計実務の習得を目指します。

**【授業における到達目標】**

日商簿記3級レベルの基礎的な簿記の技能修得

コンピュータを活用した会計システムの全体像の理解

上記目標を達成するための自己学習を通じた研鑽力および行動力の修得

**【授業の内容】**

第1週：基本概念

- 会計の諸概念
- 会計システムのフレームワーク

第2週：現金・預金

- 現預金の会計処理
- 当座預金出納帳

第3週：商品売買

- 仕入帳、売上帳、商品有高帳

第4週：売掛金と買掛金

- 売掛金と売掛金元帳
- 買掛金と買掛金元帳

第5週：その他債権債務

第6週：手形

- 受取手形記入帳と支払手形記入帳

第7週：貸倒損失と貸倒引当金

- 貸倒れの発生と見積り

第8週：売買目的有価証券

- 有価証券の取得・売却・評価

第9週：固定資産

- 固定資産の取得と売却
- 減価償却の計算

第10週：費用・収益

第11週：純資産（資本）と税金

第12週：決算

第13週：損益計算書

第14週：貸借対照表

第15週：財務諸表の作成：総復習

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

テキストを事前に熟読し、簿記処理の前提となる商取引のイメージを把握しておくこと。（学修時間 週2時間）

**【事後学修】**

演習問題を繰り返し解くことにより、仕訳形式、使用する勘定科目を理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

日商簿記3級レベルのテキストを使用します。簡易の会計ソフトを利用し、会計実務業務を疑似体験します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

配分基準は試験80%を基礎に毎回の課題提出20%を加味します。

試験結果は授業最終回で、毎回の課題は授業内でフィードバックを行います。



## ジェンダー論

山根 純佳

1年 前期 2単位

◎：研鑽力

## 【授業のテーマ】

「ジェンダー」は社会的文化的につくられた「女らしさ」「男らしさ」を示す概念として普及しています。しかしジェンダーは、単に男女間の「違い」を意味するだけではありません。ジェンダーは、「男性＝普遍／女性＝特殊」「男性＝支配／女性＝被支配」という男女間の関係を説明する概念として発展してきました。「ジェンダー」という視点をもつことによって、こうした男女間の関係をつくりだしている社会のしくみを解明し、解決することが求められてきたのです。

本授業では、なぜ「ジェンダー」という概念が重要であるのか、女性解放を求めるフェミニズム運動の流れとともに、「知の変容」のプロセスとその意義を学びます。

## 【授業における到達目標】

- 1) ジェンダーをめぐる基本的な問題群について知識を習得する。
- 2) 家族、教育、身体、セクシュアリティをめぐる従来の社会や社会科学の「知」に対し、ジェンダー論はどのような異議を申し立ててきたのか、その結果これらの「知」がどのように変容してきたのかを理解する。

1. 2をとおして、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く「研鑽力」を獲得する。

## 【授業の内容】

- 第1週 ジェンダーとは何か
- 第2週 人権とジェンダー
- 第3週 近代家族と家父長制
- 第4週 労働とジェンダー
- 第5週 教育とジェンダー
- 第6週 生殖、中絶とジェンダー
- 第7週 生殖技術と女性の身体
- 第8週 中間のまとめ
- 第9週 男性学の視点
- 第10週 同性愛の運動の歴史
- 第11週 LGBTの運動と社会変化
- 第12週 家族の多様化と個人化
- 第13週 ポストコロニアリズム
- 第14週 第三世界フェミニズム
- 第15週 総括

## 【事前・事後学修】

事前学修：授業で紹介する参考文献を読み、中間テストとレポート作成に備えること。テーマにかかわる新聞記事やメディアの情報を収集し、自分の意見をまとめておくこと。（学修時間2時間）

事後学修：授業後に不定期に小レポートを課すので、授業内容を踏まえ執筆し期限内に提出すること。（学修時間2時間）

## 【テキスト・教材】

プリントを使用する

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業後に課す小レポート40%、中間まとめ（テスト）30% 期末レポート30%。小レポートは各回の次の授業で、中間まとめは次回授業で、学修が不十分だった点についてのフィードバックを行う。

## 【参考書】

- 木村涼子・伊田久美子・熊安貴美江編著『よくわかるジェンダー・スタディーズ』（ミネルヴァ書房、2013年）2808円  
千田有紀・中西祐子・青山薫『ジェンダー論をつかむ』（有斐閣、2013年）2052円

## ジェンダー論

—ジェンダーから見る現代の諸問題—

飯野 智子

1・2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力、協働力

### 【授業のテーマ】

1. ジェンダー論を学ぶ上で不可欠な基本用語や概念を理解する。そもそも人間の性別を決定しているものは何なのか、社会的に作られる性や性別役割分業とは何なのか、多様な性とはどのようなことなのかを考える。フェミニズムとともに、男性学についても学ぶ。
2. 暴力に対する男女の生育環境や意識の違いから、現代社会におけるジェンダー構造を学ぶ。例えば、性の商品化においてなぜ女性は売る側で男性は買う側となっているのか。そのようなジェンダー構造が男女の意識と行動にどのような影響を与えているのか考察する。
3. DVやストーカー、性犯罪の被害者とならないためにどうすればいいのか、自分にできること、社会で問題とすべきことについて考える。

### 【授業における到達目標】

自己決定や生き方の多様性について学び、偏見を持たない姿勢を身につける。関係性、恋愛と結婚、家族、性の商品化といった問題を通して現在のジェンダー構造の問題点を見つけ、解決への道を考える。法律や制度に関心を持ち、男女、多様な性にとってより良い社会を構築するための改善点を探る。このような学修を通して、優しさと強さを兼ね備え、倫理観を以て人格を統治しようとする態度「美の探究」、広い視野と深い洞察力、本質を見抜く「研鑽力」、互いを尊重し信頼を醸成して、豊かな人間関係を構築する「協働力」といった能力を身につける。

### 【授業の内容】

1. ガイダンス—ジェンダー論を学ぶ意味
2. 性別の多様性①基本用語と概念
3. 性別の多様性②性的マイノリティと状況の変化
4. 近代化とフェミニズム
5. 児童虐待
6. ドメスティック・バイオレンス① 被害者支援
7. ドメスティック・バイオレンス② 加害者プログラム
8. ストーカー犯罪
9. デートDV・性犯罪
10. セクシュアリティの商品化① 現状の問題
11. セクシュアリティの商品化② 変化
12. 男性学の展開
13. リプロダクティブ・ヘルス／ライツ
14. 代理出産をめぐる議論
15. まとめ

### 【事前・事後学修】

- ・事前学修週2時間：重要用語、法律、必要なデータ等を調べる。
- ・事後学修週2時間：授業で扱った問題について、独自に調べたデータ・記事・歴史・さらには自分の意見なども入れてまとめる。

### 【テキスト・教材】

教科書は使用しない。適宜プリントを配付する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験90%。学修内容に関する感想・意見の提出10%（次回授業でフィードバックする）。

### 【注意事項】

ジェンダーという視点から現代社会のさまざまな問題を考えてほしい。

## ジェンダー論

山根 純佳

1年 前期 2単位

◎：研鑽力

## 【授業のテーマ】

「ジェンダー」は社会的文化的につくられた「女らしさ」「男らしさ」を示す概念として普及しています。しかしジェンダーは、単に男女間の「違い」を意味するだけではありません。ジェンダーは、「男性＝普遍／女性＝特殊」「男性＝支配／女性＝被支配」という男女間の関係を説明する概念として発展してきました。「ジェンダー」という視点をもつことによって、こうした男女間の関係をつくりだしている社会のしくみを解明し、解決することが求められてきたのです。

本授業では、なぜ「ジェンダー」という概念が重要であるのか、女性解放を求めるフェミニズム運動の流れとともに、「知の変容」のプロセスとその意義を学びます。

## 【授業における到達目標】

- 1) ジェンダーをめぐる基本的な問題群について知識を習得する。
- 2) 家族、教育、身体、セクシュアリティをめぐる従来の社会や社会科学の「知」に対し、ジェンダー論はどのような異議を申し立ててきたのか、その結果これらの「知」がどのように変容してきたのかを理解する。

1. 2をとおして、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く「研鑽力」を獲得する。

## 【授業の内容】

- 第1週 ジェンダーとは何か
- 第2週 人権とジェンダー
- 第3週 近代家族と家父長制
- 第4週 労働とジェンダー
- 第5週 教育とジェンダー
- 第6週 生殖、中絶とジェンダー
- 第7週 生殖技術と女性の身体
- 第8週 中間のまとめ
- 第9週 男性学の視点
- 第10週 同性愛の運動の歴史
- 第11週 LGBTの運動と社会変化
- 第12週 家族の多様化と個人化
- 第13週 ポストコロニアリズム
- 第14週 第三世界フェミニズム
- 第15週 総括

## 【事前・事後学修】

事前学修：授業で紹介する参考文献を読み、中間テストとレポート作成に備えること。テーマにかかわる新聞記事やメディアの情報を収集し、自分の意見をまとめておくこと。（学修時間2時間）

事後学修：授業後に不定期に小レポートを課すので、授業内容を踏まえ執筆し期限内に提出すること。（学修時間2時間）

## 【テキスト・教材】

プリントを使用する

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業後に課す小レポート40%、中間まとめ（テスト）30% 期末レポート30%。小レポートは各回の次の授業で、中間まとめは次回授業で、学修が不十分だった点についてのフィードバックを行う。

## 【参考書】

- 木村涼子・伊田久美子・熊安貴美江編著『よくわかるジェンダー・スタディーズ』（ミネルヴァ書房、2013年）2808円
- 千田有紀・中西祐子・青山薫『ジェンダー論をつかむ』（有斐閣、2013年）2052円

## ジェンダー論

山根 純佳

1年～ 前期 2単位

◎：研鑽力

## 【授業のテーマ】

「ジェンダー」は社会的文化的につくられた「女らしさ」「男らしさ」を示す概念として普及しています。しかしジェンダーは、単に男女間の「違い」を意味するだけではありません。ジェンダーは、「男性＝普遍／女性＝特殊」「男性＝支配／女性＝被支配」という男女間の関係を説明する概念として発展してきました。「ジェンダー」という視点をもつことによって、こうした男女間の関係をつくりだしている社会のしくみを解明し、解決することが求められてきたのです。

本授業では、なぜ「ジェンダー」という概念が重要であるのか、女性解放を求めるフェミニズム運動の流れとともに、「知の変容」のプロセスとその意義を学びます。

## 【授業における到達目標】

- 1) ジェンダーをめぐる基本的な問題群について知識を習得する。
- 2) 家族、教育、身体、セクシュアリティをめぐる従来の社会や社会科学の「知」に対し、ジェンダー論はどのような異議を申し立ててきたのか、その結果これらの「知」がどのように変容してきたのかを理解する。

1. 2をとおして、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く「研鑽力」を獲得する。

## 【授業の内容】

- 第1週 ジェンダーとは何か
- 第2週 人権とジェンダー
- 第3週 近代家族と家父長制
- 第4週 労働とジェンダー
- 第5週 教育とジェンダー
- 第6週 生殖、中絶とジェンダー
- 第7週 生殖技術と女性の身体
- 第8週 中間のまとめ
- 第9週 男性学の視点
- 第10週 同性愛の運動の歴史
- 第11週 LGBTの運動と社会変化
- 第12週 家族の多様化と個人化
- 第13週 ポストコロニアリズム
- 第14週 第三世界フェミニズム
- 第15週 総括

## 【事前・事後学修】

事前学修：授業で紹介する参考文献を読み、中間テストとレポート作成に備えること。テーマにかかわる新聞記事やメディアの情報を収集し、自分の意見をまとめておくこと。（学修時間2時間）

事後学修：授業後に不定期に小レポートを課すので、授業内容を踏まえ執筆し期限内に提出すること。（学修時間2時間）

## 【テキスト・教材】

プリントを使用する

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業後に課す小レポート40%、中間まとめ（テスト）30% 期末レポート30%。小レポートは各回の次の授業で、中間まとめは次回授業で、学修が不十分だった点についてのフィードバックを行う。

## 【参考書】

- 木村涼子・伊田久美子・熊安貴美江編著『よくわかるジェンダー・スタディーズ』（ミネルヴァ書房、2013年）2808円  
 千田有紀・中西祐子・青山薫『ジェンダー論をつかむ』（有斐閣、2013年）2052円

ジェンダー論 a

笹野 悦子

1年～ 前期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

ジェンダーとは歴史学者ジョン・スコットによれば「肉体的な差異に社会的な意味を付与する知」と説明されます。社会関係のなかで見られる男女差は自然なものではなく、関係の中で意味づけられるものだというのです。

本授業はフェミニズムによって見出されたジェンダー概念について歴史的な理論の展開を含めて整理します。フェミニズム運動は、最初に女性の抑圧、生きづらさを可視化し、異議申し立てをしてきました。そしてその思想・運動の展開とおして、女性を苦しめてきた社会秩序は同時に男性にも抑圧的に作用してきたこと、さらには性的マイノリティを排除してきたことを明らかにしてきました。

本授業ではこうしたジェンダー概念を現代社会の課題として考えていきます。ジェンダーという性の意味が生まれついた身体・生物学的性に本質的に備わったものではなく歴史社会的構成であるという理解に立脚し、性による序列化をいかにして乗り越えていくのかをみなさんと一緒に考えることを目指します。受講者は積極的に読書をし、自分の言葉で考察し表現することが求められます。

【授業における到達目標】

- 1) フェミニズム運動の展開を理解し、自分の言葉で説明できる。
- 2) ジェンダーは女性だけの問題ではないことを理解し、自分の言葉で説明できる。
- 3) ジェンダーは自然なものではなく、社会関係の中で構成された意味付けであることを理解し、自分の言葉で説明できる。
- 4) わたしたちの身近な社会関係の中のジェンダー問題について考え課題を見出すことができるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 性差とはなにか ガイダンス
- 第2週 第1波フェミニズム運動と女性の権利
- 第3週 第2波フェミニズム ①私生活での女性の抑圧と依存
- 第4週 第2波フェミニズム ②女性の抑圧・依存と経済学
- 第5週 第2波フェミニズム ③女性の抑圧・依存と家父長制
- 第6週 第2波フェミニズム ④二項対立図式「女性」対「男性」への疑問
- 第7週 第2波フェミニズム以降 ①セクシュアリティという課題
- 第8週 第2波フェミニズム以降 ②セクシュアルマイノリティとジェンダー
- 第9週 第2波フェミニズム以降 ③構築主義
- 第10週 第2波フェミニズム以降 ④ジェンダー概念
- 第11週 二項対立図式「女性」対「男性」を問い直す：ジェンダーカテゴリーの変更
- 第12週 ジェンダーカテゴリーの変更：海外の事例から考える
- 第13週 ジェンダーカテゴリーの変更：現代日本の課題
- 第14週 ジェンダーカテゴリーの変更：現代日本の課題
- 第15週 理解の確認

【事前・事後学修】

事前学修：授業内容に関して自分がどんなことを問題と感じているのかを明確にして授業に臨む。

事後学修：授業で紹介した文献、資料を読み、映像作品を視聴し、ニュース等に関心を持ち、授業の理解を深めジェンダーに関する関心を深める。事前・事後学修合わせて週4時間。

【テキスト・教材】

毎回の授業ではプリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験 6割、小テスト・宿題・ペーパー 4割（小テスト・宿題・ペーパーは随時実施する。）。小テストのフィードバックについては、翌週の授業時にコメントし、問題を共有しながら考察する。

ジェンダー論 a

福永 玄弥

1年～ 後期 2単位

◎：研鑽力

【授業のテーマ】

「性」は、大学の授業であらためて学ぶ必要もない、自明のもののように思えるかもしれませんが。しかし「性」をめぐる現象の考察に取り組んできたフェミニズムやクィア・スタディーズと呼ばれる学術研究は、これまでの世界の見え方や「常識的」な物の考え方を一変させてしまうほどの力強さを内包しています。本授業では、恋愛やセックス、家族、ケアワーク、労働、ポルノ、セックスワーク、〈LGBT〉、「慰安婦」問題など、性に関する多岐にわたるテーマを扱います。その際に歴史を参照すること、つまりこれらの「問題」に取り組んできた社会運動や学術研究の歴史をふり返ることにより、これらのテーマに関する知識や考え方の習得を目指します。

授業の前半（1回から8回）を「理論編」、後半（9回から14回）を「運動編」として、ジェンダーやセクシュアリティをめぐる「知」がどのような地平を切り開いてきたか、あるいは社会運動がどのような問題に取り組み成果を挙げてきた／これなかったかを考えます。

【授業における到達目標】

ジェンダー・セクシュアリティをめぐる多岐にわたる問題群について知識を習得すること。その上で、自分の問題を言語化し、それを考えるための視座の獲得を目指します。また、社会運動の歴史を学ぶことで、現在の日本社会を相対的に考える力を身につけます。これらの目標は、次の本学DPと関連しています。

- ・【国際的視野】：多角的な視点をもって世界に臨む態度
- ・【研鑽力】：学修を通して自己成長する力
- ・【行動力】：課題解決のために主体的に行動する力

【授業の内容】

- 第1週（イントロダクション） good/bad sex? : フェミニズムとクィア・スタディーズの交差
- 第2週 恋愛と近代家族
- 第3週 労働とジェンダー
- 第4週 ケアワーク：家事、育児、介護
- 第5週 性表現：ポルノを中心に
- 第6週 性の商品化：セックスワークを中心に
- 第7週 カミングアウト／クローゼット
- 第8週 越境する／しない身体
- 第9週 ウーマンリブが提起した問題（1960s-）
- 第10週 「男女共同参画社会」の成果と誤算と死角（1990s-）
- 第11週 レズビアン／ゲイ・ムーブメント（1990s-）
- 第12週 グローバリゼーションと〈LGBT〉（2000s-）
- 第13週 「慰安婦」問題①：何が問われてきたのか（1990s-）
- 第14週 「慰安婦」問題②：何が問われているのか（2000s-）
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修：特定のテーマや現象や用語についての下調べを指示することがあります。その場合、紹介する参考文献などを参照して準備すること（学修時間週2時間程度）。

事後学修：授業後に理解をはかるためのリアクションペーパーに答えてもらうことがあります。また、中間・期末レポートでは授業の内容を踏まえた課題を指示するため、復習しておくこと。（所要時間週2時間程度）。

【テキスト・教材】

必要なプリントは授業中に配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

中間レポート30%、期末レポート50%、平常点20%（リアクションペーパー）。希望者には中間・期末レポートに対するコメントをフィードバックします。

【参考書】

千田有紀・中西祐子・青山薫『ジェンダー論をつかむ』（有斐閣、

2013年)  
 森山至貴『LGBTを読みとく：クィア・スタディーズ入門』（筑摩書房、2017年）  
 竹村和子『フェミニズム』（岩波書店、2000年）  
 竹村和子（編）『“ポスト”フェミニズム』（作品社、2003年）  
 上野千鶴子（編）『ラディカルに語れば…』（平凡社、2001年）  
 その他授業中に適宜提示します。

## ジェンダー論 b

「ジェンダーの視点を持つことの大切さ」

岩田 三代

1年～ 後期 2単位

©：研鑽力

### 【授業のテーマ】

「女性活躍推進」という言葉が踊る時代になったが、本当に女性は社会、家庭、地域で男性と対等に個性や能力を発揮できているのか。労働分野に目をやれば、管理職に占める女性の割合はまだ1割強、世界国際フォーラムが毎年発表するジェンダー・ギャップ指数も2017年の日本の順位は144か国中114位だ。家庭に目を転じれば、「男は仕事、女は家庭」という固定的性別役割分担が根強く、仕事を持つ女性たちは家事、育児、介護など幾重もの負担にあえいでいる。夫婦間の暴力もあとを絶たない。なぜこのような事態が改善されないのか、どう対応すればいいのかを、ジェンダーという観点から考察する。

### 【授業における到達目標】

①国際的視野を持つ。ジェンダーについて学ぶことで日本や世界の女性の置かれた状況を理解する。日本だけでなく世界の動きにも目配りし幅広い視点を身に着ける。②研鑽力を磨く。受け身にならず、学んだことをもとにさらに学習し深く考える力を磨く。③行動力を身に着ける。自分の意見を持ち自らの生き方を考える。社会的な課題を掘り下げ解決する行動力を身に着ける。

### 【授業の内容】

第1回ジェンダーの視点とは何か（上）—「男は外で働き、女は家を守る」固定的性別役割分担の根強さの背景を歴史からひもとく  
 第2回ジェンダーの視点とは何か（下）—「女性たちの闘い」  
 第3回男女雇用機会均等法（上）—女性と労働をめぐる歴史と男女雇用機会均等法ができた背景。法律はなぜ必要だったのか  
 第4回男女雇用機会均等法（下）—均等法施行から30年の歩み  
 第5回男女共同参画社会基本法—女性問題は21世紀の最重要課題の一つ。基本法成立の意義と現状、吹き荒れたバックラッシュの嵐も  
 第6回ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）をどう図る  
 第7回女性の職場での活躍を妨げている長時間労働の現状  
 第8回男性におけるジェンダーのくびき—「男もつらいよ」  
 第9回少子化が後押しする女性活躍推進—少子化で労働力が減る。経済界も政界も女性活躍推進を呼び始めたが変化は遅い  
 第10回教育分野にもジェンダーの壁—リケジョはなぜ少ないのか  
 第11回家族とジェンダー—選択的夫婦別姓の議論と民法改正  
 第12回女性と暴力—ドメスティックバイオレンス（夫婦間暴力）はなぜ起きるか。途上国での女性への虐待  
 第13回税・社会保障におけるジェンダー—固定的性別役割分担を前提につくられた税・社会保障制度と改革の動き  
 第14回世界の中の日本—国連の取り組みや先進各国の動き  
 第15回まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修—ジェンダーや女性労働、時代を切り開いた女性に関する本を読む。女性や家族に関する動きを伝える新聞記事に目を通す。  
 事後学修—授業に関連する図書を読んだり、ネットで調べたりしてさらに深く学修する。事前学習週2時間、事後学習週3時間。

### 【テキスト・教材】

毎回、プリントを配布する。関連図書を授業内で紹介する

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

論文（50%）、平常点（授業中のレポート、発表、コメントなど）（50%）。毎回の授業で短いコメントやレポートを書いてもらい質問に答えるとともに、いくつかを選んで発表する。試験の代わりに課す最終論文については最後の授業で全員（多い場合は一部の人）に概要を発表してもらい考えを共有する。

### 【参考書】

川口晃著『日本のジェンダーを考える』（有斐閣選書）、金城清子著『ジェンダーの法律学』（有斐閣）、伊藤公男著『「男女共同参画」が問いかけるもの』（インパクト出版会）、鹿嶋敬著『男女共同参画の時代』（岩波新書）、内閣府「男女共同参画白書」など

**【注意事項】**

日々の新聞記事には目を通すこと。女性の生き方に関連する記事や報道に敏感でいること。

**ジェンダー論 b**

**森山 至貴**  
1年～ 後期 2単位  
◎：研鑽力

**【授業のテーマ】**

「性」は、私たちにとって身近であるにもかかわらず／あるからこそ、思いのほか自覚的に語り考える対象とはならない不思議なテーマです。こういう一見自明な対象は、学問的な「捉え返し」の妙味が見え易いテーマでもあります。

一方、この社会の中での女性やセクシュアルマイノリティへの差別の現状を踏まえると、「性」は解決すべき具体的な諸問題を含んだ、シリアスかつ緊急の考察を要するテーマでもあります。

本講義では、「性」に関するさまざまな議論の蓄積の間を駆け抜けながら、学問的楽しさと正しさが交錯する地点で「性」を考える視座を身につけてもらいます。

**【授業における到達目標】**

本講義の目標は、「性」に関する自分自身の問題を本講義の知見をもとに考察できるようになってもらうことです。また、この目標は、本学DPと次のように関連しています。

- ・【国際的視野】を持ち、多様な価値観の共存のための方途を探る
- ・【美の探究】のために、「性」に関する適切な倫理観を陶冶する
- ・【研鑽力】を育み、広い視野と深い洞察力を身につける

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODクシヨンー性差・性別・性役割
- 第2週 第二波フェミニズム
- 第3週 多様なフェミニズムの潮流
- 第4週 セックス／ジェンダー
- 第5週 近代家族と性別役割分業
- 第6週 結婚と離婚
- 第7週 「男らしさ」の諸問題
- 第8週 女性の労働 (1) : 制度と規範
- 第9週 女性の労働 (2) : ワーク／ライフバランス
- 第10週 性暴力とハラスメント
- 第11週 セクシュアリティという問題系
- 第12週 レズビアン／ゲイ・スタディーズ
- 第13週 クィア・スタディーズ
- 第14週 グローバリゼーションとジェンダー・セクシュアリティ
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 特定の語彙や現象についての下調べを授業中に指示することがある。必ず書籍・論文などを参照しておくこと（所要時間週2時間）。

【事後学修】 授業内で扱った内容について、次の回以降、理解をはかる課題を提示しリアクションペーパーに解答してもらうことがあるので、重要語句について、しっかりと説明できるように復習しておくこと（所要時間週2時間）。

**【テキスト・教材】**

教材はmanaba上にアップロードするので、各自ダウンロード・印刷の上授業に臨むこと。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末テスト60%、平常点40%（授業中貢献度20%、およびリアクションペーパー20%）

希望者には、期末テスト答案に対するコメントをフィードバックする。

**【参考書】**

- 加藤秀一『性現象論』（勁草書房 1996年）
  - 加藤秀一『知らないと恥ずかしいジェンダー入門』（朝日新聞社 2006年）
  - 竹村和子（編）『“ポスト”フェミニズム』（作品社 2003年）
- その他授業中に適宜提示する。

**【注意事項】**

「性」は教室の中だけに存在する現象ではありません。さまざま

な場所での「性」に関する経験を授業に持ち込んで考察の対象とするつもりで授業に臨んでください。授業の内容に直接関係ないものでも、「性」に関する疑問質問は常時受け付けます。



**ステップアップ英語**

デヴェラ, ローナ・V・L

2年 前期 1単位

◎: 国際的視野、○: 研鑽力、行動力

**【授業のテーマ】**

The course is for students who participated in the four-week program in Melbourne and similar short term programs for the maintenance and further development of the English skills they acquired during their stay. The focus is on boosting listening and speaking skills and in order to sustain the progress students have made, the class offers a range of activities and tasks that will help them refresh and practice their English. They will also learn to identify and choose topics appropriate for daily communication; be able to exchange opinions and ideas; be able to discuss issues/problems and consider possible solutions; and be able to relate linguistic and cultural concepts they picked up to their present situation and to their future. Students who were not participants of the Melbourne program or have not had any study-abroad experience but would like to join the class, may sign up for the course but keep in mind that the level and content of the class might be more advanced.

**【授業における到達目標】**

By critically examining their international experience through this course, students develop an awareness of the meaning their international experience has given them. They will learn to analyze the linguistic and cultural knowledge they acquired and articulate their ideas through discussion, reporting, and writing. After the course, students will have gained more confidence in their language skills as well as further cultivated a capacity for further language learning and an increased openness to different language situations beyond the classroom.

**【授業の内容】**

- Week 1 : Orientation and introduction to the course
- Week 2 : Talking about the homestay family
- Week 3 : Chores and routines
- Week 4 : Introducing yourself and others
- Week 5 : Introducing others
- Week 6 : School life
- Week 7 : Individual consultation and presentation preparation
- Week 8 : Midterm presentations
- Week 9 : Leisure and recreation
- Week 10: Places in the Neighborhood (1)
- Week 11: Places in the Neighborhood (2)
- Week 12: Traveling
- Week 13: Keeping in touch
- Week 14: Individual consultation and preparation for the final presentation
- Week 15: Final presentations and wrap-up

**【事前・事後学修】**

事前学修 : Students should come to class prepared and complete all writing activities, presentations, and assignments on time. (Approximately 1-2 hours a week)

事後学修 : Students must review past lessons and preview lessons for the next meeting. (Approximately 1-2 hours a week)

**【テキスト・教材】**

Class materials to be provided by the teacher.  
Have a notebook for taking notes and prepare a file folder

for keeping all printouts and assignments.

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

Class participation (20%)  
In-class activities and tasks (30%)  
Midterm activity (25%)  
Final presentation (25%)

There will be peer and teacher evaluation during presentations and feedback will be given to students individually in the middle and end of the semester.

**【注意事項】**

The class will be conducted in English. Active participation is valued and encouraged. Please do your best to think in English and speak in English at all times inside the classroom.

スポーツと健康科学 a

我妻 玲

2年 前期 2単位

◎：行動力

山田 茂・福永 哲夫『骨格筋に対するトレーニング法』（ナッブ社）

山田 茂・後藤 勝正『運動分子生物学』（ナッブ社）

山田 茂 他『運動生理学』（倍風館）

【授業のテーマ】

ヒト生体の構造と機能について運動と関連して学習する。

【授業における到達目標】

健康管理に対する運動や栄養の重要性を認識し、具体的に生活の中に取り入れる能力を修得する。細分化した科学的知見を集約し、基礎的知識を具体的に活用できる能力を培う。更に統合された知識を日常生活の問題解決に役立てることのできる行動力を養う。

【授業の内容】

- 第1週 運動生理学（運動の発現、骨格筋収縮の仕組みとエネルギー供給機構）
- 第2週 運動生理学  
（筋線維タイプと収縮特性、運動と筋線維タイプ）
- 第3週 運動生理学  
（筋収縮の様式と筋力、トレーニングと骨格筋）
- 第4週 運動生理学（運動の持続と呼吸循環、呼吸循環系の機能の指標と調節機構、運動に伴う呼吸循環機能の変化）
- 第5週 運動生理学（運動時の酸素利用、トレーニングによる呼吸循環系の適応、運動と血液・体液）
- 第6週 運動生理学（成長期における対体力・基本的動作スキルの発達、成人以降の加齢に伴う体力・運動能力の低下、体力に及ぼす先天的要因と後天的要因）
- 第7週 機能解剖とバイオメカニクス（身体運動に筋と骨、単関節と多関節運動）
- 第8週 機能解剖とバイオメカニクス（筋の弾性要素と弾性エネルギーが利用できる運動様式、着地衝撃とその緩和法）
- 第9週 機能解剖とバイオメカニクス  
（投動作と打動作の共通点）
- 第10週 機能解剖とバイオメカニクス（運動と流体力）
- 第11週 栄養摂取量と運動（健康と栄養、消化吸収、食品群）
- 第12週 栄養摂取量と運動（運動とタンパク質の代謝・カルシウム、運動時におけるエネルギー源、エネルギー消費量の推定法、適切な減量計画）
- 第13週 栄養摂取量と運動  
（日本人の食事摂取基準、健康づくりのための栄養戦略）
- 第14週 栄養摂取量と運動  
（運動能力と栄養、肥満になるメカニズム）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】

事前にテキストを読み授業の予習を行うこと。（学修時間 週2時間）

【事後学習】

授業の復習を行い、専門用語等をよく理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

財団法人 健康・体力づくり事業財団 健康運動実践指導者養成用テキスト」（株式会社 南江堂）4,900円

購入については、4月のオリエンテーション時に説明します。

また授業中に資料を配布し、視聴覚教材を用います。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

【評価方法・基準】

学期末テスト 80%

平常点（レポート等）20%

【フィードバック】

学期末テストは翌週の授業内で解説を行います。

【参考書】

## スポーツと健康科学 a

我妻 玲

2年 前期 2単位

◎：行動力

## 【授業のテーマ】

ヒト生体の構造と機能について運動と関連して学習する。

## 【授業における到達目標】

健康管理に対する運動や栄養の重要性を認識し、具体的に生活の中に取り入れる能力を修得する。細分化した科学的知見を集約し、基礎的知識を具体的に活用できる能力を培う。更に統合された知識を日常生活の問題解決に役立てることのできる行動力を養う。

## 【授業の内容】

- 第1週 運動生理学（運動の発現、骨格筋収縮の仕組みとエネルギー供給機構）
- 第2週 運動生理学  
（筋線維タイプと収縮特性、運動と筋線維タイプ）
- 第3週 運動生理学  
（筋収縮の様式と筋力、トレーニングと骨格筋）
- 第4週 運動生理学（運動の持続と呼吸循環、呼吸循環系の機能の指標と調節機構、運動に伴う呼吸循環機能の変化）
- 第5週 運動生理学（運動時の酸素利用、トレーニングによる呼吸循環系の適応、運動と血液・体液）
- 第6週 運動生理学（成長期における対体力・基本的動作スキルの発達、成人以降の加齢に伴う体力・運動能力の低下、体力に及ぼす先天的要因と後天的要因）
- 第7週 機能解剖とバイオメカニクス（身体運動に筋と骨、単関節と多関節運動）
- 第8週 機能解剖とバイオメカニクス（筋の弾性要素と弾性エネルギーが利用できる運動様式、着地衝撃とその緩和法）
- 第9週 機能解剖とバイオメカニクス  
（投動作と打動作の共通点）
- 第10週 機能解剖とバイオメカニクス（運動と流体力）
- 第11週 栄養摂取量と運動（健康と栄養、消化吸収、食品群）
- 第12週 栄養摂取量と運動（運動とタンパク質の代謝・カルシウム、運動時におけるエネルギー源、エネルギー消費量の推定法、適切な減量計画）
- 第13週 栄養摂取量と運動  
（日本人の食事摂取基準、健康づくりのための栄養戦略）
- 第14週 栄養摂取量と運動  
（運動能力と栄養、肥満になるメカニズム）
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】（学修時間週2時間）

事前にテキストを読み授業の予習を行うこと。

【事後学修】（学修時間週2時間）

授業の復習を行い、専門用語等をよく理解しておくこと。

## 【テキスト・教材】

財団法人 健康・体力づくり事業財団 健康運動実践指導者養成用  
テキスト」（株式会社 南江堂）4,900円

購入については、4月のオリエンテーション時に説明します。

また授業中に資料を配布し、視聴覚教材を用います。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

【評価方法・基準】

学期末テスト 80%、平常点（レポート等）20%

【フィードバック】

学期末テストは翌週の授業内で解説を行います。

## 【参考書】

山田茂・福永哲夫『骨格筋に対するトレーニング法』（ナッブ社）

山田茂・後藤勝正『運動分子生物学』（ナッブ社）

山田茂 他『運動生理学』（倍風館）

## スポーツと健康科学 a

我妻 玲

2年 前期 2単位

◎：行動力

## 【授業のテーマ】

ヒト生体の構造と機能について運動と関連して学習する。

## 【授業における到達目標】

健康管理に対する運動や栄養の重要性を認識し、具体的に生活の中に取り入れる能力を修得する。細分化した科学的知見を集約し、基礎的知識を具体的に活用できる能力を培う。更に統合された知識を日常生活の問題解決に役立てることのできる行動力を養う。

## 【授業の内容】

- 第1週 運動生理学（運動の発現、骨格筋収縮の仕組みとエネルギー供給機構）
- 第2週 運動生理学  
（筋線維タイプと収縮特性、運動と筋線維タイプ）
- 第3週 運動生理学  
（筋収縮の様式と筋力、トレーニングと骨格筋）
- 第4週 運動生理学（運動の持続と呼吸循環、呼吸循環系の機能の指標と調節機構、運動に伴う呼吸循環機能の変化）
- 第5週 運動生理学（運動時の酸素利用、トレーニングによる呼吸循環系の適応、運動と血液・体液）
- 第6週 運動生理学（成長期における対体力・基本的動作スキルの発達、成人以降の加齢に伴う体力・運動能力の低下、体力に及ぼす先天的要因と後天的要因）
- 第7週 機能解剖とバイオメカニクス（身体運動に筋と骨、単関節と多関節運動）
- 第8週 機能解剖とバイオメカニクス（筋の弾性要素と弾性エネルギーが利用できる運動様式、着地衝撃とその緩和法）
- 第9週 機能解剖とバイオメカニクス  
（投動作と打動作の共通点）
- 第10週 機能解剖とバイオメカニクス（運動と流体力）
- 第11週 栄養摂取量と運動（健康と栄養、消化吸収、食品群）
- 第12週 栄養摂取量と運動（運動とタンパク質の代謝・カルシウム、運動時におけるエネルギー源、エネルギー消費量の推定法、適切な減量計画）
- 第13週 栄養摂取量と運動  
（日本人の食事摂取基準、健康づくりのための栄養戦略）
- 第14週 栄養摂取量と運動  
（運動能力と栄養、肥満になるメカニズム）
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】（学修時間 週2時間）

事前にテキストを読み授業の予習を行うこと。

【事後学修】（学修時間 週2時間）

授業の復習を行い、専門用語等をよく理解しておくこと。

## 【テキスト・教材】

財団法人 健康・体力づくり事業財団 健康運動実践指導者養成用  
テキスト」（株式会社 南江堂）4,900円

購入については、4月のオリエンテーション時に説明します。

また授業中に資料を配布し、視聴覚教材を用います。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

【評価方法・基準】

学期末テスト 80%、平常点（レポート等）20%

【フィードバック】

学期末テストは翌週の授業内で解説を行います。

## 【参考書】

山田茂・福永哲夫『骨格筋に対するトレーニング法』（ナッブ社）

山田茂・後藤勝正『運動分子生物学』（ナッブ社）

山田茂 他『運動生理学』（倍風館）

## スポーツと健康科学b

我妻 玲

2年 後期 2単位

◎：行動力

レポートは次回授業でフィードバックを行う。

## 【参考書】

講義の中で適宜紹介します。

## 【授業のテーマ】

身体の構造や機能を理解し、健康を維持・改善するための運動の様式や安全で効果的なトレーニングの方法、さらに、運動における心理学的効果や行動変容モデルおよび心理的指導方法を学習します。また健康運動だけではなく、さまざまな競技における障害や医学的知識を学習し、運動を行う現場での実態を例にあげて授業を行います。

## 【授業における到達目標】

身体活動やスポーツにおける科学的知識（生理学・社会学・心理学）を理解し、生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための知識を修得する。細分化した科学的知見を集約し、基礎的知識を具体的に活用できる能力を培う。更に統合された知識を日常生活の問題解決に役立てることのできる行動力を養う。

## 【授業の内容】

- 第1週 体力測定の測定と評価  
(無酸素性能力と有酸素性能力の測定)
- 第2週 体力測定の測定と評価  
(最大酸素摂取量の測定と無酸素性閾値)
- 第3週 体力測定の測定と評価 (体脂肪量の測定)
- 第4週 体力測定の測定と評価 (新体力テスト)
- 第5週 体力測定の測定と評価  
(健康づくりのための運動指針2006)
- 第6週 体力測定の測定と評価 (体力テストの評価)
- 第7週 健康づくりと運動プログラム  
(身体活動・運動量・体力を確保する必要性)
- 第8週 健康づくりと運動プログラム  
(トレーニングの原則)
- 第9週 健康づくりと運動プログラム  
(運動プログラム作成上のポイントと基礎)
- 第10週 健康づくりと運動プログラム  
(ウォーミングアップとクーリングダウン)
- 第11週 健康づくりと運動プログラム  
(有酸素性運動とその効果)
- 第12週 健康づくりと運動プログラム  
(レジスタンス運動について)
- 第13週 運動指導の心理学的基礎  
(運動実践に関わる社会・心理・環境的要因)
- 第14週 運動における行動変容  
(理論・モデルと技法、動機づけとカウンセリングの方法)
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】新聞や雑誌等で取り上げられた健康や運動に関する話題に関心をよせて学習してください。テキスト等をよく読み毎回の授業の予習をしてください。(学修時間 週2時間)

【事後学習】毎回の授業の復習をし、専門用語等を理解して授業に臨んでください。(学修時間 週2時間)

## 【テキスト・教材】

財団法人 健康・体力づくり事業財団 健康運動実践指導者養成用テキスト」(株式会社 南江堂) 4,900円

購入については、4月のオリエンテーション時に説明します。

また授業中に資料を配布し、視聴覚教材を用います。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学期末のテスト 80%

授業と関連のある本学で行われる学会や講習会に参加し、レポートを提出する。20%

## スポーツと健康科学b

我妻 玲

2年 後期 2単位

◎：行動力

## 【授業のテーマ】

身体の構造や機能を理解し、健康を維持・改善するための運動の様式や安全で効果的なトレーニングの方法、さらに運動における心理学的効果や行動変容モデルおよび心理的指導方法を学習します。また健康運動だけではなく、様々な競技における障害や医学的知識を学習し、運動を行う現場での実態を例にあげて授業を行います。

## 【授業における到達目標】

身体活動やスポーツにおける科学的知識（生理学・社会学・心理学）を理解し、生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための知識を修得する。細分化した科学的知見を集約し、基礎的知識を具体的に活用できる能力を培う。更に統合された知識を日常生活の問題解決に役立てることのできる行動力を養う。

## 【授業の内容】

- 第1週 体力測定の測定と評価  
(無酸素性能力と有酸素性能力の測定)
- 第2週 体力測定の測定と評価  
(最大酸素摂取量の測定と無酸素性閾値)
- 第3週 体力測定の測定と評価 (体脂肪量の測定)
- 第4週 体力測定の測定と評価 (新体カテスト)
- 第5週 体力測定の測定と評価  
(健康づくりのための運動指針2006)
- 第6週 体力測定の測定と評価 (体力テストの評価)
- 第7週 健康づくりと運動プログラム  
(身体活動・運動量・体力を確保する必要性)
- 第8週 健康づくりと運動プログラム (トレーニングの原則)
- 第9週 健康づくりと運動プログラム  
(運動プログラム作成上のポイントと基礎)
- 第10週 健康づくりと運動プログラム  
(ウォーミングアップとクーリングダウン)
- 第11週 健康づくりと運動プログラム  
(有酸素性運動とその効果)
- 第12週 健康づくりと運動プログラム  
(レジスタンス運動について)
- 第13週 運動指導の心理学的基礎  
(運動実践に関わる社会・心理・環境的要因)
- 第14週 運動における行動変容  
(理論・モデルと技法、動機づけとカウンセリングの方法)
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】新聞や雑誌等で取り上げられた健康や運動に関する話題に関心をよせて学修してください。テキスト等をよく読み毎回の授業の予習をしてください。(学修時間 週2時間)

【事後学修】毎回の授業の復習をし、専門用語等を理解して授業に臨んでください。(学修時間 週2時間)

## 【テキスト・教材】

財団法人健康・体力づくり事業財団「健康運動実践指導者養成用テキスト」(株式会社 南江堂) 4,900円購入については4月のオリエンテーション時に説明します。授業中に資料を配布し視聴覚教材を用います。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学期末のテスト 80%、授業と関連のある本学で行われる学会や講習会に参加し、レポートを提出する。20%レポートは次回授業でフィードバックを行う。

## 【参考書】

講義の中で適宜紹介します。

## スポーツと健康科学b

我妻 玲

2年 後期 2単位

◎：行動力

## 【授業のテーマ】

身体の構造や機能を理解し、健康を維持・改善するための運動の様式や安全で効果的なトレーニングの方法、さらに、運動における心理学的効果や行動変容モデルおよび心理的指導方法を学習します。また健康運動だけではなく、さまざまな競技における障害や医学的知識を学習し、運動を行う現場での実態を例にあげて授業を行います。

## 【授業における到達目標】

身体活動やスポーツにおける科学的知識（生理学・社会学・心理学）を理解し、生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための知識を修得する。細分化した科学的知見を集約し、基礎的知識を具体的に活用できる能力を培う。更に統合された知識を日常生活の問題解決に役立てることのできる行動力を養う。

## 【授業の内容】

- 第1週 体力測定の測定と評価  
(無酸素性能力と有酸素性能力の測定)
- 第2週 体力測定の測定と評価  
(最大酸素摂取量の測定と無酸素性閾値)
- 第3週 体力測定の測定と評価 (体脂肪量の測定)
- 第4週 体力測定の測定と評価 (新体カテスト)
- 第5週 体力測定の測定と評価  
(健康づくりのための運動指針2006)
- 第6週 体力測定の測定と評価 (体力テストの評価)
- 第7週 健康づくりと運動プログラム  
(身体活動・運動量・体力を確保する必要性)
- 第8週 健康づくりと運動プログラム (トレーニングの原則)
- 第9週 健康づくりと運動プログラム  
(運動プログラム作成上のポイントと基礎)
- 第10週 健康づくりと運動プログラム  
(ウォーミングアップとクーリングダウン)
- 第11週 健康づくりと運動プログラム (有酸素性運動とその効果)
- 第12週 健康づくりと運動プログラム  
(レジスタンス運動について)
- 第13週 運動指導の心理学的基礎  
(運動実践に関わる社会・心理・環境的要因)
- 第14週 運動における行動変容  
(理論・モデルと技法、動機づけとカウンセリングの方法)
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】新聞や雑誌等で取り上げられた健康や運動に関する話題に関心をよせて学修してください。テキスト等をよく読み毎回の授業の予習をしてください。(学修時間 週2時間)

【事後学修】毎回の授業の復習をし、専門用語等を理解して授業に臨んでください。(学修時間 週2時間)

## 【テキスト・教材】

財団法人 健康・体力づくり事業財団 健康運動実践指導者養成用テキスト」(株式会社 南江堂) 4,900円  
購入については、4月のオリエンテーション時に説明します。また授業中に資料を配布し、視聴覚教材を用います。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学期末のテスト80%、授業と関連のある本学で行われる学会や講習会に参加し、レポートを提出する20%  
レポートは次回授業でフィードバックを行う。

## 【参考書】

講義の中で適宜紹介します。

## スポーツ医科学実習

於保 祐子・河田 美保

3年 前期 1単位

○：行動力

## 【授業のテーマ】

本授業では、科学的理論にもとづいたトレーニングの具体的な運動処方と、運動障害・予防および救急救命について学習する。前半の授業では、呼吸循環系を改善し、ストレッチやエクササイズを通じて、代謝を上げる運動を行う。後半の授業では、内科的な障害と整形外科的な障害に分けて講義・実技を行う。

## 【授業における到達目標】

課題解決のために主体的に行動する力【行動力】

- ① 現状を正しく把握し、課題を発見できる。
- ② 目標を設定して、計画を立案・実行できる。
- ③ プロセスや成果を正しく評価し、問題解決につなげることができる。

## 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 エアロビックエクササイズの目的  
実習：アライメントの確認
- 第3週 エアロビックエクササイズの特徴  
実習：ローインパクトのステップ
- 第4週 エアロビックエクササイズの効果  
実習：ハイインパクトのステップ
- 第5週 エアロビックエクササイズのプログラム  
実習：プログラム作成→実践
- 第6週 エアロビックエクササイズの指導方法  
実習：指導案作成→実践
- 第7週 運動中止の判定方法  
(運動開始前および運動中の自覚症状と他覚徴候)
- 第8週 内科的な急性障害と慢性障害 (概要とその予防方法)
- 第9週 応急手当 (気道異物除去方法・止血等)
- 第10週 救急蘇生法 (心肺蘇生・AED)
- 第11週 慢性的な整形外科的障害の自覚症状と他覚徴候
- 第12週 慢性的な整形外科的障害の予防方法
- 第13週 外科的応急処置
- 第14週 テーピングの技術
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】参考書等、文献を通して授業内容について予習する  
(週1.5時間)

【事後学修】授業内容を復習し、用語等を理解する (週1.5時間)

## 【テキスト・教材】

プリント配布

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点60% (参加態度) ・レポート20% ・課題達成度20%

レポートへのフィードバックは授業毎に行います。

## 【参考書】

『健康運動実践指導者養成用テキスト』健康・体力づくり事業財団

## 【注意事項】

この授業は、講義と実技があります。そのため、講義の時には必ず毎回プリントを持参し、実技の時には運動の出来る服装を準備するようにしてください。

課題に対するレポートの提出があります。



## スポーツ医科学実習

於保 祐子・河田 美保

3年 前期 1単位

○：行動力

### 【授業のテーマ】

本授業では、科学的理論にもとづいたトレーニングの具体的な運動処方と、運動障害・予防および救急救命について学習する。前半の授業では、呼吸循環系を改善し、ストレッチやエクササイズを通じて、代謝を上げる運動を行う。後半の授業では、内科的な障害と整形外科的な障害に分けて講義・実技を行う。

### 【授業における到達目標】

課題解決のために主体的に行動する力【行動力】

- ① 現状を正しく把握し、課題を発見できる。
- ② 目標を設定して、計画を立案・実行できる。
- ③ プロセスや成果を正しく評価し、問題解決につなげることができる。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 エアロビックエクササイズの目的  
実習：アライメントの確認
- 第3週 エアロビックエクササイズの特長  
実習：ローインパクトのステップ
- 第4週 エアロビックエクササイズの効果  
実習：ハイインパクトのステップ
- 第5週 エアロビックエクササイズのプログラム  
実習：プログラム作成→実践
- 第6週 エアロビックエクササイズの指導方法  
実習：指導案作成→実践
- 第7週 運動中止の判定方法  
(運動開始前および運動中の自覚症状と他覚徴候)
- 第8週 内科的な急性障害と慢性障害 (概要とその予防方法)
- 第9週 応急手当 (気道異物除去方法・止血等)
- 第10週 救急蘇生法 (心肺蘇生・AED)
- 第11週 慢性的な整形外科的障害の自覚症状と他覚徴候
- 第12週 慢性的な整形外科的障害の予防方法
- 第13週 外科的応急処置
- 第14週 テーピングの技術
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】 参考書等、文献を通して授業内容について予習する  
(週1.5時間)

【事後学修】 授業内容を復習し、用語等を理解する (週1.5時間)

### 【テキスト・教材】

プリント配布

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点60% (参加態度) ・レポート20% ・課題達成度20%

レポートへのフィードバックは授業毎に行います。

### 【参考書】

『健康運動実践指導者養成用テキスト』健康・体力づくり事業財団

### 【注意事項】

この授業は、講義と実技があります。そのため、講義の時には必ず毎回プリントを持参し、実技の時には運動の出来る服装を準備するようにしてください。

課題に対するレポートの提出があります。

## スポーツ医科学実習

於保 祐子・河田 美保

3年 前期 1単位

○：行動力

### 【授業のテーマ】

本授業では、科学的理論にもとづいたトレーニングの具体的な運動処方と、運動障害・予防および救急救命について学習する。前半の授業では、呼吸循環系を改善し、ストレッチやエクササイズを通じて、代謝を上げる運動を行う。後半の授業では、内科的な障害と整形外科的な障害に分けて講義・実技を行う。

### 【授業における到達目標】

課題解決のために主体的に行動する力【行動力】

- ① 現状を正しく把握し、課題を発見できる。
- ② 目標を設定して、計画を立案・実行できる。
- ③ プロセスや成果を正しく評価し、問題解決につなげることができる。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 エアロビックエクササイズの目的  
実習：アライメントの確認
- 第3週 エアロビックエクササイズの特徴  
実習：ローインパクトのステップ
- 第4週 エアロビックエクササイズの効果  
実習：ハイインパクトのステップ
- 第5週 エアロビックエクササイズのプログラム  
実習：プログラム作成→実践
- 第6週 エアロビックエクササイズの指導方法  
実習：指導案作成→実践
- 第7週 運動中止の判定方法  
(運動開始前および運動中の自覚症状と他覚徴候)
- 第8週 内科的な急性障害と慢性障害 (概要とその予防方法)
- 第9週 応急手当 (気道異物除去方法・止血等)
- 第10週 救急蘇生法 (心肺蘇生・AED)
- 第11週 慢性的な整形外科的障害の自覚症状と他覚徴候
- 第12週 慢性的な整形外科的障害の予防方法
- 第13週 外科的応急処置
- 第14週 テーピングの技術
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】参考書等、文献を通して授業内容について予習する  
(週1.5時間)

【事後学修】授業内容を復習し、用語等を理解する (週1.5時間)

### 【テキスト・教材】

プリント配布

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点60% (参加態度) ・レポート20% ・課題達成度20%

レポートへのフィードバックは授業毎に行います。

### 【参考書】

『健康運動実践指導者養成用テキスト』健康・体力づくり事業財団

### 【注意事項】

この授業は、講義と実技があります。そのため、講義の時には必ず毎回プリントを持参し、実技の時には運動の出来る服装を準備するようにしてください。

課題に対するレポートの提出があります。

**スポーツ栄養学 a**

井部 明広・山田 茂・辛島 順子・佐藤 健

4年 前期 2単位

○：行動力

**【授業のテーマ】**

スポーツ栄養学aでは運動生理学・運動生化学・栄養学など基礎の学習をする。

**【授業における到達目標】**

スポーツ栄養学に必要な基礎知識について修得する。細分化した科学的知見を集約し、基礎的知識を具体的に活用できる能力を培う。更に統合された知識を日常生活の問題解決に役立てることのできる行動力を養う。

**【授業の内容】**

- 第1週 特別な集団のための栄養：子供と若いスポーツマン
- 第2週 栄養と高齢アスリート
- 第3週 運動のための最適な栄養
- 第4週 エルゴジェニックエイド
- 第5週 サプリメントとスポーツ食品
- 第6週 体組成、体重コントロール、摂食障害
- 第7週 スポーツマンの体格評価
- 第8週 スポーツマンの栄養状態の測定：臨床と研究の見解
- 第9週 スポーツ選手の減量
- 第10週 スポーツにおける体重の調整
- 第11週 摂食障害
- 第12週 エネルギー効率に関する評価と証拠
- 第13週 熱ストレスでの体温調節と体液バランス
- 第14週 旅行するアスリートのための医療や栄養の問題  
特別な環境のための栄養問題：高所と高温気候でトレーニングと試合
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

テキスト等を必ず予習すること。（学修時間 週2時間）

**【事後学修】**

小テストや配布プリントの復習をすること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

日本臨床スポーツ栄養学会編集『スポーツ栄養科学テキスト』  
（健康・スポーツ栄養インストラクター養成機構 2017）2,500円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

【評価方法】学期末のテスト 100%

【フィードバック】小テストの解説を翌週行います。

**スポーツ栄養学 a**

井部 明広・山田 茂・辛島 順子・佐藤 健

4年 前期 2単位

○：行動力

**【授業のテーマ】**

スポーツ栄養学aでは運動生理学・運動生化学・栄養学など基礎の学習をする。

**【授業における到達目標】**

スポーツ栄養学に必要な基礎知識について修得する。細分化した科学的知見を集約し、基礎的知識を具体的に活用できる能力を培う。更に統合された知識を日常生活の問題解決に役立てることのできる行動力を養う。

**【授業の内容】**

- 第1週 特別な集団のための栄養：子供と若いスポーツマン
- 第2週 栄養と高齢アスリート
- 第3週 運動のための最適な栄養
- 第4週 エルゴジェニックエイド
- 第5週 サプリメントとスポーツ食品
- 第6週 体組成、体重コントロール、摂食障害
- 第7週 スポーツマンの体格評価
- 第8週 スポーツマンの栄養状態の測定：臨床と研究の見解
- 第9週 スポーツ選手の減量
- 第10週 スポーツにおける体重の調整
- 第11週 摂食障害
- 第12週 エネルギー効率に関する評価と証拠
- 第13週 熱ストレスでの体温調節と体液バランス
- 第14週 旅行するアスリートのための医療や栄養の問題  
特別な環境のための栄養問題：高所と高温気候でトレーニングと試合
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】（学修時間 週2時間）

テキスト等を必ず予習すること。

【事後学修】（学修時間 週2時間）

小テストや配布プリントの復習をすること。

**【テキスト・教材】**

日本臨床スポーツ栄養学会編集『スポーツ栄養科学テキスト』  
（健康・スポーツ栄養インストラクター養成機構 2017）2,500円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

【評価方法】学期末のテスト 100%

【フィードバック】小テストの解説を翌週行います。

**スポーツ栄養学 a**

井部 明広・山田 茂・辛島 順子・佐藤 健

4年 前期 2単位

○：行動力

**【授業のテーマ】**

スポーツ栄養学aでは運動生理学・運動生化学・栄養学など基礎の学習をする。

**【授業における到達目標】**

スポーツ栄養学に必要な基礎知識について修得する。細分化した科学的知見を集約し、基礎的知識を具体的に活用できる能力を培う。更に統合された知識を日常生活の問題解決に役立てることのできる行動力を養う。

**【授業の内容】**

- 第1週 特別な集団のための栄養：子供と若いスポーツマン
- 第2週 栄養と高齢アスリート
- 第3週 運動のための最適な栄養
- 第4週 エルゴジェニックエイド
- 第5週 サプリメントとスポーツ食品
- 第6週 体組成、体重コントロール、摂食障害
- 第7週 スポーツマンの体格評価
- 第8週 スポーツマンの栄養状態の測定：臨床と研究の見解
- 第9週 スポーツ選手の減量
- 第10週 スポーツにおける体重の調整
- 第11週 摂食障害
- 第12週 エネルギー効率に関する評価と証拠
- 第13週 熱ストレスでの体温調節と体液バランス
- 第14週 旅行するアスリートのための医療や栄養の問題  
特別な環境のための栄養問題：高所と高温気候でトレーニングと試合
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

テキスト等を必ず予習すること。（学修時間 週2時間）

**【事後学修】**

小テストや配布プリントの復習をすること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

日本臨床スポーツ栄養学会編集『スポーツ栄養科学テキスト』  
（健康・スポーツ栄養インストラクター養成機構 2017）2,500円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

【評価方法】学期末のテスト 100%

【フィードバック】小テストの解説を翌週行います。

## スポーツ栄養学b

山田 茂

4年 後期 2単位

○：行動力

### 【授業のテーマ】

スポーツ栄養学bでは主にスポーツマンが抱える問題点を科学的にわかりやすく学習する。

### 【授業における到達目標】

スポーツマンが抱える問題点を科学的に理解し、実際の調理や選手への指導方法についても修得する。細分化した科学的知見を集約し、基礎的知識を具体的に活用できる能力を培う。更に統合された知識を日常生活の問題解決に役立てることのできる行動力を養う。

### 【授業の内容】

- 第1週 骨の代謝・運動と骨・骨と栄養
- 第2週 スポーツマンの鉄欠乏 鉄の代謝
- 第3週 スポーツマンにとってのビタミン、ミネラル、及び抗酸化物質の必要性
- 第4週 運動生理学と代謝（試合のための準備、運動中の水分およびCHO摂取）
- 第5週 運動生理学と代謝  
（トレーニングや競技後の回復のための栄養 他）
- 第6週 運動グループへの食物の提供
- 第7週 運動とトレーニングの栄養
- 第8週 食品栄養：構造、機能、消化、吸収と同化
- 第9週 障害を持つスポーツ選手
- 第10週 菜食者のスポーツマン
- 第11週 胃腸病を持っているスポーツマン
- 第12週 糖尿病のスポーツマン・糖尿病の運動処方
- 第13週 スポーツと調理（スタミナ調理）
- 第14週 スポーツと調理（筋力アップ、試合前後の調理）
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

#### 【事前学修】

テキスト等を必ず予習すること。新聞や雑誌等で取り上げられた栄養や運動に関する話題に関心をよせて学習すること。（学修時間 週2時間）

#### 【事後学修】

小テストや配布プリントの復習をすること。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

日本臨床スポーツ栄養学会編集『スポーツ栄養科学テキスト』（健康・スポーツ栄養インストラクター養成機構2017）2,500円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

【評価方法】学期末のテスト 100%

【フィードバック】小テストの解説を翌週行います。

## スポーツ栄養学b

山田 茂

4年 後期 2単位

○：行動力

### 【授業のテーマ】

スポーツ栄養学bでは主にスポーツマンが抱える問題点を科学的にわかりやすく学習する。

### 【授業における到達目標】

スポーツマンが抱える問題点を科学的に理解し、実際の調理や選手への指導方法についても修得する。細分化した科学的知見を集約し、基礎的知識を具体的に活用できる能力を培う。更に統合された知識を日常生活の問題解決に役立てることのできる行動力を養う。

### 【授業の内容】

- 第1週 骨の代謝・運動と骨・骨と栄養
- 第2週 スポーツマンの鉄欠乏 鉄の代謝
- 第3週 スポーツマンにとってのビタミン、ミネラル、及び抗酸化物質の必要性
- 第4週 運動生理学と代謝（試合のための準備、運動中の水分およびCHO摂取）
- 第5週 運動生理学と代謝  
（トレーニングや競技後の回復のための栄養 他）
- 第6週 運動グループへの食物の提供
- 第7週 運動とトレーニングの栄養
- 第8週 食品栄養：構造、機能、消化、吸収と同化
- 第9週 障害を持つスポーツ選手
- 第10週 菜食者のスポーツマン
- 第11週 胃腸病を持っているスポーツマン
- 第12週 糖尿病のスポーツマン・糖尿病の運動処方
- 第13週 スポーツと調理（スタミナ調理）
- 第14週 スポーツと調理（筋力アップ、試合前後の調理）
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

#### 【事前学修】

テキスト等を必ず予習すること。新聞や雑誌等で取り上げられた栄養や運動に関する話題に関心をよせて学修すること。（学修時間 週2時間）

#### 【事後学修】

小テストや配布プリントの復習をすること。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

日本臨床スポーツ栄養学会編集『スポーツ栄養科学テキスト』（健康・スポーツ栄養インストラクター養成機構2017）2,500円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

【評価方法】学期末のテスト 100%

【フィードバック】小テストの解説を翌週行います。

## スポーツ栄養学b

山田 茂

4年 後期 2単位

○：行動力

### 【授業のテーマ】

スポーツ栄養学bでは主にスポーツマンが抱える問題点を科学的にわかりやすく学習する。

### 【授業における到達目標】

スポーツマンが抱える問題点を科学的に理解し、実際の調理や選手への指導方法についても修得する。細分化した科学的知見を集約し、基礎的知識を具体的に活用できる能力を培う。更に統合された知識を日常生活の問題解決に役立てることのできる行動力を養う。

### 【授業の内容】

- 第1週 骨の代謝・運動と骨・骨と栄養
- 第2週 スポーツマンの鉄欠乏 鉄の代謝
- 第3週 スポーツマンにとってのビタミン、ミネラル、及び抗酸化物質の必要性
- 第4週 運動生理学と代謝（試合のための準備、運動中の水分およびCHO摂取）
- 第5週 運動生理学と代謝  
（トレーニングや競技後の回復のための栄養 他）
- 第6週 運動グループへの食物の提供
- 第7週 運動とトレーニングの栄養
- 第8週 食品栄養：構造、機能、消化、吸収と同化
- 第9週 障害を持つスポーツ選手
- 第10週 菜食者のスポーツマン
- 第11週 胃腸病を持っているスポーツマン
- 第12週 糖尿病のスポーツマン・糖尿病の運動処方
- 第13週 スポーツと調理（スタミナ調理）
- 第14週 スポーツと調理（筋力アップ、試合前後の調理）
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

#### 【事前学修】

テキスト等を必ず予習すること。新聞や雑誌等で取り上げられた栄養や運動に関する話題に関心をよせて学修すること。（学修時間 週2時間）

#### 【事後学修】

小テストや配布プリントの復習をすること。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

日本臨床スポーツ栄養学会編集『スポーツ栄養科学テキスト』（健康・スポーツ栄養インストラクター養成機構2017）2,500円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

【評価方法】学期末のテスト 100%

【フィードバック】小テストの解説を翌週行います。



## スポーツ基礎科学実習 a

教育実習に向けた課外活動スキルの向上

佐藤 健

1年～ 後期 1単位

○：研鑽力、協働力

### 【授業のテーマ】

出来る限り、競技能力の向上を目指します。近代バドミントンのシャトルの動きは、スピーディに変化に富み、その豪快さ、心地よさは、スマッシュに代表される。その一方で、スカートをはいた形状から終速時の減速は大変顕著で、ラリーを続けることがとても容易であり、老若男女、誰でもが簡単にプレーを楽しむことが出来る特徴を有している。そんなことから、本授業は、学校・企業・社会体育の指導現場等で、羽根つき遊びから、バドミントン競技に至る技術習得の追体験を実践しながら、技能向上を目指すとともに、対象に応じた指導方法について実習を行う。また、将来教育実習生として教育実習期間中に課外活動の支援を行う際に、バドミントンの練習方法に関して一応の理解をすることを目標としておく。

### 【授業における到達目標】

スポーツ技能は、将来職場や地域のスポーツ交流が行えるスキルです。授業によって体験した技能を役立て自己成長できるように「研鑽力（○）」を習得します。自分や周囲のスキルを正しく把握し、安全に授業が行えるように「協働力（○）」をもって授業に臨んでください。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション（教材、出席管理カードの配布）
- 第2週 授業前の体力測定
- 第3週 技能実習I（シャトル、ラケットに慣れる）
- 第4週 技能実習II（基本ストローク）
- 第5週 技能実習II（ネットプレイ、ド、クリーヤー）
- 第6週 技能実習III（簡易ラリー）
- 第7週 技能実習III（中級ラリー）
- 第8週 技能実習IV（基本ストローク・フライト応用練習）
- 第9週 中間テスト（実技サブ等）
- 第10週 審判法とゲームI（審判の方法とシングルスゲーム）
- 第11週 審判法とゲームII（ダブルスゲーム）
- 第12週 技能実習V（各フライトコンビネーション応用練習）
- 第13週 大会実習（トーナメント・リーグ戦ダブルス）
- 第14週 授業後の体力測定
- 第15週 まとめ（期末レポートの作成と提出）

### 【事前・事後学修】

事前学修として、十分な睡眠と食事をとり集中力が持続する状態で臨めるようにすること。事後学修として、30時間程度自宅等でストレッチなどをして身体の状態について前向きに取り組むこと。

### 【テキスト・教材】

シューズ、靴下、ウェア、汗拭きタオル、給水ボトル、帽子または髪をまとめるゴム等は各自が必ず用意すること。ラケットは貸し出し用はあるが、持参が望ましい。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業時のスキルテスト60%（4点×15）、体力向上点10%、期末レポート30%とする。随時、試技やデータ等のフィードバックを行う。

### 【参考書】

著者：関・藤田・蘭『バドミントン教室』（大修館）

### 【注意事項】

授業の最初と最後に体力測定を行い、体力が維持しているか確認を行う。授業中に不安全行動（ケガが事故の原因）は慎むこと。準備体操、教員の指示等を守ること。なお、就職活動の場合には、証明するものを提出すること。恒例の体力測定は、2週目に行う。

※募集人数は36名です。

## スポーツ基礎科学実習 b

健康づくり運動とボールゲーム

我妻 玲

1年～ 前期 1単位

○：研鑽力、協働力

### 【授業のテーマ】

本授業では、健康に関する諸問題、有酸素性運動の意義と実践方法および、体力づくりのためのトレーニングの原理と実践方法について学習する。さらに、今まであまり経験したことのない種目を実践し、ボールゲーム等のスポーツを通じたコミュニケーション能力の向上、ルール・エチケット・マナーを習得し、生涯スポーツを楽しむ知識を身につけることを目標とする。

### 【授業における到達目標】

1. 学生が修得すべき「研鑽力」として、運動前、運動中、運動後の身体の生理的変化を実感し、それを科学的に理解することができる。
2. 学生が修得すべき「研鑽力」として、運動前後の心理的変化を実感し、それを科学的に理解することができる。
3. 学生が修得すべき「行動力」として、自己の健康状態を把握し、運動を日常生活に取り入れる工夫をすることができる。
4. 学生が修得すべき「協働力」として、スポーツによるグループ活動を通してコミュニケーション能力を高めることができる。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 健康づくり運動の理論と実際
- 第3週 体力測定
- 第4週 ウォーキングによるトレーニング方法（基本的フォーム）
- 第5週 ウォーキングによる運動効果と評価（心拍数の測定方法）
- 第6週 ジョギングによるトレーニング方法（基本的フォーム）
- 第7週 ジョギングによる運動効果と評価（心拍数の測定方法）
- 第8週 ソフトボールの基礎（キャッチボール・バッティング）
- 第9週 ソフトボールの応用①（連係プレー）・ゲーム
- 第10週 ソフトボールの応用②（チーム練習）・ゲーム
- 第11週 サッカーの基礎（ドリブル・パス・シュート）
- 第12週 サッカーの応用（チーム練習）・ゲーム
- 第13週 グラウンドパターゴルフ（パターの握り方と打ち方）
- 第14週 体力測定
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】運動が健康の維持・増進に及ぼす影響について整理しておくこと。平日頃から十分な睡眠と食事をとり、体調を整えてから授業に参加すること。（学修時間 週1時間）

【事後学修】授業で行った運動を日常生活に取り入れてみる。次の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。（学修時間 週1時間）

### 【テキスト・教材】

プリントを配布する

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点60%（授業への積極参加）、レポート20%、小テスト20%。小テストは次回授業でフィードバックを行う。

### 【参考書】

『健康運動実践指導者養成用テキスト』健康・体力づくり事業財団

### 【注意事項】

天候によっては種目の変更がある。毎回必ず運動着・運動靴・タオルを持参してください。なるべく水分補給を行うためのペットボトルや水筒を持参してください。

第1週目の授業時に、履修カードの作成や第2週以降の体力測定・授業内容に関する諸連絡を行うので、必ず出席すること。

※募集人数は36名です。

## スポーツ健康科学実習

エアロビックダンス

河田 美保

1年～ 前期・後期 1単位

○：研鑽力、協働力

### 【授業のテーマ】

健康や体力づくりを目的とした運動の特性や効果について理解を深め、その運動を安全かつ効果的に実践指導できる能力を身につけることを目標とする。

### 【授業における到達目標】

- ①手本となる美しい動きを身につけることができる。
- ②動きの観察、修正、動機づけができる。
- ③自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる。

### 【授業の内容】

エアロビックダンスを中心に、健康、体力づくりを目的とした運動の理論と実践を相互に検討しながら、グループによる実践指導実習を繰り返す。

- |      |   |
|------|---|
| 第1週  | ガイダンス   |
| 第2週  | 姿勢評価システムによる姿勢測定                               |
| 第3週  | 体力測定、形態計測                                     |
| 第4週  | ウォーミングアップとクーリングダウン                            |
| 第5週  | コンディショニング・エクササイズ                              |
| 第6週  | エアロビックダンスの特性<br>実習：基本的なステップの習得                |
| 第7週  | エアロビックダンスの効果<br>実習：アライメントの確認                  |
| 第8週  | エアロビックダンスの運動強度<br>実習：運動強度の調節方法                |
| 第9週  | エアロビックダンスの運動プログラム<br>実習：動きの質と音楽について           |
| 第10週 | エアロビックダンスの指導方法Ⅰ<br>実習：実践指導（説明、リード、キューイングなど）   |
| 第11週 | エアロビックダンスの指導方法Ⅱ<br>実習：実践指導（観察、修正、動機づけなど）      |
| 第12週 | エアロビックダンスの指導上の留意点<br>実習：実践指導（安全への配慮、雰囲気づくりなど） |
| 第13週 | 体力測定、形態計測                                     |
| 第14週 | 姿勢評価システムによる姿勢測定                               |
| 第15週 | エアロビックダンス実践指導評価、総括                            |

### 【事前・事後学修】

- ①自己の身体、健康、体力に関心を持ち、日常生活の中で積極的に身体活動を行う（週6万歩を目標に）
- ②授業で行った動きを復習する
- ①②合わせて週3時間程度

### 【テキスト・教材】

プリントを使用する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度50%、課題達成度（実践指導テスト）30%、共通レポート15%、課外活動（運動系公式行事）5%で評価する。実践指導テストにはコメントで、共通レポートに対しては総括でフィードバックする。

### 【参考書】

『健康運動実践指導者養成テキスト』健康・体力づくり事業財団

### 【注意事項】

- ①第1週のガイダンスは、履修カードの作成や受講上の重要事項を説明するので、必ず出席すること。
  - ②実習時はアクセサリ類を外し、長い髪は結び、伸縮性に富んだ運動着を着用すること。
  - ③受講者が互いに有意義な時間を持てるよう遅刻をしないこと。
  - ④十分な睡眠をとり、食生活等に気を配るなど体調管理に努め、授業に参加すること。
- ※受講人数制限36名

## スポーツ文化論

スポーツ文化を多様かつ分析的に観る視点を手に入れよう

南 英樹

1年～ 前期・後期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

スポーツは素晴らしい？ 実況中継で叫ばれる「感動」って、うそ臭くない？ 体育とスポーツって同じものなんじゃないの？ 体育会系って、脳まで筋肉ってこと？ こんな素朴な疑問からスタートして、スポーツ文化について考え、掘り下げてみましょう。

近代スポーツ文化は、19世紀のイギリスにおいて「発展」と「合理性」という価値観を土台として成立しました。そうした近代の価値観を内面化したスポーツは、世界中に普及し、日本にも輸入されました。

それは今や、テレビ放映だけにとどまらず、多様なメディアと絡み合うなかで、地域経済システムの発展や、世界にその国の統治力を見せつける権力装置としても機能するようになっていきます。そしてなにより、Jリーグやプロ野球、大相撲等を通して私たちの暮らしのなかに溶け込んでいきます。

しかし、私たちはスポーツ文化についてその背後にある美的構造や歴史的な成り立ち、地域特性を知っているでしょうか。

この講義では、スポーツという文化現象を、哲学的、政治的、経済的、歴史・社会史的視点から広範に考察し、スポーツ文化について「考える」ことで、スポーツをなんとなく「良いもの」として受け入れてしまう態度を一旦停止します。その上で、スポーツのあるべき姿はどのようなものかを模索し、その文化的発展に寄与しうる批判能力を養うことを目標として授業を行います。

### 【授業における到達目標】

スポーツという文化の独自の価値を知り、日本のスポーツ界の現状を学ぶことで、これからのスポーツのあり方を模索し、私たちひとりひとりが東京オリンピックを通じて社会にどのようなメッセージを伝えていくべきなのか創造的に取り組む態度を養います。また、自然科学、社会科学、人文科学、それぞれの視点から総合的にスポーツを分析する洞察力を身につけます。

### 【授業の内容】

- |      |                 |                          |
|------|-----------------|--------------------------|
| 第1週  | スポーツと文化         | 文化という対象：科学と条件制御          |
| 第2週  | 体育とスポーツ         | 人間の諸相と身体運動の諸相            |
| 第3週  | 近代スポーツ発展の土壌（1）  | 古代ギリシャの理想と身体             |
| 第4週  | 近代スポーツ発展の土壌（2）  | 古代ローマとキリスト教的身体           |
| 第5週  | 近代スポーツ発展の土壌（3）  | ルネッサンスと身体の再発見            |
| 第6週  | 近代スポーツ発展の土壌（4）  | 近代国家の形成とアマチュアリズム         |
| 第7週  | 近代スポーツの普及       | イギリス・アメリカ・日本の発展過程と特性     |
| 第8週  | 近代スポーツの普及       | オリンピックの展開：資本主義国家と社会主義国家  |
| 第9週  | 種目みるスポーツ思想      | 理念・制度・実践の諸相              |
| 第10週 | スポーツメディアの舞台裏（1） | アメリカの事例：映画「ザ・エージェント」に学ぶ  |
| 第11週 | スポーツメディアの舞台裏（2） | 日本の事例：中田英寿のプロモーションモデルに学ぶ |
| 第12週 | 映像に学ぶ（1）        | 映画「コーチカーター」：スポーツ映像と時間的機能 |
| 第13週 | 映像に学ぶ（2）        | 映画「コーチカーター」：スポーツ映像と再生産機能 |
| 第14週 | スポーツメディアリテラシー   | 美術から学ぶ：観る能力の獲得と文化的発展     |
| 第15週 | まとめ             |                          |

### 【事前・事後学修】

事前学修を週に2時間程度行い、スポーツの社会的影響に関する新聞・雑誌記事を集め、スポーツの、私物としての性格と公共物としての性格について調べてみましょう。

事後学修を週に2時間程度行い、スポーツの歴史・価値・形式・構

造など、学んだ内容をもとに、事前学修で調べた記事を批判的に分析してみましょう。

**【テキスト・教材】**

プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験50点、レポート30点、平常点（疑問ペーパー・議論への積極的参加）20点。疑問ペーパーへの回答によってフィードバックを行います。

**【参考書】**

『スポーツ解体新書』玉木正之著 NHK出版

『よくわかるスポーツ文化論』井上俊・菊幸一編著  
ミネルヴァ書房

『人間とスポーツの歴史』渡部憲一 高菟出版

『近代スポーツ文化とはなにか』西山哲郎 世界思想社

『スポーツ文化の変容』杉本厚夫 世界思想社

**ゼミナール****担当教員全員**

3年 通年 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

**【授業のテーマ】**

各担当教員の研究室において、専攻領域の学問についてより深く学び、翌年度の卒業論文研究に取り組むことのできる基本的な研究能力を身につけることを達成目標とする。なお、具体的な内容は各担当教員による。

**【授業における到達目標】**

- ・卒業論文の作成に向けて、基本的な調査方法を習得したり、文献調査を進めたりして学びを深め、「美の探究」に努める。
- ・研究テーマに関する学習を自主的に進めたり、意欲的に発表を行ったりし、研鑽力、行動力を高める。
- ・グループワークにおいては、自己の役割を理解し、仲間と協力して課題を遂行する。

**【授業の内容】**

(前期)

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 卒業研究の基礎① 文献資料の種類
- 第3回 卒業研究の基礎② 図書館の利用法
- 第4回 卒業研究の基礎③ 文献の探索
- 第5回 卒業研究の方法① 文献調査
- 第6回 卒業研究の方法② リサーチ
- 第7回 卒業研究の方法③ 観察・実験など
- 第8回 研究テーマの設定① 文献資料から検討する
- 第9回 研究テーマの設定② ディスカッション
- 第10回 研究テーマの設定③ プレゼンテーション
- 第11回 文献研究① 先行研究の活用
- 第12回 文献研究② 図表の読み方
- 第13回 文献研究③ データの解釈
- 第14回 研究倫理について
- 第15回 まとめ

(後期)

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 卒業論文の構成① 論文とは何か
- 第3回 卒業論文の構成② 問題の設定
- 第4回 卒業論文の構成③ 目的の設定
- 第5回 中間発表① プレゼンテーションの方法
- 第6回 中間発表② プレゼンテーションの準備
- 第7回 中間発表③ プレゼンテーションの実際
- 第8回 卒業論文の再構成① テーマの再考
- 第9回 卒業論文の再構成② 問題設定の再考
- 第10回 卒業論文の再構成③ 目的の再考
- 第11回 研究計画① 方法論について
- 第12回 研究計画② 実施計画
- 第13回 研究計画③ 計画の確認
- 第14回 卒業論文(4年)に向けて
- 第15回 まとめ

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

研究テーマについての予習・文献調査等(学修時間:週2時間)

**【事後学修】**

研究テーマについての復習・再構成等(学修時間:週2時間)

**【テキスト・教材】**

各担当教員の指示に従うこと。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点50%(研究テーマ・課題への取り組み、授業内の発表、質疑への参加など)、期末課題等50%

**【参考書】**

各担当教員の指示に従うこと。

**ゼミナール****担当教員全員**

3年 通年 4単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

「現代生活」の課題を捉える3つの柱：環境・メディア・自立社会の各領域でこれまで習得した知識や技能をふまえ、自分の最も興味ある分野で卒業研究をすすめるための方法や問題意識の醸成をはかります。また、それぞれの課題の探求を通して、協働・協調・リーダーシップの力を高めます。現代の暮らしと社会を構想する力と、現実的な課題解決に向けての実践力の基礎的土台をしっかりと固め、翌年度の卒業研究に取り組むことのできる力をつけることを目標とします。

**【授業における到達目標】**

各領域の視点から様々な社会的課題に取り組むと共に、自ら問題設定を行い、その内容を点検吟味し、卒業研究に向けた調査や展開を行います。こうした作業を通じて、高い「研鑽力」「行動力」「協働力」を養います。

**【授業の内容】**

各専門領域の特性に応じた問題意識の深め方、専門的知識・技術、文献・調査研究の方法、プレゼンテーション技能などに関連する内容となります。具体的な内容、進め方は、それぞれの担当教員にゆだねられます。

**【事前・事後学修】**

各担当教員において指示しますが、基本的に事前学修に2時間、事後学修に2時間の復習、準備が要求されます。

**【テキスト・教材】**

各担当教員において指示します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業に臨む態度、発表内容、成果物などを総合的に判定します。

**【参考書】**

各担当教員において指示します。

**【注意事項】**

3領域を総合しつつ現代を捉えていくところに、本学科の学びの特徴があります。興味に応じて、所属したゼミナール以外の教員にも指導をおおぐなど、この学科ならではの学修をすすめるとういでしょう。

## ダイバーシティ特論

山根 純佳

人間社会専攻 後期 2単位

### 【授業のテーマ】

ダイバーシティ（多様性）とは、性別、年齢、人種、国籍の差異にかかわらず、労働者の能力を最大限発揮するためのマネジメントとして、企業経営の注目を集めています。本授業では、最新の研究成果をもとに、企業経営におけるダイバーシティの現状と政策的課題について学びます。特にジェンダー・ダイバーシティに焦点をあて、参加者の報告を交えながら考察します。

### 【授業における到達目標】

ダイバーシティ（多様性）、インクルージョン（包摂）を実現するための企業改革・法の課題について理解し、オルタナティブな議論を構築することができる。

### 【授業の内容】

- 第1週 ダイバーシティとは何か
- 第2週 女性雇用の現状
- 第3週 家庭の性別分業の実態
- 第4週 女性の就業継続の課題 出産・育児期
- 第5週 ポスト育児期の就業キャリア
- 第6週 女性の再就職と非正規労働
- 第7週 女性管理職とポジティブ・アクション
- 第8週 長時間労働をめぐる課題
- 第9週 障害者雇用とダイバーシティ
- 第10週 障害者差別解消法
- 第11週 障害者差別解消法の効果
- 第12週 LGBTの生活と社会的包摂
- 第13週 LGBTの雇用とパートナーシップをめぐる法
- 第14週 欧米のダイバーシティ・マネジメント
- 第15週 総括

### 【事前・事後学修】

指定した文献や資料を読み、内容を十分に理解しておくこと。日常的に授業テーマに関連する情報を集め、自分なりの分析を加えておくこと（事前学修2時間、事後学修4時間）。

### 【テキスト・教材】

労働政策研究・研修機構編『ワーク・ライフ・バランスの焦点—女性の労働参加と男性の働き方』（労働政策研究・研修機構、2012年）2500円＋税  
川島聡・飯野由里子・西倉実季・星加良司『合理的配慮：対話を開く、対話が拓く』（有斐閣 2016年）2,916円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業での報告、討議への貢献（50%）、レポート（50%）。毎回、前回の授業の確認事項についてフィードバックをする。

## ダイバーシティ論

山根 純佳

2年 後期 2単位

©：研鑽力

## 【授業のテーマ】

ダイバーシティ（多様性）とは、性別、年齢、人種、国籍の差異にかかわらず、労働者の能力を最大限発揮するためのマネジメントとして、企業経営の注目を集めています。授業の前半では、ダイバーシティが求められる背景として、今日の女性の雇用環境をめぐる課題についてとりあげ、後半では、障害者の就労、LGBTの社会的包摂をテーマに、多様な差異にかかわるダイバーシティの具体的な内容と課題について考えます。

## 【授業における到達目標】

- 1) 近年の雇用の状況や政策の動向と課題について、基礎的な知識を習得する。
- 2) マイノリティが抱える問題や政策的課題を理解し、課題解決に挑む実践的な能力を獲得する。
- 3) 広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる「研鑽力」を獲得する。

## 【授業の内容】

- 第1週 ダイバーシティとは何か
- 第2週 男女雇用機会均等法以後の雇用
- 第3週 日本型雇用とダイバーシティ
- 第4週 統計的差別と性別職務分離
- 第5週 同一価値労働同一賃金原則の可能性
- 第6週 ポジティブ・アクション
- 第7週 長時間労働と生産性
- 第8週 中間のまとめ
- 第9週 社会的包摂と障害の社会モデル
- 第10週 障害者雇用と障害者差別解消法について
- 第11週 外部講師の講演「障害者就労の現状」
- 第12週 LGBTをとりまく社会的課題
- 第13週 LGBTの雇用と差別解消法
- 第14週 渋谷区のダイバーシティの取り組みについて
- 第15週 総括（グループでのプレゼンテーション）

## 【事前・事後学修】

事前学修：テーマに関する新聞記事や資料に目をおし、情報を得ておくこと。中間テストに向けて配布した資料や参考文献リストをもとに復習をしっかりとこなす（学修時間 週2時間）。

事後学修：不定期に課題（8回）を課すので、授業内容を踏まえ締め切りまでに提出すること。締め切り後の提出は減点とする（学修時間 週2時間）。

## 【テキスト・教材】

プリントを使用する

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

中間のまとめ（テスト）40%、期末レポート（プレゼンテーションも含む）40%、学期中の課題20%。

学期中の課題、中間テストについて、確認と復習のフィードバックを各回の授業でおこなう。

## 【参考書】

佐藤博樹・武石恵美子『ダイバーシティ経営と人材活用：多様な働き方を支援する企業の取り組み』（東京大学出版会、2017年）4752円

川崎聡・飯野由里子・西倉実季『合理的配慮 対話を拓く、対話が拓く』（有斐閣 2016年）2916円

## 【注意事項】

女性労働問題に関する理解を深めるため「女性と労働」の授業も受講することをすすめる。

**ダイバーシティ論**

山根 純佳

2年～ 後期 2単位

◎：研鑽力

**【授業のテーマ】**

ダイバーシティ（多様性）とは、性別、年齢、人種、国籍の差異にかかわらず、労働者の能力を最大限発揮するためのマネジメントとして、企業経営の注目を集めています。授業の前半では、ダイバーシティが求められる背景として、今日の女性の雇用環境をめぐる課題についてとりあげ、後半では、障害者の就労、LGBTの社会的包摂をテーマに、多様な差異にかかわるダイバーシティの具体的内容と課題について考えます。

**【授業における到達目標】**

- 1) 近年の雇用の状況や政策の動向と課題について、基礎的な知識を習得する。
- 2) マイノリティが抱える問題や政策的課題を理解し、課題解決に挑む実践的な能力を獲得する。
- 3) 広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる「研鑽力」を獲得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 ダイバーシティとは何か
- 第2週 男女雇用機会均等法以後の雇用
- 第3週 日本型雇用とダイバーシティ
- 第4週 統計的差別と性別職務分離
- 第5週 同一価値労働同一賃金原則の可能性
- 第6週 ポジティブ・アクション
- 第7週 長時間労働と生産性
- 第8週 中間のまとめ
- 第9週 社会的包摂と障害の社会モデル
- 第10週 障害者雇用と障害者差別解消法について
- 第11週 外部講師の講演「障害者就労の現状」
- 第12週 LGBTをとりまく社会的課題
- 第13週 LGBTの雇用と差別解消法
- 第14週 渋谷区のダイバーシティの取り組みについて
- 第15週 総括（グループでのプレゼンテーション）

**【事前・事後学修】**

事前学修：テーマに関する新聞記事や資料に目をおし、情報を得ておくこと。中間テストに向けて配布した資料や参考文献リストをもとに復習をしっかりとこなう（学修時間 週2時間）。

事後学修：不定期に課題（8回）を課すので、授業内容を踏まえ締め切りまでに提出すること。締め切り後の提出は減点とする（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

プリントを使用する

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

中間のまとめ（テスト）40%、期末レポート（プレゼンテーションも含む）40%、学期中の課題20%。

学期中の課題、中間テストについて、確認と復習のフィードバックを各回の授業でおこなう。

**【参考書】**

佐藤博樹・武石恵美子『ダイバーシティ経営と人材活用：多様な働き方を支援する企業の取り組み』（東京大学出版会、2017年）4752円

川崎聡・飯野由里子・西倉実季『合理的配慮 対話を拓く、対話が拓く』（有斐閣 2016年）2916円

**【注意事項】**

女性労働問題に関する理解を深めるため「女性と労働」の授業も受講することをすすめる。



## ダイバーシティ論

山根 純佳

2年 後期 2単位

◎：研鑽力

### 【授業のテーマ】

ダイバーシティ（多様性）とは、性別、年齢、人種、国籍の差異にかかわらず、労働者の能力を最大限発揮するためのマネジメントとして、企業経営の注目を集めています。授業の前半では、ダイバーシティが求められる背景として、今日の女性の雇用環境をめぐる課題についてとりあげ、後半では、障害者の就労、LGBTの社会的包摂をテーマに、多様な差異にかかわるダイバーシティの具体的な内容と課題について考えます。

### 【授業における到達目標】

- 1) 近年の雇用の状況や政策の動向と課題について、基礎的な知識を習得する。
- 2) マイノリティが抱える問題や政策的課題を理解し、課題解決に挑む実践的な能力を獲得する。
- 3) 広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる「研鑽力」を獲得する。

### 【授業の内容】

- 第1週 ダイバーシティとは何か
- 第2週 男女雇用機会均等法以後の雇用
- 第3週 日本型雇用とダイバーシティ
- 第4週 統計的差別と性別職務分離
- 第5週 同一価値労働同一賃金原則の可能性
- 第6週 ポジティブ・アクション
- 第7週 長時間労働と生産性
- 第8週 中間のまとめ
- 第9週 社会的包摂と障害の社会モデル
- 第10週 障害者雇用と障害者差別解消法について
- 第11週 外部講師の講演「障害者就労の現状」
- 第12週 LGBTをとりまく社会的課題
- 第13週 LGBTの雇用と差別解消法
- 第14週 渋谷区のダイバーシティの取り組みについて
- 第15週 総括（グループでのプレゼンテーション）

### 【事前・事後学修】

事前学修：テーマに関する新聞記事や資料に目をおし、情報を得ておくこと。中間テストに向けて配布した資料や参考文献リストをもとに復習をしっかりとこなう（学修時間 週2時間）。

事後学修：不定期に課題（8回）を課すので、授業内容を踏まえ締め切りまでに提出すること。締め切り後の提出は減点とする（学修時間 週2時間）。

### 【テキスト・教材】

プリントを使用する

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

中間のまとめ（テスト）40%、期末レポート（プレゼンテーションも含む）40%、学期中の課題20%。

学期中の課題、中間テストについて、確認と復習のフィードバックを各回の授業でおこなう。

### 【参考書】

佐藤博樹・武石恵美子『ダイバーシティ経営と人材活用：多様な働き方を支援する企業の取り組み』（東京大学出版会、2017年）4752円

川崎聡・飯野由里子・西倉実季『合理的配慮 対話を拓く、対話が拓く』（有斐閣 2016年）2916円

### 【注意事項】

女性労働問題に関する理解を深めるため「女性と労働」の授業も受講することをすすめる。

**ツアープランニング**

海外旅行実務の基礎知識

古谷 昌重

1年 後期 1単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

**【授業のテーマ】**

旅行業界への就職を目指し、添乗業務を希望する学生や、海外旅行に関心がある学生に対して、海外旅行での様々な場面における対応に必要な基礎知識の修得を目的とします。

世界の観光地を巡るツアーを、添乗員としての基本動作を学びながら辿り、海外旅行に必要な知識と心構えを学んでゆきます。

また、学んだ知識を活かし、自分で実際にツアーをプランニングしてみます。各回の授業で得た知識を基に、自分自身が旅したい、案内したいと思うツアープランを少しずつ組み立ててゆきましょう。

最終回の授業で完成させます。

**【授業における到達目標】**

- 1 海外旅行に必要な基礎知識を修得する。
- 2 添乗員としての基本動作とマナーを修得する。
- 3 旅行に関する情報収集方法と基礎知識を身に付け、実生活に役立てられるようにする。

ディプロマポリシーとの関連：旅行に関する学修を通じ、「国際的視野」と旅行業務遂行の上で大切となる「協働力」や添乗員に求められる「行動力」の重要性について学びます。そして、学ぶ楽しさを知り、学修を通して自己成長する「研鑽力」を身に着けます。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス（授業の進め方と観光について）
- 第2週 観光の仕組み（観光資源と観光産業）
- 第3週 旅行業と旅行商品
- 第4週 国内旅行と海外旅行の相違点（旅券、査証、C. I. Q）
- 第5週 国際運送約款と航空知識
- 第6週 ツアープラン作成（出発前の準備と観光情報の収集）
- 第7週 日本出発、海外への飛行、現地到着
- 第8週 海外での移動、ホテル滞在
- 第9週 海外での食事（レストラン、メニュー、マナー）
- 第10週 海外での観光、視察、自由行動、ショッピング
- 第11週 帰国（ホテル出発、空港、機内、日本到着）
- 第12週 トラブル対応と危機管理
- 第13週 観光マーケティングとツアープランニング
- 第14週 旅の歴史とこれからの旅行
- 第15週 ツアープラン作成の演習

**【事前・事後学修】**

事前学修：旅番組や雑誌、ガイドブックなどを見て、旅への興味と関心を深めてください。旅行パンフレットや新聞広告に掲載されている旅行商品を見て、どのようなツアープランニングがされているか調べてください。わからない業界用語や観光施設、宿泊先、食事場所などの情報について調べたり情報収集を行ってください。

事後学修：テキスト等で用語や意味を確実に理解してください。

事前・事後学修合わせて週2時間以上の学修を行なってください。

**【テキスト・教材】**

『旅行業務入門』（JTB総合研究所 2017年） 1,950円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

演習課題40%、小レポート30%、平常点（授業への積極参加）30%を基準に評価します。小レポートは次回授業で、演習課題は最終授業でフィードバックを行ないます。

**【参考書】**

原 好正『「日本一の添乗員」が大切に作る接客の作法』2015 朝日新聞出版

**【注意事項】**

第一回目の授業で、授業の進め方と成績評価に関する説明を行いますので必ず出席してください。また、9月22・23日に開催されるツーリズムEXPOは、旅行業界に直接触れることのできる良い機会ですので積極的に見学してください。

受講人数制限40名（制限を超えた場合は抽選）

## テーブルマネジメント演習

数野 千恵子

3年 後期 1単位 2時限連続 隔週

◎：美の探究 ○：研鑽力、行動力

### 【授業のテーマ】

食卓を構成する要素（テーブルウェア）についての知識を深め、実物の食器や食具に触れながら基本のテーブルセッティングの方法を習得する。また、食卓の色彩、照明、盛りつけ、マナーなど、食事を楽しむためのテーブル作りについて考える。

### 【授業における到達目標】

和洋中のテーブルセッティング方法やテーブルウェアの知識、および食事のマナーを修得する。学生が修得すべき「美の探究」のうち、よりおいしい食卓を構成することに価値を見出し、感受性を高めようとする態度を修得する。また、実際のテーブルウェアに触れることを通して「研鑽力」の学ぶ楽しみを知る。

### 【授業の内容】

- 第1回：『洋風のテーブルセッティングとマナー』  
テーブルセッティングに用いられるテーブルウェアの紹介および正餐のセッティングを行う。
- 第2回：『ティーテーブルのセッティングとお茶の知識』  
イギリス式のティーテーブルのセッティングを行い、紅茶について理解を深める。
- 第3回：『和風のテーブルセッティングとマナー』  
日本料理の料理様式による配膳方法とマナーを学ぶ。  
和食器の種類と特徴を実際の食器で確かめる。
- 第4回：『中国風のテーブルと香辛料の基礎知識』  
中国料理の配膳と食器の特徴を学ぶ。  
香辛料の知識については外部講師の講義と実習  
講師 エスピー食品（株）スパイス&ハーブマスター
- 第5回：『弁当を盛り付けてみよう』  
料理の盛り付け方の基本を学び、実際の弁当を使って、おいしく見える盛り付けを考える。
- 第6回：『立食のテーブルセッティングおよびマナー』  
サービス時の注意点および立食時のマナーを体験する。
- 第7回：ランチョンマットの作成：課題の食企画のコンセプトに沿った食事プランを作成しランチョンマットを作成する。
- 第8回：まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業に必要な専門用語や基礎的な知識等を、理解してきてください。（学修時間 週1時間）

【事後学修】 授業の内容をもとにした課題を出しますので 次回までにレポートを作成し提出してください。（学修時間 週1時間）

### 【テキスト・教材】

授業資料はプリントを使用します。

教材として、弁当1食分、色鉛筆などが必要となります。必要に応じて各自で用意して下さい。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポートおよび提出課題 70%、平常点（授業への積極参加・授業態度）30%により評価します。

レポートは返却時にフィードバックを行います。

### 【参考書】

テーブルコーディネート専門書の他に、食関係やインテリア関係などの各種雑誌が参考になります。

### 【注意事項】

- ・実習室の関係で各クラス30名（両クラスで約60名）までの人数制限を行います。希望者多数の場合は抽選となります。
- ・弁当1食分、色鉛筆などは各自で用意してください。  
持参する授業はそのつど指示します。
- ・授業は調理室で行いますので調理専用の白衣および上履きを着用してください。

## テキスタイル管理学

牛腸 ヒロミ

2年 前期 2単位

◎：研鑽力

### 【授業のテーマ】

衣・住生活の中の繊維製品の手入れや管理にあたる領域の理論と実際を扱います。特に衣服の機能を保持するために行われる洗濯は、衣服に付着した汚れを除去して衛生的で快適な衣服環境を得るためにも重要です。洗濯について、洗剤の働きや汚れの付着、脱落などを界面化学的側面からと、洗濯の方法や条件など実際の側面から講述します。建築材料、プロダクト材料としてのテキスタイルの手入れや管理についても取扱い、最近の洗剤、洗濯事情、洗濯と環境問題についても言及します。

### 【授業における到達目標】

アパレル、プロダクト、建築領域で用いられるテキスタイルに付着する汚れの種類と性質、付着、吸脱着機構を理解する。界面活性剤についての基礎知識を修得する。テキスタイル管理分野の研鑽力を磨くための基礎知識を修得する。

### 【授業の内容】

1. 繊維製品の汚れ
2. 汚れの付着機構
3. 水と洗剤
4. 洗濯条件
5. 商業洗濯
6. 洗濯による損傷・劣化とその予防法
7. 洗浄試験の評価
8. 洗浄メカニズム (1) 水系
9. 洗浄メカニズム (2) 非水系
10. しみ抜き
11. 漂白と増白
12. 仕上げと保管
13. 洗濯と環境問題
14. 最近の洗剤、洗濯事情
15. まとめ

### 【事前・事後学修】

毎回の授業の前にテキストの当該箇所を読んでおき、授業後に内容が理解できたことを確認をして下さい。事前、事後学修ともに2時間程度/週費やして下さい。

### 【テキスト・教材】

増子富美他共著『被服管理学』（朝倉書店 2012年）2,500円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験60%、レポート30%、受講態度10%

授業の中で解説します。

### 【参考書】

必要に応じて、紹介します。

### 【注意事項】

高校化学I 化学結合、溶液、コロイド、油脂などについて復習しておくとう理解しやすいと思います。

## テキスタイル管理実験

牛腸 ヒロミ

3年 前期・後期 2単位 2時限連続

◎：行動力 ○：協働力

### 【授業のテーマ】

テキスタイル管理学、染色加工学で学んだ知識を確実にするための実験です。前半は、界面活性剤の働きを実験により確認し、JISにのっとった洗浄力試験をして、その評価方法を理解します。後半は、染色加工実験で、染料の定量、染色方法と染色堅ろう度試験を理解し、評価できるようにします。最後に、染色実習で作品を制作します。

### 【授業における到達目標】

テキスタイル管理学、染色加工学の基礎知識を確かなものにします。

グループで1つの実験を取り扱うため、協働力が養え、一定時間内に実験結果を出さなければならないので行動力が養えます。さらに観察や結果の考察から研鑽力が鍛えられます。

### 【授業の内容】

前半

1. ガイダンス（全般の内容概説、諸注意など）
2. 界面活性剤、洗剤水溶液の表面張力の測定
3. 界面活性剤、洗剤水溶液の浸透力と可溶性測定
4. 洗浄力試験の実施と評価
5. 柔軟仕上げ加工、防縮・防しわ加工とその効果の評価
6. はっ水加工、増白とその効果の評価
7. 結果の整理とまとめ

後半

1. 染料水溶液の吸収スペクトルと比色定量
2. 直接染料による染色 (1)
3. 直接染料による染色 (2)
4. 酸性染料、分散染料、カチオン染料による染色
5. 反応染料による染色、染色堅牢度試験の説明と準備
6. 染色堅牢度試験とその評価
7. 建て染め染料を用いた工芸染色（作品製作）
8. 結果の整理とまとめ

### 【事前・事後学修】

テキスタイル管理学、染色加工学の復習をし、毎回の実験の前にテキストの当該箇所を読んでおいて下さい。

実験後には当該レポートを必ず提出して下さい。

事前、事後学修はともに最低でも2時間程度/週は費やして下さい。

### 【テキスト・教材】

プリント配布。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート50%、受講態度50%

レポートをチェックして返還し、合格レベルに達するまで書き直させます。

### 【参考書】

越川寿一著『染色加工学』（酒井書店・育英堂）2,415円

増子富美他共著『被服管理学』（朝倉書店 2012年）2,500円

中島利誠編著『新稿被服材料学』（光生館 2010年）2,400円

化学同人編集部編『実験データを正しく扱うために』（化学同人 2010年）1,500円など

### 【注意事項】

出席して実際に体験することが基本となります。従って、欠席、遅刻をしないように努めて下さい。

実験内容についての理解はレポートで評価しますので、出席とレポート提出はどちらも重要となります。

テキスタイル管理学と染色加工学を履修していることが望ましいと考えます。

## テキスタイル材料学

加藤木 秀章

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

### 【授業のテーマ】

「テキスタイル材料」とは、繊維、糸、布などの被服材料全般を意味する。この授業では糸と布に焦点をあて、それらの製造プロセスを理解した上で、糸と布の種類や構造、各種性質について学修する。これらをベースに、衣服やインテリア製品についての理解を一層深めることを目標とする。

### 【授業における到達目標】

- ・人間の営みに必要な衣環境分野の基礎知識である、被服材料（糸、織物、編物、不織布、レース、皮革）についての知識を修得する。
- ・快適で質の高い生活環境を作り出すために、被服材料にはどのような性能が求められるかについて理解する。
- ・学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を習得することを目標とする。

### 【授業の内容】

- 第1週 導入 原料から製品までの流れ、本講義を学ぶ意義など
- 第2週 糸の種類
- 第3週 各種の糸の製造プロセスの概要
- 第4週 糸の構造と性質、太さの表示法
- 第5週 テクスチャード加工糸の種類と特性
- 第6週 織物の種類と製造方法
- 第7週 織物の組織（基本組織、変化組織、特別組織など）と表示
- 第8週 添毛（パイル）組織（たてパイル・よこパイル組織）
- 第9週 編物の種類と製造方法
- 第10週 編物の組織（基本組織、変化組織）と表示
- 第11週 不織布の種類と製造方法・性質
- 第12週 レース、皮革、その他副資材について
- 第13週 被服材料である布に求められる性質①（力学的特性）
- 第14週 被服材料である布に求められる特性②（保健衛生的特性）
- 第15週 まとめ

授業においては、小テストを実施する。

### 【事前・事後学修】

事前・事後学修は講義における理解を確実なものにするために必要なものである。以下のように取り組むこと。

【事前学修】シラバスを参考に次回講義予定の学修項目を予め調べておくこと。（学修時間 週1時間）

【事後学修】受講済み講義内容の復習と理解度のチェックをする。理解できていない部分がある場合には、小テストの際に質問として提出すること。（学修時間 週3時間）

### 【テキスト・教材】

城島栄一郎他著『基礎からの被服材料学』（文教出版 1997年）2、700円

必要に応じてプリントを配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験 70%

授業において実施する小テスト 15%

平常点（授業への取り組み姿勢、質問など） 15%

小テスト、期末試験については返却時に解説を行う。

### 【参考書】

島崎恒蔵編著『衣服材料の科学』（建帛社）

## テキスタイル材料実験

加藤木 秀章

3年 前期・後期 2単位 2時限連続

◎：行動力 ○：協働力

### 【授業のテーマ】

テキスタイル材料（繊維・糸・布）の構造と性質について、実験方法の原理と評価方法を理解し、それらが繊維製品の性能にどのように寄与するのかを学修する。

### 【授業における到達目標】

- ・快適な衣環境を作り出すため、衣服材料にはさまざまな性能が求められるが、実験を通じてそれらをより専門的に学修する。
- ・学生が修得すべき「行動力」のうち目標に向かって計画を実行し、成果を正しく評価する能力を修得することを目標とする。

### 【授業の内容】

- 第1週 実験項目の概要説明、実験上の注意事項、レポートの書き方と心構え、試料作製準備
- 《繊維と糸に関する実験（第2～4週：ローテーション）》
- 第2週 繊維の太さと引張り特性
- 第3週 糸の構造と番手
- 第4週 糸の引張り特性
- 第5週 データ整理とまとめ
- 《布の構造と変形・強さ（第6～9週：ローテーション）》
- 第6週 布の構造  
厚さ、質量、糸密度（網目密度）、組織と表示
- 第7週 布の変形（1）  
破壊強さ：引張り強さ、引裂強さ
- 第8週 布の変形（2）  
小変形と回復性：引張り・せん断特性、圧縮回復特性
- 第9週 布の破裂強さ、摩擦強さ
- 第10週 データ整理とまとめ
- 《布の形態と外観、快適性（第11～14週：ローテーション）》
- 第11週 布の剛軟性、ドレープ性
- 第12週 布の防しわ性、ピリング性
- 第13週 布の接触温冷感、保温性
- 第14週 布の通気性、透湿性、吸水性など
- 第15週 全体のまとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】配布テキストを参考に、次回に実験予定の項目を予め調べておく。この実験は「テキスタイル材料学」がベースになっているので、関連部分の復習も必要である。（学修時間 週2時間）

【事後学修】実験結果をよく吟味し、考察して、レポートを作成する。参考書等も各自で調べる。（学修時間 週2時間以上）

### 【テキスト・教材】

実験で使用するテキストは、各自に配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート 70%（内容の正確さ・適切さ、考察を重視する）

平常点 30%（実験への取り組み姿勢）

実験項目ごとにレポートを課す。提出されたレポートは、次回授業時にフィードバックを行う。

### 【参考書】

城島栄一郎他著『基礎からの被服材料学』（文教出版）

島崎恒蔵編著『衣服材料の科学』（建帛社）

日本衣料管理協会編『繊維製品試験（第3版）』（日本衣料管理協会）

### 【注意事項】

実験においては、各自、白衣を用意して着用すること。

## データでみる社会

まだ見ぬ世界への旅

武内 一良

1・2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力、行動力

### 【授業のテーマ】

本講座は、21世紀の社会に生きる構成員として必要な一般教養を身につけてもらうことを目的とします。そのため、自然科学の最先端の知識から、社会科学における最新の理論や人文科学の知見に至るまでの幅広い分野のデータを通じて、世界の様々な概念や事象について理解を深めていきます。

### 【授業における到達目標】

本講座は以下の3点を中心に進めながら、人間社会に存在する構造美を感じてもらおうとともに、また知識の集積に裏付けられた研鑽力と行動力を養います。

- 1) 世界で起きている事象の認知
- 2) 事象発生のメカニズムの理解
- 3) 世論に流されない論理思考の醸成

### 【授業の内容】

順番は入れ替わる可能性があります、内容は以下の通りです。

- 第1週 授業の概要、評価方法、データのデジタル化の意味
- 第2週 環太平洋のモンゴロイド
- 第3週 ヨーロッパの植民地政策と奴隷制度
- 第4週 世界の宗教
- 第5週 外国人のための日本史講座
- 第6週 日本の政治と税制
- 第7週 物々交換から金融派生商品までの流れ
- 第8週 地球の資源とエネルギー
- 第9週 現代の養殖技術と遺伝子組み換え
- 第10週 自己犠牲で他人を助ける理由
- 第11週 分かりやすい算数の話
- 第12週 必要なくなる職業と新時代の組織形態
- 第13週 予想される近未来の世界
- 第14週 小論文による最終確認
- 第15週 小論文と授業のフィードバック

### 【事前・事後学修】

この講座では毎回新たな知識が紹介されていくので、授業の前後にそれぞれ2時間程度の予習・復習が必要となります。

### 【テキスト・教材】

インターネットから得る最新情報を教材とします。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回、授業で紹介するデータとその解説に関する意見（60点）と学期末に行う小論文（40点）によって評価を行います。その結果は授業内でフィードバックします。

### 【参考書】

必要に応じて授業で紹介します。

### 【注意事項】

第1週の授業で、授業スケジュールと成績評価に関する細則を発表しますので、必ず出席してください。

## データベース基礎

竹内 光悦

2年 前期 2単位

◎：行動力

## 【授業のテーマ】

コンビニレジのデータや twitter のデータ、スポーツデータや人の行動データなど、様々な分野でデータの規模や形式が変わってきている。このような高度情報化が進む情報化社会では、これらの大規模なデータを適切に処理するスキルが必要とされており、今後さらにこれらを扱える人材が期待されている。そこで本講義ではこれらのデータを扱える人材育成を視野に、はじめてデータベースを触る入門部分から基礎的なレベルまでを段階的に紹介し、基礎的なデータベースおよびプログラムスキルなどのビジネススキルの取得を目指す。また講義全体として Microsoft Access や Excel の VBA を用いて行うことで、MOS 等のこれらの情報系の資格取得支援も考慮した授業展開を行う。

## 【授業における到達目標】

ビジネスパーソンの素養とする基礎的なデータ処理ができるようになる。多様化する社会問題を客観的に把握する知識や技能を身につけることにより、課題解決のために主体的に行動する力【行動力】を修得する。

## 【授業の内容】

具体的には以下の内容を予定している

1. 高度情報社会に求められるデータサイエンススキル
2. Excel と Access でのデータベースやプログラム
3. データベースの作成と管理
4. データベースのテーブルの作成
5. データベースのフィールドとレコード
6. データのリレーションシップとキーの管理
7. クエリの用いたデータ処理
8. クエリの集計フィールドやグループ化の活用
9. フォームによるデータ処理
10. レポートを作成し結果の文書化
11. Excel VBA を用いたプログラム入門
12. Excel VBA を用いた基礎的なプログラム開発
13. Excel VBA を用いたプログラム開発演習
14. データベースとプログラムを用いた総合演習
15. データベースのまとめ

## 【事前・事後学修】

事前学修：授業前に manaba で公開される授業資料を入手し、内容の予習、受講の準備を行うこと。（学修時間 週2時間）／事後学修：授業終了時に manaba 公開される動画スライドを確認し、復習しておくこと。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

教科書は適宜授業内で紹介。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

講義内課題（演習・中間テスト・小レポートなど、50%）および学期末レポート試験（50%）で評価。また外部資格取得者に対しては、加点を考慮する。各授業の最初に前回の演習の結果、小レポートや中間テストにおいては manaba を通じて、レポート所見やテスト結果等をフィードバックする。

## 【参考書】

立山秀利『Access のデータベースのツボとコツがゼッタイにわかる本-最初からそう教えてくれればいいのに! Access 2007/2003 対応』（秀和システム、2008年）、FOM 出版『Microsoft Office Specialist Access 2013 対策テキスト&問題集 改訂版（よくわかるマスター）』（富士通エフ・オー・エム株式会社、2015）。

## 【注意事項】

本講義では実践的にデータベースの演習を行うため、PC 教室で行います。教室の都合のため、上限があります。上限を希望者が超した場合には掲示しますので注意して下さい。なお、基礎から応用へ段階的に紹介するため、遅刻、欠席は注意すること。

## デザインワークショップ

高田 典夫

3年 後期 2単位

◎：行動力 ○：美の探究、協働力

## 【授業のテーマ】

企画、構想、計画、設計、製作という「ものづくり」という行為を実践することにより、空間を構成している要素を理解し、構法を実践的に考えることをテーマとします。建築空間を実現する上での様々な構法について、代表的な構法である木構造、鉄骨構造、鉄筋コンクリート構造を取り上げ、それぞれの構造材料の特性と空間架構の可能性についても講述します。

## 【授業における到達目標】

空間を読み解く、その構成を理解することを通して、「美の探究」を修得する。  
デザインした空間を図面化することにより「行動力」を修得する。  
図面を読み解くことにより、「協働力」を修得する。  
力の伝わり方を可視化することにより「研鑽力」を修得する。  
木造の構造を可視化することによりその構成を理解することを通して「国際的視野」を修得する。

## 【授業の内容】

- 第1週 空間を構成する要素と構法
- 第2週 材料と構造方式
- 第3週 木構造の特徴
- 第4週 伝統的軸組構法
- 第5週 枠組壁構法
- 第6週 集成材による構法
- 第7週 鉄筋コンクリート構造の特徴
- 第8週 鉄筋コンクリート構造ラーメン構造
- 第9週 鉄筋コンクリート構造壁式構造
- 第10週 鉄骨構造の特徴
- 第11週 鋼材の種類と接合
- 第12週 鉄骨構造の軸組
- 第13週 その他の構法
- 第14週 軸組による空間表現
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

授業のテーマ・目標をよく読み、理解して授業に臨むこと。事前に「建築・インテリア構法」のテキストを読み返し、空間の成り立ちを理解しておくこと。（学修時間 2時間/週）  
授業で学修したことは、繰り返し行うことで理解を深めることができます。何度も手を動かすことで、表現のツールとして身につけましょう。（事後学修 2時間/週）

## 【テキスト・教材】

特定のテキストは使用しません。随時、資料を配付します。  
用具、材料については、授業時間内に適宜、指示します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度（20%）と演習課題の成績（80%）による。  
提出された演習課題にコメントをつけて返却することによりフィードバックする。

## 【参考書】

『構造用教材』日本建築学会編（日本建築学会）

## 【注意事項】

「建築・インテリア構法」を履修していること。  
「設計製図基礎」「生活空間設計製図1」を履修していること。

## デザイン基礎演習 a

スケッチによる表現法を学びます

塚原 肇

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

## 【授業のテーマ】

デザインは自分で考えた形やイメージを具体的に表現することから始まります。この授業では、デザインの基礎となるベーシックな表現技術と図法を修得することを目的としています。

## 【授業における到達目標】

・デザインにおけるスケッチは芸術家が描くデッサンや素描とは大きく違います。スケッチにはいくつかのルールがあり、それらを修得することにより誰でもある程度の表現ができるようになります。  
・ディプロマ・ポリシー（DP）においては、学生が修得すべき「能力」のうち、学習成果を実感して、自信を創出することができる【研鑽力】を修得します。

## 【授業の内容】

- 平面構成
  1. ガイダンス
  2. 線、四角形、円と楕円を描く
  3. 椅子を描く
- 立体構成
  4. 立方体、円柱を描く
  5. 陰影を描く
- 平面と立体
  6. 第三角法を理解する
  7. 図面から立体を描く
  8. 立体から図面を制作する
- 透視図（パースペクティブ）
  9. 一点透視図を描く
  10. 二点透視図を描く
  11. 三点透視図を描く
- テクスチャを表現する
  12. テキスタイル、木を描く
  13. 金属、プラスチック、ガラスを描く
- プレゼンテーション技法
  13. 椅子を描く（全体構成）
  14. 椅子を描く（グラデーション、テクスチャー）
  15. まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲を予習し、専門用語や技法を理解しておいてください。（学修時間 週最低2時間以上）  
【事後学修】 前週の宿題に対するコメントを理解し宿題の修正を行ってください。また、授業で学んだ技法を使った宿題を完成させましょう。（学修時間 週最低2時間以上）

## 【テキスト・教材】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料を配付します。  
演習の教材として鉛筆、カッターナイフ、消しゴム、定規、スケッチブックは各自用意してください。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎週提出する宿題（50%）、最初と最後に描いた椅子のスケッチの伸びしろ（20%）、授業態度（30%）  
課題に関しては、授業中にその都度評価を行い、良い点および改善点を伝える。伸びしろに関しては、最終日にスケッチブックを提出してもらい内容をチェックし、コメントを書いて返却する。

## 【注意事項】

デザインにおけるスケッチと図面はアイデアを視覚化する最も重要な技法です。これらの技法は頭で覚えるのではなく身体で覚えるものです。したがって事前・事後学修は欠かせません。限られた授業時間内では技法の原理しか学習できませんので、身体の訓練、特に鉛筆の使い方等は宿題を通して自分で訓練してください。



## デザイン基礎演習 b

高田 典夫

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

## 【授業のテーマ】

デザインに正解はありません。そのために、自分が考え、デザインしたものを何らかの方法で表現しなければ、自分自身で確認することも出来ませんし、まして他人に伝えることは出来ません。この授業では、自分自身のコミュニケーションツールを手に入れるための基礎として、自分の手を動かしてものを造り上げる楽しさ、喜びを体験します。

## 【授業における到達目標】

- ・課題の意図を理解し、美しく仕上げることを通して「美の探究」を修得する。
- ・時間内につくり上げるにより「行動力」を修得する。
- ・学んだ手法を応用することにより「研鑽力」を修得する。

## 【授業の内容】

「折り紙建築」を教材として、ハガキ大の紙から立体をつくり出す。

1. カッターナイフなどの用具の使い方を習得する
  - 1) 1枚の紙に切り込みをいれて立体をつくる
    2. 90度開きタイプ その1：喜顔・怒顔
    3. その2：白い舞台
    4. その3：ブロック
    5. その4：ウェディングパレス
  - 2) 平面を組み合わせて立体をつくる
    6. 180度開きタイプ その1：丸輪
    7. その2：六人掛け
    8. その3：ツリー
    9. その4：くちなし
    10. その5：つつじ
    11. その6：球
    12. 360度開きタイプ その1：正八面体
    13. その2：でんぐり
  - 3) 自分のオリジナルの「折り紙建築」をつくる
    14. 企画・構想・デザイン
- 授業で制作した「折り紙建築」のいくつかのパターンを基本として、その構成・形態を検討し、独自の作品を制作する。
15. まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】授業のテーマ・目標をよく読み、理解して授業に臨むこと。（学修時間 2時間/週）

【事後学修】提出した作品にコメントをつけて返却しますので、それをよく読み、理解して次の課題に取り組むことを勧めます。

自分が制作した作品をじっくりと見直して、平面から立体になる仕組みを理解しましょう。（学修時間 2時間/週）

## 【テキスト・教材】

特定のテキストは使用しません。随時、資料を配付します。

演習の教材として、鉛筆、定規、カッターナイフなど別途に提示する演習用具を各自必要とします。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度（20%）と、演習課題の成績（80%）による。

毎回提出された課題に対するコメントによりフィードバックを行う。

**デザイン史**

近代の工芸デザイン

森谷 美保

2年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

近代日本、西洋のデザイン史を、工芸デザインを中心に講義する。イギリスでのアーツ・アンド・クラフツ運動に端を発したヨーロッパの工芸デザインと、明治時代の幕開けとともに万国博覧会を契機に世界へと広がった日本の工芸、美術について解説。日本のデザイン史では、明治政府による殖産興業として発展した工芸の歴史、図案とデザインの関係、西洋に与えた影響などを検証する。また、ヨーロッパに広まったジャポニスム、その後のアール・ヌーヴォー、アール・デコなどの展開とともに、それらが日本に受容された状況を解説し、近代デザイン史を概観する。

近代日本と西洋のデザインの関係について理解し、把握することを目標とする。

**【授業における到達目標】**

日本美術と西洋美術が交錯した時代がテーマとなるため、相互間の影響と問題が修得できる。日本美術史、西洋美術史といった各分野での美術史の研究だけでなく、近代史という広い視野で美術を捉えて、学生が修得すべき「研鑽力」のうち、深い洞察力を身につけ、個人の研究や課題に活かすことができる。

**【授業の内容】**

- 第1週 授業の概要について
- 第2週 19世紀のデザイン①：  
ウィリアム・モリスとアーツ・アンド・クラフツ運動
- 第3週 19世紀のデザイン②：  
万国博覧会と日本の工芸
- 第4週 19世紀のデザイン③：ジャポニスムの誕生
- 第5週 日本のデザイン①：明治工芸とデザインの誕生
- 第6週 日本のデザイン②：デザインの展開①香蘭社
- 第7週 日本のデザイン③：デザインの展開②オールドノリタケ
- 第8週 19世紀のデザイン④：アール・ヌーヴォーの席卷
- 第9週 20世紀のデザイン①：  
日本でのアール・ヌーヴォーの受容
- 第10週 日本のデザイン④：個人作家のデザイン：板谷波山
- 第11週 日本のデザイン⑤：個人作家のデザイン：富本憲吉
  
- 第12週 20世紀のデザイン②：アールデコの展開
- 第13週 20世紀のデザイン③：バウハウスの影響
- 第14週 20世紀のデザイン③：戦後日本の工芸デザイン：柳宗理
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：次回の授業内容の参考文献、資料を提示するので、入手して事前学修すること（学修時間 週3時間程度）

事後学修：配布プリント内の専門用語を個別に調べ、理解する（学修時間：週2時間程度）

**【テキスト・教材】**

授業開始時にプリントを配布。授業最後に次回授業分を含め、参考文献、資料を提示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート2回（50%×2）。レポート提出後の授業でフィードバックを行う。

**【参考書】**

『世界デザイン史』美術出版社 2012年

『近代日本デザイン史』美学出版 2006年

**デザイン史**

デザイン史を学び、将来を予測する

塚原 肇

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

産業革命以後、ヨーロッパ各地で展開されたデザイン運動はそれぞれ独自の様式を作り上げました。その様式は製品のみならず建築、インテリアやファッションにまで影響を与えています。本授業では様式を中心にその時代背景と作品をビジュアルに紹介しながら解説をおこないます。

**【授業における到達目標】**

- ・この授業を通して、デザイン（様式）の発生から進化を修得することができます。そしてそれらを理解することにより、モノの本質や成り立ちを知ることができるようになります。
- ・ディプロマ・ポリシー（DP）においては、学生が修得すべき「能力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる力を修得します。

**【授業の内容】**

- 現代デザインの流れ
  1. デザイン史概要
- 19世紀末のデザイン
  2. アーツ・アンド・クラフツ運動
  3. アール・ヌーヴォー
  4. ドイツ工作連盟
- 20世紀前半のデザイン
  5. パウハウス
  6. アール・デコ
  7. 構成主義
  8. インターナショナルスタイル
- 近代デザインの巨匠達
  9. アンтониオ・ガウディとデザイン
  10. フランク・ロイド・ライトとデザイン
  11. ル・コルビュジエとデザイン
  12. ミース・ファン・デル・ローエとデザイン
  13. ワルター・グロピウスとデザイン
  15. まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】最初の授業でデザイン史年表を配布しますので、毎回の授業前に該当箇所を予習し専門用語等を調べておいてください。（学修時間 週最低2時間以上）

【事後学修】配布された年表に沿って授業の内容が理解できているか確認しましょう。（学修時間 週最低2時間以上）

**【テキスト・教材】**

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料を配付します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業中小テスト（70%）、授業態度（30%）

授業の中間と最終に小テストと授業に関する感想文を提出してもらおう。内容をチェックし、コメントを記して返却する。

**【注意事項】**

現代は第四時産業革命の時代と言われています。蒸気エネルギーの発明により始まった第一次産業革命、大量生産が可能になった第二次産業革命、IT化が進んだ第三次産業革命、そしてIoT（モノのインターネット）が進む現代の第四時産業革命、これらの時代を契機に世界の産業形態は大きく変化しました。新しい生活様式を次々と生み出していったのです。これからはもっとIoTが進み、我々の生活様式は大きく変化します。デザイン史を学んだ上で今後どのような世界になるかの想像を膨らませてデザインの一助にしてください。

**デザイン史**

近代の工芸デザイン

森谷 美保

2年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

近代日本、西洋のデザイン史を、工芸デザインを中心に講義する。イギリスでのアーツ・アンド・クラフツ運動に端を発したヨーロッパの工芸デザインと、明治時代の幕開けとともに万国博覧会を契機に世界へと広がった日本の工芸、美術について解説。日本のデザイン史では、明治政府による殖産興業として発展した工芸の歴史、図案とデザインの関係、西洋に与えた影響などを検証する。また、ヨーロッパに広まったジャポニスム、その後のアール・ヌーヴォー、アール・デコなどの展開とともに、それらが日本に受容された状況を解説し、近代デザイン史を概観する。

近代日本と西洋のデザインの関係について理解し、把握することを目標とする。

**【授業における到達目標】**

日本美術と西洋美術が交錯した時代がテーマとなるため、相互間の影響と問題が修得できる。日本美術史、西洋美術史といった各分野での美術史の研究だけでなく、近代史という広い視野で美術を捉えて、学生が修得すべき「研鑽力」のうち、深い洞察力を身につけ、個人の研究や課題に活かすことができる。

**【授業の内容】**

- 第1週 授業の概要について
- 第2週 19世紀のデザイン①：  
ウィリアム・モリスとアーツ・アンド・クラフツ運動
- 第3週 19世紀のデザイン②：  
万国博覧会と日本の工芸
- 第4週 19世紀のデザイン③：ジャポニスムの誕生
- 第5週 日本のデザイン①：明治工芸とデザインの誕生
- 第6週 日本のデザイン②：デザインの展開①香蘭社
- 第7週 日本のデザイン③：デザインの展開②オールドノリタケ
- 第8週 19世紀のデザイン④：アール・ヌーヴォーの席卷
- 第9週 20世紀のデザイン①：  
日本でのアール・ヌーヴォーの受容
- 第10週 日本のデザイン④：個人作家のデザイン：板谷波山
- 第11週 日本のデザイン⑤：個人作家のデザイン：富本憲吉
  
- 第12週 20世紀のデザイン②：アールデコの展開
- 第13週 20世紀のデザイン③：バウハウスの影響
- 第14週 20世紀のデザイン③：戦後日本の工芸デザイン：柳宗理
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：次回の授業内容の参考文献、資料を提示するので、入手して事前学修すること（学修時間 週3時間程度）

事後学修：配布プリント内の専門用語を個別に調べ、理解する（学修時間：週2時間程度）

**【テキスト・教材】**

授業開始時にプリントを配布。授業最後に次回授業分を含め、参考文献、資料を提示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート2回（50%×2）。レポート提出後の授業でフィードバックを行う。

**【参考書】**

『世界デザイン史』美術出版社 2012年

『近代日本デザイン史』美学出版 2006年

**デザイン実習 a**

総合デザイン

合原 勝之

2年～ 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

近年、「ブランディング」という言葉を耳にする機会が増えました。企業や商品、そして地域の物産でも「ブランディング」という言葉が使われます。これは、現代デザインが到達した一つの価値のカタチと考えることができます。その一方で、ブランディングという言葉の意味や現代的な価値が十分に理解されない現実があります。本授業では、現代デザインの理解に欠かせない「ブランディング」について、実習を通して経験的に学修します。

**【授業における到達目標】**

ブランディングの価値を理解することは、現代人としての基本的な素養と考えます。本授業では、社会の「グローバル化」に伴う共有価値としてブランディングの意義を理解することを目指します。

**【授業の内容】**

ライトプロダクト（雑貨）ブランドの企画・デザインを通して、ブランディングの手法と意義、そして現代デザインを総合的に学修します。

- 第1週 オリエンテーション：ブランドとは何か
- 第2週 ブランド企画その1：調査
- 第3週 ブランド企画その2：分析（ブランド・マッピング）
- 第4週 ブランド企画その3：コンセプト立案
- 第5週 ベーシックデザインその1：ネーミングとロゴ
- 第6週 ベーシックデザインその2：ブランドカラー
- 第7週 ベーシックデザインその3：展開システム
- 第8週 プロダクトデザインその1：オリジナルモチーフデザイン
- 第9週 プロダクトデザインその2：オリジナルモチーフ（仕上）
- 第10週 プロダクトデザインその3：ダミー制作
- 第11週 プロダクトデザインその4：ダミー制作（仕上）
- 第12週 コミュニケーションデザインその1：商品リーフレット企画
- 第13週 コミュニケーションデザインその2：撮影と画像処理
- 第14週 コミュニケーションデザインその3：商品リーフレットレイアウト
- 第15週 プレゼンテーションと講評：他者にブランドイメージは受容されたか

**【事前・事後学修】**

【事後学習】その日の授業の反省を踏まえて、修正を行う（学修時間2時間程度）

【事前学習】可能なものは、事前に調査する。またアイデアを用意する（学修時間2時間程度）

**【テキスト・教材】**

適宜配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

関心・意欲・態度15%、作品・発表85%として評価します。制作プロセス都度、講評を通してフィードバックを行います。

**【参考書】**

適宜紹介します。

**【注意事項】**

教職課程資格取得の授業でもあるため、遅刻・欠席は厳禁。材料費別途徴収（特別に必要な道具・材料類は各自用意）。美術館見学など校外実習を行う事もあります。

**デザイン実習 c**

平面デザイン

合原 勝之

2年～ 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

グラフィックデザインや視覚伝達デザインは、企業や行政などの宣伝・広告や広報活動、また出版物や屋内外のサインなどを対象とします。利用メディアは、印刷やWebサイト、看板などの平面メディアです。例えば商品の広告では、ポスターなどの印刷メディアを通して、商品の利点や特徴を上手に消費者に伝えることがデザインの目的になります。

伝統的な印刷は、タイポグラフィー（文字）と図版（写真やイラスト）で構成されます。Webサイトなど現代的なメディアでも、この基本は変わりません。本授業では、宣伝・広告用のポスターの課題制作を通して、平面デザインの基本を学修します。

**【授業における到達目標】**

グラフィックデザインの基礎技能の習得と、デザインの社会的な役割を理解することを到達目標とし、「美の探究」と「研鑽力」の向上を図ります。

**【授業の内容】**

伝統的な平面デザインでは、絵の具（ポスターカラー）が用いられていました。この手法では、モチーフのスケッチを元に、大まかな色面に分割して、図案化（デザイン）を行います。本授業では、この過程にパソコンによる画像処理を併用します。

ポスター課題では、ある商品を想定してデザインを行います。まず商品をよく調査・分析して、デザインの狙い（コンセプト）を立案します。次に立案したコンセプトに基づいて、視覚化のためのアイデアを検討します。最終的なアイデア決定したら、実際のポスターを制作します。

- 第1週 画材の紹介と使用方法（彩色練習）
- 第2週 絵の具による平面構成その1：画面分割と色彩のプロポーシオン
- 第3週 絵の具による平面構成その2：面の理解
- 第4週 絵の具による平面構成その3：基本図形による構成
- 第5週 パソコンによる画像処理その1：撮影と減色の手法
- 第6週 パソコンによる画像処理その2：減色（図案化）
- 第7週 絵の具によるデザインその1：紙への転写と彩色
- 第8週 絵の具によるデザインその2：彩色（仕上げ）
- 第9週 タイポグラフィー：文字表現と誌面構成
- 第10週 ポスター課題その1：調査・分析
- 第11週 ポスター課題その2：コンセプト立案と視覚化アイデア
- 第12週 ポスター課題その3：撮影と図案化
- 第13週 ポスター課題その4：紙への転写と彩色
- 第14週 ポスター課題その5：彩色（仕上げ）
- 第15週 ポスター課題その6：プレゼンテーションと講評

**【事前・事後学修】**

【事後学習】授業終了時にその日の問題点と次回のポイントを提示するので、考察・研究する（学修時間2時間程度）

【事前学習】次回までに必要な取材・スケッチなどをしておく（学修時間2時間程度）

**【テキスト・教材】**

適宜配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

関心・意欲・態度15%、作品・発表85%として評価します。成果発表時または提出時に各課題についてのフィードバックを行います。

**【参考書】**

適宜紹介します。

**【注意事項】**

教職課程資格取得の授業でもあるため、遅刻・欠席は厳禁とします。材料費別途徴収（特別に必要な道具・材料類は各自用意すること）。美術館見学など校外実習を行う事もあります。

**デザイン実習 d**

企画デザイン

合原 勝之

2年～ 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

現代社会の多様化を背景に、デザインの対象も多様化しています。機能的で美しい「モノ」、経験・感動できる「コト」、そしてコトやモノを生み出す「バ（場）」や、これらを継続させるための「仕組み」まで、デザインの課題は広がっています。

本実習では、このようなデザイン課題の一例として、「創造力開発系アートワークショップ」の研究を通して、オリジナルなワークショップ・プログラムの開発と実践を行います。このワークショップは、地域コミュニティや高齢化社会、また幼児教育の抱える課題に有効な手法と考えられています。

**【授業における到達目標】**

本授業は、ワークショップを通じた「協働力」の習得を到達目標とします。ワークショップの「開発・実践・検証」を繰り返すことで、参加者の相互理解・協働への理解を深めます。

**【授業の内容】**

プログラム開発は、「素材・行為・道具・環境」の4つのキーワードから、アプローチします。

第1週 創造力開発系アートワークショップについて

第2週 「素材」についての研究・取材

第3週 「行為」についての研究・取材

第4週 「道具」についての研究・取材

第5週 「環境」についての研究・取材

第6週 プログラムの開発1：制作手順の検討

第7週 プログラムの開発2：進行手順の検討

第8週 プログラムの開発3：成果物の検討

第9週 プログラムの開発4：成果物設置の検討

第10週 プログラムの開発5：タイムスケジュールの製作

第11週 中間実践・検証

第12週 プログラムの改良1：手順の再検討

第13週 プログラムの改良2：成果物の再検討

第14週 プログラムの実践・質疑応答

第15週 総評・提出

**【事前・事後学修】**

【事後学修】授業終了時にその日の問題点と次回のポイントを提示するので、考察、研究する（学修時間2時間程度）。

【事前学修】考察・研究した結果をふまえ、次回までに必要な取材、スケッチなどしておく（学修時間2時間程度）。

**【テキスト・教材】**

適宜配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

関心・意欲・態度15%、作品（創造的な感受と表現の工夫）・発表（発表・鑑賞の能力）85%として評価します。

成果発表時または提出時に各課題についてのフィードバックを行います。

**【参考書】**

ブルーノ・ムナリー著『ファンタジア』みすず書房

松田行正著『眼の冒険 デザインの道具箱』紀伊國屋書店

中西紹一編『ワークショップ 偶然をデザインする技術』宣伝会議

林容子・湖山泰成共著『進化するアートコミュニケーション』レイ

ライン など

**【注意事項】**

教職課程資格取得の授業でもあるため、遅刻・欠席は厳禁。

材料費別途徴収（特別に必要な道具・材料類は各自用意すること）。

美術館見学など校外実習を行う事もあります。

**デザイン入門 a**

色・形・構成

高橋 綾

1年～ 前期 1単位

◎：行動力 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

デザイン概論としてデザインの魅力と役割、現代社会との関わりや歴史について理解する。また色と形、それらの構成についていくつかの簡単な練習課題を制作し、さらに初歩的なデザイン行為として、テーマに基づいた平面構成及びイラストレーションの制作を行う。

**【授業における到達目標】**

一般的なデザインの概念について理解するとともに、現代社会におけるデザインの役割について理解し、その実践のために必要な基礎的な表現手段を身につけることを目標とする。

**【授業の内容】**

第1週 デザインの魅力と役割

第2週 現代社会とデザインの歴史

第3週 色について1ーハーモニックカラー解説

第4週 色について2ーハーモニックカラー演習

第5週 パソコンによる平面構成1ーパソコンの使い方の解説

第6週 パソコンによる平面構成2ーエスキース

第7週 パソコンによる平面構成3ー線描き

第8週 パソコンによる平面構成4ー着色、出力

第9週 手書きによるイラストレーション1ー原画の分析、構成美の要素について

第10週 手書きによるイラストレーション2ー下描き

第11週 手書きによるイラストレーション3ー着彩（大きな部分）

第12週 手書きによるイラストレーション4ー着彩（細かな部分）

第13週 手書きによるイラストレーション5ー着彩及び作家分析

第14週 手書きによるイラストレーション6ー仕上・提出

第15週 手書きによるイラストレーション7ー発表・鑑賞

**【事前・事後学修】**

【事後学修】授業終了時にその日の問題点と次回ポイントを提示するので、考察、研究すること（学修時間 週2時間程度）

【事前学修】考察、研究した結果をふまえ、次回までに必要な取材スケッチなどしておくこと（学修時間 週2時間程度）

**【テキスト・教材】**

日本色研 PCCS ハーモニックカラー 201-L（価格 3,132円）

適宜配布

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

関心・意欲・態度15%

作品（創造的な感受と表現の工夫）・発表（発表・鑑賞の能力）85%

成果発表時または提出時に各課題についてのフィードバックを行う

**【参考書】**

原研哉著『デザインのデザイン』岩波書店

**【注意事項】**

教職課程資格取得の授業でもあるため、遅刻・欠席は厳禁。

材料費別途徴収（特別に必要な道具・材料類は各自用意すること）

美術館見学など校外実習を行う事もある。

**デザイン入門 b**

素材・立体

高橋 綾

1年～ 後期 1単位

◎：行動力 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

一般家庭用品から工業製品まで多種多様の製品（モノ）が立体デザインに関係している。

この授業では、多種多様な「モノ」の中から本来あるべき姿を模索し、立体の基礎から学び、構想・創造しながら、実生活に必要なデザインスキルの形成を主眼としている。

**【授業における到達目標】**

デザイン入門 a で習得したことをふまえ、具体的な立体デザインを展開する際に必要な「素材」「方法」「目的」の関係性について理解する。具体的には以下の3つの習得を目指す。

- ・デザインの通訳的な役割を持つ図面を理解する。
- ・デザインにおける造形と素材の関わりについて学び、自然界の美しいカタチを探り発見する。
- ・構想から制作までのプロセスを追って考え、造形制作を進めながら表現方法を学ぶ。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション、立体デザインについて
- 第2週 立体の平面表現/JIS製図原則/立体構成（キューブ）  
1－課題説明
- 第3週 立体構成（キューブ）2－立体制作
- 第4週 立体構成（キューブ）3－図面制作
- 第5週 立体構成（紙）1－エスキース
- 第6週 立体構成（紙）2－展開図・切り離し
- 第7週 立体構成（紙）3－構成・組み立て・接着
- 第8週 立体構成（紙）4－台座の制作
- 第9週 立体構成（紙）5－まとめ
- 第10週 モダンテクニック目的と環境の関わり/演習（フロッター  
ジュ、ドリッピング、吹き流し）
- 第11週 モダンテクニック演習（デカルコマニー、スクラッチ、ス  
パッタリング）
- 第12週 モダンテクニックによるあかり 1－形体化1（照明部分）
- 第13週 モダンテクニックによるあかり 2－形体化2（シェード部  
分）
- 第14週 モダンテクニックによるあかり 3－まとめ制作・提出
- 第15週 モダンテクニックによるあかり 4－発表・質疑応答

**【事前・事後学修】**

【事後学修】授業終了時にその日の問題点と次回のポイントを提示するので、考察、研究すること（学修時間 週2時間程度）

【事前学修】考察、研究した結果をふまえ、次回までに必要な取材、スケッチなどしておくこと（学修時間 週2時間程度）

**【テキスト・教材】**

適宜配布

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

関心・意欲・態度15％  
作品（創造的な感受と表現の工夫）・発表（発表・鑑賞の能力）85％  
成果発表時または提出時に各課題についてのフィードバックを行う

**【参考書】**

堤 浪夫著『美術系 図学・製図』 鳳山社  
朝倉 直巳著『紙—基礎造形・芸術・デザイン』美術出版社

**【注意事項】**

教職課程資格取得の授業でもあるため、遅刻・欠席は厳禁。  
材料費別途徴収（特別に必要な道具・材料類は各自用意すること）  
美術館見学など校外実習を行う事もある。

**デザイン論**

デザインとアートの連関

淡野 哲

2年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

デザインの語源はものを描く意味としてのデッサン（dessin）と同様に計画を記号に置き換え伝える意味であるラテン語のデジナレ（designare）に由来する。つまり、伝えるべきものをわかりやすく具現化する想像力と技術と考えられる。

こうしたデザインも現代においては多岐にわたるが、本講義授業においては産業革命時に端を発した現代デザインの歴史を踏まえ、これまでにデザインを通して功績を残してきたデザイナー、建築家、表現者を紹介、解説していく。

**【授業における到達目標】**

デザインとは何か、また社会とデザインとの関わりを考察する。そこには想像力の源泉として、デザインとアートの連関が見出せることを理解する。

こうした授業内容から、デザインの役割、社会的意義を考察、理解することで、実社会において応用、実践できる力を習得する。

**【授業の内容】**

- 第01回：デザインとアートの連関：「デザインの歴史」
- 第02回：デザインとアートの連関：エトレ・ソットサス
- 第03回：デザインとアートの連関：ダミアン・ハースト
- 第04回：デザインの変遷：「パウハウス」－デザインの統合
- 第05回：デザインの変遷：イタリアンデザイン  
－アートとデザイン「ジョエ・コロombo」
- 第06回：デザインの変遷：アメリカンデザイン  
－「チャールズ&レイ・イームズ」※ビデオ視聴
- 第07回：デザインの変遷：アメリカンデザイン  
－「チャールズ&レイ・イームズ」
- 第08回：デザインの変遷：日本のデザイン  
－「柳宗理」
- 第09回：デザインの変遷：フランスのデザイン  
－「ジャン・ブルーヴェ」
- 第10回：デザインの変遷：フランスのデザイン  
－「ル・コルビジエ」
- 第11回：デザインの変遷：スカンジナビア・デザイン その実相
- 第12回：デザインの変遷：スカンジナビア・デザイン  
－「アルネ・ヤコブセン」
- 第13回：デザインとアートの考察：ファッションとアート  
－「三宅一生」
- 第14回：デザインとアートの考察：アートの役割  
－「ジャン・ティンゲリー」
- 第15回：まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：シラバスを参照し、取り上げる人物や出来事に関して事前に調査、理解を深めておくこと（学修時間 週2時間）。

事後学修：授業で学修した内容を各自で更に調査し、理解を深めること。また、次回の授業内容を予習し、事前に概要を理解しておくこと（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

■特になし

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験50% 平常点（授業への積極的姿勢・提出課題等）50%

**デザイン論**

デザインとアートの連関

淡野 哲

2年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

デザインの語源はものを描く意味としてのデッサン (dessin) と同様に計画を記号に置き換え伝える意味であるラテン語のデジナーレ (designare) に由来する。つまり、伝えるべきものをわかりやすく具現化する想像力と技術と考えられる。

こうしたデザインも現代においては多岐にわたるが、本講義授業においては産業革命時に端を発した現代デザインの歴史を踏まえ、これまでにデザインを通して功績を残してきたデザイナー、建築家、表現者を紹介、解説していく。

**【授業における到達目標】**

デザインとは何か、また社会とデザインとの関わりを考察する。そこには想像力の源泉として、デザインとアートの連関が見出せることを理解する。

こうした授業内容から、デザインの役割、社会的意義を考察、理解することで、実社会において応用、実践できる力を習得する。

**【授業の内容】**

- 第01回：デザインとアートの連関：「デザインの歴史」
- 第02回：デザインとアートの連関：エトトレ・ソットサス
- 第03回：デザインとアートの連関：ダミアン・ハースト
- 第04回：デザインの変遷：「パウハウス」- デザインの統合
- 第05回：デザインの変遷：イタリアンデザイン
  - アートとデザイン「ジョエ・コロombo」
- 第06回：デザインの変遷：アメリカンデザイン
  - 「チャールズ&レイ・イームズ」※ビデオ視聴
- 第07回：デザインの変遷：アメリカンデザイン
  - 「チャールズ&レイ・イームズ」
- 第08回：デザインの変遷：日本のデザイン
  - 「柳宗理」
- 第09回：デザインの変遷：フランスのデザイン
  - 「ジャン・ブルーヴェ」
- 第10回：デザインの変遷：フランスのデザイン
  - 「ル・コルビジエ」
- 第11回：デザインの変遷：スカンジナビア・デザイン その実相
- 第12回：デザインの変遷：スカンジナビア・デザイン
  - 「アルネ・ヤコブセン」
- 第13回：デザインとアートの考察：ファッションとアート
  - 「三宅一生」
- 第14回：デザインとアートの考察：アートの役割
  - 「ジャン・ティンゲリー」
- 第15回：まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：シラバスを参照し、取り上げる人物や出来事に関して事前に調査、理解を深めておくこと（学修時間 週2時間）。

事後学修：授業で学修した内容を各自で更に調査し、理解を深めること。また、次回の授業内容を予習し、事前に概要を理解しておくこと（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

■特になし

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験50% 平常点（授業への積極的姿勢・提出課題等）50%



**デジタルデザイン**

CADを体験しよう

**金井 宏水**

1・2年 後期 2単位

○：美の探究、研鑽力

**【授業のテーマ】**

モノづくり系や建築系、店舗関係でも図面を見る機会が多い。この授業では「CAD利用技術者基礎試験」に一部対応し、製図に関する基礎知識の習得から、CADを利用した製図の実習（2次元&3次元）までを経験する。非常に簡単な操作で三次元CADが体験できるソフト「sketch-up」を楽しく学ぶことができる。sketch-upの創作課題では空間創造を体験し、右脳を活性化することにもつながる。

このスキルを得ることで、製造業で事務の仕事に就くうえで役立つだけでなく、将来CAD関連の職種（CADオペレーター等）を目指すことも可能となる。

**【授業における到達目標】**

この授業は、図面に慣れ親しみ、図面を見れば内容をある程度理解できるようになることを目標とする。また、大きさを数値化する「寸法単位」を理解し、寸法による美的バランス、空間認識力を高める。

ディプロマ・ポリシー（DP）においては、「美の探究」の中の「新たな知を創造しようとする態度」、「研鑽力」の中の「学修成果を実感して、自信を創出することができる」能力を養成することを目指す。

**【授業の内容】**

- 第1週：授業概要・検定の説明  
CADシステムとソフトウェアの基礎知識
- 第2週：様々な作図法・形をつかもう
  - (1) 平行投影図法
  - (2) 透視投影図法
  - (3) 三角法で形をつかむ練習
- 第3週：教科書で学ぶCAD
  - 第2章 CADを動作させるコンピュータシステム
  - 第4章 情報セキュリティーと知的財産
  - 第6章 図形の基礎
- 第4週：小テスト・製図の原理
- 第5週：三角法で簡単な作図をしてみる
- 第6週：2次元CADの体験（JW-CADの基本操作）
  - (1) 線分・線の種類・描画方法を覚える
- 第7週：(2) 簡単な図面<1>を描いてみる
- 第8週：(3) 寸法の入力方、図面<1>に寸法を入れて完成
- 第9週：自分で図面を描く・図面<2>
  - (図面を見ながら自分で同じ図面を起こす)
- 第10週：図面<2>の完成・教科書で復習
  - 第1章 CADシステムの基礎と応用
  - 第5章 製図の基礎
- 第11週：3次元CADの体験 SketchUpの基本操作・家を描く
- 第12週：SketchUpでインテリアを描く
- 第13週：自由課題：SketchUpで住まいを創作する
- 第14週：課題発表と評価・今までの復習・検定に向けて補習
- 第15週：検定のための模擬試験

**【事前・事後学修】**

事前学修：前の授業で説明したテーマにつき、次の時間までにテーマ内容を考え、構想を練っておくこと。（学修時間 週2時間）

事後学修：教科書を時間外に復習し検定や小テストに備えておく。（学修時間 週2時間）

課題制作が提出期限に間に合わない時は時間外でも進めておくこと。

新しいソフトウェアを体験するので、学内や自宅のPCを活用して操作の練習をしておくこと。

**【テキスト・教材】**

『CAD利用技術者試験「基礎試験」』 日刊工業新聞社 2011年1800円

必要に応じてコピーを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業の中での提出物と平常点、模擬試験成績などで評価する。

提出作品の評価・・・・・・・・・・・・・・40点

小テスト・模擬試験成績・・・・・・・・・・・・30点

平常点（授業態度・取組み姿勢）・・・・・・・・30点

フィードバックは講評時の口頭評価と作品評価点（提出後1週間以内）

**【参考書】**

やさしく学ぶGoogle Sketch Up

**【注意事項】**

受講人数制限30名（制限人数を超えた場合、抽選）

## デジタルメディア

—デジタル化でできることとできないこと—

大倉 恭輔

1・2年 後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野

### 【授業のテーマ】

「デジタル」ということは「日本語化」していますが、「デジタル」を正確にわかりやすく説明できる人はほとんどいません。そこで、まずは「デジタル」について理解するとともに、それがメディアと結びついたときに、どのようなことが生じるのかについて学びます。

### 【授業における到達目標】

「デジタル」「デジタル・メディア」について、ことに音楽と映像/映画制作を例にとりながら学んでいきます。その上で、グループワークなどをしながら、デジタル化やデジタル機器がわたしたちの生活にもたらす影響について理解し、さらに、情報のあり方や表現の変化について深く正確な理解を身につけることをめざします。

そして、そうした学びをとおして、広い視野と深い洞察力を身につけてもらいたいと思います。

### 【授業の内容】

- 01 はじめに：デジタルであるということ
- 02 メディアの歩み
- 03 耳の驚き a 音楽とデジタルオーディオ
- 04 耳の驚き b 音と音楽
- 05 耳の驚き c 音作りに携わる人々
- 06 目の驚き a 映像と映画
- 07 目の驚き b 映像とカメラ
- 08 目の驚き c 映像作りに携わる人々
- 09 こんなところにもデジタルが a デジタルアート
- 10 こんなところにもデジタルが b ゲームとメディア
- 11 調べてみよう a 何がデジタル化されているのか
- 12 調べてみよう b 誰がデジタル化しているのか
- 13 調べてみよう c どのようにデジタル化されているのか
- 14 調べてみよう d アナログでは悪いのか
- 15 まとめ

注1 上記は授業内容のリストです。

注2 基本的に番号順に講義をしていますが、学生の理解度や授業の進行状況にあわせて、順番の入れ替えなどの変更が行われる場合があります。

### 【事前・事後学修】

- ・事前学修  
事前配布の資料に目とおし、設問がある場合、それについて回答を準備しておくこと。
- ・事後学修  
授業内容を自分で補足し、きちんとしたノート作成をおこなうこと。
- ・事前・事後学修には、それぞれ週に2時間をあてること。

### 【テキスト・教材】

- ・教科書は使用しません。
- ・基本的に、manaba 上から資料を事前配付します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・総合評価：レポート80%・平常点/受講態度・ノート作成など 20% manaba の設定や利用の状況も平常点の参考とします。
- ・試験結果については manaba 上でフィードバックする予定です。

### 【参考書】

適宜、授業の中で紹介します。

### 【注意事項】

- ・視聴覚教材を利用する際も、必ずノートテイクをおこなうこと。
- ・短期大学部標準受講マナーを守ること。  
(manaba上に掲示してあります)

## デジタル出版演習

情報化社会における表現手法と伝達手段について学ぶ

鷹野 凌

1・2年 後期 1単位

○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

年間8万点以上の書籍が出版されていてもなお、自分の書いた本が出版社から発行され書店で販売されるような著者になるのは困難です。

ところがインターネットの普及によって、誰でも自分の作品を発信できる時代になりました。まさに「一億総クリエイター時代」です。

デジタル出版なら、「表現したい」という意欲と、表現するノウハウさえあれば、日本国内はもちろん、世界の反対側にいる人に自分の作品を読んでもらうことも可能です。

ただし、作品を読んでもらうためには、作品の存在について認知してもらい必要があります。誰でも発信できるということは、玉石混交の作品の中に埋もれてしまうことでもあるからです。

本演習では、まずデジタル出版の定義や実例、著作権などについて理解した上で、実際に自分の手で「本（電子書籍）」を制作し、発信、宣伝といったデジタル出版のプロセスを学習します。

### 【授業における到達目標】

自分一人で本（電子書籍）の制作・販売ができるようになること。学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を発見できるようになります。

### 【授業の内容】

- 第1週 デジタル出版の定義
- 第2週 デジタル出版の実例
- 第3週 ファイルの基礎知識
- 第4週 実習：課題テーマ作品の構成を考える
- 第5週 実習：課題テーマ作品の文章や画像の準備
- 第6週 実習：課題テーマ作品の作成1（原稿と校正）
- 第7週 実習：課題テーマ作品の作成2（体裁と表紙）
- 第8週 実習：課題テーマ作品の作成3（変換と確認）
- 第9週 実習：自由テーマ作品の構成を考える
- 第10週 実習：自由テーマ作品の文章や画像の準備
- 第11週 実習：自由テーマ作品の作成1（原稿と校正）
- 第12週 実習：自由テーマ作品の作成2（体裁と表紙）
- 第13週 実習：自由テーマ作品の作成3（変換と確認）
- 第14週 作品のプロモーション
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

- 事前：実習内容について予習しておく（週30分）
- 事後：配付資料による復習（週30分）

### 【テキスト・教材】

授業時にスライド資料のデータを配付します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度（30%）、提出課題（70%）  
課題提出とフィードバックには「manaba」を使用します。

### 【参考書】

鷹野凌『クリエイターが知っておくべき権利や法律を教わってきました。著作権のことをきちんと知りたい人のための本』インプレス 福井健策『18歳の著作権入門』（筑摩書房）

### 【注意事項】

コンピュータ演習室の席数により、受講人数は40名を上限とします（超えたら抽選）。

**デジタル出版論**

デジタル（電子）出版の現状と今後の「本」について学ぶ

鷹野 凌

1・2年 前期 2単位

○：国際的視野、美の探求、研鑽力

**【授業のテーマ】**

グーテンベルクの活版印刷術発明から5世紀以上経過し、いままさにデジタル化とネットワーク化による「情報革命」が進行中です。活版印刷以前からの長い伝統をもつ紙の本と、デジタルの本はどう違うのでしょうか？ パーソナルコンピュータやインターネットの歴史を学びつつ、その延長上にあるデジタルの本を長い書物の歴史の中に位置づけることによって、本とはいかなるメディアであるかを理解しましょう。

**【授業における到達目標】**

デジタル出版の歴史と現状を知り、本の未来について自分なりの考えを持てるようになります。学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができるようになります。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 本とコンピュータの出会い
- 第3週 デジタル出版の草創期
- 第4週 メディアの歴史とインターネット
- 第5週 マイクロソフトとアップル
- 第6週 グーグルと検索技術
- 第7週 アマゾンとネット書店
- 第8週 フェイスブックとソーシャルメディア
- 第9週 アーカイブ（重要記録の保存・活用）
- 第10週 電子百科とウィキペディア
- 第11週 電子図書館と青空文庫
- 第12週 デジタル出版と著作権
- 第13週 デジタル出版ビジネスの現在と課題
- 第14週 デジタル出版による読者と著者の関係
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前：参考書の講読（週2時間）

事後：レポート課題（週2時間）※毎授業出します

**【テキスト・教材】**

スライド資料のデータを配布するほか、適宜、教材を指定します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート（100%）

提出とフィードバックには「manaba」を使用します。

**【参考書】**

- Paul Allen 『ぼくとビル・ゲイツとマイクロソフト』講談社
- Walter Isaacson 『スティーブ・ジョブズ』講談社
- Steven Levy 『グーグル ネット覇者の真実』CCCメディアハウス
- Brad Stone 『ジェフ・ベゾス 果てなき野望』日経BP社
- David Kirkpatrick 『フェイスブック 若き天才の野望』日経BP社
- Chris Anderson 『フリー〈無料〉からお金を生みだす新戦略』NHK出版
- 小林啓倫 『今こそ読みたいマクルーハン』マイナビ新書
- 内沼晋太郎 『本の逆襲』朝日出版社
- 猪谷千香 『つながる図書館』ちくま新書

**【注意事項】**

欠席時の講義で出されたレポートは、遅れても自主学習の上必ず提出してください。

参考書(2)：

福井健策 『18歳の著作権入門』筑摩書房

鷹野凌 『クリエイターが知っておくべき権利や法律を教わってきました。著作権のことをきちんと知りたい人のための本』インプレス

## ドイツ語 1 a

ドイツを旅行してみよう

田中 亜美

1年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

たドイツ語（英語）の日本語訳は、プリントなどに可能な限り、記すようにします。受講生の皆さんは、ドイツ語の会話練習などを除き、授業では日本語を使い、教師への質問も日本語で行ってかまいません。テストも日本語による説明が中心です。募集人数は40名です。

### 【授業のテーマ】

皆さんが将来、ドイツ語圏の国を訪れたり、ドイツ語圏出身の人々と意思疎通を図るときに必要な基本的な表現を、ドイツ語で学ぶ授業です。実際にコミュニケーションの現場で使える、CEFR “A1” レベルのドイツ語を学ぶことを目標とします。

授業でははじめに、基本的なあいさつを学んだあと、ドイツ語特有の発音と響きに、実際に声を出しながら、親しんでもらいます。簡単な自己紹介の方法を学んだあとは、観光案内所やショッピング、レストランでの会話、道を尋ねる表現など、実際に旅行の現場で必要となるシーン別に、よく使われる表現を順を追って、繰り返し学んでいきます。多くのドイツ語を聞き、実際に声に出して発音して、楽しく有意義にCEFR “A1” レベルのドイツ語を学んでいきましょう。

### 【授業における到達目標】

- (1) CEFR “A1”（ごく簡単な短文レベル程度の文章理解力があり、簡単な内容であれば、自分の意思を単語あるいはフレーズで伝えられる）レベルのドイツ語力を身につける。
- (2) 多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度を養う。
- (3) 国際感覚を身につけて、世界に踏み出し社会を動かそうとする態度を養う。

### 【授業の内容】

- |      |                          |
|------|--------------------------|
| 第1週  | 授業の説明・簡単な挨拶①             |
| 第2週  | 簡単な挨拶②                   |
| 第3週  | ドイツ語の発音① アルファベット／母音／子音   |
| 第4週  | ドイツ語の発音② 1～12までの数字       |
| 第5週  | 簡単な自己紹介                  |
| 第6週  | 観光案内所で使う表現①（「すみませんが」）    |
| 第7週  | 観光案内所で使う表現②（「〇〇はどこですか」）  |
| 第8週  | ショッピングで使う表現（「〇〇を買います」）   |
| 第9週  | ホテルで使う表現（「〇〇に泊まりたいのですが」） |
| 第10週 | レストランで使う表現①（「〇〇を注文します」）  |
| 第11週 | レストランで使う表現②（「会計をお願いします」） |
| 第12週 | 博物館、美術館、コンサート訪問で使う表現     |
| 第13週 | 道をたずねる表現                 |
| 第14週 | 道を教える表現                  |
| 第15週 | これまでのまとめ                 |

### 【事前・事後学修】

【事前学修】確認小テスト・発表等の課題に取り組むこと（学修時間 週2時間）

【事後学修】確認小テスト・発表等の復習をすること。次回の授業範囲を予習すること（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

プリント使用

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中の発音練習や会話のペア練習や確認小テストへの意欲的な参加態度など日常の授業への貢献度…70%

期末試験…30%

確認小テストは採点・添削をして返却し、コメントと共にフィードバックする。

### 【注意事項】

授業では、教師は基本的にドイツ語を話します。ドイツ語の理解を助けるために一部で簡単な英語を使用します。ただし、教師が話し

## ドイツ語 1 a

ブラック, ヨーガン

1年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

The theme of this course is to introduce students to basic German as spoken on a daily basis in meaningful and practical ways.

### 【授業における到達目標】

This course aims to help students, through active learning methodology, advance their German speaking, listening, reading, writing skills to a CEFR A1 level. In doing so, students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem-solving skills to gain deeper insights into the course content. The class will be instructed in a combination of German and English and also Japanese on occasion.

### 【授業の内容】

1. Course introduction / German sounds and the alphabet
2. Simple questions and phrases used in the classroom
3. Greetings and goodbyes, introducing oneself and others
4. Talking on the phone
5. Answering questions about yourself
6. Talking about your family, numbers
7. Talking about where you live
8. Describing other people
9. Talking about food
10. Shopping for food, prices
11. Shopping for food, prices (continued)
12. Talking about likes and dislikes
13. Talking about likes and dislikes (continued)
14. Presentations
15. Course review

### 【事前・事後学修】

Students should spend two hours a week to prepare and review each lesson.

### 【テキスト・教材】

『Schritte International 1 Neu』(Hueber 出版 2016年)  
¥3140

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Participation - 30%  
Classwork - 30 %  
Test - 40%

Feedback on submitted assignments, exercises and oral communication, will be given in class.

### 【参考書】

Students should bring a language dictionary to class. An English-German dictionary is preferred but students may also bring a Japanese-German dictionary.

Students should also bring a B5 notebook to be used for note-taking to be used only for this course.

### 【注意事項】

Students must attend a total of two-thirds of the lessons in order to pass the course.

Coming to class late three times equals one absence.  
募集人数は40名です。

## ドイツ語 1 b

ドイツ人と仲良くなろう

田中 亜美

1年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

皆さんが将来、ドイツ語圏の国を訪れたり、ドイツ語圏出身の人々と意思疎通を図るときに必要なCEFR A1 (ごく簡単な短文レベル程度の文章理解力があり、簡単な内容であれば、自分の意思を単語あるいはフレーズで伝えられる) 程度のドイツ語を学ぶ授業です。実際にコミュニケーションの現場で使える生きたドイツ語を学ぶことを目標とします。

授業でははじめに、基本的なあいさつを学んだあと、ドイツ語特有の発音と響きに、実際に声を出しながら、親しんでもらいます。簡単な自己紹介を学んだあとは、同じように相手のことを尋ねる表現を学びます。趣味の話や好きな食べ物の話など、お互いの心の距離が近づくようなトピックスを中心に、簡単な会話表現を学びます。また、イベントなどに誘う表現や日本の良さを簡単に紹介する表現なども学びます。

ドイツ人と日本人の間で交わされる会話の映像なども見ながら、多くのドイツ語を聞き、実際に声に出して発音し、お互いの関係を良好にしあえるコミュニケーションを目指していきましょう。

### 【授業における到達目標】

- (1) CEFR A1 (ごく簡単な短文レベル程度の文章理解力があり、簡単な内容であれば、自分の意思を単語あるいはフレーズで伝えられる) 程度のドイツ語力を身につける。
- (2) 多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度を養う。
- (3) 国際感覚を身につけて、世界に踏み出し、社会を動かそうとする態度を養う。

### 【授業の内容】

- 第1週 授業の説明 簡単なあいさつ①
- 第2週 簡単なあいさつ② (「ありがとう」と「どうぞ」)
- 第3週 ドイツ語の発音①母音/子音
- 第4週 ドイツ語の発音②「ローレライ」を発音してみよう
- 第5週 自分のことを話す (名前/出身/居住地/職業)
- 第6週 相手のことを尋ねる (名前/出身/居住地/職業)
- 第7週 趣味のことを話す・尋ねる
- 第8週 好きな食べ物と飲み物を話す・尋ねる
- 第9週 好きな音楽やスポーツを話す・尋ねる
- 第10週 相手の予定を尋ねる
- 第11週 イベントと一緒にでかける
- 第12週 ドイツのよいところを聞く
- 第13週 日本のよいところを話す
- 第14週 メールや手紙の基本的なあいさつ
- 第15週 これまでのまとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】確認小テスト・発表等の課題に取り組むこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】確認小テスト・発表等を復習すること。次回の授業範囲を予習すること。(学修時間 週2時間)

### 【テキスト・教材】

プリント使用

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中の発音練習や会話のペア練習への意欲的な参加態度、確認小テストの結果など日常の授業への貢献度…70%

期末試験…30%

確認小テストは添削・採点して、コメントと共にフィードバックする。

### 【注意事項】

授業では、教師は基本的にドイツ語を話します。ドイツ語の理解を助けるために一部で簡単な英語を使用します。ただし、教師が話したドイツ語(英語)の日本語訳はプリントなどに可能な限り、記

すようにします。受講生の皆さんは、ドイツ語の会話練習などを除き、授業では日本語を使い、教師への質問も日本語で行ってかまいません。テストも日本語の説明が中心です。  
募集人数は40名です。

## ドイツ語 1 b

ブラック, ヨーガン

1年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

The theme of this course is to introduce students to basic German as spoken on a daily basis in meaningful and practical ways.

### 【授業における到達目標】

This course aims to help students, through active learning methodology, advance their German speaking, listening, reading, writing skills to a CEFR A1 level. In doing so, students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem-solving skills to gain deeper insights into the course content. The class will be instructed in a combination of German and English and also Japanese on occasion.

### 【授業の内容】

1. Course introduction
2. Simple questions and phrases used in the classroom
3. Describing houses and apartments
4. Describing houses and apartments (continued)
5. Telling the time
6. Talking about daily activities
7. Talking about daily activities (continued)
8. Talking about the weather
9. Talking about seasons
10. Talking about hobbies and free time
11. Talking about hobbies and free time (continued)
12. Talking about learning
13. Talking learning (continued)
14. Presentations
15. Course review

### 【事前・事後学修】

Students should spend two hours a week to prepare and review each lesson.

### 【テキスト・教材】

『Schritte International 1 Neu』(Hueber 出版 2016年)  
¥3140

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Participation - 30%  
Classwork - 30 %  
Test - 40%

Feedback on submitted assignments, exercises, and oral communication, will be given in class.

### 【参考書】

Students should bring a language dictionary to class. An English-German dictionary is preferred but students may also bring a Japanese-German dictionary.

Students should also bring a B5 notebook to be used for note-taking to be used only for this course.

### 【注意事項】

Students must attend a total of two-thirds of the lessons in order to pass the course.

Coming to class late three times equals one absence.  
募集人数は40名です。

ドイツ語 2 a

田中 亜美

2年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

私たちの生活の基本となる衣・食・住や健康や環境問題といった身近な「暮らし」をテーマに、今の私たちがドイツ人の暮らしぶりから学べることは何かという問題を、ドイツ語と日本語のテキストとともに学びます。

授業では、ドイツの日常生活や社会についての日本語による「解説」と、ドイツ語の「本文」から成る教材を使用します。ドイツ語の「本文」の前半は、ドイツ語による説明文、後半は会話文となっており、実際にコミュニケーションの場で用いる生きたドイツ語を学ぶことができます。日本語・英語などと比較しながら、文法の解説も行います。

授業では初めにヨーロッパの政治・経済で中心的な位置をしめるドイツについての基本的知識を身に着けたあと、自然・気候の特徴について、日本や他の外国と比較しながら学びます。次にそうした自然・気候から生まれるドイツの衣・食・住について、ドイツ人ならではのこだわりを学習します。

最後に経済大国・産業大国の一員として勤勉に働く一方で、日常をていねいに暮らすこと、余暇活動を大切にすドイツ人のライフスタイルについて考察します。

外国語を学ぶことは、新しいものの見方、より深い考え方を獲得する良いチャンスです。ドイツ語をきっかけに、私たちの「暮らし」を新たな視点で見つめなおしていきましょう。

【授業における到達目標】

- (1) CEFR A2（日常の出来事程度の文章理解力があり、意思疎通が文レベルで行える）のドイツ語を身につける
- (2) 多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度を養う。
- (3) 国際感覚を身につけて、世界に踏み出し社会を動かそうとする態度を養う。

【授業の内容】

- 第1週 ドイツ語の発音の復習
- 第2週 ドイツ語の発音とつづりの関係の復習
- 第3週 ヨーロッパの中のドイツーEUとは何か
- 第4週 ヨーロッパの中のドイツードイツ語圏の国々
- 第5週 ドイツの自然
- 第6週 ドイツの気候
- 第7週 ドイツの食生活ーワインとビール
- 第8週 ドイツの食生活ーパンとソーセージ
- 第9週 ドイツの食生活ー注目を集める「和食」
- 第10週 ドイツの住生活ー快適な室内
- 第11週 ドイツの住生活ー中世の建築
- 第12週 ドイツの住生活ー近代・現代の建築
- 第13週 ドイツの労働
- 第14週 ドイツの休暇
- 第15週 これまでのまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】確認小テストや発表等の課題にとりくむこと（学修時間 週2時間） 【事後学修】確認小テストや発表等を復習すること。次回の授業範囲を予習すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリント配布

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験30%、授業中の発言、理解度、発音練習、確認小テストなどへの積極的な取り組みなどを総合した平常点70%  
確認小テストは、採点・添削をして返却し、コメントをつけてフィードバックする。

【注意事項】

募集人数は40名です。

ドイツ語 2 a

ブラック, ヨーガン

2年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

The aim of this course is to introduce students to intermediate German as spoken on a daily basis in meaningful and practical ways.

【授業における到達目標】

The course aims to help students, through active learning methodology, advance their German speaking, listening, reading, and writing skills to a CEFR A2 level. In doing so, students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem-solving skills to gain deeper insights into the course content. The class will be instructed in a combination of German and English and Japanese on occasion.

【授業の内容】

- 1. Course introduction
- 2. Simple questions and phrases used in the classroom
- 3. Talking about work
- 4. Talking about work
- 5. Understanding advertisements
- 6. Staying at a hotel
- 7. Asking for explanations and requesting help
- 8. Asking for and following directions
- 9. Asking for and following directions
- 10. Understanding information brochures
- 11. Talking about health
- 12. Going to the doctor 13. Making appointments
- 14. Presentations
- 15. Course review

【事前・事後学修】

Students should spend two hours a week to prepare and review the materials for each lesson.

【テキスト・教材】

『Schritte International 2 Neu』(Hueber 出版 2016年) ¥3,140

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Participation - 30%  
Classwork -30 %  
Test - 40%

Feedback on submitted assignments, exercises, and oral communication, will be given in class.

【参考書】

Students should bring a language dictionary to class. An English-German dictionary is preferred but students may also bring a Japanese-German dictionary too.

【注意事項】

Students must attend a total of two-thirds of the lessons in order to pass the course,

Coming to class late three times equals one absence.

募集人数は40名です。

## ドイツ語 2 b

ブラック, ヨーガン

2年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

The theme of this course to introduce students to intermediate-level German as spoken on a daily basis in meaningful and practical ways.

### 【授業における到達目標】

The course aims to help students, through active learning methodology, advance their low-intermediate German speaking, listening, reading, and writing skills to a CEFR A2 level.

In doing so, students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem-solving skills to gain deeper insights into the course content. The class will be instructed in a combination of German and English and also Japanese on occasion.

### 【授業の内容】

1. Course introduction
2. Questions and phrases used in the classroom
3. Asking and following directions
4. Asking and following directions
5. Using and understanding public transportation
6. Using and understanding public transportation
7. Describing objects
8. Describing objects
9. Lost and found
10. Lost and found
11. Invitations
12. Invitations
13. Presentations
14. Presentations
15. Course review

### 【事前・事後学修】

Students should about two hours each week to prepare and review each lesson.

### 【テキスト・教材】

『Schritte International 2 Neu』(Hueber 出版 2016年) ¥3,140

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Participation - 30%

Classwork -30 %

Test - 40%

Feedback on submitted assignments, exercises and oral communication, will be given in class.

### 【参考書】

Students should bring a language dictionary to class. An English-German dictionary is preferred but students may also bring a Japanese-German dictionary too.

Students should also bring a B-5 notebook to be used for this class only.

### 【注意事項】

Students must attend a total of two-thirds of the lessons in order to pass the course.

Coming to class late three times equals one course.

募集人数は40名です。

## ドイツ語 2 b

田中 亜美

2年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

私たちの生活の基本となる「暮らし」をテーマに、今の私たちがドイツ人の暮らしぶりから学べることは何かという問題を、ドイツ語と日本語のテキストから学びます。

授業では、ドイツの日常生活や文化・社会についての日本語による「解説」とドイツ語による「本文」から成る教材を使用します。ドイツ語の「本文」の前半は、平易なドイツ語による説明文、後半は会話文となっており、実際にコミュニケーションの場で用いる生きたドイツ語を学ぶことができます。

授業では初めに、ドイツ人が日頃から親しんでおり、私たちがコミュニケーションをとるときに共通する話題でもあるクラシック音楽について取り上げます。次に環境先進国として知られるドイツの環境問題についての取り組みについて学びます。ゴミの分別、リサイクルをはじめ、子どもの頃からはじまる環境教育についても学びます。また、日本と同じ少子高齢化の問題を抱えるドイツの教育事情についても、考えます。最後に、自然との調和を大切にしたいドイツの年中行事について紹介します。

外国語を学ぶことは、新しいものの見方、より深い考え方を知るよいチャンスです。ドイツ語をきっかえに私たちの「暮らし」を新たな視点で見つめなおしていきましょう。

### 【授業における到達目標】

(1) CEFR A2 (日常の出来事程度の文章理解力があり、意思疎通が文レベルで行える) 程度のドイツ語力を身につける。

(2) 多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度を養う。

(3) 国際感覚を身につけて、世界に踏み出し社会を動かそうとする態度を養う。

### 【授業の内容】

- 第1週 ドイツ語の発音の復習
- 第2週 ドイツ語の発音とつづりの関係の復習
- 第3週 ドイツ・オーストリアの音楽—「3B」の作曲家たち
- 第4週 ドイツ・オーストリアの音楽—器楽曲の歴史
- 第5週 ドイツ・オーストリアの音楽—歌曲の歴史
- 第6週 ドイツの環境問題—ゴミ削減・リサイクル
- 第7週 ドイツの環境問題—子どもへの環境教育
- 第8週 ドイツの環境問題—再生可能エネルギー
- 第9週 ドイツの教育—ドイツの教育制度
- 第10週 ドイツの教育—ドイツの大学
- 第11週 ドイツの教育—ドイツの外国語教育
- 第12週 少子高齢化とドイツ
- 第13週 ドイツの歳時記—一年間の行事
- 第14週 ドイツのクリスマス
- 第15週 これまでの復習

### 【事前・事後学修】

【事前学修】確認小テストや発表等の課題に取り組むこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】確認小テストや発表等を復習すること。次回の授業範囲を予習すること。(学修時間 週2時間)

### 【テキスト・教材】

プリント配布

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験30%、授業中の発言、理解度、発音練習、確認小テストなどへの積極的な取り組み、リアクションペーパーの内容などを総合した平常点70%。

確認小テストは、採点・添削した上で返却し、コメントをつけてフィードバックする。

### 【注意事項】

募集人数は40名です。



ドイツ語で学ぶドイツ語 a

ブラック, ヨーガン

1年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

The theme of this course is to introduce students to basic German as spoken on a daily basis in meaningful and practical ways.

【授業における到達目標】

This course aims to help students, through active learning methodology, advance their German speaking, listening, reading, writing skills to a CEFR A1 level. In doing so, students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem-solving skills to gain deeper insights into the course content. The class will be instructed in German.

【授業の内容】

1. Course introduction
2. Simple questions and phrases used in the classroom
3. Greetings and goodbyes, introducing oneself and others
4. Talking on the phone
5. Answering questions about yourself
6. Talking about your family, numbers
7. Talking about where you live
8. Describing other people
9. Talking about food
10. Shopping for food, prices
11. Shopping for food, prices (continued)
12. Talking about likes and dislikes
13. Talking about likes and dislikes (continued)
14. Presentations
15. Course review

【事前・事後学修】

Students should spend two hours a week to prepare and review each lesson.

【テキスト・教材】

『Schritte International 1 Neu』 (Hueber 出版 2016年)  
¥3140

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Participation - 30%  
Classwork - 30 %  
Test - 40%

Feedback on submitted assignments, exercise, and oral communication, will be given in class.

【参考書】

Students should bring a language dictionary to class. An English-German dictionary is preferred but students may also bring a Japanese-German dictionary.

Students should also bring a B5 notebook to be used for note-taking to be used only for this course.

【注意事項】

Students must attend a total of two-thirds of the lessons in order to pass the course.

Coming to class late three times equals one absence.  
募集人数は40名です。

ドイツ語で学ぶドイツ語 b

ブラック, ヨーガン

1年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

The theme of this course is to introduce students to basic German as spoken on a daily basis in meaningful and practical ways.

【授業における到達目標】

This course aims to help students, through active learning methodology, advance their German speaking, listening, reading, writing skills to a CEFR A1 level. In doing so, students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem-solving skills to gain deeper insights into the course content. The class will be instructed in German.

【授業の内容】

1. Course introduction
2. Simple questions and phrases used in the classroom
3. Describing houses and apartments
4. Describing houses and apartments (continued)
5. Telling the time
6. Talking about daily activities
7. Talking about daily activities (continued)
8. Talking about the weather
9. Talking about seasons
10. Talking about hobbies and free time
11. Talking about hobbies and free time (continued)
12. Talking about learning
13. Talking about learning (continued)
14. Presentations
15. Course review

【事前・事後学修】

Students should spend two hours a week to prepare and review each lesson.

【テキスト・教材】

『Schritte International 1 Neu』 (Hueber 出版 2016年)  
¥3140

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Participation - 30%  
Classwork - 30 %  
Test - 40%

Feedback on submitted assignments, exercises, and oral communication, will be given in class.

【参考書】

Students should bring a language dictionary to class. An English-German dictionary is preferred but students may also bring a Japanese-German dictionary.

Students should also bring a B5 notebook to be used for note-taking to be used only for this course.

【注意事項】

Students must attend a total of two-thirds of the lessons in order to pass the course.

Coming to class late three times equals one absence.  
募集人数は40名です。

## ドイツ文学 a

ドイツ文学の森へ

田中 亜美

1年～ 前期 2単位

○：国際的視野、美の探求、研鑽力

### 【授業のテーマ】

ドイツ文学とは、ドイツ語で書かれた文学全般のことを指します。グリム童話やゲーテの詩をはじめとして、ドイツ文学は世界中で広く愛好されています。明治時代以降、日本の文学者たちに与えた影響も、とても大きなものがあります。

授業ではまず、聖書などに次いで世界中でもっとも多く読まれている昔話の「グリム童話」を取り上げます。グリム童話は、もっぱら子どもの読みものとして、広く世界で受け入れられてきた文学ですが、その中の残酷な部分や理不尽な内容が問題にされることもあります。授業では、改編・改訂されていない、オリジナルの文章の翻訳を実際に読むことで、昔話の文体的な特徴や構造的な共通性、子どもの心の成長にどのような意義があるのかという問題について、みなさんと一緒に考えます。次にドイツ文学でもっとも有名な作家・詩人のひとりであるゲーテを取り上げ、ゲーテの詩と音楽の関わりについて学びます。歌曲として有名な「野ばら」や「魔王」を取り上げ、その成立の背景や鑑賞のポイント、ゲーテの作品が日本や世界の文学者たちに与えた影響についても、考えていきます。

外国の文学を学ぶことは、新しいものの見方や考え方に触れる大きなチャンスです。一緒にドイツ文学の魅力を味わい、探索していきましょう。

### 【授業における到達目標】

- (1) 人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度を養う。
- (2) 国際関係を身につけて、世界に踏み出し社会を動かそうとする態度を養う。
- (3) 現状を正しく把握し、課題を発見するとともに、課題解決のために主体的に行動する力を身につける。

### 【授業の内容】

- 第1週 ドイツ語圏の文学とは何か？
- 第2週 グリム兄弟の生涯と作品
- 第3週 初版グリム童話を読む・考える（「蛙の王様」）
- 第4週 初版グリム童話を読む・考える（「赤ずきん」）
- 第5週 初版グリム童話を読む・考える  
（「ヘンゼルとグレーテル」）
- 第6週 初版グリム童話を読む・考える（「白雪姫」）
- 第7週 初版グリム童話を読む・考える（「ねずみの木の話」）
- 第8週 昔話の構造
- 第9週 昔話の文体
- 第10週 ゲーテの生涯と作品
- 第11週 ゲーテの「野ばら」（詩のリズムと韻）
- 第12週 ゲーテの「野ばら」（詩の内容と解釈）
- 第13週 ゲーテの「魔王」（詩のリズムと韻）
- 第14週 ゲーテの「魔王」（詩の内容と解釈）
- 第15週 ドイツ・リートの魅力ー詩と音楽の融合

### 【事前・事後学修】

【事前学修】授業であらかじめ指示された専門用語などを理解しましょう。（学修時間 週2時間）【事後学修】授業で配られたプリントや授業中に発表されたリアクションペーパーのコメントなどをもとに、授業内容を復習しましょう。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

プリント配布

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

内容理解および記述形式の定期試験…50%  
授業中の理解度、リアクションペーパーなどを総合した平常点…50%  
リアクションペーパーに書かれた多様な視点の文章を授業の中で匿名で発表してコメントすることで、訴求力のある文章の書き方などをフィードバックする。

## ドイツ文学 b

ドイツ文学の森へ

田中 亜美

1年～ 後期 2単位

○：国際的視野、美の探求、研鑽力

### 【授業のテーマ】

ドイツ文学とはドイツ語で書かれた文学全般のことを指します。ドイツ文学は世界中で広く愛好されています。明治時代以降、日本の文学者たちにも大きな影響を与えました。

授業では、20世紀のドイツ文学として、21世紀の今も若い世代を中心に大きな人気がある、フランツ・カフカとミヒャエル・エンデの小説や物語を紹介します。現代社会のかかえている〈存在〉と〈不条理〉、〈時間〉の在り方という、私たちにも身近な哲学的なテーマが、これらの作品ではどのように表現されているのか、みなさんと一緒に考えます。

また、近代から現代のドイツ語の詩人の中でも良く知られているリルケの生涯と作品を紹介します。リルケは翻訳を通じて、日本の蕪村や芭蕉の俳句作品にも親しんでおり、自らの詩作に大いに影響を受けていたことが明らかになっています。リルケの詩を考えることは、ドイツ文学と日本文学の魅力を繋ぐ手がかりを見つけるためにも、よいきっかけとなることでしょう。

外国の文学を学ぶことは、新しいものの考え方に触れる大きなチャンスです。ドイツ文学の魅力を探索していきましょう。

### 【授業における到達目標】

- (1) 人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度を養う。
- (2) 国際感覚を身につけて、世界に踏み出し社会を動かそうとする態度を養う。
- (3) 現状を正しく把握し、課題を発見するとともに、課題解決のために主体的に行動する力を身につける。

### 【授業の内容】

- 第1週 現代の文学・思想
- 第2週 フランツ・カフカの生涯と作品
- 第3週 カフカの作品を読む①（『変身』第一章）
- 第4週 カフカの作品を読む②（『変身』第二章）
- 第5週 カフカの作品を読む③（『変身』第三章）
- 第6週 『変身』と現代社会
- 第7週 エンデの作品を読む①（『モモ』第一部）
- 第8週 エンデの作品を読む②（『モモ』第二部）
- 第9週 エンデの作品を読む③（『モモ』第三部）
- 第10週 『モモ』と現代社会
- 第11週 リルケの生涯と作品
- 第12週 リルケの詩（詩「秋」と「秋の日」）
- 第13週 リルケの薔薇の詩と〈俳句〉
- 第14週 リルケの詩の特徴
- 第15週 これまでのまとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】授業であらかじめ指示された専門用語などを理解しましょう。（学修時間 週2時間）【事後学修】授業で配られたプリントや授業中に発表されたリアクションペーパーのコメントなどをもとに、授業内容を復習しましょう（学修時間・週2時間）

### 【テキスト・教材】

プリント配布

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

内容理解および記述形式の定期試験…50%  
授業中の理解度、リアクションペーパーなどを総合した平常点…50%  
リアクションペーパーに書かれた多様な視点の文章を授業の中で匿名で発表してコメントすることで、訴求力のある文章の書き方などをフィードバックする。

### 【参考書】

フランツ・カフカ／山下肇・山下万里訳『変身』（岩波文庫）  
ミヒャエル・エンデ／大島かおり訳『モモ』岩波少年文庫

## ハワイ英語研修

1・2年 集中 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

### 【授業のテーマ】

この研修の目的は、ハワイ州ホノルル市のインターカルチュラルコミュニケーションズカレッジにおける英語研修、ホームステイを通して、異国の言語と文化を体験し、学生の自立と英語力向上、視野の拡大を図ることにあります。

### 【授業における到達目標】

この科目の研修参加を通じて「国際的視野」、特に「多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度」を養います。また「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる」研鑽力や、「目標を設定して、計画を立案・実行できる」行動力の習得を目指します。

### 【授業の内容】

- 期間：2019年2月中旬から約3週間
- 英語レッスン：現地の英語学校のクラスで受講
- アクティビティ：ホノルル市内見学
- ボランティア：地元イベントのスタッフ活動。（1週間を予定）
- ホームステイ（2食込み）

### 【事前・事後学修】

事前学修：現地の英語クラスでは、あらかじめ指定された範囲の英文を読み、出された課題を解き、単語をチェックしておいてください。

事後学修：研修終了後に研修報告書を作成してください。

### 【テキスト・教材】

必要な資料はESLクラス内で配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

以下の資料に基づき選択科目として2単位認定されます（100%）

- ①事前指導参加度
- ②現地での調査課題達成度
- ③英語レッスン参加度
- ④ホームステイ先での生活マナー
- ⑤インターカルチュラルコミュニケーションズカレッジ英語クラスの修了証

英語レッスン教師から英語習得のフィードバックがあります。

### 【注意事項】

①1年生は専門教育科目「アメリカ文化事情」、「研修プレップ英語」、2年生は「アメリカ文化事情」、「観光英語」の履修および単位取得見込みが条件となります。

- ②リスク管理のため「海外研修」履修を強く勧めます。
- ③英会話練習のため「Workshop A～F」の履修を強く勧めます。
- ④事前指導参加態度が悪いと参加が認められなくなります。
- ⑤参加終了後に「研修報告書」を提出してもらいます。
- ⑥本研修は、前期GPAの成績によって応募できないこともあるので、履修要項を確認してください。

**バイオテクノロジー概論**

分子生物学とバイオテクノロジー

阿尻 貞三

2年 前期 2単位

○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

お酒、パン、味噌に代表されるように、ヒトは古くから細菌・カビ(酵母を含む)など微生物を使って色々な物を作って利用してきました。さらに近年の生物関連技術は目覚ましく進歩してきております。遺伝子の改変を行い、希望する物質を微生物や真核生物細胞に作らせ、希望する性質をもった微生物、植物、動物をつくれるようになってきました。遺伝子組み換えの作物という食の「安全」、「安心」から拒否反応をしまいがちです。しかし私たちの周りには多くの遺伝子組み換え作物がすでに外国等から輸入されております。正しい知識と理解力と科学的思考力をもって対応してください。

**【授業における到達目標】**

現在のバイオテクノロジーの用語を理解し、現在のバイオテクノロジーのあり方を他の方々に説明・伝えられることを目標とします。教科書等に記載していることをただ単に覚えるのではなく、自分で理解し、自分の言葉で説明できるようにしてください。遺伝子の働きを一元的な見方ではなく、多面的に、多方面から理解しなくてはなりません。講義で習得したことをふまえて、新しい技術を理解する能力を養ってください。新しい技術がめざす方向の本質を理解し、その評価を正しく行える能力を身につけてください。

**【授業の内容】**

- 第1週 生物とはなにか。
- 第2週 生命の設計図、遺伝子。
- 第3週 生命を構成する化学物質、核酸とタンパク。
- 第4週 染色体と遺伝子の本体
- 第5週 遺伝子の構造と遺伝子の発現 その1 イントロンとエクソン
- 第6週 遺伝子の構造と遺伝子の発現 その2 プロモーターとオペレーター
- 第7週 細胞の分化とES細胞とクローン家畜、iPS細胞
- 第8週 遺伝子組換えとPCR反応、
- 第9週 ゲノム編集技術、RNA干渉
- 第10週 遺伝子組み換え作物 GM Crops
- 第11週 バイオ燃料とバイオプラスチック
- 第12週 遺伝子治療
- 第13週 医療とバイオテクノロジー
- 第14週 環境浄化でのバイオテクノロジー
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

1年前期で学習した生化学などを復習しておいてください。テキストの当該箇所をあらかじめ読んでおいてください。

【事前学修】小テスト・レポート・発表等の課題に取り組んでください。(学修時間 週2時間)

【事後学修】発表・小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておいてください。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

「やさしいバイオテクノロジー カラー版」 芦田著 ソフトバンク クリエイティブ 2011年に絶版となりましたので、アマゾンの中古本、もしくは電子書籍を Amazon - 「kindle本」書籍名検索、またはGoogleplayの書籍名検索で購入できます、720～800円。そのほか適宜プリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

各講義で小テストあるいはレポートを行い、小テストおよびレポートは採点の上すべて返却し、テスト内容およびレポート課題は授業中に解説を行います。自己学習・復習に使用して自己研鑽に努めてください。小テストおよびレポートの合計で成績を判定します。

**【注意事項】**

多色の鉛筆もしくはボールペン、マーカーを持参してください。

**バイオテクノロジー概論**

分子生物学とバイオテクノロジー

阿尻 貞三

1年 後期 2単位

○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

お酒、パン、味噌に代表されるように、ヒトは古くから細菌・カビ(酵母を含む)など微生物を使って色々な物を作って利用してきました。さらに近年の生物関連技術は目覚ましく進歩してきております。遺伝子の改変を行い、希望する物質を微生物や真核生物細胞に作らせ、希望する性質をもった微生物、植物、動物をつくれるようになってきました。遺伝子組み換えの作物という食の「安全」、「安心」から拒否反応をしまいがちです。しかし、私たちの周りには多くの遺伝子組み換え作物がすでに外国等から輸入されております。正しい知識と理解力と科学的思考力をもって対応してください。

**【授業における到達目標】**

現在のバイオテクノロジーの用語を理解し、現在のバイオテクノロジーのあり方を他の方々に説明・伝えられることを目標とします。教科書等に記載していることをただ単に覚えるのではなく、自分で理解し自分の言葉で説明できるようにしてください。遺伝子の働きを一元的な見方ではなく、多面的に、多方面から理解しなくてはなりません。講義で習得したことをふまえてあたらしい技術を理解する能力を養ってください。新しい技術がめざす方向の本質を理解しその評価を正しく行える能力を身につけてください。

**【授業の内容】**

- 第1週 生物とはなにか。
- 第2週 生命の設計図、遺伝子。
- 第3週 生命を構成する化学物質、核酸とタンパク。
- 第4週 染色体と遺伝子の本体
- 第5週 遺伝子の構造と遺伝子の発現 その1 イントロンとエクソン
- 第6週 遺伝子の構造と遺伝子の発現 その2 プロモーターとオペレーター
- 第7週 細胞の分化とES細胞とクローン家畜、iPS細胞
- 第8週 遺伝子組換えとPCR反応、
- 第9週 ゲノム編集技術、RNA干渉
- 第10週 遺伝子組み換え作物 GM Crops
- 第11週 バイオ燃料とバイオプラスチック
- 第12週 遺伝子治療
- 第13週 医療とバイオテクノロジー
- 第14週 環境浄化でのバイオテクノロジー
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

1年前期で学習した生化学などを復習しておいてください。テキストの当該箇所をあらかじめ読んでおいてください。

【事前学修】小テスト・レポート・発表等の課題に取り組んでください。(学修時間 週2時間)

【事後学修】発表・小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておいてください。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

「やさしいバイオテクノロジー カラー版」芦田著 ソフトバンククリエイティブ 2011年に絶版となりましたのでアマゾンの中古本、もしくは電子書籍を Amazon-「kindle本」書籍 名検索、又はGoogleplayの書籍名検索で購入できます、720~800円。そのほか適宜プリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

各講義で小テストあるいはレポートをおこない、小テストおよびレポートは採点の上すべて返却し、テスト内容およびレポート課題は授業中に解説を行います。自己学習・復習に使用して自己研鑽に努めてください。小テストおよびレポートの合計で成績を判定します。

**【注意事項】**

多色の鉛筆もしくはボールペン、マーカーを持参してください。

**バイオテクノロジー概論**

分子生物学とバイオテクノロジー

阿尻 貞三

2年 後期 2単位

©：研鑽力

**【授業のテーマ】**

お酒、パン、味噌に代表されるように、ヒトは古くから細菌・カビ(酵母を含む)など微生物を使って色々な物を作って利用してきました。さらに近年の生物関連技術は目覚ましく進歩してきております。遺伝子の改変を行い、希望する物質を微生物や真核生物細胞に作らせ、希望する性質をもった微生物、植物、動物をつくれるようになってきました。遺伝子組み換えの作物という食の「安全」、「安心」から拒否反応をしまいがちです。しかし私たちの周りには多くの遺伝子組み換え作物がすでに外国等から輸入されております。ただし知識と理解力と科学的思考力をもって対応してください。

**【授業における到達目標】**

現在のバイオテクノロジーの用語を理解し、現在のバイオテクノロジーのあり方を他の方々に説明・伝えられることを目標とします。教科書等に記載していることをただ単に覚えるのではなく、自分で理解し、自分の言葉で説明できるようにしてください。遺伝子の働きを一元的な見方ではなく、多面的に、多方面から理解しなくてはなりません講義で習得したことをふまえて、あたらしい技術を理解する能力を養ってください。新しい技術がめざす方向の本質を理解し、その評価を正しくおこなえる能力を身につけてください。

**【授業の内容】**

- 第1週 生物とはなにか。
- 第2週 生命の設計図、遺伝子。
- 第3週 生命を構成する化学物質、核酸とタンパク。
- 第4週 染色体と遺伝子の本体
- 第5週 遺伝子の構造と遺伝子の発現 その1 イントロンとエクソン
- 第6週 遺伝子の構造と遺伝子の発現 その2 プロモーターとオペレーター
- 第7週 細胞の分化とES細胞とクローン家畜、iPS細胞
- 第8週 遺伝子組換えとPCR反応、
- 第9週 ゲノム編集技術、RNA干渉
- 第10週 遺伝子組み換え作物 GM Crops
- 第11週 バイオ燃料とバイオプラスチック
- 第12週 遺伝子治療
- 第13週 医療とバイオテクノロジー
- 第14週 環境浄化でのバイオテクノロジー
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

1年前期で学習した生化学などを復習しておいてください。テキストの当該箇所をあらかじめ読んでおいてください。

【事前学修】小テスト・レポート・発表等の課題に取り組んでください。(学修時間 週2時間)

【事後学修】発表・小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておいてください。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

「やさしいバイオテクノロジー カラー版」 芦田著 ソフトバンククリエイティブ 2011年に絶版となりましたのでアマゾンの中古本、もしくは電子書籍を Amazon - 「kindle本」 書籍名検索、又はGoogleplayの書籍名検索で購入できます、720~800円。その他適宜プリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

各講義で小テストあるいはレポートをおこない、小テストおよびレポートは採点の上すべて返却し、テスト内容およびレポート課題は授業中に解説を行います。自己学習・復習に使用して自己研鑽に努めてください。小テスト及びレポートの合計で成績を判定します。

**【参考書】**

多色の鉛筆もしくはボールペン、マーカーを持参してください。

## パーソナリティ心理学

佐藤 洋輔

1年 後期 2単位

◎：研鑽力

### 【授業のテーマ】

パーソナリティ心理学（人格心理学）は、単独の領域としてだけではなく、社会心理学や発達心理学、教育心理学や感情心理学、そして臨床心理学などのきわめて多くの領域と密接に絡み合っている。そこで本講義では、様々なパーソナリティの理論について概観するとともに、パーソナリティの測定、パーソナリティと発達、パーソナリティと病理などの内容について、臨床心理学、発達心理学、社会心理学などの知見から学んでいく。

### 【授業における到達目標】

- ・様々なパーソナリティの理論について修得する。
- ・学生が修得すべき「行動力」のうち、課題を発見する力を修得する。

### 【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 パーソナリティ心理学の歴史
- 第3回 パーソナリティの諸理論 —特性論・類型論—
- 第4回 パーソナリティと遺伝 —遺伝と環境—
- 第5回 パーソナリティと発達 —幼児期・児童期—
- 第6回 パーソナリティと発達 —思春期～老年期—
- 第7回 前半まとめ
- 第8回 前半の課題と解説
- 第9回 パーソナリティと測定1
- 第10回 パーソナリティと測定2
- 第11回 パーソナリティと病理 —さまざまな病理—
- 第12回 パーソナリティとカウンセリング1
- 第13回 パーソナリティとカウンセリング2
- 第14回 パーソナリティと社会
- 第15回 後半まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】小テスト等の課題に取り組むこと。臨床心理学・発達心理学・社会心理学などの領域の基礎的な事項を理解しておくこと（学修時間 週2時間）

【事後学修】小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し専門用語等を理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

必要に応じてレジメを配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

前半試験（20%）および期末試験（80%）により評価する。小テストや課題は次回授業でフィードバックを行う。

## パターン設計論

松岡 久美子

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

### 【授業のテーマ】

平面素材から立体的な衣服を製作するためには、製作技法と合わせて立体的な衣服を平面作図に置き換えたパターンが必要である。パターン設計論では衣服製作の基本パターンである原型を衣服パターンに展開させる基本原理について学習する。

さらに、各種衣服のパターン設計、応用デザインのパターン設計へと発展させ、デザインされた衣服とその展開図（設計図）であるパターンとの関係について学習する。設計したパターンは平面作図法と立体裁断を併用した方法により仮組立てし、その設計の有効性を確認、評価する。

### 【授業における到達目標】

上半身、下半身を被覆するパターン設計の基本的な考え方を理解し、デザインに応じたパターンを設計できるようになる。これにより、学修効果を実感することが出来、自信につながる。さらに知識を得たい、縫製技術も学びたいなどの自己成長力、行動力をつけることを到達目標とする。

### 【授業の内容】

- 第1週 授業内容の説明、「パターンの定義」
- 第2週 人体を包む基本立体の設定
- 第3週 下半身基礎パターンの基本原理（スカート原型）
- 第4週 上半身基礎パターンの基本原理（上半身原型）
- 第5週 ダーツの基本原則（ダーツの移動・消去・分散）
- 第6週 演習ーダーツを他の構成技法に変える効果の確認
- 第7週 スカートパターンの基本展開
- 第8週 スカートパターンの応用展開
- 第9週 上半身原型の基本展開
- 第10週 上半身原型をブラウス、ワンピースパターンへ展開
- 第11週 ワンピース応用デザインへの展開
- 第12週 ワンピース応用デザインへの展開
- 第13週 演習ーデザインした衣服のパターン設計と試作
- 第14週 13週の続きと設計効果の確認
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修として毎回次回のワークシートを配布する。次回のワークシートを読んでおくこと。（学修時間 週2時間）  
事後学修は、今回の授業を元に次回展開することを認知させているため、理解できなかった点、個人的に質問する項目を把握しておくこと。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

各課題ごとに担当者作成のプリント、資料を配布、まとめて「パターン設計論」というファイルを作成する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題と全授業を通じて作成したファイル提出で評価します。最終課題として課した課題の評価60%、授業中に課題として出した14項目の課題の評価30%、ファイルの完成度10%で評価します。第6週に第5週までのファイルをチェック、理解不足項目を補填します。第13週に小テストを行い次週返却、チェック項目を修正加筆させます。最終課題は同一課題ではなく、個々の学生と向き合います。

### 【参考書】

- 『衣服製作の科学』（建帛社）
- 『アパレル設計・製作論』（日本衣料管理士協会）

### 【注意事項】

毎回、新しい内容を学習するのではなく、次回は前回はさらに応用、積み重ねていくという形で進めるので、継続性にウェイトを置いて欲しい。



## パブリック・プログラム研究

藤田 百合

3年～ 前期 2単位

◎：行動力 ○：協働力

## 【授業のテーマ】

幅広い層の利用者を対象とする美術館。そこで行われているプログラムに焦点をあて、その教育的意義や役割を理解するとともに、その基盤となる理論と実践に関する方法論について概観します。プログラムを通して得られる学びとは何か、そのプログラムはどのような目的のもと企画・実施され、さらには利用者にとどのような作用を与えるのか、美術館の教育的役割について幅広く考察します。

## 【授業における到達目標】

美術館のプログラムを企画、実施するための基礎的な能力や必要となる視点を養うことができる。

学生が修得すべき「行動力」と「協働力」の互いに協力して物事を進めることができる力、「美の探究」の物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度、「研鑽力」の学ぶ楽しさを知り、学問を続ける力を修得する。

## 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス、利用者の美術館体験
- 第2週 美術館を知るアクティビティ  
美術館における学びの特性
- 第3週 美術館で行われるプログラムの特性と教育的意義
- 第4週 美術館と利用者の関わり・利用者の行動観察
- 第5週 美術館と利用者をつなぐ取り組み：モノ（利用者の視点）
- 第6週 美術館と利用者をつなぐ取り組み：モノ（美術館の視点）
- 第7週 美術館と利用者をつなぐ取り組み：ヒト
- 第8週 美術館と利用者をつなぐ取り組み：コト
- 第9週 美術館訪問のきっかけ作り
- 第10週 ミュージアム・キットを通して考える  
遊びの中から育まれる能動的な学び
- 第11週 ハコ・モノ・ヒト・コトを考える  
香雪記念資料館の鑑賞教材の可能性
- 第12週 ハンズ・オン展示から考える体験を通じた学び
- 第13週 ひろがる・ふかまる鑑賞方法の多様性（校外実習）  
DNPデジタル美術鑑賞システムの体験とレクチャー  
（五反田駅改札口集合後、現地に向かう）
- 第14週 課題発表・講評1
- 第15週 課題発表・講評2、まとめ

## 【事前・事後学修】

事前学修：受講者自身にとっての体験を通じた学びを得る機会にもなるため、授業外でも積極的に博物館・美術館に足を運ぶこと。美術館の教育プログラムの情報を積極的に集めること。各回ごとに伝えるキーワードを理解しておくこと。（学修時間：週2時間）

事後学修：キードの事後学修および、積極的に博物館・美術館に足を運び、展示のみならず、プログラムへの参加を推奨する。（学修時間：週2時間）

## 【テキスト・教材】

テキストは用いず、必要に応じて適宜資料を配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組みの積極性40%、課題の評価60%で評価します。  
課題に対するフィードバックは、第14週と第15週の講評時に行う。

## 【注意事項】

校外学習については、シラバスの順番を変更することがある。  
また、展示内容によってはレクチャーのみになる可能性がある。  
香雪記念資料館は展示によってシラバスの順番を変更することがある。

## パブリック・プログラム研究

藤田 百合

3年～ 前期 2単位

## 【授業のテーマ】

幅広い層の利用者を対象とする美術館。そこで行われているプログラムに焦点をあて、その教育的意義や役割を理解するとともに、その基盤となる理論と実践に関する方法論について概観します。プログラムを通して得られる学びとは何か、そのプログラムはどのような目的のもと企画・実施され、さらには利用者にとどのような作用を与えるのか、美術館の教育的役割について幅広く考察します。

## 【授業における到達目標】

美術館のプログラムを企画、実施するための基礎的な能力や必要となる視点を養うことができる。

学生が修得すべき「行動力」と「協働力」の互いに協力して物事を進めることができる力、「美の探究」の物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度、「研鑽力」の学ぶ楽しさを知り、学問を続ける力を修得する。

## 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス、利用者の美術館体験
- 第2週 美術館を知るアクティビティ  
美術館における学びの特性
- 第3週 美術館で行われるプログラムの特性と教育的意義
- 第4週 美術館と利用者の関わり・利用者の行動観察
- 第5週 美術館と利用者をつなぐ取り組み：モノ（利用者の視点）
- 第6週 美術館と利用者をつなぐ取り組み：モノ（美術館の視点）
- 第7週 美術館と利用者をつなぐ取り組み：ヒト
- 第8週 美術館と利用者をつなぐ取り組み：コト
- 第9週 美術館訪問のきっかけ作り
- 第10週 ミュージアム・キットを通して考える  
遊びの中から育まれる能動的な学び
- 第11週 ハコ・モノ・ヒト・コトを考える  
香雪記念資料館の鑑賞教材の可能性
- 第12週 ハンズ・オン展示から考える体験を通じた学び
- 第13週 ひろがる・ふかまる鑑賞方法の多様性（校外実習）  
DNPデジタル美術鑑賞システムの体験とレクチャー  
（五反田駅改札口集合後、現地に向かう）
- 第14週 課題発表・講評1
- 第15週 課題発表・講評2、まとめ

## 【事前・事後学修】

事前学修：受講者自身にとっての体験を通じた学びを得る機会にもなるため、授業外でも積極的に博物館・美術館に足を運ぶこと。美術館の教育プログラムの情報を積極的に集めること。各回ごとに伝えるキーワードを理解しておくこと。（学修時間：週2時間）

事後学修：キードの事後学修および、積極的に博物館・美術館に足を運び、展示のみならず、プログラムへの参加を推奨する。（学修時間：週2時間）

## 【テキスト・教材】

テキストは用いず、必要に応じて適宜資料を配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組みの積極性40%、課題の評価60%で評価します。

課題に対するフィードバックは、第14週と第15週の講評時に行う。

## 【注意事項】

校外学習については、シラバスの順番を変更することがある。  
また、展示内容によってはレクチャーのみになる可能性がある。  
香雪記念資料館は展示によってシラバスの順番を変更することがある。

**パラグラフ・ライティング a**

—SAクラス・SBクラス・SCクラス・SDクラス・SEクラス—

(SA)佐々木 真理(SB)青砥 吉隆(SC)西野 方子(SD)吉本 真由美(SE)深瀬 有希子

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

**【授業のテーマ】**

「ペイシック・イングリッシュa, b」および「オーラル・イングリッシュa, b」で学習した内容を踏まえ、3、4年生の専門科目の学習に必要な英語運用能力を養成する。

**【授業における到達目標】**

この授業の目標は主に以下の2点です。第1に、英語のパラグラフの基本的な構造を学び、パラグラフの内容を正しく理解するための読解力を養成します。第2に、正しい文法で英語を書く練習を行い、最初は短い文から始め、最終的にはある程度の長さのパラグラフを書く能力を養成します。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODクシヨ ン 授業の進め方と成績評価についての説明
- 第2週 Chapter 1 Meeting New People at College
- 第3週 Chapter 2 Attending Classes
- 第4週 Chapter 3 Pastimes
- 第5週 Chapter 4 Volunteer Activities
- 第6週 Chapter 5 Environmental Problems
- 第7週 Chapter 6 Cultural Differences
- 第8週 Chapter 7 Studying Abroad
- 第9週 Chapter 8 Part-Time Jobs
- 第10週 Chapter 9 Youth and Politics
- 第11週 Chapter 10 Spending Holidays Abroad
- 第12週 Chapter 11 Job Hunting
- 第13週 Chapter 12 Information Technology
- 第14週 Appendix
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

毎回の授業前に、テキストの該当箇所をよく読み、単語の意味の確認、不明な点の洗い出しを済ませた上で出席すること。その他、授業内で指示のあった作業を済ませておくこと【週2時間】。

授業後には、学んだ語彙や文法、パラグラフ構成などの知識を自分のライティングに吸収できるよう心がけること【週2時間】。

**【テキスト・教材】**

『Improving Your Writing 表現力をつける英作文』

(南雲堂 2012年) 1600円

その他に、適宜、クラス別にプリント教材を配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点(授業への参加・課題) 50%

提出課題 50%

フィードバックは翌回以降の授業時に行う。

**【参考書】**

授業には辞書(英和・和英)を必ず持参してください。

**パラグラフ・ライティング b**

—SAクラス・SBクラス・SCクラス・SDクラス・SEクラス—

(SA)島 高行(SB)西野 方子(SC)志渡岡 理恵(SD)青砥 吉隆(SE)村上 まどか

2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

**【授業のテーマ】**

1年次の英語科目に加え、「パラグラフ・ライティングa」で学習した内容を踏まえ、3、4年生の専門科目の学習に必要な英語の運用能力についての理解と技術を養成します。

**【授業における到達目標】**

この授業で目指す目標は主に以下の2点です。第1に、さまざまなトピックを扱った英語のパラグラフの内容を正しく理解するための読解力を養成します。第2に、テーマ別のパラグラフを書く練習を行い、最終的には複数のパラグラフからなる短いエッセイを書く能力を養成します。これらの作業を通じ、「国際的視野」、「研鑽力」、「行動力」を養います。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODクシヨ ン 授業の進め方と成績評価についての説明
- 第2週 Chapter 1 The Topic Sentence of the Paragraph
- 第3週 Chapter 2 The Specific Details of the Paragraph
- 第4週 Chapter 3 Time Order
- 第5週 Chapter 4 Space Order
- 第6週 Chapter 5 Process and Direction
- 第7週 Chapter 6 Cause and Effect
- 第8週 Chapter 7 Examples
- 第9週 Chapter 8 Definition
- 第10週 Chapter 9 Classification
- 第11週 Chapter 10 Comparison and Contrast
- 第12週 補充プリント1 Chapters 1-3
- 第13週 補充プリント2 Chapters 4-6
- 第14週 補充プリント3 Chapters 7-10
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

毎回の授業前に、テキストの該当箇所をよく読み、単語の意味の確認、不明な点の洗い出しを済ませた上で出席すること。その他、授業内で指示のあった作業を済ませておくこと【週2時間】。

授業後には、学んだ語彙や文法、パラグラフ構成などの知識を自分のライティングに吸収できるよう心がけること【週2時間】。

**【テキスト・教材】**

『Paragraphs That Communicate: Reading and Writing

Paragraphs---Second Edition パラグラフ・ライティング、パラグラフ・リーディングのコツ---第2版』(マクミラン・ランゲージハウス 2012年) 2000円

その他に、適宜、クラス別にプリント教材を配布。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点(授業への参加・課題) 50%

提出課題 50%

フィードバックは翌回以降の授業時に行う。

**【注意事項】**

授業には辞書(英和・和英)を必ず持参すること。

**ビジネス・スキル a**

新しい商品価値を生み出すための技法

合原 勝之

2年 前期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

**ビジネス・スキル b**

「デザイン思考」を身につけよう

合原 勝之

3年 後期 2単位

○：美の探究、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

ビジネス・スキルとは何でしょうか？社会で職を得て働いていくためには、様々な能力が求められます。本講義では、「価値創造」という観点から、ビジネス・スキルについて考えます。

「ビジネス」は商業活動ですから、モノやサービス（商品）を開発して販売することが基本です。また「スキル」は技能ですから、ビジネス・スキルとは商品の開発と販売に役立つ技能ということになります。現代社会はとても早いスピードで変化します。仕事では、常に新しい生活価値の創造が求められます。ここでは、課題演習を通して、商品開発の技法について学びます。その際にポイントとなるのは、小集団（グループ）による学習です。グループ・ディスカッションがなければ、創造的な仕事は成立しません。企業の仕事は一人で進められるものではありませんから、このグループワークへの適応も大切なビジネス・スキルです。もう一つのポイントは、「文化環境」の理解です。新しい商品と文化の相互作用によって、商品が受容（あるいは拒絶）され、新しい生活価値へと発展するからです。生活文化の領域では女性の役割がとても大きく、「女性的な知性」が価値創造の大きな力となります。この講義で養って頂きたいのは、まず「商品を見る目」です。モノやサービスはあるカタチをもち、そして変化します。また商品の置かれた場所や時間によって、その意味や価値も変わります。そこには、何らかの「理由」があるはずで、このような認識の上で、新たな商品の提案（生活価値の創造）を目指します。

**【授業における到達目標】**

商品の企画に伴う一連の作業を学習し具体的な価値提案ができるようになる事を到達目標とし「協働力」「行動力」向上を図ります。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 商品と文化的コンテキスト
- 第3週 事例研究1：概要説明（商品のカタチ）
- 第4週 事例研究1：調査
- 第5週 事例研究1：グループ討議
- 第6週 事例研究1：プレゼンテーションと評価
- 第7週 事例研究2：概要説明（販売の場所と時間）
- 第8週 事例研究2：調査
- 第9週 事例研究2：グループ討議
- 第10週 事例研究2：プレゼンテーションと評価
- 第11週 商品提案：概要説明（生活価値の創造）
- 第12週 商品提案：コンセプト立案
- 第13週 商品提案：制作
- 第14週 商品提案：プレゼンテーションと評価
- 第15週 まとめとレポート

**【事前・事後学修】**

【事前学修】私たちの生活は、たくさんのモノやサービスに囲まれています。これらの商品はどのような需要や着想から生まれたのか、日常から想像力をもって接するようにして下さい（週2時間）。【事後学修】また各回で解説した「デザインの方法」について、そのプロセスを図解して理解を深めてください（週2時間）。

**【テキスト・教材】**

必要な資料は、授業毎に配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（ディスカッションへの積極的な参加）40%、テーマ毎のプレゼンテーション40%、期末レポート20%を配分基準として成績評価します。フィードバックは、授業の中で適宜行います。

**【参考書】**

テーマ毎に、参考資料などを指示します。

**【注意事項】**

受け身ではなく、積極的な授業参加が求められます。

**【授業のテーマ】**

「デザイン」というと、美術や工芸を基礎とした造形的なスキルと感じる方が多いと思います。確かにこの認識も正しいのですが、現代社会におけるデザインの役割を考えると、デザインは造形スキルだけではないことが分かります。現代デザインは、造形デザイナーだけでなく、多くの人々の多様なビジネス・スキルに支えられています。そして、産業が生み出す多くの商品（製品やサービス）は、すべて「デザインされた」ものです。また「商品」は、「生活価値」を表現しています。この「生活価値」に人々が「対価を支払う」ことで、「ビジネス」は成立しています現代社会は環境問題など制約も多く、また非常に高度化・複雑化しています。このような状況の中で、「生活価値」を創造することはとても難しい課題です。デザインは、複雑な要因を上手にまとめて、解決を導くための手法です。本講義では、このような「デザインの考え方とスキル：デザイン思考」を学習します。これは、はじめに述べたように造形デザインのスキルではありません。より多くの人々が「生活価値」を創造するためのスキルと考えてください。具体的には「デザイン思考」を、「デザインの考え方と視点」、「解決すべき問題の発見と定義」、「アイデアとコンセプト」の3つの観点からワークショップを通して学習します。これらの学習で得たスキル（デザイン思考）は、皆さんの将来の暮らしや仕事に大きく役立つでしょう。

**【授業における到達目標】**

現代企業が抱える様々な課題をデザインという方法から発見し新たな価値提案を行うスキルを身につけることを到達目標とし「協働力」と「行動力」の向上を図ります。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 デザインの考え方と視点：1. デザインのプロセス
- 第3週 デザインの考え方と視点：2. 「エモーショナルデザイン」
- 第4週 デザインの考え方と視点：3. 「サービスデザイン」
- 第5週 デザインの考え方と視点：4. 「ゆりかごからゆりかごへ」
- 第6週 デザインの考え方と視点：5. 「ピラミッドの底辺」
- 第7週 問題の発見と定義：1. インタビューとアンケート調査
- 第8週 問題の発見と定義：2. 「カスタマージャーニー」
- 第9週 問題の発見と定義：3. 「マインドマップ」
- 第10週 問題の発見と定義：4. トレンド分析
- 第11週 問題の発見と定義：5. 「コラージュ」
- 第12週 問題の発見と定義：6. 「ペルソナ」
- 第13週 アイデアとコンセプト：1. 「アナロジーとメタファー」
- 第14週 アイデアとコンセプト：1. 「ブレンライティングとドローイング」
- 第15週 まとめと期末レポート

**【事前・事後学修】**

【事前学修】私たちの生活は、たくさんのモノやサービスに囲まれています。これらの商品はどのような需要や着想から生まれたのか、日常から想像力をもって接するようにして下さい（週2時間）。【事後学修】各回で解説した「デザインの方法」について、そのプロセスを図解して理解を深めてください（週2時間）。

**【テキスト・教材】**

必要な資料は、授業毎に配布します

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（ディスカッションへの積極的な参加）40%、テーマ毎のプレゼンテーション40%、期末レポート20%を配分基準として成績評価します。フィードバックは、授業の中で適宜行います。

**【参考書】**

テーマ毎に、参考資料などを指示します。

**【注意事項】**

受け身ではなく、積極的な授業参加が求められます。

**ビジネス・マナー**

良好な人間関係を築くために

栗原 栄美

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

が大切なのか知りたい」「就職活動に余裕を持って取り組みたい」「これから必要な力を知っておきたい」と考えている方は、この授業に参加して、多くのことを習得しましょう！

**【授業のテーマ】**

みなさんが、大学卒業後に歩んでいくビジネス社会では、一人で仕事をするのではなく、同じ目的に向かって組織で仕事をしていきます。

年齢や立場、性別、性格、価値観の違う人たちと良好な人間関係を築き、組織人として考え、行動しなければなりません。

この講座では、ビジネス社会だけではなく、大学生活を充実させるためにも必要となる知識やスキルを学びます。

**【授業における到達目標】**

- ① 大学生活と就活及びビジネス社会との関係を知る
  - ② 自分を知ることで人間関係の構築に役立てる
  - ③ 多様な価値観を知り、互いに交流しあう
  - ④ コミュニケーションについて理解し、強化する
- 以上により、ビジネス社会で必要となる「研鑽力」「行動力」「協働力」を身につけることを到達目標とします。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション（大学生活と就活の関係）
  - 第2週 社会で求められる力①（現代の日本企業に必要な力）
  - 第3週 社会で求められる力②（企業が求める能力No.1）
  - 第4週 グループワーク①（人が持っている「枠組み」）
  - 第5週 グループワーク②（価値観）
  - 第6週 グループワーク③（思い込み）
  - 第7週 グループワーク④（コミュニケーション／分かち合う・応える）
  - 第8週 グループワーク⑤（コミュニケーション／話す・聞く）
  - 第9週 グループワーク⑥（コミュニケーション／見る）
  - 第10週 グループワーク⑦（人が人を理解する）
  - 第11週 グループワーク⑧（葛藤とのつきあい方）
  - 第12週 グループワーク⑨（自己開示とフィードバック）
  - 第13週 グループワーク⑩（説得する／コンセンサス）
  - 第14週 グループワーク⑪（影響を与える）
  - 第15週 グループワーク⑫（チームワークを考える）
- ※授業の進捗如何で若干内容が変わることがあります。

**【事前・事後学修】**

【事前学修】次の授業内容を踏まえ、事前に関連するテーマをインターネットや書籍等で調べてください。＜学修時間 週2時間＞

【事後学修】授業内容を復習し、内容の整理・理解に努めてください。そのうえで、自分にとって何が必要か、そのために強化すべきことは何かを考え、行動に移してください。＜学修時間 週2時間＞

**【テキスト・教材】**

オリジナルテキスト（予定）  
第1回授業の際にご案内します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への積極参加・リアクションペーパー）50%、レポート50%の割合を基準として総合的に評価します。  
リアクションペーパー等についてのフィードバックは、授業の中で適宜行います。

**【参考書】**

授業の進行に応じて適宜指示します。

**【注意事項】**

この講座では、社会で必要な力を身につけていけるように、グループワークも取り入れながら、わかりやすく進めていきます。

大学時代はこれからの卒業後の長い人生を支える基礎づくりの期間です。これからの時代は他人から指示を待つだけではなく、自らが課題を発見し、その改善策を実行していく力が求められます。

「充実した学生生活を送りたい」「この時期に何をしていくこと

## ビジネスコミュニケーション

— 社会人に必要なビジネススキルを身につける —

板倉 文彦

1年 後期 2単位

○：美の探究、研鑽力、協働力

### 【授業のテーマ】

この講義では、社会人として周りから信頼されるためのビジネススキルを身につけることを目標とします。具体的には、まずビジネスで必要とされるコミュニケーションスキルについて学びます。そして、より説得力を増すための情報収集からプレゼンテーションまでを学びます。

この講義に加えて「ビジネスマネジメント」を履修することにより、ビジネス能力検定2級の全範囲を学ぶことができます。

### 【授業における到達目標】

社会人として必要なビジネスマナーを学ぶことで、倫理観を以って人格を陶冶していく態度を身に付けることができます。

また、社会生活での自信を創出する研鑽力や、組織での立居振舞を通して他人と協働する力も身に付けることが可能です。

### 【授業の内容】

- 第1週 キャリアと仕事へのアプローチ
- 第2週 会社活動の基本
- 第3週 仕事の原点はお客さま
- 第4週 話し方と聞き方のポイント
- 第5週 接客と営業の進め方
- 第6週 クレーム対応
- 第7週 会議とプレゼンテーション
- 第8週 チームワークと人のネットワーク
- 第9週 統計・データの読み方
- 第10週 統計・データのまとめ方
- 第11週 情報収集とメディアの活用
- 第12週 経済産業用語、演習 1
- 第13週 経済産業用語、演習 2
- 第14週 プレゼンテーション演習
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：新聞記事を読み、指示された方法でまとめて提出する（週2時間程度）

事後学修：授業で指示された問題集の該当箇所を各自で解く（週2時間程度）

### 【テキスト・教材】

『2018年版 ビジネス能力検定ジョブパス2級公式テキスト』（日本能率協会マネジメントセンター）2,000円＋税

『2018年版 ビジネス能力検定ジョブパス2級公式試験問題集』（日本能率協会マネジメントセンター）1,500円＋税

※2017年版以前のテキストを保有している場合は、事前に相談してください。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験成績および平常点で総合的に評価します。

配分基準：定期試験60%、平常点40%（授業態度、提出課題）

試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

### 【参考書】

必要に応じてその都度指示をします。

## ビジネストーク入門

コミュニケーション能力を高める

埴野 ひろ子

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

### 【授業のテーマ】

社会に出て今まさに求められる能力は、**高いコミュニケーション能力**です。どんなに情報化社会になると、他人との関わりの中で物事が進められていきます。

本授業では、まず『**聞く力・話す力**』を養います。顔の表情、動作、距離感、声の調子といった**非言語表現を鍛える**ことにより、相手の気持ちや立場を理解し、自分の気持ちを上手に伝える力がつきます。

**アサーティブな考え方や表現**を学ぶことにより、相手を敬い、自身もストレスを溜めない円滑な人間関係を築く力となります。

ビジネストークは、ビジネスだけでなく**生きてゆく上でのコミュニケーション能力を高める**授業です。

### 【授業における到達目標】

◎**研鑽力を磨く**＝人前で実践的練習を繰り返すことにより、言葉のキャッチボールやスピーチを行うための研鑽力が身につきます。

○**行動力が伴うようになる**＝自他を認められるようになると、ポジティブ思考になり、自信をもって他者と関わり行動できる人間になります。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス、自分の声の印象を知る
- 第2週 聞き上手になる～インタビューに挑戦
- 第3週 他己紹介と自己紹介
- 第4週 自己表現を構成する8つの要素
- 第5週 どう話すか～非言語表現の重要性
- 第6週 論理的に話す～言語表現の重要性
- 第7週 自分の話し方の癖をチェック
- 第8週 敬語表現の基礎
- 第9週 ビジネスに有効な敬語表現
- 第10週 電話応対～声だけのコミュニケーション
- 第11週 指示の受け方伝え方
- 第12週 アサーティブなコミュニケーション
- 第13週 話し合いにおける指示動作の重要性
- 第14週 説得力のあるスピーチと交渉術
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：課題を出し、毎回数人ずつの1分間スピーチを行います。準備をしてきてください。授業内での発表の課題にも取り組んでいただきます。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業後の小テストをその場で自己採点。翌週までに復習してきていただきます。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

プリントを配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

スピーチテストと筆記試験60%。レポートなど提出物20%、平常点（グループワークなどでの積極的な参加度、発言力）20%。

スピーチテストは口頭で各人にアドバイスします。筆記試験やレポートは全て採点し、評価内容を記述して返却します。

### 【参考書】

佐藤綾子著『自分をどう表現するか』（講談社現代新書）

D. カーネギー著『心を動かす話し方』（ダイヤモンド社）

### 【注意事項】

授業中、ICレコーダでの録音は自由に許可します。

スピーチテストはビデオ撮影して振り返りに活用しますので、身だしなみにも配慮して臨んでください。

**ビジネスプランニング**

社会人基礎力の向上に向けて

野津 喬

1年 後期 2単位

◎：行動力 ○：協働力

**【授業のテーマ】**

社会で仕事をしていく上では、様々な能力が要求されます。この講義ではディスカッションや口頭発表などを中心に、社会人として求められる能力の基礎を身につけるとともに、企業などからビジネスについてのお話を伺い、ビジネスや社会に関する問題意識を深めることを目的とします。

**【授業における到達目標】**

- ①ビジネスや社会に関する課題について、自分なりの問題意識を持つようになる。
  - ②情報の収集・分析、グループディスカッション、プレゼンテーションに関する基礎的能力を身につける。
- これにより、学生が習得すべき「行動力」「協働力」を身につけることを目的とします。

**【授業の内容】**

次の各テーマについて、15回の授業を行う予定です。

1. はじめに（講義の進め方及び目標、イントロダクション）
2. 情報の収集・分析①（社会的課題）
3. 情報の収集・分析②（事業関係）
4. ゲスト講義①事前検討
5. ゲスト講義①（金融関係）
6. ゲスト講義①振り返り、ゲスト講義②事前検討
7. ゲスト講義②（事業関係）
8. ゲスト講義②振り返り、ゲスト講義③事前検討
9. ゲスト講義③（地域関係）
10. ゲスト講義③振り返り、ゲスト講義全体の振り返り
11. 企画のプランニング
12. プラン検討
13. 企画発表①
14. 企画発表②、企画検討の振り返り
15. まとめ（これまでの授業の総括）

※ゲストのご都合により予定を変更する可能性があります。

**【事前・事後学修】**

【事前学修】次の授業の参考資料に事前に目を通しておいください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義で指摘を受けた事項等について、インターネットや書籍等によって各自で必要な情報を集めてください。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

manabaに講義で使用するプリント等を掲載しますので、各自で事前にプリントアウトして忘れずに授業に持参してください。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

グループワーク等通常の授業への貢献（80%）、企画提案（検討作業及び発表）（20%）により評価を行います。フィードバックは、企画発表の次の回に行います。

**【参考書】**

授業の進行に応じて、講師から適宜指示します。

**【注意事項】**

他の受講者の迷惑となる行為（私語など）を禁止します。講義の妨げになると判断した場合は、成績評価に反映（減点）し、注意しても改善されない場合は講義からの退室を求める場合があります。講義開始後、一定時間を経過した後の入室は遅刻または欠席扱いとします。その他、初回の講義で履修に関する注意事項を説明しますので、遅刻せずに必ず出席してください。

## ビジネスマナー応用

佐藤 圭子

2年 前期 1単位

◎：研鑽力 ○：協働力

### 【授業のテーマ】

1年次に学んだ「ビジネスマナー入門」を基に秘書検定準1級レベルを目安により詳しく学び、演習を通して実践力を身につけることを目標とします。秘書検定準1級では、筆記試験に加えて面接試験が課せられます。この内容を学ぶことで就職活動の面接試験対策にもつながります。

### 【授業における到達目標】

ビジネスシーンで役立つ詳細な知識を身につけることができる。  
正しい言葉選び、所作を学び、自信をもって人前で話ができるようになる。  
学生が修得すべき「研鑽力」のうち、学修成果を実感して、自信を創出する力を修得する。

### 【授業の内容】

- 第1週 第一印象の整え方
- 第2週 美しい所作
- 第3週 感じの良い話し方・聞き方
- 第4週 訪問・接待のマナー
- 第5週 接遇演習
- 第6週 電話応対演習
- 第7週 苦情処理の仕方
- 第8週 慶事の決まりごと
- 第9週 弔事の決まりごと
- 第10週 パーティーの準備・運営
- 第11週 会議の設営・議事録
- 第12週 社交文書の書き方
- 第13週 面接演習①（報告課題）
- 第14週 面接演習②（状況対応）
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

- <事前学修> 毎回配布するプリント・演習課題に取り組むこと。  
（学修時間 週2時間）
- <事後学修> プリント・演習課題の復習をすること。領域終了ごとに検定過去問題を解くこと。  
（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

『秘書検定準1級 クイックマスター 改訂新版』  
（早稲田教育出版）1,296円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験70％・平常点（授業への積極参加・演習課題実績）30％  
提出課題・演習課題は、全て採点して評価を返却します。

### 【参考書】

授業内で適宜紹介します。

### 【注意事項】

正しい言葉遣いや所作は、短期間で身につくものではありません。授業内だけでなく、日常生活においても意識して取り組んでください。また、検定対策として、積極的に過去問題を解いてください。

## ビジネスマナー入門

—自信を持って社会に一歩踏み出すために—

佐藤 圭子

1年 後期 1単位

◎：研鑽力 ○：協働力

### 【授業のテーマ】

社会人に求められることは「良識がある」ということです。ビジネスシーンでの個人の良識を欠く行動は、所属先全体のイメージダウンにつながります。良識のベースとなるビジネスに必要なマナーを、「知っている」段階から抜け出して「実践できる」ようになることを目標とし、秘書検定3級全員合格を目指して具体的に学びます。

### 【授業における到達目標】

ビジネスシーンで通用する基本の知識を修得することができる。  
学生が修得すべき「研鑽力」のうち、検定取得を通じて学修成果を実感して、自信を創出する力を修得する。

### 【授業の内容】

1. マナーの重要性
2. 正しい敬語の使い方
3. わかりやすい説明と報告の仕方
4. 電話応対の基本要領
5. 電話応対の実践
6. 接客話法
7. 接遇の要領と流れ
8. 接遇の実践演習（1）アポイントのある来客応対と応接業務
9. 接遇の実践演習（2）アポイントのない来客応対
10. 冠婚葬祭のマナー
11. パーティーと食事のマナー
12. 文書を受発信のマナー
13. 会議の決まりごと
14. 資料の作成実習
15. 検定対策問題練習

### 【事前・事後学修】

- <事前学修> 配布するプリント・演習課題に取り組むこと。  
（学修時間 週2時間）
- <事後学修> プリント・演習課題の復習をすること。領域ごとにまとめの問題を解くこと。  
（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

『まるごと覚える秘書検定2級ポイントレッスン』  
（新星出版社）1,296円 2003年出版

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験、平常点（演習・実習への取り組み方）で評価します。  
配分基準：定期試験70％、平常点30％。  
提出課題や実習については、全て採点し、結果を返却します。

### 【参考書】

授業内で適宜紹介します。

### 【注意事項】

授業内では、演習を取り入れて実践力を身につけていきます。その基本となる「言葉遣い」は、日々の積み重ねが不可欠です。日常の自分の言葉選びを見直し、授業に臨んでください。



## ビジネスマネジメント

—ビジネス能力検定2級合格を目指しましょう—

板倉 文彦

2年 前期 2単位

◎：協働力 ○：美の探究、研鑽力

### 【授業のテーマ】

この講義では、社会人としてスキルアップしていくための理論や方法を修得することを目標とします。そのためには、仕事の進め方のみならず、企業やそれを取り巻く経済状況にまで目を配る必要があります。

社会に出て企業等に入ることは、ゴールではなくスタートと言え絶えずスキルアップが要求されます。この講義で学んだことはその時役立つものとなります。

学習の成果として、ビジネス能力検定2級の合格を目指すとともに、スムーズに社会人生活をスタートさせる準備をしましょう。

### 【授業における到達目標】

ビジネスマナーを向上させることで、社会において倫理観を以って人格を陶冶していく態度を身に付けることができます。

また、職場での自信を創出する研鑽力や、他人と協働する力も身に付けることが可能です。

### 【授業の内容】

- 第1週 仕事の進め方
- 第2週 マネジメントの基本
- 第3週 ビジネス文書の基本
- 第4週 会社数字の読み方
- 第5週 ビジネスに関する法律知識
- 第6週 社会制度
- 第7週 ビジネスと経済知識
- 第8週 統計・データ演習
- 第9週 文書作成演習
- 第10週 新聞読解演習
- 第11週 ビジネス能力検定2級 模擬試験（過去問題等）—第1回
- 第12週 ビジネス能力検定2級 模擬試験（過去問題等）—第2回
- 第13週 ビジネス能力検定2級 模擬試験の講評
- 第14週 経済産業用語
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：新聞記事を読み、指示された方法でまとめて提出する（週2時間程度）

事後学修：授業で指示された問題集の該当箇所を各自で解く（週2時間程度）

### 【テキスト・教材】

※「ビジネスコミュニケーション」で使用したテキストを使用します。

『ビジネス能力検定ジョブパス2級公式テキスト』（日本能率協会マネジメントセンター）

『ビジネス能力検定ジョブパス2級公式試験問題集』（日本能率協会マネジメントセンター）

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験成績および平常点で総合的に評価します。

配分基準：定期試験60%、平常点40%（授業態度、提出課題）

試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

## ビジネスリテラシー

—社会人としての基礎スキルを身につける—

板倉 文彦

1年 前期 2単位

○：美の探究、研鑽力、行動力

### 【授業のテーマ】

この講義では、社会人として必要とされる基本スキルを身につけることを目標とします。具体的には会社の仕組みやルールを理解したうえで、その中で活躍していくためにはどのようなスキルが必要とされ、それをどのように蓄積していけばよいのかを学びます。

この講義で修得したスキルは、皆さんが社会に出た時の即戦力性を高めるのみならず、就職活動等をはじめとする社会へ出る準備段階から役立つこととなります。

学習の成果として、ビジネス能力検定3級の合格を目指しましょう。

### 【授業における到達目標】

ビジネスマナーを学び自らの振舞いに生かしていくことで、倫理観を以って人格を陶冶していく態度を身に付けることができます。

また、社会生活での自信を創出する研鑽力や、目標設定し計画を立案・実行できる行動力もあわせて修得することが可能です。

### 【授業の内容】

- 第1週 キャリアと仕事へのアプローチ
- 第2週 仕事の基本となる8つの意識
- 第3週 コミュニケーションとビジネスマナーの基本
- 第4週 指示の受け方と報告・連絡・相談
- 第5週 話し方と聞き方のポイント
- 第6週 来客応対と訪問の基本マナー
- 第7週 会社関係でのつき合い
- 第8週 仕事への取り組み方
- 第9週 ビジネス文書の基本
- 第10週 電話応対
- 第11週 統計データの読み方・まとめ方
- 第12週 情報収集とメディアの活用
- 第13週 会社を取り巻く環境と経済の基本
- 第14週 ビジネス用語の基本
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：新聞記事を読み、指示された方法でまとめて提出する（週2時間程度）

事後学修：授業で指示された問題集の該当箇所を各自で解く（週2時間程度）

### 【テキスト・教材】

『2018年版 ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト』（日本能率協会マネジメントセンター）2,000円+税

『2018年版 ビジネス能力検定ジョブパス3級公式試験問題集』（日本能率協会マネジメントセンター）1,300円+税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験成績および平常点で総合的に評価します。

配分基準：定期試験60%、平常点40%（授業態度、提出課題）

試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

**ビジネス関連法特論**

数野 昌三

人間社会専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

本研究科は、将来、中間管理者となり得る要素の提供を目的としている。すなわち、業務遂行上問題が発生した場合、どの条文に基づき、どのような内容が法的問題となるかを発見し、分析する。そして、上司および関連専門部門に相談することにより、法的トラブル拡大の未然予防を可能にすることを照準とする。

**【授業における到達目標】**

ビジネスにおける様々な問題につき、ビジネス関連諸法規の視点からそれらを捉え、解決への糸口に繋げる行動力を培うことができるようにすることを到達目標とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 受講するにあたって
- 第2週 物的担保・人的担保
- 第3週 預金取引と無権限者への払い出し
- 第4週 相殺等による回収
- 第5週 株式会社の機関構造
- 第6週 役員の義務・責任と株主代表訴訟
- 第7週 企業の社会的責任（CSR）、コンプライアンス、内部統制
- 第8週 株主の地位、株式と株券の意義
- 第9週 手形と小切手の仕組みと機能
- 第10週 労働契約・就業規則
- 第11週 労働協約
- 第12週 雇用上の性差別
- 第13週 思想・信条差別
- 第14週 公益通報者に対する差別
- 第15週 提出課題の検討、全体のまとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】発表・レポート等の課題に取り組むこと（学修時間 週2時間）。

【事後学修】発表内容および添削されたレポートに関して復習しておくこと（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

テキスト・教材はとくに指定しない。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

成績評価は、期末の提出課題60%、平常点（授業への積極参加・発表内容）40%で行い、各発表終了後あるいは最終授業時にフィードバックを実施する。

**【参考書】**

内田貴『民法Ⅰ～Ⅲ』（東京大学出版会）、近江孝治『民法Ⅰ～Ⅳ』（成文堂）、神田秀樹『会社法』（弘文堂）、森本滋編『手形法小切手法講義』（成文堂）、両角道代・森戸英幸・梶川敦子・水町勇一郎『LEAGAL QUEST 労働法』（有斐閣）

**【注意事項】**

六法を必ず持参すること。

## ビジネス文書入門

—ビジネスで通用する文書作り—

佐藤 圭子

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

### 【授業のテーマ】

ビジネスで用いられる、さまざまな文書の種類や構成の仕方の基本を学びます。12月に実施されるビジネス文書検定3級合格を目標に、正しい表記法・表現法・文書の決まりごとを学び、基本的なビジネス文書を自分で書ける力を身につけていきます。

### 【授業における到達目標】

文書の基本を学び、社内文書全般と簡単な社外文書を自力で作成できるようになる。

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、検定取得を通じて学修成果を実感して、自信を創出する力を修得する。

### 【授業の内容】

1. ビジネス文書の役割と種類
2. ビジネス文書で用いられる用語
3. 正確な文章を書く ①よじれのない文章
4. 正確な文章を書く ②類義語の使い分け
5. 分かりやすい文章を書く ①標題のつけ方、箇条書きの仕方
6. 分かりやすい文章を書く ②文章の要約、図表の作成
7. 礼儀正しい文章を書く 敬称の選び方、敬語
8. 社内文書の構成と書き方 ①通知文
9. 社内文書の構成と書き方 ②報告書、届出書
10. 社外文書の構成と書き方 取引文書の作成
11. 社交儀礼書の構成と書き方 社交文書の作成
12. 文書の受発信の決まりごと
13. 正しい郵送方法と用紙の選び方
14. 印刷物の校正の仕方
15. まとめ・総括

### 【事前・事後学修】

<事前学修> 毎回配布するプリントに取り組むこと。

(学修時間 週2時間)

<事後学修> 漢字学習・プリントを復習すること。

(学修時間 週2時間)

### 【テキスト・教材】

『ビジネス文書検定受験ガイド 3級』（早稲田教育出版 改訂新版）1,080円

『ビジネス文書検定実問題集 3級』（早稲田教育出版 改訂新版）1,296円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験成績および平常点（小テスト・授業態度等）で総合的に評価します。

配分基準：定期試験70%、平常点30%

提出課題や小テストは、全て採点して返却します。

### 【参考書】

授業内で適宜紹介します。

### 【注意事項】

ビジネス文書検定は出題領域が広く、日本語を正しく書く力が強く求められます。この授業にあわせて前期科目の「日本語表現法」や後期科目の「自己表現法」での積極的な学習が資格取得のためには欠かせません。また、できるだけ活字に触れ、PCを使わずに自分で字を書くことを心がけてください。過去の問題を数多く解くことも合格の手段として有効です。

## フードコーディネーター論

数野 千恵子

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

フードコーディネーターとは、食に関する様々な場面において満足できる状況を演出することであり、その範囲は食事の場、食品等の販売、食に関する情報の発信や店舗経営など多岐にわたる。

これら広範の各場面において必要とされる基礎的な知識を学ぶ。さらに、食に対する充足感を満たすための心理的、文化的側面についての教養や感性を磨く諸事項についても習得することを目標とする。

### 【授業における到達目標】

ヒトの心に内在する食に対する充足感を満たすための心理的、文化的側面についての教養と感性を修得する。

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、学修成果を実感して自信や、広い視野を身につける。また、食事や食卓の文化を通して日本の文化、外国の文化を知り、世界に臨む態度を修得する。

### 【授業の内容】

- 第1週 フードコーディネーターの基本理念
- 第2週 食事の文化：日本の食事の歴史 特別な日の食事
- 第3週 食事の文化：外国の食事 食のタブー
- 第4週 食卓のコーディネーター：日本料理
- 第5週 食卓のコーディネーター：西洋料理
- 第6週 食卓のコーディネーター：中国料理
- 第7週 食卓のサービスとマナー：日本料理
- 第8週 食卓のサービスとマナー：西洋料理 中国料理
- 第9週 メニュープランニング：メニュー開発の要件
- 第10週 メニュープランニング：料理様式別メニュー
- 第11週 食空間のコーディネーター：レイアウト・インテリア
- 第12週 食空間のコーディネーター：キッチンコーディネーター
- 第13週 フードサービスマネジメント：  
レストランの起業、投資・収支計画の作成
- 第14週 食企画の実践コーディネーター：  
食企画の流れ、食企画に必要な基本スキル
- 第15週 総括

### 【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲のテキストの該当箇所を読んで、専門用語や理解できない部分をチェックし、調べておいてください。（学習時間 週2時間）

【事後学修】 毎回、授業時に小テストを行いますので、教科書、ノートを整理し、復習をして次回授業時に備えてください。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

『三訂フードコーディネーター論』（建帛社）2012年発行  
1,900円＋税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験80%、小テスト20%で評価します。  
小テストの結果は返却時の授業時に学生にフィードバックします。

### 【参考書】

授業の中で必要に応じて専門分野の冊子などを紹介します。

### 【注意事項】

毎回小テストを行います。  
授業を欠席した場合は、課題を課しますので、必ず期限までに提出してください。

## フードシステム各論

松岡 康浩

2年 前期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

フードシステム総論を踏まえ、様々な視点から食に関する個々の領域について論じます。近年、食糧生産の基本である農水産業（1次産業）のみならず、加工（2次産業）、流通（3次産業）を包括した6次産業という考え方が提唱されています。この考え方を産物ごとに見ていくとともに、地域振興、グローバル問題などとの関連の中で議論していきます。

### 【授業における到達目標】

フードシステムを巡る種々の課題について、考える力を身につけます。

### 【授業の内容】

- 第1週 フードシステム概論
- 第2週 1次産業から6次産業へ
- 第3週 農産物（1）コメ、穀物
- 第4週 農産物（2）野菜
- 第5週 畜産物（1）酪農
- 第6週 畜産物（2）畜肉
- 第7週 水産物
- 第8週 加工食品
- 第9週 地域振興とフードシステム
- 第10週 農畜産物のマーケティング
- 第11週 農業の品質管理
- 第12週 グローバル化におけるフードシステム
- 第13週 食をとりまく政治的問題
- 第14週 震災とフードシステム
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学習：当該回の講義内容に関する社会の動きを新聞などで事前に調べ、自分なりにまとめておく。（学修時間 週2時間）

事後学修：まとめテストの内容を再確認し、解らないところがあれば調べ、整理しておく。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

日本フードスペシャリスト協会編『三訂 食品の消費と流通』（建帛社 2016年）1900円＋税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験70% 授業態度及びまとめテスト30%  
まとめテストは採点の上、次週返却し答え合わせを行います。

### 【参考書】

フードシステム学叢書4『フードチェーンと地域再生』（農林統計出版 2014年）3800円＋税  
日本フードシステム協会編『東日本大震災とフードシステム』（農林統計出版 2012年）1500円＋税

## フードシステム総論

松岡 康浩

1年 後期 2単位

○：国際的視野

### 【授業のテーマ】

食品の生産・加工・流通・消費に至る過程であるフードチェーンおよびその関連分野は、フードシステムと呼ばれます。その実態を理解し課題を把握し解決策を考えることは、食品産業を論ずる上で重要です。

本講義では、わが国におけるフードシステムの現状を明らかにするとともに、将来の国内食産業及び消費者のあり方を考察します。

### 【授業における到達目標】

フードスペシャリストとして必要なフードシステムについての理解を深めることを目標とします。

### 【授業の内容】

- 第1週 日本の食生活の現状と課題
- 第2週 食生活の変化の要因
- 第3週 食材生産と需給の現状
- 第4週 食品工業
- 第5週 食品流通における卸売業
- 第6週 食品流通における小売業
- 第7週 外食
- 第8週 中食
- 第9週 フードマーケティング
- 第10週 フードチェーンにおける環境問題
- 第11週 食の安全・安心問題
- 第12週 食をとりまく政治的問題
- 第13週 食をとりまく国際問題
- 第14週 健全な食生活実現のための課題
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：テキストの該当箇所を事前に学修し、重要事項などについて確認をする。（学修時間 週2時間）

事後学修：まとめテストの内容を再確認し、解らないところは調べ理解を深める。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

日本フードスペシャリスト協会編『三訂 食品の消費と流通』（建帛社 2016年）1900円＋税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験70% 授業態度及びまとめテスト30%

まとめテストは採点の上、次週返却し答えあわせを行います。

## フードスペシャリスト論

杉山 靖正・松岡 康浩

1年 前期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

フードスペシャリストは、食に関する専門職として公益社団法人「日本フードスペシャリスト協会」が認定する資格です。この授業では、フードスペシャリストの業務内容や専門性を理解するとともに、受験資格を得るために必要な履修教科の内容を概説します。また、模擬試験などにより認定試験の概要を把握します。

食品産業に就業するためには、食に関する幅広い知識・技能が求められます。講義を通じて、食品産業における業務の内容について理解を深めます。

### 【授業における到達目標】

日本や世界の食の歴史や文化の多様性を学ぶことで多様な価値観を身につけ国際的視野を広げます。また、現代社会における食に関する諸問題と課題を正しく評価し、自らの力で問題解決につなげることができる能力(研鑽力)を身につけることを目標とします。

### 【授業の内容】

- 第1回 フードスペシャリスト資格制度
- 第2回 フードスペシャリストの役割と責務
- 第3回 人類と食物（1）人類と食環境の歴史
- 第4回 人類と食物（2）食品加工・保存技術史
- 第5回 世界の食、世界の食事情
- 第6回 日本の食物史と食の地域差
- 第7回 戦後の食生活の変化と現代の消費生活
- 第8回 現代社会の食環境と課題
- 第9回 食品産業の役割（1）フードシステムと食品産業
- 第10回 食品産業の役割（2）食品流通業、外食産業
- 第11回 食品の品質規格と表示（1）食品の規格と法体系
- 第12回 食品の品質規格と表示（2）JAS法、食品衛生法
- 第13回 食品の品質規格と表示（3）健康増進法、食品表示法
- 第14回 食情報と消費者保護
- 第15回 模擬試験

### 【事前・事後学修】

【事前学修】毎回、次回で講義する範囲に関連する練習問題を配布するので、テキストの該当箇所を予習し事前に問題を解いておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】manabaに掲載する練習問題の解答と解説を参考に復習をすること。成績評価試験は練習問題を基本に出題します。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

日本フードスペシャリスト協会編『四訂フードスペシャリスト論（第3版）』（建帛社）2,000円＋税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験80%、練習問題の成績10%、講義への取り組み態度10%で評価します。練習問題や模擬試験の解答と解説をmanabaに掲載することでフィードバックします。

### 【参考書】

『食品表示-食品表示法に基づく制度とその実際-』（建帛社）

### 【注意事項】

フードスペシャリスト資格試験は使用テキストから出題されるので内容をしっかりと理解しておくこと。また、毎回行う練習問題はフードスペシャリスト資格試験の過去問を中心に出题します。

日頃から食に関する報道等に注目し、食を取り巻く諸問題について関心を持ち自ら調べる習慣を身につけるようにしてください。

## フードビジネス研究

松岡 康浩

3年 後期 2単位

○：国際的視野、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

食品産業を構成する企業を理解するために、食品製造、流通、販売など様々な立場の食品企業から、フードビジネスの実際を学びます。食関連企業の方を外部講演者として招き、企業の考え方、実務を講義いただきます。その上でビジネスを行う上での課題、戦略などについてグループワークを行います。

### 【授業における到達目標】

疑問点や課題について議論する中で、社会で活躍するための気づきを得ることが目標です。

### 【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン（講義の進め方）
- 第2週 企業講演1（外食産業 チェーンレストラン）
- 第3週 外食業界についてのグループディスカッション
- 第4週 企業講演2（外食産業 チェーンレストラン）
- 第5週 事例研究（経営者）
- 第6週 企業講演3（食品製造業 冷凍食品会社）
- 第7週 冷凍食品業界についてのグループディスカッション
- 第8週 企業講演4（食品製造業 乳業会社）
- 第9週 乳業界についてのグループディスカッション
- 第10週 事例研究（食品企業のM&A）
- 第11週 企業講演5（流通業 卸）
- 第12週 流通業界についてのグループディスカッション
- 第13週 企業講演6
- 第14週 振り返り（GW；食品企業経営に必要なものとは）
- 第15週 レポート発表

外部講演者は調整中です。

講演者の都合により予定変更の可能性があります。

### 【事前・事後学修】

事前学修：講演予定の業界、企業について調べ、質問を予め準備する。（学修時間 2時間）

事後学修：授業時に質疑応答、懇談を行うので、改めて調べた内容を含め、レポートにまとめる。（学修時間 2時間）

### 【テキスト・教材】

テキストは使用しません。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

各回の個別レポート40%、班ごとの発表の内容（その業界の課題、考察、気づき等）50% 授業への積極的取り組み姿勢10%  
個別レポートは次週のグループワーク後に評価し、発表については都度講評します。

### 【注意事項】

問題解決型アクティブラーニングです。活発なディスカッションを行うため、定員を40名とします。履修希望者が多い場合は抽選となります。積極的に議論する意欲のある学生の履修を望みます。

## フードマーケティング論

松岡 康浩

3年 前期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、美の探究

### 【授業のテーマ】

食品企業が商品を開発、販売する際に重要となるマーケティングについて学びます。どのお客さまに、どのような商品を、どのように販売するかなど、マーケティング活動の実際を、企業担当者を招いて講演いただきます。企業活動の基本であるマーケティングの理論、手法について理解し、実践的な知識を身につけます。

### 【授業における到達目標】

マーケティングの基本を理解し、自分なりのアイデアを出せるようにします。

### 【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 企業講演1 市場調査会社
- 第3週 マーケティングの基本
- 第4週 マーケティング・リサーチ1 考え方
- 第5週 マーケティング・リサーチ2 手法
- 第6週 企業講演2 食品メーカー
- 第7週 マーケティングの骨子（1）  
セグメンテーションとターゲティング
- 第8週 マーケティングの骨子（2）  
マーケティングミックス
- 第9週 適性把握
- 第10週 商品コンセプト
- 第11週 市場対応戦略 ブランドとマーケティング
- 第12週 企業講演3 流通企業
- 第13週 顧客価値と顧客満足
- 第14週 振り返りと議論
- 第15週 総括

外部講演者は調整中です。

講演者の都合により、日程を変更する場合があります。

### 【事前・事後学修】

事前学修：外部講師が所属する業界、企業について事前に調べ、どのようなマーケティングを行う会社かを理解しておく。（学修時間 2時間）

事後学修：レポート作成およびまとめテストを再確認する。（学修時間 2時間）

### 【テキスト・教材】

テキストは使用せず、プリント資料を配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験40% 課題レポートおよびまとめテスト60%

まとめテストは採点の上、次週返却し答えあわせを行います。

### 【参考書】

浅田和美著「商品開発マーケティング」（日本能率協会）

## ファイナルプロジェクト

### 担当教員全員

4年 集通 4単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

各自が所属した研究室において、4年間の学びの集大成としての卒業研究を行います。自ら主体的に課題を見つけ、その課題解決に向けての方法を探求し、資料を集め、粘り強く論考し、卒業論文または卒業制作にまとめます。これまで学修した知識や技術を総合化していくこのファイナルプロジェクトで、「生活の豊かさ」をもたらす持続可能な社会を展望し、企画力、構想力、実践力、論理的な思考力を高め、卒業後の社会人力、生活者としての自らの視点を支える基盤を完成させます。具体的な内容や進め方については、各担当教員によります。

### 【授業における到達目標】

学生が身につけるべき力のうち、学修を通して自己成長する「研鑽力」、課題解決のために主体的に行動する「行動力」、相互を活かして自らの役割を果たす「協働力」、これらすべての力を総合的に磨くことを目標とします。そして、知を求め、心の美を育む「美の探求」の態度を養います。

### 【授業の内容】

研究室構成員の問題意識に応じて、各担当教員が指導を行う。  
以下のような内容が含まれる。

- ・テーマの設定
- ・卒業研究の実施方法の選択（卒業論文または卒業制作）
- ・先行文献や先行事例の調査・分析
- ・卒業研究の目的、方法の設計
- ・卒業研究の遂行（文献分析、調査、実験、制作等）
- ・結果の考察
- ・中間発表
- ・修正点の再考
- ・要旨の作成
- ・卒業研究の提出
- ・卒業研究発表会

### 【事前・事後学修】

#### 【事前学修】

担当教員の指導を受けるにあたって必要な事前準備を行う（学修時間：週2時間以上）

#### 【事後学修】

担当教員の指導に従い、卒業研究を主体的にすすめる（学修時間：週2時間以上）

### 【テキスト・教材】

各担当教員の指示に従うこと

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

研究活動への取り組み、中間発表、卒業研究発表会での発表、要旨および卒業論文等提出物の内容を総合的に判断する。

### 【参考書】

各担当教員の指示に従うこと

## ファッショングラフィック演習

河本 和郎

1年 後期 1単位 2時限連続 隔週

◎：行動力 ○：美の探究、研鑽力

## 【授業のテーマ】

コンピュータを活用したデザインや描画、画像編集の手法を習得する。ビットマップ系グラフィックソフト（Adobe社製Photoshop）とベクトル系グラフィックソフト（Adobe社製Illustrator）を使用し、それぞれの画像処理の手法やこれら2系統の画像の融合、編集方法を学ぶ。その上で、デジカメで撮影した画像や自分で描いたイラストを編集し、目的に合致した印刷物やデジタルコンテンツの制作ができる技術と知識を身につける。

## 【授業における到達目標】

ネット社会で情報発信の必須コンテンツであるデジタル画像が扱えるようになる。

漠然としたイメージを具体的にビジュアルな成果物にまとめる力を修得する。

## 【授業の内容】

第1回：①授業の進め方と作品の紹介

②Photoshop、Illustratorの概要説明

第2回：③Illustratorの基本操作：パスの構造とその基本操作の説明

④パスを使った基本オブジェクトの作成

第3回：⑤Photoshopの基本操作：画像解像度とカラーモード、選択範囲と画像編集

⑥Photoshopの基本操作：画像の切抜きとマスク画像の作成

第4回：⑦Photoshopの基本操作：デジカメ画像の取込と編集

⑧Photoshopの基本操作：レイヤーの概念とレイヤーを使った画像の合成と編集

第5回：⑨Illustratorでビットマップ画像と文字・文章の扱い

⑩各種ツールを使ったオブジェクト作成方法とレイヤー操作

第6回：⑪ビジュアルブックの制作：ブックの構成とストーリー

⑫ビジュアルブックの制作：画像・文章の編集およびレイアウト

第7回：⑬ビジュアルブックの制作：印刷原稿の作成方法

⑭ビジュアルブックの制作：印刷原稿の作成と入稿

第8回：⑮ビジュアルブックの発表と講評

## 【事前・事後学修】

## 【事前学修】

関心のあるファッションやビジュアル表現の画像資料を収集する。日常の面白い風景、事物をデジカメ（スマホ）で撮影したり、撮りためたデジカメ画像を整理しておく。（学修時間 週2時間）

## 【事後学修】

各回の演習内容をUSBメモリーにPDF形式で保存し確認、復習する。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

専用テキストと必要に応じてプリントを配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績は、ビジュアルブックの技術、アイデア、ストーリーを75%事前準備を含め授業に対する積極的な態度を25%として評価する。フィードバックは、成果物の技術的な巧拙の指摘と表現方法については様々な手法を紹介をする。

## 【注意事項】

本講座は、後期隔週木曜日4限、5限下記日程にて開講する。

第1回：09月27日（①、②） 第2回：10月11日（③、④）

第3回：10月25日（⑤、⑥） 第4回：11月08日（⑦、⑧）

第5回：11月22日（⑨、⑩） 第6回：12月06日（⑪、⑫）

第7回：12月20日（⑬、⑭） 第8回：01月17日（⑮）

\*カッコ内の番号は、授業内容の番号

\*データ保存用にUSBメモリー（8GB以上）を準備する。

## ファッションデザイン論

ヒトを包む、立体と平面の会話

河本 和郎

1年 前期 2単位 2時限連続 隔週

◎：研鑽力 ○：美の探究

## 【授業のテーマ】

日本のアパレル産業は、「つくる時代」から「うる時代」を経て、「つながる時代」に入っています。ファッションデザインは、見た目の変化ではなく、ユーザーがくらしを楽しむ価値の表現に変わってきています。本講座では、ファッションデザインを、ヒトの体を包む立体として、そしてそれを平面に展開するデザインワークとして解説していきます。授業では、1/2ボディに薄くてほつれない不織布を使って、切ったり貼ったりドール服をつくるような感覚で、デザインを立体的に考察していきます。また、制作した立体をパソコンに取り込み、色や柄、付属（レース・リボン・ボタン等）の大きさや位置を検討しながら各自のポートフォリオ（作品集）を作成します。

## 【授業における到達目標】

日本のアパレル産業の変遷とファッションデザイナーの役割の移り変わりが理解できる。

デザインを立体的にとらえ、それを展開された平面としてイメージできるようにする。

## 【授業の内容】

第1回 オリエンテーションと日本のアパレル産業の変遷

①授業の内容、進め方を説明する。

②日本のアパレル産業を、「つくる・うる・つながる」の3つの時代に区分し、それぞれの特徴とアパレル産業の現状を解説する。

第2回 服を立体で捉える

③最新CADと3Dシミュレーションソフトを紹介し、つながるデザインワークの可能性を解説する。

④ヒトの形を包む・ヒトの形を展開する。（自分のデザイン原型を作成）

第3回 立体で衣服を考える

⑤原型をもとに切り替え、分割でデザインを変更してみる。（デザインと型紙）

⑥原型をもとに服の形を変えてみる。（デザインとフォルム）

第4回 立体でデザインを考える（1）

⑦自分で考案したデザインを立体に組み上げる。

⑧ボタン、付属、装飾を検討する。

第5回 立体でデザインを考える（2）

⑨前回の立体を平面（型紙）に展開する。

⑩型紙をもとに立体でデザインバリエーションを組んでみる。

組み上げたデザイン（立体）をデジカメ（スマホ）で撮影し、サーバーに保存する。

第6回 デザインシミュレーション

⑪デザインワークで定番のAdobe社のグラフィックソフト「Illustrator」の操作説明をする。

⑫サーバーに保存した画像を、素材と色・柄を想定してIllustratorで加工処理する。

第7回 デザインバリエーション

⑬色、柄を変えてデザインのバリエーションを組む。

⑭作成したデザインバリエーションでポートフォリオを作成する。

第8回 プレゼンテーション

⑮デザインポートフォリオの発表と総括としてファッションの楽しみ方をみんなで討論する。

## 【事前・事後学修】

## 【事前学修】

自分の持っている服（特にワンピース）を、構造的に再確認しておく。ネット、雑誌、ショップ等をチェックし、作りたいデザイン（色、柄含む）の情報を収集しておく。（学修時間週2時間）

## 【事後学修】

制作した型紙と服装造形の教科書等に掲載されている型紙と比較して、型紙についての認識を深める。（学修時間週2時間）



**【テキスト・教材】**

必要に応じて印刷物を配布する、また参照するURL等を提示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業に臨む姿勢（事前・事後学習含む）：30%

立体作品：30%

ポートフォリオ：40%

フィードバック：ファッションデザインを、立体として把握し、平面（型紙）をイメージできるようにする。ポートフォリオの発表を通していろいろな考えがあることを理解する。

**【注意事項】**

本講座は、前期隔週土曜日8回、3限、4限下記日程にて開講する。

1回目：4月14日（①、②） 2回目：4月28日（③、④）

3回目：5月19日（⑤、⑥） 4回目：6月02日（⑦、⑧）

5回目：6月16日（⑨、⑩） 6回目：6月30日（⑪、⑫）

7回目：7月14日（⑬、⑭） 8回目：7月28日（⑮）

\*カッコ内の数字は授業内容の番号

\*定規、はさみ、カッター、データ保存用のUSBメモリーを準備する。

**ファッションビジネスの世界**

大川 知子

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

生活創造産業としてのファッションビジネスは、時代や生活者の変化に伴い、常に変化し続けるビジネスである。本講座は、ファッションビジネスの入門編として、アパレル製品を主軸に置きながら、前半はビジネスの概観や形成過程を学び、その複雑な産業構造を理解する。後半は、グローバルな展開が見られる現代ビジネスの潮流を理解する。

**【授業における到達目標】**

1. ファッション産業の概観を理解し、ビジネスに関する基本的知識を体得する。
2. 大きな変革期にあり、多様化するファッションビジネスの現状を「国際的視野」に立脚して理解する。
3. 習得した知識を、実際の場で応用することが出来る「研鑽力」を醸成する。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーションーファッションを「ビジネス」として捉えるということ
- 第2週 ファッション産業の概観とその形成過程
- 第3週 テキスタイル産業の歴史とその特色
- 第4週 アパレル産業の歴史と特色① 戦前・戦後
- 第5週 アパレル産業の歴史と特色② 高度成長期からバブル経済崩壊まで
- 第6週 SPA企業の勃興
- 第7週 グローバルなファストファッション
- 第8週 小売業態① 百貨店・量販店（GMS）・専門店
- 第9週 小売業態② ショッピングセンター（SC）・ファッションビル
- 第10週 ラグジュアリー・ブランドの形成
- 第11週 ラグジュアリー・ブランドの企業事例
- 第12週 事例研究 ※外部講師（実務者）を予定
- 第13週 インターネットの出現が及ぼした産業界への影響
- 第14週 ファッション化する社会
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

毎回異なるテーマを扱う為、一回ずつの内容に対して予習復習（共に2時間程度）をしておくこと。事前に課題を提示する場合もある（学修時間 4時間程度）。

**【テキスト・教材】**

必要に応じて、プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験70%、提出課題30%で評価を行う。また、試験・課題共、原則的に提出の翌週以降に返却と解説を行う。

**【参考書】**

1. 織研新聞、WWD JAPAN等の業界紙（図書館とファッションビジネス研究室で購読中）
2. 『被服学辞典』（朝倉書店、2016年）18,000円（税別）
3. 『ファッションビジネスの世界』（（一社）日本衣料管理協会、2011年）1,000円（税込）※書店では販売されていない為、希望者は教員に申し出ること。

**【注意事項】**

欠席が事前に分かっている場合には、その時点で申し出ること。公欠は大学の規定で認められているもののみ、かつ申請書類は必ず事前に提出のこと。

## ファッションビジネス演習

大川 知子

3年 前期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

## 【授業のテーマ】

講座の前半は、ファッションビジネスを遂行するために必要な商品知識をアイテム毎に学び、後半は、それらをビジネスに繋げていくための計数について学ぶ。本講座は、1年次（後期）の『ファッションビジネスの世界』、2年次（前期）の『ファッションビジネス論』をベースに授業を進める。

## 【授業における到達目標】

1. アイテム研究を通してのファッションビジネスにとって最も重要な商品知識と、計数の基本を体得する。
2. 各アイテムを代表する世界の逸品について、それらの製品が誕生した歴史的背景を理解し、国際的視野を広げる。
3. 学んだ知識をベースに、商品価値ある美を探究する力を醸成する。

## 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション — 現代のファッションビジネスに求められていること
- 第2週 商品知識① ニットを知る
- 第3週 商品知識② ニットを語る
- 第4週 商品知識③ シャツを知る
- 第5週 商品知識④ シャツを語る
- 第6週 商品知識⑤ パンツを知る
- 第7週 商品知識⑥ パンツを語る
- 第8週 商品知識⑦ ジャケットを知る
- 第9週 商品知識⑧ ジャケットを語る
- 第10週 計数の基本① 予算管理／売上管理
- 第11週 計数の基本② 在庫管理／仕入れ
- 第12週 発注演習① 発注とは
- 第13週 発注演習② 課題のプレゼンテーション
- 第14週 （校外学習）服飾関連施設の訪問（予定）
- 第15週 校外学習の振り返り — ディスカッションと全体のまとめ

## 【事前・事後学修】

各自のワードローブも教材のひとつである。指示を受けた課題は事前に行うこと（学修時間 2時間程度）。また、学んだ後は、店頭で実際の製品に触れ、復習としての検証を行なうこと（学修時間 2時間）。

## 【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト 20%、課題の取り組み、教室内での発言 80%で評価する。また、試験・課題共、原則的に提出の翌週以降に返却と解説を行なう。

## 【参考書】

1. 『ファッション辞典』（文化出版局、1999年）4,000円（税別）
2. 『被服学辞典』（朝倉書店、2016年）18,000円（税別）

## 【注意事項】

2年次（前期）の『ファッションビジネス論』を受講していることが望ましい。演習のため、授業内における学生の主体的な参画を期待する。

欠席が事前に分かっている場合には、その時点で申し出ること。公欠は大学の規定で認められているもののみ、かつ申請書類は必ず事前に提出のこと。

## ファッションビジネス論

大川 知子

2年 前期 2単位

◎：研鑽力

## 【授業のテーマ】

1年次の『ファッションビジネスの世界』で学んだ基礎知識を踏まえた上で、複雑、かつ日々変化する現代のファッションビジネスの潮流を理解する。また本講座は商品装飾展示技能検定（国家資格）3級の取得を目指し、VMDの基礎を体得する。

## 【授業における到達目標】

1. 業界紙（織研新聞、WWD JAPANなど）やファッションサイトに書かれてある内容をきちんと理解できるようになる。
2. 実際に店頭を見た時に、商品構成や展開分類を活用して分析出来るようになる。
3. 現代のファッションに関する課題を、様々な角度から検討出来るようになる「研鑽力」を醸成する。
4. 商品装飾展示技能検定3級の取得を目指す。

## 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション：ファッションビジネスの今日的課題
- 第2週 事例研究① 店頭から見えること  
※外部講師（実務者）を予定
- 第3週 店頭の重要性① 商品分類
- 第4週 店頭の重要性② 定数定量
- 第5週 店頭の重要性③ 展開分類
- 第6週 課題—店頭リサーチ① 商品構成／定数定量
- 第7週 店頭の重要性④ VMDの基本(1)
- 第8週 店頭の重要性⑤ VMDの基本(2)
- 第9週 店頭の重要性⑥ VMDの基本(3)
- 第10週 課題—店頭リサーチ② VMD
- 第11週 課題—店頭リサーチ③ ブランディング
- 第12週 課題の総括
- 第13週 事例研究② 店頭から見えること  
※外部講師（実務者）を予定
- 第14週 事例研究③ 店頭事例
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

1. 織研新聞やWWD JAPAN等の業界紙を読むこと（図書館やファッションビジネス研究室で購読中）。（学修時間 1時間）
2. 講義で取り上げた店舗などを実際に見学すると、より深く現場で行われている応用を理解することが出来る。（学修時間 3時間）
3. 商品装飾技能検定受験に際しての講習（実技）を夏期休暇中に実施する（予定）。

## 【テキスト・教材】

1. 日本ビジュアルマーチャンダイジング協会『VMD用語辞典』（エポック出版、2016年）2,500円（税込）
2. 日本ビジュアルマーチャンダイジング協会『商品装飾展示技能検定ガイドブック』（織研新聞社、2014年）3,000円（税抜）

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験50%、課題への取り組み等50%で評価を行う。また、試験・課題共、原則的に提出の翌週以降に返却と解説を行なう。

## 【参考書】

1. 織研新聞、WWD JAPAN、日経MJ等の各紙（図書館とファッションビジネス研究室で購読中）。
2. 尾原蓉子『Fashion Business 創造する未来』（織研新聞社、2016年）2,000円（税別）

## 【注意事項】

1. 商品装飾展示技能検定対策の夏期講習を受講の場合、別途費用が必要となる場合がある（検討中）。
2. 欠席が事前に分かっている場合には、その辞典で申し出ること。公欠は大学の規定で認められているもののみ、かつ申請書類は必ず事前に提出のこと。

## ファッション企画論

川上 梅

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

### 【授業のテーマ】

ファッション商品に関する基礎知識やファッション企画に必要な情報収集・分析、商品化企画の基本を学ぶことを目標とする。企画書作成などの演習も交えながらファッション企画開発力、企画構成力を養う。発展的な課題として、企画の基礎にある心理学的な視点からの調査・解析方法にも触れる。

### 【授業における到達目標】

ファッション商品の企画を演習形式で学習し、アパレル現場で働くための自信を身に付ける。

### 【授業の内容】

- 第1週 消費者行動とファッション生活
- 第2週 ファッション生活の生活面Ⅰライフスタイル
- 第3週 ファッション生活の生活面Ⅱ季節による変化
- 第4週 ファッション生活の感性面Ⅰタイプ
- 第5週 ファッション生活の感性面Ⅱ年齢
- 第6週 ファッション生活の感性面Ⅲ流行
- 第7週 マーケティングと商品企画
- 第8週 基本とスケジュール
- 第9週 ターゲット企画
- 第10週 情報企画
- 第11週 商品コンセプト企画
- 第12週 コーディネート企画
- 第13週 アイテム企画
- 第14週 プロモーション企画
- 第15週 まとめ（企画現場の実状）

### 【事前・事後学修】

〔事前学修〕小テスト・発表等の課題に取り組むこと（学修時間 週2時間）

〔事後学修〕小テスト・発表等を復習すること。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

『ファッション・マーケティング』（ファッション教育社）2012年発行、本体価格1,600円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト（40%）、レポート・発表等（60%）で総合的に評価。小テストは次回授業でフィードバックを行う。課題発表は学生同士の意見交換を行い、フィードバックする。

## ファッション文化史

徳井 淑子

1・2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

### 【授業のテーマ】

古代ギリシャから現代におよぶヨーロッパの服飾史から特徴的な事例を挙げ、服飾造形およびその表現性に着目して、西洋服飾文化史のアウトラインを解説する。衣服の形態や装飾、色彩や文様、あるいは着装など服飾造形の側面、および異文化接触や異国・懐古趣味、あるいはジェンダー規範や子ども服など社会表象の側面、両者を絵画やモード版画などの図像、または文学・文書の記録によって示し、ファッションが担う多彩な表現性を解説する。ひとがいかにかに多様なかたちを創り、そこにいかにかにコミュニケーション機能を託してきたか、ファッション文化の豊かさを理解する。

### 【授業における到達目標】

ヨーロッパ服飾史上の多彩な造形性と表現性を自分のことばで説明できるようになり、そのような歴史的視野で現代ファッションを批評することができるようになる。それによって多様性を受容できる国際的視野を養うことができる。また自らのファッションを通して感受性を深め、新たな美を創造することができるようになり、衣生活という身近な問題について洞察力を深め、生活の諸問題の本質を見抜くことができるようになる。

### 【授業の内容】

- 1 古代ギリシャ、ローマの服飾造形
- 2 中世服飾の造形性
- 3 色彩感情と服飾
- 4 文様の意想
- 5 黒の発見と黒服の系譜
- 6 ルネサンスの服飾造形
- 7 17世紀服飾の装飾性
- 8 18世紀服飾の遊戯性
- 9 更紗の流行と異国趣味
- 10 ダンディズムと紳士服の伝統
- 11 19世紀の服飾造形
- 12 ジャポニズムとジェンダー
- 13 20世紀ファッションとシャネル
- 14 デザインにおけるオリジナルとコピー
- 15 まとめ

### 【事前・事後学修】

- ・事前学修：教科書『図説ヨーロッパ服飾史』で、今回の授業に該当する部分を予習する。特に図版を見ながら時代のファッションの造形的特徴を自分のことばで説明する試みをする。（学修時間 週2時間）
- ・事後学修：該当の時代やテーマに関する服飾を描いている絵画作品を自ら探してみよう。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

徳井淑子著『図説ヨーロッパ服飾史』（河出書房新社 2010年）  
1890円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験60%、平常点（授業への積極参加・授業後のコメントペーパーの内容）40%。コメントペーパーの内容は、次回授業でフィードバックを行う。

### 【参考書】

深井晃子監修『カラー版世界服飾史』（美術出版社 2008年）  
横川公子編著『服飾を生きる』（化学同人 1999年）

### 【注意事項】

できるだけ多くの図版を呈示します。授業には必ず出席し、絵画などの図版を見ることになれることが重要です。

## ファッション文化論

徳井 淑子

2年 前期 2単位

◎：研鑽力

## 【授業のテーマ】

衣服を着るという行為はきわめて個人的なことだが、同時に社会的・文化的意味をもっている。古代ギリシヤから現代におよぶヨーロッパの服飾史から特徴的な事例を挙げ、ファッションの社会的・文化的意味を解説する。テーマを1) 服飾造形とデザイン創作、2) 色彩と文様の表現、3) 異国趣味とレトロ趣味、4) ジェンダー規範と身体意識の四つにわけ、絵画やモード版画などの図像、または文学や文書の記録を呈示し、服飾が担う多彩な表現性を解説する。ひとがいかにかに多様なかたちを創り、そこにいかにかにコミュニケーション機能を託してきたか、ファッション文化の豊かさを理解する。

## 【授業における到達目標】

ファッションの表現性とはどのようなことか、歴史的な事例によって自身のことばで説明できるようになり、さらに現代ファッションの特徴を表現の側面から批評できるようになる。ヨーロッパ史上の多彩な服飾表現を知ることにより多様な価値観を身につけ、また東西の文化の差異を理解することから国際的視野を養うことができる。

## 【授業の内容】

- 1 地中海文明とヨーロッパ文明の造形的差異
- 2 近世服飾の遊戯性と近代服飾の成立
- 3 20世紀ファッションの簡素化とシャネル
- 4 デザインにおけるオリジナリティと模倣
- 5 色彩感情と縞模様の東西比較
- 6 自然感情と緑衣の習慣
- 7 黒服の系譜とクロモフォビア
- 8 ダンディズムと燕尾服
- 9 中世の標章と文様の意匠
- 10 涙模様とハート型の文学的抒情性
- 11 近代の洋装化とジャポニスム
- 12 古代復古調と東洋趣味
- 13 ジェンダー規範
- 14 子ども服と子ども観
- 15 まとめ

## 【事前・事後学修】

事前学修：教科書で次回授業の範囲を予習する。特に図版を見ながら歴史上いかに多様なファッションがあったのか観察する。（学修時間 週2時間）

事後学修：服飾の表現性について個々の事例で学んだことが、現代ファッションにはどのように現れているか、応用問題として考えてみる。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

徳井淑子著『図説ヨーロッパ服飾史』（河出書房新社 2010年）  
1890円

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験70%、平常点（授業への積極参加・授業後のコメントペーパーの内容）30%。コメントペーパーの内容を次回授業でフィードバックする。

## 【参考書】

深井晃子監修『カラー版世界服飾史』（美術出版社 2008年）  
横川公子編著『服飾を生きる』（化学同人 1999年）

## 【注意事項】

図版をできるだけ多く呈示します。図版を見ることになれることが重要ですから、欠席することなく毎回しっかり図版を見てください。

**フィールドリサーチ a (環境・エネルギー)**

環境・エネルギー領域の基礎的なアクティブ・ラーニング

菅野 元行

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

※演習要素の濃い科目のため、環境・エネルギー分野に関心のあることや、積極的に自ら学び取る意欲が必要です。

※演習要素の濃い科目のため、欠席や遅刻は成績に大きく影響しません。

**【授業のテーマ】**

環境科学概論や現代社会を読み解くd(科学技術と社会)に関連して、「環境・エネルギー分野」の演習の基礎として、環境・エネルギー分野のプロジェクト学習や、学外展示見学による課題研究を通して学習します。プロジェクト学習は2年次のプロジェクト演習の先取りの形です。また、関連した施設(科学技術館など)や展示(エコプロダクツ展など)の予備調査、実地調査を通して習得したことをグループ討論形式で問題点を整理します。演習要素の濃い科目のため、環境・エネルギー分野に関心のあることが必要です。(これまでの理解度は問いません。)

**【授業における到達目標】**

- ①環境・エネルギー分野のプロジェクト学習を通して、自ら積極的に学び取る姿勢を身につける。
- ②実社会の環境・エネルギー分野の展示見学を通して、社会における環境・エネルギー分野の重要性を理解する。以上により学生が習得すべき「行動力」「研鑽力」を身につけることを目的とする。

**【授業の内容】**

- 1 オリエンテーション
- 2 論文検索方法
- 3 効果的なプレゼン資料の作成方法
- 4 プロジェクト学習の基礎
- 5 プロジェクト学習の調査(1回目)
- 6 プロジェクト学習の評価検討(1回目)
- 7 プロジェクト学習のグループ討論(1回目)
- 8 プロジェクト学習の調査(2回目)
- 9 プロジェクト学習の評価検討(2回目)
- 10 プロジェクト学習のグループ討論(2回目)
- 11 展示・施設の事前調査
- 12 展示・施設の実地調査
- 13 展示・施設の調査結果の作成
- 14 プロジェクト学習の最終発表・討論
- 15 振り返り・まとめ

プロジェクト学習の一例として、エコキャンパスマップの作成、自然エネルギーキャンパスの策定、環境・エネルギー分野を広めるための活動、などが挙げられるが、履修生の希望に沿った内容とします。

**【事前・事後学修】**

【事前学修】各授業回に応じた準備学修を指示しますので、事前に取り組んでください。その際に分からない言葉は事前に調べておいてください。(学修時間 週2時間)

【事後学修】グループ討論後には、討論結果を踏まえた事後学修に取り組み、次回の討論時まで精度を上げてください。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

必要に応じてプリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点(授業中のアクティビティ)80%、各自の取り組み内容20%。フィードバックはグループ発表の次の回に行います。

**【参考書】**

学外見学の日時は、履修生諸君の都合に合わせて。自由見学が担当教員の引率かも選ぶことができます。見学する施設についても履修生諸君の希望を聞きながら決めます。

博物館例：ガスの科学館、科学技術館、日本科学未来館、木材・合板博物館、東京都水の科学館、東芝未来科学館、など

履修生諸君が希望するならば、川崎エコ暮らし未来館(メガソーラーなど)、森ヶ崎水再生センター(バイオガス発電、小水力発電)などの見学も可能です。

**【注意事項】**

## フィールドリサーチ b (自然環境)

君塚 芳輝

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

## 【授業のテーマ】

フィールドリサーチは3つの科目に分かれました。この科目では自然科学の見地から話題を提供していきます。私たちが学ぶ大学の日野キャンパスや通学の途中に見える風景の中にも、環境問題を考えるヒントは沢山隠れています。この科目では日常の風景を題材に、環境への配慮や調査で読み取る方法について分かりやすく考えていきます。数式や化学式を用いなくても環境について考え、配慮することができます。いくつかの現場体験を含めて、周囲を見て環境のことを考えられる視点を育てるのが目標です。

## 【授業における到達目標】

環境の把握に必要な調査を切り口として、問題点を分析するための多様な視点と発想を身に付けて戴くことを目標としています。簡単な水辺での調査方法についても解説します。紹介する外部のフィールドワークにもできるだけ参加するようにお願いします。15回の授業がおわる頃には複数の視野や立場になって考えることができる力(研鑽力)が得られるようになることを到達目標にしています。

## 【授業の内容】

1. 概要と目指す事柄の説明 見て考える素養を養ってください
2. 日野キャンパスの環境を見る-1 本学には豊かな環境配慮が
3. 日野キャンパスの環境を見る-2 キャンパス内を歩いて考える
4. 生物多様性を考える-1 生きものが多いのが多様性ではない
5. 生物多様性を考える-2 実は環境省が示す原則にも誤りが!
6. 生物多様性を考える-3 データの分析で分かる多様性の理解
7. 雨水の地下浸透-1 雨の日も学内が歩きやすいのはなぜ?
8. 雨水の地下浸透-2 表面に水が貯まらないと滑らずに安全
8. 雨水の地下浸透-3 雨水浸透柵で屋根雨水を地下に浸透させる
9. 雨水の地下浸透-4 雨水の浸透と貯溜は両方取り組むのが理想
10. 魚類の調査を知る-1 魚の採集には多様な漁具と漁法がある
11. 魚類の調査を知る-2 採集データを解析して考えられること
12. 魚類の調査を知る-3 市民が行なう調査でもデータを残そう
13. 水辺での安全管理の基礎-1 事故の事例を知って危険を防ぐ
14. 水辺での安全管理の基礎-2 水辺での安全管理を会得しよう
15. 講義のまとめと振り返り 映像で振り返って感想を伺います

## 【事前・事後学修】

毎回の授業前には、配布されたテキストを事前に読んでおいてください。内容で不明な点や分かりにくい所は積極的にご質問をお願いします。翌週にアンケート結果のまとめで回答と解説をしますので、復習の助けにしてください。ご紹介する参考文献は印刷しますので図書館で読んでください。図書館や自宅ではプリントやアンケート結果のまとめを読み返して理解できるように、予習と復習それぞれ2時間以上の学修をするよう努めてください。

## 【テキスト・教材】

特定の教科書は使わず配布するプリントと映像で講義を進めます。配布したプリントはその章が終るまでは毎回お持ち願います。毎週のスライドと一部動画も使い理解の助けとします(科目の特色)

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

それぞれの章を終わった時に800-1200字程度のレポートを書いて戴いて評価(90%)するほか、毎週書いて出されるフィードバックシートも点数化(10%)します。レポートは返却し解説を行いません。定期試験は行ないません。私が関わる水辺の活動にも積極的に参加してください。ささやかですが加点をします。

## 【参考書】

参考文献は章ごとにプリントに記入し、一部は閲覧します。図書館で読んでください。

## 【注意事項】

他の受験生に迷惑となる講義中の私語は慎んでください。ご質問や希望などがあれば口答でも、毎回授業中に書いて戴く感想シートでも、積極的にお伝え願えば対応を致します。

## フィールドリサーチ c (メディア)

高橋 徹

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

本授業ではフィールド調査を通してメディアの特性を理解することを目的としています。近年ではメディアを利用した個人の発信が容易になり、様々な情報や考えに触れる機会も増えてきました。ソーシャルメディアに至っては人との関わり方にも変化を持たしています。

こういった中で、情報の受信・発信を適切に行うメディア・リテラシの重要性が高まっています。ただし、この授業ではメディア・リテラシの説明は行いますが、最終的により具体的なメディア・リテラシが何なのかというのは自分で考えてもらいます。これはメディアの比較や企業や個人での利用方法の調査を通して結論を出してもらいます。これを考えることには今後もメディアのありようが変化したときに自分なりの考えを持てるようになってもらうためです。

## 【授業における到達目標】

1. メディアの特性を理解し、それに合わせたメディア・リテラシを身につける
2. 「協働力」をグループでの議論を通して身につける
3. 「研鑽力」をフィールド調査から自説を作ることを通して身につける
4. 「行動力」をフィールド調査での問題発見を通して身につける

## 【授業の内容】

1. オリエンテーション
2. メディアの種類
3. メディア・リテラシ
4. メディアの比較調査(導入)
5. メディアの比較調査(仮説生成)
6. メディアの比較調査(仮説検証)
7. メディアの比較調査(発表)
8. メディアの利用方法調査(導入)
9. メディアの利用方法調査(仮説生成)
10. メディアの利用方法調査(仮説検証)
11. メディアの利用方法調査(発表)
12. メディア・リテラシの提案(調査をもとに検討)
13. メディア・リテラシの提案(構成)
14. メディア・リテラシの提案(発表)
15. まとめ

## 【事前・事後学修】

グループワークが主たる作業になるので以下を行ってください。

〈事前学修〉

毎回次回の予告を行うのでそれに合わせて個人で簡単な調査を行って授業に臨んでください。(週2時間)

〈事後学修〉

グループ作業は授業内だけで終わるのは難しいのでグループ内で相談しつつ作業を完了してください。具体的にどこまで完了すればよいかは毎回の授業で説明します。(週2時間)

## 【テキスト・教材】

必要に応じて参考となる資料を配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

それぞれのグループワークの成果物で評価を行います。正解は必ずしもないので、論理性を重視して評価します。フィードバックは発表の都度、行っていきます。

(3つの節の発表で評価:比較調査30%, 利用方法調査30%, 提案40%)

## 【参考書】

特にはありませんが、質問などがあればその参考になる書籍を紹介することがあります。

## フィールドワーク 1

高橋 桂子・笹川 啓一・作田 由衣子・塩川 宏郷

1年 通年 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

＝4週分×3時間）を経験し、その時間数を先方に記録して頂く必要がある。

- ・フィールドへの交通費など諸費用は自己負担。
- ・校外に出かけるので、安全面などに十分に注意すること。
- ・外部講師の日程やフィールドに出かける日程などについては変更が生じる場合がある。

### 【授業のテーマ】

生活心理専攻では、①「『心理学の視点から生活の課題を分析し、解決する』とはどういうことか」、②「その意義は何か」を理解するため2年間にわたり4種類のフィールド（病院、対人支援サービス企業、心理系企業や障害者就労支援施設など）に出かける。フィールドの見学は4クラス（各クラス10名程度）に分かれて行う。フィールドでの実際の様子に基づき、学問的な知識や理論について批判的思考を行えるようになるための基盤を形成する。

### 【授業における到達目標】

①「身のまわりの生活のなかに、課題があることを知る」②「その課題の内容について言語で表現できる」ようになることが目標である。特に「行動力」・「協働力」の基礎を身につける。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 フィールドA事前指導①外部講師による講話①
- 第3週 フィールドB事前指導①
- 第4週 フィールドC事前指導①
- 第5週 フィールドD事前指導①
- 第6週 各フィールド見学ガイダンス① ※クラス別
- 第7・8週 各フィールド見学①（教員引率）※クラス別
- 第9週 各フィールド事後指導①・課題（発表準備）説明 ※クラス別
- 第10週 フィールドA事後指導①含 学生発表
- 第11週 フィールドB事後指導①含 学生発表
- 第12週 フィールドC事後指導①含 学生発表
- 第13週 フィールドD事後指導①含 学生発表
- 第14週 外部講師による講話②
- 第15週 前期のまとめ
- 第16週 フィールドA事前指導②外部講師による講話③
- 第17週 フィールドB事前指導②
- 第18週 フィールドC事前指導②
- 第19週 フィールドD事前指導②
- 第20週 各フィールド見学ガイダンス② ※クラス別
- 第21・22週 各フィールド見学②（教員引率）※クラス別
- 第23週 各フィールド事後指導②・課題（発表準備）説明 ※クラス別
- 第24週 フィールドA事後指導②含 学生発表
- 第25週 フィールドB事後指導②含 学生発表
- 第26週 フィールドC事後指導②含 学生発表
- 第27週 フィールドD事後指導②含 学生発表
- 第28週 外部講師による講話④
- 第29週 報告会に向けて
- 第30週 年間のまとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】見学前に、フィールドについて事前に必ず調べ、見学に出かけるフィールドの概要を理解しておくこと（学修時間週2時間）。

【事後学修】フィールドで経験した内容が、大学で勉強する理論や専攻とどう関連するか自分なりに考える（学修時間週2時間）。

### 【テキスト・教材】

佐藤郁哉（2002）『フィールドワークの技法—問いを育てる、仮説をきたえる』新曜社。3,045円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（フィールドでの取り組み、事前事後の学修および発表、質疑応答、課題提出など）100%。授業開始時に取り組んでいた点やつまづきがちだった点についてフィードバックを行う。

### 【参考書】

授業内で指示する。

### 【注意事項】

・原則として教員が引率し、各フィールドについて4週分×90分を経験するが、先方の都合などにより実習などを行う場合は12時間以上（



フィールドワーク 2

高橋 桂子・塩川 宏郷・笹川 啓一・作田 由衣子

2年 通年 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

【参考書】

授業内で指示する。

【注意事項】

2年次も、2種類のフィールド<sup>®</sup>に出かけることになる。原則として教員が引率し、各フィールド<sup>®</sup>について、4週分×90分を経験するが、先方の都合などにより、実習などを行う場合は、12時間以上（＝4週分×3時間）を経験し、その時間数を先方に記録して頂く必要がある。なお、フィールド<sup>®</sup>への交通費など、諸費用は自己負担となる。校外に出かけるので、安全面など、十分に注意すること。外部講師の日程やフィールド<sup>®</sup>に出かける日程などについては、変更が生じる場合がある。

【授業のテーマ】

生活心理専攻では、①「『心理学の視点から生活の課題を分析し、解決する』とは、どういうことか」②「また、その意義はなにか」を理解するため、2年間にわたり、4種類のフィールド<sup>®</sup>（病院や障害者就労支援施設など。年度によって異なる可能性がある）に出かける。フィールド<sup>®</sup>の見学は、4クラス（各クラス10名程度）に分かれて行う。そして、フィールド<sup>®</sup>での実際の様子に基づき、学問的な知識や理論について批判的思考を行えるようになるための基盤を形成する。

【授業における到達目標】

2年次では、①「なぜ生活のなかに課題が生じているのか、自分なりの仮説を示すことができる」また、②「どうしてそのような仮説が成り立つといえるのか、他者に納得してもらえるように根拠を示しながら、述べられる」ようになることが目標である。そして、1年次に身につけた「行動力」・「協働力」の基礎に基づき、3年次の学習に向け「研鑽力」を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 フィールド<sup>®</sup>A事前指導①外部講師による講話①
- 第3週 フィールド<sup>®</sup>B事前指導①
- 第4週 フィールド<sup>®</sup>C事前指導①
- 第5週 フィールド<sup>®</sup>D事前指導①
- 第6週 各フィールド<sup>®</sup>見学が「ダンス」① ※クラス別
- 第7週 各フィールド<sup>®</sup>課題（準備） ※クラス別
- 第8・9週 各フィールド<sup>®</sup>見学①（教員引率）※クラス別
- 第10週 各フィールド<sup>®</sup>事後指導①・課題（討論） ※クラス別
- 第11週 各フィールド<sup>®</sup>事後指導②・課題（発表準備） ※クラス別
- 第12週 各フィールド<sup>®</sup>事後指導③・課題（発表作業） ※クラス別
- 第13週 フィールド<sup>®</sup>A・C事後指導①（全体）含 学生発表
- 第14週 フィールド<sup>®</sup>B・D事後指導①（全体）含 学生発表
- 第15週 外部講師による講話②・前期のまとめ
- 第16週 後期ガイダンス（報告書・課題について）
- 第17週 報告書について①（概要・過去の報告資料収集について）
- 第18週 報告書の進捗状況発表① ※クラス別
- 第19週 報告書について②（先行研究のレビューの仕方）
- 第20週 各フィールド<sup>®</sup>見学ガイダンス② ※クラス別
- 第21週 各フィールド<sup>®</sup>課題（準備） ※クラス別
- 第22・23週 各フィールド<sup>®</sup>見学②（教員引率）※クラス別
- 第24週 各フィールド<sup>®</sup>事後指導④・報告書作成作業 ※クラス別
- 第25週 各フィールド<sup>®</sup>事後指導⑤・報告書作成（討論） ※クラス別
- 第26週 各フィールド<sup>®</sup>事後指導⑥・報告書執筆 ※クラス別
- 第27週 各フィールド<sup>®</sup>事後指導⑦・報告書（進捗状況発表②）※クラス別
- 第28週 各フィールド<sup>®</sup>事後指導⑧・報告書執筆（完成に向けて）※クラス別
- 第29週 各フィールド<sup>®</sup>事後指導⑨・報告書（進捗状況発表③）
- 第30週 報告書の提出、年間のまとめ、3年次に向けて

【事前・事後学修】

【事前学修】各フィールド<sup>®</sup>を見学する前に、フィールド<sup>®</sup>について事前に必ず調べ、見学に出かけるフィールド<sup>®</sup>の概要を理解する（学修時間週2時間）。【事後学修】フィールド<sup>®</sup>で経験した内容が、大学で勉強する様々な理論や専攻での研究とどう関連するか、自分なりに考える（学修時間週2時間）。

【テキスト・教材】

佐藤郁哉（2002）『フィールドワークの技法—問いを育てる、仮説をきたえる』新曜社、3,045円

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（フィールド<sup>®</sup>での取り組み、事前事後の学修および発表、質疑応答、課題提出など）100%。取り組んでいた点やつまづきがちだった点についてフィードバックを行う。

**フューチャー・スキル実践**

企業連携プロジェクト学習

駒谷 真美

1年 後期 2単位

○：協働力

**【授業のテーマ】**

実際の企業からの課題に対し、グループワークを重ね、アイデアをプレゼンし、それを企業が評価するPBL(Project Based Learning)形式でプロジェクトを実践していく。本演習を通して「指示されれば動く」受身的姿勢に留まらず、ビジネス・社会でも重視されている「自分から考えて動く」自律的・主体的な意欲と態度を養うことが目的である。

**【授業における到達目標】**

①PBLを通して培う企業の課題を解決する方略が、人間社会学部の多様な専門科目を学修する意義と密接に連結していることを理解する。②リーダーシップ・ファシリテーション・コミュニケーションの重要性を理解し、グループワークを通してPBLを実践できるようになる。①②の達成により、[協働力]「自己や他者の役割を理解し、協力して物事を進められる力」を習得する。

**【授業の内容】**

1. チームビルディング・事前アンケート
2. 企業Aから課題提供（企業A参加）
3. グループ活動（情報収集）
4. 中間発表会
5. グループ活動（議論）
6. グループ活動（プレゼン準備）
7. 企業Aの最終合評会（プレゼン・討論・企業Aの講評）
8. 前半の振り返り
9. 企業Bから課題提供（企業B参加）
10. グループ活動（情報収集）
11. 中間発表会
12. グループ活動（議論）
13. グループ活動（制作）
14. 企業Bの最終合評会（プレゼン・討論・企業Bの講評）
15. 総括 フィードバック・事後アンケート

**【事前・事後学修】**

事前学修（学修時間：週1時間）では、各回にグループで設定した進捗に関する具体的な課題について、ディスカッションを行う。事後学修（学修時間：週3時間）では、次回までに担当する作業を完了し、報告の準備をする。学修内容は、リフレクションシートにまとめ、manabaで期日内に提出し保存する。

**【テキスト・教材】**

授業で適宜紹介。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

個人の平常点（第1～15週のリフレクションシートNo. 1～No. 5）50%＋グループ全体の活動点（ディスカッション・プレゼン）50%の総合的評価。リフレクションシートは次回授業開始時、プレゼンは該当回にフィードバック。

**【参考書】**

授業で適宜紹介。

**【注意事項】**

- ・円滑なPBL進行のため、履修は上限30人を目安とする。事前にエントリーシートと面接による選考を行う。選考方法の詳細は、入学ガイダンス時に告知するので、履修希望者は留意する。選考結果は、掲示・Web履修で発表する。
- ・各自のグループワークの進捗状況により授業外での自主活動も想定される。

## フランス語 1 a

フランス語を話そう

武田 志保子

1年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

テキストはその課で学ぶ文法事項が入った簡単な会話文から始まってそれに続く文法事項がわかりやすく説明され2ページ目には練習問題がありその課で学んだ表現や文法事項を理解し応用できるように構成されています。相手とロールプレイをすることでフランス語の定着をはかり、日常生活の中で役立ち使えるフランス語の習得をめざします。

### 【授業における到達目標】

フランス語を通して自分を表現することで相手を理解しコミュニケーション能力を高めることができますようになります。また言葉の背景にある文化や社会への関心をもつことで自分自身や異なる世界への探求心が芽生え、広い視野を育むことができますようになります。この授業ではCEFRのA1レベルである自分についてや、自分が住んでいる場所や家族や所有物について述べるができるようになります。

### 【授業の内容】

- 第1週 フランスとフランス語に親しむ アルファベ 発音
- 第2週 挨拶 名前を言うetreを使って国籍職業を言う
- 第3週 形容詞の一致 人を紹介する 不定冠詞un・une・des
- 第4週 avoirを使って年齢持ち物を言う 否定文ne～pas
- 第5週 好きなものを言う er動詞aimerと定冠詞le・la・les
- 第6週 Civilisation1 フランスが好き 所有形容詞私のmon・ma
- 第7週 友達について話す形容詞の位置と女性形un petit sac
- 第8週 尋ねる 様々な疑問詞 qui誰que何ouどこquandいつ
- 第9週 復習プリント使用 faireする作ると様々な表現買い物料理
- 第10週 近接未来aller+不定詞と近接過去venir de +不定詞
- 第11週 定冠詞の縮約 au・aux・du・des 中性代名詞 y
- 第12週 疑問形容詞quel 何どんな 天候を言う非人称il fait
- 第13週 時間を言う 非人称il est midi. 正午
- 第14週 Civilisation 2 フランス人の食事と外食レストラン
- 第15週 総復習

### 【事前・事後学修】

事前学修：CDを何度も聞いて各課の始めにある会話文が読めるようにしてください。始めは音だけを真似て繰り返すだけで良いですが課が進むにつれて綴り字としてのフランス語が正しく読め発音できるように録音をよく聞いて声に出すようにして下さい。毎日10分。  
事後学修：練習問題の答えを声に出して読み、それから書いて表現を暗記するようにして下さい。毎日20分。1課が終わるごとに小テストをしていきます。

### 【テキスト・教材】

藤田・ジレ著 『新・東京～パリ、初飛行』（駿河台出版社2017年）2200円＋税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験80% 授業への参加度提出物の有無等々10% 小テスト10% 提出物や小テストは正しく添削して返却し授業で復習をかねて説明します。その後正しくなった答えを書き直して再度提出することもあります。定期試験については最終授業でフィードバックし間違いの多かった答えはもう一度説明した上で練習問題をしていきます。

### 【参考書】

内藤・玉田著『フランス語を1,2の3』（白水社）2200円

### 【注意事項】

語学は日々の積み重ねが大切です。忘れました、わかりませんということがないように毎日テキストやノートを開いて復習することが大切です。また授業では皆に聞こえるように大きな声で応答してください。

募集人数は40名です。

## フランス語 1 b

フランス語を話そう

武田 志保子

1年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

フランス語1aから引き続いていきます。テキストは簡単な会話文から始まってそれに続く文法項目がわかりやすく説明され、2ページ目には練習問題がありその課で学んだ表現や文法事項を理解し応用できるように構成されています。相手とロールプレイをすることでフランス語の定着を図り日常の様々な場面で役立ち使える会話力を身につけることを目指します。

### 【授業における到達目標】

フランス語は世界第二の国際語でありフランス語が使えれば多くの出会いをすることができます。いろいろな価値観や文化を持つ人々と交流することができ自分の世界を広げて知識を深めバランスのとれた国際感覚を身につけることができますようになります。この授業ではCEFRのA2レベルである事柄や所有物の比較や過去のこと等々を語り述べるができるようになります。

### 【授業の内容】

- 第1週 復習 プリント使用
- 第2週 数量を言う たくさんの少しの 部分冠詞du・de la
- 第3週 中性代名詞en Avez-vous des enfants? Oui, j' en ai.
- 第4週 補語人称代名詞直接・間接補語私を君を私に君に
- 第5週 一日を語る代名動詞 se lever 起きるse coucher寝る
- 第6週 Civilisation 3 フランス人の一日 復習 プリント使用
- 第7週 頼む命令する 早く帰りなさい 私に電話して
- 第8週 未来のことを語る ～だろう 結婚しないの？
- 第9週 過去のことを語る複合過去①avoir+過去分詞見た聞いた
- 第10週 過去のことを語る複合過去②etre+過去分詞行った来た
- 第11週 人や物について語るqui que ou dont
- 第12週 復習 プリント使用
- 第13週 Civilisation 4 フランス映画 比較plus moins ～que
- 第14週 受動態 etre+過去分詞 Paul est soigne par sa mere.
- 第15週 総復習

### 【事前・事後学修】

事前学修：CDを何度も聞いて各課の始めにある会話文が読めるようにしておくこと。また練習問題の最後は聞き取りになっています。おおまかに聞き取って下さい。毎日10分。  
事後学修：練習問題の答えを声に出して読みそれから書いて表現を暗記するようにして下さい。毎日20分。一課が終わるごとに小テストをしていきます。

### 【テキスト・教材】

藤田・ジレ著『新・東京～パリ 初飛行』（駿河台出版社2017年）2200円＋税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験80% 授業への参加度提出物の有無10%小テスト10% 提出物や小テストは正しく添削して返却し授業で復習をかねて説明します。その後正しくなった答えを書き直して再度提出することもあります。定期試験については間違いが多かった問題を中心にもう一度説明し最終授業でフィードバックします。

### 【参考書】

内藤・玉田著『フランス語を1, 2の3』（白水社）2200円

### 【注意事項】

語学は日々の積み重ねが大切です。忘れました、わかりませんということがないように毎日勤勉に復習し表現を覚えてください。それが使える、話せるフランス語となっていきます。

募集人数は40名です。

## フランス語 2 a

フランス語を通して世界を知ろう

武田 志保子

2年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

テキストはどの課も表現の練習・聴き取り問題・文法事項の練習問題から構成され12ヵ月を通してフランス人が月ごとに共有しているイベントを紹介し、学習者が無理なく中級レベルのフランス語の読解力を身につけることが目的です。

### 【授業における到達目標】

フランスの12ヵ月のイベントを通してその背景にある歴史や物のとらえ方に触れることで異文化への興味を持ち、理解を深めて他国の人々とより良いコミュニケーションが図れるようになります。この授業ではCEFRのA2レベルの能力を身につけることができ世界第二の国際語であるフランス語を学ぶことで活躍の場を広げることができます。

### 【授業の内容】

- 第1週 4月エイプリールフル 冠詞
- 第2週 5月母の日 メーデー
- 第3週 動詞 chanter finir 定冠詞の縮約 au aux du de la
- 第4週 6月夏至の日 音楽祭
- 第5週 疑問文 形容詞の位置
- 第6週 aller 行く venir 来る 指示形容詞このそのあの
- 第7週 7月革命記念日 ツール・ド・フランス
- 第8週 所有形容詞私の君の彼の 疑問形容詞何どれどんな
- 第9週 様々な疑問詞いつ quandどこ oùなぜ pour quoi
- 第10週 8月夏のバカンス
- 第11週 faireする lire読む 目的語人称代名詞私を君を・私に君に
- 第12週 疑問代名詞誰 qui何 que 復習プリント使用
- 第13週 9月新学期 文化遺産の日
- 第14週 複合過去～した avoir/etreの現在形+過去分詞
- 第15週 総復習プリント使用

### 【事前・事後学修】

事前学修：各課にある本文のCDをよく聞いて声に出して音読してください。それから大まかで良いので辞書を使って何が書いてあるか、日本語にしておくことは必要です。1週間に1時間。  
事後学修：一課が終わるごとに本文の日本語訳を提出します。その際学んだ文法事項が必要とされるので復習を十分に行ってください。また授業ではその課に出てきた表現や言い回しを使った例文を紹介小テストとして使うこともあります。1週間に2時間。

### 【テキスト・教材】

中野・鈴木著『フランスの12ヵ月』（駿河台出版社、2009年）2500円+税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験70%、各課の日本語訳15%、授業への参加度提出物の有無小テスト15%、提出した日本語訳は正しく添削して返却します。それぞれの上手な訳し方を取り入れて模範解答として作成し配布します。提出物はすべて正しく訂正し返却して必要に応じてクラスで説明します。定期試験については最終授業で間違いが多かった問題を中心にフィードバックします。

### 【参考書】

仏和辞書は必携です。一冊は手元において活用してください。  
山田・宮原他著『デイコ仏和辞典』（白水社2003年）3800円+税  
西村・曾我他著『ロベール・クレ仏和辞典』（駿河台出版社2014年）3200円+税

### 【注意事項】

募集人数は40名です。

## フランス語 2 a

藤井 陽子

2年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

すでに学んだフランス語の基本的な表現をもとに、さらなるフランス語の習得を目指します。  
文法・練習問題・聞き取りなどを通して、総合的な語学能力を身につけましょう。

### 【授業における到達目標】

さまざまな文法事項を整理し、より複雑なフランス語の文を理解できるようにしましょう。CEFR水準のA2に相当する語学力を身につけることを目標とします。  
フランス語とフランス文化の学習を通して、学生に求められる「国際的視野」のうち、異なる価値観や文化を持つ人々と相互理解を深めようとする態度を身につけます。また、学生が修得すべき「行動力」のうち、目標を設定して、計画を立案・実行できる力を修得します。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション、発音の復習
- 第2週 つづり字や文法事項の復習
- 第3週 1課① パリへの出発 物や場所を示す
- 第4週 1課② 名詞と冠詞
- 第5週 2課① 出会い 自己紹介
- 第6週 2課② 主語人称代名詞、形容詞
- 第7週 3課① 旅先に関するアドバイス 提案をする
- 第8週 3課② avoirの活用と否定文
- 第9週 4課① 夜のクルージング 好みを言う
- 第10週 4課② 規則動詞の活用
- 第11週 5課① 旅の計画 国名の言い方
- 第12週 5課② 冠詞の縮約 近接未来
- 第13週 6課① 買い物をする お店での会話
- 第14週 6課② 所有形容詞 疑問形容詞
- 第15週 総括

### 【事前・事後学修】

必ずノートを1冊用意すること  
事前学修：テキストの本文をノートに書き写し、新出単語を調べて日本語に訳しておくこと  
小テスト・プリント等の課題の準備をしておくこと（週1時間）  
事後学修：練習問題・小テストの内容を復習しておくこと  
指定された課題に取り組むこと（週1時間）

### 【テキスト・教材】

明石伸子ほか著『アメリとケンゾー ブリュ・ラピッド（パリから南への旅）』（朝日出版社 2013年）2500円+税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験60%、小テスト20%、授業への積極参加、提出課題、予習・復習の有無20%  
小テストは次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

### 【参考書】

森本英夫・三野博司著『新リュミエール フランス文法参考書』（駿河台出版社 2000年）2100円

### 【注意事項】

フランス語2bと続けて履修することが望ましいです（同一テキストを使用します）。  
フランスのさまざまな文化を紹介するテキストで、文法や表現だけではなく、料理や美術などに代表される豊かな文化を一緒に学びましょう。  
※募集人数は40名です。

## フランス語 2 a

岡本 尚子

2年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

フランス語1で習得したことを確認しながら、一つ上のレベルのフランス語を習得することを目指します。フランスの世界遺産や食文化を取り上げた教科書を使用し、映像と共にフランス文化に親しみながら、総合的なフランス語力を高めます。

### 【授業における到達目標】

- ・CEFR A2レベルのフランス語の修得。
- ・フランス語を通して文化の多様性を理解し、多角的な視点を養う。

### 【授業の内容】

原則として以下の予定で進めますが、変更する場合があります。

第1週 オリエンテーション 第0課 綴り字の読み方などの復習  
 第2週 第1課 動詞etre 国籍を表す形容詞  
 第3週 第2課 形容詞の性数一致と位置  
 第4週 第3課 -er動詞 定冠詞 疑問文  
 第5週 第4課 avoir 否定文  
 第6週 第5課 allerと近接未来 faire partir  
 第7週 第6課 所有形容詞 Dialogue  
 第8週 第6課 疑問形容詞 練習問題 Lecture  
 第9週 第7課 人称代名詞の強勢形 Il y a～ Dialogue  
 第10週 第7課 je voudrais～ 指示代名詞 練習問題 Lecture  
 第11週 復習：仏検5級レベルの確認  
 第12週 第8課 補語人称代名詞 Dialogue  
 第13週 第8課 定冠詞の縮約形 国の名前 練習問題 Lecture  
 第14週 第8課までの総復習  
 第15週 総括

### 【事前・事後学修】

【事前学修】 ノートを一冊用意して、前もって教科書のDialogueとLectureの部分を書き写し、授業中に書き込みができるようにしておくこと。（学修時間 0.5時間）

【事後学修】 必ず復習を行い、次の授業までに理解しておくこと（質問は随時受け付けます）。教科書の練習問題を繰り返しやると、DialogueとLectureは、音読及び書き取りができるようになるのが望ましいです。三回程度、小テストを実施予定。（学修時間 週1.5時間）

### 【テキスト・教材】

藤田裕二著

『パリ-ボルドー フランスの世界遺産と食文化を巡る旅1』（朝日出版社 2016年）2500円＋税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験70%、小テスト20%、授業への参加度10% 小テストは次回授業においてフィードバックを行います。

### 【参考書】

森本英夫・三野博司著

『新リュミエール フランス語文法参考書』（駿河台出版社）2100円＋税

### 【注意事項】

フランス語2bと続けて履修することが望ましいです。教科書にはあまり書き込みをせず、練習問題もノートに書き、繰り返しやることを心がけましょう。募集人数は40名です。

## フランス語 2 b

フランス語を通して世界を知ろう

武田 志保子

2年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

フランス語2aから引き続いてしていきます。テキストはどの課も表現の練習・聞き取り問題・文法事項の練習問題から構成され12ヵ月を通してフランス人が月ごとに共有しているイベントを紹介し、学習者が無理なく初中級レベルのフランス語の読解力を身につけることが目的です。

### 【授業における到達目標】

フランスの12ヵ月のイベントを通してその背景にある歴史や物のとらえ方に触れることで異文化への興味を持ち理解を深めて他国の人々とより良いコミュニケーションが持てるようになります。また日本ではどんな行事があるのか、何が行なわれているのか等々日仏文化の相違や精神を発見することもできます。この授業はCEFRのA2の能力をつけることができ、色々な読み物へと発展させ、ことばを通して無限に広がる時間と空間との出会いをすることができます。

### 【授業の内容】

第1週 10月国際モーターショー 体育の日って何  
 第2週 代名動詞se coucher 寝る faire する作るを使った表現  
 第3週 受動態etre+過去分詞+par  
 第4週 11月冬時間 ボジョレスボー  
 第5週 関係代名詞 qui que dont ou  
 第6週 比較plus aussi moins ~que 最上級  
 第7週 復習プリント使用  
 第8週 12月クリスマス  
 第9週 半過去～だった ~ものだった  
 第10週 中性代名詞 en y le  
 第11週 1月新年 ガレット・デ・ロア  
 第12週 単純未来 命令文  
 第13週 2月シャンドゥルールの日 カーニバル  
 第14週 条件法現在 Si+半過去、もし～なら  
 第15週 総復習

### 【事前・事後学修】

事前学修：各課にある本文をCDをよく聞いて音読してください。それからおおまかでよいので辞書を使って何が書いてあるか、日本語にしておくことは必要です。1週間に1時間

事後学修：課が終わるごとに本文の日本語訳を提出します。その際学んだ文法知識が必要とされるので復習を十分にし一課一課積み上げるようにして下さい。また色々な表現や言い回しを紹介し小テストとして使うこともあります。1週間に2時間

### 【テキスト・教材】

中野・鈴木著『フランスの12ヵ月』（駿河台出版社2009年）2500円＋税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験70%、各課の日本語訳15%、授業への参加度提出物の有無・小テスト15%、提出した日本語訳は正しく添削して返却します。それぞれの上手な訳し方を取り入れて模範解答として作成し配布します。提出物はすべて正しく訂正し返却し必要に応じてクラスで説明します。定期試験については最終授業で難しかった箇所を再度説明しフィードバックします。

### 【参考書】

仏和辞書は必携です。一冊は手元においてください。

山田・宮原著『デイコ仏和辞典』（白水社2009年）3800円＋税

西村・曾我著『ロベール・クレ仏和辞典』（駿河台出版社2014年）3200円＋税

### 【注意事項】

募集人数は40名です。

## フランス語 2 b

藤井 陽子

2年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

すでに学んだ基本をもとに、さらなるフランス語習得を目指します。文法・練習問題・聞き取り等を通して、総合的な語学力を身につけましょう。

### 【授業における到達目標】

受動態や比較表現などを学び、より複雑な文章を理解できるようになりましょう。CEFR水準のA2に相当する語学力を身につけることを目標とします。

フランス語とフランス文化の学習を通して、学生に求められる「国際的視野」のうち、異なる価値観や文化を持つ人々と相互理解を深めようとする態度を身につけます。また、学生が修得すべき「行動力」のうち、目標を設定して、計画を立案・実行できる力を修得します。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション 1～6課のまとめ
- 第2週 7課① レストランで 料理の注文
- 第3週 7課② 命令形
- 第4週 8課① 絵葉書 場所を説明する
- 第5週 8課② 代名動詞
- 第6週 9課① 観光地を訪ねる 文化遺産の説明
- 第7週 9課② 比較級 最上級
- 第8週 10課① 電話 電話の応答
- 第9週 10課② 目的語人称代名詞 受動態
- 第10週 11課① 電子メール メール の書き方
- 第11週 11課② 複合過去 関係代名詞
- 第12週 12課① 留守録 メッセージを残す
- 第13週 12課② ジェロンディフ
- 第14週 表現カステップアップに挑戦
- 第15週 総括

### 【事前・事後学修】

- 必ずノートを一冊用意すること
- 事前学修：テキストの本文をノートに書き写し、新出単語を調べて日本語に訳しておくこと
- 小テスト・プリント等の課題の準備をしておくこと（週1時間）
- 事後学修：練習問題・小テストの内容を復習しておくこと
- 指定された課題に取り組むこと（週1時間）

### 【テキスト・教材】

明石伸子ほか著『アメリカとケンゾー ブリュ・ラピッド（パリから南への旅）』（朝日出版 2013年） 2500円＋税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 定期試験60%、小テスト20%、授業への積極参加、提出課題、予習・復習の有無20%
- 小テストは次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

### 【参考書】

森本英夫・三野博司著 『新リュミエール フランス文法参考書』（駿河台出版社 2000年） 2100円

### 【注意事項】

- フランス語 2aと同一のテキストの後半を用います。フランス語 2aと続けて履修するか、もしくはフランス語 2a履修と同等のフランス語力を有していることが望ましいです。
- フランスのさまざまな文化を紹介するテキストで、文法や表現だけではなく、料理や美術などに代表される豊かな文化と一緒に学びましょう。
- ※募集人数は40名です。

## フランス語 2 b

岡本 尚子

2年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

フランス語2aで習得したことを元に、更に上のレベルのフランス語の習得を目指します。前期でも使用した教科書を続けて使用し、フランスの世界遺産や食文化など、フランス文化を映像と共に親しみながら総合的なフランス語力を高めます。

### 【授業における到達目標】

- ・CEFR A2レベルのフランス語の修得。
- ・フランス語を通して文化の多様性を理解し、多角的な視点を養う。

### 【授業の内容】

原則として以下の予定で進めますが、変更する場合があります。

- 第1週 第9課 代名動詞 Dialogue
- 第2週 第9課 中性代名詞y 練習問題 Lecture
- 第3週 第10課 非人称構文 命令形 Dialogue
- 第4週 第10課 感嘆文 練習問題 Lecture
- 第5週 第11課 部分冠詞 Dialogue
- 第6週 第11課 中性代名詞en 練習問題 Lecture
- 第7週 第12課 比較級 Dialogue
- 第8週 第12課 単純未来 練習問題 Lecture
- 第9週 第13課 複合過去 Dialogue
- 第10週 第13課 半過去 練習問題 Lecture
- 第11週 第14課 条件法現在 Dialogue
- 第12週 第14課 接続法現在 練習問題
- 第13週 第14課 条件法と接続法の確認 Lecture
- 第14週 第9課～第14課の総復習 仏検4級レベルの確認
- 第15週 総括

### 【事前・事後学修】

【事前学修】ノートを一冊用意して、前もって教科書のDialogueとLectureの部分を書き写し、授業中に書き込みができるようにしておくこと。（学修時間 0.5時間）

【事後学修】必ず復習を行い、次の授業までに理解しておくこと（質問は随時受け付けます）。教科書の練習問題を繰り返しやることと、DialogueとLectureは、音読及び書き取りができるようにすることが望ましいです。三回程度小テストを実施予定です。（学修時間 週1.5時間）

### 【テキスト・教材】

藤田裕二著  
『パリ・ボルドー フランスの世界遺産と食文化を巡る旅1』（朝日出版社 2016年）  
2500円＋税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験70%、小テスト20%、授業への参加度10% 小テストは次回授業の際にフィードバックを行います。

### 【参考書】

森本英夫・三野博司著『新リュミエール フランス文法参考書』（駿河台出版社）2100円＋税

### 【注意事項】

フランス語2aの続きとなります。フランス語2aと続けて履修するか、フランス語2a履修後と同等レベルのフランス語力を持つことが望ましいです。前期分を履修していない学生は、事前に相談して下さい。

教科書にはあまり書き込みをせず、練習問題もノートに書き、繰り返しやることを心がけましょう。

※募集人数は40名です。

## フランス語 a

—はじめてのフランス語（1）—

泉 美知子

1・2年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

フランス語の最初級文法を学びます。文法事項は最も重要なものだけに絞り、基本的な語彙や表現を学びます。日常的で平易なフランス語会話能力を身につけることが、この授業の目標です。

フランス語の音声に親しむために、聞き取りと発音練習にも力を入れます。また、DVDの映像を通して、言葉を学ぶうえで関わりのあるフランスの文化や社会への理解を深めます。こうした文化の発見が、新しい外国語を学ぶ楽しさになるでしょう。

### 【授業における到達目標】

簡単な日常会話ができるようになる。新しい言語を学ぶことを通して、新しい文化と価値観を知り、国際的視野を広める。

### 【授業の内容】

- 第1週 フランス語のアルファベ、簡単なあいさつの表現、フランスはどんな国？
- 第2週 綴り字の読み方、日本語になったフランス語
- 第3週 文法1 名詞について
- 第4週 会話1 「あれはなんですか？」
- 第5週 文法2 動詞1
- 第6週 会話2 「私は日本人です」
- 第7週 文法3 動詞2
- 第8週 会話3 「空いている部屋はありますか？」
- 第9週 文法4 疑問文
- 第10週 会話4 「兄弟姉妹はいますか？」
- 第11週 文法5 前置詞
- 第12週 会話5 「映画を見に行きませんか？」
- 第13週 フランスのシャンソン
- 第14週 フランス文化を知る（映画）
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

予習としては、仏語辞書で単語の意味を調べておきましょう。（週1時間）

復習としては、学んだレッスンのフランス語音読練習をすることが大事です。（週1時間）

### 【テキスト・教材】

大岩 昌子 著 坂本 久生 著 田村 真理 著 米山 優 著 ファブリス・ルヴァロワ 著『パラレル1』白水社、2018年、2,200円＋税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

配分基準：定期試験70%、平常点（授業態度、小テスト）30%  
試験および小テストのフィードバックは、答案用紙を返却し、間違いを確認します。

### 【参考書】

必要に応じてプリントを配付する。

### 【注意事項】

忘れがちな文法の習得には、反復練習が必要です。単語や動詞の活用を覚えるには、何度も自分で発声することが重要になります。授業では簡単で短い会話を繰り返し練習します。積極的に声を出してください。

教科書は初回のみコピーを配布しますので、2回目以降は準備してきてください。

・受講人数制限50名（制限人数を超えた場合、抽選）

## フランス語 b

—はじめてのフランス語（2）—

泉 美知子

1・2年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

「フランス語 a」からの継続授業です。

フランス語の最初級文法を学びます。文法事項は最も重要なものだけに絞り、基本的な語彙や表現を学びます。日常的で平易なフランス語会話能力を身につけることが、この授業の目標です。

また、DVDの映像を通して、言葉を学ぶうえで関わりのあるフランスの文化や社会への理解を深め、フランス語の音声に親しむために、聞き取りと発音練習にも力を入れます。

### 【授業における到達目標】

簡単な日常会話ができるようになる。新しい言語を学ぶことを通して、新しい文化と価値観を知り、国際的視野を広める。

### 【授業の内容】

- 第1週 前期の復習
- 第2週 文法6 疑問副詞
- 第3週 会話6 「明日ヴァカンスに出かけます」
- 第4週 文法7 形容詞
- 第5週 会話7 「この建造物はとても古そうですね」
- 第6週 文法8 不規則動詞
- 第7週 会話8 「料理は何を選ぶの？」
- 第8週 文法9 人称代名詞
- 第9週 会話9 「彼女をよく知っています」
- 第10週 文法10 複合過去
- 第11週 会話10 「富士山は見ましたか？」
- 第12週 文法11 疑問代名詞
- 第13週 会話11 「誰を探しているのですか？」
- 第14週 フランス文化を知る（映画）
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

予習としては、仏語辞書で単語の意味を調べておきましょう。（週1時間）

復習としては、学んだレッスンのフランス語音読練習をすることが大事です。（週1時間）

### 【テキスト・教材】

大岩 昌子 著 坂本 久生 著 田村 真理 著 米山 優 著 ファブリス・ルヴァロワ 著『パラレル1』白水社、2018年、2,200円＋税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験ではなく、テストを2度実施する。  
配分基準：テスト80%、平常点（授業態度）20%  
テストのフィードバックは、答案用紙を返却し、間違いを確認します。

### 【参考書】

必要に応じてプリントを配付する。

### 【注意事項】

この授業の教科書は後期から販売されなくなりますので、注意してください。

フランス語は、日本でとくにファッションや食べ物の分野で耳にします。授業を通してその意味を知ること、フランス語をより身近に感じてもらえると思います。こうしたささやかな発見が、新しい言語を学ぶ楽しさです。

受講人数制限50名（制限人数を超えた場合、抽選）

## フランス語で学ぶフランス語 a

藤井 陽子

1年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

フランス語の基本的な表現や文法を学びます。  
フランス語の発音に慣れ、授業内で用いられる日常表現の意味や用法を理解するとともに、フランス文化への理解を深めます。

### 【授業における到達目標】

フランス語の日常会話を学び、CEFR水準のA1に相当する総合的なフランス語力を身につけることを目標とします。  
フランス語とフランス文化の学習を通して、学生に求められる「国際的視野」のうち、異なる価値観や文化を持つ人々と相互理解を深めようとする態度を身につけます。また、学生が修得すべき「行動力」のうち、目標を設定して、計画を立案・実行できる力を修得します。

### 【授業の内容】

第1週 オリエンテーション アルファベ  
第2週 発音とつづり字 授業進行に使う表現  
第3週 第1課① あいさつ、自己紹介  
第4週 第1課② 主語人称代名詞と文法の確認  
第5週 第2課① ～があります  
第6週 第2課② 名詞と定冠詞  
第7週 第3課① ～を持っている  
第8週 第3課② avoirの活用 疑問文・否定文  
第9週 第4課① どんな言葉？  
第10週 第4課② er動詞の活用 疑問形容詞  
第11週 第5課① 買い物  
第12週 第5課② 部分冠詞と中性代名詞  
第13週 第6課① どこに？  
第14週 第6課② 前置詞と冠詞の縮約  
第15週 前期のまとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：教科書の本文を予習し、新出単語を調べておくこと  
小テスト・プリント等の課題に取り組むこと（週1時間）

事後学修：練習問題・小テストの内容を復習しておくこと  
指定された課題に取り組むこと（週1時間）

### 【テキスト・教材】

大久保政憲『きみと話したい！フランス語』  
（朝日出版社 2015年） 2500円＋税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験60% 小テスト20% 授業への参加態度・提出課題20%  
小テストは次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

### 【参考書】

数江譲治『フランス語のABC』（白水社 2002年） 1800円＋税

### 【注意事項】

フランスを「聞く」「話す」授業を行います。積極的に参加しましょう。旅行などでもすぐに使える日常会話表現をパリの映像とともに学びます。必ずノートを1冊用意してください。2週で1課程度のスピードで進めます。なお、「フランス語で学ぶフランス語b」と続けて履修することをお勧めします。  
言葉だけでなく、料理や芸術などのフランス文化も一緒に学びましょう。  
※募集人数は40名です。

## フランス語で学ぶフランス語 b

藤井 陽子

1年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

「フランス語で学ぶフランス語a」で学んだ基本をもとに、さらなるフランス語の習得を目指します。  
フランス語の発音に慣れ、授業内で用いられる日常表現を習得するとともに、フランス文化への理解を深めます。

### 【授業における到達目標】

フランス語のより複雑な会話を学び、CEFR水準のA1に相当する総合的なフランス語力を身につけることを目標とします。  
フランス語とフランス文化の学習を通して、学生に求められる「国際的視野」のうち、異なる価値観や文化を持つ人々と相互理解を深めようとする態度を身につけます。また、学生が修得すべき「行動力」のうち、目標を設定して、計画を立案・実行できる力を修得します。

### 【授業の内容】

第1週 前期の復習 第7課① 何時に？  
第2週 第7課② 非人称構文  
第3週 第8課① ～をするつもり  
第4週 第8課② 近接未来 近接過去  
第5週 第9課① 比べる  
第6週 第9課② 比較級 指示代名詞  
第7週 第10課① ～を知っている  
第8週 第10課② 目的語人称代名詞 疑問代名詞  
第9週 第10課③ フランス映画について  
第10週 第11課① 起きる 寝る 散歩する  
第11週 第11課② 代名動詞 命令形  
第12週 第12課① 過去のことを言う  
第13週 第12課② 複合過去 疑問代名詞  
第14週 文法のまとめ  
第15週 後期のまとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：教科書の本文を予習し、新出単語を調べておくこと  
小テストやプリント等の課題に取り組むこと（週1時間）

事後学修：練習問題・小テストの内容を復習しておくこと  
指定された課題に取り組むこと（週1時間）

### 【テキスト・教材】

大久保政憲『きみと話したい！フランス語』  
（朝日出版社 2015年） 2500円＋税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験60% 小テスト20% 授業への参加態度・提出課題20%  
小テストは次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

### 【参考書】

数江譲治『フランス語のABC』（白水社 2002年） 1800円＋税

### 【注意事項】

フランス語を「聞く」「話す」授業を行います。積極的に参加しましょう。旅行などでもすぐに使える日常会話表現をパリの映像とともに学びます。必ずノートを1冊用意してください。2週で1課程度のスピードで進めます。なお、「フランス語で学ぶフランス語a」を履修済み、もしくは同等程度のフランス語力を有することが望ましいです。  
言葉だけでなく、料理や芸術などのフランス文化も一緒に学びましょう。  
※募集人数は40名です。



## フランス文学 a

藤井 陽子

1年～ 前期 2単位

○：国際的視野、美の探求、研鑽力

### 【授業のテーマ】

フランス文学を文学史に沿って学びます。  
個々の作品に触れ、フランス文学の特色を理解しましょう。

### 【授業における到達目標】

フランス文学を代表するさまざまな文学作品を読み、作者や時代背景を理解します。文学作品を通して、学生に求められる「国際的視野」のうち、異なる価値観や文化を持つ人々と相互理解を深めようとする態度を、「美の探求」のうち、人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度を身につけることを目標とします。また、学生に求められる「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とします。

### 【授業の内容】

第1週 オリエンテーション フランス語の歴史とフランス文学  
第2週 中世フランス文学史  
第3週 ルネサンス期の文学  
第4週 17世紀① ラ・フォンテーヌとパスカル  
第5週 17世紀② ラシースと古典悲劇  
第6週 17世紀③ モリエールとその戯曲  
第7週 17世紀④ ラファイエット夫人と心理小説  
第8週 18世紀① マリヴォーと戯曲  
第9週 18世紀② モンテスキューと批判精神  
第10週 18世紀③ ヴォルテールと自由思想  
第11週 18世紀④ デイドロとルソー  
第12週 18世紀⑤ ボーマルシェとその戯曲  
第13週 18世紀⑥ フランス革命と文学、女性教育  
第14週 18世紀のまとめ  
第15週 前期のまとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：テキストの内容を予習し、作品について資料を調べ、邦訳資料を参照しておくこと（週2時間）  
事後学修：テキストを復習し、授業内容を整理してレポートにまとめ、翌週必ず提出すること（週2時間）

### 【テキスト・教材】

柏木隆雄他『レクチュールの冒険—新編フランス文学選』（朝日出版社 2005年）1800円＋税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験70% 授業内容に関するレポート20% 授業への参加態度10%  
試験結果は授業最終回にフィードバックを行います。

### 【参考書】

柏木隆雄他編『エクリチュールの冒険—新編フランス文学史—』（大阪大学出版会 2003年）2000円＋税  
渡辺一夫・鈴木力衛『増補 フランス文学案内』（岩波文庫 1990年）

### 【注意事項】

人間の理想の姿ではなく、あるがままの人間の姿を描くといわれるフランス文学の一端に触れ、フランス文化に対する知識や理解を深めましょう。また、文学作品の背景にあるフランスの歴史、社会について学びます。授業で扱う以外のフランス文学作品の読書もお勧めします。

## フランス文学 b

藤井 陽子

1年～ 後期 2単位

○：国際的視野、美の探求、研鑽力

### 【授業のテーマ】

フランス文学を文学史に沿って学びます。  
個々の作品に触れ、フランス文学の特色を理解しましょう。

### 【授業における到達目標】

小説が文学の中心となった19世紀以降のフランス文学作品を通して、近代以降の文学や背景を学びます。文学作品を通して、学生に求められる「国際的視野」のうち、異なる価値観や文化を持つ人々と相互理解を深めようとする態度を、「美の探求」のうち、人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度を身につけることを目標とします。また、学生に求められる「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とします。

### 【授業の内容】

第1週 オリエンテーション 19世紀文学概略  
第2週 19世紀① ロマン主義 スタンダール、バルザック  
第3週 19世紀② 写実主義 ネルヴァール、フロベール  
第4週 19世紀③ 自然主義 ゴッテ、モーパッサン  
第5週 19世紀④ ロマン派の詩人 ラマルティエ、ユゴー  
第6週 19世紀⑤ 高踏派詩人 ボードレル、ランボー  
第7週 19世紀⑥ 象徴派 マラルメ、ヴェルレーヌ  
第8週 19世紀⑦ 戯曲 ミュッセ、ロスタン  
第9週 19世紀⑧ 映画『シラノ・ド・ベルジュラック』  
第10週 20世紀① 20世紀前半 プルースト  
第11週 20世紀② ジッド、セリヌ  
第12週 20世紀③ サルトル、カミュ  
第13週 20世紀④ ロブ＝グリエ、デュラス  
第14週 現代文学のまとめ  
第15週 後期のまとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：テキストの内容を予習し、作品について資料を調べ、邦訳資料を参照しておくこと（週2時間）  
事後学修：テキストを復習し、授業内容を整理してレポートにまとめ、翌週必ず提出すること（週2時間）

### 【テキスト・教材】

柏木隆雄他『レクチュールの冒険—新編フランス文学選』（朝日出版社 2005年）1800円＋税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験70% 授業内容に関するレポート20% 授業への参加態度10%  
試験結果は授業最終回にフィードバックを行います。

### 【参考書】

柏木隆雄他編『エクリチュールの冒険—新編フランス文学史—』（大阪大学出版会 2003年）2000円＋税  
渡辺一夫・鈴木力衛『増補 フランス文学案内』（岩波文庫 1990年）

### 【注意事項】

人間の理想の姿ではなく、あるがままの人間の姿を描くといわれるフランス文学の一端に触れ、フランス文化に対する知識や理解を深めましょう。また、文学作品の背景にあるフランスの歴史、社会について学びます。授業で扱う以外のフランス文学作品の読書もお勧めします。

## ブライダルプランニング演習

阿部 マリ子

1・2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

ここ数年のブライダルマーケットは、晩婚化・少子化・婚礼実施率（入籍者に対する結婚式実施者の率）の低下など厳しい状況が続いていますが、日本全国各地のハード・ソフト共にクオリティの高いウェディング施設の増加や、欧米文化である『ウェディングプランナー指名制』の定着化など、新郎新婦の結婚式への期待感が高まっており、ウェディングプランナーに求められる知識や提案力も多岐に渡っています。

ウェディングプランナーという仕事は、結婚する新郎新婦やご両親、ご家族、ご親族、ご友人、職場関係の方等、新郎新婦に関わる全ての方々の「幸せの瞬間」に携わる事の出来る素敵な仕事です。

この授業では、ブライダルの基礎知識はもちろん、ウェディングプランナーの仕事の流れを理解し、実践までを習得し、ウェディングのトレンドにも触れて頂きます。

\*課題では、各グループごとに結婚式を作成し実施する「模擬挙式」を行います。

\*本授業はアクティブラーニングの手法を用いて行いますので受け身ではなく、主体的に参加して頂く必要があります。

ディスカッションや発表など、毎授業実施します。

### 【授業における到達目標】

ウェディングにまつわる様々な知識を得た上で  
模擬挙式進行表を作成する事により  
日本のウェディング文化への理解と共に、個々の感受性、  
研鑽力、行動力を高める。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 世界のウェディング・日本のウェディング
- 第3週 ウェディングプランナーの仕事とは
- 第4週 挙式の種類（キリスト教式）
- 第5週 挙式の種類（人前式）
- 第6週 挙式の種類（神前式・仏前式）
- 第7週 様々なウェディング施設
- 第8週 プランニングの流れ
- 第9週 挙式進行表作成について
- 第10週 挙式に関わる様々なアイテム
- 第11週 プランニング1（課題説明と作成方法）
- 第12週 プランニング2（課題作成準備）
- 第13週 模擬挙式プレゼンテーション
- 第14週 模擬挙式プレゼンテーション（予備日）
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】ウェディングに関する雑誌やサイトを見て興味を持った内容について情報収集を行うこと。レポート・発表などの課題に取り組むこと。（学修時間週2時間）

【事後学修】提出レポートなどを復習すること。専門用語等を理解しておくこと。（学修時間週2時間）

### 【テキスト・教材】

資料は授業内で配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内小テスト30%・コメントペーパー20%・授業内態度20%・プレゼンテーション30%

### 【参考書】

授業内で紹介します。

### 【注意事項】

受講人数制限30名（制限人数を超えた場合、抽選）

**プレセミナー**

—CAクラス・CBクラス・CCクラス・CDクラス・CEクラス—

(CA)稲垣 伸一(CB)志渡岡 理恵(CC)島 高行(CD)深瀬 有希子

(CE)土屋 結城

3年 前期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、協働力

**【授業のテーマ】**

「実践入門セミナー」及び「英文入門セミナー」で学んだことを踏まえて、論理的な文章の読み方と書き方を引き続き学び、4年次の「卒論セミナー」及び「卒業論文」への準備を行います。

**【授業における到達目標】**

専門分野への知識を深めるとともに、専門性を備えた論理的な文章が書けるようになることを目標とし、全学ディプロマ・ポリシーのうち、多様な価値観についての「国際的視野」、課題解決のために主体的に行動する「行動力」、さらに学生同士が互いに協力しながら学習を進めていく「協働力」を修得することを目標とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODクシヨン 授業の目的と目標
- 第2週 論理的文章の読み方と書き方 文献講読1 資料の読み方
- 第3週 論理的文章の読み方と書き方 文献講読2 資料の分析
- 第4週 論理的文章の読み方と書き方 テーマの探し方1 テーマとは何か
- 第5週 論理的文章の読み方と書き方 テーマの探し方2 テーマの種類
- 第6週 論理的文章の読み方と書き方 テーマの探し方3 テーマの選択
- 第7週 論理的文章の読み方と書き方 文献調査
- 第8週 論理的文章の読み方と書き方 アウトラインの作り方1 アウトラインとは何か
- 第9週 論理的文章の読み方と書き方 アウトラインの作り方2 アウトラインの組み立て
- 第10週 論理的文章の読み方と書き方 アウトラインの作り方3 アウトラインから論文へ
- 第11週 論理的文章の読み方と書き方 書式1 引用の仕方
- 第12週 論理的文章の読み方と書き方 書式2 注のつけ方
- 第13週 論理的文章の読み方と書き方 書式3 文献表
- 第14週 論理的文章の読み方と書き方 まとめ
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修として、次週の課題について予習をしておくこと（学修時間 週2時間）。

事後学修として、その週の内容について復習をし、提出課題の作成を進めておくこと（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

授業時に担当教員より指示される。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への参加及び課題）60%、期末レポート40%。

課題は次回以降の授業でフィードバックを行う。

**【参考書】**

授業時に担当教員より指示される。

**【注意事項】**

「卒論セミナー」と「卒業論文」につながるように、積極的に授業に臨むこと。

## プレゼンテーション演習

奈良 一寛

1年 後期 1単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

### 【授業のテーマ】

プレゼンテーションは、自らの企画や提案、仕事や研究の成果等を他者に伝える上で必須かつ重要な手段の一つであり、大学生活だけでなく、その後の社会生活においても重要性が大きいものと考えられる。本授業では、プレゼンテーションを効果的に実践できるように、自らの考えや主張を正確に効率良く伝えるための基本的な考え方、方法や技術などを実践的に学んでいく。

### 【授業における到達目標】

様々な場面で、自分の考えを、自信をもって発表できるようになることを目標とする。また、プレゼンテーションで利用される資料の作成方法や操作方法についても出来るようになることを目標とする。

### 【授業の内容】

- 第 1 週 ガイダンス 演習の進め方と事前準備について
- 第 2 週 プレゼンテーションの基本について
- 第 3 週 自己紹介スピーチの準備
- 第 4 週 自己紹介スピーチ（質疑応答を含む）
- 第 5 週 グループワークの進め方について
- 第 6 週 グループワークの実践
- 第 7 週 グループワークの応用
- 第 8 週 グループディスカッションの基礎
- 第 9 週 グループディスカッションの実践と応用
- 第 10 週 レジユメの作成方法の基礎
- 第 11 週 レジユメの作成と応用
- 第 12 週 発表資料の作成の基礎
- 第 13 週 発表資料の作成と応用
- 第 14 週 最終発表会（質疑応答を含む）
- 第 15 週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】発表、資料作成などの課題に取り組んでおくこと。

（学修時間 週2時間）

【事後学修】毎回の講義および演習内容の復習をすること。（学修

時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

適宜プリントを配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（演習中の積極的な発言および積極的な参加）30%、提出課

題20%、最終発表会（資料および発表姿勢）50%

課題は次回授業で解説を行う。

## プレゼンテーション入門

プレゼン力があなたを活かします

堀野 ひろ子

1・2年 後期 1単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

現代は「プレゼンの時代」と言われています。

本授業では、まず相手の立場に立つ**プレゼンテーション・マインド**を伝えます。

カリキュラム前半では、就活に役立つ**セルフ・プレゼン**に焦点を当て、自分のセールスポイントを見つけ、自分自身を伝える自己発見の演習を行います。

後半は、グループワークを交えながら、**簡潔で相手を惹きつけるプレゼンのノウハウ**を伝え、実際に人前で発表に慣れていただきます。プレゼン力は、相手を喜ばせ、求められる人材になる強いツールとなるでしょう。

### 【授業における到達目標】

◎**研鑽力がつく**＝演習を重ねるうちに、企画や構成を考える習慣、人前で簡潔にハキハキ話す努力をするようになり、研鑽力が身につきます。

○**行動力が養われる**＝情報収集をするために人から話を訊くなどするうち、自ら動く習慣が付き、行動力が養われます。

○**協働力が身につく**：グループワークを数多く行うので、集団の中で自分の意見を述べる経験を重ねることで、協働力が身につきます。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス、プレゼンの概要
- 第2週 自分のセールスポイントを見つける
- 第3週 エントリーシートでプレゼンする
- 第4週 面接でプレゼンする
- 第5週 集団の中で自分を活かす
- 第6週 ドキュメンタリー手法で物語る
- 第7週 プレゼンテーションの考え方と構成
- 第8週 「つかみ」で人を引きつける
- 第9週 支持材料の収集とデータ分析
- 第10週 簡単なプレゼンテーションに挑戦
- 第11週 グループ・ディスカッション
- 第12週 グループ・プレゼンの練習
- 第13週 企画書作成と様々なプレゼン
- 第14週 各自のプレゼン発表と意見交換
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：宿題として課題を伝えますので、必ず準備してきてください。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業内でやり切れなかったことは、必ず翌週に発表できるようにして来ていただきます。（学修時間 週1時間）

### 【テキスト・教材】

プリントを配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

プレゼン発表50%、提出物20%、平常点（発言力、準備状態、仲間へのフィードバック等）30%。

発表の後は必ず各自に口頭で評価、アドバイスします。

### 【参考書】

寺沢俊哉著「人前で話す・教える技術」（生産性出版）

ジェレミー・ドノバン著「TEDトーク～世界最高のプレゼン術」

（新潮社）

### 【注意事項】

授業中のレコーダーでの録音を許可します。なお、就活の面接等に役立つので、1年生の内からの受講をお勧めします。

**プロジェクト演習 a**

地域活性化と女性の活躍に向けた課題解決提案演習

野津 喬

2年 後期 2単位

◎：協働力 ○：研鑽力、行動力

**【授業のテーマ】**

社会において女性が活躍するためにはどうしたら良いか、農山漁村をはじめとする地域を元気にするためにはどうしたら良いかという2つのテーマが大きな注目を浴びています。この授業では、実際にこのテーマに取り組む実社会の関係者から「課題」を提示していただき、それに対する解決策を受講生の皆さんが考え、議論した上で、担当者の方に対して提案できるようになることを目的とします。

**【授業における到達目標】**

- ①地域活性化と女性の活躍に関する課題への解決策について、実社会の関係者に自分の言葉で論理的に説明できるようになる。
  - ②情報の収集・分析、グループディスカッション、プレゼンテーションに関する基礎的能力を身につける。
- これにより、学生が習得すべき「行動力」「協働力」を身につけることを目的とします。

**【授業の内容】**

次の各テーマについて、15回の授業を行う予定です。

1. はじめに（講義の進め方及び目標、イントロダクション）
2. 課題の背景理解、フィールドワーク①の事前検討
3. フィールドワーク①（課題の背景理解）
4. フィールドワーク①の感想共有・ディスカッション
5. フィールドワーク②の事前検討
6. フィールドワーク②（解決策の素材探索）
7. フィールドワーク②の感想共有・ディスカッション
8. 中間報告検討
9. 授業内模擬プレゼンテーション（中間報告）
10. 課題関係者へのプレゼンテーション（中間報告）
11. 中間報告振り返り
12. 最終報告検討
13. 授業内模擬プレゼンテーション（最終報告）
14. 課題関係者へのプレゼンテーション（最終報告）
15. まとめ（これまでの授業の総括）

※課題関係者のご都合によって、フィールドワークや中間発表等の回は前後する可能性があります。

**【事前・事後学修】**

【事前学修】次の授業の参考資料に事前に目を通してください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義で指摘を受けた事項等について、インターネットや書籍等によって各自で必要な情報を集めてください。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

manabaに講義で使用するプリント等を掲載しますので、各自で事前にプリントアウトして忘れずに授業に持参してください。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

グループワーク（80%）、プレゼンテーション（20%）により評価を行います。フィードバックは中間報告及び最終報告のプレゼンテーションの次の回に行います。

**【参考書】**

授業の進行に応じて、講師から適宜指示します。

**【注意事項】**

他の受講者の迷惑となる行為（私語など）を禁止します。講義の妨げになると判断した場合は、成績評価に反映（減点）し、注意しても改善されない場合は講義からの退室を求める場合があります。講義開始後、一定時間を経過した後の入室は遅刻または欠席扱いとします。その他、初回の講義で履修に関する注意事項を説明しますので、遅刻せずに必ず出席してください。

**プロジェクト演習 a**

高橋 徹

2年 後期 2単位

◎：協働力 ○：研鑽力、行動力

**【授業のテーマ】**

本授業では情報メディアの作製をPDCAに沿って行っていくことを通して、情報メディアの実践的な活用理解とプロジェクト推進能力を身につけることを目的としています。情報メディアは様々な表現方法を可能とし、単純に言葉で伝える以上に多くの情報量を相手に伝えることができます。そのため、多くの企業はこれを宣伝・普及の方法として利用しています。しかし、方法は多様にあってもそれを効果的に活用しなければ相手には伝わりません。ゆえに、伝えるターゲットを分析し、そして自らが作成したコンテンツを見直す必要があります。一方で、PDCAはプロジェクトを計画し（Plan）、実行し（Do）、そしてそれを評価し（Check）、その結果に基づき改善（Act）という流れで行い、さらにこれを何度も繰り返していくというものです。受講者にはこのPDCAに則り、情報メディアの作製をするだけでなく評価を行い、より効果的に相手に伝えられるように改善まで結び付けてもらいます。最終的にPDCAの流れをどのように行ったかをまとめてもらい、実際に企業でPDCAを行っている方たちに評価してもらいます。

**【授業における到達目標】**

1. 情報メディアの特性を理解し、対象に合わせた表現方法を選ぶことができるようになる。
2. PDCAの流れと効果を理解し、PDCAに沿ったプロジェクトを遂行できるようになる。PDCAを利用して課題解決を行うことで「行動力」「研鑽力」や、グループメンバーと協力してプロジェクトを進めることで「協働力」が身につく。

**【授業の内容】**

1. PDCAとアンケート調査の説明
2. アンケート調査の実例
3. 事前アンケートの作成
4. 事前アンケートの実施・分析
5. 企画書の作成
6. コンテンツの制作
7. 評価用アンケートの制作
8. コンテンツの公開・評価用アンケートの実施（1回目）
9. 評価結果の分析と改善案の検討
10. 改善案に基づく新企画書の作成
11. コンテンツ・評価用アンケートの改良
12. コンテンツの公開・評価用アンケートの実施（2回目）
13. 評価結果と改善案の検討およびまとめ
14. 総合発表会
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

〈事前学修〉

今回の授業内のグループ作業を効果的に行うために個人で考えをまとめてきてください。（週2時間）

〈事後学修〉

授業内のグループ作業ですべては終わらないので、グループ内で相談しつつ作業を完了してください。（週2時間）

**【テキスト・教材】**

必要に応じて参考となる資料を配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

グループワーク（40%）、企画書・コンテンツ・改善案に基づく新企画書・総合発表（60%）で評価します。特にコンテンツ自体の中身よりも、それをアンケートで適切に評価し、改善に結びつけられたかに重きをおいて評価します。フィードバックは最終授業の時に行います。

**【参考書】**

特にはありませんが、質問などがあればその参考になる書籍を紹介することがあります。

**プロジェクト演習 a**

河井 延晃

2年 後期 2単位

◎：協働力 ○：研鑽力、行動力

授業中に指示します。

**【注意事項】**

欠席した場合はきちんとフォローして次週の授業へ参加すること。  
また、出席回数が3回を超えると、グループワークにも多大な迷惑がかかるため、単位の修得が極めて困難になると考えてください。

**【授業のテーマ】**

本授業におけるプロジェクトのテーマは履修学生の関心を尊重しながらすすめてゆきますが、情報社会やメディアがこの授業の関連領域になります。

現代の組織では、様々なプロジェクトへの参加から運用まで求められることが多くなっています。しかし、このようなプロジェクトを実践するには、問題の①調査・発見・分析、②共有・伝達・討議、③解決法やコンセプトデザイン、そして④説得的な企画書やプレゼンテーションなど複合的な力が要求されます。本授業ではこれらの技術を、演習を通じて総合的に涵養できることを想定して授業をすすめます。

本授業では、このように「情報検索・調査」「プレゼンテーション技法」だけでなく、「コンセプトデザイン」「グループディスカッション」「チームビルディング」などの集団的合意形成の手法についても重視し、実際に演習を通して学びます。

**【授業における到達目標】**

プロジェクトを運営・実践してゆくための共同作業や協調的活動の運営能力を高める。また、支援するための様々なコミュニケーションツールやメディアデザインツールを利活用すること。

**【授業の内容】**

## 1. オリエンテーション

## ◆調査の作法

2. 課題の発見 情報検索と調査
3. 課題の整理 情報の構造化
4. 課題の報告 デザインツールの説明
5. 課題の報告 ムードボードというフォーマット

## ◆チームワーキング

6. 課題の設定 グループの編成
7. 課題の構造 コンセプトデザイン（外部講師予定）
8. 課題の構造 ブレインストーミングとムードボード
9. 課題の解決 プランニングと説得性
10. 課題の解決 プランニングと企画書

## ◆ディスカッションとリフレクション

11. 課題の解決 集団的ディベートと評価1
12. 課題の解決 集団的ディベートと評価2（外部講師予定）
13. 課題の反省 振り返りとフィードバック
14. 課題の反省 再報告へ向けて
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

予習事項はあまりありませんが、調査課題が数多くあるため、きちんとやり方を指示するので事前に行っておくこと（予習3時間、復習1時間）。課題をもとに、次週の演習が進みます。事後学修としては、コメントや討議を終えて、指示があったものはリライトして再提出を求める場合があります。

**【テキスト・教材】**

配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

演習につき、すべて提出物、発表による。フィードバックは報告した授業時間内にその場でコメントをおこなう。

**【参考書】**

**プロジェクト演習 a**

環境・エネルギー領域の応用的アクティブ・ラーニング

菅野 元行

2年 後期 2単位

◎：協働力 ○：研鑽力、行動力

**【授業のテーマ】**

環境学、エネルギー学の知見を基に、広い意味の持続可能・循環型低炭素社会をめざしたプロジェクト提案方法を学習します。事例研究の後、グループまたは個人ごとにプロジェクトを策定します。さらに、討論形式で問題点を整理し、持続可能・循環型低炭素社会の構築に向けたプロジェクトの作成技法を実践的に学びます。環境・エネルギー領域の内容であれば自由ですが、エコキャンパス紹介、環境・エネルギーを広める活動、再生可能エネルギー、自然エネルギーキャンパス、エネルギーカフェなど、幅広く持続可能・循環型低炭素社会の構築に向けたプロジェクトの策定に対応します。

履修生の希望により、簡単な環境・エネルギー領域の実験研究や、環境・エネルギー領域の企業の研究者（主に女性）との共同研究も可能です。

**【授業における到達目標】**

①社会や生活と、環境やエネルギーの関わりを実践的に理解し、環境や資源に配慮したプロジェクトに主体的に取り組み、効果的な討論手法を習得する姿勢を身につける。

②環境、エネルギーの課題に主体的に取り組み、問題抽出や課題解決に至る優れた技能を身につける。以上により学生が習得すべき「行動力」「研鑽力」を身につけることを目的とする。

**【授業の内容】**

- 1 オリエンテーション
- 2 プロジェクト (PJ) 策定の流れ
- 3 環境・エネルギー分野のPJの事例研究
- 4 環境・エネルギー分野のPJの設定、調査手法
- 5 環境・エネルギー分野のPJの調査 (1回目)
- 6 環境・エネルギー分野のPJの評価検討 (1回目)
- 7 環境・エネルギー分野のPJの提案発表・討論 (1回目)
- 8 環境・エネルギー分野のPJの調査 (2回目)
- 9 環境・エネルギー分野のPJの評価検討 (2回目)
- 10 環境・エネルギー分野のPJの提案発表・討論 (2回目)
- 11 環境・エネルギー分野のPJの調査 (3回目)
- 12 環境・エネルギー分野のPJの評価検討 (3回目)
- 13 環境・エネルギー分野のPJの提案発表・討論 (3回目)
- 14 環境・エネルギー分野のPJの評価検討 (4回目)
- 15 振り返り・まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】各授業回に応じた準備学修を指示しますので、事前に取り組んでください。その際に分からない言葉は事前に調べておいてください。(2時間)

【事後学修】プロジェクトの発表後には、討論結果を踏まえた事後学修に取り組み、次回の発表時までに精度を上げてください。(2時間)

**【テキスト・教材】**

必要に応じてプリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業中のアクティビティ）70%、プロジェクトの発表内容30%。フィードバックはPJ提案発表の次の回に行います。

**【参考書】**

必要に応じて書籍を回覧します。

**【注意事項】**

※現代社会を読み解くd、フィールドリサーチ（菅野）、生活ビジネスa（グリーンビジネス）、環境工学及び調査の4科目の内2科目以上履修していることが望ましい。

※演習科目のため、履修生の積極性を重視します。演習科目で消極的な授業態度では力を伸ばすことができません。

※この科目で検討したプロジェクトは、3年次のゼミナール（菅野）で引き続き深めていくことが可能です。

**プロジェクト演習 b**

地域、食、環境について考える

野津 喬

3年 後期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

**【授業のテーマ】**

政策及び経済の視点から、地域、食、環境等の社会的課題について、受講生自らが考えるべき問題を設定し、設定した問題に対して受講生の互学互修により、様々なアプローチで検討を深めていくことを目的とします。

※プロジェクト演習 a の履修を前提として授業を進めます。

※ゼミナール（野津）と連動して授業を実施します。必ず担当教員と事前に相談の上、履修登録して下さい。

**【授業における到達目標】**

①政策及び経済の視点から、地域、食、環境等の社会的課題について、自ら問題設定を行う能力を身につける。

②設定した課題について、自分の言葉で論理的に説明できるようになる。

③情報の収集・分析、グループディスカッション、プレゼンテーションに関する基礎的能力を身につける。

これにより、学生が習得すべき「行動力」「協働力」を身につけることを目的とします。

**【授業の内容】**

次の各テーマについて、15回の授業を行う予定です。

1. はじめに（講義の進め方及び目標、イントロダクション）
2. テーマ検討
3. 先行文献の探し方
4. 先行文献報告①（地域・基礎）
5. 先行文献報告②（食・基礎）
6. 先行文献報告③（環境・基礎）
7. 発表①（問題設定）
8. 発表①の振り返り
9. 先行文献報告①（地域・発展）
10. 先行文献報告②（食・発展）
11. 先行文献報告③（環境・発展）
12. フィールドワーク
13. 問題解決アプローチの検討
14. 発表②（問題解決へのアプローチ）
15. まとめ（これまでの授業の総括）

※フィールドワーク等の回は、調査対象先の状況等によって前後する可能性があります。

**【事前・事後学修】**

【事前学修】次の授業の参考資料に事前に目を通しておいてください。(学修時間 週2時間)

【事後学修】講義で指摘を受けた事項等について、インターネットや書籍等によって各自で必要な情報を集めてください。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

manabaに講義で使用するプリント等を掲載しますので、各自で事前にプリントアウトして忘れずに授業に持参してください。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

グループワーク（80%）、プレゼンテーション（20%）により評価を行います。フィードバックは各発表の次の回に行います。

**【参考書】**

授業の進行に応じて、講師から適宜指示します。

**【注意事項】**

他の受講者の迷惑となる行為（私語など）を禁止します。講義の妨げになると判断した場合は、成績評価に反映（減点）し、注意しても改善されない場合は講義からの退室を求める場合があります。講義開始後、一定時間を経過した後の入室は遅刻または欠席扱いとします。その他、初回の講義で履修に関する注意事項を説明しますので、遅刻せずに必ず出席してください。



## プロジェクト演習 b

行実 洋一

3年 後期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

## 【授業のテーマ】

これからの時代において、女性の積極的な社会関与は必須であり、今以上の活躍が期待されています。しかしその一方で、様々な克服すべき課題が数多くあるのも事実です。

そこで本授業ではプロジェクト演習aの発展系として、実社会の関係者（国や自治体、企業など）から、解決が求められている「課題」を提示してもらい、それに対する解決策を受講生である学生自身が考え、議論した上で、提案を行っていきます。

今年度は、メディア関連の企業と提携したプロジェクトを進行する予定です。

※本授業はゼミナール（行実）と連動して進められます。

## 【授業における到達目標】

メディアの視点から様々な社会的課題に取り組むと共に、自ら問題設定を行い、その課題を点検し、プロジェクトの展開を行います。こうした作業を通じて、高い「研鑽力」「行動力」及びグループワークによる「協働力」の向上を図ります。

## 【授業の内容】

1. ガイダンス（授業の進め方や目標等のイントロダクション）
2. 課題の背景・状況説明
3. 課題関係者からの課題提示
4. 課題の分析、方向性検討
5. フィールドワーク
6. 解決策の骨子検討①～前半チーム
7. 解決策の骨子検討②～後半チーム
8. 模擬プレゼンテーション
9. 課題関係者へのプレゼンテーション
10. 中間考察（これまでの振り返り・反省）
11. 解決策の最終提案づくり①～前半チーム
12. 解決策の最終提案づくり②～後半チーム
13. 模擬プレゼンテーション（最終提案）
14. 課題関係者へのプレゼンテーション
15. まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】各授業内容の準備と提示された課題をやってもらうことが求められます（毎回120分）。

【事後学修】その日の授業内容を復習し、内容の整理・理解に務めることが求められます（毎回120分）。

## 【テキスト・教材】

適宜プリント等を配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

グループワーク（50%）、プレゼンテーション（50%）により評価を行います。

グループワークやプレゼンテーション内容に関するフィードバックは授業の中で適宜行います。

## 【参考書】

授業の進行に応じて適宜指示します。

## 【注意事項】

ゼミナール（行実）と連動して進められるため、履修希望者は必ず事前に担当教員と相談すること。

## プロジェクト演習 b

河井 延晃

3年 後期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

## 【授業のテーマ】

本授業におけるプロジェクトのテーマは履修学生の関心を尊重しながらすすめてゆきますが、情報社会やメディア、第四次産業革命がこの授業の関連領域になります。

現代の組織では、様々なプロジェクトへの参加から運用することまで求められることが多くなっています。しかし、このようなプロジェクトを実践するには、問題の①調査・発見・分析、②共有・伝達・討議、③解決法やコンセプトデザイン、そして④説得的な企画書やプレゼンテーションなど複合的な力が要求されます。本授業ではこれらの技術を、演習を通じて総合的に涵養できることを想定して授業をすすめます。本授業では、プロジェクト演習aよりも、比較的高度なプレゼンテーションやデザインツールを利用して、発表資料の制作をおこないます。

## 【授業における到達目標】

プロジェクトを運営・実践してゆくための共同作業や協調的活動の運営能力を高める。また、支援するための様々なコミュニケーションツールやメディアデザインツールを利活用すること。

## 【授業の内容】

1. オリエンテーション
  - ◆調査の作法
2. 課題の発見 情報検索と調査
3. 課題の整理 情報の構造化
4. 課題の報告 デザインツールの説明
5. 課題の報告 ムードボードというフォーマット
  - ◆チームワーキング
6. 課題の設定 グループの編成
7. 課題の構造 コンセプトデザイン（外部講師予定）
8. 課題の構造 プレインストーミングとムードボード
9. 課題の解決 プランニングと説得性
10. 課題の解決 プランニングと企画書
  - ◆ディスカッションとリフレクション
11. 課題の解決 集団的ディベートと評価 1
12. 課題の解決 集団的ディベートと評価 2（外部講師予定）
13. 課題の反省 振り返りとフィードバック
14. 課題の反省 再報告への向けて
15. まとめ

## 【事前・事後学修】

事前調査や調査課題を事前学修としますが、翌週の授業で利用するため、欠席時にもきちんと仕上げ授業へ参加してください。事後学修はプレゼン後のコメントや指示などがあった場合は再提出してもらいます。（演習形式のため、事前学修中心とし、事前学修は毎週3時間、事後学修は毎週1時間程度とします。）

## 【テキスト・教材】

プリントを配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出物50点程度、発表50点程度で評価とします。また、授業への積極的な態度なども評価します。授業中のウェブでの書き込みは、その場で集計してフィードバックを行い、期末課題を実施する場合は授業サイトを通じておこないます。

## 【参考書】

必要に応じて紹介します。

## 【注意事項】

欠席した場合はきちんとフォローして次週の授業へ参加すること。また、出席回数が3回を超えると、グループワークにも多大な迷惑がかかるため、単位の修得が極めて困難になると考えてください。

**プロジェクト演習 b**

エネルギー・環境領域の実践的アクティブ・ラーニング

菅野 元行

3年 後期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

**【授業のテーマ】**

環境学、エネルギー学の知見を基に、広い意味の持続可能・循環型低炭素社会をめざしたプロジェクト提案方法を学習する。効果的なプレゼンテーション手法についても学修します。

履修生の希望により、簡単な環境・エネルギー領域の実験研究も可能です。

※ゼミナール（菅野）と連動して授業を実施します。必ず担当教員と事前に相談の上、履修登録して下さい。

**【授業における到達目標】**

①エネルギー・環境領域のプロジェクト策定作業（調査、立案、評価、討論、発表、質疑応答）を確立することを目標とする。

②エネルギー・環境領域の課題に主体的に取り組み、問題抽出や課題解決に至る優れた技能を身につける。

以上により学生が習得すべき「行動力」「研鑽力」を身につけることを目的とする。

**【授業の内容】**

- 1 オリエンテーション
- 2 プロジェクト（PJ）策定の流れ
- 3 環境・エネルギー分野のPJの事例研究
- 4 環境・エネルギー分野のPJの設定、調査手法
- 5 環境・エネルギー分野のPJの調査（1回目）
- 6 環境・エネルギー分野のPJの評価検討（1回目）
- 7 環境・エネルギー分野のPJの提案発表・討論（1回目）
- 8 環境・エネルギー分野のPJの調査（2回目）
- 9 環境・エネルギー分野のPJの評価検討（2回目）
- 10 環境・エネルギー分野のPJの提案発表・討論（2回目）
- 11 環境・エネルギー分野のPJの調査（3回目）
- 12 環境・エネルギー分野のPJの評価検討（3回目）
- 13 環境・エネルギー分野のPJの提案発表・討論（3回目）
- 14 環境・エネルギー分野のPJの評価検討（4回目）
- 15 振り返り・まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】各授業回に応じた準備学修を指示しますので、事前に取り組んでください。その際に分からない言葉は事前に調べておいてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】プロジェクトの発表後には、討論結果を踏まえた事後学修に取り組み、次回の発表時まで精度を上げてください。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

必要に応じてプリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業中のアクティビティ）70%、プロジェクトの発表内容30%。フィードバックはPJ提案発表の次の回に行います。

**【参考書】**

必要に応じて書籍を回覧します。

**【注意事項】**

※ゼミナール（菅野）と連動して授業を実施します。必ず担当教員と事前に相談の上、履修登録して下さい。

## プロダクトアメニティ演習

三輪 恵美子

2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：行動力

### 【授業のテーマ】

人体ならびに生理機能の測定とデータ解析を行い、「快適な環境」を創造するための知識を生活者の視点から修得することを目的とする。

### 【授業における到達目標】

授業では、読み、書き、聞く、話ができるなど、社会人生活に必要な汎用的技能の向上を修得する。学生が修得すべき「協働力」のうち自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進める力をグループ研究により構築する。

### 【授業の内容】

- 第1週 プロダクトアメニティ演習とは（授業内容の説明）  
 第2週 グループ編成 受講者を4つのグループに分け、自己紹介  
 第3週 生理学的測定方法（身体的特性の把握）演習  
 第4週 環境適応と体温調節（体温の日周期変動）講義、演習  
 第5週 体温の日周期変動について 学生発表 レポート提出①  
 第6週 快眠環境（睡眠のメカニズム）講義  
 第7週 快眠環境（寝室環境、寝装品の機能）講義  
 第8週 快眠環境（自分に合った枕について計測）演習  
 第9週 快眠環境について 学生発表 レポート提出②  
 第10週 香の自律神経反射効果（香の評価）講義  
 第11週 快適感と生理反応（統計手法を用いて快適感の分類）演習  
 第12週 香の自律神経反射効果 グループ発表 レポート提出③  
 第13週 自分に合った枕について縫製 演習  
 第14週 快適な睡眠を得るための枕 学生発表 レポート提出④  
 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

<事前学修>データ収集・分析を行い、レポート作成と発表の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）  
 <事後学修>レポートの講評と全体討論を通して、課題の核心を整理し知識を深める。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

テキストは使用せず、資料を配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート、および参加時の態度により評価する。

配分基準：レポート70%、授業態度30%

レポート提出内容は、着眼点・論理構成等について、個別面談しフィードバックする。

### 【参考書】

授業中に適宜紹介する。

### 【注意事項】

グループ編成し、調査、研究し、そのレポートを中心にディスカッションと講評を行う。（\*）受講者の人数によっては、若干授業内容を変更する場合があります。

## プロダクトデザイン演習

デザインプロセスを体験します

塚原 肇

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

### 【授業のテーマ】

前半は球体（ボール）を題材にしてパッケージデザインとグラフィックスデザインの制作を行います。後半は身近な生活道具を題材にプロダクトデザインを行い、これらを通して「デザインする」という行為のプロセスと方法論を修得します。

### 【授業における到達目標】

- ・前半は球体のパッケージデザインを通して、文字のレイアウト、レタリングやカラー計画を修得します。
- ・後半の演習では「行き先標示板」と「立体カレンダー」の制作を通して動きのあるデザインの表現法を修得します。
- ・ディプロマ・ポリシー（DP）においては、学生が修得すべき「能力」のうち、課題解決のために主体的に行動する力【行動力】を総合的に修得します。

### 【授業の内容】

- パッケージデザインを行う
  01. 黒と白でパッケージデザインを考える
  02. 黒と白でパッケージデザインを行う
  03. カラーでパッケージデザインを考える
  04. カラーでパッケージデザインを行う
  05. 自由な形でパッケージデザインを考える
  06. 自由な形でパッケージデザインを行う
- グラフィックスデザインを行う
  07. クリスマスカードをデザインする
  08. 年賀状をデザインする
- 生活道具をデザインする
  09. 行き先標示板のデザインを考える
  10. 行き先標示板の図面を作製する
  11. 行き先標示板を作製する
  12. 立体カレンダーのデザインを考える
  13. 立体カレンダーの図面を作製する
  14. 立体カレンダーを作製する
  15. まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】授業時間内に作品を完成させるために、演習テーマのコンセプトやデザインは事前に決定しておいてください。（学修時間 週最低2時間以上）

【事後学修】授業時間内に完成しなかった作品は必ず自宅で作成して次の課題の構想を練っておいてください。（学修時間 週最低2時間以上）

### 【テキスト・教材】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料を配付します。演習の教材として鉛筆、カッターナイフとマット、定規、スチレンボード、スケッチブックなど、別途に提示する用具類を各自用意してください。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

演習課題の評価（70%）、授業態度（30%）

授業において、課題の提出時に即時評価を行い、良い点および改善等のコメントを直接本人に伝える。

### 【注意事項】

デザインにおける発想は短時間ではできません。発想の秘訣は日常生活において常に問題意識を持ち、モノや現象を観察することです。その中で、疑問に思ったことや興味を引く事項があればメモに残しておく習慣を付けるといいでしょう。

教室の定員制限のため60名とします。希望者が多い場合は上級生を優先で抽選とします。

**プロダクトデザイン論**

プロダクトデザインの世界を学びます

塚原 肇

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

プロダクトデザインとは、人間生活に求められるモノを、使用者と使用環境の視点から構想し、産業という手段を通して具現化する活動です。本授業ではこれらの活動を、歴史、産業、科学、技術、方法論などを通して包括的に解説します。

**【授業における到達目標】**

- ・この授業を通して、身近な住環境である「衣」、「モノ」、「住」がどのように進化し発展したかを理解することができるようになり、それらを構成する材料や加工法なども修得できます。
- ・また、一連のデザインプロセス、発想法や造形理論を学ぶことにより専門課程に進学した時の基礎を身につけることができます。
- ・ディプロマ・ポリシー（DP）においては、学生が修得すべき「能力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる力を修得します。

**【授業の内容】**

1. プロダクトデザインの背景
2. 社会とプロダクトデザイン
3. プロダクトデザインとビジネス
4. デザインプロセス
5. ユーザ調査のための手法
6. コンセプト作成のための手法
7. 視覚化のための手法-1（フォルム、製図、スケッチとレンダリング、コンピュータ表現）
8. 視覚化のための手法-2（プロダクトグラフィックスとタイポグラフィ、パッケージデザイン、プロトタイプ、カラー）
10. デザイン評価と科学的研究
11. マーケティングとデザイン
12. 技術とデザイン-1（構造・機構とデザイン、有機材料、無機材料、プラスチック材料、プラスチックの成形と加工）
13. 技術とデザイン-2（金属材料、金属の成形と加工、テクスチャとデザイン、表面処理と加飾、3Dプリンタ）
14. まとめ
15. PD検定2級模擬試験

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回の授業範囲を予習し、分からない専門用語等は必ず下調べをしておいてください。（学修時間 週最低2時間以上）

【事後学修】 授業の内容を再度通読して理解できているかどうかを自分なりに判断してください。分からない部分があれば、次回の授業あるいは空き時間に質問しましょう。（学修時間 週最低2時間以上）

**【テキスト・教材】**

JIDA編さん『プロダクトデザインの基礎』発行・発売ワークスコーポレーション2,400円+税（通称緑本）2014年12月22日初版第1刷発行

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末に行うPD検定2級模擬試験の点数（70%）、授業態度（30%）

最終日にPD検定2級模擬試験を行い、答え合わせおよび全問の解説を行う。

**【参考書】**

JIDA編さん『プロダクトデザイン』発行・販売ワークスコーポレーション3,200円+税（通称赤本）2009年7月17日初版第1刷発行

**【注意事項】**

昨今は「デザイン思考」という言葉がよく使われています。「デザイン思考」とは問題を解決する手法としてデザインプロセスで使われている手法のことです。この手法を利用すると論理的に、割と簡単に問題を解決できるようになります。したがって、本授業を通して「デザイン思考」を習得すれば、将来デザイン以外の職業を希望する学生にも大いに役に立つことができます。

## ヘルスプロモーション実践実習 a

サンドイッチウォーク体操をつくろう！ー振る動きを中心にー

河田 美保

1年～ 前期 1単位

○：研鑽力、協働力

- ③受講者が互いに有意義な時間を持てるよう遅刻をしないこと。
- ④睡眠、食生活等に気を配るなど体調管理に努め、毎回出席できるようにすること。

※受講人数制限36名

### 【授業のテーマ】

自らの健康をコントロールし改善する方法を身につけることは生活の質（QOL）向上と積極的な健康行動のために大変重要である。この授業では、健康運動の実施方法について理論と実践の問題点や留意点を相互に検討しながら実習し、生涯にわたり自分で健康管理ができるようにすることを目標とする。

### 【授業における到達目標】

- ①基本の動きを習得することができる。
- ②目標を設定し、計画を立案・実行できる。
- ③自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる。

### 【授業の内容】

日常生活、労働、スポーツ、余暇などの身体活動は、人、物、場と関わりながら行われる。そこで、いろいろな「導具」を使った体操や、仲間と楽しく行えるスポーツを実習し、その運動特性や効果について考える。また、目的別に運動プログラムを作成し、個人またはグループで実践実習する。

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 姿勢評価システムによる姿勢測定
- 第3週 体力測定、形態計測
- 第4週 「導具」について、ストレッチボールの体操
- 第5週 さげ手玉の体操、レク・バレーボール（基本）
- 第6週 リボンの体操、レク・バレーボール（ゲーム）
- 第7週 ムーブメントふるしきの体操、インディアカ（基本）
- 第8週 フープの体操、インディアカ（ゲーム）
- 第9週 イスの体操、パドミントン（基本）
- 第10週 ソフトジムの体操、パドミントン（ゲーム）
- 第11週 目的別課題設定、課題別運動プログラム作成
- 第12週 課題別運動プログラム作成・実習
- 第13週 体力測定、形態計測
- 第14週 姿勢評価システムによる姿勢測定、課題別運動プログラム実習
- 第15週 運動プログラム発表、評価、総括

### 【事前・事後学修】

- ①物と関わる「指、手、腕」の動きを考察する。
  - ②明確な目標設定をするためにも、日頃から自分のからだど向き合い、知ることをこころがける。
  - ③授業で行った動きを復習する。
  - ④授業で行うスポーツ種目のルールを調べ、ゲームを行えるようにする。
- ①～④合わせて週3時間程度

### 【テキスト・教材】

プリントを使用する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業参加態度、取り組み姿勢）50%、課題達成度（発表、運動プログラム作成時の様子）30%、共通レポート15%、課外活動（運動系公式行事）5%で評価する。発表にはコメントで、共通レポートに対しては総括でフィードバックする。

### 【参考書】

春山文子・河田美保『暮らしの中のからだづくり』（ルネッサンス・アイ）、春山文子『日常生活で「導具」を使った健康体操』（文芸社）、春山文子『日常生活で自分のからだを知る・つくる体操』（文芸社）

### 【注意事項】

- ①第1週のガイダンスは、履修カードの作成や受講上の重要事項を説明するので、必ず出席すること。
- ②実習時はアクセサリ類を外し、長い髪は結び、伸縮性に富んだ運動着を着用すること。

## ヘルスプロモーション実践実習 b

サンドイッチウォーク体操をつくろう！一弾む動きを中心にー

河田 美保

1年～ 後期 1単位

○：研鑽力、協働力

- ③受講者が互いに有意義な時間を持てるよう遅刻をしないこと。
  - ④睡眠、食生活等に気を配るなど体調管理に努め、毎回出席できるようにすること。
- ※受講人数制限36名

### 【授業のテーマ】

自らの健康をコントロールし改善する方法を身につけることは生活の質（QOL）向上と積極的な健康行動のために大変重要である。この授業では、健康運動の実施方法について理論と実践の問題点や留意点を相互に検討しながら実習し、生涯にわたり自分で健康管理ができるようにすることを目標とする。

### 【授業における到達目標】

- ①基本の動きを習得することができる。
- ②目標を設定し、計画を立案・実行できる。
- ③自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる。

### 【授業の内容】

日常生活、労働、スポーツ、余暇などの身体活動は、人、物、場と関わりながら行われる。そこで、いろいろな「導具」を使った体操や、仲間と楽しく行えるスポーツを実習し、その運動特性や効果について考える。また、目的別に運動プログラムを作成し、個人またはグループで実践実習する。

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 姿勢評価システムによる姿勢測定
- 第3週 体力測定、形態計測
- 第4週 「導具」について、回転盤の体操
- 第5週 踏み竹の体操、レク・バレーボール（基本）
- 第6週 お手玉の体操、レク・バレーボール（ゲーム）
- 第7週 ボールの体操、インディアカ（基本）
- 第8週 ロープの体操、インディアカ（ゲーム）
- 第9週 スティックの体操、バドミントン（基本）
- 第10週 JPクッションの体操、バドミントン（ゲーム）
- 第11週 目的別課題設定、課題別運動プログラム作成
- 第12週 課題別運動プログラム作成・実習
- 第13週 体力測定、形態計測
- 第14週 姿勢評価システムによる姿勢測定、課題別運動プログラム実習
- 第15週 運動プログラム発表、評価、総括

### 【事前・事後学修】

- ①物と関わる「指、手、腕」の動きを考察する。
  - ②明確な目標設定をするためにも、日頃から自分のからだど向き合い、知るところをこころがける。
  - ③授業で行った動きを復習する。
  - ④授業で行うスポーツ種目のルールを調べ、ゲームを行えるようにする。
- ①～④合わせて週3時間程度

### 【テキスト・教材】

プリントを使用する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業参加態度、取り組み姿勢）50%、課題達成度（発表、運動プログラム作成時の様子）30%、共通レポート15%、課外活動（運動系公式行事）5%で評価する。発表にはコメントで、共通レポートに対しては総括でフィードバックする。

### 【参考書】

春山文子・河田美保『暮らしの中のからだづくり』（ルネッサンス・アイ）、春山文子『日常生活で「導具」を使った健康体操』（文芸社）、春山文子『日常生活で自分のからだを知る・つくる体操』（文芸社）

### 【注意事項】

- ①第1週のガイダンスは、履修カードの作成や受講上の重要事項を説明するので、必ず出席すること。
- ②実習時はアクセサリ類を外し、長い髪は結び、伸縮性に富んだ運動着を着用すること。

**ホスピタリティ論**

ホスピタリティ・マネジメント

児玉 桜代里

3年 前期 2単位

◎：行動力 ○：協働力

**【授業のテーマ】**

企業がどのようにして顧客の満足を得ているのか、どのような仕組みでサービスしたら良い業績が残せるのか、ホスピタリティを単なる「もてなし」ではなく経営戦略として論じていく。

今や、接客業の現場の多くはアルバイトやパートなどの非正規雇用者とその役割を果たしている。現在アルバイト先でマンパワーとなっている学生もいることであろう。しかし、大学新卒者は接客現場の仕事でキャリアが終わるのではなく、ゆくゆくはマネジメント側に立つ人財として期待される。

サービス経済の発展に伴って、今の時代にあった顧客との関係の在り方を考え、体現するために、サービスやホスピタリティの分野における知識を用いて論理的に物事を理解できるようになることが目的である。

本科目では、知識を暗記するだけではなく、自ら考え、相応しい行動を取り、最適な解を見つける能力の習得を目指す。

**【授業における到達目標】**

1. 従来のサービスと新概念ホスピタリティの違いを説明できる
2. ホスピタリティ経営の事例企業の特徴や戦略を説明できる
3. 学んだことを日常生活やアルバイトでの課題発見に活かすことができる

ディプロマ・ポリシーとの関連について

【行動力】現状を正しく理解し課題を発見できる

【協働力】自己や他者の役割を理解し互いに協力して物事を進めることができる

**【授業の内容】**

- 第1週：レポート選抜とオリエンテーション  
(概要、進め方、受講ルール、導入講義)
- 第2週：サービス業について (便益、特性、品質管理)
- 第3週：CS (顧客満足) とは? 客離れの原因、接客の五原則
- 第4週：加熱するCS競争の問題点
- 第5週：従来のサービスから新概念ホスピタリティへ
- 第6週：CS (顧客満足) とES (従業員満足) の関係
- 第7週：ホスピタリティ・マネジメントのフレームワーク
- 第8週：ホスピタリティ経営の事例：亀田メディカルセンター
- 第9週：ホスピタリティ経営の事例：リッツカールトン大阪
- 第10週：ホスピタリティ経営の事例：加賀屋旅館
- 第11週：企業におけるクレームの現状
- 第12週：コミュニケーション (アクティブリスニング)
- 第13週：コミュニケーション (アサーション)
- 第14週：ホスピタリティの定義
- 第15週：全体のまとめ (論述テスト)

**【事前・事後学修】**

事前学修：レポート、発表の課題に取り組むこと (週2時間)

事後学修：小テスト、ワークシートを復習すること (週2時間)

**【テキスト・教材】**

教材はパワーポイントを使用し資料やワークシートを適宜配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- ・毎回のリフレクションシート提出および授業態度、数回課すワークシートの宿題 (50%)
- フィードバック方法：グループ共有もしくは全体共有を行う
- ・期末テスト (50%)
- テスト提出後に、観点とキーワードを中心に解答を示す

**【参考書】**

課題図書

1. 服部勝人『ホスピタリティマネジメント』(丸善、2008年)
2. 古閑博美『ホスピタリティ概論』(学文社、2003年)

3. 吉原敬典『ホスピタリティリーダーシップ』(白桃書房、2005年)

4. 山本哲士『ホスピタリティ原論 哲学と経済の新設計』(文化科学高等研究院出版局、2008年)

**【注意事項】**

《本科目は、履修者を第1回授業時にレポートで選抜する》

理由：討議を多く行うため、履修者を最大50名までとする。

方法：第1回授業時に課題図書に関するレポートを書く。参考書の欄に記している課題図書を1冊読んでおくこと。

発表：第1回授業終了後に履修可能学生を学籍番号で発表する。

※レポートを提出しない者、受講ルール(スマートフォンの無断使用、無関係な作業等)が守れない者は履修不可とする。第1回授業に出席しない者は履修できないので注意すること。

**ホスピタリティ論**

ホスピタリティの理論研究

武内 一良

1年 後期 2単位

◎：協働力 ○：国際的視野、研鑽力

**【授業のテーマ】**

かつて顧客に対してさまざまな便宜を図り、その対価をもらうことで利益を得るビジネスを総称して、私たちはサービス業界と呼んでいました。しかし、サービスという言葉には、顧客が上で従業員が下という上下関係が感じられるので、顧客と従業員とは対等の関係にあるという近代的な考えの下に、このサービス業界をホスピタリティ業界と言い換えて呼ぶようになりました。

この講義では、サービスとホスピタリティという用語の違いを認識しながら、最終的にはホスピタリティとは如何なる存在であるのか、その本質に迫っていきます。

**【授業における到達目標】**

この科目は、以下の3点を中心に学んでいきます。

- 1 サービスの持つ特性を学ぶ。
- 2 ホスピタリティが生み出された歴史的経緯を知る。
- 3 サービスとホスピタリティの違いを理解する。

ディプロマポリシーとの関係では、他者の意図を理解して相互に豊かな人間関係を構築する協働力に該当し、副次的に国際的視野に基づく研鑽力を養うものです。

**【授業の内容】**

- 第1週 授業の概観、評価方法、授業スケジュール
- 第2週 利他的行為の源泉とその歴史的推移
- 第3週 サービスとホスピタリティ
- 第4週 外部講師：ホスピタリティ業界における事例
- 第5週 ホスピタリティ研究における具体的なテーマの発表
- 第6週 日常生活圏の店舗における対人サービス1（導入）
- 第7週 日常生活圏の店舗における対人サービス2（応用）
- 第8週 日常生活圏の対人サービスに対するクラス討論
- 第9週 非日常生活圏の店舗における対人サービス1（導入）
- 第10週 非日常生活圏の店舗における対人サービス2（応用）
- 第11週 非日常生活圏の対人サービスに対するクラス討論
- 第12週 公的機関における対人サービス1（導入）
- 第13週 公的機関における対人サービス2（応用）
- 第14週 公的機関の対人サービスに対するクラス討論
- 第15週 ホスピタリティ研究の最終報告

**【事前・事後学修】**

【事前学修】通学路に存在するさまざまな店舗でのサービスについて観察する習慣をつけます。毎回授業前に2時間予習をする習慣をつけてください。

【事後学修】毎回授業終了後に2時間時間を取り、ホスピタリティに関する議論の趣旨を確認しながら次回の討議に備えてください。

**【テキスト・教材】**

必要に応じて配付する印刷物を教材とします。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

3回にわたるクラス討論（各10%）と小論文（70%）を基に評価します。クラスの討論では、その都度参考となる考えをフィードバックしていきます。

**【参考書】**

必要に応じて授業で紹介します。

**【注意事項】**

第1回目の授業で、授業スケジュールと成績評価に関する細則を発表しますので、必ず出席するようにしてください。

**ホテル実務**

ホテルの実務とホスピタリティ

加藤 雅一

1年 後期 1単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

**【授業のテーマ】**

国際的な仕事の舞台といわれるホテルで活躍する『ホテルエ』を目指す学生を対象に、宿泊部門、料飲部門、宴会部門等の基礎と実務について学習しながら、ホテルエに欠かせないホスピタリティ、テーブルマナー、プロトコールの理解を深めていく。

**【授業における到達目標】**

ホテルエの基礎知識を国際的視野に立って修得する。テーブルマナーを理解する。日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする姿勢と、物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする姿勢と行動力を修得する。また、学修成果を実感して、自信を創出することができる能力、現状を正しく把握し、課題が発見できる能力、自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる自己研鑽力を修得することを達成目標とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 ホテルの基礎
- 第3週 ホテルの経営形態と運営組織
- 第4週 ホテルサービスの基本
- 第5週 第4週までの復習と小テスト
- 第6週 宿泊部門の基本
- 第7週 宿泊部門の実務
- 第8週 料飲部門の基本と実務
- 第9週 宴会部門の基本とプロトコール
- 第10週 第9週までの復習と小テスト
- 第11週 調理部門の基本
- 第12週 マーケティング部門の実務
- 第13週 管理部門の基本と実務
- 第14週 第13週までの復習と小テスト
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】小テスト等の課題に取り組むこと。（学修時間 週1時間）

【事後学修】小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。（学修時間 週1時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを使用する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

小テスト50%、平常点（授業態度、課題提出、授業への積極参加等）50%で評価します。小テストは、次回授業でフィードバックを行う。

**【参考書】**

適時表示します。

**【注意事項】**

各回の授業内容を、事前に配布するプリントの該当箇所ですべて予習してください。



**ポップミュージック英語**

Pop Music in English

パールドウィン, デイヴィッド・B

1年 前期 1単位

◎ : 美の探求 ○ : 国際的視野、行動力

**【授業のテーマ】**

This course will introduce students to a variety of popular music in English. The focus will be on listening to real music for native speakers. Because the music is for native speakers, students will learn pronunciation, vocabulary, grammar and slang as well as artist backgrounds and practice singing in the context of the class.

There will also be a research and presentation portion where students will introduce their favorite English singing artist (popular or not) to the class.

Students will sing in English in every class. They will be expected to learn music terms and lyrics from songs we study in class.

**【授業における到達目標】**

By the end of the term students will know a variety of songs in English, understand international viewpoints, and the pursuit of beauty through music. Students will be actively participating in each class.

**【授業の内容】**

This is a preliminary list of artists and themes and may be subject to change depending on student levels and popularity of artists.

- 1 Genres & Adele
- 2 Quiz I & Aretha Franklin and Elvis Presley
- 3 Taylor Swift
- 4 One Direction
- 5 Quiz II & Justin Bieber
- 6 Beyonce
- 7 Bon Jovi
- 8 The Dixie Chicks
- 9 Quiz III & De La Soul
- 10 The Beatles
- 11 Pharrell Williams
- 12 Choosing projects & Review and catch up
- 13 Final Test & Project preparation
- 14 Final projects: Presentations
- 15 Sing-a-long

**【事前・事後学修】**

Look up each of these artists on You Tube and watch a video for preparation.

There will be approximately 1.5 hours of homework per class. Decide on an artist to present to the class. This includes biography, lyrics and music.

**【テキスト・教材】**

Readings will be provided by the teacher

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- 50% Class participation
- 25% Quizzes and tests
- 25% Project (Introduce an artist)

This is an English class, not a singing class.

Grades will be determined on memorization, pronunciation and subject knowledge

**【参考書】**

1. Notebook
2. Pens/pencils/ruler

3. Dictionary
  4. Smartphone (To be kept in a bag until needed)
  5. Clear file (For important handouts)
- More than 5 absences = Fail

**【注意事項】**

Even though this class covers popular songs and music industry knowledge, students will be graded strictly on their work in class. Preparation and participation are important.

Student numbers are capped at 30. If more than 30 students sign up, roster will be determined by lottery.

**マーケティング演習**

松岡 康浩

3年 後期 1単位 2時限連続 隔週

◎：協働力 ○：美の探究、行動力

**【授業のテーマ】**

食品の開発に必要なフードマーケティングを実習します。チームを組み、提示されたテーマについて食品開発に取り組みます。消費者調査を実施し、立案した企画に基づき実際に試作を行い、結果を評価します。食品企業の開発担当者にアドバイザーとして参加いただき、講評、助言を受けます。

**【授業における到達目標】**

お互いに議論し合う中で、商品開発のポイントを学ぶことが目標です。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTROダクション、事業者講演
- 第2週 消費者調査分析
- 第3週 商品企画（コンセプト立案）
- 第4週 企画プレゼン・ディスカッション 事業者評価
- 第5週 試作1
- 第6週 パッケージ、販売戦略
- 第7週 試作2
- 第8週 最終プレゼン 事業者講評まとめ

事業者の都合により予定が変更されることがあります。

**【事前・事後学修】**

事前学修：当該日に行われる作業に対する情報収集・準備（学修時間 毎回1時間）

事後学修：実施事項のまとめレポート（学修時間 毎回1時間）

**【テキスト・教材】**

テキストは使用せず、プリント資料を配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

企画プレゼン40%、最終プレゼン60%

班ごとにプレゼンし講評します。

**【注意事項】**

- ・アドバイザーには、当学OGである中村農場専務の中村由紀子様を予定しています。
- ・前期の「フードマーケティング論」を履修した学生が対象です。実習を伴うため、30名程度に定員を制限します。履修希望者が多い場合は抽選とします。自らアイデアを出し、チームでディスカッションを行う積極的な学生の履修を望みます。

**マーケティング特論**

齋藤 明

人間社会専攻 後期 2単位

大学院での研究活動では、学部での学習とは異なり、能動的かつ自律的な研究姿勢が強く求められます。その前提より、履修者は、相当な事前および事後学修の量および質を求められます。以上について、履修者には、厳に注意し、行動することが強く求められます。

**【授業のテーマ】****【授業のテーマ・目標】**

本講座では、学術論文の精読・輪読・受講者相互での議論を通じて、マーケティング研究における理論や方法を取得し、マーケティング研究の自律的遂行を目指す。

**【授業における到達目標】****■到達目標■**

マーケティング研究領域に関して、自律的に学術研究を実施することができる。

**■ディプロマ・ポリシーとの関連■**

学生が修得すべき『研鑽力』のうち、知の探究力を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション（マーケティング研究領域と方法）
- 第2週 基礎理論輪読（基礎概念）
- 第3週 基礎理論輪読（基本課題）
- 第4週 基礎理論輪読（マーケティング管理）
- 第5週 基礎理論輪読（購買意思決定過程）
- 第6週 基礎理論輪読（マーケティング計画策定）
- 第7週 基礎理論輪読（製品政策）
- 第8週 基礎理論輪読（価格政策）
- 第9週 基礎理論輪読（流通政策）
- 第10週 基礎理論輪読（コミュニケーション政策）
- 第11週 基礎理論輪読（マーケティング・ミックス）
- 第12週 個別理論輪読（サービス管理）
- 第13週 個別理論輪読（ブランド管理）
- 第14週 個別理論輪読（消費者行動）
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前および事後を通じて、当該研究分野での研究を遂行するために、英語文献（学術書、学術論文雑誌）を中心とした先行研究レビューを常に実施すること。

■事前学修■対象文献資料を精読し、各自毎回レジメを作成し、本特論に臨むこと。（学修時間 週4時間）

■事後学修■特論内での履修者相互での議論をもとに作成したノートを振り返り、次回対象文献資料を精読し、レジメ作成を行うこと。（学修時間 週4時間）

**【テキスト・教材】**

受講生の関心領域や研究テーマを勘案しながら、講義中を通じて適宜紹介する。

尚、自立した研究者として学術的研究を実行するために、英書を中心とした学術論文、学術書の精読が中心となる。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】****■成績評価■**

毎回の提出および報告が必須である研究報告（文献レビュー、ケース考察、議論）内容：100%

**■フィードバック■**

毎回の研究報告に対して、特論内で適宜フィードバックを実施する。

**【参考書】**

Philip Kotler, Kevin Keller, Marketing Management, 14th Edition, Prentice Hall, 2011.

Christopher H Lovelock, Jochen Wirtz, Services Marketing- People, Technology, Strategy, 7th Edition, Prentice Hall, 2010.

その他、Journal of Marketing, Journal of Retailing, Journal of Advertising, Journal of Consumer Research をはじめとした学術論文雑誌に掲載されている論文等、各自の関心研究テーマにそって、文献渉猟することが求められます。

**【注意事項】**

## マーケティング論

大川 知子

3年 後期 2単位

©：研鑽力

## 【授業のテーマ】

マーケティングとは、年々厳しさを増す市場環境において、企業が市場で支持される製品（サービス）の開発によって、他社に抜きん出た競争優位を確立する為に必要な活動を意味する。本講座では、マーケティングの基本的な考え方を体得することをベースに、多様化する現代の生活者の動向も踏まえ、事例なども交えながら学ぶ。

## 【授業における到達目標】

1. 「社会の公器」としての企業の仕組みの一端を知る。
2. マーケティングの基本的知識を体得する。
3. 現代社会の潮流を踏まえ、学んだ知識を実際の社会活動で応用することが出来るようになる。
4. 社会を形成する様々な企業活動を理解し、将来のその一員となった場合の自身の貢献を考え、実際に行動に移すことの出来る「研鑽力」を醸成する。

## 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション — マーケティングとは何か  
 第2週 マーケティングの基本① 企業活動におけるマーケティングの意義  
 第3週 マーケティングの基本② 顧客視点の重要性  
 第4週 マーケティングの基本③ 市場分析の手法  
 第5週 マーケティングの基本④ 製品開発と流通チャネル  
 第6週 マーケティングの基本⑤ マーケティングミックス  
 第7週 戦略の基本① 戦略のフレームワーク  
 第8週 戦略の基本② 企業の成長をどう考えるか  
 第9週 ブランディングの考え方① ブランドとは何か  
 第10週 ブランディングの考え方② ブランド・エクイティ  
 第11週 ブランディングの考え方③ 顧客との関係性  
 第12週 ブランディングの考え方④ インターナル・ブランディング  
 第13週 事例研究  
 第14週 CSV — 企業と社会の共有価値の創造  
 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

毎回、次回の授業内容の概要を告知するので、予習を行い、また終了後が復習を心掛けること（学修時間各2時間）。また、事前に課題を提示する場合もある（学修時間 各3時間程度）。

## 【テキスト・教材】

必要に応じてコピー等を配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験80%、提出課題20%で評価を行う。また、試験・課題共、原則的には提出の翌週以降に返却と解説を行う。

## 【参考書】

1. フィリップ・コトラー『コトラーのマーケティング・コンセプト』（東洋経済新報社、2003年）2,200円（税別）
2. 三谷宏治『経営戦略全史』（ディスカバリー・トゥエンティワン、2013年）2,800円（税別）

## 【注意事項】

欠席が事前に分かっている場合には、その時点で申し出ること。公欠は大学の規定で認められているもののみ、かつ申請書類は必ず事前に提出のこと。

## マーケティング論

斎藤 明

2年 前期 2単位

©：研鑽力

## 【授業のテーマ】

マーケティングは20世紀初めに市場創造の理念や方法として開発され、以来ビジネスにおいて重要な役割を果たして続けています。今日、マーケティングは、ビジネス（製造業、流通業、サービス業等）だけでなく、行政機関や地域、非営利組織へと活用領域を広げています。

本講義では、マーケティングの基本的な考え方や活動を中心に学習し、それらをマーケティング活動にまつわる事例を通して、体系的にマーケティングを理解することを目標とします。

## 【授業における到達目標】

## ■到達目標■

マーケティング論における基本的なフレームワークおよび視点を理解し、企業活動や社会活動を当該フレームワークに基づき論理的に理解、説明できる。

## ■ディプロマ・ポリシー（DP）との関連■

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、深い洞察力を修得する。

## 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション：マーケティングとは
- 第2週 マーケティングの基本的な考え方
- 第3週 標的市場の設定
- 第4週 マーケティング・ミックス
- 第5週 プロダクト：製品
- 第6週 プライス：価格
- 第7週 プロモーション（1）：広告
- 第8週 プロモーション（2）：販売促進・PR・人的販売
- 第9週 プレイス：流通チャネル
- 第10週 ブランド（1）：ブランド構築
- 第11週 ブランド（2）：ブランド組織
- 第12週 マーケティング・リサーチ
- 第13週 サービス・マーケティング
- 第14週 ソーシャル・マーケティング
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

事前学修：前回までの復習を実施し、授業に参加すること。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業内で詳細された概念等に関して整理し、ノートを作成し、理解を促進する。（学修時間 週2時間）

上記プロセスを繰り返すことで、授業内容の理解を獲得し、自律的学修を促進する。

## 【テキスト・教材】

## ■共通テキスト■

有馬・岡本・斎藤・長崎・宮下著『マーケティング オン ビジネス』新世社2016年 2268円

## ■辞書■

和田・日本マーケティング協会『マーケティング用語辞典』日本経済新聞社2005年 1296円

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

## ■成績評価■

定期試験：100%

## ■フィードバック■

試験結果は授業最終回でフィードバックを実施する。

## 【参考書】

石井淳蔵『マーケティングを学ぶ（ちくま新書）』筑摩書房2010年  
フィリップコトラー他『マーケティング原理-基礎理論から実践戦略まで（第9版）』丸善2014年

## 【注意事項】

事前学修および事後学修において、各自ノートを作成することを徹底すること。

**マーケティング論**

斎藤 明

2年～ 前期 2単位

©：研鑽力

**【授業のテーマ】**

マーケティングは20世紀初めに市場創造の理念や方法として開発され、以来ビジネスにおいて重要な役割を果たして続けています。今日、マーケティングは、ビジネス（製造業、流通業、サービス業等）だけでなく、行政機関や地域、非営利組織へと活用領域を広げています。

本講義では、マーケティングの基本的な考え方と活動を中心に学習し、それらをマーケティング活動にまつわる事例を通して、体系的にマーケティングを理解することを目標とします。

**【授業における到達目標】****■到達目標■**

マーケティング論における基本的なフレームワークおよび視点を理解し、企業活動や社会活動を当該フレームワークに基づき論理的に理解、説明できる。

**■ディプロマ・ポリシー（DP）との関連■**

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、深い洞察力を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション：マーケティングとは
- 第2週 マーケティングの基本的な考え方
- 第3週 標的市場の設定
- 第4週 マーケティング・ミックス
- 第5週 プロダクト：製品
- 第6週 プライス：価格
- 第7週 プロモーション（1）：広告
- 第8週 プロモーション（2）：販売促進・PR・人的販売
- 第9週 プレイス：流通チャネル
- 第10週 ブランド（1）：ブランド構築
- 第11週 ブランド（2）：ブランド組織
- 第12週 マーケティング・リサーチ
- 第13週 サービス・マーケティング
- 第14週 ソーシャル・マーケティング
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：前回までの復習を実施し、授業に参加すること。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業内で詳細された概念等に関して整理し、ノートを作成し、理解を促進する。（学修時間 週2時間）

上記プロセスを繰り返すことで、授業内容の理解を獲得し、自律的学修を促進する。

**【テキスト・教材】****■共通テキスト■**

有馬・岡本・斎藤・長崎・宮下著『マーケティング オン ビジネス』新世社2016年 2268円

**■辞書■**

和田・日本マーケティング協会『マーケティング用語辞典』日本経済新聞社2005年 1296円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】****■成績評価■**

定期試験：100%

**■フィードバック■**

試験結果は授業最終回でフィードバックを実施する。

**【参考書】**

石井淳蔵『マーケティングを学ぶ（ちくま新書）』筑摩書房2010年  
フィリップコトラー他『マーケティング原理-基礎理論から実践戦略まで（第9版）』丸善2014年

**【注意事項】**

事前学修および事後学修において、各自ノートを作成することを徹底すること。

**マスメディア論**

番組制作過程研究～やっぱりテレビは面白い～

松井 英光

3年 後期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

**【授業のテーマ】**

インターネットの普及など、メディアや娯楽媒体の多様化の影響もあり、いわゆる「テレビ離れ」の現象が拡大しています。特に若年層を中心に「見るものがない」といった、テレビ番組に対する不満足度も上昇しており、実際に「視聴率」も低下傾向にあります。

テレビの現状は、社会的影響力や営業的数値の側面を考慮しますと、まだ基幹メディアに位置していると推察されますが、この状況が10年、20年先にどうなっているかについては不透明です。昨今は番組の画一化も見られ、「放送文化の多様性」を遵守した創造性豊かな番組群の放送ができなくなれば、近い将来にテレビは「多様なメディアの選択肢の一つ」に脱落する可能性もあるでしょう。

この授業では、まずテレビの歴史を検証し、更に現状のドラマ・バラエティー・報道など各ジャンルの番組制作過程を、VTRや現場の「作り手」の話を交えて現場目線から考察していきます。

**【授業における到達目標】**

まず、テレビメディアの現状を理解した上で、「やっぱりテレビは面白い」ことを実感して頂けたらと思います。最終的には、具体的な「番組企画書」を提出して頂き、研究的な態度で問題に対処した上で、実践的な能力を駆使して「若年層のテレビ離れ」を脱却するための未来像を提示して頂くことを目標としております。

**【授業の内容】**

- 1、ガイダンス
  - 2、テレビの「送り手」と「作り手」の分離、  
「プロデューサー」と「ディレクター」の違い
  - 3、テレビの歴史①「制作独立型モデル」(1953～1981)
  - 4、テレビの歴史②「初期編成主導型モデル」(1982～1993)
  - 5、テレビの歴史③「編成主導型モデル」(1994～現在)
  - 6、バラエティー・歌番組の番組制作過程研究
  - 7、ドキュメンタリー番組の番組制作過程研究
  - 8、ドラマの番組制作過程研究(外部講師招聘予定)
  - 9、アニメ・特撮番組の番組制作過程研究(外部講師招聘予定)
  - 10、報道・ニュースの番組制作過程研究(外部講師招聘予定)
  - 11、BSの番組制作過程研究
  - 12、CS・ネット配信の番組制作過程研究(外部講師招聘予定)
  - 13、番組制作過程におけるテレビの技術(外部講師招聘予定)
  - 14、番組企画書の書き方
  - 15、まとめ
- 毎回、番組のVTRを観て質疑応答もしていきます。
- 6～13は、制作現場で働く現役のテレビ番組DやPなどを、ゲスト講師に招く予定であり、状況に応じて順番が入れ替わります。

**【事前・事後学修】**

次回の授業範囲となる内容を前の授業でお知らせしますので、予習をしておくと同時に、自分なりの「テレビ番組論」が発表できるレベルに復習しておいてください。(学修時間 週4時間程度)

**【テキスト・教材】**

・授業開始時に指示します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- ・レポートの代わりとなる番組企画書提出(50%)
  - ・コメントペーパー(30%)・授業への積極参加(20%)
- マナバを使い、コメントペーパーの内容をフィードバックします。

**【参考書】**

・ビデオリサーチ編『視聴率50の物語』(小学館、2013)他

**【注意事項】**

私自身も、以前はテレビ番組のプロデューサーやディレクターを担当しておりましたが、現在はテレビ研究者としても、テレビの未来像を、やや不安に思っております。ただ、「まだまだテレビは面白い」のも事実であり、現役の「作り手」たちも交えて、若い皆さんと今後のテレビメディアについて一緒に考えていけたらと思っておりますので、積極的なご参加をお待ちしております。

## マルチメディアデザイン演習

山崎 和彦

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：協働力

### 【授業のテーマ】

本演習は、マルチメディアに関わる情報装置の基礎、情報の取り扱い、平面や立体のデザイン、討論およびプレゼンテーションで構成される。決められた時間内で完結させることが重要である。情報やモノを生み、他者に伝えることの難しさと楽しさを実感しつつ、マルチメディアデザインについて習得する。

### 【授業における到達目標】

本授業を通じて、デザインについて多様な価値観を知り、世界に臨む態度を身につける。また、知を求め、美を探究する態度を身につける。さらに、広い視野と深い洞察力を身につける。

### 【授業の内容】

- 第1週 マルチメディアとは
- 第2週 マルチメディアに基づく発想
- 第3週 情報と通信の歴史と現状
- 第4週 デジタルとアナログ技術の比較
- 第5週 マルチメディア情報の表現（自然）
- 第6週 マルチメディア情報の表現（道具）
- 第7週 マルチメディア情報の表現（人体）
- 第8週 マルチメディア情報の表現（文字）
- 第9週 マルチメディア情報の表現（表象）
- 第10週 色の表現とマルチメディア情報（撮影の基礎）
- 第11週 色の表現とマルチメディア情報（画像処理）
- 第12週 音の表現とマルチメディア情報
- 第13週 各種WEBコンテンツ
- 第14週 マルチメディア社会の未来
- 第15週 総括

### 【事前・事後学修】

事前学修については、電子メールその他により次回テーマについて提示するので、あらかじめよく思索し、アイデアを練った上で授業に臨むこと。事後学修については、当日の作品についての所感をレポート用紙1枚にまとめ、所定のアドレスへ向け送信すること。

事前および事後の学修には、週あたり、各々2時間以上を充てて臨む必要がある。

### 【テキスト・教材】

材料や資料等を配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

当日の作品ないしレポート40%、平常点（授業態度）40%、事後学修におけるレポート20%とする。学生へのフィードバックについては、当日の学生の作品を撮影した場合、それを各人にメールで配信する。撮影しなかった場合、次回の講義の冒頭において、講評を行う。また、マナバに不満や改善すべき事項等が記してあれば、同じくマナバにて回答し、次回に活かす。

### 【参考書】

参考書を適宜紹介する。

### 【注意事項】

演習内容によっては適切な衣類の着用が望ましい。これについては事前に連絡する。



## メディアテクノロジー演習 a (Web)

河井 延晃

2・3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

こもりまさあき、赤間 公太郎『Webデザインの新しい教科書 基礎から覚える、深く理解できる』MdNコーポレーション、2013

## 【注意事項】

・制作に際してのテーマはなるべく参加者の関心や問題意識をもとに進めてゆきます。個別のテーマに従いそれぞれ異なる実習作業をする場合も多いので欠席をしないようにしてください。

## 【授業のテーマ】

情報技術が普及している現在、コンピュータの専門家でなくとも情報技術を日常生活において役立てることが可能となっています。本授業では情報技術のなかでも特に「ネットワーク」に着目して、ネットワークのもつ社会的役割や問題状況を解説した上で、実践的に制作を行うことを目的とします。既に、様々なウェブ上のサービスを利用していると思いますが受け手としてだけでなく、送り手やサービス提供者の視点からもネットワーク技術について学んでゆきます。特に、アクセシビリティと情報デザインの観点から、スタイルシート (CSS) を基本としたウェブデザインを行います。

## 【授業における到達目標】

- ・ウェブ制作の基礎技術を習得すること。
- ・ウェブ制作を通じて「情報の構造化」について、その理念を理解する。
- ・情報のアクセシビリティを、製作者の視点から理解し、効率的でアクセス数の多いサイト設計が理解できる (SEO対策)。

## 【授業の内容】

## 1. オリエンテーション

## ◆Webの基礎知識

2. Web技術の思想1 成立史をたどって
3. Web技術の思想2 具体的なサービス事例をもとに
4. ネットワーク技術の基礎知識 TCP/IPとWWW
5. ネットワーク技術の基礎知識 Webコーディングの基礎

## ◆コンテンツデザイン

6. Web制作の基礎1 制作環境の調達 (有償/無償の環境構築)
7. Web制作の基礎2 著作権とセキュリティ
8. ウェブメディア制作1 企画 サイトのテーマ
9. ウェブメディア制作2 ラフデザイン
10. ウェブメディア制作3 マークアップ言語とコーディング
11. ウェブメディア制作4 アクセシビリティとSEO
12. ウェブメディア制作5 スタイルシートとコーディング
13. ウェブメディア制作6 完成とアップロード
14. ウェブメディア制作7 報告会と相互評価

## 15. まとめ

## 【事前・事後学修】

毎週テキスト、配布資料の範囲を指定するので、事前に通読しておくこと。また、制作課題を授業中に終えることは困難な場合が多いため、授業終了後から翌週までに各回の課題作業は終えておくこと (予習2時間程度)。

実習作業に入ると、前半の資料を復習しつつ、制作を時間外課題として取り組む必要があります (授業外制作、毎週3時間以上 (復習とみなします))。

## 【テキスト・教材】

初回授業において指示しますが、有用と思われる資料はプリントとして配布するか、参考書として授業中に指示します。配布した資料は毎週持参すること。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出課題類 (60%程度) と制作課題 (40%程度) により評価します。前半の講義が終わった段階で、理解度チェックテストをおこない、授業内で解説します。後半の制作課題については、課題完成後に全員で課題発表会をおこなう際に、教員からフィードバックを行います。

## 【参考書】

**メディアテクノロジー演習 b (データ)**

簡単なプログラミングをスクラッチとPythonでみにつけよう。

藤井 章博

2・3年 前期 2単位

◎：研鑽力

**【授業のテーマ】**

プログラミングは情報の専門家のための技術ではなく、幅広い応用分野を支える基盤技術として幅広く学修されるべきものとなっている。そこで、プログラミングに不可欠な考え方である繰り返し処理などテーマとして扱う。

**【授業における到達目標】**

本講義では、子供向けに開発されたプログラミング環境であるスクラッチを利用してプログラミングに対する具体的イメージを涵養したのち、Python言語の文法を習得することを目的とする。

**【授業の内容】**

1. スクラッチ導入
2. 繰り返しを理解する
3. 乱数の扱い
4. イベントの処理
5. これまでのまとめ
6. 課題 (スクラッチ)
7. Pythonの導入
8. ユーザインタフェース
9. データベース基礎
10. ソフトウェア開発
11. 音の表現
12. 文字の表現
13. 色の表現
14. デジタル画像
15. 総合演習

**【事前・事後学修】**

プログラミング言語の文法の見直し (週2時間)

プログラム演習課題の復習 (週2時間)

**【テキスト・教材】**

テキスト・教材は、MANABAシステムを通じて提供する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点 (説明への理解度) 40%、課題演習 (プログラムの理解) 60%  
毎回実施するプログラミング課題の修得をチェックし、個別にフィードバックを行う。

**【参考書】**

「Python チュートリアル」オライリー・ジャパン 1,800円

「みんなのPython」SoftBank Creative, 2800円

**【注意事項】**

本授業は、2年次学生を対象とする。2018年度後期開講予定の「メディアテクノロジー演習 c (開発)」は、本講義で学修するPython言語の基本文法の知識を前提とする。

**メディアテクノロジー演習 c (開発)**

先端的情報技術に触れるとともに自らの開発をつうじて展望する

藤井 章博

2・3年 後期 2単位

◎：研鑽力

**【授業のテーマ】**

コンピュータは、文字、音声、画像、映像といった様々な情報を扱う。今日の最先端のコンピュータインターフェースはそれぞれのデジタル処理を駆使して実装されている。その一端に触れるとともに自らの開発を通してその理解を深める。

**【授業における到達目標】**

Python言語習得を通じて、アプリケーションの基礎を開発する力を身につける。

**【授業の内容】**

1. Web技術とスクレイピング 1 (HTML)、インタラクション
2. Web技術とスクレイピング 2 (CSS)、入力技術
3. Web技術とスクレイピング 3 (動的なWeb)、コミュニケーション
4. 文書処理 (文字の扱い)、仮想現実と拡張現実
5. 文書処理 (自然言語処理)、新しいユーザインタフェース
6. 文書処理 (検索システムの評価)、ITがもたらす新しい環境
7. 中間演習 TF-IDF
8. デジタルメディアの成り立ち「今日の人工知能」
9. デジタルメディアの成り立ち「音のデジタル処理」
10. デジタルメディアの成り立ち「画像のデジタル処理」
11. デジタルメディアの成り立ち「イベント処理とシューティングゲーム開発事例」
12. Raspberry Pi を使おう。オペレーティングシステム
13. Raspberry Pi を使おう。インターネット接続
14. Raspberry Pi を使おう。スクラッチとPythonからデバイスの処理
15. 総合演習 (IoT アプリケーションにチャレンジ)

**【事前・事後学修】**

プログラミング言語の文法の見直し (週2時間)

プログラム演習課題の復習 (週2時間)

**【テキスト・教材】**

授業実施に併せて、電子媒体で提示する。

必要に応じて、30分程度の視聴覚教材を併用する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点 (メディアに関する説明の理解度) 40%、演習課題の提出60%。進捗状況に関する評価とそのフィードバックを行う。

**【参考書】**

柳沼良知、鈴木一史「デジタル情報の処理と認識」NHK出版

**【注意事項】**

本講義は、「メディアテクノロジー演習 b (データ)」の履修を通じてPython言語の基本文法を学修していることが望ましい。

**メディア芸術論**

国内外のメディア芸術表現にふれながら現代的教養を深める

小川 真人

2年～ 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

この授業は、美学的視点に立って、メディア芸術を考察するものです。メディア芸術の理解や定義についてはさまざまな意見がありますが、この授業ではメディア芸術を、情報技術が高度化した現代社会に現れる表現営為（具体的には写真や映像、デジタルアート、アニメーション、ゲーム、マンガ等）と理解し、その表現が投げかける主題や問題提起、社会的反響等を、具体的作品やコンテンツ表現の分析にそくしつつ考えます。このような学びを通じて、情報社会と言われる現代世界を生きていくうえで身につけておきたい現代教養を深めることを、この講義の総合的到達目標に位置づけます。

**【授業における到達目標】**

最先端のメディア芸術表現にふれることによって美の探求を深めるとともに、国内外のメディア芸術の動向を把握することで幅広い国際的視野を身につけることができる。

**【授業の内容】**

- 第1週 導入～メディア芸術とは？
- 第2週 メディア芸術の今日的動向
- 第3週 芸術と技術
- 第4週 芸術作品の同一性と可変性
- 第5週 メディア芸術の台頭
- 第6週 メディア芸術の発展
- 第7週 CGとアート表現
- 第8週 性格表現論
- 第9週 複製芸術論
- 第10週 メディア芸術と反復
- 第11週 複数視点のメディア芸術論
- 第12週 メディア芸術と自然
- 第13週 メディア芸術と家族論
- 第14週 メディア芸術と地域性
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事後学習を重視しつつ、前回授業で取り上げられた作品やコンテンツとその主題や社会的反響などについて、さらにすすんで自分なりに調べ、考察してみましょう。その事後学習が次回の事前学習につながるように授業内容が構成されています。コンテンツ等を視聴して、表現の特色や技法などについて具体的に確認するのに二時間。そのテーマや問題提起等について検討するのに二時間。

**【テキスト・教材】**

特に指定しません。毎回配布するプリントをもって本講義のテキストにかえます。目を通すべき文献や資料についてはその都度授業中に指示します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業内小レポートなど50%、学期末レポート50%。  
小レポートや授業内アンケートなどについては、優れた回答例等を授業中に紹介して講評し、授業内容に盛り込むことがあります。

**【参考書】**

- マクルーハン『メディア論』みすず書房
- マノヴィッチ『ニューメディアの言語』みすず書房

**【注意事項】**

授業中に適宜指示します。

**メディア芸術論**

国内外のメディア芸術表現にふれながら現代的教養を深める

小川 真人

2年～ 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

この授業は、美学的視点に立って、メディア芸術を考察するものです。メディア芸術の理解や定義についてはさまざまな意見がありますが、この授業ではメディア芸術を、情報技術が高度化した現代社会に現れる表現営為（具体的には写真や映像、デジタルアート、アニメーション、ゲーム、マンガ等）と理解し、その表現が投げかける主題や問題提起、社会的反響等を、具体的作品やコンテンツ表現の分析にそくしつつ考えます。このような学びを通じて、情報社会と言われる現代世界を生きていくうえで身につけておきたい現代教養を深めることを、この講義の総合的到達目標に位置づけます。

**【授業における到達目標】**

最先端のメディア芸術表現にふれることによって美の探求を深めるとともに、国内外のメディア芸術の動向を把握することで幅広い国際的視野を身につけることができる。

**【授業の内容】**

- 第1週 導入～メディア芸術とは？
- 第2週 メディア芸術の今日的動向
- 第3週 芸術と技術
- 第4週 芸術作品の同一性と可変性
- 第5週 メディア芸術の台頭
- 第6週 メディア芸術の発展
- 第7週 CGとアート表現
- 第8週 性格表現論
- 第9週 複製芸術論
- 第10週 メディア芸術と反復
- 第11週 複数視点のメディア芸術論
- 第12週 メディア芸術と自然
- 第13週 メディア芸術と家族論
- 第14週 メディア芸術と地域性
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事後学習を重視しつつ、前回授業で取り上げられた作品やコンテンツとその主題や社会的反響などについて、さらにすすんで自分なりに調べ、考察してみましょう。その事後学習が次回の事前学習につながるように授業内容が構成されています。コンテンツ等を視聴して、表現の特色や技法などについて具体的に確認するのに二時間。そのテーマや問題提起等について検討するのに二時間。

**【テキスト・教材】**

特に指定しません。毎回配布するプリントをもって本講義のテキストにかえます。目を通すべき文献や資料についてはその都度授業中に指示します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業内小レポートなど50%、学期末レポート50%。  
小レポートや授業内アンケートなどについては、優れた回答例等を授業中に紹介して講評し、授業内容に盛り込むことがあります。

**【参考書】**

- マクルーハン『メディア論』みすず書房
- マノヴィッチ『ニューメディアの言語』みすず書房

**【注意事項】**

授業中に適宜指示します。

## メディア社会概論

行実 洋一

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

### 【授業のテーマ】

私たちの日常生活に欠かせないテレビや新聞、映画やインターネットといった様々なメディアには、それぞれ固有の特質と課題があり、独自のマネジメントの手法が存在します。しかし、そうしたものの理解は決して十分とはいえません。

そこで本授業では、そうした多種多様なメディアについて、具体的な事例を交えつつ概説を行い、基本的理解と見識を深めながら、メディアに関する総合的な素養をはぐくみたいと考えています。

### 【授業における到達目標】

将来のメディア・コミュニケーションのプロフェッショナル（クリエイター、ジャーナリスト、作家、アナウンサー、及び企業の宣伝広報担当、プレス、コーディネーターなど）を目指す人や、あるいは賢明なる読者・視聴者・観客といった実り豊かな生活者となるための基礎固めが行えるよう「国際的視野」を広め、「研鑽力」の向上を図ります。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 メディア社会とは何か？
- 第3週 テレビメディアにおけるマネジメント
- 第4週 テレビメディアの現状と課題①～ビジネスモデル
- 第5週 テレビメディアの現状と課題②～視聴率主義
- 第6週 テレビメディアの現状と課題③～テレビ離れ
- 第7週 新聞・出版におけるメディア・マネジメント
- 第8週 新聞・出版における現状と課題
- 第9週 映画メディアにおけるマネジメント
- 第10週 映画メディアの現状と課題
- 第11週 ネットメディアにおけるマネジメント
- 第12週 ネットメディアの現状と課題①～‘祭り’や‘炎上’
- 第13週 ネットメディアの現状と課題②～個人情報と人権
- 第14週 今後のメディア社会の展望
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】各授業内容の準備と提示された課題をやってくる事が求められます（毎回120分）。

【事後学修】その日の授業内容を復習し、内容の整理・理解に務めることが求められます（毎回120分）。

### 【テキスト・教材】

プリント資料を随時配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験70%、平常点（授業への積極参加、及び発表）30%。この割合を基準として総合的に評価します。

期末試験等のフィードバックは授業の中で適宜行います。

### 【参考書】

参考資料（図書・DVD等）を授業の進行に応じ随時紹介します。

**メディア社会論**

メディア社会を生き抜くために、その深層に迫る

駒谷 真美

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

現代社会は、情報が氾濫するメディア社会でもある。本授業では、メディア社会の様相について深層を読み解いていく。メディアによる社会現象の例を取り上げ、過去の背景から現在の問題、そして未来への影響や可能性まで解明する。本授業の目的は、情報社会参画の基盤となるメディア情報リテラシー（MIL）の育成である。

**【授業における到達目標】**

MIL基礎段階の目標は、[メディア理解] ①active audienceとしてメディア社会への参画意識を高めることができる②メディアの利便性と危険性について認識できることである。①②の達成により、本学の学生が修得すべき[研鑽力]「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる力」を蓄積する。

**【授業の内容】**

1. 導入 授業概要とmanabaの学修法の説明・事前アンケート
2. 稠密化・重層化・複合化する間メディア社会  
(例) アナログメディアとデジタルメディアのミルフィーユ
3. 消費を享受する社会 (1) クロスメディア  
(例) 「妖怪ウォッチ」は第二の「ポケモン」?
4. 消費を享受する社会 (2) キャラクタービジネス  
(例) 「初音ミク」「くまモン」が愛される理由
5. 消費を享受する社会 (3) 広告とマーケティング  
(例) 「アド・ミュージアム東京」学芸員授業(課題レポート①)
6. 疎外される社会 (1) 表現の自由  
(例) 「はだしのゲン」はなぜ閲覧制限されるのか?
7. 疎外される社会 (2) 報道被害  
(例) 「松本サリン事件」無実の会社員を容疑者にしたのは誰?
8. 疎外される社会 (3) 情報操作  
(例) 東日本大震災「フクイチ」で何が起きていたのか?
9. 疎外される社会 (4) 情報格差  
(例) 「フクイチ原発避難」にみる情報強者と情報弱者
10. 疎外される社会 (5) メディアのチカラ  
(例) テレビ局 出前授業(課題レポート②)
11. 現実と仮想を彷徨う社会 ステレオタイプ  
(例) 「アナ雪」に見るプリンセス像の変容
12. メディアに依存する社会 ゲーム・スマホ依存症  
(例) 「モンハン、一狩りいこうぜ!」で社会生活に戻れない
13. つながりを模索する社会 (1) メディアコミュニケーション  
(例) SNSでつながる確かさと危うさ
14. つながりを模索する社会 (2) メディアコミュニケーション  
(例) デジタルタトゥー、ネット社会で消せない過去
15. 総括 課題レポートのフィードバック・事後アンケート

**【事前・事後学修】**

事前学修(学修時間:週2時間)では、manabaのコンテンツ機能にある授業資料を熟読し、授業をイメージする。事後学修(学修時間:週2時間)では、学修内容をリフレクションシートや課題レポートにまとめ、manabaのレポート機能で期限内に提出し保存する。

**【テキスト・教材】**

授業資料をmanabaのコンテンツに適宜アップ。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点(第1~15回のリフレクションシートNo.1~No.6)60%+活動点(課題レポート①②)40%の総合的評価。リフレクションシートは次回授業開始時、課題レポートは最終回にフィードバック。

**【参考書】**

授業で適宜紹介。

**【注意事項】**

- ・本授業ではEnjoyment・Edutainment・Empowermentを重視しているので、積極的に楽しんで学修してもらいたい。
- ・前期の「メディア心理学」とセット履修が望ましい。

**メディア社会論**

メディア社会を生き抜くために、その深層に迫る

駒谷 真美

2年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

現代社会は、情報が氾濫するメディア社会でもある。本授業では、メディア社会の様相について深層を読み解いていく。メディアによる社会現象の例を取り上げ、過去の背景から現在の問題、そして未来への影響や可能性まで解明する。本授業の目的は、情報社会参画の基盤となるメディア情報リテラシー（MIL）の育成である。

**【授業における到達目標】**

MIL基礎段階の目標は、[メディア理解] ①active audienceとしてメディア社会への参画意識を高めることができる②メディアの利便性と危険性について認識できることである。①②の達成により、本学の学生が修得すべき[研鑽力]「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる力」を蓄積する。

**【授業の内容】**

1. 導入 授業概要とmanabaの学修法の説明・事前アンケート
2. 稠密化・重層化・複合化する間メディア社会  
(例) アナログメディアとデジタルメディアのミルフィーユ
3. 消費を享受する社会 (1) クロスメディア  
(例) 「妖怪ウォッチ」は第二の「ポケモン」?
4. 消費を享受する社会 (2) キャラクタービジネス  
(例) 「初音ミク」「くまモン」が愛される理由
5. 消費を享受する社会 (3) 広告とマーケティング  
(例) 「アド・ミュージアム東京」学芸員授業 (課題レポート①)
6. 疎外される社会 (1) 表現の自由  
(例) 「はだしのゲン」はなぜ閲覧制限されるのか?
7. 疎外される社会 (2) 報道被害  
(例) 「松本サリン事件」無実の会社員を容疑者にしたのは誰?
8. 疎外される社会 (3) 情報操作  
(例) 東日本大震災「フクイチ」で何が起きていたのか?
9. 疎外される社会 (4) 情報格差  
(例) 「フクイチ原発避難」にみる情報強者と情報弱者
10. 疎外される社会 (5) メディアのチカラ  
(例) テレビ局 出前授業 (課題レポート②)
11. 現実と仮想を彷徨う社会 ステレオタイプ  
(例) 「アナ雪」に見るプリンセス像の変容
12. メディアに依存する社会 ゲーム・スマホ依存症  
(例) 「モンハン、一狩りいこうぜ!」で社会生活に戻れない
13. つながりを模索する社会 (1) メディアコミュニケーション  
(例) SNSでつながる確かさと危うさ
14. つながりを模索する社会 (2) メディアコミュニケーション  
(例) デジタルタトゥー、ネット社会で消せない過去
15. 総括 課題レポートのフィードバック・事後アンケート

**【事前・事後学修】**

事前学修 (学修時間：週2時間) では、manabaのコンテンツ機能にある授業資料を熟読し、授業をイメージする。事後学修 (学修時間：週2時間) では、学修内容をリフレクションシートや課題レポートにまとめ、manabaのレポート機能で期限内に提出し保存する。

**【テキスト・教材】**

授業資料をmanabaのコンテンツに適宜アップ。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点 (第1～15回のリフレクションシートNo. 1～No. 6) 60%+活動点 (課題レポート①②) 40%の総合的評価。リフレクションシートは次回授業開始時、課題レポートは最終回にフィードバック。

**【参考書】**

授業で適宜紹介。

**【注意事項】**

- ・本授業ではEnjoyment・Edutainment・Empowermentを重視しているので、積極的に楽しんで学修してもらいたい。
- ・前期の「メディア心理学」とセット履修が望ましい。

**メディア心理学**

子どもから大人まで、人とメディアの関わりを考える

駒谷 真美

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

人は、乳児期から老年期まで生涯において発達する存在である。同時に高度情報社会の中で、メディアの受け手・使い手・作り手・送り手としても発達していく。そこで本授業では、生涯発達心理学の観点から、世代別特徴を踏まえたメディア観を把握し、各時期の発達の特徴や課題と関連する情報行動について、系統的かつ包括的理解を深めていく。本授業では、メディア観や情報行動と密接するメディア情報リテラシー（MIL）の育成を目的とする。

**【授業における到達目標】**

MIL基礎段階の目標は、[メディア理解] ①ライフサイクルに関わるメディア観と情報行動を認識できるようになる②メディアの特性と役割について基本的な理解ができることである。①②の達成により、本学の学生が修得すべき[研鑽力]「学ぶ楽しみを知り、広い視野で知を探究できる力」の基礎を固める。

**【授業の内容】**

1. 導入 授業概要とmanabaでの学修法の説明・事前アンケート
2. 入門 メディア略史とメディア心理学の考え方
3. 乳児期「VR（仮想現実）AR（拡張現実）世代」の情報感知行動  
ー赤ちゃんとママと「アンパンマン」アプリ
4. 幼児期（1）「タッチスクリーン世代」の情報探索行動  
ーピカピカ泥団子を作るには？
5. 幼児期（2）「タッチスクリーン世代」の情報共有行動  
ーたかがごっこ遊び、されどごっこ遊び！
6. 児童期（1）「新ソーシャルメディア世代」の問題解決行動  
ー「謎は全て解けた！」かな？
7. 児童期（2）「新ソーシャルメディア世代」の情報獲得行動  
ー「これから何が起こってもこれが仲間の印だ！」
8. 思春期「ソーシャルメディア世代」の協調的情報行動  
ーSNSマジ疲れるけどやめられない!!!
9. 青年期「新デジタルネイティブ」の協調的情報行動  
ーとりあえずみんなで「いいね」！
10. テレビ局出前授業（情報探索プロセスモデルの課題レポート）
11. 成人期「デジタルネイティブ」の人生選択にみる情報ニーズ  
ー「逃げ恥」みくりと平匡さんのリアルは？
12. 中年期（1）「デジタル移民」の認知的不協和行動  
ーバブルのはかない夢いずこ・・・
13. 中年期（2）「お茶の間テレビ世代」の協調的情報行動  
ー「にんげんだもの」みんなで老ければ怖くない
14. 老年期「新聞ラジオ信仰世代」の情報格差払拭行動  
ーかわいい孫のためならばLINEやります！インスタします！
15. 総括 課題レポートのフィードバック・事後アンケート

**【事前・事後学修】**

事前学修（学修時間：週2時間）では、manabaにある授業資料を熟読し、授業をイメージする。事後学修（学修時間：週2時間）では、学修内容をリフレクションシートや課題レポートにまとめ、manabaで期日内に提出し保存する。

**【テキスト・教材】**

授業資料をmanabaに適宜アップ。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（第1～15回のリフレクションシートNo. 1～No. 5）75%+活動点（課題レポート）25%の総合的評価。リフレクションシートは次回授業開始時、課題レポートは最終回にフィードバック。

**【参考書】**

授業で適宜紹介。

**【注意事項】**

- ・本授業ではEnjoyment・Edutainment・Empowermentを重視しているので、積極的に楽しんで学修してもらいたい。
- ・後期の「メディア社会論」とセット履修が望ましい。



## メディア生活学 a

行実 洋一

2・3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

## 【授業のテーマ】

日々の生活に欠かせないテレビや新聞、映画やインターネットといった様々なメディアには、それぞれ固有の特質と課題があり、それを十分理解することは、私たちの生活を豊かなものとするために欠かせません。

そこで本授業では、そうした多種多様なメディアについて、具体的な事例を交えながら、より深い考察を行い、メディアを日々の生活に役立てていくための素養をはぐくみたいと考えています。

## 【授業における到達目標】

将来のメディア・コミュニケーションのプロフェッショナル（クリエイター、ジャーナリスト、作家、アナウンサー、及び企業の宣伝広報担当、プレス、コーディネーター、デザイナーなど）を目指す人や、あるいは賢明なる読者・視聴者・観客といった、実り豊かな生活者となるための基礎固めが行えるよう「研鑽力」の向上を図り、さらに「美の探究」的精神を育みます。

## 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 メディア生活を豊かなものとするために
- 第3週 映像メディアの現状と課題①～テレビ
- 第4週 映像メディアの現状と課題②～映画
- 第5週 映像メディアの現状と課題③～動画サイト
- 第6週 メディアデザインについて
- 第7週 活字メディアの現状と課題①～新聞
- 第8週 活字メディアの現状と課題②～出版
- 第9週 ネットメディアの現状と課題①～SNS
- 第10週 ネットメディアの現状と課題②～人権と規制
- 第11週 メディア生活と技術①～AR/VR
- 第12週 メディア生活と技術②～AI
- 第13週 メディアビジネスの今
- 第14週 今後のメディア生活の展望
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】各授業内容の準備と提示された課題をやってくることが求められます（毎回120分）。

【事後学修】その日の授業内容を復習し、内容の整理・理解に務めることが求められます（毎回120分）。

## 【テキスト・教材】

プリント資料を随時配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験70%、平常点（授業への積極参加、及び発表）30%。この割合を基準として総合的に評価します。

期末試験等のフィードバックは授業の中で適宜行います。

## 【参考書】

参考資料（図書・DVD等）を授業の進行に応じ随時紹介します。

## メディア生活学 b

河井 延晃

2・3年 後期 2単位

○：美の探究、行動力

## 【授業のテーマ】

現代社会においては、いわゆるマスメディア以外にも日常のさまざまな状況でネットメディアが介在しています。本授業では、これまで様々な議論されてきた情報化社会論や統計資料などを読み解きながら、情報化やネットメディアが現代生活においてどのような意味を持ちつつあるのかについて講義します。さらに、第四次産業革命に着目して、どのような課題やビジネスが成立可能なのかについて各自が批評・構想することができることを、本授業全体の目標とします。

## 【授業における到達目標】

- ・情報化社会を理解するための基礎的概念の理解（クラウド、AI、IoT、第四次産業革命など。）
- ・新しいビジネスの形態を考えるための基礎概念の理解。
- ・情報通信白書など基礎資料を読み解くためのリテラシーの涵養。

## 【授業の内容】

1. オリエンテーション
2. 統計資料の種類とアクセス
3. 統計資料から読み解く情報社会
4. 情報化社会からネット社会へ ネット社会前史
5. 情報化社会からネット社会へ 高度情報化社会
6. 家族関係の情報化 家庭環境の変化
7. 家族関係の情報化 家庭内の情報化と表象（家族イメージ）
8. 教育・学習の情報化 教育の情報化の系譜
9. 教育・学習の情報化 オープンな教育環境
10. 職場・組織の情報化 近代社会と組織コミュニケーション
11. 職場・組織の情報化 新しいワークスタイルa
12. 職場・組織の情報化 新しいワークスタイルb
13. 地域の情報化
14. 政治の情報化
15. まとめ

## 【事前・事後学修】

事前学修として、次回の授業のために予習箇所を指示するので、毎回通読してくること（主にテキスト一章分程度、120分）。また、白書や公開データはスマホや印刷して持参してもらうことがあります。

事後学修として、授業の終わりに授業サイトへの書き込みや、調査課題を出します（120分）。さらに授業中扱いきれなかった事例（新聞記事や資料）を各自で読んで授業サイトへコメントを書き込む場合もあります。

## 【テキスト・教材】

オリエンテーション時に学生の関心などをうかがって輪読資料などを決めます。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポートや報告類（70%程度）と平常点（30%程度）により評価します。なお、平常点とはコメントシートや授業用BBSへの書き込み等を対象とします。レポート、報告については、発表時など随時フィードバックをおこないます。

## 【参考書】

授業中に適宜指示します。

## 【注意事項】

本授業では単に指定テキストの内容を理解したり覚えたりすることも重要ですが、各概念や理論を自分の身辺や現在の社会現象などに当てはめて考察・応用することに主眼をおきます。アクティブな授業参加が求められると考えてください。

## メディア生活経営論 a

高橋 徹

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

## 【授業のテーマ】

メディアは企業の活動をはじめとして重要な役割を担ってきました。近年では個人がメディアを利用して容易に発信できるようになり、社会活動の在り方にも大きな影響を与えています。このメディアを利用することで企業や個人にとって多くの有用なことができるようになった一方で、これまでになかった問題も多く起きています。

この授業では企業や個人にとって有用なことは何であるか、どうすればそれを有用にマネジメントすることができ、あるいは問題となるのかを学んでもらいます。このために事例の紹介や皆さん自身で調査してもらいます。最終的にメディアを使った事業の提案を行ってもらいます。

## 【授業における到達目標】

1. メディアを自身、企業において効果的にマネジメントを行うことができるようになる
2. 「行動力」、「研鑽力」を事業構想の提案で課題の設定と解決策を考える過程において身につける

## 【授業の内容】

1. オリエンテーション
2. 企業におけるメディアの利用
3. 個人におけるメディアの利用
4. メディアによる社会の変化
5. 企業のメディア利用事例の分析（導入）
6. 企業のメディア利用事例の分析（分析）
7. 企業のメディア利用事例の分析（発表）
8. 社会におけるメディアの利用事例の分析（導入）
9. 社会におけるメディアの利用事例の分析（分析）
10. 社会におけるメディアの利用事例の分析（発表）
11. メディアを使った事業構想の提案（導入）
12. メディアを使った事業構想の提案（作成）
13. メディアを使った事業構想の提案（発表）
14. メディアを使った事業構想の提案（議論）
15. まとめ

## 【事前・事後学修】

〈事前学修〉

前半は次回の予告を行うので事前に自分なりに調べてきてください。中盤以降のグループ作業では作業に必要な情報を調べ、考えをまとめたうえで臨んでください。（週2時間）

〈事後学修〉

グループ作業は授業内だけで終わるのは難しいのでグループ内で相談しつつ作業を完了してください。具体的にどこまで完了すればよいかは毎回の授業で説明します。（週2時間）

## 【テキスト・教材】

必要に応じて参考となる資料を配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

それぞれのグループワークの成果物で評価を行います。正解は必ずしもないので、論理性を重視して評価します。フィードバックは発表の都度、行っていきます。（発表：70%、授業の積極的参加度：30%）

## 【参考書】

特にはありませんが、質問などがあればその参考になる書籍を紹介することがあります。

## メディア生活経営論 b

映像メディア論

行実 洋一

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

テレビ、映画をはじめとする「映像メディア」には、独自の手法や構造が存在しますが、その根底にあるのは、「正しく」「分かりやすく」、そして時に「楽しく」「面白く」伝えるというコミュニケーションの基本です。

視聴者や観客の興味関心を喚起し、同時に正しく迅速に情報を伝えるために、これまでマスメディアの当事者は様々な努力を行ってきました。そこで本授業では、こうしたマスメディアの基本的手法（脚本や構成、撮影やナレーションなど）を学びつつ、自分たちであれば、それをどう、正確に、あるいは面白く伝えるか、実践的に自分たちで「取材」、あるいは「映像を作り発信する」ことを行います。「取材」「編集」などのプロセスはチーム制で行い、実際の「発信」はインターネットなどの媒体を利用する予定です。

## 【授業における到達目標】

授業では様々な作品を通して、その演出技法のみならず、制作者の意図や文化的背景などにも踏み込んで学びます。その作業を通じて、広く社会を見つめる「国際的視野」を広め、具体的製作を通して「研鑽力」の向上、さらに加えて「行動力」「協働力」の鍛錬を図ります。

## 【授業の内容】

- 1 導入：授業ガイダンスと全体説明
- 2 映像制作の基本①：伝えるとはどういうことか
- 3 映像制作の基本②：楽しませるとはどういうことか
- 4 映像制作のプロトコル①：企画・脚本・構成
- 5 映像制作のプロトコル②：ビジュアルデザイン
- 6 映像制作のプロトコル③：撮影
- 7 映像制作のプロトコル④：編集
- 8 映像制作のプロトコル⑤：音響効果
- 9 映像制作演習①：企画構成打ち
- 10 映像制作演習②：取材・撮影
- 11 映像制作演習③：編集作業
- 12 映像制作演習④：MA、ナレーション
- 13 初回試写
- 14 完成試写
- 15 まとめ：批評と総括

## 【事前・事後学修】

【事前学修】各授業内容の準備と提示された課題をやってくることで求められます（毎週120分）。

【事後学修】その日の授業内容を復習し、内容の整理・理解に務めることが求められます（毎週120分）。

## 【テキスト・教材】

プリント資料などは随時配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

演習形式という性格上、演習内容及び作品評価が70%、日々の授業の平常点（授業態度・参加意欲等）を30%として配分し、総合評価を行います。

演習課題、作品等のフィードバックは授業の中で適宜行います。

## 【参考書】

参考書・資料（図書・DVD等）は授業中に適宜指示します。

**メディア生活経営論演習b**

映像メディア制作

行実 洋一

4年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

この授業は、3年次の「メディア生活経営論b」をベースとして、さらにより深く、映像の演出手法、制作手法を学ぶものです。

実際に映像を作る際には、その対象と取り組む、制作者の意図や意識が深く試されます。対象との深いコミュニケーションがなければ、その映像は単なる「記録」でしかなく、見た人の心に深く語りかけるものにはなかなかなりません。

従って、引き続きメディアの様々な手法（脚本や構成、撮影やナレーションなど）を学びつつ、より以上に実践的に自分たちで「取材」、あるいは「映像を作り発信する」ことを行います。「取材」「編集」などのプロセスはチーム制で行い、実際の「発信」はインターネットなどの媒体を利用する予定です。

**【授業における到達目標】**

より高度な技術の取得や取材、調査、及びより深い対象とのコミュニケーションなどを通じて、「研鑽力」「行動力」を、またチームとの共同作業を通じて「協働力」の向上を図ります。

**【授業の内容】**

- 1 導入：授業ガイダンスと全体説明
- 2 映像制作の応用①：演出の手法
- 3 映像制作の応用②：役者の演技
- 4 映像制作のプロトコル①：企画・脚本・構成
- 5 映像制作のプロトコル②：撮影・照明
- 6 映像制作のプロトコル③：編集
- 7 映像制作のプロトコル④：MA、ナレーション
- 8 映像制作のプロトコル⑤：映像加工
- 9 映像制作中間発表
- 10 映像制作演習①：再構成
- 11 映像制作演習②：再撮
- 12 映像制作演習③：再編集
- 13 初回試写
- 14 完成試写
- 15 まとめ：批評と総括

**【事前・事後学修】**

【事前学修】各授業内容の準備と提示された課題をやってくる事が求められます（毎回120分）。

【事後学修】その日の授業内容を復習し、内容の整理・理解に務め、修正等の作業求められます（毎回120分）。

**【テキスト・教材】**

プリント資料などは随時配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

演習形式という性格上、演習内容及び作品評価が70%、日々の授業の平常点（授業態度・参加意欲等）を30%として配分し、総合評価を行います。

演習課題、作品等のフィードバックは授業の中で適宜行います。

**【参考書】**

参考書・資料（図書・DVD等）は授業中に適宜指示します。

**【注意事項】**

3年次の「メディア生活経営論b」の履修が前提となりますが、履修をしていない人も登録は可能です。ただしその場合は一層の努力が求められます。

**メディア表現論**

メディアの受け手・使い手から作り手・送り手になる

駒谷 真美

3年 前期 2単位

◎：協働力 ○：美の探究、行動力

**メディア文化論**

情報メディア社会における文化形成

浅岡 隆裕

2年 前期 2単位

○：国際的視野、行動力

**【授業のテーマ】**

ICTの急速な発展と普及に伴い、メディア表現も変容の途にある。本授業では、メディアの受け手・使い手・作り手・送り手の立場から、メディアから得られる情報を主体的に読み解き活用し、コミュニケーションを創造していく。30～60秒の映像作品を企画・取材・撮影・編集の段階に沿って制作し、実践的な経験を蓄積する。最終的には、外部のメディア作品コンテストへの応募を目指す。本授業では、21世紀のデジタル・メディア表現者として必要不可欠なメディア情報リテラシー（MIL）の育成を目的とする。

**【授業における到達目標】**

MIL応用段階の目標は、[コミュニケーション] ①作品の制作過程を通して、MILの自己表現力を培い、ICTを駆使してメディアメッセージを発信できる②他者の異なる価値観を受け止め、協働から新しい価値観を創り、社会に情報発信できることである。①②の達成により、本学の学生が修得すべき[行動力]「目的設定・計画立案し実行できる力」と[協働力]「自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進め、豊かな人間関係を構築する力」を獲得する。

**【授業の内容】**

1. 導入 授業概要とmanabaによる学修法の説明・事前アンケート
  2. メディア情報リテラシー—メディア制作に必要な情報モラル
  3. 企画立案—アイデア出し合いブレインストーミング
  4. 企画案の検討・完成—企画コンテ完成でアイデア見える化
  5. 企画発表会—プレゼン・討論・講評で企画方向性決定
  6. テレビ番組・CM制作者の出前授業—メディアのプロに学ぼう！
  7. 取材方法—ズバリ！聞くインタビューのテクニック・コツ
  8. 撮影方法—撮りたい「絵」を撮るためのテクニック・コツ
  9. 取材撮影活動—聞いてみた・撮ってみた！
  10. 編集方法—映像をよさげに見せるテクニック・コツ
  11. 編集活動—まとめてみた！
  12. 中間合評会—プレゼン・討論・講評で作品客観視
  13. 修正・改善—変えてみた！
  14. 作品完成・コンテスト応募準備—できた！できた！できた！
  15. 最終合評会（プレゼン・討論・講評）・事後アンケート
- \*3～15の回では、メディアの製作者が参加し適宜助言予定

**【事前・事後学修】**

事前学修（学修時間：週2時間）では、manabaにある授業資料を熟読し、授業をイメージする。事後学修（学修時間：週2～6時間）では、学修内容をリフレクションシートにまとめ、manabaで期限内に提出し保存する。グループで制作完成に向けて活動する。

**【テキスト・教材】**

授業資料をmanabaに適宜アップ。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（第1～15回のリフレクションシートNo. 1～No. 4）50%＋活動点（企画・中間プレゼン・最終プレゼン・制作）50%の総合的評価。リフレクションシートは次回授業開始時、制作プレゼンは該当回にフィードバック。

**【参考書】**

授業で適宜紹介。

**【注意事項】**

- ・本授業ではEnjoyment・Edutainment・Empowermentを重視しているので、積極的に楽しんで学修してもらいたい。
- ・使用機材に限られるため、履修は上限15人を目安とする。超過した場合は初回に抽選する。各グループの進捗状況により、授業外での自主活動も想定される。
- ・「演習ⅢA・B」（駒谷担当）の履修生は、本授業も受講することが望ましい。

**【授業のテーマ】**

現代の社会事象や文化において、情報技術やメディアとの関わりはますます密接になっています。

本講では、メディア、文化、さらに重要タームとなる情報やコミュニケーションなどの基礎的な概念をまず理解します。その後に具体事例として情報技術の高度化やメディア・コミュニケーションの成熟化によって、いかなる社会、文化変容が生じてきたのか（そして今後して行くのか）について概説していきます。

まさに今起こっている出来事自体が、本講の扱うべき“テキスト”であり、それらを読み解いていく面白さを体感してもらうこととなります。

**【授業における到達目標】**

情報文化やメディアの歴史、仕組みや原理を体系的に理解し、「セミオ・リテラシー」と「メディア・リテラシー」を習熟できます。新聞、雑誌記事、映像素材なども活用しながら、ここ最近のトピックスについても言及・解説していきますので、現代的な身の回りのメディアとコミュニケーションの文化について理解・説明することができるようになります。

本講義を通して、「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができるようになる」ことが期待されます。

**【授業の内容】**

- 第1週 科目オリエンテーション なぜ、どのように学ぶのか
- 第2週 「メディア」の基礎知識
- 第3週 「文化」の基礎知識
- 第4週 メディア文化の近代
- 第5週 メディア文化の現代
- 第6週 放送メディア文化の起源と展開
- 第7週 放送メディア文化の社会的な影響
- 第8週 今日におけるマスメディア文化
- 第9週 メディア文化の質的変容
- 第10週 モバイルメディアの登場
- 第11週 ネット時代のカルチャー
- 第12週 ネット普及以降のコミュニケーション文化
- 第13週 ネット時代のリテラシー
- 第14週 メディア文化の現代的特質
- 第15週 全体のまとめと今後の展望

**【事前・事後学修】**

授業の事前に2時間、事後に2時間それぞれ学修を行ってください。具体的には、授業で見開きした概念、事例について、配布したレジュメや資料、板書ノートなどを参考にしつつ復習してください。他の社会事象について当てはまる事例がないかなど考えてみるとよいでしょう。授業内で関連する参考書を紹介しますので、こちらも講義内容を深めるという点では推奨します。

**【テキスト・教材】**

テキストは特に使用しません。毎回プリントを配布し、それに基づき講義を展開します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

評価の配分基準は、複数回の小レポート20%、期末レポート課題60%、平常点（授業での積極参加・提出課題）20%となっています。

小レポートは返却時に、提出された内容を踏まえ全体的なコメントをします。また期末レポートについては、回収後に解説と補足説明を口頭もしくは書面にて予定です。小レポートや試験についてのメールでの問合せに対しては適宜対応します。

**【参考書】**

浅岡隆裕 著『メディア表象の文化社会学—（昭和）イメージの生成と定着の研究』（ハーベスト社 2012）

浅岡隆裕 著『インターネット普及期以降の地域情報化とコミュニケーション変容』（KADOKAWA 2016）

吉見俊哉 著『メディア文化論 メディアを学ぶ人のための15話』（有斐閣 2012年）

**【注意事項】**

私語は他の受講者に迷惑になるのでしないでください。

新聞や雑誌記事、テレビに接する際には、それぞれのメディアが現代社会をどのように捉えているのかといった視点で見てもらうことを勧めます。

**メディア文化論**

情報メディア社会における文化形成

浅岡 隆裕

2年～ 前期 2単位

○：国際的視野、行動力

浅岡隆裕 著『インターネット普及期以降の地域情報化とコミュニケーション変容』（KADOKAWA 2016）

吉見俊哉 著『メディア文化論 メディアを学ぶ人のための15話』（有斐閣 2012年）

**【注意事項】**

私語は他の受講者に迷惑になるのでしないでください。

新聞や雑誌記事、テレビに接する際には、それぞれのメディアが現代社会をどのように捉えているのかといった視点で見てもらうことを勧めます。

**【授業のテーマ】**

現代の社会事象や文化において、情報技術やメディアとの関わりはますます密接になっています。

本講では、メディア、文化、さらに重要タームとなる情報やコミュニケーションなどの基礎的な概念をまず理解します。その後具体的に事例として情報技術の高度化やメディア・コミュニケーションの成熟化によって、いかなる社会、文化変容が生じてきたのか（そして今後して行くのか）について概説していきます。

まさに今起こっている出来事自体が、本講の扱うべき“テキスト”であり、それらを読み解いていく面白さを体感してもらうことになります。

**【授業における到達目標】**

情報文化やメディアの歴史、仕組みや原理を体系的に理解し、「セミオ・リテラシー」と「メディア・リテラシー」を習熟できます。新聞、雑誌記事、映像素材なども活用しながら、ここ最近のトピックスについても言及・解説していきますので、現代的な身の回りのメディアとコミュニケーションの文化について理解・説明することができるようになります。

本講義を通して、「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができるようになる」ことが期待されます。

**【授業の内容】**

- 第1週 科目オリエンテーション なぜ、どのように学ぶのか
- 第2週 「メディア」の基礎知識
- 第3週 「文化」の基礎知識
- 第4週 メディア文化の近代
- 第5週 メディア文化の現代
- 第6週 放送メディア文化の起源と展開
- 第7週 放送メディア文化の社会的な影響
- 第8週 今日におけるマスメディア文化
- 第9週 メディア文化の質的変容
- 第10週 モバイルメディアの登場
- 第11週 ネット時代のカルチャー
- 第12週 ネット普及以降のコミュニケーション文化
- 第13週 ネット時代のリテラシー
- 第14週 メディア文化の現代的特質
- 第15週 全体のまとめと今後の展望

**【事前・事後学修】**

授業の事前に2時間、事後に2時間それぞれ学修を行ってください。具体的には、授業で見聞きした概念、事例について、配布したレジュメや資料、板書ノートなどを参考にしつつ復習してください。他の社会事象について当てはまる事例がないかなど考えてみるとよいでしょう。授業内で関連する参考書を紹介しますので、こちらも講義内容を深めるという点では推奨します。

**【テキスト・教材】**

テキストは特に使用しません。毎回プリントを配布し、それに基づき講義を展開します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

評価の配分基準は、複数回の小レポート20%、期末レポート課題60%、平常点（授業での積極参加・提出課題）20%となっています。

小レポートは返却時に、提出された内容を踏まえ全体的なコメントをします。また期末レポートについては、回収後に解説と補足説明を口頭もしくは書面にて予定です。小レポートや試験についてのメールでの問合せに対しては適宜対応します。

**【参考書】**

浅岡隆裕 著『メディア表象の文化社会学—（昭和）イメージの生成と定着の研究』（ハーベスト社 2012）

## メディア論 a

河井 延晃

1年～ 前期 2単位

○：研鑽力

### 【参考書】

授業中に適宜紹介します。

### 【注意事項】

授業内で、スマホ等の端末利用を前提としますが、未所持の方も配慮しますので、遠慮なく初回授業時に申し出てください。

### 【授業のテーマ】

本講義は、メディア社会への理解を深めるために「歴史」と「実践」の観点から講義を行います。前半では今日マスメディアといわれている機制（しくみ）が、どのような経緯で近代社会を形成したのかをメディア史の観点から講義します。後半は特に現代の電子メディアを対象とし、現代社会でどのようにメディアが実践されているかに着目します。

現代では情報やメディアという言葉はありふれたものとなりました。これは、メディアや情報化の重要性とともにそれ自体が「あたりまえ」となっていることを物語っています。一方で、このような「自明性」は、社会的に意味づけられ、媒介されてきたものです。このような日常を構成する「メディアの社会的機制」を振り返り、理解を深めることが本授業の目標です。

### 【授業における到達目標】

どちらも、既存のメディアがどのように今日の社会観や人間観、そしてライフスタイルを成立させ、さらに情報化や情報文化それ自体を再構成してきたのかが重要なテーマです。これらに基づいて「メディアを系譜的かつ実践的に理解する」ことが本授業の到達目標です。

### 【授業の内容】

#### 1. オリエンテーション

#### ◆メディア史の観点から マスメディアの時代◆

2. メディア史の系譜 印刷技術と情報文化
3. メディア史の系譜 新聞
4. メディア史の系譜 出版
5. メディア史の系譜 電気メディアと情報文化
6. メディア史の系譜 ラジオ、映画
7. メディア史の系譜 テレビ
8. マスコミュニケーション研究と大衆文化の思想

#### ◆現代メディアと実践 電子メディアの時代◆

9. 電子メディアと現代社会 インターネット発展史と大衆化
10. 電子メディアと現代社会 コンピュータ文化の発展と人間観
11. 電子メディアと現代社会 ケータイと都市の風景
12. 電子メディアと現代社会 ネットワーキングと市民社会
13. 電子メディアと現代社会 グローバルメディア
14. 電子メディアと現代社会 メディアの実践
15. まとめ

### 【事前・事後学修】

- ・毎回、次回の授業の予習箇所を指示するので、通読してくること（主にテキスト一話分、週60分程度）
- ・授業後には授業内の小テストや次週の授業準備としてウェブサイト（manabaなど）へ書き込みを指示します。
- ・復習は授業中に板書する「問い」を章ごとに提示して考察してもらいます。また、復習による理解定着を高めるため中間レポートを実施します（平均 週180分程度）。

### 【テキスト・教材】

吉見俊哉『メディア文化論 メディアを学ぶ人のための15話』（有斐閣アルマ、2012年）1,800円＋税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点類（40%程度）、試験類（60%）、により評価します。なお、平常点は授業サイトへの書込みや小レポートも含め、試験類には授業内の小テストを含みます。

実施した授業時間内、もしくは翌週にフィードバックを行います。が、期末課題、試験を実施する場合には授業サイトを通じてフィードバックをおこないます。

## メディア論 a

メディア表現を読みとく

大倉 恭輔

1年～ 前期 2単位

○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

今日、メディアからの情報とまったく無縁の生活をすることはできません。世界情勢についての話題から、新しい洋服を買うためのヒントまで、暮らしのあらゆる部分に情報があふれています。

そうしたメディアや情報の力のありようについて、テレビや雑誌の広告を見ながら理解していきます。

### 【授業における到達目標】

マスメディアのしくみと意味を理解するとともに、特に「広告」とそこにおける「女性像」を題材として、わたしたちがどのような社会に生きているのかを理解できるようになることをめざします。

そうして、多様な価値観の存在に気づき、それらとメディアとの関連についての理解をとおして、広い視野と深い洞察力を身につけてもらおうと思っています。

### 【授業の内容】

- 01 コミュニケーションの基本的な考え方
- 02 コミュニケーションの種類と機能
- 03 情報化とは何か：社会の情報化と情報の社会化
- 04 メディア産業とわたしたちの生活
- 05 マーケティングと広告
- 06 テレビ広告をみる a：戦後の日本と日本人の生活の変化
- 07 テレビ広告をみる b：メッセージをいかに表現するか
- 08 テレビ広告をみる c：広告は面白いのか
- 09 広告とメディア・リテラシー a：表現と技法
- 10 広告とメディア・リテラシー b：表現と技術
- 11 広告とメディア・リテラシー c：表現と社会的背景
- 12 広告表現の中の女性像 a：身ぶりとしぐさを見る
- 13 広告表現の中の女性像 b：表現の技法を知る
- 14 広告表現の中の女性像 c：社会的文脈を知る
- 15 まとめ

注1 上記は授業内容のリストです。

注2 基本的に番号順に講義をしていきますが、学生の理解度や授業の進行状況にあわせて、順番の入れ替えなどの変更がおこなわれる場合があります。

### 【事前・事後学修】

- ・事前学修  
事前配付の資料に目をおし、設問がある場合、それについて回答を準備しておくこと。
- ・事後学修  
授業内容を自分で補足し、きちんとしたノート作成をおこなうこと。
- ・事前・事後学修には、それぞれ週に2時間をあてること。

### 【テキスト・教材】

教科書は使用しません。

基本的に、manaba 上から資料を事前配付します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

総合評価：レポート80%・平常点/受講態度・ノート作成など 20%  
manaba の設定や利用の状況も平常点の参考とします。

試験結果については manaba 上でフィードバックする予定です。

### 【参考書】

適宜、授業の中で紹介します。

### 【注意事項】

- ・視聴覚教材を利用する際も、必ずノートテイクをおこなうこと。
- ・ごくごく一般的な受講上のマナーを守ること。



## メディア論 a

メディア表現を読みとく

大倉 恭輔

1・2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

今日、メディアからの情報とまったく無縁の生活をすることはできません。世界情勢についての話題から、新しい洋服を買うためのヒントまで、暮らしのあらゆる部分に情報があふれています。

そうしたメディアや情報の力のありようについて、テレビや雑誌の広告を見ながら理解していきます。

### 【授業における到達目標】

マスメディアのしくみと意味を理解するとともに、特に「広告」とそこにおける「女性像」を題材として、わたしたちがどのような社会に生きているのかを理解できるようになることをめざします。

そうして、多様な価値観の存在に気づき、それらとメディアとの関連についての理解をとおして、広い視野と深い洞察力を身につけてもらおうと思っています。

### 【授業の内容】

- 01 コミュニケーションの基本的な考え方
- 02 コミュニケーションの種類と機能
- 03 情報化とは何か：社会の情報化と情報の社会化
- 04 メディア産業とわたしたちの生活
- 05 マーケティングと広告
- 06 テレビ広告をみる 01：戦後の日本と日本人の生活の変化
- 07 テレビ広告をみる 02：メッセージをいかに表現するか
- 08 テレビ広告をみる 03：広告は面白いのか
- 09 広告とメディア・リテラシー 01：表現と技法
- 10 広告とメディア・リテラシー 02：表現と文化
- 11 広告とメディア・リテラシー 03：表現と社会的背景
- 12 広告表現の中の女性像 01：身ぶりとしぐさを見る
- 13 広告表現の中の女性像 02：表現の技法を知る
- 14 広告表現の中の女性像 03：社会的文脈を知る
- 15 まとめ

注1 上記は授業内容のリストです。

注2 基本的に番号順に講義をしていきますが、学生の理解度や授業の進行状況にあわせて、順番の入れ替えなどの変更がおこなわれる場合があります。

### 【事前・事後学修】

- ・事前学修  
事前配付の資料に目をおし、設問がある場合、それについて回答を準備しておくこと。
- ・事後学修  
授業内容を自分で補足し、きちんとしたノート作成をおこなうこと。
- ・事前・事後学修には、それぞれ週に2時間前後をあてること。

### 【テキスト・教材】

教科書は使用しません。

基本的に、manaba 上から資料を事前配付します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

総合評価：レポート80%・平常点/受講態度・ノート作成など 20%  
manaba の設定や利用の状況も平常点の参考とします。

試験結果については manaba 上でフィードバックする予定です。

### 【参考書】

適宜、授業の中で紹介します。

### 【注意事項】

- ・視聴覚教材を利用する際も、必ずノートテイクをおこなうこと。
- ・短期大学部標準受講マナーを守ること。  
(manaba上に掲示してあります)

## メディア論 b

ポピュラー音楽の社会史

大倉 恭輔

1年～ 後期 2単位

○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

「マスコミ/マスメディア」から流される情報は、わたしたちの心や人生をかたちづくる上でも、少なからぬ力をもっています。

この授業では、メディア文化・ポピュラー文化の基本的な部分を学んだ上で、ロック誕生の過程および日本近代における流行歌の成立過程について、当時の音源を聴きながら学びます。

### 【授業における到達目標】

「メディアの商品としての音楽」に着目しながら、近代以降/マスメディアの発達以降に生じた、人と音楽の関わりの大きな変化について理解することをめざします。

そうして、多様性を受容し多角的視点から物事にのぞみ、さらに広い視野と深い洞察力を身につけてもらおうと考えています。

### 【授業の内容】

- 01 文化とは何か：大衆文化からポピュラー文化へ
- 02 メディア文化とメディア産業
- 03 音楽の機能と商品としての音楽の誕生
- 04 ポピュラー音楽の社会史 a：アメリカという国家
- 05 ポピュラー音楽の社会史 b：複製技術の誕生と影響
- 06 ポピュラー音楽の社会史 c：若者文化と対抗文化
- 07 ポピュラー音楽の社会史 d：多様性が生み出すもの
- 08 ポピュラー音楽の社会史 e：ポピュラーなものとは何か
- 09 近代日本と人々の生活：江戸から明治へ
- 10 日本のポピュラー音楽史 a：明治から大正へ
- 11 日本のポピュラー音楽史 b：戦時下の日々
- 12 日本のポピュラー音楽史 c：戦後社会
- 13 日本のポピュラー音楽史 d：豊かな社会
- 14 今日のメディア状況と音楽：受け手と技術の変化
- 15 まとめ

注1 上記は授業内容のリストです。

注2 基本的に番号順に講義をしていきますが、学生の理解度や授業の進行状況にあわせて、順番の入れ替えなどの変更がおこなわれる場合があります。

### 【事前・事後学修】

- ・事前学修  
事前配付の資料に目とおし、設問がある場合、それについて回答を準備しておくこと。
- ・事後学修  
授業内容を自分で補足し、きちんとしたノート作成をおこなうこと。
- ・事前・事後学修には、それぞれ週に2時間をあてること。

### 【テキスト・教材】

教科書は使用しません。

基本的に、manaba 上から事前に資料を配付します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

総合評価：レポート80%・平常点/受講態度・ノート作成など 20% manaba の設定や利用の状況も平常点の参考とします。

試験結果については manaba 上でフィードバックする予定です。

### 【参考書】

適宜、授業の中で紹介します。

### 【注意事項】

- ・視聴覚教材を利用する際も、必ずノートテイクをおこなうこと。
- ・ごくごく一般的な受講上のマナーを守ること。

## メディア論 b

河井 延晃

1年～ 後期 2単位

○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

我々の「日常生活」や「ライフスタイル」はどのように構築されているのでしょうか。本授業では、これを「メディア」を手掛かりに考えます。たとえば、マスメディアは時代ごとに家族観や職業観をはじめ様々な価値観を提示してきました。また、百貨店や観光などはマスメディアを介してレジャー産業のシステムを形成し、大量消費のスタイルを確立してきました。これらは近代社会以降に固有ともいえる「大衆社会」の誕生につながります。

一方で、今日の情報化は「個人」を取り巻く環境としても不可欠になりつつあります。それはパーソナルコンピュータや高機能なモバイルメディアの普及とともに情報環境の変化が顕在化しています。

### 【授業における到達目標】

- ・マスコミュニケーション理論や社会学的理論をもとに、「文化産業」「消費社会」「記号社会」「近代」などの概念を理解し、さらに実際の「流行」「観光」「サブカルチャー」「百貨店」などの現象をメディアの観点から理解する。
- ・さらに今日的な現象として、今日のメディア化する社会がどのように理解されているか、最新のデータや資料から理解すること。

### 【授業の内容】

1. オリエンテーション
- ◆メディア研究の理論的視座◆
2. 文化産業論と大衆社会論 (T. W. アドルノ)
3. リテラシーと階級論
4. 消費と記号論 (R. バルト)
5. 神話作用とメディア社会論 (J. ボードリヤール)
6. メディア理論 メディアはメッセージ (M. マクラーハン)
- ◆メディア社会論とライフスタイル◆
7. テレビジョンカルチャー (S. フィスク)
8. 流行と模倣 (G. ジンメル)
9. マスカルチャーとサブカルチャー (D. ヘブディジ)
10. 百貨店的消費とジェンダー (R. ボウルビー)
11. 旅行と観光 (J. アーリ)
12. マクドナルド化 (G. リッツァ)
- ◆現代社会としてのウェブ社会◆
13. 情報化の実態 統計データから読み解く
14. 情報化の実態 文化作品から読み解く
15. まとめ

### 【事前・事後学修】

- ・毎回、次回の授業の予習箇所を指示するので、通読してくること（主にテキスト一話分程度、週60分程度）。
- ・授業後には授業内の小テストや次週の授業準備としてウェブサイト (manabaなど) へ書き込みを指示します。
- ・復習は授業中に板書する「問い」を章ごとに提示して考察してもらいます。また、復習による理解定着を高めるため中間レポートを実施します (平均 週60分程度)。

### 【テキスト・教材】

井上俊, 伊藤公雄 編. 『ポピュラー文化』 (世界思想社, 2009年) 2,000円+税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点類 (40%程度)、試験類 (60%)、により評価します。なお、平常点は授業サイトへの書込みや小レポートも含め、試験類には授業内の小テストを含みます。実施した授業時間内、もしくは翌週にフィードバックを行います。期末課題、試験を実施する場合には授業サイトを通じてフィードバックをおこないます。

### 【参考書】

授業中に適宜指示します。

**【注意事項】**

本講義は「メディア論a」と共通の問題意識をもちますが、「メディア論a」が「歴史的」視点から現代を位置づけたのに対し、本講義では、現代社会を「理論的」「概念的」に捉えることに主眼をおいてすすめます。したがって、「情報文化概論a」を履修している  
とより理解が深まります（必須ではありません）。

**ユニバーサルデザイン論**

ユニバーサルデザインの概念を学び、障害者体験を行います

塚原 肇

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

ユニバーサルデザインとは、あらゆる年齢、体格、国民性の違い、習慣の違う人々が利用可能なような、製品・建物・空間をデザインしようとする試みです。この授業では身近な生活道具を例にとりユニバーサルデザインの実例と設計法を学びます。

**【授業における到達目標】**

- ・この授業を通して、ユニバーサルデザインの発生から必要性、またバリアフリーとの違いを修得する事ができます。
- ・障がい者疑似体験により、いかにユニバーサルデザイン化が必要であるかを実感することができます。
- ・ディプロマ・ポリシー（DP）においては、学生が修得すべき「能力」のうち、互いを尊重し信頼を熟成して、豊かな人間関係を構築することができる【協働力】を修得します。

**【授業の内容】**

- ユニバーサルデザインとは
  01. ユニバーサルデザインの歴史
  02. ユニバーサルデザインの7原則
  03. ユニバーサルデザインとバリアフリーデザイン
  04. なぜ今ユニバーサルデザインか
  05. いろいろな障がいと健康
  06. ユニバーサルデザインの評価法
- ユニバーサルデザインを体験する
  07. 高齢者体験をする
  08. 車椅子を体験する
  09. 妊婦体験をする
  10. 盲人体験をする
  11. レポート作成
- ユニバーサルデザインの実例
  12. 生活道具とユニバーサルデザイン
  13. 建築とユニバーサルデザイン
  14. 公共空間とユニバーサルデザイン
  15. まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回の授業範囲を予習し、分からない専門用語等は必ず下調べをしておいてください。（学修時間 週最低2時間以上）

【事後学修】 授業の内容を再度見直しして理解できているかどうかを自分なりに判断してください。分からない部分があれば、次回の授業あるいは空き時間に質問するようにしましょう。（学修時間 週最低2時間以上）

**【テキスト・教材】**

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料を配付します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

体験学習のレポート（70%）、授業態度（30%）

体験学習のレポートを全員に提出してもらい、内容に関してのチェックを行う。また、最終日に全体を通しての簡単なテストと感想文を提出してもらい質問等があればmanaba等で回答する。

**【注意事項】**

授業の中間に障がい者疑似体験を行います。この体験レポートの提出は必須事項ですので必ず履修しましょう。

**ライター入門**

フィクションとノンフィクション

能地 克宜

1・2年 後期 2単位

○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

この授業では日本でノンフィクションというジャンルが成立する以前に書かれたものから現代に至るまでの様々な文章を、フィクションとノンフィクションという切り口で捉え、同じテーマに沿って書かれたフィクションとノンフィクションの文章を読むことを通して、それらの相異点や共通点を考えていきます。また、受講のみなさんがライターを志す際に、それらの特徴を自分が書く文章にどう活かしていけるかについて、実際に書いて合評しあう演習形式を取り入れながら確認していきます。この授業で得たものを自身の文章力の糧とするだけでなく、フィクションとノンフィクションの境界線の引き直しについても検討していきましょう。

**【授業における到達目標】**

- ・ノンフィクションというジャンルの文章に対する基礎的知識を習得することができる。
- ・フィクションとノンフィクションの相異点・共通点を説明することができる。
- ・演習で相互に批評し合い、文章表現力を高めることができる。

**【授業の内容】**

- 第1週 フィクションとノンフィクションの境界
- 第2週 ノンフィクションの歴史
- 第3週 街①観光案内とルポルタージュ作品
- 第4週 街②小説の中の街
- 第5週 演習①テーマ「街案内を書く」
- 第6週 出来事①戦争をめぐるフィクションとノンフィクション
- 第7週 出来事②公害をめぐるフィクションとノンフィクション
- 第8週 出来事③女性をめぐるフィクションとノンフィクション
- 第9週 出来事④労働をめぐるフィクションとノンフィクション
- 第10週 演習②テーマ「歴史・事件・人物・社会を書く」
- 第11週 現代①震災後の文章①ルポルタージュ
- 第12週 現代②震災後の文章②エッセイ・対談
- 第13週 現代③震災後の文章③小説
- 第14週 演習③テーマ「現代を書く」
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：第1週はシラバスを熟読し、関心を持ったテーマについて調べておくこと。また、第2週以降は、次回扱う文章（配付プリント等）を熟読の上、それぞれのテーマに即した情報を収集しておくこと。（学修時間 2時間）

事後学修：授業で扱った文章を再読の上、それぞれのテーマにもとづくフィクションとノンフィクションの特徴をまとめておくこと。また演習時は議論をふまえ、自身の書いた文章を再度書き直しておくこと。（学修時間 2時間）

**【テキスト・教材】**

吉村萬老 『ボラード病』 文春文庫 2017年 561円  
 その他授業で扱う文章はプリントを使用する予定ですが、授業開始時に指示する場合があります。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

最終レポート60%、演習時のレポート及び発表・議論への積極的な参加30%、平常点（コメントペーパー）10%

**【参考書】**

武田徹 『日本ノンフィクション史 ルポルタージュからアカデミック・ジャーナリズムまで』 中公新書 2017年 950円  
 その他の文献は、必要に応じて授業時に指示します。

**【注意事項】**

文章を書くためには多くの文章に接する必要があります。この授業で得たテーマや切り口をきっかけとして、各自の興味・関心に沿った文章を見つけていきましょう。また、受講に際してはマナーを守って積極的な姿勢で参加することを心がけてください。

**ライフ・プランニング**

環境・社会の現状からみたこれからの人間と文化

須賀 由紀子

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

**【授業のテーマ】**

環境制約社会の到来により、企業活動のゴールや私たちの日々の生活のありようは、グローバル、ローカルの両面から、大きな変更が必要な時代を迎えています。それは、文明について本質から考え直すことさえ必要としているようです。そうした時代をしっかりと踏まえて、今後の皆さんの生き方、働き方を考えていく必要があります。これからの社会の全体像を捉えた上で、どのような未来像、そして現実の選択があるのかを考えましょう。

この課題について深くとらえるためには、相互関係的に物事を捉えていく思考が必要です。これからの社会にどうかかわっていくべきか、各自の人生設計の問題と照らし合わせながら、今後の社会づくりの視点、行動原理の視点を学んでいきましょう。

**【授業における到達目標】**

地球環境・資源問題と人間活動の関係について総合的に捉え、現代のよりよい暮らしを築くための対策と文化の関係についての見識を築いていきます。「研鑽力」として、広い視野と深い洞察力に基づき、本質を見抜く力を培います。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 地球環境・文明危機と文化研究の現代性
- 第3週 環境の問題と課題
- 第4週 データと現象からの理解
- 第5週 社会の問題と課題
- 第6週 危機の構造的理解
- 第7週 経済と市場の問題
- 第8週 人間の問題
- 第9週 近代性と共生の志向
- 第10週 文化の問題
- 第11週 風土学の理論
- 第12週 産業と技術
- 第13週 環境と倫理
- 第14週 新たなライフ（人間生活）の構想
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】提示された課題を行います（学修時間 週2時間）

【事後学修】学んだことを復習し、内容の整理・理解に努めます（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

適宜プリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末レポート50%、平常点（授業におけるアクティビティや小レポート）50%、課題に対するフィードバックは、授業の中で適宜行います。

**【参考書】**

適宜指示します。

## ライフステージと食育

白尾 美佳

3年 後期 2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

すべてのライフステージにおいて食育は間断なく行われることが望まれます。そこで、各自が各ライフステージにおける食育実践を通して、将来地域における食育を推進する力をつけることを目標とします。

### 【授業における到達目標】

各ライフステージに応じた食育を実践できる力をつけることを目標といたします。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション, 食育の必要性と国や地域の取組
- 第2週 幼児期・学童期・思春期の食育
- 第3週 幼児期・学童期・思春期における教材開発
- 第4週 幼児期の食育実践
- 第5週 学童期・思春期の食育実践
- 第6週 食育だよりの作成
- 第7週 青年期、妊娠・授乳期の食育
- 第8週 青年期、妊娠・授乳期における教材開発
- 第9週 青年期の食育実践
- 第10週 妊娠・授乳期の食育実践
- 第11週 成人期、高齢期の食育
- 第12週 成人期、高齢期の教材開発
- 第13週 成人期、高齢期の食育実践
- 第14週 運動時、特殊環境で働く人の食育
- 第15週 地域における食育支援

### 【事前・事後学修】

【事前学修】各ライフステージごとの食育の必要性を勉強しておくこと（学修時間 週2時間）

【事後学修】各自の食育に対する評価をおこなうこと（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

プリントなどを配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出物40%、食育実践発表40%、授業に対する意欲20%で評価する。  
食育実践後にフィードバックを行います。

### 【参考書】

原田まっこ編著『応用栄養学実習』（講談社サイエンティフィック）  
2,600円

### 【注意事項】

- ・各ライフステージにおける食育実践では各自が食育実践発表を行い、相互評価を行います。
- ・発表をおこなうための食育教材費（画用紙等）は原則実費です。
- ・授業時間以外での地域における食育支援を行うことがあります。
- ・履修者数ならびに授業の進度によってシラバスの内容が前後することがあります。

## ライフステージ栄養学

松島 照彦

2年 前期 2単位

○：美の探究、研鑽力

## 【授業のテーマ】

食品・栄養と健康や疾患の間にはどのような関係があるであろうか。栄養の過剰と欠乏、バランス、栄養の吸収と喪失、合成と代謝。この教科では、ライフステージの中で、乳幼児、成人、妊産期、中高年に向かって起こるからだの変化と、これら年代に多い疾患について、食事が発症や進展に影響を与える影響、生理的な変化や疾患と深い関連を持つ栄養成分について理解し、健康を維持し疾患を予防する食事、食生活のあり方についての知識と理解を深める。

## 【授業における到達目標】

この教科を学修することにより、ライフステージの様々な場面で遭遇する身体状況やその異常について把握し、それぞれの時期での適切な栄養の取り方、提供の仕方を理解することができるようになる。

物事の真理を探究し新たな知を創造しようとする態度を涵養することに役立つ。学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究する力を伸ばすことに資する。目標を設定して問題を解決する力の涵養に資する。

## 【授業の内容】

- 第1週 栄養と疾患  
 第2週 糖尿病と栄養①糖の代謝と栄養  
 第3週 糖尿病と栄養②糖尿病  
 事前事後学修：糖尿病に良いといわれている食品を挙げ、その効果の仕組みと実際の作用（証拠）について調査する。効果が確認された食材を用いてレシピを考案する。  
 第4週 肥満とメタボリックシンドローム  
 事前事後学修：肥満に良いといわれている食品を挙げ、その効果の仕組みと実際の作用（証拠）について調査する。効果が確認された食材を用いてレシピを考案する。  
 第5週 脂質異常症と栄養  
 第6週 コレステロールと動脈硬化  
 事前事後学修：動脈硬化に良いといわれている食品を挙げ、その効果の仕組みと実際の作用（証拠）について調査する。効果が確認された食材を用いてレシピを考案する。  
 第7週 ホルモンと栄養  
 事前事後学修：女性ホルモンに関連するといわれる食品を挙げ、その効果の仕組みと実際の作用（証拠）について調査する。効果が確認された食材を用いてレシピを考案する。  
 第8週 高血圧と栄養  
 事前事後学修：血圧に良いといわれている食品を挙げ、その効果の仕組みと実際の作用（証拠）について調査する。効果が確認された食材を用いてレシピを考案する。  
 第9週 ビタミンの働きと過不足①水溶性ビタミン  
 第10週 ビタミンの働きと過不足②脂溶性ビタミン  
 第11週 アルコールと痛風  
 事前事後学修：酒（アルコール飲料）の種類と効用について調査する。  
 第12週 貧血と栄養  
 鉄とビタミンC、B6、B12、葉酸に富むレシピを考案する。  
 第13週 妊産婦と栄養  
 第14週 閉経期、高齢期の栄養  
 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

- ・事前学修：毎回のテーマについて身の回りのことについて考えておくこと。プリントを配布するので授業までに読んでおくこと。週当たり1時間を要する。
- ・事後学修：単元ごとに課題を与える。与えられた健康上の課題に

ついて、食事の点からどのように解決できるかを、文献にあたって調査し、考察、考案する。枚数は設定しないが1課題当たり6時間、週3時間程度の取り組みが期待され、その内容を評価する。

## 【テキスト・教材】

プリントを配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験60%、レポート30%、授業への積極的な参加10%。

レポートは返却時に優秀な取り組みを紹介し、解説を行う。

## 【参考書】

栄養科学シリーズNEXT『臨床栄養学 第2版』（武田英二ら編、講談社サイエンティフィック）2730円

新臨床栄養学（岡田正ら著、医学書院）9975円

日本人の食事摂取基準2010年度版（第一出版）2940円

スタンダード人間栄養学：応用栄養学（朝倉書店）2800円



**ライフステージ栄養学 a**

於保 祐子

2年 前期 2単位

◎：研鑽力

**【授業のテーマ】**

年齢や身体状況に応じた栄養摂取が必要であることを学ぶ。包括的な概念と共に、妊婦・授乳婦・乳幼児・学童について栄養摂取上の特性と問題点について学習する。特に胎児・乳幼児は発達速度が著しく、この時期の栄養状態が後の生活習慣病発症の要因になる。人の一生に影響を与えるこの時期の栄養について学んでほしい。

**【授業における到達目標】**

到達目標：

ライフステージごとの身体的特徴と栄養管理について理解し、説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関連：

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、「学修成果を実感して、自信を創出することができる」と「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる」を修得する。

**【授業の内容】**

- 第 1 週 女性の身体的特徴と栄養
- 第 2 週 妊娠に伴う身体の変化
- 第 3 週 妊婦に必要な栄養
- 第 4 週 胎児の発育と栄養
- 第 5 週 妊娠合併症と栄養
- 第 6 週 授乳婦の栄養
- 第 7 週 新生児の特徴と栄養
- 第 8 週 母乳栄養と人工栄養
- 第 9 週 乳児期の栄養
- 第 10 週 食物アレルギー
- 第 11 週 幼児期の栄養
- 第 12 週 学童期の栄養
- 第 13 週 思春期の栄養
- 第 14 週 小児のメタボリックシンドローム
- 第 15 週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 毎回授業前に教科書で該当箇所を熟読し予習しておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 授業の際に配布したプリントの該当箇所の問題を解きながら復習すること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

五明紀春ほか著「応用栄養学」（朝倉書店 2016年改訂版）2,800円（本体）

他にプリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

【成績評価】 定期試験 70% 平常点（プリント提出・受講態度）30%

【フィードバック】 課題プリントの解説や試験の講評によって行う

## ライフステージ栄養学 a

於保 祐子

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

## 【授業のテーマ】

年齢や身体状況に応じた栄養摂取が必要であることを学ぶ。包括的な概念と共に、妊婦・授乳婦・乳幼児・学童について栄養摂取上の特性と問題点について学習する。特に胎児・乳幼児は発達速度が著しく、この時期の栄養状態が後の生活習慣病発症の要因になる。人の一生に影響を与えるこの時期の栄養について学んでほしい。

## 【授業における到達目標】

ライフステージごとの身体的特徴と栄養管理について理解し、説明できる。

## 【授業の内容】

- 第 1 週 女性の身体的特徴と栄養
- 第 2 週 妊娠に伴う身体の変化
- 第 3 週 胎児の発育と栄養
- 第 4 週 妊婦に必要な栄養
- 第 5 週 妊娠合併症と栄養
- 第 6 週 授乳婦に必要な栄養
- 第 7 週 新生児の特徴と栄養
- 第 8 週 乳児期の栄養
- 第 9 週 母乳栄養と人工栄養
- 第 10 週 食物アレルギー
- 第 11 週 幼児期の栄養
- 第 12 週 学童期の栄養
- 第 13 週 思春期の栄養
- 第 14 週 小児のメタボリックシンドローム
- 第 15 週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】 毎回授業前に教科書で該当箇所を熟読し予習しておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 授業の際に配布したプリントの該当箇所の問題を解きながら復習すること。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

五明紀春ほか著「応用栄養学」（朝倉書店 2016年改訂版）2,800円（本体）

他にプリントを配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験 70%、平常点（プリント提出・受講態度）30%

毎回プリントを提出の事。次回返還時に授業内容を確認し、フィードバックを行う。

**ライフステージ栄養学 b**

於保 祐子

2年 後期 2単位

◎：研鑽力

**【授業のテーマ】**

成人から高齢者への生理的变化を理解し、それに適応した栄養のあり方を学ぶ。特にこの時期には生活習慣病が問題となるが、その発症には食生活習慣が大きく影響することを知り、管理の重要性を学ぶ。また、運動や特殊な環境、ストレス下での栄養についても学習する。

**【授業における到達目標】**

到達目標：

- ・ライフステージごとの身体的特徴と栄養管理について理解し、説明できる。
- ・運動や環境変化、ストレス時の身体機能の変化について理解し、説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関連：

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、「学修成果を実感して、自信を創出することができる」と「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる」を修得する。

**【授業の内容】**

- 第 1 週 成人期栄養の特性
- 第 2 週 肥満とやせ
- 第 3 週 成人期のエネルギー代謝
- 第 4 週 脂質代謝と動脈硬化
- 第 5 週 循環器の老化
- 第 6 週 脳の老化
- 第 7 週 細胞の老化とがん
- 第 8 週 メタボリック症候群と生活習慣病
- 第 9 週 更年期の栄養
- 第 10 週 加齢に伴う身体の変化
- 第 11 週 高齢期の栄養
- 第 12 週 特殊環境と栄養
- 第 13 週 運動と栄養
- 第 14 週 ストレスと栄養
- 第 15 週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 毎回授業前に教科書で該当箇所を熟読し予習しておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 授業の際に配布したプリントの該当箇所の問題を解きながら復習すること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

五明紀春ほか著「応用栄養学」（朝倉書店 2016年改訂版）2,800円（本体）

他にプリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験 70%、平常点（プリント提出・受講態度）30%

毎回プリントを提出の事。次回返還時に授業内容を確認し、フィードバックを行う。

## ライフステージ栄養学 b

於保 祐子

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

## 【授業のテーマ】

成人から高齢者への生理的变化を理解し、それに適応した栄養のあり方を学ぶ。特にこの時期には生活習慣病が問題となるが、その発症には食生活習慣が大きく影響することを知り、管理の重要性を学ぶ。また、運動や特殊な環境、ストレス下での栄養についても学習する。

## 【授業における到達目標】

到達目標：

- ・ライフステージごとの身体的特徴と栄養管理について理解し、説明できる。
- ・運動や環境変化、ストレス時の身体機能の変化について理解し、説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関連：

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、「学修成果を実感して、自信を創出することができる」と「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる」を修得する。

## 【授業の内容】

- 第 1 週 成人期栄養の特性
- 第 2 週 肥満とやせ
- 第 3 週 成人期のエネルギー代謝
- 第 4 週 脂質代謝と動脈硬化
- 第 5 週 循環器の老化
- 第 6 週 脳の老化
- 第 7 週 細胞の老化とがん
- 第 8 週 メタボリック症候群と生活習慣病
- 第 9 週 更年期の栄養
- 第 10 週 加齢に伴う身体の変化
- 第 11 週 高齢期の栄養
- 第 12 週 特殊環境と栄養
- 第 13 週 運動と栄養
- 第 14 週 ストレスと栄養
- 第 15 週 総括

## 【事前・事後学修】

【事前学修】 毎回授業前に教科書で該当箇所を熟読し予習しておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 授業の際に配布したプリントの該当箇所の問題を解きながら復習すること。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

五明紀春ほか著「応用栄養学」（朝倉書店 2016年改訂版）2,800円（本体）

他にプリントを配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験 70%、平常点（プリント提出・受講態度）30%

毎回プリントを提出の事。次回返還時に授業内容を確認し、フィードバックを行う。

## ライフステージ栄養学実習

白尾 美佳

3年 後期 1単位 3時限連続 隔週

○：研鑽力、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

ライフステージにおける身体的・行動的特性と栄養管理（栄養マネジメント）の知識を習得すると共に、身体状況や生理的变化に基づいた栄養状態の評価・栄養計画、各ライフステージにおける特徴的な疾病の予防と対策について理解を深めることを目標とする。

### 【授業における到達目標】

ライフステージにおける身体的特性と栄養管理の知識を習得することを目標とする

### 【授業の内容】

- 第1週 栄養アセスメント  
エネルギー消費量の推定
- 第2週 新生児期、乳児期の特性と栄養管理
- 第3週 幼児期の特性と栄養管理
- 第4週 学童期、思春期の特性と栄養管理
- 第5週 妊娠期、授乳期の特性と栄養管理
- 第6週 成人期の特性と栄養管理
- 第7週 高齢期の特性と栄養管理
- 第8週 運動時の特性と栄養管理

### 【事前・事後学修】

【事前学修】講義で学んだ各教科を身に付けておく。それぞれの授業前にはグループにて作業をしていただきます。

（学修時間 週2時間）

【事後学修】各ライフステージにおける栄養について復習をしておくこと。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

原田まつこ 他編著『応用栄養学実習』講談社サイエンティフィック  
2016年発行 2,808円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート、ノートなどの提出物60%、授業に対する意欲40%で評価する。

各実習後にフィードバックを行います。

### 【参考書】

文部科学省：『日本食品標準成分表2015版』（7訂）全官報 2017年発行 2158円

文部科学省：『日本食品標準成分表2015版』（7訂）追補2017編 2017年発行 全官報 1726円

木戸康博 他編：『応用栄養学実習』講談社サイエンティフィック 2013年発行 2808円

### 【注意事項】

- ・内容が前後することがあります。
- ・各回の授業内で次回の説明を行います。
- ・授業以外で課題を行う必要があります。
- ・教室を変更して授業をする場合があります。
- ・実習はグループごとに協力して実施して下さい。

## ライフステージ栄養学実習

富重 慶子

3年 後期 1単位 3時限連続 隔週

◎：行動力 ○：協働力

### 【授業のテーマ】

ライフステージ栄養学実習では、ライフステージ別の身体状況や栄養状態に応じた栄養管理について、実習を通して理解を深める。健康増進・疾病予防に寄与する栄養素や食事摂取基準の理論・活用を学び、実習を通して各ライフステージにおける食生活や栄養素等摂取の特徴を理解し、それに基づく栄養管理の技術を習得する。

### 【授業における到達目標】

学生が習得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握し課題を発見すること、目標を設定して計画を立案できることを目標とする。

### 【授業の内容】

1. ライフステージ別栄養管理
  - 1) 各ライフステージの特徴
  - 2) 食事摂取基準の具体的活用
2. 妊娠期・授乳期
  - 1) 身体状況・栄養状態
  - 2) 栄養アセスメント・栄養ケア計画
3. 乳児期・幼児期
  - 1) 身体状況・栄養状態
  - 2) 栄養アセスメント・栄養ケア計画
  - 3) 調乳・離乳食
4. 学童期・思春期
  - 1) 身体状況・栄養状態
  - 2) 栄養アセスメント・栄養ケア計画
5. 成人期・更年期
  - 1) 身体状況・栄養状態
  - 2) 栄養アセスメント・栄養ケア計画
  - 3) 食事計画
6. 高齢期
  - 1) 身体状況・栄養状態
  - 2) 栄養アセスメント・栄養ケア計画
7. 総合実習（まとめ）

### 【事前・事後学修】

【事前学修】テキストの該当箇所をよく読むこと。事前に提示する項目を調べてレポートを作成すること。  
(学修時間：週2時間)

【事後学修】指定した課題を提出すること。  
実習レポートを作成すること。  
(学修時間：週2時間)

### 【テキスト・教材】

『日本人の食事摂取基準2015年版』（第一出版 2015年）本体2,700円  
『スタンダード人間栄養学応用栄養学』（朝倉書店 2010年）本体2,800円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート・課題70%、実習態度30%  
レポートや課題を確認し、実習内で解説を行う。

### 【参考書】

『食事摂取基準による栄養管理・給食管理』（建帛社）  
『ライフステージ別栄養管理・実習〔第2版〕』（建帛社）  
『これからの応用栄養学演習・実習―栄養ケアプランと食事計画・供食―』（朝倉書店）

## リーダーシップ特論

谷内 篤博

人間社会専攻 前期 2単位

### 【授業のテーマ】

組織とは、目標達成のために意図的に作られたもので、目標達成には組織メンバーの目標に対するコミットメントを高め、協働意欲を効果的に引き出していくリーダーシップが必要不可欠である。

本講義では、こうしたリーダーシップの理論を体系的に学ぶとともに、自己のリーダーシップスタイル診断やリーダーシップの根源ともいべきパワー診断を通じて、組織における効果的なリーダーシップの発揮の仕方を学ぶことを目標としている。

また、単に講義形式による授業に終始することなく、リーダーシップに関するケーススタディやロールプレイングなどを導入した参加型・体験型の講義にしていきたいと考えている。

### 【授業における到達目標】

本講義を通してリーダーシップに関する専門的知識を修得するとともに、効果的なリーダーシップの発揮の仕方を体得することができる。さらに、ディプロマ・ポリシーである高度専門職業人としての問題解決能力や社会に貢献できるリーダーシップを修得することができる。

### 【授業の内容】

- 第1週 リーダーシップの概念と定義
- 第2週 リーダーシップの倫理性とフォロアーの能動性
- 第3週 リーダーシップの諸理論①（特性理論と行動理論）
- 第4週 リーダーシップの諸理論②（4つの状況適合理論）
- 第5週 SL理論に基づくケーススタディ
- 第6週 リーダーシップの新潮流①（カリスマ的、変革型を中心に）
- 第7週 リーダーシップの新潮流②（管理者行動論、E型リーダーシップを中心に）
- 第8週 リーダーシップとパワー（パワーの自己診断を含む）
- 第9週 リーダーシップとマネジメントの異同
- 第10週 組織開発（OD）とリーダーシップ
- 第11週 組織文化とリーダーシップ
- 第12週 リーダーシップ代替物アプローチ
- 第13週 リーダーシップとコーチング
- 第14週 サーバントリーダーシップとフォロアーリーダーシップ
- 第15週 リーダーシップに関する今日的課題

### 【事前・事後学修】

事前学修：レジュメ作成の事前準備と予備的学修（学修時間 週2時間）

事後学修：学修内容の振り返りと次回の授業内容の予習（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

テキストは使用せず、毎回レジュメを配布。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み姿勢（30%）、最終レポート（70%）で評価をする。なお、授業内で毎回実施する質疑に関しては、その都度、的確に答え、学習効果があがるようフィードバックをする。

### 【参考書】

- 金井壽宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社、2005年
- 坂田桐子・淵上克義編『社会心理学におけるリーダーシップ研究のパーспекティブ I』ナカニシヤ出版、2008年

### 【注意事項】

議論やディスカッションを重視する授業であるため、授業への積極的な参加が必要となる。

## リーダーシップ論

道谷 里英

3年 前期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

### 【授業のテーマ】

組織を目標達成に導くためには、リーダーシップが必要不可欠です。リーダーシップは利益を追求する企業だけに求められるものではなく、非営利組織や医療機関等であっても求められます。なぜならば、組織には必ず目標があり、その達成のためには組織メンバーの凝集性や動機づけを高めることが大切だからです。

本講義では、リーダーシップの理論的変遷からリーダーシップのスタイルまで幅広く学ぶことを通じて、組織の一員として必要な知識や態度を身につけることができます。

### 【授業における到達目標】

本講義では以下の5点を達成することを目指します。

- ①リーダーシップの概念および基本となる理論の概要を理解する。
- ②社会の変化とリーダーシップの変遷との関連を理解する。
- ③組織における多様な現象とリーダーシップとの関連を理解する。
- ④リーダーシップスタイルや行動を学び、自身の特徴を理解する。
- ⑤リーダーシップとフォロワーシップとの関連を理解する。

以上を通じて、学生が修得すべき「協働力」のうち状況に応じてリーダーシップを発揮するうえで基礎となる知識や態度を向上させます。

### 【授業の内容】

- 第1週 リーダーシップの概念と定義
- 第2週 リーダーシップの倫理性とフォロワーの能動性
- 第3週 リーダーシップの諸理論①（特性理論と行動理論）
- 第4週 リーダーシップの諸理論②（状況適合理論）
- 第5週 リーダーシップ理論を用いたケース・スタディ
- 第6週 リーダーシップの新潮流①（変革型リーダーシップ、カリスマ型リーダーシップ）
- 第7週 リーダーシップの新潮流②（サーバントリーダーシップ）
- 第8週 リーダーシップスタイルとパワー（自己診断を含む）
- 第9週 リーダーシップとコミュニケーション
- 第10週 リーダーシップと組織の発展段階
- 第11週 リーダーシップの不条理
- 第12週 リーダーシップの開発
- 第13週 フォロワーシップの開発
- 第14週 リーダーシップに関する今日的課題
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：あらかじめ指定された事前課題（毎週1時間）およびレポート課題に取り組むこと（隔週2時間）

事後学修：次回授業範囲の予習（毎週1時間）およびレポート課題の振り返り（隔週2時間）

### 【テキスト・教材】

テキストは使用しません。毎回、レジュメを配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価は定期試験80%、リアクション・ペーパー・課題レポート20%で実施します。なお、授業における積極的な発言等については、加点評価をします。

レポートへのフィードバックは、提出2週間後に授業内で実施し、定期試験の結果は、最終回の授業でフィードバックします。

### 【参考書】

金井壽宏『リーダーシップ入門』日経文庫 2005年

### 【注意事項】

本授業と関連性が深い「コーチング論」、「人事管理論」をあわせて受講するとその学習効果が高まると思います。



## リーダーシップ論

道谷 里英

3年～ 前期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

### 【授業のテーマ】

組織を目標達成に導くためには、リーダーシップが必要不可欠です。リーダーシップは利益を追求する企業だけに求められるものではなく、非営利組織や医療機関等であっても求められます。なぜならば、組織には必ず目標があり、その達成のためには組織メンバーの凝集性や動機づけを高めることが大切だからです。本講義では、リーダーシップの理論的変遷からリーダーシップのスタイルまで幅広く学ぶことを通じて、組織の一員として必要な知識や態度を身につけることができます。

### 【授業における到達目標】

本講義では以下の5点を達成することを目指します。

- ①リーダーシップの概念および基本となる理論の概要を理解する。
- ②社会の変化とリーダーシップの変遷との関連を理解する。
- ③組織における多様な現象とリーダーシップとの関連を理解する。
- ④リーダーシップスタイルや行動を学び、自身の特徴を理解する。
- ⑤リーダーシップとフォロワーシップとの関連を理解する。

以上を通じて、学生が修得すべき「協働力」のうち状況に応じてリーダーシップを発揮するうえで基礎となる知識や態度を向上させます。

### 【授業の内容】

- 第1週 リーダーシップの概念と定義
- 第2週 リーダーシップの倫理性とフォロワーの能動性
- 第3週 リーダーシップの諸理論①（特性理論と行動理論）
- 第4週 リーダーシップの諸理論②（状況適合理論）
- 第5週 リーダーシップ理論を用いたケース・スタディ
- 第6週 リーダーシップの新潮流①（変革型リーダーシップ、カリスマ型リーダーシップ）
- 第7週 リーダーシップの新潮流②（サーバントリーダーシップ）
- 第8週 リーダーシップスタイルとパワー（自己診断を含む）
- 第9週 リーダーシップとコミュニケーション
- 第10週 リーダーシップと組織の発展段階
- 第11週 リーダーシップの不条理
- 第12週 リーダーシップの開発
- 第13週 フォロワーシップの開発
- 第14週 リーダーシップに関する今日的課題
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：あらかじめ指定された事前課題（毎週1時間）およびレポート課題に取り組むこと（隔週2時間）

事後学修：次回授業範囲の予習（毎週1時間）およびレポート課題の振り返り（隔週2時間）

### 【テキスト・教材】

テキストは使用しません。毎回、レジュメを配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価は定期試験80%、リアクション・ペーパー・課題レポート20%で実施します。なお、授業における積極的な発言等については、加点評価をします。

レポートへのフィードバックは、提出2週間後に授業内で実施し、定期試験の結果は、最終回の授業でフィードバックします。

### 【参考書】

金井壽宏『リーダーシップ入門』日経文庫 2005年

### 【注意事項】

本授業と関連性が深い「コーチング論」、「人事管理論」をあわせて受講するとその学習効果が高まると思います。

## レストランマネジメント

高松 克之

1・2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

ホテル概論 JTB総合研究所

サービス業のためのホスピタリティ 清水均

## 【注意事項】

毎回授業の初めに挨拶、お辞儀、8大接客用語の訓練を行います。遅刻は交通機関の遅延のほかは原則受け付けません。実技の時は身だしなみを整えてください（爪短く、長い髪は後ろにまとめる、靴はパンプス）。レストラン会食はリクルートスーツ着用。受講人数制限30名となります。

## 【授業のテーマ】

食事は1つの洗練された儀式です。動物は餌を喰らうと言いますが、人間は規律を守り原則として掟に沿って食事をします。文化・宗教や意見の異なる人にも対応する術も食事の共有で学べます。単純でいて、奥が深い食事をいろんな観点から分析しましょう。そしてコミュニケーション力と他喜力を鍛えます。

## 【授業における到達目標】

周りの目をフィルターにして知るのではなく、自分の目に映るもので感じるがあります。

同じ場所にいるのではなく、今いる場所から動くと景色が変わります。出会う人が変わると何かが前進します。

グループ発表、サービス実技、ホスピタリティ、食事のマナーを学びます。どんな国でも社会でも基本は「人」です。

この授業ではコミュニケーション力・仲間力を考えます。

## 【授業の内容】

- 第1週目 オリエンテーション 授業の内容と進め方
- 第2週目 レストラン・接客の基本① 接客術 ラポール
- 第3週目 レストラン・接客の基本② お客様の心理を理解する
- 第4週目 レストラン実技① テーブルサービス説明
- 第5週目 レストラン実技② テーブルサービス練習
- 第6週目 レストラン実技③ 実技テスト 評価30%
- 第7週目 レストラン実技④ お客様の対応技術とテーブルマナー  
レストラン業界のスタッフを迎えて顧客対応技術に関する心得講座（積極的な質疑応答を求める）
- 第8週目 レストランでの会食・緊張感を共有する
- 第9週目 レストランで学んだことを再確認する。
- 第10週目 苦情と不満とは 食中毒
- 第11週目 デクバージョン ①オレンジ・キウイの皮むき盛り付け
- 第12週目 デクバージョン ②シーザースサラダ
- 第13週目 レストランウェディングを創る
- 第14週目 創作レストランウェディングのグループ発表
- 第15週目 国際人としての役割・期末筆記テスト

## 【事前・事後学修】

事前学修：次回の課題（宿題）を与えるので、個人またはグループで準備する。（例）グループでレストランプライダル企画を作成してパワーポイントでの作成。ホテルサービスのコラムを読んで感想文を提出する。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業に配布したプリントを理解してテストに備える。

実技は課題を復習し実技テストに備える。

（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

授業に関してのプリントを毎回配布する。ファイルを準備して保管してください。第8回目の授業はレストランで会食するので5,000円の経費が必要です。第11回目、第12回目の実技には合わせて800円 の材料費が必要です。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

採点の基本「約束を守ること」：出席とレポート提出は当然です。それに加えて実技試験30%、レポート内容40%、期末筆記試験30%とします。

授業に積極的参加している学生には独断にて加点します。将来目標設定表（書き方は授業にて説明）を提出していただき授業理解度をフィードバックにて確認します。

## 【参考書】

絆が生まれる瞬間 高野豊

7つの習慣 スティービー・R・コヴィー

人を動かす D・カーネギー

ビジネスで大切なものはすべてレストランで教わった 岡田博紀

**ワーク・ライフ・バランス論**

女性の生涯のキャリアデザイン演習

山根 純佳

2年 前期 2単位

◎：研鑽力

せん。

女性の労働と社会福祉政策等については後期の「女性と労働」、雇用労働の課題については、後期「ダイバーシティ論」を受講をすすめます。

**【授業のテーマ】**

女性が働きつづけるために必要な実践的、理論的知識を身につけることを目的とします。企業における女性の位置、結婚・離婚の実態、育児休業制度や短時間勤務制度などの状況、両立のための社会的支援（保育サービスや介護サービス）、社会保障制度（年金）などをとおして、生涯にわたる女性のキャリア・プランについて考察します。

演習形式ですので、教員の講義と学生の報告の二本立てですすめます。

**【授業における到達目標】**

- 1) 女性の雇用をめぐる社会的課題と解決策を主体的に考察し、自らのキャリア・プランを明確にすることができる。
- 2) 雇用問題や社会保障政策など関連する情報を収集し、解説するリテラシーを習得できる。
- 3) インタビュー調査の基本的な技能を獲得できる。
- 4) 以上の学びをとおして、学修成果を実感して、自信を創出する研鑽力を獲得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 結婚をめぐる社会変化 未婚化と離婚
- 第3週 出産と女性のキャリア
- 第4週 育児と女性のキャリア
- 第5週 両立支援の企業の制度
- 第6週 両立のための社会サービス
- 第7週 育児と介護のダブルケア
- 第8週 シングルで生きる
- 第9週 ワーク・ライフ・バランスについて学ぼう
- 第10週 ライフキャリアを考えてみよう
- 第11週 キャリアの多様性を知ろう 社会人へのインタビュー
- 第12週 キャリアの多様性を知ろう 社会人へのインタビューから考える
- 第13週 社会人へのインタビュー 結果のまとめ
- 第14週 働きはじめてからのトラブルに備えて
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

事前学修：データを用いたプレゼンテーションを1回、インタビュー調査をもとにしたプレゼンテーションを1回、計2回のプレゼンテーションを実施します。これらの準備、インタビューの実施等は事前学修としておこなっていただきます。その他新聞等のメディア情報をおとして、女性が働くことの課題について情報を収集しておくこと。（学修時間週2時間）

事後学修：合計8回の課題を出すので、締め切りまでに必ず提出すること。締め切り後の提出は減点にする（学修時間週2時間）。

**【テキスト・教材】**

- ・プリントを用意する
- ・東京都生活文化局WEBサイト「TOKYOワーク・ライフ・バランス」を参照のこと

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

プレゼンテーションの内容10%、ディスカッションやグループワークへの貢献度10%、授業期間内の小レポート40%、期末レポート40%。

プレゼンテーションの内容、小レポートの内容に対しフィードバックをおこない、確認と復習をおこなう。

**【注意事項】**

- ・学生のプレゼンテーションを交えた講義のため受講者を30名に絞ります。人数を超過した場合は、初回に抽選をおこないます。
- ・受講希望者は初回授業に必ず「受講志望理由書」を持参し、提出してください。授業時間内に提出がない場合、選考の対象になりません。

## 異文化コミュニケーション論

久保田 佳枝

1年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探求、研鑽力

### 【授業のテーマ】

この授業では、現代における諸現象を通して、「文化」というものに学際的（人類学・心理学・言語学・社会学・経営学など）にアプローチしていきます。各回の授業では、学術的な基礎理論を概観しながら、必要に応じて、映画やテレビなどの題材を通して理解を深めていく。他者の理解を目指す異文化コミュニケーションを学習することは、普段、何気なく感じている周囲と行動様式や考えなどの違いを認識することにも繋がります。

### 【授業における到達目標】

この授業は、多様なものの見方・考え方を養うことを目標としています。また、異文化コミュニケーションへの理解を深めることで、国際的視野をも養いながら、美の探求および研鑽力の育成も目指します。

### 【授業の内容】

1. オリエンテーション（シラバス・テキスト・授業の進め方等の説明）
2. 異文化コミュニケーションを学ぶということ
3. 文化・コミュニケーション・コミュニケーションの要素
4. 自文化中心主義・文化相対主義
5. 自己とアイデンティティ
6. ステレオタイプ・偏見・差別
7. 価値観・思考パターン①
8. 価値観・思考パターン②
9. 映像で見る異文化コミュニケーションの事例①
10. 映像で見る異文化コミュニケーションの事例②
11. 言語・非言語コミュニケーション①
12. 言語・非言語コミュニケーション②
13. カルチャーショック・異文化適応
14. 異文化コミュニケーション能力
15. まとめ

※外部講師による講義を予定しています（日程未定）。

※クラスの状態によって、順番が変更される場合があります。

### 【事前・事後学修】

【事前学修】指定教科書の該当箇所（授業範囲）を読んでおくこと。（学修時間は週2時間）

【事後学修】授業内容の理解を深めるために、専門用語を理解したり、授業内容をノートやレポートとしてまとめたりしておくこと。（学修時間は週2時間）

### 【テキスト・教材】

石井敏・久米昭元・長谷川典子・桜木俊行・石黒武人『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション：多文化共生と平和構築に向けて』（有斐閣 2013年）2,000円＋税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点40%（授業への積極的な参加と貢献度・エクストラクレジット等含む）、期末課題60%として総合評価を行なう。リアクションペーパーは次回授業でフィードバックを行なう。

**異文化理解**

阿佐美 敦子・山下 早代子

2年 後期 2単位

◎：国際的視野

**【授業のテーマ】**

グローバル化が加速的に進行する中、自・他の文化を理解することは必須のことです。自文化の中での自己のアイデンティティの確立また身近な存在としての在日外国人の理解、いかにして共存・共栄を目指す国際社会への貢献を行うかなどの議論が必要とされています。

これらの課題はこれからも社会を発展させていく核となり得るので、異文化理解に必要なアプローチや考え、自・他の文化理解、文化摩擦などを実体験を通じながら議論します。

尚、授業は2名の教員のコラボレーションにより行われます。前半は異文化コミュニケーションとは何かを、コミュニケーションの基本概念を学びながら考えていきます。後半は異文化理解・国際理解を深めるために避けては通れない人権、環境、教育、言語などについて、事例をもとに考えていきます。

**【授業における到達目標】**

多様性を受容し、多角的な視点を以って世界に臨む態度、国際的視野を修得します。国内外の人々と交流を深めるためには英語等外国語のみならず、実際に英語を運用する際に必要となるカルチャラル・リテラシーの修得が必要です。すなわち文化的・社会的知識を身に付け、さらに自文化を知って、世界に発信しようとする態度の養成を行います。

**【授業の内容】**

- 第1週 異文化コミュニケーションとは何だろう
- 第2週 コミュニケーション・スタイルの違い
- 第3週 言語コミュニケーション
- 第4週 非言語コミュニケーション
- 第5週 相手と自分の価値観を知ろう
- 第6週 世界の人々は何を信仰しているのか
- 第7週 ゲストスピーカーによる特別講演
- 第8週 文化が異なるとはどういうことか
- 第9週 世界の言語～ワールド・イングリッシュ World Englishes
- 第10週 日本の少数民族—アイヌ
- 第11週 人権—米国公民権法案成立までの道のり
- 第12週 環境と異文化理解
- 第13週 教育—ユネスコ・学習権
- 第14週 ゲストスピーカーによる特別講演
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

事前学修として、担当教員より示された翌週の授業内容について文献等を調べ、あらかじめ基礎的な背景となる事象を知った上で授業に臨むように努めてください。学修時間 週2時間

事後学修として、授業内容をより深く理解し、また周辺の知識を得ることができるよう、関連する情報等を集めて理解する努力をしてください。学修時間 週2時間

**【テキスト・教材】**

パワーポイントの提示、ハンドアウトの配布をします。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末試験 80%、平常点すなわち授業への積極的参加度・提出課題 20% を総合的に評価します。課題については次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

**【参考書】**

適宜、授業内で紹介します。

**【注意事項】**

各週の授業内容は、よりスムーズな進行のため、変更および振り替えになることがあります。

**異文化理解**

阿佐美 敦子・山下 早代子

2年～ 後期 2単位

◎：国際的視野

**【授業のテーマ】**

グローバル化が加速的に進行する中、自・他の文化を理解することは必須のことです。自文化の中での自己のアイデンティティの確立また身近な存在としての在日外国人の理解、いかにして共存・共栄を目指す国際社会への貢献を行うかなどの議論が必要とされています。

これらの課題はこれからも社会を発展させていく核となり得るので、異文化理解に必要なアプローチや考え、自・他の文化理解、文化摩擦などを実体験を通じながら議論します。

尚、授業は2名の教員のコラボレーションにより行われます。前半は異文化コミュニケーションとは何かを、コミュニケーションの基本概念を学びながら考えていきます。後半は異文化理解・国際理解を深めるために避けては通れない人権、環境、教育、言語などについて、事例をもとに考えていきます。

**【授業における到達目標】**

多様性を受容し、多角的な視点を以って世界に臨む態度、国際的視野を修得します。国内外の人々と交流を深めるためには英語等外国語のみならず、実際に英語を運用する際に必要となるカルチャラル・リテラシーの修得が必要です。すなわち文化的・社会的知識を身に付け、さらに自文化を知って、世界に発信しようとする態度の養成を行います。

**【授業の内容】**

- 第1週 異文化コミュニケーションとは何だろう
- 第2週 コミュニケーション・スタイルの違い
- 第3週 言語コミュニケーション
- 第4週 非言語コミュニケーション
- 第5週 相手と自分の価値観を知ろう
- 第6週 世界の人々は何を信仰しているのか
- 第7週 ゲストスピーカーによる特別講演
- 第8週 文化が異なるとはどういうことか
- 第9週 世界の言語～ワールド・イングリッシュ World Englishes
- 第10週 日本の少数民族—アイヌ
- 第11週 人権—米国公民権法案成立までの道のり
- 第12週 環境と異文化理解
- 第13週 教育—ユネスコ・学習権
- 第14週 ゲストスピーカーによる特別講演
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

事前学修として、担当教員より示された翌週の授業内容について文献等を調べ、あらかじめ基礎的な背景となる事象を知った上で授業に臨むように努めてください。学修時間 週2時間

事後学修として、授業内容をより深く理解し、また周辺の知識を得ることができるよう、関連する情報等を集めて理解する努力をしてください。学修時間 週2時間

**【テキスト・教材】**

パワーポイントの提示、ハンドアウトの配布をします。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末試験 80%、平常点すなわち授業への積極的参加度・提出課題 20% を総合的に評価します。課題については次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

**【参考書】**

適宜、授業内で紹介します。

**【注意事項】**

各週の授業内容は、よりスムーズな進行のため、変更および振り替えになることがあります。

**衣環境設計学演習 A**

川上 梅

生活環境学専攻 後期 1単位

**【授業のテーマ】**

衣環境設計に関する最近の研究動向や新しい研究手法を知るために、国内外の文献を収集し輪読して討議する。次いで各種データの分析手法や三次元データの平面展開などを具体的データに基づいて演習し、研究手法について理解を深める。

**【授業における到達目標】**

国際的視野から産業としての衣服設計の現状を理解し課題を発見すると共に、データの分析手法を学ぶことを、本授業の到達目標とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 国内文献収集
- 第2週 国内文献購読
- 第3週 国内文献ディスカッション
- 第4週 海外文献収集
- 第5週 海外文献購読
- 第6週 海外文献ディスカッション
- 第7週 一次元身体計測データの採取
- 第8週 身体計測の誤差
- 第9週 身体計測データの解析
- 第10週 身体計測データの特徴
- 第11週 立体裁断法による原型採取
- 第12週 身体形態と原型、ゆとり量
- 第13週 身体形態と原型、動作適合性
- 第14週 原型とパターン
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

〔事前学修〕 次回授業のレポート・発表等の準備に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

〔事後学修〕 前回授業の内容を確認しておくこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

開講時に教材となる資料を配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業への積極参加（50%）、レポート（50%）により評価します。

**【参考書】**

適宜、参考書を紹介します。

**衣環境設計学特論 A**

川上 梅

生活環境学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

着衣基体としての人体形態を成長・老化、人種差、男女差、個人差の観点から理解し、さらに運動機能・衛生機能を考慮した快適な衣環境設計について理解する。すなわち、人体形態データの既製衣料サイズ設定から衣服パターン設計までを講述する。

**【授業における到達目標】**

衣服設計の基本となる人体に関する基本的な知識を得ると共に、体型とパターンとの関係を理解することを、本授業の到達目標とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 衣服設計を目的とした人体形態把握の歴史
- 第2週 人体形態把握法
- 第3週 一次元データ解析
- 第4週 人体形態の変異
- 第5週 既製衣料サイズ
- 第6週 二次元的データ解析
- 第7週 三次元データ解析方法の紹介
- 第8週 子どもの人体形態と衣服
- 第9週 成人の人体形態と衣服
- 第10週 高齢者の人体形態と衣服
- 第11週 人種による人体形態の違い
- 第12週 人体形態と上衣原型
- 第13週 人体形態と下衣原型
- 第14週 原型と運動機能性
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

〔事前学修〕 レポート・発表等の準備に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

〔事後学修〕 レポート・発表等の復習をすること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

開講時に教材となる資料を配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート（50%）、授業への積極参加（50%）により評価します。

**【参考書】**

適宜、参考書を紹介します。

**衣服製作実習 a**

松岡 久美子

2年 前期 1単位 2時限連続

○：国際的視野、美の探究、研鑽力

**【授業のテーマ】**

衣服設計の基礎的技法とその応用方法の習得をテーマとする。  
スカートの製作によって個人に適合したパターン、素材の選択、各種用具の取り扱い方、平面である布地を立体化する縫製技法などを学習し、「衣服を作る」という一連の工程を理解する。

さらに、中学校および高等学校の家庭科被服分野の学習内容の把握と構成技法を部分縫いで学習し、実際の教科書に掲載されている「上衣をつくる」分野を製作する。

最終週では、得た技術・構成力を駆使して、与えられた課題の製作を行い、製作意図、縫製法などをプレゼンテーションする。

**【授業における到達目標】**

講義、実技の指導を理解し作品を作り上げることで、衣服製作の基礎が理解でき、教職、教育実習での被服分野担当に自信が持てるようになる。それは新たな知識を得たいという意欲につながる。

その意欲を、学生が習得すべき「研鑽力」のうち広い視野と深い洞察力につなげることを到達目標とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 授業内容、予定、用具の説明、人体計測とサイズ、下半身被覆のための基礎的考え方について
- 第2週 スカートのパターンの基本作図
- 第3週 パターンのデザイン別応用展開法、材料の選び方
- 第4週 スカートの製作実習1－裁断、仮縫い組立て
- 第5週 スカートの製作実習2－試着補正、本縫い
- 第6週 スカートの製作実習3－本縫い
- 第7週 スカートの製作実習4－本縫い
- 第8週 スカートの製作実習5－本縫い
- 第9週 スカートの製作最終仕上げと小テスト
- 第10週 中学、高校の被服分野学習内容の把握
- 第11週 中学被服分野の構成技法を部分縫いで把握
- 第12週 高校被服分野の構成技法を部分縫いで把握
- 第13週 中学被服分野「上衣をつくる」実習例を製作で把握－1
- 第14週 中学被服分野「上衣をつくる」実習例を製作で把握－2
- 第15週 与えられた課題の製作とプレゼンテーション

**【事前・事後学修】**

事前学修は、前回までの到達点に達していない部分の取り組みを求めます。(学修時間 1時間)

事後学修は、今回の学習内容についてテキストでの確認と要点の加筆をしてください。(学修時間 1時間)

**【テキスト・教材】**

担当で作成のテキストを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

提出物の評価80%、授業内容理解度の時間内小テスト20%で評価する。作品は毎回の講義、実技指導の理解力と完成度で評価する。

小テストは教員採用試験過去問の被服分野を用い、時間内で解答、要点を解説する。

**【参考書】**

技術的なものの参考書としては、「服装造形学 技術編Ⅰ」(文化学園教科書出版部)がお薦めできる。被服製作関連の専門書以外では、雑誌、新聞、TVなどからの情報が最新の情報として参考になる。

**【注意事項】**

毎回、説明、実習の組合せになる。実習に必要なものを忘れて、欠席が多くなると、以後の実習に支障をきたすので注意して欲しい。個人の習熟度によっては、実習時間は提出物を仕上げるのに充分ではないので、時間外での作業が必要になる場合もある。実習授業なので、材料を用意して頂く必要がある。



**衣服製作実習 a**

松岡 久美子

2年 前期 1単位 2時限連続

○：国際的視野、美の探究、研鑽力

**【授業のテーマ】**

衣服設計の基礎的技法とその応用方法の習得をテーマとする。  
スカートの製作によって個人に適合したパターン、素材の選択、各種用具の取り扱い方、平面である布地を立体化する縫製技法などを学習し、「衣服を作る」という一連の工程を理解する。

さらに、中学校および高等学校の家庭科被服分野の学習内容の把握と構成技法を部分縫いで学習し、実際の教科書に掲載されている「上衣をつくる」分野を製作する。

最終週では、得た技術・構成力を駆使して、与えられた課題の製作を行い、製作意図、縫製法などをプレゼンテーションする。

**【授業における到達目標】**

講義、実技の指導を理解し作品を作り上げることで、衣服製作の基礎が理解でき、教職、教育実習での被服分野担当に自信が持てるようになる。それは新たな知識を得たいという意欲につながる。

その意欲を、学生が習得すべき「研鑽力」のうち広い視野と深い洞察力につなげることを到達目標とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 授業内容、予定、用具の説明、人体計測とサイズ、下半身被覆のための基礎的考え方について
- 第2週 スカートのパターンの基本作図
- 第3週 パターンのデザイン別応用展開法、材料の選び方
- 第4週 スカートの製作実習1－裁断、仮縫い組立て
- 第5週 スカートの製作実習2－試着補正、本縫い
- 第6週 スカートの製作実習3－本縫い
- 第7週 スカートの製作実習4－本縫い
- 第8週 スカートの製作実習5－本縫い
- 第9週 スカートの製作最終仕上げと小テスト
- 第10週 中学、高校の被服分野学習内容の把握
- 第11週 中学被服分野の構成技法を部分縫いで把握
- 第12週 高校被服分野の構成技法を部分縫いで把握
- 第13週 中学被服分野「上衣をつくる」実習例を製作で把握－1
- 第14週 中学被服分野「上衣をつくる」実習例を製作で把握－2
- 第15週 与えられた課題の製作とプレゼンテーション

**【事前・事後学修】**

事前学修は、前回までの到達点に達していない部分の取り組みを求めます。(学修時間 1時間)

事後学修は、今回の学習内容についてテキストでの確認と要点の加筆をしてください。(学修時間 1時間)

**【テキスト・教材】**

担当で作成のテキストを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

提出物の評価80%、授業内容理解度の時間内小テスト20%で評価する。作品は毎回の講義、実技指導の理解力と完成度で評価する。

小テストは教員採用試験過去問の被服分野を用い、時間内で解答、要点を解説する。

**【参考書】**

技術的なものの参考書としては、「服装造形学 技術編Ⅰ」(文化学園教科書出版部)がお薦めできる。被服製作関連の専門書以外では、雑誌、新聞、TVなどからの情報が最新の情報として参考になる。

**【注意事項】**

毎回、説明、実習の組合せになる。実習に必要なものを忘れて、欠席が多くなると、以後の実習に支障をきたすので注意して欲しい。個人の習熟度によっては、実習時間は提出物を仕上げるのに充分ではないので、時間外での作業が必要になる場合もある。実習授業なので、材料を用意して頂く必要がある。

**衣服製作実習 a**

松岡 久美子

2年 前期 1単位 2時限連続

○：国際的視野、美の探究、研鑽力

**【授業のテーマ】**

衣服設計の基礎的技法とその応用方法の習得をテーマとする。  
スカートの製作によって個人に適合したパターン、素材の選択、各種用具の取り扱い方、平面である布地を立体化する縫製技法などを学習し、「衣服を作る」という一連の工程を理解する。

さらに、中学校および高等学校の家庭科被服分野の学習内容の把握と構成技法を部分縫いで学習し、実際の教科書に掲載されている「上衣をつくる」分野を製作する。

最終週では、得た技術・構成力を駆使して、与えられた課題の製作を行い、製作意図、縫製法などをプレゼンテーションする。

**【授業における到達目標】**

講義、実技の指導を理解し作品を作り上げることで、衣服製作の基礎が理解でき、教職、教育実習での被服分野担当に自信が持てるようになる。それは新たな知識を得たいという意欲につながる。

その意欲を、学生が習得すべき「研鑽力」のうち広い視野と深い洞察力につなげることを到達目標とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 授業内容、予定、用具の説明、人体計測とサイズ、下半身被覆のための基礎的考え方について
- 第2週 スカートのパターンの基本作図
- 第3週 パターンのデザイン別応用展開法、材料の選び方
- 第4週 スカートの製作実習1－裁断、仮縫い組立て
- 第5週 スカートの製作実習2－試着補正、本縫い
- 第6週 スカートの製作実習3－本縫い
- 第7週 スカートの製作実習4－本縫い
- 第8週 スカートの製作実習5－本縫い
- 第9週 スカートの製作最終仕上げと小テスト
- 第10週 中学、高校の被服分野学習内容の把握
- 第11週 中学被服分野の構成技法を部分縫いで把握
- 第12週 高校被服分野の構成技法を部分縫いで把握
- 第13週 中学被服分野「上衣をつくる」実習例を製作で把握－1
- 第14週 中学被服分野「上衣をつくる」実習例を製作で把握－2
- 第15週 与えられた課題の製作とプレゼンテーション

**【事前・事後学修】**

事前学修は、前回までの到達点に達していない部分の取り組みを求めます。(学修時間 1時間)

事後学修は、今回の学修内容についてテキストでの確認と要点の加筆をしてください。(学修時間 1時間)

**【テキスト・教材】**

担当で作成のテキストを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

提出物の評価80%、授業内容理解度の時間内小テスト20%で評価する。作品は毎回の講義、実技指導の理解力と完成度で評価する。

小テストは教員採用試験過去問の被服分野を用い、時間内で解答、要点を解説する。

**【参考書】**

技術的なものの参考書としては、「服装造形学 技術編Ⅰ」(文化学園教科書出版部)がお薦めできる。被服製作関連の専門書以外では、雑誌、新聞、TVなどからの情報が最新の情報として参考になる。

**【注意事項】**

毎回、説明、実習の組合せになる。実習に必要なものを忘れて、欠席が多くなると、以後の実習に支障をきたすので注意して欲しい。個人の習熟度によっては、実習時間は提出物を仕上げるのに充分ではないので、時間外での作業が必要になる場合もある。実習授業なので、材料を用意して頂く必要がある。

**衣服製作実習 b**

吉村 眞由美

2・3年 前期 1単位 2時限連続

○：国際的視野、美の探究、行動力

テスト（10%）、課題の進捗状況および取り組み姿勢（40%）。この割合を基準として総合的に評価します。それぞれへのフィードバックは授業内で行います。

**【授業のテーマ】**

日本の民族衣装である「きもの」は、日本特有の気候や生活文化に適応した素晴らしい伝統衣服です。本授業では、「大裁ち女物ひとえ長着（女物浴衣）」の実物製作を通して、平面の布を立体である人体に合わせる構成理論と実際のものづくりを学びます。具体的には、一反（布幅約36cm・布長さ約11m50cm）の反物から一着の浴衣を完成させるまでの過程、すなわち、①材料や用具の選択、②長着の構成、③反物の裁断法、④しるしの付け方、⑤各部位を美しく丈夫に仕上げる手縫いの縫製技法などの学習を連続的に行うことで日本の伝統的で優れた和服文化を学習します。最後に、浴衣を美しく着装する着付け実習と管理収納の方法を学び、和服の衣生活力を養います。

**【授業における到達目標】**

①日本独自のきものの特徴を知ることで【国際的視野】を身につけます。②1枚の布から浴衣を手縫いで仕上げることは、時間配分などの計画力・繰り返し作業を重ねるだけでなく段階的に到達していく工夫力・たゆまぬ努力をもって取り組む実行力を養うことにつながります。その過程を通して【行動力】【研鑽力】を高めます。③きものを美しく着装する方法や、きもの特有の美しい所作を学ぶことで【美の探求】の態度を養います。

**【授業の内容】**

1. 和服概論（平面構成の特徴・長着の形状・名称・染めと織りの種類と伝統技法・和服地と帯地各種の模様と意匠）、運針練習、手縫い練習（きんちゃく製作）、身体計測と仕立て寸法割り出し
2. 浴衣地の柄合わせ、折り積もり、裁断、袖作り（しるし付け・袖下縫い・たもとの丸み・袖口くけ）
3. 身頃製作①（身頃しるし付け・背縫い・肩当て①）
4. 身頃製作②（肩当て②・居敷き当て）
5. 身頃製作③（衿付けと前身頃縫い代始末）
6. 身頃製作④（脇縫い・脇縫い代始末・裾縫い代始末）
7. 衿製作①（本衿しるし付け・本衿付け・三つ衿芯入れ・衿先の始末・衿本ぐけ）
8. 衿製作②（掛け衿しるし付け・掛け衿付け）
9. 袖付け・仕上げ、和服の歴史と文化（着物の収納・手入れ・管理）
10. 着装実習（着物と帯の着付け方）、小テスト（理論と実技）

**【事前・事後学修】**

【事前学修】テキスト内の次回の作業内容を読み、手順の確認と手法の予習をしてください。（学修時間 週2時間）【事後学修】授業内で終えられなかった製作作業を次回までに必ず完了させることを守ってください。わからない部分は適当に進めるのではなく、見本を見に来て、正しい技法を確認して進めましょう。工夫しながら正確に進めることが進歩につながり、その学びを重視します。（学修時間 週6時間）

**【テキスト・教材】**

熊田・森田・古松・秋山著『和服の基礎とゆかた製作』（創英社 2003年）2,000円＋税

教材は自分で購入準備していただきます。①浴衣地（第1回の選び方説明を聞き、第2回授業時に持参してください）、②浴衣地に合った細口木綿糸（カード型）、③裁縫道具（説明に示された用具を準備して、毎回持参してください）、④その他、適宜授業内で指示します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

手縫い練習作品（10%）、女物浴衣作品（40%）、理論と実技の小

## 衣服製作実習 b

吉村 眞由美

2年 前期 1単位 2時限連続

○：国際的視野、美の探究、行動力

### 【授業のテーマ】

日本の民族衣装である「きもの」は、日本特有の気候や生活文化に適応した素晴らしい伝統衣服です。本授業では、「大裁ち女物ひとえ長着（女物浴衣）」の実物製作を通して、平面の布を立体である人体に合わせる構成理論と実際のものづくりを学びます。具体的には、一反（布幅約36cm・布長さ約11m50cm）の反物から一着の浴衣を完成させるまでの過程、すなわち、①材料や用具の選択、②長着の構成、③反物の裁断法、④しるしの付け方、⑤各部位を美しく丈夫に仕上げる手縫いの縫製技法などの学習を連続的に行うことで日本の伝統的で優れた和服文化を学習します。最後に、浴衣を美しく着装する着付け実習と管理収納の方法を学び、和服の衣生活力を養います。

### 【授業における到達目標】

①日本独自のきものの特徴を知ることで【国際的視野】を身につけます。②1枚の布から浴衣を手縫いで仕上げることは、時間配分などの計画力・繰り返し作業を重ねるだけでなく段階的に到達していく工夫力・たゆまぬ努力をもって取り組む実行力を養うことにつながります。その過程を通して【行動力】【研鑽力】を高めます。③きものを美しく着装する方法や、きもの特有の美しい所作を学ぶことで【美の探求】の態度を養います。

### 【授業の内容】

1. 和服概論（平面構成の特徴・長着の形状・名称・染めと織りの種類と伝統技法・和服地と帯地各種の模様と意匠）、運針練習、手縫い練習（きんちゃく製作）、身体計測と仕立て寸法割り出し
2. 浴衣地の柄合わせ、折り積もり、裁断、袖作り（しるし付け・袖下縫い・たもとの丸み・袖口くけ）
3. 身頃製作①（身頃しるし付け・背縫い・肩当て①）
4. 身頃製作②（肩当て②・居敷き当て）
5. 身頃製作③（衿付けと前身頃縫い代始末）
6. 身頃製作④（脇縫い・脇縫い代始末・裾縫い代始末）
7. 衿製作①（本衿しるし付け・本衿付け・三つ衿芯入れ・衿先の始末・衿本ぐけ）
8. 衿製作②（掛け衿しるし付け・掛け衿付け）
9. 袖付け・仕上げ、和服の歴史と文化（着物の収納・手入れ・管理）
10. 着装実習（着物と帯の着付け方）、小テスト（理論と実技）

### 【事前・事後学修】

【事前学修】テキスト内の次回の作業内容を読み、手順の確認と手法の予習をしてください。（学修時間 週2時間）【事後学修】授業内で終えられなかった製作作業を次回までに必ず完了させることを守ってください。わからない部分は適当に進めるのではなく、見本を見に来て、正しい技法を確認して進めましょう。工夫しながら正確に進めることが進歩につながり、その学びを重視します。（学修時間 週6時間）

### 【テキスト・教材】

熊田・森田・古松・秋山著『和服の基礎とゆかた製作』（創英社 2003年）2,000円＋税

教材は自分で購入準備していただきます。①浴衣地（第1回の選び方説明を聞き、第2回授業時に持参してください）、②浴衣地に合った細口木綿糸（カード型）、③裁縫道具（説明に示された用具を準備して、毎回持参してください）、④その他、適宜授業内で指示します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

手縫い練習作品（10%）、女物浴衣作品（40%）、理論と実技の小テスト（10%）、課題の進捗状況および取り組み姿勢（40%）。この割合を基準として総合的に評価します。それぞれへのフィードバックは授業内で行います。

## 衣服製作実習 b

吉村 眞由美

2年 前期 1単位 2時限連続

○：国際的視野、美の探究、行動力

## 【授業のテーマ】

日本の民族衣装である「きもの」は、日本特有の気候や生活文化に適応した素晴らしい伝統衣服です。本授業では、「大裁ち女物ひとえ長着（女物浴衣）」の実物製作を通して、平面の布を立体である人体に合わせる構成理論と実際のものづくりを学びます。具体的には、一反（布幅約36cm・布長さ約11m50cm）の反物から一着の浴衣を完成させるまでの過程、すなわち、①材料や用具の選択、②長着の構成、③反物の裁断法、④しるしの付け方、⑤各部位を美しく丈夫に仕上げる手縫いの縫製技法などの学習を連続的に行うことで日本の伝統的で優れた和服文化を学習します。最後に、浴衣を美しく着装する着付け実習と管理収納の方法を学び、和服の衣生活力を養います。

## 【授業における到達目標】

①日本独自のきものの特徴を知ることで【国際的視野】を身につけます。②1枚の布から浴衣を手縫いで仕上げることは、時間配分などの計画力・繰り返し作業を重ねるだけでなく段階的に到達していく工夫力・たゆまぬ努力をもって取り組む実行力を養うことにつながります。その過程を通して【行動力】【研鑽力】を高めます。③きものを美しく着装する方法や、きもの特有の美しい所作を学ぶことで【美の探求】の態度を養います。

## 【授業の内容】

1. 和服概論（平面構成の特徴・長着の形状・名称・染めと織りの種類と伝統技法・和服地と帯地各種の模様と意匠）、運針練習、手縫い練習（きんちゃく製作）、身体計測と仕立て寸法割り出し
2. 浴衣地の柄合わせ、折り積もり、裁断、袖作り（しるし付け・袖下縫い・たもとの丸み・袖口くけ）
3. 身頃製作①（身頃しるし付け・背縫い・肩当て①）
4. 身頃製作②（肩当て②・居敷き当て）
5. 身頃製作③（衤付けと前身頃縫い代始末）
6. 身頃製作④（脇縫い・脇縫い代始末・裾縫い代始末）
7. 衤製作①（本衤しるし付け・本衤付け・三つ衤芯入れ・衤先の始末・衤本ぐけ）
8. 衤製作②（掛け衤しるし付け・掛け衤付け）
9. 袖付け・仕上げ、和服の歴史と文化（着物の収納・手入れ・管理）
10. 着装実習（着物と帯の着付け方）、小テスト（理論と実技）

## 【事前・事後学修】

【事前学修】テキスト内の次回の作業内容を読み、手順の確認と手法の予習をしてください。（学修時間 週2時間）【事後学修】授業内で終えられなかった製作作業を次回までに必ず完了させることを守ってください。わからない部分は適当に進めるのではなく、見本を見に来て、正しい技法を確認して進めましょう。工夫しながら正確に進めることが進歩につながり、その学びを重視します。（学修時間 週6時間）

## 【テキスト・教材】

熊田・森田・古松・秋山著『和服の基礎とゆかた製作』（創英社 2003年）2,000円＋税 教材は自分で購入準備していただきます。  
①浴衣地（第1回の選び方説明を聞き、第2回授業時に持参してください）、②浴衣地に合った細口木綿糸（カード型）、③裁縫道具（説明に示された用具を準備して、毎回持参してください）、④その他、適宜授業内で指示します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

手縫い練習作品（10%）、女物浴衣作品（40%）、理論と実技の小テスト（10%）、課題の進捗状況および取り組み姿勢（40%）。この割合を基準として総合的に評価します。それぞれへのフィードバックは授業内で行います。

**衣服製作実習 b**

吉村 眞由美

3年 前期 1単位 2時限連続

○：国際的視野、美の探究、行動力

テスト（10%）、課題の進捗状況および取り組み姿勢（40%）。この割合を基準として総合的に評価します。それぞれへのフィードバックは授業内で行います。

**【授業のテーマ】**

日本の民族衣装である「きもの」は、日本特有の気候や生活文化に適応した素晴らしい伝統衣服です。本授業では、「大裁ち女物ひとえ長着（女物浴衣）」の実物製作を通して、平面の布を立体である人体に合わせる構成理論と実際のものづくりを学びます。具体的には、一反（布幅約36cm・布長さ約11m50cm）の反物から一着の浴衣を完成させるまでの過程、すなわち、①材料や用具の選択、②長着の構成、③反物の裁断法、④しるしの付け方、⑤各部位を美しく丈夫に仕上げる手縫いの縫製技法などの学習を連続的に行うことで日本の伝統的で優れた和服文化を学習します。最後に、浴衣を美しく着装する着付け実習と管理収納の方法を学び、和服の衣生活力を養います。

**【授業における到達目標】**

①日本独自のきものの特徴を知ること【国際的視野】を身につけます。②1枚の布から浴衣を手縫いで仕上げることは、時間配分などの計画力・繰り返し作業を重ねるだけでなく段階的に到達していく工夫力・たゆまぬ努力をもって取り組む実行力を養うことにつながります。その過程を通して【行動力】【研鑽力】を高めます。③きものを美しく着装する方法や、きもの特有の美しい所作を学ぶことで【美の探求】の態度を養います。

**【授業の内容】**

1. 和服概論（平面構成の特徴・長着の形状・名称・染めと織りの種類と伝統技法・和服地と帯地各種の模様と意匠）、運針練習、手縫い練習（きんちゃく製作）、身体計測と仕立て寸法割り出し
2. 浴衣地の柄合わせ、折り積もり、裁断、袖作り（しるし付け・袖下縫い・たもとの丸み・袖口くけ）
3. 身頃製作①（身頃しるし付け・背縫い・肩当て①）
4. 身頃製作②（肩当て②・居敷き当て）
5. 身頃製作③（衤付けと前身頃縫い代始末）
6. 身頃製作④（脇縫い・脇縫い代始末・裾縫い代始末）
7. 衤製作①（本衤しるし付け・本衤付け・三つ衤芯入れ・衤先の始末・衤本ぐけ）
8. 衤製作②（掛け衤しるし付け・掛け衤付け）
9. 袖付け・仕上げ、和服の歴史と文化（着物の収納・手入れ・管理）
10. 着装実習（着物と帯の着付け方）、小テスト（理論と実技）

**【事前・事後学修】**

【事前学修】テキスト内の次回の作業内容を読み、手順の確認と手法の予習をしてください。（学修時間 週2時間）【事後学修】授業内で終えられなかった製作作業を次回までに必ず完了させることを守ってください。わからない部分は適当に進めるのではなく、見本を見に来て、正しい技法を確認して進めましょう。工夫しながら正確に進めることが進歩につながり、その学びを重視します。（学修時間 週6時間）

**【テキスト・教材】**

熊田・森田・古松・秋山著『和服の基礎とゆかた製作』（創英社 2003年）2,000円＋税

教材は自分で購入準備していただきます。①浴衣地（第1回の選び方説明を聞き、第2回授業時に持参してください）、②浴衣地に合った細口木綿糸（カード型）、③裁縫道具（説明に示された用具を準備して、毎回持参してください）、④その他、適宜授業内で指示します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

手縫い練習作品（10%）、女物浴衣作品（40%）、理論と実技の小

**衣服製作実習 b**

吉村 眞由美

3年 前期 1単位 2時限連続

○：国際的視野、美の探究、行動力

テスト（10%）、課題の進捗状況および取り組み姿勢（40%）。この割合を基準として総合的に評価します。それぞれへのフィードバックは授業内で行います。

**【授業のテーマ】**

日本の民族衣装である「きもの」は、日本特有の気候や生活文化に適応した素晴らしい伝統衣服です。本授業では、「大裁ち女物ひとえ長着（女物浴衣）」の実物製作を通して、平面の布を立体である人体に合わせる構成理論と実際のものづくりを学びます。具体的には、一反（布幅約36cm・布長さ約11m50cm）の反物から一着の浴衣を完成させるまでの過程、すなわち、①材料や用具の選択、②長着の構成、③反物の裁断法、④しるしの付け方、⑤各部位を美しく丈夫に仕上げる手縫いの縫製技法などの学習を連続的に行うことで日本の伝統的で優れた和服文化を学習します。最後に、浴衣を美しく着装する着付け実習と管理収納の方法を学び、和服の衣生活力を養います。

**【授業における到達目標】**

①日本独自のきものの特徴を知ること【国際的視野】を身につけます。②1枚の布から浴衣を手縫いで仕上げることは、時間配分などの計画力・繰り返し作業を重ねるだけでなく段階的に到達していく工夫力・たゆまぬ努力をもって取り組む実行力を養うことにつながります。その過程を通して【行動力】【研鑽力】を高めます。③きものを美しく着装する方法や、きもの特有の美しい所作を学ぶことで【美の探求】の態度を養います。

**【授業の内容】**

1. 和服概論（平面構成の特徴・長着の形状・名称・染めと織りの種類と伝統技法・和服地と帯地各種の模様と意匠）、運針練習、手縫い練習（きんちゃく製作）、身体計測と仕立て寸法割り出し
2. 浴衣地の柄合わせ、折り積もり、裁断、袖作り（しるし付け・袖下縫い・たもとの丸み・袖口くけ）
3. 身頃製作①（身頃しるし付け・背縫い・肩当て①）
4. 身頃製作②（肩当て②・居敷き当て）
5. 身頃製作③（衿付けと前身頃縫い代始末）
6. 身頃製作④（脇縫い・脇縫い代始末・裾縫い代始末）
7. 衿製作①（本衿しるし付け・本衿付け・三つ衿芯入れ・衿先の始末・衿本ぐけ）
8. 衿製作②（掛け衿しるし付け・掛け衿付け）
9. 袖付け・仕上げ、和服の歴史と文化（着物の収納・手入れ・管理）
10. 着装実習（着物と帯の着付け方）、小テスト（理論と実技）

**【事前・事後学修】**

【事前学修】テキスト内の次回の作業内容を読み、手順の確認と手法の予習をしてください。（学修時間 週2時間）【事後学修】授業内で終えられなかった製作作業を次回までに必ず完了させることを守ってください。わからない部分は適当に進めるのではなく、見本を見に来て、正しい技法を確認して進めましょう。工夫しながら正確に進めることが進歩につながり、その学びを重視します。（学修時間 週6時間）

**【テキスト・教材】**

熊田・森田・古松・秋山著『和服の基礎とゆかた製作』（創英社 2003年）2,000円＋税

教材は自分で購入準備していただきます。①浴衣地（第1回の選び方説明を聞き、第2回授業時に持参してください）、②浴衣地に合った細口木綿糸（カード型）、③裁縫道具（説明に示された用具を準備して、毎回持参してください）、④その他、適宜授業内で指示します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

手縫い練習作品（10%）、女物浴衣作品（40%）、理論と実技の小

**衣服製作実習 c**

藤村 明子

2・3年 後期 2単位 2時限連続

◎：研鑽力 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

被服の構成理論や基本技術の習得を目標とする。中学校・高等学校家庭科の被服分野における教材研究を中心に学習する。被服の機能や着装、構成理論や服装史について概説する。さらに人体計測の基礎、パターンの作成と展開、素材の選択、縫製用具やミシンの使い方、基本的な縫製技術等の習得を目的として、家庭科の授業展開に応用できるように小物や休養着の製作を行なう。

**【授業における到達目標】**

縫製技術や休養着の製作技術を習得することで、簡単な被服の製作ができるようになる。

毎時間ごとに目標を立てて実行していくことで、自ら主体的に製作に取り組む行動力を習得し、作品を完成することで、作る喜びや楽しさを知る。

**【授業の内容】**

1. 中・高家庭科被服分野の学習内容について知る  
被服の機能と着装について考える
2. 被服の歴史と形、平面構成と立体構成の特徴について
3. 人体計測（実習）と衣服のサイズ
4. 用具の説明と材料の選択、布・糸・針の関係について
5. 手縫い
6. 刺繍、織物、編物
7. ミシンの扱い方とミシン縫い
8. 休養着の製作① パターンの作成
9. 休養着の製作② 裁断
10. 休養着の製作③ 縫製 上衣（肩、袖）
11. 休養着の製作④ 縫製 上衣（衿、脇）
12. 休養着の製作⑤ 縫製 下衣
13. 休養着の製作⑥ 仕上げ、ボタン
14. 小物の製作
15. 作品の発表

**【事前・事後学修】**

【事前学修】前回の実習内容を完了させ、プリントや指示に従って、授業に必要な道具や材料を準備しておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】実習内容を復習すること。次回の授業範囲を予習し、実習手順について理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを使用する。

必要な道具や材料（用布、糸など）については授業中に指示するが、中・高で使用した裁縫道具程度の準備はしておくこと。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

提出物50%、授業態度（実習への取り組み方）50%で評価する。  
提出物の自己評価シートの記入によりフィードバックを行う。

**【注意事項】**

実習科目ですので、授業中に集中して製作に取り込むことが必須ですが、授業中に終わらなかった場合は、時間外での作業が必要になります。



**衣服製作実習 c**

藤村 明子

2年 後期 2単位 2時限連続

◎：研鑽力 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

被服の構成理論や基本技術の習得を目標とする。中学校・高等学校家庭科の被服分野における教材研究を中心に学習する。被服の機能や着装、構成理論や服装史について概説する。さらに人体計測の基礎、パターンの作成と展開、素材の選択、縫製用具やミシンの使い方、基本的な縫製技術等の習得を目的として、家庭科の授業展開に応用できるように小物や休養着の製作を行なう。

**【授業における到達目標】**

縫製技術や休養着の製作技術を習得することで、簡単な被服の製作ができるようになる。

毎時間ごとに目標を立てて実行していくことで、自ら主体的に製作に取り組む行動力を習得し、作品を完成することで、作る喜びや楽しさを知る。

**【授業の内容】**

1. 中・高家庭科被服分野の学習内容について知る  
被服の機能と着装について考える
2. 被服の歴史と形、平面構成と立体構成の特徴について
3. 人体計測（実習）と衣服のサイズ
4. 用具の説明と材料の選択、布・糸・針の関係について
5. 手縫い
6. 刺繍、織物、編物
7. ミシンの扱い方とミシン縫い
8. 休養着の製作① パターンの作成
9. 休養着の製作② 裁断
10. 休養着の製作③ 縫製 上衣（肩、袖）
11. 休養着の製作④ 縫製 上衣（衿、脇）
12. 休養着の製作⑤ 縫製 下衣
13. 休養着の製作⑥ 仕上げ、ボタン
14. 小物の製作
15. 作品の発表

**【事前・事後学修】**

【事前学修】前回の実習内容を完了させ、プリントや指示に従って、授業に必要な道具や材料を準備しておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】実習内容を復習すること。次回の授業範囲を予習し、実習手順について理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを使用する。

必要な道具や材料（用布、糸など）については授業中に指示するが、中・高で使用した裁縫道具程度の準備はしておくこと。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

提出物50%、授業態度（実習への取り組み方）50%で評価する。  
提出物の自己評価シートの記入によりフィードバックを行う。

**【注意事項】**

実習科目ですので、授業中に集中して製作に取り込むことが必須ですが、授業中に終わらなかった場合は、時間外での作業が必要になります。

**衣服製作実習 c**

藤村 明子

3年 後期 2単位 2時限連続

◎：研鑽力 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

被服の構成理論や基本技術の習得を目標とする。中学校・高等学校家庭科の被服分野における教材研究を中心に学習する。被服の機能や着装、構成理論や服装史について概説する。さらに人体計測の基礎、パターンの作成と展開、素材の選択、縫製用具やミシンの使い方、基本的な縫製技術等の習得を目的として、家庭科の授業展開に応用できるように小物や休養着の製作を行なう。

**【授業における到達目標】**

縫製技術や休養着の製作技術を習得することで、簡単な被服の製作ができるようになる。

毎時間ごとに目標を立てて実行していくことで、自ら主体的に製作に取り組む行動力を習得し、作品を完成することで、作る喜びや楽しさを知る。

**【授業の内容】**

1. 中・高家庭科被服分野の学習内容について知る  
被服の機能と着装について考える
2. 被服の歴史と形、平面構成と立体構成の特徴について
3. 人体計測（実習）と衣服のサイズ
4. 用具の説明と材料の選択、布・糸・針の関係について
5. 手縫い
6. 刺繍、織物、編物
7. ミシンの扱い方とミシン縫い
8. 休養着の製作① パターンの作成
9. 休養着の製作② 裁断
10. 休養着の製作③ 縫製 上衣（肩、袖）
11. 休養着の製作④ 縫製 上衣（衿、脇）
12. 休養着の製作⑤ 縫製 下衣
13. 休養着の製作⑥ 仕上げ、ボタン
14. 小物の製作
15. 作品の発表

**【事前・事後学修】**

【事前学修】前回の実習内容を完了させ、プリントや指示に従って、授業に必要な道具や材料を準備しておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】実習内容を復習すること。次回の授業範囲を予習し、実習手順について理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを使用する。

必要な道具や材料（用布、糸など）については授業中に指示するが、中・高で使用した裁縫道具程度の準備はしておくこと。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

提出物50%、授業態度（実習への取り組み方）50%で評価する。  
提出物の自己評価シートの記入によりフィードバックを行う。

**【注意事項】**

実習科目ですので、授業中に集中して製作に取り込むことが必須ですが、授業中に終わらなかった場合は、時間外での作業が必要になります。

**衣服製作実習 c**

藤村 明子

3年 後期 2単位 2時限連続

◎：研鑽力 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

被服の構成理論や基本技術の習得を目標とする。中学校・高等学校家庭科の被服分野における教材研究を中心に学習する。被服の機能や着装、構成理論や服装史について概説する。さらに人体計測の基礎、パターンの作成と展開、素材の選択、縫製用具やミシンの使い方、基本的な縫製技術等の習得を目的として、家庭科の授業展開に応用できるように小物や休養着の製作を行なう。

**【授業における到達目標】**

縫製技術や休養着の製作技術を習得することで、簡単な被服の製作ができるようになる。

毎時間ごとに目標を立てて実行していくことで、自ら主体的に製作に取り組む行動力を習得し、作品を完成することで、作る喜びや楽しさを知る。

**【授業の内容】**

1. 中・高家庭科被服分野の学習内容について知る  
被服の機能と着装について考える
2. 被服の歴史と形、平面構成と立体構成の特徴について
3. 人体計測（実習）と衣服のサイズ
4. 用具の説明と材料の選択、布・糸・針の関係について
5. 手縫い
6. 刺繍、織物、編物
7. ミシンの扱い方とミシン縫い
8. 休養着の製作① パターンの作成
9. 休養着の製作② 裁断
10. 休養着の製作③ 縫製 上衣（肩、袖）
11. 休養着の製作④ 縫製 上衣（衿、脇）
12. 休養着の製作⑤ 縫製 下衣
13. 休養着の製作⑥ 仕上げ、ボタン
14. 小物の製作
15. 作品の発表

**【事前・事後学修】**

【事前学修】前回の実習内容を完了させ、プリントや指示に従って、授業に必要な道具や材料を準備しておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】実習内容を復習すること。次回の授業範囲を予習し、実習手順について理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを使用する。

必要な道具や材料（用布、糸など）については授業中に指示するが、中・高で使用した裁縫道具程度の準備はしておくこと。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

提出物50%、授業態度（実習への取り組み方）50%で評価する。  
提出物の自己評価シートの記入によりフィードバックを行う。

**【注意事項】**

実習科目ですので、授業中に集中して製作に取り込むことが必須ですが、授業中に終わらなかった場合は、時間外での作業が必要になります。

## 衣文化論

大川 知子

1年～ 前期 2単位

○：美の探求、研鑽力

### 【授業のテーマ】

「衣＝ファッション」について、フランスや日本を中心に、その歴史を踏まえて、それぞれの時代に表出してきたファッションの社会的・文化的背景について学ぶ。各時代を追いながら、世界各国のファッションの形成過程の特徴や、現代ファッションを捉える上での様々な視点についても学ぶ。

### 【授業における到達目標】

1. 時代毎のファッションが、社会とどのような関連性を持っていたのかを知る。
2. ファッション史上、重要なデザイナー達の活動を通して、歴史に残る製品について学び、ファッションに対する研鑽力を高める。
3. 受講を通して、知を求め、心の美も育む態度、そして、美を探究する力を醸成する。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション—文化として捉えるファッション
- 第2週 オートクチュールの勃興
- 第3週 女性解放の象徴としてのファッション
- 第4週 戦時下のファッション
- 第5週 日本における洋装化
- 第6週 第二次世界大戦後のファッション
- 第7週 米国ファッションの概観
- 第8週 英国ファッションの形成
- 第9週 若年化するファッション①米国・英国
- 第10週 若年化するファッション②フランス
- 第11週 デニムのファッション化
- 第12週 日本における欧米ファッションの需要
- 第13週 日本のファッションの可能性①1970年代から1990年代
- 第14週 日本のファッションの可能性②2000年代
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

歴史の連続性の中で、前後の講義内容が関連を持つため、一回ずつの内容について予習復習をしておくこと（学修時間 1時間）。事前に課題を提示する場合もある（学修時間 3時間）。

### 【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験80%、提出課題20%で評価を行う。また、試験・課題共、原則的に翌週以降に返却と解説を行う。

### 【参考書】

1. 深井晃子監修『カラー版 西洋服飾史』（美術出版社、2010年）  
2,500円（税別）
2. キャリー・ブラックマン『ウィメンズウエア』（Pバイン・ブックス、2012年）3,800円（税別）
3. ディディエ・グランバック『モードの物語』（文化出版局、2013年）8,000円（税別）
4. 渡辺明日香『TOKYOファッションクロニクル』（青幻舎、2016年）  
2,800円（税別）

### 【注意事項】

欠席が事前に分かっている場合には、その時点で申し出ること。公欠は大学の規定で認められているもののみ、かつ申請書類は必ず事前に提出のこと。

**衣料学**

合理的な衣生活を営むために

中村 立子

2年 後期 2単位

○：美の探究、研鑽力

**【授業のテーマ】**

現代社会における衣生活の現状を把握した上で、社会生活における適切な着装行動を行うことができる力を培う。また被服材料の性質をよく理解した上で、衣料品の購入や洗濯などの日常的な被服のケア・管理を適切に行うための基本を学習する。併せて、地域や地球環境に配慮した消費行動を考える。

教員免許取得をめざす学生に資するレベルで授業を行う。

**【授業における到達目標】**

自分の衣生活を自信を持って合理的に行うことができるようになること、特に科学的知識に基づいた実践力を高めていける力の獲得をめざします。また、グローバル化が進んでいる分野である衣料品を通し、日本の現状を踏まえつつ、多様な文化の相互理解にも考慮出来るようにします。

そのためには基礎となる知識の習得はもちろん、知識を組み合わせた実践的な応用力を持つことが大事になります。社会生活上の衣服の役割を把握した上での美的センスの向上もめざします。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション・衣生活の概観
- 第2週 被服の機能
- 第3週 被服を快適に着る、安全に着るための基本知識と考え方—主として被服内気候の観点から考える
- 第4週 被服素材の消費性能
- 第5週 繊維の分類と特性比較概論、  
繊維各論Ⅰ. 天然繊維—植物繊維（綿・麻）
- 第6週 繊維各論Ⅰ. 天然繊維—動物繊維
- 第7週 繊維各論Ⅱ. 化学繊維—再生繊維・半合成繊維
- 第8週 繊維各論Ⅱ. 化学繊維—合成繊維
- 第9週 糸・布の種類と構造および各々の特徴
- 第10週 新しい機能を持つ素材と繊維の加工
- 第11週 染色の方法と染色物の堅牢性
- 第12週 衣服の汚れとその除去—洗濯の基礎知識
- 第13週 洗剤の種類と洗濯の条件：合理的な洗濯を考える
- 第14週 漂白・しみ抜きと衣類の保管・衣料品の3R
- 第15週 全体のまとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】指示したテキストや教材の必要部分について予習してこくこと。特に逆転授業を指示した時には十分な準備をしてこくこと（週2時間）。また日常使用していたり、被服を購入する時に必ず表示を見て取り扱ったり、購買行動を行い授業に備えること。

【事後学修】学修した内容をノートにまとめることを通して知識の定着を図ること（週2時間）

**【テキスト・教材】**

山口庸子、生野晴美編著『衣生活論—持続可能な消費に向けて—』（㈱アイ・ケイコーポレーション）2014年再版発行、2200円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート30％／定期試験70％

レポートは添削後返却。その際、全体的な講評をします。

**【参考書】**

吉田敬一他共著『身近な環境 衣生活の科学』（㈱アイ・ケイコーポレーション）

**【注意事項】**

アクティブラーニングを取り入れますので、授業に積極的に参加する姿勢で臨んでください。

**衣料学**

合理的な衣生活を営むために

中村 立子

2年 後期 2単位

○：美の探究、研鑽力

**【授業のテーマ】**

現代社会における衣生活の現状を把握した上で、社会生活における適切な着装行動を行うことができる力を培う。また被服材料の性質をよく理解した上で、衣料品の購入や洗濯などの日常的な被服のケア・管理を適切に行うための基本を学習する。併せて、地域や地球環境に配慮した消費行動を考える。

教員免許取得をめざす学生に資するレベルで授業を行う。

**【授業における到達目標】**

自分の衣生活を自信を持って合理的に行うことができるようになること、特に科学的知識に基づいた実践力を高めていける力の獲得をめざします。また、グローバル化が進んでいる分野である衣料品を通し、日本の現状を踏まえつつ、多様な文化の相互理解にも考慮出来るようにします。

そのためには基礎となる知識の習得はもちろん、知識を組み合わせた実践的な応用力を持つことが大事になります。社会生活上の衣服の役割を把握した上での美的センスの向上もめざします。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション・衣生活の概観
- 第2週 被服の機能
- 第3週 被服を快適に着る、安全に着るための基本知識と考え方  
方一主として被服内気候の観点から考える
- 第4週 被服素材の消費性能
- 第5週 繊維の分類と特性比較概論、  
繊維各論Ⅰ. 天然繊維—植物繊維（綿・麻）
- 第6週 繊維各論Ⅰ. 天然繊維—動物繊維
- 第7週 繊維各論Ⅱ. 化学繊維—再生繊維・半合成繊維
- 第8週 繊維各論Ⅱ. 化学繊維—合成繊維
- 第9週 糸・布の種類と構造および各々の特徴
- 第10週 新しい機能を持つ素材と繊維の加工
- 第11週 染色の方法と染色物の堅牢性
- 第12週 衣服の汚れとその除去—洗濯の基礎知識
- 第13週 洗剤の種類と洗濯の条件：合理的な洗濯を考える
- 第14週 漂白・しみ抜きと衣類の保管・衣料品の3R
- 第15週 全体のまとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】指示したテキストや教材の必要部分について予習してこくこと。特に逆転授業を指示した時には十分な準備をしてこくこと（週2時間）。また日常使用していたり、被服を購入する時に必ず表示を見て取り扱ったり、購買行動を行い授業に備えること。

【事後学修】学修した内容をノートにまとめることを通して知識の定着を図ること（週2時間）

**【テキスト・教材】**

山口庸子、生野晴美編著『衣生活論—持続可能な消費に向けて—』（㈱アイ・ケイコーポレーション）2014年再版発行、2200円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート30％／定期試験70％

レポートは添削後返却。その際、全体的な講評をします。

**【参考書】**

吉田敬一他共著『身近な環境 衣生活の科学』（㈱アイ・ケイコーポレーション）

**【注意事項】**

アクティブラーニングを取り入れますので、授業に積極的に参加する姿勢で臨んでください。

**衣料学**

合理的な衣生活を営むために

中村 立子

2年 後期 2単位

○：美の探究、研鑽力

**【授業のテーマ】**

現代社会における衣生活の現状を把握した上で、社会生活における適切な着装行動を行うことができる力を培う。また被服材料の性質をよく理解した上で、衣料品の購入や洗濯などの日常的な被服のケア・管理を適切に行うための基本を学習する。併せて、地域や地球環境に配慮した消費行動を考える。

教員免許取得をめざす学生に資するレベルで授業を行う。

**【授業における到達目標】**

自分の衣生活を自信を持って合理的に行うことができるようになること、特に科学的知識に基づいた実践力を高めていける力の獲得をめざします。また、グローバル化が進んでいる分野である衣料品を通し、日本の現状を踏まえつつ、多様な文化の相互理解にも考慮出来るようにします。

そのためには基礎となる知識の習得はもちろん、知識を組み合わせた実践的な応用力を持つことが大事になります。社会生活上の衣服の役割を把握した上での美的センスの向上もめざします。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション・衣生活の概観
- 第2週 被服の機能
- 第3週 被服を快適に着る、安全に着るための基本知識と考え方—主として被服内気候の観点から考える
- 第4週 被服素材の消費性能
- 第5週 繊維の分類と特性比較概論、  
繊維各論Ⅰ. 天然繊維—植物繊維（綿・麻）
- 第6週 繊維各論Ⅰ. 天然繊維—動物繊維
- 第7週 繊維各論Ⅱ. 化学繊維—再生繊維・半合成繊維
- 第8週 繊維各論Ⅱ. 化学繊維—合成繊維
- 第9週 糸・布の種類と構造および各々の特徴
- 第10週 新しい機能を持つ素材と繊維の加工
- 第11週 染色の方法と染色物の堅牢性
- 第12週 衣服の汚れとその除去—洗濯の基礎知識
- 第13週 洗剤の種類と洗濯の条件：合理的な洗濯を考える
- 第14週 漂白・しみ抜きと衣類の保管・衣料品の3R
- 第15週 全体のまとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】指示したテキストや教材の必要部分について予習しておくこと。特に逆転授業を指示した時には十分な準備をしておくこと（週2時間）。また日常使用していたり、被服を購入する時に必ず表示を見て取り扱ったり、購買行動を行い授業に備えること。

【事後学修】学修した内容をノートにまとめることを通して知識の定着を図ること（週2時間）

**【テキスト・教材】**

山口庸子、生野晴美編著『衣生活論—持続可能な消費に向けて—』（㈱アイ・ケイコーポレーション）2014年再版発行、2200円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート30％／定期試験70％

レポートは添削後返却。その際、全体的な講評をします。

**【参考書】**

吉田敬一他共著『身近な環境 衣生活の科学』（㈱アイ・ケイコーポレーション）

**【注意事項】**

アクティブラーニングを取り入れますので、授業に積極的に参加する姿勢で臨んでください。

**衣料学**

合理的な衣生活を営むために

中村 立子

2年 後期 2単位

○：美の探究、研鑽力

**【授業のテーマ】**

現代社会における衣生活の現状を把握した上で、社会生活における適切な着装行動を行うことができる力を培う。また被服材料の性質をよく理解した上で、衣料品の購入や洗濯などの日常的な被服のケア・管理を適切に行うための基本を学習する。併せて、地域や地球環境に配慮した消費行動を考える。

教員免許取得をめざす学生に資するレベルで授業を行う。

**【授業における到達目標】**

自分の衣生活を自信を持って合理的に行うことができるようになること、特に科学的知識に基づいた実践力を高めていける力の獲得をめざします。また、グローバル化が進んでいる分野である衣料品を通し、日本の現状を踏まえつつ、多様な文化の相互理解にも考慮出来るようにします。

そのためには基礎となる知識の習得はもちろん、知識を組み合わせた実践的な応用力を持つことが大事になります。社会生活上の衣服の役割を把握した上での美的センスの向上もめざします。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション・衣生活の概観
- 第2週 被服の機能
- 第3週 被服を快適に着る、安全に着るための基本知識と考え方—主として被服内気候の観点から考える
- 第4週 被服素材の消費性能
- 第5週 繊維の分類と特性比較概論、  
繊維各論Ⅰ. 天然繊維—植物繊維（綿・麻）
- 第6週 繊維各論Ⅰ. 天然繊維—動物繊維
- 第7週 繊維各論Ⅱ. 化学繊維—再生繊維・半合成繊維
- 第8週 繊維各論Ⅱ. 化学繊維—合成繊維
- 第9週 糸・布の種類と構造および各々の特徴
- 第10週 新しい機能を持つ素材と繊維の加工
- 第11週 染色の方法と染色物の堅牢性
- 第12週 衣服の汚れとその除去—洗濯の基礎知識
- 第13週 洗剤の種類と洗濯の条件：合理的な洗濯を考える
- 第14週 漂白・しみ抜きと衣類の保管・衣料品の3R
- 第15週 全体のまとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】指示したテキストや教材の必要部分について予習していただくこと。特に逆転授業を指示した時には十分な準備をしていただくこと（週2時間）。また日常使用していたり、被服を購入する時に必ず表示を見て取り扱ったり、購買行動を行い授業に備えること。

【事後学修】学修した内容をノートにまとめることを通して知識の定着を図ること（週2時間）

**【テキスト・教材】**

山口庸子、生野晴美編著『衣生活論—持続可能な消費に向けて—』（㈱アイ・ケイコーポレーション）2014年再版発行、2200円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート30％／定期試験70％

レポートは添削後返却。その際、全体的な講評をします。

**【参考書】**

吉田敬一他共著『身近な環境 衣生活の科学』（㈱アイ・ケイコーポレーション）

**【注意事項】**

アクティブラーニングを取り入れますので、授業に積極的に参加する姿勢で臨んでください。



**衣料学**

合理的な衣生活を営むために

中村 立子

2年 後期 2単位

○：美の探究、研鑽力

**【授業のテーマ】**

現代社会における衣生活の現状を把握した上で、社会生活における適切な着装行動を行うことができる力を培う。また被服材料の性質をよく理解した上で、衣料品の購入や洗濯などの日常的な被服のケア・管理を適切に行うための基本を学習する。併せて、地域や地球環境に配慮した消費行動を考える。

教員免許取得をめざす学生に資するレベルで授業を行う。

**【授業における到達目標】**

自分の衣生活を自信を持って合理的に行うことができるようになること、特に科学的知識に基づいた実践力を高めていける力の獲得をめざします。また、グローバル化が進んでいる分野である衣料品を通し、日本の現状を踏まえつつ、多様な文化の相互理解にも考慮出来るようにします。

そのためには基礎となる知識の習得はもちろん、知識を組み合わせた実践的な応用力を持つことが大事になります。社会生活上の衣服の役割を把握した上での美的センスの向上もめざします。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション・衣生活の概観
- 第2週 被服の機能
- 第3週 被服を快適に着る、安全に着るための基本知識と考え方—主として被服内気候の観点から考える
- 第4週 被服素材の消費性能
- 第5週 繊維の分類と特性比較概論、  
繊維各論Ⅰ. 天然繊維—植物繊維（綿・麻）
- 第6週 繊維各論Ⅰ. 天然繊維—動物繊維
- 第7週 繊維各論Ⅱ. 化学繊維—再生繊維・半合成繊維
- 第8週 繊維各論Ⅱ. 化学繊維—合成繊維
- 第9週 糸・布の種類と構造および各々の特徴
- 第10週 新しい機能を持つ素材と繊維の加工
- 第11週 染色の方法と染色物の堅牢性
- 第12週 衣服の汚れとその除去—洗濯の基礎知識
- 第13週 洗剤の種類と洗濯の条件：合理的な洗濯を考える
- 第14週 漂白・しみ抜きと衣類の保管・衣料品の3R
- 第15週 全体のまとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】指示したテキストや教材の必要部分について予習していただくこと。特に逆転授業を指示した時には十分な準備をしていただくこと（週2時間）。また日常使用していたり、被服を購入する時に必ず表示を見て取り扱ったり、購買行動を行い授業に備えること。

【事後学修】学修した内容をノートにまとめることを通して知識の定着を図ること（週2時間）

**【テキスト・教材】**

山口庸子、生野晴美編著『衣生活論—持続可能な消費に向けて—』（㈱アイ・ケイコーポレーション）2014年再版発行、2200円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート30％／定期試験70％

レポートは添削後返却。その際、全体的な講評をします。

**【参考書】**

吉田敬一他共著『身近な環境 衣生活の科学』（㈱アイ・ケイコーポレーション）

**【注意事項】**

アクティブラーニングを取り入れますので、授業に積極的に参加する姿勢で臨んでください。

**衣料学演習**

中村 立子

2年 後期 2単位 2時限連続

○：行動力

**【授業のテーマ】**

衣料学で学習する基本的な内容のうち、テキスタイル素材の諸性質や機能、染色や洗濯などの重要なテーマについて実験や実習を通して理解を深め、教育実習や教職現場での実践力の獲得を目標としている。

**【授業における到達目標】**

実験や実習により衣料素材の持つ性能・機能を深く理解し、具体的な衣生活の在り方を理解する。科学的なものの見方や日常の中で意識して課題を見つけ解決していくことが出来る力を獲得する。

また、これらの実験により得られた知識や応用力により教育現場などで簡単な実験を企画・展開出来るような力を獲得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 繊維の鑑別実験① 色素法（繊維の化学特性）
- 第3週 繊維の鑑別実験② 顕微鏡法（繊維の形態的特徴）
- 第4週 衣服の着心地に関わる性能（4～6週）
  - I、布の水に関する性能 ①吸水性実験、はっ水加工
- 第5週 I、同上 ②はっ水性の評価、吸湿性実験
- 第6週 II、動作適応性、審美性、着心地、取り扱い易さ
  - 剛軟性、防しわ性、ドレープ性
- 第7週 糸の構造、織物・編み物の構造
- 第8週 合理的な着想を考える—被服内気候の観点から
  - 複合性能としての保温性
- 第9週 被服の管理（ケア）の理解を深める（9～11週）
  - I、洗剤の働き—界面活性剤水溶液の特性
    - 表面張力の測定、浸透力の測定
- 第10週 II、合理的な洗濯の条件を考える
  - 湿式人工汚染布を用いた洗浄力試験
- 第11週 III、漂白、増白、しみ抜き
  - 市販品を事例に漂白剤の使用について学ぶ
- 第12週 染色物について理解を深める（12～15週）
  - I、染色実験—直接染料及び反応染料による染色
- 第13週 II、染色物の堅牢性
  - 染色堅牢度試験（洗濯堅牢度、摩擦堅牢度）
- 第14週 III、染色堅牢度の評価
- 第15週 工芸染色—絞り染めの技法による作品の制作

**【事前・事後学修】**

【事前学修】実験テキストをよく読み、行う実験の手順を理解しておくこと。また、実験項目の内容についてテキストの関連部分に目を通し、実験の目的をしっかりと把握しておくこと（2時間）

【事後学修】実験レポートを作成し提出する（3時間）

**【テキスト・教材】**

テキスト：山口庸子、生野晴美編著『新版 衣生活論—持続可能な消費に向けて—』（㈱アイ・ケイコーポレーション）2014年再版発行、2200円

実験テキスト：配布する

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業態度（実験の実施状況、試問）50%、実験レポート50%  
 実験はグループで行うため仲間との協働の状況を適宜適切に指導をしていきます。レポートは添削指導をして返却します。

**【参考書】**

吉田敬一他共著『身近な環境 衣生活の科学』（㈱アイ・ケイコーポレーション）

**【注意事項】**

科目の性質上、原則として毎回出席すること。実験には白衣着用。運動靴などの動きやすく、滑りにくい安全な靴を履くこと。

**衣科学演習**

中村 立子

2年 後期 2単位 2時限連続

○：行動力

**【授業のテーマ】**

衣科学で学習する基本的な内容のうち、テキスタイル素材の諸性質や機能、染色や洗濯などの重要なテーマについて実験や実習を通して理解を深め、教育実習や教職現場での実践力の獲得を目標としている。

**【授業における到達目標】**

実験や実習により衣料素材の持つ性能・機能を深く理解し、具体的な衣生活の在り方を理解する。科学的なものの見方や日常の中で意識して課題を見つけ解決していくことが出来る力を獲得する。

また、これらの実験により得られた知識や応用力により教育現場などで簡単な実験を企画・展開出来るような力を獲得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 繊維の鑑別実験① 色素法（繊維の化学特性）
- 第3週 繊維の鑑別実験② 顕微鏡法（繊維の形態的特徴）
- 第4週 衣服の着心地に関わる性能（4～6週）
  - I、布の水に関する性能 ①吸水性実験、はっ水加工
- 第5週 I、同上 ②はっ水性の評価、吸湿性実験
- 第6週 II、動作適応性、審美性、着心地、取り扱い易さ
  - 剛軟性、防しわ性、ドレープ性
- 第7週 糸の構造、織物・編み物の構造
- 第8週 合理的な着想を考える—被服内気候の観点から
  - 複合性能としての保温性
- 第9週 被服の管理（ケア）の理解を深める（9～11週）
  - I、洗剤の働き—界面活性剤水溶液の特性
    - 表面張力の測定、浸透力の測定
- 第10週 II、合理的な洗濯の条件を考える
  - 湿式人工汚染布を用いた洗浄力試験
- 第11週 III、漂白、増白、しみ抜き
  - 市販品を事例に漂白剤の使用について学ぶ
- 第12週 染色物について理解を深める（12～15週）
  - I、染色実験—直接染料及び反応染料による染色
- 第13週 II、染色物の堅牢性
  - 染色堅牢度試験（洗濯堅牢度、摩擦堅牢度）
- 第14週 III、染色堅牢度の評価
- 第15週 工芸染色—絞り染めの技法による作品の制作

**【事前・事後学修】**

【事前学修】実験テキストをよく読み、行う実験の手順を理解しておくこと。また、実験項目の内容についてテキストの関連部分に目を通し、実験の目的をしっかりと把握しておくこと（2時間）

【事後学修】実験レポートを作成し提出する（3時間）

**【テキスト・教材】**

テキスト：山口庸子、生野晴美編著『新版 衣生活論—持続可能な消費に向けて—』（㈱アイ・ケイコーポレーション）2014年再版発行、2200円

実験テキスト：配布する

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業態度（実験の実施状況、試問）50%、実験レポート50%  
 実験はグループで行うため仲間との協働の状況を適宜適切に指導をしていきます。レポートは添削指導をして返却します。

**【参考書】**

吉田敬一他共著『身近な環境 衣生活の科学』（㈱アイ・ケイコーポレーション）

**【注意事項】**

科目の性質上、原則として毎回出席すること。実験には白衣着用。運動靴などの動きやすく、滑りにくい安全な靴を履くこと。

**衣料学演習**

中村 立子

2年 後期 2単位 2時限連続

○：行動力

**【授業のテーマ】**

衣料学で学習する基本的な内容のうち、テキスタイル素材の諸性質や機能、染色や洗濯などの重要なテーマについて実験や実習を通して理解を深め、教育実習や教職現場での実践力の獲得を目標としている。

**【授業における到達目標】**

実験や実習により衣料素材の持つ性能・機能を深く理解し、具体的な衣生活の在り方を理解する。科学的なものの見方や日常の中で意識して課題を見つけ解決していくことが出来る力を獲得する。

また、これらの実験により得られた知識や応用力により教育現場などで簡単な実験を企画・展開出来るような力を獲得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 繊維の鑑別実験① 色素法（繊維の化学特性）
- 第3週 繊維の鑑別実験② 顕微鏡法（繊維の形態的特徴）
- 第4週 衣服の着心地に関わる性能（4～6週）
  - I、布の水に関する性能 ①吸水性実験、はっ水加工
- 第5週 I、同上 ②はっ水性の評価、吸湿性実験
- 第6週 II、動作適応性、審美性、着心地、取り扱い易さ
  - 剛軟性、防しわ性、ドレープ性
- 第7週 糸の構造、織物・編み物の構造
- 第8週 合理的な着想を考える—被服内気候の観点から
  - 複合性能としての保温性
- 第9週 被服の管理（ケア）の理解を深める（9～11週）
  - I、洗剤の働き—界面活性剤水溶液の特性
    - 表面張力の測定、浸透力の測定
- 第10週 II、合理的な洗濯の条件を考える
  - 湿式人工汚染布を用いた洗浄力試験
- 第11週 III、漂白、増白、しみ抜き
  - 市販品を事例に漂白剤の使用について学ぶ
- 第12週 染色物について理解を深める（12～15週）
  - I、染色実験—直接染料及び反応染料による染色
- 第13週 II、染色物の堅牢性
  - 染色堅牢度試験（洗濯堅牢度、摩擦堅牢度）
- 第14週 III、染色堅牢度の評価
- 第15週 工芸染色—絞り染めの技法による作品の制作

**【事前・事後学修】**

【事前学修】実験テキストをよく読み、行う実験の手順を理解しておくこと。また、実験項目の内容についてテキストの関連部分に目を通し、実験の目的をしっかりと把握しておくこと（2時間）

【事後学修】実験レポートを作成し提出する（3時間）

**【テキスト・教材】**

テキスト：山口庸子、生野晴美編著『新版 衣生活論—持続可能な消費に向けて—』（㈱アイ・ケイコーポレーション）2014年再版発行、2200円

実験テキスト：配布する

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業態度（実験の実施状況、試問）50%、実験レポート50%  
 実験はグループで行うため仲間との協働の状況を適宜適切に指導をしていきます。レポートは添削指導をして返却します。

**【参考書】**

吉田敬一他共著『身近な環境 衣生活の科学』（㈱アイ・ケイコーポレーション）

**【注意事項】**

科目の性質上、原則として毎回出席すること。実験には白衣着用。運動靴などの動きやすく、滑りにくい安全な靴を履くこと。

**衣料学演習**

中村 立子

2年 後期 2単位 2時限連続

○：行動力

**【授業のテーマ】**

衣料学で学習する基本的な内容のうち、テキスタイル素材の諸性質や機能、染色や洗濯などの重要なテーマについて実験や実習を通して理解を深め、教育実習や教職現場での実践力の獲得を目標としている。

**【授業における到達目標】**

実験や実習により衣料素材の持つ性能・機能を深く理解し、具体的な衣生活の在り方を理解する。科学的なものの見方や日常の中で意識して課題を見つけ解決していくことが出来る力を獲得する。

また、これらの実験により得られた知識や応用力により教育現場などで簡単な実験を企画・展開出来るような力を獲得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 繊維の鑑別実験① 色素法（繊維の化学特性）
- 第3週 繊維の鑑別実験② 顕微鏡法（繊維の形態的特徴）
- 第4週 衣服の着心地に関わる性能（4～6週）
  - I、布の水に関する性能 ①吸水性実験、はっ水加工
- 第5週 I、同上 ②はっ水性の評価、吸湿性実験
- 第6週 II、動作適応性、審美性、着心地、取り扱い易さ
  - 剛軟性、防しわ性、ドレープ性
- 第7週 糸の構造、織物・編み物の構造
- 第8週 合理的な着想を考える—被服内気候の観点から
  - 複合性能としての保温性
- 第9週 被服の管理（ケア）の理解を深める（9～11週）
  - I、洗剤の働き—界面活性剤水溶液の特性
    - 表面張力の測定、浸透力の測定
- 第10週 II、合理的な洗濯の条件を考える
  - 湿式人工汚染布を用いた洗浄力試験
- 第11週 III、漂白、増白、しみ抜き
  - 市販品を事例に漂白剤の使用について学ぶ
- 第12週 染色物について理解を深める（12～15週）
  - I、染色実験—直接染料及び反応染料による染色
- 第13週 II、染色物の堅牢性
  - 染色堅牢度試験（洗濯堅牢度、摩擦堅牢度）
- 第14週 III、染色堅牢度の評価
- 第15週 工芸染色—絞り染めの技法による作品の制作

**【事前・事後学修】**

【事前学修】実験テキストをよく読み、行う実験の手順を理解しておくこと。また、実験項目の内容についてテキストの関連部分に目を通し、実験の目的をしっかりと把握しておくこと（2時間）

【事後学修】実験レポートを作成し提出する（3時間）

**【テキスト・教材】**

テキスト：山口庸子、生野晴美編著『新版 衣生活論—持続可能な消費に向けて—』（㈱アイ・ケイコーポレーション）2014年再版発行、2200円

実験テキスト：配布する

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業態度（実験の実施状況、試問）50%、実験レポート50%  
 実験はグループで行うため仲間との協働の状況を適宜適切に指導をしていきます。レポートは添削指導をして返却します。

**【参考書】**

吉田敬一他共著『身近な環境 衣生活の科学』（㈱アイ・ケイコーポレーション）

**【注意事項】**

科目の性質上、原則として毎回出席すること。実験には白衣着用。運動靴などの動きやすく、滑りにくい安全な靴を履くこと。

**衣料学演習**

中村 立子

2年 後期 2単位 2時限連続

○：行動力

**【授業のテーマ】**

衣料学で学習する基本的な内容のうち、テキスタイル素材の諸性質や機能、染色や洗濯などの重要なテーマについて実験や実習を通して理解を深め、教育実習や教職現場での実践力の獲得を目標としている。

**【授業における到達目標】**

実験や実習により衣料素材の持つ性能・機能を深く理解し、具体的な衣生活の在り方を理解する。科学的なものの見方や日常の中で意識して課題を見つけ解決していくことが出来る力を獲得する。

また、これらの実験により得られた知識や応用力により教育現場などで簡単な実験を企画・展開出来るような力を獲得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 繊維の鑑別実験① 色素法（繊維の化学特性）
- 第3週 繊維の鑑別実験② 顕微鏡法（繊維の形態的特徴）
- 第4週 衣服の着心地に関わる性能（4～6週）
  - I、布の水に関する性能 ①吸水性実験、はっ水加工
- 第5週 I、同上 ②はっ水性の評価、吸湿性実験
- 第6週 II、動作適応性、審美性、着心地、取り扱い易さ
  - 剛軟性、防しわ性、ドレープ性
- 第7週 糸の構造、織物・編み物の構造
- 第8週 合理的な着想を考える—被服内気候の観点から
  - 複合性能としての保温性
- 第9週 被服の管理（ケア）の理解を深める（9～11週）
  - I、洗剤の働き—界面活性剤水溶液の特性
    - 表面張力の測定、浸透力の測定
- 第10週 II、合理的な洗濯の条件を考える
  - 湿式人工汚染布を用いた洗浄力試験
- 第11週 III、漂白、増白、しみ抜き
  - 市販品を事例に漂白剤の使用について学ぶ
- 第12週 染色物について理解を深める（12～15週）
  - I、染色実験—直接染料及び反応染料による染色
- 第13週 II、染色物の堅牢性
  - 染色堅牢度試験（洗濯堅牢度、摩擦堅牢度）
- 第14週 III、染色堅牢度の評価
- 第15週 工芸染色—絞り染めの技法による作品の制作

**【事前・事後学修】**

【事前学修】実験テキストをよく読み、行う実験の手順を理解しておくこと。また、実験項目の内容についてテキストの関連部分に目を通し、実験の目的をしっかりと把握しておくこと（2時間）

【事後学修】実験レポートを作成し提出する（3時間）

**【テキスト・教材】**

テキスト：山口庸子、生野晴美編著『新版 衣生活論—持続可能な消費に向けて—』（㈱アイ・ケイコーポレーション）2014年再版発行、2200円

実験テキスト：配布する

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業態度（実験の実施状況、試問）50%、実験レポート50%  
 実験はグループで行うため仲間との協働の状況を適宜適切に指導をしていきます。レポートは添削指導をして返却します。

**【参考書】**

吉田敬一他共著『身近な環境 衣生活の科学』（㈱アイ・ケイコーポレーション）

**【注意事項】**

科目の性質上、原則として毎回出席すること。実験には白衣着用。運動靴などの動きやすく、滑りにくい安全な靴を履くこと。

## 衣料管理実習

大川 知子・加藤木 秀章

3年 集中 1単位

◎：行動力 ○：協働力

### 【授業のテーマ】

1級衣料管理士の資格取得の一課程として、企業や公的検査機関での実習を通して、実際の衣料管理士の仕事の一端を理解する。

### 【授業における到達目標】

1. 品質管理の仕事に触れ、具体的にどのような実務であるかを理解する。
2. 実習を通して、これまで学んだ専門知識がどのように生かされるのか、現場で応用する「行動力」、実務での「協働力」を培う。

### 【授業の内容】

アパレル関連企業の品質管理室や、繊維製品の検査機関等で一週間程度の実習を行う。実習は3年次の夏期、または翌年の春期休暇期間を利用して実施する。実習終了後は、その成果をレポートにまとめ、全ての学生の実習が終了した後、報告会を実施する。

### 【事前・事後学修】

本実習では、これまで学んだ繊維製品に関する知識、各種の実験等を通して得た知見がベースとなる為、事前にこれまでの配布資料やノート等できちんと復習しておくこと。また、各実習先では、一社会人としての立ち振舞いや、ビジネスマナーを遵守すること。終了後は実習レポートをまとめ、報告会の準備を行う。レポート作成には、実習後2日間の猶予を与える。報告会の準備としてのパワーポイントの作成、並びにプレゼンテーションの練習は、延べ5日間程度を予定している。

### 【テキスト・教材】

過去の繊維関連の各授業で用いられたテキスト、及び配布資料等全般。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実習先での取り組み姿勢、及びレポートの提出と報告会での報告内容が評価対象である。作成したレポートはフィードバックを行った上で、実習先に送付する。報告会には、教職員の他、実習先の関係者の方々が臨席し、コメントを行う。

### 【参考書】

なし

### 【注意事項】

一般企業や公的機関の方々に協力頂く為、事前のオリエンテーションには必ず出席し、内容をきちんと理解した上で臨むこと。

**医学概論**

精神医学の基礎、精神疾患と治療

塩川 宏郷

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

心理学を学ぶ上では精神医学的な知識が重要である。本科目においては、精神医学を中心に、医学と心理学の関係について講述する。統合失調症やうつ病、子どもの発達障害を含め、医学の今日的な話題について討論する。

**【授業における到達目標】**

心理学を学ぶにあたり必要な医学的知識、精神医学的な知識を身につけること、および代表的な精神疾患について基本的な事項を理解すること、ならびにこれらをもとに医学的な問題を自ら考え、調べ、意見を述べるができることを目標とする。  
学生の習得すべき行動として、医学的課題を調べる行動力、調べた内容をともに考える研鑽力を身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODakション
- 第2週 脳と神経の解剖
- 第3週 精神症状1
- 第4週 精神症状2
- 第5週 操作的診断基準
- 第6週 精神薬理学
- 第7週 統合失調症
- 第8週 うつ病
- 第9週 不安・強迫
- 第10週 認知症
- 第11週 自閉症スペクトラム
- 第12週 注意欠如多動症、その他の発達障害
- 第13週 知的障害
- 第14週 医学・医療の今日的な話題
- 第15週 総合討論

**【事前・事後学修】**

- 事前学修  
事前配布資料にもとづき自らの疑問点を整理する（学修時間2時間）
- 事後学修  
レポート、アクティブラーニング課題に取り組む（学修時間2時間）

**【テキスト・教材】**

特に定めない。授業ごとに資料を配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- 試験（70％）、平常点（課題ごとのレポート提出・質疑応答など、30％）
- 課題レポートのフィードバックは翌週または最終回の授業内で行う。また必要に応じmanabaを通じて行う。

**【参考書】**

- 沼初枝「心理のための精神医学概論」ナカニシヤ出版（2014）
- マイケル・ラター他「新版児童青年精神医学」明石書店（2015）

**【注意事項】**

新聞報道や学術雑誌などに触れ、身近な医学的問題について関心を持つこと。



**育児学**

於保 祐子  
3年 前期 2単位  
○：行動力

**【授業のテーマ】**

育児学は、子どもの健全な成長と発達を支え、次世代を担う社会人を育成するための実践の学問である。子どもの身体と心の発達過程を正しく理解し、経験と科学によって裏打ちされた育児知識・技術を学び、自身の生活や仕事で活かせるようにする。更に、社会で注目されている子どもの病気や問題の基本事項を理解する。

**【授業における到達目標】**

子どもの発育・発達、病気や養育の問題について理解し、これらについて説明できる。

**【授業の内容】**

- 第 1 週 女性の身体的特徴
- 第 2 週 妊娠のメカニズムと胎児の発育
- 第 3 週 子どもの発育と発達/ レポート作成の方法について
- 第 4 週 子どもの生活
- 第 5 週 乳汁栄養と離乳食
- 第 6 週 食物アレルギー
- 第 7 週 子どもの肥満
- 第 8 週 子どものやせと摂食障害
- 第 9 週 子どもの事故
- 第 10 週 感染症と予防注射
- 第 11 週 被虐待児
- 第 12 週 注意欠陥/多動性障害・学習障害
- 第 13 週 催奇形因子
- 第 14 週 遺伝と環境
- 第 15 週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 授業内容について、新聞やニュースなどに注目して自ら興味・関心を深め、各自のテーマごとに紹介する参考書で予習を行う。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 毎回の授業内容を復習して、各自のテーマについてレポートとしてまとめる。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験70%、平常点（レポート提出、授業態度）30%

レポートへのフィードバックを授業毎に行う。

**【参考書】**

レポートのテーマごとに相談して決める。

**【注意事項】**

レポートについては、第1週の授業で概要を、第3週の授業で作成法を説明する。

**育児学**

草川 功  
3年 後期 2単位  
○：行動力

**【授業のテーマ】**

育児学は子どもの健全な成長と発達を支え、望ましい社会人に育成するための実践の学問である。そのために必要な育児理念、保育者のあるべき態度、保育知識、家庭生活のあり方、子どもの身体的、心理的特性、社会で注目されている子どもの病気の基本事項を理解する。

**【授業における到達目標】**

子どもの成長・発達、母子関係の特徴を理解し、現在大きな問題となっている児童虐待、子育て不安の現状とその背景を知り、現代の育児を色々な局面で指導できる。

**【授業の内容】**

- 第1週 子育てとは
- 第2週 妊娠と出産
- 第3週 周産期の母子（関係性）
- 第4週 子どもの発育
- 第5週 子どもの発達
- 第6週 子どもの食と栄養（母乳と人工栄養）
- 第7週 子どもの食生活と生活習慣
- 第8週 子どもの病気ー感染症
- 第9週 子どもの病気ーアレルギー
- 第10週 発達障害（ADHD、自閉症スペクトラム、LD）
- 第11週 子ども虐待
- 第12週 子どもの事故とその防止、救急処置
- 第13週 小児保健
- 第14週 子どもを取り巻く育児環境（育児不安と子育て支援）
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修

前回の授業を復習し授業に臨むこと（学修時間 週2時間程度）

事後学修

レポートなどの課題に取り組むこと（学修時間 週2時間程度）

**【テキスト・教材】**

レジメを配布

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート（60%）、平常点（授業態度・出席状況・課題・ショートレポート・小テスト（40%））

レポートは事前に挙げられた課題の中から選択して、時間内に書き上げる。課題毎のポイントの記載状況などで採点する。

ショートレポートは感想・意見などの表出の場であり、小テストは、その場で解説をしてフィードバックを行う。

**【参考書】**

適宜紹介

**【注意事項】**

子どもの身体と心の発達過程を正しく理解し、経験と科学によって裏打ちされた育児知識・技術を学び、それを自身の生活や仕事で活かしてほしい。また、新聞やニュースなどに注目し、社会問題化している子育ての現状を知り、自分なりの考えを持って欲しい。

**育児学**

於保 祐子

3年 前期 2単位

○：行動力

**【授業のテーマ】**

育児学は、子どもの健全な成長と発達を支え、次世代を担う社会人を育成するための実践の学問である。子どもの身体と心の発達過程を正しく理解し、経験と科学によって裏打ちされた育児知識・技術を学び、自身の生活や仕事で活かせるようにする。更に、社会で注目されている子どもの病気や問題の基本事項を理解する。

**【授業における到達目標】**

子どもの発育・発達、病気や養育の問題について理解し、これらについて説明できる。

**【授業の内容】**

- 第 1 週 女性の身体的特徴
- 第 2 週 妊娠のメカニズムと胎児の発育
- 第 3 週 子どもの発育と発達/ レポート作成の方法について
- 第 4 週 子どもの生活
- 第 5 週 乳汁栄養と離乳食
- 第 6 週 食物アレルギー
- 第 7 週 子どもの肥満
- 第 8 週 子どものやせと摂食障害
- 第 9 週 子どもの事故
- 第 10 週 感染症と予防注射
- 第 11 週 被虐待児
- 第 12 週 注意欠陥/多動性障害・学習障害
- 第 13 週 催奇形因子
- 第 14 週 遺伝と環境
- 第 15 週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 授業内容について、新聞やニュースなどに注目して自ら興味・関心を深め、各自のテーマごとに紹介する参考書で予習を行う。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 毎回の授業内容を復習して、各自のテーマについてレポートとしてまとめる。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験70%、平常点（レポート提出、授業態度）30%

レポートへのフィードバックを授業毎に行う。

**【参考書】**

レポートのテーマごとに相談して決める。

**【注意事項】**

レポートについては、第1週の授業で概要を、第3週の授業で作成法を説明する。

**育児学**

草川 功

3年 後期 2単位

○：行動力

**【授業のテーマ】**

育児学は子どもの健全な成長と発達を支え、望ましい社会人に育成するための実践の学問である。そのために必要な育児理念、保育者のあるべき態度、保育知識、家庭生活のあり方、子どもの身体的、心理的特性、社会で注目されている子どもの病気の基本事項を理解する。

**【授業における到達目標】**

子どもの成長・発達、母子関係の特徴を理解し、現在大きな問題となっている児童虐待、子育て不安の現状とその背景を知り、現代の育児を色々な局面で指導できる。

**【授業の内容】**

- 第1週 子育てとは
- 第2週 妊娠と出産
- 第3週 周産期の母子（関係性）
- 第4週 子どもの発育
- 第5週 子どもの発達
- 第6週 子どもの食と栄養（母乳と人工栄養）
- 第7週 子どもの食生活と生活習慣
- 第8週 子どもの病気ー感染症
- 第9週 子どもの病気ーアレルギー
- 第10週 発達障害（ADHD、自閉症スペクトラム、LD）
- 第11週 子ども虐待
- 第12週 子どもの事故とその防止、救急処置
- 第13週 小児保健
- 第14週 子どもを取り巻く育児環境（育児不安と子育て支援）
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修

前回の授業を復習し授業に臨むこと（学修時間 週2時間程度）

事後学修

レポートなどの課題に取り組むこと（学修時間 週2時間程度）

**【テキスト・教材】**

レジメを配布

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート（60%）、平常点（授業態度・出席状況・課題・ショートレポート・小テスト（40%））

レポートは事前に挙げられた課題の中から選択して、時間内に書き上げる。課題毎のポイントの記載状況などで採点する。

ショートレポートは感想・意見などの表出の場であり、小テストは、その場で解説をしてフィードバックを行う。

**【参考書】**

適宜紹介

**【注意事項】**

子どもの身体と心の発達過程を正しく理解し、経験と科学によって裏打ちされた育児知識・技術を学び、それを自身の生活や仕事で活かしてほしい。また、新聞やニュースなどに注目し、社会問題化している子育ての現状を知り、自分なりの考えを持って欲しい。

**育児学**

於保 祐子

3年 前期 2単位

○：行動力

**【授業のテーマ】**

育児学は、子どもの健全な成長と発達を支え、次世代を担う社会人を育成するための実践の学問である。子どもの身体と心の発達過程を正しく理解し、経験と科学によって裏打ちされた育児知識・技術を学び、自身の生活や仕事で活かせるようにする。更に、社会で注目されている子どもの病気や問題の基本事項を理解する。

**【授業における到達目標】**

子どもの発育・発達、病気や養育の問題について理解し、これらについて説明できる。

**【授業の内容】**

- 第 1 週 女性の身体的特徴
- 第 2 週 妊娠のメカニズムと胎児の発育
- 第 3 週 子どもの発育と発達/ レポート作成の方法について
- 第 4 週 子どもの生活
- 第 5 週 乳汁栄養と離乳食
- 第 6 週 食物アレルギー
- 第 7 週 子どもの肥満
- 第 8 週 子どものやせと摂食障害
- 第 9 週 子どもの事故
- 第 10 週 感染症と予防注射
- 第 11 週 被虐待児
- 第 12 週 注意欠陥/多動性障害・学習障害
- 第 13 週 催奇形因子
- 第 14 週 遺伝と環境
- 第 15 週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】授業内容について、新聞やニュースなどに注目して自ら興味・関心を深め、各自のテーマごとに紹介する参考書で予習を行う。(学修時間 週2時間)

【事後学修】毎回の授業内容を復習して、各自のテーマについてレポートとしてまとめる。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験70%、平常点(レポート提出、授業態度)30%

レポートへのフィードバックを授業毎に行う。

**【参考書】**

レポートのテーマごとに相談して決める。

**【注意事項】**

レポートについては、第1週の授業で概要を、第3週の授業で作成法を説明する。

**育児学**

草川 功

3年 後期 2単位

○：行動力

**【授業のテーマ】**

育児学は子どもの健全な成長と発達を支え、望ましい社会人に育成するための実践の学問である。そのために必要な育児理念、保育者のあるべき態度、保育知識、家庭生活のあり方、子どもの身体的、心理的特性、社会で注目されている子どもの病気の基本事項を理解する。

**【授業における到達目標】**

子どもの成長・発達、母子関係の特徴を理解し、現在大きな問題となっている児童虐待、子育て不安の現状とその背景を知り、現代の育児を色々な局面で指導できる。

**【授業の内容】**

- 第1週 子育てとは
- 第2週 妊娠と出産
- 第3週 周産期の母子(関係性)
- 第4週 子どもの発育
- 第5週 子どもの発達
- 第6週 子どもの食と栄養(母乳と人工栄養)
- 第7週 子どもの食生活と生活習慣
- 第8週 子どもの病気-感染症
- 第9週 子どもの病気-アレルギー
- 第10週 発達障害(ADHD、自閉症スペクトラム、LD)
- 第11週 子ども虐待
- 第12週 子どもの事故とその防止、救急処置
- 第13週 小児保健
- 第14週 子どもを取り巻く育児環境(育児不安と子育て支援)
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修

前回の授業を復習し授業に臨むこと(学修時間 週2時間程度)

事後学修

レポートなどの課題に取り組むこと(学修時間 週2時間程度)

**【テキスト・教材】**

レジメを配布

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート(60%)、平常点(授業態度・出席状況・課題・ショートレポート・小テスト(40%))

レポートは事前に挙げられた課題の中から選択して、時間内に書き上げる。課題毎のポイントの記載状況などで採点する。

ショートレポートは感想・意見などの表出の場であり、小テストは、その場で解説をしてフィードバックを行う。

**【参考書】**

適宜紹介

**【注意事項】**

子どもの身体と心の発達過程を正しく理解し、経験と科学によって裏打ちされた育児知識・技術を学び、それを自身の生活や仕事で活かしてほしい。また、新聞やニュースなどに注目し、社会問題化している子育ての現状を知り、自分なりの考えを持って欲しい。

**育児学**

於保 祐子

3年 前期 2単位

○：行動力

**【授業のテーマ】**

育児学は、子どもの健全な成長と発達を支え、次世代を担う社会人を育成するための実践の学問である。子どもの身体と心の発達過程を正しく理解し、経験と科学によって裏打ちされた育児知識・技術を学び、自身の生活や仕事で活かせるようにする。更に、社会で注目されている子どもの病気や問題の基本事項を理解する。

**【授業における到達目標】**

子どもの発育・発達、病気や養育の問題について理解し、これらについて説明できる。

**【授業の内容】**

- 第 1 週 女性の身体的特徴
- 第 2 週 妊娠のメカニズムと胎児の発育
- 第 3 週 子どもの発育と発達/ レポート作成の方法について
- 第 4 週 子どもの生活
- 第 5 週 乳汁栄養と離乳食
- 第 6 週 食物アレルギー
- 第 7 週 子どもの肥満
- 第 8 週 子どものやせと摂食障害
- 第 9 週 子どもの事故
- 第 10 週 感染症と予防注射
- 第 11 週 被虐待児
- 第 12 週 注意欠陥/多動性障害・学習障害
- 第 13 週 催奇形因子
- 第 14 週 遺伝と環境
- 第 15 週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】授業内容について、新聞やニュースなどに注目して自ら興味・関心を深め、各自のテーマごとに紹介する参考書で予習を行う。（学修時間 週2時間）

【事後学修】毎回の授業内容を復習して、各自のテーマについてレポートとしてまとめる。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験70%、平常点（レポート提出、授業態度）30%

レポートへのフィードバックを授業毎に行う。

**【参考書】**

レポートのテーマごとに相談して決める。

**【注意事項】**

レポートについては、第1週の授業で概要を、第3週の授業で作成法を説明する。

**育児学**

草川 功

3年 後期 2単位

○：行動力

**【授業のテーマ】**

育児学は子どもの健全な成長と発達を支え、望ましい社会人に育成するための実践の学問である。そのために必要な育児理念、保育者のあるべき態度、保育知識、家庭生活のあり方、子どもの身体的、心理的特性、社会で注目されている子どもの病気の基本事項を理解する。

**【授業における到達目標】**

子どもの成長・発達、母子関係の特徴を理解し、現在大きな問題となっている児童虐待、子育て不安の現状とその背景を知り、現代の育児を色々な局面で指導できる。

**【授業の内容】**

- 第1週 子育てとは
- 第2週 妊娠と出産
- 第3週 周産期の母子（関係性）
- 第4週 子どもの発育
- 第5週 子どもの発達
- 第6週 子どもの食と栄養（母乳と人工栄養）
- 第7週 子どもの食生活と生活習慣
- 第8週 子どもの病気ー感染症
- 第9週 子どもの病気ーアレルギー
- 第10週 発達障害（ADHD、自閉症スペクトラム、LD）
- 第11週 子ども虐待
- 第12週 子どもの事故とその防止、救急処置
- 第13週 小児保健
- 第14週 子どもを取り巻く育児環境（育児不安と子育て支援）
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修

前回の授業を復習し授業に臨むこと（学修時間 週2時間程度）

事後学修

レポートなどの課題に取り組むこと（学修時間 週2時間程度）

**【テキスト・教材】**

レジメを配布

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート（60%）、平常点（授業態度・出席状況・課題・ショートレポート・小テスト（40%））

レポートは事前に挙げられた課題の中から選択して、時間内に書き上げる。課題毎のポイントの記載状況などで採点する。

ショートレポートは感想・意見などの表出の場であり、小テストは、その場で解説をしてフィードバックを行う。

**【参考書】**

適宜紹介

**【注意事項】**

子どもの身体と心の発達過程を正しく理解し、経験と科学によって裏打ちされた育児知識・技術を学び、それを自身の生活や仕事で活かしてほしい。また、新聞やニュースなどに注目し、社会問題化している子育ての現状を知り、自分なりの考えを持って欲しい。

**育児学**

於保 祐子

3年 前期 2単位

○：行動力

**【授業のテーマ】**

育児学は、子どもの健全な成長と発達を支え、次世代を担う社会人を育成するための実践の学問である。子どもの身体と心の発達過程を正しく理解し、経験と科学によって裏打ちされた育児知識・技術を学び、自身の生活や仕事で活かせるようにする。更に、社会で注目されている子どもの病気や問題の基本事項を理解する。

**【授業における到達目標】**

子どもの発育・発達、病気や養育の問題について理解し、これらについて説明できる。

**【授業の内容】**

- 第 1 週 女性の身体的特徴
- 第 2 週 妊娠のメカニズムと胎児の発育
- 第 3 週 子どもの発育と発達/ レポート作成の方法について
- 第 4 週 子どもの生活
- 第 5 週 乳汁栄養と離乳食
- 第 6 週 食物アレルギー
- 第 7 週 子どもの肥満
- 第 8 週 子どものやせと摂食障害
- 第 9 週 子どもの事故
- 第 10 週 感染症と予防注射
- 第 11 週 被虐待児
- 第 12 週 注意欠陥/多動性障害・学習障害
- 第 13 週 催奇形因子
- 第 14 週 遺伝と環境
- 第 15 週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】授業内容について、新聞やニュースなどに注目して自ら興味・関心を深め、各自のテーマごとに紹介する参考書で予習を行う。（学修時間 週2時間）

【事後学修】毎回の授業内容を復習して、各自のテーマについてレポートとしてまとめる。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験70%、平常点（レポート提出、授業態度）30%

レポートへのフィードバックを授業毎に行う。

**【参考書】**

レポートのテーマごとに相談して決める。

**【注意事項】**

レポートについては、第1週の授業で概要を、第3週の授業で作成法を説明する。

**育児学**

草川 功

3年 後期 2単位

○：行動力

**【授業のテーマ】**

育児学は子どもの健全な成長と発達を支え、望ましい社会人に育成するための実践の学問である。そのために必要な育児理念、保育者のあるべき態度、保育知識、家庭生活のあり方、子どもの身体的、心理的特性、社会で注目されている子どもの病気の基本事項を理解する。

**【授業における到達目標】**

子どもの成長・発達、母子関係の特徴を理解し、現在大きな問題となっている児童虐待、子育て不安の現状とその背景を知り、現代の育児を色々な局面で指導できる。

**【授業の内容】**

- 第1週 子育てとは
- 第2週 妊娠と出産
- 第3週 周産期の母子（関係性）
- 第4週 子どもの発育
- 第5週 子どもの発達
- 第6週 子どもの食と栄養（母乳と人工栄養）
- 第7週 子どもの食生活と生活習慣
- 第8週 子どもの病気ー感染症
- 第9週 子どもの病気ーアレルギー
- 第10週 発達障害（ADHD、自閉症スペクトラム、LD）
- 第11週 子ども虐待
- 第12週 子どもの事故とその防止、救急処置
- 第13週 小児保健
- 第14週 子どもを取り巻く育児環境（育児不安と子育て支援）
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修

前回の授業を復習し授業に臨むこと（学修時間 週2時間程度）

事後学修

レポートなどの課題に取り組むこと（学修時間 週2時間程度）

**【テキスト・教材】**

レジメを配布

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート（60%）、平常点（授業態度・出席状況・課題・ショートレポート・小テスト（40%））

レポートは事前に挙げられた課題の中から選択して、時間内に書き上げる。課題毎のポイントの記載状況などで採点する。

ショートレポートは感想・意見などの表出の場であり、小テストは、その場で解説をしてフィードバックを行う。

**【参考書】**

適宜紹介

**【注意事項】**

子どもの身体と心の発達過程を正しく理解し、経験と科学によって裏打ちされた育児知識・技術を学び、それを自身の生活や仕事で活かしてほしい。また、新聞やニュースなどに注目し、社会問題化している子育ての現状を知り、自分なりの考えを持って欲しい。

## 印刷製本知識

居郷 英司

1年 前期 2単位

○：美の探究、協働力

### 【授業のテーマ】

出版物は紙に印刷され、製本されることで、はじめて世の中に流通することができます。印刷や製本の仕組みを知ることなしに、出版の仕事を理解することはできません。

書店に行けば、様々な雑誌や書籍がならんでいます。その一点一点を作製するための技術がどういうものかを学んでいきます。

印刷の技術は多種多様化していますが、この授業ではその対象を出版物の印刷に限定して行っていきます。

### 【授業における到達目標】

書籍や雑誌などの製作過程を学ぶことにより、製作者の意図を推測できるようになることを目標とし、学生が修得すべき「研鑽力」のうち、本質を見抜く力を修得します。

### 【授業の内容】

第1週 印刷文字の歴史と「文字スケール」

第2週 「文字スケール」の使い方 (1) 文字サイズ

第3週 「文字スケール」の使い方 (2) 行送り／行間

第4週 「文字スケール」の使い方 (3) 字割

第5週 印刷の原理と版式

第6週 カラー印刷と特色

第7週 紙のサイズと特徴

第8週 紙の折り方と面付／紙の種類と用途

第9週 製本・函の種類と工程および表面加工

第10週 手作り製本実習 (1) 洋本

第11週 手作り製本実習 (2) 和本

第12週 印刷と製本を中心とする書籍の分析

第13週 用紙・印刷・製本注文書の作成

第14週 授業のまとめ

第15週 授業の補足

### 【事前・事後学修】

【事前学修】学修内容をシラバスで確認し、あらかじめテキストの該当箇所を読んで、授業に臨むようにしてください。(学修時間 週2時間)

【事後学修】授業中に出された課題を完成させておいてください。さらに、学修した内容が実際にどのようなになっているか、小売り書店やコンビニ・図書館で確認して、より理解を深めるようにしてください。(学修時間 週2時間)

### 【テキスト・教材】

『編集必携 第2版』(日本エディタースクール出版部、2002年)

1980円＋税

『本の知識』(日本エディタースクール出版部、2009年)

500円＋税

『紙の資料』(日本エディタースクール出版部、2018年)

500円＋税

使用用具：「印刷文字スケール」日本エディタースクール

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中の課題を含む平常点50%、期末試験50%で評価します。課題は次回の授業で、また期末試験は第15週の授業でフィードバックを行います。

### 【注意事項】

夏期休業中の9月中旬に、東京都文京区にある印刷博物館の見学学習会を行う予定です。参加は自由ですが、印刷に関する知識を深めるためにも多くの人の参加を希望します。

**栄養と健康**

辛島 順子

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

栄養と健康では、地域・社会における健康・栄養問題の背景を理解し、栄養・食環境と人々の健康との関連を学ぶことを目標とする。疾病の一次予防を目的に、食物摂取を通じた健康の維持・増進や豊かで安全な食生活を提案できる能力を培う。

**【授業における到達目標】**

現代の健康・栄養問題を正しく把握する力を身に付け、課題を発見することができる力を養う。また、学修を通して、自己成長する力である「研鑽力」を身に付けることで自信を創出する。

**【授業の内容】**

1. 健康と栄養
2. からだの仕組み
3. 食事と栄養
4. 栄養状態の判定
5. 食事摂取基準
6. 健康づくりのための政策・指針
7. 食育
8. 健康とダイエット
9. ライフステージと栄養1（妊娠期・授乳期・乳児期）
10. ライフステージと栄養2（幼児期・学童期）
11. ライフステージと栄養3（成人期・高齢期）
12. 生活習慣病1（病態）
13. 生活習慣病2（食事）
14. 免疫と栄養
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】テキストの該当箇所をよく読むこと。manabaで配布する予習課題に取り組むこと。（学修時間：週2時間）

【事後学修】授業内で実施した問題や小テスト等を復習すること。指定した課題を提出すること。（学修時間：週2時間）

**【テキスト・教材】**

『三訂 栄養と健康』（建帛社 2015年：本体2,000円＋税）

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験60%、平常点（受講態度・課題）30%、小テスト10%で評価する。課題や小テストを確認し、授業内で解説を行う。

**【参考書】**

『日本人の食事摂取基準2015年版』（第一出版）

## 栄養マネジメント実習

森川 希

3年 前期 1単位 3時限連続 隔週

◎：行動力 ○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

健康の保持・増進や疾病の一次予防、疾患の治癒のためには、各対象者のライフステージの特性をふまえた上で、身体状況や栄養状態に応じた適切な栄養マネジメントを行う必要がある。

本実習では、人の身体組成やエネルギー代謝量の測定を通して、栄養状態や身体活動をエネルギー出納の側面から見ることのできる感性を養う。同時に、食事調査による栄養アセスメントおよび食事摂取基準に基づく栄養改善計画を立案することにより、総合的な栄養マネジメントを遂行するための実践力を身に付けることを目標とする。

### 【授業における到達目標】

管理栄養士として、健常者及び傷病者を対象とする様々な現場において、マネジメントサイクルに基づく栄養管理・指導を行うための基本的知識・技能を修得する。

### 【授業の内容】

- 第1週 栄養マネジメントの概要  
栄養アセスメント①（身体計測）
- 第2週 栄養アセスメント②（臨床検査）  
間接法による安静時代謝量の測定  
生活時間調査による総エネルギー消費量の推定
- 第3週 栄養アセスメント③（臨床診査、食事調査）  
質問紙調査の活用と解釈
- 第4週 栄養アセスメント結果にもとづく栄養マネジメント計画の作成  
食事摂取基準の活用
- 第5週 栄養マネジメント計画の評価
- 第6週 運動・スポーツと栄養  
活動時代謝量の測定
- 第7週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】「食事摂取基準論」「栄養マネジメント論」等の関連科目の学習内容をよく理解した上で実習に臨むこと。また、実習回によって事前に食事記録、身体活動量調査（活動量計使用）を課すことがある。（学修時間 週1時間）

【事後学修】実習中にとりあげた専門用語等について、理解しておくこと。（学修時間 週30分）

### 【テキスト・教材】

配布プリント

『日本人の食事摂取基準（2015年版）』（第一出版）本体2,700円

『食事調査マニュアル はじめの一步から実践・応用まで』

（南山堂）本体2,800円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回、ワークシートを提出する。成績は筆記試験60%、提出課題および授業態度40%で評価する。

提出課題については、次回授業でフィードバックを行う。

### 【参考書】

『食事摂取基準による栄養管理・給食管理-PDCAサイクルの実践-』

（建帛社）本体2,700円

### 【注意事項】

ほぼ毎回、電卓を使用する。身体計測、活動時代謝測定の実施日には適切な服装が求められるので、常に掲示を確認すること。

## 栄養マネジメント論

富重 慶子

2年 前期 2単位

◎：研鑽力

### 【授業のテーマ】

栄養マネジメント論では、栄養状態や心機能に応じた栄養ケアマネジメントの基本的な考え方や食事摂取基準の策定の科学的根拠や指標の定義を理解する。

対象や状況別に食事摂取基準を具体的に活用するための基礎を取得し、栄養管理プロセスを理解する。

### 【授業における到達目標】

栄養管理について基本的な考え方や栄養管理プロセスを理解し、広い視野と深い洞察力を身につけ本質を見抜けるようになることを目標とする。

### 【授業の内容】

1. 栄養ケアマネジメントの概念、過程
2. 栄養スクリーニング
3. 栄養アセスメント（身体計測、臨床診査）
4. 栄養アセスメント（食事調査）
5. 栄養ケア計画
6. モニタリング・評価
7. 食事摂取基準の策定方針
8. 策定の基礎理論①（エネルギー、栄養素の指標）
9. 策定の基礎理論②（エネルギー産生栄養素バランス）
10. 食事摂取基準の活用とPDCAサイクル
11. 活用の基礎理論①（個人の食事改善）
12. 活用の基礎理論②（集団の食事改善）
13. エネルギー・栄養素別食事摂取基準
14. 人の成長・発達と加齢
15. まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：テキストの該当箇所をよく読むこと。（学修時間：週2時間）

事後学修：授業内で実施した小テスト等を復習すること。指定した課題を提出すること。（学修時間：週2時間）

### 【テキスト・教材】

『スタンダード人間栄養学 応用栄養学』第2版（朝倉書店）本体2,800円（2017年 出版）

『日本人の食事摂取基準2015年版』（第一出版）本体2,700円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験60%、平常点（受講態度・課題）30%、小テスト10%により評価する。課題・小テストを確認し、授業内で解説を行う。

### 【参考書】

『食事摂取基準第2版 理論と活用』（医歯薬出版）本体2,100円



**栄養疫学実習**

森川 希

3年 後期 1単位 2時限連続 隔週

◎：研鑽力 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

食生活と疾病との因果関係を科学的に解明し、根拠に基づく公衆栄養活動に繋げるには、疫学の知識が不可欠である。

本実習では、各種栄養政策や、食事療法等の根拠となる研究論文を理解する上で必要な疫学の基礎的知識とともに、自ら統計解析を行うための基礎能力を身に付けることを目的とする。そのために、公衆衛生学ならびに公衆栄養学で学習した疫学指標の計算、データ解析の手法等について、表計算ソフト（Excel）、統計ソフト（IBM SPSS Statistics）による演習を行う。

**【授業における到達目標】**

管理栄養士として、療養や健康の維持・増進のための栄養管理・指導を行うにあたり、その内容の科学的根拠について理解し、実践できる能力を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 疫学の基本事項  
記述疫学の指標の計算
- 第2週 栄養疫学の基本事項  
総エネルギー摂取量による栄養素摂取量の補正
- 第3週 スクリーニング検査の指標
- 第4週 統計解析の概要(平均値の差の検定、頻度の検定)
- 第5週 統計解析の実際①  
(コホート研究について、変数の尺度とコーディング)
- 第6週 統計解析の実際②(比例ハザードモデル)
- 第7週 文献の読み方
- 第8週 全体のまとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】「公衆衛生学」「公衆栄養学」等の関連科目の学習内容をよく理解した上で実習に臨むこと。また、Excelの基本操作はスムーズに行える状態にしておくこと。(学修時間 週1時間)

【事後学修】配布資料を熟読し、講義内容を復習しておくこと。(学修時間 週1時間)

**【テキスト・教材】**

- 『健康・栄養科学シリーズ 社会・環境と健康』  
(南江堂) 本体3,200円
- 『健康・栄養科学シリーズ 公衆栄養学』  
(南江堂) 本体3,000円

他に、プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験(50%)、実習態度・提出課題(50%)により評価する。  
提出課題については、授業最終回で講評、フィードバックを行う。

**【参考書】**

- 坪野吉孝、久道茂共著：『栄養疫学』（南江堂、2001）
- 日本疫学会監修『はじめて学ぶやさしい疫学－疫学への招待－』  
(南江堂、2005)
- 中村好一：『基礎から学ぶ楽しい疫学』第2版（医学書院、2006）

**【注意事項】**

学内PC利用のためのIDとパスワードを確認しておくこと。  
各自の課題データを保存するためのUSBメモリを用意すること。

**栄養学**

於保 祐子

1・2年 後期 2単位

○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

栄養の摂取はヒトの生存と生活活動に欠かせない。更に、健康を維持・増進し疾患を防ぐには、適切な栄養の摂取が必要である。そこで授業では、各栄養素の生体における意義、それらがいかに消化・吸収・代謝されて生命活動に結びつくかを学び、疾患の予防について考える。

**【授業における到達目標】**

到達目標：

- ・栄養の概念、栄養素について理解し、説明できる
- ・栄養と健康、疾患の関連について理解し、説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関連：

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、「学修成果を実感して、自信を創出することができる」と「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる」を修得する。

**【授業の内容】**

- 第 1 週 栄養と栄養素
- 第 2 週 各栄養素の生体における意義
- 第 3 週 栄養素の摂取、消化、吸収
- 第 4 週 消化器の仕組み
- 第 5 週 三大栄養素－糖質
- 第 6 週 三大栄養素－たんぱく質
- 第 7 週 三大栄養素－脂質
- 第 8 週 やせと肥満、摂食障害
- 第 9 週 ビタミンの働きと欠乏症 －水溶性ビタミン－
- 第 10 週 ビタミンの働きと欠乏症 －脂溶性ビタミン－
- 第 11 週 多量ミネラルの働きと欠乏症
- 第 12 週 微量ミネラルの働きと欠乏症
- 第 13 週 病気と栄養 －食物アレルギー－
- 第 14 週 病気と栄養 －生活習慣病－
- 第 15 週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】授業内容について配布するプリントや参考書で予習を行う。（学修時間 週2時間）

【事後学修】毎回の授業内容を復習して、各自のテーマについてレポートとしてまとめる。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験 70%、平常点（レポート提出、授業態度） 30%

レポートへのフィードバックを授業毎に行う。

**【参考書】**

脊山洋右ほか著「コンパクト栄養学」（南江堂）2,000円（本体）

**【注意事項】**

レポートのテーマ設定については、第1週の授業で説明する。

**栄養学**

於保 祐子

1年 後期 2単位

○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

栄養の摂取はヒトの生存と生活活動に欠かせない。更に、健康を維持・増進し疾患を防ぐには、適切な栄養の摂取が必要である。そこで授業では、各栄養素の生体における意義、それらがいかに消化・吸収・代謝されて生命活動に結びつくかを学び、疾患の予防について考える。

**【授業における到達目標】**

到達目標：

- ・栄養の概念、栄養素について理解し、説明できる
- ・栄養と健康、疾患の関連について理解し、説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関連：

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、「学修成果を実感して、自信を創出することができる」と「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる」を修得する。

**【授業の内容】**

- 第 1 週 栄養と栄養素
- 第 2 週 各栄養素の生体における意義
- 第 3 週 栄養素の摂取、消化、吸収
- 第 4 週 消化器の仕組み
- 第 5 週 三大栄養素－糖質
- 第 6 週 三大栄養素－たんぱく質
- 第 7 週 三大栄養素－脂質
- 第 8 週 やせと肥満、摂食障害
- 第 9 週 ビタミンの働きと欠乏症－水溶性ビタミン－
- 第 10 週 ビタミンの働きと欠乏症－脂溶性ビタミン－
- 第 11 週 多量ミネラルの働きと欠乏症
- 第 12 週 微量ミネラルの働きと欠乏症
- 第 13 週 病気と栄養－食物アレルギー－
- 第 14 週 病気と栄養－生活習慣病－
- 第 15 週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】授業内容について配布するプリントや参考書で予習を行う。（学修時間 週2時間）

【事後学修】毎回の授業内容を復習して、各自のテーマについてレポートとしてまとめる。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験 70%、平常点（レポート提出、授業態度） 30%

レポートへのフィードバックを授業毎に行う。

**【参考書】**

脊山洋右ほか著「コンパクト栄養学」（南江堂）2,000円（本体）

**【注意事項】**

レポートのテーマ設定については、第1週の授業で説明する。

**栄養学**

於保 祐子

2年 後期 2単位

○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

栄養の摂取はヒトの生存と生活活動に欠かせない。更に、健康を維持・増進し疾患を防ぐには、適切な栄養の摂取が必要である。そこで授業では、各栄養素の生体における意義、それらがいかに消化・吸収・代謝されて生命活動に結びつくかを学び、疾患の予防について考える。

**【授業における到達目標】**

到達目標：

- ・栄養の概念、栄養素について理解し、説明できる
- ・栄養と健康、疾患の関連について理解し、説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関連：

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、「学修成果を実感して、自信を創出することができる」と「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる」を修得する。

**【授業の内容】**

- 第 1 週 栄養と栄養素
- 第 2 週 各栄養素の生体における意義
- 第 3 週 栄養素の摂取、消化、吸収
- 第 4 週 消化器の仕組み
- 第 5 週 三大栄養素－糖質
- 第 6 週 三大栄養素－たんぱく質
- 第 7 週 三大栄養素－脂質
- 第 8 週 やせと肥満、摂食障害
- 第 9 週 ビタミンの働きと欠乏症－水溶性ビタミン－
- 第 10 週 ビタミンの働きと欠乏症－脂溶性ビタミン－
- 第 11 週 多量ミネラルの働きと欠乏症
- 第 12 週 微量ミネラルの働きと欠乏症
- 第 13 週 病気と栄養－食物アレルギー－
- 第 14 週 病気と栄養－生活習慣病－
- 第 15 週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】授業内容について配布するプリントや参考書で予習を行う。（学修時間 週2時間）

【事後学修】毎回の授業内容を復習して、各自のテーマについてレポートとしてまとめる。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験 70%、平常点（レポート提出、授業態度） 30%

レポートへのフィードバックを授業毎に行う。

**【参考書】**

脊山洋右ほか著「コンパクト栄養学」（南江堂）2,000円（本体）

**【注意事項】**

レポートのテーマ設定については、第1週の授業で説明する。

**栄養学**

於保 祐子

2年 後期 2単位

○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

栄養の摂取はヒトの生存と生活活動に欠かせない。更に、健康を維持・増進し疾患を防ぐには、適切な栄養の摂取が必要である。そこで授業では、各栄養素の生体における意義、それらがいかに消化・吸収・代謝されて生命活動に結びつくかを学び、疾患の予防について考える。

**【授業における到達目標】**

到達目標：

- ・栄養の概念、栄養素について理解し、説明できる
- ・栄養と健康、疾患の関連について理解し、説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関連：

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、「学修成果を実感して、自信を創出することができる」と「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる」を修得する。

**【授業の内容】**

- 第 1 週 栄養と栄養素
- 第 2 週 各栄養素の生体における意義
- 第 3 週 栄養素の摂取、消化、吸収
- 第 4 週 消化器の仕組み
- 第 5 週 三大栄養素－糖質
- 第 6 週 三大栄養素－たんぱく質
- 第 7 週 三大栄養素－脂質
- 第 8 週 やせと肥満、摂食障害
- 第 9 週 ビタミンの働きと欠乏症 －水溶性ビタミン－
- 第 10 週 ビタミンの働きと欠乏症 －脂溶性ビタミン－
- 第 11 週 多量ミネラルの働きと欠乏症
- 第 12 週 微量ミネラルの働きと欠乏症
- 第 13 週 病気と栄養 －食物アレルギー－
- 第 14 週 病気と栄養 －生活習慣病－
- 第 15 週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】授業内容について配布するプリントや参考書で予習を行う。（学修時間 週2時間）

【事後学修】毎回の授業内容を復習して、各自のテーマについてレポートとしてまとめる。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験 70%、平常点（レポート提出、授業態度） 30%

レポートへのフィードバックを授業毎に行う。

**【参考書】**

脊山洋右ほか著「コンパクト栄養学」（南江堂）2,000円（本体）

**【注意事項】**

レポートのテーマ設定については、第1週の授業で説明する。

## 栄養学演習

国際栄養への理解を深める

長谷川 めぐみ

食物栄養学専攻 後期 2単位

### 【授業のテーマ】

人の健康・栄養状態と生活の質（QOL）の向上に関わる保健医療領域の栄養専門職として、グローバル化をふまえて諸外国における栄養改善活動を視野に入れ、対象者、関連専門職、地域社会との連携を図るためのスキル（コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力）の向上を目指す。

### 【授業における到達目標】

1. 栄養にかかわる主な国際機関の概要を説明できる
2. 諸外国における栄養の変遷と動向を説明できる
3. 諸外国の栄養専門職の養成制度と社会における役割と活動について概説できる
4. 開発途上国と先進国における栄養問題や課題と対策について概説できる
5. 諸外国の学校給食の現状および国連世界食糧計画（WFP）による学校給食プログラムについて概説できる

### 【授業の内容】

- 第1週 The Scop of Health Behavior and Health Education
- 第2週 Theory in Health Behavior and Health Education
- 第3週 Research in Health Behavior and Health Education
- 第4週 Practice in Health Behavior and Health Education
- 第5週 Overview of Behavior Change Models and Approaches
- 第6週 Models of Individual Health Behavior
- 第7週 The Health Belief Model
- 第8週 The Transtheoretical Model and Stages of Change
- 第9週 Social Networks and Social Support
- 第10週 The Basics of Communication and Counseling Skills for Nutrition
- 第11週 Overview of Nutrition Counseling
- 第12週 History of Nutrition Counseling
- 第13週 Theoretical Approaches for lifestyle Awareness and Management
- 第14週 Understanding an Effective Counseling Relationship
- 第15週 Developing a Nutrition Care Plan

### 【事前・事後学修】

#### 【事前学修】

演習内容にかかわるキーワードの予習（学修時間：週2時間）

#### 【事後学修】

演習内容を総括し、毎回レポート提出（学修時間：週2時間）

### 【テキスト・教材】

テキスト：Health Behavior and Health Education ほかに資料配布

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

質疑応答50%、演習ワークシート50%を総合的に評価する  
フィードバックは適宜行う

### 【参考書】

- Nutrition Counseling Skill  
Human Nutrition  
Nutrition Epicemiology  
Nutrition for Developing Countries 他

### 【注意事項】

急速に進むグローバル化をふまえて、栄養専門職不在の国や地域で栄養改善活動に携わることを可能にするスキルを身につけ、向上する努力を惜しまないこと。

## 栄養学実験

松島 照彦

食物栄養学専攻 後期 2単位

### 【授業のテーマ】

テーマ：細胞培養法と培養細胞を用いた実験

栄養学は物質と生体の相互作用を学ぶ学問であり、その研究には個体、組織、細胞を用いた系に関する基礎的な実験技術を習得する必要がある。無菌操作に基づく細胞培養法を学び、数種の培養細胞を用いた実験を行い、その技術を習得する。

### 【授業における到達目標】

細胞培養と測定の方法を身につけるとともに、コントロール、時間、濃度の置き方、測定の原理、統計の処理を学び、実験とは異なるかを理解できるようになる。ディプロマポリシーの「高度な知識と研究遂行能力」を身につけることに資する。

### 【授業の内容】

- 1) 無菌操作、滅菌法
- 2) 培地の調製
- 3) 液替え法
- 4) 凍結株細胞（3T3-L1、Caco2）の播種
- 5) 維持と継代
- 6) 前駆脂肪細胞の分化
- 7) 泡沫化脂肪細胞の増殖
- 8) マクロファージの培養
- 9) コレステロールの取り込み
- 10) 細胞の刺激と機能の変化
- 11) 脂肪蓄積量の測定
- 12) ELISA法
- 13) mRNAの調整
- 14) リアルタイムPCR法
- 15) データの整理と解釈

### 【事前・事後学修】

事前学修：手順書を熟読し、用意すべき機材物品を確認し、全体及び当日の計画を立てておくこと。週3時間を要する。

事後学修：当日のまとめを記載し、データをまとめること。

週1時間を要する。

### 【テキスト・教材】

なし。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

手技の修練度、実験の解釈など、総合的に評価する（100%）。随時、フィードバックを行う。

### 【参考書】

なし。

### 【注意事項】

特になし。

## 栄養学特別演習A

松島 照彦

食物栄養学専攻 前期 2単位

### 【授業のテーマ】

英語の原著論文を詳読し、内容を理解するとともに、①問題の把握と背景の書き方、②背景と手法に呼応した目的の立て方、③適切な方法の選び方と書き方、④結果の表現の方法、⑤これまでの理論と課題、仮説および先行研究に照らし合わせた考察の仕方を学ぶ。優れた論文を読むことを通じ、研究課題の着眼、発掘、研究計画の構築法、理論の展開法を学び、また、上手な学術英語の使い方、論文の書き方を修得する。

### 【授業における到達目標】

学術論文の善し悪しを判別し、論文上の問題点を発見して解決する能力を身につける。論理的な学術論文の書き方を理解し、身につける。

### 【授業の内容】

- 第1週 英文論文の読み方
- 第2週 虚血性心疾患の病理学についての英文原著論文の詳読
- 第3週 脂質の生化学についての英文原著論文の詳読
- 第4週 脂肪の消化と吸収についての英文原著論文の詳読
- 第5週 脂肪の合成についての英文原著論文の詳読
- 第6週 脂肪の栄養学についての英文原著論文の詳読
- 第7週 コレステロール代謝についての英文原著論文の詳読
- 第8週 メタボリック症候群についての英文原著論文の詳読
- 第9週 リポタンパク代謝についての英文原著論文の詳読
- 第10週 脂肪酸についての英文原著論文の詳読
- 第11週 アディポサイトカインについての英文原著論文の詳読
- 第12週 ポリフェノールについての英文原著論文の詳読
- 第13週 動脈硬化の疫学についての英文原著論文の詳読
- 第14週 英文論文の背景の書き方
- 第15週 英文論文の考察の書き方

### 【事前・事後学修】

事前学修として論文を読んでくること。学修時間として週当たり4時間を要する。

事後学修：復習をすること。

### 【テキスト・教材】

原則として院生自らが取り組みたい論文を予め見つけて用意する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

論文の内容の理解と把握（50%）。論文に対する批判的評価の技術（50%）。フィードバックはその場において随時行う。

### 【参考書】

なし

### 【注意事項】

なし

## 栄養学特別演習B

於保 祐子

食物栄養学専攻 後期 2単位

### 【授業のテーマ】

サブテーマに基づいて各自が選んだ英文原著論文について、以下のような発表形式での討論を行って、論文の理解を深める。1) 受講生全員は、選定された論文を精読する。2) 論文選定者は、論文著者の立場で研究の背景、方法、結果、考察について発表する。3) 他の受講生は、査読者の立場で発表内容について質問する。4) 発表者は、著者の立場から質問に答える。5) 討論のまとめを作成する。このようにして、いくつかの論文について評価を加えながら読むことで、論文の一般的な構成について理解を深め、論文を纏める力を養う。

### 【授業における到達目標】

他者の書いた論文を評価しながら読むことができる。論文の長所・短所を正しく指摘できる。討論の要点を理解して纏められる。

### 【授業の内容】

- 第1週 論文構成の理解
- 第2週 論文の読み方
- 第3週 論文の選定1（サブテーマ：子どもと栄養）
- 第3週 論文の精読
- 第4週 論文についての討論
- 第5週 討論要旨の作成
- 第6週 論文の選定2（サブテーマ：健康と栄養）
- 第7週 論文の精読
- 第8週 論文についての討論
- 第9週 討論要旨の作成
- 第10週 論文の選定3（サブテーマ：女性と栄養）
- 第11週 論文の精読
- 第12週 論文についての討論
- 第13週 討論要旨の作成
- 第14週 論文の纏め方
- 第15週 総合討論

### 【事前・事後学修】

<事前学習> 論文選定のために、サブテーマに関連する論文をなるべく数多く読む。 2時間

<事後学習> 授業内容を自分の言葉で纏めて、得られた知識・考え方を確認する。 2時間

### 【テキスト・教材】

論文および関連する資料を、配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

論文の読解力（30%）、発表・討論の能力（40%）、文章を纏める力（30%）について、論文の選定や討論の際の平常点と、提出された要旨に基づいて行う。フィードバックは、要旨へのコメントと、総合討論で行う。

**栄養学特別演習D**

白尾 美佳

食物栄養学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

現在、子どもから高齢者が抱えている食物栄養学に関連する解決すべき課題は多い。わが国においては、「健康日本21（第2次）」はじめ、多くの施策があるものの、健康寿命の延伸を目指すためには、さらなる取組や研究、科学的根拠の積み重ねが必要であると思われる。この授業では、今後、食物栄養学的な研究を遂行し、科学的根拠を積み上げていくために必要な資質と能力を養成することを目指す。

**【授業における到達目標】**

食物栄養学的な研究を推進してゆくための資質を身に付けることを目標とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 食物栄養に関する現状と課題について
- 第2週 食物栄養に関する研究と課題解決について
- 第3週 日本、地域における食育について
- 第4週 情報リテラシー
- 第5週 先行研究調査方法
- 第6週 先行研究調査実践
- 第7週 研究の倫理的配慮
- 第8週 研究調査計画
- 第9週 調査方法
- 第10週 データの集計
- 第11週 データの解析
- 第12週 論文作成について
- 第13週 投稿規定について
- 第14週 査読について
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

それぞれのテーマに沿って準備学習をおこなっておく。  
(学修時間：週2時間)

**【事後学修】**

各回の授業内容について自らテーマをもって復習を行う。  
(学修時間：週2時間)

**【テキスト・教材】**

日本栄養改善学会監修『初めての栄養学研究論文』（第一出版）  
2012年発行 2,160円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業に対する取り組み姿勢60%、課題及び提出物40%  
それぞれの授業内において質疑応答においてフィードバックを行う。

**【参考書】**

Karen Glanz 他編『健康行動と健康教育』（医学書院）2006年発行 4,536円

**【注意事項】**

- ・授業の内容が変更する場合があります。
- ・図書館やPCラウンジなどで授業を行う場合があります。
- ・地域などに見学に行く場合があります。



## 栄養学特論A

松島 照彦

食物栄養学専攻 後期 2単位

### 【授業のテーマ】

テーマ：栄養学に関する英文原著の詳読と科学的思考法  
栄養素と細胞のinteraction、代謝調節機構について、論述の様式、検証法の組み立て、考察の展開法を学ぶとともに、英文の読解力を養う。栄養学について最新の知見を理解し、今後の課題を認識し、解析法を習得することを目的とする。

### 【授業における到達目標】

英文の学術論文をあらかじめ訳し、意味を把握できるようになる。論理展開を把握できるようになる。この授業を通じて、自分が論文を書く時の参考にできるようになる。ディプロマポリシーの「高度な知識と研究遂行能力」を身につけることに資する。

### 【授業の内容】

- 1) ポリフェノールと動脈硬化（背景と目的）
- 2) ポリフェノールと動脈硬化（手法と結果の解釈）
- 3) ポリフェノールと動脈硬化（背景と目的）
- 4) レプチン・アディポネクチンと肥満（背景と目的）
- 5) レプチン・アディポネクチンと肥満（手法と結果の解釈）
- 6) レプチン・アディポネクチンと肥満（考察と論理展開）
- 7) イコサペンタエン酸と凝固線溶系（背景と目的）
- 8) イコサペンタエン酸と凝固線溶系（手法と結果の解釈）
- 9) イコサペンタエン酸と凝固線溶系（考察と論理展開）
- 10) コレステロール代謝とLDL受容体（背景と目的）
- 11) コレステロール代謝とLDL受容体（手法と結果の解釈）
- 12) コレステロール代謝とLDL受容体（考察と論理展開）
- 13) 院生が興味を持つテーマの英文原著（背景と目的）
- 14) 院生が興味を持つテーマの英文原著（手法と結果の解釈）
- 15) 院生が興味を持つテーマの英文原著（考察と論理展開）

### 【事前・事後学修】

事前学修：日本語に訳して、説明できるようになっておくこと。約4時間を要する。事後学修は不要。

### 【テキスト・教材】

適宜プリントを配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学術用語や言い回しを適切に訳せているか。学術的な論理展開を説明できるかどうか。100%。都度、解説によりフィードバックを行う。

### 【参考書】

なし。

### 【注意事項】

特になし。

## 栄養学特論B

於保 祐子

食物栄養学専攻 後期 2単位

### 【授業のテーマ】

人体と栄養素との関係、特に個別の遺伝学的背景に即した栄養摂取について、分子レベルの現象として理解を深める。各自が課題を設定し、英文も含めて論文を輪読することで、課題を解決する過程を学ぶ。理解した事を短文にまとめて提出する。

### 【授業における到達目標】

論文を読んで、研究分野の課題を理解し、自分の言葉で説明できる。各自の課題を自主的に決定できる。課題解決手法について、文献情報を集める力を身につける。知識を簡潔な文章として表現する。

### 【授業の内容】

- 第 1 週 人体の成り立ちとゲノム（課題の設定）
- 第 2 週 人体の成り立ちとゲノム（方法論の理解）
- 第 3 週 人体の成り立ちとゲノム（研究結果の理解）
- 第 4 週 人体の成り立ちとゲノム（考察とまとめ）
- 第 5 週 栄養素の働きと遺伝子の機能（課題の設定）
- 第 6 週 栄養素の働きと遺伝子の機能（方法論の理解）
- 第 7 週 栄養素の働きと遺伝子の機能（研究結果の理解）
- 第 8 週 栄養素の働きと遺伝子の機能（考察とまとめ）
- 第 9 週 個別栄養学（課題の設定）
- 第 10 週 個別栄養学（方法論の理解）
- 第 11 週 個別栄養学（研究結果の理解）
- 第 12 週 個別栄養学（考察とまとめ）
- 第 13 週 発展課題（方法論の理解）
- 第 14 週 発展課題（研究結果の理解）
- 第 15 週 発展課題（考察とまとめ）

### 【事前・事後学修】

＜事前学修＞ 毎回授業までに、配布した論文の該当部分を熟読し、理解した点を自分の言葉で説明できるようにしておく。また疑問点を整理しておく。2時間

＜事後学修＞ 授業を通して得た知見・考え方を確認して、自分のものとする。2時間

### 【テキスト・教材】

論文および関連する資料を、配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

論文の読解力（40%）、課題設定力（30%）、討論の能力（30%）について、輪読時の平常点と、提出されたレポートに基づいて行う。フィードバックは、授業の最後と、レポートへのコメントで行う。

## 栄養教育各論 a

辛島 順子

2年 前期 2単位

◎：研鑽力

## 【授業のテーマ】

栄養教育各論aでは栄養教育総論を踏まえて、栄養教育の目的に応じた理論や技法を活用する意義について理解を深め、対象となる個人あるいは集団に適切な支援ができる能力を培う。また、個人や集団が生活している食環境整備の重要性を理解し、不適切な食行動の変容や、生活の質（QOL）の向上を図る具体的支援に必要な行動変容の概念と技法を学修する。多様化している個人や集団の食生活上の課題に取り組むために、行動科学の基礎知識・理論を導入し、健康・栄養状態や食行動を総合的に評価・判定する能力を養う。

## 【授業における到達目標】

対象者の行動変容を支援するために、広い視野と深い洞察力を身に付け、理論に基づく適切な教育や支援を行う基礎を修得する。

## 【授業の内容】

- 1 栄養教育の概念 (1) 目的・目標
- 2 栄養教育の概念 (2) 対象と機会
- 3 行動科学理論 (1) 栄養教育と行動科学
- 4 行動科学理論 (2) 行動療法
- 5 行動科学理論 (3) 行動技法
- 6 行動科学理論 (4) 食行動
- 7 心理・社会的要因
- 8 大規模集団・地球レベルの変化
- 9 カウンセリングとは
- 10 栄養カウンセリング
- 11 食環境整備 (1) ネットワークの形成
- 12 食環境整備 (2) 食物へのアクセス
- 13 食環境整備 (3) 情報へのアクセス
- 14 栄養教育マネジメント
- 15 総合学習

## 【事前・事後学修】

## 【事前学修】

テキストの該当箇所をよく読むこと。各回に指定する予習課題に取り組み、提出すること。（学修時間：週2時間）

## 【事後学修】

毎回、受講課題について所定書式のレポートにまとめて提出すること。（学修時間：週2時間）

## 【テキスト・教材】

「健康・栄養科学シリーズ 栄養教育論」  
（南江堂 2016年：定価3,200円＋税）

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験60%、平常点（受講態度・課題）30%、小テスト10%で評価する。課題や小テストを確認し、授業内で解説を行う。

## 【参考書】

「サクセス管理栄養士講座 栄養教育論」（第一出版）

## 栄養教育各論 b

辛島 順子

2年 後期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力

## 【授業のテーマ】

栄養教育各論bでは栄養教育各論aを踏まえて、対象となる個人や集団の健康状態・食物摂取や、食行動に影響を及ぼす要因に関する情報の収集・解析方法、並びに栄養教育マネジメントの概要を修得する。具体的には、対象者の栄養教育プログラムの作成・実施・検証・改善という一連の過程を、どのようにして立案するのが効果的であるのか判断できることが重要となる。対象となる個人や集団のライフステージ・ライフスタイルの特性やライフイベントを考慮し、栄養教育の充実を図るための応用力を培う。

## 【授業における到達目標】

現状を正しく把握し、目標設定に基づく計画の立案と計画の実行における支援や適切な評価を通じた課題解決に関連する知識や技術を修得する。

## 【授業の内容】

- 1 栄養教育の計画 (1) プログラムの基本理論
- 2 栄養教育の計画 (2) 目標設定
- 3 栄養教育の計画 (3) 学習形態
- 4 栄養教育の計画 (4) 教材
- 5 栄養教育の計画 (5) プログラムの作成
- 6 栄養教育の実施
- 7 栄養教育の評価
- 8 栄養教育マネジメントで用いる理論・モデル
- 9 ライフステージ別栄養教育 (1) 妊娠期・授乳期
- 10 ライフステージ別栄養教育 (2) 乳児期・幼児期
- 11 ライフステージ別栄養教育 (3) 学童期・思春期
- 12 ライフステージ別栄養教育 (4) 成人期・更年期
- 13 ライフステージ別栄養教育 (5) 高齢期
- 14 傷病者・障がい者の栄養教育
- 15 総合学習

## 【事前・事後学修】

## 【事前学修】

テキストの該当箇所をよく読むこと。各回に指定する予習課題に取り組み提出すること。（学修時間：週2時間）

## 【事後学修】

毎回、受講課題について所定書式のレポートにまとめて提出すること。（学修時間：週2時間）

## 【テキスト・教材】

「健康・栄養科学シリーズ 栄養教育論」  
（南江堂 2016年：定価3,200円＋税）

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験60%、平常点（受講態度・課題）30%、小テスト10%で評価する。課題や小テストを確認し、授業内で解説を行う。

## 【参考書】

「サクセス管理栄養士講座 栄養教育論」（第一出版）

## 栄養教育実習

白尾 美佳

4年 前期 2単位

### 【授業のテーマ】

栄養教諭は栄養士としての知識を持った上で、児童生徒に対する食に関する指導を積極的に実施して行く必要がある。また教諭としての指導力や実行力、使命感を持つと共に、家庭や地域との連携を行う上での社会性やコミュニケーション能力も重要である。そこで、栄養教育実習に臨むにあたっての栄養教諭としての資質の向上に努めることを目標とする。

### 【授業における到達目標】

学校の授業ならびに給食の時間に食に関する指導を行うことができることを目標とします。

### 【授業の内容】

- 第1回 栄養教育実習を実施するためのオリエンテーション
- 第2回 教育実習先の学校研究（学校教育目標等）
- 第3回 食に関する指導の現状と教師の課題
- 第4回 学習指導案作成（学級活動、各教科における指導案）
- 第5回 食に関する指導に係る児童生徒の実態調査
- 第6回 模擬授業（学級活動時の指導）
- 第7回 学級活動時の指導の相互評価
- 第8回 模擬授業（各教科における指導）
- 第9回 教科における指導の相互評価
- 第10回 小中学校における食育指導支援
- 第11回 地域における食育指導支援
- 第12回 栄養教育実習報告
- 第13回 栄養教育実習研究授業
- 第14回 栄養教育実習の相互評価
- 第15回 栄養教育実習のまとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：一般常識、専門科目の勉強、学習指導案、教材を作成し

ておくこと（学修時間 週2時間）

事後学修：学習指導案の見直し、実習にむけて準備をすること

（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

- ・文部科学省「小学校学習指導要領」東京書籍 217円
- ・小学校教科書「わたしたちの家庭科」開隆堂 2017年発行 274円
- ・中学校教科書「技術・家庭（家庭分野）」開隆堂 2017年発行 646円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

栄養教育実習50%、模擬授業・指導案・報告書・提出物30%、小中学校ならびに地域における食育指導に取り組む姿勢20%によって評価する。実習・模擬授業についてのフィードバックはその都度おこなう。

### 【参考書】

小中学校各教科教科書

### 【注意事項】

- ・テキストの学習指導要領や小中学校の教科書は最新版を使用しますので価格が変更になる場合があります。
- ・「児童・生徒栄養教育論（1）」、「児童生徒栄養教育（2）」の単位を修得していない場合、2年時までの必修科目を履修できていない場合は原則として本科目を履修できません。
- ・小中学校における食育指導支援は授業時間外並びに休みの期間に学外で実施することがあります。
- ・模擬授業、栄養教育実習時の教材費は原則実費です。
- ・本授業は集中講義形式で行います。

**栄養教育総論**

辛島 順子

1年 後期 2単位

◎：研鑽力

**【授業のテーマ】**

栄養教育総論は、専門職である管理栄養士に対する理解を深め、その多岐にわたる使命・役割や、関連職種との関わりを学修する。専門科目を学修する前段階として管理栄養士の歴史や、社会に要望される管理栄養士の活動分野の理解を通して、栄養専門職の使命感を育む。また、人の生命に関わる職業である管理栄養士としての自覚を高め、対象者との信頼関係の確立に必要な職業倫理の習得とともに、諸外国の食糧・栄養課題を学修する。

**【授業における到達目標】**

管理栄養士に必要な知識や技術に関連する分野について学ぶ楽しみを知り、管理栄養士として生涯学び、自己成長する態度や力を身につける。

**【授業の内容】**

- 1 食物・食生活・健康の関係
- 2 法令上の管理栄養士の役割と業務
- 3 管理栄養士と関連職種との関わり
- 4 栄養教育に関連する分野の知識・技術
- 5 栄養学の歴史
- 6 管理栄養士の歴史
- 7 地球レベルの栄養の課題と取り組み
- 8 現代医学が目指す方向
- 9 現代の健康維持・増進
- 10 現代の疾病予防・治療
- 11 生活習慣病と国民医療費の課題
- 12 生命の尊厳と倫理
- 13 管理栄養士の職業倫理
- 14 研究倫理
- 15 総合学習

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

テキストの該当箇所をよく読むこと。各回に指定する予習課題に組み、所定書式のレポートにまとめて提出すること。  
(学修時間：週2時間)

**【事後学修】**

毎回、受講課題について所定書式のレポートにまとめて提出すること。(学修時間：週2時間)

**【テキスト・教材】**

「導入教育 - 信頼される専門職となるために -」  
(医歯薬出版 2016年：定価本体2,100円+税)

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験50%、平常点(受講態度・課題)50%

毎回提出された課題を確認し、返却してフィードバックする。

**【参考書】**

「日本人の食事摂取基準2015年版」  
(第一出版：定価2,700円+税)

**栄養教育論実習 a**

辛島 順子

3年 前期 1単位 2時限連続 隔週

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

**【授業のテーマ】**

栄養教育論実習aは、栄養教育各論aの講義で学修した、個人または集団の健康・栄養課題の改善計画に、適切な理論や技法を効果的に活用できることを目指す。

**【授業における到達目標】**

栄養教育の実施における課題発見・目標設定のための現状把握やアセスメントを行う力を身につける。また、計画の立案や評価を通して課題解決能力を養う。

**【授業の内容】**

理論から実践への対応は、配布資料に基づき一斉学習後、事例検討を個別学習と並行して協働(グループ)学習し、毎回報告会を実施する。グループは6名編成とし、討論運営、書記、発表の役割交替により、主体的に考える力や表現力を高める。

1. 栄養教育実施者の資質
  - 1) コーディネーターの役割と連携
    - ・プログラムの運営、ファシリテーター
  - 2) 学習(教育・指導)形態の種類と討議法
2. 栄養教育アセスメント
  - 1) アセスメントの種類と方法(個人・集団)
  - 2) 栄養教育の実施
    - ・コミュニケーション理論(コミュニケーション理論、プレゼンテーション技法)
3. 栄養教育マネジメント
  - 1) 栄養教育の目標設定(PDCAサイクルの活用)の意義
  - 2) 栄養教育計画書
    - ・学習者の選定・設定：二次データの解析結果の活用
    - ・全体計画、教育プログラム(カリキュラム)、学習指導案の作成
4. 模擬教育と体験学習
  - 1) 教材利用の目的・意義、種類と特徴
  - 2) 教材の展開
5. 模擬教育と教材の展開方法
  - 1) 健やか親子21(第2次)の基盤課題
  - 2) 妊産婦のための食生活指針・食事バランスガイド
6. 栄養カウンセリング
  - 1) カウンセラーの基礎的技法
  - 2) カウンセリングとコーチング
7. 行動カウンセリング
  - 1) 個人、個人間、集団、社会、不適切な食行動への対応
8. 総合実習

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

テキストは、毎回該当箇所の事前学修をすること。  
事前学修により、参考資料は各自が準備し、持参すること。(学修時間：週2時間)

**【事後学修】**

毎回配布する個人/グループ・ワークシートを提出する。  
(学修時間：週2時間)

**【テキスト・教材】**

「サクセス管理栄養士講座 栄養教育論」  
(第一出版 2016年：2200円+税)  
配布プリント

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

評価の配分基準：レポート(含：個人/グループ・ワークシート)50%、実習態度(参加意欲、口頭発表)50%  
口頭発表の取り組み姿勢を講評し、栄養教育において良好なコミュニケーションを行うための留意事項へフィードバックする。

**栄養教育論実習 b**

辛島 順子

3年 後期 1単位 2時限連続 隔週

◎：協働力 ○：研鑽力、行動力

**【授業のテーマ】**

栄養教育論実習bは、栄養教育各論bの講義で学修した、ライフステージ別の健康・栄養課題の改善計画をライフイベント、ライフスタイルに適した理論・技法を駆使して展開できることを目指す。

**【授業における到達目標】**

自己や他者の役割を理解し、他職種との連携を図りつつ、互いに協力して物事を進める能力の習得を目指す。

**【授業の内容】**

理論から実践への対応は、配布資料に基づき一斉学習後、事例検討を個別学習と並行して協働（グループ）学習し、毎回報告会を実施する。作業は、グループは6名編成とし、討論運営、書記、発表の役割交替により、主体的に考える力を培う。

1. 対象特性別栄養マネジメント
  - 1) ライフステージ別栄養教育の展開
    - ・栄養教育の全体計画
    - ・模擬教育の意義、教材の選定、評価方法
2. 政策に基づいた健康づくり
  - 1) 成人期の栄養教育
  - 2) 健康日本21(第2次)の実践
3. 模擬教育 デモンストレーション
  - 1) 妊産婦のための食生活指針
  - 2) 幼児のための教育
4. ライフステージ別栄養教育の留意事項
  - 1) 作成教材の評価
  - 2) プレゼンテーションの評価
5. 対象特性別栄養教育の留意事項
  - 1) 妊娠期・授乳期の栄養教育の展開
  - 2) 乳幼児期の栄養教育の展開
6. 対象特性別栄養教育の留意事項
  - 1) 学童期の栄養教育の展開
  - 2) 思春期の栄養教育の展開
7. 対象特性別栄養教育の留意事項
  - 1) 高齢期の栄養教育の展開
  - 2) 傷病者及び障がい者の栄養教育の展開
8. 総合実習

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

毎回該当のライフステージの特徴の事前学修をすること。特に、各ライフステージの「健康づくりに関与する政策、報告書」の最新情報を把握すること。

(学修時間：週2時間)

**【事後学修】**

毎回配布する個人／グループ・ワークシートを提出する。

(学修時間：週2時間)

**【テキスト・教材】**

「サクセス管理栄養士講座 栄養教育論」

(第一出版 2016年：2200円＋税)

配布プリント

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

評価の配分基準：レポート（含：個人／グループ・ワークシート）

50%、実習態度（参加意欲、口頭発表）50%

対象者の行動変容に、ファシリテーター・コーディネーターとしての責務を遂行できているか講評し、フィードバックする。

**栄養指導実習 a**

長谷川 めぐみ

3年 前期 1単位 2時限連続 隔週

◎：協働力 ○：研鑽力、行動力

**【授業のテーマ】**

「栄養指導論a, b」講義で学修した栄養指導の基本的な意義や目的に基づいて、栄養士が栄養指導対象者および栄養指導対象集団に正しい知識を供与し、的確な栄養指導を実施する力を身につける。

栄養指導対象者が自ら実行できるよう導くことができるよう実地に基づいた実習を展開する。

**【授業における到達目標】**

健康の保持・増進を目的とした栄養指導を充実して行うために対象者自身の健康について正しく認識することが必要である。本実習では栄養指導を行う栄養士の適格な知識と対象者の実態を把握する力をつけることを目的とする。

**【授業の内容】**

1. 栄養指導実施者の資質①  
パネルディスカッション、スピーチ
2. 栄養指導実施者の資質②  
討議法（6-6式討議法 ディベート フォーラム）
3. 栄養指導実施者の資質③  
カウンセリング実習
4. 集団を対象とした栄養指導（ライフステージ別）
5. 集団を対象とした栄養指導（ライフスタイル別）
6. 災害時の栄養教育
7. 災害時の栄養教育
8. 総合学習

**【事前・事後学修】**

事前学修：毎回、該当箇所の事前学修を2時間実施すること。

事後学修：毎回実習の学修内容レポート作成し提出する。

事後学修は3時間必要である。

**【テキスト・教材】**

「サクセス管理栄養士講座 栄養教育論」

（第一出版：本体2200円＋税、2017年）

他に、毎回資料および所定形式のレポートを配布する

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

提出物（個人、グループ・ワークシート）70%

実習態度（参加意欲、口頭発表など）30%

毎回作成、提出する、レポートおよび栄養指導媒体は評価し、返還する。レポート作成および栄養指導媒体作成の評価に応じて個別指導しフィードバックする。

**【参考書】**

「栄養教育・指導実習ワークブック」

（株式会社みらい：本体2300円＋税、2017年）

**栄養指導実習 b**

長谷川 めぐみ

3年 後期 1単位 2時限連続 隔週

◎：協働力 ○：研鑽力、行動力

**【授業のテーマ】**

「栄養指導論a, b」講義で学修した栄養指導の基本的な意義や目的に基づいて、栄養士が栄養指導対象者および栄養指導対象集団に正しい知識を供与し、的確な栄養指導を実施する力を身につける。

栄養指導対象者が自ら実行できるよう導くことができるよう実地に基づいた実習を展開する。

**【授業における到達目標】**

1. 栄養指導における学習者の現状を正しく理解し栄養指導における課題を発見できる力をつける
2. 栄養指導の学習者について栄養指導目標を設定し、栄養指導計画を立案・実行できる
3. 栄養指導のプロセスや成果を正しく評価し栄養指導における問題解決につなげることができる

**【授業の内容】**

課題発見と対応の方法は配布資料に基づき一斉学習後、事例検討を個別学習と並行してグループ学習し毎回報告会を実施します。

1. 栄養指導ワールドカフェ
  - ①ワールドカフェの栄養指導への活用
  - ②ワールドカフェ実習
2. 内臓脂肪減少のための身体活動量と栄養指導
  - ①運動で消費するエネルギー量
  - ②腹回測定実習
3. ステージに応じた目標達成と栄養指導
  - ①前熟考ステージの人を対象とした栄養指導
  - ②塾考ステージの人を対象とした栄養指導
  - ③準備ステージの人を対象とした栄養指導
  - ④実行ステージの人を対象とした栄養指導
  - ⑤維持ステージの人を対象とした栄養指導
4. 運動の実践と栄養指導（1）ライフステージ別栄養指導
5. 運動の実践と栄養指導（2）アスリートへの栄養指導
6. 災害時における栄養指導（1）避難所での健康・食生活
7. 災害時における栄養指導（2）避難所での栄養指導
8. 総合学習

**【事前・事後学修】**

事前学修：毎回、該当箇所の事前学修を2時間実施すること。

事後学修：毎回実習の学修内容レポート作成し提出する。

そのための事後学修は3時間必要である。

**【テキスト・教材】**

「サクセス管理栄養士講座 栄養教育論」

（第一出版：本体2200円＋税、2017年）

他に、毎回資料および書式指定提出物を配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

提出物（個人、グループ・ワークシート）70%

実習態度（参加意欲、口頭発表など）30%

毎回作成、提出する、レポートおよび栄養指導媒体は評価し、返還する。レポート作成および栄養指導媒体の評価に応じて個別指導しフィードバックする。

**【参考書】**

「栄養教育・指導実習ワークブック」

（株式会社みらい：本体2300円＋税、2017年）

**栄養指導論 a**

長谷川 めぐみ

2年 前期 2単位

○：国際的視野、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

栄養指導論aでは、対象者に栄養教育をする意義ならびにその目的に応じた理論や技法について理解し、効果的に活用できる能力の向上を目的としています。多様化している個人や集団の食生活上の課題に適切な対応をするためには、行動科学の基礎知識・理論を導入し、健康・栄養状態や食行動を総合的に評価・判定する能力を養います。また、個人や集団が生活している食環境整備の重要性を理解し、不適切な食行動の変容や生活の質（QOL）の向上を図るための具体的支援に必要な、行動変容の概念と技法を学習します。

**【授業における到達目標】**

栄養指導における講義の様々な場面で、国際的視野を培うことを目的に海外諸国の「栄養指導の実際」を担当教員の栄養指導体験を基盤に学んでもらう。

**【授業の内容】**

- 第1週 栄養教育の概念（1）目的・目標・定義
- 第2週 栄養教育と健康教育
- 第3週 栄養教育の概念（2）対象と機会
- 第4週 食環境の整備（1）概念・法律
- 第5週 食環境の整備（2）制度・施策
- 第6週 食物へのアクセス面での展開（先進国と途上国）
- 第7週 情報へのアクセス面での展開（先進国と途上国）
- 第8週 行動科学理論と栄養教育
- 第9週 行動科学の理論とモデル（1）個人
- 第10週 行動科学の理論とモデル（2）集団
- 第11週 行動変容技法と概念
- 第12週 栄養カウンセリングの基本
- 第13週 栄養カウンセリングの応用
- 第14週 栄養教育の実施と連携
- 第15週 総合学習

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

講義前にテキストおよび配布資料の当該箇所を事前学んでおく  
（学修時間：2時間）

**【事後学修】**

毎週前回講義内容について小試験を実施する。  
準備として事後学修を行う  
（学修時間：2時間）

**【テキスト・教材】**

「サクセス管理栄養士講座 栄養教育論」  
（第一出版：本体2000円＋税，2017年）

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末試験 50%  
受講態度 50%（講義内課題、小試験、レポート）  
講義で実施する小テスト結果はA～Dで評価し公表する。  
評価段階に応じて個別指導を実施しフィードバックする。

**栄養指導論 b**

長谷川 めぐみ

2年 後期 2単位

○：国際的視野、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

栄養指導論bでは、個人や集団の健康状態・食物摂取や食行動に影響を及ぼす要因に関する情報の収集・解析方法、並びに教育方法を学習します。これを踏まえて対象者の栄養指導プログラムの作成・実施・検証・改善という一連の課程をどのように捉えて考えるのが望ましいことになるのかという理解を深めます。さらに対象となる個人や集団の具体的なライフステージ、ライフスタイルの特性を考慮した栄養教育の充実を図り、応用力を培います。

**【授業における到達目標】**

「研鑽力」のうち広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とします。

**【授業の内容】**

- 第1週 栄養教育マネジメント
- 第2週 栄養アセスメント
- 第3週 栄養教育の目標設定
- 第4週 栄養教育プログラム（1）作成
- 第5週 栄養教育プログラム（2）実施、技術・資質
- 第6週 栄養教育の評価（1）種類・デザイン
- 第7週 栄養教育の評価（2）フィードバック
- 第8週 ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育の展開
- 第9週 妊娠・授乳期
- 第10週 乳・幼児期
- 第11週 学童期・思春期
- 第12週 成人期
- 第13週 高齢期
- 第14週 傷病者・障害者
- 第15週 総合学習

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

講義前にテキストおよび配布資料の当該箇所を事前学んでおく  
（学修時間：2時間）

**【事後学修】**

毎週前回講義内容について小試験を実施する。  
準備として事後学修を行う  
（学修時間：2時間）

**【テキスト・教材】**

「サクセス管理栄養士講座 栄養教育論」  
（第一出版：本体2000円＋税，2017年）

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末試験 50%  
受講態度 50%（講義内課題、小試験、レポート）  
毎回提出された課題・小試験を確認、返却しフィードバックする

**栄養生化学実験**

中村 彰男

1年 後期 1単位 2時限連続 隔週

○：美の探究、行動力

**【授業のテーマ】**

生化学aおよび基礎栄養学で学習した栄養素の生化学的性質について、食品からのタンパク質・核酸・糖質を単離・精製する実験を通して括学することで、観察力や正確さを養いながら、思考力や判断力を高める。また、最終回に行うプレゼンテーションでは、栄養情報リテラシーを実践するために、決められたテーマについて情報収集を行い、パワーポイントを用いた発表を行ってまいります。

**【授業における到達目標】**

1. タンパク質の構造や性質について説明できるようになる。
  2. 肝臓に含まれるグリコーゲンの性質を説明できるようになる。
  3. 核酸の単離や遺伝子の解析手法を説明できるようになる。
  4. カフェインの性質や生体機能を説明できるようになる。
- 栄養生化学実験を通じて、観察力を養いながら、思考力や判断力を高め【行動力】、さらに自然の中に秘めた価値を見出すことで心の美を育むことができる【美の探究】。

**【授業の内容】**

## 第1回 ガイダンス

- ① 安全に実験を行うための注意事項
- ② 実験の進め方とレポートに関する注意事項
- ③ 蛋白質の性質とSDS電気泳動の原理

## 第2回 筋肉からのミオグロビンの精製

- ① 蛋白質の抽出・硫酸分画
- ② 疎水性クロマトグラフィー・ゲル濾過法

## 第3回 蛋白質の定量と分離

- ① Bradford法による蛋白質の定量
- ② SDS-PAGEによる蛋白質の分離

## 第4回 肝臓グリコーゲンの分離と定量

- ① 肝臓からのグリコーゲンの抽出
- ② グリコーゲンの加水分解と糖の定量

## 第5回 ゲノムの抽出と遺伝子の増幅

- ① 野菜からのゲノムの抽出
- ② 口腔粘膜からのゲノムの抽出
- ③ アルコール代謝関連酵素の遺伝子のPCR法による増幅

## 第6回 ゲノム多型とアルコール代謝体質のDNA検査

- ① PCR産物の精製
- ② アガロース核酸電気泳動
- ③ 遺伝子多型解析

## 第7回 紅茶からのカフェインの単離と分析

- ① 紅茶からのカフェインの単離
- ② 薄層クロマトグラフィーを用いたカフェインの分析

## 第8回 情報収集とプレゼンテーション（演習）

**【事前・事後学修】**

【事前学修】事前に次回の実験に関するプリントを配布します。実験に使用する器具や試薬に関して十分に予習をして、実験ノートにまとめること。実験プロトコルに関しては実験の流れについてイメージトレーニングを行ってください。（学修時間 2時間/週）。

【事後学修】毎回の実験に関して、決められた期日までにレポートを作成し提出してください（学修時間 2時間/週）

**【テキスト・教材】**

毎回、実験に関するプリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

受講態度40%、レポート60%で評価します。毎回の実験の中で、実験テーマに関しての原理などについての解説を行います。

**【参考書】**

ガイダンスで紹介します。

**【注意事項】**

必ず実験用の白衣と上履きを着用すること。実験を安全に行うために初回のガイダンスで詳細を説明します。



**栄養生理学**

山田 茂

3年 前期 2単位

○：行動力

**【授業のテーマ】**

健康づくりのための栄養と運動について学習する。また社会的に話題になっている生活習慣病やフレイルの改善法について学習する。

**【授業における到達目標】**

健康づくりのための栄養や運動について修得する。細分化した科学的知見を集約し、基礎的知識を具体的に活用できる能力を培う。更に統合された知識を日常生活の問題解決に役立てることのできる行動力を養う。

**【授業の内容】**

- 第1週 健康づくり施策
- 第2週 健康づくりプログラム作成
- 第3週 健康づくり運動の実際
- 第4週 健康づくりのための栄養戦略
- 第5週 食べ物の消化・吸収機構Ⅰ（糖質・脂質）
- 第6週 食べ物の消化・吸収機構Ⅱ（タンパク質・ミネラル等）
- 第7週 健康の維持増進のための身体運動・運動量・体力
- 第8週 日本人の食事摂取基準（食事バランスガイド）
- 第9週 女性と運動・栄養
- 第10週 運動能力と栄養・運動と血液・体液
- 第11週 生活習慣病とメタボリックシンドローム
- 第12週 エネルギー消費量の推定法
- 第13週 フレイルと栄養
- 第14週 体力と栄養
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

小テストを行うのでテキスト等を必ず予習すること。（学修時間 週2時間）

**【事後学修】**

小テストの復習を必ずすること。配布プリントをよく読むこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

財団法人 健康・体力づくり事業財団編 『運動運動実践指導者養成用テキスト』 定価4,900円

購入については、4月のオリエンテーション時に説明します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】****【評価方法・基準】**

毎時間の小テスト 30%

学期末テスト 60%

本学で行われる授業に関連する学会や講演会に参加し、レポートを提出する 10%

**【フィードバック】**

小テストは翌週の授業内で解説を行います。

**【参考書】**

脊山洋右 監修『コンパクト栄養学』（南江堂 2017年）定価2,200円＋税

**栄養生理学**

山田 茂

1年 前期 2単位

○：行動力

**【授業のテーマ】**

食べ物の消化吸収機構とその代謝について学習する。また、運動生理やスポーツ栄養について学習する。

**【授業における到達目標】**

食べ物の消化吸収機構、代謝機構、運動生理、スポーツ栄養について修得する。細分化した科学的知見を集約し、基礎的知識を具体的に活用できる能力を培う。更に統合された知識を日常生活の問題解決に役立てることのできる行動力を養う。

**【授業の内容】**

- 第1週 栄養学の歴史Ⅰ タンパク質
- 第2週 栄養学の歴史Ⅱ エネルギー代謝
- 第3週 栄養学の歴史Ⅲ 微量栄養素
- 第4週 エネルギー代謝
- 第5週 三大栄養素の消化吸収
- 第6週 三大栄養素の代謝
- 第7週 ビタミンの代謝
- 第8週 ミネラルの代謝
- 第9週 運動の生理学Ⅰ 呼吸と運動
- 第10週 運動の生理学Ⅱ 運動と栄養
- 第11週 運動の生理学Ⅲ 運動と栄養
- 第12週 運動の生理学Ⅳ 運動と代謝
- 第13週 スポーツ栄養Ⅰ
- 第14週 スポーツ栄養Ⅱ
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

テキスト等を必ず予習すること。（学修時間 週2時間）

**【事後学修】**

配布プリントをよく読むこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

春山洋右 監修『コンパクト栄養学』（南江堂 2017年）定価2,200円＋税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】****【評価方法・基準】**

学期末テスト 80%  
レポートを提出する 20%

**【フィードバック】**

レポートの解説

**【参考書】**

島菌順雄 著『栄養学の歴史』（朝倉書店）  
『スポーツ栄養科学インストラクター』（日本臨床スポーツ栄養学会編2017年）2,500円

**栄養生理学**

山田 茂

2・3年 後期 2単位

◎：研鑽力

**【授業のテーマ】**

食べ物の消化吸収機構とその代謝について学習する。また、運動生理やスポーツ栄養について学習する。

**【授業における到達目標】**

食べ物の消化吸収機構、代謝機構、運動生理、スポーツ栄養について修得する。細分化した科学的知見を集約し、基礎的知識を具体的に活用できる能力を培う。更に統合された知識を日常生活の問題解決に役立てることのできる行動力を養う。

**【授業の内容】**

- 第1週 三大栄養素の消化吸収と代謝(糖)
- 第2週 三大栄養素の消化吸収と代謝(脂質)
- 第3週 三大栄養素の消化吸収と代謝(タンパク質)
- 第4週 ビタミンの消化吸収と代謝
- 第5週 ミネラルの消化吸収と代謝
- 第6週 エネルギー代謝Ⅰ
- 第7週 エネルギー代謝Ⅱ
- 第8週 エネルギー代謝Ⅲ
- 第9週 運動の生理学Ⅰ 呼吸と運動
- 第10週 運動の生理学Ⅱ 運動と栄養
- 第11週 運動の生理学Ⅲ 運動と栄養
- 第12週 運動の生理学Ⅳ 運動と代謝
- 第13週 スポーツ栄養Ⅰ
- 第14週 スポーツ栄養Ⅱ
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

テキスト等を必ず予習すること。(学修時間 週2時間)

**【事後学修】**

配布プリントをよく読むこと。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

『スポーツ栄養科学インストラクターテキスト』(日本臨床スポーツ栄養学会編 2017年) 2,500円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】****【評価方法・基準】**

学期末テスト 80%

本学で行われる授業に関連する学会や講演会に参加し、レポートを提出する 20%

**【フィードバック】**

レポート解説を翌週の授業内で行います。

**【参考書】**

脊山洋右 監修『コンパクト栄養学』(南江堂 2017年) 定価2,200円+税

**英語で学ぶ日本文化**

現代日本の視覚文化・Contemporary Japanese Visual Culture

チャプコヴァー, ヘレナ

1・2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究、研鑽力

**【授業のテーマ】**

この授業では、現代日本（主に1980年から1990年代の東京）における視覚文化がどのように女性、男性、年齢、社会階級、集団、国籍といったアイデンティティを形成し、それを強化していたのか、またどういった呼応関係にあったのかを見ていく。

**【授業における到達目標】**

具体的には衣料、電子機器やキャラクターグッズ、漫画、アニメ、映画、テレビのコメディ番組、広告、博物館、デパートなど研究領域としてフォーカスになる。今の日本社会には、①個人のアイデンティティの問題、②「他の人」のイメージ、③文化的首都を決める場所 という三つポイントのことを考えていきたい。

日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度。英語力を上げる、または英語のポキャブラリーを増やす大変な作業ですが、その楽しみも味わえます。

**【授業の内容】**

1. イントロダクション
2. おしゃれについてー 個人のアイデンティティの問題
  - ハイファッションとストリートファッション
3. おしゃれについてー 個人のアイデンティティの問題
  - 制服 「ルーズソックス」
4. キャラクターグッズとモバイル機器ー 大人と子供の遊び道具
  - アクセサリーとトグル
5. キャラクターグッズとモバイル機器ー 大人と子供の遊び道具
  - キャラクターグッズ
6. キャラクターグッズとモバイル機器ー 大人と子供の遊び道具
  - モバイル機器、ゲーム
7. 訪問研修：ファッションスポット（例：銀座）における通行人スタイル、または個人のアイデンティティ分析
8. みんなの漫画ー 誰が読むのか？ セーラームーン、少女漫画
9. みんなの漫画ー 誰が読むのか？ 男性読者！？
10. アニメー アキラ、源氏物語、攻殻機動隊、アキラと大人のサブカルチャー
  - 暴走族とヤンキー
11. アニメー アキラ、源氏物語、攻殻機動隊、サイボーグ
  - 攻殻機動隊、新世紀エヴァンゲリオン、パーフェクト・ブルー
  - 暴走族とヤンキー
12. 広告における他者の東西ー 「他の人」のイメージ
13. 文化的首都を決める場所ー ミュージアム
14. 文化的首都を決める場所ー デパート
15. 学生プレゼンテーション、ディスカッション

**【事前・事後学修】**

毎回配付する資料・画像・映画などを、次回授業までに読んでおいてください。（事前 週2時間）

授業終了後には、毎回、配布資料とノートにもとづいて、授業内容の整理をしてください。（事後 週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリント・データを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

プレゼンテーション（60%）、授業内提出物（40%）で評価します。フィードバックを毎授業に行ってるディスカッションのときにします。

**【参考書】**

Schilling, Mark. Encyclopedia of Japanese Pop Culture.  
Sandra Buckley, ed. Encyclopedia of contemporary Japanese culture.

**英語で読む日本文学**

島崎 嗣生

1年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：美の探究、研鑽力

**【授業のテーマ】**

日本の近代文学の名作を英語と日本語で読解・鑑賞して若い人たち・青年の生き方・生き様を学ぶ・日本語の英語の表現方法の比較と検討を行う。

**【授業における到達目標】**

文学作品の鑑賞する力を育成して多様な人間の生き様を理解して、豊かな人間性を育む。

**【授業の内容】**

- 第1週 自己紹介・相互紹介
- 第2週 芥川龍之介「杜子春」読解①
- 第3週 芥川龍之介「杜子春」読解②
- 第4週 芥川龍之介「杜子春」読解③
- 第5週 芥川龍之介「杜子春」読解④
- 第6週 夏目漱石「それから」読解①
- 第7週 夏目漱石「それから」読解②
- 第8週 夏目漱石「それから」読解③
- 第9週 夏目漱石「それから」読解④
- 第10週 夏目漱石「それから」読解⑤
- 第11週 川端康成「伊豆の踊子」読解①
- 第12週 川端康成「伊豆の踊子」読解②
- 第13週 川端康成「伊豆の踊子」読解③
- 第14週 川端康成「伊豆の踊子」読解④
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

事前学修：指定されたテキストの文学作品を読んでおく。（週2時間）

事後学修：授業の後、感想論文を書く。（週2時間）

**【テキスト・教材】**

芥川龍之介「蜘蛛の糸・杜子春」新潮文庫（2017）346円（税込）  
夏目漱石「それから」岩波文庫（2017）600円（税別）  
川端康成「伊豆の踊子」新潮文庫（2017）389円（税込）

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

筆記試験（80%）、感想論文（20%）。

**【参考書】**

特になし。

**【注意事項】**

英文教材はすべてプリントなので、各自クリアファイルを用意してきちんと保存してください。

また、各自で授業ノートを用意してください。

## 英語で読む日本文学

夏目漱石「夢十夜」を英語で読む

南條 竹則

1年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：美の探究、研鑽力

### 【授業のテーマ】

近代日本の文学作品として有名な夏目漱石の「夢十夜」を英訳で読む。

日本の近代文化、思想、文学についての認識を深めるとともに、英語の読解力を養成することを目的とする。また翻訳による我が国の文化の紹介を読むことは、比較文学的・比較文化的な知識と素養を高めることにも役立つだろう。

### 【授業における到達目標】

近代日本文学史に関する初歩的な知識を身につけ、平易な英語の文章表現について修得する。

ディプロマ・ポリシー 学生がつかうべき「態度」のうちで、日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする国際的視野、ならびに人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度を身につける。

学生が身につけるべき「能力」のうちで、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、美を探究し、学問を研鑽することができる能力を身につける。

### 【授業の内容】

- 第1週 授業の方針と進め方の説明
- 第2週 作者とその時代に関する説明
- 第3週 テキスト講読。第1話前半
- 第4週 テキスト講読。第1話後半
- 第5週 第1話の総括とディスカッション
- 第6週 テキスト講読。第2話前半
- 第7週 テキスト講読。第2話後半
- 第8週 第2話の総括とディスカッション
- 第9週 テキスト講読。第3話前半
- 第10週 テキスト講読。第3話後半
- 第11週 第3話の総括とディスカッション
- 第12週 テキスト講読。第4話前半
- 第13週 テキスト講読。第4話後半
- 第14週 第4話の総括とディスカッション
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修 発表・レポートなどの課題に取り組むこと。学修時間週二時間。

事後学修 発表などを復習すること。次回授業で扱う範囲のテキストを予習し、わからない言葉などをしらべておくこと。学修時間週二時間。

### 【テキスト・教材】

Soseki Natsume 『Ten Nights Dreaming : The Cat's Grave』 (

Dover Publications, 2015年) 1230円

夏目漱石 『文鳥・夢十夜』 (新潮文庫, 2017年) 430円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート40パーセント、平常点(授業時の発表、提出課題)60パーセント。レポート結果は授業最終回でフィードバックを行う。

### 【注意事項】

指定した教科書を毎時間持参すること。

## 英語コミュニケーションⅠ

山下早代子・阿佐美敦子・清水友子・長谷川奈緒美・柳瀬実佳・  
グディエレス・シオティーノ・マルチェフ・ミラー・ライト

1年 後期 2単位

◎：国際的視野

## 【授業のテーマ】

大学生として必要な英語の基礎的な能力ー「話す」「聞く」「読む」「書く」を身につけることをテーマとしています。

## 【授業における到達目標】

1. 社会の基本的な情報を英語で理解し、それについて英語で簡単に説明したり自分の意見を英語で述べたりできるようになる。
2. 英語を通して異文化を理解し、国際人となるべき基礎力を身につける。

以下は各技能あるいは知識の到達目標です。

Vocabulary - 基礎的な単語力を伸ばし、日常の場で適切に使えるようになる。

Grammar - 英語文法知識を整理し、正確に使えるようになる。

Reading - 社会で起きている話題を英語で読んで理解できるようになる。

Writing - 英語で書く基本を学び、目的に応じて簡単な文が書けるようになる。

Listening and Speaking - 日常的な話題について正しく聞き、簡潔に適切に話せるようになる。

Critical thinking - 上の活動を通し様々なテーマについて批判的な目、批評力を身につけ、英語で述べることができるようになる。

なお、これらの能力はインテグレートッド・イングリッシュの継続としてCEFR指標のA2あるいはB1レベルを到達目標としています。

## 【授業の内容】

総合的な英語運用能力を養うため、日本人教員によるR&W（リーディング、ライティング）、英語ネイティブ教員によるL&S（リスニング、スピーキング）の学習を行います。二つのクラスは別のテキストを使用します。

Reading & Writing (Qテキスト[レベル\_2])

第1週 ガイダンス

第2週 Unit 5 Business / Reading 1: Family unity builds success

第3週 Unit 5 Application

第4週 TOEIC Preparation (1)

第5週 Unit 6 Information Technology / Reading 1: Memo to restaurant servers

第6週 Unit 6 Application

第7週 TOEIC Preparation (2)

第8週 Unit 7 Environmental Studies / Reading 1: Think before you toss

第9週 Unit 7 Application

第10週 TOEIC Preparation (3)

第11週 Unit 8 Public Health / Reading 1: FLU FAQ

第12週 Unit 8 Application

第13週 Review

第14週 In-class Examination

第15週 TOEIC Test実施 (Date will be announced)

Listening & Speaking (Qテキスト[レベル\_1])

第1週 ガイダンス

第2週 Unit 5 Psychology / Listening 1: Body and mind

第3週 Unit 5 Application

第4週 TOEIC Preparation (1)

第5週 Unit 6 Philosophy / Listening 1: Dishonesty in schools

第6週 Unit 6 Application

第7週 TOEIC Preparation (2)

第8週 Unit 7 Behavioral Science / Listening 1: Attitudes about change

第9週 Unit 7 Application

第10週 TOEIC Preparation (3)

第11週 Unit 8 Psychology / Listening 1: The science of fear

第12週 Unit 8 Application

第13週 Review

第14週 In-class Examination

第15週 Special activity

## 【事前・事後学修】

事前学修：英語のみで書かれたテキストを使用するので、両クラスのテキストとも、学修するUnitの予習を必ずし、わからない単語は調べてくること。予習は最低週2時間程度かかります。

事後学修：宿題が毎回授業で出されます。manabaに課題が出ることもあるので、定期的にmanabaをチェックして下さい。最低週2時間程度の事後学修時間が必要です。

## 【テキスト・教材】

①Reading & Writing (R&W) Class用

Q: Skills for Success READING AND WRITING [Level\_2]. Oxford University Press (2016年改訂版)3,300円

②Listening & Speaking (L&S) Class用

Q: Skills for Success LISTENING AND SPEAKING [Level\_1]. Oxford University Press. (2016年改訂版)3,300円

③『TOEIC (R) テスト公式問題集ー新形式問題対応編』国際ビジネスコミュニケーション協会 (2016年出版のもの) 2,800円

注：③はR&W、L&Sのどちらのクラスでも使用します。

\*①②③のテキストは、前期の「Integrated English」の継続です。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

R&Wクラス：試験(含ライティング)(25%)、単語クイズ(10%)、課題・宿題(10%)

L&S クラス：試験(含スピーキング)(25%)、単語クイズ(10%)、課題・宿題(10%)

TOEIC：10% 注：期末試験の一部ですので受験しないと単位資格を失います。

注意：最終評価はR&Wクラス(45%)、L&Sクラス(45%)とTOEIC(10%)を合計した点数(100%)となります。片方のクラスがよくても、もう一方が悪いと単位を取得できないことがあります。フィードバックは授業あるいはmanabaを使って行われます。

## 【参考書】

適宜指示します。

## 【注意事項】

週2回の授業を日本人と英語ネイティブの2名の教員が担当します。出席は両クラスを合わせたものではありません。どちらか片方のクラスが出席要件を満たさないと、もう一方が満たしていても単位を取得できません。

## 英語コミュニケーションⅡA

山下早代子・阿佐美敦子・小林裕子・清水友子・柳瀬実佳・長谷川奈緒美・シオティノー・マルチェフ・ミラー・ライト

2年 前期 2単位

©：国際的視野

## 【授業のテーマ】

人間社会学部の理念に沿い、国際的感覚を持って広く、社会・ビジネスの場で使える英語の修得を目指します。

## 【授業における到達目標】

1. 社会の様々な情報を英語で理解し、それについて自分の意見を英語で述べて議論したりできるようになる。
2. 英語を通して異文化を理解し、国際人となるべき基礎力を身につけ、自ら英語でコミュニケーションできるようになる。
3. TOEICテストで高得点を目指し、自分の英語力を示すことができるようになる。

以下は英語能力の指標となる技能の獲得目標です。

Vocabulary－単語の知識を増やし、適切に使えるようにする。

Grammar－文法知識を整理し、正確に使えるようにする。

Reading－社会で起こっている様々な話題について英語で多角的に読み、考えることができるような力をつける。

Writing－英語で書く基本的な規則を学び、テーマに関して様々なスタイルで文章が書ける力をつける。

Listening and Speaking－適切なリスニング力、スピーキング能力を伸ばす。

Critical thinking－様々な活動を通してテーマについて英語で批判的意見を述べるようにする。

具体的な到達目標としてCEFR基準のB1～B2レベルの英語能力獲得を目指します。

## 【授業の内容】

英語運用能力を養うために、日本人教員によるリーディング、ライティング、ネイティブ教員によるリスニング、スピーキングの学習を行います。二つのクラスは別のテキストを使用します。

Reading & Writing (Qテキスト[レベル\_3])

第1週 ガイダンス

第2週 Unit 1 Sociology/Reading 1: Small talk: A big deal

第3週 Unit 1 Application

第4週 TOEIC Preparation (1)

第5週 Unit 2 Nutritional Science/Reading 1: Knowing your taste

第6週 Unit 2 Application

第7週 TOEIC Preparation (2)

第8週 Unit 3 Information Technology/Reading 2: Living outside the box

第9週 Unit 3 Application

第10週 TOEIC Preparation (3)

第11週 Unit 4 Marketing/Reading 1: Food advertising tricks you should know about

第12週 Unit 4 Application

第13週 Review

第14週 In-class examination

第15週 TOEIC Test受験 (Date will be announced)

Listening & Speaking (Qテキスト[レベル\_2])

第1週 ガイダンス

第2週 Unit 1 Architecture/Listening 1: Modern architecture

第3週 Unit 1 Application

第4週 TOEIC Preparation (1)

第5週 Unit 2 Psychology/Listening 1: The colors of nature

第6週 Unit 2 Application

第7週 TOEIC Preparation (2)

第8週 Unit 3 Behavioral Science/Listening 1: Be polite

第9週 Unit 3 Application

第10週 TOEIC Preparation (3)

第11週 Unit 4 Marketing/Listening 1: Game studies

第12週 Unit 4 Application

第13週 Review

第14週 In-class examination

第15週 TOEIC Test受験 (Date will be announced)

## 【事前・事後学修】

事前学修：英語のみで書かれたテキストを使用しますので、両クラスのテキストとも学修するUnitの予習を必ずし、わからない単語は調べてくること。予習は最低週2時間程度かかります。

事後学修：宿題が毎回授業で出されます。またmanabaに課題が出ることもあるので、定期的にmanabaをチェックしましょう。最低週2時間程度の事後学修時間が必要です。

## 【テキスト・教材】

①Reading & Writing (R&W) Class用

Q: Skills for Success READING AND WRITING [Level\_3]. Oxford University Press (2016年改訂版)3,300円

②Listening & Speaking (L&S) Class用

Q: Skills for Success LISTENING AND SPEAKING [Level\_2]. Oxford University Press. (2016年改訂版)3,300円

③『TOEIC (R) テスト公式問題集－新形式問題対応編』国際ビジネスコミュニケーション協会 (2016年出版のもの) 2,800円

注：③はR&W、L&Sのどちらのクラスでも使用します。

\*①②③のテキストは、後期でも使用します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

R&Wクラス：試験(含ライティング)(25%)、単語クイズ(10%)、課題・宿題(10%)

L&S クラス：試験(含スピーキング)(25%)、単語クイズ(10%)、課題・宿題(10%)

TOEIC：10% 注：期末試験の一部ですので受験しないと単位取得資格を失います。

注意：最終評価はR&Wクラス(45%)、L&Sクラス(45%)とTOEIC(10%)を合計した点数(100%)となります。片方のクラスがよくても、もう一方が悪いと単位を取得できないことがあります。フィードバックは授業あるいはmanabaを使って行われます。

## 【参考書】

適宜指示します。

## 【注意事項】

週2回の授業を日本人と英語ネイティブの2名の教員が担当します。出席は両クラスを合わせたものではありません。どちらか片方のクラスが出席要件を満たさないと、もう一方が満たしていても単位を取得できません。

## 英語コミュニケーションⅡB

山下早代子, 阿佐美敦子, 小林裕子, 清水友子, 柳瀬実佳, 長谷川奈緒美, グディエレス, シオティノ, マルチェフ, ミラー, ライト

2年 後期 2単位

◎: 国際的視野

## 【授業のテーマ】

人間社会学部の理念に沿い、国際的感覚を持って広く、社会・ビジネスの場で使える英語の修得を目指します。

## 【授業における到達目標】

1. 社会で起こっている様々な情報を英語で理解し、それについて自分の意見を英語で述べたり議論したりできるようになる。
2. 英語を通して異文化を理解し、国際人となるべき基礎力を身につけ、自ら英語でコミュニケーションできるようになる。
3. TOEICテストで高得点を目指し、自分の英語力を示すことができるようになる。

以下に詳細を示します。

Vocabulary－単語力を伸ばし、適切に使えるようにする。

Grammar－文法知識を整理し、正確に使えるようにする。

Reading－社会で起こっている様々な話題について英語で多角的に考えることができるような力をつける。

Writing－英語で書くルールや基本を学び、テーマに関して様々なスタイルで文章が書ける力をつける。

Listening and Speaking－聞く力をつけ、効果的に英語で話せるようになる。

Critical thinking－様々な活動を通して、各Unitのテーマについて批判的な目、批評力を身につけ、自分の意見を英語で述べるができるようにする。

具体的な到達目標としてCEFR基準のB1～B2レベルの英語能力獲得を目指します。

## 【授業の内容】

英語運用能力を養うために、日本人教員によるリーディング、ライティング、ネイティブ教員によるリスニング、スピーキングの学習を行います。二つのクラスは別のテキストを使用します。

Reading & Writing (Qテキスト[レベル\_3])

第1週 ガイダンス

第2週 Unit 5 Psychology/Reading 2: The climb of my life

第3週 Unit 5 Application

第4週 TOEIC Preparation (1)

第5週 Unit 6 Philosophy/Reading 2: The biology of altruism

第6週 Unit 6 Application

第7週 TOEIC Preparation (2)

第8週 Unit 7 Economics/Reading 1: How a Ugandan girl got an education

第9週 Unit 7 Application

第10週 TOEIC Preparation (3)

第11週 Unit 8 Behavioral Studies/ Reading 2: Practice makes...Pain?

第12週 Unit 8 Application

第13週 Review

第14週 Inclass examination

第15週 TOEIC Test受験 (Date will be announced)

Listening & Speaking (Qテキスト[レベル\_2])

第1週 Guidance

第2週 Unit 5 Sociology/ Listening 1: Separated at birth

第3週 Unit 5 Application

第4週 TOEIC Preparation (1)

第5週 Unit 6 Business/Listening 1: Howtoons

第6週 Unit 6 Application

第7週 TOEIC Preparation (2)

第8週 Unit 7 Environmental Studies/Listening: 1

Sustainable Dave

第9週 Unit 7 Application

第10週 TOEIC Preparation (3)

第11週 Unit 8 Public Health/Listening 1: Water for life

第12週 Unit 8 Application

第13週 Review

第14週 Inclass Examination

第15週 Special activity

## 【事前・事後学修】

事前学修：英語のみで書かれたテキストを使用するので、両クラスとも必ず学習するUnitの予習をし、わからない単語は調べてくること。予習にはおよそ2時間かかります。

事後学修：復習の宿題は必ず提出のこと。復習にはおよそ2時間かかります。

## 【テキスト・教材】

①Reading & Writing (R&W) Class用

Q: Skills for Success READING AND WRITING [Level\_3]. Oxford University Press (2016年改訂版)3,300円

②Listening & Speaking (L&S) Class用

Q: Skills for Success LISTENING AND SPEAKING [Level\_2].

Oxford University Press. (2016年改訂版)3,300円

③『TOEIC (R) テスト公式問題集－新形式問題対応編』国際ビジネスコミュニケーション協会 (2016年出版のもの) 2,800円

注：③はR&W、L&Sのどちらのクラスでも使用します。

\*①②③のテキストは、前期で使用したものの継続です。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

R&Wクラス：試験(含ライティング)(25%)、単語クイズ(10%)、課題・宿題(10%)

L&S クラス：試験(含スピーキング)(25%)、単語クイズ(10%)、課題・宿題(10%)

TOEIC：10% 注：期末試験の一部ですので受験しないと単位取得資格を失います。

注意：最終評価はR&Wクラス(45%)、L&Sクラス(45%)とTOEIC(10%)を合計した点数(100%)となります。片方のクラスがよくても、もう一方が悪いと単位を取得できないことがあります。フィードバックは授業あるいはmanabaを使って行われます。

## 【参考書】

適宜指示します。

## 【注意事項】

週2回の授業を日本人と英語ネイティブの2名の教員が担当します。出席は両クラスを合わせたものではありません。どちらか片方のクラスが出席要件を満たさないと、もう一方が満たしていても単位を取得できません。



**英語音声学**

英語教員を目指す人のための音声学

杉本 淳子

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

この授業は、英語教員を目指す学生にとって必須である音声学の基礎の理解と、発音・聞き取りの指導法を学ぶことを目的としています。授業では、母音・子音・リズム・イントネーションの内、日本語母語話者にとって特に難しく重要な項目を取り上げます。英語と日本語の比較をもとに、受講者が英語教員として、生徒の発音・聞き取りを指導する上でどのような点に注意すべきかを考え、効果的なエクササイズを作成する練習をおこないます。同時に、受講者が自分自身の発音・聞き取りの問題点を認識し、改善するための練習方法も学びます。

**【授業における到達目標】**

(1) 音声学・音韻論の基礎的な用語の説明ができる。  
 (2) 英語音声の特徴を説明できる。  
 (3) 日本語と英語の音声の違いを説明できる。  
 (4) 発音の問題点を改善するために必要な練習を理解している。  
 ディプロマポリシーとの関連では、学生が修得すべき「行動力」のうち「課題を発見できる力」、「研鑽力」のうち「学修成果を実感し自信を創出すること」、そして「国際的視野」のうち「相互の理解と協力を築こうとする態度」を身につけることを目標とします。

**【授業の内容】**

第1週 辞書と発音記号、音素  
 第2週 英語の母音体系、短母音と長母音  
 第3週 二重母音と弱母音  
 第4週 英語の子音体系  
 第5週 子音(1) (摩擦音と破擦音)  
 第6週 子音(2) (接近音と鼻音)  
 第7週 発音とつづり字  
 第8週 音節構造と子音連続  
 第9週 語強勢  
 第10週 リンキングと音変化  
 第11週 リズム、内容語と機能語  
 第12週 イントネーション(1) (区切り方、核)  
 第13週 イントネーション(2) (音調)  
 第14週 英語の多様性と発音モデル  
 第15週 発音指導と評価法

**【事前・事後学修】**

- ・授業では扱えない項目について、教科書を読み練習問題にとりくむこと (事前事後学修 週1-2時間程度)
- ・自分自身の発音・聞き取り能力向上のため、普段から積極的に練習すること (事後学修 週1-2時間程度)
- ・学期中に実施する小テストや学期末の試験に向けて、毎回の授業内容をよく復習すること (事後学修 週1-2時間程度)

**【テキスト・教材】**

竹林滋・斎藤弘子著『新装版 英語音声学入門』(大修館 2008年)(2,400円+税)

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点 (授業内の練習やディスカッションへの積極的参加) 20%  
 小テスト 20%  
 期末テスト 60%  
 期末テストの結果は授業最終回でフィードバックを行います。

**【参考書】**

英語音声学研究会著. 2003. 『大人の英語発音講座』 (NHK出版)

## 英語音声学A

萩野 敏

1・2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

## 【授業のテーマ】

英語の音声面の解説を行う講義です。言語音が発音器官でどのように作り出されるかという点に注目する「調音音声学」分野の基礎的な内容を紹介します。日本語における類似音との比較を行いながら、英語の各母音・子音の調音方法や音声面での特徴を詳しく解説します。

## 【授業における到達目標】

英語各音の調音方法を学びその特徴を理解することによって、音声記号を含む英語音声学の基礎的な知識を身につけることを目標としています。また、知を探求し、心の美を育む態度を身につけるとともに、学修を通して自己成長する力（研鑽力）を養うことを目指しています。

## 【授業の内容】

- 第1週 英語音声学の基礎知識
- 第2週 調音器官・音声の分類
- 第3週 子音の分類法・閉鎖（破裂）音1（両唇音）
- 第4週 閉鎖（破裂）音2（その他の音）
- 第5週 摩擦音1（歯音）
- 第6週 摩擦音2（その他の音）
- 第7週 破擦音・側音
- 第8週 鼻音・半母音
- 第9週 子音のまとめ
- 第10週 母音の分類法・前舌母音1（高母音）
- 第11週 前舌母音2（その他の音）
- 第12週 後舌母音
- 第13週 中舌母音・二重母音
- 第14週 母音のまとめ
- 第15週 全体のまとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】教室での指示にしたがって、テキストの該当箇所に記述された内容をよく読んでください。（週1時間以上）

【事後学修】復習がきわめて重要です。必ずテキストや各自のノートを使って、講義内容の復習を毎回しっかりと行い、知識の定着をはかってください。（週3時間以上）

## 【テキスト・教材】

安藤賢一著『演習英語音声学』（成美堂）1984年 2,000円（税別）

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

筆記試験形式の定期試験は行わず、授業中に複数回の小テストを課します。

成績は、小テスト（80%）、平常点（授業態度と参加状況）（20%）による総合評価です。

各小テスト後にフィードバックを行う予定です。

## 英語音声学B

萩野 敏

1・2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

## 【授業のテーマ】

英語の音声面の解説を行う講義です。母音・子音の各個音を取り上げる「英語音声学A」とは異なり、音の連続、強勢、音調などに関する英語の音声面での特徴を詳しく解説します。

## 【授業における到達目標】

英語音声のプロソディーを学びその特徴を理解することによって、単音を超えたレベルでの英語音声に関する音声学の基礎的な知識を身につけることを目標としています。また、知を探求し、心の美を育む態度を身につけるとともに、学修を通して自己成長する力（研鑽力）を養うことを目指しています。

## 【授業の内容】

- 第1週 英語の音声
- 第2週 音声の分類
- 第3週 音節と拍
- 第4週 音節の構造
- 第5週 聞こえ度と音節主音
- 第6週 音声の分類と音節のまとめ
- 第7週 子音連続
- 第8週 連結
- 第9週 同化と脱落
- 第10週 音連続のまとめ
- 第11週 強勢とアクセント
- 第12週 語・句・文の強勢
- 第13週 強形・弱形と音調
- 第14週 強勢と音調のまとめ
- 第15週 音声と文字 全体のまとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】教室での指示にしたがって、事前配布資料の該当箇所に記述された内容をよく読んでください。（週1時間以上）

【事後学修】復習がきわめて重要です。必ず配布資料や各自のノートを使って、講義内容の復習を毎回しっかりと行い、知識の定着をはかってください。（週3時間以上）

## 【テキスト・教材】

テキストは使用せず、資料をmanabaで配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

筆記試験形式の定期試験は行わず、授業中に複数回の小テストを課します。

成績は、小テスト（80%）、平常点（授業態度と参加状況）（20%）による総合評価です。

各小テスト後にフィードバックを行う予定です。

**英語科教育法（１）**

中山 誠一

2年 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

本講座の目的は、学習指導要領とは何かを理解し、それを踏まえて、英語で授業を行うための基礎的な能力育成にあります。英語科では、「言語や文化の理解」に加えて、様々な場面における「コミュニケーションを図る態度の育成」が今強く求められています。本講座は、こうした能力の育成を将来担う英語科教員養成の導入講座として位置付けられており、学習指導要領の内容や英語教育学に関する基本的知識を理解することはもちろんのこと、英語科教員として必要な基本的なスキルのトレーニングを授業中に行います。

**【授業における到達目標】**

この授業では、CLILの手法を取り入れ、英語科教育に関する知識や技能を身につけるだけでなく、英語運用能力を高め、卒業までに身につける態度・能力のうち、「国際的視野」と「問題解決のために主体的に行動する力」を養います。CLIL=内容言語統合型学習法

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション 国際語としての英語とは何か
  - 第2週 英語教育と英語教育学
  - 第3週 学習指導要領
  - 第4週 学習者要因
  - 第5週 求められる英語教師像
  - 第6週 小学校における外国語 英語 活動
  - 第7週 英語教授法
  - 第8週 第二言語習得と英語教育
  - 第9週 コミュニケーション能力の育成
  - 第10週 話す・聞く・読む・書く指導の実際
  - 第11週 ティーム・ティーチングとは
  - 第12週 英語による授業の実際 中学校における指導
  - 第13週 英語による授業の実際 高等学校における指導
  - 第14週 マイクロ・ティーチング A班
  - 第15週 マイクロ・ティーチング B班
- \*マイクロ・ティーチングは履修者を2つのグループに分けて行います。

**【事前・事後学修】**

事前学修 (2時間)

毎回指定したテキストの内容を英語で発表できる準備をすること

事後学修 (2時間)

授業で扱った内容について、メモした内容をノートにきちんと英語でまとめること

**【テキスト・教材】**

- ・新学習指導要領に基づく英語科教育法 望月昭彦編 大修館書店、2010年、2,300円
- ・自分が中学や高等学校時代に使用した教科書
- \*その他必要なものについては、授業内で指示します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業中の発表・発言：50%、毎回の課題：20%、マイクロ・ティーチング：30%

\*課題およびマイクロ・ティーチングに対してのフィードバックは各授業中に行います。

**【参考書】**

授業内で指示します。

**【注意事項】**

授業は基本的に全て英語で行います。

英語による積極的な発言が求められます。

受講にあたり最低英検2級に合格していることが望ましい。

**英語科教育法（２）**

津田 ひろみ

3年 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

中等英語教育に関する基礎知識を土台とし、教育関連の重要項目について討論により考察を深める。さらに指導案を作成し、模擬授業を行って、理論と実践を結びつける。

**【授業における到達目標】**

学修を通して自己成長する「研鑽力」を養い、仲間との意見交換を通して相互を活かして自らの役割を果たす「協働力」が身に着く。

**【授業の内容】**

- 第1週 イントロダクション
- 第2週 英語教育の目的
- 第3週 指導目標
- 第4週 指導方法
- 第5週 評価とテスト
- 第6週 外国語教授法
- 第7週 自律的学習
- 第8週 学習者要因
- 第9週 英語教師論
- 第10週 小学校の英語教育
- 第11週 異文化教育
- 第12週 指導案の検討
- 第13週 模擬授業（導入部）と振り返り
- 第14週 模擬授業（展開部）と振り返り
- 第15週 模擬授業（発展部）と振り返り

**【事前・事後学修】****事前学修**

- ・次回の授業範囲を予習し、章末の課題について考えをまとめる（2時間）。

- ・ショート・スピーチ（英語）の準備をする（30分）。

**事後学修**

- ・授業について振り返り（1時間）。

- ・関連する新聞記事について考えをまとめる（30分）。

**【テキスト・教材】**

- ・村野井仁他著『統合的英語科教育法』（成美堂、2012）2,600円
- ・自分が使った高校の英語教科書

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

模擬授業20%、最終レポート20%、指導案20%、発表20%、毎回の課題20%として総合的に評価する。

全出席を前提とし、発表、模擬授業のいずれかを欠席した場合は、評価対象外（不可）とする。

毎回の省察については、次回授業でフィードバックを行う。

**【参考書】**

『高等学校学習指導要領 外国語編・英語編』（開隆堂）

『中学校学習指導要領解説 外国語編』（開隆堂）

『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』（東洋館）

『英語学習は早いほど良いのか』バトラー後藤裕子著（岩波新書2015）

『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』村野井仁著（大修館書店 2006）

**【注意事項】**

受講までに英語検定試験2級以上、または同等以上の英語の資格を取得しておくことが望ましい。

授業では教育についてお互いの意見を尊重し、コメントしながら、批判的思考を深めてほしい。

## 英語科教育法（3）

津田 ひろみ

3年 後期 2単位

## 【授業のテーマ】

中等英語教育に関する基礎知識を確認し、中学校の教科書研究および授業研究を行う。指導案を作成し、模擬授業を通して実践的な力を身につけ、教育実習に備える。

## 【授業における到達目標】

理想の教師像、何を学びたいかという目標を設定し、その達成に向けて計画を立案・実行に向け努力することによって問題解決のために主体的に行動する「行動力」が身に着く。さらに、相互を活かして自らの役割を果たす「協働力」を身に着けることができる。

## 【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 リスニングとリーディングの指導
- 第3週 文法指導
- 第4週 スピーキングの指導
- 第5週 ライティングの指導
- 第6週 TBLT
- 第7週 協働学習
- 第8週 発音練習
- 第9週 語彙指導
- 第10週 語用論の指導
- 第11週 指導の評価
- 第12週 指導案についてgroup discussion
- 第13週 模擬授業（導入部）と振り返り
- 第14週 模擬授業（展開部）と振り返り
- 第15週 模擬授業（発展部）と振り返り

## 【事前・事後学修】

- ・事前学修として、次回の授業範囲を予習し、章末の課題について考えをまとめる（2時間）。
- ・事後学修として、授業の振り返りを提出し（1時間）、新聞記事について英語で考えをまとめる（1時間）。

## 【テキスト・教材】

- ・鈴木渉著『実践例で学ぶ第二言語習得研究に基づく英語指導』（大修館書店 2017）1,800円
- ・自分が使った中学校の英語教科書

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

模擬授業20%、指導案20%、最終レポート20%、発表20%、毎回の課題・発言20%として総合的に評価する。全出席を前提とし、発表、模擬授業を欠席した場合は、評価対象外とする。毎回の省察については、次回の授業内でフィードバックを行う。

## 【参考書】

- 『高等学校学習指導要領 外国語編・英語編』（開隆堂）
- 『中学校学習指導要領解説 外国語編』（開隆堂）
- 『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』（東洋館）
- 『英語教育の危機』鳥飼玖美子著（ちくま新書 2018）
- 『新版英語科教育実習ハンドブック』米山朝二・杉山敏・多田茂著（大修館書店 2013）

## 【注意事項】

英語科教育法（1）（2）の単位を取得しておくことが望ましい。中学校公開授業研究会に参加予定。ただし、参加は任意とする。

## 英語科教育法（4）

中山 誠一

3年 後期 2単位

## 【授業のテーマ】

本講座の目的は、教育実習に向けて、実践的な知識と技能を身につけるとともに、英語で授業を行うための基礎的な能力育成にあります。英語科では、「言語や文化の理解」に加えて、様々な場面における「コミュニケーションを図る態度の育成」が今強く求められています。本講座では、特に、教案の作成方法、模範音読、英語による問答の仕方、および副教材の作成方法など、実践的なトレーニングを授業中に行います。

## 【授業における到達目標】

この授業では、CLILの手法を取り入れ、英語科教員として必要な知識や技能の獲得だけでなく、英語運用能力を高めることで、卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「問題解決のために主体的に行動する力」を養います。

CLIL=内容言語統合型学習法

## 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 教案作成とその実際 模範音読トレーニング
- 第3週 中学1年生を対象とした英語による授業展開法
- 第4週 マイクロ・ティーチング（第3週の内容）
- 第5週 中学2年生を対象とした英語による授業展開法
- 第6週 マイクロ・ティーチング（第5週の内容）
- 第7週 中学3年生を対象とした英語による授業展開法
- 第8週 マイクロ・ティーチング（第7週の内容）
- 第9週 高校1年生を対象とした英語による授業展開法
- 第10週 マイクロ・ティーチング（第9週の内容）
- 第11週 高校2年生を対象とした英語による授業展開法
- 第12週 マイクロ・ティーチング（第11週の内容）
- 第13週 高校3年生を対象とした英語による授業展開法
- 第14週 マイクロ・ティーチング（第13週の内容）
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

- 事前学修（2時間）  
毎回指定された単元について教案を作成し、本文の模範音読の練習を行うこと
- 事後学修（2時間）  
授業で扱った内容について、メモした内容をノートにきちんと英語でまとめること

## 【テキスト・教材】

- ・自分が中学や高等学校時代に使用した教科書
- ＊その他必要なものについては、授業内で指示します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中の発表・発言：20%、毎回の課題：20%、マイクロ・ティーチング：60%  
＊課題およびマイクロ・ティーチングに対するフィードバックは、各回の授業中に口頭で行います。

## 【参考書】

授業中に指示します。

## 【注意事項】

（美学美術史学科 対象）

**英語学A**

—英語のなんでやねん！—

藤原 正道

1・2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探求

**【授業のテーマ】**

英語について「なんでえ？」と思ったことはありませんか？「暗記しろ！気合いであ！」と言われて、済ましてしまった英語への素朴な疑問をもう一度呼び覚まし、英語への新たな興味を目覚めさせるとよい。日本語と比較しながら英語の仕組みを明らかにします。

**【授業における到達目標】**

日本語と比較しながら、英語という言語について理解すること、多様性を受容し、多角的な視点を持って世界に望み、真理を探究することによって、新たな知を想像しようとする態度をはぐくむことを達成目標とします。

具体的には、言語学についての多角的な知識、見識を身につけ、論理的に思考し、それを他者に説明できるようになることが目標です。

**【授業の内容】**

1. はじめに1 「英語学」ってなに？
2. はじめに2 もう一度見直そう！ 日本語と英語
3. 英語史1 どうしていろいろな過去形があるの？
4. 英語史2 YOUは複数でも単数でも同じ形なの？
5. 英語史3 どうして綴りと音がずれてるの？
6. 英語史4 いろいろな国の英語
7. 音声学1 異音・連結・脱落
8. 音声学2 同化・異化
9. 音声学3 余剰子音
10. 音声学4 アクセント、イントネーションと意味
11. 形態論1 「アンガールズ」が変なわけ
12. 形態論2 単語は平等じゃない1 派生
13. 形態論3 単語は平等じゃない2 複合
14. 形態論4 「Walkman」の複数形は？
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：参考書を読んで、次回の授業内容をつかんでおく。

週2時間以上

事後学修：参考書を利用して、授業内容の復習を充分行う。

週2時間以上

**【テキスト・教材】**

こちらで用意した印刷資料を使用します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- ・定期試験は行いません。評価基準は、授業時の小テスト90%＋授業への参加度など10%です。毎回論述式の小テストがあります。覚悟するがよい。
- ・毎回の授業でフィードバックを行う予定です。

**【参考書】**

授業時使用の資料に明記します。

**【注意事項】**

短大で学んだ技術や知識を応用するには、論理的・科学的思考を身につけることが大切です。この授業で、今まで当たり前だと思ってきたことに疑問を持つ力と、論理的思考力を身につけましょう。

私語などの授業の妨害があった場合は、退出してもらいます。また、居眠りや携帯電話の使用などによって、授業への積極的参加が認められない場合、成績に大いに影響があんねんで。

**英語学B**

—英語のそんなあほな！—

藤原 正道

1・2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探求

**【授業のテーマ】**

英語について「なんでえ？」と思ったことはありませんか？「気合いで暗記しろ！」と言われて、済ましてしまった英語への素朴な疑問をもう一度呼び覚まし、英語への新たな興味を目覚めさせるとよい。日本語と比較しながら、英語の仕組みを明らかにしまっせ。

**【授業における到達目標】**

日本語と比較しながら、英語について理解すること、多様性を受容し、物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度をはぐくむことが到達目標です。

具体的には、言語学についての多角的な知識、見識を身につけ、論理的に思考し、それを他者に説明できるようになることが目標なんや。

**【授業の内容】**

1. はじめに 「英語学」ってなに？
2. 統語論1 語順が違うと意味が変わる？
3. 統語論2 英語の中の「まとめり」
4. 統語論3 5文型はもういらない！ 英語の構造は1つ？
5. 意味論1 意味にも決まりがあります。
6. 意味論2 形が違えば意味も違う
7. 意味論3 もう半分？ まだ半分？
8. 意味論4 人間は「植物」？
9. 意味論5 on the wallって「壁の上」じゃないの？
10. 語用論1 会話はキャッチボール
11. 語用論2 英語の丁寧さ
12. 語用論3 英語の謙遜表現
13. 語用論4 英語の失礼さ
14. 語用論5 女と男の英語
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：参考書を読んで、次回の内容をつかんでおく。

週2時間以上

事後学修：参考書を利用して、授業内容を十分に理解する。

週2時間以上

**【テキスト・教材】**

こちらで用意した印刷資料を使用します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- ・定期試験は行いません。評価基準は、授業時の小テスト90%＋授業への参加度など10%です。毎回論述式の小テストがあります。覚悟するがよい。
- ・毎回の授業でフィードバックを行う予定です。

**【参考書】**

授業時使用の資料に明記します。

**【注意事項】**

短大で学んだ技術や知識を応用するには、論理的・科学的思考を身につけることが大切です。この授業で、今まで当たり前だと思ってきたことに疑問を持つ力と、論理的思考力を身につけましょう！

私語などの授業妨害があった場合は、退出してもらいます。また、居眠りや携帯電話の使用などによって、授業への積極的参加が認められない場合、成績に大いに影響がないわけないわな。

**英語学演習 a**

ことばの意味と使用

野村 美由紀

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

**【授業のテーマ】**

文法や構文に関する知識は、外国語の能力を身に付けるためには不可欠です。似たような意味の表現の使い分けや正確な意味内容を理解して、英語の使い方を学び、話者の認識や判断の観点から文の意味を捉えて、さらに発話を取り巻く場面や背景も考えて行きます

**【授業における到達目標】**

英語の正確な意味解釈と正しい使い方、使用場面、話者の心的態度が分かることを目的としています（国際的視野）。また、ことばの観察力と説明力を身に付けることも目標にしています（研鑽力）。さらに、発話を取り巻く場面や背景を考えて行きます。知的好奇心を持って授業に臨むようになることも目標です（行動力）

**【授業の内容】**

予め担当箇所を決めておき、担当者は、担当箇所の要旨をまとめて、作成したハンドアウトを使用して発表します。その後、解説をして、Further Studyの問題を考えて行きます。

第1週 インTRODクッション

第2週 法

第3週 二重目的語構文

第4週 使役文

第5週 受動文

第6週 There構文

第7週 結果構文

第8週 進行形

第9週 現在完了形

第10週 時制とアスペクト

第11週 未来表現

第12週 法助動詞

第13週 新情報・旧情報と焦点

第14週 直示と視点

第15週 全体のまとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：担当者は担当箇所の要旨をまとめて、ハンドアウトを作成すること。担当ではない場合も、教科書を読んで、分からない語句は下調べをすること。（学修時間 週3時間）

事後学修：授業中の板書や解説を参考にして授業内容の復習をして理解に努めること。（学修時間 週1時間）

**【テキスト・教材】**

澤田治美・高見健一編（2010）『ことばの意味と使用―一日英語のダイナミズム』 鳳書房 2800円＋税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業への積極的な参加および態度 20%

提出物 10%

期末試験 70%

**【参考書】**

安藤貞雄（2005）『現代英文法講義』 開拓社

Quirk et al. (1985) 『A Comprehensive Grammar of the English Language』 Longman

その他は授業内で適宜紹介します。

**【注意事項】**

英和辞典（電子辞書可）を持参して下さい。

**英語学演習 b**

英語の記述文法を究める

村上 まどか

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

**【授業のテーマ】**

母語話者による英語の記述文法を精読し、冠詞、法助動詞、関係代名詞といった、日本語には存在しない品詞に焦点をあてて探求します。目からうろこが落ちるような説明に、感動しながら読み進めていきましょう。

**【授業における到達目標】**

もし自分が人に英語を教える場合にも説明できるように、英文学科の学生として磐石の文法力を身に着けることが目標です。理想的には、誰もが練習問題に満点がとれるようになること！

**【授業の内容】**

学生が準備してきた成果を発表してもらい、それに教員が解説を加えながら授業をすすめます。

第1回 インTRODクッション：前書き

第2回 インTRODクッション：用語と文法性

第3回 冠詞：単数か複数か

第4回 冠詞：定冠詞とゼロ冠詞

第5回 法助動詞：基本的な意味の二分法

第6回 法助動詞：can と may

第7回 法助動詞：must, will, should

第8回 法助動詞：否定の作用域

第9回 間接目的語：二重目的語を取る動詞

第10回 間接目的語：人、移動、そして受益

第11回 関係代名詞：格

第12回 関係代名詞：who, which, that

第13回 関係副詞：where, when, why

第14回 関係詞：新情報と旧情報をつなぐ機能

第15回 総括

**【事前・事後学修】**

自分の当たらない箇所も含めて、次回に読む箇所を入念に予習してこよう。出てきた練習問題は、別紙に回答して授業時に提出する。（週に2時間）

事後は、読んだ箇所を復習し、返却された練習問題を見直して、同じ問題なら満点が取れるほど納得するまで考察すること。（週に2時間）

**【テキスト・教材】**

以下のテキストをプリントで配ります。

Yule, George (1998) *Explaining English Grammar*, Oxford University Press.

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

提出物は翌日に返却して解説する。朱書きをよく読むこと。

出席率を満たした上での（遅刻3回は欠席1回にカウント）、提出物40%、学期末筆記試験60%で評価する。試験は基本的な内容にするので、一切の持込を禁止する。

**【参考書】**

生成文法もカバーしている同じ著者の本：

Yule, George (2016) *The Study of Language*, 6th edition, Cambridge University Press.

その本の日本語訳：

ユール、ジョージ著、今井邦彦・中島平三訳『現代言語学20章』大修館書店。

**【注意事項】**

試験に持ち込み不可とするのは、当該教員の試験としてはきわめてめずらしいので、注意すること。

**英語学演習 c**

英語学・言語学の真髄を英文で読破する

村上 まどか

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

**【授業のテーマ】**

この演習では、一般言語学の各分野の基礎を、平易な英語で読みながら押さえていくことを目的とします。英語学概論よりも詳しい内容について、英語力を使って考察を深めます。

**【授業における到達目標】**

単なる英文読解にとどまらず、現代の英語学・言語学を自分の中に内在化することが目的です。

**【授業の内容】**

テキストはさまざまなトピックを扱っています。授業において学生は準備してきた成果を発表し、それに教員が解説を加えていくという方式をとります。

第1週	イントロダクションおよびビデオ
第2週	言語の発達
第3週	動物の言語
第4週	幼児の言語習得
第5週	パイリンガリズム
第6週	男性と女性の話し方
第7週	丁寧表現
第8週	外国語学習
第9週	各種教授法
第10週	世界の言語
第11週	方言と公用語
第12週	言語の変遷と歴史
第13週	外来語
第14週	言語の危機と絶滅
第15週	総括

**【事前・事後学修】**

事前学修（2時間）として、次回は自分は当たらないと思っても、英文を入念に予習し、各単元についている問題を解いてくること。

事後学修（2時間）として、英文と問題を復習し、用語を暗記するとともに、英文の概要を200字程度で書いてみることに。

**【テキスト・教材】**

Clankie, Shawn and Toshihiko Kobayashi (2007) *Language and Our World* 三修社 約1,500円

ビデオ『ことばの不思議』（アメリカ制作、1995年NHK教育テレビ放映）

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

筆記試験100%で評価します。30分前の遅刻3回を欠席1回に数え、出席率を充たした上での、何でも持ち込み参照可の筆記試験によって評価を行います。

**【参考書】**

大津由紀雄著『探検！ことばの世界』（ひつじ書房）約1,600円  
町田健著『町田健のたのしい言語学』（ソフトバンククリエイティブ）約2,000円

ほか、授業中に適宜指示します。

**【注意事項】**

3年生で英語学志向の学生は、卒業論文のテーマ探しを念頭におきながら、この演習に参加するとよいでしょう。

**英語学演習 d**

統語論と意味論の観点から言語の不思議に迫る

吉本 真由美

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

**【授業のテーマ】**

私たち人間はなぜ、生まれてから数年で母語を話せるようになるのでしょうか。また、初めて聞くような文でも、母語であれば難く理解することができるのはなぜでしょうか。この授業では、統語論、意味論の観点から、言語に関するこういった素朴な疑問に迫ります。

**【授業における到達目標】**

この授業では、英文で書かれた統語論・意味論（の比較的容易な）文献を読み、担当者あるいはグループに内容を発表してもらいます。これにより、専門的な英文を読みこなす力を養うとともに、統語論と意味論の基本的な知識を身につけ、自分なりにその内容を説明できるまで理解することを目標とします。

**【授業の内容】**

担当者あるいは担当グループを事前に決め、発表してもらいます。教員はそれに対して補足・修正を行います。また、各回、学んだ内容に対する自分の考えや、わからなかった点をコメントシートに書いて提出してもらいます。

第1週	イントロダクション
第2週	言語研究の諸分野の紹介と生成文法の問題設定
第3週	樹形図と統語構造
第4週	句構造規則
第5週	主要部と補部
第6週	構造上の曖昧性
第7週	疑問文
第8週	普遍文法について
第9週	統語論まとめ
第10週	文の構造と意味解釈
第11週	比較構文
第12週	メタファーとメトニミー
第13週	会話の公理とスピーチアクト
第14週	意味論・語用論まとめ
第15週	総括

**【事前・事後学修】**

事前学習：  
授業中に指示した箇所を読み進めておいてください。（学修時間 週2時間）

事後学修：  
授業で取り上げた内容を復習し、わからない箇所があれば、必ず質問してください。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

授業内で配布するプリントを使用します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業への参加度・コメントシート 30%

発表 20%

試験 50%

各回、コメントシートを集めます。翌週にそのフィードバックを行います。

**【参考書】**

Fromkin, Victoria, Robert Rodman, and Nina Hyams (2011) *An Introduction to Language* (9th edition), Cengage Learning.

**英語学演習 e**

子供の言語獲得研究（言語音声と語彙の獲得）

有井 巴

4年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

**【授業のテーマ】**

子供がどのように母語の言語音声と語彙を獲得するかを、原書を精読することを通じて学ぶ。また日本語の獲得研究にも焦点を当てることで、母語獲得研究の理解を深める。

**【授業における到達目標】**

ことばを科学の対象とする自然科学としての言語学を学ぶことを通じて、深い洞察力を身につける。

**【授業の内容】**

担当教員が授業で扱う内容を概説した後、担当の学生に準備してきた成果を発表してもらうという形式をとる。

第1回 Introduction

第2回 Ch. 1: The Logical Problem of Language Acquisition

第3回 Ch. 1: The Notion of Grammar

第4回 Ch. 1: Where does Knowledge of Language Come From?

第5回 Ch. 2: The Quest for the Native Language (pp.23-32)

第6回 Ch. 2: The Quest for the Native Language (pp.32-40)

第7回 Ch. 2: Learning the Phonemic Contrasts of the Native Language

第8回 Ch. 2: Infants' Speech Production

第9回 Ch. 3: Why Finding Words Is a Problem (pp.55-63)

第10回 Ch. 3: Why Finding Words Is a Problem (pp.63-69)

第11回 Ch. 3: Why Finding Words Is a Problem (pp.69-74)

第12回 Ch. 3: Why Acquiring the Meaning Is a Problem

第13回 Ch. 3: Acquisition of Verbs

第14回 Ch. 3: Bootstrapping of Syntax

第15回 Summary

**【事前・事後学修】**

次回カバーすると思われる箇所を、事前に入念に予習すること（週約2時間）。事後には、板書を参考にしながら復習すること（週約2時間）。

**【テキスト・教材】**

Guasti, T. Maria著、『Language Acquisition: The Growth of Grammar』（MIT Press）よりプリント配布。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業内での発表:30%

授業内での発言:10%

コメントシート:10%

課題:50%

学生発表・コメントシートへのフィードバックは授業内で、課題へのフィードバックは翌回以降の授業内に行う。

**【参考書】**

杉崎鉦司『はじめての言語獲得：普遍文法に基づくアプローチ』（岩波書店）

今井むつみ『ことばの発達を解く』（ちくまプリマー新書）

広瀬友紀『ちいさい言語学者の冒険：子どもに学ぶことばの秘密』（岩波書店）

**【注意事項】**

英語学演習fと同じテキストを用いるが、英語学演習e, fの両方を履修することは必須ではない。英語学演習eでは言語音声と語彙の獲得を、英語学演習fでは統語知識の獲得を扱う。

**英語学演習 f**

子供の言語獲得研究（統語規則の獲得）

有井 巴

4年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

**【授業のテーマ】**

子供がどのように母語の統語規則を習得するかを、原書を精読することを通じて学ぶ。また日本語の獲得研究にも焦点を当てることで、母語獲得研究の理解を深める。

**【授業における到達目標】**

ことばを科学の対象とする自然科学としての言語学を学ぶことを通じて、深い洞察力を身につける。

**【授業の内容】**

担当教員が授業で扱う内容を概説した後、担当の学生に準備してきた成果を発表してもらうという形式をとる。

第1回 Introduction

第2回 Ch. 4: Word Order in Children's Productions

第3回 Ch. 4: The Structure of Early Clauses

第4回 Ch. 4: The Subject Agreement Relation

第5回 Ch. 4: Root Infinitives

第6回 Ch. 5: Parametric Accounts of Early Null Subjects

第7回 Ch. 5: Root Null Subjects (pp.160-170)

第8回 Ch. 5: Root Null Subjects (pp.170-179)

第9回 Ch. 5: Performance Accounts

第10回 Ch. 6: Question Formation in Early Systems

第11回 Ch. 6: Auxless Questions in Early English

第12回 Ch. 6: Long-Distance Wh-Movement

第13回 Ch. 6: Relative Clauses (pp.220-230)

第14回 Ch. 6: Relative Clauses (p.230-240)

第15回 Summary

**【事前・事後学修】**

次回カバーすると思われる箇所を、事前に入念に予習すること（週約2時間）。事後には、板書を参考にしながら復習すること（週約2時間）。

**【テキスト・教材】**

Guasti, T. Maria著、『Language Acquisition: The Growth of Grammar』（MIT Press）よりプリント配布。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業内での発表:30%

授業内での発言:10%

コメントシート:10%

課題:50%

学生発表・コメントシートへのフィードバックは授業内で、課題へのフィードバックは翌回以降の授業内に行う。

**【参考書】**

杉崎鉦司『はじめての言語獲得』（岩波書店）

広瀬友紀『ちいさい言語学者の冒険：子どもに学ぶことばの秘密』（岩波書店）

**【注意事項】**

英語学演習eと同じテキストを用いるが、英語学演習e, fの両方を履修することは必須ではない。英語学演習eでは言語音声と語彙の獲得を、英語学演習fでは統語知識の獲得を扱う。



**英語学概論 a**

英語を言語学という学問分野から観察する

吉本 真由美

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

後期の「英語学概論b」とあわせて、英語学（言語学）の様々な研究領域について概観します。私たちが日ごろ、特別に意識せずに難なく使用している「言語」について、意識して観察してみると、そこにはたくさんの疑問がわいてきます。この授業では、そんな「言語の不思議」について、英語を対象に各専門領域でどのような研究がなされているのか、基本的な内容を学びます。

**【授業における到達目標】**

前期の「英語学概論a」では、まず英語の歴史的な変化、地域間のバリエーションを扱い、その後、英語の音、単語、文構造に焦点を置いて、英語そのものの性質について観察していきます。これらの研究領域の基礎を学ぶとともに、それぞれの内容に関わる、日本語や英語などの身近な具体例を自分で考え、理解を深めることを目標とします。

**【授業の内容】**

第1週 インTRODクッション  
第2週 第1章：言語の起源と語族  
第3週 第2章：言語研究の方法  
第4週 第3章：英語の発音とスペリング  
第5週 第4章：英語の語彙の多様性  
第6週 第5章：標準英語の成立  
第7週 第6章：英語のバリエーション  
第8週 第7章：英語の変化  
第9週 第8章：音声学  
第10週 第9章：音韻論  
第11週 第10章：形態論  
第12週 第11章：統語論1（文ができるしくみ）  
第13週 第12章：統語論2（文の内部構造）  
第14週 生成文法理論の問題設定  
第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：  
各回の該当する箇所を事前に読み、章末の練習問題に取り組むこと（週2時間）。  
事後学修：  
授業内でわからなかったこと、疑問に思ったことを整理し、それについて文献等を調べて自分なりの答えを検討すること（週2時間）。

**【テキスト・教材】**

長谷川瑞徳編著『はじめての英語学』改訂版（研究社、2014年）2、500円＋税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業への参加度・コメントシート 30%  
課題 20%  
試験 50%

コメントシート等、提出物のフィードバックは翌週行います。

**【参考書】**

田中春美他『入門ことばの科学』大修館書店  
安藤貞雄・澤田治美『英語学入門』開拓社  
中島平三・外池滋生『言語学への招待』大修館書店  
その他、授業中に紹介します。

**【注意事項】**

講義の内容をただ聞くだけでなく、自分で様々な具体例を考えながら、「この場合はどんな説明ができるか」「この場合は、授業で習った内容では説明できないのではないかな」等、自ら考察を広げていく楽しさを味わってください。

**英語学概論 b**

英語に関する言語学を探究する

村上 まどか

2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

英語の意味論・語用論にトピックを広げ、文脈や談話、コミュニケーションについて考察を深めます。社会言語学・英語教育についても基礎を学びます。

**【授業における到達目標】**

英語学・言語学のエッセンスを学ぶことによって、知的好奇心を満たします。中でも意味論・語用論の探究は、言外の意味を探ることになり、深い洞察力を身につけることができます。

**【授業の内容】**

第1週 第13章 意味論  
第2週 第14章 意味関係  
第3週 第15章 比喩表現  
第4週 第16章 モダリティ（主観的表現）  
第5週 第17章 意味と文脈  
第6週 第18章 文の結束性  
第7週 第19章 文の情報構造  
第8週 第20章 語用論  
第9週 第22章 英語と文化  
第10週 第23章 社会言語学  
第11週 第24章 4大英語国家  
第12週 第25章 英語教育・教授法  
第13週 補充プリント  
第14週 予備日  
第15週 総括

**【事前・事後学修】**

授業1回につき前期と同じテキスト1章をすすめるので、次回の単元をよく読んで、章末の「課題」について考えてくること（週に約2時間）。

授業内ノートは余白を十分に取って記入し、授業後に不明な箇所を調べて書き加え、事後学修とすること（週に約2時間）。

**【テキスト・教材】**

長谷川瑞徳・編著『はじめての英語学』改訂版（研究社、2014年）  
定価2500円。

前期と同じテキストの後半を用いるが、第21章は割愛し、試験にも含まない。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

出席率を満たした上での、100点満点の筆記試験（自筆ノートのみ持込み可）による。番号入力は入力時間も記録が付くので、遅刻もそれによって厳格につけ、29分59秒までの遅刻3回を欠席1回にカウントし、30分より遅ければ欠席とする。

成績評価は試験が100%である。

前回までの講義内容は、授業内で適宜フィードバックされる。

**【参考書】**

安藤貞雄・澤田治美『英語学入門』（開拓社）  
東照二『社会言語学入門』（研究社）  
その他も授業中に紹介する。

**【注意事項】**

- manabaの9桁番号送信システムにより出席をとる。授業の最後に若干名を指名して質問に答えさせ、この時に返事をしなかった者は番号送信をしても欠席とする。
- 配布プリントは、manaba にアップする。

## 英語学研究A

英文法論を究める

村上 まどか

英文学専攻 前期 2単位

### 【授業のテーマ】

言語学的な英語力をつけたい大学院生のために、英語の記述文法を精読しながら、文構造に対する考察を深めることを目的とする。

### 【授業における到達目標】

本格的な学問に真摯な学究精神で臨むことによって、全人的な成長を目指す。

### 【授業の内容】

- 第1週 Introduction
- 第2週 A rapid overview
- 第3週 Verbs
- 第4週 Tense, Aspect, and mood
- 第5週 Clause structure
- 第6週 Complements and adjuncts
- 第7週 Nouns and noun phrases
- 第8週 Adjectives
- 第9週 Adverbs
- 第10週 Prepositions and preposition phrases
- 第11週 Negation and related phenomena
- 第12週 Clause type -- asking, exclaiming, and directing
- 第13週 Subordination and content clauses
- 第14週 Relative clauses
- 第15週 Summing up

### 【事前・事後学修】

約3時間かけて予習を入念に行ない、課題に取り組んでくること。  
事後は約1時間かけて課題のフィードバックを検討し、復習すること。

### 【テキスト・教材】

Huddleston and Pullum (2005) *A Student's Introduction to English Grammar*, Cambridge University Press, 約4000円。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内発表（5割）と、テキストに載っている Exercises に関する提出課題（5割）を総合的に評価する。Exercises は、2週目から提出してもらい、それに朱を入れて評価をつけたものを次の週からフィードバックする。単なる返却ではなく、見直してディスカッションも行なう。

### 【参考書】

「親本」Huddleston and Pullum (2002) *The Cambridge Grammar of the English Language*, Cambridge University Press.  
他は授業内で指示する。

## 英語学研究演習A

専門性を深める

村上 まどか

英文学専攻 後期 2単位

### 【授業のテーマ】

前期に引き続き、英語の記述文法を精読しながら、英文法論に対する考察を深めることを目的とする。中盤には言語習得論の古典である Berko (1958) を読み、それが半世紀を経てどのように論評されているかを検討する。

さらには履修生の希望を尊重しながら担当教員が助言することによって決定した英語学の文献を読む。したがって、後半の授業内容は、以下のように記さざるを得ないことを了承されたい。

### 【授業における到達目標】

本格的な英語学研究を主体的に行なうことによって、知の集大成を目指す。

### 【授業の内容】

- 第1週 Grade and comparison
- 第2週 Non-finite clauses and clauses without verbs
- 第3週 Coordination and more
- 第4週 Information packaging in the clause
- 第5週 Morphology -- words and lexemes
- 第6週 Berko Gleason (1958) Wug Test に関する文献を読む
- 第7週 引き続き Wug Test を読みディスカッション
- 第8週 Wug Test を論評した文献 Klafehn (2013) を読む
- 第9週 引き続き Klafehn (2013) を読みディスカッション
- 第10週 選択した1本目の文献を読む
- 第11週 引き続きその文献を読みディスカッション
- 第12週 選択した2本目の文献を読む
- 第13週 引き続きその文献を読みディスカッション
- 第14週 レポートに向けての指導
- 第15週 総括

### 【事前・事後学修】

約3時間かけて予習を入念に行ない、納得した点・疑問点を整理しながら自分の意見を持つてくること。読み終えた論文については、1本につき10時間以上かけて「書評」（まとめと意見）を作成すること。

### 【テキスト・教材】

Huddleston and Pullum (2005) *A Student's Introduction to English Grammar*, Cambridge University Press, 約4000円。  
Berko Gleason, Jean (1958) "The Child's Learning of English Morphology," *Word* 14, 150-177.  
Klafehn, Terry (2013) "Myth of the Wug Test -- Japanese speakers can't pass it and English-speaking children can't pass it either," *Proceedings of the 37th Annual Meeting of*

*the Berkeley Linguistics Society*, 170-184.

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極参加・提出課題）50%、レポート50%。  
前半のテキストの Exercises については、次の週に朱を入れて返却するだけでなく、見直しとディスカッションを行なう。また、発表のハンドアウトについても、助言に基づいて改良してもらう。

### 【参考書】

授業内で指示する。

**英語教育学講義**

第二言語習得に関する知識を得る

砂田 緑

3年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

この授業では、第二言語習得に関する様々なトピックについて、「何が信じられているか」「研究では何が証明されているか」「実際の学習や指導において何が重要か」という視点を持って、英文を読んだりディスカッションをしたりします。

英語教育学に関する用語を学び、英文で専門的な文章を読み解く力も育てます。

**【授業における到達目標】**

第二言語習得研究において何が議論され、証明されているのかを英語で読むことができるようにします。また、読み取った内容を実際の学習や指導にどのようにつなげていったらよいのかを考える力を育てます。

**【授業の内容】**

- 第1回 インTRODakション・Language learning and age; the Critical Period Hypothesis
- 第2回 Language learning and age; the Critical Period Hypothesis
- 第3回 Bilingualism (In the Real World, What the Research Says)
- 第4回 Bilingualism (What the Research Says, What We Can Do)
- 第5回 Input, output, and interaction (In the Real World, What the Research Says)
- 第6回 Input, output, and interaction (What the Research Says, What We Can Do)
- 第7回 Attention and noticing (In the Real World, What the Research Says)
- 第8回 Attention and noticing (What the Research Says, What We Can Do)
- 第9回 Explicit and implicit learning; developmental sequences; interaction (In the Real World, What the Research Says)
- 第10回 Explicit and implicit learning; developmental sequences; interaction (What the Research Says, What We Can Do)
- 第11回 Correction and recasts (In the Real World, What the Research Says)
- 第12回 Correction and recasts (What the Research Says, What We Can Do)
- 第13回 Individual differences (In the Real World, What the Research Says)
- 第14回 Individual differences (What the Research Says, What We Can Do)
- 第15回 まとめ・試験

**【事前・事後学修】**

テキストの指定のページを読んで理解しておいてください。ワークシートを配布し、理解の度合いを確認します。(2時間)

トピックに関連した書籍を読み、理解を深めるようにしてください。(2時間)

**【テキスト・教材】**

Steven Brown (著), Jenifer Larson-hall (著) "Second Language Acquisition Myths: Applying Second Language Research to Classroom Teaching" (2012) Michigan 2889円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

課題70%(ワークシートを配布し、内容の理解度、ディスカッションの内容などを確認します)

試験30%(全体を通して学んだことのまとめを行います)

**英語圏の演劇**

シェイクスピアの世界

伊澤 高志

2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

英語圏の演劇を代表するものとして、ウィリアム・シェイクスピアの作品について講義します。まず、シェイクスピアの時代の演劇や劇場の様子などの概説を行い、それを踏まえて具体的な作品として喜劇『夏の夜の夢』と悲劇『マクベス』を取り上げます。それぞれ幕ごとに舞台上演の様子を映像で確認しながら、台詞や場面の分析を行い、その特質、歴史性、そして現代性を探っていきます。前者は妖精、後者は魔女という超自然的存在の登場する作品ですが、喜劇と悲劇という異なったジャンルに属し、まったく性質の違う作品です。両作品を通してシェイクスピア作品の多様さをうかがい知ることでもできるでしょう。

**【授業における到達目標】**

シェイクスピアの作品についての理解を深めること、さらにそこから演劇全般へと関心を広げてゆくことを目標とします。また、全学ディプロマ・ポリシーのうち、「知を求め、心の美を育む態度」および「学修を通して自己成長する力」を身につけることを目標とします。

**【授業の内容】**

- 第1週 INTRODUCTION
- 第2週 シェイクスピアの生涯と作品
- 第3週 シェイクスピア時代の演劇と劇場
- 第4週 『夏の夜の夢』第1幕
- 第5週 『夏の夜の夢』第2幕
- 第6週 『夏の夜の夢』第3幕
- 第7週 『夏の夜の夢』第4幕
- 第8週 『夏の夜の夢』第5幕
- 第9週 中間まとめ
- 第10週 『マクベス』第1幕
- 第11週 『マクベス』第2幕
- 第12週 『マクベス』第3幕
- 第13週 『マクベス』第4幕
- 第14週 『マクベス』第5幕
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

授業範囲を予習し、作品の内容について自分なりに理解しておくこと。(学修時間 2時間)

**【事後学修】**

授業内容について復習し、理解を深めること。また不明な点は図書館等を利用して積極的に自分で調べること。(学修時間 2時間)

**【テキスト・教材】**

プリントを使用する。ただし、取り上げる作品については日本語訳を各自で入手してもらいたい。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

リアクション・ペーパー30%、期末試験70%で評価を行う。リアクション・ペーパーに対しては翌週以降にフィードバックを行う。

**【参考書】**

- 河合祥一郎『シェイクスピア 人生劇場の達人』
- 喜志哲雄『シェイクスピアのたくらみ』
- 小林章夫, 河合祥一郎編『シェイクスピア・ハンドブック』
- 高橋康也編『新装版 シェイクスピア・ハンドブック』
- 日本シェイクスピア協会編『新編 シェイクスピア案内』

**英語圏の詩**

詩のレトリックを学ぶ

島 高行

2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

ジョン・ダンとシェイクスピアの作品を中心に、英語圏の詩を学ぶ。特にメタファー、メトニミー等のレトリックが、それぞれの作品においてどのような役割を果たしているかに注目し、作品分析を行う。

またビートルズやポップ・ディランの歌詞なども同時に紹介し、詩に親しみ、レトリックが身近に感じられるような講義を行う。

**【授業における到達目標】**

詩の発想と表現の多様さを学ぶことにより、多様性を受容し、多角的な視点を以って世界に臨む態度を身につける。

また言葉によって表現された細やかな感情を詩を通して学ぶことで、美に対する意識を高めることを目標とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODクダクシヨン
- 第2週 喩えについて
- 第3週 メタファーと詩
- 第4週 メトニミーと詩
- 第5週 奇想と詩
- 第6週 逆説と詩
- 第7週 誇張法と詩
- 第8週 矛盾撞着語法と詩
- 第9週 象徴と詩
- 第10週 詩の形式 ソネット形式の歴史
- 第11週 詩の形式 ソネット形式の発展
- 第12週 詩の形式 韻律
- 第13週 詩の形式 形象詩
- 第14週 劇詩
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：授業で取り上げるテーマについて、事前に基礎的知識を学んでおくこと。週2時間。

事後学修：授業で紹介した詩を何度も音読すること、また同じ詩人のほかの作品も読んでみる。週2時間。

**【テキスト・教材】**

プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験80点、平常点（リアクションペーパー）20点。

リアクションペーパーによる質問については、次回の授業冒頭で答える。

**【参考書】**

授業時に指示する。

**【注意事項】**

詩のレトリックを学ぶことで、ものの見方が変わるような授業を目指しますので、積極的に学ぶ姿勢を求めます。

授業時の私語は厳禁。

遅刻の場合は、すぐに申し出ること。申告のあった時間を記録する。

**英語史 a**

—英語の起源から、ノルマン征服による中英語の始まりまで—

片見 彰夫

3年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

英語の辿った歴史を内面史・外面史の両観点から概観し、印欧語族に属する英語への通時的理解を深める。英語史aでは、古英語（450-1100年頃）について焦点を当てる。実際の古英語の文献を読むことも含めて、英語史前半について理解を深める。

英語学習の際に、goodの比較級がなぜbetterか、toothの複数形はどうしてteethなのかということが頭をよぎったことがあるだろう。さらに、独仏語と似た単語が英語に存在する理由について探ったことはないだろうか。本授業では英語史の知識を得ることによって、様々な文化的要因が言葉に影響を及ぼしていることを見出し、英語学習が一層多岐にわたるものになることを目指していく。

**【授業における到達目標】**

英語の時代区分について理解するとともに、古英語の音韻・語形・語彙・統語法について基礎的知識を得ることを到達目標とする。さらに、古英語の言語知識をもとに作品の一部を読解できるようにする。また、英語の歴史を知ることで、英文科学生としての専門性を高め、英語運用能力向上の礎とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス。英語史の概観
- 第2週 インド・ヨーロッパ語族
- 第3週 英語の成立と発達の背景
- 第4週 古英語の方言
- 第5週 アングロ・サクソン文学について（韻文）
- 第6週 アングロ・サクソン文学について（散文）
- 第7週 古英語の特徴1（名詞・代名詞）
- 第8週 古英語の特徴2（動詞）
- 第9週 古英語の特徴3（形容詞）
- 第10週 古英語の特徴4（副詞・前置詞・接続詞）
- 第11週 古英語の特徴5（冠詞）
- 第12週 Anglo-Saxon Chroniclesの言語（語彙中心）
- 第13週 Anglo-Saxon Chroniclesの言語（文体中心）
- 第14週 Beowulfの言語（語彙中心）
- 第15週 Beowulf（文体中心）全体のまとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】事前に指示する予習項目は、次回授業までに必ず目を通しておくことが必要である。また、次回授業で扱う項目について指定参考書等で確認しておくことが求められる。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業内容を復習し、配布課題を用いて理解を定着させておくことが必要である。適宜理解確認のための小テストを行うので事後学習で備えること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

Brigit Viney 著『The History of the English Language』（Oxford University Press、2008年）810円＋税  
ISBN：9780194233972

その他にハンドアウトを使用する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験60%、平常点（授業参加度・課題提出）40%で評価する。小テスト・課題については次回授業、試験については授業最終回でフィードバックを行う。

**【参考書】**

宇賀治正朋 著『英語史』（開拓社 2000年）  
児馬修 著『ファンダメンタル英語史』（ひつじ書房 1996年）

**【注意事項】**

履修を前提としませんが、後期「英語史b」と併せて受講することでより理解が深まります。

**英語史 b**

—中英語から近代英語まで。そして世界における様々な現代英語—

片見 彰夫

3年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

本授業では、中英語から始まり、近代、現代に至る英語の変遷と特徴を知ること为目标とする。通時的言語区分のうち、Chaucerが用いた英語として知られる中英語（1100-1500年頃）とShakespeareや『欽定訳聖書』で知られる初期近代英語（1500-1700年頃）について焦点を当てる。実際の中英語・初期近代英語の文献を読むことも含めて、英語史全体の流れについて理解を深める。同時に、それらの英語と現代英語を比較することで、英語の通時期的変化について理解を深める。

**【授業における到達目標】**

英語の時代区分について理解するとともに、中・近代英語の音韻・語形・語彙・統語法について基礎的知識を得ることを到達目標とする。さらに、中・近代英語の言語知識をもとに作品の一部を読解できるようにする。また、現代英語の形式を整え始めた中英語、印刷術の普及や大母音推移により、それを定着させていく近代英語の歴史を知ることで、英文科学生としての専門性を高め、英語運用能力向上の礎とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス。中・近代英語の特徴
- 第2週 中英語期の外面史と方言
- 第3週 外来語の流入
- 第4週 非人称構文の発達
- 第5週 関係代名詞の発達
- 第6週 『カンタベリ物語』を読む（総序）
- 第7週 近代英語期の外面史
- 第8章 大母音推移
- 第9章 助動詞doの発達
- 第10週 『ロメオとジュリエット』を読む
- 第11週 『欽定訳聖書』を読む1（ヨハネによる福音書抜粋）
- 第12週 『欽定訳聖書』を読む2（マタイによる福音書抜粋）
- 第12週 『高慢と偏見』を読む
- 第13週 世界の英語1（オーストラリア、ニュージーランド英語）
- 第14週 世界の英語2（アメリカ、カナダ英語）
- 第15週 現代の英語・全体のまとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】事前に指示する予習項目は、次回授業までに必ず目を通しておくことが必要である。また、次回授業で扱う項目について指定参考書等で確認しておくことが求められる。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業内容を復習し、配布課題を用いて理解を定着させておくことが必要である。適宜理解確認のための小テストを行うので事後学習で備えること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

Brigit Viney 著『The History of the English Language』（Oxford University Press、2008年）810円＋税  
ISBN：9780194233972

その他にハンドアウトを使用する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験60%、平常点（授業参加度・課題提出）40%で評価する。小テスト・課題については次回授業、試験については授業最終回でフィードバックを行う。

**【参考書】**

宇賀治正朋 著『英語史』（開拓社 2000年）  
児馬修 著『ファンダメンタル英語史』（ひつじ書房 1996年）

**【注意事項】**

履修を前提としませんが、後期「英語史a」と併せて受講することでより理解が深まります。

**英文入門セミナー**

—CAクラス・CBクラス・CCクラス・CDクラス・CEクラス—

(CA)植野 達郎(CB)大関 啓子(CC)佐々木 真理(CD)土屋 結城

(CE)村上 まどか

1年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

英文学科の専門科目への導入を目的とします。英文学科のカリキュラムの内容と4年生までの流れを理解し、英文学科の3分野に関する基本的な知識を学ぶことで、履修者各自がこの学科で何を学びたいのか、4年間の学びの目標を立てることを目指します。合わせて専門科目の授業において必要となる、異文化理解力、論理的思考力、情報収集・分析力、情報発信力の向上を目標とします。

**【授業における到達目標】**

英文学科の3分野に関する基本的な知識を学ぶことで、国際感覚を身につけて、世界に踏み出し社会を動かそうとする態度を育みます。また、自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる協働力と、現状を正しく把握し、課題を発見できる行動力を養います。

**【授業の内容】**

- 第1週 イントロダクション 授業の進め方と成績評価について
- 第2週 英文学科の3分野—合同講義 イギリス文学・文化
- 第3週 英文学科の3分野—演習1 イギリス文学・文化
- 第4週 英文学科の3分野—演習2 イギリス文学・文化
- 第5週 英文学科の3分野—合同講義 アメリカ文学・文化
- 第6週 英文学科の3分野—演習1 アメリカ文学・文化
- 第7週 英文学科の3分野—演習2 アメリカ文学・文化
- 第8週 英文学科の3分野—合同講義 英語学
- 第9週 英文学科の3分野—演習1 英語学
- 第10週 英文学科の3分野—演習2 英語学、プレゼンテーション準備
- 第11週 プレゼンテーション1
- 第12週 プレゼンテーション2
- 第13週 プレゼンテーション3
- 第14週 プレゼンテーション4、まとめ
- 第15週 ITPテスト

※「プレゼンテーション1～4」はクラスの中でグループを作り、各週ごとに別々のグループがプレゼンテーションを行う。

**【事前・事後学修】**

【事前学修】演習回の授業では、前もってマテリアルを十分に読んでいることを前提に、学生個人個人の考えを発表してもらいます。プレゼンテーションの準備では、授業時間外に学生間で自発的に相談や準備をしてもらうことが必須です。能動的な自己学習を心がけましょう。（学修時間、週2時間）

【事後学修】演習の内容やプレゼンの内容に基づいて、中間・期末課題が課されます。授業後は関連文献を探すなど、課題作成に向けて準備しましょう。（学修時間、週2時間）

**【テキスト・教材】**

必要に応じてプリントや資料を配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業参加、プレゼンテーション、コメント用紙）50点、課題50点。フィードバックは課題返却時およびプレゼンテーション終了時に行う。

**【注意事項】**

演習形式が中心となりますので、積極的に授業に参加して下さい。2年時以降の、ひいては卒論で取り組む研究領域の選択の出発点であることを常に意識して授業に臨んで下さい。

## 英米言語文化論A

萩野 敏

1・2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探求

## 【授業のテーマ】

言語と文化は密接に関わりあっています。ある特定の言語を理解するためには、その背景にある文化の知識が不可欠です。また言語を媒介にして成立しているさまざまな文化形態があります。この講義では、英語ということばの世界の言語文化を「ことばと意味」の関係を手がかりにして、いくつかの観点から紹介します。

## 【授業における到達目標】

ことばの意味とは何か、ということから考え始め、日本語とは大きく異なる英語という言語のことばと文化に関する知識の一端を身につけ、ことばと関わる面での異文化理解を深めることを目標としています。また、知を探求し、心の美を育む態度や国際的視野を身につけるとともに、学修を通して自己成長する力（研鑽力）を養うことを目指しています。

## 【授業の内容】

1. 言語文化論とは
2. ことばと文化（1）：記号と指示物
3. ことばと文化（2）：呼称のずれ
4. ことばと文化（3）：言語相対論
5. 日英語彙構造の比較（1）：対応関係の型
6. 日英語彙構造の比較（2）：1対多の対応
7. 日英語彙構造の比較（3）：多対多の対応
8. 日本語になった英語（1）：外来語と借用語
9. 日本語になった英語（2）：意味のずれ
10. ふり返りと評価のための確認（1）
11. 英語の比喩表現（1）：比喩の分類
12. 英語の比喩表現（2）：空間のメトニミー
13. 英語の比喩表現（3）：時間のメトニミー
14. ふり返りと評価のための確認（2）
15. 全体のまとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】教室での指示にしたがって、事前配布資料の該当箇所に記述された内容をよく読んでください。（週1時間以上）

【事後学修】復習がきわめて重要です。必ず配布資料や各自のノートを使って、講義内容の復習を毎回しっかりと行い、知識の定着をはかってください。（週3時間以上）

## 【テキスト・教材】

特定のテキストは使用しません。

資料を配付します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

筆記試験形式の定期試験は行わず、授業中の小テスト（2回）とレポートを課す予定です。

成績は、小テスト（60%）、レポート（30%）、平常点（授業態度と参加状況）（10%）による総合評価です。

各小テスト後、レポート提出時、および最終授業時にフィードバックを行う予定です。

## 英米言語文化論B

萩野 敏

1・2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探求

## 【授業のテーマ】

言語と文化は密接に関わりあっています。ある特定の言語を理解するためには、その背景にある文化の知識が不可欠です。また言語を媒介にして成立しているさまざまな文化形態があります。この講義では、英語ということばの世界の言語文化を、「色や数を表す英語」と「英語のことば遊び」に関する話題を中心にいくつかの観点から紹介します。

## 【授業における到達目標】

前半では色や数字といった人の生活に大きく関わる部分での英語の表現方法を学ぶこと、後半では英語のことば遊びの世界の様々な事例を学ぶことによって、日本語とは大きく異なる英語という言語のことばと文化に関する知識の一端を身につけ、ことばと関わる面での異文化理解を深めることを目標としています。また、知を探求し、心の美を育む態度や国際的視野を身につけるとともに、学修を通して自己成長する力（研鑽力）を養うことを目指しています。

## 【授業の内容】

1. 言語文化論とは
2. 色彩語（1）：基本色彩語
3. 色彩語（2）：色のイメージ
4. 生活文化の英語（1）：数字
5. 生活文化の英語（2）：数と量
6. 言語と非言語
7. ふり返りと評価のための確認（1）
8. ことば遊び入門
9. 英語のことば遊び（1）：ことば遊びのレトリック
10. 英語のことば遊び（2）：riddleほか
11. 英語のことば遊び（3）：anagramほか
12. 英語のことば遊び（4）：knock, knockほか
13. ふり返りと評価のための確認（2）
14. 英語帝国主義
15. 全体のまとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】教室での指示にしたがって、事前配布資料の該当箇所に記述された内容をよく読んでください。（週1時間以上）

【事後学修】復習がきわめて重要です。必ず配布資料や各自のノートを使って、講義内容の復習を毎回しっかりと行い、知識の定着をはかってください。（週3時間以上）

## 【テキスト・教材】

特定のテキストは使用しません。

資料を配付します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

筆記試験形式の定期試験は行わず、授業中の小テスト（2回）とレポートを課す予定です。

成績は、小テスト（60%）、レポート（30%）、授業への参加状況などの平常点（10%）による総合評価です。

各小テスト後、レポート提出時、および最終授業時にフィードバックを行う予定です。

**演習 I****学科専任教員**

1年 後期 2単位

◎：行動力 ○：協働力

**【授業のテーマ】**

前期の「実践入門セミナー」での学びを基盤にして、大学での学びの方法（スキル）の向上を目指します。演習では、課題の発見→資料・データの収集と分析→発表→討論→レポート作成という学習過程を通して、行動力・思考力・分析力・プレゼンテーション力を磨きます。

**【授業における到達目標】**

「課題発見→資料・データの収集と分析→発表→討論→レポート作成」という一連の行動の習慣化と、それを通じて磨かれる思考力・分析力・プレゼンテーション力の向上を目標とする。併せて、個人でも協働でも物事を勧められる能力を養成する。

**【授業の内容】**

教員によって順序および内容は異なる場合があります。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 レポート作成の基本ルールの学習
- 第3回 レポートテーマの決定
- 第4回 レポートのアウトライン作成
- 第5回 専門的な資料・データの収集
- 第6回 資料・データの分析
- 第7回 レポートテーマの展開方法の検討
- 第8回 理論的な思考の学習
- 第9回 レポート文章の推敲
- 第10回 説得力のあるハンドアウト資料の作成
- 第11回 プレゼンテーションの準備
- 第12回 プレゼンテーション
- 第13回 ディベートの方法の学習
- 第14回 ディベート
- 第15回 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：開講の際に際して、各担当教員から説明があります。

事後学修：開講の際に際して、各担当教員から説明があります。

※学修時間は、週4時間程度。

**【テキスト・教材】**

開講の際に際して、各担当教員から説明があります。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

発表・質問、課題提出などの平常点と（50%）、レポートおよびそのプレゼンテーション（50%）によって総合的に評価します。フィードバックの仕方は各担当教員によりますが、基本は教場やmanabaで行います。

**【参考書】**

テーマに関連する参考文献を適宜紹介します。

**【注意事項】**

演習（ゼミ）は学生自らが主体的に参加し、他の学生とも協働することによって、行動力や論理的な思考力、プレゼンテーション能力を身につける場です。積極的に行動し、自分の意見や疑問を発信してください。

**演習 II A****学科専任教員**

2年 前期 2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

大学生生活とその後の社会生活で必要となるスキルや学び続ける研鑽力を身につけることを目的とします。さらに、与えられた課題だけでなく自ら課題を発見し、解決のために資料・データを収集して分析する行動力を育成し、グループワークを通して協働することの重要性も学びます。

**【授業における到達目標】**

1年生の演習で学んだ「読み、書き、聞き、話す」の基礎的な能力をさらに伸ばし、3年生からの専門的な学習に円滑に移行できるレベルに到達することを目標とします。

**【授業の内容】**

教員によって、順序及び内容が異なる場合があります。

- 第1週 ガイダンス
- 第2週から第14週までは、原則的に学生の発表、質疑応答、討論という形で、学生が主体となって授業が進みますが、その間に以下のような内容の授業を実施します。
  - 2 テーマの選定
  - 3 文献資料の種類
  - 4 文献資料の収集
  - 5 文献資料の要約とまとめ
  - 6 データの収集と分析
  - 7 図表の読み方と作成
  - 8 レポートの作成
  - 9 発表用ハンドアウト資料の作成
  - 10 プレゼンテーションの方法
  - 11 発表の聞き方と質疑応答の方法
  - 12 ディスカッションとディベート
  - 13 教養科目と専門科目
  - 14 レポートと論文
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：レポート、発表、議論等の準備や、指示された課題に取り組むこと。学修時間 週2時間程度。

事後学修：専門用語の確認や、授業で扱った内容の見直しなどの復習をすること。学修時間 週2時間程度。

**【テキスト・教材】**

1年次に配布された「アカデミックスキルハンドブック」を適時参照してください。具体的には、必要に応じて担当教員が指示します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（演習中の発言・積極的な参加）50%、発表やレポート50%。

演習に対する取り組み方（態度）、発表やレポートなどの課題に対して、適時担当教員からコメントやフィードバックが行われます。

**【参考書】**

必要に応じて、担当教員から紹介されます。

**【注意事項】**

大学・学部・学科からの連絡事項を授業内でお知らせします。欠席する場合は担当教員に事前にメール等で知らせてください。人間社会学科、現代社会学科ごとに、自動的にクラス編成を行います。

**演習ⅡB****学科専任教員**

2年 後期 2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

演習ⅡAに続いて、3年生からの専門的な学修とその後の社会生活で必要となる学びのスキルや学び続ける研鑽力を身につけることを目的とします。さらに、与えられた課題だけでなく自ら課題を発見し、解決のために資料・データを収集して分析する行動力、グループワークを通して協働する力の育成を目指します。

**【授業における到達目標】**

これまでの演習で学んだ「読み、書き、聞き、話す」の基礎的な能力を、担当教員を演習ⅡAと変えてさらに磨き、より高度な学びのスキルを身に付けることが目標です。

**【授業の内容】**

教員によって、順序及び内容が異なる場合があります。

第1週 ガイダンス

第2週から第14週までは、原則的に学生の発表、質疑応答、討論という形で、学生が主体となって授業が進みますが、その間に以下のような内容の授業を実施します。

- 2 テーマの選定
- 3 文献資料の種類
- 4 文献資料の収集
- 5 文献資料の要約とまとめ
- 6 データの収集と分析
- 7 図表の読み方と作成
- 8 レポートの作成
- 9 発表用ハンドアウト資料の作成
- 10 プレゼンテーションの方法
- 11 発表の聞き方と質疑応答の方法
- 12 ディスカッションとディベート
- 13 教養科目と専門科目
- 14 レポートと論文

第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：レポート、発表、議論等の準備や、指示された課題に取り組むこと。学修時間 週2時間程度。

事後学修：専門用語の確認や、授業で扱った内容の見直しなどの復習をすること。学修時間 週2時間程度。

**【テキスト・教材】**

1年次に配布された「アカデミックスキルハンドブック」を適時参照してください。具体的には、必要に応じて担当教員が指示します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（演習中の発言・積極的な参加）50%、発表やレポート50%。

演習に対する取り組み方（態度）、発表やレポートなどの課題に対して、適時担当教員からコメントやフィードバックが行われます。

**【参考書】**

必要に応じて、担当教員から紹介されます。

**【注意事項】**

大学・学部・学科からの連絡事項を授業内でお知らせします。欠席する場合は担当教員に事前にメール等で知らせてください。人間社会学科、現代社会学科ごとに、自動的にクラス編成を行います。

**演習ⅢA・ⅢB****篠崎 香織**

3年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

本演習では、戦略と組織の観点から理論と実践を学習することを通して、自らのめりこめるテーマを設定し、仮説の設定、検証のプロセスを経て問題解決の糸口を見出すことを目指します。その際、文献レビュー、業界分析、企業への調査、ディスカッション等を積極的に行います。グループワークから協働する意義を体感するとともに、個人でも問題解決に取り組める能力の養成を図ります。

**【授業における到達目標】**

基本的な経営学の理論枠組みを理解し活用した卒業論文の基本構想の設計を目標とします。その際、自ら目標管理を行い、計画を立てる・実行できる能力の養成も図ります。

**【授業の内容】****【前期】**

- 第1週 ガイダンス（進め方とルール）
- 第2週 輪読（経営とは？）
- 第3週 輪読（組織の存続に向けて）
- 第4週 輪読（競争戦略）
- 第5週 輪読（全社戦略）
- 第6週 輪読（機能戦略）
- 第5週 戦略に関するまとめ
- 第6週 輪読（組織とは？）
- 第7週 輪読（様々な組織）
- 第8週 輪読（組織力）
- 第9週 組織に関するまとめ
- 第10週 輪読（経営管理とは？）
- 第11週 輪読（マネジメントの階層）
- 第12週 輪読（分化と統合）
- 第13週 個人研究に関する発表（A班：5人）
- 第14週 個人研究に関する発表（B班：5人）
- 第15週 個人研究に関する発表（C班：4人）

**【後期】**

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 個人研究に関する情報収集とテーマ設定
- 第3週～第4週 個人研究に関する問題意識の発表
- 第5週 先行研究探し
- 第6週 先行研究のレビュー
- 第5週 問題意識の整理
- 第6週 仮説の探索と研究方法の検討
- 第7週 中間報告
- 第8週 調査の実施
- 第9週～第13週 学外コンペ準備から提出資料作成まで
- 第14週 調査のまとめ
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

【事前学修】前期は輪読ですので、該当箇所を予め読み、内容を理解しておきましょう。後期は主に個人のテーマで研究を進めていくことになるので、論文を探す、読む、仮説を立てる等、どんどん進めて演習に参加してください。

【事後学修】前期は経営学の基本概念を理解し使えるように輪読の復習をしっかり行ってください。後期は、次の演習までに何をすべきかを自らやるべきことを設定し、準備をしましょう。

※学修時間は、週4時間程度。

**【テキスト・教材】**

事前に提示します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

成績はゼミへの取り組み（口頭発表40%、ゼミレポート40%、ゼミ運営およびゼミへの積極的参加等20%）で決定します。



フィードバックは、教場にコメントやディスカッションを通して随時行い、場合によってmanabaを使うこともあります。

#### 【参考書】

必要に応じて適宜指示します。

#### 【注意事項】

前後期を通じてグループで調査をします（問題意識の設定→質問票の作成→調査→分析→報告書作成）。調査のテーマに困らないよう日頃から色々なことに関心をもって生活し、自ら進んで行動しましょう。

### 演習ⅢA・ⅢB

高木 裕子

3年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

#### 【授業のテーマ】

授業は2つのテーマから進めます。①「コミュニケーション」を中心に、それに係わる事象や問題、課題について考えます。最先端の諸理論やその周辺にある学術的な研究経過を踏まえながら、そこで起きている問題や課題、また、それら現象や事象の背景にあるものが何であるかを探ります。②「コミュニケーション」という現象やその本質を、多角的かつ多方面から考えることを通じて、例えば、人間の心や社会のあり方、人間の価値観や文化の違いといったものに考えに関心を向けていきます。併せて、言語を通じた人間のコミュニケーションのあり方を、心理作用や社会現象と絡めながら考えていきます。前期ⅢAでは、上記を踏まえ、研究論文テーマを絞り、将来に向けた自身の方向性も考えます。研究論文テーマの探し方だけでなく、論文の書き方も学びます。また、ディスカッションや発表（自分の意見を述べる）という力を養いながら、その学びを通して、研究ののびがりと深みを目指します。後期ⅢBでは、いざ突進です。各自の論文テーマに沿って、論文を書き始めてください。

#### 【授業における到達目標】

学術論文やデータを多用した先行資料等が正しく読み取れ、かつ、批判的に論文内容が読み解けるまで、そのための読解力を付けさせます。また、卒業研究に先立ち、問題意識がどのように出され、それをどのように問題設定か研究課題としていくのか、その方法を身に付けさせます。

#### 【授業の内容】

前期ⅢA 頭の中を整理してみよう

1. 頭の中を整理してみよう（研究論文テーマのレジюме作成）
2. 興味や関心のあることを発表してみよう（質疑応答）
3. なぜそれに興味や関心があるのか述べてみよう（意見交換）
4. その背景にあるものを文献で調べてみよう 言語と言語に係わる事象について考えよう
- 5と6. 理論研究と調査①②
- 7と8. 理論研究と（実験を含む）調査 言語と人間社会の中のコミュニケーションのあり方について考えてみよう
- 9～11. 言語現象と理論研究
12. 社会現象と理論研究 頭の中をまとめてみよう
13. 研究テーマ探し 14. 自分探し
15. 後期に向けた方向性を見定め

後期ⅢB 考えたこと、やったことを述べてみよう

- 1～4. 個々の研究テーマと学問体系の中での各種理論や考え方との関係性を考えてみよう
- 5と6. 学問と個々の研究テーマとの整合性
7. 事実の検証方法① 8. 事実の検証方法②
9. 仮説と検証① 10. 仮説と検証② さあ、書いてみよう
11. 論文の書き方 12. 論文のまとめ方行動キャリアプラン
13. 女性として生きること 14. 女性として考えること
15. 時間と空間の使い方

#### 【事前・事後学修】

【事前学修】課題図書や指定論文は必ず読み、内容をよく理解しておくこと。課題図書等は各章毎に担当者を決め、その要約か内容がレジюмеと共に発表できるようにしておく。それをもって、全体でディスカッション、フィードバックできるようにします（週2時間）。

【事後学修】その都度、まとめを行い、再構成した上で、レポートとして提出。修正が必要になった場合は、次回までにそれを提出（週2時間）。

#### 【テキスト・教材】

テキスト等は適宜紹介するが、基本的には上記【事前学修】【事後学修】に係わるもの以外はこちらで準備します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

発表やディスカッション20%、調査を含む各種活動報告30%、課題レポート20%、最終レポート30%。フィードバックは毎回、行う。

**【参考書】**

適宜授業の中で紹介します。

**【注意事項】**

授業内で伝えられるものには限りがあります。ですから、授業内外の資源をフルに使い、また、学外の人たちとも助け合いながら行ってください。授業と大学内外のヒトやモノを有機的に結び、使い、学ぶが基本です。深く考え、行動力が付くのがゼミです。調査研究や実習、実践は多くします。頭はしっかり、フットワークは軽く、精神面ではゆったりとです。

**演習ⅢA・ⅢB**

異文化コミュニケーションゼミ

阿佐美 敦子

3年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

異文化との接触が避けられない今日、価値観を異にする人々の思想・行動を理解しようと努める態度が求められています。貴女という人間の土台である自文化を知り、他文化を知り、想像力を存分に働かせ、他者の心情に共感できる柔軟性をはぐくみます。国際交流が今にも増して盛んになることが必須の将来、多文化社会にあって円滑なコミュニケーションをはかれる人材の育成を目指します。

より優れたチームプレーヤーに成長できるよう、仲間とコミュニケーションをはかる中で、共に研鑽し、共に行動し、協働力を高めていきます。

**【授業における到達目標】**

多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度、国際感覚を身につけて、世界に踏み出し社会を動かそうとする態度、さらには自文化を知り、世界に発信しようとする態度を養います。地域を問わず、できるだけ様々な国・地域の人々と直に交流し、コミュニケーション能力を育てます。

**【授業の内容】**

演習は「各自が主役の国際交流」です。ゼミ生全員が未来の「民間大使」を目指すのですから、貴女のアンテナを世界中に張り巡らせ、他者理解と自己表現の訓練を重ねます。

ⅢA・Bを通して、以下のように演習を進めます。

**①自文化の理解**

普段、当たり前に接している日本という国に属する事象について、他者に説明するに足る知識と能力を養う。

**②多文化の理解**

「一年で世界一周」を目標に、世界の国々をそれぞれの文化的特徴からグループ分けし、世界各地に暮らす人々について多面的な知識を得る。各回の担当者は十分な準備の上で当該国・地域に関する発表を行うとともに、発表後の討議においても司会進行としてふさわしい役を務めることとする。

**③異文化交流体験**

複数の文化圏から来日された方々との、膝を交えての文化紹介・意見交換の場を体験する他、海外の大学との現地交流によって、異文化接触の経験を積むと同時に自己表現力を養う。また日本文化紹介に際し、各ゼミ生の特技を活かして茶道、華道、書道、舞踊の伝統文化や現代文化の披露等をおこなう。

第1週 ガイダンス 第2週 フィールドワーク

第3週 フィールドワーク 第4週 ゲスト交流

第5週 グループ・プレゼンテーション 第6週 グループ・プレゼンテーション

第7週 グループ・プレゼンテーション 第8週 ゲスト交流

第9週 ゲスト交流 第10週 グループ・プレゼンテーション

第11週 グループ・プレゼンテーション 第12週 グループ・プレゼンテーション

第13週 ゲスト交流 第14週 対外プレゼン準備

第15週 対外プレゼン準備

**【事前・事後学修】**

事前学修として、担当教員から示された翌週の授業内容について、自ら関連する文献等を調べ、受講に際して必要となる基礎的、背景的事象の知識を得ておくように努めてください。学修時間 2時間

事後学修として、授業内容に関する理解を深めるため、自身で周辺の情報を集め、新たな角度から日本を含む世界各地の文化を知る努力、体験する努力をしてください。学修時間 2時間

**【テキスト・教材】**

適宜、プリント等を配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

受講態度(40%)、口頭発表(40%)、レポート(20%)の総合評価とします。プレゼンについては発表後に、課題については提出後、翌週の授業時にフィードバックを行います。

**【参考書】**

適宜、紹介します。

**【注意事項】**

受講生の講読・発表・討議が演習の要ですので、担当者にあたる場合はもちろんのこと、討議に参加できるよう常に問題意識をもって世界と日本を見つめる努力をしてください。演習ⅢA・Bを通じて自身の卒論のテーマを模索し、下準備を完全にして4年生に進みましよう。

また、複数の校外実習が実施されることも予め、承知しておいてください。

さらに、コミュニケーション・ツールとして必須の英語力向上にも努力をお願いします。

**演習ⅢA・ⅢB**

粟津 俊二

3年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

4年次の卒業論文作成の準備として、各自の興味にそった心理学的問題の発見、心理学的知識の習得、科学的（データ重視）な思考の訓練を行います。

**【授業における到達目標】**

議論の前提となる基礎的な知識を修得し、あわせて自らの興味にそって専門的な知識や態度を伸ばしていくことを目的とします。これを通して、新たな知を創造しようとする態度や、生涯にわたり学修を続ける自己研鑽力、課題解決のために主体的に行動する行動力、他者と協働する力の育成を目指します。

**【授業の内容】****ⅢA**

今後の議論の土台となるゼミ生共通の知識を作ることを目的とする。詳細なテーマは、各学生の興味と相談して決めるが、およその内容は以下の通りである。

1. ガイダンス 2. 文献資料の探し方 3. 担当文献の決定
4. 学術論文の読み方 5. 複数の情報の整理 6. 研究テーマの設定
7. 仮説の設定 8. 発表の方法 9. 質疑の方法
10. 討議の仕方 11. 論証の仕方 12. 文献紹介
13. 調査・実験の方法 14. 分析の方法 15. まとめ

**ⅢB**

各自の興味を深め、卒業論文のテーマを固めてゆくと同時に、心理学的知識の拡充を目的とする。各自の興味にそって、各自最低2回の発表を行って貰い、その内容についての発表、議論を行う。各自のテーマによって内容は異なるが、およその授業内容は以下の通りである。

1. ガイダンス 2. 問題の設定 3. 辞書レベルの調査
4. 先行研究探索 5. よむべき文献の選択 6. 仮説の生成
7. 先行研究の紹介 8. 先行研究の批判 9. 先行研究の整理
10. 問題の絞り込み 11. 仮説の絞り込み 12. 心的モデルの考案
13. 実験、調査方法の考案 14. 予備実験、予備調査 15. まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：指定した文献の読解や、発表の準備等をして下さい（学修時間 2時間程度）。

事後学修：授業内で話した内容、聞いた内容をノートにまとめ、ネット上のグループウェアに上げて下さい。また、授業中に出た専門用語等を調べ、よく確認して下さい（学修時間 2時間程度）。

**【テキスト・教材】**

指定しない。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

ゼミでの発表（30%）、参加態度・他の学生への貢献度（40%）、レポート（30%）を評価します。なお、発表あるいは質問・コメントをもって、出席とします。

授業への参加態度や発表については、その都度コメントし、フィードバックを行います。レポートについては、後日のグループウェア、メール、次学期の授業等でフィードバックを行います。

**【参考書】**

適時、紹介します。

**演習ⅢA・ⅢB**

都市と地域の社会学

原田 謙

3年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

ゼミのテーマは、都心の再開発、中心市街地の衰退と再生、歴史的町並みの観光、ニュータウンの再生、創造都市などの「まちづくり」を考えることである。ゼミは、都市と地域の社会学に関する「基本文献の輪読」と「個別テーマ報告」を並行して行う。

**【授業における到達目標】**

到達目標は、具体的なフィールド（地域）におけるまちづくりの個別テーマを設定し、自分で調べる技術（写真、地図分析、聞き取り調査、統計データの分析など）を修得するとともに、各種データにもとづく問題点の整理、自分なりの問題提起を報告できるようにすることである。ゼミを通じて自己成長する「研鑽力」を培い、地域社会の現状を正しく把握し問題解決につなげる「行動力」、メンバーが互いに協力して調査を進める「協働力」を育む。

**【授業の内容】**

前期

1. イントロダクション
  2. 研究テーマの設定：問題関心の深め方
  3. 文献の輪読・報告（1）
  4. 文献の輪読・報告（2）
  5. 文献の輪読・報告（3）
  6. 文献の輪読・報告（4）
  7. 文献の輪読・報告（5）
- 3～7は、指定文献を用いて全国のまちづくりの事例を知り、その歴史と鍵となる諸概念を学習する。
8. 資料検索の方法
  9. 個別フィールド報告（1）
  10. 個別フィールド報告（2）
  11. 個別フィールド報告（3）
  12. 個別フィールド報告（4）
  13. 個別フィールド報告（5）
  14. 個別フィールド報告（6）
- 9～14は、各自とりあげるフィールド（自治体等）の現状分析を行い、夏休みの事例研究計画を報告する。
15. まとめ

後期

1. イントロダクション
  2. ディベート
  3. 事例研究報告（1）
  4. 事例研究報告（2）
  5. 事例研究報告（3）
- 3～5は夏休みに実施した事例研究の結果を報告する。
6. 文献の輪読・報告（1）
  7. 文献の輪読・報告（2）
  8. 文献の輪読・報告（3）
  9. 文献の輪読・報告（4）
- 6～9は、「都市と地域の社会学」に関する理論と実証研究について学ぶ。
10. 個別テーマ報告（1）
  11. 個別テーマ報告（2）
  12. 個別テーマ報告（3）
  13. 個別テーマ報告（4）
  14. 個別テーマ報告（5）
- 10～14は、ゼミ論文の執筆を見据えて、先行研究のビュー、現状分析の再検討、比較事例の検討、具体的な政策提言などを報告する。
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】授業前に、参考書等を用いて該当箇所を予習しておくこと（週2時間）。

【事後学修】授業後に、学習した専門用語や事例などを復習しておくこと（週2時間）。

**【テキスト・教材】**

演習で用いる文献等は適宜指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

口頭発表・討論などの平常点（50％）に、レポート評価（50％）を加えて総合評価する。レポート評価のフィードバックは、manabaなどで行う。

**【参考書】**

松本康編『都市社会学・入門』（有斐閣、2014年）

中筋直哉・五十嵐泰正『よくわかる都市社会学』（ミネルヴァ書房、2013年）

佐々木一成『地域ブランドと魅力あるまちづくり』（学芸出版社、2011年）

**【注意事項】**

「地域社会学」を履修すること。

**演習ⅢA・ⅢB**

子どもと家族の社会学Ⅰ

広井 多鶴子

3年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

8月末に3年ゼミで合宿を行なう。

9月半ばに3年、4年合同で卒論中間発表会を行なう。

「家族社会学」「人間形成論」「教育社会学」のいずれかの授業を履修すること。

**【授業のテーマ】**

この演習テーマは「子どもと家族の社会学」である。子ども・若者・家族・子育て・学校・教育を主な対象としている。

演習ⅢAの目標は、卒業論文を作成するための方法を習得することである。具体的には、テーマの見つけ方、先行研究と資料収集の方法、論文の構成、文章の書き方、プレゼンテーションの方法などを学ぶ。

演習ⅢBでは、卒業論文の作成に向けて、各自準備を進める。それぞれがテーマを選び、そのテーマに関する先行研究を読み、資料を収集、分析し、その成果をまとめて発表する。

**【授業における到達目標】**

データや資料を収集・分析し、自分なりの課題やテーマを見出すことができるようにする。それによって、知を探求する態度を身につける。

**【授業の内容】**

## 演習ⅢA

第1週	オリエンテーション	第2週	テーマを考える
第3週	先行研究の収集方法	第4週	先行研究を読む
第5週	資料の収集方法	第6週	資料を収集する
第7週	資料を分析する	第8週	文章表現を学ぶ
第9週	構成の案を作る	第10週	構成をまとめる
第11週	プレゼンテーション①		
第12週	プレゼンテーション②		
第13週	プレゼンテーション③		
第14週	プレゼンテーション④		
第15週	レポート提出		

\*プレゼンテーション①～④は各担当者がそれぞれ発表

## 演習ⅢB

第1週	研究の目的
第2週	研究のテーマ
第3週	先行研究を収集する
第4週	先行研究を読む
第5週	研究方法を学ぶ：調査研究
第6週	研究方法を学ぶ：文献研究
第7週	データを収集する
第8週	データを収集する
第9週	構成案を作る
第10週	構成をまとめる
第11週	卒論の構想①
第12週	卒論の構想②
第13週	卒論の構想③
第14週	卒論の構想④
第15週	卒論の構想⑤

\*卒論の構想①～⑤は、各担当者がそれぞれ自分の構想を発表

**【事前・事後学修】**

【事前学修】授業で指定のする文献や資料を読む。2時間

【事後学修】自分の研究テーマについて、先行研究や資料を収集し、分析する。2時間

**【テキスト・教材】**

小笠原喜康著『大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書 2003年）714円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート50%、発表、課題提出など、授業への取り組み50%  
フィードバックはそのつど行う。

**【参考書】**

荻谷剛彦著『知的複眼的思考法』（講談社α文庫 2002年）924円

**【注意事項】**

## 演習ⅢA・ⅢB

谷内 篤博

3年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

企業は人なりという言葉をよく耳にしますが、その意味するところは企業の存在意義やその良し悪しはそこで働く人々の能力やモチベーションで決まるということを指しています。まさに、企業格差は人材格差で決まるといわれる所以である。

本講義では、こうした企業にとって重要な資源である人材に対する育成のあり方を最新の理論や先進的事例などを踏まえて、わかりやすくかつ具体的に解説をします。

なお、教育訓練技法に関する講義の部分では、企業などで使用されている教育メソッドを実際に使った体験学習を試みたいと考えています。

## 【授業における到達目標】

本講義を通して学生の皆さんは企業における人材育成の実際について理解を深めるとともに、企業の人材に対する考え方や理念といったものまで理解できるようになります。こうして修得した知識は4年生の就職活動において実際に企業選択を行う際に、人材を重要な経営資源として扱う企業であるかどうかを見極めることに大きく役に立ちます。これは本学の本質や真理を探究する態度の修得につながります。

また、ゼミでの研究活動は、全員での共同論文（ゼミ論）の執筆が中心となるため、協働力および行動力が身につくと同時に、質の高い論文完成に向け、自己研鑽力が修得できる。

## 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション（企業内教育の動向）
- 第2週 教育訓練/能力開発の歴史の変遷
- 第3週 能力開発の体系
- 第4週 職場内訓練とコーチング
- 第5週 集合教育の特徴と内容
- 第6週 管理職の能力開発
- 第7週 営業職の能力開発
- 第8週 自己啓発の内容と展開の仕方
- 第9週 組織開発とリーダーシップ
- 第10週 長期的/系統的人材育成とキャリア形成
- 第11週 教育担当者の役割
- 第12週 教育訓練技法
- 第13週 教育効果の測定と分析
- 第14週 企業内教育の課題と今後の展望
- 第15週 プロフェッショナル/次世代リーダーの育成

## 【事前・事後学修】

事前学修：講義テーマに関する情報や知識をサーベイする（週2時間）

事後学修：講義の振り返りとノートによるまとめ（知の体系化作業）週2時間

## 【テキスト・教材】

谷内篤博『個性を人材マネジメントー近未来型人事革新のシナリオー』（勁草書房、2016年）2700円

谷内篤博『働く意味とキャリア形成』（勁草書房、2007年）2200円

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価は、試験80%とレポート20%で評価します。

レポートのフィードバックは、優れたレポート作成者を発表するとともに、学生全体にレポートの全体的特徴（良かった点、工夫すべき点）をわかりやすく解説をします。

## 【参考書】

中原淳『職場内学習論』東京大学出版会、2010年

## 【注意事項】

本講義は質的連続性が強いいため、休まずに授業に出席することを強く望みます。

## 演習ⅢA・ⅢB

ジェンダーと労働の社会学

山根 純佳

3年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

文献講読と研究報告、フィールドワークの3本立てですすめていきます。

前期は、ジェンダーや労働をテーマにした専門書の2冊の講読とおして、仮説の提示の仕方、データの扱い方、先行研究に対する批判的検討、持論の展開の仕方など研究の形式を学びます。最終3回は各自の研究テーマについて報告をおこない、夏季合宿では研究テーマに関連する文献3冊の報告と研究課題と方法論について報告します。

後期は、各自の関心にしたがった文献の検討と自らの研究課題をまとめた研究テーマ報告をおこないます。並行して自らの研究内容の要約を1600字程度でまとめ報告、検討し、卒業研究の土台づくりを進めます。

## 【授業における到達目標】

- 1) 主に労働や福祉とジェンダーに関する近年の研究の動向や社会の流れを把握したうえで、自らの研究課題を設定し、卒業論文完成に向けた論文執筆技術を獲得する。
- 2) 学ぶ愉しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることができる「研鑽力」を獲得する。
- 3) 目標を設定して、計画を立案・実行できる「行動力」を獲得する。
- 4) 互いを尊重し信頼を醸成して、豊かな人間関係を構築する「協働力」を獲得する。

## 【授業の内容】

前期

- 第1週 ガイダンスと今期の計画
- 第2週 ゼミでの学びと論文の書き方
- 第3週 文献Ⅰの講読①（問いの発見）
- 第4週 文献Ⅰの講読②（質的データから読み解く）
- 第5週 文献Ⅰの講読③（研究の意義を理解する）
- 第6週 文献Ⅰの講読④（論証の妥当性を検討する）
- 第7週 文献Ⅱの講読①（問いの発見）
- 第8週 文献Ⅱの講読②（先行研究の位置づけ）
- 第9週 文献Ⅱの講読③（統計的データの読み方）
- 第10週 文献Ⅱの講読④（統計的データから考える）
- 第11週 文献Ⅱの講読⑤（論証の妥当性を検討する）
- 第12週 フィールドワーク（ゼミ合宿）
- 第13週 研究テーマの設定
- 第14週 研究テーマの報告
- 第15週 研究内容の要約の検討

後期

- 第1週 ガイダンスと今期の計画
- 第2週 卒業論文の書き方
- 第3週 研究報告：先行研究レビュー（問いの発見）
- 第4週 研究報告：先行研究レビュー（データから読み解く）
- 第5週 研究報告：先行研究レビュー（研究の意義を理解する）
- 第6週 研究報告：先行研究レビュー（論証の妥当性を検討する）
- 第7週 研究報告：研究テーマの設定
- 第8週 研究報告：研究方法の選び方
- 第9週 研究報告：資料の用い方（質的データ）
- 第10週 研究報告：資料の用い方（統計的データから考える）
- 第11週 研究報告：分析の作法
- 第12週 研究報告：論証の妥当性について
- 第13週 研究報告：論文執筆のプロセス
- 第14週 研究報告：論文の形式
- 第15週 総括

## 【事前・事後学修】

事前学修：報告者はA4 2枚にまとめたレジュメを作成し、演習の前日に提出すること。文献は発表者以外も読んでくることを原則とする。順番で司会も担当する。報告者、司会者以外も必ず議論に参加すること（学修時間 2時間）

事後学修：前期はゼミレポート、後期は研究報告レポートの提出に向け執筆を進める（学修時間 2時間）

#### 【テキスト・教材】

上間陽子・岡本尚文『裸足で逃げる：沖縄の夜の街の少女たち』（太田出版 2017年）1836円

山口一男『働き方の男女不平等：理論と実証分析』（日本経済新聞出版社 2017年）3456円

#### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

フィールドワークへの参加と報告20%、報告の内容30%、討論への貢献20%、期末レポートの内容30%。

報告や討論の内容を踏まえて、各回でフィードバックをおこなう。それぞれの研究報告については随時フィードバックをおこなう。

### 演習ⅢA・ⅢB

創造的生活者発想

伊藤 耕太

3年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

#### 【授業のテーマ】

情報技術や人工知能が事業活動や社会生活に浸透していく時代に、人間らしい豊かな未来を主体的に創造し得る思考や実践法を、第一線の生活者発想を体得しながらフィールドワーク、ワークショップ等を交えてプラグマティックに研究する。ゲスト講師に各領域のスペシャリストとして博報堂 生活者アカデミー 左達也氏と同アクティベーション企画局の岡村実玲氏を迎えて授業を進める。

#### 【授業における到達目標】

- ・ 社会現象や生活行動の実態をフィールドワークやデータから正確に読み取る【観察力】、それらの背後にある課題の構造やメカニズムを読み解く【洞察力】、およびそれらに根差した新たな問いから社会的価値を提案する【発想力】、未来にその価値を社会実装し生活者の行動を喚起する仕組みを構想する【企画力】【設計力】を身につける。
- ・ ワークショップやプロジェクトの実践を通じて、議論の活性化やヴィジョンを共有するための場を創る【構成力】、コラボレーションする他者の強みを引き出す【ファシリテーション能力】を身につける。

#### 【授業の内容】

演習ⅢA（前期）

1. オリエンテーション
2. 創造的生活者発想の研究(1)（ゲスト：博報堂 生活者アカデミー 左 達也氏）
3. 学外フィールドワーク(1)
4. 発想WS(1)（ゲスト：左 達也氏）
5. 創造的生活者発想の研究(2)（ゲスト：左 達也氏）
6. 学外フィールドワーク(2)
7. 発想WS(2)（ゲスト：左 達也氏）
8. 創造的生活者発想の研究(3)（ゲスト：博報堂アクティベーション企画局 岡村実玲氏）
9. 学外フィールドワーク(3)
10. 発想WS1(3)（ゲスト：岡村実玲氏）
- 11-12. プレゼンテーション企画・構成・制作
- 13-14. 最終プレゼンテーション（チームA-B）（ゲスト：左 達也氏）
15. 最終プレゼンテーション（チームC）（ゲスト：左 達也氏、岡村実玲氏）

演習ⅢB（後期）

1. オリエンテーション
2. プロジェクト企画WS(1)
3. プロジェクト企画WS(2)（ゲスト：左 達也氏）
4. プロジェクト企画WS(3)（ゲスト：岡村実玲氏）
5. プロジェクト制作(1)（ゲスト：左 達也氏）
- 6-7. プロジェクト制作(2)(3)
8. プロジェクト中間報告会（ゲスト：岡村実玲氏）
9. プロジェクト制作(4)（ゲスト：左 達也氏）
- 10-11. プロジェクト制作(5)(6)
12. プロジェクト直前報告会（ゲスト：岡村実玲氏）
- 13-15. 最終プレゼンテーション（チームA-C）（ゲスト：左 達也氏）

#### 【事前・事後学修】

- ・ 事前学修：進捗に関する具体的な作業に対して、次回演習までに作業・プレゼンテーション準備等を行う。（2時間）
- ・ 事後学修：各演習回においてグループで次回までの作業内容確認、分担、スケジューリングを行う。（2時間）

#### 【テキスト・教材】

取り組むテーマに応じて適宜紹介する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- (1) リサーチ、プレゼンテーション、ディスカッションへの主体的な参加 (50%)
- (2) プロジェクト企画・制作への貢献 (50%)
- (1)について毎演習冒頭にフィードバックを行う。
- (2)について実施後にそれぞれの観点についてフィードバックを行う。

**演習ⅢA・ⅢB**

アジアの文化人類学

高橋 美和

3年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

4年次での卒業論文作成の準備として、文化人類学的な調査の方法、論文の読み方、先行研究の検討、などを含めた、アジアの文化を対象とする文化人類学的研究の訓練を行う。

**【授業における到達目標】**

演習ⅢA：文化人類学の方法論的特色であるフィールドワークの理解を深め、また論文形式の文章を精読し、批判的に検討できるようになる。演習ⅢB：文化人類学的な「問い」を発見し、履修生同士の切磋琢磨を通して、卒業論文の構想を立てていく。これらを通して、目標を設定して計画を立案できる「行動力」、仲間と協力して学ぶ「協働力」、そして学修を通して自己成長する「研鑽力」を養成する。

**【授業の内容】**

## 演習ⅢA

- 第1週 導入：ゼミの方針の説明
- 第2週 文化とは
- 第3週 文化の研究法
- 第4週～第7週 質的調査法 講読
- 第8週 論文とは何か①：形式と必要な情報
- 第9週 論文とは何か②：論述を読み解く方法
- 第10週 論文とは何か③：論文の概要作成
- 第11週～第14週 アジア文化に関する論文
- 第15週 まとめのゼミ

## 演習ⅢB

- 毎週、教科書輪読（文献講読）と個人発表を並行して行う。
- 第1週 導入：ゼミの方針の説明と予定の確認
- 第2週～第3週 関心あるテーマと「問い」の予備的発表
- 第4週～第8週 先行研究の個人発表
- 第9週～第11週 フィールドワーク計画発表
- 第12週～第15週 卒論序章予備稿発表
- 第15週 まとめのゼミ

※希望者があれば夏季休暇中に海外研修もしくは国内ゼミ合宿を行う。

**【事前・事後学修】**

- 事前：発表担当者はレジュメを作成して授業時に配布。対象文献は全員が読んでくる（学修時間 週2時間）。
- 事後：自分の関心にそった文献や資料を入手し読み進む（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

- 前期：岸政彦・石岡丈昇・丸山里美 『質的社会調査の方法—他社の合理性の理解社会学』（有斐閣、2016年）2,052円  
輪読する論文については受講者の関心に合わせて選定する。
- 後期：授業で指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業への参加・貢献度および発表50%・学期末レポート50%  
フィードバックは授業各回で行う。

**【参考書】**

授業で紹介する。

**【注意事項】**

「アジア文化論」同時履修が望ましい。



## 演習ⅢA・ⅢB

神山 静香

3年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

前期の演習では、商法や会社法を中心にビジネス（商取引・契約）や企業組織に関わる基礎的な法知識を修得し、グローバル化が進化する現代のビジネス社会で求められる法的な思考力や判断力を養うことを目的とする。後期の演習では、前期の演習で修得した知識を基礎として、各自、興味に基づいて、ビジネス（商取引・契約）や企業組織、国際取引、交渉、紛争解決等に関わるテーマを選択し、プレゼンテーションを行い、ゼミ論文を作成する。「問い」を立て、分析手法を検討し、理論的に「問い」を検証して自らの答えを導き出すといった一連のプロセスを経験することで、卒業論文を執筆する上で必要なアカデミック・スキルを身に付けることを目的とする。

## 【授業における到達目標】

ビジネスに関わる法ルールの基礎的理解を得るとともに、ディスカッションやプレゼンテーションを通して自ら考える力や論文の執筆に必要な「問い」や「課題」を発見する力を養う。また、法律の専門的知識に基づいた法的な判断力、多様な価値観や考えをもつ人々の利害調整を図るための論理的思考力、自分の考えを的確に伝えるためのコミュニケーション能力等を修得する。ディプロマポリシーとの関連では、国際感覚を身に付けて世界に踏み出し社会を動かそうとする態度を核として、学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身に付け、本質を見抜く力及び「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を発見する力を修得する。

## 【授業の内容】

## 演習ⅢA

- 第1週 ガイダンスと今後の計画
- 第2週 基礎理論：企業取引と契約
- 第3週 基礎理論：商取引のルール
- 第4週 基礎理論：会社制度、会社設立、ベンチャービジネス
- 第5週 基礎理論：機関代表取締役、取締役、株主総会等
- 第6週 基礎理論：上場会社の経営者の監視・監督制度
- 第7週 基礎理論：会社の役員等の義務、役員の報酬等
- 第8週 基礎理論：役員等の民事責任と株主代表訴訟
- 第9週 基礎理論：会社のファイナンス（資金調達）
- 第10週 基礎理論：M&A（合併・買収）と組織再編等
- 第11週 基礎理論：国際商取引・交渉
- 第12週 基礎理論：国際商事紛争
- 第13週 国際ビジネスに関わるトピックス①－CSR
- 第14週 国際ビジネスに関わるトピックス②－新興国ビジネス
- 第15週 総括：研究テーマに関する発表

## 演習ⅢB

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 テーマ選択：個人発表①・ディスカッション
- 第3週 テーマ選択：個人発表②・ディスカッション
- 第4週 テーマ選択：個人発表③・ディスカッション
- 第5週 テーマ選択：個人発表④・ディスカッション
- 第6週 テーマ選択：個人発表⑤・ディスカッション
- 第7週 テーマ選択：個人発表⑥・ディスカッション
- 第8週 テーマ選択：個人発表⑦・ディスカッション
- 第9週 テーマ選択：個人発表⑧・ディスカッション
- 第10週 個人発表① 卒業論文構想
- 第11週 個人発表② 卒業論文構想
- 第12週 個人発表③ 卒業論文構想
- 第13週 個人発表④ 卒業論文構想
- 第14週 卒業論文研究計画書作成・個人発表
- 第15週 総括

## 【事前・事後学修】

事前学修：リサーチ、資料・文献収集を行い、発表者はレジュメ、パワーポイント等のプレゼンテーション資料を作成し、ディスカッションのテーマを設定する。レジュメは、演習前日までにメールで教員まで送信する。発表者以外の者は、ディスカッションの準備を行う（学修時間週2時間）。

事後学修：資料等を復習し、発表テーマに関わる法理論や概念を十分に理解した上で、次回の授業までに発展・応用的なディスカッションのテーマを検討する（学修時間週2時間）。

## 【テキスト・教材】

授業時に適宜、紹介する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

演習ⅢAは、口頭発表（50%）、ゼミ運営、ゼミへの貢献、積極的参加（50%）で評価する。演習ⅢBは、ゼミへの貢献、積極的参加（20%）、口頭発表（30%）、ゼミ論文（50%）で評価する。課題に関しては、毎回の授業時にフィードバックを行う。

**演習ⅢA・ⅢB**

発達と健康の心理学

竹内 美香

3年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

4年次の卒業論文作成の準備として、各学生の興味にそった心理学的問題の発見と知識習得を目指す。

グループワークを通して、発達心理学的な調査設問を考え、データ収集・解析する過程を学ぶ。並行して、特に科学論文として統計処理と数値の見方をも含む心理学関連文献の読み方とまとめ方を含め、心理学研究の訓練を開始する。

**【授業における到達目標】**

1. 客観性と再現可能性を重視する現代科学としての心理学の視点で対人社会・発達の事象を考えられるようになる。
2. 社会調査の手法を人間の発達・対人社会心理学的課題の解決のために正しく活用できる。
3. 計画・実行・評価のマネジメント・サイクルを回しながら、仲間と協働するスキルを習得する。
4. 新たな知識を創造しようとする態度や、生涯を通して自己研鑽を続ける力、主体的に他者と協働して課題解決の行動をとる力を身につける。

**【授業の内容】**

## 演習ⅢA

- 第1週 ガイダンスとアイスブレイク
- 第2週 学術論文の読解について説明
- 第3週 グループづくり
- 第4週 文献の探索
- 第5週 作業の進め方相談
- 第6週 論文選びと読解
- 第7週 レジューメ作成開始
- 第8週 レジューメ校正
- 第9週 発表リハーサル
- 第10週 研究論文読解の成果報告開始
- 第11週 成果報告と振り返り
- 第12週 次の計画立案
- 第13週 夏季課題の計画
- 第14週 後期の研究計画
- 第15週 まとめ と 後期の課題の確認

## 演習ⅢB

- 第1週 後期ガイダンス
- 第2週 PCでデータ分析 説明
- 第3週 PCでデータ分析 演習
- 第4週 後期の研究計画「私が調べたいこと」とは
- 第5週 卒業研究の準備作業 開始
- 第6週 研究テーマを考える 先行論文を探索する
- 第7週 先行論文の収集とデータ採集の具体的方法を考える
- 第8週 既存の心理検査・尺度項目と関連情報を収集する
- 第9週 自分のテーマに添う独自の質問項目の「柱」を考える
- 第10週 質問項目の「柱」から、下位項目を考える
- 第11週 調査票を編集してみる
- 第12週 仮説を考える
- 第13週 「序論」を書いてみる
- 第14週 データ入力シートを構成し、解析をイメージしてみる
- 第15週 まとめ と 「卒業論文計画書」を書いてみる

**【事前・事後学修】**

【事前学修】ゼミ内発表準備の取り組みに時間をかける。レジューメ等の電子・紙媒体提出物をエビデンスとする。教員と密に相談する。

【事後学修】事前学修で準備したレポートやレジューメの修正版を作成し、教員、ゼミメンバーが共有できるように整える。電子・紙媒体での提出を課す。確実・十分に取組みなければならない。

【学修に必要な時間】事前・事後学修合わせて毎週4時間以上を要

する課題の取り組みを求める予定。

**【テキスト・教材】**

既存の学術論文をテキストとして活用する。PCの活用を前提としている。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

演習の課題、作業への取り組み 50%、各節で提出すべき成果物 50%

【フィードバックについて】個別に提出される課題について、個別指導を行い、フィードバックをする。

**【参考書】**

J-Stageで検索、ダウンロードすることができるすべての学術論文

**【注意事項】**

迅速な連絡・返答と仲間に対する思いやりの心を心掛けて欲しい。教員、仲間との交流を重視する。

**演習ⅢA・ⅢB**

観光による地域活性化の経済分析

角本 伸晃

3年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

演習ⅢA；観光や地域活性化について理解するために、テキストを輪読するが、担当者はパワーポイントで発表し、他の学生との質疑・意見に対応する。並行して、いくつかのグループに分かれて観光まちづくりなどの地域活性化の事例をグループ毎にまとめてパワーポイントで発表し、他の学生との質疑・意見に対応する。

演習ⅢB；Excelを用いて、経済論文を作成するために必要な経済情報処理能力の修得を目標とする。並行して、地域活性化や興味のあるテーマについてゼミ論文を作成する。このゼミ論の作成は卒業論文のリハーサルとする。

**【授業における到達目標】**

観光による地域活性化の基礎知識とプレゼンテーション能力を修得する。このことを通して、自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる能力を習得することを目標とする。

**【授業の内容】**

演習ⅢA

1. イントロダクション
2. ～7. テキストの輪読（第1章～第6章）・観光まちづくり事例報告（チームA～チームD）
8. ～13. テキストの輪読（第7章～12章）・地域活性化事例発表（チームA～チームD）
14. テキストの輪読（第13章）合宿・地域調査先の予備知識報告
15. テキストの輪読（第14章）合宿・地域調査の打ち合わせ

演習ⅢB

1. 地域調査先の報告（チームA～チームD）
2. ～5. OFFICEの基礎（1～4）
6. ～14. 経済情報処理（5～14）・ゼミ論の作成
15. ゼミ論の発表会

**【事前・事後学修】**

【事前学修】演習ⅢA・B：テキスト・紹介された参考文献を事前に読んでおくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】演習ⅢA：授業中の内容や自分の意見をコメントシートにまとめて次回の授業で提出すること（学修時間 週2時間）。

演習ⅢB：ゼミ論の準備・作成を各人で早めに進めること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

未定（開講時に履修者と協議して決定する）

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

演習ⅢA：演習中の発言・積極的な参加（50％）、発表（50％）

演習ⅢB：演習中の発言・積極的な参加（50％）、ゼミ論（50％）

各期とも最終回授業で演習への取り組みについて講評を行ってフィードバックする。

**【参考書】**

適宜紹介する。

**演習ⅢA・ⅢB**

メディアに関わるあらゆる研究

駒谷 真美

3年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

メディアは、我々の生活に様々な刺激！や疑問？を与えている。本演習では、学生自身のメディアに対する！？を2年間かけメディア研究の卒論として追究していく。3年次は、学生が興味関心を持ったテーマに積極的にアプローチし、各プロセスで書き溜めたポートフォリオを蓄積し、卒論の土台を構築する。本演習では、メディア研究の卒論活動を通してメディア情報リテラシー（MIL）を育成するのが目的である。

**【授業における到達目標】**

MIL基礎かつ応用段階の目標は、①批判的思考で情報を識別できる②ICTを活用し自分のビジョンを保持できることである。①②の達成により、本学の学生が修得すべき「研鑽力」「学修を通して自己成長する力」と「行動力」「目標を設定し、計画を立案・実行できる力」を総合的に体得する。

**【授業の内容】**

〔前期〕卒論のプロセス

1. 卒論スケジュール作成
2. テーマ模索
3. テーマ選択ポイント
4. 文献の検索リスト作成
5. 文献収集
6. 文献整理
7. 分析方法
8. 調査方法
9. 調査計画
10. 論文枠組
11. 引用文献リスト指導
12. 序論（背景）執筆指導
13. 第1章（文献研究）指導
14. テーマ検討会（1）
15. テーマ検討会（2）

〔後期〕卒論のアプローチ

1. テーマ決定・序論初稿提出
2. 方法検討
3. 方法決定・方法執筆指導
4. 研究計画書（1）執筆指導
5. 研究計画書（2）個別指導含有
6. 研究計画書（3）個別指導含有
7. 調査準備 個別指導含有
8. 調査準備 個別指導含有
9. 調査実施 個別指導含有
10. 結果分析 個別指導含有
11. 本論（結果）執筆指導
12. 本論（考察）執筆指導
13. 本論執筆開始・中間発表準備
14. 中間発表会（1）
15. 中間発表会（2）

**【事前・事後学修】**

事前学修（学修時間：週2時間）では、指定テキストや文献資料・manabaの授業資料を熟読する。事後学修（学修時間：週2時間）では、学修内容をリフレクションシートとポートフォリオにまとめ、manabaで期限内に提出し保存する。プレゼンの準備をする。

**【テキスト・教材】**

・白井利明・高橋一郎著『よくわかる卒論の書き方 第2版』（ミネルヴァ書房 2013年）2700円

・その他、授業資料をmanabaのコンテンツに適宜アップ。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（第1～15週のリフレクションシート）50％+活動点（プレゼン・ポートフォリオ）50％の総合的評価。リフレクションシートは次回授業開始時、プレゼン・ポートフォリオは該当回にフィードバック。

**【参考書】**

授業で適宜紹介。

**【注意事項】**

- ・本授業ではEnjoyment・Edutainment・Empowermentを重視しているので、積極的に楽しんで学修してもらいたい。
- ・各自の卒論進捗状況により、演習外での自主活動も想定される。
- ・「情報社会論」「メディア表現論」「情報ネットワーク」とセット履修が望ましい。

## 演習ⅢA・ⅢB

高橋 意智郎

3年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

ドバックは、課題について解説を行う。

## 【授業のテーマ】

本演習では、国際企業の戦略について理論と現象の両側面から議論していく。演習の参加者は、企業戦略の理論を学習すると同時に、現実にライバル企業と競争する国際企業のケースを検討する。さらに、いくつかのワーキング・グループを作り、ワーキング・グループごとに関心のある業界と企業を分析する。演習の参加者には、自分の頭を使ってギリギリまで考え抜く姿勢を身につけてもらいたい。

## 【授業における到達目標】

国際企業について考えるための洞察力が身につく。

ディプロマポリシー：学修を通して自己成長する力【研鑽力】

## 【授業の内容】

## 演習ⅢA

1. ガイダンス：演習ⅢAについて

2～5. 理論研究とディスカッション

※第2～5回は、個人ごとに課題を報告しディスカッションをする。

6～8. 企業研究とディスカッション

※第6～8回は、個人ごとに課題を報告しディスカッションをする。

9. 企業との提携によるアクティブラーニングあるいは、ゲスト講師による講演（予定）

10～11. 卒業論文指導とディスカッション

※第10～11回は、卒業論文の方法論のレクチャーを行い個別に指導する。

12～13. 他大学との合同ゼミの準備

※第12～13回は、グループごとに課題を報告しグループごとに指導します。

14. 他大学との合同ゼミ

15. 総括

## 演習ⅢB

1. ガイダンス：演習ⅢBについて

2～5. 企業研究とディスカッション

※第2～5回は、個人ごとに課題を報告しディスカッションをする。

6. 企業との提携によるアクティブラーニングあるいはゲスト講師による講演（予定）

7～11. 卒業論文指導とディスカッション

※第7～11回は、個人ごとに卒業論文を報告し個別に指導する。

12～13. 他大学との合同ゼミの準備

※第12～13回は、グループごとに課題を報告しグループごとに指導します。

14. 他大学との合同ゼミ

15. 総括

夏休みには国内と海外の合宿を予定している。

## 【事前・事後学修】

事前学修：次回の演習に関連する課題を出すので事前に作成しておくこと。（週2時間）

事後学修：演習内容を振り返ること（週2時間）

## 【テキスト・教材】

青島矢一、加藤俊彦著『競争戦略論』（東洋経済新報社・予定）

中川功一、林正、多田和美、大木清弘著『はじめての国際経営』（有斐閣・予定）

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績は、ゼミへの取り組み100%（発表やディスカッションの内容、ゼミの運営、授業への積極的参加）で決定する。課題のフィー

**演習ⅢA・ⅢB**

ことばを科学する

山下 早代子

3年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

本ゼミでは、語用論という分野を中心に、日々使われることばにはどんな働きがあるのかを研究していきます。話し手が様々な状況でどのようにことばを使い、また聞き手はそれをどう理解するのか、さらに両者がどのように相互に交渉しあって意味を生み出していくかを科学的に追求します。語用論の中でも特に発話行為やポライトネス理論を中心に基礎理論を学び、さらに文化間の違いに着目する異文化間比較語用論や、学習者の使用することば、中間言語語用論などにも焦点をあて、社会・心理言語学の視点から関連の基礎的理論とリサーチの方法を学びます。

**【授業における到達目標】**

前期は理論を学習し、後期はそれをふまえて様々な論文を読みながら多様なデータ収集法を学び、ミニリサーチ（予備研究）を行い、卒論執筆に向けた基礎学習を行います。卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち「多様な価値観を持つ国内外の人々と、特にことばの使用に着目し、相互理解と協力の態度を築く」、「現状を把握し、課題を発見できる」、「学習成果を自身の創出につなげる力」を養います。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 会話とは
- 第3週 言語と非言語
- 第4週 会話の成立・グライスの会話の協調の原則
- 第5週 推意
- 第6週 丁寧さとは
- 第7週 ポライトネス理論
- 第8週 発話行為
- 第9週 間接発話行為
- 第10週 対人関係とことば
- 第11週 皮肉
- 第12週 誤解（ミスコミュニケーション）
- 第13週 バックチャンネル
- 第14週 Review
- 第15週 総括
- 第16週 ⅢB ガイダンス
- 第17週 調査研究方法基礎概論
- 第18週 先行研究
- 第19週 研究目標・研究課題
- 第20週 研究方法・データ収集方法
- 第21週 アンケート調査
- 第22週 談話完成テスト
- 第23週 会話分析
- 第24週 テキスト分析
- 第25週 観察法
- 第26週 面接法
- 第27週 予備調査研究（データ収集）
- 第28週 結果の考察～プレゼンテーションの仕方
- 第29週 予備研究（パワーポイントによる）発表準備
- 第30週 予備研究発表

**【事前・事後学修】**

事前学修：ⅢAでは毎回の授業の予定項目をしっかりと予習しておくこと。ⅢBでは予備研究を基礎的なステップを踏みながら進め、最終的にミニ・リサーチを実施し小論文にまとめ、発表するので、そのための一つ一つの課題をきちんとこなすこと。

事後学修：授業の内容に添った課題があるので、課題は必ず期日に提出すること。後期は毎週先行研究要旨シートとプロGRESS・レポートを提出する。これらをこなすために毎週4時間程度の事前・事後学修時間が必要である。

**【テキスト・教材】**

岡本真一郎(2013)『言語の社会心理学—伝えたいことは伝わるのか』中公新書2202 ¥950

\*教師の方から参考資料を適宜配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

ⅢA 課題20%、試験40%、レポート20%、発表20%

ⅢB 課題レポート20%、予備調査研究20%、ミニ・リサーチレポート（小論文）40%、発表20%

フィードバックは提出の課題やレポートの返却物の中にコメントとして、あるいは授業内でディスカッションを通してフィードバックする。

**【参考書】**

適宜指示する。

**【注意事項】**

授業には主体的に、積極的に係ること。クラス内ではグループ討論やペアワークを通して積極的に他の学生と交わり、意見交換を行い、課題に対して学生としての責任を持って本分を果たすこと。

**演習ⅢA・ⅢB**

現代マーケティング演習

斎藤 明

3年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

## ■目標■

マーケティング論に関する理論の学習し、社会におけるマーケティング諸活動の事実を理解し、分析、一般化する力の獲得する。

**【授業における到達目標】**

## ■到達目標■

基礎概念、理論を理解し、卒業研究（卒業論文）の自律的遂行を実施できる能力を習得する。

## ■ディプロマ・ポリシー（DP）との関連■

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、知の探求力を修得する。

学生が修得すべき「協働力」のうち、自己および他者理解のもと協働する力を修得する。

**【授業の内容】**

## 演習ⅢA

各自の事前準備に基づいて、文献を輪読し、全体で議論します。

第1週 オリエンテーション

第2週 基礎理論輪読（基礎概念）

第3週 基礎理論輪読（基本課題）

第4週 基礎理論輪読（STP概念）

第5週 基礎理論輪読（計画策定）

第6週 基礎理論輪読（計画実行管理）

第7週 基礎理論輪読（製品政策）

第8週 基礎理論輪読（価格政策）

第9週 基礎理論輪読（流通政策）

第10週 基礎理論輪読（コミュニケーション政策）

第11週 基礎理論輪読（ブランド概念）

第12週 基礎理論輪読（ブランド戦略）

第13週 基礎理論輪読（ソーシャルマーケティング）

第14週 基礎理論輪読（サービスマーケティング）

第15週 総括

## 演習ⅢB

各自の関心に基づいて報告を実施後、全体で議論します。

第1週 論文手本と仮説立証

第2週 スケルトンの説明

第3週 個人報告：資料収集

第4週 個人報告：スケルトン1

第5週 個人報告：スケルトン2

第6週 個人報告：論文手本分析1

第7週 個人報告：論文手本分析2

第8週 序の作り方

第9週 個人報告：序および第1章1

第10週 個人報告：序および第1章2

第11週 事例の扱い

第12週 個人報告：事例1

第13週 個人報告：事例2

第14週 個人報告：事例3

第15週 総括

**【事前・事後学修】**

事前学修：対象文献資料を精読し、各自毎回レジメを作成し、授業の臨むこと。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業内での履修者相互での議論をもとに作成したノートを振り返り、次回対象文献資料を精読し、レジメ作成を行うこと。

（学修時間 週2時間）

以上のプロセスを繰り返し実施すること。

**【テキスト・教材】**

## ■共通テキスト■

村松潤一『価値共創とマーケティング論』（同文館出版 2015年）

2,700円＋税

和田・日本マーケティング協会『マーケティング用語辞典』（日経新聞社 2005年）1,200円＋税

## ■テーマ別テキスト■

参加者の関心テーマ（製品、流通、価格、コミュニケーション、ブランド、消費者行動等）と相談の上、演習時間に適宜指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

## ■成績評価■

学習活動（文献探究・事例整理・発表資料作成・発表）評価：50%  
貢献活動（グループでの協働活動）：50%

## ■フィードバック■

提出された課題に対して演習内において適宜フィードバックを行う。

**【参考書】**

日本マーケティング協会編『マーケティングジャーナル』各号

日経広告研究所編『日経広告研究所報』各号

**【注意事項】**

受講生には卒業研究および卒業論文にむけた学術的研究において研鑽することを前提に、学内外連携プロジェクトへの積極的参加・貢献、学外でのビジネス・プラン等のコンペティションや懸賞論文への積極的参加・貢献についても期待する。

**演習ⅢA・ⅢB**

社会心理学

織田 弥生

3年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

4年次の卒業論文作成にむけて、学術的な研究の基礎を身につけます。感情、ストレス、化粧などのテーマの中から、各自が興味のあるテーマについて①先行研究を調べる、②調査・実験の計画、③仮説をたてる、④調査・実験（データをとる）、⑤解析、⑥考察、⑦レポート（プレ卒論）執筆、⑧プレゼンテーションを一通り学びます。

**【授業における到達目標】**

先行研究の検索から、調査・実験の計画と実施、データの解析、レポート（プレ卒論）執筆、プレゼンテーションまでを個人でやり遂げることが目標です。その過程で、①学ぶ楽しみを知り、広い視野と広い洞察力、本質を見抜く力を身につけます。②各自が興味のある研究テーマについて、課題を発見する、研究計画を立案・実行する、問題があれば解決する能力を身につけます。③ゼミの中ではお互いの研究を尊重した上で、適切な意見交換を行い、お互いを高めていきたいと思えます。

**【授業の内容】****演習ⅢA****①ガイダンス****②学術論文の構成を学ぶ（第1～4週）**

学術論文を全員で読み込むことにより、論文の構成等を学ぶ。

**③文献を検索する方法を学ぶ（第5週）****④文献発表（第6～15週目）各回 2～3名程度ずつ**

各自が興味のあるテーマについて学術論文を探し、内容をよく読んで理解（わからないところは調べたり質問して確認）し、他の人にわかるようにレジュメを作成し、発表する。それをもとに討論する。

**夏季休暇期間**

演習ⅢAで読んだ論文を参考に、教員と相談し調査や実験の計画を立てる。

**演習ⅢB****①ガイダンス****②研究計画を発表する（第1～4週）**

夏休み中に立てた調査や実験の計画を発表・討論する。

**③調査・実験を行ない、途中経過を報告する（第5週～10週）**

計画に従って実験や調査を実施する（授業時間外）。その結果や途中経過を授業時間内に報告・討論する。

**④得られた結果を発表し、討論する（第11週～15週）**

調査や実験の結果をまとめてプレゼンテーションし、討論する。

**⑤結果をレポート（プレ卒論）にまとめ、提出する****【事前・事後学修】**

事前学修：指定した文献を読んだり、発表の準備をしてください。専門用語や統計解析など、わからない点は必ず調べてください（2時間程度）

事後学修：授業内で読んだ文献や討論について復習してください（2時間程度）

**【テキスト・教材】**

授業内で指示します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

課題達成度（発表の内容、資料の完成度、提出物）：50%

授業への参加態度：50%

発表や提出物については、その都度フィードバックします。

**【注意事項】**

普段から人間の行動や心理について興味や疑問を持ってください。自分の研究だけではなく、他の人の研究にも興味を持ち、積極的に討論に参加してください。最低限の礼儀として、欠席の場合は必ず事前連絡を入れてください。

**演習ⅢA・ⅢB**

蔣 飛鴻

3年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

前期では、会計学に関する理論を学習したうえで、企業の経営活動における会計学の重要性和役割を理解し、分析、一般化する力の養成する。

後期では、論文の講読を通じて、自らが興味をもったものを選んで課題を設定する。レジュメを作成、発表、質疑応答を通じて、他のゼミ仲間からの意見、批判と教員の指導を受けながら卒業論文のテーマを明確していく。

**【授業における到達目標】**

ディプロマポリシー：知を求める力（態度）、学修を通して自己成長する力（研鑽力）、課題解決における主体的な行動力（行動力）、相互を活かして自らの役割を果たす力（協働力）の育成

**【授業の内容】****演習ⅢA**

第1週 会計と会計理論

第2週 企業会計原則

第3週 貸借対照表

第4週 損益計算書

第5週 キャッシュ・フロー計算書

第6週 有価証券

第7週 棚卸資産

第8週 固定資産

第9週 負債

第10週 純資産

第11週 利益の計算方法

第12週 連結会計

第13週 企業結合

第14週 税効果会計

第15週 リース会計

**演習ⅢB**

第1週 論文の作成方法についての確認

第2週 論文Aの講読1

第3週 論文Aの講読2

第4週 論文Aの講読3

第5週 論文Bの講読1

第6週 論文Bの講読2

第7週 論文Bの講読3

第8週 論文Cの講読1

第9週 論文Cの講読2

第10週 論文Cの講読3

第11週 関心あるテーマの検索1

第12週 関心あるテーマの検索2

第13週 先行研究の発表1

第14週 先行研究の発表2

第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：レポート・発表等の課題に取り組むこと。（学修時間週3時間）

事後学修：発表等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。（学修時間週3時間）

**【テキスト・教材】**

授業の第1回目で指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート作成（40%）、口頭発表（40%）、ゼミ運営（20%）

課題に対して、毎回コメントやフィードバックする。

**【参考書】**

参考書や問題集については適時紹介する。

**【注意事項】**

- 簿記論・会計学総論の基礎知識を前提にして授業を進めるため、上記の2科目を履修していることが望ましい。
- 履修者の意欲的な姿勢を期待している。

## 演習ⅢA・ⅢB

数野 昌三

3年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

社会環境の変化に伴い、法律の多くが改正され、コンプライアンスの面からも法律知識が求められている。そのため、本演習においては、ビジネスに関する基本的な法律知識を修得する。それに加え法律論文の基本的な記述方法を修得し、テーマを抽出する。

### 【授業における到達目標】

3年ゼミ生全員の協力により、ビジネスにおける基本的な法律知識に関するテキストを輪読する。このことにより、ビジネスにおける法的諸問題を発見し、なおかつ当該諸問題解決への方向性を探ることができるようになるのであり、研鑽力、行動力、協働力が身につく。

### 【授業の内容】

演習ⅢA (前期)	演習ⅢB (後期)
第1週 ガイダンス	第1週 ガイダンス
第2週 ビジネスと法律との関係	第2週 債権管理・時効制度
第3週 取引主体①－自然人－	第3週 担保制度一般
第4週 取引主体②－法人－	第4週 法定担保物権
第5週 契約一般	第5週 約定担保物権
第6週 売買契約の成立	第6週 非典型担保
第7週 売買契約の成立後	第7週 企業活動における 法規制
第8週 消費貸借契約	第8週 雇用(労働契約)
第9週 賃貸借契約	第9週 家族法
第10週 クレジットカード契約	第10週 卒論に関する 問題点の抽出
第11週 決済手段①－手形－	第11週 卒論に関する 判例の検討
第12週 決済制度②－小切手－	第12週 卒論に関する 学説の検討
第13週 契約関係以外の債権発生 ①－不法行為－	第13週 卒論に関する 質疑応答
第14週 契約関係以外の債権発生 ②－事務管理・不当利得－	第14週 卒業論文研究計画書の 作成
第15週 総括	第15週 総括

\* 夏期休暇期間中、2泊3日の合宿および裁判傍聴・最高裁判所見学、10月には法の日（法務省主催）の催しに参加する。

### 【事前・事後学修】

【事前学修】各週におけるテキストの該当部分を熟読し、専門用語を調べてくること（学修時間 週2時間）。

【事後学修】各週におけるテキストの該当部分を的確に理解すること（学修時間 週2時間）。

### 【テキスト・教材】

東京商工会議所編『ビジネス実務法務検定試験』（中央経済社2018年）本体2,800円+税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

演習ⅢA・演習ⅢB

レポート50%、平常点50%（討議への参加度・ゼミへの貢献度）

本演習の各最終回、ゼミ生へのフィードバックを行う。

### 【注意事項】

積極的学び、意欲的にコミュニケーションを図りたい学生が望ましい。そして、勉学は当然のこととして、その他の活動においても協力しあい、人生におけるより佳き人間関係をつくるよう心がけること。



**演習ⅢA・ⅢB**

行動計量学ゼミ

竹内 光悦

3年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

消費者購買行動や世論調査など、さまざまな視点で計量的に人々の行動を測り、分析することは、現状把握や結果の要因分析などで有効である。特に多種多様な調査力・分析力を持つことは、汎用性が高く、常に新しくなる社会を様々な視点で検証することが可能である。本演習ではこのことを踏まえ、グループでの問題解決を試み、学内外での調査・分析・発表を行い、行動計量学を主とした実践的知識と技能の修得を目的とする。

**【授業における到達目標】**

多様化する社会問題を客観的に把握する知識や技能を身につけることにより、課題解決のために主体的に行動する力【行動力】、またチームによる問題解決を通じた【協働力】、他者の意見を取り入れ自身の成長を考えるを【研鑽力】を修得する。

**【授業の内容】**

- 前期ゼミ 01 授業ガイダンスと今期計画  
ゼミ 02 第一企画の企画会議と計画  
ゼミ 03 第一企画の情報収集と基礎分析  
ゼミ 04 第一企画の計量的分析  
ゼミ 05 第一企画の考察と最終調整  
ゼミ 06 第一企画の発表会  
ゼミ 07 行動計量学の学び方と研究の仕方  
ゼミ 08 第二企画の企画会議と計画  
ゼミ 09 第二企画の情報収集と基礎分析  
ゼミ 10 第二企画の計量的分析  
ゼミ 11 第二企画の考察と最終調整  
ゼミ 12 第二企画の発表会  
ゼミ 13 行動計量学研究テーマの発表  
ゼミ 14 行動計量学における研究（基礎）  
ゼミ 15 行動計量学における研究（応用）
- 後期ゼミ 01 今期の計画と第三企画の紹介  
ゼミ 02 第三企画の企画会議と計画  
ゼミ 03 第三企画の情報収集・文献検索  
ゼミ 04 第三企画の基礎分析  
ゼミ 05 第三企画の計量的分析の検討  
ゼミ 06 第三企画の中間報告  
ゼミ 07 第三企画の再検証  
ゼミ 08 第三企画の計量的分析の展開  
ゼミ 09 第三企画の考察と最終調整  
ゼミ 10 第三企画の発表会  
ゼミ 11 卒業研究の進め方  
ゼミ 12 卒業研究計画の検討  
ゼミ 13 卒業研究構想発表、今期のまとめ  
ゼミ 14 卒業研究計画書の再検討  
ゼミ 15 卒論発表会

**【事前・事後学修】**

事前学修：授業時の企画研究の計画に従い作業進め、授業時の打ち合わせ準備をする（学修時間 週2時間）／事後学修：授業後に議事録を作成・確認し、各担当作業を進める（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

テキスト等については適宜紹介し、特に指定はしない。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

演習時間内の標準点（30%）、演習時間外の課題（30%）、演習最終課題（40%）で評価。毎回の授業時にそれまでの企画研究の進捗状況の報告を受け、フィードバックを随時行う。

**【参考書】**

テキスト等については適宜紹介する。

**【注意事項】**

学外のデータコンペティション等に参加することあり。

**演習ⅢA・ⅢB**

松浦 常夫

3年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

4年次の卒論の準備として、演習ⅢAでは衣食住、買物、旅行、レジャー、交友、コミュニケーション、習慣など日常生活に関わりのあるテーマを各自が選び、先行研究の成果をまとめます。演習ⅢBでは、テーマを決め、心理学や行動科学の方法論を用いて、ミニ卒論を作成します。この演習を通じて、人・出来事に対する心理学的な見方や考え方、心理学の研究手法、論文の構成や書き方、図表の読み方や書き方、統計的なデータ処理、プレゼンスキルを身につけます。

**【授業における到達目標】**

4年後期の卒論作成に向けて、心理学的研究の方法論や論文の書き方を理解し、テーマの設定をすることが目標です。

ポリシーとの関わりでは、問題解決の「態度」、現代社会の心理学的な諸問題について興味関心をもつ「能力のうちの研鑽力」を特に修得します。

**【授業の内容】****演習ⅢA**

各自が興味を持った解説本や論文を読んで、それを要約して発表します。他のゼミ生はそれに対して質問や意見を出します。教員はゼミ生の発表についてコメントし、発表者とのゼミ生に質問します。1回に3～4名が発表します。

ゼミ生は、以上の活動を通して、論文要約の方法、研究の方法、図表の読み方、研究結果のまとめ方、について学習します。また、各自で観察研究をおこない、そのまとめを夏休みの宿題とします。具体的には、次のとおりです。

- ①導入、②文献紹介、③テーマ選択、④発表準備、⑤発表の聞き方  
⑥質問の仕方、⑦ディスカッション方法、⑧～⑩学生発表（各回3、4人）、⑪夏休みの課題説明、⑫夏休みの課題テーマ発表、⑬まとめ

**演習ⅢB**

夏休み明けには観察研究の発表を行います。それ以後の進行は前期と同様に学生の発表です。また、夏休み明けまでにミニ卒論のテーマを決め、演習ⅢBではミニ卒論の作成に取り組みます。そのため発表は卒論のテーマに関連したものとなります。

年末からは就職に向けたSPI等の指導、キャリアセンター職員による就職講話も開きます。

具体的には、次のとおりです。

- ①夏休みの課題発表1、②夏休みの課題発表2、③夏休みの課題発表3、④課題発表の講評、⑤～⑩学生発表（各回3、4人）、⑪ミニ卒論作成説明、⑫課題テーマ発表、⑬まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修 発表者は前日までにレジュメやレポートを作成し、教員までメールで提出してください。（学修時間 週2時間）

その他、心理学的な見方や考え方をきたえるために、自分や他人の行動を観察しその原因を考えたり、様々なジャンルの読書をしたり、映画やテレビや各種芝居を見ることを勧めます。総計学の勉強は論文を読みこなすのに必要です。

事後学修 授業の復習をする。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

適宜プリントを配布しますが、基本的には学生の発表資料がテキストとなります。前日までに先生までメール等で送付してください。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

ゼミでの参加態度を60%、レポートやミニ卒論を40%で評価します。提出課題の評価は発表の都度、おこないます。

**【注意事項】**

ゼミでの発表や卒論完成のためには特に2年前期の「行動科学」、

「心理学実験実習1」、2年後期の「応用心理学」、「調査・実験データ処理法」、3年前期の「心理学研究法」、3年後期の「心理学統計法」などの履修が役にたちます。

## 演習ⅣA・ⅣB

篠崎 香織

4年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

本演習は、3年次の演習ⅢA・B（マネジメントに関する研究）を受けて、「卒業論文」を提出することによって完結します。3年次の演習ⅢA・Bと同様、経営管理の観点から理論と実践を学習することを通して、自らのめりこめるテーマを設定し、仮説の設定、検証のプロセスを経て問題解決の糸口を見出すことを目指します。最後に口頭発表を行い、自らが取り組んだテーマについて他者に伝えるというプレゼンテーションのスキルの養成にも取り組みます。

### 【授業における到達目標】

4年間の学びの集大成といえる卒業論文の執筆と、他者に伝わるプレゼンテーションの実践を目標とします。就職活動と並行して卒業論文を執筆していくことになるので、自ら目標管理を行い、計画を立案・実行できる能力の養成も図ります。

### 【授業の内容】

#### 【前期】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週～第3週 卒業論文素案の発表（グループ1，2）
- 第4週 卒業論文素案の完成
- 第5週 先行研究探し
- 第6週 先行研究レビュー
- 第7週 先行研究のまとめ
- 第8週 仮説の提示
- 第9週 仮説に基づく調査方法の検討
- 第10週 調査方法の検討
- 第11週 調査計画の素案作成
- 第12週 調査計画の完成
- 第13週 卒業論文現状報告（第一グループ6人）
- 第14週 卒業論文現状報告（第二グループ6人）
- 第15週 総括

#### 【後期】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週～第3週 卒業論文進捗報告（グループ1，2）
- 第4週 課題の検討とディスカッション
- 第5週 卒業論文指導（全体の構成の確認）
- 第6週 卒業論文指導（データの使い方）
- 第7週 卒業論文指導（考察の書き方）
- 第8週 卒業論文指導（参考文献の書き方）
- 第9週 卒業論文指導（論文の最終確認）
- 第10週 卒業論文指導（プレゼンテーション準備）
- 第11週 卒業論文指導（プレゼンテーションの流れの確認）
- 第12週 卒業論文指導（プレゼンテーション完成）
- 第13週 卒業論文発表会（第一グループ6人）
- 第14週 卒業論文発表会（第二グループ6人）
- 第15週 総括

### 【事前・事後学修】

【事前学修】自分の研究テーマに合わせて、論文を読む、仮説を立てる、方法を検討する等、進めてきてください。演習内ではその確認を行い次の演習までに先に進めるように自分で計画的に動きましょう。

【事後学修】演習時に確認したことをもとに、次の演習までに何をすべきかを自ら設定し、準備しましょう。

※学修時間は、週4時間程度。

### 【テキスト・教材】

必要に応じて適宜指示します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績は、口頭発表（20%）、卒業論文（60%）、ゼミ運営（20%）で決定します。

フィードバックは、基本的に教場にてコメントやディスカッショ

ンの形式で行い、場合によってmanabaを使うこともあります。

**【参考書】**

必要に応じて適宜指示します。

**【注意事項】**

無断の遅刻および欠席は認めません。

**演習ⅣA・ⅣB**

創造的生活者発想とコミュニケーション・デザイン

伊藤 耕太

4年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

演習Ⅲを踏まえて、コミュニケーション・デザインの発想に基づいた研究経験と創造的生活者発想の実践を通じて研究を進め、論文を完成させる。

**【授業における到達目標】**

- ・自ら選定した研究領域において課題を発見し、創造的な問いを立てることができる。【研鑽力】
- ・論文執筆するために必要な調査、研究、検証をデザイン・実践できる。【行動力】【協働力】
- ・フィールドワーク、ワークショップ実践を通じて経験と思考を往復しながら独自の仮説や課題解決アイデアを導き出せる。【観察力】【洞察力】【発想力】

**【授業の内容】**

演習Ⅳ A(前期)

1. オリエンテーション
2. 研究テーマの候補出し
3. 研究テーマの決定
4. 仮説の検討
5. 使用する理論の候補出し
6. 使用する理論の決定
7. 使用する理論の先行研究リストアップ
8. 使用する理論の先行研究の整理
9. 使用する理論の課題・問題点の検討
10. 使用する理論の現代的意義の検討
11. 調査する事例のアイデア出し
12. 調査する事例の整理
13. 調査する事例の方法検討
14. 調査する事例の事前調査の準備
15. 調査する事例の事前調査

演習Ⅳ B(後期)

1. オリエンテーション
2. 調査した事例のデータ整理
3. 調査した事例のファインディングス報告
4. 調査した事例の検討
5. 調査した事例の理論との整合性検討
6. 論文のオリジナリティの検討
7. 執筆にあたっての注意1（日本語表現）
8. 執筆にあたっての注意2（論理構造）
9. 執筆にあたっての注意3（引用）
10. 執筆にあたっての注意4（先行研究のまとめ）
11. 執筆にあたっての注意5（調査方法の書き方）
12. 執筆にあたっての注意6（事前のデータ表現）
13. 執筆にあたっての注意7（用語についての検討）
14. プレゼンテーションの準備
15. 最終報告

**【事前・事後学修】**

- ・事前学修：各演習回において個人と教員との協議のもと設定した進捗に関する具体的な作業に対して、次回演習までに作業・報告準備を行うこと（週2時間）。
- ・事後学修：演習でのフィードバックを元に研究・調査を修正していく（週2時間）。

**【テキスト・教材】**

各自のテーマの応じて適宜、紹介する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- ・ディスカッションへの参加（20%）
- ・報告（80%）

※フィードバックは演習中だけでなく、演習外、またオンラインでも行う。

## 演習ⅣA・ⅣB

山根 純佳

4年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

卒業論文完成に向けて、データの収集分析、文献資料の収集、論文の構成などを指導します。演習ⅣAでは、各テーマごとに全員が発表し、それぞれの論点と進捗状況を確認していきます。

演習ⅣBでは、個別の研究報告とディスカッションを中心におこないます。報告とディスカッションをとおして、プレゼンテーションの技能と自らの考えを他者に伝える技能の習得も目指します。

### 【授業における到達目標】

- 1) 自らの研究に主体的に取り組み、情報収集、データの整理、論文の執筆の技法を獲得する。
- 2) 学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることができる「研鑽力」を獲得する。
- 3) 目標を設定して、計画を立案・実行できる「行動力」を獲得する。
- 4) 自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる「協働力」を獲得する。

### 【授業の内容】

前期

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 論文の構成、資料、データの扱い方
- 第3週 卒業論文構成とスケジュールの報告グループ①
- 第4週 卒業論文構成とスケジュールの報告グループ②
- 第5週 卒業論文構成とスケジュールの報告グループ③
- 第6週 先行研究の収集と分析 グループ①
- 第7週 先行研究の収集と分析 グループ②
- 第8週 先行研究の収集と分析 グループ③
- 第9週 データ、資料の収集と分析 グループ①
- 第10週 データ、資料の収集と分析 グループ②
- 第11週 データ、資料の収集と分析 グループ③
- 第12週 論文構成の検討 グループ①
- 第13週 論文構成の検討 グループ②
- 第14週 論文構成の検討 グループ③
- 第15週 中間報告会

後期

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 論文の構成、資料、データの扱い方
- 第3週 先行研究分析 グループ①
- 第4週 先行研究分析 グループ②
- 第5週 先行研究分析 グループ③
- 第6週 データ、資料の分析 グループ①
- 第7週 データ、資料の分析 グループ②
- 第8週 データ、資料の分析 グループ③
- 第9週 論文構成の確認と検討 グループ①
- 第10週 論文構成の確認と検討 グループ②
- 第11週 論文構成の確認と検討 グループ③
- 第12週 卒業論文報告の準備
- 第13週 卒業論文報告の形式
- 第14週 卒業論文報告の内容の検討
- 第15週 卒業論文報告会

### 【事前・事後学修】

事前学修：各自の研究のために必要なデータの収集、文献の収集、先行研究の検討をおこなう。（学修時間 週8時間）

事後学修：演習での指導をもとに研究の方向性を随時確認し、内容の精査をおこなう。（学修時間 週8時間）

### 【テキスト・教材】

授業開始時に指示する

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

報告の内容（60%）とディスカッションへの貢献度（40%）  
報告の内容を踏まえて授業内でフィードバックをおこなう。また各人の研究の内容については、随時フィードバックをおこなう。

**演習ⅣA・ⅣB**

異文化コミュニケーションゼミ

阿佐美 敦子

4年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

各自が卒業論文を作成することを目標とし、前期では各自の研究計画に基づき、先行研究をまとめて卒業論文の前半の作成し、個別指導をベースに報告・発表・情報交換を、後期では自身が計画した調査方法に基づいて、データ収集および分析をおこなって論文を完成させます。自らが選んだテーマについて時間をかけて研鑽し、行動力を持って調査に出掛け、仲間と協働して議論する中で、より優れた論文を完成させます。

**【授業における到達目標】**

多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度、国際感覚を身につけて、世界に踏み出し社会を動かそうとする態度、さらに自文化を知り、世界に発信しようとする態度を養います。

卒業論文作成に向け、その工程を計画し、調査等を段階を踏んで実行する行動力を修得します。

**【授業の内容】**

## 演習ⅣA

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 卒論計画書の作成
- 第3週 卒論計画書報告会
- 第4週 個人報告および討議①
- 第5週 個人報告および討議②
- 第6週 個人報告および討議③
- 第7週 個人報告および討議④
- 第8週 個人報告および討議⑤
- 第9週 個人報告および討議⑥
- 第10週 個人報告および討議⑦
- 第11週 個人報告および討議⑧
- 第12週 個人報告および討議⑨
- 第13週 個人報告および討議⑩
- 第14週 卒論中間発表会
- 第15週 まとめ

## 演習ⅣB

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 卒論途中経過報告①
- 第3週 卒論途中経過報告②
- 第4週 卒論途中経過報告③
- 第5週 卒論途中経過報告④
- 第6週 卒論途中経過報告⑤
- 第7週 卒論途中経過報告⑥
- 第8週 卒論途中経過報告⑦
- 第9週 卒論途中経過報告⑧
- 第10週 卒論途中経過報告⑨
- 第11週 卒論途中経過報告⑩
- 第12週 卒論途中経過報告⑪
- 第13週 卒論提出
- 第14週 卒論発表会の準備
- 第15週 卒論発表会の準備

**【事前・事後学修】**

事前学修として、隔週の報告がより明確なものにできるよう、理論をサポートする先行研究、調査結果・分析を十分におこなってください。事前学修 週4時間

事後学修として、ゼミ学生から受けた質問、提案、意見について検討し、より充実した研究とできるよう、さらに補強材料を模索してください。事後学修 週2時間

**【テキスト・教材】**

個別に示します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

演習内での活動状況（30%）、卒業論文の完成度および発表の成績（70%）を評価します。毎回の授業時、フィードバックを行います。

**【参考書】**

研究テーマに沿って個別に示しますが、春休み中には先行研究に多く触れ、各自の研究テーマの理論的根拠について明確にしておきましょう。

**【注意事項】**

校外実習を実施する場合があります。また、コミュニケーション・ツールとして必須の英語力向上の努力をお願いします。

**演習ⅣA・ⅣB**

粟津 俊二

4年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

心理学的な卒業論文の制作に向けて、各自が先行研究の調査、予備実験・調査、本実験・調査、データ処理、考察を行う。

**【授業における到達目標】**

議論の前提となる基礎的な知識を修得し、あわせて自らの興味にそって専門的な知識や態度を伸ばしていくことを目的とします。これを通して、新たな知を創造しようとする態度や、生涯にわたり学習を続ける自己研鑽力、課題解決のために主体的に行動する行動力、他者と協働する力の育成を目指します。

**【授業の内容】**

学生の発表、質疑応答、討論など学生主体の演習を展開します。各自の研究テーマや前年度までの進み具合により異なりますが、論文完成までの授業内容は、おおよそ下記の通りです。

**ⅣA**

各自が卒業論文で扱う問題および仮説の確定と、実験・調査の準備を目的とします。各自少なくとも2回の発表を行う中で、おおよそ以下のような内容を扱います。

1. 先行研究の体系化
2. 心理学的意義の検討
3. 社会的意義の検討
4. 個人的意義の検討
5. 目的の設定
6. 仮説の設定
7. 予備調査・実験の準備
8. 予備調査・実験の実施
9. 予備的分析と方法の修正
10. 目的の再設定
11. 仮説の再設定
12. 実験・調査方法の確定
13. 実験刺激、調査紙の準備
14. 分析方法の検討
15. まとめ

**ⅣB**

本実験・調査の実施、データ整理、考察を中心とし、各自がこれまでに調べた成果を1本の論文に仕上げることを目的とします。各自少なくとも2回の発表を行う中で、以下のように授業を進行します。

1. スケジュール設定
2. 協力者の勧誘
3. 本調査、本実験の準備
4. 本実験、調査の実施
5. データの単純集計
6. 仮説の確認
7. 仮説の検定
8. 結果の整理
9. 結果のビジュアル化
10. 結果の考察
11. 先行研究との比較、位置づけ
12. 結論の作成
13. 論文の作成
14. プレゼンテーション
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：指定した文献の読解や、発表の準備等をして下さい（学修時間 週2時間程度）。

事後学修：授業中に出た専門用語等を調べ、よく確認して下さい。また、授業内で話した内容、聞いた内容をまとめ、文章にして下さい。（学修時間 週2時間程度）。

**【テキスト・教材】**

指定しない。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

ゼミでの発表（30%）、参加態度・他の学生への貢献度（40%、レポート（30%）を評価します。なお、発表あるいは質問・コメントをもって、出席とします。

授業への参加態度や発表については、その都度コメントしフィードバックを行います。レポートについては、後日のグループウェア、メール、次学期の授業等でフィードバックを行います。

**【参考書】**

授業内で適時紹介する。

**【注意事項】**

卒論のテーマ、方法、調査・実験の計画、データの分析方法、考察の内容、文章やグラフの表現など、考えるべきこと、決めるべきことが山のようにあります。授業時間中ではとても足りませんので、「考えてからゼミに来る」ようにして下さい。

**演習ⅣA・ⅣB**

高木 裕子

4年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

近年、状況論的認知研究が盛んになり、「心」の社会文化的なメカニズムへの関心と解明が進みつつあります。「心」の比較文化的な関心は、文化人類学的手法をもってなされることもありますが、社会学的な手法でのアプローチや考察も必要です。この「心」の研究は、言語においてだけでなく、言語に絡む「心」のメカニズム解明においても重要で、今日、教育界だけでなく、世の中の関心事でもあります。

演習では、「演習Ⅲ」A・Bで学んだことを基礎に、引き続き言語を巡っての現象や諸問題を心理面や社会面から考えていきます。また、言語処理のメカニズムから、言語心理学や脳科学にも注目しながら、それらとの関連性から考えていきます。

**【授業における到達目標】**

これまで身に付けた基礎力の統合と、各種基礎能力の再構築を目指し、また、社会人として必要な総合的な应用能力を確実に身に付けさせるため、ここでは卒業研究としての論文制作とそのための執筆を通じ、「問題発見、課題設定、社会と自身を結び付ける概念構築、効果的な文章の書き方・表現方法、論理的思考、批判的能力」等々の育成と、併せて、よき社会人女性として活躍するために、ゼミ活動という単位での「実践コミュニティー」を作り上げ、そこで「協働学習」の実践や各種活動を通じて、実現していきます。

**【授業の内容】**

## 前期ⅣA

言語や言語心理学、社会心理学の専門書、学術論文を読んでみよう

- 1と2. 専門書、学術論文を読んでみる一問題点や課題の発見一
- 3～5. 専門書、学術論文を読み込む一ディスカッション一
- 皆で、各自の論文研究テーマについて考えてみよう
- 6～12. 各自の論文研究テーマについての検討
7. 試しに卒業論文を書いてみよう
- 13と14. 卒業論文を書く
15. 卒業論文を書くことと後期に向けた方向性を見定め

## 後期ⅣB

卒業論文と心理

- 1～3. 文章を書くことと心理

卒業論文と文章処理メカニズム

- 4と5. 卒業論文と文章処理メカニズム

卒業論文を完成する

- 6と7. 卒業論文を完成する一全体性一

- 8～14. 卒業論文を完成する一完成度一

15. 演習全体の振り返りと総括

**【事前・事後学修】**

【事前学修】卒業研究に関連した先行研究や必要な資料は、各自で探し、事前に熟読し、要約を作成の上、配布できるように準備する。授業でのディスカッションや批判的な各種質問にも耐えられるよう、内容把握と理解に努めること（週3時間）。

【事後学修】各種質問、コメント、フィードバック内容を確認、よく理解した上で修正、推敲する（週1時間）。

**【テキスト・教材】**

各自の卒業研究の内容は異なるため、それぞれに係わるものは適宜授業で紹介しますが、必要な資料や最新の学術論文等は、こちらで準備します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

発表とディスカッション30%、卒業論文70%。推敲中、毎回フィードバックはします。

**【参考書】**

授業の中で適宜紹介します。

**【注意事項】**

教師が教室で指導できる範囲や時間には限界があります。レベルや目的が異なる場合には、個別対応や個別指導も行いますが、皆さんの自律的かつ主体的な学習が基本です。また、「協調（的）学習」や「協働（型）学習」を促進します。皆さんの潜在能力をいかに引き出せるか、どこまで伸ばせるのかが勝負だと思っています。しっかり振り落とされないように付いてきてください。

## 演習ⅣA・ⅣB

原田 謙

4年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

この演習では、テーマ設定から、文献・資料の収集・整理方法、そして執筆上の注意点まで「卒業論文」を完成させるために必要な指導をおこなう。

## 【授業における到達目標】

この演習は、ゼミ生同士の意見交換を中心に、個別指導、中間報告会を実施しながら、より良い論文を完成させることを目指す。論文の作成を通じて、自己成長する「研鑽力」を培い、互いに協力して物事を進めることができる「協働力」や、目標を設定して計画を立案・実行する「行動力」を養う。

## 【授業の内容】

前期

1. イントロダクション
  2. 卒業研究のすすめ方
  3. テーマ設定：良いテーマと悪いテーマ
  4. 先行研究・資料の収集
  5. 先行研究・資料の整理方法
  6. 研究方法の検討
  7. 論文構成（目次）の検討
  8. 先行研究レビュー（1）
  9. 先行研究レビュー（2）
  10. 先行研究レビュー（3）
  11. 先行研究レビュー（4）
- 8～11は、研究テーマに関連する先行研究（とくに学術論文）の知見を整理し、報告する。
12. 調査結果報告（1）
  13. 調査結果報告（2）
  14. 調査結果報告（3）
  15. 調査結果報告（4）
- 12～15は、実施した聞き取り調査や参与観察の結果を報告する。

後期

1. 文章の基本作法
  2. 論文形式の確認
  3. 中間報告（1）
  4. 中間報告（2）
  5. 中間報告（3）
  6. 中間報告（4）
- 3～6は、卒論の中心となる章の内容について報告し、加筆・修正する点を確認する。
7. 概要書（要約）の作成方法
  8. 卒論本体の確認（1）
  9. 卒論本体の確認（2）
  10. 卒論本体の確認（3）
- 8～10は、卒論本体における「研究目的」「本論」「結論」の内容を確認し、概要書を完成させる。
11. 発表資料の作成方法
  12. 卒論発表（1）
  13. 卒論発表（2）
  14. 卒論発表（3）
  15. 卒論発表（4）
- 12～15は、最終報告会を実施し、総括討論をおこなう。

## 【事前・事後学修】

【事前学修】授業前に、報告原稿を作成し予行演習しておくこと（週2時間）。

【事後学修】授業後に、論文の加筆修正を行うこと（週2時間）。

## 【テキスト・教材】

適宜、個別に指示する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み姿勢（30%）、論文内容（50%）、プレゼンテーション（20%）にもとづいて評価する。論文およびプレゼン評価のフィードバックは、授業内に（もしくはmanabaで）行う。

## 演習ⅣA・ⅣB

子どもと家族の社会学Ⅱ

広井 多鶴子

4年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

各自、自分の研究テーマに関する資料収集と分析を行い、卒業論文を執筆する。

## 【授業における到達目標】

自分の研究テーマに関して、データや資料を収集・分析し、得られた知見を体系的に文章としてまとめることができる。それによって、研鑽力、行動力、協働力を養う。

## 【授業の内容】

演習ⅣA

- 第1週 研究計画の作成
- 第2週 研究計画の提出
- 第3週 卒論の進行状況の発表
- 第4週 序章の書き方
- 第5週 論文の構成を学ぶ
- 第6週 論文の構成を考える
- 第7週 論証の仕方
- 第8週 論理の展開
- 第9週 資料の分析
- 第11週 結論の書き方
- 第12週 中間発表①
- 第13週 中間発表②
- 第14週 中間発表③
- 第15週 中間発表④

\*中間発表①～④は、担当者（2～3人）が自分の進捗状況を発表し、それについて参加者全員でディスカッションする。

\*9月中旬に3年生と合同で卒論中間発表会を行う。

演習ⅣB

- 第1週 進行状況の発表
- 第2週 序章を書く：研究課題と目的
- 第3週 資料を分析する
- 第4週 論理展開の方法
- 第5週 結論を書く
- 第6週 パワポの作成
- 第7週 パワポによる中間発表
- 第8週 個別指導①
- 第9週 個別指導②
- 第11週 個別指導③
- 第12週 個別指導④
- 第13週 個別指導⑤
- 第14週 卒論発表会のリハーサル①パワポの作成
- 第15週 卒論発表会のリハーサル②発表

\*個別指導①～⑤はそれぞれの進行状況に即して個別に指導する。

## 【事前・事後学修】

【事前学修】卒論に関する文献や資料を収集・分析する。週2時間

【事後学修】ゼミで得られた知見をもとに論文を執筆する。週2時間

## 【テキスト・教材】

各自のレポートは、発表予定の前日までにメールでゼミ生に送信。ゼミ生はそれを読み、プリントアウトして持参すること。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

演習ⅣAについては、レポート50%、課題の提出など授業への取り組み50%。演習ⅣBについては、卒業論文の完成度80%と発表20%で評価する。

フィードバックはそのつど行う。

## 【参考書】

授業中に提示する。

## 【注意事項】

9月半ばに3年、4年合同で卒論中間発表会を行なう。



**演習ⅣA・ⅣB****谷内 篤博**

4年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

丹念な先行研究・論文等の精査が求められます。

**【授業のテーマ】**

本演習は、3年次における演習ⅢA・ⅢBを通じて学んできた人的資源管理（HRM）の基礎的・専門的知識を駆使して、卒業論文の制作・完成を目指しています。

学生一人ひとりの興味あることをテーマに設定し、丹念な先行研究の精査、専門書、論文の読破を通じて、論文の完成を目指します。いわば、大学4年間の集大成ともいべきものがこの演習です。

**【授業における到達目標】**

本ゼミを通してディプロマ・ポリシーの修得すべき態度のうち、多様性を受容し、多角的な視点を以って世界に臨む態度やグローバルな視点から多面的に考察をする態度を修得するとともに、修得すべき能力のうち、高い水準の卒論作成に向け、課題解決のために主体的に行動する力が身につきます。

また、質の高い卒論作成に向け、自己研鑽するとともに、卒論の中間報告における質疑や議論などを通じて協働力がゼミ生の中に芽生えてくるものと思われる。

**【授業の内容】**

- 第1週 卒論のテーマの確認（1）
- 第2週 卒論のテーマの確認（2）
- 第3週 卒論のテーマの確認（3）
- 第4週 卒論のテーマの確認（4）
- 第5週 テーマに対する評価とフィードバック（1）
- 第6週 テーマに対する評価とフィードバック（2）
- 第7週 卒論のスケルトン作成に対するアドバイス（1）
- 第8週 卒論のスケルトン作成に対するアドバイス（2）
- 第9週 卒論のスケルトン作成に対するアドバイス（3）
- 第10週 卒論のスケルトン作成に対するアドバイス（4）
- 第11週 卒論の中間発表（1）
- 第12週 卒論の中間発表（2）
- 第13週 卒論の中間発表（3）
- 第14週 卒論の中間発表（4）
- 第15週 卒論中間発表に対する評価とフィードバック
- 第16週 卒論作成の個別指導（1）
- 第17週 卒論作成の個別指導（2）
- 第18週 卒論作成の個別指導（3）
- 第19週 卒論作成の個別指導（4）
- 第20週 卒論作成の個別指導（5）
- 第21週 卒論作成の個別指導（6）
- 第22週 卒論作成の個別指導（7）
- 第23週 卒論の発表（1）
- 第24週 卒論の発表（2）
- 第25週 卒論の発表（3）

**【事前・事後学修】**

事前学修：先行研究・文献のサーベイとその要約（学修時間 週2時間）

事後学修：フィードバックを受けたことに対する振り返りと次回の報告に向けた準備（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

教材は使用しません。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

成績評価は、卒論の出来栄え80%と卒論制作過程における先行研究等のレビュー報告20%で実施します。先行研究等のレビューについては提出の際に細かくフィードバックをする。卒論の出来栄えについては、ゼミ全体の卒論報告会で個別にフィードバックを与える。

**【参考書】**

特に、必要はありません。

**【注意事項】**

**演習ⅣA・ⅣB**

メディアに関わるあらゆる研究

駒谷 真美

4年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

メディアは、我々の生活に様々な刺激！や疑問？を与えている。本演習では、学生自身のメディアに対する！？を2年間かけメディア研究の卒論として追究していく。4年次は、追加調査を検討する、本論（結果・考察）を改善する、結論をまとめるプロセスを経て、ポートフォリオを精緻化し、卒論を完成する。本演習では、メディア研究の卒論活動を通してメディア情報リテラシー（MIL）を育成するのが目的である。

**【授業における到達目標】**

MIL応用段階の目標は、[コミュニケーション] ①卒論活動を通して、MILの自己表現力を培い、ICTを駆使してメディアメッセージを発信できる②他者の異なる価値観を受け止め、協働から新しい価値観を創り、社会に情報発信できることである。①②の達成により、本学の学生が修得すべき[研鑽力]「広い視野と洞察力を身につけ本質を見抜ける力」と[行動力]「プロセスや成果の適切な評価から問題解決できる力」を主体的に高める。

**【授業の内容】**

4年次の演習は、個々の進路計画を考慮し柔軟に対応する。

## [前期] 卒論の改善

1. 卒論スケジュール確認
2. 本論（結果）添削指導（1）
3. 本論（結果）添削指導（2）
4. 本論（結果）添削指導（3）
5. 本論（結果）添削指導（4）
6. 本論（結果）添削指導（5）
7. 本論（考察）添削指導（1）
8. 本論（考察）添削指導（2）
9. 本論（考察）添削指導（3）
10. 本論（考察）添削指導（4）
11. 本論（考察）添削指導（5）
12. 本編初稿提出・報告会準備
13. 進捗状況報告会（1）
14. 進捗状況報告会（2）
15. 進捗状況報告会（3）

## [後期] 卒論の完成

1. 卒論スケジュール最終確認
2. 序論再稿提出
3. 本編再稿提出
4. 結論執筆指導
5. 結論添削指導（1）
6. 結論添削指導（2）
7. 引用文献添削指導
8. 概要執筆指導
9. 概要添削指導
10. フォーマット最終確認
11. 卒論発表指導
12. 卒論発表会準備
13. 卒論発表会準備
14. 卒論発表会（1）
15. 卒論発表会（2）

**【事前・事後学修】**

- ・事前学修（学修時間：週2～4時間）では、指定テキストや文献資料・manabaの授業資料を熟読する。
- ・事後学修（学修時間：週2～6時間）では、学修内容をリフレクションシートとポートフォリオにまとめ、manabaのレポート機能で期限内に提出し保存する。プレゼンの準備をする。

**【テキスト・教材】**

授業資料をmanabaのコンテンツに適宜アップ。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（第1～15週のリフレクションシート）30%+活動点（プレゼン・ポートフォリオ・卒論）70%の総合的評価。リフレクションシートは次回授業開始時、プレゼン・ポートフォリオは該当回にフィードバック。

**【参考書】**

授業で適宜紹介。

**【注意事項】**

- ・本授業ではEnjoyment・Edutainment・Empowermentを重視しているので、積極的に楽しんで学修してもらいたい。
- ・各自の卒論進捗状況により、授業外での自主活動も想定される。

**演習ⅣA・ⅣB**

蔣 飛鴻

4年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

演習Ⅲに引き続き、会計学に関連するトピックス（新聞記事・雑誌・書籍等）を勉強する。授業では、演習Ⅲに引き続き、卒業論文を完成させるために必要な指導を行う。

**【授業における到達目標】**

本演習では、会計学の知識を勉強したうえ、企業、社会で行われている経営活動にかかわる諸問題について調査、研究、考える、解決する力を身につけてもらうことを狙いとする。

ディプロマポリシー：知を求める力（態度）、学修を通して自己成長する力（研鑽力）、課題解決のために主体的に行動する力（行動力）、相互を活かして自らの役割を果たす力（協働力）の育成

**【授業の内容】**

## 演習ⅣA

- 第1週 ガイダンス 卒業論文の完成までの日程確認
- 第2週 卒業論文案の発表①
- 第3週 卒業論文案の発表②
- 第4週 卒業論文案の発表③
- 第5週 スケルトンの完成
- 第6週 スケルトン報告①
- 第7週 スケルトン報告②
- 第8週 卒業論文執筆状況についての報告①
- 第9週 卒業論文執筆状況についての報告②
- 第10週 卒業論文執筆状況についての報告③
- 第11週 卒業論文の中間発表①
- 第12週 卒業論文の中間発表②
- 第13週 卒業論文の中間発表③
- 第14週 卒業論文の中間発表④
- 第15週 まとめ

## 演習ⅣB

- 第1週 今後のスケジュールの確認
- 第2週 論文形式の確認
- 第3週 卒業論文の指導（全体の構成）
- 第4週 卒業論文の指導（問題意識とむすびの書き方）
- 第5週 卒業論文の指導（本論の書き方）
- 第6週 卒業論文の指導（参考文献と注のつけかた）
- 第7週 卒業論文の指導（論文の進捗を確認）
- 第8週 卒業論文の指導（論文の最終確認）
- 第9週 卒業論文の個人発表①
- 第10週 卒業論文の個人発表②
- 第11週 卒業論文の個人発表③
- 第12週 卒業論文の個人発表④
- 第13週 卒論発表資料の作成方法
- 第14週 卒論発表資料の最終確認
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：各自の研究領域に関する先行研究の調査、精読および研究方法の学習（学修時間週3時間）

事後学修：授業内での履修者相互での議論をもとに作成したノート振り返り、次回対象文献資料を精読し、レジメ作成を行うこと（学修時間週3時間）

**【テキスト・教材】**

各自の研究領域に関する先行研究を自らリストアップし、自身での研究スケジュールにあわせて、精読することが求められる。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート（40%）、口頭発表（40%）、ゼミ運営（20%）

レポート課題に対して、毎回コメントやフィードバックする。

**【参考書】**

参考書や問題集については適時紹介する。

#### 【注意事項】

- 履修者の意欲的な姿勢を期待している。
- 報告担当者の欠席は、合理的理由がない場合、これを認めない。

### 演習ⅣA・ⅣB

アジアの文化人類学

高橋 美和

4年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

#### 【授業のテーマ】

日本を含むアジア地域から履修者が自ら選択した地域・コミュニティ・集団・カテゴリーを対象とし、その文化を内側から理解することを試みる。文化人類学的手法、特に質的調査法を用いた調査を実施し、ゼミでの発表と討論を経ながら考察を進め、最終的には卒業論文という形にまとめる。

#### 【授業における到達目標】

演習ⅢA・ⅢBで培った文化人類学的手法に関する知識をふまえ、自らの関心にそった調査計画の策定・実施が主体的にできるようになることを目標とする。各自の異文化を対象とした調査研究およびゼミでの発表や討論参加という一連の活動と学修を通し、国際的視野、協働力、そして学修を通して自己成長する研鑽力を養う。

#### 【授業の内容】

演習ⅣA：

各自が卒業論文で扱う「問い」と、それを明らかにするための方法の確定、具体的な調査に入る準備を行う。

授業では、フィールドワークに関するテキストの輪読を毎回行い、並行して以下を実施する。

第1週 研究計画書の作成にむけた準備作業

第2週 研究計画書の作成

第3週 研究計画書の相互検討

第4週 現地調査（予備調査および本調査）の計画作成

第5週 現地調査（予備調査および本調査）の計画の相互検討

第6～8週 予備調査の実施と発表

第9～11週 調査以外の情報収集の進捗状況発表

第12～15週 先行研究（特に学術論文）の発表

演習ⅣB：

第3週までに本調査を実施する。

データの整理、考察を行い、論文にまとめていく。

授業では、以下の進捗状況を複数回発表し、全員で討論する。

第1～2週 調査から得られる結果の予想と、論文の中での位置づけに関する発表

第3～5週 章立てを含む論文の構成の検討

第6～8週 本調査の実施状況、データ分析の進捗状況の発表

第9～10週 引用・脚注・参考文献リストなどの形式確認作業

第11～12週 結語執筆後の序章のリライト、要旨の執筆

第13週 卒業論文提出前の最終確認作業

第14～15週 卒業論文発表のための資料作成とプレゼンテーションの練習

#### 【事前・事後学修】

事前：発表担当回にはレジメを作成する。（4時間）

事後：ゼミ発表でのフィードバックを必ずまとめておくこと。（4時間）

#### 【テキスト・教材】

岸政彦・石岡丈昇・丸山里美『質的社会調査の方法—他者の合理性の理解社会学』有斐閣、2052円

#### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

調査の実施・ゼミでの発表内容・討論での論理性、積極性、貢献度の総合評価（100%）。質問やコメントで出席とみなす。発表や討論についてはその都度フィードバックする。

#### 【参考書】

授業で紹介する。また、受講生個々人の関心・必要に応じて文献の紹介を随時行う。

#### 【注意事項】

報告発表担当者の欠席は原則として認めない。日頃の計画性、スケジュール管理などが求められる。

**演習ⅣA・ⅣB**

神山 静香

4年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

**【テキスト・教材】**

演習時に適宜、紹介する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

演習ⅣAは、卒業論文への取り組み（50%）、ゼミにおける議論への積極的参加（50%）で評価する。演習ⅣBは、卒業論文の内容（80%）、卒業論文発表会（20%）で評価する。課題に関しては、毎回の授業時にフィードバックを行う。

**【授業のテーマ】**

演習Ⅲまでの研究成果を基礎として、研究テーマをさらに理論的に掘り下げ、論文としての形式を備えた「卒業論文」として完成させることを目的とする。

**【授業における到達目標】**

ビジネス（商取引、契約）や企業組織、国際取引・交渉、紛争解決等、企業を取り巻く法律やルールについての知識を修得する。また、卒業論文の執筆を通して、「問い」を立て、分析手法を検討し、理論的に「問い」を検証して答えを導き出すといった一連のプロセスを経験することで、学術論文を執筆する上で必要なスキルを身に付ける。ディプロマポリシーとの関連では、国際感覚を身に付けて世界に踏み出し社会を動かそうとする態度を核として、学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身に付け、本質を見抜く力及び「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を発見する力を修得する。

**【授業の内容】**

## 演習ⅣA

- 第1週 ガイダンス：演習の進め方
- 第2週 卒業論文のテーマ・構想と研究計画の確認①
- 第3週 卒業論文のテーマ・構想と研究計画の確認②
- 第4週 卒業論文のテーマ・構想と研究計画の確認③
- 第5週 先行研究の収集・分析と論文構成の確定①
- 第6週 先行研究の収集・分析と論文構成の確定②
- 第7週 序論の執筆指導①
- 第8週 序論の執筆指導②
- 第9週 序論の執筆指導③
- 第10週 論理の展開－アウトライン・章立ての検討①
- 第11週 論理の展開－アウトライン・章立ての検討②
- 第12週 論理の展開－アウトライン・章立ての検討③
- 第13週 中間発表①
- 第14週 中間発表②
- 第15週 総括

## 演習ⅣB

- 第1週 ガイダンス：卒業論文スケジュール確認、進捗状況の報告
- 第2週 卒業論文作成指導①
- 第3週 卒業論文作成指導②
- 第4週 卒業論文作成指導③
- 第5週 卒業論文作成指導④
- 第6週 卒業論文作成指導⑤
- 第7週 中間発表
- 第8週 卒業論文作成指導⑥
- 第9週 卒業論文作成指導⑦
- 第10週 卒業論文作成指導⑧
- 第11週 卒業論文発表会準備①
- 第12週 卒業論文発表会準備②
- 第13週 卒業論文発表会準備③
- 第14週 卒業論文発表会
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

事前学修：報告者は、卒業論文の構成等をまとめたレジюмеを作成し、報告の準備をすること。演習前日までにメールで教員まで送信する。報告者以外の者は、報告者のレジюмеを読み、ディスカッションのための準備を行う（学修時間週2時間）。

事後学修：ゼミ内で出た意見について各自復習、検討すること。報告者はゼミ内で出た意見を卒業論文に反映し、次回の演習時に教員に改善点などを報告すること。（学修時間週2時間）。

**演習ⅣA・ⅣB**

ことばを語用論的に考えるⅡ

山下 早代子

4年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

**【参考書】**

適宜指示する。

**【注意事項】**

スケジュールに沿って課題を一つ一つ達成し、期日までに卒論を仕上げる。

**【授業のテーマ】**

本ゼミは、3年次の演習ⅢABの学習を踏まえ、ことばに関する研究を進める。各自の研究テーマに合った形で収集したデータを考察、最終的に卒論を仕上げ、プレゼンテーションを行う。

**【授業における到達目標】**

ことばに関するテーマで卒業論文を作成する。卒業論文は、データベースのものとし、資料を収集し先行研究を行い、研究課題を立てる。データはその課題の答えを出すために収集し、集計、検証する。結果を分析し、卒業論文にまとめ、最後にプレゼンテーションを行う。

卒業するまでに身につけるべき態度・能力：「物事の真理を探究することにより、新たな知を創造する態度」、「広い視野と洞察力」、「プロセスや成果を正しく評価し、問題解決につなげる力」

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 卒論執筆に向けての心構え
- 第3週 卒論テーマについて計画を述べる
- 第4週 お互いの卒論テーマについての質疑
- 第5週 発表者による応答
- 第6週 卒論テーマと研究デザインについての指導
- 第7週 研究の目的についての確認
- 第8週 先行研究資料収集開始
- 第9週 先行研究の要旨を書く
- 第10週 先行研究の問題点を指摘する
- 第11週 研究課題を策定する
- 第12週 お互いの研究課題について質疑
- 第13週 データ収集のデザインを考える
- 第14週 予備調査の実施
- 第15週 卒論全体構想の発表
- 第16週 ⅢB 調査研究方法概論
- 第17週 予備調査結果の分析・検討
- 第18週 本調査データ収集方法の策定
- 第19週 本調査実施
- 第20週 本調査データ収集
- 第21週 結果の集計
- 第22週 考察・分析
- 第23週 まとめ部の執筆
- 第24週 要旨・概要の執筆
- 第25週 卒論完成にむけての全体の検討
- 第26週 卒論完成・提出
- 第27週 パワーポイントによるプレゼン準備
- 第28週 パワーポイントによる発表完成
- 第29週 卒論発表リハーサルコメント
- 第30週 卒論発表

**【事前・事後学修】**

事前学修：各自、自分のテーマに沿って自分の予定表にしたがい、卒論執筆作業を進める。

事後学修：課題は期日までに提出する。卒論執筆は各自のペースで行うので、場合によっては7～8時間集中して卒論に取り組むこともある。

**【テキスト・教材】**

授業時に指示する

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

先行研究20%、発表30%、卒業論文50%

フィードバックは卒論を執筆する課程を通して、書いたもの（直接、あるいはメールやmanabaによる添削）、または口頭で行う。

**演習ⅣA・ⅣB**

卒業研究の準備と作成

角本 伸晃

4年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

演習ⅣAでは、経済分野の中から疑問に思ったことや解明したいことなどを学生自身に自由に卒論のテーマとして設定してもらう。そのテーマに沿って卒業論文研究計画書およびアウトラインシートを作成し、それに従って卒業論文の基本的構成、参考資料や文献、統計データ（アンケート調査含）の収集・加工方法などについて、指導する。

演習ⅣBでは、前期に引き続いて卒業論文の完成に向けて指導する。指導内容は学生の進捗状況に合わせて、参考文献やデータの検索・収集、データの加工方法、必要な経済理論まで、幅広く行う。

**【授業における到達目標】**

卒業論文の作成を通して、現代社会における広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とする。

**【授業の内容】**

演習ⅣA

1. インTRODクシヨン
2. 参考文献の検索・入手先の指導
3. ～7. 卒業論文のテーマ・構成・内容に関する指導（1～5）
8. 卒業論文の概要の発表会
9. ～14. データ加工・内容の指導（1～6）
15. 卒業論文の中間発表会

演習ⅣB

1. 夏期休暇中の進捗状況の報告
2. ～7. 卒業論文の作成指導（1～6）
8. ～9. 卒業論文の経過報告会（口頭1～2）
10. ～13. 卒業論文の作成指導（7～10）
14. ～15. 卒業論文の発表会（パワーポイント1～2）

**【事前・事後学修】**

【事前学修】毎回、少しずつでも必ず卒業論文を前に書き進めていくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業中に指導されたことを卒業論文に反映させること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

特になし。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

演習ⅣA：卒業論文計画書およびアウトラインシート（30%）、中間発表会での内容（70%）

演習ⅣB：卒業論文の内容（80%）、卒業論文の発表会（20%）卒業論文の発表会で講評を行いフィードバックする。

**【参考書】**

履修者の卒業論文のテーマに合わせて適宜、参考文献を紹介する。

**【注意事項】**

演習ⅣAの修了段階で卒業論文の構想全体の50%以上を完成させていることが望ましい。

**演習ⅣA・ⅣB**

高橋 意智郎

4年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

演習ⅢA Bでは、実際に企業が繰り広げる競争を理論的に見るというトレーニングを積んできた。本演習では、演習ⅢA Bで培った知識とノウハウに基づいて、卒業論文を作成する作業に取りかかる。演習の参加者にとって、数ヶ月にわたる長い時間をかけて1つの作品を書くのは初めての経験だろう。卒業論文の作成は、非常に厳しく辛い経験になると思うが、それを糧として社会へ旅立ってもらいたい。

**【授業における到達目標】**

国際企業について考えるための洞察力が身につく。

ディプロマポリシー：学修を通して自己成長する力【研鑽力】

**【授業の内容】**

演習ⅣA

1. ガイダンス：演習ⅣAについて
- 2～12. 卒業論文指導とディスカッション  
※第2～12回は、個人ごとに卒業論文を報告し個別に指導する。
13. ビジネス・ゲーム
14. ゲストスピーカーによる講演（予定）
15. 総括

演習ⅣB

1. ガイダンス：演習ⅣBについて
- 2～10. 卒業論文指導とディスカッション  
※第2～10回は、個人ごとに卒業論文を報告し個別に指導する。
11. ゲストスピーカーによる講演（予定）
- 12～13. 他大学との合同ゼミの準備  
※第12～13回は、グループごとに課題を報告しグループごとに指導する。
14. 他大学との合同ゼミ
15. 総括

**【事前・事後学修】**

事前学修：次回の演習に関連する課題を出すので事前に作成しておくこと。（2時間）

事後学修：演習内容を振り返ること（2時間）

**【テキスト・教材】**

特になし

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

成績は、前期：論文作成への取り組み（100%）、後期：卒業論文（100%）で決定する。課題のフィードバックは、課題の解説を行う。

**演習IV A・IV B**

竹内 美香

4年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

卒業論文のために各自の問題意識を掘り下げ、課題に取り組む。設定したテーマに沿った仮説から、調査研究を行う。リサーチ・リテラシーがひと通りができる水準の達成を目指す演習科目である。

**【授業における到達目標】**

1. 客観性と再現可能性を重視する現代科学としての心理学の視点で対人社会・発達の事象を考えられるようになる。
2. 社会調査の手法を人間の発達・対人社会心理学的課題の解決のために正しく活用できる。
3. 計画・実行・評価のマネジメント・サイクルを回しながら、仲間と協働するスキルを習得する。
4. 新たな知識を創造しようとする態度や、生涯を通して自己研鑽を続ける力、主体的に他者と協働して課題解決の行動をとる力を身につける。

**【授業の内容】**

## 演習IV A

- 第1週 卒業論文完成までのスケジュールを確認し計画を立案する
- 第2週 テーマを決定する
- 第3週 卒業研究計画を確定する
- 第4週 質問項目を収集する
- 第5週 独自項目を抽出し構成する
- 第6週 変数間の関連を考えて仮説を立てる
- 第7週 先行研究論文を読み込み、「序論」を書き始める
- 第8週 調査準備を行う。印刷と以降の行動計画を立てる
- 第9週 調査を実施する。同時に、データ入力シートを作成する
- 第10週 収集帳票を整理する
- 第11週 データ入力作業を進める
- 第12週 解析計画を立てて、解析方法を確認・学習する
- 第13週 中間作業報告会を行う
- 第14週 後期に向けて、学生相互に情報交換とアドバイスを行う
- 第15週 データ解析計画と相談、具体的な行動計画を考える

## 演習IV B

- 第1週 後期ガイダンスー 今後の作業計画の確認、
- 第2週 以下、随時データ解析の内容を記載しておく
- 第3週 回答率分布を調べる
- 第4週 基本統計量を算出する
- 第5週 条件文の書き方を考えて回答者を分類する
- 第6週 群間の比較を試す
- 第7週 変数間の関連を調べる
- 第8週 変数の構造を調べ、イメージを考察する
- 第9週 さらに合成変数をつくる
- 第10週 重回帰分析を試して因果関係を考えてみる
- 第11週 表とグラフの書き方を工夫する
- 第12週 結果を文章化し、考察を掘り下げる
- 第13週 論文として総合的にまとめる
- 第14週 他の人にわかりやすく説明するための準備をする
- 第15週 卒業論文発表会の予行演習を行う

**【事前・事後学修】**

【事前学修】PC技術に習熟する。既存の学術論文を収集しレジュメを作成する。

【事後学修】常にすべての取り組みを卒業論文の執筆につなぐ。最終的に論文の完成と発表プレゼンテーションの作成につなげる。

【事前・事後学修時間】卒業論文は大学の学びの集大成である。週4時間以上の取り組みは前提となる。

**【テキスト・教材】**

多種の学会誌から、適切な先行研究論文を探し、「お手本」として活用する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

IV A 調査作業の主体的取り組み評価60点、先行研究の学習成果報告を40点の配点で評価する。

IV B 卒業論文 60%、卒業論文発表 40%

フィードバックは対面、直接コミュニケーションで個別的に逐次行う。

**【参考書】**

すべての既存、学術論文を活用。

**【注意事項】**

主体的な取り組みを期待する。教員と学生間の迅速で密な連絡と通信、ゼミメンバー間の思いやり行動を重視する。

**演習ⅣA・ⅣB**

現代マーケティング演習

斎藤 明

4年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

## ■目標■

- (1) 研究概要（研究計画）書の作成
- (2) 卒業論文の作成

**【授業における到達目標】**

## ■到達目標■

卒業研究（卒業論文）を自律的に遂行することができる。  
 仮説実証型を自律的に遂行することができる。

## ■ディプロマ・ポリシー■

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、知の探究力を修得する。

**【授業の内容】**

## 演習ⅣA

- 第1週 オリエンテーション：卒業論文完成までの日程確認
- 第2週 卒業論文案の発表①
- 第3週 卒業論文案の発表②
- 第4週 卒業論文案の発表③
- 第5週 スケルトン報告①
- 第6週 スケルトン報告②
- 第7週 スケルトン報告③
- 第8週 卒業論文執筆状況について報告①
- 第9週 卒業論文執筆状況について報告②
- 第10週 卒業論文執筆状況について報告③
- 第11週 卒業論文の中間発表①
- 第12週 卒業論文の中間発表②
- 第13週 卒業論文の中間発表③
- 第14週 卒業論文の中間発表④
- 第15週 前期の総括

## 演習ⅣB

- 第1週 今後のスケジュールの確認
- 第2週 論文形式の確認
- 第3週 論文執筆およびディスカッション①
- 第4週 論文執筆およびディスカッション②
- 第5週 論文執筆およびディスカッション③
- 第6週 卒業論文進捗報告①
- 第7週 卒業論文進捗報告②
- 第8週 卒業論文進捗報告③
- 第9週 卒業論文仕上げに向けての指導
- 第10週 卒業論文発表①
- 第11週 卒業論文発表②
- 第12週 卒業論文発表③
- 第13週 卒業論文発表会の準備
- 第14週 卒業論文発表会
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

事前・事後を通じて、各自の研究領域に関する先行研究の渉猟、精査および研究方法の学習等、卒業論文作成に向けて、自律的学習にも相当な深堀を遂行すること。

事前学修：対象文献資料を精読し、各自毎回レジメを作成し、授業の臨むこと。（学修時間 週4時間）

事後学修：授業内での履修者相互での議論をもとに作成したノートを振り返り、次回対象文献資料を精読し、レジメ作成を行うこと。（学修時間 週4時間）

**【テキスト・教材】**

各自の研究領域に関する先行研究を自らリストアップし、自身の研究スケジュールにあわせて、精読することが求められます。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

## ■成績評価■

演習における研究報告（先行研究渉猟および精査の程度、検証仮説

の設定、報告内容および報告資料作成を含め）の内容：100%

## ■フィードバック■

提出されて課題に関して、演習内で、適宜フィードバックを実施する。

**【参考書】**

各自の研究領域に関する先行研究渉猟状況、精査状況に応じて、演習指導時に紹介します。

**【注意事項】**

報告担当者の欠席は、合理的理由がない場合、これを認めない。  
 卒業論文完成へのスケジュールを確認し、厳しく自己管理しながら取り組むことが強く求められます。



**演習ⅣA・ⅣB**

行動計量学ゼミ

竹内 光悦

4年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

本演習では、3年次に学んだ内容を踏まえて、より掘り下げたレベルで各学生独自のテーマによる卒論研究を進める。なお本ゼミにおける対象のテーマは、広義で人の行動・意識を計量的に分析するテーマであれば特に限定しない。行動・意識調査など、またこれらのテーマにおける測定法や解析手法の研究開発でもよい。

**【授業における到達目標】**

多様化する社会問題を客観的に把握する知識や技能を身につけることにより、課題解決のために主体的に行動する力【行動力】、チームで活動する力【協働力】、活動の振り返りによる自己管理能力【研鑽力】を修得する。

**【授業の内容】**

前期ゼミ 01 授業ガイダンスと現状報告および今期計画

ゼミ 02 卒研計画の立案

ゼミ 03 卒研計画の仕上げ

ゼミ 04 卒研の企画検討

ゼミ 05 卒研の先行研究：情報収集

ゼミ 06 卒研の先行研究：文献検索

ゼミ 07 卒研の先行研究：研究結果のまとめ

ゼミ 08 卒研のデータ収集：調査計画の検討

ゼミ 09 卒研のデータ収集：調査実査方法

ゼミ 10 卒研のデータ収集：データの処理

ゼミ 11 卒研のデータ収集：データの分析

ゼミ 12 卒研の中間発表に向けて

ゼミ 13 卒研中間発表、今期のまとめ

ゼミ 14 卒研再検討

ゼミ 15 卒研構想発表会

後期ゼミ 01 現状確認と卒研の最終検討

ゼミ 02 卒研の分析・考察—分析計画、基礎分析の確認

ゼミ 03 卒研の分析・考察—計量的分析の検討

ゼミ 04 卒研の分析・考察—分析結果の考察の検討

ゼミ 05 卒論草稿の仕上げ

ゼミ 06 卒論仕上げ—卒論の校正作業

ゼミ 07 卒論仕上げ—卒研の追加調査の調整

ゼミ 08 卒論仕上げ—卒研の追加分析の調整

ゼミ 09 卒論仕上げ—概要書の作成

ゼミ 10 卒論仕上げ—全体の最終調整

ゼミ 11 卒論の最終仕上げ、提出準備

ゼミ 12 卒研の振り返り、次回への提言

ゼミ 13 卒論発表会の全体練習

ゼミ 14 卒論発表会の個人練習

ゼミ 15 卒論発表会

**【事前・事後学修】**

事前学修：卒業計画に従い、卒業研究を進める（学修時間 週2時間）／事後学修：授業次に調整した卒業研究の計画を見直し対応（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

テキスト等については適宜紹介し、特に指定はしない。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

演習内での活動状況（20%）および卒業研究（40%）、卒業論文（30%）、卒業発表（10%）で評価。manabaを通じて、卒論の進捗状況や質問等にフィードバックする。

**【参考書】**

竹内光悦・元治恵子・山口和範『アンケート調査とデータ解析の仕組みがよ〜くわかる本【第2版】』（秀和システム 2012年）

**【注意事項】**

学生主体の演習であるため、欠席や遅刻に関しては事前に連絡を入れること。SPSS や R などの統計ソフトの紹介も行う。

**演習ⅣA・ⅣB**

数野 昌三

4年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

卒業論文の作成を指導する。卒業論文を作成するということは、単に自分で考えたことを記述する作文とは異なり、担当教員の協力を得ながら、自らテーマを設定し、資料を収集・熟読・論文構成・記述という段階をたどり、物事に対する客観的な見方を培うということに意義があり、4年間の集大成である。

**【授業における到達目標】**

卒業論文を完成させることは、法的視点から一層物事を捉えることができるようになる。そのようになるためには、指導教員および周囲のゼミ生からの情報や意見・感想に耳を傾け、一步一步進めていくことが重要である。研鑽力、行動力、協働力が身につく。

**【授業の内容】**

演習ⅣA（前期）

第1週 ガイダンス

第2週 卒論計画書の作成

第3週 卒論計画書の報告会

第4週 基本書による  
複数テーマの設定第5週 基本書による  
テーマの絞り込み第6週 卒論に関する  
文献の必要性第7週 卒論に関する  
文献の取り扱い方第8週 卒論に関する  
文献収集

第9週 判例の確認

第10週 学説の確認

第11週 テーマに関する  
視点の設定第12週 卒論中間発表会用  
レジュメの作成方法第13週 卒論中間発表会用  
レジュメの作成

第14週 卒論中間発表会

第15週 総括

演習ⅣB（後期）

第1週 ガイダンス

第2週 テーマに関する  
複数問題点の抽出第3週 テーマに関する  
問題点の絞り込み

第4週 論文構成の必要性

第5週 論文構成（目次の作成）

第6週 問題点に関する諸判例の  
検討（事実関係）第7週 問題点に関する諸判例の  
検討（判旨）第8週 問題点に関する諸学説の  
検討（主張・根拠）第9週 問題点に関する諸学説  
への批判第10週 問題点に関する諸学説  
への批判に対する対応第11週 問題点に関する判例  
および学説のまとめ第12週 問題点に関する  
私権の発表

第13週 卒論発表会に向けて

第14週 卒論発表会

第15週 総括

\*夏期休暇期間中、合宿を実施する。

**【事前・事後学修】**

【事前学修】各自が設定したテーマに関して検索・収集した資料を熟読し、まとめてくること（学修時間 週4時間）。

【事後学修】各自がまとめた内容につき添削がなされるので、その添削に基づき補正し、次回へと継続させていくこと（学修時間 週4時間）。

**【テキスト・教材】**

個別に指導する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

・演習ⅣAに関して

卒業論文作成への取り組み50%、平常点（討議への参加度・ゼミへの貢献度）50%

・演習ⅣBに関して

卒業論文完成度60%、平常点30%、ゼミへの貢献度等10%

・本演習の各最終回、ゼミ生へのフィードバックを行う。

**演習ⅣA・ⅣB**

松浦 常夫

4年 前期・後期 各2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

演習ⅣAの期間中は就職活動と重なりますが、ゼミの日にはゼミ出席を最優先してください。

演習ⅣBの11月から卒論提出までは基本的にアルバイトをしないでください。

**【授業のテーマ】**

卒論の作成が目標です。それに向けて文献を調べ、実験・観察・質問紙・面接等の方法で調査や研究を行い、結果をまとめます。

演習ⅣAではミニ卒論をもとに、夏休みまでには本実験や本観察の計画をたてたり、質問紙を作成したりします。演習ⅣBでは、遅くとも10月には調査・実験を終え、11月には卒論の作成に本格的に取りかかり、卒論を完成させます。

**【授業における到達目標】**

後期に卒論が完成することを目標とし、先行研究の要約、心理学研究法に従ったデータ収集をおこない、それを論文という形で表現できるようにすることが目標です。

知の探求といった「態度」や心理学的な問題に対する興味・関心を持ったり、議論を通して論文に仕上げることで「研鑽力」、「行動力」、および「協働力」が修得されます。

**【授業の内容】**

## 演習ⅣA

- 第1週 ガイダンス、
- 第2週 ミニ卒論発表1（3人、論文の書き方）
- 第3週 ミニ卒論発表2（3人、論文の構成）
- 第4週 ミニ卒論発表3（3人、問題と先行研究）
- 第5週 ミニ卒論発表4（3人、目的と仮説）
- 第6週 結果のまとめ方、
- 第7週 図表の読み方、
- 第8週 単純集計、
- 第9週 クロス集計、
- 第10週 検定理論、
- 第11週 学生発表1（3人、図表の書き方）
- 第12週 学生発表2（3人、検定の種類）
- 第13週 学生発表3（3人、先行研究のまとめ方）
- 第14週 学生発表4（3人、文献の書き方）、
- 第15週 まとめ

## 演習ⅣB

- 第1週 学生発表1（進捗状況）
- 第2週 学生発表2（卒論作成までの道のり説明）
- 第3週 学生発表3（発表内容のチェック）
- 第4週 学生発表4（予備調査・実験）
- 第5週 本調査・実験
- 第6週 データ解析1（エクセルでの統計使用方法）
- 第7週 データ解析2（平均値の差の検定）
- 第8週 データ解析3（カイ二乗検定）
- 第9週 論文作成指導1（問題、目的、仮説）
- 第10週 論文作成指導2（結果、考察、文献）
- 第11週 論文作成指導3（図表）
- 第12週 論文作成指導4（統計分析）
- 第13週 論文作成指導5（概要書作成）
- 第14週 発表指導、
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修 発表者は前日までにレジュメやレポートを作成し、教員まで提出してください。その他の人はシラバスを見て予習する。（学修時間 週2時間）

事後学修 授業の復習をする。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

適宜プリントを配布しますが、基本的には学生の発表資料がテキストとなります。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

ゼミでの参加態度を50%、発表や卒論の内容を50%で評価します。

発表の都度、その内容の評価をおこないます。

**【注意事項】**

## 応用経済学

野呂 純一

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

## 【授業のテーマ】

ここでは、これまで学んできた経済学の復習を行いながら、主にマクロ経済学に関する理論や概念について学びます。その中で、私達の身に周りに存在する経済現象が経済学の中でどのように扱われているのかについて紹介していくと同時に、各種試験対策として練習問題を取り入れながら進めていきます。

また、授業の最後に配布するリアクションペーパーに質問や意見を書いて提出して頂き、次回の授業の最初に解説することにより受講者の関心に合わせて授業を行っていきます。

## 【授業における到達目標】

この授業を通して、次の二点を目標とします。

1. 授業中の発言、ディスカッション、リアクションペーパーなどを利用して自分の考えを積極的に述べることで主体的に学ぶこと
2. 私達の身の回りで起こっている出来事を経済学的視点から正しく把握し、課題を発見できる力を身に付けること

## 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 応用経済学とは何か
- 第3週 経済学の基本概念について知る
- 第4週 マクロ経済学の基礎知識を復習する
- 第5週 消費と貯蓄はどのようにして決まるのか①－消費の理論－
- 第6週 消費と貯蓄はどのようにして決まるのか②－貯蓄の理論－
- 第7週 企業の設備投資について知る
- 第8週 前半のまとめと復習
- 第9週 貨幣の役割と貨幣供給について知る①－貨幣需要－
- 第10週 貨幣の役割と貨幣供給について知る②－貨幣供給－
- 第11週 労働市場について考える
- 第12週 乗数理論について知る
- 第13週 IS-LM分析とは何か
- 第14週 経済政策の必要性について考える
- 第15週 全体のまとめと復習

## 【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業内容に関連するキーワード等について調べ、授業に臨んで下さい。(学修時間 週2時間)

【事後学修】 授業中に行った練習問題をもう一度解くと同時に授業中に紹介した参考文献や配布資料をよく読んで理解するようにして下さい。(学修時間 週2時間)

## 【テキスト・教材】

テキストは特に指定せず、配布資料を使用します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末テスト(40%)、小テスト(20%)及び平常点(40%)で評価する予定です。平常点とは、授業への積極的な参加姿勢、授業後に提出して頂くリアクションペーパーの内容などです。

授業中に行う練習問題については、授業中、もしくは、次回の授業の最初にフィードバックを行い、試験結果については最終回の授業でフィードバックを行います。

## 【参考書】

福田慎一・照山博司著『マクロ経済学・入門』第5版(有斐閣アルマ)

その他の参考書については授業中に適宜紹介します。

## 【注意事項】

受講に際して高度な専門的知識は求めませんが、これまで学んできた経済学についての基本的な理論と考え方について復習をしておいて下さい。また、理解度を高めるために他の経済学に関する授業と併せて受講することをお勧めします。

質問等は授業終了後、またはリアクションペーパー、メールにてお願いします。受講生には開講時に質問用のメールアドレスをお知らせします。

## 応用心理学

安全の心理学

松浦 常夫

2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力、行動力

## 【授業のテーマ】

交通安全での考え方をベースに、労働安全、製品安全、食品安全など日常生活の中で生じる安全の心理学について学びます。安全は人間の欲求の中でも飲食と睡眠に次ぐ基本的なものですが、危険な目に合っただけで初めてその大切さに気づきがちです。この授業から現代社会を生き抜くための実践的な知識を身につけましょう。

## 【授業における到達目標】

現代社会の危険を把握、理解し、それに対処する実践的な知識を身につけることを目標とします。

知を求める「態度」および危険発見とその解決に向けた「行動力」を修得します。

## 【授業の内容】

- 第1週 安全と安心
- 第2週 リスクとその社会的受容
- 第3週 リスクの認知
- 第4週 危険の発見(ハザード知覚)
- 第5週 危険の見積もりと対処:リスク知覚とリスクテイキング
- 第6週 リスクアセスメント
- 第7週 労働安全:働く人の安全
- 第8週 労働衛生:働く人の健康
- 第9週 食品安全
- 第10週 製品安全
- 第11週 事故原因としてのヒューマンエラー
- 第12週 事故原因としての違反
- 第13週 エラーや事故の要因としての技能と体調
- 第14週 事故時のコミュニケーションエラー
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

事前学修 シラバスを見て予習する。(学修時間 週2時間)

事後学修 毎回のテーマは必ずしも連続したものではありませんが、前回までのプリントを復習して授業にのぞんで下さい。(学修時間 週2時間)

## 【テキスト・教材】

毎回プリントを配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験60%、感想文・授業態度40%で評価します。

授業後に提出する感想に、皆に紹介したほうが良い質問があれば、次回に紹介・解説します。

## 【注意事項】

授業開始後10分以降に入室したり、授業に私語をしたりした場合は、原則的に欠席扱いとします。

**応用心理学特論**

交通心理学

松浦 常夫

人間社会専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

応用心理学の1つの分野である交通心理学の中でも主要なテーマである運転者と歩行者の交通安全を講義する。

**【授業における到達目標】**

この授業を通して、安全な運転や歩行を心理学的に理解すると共に、自ら交通事故を起こさないことを目標とする。また全学で目標とする態度と能力に関しては、態度の中の「知を求める態度」、能力の中の「本質を見抜く力」と「現状を正しく把握する力」を育成することを目標とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 交通心理学とは
- 第2週 運転の動機
- 第3週 運転行動の心理学的モデル
- 第4週 注意とハザード
- 第5週 リスク知覚とリスク・テイキング
- 第6週 歩行行動
- 第7週 視力と視野
- 第8週 交通違反
- 第9週 交通事故
- 第10週 事故の人的原因
- 第11週 歩行者の安全
- 第12週 事故運転者の心理特性
- 第13週 体調・病気と事故
- 第14週 社会・文化と運転
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

- 事前学修 シラバスを見て予習する。（学修時間 週1時間）  
毎回、宿題を課す。（学習時間 週1時間）
- 事後学修 授業の復習をする。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

毎回、プリントを配布する。あるいは原書購読をする。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験50%、平常点（授業への積極参加・提出課題）50%  
宿題については、提出時にそれを評価し、フィードバックする。

**【参考書】**

- 松浦常夫（2014）統計データが語る交通事故防止のヒント 東京法令出版
- 松浦常夫（編著）（2017）交通心理学 北大路書房

## 応用調理

田島 加寿央・武田 裕・大岩 透

2年 前期 2単位 3時限連続

○：研鑽力、行動力

### 【授業のテーマ】

本講座は、基礎調理で学んだ知識および技術をもとに、西洋料理・日本料理、中国料理を実習します。社会で活躍する料理専門家を講師に招き、本物の美味しさを体験し調理技術の向上を目指します。

### 【授業における到達目標】

学生が修得すべき「研鑽力」と「協働力」を育成し、専門技術として修得すべき「学術的な力」となる技能を修得する。

### 【授業の内容】

#### ○西洋料理

1. コーンクリームスープ（カブチーノスタイル）、ブレンオムレットとバターライス、トマトのサラダ・セルクル仕立て、パンナコッタとフランボワーズのシャーベット
2. 海の幸・野の幸のサラダ・菜園仕立て、パスタ・ポロネズ、クリームリキュレとマンゴーのシャーベット
3. ポテトとホウロウの冷製スープ・ウイソワーズ、ミックスサンドウィッチ（ロースハム・ブロッコリーステュード）、春キャベツ・オニオンソース・スパラウトのサラダ、イチゴのムースとイチゴのシャーベット
4. 日本産・イタリア産の生ハム2種に野菜と茸のピクルス、タスマニア産サモンのホリレ・ウイネグレットポウアンサル、クレープシュゼットとヴァニリアイス
5. ホタージュ・サンジェルマン、鶏もも肉とひき肉の重ね焼きにポテトのカレット添え、クサスのサラダ・ターブレ、チョコレートの小菓子和バターマンゴーのシャーベット
6. グルマンのひとさら、ロースビーフ・レフォルワーズ、グラタンフィワーズ、フルーツのタルトとパッションのシャーベット

#### ○日本料理

7. 大根ごはん、けんちん汁、鯖の味噌煮、鶏風味焼
8. 筍ご飯、結びきすの吸物、ひじき三種和え、魚の南波焼き、油揚げ・小松菜の煮浸し
9. 鯛めし、沢煮碗、南禅寺蒸し、がんもどき含め煮、
10. 卵とじ椀、かやくずし、鯖のわかさ焼き、とりべ和え、蒟蒻のおろし和え

#### ○中国料理

11. 卵とトマトのスープ、海老の甘酢あんかけ、オイスター炒飯、マンゴーと枇杷の香港スイーツ
12. 香港風焼きそば、海老と豆腐の合わせ蒸し、エビのチリソース煮、ライ紅茶ゼリー
13. 黒醋のすぶた、海老春巻き、香港的ソースやきそば、フルーツのせ杏仁豆腐
14. 豚肉と中国漬物の田舎蒸し、海鮮のフワフワたまごご飯、マホー豆腐、色々フルーツとアロエのメロンスイーツ
15. 鮮魚のX.O醬煮込み、五目湯葉巻き、蟹肉とレタスの炒飯、胡麻揚げだんご

### 【事前・事後学修】

【事前学修】manabaに掲載された資料をよく読んで、実習内容を把握しておいてください。（学修時間 週1時間）

【事後学修】レポート形式を配布しますので、それに従って実習レポートを作成してください。（学修時間 週1時間）

### 【テキスト・教材】

資料はmanabaに掲載します。各自印刷し授業に持参してください。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート：70%、平常点（授業への積極参加）：30% レポートは次回の授業で、その他は授業時にフィードバックします。

### 【参考書】

『NEW調理と理論』山崎清子他（同文書院）2,600円

### 【注意事項】

衛生管理徹底のため、指定された身支度を整え、手指の清潔に心がけてください。実習中は刃物や火の取り扱いには十分気をつけて行動し、担当者の指示に従い、安全に留意してください。各自日頃からの自己管理を怠らず、万全な体調で授業に臨んでください。なお、献立内容は食材調達等の関係で変更になる場合があります。

**沖縄インターンシップ**

リゾートホテルで就業体験♪

1年 集中 1単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

沖縄のリゾートホテルで就業体験を行います。

**【授業における到達目標】**

沖縄のホテルでの就業体験を通じて、広い視野と深い洞察力を身につけ、自信を創出する力を身につけ、現状を正しく把握し、課題を発見する力や、自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進める力も身につけます。

**【授業の内容】**

## I. 期間及び時間数

学科が指定した受入先で5日間以上、各日7時間を目安とした実習を終了することにより単位を認定します。実習のための欠席は、公欠扱いにはなりません。

## II. 内容

原則無報酬です。食費や交通費については、別途定めます。

**【事前・事後学修】**

事前学修：受入機関および地域周辺の情報収集及び研究を行うこと。2時間以上。各日ごとの実習内容を意識し、実習当日の目標設定を行うこと。また、実習日ごとに振り返りと反省を行うこと。各日1時間以上。

事後学修：日誌をまとめ、インターンシップ報告書の作成を行うこと。3時間以上。

**【テキスト・教材】**

プリントなどを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

実習内容および提出されたインターンシップ報告書をもとに単位を認定します。

**【参考書】**

沖縄および実習先地域の歴史、関連するホテルに関する資料を調べておくことを勧めます。

**【注意事項】**

実習内容を的確にまとめ、インターンシップ報告書を作成し、受入機関で必ず捺印やサインなどを記入いただくこと。

単位認定を希望する場合は、所定の期間に英語コミュニケーション学科研究室に申請すること。

## 音楽

越山 沙千子

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、協働力

についてはコメントを入れてフィードバックを行う。実技発表では事前・事後指導を行う。ピアノの実技に関しては、練習がうまくいかないなどの問題がある場合は教員へ相談をすること。

## 【参考書】

授業時に適宜紹介、指示する。

## 【注意事項】

ピアノを弾くことがあるため、爪を短く切っておくこと。

## 【授業のテーマ】

音・音楽を介した表現とは何かを考え、子どもの音楽的表現を育てるために必要な知識を理論的・実践的に身につける。

授業では、講義と演習を往復しながら子どもの音楽的表現を発達に即して理解し、その上でどのように育てるべきかを学ぶ。また、学生自身が実際に音を聴いたり、音を出したりする活動を通して、保育・教育現場で必要となる基礎的な音楽理論を学習し、簡単な編曲の方法を習得する。

## 【授業における到達目標】

- ①子どもの音楽的表現について理解する。
- ②子どもの表現を支えるために、体験を通して学生自身の音や音楽に対する感性を豊かにする。
- ③基礎的な音楽理論を理解する。
- ④簡単な編曲をし、自ら演奏できるようになる。

## 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション：音楽的表現とは何かについて考える  
 第2週 子ども（乳幼児期～児童期）の発達と表現（幼稚園教育要領における領域「表現」および小学校学習指導要領「音楽」の考え方を理解し、幼小連携について考える）  
 第3週 身体と表現（声で遊ぼう、子どもと共に歌う曲について考える）／五線と鍵盤  
 第4週 身体と表現（わらべうた、ボディパーカッションなど）／拍とリズム  
 第5週 身体と表現（わらべうた、ボディパーカッションなど）／リズムと拍子  
 第6週 環境と表現（音地図を作ろう）  
 第7週 環境と表現（モノの音で遊ぶ、手づくり楽器を考える）／音階：構造と階名・音名  
 第8週 環境と表現（モノの音で遊ぶ、手づくり楽器を考える）／調：調号、調の判断  
 第9週 音で遊ぶ、楽器で遊ぶ／調：移調と転調  
 第10週 アンサンブルを楽しむ／主要三和音  
 第11週 アンサンブルを楽しむ／コードネーム、いろいろな伴奏  
 第12週 唱歌・童謡をアレンジしよう。  
 第13週 唱歌・童謡をアレンジしよう。  
 第14週 ピアノの役割について考える／楽典小テスト  
 第15週 成果発表会、まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学習】教科書の各回授業内容に該当する部分を読んでおく。日頃から身の回りの音や音楽に関心をもつこと。弾き歌いの課題は、各自練習をしておくこと。伴奏は担当生だが、担当に当たっていない曲も伴奏の練習をすること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業内容をノートにまとめ、授業から得た自己の音楽教育観についてまとめる。また、授業内課題には丁寧に取り組むこと。（学修時間 週2時間30分）

## 【テキスト・教材】

小西行郎ほか編著『乳幼児の音楽表現——赤ちゃんから始まる音環境の創造（保育士・幼稚園教諭養成課程）』（中央法規 2016年）1,944円。

今川恭子監修『幼稚園・保育士・小学校教諭養成課程用 おんがくのしくみ 歌って動いてつくってわかる音楽理論』（教育芸術社 2008年）1,944円。

五線ノート（10～12段）

そのほか適宜プリントを配布しますので、貼付用にスパイラル綴じのスクラップブック（A4サイズ）を用意してください。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出物（25%）、小テスト（25%）、実技（20%）、平常点（学習意欲、履修態度、予習復習状況）（30%）により評価する。提出物

## 化学の世界

—キッチンからみた生活科学—

伊藤 美穂

1・2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

私たち身の回りには科学の世界が溢れています。その中の一つに物質の構造や性質、反応についてを扱う化学という分野があります。本授業では、日常生活の「食べる」という行動の中の化学の仕組みを解説し、普段の何気ない食行動や食習慣の中に、化学的な根拠が潜んでいることを見つけ出していきます。また、化学だけに留まらず、生物学や環境学、衛生学を通して、生活の中の科学について幅広く学びます。

### 【授業における到達目標】

- ①物を食べておいしいと感じるしくみを説明できるようになる。
- ②味の種類と、味と味の相互作用を説明できるようになる。
- ③味の付与以外の調味料の役割を説明できるようになる。
- ④調理中の食材の変化を化学的根拠に基づいて説明できる。
- ⑤冷却や加熱調理の仕組みを説明できるようになる。
- ⑥食中毒の原因や疾病と食生活の関係を説明できるようになる。
- ⑦食生活が環境に及ぼす影響について修得し、自ら考える。

【DPとの関連】学生が修得すべき「研鑽力」のうち、知を探求し、学問を続ける力を修得する。合わせて、物事への洞察力を身につける本質を見抜くことができる力を修得する。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス 生活の中の科学について
- 第2週 おいしさの科学
- 第3週 味覚の科学（味の足し算、味と香り、味と食感）
- 第4週 調理と科学①（調味料の様々な役割）
- 第5週 調理と科学②（穀物・いも・野菜の調理）
- 第6週 調理と科学③（肉・魚・卵の調理）
- 第7週 調理と科学④（油脂の調理）
- 第8週 保存の科学（塩蔵、乾燥、冷凍・冷蔵）
- 第9週 加熱の科学（湿式加熱、乾式加熱、電子レンジ）
- 第10週 家庭衛生（食中毒、身近な疾病と食の関係）
- 第11週 表示について（食品表示、洗濯表示）
- 第12週 食品添加物
- 第13週 生活と化学物質・資源
- 第14週 生活と環境
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

- ・事前学修：出された課題について、日々の生活と結び付けて考えたり、調べたりする。（学修時間 週2時間）
- ・事後学修：講義内容や配布されたプリントをノートにまとめる。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

プリントを使用する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート50%、提出課題30%、平常点（授業への積極参加）20%  
（提出課題は次回にフィードバックする。）

### 【参考書】

山本直成著『生活科学 第6版』（オーム社 2014年）2,484円

### 【注意事項】

本科目は化学を履修したことのない人でも理解できる身の回りにかかわるやさしい化学です。



## 化学の世界 a

山崎 壮

1年～ 後期 2単位

○：美の探求、研鑽力

courseの説明を参考にしてスマホでresponアプリをインストールしておくこと。スマホを使っていない学生と遅刻者には出席票（印刷物）を用意します。

### 【授業のテーマ】

身の回りのさまざまな化学物質（食品素材、工業製品、天然物、無機物など）の性質を理解し、また自然の法則を理解するには化学の知識が必要ですが、高校の化学は暗記と計算が中心の面倒な科目という印象が強いかもしれません。そこで、この講義では「受験の化学」から離れ、生活の中の身近な現象、物質、科学技術のトピックスを取り上げて、物質の観点から理解を深めることを目標とします。化学だけでなく、生化学、医学・生物学、環境、社会問題も積極的に取りあげます。

### 【授業における到達目標】

生活の中で目にすることを、社会にあふれる「にせ科学」や風評にまとわされない、科学的根拠に基づいて考える態度を修得することをめざします。

### 【授業の内容】

- 第1週 環境の化学1：水銀 化学的性質と毒性
- 第2週 環境の化学2：鉛 化学的性質と毒性
- 第3週 環境の化学3：放射性汚染物質（放射能と放射線）（仮題）  
講師：実吉敬二博士（元東京工業大学放射線総合センター）  
（予定）
- 第4週 食の化学1：食品添加物
- 第5週 食の化学2：輸入食品の検査（検疫所の仕事）
- 第6週 食の化学3：サプリメント、健康食品
- 第7週 食の化学4：食物アレルギー
- 第8週 食の化学5：遺伝子組換え食品
- 第9週 ライフサイエンスの化学1：光る有機化合物
- 第10週 ライフサイエンスの化学2：医薬品（薬物）の生体内代謝
- 第11週 工業製品の化学1：食品香料の製品開発－有効性と安全性  
（仮題） 講師：日本香料工業会、長谷川香料（株）岡村弘之氏  
（予定）
- 第12週 工業製品の化学2：ヘアカラー、色素
- 第13週 ライフサイエンスの化学3：皮膚の科学とスキンケア化粧品  
（仮題） 講師：ポーラ化成工業（株）多田明弘博士（予定）
- 第14週 工業製品の化学3：メイクアップ化粧品のマーケティング  
（仮題） 講師：資生堂ジャパン（株）北村美樹氏（予定）
- 第15週 工業製品の化学4：食品用器具・容器包装（仮題）  
講師：国立医薬品食品衛生研究所 六鹿元雄博士（予定）

### 【事前・事後学修】

外部講師による授業を除き、毎回、講義内容の関連事項を調査する課題レポート、または問題形式の確認テストを宿題として課します。提出はmanaba courseへのファイルのアップロード、または回答の入力でを行います。（学修時間 週3時間）未提出と期限後提出は減点します。

問題形式の確認テストは解答・解説を配布するので、授業資料も参考にして自分の解答を確認して復習すること。（学修時間 週1時間）

### 【テキスト・教材】

パワーポイントまたは配布プリントで授業を行うので、教科書は使用しません。外部講師による授業を除き、授業で使用したパワーポイントファイルと配付資料は、授業後にmanaba courseにアップロードします。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回の宿題提出（50%）、期末の課題レポート（50%）

問題形式の確認テストは解答・解説を配布します。期末の課題レポートの評価は、授業期間終了後にmanaba courseに回答します。

### 【注意事項】

外部講師による講義予定は、外部講師の都合で変更することがあるので、適宜連絡します。

第2回授業から、responを使って出席を確認するので、manaba

## 化学の世界 a

身の回りの化学物質の特徴を知ろう

菅野 元行

1年～ 後期 2単位

○：美の探求、研鑽力

### 【授業のテーマ】

私たちの生活は様々な化学物質によって構成されています。そのため、身の回りの化学物質の特徴を知ることは、生活を豊かにすることにつながります。

本講義では、必要に応じて化学の基本を振り返りながら、身の回りの化学物質の性状を習得します。計算や暗記のイメージが強い受験の化学から離れて、生活のためになる化学を学びます。

### 【授業における到達目標】

身の回りの食品、物質の化学的特徴が理解できるようになる。  
化学構造から大よその特徴を類推できるようになる。学生が習得すべき「研鑽力」「行動力」を身につけることを目的とする。

### 【授業の内容】

- 1 オリエンテーション
- 2 宇宙と化学：元素の誕生
- 3 様々な元素、原子の構造
- 4 酸素ガスがO<sub>2</sub>である理由、共有結合
- 5 元素周期表の秘密、イオン結合
- 6 有機化合物、脂肪族の炭化水素
- 7 芳香族炭化水素、置換基の種類
- 8 食品の化学：タンパク質とアミノ酸
- 9 食品の化学：水の性質、ビタミン
- 10 食品の化学：糖類とアルコール
- 11 食品の化学：油脂と脂肪酸、DHA、EPA
- 12 健康の化学：ムコ多糖類、ポリフェノール、活性酸素
- 13 色と光の化学：光の種類、色素、染料
- 14 香りの化学：香料、消臭剤
- 15 高分子の化学：プラスチック、繊維

### 【事前・事後学修】

【事前学修】授業や課題で分からない言葉は事前に調べておいてください。(2時間)

【事後学修】課題A(各授業日の内容を文章にする)を設定しますので、復習に役立ててください。(2時間)

### 【テキスト・教材】

参考書の書籍(図書館の指定図書)に沿って授業を進めます。

必要に応じてプリントを配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回の授業時のポイントの記載で2割、課題A(各授業日のまとめ)で8割が基本です。さらに履修生の希望に応じて、課題B(日用品の化学物質調査)、課題C(自然科学に関する展示の感想文)を提出することも可能です。課題Aは毎週、課題B・Cは随時、フィードバックを行います。

### 【参考書】

齋藤勝裕『気になる化学の基礎知識』(技術評論社 2009年) 1, 580円＋税(第8週以降使用予定)(図書館の指定図書にあります)  
高校で使用した化学の教科書がありましたら、適宜、参考にしてください。その他、参考となる書籍は授業中に回覧します。

### 【注意事項】

※毎回の授業時には、授業のポイントの記載(「成績評価の方法」参照)とともに、質問や意見を記載するコメントペーパーを毎回配布しますので、質問の記入などに役立ててください。

※私語、写真撮影など他の受講者の迷惑となる行為を禁止します。授業の妨げになると判断した場合は、教室からの退席を求めることがあります。

※事前に断りの無い途中退室や、授業開始後30分以上経過した後の入室を禁止します。その他の注意事項等の説明は初回の講義で行います。

## 化学の世界 b

杉山 靖正

1年～ 前期 2単位

○：美の探究、研鑽力

### 【授業のテーマ】

高校で化学を十分に履修しなかった場合や理解が不十分だと思う学生が高校の「化学基礎」を履修または再履修することを目指した授業です。「化学基礎」の内容から専門科目の履修に有用と思われる事項を選び、身近な現象や物質とも関連づけながら学びます。化学計算問題も取りあげます。

### 【授業における到達目標】

高校の「化学基礎」で取りあげる事項について、大学入試センター試験に対応できるレベルの知識を修得することを目指します。そこには、化学反応式を基に化学反応に関与する物質の量を計算できることと、溶液の濃度計算ができることも含まれます。

学生が修得すべき「美の探求態度」のうち、自然現象への感受性を深めようとする態度を修得します。

### 【授業の内容】

- 第1週 化学概論
- 第2週 物質の状態(固体、液体、気体)と分子間力
- 第3週 原子構造と電子エネルギー
- 第4週 化学結合その1 イオンとイオン結合
- 第5週 化学結合その2 ①金属結合、②共有結合
- 第6週 水の特異な性質と水素結合
- 第7週 ①原子量、分子量、物質質量(モル)、  
②溶液濃度の表し方(質量%濃度、モル濃度など)
- 第8週 化学反応式と化学反応の量的関係
- 第9週 化学反応と反応熱
- 第10週 コロイド
- 第11週 酸と塩基、水素イオン濃度、pH
- 第12週 中和反応、塩の液性、緩衝液
- 第13週 酸化と還元
- 第14週 金属のイオン化傾向、電池
- 第15週 身近な化学

### 【事前・事後学修】

講義内容に関して予習をすること。(学修時間 週2時間)

講義内容をよく復習すること。(学修時間 週2時間)

### 【テキスト・教材】

毎回講義プリントを配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験70%、小テスト20%、レポート10%

小テストおよびレポートは次回の授業、試験は最終回の授業で解説することでフィードバックします。

### 【参考書】

(1) 日本薬学会編『薬学の基礎としての化学I. 定量的取扱い』(東京化学同人 2011年) 2400円＋税

第7～8、11～13週に取りあげる計算問題の考え方を詳しく解説

(2) 大学入試センター試験「化学基礎」対策用問題集

### 【注意事項】

大学初年次向けの科目です。高校「化学基礎」、「化学」の評点が高かった学生にはお勧めしません。

**仮名書法 1**

「いろは」から『和漢朗詠集』の世界へ

伊藤 文生

2年 前期 1単位

◎：美の探求 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

仮名文字についての基礎知識を「いろは」から確認するとともに、仮名書法の基本について古典に即して実践的に学ぶ。

**【授業における到達目標】**

本学の学生が修得すべき「美の探究」の一つとして、仮名書法独自の美を感得し、さらに主体的に表現できるようになる。

書写・書道の指導者となることを自覚して学修し、児童・生徒に対して仮名書法について自信をもって指導できるようになる。

**【授業の内容】**

日常的に用いるひらがな・カタカナについて、特にその書き方を中心に基礎となる知識および技法を改めて確認する。さらに、仮名書法の代表的な古典作品である「粘葉本和漢朗詠集」を主要教材とし、「近衛本和漢朗詠集」「伊予切」など関連資料とともに少しずつ読みかつ臨書することによって、伝統的な書法を実践的に学ぶ。毛筆はもとより、硬筆による書き方についても学ぶ。

第1週 道具と学修方法および授業計画について説明する

第2週 和漢朗詠集（451）を読み、臨書する

第3週 和漢朗詠集（452）を読み、臨書する

第4週 和漢朗詠集（453）を読み、臨書する

第5週 和漢朗詠集（478）を読み、臨書する

第6週 和漢朗詠集（553）を読み、臨書する

第7週 和漢朗詠集（563）を読み、臨書する

第8週 和漢朗詠集（564）を読み、臨書する

第9週 和漢朗詠集（638）を読み、臨書する

第10週 和漢朗詠集（639）を読み、臨書する

第11週 和漢朗詠集（640）を読み、臨書する

第12週 和漢朗詠集（647）を読み、臨書する

第13週 和漢朗詠集（652）を読み、臨書する

第14週 和漢朗詠集（673）を読み、臨書する

第15週 総復習および確認

**【事前・事後学修】**

【事前学修】配付する資料をよく読み、疑問点を把握するほか、自主的に自分の学修課題を探す。（学修時間 毎週1時間程度）

【事後学修】資料の疑問点を中心に復習して確認し、自主的に反復練習して技量の向上に努める。（学修時間 毎週1時間程度）

**【テキスト・教材】**

資料プリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

提出作品50%および小テスト50%によって評価します。提出作品・小テストともに次回授業時に返却、フィードバックします。

**【参考書】**

『簡明書道用語辞典』（天来書院 2017年）、『書の総合事典』（柏書房 2010年）など図書館にある参考書を積極的に活用してください。その他については授業時に紹介します。

**【注意事項】**

受講希望者多数のときは抽選になる場合があることをご承知おきください。道具（普通に使える大筆・小筆ほか）および用紙や墨は各自ご用意ください。下敷きと硯は教室にあります。第1週の授業のときに確認します。なお、普通の筆記具（鉛筆、シャープペンシル、筆ペンなど、日常的に使うもの）もご用意ください。

**仮名書法 2**

古筆から学ぶ『万葉集』および『古今集』

伊藤 文生

2年 後期 1単位

◎：美の探求 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

仮名古筆についての比較的高度な知識を身につけるとともに、仮名書法の真髄について学ぶ。

**【授業における到達目標】**

本学の学生が修得すべき「美の探究」の一つとして、仮名書法独自の美を感得し、さらに主体的に表現できるようになる。

書写・書道の指導者となることを自覚して学修し、児童・生徒に対して仮名書法について自信をもって指導できるようになる。

**【授業の内容】**

仮名書法の代表的な古典作品として「元暦校本万葉集」と「高野切古今集」「元永本古今集」とを主要教材とし、「深窓秘抄」などとも比較対照して少しずつ読みかつ臨書することによって、伝統的な書法を実践的に学ぶ。

毛筆はもとより、硬筆による書き方についても学ぶ。

第1週 資料についての概説および授業計画について

第2週 元暦校本万葉集（8）を読み、臨書する

第3週 元暦校本万葉集（10・11）を読み、臨書する

第4週 元暦校本万葉集（20・21）を読み、臨書する

第5週 元暦校本万葉集（24・28）を読み、臨書する

第6週 高野切および元永本古今集（1・2）を読み、臨書する

第7週 高野切および元永本古今集（6・7）を読み、臨書する

第8週 高野切および元永本古今集（8）を読み、臨書する

第9週 高野切および元永本古今集（9・10）を読み、臨書する

第10週 高野切および元永本古今集（406）を読み、臨書する

第11週 高野切および元永本古今集（940・941）を読み、臨書する

第12週 高野切および元永本古今集（949・950）を読み、臨書する

第13週 高野切および元永本古今集（997・998）を読み、臨書する

第14週 高野切および元永本古今集（1007・1008）を読み、臨書する

第15週 総復習および確認

**【事前・事後学修】**

【事前学修】配付する資料をよく読み、疑問点を把握するほか、自主的に自分の学修課題を探す。（学修時間 毎週1時間程度）

【事後学修】資料の疑問点を中心に復習して確認し、自主的に反復練習して技量の向上に努める。（学修時間 毎週1時間程度）

**【テキスト・教材】**

授業時に資料プリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

提出作品50%および小テスト50%によって評価します。提出作品・小テストともに次回授業時に返却、フィードバックします。

**【参考書】**

『簡明書道用語辞典』（天来書院 2017年）、『書の総合事典』（柏書房 2010年）など図書館にある参考書を積極的に活用してください。その他については授業時に紹介します。

**【注意事項】**

道具（普通に使える大筆・小筆ほか）および用紙や墨は各自ご用意ください。下敷きと硯は教室にあります。ガイドンスのときに確認します。なお、硬筆（普通の筆記具）もご用意ください。

**家族と生涯発達各論 a (乳幼児・児童期)**

生涯発達と家族の役割

長崎 勤

2年 後期 2単位

◎：行動力 ○：美の探究、協働力

**【授業のテーマ】**

多くの人々は家族という枠組を基盤にし、また家族との関係の中で、生涯発達を過ごしてゆく。この授業では、生涯発達を家族と生活の視点から考えていくこととする。

まず、家族と生活の中での発達をみてゆく。そして、障害のある子どもの家庭や生活の中でのコミュニケーションや社会性の支援の方法について、事例を通して学ぶ。またインクルーシブな保育や特別支援教育と発達支援について学び、虐待や社会的養護の実態と、その支援についても学ぶ。

これらを通して、生涯発達における生活と家族の役割について考えていきたい。

**【授業における到達目標】**

生涯発達における家族の役割が理解できる。

コミュニケーション発達支援の基本が理解できる。

学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を把握し、課題を発見できる力を修得する。

**【授業の内容】**

1. はじめに
2. 家族と生活の中での発達：0歳
3. 家族と生活の中での発達：1-2歳
4. 家族と生活の中での発達：3-4歳
5. 家族と生活の中での支援：コミュニケーション
6. 家族と生活の中での支援：社会性
7. インクルーシブ保育と家族支援
8. 特別支援教育と発達支援（1）通常学級での特別支援教育
9. 特別支援教育と発達支援（2）通級指導教室、特別支援学級、特別支援学校での教育
10. 子育て支援と虐待の予防、虐待を受けた子どもの発達支援
11. 社会的養護：児童養護施設と里親制度を中心に
12. 事例検討1：ダウン症児の乳児期から就労への生涯発達と支援
13. 事例検討2：自閉症児の幼児期から大学生への生涯発達と支援
14. 事例検討3：聴覚・視覚障害児の生涯発達と支援
15. ふりかえり

発達障害の家族支援をテーマに、外部講師を予定。

**【事前・事後学修】**

【事前学修】小テスト・レポート・発表等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】発表・小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

その都度提示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験40%、平常点（授業への取り組み、授業内提出物、発言）40%、レポート20%。レポートについてのコメントを個別にまた授業において全体にフィードバックする。

**【参考書】**

柴崎政之、長崎 勤、本郷一夫編著 2004 障害児保育。同文書院。

長崎 勤、藤野博編著 2011 学童期の支援—特別支援教育をふまえて— 臨床発達心理学・理論と実践④ ミネルヴァ書房。

**【注意事項】**

家族心理学も併せて受講のこと。

**家族と生涯発達各論 b (青年・成人期)**

奥田 訓子

3年 後期 2単位

○：国際的視野、研鑽力、行動力

**【授業のテーマ】**

人は生涯を通じ、発達していく。青年期、成人期は自身の心の揺れ動きと向き合い自分らしさを受容し、アイデンティティを確立していく大切な時期である。本授業では進学、職業選択、結婚などさまざまな選択に迫られるイベントとそれにより引き起こる葛藤体験を通して、自立に向けて模索する過程を理論的に整理する。さらに、広がっていく社会とのつながりから人として大きく成長を遂げる過程を理解することを目的とする。

**【授業における到達目標】**

さまざまなライフサイクルを通して訪れる発達の危機を理解し、それを乗り越えていく過程を説明することができる。また、質的発達に着目し、葛藤と直面しながらもその中で生きる意味や目標を見出し、生き生きとした人生を送ることができるようにするためには何ができるかを考える。

**【授業の内容】**

- 第1回目 授業オリエンテーション：青年期から成人期のライフサイクル
- 第2回目 青年期の発達①：アイデンティティの確立
- 第3回目 青年期の発達②：選択と自立（進路、職業）
- 第4回目 青年期の発達③：親からの自立
- 第5回目 青年期の発達④：精神病理
- 第6回目 大人になりたくない青年とモラトリアムの延長
- 第7回目 成人期前期の発達①：社会的自立
- 第8回目 成人期前期の発達②：職業の選択とキャリア
- 第9回目 成人期前期の発達③：配偶者選択と結婚
- 第10回目 成人期前期の発達④：子育てと親育ち
- 第11回目 成人期後期の発達①：定年と社会参加
- 第12回目 成人期後期の発達②：子どもの自立
- 第13回目 成人期後期の発達③：家族の介護
- 第14回目 成人期後期の発達④：人生の統合に向けて
- 第15回目 高齢化と社会システムの変遷

**【事前・事後学修】**

事前学修：次回テーマについての質問を提示するので、自分なりに調べてくる（学修時間 週2時間）。

事後学修：授業の事前学修で取り組んだことについての考察や、授業の感想をリアクションペーパーにまとめる（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

レジュメを配布

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

各回でリアクションペーパーや課題の整理のための小テストに取り組んでもらう（各回課題）。翌週の授業で答え合わせや解説、ディスカッションで課題のフィードバックする。授業への参加度(20%)、各回課題(50%)、まとめのレポート(30%)で評価する。

**【参考書】**

森和代(監修) 石川利江 松田与理子(編) (2017) 「ライフコースの健康心理学」 晃洋書房(2,200円税別)

藤森旭人 (2016) 「小説・漫画・映画・音楽から学ぶ 児童・青年期のこころの理解:精神力動的な視点から」 ミネルヴァ書房(2,600円税別)

上里一郎(監修) 岡本祐子(編) (2005) 「成人期の危機と心理臨床—壮年期に灯る危険信号とその援助(シリーズこころとからだの処方箋)」 ゆまに書房(3,500円税別)

## 家族と生涯発達各論 c (高齢期)

細江 容子

4年 前期 2単位

○：国際的視野、研鑽力、行動力

## 【授業のテーマ】

今日の少子高齢社会において、高齢者を取り巻く家族、社会は急激に変化している。本講では、高齢者を取り巻く社会、家族の変化を理解すると同時に、人間の加齢に伴う身体的・心理的機能の変化とその維持、さらに、人生の終末期に向けた心身の変化がどの様に進むのかを理解し考察する。また、様々な事例検討などによるグループディスカッションや、加齢と関わる映像鑑賞により、老化のプロセスにおける心身の変化や高齢者と家族・社会の関わりについて理解する。さらに、人間の誕生から死にいたる発達と変化、その特性について社会老年学的視点から理解すると同時に高齢者と関わるための知識や技術を学ぶ。また、本講では、専門的テーマで研究を重ねている外部講師を招くなどして社会老年学的視点での考察を深める。

## 【授業における到達目標】

- ・人間の老いという現象を理解するため個人・家族・社会レベルなどいくつかのレベルを想定しつつ、社会老年学的アプローチと理論により考察できる。
- ・現実の制度・政策的課題について理論的に理解し思考することができるようにする。
- ・人間の生涯発達を総合的にとらえ、その生活課題について理解・考察し、人々と協働して生活の向上を図る能力の養成する。

## 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 老化、加齢とは何か
- 第3週 人口の高齢化と家族・社会
- 第4週 老化と心身の機能的変化
- 第5週 老化と健康
- 第6週 老化と心理
- 第7週 生涯発達理論と老年的超越
- 第8週 老年社会学の老化に関する理論
- 第9週 社会の変化と高齢者像の変化 (外部講師の講義等)
- 第10週 高齢者の社会関係と社会参加
- 第11週 高齢者を取り巻く社会的環境の時代的変遷
- 第12週 高齢社会の課題と政策的対応 (外部講師の講義等)
- 第13週 格差社会と高齢者
- 第14週 高齢者介護と、終末期
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】配布資料等を基にレポート・発表等の課題に取り組むこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】講義や課題発表等の復習をすること。(学修時間 週2時間)

## 【テキスト・教材】

資料等を講義ごとに提示する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

講義でのレポート、テーマに関する討議等での意見の発表・プレゼンテーション等(50%)と期末試験(50%)の総合的判断による。レポート、テーマに関する討議等での意見の発表・プレゼンテーション等(50%)に関してはそのつど全体における講評を行うなどし、期末試験(50%)に関しては、個々への対応を行うなどしている。

## 【参考書】

その都度、紹介する。

## 【注意事項】

外部講師による講義は日程を変更することがある。

## 家族と生涯発達総論

細江 容子

2年 後期 2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

本講では、社会の変容が人の一生と個人・家族のライフステージにどのような変化や問題を引き起こすのかを概観する。その中で、課題解決のために、どのような個人・家族の共同・共働や福祉の問題が生じ変化してきたかについて分析的に捉え、社会の変容と個人・家族のライフステージの法則性について明らかにする。

さらに今日、どのようにその課題を捉え、どのようにそれらに対応していくか、受講生一人一人の問題意識を基に分析を試みる。また、本講では、急速に変化し多様な様相を示すライフステージの歴史的変遷、国内外における差異を多面的に分析することで、問題解決に取り組む態度と受講生のエンパワーメント(empowerment)、福祉(well-being)実現のための能力を養う。

本講義では、専門的テーマで研究を重ねている外部講師を招くなどして家族と生涯発達の視点での考察を深める。

## 【授業における到達目標】

- ・人の一生と個人・家族のライフステージにおける課題解決のために、どのような個人・家族の共同・共働や福祉の問題が生じ変化してきたかについて理解する。
- ・社会の変容と個人・家族ライフステージの法則性について理解する。
- ・受講生一人一人の問題意識を基に課題解決の方法を考える。
- ・それらの知識や技術に基づき、人の生活の営みと人間の生涯発達を総合的にとらえその生活課題について、理解・考察し、多様な人々と協働して、生活の向上を図る能力の養成を目的とする。

## 【授業の内容】

- 第1回：授業の概要、進め方について
- 第2回：社会の変化とライフステージを捉える視点
- 第3回：社会の変化と個人・家族
- 第4回：ライフステージとは
- 第5回：日本におけるライフステージの時代的変遷
- 第6回：個人・家族のライフステージと生活課題  
(キャリア形成との関係から 外部講師による講義等)
- 第7回：新婚期のライフステージと生活課題
- 第8回：育児期のライフステージと生活課題
- 第9回：教育期のライフステージと生活課題
- 第10回：子どもの独立期ライフステージと生活課題
- 第11回：老後期のライフステージと生活課題
- 第12回：フランスの女性のライフステージと生活課題と解決策
- 第13回：他の国々の女性のライフステージと生活課題
- 第14回：地域社会と個人・家族のつながりからみる課題解決策
- 第15回：まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】配布資料等を基にレポート・発表等の課題に取り組むこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】講義や課題発表等の復習をすること。(学修時間 週2時間)

## 【テキスト・教材】

授業時に資料として配布する。家族と生涯発達総論に関する資料・文献等を配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

講義でのレポート、テーマに関する討議等での意見の発表・プレゼンテーション等(50%)と期末試験(50%)の総合的判断による。レポート、テーマに関する討議等での意見の発表・プレゼンテーション等(50%)に関してはそのつど全体における講評を行うなど、期末試験(50%)に関しては、個々への対応を行うなどしている。

## 【参考書】

適宜指示する。

**【注意事項】**

教材としてプリントを配布する。発展的な学習のための文献等については授業のなかで説明する。外部講師の講義は調整により前後に変更の場合もある。

**家族関係論**

細江 容子  
 3年 前期 2単位  
 ○：研鑽力、行動力、協働力

ゼンテーション等（50%）と期末試験（50%）の総合的判断による。

レポート、テーマに関する討議等での意見の発表・プレゼンテーション等（50%）に関してはそのつど全体における講評を行うなどし、期末試験（50%）に関しては、個々への対応を行うなどしている

**【参考書】**

神原文子・杉井潤子・竹田美知編 『よくわかる現代家族』 ミネルヴァ書房 2016年 第2版、牟田和恵編 『家族を超える社会学——新たな生の基盤を求めて』 新曜社 2009年

**【授業のテーマ】**

「家族関係論」では、人の一生と家族・家庭生活、その福祉の問題について分析的にとらえる中で、家族関係の法則性について明らかにする。

今日、家族の「多様化」や「私事化」、「個別化」、「個人化」が進み、様々な家族の問題が取りざたされる様になっている。どのようにそれらの問題をとらえ、どのように対応していくか、受講生一人一人の問題意識を基に分析を試みる。さらに、本講では誰にでも身近な存在である家族について、客観的、科学的にとらえ、多面的に分析し、問題解決に取り組む態度を身に付けることを目的とする。

本講義の特徴は、授業で、『下流の宴』、『クレーマー・クレーマー』、『誰も知らない』、『晩秋』等の映画やドキュメント、男女共同参画絵川柳・漫画、国内外のラブソングなどを活用し、学生たちの考えにインパクトを与え、「批判的思考力」、「創造力」、「コミュニケーションスキル」、「情報リテラシー」といった「21世紀型スキル」の強化をはかることで、受講生のエンパワーメント（empowerment）と福祉（well-being）実現のための能力を養うことにある。

また、本講義では、専門的テーマで研究を重ねている外部講師を招くなどにより家族関係学の視点での考察を深める。

**【授業における到達目標】**

- ・個人の持つ家族に対する先入観や固定的イメージを理解する。
- ・社会変動と家族との関わりを理解する。
- ・家族について、客観的、科学的にとらえ、多面的に分析し、問題解決に取り組む態度を身に付ける。
- ・これらの知識や技術に基づき、人の生活の営みと人間の生涯発達を総合的にとらえその生活課題について、理解・考察し、多様な人々と協働して、生活の向上を図る能力の養成を目的とする。

**【授業の内容】**

- 第1回 授業の概要、進め方について  
（家族関係学を学ぶにあたって）
- 第2回 生まれる・育つ
- 第3回 子どもが直面している問題（外部講師等）
- 第4回 親からの自立
- 第5回 配偶者の選択と結婚
- 第6回 セクシュアリティ・生殖・出産
- 第7回 夫婦関係の諸相
- 第8回 子育てと子どもの社会化
- 第9回 離婚・再婚・ステップファミリー
- 第10回 ワーク・ライフ・バランス
- 第11回 親のケアに関わるということ
- 第12回 高齢期の社会関係と生きがい
- 第13回 支えられて生きる
- 第14回 社会の変化・家族の変化
- 第15回 まとめ

**【事前・事後学修】**

- 【事前学習】配布資料等を基にレポート・発表等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）
- 【事後学習】講義や課題発表等の復習をすること。（学修時間週2時間）

**【テキスト・教材】**

長津美代子、細江容子ほか『新しい家族関係学』建帛社 2014、  
 （定価：2,484円）  
 資料等を講義ごとに提示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

講義でのレポート、テーマに関する討議等での意見の発表・プレ

## 家族関係論

細江 容子

1年 前期 2単位

○：国際的視野、研鑽力、行動力

### 【授業のテーマ】

「家族関係論」では、人の一生と家族・家庭生活、その福祉の問題について分析的にとらえる中で、家族関係の法則性について明らかにする。

今日、家族の「多様化」や「私事化」、「個別化」、「個人化」が進み、様々な家族の問題が取りざたされる様になっている。どのようにそれらの問題をとらえ、どのように対応していくか、受講生一人一人の問題意識を基に分析を試みる。さらに、本講では誰にいても身近な存在である家族について、客観的、科学的にとらえ、多面的に分析し、問題解決に取り組む態度を身に付けることを目的とする。

本講義の特徴は、授業で、『下流の宴』、『クレマー・クレマー』、『誰も知らない』、『晩秋』等の映画やドキュメント、男女共同参画絵川柳・漫画、国内外のラブソングなどを活用し、学生たちの考えにインパクトを与え、「批判的思考力」、「創造力」、「コミュニケーションスキル」、「情報リテラシー」といった「21世紀型スキル」の強化をはかることで、受講生のエンパワーメント（empowerment）と福祉（well-being）実現のための能力を養うことにある。

また、本講義では、専門的テーマで研究を重ねている外部講師を招くなどにより家族関係学の視点での考察を深める。

### 【授業における到達目標】

- ・個人の持つ家族に対する先入観や固定的イメージを理解する。
- ・社会変動と家族との関わりを理解する。
- ・家族について、客観的、科学的にとらえ、多面的に分析し、問題解決に取り組む態度を身に付ける。
- ・これらの知識や技術に基づき、人の生活の営みと人間の生涯発達を総合的にとらえその生活課題について、理解・考察し、多様な人々と協働して、生活の向上を図る能力の養成を目的とする。

### 【授業の内容】

- 第1回 授業の概要、進め方について  
(家族関係学を学ぶにあたって)
- 第2回 生まれる・育つ
- 第3回 子どもが直面している問題（外部講師等）
- 第4回 親からの自立
- 第5回 配偶者の選択と結婚
- 第6回 セクシュアリティ・生殖・出産
- 第7回 夫婦関係の諸相
- 第8回 子育てと子どもの社会化
- 第9回 離婚・再婚・ステップファミリー
- 第10回 ワーク・ライフ・バランス
- 第11回 親のケアに関わるということ
- 第12回 高齢期の社会関係と生きがい
- 第13回 支えられて生きる
- 第14回 社会の変化・家族の変化
- 第15回 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】配布資料等を基にレポート・発表等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義や課題発表等の復習をすること。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

長津美代子、細江容子ほか『新しい家族関係学』建帛社 2014、  
(定価：2,484円)

資料等を講義ごとに提示する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

講義でのレポート、テーマに関する討議等での意見の発表・プレ

ゼンテーション等（50%）と期末試験（50%）の総合的判断による。

レポート、テーマに関する討議等での意見の発表・プレゼンテーション等（50%）に関してはそのつど全体における講評を行うなどし、期末試験（50%）に関しては、個々への対応を行うなどしている。

### 【参考書】

神原文子・杉井潤子・竹田美知編 『よくわかる現代家族』 ミネルヴァ書房 2016年 第2版、牟田和恵編 『家族を超える社会学——新たな生の基盤を求めて』 新曜社 2009年



## 家族関係論

細江 容子

3年 前期 2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

「家族関係論」では、人の一生と家族・家庭生活、その福祉の問題について分析的にとらえる中で、家族関係の法則性について明らかにする。

今日、家族の「多様化」や「私事化」、「個別化」、「個人化」が進み、様々な家族の問題が取りざたされる様になっている。どのようにそれらの問題をとらえ、どのように対応していくか、受講生一人一人の問題意識を基に分析を試みる。さらに、本講では誰にいても身近な存在である家族について、客観的、科学的にとらえ、多面的に分析し、問題解決に取り組む態度を身に付けることを目的とする。

本講義の特徴は、授業で、『下流の宴』、『クレマー・クレマー』、『誰も知らない』、『晩秋』等の映画やドキュメント、男女共同参画絵川柳・漫画、国内外のラブソングなどを活用し、学生たちの考えにインパクトを与え、「批判的思考力」、「創造力」、「コミュニケーションスキル」、「情報リテラシー」といった「21世紀型スキル」の強化をはかることで、受講生のエンパワーメント（empowerment）と福祉（well-being）実現のための能力を養うことにある。

また、本講義では、専門的テーマで研究を重ねている外部講師を招くなどにより家族関係学の視点での考察を深める。

### 【授業における到達目標】

- ・個人の持つ家族に対する先入観や固定的イメージを理解する。
- ・社会変動と家族との関わりを理解する。
- ・家族について、客観的、科学的にとらえ、多面的に分析し、問題解決に取り組む態度を身に付ける。
- ・これらの知識や技術に基づき、人の生活の営みと人間の生涯発達を総合的にとらえその生活課題について、理解・考察し、多様な人々と協働して、生活の向上を図る能力の養成を目的とする。

### 【授業の内容】

- 第1回 授業の概要、進め方について  
(家族関係学を学ぶにあたって)
- 第2回 生まれる・育つ
- 第3回 子どもが直面している問題（外部講師等）
- 第4回 親からの自立
- 第5回 配偶者の選択と結婚
- 第6回 セクシュアリティ・生殖・出産
- 第7回 夫婦関係の諸相
- 第8回 子育てと子どもの社会化
- 第9回 離婚・再婚・ステップファミリー
- 第10回 ワーク・ライフ・バランス
- 第11回 親のケアに関わるということ
- 第12回 高齢期の社会関係と生きがい
- 第13回 支えられて生きる
- 第14回 社会の変化・家族の変化
- 第15回 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学習】配布資料等を基にレポート・発表等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学習】講義や課題発表等の復習をすること。（学修時間週2時間）

### 【テキスト・教材】

長津美代子、細江容子ほか『新しい家族関係学』建帛社 2014、  
(定価：2,484円)

資料等を講義ごとに提示する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

講義でのレポート、テーマに関する討議等での意見の発表・プレ

ゼンテーション等（50%）と期末試験（50%）の総合的判断による。

レポート、テーマに関する討議等での意見の発表・プレゼンテーション等（50%）に関してはそのつど全体における講評を行うなどし、期末試験（50%）に関しては、個々への対応を行うなどしている。

### 【参考書】

神原文子・杉井潤子・竹田美知編 『よくわかる現代家族』 ミネルヴァ書房 2016年 第2版、牟田和恵編 『家族を超える社会学——新たな生の基盤を求めて』 新曜社 2009年

## 家族関係論

細江 容子

3年 前期 2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

「家族関係論」では、人の一生と家族・家庭生活、その福祉の問題について分析的にとらえる中で、家族関係の法則性について明らかにする。

今日、家族の「多様化」や「私事化」、「個別化」、「個人化」が進み、様々な家族の問題が取りざたされる様になっている。どのようにそれらの問題をとらえ、どのように対応していくか、受講生一人一人の問題意識を基に分析を試みる。さらに、本講では誰にいても身近な存在である家族について、客観的、科学的にとらえ、多面的に分析し、問題解決に取り組む態度を身に付けることを目的とする。

本講義の特徴は、授業で、『下流の宴』、『クレーマー・クレーマー』、『誰も知らない』、『晩秋』等の映画やドキュメント、男女共同参画絵川柳・漫画、国内外のラブソングなどを活用し、学生たちの考えにインパクトを与え、「批判的思考力」、「創造力」、「コミュニケーションスキル」、「情報リテラシー」といった「21世紀型スキル」の強化をはかることで、受講生のエンパワーメント（empowerment）と福祉（well-being）実現のための能力を養うことにある。

また、本講義では、専門的テーマで研究を重ねている外部講師を招くなどにより家族関係学の視点での考察を深める。

### 【授業における到達目標】

- ・個人の持つ家族に対する先入観や固定的イメージを理解する。
- ・社会変動と家族との関わりを理解する。
- ・家族について、客観的、科学的にとらえ、多面的に分析し、問題解決に取り組む態度を身に付ける。
- ・これらの知識や技術に基づき、人の生活の営みと人間の生涯発達を総合的にとらえその生活課題について、理解・考察し、多様な人々と協働して、生活の向上を図る能力の養成を目的とする。

### 【授業の内容】

- 第1回 授業の概要、進め方について  
(家族関係学を学ぶにあたって)
- 第2回 生まれる・育つ
- 第3回 子どもが直面している問題（外部講師等）
- 第4回 親からの自立
- 第5回 配偶者の選択と結婚
- 第6回 セクシュアリティ・生殖・出産
- 第7回 夫婦関係の諸相
- 第8回 子育てと子どもの社会化
- 第9回 離婚・再婚・ステップファミリー
- 第10回 ワーク・ライフ・バランス
- 第11回 親のケアに関わるということ
- 第12回 高齢期の社会関係と生きがい
- 第13回 支えられて生きる
- 第14回 社会の変化・家族の変化
- 第15回 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】配布資料等を基にレポート・発表等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義や課題発表等の復習をすること。（学修時間週2時間）

### 【テキスト・教材】

長津美代子、細江容子ほか『新しい家族関係学』建帛社 2014、  
(定価：2,484円)

資料等を講義ごとに提示する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

講義でのレポート、テーマに関する討議等での意見の発表・プレ

ゼンテーション等（50%）と期末試験（50%）の総合的判断による。

レポート、テーマに関する討議等での意見の発表・プレゼンテーション等（50%）に関してはそのつど全体における講評を行うなどし、期末試験（50%）に関しては、個々への対応を行うなどしている。

### 【参考書】

神原文子・杉井潤子・竹田美知編 『よくわかる現代家族』 ミネルヴァ書房 2016年 第2版、牟田和恵編 『家族を超える社会学——新たな生の基盤を求めて』 新曜社 2009年

## 家族関係論

細江 容子

3年 前期 2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

「家族関係論」では、人の一生と家族・家庭生活、その福祉の問題について分析的にとらえる中で、家族関係の法則性について明らかにする。

今日、家族の「多様化」や「私事化」、「個別化」、「個人化」が進み、様々な家族の問題が取りざたされる様になっている。どのようにそれらの問題をとらえ、どのように対応していくか、受講生一人一人の問題意識を基に分析を試みる。さらに、本講では誰にいても身近な存在である家族について、客観的、科学的にとらえ、多面的に分析し、問題解決に取り組む態度を身に付けることを目的とする。

本講義の特徴は、授業で、『下流の宴』、『クレマー・クレマー』、『誰も知らない』、『晩秋』等の映画やドキュメント、男女共同参画絵川柳・漫画、国内外のラブソングなどを活用し、学生たちの考えにインパクトを与え、「批判的思考力」、「創造力」、「コミュニケーションスキル」、「情報リテラシー」といった「21世紀型スキル」の強化をはかることで、受講生のエンパワーメント（empowerment）と福祉（well-being）実現のための能力を養うことにある。

また、本講義では、専門的テーマで研究を重ねている外部講師を招くなどにより家族関係学の視点での考察を深める。

### 【授業における到達目標】

- ・個人の持つ家族に対する先入観や固定的イメージを理解する。
- ・社会変動と家族との関わりを理解する。
- ・家族について、客観的、科学的にとらえ、多面的に分析し、問題解決に取り組む態度を身に付ける。
- ・これらの知識や技術に基づき、人の生活の営みと人間の生涯発達を総合的にとらえその生活課題について、理解・考察し、多様な人々と協働して、生活の向上を図る能力の養成を目的とする。

### 【授業の内容】

- 第1回 授業の概要、進め方について  
(家族関係学を学ぶにあたって)
- 第2回 生まれる・育つ
- 第3回 子どもが直面している問題（外部講師等）
- 第4回 親からの自立
- 第5回 配偶者の選択と結婚
- 第6回 セクシュアリティ・生殖・出産
- 第7回 夫婦関係の諸相
- 第8回 子育てと子どもの社会化
- 第9回 離婚・再婚・ステップファミリー
- 第10回 ワーク・ライフ・バランス
- 第11回 親のケアに関わるということ
- 第12回 高齢期の社会関係と生きがい
- 第13回 支えられて生きる
- 第14回 社会の変化・家族の変化
- 第15回 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】配布資料等を基にレポート・発表等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義や課題発表等の復習をすること。（学修時間週2時間）

### 【テキスト・教材】

長津美代子、細江容子ほか『新しい家族関係学』建帛社 2014、  
(定価：2,484円)

資料等を講義ごとに提示する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

講義でのレポート、テーマに関する討議等での意見の発表・プレ

ゼンテーション等（50%）と期末試験（50%）の総合的判断による。

レポート、テーマに関する討議等での意見の発表・プレゼンテーション等（50%）に関してはそのつど全体における講評を行うなどし、期末試験（50%）に関しては、個々への対応を行うなどしている。

### 【参考書】

神原文子・杉井潤子・竹田美知編 『よくわかる現代家族』 ミネルヴァ書房 2016年 第2版、牟田和恵編 『家族を超える社会学——新たな生の基盤を求めて』 新曜社 2009年

## 家族社会学

細江 容子

2年 前期 2単位

○：国際的視野、行動力、協働力

千田有紀著『日本型近代家族』（勁草書房）

松田茂樹著『少子化論』（勁草書房）

落合恵美子著『21世紀家族へ家族の戦後体制の見かた・超えかた』（有斐閣選書）その他、参考図書については適宜紹介する。

### 【注意事項】

受講者の人数や関心に合わせて、若干の変更・修正の可能性もある。教材としてプリントを配布する。発展的な学習のための文献等については授業の中で説明する。外部講師の講義は調整により前後に変更の場合もある。

### 【授業のテーマ】

家族に関するニュースや記事はその多くが、子どもの虐待、介護疲れからの殺人など悲しい事件や、少子化や未婚化、離婚の増加等、家族と日本社会の将来を危惧するものが多い。また、前世紀末から今世紀初頭にかけて、世界を席卷した新自由主義を背景とした「市場化」「競争化」は、われわれの社会に各種の格差をもたらしているといえ、新自由主義が家族に与えた影響も大きいといえる。本講では、家族社会学の基礎（概念・視点・方法・研究の動向等）を理解すると共に、これらを踏まえ、家族に関わる諸現象について社会学的観点から分析・考察する。また、本講では、専門的テーマで研究を重ねている外部講師を招くなどして家族社会学の視点での考察を深める。

### 【授業における到達目標】

- ・家族社会学の基礎（概念・視点・方法・研究の動向等）を理解できる。
- ・家族に関わる諸現象について社会学的観点から分析・考察することができる。
- ・これらの知識や技術に基づき、人の生活の営みと人間の生涯発達を総合的にとらえその生活課題について、理解・考察し、多様な人々と協働して、生活の向上を図る能力の養成を目的とする。

### 【授業の内容】

第1週 ガイダンス

第2週 家族とは何か

(1) 集団としての家族とからネットワークしての家族へ

第3週 家族とは何か

(2) 家族の持つ個人的機能と社会的機能

第4週 女は昔から主婦だったのか

第5週 家事と主婦はどの様に誕生したのか

第6週 子どもの誕生と母の誕生

第7週 子どもの数の変化と家族

第8週 サザエさんの懐かしさとは

第9週 近代家族の誕生とは

第10週 近代家族とフェミニズム（外部講師の講義等）

第11週 ニューファミリーの神話

第12週 三歳神話は本当か（外部講師の講義等）

第13週 個人を単位とする社会へ

第14週 経済のグローバル化と家族

第15週 総括

### 【事前・事後学修】

【事前学修】 配布資料等を基にレポート・発表等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 講義や課題発表等の復習をすること。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

適宜文献リストプリントを配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポートあるいは試験（50%）、平常点（必要に応じて義務付ける授業に関する意見・質問を書いたフィードバックシートの提出、授業態度）（50%）。レポートや試験、フィードバックシートに関してはそのつど全体における講評を行うなどと同時に、個々への対応も行うなどしている。

### 【参考書】

上野千鶴子編『主婦論争を読む』Ⅰ、Ⅱ（勁草書房）

山田昌弘著『少子社会日本 もうひとつの格差のゆくえ』（岩波新書）

**家族社会学**

広井 多鶴子

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

家族はいつの時代もどんな社会にも存在する「社会の基礎単位」として考えられてきたが、この授業では、そのような家族観がいつどのように成立したのかについて考える。

また、家族の歴史や変化について見ていく中で、今日の家族の抱えるさまざまな課題や問題について考察する。

**【授業における到達目標】**

家族に関する歴史や現在のさまざまな課題について理解し、データを分析する中で、新たな知を創造する態度を身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 結婚という制度と変化
- 第3週 未婚化・晩婚化の進行
- 第4週 恋愛結婚の誕生—白雪姫
- 第5週 出産の変化
- 第6週 少子化ときょうだい数
- 第7週 少子化は女性の問題か
- 第8週 誰が子育てをしてきたか—祖母から母へ
- 第9週 専業主婦の誕生
- 第10週 専業主婦について考える
- 第11週 核家族はどう捉えられてきたか
- 第12週 核家族化は進展したか
- 第13週 核家族化は問題か
- 第14週 近代家族の成立
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 参考文献を読む。2時間

【事後学修】 宿題を行う。2時間

**【テキスト・教材】**

プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験70%、平常点（宿題の提出など）30%

宿題は次回の授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行う

**【参考書】**

広井多鶴子、小玉亮子『現代の親子問題—なぜ親と子が「問題」なのか』（日本図書センター、2010年）

落合恵美子著『21世紀家族へ』（ゆうひかく選書、2004年）1,700円

広田照幸『日本人のしつけは衰退したか』（講談社現代新書、1999年）640円

**家族社会学**

広井 多鶴子

2年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

家族はいつの時代もどんな社会にも存在する「社会の基礎単位」として考えられてきたが、この授業では、そのような家族観がいつどのように成立したのかについて考える。

また、家族の歴史や変化について見ていく中で、今日の家族の抱えるさまざまな課題や問題について考察する。

**【授業における到達目標】**

家族に関する歴史や現在のさまざまな課題について理解し、データを分析する中で、新たな知を創造する態度を身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 結婚という制度と変化
- 第3週 未婚化・晩婚化の進行
- 第4週 恋愛結婚の誕生—白雪姫
- 第5週 出産の変化
- 第6週 少子化ときょうだい数
- 第7週 少子化は女性の問題か
- 第8週 誰が子育てをしてきたか—祖母から母へ
- 第9週 専業主婦の誕生
- 第10週 専業主婦について考える
- 第11週 核家族はどう捉えられてきたか
- 第12週 核家族化は進展したか
- 第13週 核家族化は問題か
- 第14週 近代家族の成立
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 参考文献を読む。2時間

【事後学修】 宿題を行う。2時間

**【テキスト・教材】**

プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験70%、平常点（宿題の提出など）30%

宿題は次回の授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行う

**【参考書】**

広井多鶴子、小玉亮子『現代の親子問題—なぜ親と子が「問題」なのか』（日本図書センター、2010年）

落合恵美子著『21世紀家族へ』（ゆうひかく選書、2004年）1,700円

広田照幸『日本人のしつけは衰退したか』（講談社現代新書、1999年）640円

## 家族心理学

長崎 勤

2年 前期 2単位

◎：行動力 ○：美の探究、研鑽力

### 【授業のテーマ】

家族の成立を生物学的、歴史的、社会的に考えることから始め、家族を相互に影響しあいながら変化しゆくコミュニケーション・システムとしてとらえ、家族も発達するという観点について考える。そして、生涯発達の観点から、男女の出会いから、結婚、子育て、児童期や青年期の子どもがいる生活、また成人期や高齢期の家族の心理の関係について考えてゆく。後半では、子どもと家族のコミュニケーションの発達を通して、家族の成立の過程をみてゆく。子育て支援や虐待や発達障害などの、臨床的問題についてその対処方法も含めて考えてゆく。自分の家族や身近な知り合いの家族の分析やエピソードを持ちよるディスカッションによる演習形式も取り入れるので、積極的な参加が望まれる。

### 【授業における到達目標】

- ・「家族とは何か」を考え、家族の諸問題について理解することができる。
- ・家族におけるコミュニケーション発達のプロセスが理解できる。
- ・発達支援における家族の役割が理解できる。
- ・学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く力を修得する。

### 【授業の内容】

1. オリエンテーション
2. 家族とは何だろうか？
3. 家族の起源と進化：家族システム論の観点から
4. 家族の誕生：恋愛と配偶者選択から結婚へ
5. 夫婦のコミュニケーションと心理
6. 子どもと家族のコミュニケーション0歳
7. 子どもと家族のコミュニケーション1歳-2歳
8. 子どもと家族のコミュニケーション3歳-5歳
9. 児童期の子どもの生活と家族の心理
10. 青年期・成人期の生活と家族の心理
11. 高齢期の家族の心理
12. 家族の危機：災害、離婚、DV、虐待
13. 発達障害と家族
14. 家族と地域支援
15. ふりかえり

### 【事前・事後学修】

【事前学修】小テスト・レポート・発表等の課題に取り組むこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】発表・小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し専門用語等を理解しておくこと。(学修時間 週2時間)

### 【テキスト・教材】

その都度提示

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験40%、平常点(授業への取り組み、授業内提出物、発表)40%、レポート20%

レポートについてのコメントを個別にまた授業において全体にフィードバックする。

### 【参考書】

家族心理学—社会変動・発達・ジェンダーの視点 柏木 恵子

### 【注意事項】

「家族と生涯発達各論a」をあわせて受講することが望ましい。

## 家族心理学演習

カウンセリング入門

稲森 絵美子

4年 前期 1単位

○：研鑽力、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

カウンセリングとは、「聴く」ことを基本とした対人援助の方法です。悩み苦しんでいる人を援助するだけでなく、その人の自己理解と成長を促し、その人らしい生き方を模索することをカウンセリングでは目指します。本授業では、カウンセリングの基本的スキルを、実技(ロールプレイ)を通して習得していきます。また、家庭や社会の様々な場面を想定しながら、そのスキルを応用していきます。心理カウンセラーを目指す人だけでなく、日常生活における様々な場面での対人関係をよくしていきたい人にも、役に立つ内容です。積極的な授業参加を期待します。

### 【授業における到達目標】

自己や他者の役割を理解し互いに物事を勧める力、状況に応じたリーダーシップを発揮する力【協働力】を、カウンセリングの実技(ロールプレイ)を通して修得する。授業を通して自己・他者理解を深める中で、優しさと強さを兼ね備え、倫理観を以て人格を陶冶しようとする態度【美の探求】を目指す。

### 【授業の内容】

- 第1週 カウンセリングとは「聴く」こと
- 第2週 技法1(受容、繰り返し、明確化)
- 第3週 技法2(伝え返し、質問)
- 第4週 技法3(ミラーリング、I message、リフレーミング)
- 第5週 ロールプレイ
- 第6週 描画を使ったカウンセリング
- 第7週 コラージュを使ったカウンセリング
- 第8週 ニーズの把握及び支援計画
- 第9週 地域支援1(学校現場でのカウンセリング)
- 第10週 地域支援2(職場でのカウンセリング)
- 第11週 地域支援3(結婚に関するカウンセリング)
- 第12週 地域支援4(子育て支援)
- 第13週 地域支援5(家族カウンセリング)
- 第14週 カウンセリングにおけるチームアプローチ
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】事前にテキストを読みポイントをまとめた上で、実技(ロールプレイ)に備えること。(学修時間 週2時間)

【事後学修】ロールプレイを通して気づいたこと、改善できることをノートにまとめ、次週に備えること。(学修時間 週2時間)

### 【テキスト・教材】

河合隼雄著「カウンセリング入門」(創元社 1998年)1,620円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業への積極的参加)30%、実技(ロールプレイ)スキル評価30%、レポート40%。実技スキル評価は各回の授業で、レポートは授業最終回でフィードバックを行う。

### 【注意事項】

本授業では、実技(ロールプレイ)に積極的に取り組む意志があることが、履修条件となります。

**家族心理学特論**

周産期の心理臨床

稲森 絵美子

4年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

この授業においては、妊娠、出産、子育て、夫婦のコミュニケーション、家族・地域のサポートなど、周産期の心理学の様々な課題について学びを深めていきます。

講師は、周産期領域を専門とする臨床心理士です。実際の病院臨床での素材を基に学びを進めていきますが、学生のみなさんには自分自身に係わるトピックとして思索を深めてもらいたいと思っています。

女性としてのこれからの人生をより豊かなものとしていくためにも、共に学んでいきましょう。

**【授業における到達目標】**

学生が修得すべき【研鑽力】として、周産期の心理臨床の概要について広い視野を身につけ、本質を見抜く力の修得を目指す。

また、クラス内でのプレゼンテーション、ディスカッションを通して、互いを尊重し、機に応じてリーダーシップを発揮する【協働力】を身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 周産期の心理学
- 第3週 周産期・新生児医療と心理学
- 第4週 周産期・新生児医療におけるこころのケア
- 第5週 周産期心理士事始め
- 第6週 医療技術の進歩の陰で
- 第7週 NICUでのこころのケア
- 第8週 心理社会的な困難を抱える家族
- 第9週 障がいとの出会い
- 第10週 出生前診断めぐって
- 第11週 亡くなっていく赤ちゃんと家族
- 第12週 伝えることと支えること
- 第13週 心理士の役割とチームアプローチ
- 第14週 周産期におけるニーズの把握及び支援計画
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：課題図書を事前に読むこと。また、自分の発表担当週には、内容の要点をレジュメにまとめ、クラス内でディスカッションしたいポイントをまとめること。（学修時間 週2時間）

事後学修：クラス内でのディスカッションを振り返り、次週の授業までに自分の考えをノートにまとめること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

橋本洋子著『NICUとこころのケア』（メディカ出版 2011年）2,000円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業内発表30%、リアクションペーパー20%、レポート50%。リアクションペーパーは次回授業、レポートについては最終回でフィードバックを行う。



**家族法**

成瀬 敏郎

3年 後期 2単位

◎：国際的視野

**【授業のテーマ】**

本講義は家族法の基本的な知識習得を目的とする。  
歴史的文化に根ざしている親族法・相続法の制度趣旨と現代社会の問題についても具体的な事例見ながら検討する。

**【授業における到達目標】**

家族法の歴史・法システムを学ぶことにより次を習得する。  
①多様な価値観を持つ者が存在することの認識・受容力  
②広義の家族紛争における法的問題解決プロセス

**【授業の内容】**

第1週 ガイダンス 家族法・親族法総論  
第2週 婚姻：私通、同棲、内縁、婚約  
第3週 婚姻：婚姻の要件・効果  
第4週 離婚  
第5週 親子（実子・養子）  
第6週 親権、後見・保佐・補助  
第7週 扶養  
第8週 親族法の論点  
第9週 相続法総論  
第10週 相続人・相続分  
第11週 相続の効力、相続の承認・放棄  
第12週 相続財産、遺産の分割、相続人の不存在  
第13週 遺言、遺贈  
第14週 遺留分、相続回復請求権  
第15週 総括

**【事前・事後学修】**

【事前学修】前回までの復習及び事前課題の整理をすること。  
（学修時間 週2時間）  
【事後学修】課題及び提示した専門用語を調べること。  
（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

高橋朋子、床谷文雄、棚村政行著『民法7 親族・相続 第5版（有斐閣アルマ）』（有斐閣 2017年）2,592円  
ISBN：978-4-641-22104-8

※教材として必ず「六法」を持参すること。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

成績：試験 80%、小テスト又はリアクションペーパー 20%

フィードバック：小テスト等は次週、試験は最終週に行う。

**【参考書】**

随時紹介する。

**家族法****成瀬 敏郎**

3年～ 後期 2単位

◎：国際的視野

**【授業のテーマ】**

本講義は家族法の基本的な知識習得を目的とする。  
歴史的文化に根ざしている親族法・相続法の制度趣旨と現代社会の問題についても具体的な事例見ながら検討する。

**【授業における到達目標】**

家族法の歴史・法システムを学ぶことにより次を習得する。  
①多様な価値観を持つ者が存在することの認識・受容力  
②広義の家族紛争における法的問題解決プロセス

**【授業の内容】**

第1週 ガイダンス 家族法・親族法総論  
第2週 婚姻：私通、同棲、内縁、婚約  
第3週 婚姻：婚姻の要件・効果  
第4週 離婚  
第5週 親子（実子・養子）  
第6週 親権、後見・保佐・補助  
第7週 扶養  
第8週 親族法の論点  
第9週 相続法総論  
第10週 相続人・相続分  
第11週 相続の効力、相続の承認・放棄  
第12週 相続財産、遺産の分割、相続人の不存在  
第13週 遺言、遺贈  
第14週 遺留分、相続回復請求権  
第15週 総括

**【事前・事後学修】**

【事前学修】前回までの復習及び事前課題の整理をすること。  
（学修時間 週2時間）  
【事後学修】課題及び提示した専門用語を調べること。  
（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

高橋朋子、床谷文雄、棚村政行著『民法7 親族・相続 第5版（有斐閣アルマ）』（有斐閣 2017年）2,592円  
ISBN：978-4-641-22104-8

※教材として必ず「六法」を持参すること。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

成績：試験 80%、小テスト又はリアクションペーパー 20%

フィードバック：小テスト等は次週、試験は最終週に行う。

**【参考書】**

随時紹介する。

## 家族臨床心理学 1

稲森 絵美子

3年 前期 2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

私たちは、家族の中に生まれ、家族の中で育ち、そこで最初の人間関係を経験します。家族は私たちにとって大切な支えになるのと同時に、そこで生じる問題は、私たちに大きな影響を与えます。その家族について、臨床心理学的な視点から、理解を深めていきましょう。

本授業では、家族を対象化して見るだけではなく、家族の中で生きる私たちを、全人格的存在として理解することを目指します。その学習を通して、臨床心理学のエッセンスに触れていきます。

### 【授業における到達目標】

学生が習得すべき【研鑽力】として、家族の中で育つ人間の心の成長について広い視野を身につけ、自らの考えをまとめる力を習得する。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 臨床心理学とは？
- 第3週 家族心理学の課題と方法
- 第4週 周産期の心理臨床と家族
- 第5週 乳幼児期の心理臨床と家族
- 第6週 児童期の心理臨床と家族
- 第7週 青年期の心理臨床と家族
- 第8週 おとなとして生きること
- 第9週 老年期を生きる
- 第10週 恋愛と結婚の心理
- 第11週 夫婦関係の心理
- 第12週 親になるーその心理的プロセス
- 第13週 兄弟関係の心理
- 第14週 家族の心理構造
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

教員が指示した課題について、次の授業までに自分の意見をまとめてくること。（学修時間週2時間）

配布プリントの未記入部分に授業で学んだ事を記入し、完成させること。（学修時間週2時間）

### 【テキスト・教材】

授業では、教員が作成したレジュメを配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験50%、平常点（授業中の発言、感想・質問文の提出）50%。  
学生から提出された質問文については次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

### 【参考書】

伊藤良子『臨床心理学ー全体的存在としての人間を理解する』ミネルヴァ書房  
岡堂哲雄『家族心理学入門 改訂版』培風館

## 家族臨床心理学 2

稲森 絵美子

3年 後期 2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

家族臨床心理学2では、家族臨床心理学1の内容を基礎にして、より実践的な臨床心理学的アプローチについて学びます。

文献や臨床のケースなどの資料、また授業の中で行うワークを通して、家族の中で生きる私たち人について、各自が考え、理解を深めていくことを目指します。

### 【授業における到達目標】

学生が習得すべき【研鑽力】として、家族の中で育つ人間の心の成長について広い視野を身につけ、自らの考えをまとめる力を習得する。

また【行動力】のうち自ら課題を発見する力を、授業中のワークを通して養う。

### 【授業の内容】

- 第1週 人間のこころを理解するとは？
- 第2週 心理臨床のアセスメント
- 第3週 家族臨床のアセスメント
- 第4週 家族への心理臨床的アプローチ1「心理療法とは」
- 第5週 家族への心理臨床的アプローチ2「家族へのアプローチ」
- 第6週 ケーススタディー1「親子臨床のケース」
- 第7週 症状をもつとは、どういうこと？
- 第8週 障害をもつとは、どういうこと？
- 第9週 ケーススタディー2「障害をもつ子どものケース」
- 第10週 幼稚園や保育園に臨床心理士がいることの意味
- 第11週 ケーススタディー3「周産期のケース」
- 第12週 こどもの虐待と育児支援
- 第13週 生きることと死ぬことの心理学1「子どものいのち」
- 第14週 生きることと死ぬことの心理学2「終末期医療」
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

教員が指示した課題について、次の授業までに自分の意見をまとめてくること。（学修時間週2時間）

プリントの未記入部分に、授業で学んだ内容を記入し完成させること。（学修時間週2時間）

### 【テキスト・教材】

授業では、教員作成のレジュメを配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験50%、平常点（授業中の発言、感想・質問文の提出）50%。  
学生からの質問文については次回の授業で、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

### 【参考書】

伊藤良子『臨床心理学ー全体的存在としての人間を理解する』ミネルヴァ書房  
岡堂哲雄『家族心理学入門 改訂版』培風館

**家庭**

持続可能な社会の構築に資する作る手と選ぶ目を育てる

馬場 由子

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、協働力

**【授業のテーマ】**

指導要領に謳われた「生きる力」について、家庭科で育てるべき力は何かを考え、実践的に育てる方法を学ぶ。持続可能な社会の構築に資する力をもつ主体的に生きる消費者としての態度、家族や地域、自然や環境とともに生きる開かれた個としての態度を、まず自分自身が育てることを目指す。指導要領を精読し、A家族・家庭生活、B衣食住の生活、C消費生活・環境の内容を関連させ、他教科との連携を図る題材作りを行う。調理実習と裁縫実習を仲間と協力して行い、話し合いなどを通して協働の学びを体験する。

**【授業における到達目標】**

- ・調理実習の指導方法と内容を関連させる題材作り。
- ・ミシン実習の指導方法と内容を関連させる題材作り。
- ・持続可能な視点をもつ生活者としての態度。
- ・生活の中で課題を見つけ、解決方法を模索する態度。
- ・自他の役割を理解し、協力して物事を進めることができる。
- ・互いの違いと良さを認め、共感することができる。

**【授業の内容】**

- 第1週 授業ガイダンス・家庭科教育の基本理念  
課題①指導要領の分析・検討
- 第2週 学習指導要領の内容と学習活動  
課題②年間指導計画案
- 第3週 生きる力を育てる学習活動の工夫
- 第4週 作る手を育てる①（りんごの皮むきトライアル）  
課題③保護者宛プリントと賞状作成
- 第5週 選ぶ目を育てる①（エシカルファッション）  
課題④ミシン予習プリント
- 第6週 作る手を育てる②（ミシン実習）  
課題⑤Tシャツエコバック制作
- 第7週 作る手を育てる③（吾妻袋制作）  
課題⑥吾妻袋制作  
課題⑦ミシン実習ペーパー
- 第8週 選ぶ目を育てる②（わが家のだし新聞）  
課題⑧わが家のだし新聞作成  
課題⑨みそ汁実習ペーパー
- 第9週 作る手を育てる④（みそ汁実習）
- 第10週 作る手を育てる⑤（プリン実習）  
課題⑩プリンペーパー
- 第11週 選ぶ目を育てる③（情報を読む）
- 第12週 これからの生活に必要な視点
- 第13週 生きる力を育てる題材開発  
課題⑪題材開発
- 第14週 題材発表会
- 第15週 まとめと期末定期試験

**【事前・事後学修】**

【事前学修】講義内容に関する指導要領の頁を精読すること。裁縫実習と調理実習の予習課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義内容を復習し、必要な情報を収集すること。出された課題に取り組む期限内に提出こと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

- ・「小学校学習指導要領解説家庭編」文部科学省
  - ・「新しい家庭科5・6」東京書
  - ・「小学校5・6年私たちの家庭科」開隆堂
- ※これらのテキストに関しては、授業開始時に指示する。
- ・2018版家庭科ワークノート新版「身近な消費生活と環境」教師用  
馬場由子著 地域教材社 290円

・資料等適宜配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

リアクション・ペーパーや模擬授業等（45%）、課題と学年末試験（55%）を合わせ、総合評価する。リアクション・ペーパーや課題は次回授業でフィードバックを行う。

**【参考書】**

- ・「アクティブラーニングが育てるこれからの家庭科」監修牧野カツコ 地域教材社 2017年2月 1500円
- ・「作る手が子ども達を輝かす」責任編集牧野カツコ 地域教材社 2009年3月 2100円
- ・「わたしがつくる朝ごはん」お茶の水女子大附属学校家庭科研究会 地域教材社 300円
- ・授業内で適宜紹介する。

**【注意事項】**

- ・指導要領を精読すること。
- ・課題は期限内に必ず提出すること。
- ・授業予定表で課題や持ち物を確認し、忘れ物をしないこと。
- ・調理実習や裁縫実習で使用するエプロン、三角巾、布巾、古Tシャツ、手ぬぐいを準備すること。
- ・包丁の使い方と運針の練習をすること。
- ・アンテナをたてて必要な情報を収集すること。

**家庭科教育法（１）**

大野 由喜子

2年 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

小・中・高等学校の学習指導要領における「家庭」について理解を深め、教育内容の系統性・継続性を踏まえた学習指導を主体的・能動的に実践する家庭科教員を目指す。

**【授業における到達目標】**

中学校技術・家庭（家庭分野）の教育内容と指導方法について理解し、多角的な視点を以て授業設計に臨む態度と自己研鑽力および行動力を修得し、授業を実践できるようになる。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション  
授業の進め方と評価、学習指導要領と家庭科の歴史の変遷
- 第2週 小・中学校における家庭科の指導
- 第3週 中・高等学校における家庭科の指導
- 第4週 中学校技術・家庭（家庭分野）の指導計画
- 第5週 中学校技術・家庭（家庭分野）の評価計画
- 第6週 学習指導案の作成
- 第7週 学習指導案の評価
- 第8週 「家族・家庭と子どもの成長」の指導
- 第9週 「食生活と自立」の指導
- 第10週 「衣生活・住生活と自立」の指導
- 第11週 「身近な消費生活と環境」の指導
- 第12週 「生活の課題と実践」の指導
- 第13週 模擬授業
- 第14週 模擬授業
- 第15週 まとめと今後の課題

**【事前・事後学修】**

事前学修：小テスト、レポート、発表等の課題に取り組むこと。

(学修時間 週2時間)

事後学修：教科書ならびに資料・プリント等を復習し、専門用語等を理解しておくこと。

(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

教科書『技術・家庭 家庭分野』（開隆堂出版 2015年）646円  
授業で配布する資料・プリント等

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験50%、提出物（学習指導案、レポート、ワークシート、小テスト等）50%とし、総合的に評価します。  
提出物は、次の授業でフィードバックします。

**【参考書】**

文部科学省「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」

(教育図書)

**【注意事項】**

(国文学科 対象)

**家庭科教育法（２）**

大竹 美登利

3年 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

中学・高等学校家庭科の衣食住、家族・保育、家庭経済の各分野について、具体的な指導が展開できる教材作成ができる力を養う。  
授業実践力をつけるために、実際の授業を観察し、それを元にして学習指導案を作成できる能力を養う。さらに教材解釈や教材研究をふまえて教材づくりができる力を育成する。

**【授業における到達目標】**

家庭科の目標である自立し共に生きる生活を創造するために、様々な生活事象を協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営む力を育成する。そのことによって、多様な価値観を受け入れ、真理を探究する態度を身につけ、学生が習得すべき行動力、問題解決力、協働力を育む。

**【授業の内容】**

- 1 オリエンテーション  
(講義の目標・内容・方法、家庭科のカリキュラム)
- 2 家庭科教育への誘い 家庭科で何をどう学ぶか
- 3 授業のシナリオを描く(1)授業を観察し授業の流れを確認しよう
- 4 授業のシナリオを描く(2)指導案を書いてみよう
- 5 授業のシナリオを描く(3)年間授業計画を作ってみよう
- 6 教材を作る(1)わかりやすく伝える教材づくり
- 7 教材を作る(2)教材の違いで学びが違うことを体験してみよう
- 8 教材を作る(3)科学的視点を育む教材を考える
- 9 学びあいを保証する授業作り(1)多様な価値を交流する授業
- 10 学びあいを保証する授業作り(2)複数の領域をつなげた授業
- 11 学びあいを保証する授業作り(3)交流を通して視点を広げる
- 12 子どもたちの実態を踏まえた授業作り(1)ユニバーサルな授業
- 13 子どもたちの実態を踏まえた授業作り(2)貧困を乗り越える授業
- 14 学習を評価する
- 15 まとめ

**【事前・事後学修】**

(事前学修) テキストや配布プリント・資料を参考に、予習・復習を行う(学修時間週2時間)。(事後学修) 学んだポイントを生かし、教材や指導案作成を作ってみる(学修時間週2時間)。

**【テキスト・教材】**

田中智志先生・橋本美保先生監修 (2015年)『新教職課程シリーズ・教科教育編家庭科教育法』一藝社 2200円。

このほか、資料・プリントを配付する

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

まとめテスト(30%) 発表内容的確性(30%) レポート・提出物(30%) 授業への積極的参加状況(10%) により評価を行う。フィードバックは提出されたレポートの返却ならびに発表時へのコメントを通して行う。

**【参考書】**

検定済教科書 中学校技術・家庭 家庭分野(開隆堂出版)

検定済教科書 高等学校 家庭基礎 (開隆堂)

検定済教科書 高等学校 家庭総合 (開隆堂)

中学校学習指導要領解説 技術・家庭編、

高等学校学習指導要領解説家庭編

**【注意事項】**

本科目は、中学・高等学校「家庭」の免許取得のために履修するものである。本科目では、講義の他、演習や討議、発表など多彩な形態で実施するため、積極的主体的に授業に臨むことが大切である。参考書の教科書や指導要領解説を熟読しておくこと。

**家庭科教育法（３）**

大竹 美登利

3年 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

中学校の技術・家庭科の「家庭分野」具体的な指導が展開できるようになる。

模擬授業を通して、一人一人に授業を創り上げる力を確実に身につける。特に、教師と子どもの共同でつく学びを意識し、授業づくりのポイントを把握する。

**【授業における到達目標】**

自立し共に生きる生活の創造をめざし、家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点から、よりよい生活を営むために工夫する力を育成する家庭科教育の方策を学ぶことによって、多様な価値観を受け入れ、真理を探究する態度を身につけ、学生が習得すべき行動力、問題解決力、協働力を育む。

**【授業の内容】**

1. オリエンテーション  
(講義の目標・内容・方法、模擬授業の班構成について)
- 2技術・家庭科「家庭分野」の内容と構造
- 3家族・保育の指導計画と実践Ⅰ（家庭と地域、家族のこれから）
- 4家族・保育の指導計画と実践Ⅱ（幼児の生活と遊び）
- 5家族・保育の指導計画と実践Ⅲ（幼児とのふれあい）
- 6食生活分野の指導計画と実践Ⅰ（健康と食生活）
- 7食生活分野の指導計画と実践Ⅱ（食品の選択と保存）
- 8食生活分野の指導計画と実践Ⅲ（食文化と持続可能性）
- 9住生活分野の指導計画と実践Ⅰ（住まいのはたらき）
- 10住生活分野の指導計画と実践Ⅱ（健康・安全な住居と地域）
- 11衣生活分野の指導計画と実践Ⅰ（日常着の活用）
- 12衣生活分野の指導計画と実践Ⅱ（日常着の手入れ）
- 13消費・環境分野の指導計画と実践Ⅰ（商品の選択と購入）
- 14消費・環境分野の指導計画と実践Ⅱ（より良い消費生活と環境）
- 15実践の評価及び改善 まとめ

**【事前・事後学修】**

（事前学修）テキストや配布プリント・資料を参考に、事前に指導案。ワークシートなどを作成し模擬授業を準備する（学修時間週2時間）。（事後学修）模擬授業を行って改善が指摘されたところをふまえて、より良い指導案及び教材。ワークシートを作成する（学修時間週2時間）。

**【テキスト・教材】**

検定済教科書中学校技術・家庭家庭分野（開隆堂出版）2017年500円  
中学校学習指導要領解説 技術・家庭編、2018年 80円  
このほか、資料・プリントを配付する

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

まとめテスト（30％）発表内容的確性（30％）レポート・提出物（30％）授業への積極的参加状況（10％）により評価を行う、フィードバックはレポート提出の次の回ならびに発表時に行う。

**【参考書】**

田中智志先生・橋本美保先生監修「新教職課程シリーズ・教科教育編家庭科教育法」一藝社。  
検定済教科書 高等学校 家庭基礎（開隆堂）  
検定済教科書 高等学校 家庭総合（開隆堂）  
高等学校学習指導要領解説家庭編

**【注意事項】**

本科目は、中学・高等学校「家庭」の免許取得のために履修するものである。本科目では、講義の他、演習や討議、発表など多彩な形態で実施するため、積極的々主体的に授業に臨むことが大切である。参考書の教科書や指導要領解説を熟読しておくこと。

**家庭科教育法（４）**

大野 由喜子

3年 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

中・高等学校「家庭」の衣・食・住、保育等に関する指導方法では、実験・実習を中心に体験的・協働的に学修し、実践的指導力を身につけた家庭科教員を目指す。

**【授業における到達目標】**

高度で専門的な知識と指導技術を探求する態度と自己研鑽力を修得する。また、実験・実習をとおして、主体的に課題に取り組む態度と行動力、グループで協力しながら問題に正対し、自らの役割を果たす等協働力を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション  
講義内容、授業の進め方と評価
- 第2週 高等学校「家庭」の学習指導
- 第3週 共通教科「家庭」の指導計画・評価計画
- 第4週 学習指導案の作成
- 第5週 ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動
- 第6週 基礎基本を取り入れた被服実習の指導
- 第7週 技術の定着を図る被服実習の指導
- 第8週 実習作品の仕上げと評価
- 第9週 被服実験の指導
- 第10週 調理実験の指導
- 第11週 調理実習の指導
- 第12週 住生活の指導
- 第13週 子どもの発達と保育に関する指導
- 第14週 研究発表
- 第15週 研究発表、まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：中・高等学校の教科書ならびに配布する資料・プリントは、予習を行い授業に臨むこと。

（学修時間 週2時間）

事後学修：実技指導の学修では、基礎基本となる技術の修得に励むこと。

（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

教科書『平成29年度改定 家庭総合－自立・共生・創造－』  
（東京書籍 2017年）720円

教科書『技術・家庭 家庭分野』（開隆堂出版 2015年）646円  
授業で配布する資料・プリント

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

研究発表50％、提出物（実習作品、学習指導案、レポート、ワークシート、小テスト等）50％とし、総合的に評価します。

提出物は、次回の授業でフィードバックします。

**【参考書】**

文部科学省「高等学校学習指導要領解説 家庭編」

（開隆堂出版）

そのほか、副読本等は、授業時に適宜紹介します。

**【注意事項】**

本講座は、中・高等学校「家庭」の教員免許取得にかかわり、将来、教職に就くことを想定した内容で授業を進めます。授業内容は進度状況等の関係により、一部変更する場合があります。

課題や提出物は、期限を厳守してください。

30分以上の遅刻は、欠席とします。

## 家庭教育論

奥田 訓子

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

### 【授業のテーマ】

家庭は子どもが健やかに育つうえでの大切な教育基盤である。とくに幼少時の子どもは家族集団との関わりの中から経験するさまざまな事象から大きく影響を受ける。近年は家族関係や家族観の変化、新しい社会システムの構築により子どもの養育の場は広がっているが、それによる新たな社会問題も発現してきた。

本授業では子どもの発達を支える家庭教育のあり方についての理論的な整理に加え、家族、地域の中で問題化している子どもの育ちに関する事例を交えながら家庭教育のあり方を検討する。

### 【授業における到達目標】

家族をとりまく現状、家族機能及び、近代の家族について理解を深める。その上で、子ども家庭支援のニーズを捉え、具体的な支援施策・方法を検討する基本的な心構え・理念と知識・技術を身につける。

### 【授業の内容】

- 第1回目 授業オリエンテーション：家族観について
- 第2回目 家庭教育の歴史：家族機能とその変化
- 第3回目 現代の家族の特徴と家庭教育
- 第4回目 家族システムにおける諸理論
- 第5回目 現代の家族関係(夫婦関係)
- 第6回目 現代の家族関係(親子関係)
- 第7回目 現代の家族関係(兄弟・祖父母との関係)
- 第8回目 家庭の中の女性：妻・母としてのアイデンティティ
- 第9回目 家庭の中の男性：夫・父としてのアイデンティティ
- 第10回目 子育てストレス：親育ちの課題
- 第11回目 家族の病理(幼児虐待の要因)
- 第12回目 ひとり親家庭と教育
- 第13回目 社会と子育て：社会的養護の概念
- 第14回目 地域における子育て支援体制
- 第15回目 家庭教育の課題：これからの家庭教育のあり方

### 【事前・事後学修】

事前学修：自身の印象深い家族とのエピソードから今の自分の成り立ちについて考える(学修時間 週2時間)。

事後学修：家族問題に関するニュースを学んだ知識から説明してみる(学修時間 週2時間)

### 【テキスト・教材】

レジュメを配布

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

各回でリアクションペーパーや課題の整理のための小テストに取り組んでもらう(各回課題)。翌週の授業で答え合わせや解説、ディスカッションで課題のフィードバックする。授業への参加度(20%)、各回課題(50%)、まとめのレポート(30%)で評価する。

### 【参考書】

- 住田正樹 高島秀樹 (2015) 「変動社会と子どもの発達」 北樹出版(2,100円税別)
- 団士郎 (2014) 「対人援助職のための家族理解入門—家族の構造理論を活かす」 中央法規出版(1,600円税別)
- 柏木恵子 (2008) 「子どもが育つ条件—家族心理学から考える」 岩波新書(820円税別)

## 家庭経営 a (食生活)

白尾 美佳

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

## 【授業のテーマ】

現代の家庭生活のスタイルは、生活環境の変化とともに多岐にわたっているが、より良い生活を実現するためには、多方面から家庭経営を分析することが必要である。そこで、本授業においては、家庭をとりまく食環境、食の安全とリスク管理、家族のライフステージにおける食と栄養、健康等を学ぶことにより、家庭における食生活の特徴や意義を理解し、家庭経営における課題を解決するための食生活上の必要な能力ならびに主体的、実践的な態度を育てる。

## 【授業における到達目標】

自らの学びやグループワーク、発表等を通して、研鑽力、課題を発見し解決する課題解決能力（行動力）、協働力とともに国際的視野も修得する。

## 【授業の内容】

- 第1週 現代生活における食生活領域の課題
- 第2週 食と環境（食料自給率と地産地消）
- 第3週 食品の特質と選択
- 第4週 食に関する消費生活とリスク管理
- 第5週 食中毒と食品添加物
- 第6週 食生活と調理
- 第7週 日本と世界の食文化とマナー
- 第8週 子どもの食と栄養
- 第9週 成人、高齢者の食と栄養
- 第10週 地域における食に関する課題
- 第11週 食に関するリーフレット作成
- 第12週 食に関するポスター作製
- 第13週 食に関する課題解決のための発表
- 第14週 食に関する課題解決のための相互評価
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】発表、提出物に関する課題に取り組む  
（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業の復習、提出物の課題に取り組む  
（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

プリント

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験40%、提出物40%、平常点（授業に取り組む姿勢）20%

試験、提出物等の課題についてのフィードバックはその都度行う。

## 【参考書】

中学校、高等学校家庭科の教科書  
食に関連する図書

## 【注意事項】

- ・授業によって発表の準備とプレゼンテーションを行います。
- ・授業の進度、受講者数によってシラバスの内容が前後あるいは変更することがあります。

## 家庭経営 b (衣環境)

吉村 眞由美

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

## 【授業のテーマ】

衣生活は人間特有の営みであり、社会生活上欠かすことができません。本授業では、国内外における伝統的文化から、衣服や化粧が他人に与える心理的影響、状況に応じた衣服の選び方、現代のファッションの動向に至るまで人の衣環境について幅広く学びます。

## 【授業における到達目標】

①世界における衣服の機能、特性、着用状況を知ることで【国際的視野】を身につけます。②アパレル製品やファッションの動向を学ぶことで【美の探究】の態度を養います。③衣生活全般の内容を毎回『4つの学びノート（4学ノート）』で学習することで【行動力】【研鑽力】を高めます。

## 【授業の内容】

1. 衣環境とは・ヒトはなぜ装うのか
2. 気候風土と装い
3. 衣服のかたちの変遷
4. 装いと健康
5. 足元の健康と安全を守る靴教育  
（足測定・靴サイズ確認・正しいひも靴の履き方実技含む）
6. 装いによる気候調節
7. 動きやすさと衣服
8. 衣服の素材と加工
9. 衣服の品質と管理
10. ヒトの成長とからだつき
11. アパレル産業と既製服
12. 装いのコミュニケーション
13. ユニバーサルデザインと装い
14. 装いと生活環境
15. 望ましい衣環境を考える（総括）

## 【事前・事後学修】

【事前学修】疑問点や専門用語等を4学ノートに書き出す準備が必要です。4つの視点に分けながら授業中に記入します。授業終了時に回収の上、事前学修と当日記入を採点した上で検印を押し返却します。（学修時間 週2時間）【事後学修】4学ノートの裏面に追記したい情報を厳選して記入します。授業直後に復習することが記憶の定着を促し学修効果を高めます。見やすく丁寧に記入することで、試験に備えてください。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

岡田宣子編著『ビジュアル衣生活』（建帛社 2010年）2,300円＋税  
授業内で使用する『4つの学びノート』は、この授業独自の学習ノートで、授業内で配布します。予習内容を記入した上で授業に持参してください。毎回、授業内で記入・終了時に提出するものとします。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

4つの学びノート（4学ノート）の提出状況と記述内容（50%）、試験結果（50%）。4学ノートは毎回提出・フィードバックをしたのち返却します。試験のフィードバックは最終回授業で行います。



**家庭経営 c (育児・介護)**

あなたらしく子を育て、親を介護する

高橋 桂子

1年 後期 2単位

◎：研鑽力

**【授業のテーマ】**

共稼ぎ化が常態化する今日、あなたはどのように働き、家事を分担しながら、子どもを育て親をケアしていくのか。日常生活を取り巻く社会システム、制度等について基礎知識を確認した上で、雇用労働者として働きながら、制度の問題点を指摘・改善したり、地域資源を活用し(なければ創って)育児・介護するというスタンスに立ち、家庭経営に関する理解を深める。具体的にはDVDを活用しながら、実態理解、問題点の抽出、解決案の提案である。本講義の履修を通して、「自分らしい生活の在り方」を考えるきっかけとなることを期待している。

**【授業における到達目標】**

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とします。具体的には、(1)少子化と高齢化について定義、実態、制度を説明することができるようになる。(2)少子化と高齢化に関する現行制度の問題点を指摘し、改善案を提示することができるようになる。(3)少子化と高齢化が同時進行する中で、自分が仕事とどのように関わりながら生きていくのか、複数パターンを考えることができるようになる。

**【授業の内容】**

- 1回 ガイダンス、基礎知識の確認：人口、少子高齢化
- 2回 少子化：定義、TFR、実態、少子化のプロセス
- 3回 DVD1「子どもと貧困」「子ども食堂」など
- 4回 既婚女性の就業実態：雇用形態、M字型、共働き
- 5回 DVD2「かんかん森」
- 6回 幼稚園&保育所：実態、種類、保育料、1日の流れ
- 7回 仕事とケアの両立：DVD3「女たちの20年戦争」
- 8回 外部講師の招聘：保育士または介護士
- 9回 高齢化：定義、実態、高齢化のプロセス
- 10回 DVD4「介護福祉士 和田さん」
- 11回 退職後の生活：健康寿命、組織から地域へ
- 12回 高齢者と保険：年金保険
- 13回 高齢者と保険：介護保険
- 14回 DVD5「サイバーシニア」
- 15回 理解度の確認、まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】事前配布資料などを、しっかり読み込むこと(学修時間 週2時間)。  
【事後学修】学んだことを復習する。次回の授業内容を予習し、専門用語などを理解しておくこと(学修時間 週2時間)。

**【テキスト・教材】**

資料等を必要に応じて配布する。

事前に配布された資料は、目を通した上で講義に臨むこと。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート(20%)、試験(小テスト20%、期末試験50%)と平常点(授業への積極参加10%)から判断する。なお、試験に関しては、小テストはその場で、期末試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

**【参考書】**

適宜、紹介します。

**【注意事項】**

「出席3分の1ルール」は厳格に適用します。

## 家庭経営学

高橋 桂子

3年 後期 2単位

○：行動力

### 【授業のテーマ】

本講義は家庭科教員免許のための必須科目です。家族は、社会の最小集団ですから、企業経営同様、経営的な知識、センスが求められます。家族経済学、家族社会学と消費生活の3つの領域から実態、理論を学び、教職の場で活かせる知識を習得します。

### 【授業における到達目標】

学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を解決できる力を修得する。具体的には、家族経済学、家族社会学と消費生活の3つの領域に関してバランスよく知識を習得することができるようになる。

### 【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス、基礎知識の確認
- 第2回 生涯所得を計算する、「機会費用」について知る
- 第3回 給与明細を理解する：お給料は何から構成される？
- 第4回 所得税（基本）：算出アイデアを理解する 公平・中立・簡素
- 第5回 所得税（応用）：実際に計算してみよう！
- 第6回 預金と金利：金利、定期貯金、外貨預金
- 第7回 《家庭経済学領域に関する知識確認》
- 第8回 家族、結婚・、離婚、親等、ジェノグラム
- 第9回 戸籍を読む
- 第10回 女性と労働裁判（住友セメント事件）
- 第11回 ケアする：企業所内保育所、高齢者介護
- 第12回 《家族社会学領域に関する知識確認》
- 第13回 契約・クーリングオフ・契約自由の原則、未成年者取消
- 第14回 消費統計、消費とマーケティング
- 第15回 《消費生活領域に関する知識確認》

### 【事前・事後学修】

【事前学習】次回講義テーマに関して、複数箇所からの情報をもとに、自習学修を行うこと（学修時間 週2時間）。【事後学習】学んだことを図書やネット検索を通して復習する（学修時間 週2時間）。

### 【テキスト・教材】

資料等を必要に応じて配布する。事前に配布された資料は、目を通した上で講義に臨むこと

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト（30%）や試験（50%）、平常点（授業への積極参加、グループワークなど20%）から判断する。なお、小テストはその場で、試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

### 【参考書】

適宜、紹介します

### 【注意事項】

「出席3分の1ルール」は厳格に適用します。  
 ※他の履修生の迷惑となる行為（私語など）を禁止します。講義の妨げになると判断した場合は、教室からの退席を求める場合があります。

## 家庭経営論

大竹 美登利

1年 後期 2単位

○：行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

家庭科教育の基本である「家庭生活」とは何か、その営みについて学ぶ。

家庭生活とは何かを、家庭生活を形成する家族、経済社会の発達に伴う家庭機能の社会化、家庭を取り巻く地域コミュニティの重要性などを理解し、新しい生活を創造する方向を明らかにする。

### 【授業における到達目標】

自立した個々人が地域コミュニティの中で協働することを通して、国や地域の多様な生活の営みが形成されることを学ぶ。それによって、学生が習得すべき多様な価値観の受容や真理を探究する態度を身につけ、行動力、問題解決力、協働力を育む。

### 【授業の内容】

- 1、オリエンテーション、現代生活の枠組み
- 2、新しい生活価値の創造
- 3、新たな生活主体の形成
- 4、自助、共助、公助の三者連関で作られる生活主体形成
- 5、ホームレス支援と生活主体形成
- 6、生活の社会化と生活資源
- 7、多重債務者のエンパワメント
- 8、病児・病後児保育の課題
- 9、参加と協働でつくる生活経営組織
- 10、地域通貨によるコミュニティデザイン
- 11、女性農業者のエンパワメント
- 12、生活経営主体者が参画する新たな生活ガバナンス
- 13、韓国の新たな家族支援システム
- 14、持続的で改善チャンネルのある生活における経営力
- 15、まとめ 生活を創りかえるために

### 【事前・事後学修】

（事前学修）テキストや配布プリント・資料を参考に、予習・復習を行う（学修時間週2時間）。

（事後学修）各回で学んだ生活経営の事例を集め、多様な生活の営みの諸相を整理し、理解する（学修時間週2時間）。

### 【テキスト・教材】

（社）日本家政学会生活経営学部会編（2010年）『暮らしをつくりかえる生活経営力』朝倉書店 2800円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回学習内容に関する小テストを行う。評価は小テスト（50%）課題提出（10%）定期試験（30%）授業への積極的参加状況（10%）により行う。フィードバックは小テストならびに課題提出の次の週に行う。

### 【参考書】

大竹美登利監修（2012年）『生きる働く学ぶ』開隆堂、1620円

### 【注意事項】

本科目では、講義の他、演習や討議、発表など多彩な形態で実施するため、積極的主体的に授業に臨むことが大切である。

**家庭経営論 1**

家族について家族経済学、家族社会学と消費生活の3領域から学ぶ

高橋 桂子

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

近い将来、定位家族から配偶者と家庭を築く生殖家族に移行します。その家庭をどのように運営・経営していくのでしょうか。家族は、社会の最小集団ですから、企業経営同様、経営的な知識、センスが求められます。本講義では家族経済学、家族社会学と消費生活の3つの領域に関して実態、理論を学びます。

**【授業における到達目標】**

学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を解決できる力を修得する。具体的には以下のようなものである。(1)家庭経済学領域において家族の機能を理解できるようになる。(2)家族社会学領域において家族の役割を理解できるようになる。(3)消費生活領域において社会との接点を理解できるようになる。

**【授業の内容】**

- 第1回 ガイダンス、基礎知識の確認
- 第2回 生涯所得を計算する、「機会費用」について知る
- 第3回 給与明細を理解する：お給料は何から構成される？
- 第4回 所得税（基本）：算出アイデア 公平・中立・簡素
- 第5回 所得税（応用）：実際に計算してみよう！
- 第6回 預金と金利：金利、定期貯金、外貨預金
- 第7回 《家庭経済学領域に関する知識確認》
- 第8回 家族、結婚・、離婚、親等、ジェノグラム
- 第9回 戸籍を読む
- 第10回 女性と労働裁判（住友セメント事件）
- 第11回 ケアする：企業所内保育所、高齢者介護
- 第12回 《家族社会学領域に関する知識確認》
- 第13回 契約・クーリングオフ：「フィールドワーク1」
- 第14回 消費統計、消費とマーケティング
- 第15回 《消費生活領域に関する知識確認》

**【事前・事後学修】**

【事前学修】次回講義テーマに関して、複数箇所からの情報をもとに、自習学修を行うこと（学修時間 週2時間）。【事後学修】学んだことを図書やネット検索を通して復習する（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

資料等を必要に応じて配布する。事前に配布された資料は、目を通した上で講義に臨むこと。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

知識確認試験（小テスト25%、試験50%）、平常点（授業への積極参加25%）から判断する。小テストはその場で、試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

**【参考書】**

適宜、紹介します。

**【注意事項】**

「出席3分の1ルール」は厳格に適用します。  
 ※他の履修生の迷惑となる行為（私語など）を禁止します。講義の妨げになると判断した場合は、教室からの退席を求められます。

**家庭経営論 1**

家族について家族経済学、家族社会学と消費生活の3領域から学ぶ

高橋 桂子

1・2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

近い将来、定位家族から配偶者と家庭を築く生殖家族に移行します。その家庭をどのように運営・経営していくのでしょうか。家族は、社会の最小集団ですから、企業経営同様、経営的な知識、センスが求められます。本講義では家族経済学、家族社会学と消費生活の3つの領域に関して実態、理論を学びます。

**【授業における到達目標】**

学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を解決できる力を修得する。具体的には以下のようなものである。(1)家庭経済学領域において家族の機能を理解できるようになる。(2)家族社会学領域において家族の役割を理解できるようになる。(3)消費生活領域において社会との接点を理解できるようになる。

**【授業の内容】**

- 第1回 ガイダンス、基礎知識の確認
- 第2回 生涯所得を計算する、「機会費用」について知る
- 第3回 給与明細を理解する：お給料は何から構成される？
- 第4回 所得税（基本）：算出アイデア 公平・中立・簡素
- 第5回 所得税（応用）：実際に計算してみよう！
- 第6回 預金と金利：金利、定期貯金、外貨預金
- 第7回 《家庭経済学領域に関する知識確認》
- 第8回 家族、結婚・、離婚、親等、ジェノグラム
- 第9回 戸籍を読む
- 第10回 女性と労働裁判（住友セメント事件）
- 第11回 ケアする：企業所内保育所、高齢者介護
- 第12回 《家族社会学領域に関する知識確認》
- 第13回 契約・クーリングオフ：「フィールドワーク1」
- 第14回 消費統計、消費とマーケティング
- 第15回 《消費生活領域に関する知識確認》

**【事前・事後学修】**

【事前学修】次回講義テーマに関して、複数箇所からの情報をもとに、自習学修を行うこと（学修時間 週2時間）。【事後学修】学んだことを図書やネット検索を通して復習する（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

資料等を必要に応じて配布する。事前に配布された資料は、目を通した上で講義に臨むこと。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

知識確認試験（小テスト25%、試験50%）、平常点（授業への積極参加25%）から判断する。小テストはその場で、試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

**【参考書】**

適宜、紹介します。

**【注意事項】**

「出席3分の1ルール」は厳格に適用します。  
 ※他の履修生の迷惑となる行為（私語など）を禁止します。講義の妨げになると判断した場合は、教室からの退席を求められます。

**家庭経営論 1**

家族について家族経済学、家族社会学と消費生活の3領域から学ぶ

高橋 桂子

1・2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

近い将来、定位家族から配偶者と家庭を築く生殖家族に移行します。その家庭をどのように運営・経営していくのでしょうか。家族は、社会の最小集団ですから、企業経営同様、経営的な知識、センスが求められます。本講義では家族経済学、家族社会学と消費生活の3つの領域に関して実態、理論を学びます。

**【授業における到達目標】**

学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を解決できる力を修得する。具体的には以下のものである。(1)家庭経済学領域において家族の機能を理解できるようになる。(2)家族社会学領域において家族の役割を理解できるようになる。(3)消費生活領域において社会との接点を理解できるようになる。

**【授業の内容】**

- 第1回 ガイダンス、基礎知識の確認
- 第2回 生涯所得を計算する、「機会費用」について知る
- 第3回 給与明細を理解する：お給料は何から構成される？
- 第4回 所得税（基本）：算出アイデア 公平・中立・簡素
- 第5回 所得税（応用）：実際に計算してみよう！
- 第6回 預金と金利：金利、定期貯金、外貨預金
- 第7回 《家庭経済学領域に関する知識確認》
- 第8回 家族、結婚・、離婚、親等、ジェノグラム
- 第9回 戸籍を読む
- 第10回 女性と労働裁判（住友セメント事件）
- 第11回 ケアする：企業所内保育所、高齢者介護
- 第12回 《家族社会学領域に関する知識確認》
- 第13回 契約・クーリングオフ：「フィールドワーク1」
- 第14回 消費統計、消費とマーケティング
- 第15回 《消費生活領域に関する知識確認》

**【事前・事後学修】**

【事前学修】次回講義テーマに関して、複数箇所からの情報をもとに、自習学修を行うこと（学修時間 週2時間）。【事後学修】学んだことを図書やネット検索を通して復習する（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

資料等を必要に応じて配布する。事前に配布された資料は、目を通した上で講義に臨むこと。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

知識確認試験（小テスト25%、試験50%）、平常点（授業への積極参加25%）から判断する。小テストはその場で、試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

**【参考書】**

適宜、紹介します。

**【注意事項】**

「出席3分の1ルール」は厳格に適用します。  
 ※他の履修生の迷惑となる行為（私語など）を禁止します。講義の妨げになると判断した場合は、教室からの退席を求められます。

**家庭経営論 2**

共稼ぎ夫婦として生きる

高橋 桂子

1年 後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

**【授業のテーマ】**

夫婦とも雇用労働者として働き続ける「共稼ぎ夫婦」が増えている。その中で女性は主婦として妻として母親として、そして総合職雇用労働者として、自分らしい質の高い生活をどのように実現していくのか。また、経済の二極化が進む中、子どもや女性などは貧困に陥りやすい属性といえる。実態、支援のあり方について、欧米先進国や発展途上国での取り組みを学び、国際的視野をもって考える。

**【授業における到達目標】**

学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を解決できる力を修得する。

具体的には以下のようなものである。

女性の転勤、家事分担や貧困問題を「身近なテーマ」として捉え、自分ならどうするか、考えることができるようになる。

**【授業の内容】**

- 第1回 テーマ1：共稼ぎ・共働き社会、配偶者控除
- 第2回 女性の社会参加
- 第3回 男女共同白書で学ぶ1
- 第4回 男女共同白書で学ぶ2
- 第5回 男女共同白書で学ぶ3
- 第6回 「両住まい」女性と転勤、TKT
- 第7回 夫婦で家事分担する
- 第8回 DVD「女たちの20年戦争」
- 第9回 時事問題：子どもの非認知能力
- 第10回 テーマ2：経済の二極化と子ども：統計で確認する
- 第11回 パナマ文書、資産の活用
- 第12回 子供の貧困、女性の貧困と支援の実態
- 第13回 企業所内保育所、幼保一元化、DVD「かんかん森」
- 第14回 シェアエコノミー
- 第15回 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】次回講義テーマに関して、複数箇所からの情報をもとに自習学修を行うこと（学修時間 週2時間）。

【事後学修】学んだことを図書やネット検索を通して復習する（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

資料等を必要に応じて配布する。事前に配布された資料は、目を通した上で講義に臨むこと。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験（小テスト20%、期末試験50%）、平常点（授業への積極参加、グループワークなど30%）から判断する。

試験に関しては、小テストはその場で、期末試験結果は授業最終回にフィードバックを行う。

**【参考書】**

適宜、紹介します。

**【注意事項】**

「出席3分の1ルール」は厳格に適用します。

※他の履修生の迷惑となる行為（私語など）を禁止します。講義の妨げになると判断した場合は、教室からの退席を求められます。

**家庭経営論 2**

共稼ぎ夫婦として生きる

高橋 桂子

1・2年 後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

**【授業のテーマ】**

夫婦とも雇用労働者として働き続ける「共稼ぎ夫婦」が増えている。その中で女性は主婦として妻として母親として、そして総合職雇用労働者として、自分らしい質の高い生活をどのように実現していくのか。また、経済の二極化が進む中、子どもや女性などは貧困に陥りやすい属性といえる。実態、支援のあり方について、欧米先進国や発展途上国での取り組みを学び、国際的視野をもって考える。

**【授業における到達目標】**

学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を解決できる力を修得する。

具体的には以下のようなものである。

女性の転勤、家事分担や貧困問題を「身近なテーマ」として捉え、自分ならどうするか、考えることができるようになる。

**【授業の内容】**

- 第1回 テーマ1：共稼ぎ・共働き社会、配偶者控除
- 第2回 女性の社会参加
- 第3回 男女共同白書で学ぶ1
- 第4回 男女共同白書で学ぶ2
- 第5回 男女共同白書で学ぶ3
- 第6回 「両住まい」女性と転勤、TKT
- 第7回 夫婦で家事分担する
- 第8回 DVD「女たちの20年戦争」
- 第9回 時事問題：子どもの非認知能力
- 第10回 テーマ2：経済の二極化と子ども：統計で確認する
- 第11回 パナマ文書、資産の活用
- 第12回 子供の貧困、女性の貧困と支援の実態
- 第13回 企業所内保育所、幼保一元化、DVD「かんかん森」
- 第14回 シェアエコノミー
- 第15回 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】次回講義テーマに関して、複数箇所からの情報をもとに自習学修を行うこと（学修時間 週2時間）。

【事後学修】学んだことを図書やネット検索を通して復習する（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

資料等を必要に応じて配布する。事前に配布された資料は、目を通した上で講義に臨むこと。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験（小テスト20%、期末試験50%）、平常点（授業への積極参加、グループワークなど30%）から判断する。

試験に関しては、小テストはその場で、期末試験結果は授業最終回にフィードバックを行う。

**【参考書】**

適宜、紹介します。

**【注意事項】**

「出席3分の1ルール」は厳格に適用します。

※他の履修生の迷惑となる行為（私語など）を禁止します。講義の妨げになると判断した場合は、教室からの退席を求められます。



**家庭経営論 2**

共稼ぎ夫婦として生きる

高橋 桂子

1・2年 後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

**【授業のテーマ】**

夫婦とも雇用労働者として働き続ける「共稼ぎ夫婦」が増えている。その中で女性は主婦として妻として母親として、そして総合職雇用労働者として、自分らしい質の高い生活をどのように実現していくのか。また、経済の二極化が進む中、子どもや女性などは貧困に陥りやすい属性といえる。実態、支援のあり方について、欧米先進国や発展途上国での取り組みを学び、国際的視野をもって考える。

**【授業における到達目標】**

学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を解決できる力を修得する。

具体的には以下のようなものである。

女性の転勤、家事分担や貧困問題を「身近なテーマ」として捉え、自分ならどうするか、考えることができるようになる。

**【授業の内容】**

- 第1回 テーマ1：共稼ぎ・共働き社会、配偶者控除
- 第2回 女性の社会参加
- 第3回 男女共同白書で学ぶ1
- 第4回 男女共同白書で学ぶ2
- 第5回 男女共同白書で学ぶ3
- 第6回 「両住まい」女性と転勤、TKT
- 第7回 夫婦で家事分担する
- 第8回 DVD「女たちの20年戦争」
- 第9回 時事問題：子どもの非認知能力
- 第10回 テーマ2：経済の二極化と子ども：統計で確認する
- 第11回 パナマ文書、資産の活用
- 第12回 子供の貧困、女性の貧困と支援の実態
- 第13回 企業所内保育所、幼保一元化、DVD「かんかん森」
- 第14回 シェアエコノミー
- 第15回 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】次回講義テーマに関して、複数箇所からの情報をもとに自習学修を行うこと（学修時間 週2時間）。

【事後学修】学んだことを図書やネット検索を通して復習する（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

資料等を必要に応じて配布する。事前に配布された資料は、目を通した上で講義に臨むこと。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験（小テスト20%、期末試験50%）、平常点（授業への積極参加、グループワークなど30%）から判断する。

試験に関しては、小テストはその場で、期末試験結果は授業最終回にフィードバックを行う。

**【参考書】**

適宜、紹介します。

**【注意事項】**

「出席3分の1ルール」は厳格に適用します。

※他の履修生の迷惑となる行為（私語など）を禁止します。講義の妨げになると判断した場合は、教室からの退席を求められます。

**家庭工学****未定**

2・3年 前期・後期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

**【授業のテーマ】**

家庭で使用される機械器具・電気製品に関する基礎的知識・動作原理等を理解することは、合理的で安全な機器の使用、省エネルギーなどを実践する上で極めて重要である。また一般に機器を使用する際、保守作業は必須であることを理解してほしい。

**【授業における到達目標】**

学修を通して、私たちを取り巻く生活家電製品に目を向けることで、その製品の中から知的好奇心を刺激するような興味を探す【美の探究】とともに、さらに授業内で修得した知識や技術を表現および発揮できる【研鑽力】ことを目標とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 導入（家庭工学を勉学する意義、家庭生活と機器の歴史など）
- 第2週 家庭機械の基礎 1 機械とは、機械材料について
- 第3週 家庭機械の基礎 2 機素、機構、動力の伝達方法について
- 第4週 ねじ、ばね等の部品の知識、J I S規格、国際規格
- 第5週 縫製機器（ミシン）の歴史や機構、縫製原理について
- 第6週 縫製機器（ミシン）の機構と法制原理について
- 第7週 電気の基礎 1 発電原理と電気の種類（直流、交流・周波数）電力、交流の実効値、力率
- 第8週 電気の基礎 2 発電方式と電源構成、家庭までの送電経路
- 第9週 電力量計から家庭内配線、契約電流と電流制限器、漏電遮断器、安全ブレーカ
- 第10週 電気の熱、光、動力への変換の概要、電動機の動作原理
- 第11週 電熱機器の発熱の原理、電磁調理器（IH調理器、電子レンジ）
- 第12週 照明機器（白熱電球、蛍光灯、LED照明）
- 第13週 冷蔵庫、エアコンなどの原理と販売のはたらき、環境問題
- 第14週 コンピュータとソフトウェア、通信機器の変遷と社会
- 第15週 これからの社会と省エネルギー

なお授業においては、随時小テストを実施します。

**【事前・事後学修】**

事前・事後学修は、講義における理解を確実なものにするために必要なものである。以下のように取り組むこと。

【事前学修】シラバスを参考に、次回講義予定の学修項目を予め調べておくこと。（学修時間 2時間）

【事後学修】受講した講義内容の復習と理解度のチェックをする。理解ができていない部分がある場合には、小テストの際に質問として提出すること。（学修時間 2時間）

**【テキスト・教材】**

市販テキストは、特に使用しません。

必要に応じてプリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末試験 70%

授業において実施する小テスト 15%

平常点（授業への取り組み姿勢、質問など） 15%

授業内で実施する小テストについての解答解説をおこなう。

**【参考書】**

池本洋一・吉田章『家庭機械・電気・電子』（理工学社）

岡部巍編著『新家庭機械・電気』（医歯薬出版）

中島利誠編著『生活と技術』（コロナ社）

**【注意事項】**

遅刻、欠席がないようにしてください。

## 家庭工学

加藤木 秀章

2年 前期・後期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

家庭で使用される機械器具・電気製品に関する基礎的知識・動作原理等を理解することは、合理的で安全な機器の使用、省エネルギーなどを実践する上で極めて重要である。また一般に機器を使用する際、保守作業は必須であることを理解してほしい。

### 【授業における到達目標】

学修を通して、私たちを取り巻く生活家電製品に目を向けることで、その製品の中から知的好奇心を刺激するような興味を探す【美の探究】とともに、さらに授業内で修得した知識や技術を表現および発揮できる【研鑽力】ことを目標とする。

### 【授業の内容】

- 第1週 導入（家庭工学を勉学する意義、家庭生活と機器の歴史など）
- 第2週 家庭機械の基礎 1 機械とは、機械材料について
- 第3週 家庭機械の基礎 2 機素、機構、動力の伝達方法について
- 第4週 ねじ、ばね等の部品の知識、J I S規格、国際規格
- 第5週 縫製機器（ミシン）の歴史や機構、縫製原理について
- 第6週 縫製機器（ミシン）の機構と法制原理について
- 第7週 電気の基礎 1 発電原理と電気の種類（直流、交流・周波数）電力、交流の実効値、力率
- 第8週 電気の基礎 2 発電方式と電源構成、家庭までの送電経路
- 第9週 電力量計から家庭内配線、契約電流と電流制限器、漏電遮断器、安全ブレーカ
- 第10週 電気の熱、光、動力への変換の概要、電動機の動作原理
- 第11週 電熱機器の発熱の原理、電磁調理器（IH調理器、電子レンジ）
- 第12週 照明機器（白熱電球、蛍光灯、LED照明）
- 第13週 冷蔵庫、エアコンなどの原理と廉売のはたらき、環境問題
- 第14週 コンピュータとソフトウェア、通信機器の変遷と社会
- 第15週 これからの社会と省エネルギー

なお授業においては、随時小テストを実施します。

### 【事前・事後学修】

事前・事後学修は、講義における理解を確実なものにするために必要なものである。以下のように取り組むこと。

【事前学修】シラバスを参考に、次回講義予定の学修項目を予め調べておくこと。（学修時間 2時間）

【事後学修】受講した講義内容の復習と理解度のチェックをする。理解ができていない部分がある場合には、小テストの際に質問として提出すること。（学修時間 2時間）

### 【テキスト・教材】

市販テキストは、特に使用しません。

必要に応じてプリントを配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験 70%

授業において実施する小テスト 15%

平常点（授業への取り組み姿勢、質問など） 15%

授業内で実施する小テストについての解答解説をおこなう。

### 【参考書】

池本洋一・吉田章『家庭機械・電気・電子』（理工学社）

岡部巍編著『新家庭機械・電気』（医歯薬出版）

中島利誠編著『生活と技術』（コロナ社）

### 【注意事項】

遅刻、欠席がないようにしてください。

## 家庭工学

加藤木 秀章

2年 前期・後期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

家庭で使用される機械器具・電気製品に関する基礎的知識・動作原理等を理解することは、合理的で安全な機器の使用、省エネルギーなどを実践する上で極めて重要である。また一般に機器を使用する際、保守作業は必須であることを理解してほしい。

### 【授業における到達目標】

学修を通して、私たちを取り巻く生活家電製品に目を向けることで、その製品の中から知的好奇心を刺激するような興味を探す【美の探究】とともに、さらに授業内で修得した知識や技術を表現および発揮できる【研鑽力】ことを目標とする。

### 【授業の内容】

- 第1週 導入（家庭工学を勉学する意義、家庭生活と機器の歴史など）
- 第2週 家庭機械の基礎 1 機械とは、機械材料について
- 第3週 家庭機械の基礎 2 機素、機構、動力の伝達方法について
- 第4週 ねじ、ばね等の部品の知識、J I S規格、国際規格
- 第5週 縫製機器（ミシン）の歴史や機構、縫製原理について
- 第6週 縫製機器（ミシン）の機構と法制原理について
- 第7週 電気の基礎 1 発電原理と電気の種類（直流、交流・周波数）電力、交流の実効値、力率
- 第8週 電気の基礎 2 発電方式と電源構成、家庭までの送電経路
- 第9週 電力量計から家庭内配線、契約電流と電流制限器、漏電遮断器、安全ブレーカ
- 第10週 電気の熱、光、動力への変換の概要、電動機の動作原理
- 第11週 電熱機器の発熱の原理、電磁調理器（IH調理器、電子レンジ）
- 第12週 照明機器（白熱電球、蛍光灯、LED照明）
- 第13週 冷蔵庫、エアコンなどの原理と販売のはたらき、環境問題
- 第14週 コンピュータとソフトウェア、通信機器の変遷と社会
- 第15週 これからの社会と省エネルギー

なお授業においては、随時小テストを実施します。

### 【事前・事後学修】

事前・事後学修は、講義における理解を確実なものにするために必要なものである。以下のように取り組むこと。

【事前学修】シラバスを参考に、次回講義予定の学修項目を予め調べておくこと。（学修時間 2時間）

【事後学修】受講した講義内容の復習と理解度のチェックをする。理解ができていない部分がある場合には、小テストの際に質問として提出すること。（学修時間 2時間）

### 【テキスト・教材】

市販テキストは、特に使用しません。

必要に応じてプリントを配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験 70%

授業において実施する小テスト 15%

平常点（授業への取り組み姿勢、質問など） 15%

授業内で実施する小テストについての解答解説をおこなう。

### 【参考書】

池本洋一・吉田章『家庭機械・電気・電子』（理工学社）

岡部巍編著『新家庭機械・電気』（医歯薬出版）

中島利誠編著『生活と技術』（コロナ社）

### 【注意事項】

遅刻、欠席がないようにしてください。

## 家庭工学

加藤木 秀章

2年 前期・後期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

家庭で使用される機械器具・電気製品に関する基礎的知識・動作原理等を理解することは、合理的で安全な機器の使用、省エネルギーなどを実践する上で極めて重要である。また一般に機器を使用する際、保守作業は必須であることを理解してほしい。

### 【授業における到達目標】

学修を通して、私たちを取り巻く生活家電製品に目を向けることで、その製品の中から知的好奇心を刺激するような興味を探す【美の探究】とともに、さらに授業内で修得した知識や技術を表現および発揮できる【研鑽力】ことを目標とする。

### 【授業の内容】

- 第1週 導入（家庭工学を勉学する意義、家庭生活と機器の歴史など）
- 第2週 家庭機械の基礎 1 機械とは、機械材料について
- 第3週 家庭機械の基礎 2 機素、機構、動力の伝達方法について
- 第4週 ねじ、ばね等の部品の知識、J I S規格、国際規格
- 第5週 縫製機器（ミシン）の歴史や機構、縫製原理について
- 第6週 縫製機器（ミシン）の機構と法制原理について
- 第7週 電気の基礎 1 発電原理と電気の種類（直流、交流・周波数）電力、交流の実効値、力率
- 第8週 電気の基礎 2 発電方式と電源構成、家庭までの送電経路
- 第9週 電力量計から家庭内配線、契約電流と電流制限器、漏電遮断器、安全ブレーカ
- 第10週 電気の熱、光、動力への変換の概要、電動機の動作原理
- 第11週 電熱機器の発熱の原理、電磁調理器（IH調理器、電子レンジ）
- 第12週 照明機器（白熱電球、蛍光灯、LED照明）
- 第13週 冷蔵庫、エアコンなどの原理と廉売のはたらき、環境問題
- 第14週 コンピュータとソフトウェア、通信機器の変遷と社会
- 第15週 これからの社会と省エネルギー

なお授業においては、随時小テストを実施します。

### 【事前・事後学修】

事前・事後学修は、講義における理解を確実なものにするために必要なものである。以下のように取り組むこと。

【事前学修】シラバスを参考に、次回講義予定の学修項目を予め調べておくこと。（学修時間 2時間）

【事後学修】受講した講義内容の復習と理解度のチェックをする。理解ができていない部分がある場合には、小テストの際に質問として提出すること。（学修時間 2時間）

### 【テキスト・教材】

市販テキストは、特に使用しません。

必要に応じてプリントを配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験 70%

授業において実施する小テスト 15%

平常点（授業への取り組み姿勢、質問など） 15%

授業内で実施する小テストについての解答解説をおこなう。

### 【参考書】

池本洋一・吉田章『家庭機械・電気・電子』（理工学社）

岡部巍編著『新家庭機械・電気』（医歯薬出版）

中島利誠編著『生活と技術』（コロナ社）

### 【注意事項】

遅刻、欠席がないようにしてください。

## 家庭工学

加藤木 秀章

3年 前期・後期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

家庭で使用される機械器具・電気製品に関する基礎的知識・動作原理等を理解することは、合理的で安全な機器の使用、省エネルギーなどを実践する上で極めて重要である。また一般に機器を使用する際、保守作業は必須であることを理解してほしい。

### 【授業における到達目標】

学修を通して、私たちを取り巻く生活家電製品に目を向けることで、その製品の中から知的好奇心を刺激するような興味を探す【美の探究】とともに、さらに授業内で修得した知識や技術を表現および発揮できる【研鑽力】ことを目標とする。

### 【授業の内容】

- 第1週 導入（家庭工学を勉学する意義、家庭生活と機器の歴史など）
- 第2週 家庭機械の基礎 1 機械とは、機械材料について
- 第3週 家庭機械の基礎 2 機素、機構、動力の伝達方法について
- 第4週 ねじ、ばね等の部品の知識、J I S規格、国際規格
- 第5週 縫製機器（ミシン）の歴史や機構、縫製原理について
- 第6週 縫製機器（ミシン）の機構と法制原理について
- 第7週 電気の基礎 1 発電原理と電気の種類（直流、交流・周波数）電力、交流の実効値、力率
- 第8週 電気の基礎 2 発電方式と電源構成、家庭までの送電経路
- 第9週 電力量計から家庭内配線、契約電流と電流制限器、漏電遮断器、安全ブレーカ
- 第10週 電気の熱、光、動力への変換の概要、電動機の動作原理
- 第11週 電熱機器の発熱の原理、電磁調理器（IH調理器、電子レンジ）
- 第12週 照明機器（白熱電球、蛍光灯、LED照明）
- 第13週 冷蔵庫、エアコンなどの原理と廉売のはたらき、環境問題
- 第14週 コンピュータとソフトウェア、通信機器の変遷と社会
- 第15週 これからの社会と省エネルギー

なお授業においては、随時小テストを実施します。

### 【事前・事後学修】

事前・事後学修は、講義における理解を確実なものにするために必要なものである。以下のように取り組むこと。

【事前学修】シラバスを参考に、次回講義予定の学修項目を予め調べておくこと。（学修時間 2時間）

【事後学修】受講した講義内容の復習と理解度のチェックをする。理解ができていない部分がある場合には、小テストの際に質問として提出すること。（学修時間 2時間）

### 【テキスト・教材】

市販テキストは、特に使用しません。

必要に応じてプリントを配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験 70%

授業において実施する小テスト 15%

平常点（授業への取り組み姿勢、質問など） 15%

授業内で実施する小テストについての解答解説をおこなう。

### 【参考書】

池本洋一・吉田章『家庭機械・電気・電子』（理工学社）

岡部巍編著『新家庭機械・電気』（医歯薬出版）

中島利誠編著『生活と技術』（コロナ社）

### 【注意事項】

（人間社会学部各学科 対象）

## 家庭支援論

大澤 朋子

4年 前期 2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

保育所や幼稚園では従来から子ども達の保護者に対して様々な支援が行われてきたが、近年の法改正に伴い、保育所、幼稚園、認定子ども園では子育て家庭に対する支援の充実がますます求められている。本科目では保育に従事する保育者がその役割を担うことができるよう、家庭支援に関する領域を学ぶ。

### 【授業における到達目標】

保育現場および保育者の特性を活かした家庭支援の必要性や目的・役割を理解する。家庭支援の実践にあたっての基礎的な知識を習得し、家庭支援を行なう保育者に求められる基本姿勢や職業倫理を身につけることを目標とする。

学生が修得すべき「行動力」のうち、①現状を正しく把握し、課題を発見する力、および「協働力」のうち、①自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進める力を修得する。

### 【授業の内容】

- (1) 家庭支援とはなにか
- (2) 家庭と家族
- (3) 保育者による家庭支援の基本
- (4) 子育て家庭をとりまく社会環境
- (5) ワークライフバランスと父親の子育て
- (6) 子育て家庭支援施策の展開
- (7) 子育て家庭支援のための社会資源とネットワーク
- (8) 多様な子育て支援サービス
- (9) 保育所等の家庭への支援
- (10) 地域の子育て家庭への支援
- (11) これからの家庭支援
- (12) 特別な配慮が必要な子どもの家庭への支援
- (13) 要保護児童とその家庭に対する支援
- (14) 様々な課題を持つ家庭への支援
- (15) まとめ・発表

### 【事前・事後学修】

事前：各回のトピックに合わせた新聞記事等の情報収集、レポート課題等に取り組む（学修時間週2時間）

事後：講義ノートの整理、復習を行う（学修時間週2時間）

### 【テキスト・教材】

高辻千恵・山縣文治編「新プリマーズ／保育／福祉 家庭支援論」ミネルヴァ書房2016年 2000円（税別）

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極的参加・発表・リアクションペーパー）40%、レポート60%

最終回でレポートのフィードバックを行う。

## 家庭生活と政治経済

日常生活・家庭生活と密接に結びつく政治・経済の世界

猪瀬 武則

3年 前期 2単位

○：研鑽力、行動力

### 【授業のテーマ】

日常生活と政治経済を繋ぐトピックスを学術的知見から腑分けすることを目的とします。できる限り「あなたなら、どの政策や考え方を選択するか」という意思決定場面を入れ、新聞記事やビデオ映像、シミュレーションやアクティビティなどを基に、議論を重ねます。

### 【授業における到達目標】

態度目標 「国際的視野」：国内外の人々が保持する多様な価値観を多面的に把握し、相互の理解と協力を築くことができるようになる。「美の探究」：物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとすることができる。

能力目標 「研鑽力」：広い視野と深い洞察力を身につけ、本質に迫ろうとすることができる。「行動力」：課題を発見して、手順を踏んで問題解決に迫ることができる。「協働力」：自己や他者の役割を理解し、互いに協力して議論を進めることができる。

### 【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス 幸せの質を考える「厚生・効用・公正・公平」
- 第2回 憲法と国政・・・「リベラルが嫌いだからといってリベリズムを嫌いにならないでください」が提起したもの
- 第3回 裁判員制度と基本的人権・・・冤罪事件を起こさないために
- 第4回 地方自治の課題・・・子どもの貧困と限界集落
- 第5回 選挙制度と政党政治・・・18歳選挙権をめぐる
- 第6回 未成年、成年・・・結婚した未成年の犯罪
- 第7回 需要・供給曲線・・・小麦売買ゲームから
- 第8回 物価・・・ビッグマック指数・購買力平価
- 第9回 財政と金融・・・経済の長期的低迷を打破するための政策
- 第10回 社会保障と社会保険・・・ペーシック・インカムか負の所得税か
- 第11回 国際経済・・・グローバリゼーションの論争
- 第12回 雇用と労働問題、若者の雇用環境・・・過労死問題から考える
- 第13回 地域の活性化・・・ふるさと納税・ふるさと創生
- 第14回 社会福祉と医療制度・・・情報の非対称性ゲーム
- 第15回 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：事前の講義資料ないし指定資料を読んでおくこと 学修時間 週2時間。

事後学修：学んだことについて図書やネット検索を通して復習する 学修時間 週2時間。

### 【テキスト・教材】

資料等を必要に応じて配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験70%。平常点30%は授業への参加、シャトルカード記述（質問・疑問・感想・意見）から判断する。シャトルカード記述には、毎回、返信・コメントし、試験の解答をmanabaに掲載することでフィードバックする。

### 【参考書】

適宜、紹介する。

### 【注意事項】

資料や映像などを基に、受講者同士の議論を重ねたうえで、当該の学術分野からの成果を確認する。そのため、「参加」が重要である。シャトルカード記述や議論参加・寄与を望む。

## 科学思想史

齋藤 宏文

1年～ 前期・後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

科学思想の歴史は自然の原理や成立ちをめぐる人間固有の探究心から始まった。以降、科学の学説は各時代の科学思想との密接な相互作用のもとで生み出され展開していった。科学が社会の主要な構成要素となった現代では、科学思想は我々が自然現象をどう解釈するのかわけだけでなく、科学技術から派生する諸問題に対しどう接するべきかの姿勢にも関わっている。この講義では、科学の諸学説の発展に果たした科学思想のダイナミズムを歴史的に論じる。

### 【授業における到達目標】

科学思想を通して、先人の豊かな自然観と世界観に触れることで感受性を深めると共に、人文社会科学と自然科学を横断する分野である科学思想史の多角的なアプローチを学ぶことにより、広い視野と深い洞察力を身につける。

### 【授業の内容】

- 第1週：ガイダンス：科学思想史とはどんな学問か。学習法等。
- 第2週：古代ギリシア・ヘレニズムにおける科学思想。
- 第3週：中世イスラーム世界における科学思想。
- 第4週：中世ヨーロッパおよびルネッサンス期の科学思想。
- 第5週：16、17世紀、科学革命の時代の科学思想。
- 第6週：18、19世紀における科学思想。
- 第7週：現代科学技術の限界。
- 第8週：DNA二重らせん構造の発見物語から見る現代の科学者像。
- 第9週：生命観の歴史：「生命とは何か」という問いの下、古代から現代までの生命科学の発達史と生命観の変容を辿る。
- 第10週：遠隔作用の歴史：磁力や重力のような遠隔力の作用原理をめぐっては時代毎にユニークな解釈がなされてきた。多様な科学思想が交叉する遠隔力の歴史を辿る。
- 第11週：優生学の歴史：定量研究は近代科学の確立の条件となったが、定量化への過剰な信頼が陥る罠について考える。
- 第12週：科学と政治、イデオロギー：科学は政治から独立した純粋な知的活動として存在し得るのか。ソ連の遺伝学を事例に考える。
- 第13週：戦争と科学：核物理学者の戦争協力を通じ、科学者の社会的責任と個人的苦悩について考える。
- 第14週：科学と人類の未来：人類の壮大な未来像を示したロシアコスミズムの思想を学ぶ。
- 第15週：総括。

### 【事前・事後学修】

【事前学修】 参考書による予習等（学修時間 週2時間）

【事後学修】 授業終了時にその週のテーマに関する図書を幾つか案内するので、それらを参考に発展的な学習に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

毎回の授業でプリントを配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験60%、平常点（コメントペーパーにより理解度と主体的な授業態度を確認）40%

manabaによりフィードバックを行う。

### 【参考書】

伊東俊太郎、広重徹、村上陽一郎『思想史の中の科学』（平凡社、2002年）

### 【注意事項】

世界史や理数系科目の予備知識をもたない学生の受講も歓迎する。



## 介護支援基礎論

柏崎 秀子

2年 後期 2単位

### 【授業のテーマ】

中学校の教員免許取得に必須の介護等体験を次年度に行うための事前学習を行う。介護等体験は、特別支援学校と社会福祉施設で行い、個人の尊厳と社会連帯の理念を学び、多様な人々といかにコミュニケーションするかに気づく。それらは教職にも通じる。

介護等体験を実りあるものにするため、準備として、体験先に関する理解を深め、学外での活動を円滑に行うための社会的態度も修得する。

### 【授業における到達目標】

学修を通じて、多様な価値観を持つ人々との相互理解と協力を築く態度、課題解決のための行動力・協働力を修得する。また、学外での活動を円滑に行うための社会的態度も修得する。

### 【授業の内容】

- 第1週 介護等体験の基本理念と手続き
- 第2週 特別支援教育 1－制度と理念の理解
- 第3週 特別支援教育 2－特別支援学校の理解
- 第4週 特別支援教育 3－視覚障害と聴覚障害の理解
- 第5週 特別支援教育 4－肢体不自由児と知的障害の理解
- 第6週 特別支援教育 5－発達障害の理解
- 第7週 特別支援教育 6－現場からの話（外部講師）とまとめ
- 第8週 社会福祉施設 1－種類と目的
- 第9週 社会福祉施設 2－高齢者施設の理解
- 第10週 社会福祉施設 3－高齢者の特徴と介護の基本
- 第11週 社会福祉施設 4－高齢者疑似体験から学ぶ
- 第12週 社会福祉施設 5－障害者施設の理解
- 第13週 社会福祉施設 6－児童養護施設の理解
- 第14週 先輩の体験報告から学ぶ
- 第15週 まとめ－コミュニケーションの多様性

### 【事前・事後学修】

【事前学修】教科書等の指示された箇所を予め読んで、ワークシートに解答を記入しておくこと。（学修時間：2時間）

【事後学修】「まとめ問題」に取り組んで内容を復習する。（学修時間：2時間）

### 【テキスト・教材】

『介護等体験ガイドブック フィリア』全国特別支援学校長会編（ジアース教育新社 2014年）1200円＋税

『よくわかる社会福祉施設』全国社会福祉協議会編（全国社会福祉協議会）600円＋税 および プリント資料（一般書店では入手しにくいので、学内の教科書販売で確実に入手するように。）

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験50%、課題40%（授業中のまとめ課題も含む）、平常点（授業への積極参加・学習態度）10%。まとめ課題は翌週の授業で返却する。試験解答は後日manabaにて示す。

### 【参考書】

授業中に適宜紹介する。

### 【注意事項】

次年度に介護等体験を行うにはこの単位の取得が条件となる。

学外に向く活動の準備学習のため、体験先で失礼のないよう、十分に受け入れられる社会的な態度も修得すること。社会人として通用するレベルを求め、厳しく対応する。毎回の授業態度が大切である。もし、社会的態度に著しい問題がある場合は、資質不足として単位は取得できない。

そのため、原則、授業は全て出席すること。もし体調不良等でやむを得ず欠席する場合は、必ず教職課程研究室宛に事前に連絡を入れる。さらに後日、欠席回の学習を自習し、課題を提出すること。

## 介護等体験

柏崎 秀子

3年 集通 1単位

### 【授業のテーマ】

特別支援学校および社会福祉施設において7日間にわたる介護等体験を実施し、中学校教員を目指す者として、個人の尊厳と社会連帯の理念、および、多様な人々とのコミュニケーションのあり方について、体験を通して、その基本事項を習得できるようになる。

### 【授業における到達目標】

多様な価値観を持つ人々との交流を通じて、人権への意識を高め、さらに、相互理解と協力を築く態度、自己成長する研鑽力、課題解決のための行動力、相互を活かして自らの役割を果たす協働力を修得する。

### 【授業の内容】

- 1 体験直前の体験目的・留意点の確認学習
- 2 特別支援学校での体験1：障害児の学校生活の理解
- 3 特別支援学校での体験2：障害児とのコミュニケーション
- 4 社会福祉施設での体験1：利用者の生活・活動の理解
- 5 社会福祉施設での体験2：利用者の生活・活動の補助
- 6 社会福祉施設での体験3：利用者の生活・活動について考える
- 7 社会福祉施設での体験4：利用者とのコミュニケーション
- 8 社会福祉施設での体験5 及び 振り返り

### 【事前・事後学修】

【事前学修】介護支援基礎論で学修した内容について、使用教科書や配布資料をもとに復習し、体験先への認識を深める。

また、体験先からの事前連絡に基づき具体的に体験活動への心構えを持ち、必要な持ち物や注意事項などを確認しておく。（学修時間：2時間）

【事後学修】毎回、日誌を書き、活動を振り返る。各体験終了後に振り返りに記入し、全体が終了後には体験全体の振り返りに記入する。（学修時間：2時間）

### 【テキスト・教材】

介護等体験日誌

介護支援基礎論で配布した資料

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

体験日誌、自己評価票、体験全体の振り返りレポート、体験証明書に基づいて合否判定を行う。

体験全体の振り返りレポート（日誌）は後日、返却する。

### 【参考書】

『介護等体験ガイドブック フィリア』全国特別支援学校長会編（ジアース教育新社）

『よくわかる社会福祉施設』全国社会福祉協議会編（全国社会福祉協議会）

### 【注意事項】

- ・体験日誌に体験での気づきを詳しく記述すること。
- ・体験先への諸連絡や期日の厳守を確実にし、社会人としての良識ある行動をとること。
- ・体験事前学習への出席と、体験証明書・体験日誌・自己評価票・体験全体の振り返り、のすべての提出が揃うことで、初めて、評価の対象になるため、いずれも欠けてはならない。

## 会計学総論

蒋 飛鴻

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

企業は自らの経済活動を簿記によって記録し、その結果を財務諸表（貸借対照表、損益計算書など）にまとめて企業外部の利害関係者に報告する。今日の会計は、法的規制を受けながら、社会的制度として実務化されている。また、企業のグローバルな展開に対応して、国際会計基準も整備されてきた。この授業では、簿記からはじまり、財務会計、原価計算、管理会計、経営分析、会計監査、そして税務会計までの基礎知識について学んでいく。

### 【授業における到達目標】

この授業を通じて、会計学の基礎知識、会計の理論を含めて修得することを目的とする。

ディプロマポリシー：学修を通して自己成長する力（研鑽力）

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 決算書からみえる世界
- 第3週 会計と決算
- 第4週 決算書のルール
- 第5週 原価計算の基礎
- 第6週 製造会社の決算書
- 第7週 監査の役割と監査の進め方
- 第8週 監査報告書の読み方
- 第9週 利益計画と決算書
- 第10週 意志決定、業績評価と決算書
- 第11週 財務諸表と利害関係者
- 第12週 財務諸表の読み方
- 第13週 決算書と税金
- 第14週 質疑
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：小テスト・レポート等の課題に取り組むこと。（学修時間週2時間）

事後学修：小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。（学修時間週2時間）

### 【テキスト・教材】

授業の1回目に指定する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験70%、授業への取り組み（課題、授業中の発言・積極的な参加）30%で評価する。

課題については、次の授業の際にコメントやフィードバックする。試験結果については最終回でフィードバックする予定。

### 【参考書】

伊藤邦雄『新・現代会計入門』（日本経済新聞出版社、2014年）

### 【注意事項】

簿記の基礎知識を習得していることが望ましい。簿記の知識のない者は、同時並行で簿記を学習することを勧める。会計学の分野に関心を抱いた学生、3年次の演習で「会計学」を選択予定の学生は、本講義の受講を勧める。

## 会計簿記

安田 英喜

1年 前期 1単位

◎：研鑽力 ○：美の探求、行動力

### 【授業のテーマ】

今日の社会においては、企業の提供する物品およびサービスによってわれわれの日々の生活が成り立っています。

この講義ではその企業の活動の内容を判断するために、企業の経営活動について記録および計算をどのように行うか、そのメカニズムを理解し、最終的な報告書の作成までの基本的な流れについて学習します。

### 【授業における到達目標】

国際基準に基づく報告書を作成し、報告書に表れる企業活動への理解を深め、企業のありかたについての倫理観を持って行動する態度を養う。

企業活動に対する的確かつ広い視野を持つことにより、問題解決能力、リーダーシップの発揮につながる能力を身につける。

日本商工会議所主催の初級簿記レベルを習得する。

### 【授業の内容】

- 第1週 簿記の目的および損益計算書
- 第2週 貸借対照表
- 第3週 損益計算書と貸借対照表の関係
- 第4週 取引と勘定
- 第5週 仕訳と勘定口座への転記
- 第6週 仕訳帳と総勘定元帳
- 第7週 試算表の作成
- 第8週 訂正仕訳と決算手続の意義
- 第9週 帳簿の締切と精算表
- 第10週 商品売買の記帳方法
- 第11週 現金勘定および現金過不足勘定の記帳方法
- 第12週 当座預金勘定の記帳方法
- 第13週 小口現金制度
- 第14週 債権債務諸勘定の記帳方法
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

小テスト等の課題に取り組む事前学習（学修時間 週1時間）

課題の復讐に取り組む事後学習（学修時間 週1時間）

課題については、毎回の授業にて指示いたします。

### 【テキスト・教材】

授業の開始時に指示します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験60%、平常点（授業態度、課題の理解度）40%で総合的に判断します。

なお、欠席が3回以上になる場合については、定期試験の受験は認めません。試験に対するフィードバックとして、実務における事例、初級簿記検定の内容を確認する。

### 【注意事項】

計算機を使用する場合がありますが、授業中に指示します。

## 会社法

齋藤 雅代

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

## 【授業のテーマ】

企業社会において中心的な役割を果たす株式会社に関する法制度を中心に、会社はどのようなルールの下に活動しているのかということを知ることにより、企業社会で必要とされる知識と能力を身につけることをこの授業の目的とする。

## 【授業における到達目標】

この授業の到達目標は、会社に関する法的な知識を身につけ、会社がどのような法の下に活動し運営されているのかということを知った上で、企業社会で起こっているさまざまな問題について自ら考え、会社にかかわる紛争を解決することができるように広い視野と深い洞察力を身につけることです。

## 【授業の内容】

- 第1週 企業法とは
- 第2週 会社とは何か
- 第3週 株式会社（1）会社の設立
- 第4週 株式会社（2）株式①意義
- 第5週 株式会社（3）株式②株主の権利
- 第6週 株式会社（4）株式③株式の流通
- 第7週 株式会社（5）会社の機関①総説
- 第8週 株式会社（6）会社の機関②株主総会
- 第9週 株式会社（7）会社の機関③取締役・取締役会
- 第10週 株式会社（8）会社の機関④代表取締役
- 第11週 株式会社（9）会社の機関⑤監査機関・その他の機関
- 第12週 株式会社（10）役員①会社との関係
- 第13週 株式会社（11）役員②第三者・株主との関係
- 第14週 株式会社（12）資金調達
- 第15週 総括

## 【事前・事後学修】

【事前】 次回の授業範囲を予習し、専門用語を調べておいてください。（学修時間2時間）

【事後】 授業時に配布する確認問題に取り組み復習してください。（学修時間2時間）

## 【テキスト・教材】

テキストは指定せず、授業時にレジュメを配布します。  
六法（判例の有無・出版社等は問わない）は必ず持参してください。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験80%、平常点（確認テスト）20%で評価します。

定期試験後にmanabaにおいて模範解答を示します。

## 会社法

神山 静香

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

## 【授業のテーマ】

近年、日本企業が競争力を強化するためM&A（合併・買収）を戦略的に活用しており、外国企業とのM&Aも急増しています。グローバル化が急速に進む現代のビジネス環境で、企業が熾烈な競争に打ち勝ち利益を生み出すためには、技術力や専門性とともにビジネス（商取引）や会社の組織・経営に関わる法律やルールを知り、これらの知識を使いこなしてビジネスを発展させる力が求められます。

出資者・株主や従業員、経営者、取引先といった会社関係者の利害を調整して会社が円滑にビジネスを行うためには、会社を組織的側面から規律する法ルールが必要であり、この役割を担うのが会社法です。本講義では、株式会社に関する規律を中心に、会社法の考え方や基本原理、具体的な法ルールについて学び、現代のビジネス社会において身につけておくべき会社法の基本的な知識と法的な思考力を修得することを目的とします。

## 【授業における到達目標】

1. 会社法の基礎的な知識を修得すること、2. 会社法の条文を解釈して具体的事案に適用し結論を導くことができるようになること、3. 会社の組織や経営に関わる問題に対して、法的な考え方や法律に基づいた判断ができるようになることを目標とします。

ディプロマ・ポリシーとの関連については、国際感覚を身につけて、世界に踏み出し社会を動かそうとする態度を核として、学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く力及び「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を発見する力を修得します。

## 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション：企業とは何か、企業と法律のかかわり
- 第2週 会社法総論：会社法の役割と基本原理
- 第3週 会社制度の特徴：法人制度、組織形態の選択と会社の設立
- 第4週 株式会社：株式と株主
- 第5週 株式会社の機関（1）株主総会
- 第6週 株式会社の機関（2）取締役・取締役会・代表取締役
- 第7週 株式会社の機関（3）監査役・監査役会・会計監査人
- 第8週 株式会社の機関（4）機関設計とコーポレート・ガバナンス
- 第9週 役員等の義務と責任（1）会社に対する責任
- 第10週 役員等の義務と責任（2）第三者に対する責任
- 第11週 株式会社の資金調達（1）総論、募集株式の発行等
- 第12週 株式会社の資金調達（2）新株予約権、社債
- 第13週 M&Aと組織再編等（1）手法と意義
- 第14週 M&Aと組織再編等（2）株主・会社債権者保護
- 第15週 総括

## 【事前・事後学修】

【事前】 テキストや資料の該当箇所を一読しておくこと。授業時にキーワードを提示するので、新聞やインターネット等で情報を収集し、自分の考えをまとめておくこと（学修時間週2時間）。

【事後】 六法で条文を確認し、テキストやレジュメを復習すること（学修時間週2時間）。

## 【テキスト・教材】

テキスト・教材については授業開始後に指示します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト、課題の提出、授業への積極的な参加等の平常点（40%）と期末試験（60%）に基づいて評価します。小テストは次回授業でフィードバックを行います。

## 【参考書】

授業開始後に適宜指示します。

**解剖生理学 a**

人体の構造

櫻木 晃彦

1年 前期 2単位

○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

人体の仕組み（形態と構造）を理解し、人体を構成する器官や器官系が生命・健康の維持とどのように関わっているかを理解する。

**【授業における到達目標】**

人体の構造と形態を学ぶことによって学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探求し、学問を続けることができる「研鑽力」を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 生物としてのヒト
- 第2週 細胞学・組織学の基礎
- 第3週 方向用語・運動用語
- 第4週 器官系
- 第5週 頭頸部
- 第6週 脳
- 第7週 体幹
- 第8週 上肢・下肢
- 第9週 胸腔・腹腔
- 第10週 循環器系
- 第11週 呼吸器系
- 第12週 消化器系
- 第13週 泌尿生殖器系・内分泌系
- 第14週 体表解剖学
- 第15週 総復習

**【事前・事後学修】**

事前学修（2時間）

毎回の授業前に、テキストで該当箇所を予習しておくこと。

事後学修（2時間）

毎回の授業後に、テキストで該当箇所を復習しておくこと。

**【テキスト・教材】**

櫻木晃彦『生体で学ぶ解剖学』（てらぺいあ 2005年）¥3,200 + 税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験（80%）、授業態度（20%）。授業中に実施するアクティブラーニングによって理解の度合いをフィードバックする。

**【参考書】**

櫻木晃彦『図解 からだのしくみがわかる本 驚異の人体システムを探る』（新星出版社 2002年）¥1,400 + 税

櫻木晃彦・武田美幸『CGクリエイターのための人体解剖学』（ブーンデジタル 2002年）¥3,800 + 税

山内昭雄監訳『一目でわかる解剖学』（メディカル・サイエンス・インターナショナル 2003年）¥3,800 + 税

**【注意事項】**

教科書や参考図書を活用して人体の仕組みを十分に理解すること。

**解剖生理学 a**

人体の構造

櫻木 晃彦

1年 前期 2単位

○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

人体の仕組み（形態と構造）を理解し、人体を構成する器官や器官系が生命・健康の維持とどのように関わっているかを理解する。

**【授業における到達目標】**

人体の構造と形態を学ぶことによって学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探求し、学問を続けることができる「研鑽力」を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 生物としてのヒト
- 第2週 細胞学・組織学の基礎
- 第3週 方向用語・運動用語
- 第4週 器官系
- 第5週 頭頸部
- 第6週 脳
- 第7週 体幹
- 第8週 上肢・下肢
- 第9週 胸腔・腹腔
- 第10週 循環器系
- 第11週 呼吸器系
- 第12週 消化器系
- 第13週 泌尿生殖器系・内分泌系
- 第14週 体表解剖学
- 第15週 総復習

**【事前・事後学修】**

事前学修（2時間）

毎回の授業前に、テキストで該当箇所を予習しておくこと。

事後学修（2時間）

毎回の授業後に、テキストで該当箇所を復習しておくこと。

**【テキスト・教材】**

櫻木晃彦『生体で学ぶ解剖学』（てらぺいあ 2005年）¥3,200 + 税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験（80%）、授業態度（20%）。授業中に実施するアクティブラーニングによって理解の度合いをフィードバックする。

**【参考書】**

櫻木晃彦『図解 からだのしくみがわかる本 驚異の人体システムを探る』（新星出版社 2002年）¥1,400 + 税

櫻木晃彦・武田美幸『CGクリエイターのための人体解剖学』（ブーンデジタル 2002年）¥3,800 + 税

山内昭雄監訳『一目でわかる解剖学』（メディカル・サイエンス・インターナショナル 2003年）¥3,800 + 税

**【注意事項】**

教科書や参考図書を活用して人体の仕組みを十分に理解すること。

**解剖生理学 b**

山田 茂

1年 後期 2単位

○：行動力

**【授業のテーマ】**

生体の機能とその仕組みについて学習する。

**【授業における到達目標】**

生体の構造と機能について修得する。細分化した科学的知見を集約し、基礎的知識を具体的に活用できる能力を培う。更に統合された知識を日常生活の問題解決に役立てることのできる行動力を養う。

**【授業の内容】**

- 第1週 筋系（収縮の仕組み、心筋、平滑筋、骨格筋）
- 第2週 神経系（体性神経、自律神経、中枢神経）
- 第3週 感覚（刺激と感覚、視覚と眼球、聴覚）
- 第4週 代謝（糖代謝、脂質代謝、タンパク質代謝）
- 第5週 血液（血液成分、各種血球、貧血、止血）
- 第6週 循環（循環器系の構造と働き、血圧調節、刺激伝導系）
- 第7週 呼吸（呼吸と肺、呼吸運動）
- 第8週 体温（体温調節、熱産生と放散）
- 第9週 内分泌（内分泌とホルモン、性ホルモン、消化ホルモン）
- 第10週 消化（消化と吸収、消化管、肝臓の働き、腸の働き）
- 第11週 排泄（腎の機能、腎の内分泌機能、排泄と腎機能）
- 第12週 免疫（自己と非自己、細胞性免疫、体液性免疫）
- 第13週 まとめⅠ
- 第14週 まとめⅡ
- 第15週 まとめⅢ

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

テキストを必ず予習すること。（学修時間 週2時間）

**【事後学修】**

配布資料をよく読むこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

志村 二三夫・岡 順・山田 和彦編『解剖生理学』（羊土社  
2014年）定価 2,900円＋税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】****【評価方法・基準】**

学期末テスト 80%

本学で行われる授業に関連する学会や講演会に参加し、レポートを提出する 20%

**【フィードバック】**

レポートは翌週の授業内で解説を行います。

**解剖生理学 b**

於保 祐子

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

人体の器官について、それを構成する組織がヒトの生理機能にどのような関わっているかを学修する。更に、それらの器官が相互に影響しあって人体の恒常性を維持しているしくみについて理解する。

**【授業における到達目標】**

- ・人体を細胞、組織、臓器・器官、器官系および個体のレベルで理解し、説明できる
- ・人における恒常性の維持機構を神経性調節、内分泌性調節、免疫防御機構から説明できる

**【授業の内容】**

- 第1週 消化器の働き（消化と吸収）
- 第2週 肝臓の働きと代謝
- 第3週 肺での呼吸とガス交換
- 第4週 心臓と血液循環
- 第5週 腎・尿路系と体液の調節
- 第6週 皮膚・感覚器
- 第7週 脳・神経系と神経情報伝達
- 第8週 筋肉のしくみ・骨の働き
- 第9週 内分泌器官の働き
- 第10週 生殖器系の成り立ちと働き
- 第11週 造血器と赤血球
- 第12週 血管と血液凝固
- 第13週 免疫系（自然免疫、獲得免疫、アレルギー）
- 第14週 恒常性の維持
- 第15週 ストレスと生体応答

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 毎回授業前に教科書で該当箇所を熟読し予習しておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 授業の際に配布したプリントの該当箇所の問題を解きながら復習すること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

『生体のしくみ標準テキスト 新しい解剖生理』（医学映像教育センター）2013年、2,800円（税別）

他にプリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験 70%、平常点（プリント提出・受講態度）30%

毎回プリントを提出の事。次回返還時に授業内容を確認し、フィードバックを行う。



**解剖生理学実験**

ヒトの身体としくみ

阿尻 貞三

2年 後期 1単位 3時限連続 隔週

○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

人体の構造を生理機能と関連させて学びます。対象を「よく観察する」ことに主眼をおきます。

栄養士として必要な消化・栄養吸収に関するヒトの細胞・組織構造と機能について理解し、消化吸収についての構造・機能を「他の人に説明できる」ことを目標とします。

**【授業における到達目標】**

ヒトの消化・吸収に必要な多様な臓器の構造と機能を多方面から多角的に理解し、食育が必要な多様な方々に説明できるように努めてください。我々の身体は変わらなくても、身体の機能の知識は日々新しくなっています。柔軟な理解力を常に持ち続けてください。

ヒト身体の機能の探求をつねにおこなうように努めてください。実験および提出された課題を解決するために主体的に実行するとともに、グループで協調しておこなうすべを身につけてください。またヒト消化・吸収のためには他の臓器も深く関連しあっていることを多角的に理解するようにしてください。

**【授業の内容】**

人体を構成している細胞とはどのようなものか、組織とはどのように成り立っているかを光学顕微鏡を使って観察し、各臓器、組織・細胞の相互関係をミクロレベルから理解します。特に消化器系に重点をおいて観察しましょう。また、食物とヒトの臓器および各臓器間の構造的・機能的相互関係を理解しましょう。

- 第1回 光学顕微鏡の操作法と観察法、細胞の観察と細胞の理解。観察結果の表示法、実験ノートについて  
組織の観察【皮膚】
- 第2回 組織の観察【筋組織、支持組織、神経組織】
- 第3回 如何に生物のからだができるのか、ニワトリ胚を使用した観察と顕微鏡標本作製 消化器系の細胞と組織観察  
その1【舌、歯牙、歯芽発生】
- 第4回 消化器系の細胞と組織観察  
その2【胃、空腸、結腸】
- 第5回 消化器系の細胞と組織観察  
その3【肝臓、膵臓、唾液腺】
- 第6回 泌尿生殖器系の細胞と組織観察  
【腎臓、卵巣、精巣】
- 第7回 人体標本資料の観察（学外見学）  
【系統解剖標本、病理解剖標本など】
- 第8回 全体のまとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】実験実施学期前に課題を課しますので、期限内に提出して下さい。

第1回実験時に配布するプリントでの【前レポート】として課された課題を毎実験前に期限内に提出してください。（学修時間 最低週2時間）

【事後学修】実験後には【後レポート】として課された課題を期限内に提出してください。（学修時間 最低週2時間）

**【テキスト・教材】**

実験開始前のオリエンテーション時に全回のプリントを配布します。また実施学期まえに提示された課題を期限内に提出してください。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

実験態度および実験結果のスケッチ、作成標本、前レポート・後

レポートの内容、書き方、最終提出物のまとめ方・整理方法、受講態度などを総合評価します。レポート6割、受講態度4割で判定します。

レポート、スケッチなどはすべて返却し、フィードバックします。自己学習・復習に使って自己研鑽に努めてください。

**【参考書】**

実験開始前にプリントで配布します。

**【注意事項】**

実験のオリエンテーションを第1回実験におこないます。

日程は掲示でお知らせします。

色鉛筆・消しゴム・鉛筆削りを用意して下さい。

実験用白衣を着用してください。

レポートは原則として「自筆・ペン書き」とします。なお、一部のレポートではパソコンおよびネットワークによるファイル提出が求められます。パソコン操作、ネットワーク操作等について習熟しておいてください。

**解剖生理学実験**

ヒトの身体としくみ

阿尻 貞三

2年 前期 1単位 3時限連続 隔週

○：行動力、協働力

実験開始前にプリントで配布します。

**【注意事項】**

実験のオリエンテーションを第1回実験時におこないます。

日程は掲示でお知らせします。

色鉛筆・消しゴム・鉛筆削りを用意して下さい。

実験用白衣を着用して下さい。

レポートは原則として「自筆・ペン書き」とします。なお、一部のレポートではパソコンおよびネットワークによるファイル提出が求められます。パソコン操作、ネットワーク操作等について習熟しておいてください。

**【授業のテーマ】**

人体の構造を生理機能と関連させて学びます。対象を「よく観察する」ことに主眼をおきます。

**【授業における到達目標】**

ヒトの消化・吸収に必要な多様な臓器の構造と機能を多方面から多角的に理解し、食育が必要な多様な方々に説明できるように努めてください。我々の身体は変わらなくても、身体の機能の知識は日々新しくなっています。柔軟な理解力を常に持ち続けてください。ヒト身体の機能の探求をつねにおこなうように努めてください。実験および提出された課題を解決するために主体的に実行するとともに、グループで協調しておこなうすべを身につけてください。またヒト消化・吸収のためには他の臓器も深く関連しあっていることを多角的に理解するようにしてください。

**【授業の内容】**

人体を構成している細胞とはどのようなものか、組織とはどのように成り立っているかを光学顕微鏡を使って観察し、各臓器、組織・細胞の相互関係をミクロレベルから理解します。

特に消化器系に重点をおいて観察しましょう。

また、食物とヒトの臓器および各臓器間の構造的・機能的相互関係を理解しましょう。

第1回 光学顕微鏡の操作法と観察法、細胞の観察と細胞の理解。観察結果の表示法、実験ノートについて

組織の観察【皮膚】

第2回 組織の観察【筋組織、支持組織、神経組織】

第3回 如何に生物のからだができるのか、ニワトリ胚を使用し  
ての観察と顕微鏡標本作製 消化器系の細胞と組織観察

その1【舌、歯牙、歯芽発生】

第4回 消化器系の細胞と組織観察

その2【胃、空腸、結腸】

第5回 消化器系の細胞と組織観察

その3【肝臓、膵臓、唾液腺】

第6回 泌尿生殖器系の細胞と組織観察

【腎臓、卵巣、精巣】

第7回 人体標本資料の観察 (学外見学)

【系統解剖標本、病理解剖標本など】

第8回 全体のまとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】実験実施学期前に課題を課しますので、期限内に提出して下さい。

第1回実験時に配布するプリントでの【前レポート】として課された課題を毎実験前に期限内に提出してください。(学修時間 最低週2時間)

【事後学修】実験後には【後レポート】として課された課題を期限内に提出してください。(学修時間 最低週2時間)

**【テキスト・教材】**

実験開始前のオリエンテーション時に全回のプリントを配布します。また実施学期まえに提示された課題を期限内に提出してください。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

実験態度および実験結果のスケッチ、作成標本、前レポート・後レポートの内容、書き方、最終提出物のまとめ方・整理方法、受講態度などをすべてを総合評価します。レポート6割、受講態度4割で判定します。

レポート、スケッチなどはすべて返却しますので、自己学習・復習に使って自己研鑽に努めてください。

**【参考書】**

## 海外研修

海外旅行とリスクマネジメント

武内 一良

1・2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

### 【授業のテーマ】

この講義は、語学研修や個人旅行で海外渡航する学生に対して、海外で楽しい時を過ごし無事帰国できるように支援するためのものです。特に日本に生まれ育った学生は、世界の国々が日本と同じように安全で、世界の人々が日本人と同じような価値観を共有していると勘違いしてしまうため、無防備な状態に陥ってしまう可能性があります。

そこで、海外で発生する事件や犯罪に巻き込まれないようにするため、実際に日本人が海外で様々な事件や犯罪に遭遇した事例を紹介し、そのような危険な目に遭わないように事前に回避する方法を学んでいきます。

### 【授業における到達目標】

この科目は、以下の3点を中心に進めていきます。

- 1 リスクマネジメントについて理解する。
- 2 知識が危険回避に有効な手段であることを理解する。
- 3 日本とは異なる外国の実情について理解する。

ディプロマポリシーとの関係では、外国人の様々な考え方を学ぶ。国際的視野を土台に、海外の事情や自分が置かれている実情を正しく理解し、どう対応すればいいか考える研鑽力と行動力を磨く科目です。

### 【授業の内容】

- 第1週 導入1：授業の目的、評価方法、海外留学・研修の概略
- 第2週 導入2：海外渡航要因とリスクマネジメント
- 第3週 導入3：異文化摩擦と異文化理解
- 第4週 危険回避1：日常生活圏と日本文化の紹介の準備
- 第5週 危険回避2：海外渡航と訪問国に関する情報収集
- 第6週 危険回避3：自宅から空港までの移動
- 第7週 危険回避4：日本の国際空港での出国手続き
- 第8週 危険回避5：機内での心構え
- 第9週 危険回避6：現地国際空港での入国手続き
- 第10週 危険回避7：現地国際空港からホテルまでの移動
- 第11週 危険回避8：列車・船舶・航空機での移動
- 第12週 危険回避9：寮生活とホームステイ
- 第13週 危険回避10：国際語と現地語によるサバイバル対策
- 第14週 これまでの授業内容の確認および小論文の提出
- 第15週 緊急事態に対応するための準備、授業のフィードバック

上記順番は変わることがあります。

### 【事前・事後学修】

授業の前後にそれぞれ2時間程度の時間を割り、海外で発生している事故や事件について新聞やインターネット等を通じて学修するようにしてください。

### 【テキスト・教材】

毎回教材となる印刷物を配付します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

リスクマネジメントと外国文化に関する小論文（100%）を基に評価します。授業の最終日に授業のフィードバックを行います。

### 【参考書】

外務省の海外安全ホームページを常時見るように心がけてください（<http://www.anzen.mofa.go.jp/>）。

### 【注意事項】

第1回目の授業で、授業スケジュール、成績評価、小論文について説明するので必ず出席してください。なお、海外研修プログラムに参加する学生は、この科目の履修を推薦します。

## 海外語学研修a

— アメリカ ワシントン大学 —

1年～ 夏期集中 2単位

◎：国際的視野、○：行動力

生ともに参加することができます。定員を超えた場合は抽選となります。

※受講定員20名（最少催行人数15名）

※受講定員は短大生を含みます。

### 【授業のテーマ】

この研修は、「生活・文化・習慣の異なる国の人とのコミュニケーション」「コミュニケーションの手段としての言語」に焦点を当てた実用英会話を中心に学びます。授業は各国からの学生と共に受けるSTEPクラスが中心となります。STEPクラスの一環として様々なフィールドトリップ等も組み立てられ、授業の他に行われる英会話練習とともに、ワシントン大学の学生と交流するよい機会となっています。滞在はホームステイのため、英語を習得するには最良の環境です。

※STEP=Short Term English Programs

### 【授業における到達目標】

この研修は、英語運用能力のうち主に「話す」「聞く」能力をCEFR水準のA2 あるいはB1レベルまで高める一助であるとともに、卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「問題解決のために主体的に行動する力」を養います。

### 【授業の内容】

I. 研修期間及び時間数：夏期60時間以上

II. 滞在场所：ホームステイ

III. 研修内容

<月～金曜>

午前：STEPクラス

午後：STEPフィールドトリップ各種アクティビティ

（週2日）または自由研修

<土・日曜>

終日フリータイム

※フィールドトリップ（土曜）

シアトルプレミアムアウトレット見学、マウントレーニア

国立公園日帰り旅行等

注）日程およびスケジュールは、現地の都合により変更することがあります。

〔研修の特長〕ワシントン大学は歴史と伝統を誇る名門の総合大学です。到着後すぐにホストファミリーと対面し、ホームステイに入ります。昼食は大学のカフェテリアでとります。高密度の授業（STEPクラス）のほかに、様々なフィールドトリップ（市内観光、スポーツアクティビティ、博物館見学など）や、会話練習も予定されています。

### 【事前・事後学修】

<事前学修> 毎回研修先の授業で指定される予習課題について、2時間取り組むこと。<事後学修> 毎回研修先の授業で指定される復習課題について、2時間取り組むこと。

\*なお、言語文化教育研究センター（事務窓口：国際交流課）が主催する語学研修説明会（1回：90分）、渡航前オリエンテーション（2回：合計180分）及び危機管理講習会（1回：90分）に必ず出席すること。大学の健康診断を受診すること。渡航先国及び研修地域の情報収集に努めること。

### 【テキスト・教材】

STEPプログラムオリジナル教材、Cambridge Touchstone、インストラクターによるプリント配付

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

研修地の授業で与えられた課題等に対するフィードバックは、毎回の授業あるいはコースの最後に口頭か書面にて行われます。本コースでは、すべてのプログラムを終了した者に修了証が授与され、2単位が認定されます。

### 【注意事項】

【事前・事後学修】の内容を必ず守ってください。また、説明会・オリエンテーション・危機管理講習会への無断欠席や国際交流課からの呼出し（実践Gmailによる連絡）に応じない場合は、研修の参加が取止めとなる場合があります。なお、この研修は大学生、短大

## 海外語学研修a

—カナダ フレーザーバレー大学—

1年～ 夏期集中 2単位

◎：国際的視野、○：行動力

### 【授業のテーマ】

この研修は、実践生のための特別夏期集中プログラムで、午前は英語クラス、午後は課外クラスで学びます。滞在はホームステイです。午前の英語クラスでは、カナダ人教員が、ホームステイ先で使える表現から、ネイティブスピーカーならではの言い回しなどを楽しく教授します。また、課外クラスでは、カナダの文化や生活習慣などを楽しく学びます。現地学生との交流を通じ、英語でのコミュニケーションを伸ばす機会を設けています。

### 【授業における到達目標】

この研修は、英語運用能力のうち主に「話す」「聞く」能力をCEFR水準のA2あるいはB1レベルまで高める一助であるとともに、卒業するまでに身につける態度・能力のうち国際的視野と問題解決のために主体的に行動する力を養います。また、カナダの歴史・文化への理解を深めることが目的です。

### 【授業の内容】

I. 研修期間及び時間数：夏期60時間以上

II. 滞在场所：ホームステイ

III. 研修内容

<月～金曜>

午前：平日の午前中は実践生のための特別英語プログラム（リーディング、ボキャブラリー、スピーキング、リスニング、ライティング、文法）を受講します。

午後：課外クラス（カナダの生活・文化・歴史・自然・ボランティア活動・ディスカッション等）、自主学習  
土・日曜終日フリータイム

注）日程およびスケジュールは、現地の都合により変更することがあります。

〔研修の特長〕フレーザーバレー大学はバンクーバーから車で1時間ほどのところにある閑静なキャンパスを有する公立大学で、本学の留学協定校でもあります。ホームステイは、原則1～2人で1家庭です。ホスピタリティーあふれるファミリーがみなさんを家族の一員として受け入れてくれます。放課後にはボーリング、ハイキングなどのアクティビティーがあり、オプションルツアーでは、シアトル市内見学等を予定しています。

### 【事前・事後学修】

<事前学修> 毎回研修先の授業で指定される予習課題について、2時間取り組むこと。<事後学修> 毎回研修先の授業で指定される復習課題について、2時間取り組むこと。

\*なお、言語文化教育研究センター（事務窓口：国際交流課）が主催する語学研修説明会（1回：90分）、渡航前オリエンテーション（2回：合計180分）及び危機管理講習会（1回：90分）に必ず出席すること。大学の健康診断を受診すること。渡航先国及び研修地域の情報収集に努めること。

### 【テキスト・教材】

ESL：オリジナル教材（プリント）／Cambridge Touchstone

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

研修地の授業で与えられた課題等に対するフィードバックは、毎回の授業、あるいはコースの最後に口頭か書面にて行われます。本コースでは、すべてのプログラムを終了した者に修了証が授与され、2単位が認定されます。

### 【注意事項】

【事前・事後学修】の内容を必ず守ってください。また、説明会・オリエンテーション・危機管理講習会への無断欠席や国際交流課からの呼出し（実践Gmailによる連絡）に応じない場合は、研修の参加が取止めとなる場合があります。なお、この研修は大学生、短大生ともに参加することができます。定員を超えた場合は抽選となります。※受講定員30名（最少催行人数15名）

※受講定員は短大生を含みます。

## 海外語学研修a

— アメリカ ワシントン大学 —

1・2年 集中 2単位

◎：国際的視野、○：行動力

大生ともに参加することができます。定員を超えた場合は抽選となります。

※受講定員20名（最少催行人数15名）

※受講定員は短大生を含みます。

### 【授業のテーマ】

この研修は、「生活・文化・習慣の異なる国の人とのコミュニケーション」「コミュニケーションの手段としての言語」に焦点を当てた実用英会話を中心に学びます。授業は各国からの学生と共に受けるSTEPクラスが中心となります。STEPクラスの一環として様々なフィールドトリップ等も組み立てられ、授業の他に行われる英会話練習とともに、ワシントン大学の学生と交流するよい機会となっています。滞在はホームステイのため、英語を習得するには最良の環境です。

※STEP=Short Term English Programs

### 【授業における到達目標】

この研修は、英語運用能力のうち主に「話す」「聞く」能力をCEFR水準のA2あるいはB1レベルまで高める一助であるとともに、卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「問題解決のために主体的に行動する力」を養います。

### 【授業の内容】

I. 研修期間及び時間数：夏期60時間以上

II. 滞在場所：ホームステイ

III. 研修内容

<月～金曜>

午前：STEPクラス

午後：STEPフィールドトリップ各種アクティビティー

（週2日）または自由研修

<土・日曜>

終日フリータイム

※フィールドトリップ（土曜）

シアトルプレミアムアウトレット見学、マウントレーニア

国立公園日帰り旅行等

注）日程およびスケジュールは、現地の都合により変更することがあります。

〔研修の特長〕ワシントン大学は歴史と伝統を誇る名門の総合大学です。到着後すぐにホストファミリーと対面し、ホームステイに入ります。昼食は大学のカフェテリアでとります。高密度の授業（STEPクラス）のほか、様々なフィールドトリップ（市内観光、スポーツアクティビティー、博物館見学など）や、会話練習も予定されています。

### 【事前・事後学修】

<事前学修> 毎回研修先の授業で指定される予習課題について、2時間取り組むこと。<事後学修> 毎回研修先の授業で指定される復習課題について、2時間取り組むこと。

\*なお、言語文化教育研究センター（事務窓口：国際交流課）が主催する語学研修説明会（1回：90分）、渡航前オリエンテーション（2回：合計180分）及び危機管理講習会（1回：90分）に必ず出席すること。大学の健康診断を受診すること。渡航先国及び研修地域の情報収集に努めること。

### 【テキスト・教材】

STEPプログラムオリジナル教材、Cambridge Touchstone、インストラクターによるプリント配付

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

研修地の授業で与えられた課題等に対するフィードバックは、毎回の授業あるいはコースの最後に口頭か書面にて行われます。本コースでは、すべてのプログラムを終了した者に修了証が授与され、2単位が認定されます。

### 【注意事項】

【事前・事後学修】の内容を必ず守ってください。また、説明会・オリエンテーション・危機管理講習会への無断欠席や国際交流課からの呼出し（実践Gmailによる連絡）に応じない場合は、研修の参加が取り止めとなる場合があります。なお、この研修は大学生、短

## 海外語学研修a

—カナダ フレーザーバレー大学—

1・2年 集中 2単位

◎：国際的視野、○：行動力

### 【授業のテーマ】

この研修は、実践生のための特別夏期集中プログラムで、午前は英語クラス、午後は課外クラスで学びます。滞在はホームステイです。午前の英語クラスでは、カナダ人教員が、ホームステイ先で使える表現から、ネイティブスピーカーならではの言い回しなどを楽しく教授します。また、課外クラスでは、カナダの文化や生活習慣などを楽しく学びます。現地学生との交流を通じ、英語でのコミュニケーションを伸ばす機会を設けています。

### 【授業における到達目標】

この研修は、英語運用能力のうち主に「話す」「聞く」能力をCEFR水準のA2あるいはB1レベルまで高める一助であるとともに、卒業するまでに身につける態度・能力のうち国際的視野と問題解決のために主体的に行動する力を養います。また、カナダの歴史・文化への理解を深めることが目的です。

### 【授業の内容】

I. 研修期間及び時間数：夏期60時間以上

II. 滞在场所：ホームステイ

III. 研修内容

<月～金曜>

午前：平日の午前中は実践生のための特別英語プログラム（リーディング、ボキャブラリー、スピーキング、リスニング、ライティング、文法）を受講します。

午後：課外クラス（カナダの生活・文化・歴史・自然・ボランティア活動・ディスカッション等）、自主学習  
土・日曜終日フリータイム

注）日程およびスケジュールは、現地の都合により変更することがあります。

〔研修の特長〕フレーザーバレー大学はバンクーバーから車で1時間ほどのところにある閑静なキャンパスを有する公立大学で、本学の留学協定校でもあります。ホームステイは、原則1～2人で1家庭です。ホスピタリティーあふれるファミリーがみなさんを家族の一員として受け入れてくれます。放課後にはボーリング、ハイキングなどのアクティビティーがあり、オプションルツアーでは、シアトル市内見学等を予定しています。

### 【事前・事後学修】

<事前学修> 毎回研修先の授業で指定される予習課題について、2時間取り組むこと。<事後学修> 毎回研修先の授業で指定される復習課題について、2時間取り組むこと。

\*なお、言語文化教育研究センター（事務窓口：国際交流課）が主催する語学研修説明会（1回：90分）、渡航前オリエンテーション（2回：合計180分）及び危機管理講習会（1回：90分）に必ず出席すること。大学の健康診断を受診すること。渡航先国及び研修地域の情報収集に努めること。

### 【テキスト・教材】

ESL：オリジナル教材（プリント）／Cambridge Touchstone

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

研修地の授業で与えられた課題等に対するフィードバックは、毎回の授業、あるいはコースの最後に口頭か書面にて行われます。本コースでは、すべてのプログラムを終了した者に修了証が授与され、2単位が認定されます。

### 【注意事項】

【事前・事後学修】の内容を必ず守ってください。また、説明会・オリエンテーション・危機管理講習会への無断欠席や国際交流課からの呼出し（実践Gmailによる連絡）に応じない場合は、研修の参加が取止めとなる場合があります。なお、この研修は大学生、短大生ともに参加することができます。定員を超えた場合は抽選となります。※受講定員30名（最少催行人数15名）

※受講定員は短大生を含みます。

## 海外語学研修b

— イギリス サセックス大学 —

1年～ 夏期集中 2単位

◎：国際的視野、○：行動力

### 【授業のテーマ】

この研修は、サセックス大学が外国人向けに実施する夏期集中英語プログラムです。研修初日にクラス分けテストを行います。午前中は小グループに分かれて、英語コミュニケーションを中心にリスニング、英文法、英作文、語彙などを含めた英語表現能力を高める授業が行われ、午後は選択科目（英文学、ビジネス英語、発音、ドラマなど）から興味のある授業を自由に選んで受けることができます。様々な国からの学生が集まるクラスの中で英語で積極的に自分の意見を述べ、コミュニケーションを取る方法を学びます。

### 【授業における到達目標】

この研修は、英語運用能力のうち主に「話す」「聞く」能力をCEFR水準のA2あるいはB1レベルまで高める一助であるとともに、卒業するまでに身につける態度・能力のうち国際的視野と問題解決のために主体的に行動する力を養います。また、イギリスの歴史・文化への理解を深めることが目的です。

### 【授業の内容】

I. 研修期間及び時間数：夏期60時間以上

II. 滞在場所：キャンパス内の学生寮

III. 研修内容

月～金曜午前：英語コアプログラム（総合英語）

月・火・木曜午後：選択科目（英国生活・文化講座）

水・金曜午後：ローカルビジット（フリータイム）

土・日曜終日フリータイム

注）日程およびスケジュールは、現地の都合により変更することがあります。

〔研修の特長〕 ロンドンからバスで2時間、ブライトンはイギリスの最も南にある保養地で、これらの一面に広大なサセックス大学のキャンパスがあります。毎週水・金曜日の午後は、ローカルビジットとしての近郊見学、土曜日は大学主催のオプションツアー（別料金）があります。また実践生のために、英語の実践をかねたロンドン・スタディやミュージカル鑑賞、近郊への日帰り旅行などのオプションツアーを予定しています。

### 【事前・事後学修】

＜事前学修＞毎回研修先の授業で指定される予習課題について、2時間取り組むこと。＜事後学修＞毎回研修先の授業で指定される復習課題について、2時間取り組むこと。

\*なお、言語文化教育研究センター（事務窓口：国際交流課）が主催する語学研修説明会（1回：90分）、渡航前オリエンテーション（2回：合計180分）及び危機管理講習会（1回：90分）に必ず出席すること。大学の健康診断を受診すること。渡航先国及び研修地域の情報収集に努めること。

### 【テキスト・教材】

受講生の英語レベルに応じ、テキストが選定されます。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

研修地の授業で与えられた課題等に対するフィードバックは、毎回の授業、あるいはコースの最後に口頭か書面にて行われます。本コースでは、すべてのプログラムを終了した者に修了証が授与され、2単位が認定されます。

### 【注意事項】

【事前・事後学修】の内容を必ず守ってください。また、説明会・オリエンテーション・危機管理講習会への無断欠席や国際交流課からの呼出し（実践Gmailによる連絡）に応じない場合は、研修の参加が取止めとなる場合があります。なお、この研修は大学生、短大生ともに参加することができます。

※受講定員25名（最少催行人数10名）

※受講定員は短大生を含みます。



## 海外語学研修b

— イギリス サセックス大学 —

1・2年 集中 2単位

◎：国際的視野、○：行動力

### 【授業のテーマ】

この研修は、サセックス大学が外国人向けに実施する夏期集中英語プログラムです。研修初日にクラス分けテストを行います。午前中は小グループに分かれて、英語コミュニケーションを中心にリスニング、英文法、英作文、語彙などを含めた英語表現能力を高める授業が行われ、午後は選択科目（英文学、ビジネス英語、発音、ドラマなど）から興味のある授業を自由に選んで受けることができます。様々な国からの学生が集まるクラスの中で英語で積極的に自分の意見を述べ、コミュニケーションを取る方法を学びます。

### 【授業における到達目標】

この研修は、英語運用能力のうち主に「話す」「聞く」能力をCEFR水準のA2あるいはB1レベルまで高める一助であるとともに、卒業するまでに身につける態度・能力のうち国際的視野と問題解決のために主体的に行動する力を養います。また、イギリスの歴史・文化への理解を深めることが目的です。

### 【授業の内容】

I. 研修期間及び時間数：夏期60時間以上

II. 滞在場所：キャンパス内の学生寮

III. 研修内容

月～金曜午前：英語コアプログラム（総合英語）

月・火・木曜午後：選択科目（英国生活・文化講座）

水・金曜午後：ローカルビジット（フリータイム）

土・日曜終日フリータイム

注）日程およびスケジュールは、現地の都合により変更することがあります。

〔研修の特長〕 ロンドンからバスで2時間、ブライトンはイギリスの最も南にある保養地で、これらの一面に広大なサセックス大学のキャンパスがあります。毎週水・金曜日の午後は、ローカルビジットとしての近郊見学、土曜日は大学主催のオプションツアー（別料金）があります。また実践生のために、英語の実践をかねたロンドン・スタディやミュージカル鑑賞、近郊への日帰り旅行などのオプションツアーを予定しています。

### 【事前・事後学修】

＜事前学修＞毎回研修先の授業で指定される予習課題について、2時間取り組むこと。＜事後学修＞毎回研修先の授業で指定される復習課題について、2時間取り組むこと。

\*なお、言語文化教育研究センター（事務窓口：国際交流課）が主催する語学研修説明会（1回：90分）、渡航前オリエンテーション（2回：合計180分）及び危機管理講習会（1回：90分）に必ず出席すること。大学の健康診断を受診すること。渡航先国及び研修地域の情報収集に努めること。

### 【テキスト・教材】

受講生の英語レベルに応じ、テキストが選定されます。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

研修地の授業で与えられた課題等に対するフィードバックは、毎回の授業、あるいはコースの最後に口頭か書面にて行われます。本コースでは、すべてのプログラムを終了した者に修了証が授与され、2単位が認定されます。

### 【注意事項】

【事前・事後学修】の内容を必ず守ってください。また、説明会・オリエンテーション・危機管理講習会への無断欠席や国際交流課からの呼出し（実践Gmailによる連絡）に応じない場合は、研修の参加が取止めとなる場合があります。なお、この研修は大学生、短大生ともに参加することができます。

※受講定員25名（最少催行人数10名）

※受講定員は短大生を含みます。

## 海外語学研修c

— 中国 北京大学 —

1年～ 夏期集中 2単位

◎：国際的視野、○：行動力

### 【授業のテーマ】

この研修は、中国語運用能力向上と中国の歴史・文化に対する理解を深めることを目的とした、北京大学主催の夏期集中講座です。研修初日にクラス分けテストを実施され、レベルごとに1クラス15名前後で授業が行なわれます。授業以外には、中国文化講座や名所旧跡の見学、京劇等の見学など、悠久の歴史・文化に触れる機会が設けられています。

### 【授業における到達目標】

この研修は、英語運用能力のうち主に「話す」「聞く」能力をCEFR水準のA2あるいはB1レベルまで高める一助であるとともに、卒業するまでに身につける態度・能力のうち国際的視野と問題解決のために主体的に行動する力を養います。また、中国の歴史・文化への理解を深めることが目的です。

### 【授業の内容】

- I. 研修期間及び時間数：夏期60時間以上
  - II. 滞在場所：キャンパス内の留学生寮（予定）
  - III. 研修内容
    - 午前：中国語クラス（月～金曜）
    - 午後：中国文化講座、市内見学、フリータイム
  - IV. アクティビティ：万里の長城等見学、家庭訪問、京劇・雑技鑑賞、3泊4日内モンゴルツアー（オプション）
- 注）日程およびスケジュールは現地の都合により変更することがあります。

〔研修の特長〕北京大学は中国でも長い歴史と伝統を誇る名門大学です。北京市西北部の文教地区に位置し、伝統的な建築様式と近代的な建物が調和しながら混在しています。キャンパス内に「未名湖」と呼ばれる湖があり、学生たちの憩いの場となっています。大学周辺には「頤和園」や「円明園」があり、「北京大学東門駅」から地下鉄を利用して市内に出ることができます。

### 【事前・事後学修】

＜事前学修＞毎回研修先の授業で指定される予習課題について、2時間取り組むこと。＜事後学修＞毎回研修先の授業で指定される復習課題について、2時間取り組むこと。

\*なお、言語文化教育研究センター（事務窓口：国際交流課）が主催する語学研修説明会（1回：90分）、渡航前オリエンテーション（2回：合計180分）及び危機管理講習会（1回：90分）に必ず出席すること。大学の健康診断を受診すること。渡航先国及び研修地域の情報収集に努めること。

### 【テキスト・教材】

受講生の中国語レベルに応じ、テキストが選定されます。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

研修地の授業で与えられた課題等に対するフィードバックは、毎回の授業、あるいはコースの最後に口頭か書面にて行われます。本コースでは、すべてのプログラムを終了した者に修了証が授与され、2単位が認定されます。

### 【注意事項】

【事前・事後学修】の内容を必ず守ってください。また、説明会・オリエンテーション・危機管理講習会への無断欠席や国際交流課からの呼出し（実践Gmailによる連絡）に応じない場合は、研修の参加が取止めとなる場合があります。なお、この研修は大学生、短大生ともに参加することができます。

※受講定員なし（最少催行人数1名）

## 海外語学研修c

— 中国 北京大学 —

1・2年 集中 2単位

◎：国際的視野、○：行動力

### 【授業のテーマ】

この研修は、中国語運用能力向上と中国の歴史・文化に対する理解を深めることを目的とした、北京大学主催の夏期集中講座です。

研修初日にクラス分けテストを実施され、レベルごとに1クラス15名前後で授業が行なわれます。授業以外には、中国文化講座や名所旧跡の見学、京劇等の見学など、悠久の歴史・文化に触れる機会が設けられています。

### 【授業における到達目標】

この研修は、英語運用能力のうち主に「話す」「聞く」能力をCEFR水準のA2あるいはB1レベルまで高める一助であるとともに、卒業するまでに身につける態度・能力のうち国際的視野と問題解決のために主体的に行動する力を養います。また、中国の歴史・文化への理解を深めることが目的です。

### 【授業の内容】

- I. 研修期間及び時間数：夏期60時間以上
  - II. 滞在場所：キャンパス内の留学生寮（予定）
  - III. 研修内容
    - 午前：中国語クラス（月～金曜）
    - 午後：中国文化講座、市内見学、フリータイム
  - IV. アクティビティ：万里の長城等見学、家庭訪問、京劇・雑技鑑賞、3泊4日内モンゴルツアー（オプション）
- 注）日程およびスケジュールは現地の都合により変更することがあります。

〔研修の特長〕北京大学は中国でも長い歴史と伝統を誇る名門大学です。北京市西北部の文教地区に位置し、伝統的な建築様式と近代的な建物が調和しながら混在しています。キャンパス内に「未名湖」と呼ばれる湖があり、学生たちの憩いの場となっています。大学周辺には「頤和園」や「円明園」があり、「北京大学東門駅」から地下鉄を利用して市内に出ることができます。

### 【事前・事後学修】

<事前学修> 毎回研修先の授業で指定される予習課題について、2時間取り組むこと。<事後学修> 毎回研修先の授業で指定される復習課題について、2時間取り組むこと。

\*なお、言語文化教育研究センター（事務窓口：国際交流課）が主催する語学研修説明会（1回：90分）、渡航前オリエンテーション（2回：合計180分）及び危機管理講習会（1回：90分）に必ず出席すること。大学の健康診断を受診すること。渡航先国及び研修地域の情報収集に努めること。

### 【テキスト・教材】

受講生の中国語レベルに応じ、テキストが選定されます。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

研修地の授業で与えられた課題等に対するフィードバックは、毎回の授業、あるいはコースの最後に口頭か書面にて行われます。本コースでは、すべてのプログラムを終了した者に修了証が授与され、2単位が認定されます。

### 【注意事項】

【事前・事後学修】の内容を必ず守ってください。また、説明会・オリエンテーション・危機管理講習会への無断欠席や国際交流課からの呼出し（実践Gmailによる連絡）に応じない場合は、研修の参加が取り止めとなる場合があります。なお、この研修は大学生、短大生ともに参加することができます。

※受講定員なし（最少催行人数1名）

## 海外語学研修d

— 韓国 檀国大学校 —

1年～ 夏期集中 2単位

◎：国際的視野、○：行動力

### 【授業のテーマ】

この研修は、韓国語の習得と韓国文化の理解を深めることを目的とした檀国大学校主催の夏期韓国語・文化集中プログラムです。午前のクラスでは韓国語を集中的に学び、午後のクラスでは様々な内容の韓国文化（韓国の料理、工芸、伝統音楽・K-POP、ダンス、テコンドー等）を体験します。

### 【授業における到達目標】

この研修は、英語運用能力のうち主に「話す」「聞く」能力をCEFR水準のA2あるいはB1レベルまで高める一助であるとともに、卒業するまでに身につける態度・能力のうち国際的視野と問題解決のために主体的に行動する力を養います。また、韓国の歴史・文化への理解を深めることが目的です。

### 【授業の内容】

I. 研修期間及び時間数：夏期60時間以上

II. 滞在場所：キャンパス内の学生寮

III. 研修内容

<月～木曜>

午前（9：00～13：00）韓国語クラス

午後（14：00～17：00）韓国文化体験クラス

金曜フィールドトリップ

注）日程およびスケジュールは、現地の都合により変更することがあります。

〔研修の特長〕檀国大学校は、韓国の首都ソウル市に1947年に創立された私立総合大学で、竹田（チュクチョン）キャンパスと天安（チョナン）キャンパスがあり、教養学部、法学部、工学部など、20学部、10大学院を有しています。語学研修はチュクチョンキャンパスで行なわれ、同キャンパス構内の学生寮に滞在します。学生寮は2人部屋で、トイレ・シャワールームも備えられ、寮にはカフェテリア、コインランドリー、コンビニ、フィットネスルームなどが併設されており、セキュリティレベルも万全です。キャンパスには、食堂、書店、コンビニ、ATMなど日常生活に必要な施設もととのっています。

### 【事前・事後学修】

<事前学修>毎回研修先の授業で指定される予習課題について、2時間取り組むこと。<事後学修>毎回研修先の授業で指定される復習課題について、2時間取り組むこと。

\*なお、言語文化教育研究センター（事務窓口：国際交流課）が主催する語学研修説明会（1回：90分）、渡航前オリエンテーション（2回：合計180分）及び危機管理講習会（1回：90分）に必ず出席すること。大学の健康診断を受診すること。渡航先国及び研修地域の情報収集に努めること。

### 【テキスト・教材】

パク・ジョン、ユ・ソヨン『アンニョンハセヨ韓国語1—イ・ジョンギといっしょに』（ソフトバンククリエイティブ、2010年）3,024円

その他、オリジナルテキスト

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

研修地の授業で与えられた課題等に対するフィードバックは、毎回の授業あるいは、コースの最後に口頭あるいは、書面にて行われます。本コースでは、すべてのプログラムを終了した者に修了証が授与され、2単位が認定されます。

### 【注意事項】

【事前・事後学修】の内容を必ず守ってください。また、説明会・オリエンテーション・危機管理講習会への無断欠席や国際交流課からの呼出し（実践Gmailによる連絡）に応じない場合は、研修の参加が取止めとなる場合があります。なお、この研修は大学生、短大生ともに参加することができます。

※受講定員なし（最少催行人数1名）

## 海外語学研修d

— 韓国 檀国大学校 —

1・2年 集中 2単位

◎：国際的視野、○：行動力

### 【授業のテーマ】

この研修は、韓国語の習得と韓国文化の理解を深めることを目的とした檀国大学校主催の夏期韓国語・文化集中プログラムです。午前のクラスでは韓国語を集中的に学び、午後のクラスでは様々な内容の韓国文化（韓国の料理、工芸、伝統音楽・K-POP、ダンス、テコンドー等）を体験します。

### 【授業における到達目標】

この研修は、英語運用能力のうち主に「話す」「聞く」能力をCEFR水準のA2あるいはB1レベルまで高める一助であるとともに、卒業するまでに身につける態度・能力のうち国際的視野と問題解決のために主体的に行動する力を養います。また、韓国の歴史・文化への理解を深めることが目的です。

### 【授業の内容】

I. 研修期間及び時間数：夏期60時間以上

II. 滞在場所：キャンパス内の学生寮

III. 研修内容

<月～木曜>

午前（9：00～13：00）韓国語クラス

午後（14：00～17：00）韓国文化体験クラス

金曜フィールドトリップ

注）日程およびスケジュールは、現地の都合により変更することがあります。

〔研修の特長〕檀国大学校は、韓国の首都ソウル市に1947年に創立された私立総合大学で、竹田（チュクチョン）キャンパスと天安（チョナン）キャンパスがあり、教養学部、法学部、工学部など、20学部、10大学院を有しています。語学研修はチュクチョンキャンパスで行なわれ、同キャンパス構内の学生寮に滞在します。学生寮は2人部屋で、トイレ・シャワールームも備えられ、寮にはカフェテリア、コインランドリー、コンビニ、フィットネスルームなどが併設されており、セキュリティレベルも万全です。キャンパスには、食堂、書店、コンビニ、ATMなど日常生活に必要な施設もととのっています。

### 【事前・事後学修】

<事前学修>毎回研修先の授業で指定される予習課題について、2時間取り組むこと。<事後学修>毎回研修先の授業で指定される復習課題について、2時間取り組むこと。

\*なお、言語文化教育研究センター（事務窓口：国際交流課）が主催する語学研修説明会（1回：90分）、渡航前オリエンテーション（2回：合計180分）及び危機管理講習会（1回：90分）に必ず出席すること。大学の健康診断を受診すること。渡航先国及び研修地域の情報収集に努めること。

### 【テキスト・教材】

パク・ジョン、ユ・ソヨン『アンニョンハセヨ韓国語1—イ・ジョンギといっしょに』（ソフトバンククリエイティブ、2010年）3,024円

その他、オリジナルテキスト

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

研修地の授業で与えられた課題等に対するフィードバックは、毎回の授業あるいは、コースの最後に口頭あるいは、書面にて行われます。本コースでは、すべてのプログラムを終了した者に修了証が授与され、2単位が認定されます。

### 【注意事項】

【事前・事後学修】の内容を必ず守ってください。また、説明会・オリエンテーション・危機管理講習会への無断欠席や国際交流課からの呼出し（実践Gmailによる連絡）に応じない場合は、研修の参加が取止めとなる場合があります。なお、この研修は大学生、短大生ともに参加することができます。

※受講定員なし（最少催行人数1名）

### 絵画実習 a

人体を描く

織田 涼子

2年～ 前期 2単位

#### 【授業のテーマ】

すでに学び身につけた表現技術をさらに鍛錬し、さまざまな素材を使って表現の幅を広げられるようになる。モデルデッサンを中心に描写力を向上させ、骨格や肉付きをよく観察して、動勢や量感を捉えた表現ができるようになる。人体デッサンを通して、より深い観察力や表現力を身につけることを目標とする。

#### 【授業における到達目標】

様々な材料や用具の扱い方を学び、立体や絵画の制作に活かすことができるようになる。特に、ソフトパステルやアクリル絵具の表現技法を学び、明暗法を使って量感を表現することができるようになる。

#### 【授業の内容】

- 第1週 授業ガイダンス・色鉛筆デッサン1 静物を描く
- 第2週 色鉛筆デッサン2 先週の続き
- 第3週 色鉛筆デッサン3 仕上げて提出
- 第4週 有色下地のクロッキー・次週の基底材を準備する
- 第5週 技法研究 光と影の色1 アクリル絵具による着彩
- 第6週 技法研究 光と影の色2 先週の続き、仕上げて提出
- 第7週 人体デッサン1 ヌード 固定ポーズ
- 第8週 人体デッサン2 ヌード クロッキー
- 第9週 立体制作1 巻段ボールを使い人体に関連した作品を作る
- 第10週 立体制作2 先週の続き、仕上げて提出
- 第11週 絵画制作「人体」1 人体デッサン1、2を基に作品を制作するためのエスキースを作る
- 第12週 絵画制作「人体」2 基底材の準備 下描き
- 第13週 絵画制作「人体」3 アクリル絵具による着彩
- 第14週 絵画制作「人体」4 先週に引き続き着彩
- 第15週 絵画制作「人体」5 仕上げて提出 鑑賞

#### 【事前・事後学修】

【事前学修】多くの美術作品を鑑賞し、自分の手足、友人や家族のクロッキーをする。(学修時間 週2時間)

【事後学修】授業時に使用した材料や技法の特徴を理解しておく。(学修時間 週2時間)

#### 【テキスト・教材】

「絵画入門a」で使用した鉛筆セット・練りゴム。その他は適宜配布する。

#### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業態度・作品の構想など課題への取り組み方・用具の取り扱い)50%、作品提出50%

制作過程は毎回の授業で、完成作品は提出日の授業でフィードバックを行う。

#### 【参考書】

適宜プリントおよび参考作品を提示する。

『人体のデッサン技法』ジャック・ハム著(嶋田出版)

『アクリル 用具と基礎知識』レイ・スミス著(美術出版社)

#### 【注意事項】

教職課程資格取得の授業でもあるため、遅刻・欠席は厳禁。

積み上げてきた各自の力を十分に発揮できるよう集中して取り組んでほしい。

授業の順序はモデル実習の事情などにより変更する場合がある。正確な予定は、第1週目の授業で発表する。

写生など校外実習を行うこともある。その場合の交通費は自費となる。

尚、材料費・モデル代は別途徴収する。

### 絵画実習 b

風景写生・木版画制作

織田 涼子

2年～ 後期 2単位

#### 【授業のテーマ】

絵画入門で身につけた表現技能をさらに鍛錬し、さまざまな素材を使って新しい課題に挑戦する。実際に対象を見て感じたことから作品の構想を練り、各自の主題を基に水彩画と木版画を制作する。水性の絵具を用いた制作を通して、紙と水の特性を生かした彩色技法を身につけたり、凸版画の表現形式を理解して多色摺り木版画の技法を修得するなど、表現の幅を広げることを目標とする。

#### 【授業における到達目標】

水性絵具の特性を知り、水彩画や木版画の表現形式を理解して、制作の見通しを立てることができるようになる。

#### 【授業の内容】

- 第1週 水彩画1 学外実習 植物を描写する
- 第2週 水彩画2 水彩画の技法 写生を基に鉛筆で構想
- 第3週 水彩画3 先週の構想を基にF8号の水彩紙に着彩
- 第4週 水彩画4 学外実習 風景を描写する
- 第5週 水彩画5 先週の写生を基にB2判の水彩紙に着彩
- 第6週 水彩画6 先週に引き続き着彩、さらに加筆して仕上げ
- 第7週 人物クロッキー 着衣モデルを描く
- 第8週 多版多色摺り木版画について 主版法と分解法
- 第9週 木版画制作1 人物をテーマにエスキースを制作する
- 第10週 木版画制作2 版木を準備し、多色摺りということを踏まえて、各自の表現内容に即した手順について計画を立て、制作する
- 第11週 木版画制作3 版木を彫る
- 第12週 木版画制作4 先週の続き
- 第13週 木版画制作5 試し摺り
- 第14週 木版画制作6 修正彫り
- 第15週 木版画制作7 本摺り 提出して鑑賞

#### 【事前・事後学修】

【事前学修】なるべく多くの美術作品を鑑賞すること。特に木版画の作品を鑑賞し、制作のための資料収集を行う。(学修時間 週2時間)

【事後学修】身近にあるものを沢山デッサンすること。授業時に提示する資料や制作体験を振り返り、木版画の特徴や彫刻刀の使い方を良く理解すること。(学修時間 週2時間)

#### 【テキスト・教材】

「絵画入門a」で使用した鉛筆セット・練りゴム・水彩パレット。その他は適宜配布する。

#### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業態度・作品の構想など課題への取り組み方・用具の取り扱い)50%、作品提出 50%

制作過程は毎回の授業で、完成作品は提出日の授業でフィードバックを行う。

#### 【参考書】

適宜プリントおよび参考作品を提示する。プロジェクターや書画カメラなどの機材を使用し、制作過程を提示することもある。

『木版画ノート』視覚デザイン研究所編

DVD『彫と摺-浮世絵の技法-』アダチ伝統木版画技術保存財団監修など

#### 【注意事項】

教職課程資格取得の授業でもあるため、遅刻・欠席は厳禁。

入門で養った実力を十分に発揮し、作品の制作には集中力を持って努力と工夫をしてほしい。

授業の順序はモデル実習の事情などにより変更する場合がある。正確な予定は、第1週の授業の際に発表する。

学外での写生のためにかかる交通費は学生の自己負担である。

材料費・モデル代は別途徴収する。

### 絵画実習 c

日本画制作

織田 涼子

2年～ 後期 2単位

#### 【授業のテーマ】

「日本画」は明治期に創られた絵画の概念で、近代以降の日本画が表現する内容は様々である。しかし使用する画材や技法・画題からは千数百年の文化交流の歴史や日本の伝統的な美意識を感じる取ることができる重要な絵画表現のひとつである。水墨による模写、岩絵具などを用いた作品制作を行い、独特の素材や技法を学びながら「日本画」という絵画表現について考える。

#### 【授業における到達目標】

日本画制作の基本的な工程や用具の取り扱いなどを理解し、作品の構想を深めて描くことができる。

#### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス 日本画とは何か・日本画材について  
制作1 鳥獣戯画の模写（上げ写し）
- 第2週 制作2 鳥獣戯画模写続き
- 第3週 制作3 墨絵の模写（臨写）
- 第4週 鳥獣戯画模写作品の裏打ち 作品提出
- 第5週 作品制作「百合の花を描く」1 スケッチ
- 第6週 作品制作「百合の花を描く」2 スケッチをもとに下図を作る・麻紙にトレース
- 第7週 作品制作「百合の花を描く」3 墨による線描き・膠の使い方・具墨の下塗り
- 第8週 作品制作「百合の花を描く」4 彩色
- 第9週 作品制作「百合の花を描く」5 彩色完成・次の課題の準備を並行して行う
- 第10週 作品制作「野菜を描く」1 スケッチ・下図・トレース
- 第11週 作品制作「野菜を描く」2 墨による線描き・下塗り
- 第12週 作品制作「野菜を描く」3 水干絵具による彩色
- 第13週 作品制作「野菜を描く」4 岩絵具による彩色
- 第14週 作品制作「野菜を描く」5 彩色完成
- 第15週 まとめ 作品提出 鑑賞

#### 【事前・事後学修】

【事前学修】なるべく多くの日本画作品を鑑賞する。第7週目に膠の準備方法を提示するので、第8週目以降は各自で膠の準備を行う。（学修時間 週2時間）

【事後学修】身近にあるものを沢山デッサンする。授業時に提示する資料や制作体験を振り返り、日本画材の特徴や使い方を良く理解すること。（学修時間 週2時間）

#### 【テキスト・教材】

「絵画入門a」で使用した鉛筆セット・練りゴム。その他は適宜配布する。

#### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・課題への取り組み方・用具の取り扱い）50%  
作品提出50%  
制作過程は毎回の授業で、完成作品は提出日の授業でフィードバックを行う。

#### 【参考書】

適宜プリントおよび参考作品を提示する。  
『日本画 画材と技法の秘伝集』小川幸治著（日貿出版社）  
『日本画用語事典』（東京美術）

#### 【注意事項】

教職課程資格取得の授業でもあるため、遅刻・欠席は厳禁。特別に専門的な技法であることから、授業の細部までよく認識して受講してほしい。  
画材、用具類は共に熟練した職人が制作した価値のあるものである。よって大切に扱ってほしい。  
材料費は別途徴収する。

### 絵画実習 d

自己の思いを油画・版画で表現する

高橋 恒道

2年～ 前期 2単位

#### 【授業のテーマ】

絵画とは目に見えるもの、または視覚化することが困難と思われる事柄などを紙やキャンバスなどの支持体に絵具などの実材料で色や形に置き換えて視覚化した芸術表現である。これらの表現は、たとえ眼の前の事柄を正確に写し取った表現であっても、作者の主観「思い」が必ず投影された表現となる。この実習では作者が表現したい「思い」をどのような形で表現するかを考え作品化させる授業である。

#### 【授業における到達目標】

中学校美術科の授業を指導するために必要な油画、プレス機を用いた版画の実材料の知識、取り扱い方、表現技法を修得することを目標とする。

#### 【授業の内容】

この実習では主に油性実材料を取り扱い実習をおこなう。実習1では油絵具とその他実材料による絵画制作、実習2では直接技法による製版、プレス機を用いて版画制作をおこなう。

- 第1週 実習1 キャンバス作り（小パネル、アクリル絵具）
- 第2週 上層作り 明色描き（アクリル絵具）
- 第3週 絵具の重層的構造 作品完成（アクリル絵具、油絵具）
- 第4週 油画静物 用具の基本的な扱い方（F8号）
- 第5週 油画静物 発想・構想
- 第6週 油画静物 完成へ向けて制作
- 第7週 作品完成 鑑賞会（作品の自己評価と相互評価）
- 第8週 実習2 版画 プレス機の基本的な扱い方
- 第9週 直接技法 モノプリント、ドライポイントの説明
- 第10週 直接技法 コラグラフ、メゾチントの説明
- 第11週 製版法（直接技法と間接技法）の相違を理解する
- 第12週 描画製版と試し刷りの関係性を理解する
- 第13週 試し刷り、描画製版を繰り返しおこない本刷りへ
- 第14週 本刷り 限定番号、署名について
- 第15週 作品完成 鑑賞会（作品の自己評価と相互評価）

#### 【事前・事後学修】

【事前学修】作品の発想・構想のために必要な図版等の資料収集をおこなうこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】実習での問題点を発見し、自己評価を十分におこなうこと。（学修時間 週1時間）

#### 【テキスト・教材】

絵画実習に必要な道具・材料

#### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点50% 作品提出50% 平常点は授業への関心度・意欲度の観点から実習への取り組みを平常授業時に判断する。作品提出は授業内の課題作品、構想時の下絵、メモなど、作品を完成させるために記録的に用いたものも含めて評価の対象とする。また、自己・相互評価の記入式評価カードも作品提出物に含む。実習の結果は鑑賞会で作品講評をおこなうことでフィードバックする。

#### 【参考書】

授業時間内に参考作品などを提示する。

#### 【注意事項】

実習では使用方法を誤るとたいへん危険な道具や溶剤を使用するので授業中はこれらの使用方法、注意点に留意し、各自実習に臨むこと。また、作業工程がたくさんあるので実習中は集中して実習することを望む。実習室内は絵具などで服が汚れるので汚れてもよい服装で実習に臨むこと。尚、実習に関わる材料費は別途徴収する。

## 絵画実習 e

アクリル絵具・孔版画実習

高橋 恒道

2年～ 後期 2単位

### 【授業のテーマ】

絵画の表現方法、創意工夫をアクリル絵具、孔版画（シルクスクリーン）の実技体験を行うことで考え作品化する。

### 【授業における到達目標】

中学校美術科授業を指導するために必要なアクリル絵具、孔版画（シルクスクリーン）の基礎的な知識、材料の特性や取り扱い方法などが修得できるようになる。

### 【授業の内容】

この実習では一部油性材料を用いるが、主に水性の絵具、インクを用いた実習をおこなう。実習1ではアクリル絵具を用いた絵画制作、実習2では孔版画（シルクスクリーン）の実習制作をおこなう。

- 第1週 実習1 アクリル絵具実習、概要説明、支持体作り
- 第2週 アクリル絵具のメデュームの用途と使用方法
- 第3週 寒冷紗の支持体に制作
- 第4週 ガラスなどに制作 支持体準備
- 第5週 透明性と不透明性についての説明と制作
- 第6週 作品完成 鑑賞会（作品の自己評価と相互評価）
- 第7週 実習2 孔版画（シルクスクリーン）実習、概要説明
- 第8週 描画法（ブロッキング法）の説明と製版
- 第9週 描画法（ブロックアウト法）の説明と製版
- 第10週 描画法 製版と制作
- 第11週 感光法の説明 発想・構想
- 第12週 感光法による製版
- 第13週 重ね刷りの説明と描画法・感光法による刷り（1）
- 第14週 描画法・感光法による刷り（2）
- 第15週 作品完成 鑑賞会（作品の自己評価と相互評価）

### 【事前・事後学修】

【事前学修】作品の発想・構想のために必要な図版等の資料収集をおこなうこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】実習での問題点を発見し、自己評価を十分におこなうこと。（学修時間 週1時間）

### 【テキスト・教材】

絵画実習に必要な道具・材料

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点50% 作品提出50% 平常点は授業への関心度・意欲度の観点から実習への取り組みを平常授業時に判断する。作品提出は授業内の課題作品、構想時の下絵、メモなど、作品を完成させるために記録的に用いたものも含めて評価の対象とする。また、自己・相互評価の記入式評価カードも作品提出物に含む。実習の結果は鑑賞会で作品講評を行うことでフィードバックする。

### 【参考書】

授業時間内に参考作品などを提示する。

### 【注意事項】

実習では使用方法を誤るとたいへん危険な道具や溶剤を使用するので授業中はこれらの使用方法、注意点に留意し、各自実習に臨むこと。また、作業工程がたくさんあるので実習中は集中して実習することを望む。実習室内は絵具などで服が汚れるので汚れてもよい服装で実習に臨むこと。尚、実習に関わる材料費は別途徴収する。

## 絵画入門 a

デッサン基礎・着彩

織田 涼子

1年～ 前期 1単位

◎：行動力 ○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

美術の教育現場において必要な基本的表現方法を理解する。さまざまな描画用具を使い、素描を中心とした実習を通して、ものを観察する力を養い、表現する力を身につける。形のとらえ方や立体感の表し方について学び、鉛筆や筆の使い方を工夫して、自分に合った表現方法を見つけて制作することを目標とする。

### 【授業における到達目標】

描く対象物（モチーフ）の形や明暗をよく観察して描くことができるようになる。対象の見方や身体の使い方、道具の扱い方がわかるようになり、自分に合った表現方法を見つけてことができる。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス 絵画とは何か・絵画材料の説明
- 第2週 明度とグラデーション 鉛筆によるグラデーションの作成
- 第3週 光と影・矩形 ティッシュペーパーの箱を描く
- 第4週 円と楕円 楕円の描き方
- 第5週 素描 紙コップを描く
- 第6週 透視図法 一点透視図法・二点透視図法・三点透視図法
- 第7週 素描 幾何形体のデッサン1
- 第8週 素描 幾何形体のデッサン2 仕上げて提出
- 第9週 素描 自然物や静物をモチーフとして1
- 第10週 素描 自然物や静物をモチーフとして2 仕上げて提出
- 第11週 人物クロッキー コンテによる制作
- 第12週 色彩 12色相環の制作 透明水彩絵具の使い方1
- 第13週 色彩 透明水彩絵具の使い方2 重ね塗りと筆使い
- 第14週 着彩 静物1 鉛筆で描き、透明水彩絵具で着彩
- 第15週 着彩 静物2 仕上げて提出 鑑賞

### 【事前・事後学修】

【事前学修】なるべく多くの美術作品を鑑賞する。（学修時間 週1時間）

【事後学修】身近にあるものを沢山デッサンする。（学修時間 週1時間）

### 【テキスト・教材】

適宜配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・課題への取り組み方・用具の扱い）50%  
作品提出50%

制作過程は毎回の授業で、提出作品は次回と最終授業でフィードバックを行う。

### 【参考書】

適宜プリントおよび参考作品を提示する。

プロジェクターや書画カメラなどの機材を使用し制作過程を提示することもある。

『描く人、鑑賞する人のための遠近法と絵画』（美術出版社）

『水彩アートの基本 混色』フォーラム11編（遊友出版）

### 【注意事項】

教職課程資格取得の授業でもあるため、遅刻・欠席は厳禁。

美術館などに行く機会を多く設け、可能な限り多くの作品を鑑賞してきてほしい。

材料費は別途徴収する。



**絵画入門 b**

デッサンの基礎・空間への応用

織田 涼子

1年～ 後期 1単位

◎：行動力 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

基礎的な技術を基に、さらに表現技術を向上させながら、さまざまな素材を使って描写力を身につける。描写の課題制作を通して身につけた観察力や再現力などを応用し、複合素材を用いた制作を通して、絵画作品の空間表現について理解や見方を広げることを目標とする。

**【授業における到達目標】**

ものを見る力や彩色技法への理解を深め、立体感や空間を描き出すことができるようになる。また、主体的に作品の主題を考え、見直しを持って制作を進めることができるようになる。

**【授業の内容】**

- 第1週 木炭による石膏デッサン1 用具の使い方、形をとる
- 第2週 木炭による石膏デッサン2 明暗の調子をつける
- 第3週 木炭による石膏デッサン3 量感を描き、仕上げて提出
- 第4週 素描 友人の顔を描く
- 第5週 水彩絵具の彩色技法・仕掛け絵本制作の事前課題
- 第6週 着彩 静物写生1 モチーフを組み、鉛筆で描く
- 第7週 着彩 静物写生2 着彩し仕上げて提出
- 第8週 仕掛け絵本制作1 課題説明 事前課題の提出  
技法を学ぶ（仕掛けの練習）
- 第9週 仕掛け絵本制作2 主題の決定、エスキースの作成
- 第10週 仕掛け絵本制作3 ポスターカラーによる素材作り
- 第11週 仕掛け絵本制作4 仕掛けの計画（ダミーを作る）
- 第12週 仕掛け絵本制作5 ページの制作
- 第13週 仕掛け絵本制作6 先週の続き
- 第14週 仕掛け絵本制作7 手製本
- 第15週 まとめ 作品及び制作記録の提出

**【事前・事後学修】**

【事前学修】なるべく多くの美術作品や市販の絵本を観賞する。制作のための資料収集については事前課題を提示するので提出日までに準備すること。（学修時間 週1時間）

【事後学修】身近にあるものを沢山デッサンする。第8週目以降は仕掛け絵本の制作工程を振り返りアイデアをまとめる。（学修時間 週1時間）

**【テキスト・教材】**

適宜配布する。初回授業の木炭デッサンでは、木炭の粉が舞うため、マスクを持参しても良い。第3週目は各自で食パン1/2枚を準備、第4週目は「絵画入門a」で使用した鉛筆5本・練りゴム・水彩パレット・ぞうきんを持参すること。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業態度・作品の構想など課題への取り組み方・用具の取り扱い）50%、作品提出 50%

制作過程は毎回の授業で、提出作品は次回の授業でフィードバックを行う。絵本の制作記録は第12週目の授業内で配布する用紙に記入し、完成作品に添付して提出すること。絵本作品の返却時にフィードバックを行う。

**【参考書】**

適宜プリントおよび参考作品を提示する。

『石膏デッサン』視覚デザイン研究所編

『仕掛け絵本の基礎知識 ポップアップ』（大日本絵画）など

**【注意事項】**

教職課程資格取得の授業でもあるため、遅刻・欠席は厳禁。

実習の成果は必ず作品に反映されるものであるため、各授業の意味を理解し、身につけてほしい。

材料費は別途徴収する。

**学校経営と学校図書館**

学校の心臓部としての学校図書館

安藤 友張

2年 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

現代の学校教育における学校図書館の位置づけを概説する。教育行政と学校図書館の関わりを歴史的な背景や国の教育政策から考える。同時に、学校経営における学校図書館の位置づけや司書教諭の役割を説明する。学校図書館法の重要条文、司書教諭の任務、司書教諭と学校司書の相違点が説明できることを本科目の主な到達目標とする。

**【授業における到達目標】**

- ・学校図書館の経営計画の学習を通して、PDSサイクルの重要性を理解する。同時に、受講生各自が学習目標を設定して、計画を立案
- ・実行できる行動力を獲得する。
- ・新しい知（知識）を獲得し、創造するための学校図書館の主要な機能を理解する。

**【授業の内容】**

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 学校図書館の教育的意義
- 第3回 教育行政と学校図書館① 教育行政とは何か
- 第4回 教育行政と学校図書館② 学校図書館法の解説
- 第5回 教育行政と学校図書館③ その他の関連法規の解説
- 第6回 日本における学校図書館の現状と課題
- 第7回 日本における学校図書館の歴史① 学校図書館法制定まで
- 第8回 日本における学校図書館の歴史② 1953年以降の歴史
- 第9回 学校図書館の経営
- 第10回 図書館の相互協力とネットワーク
- 第11回 司書教諭の任務と役割（外部講師を予定）
- 第12回 学校図書館における諸活動
- 第13回 学校図書館の施設・設備
- 第14回 学校図書館メディアの選択と管理・提供
- 第15回 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】学校図書館法をはじめ、教育法規に関する学習を行うので、教育基本法などの法律の条文をみておくこと（学修時間 週2時間）。

【事後学修】授業時間で詳しく説明した学校図書館法の重要条文を必ず復習すること（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

- ・後藤敏行著『学校図書館の基礎と実際』樹村房、2018年（本体価格 1800円）。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- ・学期末に実施する筆記試験（80%）、小レポート（20%）で総合的に評価する。
- ・学生による授業評価アンケートを実施後、成績評価も含めて全体総括し、manabaを通してフィードバックする予定である。

**【参考書】**

中村百合子編著『学校経営と学校図書館』（樹村房 2015年）

**【注意事項】**

履修初年次に履修すること。

## 学校健康教育論

小出 彰宏

3年 前期 2単位

○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

学校における保健教育及び保健管理を通じて、健康に関する考え方を学び、生涯に渡って自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる手法についても学習する。

### 【授業における到達目標】

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる力を修得する。

### 【授業の内容】

- 第1週 学校保健概論
- 第2週 心の健康（コミュニケーションスキルについて）
- 第3週 喫煙・飲酒の害1
- 第4週 喫煙・飲酒の害2
- 第5週 薬物乱用の害
- 第6週 生活習慣病とがん
- 第7週 セルフケア
- 第8週 医薬品
- 第9週 薬害
- 第10週 感染症
- 第11週 学校給食の衛生管理
- 第12週 食中毒
- 第13週 食物アレルギー
- 第14週 学校環境衛生
- 第15週 総括

### 【事前・事後学修】

【事前学修】 適宜配布する資料プリントを次回授業までに読み、専門用語等を理解しておくこと。発表・レポート等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 資料プリント等を復習し、不明な点があれば次回授業で質問すること。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

資料プリントを適宜配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験50%、レポート等課題提出25%、平常点（授業への積極的参加）25%。レポートについては次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

### 【参考書】

- 『新訂版 学校保健実務必携』（第一法規）
- 『学校保健マニュアル』（南山堂）

**学校図書館メディアの構成**

多様なメディアへのアクセスポイントを考える

安藤 友張

2年 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

学校図書館は、多種多様なメディアを収集し、組織化し、利用者に提供する。学校図書館におけるテクニカルサービス、すなわち選書から図書の種類・目録作成などの専門的業務の意義と内容について解説する。学校図書館におけるメディアの構成、すなわちメディアの収集や組織化の学習を通して、司書教諭に求められる実務能力の育成を図る。

**【授業における到達目標】**

- ・多種多様なメディアの特性を理解することができる。
- ・メディアセンターとしての学校図書館における資料組織化の方法を学び、実務能力を修得する。
- ・図書分類の学習を通して、広い視野と深い洞察力を身につける。

**【授業の内容】**

- 第1回 オリエンテーション  
 第2回 学校図書館メディアの種類とその特性 ① 印刷資料  
 第3回 学校図書館メディアの種類とその特性 ② 視聴覚資料  
 第4回 学校図書館メディアの種類とその特性 ③ 電子資料  
 第5回 学校図書館メディアの構築（コレクションの構築）  
 第6回 メディアの流通と収集  
 第7回 学校図書館メディアの選択  
 第8回 学校図書館メディアの組織化 ① 分類の意義と機能  
 第9回 学校図書館メディアの組織化 ② 日本十進分類法の仕組み  
 第10回 学校図書館メディアの組織化 ③ 日本十進分類法による図書分類の実際  
 第11回 学校図書館メディアの組織化 ④ 目録の意義と機能  
 第12回 学校図書館メディアの組織化 ⑤ 日本目録規則の解説  
 第13回 学校図書館メディアの組織化 ⑥ OPAC（コンピュータ目録）  
 第14回 学校図書館メディアの組織化 ⑦ 件名標目表  
 第15回 まとめ

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

図書館における蔵書の背ラベルの番号（請求記号）に注目しながら、図書館を利用していただくこと。図書館の館種は学校図書館でなくともよい（学修時間 週2時間）。

**【事後学修】**

授業中に配布したプリントを使って、図書館情報学の専門用語を復習しておくこと（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- ・学期末に実施する筆記試験（80%）、小レポート（20%）で総合的に評価する。
- ・学生による授業評価アンケートを実施後、成績評価も含めて全体総括し、manabaを通してフィードバックする予定である。

**【参考書】**

小田光宏編『学校図書館メディアの構成』樹村房、2016年

**【注意事項】**

日本十進分類法など、図書館情報学の専門的内容（知識）を数多く学ぶので、事後学修を必ず行うこと。

**学習指導と学校図書館**

探究的な学習と情報活用能力の育成

徳田 悦子

3年 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

学校図書館は学習・情報センター、読書センターとしての機能を有し、教科等と連携して児童生徒の学習活動を支え、学校教育の中核を担う役割をもっている。学習指導要領に基づき、学校図書館を活用した学習が活発に行われ、主体的・対話的で深い学びが実施されるためには、適切な情報メディアを選択・収集し、活用し、発表する情報活用能力の育成が求められる。当科目では、情報活用能力育成指導の方法、主体的・対話的で深い学びを実施する意識化とその方法、教員への支援と働きかけの在り方等の修得を目標とする。

**【授業における到達目標】**

①教育課程の展開に寄与する学校図書館の役割を理解する。②探究的な学習の過程を理解し、その進め方を修得する。③情報活用能力育成指導の方法を修得する。④発達段階に応じた学校図書館メディアの選び方の指導法を修得する。⑤学校図書館を活用した学習を展開する教員への支援と働きかけの方法を修得する。

学生が修得すべき『研鑽力』のうち広い視野と深い洞察力・本質を見抜く力、『行動力』のうち課題発見・問題解決力を修得する。

**【授業の内容】**

- (1) 教育課程と学校図書館の役割
- (2) 探究的な学習と情報活用能力の育成
  - ① 情報活用能力育成指導の体系化と指導計画の作成
  - ② 課題の設定と情報探索の計画
  - ③ 資料・情報の探索と収集
  - ④ 情報の整理分析
  - ⑤ 情報のまとめと学習の評価
  - ⑥ 発表と交流
- (3) 発達段階に応じた学校図書館メディアの選択
- (4) 教員に対する支援と働きかけ
  - ① 教科における学校図書館の活用
  - ② 総合的な学習の時間における学校図書館の活用
  - ③ 学校図書館を活用した授業づくり
  - ④ 授業づくりの発表と交流
- (5) 諸外国の学校図書館と学習指導
- (6) 学習指導における司書教諭の任務と役割
- (7) まとめのレポート

**【事前・事後学修】**

【事前学修】次期学習指導要領・学校図書ガイドライン・参考図書等を読むこと。小レポートや課題に積極的に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義・演習・発表等の復習をすること。課題の発表・提出に自主的に取り組み準備をすること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

堀川照代・塩谷京子編著『改訂新版学習指導と学校図書館』（一般財団法人放送大学教育振興会 2016年）2800円+税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

【成績評価の方法・基準】①平常点（授業への積極的な参加・コメントペーパー・小レポート）30% ②課題（探究活動の発表・授業づくり・パスファインダーの作成）30% ③まとめのレポート40%

【フィードバック】小レポート・課題については発表・提出時に、まとめのレポートは最終講義でフィードバックする。

**【参考書】**

『小学校における学び方指導 探究型学習をすすめるために』徳田悦子著 全国学校図書館協議会 2009年

『授業で活用する学校図書館 中学校・探究的な学習をみざす実践事例』（稲井達也編著 全国学校図書館協議会 2014年）

**【注意事項】**

講義内で出題する課題について主体的・積極的に取り組み、提出・発表してください。

**学習指導と学校図書館**

アクティブ・ラーニングを促進する学校図書館

安藤 友張

3年 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

近年、日本の学校教育では、探究学習をはじめ、アクティブ・ラーニングの重要性が認識されている。アクティブ・ラーニング、すなわち「主体的かつ対話的な深い学び」が次期学習指導要領に明記された。本科目では、アクティブ・ラーニングを促進するための学校図書館の果たすべき役割を考える。同時に、司書教諭による学校図書館を活用した授業実践の事例を検討する。

**【授業における到達目標】**

- ・児童生徒の学習活動における学校図書館メディア活用能力の意義を理解する。
- ・児童生徒の学習活動を支援する学校図書館の情報サービス（レファレンスサービス）の理論と実践について理解する。

**【授業の内容】**

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 教育課程と学校図書館
- 第3回 総合学習と学校図書館
- 第4回 児童生徒の発達段階に応じた学校図書館メディアの選択
- 第5回 学校図書館メディア活用能力の育成
- 第6回 学習過程における学校図書館メディアの活用事例（1）  
小学校の実践事例
- 第7回 学習過程における学校図書館メディアの活用事例（2）  
中学校・高等学校の実践事例
- 第8回 情報サービス（レファレンスサービス）の理論
- 第9回 情報サービス（レファレンスサービス）の実際
- 第10回 参考図書（レファレンスブック）
- 第11回 学校図書館の利用指導
- 第12回 教員に対する支援：教材研究に対する支援
- 第13回 学校図書館を活用した授業の指導案の作成
- 第14回 学校図書館を活用した授業の指導案の検討
- 第15回 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】アクティブ・ラーニングの概念について、図書館所蔵の関連文献を用いて各自調べておくこと（学修時間 週2時間）。

【事後学修】授業中に配付した各種のプリントを読み返し、復習しておくこと（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

- ・日本図書館協会図書館利用教育委員会編著『問いをつくるスパイラル 考えることから探究学習をはじめよう』日本図書館協会、2011年（本体価格1000円）。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

筆記試験70%、授業時間中に作成する小レポート（学習指導案の作成など）30%で総合的に評価する。学生による授業アンケートを実施後、成績評価を含めて全体総括し、manabaを通してフィードバックする予定である。

**【参考書】**

- ・稲井達也著『資質・能力を育てる学校図書館活用デザイン：「主体的・対話的で深い学び」の実現』（学事出版、2017年）
- ・溝上慎一著『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』（東信堂、2014年）

**【注意事項】**

図書館所蔵の参考図書（レファレンスブック）には、百科事典以外に、どのような種類の図書があるのか。本科目の履修期間に、必ず図書館で調べてみることを。

## 学習心理学

粟津 俊二

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

### 【授業のテーマ】

ヒトは様々な物事を学んで成長する。我々ができること、知っていることの多くは学習を通して身に付けたものである。この授業では、「行動が変わる」という行動の学習と、ヒトの特徴でもある言葉の獲得を中心に、なぜ、どのように学習していくのか、どうすれば学びやすいかという問題を扱う。

### 【授業における到達目標】

「何かを身につけるときには、どうすればよいか」について、自分なりの考えを持ってもらうことが目的である。これにより、多様な人間を受容する態度、新たな知を創造しようとする態度、心理的な問題を把握し計画を立案できる行動力などへの貢献を目指す。

### 【授業の内容】

1. ガイダンス-学習心理学とは何か
2. 動機による行動変化過程
3. 内発的動機づけ
4. 経験による学習1-分類
5. 経験による学習2-レスポナント学習
6. 経験による学習3-オペラント学習
7. 経験による学習4-行動の増減
8. 経験による学習5-応用
9. 他者からの学習1-分類
10. 他者からの学習2-仕組み
11. 言語の習得1-生得的要因
12. 言語の習得2-語彙の獲得
13. 言語の習得3-文法の獲得
14. 言語の習得4-言語と身体
15. まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲について参考図書等で予習し、専門用語を知っておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 授業内容について参考図書等を見直したり、わからなかった専門用語等を調べて理解しておくこと。（学修時間 週2時間程度。）

### 【テキスト・教材】

指定しない

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験（100%）

試験終了後、教室やmanabaで問題や解答の解説を行う。

### 【参考書】

- ・無藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治『心理学』（有斐閣、2004年）
- ・山内光哉・春木豊（編著）『グラフィック学習心理学：行動と認知』（サイエンス社）
- ・J. E. メイザー（著）磯博行・坂上貴之・河井伸幸（訳）『メイザーの学習と行動』（二瓶社）

**学習心理学**

粟津 俊二

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

**【授業のテーマ】**

ヒトは様々な物事を学んで成長する。我々ができること、知っていることの多くは学習を通して身に付けたものである。この授業では、「行動が変わる」という行動の学習と、ヒトの特徴でもある言葉の獲得を中心に、なぜ、どのように学習していくのか、どうすれば学びやすいかという問題を扱う。

**【授業における到達目標】**

「何かを身につけるときには、どうすればよいか」について、自分なりの考えを持ってもらうことが目的である。これにより、多様な人間を受容する態度、新たな知を創造しようとする態度、心理的な問題を把握し計画を立案できる行動力などへの貢献を目指す。

**【授業の内容】**

1. ガイダンス-学習心理学とは何か
2. 動機による行動変化過程
3. 内発的動機づけ
4. 経験による学習1-分類
5. 経験による学習2-レスポナント学習
6. 経験による学習3-オペラント学習
7. 経験による学習4-行動の増減
8. 経験による学習5-応用
9. 他者からの学習1-分類
10. 他者からの学習2-仕組み
11. 言語の習得1-生得的要因
12. 言語の習得2-語彙の獲得
13. 言語の習得3-文法の獲得
14. 言語の習得4-言語と身体
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回の授業範囲について参考図書等で予習し、専門用語を知っておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 授業内容について参考図書等を見直したり、わからなかった専門用語等を調べて理解しておくこと。（学修時間 週2時間程度。）

**【テキスト・教材】**

指定しない

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験（100%）

試験終了後、教室やmanabaで問題や解答の解説を行う。

**【参考書】**

- ・無藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治『心理学』（有斐閣.2004年）
- ・山内光哉・春木豊（編著）『グラフィック学習心理学：行動と認知』（サイエンス社）
- ・J. E. メイザー（著）磯博行・坂上貴之・河井伸幸（訳）『メイザーの学習と行動』（二瓶社）

**感性与生活情報システム**

感性工学的な評価方法について

佐藤 健

2年 前期 2単位

○：美の探究、研鑽力

**【授業のテーマ】**

感性kanseiは、感覚sensation、感情feeling、イメージimageあるいは印象impressionという心の働きとその背後にある生理的過程を指す用語として使われている。言葉にすることもなかなか難しい漠然とした心の働きであるため、それを科学研究の対象とする場合には、感性をどのように測定するかが重要なテーマになる。たとえば、色を答えられない乳児の中から色覚検査をする場合には、誘発脳波を使った検査が用いられる。したがって、感性の測定方法を講義し、実際にデータを収集して感性工学的な解釈ができるようになることを目標とする。具体的には、授業で実施可能な測定方法を取り上げ、受講生が実際に感覚、感情あるいはイメージの測定を行い、ネットワークコンピュータを利用してデータ処理を行う。また、感性工学や官能評価が応用されている日常生活のモノやシステム（ビックデータ、ディープデータ）を理解することを目標としている。

**【授業における到達目標】**

SAS等の高度な統計処理パッケージソフトを使って解析スキルを習得し、広い視野と深い洞察力を用いて自らの「研鑽力（○）」を高めることを目標とします。また、脳機能の知識を得て日常生活における「美の探求（○）」ができるようになる基本的な素養を習得することを目標とします。

**【授業の内容】**

- 第1週 感性とは何か
- 第2週 感性測定法（心理測定法について）
- 第3週 感性に関わる生活情報システム（ビックデータ）
- 第4週 ビックデータ・IoTのデータ解析について
- 第5週 感性測定法（尺度について）
- 第6週 尺度構成の測定とデータ処理
- 第7週 感性の生理測定法（中枢神経系）
- 第8週 感性の生理測定法（自律神経系）
- 第9週 感性測定の実際（情動と運動・リハビリテーション）
- 第10週 感性測定の実際（感情と心拍変動）
- 第11週 感知情報のデータ処理（ディープデータ）
- 第12週 感覚・知覚測定とセンサー
- 第13週 感覚・知覚測定（味覚測定）
- 第14週 快適性の評価
- 第15週 まとめ（期末レポートの作成と提出）

**【事前・事後学修】**

事前学修として、授業時に毎回小テストに相当する用語の理解を問う課題に回答する。事後学修として、授業後に毎回の授業内容を理解しているか確認する課題を学習システムのマナバに提出する。なお、期末レポート等と合わせて、約60時間相当の学修時間が必要です。

**【テキスト・教材】**

適宜、教場で示す。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

出席時の小テスト：30%、授業中に課すレポート：30%、期末テスト（レポート作成）：40%

レポートやデータの処理方法などは、随時フィードバックを行う

**【参考書】**

教場で指示する

**【注意事項】**

学外（自宅等）でもインターネットの利用ができる環境を持つことが望ましい。



**感染と防御**

佐々木 溪円

1年 前期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

**【授業のテーマ】**

私たちは免疫系の働きによって、病原微生物を異物として認識し排除することで、生命を維持しています。授業では、代表的な病原微生物等の特徴と免疫系の仕組みを学びます。

**【授業における到達目標】**

- 1) 代表的な病原微生物等の特徴を説明できる。
- 2) 感染源と宿主との関連性を概説できる。
- 3) 免疫系の仕組みを概説できる。
- 4) 代表的な感染症の特徴を説明できる。

**【この授業を履修して身につく態度・能力】**

◎：研鑽力 ○：美の探求、協働力

**【授業の内容】**

- 第1回 序説（微生物の特徴と分類学的位置）  
 第2回 細菌学総論 1（細菌の概要、代謝と増殖）  
 第3回 細菌学総論 2（細菌の分類、遺伝と変異）  
 第4回 ウイルス学総論（ウイルスの形態と分類、遺伝と変異）  
 第5回 真菌学総論（真菌の形態と分類、真菌による主な疾患）  
 第6回 原虫学総論、生活と微生物（原虫の形態と分類、プロバリオティクスとプレバリオティクス）  
 第7回 感染、発症と予防1（感染と発症）  
 第8回 感染、発症と予防2（感染源と感染経路、感染対策）  
 第9回 感染、発症と予防3（予防接種、化学療法）  
 第10回 免疫学総論1（一次リンパ器官、二次リンパ器官）  
 第11回 免疫学総論2（免疫応答と液性因子、感染と生体防御）  
 第12回 アレルギーと自己免疫疾患  
 （アレルギーの分類と機序、自己免疫反応の機序）  
 第13回 輸血、移植医療、栄養と免疫  
 第14回 感染症と原因微生物1  
 （呼吸器感染症、神経系感染症、消化器感染症）  
 第15回 感染症と原因微生物2  
 （その他の感染症、小児期のウイルス感染症）

**【事前・事後学修】**

- 事前学修：各授業の最後に、次回までに予習する範囲を示しますので、必ず予習をしてください。予習範囲について、各回の始めにプレテストを行います。（学修時間 週2時間）  
 ○事後学修：各回の復習課題を示しますので、次回授業前までに提出してください。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

林修 編著『新版 微生物と免疫』（建帛社 2014年）2,500円＋税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

評価配分：筆記試験70% + プレテスト15% + 復習課題提出15%  
 ※プレテスト等の正答を示しますので、復習に活用してください。

**【参考書】**

中込治・神谷茂 編『標準微生物学』（医学書院）  
 松島綱治・山田幸宏 訳『基礎免疫学』（エルゼビア・ジャパン）

**【注意事項】**

予習・復習をしても理解できなかった箇所は後回しにしないで、参考書で調べたり担当教員のオフィスアワーを活用して、次回の授業までに解決できるように努めてください。

## 漢字書法 1

—abcクラス・基礎から学ぶ漢字書法（楷書）—

亀田 絵里香

2年 前期 1単位

◎：美の探求 ○：行動力

### 【授業のテーマ】

楷書の基礎的理解と基礎技法の習得をはかる。

### 【授業における到達目標】

長い歴史の中で書は、人文的要素及び社会的要素によってその様式美を構築してきました。本講座では「楷書」の筆使いや筆運び、結体や結構という文字の構築方法を学び、基礎技法の修得を目標とします。実技では初唐の三大家の古典臨書を通じて書的美を味わいます。書を学ぶ楽しみを知り、生涯にわたって書を愛好する心情を育て、書を続ける【研鑽力】を修得することを期待します。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 書道用語・用具の説明
- 第3週 ①楷書とは ②学習指導要領
- 第4週 9つの基本点画
- 第5週 実技実習 二字句
- 第6週 実技実習 三字句
- 第7週 実技実習 《孔子廟堂碑》①概説 成立
- 第8週 実技実習 《孔子廟堂碑》②概説 虞世南と内容
- 第9週 実技実習 《九成宮醴泉銘》①概説 成立
- 第10週 実技実習 《九成宮醴泉銘》②概説 欧陽詢
- 第11週 実技実習 《九成宮醴泉銘》③概説 内容
- 第12週 実技実習 《雁塔聖教序》①概説 成立
- 第13週 実技実習 《雁塔聖教序》②概説 チョ遂良と内容
- 第14週 実技実習 硬筆
- 第15週 総括

### 【事前・事後学修】

【事前学修】上記授業の内容から予想される範囲を予習し、練習をしてこること。自分の文字の短所や課題を予め確認しておくこと。学習シートに取り組むこと。（学修時間 週1時間）

【事後学修】毎時きちんと筆と硯を洗うこと。時間をかけて丁寧に墨がなくなるまでしっかり洗うこと。講義終了時に配布する学習シートに取り組むこと。翌週の講義開始時に提出。（学修時間 週1時間）

### 【テキスト・教材】

『書の古典と理論』全国大学書道学会編、2013年出版（光村図書出版）2,160円

随時、プリントを配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点50%（用具の手入れ、書く姿勢、用具の持ち方、書技力、学習シート）、提出作品50%。

提出作品のフィードバックは都度行う。

### 【参考書】

実習内容に応じて指示をする。

### 【注意事項】

「漢字書法2」（後期）と合わせて履修することが望ましい。

実技と鑑賞の双方の能力を養い、感性を豊かにするように心掛けましょう。

## 漢字書法 1

—defクラス・基礎から学ぶ漢字書法—

小川 博章

2年 前期 1単位

◎：美の探求 ○：行動力

### 【授業のテーマ】

漢字書法の基礎を学ぶ。楷書における用筆・結構などの基礎技法を習得するとともに書作品の鑑賞眼を涵養する。

### 【授業の内容】

- 第1週 用具・用材の基礎解説
- 第2週 楷書概論、基本点画、永字八法
- 第3週 蘇慈墓誌の臨書①（結構法）
- 第4週 蘇慈墓誌の臨書②（線質特徴）
- 第5週 蘇慈墓誌の臨書③（章法）
- 第6週 九成宮醴泉銘の臨書①（結構法）
- 第7週 九成宮醴泉銘の臨書②（線質特徴）
- 第8週 九成宮醴泉銘の臨書③（章法）
- 第9週 雁唐聖教序の臨書①（結構法）
- 第10週 雁唐聖教序の臨書②（線質特徴）
- 第11週 雁唐聖教序の臨書③（章法）
- 第12週 楷書の創作①（結構法）
- 第13週 楷書の創作②（線質特徴）
- 第14週 楷書の創作③（章法）
- 第15週 楷書作品の鑑賞と評価

### 【事前・事後学修】

事前学修：指定された文字の筆順と字形特徴を確認する。

事後学修：自己作品の問題点をレスポンスシートに記入し提出する。関連する技法については次の授業で説明を加える。

### 【テキスト・教材】

『書の古典と理論』全国大学書道学会編（光村図書出版）2013年2000年+税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出課題と授業態度で総合評価します。評価基準は、結構法・用筆法などの基本的書法技術の習得を採点します。（評価配分は提出課題60%、授業態度40%）

### 【参考書】

『書道全集』（平凡社）

『書跡名品送叢刊』（二玄社）

### 【注意事項】

博物館・美術館の常設展や企画展を参観し、鑑賞眼を養ってください。

**漢字書法 2**

—abcクラス・基礎から学ぶ漢字書法（行書）—

亀田 絵里香

2年 後期 1単位

◎：美の探求 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

行書の基礎的理解と基礎技法の修得をはかる。

**【授業における到達目標】**

長い歴史の中で書は、人的要素及び社会的要素によってその様式美を構築してきました。本講座では「行書」の筆使いや筆運び、くずし方などの行書特有の規則の理解と表現を中心に基礎技法の修得を目標とします。実技では王羲之・チョ遂良・顔真卿の古典臨書を通じて、行書の美しさを味わいます。古典といわれる歴代の書の名品を鑑賞し、深い洞察力を育み、書を生涯にわたって続ける【研鑽力】を修得することを期待します。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 書道用語・用具の説明  
①行書とは ②学習指導要領
- 第3週 実技実習 基本用筆
- 第4週 実技実習 二字句
- 第5週 実技実習 五字句（仮名交じり）
- 第6週 実技実習《蘭亭序》①概説 成立
- 第7週 実技実習《蘭亭序》②概説 王羲之
- 第8週 実技実習《蘭亭序》③概説 内容
- 第9週 実技実習《集王聖教序》①概説 成立
- 第10週 実技実習《集王聖教序》②概説 内容
- 第11週 実技実習《枯樹賦》①概説 成立
- 第12週 実技実習《枯樹賦》②概説 チョ遂良と内容
- 第13週 実技実習《祭姪文稿》概説
- 第14週 実技実習 硬筆
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】上記授業の内容から予想される範囲を予習し、練習してくる。自分の文字の短所や課題を予め確認しておくこと。学習シートに取り組むこと。（学修時間 週1時間）

【事後学修】毎時きちんと筆と硯を洗うこと。時間をかけて丁寧に墨がなくなるまでしっかり洗うこと。講義終了時に配布する学習シートに取り組むこと。翌週の講義開始時に提出。（学修時間 週1時間）

**【テキスト・教材】**

『書の古典と理論』全国大学書道学会編、2013年出版（光村図書出版）2,160円

随時、プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点50%（用具の手入れ、書く姿勢、用具の持ち方、書技力、学習シート）、提出作品50%。

提出作品のフィードバックは都度行う。

**【参考書】**

実習内容に応じて指示をする。

**【注意事項】**

「漢字書法1」（前期）と合わせて履修することが望ましい。実技と鑑賞の双方の能力を養い、感性を豊かにするように心掛けましょう。

**漢字書法 2**

—defクラス・王羲之の魅力発見—

小川 博章

2年 後期 1単位

◎：美の探求 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

漢字書法の基礎を学ぶ。行草書における用筆・結構などの基礎技法を習得するとともに書作品の鑑賞眼を涵養する。

**【授業における到達目標】**

○古典臨書によって行草書筆法（結構法、線質特徴、章法）を修得し、行草書創作品を制作できるようになる。

○東洋独特の芸術である書法を身につけることで、学生が修得すべき「国際的視野」の日本文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度を修得する。

また、学生が修得すべき「研鑽力」の学修成果を実感して、自信を創出することができる。

**【授業の内容】**

- 第1週 行書概論、行書の基本筆法
- 第2週 王羲之、蘭亭序について
- 第3週 蘭亭序全臨①（基本点画の学習）
- 第4週 蘭亭序全臨②（点と線の学習）
- 第5週 蘭亭序全臨③（横画の学習）
- 第6週 蘭亭序全臨④（縦画の学習）
- 第7週 蘭亭序全臨⑤（左右はらいの学習）
- 第8週 蘭亭序全臨⑥（転折の学習）
- 第9週 蘭亭序全臨⑦（はねの学習）
- 第10週 蘭亭序全臨⑧（章法の学習）
- 第11週 蘭亭序全臨⑨（落款の学習）
- 第12週 蘭亭序全臨⑩（誤字、脱字の処理方法）
- 第13週 製本、装幀
- 第14週 相互評価
- 第15週 行書作品の鑑賞

**【事前・事後学修】**

事前学修：指定された文字の筆順と字形特徴を確認する。（学修時間 2時間）

事後学修：自己作品の問題点をレスポンスシートに記入し提出する。関連する技法については次の授業で説明を加える。（学修時間 2時間）

**【テキスト・教材】**

『書の古典と理論』全国大学書道学会編（光村図書出版）2013年 2000円＋税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

提出課題と授業態度で総合評価します。評価基準は、結構法・用筆法などの基本的書法技術の習得を採点します。（評価配分は提出課題60%、授業態度40%）

提出課題の評価については、次回授業中の各学生添削指導時にフィードバックします。

**【参考書】**

『書道全集』（平凡社）

『中国書跡名品叢刊』（二玄社）

**【注意事項】**

博物館・美術館の常設展や企画展を参観し、鑑賞眼を養ってください。

**漢文学 a**

—春秋戦国時代の歴史エピソードを読む—

田中 靖彦

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

この授業は、中国の春秋戦国時代（紀元前8～3世紀）の歴史エピソードを漢文で読みます。春秋戦国時代は、中国がいくつもの国に分かれて争った戦乱の時代であり、多くの人々が活躍し、後世に残る多くのエピソードを残しました。この授業では、それらの中から、とくに有名なもの、興味深く読めるものを選びすぐって講読し、漢文の読解力を身につけると同時に、中国のみならず日本でも広く知られている有名なエピソードを学び、中国史と漢文学に関する知識を広く習得することを目標とします。

**【授業における到達目標】**

1. 【知識力】漢文学とその歴史に関する知識を習得し、理解を深める。
2. 【国際的視野】中国の歴史と文化に対する関心を深め、自分の言葉で説明できる。
3. 【技能】漢字の持つ意味や来歴を理解し、日々の日本語使用において活用できる。
4. 【研鑽力】予習・授業・復習を計画的に行うことを通し、自律的な学修を継続できる力を養う。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 春秋戦国時代史概説（講義）
- 第3週 鄭の荘公
- 第4週 齊の桓公
- 第5週 晋の文公
- 第6週 宋襄の仁
- 第7週 趙盾弑君
- 第8週 孫武の兵法
- 第9週 伍子胥の復讐
- 第10週 呉越の抗争
- 第11週 孫ピンとホウ涓
- 第12週 弁舌の士・張儀
- 第13週 屈原の悲劇
- 第14週 韓非子
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】事前配布のプリントで、講義内容の予習をしておいてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業内で使用したプリントをもとに、講義内容をしっかり復習し、身につけてください。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

こちらでプリントを用意します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業への取り組み30%、試験70%で評価します。試験結果は、実施した次の回の授業にてフィードバックを行います。

**【参考書】**

漢和辞典を用意してください（電子辞書も可）。まだお持ちでない方は、ガイダンス時に漢和辞典についても触れますので、それを参考に購入してください。さらに深く学びたい方のための文献は、授業内で指示いたします。

**【注意事項】**

漢文や中国史に関心をお持ちの方の受講を、広く歓迎いたします。なお、授業進度などにより授業内容が一部変更となることがありますが、ご了承下さい。

**漢文学 b**

—『捜神記』を読む—

田中 靖彦

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

この授業は、『捜神記』を講読します。『捜神記』は、干宝（3～4世紀頃の人）が著した書で、不思議な話や奇怪な話を集めた短編エピソード集です。授業では、この『捜神記』の講読を通し、漢文の読解力を身につけると同時に、中国における「歴史」と「小説」の関係についても理解を深め、中国史と漢文学に関する知識を広く習得することを目標とします。

**【授業における到達目標】**

1. 【知識力】漢文学とその歴史に関する知識を習得し、理解を深める。
2. 【国際的視野】中国の歴史と文化に対する関心を深め、自分の言葉で説明できる。
3. 【技能】漢字の持つ意味や来歴を理解し、日々の日本語使用において活用できる。
4. 【研鑽力】予習・授業・復習を計画的に行うことを通し、自律的な学修を継続できる力を養う。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 『捜神記』とその時代（講義）
- 第3週 原序
- 第4週 卷一・左慈
- 第5週 卷一・于吉
- 第6週 卷一・劉根
- 第7週 卷一・徐光
- 第8週 卷二・死んだ妻との再会
- 第9週 卷三・喬玄
- 第10週 卷三・顔超
- 第11週 卷四・麋竺
- 第12週 卷八・青き衣の子
- 第13週 卷九・諸葛恪
- 第14週 卷十一・干将莫邪
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】事前配布のプリントで、講義内容の予習をしておいてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業内で使用したプリントをもとに、講義内容をしっかり復習し、身につけてください。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

こちらでプリントを用意します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業への取り組み30%、試験70%で評価します。試験結果は、実施した次の回の授業にてフィードバックを行います。

**【参考書】**

漢和辞典を用意してください（電子辞書も可）。まだお持ちでない方は、ガイダンス時に漢和辞典についても触れますので、それを参考に購入してください。さらに深く学びたい方のための文献は、授業内で指示いたします。

**【注意事項】**

漢文学や中国史に関心をお持ちの方の受講を、広く歓迎いたします。なお、授業進度などにより授業内容が一部変更となることがありますが、ご了承下さい。

**漢文学基礎講読 a**

—『三国志』講読—

田中 靖彦

1年 前期 2単位

○：国際的視野、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

この授業は、日本でも親しまれている『三国志』を教材として、漢文の訓読と読解を基礎から学ぶとともに、中国の歴史と文化に関する知識を深めることを目標とします。

**【授業における到達目標】**

1. 【知識力】漢文の読解・訓読の基礎を習得し、漢文を訓読・解釈できる。
2. 【国際的視野】中国の歴史と文化に対する関心を深め、自分の言葉で説明できる。
3. 【協働力】授業への積極的参加により、自己や他者の役割について理解を深める。
4. 【行動力】予習・授業・復習を計画的に行うことを通し、自律的な学修を継続できる力を養う。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス  
 第2週 三国時代と『三国志』（講義）  
 第3週 第1課「黄巾の乱」（蜀書二・先主伝）  
 第4週 第2課「董卓の専横」（魏書六・董卓伝）  
 第5週 第3課「曹操の挙兵」（魏書一・武帝紀）  
 第6週 第4課「孫堅の活躍」（呉書一・孫破虜伝）  
 第7週 第5課「劉備と関張」（蜀書六・関羽伝・張飛伝）  
 第8週 第6課「袁紹の覇権」（魏書六・袁紹伝）  
 第9週 第7課「官渡の戦い」（魏書一・武帝紀）  
 第10週 第8課「江東を託す」（呉書一・孫討逆伝）  
 第11週 第9課「三顧の礼」（蜀書五・諸葛亮伝）  
 第12週 第10課「長阪の忠臣」（蜀書六・趙雲伝）  
 第13週 第11課「赤壁の戦い」（呉書九・周瑜伝）  
 第14週 第11課「赤壁の戦い」「時劉備為曹公所破」から  
 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】テキストの指定範囲を、漢和辞典などを用いて予習しておいてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業で学習した範囲を中心に、訓読・日本語訳をしっかり復習し、身につけてください。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

石井仁・渡邊義浩・津田資久・伊藤晋太郎・田中靖彦『漢文講読テキスト 三国志』（白帝社、2008年）、1700円を使用します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業への取り組み30%、試験70%で評価します。試験結果は、実施した次の回の授業にてフィードバックを行います。

**【参考書】**

漢和辞典を用意してください（電子辞書も可）。まだお持ちでない方は、ガイダンス時に漢和辞典についても触れますので、それを参考に購入してください。さらに深く学びたい方のための文献は、授業内で指示いたします。

**【注意事項】**

漢文や中国史に関心をお持ちの方の受講を、広く歓迎いたします。なお、授業進度などにより授業内容が一部変更となることがありますが、ご了承下さい。

**漢文学基礎講読 b**

—『三国志』講読—

田中 靖彦

1年 後期 2単位

○：国際的視野、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

この授業は、日本でも親しまれている『三国志』を教材として、漢文の訓読と読解を基礎から学ぶとともに、中国の歴史と文化に関する知識を深めることを目標とします。

**【授業における到達目標】**

1. 【知識力】漢文の読解・訓読の基礎を習得し、漢文を訓読・解釈できる。
2. 【国際的視野】中国の歴史と文化に対する関心を深め、自分の言葉で説明できる。
3. 【協働力】授業への積極的参加により、自己や他者の役割について理解を深める。
4. 【行動力】予習・授業・復習を計画的に行うことを通し、自律的な学修を継続できる力を養う。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス  
 第2週 三国時代と『三国志』（講義）  
 第3週 第12課「劉備の入蜀」（蜀書七・ホウ統伝）  
 第4週 第13課「漢魏革命」（魏書二・文帝紀）  
 第5週 第13課「漢魏革命」「漢帝以衆望在魏……」から  
 第6週 第14課「遺孤を託す」（蜀書五・諸葛亮伝）  
 第7週 第15課「出師の表」（蜀書五・諸葛亮伝）  
 第8週 第15課「出師の表」「臣本布衣……」から  
 第9週 第16課「泣いて馬謖を斬る」（蜀書五・諸葛亮伝）  
 第10週 第17課「秋風五丈原」（蜀書五・諸葛亮伝）  
 第11週 第17課「秋風五丈原」「亮遺命葬……」から  
 第12週 第18課「正始の政変」（魏書九・曹真伝附・曹爽伝）  
 第13週 第19課「蜀漢の滅亡」（魏書二十八・鄧艾伝）  
 第14週 第20課「三国の統一」（呉書三・孫皓伝）  
 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】テキストの指定範囲を、漢和辞典などを用いて予習しておいてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業で学習した範囲を中心に、訓読・日本語訳をしっかり復習し、身につけてください。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

石井仁・渡邊義浩・津田資久・伊藤晋太郎・田中靖彦『漢文講読テキスト 三国志』（白帝社、2008年）、1700円を使用します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業への取り組み30%、試験70%で評価します。試験結果は、実施した次の回の授業にてフィードバックを行います。

**【参考書】**

漢和辞典を用意してください（電子辞書も可）。まだお持ちでない方は、ガイダンス時に漢和辞典についても触れますので、それを参考に購入してください。さらに深く学びたい方のための文献は、授業内で指示いたします。

**【注意事項】**

前期の「漢文学基礎講読 a」を履修済みであることが望ましいですが、必須ではありません。ただし未履修の場合は、予習と復習にいつそう重点を置いて学修を進めてください。漢文や中国史に関心をお持ちの方の受講を、広く歓迎いたします。なお、授業進度などにより授業内容が一部変更となることがありますが、ご了承下さい。

環境と産業技術 a

内山 政弘

1年～ 前期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

環境に関する社会意識の向上により産業活動はゼロ・エミッション（有害物質を排出しない）であることが要求されるようになった。また、国連総会において「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択された（SDGs, 2015/9/25）。SDGsには「17の目標と169のターゲット」が記載されているが、目標達成のためには科学技術の適切な適応が必須である。このような環境技術を丁寧に解説する。

【授業における到達目標】

「持続可能な環境技術」を「現行の技術」と対比的に理解することにより、現行の製品や企業活動が環境にどのような負荷を与えているかを判断する能力を涵養する。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション（SDGs）
- 第2週 エネルギーⅠ（熱力学）
- 第3週 エネルギーⅡ（電気エネルギー）
- 第4週 火力発電
- 第5週 水力発電
- 第6週 風力発電
- 第7週 洋上風力発電
- 第8週 太陽光発電
- 第9週 物質変換の化学（バイオマス燃料）
- 第10週 廃棄物処理
- 第11週 原子力発電
- 第12週 放射性廃棄物
- 第13週 省エネルギー技術
- 第14週 温暖化適応策
- 第15週 水銀汚染

【事前・事後学修】

事前学修として、次回の講義のキーワードを提示しますので事前に調べておいて下さい（週1時間）

毎授業終了前に10分程度の小テストを行ないます。テスト中に気付いた不明な点などについて事後学習を行ない、自己解決できない場合は次回の授業で質問を行なってください。（週3時間）。

【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業毎の小テストを基本として判断する。授業内容の要約70%、提示されたテーマについての文章30%で判断する。さらに履修生の希望に応じて提出された、環境科学に関する感想文やレポートなどにより加点する。必要であれば補習を行う。

環境と産業技術 a

君塚 芳輝

1年～ 前期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

本学の教壇に立って12年目になります。私は魚類学・河川環境論・魚道などを研究テーマとしていますが、講義題名には余りとりわけず分かりやすく話題提供をしていきたいと思っております。大学の療広場はなぜ雨の日でも歩き易いのか、光害とは何かなど、身近な環境の話題から本質を考えていきます。私自身が苦手な難しい数式や化学式などを必要とせず、易しい内容で展開します。“知識でなく柔軟な考え方を広める”ことがこの科目の最大の目標ですので、専門外の学生さんもどうか気楽に受講してください。強制ではありませんが、土休日に行なう野外の観察会を紹介しますので、興味がある方は積極的に参加して下さるよう希望します。この科目は特に1,2年生の受講をお奨めしますが、抽選になる場合があります。

【授業における到達目標】

一つの視点からでは解決できない環境問題を、複数の視点から考えて、理解できるようになることを目指しています。数学や物理学のように単一の回答が見出せない環境の問題を理解するための研鑽力、広い視野と深い洞察力を身につけることを目標としています。

【授業の内容】

1. 生活の中での生物への配慮—1 エコロードの考え方とは？
2. 生活の中での生物への配慮—2 動物を道路に入れない工夫
3. 生活の中での生物への配慮—3 小動物専用の橋を架ける
4. 生活の中での生物への配慮—4 動物にも迷惑な光害を防ぐ
5. 魚道を作って魚を助ける—1 魚道（ぎょどう）って一体なに？
6. 魚道を作って魚を助ける—2 川に段差が設けられる理由
7. 魚道を作って魚を助ける—3 地域の魚と河川の特性に合わせる
8. 魚道を作って魚を助ける—4 魚の溯上調査で決まる魚道の評価
9. 魚道を作って魚を助ける—5 必須要素である人間の安全対策
10. 身近なリサイクル・リユース—1 リサイクルの思想とは
11. 身近なリサイクル・リユース—2 リサイクル品の数々を見る
12. 身近なリサイクル・リユース—3 紙を中心に事例で見る
13. 水辺での安全管理—1 水難事故で命を落とさないために
14. 水辺での安全管理—2 水辺での安全な観察法を学ぶ
15. 前期のまとめと振り返り

【事前・事後学修】

毎回の授業前には、事前に配付されているテキストを読んで、不明な点や分かりにくい内容は積極的に質問をお願いします。授業中に書いて戴くアンケートにも、疑問点や意見を沢山書いてください。翌週に配布するアンケート結果のまとめで復習と解説をしますので、理解の一助にしてください。図書館や自宅では少なくとも90分以上の読み返しと、配布した「アンケート結果のまとめ」の全文の復習を行なってください。事前事後にそれぞれ4時間ずつの予習復習が必要です。

【テキスト・教材】

配付するプリントを使用します。特定の教科書は使いません。映像を毎回使用します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

テーマを決めたレポート2-3回程度で成績を評価します（90%）。レポートは講義の要約ではなく感想・意見・提言などを1000字程度でまとめてください。全員に返却し、解説を行ないません。希望者には細かく添削します。試験は行ないません。毎回の講義中に実施するヒアリングシートも皆さんの理解度を知る指標として評価します（10%）。土休日の観察会などへの出席（任意）や新聞記事などの資料提供にはささやかですが加点します。

【参考書】

それぞれの単元で文献を紹介あるいは回覧しますので、図書館などで読んで戴くことをお勧めします。参考文献の一覧も印刷して配

布します。

**【注意事項】**

それぞれの章が終わるまでは、前週までに配付したプリントを必ずお持ちください。休まれた方は翌週早めに取りに来てくださるよう。他の方の迷惑になる講義中の私語は慎んでください。できるだけ前後期通しての受講をお願いします。

**環境と産業技術 b**

君塚 芳輝

1年～ 後期 2単位

○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

本学の教壇に立って12年目になります。私は魚類学・河川環境論・魚道などを研究テーマとしていますが、講義題名には余りとらわれず分かりやすく話題提供をしていきたいと思えます。大学の燎広場はなぜ雨の日でも歩き易いのか、魚が住んでる田んぼの米はなぜ高く売れるのかなど、身近な環境の話題から本質を考えていきます。私自身が苦手な難しい数式や化学式などを必要とせず、易しい内容で展開します。“知識でなく柔軟な考え方を広める”がこの科目の最大の目標ですので、専門外の学生さんどうか気楽に受講してください。2017年度も多様なコースと専攻の方々が受講してくださいました。強制ではありませんが、土休日に行なう野外の観察会をご案内しますので、興味がある方は積極的に参加してくださいよう希望します。

この科目は特に1、2年生の受講をお奨めします。

**【授業における到達目標】**

一つの視点からでは解決できない環境問題を、複数の視点から考えて、理解できるようになることを目標としています。柔軟な発想を持てるように努力してください。大学が目標としている研鑽力のうちの広い視野と深い洞察力や展開力を身に付けることを目標としています。

**【授業の内容】**

1. 洪水から街を守る対策-1 洪水に備えるための色々な方法
2. 洪水から街を守る対策-2 雨水を溜める、地下に浸透させる
3. 洪水から街を守る対策-3 堤防を上げる、強化し破堤を防ぐ
4. 洪水から街を守る対策-4 放水路を掘って流せる量を増やす
5. 洪水から街を守る対策-5 調節池や調整池に一時水を溜める
6. 洪水から街を守る対策-6 地下鉄にも出水への備えがあった
7. 洪水から街を守る対策-7 私たちの生活の中でもできる協力
8. 水辺の楽校を知る-1 学校と水辺を近付ける努力が始まる
9. 水辺の楽校を知る-2 水辺と学校とを直接繋いだ「密着型」
10. 水辺の楽校を知る-3 利用する学校を特定しない「訪問型」
11. 水辺の楽校を知る-4 学校内で活動できる「日常活動型」
12. 水辺の楽校を知る-5 理念を考えない、残念な過剰整備
13. 水辺の楽校を知る-6 究極は整備を必要としない楽校
14. 水辺の楽校を知る-7 ここでも不可欠な安全管理の心得
15. 後期全体のまとめと前期の内容の紹介

**【事前・事後学修】**

毎回の授業前後には事前に配付されているテキストを読んで、不明な点や分かりにくい内容は積極的に質問をお願いします。授業中に毎回書いて戴くアンケートにも、疑問点や意見を沢山書いてください。翌週に配布するアンケート結果のまとめで復習と解説をしますので、理解の一助にしてください。また図書館や自宅ではプリントの復習や疑問点を見いだせるように、それぞれ120分以上の事前事後学習を行なってください。

**【テキスト・教材】**

配付するプリントを使用します。特定の教科書は使いません。映像を毎回使用するのがこの科目の特色です。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

テーマを決めたレポート2-3回程度で成績を評価します(90%)。レポートは講義の要約ではなく感想・意見・提言などで1000字程度でまとめてください。希望者には細かく添削の上で、全員に返却します。レポート返却後には解説を行いません。試験は行いません。講義中に実施するアンケートも皆さんの理解度を知るための指標として評価します(10%)。土休日の観察会などへの出席(任意)や、新聞記事などの資料提供にはささやかですが加点します。

**【参考書】**

参考図書はその都度指示します。

**【注意事項】**

それぞれの章が終わるまでは、前週までに配付したプリントを必ずお持ちください。休まれた方は翌週早めに取りに来てくださるよう  
に。他の方の迷惑になる講義中の私語は慎んでください。できるだけ前後期通しての受講をお願いします。



**環境マーケティング論 a**

持続可能（サステナブル）な社会に向けた企業の取り組みを学ぶ

白鳥 和彦

2・3年 前期 2単位

○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

マーケティングとは、広告宣伝のことだけではなく、市場や顧客と関係する企業活動全般（企画、開発、生産、販売、コミュニケーション等）について意味する幅広い概念として捉えます。また、近年は環境問題をはじめ、地球規模での社会課題が拡大するなか、持続可能（サステナブル）な社会づくりに向けて、企業をはじめ、国連や各国政府、NPO/NGOなど様々な組織が取り組みを加速させています。社会の中で企業の役割は大きく、その取り組みを知り、学ぶことが重要です。本論では、まず企業を中心とした環境経営（環境マネジメントシステム、環境製品・サービス創出、環境コミュニケーションなど）を中心に、概念、歴史的経緯、基本的な考え方や実際の取り組みなどを詳しく学習します。さらに、新たな消費者（市民）の在り方、国際社会の動きなど、持続可能な社会づくりに向けた最新の動きについて学び、これからの社会や企業を考えるための視野を広げていきます。2018年度においては、本論 a と b は基本的に同内容とし、受講者の特性や関心の深さにより適切な事例を取り上げます。

**【授業における到達目標】**

持続可能な社会、環境制約社会に向けた企業や組織の活動やマーケティングに関する基礎知識について理解・修得します。それらに対して、自分なりの視点・考え方を持つ力を向上させます。また学生が持つべき「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を発見する力を養います。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション 産業と環境
- 第2週 環境問題の変遷と社会課題の現状
- 第3週 環境マーケティング1 マーケティングの基本
- 第4週 環境マーケティング2 ビジネスの基本構造
- 第5週 環境経営の取り組み1 環境製品
- 第6週 環境経営の取り組み2 環境ラベル、エコマーク
- 第7週 環境経営の取り組み3 温暖化防止・省エネルギー
- 第8週 環境経営の取り組み4 資源循環・3R、環境マネジメントシステム
- 第9週 環境経営の取り組み5 自然保護活動・社会貢献活動
- 第10週 取り組みの拡大 環境経営からCSR経営へ
- 第11週 環境コミュニケーション1 環境・CSRレポート
- 第12週 環境コミュニケーション2 市場の評価、ソーシャルマーケティング
- 第13週 新しい消費者（市民） エコ社会、エシカル消費
- 第14週 持続可能な開発目標 SDGs
- 第15週 まとめ

※数回毎にコメントペーパー、課題提出をします

**【事前・事後学修】**

事前学修：次回の授業範囲を予習し、専門用語の理解する。提出課題に取り組む（学修時間 週2時間）

事後学修：講義内容を復習し、社会で起きている事象を自らの視点で考えまとめなおす（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを使用します。必要に応じて企業のWebサイト等オープン情報を使用します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

小テスト50%、平常点（コメントペーパー、課題提出）50%  
提出課題などについては次回授業でフィードバックを行います。

**【参考書】**

白鳥和彦『環境企業家と環境経営の新展開』税務経理協会（2009）  
野村 佐智代， 鶴田 佳史， 佐久間 信夫『よくわかる環境経営』ミネルヴァ書房（2014）

**環境マーケティング論 b**

持続可能（サステナブル）な社会に向けた企業の取り組みを学ぶ

白鳥 和彦

2・3年 前期 2単位

○：行動力

**【授業のテーマ】**

マーケティングとは、広告宣伝のことだけではなく、市場や顧客と関係する企業活動全般（企画、開発、生産、販売、コミュニケーション等）について意味する幅広い概念として捉えます。また、近年は環境問題をはじめ、地球規模での社会課題が拡大するなか、持続可能（サステナブル）な社会づくりに向けて、企業をはじめ、国連や各国政府、NPO/NGOなど様々な組織が取り組みを加速させています。社会の中で企業の役割は大きく、その取り組みを知り、学ぶことが重要です。本論では、まず企業を中心とした環境経営（環境マネジメントシステム、環境製品・サービス創出、環境コミュニケーションなど）を中心に、概念、歴史的経緯、基本的な考え方や実際の取り組みなどを詳しく学習します。さらに、新たな消費者（市民）の在り方、国際社会の動きなど、持続可能な社会づくりに向けた最新の動きについて学び、これからの社会や企業を考えるための視野を広げていきます。2018年度においては、本論 a と b は基本的に同内容とし、受講者の特性や関心の深さにより適切な事例を取り上げます。

**【授業における到達目標】**

持続可能な社会、環境制約社会に向けた企業や組織の活動やマーケティングに関する基礎知識について理解・修得します。それらに対して、自分なりの視点・考え方を持つ力を向上させます。また学生が持つべき「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を発見する力を養います。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション 産業と環境
- 第2週 環境問題の変遷と社会課題の現状
- 第3週 環境マーケティング1 マーケティングの基本
- 第4週 環境マーケティング2 ビジネスの基本構造
- 第5週 環境経営の取り組み1 環境製品
- 第6週 環境経営の取り組み2 環境ラベル、エコマーク
- 第7週 環境経営の取り組み3 温暖化防止・省エネルギー
- 第8週 環境経営の取り組み4 資源循環・3R、環境マネジメントシステム
- 第9週 環境経営の取り組み5 自然保護活動・社会貢献活動
- 第10週 取り組みの拡大 環境経営からCSR経営へ
- 第11週 環境コミュニケーション1 環境・CSRレポート
- 第12週 環境コミュニケーション2 市場の評価、ソーシャルマーケティング
- 第13週 新しい消費者（市民） エコ社会、エシカル消費
- 第14週 持続可能な開発目標 SDGs
- 第15週 まとめ

※数回毎にコメントペーパー、課題提出をします

**【事前・事後学修】**

事前学修：次回の授業範囲を予習し、専門用語の理解する。提出課題に取り組む（学修時間 週2時間）

事後学修：講義内容を復習し、社会で起きている事象を自らの視点で考えまとめなおす（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを使用します。必要に応じて企業のWebサイト等オープン情報を使用します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

小テスト50%、平常点（コメントペーパー、課題提出）50%  
提出課題などについては次回授業でフィードバックを行います。

**【参考書】**

白鳥和彦『環境企業家と環境経営の新展開』税務経理協会（2009）  
野村 佐智代， 鶴田 佳史， 佐久間 信夫『よくわかる環境経営』ミネルヴァ書房（2014）

**環境マーケティング論演習 a**

持続可能（サステナブル）な社会を目指す企業の事例研究

白鳥 和彦

2・3年 後期 2単位

○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

環境マーケティング論（aまたはb）で学んだことに引き続き、企業の環境経営、環境製品、環境コミュニケーションなどについて事例研究を行います。

近年は地球環境問題への対応だけでなく、社会的課題への対応も企業に求められています（CSR：社会的責任）。企業が環境や社会的課題に対する取り組みを、何故・何のために、どのようにしているのか。その結果がどうであったのかなど、表面的な事項だけでなく、企業（組織）の内部および外部の視点も交えて深く分析します。自分なりの見解を加え、発表する等の演習も行います。それらを通して、企業の取り組みについて知識を深めると同時に、事例研究の方法、分析やまとめ方、発表・プレゼンなど、実際に社会で役立つ能力を修得します。

2018年度の本演習aでは、数社に絞って環境マーケティング論で学んだ項目に対する分析・事例研究を行います。

**【授業における到達目標】**

持続可能な社会、環境制約社会に向けた企業や組織の活動（環境経営・CSR経営）やマーケティングに対する知見を深めることが出来、また自分なりの視点や考え方を持つ力を養います。学生が持つべき「行動力」のうち、分析や評価能力、問題解決力を育成します。「研鑽力」のうち、広い視野と洞察力を養います。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 事例研究1 現状分析（環境対応、社会課題対応）1
- 第3週 製品・サービス、事業活動等の分析1
- 第4週 経営環境分、コミュニケーション等の分析1
- 第5週 分析まとめとプレゼンテーション1
- 第6週 事例研究2 現状分析（環境対応、社会課題対応）2
- 第7週 製品・サービス、事業活動等の分析2
- 第8週 経営環境分、コミュニケーション等の分析2
- 第9週 分析まとめとプレゼンテーション2
- 第10週 事例研究3 現状分析（環境対応、社会課題対応）3
- 第11週 製品・サービス、事業活動等の分析3
- 第12週 経営環境分、コミュニケーション等の分析3
- 第13週 分析まとめとプレゼンテーション3
- 第14週 環境製品・サービスのグループワーク・ディスカッション
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：次回の授業範囲を予習（配布教材、Web調査等）する。  
発表等の課題に取り組む（学修時間 週2時間）  
事後学修：講義内容やワークシート、発表等を復習し、あらためて自らの理解、分析を見直す（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントやワークシートを使用します。演習テーマに応じて、企業のCSRレポートやWeb情報などオープン情報を使用します（都度、入手・調査方法は指示します）。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート20%（最終講義で解説を含むフィードバック行います）  
平常点（ワークシート記入、課題提出、発表）80%

**【参考書】**

必要に応じ参考文献を紹介いたします。

**【注意事項】**

個人ワーク、グループワーク、発表を織り交ぜた演習とします。環境マーケティング論aまたはb（前期）を受講していると、理解が深まります。

**環境マーケティング論演習 b**

持続可能（サステナブル）な社会を目指す企業の事例研究

白鳥 和彦

2・3年 後期 2単位

○：協働力

**【授業のテーマ】**

環境マーケティング論（aまたはb）で学んだことに引き続き、企業の環境経営、環境製品、環境コミュニケーションなどについて事例研究を行います。

近年は地球環境問題への対応だけでなく、社会的課題への対応も企業に求められています（CSR：社会的責任）。企業が環境や社会的課題に対する取り組みを、何故・何のために、どのようにしているのか。その結果がどうであったのかなど、表面的な事項だけでなく、企業（組織）の内部および外部の視点も交えて深く分析します。自分なりの見解を加え、発表する等の演習も行います。それらを通して、企業の取り組みについて知識を深めると同時に、事例研究の方法、分析やまとめ方、発表・プレゼンなど、実際に社会で役立つ能力を修得します。

2018年度の本演習bでは、項目毎に顕著な取り組みを行っている企業の事例を取り上げ、分析・事例研究を行います。

**【授業における到達目標】**

持続可能な社会、環境制約社会に向けた企業や組織の活動（環境経営・CSR経営）やマーケティングに対する知見を深めることが出来、また自分なりの視点や考え方を持つ力を養います。学生が持つべき「行動力」のうち、分析や評価能力、問題解決力を育成します。「研鑽力」のうち、広い視野と洞察力を養います。

**【授業の内容】**

- 第1週 BtoC産業の製品・サービス事例分析1 住宅・住関連産業
- 第2週 BtoC産業の製品・サービス事例分析2 自動車産業
- 第3週 BtoB産業の事例分析1 原材料メーカーとリサイクル産業
- 第4週 環境・社会課題に活動するNPO/NGOの事例分析
- 第5週 環境製品の訴求手法分析1 環境ラベル
- 第6週 環境製品の訴求手法分析2 環境マーケティング
- 第7週 環境貢献・社会貢献活動とその訴求分析
- 第8週 環境コミュニケーションの手法分析 環境・CSRレポート
- 第9週 環境・CSR活動に対する評価分析 ランキング・ESG投資
- 第10週 環境/CSR経営・コミュニケーションの事例分析 飲料・食品産業
- 第11週 製造業の環境/CSR経営の事例分析（個別企業選定）
- 第12週 分析検討のまとめと発表
- 第13週 環境・社会課題に対応した製品・サービスの企画検討
- 第14週 企画検討結果のグループワーク・ディスカッション・発表
- 第15週 まとめ

※毎回ワークシート記入、数回毎に発表を行う

**【事前・事後学修】**

事前学修：次回の授業範囲を予習（配布教材、Web調査等）する。  
発表等の課題に取り組む（学修時間 週2時間）  
事後学修：講義内容やワークシート、発表等を復習し、あらためて自らの理解、分析を見直す（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントやワークシートを使用します。演習テーマに応じて、企業のCSRレポートやWeb情報などオープン情報を使用します（都度、入手・調査方法は指示します）。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート20%（最終講義で解説を含むフィードバック行います）  
平常点（ワークシート記入、課題提出、発表）80%

**【参考書】**

必要に応じ参考文献を紹介いたします。

**【注意事項】**

その他個人ワーク、グループワーク、発表を織り交ぜた演習とします。環境マーケティング論aまたはb（前期）を受講していると、理解が深まります。

## 環境マネジメント論

君塚 芳輝

2・3年 後期 2単位

©：研鑽力

## 【授業のテーマ】

私たちが周りの環境に配慮するのは、享受している快適性や恩恵（生態系サービス）を維持するため、倫理観から、などの理由があります。これら環境や生態系に配慮する活動は、企業や学校として社会貢献活動の実践をアピールする効果もあることを認識してください。この科目では自然を保護する、河川環境を理解する、田んぼで自然環境を再生するなどの題材から、我々が自然環境に配慮する意義と効果について考えを深めていくことを目指しています。

## 【授業における到達目標】

自然環境を守る意義は道徳観や倫理観の発露ばかりでなく、自然を保全や再生をさせることで実は経済や産業を発展させる「環境経営」の考え方を理解し会得することを目指してください。

15回の授業を受けた後では一つの事象に対して複数の立場から考え分析する力（研鑽力）が会得できるようになることが到達目標です。

## 【授業の内容】

1. 講義内容や受講の説明と15回の講義の概要
2. 雨水の貯溜と再利用-1 雨水を容器に貯めて利用する意義
3. 雨水の貯溜と再利用-2 家庭や学校で小型タンクに溜める
4. 雨水の貯溜と再利用-3 大型施設でトイレ洗浄や散水に利用
5. 雨水の貯溜と再利用-4 雨水の地下浸透と再利用の融合施設
6. 水田と水路の自然を理解する-1 水路の人工化が進んでいます
7. 水田と水路の自然を理解する-2 浅い水路には豊かな自然が
8. 水田と水路の自然を理解する-3 深い水路は米をつくる工場だ
9. 水田と水路の自然を理解する-4 水路と水田を利用する稀少魚
10. 水田と水路の自然を理解する-5 生物付加価値米は農家を救う
11. 水田と水路の自然を理解する-6 水路と水田を魚道で繋ぐ
12. 水田と水路の自然を理解する-7 教育水田で農地を守る意識を
13. 水田と水路の自然を理解する-8 農業用水路を学びの場にする
14. 水田と水路の自然を理解する-9 両極端な集団営農と生き物米
15. 講義のまとめと振り返り 環境を見る眼は育ちましたか？

## 【事前・事後学修】

毎回の授業前には、配布されたテキストを必ず事前に読んでおいてください。内容で不明な点や分かりにくい所は積極的に質問をお願いします。アンケートのまとめを作成して翌週にプリントにまとめて配布しますので、事後学修の助けとしてください。講義後は図書館や自宅で予習と復習それぞれ2時間以上の学修を行ってください。

## 【テキスト・教材】

特定の教科書は使わず、配布するプリントと映像で講義を進めます。配布したプリントはその章が終るまでは毎回お持ち願います。講義では毎回スライドと一部動画も使って理解の助けとします。映像の使用はこの科目の特色一つです。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

それぞれの章を終わった時に800-1200字程度のレポートを書いて戴いて評価（90%）するほか、毎週書いて出されるリスボンシートも点数化（10%）します。レポートは返却し解説を行いません。定期試験は行ないません。

強制ではありませんが、私に関わる水辺での活動に積極的に参加してください。ささやかですが加点をします

## 【参考書】

参考文献は章ごとにプリントに記入し、一部は回覧します。図書館で読んでください。

## 【注意事項】

他の受験生に迷惑となる講義中の私語は慎んでください。ご質問や希望などがあれば口答でも、毎回授業中に書いて戴く感想シートでも、積極的に伝え願えれば対応を致します。

**環境科学**

山崎 和彦  
1年～ 前期 2単位  
○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

先ず生命の起源および人類の進化について論じる。次に、いろいろな環境要素を取り上げ、人類との関わり、近年の研究例、技術的課題等について論じる。

**【授業における到達目標】**

本科目の学修を通じて、広い視野と深い洞察力を身につける。また、多様性を受容し、多角的な視点を以て世界に臨む態度を身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週 生命の起源
- 第2週 人類の歴史
- 第3週 温熱環境
- 第4週 空気について
- 第5週 光環境
- 第6週 色環境
- 第7週 音環境
- 第8週 衣服
- 第9週 住まい
- 第10週 入浴
- 第11週 睡眠環境
- 第12週 環境汚染
- 第13週 都市
- 第14週 宇宙
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

毎回の講義において資料を配付する。その中で、事前学修については、講義に臨む前に調べておくべき事項あるいは準備しておくべき事項について示す。また事後学修については、復習のための要領（参考書の提示、定期試験対策、その他）を示す。なお、これらを口頭で示すこともある。事前および事後学修については、週あたり、各々2時間以上を充てるようにする。

**【テキスト・教材】**

資料を配付する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験70%、平常点（授業態度）30%とする。学生へのフィードバックについては、定期試験終了後、1週間以内を目処に、共通科目用の掲示板において、エラーが多かった設問についての解説、成績の分布、講義を通じて感じたこと等を掲示する。またマナバに掲載された学生による改善すべき点、不満等に対しては、マナバ上で回答し、次回に活かす。

**【参考書】**

適宜示す。

**環境科学**

内山 政弘  
1年～ 後期 2単位  
○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

人類の生産活動が招いた環境問題は複雑な過程を経て発生している。環境問題を科学的に理解するために必要な知識を提供するとともに、その問題を解決するための考え方を提示する。

**【授業における到達目標】**

現在の環境問題を科学的に理解することにより、将来の新たな環境問題を把握する能力を涵養する。

**【授業の内容】**

- 第1週 環境科学序論
- 第2週 温室効果序論
- 第3週 温室効果ガスの働き
- 第4週 オゾンホール
- 第5週 大気汚染序論 I（反応）
- 第6週 大気汚染序論 II（移流・沈着）
- 第7週 都市大気汚染
- 第8週 エアロゾル(PM2.5)
- 第9週 残留性有機物汚染(POPs)
- 第10週 重金属汚染
- 第11週 環境水化学
- 第12週 リスクコミュニケーション
- 第13週 再生可能エネルギー
- 第14週 生物多様性(環境倫理)
- 第15週 環境問題の国際的枠組み

**【事前・事後学修】**

事前学修として、次回の講義のキーワードを提示しますので事前に調べておいて下さい（週1時間）

毎授業終了前に10分程度の小テストを行ないます。テスト中に気付いた不明な点などについて事後学習を行ない、もし自己解決できない場合は次回の授業で質問を行なってください。（週3時間）。

**【テキスト・教材】**

必要に応じてプリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業毎の小テストを基本として判断する。授業内容の要約70%、提示されたテーマについての文章30%で判断する。さらに履修生の希望に応じて提出された、環境科学に関する感想文やレポートなどにより加点する。必要であれば補習を行う。

**環境科学概論**

菅野 元行

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

経済発展や大量生産・消費・廃棄の生活により様々な環境問題が生じていることに気づき、環境に配慮した持続可能な生活を実現するための基本的な環境科学を学習します。eco検定などの環境社会分野でも特に理科の知識が必要な点を取り上げて、理科が得意でなくても理解できるような環境科学の基礎を説明します。

**【授業における到達目標】**

- ①社会や生活と環境の関わりを科学的に理解し、環境や資源に配慮した生活に主体的に取り組めるようになる。
- ②当学科の環境領域で学ぶエネルギー、環境社会、地域自立エネルギーの基本を理解して、それぞれの関係性を修得する。以上により学生が習得すべき「研鑽力」「行動力」を身につけることを目的とする。

**【授業の内容】**

- 1 オリエンテーション
- 2 持続可能な社会とは
- 3 環境化学の基本、大気成分
- 4 地球の生い立ち1：磁場の形成
- 5 地球の生い立ち2：大気成分
- 6 大気圏の種類と役割
- 7 オーロラの発生と可視光線
- 8 電磁波の種類、周波数とエネルギー
- 9 温室効果ガスの特徴と種類
- 10 地球温暖化の防止に関わる国際的取り組み
- 11 地球温暖化の防止に関わる生活スタイル
- 12 オゾン層、紫外線、フロンガスの密接な関係
- 13 オゾン層の保護対策
- 14 光化学スモッグと紫外線の関係
- 15 酸性雨、エネルギー、循環型社会

**【事前・事後学修】**

【事前学修】授業や課題で分からない言葉は事前に調べておいてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】課題A（各授業日の内容を400字以上の文章にする）を設定しますので、復習に役立ててください。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

必要に応じてプリントを配布します。  
団体から無償提供された資料も配布しながら授業を進めます。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

毎回の授業時のポイントの記載で2割、課題A（上記参照）で8割が基本です。さらに履修生の希望に応じて、課題B（環境・エネルギーに関する新聞記事調査）、課題C（環境・エネルギーに関する展示の感想文）を提出することも可能です。課題Aは毎週、課題B・Cは随時、フィードバックを行います。

**【参考書】**

参考となる書籍は授業中に回覧します。

**【注意事項】**

※毎回の授業時には、授業のポイントの記載（「成績評価の方法」参照）とともに、質問や意見を記載するコメントペーパーを毎回配布しますので、質問の記入などに役立ててください。

※私語、写真撮影など他の受講者の迷惑となる行為を禁止します。授業の妨げになると判断した場合は、教室からの退席を求めることがあります。

※事前に断りの無い途中退室や、授業開始後30分以上経過した後の入室を禁止します。その他の注意事項等の説明は初回の講義で行います。

**環境経済学**

経済の視点から環境問題について考える

野津 喬

2・3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

これまで私たちが当たり前のもので享受してきた自然資源は、私たち自身の経済活動の影響によって有限の資源としての性格が強めつつあります。この授業では経済が環境に与える影響、環境と調和した経済のあり方を考えることを目的とします。講義形式を主体としますが基本的に数式は使うことなく、グループディスカッションや交渉演習を通じた体感的な理解を目指します。

**【授業における到達目標】**

- ①環境と経済の関係について基本的な知識を身につける。
- ②環境と経済の関係について自分の言葉で論理的に説明できるようになる。
- ③環境問題をテーマとしたディスカッション及び交渉に関する基礎的能力を身につける。

これにより、学生が取得すべき「研鑽力」のうち幅広い視野と深い洞察力と「行動力」を身につけることを目標とします。

**【授業の内容】**

次の各テーマについて、15回の授業を行う予定です。

1. はじめに（講義の進め方及び目標、イントロダクション）
2. 環境と「経済」①（近くて遠いゴミ問題）
3. 環境と「経済」②（リデュース・リユース）
4. 環境と「経済」③（リサイクル・シェア）
5. 環境と「経済」④（産業振興と公害問題）
6. 環境と「経済」⑤（身近な迷惑問題）
7. 環境と「政策」①（環境の経済価値評価①）
8. 環境と「政策」②（環境の経済価値評価②）
9. 環境と「政策」③（環境政策の手段）
10. 環境と「交渉」①（交渉体験、交渉の基礎）
11. 環境と「交渉」②（交渉の理論）
12. 環境と「交渉」③（交渉術）
13. 環境と「交渉」④（環境問題の模擬交渉）
14. まとめ（これまでの授業の総括）
15. 授業の理解度確認

**【事前・事後学修】**

【事前学修】次の授業の参考資料に事前に目を通しておいてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】毎回の講義終了時に実施する小テスト等を復習すること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

manabaに講義で使用するプリント等を掲載しますので、各自で事前にプリントアウトして忘れずに授業に持参してください。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末試験（40%）、交渉演習（25%）、各回の講義の定着度を確認する小テスト（35%）により評価を行います。フィードバックは、関連する範囲の講義資料を全てmanabaに掲示することにより行います。

**【参考書】**

植田和弘（著）『環境経済学』（岩波書店 1996）2,700円、日引聡・有村俊秀（著）『入門 環境経済学』（中央公論新社 2002）842円、田村次郎・一色正彦・隅田浩司（著）『ビジュアル解説 交渉学入門』（2010 日本経済新聞出版社）1,728円（※参考書の購入の可否については、初回の講義でお伝えします。）

**【注意事項】**

他の受講者の迷惑となる行為（私語など）を禁止します。講義の妨げになると判断した場合は、成績評価に反映（減点）し、注意しても改善されない場合は講義からの退席を求められます。講義開始後10分以上経過した後の入室は遅刻、30分以上経過した後の入室は欠席扱いとします。その他の注意事項等の説明は初回の講義で行います。

**環境工学及び調査**

原子力発電と放射性廃棄物、環境問題、プラスチックのリサイクル

菅野 元行

2・3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

産業、文化の発達に伴い、環境問題は変遷しつつも、絶えることがありません。その原因について考察し、防止する技術について学びます。本講義では、原子力発電（原発）と放射性廃棄物、社会や生活に関わる環境問題、生活廃棄物のリサイクルの仕組みについて学習します。

**【授業における到達目標】**

- ①原子力発電と放射性廃棄物、環境問題、プラスチックなど廃棄物のリサイクルの仕組みを理解する。
- ②環境問題に目を向ける習慣を身につけるため、自主的に環境問題を調査し検討する姿勢を身につける。以上により学生が習得すべき「研鑽力」「行動力」を身につけることを目的とする。

**【授業の内容】**

- 1 オリエンテーション
  - 2 原発の歴史、国内外の原発の状況
  - 3 元素の同位体、放射性元素
  - 4 原子力発電：核分裂反応
  - 5 原子力発電：発電の仕組み
  - 6 原子力発電における事故
  - 7 原発：放射性廃棄物、核燃料サイクル
  - 8 放射線と放射能
  - 9 核融合反応
  - 10 環境問題に関わる講演聴講
  - 11 有機化学の基本、プラスチックの製造
  - 12 プラスチックの種類と用途
  - 13 プラスチック廃棄物のリサイクル
  - 14 ライフサイクルアセスメント
  - 15 製紙、再生紙の製造方法
- ※化学の知識を必要としますが、不明な点は何なりと質問してください。

**【事前・事後学修】**

【事前学修】授業や課題で分からない言葉は事前に調べておいてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】課題A（各授業日の内容を文章にする）を設定しますので、復習に役立ててください。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

必要に応じてプリントを配布します。  
団体から無償提供された資料も配布しながら授業を進めます。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

毎回の授業時のポイントの記載で2割、課題A（上記参照）で8割が基本です。さらに履修生の希望に応じて、課題B（環境・エネルギーに関する新聞記事調査）、課題C（環境・エネルギーに関する展示の感想文）を提出することも可能です。課題Aは毎週、課題B・Cは随時、フィードバックを行います。

**【参考書】**

『わかる×わかった！ 環境化学』（オーム社 2011年）2,500円＋税 その他、各授業回の内容に関するホームページ等

**【注意事項】**

※「環境科学概論」と同様に、毎回の授業時に、授業のポイントの記載とともに、質問や意見を記載するコメントペーパーを毎回配布しますので、質問の記入などに役立ててください。

※私語、写真撮影など他の受講者の迷惑となる行為を禁止します。授業の妨げになると判断した場合は、教室からの退席を求めることがあります。

※事前に断りの無い途中退室や、授業開始後30分以上経過した後の入室を禁止します。その他の注意事項等の説明は初回の講義で行います。

**環境心理学**

-人と環境の関わり-

小林 美紀

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

**【授業のテーマ】**

環境心理学は、人間と環境の心理面・行動面での関わりを扱う学問である。50年程度の短い歴史しか持たないが、実際の環境整備に役立てようという問題意識から、建築計画・環境工学の分野を中心に建築の分野でも研究が盛んに行われている。

この授業では、これまでに蓄積されてきた知見について講述すると共に、課題を通じて実際に知識を使いこなすスキルを身につける。

**【授業における到達目標】**

・環境心理学の諸分野で蓄積されてきた知見について理解し、環境デザインに適用できるようになる

→これまでの知を活かし、新たな知を創造していく力を身に付ける  
学修を通して自己成長する力を身に付ける

課題解決のために主体的に行動する力を身に付ける

**【授業の内容】**

- 第1講 環境心理学とは
- 第2講 ほのめかす環境
- 第3講 環境知覚
- 第4講 人間関係の環境
- 第5講 認知される環境
- 第6講 環境の評価構造
- 第7講 環境心理的デザイン 課題
- 第8講 環境心理的デザイン 発表
- 第9講 環境の安全性
- 第10講 環境の使いやすさ
- 第11講 環境ストレス
- 第12講 環境美学
- 第13講 少数派の環境
- 第14講 デザインプロセスと環境
- 第15講 環境心理学の今後

**【事前・事後学修】**

事前に、テキストを読んでおくこと。

授業後は、授業内容と対応した配布プリントをもとに復習をすること。また、いくつか授業内容と関連した課題が課されるので、期限までに提出すること。

(学修時間 週4時間)

**【テキスト・教材】**

榎 究著『環境心理学 -環境デザインへのパースペクティブ-』(春風社), 2010年(2286円+税)をテキストとして使用し、授業と関連するプリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

課題(授業時間中の小テストも含む)と、平常点(積極的な授業参加)により総合評価を行う。

(課題:85%、授業態度:15%)

課題については、相互評価を実施する。

**【参考書】**

大野隆造、小林美紀『安全で心地よい環境をつくる 人間都市学』(井上書院), 2011年(2700円+税)

日本建築学会編『建築空間のヒューマナイズ』(彰国社), 2001年(2400円+税)

日本建築学会編『人間環境学』(朝倉書店) 1998年(3900円+税)

R. ギフォード著(羽生和紀・榎究・村松陸雄 監訳)『環境心理学(上・下)』(北大路書房), 2005年(4800円+税), 2007年(5600円+税)

**【注意事項】**

日常の中に、環境心理的事象がたくさん埋もれている。授業で学んだことをヒントに、日常を探索して欲しい。また、その経験を活かし、積極的に課題に取り組んで欲しい。

## 環境人間工学実験A

山崎 和彦

生活環境学専攻 後期 1単位

### 【授業のテーマ】

環境生理学、環境科学、人類学、人間工学、工業デザイン等の領域における各種の研究テーマに関し、先ず基礎的な実験手法を習得する。次に応用的研究を行い、その成果について発表する。

### 【授業における到達目標】

学修を通じて、課題の発見、目標の設定、計画の立案、問題解決、実行、そして優れたプレゼンテーション能力を身につける。真理を探究することにより、新たな知を創造しようとする態度を身につける。

### 【授業の内容】

- 第1週 概要説明
- 第2週 人体計測の基礎的実験
- 第3週 人体計測の応用的実験
- 第4週 身体動作の基礎的実験
- 第5週 身体動作の応用的実験
- 第6週 運動生理学の基礎的実験
- 第7週 運動生理学の応用的実験
- 第8週 温熱生理学の基礎的実験
- 第9週 温熱生理学の応用的実験
- 第10週 生体電気の基礎的実験
- 第11週 生体電気の応用的実験
- 第12週 感覚に関する基礎的実験
- 第13週 感覚に関する応用的実験
- 第14週 自由課題による実験
- 第15週 成果の発表、総括

### 【事前・事後学修】

今回の実験内容に関連する文献を提示するので、事前に学習して臨む必要がある。また実験後には、レポートを作成し、今回の実験の開始前迄に提出すること。なおレポート作成に際し、引用文献を充実させることが重要である。事前および事後の学修のための時間については、週あたり、各々2時間以上とする。

### 【テキスト・教材】

適宜、資料を提示する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート40%、実験に取り組む姿勢40%、成果の発表20%とする。学生へのフィードバックについては、授業の後または日常の空き時間において、レポート内容や成果の発表内容に関し、優れるところや不足するところ等について、学生個人ごとに講評する。また、全てを終えた後、半期全体を振り返り、総評を述べる。

### 【参考書】

適宜、文献等を示す。

### 【注意事項】

実験に適した服装を心がけること。

## 環境人間工学実験B

佐藤 健

生活環境学専攻 後期 1単位

### 【授業のテーマ】

人間工学実験は、近年の少子高齢化が加速していく中、重要な役割を果たす学問領域である。この人間工学実験では、障害者や高齢者のQuality Of Life (生活の質: QOL) の向上を実現するために、自立、そしてバリアフリーを工学的に支援する方法・手段を研究する。

### 【授業における到達目標】

個々の研究テーマの研究背景、実験内容をきちんと理解し、短期目標を各々自ら設定し、それを期限内に達成できること。

### 【授業の内容】

- 第1週 授業の進め方について
- 第2週 授業における個々の研究テーマを設定
- 第3週 授業における個々の研究テーマを実施計画
- 第4週 授業における個々の研究テーマの先行研究調査
- 第5週 授業における個々の研究テーマの研究課題を検索
- 第6週 授業における個々の研究テーマの短期目標
- 第7週 実験の準備状況
- 第8週 プレテスト状況
- 第9週 実験実施
- 第10週 実験の成果について
- 第11週 実験データのノイズ処理
- 第12週 実験データの高度な処理
- 第13週 実験データの統計処理
- 第14週 実験データの検定方法
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

文献を読んだり、実験機材の準備におよそ30時間程度必要。

### 【テキスト・教材】

教場で指示する

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

文献調査：30%、実験計画と実施：50%、結果発表：20%

### 【参考書】

教場で指示する

### 【注意事項】

特になし



**環境人間工学実験C**

3Dプリンターを使いこなす。

塚原 肇

生活環境学専攻 後期 1単位

**【授業のテーマ】**

前期で学んだプロダクトデザインの背景、技術をもとに、実際の生活用具のデザインおよび制作を行う。

**【授業における到達目標】**

3DCADでデザインを行い、3Dプリンターで試作を行うノウハウを身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週：ガイダンス
- 第2週：スケッチアップを理解する
- 第3週：スケッチアップで部屋のインテリアを描く
- 第4週：スケッチアップでテッシュボックスを描く
- 第5週：3DCADを理解する
- 第6週：3DCADでマグカップを描く
- 第7週：3Dプリンタを理解する
- 第8週：3Dプリンタでマグカップを作製する
- 第9週：文房具をデザインする
- 第10週：3DCADで文房具を入力する
- 第11週：3Dプリンタで文房具を作製する
- 第12週：アクセサリをデザインする
- 第13週：3DCADでアクセサリを入力する
- 第14週：3Dプリンタでアクセサリを制作する
- 第15週：まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】授業時間内に作品を完成させるために、演習テーマのコンセプトやデザインは事前に決定しておく。（学習時間 週最低2時間以上）

【事後学修】授業時間内に完成しなかった作品は必ず自宅で作成して次の課題の構想を練っておく。（学習時間 週最低2時間以上）

**【テキスト・教材】**

必要に応じて資料を配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業の取り組み（20%）、受講レポート（40%）、プレゼンテーション（40%）で評価する

実際に3Dプリンターで作製したモノを使用して、使い勝手、デザイン等の評価レポートを作成しプレゼンテーションを行う。

**【参考書】**

テキスト：PRODUCT DESIGN [プロダクトデザイン] 商品開発に関わるすべての人へ 発行・販売：ワークスコーポレーション 定価：本体3200円+税 ISBN978-86267-063-2C3055

**【注意事項】**

これからの生産現場では3Dプリンターが主役になります。是非、使いこなせるようになってください。

**環境人間工学特論A**

山崎 和彦

生活環境学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

環境生理学、環境科学、人類学、人間工学、工業デザイン等の領域における各種の書籍あるいは論文を取り上げ、講読および討議を行う。

**【授業における到達目標】**

本科目の履修を通じて、広い視野、洞察力、多様な価値観、および国際感覚を身につける。さらに、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたる知を探究し、学問を続ける態度を身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週 概要説明
- 第2週 寒冷の人体影響に関する和文の講読
- 第3週 高温の人体影響に関する和文の講読
- 第4週 環境科学系の和文の講読
- 第5週 人類学に関する和文の講読
- 第6週 人間工学に関する和文の講読
- 第7週 工業デザインに関する和文の講読
- 第8週 寒冷の人体影響に関する英文の講読
- 第9週 高温の人体影響に関する英文の講読
- 第10週 環境科学系の英文の講読
- 第11週 人類学に関する英文の講読
- 第12週 人間工学に関する英文の講読
- 第13週 工業デザインに関する英文の講読
- 第14週 自由選択による英文の講読
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

指定した書籍や論文等を事前に読解しておく。また、講義の後、学習内容および討議内容について復習し、レポート用紙1～2枚にまとめ、次の講義開始前迄に提出すること。事前および事後の学修については、週当たり、各々少なくとも2時間以上を充てて臨む必要がある。

**【テキスト・教材】**

書籍や文献等を適宜使用する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

論文の発表40%、討議への参加状況40%、レポート20%とする。学生へのフィードバックについては、毎回の授業後および日常の空き時間において、レポートについての講評、学生の優れるところ、考察の不足するところ等について、学生各人に対し講評する。また、全ての授業を終えた後、総評を行う。

**【参考書】**

書籍や文献等を適宜提示する。

## 環境人間工学特論B

佐藤 健

生活環境学専攻 前期 2単位

### 【授業のテーマ】

近年、生体信号を用いて、福祉機器の制御や評価を行う試みが進められている。そのために必要な生体信号とその処理の方法について学習する。理論や計算だけでなく、信号処理ソフトによる演習も行う。

### 【授業における到達目標】

生体信号の種類とその特徴について理解できる。  
生体信号を利用する際に必要なその処理や制御の方法を理解できる。  
MATLAB, VEEなどのソフトウェアを用いてそれらの処理を実現できる。

### 【授業の内容】

第1週 授業内容の全体について  
第2週 生体信号の種類とその特徴について  
第3週 生体信号に特徴的な増幅の方法について  
第4週 生体信号のMATLABへの入力と移動平均処理について  
第5週 生体信号のMATLABによるフーリエ変換処理について  
第6週 生体信号のMATLABによる逆フーリエ変換処理について  
第7週 生体信号のデジタル信号処理について  
第8週 生体信号のフーリエ変換について  
第9週 生体信号のZ変換処理について  
第10週 生体信号のデジタルフィルタについて  
第11週 デジタルフィルタ処理（ローパスフィルタ）  
第12週 デジタルフィルタ処理（バンドパスフィルタ）  
第13週 生体信号のデジタルフーリエ変換  
第14週 Wavelet変換  
第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

生体信号の種類を調べておくことにおよそ30時間程度必要  
AD変換の基本データの処理におよそ30時間程度必要

### 【テキスト・教材】

教場で指示する

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

演習課題30%×3回以上により、100%とする  
課題は、発表し解説を行う。

### 【参考書】

教場で指示する

### 【注意事項】

特になし

## 環境人間工学特論C

プロダクトデザインの手法を理解する

塚原 肇

生活環境学専攻 前期 2単位

### 【授業のテーマ】

プロダクトデザインの手法・理念は、今や多くの企業が経営戦略として活用しています。それは工業の領域にとどまらず、アパレル、建築、農業の領域にまで及んでいます。本講義では、モノ作りからマーケティングまで、幅広くプロダクトデザインの世界を解説する。

### 【授業における到達目標】

プロダクトデザインの手法・プロセスを理解して、様々な分野で応用できる技術を身につける。

### 【授業の内容】

第1週：ガイダンス  
第2週：プロダクトデザインの背景  
第3週：社会とプロダクトデザイン  
第4週：企業とプロダクトデザイン  
第5週：デザインマネジメント  
第6週：デザインプロセス  
第7週：ユーザ評価のための手法  
第8週：コンセプトのための手法  
第9週：視覚化のための手法  
第10週：デザイン評価のための手法  
第11週：科学とデザイン  
第12週：マーケティングとデザイン  
第13週：技術とデザイン  
第14週：シックスシグマ  
第15週：まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲を予習し、分からない専門用語等は必ず下調べをしておく。（学習時間 週最低2時間以上）

【事後学修】 授業の内容を再度通読して理解できているかどうかを自分なりに判断する。分からない部分があれば、次回の授業あるいは空き時間に質問する。（学習時間 週最低2時間以上）

### 【テキスト・教材】

必要に応じてコピーを配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業の取り組み（20%）、受講レポート（40%）、プレゼンテーション（40%）で評価する  
終了時にプロダクトデザインの取組についてのプレゼンテーションを行い、コメントを与える。

### 【参考書】

テキスト：PRODUCT DESIGN [プロダクトデザイン] 商品開発に関わるすべての人へ 発行・販売：ワークスコーポレーション 定価：本体3200円+税 ISBN978-86267-063-2C3055

### 【注意事項】

プロダクトデザインの手法とプロセスは多くの分野の問題解決に応用が聞きます。いずれの分野に進むにしてもしっかり身につけることを推奨します。

## 環境文化学演習A

大川 知子

生活環境学専攻 後期 1単位

### 【授業のテーマ】

前期の講義を踏まえ、1960年代以降から現代に至るまでのファッションの変遷を、他の領域も交えながら多角的に分析する。現在、市場においては、各領域が融合すると同時に、多様な広がりを見せており、その動向についても、フィールドワーク等を実施しながら議論する。

### 【授業における到達目標】

1. 実際に現場に足を運び、実感の伴う中から様々な課題を抽出し、多角的に分析する力を養う。
2. 現代生活者のライフスタイルの潮流を理解し、それを様々な分野に応用出来る力を醸成する。

### 【授業の内容】

- 第1週 ファッションの民主化とは何か ※課題の提示
- 第2週 ビートジェネレーション—米国のカウンターカルチャー
- 第3週 スウィングロンドン—英国のストリートカルチャー
- 第4週 日本にもたらされた影響
- 第5週 フィールドワーク1/第2～4週の検証
- 第6週 フィールドワークの成果報告
- 第7週 課題の中間報告
- 第8週 グローバルな視点から見る日本のファッションの独自性
- 第9週 世界はどこに注目するのか—日本のデザインとサービス
- 第10週 フィールドワーク2/第8～9週の検証
- 第11週 フィールドワークの成果報告
- 第12週 ライフスタイルビジネスの創出—融合する領域
- 第13週 フィールドワーク2/第12週の検証
- 第14週 フィールドワークの成果報告
- 第15週 課題の最終報告

### 【事前・事後学修】

フィールドワーク終了毎のレポート提出（学修時間 2時間）。最終課題に向けての準備（学修時間計 30時間程度）。

### 【テキスト・教材】

織研新聞、WWD JAPAN、日経MJ他、関連資料を配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

フィールドワークの成果報告 50%、課題の発表 50%。全ての報告は、授業内にフィードバックを行なう。

## 環境文化学特論A

大川 知子

生活環境学専攻 前期 2単位

### 【授業のテーマ】

ファッションを、生活を創造するための一領域と捉え、史実やその文化的背景を探りながら、「衣」のみならず、ファッションに関連したライフスタイル全般について、19世紀半ばから現代に至る変遷を文化的な視点から検証する。

### 【授業における到達目標】

1. ファッションが、それぞれの時代によって、どのように変化してきたのかを理解する。
2. 歴史を踏まえた上で、変化の激しい現代社会の課題を整理し、分析する力を養う。
3. 課題を通して、自身の歴史観を構築し、社会で応用出来る力を醸成する。

### 【授業の内容】

- 第1週 時代の表象としてのファッション ※課題の提示
- 第2週 『有閑階級の理論』—新興富裕層の勃興
- 第3週 『ディスタクシオン』—文化資本とは何か
- 第4週 ファッション産業の構造特性
- 第5週 産業パラダイムの転換—工業化社会への進展
- 第6週 課題の中間報告
- 第7週 情報化社会におけるファッション—メディアと情報の受容
- 第8週 『モードの体系』—ファッションの記号化
- 第9週 顕示的消費の意味
- 第10週 『模倣の法則』—情報の伝播
- 第11週 ライフスタイル産業の成立—衣食住の融合
- 第12週 ライフスタイル産業の現状(1)衣を端緒にする事例研究
- 第13週 ライフスタイル産業の現状(2)食を端緒にする事例研究
- 第14週 ライフスタイル産業の現状(3)住を端緒にする事例研究
- 第15週 最終課題の発表

### 【事前・事後学修】

1. 前週に配布される関連資料を読み、要約をした上で、授業に臨むこと（学修時間 2時間）。
2. 初回に提示した課題を継続的に行い、報告を行なう（学修時間計 30時間程度）。

### 【テキスト・教材】

1. ディディエ・グランバック『モードの物語』文化出版局（2013年）8,000円（税別）
  2. ピエール・ブルデュー『ディスタクシオンI、II』藤原書店（1990年）5,900円（税別）
- 他、適宜資料を配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題発表 80%、授業参画 20%。全ての課題は報告時にフィードバックを行なう。

### 【参考書】

1. ブリュノ・デュ・ロゼル『20世紀モード史』平凡社（1995年）5,800円
  2. 浜野安宏『ファッション化社会』ビジネス社（1970年）古書 ※研究室で所蔵
  3. 遠藤武・石山彰『図説 日本洋装百年史』文化服装学院（1962年）古書 ※研究室で所蔵
- その他、織研新聞、WWD JAPANなどの業界紙 ※図書館、及び研究室で購読中。

## 環境文化論

—身の回りの自然と文化—

西脇 智子

1・2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

私たち人間の生活は周囲の環境との相互作用によって作られてきました。人間は自然に働きかけてそれを改変し、独自の文化的な環境を作り出しました。環境の善し悪しは私たちの生活の質に結びついています。この授業では、身近な環境を「自然」と「文化」の両面から見ていきます。都市の中に残された自然の意味や「まち」の環境の問題点や課題をチェックして、人間が人間らしく暮らしていくための環境づくりの進め方について考えます。

### 【授業における到達目標】

- ・広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる「研鑽力」を修得することをめざします。
- ・物事の真理を探究し「美の探究」を実践できるようになることをめざします。

### 【授業の内容】

- 第1週 環境と人間
- 第2週 地球のなりたちと自然の働き
- 第3週 人間活動と環境問題
- 第4週 地球温暖化の問題
- 第5週 ゴミ問題（家庭内）
- 第6週 ゴミ問題（地域社会）
- 第7週 環境省の取り組み
- 第8週 廃棄物
- 第9週 グリーンコンシューマー
- 第10週 3R
- 第11週 エコな江戸の暮らし方
- 第12週 ふろしきにみる文化
- 第13週 ふろしきの包み方
- 第14週 エコツーリズム
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

- ・事前学修：授業の内容に照らした配布資料を読んで予習します。（学修時間 週2時間）
- ・事後学修：授業内容に照らして復習し、授業時に出された課題に取り組みます。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

配布資料のプリントを使用します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題レポート60%、平常点（授業中の発言、ドリル、作業）40%。  
ドリルは次回授業、課題レポートの結果は授業最終回でフィードバックを行います。

### 【参考書】

嘉田由紀子『環境社会学』岩波書店、2002年、2700円

## 看護学

小川 敬子

2・3年 後期 2単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

#### 【授業テーマ】

①いのちを守る ②女性の健康 ③青年期を生きる ④ストレスとメンタルヘルス ⑤生活習慣病とその予防 ⑥症状の見方と看護、救急法 ⑦高齢者と介護の7項目を具体的なテーマとする。

#### 【授業における到達目標(Diploma policy)】

看護学講座では、上記4項目の達成目標に向け、授業を展開していく。

学生が修得すべき「美の探究」のうち、優しさと強さを兼ね備え、倫理観を以て人格を陶冶しようとする態度を培う。また、「行動力」として、問題解決につなげることができる力を養う。

### 【授業における到達目標】

#### 【授業目標】

1. 自分自身及び家族の健康の保持・増進のための基礎知識を学び、『健康』に関心をもつことができるようになる。
2. 救急法並びに介護に必要な知識と技術の基礎を理解する。
3. いのちの尊さについて考えを深め、エビデンスに基づいた積極的行動の必要性が理解できる。
4. ヘルスプロモーション活動の一環として自分で新たな健康行動が取れるようになる。

### 【授業の内容】

#### 【授業の内容】

第1週 オリエンテーション

～いのちを守る～

『ヘルスプロモーションと看護』

第2週 女性と健康

・女性の身体

・女性特有の病気とその予防

・リプロダクティブヘルス/ライツとは

第3週 妊娠と出産、育児を楽しむ

・妊娠と出産はDVD鑑賞をとおして考える

・乳幼児の発育と発達・育児をサポートする仕組み

第4週 青年期前期と性・STI(性感染症)予防

・若者の性と避妊・感染症について・STIの予防

第5週 現代社会とアルコール・ドラッグ・依存症について

第6週 メンタルヘルス：ストレスと健康

第7週 メンタルヘルス：ストレスとリラクゼーション

第8週 身体の観察方法：バイタルサインとは

・身体の仕組みと働き

・バイタルサイン：体温、呼吸、脈拍、血圧、意識レベルの見方

第9週 身体の観察方法：血圧測定と血圧のメカニズム

～オムロンヘルスケア株式会社 学術開発部担当者による講義と体験学習～

第10週 身近な症状、病気と対処法

第11週 緊急時の対応：応急処置／救急法

～日野消防署職員による救急蘇生法・AEDのデモンストレーションと体験学習60分～

・DVD、資料による纏め30分

第12週 生活習慣病とその予防

第13週 高齢者と健康(第1回)

・高齢者保健の理念と保健福祉施策・認知症について

・高齢者におこりやすい症状や疾病

第14週 高齢者と健康(第2回)

・介護を支える知識と技術

第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

#### 【事前学修】

- ・健康に関する新聞記事を読むことを前半の自己準備学修とする。

また、健康の記録(母子手帳、予防接種、健康診断等)を見て、自分の健康状況を把握することを準備学修とする。

・次回の授業テーマを身近に感じられるように専門用語について調べる。事前学修については、授業ごとに周知する(2時間/週)。

#### 【事後学修】

- ・授業で学んだことを復習し課題に取り組むこと(2時間/週)。

### 【テキスト・教材】

教材：テキストは使用しない。理解度を高めるため、適宜、資料・リーフレットを配布する。血圧測定、救急蘇生法・AEDは体験学習を行い、正しい知識と技術の習得の一助とする。また、アルコールパッチテスト等も行う。ストレスチェックや音楽、呼吸法等リラクゼーション法の体験学習も実施する。

テーマにより、DVD鑑賞を行い具体的な状況把握や技術の習得に役立てる。出産のDVDは、いのちの誕生の実際をとおして考えを深める。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み姿勢(演習の取り組み、リアクションペーパーによる学修状況等含む)30%、課題30%、試験40% 計100点満点

リアクションペーパーにより授業の理解度を確認し、補足確認及び質問は次週の授業でフィードバックする。試験については、manaba上にてフィードバックする。

### 【注意事項】

- ・毎回授業テーマが異なるため、出来得る限り出席のこと。
- ・出欠確認は主にリアクションペーパーを用いて行う。原則としてリアクションペーパーの提出があっても内容記載が全く無い場合(学籍番号と氏名のみ記載となっている場合)は欠席扱いとする。
- ・大切な健康を守るための看護知識や技術、病気の予防について教養として学んでほしい。
- ・演習には積極的かつ真摯に臨み、学修した知識・技術・態度を社会に還元できるように努力する。

**看護学**

小川 敬子

2年 後期 2単位

○：国際的視野、行動力

**【授業のテーマ】****【授業テーマ】**

①いのちを守る ②女性の健康 ③青年期を生きる ④ストレスとメンタルヘルス ⑤生活習慣病とその予防 ⑥症状の見方と看護、救急法 ⑦高齢者と介護の7項目を具体的なテーマとする。

**【授業における到達目標(Diploma policy)】**

看護学講座では、上記4項目の達成目標に向け、授業を展開していく。

学生が修得すべき「美の探究」のうち、優しさと強さを兼ね備え、倫理観を以て人格を陶冶しようとする態度を培う。また、「行動力」として、問題解決につなげることができる力を養う。

**【授業における到達目標】****【授業目標】**

1. 自分自身及び家族の健康の保持・増進のための基礎知識を学び、『健康』に関心をもつことができるようになる。
2. 救急法並びに介護に必要な知識と技術の基礎を理解する。
3. いのちの尊さについて考えを深め、エビデンスに基づいた積極的行動の必要性が理解できる。
4. ヘルスプロモーション活動の一環として自分で新たな健康行動が取れるようになる。

**【授業の内容】****【授業の内容】**

第1週 オリエンテーション

～いのちを守る～

『ヘルスプロモーションと看護』

第2週 女性と健康

・女性の身体

・女性特有の病気とその予防

・リプロダクティブヘルス/ライツとは

第3週 妊娠と出産、育児を楽しむ

・妊娠と出産はDVD鑑賞をとおして考える

・乳幼児の発育と発達・育児をサポートする仕組み

第4週 青年期前期と性・STI(性感染症)予防

・若者の性と避妊・感染症について・STIの予防

第5週 現代社会とアルコール・ドラッグ・依存症について

第6週 メンタルヘルス：ストレスと健康

第7週 メンタルヘルス：ストレスとリラクゼーション

第8週 身体の観察方法：バイタルサインとは

・身体の仕組みと働き

・バイタルサイン：体温、呼吸、脈拍、血圧、意識レベルの見方

第9週 身体の観察方法：血圧測定と血圧のメカニズム

～オムロンヘルスケア株式会社 学術開発部担当者による講義と体験学習～

第10週 身近な症状、病気と対処法

第11週 緊急時の対応：応急処置／救急法

～日野消防署職員による救急蘇生法・AEDのデモンストレーションと体験学習60分～

・DVD、資料による纏め30分

第12週 生活習慣病とその予防

第13週 高齢者と健康(第1回)

・高齢者保健の理念と保健福祉施策・認知症について

・高齢者におこりやすい症状や疾病

第14週 高齢者と健康(第2回)

・介護を支える知識と技術

第15週 まとめ

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

- ・健康に関する新聞記事を読むことを前半の自己準備学修とする。

また、健康の記録(母子手帳、予防接種、健康診断等)を見て、自分の健康状況を把握することを準備学修とする。

- ・次回の授業テーマを身近に感じられるように専門用語について調べる。事前学修については、授業ごとに周知する(2時間/週)。

**【事後学修】**

- ・授業で学んだことを復習し課題に取り組むこと(2時間/週)。

**【テキスト・教材】**

教材：テキストは使用しない。理解度を高めるため、適宜、資料・リーフレットを配布する。血圧測定、救急蘇生法・AEDは体験学習を行い、正しい知識と技術の習得の一助とする。また、アルコールパッチテスト等も行う。ストレスチェックや音楽、呼吸法等リラクゼーション法の体験学習も実施する。

テーマにより、DVD鑑賞を行い具体的な状況把握や技術の習得に役立てる。出産のDVDは、いのちの誕生の実際をとおして考えを深める。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業への取り組み姿勢(演習の取り組み、リアクションペーパーによる学修状況等含む)30%、課題30%、試験40% 計100点満点  
リアクションペーパーにより授業の理解度を確認し、補足確認及び質問は次週の授業でフィードバックする。試験については、manaba上にてフィードバックする。

**【注意事項】**

- ・毎回授業テーマが異なるため、出来得る限り出席のこと。
- ・出欠確認は主にリアクションペーパーを用いて行う。原則としてリアクションペーパーの提出があっても内容記載が全く無い場合(学籍番号と氏名のみ記載となっている場合)は欠席扱いとする。
- ・大切な健康を守るための看護知識や技術、病気の予防について教養として学んでほしい。
- ・演習には積極的かつ真摯に臨み、学修した知識・技術・態度を社会に還元できるように努力する。

## 看護学

小川 敬子

2年 後期 2単位

○：国際的視野、行動力

## 【授業のテーマ】

## 【授業テーマ】

①いのちを守る ②女性の健康 ③青年期を生きる ④ストレスとメンタルヘルス ⑤生活習慣病とその予防 ⑥症状の見方と看護、救急法 ⑦高齢者と介護の7項目を具体的なテーマとする。

## 【授業における到達目標(Diploma policy)】

看護学講座では、上記4項目の達成目標に向け、授業を展開していく。

学生が修得すべき「美の探究」のうち、優しさと強さを兼ね備え、倫理観を以て人格を陶冶しようとする態度を培う。また、「行動力」として、問題解決につなげることができる力を養う。

## 【授業における到達目標】

## 【授業目標】

1. 自分自身及び家族の健康の保持・増進のための基礎知識を学び、『健康』に関心をもつことができるようになる。
2. 救急法並びに介護に必要な知識と技術の基礎を理解する。
3. いのちの尊さについて考えを深め、エビデンスに基づいた積極的行動の必要性が理解できる。
4. ヘルスプロモーション活動の一環として自分で新たな健康行動が取れるようになる。

## 【授業の内容】

## 【授業の内容】

第1週 オリエンテーション

～いのちを守る～

『ヘルスプロモーションと看護』

第2週 女性と健康

・女性の身体

・女性特有の病気とその予防

・リプロダクティブヘルス/ライツとは

第3週 妊娠と出産、育児を楽しむ

・妊娠と出産はDVD鑑賞をとおして考える

・乳幼児の発育と発達・育児をサポートする仕組み

第4週 青年期前期と性・STI(性感染症)予防

・若者の性と避妊・感染症について・STIの予防

第5週 現代社会とアルコール・ドラッグ・依存症について

第6週 メンタルヘルス：ストレスと健康

第7週 メンタルヘルス：ストレスとリラクゼーション

第8週 身体の観察方法：バイタルサインとは

・身体の仕組みと働き

・バイタルサイン：体温、呼吸、脈拍、血圧、意識レベルの見方

第9週 身体の観察方法：血圧測定と血圧のメカニズム

～オムロンヘルスケア株式会社 学術開発部担当者による講義と体験学習～

第10週 身近な症状、病気と対処法

第11週 緊急時の対応：応急処置／救急法

～日野消防署職員による救急蘇生法・AEDのデモンストレーションと体験学習60分～

・DVD、資料による纏め30分

第12週 生活習慣病とその予防

第13週 高齢者と健康(第1回)

・高齢者保健の理念と保健福祉施策・認知症について

・高齢者におこりやすい症状や疾病

第14週 高齢者と健康(第2回)

・介護を支える知識と技術

第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

## 【事前学修】

・健康に関する新聞記事を読むことを前半の自己準備学修とする。

また、健康の記録(母子手帳、予防接種、健康診断等)を見て、自分の健康状況を把握することを準備学修とする。

・次回の授業テーマを身近に感じられるように専門用語について調べる。事前学修については、授業ごとに周知する(2時間/週)。

## 【事後学修】

・授業で学んだことを復習し課題に取り組むこと(2時間/週)。

## 【テキスト・教材】

教材：テキストは使用しない。理解度を高めるため、適宜、資料・リーフレットを配布する。血圧測定、救急蘇生法・AEDは体験学習を行い、正しい知識と技術の習得の一助とする。また、アルコールパッチテスト等も行う。ストレスチェックや音楽、呼吸法等リラクゼーション法の体験学習も実施する。

テーマにより、DVD鑑賞を行い具体的な状況把握や技術の習得に役立てる。出産のDVDは、いのちの誕生の実際をとおして考えを深める。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み姿勢(演習の取り組み、リアクションペーパーによる学修状況等含む)30%、課題30%、試験40% 計100点満点

リアクションペーパーにより授業の理解度を確認し、補足確認及び質問は次週の授業でフィードバックする。試験については、manaba上にてフィードバックする。

## 【注意事項】

(全学科の再履修・編入生 対象)

## 看護学

小川 敬子

3年 後期 2単位

○：国際的視野、行動力

## 【授業のテーマ】

## 【授業テーマ】

①いのちを守る ②女性の健康 ③青年期を生きる ④ストレスとメンタルヘルス ⑤生活習慣病とその予防 ⑥症状の見方と看護、救急法 ⑦高齢者と介護の7項目を具体的なテーマとする。

## 【授業における到達目標(Diploma policy)】

看護学講座では、上記4項目の達成目標に向け、授業を展開していく。

学生が修得すべき「美の探究」のうち、優しさと強さを兼ね備え、倫理観を以て人格を陶冶しようとする態度を培う。また、「行動力」として、問題解決につなげることができる力を養う。

## 【授業における到達目標】

## 【授業目標】

1. 自分自身及び家族の健康の保持・増進のための基礎知識を学び、『健康』に関心をもつことができるようになる。
2. 救急法並びに介護に必要な知識と技術の基礎を理解する。
3. いのちの尊さについて考えを深め、エビデンスに基づいた積極的行動の必要性が理解できる。
4. ヘルスプロモーション活動の一環として自分で新たな健康行動が取れるようになる。

## 【授業の内容】

## 【授業の内容】

第1週 オリエンテーション

～いのちを守る～

『ヘルスプロモーションと看護』

第2週 女性と健康

・女性の身体

・女性特有の病気とその予防

・リプロダクティブヘルス/ライツとは

第3週 妊娠と出産、育児を楽しむ

・妊娠と出産はDVD鑑賞をとおして考える

・乳幼児の発育と発達・育児をサポートする仕組み

第4週 青年期前期と性・STI(性感染症)予防

・若者の性と避妊・感染症について・STIの予防

第5週 現代社会とアルコール・ドラッグ・依存症について

第6週 メンタルヘルス：ストレスと健康

第7週 メンタルヘルス：ストレスとリラクゼーション

第8週 身体の観察方法：バイタルサインとは

・身体の仕組みと働き

・バイタルサイン：体温、呼吸、脈拍、血圧、意識レベルの見方

第9週 身体の観察方法：血圧測定と血圧のメカニズム

～オムロンヘルスケア株式会社 学術開発部担当者による講義と体験学習～

第10週 身近な症状、病気と対処法

第11週 緊急時の対応：応急処置／救急法

～日野消防署職員による救急蘇生法・AEDのデモンストレーションと体験学習60分～

・DVD、資料による纏め30分

第12週 生活習慣病とその予防

第13週 高齢者と健康(第1回)

・高齢者保健の理念と保健福祉施策・認知症について

・高齢者におこりやすい症状や疾病

第14週 高齢者と健康(第2回)

・介護を支える知識と技術

第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

## 【事前学修】

- ・健康に関する新聞記事を読むことを前半の自己準備学修とする。

また、健康の記録(母子手帳、予防接種、健康診断等)を見て、自分の健康状況を把握することを準備学修とする。

- ・次回の授業テーマを身近に感じられるように専門用語について調べる。事前学修については、授業ごとに周知する(2時間/週)。

## 【事後学修】

- ・授業で学んだことを復習し課題に取り組むこと(2時間/週)。

## 【テキスト・教材】

教材：テキストは使用しない。理解度を高めるため、適宜、資料・リーフレットを配布する。血圧測定、救急蘇生法・AEDは体験学習を行い、正しい知識と技術の習得の一助とする。また、アルコールパッチテスト等も行う。ストレスチェックや音楽、呼吸法等リラクゼーション法の体験学習も実施する。

テーマにより、DVD鑑賞を行い具体的な状況把握や技術の習得に役立てる。出産のDVDは、いのちの誕生の実際をとおして考えを深める。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み姿勢(演習の取り組み、リアクションペーパーによる学修状況等含む)30%、課題30%、試験40% 計100点満点

リアクションペーパーにより授業の理解度を確認し、補足確認及び質問は次週の授業でフィードバックする。試験については、manaba上にてフィードバックする。

## 【注意事項】

- ・毎回授業テーマが異なるため、出来得る限り出席のこと。
- ・出欠確認は主にリアクションペーパーを用いて行う。原則としてリアクションペーパーの提出があっても内容記載が全く無い場合(学籍番号と氏名のみ記載となっている場合)は欠席扱いとする。
- ・大切な健康を守るための看護知識や技術、病気の予防について教養として学んでほしい。
- ・演習には積極的かつ真摯に臨み、学修した知識・技術・態度を社会に還元できるように努力する。



## 看護学

小川 敬子

2年 後期 2単位

○：国際的視野、行動力

## 【授業のテーマ】

## 【授業テーマ】

①いのちを守る ②女性の健康 ③青年期を生きる ④ストレスとメンタルヘルス ⑤生活習慣病とその予防 ⑥症状の見方と看護、救急法 ⑦高齢者と介護の7項目を具体的なテーマとする。

## 【授業における到達目標(Diploma policy)】

看護学講座では、上記4項目の達成目標に向け、授業を展開していく。

学生が修得すべき「美の探究」のうち、優しさと強さを兼ね備え、倫理観を以て人格を陶冶しようとする態度を培う。また、「行動力」として、問題解決につなげることができる力を養う。

## 【授業における到達目標】

## 【授業目標】

1. 自分自身及び家族の健康の保持・増進のための基礎知識を学び、『健康』に関心をもつことができるようになる。
2. 救急法並びに介護に必要な知識と技術の基礎を理解する。
3. いのちの尊さについて考えを深め、エビデンスに基づいた積極的行動の必要性が理解できる。
4. ヘルスプロモーション活動の一環として自分で新たな健康行動が取れるようになる。

## 【授業の内容】

## 【授業の内容】

第1週 オリエンテーション

～いのちを守る～

『ヘルスプロモーションと看護』

第2週 女性と健康

・女性の身体

・女性特有の病気とその予防

・リプロダクティブヘルス/ライツとは

第3週 妊娠と出産、育児を楽しむ

・妊娠と出産はDVD鑑賞をとおして考える

・乳幼児の発育と発達・育児をサポートする仕組み

第4週 青年期前期と性・STI(性感染症)予防

・若者の性と避妊・感染症について・STIの予防

第5週 現代社会とアルコール・ドラッグ・依存症について

第6週 メンタルヘルス：ストレスと健康

第7週 メンタルヘルス：ストレスとリラクゼーション

第8週 身体の観察方法：バイタルサインとは

・身体の仕組みと働き

・バイタルサイン：体温、呼吸、脈拍、血圧、意識レベルの見方

第9週 身体の観察方法：血圧測定と血圧のメカニズム

～オムロンヘルスケア株式会社 学術開発部担当者による講義と体験学習～

第10週 身近な症状、病気と対処法

第11週 緊急時の対応：応急処置／救急法

～日野消防署職員による救急蘇生法・AEDのデモンストレーションと体験学習60分～

・DVD、資料による纏め30分

第12週 生活習慣病とその予防

第13週 高齢者と健康(第1回)

・高齢者保健の理念と保健福祉施策・認知症について

・高齢者におこりやすい症状や疾病

第14週 高齢者と健康(第2回)

・介護を支える知識と技術

第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

## 【事前学修】

- ・健康に関する新聞記事を読むことを前半の自己準備学修とする。

また、健康の記録(母子手帳、予防接種、健康診断等)を見て、自分の健康状況を把握することを準備学修とする。

- ・次回の授業テーマを身近に感じられるように専門用語について調べる。事前学修については、授業ごとに周知する(2時間/週)。

## 【事後学修】

- ・授業で学んだことを復習し課題に取り組むこと(2時間/週)。

## 【テキスト・教材】

教材：テキストは使用しない。理解度を高めるため、適宜、資料・リーフレットを配布する。血圧測定、救急蘇生法・AEDは体験学習を行い、正しい知識と技術の習得の一助とする。また、アルコールパッチテスト等も行う。ストレスチェックや音楽、呼吸法等リラクゼーション法の体験学習も実施する。

テーマにより、DVD鑑賞を行い具体的な状況把握や技術の習得に役立てる。出産のDVDは、いのちの誕生の実際をとおして考えを深める。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み姿勢(演習の取り組み、リアクションペーパーによる学修状況等含む)30%、課題30%、試験40% 計100点満点

リアクションペーパーにより授業の理解度を確認し、補足確認及び質問は次週の授業でフィードバックする。試験については、manaba上にてフィードバックする。

## 【注意事項】

- ・毎回授業テーマが異なるため、出来得る限り出席のこと。
- ・出欠確認は主にリアクションペーパーを用いて行う。原則としてリアクションペーパーの提出があっても内容記載が全く無い場合(学籍番号と氏名のみ記載となっている場合)は欠席扱いとする。
- ・大切な健康を守るための看護知識や技術、病気の予防について教養として学んでほしい。
- ・演習には積極的かつ真摯に臨み、学修した知識・技術・態度を社会に還元できるように努力する。

**管理会計論**

蔣 飛鴻

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

授業では、管理会計の概念や仕組みなどについて説明し、どのように管理会計技法が用いられているのかを理解するとともに、なぜそれが使われているのかを明らかにしていく。

**【授業における到達目標】**

管理会計技法は企業で実践されるものである。授業では、これまでに蓄積されてきた実態調査を重視し、理論を踏まえうえて、実際に生じている諸問題を解決する力を、受講生に身につけてもらうことを目的とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 管理会計論概説
- 第2週 伝統的原価計算
- 第3週 標準原価計算
- 第4週 損益分岐点分析
- 第5週 ABCとABM
- 第6週 原価企画
- 第7週 分権化組織の管理会計
- 第8週 予算管理
- 第9週 中期経営計画と戦略策定
- 第10週 バランス・スコアカード
- 第11週 研究開発費の管理
- 第12週 収益の管理
- 第13週 企業価値経営
- 第14週 業績評価マネジメント
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：レポート・発表等の課題に取り組むこと。（学修時間週2時間）

事後学修：発表等を予習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。（学修時間週2時間）

**【テキスト・教材】**

授業の第1回目で指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験70%、授業への取り組み（課題、授業中の発言等）30%で評価する。

課題に対して、適時コメントやフィードバックする。

**【参考書】**

参考書や問題集については適時紹介する。

**【注意事項】**

管理会計論は学習の積み重ねが必要な科目であるため、授業には毎回出席すること。

**観光英語****武内 一良**

1年 前期 1単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

**観光概論**

観光現象の理論研究

**武内 一良**

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

この授業は、海外旅行で必要となる英語の運用能力を測定する観光英語検定（全国語学ビジネス観光教育協会主催）の3級合格を目指します。そのため、本講座は、観光英語検定3級（受験料¥3700予定）を申し込むことが履修の条件となります。受験料は授業中に徴収します。

さらに、英語コミュニケーション学科主催のハワイ英語研修に参加する場合、

①1年生は「研修ブレップ英語」と「アメリカ文化事情」

②2年生はこの「観光英語」と「アメリカ文化事情」

を履修し、それぞれの科目の単位を修得見込みであることが参加の条件となります。

**【授業における到達目標】**

この科目は、以下の点を中心に進めていきます。

- 1 観光英語検定3級合格を目指す。
- 2 海外旅行に必要な最低限の語彙力と表現力を身につける。
- 3 観光業の基礎的な業務を理解する。

ディプロマポリシーとの関係では、検定試験合格を目指す行動力を中心に、国際語として英語を用いながら国際的視野と研鑽力を身につけていきます。

**【授業の内容】**

第1週 授業紹介、評価方法、観光英語検定の概略

第2週 過去問題A（筆記）60分

第3週 過去問題B（リスニング）30分

第4週 設問1「語彙力」（英→日）対策

第5週 設問2「語彙力」（日→英）対策

第6週 設問5「日本の観光地理」対策

第7週 設問5「世界の観光地理」対策

第8週 設問2「場面会話」の対策

第9週 設問3「単語の並べ替え」対策

第10週 設問4「広告読解」対策1（前半）

第11週 設問4「広告読解」対策2（後半）

第12週 日本文化紹介1

第13週 日本文化紹介2

第14週 過去問題C（筆記）60分

第15週 総合問題

上記順番は変わることがあります。

**【事前・事後学修】**

【事前学修】観光英語検定試験3級は、授業での指示に従って準備をすれば合格に手が届く検定試験です。最低でも授業の前に1時間は予習してください。

【事後学修】授業終了後は速やかに1時間以上の復習を欠かさず行う習慣をつけてください。

**【テキスト・教材】**

毎回、授業の冒頭で配付する印刷物を教材として使用していきます。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

最期の週に行なう総合問題（50%）とその前の週に行なう過去問題C（50%）の結果を基に評価します。問題に対する解答は毎回授業でフィードバックしていきます。

**【参考書】**

必要に応じて授業で紹介します。

**【注意事項】**

第1回目の授業で、授業スケジュールと成績評価に関する細則を発表しますので必ず出席してください。また、ハワイ英語研修に参加する2年生（1年生は対象外）は、この科目を必ず履修しなければならないので注意してください。

**【授業のテーマ】**

人間は大昔から移動を繰り返し、今では世界中いたるところに人間が住んでいます。野宿をして移動していた旅人に食事とベッドを提供するホスピタリティの精神から宿泊施設が発達し、産業革命以降発達した蒸気機関車を利用して旅行業が発展しました。

本講座では、宿泊業界、旅行業界、航空業界をはじめ、様々な観光現象について学んでいきます。観光業界に就職を希望する学生にとって有益な知識と概念を学びます。

**【授業における到達目標】**

宿泊業界、旅行業界、航空業界など、観光者が巻き起こす観光現象について理解を深めることを目的としています。国際的な視野に立脚した多文化社会に対応できる人材の育成に寄与する科目です。本講座は、国際的視野に立脚し、観光全体を見渡せる研鑽力を養うものです。

**【授業の内容】**

第1週 授業の概要、評価方法、学問と哲学

第2週 物々交換と貨幣経済、産業革命と余暇活動

第3週 外貨獲得、経済効果、観光衛星勘定、見えざる輸出

第4週 観光現象の基本要素、観光形態

第5週 観光者1：人間の移動、観光者の定義と分類

第6週 観光者2：観光者の行動特性、社会的弱者

第7週 観光対象1：観光対象の分類、観光資源と観光対象

第8週 観光対象2：真正性、文化の商品化、文化変容

第9週 観光情報1：観光情報の意義、博物館の展示情報

第10週 観光情報2：国際語、製造物責任、自文化中心主義

第11週 外部講師：運輸業界と物流の視点に関する講義

第12週 観光ビジネス1：サービスとホスピタリティ

第13週 観光ビジネス2：航空連合、GDS、イールドマネジメント

第14週 観光ビジネス3：最大積載量、持続可能な観光開発

第15週 到達目標の確認（期末試験）

**【事前・事後学修】**

【事前学修】この授業には初めて聞く用語や概念が多く登場するので、前回までの授業内容をしっかり理解するために最低でも毎回授業前に2時間はしっかり復習しておく必要があります。

【事後学修】授業終了後は授業での説明を思い起こしながら2時間程度は復習に充てる必要があります。

**【テキスト・教材】**

毎回教材となる印刷物を配付します。期末試験の問題は、この印刷物からのみ出題されます。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

成績評価は、期末試験の結果（100%）を基に行います。授業のフィードバックは、毎回翌週の授業の冒頭に行います。

**【参考書】**

必要に応じて授業で紹介します。

**【注意事項】**

第1回目の授業で、授業スケジュールと成績評価に関する細則を発表しますので、必ず出席してください。

**観光事業論**

角本 伸晃

3年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

近年、日本経済の低迷と人口減少に伴う諸問題を解決する方策の1つとして、観光振興が注目されている。特に、観光立国推進基本法の制定（2007年施行）以後、訪日外国人観光客の誘致に国を挙げて取り組まれている。2020年の東京オリンピック開催を控え、観光は経済成長の牽引役を担うことを期待されている。この講義では、観光の主要産業（交通、宿泊、飲食、物販、娯楽・レジャー）に焦点を当てて観光事業について理解し、さらに観光の経済効果と観光資源の保護についても理解することを目的とする。レポート課題を出すので、それを数人のグループごとにパワーポイントで作成し、授業の最終回でグループごとに発表してらう。また、外部講師の方に来ていただいて、日本の観光について講義をしてもらおう予定である。

**【授業における到達目標】**

観光の主要産業（交通、宿泊、飲食、物販、娯楽・レジャー）に焦点を当てて観光事業について理解し、このことを通して、日本の文化を世界に発信しようとする国際的視野を修得することを目標とする。

**【授業の内容】**

1. ガイダンス（講義の概要と進め方）
2. 観光経済学の基礎概念
3. 日本の観光の現状
4. 観光産業の概要
5. 交通産業（鉄道）
6. 交通産業（航空）（外部講師招聘の予定）
7. 宿泊産業（ホテル、旅館）
8. 観光施設（テーマパーク）
9. 観光土産と価格戦略
10. 観光開発と投資
11. 観光所得と乗数効果
12. 観光まちづくりと観光資源の保護
13. 世界遺産登録と観光需要
14. レポート課題の発表会
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回の授業範囲を予習し、事前学修の項目も考え、調べておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 授業で板書されたグラフをもう一度自分でノートに書き、数値例も自力で解いて復習すること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

テキストは指定せず、配布プリントを用いる。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

成績は、期末試験（80%）、レポート課題（20%）によって総合的に評価する。レポート課題については次回授業で、期末試験については最終回授業で解説と講評を行ってフィードバックする。

**【参考書】**

高橋一夫・柏木千春編著『1からの観光事業論』（中央経済社 2016年）2,592円

**【注意事項】**

グラフを自分で書くことで理解はかなり進むので、板書したグラフは大きくノートに書き写してほしい。

**観光地理**

日本と世界を旅する講座

**内藤 芳宏**

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

**【注意事項】**

観光地理にかかわる内容は、地域や取り上げる事象によって興味のあり方や関心度が変化するので、日ごろから国内外を問わず見聞を広め、研究するよう意識してください。また講義中の板書以外の事項でも適切にメモをノートに取る力を身につけることも肝要です。難しいこと、既存の知識にないことを学び、曖昧な理解は社会において意味を成さないことを肝に銘じてください。

なお前期科目の「旅行実務」とあわせて受講することを勧めます。

**【授業のテーマ】**

旅や地理は知らない土地の知らない人たちや自然に対する好奇心で成り立っています。地理学的な視点から国内・海外の観光に関する知識の修得を目的とします。

また「旅行業務取扱管理者試験」の「地理分野」に対応すべく、国内の観光地を中心に、基本的な知識習得と関連事項等の理解するための内容を取り扱います。また海外の観光地について地理学的視点からの知識及び思考の修得を目指します。

**【授業における到達目標】**

〈態度〉学生が修得すべき「国際的視野」のうち、国内外の観光地を自然地理・人文地理の両側面から観光地情報を正確に知識を得ようとする不断の努力を行なうこと。知識修得のためにゆるぎない、自らに負けない真剣な姿勢を期待する。「美の探究」のうち、知らない土地の知らない人たちや自然に対して感受性を深めること。

〈能力〉学生が修得すべき「研鑽力」のうち、観光地理を学ぼうとする真摯な姿勢を修得すること。「行動力」のうち地理的空間を正しく把握し、観光地の課題を発見すること。「協働力」のうち、受講者を互いに尊重し、知的好奇心を刺激しあい真面目に学びあうこと。

**【授業の内容】**

- 第1週 地理を学ぶ視点・日本の諸地域を概観する
- 第2週 日本の交通網（新幹線、空港、高速道路）
- 第3週 日本の観光地を学ぶ1（北海道・東北地方）
- 第4週 日本の観光地を学ぶ2（関東地方）
- 第5週 日本の観光地を学ぶ3（中部地方）
- 第6週 日本の観光地を学ぶ4（近畿地方）
- 第7週 日本の観光地を学ぶ5（中国・四国地方）
- 第8週 日本の観光地を学ぶ6（九州・沖縄地方）
- 第9週 日本の世界文化遺産・世界自然遺産
- 第10週 国家試験問題から地理分野のポイントを考える
- 第11週 狭くなった地球（時空を越えて・時差を理解する）
- 第12週 アジアを訪ねる
- 第13週 ヨーロッパを訪ねる
- 第14週 アメリカ合衆国を訪ねる
- 第15週 まとめ・総括

**【事前・事後学修】**

【事前学修】開講までに日本の都道府県・各県庁所在地・新幹線の路線、世界遺産など地理的基礎事項について確認しておくこと。毎回の授業範囲の略図を描き、上記事項に加えて貴方の既存の地理情報を書き込みを行うためには2時間以上/週の予習が必要である。

【事後学修】授業で取り扱った地名等、場所はその都度ノートにまとめ、正確に定着させる。家庭での学習せずして知識の定着や発展は望めず、そのためには2時間以上/週の復習が必要である。

**【テキスト・教材】**

「旅行業務入門」第19版（株）JTB総合研究所 1810円（税別）

またその都度、配布プリント等を指示します。

なお高校で使っていた「地図帳」を必ず用意してください。所持していない場合は同等の地図帳を各自で求めてください。地図帳は地理を学ぶ必須アイテムです。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験と平常点（小テストと毎時間ごとのコメントペーパー）で総合的に判断します。小テストは次回の授業、試験結果は授業最終回でフィードバックする。配分基準；定期試験50%、平常点50%

**【参考書】**

地理教育研究会編「知るほど面白くなる日本地理」日本実業出版社  
水野一晴「自然のしくみがわかる地理学入門」ベレ出版  
宇田川勝司「なるほど世界地理」ベレ出版

## 企画・編集論

大野 彰

1・2年 後期 2単位

○：行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

- ・出版物制作のスタートラインとなる「企画」の意義、役割を理解し、あわせて立案した企画を具体的な形にするための「編集」工程のあらましを学修します。
- ・過去の出版物の事例や、アイデアの作り方、様々な発想法などの学修を通して魅力的な本づくりの基礎を学びます。

### 【授業における到達目標】

- ・必要な要素を備えた、簡単な出版企画書が作れる【行動力】
- ・いろいろなスキルをまとめあげる編集作業の基礎を学修することで協働力を高める【協働力】

### 【授業の内容】

- 第1回 はじめに～本づくりにおける企画と編集の役割
- 第2回 過去の本に見る「企画」が生まれる背景
- 第3回 企画を考える前に抑えておくこと  
出版物の制約（ハード面、ソフト面）
- 第4回 企画書をよんでみる  
記載項目とその意味を知る
- 第5回 企画の元＝アイデアをつくる（1）  
テーマ／原理と方法
- 第6回 企画の元＝アイデアをつくる（2）  
情報収集のいろいろ
- 第7回 企画の元＝アイデアをつくる（3）  
情報からアイデアへ いろいろな発想法
- 第8回 編集工程の概要（1）全体の流れ、企画立案
- 第9回 編集工程の概要（2）台割、取材、原稿作成
- 第10回 編集工程の概要（3）デザイン、校正、DTP
- 第11回 出版企画の事例解説（1）
- 第12回 出版企画の事例解説（2）
- 第13回 拡張する企画・編集の領域 ※レポート課題の発表
- 第14回 まとめ
- 第15回 講義時間内で課題レポートを作成

### 【事前・事後学修】

【事前学習】・教科書、事前配布資料に目を通し、疑問点を整理しておく。（2時間）

【事後学習】・学修内容のポイントを整理しノート等にまとめておく。（2時間）

### 【テキスト・教材】

『広報・雑誌づくりのらくらく編集術（三訂版）』2016年 日本エディタースクール出版部 2400円＋税

『標準 編集必携（第2版）』2002年 日本エディタースクール出版部 1980円＋税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・第15回講義の時間内で課題レポートを作成していただきます。課題は2週間前までに発表します。
- ・評価の配分は、平常点（授業態度、感想文提出）40%、レポート60%とします。

### 【参考書】

『本の知識』日本エディターズスクール出版部 500円＋税

『アイデアの作り方』阪急コミュニケーションズ 864円

### 【注意事項】

- ・理解度の進捗にあわせて講義内容、回数を変更することがあります。
- ・講義中の携帯電話・スマホの私的使用（撮影、録音を含む）は不可とします。

## 企業と情報

—経営情報論を学ぶ—

板倉 文彦

1・2年 後期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

### 【授業のテーマ】

この講義では、企業の中で情報がどのように活用されているかを理解することを目標とします。

企業では、情報を活用するために数多くの情報システムが存在しており、ネットワークを介して他の企業や消費者とつながっています。この講義では、これらの仕組みを理解することに合わせ、企業がどのようなかたちで、どのように動いているのかも理解することができます。

この講義に登場した仕組みのいくつかは、皆さんが社会に出た後に実際に出会うこととなります。その時に戸惑わないための知識を身につけましょう。

### 【授業における到達目標】

企業における情報活用状況を学ぶことで、社会人として知を探求し学び続ける「研鑽力」や、チームで業務を遂行する上で必要とされる「協働力」を修得することができます。

また、情報社会において現状を正しく把握し、課題を発見できる「行動力」もあわせて修得できます。

### 【授業の内容】

- 第1週 会社の仕組み1－業務形態、組織形態、ビジネス領域
- 第2週 会社の仕組み2－部門概要、部門ごとの業務
- 第3週 会社の仕組み3－競争要因と企業戦略
- 第4週 情報とは何か－情報の定義、企業にとっての情報
- 第5週 現場のシステム－社員が日々使用する各種システム
- 第6週 企業システム1－部門単位のシステム
- 第7週 企業システム2－事業単位のシステム
- 第8週 企業システム3－業種別システム
- 第9週 企業システム4－基幹システム（ERP）
- 第10週 企業間システム（BtoB）－系列内・外とのシステム
- 第11週 顧客向けシステム（BtoC）－直接販売サイト、クレーム対応
- 第12週 社会的システム－通信（インターネット、電話など）からスマート社会まで
- 第13週 I Tベンチャー企業
- 第14週 情報化が企業に与えた影響
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：毎回配付する資料を、次回授業までに読んで予習しておく（週2時間程度）

事後学修：授業の最後に出された課題内容と、当日の講義内容を照らし合わせたうえで復習する（週2時間程度）

### 【テキスト・教材】

必要に応じて資料を配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験成績および平常点で総合的に評価します。

配分基準：定期試験70%、平常点30%（授業態度、提出課題）

試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

**企業研究 a**

経営学基礎

山崎 泰明

2年 後期 2単位

○：国際的視野、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

- ・経営学の基礎知識を体系的に修得します。
- ・現代のような変革期におけるビジネス社会の経営人材には、戦略・ヒト・モノ・カネ・情報などの経営の定石（基礎要素）をしっかりと身につけることが求められます。
- ・この授業では、ビジネスパーソンとして必須のマネジメントの関する基本知識・理論を体系的に学習し、修得します。
- ・授業を通して、特定非営利活動法人経営能力開発センターが実施する『経営学検定』初級資格程度を身につけることを目指します。

**【授業における到達目標】**

- ・企業を見る際の基本的な知識を身につけ、本質的なメカニズムを見抜く洞察力を修得します。

**【授業の内容】**

- 第 1 回 インTRODクシヨン：経営学について
- 第 2 回 企業システム①：企業と経営、経営と支配
- 第 3 回 企業システム②：ガバナンス、日本型経営システム
- 第 4 回 経営戦略①：経営戦略の体系と理論
- 第 5 回 経営戦略②：全社戦略、事業戦略、機能別戦略
- 第 6 回 ゲストスピーカー（企業経営者）
- 第 7 回 経営組織①：組織に関する基礎理論
- 第 8 回 経営組織②：企業組織の基本形態
- 第 9 回 経営管理①：経営管理の基礎理論
- 第 10 回 経営管理②：マネジメントの階層とプロセス
- 第 11 回 ゲストスピーカー（企業経営者）
- 第 12 回 経営課題①：経営のグローバリゼーション
- 第 13 回 経営課題②：企業経営と情報化
- 第 14 回 ケーススタディの読解
- 第 15 回 総括

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

- ・次回の授業で使用する資料に目を通し、わからない専門用語などを調べておくこと。（毎回2時間程度）

**【事後学修】**

- ・毎回の授業の終了時に行なう理解度テストに備えて、授業の復習を行なうこと。（毎回2時間程度）

**【テキスト・教材】**

- ・プリントを事前に用意します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- ・理解度テスト30%
- ・ケーススタディの読解40%
- ・授業関与度30%
- ・フィードバックは授業の中で適宜行います。

**【参考書】**

- ・経営学検定試験公式テキスト1

**【注意事項】**

- ・スポーツやゲームをする際、ルールを知っておくことが重要です。同様に、企業を見たり、ビジネスを行なう際にも根本的なルールを知っておくとスムーズに進めることができます。
- ・そのルールに関わるケーススタディを学び、その中から汎用性を見つけて、企業経営の体系を学びます。

**企業研究 b**

経営学の実務知識

山崎 泰明

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

- ・企業経営の課題を解決するための分析力とマネジメント能力を学びます。
- ・現代のような変革期におけるビジネス社会では、企業経営に関する専門知識や経営課題を解決するための分析力を身につけることが求められます。
- ・この授業では、必要とされる経営学の知識を実務と照らし合わせ（ケーススタディ）、体系的に学習し、修得します。
- ・この授業を通して、特定非営利活動法人経営能力開発センターが実施する『経営学検定』中級資格程度を身につけることを目指します。

**【授業における到達目標】**

- ・社会人となり、ビジネスの世界で活躍するために必要な専門知識や企業のメカニズムについて修得します。

**【授業の内容】**

- 第 1 回 インTRODクシヨン：この授業の目的と経営学の役割
- 第 2 回 マネジメント① マネジメントの基本、経営戦略
- 第 3 回 マネジメント② 組織論、マネジメント論、内部統制
- 第 4 回 ゲストスピーカー（企業経営者）
- 第 5 回 人的資源管理① 人的資源管理の原則、人事制度
- 第 6 回 人的資源管理② 能力開発、労務管理と労使関係
- 第 7 回 経営法務① 企業経営と法務、企業活動と法規制
- 第 8 回 マーケティング① マーケティングのコンセプト
- 第 9 回 マーケティング② リサーチと標的市場
- 第 10 回 ゲストスピーカー（企業経営者）
- 第 11 回 I T経営① 経営情報システム、情報セキュリティ
- 第 12 回 経営財務① 経営財務の意義、資本市場と投資
- 第 13 回 経営財務② 資金調達と資本構成、管理会計
- 第 14 回 ケーススタディ読解
- 第 15 回 総括

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

- ・次回の授業での資料に目を通し、わからない専門用語などを調べておくこと。（毎回2時間）

**【事後学修】**

- ・ケーススタディ読解に備え、その都度、授業の復習を行なうこと。（毎回2時間）

**【テキスト・教材】**

- ・プリントを事前に用意します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- ・毎回の授業終了時に行なう理解度テスト30%
- ・ケーススタディ読解力40%
- ・授業関与度30%
- ・フィードバックは適宜授業で行ないます。

**【参考書】**

経営学検定試験公式テキスト2、3、4、5（中央経済社）

**【注意事項】**

- ・スポーツやゲームをする際、ルールを知っておくことが重要です。同様に、企業を見たり、ビジネスを行なう際にも根本的なルールを知っておくとスムーズに進めることができます。
- ・経営学の学習方法の特徴は、①フレームワークを理解する、②ケーススタディで実際を知る、③経営者の生の声を聴く、の3点です。これらからアプローチをし、理論を学びます。

## 企業戦略論

高橋 意智郎

2年 前期 2単位

◎：研鑽力

### 【授業のテーマ】

今日、各業界において企業は激しい競争を繰り広げている。企業戦略論は、自社が顧客やライバル企業と向き合うなかでどのようにして自社の利益や企業価値を向上させていくかについての論理を考える学問である。本講義では、企業戦略論の視点から様々な業界における日本企業や外国企業の企業行動を理解できることを目的とする。豊富な事例を盛り込んで、受講した皆さんの興味を引く講義にしたいと考える。

### 【授業における到達目標】

企業戦略を考える基礎力が身につく。

ディプロマポリシー：学修を通して自己成長する力【研鑽力】

### 【授業の内容】

1. ガイダンス：企業戦略論について
2. 全社戦略のフレームワーク
3. プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント
4. ポジショニング・アプローチ
5. 戦略グループと移動障壁
6. 資源アプローチ
7. 事業の多角化
8. VRIOフレームワーク
9. ゲーム理論のアプローチ
10. 企業の国際化
11. コーペティション
12. ブルーオーシャン戦略
13. 国際戦略のフレームワーク
14. 企業戦略のトピック：ゲストスピーカーの講演の予定
15. 総括

### 【事前・事後学修】

事前学修：配布された資料・プリントを次回の授業までに読んでおくこと。（2時間）

事後学修：授業中にとったノート、授業で使った資料・プリントを参考にして授業内容を理解しているか確認すること。（2時間）

### 【テキスト・教材】

テキスト・教材は指定しない。毎回の講義のときに資料を配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

本講義では、講義中に何回か課題を行う。成績は、期末試験（50%）、講義中に行う課題（30%）、平常点（授業への積極的参加）（20%）を総合して決定する。課題のフィードバックは、課題について解説する。

### 【参考書】

青島矢一・加藤俊彦『競争戦略論』（東洋経済新報社 2003年）

谷口和弘著『戦略の実学』（NTT出版 2006年）



## 基礎スポーツ実習 a

村本 和世

1年～ 前期・後期 1単位

○：研鑽力、協働力

### 【授業のテーマ】

生涯にわたり健康であり続けるためには、運動・栄養・睡眠は欠かせないものである。ここではその一つの運動としてのバレーボールを取り上げ、その特性を知り理解を深め、コミュニケーション力及びチームワーク（チーム力）を高めてゲーム（試合）を楽しむ。

加えて生涯における自己のからだへの健康意識を高めることを目的とする。

### 【授業における到達目標】

- 1、バレーボールを通じて仲間意識を深めコミュニケーション能力を高める。
- 2、自己の体力を高め心身の健康の充実を図る。
- 3、バレーボールの技術を学びその技能を高める。

### 【授業の内容】

バレーボールの基本技術から技能を学び、さらにルールを学習し合わせてその学習において、安全性を重視のうえ、育成を図る。

さらに、生涯スポーツとして手軽に誰でも楽しめるバレーボールを仲間と工夫しコミュニケーション能力を高め、体力強化にも力を入れたい。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 体力測定
- 3 バレーボールの特性及び授業展開について グループ分け
- 4 ボールの操作方法の理解オーバーハンドパスの基本  
アンダーハンドパスの基本
- 5 オーバーハンドの応用（簡易ゲーム 2対2・3対3）
- 6 アンダーハンドの応用（簡易ゲーム 2対2・3対3）
- 7 スパイク・サーブ
- 8 連係技術の理解 ルール、審判法を含む
- 9 連係技術を用いて技能を高める（簡易ゲーム 4対4・5対5）
- 10 連係プレーの応用（5対5・6対6）
- 11 リーグ戦①
- 12 リーグ戦②
- 13 リーグ戦③
- 14 体力測定
- 15 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修

チーム編成の後、事前にグループで討議とコミュニケーション及び作戦を立てる。 週 1時間

事後学修

授業内容の振り返り、成果の記入及び各グループの発表専門用語やルールを理解。 週 1時間

### 【テキスト・教材】

授業開始時に指示をする。また必要に応じて資料配布

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（積極的な授業参加・課題提出）50%

毎回の個人振り返り記述内容（30%）及びグループ成果を発表・コミュニケーション力（20%）を加味する。

個人の振り返り及びグループ発表時にはその都度アドバイスを行うことでフィードバックする。

### 【参考書】

必要に応じて紹介する

### 【注意事項】

安全重視のため、スポーツウエアと体育館シューズは必須。

貴金属は、外して参加のこと。

第1週目の授業時に、履修カードの作成や第2週以降の体力測定・授業内容に関する諸連絡を行うので、必ず出席すること。

※募集人数は36名です。

## 基礎スポーツ実習 a

フライングディスク

山形 高司

1年～ 前期・後期 1単位

○：研鑽力、協働力

### 【授業のテーマ】

本授業は、frisbeeの名称で広く認識されているフライングディスクを扱います。種目はアルティメットを用い、①スロー動作の上達による運動に対する自信の創出、②豊富な運動量の確保による持久力の向上、③チーム戦術の工夫などによるスポーツの楽しさの発見などを目指します。また、生涯にわたる自身の健康づくりや他者への健康に対する運動方法の伝達のために、様々な目的（リラックス、持久力向上、筋力向上など）に合わせた運動を実践します。

### 【授業における到達目標】

①チームスポーツにおける各人の役割分担や話し合いなどを通して、互いを尊重することができるようになる。この目標の到達は、学生が修得すべき「能力」のうち、自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進める協働力の修得や現状を把握し課題を発見するなどの行動力の修得に繋がる。

②様々な目的に合わせた運動方法を理解し、他者に対しても運動の方法や効果を伝えることができるようになる。この目標の到達は、学生が修得すべき「能力」のうち、学修成果を実感して、自信を創出することができる研鑽力や大学が求める学修から得た知識・技能を社会に還元する力を修得することに繋がる。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 体力測定
- 第3週 コミュニケーションゲーム
- 第4週 心身のリラックスのための運動（ストレッチング、ヨガ）
- 第5週 フライングディスクの基本① バックハンドスロー
- 第6週 フライングディスクの基本② フォアハンドスロー
- 第7週 フライングディスクの基本③ アップサイドダウンスロー
- 第8週 フライングディスクの基本④ カーブスロー
- 第9週 アルティメット① ルールの理解、チーム編成
- 第10週 アルティメット② チーム練習、ミニゲーム
- 第11週 アルティメット③ チーム練習、ゲーム
- 第12週 アルティメット④ チーム練習、ゲーム
- 第13週 アルティメット⑤ チーム練習、ゲーム
- 第14週 体力測定
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】各週の授業テーマに合わせた疑問や課題を考える。フライングディスクの週は、スロー動作やアルティメットのルールなどを参考書や動画サイトなどを活用して理解を深める。（学修時間 週 1時間）

【事後学修】授業で紹介した運動方法の復習や実践を行い、運動の理解を深める。（学修時間 週 1時間）

### 【テキスト・教材】

適宜授業内でプリント資料などを配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

評価は、平常点（積極性・協調性）50%、課題達成度20%、レポート30%とします。レポートは、授業最終回でフィードバックを行います。

### 【参考書】

James Studarus著『フライングディスクをやってみようーアルティメットの基礎と応用』（NAP 2011年）

### 【注意事項】

毎回運動着・体育館シューズを持参し、着用して下さい。また、筆記用具を持参して下さい。

安全のため、アクセサリ（指輪やピアスなど）は外して受講して下さい。万全な体調で授業に出席し、万が一体調の優れない場合は教員に相談して下さい。

運動が苦手な人やフライングディスク未経験者を歓迎します。

第1週目の授業時に、履修カードの作成や第2週以降の体力測定・授業内容に関する諸連絡を行うので、必ず出席すること。  
※募集人数は36名です。

### 基礎スポーツ実習 a

教育実習に向けた課外活動スキルの向上

佐藤 健

1年～ 後期 1単位

○：研鑽力、協働力

#### 【授業のテーマ】

渋谷キャンパスで行う。バドミントンは、老若男女、誰でもが簡単にプレーを楽しむことが出来る特徴を有している。そんなことから、本授業は、学校・企業・社会体育の指導現場等で、羽根つき遊びから、バドミントン競技に至る技術習得の追体験を実践しながら、技能向上を目指すとともに、対象に応じた指導方法について実習を行う。また、将来教育実習生として教育実習期間中に課外活動の支援を行う際に、バドミントンの練習方法に関して一応の理解をすることを目標にしておく。

#### 【授業における到達目標】

スポーツ技能は、将来職場や地域のスポーツ交流が行えるスキルです。授業によって体験した技能を役立て自己成長できるように研鑽してください。自分や周囲のスキルを正しく把握し、安全に授業が行えるように協働力を発揮して授業に参加してください。

#### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション（教材、出席管理カードの配布）
- 第2週 授業前の体力測定
- 第3週 技能実習I（シャトル、ラケットに慣れる）
- 第4週 技能実習II（基本ストローク）
- 第5週 技能実習II（ネットプレイ、ド、クリーヤー）
- 第6週 技能実習III（簡易ラリー）
- 第7週 技能実習III（中級ラリー）
- 第8週 技能実習IV（基本ストローク・フライト応用練習）
- 第9週 中間テスト（実技サーブ等）
- 第10週 審判法とゲームI（審判の方法とシングルスゲーム）
- 第11週 審判法とゲームII（ダブルスゲーム）
- 第12週 技能実習V（各フライトコンビネーション応用練習）
- 第13週 大会実習（トーナメント・リーグ戦ダブルス）
- 第14週 授業後の体力測定
- 第15週 まとめ（期末レポートの作成と提出）

#### 【事前・事後学修】

事前学修として、十分な睡眠と食事をとり集中力が持続する状態で臨めるようにすること。事後学修として、30時間程度自宅等でストレッチなどをして身体の状態について前向きに取り組むこと。

#### 【テキスト・教材】

シューズ、靴下、ウエア、汗拭きタオル、給水ボトル、帽子または髪をまとめるゴム等は各自が必ず用意すること。ラケットは貸し出し用はあるが、持参が望ましい。

#### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業時のスキルテスト60%（4点×15）、体力向上点10%、期末レポート30%とする。随時、試技やデータ等のフィードバックを行う。

#### 【参考書】

著者：関・藤田・蘭『バドミントン教室』（大修館）

#### 【注意事項】

授業の最初と最後に体力測定を行い、体力が維持しているか確認を行う。授業中に不安全行動（ケガが事故の原因）は慎むこと。準備体操、教員の指示等を守ること。なお、就職活動の場合には、証明するものを提出すること。恒例の体力測定は、2週目に行う。  
※募集人数は24名です。

### 基礎スポーツ実習 a

ニュースポーツ・バドミントン（渋谷キャンパス）

島崎 あかね

1年～ 前期 1単位

○：研鑽力、協働力

#### 【授業のテーマ】

健康的な生活を送るためには運動・スポーツの実施が欠かせないものであると思われます。しかし、現代の生活は省力化が進み日常生活における身体活動量が減少しているのが実情です。

そこで本授業では、高等学校までの体育で1度は経験していると思われるバドミントンやニュースポーツを通して、生涯にわたる健康づくり運動の基礎を習得するとともに、身体活動が心身の健康維持に果たす役割について理解することを目的とします。

#### 【授業における到達目標】

バドミントンの基本的な技術、各種ニュースポーツの技術修得とともに、練習方法やルール、審判法を理解し実践することで、学ぶ愉しさを知り、日常生活における運動習慣に応用する「行動力」の修得を目指します。

#### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 体力測定
- 第3週 ニュースポーツ① アイスブレイクゲーム
- 第4週 ニュースポーツ② タグラグビー
- 第5週 ニュースポーツ③ フライングディスク
- 第6週 バドミントン 基本練習①(用具に慣れる)
- 第7週 バドミントン 基本練習②(各種ストローク)
- 第8週 バドミントン ルールと審判法
- 第9週 バドミントン シングルス戦①
- 第10週 バドミントン シングルス戦②
- 第11週 バドミントン ダブルス戦①
- 第12週 バドミントン ダブルス戦②
- 第13週 バドミントン 団体戦
- 第14週 体力測定
- 第15週 まとめ

\*天候や施設の関係で、実技種目の順番が変更になる場合があります。

#### 【事前・事後学修】

【事前学修】日常生活における身体活動を心掛け、運動習慣の定着を図りましょう。(学修時間 週1時間)

【事後学修】運動実践による心身の変化について体験的に理解し、技術やルールの復習を行いましょう。(学修時間 週1時間)

#### 【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配布します。

#### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業への積極性など)60%、レポート20%、課題達成度20%で総合的に評価します。

各スポーツの技術習熟度は次回授業時にフィードバックを行います。またバドミントンの試合を通して、審判法の理解度についてのフィードバックを行います。

#### 【参考書】

適宜紹介します。

#### 【注意事項】

実技は中高の体育館およびグラウンドで実施します。指定された教室で更衣を済ませ、全員で実技場所に移動しますので、遅刻しないように十分気を付けましょう。また運動実施にふさわしい服装(運動着)・運動靴および体育館シューズを必ず着用し、長い髪は結ぶなど身支度を整えてください。

第1週目の授業時に、履修カードの作成や第2週以降の体力測定・授業内容に関する諸連絡を行うので、必ず出席すること。

※募集人数は24名です。

### 基礎スポーツ実習 a

フェンシング

高橋 理恵

1年～ 前期・後期 1単位

○：研鑽力、協働力

#### 【授業のテーマ】

フェンシング(Fencing)の語源は、Fence(かき根、防ぐ)に由来し、自分の身を守る・名誉を守る・ルールを守ることから出発しています。スポーツとしてのフェンシングは、中世の闘争の手段であった剣がスポーツ化することで現在の形をなすようになりました。フェンシングは、日本の武士道同様、中世の騎士道に基づき「礼に始まり礼に終わる」という礼儀を重んじるスポーツです。また、フェンシングの魅力は、頭脳的な駆け引き、スピーディな試合運び、華麗なテクニックなど競技の面白さだけでなく、現在では子供からお年寄りまでそれぞれの目的に合わせた生涯スポーツの1つとして楽しめるようになってきました。

フェンシングには、「フルーレ」「エペ」「サーブル」の3種類の競技がありますが、その中でも、ルールが簡単で分かりやすく、相手の全身どこでも早く突いた方が勝ちとなる、「エペ」種目を本授業で実施します。

#### 【授業における到達目標】

フェンシング競技の基礎技術を学ぶと共に、ルールやマナーを守ることや相手を尊重するといったスポーツを行う上で重要な「スポーツマンシップ」を養い、その後の学生生活及び社会生活に必要な能力を身につけます。また、新たなスポーツへ取り組むことで、さまざまな知見や学ぶ愉しさを知り、自己成長する力を養います。

#### 【授業の内容】

- 第1週：ガイダンス
- 第2週：体力測定
- 第3週：導入(レクリエーション、ルール・用具の説明)
- 第4週：基礎技術の習得①(構え、フットワーク、ミニゲーム)
- 第5週：基礎技術の習得②(ポジション、剣の操作、ミニゲーム)
- 第6週：基礎技術の習得③(基礎技術の復習、実践練習の説明)
- 第7週：実践練習①(ロオフォンシヴ：攻撃)
- 第8週：実践練習②(ラ・デフォンシヴ：防御)
- 第9週：実践練習③(ラ・コントロール・オフォンシヴ：阻止攻撃)
- 第10週：試合方法と審判法
- 第11週：試合(個人戦①：リーグ方式)
- 第12週：試合(個人戦②：トーナメント方式)
- 第13週：試合(団体戦)
- 第14週：体力測定
- 第15週：まとめ

#### 【事前・事後学修】

【事前学修】フットワークなど多様な動きができるように、身体づくりや柔軟運動をしておくこと。(週1時間)

【事後学修】身体の動かし方に注意を向けると共に、フェンシング用語と基礎動作が理解できるよう復習しておくこと。(週1時間)

#### 【テキスト・教材】

必要に応じて授業内でプリントを配布する。

#### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業への積極性・協調性など)50%、課題到達度20%、レポート(毎回の授業の振り返りなど)30%

各授業での技術達成度は次回授業にてフィードバックを行う。

#### 【参考書】

特になし。

#### 【注意事項】

受講人数は24名以内とする。

運動靴(室内用)、ジャージなどの運動着(長ズボン)、給水ドリンク(蓋つき)、タオルなどを持参すること。

ピアス、ネックレスなどのアクセサリ類は、怪我や事故につながる可能性があるため必ず外すこと。

第1週目の授業時に、履修カードの作成や第2週以降の体力測定・授業内容に関する諸連絡を行うので、必ず出席すること。

## 基礎スポーツ実習 a

生涯スポーツとしてのバドミントン（日野キャンパス）

島崎 あかね

1年～ 前期 1単位

○：研鑽力、協働力

### 【授業のテーマ】

健康的な生活を送るためには運動・スポーツの実施が欠かせないものであると思われます。しかし、現代の生活は省力化が進み日常生活における身体活動量が減少しているのが実情です。

そこで本授業では、高等学校までの体育で1度は経験していると思われるバドミントンを通して、生涯にわたる健康づくり運動の基礎を習得するとともに、身体活動が心身の健康維持に果たす役割について理解することを目的とします。

### 【授業における到達目標】

バドミントンの基本的な技術の修得とともに、練習方法やルール、審判法を理解し実践することで、学ぶ楽しさを知り、日常生活において運動を習慣にする「行動力」の修得を目指します。また、技術や戦術を理解する上で、仲間と協働する「協働力」の修得を目指します。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 体力測定
- 第3週 基本練習①（用具に慣れる、フットワーク）
- 第4週 基本練習②（基本ストローク、サーブ）
- 第5週 基本練習③（基本ストローク、ドロップ、スマッシュ）
- 第6週 基本練習④（基本ストロークの組み合わせ）
- 第7週 シングルス戦のルールと審判法
- 第8週 シングルス戦①
- 第9週 シングルス戦②
- 第10週 ダブルス戦のルール
- 第11週 ダブルス戦①
- 第12週 ダブルス戦②
- 第13週 団体戦①
- 第14週 団体戦②
- 第15週 体力測定とまとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】これまで経験した技術やルールを思い出ししておくとともに、日常生活において運動実施に必要な基礎体力の向上を心掛けましょう。（学修時間 週1時間）

【事後学修】運動実践による心身の変化について体験的に理解し、技術やルールの復習を行いましょう。（学修時間 週1時間）

### 【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極性など）60%、レポート20%、課題達成度20%で総合的に評価します。

基本技術の習熟度について、次回授業時にフィードバックを行います。また試合の実践を通して、審判法の理解度についてのフィードバックを行います。

### 【参考書】

適宜紹介します。

### 【注意事項】

運動実施にふさわしい服装（運動着）・運動靴（体育館シューズ）を必ず着用し、長い髪は結ぶなど身支度を整えてください。水分補給を行うためのペットボトルや水筒、タオルを持参してください。

第1週目の授業時に、履修カードの作成や第2週以降の体力測定・授業内容に関する諸連絡を行うので、必ず出席すること。

※募集人数は36名です。

## 基礎スポーツ実習 b

ニュースポーツ

島崎 あかね

1年～ 前期・後期 1単位

○：研鑽力、協働力

### 【授業のテーマ】

本授業では、健康的な生活を送るために必要な「健康」に関する知識の習得とともに、身近な運動・スポーツを実施することによって各自の健康・体力の維持増進を図るための方法を学習します。ミニテニス・ユニホック・ソフトバレーボール・フライングディスクといったニュースポーツを取り上げ、仲間とともに運動することの楽しさを通してコミュニケーション能力の向上、各種スポーツの基本的なルール・マナーなどを習得し、身体を動かすことの重要性や生涯にわたって心身ともに健康的な生活を構築するための知識を身に着けることを目標とします。

### 【授業における到達目標】

さまざまなスポーツの実践を通して、基本的な技術を身に付けるとともに、自己や他者の役割を理解し、互いに協力しあうコミュニケーション力や「協働力」の修得を目指します。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 体力測定
- 第3週 ミニテニス① 基本技術の習得
- 第4週 ミニテニス② ルールの理解とゲームへの展開
- 第5週 ミニテニス③ ゲームの実践
- 第6週 ユニホック① 基本技術の習得
- 第7週 ユニホック② ルールの理解とゲームへの展開
- 第8週 ユニホック③ ゲームの実践
- 第9週 ソフトバレー① 基本技術の習得
- 第10週 ソフトバレー② ルールの理解とゲームへの展開
- 第11週 ソフトバレー③ ゲームの実践
- 第12週 フライングディスク① 基本技術の習得
- 第13週 フライングディスク② 競技の紹介とルールの理解
- 第14週 フライングディスク③ アルティメットの実践
- 第15週 体力測定とまとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】日常生活において運動実施に必要な身体づくりを行いましょう。（学修時間 週1時間）

【事後学修】授業で学んだ知識を日常生活に取り入れられるよう、積極的な運動実践を心掛け健康的な生活習慣の獲得を目指しましょう。（学修時間 週1時間）

### 【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極性など）60%、レポート20%、実技理解度20%で総合的に評価します。

各種目の技術習熟度について、次回授業時にフィードバックを行います。

### 【参考書】

適宜紹介します。

### 【注意事項】

運動実施にふさわしい服装（運動着）・運動靴（屋内外用）を必ず着用し、長い髪は結ぶなど身支度を整えてください。水分補給を行うためのペットボトルや水筒、タオルを持参してください。

第1週目の授業時に、履修カードの作成や第2週以降の体力測定・授業内容に関する諸連絡を行うので、必ず出席すること。

※募集人数は36名です。

## 基礎スポーツ実習 b

ソフトボール・バドミントン・卓球

高橋 理恵

1年～ 前期・後期 1単位

○：研鑽力、協働力

### 【授業のテーマ】

現代社会において健康は重要なテーマであり、今後学生生活だけでなく生涯にわたり健康で充実した生活を送るためには、自分にとっての健康とは何かを考え、それに向けて行動していくことが必要不可欠です。運動・スポーツは、健康を維持・増進させるために重要な要素の1つでありながら、生涯学習といった側面からも重要な要素になっています。本授業では、友人や家族と共に手軽に楽しめる種目である、卓球、ソフトボール、バドミントンを取り上げます。これらのスポーツを通して、学生が自身の健康に意識を向けることだけでなく、生涯にわたって運動・スポーツを親しむ姿勢を育みます。そして、自分自身で適切な情報を取り入れながら必要な知識を学び、健康的で充実した生活を送るための行動ができる能力を身につけることを目標とします。

### 【授業における到達目標】

さまざまなスポーツの実践から、自身の健康維持や体を動かすことの楽しさなど運動することの重要性を理解し、日頃からスポーツに慣れ親しむ姿勢を養成します。また、仲間と協力し互いに尊重し合うことで相互理解を深め、日常生活においても実践できるコミュニケーションスキルの向上を目指します。

### 【授業の内容】

- 第1週：ガイダンス
- 第2週：体力測定
- 第3週：ソフトボール① キャッチと投法練習
- 第4週：ソフトボール② 打撃と走塁
- 第5週：ソフトボール③ 守備とスロー
- 第6週：ソフトボール④ ルールの確認と試合
- 第7週：バドミントン① 基礎技術の習得（基本ストローク）
- 第8週：バドミントン② 基礎技術の習得（打ち分け/戦術）
- 第9週：バドミントン③ ルール説明・審判法/シングルス戦
- 第10週：バドミントン④ ルール説明/ダブルス戦
- 第11週：卓球① 基礎技術の習得/ルール説明・審判法
- 第12週：卓球② シングルス戦(リーグ方式・トーナメント方式)
- 第13週：卓球③ 基礎技術の復習とダブルス戦(リーグ方式)
- 第14週：体力測定
- 第15週：まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】 バッドやラケットの操作がスムーズにできるように、身体づくりや体力アップをしておくこと。(週1時間)

【事後学修】 自身の身体に動かし方に注意を向けると共に、キャッチボールやボールスローなどの基礎動作ができるよう復習しておくこと。(週1時間)

### 【テキスト・教材】

必要に応じて授業内でプリントを配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業参加に対する積極性や協調性など)50%、課題到達度20%、レポート(毎回の授業の振り返りなど)30%

各授業での技術達成度は次回授業にてフィードバックを行う。

### 【参考書】

特になし。

### 【注意事項】

毎回、運動靴(室内用/屋外用)、ジャージなどの運動着、給水ドリリンク(蓋つき)、タオルなどを持参すること。

天候によって種目を変更する場合がある。

ピアス、ネックレスなどのアクセサリ類は、怪我や事故につながる可能性があるため必ず外すこと。

第1週目の授業時に、履修カードの作成や第2週以降の体力測定・授業内容に関する諸連絡を行うので、必ず出席すること。

※受講人数は36名です。

## 基礎スポーツ実習 c

ダンス・エクササイズ

河田 美保

1年～ 前期・後期 1単位

○：研鑽力、協働力

### 【授業のテーマ】

いろいろなダンス・エクササイズの実践と即興表現を通して、からだを動かす楽しさを感じ、美しい姿勢や人間の多様な動きについて考え、基本的なからだの動かし方を習得するとともに、非言語コミュニケーション能力を高め、生涯を通して「動けるからだ」づくりを目指す。

### 【授業における到達目標】

- ①自分のからだに気づき、こころとからだの調整ができ、仲間との交流ができる。
- ②互いを尊重し信頼を醸成して、豊かな人間関係を構築することができる。
- ③学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることができる。

### 【授業の内容】

授業前半は、基本エクササイズによって十分にウォーミングアップを行うので、自分のからだと対話しながら、その日の体調や微妙なからだの変化を感じとって欲しい。授業後半は即興表現を中心に実習する。学期の後半には、即興表現で生まれた多様な動きを組み合わせ、作品づくりをする。動画を活用して動きを主観的・客観的に観察し、対話を重ねながら発表可能な作品に仕上げる。

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 姿勢評価システムによる姿勢測定
- 第3週 体力測定、形態計測
- 第4週 基本エクササイズ、立ち方、歩き方
- 第5週 アイスブレイク・ムーヴメント(心ほぐし)
- 第6週 即興で動こうⅠ(空間・場の崩し)
- 第7週 即興で動こうⅡ(からだの崩し)
- 第8週 即興で動こうⅢ(リズムの崩し)
- 第9週 即興で動こうⅣ(人間関係の崩し)
- 第10週 作品づくり(テーマ、構成)
- 第11週 発表練習(プレゼンテーションの方法)
- 第12週 作品発表会(VTR撮影)
- 第13週 体力測定、形態計測
- 第14週 姿勢評価システムによる姿勢測定
- 第15週 総括(VTR鑑賞、批評、レポート課題)

### 【事前・事後学修】

- ①自分のからだ向き合う時間を毎日つくる。
  - ②授業で行った動きを参考に「マイ・エクササイズ」を作成し、1日おきに行く。
  - ③バレエ、ミュージカルなどのいろいろな舞踊作品を可能な限りLIVEで鑑賞する。
- ①②合わせて週3時間程度

### 【テキスト・教材】

プリントを使用する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業参加態度、取り組み姿勢)50%、課題達成度(発表作品、創作活動の様子)30%、共通レポート15%、課外活動(運動系公式行事)5%で評価する。発表にはコメントで、共通レポートに対しては総括でフィードバックする。

### 【参考書】

内田樹+三砂ちづる『身体知—カラダをちゃんと使うと幸せがやってくる』(講談社+α文庫)

### 【注意事項】

- ①第1週のガイダンスでは、履修カードの作成や受講上の重要事項の説明を行うので、必ず出席すること。
- ②実習時はアクセサリ類を外し、長い髪は結び、伸縮性に富んだ運動着を着用すること。素足になれるようストッキングやタイツ等は着用しないこと。

- ③受講者が互いに有意義な時間を持てるよう遅刻をしないこと。  
 ④睡眠、食生活等に気を配るなど体調管理に努め、毎回出席できるようにすること。  
 ※受講人数制限36名

## 基礎スポーツ実習 d

なぎなた

高橋 聖子

1年～ 前期・後期 1単位

○：研鑽力、協働力

### 【授業のテーマ】

実践女子大学に於けるなぎなたの歴史と全日本なぎなた連盟の歴史的背景を考慮し、なぎなたの特性を理解し、正確な基本技を修得する。

### 【授業における到達目標】

最終授業にて審査を受けることができ、合格者は全日本なぎなた連盟の「級位」を取得することができる。

日本の伝統文化「武道」を通して礼儀作法を学び、心・技・体を鍛えることができる。

- ①態度…日本の文化・精神を知り世界に発信しようとする態度を習得できる。  
 ②能力…自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができるようになる。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス・オリエンテーション  
 (授業内容の解説と進め方・履修カード作成)
- 第2週 体力測定
- 第3週 なぎなたの歴史について・実践女子大学におけるなぎなたの歴史について  
 礼儀作法－自然体・正座・座礼・立ち方・立礼  
 構え方－中段の構え
- 第4週 構え方－中段の構え・八相の構え・脇構え  
 体さばき－送り足・開き足・継ぎ足・歩み足・踏みかえ足
- 第5週 打ち方  
 ①振り上げ打ち－正面・スネ・コテ
- 第6週 受け方－正面受け・左右面受け・左右スネ受け・胴受け  
 ②八相からの打ち－左右面・左右スネ  
 打ち返し
- 第7週 1本目・2本目
- 第8週 連続技－二段技(面→スネ、振り上げスネ→側面、側面→スネ、スネ→側面)
- 第9週 ①振り返し技－面、スネ  
 ②払い技－面払い、胴払い
- 第10週 3本目  
 抜き技－面抜き、スネ抜き
- 第11週 4本目・5本目
- 第12週 1本目～5本目の練習
- 第13週 総合練習①
- 第14週 総合練習②
- 第15週 まとめ(級位審査：打ち返し、1本目～5本目の形)

#### 〈授業方法〉

ハンドブックによる内容説明。

1対多数による体さばき、技の実習。

二人一組(相対)となり基本打突、受け方、「しかけ応じ」の形の反復練習により技の修得をする。

### 【事前・事後学修】

#### 【事前学修】

「なぎなたハンドブック」を読み専門用語等を理解しておく。

(週1時間)

#### 【事後学修】

毎時間後「なぎなたハンドブック」を読み、復習する。

(週1時間)

### 【テキスト・教材】

授業時に指示する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題達成度30%(なぎなたの特性を理解したか、正確な技を修得し

たかを級位審査と合わせて評価する)  
平常点50% (授業への積極参加・態度)  
共通レポート15%・課題活動5%  
級位審査後、評価と課題を各自にフィードバックする。

**【参考書】**

「なぎなた教室」全日本なぎなた連盟編 大修館書店

**【注意事項】**

- ・文部科学省の方針により、現在中学校・高等学校では「武道」が必修科目となっています。
  - ・「なぎなた」は実践女子大学ならではの種目です。
  - ・武道という性質上、幾つかの制約があります。(授業は裸足等)
  - ・体調を整え、袴・胴着・名札を準備すること。
  - ・級位を申請する場合には、別途費用がかかります。(2000円)
  - ・第1週目の授業時に、履修カードの作成や第2週以降の体力測定・授業内容に関する諸連絡を行うので、必ず出席すること。
- ※募集定員は30名です。

## 基礎メディア技術

河井 延晃

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

### 【授業のテーマ】

今日では、情報機器がコモディティ化したことでパソコンから携帯電話に至るまで、比較的誰にでも高精細な動画撮影、動画編集が可能になりつつあります。本授業では、各自が課題テーマを設定したうえで、比較的身近な素材やツールを使いながら、基礎的なITスキルを広く習得することを目的とします。単なる技術の習熟だけでなく、能動的にコミュニケーションをとってゆくための情報基礎力を涵養することが本授業の全体の目標です。

### 【授業における到達目標】

- ・ Adobe IllustratorやPhotoshopなどクリエイティブ系のツールやクラウドサービスを活用した、基礎技術の習得や情報デザイン力の涵養をおこなう。
- ・ 講義と学生発表により、ITを活用することで課題発見・計画の立案をとまなう「行動力」の涵養をおこないます。

### 【授業の内容】

#### 1. オリエンテーション

#### ◆メディア技術概論

2. メディア技術の広がり
3. メディア特性と制作知識
4. クラウドストレージとワークフロー

#### ◆制作A プリントメディア制作の基礎

5. Illustratorの基礎 デザイン作業でのベクターデータの利点
6. Illustratorでの制作（ロゴデザイン） 下絵とトレース
7. Illustratorでの制作（ロゴデザイン） 仕上げ
8. Illustratorでの制作（雑誌） ラフデザインとスキャン
9. Illustratorでの制作（雑誌） 各種レイヤーの設定とフォント
10. Illustratorでの制作（雑誌） 提出と相互評価

#### ◆制作B ノンリニア編集の基礎

11. スマートフォンやタブレットでの映像撮影の特性
12. 企画書の作成とロケハン
13. 撮影技術 各自の撮影機器とワークフローの確認
14. 撮影と編集 編集ソフトの説明
15. 発表と相互批評

### 【事前・事後学修】

制作実習のため事前準備として写真撮影や企画案の資料作成などがあります。演習課題が時間内に終わらない場合もありますが、授業後には翌週までに課題を終わらせておく必要があります。また、授業外での撮影や打ち合わせの必要な場合があります。積極的な授業参加が求められます（事前課題3時間、復習1時間）。

### 【テキスト・教材】

授業中に随時プリントを配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

制作課題（70%程度）と相互評価シート等（30%程度）により評価します。毎時間、実習中に教室内を回り、疑問点はその場で解決できるようにします。課題発表については、発表時に個別コメントを行います。

### 【参考書】

授業中に随時指示します。

### 【注意事項】

発表会など教室移動が多いため、場所を間違えないようにしてください。情報機器の習熟に不安のある方は共通教育科目の「情報リテラシー」を履修後に受講することを推奨します。



**基礎栄養学**

中村 彰男

1年 前期 2単位

○：美の探究、研鑽力

講義は主にパワーポイントを用いて行います。わからない事があれば、そのままにせず、オフィスアワーに研究室に質問に来ることを推奨します。

**【授業のテーマ】**

栄養とは、外界から物質を摂取・消化・吸収・代謝・排泄する事により、生命を維持し、成長や修復を促進し、健康を保つために大切な生命システムです。基礎栄養学では生化学や生理学と関連づけながら、栄養素がどのように消化・吸収・代謝され、他の物質との相互作用により、健康の維持や増進、疾病の一次予防や治療に関わっているかをテーマに基礎的な知識を習得します。本講義は幅広い食分野で活躍するための基礎科目であり、生体分子の構造と機能を系統的にかつ興味を持って学べるように、身近な話題を交えて講義を進める。

**【授業における到達目標】**

1. 「栄養」と「栄養素」の概念の違いを説明できるようになる。
2. 栄養における五大栄養素の消化・吸収・代謝システムを説明できるようになる。
3. エネルギー代謝の概要とその生理学的意義を説明できるようになる。
4. 健康の維持・増進と疾病の一次予防・治療における栄養の役割を説明できるようになる。

自然の中に内在する真理を探究する事により、新たな知を創生し自己成長する力を育み【研鑽力】、さらに自然の中に秘めた価値を見出すことで心の美を育むことができる【美の探求】。

**【授業の内容】**

- 第1週 基礎栄養学総論（栄養の定義、なぜ栄養学を学ぶか）
- 第2週 食欲と食物の摂取（摂食調節のメカニズム、老化と栄養）
- 第3週 消化・吸収のしくみ（五大栄養素別の消化・吸収）
- 第4週 タンパク質の栄養Ⅰ（タンパク質・アミノ酸の性質）
- 第5週 タンパク質の栄養Ⅱ（タンパク質・アミノ酸の代謝）
- 第6週 糖質の栄養Ⅰ（糖質の分類と血糖調節の仕組み）
- 第7週 糖質の栄養Ⅱ（糖質の体内代謝とエネルギー産生）
- 第8週 脂質の栄養Ⅰ（脂質の分類と必須脂肪酸）
- 第9週 脂質の栄養Ⅱ（脂質の代謝とエネルギー源としての脂質）
- 第10週 ビタミンの栄養Ⅰ（ビタミンの分類と生理作用）
- 第11週 ビタミンの栄養Ⅱ（ビタミンの栄養学的機能）
- 第12週 ミネラルの栄養（ミネラルの分類と生体機能の調節）
- 第13週 水・電解質の栄養学的意義（体液と電解質の調節機構）
- 第14週 エネルギー代謝（エネルギー代謝の概念とその測定方法）
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回の講義の教科書に該当するページを指示するので、その部分をよく読み、専門用語を良く理解しておく。理解できなかった部分の質問をまとめておく。（学修時間 2 時間/週）

【事後学修】 授業終了時に簡単な小テストとリアクションペーパーを提出して貰います。小テストと講義内容をもとに教科書の章末問題を解き復習を行う。（学修時間 2 時間/週）

**【テキスト・教材】**

「栄養科学イラストレイテッド：基礎栄養学」 改訂第3版 田地陽一編、羊土社 2016 年、2,800 円。テキストをベースに授業を進めます。授業前にパワーポイントの資料を配付します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験70点、平常点（毎回講義毎の小テスト・授業への積極参加）30点の合計100点満点で評価。小テストは次の授業の初めに解説。定期テストは問題解説を行います。

**【参考書】**

基礎栄養学ノート第3版（栄養科学イラストレイテッド[演習版]）  
羊土社  
基礎栄養学(改訂第5版)（健康・栄養科学シリーズ）南江堂  
その他、必要に応じて適宜紹介します。

**【注意事項】**

**基礎栄養学**

中村 彰男

1年 前期 2単位

○：美の探究、研鑽力

**【注意事項】**

講義は主にパワーポイントを用いて行います。わからない事があれば、そのままにせず、オフィスアワーに研究室に質問に来ることを推奨します。

**【授業のテーマ】**

栄養とは、外界から物質を摂取・消化・吸収・代謝・排泄する事により、ヒトの健康を維持するための重要な生命維持管理システムです。基礎栄養学では「生化学」、「栄養生理学」、「人体の構造と機能および疾病の成り立ち」と関連づけながら、栄養素がどの様に消化・吸収・代謝され、分子レベルで相互作用することにより、健康の維持や増進、疾病の一次予防や治癒に関わっているかを系統的に学びます。管理栄養士専攻において、基礎栄養学は応用栄養学や臨床栄養学の根幹となる重要な専門科目です。そのため、この授業は管理栄養士モデルコアカリキュラムに沿って行います。

**【授業における到達目標】**

1. 「栄養」と「栄養素」の概念の違いを説明できるようになる。
2. 栄養における五大栄養素の消化・吸収・代謝システムを説明できるようになる。
3. エネルギー代謝の概要とその生理学的意義を説明できるようになる。
4. 健康の維持・増進と疾病の一次予防・治癒における栄養の役割を説明できるようになる。

自然の中に内在する真理を探究する事により、新たな知を創生し自己成長する力を育み【研鑽力】、さらに自然の中に秘めた価値を見出すことで心の美を育むことができる【美の探求】。

**【授業の内容】**

- 第1週 基礎栄養学総論（栄養の定義、栄養と健康・疾病）
- 第2週 食欲と食物の摂取（摂食調節とメカニズム、時間栄養学）
- 第3週 消化・吸収と体内動態と排泄（消化過程の概要）
- 第4週 炭水化物の栄養1（エネルギーとしての糖質と血糖調節）
- 第5週 炭水化物の栄養2（糖質の体内代謝と食物繊維の働き）
- 第6週 脂質の栄養1（脂質の分類と体内動態）
- 第7週 脂質の栄養2（脂質の代謝と生理活性物質の産生）
- 第8週 タンパク質の栄養1（タンパク質の合成と分解）
- 第9週 タンパク質の栄養2（タンパク質・アミノ酸の体内代謝）
- 第10週 ビタミンの栄養（ビタミンの分類と栄養学的機能）
- 第11週 ミネラルの栄養（ミネラルの分類と生体機能の調節）
- 第12週 水・電解質の栄養学的意義（体液と電解質の調節機構）
- 第13週 エネルギー代謝（エネルギー代謝とその測定方法）
- 第14週 栄養の薬物相互作用とテーラーメイド栄養学
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回の講義の教科書に該当するページを指示するので、その部分をよく読み、専門用語を良く理解しておく。理解できなかった部分の質問をまとめておく。（学修時間 2 時間/週）

【事後学修】 授業終了時に国家試験の過去問をもとにした小テストとリアクションペーパーを提出して貰います。小テストと講義内容をもとに教科書の章末問題を解き復習を行う。（学修時間 2 時間/週）

**【テキスト・教材】**

「栄養科学イラストレイテッド；基礎栄養学」改訂第3版 田地陽一編、羊土社 2016年、2,800円。テキストをベースに授業を進めます。授業前にパワーポイントの資料を配付します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験70点、平常点（毎回講義毎の小テスト・リアクションペーパー・授業への積極参加）30点の合計100点満点で評価。小テストは次の授業の初めに解説。定期テストは問題解説を行います。

**【参考書】**

- 基礎栄養学ノート 第3版（栄養科学イラストレイテッド[演習版]）  
羊土社
- 基礎栄養学（改訂第5版）（健康・栄養科学シリーズ）南江堂
- その他、必要に応じて適宜紹介します。

## 基礎栄養学

中村 彰男

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

### 【授業のテーマ】

栄養とは、外界から物質を摂取・消化・吸収・代謝・排泄する事により、成長や修復を促進し、健康を保つための大切な生命維持システムです。基礎栄養学では有機化学、生化学、生理学や微生物学と関連づけながら、栄養素がどのように消化・吸収・代謝され、他の物質との相互作用により、健康の維持や健康増進に関わっているかを学びます。本講義は、様々な食分野にて活用できる幅広い基礎的な知識の習得を目標としますが、単に知識の詰め込みにならないように、双方向の講義を実践します。

### 【授業における到達目標】

1. 「栄養」と「栄養素」の概念の違いを説明できるようになる。
2. 栄養における五大栄養素の消化・吸収・代謝システムを説明できるようになる。
3. エネルギー代謝の概要とその生理学的意義を説明できるようになる。
4. 栄養素を初めとする様々な食品に含まれる化合物がヒトの健康に及ぼす影響を説明できるようになる。

自然の中に内在する真理を探究する事により、新たな知を創生し自己成長する力を育み【研鑽力】、さらに自然の中に秘めた価値を見出すことで心の美を育むことができる【美の探究】。

### 【授業の内容】

- 第1週 基礎栄養学総論（栄養の定義、なぜ栄養学を学ぶか）
- 第2週 食欲と食物の摂取（摂食調節のメカニズム、老化と栄養）
- 第3週 消化・吸収のしくみ（五大栄養素別の消化・吸収）
- 第4週 タンパク質の栄養Ⅰ（タンパク質・アミノ酸の性質）
- 第5週 タンパク質の栄養Ⅱ（タンパク質・アミノ酸の代謝）
- 第6週 糖質の栄養Ⅰ（糖質の分類と血糖調節の仕組み）
- 第7週 糖質の栄養Ⅱ（糖質の体内代謝とエネルギー産生）
- 第8週 脂質の栄養Ⅰ（脂質の分類と必須脂肪酸）
- 第9週 脂質の栄養Ⅱ（脂質の代謝とエネルギー源としての脂質）
- 第10週 ビタミンの栄養（ビタミンの分類と生理学的機能）
- 第11週 ミネラルの栄養（ミネラルの分類と生体機能の調節）
- 第12週 水・電解質の栄養学的意義（水と体液の4つの役割）
- 第13週 第六の栄養素としての食物繊維と腸内細菌叢
- 第14週 栄養と遺伝子（テラーメイド栄養学）
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の講義の教科書に該当するページを指示するので、その部分をよく読み、専門用語を良く理解しておく。理解できなかった部分の質問をまとめておく。【事後学修】 授業終了時に簡単な小テストとリアクションペーパーを提出して貰います。小テストと講義内容をもとに教科書の章末問題を解き復習を行う。（各学修時間2時間/週）

### 【テキスト・教材】

「栄養科学イラストレイテッド：基礎栄養学」改訂第3版 田地陽一編、羊土社 2016年、2,800円。テキストをベースに授業を進めます。授業前にパワーポイントの資料を配付します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験70点、平常点（毎回講義毎の小テスト・授業への積極参加）30点の合計100点満点で評価。小テストは次の授業の初めに解説。定期テストは問題解説を行います。

### 【参考書】

基礎栄養学ノート第3版（栄養科学イラストレイテッド[演習版]）羊土社、基礎栄養学（改訂第5版）（健康・栄養科学シリーズ）南江堂、その他必要に応じて適宜紹介します。

### 【注意事項】

講義は主にパワーポイントで行います。不明点があればそのままにせずオフィスアワーに研究室に質問に来ることを推奨します。

## 基礎栄養学実習

松島 照彦・中村 彰男

2年 前期 1単位 2時限連続 隔週

○：美の探究、行動力

### 【授業のテーマ】

基礎栄養学で学んだ知識を基礎として、試験管レベルの実験、栄養素の消化実験、栄養素の分析・定量実験を行います。さらに、栄養情報リテラシーとして、栄養に関する情報を収集し、プレゼンテーションを行うことで、栄養素の機能や消化・吸収・利用に関する理解を深めます。

### 【授業における到達目標】

#### 【到達目標】

1. でんぷん、たんぱく質、脂質の消化の概要を説明できるようになる。
2. 抗酸化ビタミンについて説明できるようになる。

#### 【卒業要件・学位授与の方針との関連】

1. 実験を通して物事の真理を探究することで、新たな知を創造します。
2. 実験結果を正しく把握・解析し、問題点を発見する力を育みます。

### 【授業の内容】

- 第1回 でんぷんの消化実験
- 第2回 脂肪の消化実験
- 第3回 野菜ジュースカロテンの定量実験
- 第4回 たんぱく質の消化実験
- 第5回 尿中ビタミンCの定量実験
- 第6回 食品たんぱく質の分析
- 第7回 栄養に関連する情報の収集とプレゼンテーション（演習）
- 第8回 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】事前にプリントを配布します。関連する栄養素の機能・消化・代謝などを教科書で復習しておいてください。第7回（演習）では、班ごとにテーマを提示します。事前に情報収集しプレゼンテーションの準備をしてください（学修時間 週2時間）。

【事後学修】第8回の授業では、管理栄養士国家試験過去問を利用した確認テストを行います。予め解答を作成し理解しておいてください（学修時間 週2時間）。

### 【テキスト・教材】

毎回プリントを配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

受講態度40%、試験60%で評価します。毎回の授業では、実験・実習の終了後にまとめ（フィードバック）を行います。

### 【参考書】

『基礎栄養学』（光生館）

『人体の構造と機能及び疾病の成り立ちⅠ（第2版）』（第一出版）

### 【注意事項】

実験用の白衣と上履きを着用すること。

**基礎演習**

—美学美術史学科における学びの基礎を固める—

中村 友代・小野 寛子・金原 さやか・小倉 絵里子

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

美学美術史学科で展開する専門分野の学習に向けて、「見る」「読む」「調べる」「書く」という、基本的スキルを身につける。

**【授業における到達目標】**

1. 学修を通して自己成長する。
2. 課題解決のために主体的に行動する力を身につける。

**【授業の内容】**

授業は4名の担当教員により4クラス編成で行う。授業は原則としてクラス単位で実施するが、博物館・美術館（東京国立近代美術館ほか）の見学授業等を全体授業として行う。

1. イントロダクション：専門科目の学びの特徴と授業の位置付け・目標（全体授業）
2. 美術史研究の基本用語（1）日本美術・日本近代美術
3. 美術史研究の基本用語（2）中国美術・仏教美術
4. 美術史研究の基本用語（3）西洋美術・西洋近代美術
5. 資料収集の基礎（1）文献資料の収集と活用
6. 図書館ガイダンス（1）：図書館を利用した情報検索の基礎を学び、課題に取り組む
7. 図書館ガイダンス（2）：フォローアップとフィードバック
8. 資料収集の基礎（2）作品データの収集と活用
9. 美術館見学授業ガイダンス  
作品ディスクリプションの基礎（基本編）（全体授業）
10. 見学授業（1）東京国立近代美術館（全体授業）
11. 見学授業（2）東京国立近代美術館 工芸館（全体授業）
12. 作品ディスクリプションの基礎（応用編）  
レポート論文の基礎：論文の基本的な構成（序論・本論・結論）と参考文献や注の役割を理解する
13. 見学授業フォローアップ（1）見学での直接調査により得た知見をまとめ、発表・意見交換を行う（前半）
14. 見学授業フォローアップ（2）見学での直接調査により得た知見をまとめ、発表・意見交換を行う（後半）  
見学作品に関する調査より得た知見を 序論・本論・結論、注、文献一覧を備えたレポートにまとめる
15. まとめ 課題へのフィードバック

**【事前・事後学修】**

【事前学修】授業時に配布する資料・プリントを次回授業までに読み、内容を把握しておく。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業内で指示されるレポート・発表等の課題に取り組む。授業時に配布する資料・プリントを復習する。授業内でとりあげる参考文献・参考資料に目を通す。（学修時間 週3時間）

**【テキスト・教材】**

必要に応じて授業時にプリントを配布する。参考文献・参考資料等については、授業中に指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への積極的参加）20%および課題80%の割合で、総合的に評価する。

**【注意事項】**

必修授業ではないが、2年生は全員受講すること。授業の順序は、展覧会の会期や図書館ガイダンス等の都合により変更する場合がある。展覧会見学にかかる交通費等は、すべて学生の自己負担である。

**基礎演習**

－ 演習形式の授業に慣れよう －

大倉 恭輔・久保田 佳枝・三田 薫・萩野 敏

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

「演習＝ゼミナル」は、学生の積極的な学びがポイントとなる授業科目です。「自分で調べ・考え・まとめる」とともに、「他のゼミ生との議論」をとおして学びを深めることが求められます。

そうして、「実践入門セミナー」で学んだことを踏まえながら、2年次の「卒業演習」への準備をしていきます。

**【授業における到達目標】**

ひとつのテーマについて、計画を立て討議を重ねながら問題解決につなげます。このとき、互いの信頼・尊重のもと協力しあい、作業を進められることをめざします。

その上で、広い視野と深い洞察力を身につけることが目標です。

**【授業の内容】**

- 01 イントロダクション
- 02 テーマを見つける
- 03 問題を見つける
- 04 情報を集める a 教科書・参考書からさがす
- 05 情報を集める b 図書館・ネットでさがす
- 06 情報をまとめる a 分類・要点・構成
- 07 情報をまとめる b 図表をつくる
- 08 情報を発信する a 文書と書式
- 09 情報を発信する b 段落と文章
- 10 情報を発信する c ハンドアウトとレポート
- 11 情報を発信する d プレゼンテーションの構成と方法
- 12 情報を発信する e プレゼンテーションでの話し方・態度
- 13 情報を発信する f 討議の方法（聞く・メモする・質問する）
- 14 情報を発信する g 反省点を見つける・修正する
- 15 まとめ

注1 上記は授業内容のリストです。授業開講週をあらわすものではありません

注2 基本的に番号順に講義をしていきますが、学生の理解度や授業の進行状況にあわせて、内容や順番の入れ替えなどの変更がおこなわれる場合があります。

**【事前・事後学修】**

- ・事前学修  
発表資料の作成などの準備に取り組むこと。（週2時間以上）
- ・事後学修  
授業内容の復習や他の人の発表内容の疑問点などについて調べる  
こと。（週2時間以上）

**【テキスト・教材】**

授業開始時に提示します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- ・授業内での発表・成果物など 70% + 授業へ積極的参加度 30%
- ・最終授業日あるいは manaba 上でフィードバックをおこない  
ます。

**【参考書】**

授業時に提示します。

**【注意事項】**

- ・授業運営や進行は、担当教員によって異なる場合があります。
- ・授業の妨げになる行為や勉強意欲に欠ける行為があった場合、教室からの退出や成績評価の大幅減点の対象となります。
- e. g. 私語・居眠り・授業資料不携帯・携帯電話使用 など

**基礎演習 1**

生活文化専攻の基礎・基本力の伸長「ことばの力 基盤整備」

南雲 成二

1年 後期 1単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

**【授業のテーマ】**

基礎演習1は、言語力（話す力・聞く力・書く力・読む力）を中心に、実践女子大学生生活科学部生活文化学科専攻の学生として「学び」を展開していくうえで必要不可欠な基本的言語知識と言語技能を点検し、より発展させることを目的としています。

大学ホームページに示されている「生活科学部の学び」と「生活文化学科の3つの方針（①アドミッションポリシー②カリキュラムポリシー③ディプロマポリシー）」を再度確認していきましょう。

大学1年生として身に付けておきたいことばの力（＝思考力・判断力・表現力の基礎）をスキルアップします。書くこと・読むこと（文字言語活動能力）と、話すこと・聞くこと（音声言語活動能力）に関する自己学習課題を明確にしながら15回の学習にチャレンジします。

**【授業における到達目標】**

生活文化学科「生活心理専攻」「幼児保育児童教育専攻」として必要な基礎的言語力（言語生活・言語文化・言語活動を支える話す力・聞く力・書く力・読む力）を修得する。より確かで豊かなことばの担い手（言語行動主体者）になる。また、言語作品や教材の学習を通して、本学学生が修得すべき「国際的視野」のうち③日本の文化・精神を知り世界に発信しようとする態度の形成を図る。併せて学生が修得すべき「研鑽力」のうち、②学修成果を実感して、自信を創出することができる力（自己教育力）を伸長する。

**【授業の内容】**

※幼児保育専攻『保育・教育相談の基礎』と生活心理専攻『フィールドワーク1』の体験学習を踏まえた【報告発表会】と連動しています。日程時程の確認をしっかりと行いながら進めます。

- 第1回 オリエンテーション「基礎演習1」で学習すること  
「愛語と戒語」を中心に、大学生としての言語力を展望する  
【前半は、かきことば＝文字言語の学習、書く・読む】
- 第2回 自己紹介① 具体的な話す・聞く、書く・読むを中心に
- 第3回 自己紹介②「色紙作り」と「手作り名刺作り」
- 第4回 手紙を書く1（暮らしの中の手紙を見つめる。書式の基本に関する学習と手書き硬筆・毛筆の実習を含む）
- 第5回 手紙を書く2（目上の相手に書く依頼やお礼の手紙、家族や自分に宛てた手紙の実作を試みる）
- 第6回 説明的文章を中心にした読解・要約・批評活動を行う  
（学祖下田歌子先生の著作や学びを通して）
- 第7回 文学的文章を中心にした読解・解説・批評活動を行う  
（「八月や六日九日十五日」に関連する小中教材を核に）
- 第8回 「わたし遺産考」（小論文やエッセーの表現を活用して）
- 第9回 （1）敬語の基礎確認（話し言葉、書き言葉の両面から）  
（2）語彙・語句の点検（日本語テキストの反復活用）
- 第10回 インタビューの仕方、調査報告の仕方を点検する。  
【はなしことば＝音声言語の学習へ 聞く聴く・話す】
- 第11回 フィールドワーク、体験学習の実践報告会準備①  
体験学習報告文（個人バージョンレポート）の作成。
- 第12回 実践報告会準備②1グループ8分程度の発表時間を踏まえ  
パワポ用セル上で構成を考えながら、小見出しと要点を書きまとめる。（生活心理専攻・幼児保育専攻別に準備）  
前年度「実作例」を参考に、口頭発表用原稿を作成する
- ※実践報告会の基となる発表準備と作業時間は、『フィールドワーク1』及び『保育教育指導の基礎』の中で確保します。
- 第13～14回 グループに分属し発表。質疑応答・移動を含め1グループ8分程度で構成。（但し、個人発表形式をとることもある。）  
（第13回…前半グループ、第14回…後半グループ）
- 第15回 「基礎演習1」を振り返り、達成内容の点検とあわせ今後の自己学習課題の明確化を図る。

☆基本的な内容です。学習の順番が入れ替わることもあります。

**【事前・事後学修】**

【事前学修】テキストや資料の要約・整理、言語生活の振り返りやレポート・発表等の課題に取り組む。（学修時間 週2時間）

【事後学修】課題レポートや言語理解・表現に対する指摘について振り返り、確認する。テキストや資料プリントの次回学修範囲を読み、専門用語や人物について調べ、自分なりに理解しておく。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

- 『大学生のための日本語表現トレーニング』（1スキルアップ編 2ドリル編 3実践編＜三省堂書店：福岡健伸・橋本修編著＞2008.9第1刷 各1900円＋税）
- 必要に応じSPIや、課題ワークシート、新聞記事を活用します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（演習への積極的で主体的な参加及び発表）40%、課題レポートや言語作品の内容60%、などにより総合的に評価します。実施した小テスト等は次回授業、中核となる課題レポートや試験は最終授業で解説し、フィードバックを行います。

**【注意事項】**

- 1回分の持ち時間が90分しかありません。遅刻をしないように心がけてください。遅刻してしまうと、学習が成立しません。

**基礎演習 2**

渡辺 敏

2年 前期 1単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

**【授業のテーマ】**

基礎演習2では、論理的思考力を中心に、思考、判断、表現する力を身につけることを目的とします。3年生から始まるゼミでの自分の研究を支える基礎的な学ぶ力を習得することを目指します。データを集めて、それを図や表にあらわすこと、また、それを分析すること、分析したことを筋道だてて文章に分かりやすく表す力を身につけることを目標とします。グループワークやレポートの講評などを通して互いに批判しながら学びを高める授業を行います。授業と並行して論文や自分の読んだ本についてレポートを書く課題も行います。

**【授業における到達目標】**

教育や保育における日本の現状を統計から学び「国際的視野」を培います。グループで協働してテーマを決め、アンケートをとり集計し、そこでの知見を考える活動を通して「研鑽力」「行動力」「協同力」を育てます。結果をプレゼンするときには聞く側の立場に立って、よりわかりやすいグラフや内容提示を考えます。このような活動を通して「美の探求」の態度を培います。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーションと実践女子大のキャラクター作り
- 第2週 棒グラフ、折れ線グラフの読み方
- 第3週 割合を用いたグラフの読み方
- 第4週 アンケートの集計と2次元表、グラフの書き方
- 第5週 グラフを用いたレポートの書き方
- 第6週 量的な研究について
- 第7週 アンケートを使って量的な研究に取り組む
- 第8週 質的な研究について
- 第9週 インタビューを用いて質的な研究のレポートを書く
- 第10週 グループでの研究テーマの設定とアンケートの作成
- 第11週 グループでのアンケートの集計と分担
- 第12週 グループでのグラフ作成と結果の考察
- 第13週 グループでの発表用パワーポイントの作成
- 第14週 グループでの発表の練習と話し合い
- 第15週 グループでの研究の発表

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

自分の書いたレポートを何度も読んで推敲する（学修時間 週2時間）

**【事後学修】**

添削されたレポートを再度読み直し、より読みやすい文章に書きなおす（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

資料は必要に応じて配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

提出レポート50%、グループワーク40%、授業態度10%。提出されたレポートはコメントを入れてフィードバックします。また、レポートはお互いに読み合い、それぞれの文章表現から学びを深めます。

**【参考書】**

授業で紹介します。

**【注意事項】**

自分の書いたレポートは何度も読み直し、だれにでも読みやすい文章に直してください。  
主に幼児保育専攻の学生を対象とします。

**基礎演習 2**

作田 由衣子

2年 前期 1単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

**【授業のテーマ】**

基礎演習2では、論理的思考力を中心に、思考、表現、判断する力を身につけることを目的とします。3年生から始まるゼミでの自分の研究を支える基礎的な学ぶ力を習得することを目指します。データを集めて、それを図や表にあらわすこと、また、それを分析すること、分析したことを筋道だてて文章に分かりやすく表す力を身につけることを目標とします。グループワークやレポートの講評などを通して互いに批判しながら学びを高める授業を行います。授業と並行して自分の読んだ本についてレポートを書く課題も行います。

**【授業における到達目標】**

データを集めて図や表にあらわすこと、分析すること、分析したことを筋道だてて文章に分かりやすく表す力を身につけることができ。現状を正しく把握し、課題を発見できる。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 棒グラフ、折れ線グラフの読み方
- 第3週 割合を用いたグラフの読み方
- 第4週 アンケートの集計とグラフの書き方
- 第5週 グラフを用いたレポートの書き方
- 第6週 量的な研究について
- 第7週 アンケート調査の方法とまとめ方
- 第8週 文献研究について
- 第9週 文献研究のレポートの書き方
- 第10週 グループでの研究テーマの設定とアンケートの作成
- 第11週 グループでのアンケートの集計と分担
- 第12週 グループでのグラフ作成と結果の考察
- 第13週 グループでの発表用パワーポイントの作成
- 第14週 グループでの発表の練習と話し合い
- 第15週 グループでの研究の発表

**【事前・事後学修】**

【事前学修】関連する参考書などを読んでおく（学修時間 週2時間）

【事後学修】添削されたレポートを再度読み直し、より読みやすい文章に書きなおす（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

資料は必要に応じて配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

提出レポート50%、グループワーク40%、授業態度10%  
小レポートや毎回の質問についてはそのつど授業内でフィードバックを行う。最後のグループごとの発表については授業最終回でフィードバックを行う。

**【参考書】**

授業で紹介します。

**【注意事項】**

自分の書いたレポートは何度も読み直し、誰にでも読みやすい文章に直してください。  
主に生活心理専攻の学生を対象とします。



**基礎化学**

山崎 壮

1年 前期 2単位

◎：研鑽力

(4) 高校の化学基礎と化学の教科書、図録集、参考書、問題集

**【注意事項】**

欠席者課題：欠席者は、欠席した講義の配布プリントを速やかに教員研究室に取りに来て、自習し、その回の宿題を次回授業時（出席者と同じタイミング）に提出すること。

**【授業のテーマ】**

栄養学、食品学、食品加工学、調理学などの専門科目を化学の観点から理解するための基礎化学分野と有機化学分野の基礎知識を学びます。基礎化学分野では、化学反応の量的関係、化学計算を取り上げます。有機化学分野では、食品学や生化学の学修に必要な化学構造式の読み方・書き方および食物や生体成分である有機化合物の化学構造と生体内機能との関連性を取り上げます。

**【授業における到達目標】**

化学反応式を基に化学反応に関与する物質の量を計算できる知識、溶液の濃度計算ができる知識、および食品学や生化学で取りあげる主要化合物の化学構造式が理解できる知識、食物や生体成分である有機化合物の化学構造と生体内機能との関連性に関する知識を修得することをめざします。

**【授業の内容】**

## (1) 化学計算

第1週 ①原子量、分子量、物質量（モル）、  
②溶液濃度の表し方（質量%濃度、モル濃度など）

第2週 化学反応式と化学反応の量的関係

## (2) 有機化合物の化学構造と構造式

第3週 ①共有結合、②原子の電気陰性度と分子の極性

第4週 有機化合物の基本骨格 炭化水素（鎖式、脂環式、芳香族）

第5週 異性体1 骨格異性体、幾何異性体

第6週 異性体2 置換基、官能基異性体、位置異性体

第7週 異性体3 光学異性体

## (3) 生体成分の生化学

第8週 脂質1 脂肪酸

第9週 脂質2 イコサノイド、油脂、リン脂質、ステロイド

第10週 アミノ酸

第11週 タンパク質

第12週 炭水化物1 単糖類、グリコシド結合

第13週 炭水化物2 オリゴ糖、多糖類、糖誘導体

第14週 核酸の構造と機能

第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

毎回、講義内容に関する宿題（問題形式）を出すので、次回授業時に提出すること。未提出と期限後提出は減点します。また、授業に関する質問があれば、宿題とともに提出すること。（学修時間 週2時間）宿題返却時に解答・解説を配布するので、自分の解答を確認して復習すること。（学修時間 週2時間）

なお、一部の履修事項では、調査レポート形式の宿題を併用する予定です。

**【テキスト・教材】**

毎回講義プリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

毎回の宿題提出（30%）、期末試験（70%）

毎回の授業では、質問票を兼ねた自己評価票を提出してもらいます。自己評価票に自己申告された授業理解度を教員が見て、必要に応じて次回授業で補足説明します。採点した期末試験は、学期終了後に解答・解説を添えて返却します。

**【参考書】**

(1) 田地陽一編、『栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学 第3版』（羊土社 2016年）、2,800円＋税 [「基礎栄養学」の教科書]

(2) 菌田勝編、『栄養科学イラストレイテッド 生化学 第3版』（羊土社 2017年）2,800円＋税 [「生化学a」と「生化学b」の教科書]

(3) 日本化学会編、『薬学の基礎としての化学 I 定量的取扱』（東京化学同人 2011年）2,400円＋税

## 基礎化学

山崎 壮

1年 前期 2単位

◎：研鑽力

東京化学同人 (2011年) 2,400円+税

(4)高校の化学基礎と化学の教科書、図録集、参考書、問題集

### 【注意事項】

欠席者課題：欠席者は、欠席した講義の配布プリントを速やかに教員研究室に取りに来て、自習し、その回の宿題を次回授業時（出席者と同じタイミング）に提出すること。

### 【授業のテーマ】

栄養学、食品学、食品加工学、調理学などの専門科目を化学の観点から理解するための基礎化学分野と有機化学分野の基礎知識を学びます。基礎化学分野では、化学反応の量的関係、化学計算を取り上げます。有機化学分野では、食品学や生化学の学修に必要な化学構造式の読み方・書き方および食物や生体成分である有機化合物の化学構造と生体内機能との関連性を取り上げます。

### 【授業における到達目標】

化学反応式を基に化学反応に関与する物質の量を計算できる知識、溶液の濃度計算ができる知識、および食品学や生化学で取りあげる主要化合物の化学構造式が理解できる知識、食物や生体成分である有機化合物の化学構造と生体内機能との関連性に関する知識を修得することをめざします。

### 【授業の内容】

#### (1) 化学計算

第1週 ①原子量、分子量、物質量（モル）、  
②溶液濃度の表し方（質量%濃度、モル濃度など）

第2週 化学反応式と化学反応の量的関係

#### (2) 有機化合物の化学構造と構造式

第3週 ①共有結合、②原子の電気陰性度と分子の極性

第4週 有機化合物の基本骨格 炭化水素（鎖式、脂環式、芳香族）

第5週 異性体1 骨格異性体、幾何異性体

第6週 異性体2 置換基、官能基異性体、位置異性体

第7週 異性体3 光学異性体

#### (3) 生体成分の生化学

第8週 脂質1 脂肪酸

第9週 脂質2 イコサノイド、油脂、リン脂質、ステロイド

第10週 アミノ酸

第11週 タンパク質

第12週 炭水化物1 単糖類、グリコシド結合

第13週 炭水化物2 オリゴ糖、多糖類、糖誘導体

第14週 核酸の構造と機能

第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

毎回、講義内容に関する宿題（問題形式）を出すので、次回授業時に提出すること。未提出と期限後提出は減点します。また、授業に関する質問があれば、宿題とともに提出すること。（学修時間 週2時間）

宿題返却時に解答・解説を配布するので、自分の解答を確認して復習すること。（学修時間 週2時間）

なお、一部の履修事項では、調査レポート形式の宿題を併用する予定です。

### 【テキスト・教材】

毎回講義プリントを配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回の宿題提出（30%）、期末試験（70%）

毎回の授業では、質問票を兼ねた自己評価票を提出してもらいます。自己評価票に自己申告された授業理解度を教員が見て、必要に応じて次回授業で補足説明します。採点した期末試験は、学期終了後に解答・解説を添えて返却します。

### 【参考書】

(1) 田地陽一編、『栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学 第3版』（羊土社 2016年）、2,800円+税 [「基礎栄養学」の教科書]

(2) 菌田勝編、『栄養科学イラストレイテッド 生化学 第3版』（羊土社 2017年）2,800円+税 [「生化学a」と「生化学b」の教科書]

(3) 日本化学会編、『薬学の基礎としての化学 I 定量的取扱』（

**基礎化学**

山崎 壮

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

(東京化学同人 2011年) 2,400円+税

(4)高校の化学基礎と化学の教科書、図録集、参考書、問題集

**【注意事項】**

欠席者課題：欠席者は、欠席した講義の配布プリントを速やかに教員研究室に取りに来て、自習し、その回の宿題を次回授業時（出席者と同じタイミング）に提出すること。

**【授業のテーマ】**

栄養学、食品学、食品加工学、調理学などの専門科目を化学の観点から理解するための基礎化学分野と有機化学分野の基礎知識を学びます。基礎化学分野では、化学反応の量的関係、化学計算を取り上げます。有機化学分野では、食品学や生化学の学修に必要な化学構造式の読み方・書き方および食物や生体成分である有機化合物の化学構造と生体内機能との関連性を取り上げます。

**【授業における到達目標】**

化学反応式を基に化学反応に関与する物質の量を計算できる知識、溶液の濃度計算ができる知識、および食品学や生化学で取りあげる主要化合物の化学構造式が理解できる知識、食物や生体成分である有機化合物の化学構造と生体内機能との関連性に関する知識を修得することをめざします。

**【授業の内容】**

## (1) 化学計算

第1週 ①原子量、分子量、物質量（モル）、  
②溶液濃度の表し方（質量%濃度、モル濃度など）

第2週 化学反応式と化学反応の量的関係

## (2) 有機化合物の構造と構造式

第3週 ①共有結合、②原子の電気陰性度と分子の極性

第4週 有機化合物の基本骨格 炭化水素（鎖式、脂環式、芳香族）

第5週 異性体1 骨格異性体、幾何異性体

第6週 異性体2 置換基、官能基異性体、位置異性体

第7週 異性体3 光学異性体

## (3) 生体成分の生化学

第8週 脂質1 脂肪酸

第9週 脂質2 イコサノイド、油脂、リン脂質、ステロイド

第10週 アミノ酸

第11週 タンパク質

第12週 炭水化物1 単糖類、グリコシド結合

第13週 炭水化物2 オリゴ糖、多糖類、糖誘導体

第14週 核酸の構造と機能

第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

毎回、講義内容に関する宿題（問題形式）を出すので、次回授業時に提出すること。未提出と期限後提出は減点します。また、授業に関する質問があれば、宿題とともに提出すること。（学修時間 週2時間）

宿題返却時に解答・解説を配布するので、自分の解答を確認して復習すること。（学修時間 週2時間）

なお、一部の履修事項では、調査レポート形式の宿題を併用する予定です。

**【テキスト・教材】**

毎回講義プリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

毎回の宿題提出（30%）、期末試験（70%）

毎回の授業では、質問票を兼ねた自己評価票を提出してもらいます。自己評価票に自己申告された授業理解度を教員が見て、必要に応じて次回授業で補足説明します。採点した期末試験は、学期終了後に解答・解説を添えて返却します。

**【参考書】**

(1) 田地陽一編、『栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学 第3版』（羊土社 2016年）、2,800円+税 [「基礎栄養学」の教科書]

(2) 菌田勝編、『栄養科学イラストレイテッド 生化学 第3版』（羊土社 2017年）2,800円+税 [平成31年度「生化学a（食物科学専攻）」で教科書に採用予定]

(3) 日本化学会編、『薬学の基礎としての化学 I 定量的取扱』

**基礎造形演習**

モノづくり基礎を演習します

塚原 肇

2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

本授業ではデザインに一番重要な発想力と表現力についての基礎的な演習を行います。前半はケント紙を使用し、モノをデフォルメして立体的に表現する練習、またケント紙の性質を理解してある程度の強度を持った立体の構成、後半はスチレンボードを使い、図面で指示された製品のモックアップを作成します。

**【授業における到達目標】**

- ・前半はカードビルダーを通して、対象物をデフォルメ（簡略化）する能力とそれを立体に構成するスキルを修得します。これらはデザインを行う上での発想法と表現力の訓練になります。
- ・中盤の演習では紙の特質を理解してある程度の強度を持った形態を構成します。
- ・後半の演習では制作図面から具体的な「モノ」をモデリングするスキルを修得します。
- ・ディプロマ・ポリシー（DP）においては、学生が修得すべき「能力」のうち、課題解決のために主体的に行動する力【行動力】を総合的に修得します。

**【授業の内容】**

1. ガイダンス、授業のルール、進め方の説明
2. 演習01 ライオンをディフォルメする
3. 演習02 ライオンをディフォルメする
4. 演習03 立体でリズム、動きを構成する
5. 演習04 立体でリズム、動きを構成する
6. 演習05 立体でリズム、動きを構成する
7. 演習06 紙で動物を作成する
8. 演習07 紙で動物を作成する
9. 演習08 紙で動物を作成する
10. 演習09 紙で橋を作成する
11. 演習10 紙で橋を作成する
12. 演習11 紙で橋を作成する
13. 演習12 スチレンボードで書架を作成する
14. 演習13 スチレンボードで書架を作成する
15. 演習14 スチレンボードで書架を作成する

**【事前・事後学修】**

【事前学修】授業時間内に作品を完成させるために、演習テーマのコンセプトやデザインは事前に準備しておいてください。（学修時間 週最低2時間以上）

【事後学修】授業時間内に完成しなかった作品は必ず自宅で制作して次の課題の構想を準備しておいてください。（学修時間 週最低2時間以上）

**【テキスト・教材】**

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料を配付します。演習の教材として鉛筆、カッターナイフ、スチレンボード、カッティングマット、接着剤、定規は各自用意してください。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

演習課題の評価（70%）、授業態度（30%）

授業において、課題の提出時に即時評価を行い、良い点および改善等のコメントを直接本人に伝える。

**【注意事項】**

ファッション分野、住環境デザイン分野、プロダクト・インテリア分野に共通の基礎演習です。いずれの分野に進むにしても必要不可欠な基礎知識ですので、しっかりと習得することを願います。

教室の定員制限のため60名とします。希望者が多い場合は上級生を優先で抽選とします。

**基礎造形論**

デザインの視覚化

金井 宏水

2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

我々の身の回りの製品（プロダクツ）はいろいろな形態と材料から成り立っている。本授業では、プロダクツや環境のデザインをする上で最も基本となるフォルムの発想法と、第三者にイメージを伝達するためのいろいろな視覚化手法について学習する。

**【授業における到達目標】**

3年次以降のデザイン制作課題においては、フォルムの発想能力やそれを視覚化する能力が必ず必要となる。それらにはそれぞれ手法があるので、まずは手法を知ることと体験してみることから始める。

この授業では、発想法と視覚化手法について学習し、基礎的な知識とスキルを身につけることを目標とする。

ディプロマ・ポリシー（DP）においては、「美の探求」の中の「新たな知を創造しようとする態度」、「研鑽力」の中の「学修成果を実感して、自信を創出することができる」能力を養成することを目指す。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス・基礎造形論の概要
- 第2週 フォルムと発想法・造形練習
- 第3週 視覚化の種類と手法・スピードシェイプを造形する
- 第4週 造形を視覚化するスケッチ
- 第5週 立体による造形-1（三面から切削）
- 第6週 立体による造形-2（形を整えて完成）
- 第7週 製図の基礎知識・形をつかむ
- 第8週 製図道具の使い方・線の引き方
- 第9週 基本的な図面作図練習
- 第10週 寸法の入れ方・製図の実践
- 第11週 図面を完成させる
- 第12週 図面から展開図を起こす
- 第13週 ペーパーモデルの制作練習
- 第14週 展開図から立体に（ペーパーモデル）
- 第15週 モデルの完成・評価

**【事前・事後学修】**

事前学修：前の授業でテーマ説明があった時は、次の時間までにテーマ内容を考えておくこと。（テーマごとに約180分）

事後学修：よく理解でなかった部分は質問し、よく復習しておくこと。（毎週約120分）

課題制作が提出期限に間に合わない時は時間外に進めておき、期限に間に合わせること。

**【テキスト・教材】**

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料を配付。実習に使う鉛筆、カッターナイフとマット、三角定規、製図道具、スチレンボード、スケッチブックなど、別途に指示する用具類を各自用意すること。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

実習課題の提出物・・・70%

平常点（授業態度・取組み姿勢）・・・30%

フィードバックは講評時の口頭評価と作品評価点（提出後1週間以内）

**【参考書】**

『プロダクトデザインの基礎』

**【注意事項】**

定員は40名までとする。希望者が多い時は、上級生を優先した抽選を行う。

**基礎調理**

教野 千恵子

1年 後期 2単位 3時限連続

○：研鑽力、協働力

**【授業のテーマ】**

調理に用いられる食材の基礎知識および調理機器・器具等の扱い方を習得し、調理技術の基礎をマスターすることを目的とする。  
さらに、実験により調理過程における諸現象を観察することにより、理論と技術の関連性を把握し、合理的な調理方法を学修する。

**【授業における到達目標】**

日常よく用いられる食材の扱い方や調理法および調理機器・器具の使い方を修得する。学修を通して自己成長する力「研鑽力」やグループの中で自己の役割を理解し、互いに協力して物事を進める力「協働力」を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 ①実習の心得と衛生的・安全に調理を行うための注意点、  
②調理器具の扱いや調味料の基礎知識 ③炊飯
- 第2週 日本料理1：炊き込みご飯（塩味）、煮物など
- 第3週 卵の調理特性に関する実験  
熱凝固に関する卵の希釈率や副材料の影響
- 第4週 日本料理2：煮干し出汁のとり方、和食の配膳、  
炊き込みご飯（醤油味）、和え物など
- 第5週 日本料理3：すし飯、薄くず汁、魚のさばき方
- 第6週 日本料理4：天ぷら、油の扱い方、上新粉の扱い方
- 第7週 小麦粉の調理特性に関する実験  
パンを調製し、小麦粉の生物的膨化を観察する。
- 第8週 中国料理1：中華スープのとり方、寒天の扱い方、点心
- 第9週 中国料理2：中国調味料の使い方 でんぷんの使い方、
- 第10週 砂糖の調理特性に関する実験  
砂糖の種々の性質を知り、菓子類への影響を検討する
- 第11週 西洋料理1：魚料理、ハーブの種類と使い方  
カスタードプディング、パスタの扱い方
- 第12週 西洋料理2：ブイヨンのとり方、サラダとドレッシング、  
ホワイトソース、ゼラチンの扱い方
- 第13週 西洋料理3：クリスマス料理 肉料理、焼き菓子、紅茶
- 第14週 行事食：おせち料理（祝い肴、口取り、雑煮）
- 第15週 各自が課題に対応した献立1品を考え作成する。

**【事前・事後学修】**

【事前学修】実習の献立および資料を予習し、手順等を理解してから授業に臨んでください。（学修時間 週1時間）

【事後学修】実習レポートを作成して次回の授業時に提出してください。（学修時間 週1時間）

**【テキスト・教材】**

- ・資料プリント：1週間前にmanabaに掲載します。毎回各自で印刷し  
授業に持参してください。
- ・『日本日本食品成分表 2018年版（7訂）』  
（医歯薬出版株式会社）1,300円＋税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

実技試験40%、レポート及び提出課題30%、筆記試験20%、授業への参加態度10%により総合的に評価します。実技試験は実施時に、レポートおよび提出課題は次回の授業でフィードバックします。

**【参考書】**

『調理学』『食品学』『調理学実習』などの教科書全般が、課題を行うのに参考になります。

**【注意事項】**

授業では調理専用の白衣、帽子およびコックシューズを着用し、手指の清潔に心がけ、つめは短く切り、指輪などのアクセサリ類は身につけないで下さい。貴重品は自己管理を徹底してください。実習中は火気や刃物を取り扱いますので十分に注意して行動して下さい。なお、日頃から体調管理を怠らず、万全な体調で実習に望んでください。

**基礎調理 1**

佐藤 幸子

1年 後期 1単位 3時限連続 隔週

◎：協働力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

本講座は、調理の基本的な知識および技術を習得し、食材の美味しさを活かす調理法を学び、調理の実践力を養います。

実習は、食品素材の選択、計量、調理操作、食卓セッティング、供食、後片付けの一連の工程を全て完結することを目指します。また、管理栄養士として、調理システムについて理解し、調理操作の実践力を養い、衛生管理を実践的に学びます。

**【授業における到達目標】**

学生が習得すべき「協働力」を育成し、専門的基礎技術としての習得すべき「学術的な力」（調理の基本）となる技能を習得する。

**【授業の内容】**

- 第1回 ガイダンス  
計量、包丁の扱い方、炊飯、出汁の取り方
- 第2回 日本料理Ⅰ  
『白飯、お吸い物、魚の照り焼き、青菜のお浸し』  
吸い物の構成、焼き物の温度管理、切り身魚の扱い方、二番出汁の活用法、一汁三菜の配膳
- 第3回 日本料理Ⅱ  
『桜飯、鰯の南蛮漬け、茶碗蒸し』  
炊き込みご飯の調味%、魚のおろし方、蒸し物料理  
揚げ物の温度管理、蒸し器の扱い方、
- 第4回 中国料理  
『清湯、粽子、猪肉餃子、涼拌、カピ豆腐』  
上湯の取り方、餅米調理、乾物の扱い方、寒天の扱い方
- 第5回 西洋料理  
『Consomme、Hamburg steak、Gelee aux mandarin』  
ブイヨンの取り方、ひき肉料理、ゼラチンの扱い方
- 第6回 西洋料理  
『Poulet roti、Coquille、Decolation cake』  
オープン料理、紅茶の入れ方
- 第7回 行事食（お正月料理）  
『お雑煮、筑前煮、栗金団、伊達巻、金柑の甘煮、脛』  
日本の伝統的な年中行事・通過儀礼
- 第8回 調理器具の扱い方（包丁の研ぎ方）包丁の技術検定

**【事前・事後学修】**

【事前学修】（学修時間 週1時間）

manabaから使用する資料およびレシピを印刷し予習すること。

【事後学修】（学修時間 週1時間）

実習内容について考察し、レポートにまとめ、manabaに提出すること。

**【テキスト・教材】**

- ・『最新日本食品成分表医歯薬出版編』（医歯薬出版(株)2016年）1300円（税別）
- ・授業資料（レシピ等）はmanabaにて掲載（各自印刷）

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- ・調理技術検定30%：胡瓜の薄切り（毎検定後に評価）
- ・レポート30%：授業のまとめ（次回授業後にフィードバックする）
- ・確認テスト20%：調味%等の筆記テスト
- ・平常点評価20%：真剣な授業態度（授業時にフィードバックする）

**【参考書】**

『New 調理と理論』山崎清子（同文書院 2015年）2,600円（税別）

**【注意事項】**

授業は調理専用の白衣、帽子および上履きを着用し、爪は短く手指の清潔と安全に十分配慮する。貴重品は自己管理する。なお、実習内容は、材料の仕入れ状況により変更する場合があります。

**基礎調理 1**

佐藤 幸子

2年 前期 1単位 3時限連続

◎：協働力 ○：美の探究、行動力

**【授業のテーマ】**

本講座は、家庭における食事づくりに必要な調理技術の向上を目指し、食材の美味しさを追求した調理の実践力を養います。実生活で応用し健康的な食生活を実現できる実践力を養います。

実習は、食品素材の選択、計量、調理操作、食卓セッティング、供食、後片付けの一連の行程を全て完結することを目指します。

**【授業における到達目標】**

学生が習得すべき「協働力」を育成し、専門的基礎技術として習得すべき「学術的な力」（調理の基本）となる技能を習得する。

**【授業の内容】**

- 第1回 ガイダンス 計量、包丁の扱い方、炊飯、出汁の取り方  
 第2回 調理器具の扱い方（包丁の研ぎ方）、包丁の技術検定  
 第3回 日本料理Ⅰ 一汁一菜  
 『おにぎり、お吸い物、即席漬け、』  
 第4回 日本料理Ⅱ 出汁の取り方（煮干し）、卵料理、八方出汁  
 『ゆで卵、青菜のお浸し、お味噌汁』  
 第5回 日本料理Ⅲ 炊き込みご飯 焼き物（卵の調理）  
 『青豆ごはん、だし巻き卵』  
 第6回 日本料理Ⅳ 酢の物 合わせ味噌（赤出汁の味噌汁）  
 『胡瓜の酢の物、なめこの味噌汁』  
 第7回 中国料理Ⅰ 出汁 蒸し物  
 『清湯、木屋炒飯、鮮肉焼売』  
 第8回 中国料理Ⅱ 塩蔵品の扱い方、寒天の扱い方  
 『涼拌、カピ豆腐』  
 第9回：中国料理Ⅲ 揚げ物  
 『春捲、春餅』  
 第10回：西洋料理Ⅰ 出汁 ひき肉料理  
 『Consomme、Hamburg steak』  
 第11回：西洋料理Ⅱ ゼラチンの扱いかた  
 『Salade de chou hache Gelee aux mandarin』  
 第12回：西洋料理Ⅲ パンの調理  
 『Pickles、Sandwich』  
 第13回：魚のおろし方、揚げ物の温度管理、和物の調味料  
 『南蛮漬け、胡瓜の胡麻酢和え』  
 第14回 おもてなし料理  
 『ちらし寿司、潮汁、水羊羹』  
 第15回 まとめ 調理器具類の扱い方

**【事前・事後学修】**

【事前学修】manabaから使用する資料およびレシピを印刷し予習しておくこと。（学修時間 週1時間）

【事後学修】実習内容について考察しレポートをmanabaに提出すること。（学修時間 週1時間）

**【テキスト・教材】**

『新ビジュアル食品成分表 新訂第二版』（㈱大修館出版2016年）  
 1000円（税別）

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- ・調理技術検定30%：胡瓜の薄切りについて検定（検定後に評価）
- ・レポート30%：授業復習・課題研究（manabanに提出）  
 （次回授業時にフィードバックする）
- ・確認テスト20%：筆記テスト
- ・平常点評価20%：真剣な授業態度（授業時にフィードバックする）

**【参考書】**

『NEW調理と理論』山崎清子等（同文書院2015年）2,600円（税別）

**【注意事項】**

衛生管理のため、指定された身支度を整え清潔に心がける。実習中は、指示に従い、安全に留意する。自己管理を怠らず、万全な体調で臨む。材料の仕入れ状況により内容を変更する場合がある。

**基礎調理 2**

澤山 茂

2年 前期 1単位 3時限連続 隔週

○：協働力

**【授業のテーマ】**

調理は、食材の特性およびその利用などが融合して形成された食文化に基づいていることを理解し、実際の基礎知識と食生活全般に役立つ総合的な判断力・実践力を身につけ、応用自在な調理を展開できるようになることを目的とする。本実習は、基礎調理1で修得した基本的な知識および調理技術をもとに、それらの向上を目指して食材のおいしさを追求した調理の実践力を養う。また、管理栄養士として、大量調理に応用できる調理システムについて理解し、合理的かつ能率的調理操作の実践力を養う。さらに、食品の安全性を重視した食材の扱い方を学び、衛生管理を実践的に学ぶ。

**【授業における到達目標】**

基礎調理学実習で修得した基本的内容の復習と総まとめを行い、なるべく多くの実習例を修得し応用自在に調理ができることを目標とする。食に携わるものとして、学生が習得すべき「研鑽力」の幅広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とする。

**【授業の内容】**

- 1 日本料理：すし飯の作り方、薄くず汁について、乾物の戻し方、卵の焼き物、天麩羅の仕方、揚げ油の温度、食器の配膳の仕方
- 2 日本料理：しょうゆ味の炊き込みご飯、茶碗蒸し、魚の三枚おろし、酢の物の合わせ酢の配合、上新粉および白玉粉の扱い方
- 3 中国料理：中国料理の特徴、スープ、和え物、調味料の扱い方、飲み物の種類、食具と食べ方
- 4 中国料理：餅米の調理法、蒸し料理、中国調味料の使い方、でん粉の使い方
- 5 西洋料理：主食となる粉食料理、冷製ソースの応用、ゼラチンを用いる菓子
- 6 西洋料理：香辛料の種類と効果と扱い方、チーズについて、メレンゲを用いる菓子、紅茶について
- 7 おもてなし料理「行事食」：麺類の扱い方、麺つゆの作り方、薬味の種類と効果、寒天の調理性
- 8 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：manabaから授業時に使用する資料およびレシピを各自印刷し、授業内容の予習をしておくこと。実生活において授業内容を事前に調理活動することが望ましい。学修時間1時間

事後学修：専用のノート（A4）に実習内容とポイント、課題を記入して実習後1週間以内にノートを提出すること。学修時間2時間。

**【テキスト・教材】**

『最新日本食品成分表』（医歯薬出版株式会社）最新版

授業資料はmanabaに掲示する。（各自印刷）

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

調理技術検定30%：大根の千六本検定（毎授業時）、筆記試験20%、実技試験20%、提出レポート20%、栄養価計算シート10%。

平常点評価：授業中の活動への参加状況を評価する。毎回ノートを提出し、正しい技術と認識が身についているかチェックを受け評価する。

試験の解答をmanabaに掲載することでフィードバックする。

提出されたレポートは毎回添削して返却し、コメントと共にフィードバックする。

**【参考書】**

『New 調理と理論』山崎清子（同文書院）2,600円（2005）

**【注意事項】**

授業は調理室を使用するので調理専用の白衣、帽子および上履きを着用して入室。爪は短く、マニキュアはしない、指輪は外す、清潔と安全に十分配慮すること。貴重品は自己管理を徹底すること。



## 基礎調理 2

佐藤 幸子

2年 後期 1単位 3時限連続 隔週

◎：協働力 ○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

本講座は、基礎調理1で学んだ基本的な知識および技術をさらに定着させることを目指し、食材の美味しさを追求した調理の実践力を養います。内容は、献立形式とし、より創造性豊かな調理的感性を養い、日本の伝統的な料理に対する意識向上を図ります。実習は、食品素材の選択、計量、調理操作、食卓セッティング、供食、後片付けの一連の行程を全て完結することを目指します。

### 【授業における到達目標】

学生が習得すべき「協働力」を育成し、専門的基礎技術および伝統的な食文化として習得すべき「学術的な力」「豊かな教養の力」を習得します。

### 【授業の内容】

- 第1回 西洋料理Ⅰ 酢油ソースの応用、パイクラフトの作り方  
『Caesar salad、Pumpkin pie』
- 第2回 日本料理Ⅰ 和菓子 酢飯  
『巻き寿司、いなり寿司、沢煮椀、利久饅頭』
- 第2回 中国料理Ⅰ もち米の調理  
『蛋花湯、粽子、棒棒鶏、辣拌黄瓜、水果西米露』
- 第3回 中国料理Ⅱ 小麦粉の調理（強力粉）  
『搾菜湯、猪肉餃子、豆鼓蒸紅魚、韭黄炒肉』
- 第4回 西洋料理Ⅱ ポタージュのつくり方、カラメルソース  
『Escalope de porc cordon blue、Potage creme de carottes、Pudding au caramel』
- 第5回 日本料理Ⅱ 魚の三枚おろし（復習）  
『味噌煮、魚の素揚げ』
- 第6回 おもてなし料理（クリスマス料理）  
『Poulet roti、Coquille、Pillaf de crevettes、Decolation cake、Cranberry punch』
- 第7回 おもてなし料理（お正月料理）  
お雑煮、筑前煮、柿臈、栗金団、金柑の甘煮、伊達巻
- 第8回 調理器具の扱い方（包丁の研ぎ方）、包丁の技術検定

### 【事前・事後学修】

- 【事前学修】manabaから使用する資料およびレシピを印刷し、予習しておくこと。（学修時間 週1時間）
- 【事後学修】実習内容について考察し、レポートをmanabaに提出すること。（学修時間 週1時間）

### 【テキスト・教材】

『新ビジュアル食品成分表 新訂第二版』（㈱大修館出版2016年）1000円（税別）

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・調理技術検定30%：胡瓜の薄切りについて検定（検定後に評価）
- ・レポート30%：授業復習・課題研究（manabaに提出）  
（次回授業時フィードバックする）
- ・確認テスト20%：筆記テスト
- ・平常点評価10%：真剣な授業態度（授業時にフィードバックする）

### 【参考書】

『NEW 調理と理論』山崎清子等著（同文書院2015年）2600円（税別）

### 【注意事項】

衛生管理徹底のため、指定された身支度を整え、手指の清潔に心がけ、すべてのアクセサリ類は身につけないでください。実習中は、担当者の指示に従い、安全に留意する。なお、各自、自己管理を怠らず万全な体調で授業に臨む。材料の仕入れ状況により内容を変更する場合があります。

## 機器分析実験

杉山 靖正

3年 後期 1単位 2時限連続 隔週

○：研鑽力、行動力

### 【授業のテーマ】

食品に含まれている各種成分の分析機器による測定法、分析結果の解析による定性・定量手法を実習します。それぞれの機器の分析原理を理解し、実際に扱って分析結果を解析することを通じて食品成分の機器分析手法や機能性成分等への理解を深めます。

### 【授業における到達目標】

分析データを解析し結果について考察することを通じて、自己成長する力（研鑽力）のうち特に深い洞察力を養うことを目標とします。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガスクロマトグラフィー / GC  
食品の香気成分、揮発性成分の定性・定量
- 第2週 原子吸光分析 ICP発光分光分析  
無機元素分析と定量
- 第3週 液体クロマトグラフィー / HPLC  
有機酸の分離定量
- 第4週 アミノ酸アナライザー  
食品中の遊離アミノ酸の定量
- 第5週 HPLC  
ポリフェノール類の定性・定量
- 第6週 味覚アナライザー  
官能評価と味認識装置による分析
- 第7週 電気泳動 / SDS-PAGE  
たんぱく質の定性
- 第8週 比色、色差分析  
食品成分の酵素法による定量  
食品の色調の分析

### 【事前・事後学修】

- 【事前学修】予習のための小レポートに取り組むこと。  
（学修時間 週1時間）
- 【事後学修】実習で得たデータをまとめレポートとして提出する。  
（学修時間 週1時間）

### 【テキスト・教材】

プリント資料を配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実験レポート80%、実験への取り組み態度20%  
採点したレポートを返却することでフィードバックします。

### 【参考書】

参考資料については、授業中に紹介します。

### 【注意事項】

使用機器の数量などの都合で、履修希望者が多い場合は抽選になる場合があります。

## 機能材料学

牟田 緑

3年 前期 2単位

◎：研鑽力

### 【授業のテーマ】

衣服用繊維のみならず生活に用いられる繊維製品全般において高性能化・高機能化が進んでいるのが現状です。衣服素材からインテリア素材、産業資材までの幅広い分野で用いられる機能材料（繊維）を取り扱うにあたり、基礎知識を持つ必要があります。これらの機能材料の分子構造、微細構造、形態的特徴を理解し、その性質や用途展開について学習します。

### 【授業における到達目標】

主として、衣料用に開発される機能性繊維材料の広範な種類と性質を理解し、それらの基礎知識と適切に使用・管理する力を養い、衣料管理士としての活躍に資する力を養うことを目標とします。生活・産業用に使用されている高機能材料の性質についても理解します。

### 【授業の内容】

- 第1週 新合繊の出現と進展
- 第2週 外観特性 風合い 高発色 高ドレープ
- 第3週 快適素材 水分特性 接触冷感
- 第4週 快適素材 温感特性 発熱繊維
- 第5週 快適素材 ストレッチ性 軽量化繊維
- 第6週 快適素材 紫外性遮蔽性 透湿防水性
- 第7週 快適素材 抗菌防臭素材 消臭素材 中間まとめ
- 第8週 安全素材 難燃性 耐熱性
- 第9週 安全素材 高視認性 蓄光素材 帯電防止
- 第10週 美容素材 化粧品関連品、機能性人工毛髪
- 第11週 イージーケア素材 形態安定製、防汚素材
- 第12週 インテリア素材 光・熱・衛生の機能
- 第13週 スーパー繊維 炭素繊維 高強度繊維
- 第14週 環境配慮繊維 リサイクル 植物由来繊維
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

〈事前学修〉衣服などの繊維製品を購入する際、商品説明をよくみて、製品の繊維組成や機能性、取扱注意事項などに注意を払うことを習慣化しましょう。（学修時間 週二時間）

〈事後学修〉講義で得た内容については参考書やインターネットなどにより理解を深め、授業内では網羅しきれない関連する性質の繊維についても修得しましょう。（学修時間 週二時間）

### 【テキスト・教材】

プリントを配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト20点、試験及び課題60点、平常点（授業への積極的参加、授業態度など）20点。小テストについては、次回授業でフィードバックを行います。

### 【参考書】

- ・佐藤銀平著「化学の働きシリーズ4 衣料と繊維がわかる（日刊工業新聞社 2013）
- ・山崎義一・佐藤哲也「せんの科学 天然せんとスーパーせんの驚くべき機能と活用法」（ソフトバンククリエイティブ2011）
- ・平井東幸編著「図解繊維がわかる本」（日本実業出版社 2004）
- ・中島利誠・金子恵似子・清水裕子・牛腸ヒロミ・牟田緑「新稿被服材料学」（光生館 2010）

### 【注意事項】

欠席、遅刻はしないように注意してください。

「繊維高分子材料学」や「テキスタイル材料学」などの繊維系科目を履修していることが望ましいです。

**給食マネジメント実習**

一寸木 美代子

2年 通年 2単位 3時限連続 隔週

○：協働力

**【授業のテーマ】**

給食マネジメント実習では、給食経営管理論を活用して、安全で喜ばれる給食を提供する技術や知識を身につける。

数名ずつのグループを構成し、グループごとに給食を運営する。管理栄養士、栄養士、調理師の役割を実習し、3つの役割の視点で給食マネジメントを理解する。さらに、実際の給食施設を想定した実習により3年生以降の臨地実習の理解を深める。

**【授業における到達目標】**

自主的に取り組み責任を果たすことで、リーダーシップをはじめとしたコミュニケーション能力を高める。さらに、相互を生かして自らの役割を果たす力「協働力」を身につける。

**【授業の内容】**

1. オリエンテーション（実習の進め方）
2. 給与栄養目標量の設定
3. 献立計画
4. 予定献立の試作
5. 生産（調理作業）計画、発注計画
6. 栄養教育媒体作成、喫食調査表の設計
7. 調理作業開始時の準備、点検
8. 検収・保管
9. 調理作業工程管理・配食管理
10. 検食・保存食
11. 食堂の準備と配膳管理
12. 清掃・点検
13. 実習全体評価（栄養出納表、金銭出納簿、栄養管理報告書）
14. 改善点の検討
15. 食品構成表の作成、食品構成から献立作成

**【事前・事後学修】**

課題を授業時に提出できるようにしておくこと。

（事前学修時間 週2時間）

実習で行った記録を整理しまとめること。

（事後学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

- ・プリントを使用する。
- ・所定の実習着、靴を用意すること（7000～10000 円）
- ・『調理のためのベーシックデータ（第5版）』（女子栄養大学出版部）本体1944円 2018年2月出版
- ・『日本食品成分表 本表編（七訂）』（医歯薬出版）本体1300円 2017年3月出版

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート50%、平常点（授業への積極参加・提出課題）50%により評価する。課題は返却時フィードバックを行う。

**【参考書】**

- ・『大量調理施設衛生管理のポイント』（中央法規）本体2592円 2016年2月出版

**【注意事項】**

（人間社会学部各学科生 対象）

**給食経営管理 a**

長谷川 めぐみ

1年 後期 2単位

○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

給食運営や関連の資源（食品流通、食品開発の現状、給食にかかわる組織や経費）を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力を養う。

同時にマーケティングの原理や応用を理解するとともに、組織管理などのマネジメントの基本的な考えや方法を習得する。

**【授業における到達目標】**

1. 管理栄養士に必要な給食経営管理の知識・技術を習得する
2. マーケティングや新しい食事サービスなどについて最新の知識を習得する

**【授業の内容】**

- 1 給食の概念
- 2 給食システム
- 3 給食施設の特徴と関連法規
- 4 給食経営と献立
- 5 給食管理の概要
- 6 給食とマーケティング
- 7 給食経営と組織
- 8 栄養・食事のアセスメント(1)
- 9 栄養・食事のアセスメント(2)
- 10 食事の計画(1)
- 11 食事の計画(2)
- 12 食事計画の実施・評価・改善(1)
- 13 食事計画の実施・評価・改善(2)
- 14 食事計画の実施・評価・改善(3)
- 15 総合学習

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

毎回講義のテキスト（該当箇所）を学修し、講義内に実施する小試験およびプレゼンテーションの準備をする（学修時間：2時間）

**【事後学修】**

毎回講義で配布する資料を完成させ、レポートを作成し講義終了時に提出する（学修時間：2時間）

**【テキスト・教材】**

- 「サクセス管理栄養士受験講座 給食経営管理論」（第一出版：定価2400円＋税，2017）
- その他 資料配布 静止映像媒体の使用

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末試験 50%  
受講態度 50%（講義内課題，小試験，レポート）  
毎回提出された課題・小試験を確認、返却しフィードバックする

**【参考書】**

- 「日本人の食事摂取基準(2015年版)」  
（第一出版：本体2700円＋税，2017）
- 「日本人の食事摂取基準(2015年版)の実践・運用  
特定給食施設等における栄養・食事管理—演習付—」  
（第一出版：本体2000円＋税，2017）

**給食経営管理 b**

長谷川 めぐみ

2年 前期 2単位

○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

給食運営や関連の資源（食品流通、食品開発の現状、給食にかかわる組織や経費）を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力を養う。

同時にマーケティングの原理や応用を理解するとともに組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を習得する。

**【授業における到達目標】**

1. 管理栄養士に必要な給食経営管理の知識・技術を習得する
2. マーケティングや新しい食事サービスなどについての知識を習得する

**【授業の内容】**

- 1 給食経営における品質管理(1) 品質と標準化
- 2 給食経営における品質管理(2) 原価
- 3 給食経営における品質管理(3) 食材
- 4 給食経営における品質管理(4) 生産と提供
- 5 給食の安全・衛生 (1) 概要
- 6 給食の安全・衛生 (2) 事故・災害対策
- 7 給食の施設・設備 (1) 生産（調理）施設・設計設備
- 8 給食の施設・設備 (2) 食事環境の設計と設備
- 9 給食の人事管理
- 10 施設別栄養管理(1) 概要
- 11 施設別栄養管理(2) 医療施設
- 12 施設別栄養管理(3) 高齢者・介護福祉施設
- 13 施設別栄養管理(4) 児童福祉施設・障がい者福祉施設・学校
- 14 施設別栄養管理(5) 事業所
- 15 総合学習

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

毎回講義のテキスト(該当箇所)を学修し講義内に実施する小試験およびプレゼンテーションの準備をする(学修時間:2時間)

**【事後学修】**

毎回講義で配布する資料を完成させ、レポートを作成し講義終了時に提出する(学修時間:2時間)

**【テキスト・教材】**

「サクセス管理栄養士受験講座 給食経営管理論」2017年

(第一出版:定価2400円+税)

その他 配布資料 静止映像媒体の使用

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末試験 50%

受講態度 50%(講義内課題、小試験、レポート)

毎回提出された課題・小試験を確認、返却しフィードバックする

**【参考書】**

「日本人の食事摂取基準(2015年版)」

(第一出版:本体2700円+税、2017)

「日本人の食事摂取基準(2015年版)の実践・運用

特定給食施設における栄養・食事管理&mdash;演習付一

(第一出版:本体2000円+税、2017)

**給食計画論**

加藤 チイ

1年 後期 2単位

○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

給食の目的はさまざまな対象者に適応した栄養量のおいしい食事を安全に提供することにあります。給食で提供する食事は施設の実状に合わせて設備、衛生、調理者の作業量、経済性、教育効果など多くの条件を考慮する必要があります。また給食は家庭の食事とは異なり「組織」を動かして作成しています。この講義では、給食を計画するための基礎知識や栄養士の役割について学びます。

**【授業における到達目標】**

特定給食施設と栄養士の役割を理解する。  
給食の栄養量を決めることができる。  
目標栄養量を満たす食品構成が作成できる。  
HACCPに基づく食品衛生を理解する。  
大量調理施設衛生管理マニュアルを理解する。  
大量調理に適した料理・献立を理解する。  
研鑽力を養う。

**【授業の内容】**

第1週 給食について理解する  
第2週 特定給食施設と栄養士の役割  
第3週 献立作成①（給与栄養量の決め方）  
第4週 献立作成②（食品構成）  
第5週 献立作成③（食品の常用量、料理の組み合わせ）  
第6週 献立作成④（調味パーセント）  
第7週 大量調理（1）適した料理・献立  
第8週 大量調理（2）作業、調理システム  
第9週 衛生管理（1）大量調理衛生管理マニュアル  
第10週 衛生管理（2）調理施設  
第11週 食品の流通と保管  
第12週 給食関連法規（1）健康増進法、入院時食事療養制度など  
第13週 給食関連法規（2）食品衛生に関する法規など  
第14週 まとめ（1）献立  
第15週 まとめ（2）給食管理

**【事前・事後学修】**

【事前学修】授業予定を確認し、テキスト該当ページを予習する（週2時間）。

【事後学修】配布プリント、講義内容を復習する（週2時間）。

**【テキスト・教材】**

富岡和夫編著『給食の運営 給食計画・実務論』（医歯薬出版株式会社）2800円+税

『調理のためのベーシックデータ』（女子栄養大学出版部）1800円+税

『日本食品標準成分表』（出版社を問わない）※いずれも最新版

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

小テスト30%、試験50%、平常点（授業への積極参加・提出課題）20%

フィードバック：試験得点分布傾向公開、問題解説、レポートは評価し返却。

**【参考書】**

殿塚婦美子編集 改訂新版『大量調理—品質管理と調理の実際—』（学建書院）2700円+税

**【注意事項】**

給食は科学的根拠に基づいて計画的に作ることを理解しましょう。数値合わせ、インターネットや各種資料を引用した献立は作成しない。  
常に喫食者のことを考えて学習に取り組む。  
電卓持参が望ましい（スマートフォン、携帯電話の電卓機能使用は認めない）。

**給食実務学内実習**

加藤 チイ

3年 通年 2単位 3時限連続 隔週

○：研鑽力、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

栄養士として集団給食を提供するために必要な知識や技術を習得する。特定給食施設の給食実務を理解し、質のよい食事を提供するための作業のしかたやグループワークを実習する。

**【授業における到達目標】**

栄養基準に合わせた食品構成を作成し、食品を計画的に使用して目標栄養量を満たす献立、給食を作成する。  
班員が協力して給食業務を遂行できる。  
コンピュータ給食ソフトを使用した栄養実務ができる。  
給食に必要な帳票類を使う。  
大量調理施設衛生管理マニュアルに従った作業ができる。  
給食利用者に喜ばれ、効果の高い食事を提供する。  
研鑽力、行動力、協働力を養う。

**【授業の内容】**

第1週 予定献立の検討、衛生管理  
第2週 大量調理機器の使い方、試作  
第3週 試作による献立修正、予定献立決定、帳票類作成  
第4週 給食実習①（1班調理、2班給食計画、補佐）  
第5週 給食実習②（2班調理、1班給食計画、補佐）  
第6週 給食実習③（1班調理、2班給食計画、補佐）  
第7週 給食実習④（2班調理、1班給食計画、補佐）  
第8週 給食実習⑤（1班調理、2班給食計画、補佐）  
第9週 給食実習⑥（試作、帳票作成）  
第10週 給食実習⑦（2班調理、1班給食計画、補佐）  
第11週 給食実習⑧（1班調理、2班給食計画、補佐）  
第12週 給食実習⑨（2班調理、1班給食計画、補佐）  
第13週 給食実習⑩（1班調理、2班給食計画、補佐）  
第14週 給食実習⑪（2班調理、1班給食計画、補佐）  
第15週 実習のまとめ（給食の評価、報告書、グループ発表）

**【事前・事後学修】**

【事前学修】給食運営に関連する科目の復習、調理に慣れる。

【事後学修】帳票類は実施に合わせて赤字修正する。実習を振り回し自己評価する。喫食者アンケートを参考に次回の目標を決める。

**【テキスト・教材】**

大量調理施設衛生管理のポイントHACCPの考えに基づく衛生管理手法（中央法規）2400円+税

「日本食品標準成分表」（出版社を問わない）

※いずれも最新版

1、2年次に使用した献立や給食関連のテキスト（指示します）。帳票類はプリント配布。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（実習への積極参加・提出課題）100%

フィードバック：レポートは評価し返却。

**【参考書】**

『新 喜ばれた給食献立シリーズ（1～5）』第一出版 1300円+税

殿塚婦美子編集 改訂新版『大量調理—品質管理と調理の実際—』（学建書院）2700円+税

**【注意事項】**

実習に必要な物（テキスト、清潔な実習着、履物、電卓、その他）を忘れた、体調不良、化膿創、細菌検査未提出の場合は実習ができない。体調管理、頭髪、化粧などの身だしなみに注意。決まり、提出期限は厳守する。USBなど記録媒体の持参が望ましい。学事等により授業の順番を変える場合があります。

【購入するもの】ユニフォーム（1着8000円程度）、布エプロン（1枚1500円程度）。試食費350円/食。

**給食実務校外実習**

長谷川 めぐみ

3年 通年 2単位

◎：協働力 ○：研鑽力、行動力

レポートの完成度が低い学生は個別指導する。

**【参考書】**

『日本人の食事摂取基準（2015年版）』（第一出版）本体2,700円

**【注意事項】**

1. 実習期間は後期（9月～12月）の予定（実習先により異なる）
2. 実習費（実習諸経費）は事前に（4月中）パピルスシートを通して支払うこと（19,000円/1人あたり）
3. 実習先により健康診断書等の提出があります

**【授業のテーマ】**

授業のテーマ

給食業務を行うために必要な食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する技術を習得する。

授業の目標

給食運営や関連の資源を統合的に判断し、栄養面、安全面、経済全般のマネジメントを行う能力を養うこととし、マーケティングの原理や応用について理解するとともに、組織管理などのマネジメントの基本的な考えかたや方法を習得することを目標とする。

**【授業における到達目標】**

- ①給食実務校外実習において自己や他人の役割を理解し互いに協力してすすめることができる
- ②給食実務校外実習において互いを尊重し信頼を醸成して豊かな人間関係を構築することができる
- ③給食実務校外実習において、状況に応じたリーダーシップを発揮することができる

**【授業の内容】**

第1回 給食実務校外実習ガイダンス

第2回 給食実務校外実習希望予備調査

第3回 実習施設別ガイダンス〈1〉病院

第4回 実習施設別ガイダンス〈2〉高齢者福祉施設

第5回 実習施設別ガイダンス〈3〉保育所

第6回 実習施設別ガイダンス〈4〉事業所

第7回 実習施設別ガイダンス〈5〉小学校

第8回 給食実務校外実習希望調査

第9回 実習先決定と班編成

第10回～第14回（全5回）：事前学修

(1) 対象者の把握・アセスメント (2) 課題学修 (3) 課題学修

(4) 実習ノートについて (5) 実習報告会と報告書について

第15回 給食実務校外実習結団式

(提出書類, 服装, 持ち物確認, 宣誓書提出)

第16回～第24回（全9回）：事後学修

(1) 挨拶状・礼状作成 (2) 実習報告書の作成（個人）

(3) 実習報告書の作成 (4) 実習報告書の作成（個人・班）

(5) 実習報告会準備（役割分担）

(6) 実習報告会準備（パワーポイント作成）

(7) 実習報告会準備（パワーポイント作成）

(8) 実習報告会準備（発表練習） (9) 実習報告会準備

第26回, 第27回

総合学修：給食実務校外実習報告会総練習

第28回, 29回

給食実務校外実習報告会

第30回 総合学修：実習施設別の講評とまとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：

実習先への理解を深め疑問をまとめて実習課題を決定し準備しておくための時間は20時間必要である

事後学修

実習後は内容をまとめ報告会の準備を行いプレゼンテーションスキルを身につける。プレゼンテーションのための資料作成に毎回5時間は必要である

**【テキスト・教材】**

テキスト購入はありません。講義時に資料配布を行います。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

実習態度50%, レポート（実習ノート）40%, 作成報告書10%

毎回提出するレポートを評価し返却する。

**給食実務論**

加藤 チイ

2年 前期 2単位

○：研鑽力、行動力

**【授業のテーマ】**

事業所、病院、学校、福祉施設などの給食を安全においしく提供するためには給食実務に関する幅広い知識が必要です。給食計画論で学んだ内容を発展させて、質の高い給食業務を円滑に行うための実践的な知識を修得します。

**【授業における到達目標】**

事業所、病院、福祉施設、学校など各給食施設の特徴を理解する。  
給食業務のリーダーとして栄養士が携わる労務管理について知る。  
給食に関連する費用について理解する。  
厨房設備、機器、什器などについて理解する。  
PDCAサイクルに基づく食事の品質向上について理解する。  
給食に関する帳票類について理解する。  
研鑽力、行動力を養う。

**【授業の内容】**

第1週 特定給食施設について  
第2週 事業所給食  
第3週 入院時食事療養（病院給食）  
第4週 高齢者施設給食  
第5週 保育所・学校給食  
第6週 円滑な業務を行うための職場のしくみ  
第7週 給食の費用について（給食事務）  
第8週 食器、調理器具について  
第9週 効率の良い調理作業と調理スペース  
第10週 衛生管理  
第11週 給食と栄養教育、情報提供  
第12週 献立の評価、喫食者アンケート  
第13週 災害時・緊急時の食事対応  
第14週 給食管理  
第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】授業予定を確認し、テキスト該当ページを予習する（週2時間）。

【事後学修】配布プリント、講義内容を復習する（週2時間）。

**【テキスト・教材】**

富岡和夫編著 『給食の運営 給食計画・実務論』（医歯薬出版株式会社）2800円+税

西岡葉子ほか編集『特定給食施設 給食管理事例集』（学建書院）3200円+税

『大量調理施設衛生管理のポイント』（中央法規出版株式会社）2400円+税 ※いずれも最新版

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

小テスト30%、試験50%、平常点（授業への積極参加・提出課題）20%

フィードバック：試験得点分布傾向公開、問題解説、レポートは評価し返却。

**【参考書】**

ヘルスケアレストラン（月刊誌）株式会社 日本医療企画 1100円+税

**【注意事項】**

給食の運営には科学的なもの見かたが必要です。食品の価格、食品流通、食品衛生など社会の動きにも目を向けましょう。  
電卓持参が望ましい。

**共生支援論**

高木 裕子

3年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

ボランティアの心性を持ちながらも、タフに活動していくためには「公共性」とは何かを理解し、目標を持って取り組んでいくことが重要です。また、一市民や社会人として貢献し、地域の問題や課題を解決していくには、善意ある個人の働きを超え、それを組織力として高めていくことも大切です。近年、ボランティアな意思を持って出発した組織でも、成熟、大規模化した結果、ボランティアな心性が失われ、維持が難しくなっている所もあります。従来、そのような組織は、行政の「公」や企業の「私」ではない役割や活動が期待されていたのですが、今日では、そうではない、新たな動きや価値観、理想も求められるようになってきています。その一つが多面的社会の実在を認識し、共生（社会）の実現を目指し、生態学からみた共生支援を行おうとするものです。本授業では、今日、地域社会や世界規模での共生（社会）の実現を目指した、「共」としての諸理論や実際、共生支援としてのプロレス・コンサルテーション、実際論としてのソーシャルワークなどについて考えていきます。また、どうすればより良く生きられるのかを、個人とそれに係る個としての自分、そして、集団や組織論から考えてみます。

**【授業における到達目標】**

多面的に物事が捉えられるようになるには、今、社会や世界で起きている事象や現象、問題や課題を、多角的かつ多方面から捉え直してやる必要があります。そのような態度や認識力があってこそ、国際的視野から物事が捉えられ、また、倫理的に人に寄り添うこともできるものです。このような力を養うことを目標に、授業ではものの本質やそこにある世界観、その意味概念等々について、広く深く考えていきます。

**【授業の内容】**

- 第1週 国家の論理、企業の論理1（国家）
- 第2週 国家の論理、企業の論理2（企業）
- 第3週 多面的社会への認識と「公」と「私」
- 第4週 公共性と多様な中間集団としてのNPO、NGOの誕生
- 第5週 生態学とQOL（クオリティオブライフ）
- 第6週 多文化・多言語社会と価値観、行動様式
- 第7週 異文化コミュニケーション
- 第8週 市民型の成熟した状況とは何か
- 第9週 「共」領域の充実と「もう一つの社会」の誕生
- 第10週 国際化とグローバリゼーション
- 第11週 「共」に資する人材1（事業型）
- 第12週 「共」に資する人材2（助成型）
- 第13週 公益事業と社会企業家
- 第14週 社会問題や社会課題を解決するNPOと何か
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】指定図書や配布資料は事前に目を通し、内容理解に努めるだけでなく、「公」と「私」、公共性や公益という用語の意味確認、概念理解に努力すること。（週1時間）【事後学修】ある課題や問題点について、①見解を求めたり、②グループでディスカッションをし、結論を導き出したり、③フィールド調査をしたり、④NPO組織への聞き取り調査をしたりして、レポート化します。（週3時間）

**【テキスト・教材】**

今年度はテキストを指定せず、事前課題の新書は授業中に数冊掲げます。新聞記事他については、こちらで準備します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

課題発表・ディスカッション20%、課外レポート20%、フィールド調査・聞き取り調査等30%、期末課題30%。フィードバックは、各課題等提出後に毎回行うと共に、ポイントや課題点を指摘します。

**【参考書】**

手島実郎『国家の論理と企業の論理 時代認識と未来構想を求めて』  
（中公新書 1998）／エドガー・H・シャイン、  
金井嘉宏・金井真弓訳『人を助けるとはどういうことか 本当の「協力関係」をつくる7つの原則』（英治出版 2009）

**【注意事項】**

ボランティア活動と寄付や慈善活動はどこが違うのでしょうか。皆さんがしている諸活動はどう社会に貢献できるのでしょうか。これらの点を国家や企業という面からも考えていきます。大学時代の集大成として、これから市民として社会に出る前に身に付けておいてほしいものです。



**教育課程編成の実際**

子どもの育ちを支える教育課程・保育課程

井上 宏子

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

幼児教育におけるカリキュラムの構造と編成について学ぶ。  
教育課程、保育課程、指導計画の基本について理解し、乳幼児期の生活が充実し、一人一人の心身の発達が保証されるためには、教育課程、保育課程はどうあるべきか、また、それに基づく指導計画はどうあるべきなのかということについて考えを深める。

**【授業における到達目標】**

- 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」に示された保育における計画の意義、教育課程、保育課程、指導計画の基本と特徴について理解し、教育実習において指導計画を立案、評価できる知識を修得する。
- 学生が修得すべき「行動力」のうち、目標を設定して、計画を立案・実行する力を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション・保育における計画の必要性和意義
- 第2週 幼児期の発達の特徴と学び
- 第3週 幼稚園の教育課程の特徴・保育所の保育課程の特徴
- 第4週 教育課程・保育課程の編成
- 第5週 幼児の活動と指導計画
- 第6週 0歳児から2歳児の指導計画
- 第7週 3歳児から5歳児の指導計画
- 第8週 幼稚園・保育所実習における指導案（日案）
- 第9週 幼稚園・保育所実習における指導案（環境の構成）
- 第10週 幼稚園・保育所実習における指導案（保育者の援助）
- 第11週 教育課程・保育課程・指導計画の評価と改善
- 第12週 幼稚園・保育所実習での活動案作成の実際（ゲストティーチャー）
- 第13週 幼稚園・保育所実習での活動案作成の実際
- 第14週 幼稚園・保育所と小学校の連携（ゲストティーチャー）
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】テキスト及び資料において、指示した箇所を次回の授業までに必ず目を通して授業に臨むこと。小テスト、レポート、発表などの課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業内容に関連した参考図書などに目を通し、専門用語などは理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

テキストについては検討中

資料は必要に応じて配布の予定

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点60%（授業態度・提出物の内容）、小テスト40%、小テスト及び提出物については、次回授業で解説しフィードバックを行う。

**【参考書】**

幼稚園教育要領

保育所保育指針

幼保連携型認定子ども園教育・保育要領

**教育課程論**

対象学科は【注意事項】を参照

清田 夏代

2年 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

この授業は、学校教育における教育内容の目的や編成について学ぶことを目的とするものである。授業は、①時代背景と国家目的と教育課程編成との関係、②教育課程編成の原理、③2008年度学習指導要領の構成と内容及び次期学習指導要領のキーワードと要点、スケジュール、④教育活動の構造と「特別活動」の意義と実践といったポイントに基づいて行われる。

**【授業における到達目標】**

教育課程に関する基礎的な教職教養を身に付けるとともに、学校における近代日本におけるカリキュラムの内容、性質を、社会的な文脈において理解することを目標とする。

また、本科目においては、主に日本の教育内容政策を扱うため、日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度に基づく「国際的視野」を身に付け、さらに広い視野と深い洞察力、本質を見抜く「研鑽力」を身に付ける。また、グループワークを通じ「協働力」を身に付けることを到達目標とする。

**【授業の内容】**

1. 「教職課程」の基本確認と導入
2. 国家目的と教育課程編成
3. 近代社会の教育課程
4. 系統主義と総合主義
5. 教育課程としての徳育
6. 経済成長と教育課程
7. 「ゆとり教育」
8. 臨時教育審議会と教育理念の転換
9. 学力論争
10. 「学力」と「評価」
11. 新学習指導要領の要点
12. カリキュラム・マネジメント
13. 特別活動の理念・意義・定義
14. 特別活動の指導方法
15. 特別活動の実際

**【事前・事後学修】**

1. 配布物を熟読すること
2. 授業後に内容について復習すること
3. 教育内容改革の流れについての総合的理解及び最終課題レポートの準備のため、以下に示す参考図書を購入し、熟読すること（週4時間程度）

**【テキスト・教材】**

授業内で指示する。また、授業で使用するワークシートや資料については、各授業内で配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

評価は平常点（授業に臨む態度、授業内の取り組みへの参加度などを含む）50%、提出物（課題レポートを含む）50%によって、総合的に行う。また、毎回授業終了時に感想、意見、疑問点などについて記述したリアクション・ペーパーを提出してもらう。内容については次回、あるいは適切と思われる授業回で言及、回答などする。提出物については、講評し返却する。

**【参考書】**

『教育改革の幻想』（刈谷剛彦著、ちくま新書、品切れであるため金額は示さない）、『教育再生の迷走』（刈谷剛彦、筑摩書房、1,728円）、『学力と階層』（刈谷剛彦、朝日文庫、799円）、小玉重夫『学力幻想』（筑摩書房、821円）等

**【注意事項】**

（国文学科、英文学科、人間社会学部各学科、生活環境学科、生活文化学科対象）

**教育課程論**

（美学美術史学科、食生活科学科、現代生活学科 対象）

菅沢 茂

2年 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

本授業では、学校教育の目標・内容・方法などについて一定の筋道でまとめた全体計画、すなわち教育課程（カリキュラム）について学ぶ。具体的には、教育関係法規や国の教育政策と関連させながら、教育課程の意義や編成の方法など包括的な内容について、対立する教育観や実際の場面を想定し実践的な能力を身に付けることを目的とする。

（概要）教育の目的は「人格の完成」をめざすことにあり、その目的を達成するための基本的な教育計画が教育課程（カリキュラム）であり、学校において行われるすべての教育内容・方法を包括的に表したものとイえる。本授業では、教育課程編成にかかわるさまざまな考え方を、いずれが是非かという対比的な視点をもって考察する。このような教育課程研究の学習を通して、学校で日々実践されている教育活動の具体的な内容・方法や課題について理解していく。

授業構成を3期に分け、第1期5回分は、教育の本質、教育の目的、教育の方法など、教育課程編成のための基本となるものの考え方について考察し、第2期5回分は、学力観、教材観、学習法、教授目的など、教育内容・方法について考察し、第3期5回分では、わが国における教育課程観の変遷、国・公・私立の違いなどを具体例から考察する。また、特色のある教育課程の編成例を探り、さらに教科及び教科外活動の実際の内容について吟味し、これからの望ましい教育課程編成の在り方について展望したい。

**【授業における到達目標】**

次のことが授業の終わりに実現することをねらいとする。

- ①教育課程の意義について説明できる。
- ②教育課程編成の基本的な方法について、教育関係法規や国の教育政策と関連させ説明できる。
- ③一定の教育目標に基づき、教科及び教科外活動の大まかな教育計画を作成できる。

学生が修得すべき「行動力」の内の課題を発見する力と、「協働力」の内の自己や他者の役割を理解し協力して物事を進める力を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス（事前アンケート、授業の進め方、教育課程の動向）
- 第2週 教育課程とは何か／教育とは何か（可能か限界か）
- 第3週 教育の目的（絶対か相対か）
- 第4週 教育の方法（技術か思想か）
- 第5週 教育の思想（保守か自由か）
- 第6週 学力とは何か（本質か進歩か）
- 第7週 教育課程の構造（米、独における教材の精選構造化）
- 第8週 単元構成と学習法・授業の目的（系統か問題解決か）
- 第9週 わが国の教育課程の変遷（明治から昭和にかけて）
- 第10週 わが国の学校教育の現状と課題
- 第11週 国・公・私立学校の教育課程の特徴
- 第12週 教育課程編成の実際及び特色のある学校の編成例
- 第13週 特別活動の意義と役割
- 第14週 特別活動の歴史
- 第15週 特別活動の指導計画／まとめ

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

毎回の小テスト、レポート、発表や討論等の課題に取り組むこと。（学修時間週2時間）

**【事後学修】**

発表や討論の結果、小テスト等を復習すること。次回の授業課題を予習し、用語等を理解しておくこと。（学修時間週2時間）

**【テキスト・教材】**

毎回、ワークシートや資料を配布する。

#### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学期末試験60%、小テスト30%、レポート5%、平常点（発表と討論）5%。

小テストやレポートは次回の授業でフィードバックし、期末試験の結果は最終回の授業で点検し返却する。

#### 【参考書】

『高等学校学習指導要領解説 総則編』（文部科学省、2009/11）

『中学校学習指導要領解説 総則編』（文部科学省、2008/10）

『中学校学習指導要領解説 総則編』（文部科学省、2017/3）

井上弘『講座現代公教育の論争点<1>教育内容・方法の争点』

（教育開発研究所、1980/5）

海後宗臣『日本教育小史』（講談社学術文庫、1978/8）

#### 【注意事項】

毎回の授業は、主に理論と実際、総論と各論の2本立てで進め、毎回小テストを行い、時により討論を行う。皆さんは、日々の新聞記事やテレビ・ラジオの報道ニュースをとおして、学校現場の具体的な教育事象及びそれにかかわる内容に関心を持ち、そこで得た知見を発表や討論、小テストやレポートに生かすよう努めてほしい。

## 教育課程論（栄養）

清田 夏代

2年 後期 1単位

### 【授業のテーマ】

主に学習指導要領の変遷を中心に、学校教育における教育課程の意義と機能、編制の基本原理と方法、さらには直近の教育内容改革の骨子とカリキュラム・マネジメントの重要性と方法に関する理解を深めること。

### 【授業における到達目標】

教育課程に関する基礎的な教職教養を身に付ける、学校におけるカリキュラムの内容、編制方法を、社会的な文脈のなかで理解することを到達目標とする。

### 【授業の内容】

1. 「教育課程論」の基本確認と導入
2. 戦後教育改革における教育内容編制の方針
3. 道徳教育の課題
4. 経済改革と教育課程
5. 教育をめぐる状況の変化と教育内容改革の課題
6. 教育内容と教師像の転換
7. 学力問題と学習指導要領改訂
8. 評価とカリキュラムマネジメント

### 【事前・事後学修】

1. 配布物を熟読すること
2. 授業後に内容について復習すること
3. 教育内容改革の流れについての総合的理解及び最終課題レポートの準備のため、以下に示す参考図書を購入し、熟読すること  
(週4時間程度)

### 【テキスト・教材】

授業内で指示する。また、授業で使用するワークシートや資料については、各授業内で配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

評価は平常点（授業に臨む態度、授業内の取り組みへの参加度などを含む）50%、提出物（課題レポートを含む）50%によって、総合的に行う。また、毎回授業終了時に感想、意見、疑問点などについて記述したリアクション・ペーパーを提出してもらおう。内容については次回、あるいは適切と思われる授業回で言及、回答などとする。提出物については、講評し返却する。

### 【参考書】

『教育改革の幻想』（刈谷剛彦著、ちくま新書、品切れであるため金額は示さない）、『教育再生の迷走』（刈谷剛彦、筑摩書房、1,728円）、『学力と階層』（刈谷剛彦、朝日文庫、799円）、小玉重夫『学力幻想』（筑摩書房、821円）等

## 教育学 a

八木 浩雄

1年～ 前期 2単位

○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

「教育」という営みがどのようなものであるかを確認すると共に、「教育」を支える考え方や制度・環境等を歴史も含めて学んでいく。また、情報メディアの関係した事件が社会問題化していることから、情報メディアと教育の話題を、最近の教育上の問題の一例として取り上げ、受講生と共に考えていきたいと思う。

### 【授業における到達目標】

- ・「教育」という営みについて理解できる。
- ・教育者の立場から「学び」の在り方を考えることができる。
- ・教育に関わる歴史的な内容や人物の把握ができる。
- ・「教育的」視点から社会を考えることができる。

#### 【この授業を通して身に付く態度・能力】

<態度>○：国際的視野、○美の探求、<能力>◎：研鑽力、○：行動力

### 【授業の内容】

1. ガイダンス
2. 「教育」・「教育学」とは
3. 教育の歴史① 「歴史から学ぶ」意義
4. 教育の歴史② 「教育」に関する歴史
5. 教育の歴史③ 「教育」に関わった人物
6. 教育の方法① 「教育」に対する考え方
7. 教育の方法② 「学習」と教育
8. 教育と情報メディア① 教育の中での情報メディアとは
9. 教育と情報メディア② 「情報メディアを扱う」とは？
10. 教育と情報メディア③ 情報メディア上の問題
11. 教育課程
12. 教育制度と教育法規
13. 「教師」という存在
14. 「教育」に関わる問題
15. まとめとこれまでの補足

※内容によっては、講義内容の理解の必要上、前後する場合があります。（特に6.以降の内容と3.-5.の教育の歴史の内容を、受講生の様子を確認しつつ調整する予定。）

### 【事前・事後学修】

事前学修：1回目以降、次回のテキスト該当ページを予告するので、事前に目を通して欲しい。また、必要に応じて質問内容を整理する。（約2時間程度）

事後学修：講義中、テキストの補足内容並びに必要に応じてスライド提示により講義を進める為、事後学修はノートでまとめたこととテキストの照らし合わせ、スライド内容の確認が中心となる。（約2時間程度）今日的な情報メディア機器の活用は学修活動の工夫と考えるので、有効に生かしてほしい。

### 【テキスト・教材】

田中正浩編著『教育の質を高める 教育原理』大学図書出版、2017年（2100円+税）

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中に課題（授業内評価）を出すと共に状況に応じて試験（受講状況により試験か最終課題）を行い、それらの総合で評価を出す。授業内評価：試験（最終課題）＝30％：70％の割合で評価する。学生へのフィードバック：課題レポートは、内容の理解を問う設問を考えており、その回答に応じて授業での解説を行い、学生の理解への反映を図る。

### 【参考書】

必要に応じて配布プリントもしくは講義内で紹介を行う。

### 【注意事項】

単に受講する（話を聞く）よりも、自らの「意見を持つ」姿勢で受講して欲しい。出欠については厳しく対応するので、受講の際のスケジュール把握などが各自でできる姿勢であることを望む。

## 教育学 a

今井 康晴

1年～ 前期 2単位

○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

本授業の目標は、「教育学」という学問に対する知見を深め、教育の本質、意義、影響などについて理解することである。授業では、教育原理、教育の意義、現代の教育問題など広範囲に渡って概説する。教育学aでは、教育の起源、発達と教育、幼児教育などを主要なテーマとしつつ、「いじめ問題」など現代の教育問題について講義する。教育に興味、関心のある学生の履修を推奨する。また教育学bとの繋がりもあるため、合わせて履修することも推奨する。

### 【授業における到達目標】

教育学への知見を汎用し、社会、家庭、学校といった日常生活へと昇華できるようにする。教育学的見地に基づく論理的思考力、表現力、問題解決能力など、社会で活用するための基本的能力を汎用する。教育学aの到達目標として、「美の探究」のうち、優しさと強さを兼ね備え、倫理観を以て人格を陶冶しようとする態度を身に付けることを目標とします。また「研鑽力」のうち広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とします。グループワークなど各種アクティブラーニングを行うことで「協働力」として自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることを目標とします。

### 【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 教育の意義
- 第3回 教育の意義—環境と遺伝
- 第4回 教育の機能—発達の援助
- 第5回 幼児教育と保育
- 第6回 幼稚園と保育所とこども園
- 第7回 日本の近代と教育
- 第8回 戦前・戦中と戦後教育
- 第9回 高度経済成長と教育
- 第10回 ゆとりと教育
- 第11回 脱ゆとりと教育
- 第12回 教育と学力問題
- 第13回 特別支援教育
- 第14回 教育と社会問題
- 第15回 まとめ

### 【事前・事後学修】

テキストや資料プリントにおいて指示した箇所を次回の授業までに読んで臨むこと。

事前学修 レポート、発表などの課題に取り組むこと（週2時間程度）

事後学修 次回の授業範囲を確認し、大まかな内容を理解しておくこと（週2時間程度）

### 【テキスト・教材】

開講時に指示する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験80%、授業内活動20%（授業の積極的参加態度）

授業内でフィードバックシートの活用し、次回の授業内において「前回の振り返り」としてフィードバックします。

### 【参考書】

適宜、紹介、指示する。

### 【注意事項】

主体的授業参加、及び授業規律を守ること。尚、教育学bも合わせて履修することを推奨する。

## 教育学b

今井 康晴

1年～ 後期 2単位

○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

本授業の目標は、「教育学」という学問に対する知見を深め、教育の本質、意義、影響などについて理解することである。主な授業内容は、教育方法、家庭教育、学力、子育て支援、「モンスターペアレント」など現代の教育問題などを取り上げ、教育活動の役割、機能について、その内実を示して概説する。教育に興味、関心のある学生の履修を推奨する。また教育学aとの繋がりもあるため、合わせて履修することも推奨する。

### 【授業における到達目標】

教育学への知見を汎用し、社会、家庭、学校といった日常の生活へと昇華できるようにする。教育学的見地に基づく論理的思考力、表現力、問題解決能力など、社会で活用するための基本的能力を汎用する。教育学aの到達目標として、「美の探究」のうち、優しさと強さを兼ね備え、倫理観を以って人格を陶冶しようとする態度を身に付けることを目標とします。また「研鑽力」のうち広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とします。グループワークなど各種アクティブラーニングを行うことで「協働力」として自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることを目標とします。

### 【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 教育の意義
- 第3回 教育と教育課程
- 第4回 教育と教育方法
- 第5回 教育と授業形態
- 第6回 教育と教材
- 第7回 「学び」とは何か
- 第8回 教育と子育て支援
- 第9回 家庭教育の在り方
- 第10回 学校教育と家庭の問題
- 第11回 現代の教育問題①—小1プロブレム
- 第12回 現代の教育問題②—モンスターペアレント
- 第13回 教育相談
- 第14回 地域に根差した教育の在り方
- 第15回 まとめ

### 【事前・事後学修】

テキストや資料プリントにおいて指示した箇所を次回の授業までに読んで臨むこと。

事前学修 レポート、発表などの課題に取り組むこと（週2時間程度）

事後学修 次回の授業範囲を確認し、大まかな内容を理解しておくこと（週2時間程度）

### 【テキスト・教材】

開講時に指示する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験80%、授業内活動20%（授業の積極的参加態度及び授業内フィードバックシートの活用）

授業内でフィードバックシートの活用し、次回の授業内において「前回の振り返り」としてフィードバックします。

### 【参考書】

適宜、紹介、指示する。

### 【注意事項】

主体的授業参加、及び授業規律を守ること。

**教育学演習**

「育～保・療・守・愛～と教と学校」、今日的課題を探究する

南雲 成二

2年 前期 1単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

**【授業のテーマ】**

子どもや親や地域にとって「学校」とは一体何なのだろうか。当たり前のように認識されている「学校」と現代社会、「学校」と子ども・親、その関係を見つめ課題を明確にする。特に現代の学校問題について、一般的な教育言説にとらわれることなく、不登校やいじめの問題、学習指導力・児童生徒支援力不足教員の問題、モンスターペアレントという言葉に象徴される親（保護者）の変容やPTA諸活動に関係する問題、少子化に伴う早期教育や家庭経済格差が産み出す教育問題、放課後子育て支援の実状と課題、教師の疲弊と学校教育力低下の問題、学力調査と真の学力保障の問題等をとりあげる。これらの事例や問題に対する教育研究者や実践者、マスコミ等の見解を取り上げながら検討協議し、現状理解を深める。

同時に、子どもそのものの理解や、子どもを権利主体として尊重する教育の在り方、不登校やいじめの背景にある社会問題、教師教育の課題についても理解を深める。

**【授業における到達目標】**

今日の学校問題への歴史的側面からのアプローチを加えながら、その本質を捉え、分析できる力を身につけ、学校問題解決への処方をも自分なりに提案できるようになる。また、教員採用試験等で問われる教職に関する内容、教科指導に関する内容、授業デザインと評価改善に関する内容、児童理解や保護者対応に関する内容について、適切な判断と実践的な行動ができる教師力の基礎を修得する。併せて、学生が修得すべき「行動力・研鑽力」との関連において、①現状を正しく把握し、問題を発見できる力と③広い視野と深い洞察力を身に付け、本質を見抜くことができる力を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス～現代の学校問題、時事問題化する学校～
- 第2週 学校への期待の声、学校への不信の声、「学校」について考える。①体験的「学校」観（感・看）の交流から
- 第3週 「学校」について考える。②脱学校論の経緯や「不登校」や「フリースクール」から考察を深める。
- 第4週 「学校」について考える。③告発的な問いかけ～学校の学力とは、戦後教育改革とは、教師・教諭・教員・先生とは教育課程とは、教科化された「道徳」とは等～
- 第5週 「居場所」を探す子どもたち（保護者・地域の課題とは）
- 第6週 放課後子育て支援の現状や子ども食堂から見えてくる風景
- 第7週 「体罰」による不登校、「学習不適応」による不登校・、
- 第8週 「いじめ」から見えること、「いじめ」という病理現象を探りつつ、「いじめ」への取り組みを考える
- 第9週 教師と親の学校問題～モンスターペアレント考察含む～
- 第10週 PTAとは、その過去・現在・未来。PTAがかかえる問題と課題の整理～相互互助・協働子育ての課題を探る～
- 第11週 指導力不足の教員、教師教育現職教育の現状と課題①
- 第12週 支援力不足の学校、教師教育現職教育の現状と課題②
- 第13週 閉ざされた学校、開かれた学校～授業創造と児童理解～
- 第14週 学校問題を問い直す～教育条件の変容～
- 第15週 学校教育の再考

**【事前・事後学修】**

事前学修…レポート・発表等の課題に取り組む。

（学修時間 週2時間）

事後学修…発表等に対する指摘について振り返り、確認する。テキストや資料プリントの次回授業範囲を読み、専門用語や人物について調べ、自分なりに理解しておく。

（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

- ・資料プリントを適宜、配付する。
- ・2016.12.21『中央教育審議会最終答申第197号』と補助資料
- ・2015.8『論点整理』（文部科学省 HP）

・2017.3告示『幼稚園教育要領』『小学校学習指導要領』必要に応じて『中学校学習指導要領』（文部科学省 HP）

・2018.2 小六教育技術3月号増刊「指導要録～記入のポイントと文例～」(小学館 2018.2 1620円＋税)

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点〔演習への積極参加及び発表や意見交流〕（40%）、レポート（60%）などにより総合的に評価する。

実施した小テストやミニレポートは次回授業、課題レポートや試験は最終授業で解説し、フィードバックを行なう。

**【参考書】**

- ・昭和22年以降から現在までに刊行された主な教育学講座や教育学全集、教育学研修講座（例：岩波書店・岩波講座、小学館、第一法規、学習研究社 等）
- ・H28.12.21発表「中央教育審議会最終答申（第197号）」を中心に、戦後出された主な中央教育審議会最終答申や教育課程審議会答申。並びに「小・中・高 学習指導要領とその解説編資料」「幼稚園教育要領と解説資料」「保育指針と解説資料」等

**【注意事項】**

双方向的な授業として、問いを発信しながら進めていくので、積極的に発言し、参加してほしい。

**教育学概論**

田中 正浩

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

**【授業のテーマ】**

教育という文化的事象は、時代や社会、文化の要請に応えなければならない。しかし、教育はそれらに即応すべきものでもなく、それらを批判し、改善、改革するような教育固有の理論を備えなくてはならない。この教育の理論の解明と構築が、今日の教育状況を打開し、これからの教育にとって不可欠になってくる。

本授業では、このような問題意識に基づき、可能な限り現実の教育問題に言及しながら教育の本質と課題について考察し、理解を深めていく。

**【授業における到達目標】**

本授業では、受講者各自が根拠に基づき、冷静で客観的なスタンスを保ちながら教育を捉えられるようになること、加えて、「教育を見る目」を養うことを最終的な目標とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 教育の意義と課題－教育とは何か－
- 第2週 教育の意義と課題－教育の可能性－
- 第3週 教育の諸理論－コメニウス、ロック、ルソー－
- 第4週 教育の諸理論－ペスタロッチ、フレーベル、ヘルバルト－
- 第5週 西欧における教育の歴史的展開－古代ギリシア、中世－
- 第6週 西欧における教育の歴史的展開－ルネサンス期、近代－
- 第7週 日本における教育の歴史的展開
- 第8週 教育と社会－社会の教育的機能、教育の社会的機能－
- 第9週 教育課程と教育内容－教育課程の意味と編成－
- 第10週 教育方法－教授・学習の原理－
- 第11週 学校教育の制度－近代学校制度の成立と発展－
- 第12週 教育行政と学校経営－教育行政のシステムと教育法規－
- 第13週 教師の仕事と学級経営－教師の専門性と力量形成－
- 第14週 現代の学校問題－不登校、いじめ、学級崩壊－
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

事前学修…小テスト・レポート・発表等の課題に取り組む。

(学修時間 週2時間)

事後学修…小テストの解答と解説、発表等に対する指摘について振り返り、確認する。テキストや資料プリントの次回授業範囲を読み、専門用語や人物について調べ、自分なりに理解しておく。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

平野智美監修 中山幸夫、田中正浩編著『新・教育学のグランドデザイン』(八千代出版 2017年) 定価本体2,200円+税

その他、資料プリントを適宜、配付する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

小テスト(20%)、試験(60% ※テキスト、資料プリント、ノートの持ち込みは不可)、平常点〔授業態度・提出課題〕(20%)

実施した小テストは次回授業、試験は最終授業で解説し、フィードバックを行なう。

**【参考書】**

適宜、紹介、指示する。

**【注意事項】**

授業形態は講義形式となるが、極力、双方向的な授業となるように問いを発信していくので積極的に発言し、参加してほしい。



**教育原理**

(国文学科 対象)

新藤 久典

2年 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

- 「人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成」を期して行われている「教育」の原理と実際について理解を深める。
- 予測不能な激しく変化する現代社会における教育の在り方を解明するため、教育の歴史、教育改革の歴史を見据えながら、実際の教育課題に即してその原理を探る。

**【授業における到達目標】**

- ①教育の意義、人間形成の理念及び教育の歴史や思想について理解し、説明することができる。
- ②教師に求められる資質・能力について、具体的に理解し、実践への意欲を高める。
- ③「主体的・対話的で深い学び」を通して、学生が修得すべき「行動力」のうち課題発見力、「協働力」のうち、自己や他者の役割を理解し協力して解決を図る人間関係形成力、問題解決力を高める。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション。「教育」についてのフリー・ディスカッション
- 第2週 教育の理論－教育の機能と概念
- 第3週 今日の教育が直面する諸問題
- 第4週 教育課程の意義と構造
- 第5週 教育課程の開発と改善
- 第6週 授業の方法と原理
- 第7週 授業の過程
- 第8週 指導の技術
- 第9週 学習の評価
- 第10週 生徒指導の内容と方法①－生徒指導の意義と内容
- 第11週 生徒指導の内容と方法②－生徒指導の組織と計画
- 第12週 学級経営
- 第13週 学校制度と教育行政
- 第14週 これからの社会と教師
- 第15週 まとめ－現代の教育改革と教師に求められる資質・能力

**【事前・事後学修】**

《事前学修》

毎回のリアクション・ペーパー、発表や討議等の課題に取り組む。前時に配付する資料等を読み、自分の考えを整理すること。(学修時間 週2時間)

《事後学修》

発表や討議等の結果、リアクション・ペーパー等を復習する。授業で示された参考資料等を読み、自分の考えをまとめること。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

毎回配付する資料

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- 学期末試験40%、レポート25%、リアクション・ペーパー25%、授業中の発表等10%
- レポート、リアクション・ペーパーは採点、添削し、次時に返却し、開設を行う。

**【参考書】**

- 「中学校学習指導要領解説『総則編』」(文部科学省。ぎょうせい137円。2008/9)
- 「高等学校学習指導要領『総則編』」(文部科学省。東山書房234円。2009/11)

**【注意事項】**

- 毎時間配付する資料、ワークシート等を活用し、予習・復習を行い、自分の考えを根拠をもって説明できるように努力する。
- 教員採用試験における「教職教養」試験における「教育原理」に関する問題を分析し、教師に求められる資質・能力を理解する。

**教育原理**

(対象学科は【注意事項】を参照)

菅沢 茂

2年 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

この授業の目的は、人間の可能性を引き出そうとする「教育」の原理と実際を明らかにすることである。21世紀に入って社会の変化はいつそう速度を増し、学校教育改革もまた大きく進展しようとしている。そこで、われわれは教育の歴史、学習指導要領や教育学の動向を見据えながら、実際の教育課題に即してその原理を探っていきたいと思う。

**【授業における到達目標】**

- ① 教育すなわち人間形成の理念及び教育に関する歴史や思想について、大まかな説明ができる。
- ② 今どのような教育の在り方を重視すべきか、現代の教育課題について自分の意見を持てる。
- ③ 教師の役割と活動について、具体的に理解し説明できる。  
学生が修得すべき「行動力」の内の課題を発見する力と、「協働力」の内の自己や他者の役割を理解し協力して物事を進める力を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス(事前アンケート、授業の進め方、最近の教育行政施策の動向)
- 第2週 教育の理論(機能と概念)
- 第3週 教育課程の意味と構造
- 第4週 教育課程の開発と改善
- 第5週 教育の組織とその歴史(課題レポートの作成)
- 第6週 授業の方法と原理
- 第7週 授業の過程と形態
- 第8週 指導技術
- 第9週 学習評価
- 第10週 生徒指導の意義と内容
- 第11週 生徒指導の形態と組織
- 第12週 学級経営
- 第13週 学校制度と教育行政
- 第14週 教師の在り方
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】毎回の小テスト、レポート、発表や討論等の課題に取り組むこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】発表や討論の結果、小テスト等を復習すること。次回の授業課題を予習し、用語等を理解しておくこと。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

『教育原理 十訂版』(教師養成研究会、学芸図書、2009年、1,512円)その他、毎回ワークシートや資料を配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

学期末試験60%、小テスト30%、レポート5%、平常点(発表と討論)5%。小テストやレポートは次回の授業でフィードバックし、期末試験の結果は最終回の授業で点検し返却する。

**【参考書】**

- 『高等学校学習指導要領解説 総則編』(文部科学省、2009/11)
- 『中学校学習指導要領解説 総則編』(文部科学省、2008/10)
- 『中学校学習指導要領解説 総則編』(文部科学省、2017/3)

**【注意事項】**

毎回の授業は、主に理論と実際、総論と各論の2本立てで進め、毎回小テストを行い、時により討論を行う。皆さんは、日々の新聞記事やテレビ、ラジオの報道ニュースをとおして、学校現場の具体的な教育事象及びそれにかかわる内容に関心を持ち、そこで得た知見を発表や討論、小テストやレポートに生かしてほしい。(英文学科、美学美術史学科、人間社会学部各学科、生活環境学科、生活文化学科 対象)

**教育原理**

(食生活科学科、現代生活学科 対象)

清田 夏代

2年 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

- ・教育原理においては、教育の思想と歴史を中心とした講義を行う。社会的な文脈のなかで社会行為としての教育と、教育をめぐる思想がどのように発展してきたのかを見ていく。
- ・教育を社会的な文脈のなかで理解し、最終的には親、社会、子どもの権利関係という視点から教育学固有の問題を理解する。

**【授業における到達目標】**

基礎的な教職教養としての教育思想や実践について理解すること、教育思想史を概括することにより、現代の教育上の課題を自ら発見する力を身に付ける。

また、この授業においては主に西洋社会で発展してきた教育思想を扱うため、「国際的視野として」多様性を受容し、多角的な視点を以って世界に臨む態度、さらに生涯にわたり知を探求する「研鑽力」、授業内におけるグループワークを通じて「協働力」を身に付けることを到達目標とする。

**【授業の内容】**

- 1 「教育原理」の基本確認と導入
- 2 前近代の教育課程
- 3 民衆教育の契機
- 4 教育思想と子ども観
- 5 大衆教育
- 6 共和国と教育
- 7 スカーフ事件とその歴史的背景
- 8 国家と教育
- 9 児童中心主義の系譜
- 10 教育学とカント
- 11 発達心理学と道徳教育
- 12 児童中心主義の実践
- 13 産業社会と教育方法
- 14 教育の可能性とは？
- 15 総括

**【事前・事後学修】**

1. 配布物を熟読すること
2. 授業後に内容について復習すること
3. 最終課題レポートの準備のため、教育思想や実践について図書などを参照し、学修すること  
(週4時間程度)

**【テキスト・教材】**

授業内で指示する。また、授業で使用するワークシートや資料については、各授業内で配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

評価は平常点（授業に臨む態度、授業内の取り組みへの参加度などを含む）50%、提出物（課題レポートを含む）50%によって、総合的に行う。また、毎回授業終了時に感想、意見、疑問点などについて記述したリアクション・ペーパーを提出してもらおう。内容については次回、あるいは適切と思われる授業回で言及、回答などとする。提出物については、講評し返却する。

**【参考書】**

授業内で指示、紹介する。

## 教育原理（栄養）

菅沢 茂

2年 後期 1単位

### 【授業のテーマ】

この授業の目的は、人間の可能性を引き出そうとする教育の原理と実際を明らかにすることである。21世紀に入って社会の変化はいっそう速度を増し、学校教育改革もまた大きく進展しようとしている。そこで、われわれは教育の歴史、学習指導要領や教育学の動向を見据えながら、実際の教育課題に即してその原理を探ってきたい。

### 【授業における到達目標】

次の3つを到達目標とする。

- ① 教育すなわち人間形成の理念及び教育に関する歴史や思想について、大まかな説明ができる。
- ② 今どのような教育の在り方を重視すべきか、現代の教育課題について自分の意見を持てる。
- ③ 教師の役割と活動について、具体的に理解し説明できる。

学生が修得すべき「行動力」の内の課題を発見する力と、「協働力」の内の自己や他者の役割を理解し協力して物事を進める力を修得する。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス（事前アンケート、授業の進め方、教育の理論  
教育行政施策の動向）
- 第2週 教育課程の意味と構造/教育課程の開発と改善
- 第3週 授業の方法と原理/授業の過程と形態
- 第4週 指導技術
- 第5週 学習評価
- 第6週 生徒指導の意義と内容
- 第7週 生徒指導の形態と組織
- 第8週 学級経営/教師の在り方

### 【事前・事後学修】

#### 【事前学修】

毎回の小テスト、レポート、発表や討論等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

#### 【事後学修】

発表や討論の結果、小テスト等を復習すること。次回の授業課題を予習し、用語等を理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

『教育原理 十訂版』（教師養成研究会、学芸図書、2009年、1、512円）

その他、毎回ワークシートや資料を配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学期末試験60%、小テスト30%、レポート5%、平常点（発表と討論）5%。

小テストやレポートは次回の授業でフィードバックし、期末試験の結果は最終回の授業で点検し返却する。

### 【参考書】

『高等学校学習指導要領解説 総則編』（文部科学省、2009/11）

『中学校学習指導要領解説 総則編』（文部科学省、2008/10）

『中学校学習指導要領解説 総則編』（文部科学省、2017/3）

### 【注意事項】

毎回の授業は、主に理論と実際、総論と各論の2本立てで進め、毎回小テストを行い、時により討論を行う。皆さんは、日々の新聞記事やテレビ・ラジオの報道ニュースをとおして、学校現場の具体的な教育事象及びそれにかかわる内容に関心を持ち、そこで得た知見を発表や討論、小テストやレポートに生かしてほしい。

**教育工学特論**

高木 裕子

人間社会専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

「教育工学 (educational technology)」は、人文社会系と理工学、それに人間に関する学問が融合した学際的な分野です。純粋な工学 (engineering) と違い、心理学やコミュニケーション学等の人間に関する学問を礎に、これに人文社会系と理工系が加わったり、工学的発想の下、教育学的諸理論と方法論の応用が実際論と結びついたりしたものと云えます。国が産業基盤経済から情報基盤経済へと転換した今日では、教育工学には「改革する力」と「教育的役割」が期待されています。

本講義では、この教育工学を、基礎的に学びながら、今年度は「デザインする」という考え方から、例えば21世紀で求められる各種スキルはどう捉えられ、どう設計できるのか、また、それらはどう身に付けられるのか等々を考えていきます。さらには、これを「より良い問題解決の方法」や「より良く目標を達成する方法」として捉え直す中で、「協調的問題解決」「人を中心に考えた、人を支援する方法」としてのインストラクショナルデザイン (instructional design) として考えていきます。教育工学では、成果を広く社会に還元、適応できるものにするのが重要なため、本講義では、成果の適切な記述方法や可視化のさせ方等を学ぶ一方、応用では、「こうなるはず」と「こうなった」の間のズレを、いかに実践を通した理解と解釈で埋めていかれるかを考えていきます。このために事例研究も多く行います。

**【授業における到達目標】**

事例研究を通じた問題解決、目標達成の方法としての「協調的問題解決」と「インストラクショナルデザイン」を、「デザインする」という作業を行っていく中で、成果を広く適応、可能にするための一般化、また、成果の記述方法や可視化方策について学ぶ。

**【授業の内容】**

- 第1週 教育工学とは何か。必読書の紹介とオリエンテーション
- 第2週 教育工学の歴史の変遷と網羅する分野や対象 (1)
- 第3週 教育工学が今日、対象とする分野と内容 (2)  
ーに貢献し、何に役立ち、どう応用されているのかー
- 第4週 21世紀における教育工学とは何か (3)
- 第5週 日本と世界で行われている教育工学の実践と実際 (1)  
事例研究
- 第6週 日本と世界で行われている教育工学の実践と実際 (2)  
事例研究
- 第7週 東南アジアで必要とされる教育工学の分野と教育改革  
(1) 事例研究
- 第8週 東南アジアで必要とされる教育工学の実際と授業、研究  
(2) 事例研究
- 第9週 「東南アジア経済共同体」「21世紀スキル」等と  
知識創造、人材育成
- 第10週 教育工学の人間へのアプローチ、人間からの働きかけ
- 第11週 企業と組織で応用可能な教育工学的手法
- 第12週 インストラクショナルデザイン (1)
- 第13週 インストラクショナルデザイン (2)
- 第14週 課題と問題点、ずれの記述化・可視化
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】第1週目の「読むべき本」は必読し、内容は理解しておく。それを基に、第5週目以降の講義では、ディスカッションやディベートを繰り返し、レポートを課す。また、英文での著書も多いため、事前に読んでおくこと。事例研究では、内容説明以上の教育工学的視点での分析や考察が求められる。(週2時間)

【事後学修】毎回の授業後のディスカッションでの結果やフィードバックを受け、再度修正したものを、論点と共に提出すること。(週2時間)

**【テキスト・教材】**

第1週目に、本講義全体を通じて「読むべき本」のリストや教科書に類するものは紹介する。また、その都度、講義で必要な文献等は、前週に示す。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

ディスカッションとディベート10%、課題レポート30%、事例研究30%、最終課題レポート30%。フィードバックは毎回、授業の中で行う。

**【参考書】**

Gary J. Anglin Ed. "Instructional Technology" Libraries Unlimited, INC. 1995 これ以外、必要なものは講義中に示す。

**【注意事項】**

「インストラクショナルデザイン (英: instructional design、あるいはインストラクショナルシステムデザイン) は、教育の場などにおいて、学習者の自由度を保ったままで高い学習効果が生じることを意図して、具体的な計画を立てることである」。本講義に臨むに際して、このような用語の意味や簡単な内容は、各自で事前に調べておくこと。

## 教育史 a

今井 康晴

1年～ 前期 2単位

○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

本授業のテーマは、教育の歴史について知見を深め、各時代背景との関連性を理解することで、市民としての教養の涵養を目的とする。教育史においては、教育を歴史的視点で検討し、その中で現代教育に多大な影響を与えた教育者に焦点を当て概説する。授業では、近代教育史を中心に、ルソー、ペスタロッチ、フレーベルとその時代背景、教育学への影響について講義を行う。

文化、歴史に興味関心のある学生の履修を推奨する。また、教育史bとの繋がりもあるため、合わせて履修することも推奨する。

### 【授業における到達目標】

教育史を学び、教育の歴史から我が国の歴史を理解することができる。また教育史を学修することで教育文化の多様性を理解し汎用する。

「研鑽力」

広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とします。

「美の探究」

物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度を目標とします。

### 【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 古代ギリシャの教育
- 第3回 教育と宗教改革
- 第4回 コメニウスの教育論
- 第5回 ロックの教育論
- 第6回 ルソーの教育論①-ルソーの生涯-
- 第7回 ルソーの教育論②-ルソーの教育思想-
- 第8回 ペスタロッチの教育論①-ペスタロッチの生涯-
- 第9回 ペスタロッチの教育論②-ペスタロッチの教育思想-
- 第10回 ペスタロッチの教育論③-ペスタロッチの影響-
- 第11回 フレーベルの教育論①-フレーベルの生涯-
- 第12回 フレーベルの教育論②-フレーベルの教育思想-
- 第13回 オウエンの教育論
- 第14回 近代と教育の史的影響
- 第15回 まとめ

### 【事前・事後学修】

テキストや資料プリントにおいて指示した箇所を次回の授業までに読んで臨むこと。

事前学修 レポート、発表などの課題に取り組むこと（週2時間程度）

事後学修 次回の授業範囲を確認し、大まかな内容を理解しておくこと（週2時間程度）

### 【テキスト・教材】

開講時に指示する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験80%、授業内活動20%（授業の積極的参加および授業内のフィードバックシートの活用）

授業内でフィードバックシートの活用し、次回の授業内において「前回の振り返り」としてフィードバックします。

### 【参考書】

適宜、紹介、指示する。

### 【注意事項】

主体的授業参加、及び授業規律を守ること。尚、教育史bも合わせて履修することを推奨する。

## 教育史 b

今井 康晴

1年～ 後期 2単位

○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

本授業のテーマは、教育の歴史について知見を深め、各時代背景との関連性を理解することで、市民としての教養の涵養を目的とする。授業では、我が国の教育を歴史的に概説する。江戸、明治、大正、戦前・戦後に焦点をあて、我が国の教育の成り立ち、また影響を与えた教育者について講義する。教育、歴史について興味関心のある学生の履修を推奨する。

### 【授業における到達目標】

教育史を学び、教育の歴史から我が国の歴史を理解することができる。教育史を学修することで教育文化の多様性を理解し汎用する。

「研鑽力」

広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とします。

「美の探究」

物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度を目標とします。

### 【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 日本の教育の歴史①—古代
- 第3回 日本の教育の歴史②—中世から近世
- 第4回 戦国時代の教育
- 第5回 江戸時代の教育
- 第6回 明治時代の教育①—私塾を中心に
- 第7回 明治時代の教育②—教育制度を中心に
- 第8回 幼児教育の歴史
- 第9回 保育の歴史
- 第10回 大正期の教育①—民主主義と教育
- 第11回 大正期の教育②—女子教育を中心に
- 第12回 デューイの教育
- 第13回 戦前・戦中の教育
- 第14回 モンテッソーリの教育
- 第15回 まとめ

### 【事前・事後学修】

テキストや資料プリントにおいて指示した箇所を次回の授業までに読んで臨むこと。

事前学修 レポート、発表などの課題に取り組むこと（週2時間程度）

事後学修 次回の授業範囲を確認し、大まかな内容を理解しておくこと（週2時間程度）

### 【テキスト・教材】

開講時に指示する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験80%、授業内活動20%（授業の積極的参加および授業内のフィードバックシートの活用）

授業内でフィードバックシートの活用し、次回の授業内において「前回の振り返り」としてフィードバックします。

### 【参考書】

適宜、紹介、指示する。

### 【注意事項】

主体的授業参加、及び授業規律を守ること。

## 教育思想史

田中 正浩

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

## 【授業のテーマ】

本授業は、初等学校教育の歴史を概観することからはじめ、続けて、近代教育思想のルソー、ペスタロッチ、フレーベル、そして、新教育思想のデューイ、エレン・ケイ、モンテッソーリについて、それぞれの児童観とその教育思想や教育理論・原理を中心に解説し、理解を深める。

## 【授業における到達目標】

本授業では、将来、教育や保育の実践の場に立とうとする受講者が、近・現代の教育（思想）家の教育・保育思想や、その思想の変遷を学修することで、子どもの教育や保育について一層理解を深めることを最終的な目標とする。

## 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 初等学校教育の歴史－幼稚園－
- 第3週 初等学校教育の歴史－小学校－
- 第4週 J・Jルソーの児童観と教育思想
- 第5週 J・Hペスタロッチの教育思想と教育原理
- 第6週 F・Wフレーベルの児童観と教育思想
- 第7週 J・デューイの児童観
- 第8週 デューイの教育本質論と目的論
- 第9週 デューイの教育内容・カリキュラム論
- 第10週 エレン・ケイの児童観と子どもの権利
- 第11週 エレン・ケイの学校教育論
- 第12週 M・モンテッソーリの児童観
- 第13週 モンテッソーリの教育意味論と目的論
- 第14週 モンテッソーリの教育方法の原理
- 第15週 総括

## 【事前・事後学修】

事前学修…小テスト・レポート・発表等の課題に取り組む。

(学修時間 週2時間)

事後学修…小テストの解答と解説、発表等に対する指摘について振り返り、確認する。テキストや資料プリントの次回授業範囲を読み、専門用語や人物について調べ、自分なりに理解しておく。(学修時間 週2時間)

## 【テキスト・教材】

乙訓 稔著『西洋現代 幼児教育思想史』（東信堂 2009年）  
本体2,300円（税別）

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト（20%）、試験（60% ※テキスト、資料プリント、ノートの持ち込み不可）、平常点〔授業態度・課題提出〕（20%）  
小テストは次回授業、試験は最終授業で解説し、フィードバックを行う。

## 【参考書】

適宜、紹介、指示する。

## 【注意事項】

授業形態は講義形式となるが、極力双方向的な授業となるように問いを発信していくので、積極的に発言し、参加してほしい。

## 教育実習（小学校）

学び手も教え手も共に納得のいく学習創造をめざして

渡辺 敏

3年 集通 4単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

## 【授業のテーマ】

大学において得た教育理論や教育方法を、小学校教育現場において授業観察、授業参加、授業実施と評価・改善（反省）を通して、実証的、実践的あるいは実験的に研究し、教育理論や教育方法を応用できる実践的指導力の基礎を体得する。併せて、教師の仕事、その役割と使命についてよく考え、7歳から12歳までの「子どもの発達と学習、人間的成長」を注意深く見つけ支援する基礎を養う。

- 1 教科の単元や題材の内容が児童の発達段階や学習実態に即して如何に計画・構成されているか、実習校の教育課程を理解する。
- 2 子ども一人ひとりの学習実態を基盤に、教科の目標や内容に応じて学習指導案を作成し、学習指導・支援の方法を理解する。
- 3 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動等の必要性と指導法の理解を深める。
- 4 地域や学校、児童の実態に応じて、特色ある学校経営や学年・学級経営について理解を深め、教師としてその推進に参画する。
- 5 児童の発達や心理、生活世界への理解を深めると共に、教師の仕事、教師の役割について理解をふかめる。併せて、教員としての勤務内容や服務規程、教育公務員としての立場を理解する。

## 【授業における到達目標】

教育実習を行い、現場から教師の実際の仕事を広く学ぶことで「国際的視野」、「美の探求」の態度を身に付けます。実習中に研究授業を行い、実習校の教員、大学教員と協議することで「研鑽力」、「行動力」、「協働力」を身に付けます。

## 【授業の内容】

- 第1週（観察参加実習、指導講話、学習指導計画の作成）  
観察参加実習を行う場合は、教科等の学習指導、児童の行動、教育環境や教師の服務等の観点に従って、個々の課題を設定し、それを基に記録を残す。そして、それを整理し、学習指導の成立のポイントを捉える。
- 第2週～第3週（指導講話、学習指導の実際及びその指導）  
学校の教育課程や指導計画に従って教科等の学習指導の計画、つまり授業設計（単元や題材の研究、教材の分析、学習指導案の作成、発問計画や板書計画の作成、教具や教材等の作成）を行い、それを基に学習指導を実施、授業実践を重ねる。学習指導の実践後指導教諭の指導のもと、発問や板書、教具や教材、学習者のプリントを基に学習指導の実際を丁寧に振り返る。そして、学習指導（授業）改善の課題を明確にする。
- 第4週 「全日経営」や「研究授業とその反省会」を通して、4週間の小学校実習のまとめをする。授業改善の課題を踏まえて、学習指導の準備を行い、それによって学習指導を実践し、実践的指導力を身に付ける。

## 【事前・事後学修】

【事前学修】教育方法・技術、カリキュラム論、児童教育法、教科教育法、特別活動等の内容を振り返る。学習指導要領と各解説編、「評価基準参考資料」を基に該当学年の学習内容をおさえ、授業準備する。(学修時間 毎日2時間～)

【事後学修】参観授業・実施授業も共に「観点」を明確に「授業評価・改善のレポート」を作成する。(学修時間 毎日2時間～)

## 【テキスト・教材】

幼小コース第Ⅰ～Ⅲ期生による教育実習経験から産み出されてきた『教育実習ノート』及び『小学校教育実習の手引き』を活用して、各自の教育実習に取り組む。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

☆教育実習校の評価…40% ☆教育実習校の特色や重点研究内容の理解。実習学年の教科指導力、児童理解・支援力、特に全日経営の内容と研究授業の取り組みとその評価・改善…30% ☆教育実習（事前・事中・事後）の記録・ポートフォリオの充実…30%  
以上3観点を総合的に評価する。全日経営、研究授業、実習記録に

ついて教員からフィードバックを行います。

**【参考書】**

『小学校学習指導要領』『小学校学習指導要領解説』『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』

**【注意事項】**

小学校におけるアクティブラーニングの充実をめざす。

**教育実習A・B**

(国文学科、美学美術史学科、人間社会学部各学科 対象)

菅沢 茂

4年 前期 A-5単位・B-3単位

**【授業のテーマ】**

教育実習Aは、中学校および高校で「3週間の教育実習（4単位に相当）」をおこない、中学・高校の両方の教員免許を取得する。また教育実習Bは、高校で「2週間の教育実習（2単位に相当）」をおこない、高校のみの教員免許を取得することを意味する。

教育実習A・Bとも、1単位分に相当する事前・事後の指導を授業で受ける必要がある。実習前は、実習に際しての留意点や心構えなどを学ぶ。また、実習校での挨拶や自己紹介の練習などをおこなう。そして、実習後にはその体験や感想をPPTにまとめて発表して相互に意見交換し、教職への動機付けを図る。さらに、充実した実習をおこなうにはどうしたらよいか、実習トラブルを避けるにはどうすべきか、などについて考察する。

**【授業における到達目標】**

- 1 実習前に、実習に際しての留意点や心構えなどを把握できる。
- 2 実習校での挨拶や自己紹介、模擬授業が自信をもって行えるようになる。
- 3 実習後にその体験や感想を相互に交換し、教職への動機付けを図ることができる。

学生が修得すべき「行動力」の内の課題を発見する力と問題解決力、「協働力」の内の自己や他者の役割を理解し協力して物事を進める力を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス（事前アンケート、授業の進め方、最近の教育実習の動向）
- 第2週 教育実習前に提出する書類の作成のしかた
- 第3週 教育実習の目的と意義
- 第4週 教育実習の準備と心得
- 第5週 中学校教育実習の概要（PPT教材を含む）
- 第6週 高等学校教育実習の概要（PPT教材を含む）
- 第7週 教師の服務規程と実習中の留意事項
- 第8週 観察と参加のポイント（実習日誌の記入を含む）
- 第9週 先輩の実地授業から学ぶ（PPT教材を含む）
- 第10週 教育実習中のトラブルとその対応策
- 第11週 教育実習の体験報告Ⅰ・実地授業と研究授業など
- 第12週 教育実習の体験報告Ⅱ・生徒とのかかわりなど
- 第13週 教育実習の体験報告Ⅲ・指導教員とのかかわりなど
- 第14週 教育実習の評価について
- 第15週 教育実習の反省と課題

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

毎回の小テスト、レポート、発表や討論等の課題に取り組むこと  
(学修時間 週2時間)

**【事後学修】**

発表や討論の結果、小テスト等を復習すること。次回の授業課題を予習し、用語等を理解しておくこと。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

毎回、ワークシートや資料を配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

教育実習の授業の1単位と、学校現場での実習の4～2単位は、A・Bともセットになっているので、いずれか一方のみでは単位認定はできない。

成績評価は、実習校における評価（含実習日誌）50%、レポート30%、平常点（受講態度・課題発表）20%とする。

小テストやレポートは次回の授業でフィードバックし、期末試験の結果は最終回の授業で点検し返却する。

**【参考書】**

教育実習完璧ガイド(小学館、2015/3/2)

山崎英則編著『教育実習完全ガイド』（ミネルヴァ書房）

『高等学校学習指導要領解説 各教科編』（文部科学省）

『中学校学習指導要領解説 各教科編』（文部科学省）

**【注意事項】**

教育実習に対する学校現場や教育委員会からの意見、中央教育審議会や文部科学省からの指摘に因應するため、全力で臨む姿勢を保つことが大事である。したがって、実習中のトラブルを避ける意味からも出欠は厳しくとる。教育実習中ではもとより、授業においても実習に不可欠の事項を取り上げるため、欠席や遅刻は厳禁としたい。



**教育実習A・B**

(英文学科、生活科学部各学科 対象)

清田 夏代

4年 前期 A-5単位・B-3単位

**【授業のテーマ】**

教育実習に臨み、教師としての心構え及び教科教育、学級経営、生徒指導上のスキル、実習生としての謙虚さ、誠実さ、熱心さ、そして、社会人としての自覚を身につけ、さらに教育実習の体験を通じて、それらを深めることを目的とする。

**【授業における到達目標】**

この授業及び教育実習を通じ、主に、優しさと強さを兼ね備え、倫理観を以て人格を陶冶しようとする態度、さらに物事の真理を探究することによって新たな知を創造しようとする態度に関わるものとしての「美の探求」を行い、課題解決のために主体的に行動する行動力を身に付け、加えて、自己や他者の役割を理解し互いに協力すること、豊かな人間関係を構築すること、状況に応じたリーダーシップを教師として発揮することなどの協働力を身に付けることを到達目標とする。

**【授業の内容】**

1. 「教育実習」及び事前指導の基本確認と導入
2. 教育実習前に提出する書類について
3. 教育実習の記録について
4. 教育実習の目的・意義・準備・心得
5. 教師の服務規程と学校組織
6. 生徒指導の要点
7. 授業参観・授業観察のポイント
8. 学習指導案作成の要点と授業の実際（模擬授業を含む）
9. 教育実習生と学級経営
10. 教育実習中のトラブルと対応策
11. 教育実習の体験報告I・生徒との関わり方
12. 教育実習の体験報告II・授業外の活動
13. 教育実習の体験報告III・研究授業の成果
14. 教育実習の反省と今後の課題
15. 総括

**【事前・事後学修】**

教育実習の一般的な流れや注意事項について紹介する書籍等を熟読し、理解するとともに、実習校についてなるべく事前に情報を集め、可能な限り実態を把握すること。また、実習後は体験を振り返ること。（週4時間程度）

**【テキスト・教材】**

授業内で指示する。また、授業で使用するワークシートや資料については、各授業内で配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

実習校での評価及び実習記録簿の内容50%、レポート30%、授業態度20%を、総合的に評価する。また、毎回授業終了時に感想、意見、疑問点などについて記述したリアクション・ペーパーを提出してもらおう。内容については次回、あるいは適切と思われる授業回で言及、回答などする。提出物については、講評し返却する。なお、教育実習記録簿の評価は実習校の指導が完了したものを必ず提出すること。また、実習時の出勤簿は教務課に提出すること。これらの提出が認められない場合は、教育実習の単位を認めない。

**【参考書】**

山崎秀則編『教育実習の完全ガイド』ミネルヴァ書房

**【注意事項】**

本講座は、中・高等学校免許取得の要件となるものであることに鑑み、欠席・遅刻は厳禁とする。なお、5月中旬～6月にかけて、教育実習による欠席者が多数となる場合があるため、状況によって内容あるいは授業の順番を調整する必要がある可能性がある。

**教育実習 a (幼稚園)**

井口 眞美

4年 集通 4単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

**【授業のテーマ】**

幼稚園教諭免許状の取得希望者は、教育実習 a を履修し幼稚園での実習を行う。

ここでは、大学での学びや保育実習での経験を基に、幼稚園教育についてさらに実際的な理解を深め、保育者としての総合的な実践力を養う。自ら指導計画案を立案して実施する責任実習等の経験を通して、幼児理解を深めると同時に、実践的技能・指導力の向上を図り、保育者としての資質を高めることを目標とする。

**【授業における到達目標】**

- 学修を通して自己成長する力を育む。
- ・これまでの大学の学びを生かして保育を実践することで、幼児理解を深める。
- ・保育を行い、学ぶ楽しみを知り、幼稚園教諭としての実践的な技能・指導力を向上させる。
- ・保育現場での学修成果を実感して、幼稚園教諭としての自信と意欲を抱く。

**【授業の内容】**

- ・事前指導 …「教育実習指導」の授業において行う。
- ・実習
  - 実習時期：6月（予定）
  - 実習期間：4週間
  - 実習園：公立、私立幼稚園 他
- ・事後指導 …「教育実習指導」の授業と個人面接指導にて行う。
  - 実習のまとめおよび反省
  - 実習報告会
  - 実習の評価および今後の課題の明確化（個人面接指導）

**【事前・事後学修】**

【事前学修】（毎日1時間）

- ・実習園によるオリエンテーションを受ける。予め、「教育実習（幼稚園）aの手引き」（『教育実習 a 日誌』）をよく読んでおく。
- ・保育に先がけ、ピアノ練習、保育教材の準備を行う。

【事後学修】（毎日2時間）

- ・日誌により、保育の振り返りを行う。

**【テキスト・教材】**

『幼保連携型認定こども園保育・教育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』内閣府・文部科学省・厚生労働省 チャイルド社 2017年（540円）

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

実習園による評価50%、実習日誌・実習報告・個人面接等に基づいた評価50%  
実習園からの評価をふまえ、担当教員による個人面談を行い、学びのフィードバックを行う。

**【参考書】**

適宜紹介・指示する。

**【注意事項】**

- ・必須科目の単位を修得しておくこと。
- この科目に関して、WEBでの履修登録を忘れないこと。
- ・学外実習（幼稚園）が中心となる授業であるため、原則として遅刻・欠席は認めない。

**教育実習 b (幼稚園)**

井口 眞美

3年 集通 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

**【授業のテーマ】**

幼稚園教諭免許状の取得希望者（幼小コース）は、教育実習 b を履修し幼稚園での2週間の実習を行う。

ここでは幼稚園の実態を的確に把握し、幼稚園教育についての実際を学ぶと同時に、子どもと実際のふれあいを通して幼児理解を深める。また、これまで大学で学んできた知識や技能を基礎としながら、保育の場においてこれらを総合的に実践する応用能力を養う。保育の理論と実践の有機的なつながりを理解し自己課題を明確にして次の学びにつなげることが大切である。

**【授業における到達目標】**

- 学修を通して自己成長する力を育む
- ・これまでの大学での学びを活かし、保育を実践することで幼児理解を深め、行動力を身につける。
- ・小学校教育との違いを踏まえつつ保育を行い、学ぶ楽しみを知り実践的な知識・技能を高める。
- ・実習現場における学修成果を実感し、研鑽力、協働力を身につけ、教師としての自信を創出する。

**【授業の内容】**

- ・事前指導 …「幼児教育法」の授業において行う。
- ・実習
  - 実習時期：2月（予定）
  - 実習期間：2週間
  - 実習園：公立、私立幼稚園 他
- ・事後指導 …個人面接指導にて行う。
  - 実習のまとめおよび反省
  - 実習報告会（4年次4月）
  - 実習の評価および今後の課題の明確化（個人面接指導）

**【事前・事後学修】**

【事前学修】（毎日1時間）

- ・実習園によるオリエンテーションを必ず受ける。予め「教育実習（幼稚園）の手引き」（『教育実習 b 日誌』）をよく読んでおくこと。
- ・保育に先がけ、ピアノ練習、保育教材の準備を行う。

【事後学修】（毎日2時間）

- ・日誌により、保育の振り返りを行う。

**【テキスト・教材】**

『幼保連携型認定こども園保育・教育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』内閣府・文部科学省・厚生労働省 チャイルド社 2017年（540円）

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

実習園による評価50%、実習日誌・実習報告・個人面接等に基づいた評価50%  
実習園からの評価をふまえ、担当教員による個人面談を行い、学びのフィードバックを行う。

**【参考書】**

適宜紹介・指示する。

**【注意事項】**

- ・必修科目の単位を修得しておくこと。
- ・学外実習（幼稚園）が中心となる授業であるため、原則として遅刻・欠席は認めない。

**教育実習指導（小学校）**

子どもたちと共に成長し、信頼される教師を求めて

南雲 成二・渡辺 敏

3年 通年 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

**【授業のテーマ】**

公立小学校で実施される3年次「教育実習」を充実させる為、事前指導・事中支援・事後指導の三層構造で講義内容を構成。事前指導では実習に関する諸準備や教育実習の意義・目的を確認する。学習指導力の向上と充実の為に「指導案作成と模擬授業・授業研究演習」を丁寧に試みる。事中支援は2週間目と4週間目の訪問指導を重点的に行う。事後指導では、教育実習期間中に実践した学習指導案と授業記録を基に、児童にとって「わかる・できる・つかえる」学力伸長実現の為の学習指導のあり方について考察する。併せて、児童理解、小学校教育の課題把握を深め、教員採用試験に結ぶ教師力の育成を図る。教科学習指導力の充実と相補的に教職教養の基盤としての「教育原理・教育心理・教育法規・教育史・教育時事問題」についても教育実習との関連で要所を学び、実践的理解を深める。

**【授業における到達目標】**

①教育実習ノートを活用し、実践記録の取り方や授業評価・改善の観点、その方法を身につけることができるようになる。13教科の学習指導案や全日経営案の書き方を修得する。児童理解を基盤としたノート指導、ワークシートや板書や発問内容の構成と学習指導・支援ができるようになる。②教育実習を通して日本の教育について考え「国際的視点」を身に付ける。実習での学びを生かし、自分の課題を見つけ、実際の指導を考え、互いに学び合うことで「研鑽力」「行動力」「協働力」を身に付ける。30回の学習を通して将来の自分の教師像を追求することで「美の探究」の態度を身に付ける。

**【授業の内容】**

- 第1回 オリエンテーション：教育実習の意義と目的及び概要
- 第2回 一日の勤務と4週間の流れ（習得内容のおさえ）
- 第3回 観察・参加・実習の仕方と実習日誌の書き方、記録方法
- 第4回 実習学年での実施授業と研究授業及び研究会について
- 第5回 全日経営案の書き方・留意点のおさえ、経営案試作
- 第6回 児童理解について（配慮を有する児童への支援と指導）
- 第7回 学級担任の心構え（防犯防災人権教育、エバー・サレダイン）
- 第8回 教育公務員の服務規程等、主要教育法規に関する再学習
- 第9回 教材研究の仕方と学習指導案の書き方＜復習応用発展＞
- ※1年「教育方法技術」学習単元構成の原理と方法を基に作成
- ※5月～6月が実習期間となる学生の為に集中講義や入れ替え有り
- 第10回 実践模擬授業準備①（発問・板書・ワークシートとノート指導等）
- 第11回 実践模擬授業準備②（学習内容と学習形態と学習過程）
- 第12回「模擬授業①教科編」（授業研究の為の記録の取り方）  
＜国語科又は総合的な学習の時間〔読書単元〕を通して＞
- 第13回「模擬授業②領域編」（学級経営や児童理解との関係）  
＜特別活動を中心に＞
- 第14回 教育実習研究授業参観と実習体験報告
- 第15回 前期「教育実習指導」のまとめ
- 第16回 後期オリエンテーション。
- 第17回 実践模擬授業準備③（実習経験を活かした指導案作成）
- 第18回「模擬授業③」（子どもの学びと授業評価・改善）
- 第19回「担当学年 学級経営案」を考察する
- 第20回「担当学年 教科・領域経営案」を考察する
- 第21回「保護者・地域・関連機関」との協働連携を考察する
- 第22回「模擬授業④」（教育実習での課題から①）例：小学校
- 第23回「模擬授業⑤」（教育実習での課題から②）外国語活動
- 第24回「模擬授業⑥」（教育実習での課題から③）（英語）の
- 第25回「模擬授業⑦」（教育実習での課題から④）学習室づくり
- 第26回「模擬授業⑧」（教育実習での課題から⑤）
- 第27回 日野市の発達支援の在り方の理解
- 第28回 日野市の発達支援施設「エール」の見学
- 第29回 特別に支援が必要な児童の学習指導
- 第30回 まとめ（生活文化論演習や「卒論テーマ」との関係）

**【事前・事後学修】**

【事前学修】各教科自作学習指導案、公開授業研等で収集した指導案綴りを活用できるようにする。レポート・小論文・発表等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】実習中の子ども・教職員・保護者域に具体的に関わる力、実習終了後の整理整頓と実践課題把握力・追求力の形成に取り組むこと。レポート・発表・実習ノートを中心としたポートフォリオ評価の充実を図ること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

「手作り教育実習の手引き」等、必要に応じて配布、提示。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（教育実習と授業への積極的な参加）50%、模擬授業、課題レポートや小論文、児童理解力や教科指導力向上のための質疑・協議への参加内容と態度50%で、総合的に評価します。課題レポートや小論文はコメントを入れてフィードバックします。

**【参考書】**

- ☆『学習指導要領・各解説編』2008年度版と2017年度告示版
- ☆『評価基準の作成評価方法等の工夫・改善のための参考資料』（H23.11版と2018年以降刊行予定の改訂版）
- ☆H27.8 文部科学省教育課程企画室編『論点整理』
- ☆H28.121「中央教育審議会最終答申（第197号）」P1～P243  
と補充資料群（1）別紙（2）別添資料（3）補足資料
- ☆『月刊初等教育資料』（文部科学省）

**【注意事項】**

「4週間の小学校教育実習」を通して「教師・教員・教諭・先生」としての自分の適性・可能性をしっかりと吟味すること。なにより子どもたち一人ひとりの「学び」「生活世界」をしっかりと見つけ、支援人と指導人としての自分自身を見つめること。

**教育実習指導（幼稚園）**

井口 眞美

4年 集通 1単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

**【授業のテーマ】**

この授業は、教育実習を行うにあたっての事前・事後指導を中心に進め、教育実習（幼保コース4年6月）の準備や振り返りを行う。具体的には、教育実習に関する諸手続き、教育実習の意義・心得、教材研究、幼児に指導を行う際に必要不可欠な指導案（部分実習）の作成等について学んだり、実習での学びをまとめたりする。

**【授業における到達目標】**

- ・実習にあたり、事前・実習中・事後の諸手続を滞りなく行い、主体的に実習に臨む姿勢を培う。
- ・教育実習の意義・心得を理解し、現状を的確に把握する視点をもって実習に取り組む。
- ・ボランティアの参加、指導案の作成、教材研究等、事前準備を周到に行い、意欲的に実習に臨み、行動力、協働力を培う。
- ・実習をふり返り、自己の成長や自己課題を明らかにし、問題解決につなげることで研鑽力を高める。

**【授業の内容】**

- 第1週 教育実習とは（教育実習の意義・心得）
- 第2週 個人票の作成
- 第3週 日誌の書き方①（日のねらいと日の流れ）
- 第4週 日誌の書き方②（エピソード記録の取り方）
- 第5週 指導案作成に関する留意事項
- 第6週 教材研究①（保育実習のふり返り）
- 第7週 教材研究②（製作）
- 第8週 教材研究③（リズム、音楽）
- 第9週 教育実習のふり返り①（子どもとの関わり）
- 第10週 教育実習のふり返り②（保育者の援助）
- 第11週 教育実習のふり返り③（保育観の明確化）
- 第12週 実習報告会準備（書類作成）
- 第13週 実習報告会準備（リハーサル）
- 第14週 実習報告会
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】****【事前学修】**（週1時間）

- ・配布された資料は、次回の授業までに読んでおくこと。
- ・実習に向け、教材研究等を行っておくこと。

**【事後学修】**（週1時間）

- ・授業内容をふまえ、各自で指導案を作成する等、実習の準備及び振り返りを行うこと。

**【テキスト・教材】**

『幼保連携型認定こども園保育・教育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』内閣府・文部科学省・厚生労働省 チャイルド社 2017年（540円）

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

受講態度（授業への取り組み方等）30%、授業内課題（指導案等）40%、ふり返り課題、実習報告会30%  
フィードバックの方法としては、実習の事前に個別面談を行い準備状況の確認をする。また指導案の添削をして返却をする。

**【参考書】**

『実習日誌の書き方』相馬和子、中田カヨ子：編 萌文書林 2010年（1680円）

**【注意事項】**

実習に向けての手続きなども含まれる授業であるため、授業への取り組み方や授業態度を重視して成績評価を行う。

**教育社会学**

広井 多鶴子

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

この授業では、高等教育を主なテーマとする。具体的には、大学進学率の推移や高等教育をめぐる社会的格差、ジェンダー、女子大学の歴史などを取り上げる。

授業は講義と学生の発表を組み合わせながら進めていく。学生は与えられた課題の中から、自分の関心のあるテーマを選び、それについて調べたことや考えたことを、PowerPointを使って発表する。

**【授業における到達目標】**

大学進学や大学教育に関して、さまざまな文献やデータを分析する中で、新たな知を創造する態度を身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 戦後の教育改革と教育の戦後史
- 第3週 1960年代の若者たち①就職
- 第4週 1960年代の若者たち②進学
- 第5週 大学進学率の変化
- 第6週 日本の大学進学率は低い—国際比較
- 第7週 レポート発表①大学進学率の変化
- 第8週 大学進学と社会的格差
- 第9週 レポート発表②大学進学と社会的格差
- 第10週 大学教育とジェンダー
- 第11週 レポート発表③大学教育とジェンダー
- 第12週 女子大学の発足
- 第13週 女子大学の現在
- 第14週 レポート発表④女子大学のあり方を考える
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 参考文献を読む。2時間

【事後学修】 宿題を行う。発表の準備をする。2時間

**【テキスト・教材】**

テキストは用いない。授業中にプリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

成績は授業の取組み状況（30%）とレポート発表およびレポート（70%）で評価する。

宿題は次回授業、レポート発表についてはそのつどフィードバックを行う。

**【参考書】**

苅谷剛彦『大衆教育社会のゆくえ——学歴主義と平等神話の戦後史』中公新書 1995年 756円

苅谷剛彦『教育と平等 - 大衆教育社会はいかに生成したか』中公新書 2009年 907円

**【注意事項】**

この授業は発表やディスカッションなど、積極的にアクティブラーニングの手法を取り入れる。

**教育社会学**

広井 多鶴子

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

この授業では、高等教育を主なテーマとする。具体的には、大学進学率の推移や高等教育をめぐる社会的格差、ジェンダー、女子大学の歴史などを取り上げる。

授業は講義と学生の発表を組み合わせながら進めていく。学生は与えられた課題の中から、自分の関心のあるテーマを選び、それについて調べたことや考えたことを、PowerPointを使って発表する。

**【授業における到達目標】**

大学進学や大学教育に関して、さまざまな文献やデータを分析する中で、新たな知を創造する態度を身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 戦後の教育改革と教育の戦後史
- 第3週 1960年代の若者たち①就職
- 第4週 1960年代の若者たち②進学
- 第5週 大学進学率の変化
- 第6週 日本の大学進学率は低い—国際比較
- 第7週 レポート発表①大学進学率の変化
- 第8週 大学進学と社会的格差
- 第9週 レポート発表②大学進学と社会的格差
- 第10週 大学教育とジェンダー
- 第11週 レポート発表③大学教育とジェンダー
- 第12週 女子大学の発足
- 第13週 女子大学の現在
- 第14週 レポート発表④女子大学のあり方を考える
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 参考文献を読む。2時間

【事後学修】 宿題を行う。発表の準備をする。2時間

**【テキスト・教材】**

テキストは用いない。授業中にプリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

成績は授業の取組み状況（30%）とレポート発表およびレポート（70%）で評価する。

宿題は次回授業、レポート発表についてはそのつどフィードバックを行う。

**【参考書】**

荻谷剛彦『大衆教育社会のゆくえ——学歴主義と平等神話の戦後史』中公新書 1995年 756円

荻谷剛彦『教育と平等 - 大衆教育社会はいかに生成したか』中公新書 2009年 907円

**【注意事項】**

この授業は発表やディスカッションなど、積極的にアクティブラーニングの手法を取り入れる。

## 教育社会学特論

広井 多鶴子

人間社会専攻 後期 2単位

### 【授業のテーマ】

核家族化、少子化、少年非行、不登校、児童虐待など、子ども・若者・家族・学校をめぐる諸問題について、歴史社会的に分析する。

### 【授業における到達目標】

子ども・若者・家族、学校に関する様々なデータを分析する中で、新たな知を創造し、問題の解決に貢献しようとする態度を身につける。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 核家族化はどのように捉えられてきたか
- 第3週 核家族化はどれほど進展したか
- 第4週 少子化ときょうだい数の変化
- 第5週 少子化の原因論
- 第6週 登校拒否はいつ登場したか
- 第7週 登校拒否の社会問題化
- 第8週 登校拒否から不登校へ
- 第9週 少年非行はどう捉えられているか
- 第10週 少年非行は「増加」「凶悪化」しているか
- 第11週 少年非行の原因論
- 第12週 児童虐待問題はいつ登場したか
- 第13週 児童虐待は「増加」「深刻化」したか
- 第14週 児童虐待の原因論
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】授業で発表するレジュメやレポートを作成する。週3時間

【事後学修】テキストや参考文献を読む。週1時間

### 【テキスト・教材】

広井多鶴子・小玉亮子『現代の親子問題』（日本図書センター、2010年）2500円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業での発表（50%）、レポート提出（50%）

フィードバックは次回の授業で行う。

### 【参考書】

- 阿部彩『子どもの貧困Ⅱ』（岩波新書、2014年）929円
- 山野良一『子どもに貧困を押しつける国・日本』（光文社新書、2014年）886円
- 内田良『「児童虐待」へのまなざし』（世界思想社、2009年）2160円
- 広田照幸『日本人のしつけは衰退したか』（講談社現代新書、1999年）799円

## 教育心理学

長崎 勤

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、協働力

### 【授業のテーマ】

教育現場における指導や援助に役立つ視点を習得させることを目的とする。教育心理学の理論や研究を紹介しながら、特に子どもの行動や認識を理解する上で重要となる物の見方、考え方を養っていく

### 【授業における到達目標】

- ・学習や発達の心理学的基礎が理解できる。
- ・教育における指導や支援のための視点を持つことができる。
- ・学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く力を修得する。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 子どもが育つ環境
- 第3週 発達と教育
- 第4週 学習と教育
- 第5週 学習と理論①：条件付け
- 第6週 学習と理論②：認知説
- 第7週 学習と記憶
- 第8週 動機付け
- 第9週 学力と知能
- 第10週 社会性の発達
- 第11週 障害の理解①特別支援教育
- 第12週 障害の理解②発達障害
- 第13週 発達・教育に関する心理測定
- 第14週 発達・教育に関する評価
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】小テスト・レポート・発表等の課題に取り組むこと。  
(学修時間 週2時間)

【事後学修】発表・小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。(学修時間 週2時間)

### 【テキスト・教材】

【テキスト・教材】

柏崎秀子「教職ベーシック 発達・学習の心理学」(北樹出版, 2010 1900円)

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業への積極参加・提出課題)30%、期末試験70%  
レポートについてのコメントを個別にまた授業において全体にフィードバックする。

### 【参考書】

授業中に適宜紹介します。



**教育心理学**

織田 弥生

2年 前期・後期 2単位

◎：研鑽力

心理学系の授業を履修したことのある人は内容が一部重なる可能性があります。授業の進行により、内容が前後したり変更になる可能性があります。

**【授業のテーマ】**

教育心理学には、心理学で明らかになった知見を教育現象に応用するという側面と、教育現場において要請される課題を独自の方法で解決しようとする側面があります。本授業では、心理学の知見から教育心理学を考え、「発達」「教授・学習」「人格・社会・適応」「評価・測定」等の観点から、総合的に教育心理学を学びます。

**【授業における到達目標】**

将来教職に就く可能性のある人については、教育の前提となる必須の基礎知識を修得します。教職に就かない人についても、自分が受けてきた教育についての知識を修得します。目標は①教育現場において生じる問題やその背景について説明できる、②教育現場における心理社会的課題や必要な支援方法について説明できることです。ディプロマ・ポリシーとの関連では、学生が修得すべき「研鑽力」のうち「学ぶ楽しみ」「広い視野と深い洞察力」を修得します。

**【授業の内容】**

- 第1回 ガイダンス・歴史
- 第2回 発達①幼児期
- 第3回 発達②老年期まで
- 第4回 学習①学習の基礎
- 第5回 学習②記憶
- 第6回 学習指導
- 第7回 集団
- 第8回 教育評価
- 第9回 知能
- 第10回 性格①性格の基礎
- 第11回 性格②性格の研究
- 第12回 適応
- 第13回 障害
- 第14回 関連資料の紹介
- 第15回 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：各回のテーマについて、【参考書】の欄に挙げた書籍などを参考に予習をしておいてください。（週2時間）。

事後学習修：授業後には必ず資料を読み返し、わからない部分を確認しておいてください。毎回の配布資料の最後にある参考文献を読むのもよいでしょう（週2時間）。

**【テキスト・教材】**

授業中に資料を配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末試験（100%）。試験結果のフィードバックはmanabaを通じて行います。

**【参考書】**

## ●教育心理学関係

- 米澤・足立・倉盛編著『教育心理学』（北大路書房、1998年）
- 多鹿著『教育心理学「生きる力」を身につけるために』（サイエンス社、2001年）
- 山崎編著『教育心理学ルックアラウンド』（ブレーン出版、2004年）

## ●一般心理学関係

- 北尾・中島・井上・石王共著『グラフィック心理学』（サイエンス社、1998年）
- 中島・繁樹・箱田編『新・心理学の基礎知識』（有斐閣ブックス、2005年）

**【注意事項】**

どのような学問でも自分の人生に全く関係ないということはありません。はじめから関係ないと思わず、自分と関連付け、知的好奇心をもって授業に臨んでください。心理学系の授業を受講するのが初めての人でも分かるように授業を行うつもりです。そのため、他の

**教育制度**

(国文学科、美学美術史学科、人間社会学部各学科 対象)

青木 研作

2年 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

教育制度は教育に関する政策、法制、行政等により成立している。本授業では、教育制度の理論や歴史的経緯を紹介するとともに、教育改革の文脈で注目を集める現代の教育制度上の新たな展開や課題について、主に学校教育制度を中心に具体的な事例をとりあげる。

教育制度に関する基本的知識、さらには将来教育者として実践に必要な知識・技能を習得することを授業の目的とする。

**【授業における到達目標】**

現在の教育制度が形成されてきた経緯、教育制度に関する政策・法・行政の意義と構造、近年の教育改革動向について理解し、よりよい教育を提供するための教育制度の在り方について、自分の考えを論理的に説明できるようになることを目標とする。

ディプロマ・ポリシーとの関連でいえば、学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTROダクション：教育制度とは何か
- 第2週 公教育の登場と教育制度の史的展開
- 第3週 教育制度に関する法の意義と構造
- 第4週 日本国憲法と教育基本法：教育基本法の改正を中心に
- 第5週 教育権・学習権：判例を紹介しながら
- 第6週 国の教育行政制度：文部科学省の機能
- 第7週 地方の教育行政制度①：教育委員会の機能
- 第8週 地方の教育行政制度②：教育委員会制度の抱える課題
- 第9週 学校教育制度①：学校の設置・管理
- 第10週 学校教育制度②：学校の組織編制
- 第11週 学校教育制度③：学校経営
- 第12週 学校教育制度④：教育課程・学習指導要領・教科書制度
- 第13週 教育制度改革の動向①：新自由主義的教育政策とは何か
- 第14週 教育制度改革の動向②：教員養成
- 第15週 まとめ：確認テストを含む

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】 授業で配布したプリント等を活用し復習をすること。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

若井彌一監修『2019年度版 必携教職六法』(協同出版 2018年、2200円+税)

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

確認テスト70%、レポート20%、授業への参加度10%。レポートについては全体的なフィードバックコメントを行い、確認テストについては実施後解説を行う。

**教育制度**

(英文学科、食生活科学科、現代生活学科 対象)

永井 聖二

2年 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

近代公教育制度は、産業社会の要請と近代的孩子観の展開を背景として発展してきたが、近年では学校制度への不信や疑問も提起され、学校のあり方をめぐって、社会と個人の緊張関係が顕在化している。

この授業では、公教育制度の展開と背景、その近年の揺らぎについて理解し、教育制度の現状を把握したうえで、我が国の教育の今後について考察を加える。

**【授業における到達目標】**

わが国の教育制度の現状と特徴、その揺らぎについての確に理解し、自らの教育実践の可能性と課題を踏まえて、主体的に職能的成長が可能になる基礎を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 公教育制度の展開
- 第2週 近代的孩子観と教育
- 第3週 人間形成の日米比較
- 第4週 世界の学校
- 第5週 学校教育の日本的特質
- 第6週 現代日本の教育法制
- 第7週 教育行政の理念と仕組み
- 第8週 教育制度の揺らぎ
- 第9週 家族と学校、その現状と今後
- 第10週 地域社会と学校、その現状と今後
- 第11週 学校の組織と文化
- 第12週 学校安全への対応
- 第13週 生涯学習の理念と現状
- 第14週 日本社会の変容と教育
- 第15週 教育制度の再構築と教育政策の動向

**【事前・事後学修】**

事前学修として、次回の授業範囲を予習し、専門用語について理解しておくこと。学修時間週2時間

事後学修として、発表や小テストについて復習すること。学修時間週2時間

**【テキスト・教材】**

プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験80%、授業への積極的参加の程度20%。

テストは、授業でフィードバックをおこない、後日返却する。

**【参考書】**

岡崎友典、永井聖二 教育学入門 放送教育振興会

**教育制度**

(生活環境学科、生活文化学科 対象)

清田 夏代

2年 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

- ・公教育制度の成立のプロセス、理念、課題について扱う。
- ・先進諸国においては高い就学率が実現されてきたが、そのような状況の中でも依然として周辺化されている子どもたちの教育の在り方が、教育制度上の課題として残されていることを、いくつかの具体的な教育政策に即して理解する。

(教育職員免許法施行規則に定める「教育の基礎理論に関する科目」「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」に該当する科目である。教育法規で規定される詳細かつ個々具体的な教育制度の内容については、選択科目「教職研究c」で扱う。)

**【授業における到達目標】**

国家によらない学校教育や、国家によって運営される学校教育など、学校教育の成立のプロセスや理念について理解し、現代社会の教育制度が抱える課題について多面的にとらえる視点を養い、かつ公教育制度がはらむ様々な矛盾を、社会的な課題や国家目的という文脈のなかで具体的に理解することを学修の目的とする。

また、本科目では、諸外国の事例を扱うため、多様性を受容し、多角的な視野を以て世界に臨む「国際的視野」、そして、広い視野と深い洞察力を身に付け、本質を見抜く「研鑽力」、また、グループワークを通じ「協働力」を身に付けることを到達目標とする。

**【授業の内容】**

1. 「教育制度」の基本確認と導入
2. 近代社会の教育制度
3. 国家による公教育運営の含意
4. 教育制度の型：複線型と単線型
5. 新自由主義の教育制度改革
6. 社会的包摂政策と学校教育
7. 「唯一最良の制度」
8. 平等な教育制度を求めて
9. 学校教育と家庭の理論
10. 学校教育と「リッチフライト」
11. 教育格差
12. 多元化社会の学校教育—新たな課題—
13. 近年の教育制度上の課題—学校安全—
14. 教育制度と教師
15. 概括

**【事前・事後学修】**

1. 配布物を熟読すること
2. 授業後に内容について復習すること
3. 最終課題レポートの準備のため、教育思想や実践について図書などを参照し、学修すること  
(週4時間程度)

**【テキスト・教材】**

授業内で指示する。また、授業で使用するワークシートや資料については、各授業内で配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

評価は平常点（授業に臨む態度、授業内の取り組みへの参加度などを含む）50%、提出物（課題レポートを含む）50%によって、総合的に行う。また、毎回授業終了時に感想、意見、疑問点などについて記述したリアクション・ペーパーを提出してもらおう。内容については次回、あるいは適切と思われる授業回で言及、回答などとする。提出物については、講評し返却する。

**【参考書】**

授業内で指示、紹介する。

## 教育制度（栄養）

清田 夏代

2年 後期 1単位

### 【授業のテーマ】

- ・従来の学校給食法に加え、新たに「食育基本法」が制定され、教育職としての「栄養教諭」職が作られた背景、同職の存在意義や役割に触れながら、日本の教育制度の枠組みに関する内容を扱う。
- ・基礎的かつ一般的な教職教養としての教育制度と教育制度改革の動向、また、栄養教諭として特に理解しておく必要のある内容の両方を含む。

### 【授業における到達目標】

日本の教育制度の基本構造を理解すること、最新の教育制度改革の動向を理解すること、学校教育制度において栄養教諭に何が期待されているのか、を理解すること、栄養教諭の存在意義と役割を、現代社会の課題に即して理解することを学修の目的とする。

また、本科目の教育内容・方法に関わるものとして、広い視野と深い洞察力によって本質を見抜く「研鑽力」、加えて、多様性を受容し、多角的な視点を以って世界に臨む「国際的視野」を身に付け、さらに授業内でのグループワークを通じ協働力を身に付けることを到達目標とする。

### 【授業の内容】

1. 「教育制度」の基本確認
2. 日本の学校教育制度
3. 教員養成制度
4. 学校給食制度と課題
5. 「開かれた学校」とは—地域社会との連携を考える—
6. 現代社会における公教育の課題
7. 多元化社会の学校教育—新たな課題—
8. 特別支援教育

### 【事前・事後学修】

- ・配布物を熟読すること
- ・授業後に内容について復習すること
- ・最終課題レポートの準備のため、日本の学校教育制度に関連する図書を熟読すること  
(週4時間程度)

### 【テキスト・教材】

授業内で指示する。また、授業で使用するワークシートや資料については、各授業内で配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

評価は平常点（授業に臨む態度、授業内の取り組みへの参加度などを含む）50%、提出物（課題レポートを含む）50%によって、総合的に行う。また、毎回授業終了時に感想、意見、疑問点などについて記述したリアクション・ペーパーを提出してもらおう。内容については次回、あるいは適切と思われる授業回で言及、回答などとする。提出物については、講評し返却する。

### 【参考書】

授業内で指示、紹介する。

**教育制度論**

田中 正浩

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

**【授業のテーマ】**

本授業は、我が国の教育制度について歴史的・社会的出来事との関連で解説し、教育の社会的、制度的、行政的な知識の修得をめざす。前半で学校教育を中心として明治以降の教育を辿り、我が国の教育理念の歴史資料を用いて学修する。後半は、教育の制度的事項としての教育制度を主要諸外国と比較検討し、続けて教育の社会的な事項としての公教育とその具体的な表現である学校制度を考察し、そのなかで社会的・国家的な営みとしての教育行政の意義と内容について理解を深める。

**【授業における到達目標】**

本授業では、修得した教育制度及び教育行政の基本的知識を基に、今日、我が国の学校教育制度及び教育行政のシステム、加えて学校経営の仕組みについて説明できることを最終的な目標とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 子どもの権利－子どもの人権及び権利獲得までの歩み－
- 第2週 子どもの権利条約
- 第3週 教育に関する法律－教育法のしくみ－
- 第4週 教育内容に関する制度
- 第5週 日本国憲法と教育制度
- 第6週 教育基本法における教育の目的と目標
- 第7週 義務教育制度－誰の何に対する義務か－
- 第8週 義務教育の三原則
- 第9週 教育の機会均等
- 第10週 戦後の教育行政
- 第11週 現在の教育行政制度
- 第12週 教職員制度
- 第13週 保育制度
- 第14週 社会教育制度
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

事前学修…小テスト・レポート・発表等の課題に取り組む。

(学修時間 週2時間)

事後学修…小テストの解答と解説、発表等に対する指摘について振り返り、確認する。テキストや資料プリントの次回授業範囲を読み、専門用語や人物について調べ、自分なりに理解しておく。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

資料プリントを適宜、配付する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

小テスト(20%)、試験(60% ※テキスト、資料プリント、ノートの持ち込み不可)、平常〔授業態度・提出課題〕(20%)  
実施した小テストは次回授業、試験は最終授業で解説し、フィードバックを行う。

**【参考書】**

適宜、紹介、指示する。

**【注意事項】**

授業形態は講義形式となるが、極力、双方向的な授業となるように問いを発信していくので積極的に発言し、参加してほしい。

**教育相談**

(国文学科 対象)

櫻井 成美

3年 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

近年学校場面で不登校、いじめ、対人関係の問題等、子どもたちの心の問題や悩みが多くみられる。本授業では、子どもが学校で出会う心の問題と支援の方法について理解を深めることを目的とする。また、近年心を病む教師が増加していることから、教育相談の課題の一つとして教師のメンタルヘルスの問題についても取りあげる。

**【授業における到達目標】**

- ①子どもの発達や学校場面で生じる諸問題の特徴について知識を修得する(研鑽力)
- ②支援を要する子どもを的確に理解し、具体的支援の方法(カウンセリングの理論や技法の学習も含む)について修得する(行動力)
- ③学校内外の関係者と連携・協力をしながら、教師として子どもたちに適切な支援を行うことができるようになる(協働力)

**【授業の内容】**

- 第1週 教育相談とは何か(オリエンテーション)
- 第2週 教育相談の歴史と意義
- 第3週 思春期・青年期の心理発達
- 第4週 現代社会と子ども
- 第5週 子どもが学校で出会う心の問題①(不登校)
- 第6週 子どもが学校で出会う心の問題②(いじめ)
- 第7週 子どもが学校で出会う心の問題③(思春期の心の病理)
- 第8週 悩みや問題をかかえる子どもの理解  
①心理教育的アセスメント
- 第9週 悩みや問題をかかえる子どもの理解  
②アセスメントの方法
- 第10週 教育相談体制と連携①学内における連携
- 第11週 教育相談体制と連携②関係機関との連携
- 第12週 保護者への理解と対応
- 第13週 教育相談に役立つカウンセリング  
①カウンセリングの基礎理論
- 第14週 教育相談に役立つカウンセリング  
②教師のカウンセリング・マインド
- 第15週 教育相談の課題 / まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修: レポート等の課題に取り組むこと(学修時間: 週2時間)。

事後学修: 講義内容や配布プリント、授業中紹介する参考文献などをとに、各自復習をして理解を深めること。配布資料等をもとに次の授業範囲を予習すること(学修時間: 週2時間)。

**【テキスト・教材】**

使用しない。毎回プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業態度・授業内課題(リアクション・ペーパー、小レポート、ディスカッション等)(50%)、期末レポート(50%)により評価を行う。

リアクション・ペーパー等は次回授業、期末レポートは授業最終回にフィードバックを行う。

**【参考書】**

授業中に適宜紹介する。

**【注意事項】**

講義中心の授業であるが、理解を深めるために課題やグループ・ディスカッション、発表等の機会を多く取り入れるため、積極的に取り組むこと。

**教育相談**

(英文学科、美学美術史学科、人間社会学部各学科 対象)

實川 由美子

3年 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

学校では、元気な子供だけでなく、不登校の子、いじめにかかわる子、発達障害の特性を持つ子、うつなどの精神疾患の子、抑うつ状態や自分を傷つける子、〇〇にはまる子、家庭の問題を抱える子、性的な違和を感じている子、自分を語ることでできない子など様々な子供が生活している。子供を取り巻く問題も、年々複雑で深刻になっており、問題解決はますます困難さを増している。さらに、2013年9月施行の「いじめ防止対策推進法」により、学校内外で起きる児童などのいじめ問題の解決やいじめの再発防止を推進することが求められている。また、2016年4月施行の「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」により、障害のある人に対する合理的配慮を可能な限り提供することが求められている。そして、それらも含め、今後はますます、教師にとり、それらの問題を抱えた子供やその保護者への対応が不可欠となると考えられる。それらを担う教師にとり、問題解決のための理解や分かりやすいコミュニケーションスキルの習得は急務で必須となってくる。

そのような問題解決の方法の一つに、教育の機能を持ちながら、子供の人格の発達を援助する「教育相談」があり、とても有効な方法である。ここでは、その「教育相談」の理論と方法について学ぶ。そして、子供の発達をふまえたうえで、具体的な相談スキルを身につけることと、子供の問題の事例検討を通して、子供の問題への理解を深めることを目標とする。

**【授業における到達目標】**

授業の到達目標は3点ある。一つ目は、多様で複雑な子供に関わる問題の解決のため、多様な価値観と多面的な視点をも身につけることができるようにする。二つ目は、子供の現状を理解し、課題についての深い洞察力を育むことができるようにする。三つ目は、ワークや事例検討を通して、問題解決の方法の習得と、コミュニケーションなど相談スキルアップを図ることである。

**【授業の内容】**

- 第1週 教育相談とは・子供の発達(乳幼児期から青年期まで)
- 第2週 カウンセリングの基礎
- 第3週 教室で使えるカウンセリング技法①(認知行動療法など)
- 第4週 教室で使えるカウンセリング技法②(アサーションなど)
- 第5週 教室で使えるカウンセリング技法③(ピアサポートなど)
- 第6週 事例検討①(発達障害への理解と対応)
- 第7週 事例検討②(精神疾患などへの理解と対応)
- 第8週 事例検討③(いじめへの理解と対応)
- 第9週 事例検討④(虐待、家庭の問題への理解と対応)
- 第10週 事例検討⑤(不登校への理解と対応)
- 第11週 事例検討⑥(保護者への理解と対応)
- 第12週 事例検討⑦(心のケアへの理解と対応)
- 第13週 学校内外のリソース活用・予防的アプローチ
- 第14週 教育相談の活用のまとめ・期末授業内レポート
- 第15週 教育相談のまとめ・教師のメンタルヘルス・ストレスマネージメント

**【事前・事後学修】**

事前学修については、授業のテーマを知らせるので、2時間程度自主的に参考書などを読み、専門知識の予習をすること。また、事後学修については、2時間程度、自宅学修用の課題に取り組むこと。教育相談では、人生の価値観などを問われることが多いため、課題のテーマは専門的なこと以外の広範囲から選択している。各自、参考文献や参考資料を探し、課題に取り組み、次の授業前に提出すること。課題について15分程度の話合や発表、講評を行い、必ずコメント等つけて後日返却している。

**【テキスト・教材】**

テキストは特に指定しない。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

○期末レポート40%(子供の問題が重複している事例の検討を、14

週目に授業内レポートする。15週目に模範解答を示し、コメントを付けて返却する)

○課題提出40% (課題提出後、授業内でグループワークしたり各自のレポートを発表する。また毎回添削して返却する)

○授業態度20% (テーマに沿った事例検討をグループワークしたり、各自の考えなどを発表したり、積極的な参加態度)

#### 【参考書】

○丸藤太郎・菅野信夫編著『学校教育相談』（ミネルヴァ書房 2002年）

○村瀬嘉代子・三浦香苗・近藤邦夫・西村克彦編『教員養成のためのテキストシリーズ5 青年期の課題と支援』（新曜社2000年）

○杉山登志郎著『発達障害のいま』（講談社 2011年）

○十一元三著『子供と大人のメンタルヘルスがわかる本』（講談社 2014年）

○小口尚子・福岡鮎美著『子どもによる子どものための「子どもの権利条約」』（小学館1995年）

## 教育相談

道又 紀子

3年 後期 2単位

### 【授業のテーマ】

教育相談とは、児童・生徒の学校生活におけるさまざまな悩みに呼応する相談活動である。これまで教育相談は特定の専門知識をもった専門家が行うといったイメージを持たれやすかったが、本来全教員が参加する教育活動である。ここでは、発達・相談についての基礎をふまえた上で、具体的な相談のスキルを身につけること、事例への理解を深めることを目標とする。学校教育相談は、治療的な側面だけではなく、予防的・開発的側面を持っていることが特徴となっている。本講義では、これらの相談を機能させるための、具体的な方法を学ぶ。

### 【授業における到達目標】

- ①多様な価値観を受容し、人の話を傾聴する技術を身につけることが出来る
- ②発達の課題や心理的問題を多角的に理解する洞察力や深い感受性を養う
- ③生徒が自己成長する力を育て、主体的に問題解決をおこなえる心理的支援を身につける

### 【授業の内容】

1. 教育相談の3つの機能
2. 心の発達の基礎と問題①乳幼児期～児童期
3. 心の発達と基礎と問題②思春期～青年期
4. ライフサイクルと人の発達
5. 家族・教師の役割と発達
6. カウンセリングの基礎
7. カウンセリングの諸技法
8. 開発的な教育相談活動①構成的エンカウンター
9. 開発的な教育相談活動②リフレーミング
10. 開発的な教育相談活動③交流分析
11. 事例検討① 不登校・うつ病
12. 事例検討② 拒食障害
13. 事例検討③ 発達障害・性同一性障害
14. 学内外の資源の活用と協働
15. 教師の自己理解とストレスマネジメント

### 【事前・事後学修】

＜事前学修＞授業は基本的に生徒指導提要の第5章を中心に行われる。事前に指定した項目に目を通して相談に関するおおよその知識をつかんでから授業に臨む必要がある（所要時間2時間）

＜事後学修＞配布プリントを見直し、授業で行ったワークを振り返り、知識を自分の技術として生かせるようにする（所要時間2時間）

### 【テキスト・教材】

「生徒指導提要」文科省（298円）第5章及び、必要に応じてプリント・ビデオ教材を使用。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業課題への参加態度をリアクションペーパー等から判断 40%  
レポート40%（最終授業日に返却） 小課題 20%（翌週授業日に返却）

### 【参考書】

中野明德編・モジュール型コア教材開発研究会教育臨床編チーム著『DVDで見る教育相談の実際』（東洋館出版社 2009年）  
平木典子『新版カウンセリングの話』（朝日選書 2004年）  
村瀬嘉代子他『教員養成のためのテキストシリーズ4 児童期の課題と支援』（新曜社 2000年）  
生徒指導提要 文部科学省



**教育相談**

(食生活科学科、現代生活学科 対象)

柏崎 秀子

3年 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

教育相談とは、児童・生徒の学校生活におけるさまざまな悩みに呼応し、教育の機能を持ちながら、児童・生徒の人格の発達を援助する相談活動である。この授業では、子供の発達を踏まえて、教師が行う教育相談の理論と方法について学ぶ。具体的な相談のスキルを身につけ、事例への理解を深めることを目標とする。

**【授業における到達目標】**

教育的視点で、子供の問題への理解を深め、支援の基礎が身につくようになる。

**【授業の内容】**

1. 教育相談とは
2. 各発達段階の心の発達
3. 発達とアセスメント
4. カウンセリングの基礎理論
5. カウンセリングマインドの重要性
6. カウンセリングの基礎的技法
7. 事例検討① 不登校の理解と対応
8. 事例検討② いじめの理解と対応
9. 事例検討③ 虐待の理解と対応
10. 事例検討④ 発達障害の理解と対応
11. 教室で使えるカウンセリング技法
12. 開発的な教育相談活動
13. 教育相談体制と連携①学内における連携
14. 教育相談体制と連携②関係機関との連携
15. 教師の自己理解とストレスマネジメント

**【事前・事後学修】**

<事前学修> 予め指定した箇所・事項を予習し、概要をつかむ。

(所要時間2時間)

<事後学修> 授業で行った内容や活動を振り返り、小課題に取り組む。(所要時間2時間)

**【テキスト・教材】**

特に指定しない。プリント教材を使用。

**【参考書】**

- ・村瀬嘉代子・三浦香苗・近藤邦夫・西村克彦編『教員養成のためのテキストシリーズ5 青年期の課題と支援』（新曜社、2000年）
- ・生徒指導提要（文部科学省）

**【注意事項】**

理解を深めるために課題や討論等の機会を多く取り入れるため、積極的に取り組むこと。

**教育相談**

(生活環境学科、生活文化学科 対象)

道又 紀子

3年 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

教育相談とは、児童・生徒の学校生活におけるさまざまな悩みに呼応する相談活動である。これまで教育相談は特定の専門知識を持った専門家が行うといったイメージを持たれやすかったが、本来全教員が参加する教育活動である。ここでは、発達・相談についての基礎をふまえた上で、具体的な相談のスキルを身につけること、事例への理解を深めることを目標とする。学校教育相談は、治療的な側面だけではなく、予防的・開発的側面を持っていることが特徴となっている。本講義では、これらの相談を機能させるための、具体的な方法を学ぶ。

**【授業における到達目標】**

- ①多様な価値観を受容し、人の話を傾聴する技術を身につけることができる
- ②発達の課題や心理的問題を、多角的に理解する洞察力や深い感受性を養う
- ③生徒が自己成長する力を育て、主体的に問題解決をおこなえる心理的支援を身につける

**【授業の内容】**

1. 教育相談の3つの機能
2. 心の発達の基礎と問題①乳幼児期～児童期
3. 心の発達と基礎と問題②思春期～青年期
4. ライフサイクルと人の発達
5. 家族・教師の役割と発達
6. カウンセリングの基礎
7. カウンセリングの諸技法
8. 開発的な教育相談活動①構成的エンカウンター
9. 開発的な教育相談活動②リフレーミング
10. 開発的な教育相談活動③交流分析
11. 事例検討① 不登校・うつ病
12. 事例検討② 拒食障害
13. 事例検討③ 発達障害・性同一性障害
14. 学内外の資源の活用と協働
15. 教師の自己理解とストレスマネジメント

**【事前・事後学修】**

<事前学修> 授業は基本的に生徒指導提要の第5章を中心に行われる。事前に指定した項目に目を通して相談に関するおおよその知識をつかんでから授業に臨む必要がある(所要時間2時間)

<事後学修> 配布プリントを見直し、授業で行ったワークを振り返り、知識を自分の技術として生かせるようにする(所要時間2時間)

**【テキスト・教材】**

「生徒指導提要」文部科学省(298円)第五章、及びプリント・ビデオ教材を使用。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業課題への参加態度をリアクションペーパー等から判断 40%  
レポート40%(授業最終日に返却) 小課題20%(翌週授業日に返却)

**【参考書】**

- 中野明德編・モジュール型コア教材開発研究会教育臨床編チーム著『DVDで見る教育相談の実際』（東洋館出版社 2009年）
- 平木典子『新版カウンセリングの話』（朝日選書 2004年）
- 村瀬嘉代子他『教員養成のためのテキストシリーズ4 児童期の課題と支援』（新曜社 2000年）
- 生徒指導提要 文部科学省

**教育方法・技術**

わかる・できる・つかえる・もっとやりたくなる「授業創造」

南雲 成二

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

**【授業のテーマ】**

本授業のテーマは「学習者はいかに学ぶか、教師はいかに教えるか」に関して、多面的・総合的に探究し、理論と実践の両面から具体的な指導力と支援力を形成することです。初等教育における「授業設計・実施・評価・改善等」にかかわる基礎的知識を理解した上で、実践的な指導支援技術を習得することです。

特に、教え手も学び手も共に納得のいく「授業創造・学習創造」そのデザイン、学習単元の構成と展開を考えます。次の6つの基本構成要素：Aねがい：B目標・学習テーマ：C学習者の実態（学習履歴・学習経験・学習力の状況）：D教材・学習材の研究：E教授方略（学習過程の工夫）：F学習環境・学習条件を探究します。

**【授業における到達目標】**

授業設計・実施、授業評価&改善（P→D→S・C→I・A）に関わる知識と知恵を学ぶ（学習する）。そして、授業参観を伴う授業分析を経験したり、自ら模擬授業（授業者として、学習者として参観観察者として）を体験したりしながら、実践的な学習指導方法と支援の手立て、具体的な教育技術を修得し、その幾つかを使えるようになる。また、学生が修得すべき「研鑽力」③広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる力や、「行動力」③プロセスや成果を正しく評価し、問題解決につなげることができる力や、「協働力」①自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進める力（＝チーム力）を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1回：教育方法の基礎となる学習理論
  - 第2回：生きる力を育む授業とは、教え手も学び手も共に授業  
を生きるには～実践に学ぶ、実践を紡ぐ方法・技術～  
（小学5年「大造じいさんとガン」実践報告を中心に）
  - 第3回：授業設計①（目標・内容の構造化）
  - 第4回：授業設計②（学び手の実態と単元構成、指導内容の吟味  
と学習指導計画の紡ぎ方）
  - 第5回：授業設計③（教材・学習材の研究、詳細な指導計画＝本  
時展開の構成と学習展開過程の点検など）
  - 第6回：教材開発・教材活用について（単元・単元開発）
  - 第7回：授業研究① 学習指導案の見方、作り方を通してプレゼ  
ンテーションの方法と技術を学ぶ
  - 第8回：授業研究② 学習づくりとプレゼンテーション資料の作  
成法（情報機器の活用やデジタル教科書の活用を含む）
  - 第9回：学習集団におけるコミュニケーションの方法と技術
  - 第10回：教育評価の方法と技術（形成的評価とフィードバック）
  - 第11回：模擬授業①（椋鳩十作品や新美南吉作品を中心とした  
単元学習づくり）
  - 第12～13回：模擬授業②（斎藤隆介作品を中心とした単元学習づ  
くり、道徳科や総合的な学習の単元構成と展開を学ぶ）
  - 第14回：模擬授業③（「星の王子さま」読書単元化の試み）
  - 第15回：まとめと各自の課題の整理
- ※生活文化学科幼児保育専攻幼小コース1年次では、教科教育法「国語」しか履修できないので、模擬授業は「国語科」を中心に進める。

**【事前・事後学修】**

【事前学修】授業内容の各回ごとにテキストの要約・要点整理、レポート・発表等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）  
【事後学修】小テストや発表、レポートや「学習指導案」等の内容を復習すること。次回の事業範囲を予習し、わかる・できる・つかえる・もっとやりたくなる「授業づくり」の方法と技術を身につけること。授業改善・評価の基礎的な観点を修得すること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

・南雲成二共著『合科的・総合的な学習のための読書関連単元33の

プラン集』（東洋館出版2001.7 2900円＋税）

・高木展郎編集『各教科等における言語活動の充実』（教育開発研究所2008.11 2400円＋税）

・南雲成二共著「6年間でみるみる思考力がつく読むことの授業プラン&ワークシート」（明治図書 2012.3 2060円＋税）

・『小学1年～6年教育技術』（小学館2018定期刊各1620円＋税）

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

・平常点（授業への積極的な参加及び発表・交流学习への参加態度）40%、「学び手も教え手も共に納得のいく学習単元構成の原理と方法、及び学習評価・授業評価」関連の小テスト20%、模擬授業や授業分析への取り組み40%により総合的に評価する。実施した小テストは次回授業、課題レポートやポートフォリオはまとめの授業や最終授業で解説し、フィードバックを行う。

**【参考書】**

・教科教育法「国語」と連動  
小学校国語教科書（光村図書版、学校図書版、教育出版版、学校図書版、三省堂版）とデジタル国語教科書（小1～中3光村版）

**教育方法・技術論**

授業の方法を学ぶ（文学部、人間社会学部 対象）

官脇 郁

2年 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

授業とは、実際に生徒を前にして授業を行うことのみで完結するわけではない。事前に綿密な授業計画を立て、次にそれを実施し、さらに終了後には振り返って改善点を探るというPlan-Do-Seeのサイクルから成り立つ。本講義では、このような授業の一連の流れとその技法を学び、模擬授業を通して実際に経験する。

さらに近年、教育の世界においても情報化の流れが急速に進んでいることから、教育における情報通信技術の活用についても学び、簡単な実習を行う。

**【授業における到達目標】**

- ・Plan-Do-Seeのサイクルを説明できる（研鑽力）。
- ・模擬授業を通してPlan-Do-Seeのサイクルを実践できる（行動力）。
- ・常に教育方法を改善し続ける姿勢を身に付ける（美の探求のうち、人格の陶冶）。
- ・教育の情報化の3つの柱を説明できる（研鑽力）。
- ・授業や校務に情報通信技術を活用できる（行動力）。

**【授業の内容】**

## 1. イントロダクション

授業の方法

2. 授業目標の設定
3. 教材と教育メディア
4. 授業の技法とアクティブラーニング
5. 教育的コミュニケーション、学習指導案
6. 教育評価
7. 初歩的な統計学
8. 学習指導法：授業にアクティブな要素を取り入れる
9. 模擬授業の準備
10. 模擬授業の実施1：授業の実践
11. 模擬授業の実施2：授業を振り返る

教育の情報化

12. 情報活用能力（情報モラルを含む）の育成
13. 授業に情報通信技術を活用する
14. 校務の情報化
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

授業の予習・復習のため、毎回課題を出す。この課題は模擬授業の準備作業を兼ねている。次回の授業までに必ずやってくること。（学修時間 週4時間）

**【テキスト・教材】**

適宜プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験55%、課題と実習40%、平常点（授業への積極的参加度）5%で評価する。ただし、模擬授業の実施、および模擬授業関連の課題を全て提出することを単位取得の必要条件とする。課題については添削の上、次回授業時に返却する。

**【参考書】**

長野正著『授業の方法と技術—教師としての成長』（玉川大学出版部 2001年）

鈴木克明著『教材設計マニュアル—独学を支援するために』（北大路書房 2002年）

柏崎秀子編著『発達・学習の心理学〔改訂版〕』（北樹出版 2017年）

**【注意事項】**

半期の授業を通して少しずつ模擬授業の準備を進めていく。このため、安易に遅刻・欠席すると準備作業が滞るので十分気を付けること。

**教育方法・技術論**

授業の方法を学ぶ（食生活科学科、生活文化学科 対象）

柄本 健太郎

2年 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

この科目では、指導案作成と模擬授業の実施を通じて「理論に基づいた授業の設計・実施・改善を、ICTを用いて実践できること」を目標とします。受講により、教員としての資質能力のうち、授業設計力、学習指導力、授業評価力、ICT活用力が向上します。

生徒側からは見えにくいですが、授業をするには、「授業前の分析・設計・開発」「実際の授業」「授業後の評価・改善」という一連の流れが必要になります。これらを行うには、型となる理論と、実践経験が欠かせません。そこで、この授業では、指導案作成と模擬授業を通じて、授業に必要な理論と実践経験を得意にいきます。

なお、本科目の内容は、特定の教科に限定されない一般的な方法です。また、教育の情報化の推進という社会的背景から、教育での情報機器の活用についても学び、簡単な実習を行います。

**【授業における到達目標】**

この科目では、指導案作成と模擬授業の実施を通じて、理論に基づいた授業の設計・実施・改善を、ICTを用いて実践できるようになります。DPとの関連としては、学生が修得すべき「行動力」として、プロセスや成果を正しく評価し、問題解決につなげられるようになります。

**【授業の内容】**

## 第1週 イントロダクション

授業の方法

- 第2週 授業目標の設定 1 目標の設定
- 第3週 授業目標の設定 2 目標の修正
- 第4週 教材研究と課題分析
- 第5週 学習指導の方法
- 第6週 教育評価
- 第7週 授業の技法
- 第8週 授業の改善
- 第9週 模擬授業の実施 1 グループA
- 第10週 模擬授業の実施 2 グループB

※ 以上の模擬授業は、各回で半数ずつ実施します

## 第11週 授業の振り返り

教育の情報化

- 第12週 概論
- 第13週 授業におけるICTの活用
- 第14週 校務の情報化、成績管理
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】前回配布の資料を読み復習すること（学修時間 週2時間）。【事後学修】授業に関連する情報をWeb、関連文献などで得ること（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

プリントを使用する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への積極的な参加・コメントシートの記述・課題・実習）50%、試験50%で評価します。ただし、模擬授業の実施、およびその準備のための課題提出を単位取得の必要条件とします。コメントシートへの記述は次の授業回に個別でフィードバックします。試験は最終回に行うためフィードバックはありません。

**【参考書】**

稲垣忠・鈴木克明（2015）『授業設計マニュアルVer. 2：教師のためのインストラクショナルデザイン』．北大路書房．¥2,376

柏崎秀子（2010）『発達・学習の心理学』．北樹出版．¥2,052

**【注意事項】**

・半期を通して少しずつ模擬授業の準備を進めていきます。遅刻・欠席すると準備作業が滞ってしまいますのでご注意ください。

**教育方法・技術論**

(生活環境学科、現代生活学科 対象)

三尾 忠男

2年 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

専門職である教師には、教育技術や方法を常に見つめ直し、同僚などとの研鑽に取り組む姿勢が求められる。その際、感覚や経験だけに依存せず、教師や授業を対象とする工学的なアプローチに基づく研究方法が必要である。この授業では、基本的な教育技術である“板書”に加えて、ICTの活用、授業の設計・実施・分析・評価・改善の方法、初任や中堅教師の教育方法にかかわる課題など、教師が学校現場で成長していくために必要となる内容を取り扱う。

また、この授業を授業や教育の方法を研究する場と考え、各種の教授メディアや技術の利用を受講者に体験してもらう。それらを授業研究の対象として捉え、受講者各自が教授法や授業の評価観点を養うこともねらいとする

**【授業における到達目標】**

・代表的な教育方法・技術の理論について説明できる。ICTを活用した教育技術の理論と長所、短所について説明できる。・最適な教育方法を追求する意義を理解し、態度を身につける。・授業のPDCAサイクルの各段階における理論が説明できる。

学生が身に付けるべき態度「美の探求」において、教育技術の理論と新しい方法を開発する態度、国内外の新しい教育方法について関心をもつ態度「国際的視野」を修得する。また、授業のPDCAサイクルを効果的に実施し続ける能力「研鑽力」の基礎を身に付け、状況に対応する授業を追求する「行動力」、同僚とともに授業改善に取り組む「協同力」を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1回：教育方法と教育工学
- 第2回：教授学習過程のモデル化
- 第3回：教育実習生にみる授業改善（導入、発問・指名・KR）
- 第4回：教育実習生にみる授業改善（板書、教材利用、机間指導）
- 第5回：授業技術（板書、カード等の比較）
- 第6回：授業技術（電子黒板、ICT活用など）
- 第7回：目標分析、プログラム学習
- 第8回：授業設計演習
- 第9回：学習評価（診断的、形成的、総括的）、S-P表の活用
- 第10回：授業研究の意義と方法（授業記録）
- 第11回：授業研究の意義と方法（授業分析）
- 第12回：教員研修、学習組織と学級経営
- 第13回：初任・中堅教員の教育方法にかかわる課題
- 第14回：学習技能、学習論と教育方法
- 第15回：授業評価の考察、総括

**【事前・事後学修】**

配付資料で予告した次回の専門用語と扱いトピックの実例について各自、予習する（学修時間2時間）。また、演習、グループワークの内容またはトピックの補足資料の復習する（学修時間2時間）。

**【テキスト・教材】**

文部科学省「学習指導要領」（「学習指導要領解説」でも可）

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

学習の状況（50%）を毎回の授業コメント、課題（25%）は小レポート（2件）と演習課題（1件）でそれぞれの次回授業でフィードバックする。最後は、定期試験（25%）を実施し、最終回にフィードバックする。

**【参考書】**

本田恵子『脳科学を活かした授業をつくる』（CSL学習評価研究所 2006年）

**【注意事項】**

相当量のプリント資料を配付します。各自で整理し、毎回、持参してください。

## 教育方法・技術論（栄養）

柏崎 秀子

2年 後期 1単位

### 【授業のテーマ】

授業とは設計するものであり、どのように設計すればよいか、どのような方法を行えばよいか、その基本を学習する。

すなわち、教育実践に必要な教育方法と技術について、原理と基礎知識を習得することをめざす。授業設計の手順や教材の作成や使い方、教育的コミュニケーションのあり方などについて、順を追って体験的に学んでいく。また、教育メディアや情報機器を活用した授業の基礎についても学ぶ。

### 【授業における到達目標】

授業設計の仕方の基本を理解し、自分でおおまかに授業を組み立てられ、教材を作成・活用できる行動力・研鑽力を修得する。

### 【授業の内容】

1. 授業の設計の仕組み
2. 目標の明確化と教材分析
3. 教材の活用と教育メディア
4. 教育的コミュニケーションとスキル
5. 作成した教材を用いた模擬授業の実施
6. 学習指導法の諸形態
7. 教育の情報化の原理
8. 情報機器を活かした教育および教育評価

### 【事前・事後学修】

【事前学修】授業で扱った授業設計の段階に応じて、指示された授業設計案を作成してくる。（学修時間：2時間）

【事後学修】学んだ内容について配布資料などを読み返して復習する。（学修時間：2時間）

### 【テキスト・教材】

プリント資料を使用する

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験60%、小課題・レポート40%、  
試験は実施後にフィードバックし、レポートは返却する。

### 【参考書】

『授業設計マニュアル』 稲垣 忠・鈴木克明（北大路書房 2011年）  
『授業の方法と技術』 長野 正（玉川大学出版部 2001年）、  
『小学校学習指導要領、中学校学習指導要領』（文科省）  
その他、授業中に適宜紹介する。

### 【注意事項】

日々の新聞記事やテレビ・ラジオの報道ニュースをとおして、学校現場の具体的な教育事象及びそれにかかわる内容に関心を持ち、そこで得た知見を討論、小テスト、スピーチ等で生かすこと。  
(美学美術史学科 対象)

**教職研究 a**

中村 一哉

2年～ 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

教育や学校を取り巻く諸問題、教師や児童・生徒に関する課題等について、今日的な視点で外観し理解するとともに、問題の背景や解決の方向性などを、授業における各自の考えに基づく討論、発表等を通じて多様な視点から理解を深め、教職を目指すにあたっての幅広い視野と識見を身に付ける。

**【授業における到達目標】**

これからの教師に求められる重要な資質のうち、主として「必要な情報を収集し、整理・活用する能力」「課題を多様な視点から把握し焦点化して、よりよい問題解決につなげる能力」「自分の考えを、根拠に基づき他者に説得力をもって伝達する能力」を実践を通して修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション（教育を取り巻く課題と教師）
- 第2週 戦後の教育の流れと新しい教育課程の方向性
- 第3週 いじめ・不登校等の現状と課題の整理
- 第4週 いじめ・不登校等の課題への対応
- 第5週 児童虐待への対応（関係諸機関との連携）
- 第6週 児童・生徒の自立とキャリア教育
- 第7週 学力向上に対する課題と対応
- 第8週 主体的・対話的で深い学びの実現
- 第9週 カリキュラム・マネジメントの実際
- 第10週 他校種、地域等との連携とチーム学校
- 第11週 学校の危機管理の課題と対応
- 第12週 教員の職務とサービスの課題
- 第13週 教育問題の課題解決に向けた取組（課題整理）
- 第14週 教育問題の課題解決に向けた取組（発表）
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 各週の学修課題について、あらかじめ文献、資料等で調べ整理しておく。（学修時間：週2時間）

【事後学修】 学修した内容を整理し、文書にまとめる。（学修時間：週2時間）

**【テキスト・教材】**

課題に応じて、毎回、資料を配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

課題レポートや授業内の記述などの提出物50%、平常点（授業に臨む態度等や討論・発表等の状況）50%により総合的に評価する。提出課題については、後日、講評して返却しフィードバックする。

**【参考書】**

中学校学習指導要領解説 総則編 平成20年9月（ぎょうせい 130円）

中学校学習指導要領解説 総則編 平成30年3月予定

**【注意事項】**

日頃から教育に関する時事問題等に関する新聞報道やニュース等に関心をもって情報を収集しておくことが大切です。

具体的な問題解決を図るためにも、実際の学校や教育の現場との関わりや接点をもつようにすることが大切です。

## 教職研究 a

中村 一哉

2年～ 前期 2単位

### 【授業のテーマ】

教育や学校を取り巻く諸問題、教師や児童・生徒に関する課題等について、今日的な視点で外観し理解するとともに、問題の背景や解決の方向性などを、授業における各自の考えに基づく討論、発表等を通じて多様な視点から理解を深め、教職を目指すにあたっての幅広い視野と識見を身に付ける。

### 【授業における到達目標】

これからの教師に求められる重要な資質のうち、主として「必要な情報を収集し、整理・活用する能力」「課題を多様な視点から把握し焦点化して、よりよい問題解決につなげる能力」「自分の考えを、根拠に基づき他者に説得力をもって伝達する能力」を実践を通して修得する。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション（教育を取り巻く課題と教師）
- 第2週 戦後の教育の流れと新しい教育課程の方向性
- 第3週 いじめ・不登校等の現状と課題の整理
- 第4週 いじめ・不登校等の課題への対応
- 第5週 児童虐待への対応（関係諸機関との連携）
- 第6週 児童・生徒の自立とキャリア教育
- 第7週 学力向上に対する課題と対応
- 第8週 主体的・対話的で深い学びの実現
- 第9週 カリキュラム・マネジメントの実際
- 第10週 他校種、地域等との連携とチーム学校
- 第11週 学校の危機管理の課題と対応
- 第12週 教員の職務とサービスの課題
- 第13週 教育問題の課題解決に向けた取組（課題整理）
- 第14週 教育問題の課題解決に向けた取組（発表）
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】 各週の学修課題について、あらかじめ文献、資料等で調べ整理しておく。（学修時間：週2時間）

【事後学修】 学修した内容を整理し、文書にまとめる。（学修時間：週2時間）

### 【テキスト・教材】

課題に応じて、毎回、資料を配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題レポートや授業内の記述などの提出物50%、平常点（授業に臨む態度等や討論・発表等の状況）50%により総合的に評価する。提出課題については、後日、講評して返却しフィードバックする。

### 【参考書】

中学校学習指導要領解説 総則編 平成20年9月（ぎょうせい 130円）

中学校学習指導要領解説 総則編 平成30年3月予定

### 【注意事項】

日頃から教育に関する時事問題等に関する新聞報道やニュース等に関心をもって情報を収集しておくことが大切です。

具体的な問題解決を図るためにも、実際の学校や教育の現場との関わりや接点をもつようにすることが大切です。

**教職研究 b**

自己表現力の育成

山田 佳子

2年～ 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

社会に出て目指す世界はそれぞれが異なりますが、その世界で認められるには、そこで自分が役に立つ人間であることを認めもらう必要があります。

教職の場合は、教育に関する必要な知識をもち、自分を存分に表現できることが大切です。この講義では、論作文・面接・討論で相手に認められる自分を創っていきます。教育に関する知識や情報を吸収したり、内面を豊かにしたりして、自分の経験や考えを伝えることができる表現力をつけていきます。

今までの経験をもとに、教育観を深めていきたいと思います。受講者同士の話し合いなどを行いながら、学修を進めます。

**【授業における到達目標】**

- 1 国際社会を含め、教育の現状を把握し、教育のあり方を考え、自分の考えをもち、表現できるようになる。（国際的視野、美の探究、行動力）
- 2 生徒の特性を理解し、生徒との関わり方や教育活動のあり方を考え、自分の考えをもち、表現できるようになる。（研鑽力、行動力、協働力）

**【授業の内容】**

毎時間、教育に関する情報を持ち寄り、考えを深めます。

- 1 はじめに（今後の学習内容について）
- 2 論作文1（書き方、「目指す教師像」）
- 3 論作文2（他の課題を取り上げる）
- 4 面接1（種類、内容、基本的な質問）
- 5 面接2（自己PRの作成）
- 6 個人票の作成1（主に志望理由）
- 7 個人票の作成2（主に自治体志望理由）
- 8 個人面接1（内容、方法）
- 9 個人面接2（実際）
- 10 集団討論1（ねらい、方法、準備）
- 11 集団討論2（東京都の例）
- 12 集団討論3（他の自治体の例）
- 13 場面指導1（ねらい、方法）
- 14 場面指導2（生徒への対応）
- 15 場面指導3（保護者への対応）

**【事前・事後学修】**

【事前学修】教育に関する情報等を集め、自分の考えを書いてくる。（学修時間 週2時間）

【事後学修】論作文、個人票への記入等、毎時間に出される課題に取り組む。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを使用する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

学習への取組み態度（30%）、提出物の内容（30%）、面接等への取組み態度（40%）

提出物は講評し、後日返却する。

**【参考書】**

授業内で紹介をする。

**【注意事項】**

教育に関心をもち、自分の考えを明確にしていくこと。



## 教職研究 b

自己表現力の育成

山田 佳子

2年～ 後期 2単位

### 【授業のテーマ】

社会に出て目指す世界はそれぞれが違いますが、その世界で認められるには、そこで自分が役に立つ人間であることを認めもらう必要があります。

教職の場合は、教育に関する必要な知識をもち、自分を存分に表現できることが大切です。この講義では、論作文・面接・討論で相手に認められる自分を創っていきます。教育に関する知識や情報を吸収したり、内面を豊かにしたりして、自分の経験や考えを伝えることができる表現力をつけていきます。

今までの経験をもとに、教育観を深めていきたいと思います。受講者同士の話し合いなどを行いながら、学修を進めます。

### 【授業における到達目標】

- 1 国際社会を含め、教育の現状を把握し、教育のあり方を考え、自分の考えをもち、表現できるようになる。（国際的視野、美の探究、行動力）
- 2 生徒の特性を理解し、生徒との関わり方や教育活動のあり方を考え、自分の考えをもち、表現できるようになる。（研鑽力、行動力、協働力）

### 【授業の内容】

毎時間、教育に関する情報を持ち寄り、考えを深めます。

- 1 はじめに（今後の学習内容について）
- 2 論作文1（書き方、「目指す教師像」）
- 3 論作文2（他の課題を取り上げる）
- 4 面接1（種類、内容、基本的な質問）
- 5 面接2（自己PRの作成）
- 6 個人票の作成1（主に志望理由）
- 7 個人票の作成2（主に自治体志望理由）
- 8 個人面接1（内容、方法）
- 9 個人面接2（実際）
- 10 集団討論1（ねらい、方法、準備）
- 11 集団討論2（東京都の例）
- 12 集団討論3（他の自治体の例）
- 13 場面指導1（ねらい、方法）
- 14 場面指導2（生徒への対応）
- 15 場面指導3（保護者への対応）

### 【事前・事後学修】

【事前学修】教育に関する情報等を集め、自分の考えを書いてくる。（学修時間 週2時間）

【事後学修】論作文、個人票への記入等、毎時間に出される課題に取り組む。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

プリントを使用する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学習への取組み態度（30%）、提出物の内容（30%）、面接等への取組み態度（40%）

提出物は講評し、後日返却する。

### 【参考書】

授業内で紹介をする。

### 【注意事項】

教育に関心をもち、自分の考えを明確にしていくこと。

**教職研究 c**

教育法規

清田 夏代

2年～ 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

わが国の教育行財政組織を、それに関する諸規定を知ることを通じて理解し、公教育制度の全体的な構造に対する理解を深める。また、現行制度の背景にある理念を解明し、実際の学校教育現場におけるその制度運用の実際と課題を明らかにする。加えて、2006年以降の重要な法改正や、今後の教育制度改革の動向について認識を高める。

授業内においては、毎回『教育六法』を用いて演習問題を行った後、その解答や授業テーマに関連する内容について解説を行う。

**【授業における到達目標】**

日本の教育制度について、その詳細な規定を各法規に基づいて理解すること、法規の改正を伴う最新の教育制度動向について説明できることを学修目標とする。

また、本科目においては、学ぶ楽しみを知る、学修成果を実感し、自信を創出する、また、広い視野と洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる「研鑽力」、プロセスや成果を正しく評価し、問題解決につなげることができる「行動力」、加えてグループワークなどを通じて「協働力」を養うことを到達目標とする。

**【授業の内容】**

1. 「教職研究 c—教育法規—」の基本確認と導入
2. 憲法と教育
3. 教育基本法と2006年改正
4. 教育と公共性
5. 法的身分としての「学校」
6. 「就学義務」
7. 教育内容行政
8. 懲戒と出席停止
9. 教職員の法的身分
10. 教育行政の組織
11. 新たな地方教育行政
12. 教職教養としての教育法規
13. 学校安全と学校事故
14. 近年の学校ガバナンス改革の流れ
15. 新しい公立学校の試み

**【事前・事後学修】**

- ・授業で行った演習問題を復習すること
- ・授業内容を復習し、次の授業に備えること
- ・教育六法の使い方を練習すること  
(週4時間程度)

**【テキスト・教材】**

- ・『教育六法2018年版』（三省堂2018、2808円）※授業及びテストに使用する
- ・演習問題・レジュメ・資料は授業内に配布する

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

評価は平常点（授業に臨む態度、演習問題への取り組み、発言など、授業への参加度などを含む）50%、最終課題（テスト）50%によって、総合的に行う。また、毎回授業終了時に感想、意見、疑問点などについて記述したリアクション・ペーパーを提出してもらう。内容については次回、あるいは適切と思われる授業回で言及、回答などとする。テストについては、採点し、返却する。

**【注意事項】**

- ・授業では、演習問題を行いながら『教育六法』の使い方を学ぶため、『教育六法』は必携である。

**教職研究 c**

教育法規

清田 夏代

2年～ 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

わが国の教育行財政組織を、それに関する諸規定を知ることを通じて理解し、公教育制度の全体的な構造に対する理解を深める。また、現行制度の背景にある理念を解明し、実際の学校教育現場におけるその制度運用の実際と課題を明らかにする。加えて、2006年以降の重要な法改正や、今後の教育制度改革の動向について認識を高める。

授業内においては、毎回『教育六法』を用いて演習問題を行った後、その解答や授業テーマに関連する内容について解説を行う。

**【授業における到達目標】**

日本の教育制度について、その詳細な規定を各法規に基づいて理解すること、法規の改正を伴う最新の教育制度動向について説明できることを学修目標とする。

また、本科目においては、学ぶ楽しみを知る、学修成果を実感し、自信を創出する、また、広い視野と洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる「研鑽力」、プロセスや成果を正しく評価し、問題解決につなげることができる「行動力」、加えてグループワークなどを通じて「協働力」を養うことを到達目標とする。

**【授業の内容】**

1. 「教職研究 c—教育法規—」の基本確認と導入
2. 憲法と教育
3. 教育基本法と2006年改正
4. 教育と公共性
5. 法的身分としての「学校」
6. 「就学義務」
7. 教育内容行政
8. 懲戒と出席停止
9. 教職員の法的身分
10. 教育行政の組織
11. 新たな地方教育行政
12. 教職教養としての教育法規
13. 学校安全と学校事故
14. 近年の学校ガバナンス改革の流れ
15. 新しい公立学校の試み

**【事前・事後学修】**

- ・授業で行った演習問題を復習すること
- ・授業内容を復習し、次の授業に備えること
- ・教育六法の使い方を練習すること  
(週4時間程度)

**【テキスト・教材】**

- ・『教育六法2018年版』（三省堂2018、2808円）※授業及びテストに使用する
- ・演習問題・レジュメ・資料は授業内に配布する

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

評価は平常点（授業に臨む態度、演習問題への取り組み、発言など、授業への参加度などを含む）50%、最終課題（テスト）50%によって、総合的に行う。また、毎回授業終了時に感想、意見、疑問点などについて記述したリアクション・ペーパーを提出してもらう。内容については次回、あるいは適切と思われる授業回で言及、回答などとする。テストについては、採点し、返却する。

**【注意事項】**

- ・授業では、演習問題を行いながら『教育六法』の使い方を学ぶため、『教育六法』は必携である。

**教職研究 d**

発達障害を中心とした特別支援教育の探究

柏崎 秀子

2年～ 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

教職を強く志望する学生に向けたアドバンスト科目（選択科目）のひとつである。

今日の学校教育現場では、通常学級でも特別な教育的ニーズを有する生徒が多く存在する。それらの生徒そしてニーズに対応するには、発達障害に関する詳しい理解が必要である。

ここでは、発達障害を中心に、特別支援教育の諸課題について理解を深め、よりよい支援ができる基礎力を修得することを目指す。

**【授業における到達目標】**

多様な障害への対応の学修を通して、課題を発見する力や問題解決力を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 特別支援教育とは
- 第2週 特別支援学校と各障害
- 第3週 発達障害の概要
- 第4週 自閉症スペクトラムの理解
- 第5週 ADHDの理解
- 第6週 学習障害の理解
- 第7週 支援の検討1 -読みの困難-
- 第8週 支援の検討2 -書きの困難-
- 第9週 支援の検討3 -社会性の困難-
- 第10週 支援の検討4 -ソーシャルスキル-
- 第11週 支援の検討5 -聞く・話すの困難-
- 第12週 支援の検討6 -数認識の困難-
- 第13週 支援の検討7 -学校生活の困難-
- 第14週 合理的配慮の在り方
- 第15週 支援体制と連携

**【事前・事後学修】**

【事前学修】指定された資料を読み、自分の担当箇所のレジュメ等を作成する。（学修時間：2時間）

【事後学修】授業で活用した資料類を読み直して復習し、自分の考えを持つ。（学修時間：2時間）

**【テキスト・教材】**

『図解 よくわかる発達障害の子どもたち』 榊原 洋一（ナツメ社 2013年）1500円＋税、および、プリント資料

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート 60%、平常点（文献発表・学習態度）40%

フィードバックは授業後にレポートを返却する。

**【参考書】**

- 『発達と障害を考える本 ふしぎだね！？自閉症のおともだち』のシリーズ1～4巻、内山登紀夫監修、ミネルヴァ書房
- 『図解 よくわかるADHD』のシリーズ、ナツメ社
- 『教室のできる特別支援教育のアイデア 中学校・高等学校編』 月森久江、図書文化
- 『軽度発達障害の教育』上野一彦・花熊 暁、日本文化科学社

**【注意事項】**

発達障害の基本的内容は2年次科目「発達・学習理論」で扱う。この授業では、基本的内容は学習済みの者がいっそう深く学ぶことを想定している。

講義だけでなく、文献のまとめを担当して発表したり、支援の仕方を具体的に考え合ったりするので、積極的に取り組むように。

## 教職研究 d

発達障害を中心とした特別支援教育の探究

柏崎 秀子

2年～ 前期 2単位

### 【授業のテーマ】

教職を強く志望する学生に向けたアドバンスト科目（選択科目）のひとつである。

今日の学校教育現場では、通常学級でも特別な教育的ニーズを有する生徒が多く存在する。それらの生徒そしてニーズに対応するには、発達障害に関する詳しい理解が必要である。

ここでは、発達障害を中心に、特別支援教育の諸課題について理解を深め、よりよい支援ができる基礎力を修得することを目指す。

### 【授業における到達目標】

多様な障害への対応の学修を通して、課題を発見する力や問題解決力を修得する。

### 【授業の内容】

- 第1週 特別支援教育とは
- 第2週 特別支援学校と各障害
- 第3週 発達障害の概要
- 第4週 自閉症スペクトラムの理解
- 第5週 ADHDの理解
- 第6週 学習障害の理解
- 第7週 支援の検討1 -読みの困難-
- 第8週 支援の検討2 -書きの困難-
- 第9週 支援の検討3 -社会性の困難-
- 第10週 支援の検討4 -ソーシャルスキル-
- 第11週 支援の検討5 -聞く・話すの困難-
- 第12週 支援の検討6 -数認識の困難-
- 第13週 支援の検討7 -学校生活の困難-
- 第14週 合理的配慮の在り方
- 第15週 支援体制と連携

### 【事前・事後学修】

【事前学修】指定された資料を読み、自分の担当箇所のレジュメ等を作成する。（学修時間：2時間）

【事後学修】授業で活用した資料類を読み直して復習し、自分の考えを持つ。（学修時間：2時間）

### 【テキスト・教材】

『図解 よくわかる発達障害の子どもたち』榎原 洋一（ナツメ社 2013年）1500円＋税、および、プリント資料

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート 60%、平常点（文献発表・学習態度）40%

フィードバックは授業後にレポートを返却する。

### 【参考書】

『発達と障害を考える本 ふしぎだね！？自閉症のおともだち』のシリーズ1～4巻、内山登紀夫監修、ミネルヴァ書房

『図解 よくわかるADHD』のシリーズ、ナツメ社

『教室でできる特別支援教育のアイデア 中学校・高等学校編』月森久江、図書文化

『軽度発達障害の教育』上野一彦・花熊 暁、日本文化科学社

### 【注意事項】

発達障害の基本的内容は2年次科目「発達・学習理論」で扱う。この授業では、基本的内容は学習済みの者がいっそう深く学ぶことを想定している。

講義だけでなく、文献のまとめを担当して発表したり、支援の仕方を具体的に考え合ったりするので、積極的に取り組むように。

**教職研究 e**

自己表現力の育成

山田 佳子

3年～ 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

社会に出て目指す世界はそれぞれが異なりますが、その世界で認められてもらうには、そこで自分が役に立つ人間であることを認めもらう必要があります。

教職の場合は、教育に関する必要な知識をもち、自分を存分に表現できることが大切です。この講義では、論作文・面接・討論で相手に認められる自分を創っていきます。教育に関する知識や情報を吸収したり、内面を豊かにしたりして、自分の経験や考えを伝える事ができる表現力をつけていきます。

今までの経験をもとに、教育観を深めていきたいと思います。受講者同士の話し合いなどを行いながら、学修を進めます。

**【授業における到達目標】**

- 1 国際社会を含め、教育の現状を把握し、教育のありかたを考え、自分の考えをもち、表現できるようになる。（国際的視野、美の探究、行動力）
- 2 生徒の特性を理解し、生徒との関わり方や教育活動のあり方を考え、自分の考えをもち、表現できるようになる。（研鑽力、行動力、協働力）

**【授業の内容】**

毎時間、教育に関する情報を持ち寄り、考えを深めます。

- 1 はじめに（今後の学習内容について）
- 2 論作文1（書き方、「目指す教師」）
- 3 論作文2（他の課題を取り上げる）
- 4 面接1（種類、内容、基本的な質問）
- 5 面接2（自己PRの作成）
- 6 個人票の作成1（主に志望理由）
- 7 個人票の作成2（主に自治体志望理由）
- 8 個人面接1（内容、方法）
- 9 個人面接2（実際）
- 10 集団討論1（ねらい、方法、準備）
- 11 集団討論2（東京都の例）
- 12 集団討論3（他の自治体の例）
- 13 場面指導1（ねらい、方法）
- 14 場面指導2（生徒への対応）
- 15 場面指導（保護者への対応）

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 教育に関する情報等を集め、自分の考えを書いてくる。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 論作文、個人票への記入等、毎時間に出される課題に取組む。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを使用する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

学習への取組み態度（30%）、提出物の内容（30%）、面接等への取組み態度（40%）

提出物は講評し、後日返却する。

**【参考書】**

授業内で紹介する。

**【注意事項】**

教育に関心をもち、自分の考えを明確にしていくこと。

## 教職研究 e

自己表現力の育成

山田 佳子

3年～ 前期 2単位

### 【授業のテーマ】

社会に出て目指す世界はそれぞれが違いますが、その世界で認められるには、そこで自分が役に立つ人間であることを認めもらう必要があります。

教職の場合は、教育に関する必要な知識をもち、自分を存分に表現できることが大切です。この講義では、論作文・面接・討論で相手に認められる自分を創っていきます。教育に関する知識や情報を吸収したり、内面を豊かにしたりして、自分の経験や考えを伝える事ができる表現力をつけていきます。

今までの経験をもとに、教育観を深めていきたいと思います。受講者同士の話し合いなどを行いながら、学修を進めます。

### 【授業における到達目標】

- 1 国際社会を含め、教育の現状を把握し、教育のありかたを考え、自分の考えをもち、表現できるようになる。（国際的視野、美の探究、行動力）
- 2 生徒の特性を理解し、生徒との関わり方や教育活動のあり方を考え、自分の考えをもち、表現できるようになる。（研鑽力、行動力、協働力）

### 【授業の内容】

毎時間、教育に関する情報を持ち寄り、考えを深めます。

- 1 はじめに（今後の学習内容について）
- 2 論作文1（書き方、「目指す教師」）
- 3 論作文2（他の課題を取り上げる）
- 4 面接1（種類、内容、基本的な質問）
- 5 面接2（自己PRの作成）
- 6 個人票の作成1（主に志望理由）
- 7 個人票の作成2（主に自治体志望理由）
- 8 個人面接1（内容、方法）
- 9 個人面接2（実際）
- 10 集団討論1（ねらい、方法、準備）
- 11 集団討論2（東京都の例）
- 12 集団討論3（他の自治体の例）
- 13 場面指導1（ねらい、方法）
- 14 場面指導2（生徒への対応）
- 15 場面指導（保護者への対応）

### 【事前・事後学修】

【事前学修】 教育に関する情報等を集め、自分の考えを書いてくる。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 論作文、個人票への記入等、毎時間に出される課題に取り組む。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

プリントを使用する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学習への取組み態度（30%）、提出物の内容（30%）、面接等への取組み態度（40%）

提出物は講評し、後日返却する。

### 【参考書】

授業内で紹介する。

### 【注意事項】

教育に関心をもち、自分の考えを明確にしていくこと。

## 教職実践演習（栄養）

清田 夏代・白尾 美佳

4年 後期 2単位

### 【授業のテーマ】

・教員免許状を取得する学生が教員に必要な条件について学び、理解してきたかを確認し、学校教育現場で教員として直面しうる様々な問題について対応力を身につける

・現代の学校教育の課題、児童生徒の特質、また広く一般的な社会問題と教育との関係について理解し、教員としての使命感を一層高めることを目的とする。

・現代の学校教育における食育の重要性和栄養教諭としての役割を理解し、教育現場で必要な知識とスキルを高める

### 【授業における到達目標】

本科目においては、授業全体の到達目標として、優しさと強さを兼ね備え、倫理観を以て人格を陶冶しようとする態度及び物事の真理を探究することによって新たな知を創造しようとする態度などの「美の探求」を教師として涵養すること、さらに、学修を通して自己成長する「研鑽力」、課題解決のための「行動力」や「協働力」、「国際的視野」など、栄養教諭としての資質を身につけることを目標とする。

### 【授業の内容】

- 1 「教職実践演習」の基本確認と導入
- 2 現代社会における教師の役割について
- 3 教職履修の意義
- 4 生徒理解1：問題行動の背景
- 5 生徒理解2：問題行動の実態
- 6 保護者との関わりについて
- 7 情報化社会における教育課題
- 8 食に関する全体指導計画、教科内における指導計画について
- 9 食に関する指導における教材開発
- 10 食に関する指導における模擬授業（食に関する実験を取り入れた授業展開）
- 11 食に関する指導における相互評価（食に関する実験を取り入れた授業展開）
- 12 食に関する指導における模擬授業（食に関する実習を取り入れた授業展開）と相互評価
- 13 食に関する指導における相互評価（食に関する実習を取り入れた授業展開）
- 14 学校における食育支援
- 15 地域における食育支援（食農教育支援）

### 【事前・事後学修】

- 1 配布物を熟読すること
- 2 授業後に内容について復習すること
- 3 複数担当者による授業であるため、具体的な事前事後学習課題については授業内で各担当者によって指示される。

### 【テキスト・教材】

授業内に配布する

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

評価は平常点（授業に臨む態度）40%、提出物（課題レポートを含む）60%によって、総合的に行う。

また、授業についての意見や感想、疑問点などについてはリアクション・ペーパーなどに記述し、内容については次回授業あるいは適切と思われる授業回で言及、回答などする。提出物については、講評し、返却する。

### 【参考書】

小・中学校学習指導要領、小中学校教科書

### 【注意事項】

- 1 学校ならびに地域における食育支援では、授業時間以外に実施することがあります。
- 2 4年間の履修カルテを提出してもらいます。

**教職実践演習（中・高）**

（国文学科、美学美術史学科、人間社会学部各学科 対象）

菅沢 茂

4年 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

本授業は、教職課程の「総まとめの科目」として、個々の学生が今までの学修を振り返り、これまで習得してきた能力が学校という実際の教員として必要なレベルにまで到達しているか、教職への適格性を備えているかなどについて、発表、質疑応答、討論、小テストなどにより確認し補充・深化することを目的とする。

前期に教育実習で持ち帰った教育現場における様々な課題や問題事例について分析し、毎回の授業でテーマを決め、班活動によりその解決策について協議しPPTによる教材化を行い、全体場で発表し意見交換をおこなう。

**【授業における到達目標】**

- 1 授業を通して、教師になる上で自分に何が不足しているか、課題や問題点を把握できるようになる。
- 2 自分に不足している課題や問題点を、クラス全体やグループとの協働活動を通して補充・深化することができる。
- 3 学校現場の様々な課題を知り、具体的な解決策を身に付けることができる。

学生が修得すべき「行動力」の内の課題を発見する力と問題解決力、「協働力」の内の自己や他者の役割を理解し協力して物事を進める力を修得する。

**【授業の内容】**

1. 事前アンケート 授業の進め方と諸注意 テーマ性を持つグループ編成 次時の課題説明 履修カルテを作成・使用する意義・教員として求められる資質能力
2. 魅力ある教師になるために、どのようにして不断の自己変革をおこなうか
3. 生徒と教師自らの表現力・伝達力をどのようにして磨くか
4. 生徒の安全と人間関係づくりのため、教師の責任をどのように果たすか
5. 言語活動の充実など、最近の教育課題について（東京都教育委員会主任指導主事による講義）
6. 学校組織と校務分掌を振り返り、組織の一員としての自己を見つめる
7. 保護者や地域との連携に努め、開かれた学校づくりに貢献する
8. よりよい生徒理解と学級経営を目指して、何をおこなえばよいか
9. 事例を通して、いじめ・不登校について理解を深める
10. 保護者の信頼を獲得するためには、どのように対応すればよいか
11. 学習指導案づくりと模擬授業を通して、授業力を伸ばす
12. 教科の学習と生徒の体験活動を連携させるにはどうすればよいか
13. 自己実現を目指し社会貢献できる教師になるにはどうすればよいか
14. グループごとにテーマを設定し、課題解決のための教材をPPTで作成する
15. PPTによるグループごとの発表会とまとめ/各自A4判2ページの演習報告を提出する

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

毎回の小テスト、レポート、発表や討論等の課題に取り組むこと（学修時間 週2時間）

**【事後学修】**

発表や討論の結果、小テスト等を復習すること。次回の授業課題を予習し、用語等を理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

各自の教職課程の「履修カルテ」

各自の教育実習記録簿

毎回、ワークシートや資料を配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポートや小テスト80%、平常点（発表と討論）20%。

小テストやレポートは次回の授業でフィードバックする。

**【参考書】**

これまでの授業で使用した諸テキスト。

**【注意事項】**

毎回の授業は、主に理論と実際、総論と各論の2本立てで進め、毎回小テストを行い、時により討論を行う。皆さんは、日々の新聞記事やテレビ・ラジオの報道ニュースをとおして、学校現場の具体的な教育事象及びそれにかかわる内容に関心を持ち、そこで得た知見を発表や討論、小テストやレポートに生かしてほしい。

教職の総まとめとして、教師の適格性を判断するため、各回のテーマについて十分な自己分析が必要である。



**教職実践演習（中・高）**

（英文学科、生活科学部各学科 対象）

清田 夏代

4年 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

教員免許状を取得する学生が教員として必要な条件について学び、理解してきたかを確認し、学校教育現場で教員として直面しうる様々な問題について対応力を身につけること、また、現代の学校教育の課題、児童生徒の特質、また広く一般的な社会問題と教育との関係について理解し、教員としての使命感を一層高めることを目的とする。

**【授業における到達目標】**

本科目においては、授業全体の到達目標として、優しさと強さを兼ね備え、倫理観を以って人格を陶冶しようとする態度及び物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度などの「美の探求」を教師として涵養すること、さらに、学修を通して自己成長する「研鑽力」、課題解決のために主体的に行動する「行動力」や相互を活かして自らの役割を果たす「協働力」などの教師として必要な力を身に付けることを到達目標とする。

**【授業の内容】**

1. 「教職実践演習」の基本確認と導入
  2. 教育現場の現状と教師の責務
  3. 教師としての自己分析
  4. 教科指導力における自己の課題
  5. 教科指導力を高める方法研究
  6. 生徒理解1：問題行動の背景
  7. 生徒理解2：問題行動の実態
  8. 教育実習の振り返り／学校コンプライアンス
  9. 保護者との関わりについて1：基本
  10. 保護者との関わりについて2：発展
  11. 高度情報社会における教育課題
  12. 社会の多様化と学校
  13. 学校と教育をめぐる近年の動向
  14. 多様な教育ニーズと学校
  15. 総括
- （※外部講師による授業を含む）

**【事前・事後学修】**

1. 配布物を熟読すること
  2. 授業後に内容について復習すること
  3. 授業内容の理解を深めるため、関連する図書を探し、熟読すること
- （週4時間程度）

**【テキスト・教材】**

授業内で指示する。また、授業で使用するワークシートや資料については、各授業内で配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

評価は平常点（授業に臨む態度、授業内の取り組みへの参加度などを含む）50%、提出物（課題レポートを含む）50%によって、総合的に行う。また、毎回授業終了時に感想、意見、疑問点などについて記述したリアクション・ペーパーを提出してもらおう。内容については次回、あるいは適切と思われる授業回で言及、回答などする。提出物については、講評し返却する。

**【参考書】**

授業内で指示、紹介する。

**【注意事項】**

教員免許取得のための仕上げの授業であるため、授業に臨む態度、課題への取り組みが厳しく問われる。

**教職実践演習（幼・小）**

学び手と共に成長し続けることのできる教師を目指して

南雲 成二・井口 眞美

4年 後期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

**【授業のテーマ】**

「小学校教諭・幼稚園教諭としての最終準備、実践力の点検と整備・拡充」が授業のテーマである。「教職の意義と価値」「学年・学級経営力の伸長」「保育力と守育力・学習指導支援力の向上」「幼児・児童理解、保護者理解の深化」「組織協働力・チーム力の向上」の5つの柱を大切に授業を進める。講義・グループ協議、模擬授業研究・授業評価改善研究、卒業論文制作を核とした個人研究など、様々なアプローチを組合せながら、主体的・積極的に授業に参加し、教育実践力（＝教師力・担任力）のさらなる拡充を図る。

**【授業における到達目標】**

教育に従事する専門職人としての「職能成長の基礎」を修得する。  
①教諭としての使命感や責任感、教育愛（保育・療育・守育）についての認識と自覚を深めることができるようになる。②自分自身の教育実践課題を明確にすることができるようになる。③子ども理解・保護者理解を深めながら、その基礎となる担任としてのコミュニケーション力を高めることができるようになる。年間を見通した学級・学年経営の基本を身につけることができるようになる。  
また、学生が修得すべき「協働力」①自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる力②互いを尊重し信頼を醸成して豊かな人間関係を構築することができる力を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1回 オリエンテーション。本科目の目的、概要を理解する。
- 第2回 履修カルテや実習ノート、教育学学習記録、採用試験対策資料等、歩みを振り返り、教育実践への展望を持つ。
- 第3回 子ども心理、能力・発達・学習についての理解を深める。三間（時間・空間・人間）から再度教育環境を考える。
- 第4回 学級学年経営の考察①幼稚園の1年間・子どもの1日と教師
- 第5回 学級学年経営の考察②小学校の1年間・子どもの1日と教師
- 第6回 小学校・幼稚園の教育実習体験を基に、子どもの生活指導・学習指導の実践課題を整理し、職能成長の課題を掴む。
- 第7回 これからの幼保小連携の課題と実践方法を考察する。教師の仕事を見つめ、専門職として可能性を考え合う。
- 第8回 インクルーシブ教育、特にユニバーサルデザインを活かした教育と教育実践を考える。（特別支援教育や個別支援教育との関連考察も深めながら）
- 第9回 学習づくり学級づくり、人間関係づくり（子どもと教師と保護者&地域）を基にした「学級経営案」作成を行う。
- 第10回 学級経営案作りを通して担任力（学級学年学校）を高める
- 第11回 「学級だより」「あゆみ」「学習指導要録」の模擬制作を通して、教師の学習文化推進力を考察する。
- 第12回 教育実習授業指導案を反省材料に、子どもも教師も共に納得のいく授業・学習づくり「指導案検討」を行う。
- 第13回 最終模擬授業実施と授業研究①（PDSIサイクル教科編）
- 第14回 最終模擬授業実施と授業研究②（PDSIサイクル領域編）
- 第15回 実習校や授業研究参観校のレポートをもちより、学校学習文化～子ども・教師・保護者・地域社会～に関する協議を行い、「教職実践演習」のまとめを行う。最終レポート課題「教育実践への抱負、学習創造への願い」

**【事前・事後学修】**

【事前学修】授業テーマ毎に小レポートや学修記録をまとめ、授業に参画する。特に「H28.12.21発表 中教審最終答申（第197号）」を丁寧に読み、それを基に教育実践課題レポートを積み上げる。

（学修時間 週2時間）

【事後学修】課題レポートや講義資料を見直し復習を徹底し、明日に役立つ「MY教育実践研究ノート」にファイルする。次回の授業範囲を予習し、実践力UPに備える。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

各自の「教育実習ノート」、「教科教育関係教材・学習記録」、教職採用試験対策資料等、その他必要に応じて教員から配布される教材。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への積極的参加及び発表・交流学习への参加態度の充実）50%、課題レポートや模擬授業への取り組みと「MY教育実践研究ノート」の蓄積等50%、で総合的に評価する。実施した小テストやミニレポート（MY教育実践研究ノートの章・節ごとの後書き等）は次回授業、課題レポートや試験結果等は最終授業でフィードバックを行う。

**【参考書】**

幼児保育・初等教育専攻コースとして、1年生から4年生までに活用してきた全てのテキストと講義・学習資料。及び自分自身の愛読書や卒論制作関連文献等。

特に南雲担当科目関連①国語（1年次）②初等国語科教育法（1年次）③教育方法・技術（1年次）④基礎演習1（1年次）⑤特別活動の方法（2年次）⑥児童指導法（2年次）⑦教育実習指導と小学校教育実習（3年次）⑧カリキュラム論a（3年次）⑨教育学演習（教員採用試験対策関連含、2～4年次）

**教職入門**

(国文学科、英文学科、生活科学部各学科 対象)

小林 茂子

1年 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

教職の意義、教職の歴史、教師の役割、職務の内容、教員養成と採用の現状、教師に求められる資質とはなにか、などの内容について学習する。また、教職に必要な「協働性」を養成するの場を設定する。これらの学習をとおして、教職への自らの意志と適性を確かめつつ、教職に対する知識・理解を深め、教職への意欲を育成することを目的とする。

**【授業における到達目標】**

- ・教職に関する知識・理解を修得する。
- ・学生間のコミュニケーションをとり、互いに協力して課題に取り組むことができるようにする。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション（教職入門では何を学ぶのか）
- 第2週 教職の意義と教師の役割
- 第3週 教師の仕事1・学習指導
- 第4週 教師の仕事2・生徒指導、教育相談
- 第5週 教師の仕事3・学級経営、進路相談
- 第6週 教師に求められる資質、能力
- 第7週 教員養成制度について
- 第8週 教職の専門性、身分と服務
- 第9週 教員の研修、学校組織、次回の作業準備
- 第10週 グループ作業1・テーマの内容を調べる
- 第11週 グループ作業2・テーマについてまとめ、問題点を考える
- 第12週 グループ作業3・発表方法を考える
- 第13週 グループ発表と質疑応答（前半グループ）
- 第14週 グループ発表と質疑応答（後半グループ）
- 第15週 教員採用選考について、本講座のまとめ

**【事前・事後学修】**

- 【事前学修】 レポート課題・作業ワークシートの作成、テーマについての資料収集などに取り組むこと。（学修時間 週2時間）
- 【事後学修】 授業内容の復習、発表内容等の確認をすること、次回の授業範囲の予習をすること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを使用する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- 中間レポート、グループレポート40%
  - 平常点（授業への積極的参加・リアクションペーパー提出）20%
  - 最終レポート40%
- 授業最終回でグループ発表の総合評価を行う。

**【参考書】**

- ・山崎準二・矢野博之（編著）『新・教職入門』学文社、2014年
- ・秋田喜代美・佐藤学（編著）『新しい時代の教職入門〔改訂版〕』有斐閣アルマ、2015年

**【注意事項】**

学生間のコミュニケーションを図る場を多く設定するので、課題や作業に積極的に参加し学習を進めることを期待する。

**教職入門**

(美学美術史学科 対象)

清水 満久

1年 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

子供たちの豊かな成長を育むことを目指して、教師はどのようにかかわっていくか、教師の資質・能力は何か、などについて学修する。また、教師の職務や服務等の理解のもと教職への意志と適性を確認するとともに意欲の醸成を図る。

**【授業における到達目標】**

教職を目指して、自ら「人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度」を基に「学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探求し、学問を続ける」研鑽力を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション（教職入門の学び方）
- 第2週 求められる教師像（教師の資質・能力とは）
- 第3週 教育とは何か
- 第4週 学校教育は、どのように進められているのか
- 第5週 教科等と教科書等の教材の扱い方
- 第6週 教師の職務（具体的な教師の仕事）
- 第7週 教育公務員の身分及び服務の内容
- 第8週 教師の仕事－学習指導の準備と実践
- 第9週 教師の仕事－生徒指導と学級経営
- 第10週 教師の仕事－校務分掌と学校・学級事務
- 第11週 教師の仕事－教員研修の内容
- 第12週 子供たちの状況をとらえる
- 第13週 多様な教育課題への対応について
- 第14週 教員養成と採用の実際に関する事項
- 第15週 教員採用選考までに身に付けること

**【事前・事後学修】****【事前・事後学修】**

- 【事前学修】 各週の学修課題について、予め文献等で調べ整理しておくこと。（学修時間 週2時間）
- 【事後学修】 学修した内容を整理し、文書にまとめておく。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

毎回、プリント等を配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験50%、レポート及び平常の授業態度等50%、により総合的に評価する。提出物等に関しては、講評し返却する。

**【参考書】**

- 「高等学校学習指導要領解説 総則編」（文部科学省 2009/11）
- 「中学校学習指導要領解説 総則編」（文部科学省 2017/6）
- その他、必要に応じて授業内で紹介する。

**【注意事項】**

積極的に、教育現場とのかかわりをもつようにしましょう。教育問題や教師に関する新聞情報等に日頃から関心をもって情報収集してください。

**教職入門**

永井 聖二  
2年 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

日本の学校の教師の仕事にはどんな特徴があるのか、私たちはその仕事のあり方をどのように学び、成長する必要があるのかを理解し、あわせて受講者一人ひとりが、自らの教師としての適性について省察できるようになることが目標である。

**【授業における到達目標】**

我が国における教師の仕事および学校の現状と課題についての確に理解し、具体的な教育実践の課題について、それをどう理解し、解決につなげるかについて主体的に検討することができることを目指す。

**【授業の内容】**

- 第1週 教職の歴史的考察（1）（近代公教育制度 師範学校）
- 第2週 教職の歴史的考察（2）（大学での教員養成 開放制）
- 第3週 日本の学校の教師役割の特質と教職の意義
- 第4週 教育法制のなかの教師
- 第5週 教育公務員としての教師
- 第6週 教師の権威と教育力
- 第7週 専門職としての教師
- 第8週 教師の社会的地位
- 第9週 感情労働者としての教師
- 第10週 教師のメンタルヘルス
- 第11週 学校における専門家と教師の連携
- 第12週 女性教師論
- 第13週 映画、テレビのなかの教師像
- 第14週 教育活動と教師
- 第15週 教職への適性について考える

**【事前・事後学修】**

事前学修として小テストや発表の課題に取り組むこと。学修時間週2時間

事後学修として小テストや発表について復習し、次回の授業範囲の専門用語を理解しておくこと。学修時間週2時間

**【テキスト・教材】**

プリントを使用する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

テスト80%、授業への積極的参加の程度20%。

テストは、授業でフィードバックをし、後日返却する。

**【参考書】**

永井聖二他 教師という仕事＝ワーク 学文社

岡崎友典、永井聖二 教育学入門 放送教育振興会

**教職入門**

(人間社会学部 対象)

羽入田 眞一

1年 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

この授業は、教職の意義や教員の役割、職務内容等に関する知識の修得を通じ、教員を志望する者が教職についての理解を深め、将来教職に就くことについて多角的に考察する過程を援助し、動機付けを図るものです。

現在の教員には何が求められているか、教員としての適格性を持つためにどのような努力が必要かを学びます。

**【授業における到達目標】**

教職を社会的使命とする者が身に付けるべき教職に関する基本的な事項（教職の意義、教員の役割、教員の職務と指導領域）が理解できるようになる。

教職への自らの意志と適性を確かめつつ、教職への使命感や責任感を修得できるようになる。

教職に関する基本的な事項の学修や教職への使命感や責任感の修得を通して、自己成長する力を身に付ける。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス（教職の意義）
- 第2週 教員採用選考から見えてくる教員像
- 第3週 教員の身分と服務
- 第4週 学校の組織と教員の職務
- 第5週 学校の誕生と教員養成の歴史
- 第6週 教育制度と教育思想の歴史①  
・ 両大戦間の教育の変遷
- 第7週 教育制度と教育思想の歴史②  
・ 占領期における教育改革と戦後教育
- 第8週 学校教育改革とこれからの学校
- 第9週 生徒指導
- 第10週 進路指導（キャリア教育）
- 第11週 学習指導要領の改定と学習指導
- 第12週 インクルーシブ教育や配慮が必要な生徒への指導
- 第13週 学校目標と学級（クラス）経営
- 第14週 学生発表（「これからの教員に求められるもの」）
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修では、授業内に紹介する書籍や資料等を読み、次週の授業範囲を予習してください。「学生発表」の課題にも早くから取り組みましょう。（事前学修2時間）

事後学修では、授業内に配布するプリントや資料等を復習してください。（事後学修2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを使用します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験50%、平常点（授業への積極参加）30%、発表・課題20%

振り返りシートについては次回の授業において、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

**【参考書】**

今井 康雄 編 『教育思想史』有斐閣 2009年 2,200円  
池上 彰 編 『先生!』岩波新書 2013年 820円

**教職入門**

(全学科の再履修・編入生 対象)

羽入田 眞一

2年～ 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

この授業は、教職の意義や教員の役割、職務内容等に関する知識の修得を通じ、教員を志望する者が教職についての理解を深め、将来教職に就くことについて多角的に考察する過程を援助し、動機付けを図るものです。

現在の教員には何が求められているか、教員としての適格性を持つためにどのような努力が必要かを学びます。

**【授業における到達目標】**

教職を社会的使命とする者が身に付けるべき教職に関する基本的な事項（教職の意義、教員の役割、教員の職務と指導領域）が理解できるようになる。

教職への自らの意志と適性を確かめつつ、教職への使命感や責任感を修得できるようになる。

教職に関する基本的な事項の学修や教職への使命感や責任感の修得を通して、自己成長する力を身に付ける。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス（教職の意義）
- 第2週 教員採用選考から見えてくる教員像
- 第3週 教員の身分と服務
- 第4週 学校の組織と教員の職務
- 第5週 学校の誕生と教員養成の歴史
- 第6週 教育制度と教育思想の歴史①  
・ 両大戦間の教育の変遷
- 第7週 教育制度と教育思想の歴史②  
・ 占領期における教育改革と戦後教育
- 第8週 学校教育改革とこれからの学校
- 第9週 生徒指導
- 第10週 進路指導（キャリア教育）
- 第11週 学習指導要領の改定と学習指導
- 第12週 インクルーシブ教育や配慮が必要な生徒への指導
- 第13週 学校目標と学級（クラス）経営
- 第14週 学生発表（「これからの教員に求められるもの」）
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修では、授業内に紹介する書籍や資料等を読み、次週の授業範囲を予習してください。「学生発表」の課題にも早くから取り組みましょう。（事前学修2時間）

事後学修では、授業内に配布するプリントや資料等を復習してください。（事後学修2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを使用します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験50%、平常点（授業への積極参加）30%、発表・課題20%

振り返りシートについては次回の授業において、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

**【参考書】**

今井 康雄 編 『教育思想史』有斐閣 2009年 2,200円  
池上 彰 編 『先生!』岩波新書 2013年 820円

**教職論**

田中 正浩

4年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

**【授業のテーマ】**

本授業では、教員の仕事と役割、教職の歴史・意義、教員に係る各種規則について、さらに、教職の専門性の特質、教職の社会的性格、今日の教育課題と教師などといった視点から教員の果たす役割や課題について理解する。

**【授業における到達目標】**

本授業では、教師の役割、責務、専門性などを、将来教壇に立つ自身の姿を描きながら、学修したことを基に、自分の言葉で説明できるようにすることを最終的な目標とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 教員の仕事と役割
- 第3週 教職の歴史
- 第4週 教職の意義
- 第5週 教職観と理想の教師像
- 第6週 教員養成の歴史
- 第7週 教員の任用と服務
- 第8週 教員に係る規則
- 第9週 教職の専門性
- 第10週 教師の資質能力向上と評価
- 第11週 教師の資質能力向上と研修体制
- 第12週 教職の社会的性質
- 第13週 教員採用試験
- 第14週 今日の教育課題と教師
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

事前学修…小テスト・レポート・発表等の課題に取り組む。

(学修時間 週2時間)

事後学修…小テストの解答と解説、発表等に対する指摘について振り返り、確認する。テキストや資料プリントの次回授業範囲を読み、専門用語や人物について調べ、自分なりに理解しておく。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

資料プリントを適宜、配付する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

小テスト(30%)、試験(60% ※テキスト、資料プリント、ノートの持ち込み不可)、平常点〔授業態度・提出課題〕(10%)実施した小テストは次回授業、試験は最終授業で解説し、フィードバックを行う。

**【参考書】**

適宜、紹介、指示する。

**【注意事項】**

授業は、内容に応じて講義、グループ討議、ビデオ視聴などで進めていく。常に、問いを発信していくので、積極的に発言し、参加すること。

**近現代のジャーナリズム**

—近現代のジャーナリズム—

**松岡 資明**

1・2年 後期 2単位

○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

ジャーナリズムには、民主主義の根幹を支える役割がある。支配する側と支配される側を分けるのは、情報の量と質である。圧倒的に多くの情報を持つ権力に対して、国民は非力であり得られる情報の量も限られている。その溝を埋めるのがジャーナリズムではないだろうか。特に、20世紀後半以降、世の中に流通する情報量が飛躍的に増えている。パソコン、スマートフォンなど多様な情報機器の登場によって一見、国民の側も多く情報が得られているかのように思えるが、彼我の情報格差はむしろ拡大しているのではなかろうか。自分たちが生きる世の中がどうなっているかを知るために、さまざまな出来事取材し伝えるジャーナリズムの意義、実態、さらにアーカイブズ（記録資料）をはじめ関連する分野について実際の取材経験をもとにした講義を行い、その将来像についてともに考えていきたい。

**【授業における到達目標】**

政治・経済などの分野を含めてニュースに注意を払い、遠く世界の片隅で起きている問題でも「自分とは関係ない」と思うことがないような人間をめざす。新聞、テレビのほかインターネットで知る事実も多いが、ニュースを鵜呑みにするのではなく、多角的かつ批判的な視点でニュースに接することができるようにしたい。とりわけ近年は、フェイクニュース（偽ニュース）が社会に大きな影響を与えているだけに、そうした心構えが重要である。その結果として、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く力をつけるためのステップとなることを目指す。

**【授業の内容】**

- 第1週 マスコミ論
- 第2週 ニュースとは何か
- 第3週 新聞記事ができるまで
- 第4週 取材の現場
- 第5週 調査報道
- 第6週 新聞記事の読み方
- 第7週 ニュースを評価してみる
- 第8週 報道被害
- 第9週 ジャーナリズムの倫理
- 第10週 戦争とジャーナリズム
- 第11週 ソーシャルメディアとオールドメディア
- 第12週 アーカイブズとジャーナリズム1（概論）
- 第13週 アーカイブズとジャーナリズム2（事例）
- 第14週 ニュースを評価してみる
- 第15週 情報の保全と公開

**【事前・事後学修】**

毎回配布する資料を読み込み、復習すると同時に、次回の授業課題を提示するのでそれに関する予習を行うこと。事前・事後学修は1週間に4時間。新聞、テレビ、ネットなどを通じて世の中で今何が起きているかを知り、その意味を考えることも学修の範囲である。時機に応じて小論文などを課す。

**【テキスト・教材】**

毎回、プリント、新聞記事のコピーなどを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポートあるいは試験50%

平常点（毎回義務付ける授業に関する意見・質問を書いたフィードバックシート、授業態度）50%。翌週の授業時にフィードバックを反映。

**【参考書】**

- 佐藤卓己著「メディア社会」（岩波書店）
- 原寿雄著「ジャーナリズムの思想」（岩波書店）
- 梓澤和幸著「報道被害」（岩波書店）
- 菅谷明子著「メディア・リテラシー」（岩波書店）

- 魚住昭著「官僚とメディア」（角川書店）
- 逢坂巖著「日本政治とメディア」（中央公論新社）
- 瀬畑源著「公文書をつかう」（青弓社）
- 川上量生著「鈴木さんにも分かるネットの未来」（岩波書店）
- 池上彰著「ニュースの読み方使い方」（新潮社）
- 松岡資明著「アーカイブズが社会を変える」（平凡社）

**【注意事項】**

新聞も教材にする。今起きているニュースなどを取り上げ、その意味合いなどについても講義するため、できるだけ毎日、新聞を読んで授業に出席する。

授業開始時間に遅れないこと。

**近現代の文学を読む**

近現代の俳句を読む

福井 拓也

1・2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

**【授業のテーマ】**

皆さんは「俳句」と聞いたとき何をイメージされますか？

「五・七・五で季語が入っていて、なんだか古くさい……」そんなイメージを抱かれるかもしれません。

実は近現代の俳句の歴史とは、こうした常識を裏切るような試みによってこそ進められてきたものでありました。そこには同時代の小説や詩、あるいは日本文化をめぐる様々な議論との密接な結びつきがあります。本授業では、常識の枠には収まりきらぬ「俳句」の魅力を、近現代を代表する俳人・俳句をとりあげ、ときには実作に挑戦してみることで、味わい学んでいきます。

**【授業における到達目標】**

俳句に固有の美を求める姿勢と、詩に普遍的な美を求める姿勢との葛藤の歴史にふれることで、芸術における「美の探求」の諸相を具体的に学び、日本の文学や文化を世界に発信するための「国際的視野」を修得することができます。

またそこから自分なりの考えを模索し、実際に句作を試みることで、学修成果を実現していく楽しさと「研鑽力」を身につけることができます。

**【授業の内容】**

- 第1週 イン트로ダクション
- 第2週 現代における俳句 (俳句入門を読む)
- 第3週 現代における俳句 (高浜虚子)
- 第4週 現代における俳句 (句会体験)
- 第5週 俳句に理屈は厳禁? (正岡子規)
- 第6週 小説家の俳句 (漱石と龍之介)
- 第7週 虚子のライバル (河東碧梧桐)
- 第8週 〈咳をしても一人〉は俳句? (放哉と山頭火)
- 第9週 主観と客観の間 (大正期「ホトトギス」と虚子)
- 第10週 ありのままでは芸術ではない (水原秋桜子)
- 第11週 俳句に季語は欠かせない? (新興俳句運動)
- 第12週 女性と俳句 (4Tから鈴木真砂女まで)
- 第13週 俳句は文学ではない (石田波郷と人間探求派)
- 第14週 俳句は芸術ではない (第二芸術論とその後)
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

(事前) 配布資料をよく読み、課題に取り組む。(週3時間)

(事後) 授業の内容を整理し、次の課題に役立てる。(週1時間)

**【テキスト・教材】**

プリントを使用します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験 60%

平常点 40% (提出課題・リアクションペーパー)

フィードバックは提出課題・リアクションペーパーへのコメントをもって行います。

**【参考書】**

高浜虚子『俳句はかく解しかく味う』(岩波文庫、平元・10)

山本健吉『定本 現代俳句』(角川選書、平10・4)

ほか授業内で適宜指示します。



**近現代文学特殊演習A**

近代作家の中国・台湾紀行

河野 龍也

国文学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

明治末から大正期の日本では、文学者の中で中国旅行が一つのブームになります。夏目漱石・谷崎潤一郎・佐藤春夫・芥川龍之介といった当時の文壇の花形作家が競うように中国に渡り、その土産として多くの旅行記や小説が生み出されました。当時の中国は、欧米列強の圧迫や日清戦争の敗北により清王朝が衰退、辛亥革命(1912年・明治45年)によって中華民国が成立した後も地方軍閥が分立し、有史以来の混乱状況を呈していましたが、こうした中国の一体何が彼らを魅惑したのでしょうか。また、彼らの目に、中国の「近代化」はどのように映っていたのでしょうか。

明治維新以降、欧米による植民地化の危機を回避した日本が、逆に列強と肩をならべてアジア支配に乗り出すという歴史的転回の中で生まれた文学作品を読みながら、日本における「近代」と「文学」の特質をより広い枠組みの中で捉え直してみましよう。

**【授業における到達目標】**

- ・文学作品の分析に必要な文献調査ができるようになる。
- ・歴史的観点から「日本」「近代」「文学」の各事象について考察を深めることができる。
- ・異文化に対する近代日本人のまなざしのあり方について多様な角度から検討できるようになる。

**【授業の内容】**

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 留学生と辛亥革命
- 第3回 夏目漱石と近代
- 第4回 夏目漱石「満韓とところどころ」
- 第5回 谷崎潤一郎の中国趣味①(交流・影響関係)
- 第6回 谷崎潤一郎の中国趣味②(旅行記)
- 第7回 谷崎潤一郎の中国趣味③(小説「鶴唳」他)
- 第8回 芥川龍之介『支那遊記』①南部紀行
- 第9回 芥川龍之介『支那遊記』②北部紀行
- 第10回 芥川龍之介「湖南の扇」
- 第11回 佐藤春夫の中国趣味と台湾旅行
- 第12回 佐藤春夫『南方紀行』①総論
- 第13回 佐藤春夫『南方紀行』②廈門租界
- 第14回 佐藤春夫『南方紀行』③内陸都市
- 第15回 まとめ

**【事前・事後学修】**

(事前学習:2.5時間) 予告した作品を各自で読み、理解を深めておいてください。作品について、受講者の感想や意見、討論を求められる場合があります。

(事後学習:1.5時間) 授業中に出た受講生の意見を参考に考察を深め、必要な補足調査を行ってください。

**【テキスト・教材】**

授業時にプリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点60%(授業内で回収するコメントカードの内容を含む)とレポート40%で総合評価します。

**【参考書】**

村松定孝・紅野敏郎・吉田熙生編『近代日本文学における中国像』(有斐閣選書)、西原大輔『谷崎潤一郎とオリエンタリズム—大正日本の中国幻想』(中公叢書)、関口安義『特派員芥川龍之介—中国でなにを視たのか』(毎日新聞社)など。

**近現代文学特殊演習B**

近代作家の中国・台湾紀行

河野 龍也

国文学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

後期の授業では、1895年から1945年までの半世紀間、日本の植民地であった台湾を舞台とする紀行文を扱います。主として、植民地社会に対する批評性の高さから近年注目を集めている佐藤春夫を取り上げます。また、春夫の紀行文が台湾文壇に与えた影響や、台湾における日本語文学の動向についても概観します。

明治維新以降、欧米による植民地化の危機を回避した日本が、逆に列強と肩をならべてアジア支配に乗り出すという歴史的転回の中で生まれた文学作品を読みながら、日本における「近代」と「文学」の特質をより広い枠組みの中で捉え直してみましよう。

**【授業における到達目標】**

- ・文学作品の分析に必要な文献調査ができるようになる。
- ・歴史的観点から「日本」「近代」「文学」の各事象について考察を深めることができる。
- ・異文化に対する近代日本人のまなざしのあり方について多様な角度から検討できるようになる。

**【授業の内容】**

- 第1回 春夫の台湾旅行概要
- 第2回 植民地台湾の状況
- 第3回 小説「女誠扇綺譚」と台南の街
- 第4回 「女誠扇綺譚」にみる植民地社会
- 第5回 先住民族へのまなざし①紀行文「霧社」
- 第6回 先住民族へのまなざし②小説「魔鳥」
- 第7回 先住民族研究者・森丑之助との交流
- 第8回 小説「旅びと」—さすらう〈内地人〉
- 第9回 小説「日章旗の下に」—〈外地〉という空間
- 第10回 紀行文「植民地の旅」①植民地に暮らす人々
- 第11回 紀行文「植民地の旅」②台湾における権利運動
- 第12回 植民地の都市空間
- 第13回 台湾における日本語文学の展開
- 第14回 西川満のオリエンタリズム
- 第15回 台湾人作家の作品

**【事前・事後学修】**

(事前学修:2.5時間) 予告した作品を各自で読み、理解を深めておいてください。作品について、受講者の感想や意見、討論を求められる場合があります。

(事後学修:1.5時間) 授業中に出た受講生の意見を参考に考察を深め、必要な補足調査を行ってください。

**【テキスト・教材】**

授業時にプリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点60%(授業内で回収するコメントカードの内容を含む)とレポート40%で総合評価します。

**【参考書】**

西原大輔『谷崎潤一郎とオリエンタリズム』(2003中公叢書)、藤井省三『台湾文学この百年』(1998東方選書)、芦谷信和ほか編『作家のアジア体験』(1992世界思想社)。

## 近世文学演習 A

『修紫田舎源氏』発句の研究

佐藤 悟

国文学専攻 前期 2単位

### 【授業のテーマ】

『修紫田舎源氏』に出てくる発句の注釈を行う。『源氏物語』の和歌の翻案にとどまらず、『源氏物語』の古注釈、考証等との関連を探究する。またそれにより、『修紫田舎源氏』本文に古注釈等が影響を与えることが予想される。それらの問題を丹念な注釈を通じて検討していく。

### 【授業における到達目標】

俳諧史に対する理解、合巻史に対する理解、源氏物語に対する理解が求められる。これらを通じて、19世紀の江戸時代の美とは何かを理解しようとする態度を身に付ける。

### 【授業の内容】

- 第1週 『修紫田舎源氏』とは
- 第2週 柳亭種彦概説
- 第3週 『修紫田舎源氏』発句研究Ⅰ
- 第4週 『修紫田舎源氏』発句研究Ⅱ
- 第5週 『修紫田舎源氏』発句研究Ⅲ
- 第6週 『修紫田舎源氏』発句研究Ⅳ
- 第7週 『修紫田舎源氏』発句研究Ⅴ
- 第8週 『修紫田舎源氏』発句研究Ⅵ
- 第9週 『修紫田舎源氏』発句研究Ⅶ
- 第10週 『修紫田舎源氏』発句研究Ⅷ
- 第11週 『修紫田舎源氏』発句研究Ⅷ
- 第12週 『修紫田舎源氏』発句研究Ⅸ
- 第13週 『修紫田舎源氏』発句研究ⅩⅠ
- 第14週 『修紫田舎源氏』発句研究ⅩⅡ
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

鈴木重三校注『修紫田舎源氏』（新日本古典文学大系、岩波書店）をあらかじめ読破しておくこと。大学院の学生には言うも愚かであるが、規定通り各二時間以上を当てること。

### 【テキスト・教材】

コピーを配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（草双紙に関する問題提起など授業への積極参加）80パーセント、レポート20パーセント。フィードバックは授業中におこなう。

### 【参考書】

授業中適宜指示する。

### 【注意事項】

配布されるコピーは原本によるものなので、テキストが読めることが最低条件となる。レベルは学部の古典基礎講読のテキストがよめていけばよい。

## 近世文学演習 B

草双紙史

佐藤 悟

国文学専攻 後期 2単位

### 【授業のテーマ】

前期に引き続き『修紫田舎源氏』の発句に対する注釈を加える。

### 【授業における到達目標】

『修紫田舎源氏』の理解を通じて、文学の可能性について考察する能力を獲得する。

### 【授業の内容】

- 第1週 『修紫田舎源氏』発句研究1
- 第2週 『修紫田舎源氏』発句研究2
- 第3週 『修紫田舎源氏』発句研究3
- 第4週 『修紫田舎源氏』発句研究4
- 第5週 『修紫田舎源氏』発句研究5
- 第6週 『修紫田舎源氏』発句研究6
- 第7週 『修紫田舎源氏』発句研究7
- 第8週 『修紫田舎源氏』発句研究8
- 第9週 『修紫田舎源氏』発句研究9
- 第10週 『修紫田舎源氏』発句研究10
- 第11週 『修紫田舎源氏』発句研究11
- 第12週 『修紫田舎源氏』発句研究12
- 第13週 『修紫田舎源氏』発句研究13
- 第14週 『修紫田舎源氏』発句研究14
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

木村八重子『草双紙の世界』を読了しておくこと。大学院の学生には言うも愚かであるが、事前・事後学修には各二時間以上あてること。

### 【テキスト・教材】

コピーを配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（草双紙に対する問題提起力）80パーセント。レポート20パーセント。フィードバックは授業中におこなう。

### 【参考書】

授業中適宜指示する。

### 【注意事項】

テキストは崩し字で書かれているので、読めることが最低条件である。

## 近世文学基礎演習 1

『鹿驚集』の研究

佐藤 悟

2年 前期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

近年発見された『鹿驚集』は明暦三年（1657）に江戸最初の俳書として企画出版されました。『鹿驚集』は春夏秋冬の四巻からなり、発句が800句収録されています。芭蕉以前の俳諧は貞門派、談林派と分けられますが、『鹿驚集』は貞門派の俳人であった野々口立圃の影響を強く受けています。今日考える俳句と異なり、言葉遊び的な要素が強く、そこで用いられる語彙は伝統的な和歌などとも重なります。

授業では最初に『滑稽太平記』などの記述から鹿驚集の出版経緯について説明し、俳諧史の略説をおこないます。

演習は春の部から始め、語彙の調査に重点を置き、同時に貞門俳諧の技法を探っていきます。そのため、『日本国語大辞典』の使い方を修得し、さらに節用集などの古辞書の使い方を勉強します。

また古典俳文学大系のデータベースを用いて類句を探し、類句から『鹿驚集』の解釈を行います。データベースで探すことができなかった場合は『詞林金玉集』『さざれ石』『沙金袋』などに手を広げます。

## 【授業における到達目標】

問題解決のため主体的に行動する能力を身に付けます。データベースを使いこなすことと、辞書をひく能力を最低限の目標とします。

## 【授業の内容】

- 第1週 授業の概要について
- 第2週 発表箇所の割当。データベース、『日本国語大辞典』その他参考書の使用方法について
- 第3週 『鹿驚集』について。
- 第4週 俳諧史
- 第5週 演習担当者による発表①（担当箇所1－6）
- 第6週 演習担当者による発表②（担当箇所7－12）
- 第7週 演習担当者による発表③（担当箇所13－18）
- 第8週 演習担当者による発表④（担当箇所19－24）
- 第9週 演習担当者による発表⑤（担当箇所25－30）
- 第10週 演習担当者による発表⑥（担当箇所31－36）
- 第11週 演習担当者による発表⑦（担当箇所37－42）
- 第12週 演習担当者による発表⑧（担当箇所43－48）
- 第13週 演習担当者による発表⑨（担当箇所49－54）
- 第14週 総復習
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

『鹿驚集』は翻刻等の活字化されたものがないので、一年時の古典文学基礎講義を履修していることが必要である。発表者は参加人数にもよるが、同じ句を最低二人が担当し、議論をリードすることが求められるので、事前学修は不可欠である。準備は2時間以上が求められる。

事後学修としては語注、解釈等をきちんと整理することが求められる。これにも2時間以上充当すること。

## 【テキスト・教材】

テキストはコピーを配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

担当箇所の発表と授業中の発言を重視する。発表点80%、発言点20%。フィードバックは授業中のディスカッションを通じておこなわれる。

## 【参考書】

『詞林金玉集』  
『滑稽太平記』

## 【注意事項】

図書館のホームページのリモートアクセスの使用方法を覚えること。出席を重視する。5回欠席すると自動的に失格になる。

## 近世文学基礎演習 1

—頼光四天王の草双紙をよむ—

松原 哲子

2年 前期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

草双紙とは江戸時代中期から後期にかけて江戸で刊行された赤本、黒本青本、黄表紙、合巻と呼ばれた絵入小説の一群を指す。これらは、紙面全体にまず絵が描かれ、その隙間に文章や登場人物マンガに近い。この授業では、草双紙の注釈作業を通し、辞書の引き方を覚え、注釈の基礎を身につける。ふさわしい手順で資料を紹介する方法や、参考資料を示す際の留意点を学ぶ。

## 【授業における到達目標】

学生が修得すべき「行動力」のうち、調査対象を正しく理解するための方法を見つけ、ふさわしい手順を踏んでいく力を身に付ける。

## 【授業の内容】

渡辺綱・坂田金時・卜部季武・碓氷定光という、いわゆる「頼光四天王」が登場する初期草双紙を取り上げ、読んでいく。頼光四天王を題材とする作品群に注釈を施し、先行文芸との関係を探っていくことによって、初期の草双紙の姿を概観してみたい。

- 第1週 ガイダンス・草双紙とは何か1
- 第2週 草双紙とはなにか2・作品紹介・担当箇所分担
- 第3週 注釈作業手順および発表資料作成の説明  
次回発表者との打ち合わせ（以下同）
- 第4週 『きんときおさなだち』『狸の土産』
- 第5週 『友切丸』第一巻（1）書誌・先行研究の整理
- 第6週 『友切丸』第一巻（2）注釈・現代語訳
- 第7週 『友切丸』第二巻（1）書誌・先行研究の整理
- 第8週 『友切丸』第二巻（2）注釈・現代語訳
- 第9週 『友切丸』第三巻（1）書誌・先行研究の整理
- 第10週 『友切丸』第三巻（2）注釈・現代語訳
- 第11週 『友切丸』第四巻（1）書誌・先行研究の整理
- 第12週 『友切丸』第四巻（2）注釈・現代語訳
- 第13週 『友切丸』第五巻（1）書誌・先行研究の整理
- 第14週 『友切丸』第五巻（2）注釈・先行研究の整理
- 第15週 まとめ・補足レポート作成・提出

## 【事前・事後学修】

【事前】事前に配布したテキストは当日までに全員目を通し、発表者への質問を用意する。発表者は全員分の配付資料を用意すること。発表担当者以外の者も、自分が担当する作品との関係等について発言・発問する準備をする（学修時間 週2時間）。【事後】発表に基づいたレポートを準備する（学修時間 週2時間）。

## 【テキスト・教材】

基本的に大学図書館で閲覧できる作品をテキストとする。その他必要に応じてプリントを配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表点60% 平常点40%

発表点には担当時の発表内容の他に、補足レポート等の加点を含める。平常点にはテキストの予習状況、発表に対する質問・発問、発表者へのサポートなど、授業への貢献度を含める。遅刻・欠席は減点の対象とする。発表に対する評価は毎時、追加レポートについては提出の次の授業でフィードバックを行う。

## 【参考書】

適宜紹介する。発表準備に際しては、本学所蔵の資料やインターネットの利用など、学内で準備できる範囲に絞ってよい。

## 【注意事項】

履修者の人数によっては対象作品が変更・増減される場合がある。担当者は、発表準備に際して不安がある場合は、必ず事前に関談に来ること。選択した作品の分量や履修者数によって、一作品を分割して担当する。上に示した以外にも頼光四天王ものの草双紙は多く存在する。特に担当したい作品が他にある場合は初回の授業でその旨を伝えること。

## 近世文学基礎演習 2

『還魂紙料』の研究

佐藤 悟

2年 後期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

近世文学基礎演習 1 に引き続き、『鹿驚集』の注釈を中心とした研究を行う。

## 【授業における到達目標】

問題解決のために主体的に行動する能力を身に付けます。特に語彙の注釈に対する能力やデータベース・『節用集』等の利用技術を身に付けることを目標とします。

## 【授業の内容】

- 第1週 担当者を決める  
 第2週 演習担当者による発表①（担当箇所1－6）  
 第3週 演習担当者による発表②（担当箇所7－12）  
 第4週 演習担当者による発表③（担当箇所13－18）  
 第5週 演習担当者による発表④（担当箇所19－24）  
 第6週 演習担当者による発表⑤（担当箇所25－30）  
 第7週 演習担当者による発表⑥（担当箇所31－36）  
 第8週 演習担当者による発表⑦（担当箇所37－42）  
 第9週 演習担当者による発表⑧（担当箇所43－48）  
 第10週 演習担当者による発表⑨（担当箇所49－54）  
 第11週 演習担当者による発表⑩（担当箇所55－60）  
 第12週 演習担当者による発表⑪（担当箇所61－66）  
 第13週 演習担当者による発表⑫（担当箇所67－72）  
 第14週 演習担当者による発表⑬（担当箇所73－78）  
 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

前期と同様の準備が要求される。担当部分以外も予習をしておくことが要求される。事前・事後学修には各2時間以上充てること。

## 【テキスト・教材】

コピーを配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表点80%、平常点（授業中の問題提起に対する発言をすると共に、積極的な質問についても評価する）20%。フィードバックは授業中にディスカッションを通じておこなわれる。

## 【参考書】

適宜指示する。

## 【注意事項】

五回以上欠席すると自動的に失格する。

## 近世文学基礎演習 2

—黄表紙をよむ—

松原 哲子

2年 後期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

注釈の基礎を身につける。先行研究を整理し、評価する。また、発表のテーマを設定し、与えられた時間内で、まとまりのある内容を作り上げる練習をし、学期末レポートの完成へとつなげる。

## 【授業における到達目標】

学生が修得すべき「行動力」のうち、課題を発見し、論じる力を修得する。自分で担当作品・場面を選択し、ひと通りの解釈をした上で、発表資料を作成する。口頭発表時には調査・研究上のポイントをいくつか挙げるかたちで発表する。学期末レポートには具体的なテーマを設定し、作品を評価する内容を含める。

## 【授業の内容】

数多い黄表紙の中には、草双紙の歴史的展開を作中に表現するものがある。この授業では、いわば「草双紙史」を題材とする作品を読んでいくことで、当時の読者や作者が草双紙というものをどのように捉えていたのか、それぞれの作品の中から探っていく。

- 第1週 担当作品の選定・次回発表者との打ち合わせ（以下同）  
 第2週 『三升増鱗祖』書誌・先行研究の整理  
 第3週 『三升増鱗祖』上巻（1）翻字・語注  
 第4週 『三升増鱗祖』上巻（2）趣向の整理・現代語訳  
 第5週 『三升増鱗祖』中巻（1）翻字・語注  
 第6週 『三升増鱗祖』中巻（2）趣向の整理・現代語訳  
 第7週 『三升増鱗祖』下巻（1）翻字・語注  
 第8週 『三升増鱗祖』下巻（2）趣向の整理・現代語訳  
 第9週 『草双紙年代記』書誌・先行研究の精読・整理  
 第10週 『草双紙年代記』上巻（1）翻字・語注・現代語訳  
 第11週 『草双紙年代記』上巻（2）趣向の整理・先行研究の評価・新たな研究テーマの検討  
 第12週 『草双紙年代記』下巻（1）翻字・語注・現代語訳  
 第13週 『草双紙年代記』下巻（2）趣向の整理・先行研究の評価・新たな研究テーマの検討  
 第14週 『草双紙年代記』先行研究の整理・評価  
 第15週 レポートテーマの選定および提出

## 【事前・事後学修】

【事前】テキストは事前に目を通し、質問を用意しておくこと。自分の担当作品と関連のある事項が出た際には質問または助言ができるよう、下調べしておくこと。発表者は全員分の配付資料を用意すること（学修時間 週2時間）。【事後】発表に基づいたレポートテーマを設定し、準備しておく（学修時間 週2時間）。

## 【テキスト・教材】

基本的には大学図書館に所蔵される複製・影印等に所収される作品を教材とする。その他必要に応じてプリントを配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 発表点40% 平常点20% レポート点40%  
 発表点には、担当時の発表内容の他、補足レポートを含める。平常点には、テキストの予習状況、毎時間の発表に対する質問・発言、発表者へのサポートなど、授業への貢献度を含める。遅刻・欠席は減点の対象となる。レポートについては、学期末に提出を求める。テーマは口頭発表時に見出した独自のテーマ、または授業時に提案されたテーマ案の中から選択するものとする。発表に対しては毎時、レポートについては最終授業でフィードバックを行う。

## 【参考書】

適宜、紹介する。発表準備に際しては、本学所蔵の資料やインターネットの利用など、学内で準備できる範囲に絞ってよい。

## 【注意事項】

人数等によって、対象作品を変更することがある。候補外の作品を扱いたい場合は申し出ること。発表に不安がある場合は事前に相談すること。全作品に丁寧目を通すことでレポート作成が円滑に行えると思われる。毎時間好奇心を持って授業に参加してほしい。

**近世文学特殊演習 A**

近世文学周辺論 I

佐藤 悟

国文学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

吉原の名主の記録である『竹島記録』を前期に引き続き読む。これにより近世文学研究の基礎の一つである吉原に関する知見を深める。

**【授業における到達目標】**

『竹島記録』について正しい理解ができること。  
『竹島記録』を利用した研究論文が提出できること。

**【授業の内容】**

- 第1週 発表担当者の決定
- 第2週 発表担当者による教員に対する質問
- 第3週 『竹島記録』巻二の発表（学生1）
- 第4週 『竹島記録』巻二の発表（学生2）
- 第5週 『竹島記録』巻二の発表（学生3）
- 第6週 『竹島記録』巻二の発表（学生4）
- 第7週 『竹島記録』巻二の発表（学生5）
- 第8週 『竹島記録』巻二の発表（学生6）
- 第9週 『竹島記録』巻二の発表（学生7）
- 第10週 『竹島記録』巻二の発表（学生8）
- 第11週 『竹島記録』巻二の発表（学生9）
- 第12週 『竹島記録』巻二の発表（学生10）
- 第13週 『竹島記録』巻二の発表（学生11）
- 第14週 『竹島記録』巻二の発表（学生12）
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

図書館で『竹島記録』を複写しておくこと。  
大学院の授業に出席する者に対し、言うも愚かであるが、事前・事後の学修に各二時間以上を当てること。

**【テキスト・教材】**

狩野文庫マイクロフィルム『竹島記録』

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

翻字の正確さと注釈のレベルにより評価する。  
フィードバックは研究論文の提出をもって行う。

**【参考書】**

花咲一男『江戸吉原図絵』正・続

**【注意事項】**

写本が読めることが授業参加の最低条件である。

**近世文学特殊演習 B**

近世文学周辺論 II

佐藤 悟

国文学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

吉原の名主の記録である『竹島記録』を前期に引き続き読む。これにより近世文学研究の基礎の一つである吉原に関する知見を深める。

**【授業における到達目標】**

自ら『竹島記録』の中からテーマを見つけ、学会発表できるレベルまで自らを高めることを到達目標とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 発表担当者の決定
- 第2週 発表担当者による教員に対する質問
- 第3週 『竹島記録』巻二の発表（学生1）
- 第4週 『竹島記録』巻二の発表（学生2）
- 第5週 『竹島記録』巻二の発表（学生3）
- 第6週 『竹島記録』巻二の発表（学生4）
- 第7週 『竹島記録』巻二の発表（学生5）
- 第8週 『竹島記録』巻二の発表（学生6）
- 第9週 『竹島記録』巻二の発表（学生7）
- 第10週 『竹島記録』巻二の発表（学生8）
- 第11週 『竹島記録』巻二の発表（学生9）
- 第12週 『竹島記録』巻二の発表（学生10）
- 第13週 『竹島記録』巻二の発表（学生11）
- 第14週 『竹島記録』巻二の発表（学生12）
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

図書館で『竹島記録』を複写しておくこと。事前・事後学修には、大学院の学生に対して言うも愚かであるが、各二時間以上をあてること。

**【テキスト・教材】**

狩野文庫マイクロフィルム『竹島記録』

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

翻字の正確さと注釈のレベルにより評価する。フィードバックは学術論文をもって行う。

**【参考書】**

花咲一男『江戸吉原図絵』正・続

**【注意事項】**

写本が読めることが授業参加の最低条件である。

## 近代アメリカ文学・文化演習 b

ーフロストが詠うニューイングランドの自然とピューリタン精神ー

難波 雅紀

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

## 【授業のテーマ】

サンフランシスコ生まれの詩人Robert Frostは、コスモポリタン詩人のEzra Poundに知り合った1912年以降、*A Boy's Will*や*North of Boston*を皮切りに*New Hampshire, A Further Range, Steeple Bush*と続々と詩集を発表していく。そして最晩年の1963年には*In the Cleaning*を出版するのだが、これらの詩は、詩集のタイトルからも連想されるように、マサチューセッツやニューハンプシャー、ヴァーモントなどニューイングランドの自然を題材に、ピューリタンの精神世界を詠ったものが圧倒的に多い。ここでは、Frostの代表的作品を四季ごとに取り上げ、内容を考察していく。授業では、実際に詩を解釈した結果をレポートすることが求められる。

## 【授業における到達目標】

代表的なアメリカ詩を詩学的（韻律、歩格、脚韻など）な側面と物語的（叙事、叙情など）な側面から分析し、そこに描かれている美的世界観を理解することを目標とする。その上で、自分における美的世界の内実と有り様を探究していく研鑽力を養っていく。

## 【授業の内容】

1. Introduction and Perspective
2. Life and Times of Robert Frost
3. Meter, Foot, Rhyme
4. Reading "Into My Own"
5. Reading "The Rose Family"
6. Reading "The Pasture" and "Fire and Ice"
7. Reading "Nothing Gold Can Stay"
8. Reading "Dust of Snow"
9. Reading "The Road Not Taken"
10. Reading "The Oven Bird"
11. Reading "A Passing Glimpse"
12. Reading "In Hardwood Groves"
13. Reading "Come In"
14. Reading "Now Close the Window"
15. For further reading

## 【事前・事後学修】

【事前学修】授業終了時に次回取り上げる詩を指定するので、授業での詩学的構造の分析に備えて、詩を正確に音読できるよう練習しておくこと。単語の発音については必ず辞書を調べ、確認しておくこと。（学修時間 2時間）

【事後学修】添削済みの小レポート・リアクションペーパーは次回授業で返却するので、確認の上、理解が不足している点を補習すること。（学修時間 2時間）

## 【テキスト・教材】

特になし。授業時にプリント配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小レポート・リアクションペーパー50%、学期末レポート50%により総合評価する。小レポート・リアクションペーパーは、添削した上、次回授業でフィードバックする。

## 【参考書】

新倉俊一『アメリカ詩入門』（研究社）  
阿部公彦『英詩のわかり方』（研究社）

## 【注意事項】

特になし。

## 近代アメリカ文学・文化演習 c

Sarah Orne Jewettの短編小説を読む

齋木 郁乃

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

## 【授業のテーマ】

19世紀のアメリカの女性作家、Sarah Orne Jewettによる短編小説を読み、作品の歴史的、文化的背景について考えます。文学の批評的な読解法とプレゼンテーションの仕方、またレポートの書き方について学びます。

## 【授業における到達目標】

英語で文学作品を読み理解できるようになること。文学を批評的な視点から考察できるようになること。正しい日本語で自分の意見を発表できるようになること。学生が修得すべき「国際的視野」のうち国際感覚を身につけて世界に踏み出し社会を動かそうとする態度と、「美の探求」のうち人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度を身につけ、「研鑽力」のうち学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続ける能力を養う。

## 【授業の内容】

- 第1週 Introduction
- 第2週 The Courting of Sister Wisby 1
- 第3週 The Courting of Sister Wisby 2
- 第4週 The Courting of Sister Wisby 3
- 第5週 Going to Shrewsbury 1
- 第6週 Going to Shrewsbury 2
- 第7週 Going to Shrewsbury 3
- 第8週 Tom's Husband 1
- 第9週 Tom's Husband 2
- 第10週 Tom's Husband 3
- 第11週 Me King of Folly Island 1
- 第12週 Me King of Folly Island 2
- 第13週 Me King of Folly Island 3
- 第14週 レポートの書き方、参考文献の使い方
- 第15週 授業のまとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】その週の決められた個所まできちんと辞書をひきながら読み、解釈のポイントをメモしてきてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】その日の授業で議論したこと教員のコメントを利用しながら、自分なりの解釈をまとめてください。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

Jewett, Sarah Orne. *The Best Stories of Sarah Orne Jewett (Classic Reprint)*. Forgotten Books, 2017. (授業に必要な箇所だけコピーにて配布。)

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業中の発言）+プレゼンテーション（50%）、期末レポート（50%） プレゼンテーションに対するフィードバックは授業中に、期末レポートに対するフィードバックはメールにて行います。

## 【参考書】

適宜授業中に指示します。

## 【注意事項】

一定レベルの英語読解力が必要な授業です。毎週数ページ分の英語を家で読んでくることと、毎回授業に出席し、発言することが求められます。

## 近代アメリカ文学・文化演習 d

犬が先祖返りする物語を読む

稲垣 伸一

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

## 【授業のテーマ】

戊年にちなんで犬を主人公とした小説ジャック・ロンドンの『荒野の呼び声』(Jack London, *The Call of the Wild*, 1903) の一部を原書で読む。

## 【授業における到達目標】

一つ目の目標は、英語を正しく読む読解力を身につけること、二つ目の目標は、自然主義小説としても冒険小説としても楽しめるこの作品の内容を味わうことである。

## 【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン  
 第2週 1. Into the Primitive前半の読解  
 第3週 1. Into the Primitive後半の読解  
 第4週 2. The Law of Club and Fang前半の読解  
 第5週 2. The Law of Club and Fang後半の読解  
 第6週 3. The Dominant of Primordial Beast前半の読解  
 第7週 3. The Dominant of Primordial Beast後半の読解  
 第8週 4. Who Has Won to Mastership前半の読解  
 第9週 4. Who Has Won to Mastership後半の読解  
 第10週 5. The Toil of Trace and Trail前半の読解  
 第11週 5. The Toil of Trace and Trail後半の読解  
 第12週 6. For the Love of a Man前半の読解  
 第13週 6. For the Love of a Man後半の読解  
 第14週 7. The Sounding of the Call前半の読解  
 第15週 7. The Sounding of the Call後半の読解

## 【事前・事後学修】

【事前学修】次の回の授業で読む章をあらかじめ読む。(学修時間 週2時間)

【事後学修】授業で読んだ内容について復習し、自分の考えをまとめる。(学修時間 週2時間)

## 【テキスト・教材】

Jack London, *The Call of the Wild* (Puffin Books, 2008)、約1,000円

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業中の発表、コメントシート) 50%

レポート 50%

各章についてのディスカッション時やコメントシートで出された意見について、教員がコメントすることによりフィードバックを行う。

## 【参考書】

授業中に指示する。

## 【注意事項】

飼い犬がまるでオオカミに先祖返りするかのような物語を読む。進化論を反映した自然主義小説、あるいは冒険小説に関心があり、かつその一部を原書で読む意欲ある学生の履修を歓迎します。

## 近代アメリカ文学・文化演習 e

19世紀末から20世紀前半までのアメリカ短篇小説を読む

稲垣 伸一

4年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

## 【授業のテーマ】

19世紀末から20世紀前半の間に活躍した3人の作家、Mark Twain(写実主義)、Stephen Crane(自然主義)、Sherwood Anderson(地方主義)の短篇を一つずつ読む。

## 【授業における到達目標】

第一に、それぞれの作品を語学的に正確に読むこと、第二に、作品の内容を味わい、3人の作家のそれぞれ異なる特徴を知ること为目标とする。

## 【授業の内容】

毎回、何人かが逐語訳していく形で授業を進める。

- 第1週 インTRODクシヨン  
 第2週 Mark Twain, "The Celebrated Jumping Frog of Calaveras County" p. 21  
 第3週 Mark Twain, "The Celebrated Jumping Frog of Calaveras County" p. 22  
 第4週 Mark Twain, "The Celebrated Jumping Frog of Calaveras County" p. 23  
 第5週 Mark Twain, "The Celebrated Jumping Frog of Calaveras County" p. 24  
 第6週 Mark Twain, "The Celebrated Jumping Frog of Calaveras County" pp. 25-26、まとめ  
 第7週 Stephen Crane, "The Upturned Face" p. 53  
 第8週 Stephen Crane, "The Upturned Face" pp. 54-55  
 第9週 Stephen Crane, "The Upturned Face" pp. 56-57、まとめ  
 第10週 Sherwood Anderson, "The Egg" pp. 74-75  
 第11週 Sherwood Anderson, "The Egg" pp. 76-77  
 第12週 Sherwood Anderson, "The Egg" pp. 78-79  
 第13週 Sherwood Anderson, "The Egg" pp. 80-81  
 第14週 Sherwood Anderson, "The Egg" pp. 82-84  
 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】授業前には読む予定の範囲を予習する。(学修時間 週2時間)

【事後学習】授業後はその回で読んだ部分の内容やポイントを復習しておく。(学修時間 週2時間)

## 【テキスト・教材】

上野直蔵編『アメリカ短編アンソロジー (Anthology of American Short Stories)』(南雲堂、1983年) 1,942円+税

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業での発表) 50%

レポート 50%

## 【注意事項】

3つの短編小説をそれぞれ数回の授業に分けて読むので、事前事後学習を通して継続的に読んだ内容を消化していくことが求められる。授業中は英文を読むため、中英和程度の辞書あるいは電子辞書を持参すること。

**近代アメリカ文学・文化演習 f**

ポー・ホーソーン・メルヴィルを読む

田ノ口 正悟

4年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

・忘れ物（作品プリント、英語辞典はかならず毎回持参）、課題提出の遅れ、授業内の私語や居眠りなどは適宜減点します。

・遅刻は3回で欠席1回とみなす。3分の1（5回）以上の欠席をした場合は評定外とします。

**【授業のテーマ】**

本授業では19世紀中葉にアメリカにおいて書かれた短編作品を取り上げます。アメリカ文学史において批評再検討の進む古典作家の作品を読みながら、現代社会にも通底する価値観や問題について考えます。

**【授業における到達目標】**

各作品につき4回程度の授業をかけて読みますが、作家や時代の背景に留意しつつ丁寧な英文読解を心がけるようにしましょう。また、授業内発表および期末レポートを通じて、他の文献を適切に参照しながら、自身の考えや解釈を明らかにするアカデミック・スキルの習得も目指します。

**【授業の内容】**

第1週 インTRODクッション。発表担当者決め。

第2週 アメリカ古典文学入門

第3週 Edgar Allan Poe, “The Fall of the House of Usher” を読む (1; p. 689-692)

第4週 Edgar Allan Poe, “The Fall of the House of Usher” を読む (2; p. 692-695)

第5週 Edgar Allan Poe, “The Fall of the House of Usher” を読む (3; p. 695-699)

第6週 Edgar Allan Poe, “The Fall of the House of Usher” を読む (4; p. 699-701)

第7週 Nathaniel Hawthorne, “Young Goodman Brown” を読む (1; p. 605-609)

第8週 Nathaniel Hawthorne, “Young Goodman Brown” を読む (2; p. 609-611)

第9週 Nathaniel Hawthorne, “Young Goodman Brown” を読む (3; p. 611-614)

第10週 Herman Melville, “Bartley, the Scrivener” を読む (1; p. 1093-1097)

第11週 Herman Melville, “Bartley, the Scrivener” を読む (2; p. 1097-1103)

第12週 Herman Melville, “Bartley, the Scrivener” を読む (3; p. 1103-1108)

第13週 Herman Melville, “Bartley, the Scrivener” を読む (4; p. 1108-1113)

第14週 Herman Melville, “Bartley, the Scrivener” を読む (5; p. 1113-1118)

第15週 総括

**【事前・事後学修】**

事前学修：各回で扱う範囲の本文を熟読しておくこと。知らない単語や固有名詞について調べる。その上で、分からなかった疑問点を授業に持ちよる。

事後学修：ポイントとなる場面や文章について復習すること。授業内発表に対するコメントを書くこと。

学修時間：4時間

**【テキスト・教材】**

- ・授業時に指示する。
- ・その他、参考書については適宜紹介します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

以下の3点を総合して成績を算出します。

- ・平常点（授業への積極参加、授業内課題）：40%
- ・授業内発表：20%
- ・期末レポート：40%

フィードバックは翌週に行います。

**【注意事項】**

本授業を受講するにあたって、以下の点は留意しておくこと。

- ・初回授業には必ず出席してください。発表担当を決めます。



## 近代イギリス文学・文化演習 a

怪物たちの世紀末

島 高行

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

## 【授業のテーマ】

Bram Stokerの*Dracula*を取り上げ、前半はテキストを精読する。後半は同テキストを読み進めながら、19世紀末の英国社会が抱えていたさまざまな問題を明るみに出す文化論的アプローチによって、この作品を理解する。

## 【授業における到達目標】

英語の読解力を高めるだけでなく、小説の読み方を学ぶ。特にテキストのどのような部分に注目すればよいのか学び、そこから歴史的、文化的問題に結び付けていく態度を養う。

## 【授業の内容】

- 第1週 インTRODakション
- 第2週 テキストpp. 1-3
- 第3週 テキストpp. 4-5
- 第4週 テキストpp. 6-8
- 第5週 テキストpp. 9-12
- 第6週 テキストpp. 13-15
- 第7週 テキストpp. 15-25
- 第8週 テキストpp. 25-35
- 第9週 テキストpp. 36-45
- 第10週 テキストpp. 46-55
- 第11週 テキストpp. 56-65
- 第12週 テキストpp. 66-75
- 第13週 テキストpp. 76-85
- 第14週 テキストpp. 86-98
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

事前学修：担当者以外も授業で取り上げる範囲をよく読んで、あらすじと問題点を把握しておくこと。確認のため、授業の冒頭で小テストを行うことがある。（学修時間：2時間）

事後学修：授業で取り上げた問題点を確認し、紹介する参考図書を読んでより深く論点について考察すること。（学修時間：週2時間）

## 【テキスト・教材】

授業時に指示する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験50%、平常点（レポート、小テスト、発表）50%

リアクションペーパーによる質問については、次回の授業冒頭で答える。

## 【注意事項】

授業時の私語等、ほかの受講生の迷惑となる行為は厳しく注意する。  
辞書を持ってくること。

## 近代イギリス文学・文化演習 b

『クリスマス・キャロル』を通して見るイギリス社会

土屋 結城

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

## 【授業のテーマ】

19世紀の作家チャールズ・ディケンズ（Charles Dickens）の*A Christmas Carol*（1843）を読む。作品の読解とあわせて、イギリスにおける階級問題およびイギリスのクリスマス特有の幽霊小説について考察する。

## 【授業における到達目標】

文学作品の鑑賞のしかたを身につけるとともに、当時のイギリス社会への理解を深めることを目的とし、全学DPのうち、研鑽力、美の探究、行動力を身につけることを目標とする。

## 【授業の内容】

第2回授業時に担当者を決め、担当者による発表形式で授業を進める。各担当者は担当箇所のアラすじをまとめるだけでなく、重要箇所の指摘、文化的背景のリサーチなどを行う必要がある。発表の後には教員による解説、受講者による重要箇所精読、ディスカッションを行う。必要に応じて関連文献を読む。

- 第1週 インTRODakション、ディケンズの生涯について
- 第2週 クリスマスの幽霊物語について
- 第3週 マーレーの幽霊 1（スクルージ）
- 第4週 マーレーの幽霊 2（マーレー現る）
- 第5週 第1の幽霊 1（第1の幽霊現る）
- 第6週 第1の幽霊 2（過去を見る）
- 第7週 第1の幽霊 3（過去の幽霊が立ち去る）
- 第8週 第2の幽霊 1（第2の幽霊現る）
- 第9週 第2の幽霊 2（クラチット家にて）
- 第10週 第2の幽霊 3（二人の子供）
- 第11週 第3の幽霊 1（第3の幽霊現る）
- 第12週 第3の幽霊 2（未来を見る）
- 第13週 終わり（現在に戻ってきたスクルージ）
- 第14週 映画鑑賞およびディスカッション
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

## 【事前学修】

テキストで該当箇所を読み、課題に取り組む。（学修時間 週2時間）

## 【事後学修】

授業の内容の復習をすること。関連項目を各自で調べること。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

プリントを使用するほか、授業開始時に指示する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業に取り組む態度、発表）50%、レポート50%で評価する。

フィードバックは翌回以降の授業時に行う。

## 【注意事項】

辞書を必ず持参すること。

## 近代イギリス文学・文化演習 d

犯罪小説から歴史を読む

島 高行

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

## 【授業のテーマ】

Arthur Conan Doyle *The Sign of Four*を読み、大英帝国の繁栄を支えた植民地支配の問題を考察する。

特に作品の背景にあるインド大反乱という歴史的事件が、この小説でどのように語られ、変形させられているかに注目し、フィクションと歴史の関係性について考えてみる。

## 【授業における到達目標】

英語の読解力を高めること。

テキストの重層性を理解し、問題を自ら発見できるような読み方を身につけること。

## 【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 アフガニスタン戦争の影
- 第3週 「巨大な汚水溜め」としてのロンドン
- 第4週 テキストpp. 1-5
- 第5週 テキストpp. 6-10
- 第6週 テキストpp. 11-16
- 第7週 テキストpp. 17-24
- 第8週 テキストpp. 25-35
- 第9週 テキストpp. 36-45
- 第10週 テキストpp. 46-50
- 第11週 テキストpp. 51-55
- 第12週 テキストpp. 56-60
- 第13週 テキストpp. 61-68
- 第14週 テキストpp. 69-70
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

事前学修：授業での予定範囲をよく読み、問題点を見つけておく。（週1時間）

事後学修：授業内容を復習、確認し、指示された参考文献等にあたり、考えを深めること。（週3時間）

## 【テキスト・教材】

授業時に指示する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験50%、平常点（発表、授業内テスト、レポート）50%で評価する。

## 近代イギリス文学・文化演習 e

『ビグマリオン』を通してみるイギリス社会

土屋 結城

4年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

## 【授業のテーマ】

19世紀から20世紀に活躍した作家バーナード・ショー (Bernard Shaw) の『ビグマリオン』(1912)を読む。作品の読解とあわせて19世紀末から20世紀初頭頃のイギリスの状況、特に階級制度や女性の立場について考察する。

## 【授業における到達目標】

文学作品の鑑賞のしかたを身につけるとともに、当時のイギリス社会、女性の地位へ理解を深めることを目的とし、全学DPのうち、研鑽力、美の探究、行動力を身につけることを目標とする。

## 【授業の内容】

初回及び第2回授業時に担当者を決め、担当者による発表形式で授業を進める。各担当者は担当箇所をあらかじめまとめるだけでなく重要箇所の指摘、文化的背景のリサーチなどを行う必要がある。発表の後には教員による解説、受講者による重要箇所精読、ディスカッションを行う。

- 第1週 インTRODクシヨン (バーナード・ショーの生涯)
- 第2週 イライザの登場
- 第3週 ヒギンズとの出会い
- 第4週 ヒギンズの自宅にて
- 第5週 ドゥーリトル登場
- 第6週 レッソンの始まり
- 第7週 レディとして
- 第8週 園遊会にて
- 第9週 園遊会が終わって
- 第10週 ドゥーリトルとヒギンズ
- 第11週 イライザとヒギンズ
- 第12週 後日譚
- 第13週 映像鑑賞
- 第14週 映像、作品についての考察
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

## 【事前学修】

テキストで該当箇所を読み、課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

## 【事後学修】

授業の内容を復習すること。関連項目について調べること。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配布するほか、授業時に指示する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（発表、授業内提出課題）50%、レポート50%で評価する。フィードバックは翌回以降の授業で行う。

## 【注意事項】

辞書を必ず持参すること。

## 近代現代文学演習 a 1

雑誌と直筆原稿で読む大正の文学

河野 龍也

3年～ 前期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

文学史上の大正時代は、雑誌を中心に短編小説が花開いた時代です。出版市場の拡大を受けて職業作家が登場し、多彩な才能を競いました。日本近代文学の特色ともいえる「私小説」が育ったのもこの時代です。

当時、総合雑誌として最も権威があったのが『中央公論』です。実践女子大学では、『中央公論』編集者の滝田樗陰が保管していた作家の直筆原稿データベースにアクセスすることができます。この授業では、里見弴・室生犀星・菊池寛・正宗白鳥・佐藤春夫・小川未明・葛西善蔵という幅広い大正文学の花形作者の作品を取り上げます。原稿と活字化された雑誌面とを比較することで、作家の創作の苦心の痕をリアルに感じることができるでしょう。原稿用紙に向き合いながら、作品を育てていくプロセスに迫りたいと思います。

### 【授業における到達目標】

- ・言語芸術である小説を形式面から分析する能力が身につく（美の探究）。
- ・思考と調査の結果を適切に説明するプレゼンテーション能力が身につく（行動力）。
- ・他の学生からの意見を受け止めて考察に反映させる対話の力が身につく（協働力）。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 里見弴「善心悪心」（1916）①
- 第3週 室生犀星「或る少女の死まで」（1919）①
- 第4週 菊池寛「神の如く弱し」（1920）①
- 第5週 正宗白鳥「人さまさま」（1921）①
- 第6週 佐藤春夫「一夜の宿」（1923）①
- 第7週 小川未明「死滅する村」（1923）①
- 第8週 葛西善蔵「父の葬式」（1923）①
- 第9週 里見弴「善心悪心」（1916）②
- 第10週 室生犀星「或る少女の死まで」（1919）②
- 第11週 菊池寛「神の如く弱し」（1920）②
- 第12週 正宗白鳥「人さまさま」（1921）②
- 第13週 佐藤春夫「一夜の宿」（1923）②
- 第14週 小川未明「死滅する村」（1923）②
- 第15週 葛西善蔵「父の葬式」（1923）②

### 【事前・事後学修】

事前学修（週2時間）：作品の読解、先行研究の調査と発表準備。

事後学修（週2時間）：疑問についての再考察。発表の補足準備。

### 【テキスト・教材】

作品は本学図書館のデータベース「Japan Knowledge」に収録されている『滝田樗陰旧蔵近代作家原稿集「日本近代文学館」』から各自印刷して使用します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表50%、討論参加の積極性・受講の姿勢50%で評価します。

フィードバック：作品ごとに、回収したコメントカードから疑問点を抽出し、これに基づいて調査すべき項目を発表担当者に割り振ります。

### 【参考書】

授業中に指示する。

### 【注意事項】

テキストがなければ授業が成り立ちませんので、必ず各自データベースにアクセスして取得してください。テキストを取得したことを授業中に確認します（評価に考慮します）。受講人数により、扱う作品数を変更する可能性があります。

## 近代現代文学演習 a 1

夏目漱石「三四郎」を読む

土屋 聡

3年～ 前期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

夏目漱石は明治四〇年に文筆家としての道を本格的に歩み始めます。その翌年の九月から一二月にかけて、漱石は東京帝国大学に進学するために九州から上京する学生の姿を描きます。この演習ではその小川三四郎を軸として描いた小説「三四郎」が朝日新聞紙上に連載された折の区切りに従って読み進めます。

近代という様々な制度が急速に形作られた明治という時代に生きる青年が遭遇した東京と人々を巡って構成される作品を丁寧に追うことで、小説作品の構造を読み解くことを目指します。一つの作品を様々な角度から精読し、それを踏まえた考えを文章にして論じる力を身につけることはまた、卒業論文につながる研究の基礎的な力ともなります。本演習はa 1とa 2を通じて一つの作品を扱いますので、連続しての履修を基本と考えてください。

a 1で発表を担当しなかった学生にはレポート課題を出します。

また、授業の最後には毎回出席を兼ねてペーパーを書いていただきます。授業の感想や身の回りの出来事など内容は限定しませんが、読み手に伝わりやすい的確な表現を身につける訓練ともなりません。

### 【授業における到達目標】

- 学生が修得するべき能力のうち、作品の内容を正しく把握して課題を発見できる「行動力」と、読解を通じて深い視野と洞察力を身につける「研鑽力」とを修得することをめざします。
- ・作品の内容を把握し、構造的に分析することができる。
  - ・作品の書かれた時代背景を理解することができる。
  - ・自らの考えを客観的に捉え、レジュメや質疑の的確に表現することができる。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 第一章を読む（1）
- この（1）～（3）までは、「三四郎」の第一章にあたる部分を参考書にある日本近代文学大系26『夏目漱石集 3』を用いて土屋が読解して行きます。
- 第3週 第一章を読む（2）
- 第4週 第一章を読む（3）
- 第5週 担当者による発表（1）
- 第6週 担当者による発表（2）
- 第7週 担当者による発表（3）
- 第8週 担当者による発表（4）
- 第9週 担当者による発表（5）
- 第10週 担当者による発表（6）
- 第11週 担当者による発表（7）
- 第12週 担当者による発表（8）
- 第13週 担当者による発表（9）
- 第14週 担当者による発表（10）
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修（学修時間 週二時間）

演習範囲を再読し、自分なりの疑問点を考えます。発表者はわかりにくい語句や表現の意味を列記し、読解上のポイントがある、と思われる箇所の考察をおこなったレジュメの準備をしてください。

事後学修（学修時間 週二時間）

配布されたレジュメを用いつつ、作品を再読しておきましょう。また、自らの分担箇所との関連を考えてみましょう。

### 【テキスト・教材】

- ・テキストは指定しませんが、各自夏目漱石『三四郎』を文庫などで入手し通読してください。
- ・教材として、岩波書店版『漱石全集』第五卷（一九九四年第一刷／二〇〇二年第二刷／二〇一七年定本）を用います。担当する範囲

が決まったら、発表者は早めに図書館にて担当箇所をコピーし、レジュメを作成してください。その際、本文の「注解」に目を通すことも忘れないようにしましょう。

#### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表（またはレポート）60%

平常点（質疑等やペーパー）40%

発表と質疑の内容についてはその授業中に、ペーパーの内容には次週、レポートについては最終回にフィードバックを行います。

#### 【参考書】

日本近代文学大系 26『夏目漱石集 3』（一九七二（昭和四七）年 角川書店）

その他については授業中に適宜指示します。

#### 【注意事項】

演習科目は演習の発表担当者と参加者で意見交換し、それぞれの読解による解釈の違いや視点を広げることに重要な意味があります。発表者の考えを総合的に読み取り、質問の際は的確に自らの意見を述べることでその力は養われます。ともに欠席をせず、積極的な取り組みを行うことを通じて実りの多い学びの場にしましょう。

また、不必要な私語は厳禁とします。

## 近代現代文学演習 a 2

雑誌と直筆原稿で読む大正の文学

河野 龍也

3年～ 後期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

#### 【授業のテーマ】

文学史上の大正時代は、雑誌を中心に短編小説が花開いた時代です。出版市場の拡大を受けて職業作家が登場し、多彩な才能を競いました。日本近代文学の特色ともいえる「私小説」が育ったのもこの時代です。

当時、総合雑誌として最も権威があったのが『中央公論』です。実践女子大学では、『中央公論』編集者の滝田樗陰が保管していた作家の直筆原稿データベースにアクセスすることができます。この授業では、里見弴・室生犀星・菊池寛・正宗白鳥・佐藤春夫・小川未明・葛西善蔵という幅広い大正文学の花形作者の作品を取り上げます。原稿と活字化された雑誌面とを比較することで、作家の創作の苦心の痕をリアルに感じることができるでしょう。原稿用紙に向き合いながら、作品を育てていくプロセスに迫りたいと思います。

#### 【授業における到達目標】

- ・言語芸術である小説を形式面から分析する能力が身につく（美の探究）。
- ・思考と調査の結果を適切に説明するプレゼンテーション能力が身につく（行動力）。
- ・他の学生からの意見を受け止めて考察に反映させる対話の力が身につく（協働力）。

#### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 里見弴「雪の夜話」（1920）①
- 第3週 室生犀星「香爐を盗む」（1920）①
- 第4週 菊池寛「流行児」（1921）①
- 第5週 正宗白鳥「生まざりしならば」（1923）①
- 第6週 佐藤春夫「侘しすぎる」（1923）①
- 第7週 小川未明「微笑する未来」（1924）①
- 第8週 葛西善蔵「血を吐く」（1925）①
- 第9週 里見弴「雪の夜話」（1920）②
- 第10週 室生犀星「香爐を盗む」（1920）②
- 第11週 菊池寛「流行児」（1921）②
- 第12週 正宗白鳥「生まざりしならば」（1923）②
- 第13週 佐藤春夫「侘しすぎる」（1923）②
- 第14週 小川未明「微笑する未来」（1924）②
- 第15週 葛西善蔵「血を吐く」（1925）②

#### 【事前・事後学修】

事前学修（週2時間）：作品の読解、先行研究の調査と発表準備。

事後学修（週2時間）：疑問についての再考察。発表の補足準備。

#### 【テキスト・教材】

作品は本学図書館のデータベース「Japan Knowledge」に収録されている『滝田樗陰旧蔵近代作家原稿集 [日本近代文学館]』から各自印刷して使用します。

#### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表50%、討論参加の積極性・受講の姿勢50%で評価します。

フィードバック：作品ごとに、回収したコメントカードから疑問点を抽出し、これに基づいて調査すべき項目を発表担当者に割り振ります。

#### 【参考書】

授業中に指示する。

#### 【注意事項】

テキストがなければ授業が成り立ちませんので、必ず各自データベースにアクセスして取得してください。テキストを取得したことを授業中に確認します（評価に考慮します）。受講人数により、扱う作品数を変更する可能性があります。

**近代現代文学演習 a 2**

夏目漱石「三四郎」を読む

**土屋 聡**

3年～ 後期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

**【注意事項】**

演習科目は演習の発表担当者と参加者として意見を交換し、それぞれの読解による解釈の違いや視点を広げることに重要な意味があります。発表者の考えを総合的に読み取り、質問の際は的確に自らの意見を述べることでその力は養われます。ともに欠席をせず、積極的な取り組みを行うことを通じて実りの多い学びの場にしましょう。

また、不必要な私語は厳禁とします。

**【授業のテーマ】**

a 1に引き続き、夏目漱石「三四郎」を読解してゆきます。また、最終章の一三は土屋が担当します。

a 2で発表を担当しなかった学生にはレポート課題を出します。また、a 1と同じく授業の最後には毎回出席を兼ねてペーパーを書いていただきます。授業の感想や身の回りの出来事など内容は限定しませんが、読み手に伝わりやすい的確な表現を身につける訓練ともなります。

**【授業における到達目標】**

学生が修得すべき能力のうち、作品の内容を正しく把握して課題を発見できる「行動力」と、読解を通じて深い視野と洞察力を身につける「研鑽力」とを修得することをめざします。

- ・作品の内容を把握し、構造的に分析することができる。
- ・作品の書かれた時代背景を理解することができる。
- ・自らの考えを客観的に捉え、レジメや質疑に的確に表現することができる。

**【授業の内容】**

- 第1週 担当者による発表（1）
- 第2週 担当者による発表（2）
- 第3週 担当者による発表（3）
- 第4週 担当者による発表（4）
- 第5週 担当者による発表（5）
- 第6週 担当者による発表（6）
- 第7週 担当者による発表（7）
- 第8週 担当者による発表（8）
- 第9週 担当者による発表（9）
- 第10週 担当者による発表（10）
- 第11週 担当者による発表（11）
- 第12週 担当者による発表（12）
- 第13週 担当者による発表（13）
- 第14週 一三章を読む
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修（学修時間 週二時間）

演習範囲を再読し、自分なりの疑問点を考えます。発表者はわかりにくい語句や表現の意味を列記し、読解上のポイントがある、と思われる箇所の考察をおこなったレジメの準備をしてください。

事後学修（学修時間 週二時間）

配布されたレジメを用いつつ、作品を再読しておきましょう。また、自らの分担箇所との関連を考えてみましょう。

**【テキスト・教材】**

- ・テキストは指定しませんが、各自夏目漱石『三四郎』を文庫などで入手し通読してください。
- ・教材として、岩波書店版『漱石全集』第五卷（一九九四年第一刷／二〇〇二年第二刷／二〇一七年定本）を用います。担当する範囲が決まったら、発表者は早めに図書館にて担当箇所をコピーし、レジメを作成してください。その際、本文の「注解」に目を通すことも忘れないようにしましょう。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

発表（またはレポート）60%

平常点（質疑等やペーパー）40%

発表と質疑の内容についてはその授業中に、ペーパーの内容には次週、レポートについては最終回にフィードバックを行います。

**【参考書】**

日本近代文学大系 26『夏目漱石集 3』（一九七二（昭和四七）年 角川書店）

その他については授業中に適宜指示します。

## 近代現代文学演習 b 1

小説分析の方法

棚田 輝嘉

3年～ 前期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

小説を読むとはどういうことなのか。

小説とは文章の集合体である。しかし、それぞれの文章は、同じ価値、同じ役割、同じ意義を持っているわけではない。物語の筋を構築するもの、それに付加的な説明をもたらすもの、筋とは一見無関係でありながら、作品全体に味わいを付加するもの、主題と密接に結びついて、作品を構築する骨となるもの、などなど、様々な側面を持っている。

本演習では、短編小説を取り上げて、こうした各文章の意義や役割について検討することで、小説という作品の読み解き方を勉強してもらいたい。

### 【授業における到達目標】

小説を深く読解することができる。

DPの3分野について、特に、「感受性を深め」、「課題を発見」し、「互いに協力して物事を進め」「問題解決につなげる」能力の獲得を、最低限の目標としています。

### 【授業の内容】

- 第1週 演習の手順と方法
- 第2週 小説とはなにか1：語り
- 第3週 小説とはなにか2：構造
- 第4週 演習1：太宰治「眉山」
- 第5週 演習2：新美南吉「鍛冶屋の子」
- 第6週 演習3：横光利一「春は馬車に乗って」
- 第7週 演習4：芥川龍之介「蜜柑」
- 第8週 演習5：織田作之助「旅への誘い」
- 第9週 演習6：久生十蘭「葡萄蔓の束」
- 第10週 演習7：森鷗外「高瀬舟」
- 第11週 演習8：菊池寛「恩讐の彼方に」
- 第12週 アンサー編（演習1～3）
- 第13週 アンサー編（演習4～6）
- 第14週 アンサー編（演習7・8・全体）
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】演習者は、必ず相談に来ること。

他の学生は、予め配布されたレジュメを十分読み、疑問点を明らかにしておくこと。（週2時間）

【事後学修】改めてレジュメを読み直し、アンサー編に備えて、質問を用意しておくこと。（週2時間）

### 【テキスト・教材】

『泣ける小説 名作短編集』彩図社 590円＋税（彩図社文芸部編集 2014年）

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への取り組み 課題・質疑など）65%  
演習した学生は演習内容、演習を行わなかった学生はレポート35%  
提出された課題、レジュメ等について、コメント等のフィードバックを行う。

### 【参考書】

演習者へは、事前相談の時に指示する。

その他、授業中に適宜指示する。

### 【注意事項】

演習発表者だけでなく、受講生全員に、演習対象となる作品に関する課題を出すので、欠席しないこと。

## 近代現代文学演習 b 2

謎解き短編小説

棚田 輝嘉

3年～ 後期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

小説、特に短篇小説には、象徴的な冒頭と、思いもよらない・効果的な結末が求められます。特に、結末は、見事であればあるほど、優れた作品として、高い評価を得ることが出来ます。

本演習では、この結末を隠し、どのような結末が書かれているのかを、推理・創作することを演習内容とします。

そのためには、伏線・謎かけ・読者の期待への対応・意外性などが、読解のキーワードとして重要になってきます。これらについて学び、その上で、短編小説を読み解きます。

具体的な方法としては、各作品毎に演習者（演習グループ）を割り振り、自分たちの案を出して貰うと共に、全受講生にも毎回解答を提出してもらい、演習者の解答を聞きながら、どの解答が最もよいかということについて、検討したいと思います。

なお、演習の性質上、シラバスには作品名を示しません。

### 【授業における到達目標】

小説を深く読解する力、想像力/創造力を身に着ける。

DPの3分野について、特に、「感受性を深め」、「課題を発見」し、「互いに協力して物事を進め」「問題解決につなげる」能力の獲得を目標とした前期を踏まえて、さらに「新たな知を創造」し、「プロセスや成果を正しく評価」し、「豊かな人間関係を構築する」ことを、目標とします。

### 【授業の内容】

- 第1週 演習の手順と方法
- 第2週 なぜ小説を読むのか
- 第3週 短編小説の手法
- 第4週 演習1：伏線壺
- 第5週 演習2：伏線式
- 第6週 演習3：伏線参
- 第7週 演習4：伏線四
- 第8週 演習5：逆転壺
- 第9週 演習6：逆転式
- 第10週 演習7：みごと
- 第11週 演習8：おのぞみの
- 第12週 アンサー編（演習1～3）
- 第13週 アンサー編（演習4～6）
- 第14週 アンサー編（演習7～8）
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】演習者は、必ず相談に来ること。

他の学生はあらかじめ配布されたレジュメを十分読み、疑問点を明らかにしておくこと。（週2時間）

【事後学修】改めてレジュメを読み直し、アンサー編に備えて、質問を用意しておくこと。（週2時間）

### 【テキスト・教材】

こちらで用意する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への取り組み 課題・質疑など）65%  
演習した学生は演習内容、演習を行わなかった学生はレポート35%  
提出された課題、レジュメについて、コメント等のフィードバックを行う。

### 【参考書】

演習者へは、事前相談の時に指示する。

その他、授業中に適宜指示する。

### 【注意事項】

演習発表者だけでなく、受講生全員に、演習対象となる作品に関する課題を出すので、欠席しないこと。

## 近代現代文学演習 c 1

近現代の文学作品と「私」

大島 丈志

3年～ 前期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

近代現代文学演習では、日本近現代文学史を念頭に置きながら、実際に個々の作品を読んでいく。作品を読むにあたっては、主に、作品論・作家論の方法を使う。具体的には、授業の前半で近代の文学史を学んだうえで、近代日本の代表的な短編を読み、読解し、そこに描かれる様々な「私」を考える。

この活動を通して文学史的知識を再認識するとともに、時代や作家との関連のなかで作品を読み深めることのできる力を養う。

### 【授業における到達目標】

学生が修得すべき「国際的視野」のうち、近現代文学の基礎知識を学ぶことで、日本文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度を獲得できる。

学生が修得すべき「美の探求」のうち、作家の思想・作品の読解を探究することで新たな知を創造しようとする態度を養うことが出来る。

学生が修得すべき「行動力」のうち、作品の精緻な読みを行い、自らの読みを導き出すことで問題解決する力を獲得できる。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 演習発表の方法について
- 第3週 講義 演習 田山花袋「少女病」
- 第4週 講義 演習 夏目漱石「夢十夜」
- 第5週 講義 演習 森鷗外「高瀬舟」
- 第6週 講義 演習 谷崎潤一郎「刺青」
- 第7週 講義 武者小路実篤「お目出たき人」
- 第8週 講義 演習 志賀直哉「范の犯罪」
- 第9週 講義 演習 芥川龍之介「蜘蛛の糸」
- 第10週 講義 演習 横光利一「頭ならびに腹」
- 第11週 講義 演習 小林多喜二「人を殺す犬」
- 第12週 講義 演習 太宰治「桜桃」
- 第13週 講義 演習 武田泰淳「もの喰う女」
- 第14週 レポートについて
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修 受講に際し、授業中に扱われる作品を読み込んでおくこと。（学修時間 週2時間）

事後学修 発表で不十分であった点を調査し、フォローのレジュメを作成しておくこと。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

文学史研究会編『近代の短編』（笠間書院、1982年）1,800円＋税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

口頭発表40%、レポート40%、平常点（授業への積極参加・質疑応答）20%、それらを総合して評価する。口頭発表は、次回授業、レポートは授業最終回でフィードバックを行う。

### 【参考書】

授業中に指示する。

### 【注意事項】

演習であるため、発表者はもとより、参加者は他の参加者と貴重な意見の交換を行うことが出来る。議論に積極的に参加し、発言することが、自らの言語能力を高め、広げることにつながるの言うまでもない。参加者の意欲的な取り組みを期待する。

## 近代現代文学演習 c 2

近現代文学の作品と「私」

大島 丈志

3年～ 後期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

近現代文学演習では、日本の近現代文学史を基礎としながら、個々の作品を読解していく。

作品の読みを通じて、そこに描かれる様々な時代の様々な「私」のあり様についても考える。

後期の演習の前半では、谷川俊太郎・茨木のり子ら現代詩人の詩歌もある扱う。

さらに授業の後半では、村上春樹、川上弘美、小川洋子といった現代作家の作品も扱っていく。

### 【授業における到達目標】

学生が修得すべき「国際的視野」のうち、近現代文学を読解することで、日本文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度を獲得できる。

学生が修得すべき「行動力」のうち、自らの問題点を発見し、作品の調査・解釈を行い、その結果をプレゼンテーションすることで問題解決する力を獲得できる。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス 現代詩について I
- 第2週 現代詩について II 谷川俊太郎
- 第3週 現代詩について III 茨木のり子
- 第4週 現代詩について IV 石垣りん
- 第5週 演習 樋口一葉「十三夜」
- 第6週 演習 樋口一葉「十三夜」
- 第7週 演習 芥川龍之介「おぎん」
- 第8週 演習 徳田秋声「風呂桶」
- 第9週 演習 井伏鱒二「鯉」
- 第10週 演習 武田泰淳「橋を築く」
- 第11週 演習 林芙美子「晩菊」
- 第12週 講義 演習 村上春樹「七番目の男」
- 第13週 講義 演習 小川洋子「美少女コンテスト」
- 第14週 講義 演習 川上弘美「神様」
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修 演習の対象となる作品を読み込んでおくこと。（学修時間 週2時間）

事後学修 演習で扱った作品のフォローをしておくこと。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

文学史研究会編『近代の短編』笠間書院、1982年

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

口頭発表40%、レポート40%、平常点（授業への積極参加・質疑応答）20%、それらを総合して評価する。口頭発表は、次回授業、レポートは授業最終回でフィードバックを行う。

### 【参考書】

授業中に指示する。

### 【注意事項】

演習の授業であるため、発表者はもとより、参加者は他の参加者と貴重な意見の交換を行うことが出来る。議論に積極的に参加し、発言することが、自らの言語能力を高め、広げることにつながるの言うまでもない。参加者の意欲的な取り組みを期待する。

**近代現代文学研究 a**

翻訳を通してみる日本近代文学

ブルナ, ルカーシュ

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

**【授業のテーマ】**

日本近代文学の成立および発展において外国文学の翻訳は極めて重要な役割を果たしましたが、文学史を学ぶ時、わたくしたちはこの事実を忘れがちです。この授業では、最近日本国内外で盛んに行われる翻訳研究という学問と、近代日本における翻訳の歴史について学びます。そのうえで、様々な翻訳を取り上げ、そのテキストを原文と比較しながら、翻訳の諸問題について考えていきます。

なお、前期は「世界文学の初期日本語訳」、後期は「日本文学の初期英訳」を取り上げます。

**【授業における到達目標】**

このような作業を通して、文化の架け橋としての翻訳の本質について学び、日本と海外の近代文学の作家や作品についてより詳しく知ることができます。

**【授業の内容】**

- ① オリエンテーション — 翻訳とは何か、翻訳研究とは何か
- ② オリエンテーション — 翻訳の歴史
- ③ 明治期の詩の翻訳 — 『新体詩抄』作家・作品紹介
- ④ 明治期の詩の翻訳 — 『新体詩抄』作品分析
- ⑤ ディケンズの翻訳 — 作家・作品紹介
- ⑥ ディケンズの翻訳 — 作品分析
- ⑦ モーパッサンの翻訳 — 作家・作品紹介
- ⑧ モーパッサンの翻訳 — 作品分析
- ⑨ ツルゲーネフの翻訳 — 作家・作品紹介
- ⑩ ツルゲーネフの翻訳 — 作品分析
- ⑪ アンデルセンの翻訳 — 作家・作品紹介
- ⑫ アンデルセンの翻訳 — 作品分析
- ⑬ ゴラの翻訳 — 作家・作品紹介
- ⑭ ゴラの翻訳 — 作品分析
- ⑮ まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修 = 授業で配布されたテキストには事前に目を通しておくこと。(週2時間)

事後学修 = 授業内容を咀嚼し、テキストを再読すること。不明な点があれば、質問を用意すること。(週2時間)

**【テキスト・教材】**

授業で配布。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート60%、平常点(コメント票、授業態度)40%

**【参考書】**

授業時に紹介します。

**【注意事項】**

五回以上欠席すると失格となる。



**近代現代文学研究 a**

翻訳を通してみる日本近代文学

ブルナ, ルカーシュ

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

**【授業のテーマ】**

日本近代文学の成立および発展において外国文学の翻訳は極めて重要な役割を果たしましたが、文学史を学ぶ時、わたくしたちはこの事実を忘れがちです。この授業では、最近日本国内外で盛んに行われる翻訳研究という学問と、近代日本における翻訳の歴史について学びます。そのうえで、様々な翻訳を取り上げ、そのテキストを原文と比較しながら、翻訳の諸問題について考えていきます。

なお、前期は「世界文学の初期日本語訳」、後期は「日本文学の初期英訳」を取り上げます。

**【授業における到達目標】**

このような作業を通して、文化の架け橋としての翻訳の本質について学び、日本と海外の近代文学の作家や作品についてより詳しく知ることができます。

**【授業の内容】**

- ① オリエンテーション — 翻訳とは何か、翻訳研究とは何か
- ② オリエンテーション — 翻訳の歴史
- ③ 明治期の詩の翻訳 — 『新体詩抄』作家・作品紹介
- ④ 明治期の詩の翻訳 — 『新体詩抄』作品分析
- ⑤ ディケンズの翻訳 — 作家・作品紹介
- ⑥ ディケンズの翻訳 — 作品分析
- ⑦ モーパッサンの翻訳 — 作家・作品紹介
- ⑧ モーパッサンの翻訳 — 作品分析
- ⑨ ツルゲーネフの翻訳 — 作家・作品紹介
- ⑩ ツルゲーネフの翻訳 — 作品分析
- ⑪ アンデルセンの翻訳 — 作家・作品紹介
- ⑫ アンデルセンの翻訳 — 作品分析
- ⑬ ゴラの翻訳 — 作家・作品紹介
- ⑭ ゴラの翻訳 — 作品分析
- ⑮ まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修 = 授業で配布されたテキストには事前に目を通しておくこと。(週2時間)

事後学修 = 授業内容を咀嚼し、テキストを再読すること。不明な点があれば、質問を用意すること。(週2時間)

**【テキスト・教材】**

授業で配布。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート60%、平常点(コメント票、授業態度)40%

**【参考書】**

授業時に紹介します。

**【注意事項】**

五回以上欠席すると失格となる。

**近代現代文学研究 b**

翻訳を通してみる日本近代文学

ブルナ, ルカーシュ

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

**【授業のテーマ】**

日本近代文学の成立および発展において外国文学の翻訳は極めて重要な役割を果たしましたが、文学史を学ぶ時、わたくしたちはこの事実を忘れがちです。この授業では、最近日本国内外で盛んに行われる翻訳研究という学問と、近代日本における翻訳の歴史について学びます。そのうえで、様々な翻訳を取り上げ、そのテキストを原文と比較しながら、翻訳の諸問題について考えていきます。

なお、前期は「世界文学の初期日本語訳」、後期は「日本文学の初期英訳」を取り上げます。

**【授業における到達目標】**

このような作業を通して、文化の架け橋としての翻訳の本質について学び、日本と海外の近代文学の作家や作品についてより詳しく知ることができます。

**【授業の内容】**

- ① オリエンテーション 翻訳とは何か
- ② 海外における日本文学
- ③ 井上哲次郎「孝女白菊詩」 作家・作品紹介
- ④ 落合直文「孝女白菊の歌」 漢詩から和歌へ
- ⑤ "White Aster" 作品分析 ①
- ⑥ "White Aster" 作品分析 ②
- ⑦ 徳富蘆花「不如帰」 作家・作品紹介
- ⑧ "Nami-Ko - A realistic novel" 作品分析 ①
- ⑨ "Nami-Ko - A realistic novel" 作品分析 ②
- ⑩ 二葉亭四迷「其面影」 作家・作品紹介
- ⑪ "An adopted husband" 作品分析 ①
- ⑫ "An adopted husband" 作品分析 ②
- ⑬ 小林多喜二「蟹工船」 作家・作品紹介
- ⑭ "The Cannery Boat" 作品分析 ①
- ⑮ "The Cannery Boat" 作品分析 ②

**【事前・事後学修】**

事前学修 = 授業で配布されたテキストには事前に目を通しておくこと。(週2時間)

事後学修 = 授業内容を咀嚼し、テキストを再読すること。不明な点があれば、質問を用意すること。(週2時間)

**【テキスト・教材】**

授業で配布。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート60%、平常点(コメント票、授業態度)40%

**【参考書】**

授業時に紹介します。

**【注意事項】**

五回以上欠席すると失格となる。

**近代現代文学研究 b**

翻訳を通してみる日本近代文学

ブルナ, ルカーシュ

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

**【授業のテーマ】**

日本近代文学の成立および発展において外国文学の翻訳は極めて重要な役割を果たしましたが、文学史を学ぶ時、わたくしたちはこの事実を忘れがちです。この授業では、最近日本国内外で盛んに行われる翻訳研究という学問と、近代日本における翻訳の歴史について学びます。そのうえで、様々な翻訳を取り上げ、そのテキストを原文と比較しながら、翻訳の諸問題について考えていきます。

なお、前期は「世界文学の初期日本語訳」、後期は「日本文学の初期英訳」を取り上げます。

**【授業における到達目標】**

このような作業を通して、文化の架け橋としての翻訳の本質について学び、日本と海外の近代文学の作家や作品についてより詳しく知ることができます。

**【授業の内容】**

- ① オリエンテーション 翻訳とは何か
- ② 海外における日本文学
- ③ 井上哲次郎「孝女白菊詩」 作家・作品紹介
- ④ 落合直文「孝女白菊の歌」 漢詩から和歌へ
- ⑤ "White Aster" 作品分析 ①
- ⑥ "White Aster" 作品分析 ②
- ⑦ 徳富蘆花「不如帰」 作家・作品紹介
- ⑧ "Nami-Ko - A realistic novel" 作品分析 ①
- ⑨ "Nami-Ko - A realistic novel" 作品分析 ②
- ⑩ 二葉亭四迷「其面影」 作家・作品紹介
- ⑪ "An adopted husband" 作品分析 ①
- ⑫ "An adopted husband" 作品分析 ②
- ⑬ 小林多喜二「蟹工船」 作家・作品紹介
- ⑭ "The Cannery Boat" 作品分析 ①
- ⑮ "The Cannery Boat" 作品分析 ②

**【事前・事後学修】**

事前学修 = 授業で配布されたテキストには事前に目を通しておくこと。(週2時間)

事後学修 = 授業内容を咀嚼し、テキストを再読すること。不明な点があれば、質問を用意すること。(週2時間)

**【テキスト・教材】**

授業で配布。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート60%、平常点(コメント票、授業態度)40%

**【参考書】**

授業時に紹介します。

**【注意事項】**

五回以上欠席すると失格となる。

**近代現代文学研究 c**

文学作品とジェンダーの関係について考える

井原 あや

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

**【授業のテーマ】**

この授業では、近代文学とジェンダーの関係を検討し、文学作品の背後にある社会規範や構造を読み解くことを目指します。

前期の授業では、明治から大正にかけて旺盛な活動を見せた作家であり、女優でもあった田村俊子を検討します。田村俊子は、女性との濃密な関係や、男性への反発や愛など現在にも通じる小説や評論、随筆を書きました。田村俊子という作家と時代との関わりについて考えた上で、短篇小説を中心に検討します。

**【授業における到達目標】**

- ・ジェンダーやセクシュアリティの概念を学ぶことで、広い視野と深い洞察力を身につけ、文学作品を批判的に分析する力を身につけることが出来ます。
- ・明治から大正の文学作品を読解することで、感受性を深め、新たな知を創造する態度を身につけることが出来ます。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス（授業の進め方など）
- 第2週 映像資料（時代背景を理解する）
- 第3週 田村俊子について（代表作紹介）
- 第4週 「生血」1（作品紹介）
- 第5週 「生血」2（先行研究）
- 第6週 「生血」3（読解・分析）
- 第7週 「生血」4（『青鞥』との関わり）
- 第8週 「女作者」1（作品紹介）
- 第9週 「女作者」2（同時代評・先行研究）
- 第10週 「女作者」3（分析・読解）
- 第11週 「悪寒」1（作品紹介）
- 第12週 「悪寒」2（分析・読解）
- 第13週 「悪寒」3（長沼智恵子との関係）
- 第14週 「微弱な権力」を読む
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

次回授業範囲のテキストの語句を調べておいて下さい。

（学修時間 週2時間）

**【事後学修】**

小テストや期末テストに向けて、プリントやノートを見直し、授業内容を復習して下さい。また、参考書に挙げた図書を読み、理解を深めて下さい。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを使用します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

以下三点から評価します。

- ・平常点（授業への積極的参加、ワークシート、コメントペーパーの提出）20%
- ・小テスト40%  
（テスト翌週の授業でフィードバックを行います）
- ・試験40%  
（授業最終回でフィードバックを行います）

**【参考書】**

小平麻衣子・内藤千珠子編『21世紀日本文学ガイドブック7 田村俊子』（ひつじ書房、2014年）

飯田祐子『彼女たちの文学』（名古屋大学出版会、2016年）

**近代現代文学研究 c**

文学作品とジェンダーの関係について考える

井原 あや

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

**【授業のテーマ】**

この授業では、近代文学とジェンダーの関係を検討し、文学作品の背後にある社会規範や構造を読み解くことを目指します。

前期の授業では、明治から大正にかけて旺盛な活動を見せた作家であり、女優でもあった田村俊子を検討します。田村俊子は、女性との濃密な関係や、男性への反発や愛など現在にも通じる小説や評論、随筆を書きました。田村俊子という作家と時代との関わりについて考えた上で、短篇小説を中心に検討します。

**【授業における到達目標】**

- ・ジェンダーやセクシュアリティの概念を学ぶことで、広い視野と深い洞察力を身につけ、文学作品を批判的に分析する力を身につけることが出来ます。
- ・明治から大正の文学作品を読解することで、感受性を深め、新たな知を創造する態度を身につけることが出来ます。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス（授業の進め方など）
- 第2週 映像資料（時代背景を理解する）
- 第3週 田村俊子について（代表作紹介）
- 第4週 「生血」1（作品紹介）
- 第5週 「生血」2（先行研究）
- 第6週 「生血」3（読解・分析）
- 第7週 「生血」4（『青鞥』との関わり）
- 第8週 「女作者」1（作品紹介）
- 第9週 「女作者」2（同時代評・先行研究）
- 第10週 「女作者」3（分析・読解）
- 第11週 「悪寒」1（作品紹介）
- 第12週 「悪寒」2（分析・読解）
- 第13週 「悪寒」3（長沼智恵子との関係）
- 第14週 「微弱な権力」を読む
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

次回授業範囲のテキストの語句を調べておいて下さい。

（学修時間 週2時間）

**【事後学修】**

小テストや期末テストに向けて、プリントやノートを見直し、授業内容を復習して下さい。また、参考書に挙げた図書を読み、理解を深めて下さい。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを使用します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

以下三点から評価します。

- ・平常点（授業への積極的参加、ワークシート、コメントペーパーの提出）20%
- ・小テスト40%  
（テスト翌週の授業でフィードバックを行います）
- ・試験40%  
（授業最終回でフィードバックを行います）

**【参考書】**

小平麻衣子・内藤千珠子編『21世紀日本文学ガイドブック7 田村俊子』（ひつじ書房、2014年）

飯田祐子『彼女たちの文学』（名古屋大学出版会、2016年）

**近代現代文学研究 d**

文学作品とジェンダーの関係について考える

井原 あや

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

**【授業のテーマ】**

この授業では、近代文学とジェンダーの関係を検討し、文学作品の背後にある社会規範や構造を読み解くことを目指します。

後期の授業では、太宰治の短篇・中篇小説を検討します。その際、歴史的背景を踏まえつつ映像資料等も用いて、文学とジェンダーの関わりを多角的に学びます。

**【授業における到達目標】**

- ・ジェンダーやセクシュアリティの概念を学ぶことで、広い視野と深い洞察力を身につけ、文学作品を批評的に分析する力を身につけることが出来ます。
- ・1945年前後の文学作品が描かれた背景を理解し、それがどのように受容されたのかを理解することで、新たな知を創造する態度を身につけることが出来ます。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス（授業の進め方など）
- 第2週 映像資料
- 第3週 太宰治について（代表作紹介）
- 第4週 「ヴィヨンの妻」1（作品紹介）
- 第5週 「ヴィヨンの妻」2（同時代評・先行研究）
- 第6週 「ヴィヨンの妻」3（分析・読解）
- 第7週 映画「ヴィヨンの妻～桜桃とタンポポ～」1（歴史的背景）
- 第8週 映画「ヴィヨンの妻～桜桃とタンポポ～」2（分析）
- 第9週 映画「ヴィヨンの妻～桜桃とタンポポ～」3（意見交換）
- 第10週 〈男同士の絆〉と文学
- 第11週 太宰治「走れメロス」1（作品紹介）
- 第12週 太宰治「走れメロス」2（同時代評・先行研究）
- 第13週 太宰治「走れメロス」3（分析・読解）
- 第14週 〈文学〉という制度とジェンダー
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

次回授業範囲のテキストを読み、用語を調べておいて下さい。  
（学修時間 週2時間）

**【事後学修】**

小テストや試験に備えてプリント・ノートを見直して下さい。  
また、参考書に挙げた図書を読み、理解を深めて下さい。  
（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

太宰治『ヴィヨンの妻』（新潮文庫、2009年）400円

太宰治『走れメロス』（新潮文庫、2005年）432円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

以下三点から評価します。

- ・平常点（授業への積極的参加、ワークシート、コメントペーパーの提出）20%
- ・小テスト40%  
（テスト翌週の授業でフィードバックを行います）
- ・試験40%（授業最終回でフィードバックを行います）

**【参考書】**

飯田祐子『彼らの物語 日本近代文学とジェンダー』（名古屋大学出版会、1998年）

笠間千浪編『〈悪女〉と〈良女〉の身体表象』（青弓社、2012年）

**近代現代文学研究 d**

文学作品とジェンダーの関係について考える

井原 あや

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

**【授業のテーマ】**

この授業では、近代文学とジェンダーの関係を検討し、文学作品の背後にある社会規範や構造を読み解くことを目指します。

後期の授業では、太宰治の短篇・中篇小説を検討します。その際、歴史的背景を踏まえつつ映像資料等も用いて、文学とジェンダーの関わりを多角的に学びます。

**【授業における到達目標】**

- ・ジェンダーやセクシュアリティの概念を学ぶことで、広い視野と深い洞察力を身につけ、文学作品を批評的に分析する力を身につけることが出来ます。
- ・1945年前後の文学作品が描かれた背景を理解し、それがどのように受容されたのかを理解することで、新たな知を創造する態度を身につけることが出来ます。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス（授業の進め方など）
- 第2週 映像資料
- 第3週 太宰治について（代表作紹介）
- 第4週 「ヴィヨンの妻」1（作品紹介）
- 第5週 「ヴィヨンの妻」2（同時代評・先行研究）
- 第6週 「ヴィヨンの妻」3（分析・読解）
- 第7週 映画「ヴィヨンの妻～桜桃とタンポポ～」1（歴史的背景）
- 第8週 映画「ヴィヨンの妻～桜桃とタンポポ～」2（分析）
- 第9週 映画「ヴィヨンの妻～桜桃とタンポポ～」3（意見交換）
- 第10週 〈男同士の絆〉と文学
- 第11週 太宰治「走れメロス」1（作品紹介）
- 第12週 太宰治「走れメロス」2（同時代評・先行研究）
- 第13週 太宰治「走れメロス」3（分析・読解）
- 第14週 〈文学〉という制度とジェンダー
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

次回授業範囲のテキストを読み、用語を調べておいて下さい。  
（学修時間 週2時間）

**【事後学修】**

小テストや試験に備えてプリント・ノートを見直して下さい。  
また、参考書に挙げた図書を読み、理解を深めて下さい。  
（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

太宰治『ヴィヨンの妻』（新潮文庫、2009年）400円

太宰治『走れメロス』（新潮文庫、2005年）432円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

以下三点から評価します。

- ・平常点（授業への積極的参加、ワークシート、コメントペーパーの提出）20%
- ・小テスト40%  
（テスト翌週の授業でフィードバックを行います）
- ・試験40%（授業最終回でフィードバックを行います）

**【参考書】**

飯田祐子『彼らの物語 日本近代文学とジェンダー』（名古屋大学出版会、1998年）

笠間千浪編『〈悪女〉と〈良女〉の身体表象』（青弓社、2012年）

**近代現代文学史 a**

近代小説と研究法の歴史

河野 龍也

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

**【授業のテーマ】**

趣味としての読書と、大学で行う文学研究とは、どう違うのでしょうか。最近の娯楽小説では、「キャラクター（登場人物）の設定が面白い」「ストーリー展開が楽しい」などが重視される傾向にあるようです。しかし、これらは小説よりも、漫画・アニメや映画の得意分野かも知れません。

文学研究では、時間構成や語りの視点、説明と行動の矛盾や比喻の使い方など、「ことば」による表現だけが見せてくれる世界を捉えて行きます。キャラクターやストーリーに注目すると、作品の意味を一つに限定してしまうので、読み方も好き嫌いの「感想」に陥りやすい欠点を持っています。研究で大事なのは、一人の登場人物が場面に応じてふと見せる違った側面や、あらすじからは漏れてしまう一見「無駄」な説明に改めて注目していただくことです。

この授業では、「近代小説の歴史」を学ぶとともに、文学作品の「分析方法の歴史」をも学んで行きます。二週で一作品を扱いながら、「文学理論の基礎概念」を習得した上で、「歴史のコンテキスト」の学習へと分け入り、従来の文学史の問題点もあわせて視野に入れていきます。文学史を学びつつ、小説分析の基礎も学んでしまおうというのがこの授業の目標です。

**【授業における到達目標】**

- ・日本近代文学研究に必要な文献収集の方法が身につく。
- ・文学作品と時代背景の関連性に課題を見出せるようになる。
- ・小説を芸術（美）の形式面から理解し説明できるようになる。

**【授業の内容】**

- 第1週 近代文学研究史概観
- 第2週 芥川龍之介「羅生門」（語りとは？）
- 第3週 志賀直哉「小僧の神様」①（作者とは？）
- 第4週 志賀直哉「小僧の神様」②（読解）
- 第5週 国木田独歩「鎌倉夫人」①（視点とは？）
- 第6週 国木田独歩「鎌倉夫人」②（読解）
- 第7週 横光利一「蠅」①（描写と説明）
- 第8週 横光利一「蠅」②（読解）
- 第9週 太宰治「千代女」①（「女」が語る）
- 第10週 太宰治「千代女」②（読解）
- 第11週 佐藤春夫「女誠扇綺譚」①（騙る語り手）
- 第12週 佐藤春夫「女誠扇綺譚」②（読解）
- 第13週 森鷗外「舞姫」①（同時代評の調査）
- 第14週 森鷗外「舞姫」②（読解）
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

- 事前学修（週2時間）：課題作品の読解。
- 事後学修（週2時間）：トレーニングシートの記入。

**【テキスト・教材】**

河野龍也・佐藤淳一・古川裕佳・山根龍一・山本良編『大学生のための文学トレーニング 近代編』（三省堂 2012年）2,100円を各自用意。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

トレーニングシートの提出50%、受講態度50%。シートの自己採点から研鑽の痕を判断し受講態度として考慮します。

**【参考書】**

デイヴィッド・ロッジ『小説の技巧』（白水社 1992年）、廣野由美子『批評理論入門』（中公新書 2005年）。

**【注意事項】**

テキストは授業開始時に速やかに購入してください。前期で使用するのは授業内容欄に示した各章です。テキストが購入できない特別な事情がある場合は教員に申告し、代替方法の指示を受けてください。提出物は原則テキスト付属のトレーニングシートを使い、格段の事情なく別の用紙での提出は認めません。



**近代現代文学史 a**

近代小説と研究法の歴史

河野 龍也

2年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

**【授業のテーマ】**

趣味としての読書と、大学で行う文学研究とは、どう違うのでしょうか。最近の娯楽小説では、「キャラクター（登場人物）の設定が面白い」「ストーリー展開が楽しい」などが重視される傾向にあるようです。しかし、これらは小説よりも、漫画・アニメや映画の得意分野かも知れません。

文学研究では、時間構成や語りの視点、説明と行動の矛盾や比喻の用い方など、「ことば」による表現だけが見せてくれる世界を捉えて行きます。キャラクターやストーリーに注目すると、作品の意味を一つに限定してしまうので、読み方も好き嫌いの「感想」に陥りやすい欠点を持っています。研究で大事なのは、一人の登場人物が場面に応じてふと見せる違った側面や、あらすじからは漏れてしまう一見「無駄」な説明に改めて注目してみることです。

この授業では、「近代小説の歴史」を学ぶとともに、文学作品の「分析方法の歴史」をも学んで行きます。二週で一作品を扱いながら、「文学理論の基礎概念」を習得した上で、「歴史のコンテクスト」の学習へと分け入り、従来の文学史の問題点もあわせて視野に入れていきます。文学史を学びつつ、小説分析の基礎も学んでしまおうというのがこの授業の目標です。

**【授業における到達目標】**

- ・日本近代文学研究に必要な文献収集の方法が身につく。
- ・文学作品と時代背景の関連性に課題を見出せるようになる。
- ・小説を芸術（美）の形式面から理解し説明できるようになる。

**【授業の内容】**

- 第1週 近代文学研究史概観
- 第2週 芥川龍之介「羅生門」（語りとは？）
- 第3週 志賀直哉「小僧の神様」①（作者とは？）
- 第4週 志賀直哉「小僧の神様」②（読解）
- 第5週 国木田独歩「鎌倉夫人」①（視点とは？）
- 第6週 国木田独歩「鎌倉夫人」②（読解）
- 第7週 横光利一「蠅」①（描写と説明）
- 第8週 横光利一「蠅」②（読解）
- 第9週 太宰治「千代女」①（「女」が語る）
- 第10週 太宰治「千代女」②（読解）
- 第11週 佐藤春夫「女誠扇綺譚」①（騙る語り手）
- 第12週 佐藤春夫「女誠扇綺譚」②（読解）
- 第13週 森鷗外「舞姫」①（同時代評の調査）
- 第14週 森鷗外「舞姫」②（読解）
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修（週2時間）：課題作品の読解。

事後学修（週2時間）：トレーニングシートの記入。

**【テキスト・教材】**

河野龍也・佐藤淳一・古川裕佳・山根龍一・山本良編『大学生のための文学トレーニング 近代編』（三省堂 2012年）2,100円を各自用意。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

トレーニングシートの提出50%、受講態度50%。シートの自己採点から研鑽の痕を判断し受講態度として考慮します。

**【参考書】**

デイヴィッド・ロッジ『小説の技巧』（白水社 1992年）、廣野由美子『批評理論入門』（中公新書 2005年）。

**【注意事項】**

テキストは授業開始時に速やかに購入してください。前期で使用するのは授業内容欄に示した各章です。テキストが購入できない特別な事情がある場合は教員に申告し、代替方法の指示を受けてください。提出物は原則テキスト付属のトレーニングシートを使い、格段の事情なく別の用紙での提出は認めません。

**近代現代文学史 b**

近代小説と研究法の歴史

河野 龍也

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

**【授業のテーマ】**

趣味としての読書と、大学で行う文学研究とは、どう違うのでしょうか。最近の娯楽小説では、「キャラクター（登場人物）の設定が面白いのか」「ストーリー展開が楽しいか」などが重視される傾向にあるようです。しかし、これらは小説よりも、漫画・アニメや映画の得意分野かも知れません。

文学研究では、時間構成や語りの視点、説明と行動の矛盾や比喻の用い方など、「ことば」による表現だけが見せてくれる世界を捉えて行きます。キャラクターやストーリーに注目すると、作品の意味を一つに限定してしまうので、読み方も好き嫌いの「感想」に陥りやすい欠点を持っています。研究で大事なものは、一人の登場人物が場面に応じてふと見せる違った側面や、あらすじからは漏れてしまう一見「無駄」な説明に改めて注目してみることです。

この授業では、「近代小説の歴史」を学ぶとともに、文学作品の「分析方法の歴史」をも学んで行きます。二週で一作品を扱いながら、「歴史のコンテキスト」の学習を経た上で、「活字の外へ」と研究対象を広げて行く予定です。単に作家名と作品名を暗記するだけの文学史ではなく、筆記用具や用紙、活字や出版形態まで含めた幅広い「本の歴史」を楽しみましょう。

**【授業における到達目標】**

- ・日本近代文学研究に必要な文献収集の方法が身につく。
- ・文学作品と時代背景の関連性に課題を見出せるようになる。
- ・小説を芸術（美）の形式面から理解し説明できるようになる。

**【授業の内容】**

- 第1週 近代文学研究史概観
- 第2週 田山花袋「少女病」①（都市論の基礎）
- 第3週 田山花袋「少女病」②（読解）
- 第4週 林芙美子「放浪記」①（記憶と記述）
- 第5週 林芙美子「放浪記」②（読解）
- 第6週 坂口安吾「真珠」①（同時代言説の調査）
- 第7週 坂口安吾「真珠」②（読解）
- 第8週 石川淳「焼跡のイエス」①（〈いま〉を語ること）
- 第9週 石川淳「焼跡のイエス」②（読解）
- 第10週 夏目漱石「坊っちゃん」（近代の書誌学）
- 第11週 樋口一葉「たけくらべ」（自筆原稿を読む）
- 第12週 芥川龍之介「舞踏会」（典拠研究）
- 第13週 井伏鱒二「山椒魚」（異本の研究）
- 第14週 谷崎潤一郎「蓼喰ふ虫」（挿絵とテキスト）
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

- 事前学修（週2時間）：課題作品の読解。
- 事後学修（週2時間）：トレーニングシートの記入。

**【テキスト・教材】**

河野龍也・佐藤淳一・古川裕佳・山根龍一・山本良編『大学生のための文学トレーニング 近代編』（三省堂 2012年）2,100円を各自用意。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

トレーニングシートの提出50%、受講態度50%。シートの自己採点から研鑽の痕を判断し受講態度として考慮します。

**【参考書】**

デイヴィッド・ロッジ『小説の技巧』（白水社 1992年）、廣野由美子『批評理論入門』（中公新書 2005年）。

**【注意事項】**

テキストは授業開始時に速やかに購入してください。後期で使用するのは授業内容欄に示した各章です。テキストが購入できない特別な事情がある場合は教員に申告し、代替方法の指示を受けてください。提出物は原則テキスト付属のトレーニングシートを使い、格段の理由なく別の用紙での提出は認めません。

**近代現代文学史 b**

近代小説と研究法の歴史

河野 龍也

2年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

**【授業のテーマ】**

趣味としての読書と、大学で行う文学研究とは、どう違うのでしょうか。最近の娯楽小説では、「キャラクター（登場人物）の設定が面白いか」「ストーリー展開が楽しいか」などが重視される傾向にあるようです。しかし、これらは小説よりも、漫画・アニメや映画の得意分野かも知れません。

文学研究では、時間構成や語りの視点、説明と行動の矛盾や比喻の用い方など、「ことば」による表現だけが見せてくれる世界を捉えて行きます。キャラクターやストーリーに注目すると、作品の意味を一つに限定してしまうので、読み方も好き嫌いの「感想」に陥りやすい欠点を持っています。研究で大事なのは、一人の登場人物が場面に応じてふと見せる違った側面や、あらすじからは漏れてしまう一見「無駄」な説明に改めて注目してみることです。

この授業では、「近代小説の歴史」を学ぶとともに、文学作品の「分析方法の歴史」をも学んで行きます。二週で一作品を扱いながら、「歴史のコンテキスト」の学習を経た上で、「活字の外へ」と研究対象を広げて行く予定です。単に作家名と作品名を暗記するだけの文学史ではなく、筆記用具や用紙、活字や出版形態まで含めた幅広い「本の歴史」を楽しみましょう。

**【授業における到達目標】**

- ・日本近代文学研究に必要な文献収集の方法が身につく。
- ・文学作品と時代背景の関連性に課題を見出せるようになる。
- ・小説を芸術（美）の形式面から理解し説明できるようになる。

**【授業の内容】**

- 第1週 近代文学研究史概観
- 第2週 田山花袋「少女病」①（都市論の基礎）
- 第3週 田山花袋「少女病」②（読解）
- 第4週 林芙美子「放浪記」①（記憶と記述）
- 第5週 林芙美子「放浪記」②（読解）
- 第6週 坂口安吾「真珠」①（同時代言説の調査）
- 第7週 坂口安吾「真珠」②（読解）
- 第8週 石川淳「焼跡のイエス」①（〈いま〉を語ること）
- 第9週 石川淳「焼跡のイエス」②（読解）
- 第10週 夏目漱石「坊っちゃん」（近代の書誌学）
- 第11週 樋口一葉「たけくらべ」（自筆原稿を読む）
- 第12週 芥川龍之介「舞踏会」（典拠研究）
- 第13週 井伏鱒二「山椒魚」（異本の研究）
- 第14週 谷崎潤一郎「蓼喰ふ虫」（挿絵とテキスト）
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

- 事前学修（週2時間）：課題作品の読解。
- 事後学修（週2時間）：トレーニングシートの記入。

**【テキスト・教材】**

河野龍也・佐藤淳一・古川裕佳・山根龍一・山本良編『大学生のための文学トレーニング 近代編』（三省堂 2012年）2,100円を各自用意。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

トレーニングシートの提出50%、受講態度50%。シートの自己採点から研鑽の痕を判断し受講態度として考慮します。

**【参考書】**

デイヴィッド・ロッジ『小説の技巧』（白水社 1992年）、廣野由美子『批評理論入門』（中公新書 2005年）。

**【注意事項】**

テキストは授業開始時に速やかに購入してください。後期で使用するのは授業内容欄に示した各章です。テキストが購入できない特別な事情がある場合は教員に申告し、代替方法の指示を受けてください。提出物は原則テキスト付属のトレーニングシートを使い、格段の理由なく別の用紙での提出は認めません。

**近代読者論**

〈作者〉から〈読者〉へ

掛野 剛史

1・2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

**【授業のテーマ】**

この授業は〈読者〉に注目する授業です。〈読者〉を歴史的な存在として考え、近代読者の成立からその展開を、具体的なモノを対象にして考えていきます。

しかし〈読者〉に注目するといっても具体的にはどうすればよいのでしょうか。また〈読者〉に注目することで何が見えてくるのでしょうか。普段当たり前になっている〈読書〉という行為を歴史的に考えてみることで、新しい発見や気づきがあるはずです。実際のモノを可能な限り用意し、知的好奇心を刺激する授業になることを目指したいと思います。

**【授業における到達目標】**

- ・身の回りのことと関連付けながら、読書文化について歴史的に考察する態度を身に付ける。【国際的視野】
- ・さまざまな文献や情報から幅広い視野をもって、読者文化を歴史的に考察することができるようになる。【研鑽力】

**【授業の内容】**

- 第1週 授業の内容、目標確認。受講意識確認。
- 第2週 読者論の方法について
- 第3週 女性雑誌の読者①戦前の女性誌
- 第4週 女性雑誌の読者②戦後の女性誌
- 第5週 女性雑誌を解剖する① タイトル・表紙
- 第6週 女性雑誌を解剖する② 広告
- 第7週 女性雑誌を解剖する③ 記事分類
- 第8週 女性雑誌を解剖する④ 通時的分析
- 第9週 児童雑誌の読者①『赤い鳥』
- 第10週 児童雑誌の読者②『赤い鳥』
- 第11週 児童雑誌を解剖する① タイトル・表紙
- 第12週 児童雑誌を解剖する② 広告
- 第13週 児童雑誌を解剖する③ 投書という行為
- 第14週 児童雑誌を解剖する④ 創作欄
- 第15週 まとめ（レポートに向けて）

**【事前・事後学修】**

【事前学修】授業内容を振り返りながら、指示された文献などを読んでおき、疑問点などを考えておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業内容を振り返りながら、理解したことや疑問点をまとめ、レポートに備えること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを使用します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート50%、平常点（コメントペーパー）50%  
コメントペーパーは毎回授業の終わりに書く。三段階で評価し、取り上げるべきものは次回授業冒頭で紹介。

**【参考書】**

前田愛『近代読者の成立』（岩波現代文庫他）  
永嶺重敏『雑誌と読者の近代』（日本エディタースクール出版部）  
その他は授業内で指示します。

**【注意事項】**

授業内では、個人でまたはグループで考えて発言してもらったり、コメントを書いてもらったりしますので、主体的な受講態度を求めます。受講人数によって授業の進め方を変える可能性があります。

**近代文学演習A**

近代文学、草稿をよむ

棚田 輝嘉

国文学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

文学者の自筆草稿を取り上げて、草稿研究の方法、意義、問題点などについて、具体的に作業をしながら検討する。

**【授業における到達目標】**

文学作品の生成過程について、理解を深めると共に、より深い技能と知識を獲得する。

DPの「学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることが出来る。」に対応しています。

**【授業の内容】**

- 第1週 本研究の進め方と手順
- 第2週 草稿とはなにか
- 第3週 生成論の基礎
- 第4週 「瀬山の話(仮題)」翻刻 24～28
- 第5週 「瀬山の話(仮題)」翻刻 29～34
- 第6週 「瀬山の話(仮題)」翻刻 35～38
- 第7週 「瀬山の話(仮題)」翻刻 39～43
- 第8週 「瀬山の話(仮題)」翻刻 44～48
- 第9週 「瀬山の話(仮題)」翻刻 49～53
- 第10週 「瀬山の話(仮題)」翻刻 54～58
- 第11週 「瀬山の話(仮題)」翻刻 59～63
- 第12週 「瀬山の話(仮題)」翻刻 64～65
- 第13週 全体の見直し
- 第14週 問題点の最終チェック
- 第15週 翻刻に関わる諸問題のまとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】週2時間。予め草稿本文の翻刻作業を行っておくこと。

【事後学修】週2時間。講義で行った作業を再整理すること。

**【テキスト・教材】**

こちらで用意する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への取り組み 課題・質疑など）80%

提出物 20%

毎時間、行った作業内容を確認し、コメント等のフィードバックを行う。

**【参考書】**

適宜指示する。

**【注意事項】**

積極的に参加すること。

**近代文学演習B**

近代文学、草稿を読む

棚田 輝嘉

国文学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

文学者の自筆草稿を取り上げて、草稿研究の方法、意義、問題点などについて、具体的に作業をしながら検討する。

**【授業における到達目標】**

文学作品の生成過程について、理解を深めると共に、より深い技能と知識を獲得する。

DPの「学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることが出来る。」に対応しています。

**【授業の内容】**

- 第1週 授業の進め方と手順
- 第2週 原稿用紙の話
- 第3週 淀野隆三について
- 第4週 淀野隆三履歴書
- 第5週 「祖母と私」翻刻 1～2
- 第6週 「祖母と私」翻刻 3～5
- 第7週 「弁当」翻刻 1～2
- 第8週 「弁当」翻刻 3～4
- 第9週 「詩人」翻刻
- 第10週 「花街に近き踏切番の独白」翻刻
- 第11週 「夜警」翻刻
- 第12週 「やゝ道ある時代」翻刻 1～5
- 第13週 「やゝ道ある時代」翻刻 6～終わり
- 第14週 淀野隆三と梶井基次郎
- 第15週 人の体を読むということ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】週2時間。予め草稿本文の翻刻作業を行っておくこと。

【事後学修】週2時間。講義で行った作業を再整理すること。

**【テキスト・教材】**

こちらで用意する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への取り組み 課題・質疑など）80%

提出物 20%

毎時間、行った作業内容を確認し、コメント等のフィードバックを行う。

**【参考書】**

適宜指示する。

**【注意事項】**

積極的に参加すること。

## 近代文学基礎演習 1

近代作家の手紙を読む

河野 龍也

2年 前期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

大正期浪漫主義の巨匠・佐藤春夫を中心とする近代日本の文壇人の交流について、実践女子大学が所蔵・保管する多数の書簡を読み解きながら考察します。

紀州新宮に生れた佐藤春夫は、10代の頃から『スバル』『三田文学』の少年歌人・詩人として活躍し始めます。数年間の雌伏のうち、大正7(1918)年に小説家として再デビュー。面倒見のよさで知られた春夫のもとには多数の文学青年が出入りし、それぞれに成長しました。

佐藤春夫をめぐる書簡群は、日本の近代文壇の縮図といえるような多様さを持っています。いまだ広く知られてはいない貴重な現物資料のコピーを読み解きながら、文壇で育まれた師弟の信頼、友情、そして恋について新しい発見をして行きましょう。

## 【授業における到達目標】

- ・実際の書簡資料に触れることで、芸術をめぐる作家たちの対話の息吹を感じることができる(美の探究)。
- ・思考と調査の結果を適切に説明するプレゼンテーション能力が身につく(行動力)。
- ・他の学生からの意見を受け止めて考察に反映させる対話の力が身につく(協働力)。

## 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 佐藤春夫概説
- 第3週 書簡の読解①
- 第4週 書簡の読解②
- 第5週 書簡の読解③
- 第6週 書簡の読解④
- 第7週 書簡の読解⑤
- 第8週 書簡の読解⑥
- 第9週 書簡の読解⑦
- 第10週 書簡の読解⑧
- 第11週 書簡の読解⑨
- 第12週 書簡の読解⑩
- 第13週 書簡の読解⑪
- 第14週 書簡の読解⑫
- 第15週 まとめ

この授業では、毎回異なる書簡を読み解いていきます。引き続き後期(近代文学基礎演習2)を受講する場合でも、もちろん内容は繰り返しではなく、新しい素材に挑戦していきます。

## 【事前・事後学修】

事前学修(週2時間)：書簡の読解、発表準備。

事後学修(週2時間)：疑問についての再考察。発表の補足準備。

## 【テキスト・教材】

教材はmanabaを用いて配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表50%、討論参加の積極性・受講の姿勢50%で評価します。

フィードバック：回収したコメントカードから疑問点を抽出し、これに基づいて調査すべき項目を発表担当者に割り振ります。

## 【参考書】

『定本佐藤春夫全集』(1998～2001臨川書店)。河野龍也編『佐藤春夫読本』(2015勉誠出版)。

## 近代文学基礎演習 1

詩を読む

棚田 輝嘉

2年 前期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

詩は難しい、と思っはいませんか？詩は難しいのではなく、詩を知らないのです。

詩を読み解くためには、様々な技巧、詩の持つ「文法」、詩の成り立つ背景、などを知る必要があります。

本講義では、よく知られた詩作品を取り上げて、作者、詩の成立背景、詩に用いられている技巧を検討し、そこから詩作品の解釈を行うという作業を、演習を通して行ってまいります。

## 【授業における到達目標】

詩の内容を、作品成立の背景も含めて理解できるようにする。特に、DPの「物事の真理を探究することによって、新たな知を創造すること」、「互いを尊重し信頼を醸成して、豊かな人間関係を構築する」能力の修得を、基本的な目標にしています。

## 【授業の内容】

- 第1週 演習の手順と方法
- 第2週 詩とは何か
- 第3週 詩の構造
- 第4週 詩の技法
- 第5週 演習1：島崎藤村「初恋」
- 第6週 演習2：高村光太郎「レモン哀歌」
- 第7週 演習3：萩原朔太郎「竹」
- 第8週 演習4：室生犀星「ふるさと」
- 第9週 演習5：北原白秋「からたちの花」
- 第10週 演習6：宮沢賢治「永訣の朝」
- 第11週 演習7：伊藤静雄「わがひとに与ふる哀歌」
- 第12週 演習8：中原中也「月夜の浜辺」
- 第13週 アンサー編(演習1～4)
- 第14週 アンサー編(演習5～8)
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】週2時間。予め配られたレジュメを読んでおくこと。

【事後学修】週2時間。授業で扱わなかった詩作品を読んでみることに。

## 【テキスト・教材】

『教科書でおぼえた名詩』文春文庫 583円(税込)(2005年文芸春秋編集)

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業への取り組み 課題・質疑など)65%  
演習した学生は演習内容、演習を行わなかった学生はレポート 35%

提出された課題、レジュメについて、コメント等のフィードバックを行う。

## 【参考書】

演習者は、事前相談の時に指示する。

その他、授業中適宜指示する。

## 【注意事項】

積極的な授業参加を希望します。

## 近代文学基礎演習 1

見ること、語ること

奴田原 論

2年 前期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

江戸川乱歩は言わずと知れた探偵小説界の巨星です。現在に於けるミステリー小説の隆盛も、乱歩の存在を抜きに語ることは出来なないでしょう。この探偵小説、或いは推理小説・ミステリー小説は社会派などということばを冠す場合もありますが、エンターテインメントに分類されます。乱歩もその文脈で捉えられ、そしてその作品は、エンターテインメントということばに恥じぬ、読んで面白いものです。しかし、実はその面白さを十二分に味わう為には、文学作品と対峙する際の基本事項を押さえておく必要があります。逆に言えば、探偵小説を紐解くことで、その基本を身につけることが出来るのです。その目論見を持ちつつ、乱歩の短篇を精読して行きます。

## 【授業における到達目標】

確かな考察を元に、しっかりと構成された発表を行うこと。同時に、自分の考え・論理が適切に反映された発表資料を作成出来ること。その前提となる、「真理の探究による新たな知の創造」を求め、「広い視野と深い洞察力によって本質を見抜く」能力を身に付ける。

## 【授業の内容】

- 1 ガイダンスー授業の進め方
- 2 本格探偵小説・変格探偵小説
- 3 「二銭銅貨」
- 4 「二癡人」
- 5 「D坂の殺人事件」
- 6 「心理試験」
- 7 「赤い部屋」
- 8 「屋根裏の散歩者」
- 9 「人間椅子」
- 10 「鏡地獄」
- 11 「芋虫」
- 12 「押し絵と旅する男」
- 13 「双生児」
- 14 「一枚の切符」
- 15 まとめー江戸川乱歩とは何か

## 【事前・事後学修】

【事前学修】授業にて扱われる作品を精読した上で、自分なりの疑問点や解釈をまとめておく。（学修時間 週二時間）

【事後学修】発表者や他の出席者と自分の意見との相違点等を把握し、違いに至った理由・根拠について考察すること。（学修時間 週二時間）

## 【テキスト・教材】

一回目の授業にて指示します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表50%、質問・意見といった授業への参加態度50%で評価します。発表そのもの、また発表者に対する質問・意見に対して、担当者がその場でコメントする形でフィードバックします。

## 【参考書】

一回目の授業にて指示します。

## 【注意事項】

積極的な質問・意見は、自らの発表担当時に大きく役立ちます。演習に於いては質問・意見の無いときは欠席と同様、といった程度に考えておいて欲しいものです。

## 近代文学基礎演習 2

近代作家の手紙を読む

河野 龍也

2年 後期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

大正期浪漫主義の巨匠・佐藤春夫を中心とする近代日本の文壇人の交流について、実践女子大学が所蔵・保管する多数の書簡を読み解きながら考察します。

紀州新宮に生れた佐藤春夫は、10代の頃から『スバル』『三田文学』の少年歌人・詩人として活躍し始めます。数年間の雌伏のうち、大正7（1918）年に小説家として再デビュー。面倒見のよさで知られた春夫のもとには多数の文学青年が出入りし、それぞれに成長しました。

佐藤春夫をめぐる書簡群は、日本の近代文壇の縮図といえるような多様さを持っています。いまだ広く知られてはいない貴重な現物資料のコピーを読み解きながら、文壇で育まれた師弟の信頼、友情、そして恋について新しい発見をして行きましょう。

## 【授業における到達目標】

- ・実際の書簡資料に触れることで、芸術をめぐる作家たちの対話の息吹を感じることが出来る（美の探究）。
- ・思考と調査の結果を適切に説明するプレゼンテーション能力が身につく（行動力）。
- ・他の学生からの意見を受け止めて考察に反映させる対話の力が身につく（協働力）。

## 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 佐藤春夫概説
- 第3週 書簡の読解①
- 第4週 書簡の読解②
- 第5週 書簡の読解③
- 第6週 書簡の読解④
- 第7週 書簡の読解⑤
- 第8週 書簡の読解⑥
- 第9週 書簡の読解⑦
- 第10週 書簡の読解⑧
- 第11週 書簡の読解⑨
- 第12週 書簡の読解⑩
- 第13週 書簡の読解⑪
- 第14週 書簡の読解⑫
- 第15週 まとめ

この授業では、前期と異なる書簡を扱います。前期から引き続いての受講生にも、後期からの受講生にも対応しています。

## 【事前・事後学修】

事前学修（週2時間）：書簡の読解、発表準備。

事後学修（週2時間）：疑問についての再考察。発表の補足準備。

## 【テキスト・教材】

教材はmanabaを用いて配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表50%、討論参加の積極性・受講の姿勢50%で評価します。

フィードバック：回収したコメントカードから疑問点を抽出し、これに基づいて調査すべき項目を発表担当者に割り振ります。

## 【参考書】

『定本佐藤春夫全集』（1998～2001臨川書店）。河野龍也編『佐藤春夫読本』（2015勉誠出版）。

## 近代文学基礎演習 2

詩を読む

棚田 輝嘉

2年 後期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

詩は難しい、と思っはいませんか？詩は難しいのではなく、詩を知らないのです。

詩を読み解くためには、様々な技巧、詩の持つ「文法」、詩の成り立つ背景、などを知る必要があります。

本講義では、よく知られた詩作品を取り上げて、作者、詩の成立背景、詩に用いられている技巧を検討し、そこから詩作品の解釈を行うという作業を、演習を通して行ってもらいます。

## 【授業における到達目標】

詩の内容を、作品成立の背景も含めて理解できるようにする。

詩の内容を、作品成立の背景も含めて理解できるようにする。

特に、DPの「物事の真理を探究することによって、新たな知を創造する」ことと、「互いを尊重し信頼を醸成して、豊かな人間関係を構築する」能力の修得を、基本的な目標にしています。

## 【授業の内容】

第1週 演習の手順と方法

第2週 詩史（明治）

第3週 詩史（大正）

第4週 詩史（昭和～）

第5週 演習1：立原道造「はじめてのものに」

第6週 演習2：三好達治「贅のうへ」

第7週 演習3：中野重治「歌」

第8週 演習4：原民喜「水ヲ下サイ」

第9週 演習5：谷川俊太郎「二十億光年の孤独」

第10週 演習6：茨木のり子「自分の感受性くらい」

第11週 演習7：石垣りん「表札」

第12週 演習8：吉野弘「夕焼け」

第13週 アンサー編（演習1～4）

第14週 アンサー編（演習5～8）

第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】週2時間。予め配られたレジュメを読んでおくこと。

【事後学修】週2時間。授業で扱わなかった詩作品を読んでみること。

## 【テキスト・教材】

『教科書でおぼえた名詩』 文春文庫 583円(税込) (文芸春秋編集 2005年)

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への取り組み 課題・質疑など）65%

演習した学生は演習内容、演習を行わなかった学生はレポート 35%

提出された課題、レジュメについて、コメント等のフィードバックを行う。

## 【参考書】

演習者は、事前相談の時に指示する。

その他、授業中適宜指示する。

## 【注意事項】

積極的な授業参加を希望します。

## 近代文学基礎演習 2

書くこと、語ること

奴田原 論

2年 後期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

遠藤周作はキリスト教作家、カトリック作家と言われます。もちろんそれは遠藤自身が受洗し、キリスト教の信仰を持っていたからでもあります。遠藤周作の場合その実生活と作品との間には切っても切れない関係があると言えるでしょう。彼の作品そのものの中でキリスト教と文学、信仰と文学の問題が問われています。故に、遠藤作品に於いてキリスト教理解は必須のものとも言えますが、もちろん作品はそれだけで理解出来るものでもありません。書くということ、語るということとは何か、少し大きすぎるテーマではありますが、「海と毒薬」を通して、この、文学に於ける根本問題に迫り、文学することの意味を考え、文学することの方法を身に付けてもらいます。

## 【授業における到達目標】

確かな考察を元に、しっかりと構成された発表を行うこと。同時に、自分の考え・論理が適切に反映された発表資料を作成出来ること。その前提となる、「真理の探究による新たな知の創造」を求め、「広い視野と深い洞察力によって本質を見抜く」能力を身に付ける。

## 【授業の内容】

1 ガイダンス—信仰と文学

2 九大生体解剖事件

3 上総英郎「方法的実験—『青い小さな葡萄』より『海と毒薬』」を読む

4 「海と毒薬」—「第一章 海と毒薬 〇」

5 「海と毒薬」—「第一章 海と毒薬 Ⅰ」

6 「海と毒薬」—「第一章 海と毒薬 Ⅱ」

7 「海と毒薬」—「第一章 海と毒薬 Ⅲ」

8 「海と毒薬」—「第一章 海と毒薬 Ⅳ」

9 「海と毒薬」—「第一章 海と毒薬 Ⅴ」

10 「海と毒薬」—「第二章 裁かれる人々 Ⅰ看護婦」

11 「海と毒薬」—「第二章 裁かれる人々 Ⅱ医学生」

12 「海と毒薬」—「第二章 裁かれる人々 Ⅲ午後三時」

13 「海と毒薬」—「第三章 夜のあけるまで Ⅰ」

14 「海と毒薬」—「第三章 夜のあけるまで Ⅱ」

15 まとめ—罪・罰、そして悪

## 【事前・事後学修】

【事前学修】授業にて扱われる作品を精読した上で、自分なりの疑問点や解釈をまとめておく。（学修時間 週二時間）

【事後学修】発表者や他の出席者と自分の意見との相違点等を把握し、違いに至った理由・根拠について考察すること。（学修時間 週二時間）

## 【テキスト・教材】

一回目の授業にて指示します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表50%、質問・意見といった授業への参加態度50%で評価します。

発表そのもの、また発表者に対する質問・意見に対して、担当者がその場でコメントする形でフィードバックします。

## 【参考書】

上総英郎『遠藤周作論』（春秋社）・東野利夫『汚名「九大生体解剖事件」の真相』（文春文庫）・熊野以素『九州大学生体解剖事件—70年目の真実』（岩波書店）

## 【注意事項】

積極的な質問・意見は、自らの発表担当時に大きく役立ちます。演習に於いては質問・意見の無いときは欠席と同様、といった程度に考えておいて欲しいものです。



**近代文学基礎講読 a**

—efクラス基礎的な訓練として近代の短編小説や随筆を読みま  
す—

土屋 聡

1年 前期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

課題レポート（70%）、ペーパー（30%）で評価します。

ペーパーの内容には次週、レポートについては最終回にフィード  
バックを行います。

**【参考書】**

特にありません。

**【注意事項】**

配布されたプリントに従って、授業開始前までに作品を必ず読ん  
でてください。

また、授業中の私語は厳禁とします。

**【授業のテーマ】**

文学作品はことばで構成されています。たとえば「学校」と聞いて理解することは共通であっても、具体的に何をイメージするかは聞き手それぞれに異なります。それは聞き手自身の学校での体験や記憶の世界に支えられているためです。同様に、作品の中に表現されていることばも、一見明瞭なようで、実はその作品世界に複雑に支えられています。

この授業では、一見わかりやすそうなことばで構成されたテキストを通じ、単なる概念に単純化されること無く織り上げられた世界をひろく読み取るための方法を、みなさんそれぞれが身につけることを目的とします。それはまた、自分と異なる視点や感覚を持つ他者を発見することであり、ひいてはみなさん自身の世界観や個性を発見し、視野を広げてゆくことにもつながってゆくことと思いません。

作品を精読し、そこで読み取りうる解釈をいくつか示しつつ授業は進行します。みなさんの事前の読みや理解と何が同じで何が異なるのか、その分岐点はどこなのか。それらに注意し、メモを行うようにしましょう。

また、授業の最後には毎回出席を兼ねてペーパーを書いていただきます。授業の感想や身の回りの出来事など内容は限定しませんが、読み手に伝わりやすい的確な表現を身につける訓練ともなります。

**【授業における到達目標】**

学生が修得すべき能力のうち、特に作品の内容を正しく把握して課題を発見できる「行動力」と、読解を通じて深い視野と洞察力を身につける「研鑽力」とを修得することをめざします。

- ・日本の近現代にあらわれたさまざまな文体をあげ、理解することができる。
- ・いわゆる旧漢字旧仮名遣いに慣れ、読みこなすことができる。
- ・自らの考えを客観的に捉え、的確に表現することができる。

**【授業の内容】**

- 第1週 はじめに
- 第2週 樋口一葉 「大つごもり」(1) 文語の小説
- 第3週 樋口一葉 「大つごもり」(2) 心理の描写
- 第4週 樋口一葉 「大つごもり」(3) 疎外されるもの
- 第5週 樋口一葉 「大つごもり」(4) 結末
- 第6週 近代詩歌と小説の成り立ちを大まかに知る (1)
- 第7週 近代詩歌と小説の成り立ちを大まかに知る (2)
- 第8週 泉鏡花 「外科室」(1) 冒頭を読み解く
- 第9週 泉鏡花 「外科室」(2) 二人の死
- 第10週 泉鏡花 「外科室」(3) かしこきところへの配慮
- 第11週 谷崎潤一郎 「秘密」(1) 外部へのあこがれ
- 第12週 谷崎潤一郎 「秘密」(2) 雑踏のなか
- 第13週 谷崎潤一郎 「秘密」(3) かけひき
- 第14週 谷崎潤一郎 「秘密」(4) 秘密とは
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修（学修時間 週二時間）

作品の授業範囲で扱う箇所必ず目を通してください。その際、意味の判らない語句を調べ、読み取った内容を簡単にメモしましょう。

事後学修（学修時間 週二時間）

もう一度読み進めた箇所を精読しなおします。授業中にとったメモを元に、作品の筋道と読みのポイントをノートにまとめてください。

**【テキスト・教材】**

プリントを配布します。

## 近代文学基礎講読 a

—cdクラス 現代文学への道筋—

奴田原 論

1年 前期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

21世紀を迎えた現代に於いても日々、新たな文学作品は生み出されています。こういった、我々の人生と同時進行的に迎えられる作品は（現代文学）とも呼ばれます。この〈現代文学〉、それは突然生み出されたものではありません。過去の文学作品をどこかしら引きずりつつ、逆にまったく断絶した形で成立しているものもあるでしょう。戦前から始まり現代へと、そこには何かしらの明確な道筋を見出すことが出来るのかどうか、それを具体的な作品を取り上げつつ検証してみたいと思います。

## 【授業における到達目標】

現代に至るまでの過程としての文学史を理解し、現代に於ける文学を取り巻く問題に関して積極的に考える力を身に付けることで「学ぶ愉しみを知り、生涯にわたり知を探求し、学問を続ける」力を得る。その過程で「物事の真理を探究することによって、新たな知を想像しようとする態度」を身に付ける。

## 【授業の内容】

- 1 〈文学する〉ということ
- 2 戦前の文学
- 3 戦中・戦後の文学
- 4 津島修治と太宰治
- 5 太宰治「人間失格」（1948）
- 6 実存主義と安部公房
- 7 安部公房「砂の女」（1962）
- 8 キリスト教と遠藤周作
- 9 遠藤周作「沈黙」（1966）
- 10 並行世界という表現
- 11 村上春樹「世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド」（1985）
- 12 森見登美彦「四畳半神話大系」（2005）
- 13 「新釈 走れメロス」（2007）
- 14 宮部みゆき「とり残されて」（1992）
- 15 まとめ—現代文学の行方

## 【事前・事後学修】

【事前学修】授業にて扱われる作品について調べ、自分なりの疑問点や解釈をまとめておく。（学修時間 週2時間）

【事後学修】担当者と自分の意見との相違点等を把握し、違いに至った理由・根拠について考察する。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

担当者作成のプリントを授業時に配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学期末提出の小論文70%、意見表明という形での参加態度30%で評価します。後者の意見表明は毎回提出してもらったコメントカード（またはコンピュータを介したフォーム）によって実現しますが、翌週にはいくつかのコメントをピックアップし、皆で共有できるよう、担当者による見解を述べます。

## 【参考書】

特になし

## 【注意事項】

研究とは自分の中だけで完結してしまうものではありません。深く考えると同時に、いかにして伝えるかということを考えて下さい。また、講義にて扱われる作品はもちろんのこと、映画・ドラマ・テレビ番組・漫画作品、あらゆる事に積極的な興味を持って下さい。

## 近代文学基礎講読 a

—abクラス 女学生と近代文学の関係—

井原 あや

1年 前期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

この授業では、近代文学に描かれた女学生（および女学校を卒業した女性）を検討し、文学作品を通して、時代と女学生の繋がりや女学生という言葉の背後にある社会規範を読み解くことを目指します。

特に前期の授業では、明治期の小説に描かれた女学生に注目し、自然主義文学の作家・田山花袋による「少女病」「蒲団」の二作品を中心に読解します。

## 【授業における到達目標】

この授業では、以下の態度や力を身につけることが出来ます。

- ・文学作品を読解することで感受性を深め、新たな知を創造する態度
- ・文学作品が生まれた社会背景を理解し、そこに生じた課題を発見する力
- ・互いに意見を出し合い、文学作品を批評的に分析する力

## 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス（授業の進め方など）
- 第2週 女学校の誕生
- 第3週 女学生と女子教育
- 第4週 女学生と「教養」の関係
- 第5週 女学生のその後
- 第6週 田山花袋について（作者紹介）
- 第7週 田山花袋「少女病」1（時代背景）
- 第8週 田山花袋「少女病」2（都市）
- 第9週 田山花袋「少女病」3（女学生へのまなざし）
- 第10週 田山花袋「蒲団」1（同時代評・先行研究）
- 第11週 田山花袋「蒲団」2（自然主義文学）
- 第12週 田山花袋「蒲団」3（女性の描き方）
- 第13週 田山花袋「蒲団」4（「墮落女学生」について）
- 第14週 他作家が描く女学生との関連・比較
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

## 【事前学修】

次回授業範囲のテキスト・プリントの語句を調べておいて下さい。（学修時間 週2時間）

## 【事後学修】

授業中に説明した用語を理解し、小テスト・試験に向けて授業内容を復習して下さい。参考書に挙げた図書を読み、理解を深めて下さい。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

田山花袋『蒲団 一兵卒』（岩波文庫、2002年）496円

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

以下3点から評価します。

- (1) 平常点（授業への積極的参加、ワークシート、コメントペーパーの提出）20%
- (2) 小テスト40%  
（テスト翌週の授業でフィードバックを行います）
- (3) 試験40%（授業最終回でフィードバックを行います）

## 【参考書】

稲垣恭子『女学校と女学生 教養・たしなみ・モダン文化』（中央公論新社、2007年）

## 近代文学基礎講読 b

—cdクラス 樋口一葉の日記と小説—

河野 龍也

1年 後期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

貧困と病苦のなか、20代半ばで亡くなる樋口一葉は、最晩年の一年間に「にぎりえ」「たけくらべ」をはじめとする近代文学の傑作を数多く残します。身に着けた和歌の教養があだとなり、はじめは王朝物語の模倣作しか書けなかった一葉が、いったん創作を離れ、再び筆を執ったときには、明治の家庭生活を題材とした現代小説に驚くべき才能を示したのです。この成長のかけには一体何があったのでしょうか。

それを知る鍵として、10代半ばから一葉が書き継いできた日記の存在が知られています。この授業では、一葉の作品を読み解くとともに、彼女の優れた日記も読み進めていきます。小説の師・半井桃水への淡い恋心や、それが同僚の噂の種にされてしまった苦痛、そしてみじめな境遇の女性に対する思いやりや文学への熱意など、日記に現れた一人の女性の生き方は、同年代の皆さんにも共感が持てるものでしょう。一葉の言葉を丹念に追いながら、近代という時代に女性がどう向き合ったのかを考えていきます。

### 【授業における到達目標】

- ・明治期の文語文のリズムに親しみ、理解できるようになる（美の探求）。
- ・歴史研究の基本文献を使って時代考証ができるようになる（行動力）。
- ・学生どうしの議論を通じて、明治の社会に生きる女性の生活について考察を深めることができる（協働力）。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 樋口一葉の生涯について
- 第3週 映像鑑賞
- 第4週 「一葉日記」読解—萩乃舎での修行①
- 第5週 「一葉日記」読解—萩乃舎での修行②
- 第6週 「一葉日記」読解—萩乃舎での修行③
- 第7週 「一葉日記」読解—半井桃水との交流①
- 第8週 「一葉日記」読解—半井桃水との交流②
- 第9週 「一葉日記」読解—半井桃水との交流③
- 第10週 「一葉日記」読解—吉原裏の駄菓子屋にて
- 第11週 「一葉日記」読解—晩年の活躍
- 第12週 樋口一葉「たけくらべ」解説①
- 第13週 樋口一葉「たけくらべ」解説②
- 第14週 樋口一葉「たけくらべ」解説③
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修（週2時間）：原文（または現代語訳）の読解

事後学修（週2時間）：古語表現の調査・再確認

### 【テキスト・教材】

毎回プリントを用意します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点60%（コメントカードの提出・受講態度）とレポート40%で総合評価します。カードの内容を紹介し、討論や考察のきっかけとします。

### 【参考書】

樋口一葉『にぎりえ』現代語訳（河出文庫 2004年）、同『たけくらべ』現代語訳（同）、菅聡子編『樋口一葉小説集』（ちくま文庫 2005年）、関礼子編『樋口一葉日記・書簡集』（同）、佐伯順子編『一葉語録』（岩波現代文庫 2004年）。

## 近代文学基礎講読 b

—efクラス基礎的訓練として小説や随筆、詩歌作品を読みます—

土屋 聡

1年 後期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

初回は前期で学んだ内容を踏まえて軽くガイダンスを行ったうえで、引き続き作品を読みすすめます。

また、講読で取り上げた作品について書かれた研究論文もとりあげ、作品の精読から研究につながるプロセスを理解します。

また、授業の最後には毎回出席を兼ねてペーパーを書いています。授業の感想や身の回りの出来事など内容は限定しませんが、読み手に伝わりやすい的確な表現を身につける訓練ともなります。

### 【授業における到達目標】

学生が修得するべき能力のうち、特に作品の内容を正しく把握して課題を発見できる「行動力」と、読解を通じて深い視野と洞察力を身につける「研鑽力」とを修得することをめざします。

- ・日本の近現代にあらわれたさまざまな文体をあげ、理解することができる。
- ・いわゆる旧漢字旧仮名遣いに慣れ、読みこなすことができる。
- ・自らの考えを客観的に捉え、的確に表現することができる。

### 【授業の内容】

- 第1週 吉井勇 「夏のおもひで」（1） 近代の短歌の世界
- 第2週 吉井勇 「夏のおもひで」（2） 恋の行方
- 第3週 志賀直哉 「范の犯罪」（1） 事件の発生
- 第4週 志賀直哉 「范の犯罪」（2） 夫婦という他人
- 第5週 志賀直哉 「范の犯罪」（3） 犯罪という制度
- 第6週 志賀直哉 「范の犯罪」（4） 投げかけられた問い
- 第8週 芥川龍之介 「藪の中」（1） 事の発端
- 第9週 芥川龍之介 「藪の中」（2） 秘すべきこと
- 第10週 芥川龍之介 「藪の中」（3） 語るということ
- 第11週 映像資料等を利用し作品への理解を深める
- 第12週 横光利一 「蠅」（1） 視点の変化
- 第13週 横光利一 「蠅」（2） 新感覚とは
- 第14週 出版社のPR誌を読む 再考の大切さ
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修（学修時間 週2時間）

作品の授業範囲で扱う箇所を必ず目を通してください。その際、意味の判らない語句を調べ、読み取った内容を簡単にメモしましょう。

事後学修（学修時間 週2時間）

もう一度読み進めた箇所を精読しなおします。授業中にとったメモを元に、作品の筋道と読みのポイントをノートにまとめてください。

### 【テキスト・教材】

プリントを配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題レポート（70%）、ペーパー（30%）で評価します。

ペーパーの内容には次週、レポートについては最終回にフィードバックを行います。

### 【参考書】

特にありません。

### 【注意事項】

配布されたプリントに従って、授業開始前までに作品を必ず読んでください。

また、授業中の私語は厳禁とします。

**近代文学基礎講読 b**

—abクラス 女学生と近代文学の関係—

井原 あや

1年 後期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

この授業では、近代文学に描かれた女学生（および女学校を卒業した女性）を検討し、文学作品を通して、時代と女学生の繋がりや女学生という言葉の背後にある社会規範を読み解くことを目指します。

特に後期の授業では、数多くの（女性一人称小説）を書いたことで知られる作家・太宰治に注目し、「女生徒」「千代女」の二作品を中心に読解します。

**【授業における到達目標】**

この授業では、以下の態度や力を身につけることが出来ます。

- ・文学作品を読解することで感受性を深め、新たな知を創造する態度
- ・文学作品が生まれた社会背景を理解し、そこに生じた課題を発見する力
- ・互いに意見を出し合い、文学作品を批評的に分析する力

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス（授業の進め方など）
- 第2週 女学生が読んだ雑誌
- 第3週 太宰治について
- 第4週 太宰治「女生徒」1（作品紹介）
- 第5週 太宰治「女生徒」2（同時代評・先行研究）
- 第6週 太宰治「女生徒」3（読解）
- 第7週 太宰治「女生徒」と「有明淑の日記」
- 第8週 「有明淑の日記」を読む
- 第9週 太宰治「俗天使」を読む
- 第10週 太宰治「千代女」1（作品紹介）
- 第11週 太宰治「千代女」2（同時代評・先行研究）
- 第12週 太宰治「千代女」3（読解）
- 第13週 豊田正子「綴方教室」の影響
- 第14週 文学少女と男性作家
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

次回授業範囲のテキスト・プリントの語句を調べておいて下さい。

（学修時間 週2時間）

**【事後学修】**

授業中に説明した用語を理解し、小テスト・試験に向けて授業内容を復習して下さい。参考書に挙げた図書を読み、理解を深めて下さい。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

太宰治『女生徒』（角川文庫、2009年）475円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

以下3点から評価します。

- (1) 平常点（授業への積極的参加、ワークシート、コメントペーパーの提出）20%
- (2) 小テスト40%  
（テスト翌週の授業でフィードバックを行います）
- (3) 試験40%（授業最終回でフィードバックを行います）

**【参考書】**

飯田祐子・島村輝・高橋修・中山昭彦編『少女少年のポリティクス』（青弓社、2009年）、中谷いづみ『その「民衆」とは誰なのか ジェンダー・階級・アイデンティティ』（青弓社、2013年）、小平麻衣子『夢みる教養 文系女性のための知的生き方史』（河出書房新社、2016年）

## 金融論

鈴木 深

3年 前期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力

## 【授業のテーマ】

我々の生活において重要な役割を担っている金融について、主に銀行や証券会社などが社会においてどのような働きをしているのか確認することにより、金融の仕組みを理解していくとともに、金融に関わる基礎的な内容を身につけることを目標としています。

## 【授業における到達目標】

金融に関する基礎的な事項を学習することにより、今後の社会・経済の動きについて自発的に知識・情報を得て学ぶ力【研鑽力】の修得を目指します。そしてそれらを踏まえて、自らの将来設計に基づく金融資産の形成に必要とされる、諸問題を解決するために主体的に行動する力【行動力】を養います。

## 【授業の内容】

- 第1週 金融とは
- 第2週 金融リテラシーと社会とのかかわり  
(外部講師による将来の資産形成に関する講義)
- 第3週 金融業務
- 第4週 金融機関(銀行・証券)
- 第5週 金融市場と金利
- 第6週 デリバティブと証券化
- 第7週 企業金融と消費者金融
- 第8週 資金循環・決済システム
- 第9週 金融政策
- 第10週 プルーデンス政策
- 第11週 金融制度の改革
- 第12週 外国為替
- 第13週 国際金融
- 第14週 証券投資の基礎(株式模擬売買を体験)
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

事前学修として、テキストの該当箇所を講義前に通読し、疑問点あるいは理解が難しい点などを確認してください。(学修時間 週2時間)

事後学修として、受講後に当初の疑問点あるいは理解が難しい点などが解消されたかを確認しながら、再度テキストの該当箇所を通読して理解を深めてください。また、毎回講義中に小テストを行います。正解できない場合は、出題内容が理解できるまで、テキストを復習してください。(学修時間 週2時間)

## 【テキスト・教材】

島村高嘉／中島真志著 『金融読本(第30版)』(東洋経済新報社 2017年) 2,300円

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験(50%)、提出課題(30%)、平常点(授業への積極的参加・小テスト)(20%)に基づいて評価します。

小テストについては、毎回次の授業でフィードバックを行います。

## 【参考書】

講義中に適宜紹介します。

## 経営学概論

篠崎 香織

1年 前期・後期 2単位

◎：行動力

## 【授業のテーマ】

経営学の対象である企業について、その仕組みと活動について理解することを通して経営学の基礎を学習していきます。並行して、企業が生き残りをかけて選択するオプションや(例えば、M&A等)やよりよく生きるための働きかたについての企業の取り組みも取り上げていきます。

## 【授業における到達目標】

経営学の基礎概念の習得と会社についての仕組みの理解を目標とします。併せて、社会に目を向け現状を正しく把握し、課題を発見できる能力の養成を図ります。

## 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 経営学とは?(企業・会社の概念、企業を取り巻く環境、存続・成長をかけて)
- 第3週 企業の諸形態①(経済形態を中心に)
- 第4週 企業の諸形態②(法律形態を中心に)
- 第5週 企業の諸形態③(株式会社について)
- 第6週 コーポレートガバナンス①(概念と発展プロセスについて)
- 第7週 コーポレートガバナンス②(仕組みについて)
- 第8週 老舗企業の観察・分析
- 第9週 日本型企业システム①(これまでの日本的雇用慣行)
- 第10週 日本型企业システム②(近年の日本企業の取り組み)
- 第11週 経営理論①(テイラーの科学的管理法を中心に)
- 第12週 経営理論②(フォードの大量生産を中心に)
- 第13週 経営理論③(メイヨーのホーソン実験を中心に)
- 第14週 「働く」について考える(ワークライフバランスに向けた取り組み)
- 第15週 総括

## 【事前・事後学修】

【事前学修】各回のキーワードを事前に提示するので、調べてみてください。また事前に配布する資料に目を通し、内容について予め調べておいてください。

【事後学修】授業の振り返りを行い、理解の深げりをおこなうとともに、理解の浅い部分については各自で調べておいてください。それでもわからない場合は、次の授業で質問できるように準備しておいてください。

※学修時間は、週4時間程度。

## 【テキスト・教材】

特にありません。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績は、レジュメに記載の復習課題(20%)と期末試験(80%)で決定します。

課題のフィードバックは基本的に教場で行い、場合によってmanabaも使うことがあります。課題や試験問題に対する解説を行います。

## 【参考書】

井原久光『テキスト経営学 第3版』(ミネルヴァ書房、2010年) 経営学検定試験協議会監修、経営能力開発センター編『経営学検定試験公式テキスト1』(中央経済社、2015年)

**経営学概論**

篠崎 香織

1年～ 前期・後期 2単位

◎：行動力

**【授業のテーマ】**

経営学の対象である企業について、その仕組みと活動について理解することを通して経営学の基礎を学習していきます。並行して、企業が生き残りをかけて選択するオプションや（例えば、M&A等）やよりよく生きるための働きかたについての企業の取り組みも取り上げていきます。

**【授業における到達目標】**

経営学の基礎概念の習得と会社についての仕組みの理解を目標とします。併せて、社会に目を向け現状を正しく把握し、課題を発見できる能力の養成を図ります。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 経営学とは？（企業・会社の概念、企業を取り巻く環境、存続・成長をかけて）
- 第3週 企業の諸形態①（経済形態を中心に）
- 第4週 企業の諸形態②（法律形態を中心に）
- 第5週 企業の諸形態③（株式会社について）
- 第6週 コーポレートガバナンス①（概念と発展プロセスについて）
- 第7週 コーポレートガバナンス②（仕組みについて）
- 第8週 老舗企業の観察・分析
- 第9週 日本型企业システム①（これまでの日本的雇用慣行）
- 第10週 日本型企业システム②（近年の日本企業の取り組み）
- 第11週 経営理論①（テイラーの科学的管理法を中心に）
- 第12週 経営理論②（フォードの大量生産を中心に）
- 第13週 経営理論③（メイヨーのホーソン実験を中心に）
- 第14週 「働く」について考える（ワークライフバランスに向けた取り組み）
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

【事前学修】各回のキーワードを事前に提示するので、調べてみてください。また事前に配布する資料に目を通し、内容について予め調べておいてください。

【事後学修】授業の振り返りを行い、理解の深ぼりをおこなうとともに、理解の浅い部分については各自で調べておいてください。それでもわからない場合は、次回の授業で質問できるように準備しておいてください。

※学修時間は、週4時間程度。

**【テキスト・教材】**

特にありません。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

成績は、レジュメに記載の復習課題（20%）と期末試験（80%）で決定します。

課題のフィードバックは基本的に教場で行い、場合によってmanabaも使うことがあります。課題や試験問題に対する解説を行います。

**【参考書】**

井原久光『テキスト経営学 第3版』（ミネルヴァ書房、2010年）  
経営学検定試験協議会監修、経営能力開発センター編『経営学検定試験公式テキスト1』（中央経済社、2015年）

**経営管理論**

篠崎 香織

3年 後期 2単位

◎：行動力

**【授業のテーマ】**

経営管理の行われる場と対象は組織そのものであり、経営管理の理論と実践には組織論の知識が不可欠となります。そこで、本講義では、経営管理を組織論との関連から捉え学習することを通して、「組織の有している資源を状況のニーズに適応させながら、いかにして組織の目標を達成するか」について考えていきます。

**【授業における到達目標】**

様々な理論を修得し、経営管理の現象を理論的に捉える力を養うことを目標とします。アルバイト、ゼミ、サークル等の活動を通じた現状の正しい把握、課題の発見、および解決つながらる方法を提示ができる力を修養していきます。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 経営管理について
- 第3週 大規模組織のマネジメントと官僚制
- 第4週 職能別組織と事業部制組織
- 第5週 組織のかたちが変わるとき
- 第6週 組織と戦略の関係
- 第7週 戦略の策定（SWOT分析）
- 第8週 資源配分について①（PLCと経験効果）
- 第9週 資源配分について②（PPM）
- 第10週 科学的管理法からホーソン工場実験にみる動機づけ
- 第11週 欲求階層説とERGモデル
- 第12週 X理論・Y理論
- 第13週 トップとミドルのリーダーシップ
- 第14週 コンフリクトのマネジメント
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

【事前学修】各回のキーワードを事前に提示するので、調べてみてください。また事前に配布する資料に目を通し、内容について予め調べておいてください。

【事後学修】授業の振り返りを行い、理解の深ぼりをおこなうとともに、理解の浅い部分については各自で調べておいてください。それでもわからない場合は、次回の授業で質問できるように準備しておいてください。

※学修時間は、週4時間程度。

**【テキスト・教材】**

特に指定はありません。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験60%と授業への積極的関与（発言、グループワークでの活動、課題の提出）40%で評価します。

教場にて課題のフィードバックを行い、試験終了後は問題の解説を行います。場合によってmanabaを使うことがあります。

**【参考書】**

- 野中郁次郎『経営管理』（日本経済新聞社、1980年）
- 網倉久永・新宅純二郎『経営戦略入門』（日本経済新聞出版社、2011年）
- 稲葉祐之・井上達彦・鈴木竜太・山下勝『キャリアで語る経営組織』（有斐閣アルマ、2010年）

**【注意事項】**

active科目であることから、グループワークを実施することがあります。馴染みのない履修学生と協働することになります。

「経営組織論」、「企業戦略論」など経営系統の科目を履修していることが望ましいです。

履修登録者が多い場合は抽選になります。

**経営戦略特論**

篠崎 香織

人間社会専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

企業がとる戦略の中でも競争戦略について、基本構造、企業間関係を決定する要因、競争戦略を分析する際の枠組みを学習する。また、企業の戦略策定と実行を取り上げた多様なケースをもとに、各ケースにおいて鍵となった要因が何かを明らかにする。

**【授業における到達目標】**

経営戦略に関する基礎的な概念や理論の学習および、ケースを用いた業界分析を行うことを通して、経営の現場の問題に対して、どのような概念や理論で説明できるか、あるいは分析できるか等の応用力を養成することを目標とする。

**【授業の内容】**

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 競争戦略の基本ロジック（1）～必要性と代替性
- 第3回 競争戦略の基本ロジック（2）～バリュー・チェーン
- 第4回 パワー関係の決定要因（1）～様々な参入障壁
- 第5回 パワー関係の決定要因（2）～製品差別化、スイッチング・コスト等
- 第6回 競争戦略の分析枠組み（1）～ファイブ・フォース・モデル
- 第7回 競争戦略の分析枠組み（2）～バリュー・ネット
- 第8回 競争戦略の分析枠組み（3）～リソース・ベースト・ビュー
- 第9回 競争戦略の分析枠組みのまとめ ～6プレイヤーズ・モデル
- 第10回 業界構造分析（1）～参入障壁に注目したケース
- 第11回 業界構造分析（2）～差別化に注目したケース
- 第12回 業界構造分析（3）～ネットワーク外部性に注目したケース
- 第13回 業界構造分析（4）～協調関係に注目したケース
- 第14回 業界構造分析（5）～補完財に注目したケース
- 第15回 総括

**【事前・事後学修】**

事前学修：授業中に指定した文献や資料を読み、その内容を理解しておくこと。また、内容に対する自分の考えを用意しておくこと（レジュメの準備）。

事後学修：授業の内容について理解できているか復習しておくとともに、関連の文献を探して読んでおくこと。

※事前学修時間はおよそ週2時間程度、事後学修時間はおよそ週4～5時間程度

**【テキスト・教材】**

加藤俊彦（2014）『競争戦略』日本経済新聞社（860円+税）を予定。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業への貢献度（発言など積極的な参加）50%と課題50%で評価する。

フィードバックは、授業内にコメントやディスカッション等の形式で行う。授業内にできない場合は、主にメールやmanabaを介して行う。

**【参考書】**

- ジェイB・バーニー（2002）著作第2版の翻訳書（岡田正大訳『企業戦略論 上・中・下』ダイヤモンド社、2003）各2400円+税
- 一橋ビジネスレビュー編集部編（2003）『ビジネス・ケースブック No.1からNo.3』東洋経済 各2000円+税

**【注意事項】**

学部の経営学関連（経営学概論か経営学入門、経営組織論、経営戦略論、経営管理論、企業論等）の科目を履修済み、もしくは相応の知識を持っていること。

英文テキストを使用する場合がある。



**経営組織論**

篠崎 香織

2年 前期 2単位

◎：行動力

**【授業のテーマ】**

自らが所属する組織や身の回りの組織について、その仕組みや原理を考え把握するとともに、組織論における基本的な理論を学ぶことを通して組織をみる（分析する）眼を養います。

**【授業における到達目標】**

様々な人が集まって構成される組織が機能し、維持されるための要件を理解することを目標とします。併せて、社会に目を向け現状を正しく把握し、課題を発見できる能力の養成を図ります。

**【授業の内容】**

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 身の回りの組織
- 第3回 組織のちから
- 第4回 組織の目的、参加者の満足
- 第5回 組織の共通点
- 第6回 組織の中のコミュニケーション
- 第7回 組織が大きくなる時
- 第8回 公式組織が生まれる時
- 第9回 企業のケース：新製品は階層を超えたコミュニケーションから生まれる！
- 第10回 分業と専門化
- 第11回 人はなぜ働くのか？
- 第12回 人はなぜ命令に従うのか？
- 第13回 組織における意思決定
- 第14回 いい仕事をするために
- 第15回 総括

**【事前・事後学修】**

【事前学修】各回のキーワードを事前に提示するので、調べてください。また事前に配布する資料に目を通し、内容について予め調べておいてください。

【事後学修】授業の振り返りを行い、理解の深ぼりをおこなうとともに、理解の浅い部分については各自で調べておいてください。それでもわからない場合は、次回の授業で質問できるように準備しておいてください。

※学修時間は、週4時間程度。

**【テキスト・教材】**

特にありません。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

基本は試験100%（発言、課題への取り組みなど積極的な授業参加はプラスに評価していきます）

フィードバックは、基本的に教場で行い、場合によってmanabaも使うことがあります。試験問題の解説を行います。

**【参考書】**

- 高橋伸夫『コア・テキスト経営学入門』（新世社、2007年）
- 稲葉祐之・井上達彦・鈴木竜太・山下勝『キャリアで語る経営組織』（有斐閣アルマ、2010年）
- 高橋伸夫『組織力』（ちくま新書、2010年）
- ジェームズ・G・マーチとハーバート・A・サイモンの著作第2版の翻訳書（高橋伸夫訳『オーガニゼーションズ』ダイヤモンド社、2014年）

**【注意事項】**

「経営管理論」や「企業戦略論」など経営系の科目を系統的に履修する意思のある者の履修が望ましいです。

## 経営分析特論

蔣 飛鴻

人間社会専攻 前期 2単位

### 【授業のテーマ】

企業の財政状態や経営成績を正しく理解するために、経営分析の知識を身につけることが必要である。本授業では、財務諸表分析を通じて、収益性、安全性、生産性、成長性をいかに把握するか、その分析手法の修得を目的とする。最終的にはビジネス・リサーチにたいする基本的な考え方を育成することにより、企業経営に関する総合的な分析能力を養ってほしい。

### 【授業における到達目標】

この授業を通じて、受講生に財務諸表を用いて企業の経営状況を分析する力を身につけてもらうこと。

ディプロマポリシー：学修を通して自己成長する力（研鑽力）、課題解決のために主体的に行動する力（行動力）の育成

### 【授業の内容】

- 第1週 財務諸表の役割と仕組み
- 第2週 財務諸表の入手方法
- 第3週 貸借対照表の見方
- 第4週 損益計算書の見方
- 第5週 キャッシュ・フロー計算書の見方
- 第6週 収益性の分析（1）資本利益率
- 第7週 収益性の分析（2）売上高利益率
- 第8週 収益性の分析（3）資本回転率
- 第9週 データによる収益性分析の事例研究
- 第10週 安全性の分析（1）ストック指標
- 第11週 安全性の分析（2）キャッシュ・フロー分析
- 第12週 安全性の分析（3）その他の指標
- 第13週 データによる安全性分析の事例研究
- 第14週 生産性の分析
- 第15週 成長性の分析

### 【事前・事後学修】

事前学修：発表・論文作成等の課題に取り組むこと。（学修時間：週3時間）

事後学修：論文作成・発表に関する内容を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。（学修時間週3時間）

### 【テキスト・教材】

資料を配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題レポート50%、発表30%、平常点（授業への積極参加）20%

### 【参考書】

桜井久勝『財務諸表分析 第5版』中央経済社、2012年。

伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞出版社、2014年。

### 【注意事項】

履修者の意欲的な姿勢を期待している。

## 経営分析論

蔣 飛鴻

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

経営分析の目的は、財務諸表を資料として企業経営の状況を把握することである。財務諸表のうちで主要なものは貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書である。この授業では、これらの財務資料を活用して企業の経営を分析する。

### 【授業における到達目標】

この授業を通じて、受講生に財務諸表を用いて企業の経営状況を分析する力を身につけてもらうこと。

ディプロマポリシー：学修を通して自己成長する力（研鑽力）、課題解決のために主体的に行動する力（行動力）の育成

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 財務諸表の理解①貸借対照表
- 第3週 財務諸表の理解② 損益計算書
- 第4週 財務諸表の理解③ キャッシュ・フロー計算書
- 第5週 収益性の分析① 資本利益率
- 第6週 収益性の分析② 売上高利益率
- 第7週 収益性の分析③ 資本回転率
- 第8週 安全性の分析① ストック指標
- 第9週 安全性の分析② キャッシュ・フロー分析
- 第10週 安全性の分析③ その他の指標
- 第11週 生産性の分析
- 第12週 成長性の分析
- 第13週 企業評価
- 第14週 質疑
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：プレゼンテーション・レポート等の課題に取り組むこと。（学修時間週3時間）

事後学修：次回の課題発表の準備。（学修時間週3時間）

### 【テキスト・教材】

授業の第1回目で指示する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末レポート40%、授業への取り組み（授業中のプレゼンテーション・ディスカッション・課題等）60%で評価する。

課題に対して、毎回コメントやフィードバックする。

### 【参考書】

参考書や問題集については適時紹介する。

### 【注意事項】

- 簿記論（Ⅰ、Ⅱ）、会計学総論、原価計算論を履修済みであること。
- この授業は演習形式（参加型の授業方法）を採用するため、1クラス30名を上限とする。30名を超える場合は抽選することもある。

## 経済学 a

マクロ経済学

畑農 鋭矢

1年～ 前期 2単位

○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

国レベルでの経済活動のとらえ方を理解し、経済成長や景気循環といったマクロ経済の変動について学ぶ。また、金融市場の役割、インフレとデフレ、マクロ経済政策についても学ぶ。

### 【授業における到達目標】

現実経済の構造を鳥瞰し、広い視野で理解するために、マクロ経済学の基礎理論を習得することが目標である。具体的な到達目標は、新聞の経済記事の意味を理解できるようになることである。

### 【授業の内容】

- 第1回 経済学とは？
- 第2回 マクロ経済学とは？
- 第3回 豊かさを測る
- 第4回 名目と実質
- 第5回 物価指数
- 第6回 経済成長の源泉
- 第7回 景気循環の謎
- 第8回 乗数効果
- 第9回 消費と貯蓄
- 第10回 貨幣の役割
- 第11回 金融・資産市場
- 第12回 IS-LM分析
- 第13回 インフレとデフレ
- 第14回 開放マクロ経済
- 第15回 マクロ経済政策

### 【事前・事後学修】

【事前】HPにアップするスライドを入手し、内容を確認すること。指定図書を読むこと。毎週2時間。

【事後】授業内で紹介した統計を検索し、自分で加工してデータ分析を行ってみること。毎週2時間。

### 【テキスト・教材】

HP上のスライド

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 定期試験60%
- 授業内確認テスト20%
- リアクションペーパー20%

### 【参考書】

- J・E・スティグリッツ／C.E.ウォルシュ『スティグリッツ入門経済学（第4版）』（東洋経済新報社 2012年）
- N・グレゴリー・マンキュー『マンキュー入門経済学（第2版）』（東洋経済新報社 2014年）
- 伊藤元重『入門経済学（第4版）』（日本評論社 2015年）
- 福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門（第5版）』（有斐閣アルマ 2016年）
- 平口良司・稲葉大『マクロ経済学』（有斐閣 2015年）
- 二神孝一『マクロ経済学入門（第2版）』（日本評論社 2009年）

## 経済学 b

ミクロ経済学

畑農 鋭矢

1年～ 後期 2単位

○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

家計や企業などの個別主体がどのように経済的な意思決定を行うのかについて、ならびに経済的取引を行う場である市場の役割と限界について講義する。

### 【授業における到達目標】

家計や企業といった経済主体の行動メカニズムを理解するために、ミクロ経済学の基礎理論を習得することを目標とする。具体的な到達目標は、現実社会を経済学的な視点で考えられるようになることである。

### 【授業の内容】

- 第1回 ミクロ経済学とは？
- 第2回 ヤバい経済学（インセンティブ）
- 第3回 取引の利益（比較優位）
- 第4回 需要と供給
- 第5回 政府介入
- 第6回 需要・供給曲線と弾力性
- 第7回 需要・供給分析の応用
- 第8回 余剰分析
- 第9回 意思決定
- 第10回 消費者行動
- 第11回 完全競争
- 第12回 不完全競争
- 第13回 市場の失敗
- 第14回 不完全情報
- 第15回 戦略的行動とゲーム理論

### 【事前・事後学修】

【事前】HPにアップするスライドを入手し、内容を確認すること。指定図書を読むこと。毎週2時間。

【事後】授業内で紹介した統計を検索し、自分で加工してデータ分析を行ってみること。毎週2時間。

### 【テキスト・教材】

HP上のスライド

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 定期試験60%
- 授業内確認テスト20%
- リアクションペーパー20%

### 【参考書】

- J・E・スティグリッツ／C.E.ウォルシュ『スティグリッツ入門経済学（第4版）』（東洋経済新報社 2012年）
- N・グレゴリー・マンキュー『マンキュー入門経済学（第2版）』（東洋経済新報社 2014年）
- 伊藤元重（2015）『入門経済学（第4版）』（日本評論社 2015年）
- 神戸伸輔ほか『ミクロ経済学をつかむ』（有斐閣 2006年）
- ポール・クルーグマン／ロビン・ウェルス『クルーグマンミクロ経済学（第2版）』（東洋経済新報社 2017年）

### 【注意事項】

## 経済学概論

高橋 意智郎

1年 前期 2単位

◎：研鑽力

## 【授業のテーマ】

今日、我々の経済社会は、1国の企業、政府、家計（あるいは個人）が相互に経済的に関係し合うのみならず、国と国どうしも経済的に関係し合うことで形成されている。本講義では経済学の基礎について学び、日本及び世界経済、企業行動及び消費者行動、さらには個人の日常生活の問題に至るまで経済学の理論や考え方を用いて理解できることを目的とする。豊富な事例を盛り込んで、受講した皆さんの興味を引く講義にしたいと考える。

## 【授業における到達目標】

2年次以降の経済関連科目を学習する上での基礎力を見につけることができる。

ディプロマポリシー：学修を通して自己成長する力【研鑽力】

## 【授業の内容】

1. 経済学とはどのような学問か
2. 経済学の基本概念
3. 経済システム
4. 高校数学の復習：指数を伴う関数
5. 高校数学の復習：微分
6. 消費者の行動と需要
7. 需要曲線とその変化
8. 生産者の行動と供給
9. 価格決定のメカニズム
10. これまでの復習
11. 不完全競争市場
12. 日本経済と経済指標
13. 国際経済と国際企業
14. 経済トピック
15. 総括

## 【事前・事後学修】

事前学修：配布された資料・プリントを次回の授業までに読んでおくこと。（週2時間）

事後学修：授業中にとったノート、授業で使った資料・プリントを参考にして授業内容を理解しているか確認すること。（週2時間）

## 【テキスト・教材】

テキスト・教材は指定しない。

授業時に資料・プリントを配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績は、期末試験（70%）、課題（15%）、平常点（授業への積極的参加）（15%）を総合して決定する。課題のフィードバックとして、課題の問題と授業回の対応について説明する。

## 【参考書】

毎回の講義のときに資料・プリントを配布するが、以下の文献を参考書として指定する。

江良亮・森脇祥太編著『きっちり学ぶ経済学入門』（日本評論社）。

嶋村紘輝・横山将義著『図解雑学・ミクロ経済学』（ナツメ社）。

## 経済学概論

角本 伸晃

1年 後期 2単位

◎：研鑽力

## 【授業のテーマ】

日本を初めとして今日ほとんどの国は、市場経済を採用している。この市場を通じてわれわれ一人一人は、消費者として企業や政府、さらに外国と結びついており、相互に経済的に影響を及ぼし合っている。そのため、一国全体の経済的なメカニズム（マクロ経済学）の基礎を学び、次いで個々の消費者や企業の行動メカニズム（ミクロ経済学）の基礎を学ぶ。講義に際しては、具体的な事例を用いてみなさんの理解の助けとなるよう配慮する。また、理解を深めてもらうためのプリント課題を2回ほど提出してもらう。

## 【授業における到達目標】

経済学の基礎を学ぶことによって、現代社会における経済問題を論理的に理解し、広い視野と深い洞察力を修得することを目標とする。

## 【授業の内容】

1. 経済学とはどのような学問か
2. 国民経済計算（新SNA）の仕方
3. 国民所得の諸概念
4. 均衡国民所得の決定
5. 割引現在価値と投資収益率
6. 利子率と投資の決定
7. 貨幣の需要と供給
8. 貨幣市場と日銀の役割
9. 需要曲線と消費者行動
10. 価格変化と消費者の反応
11. 費用曲線
12. 供給曲線
13. 市場均衡と効率性
14. 不完全競争市場(独占)
15. 不完全競争市場(寡占、独占的競争)
15. まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】次回の授業範囲を予習し、経済用語などを調べておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業で板書されたグラフをもう一度自分でノートに書き、練習問題も自力で解いて復習すること。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

テキストは指定せず、配布プリントを用いる。下記の参考書は授業の理解を深めるために利用してほしい。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績は、期末試験（80%）、プリント課題（20%）によって総合的に評価する。プリント課題については次回授業で、期末試験については最終回授業で解説と講評を行ってフィードバックする。

## 【参考書】

中谷巖『入門マクロ経済学（最新版）』（日本評論社 2007年）3,024円

吉田良生/角本伸晃・他『ミクロ経済学入門〔新版〕』（成文堂 2014年）1,836円

## 【注意事項】

グラフを自分で書くことで経済学の理解はかなり進むので、板書したグラフは大きくノートに書き写してほしい。

## 経済発展論

角本 伸晃

3年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

## 【授業のテーマ】

今日、開発途上国から著しい経済発展を遂げている国が多数出現しているが、その背後にはなおも貧困、不平等、都市と農村の地域格差、教育格差などの問題が存在する。また、経済発展できないままの国も多く存在する。本講義では、それらの問題について最新のデータを用いて実態を把握し、それらの問題が存続する要因は何か、逆に阻害要因を乗り越えて開発途上国が経済発展するメカニズムは何かを理解する。また、外部講師の方に来ていただいて、政府開発援助について講義をしてもらう予定である。

## 【授業における到達目標】

開発途上国の経済発展問題を理解し、その対策について考える能力を修得し、国際社会における相互の理解と協力を築こうとする力を修得することを目標とする。

## 【授業の内容】

1. ガイダンス（講義の概要と進め方）
2. 開発途上国の貧困問題（その1）
3. 開発途上国の貧困問題（その2）
4. 不平等の計測（ジニ係数等）
5. 開発途上国の不平等問題
6. 開発途上国の産業構造問題（二重構造問題）
7. 開発途上国の国内労働移動（都市への流入問題）
8. 日本と開発途上国との関係
9. 開発途上国の経済成長の歴史
10. 経済成長のメカニズム
11. 人的資本（教育格差問題）
12. 国際貿易
13. 海外直接投資
14. 政府開発援助（外部講師招聘の予定）
15. まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲を予習し、事前学修の項目も考え、調べておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 授業で板書されたグラフをもう一度自分でノートに書き、数値例も自力で解いて復習すること。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

テキストは指定せず、配布プリントを用いる。下記の参考書は授業の理解を深めるために利用してほしい。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績は、期末試験（80%）、レポート課題（20%）によって総合的に評価する。レポート課題については次回授業で、期末試験については最終回授業で解説と講評を行ってフィードバックする。

## 【参考書】

戸堂康之『開発経済学入門』（新世社 2015年）2,916円  
ジェトロ・アジア経済研究所他編『テキストブック開発経済学 第3版』（有斐閣 2015年）2,484円

## 【注意事項】

グラフを自分で書くことで理解はかなり進むので、板書したグラフは大きくノートに書き写してほしい。

## 経済法

金津 謙

2年 前期 2単位

◎：行動力

## 【授業のテーマ】

経済法とは本来、国家が国民の活動を直接コントロールする法律群（法分野）を総称したものである。しかし、今日一般に「経済法」という用語は「独占禁止法」を示すため、本講においても独占禁止法を扱う。

独占禁止法は、企業が市場の独占を企てたり、企業間で相談して商品の価格をつり上げる（カルテル）行為を禁止することにより、公正な企業間競争の機会を確保し、究極的には消費者（国民）の利益を守ることを目的とした法律である。

授業では、受講者の理解を深めるため適宜資料を配付し、新聞・テレビ等で報道される身近な事例も授業に取り入れる予定である。

## 【授業における到達目標】

独占禁止法を含む経済法分野は、企業における「コンプライアンス」意識の高まりから重要視されている法分野であり、関連する様々な事件が報道されている。さまざまな企業活動における問題点を法的側面から考察する能力の修得を目的とする。すなわち、本学DPにおける学生が修得すべき「行動力」うち、課題を発見する力を修得することとなる。

## 【授業の内容】

1. 独占禁止法の消費者保護機能
2. 独占禁止法の制定背景
3. 市場独占の弊害／私的独占①
4. 市場独占の実例／私的独占②
5. 合併規制の意義／私的独占③
6. カルテル・談合の弊害／不当な取引制限①
7. カルテルの種類／不当な取引制限②
8. カルテルに対する法的対処／不当な取引制限③
9. 入札談合・官製談合の問題点／不当な取引制限④
10. 談合に対する法的対処／不当な取引制限⑤
11. 抱き合わせ販売／紛らわしい広告／不公正な取引方法①
12. 地域差別対価／不公正な取引方法②
13. 書籍・新聞・CDの定価販売／不公正な取引方法③
14. 規制緩和と独占禁止法
15. まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】 小テスト・レポート・発表等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 発表・小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

厚谷襄児著『独占禁止法入門（第7版）』2012年、日経文庫、1,050円

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中の小テスト（30点）、中間テスト（30点）、期末テスト（40点）による総合評価。試験結果については授業最終回においてフィードバックする予定である。

## 【参考書】

適宜指示する。

## 【注意事項】

授業開講時指示する。

## 芸術概論 a

音楽の基礎概念を把握する

松村 洋一郎

1・2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

音楽に関する基本的な用語や概念を、歴史的背景や事例に即して説明する。音楽に関する概念といっても非常に多岐にわたるが、ここでは、楽器と楽譜にまつわる内容を中心とする。西洋のいわゆるクラシック音楽を中心的な対象とするが、適宜、ほかのジャンルの音楽も題材として取りあげたい。

### 【授業における到達目標】

楽器と楽譜にまつわる基本的な概念を理解し、説明することができるようになる。また、音楽を通して美を探究する態度を身につける。

### 【授業の内容】

- 第1週 導入
- 第2週 楽器とは
- 第3週 管楽器・打楽器
- 第4週 弦楽器
- 第5週 鍵盤楽器（オルガンなど）
- 第6週 鍵盤楽器（ピアノなど）
- 第7週 さまざまな合奏形態
- 第8週 声と声楽
- 第9週 さまざまな記譜法
- 第10週 西洋音楽の記譜法の歴史
- 第11週 楽譜と演奏習慣
- 第12週 楽譜の編集
- 第13週 音の性質（音の物理）
- 第14週 音の性質（音律）
- 第15週 まとめと補足

### 【事前・事後学修】

- ・事前学修：配付プリントを読み、用語の基本的な理解をする。西洋史の基本的な知識についても、確認しておくことが望ましい。（学修時間 週2時間）
- ・事後学修：ワークシートの復習をすること。授業で取り上げた作品の鑑賞や、紹介した参考文献の読書を通して学習内容の理解を深めること。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

特に用いない。授業内でプリントを配付。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験100%

解答例をmanaba等に記載して学生へのフィードバックとする。

### 【参考書】

授業内で適宜紹介する。

### 【注意事項】

大学生としての自覚と責任を持った行動を求める（たとえば、出席回数は自身で把握しておく、私語など授業の妨げになる行為は慎むなど）。単位取得のみを目的にするのではない、授業内容に興味・関心のある学生諸君の履修を期待する。また、初回の授業では、授業の全体的な事項に関する説明も行うので、極力出席すること。

## 芸術概論 b

—美術鑑賞への招待—

鈴木 祐子

1・2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

私たち人間は、太古の昔から多くの美術作品を生み出してきました。世界中にさまざまな美術品が残り、現在なお新しい美術が次々に生み出されつつあります。今まで美術に触れる機会のあまりなかった皆さんに、その楽しさを知ってほしい—この授業はそのための入門コースです。作品の保存、復元なども含め、社会との関わりについても触れながら、いろいろな作品を見ていきたいと思います。

### 【授業における到達目標】

美術品の鑑賞によって美しさに対する感受性を養う。また、様々な地域・時代の多様な美とそれらを生んだ社会的背景などを知ることによって、それらを生み育て守ってきた人々の多様性をも理解して、世界を見る豊かな視野を身に付ける。

### 【授業の内容】

1. ガイダンス
- 2～14. 美術作品鑑賞ガイド
  - 1回ずつ、ある作者またはある作品を取り上げて、具体的な作品をビデオやスライドで見ながら一緒に鑑賞します。
2. 日本の美術 1 彫刻
3. 日本の美術 2 絵画① 絵巻物
4. 日本の美術 3 絵画② 水墨画
5. 日本の美術 4 絵画③ 浮世絵
6. 日本の美術 5 絵画④ 戦中
7. 日本の美術 6 絵画⑤ 戦後
8. 日本の美術 7 工芸① 陶磁器
9. 日本の美術 8 工芸② 染織
10. 日本の美術 9 建築
11. ヨーロッパの美術 1 ルネッサンス絵画
12. ヨーロッパの美術 2 印象派以降
13. アメリカの美術
14. 欧米以外の地域の美術
 

出来るだけ、その時々催される展覧会への案内を兼ねたいと思いますので、各週の内容は変更の場合があります。
15. まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：日々の生活の中で、今までは漠然と見過ごしてきた街の野外彫刻、レストランのインテリア、建物の形など、いろいろな造形表現に目をとめて、それを見て感じたことを言葉にしてみてください。（週2時間） 事後学修：授業で知り興味を持った造形表現に積極的に触れてください。展覧会などに実際に見に行くのが何よりですが、その作品や作家などについて本などで調べてみるのも良いと思います。（週2時間）

### 【テキスト・教材】

特定のテキストは使用しません。必要な資料は配付します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回の授業では、その授業で紹介されたものについての感想、配布する世界地図と年表への記入を求めます。また、美術展・美術館などの作品鑑賞レポートを2通以上、一つの作品について詳しく調べて書く研究レポートを1通提出することを求めます。提出されたレポートは最終週までにフィードバックします。提出物（80%）、授業態度（20%）を基に評価します。

### 【参考書】

図書館や書店、ミュージアム・ショップなどで、自分が興味を持った芸術家の作品集や著作などを自由に選んで、見たり読んだりしてください。テレビの美術番組もぜひ見てみてください。

### 【注意事項】

何よりも「本物」をたくさん見てください。スライドや本で見ると、実際に見るとのでは、作品の印象は全く違います。ネットや写真で満足せず、積極的に実物を見に行くよう心がけてください。

**芸術学演習A**

修士論文にそなえて

椎原 伸博

美術史学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

学生各自の研究計画に基づき、その成果の発表を行う。それに対し、発表者以外の学生および教員とのディスカッションを重ねることで、修士論文の内容を深めることを到達目標とする。

**【授業における到達目標】**

修士論文作成のための参考文献の整理、スケジュールの管理ができるようになる。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 各自のテーマの確認
- 第3週 文献検索のINTROクシヨン
- 第4週 芸術学のアプローチについて（1）フォーマリズム
- 第5週 芸術学のアプローチについて（2）様式論
- 第6週 美学のアプローチについて（1）現象学派の美学
- 第7週 美学のアプローチについて（2）分析美学
- 第8週 学外見学実授業（1）森美術館等
- 第9週 学生発表：1回目
- 第10週 研究テーマの確認
- 第11週 研究方法の確認
- 第12週 学外見学実授業（2）新国立劇場等
- 第13週 学生発表：2回目
- 第14週 外国語論文検索について
- 第15週 まとめ

\*なお、学外見学実授業の日時・場所は授業中に指示する。

**【事前・事後学修】**

修士論文作成のための準備であることを自覚して、ディスカッション前には現在の研究状況について教員に明確に説明できるように準備しておくこと。（学修時間 週2時間）また、ディスカッション後は必ず、事後学修としてのまとめを行い、ファイル化しておくこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

使用しない

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

発表（50%）、レポート（50%）

フィードバックは、manabaで随時行う。

**【参考書】**

教科書は使用せず、参考書（文献）は授業中に指示する。

**【注意事項】**

修士論文を完成させるという強い意志をもってのぞんでください。

**芸術学演習B**

修士論文をめざして

椎原 伸博

美術史学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

学生各自の研究計画に基づき、その成果の発表を行う。それに対し、発表者以外の学生および教員とのディスカッションを重ねることで、修士論文の内容を深めることを目的とする。

**【授業における到達目標】**

修士論文作成のための文献の整理、スケジュールの管理が出来るようになる。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 各自のテーマの確認
- 第3週 文献検索のINTROクシヨン
- 第4週 表象文化論のアプローチについて（1）記号論
- 第5週 表象文化論のアプローチについて（2）心理学
- 第6週 美術史方法論のアプローチについて（1）イコノロジー
- 第7週 美術史方法論のアプローチについて（2）ジェンダー論
- 第8週 学外見学実授業（1）国立西洋美術館等
- 第9週 学生発表：1回目
- 第10週 研究テーマの確認
- 第11週 研究方法の確認
- 第12週 学外見学実授業（2）国立劇場等
- 第13週 学生発表：2回目
- 第14週 外国語論文検索について
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

修士論文作成のための準備であることを自覚して、ディスカッション前には現在の研究状況について教員に明確に説明できるように準備しておくこと。（学修時間 週2時間）また、ディスカッション後は必ず、事後学修としてのまとめを行い、ファイル化しておくこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

教科書は使用せず、参考書（文献）は授業中に指示。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

発表（50%）、レポート（50%）

フィードバックはmanabaにて随時行う。

**【参考書】**

適宜紹介します。

**【注意事項】**

修士論文を完成させるという強い意志をもってのぞんでください。  
学外見学実授業の日時・場所は授業中に指示する。



**芸術学研究指導特殊演習A**

博士論文作成を目指して

椎原 伸博

美術史学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

学生各自の研究計画に基づき、その成果の発表を行う。それに対し、発表者以外の学生および教員とのディスカッションを重ねることで、博士論文の内容を深めることを到達目標とする。

**【授業における到達目標】**

博士論文作成のために必要な参考文献の整理、スケジュールの管理が出来るようになる。

**【授業の内容】**

- 第1週 イン트로ダクション
- 第2週 各自のテーマの確認
- 第3週 文献検索のイントロダクション
- 第4週 芸術学のアプローチについて（1）フォーマリズム
- 第5週 芸術学のアプローチについて（2）様式論
- 第6週 美学のアプローチについて（1）現象学派の美学
- 第7週 美学のアプローチについて（2）分析美学
- 第8週 学外見学実授業（1）森美術館等
- 第9週 学生発表：1回目
- 第10週 研究テーマの確認
- 第11週 研究方法の確認
- 第12週 学外見学授業（2）新国立劇場等
- 第13週 学生発表：2回目
- 第14週 外国語論文検索について
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

博士論文作成のための準備であることを自覚して、ディスカッション前には現在の研究状況について教員に明確に説明できるように準備しておくこと。（学修時間 週2時間）また、ディスカッション後は必ず、事後学修としてのまとめを行い、ファイル化しておくこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

使用しない

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

発表（50%）、レポート（50%）  
フィードバックはmanabaにて随時行う。

**【参考書】**

教科書は使用せず、参考書（文献）は授業中に指示する。

**【注意事項】**

博士論文を完成させるという強い意志をもってのぞんでください。  
学外見学授業の日時・場所は授業中に指示する。

**芸術学研究指導特殊演習B**

博士論文作成を目指して

椎原 伸博

美術史学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

学生各自の研究計画に基づき、その成果の発表を行う。それに対し、発表者以外の学生および教員とのディスカッションを重ねることで、博士論文の内容を深めることを目的とする。

**【授業における到達目標】**

博士論文作成のための参考文献の整理、スケジュールの管理が出来るようになる。

**【授業の内容】**

- 第1週 イン트로ダクション
- 第2週 各自のテーマの確認
- 第3週 文献検索のイントロダクション
- 第4週 表象文化論のアプローチについて（1）記号論
- 第5週 表象文化論のアプローチについて（2）心理学
- 第6週 美術史方法論のアプローチについて（1）イコノロジー
- 第7週 美術史方法論のアプローチについて（2）ジェンダー論
- 第8週 学外見学実授業（1）国立西洋美術館等
- 第9週 学生発表：1回目
- 第10週 研究テーマの確認
- 第11週 研究方法の確認
- 第12週 学外見学授業（2）国立劇場等
- 第13週 学生発表：2回目
- 第14週 外国語論文検索について
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

博士論文作成のための準備であることを自覚して、ディスカッション前には現在の研究状況について教員に明確に説明できるように準備しておくこと。（学修時間 週2時間）また、ディスカッション後は必ず、事後学修としてのまとめを行い、ファイル化しておくこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

使用しない

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

発表（50%）、レポート（50%）  
フィードバックはmanabaにて随時行う。

**【参考書】**

適宜紹介します。

**【注意事項】**

博士論文を完成させるという強い意志をもってのぞんでください。  
学外見学授業の日時・場所は授業中に指示する。

**芸術学特殊研究A**

西洋芸術における1930年代研究

椎原 伸博

美術史学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

西洋の芸術史にあつて1930年代は、世界恐慌の社会不安という社会状況にあつて、モダニズムの進展によるインターナショナルな前衛芸術が確立した時代であつた。一方、第二次世界大戦を導いたファシズムの台頭は、政治と芸術を深く結びつけることになった。

本講義では、1930年代の、諸芸術（美術、音楽、演劇）と、美学・芸術学のトピックを年代順に確認し、1930年代芸術を概観する。また、途中2回の学生発表の時間を設定し、学生の理解度を深めることにする。

**【授業における到達目標】**

西洋の1930年代について、社会的、歴史的、思想的背景の考察を通して、その時代の芸術の特性を地域横断的に分析出来るようになる。それにより、修得すべき【研鑽力】のうち、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり学問を続ける基礎力を養います。それぞれの時代に特徴的な芸術作品の具体的な事例を鑑賞することで、修得すべき

【美の探求】のうち感受性を深めることを目指します。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODクシヨン 世界恐慌と芸術
- 第2週 1930年 「建設のソ連邦」とプロパガンダ
- 第3週 1931年 パリ植民地博覧会 ベンヤミン「写真小史」
- 第4週 1932年 MOMA 近代建築：国際展
- 第5週 1933年 アテネ憲章と近代都市
- 第6週 1934年 ヒンデミット事件
- 第7週 学生発表：1回目
- 第8週 1935年 文化の擁護のためのパリ国際作家大会
- 第9週 1936年 MOMA キュビズムと抽象芸術展
- 第10週 1937年 退廃芸術展とパリ万博
- 第11週 1938年 リーフエンシュタール「オリンピア」
- 第12週 1939年 グリンバーク「アヴァンギャルドとキッチン」
- 第13週 学生発表：2回目
- 第14週 学外見学授業：東京の1930年代
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

資料等は、manabaで配布するので、事前にダウンロードして予習に勤めてください。また、テーマ発表では十分な準備を行い、発表に臨んでください。（週2時間）発表後は、ディスカッション等の成果を参考にして事後学修を行い、理解を深めてください。（週2時間）

**【テキスト・教材】**

使用しない、資料等はmanabaにて配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

発表（50%）、レポート（50%）

**【参考書】**

教科書は使用せず、参考書（文献）は授業中に指示する。

**【注意事項】**

資料の配付や連絡は、全てmanabaにて行うため、必ずリマインダー設定して、告知を見逃さないこと。1930年代の芸術を理解するため、東京の建築や展覧会等の見学会を行う。見学については、授業中に指示する。

なお、学外見学授業の日時・場所は授業中に指示する。

**芸術学特殊研究B**

都市の美学研究：ウィーン

椎原 伸博

美術史学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

「都市の美学」というテーマで、今年度はウィーンについて検討する。本講義は、ウィーンの都市形成の歴史を踏まえた上で、そこで開花した様々な芸術活動を分析し、その都市が有する独特の美意識について検討する。

**【授業における到達目標】**

ウィーンで花開いた芸術文化について、社会的、歴史的、思想的背景の考察を通して、その特性を分析出来るようになる。それにより、修得すべき【研鑽力】のうち、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり学問を続ける基礎力を養います。それぞれの時代に特徴的な芸術作品の具体的な事例を鑑賞することで、修得すべき【美の探求】のうち感受性を深めることを目指します。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 神聖ローマ帝国の辺境都市ウィーン
- 第3週 ハプスブルク家のウィーン バロック都市
- 第4週 ウィーン体制の都市文化 ビーダーマイヤー
- 第5週 ウィーンの都市改造① 環状道路と国立歌劇場
- 第6週 ウィーンの都市改造② ゼンパーによる都市計画
- 第7週 世紀末ウィーン① オットー・ワグナー
- 第8週 世紀末ウィーン② ヨーゼフ・ホフマン
- 第9週 世紀末ウィーン③ シェーンベルク
- 第10週 モダニズムのウィーン① アドルフ・ロース
- 第11週 モダニズムのウィーン② ウィトゲンシュタインの建築
- 第12週 赤いウィーン
- 第13週 ヒットラーのウィーン
- 第14週 ポストモダン建築のウィーン
- 第15週 学外建築調査 東京のポストモダン建築

**【事前・事後学修】**

事前に配布する資料はよく読んでおくこと。（週2時間）また、課題による発表を課すので、そのための準備学習、そして発表のまとめレポートを通じて、事後学習に努めるように。（週2時間）

**【テキスト・教材】**

適宜資料を配付する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート（50%）授業内発表（50%）

**【参考書】**

適宜指示する。

**【注意事項】**

配布資料は必ず、ファイリングしておくこと。資料の配付や連絡は、全てmanabaにて行うため、必ずリマインダー設定して、告知を見逃さないこと。ウィーンのポストモダン建築との比較のために、東京のポストモダン建築の見学会を行う。

**芸術学特論A**

西洋芸術における1930年代研究

椎原 伸博

美術史学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

西洋の芸術史にあつて1930年代は、世界恐慌の社会不安という社会状況にあつて、モダニズムの進展によるインターナショナルな前衛芸術が確立した時代であつた。一方、第二次世界大戦を導いたファシズムの台頭は、政治と芸術を深く結びつけることになった。

本講義では、1930年代の、諸芸術（美術、音楽、演劇）と、美学・芸術学のトピックを年代順に確認し、1930年代芸術を概観する。また、途中2回の学生発表の時間を設定し、学生の理解度を深めることにする。

**【授業における到達目標】**

西洋の1930年代について、社会的、歴史的、思想的背景の考察を通して、その時代の芸術の特性を地域横断的に分析出来るようになる。それにより、修得すべき【研鑽力】のうち、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり学問を続ける基礎力を養います。それぞれの時代に特徴的な芸術作品の具体的な事例を鑑賞することで、修得すべき

【美の探求】のうち感受性を深めることを目指します。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODakション 世界恐慌と芸術
- 第2週 1930年 「建設のソ連邦」とプロパガンダ
- 第3週 1931年 パリ植民地博覧会 ベンヤミン「写真小史」
- 第4週 1932年 MOMA 近代建築：国際展
- 第5週 1933年 アテネ憲章と近代都市
- 第6週 1934年 ヒンデミット事件
- 第7週 学生発表：1回目
- 第8週 1935年 文化の擁護のためのパリ国際作家大会
- 第9週 1936年 MOMA キュビズムと抽象芸術展
- 第10週 1937年 退廃芸術展とパリ万博
- 第11週 1938年 リーフエンシュタール「オリンピア」
- 第12週 1939年 グリンバーク「アヴァンギャルドとキッチン」
- 第13週 学生発表：2回目
- 第14週 学外見学：東京の1930年代事例調査
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

資料等は、manabaで配布するので、事前にダウンロードして予習に勤めてください。また、テーマ発表では十分な準備を行い、発表に臨んでください。（週2時間）発表後は、ディスカッション等の成果を参考にして事後学修を行い、理解を深めてください。（週2時間）

**【テキスト・教材】**

使用しない、資料等はmanabaにて配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

発表（50%）、レポート（50%）

**【参考書】**

教科書は使用せず、参考書（文献）は授業中に指示する。

**【注意事項】**

資料の配付や連絡は、全てmanabaにて行うため、必ずリマインダー設定して、告知を見逃さないこと。1930年代の芸術を理解するため、東京の建築や展覧会等の見学会を行う。見学については、授業中に指示する。

**芸術学特論B**

都市の美学研究：ウィーン

椎原 伸博

美術史学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

「都市の美学」というテーマで、今年度はウィーンについて検討する。本講義は、ウィーンの都市形成の歴史を踏まえた上で、そこで開花した様々な芸術活動を分析し、その都市が有する独特の美意識について検討する。

**【授業における到達目標】**

ウィーンで花開いた芸術文化について、社会的、歴史的、思想的背景の考察を通して、その特性を分析出来るようになる。それにより、修得すべき【研鑽力】のうち、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり学問を続ける基礎力を養います。それぞれの時代に特徴的な芸術作品の具体的な事例を鑑賞することで、修得すべき【美の探求】のうち感受性を深めることを目指します。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODakション
- 第2週 神聖ローマ帝国の辺境都市ウィーン
- 第3週 ハプスブルク家のウィーン バロック都市
- 第4週 ウィーン体制の都市文化 ビーダーマイヤー
- 第5週 ウィーンの都市改造① 環状道路と国立歌劇場
- 第6週 ウィーンの都市改造② ゼンパーによる都市計画
- 第7週 世紀末ウィーン① オットー・ワグナー
- 第8週 世紀末ウィーン② ヨーゼフ・ホフマン
- 第9週 世紀末ウィーン③ シェーンベルク
- 第10週 モダニズムのウィーン① アドルフ・ロース
- 第11週 モダニズムのウィーン② ウイトゲンシュタインの建築
- 第12週 赤いウィーン
- 第13週 ヒットラーのウィーン
- 第14週 ポストモダン建築のウィーン
- 第15週 学外建築調査 東京のポストモダン建築

**【事前・事後学修】**

事前に配布する資料はよく読んでおくこと。（週2時間）また、課題による発表を課すので、そのための準備学習、そして発表のまとめレポートを通じて、事後学習に努めるように。（週2時間）

**【テキスト・教材】**

適宜資料を配付する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

発表（50%）レポート（50%）

**【参考書】**

適宜指示する。

**【注意事項】**

配布資料は必ず、ファイリングしておくこと。資料の配付や連絡は、全てmanabaにて行うため、必ずリマインダー設定して、告知を見逃さないこと。ウィーンのポストモダン建築との比較のために、東京のポストモダン建築の見学会を行う。

**芸能文化史**

古典芸能の歴史と表現

吉田 純子

2年～ 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

日本には成立年代や演技演出様式の異なる多彩な芸能が今日に生きています。そのなかから、ユネスコの無形文化遺産の代表一覧表にも記載されている「能楽」「人形浄瑠璃文楽」「歌舞伎」「組踊」を取り上げ、それぞれの歴史や演技演出様式等について概観します。さらに道成寺物といわれる紀州（和歌山）の道成寺の縁起にかかわる伝説やその後日譚を内容とする演目を鑑賞し、各芸能の特色や相互の影響関係などを探求します。また、楽器や衣装、大道具・小道具等は芸能を演じるのに欠くことができないものです。これらの製作技術、技術伝承の現状について取り上げ、職人の方々が抱える問題等について検討、考察します。

**【授業における到達目標】**

- ・日本の伝統文化について豊かな知見を得ることができる
- ・学生が修得すべき「美の探究」のうち、感受性を深めようとする態度を修得する

**【授業の内容】**

- 第1週 イン트로ダクション
- 第2週 能楽を知る
- 第3週 人形浄瑠璃文楽を知る
- 第4週 歌舞伎を知る
- 第5週 組踊を知る
- 第6週 道成寺縁起について
- 第7週 能「道成寺」を見る
- 第8週 校外授業 全国民俗芸能大会 詳細は下記参照
- 第9週 人形浄瑠璃文楽「日高川入相花王」を見る
- 第10週 歌舞伎「京鹿子娘道成寺」を見る
- 第11週 組踊「執心鐘入」を見る
- 第12週 民俗芸能の「鐘巻」を見る
- 第13週 伝統芸能を支える技術① 邦楽器の糸づくり
- 第14週 伝統芸能を支える技術②  
邦楽器の製作（三味線、箏、琵琶など）
- 第15週 伝統芸能を支える技術③  
歌舞伎大道具・小道具、衣装の製作

校外授業 全国民俗芸能大会

日時（予定）平成30年11月24日（土）13時～17時

場所 日本青年館（東京都新宿区霞ヶ丘町7-1）

他の授業で参加できない場合は相談に応じます

**【事前・事後学修】**

【事前学修】配布資料を次回授業までに読んでおくこと。授業で示した課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】課題等について復習すること。劇場施設に出かけたり映像等を用いるなどし、出来るだけ多くの伝統芸能を見ること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

適宜プリントを配布する

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末レポート40%、小レポート40%、平常点（授業への積極参加・リアクションペーパー・提出課題）20%

小レポート、提出課題については、授業中にフィードバックを行うリアクションペーパー等に寄せられた質問等については、できる限り授業で回答等を行う

**【参考書】**

授業中に適宜示します

**【注意事項】**

- ・受講生は不明な点などについて積極的に質問してください
- ・伝統芸能や民俗芸能を実際に観る機会を作る努力をしてください

**芸能文化史**

古典芸能の歴史と表現

吉田 純子

2年～ 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

日本には成立年代や演技演出様式の異なる多彩な芸能が今日に生きています。そのなかから、ユネスコの無形文化遺産の代表一覧表にも記載されている「能楽」「人形浄瑠璃文楽」「歌舞伎」「組踊」を取り上げ、それぞれの歴史や演技演出様式等について概観します。さらに道成寺物といわれる紀州（和歌山）の道成寺の縁起にかかわる伝説やその後日譚を内容とする演目を鑑賞し、各芸能の特色や相互の影響関係などを探求します。また、楽器や衣装、大道具・小道具等は芸能を演じるのに欠くことができないものです。これらの製作技術、技術伝承の現状について取り上げ、職人の方々が抱える問題等について検討、考察します。

**【授業における到達目標】**

- ・日本の伝統文化について豊かな知見を得ることができる
- ・学生が修得すべき「美の探究」のうち、感受性を深めようとする態度を修得する

**【授業の内容】**

- 第1週 イン트로ダクション
- 第2週 能楽を知る
- 第3週 人形浄瑠璃文楽を知る
- 第4週 歌舞伎を知る
- 第5週 組踊を知る
- 第6週 道成寺縁起について
- 第7週 能「道成寺」を見る
- 第8週 校外授業 全国民俗芸能大会 詳細は下記参照
- 第9週 人形浄瑠璃文楽「日高川入相花王」を見る
- 第10週 歌舞伎「京鹿子娘道成寺」を見る
- 第11週 組踊「執心鐘入」を見る
- 第12週 民俗芸能の「鐘巻」を見る
- 第13週 伝統芸能を支える技術① 邦楽器の糸づくり
- 第14週 伝統芸能を支える技術②  
邦楽器の製作（三味線、箏、琵琶など）
- 第15週 伝統芸能を支える技術③  
歌舞伎大道具・小道具、衣装の製作

校外授業 全国民俗芸能大会

日時（予定）平成30年11月24日（土）13時～17時

場所 日本青年館（東京都新宿区霞ヶ丘町7-1）

他の授業で参加できない場合は相談に応じます

**【事前・事後学修】**

【事前学修】配布資料を次回授業までに読んでおくこと。授業で示した課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】課題等について復習すること。劇場施設に出かけたり映像等を用いるなどし、出来るだけ多くの伝統芸能を見ること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

適宜プリントを配布する

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末レポート40%、小レポート40%、平常点（授業への積極参加・リアクションペーパー・提出課題）20%

小レポート、提出課題については、授業中にフィードバックを行うリアクションペーパー等に寄せられた質問等については、できる限り授業で回答等を行う

**【参考書】**

授業中に適宜示します

**【注意事項】**

- ・受講生は不明な点などについて積極的に質問してください
- ・伝統芸能や民俗芸能を実際に観る機会を作る努力をしてください

**健康づくり運動実習 a**

我妻 玲

2年 後期 1単位

○：研鑽力、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

本授業では、健康に関する諸問題、有酸素性運動の意義と実践方法および、体力づくりのためのトレーニングの原理と実践方法について学習する。さらに、今まであまり経験したことのない種目を実践し、ゲームやスポーツを通じたコミュニケーション能力の向上、ルール・エチケット・マナー等を習得し、生涯スポーツを楽しむ知識を身につけることを目標とする。

**【授業における到達目標】**

1. 学生が修得すべき「研鑽力」として、運動前、運動中、運動後の身体の生理的变化を実感し、それを科学的に理解することができる。
2. 学生が修得すべき「研鑽力」として、運動前後の心理的变化を実感し、それを科学的に理解することができる。
3. 学生が修得すべき「行動力」として、自己の健康状態を把握し、運動を日常生活に取り入れる工夫をすることができる。
4. 学生が修得すべき「協働力」として、スポーツによるグループ活動を通してコミュニケーション能力を高めることができる。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 健康づくり運動の理論と実際
- 第3週 体力測定
- 第4週 ウォーキングによるトレーニング方法（基本的フォーム）
- 第5週 ウォーキングによる運動効果と評価（心拍数の測定方法）
- 第6週 ジョギングによるトレーニング方法（基本的フォーム）
- 第7週 ジョギングによる運動効果と評価（心拍数の測定方法）
- 第8週 ソフトボールの基礎（キャッチボール・バッティング）
- 第9週 ソフトボールの応用（チーム練習）・ゲーム
- 第10週 アルティメットの基礎（フリスビーの投げ方）
- 第11週 アルティメットの応用（チーム練習）・ゲーム
- 第12週 サッカーの基礎（パス・ドリブル）・ミニゲーム
- 第13週 グラウンドパターゴルフ（パターの握り方と打ち方）
- 第14週 体力測定
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】運動が健康の維持・増進に及ぼす影響について整理しておくこと。常日頃から十分な睡眠と食事をとり、体調を整えてから授業に参加すること。（学修時間 週1時間）

【事後学修】授業で行った運動を日常生活に取り入れてみること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。（学修時間 週1時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを使用する

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点60%（授業への積極参加）、レポート20%、小テスト20%。小テストは次回授業でフィードバックを行う。

**【参考書】**

『健康運動実践指導者養成用テキスト』健康・体力づくり事業財団  
『ニュースポーツ100』評言社

**【注意事項】**

天候によっては種目の変更がある。毎回必ず運動着・運動靴・タオルを持参してください。なるべく水分補給を行うためのペットボトルや水筒を持参してください。

第1週目の授業時に、履修カードの作成や第2週以降の体力測定・授業内容に関する諸連絡を行うので、必ず出席すること。

**健康づくり運動実習 a**

我妻 玲

2年 前期 1単位

◎：行動力

**【授業のテーマ】**

本授業では、健康に関する諸問題、有酸素性運動の意義と実践方法および、体力づくりのためのトレーニングの原理と実践方法について学習する。さらに、今まであまり経験したことのない種目を実践し、ゲームやスポーツを通じたコミュニケーション能力の向上、ルール・エチケット・マナー等を習得し、生涯スポーツを楽しむ知識を身につけることを目標とする。

**【授業における到達目標】**

1. 学生が修得すべき「研鑽力」として、運動前、運動中、運動後の身体の生理的变化を実感し、それを科学的に理解することができる。
2. 学生が修得すべき「研鑽力」として、運動前後の心理的变化を実感し、それを科学的に理解することができる。
3. 学生が修得すべき「行動力」として、自己の健康状態を把握し、運動を日常生活に取り入れる工夫をすることができる。
4. 学生が修得すべき「協働力」として、スポーツによるグループ活動を通してコミュニケーション能力を高めることができる。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 健康づくり運動の理論と実際
- 第3週 体力測定
- 第4週 ウォーキングによるトレーニング方法（基本的フォーム）
- 第5週 ウォーキングによる運動効果と評価（心拍数の測定方法）
- 第6週 ジョギングによるトレーニング方法（基本的フォーム）
- 第7週 ジョギングによる運動効果と評価（心拍数の測定方法）
- 第8週 ソフトボールの基礎（キャッチボール・バッティング）
- 第9週 ソフトボールの応用（チーム練習）・ゲーム
- 第10週 アルティメットの基礎（フリスビーの投げ方）
- 第11週 アルティメットの応用（チーム練習）・ゲーム
- 第12週 サッカーの基礎（パス・ドリブル）・ミニゲーム
- 第13週 グラウンドパターゴルフ（パターの握り方と打ち方）
- 第14週 体力測定
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】運動が健康の維持・増進に及ぼす影響について整理しておくこと。常日頃から十分な睡眠と食事をとり、体調を整えてから授業に参加すること。（学修時間 週1時間）

【事後学修】授業で行った運動を日常生活に取り入れてみること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。（学修時間 週1時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを使用する

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点60%（授業への積極参加）、レポート20%、小テスト20%。小テストは次回授業でフィードバックを行う。

**【参考書】**

『健康運動実践指導者養成用テキスト』健康・体力づくり事業財団  
『ニュースポーツ100』評言社

**【注意事項】**

天候によっては種目の変更がある。毎回必ず運動着・運動靴・タオルを持参してください。なるべく水分補給を行うためのペットボトルや水筒を持参してください。

第1週目の授業時に、履修カードの作成や第2週以降の体力測定・授業内容に関する諸連絡を行うので、必ず出席すること。

**健康づくり運動実習 b**

Physical Fitness

佐藤 健

2年 後期 1単位

○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

人生80年といわれる昨今、健康で豊かな生活を送るためには運動・栄養・休養のバランスのよい生活習慣を若いうちに獲得し健康の保持増進に努めること、体力値を高めることが重要である。そのためにはまず現時点での自分の身体を「知る」こと、そして自分がイメージする理想的な状態に近づくための方策を学ぶ必要がある。

本授業では、まず自分自身を客観的な指標に基づいて「知る」ことからスタートする。次にこれまでのスポーツ医科学の成果を学び、3ヶ月後、6ヶ月後、1年後の目標設定を行い、トレーニングを実践することを目的とする。

**【授業における到達目標】**

自分の「身体」と「こころ」の変化に気づき、「運動」を組み込んだよりよい生活習慣を獲得し、「研鑽力(○)」を養うことを到達目標とする。

**【授業の内容】**

1. ガイダンス（授業の概要と評価方法の説明）
2. 形態計測
3. 体型判定
4. 運動能力測定
5. 身体活動量測定
6. トレーニングプログラムの作成
7. トレーニング施設を活用する
8. 大学周辺の環境を活用する
9. 自重を用いたトレーニング
10. 発達段階に応じたトレーニング
11. スポーツ種目に応じたトレーニング
12. 身体活動量を考える
13. トレーニングプログラムの見直し
14. 形態計測、体型判定
15. レポート作成（トレーニング記録の提出、自己評価）

**【事前・事後学修】**

事前に解剖学、生理学等の用語を理解するための学修時間を確保すること。事後では、骨格筋名や姿勢について専門用語の理解のための学修があわせて20時間程度必要である。

**【テキスト・教材】**

必要があれば、教場で配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

出席時の小テスト 4×15=60%

期末レポート 40%

データ、試技等は随時フィードバックを行う

**【参考書】**

教場で指示する

**【注意事項】**

自分の体の変化を積極的に知る姿勢をもって受講することを望むこと



**健康づくり運動実習 b**

Physical Fitness

佐藤 健

2年 前期 1単位

◎：行動力

**【授業のテーマ】**

人生80年といわれる昨今、健康で豊かな生活を送るためには運動・栄養・休養のバランスのよい生活習慣を若いうちに獲得し健康の保持増進に努めること、体力値を高めることが重要である。そのためにはまず現時点での自分の身体を「知る」こと、そして自分がイメージする理想的な状態に近づくための方策を学ぶ。まず自分自身を客観的な指標に基づいて「知る」ことからスタートする。次にこれまでのスポーツ医科学の成果を学び、3ヶ月後、6ヶ月後、1年後の目標設定を行い、トレーニングを実践することを目的とする。

**【授業における到達目標】**

本授業では、自分の「身体」と「こころ」の変化に気づき、「運動」を組み込んだよりよい生活習慣を獲得し、継続する「研鑽力（〇）」を養うことを到達目標とする。

**【授業の内容】**

1. ガイダンス（授業の概要と評価方法の説明）
2. 形態計測
3. 体型判定
4. 運動能力測定
5. 身体活動量測定
6. トレーニングプログラムの作成
7. トレーニング施設を活用する
8. 大学周辺の環境を活用する
9. 自重を用いたトレーニング
10. 発達段階に応じたトレーニング
11. スポーツ種目に応じたトレーニング
12. 身体活動量を考える
13. トレーニングプログラムの見直し
14. 形態計測、体型判定
15. レポート作成（トレーニング記録の提出、自己評価）

**【事前・事後学修】**

事前に解剖学、生理学等の基本的な人体動作にかかわる用語は調べ学修を行い、授業後に再度、骨格筋名などをあわせて20時間程度学修しておくこと。

**【テキスト・教材】**

必要があれば、教場で配布する

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

出席時の小テスト4×15回 60%  
 期末レポート 40%  
 データ等は随時フィードバックを行う

**【参考書】**

教場で提示する

**【注意事項】**

自分の体の変化を積極的に知る姿勢をもって受講することを望む

**健康づくり運動実習 c**

エアロビックダンス

河田 美保

2年 前期 1単位

○：協働力

**【授業のテーマ】**

健康や体力づくりを目的とした運動の特性や効果について理解を深め、その運動を安全かつ効果的に実践指導できる能力を身につけることを目標とする。

**【授業における到達目標】**

- ①手本となる美しい動きを身につけることができる
- ②動きの観察、修正、動機づけができる
- ③自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる

**【授業の内容】**

エアロビックダンスを中心に、健康、体力づくりを目的とした運動の理論と実践を相互に検討しながら、グループによる実践指導実習を繰り返す行う。

第1週 ガイダンス

第2週 姿勢評価システムによる姿勢測定

第3週 コンディショニング・エクササイズ

第4週 レクリエーション・ダンス

第5週 ウォーミングアップの行い方

第6週 クーリングダウンの行い方

第7週 エアロビックダンスの特性

実習：基本的なステップの習得

第8週 エアロビックダンスの効果

実習：アライメントの確認

第9週 エアロビックダンスの運動強度

実習：運動強度の調節方法

第10週 エアロビックダンスの運動プログラム

実習：動きの質と音楽について

第11週 エアロビックダンスの指導方法Ⅰ

実習：実践指導（説明、リード、キューイングなど）

第12週 エアロビックダンスの指導方法Ⅱ

実習：実践指導（観察、修正、動機づけなど）

第13週 エアロビックダンスの指導上の留意点

実習：実践指導（安全への配慮、雰囲気づくりなど）

第14週 姿勢評価システムによる姿勢測定

第15週 エアロビックダンス実践指導評価、総括

**【事前・事後学修】**

- ①自己の身体、健康、体力に関心を持ち、日常生活の中で積極的に身体活動を行う（週6万歩を目標に）
  - ②授業で行った動きを復習する
  - ③有酸素性運動について学修を深める
- ①～③合わせて3時間程度/週

**【テキスト・教材】**

プリントを使用する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業態度50%、課題達成度（実践指導テストで評価）30%、共通レポート20%で評価する。実践指導テストはコメントで、レポートは総括でフィードバックする。

**【参考書】**

『健康運動実践指導者養成テキスト』健康・体力づくり事業財団

**【注意事項】**

- ①ガイダンスをよく聴いて受講する
- ②伸縮性に富んだ運動着を着用する
- ③受講者が互いに有意義な時間を持てるよう遅刻をしない
- ④十分な睡眠をとり、食生活等に気を配るなど体調管理に努め、授業に参加する
- ⑤やむを得ず欠席、遅刻、早退、見学する場合にはなるべく事前に書面にて届出る

**健康づくり運動実習 c**

エアロビックダンス

河田 美保

2年 後期 1単位

◎：行動力

**【授業のテーマ】**

健康や体力づくりを目的とした運動の特性や効果について理解を深め、その運動を安全かつ効果的に実践指導できる能力を身につけることを目標とする。

**【授業における到達目標】**

- ①手本となる美しい動きを身につけることができる
- ②動きの観察、修正、動機づけができる
- ③自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる

**【授業の内容】**

エアロビックダンスを中心に、健康、体力づくりを目的とした運動の理論と実践を相互に検討しながら、グループによる実践指導実習を繰り返す。

第1週 ガイダンス

第2週 姿勢評価システムによる姿勢測定

第3週 コンディショニング・エクササイズ

第4週 レクリエーション・ダンス

第5週 ウォーミングアップの行い方

第6週 クーリングダウンの行い方

第7週 エアロビックダンスの特性

実習：基本的なステップの習得

第8週 エアロビックダンスの効果

実習：アライメントの確認

第9週 エアロビックダンスの運動強度

実習：運動強度の調節方法

第10週 エアロビックダンスの運動プログラム

実習：動きの質と音楽について

第11週 エアロビックダンスの指導方法Ⅰ

実習：実践指導（説明、リード、キューイングなど）

第12週 エアロビックダンスの指導方法Ⅱ

実習：実践指導（観察、修正、動機づけなど）

第13週 エアロビックダンスの指導上の留意点

実習：実践指導（安全への配慮、雰囲気づくりなど）

第14週 姿勢評価システムによる姿勢測定

第15週 エアロビックダンス実践指導評価、総括

**【事前・事後学修】**

- ①自己の身体、健康、体力に関心を持ち、日常生活の中で積極的に身体活動を行う（週6万歩を目標に）
  - ②授業で行った動きを復習する
  - ③有酸素性運動について学修を深める
- ①～③合わせて3時間程度/週

**【テキスト・教材】**

プリントを使用する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業態度50%、課題達成度（実践指導テストで評価）30%、レポート20%で評価する。実践指導テストはコメントで、レポートは総括でフィードバックする。

**【参考書】**

『健康運動実践指導者養成テキスト』健康・体力づくり事業財団

**【注意事項】**

- ①ガイダンスをよく聴いて受講する
- ②伸縮性に富んだ運動着を着用する
- ③受講者が互いに有意義な時間を持てるよう遅刻をしない
- ④十分な睡眠をとり、食生活等に気を配るなど体調管理に努め、授業に参加する
- ⑤やむを得ず欠席、遅刻、早退、見学する場合にはなるべく事前に書面にて届出る

**健康づくり運動実習 d**

健康づくり運動と水泳・水中運動

島崎 あかね・高橋 雄介

3年 前集 1単位

◎：行動力

**【授業のテーマ】**

この授業では、生涯を通じて自己の身体を健康的に管理することができる運動の知識ならびに実践とともに、健康運動実践指導者として他者を指導する能力を身に付けていきます。特に、筋力トレーニング、ストレッチングおよびウォーミングアップ・クーリングダウンでは、その意義と効果・方法を修得し、水泳・水中運動では、水中運動の利点について学び、水中運動の動作および泳法を修得します。

**【授業における到達目標】**

健康運動実践指導者としての基礎的知識および実践する能力の修得を目標に、筋力トレーニング、ストレッチングおよびウォーミングアップ・クーリングダウンの意義とその効果、方法、水泳・水中運動の利点や水中運動の動作および泳法を修得するとともに、科学的理論に基づいたトレーニングプログラムを作成および実行することで、他者に対する運動処方（目標の設定・計画の立案）できる「行動力」の習得を目指します。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 体力測定
- 第3週 ストレッチング①（種類と特性）
- 第4週 ストレッチング②（目的と実際）
- 第5週 ウォーミングアップ・クーリングダウン①（種類と特性）
- 第6週 ウォーミングアップ・クーリングダウン②（目的と実際）
- 第7週 筋力トレーニングの方法①（自重トレーニング）
- 第8週 筋力トレーニングの方法②（ダンベルトレーニング）
- 第9週 筋力トレーニングの方法③（メディシンボール）
- 第10週 水泳・水中運動①（力学・生理学などの特性）
- 第11週 水泳・水中運動②（効果・強度設定・安全に対する注意）
- 第12週 水泳・水中運動③（け伸び・ストリームライン）
- 第13週 水泳・水中運動④（クロールなどの泳法）
- 第14週 水泳・水中運動⑤（アクアビクス・水中ウォーキング）
- 第15週 水泳・水中運動⑥（水中レジスタンス運動）

**【事前・事後学修】**

【事前学習】十分な睡眠と食事をとり体調を整えるなど、自己の健康状態や体力について関心を持ちましょう。またメディアで取り上げられている健康やスポーツに関する話題にも関心を寄せておきましょう。（学修時間 週1時間）

【事後学習】学んだ内容（ストレッチングやトレーニング方法）を各自の日常生活に取り入れ、継続的に実践しましょう。（学修時間 週1時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への積極参加）60%、レポート20%、課題達成度20%  
ストレッチングやトレーニング方法の習熟度は、次回授業のウォーミングアップ等における実践でフィードバックを行い、水泳・水中運動の内容は各授業終了時およびレポート返却時に解説を加えてフィードバックを行います。

**【参考書】**

『健康運動実践指導者養成用テキスト』健康・体力づくり事業財団（4900円 税込）

**【注意事項】**

- ・この授業は集中授業にて行います。7月中にガイダンスを行い、実技は8月上旬を予定しています。
- ・水泳・水中運動は学外（都内）の屋内プールで行うため、自宅からプールまでの交通費が別途かかります（詳細はガイダンス時に説明します）。学内授業には、運動に適した服装、体育館シューズを準備してください。

**健康づくり運動実習 d**

健康づくり運動と水泳・水中運動

島崎 あかね・高橋 雄介

3年 前集 1単位

◎：行動力

**【授業のテーマ】**

この授業では、生涯を通じて自己の身体を健康的に管理することができる運動の知識ならびに実践とともに、健康運動実践指導者として他者を指導する能力を身に付けていきます。特に、筋力トレーニング、ストレッチングおよびウォーミングアップ・クーリングダウンでは、その意義と効果・方法を修得し、水泳・水中運動では、水中運動の利点について学び、水中運動の動作および泳法を修得します。

**【授業における到達目標】**

健康運動実践指導者としての基礎的知識および実践する能力の修得を目標に、筋力トレーニング、ストレッチングおよびウォーミングアップ・クーリングダウンの意義とその効果、方法、水泳・水中運動の利点や水中運動の動作および泳法を修得するとともに、科学的理論に基づいたトレーニングプログラムを作成および実行することで、他者に対する運動処方（目標の設定・計画の立案）できる「行動力」の習得を目指します。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 体力測定
- 第3週 ストレッチング①（種類と特性）
- 第4週 ストレッチング②（目的と実際）
- 第5週 ウォーミングアップ・クーリングダウン①（種類と特性）
- 第6週 ウォーミングアップ・クーリングダウン②（目的と実際）
- 第7週 筋力トレーニングの方法①（自重トレーニング）
- 第8週 筋力トレーニングの方法②（ダンベルトレーニング）
- 第9週 筋力トレーニングの方法③（メディシンボール）
- 第10週 水泳・水中運動①（力学・生理学などの特性）
- 第11週 水泳・水中運動②（効果・強度設定・安全に対する注意）
- 第12週 水泳・水中運動③（け伸び・ストリームライン）
- 第13週 水泳・水中運動④（クロールなどの泳法）
- 第14週 水泳・水中運動⑤（アクアビクス・水中ウォーキング）
- 第15週 水泳・水中運動⑥（水中レジスタンス運動）

**【事前・事後学修】**

【事前学修】十分な睡眠と食事をとり体調を整えるなど、自己の健康状態や体力について関心を持ちましょう。またメディアで取り上げられている健康やスポーツに関する話題にも関心を寄せておきましょう。（学修時間 週1時間）

【事後学修】学んだ内容（ストレッチングやトレーニング方法）を各自の日常生活に取り入れ、継続的に実践しましょう。（学修時間 週1時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への積極参加）60%、レポート20%、課題達成度20%  
ストレッチングやトレーニング方法の習熟度は、次回授業のウォーミングアップ等における実践でフィードバックを行い、水泳・水中運動の内容は各授業終了時およびレポート返却時に解説を加えてフィードバックを行います。

**【参考書】**

『健康運動実践指導者養成用テキスト』健康・体力づくり事業財団（4900円 税込）

**【注意事項】**

- ・この授業は集中授業にて行います。7月中にガイダンスを行い、実技は8月上旬を予定しています。
- ・水泳・水中運動は学外（都内）の屋内プールで行うため、自宅からプールまでの交通費が別途かかります（詳細はガイダンス時に説明します）。学内授業には、運動に適した服装、体育館シューズを準備してください。

**健康づくり運動実習 d**

健康づくり運動と水泳・水中運動

島崎 あかね・高橋 雄介

3年 前集 1単位

◎：行動力

**【授業のテーマ】**

この授業では、生涯を通じて自己の身体を健康的に管理することができる運動の知識ならびに実践とともに、健康運動実践指導者として他者を指導する能力を身に付けていきます。特に、筋力トレーニング、ストレッチングおよびウォーミングアップ・クーリングダウンでは、その意義と効果・方法を修得し、水泳・水中運動では、水中運動の利点について学び、水中運動の動作および泳法を修得します。

**【授業における到達目標】**

健康運動実践指導者としての基礎的知識および実践する能力の修得を目標に、筋力トレーニング、ストレッチングおよびウォーミングアップ・クーリングダウンの意義とその効果、方法、水泳・水中運動の利点や水中運動の動作および泳法を修得するとともに、科学的理論に基づいたトレーニングプログラムを作成および実行することで、他者に対する運動処方（目標の設定・計画の立案）できる「行動力」の習得を目指します。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 体力測定
- 第3週 ストレッチング①（種類と特性）
- 第4週 ストレッチング②（目的と実際）
- 第5週 ウォーミングアップ・クーリングダウン①（種類と特性）
- 第6週 ウォーミングアップ・クーリングダウン②（目的と実際）
- 第7週 筋力トレーニングの方法①（自重トレーニング）
- 第8週 筋力トレーニングの方法②（ダンベルトレーニング）
- 第9週 筋力トレーニングの方法③（メディシンボール）
- 第10週 水泳・水中運動①（力学・生理学などの特性）
- 第11週 水泳・水中運動②（効果・強度設定・安全に対する注意）
- 第12週 水泳・水中運動③（け伸び・ストリームライン）
- 第13週 水泳・水中運動④（クロールなどの泳法）
- 第14週 水泳・水中運動⑤（アクアビクス・水中ウォーキング）
- 第15週 水泳・水中運動⑥（水中レジスタンス運動）

**【事前・事後学修】**

【事前学修】十分な睡眠と食事をとり体調を整えるなど、自己の健康状態や体力について関心を持ちましょう。またメディアで取り上げられている健康やスポーツに関する話題にも関心を寄せておきましょう。（学修時間 週1時間）

【事後学修】学んだ内容（ストレッチングやトレーニング方法）を各自の日常生活に取り入れ、継続的に実践しましょう。（学修時間 週1時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への積極参加）60%、レポート20%、課題達成度20%  
ストレッチングやトレーニング方法の習熟度は、次回授業のウォーミングアップ等における実践でフィードバックを行い、水泳・水中運動の内容は各授業終了時およびレポート返却時に解説を加えてフィードバックを行います。

**【参考書】**

『健康運動実践指導者養成用テキスト』健康・体力づくり事業財団（4900円 税込）

**【注意事項】**

- ・この授業は集中授業にて行います。7月中にガイダンスを行い、実技は8月上旬を予定しています。
- ・水泳・水中運動は学外（都内）の屋内プールで行うため、自宅からプールまでの交通費が別途かかります（詳細はガイダンス時に説明します）。学内授業には、運動に適した服装、体育館シューズを準備してください。

## 健康運動実習 a

早田 朋代

1年～ 後期 1単位

○：研鑽力、協働力

### 【授業のテーマ】

本授業では生涯健康に過ごすための身体づくりをテーマに運動の特性や効果について理解をし、基礎的な体力作り、スポーツを実践・体験することを目的とする。前半ではウォーキングやトレーニングを通して基礎的な体力作りを行うとともに、その理論についても学び、生涯を通じて実践できるものを学ぶ。後半では様々なスポーツを通じてその種目のおもしろさ、意義について学び、スポーツの必要性を理解するとともに、運動習慣の定着化を目指す。

### 【授業における到達目標】

体力測定を通して自分自身の体力・運動能力をきちんと把握し、今後健康な身体で生活をしていくための計画を立て、行動する。スポーツを通して互いに協力をし、自分自身の役割を発見し、積極的に行動する。

### 【授業の内容】

1. オリエンテーション・ガイダンス
2. 体力測定、健康生活調査、目標作り
3. からだほぐし、ストレッチ
4. トレーニング①
5. トレーニング②
6. ウォーキングの方法と展開
7. ウォーキングの実施
8. 球技①バスケットボールの基礎技術
9. 球技②バスケットボールの技能と試合
10. ダンス①エアロビクスエクササイズ
11. ダンス②身近な音楽を使って
12. 球技③ミニテニスの基礎技術
13. 球技④ミニテニスの試合
14. 体力測定、身体評価
15. まとめ

### 【事前・事後学修】

各自で目標設定をした後その目標を達成できるよう普段から健康を意識して生活を行って下さい。（週1時間程度）また、体力測定データの分析とまとめが必要となります。

### 【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・意欲・積極性）50%、レポート課題30%、課題達成度20%で総合的に評価します。

レポートは授業最終回でフィードバックを行います。

### 【注意事項】

授業内容は順序や種目が異なる場合があります。また種目によっては学外に出ることがあります。

動きやすい服装（運動着）。運動靴（外履きと体育館履き）を必ず用意し、着用して下さい。服装および運動靴の貸し出しは一切しません。第1週目の授業時に履修カードの作成や第2週目以降の内容に関する諸連絡を行うので必ず出席すること。

※募集人数は36名です。

## 健康運動実習 a

ヨーガ 実践と理論を学ぶ

南 英樹

1年～ 前期 1単位

○：研鑽力、協働力

### 【授業のテーマ】

ヨーガ初心者のためのクラスです。4千年にわたるヨーガに関する基礎的な歴史・哲学と、生理学・解剖学的な知識を獲得します。心の三原色をコントロールするための腹式呼吸を実践し、12の基礎的なポーズを連動させながら、身体各部の緊張と弛緩を繰り返し、意識的に身体感覚を見つめます。それによって、完全にリラックスしたポジティブな心の状態へと導き、学力向上のための集中力の強化を目指します。

### 【授業における到達目標】

ヨーガの本質を学び、からだの構造を知り、各体位法を実践することによって、自分の体調を管理し、美しく生きることを掘り下げる自主的な態度を養います。瞑想を通じてマインドフルネスの技術を獲得し、環境に左右されずに信念をもって選択し行動する態度を養います。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス、オリエンテーション
- 第2週 体力測定
- 第3週 ビギナーズ・シーケンス1  
目・首のエクササイズ、腹式呼吸、片足、両足挙げ、肩立ち、魚のポーズ
- 第4週 ビギナーズ・シーケンス2  
シーケンス1 + 鋤のポーズ、前屈、斜面のポーズ
- 第5週 ビギナーズ・シーケンス3  
シーケンス2 + ヨガの完全呼吸法、太陽礼拝、コブラ、半バタ、三角のポーズ
- 第6週 ビギナーズ・シーケンス4  
シーケンス3 + 片鼻交互呼吸法、弓のポーズ、背骨ねじりのポーズ
- 第7週 ポーズの修正とバリエーション  
効用の学習、意識を向けるポイントの確認
- 第8週 ビギナーズ・シーケンス5  
シーケンス4 + 孔雀のポーズ、カラスのポーズ
- 第9週 ビギナーズ・シーケンス6  
シーケンス5 + ポーズの修正とバリエーション
- 第10週 ビギナーズ・シーケンス7  
メディテーション・シーケンス①
- 第11週 ビギナーズ・シーケンス8  
メディテーション・シーケンス②
- 第12週 アウトドア・シーケンス1  
屋外に出よう
- 第13週 アウトドア・シーケンス2  
自然を感じよう
- 第14週 体力測定
- 第15週 総括・まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修として、週に1時間程度、動画サイト（Youtubeなど）にアップされている基礎的動作についての動画を視聴し、解剖学的な映像に触れることで体内の筋活動のイメージを膨らませておきましょう。

事後学修として、週に1時間程度、ヨーガの動作が生理学的、解剖学的にどのような意味や効果があるのか整理し、体調を記録してみましょう。

### 【テキスト・教材】

プリント配布

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への参加度を核として（40%）、学習意欲・仲間と協力する学習態度（30%）、知識の理解度（20%）、技術・スキルの習熟度（10%）を総合的に評価します。レポート、疑問カードへの回答によ

てフィードバックを行います。

**【参考書】**

- 『ヨーガ 本質と実践』シヴァーナンダ・ヨーガ・センター編
- 『図解ヨガアナトミー：筋骨格編』レイ・ロング医学博士著
- 『図解ヨガアナトミー：アーサナ編』レイ・ロング医学博士著
- 『図解ヨガアナトミー：実践編』レイ・ロング医学博士著
- 『体感して学ぶヨガの解剖学』中村尚人著

**【注意事項】**

第1週目の授業時に、履修カードの作成や第2週以降の体力測定・授業内容に関する諸連絡を行うので、必ず出席すること。

※募集人数は36名です。

**健康運動実習 a**  
 フィットネスとニュースポーツ  
**山形 高司**  
 1年～ 前期・後期 1単位  
 ○：研鑽力、協働力

**【授業のテーマ】**

本授業は、生涯にわたる運動習慣の獲得やスポーツを通じた密なコミュニケーションを体験するために、フィットネス（健康づくり）運動とニュースポーツを実施します。授業展開の中では、個人で出来る様々な運動の体験と理論的背景の理解、運動継続による運動効果の体感、技能の上達による達成感の創出、チームスポーツを通じた互いの尊重などが出来るように進めていきます。

**【授業における到達目標】**

- ①運動の方法と効果を自ら理解し、他者にも伝えることができるようになる。運動習慣を獲得することができるようになる。この目標の到達は、学生が修得すべき「能力」のうち、学修成果を実感して、自信を創出することができる研鑽力や大学が求める学修から得た知識・技能を社会に還元する力を修得することに繋がる。
- ②チームスポーツにおける各人の役割分担や話し合いなどを通して、互いを尊重することができるようになる。この目標の到達は、学生が修得すべき「能力」のうち、自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進める協働力の修得や現状を把握し課題を発見するなどの行動力の修得に繋がる。

**【授業の内容】**

授業の前半部分では、毎回ヨガ・ピラティスなどを実施し、体力づくりや運動方法の体得を目指します。個人の目標に向けたトレーニング（約10分）と運動技術の上達を目標にしたグルーフトレーニング（約10分）も継続して取り入れます。

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 コミュニケーションゲーム
- 第3週 体力測定
- 第4週 ヨガ
- 第5週 ピラティス
- 第6週 ダンスエクササイズ①
- 第7週 ダンスエクササイズ②
- 第8週 チェアエクササイズ
- 第9週 ニュースポーツ①  
シッティングバレーボール（種目の理解・練習・ゲーム）
- 第10週 ニュースポーツ②  
シッティングバレーボール（ゲーム）
- 第11週 ニュースポーツ③  
キンボール（種目の理解・練習・ゲーム）
- 第12週 ニュースポーツ④  
キンボール（ゲーム）
- 第13週 体力測定
- 第14週 プレゼンテーション（グルーフトレーニングの成果発表）
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】各週の授業テーマに関する資料や動画サイトなどを活用して理解を深める。（学修時間週 1 時間）

【事後学修】授業で紹介した運動方法の復習や実践を行い、運動の理解を深める。（学修時間 週 1 時間）

**【テキスト・教材】**

適宜授業内でプリント資料などを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

評価は、平常点（積極性・協調性）50%、課題達成度20%、レポート30%とします。レポートは、授業最終回でフィードバックを行います。

**【参考書】**

特になし

**【注意事項】**

毎回運動着・運動用シューズ、筆記用具を持参して下さい。  
 安全のため、アクセサリ（指輪やピアスなど）は外して受講して



下さい。万全な体調で授業に出席し、万が一体調の優れない場合は教員に相談して下さい。教室内での授業実施となるため、ニュースポーツのルールをアレンジしながら実施する予定です。

第1週目の授業時に、履修カードの作成や第2週目以降の授業内容に関する諸連絡を行うので、必ず出席して下さい。

※募集人数は20名です。

### 健康運動実習 a

生涯スポーツとしてのバレーボール（ソフトバレーボールを含む）

島崎 あかね

1年～ 前期・後期 1単位

○：研鑽力、協働力

#### 【授業のテーマ】

健康的な生活を送るためには運動・スポーツの実施が欠かせないものであると思われます。しかし、現代の生活は省力化が進み日常生活における身体活動量が減少しているのが実情です。

そこで本授業では、高等学校までの体育で1度は経験していると思われるバレーボールを通して、生涯にわたる健康づくり運動の基礎を習得するとともに、身体活動が心身の健康維持に果たす役割について理解することを目的とします。

#### 【授業における到達目標】

バレーボールの基本的な技術の修得を通して、心身の健康を維持するために必要な身体活動を積極的に取り入れながら、自己の健康や体力の現状を正しく把握し、課題を発見する「行動力」の修得を目指します。また、戦術や技術に関して仲間と共に考え、教え合う「協働力」の修得を目指します。

#### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 体力測定
- 第3週 ソフトバレーボールの実践①（基本技術）
- 第4週 ソフトバレーボールの実践②（応用・ゲーム）
- 第5週 基本練習①（アンダーパス・オーバーパス）
- 第6週 基本練習②（サーブのいろいろ）
- 第7週 基本練習③（スパイクの基礎）
- 第8週 基本ルールと審判法
- 第9週 簡易ゲームによるチーム練習
- 第10週 ゲームの実践①（チーム作りとゲームの実践）
- 第11週 ゲームの実践②（リーグ戦実施のための計画）
- 第12週 リーグ戦の計画と実施①
- 第13週 リーグ戦の計画と実施②
- 第14週 体力測定
- 第15週 まとめ（生涯スポーツとしてのオリジナルルールの考案）

#### 【事前・事後学修】

【事前学修】 これまでに学んだ技術やルールを思い出しておくとともに、日常生活での運動習慣を心掛けましょう。（学修時間 週1時間）

【事後学修】 運動実践による心身の変化について体験的に理解し、技術やルールの復習を行いましょ。う。（学修時間 週1時間）

#### 【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配布します。

#### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極性など）60%、レポート20%、課題達成度20%で総合的に評価します。

それぞれ学んだ技術について、次回授業時にフィードバックを行います。

#### 【参考書】

適宜紹介します。

#### 【注意事項】

運動実施にふさわしい服装（運動着）・運動靴（体育館シューズ）を必ず着用し、長い髪は結ぶなど身支度を整えてください。水分補給を行うためのペットボトルや水筒、タオルを持参してください。

第1週目の授業時に、履修カードの作成や第2週以降の体力測定・授業内容に関する諸連絡を行うので、必ず出席すること。

※募集人数は36名です。

## 健康運動実習 a

教育実習に向けた課外活動スキルの向上

佐藤 健

1年～ 前期 1単位

○：研鑽力、協働力

### 【授業のテーマ】

競技能力の向上を目指します。老若男女、誰でも簡単にプレーを楽しむことが出来る特徴を有している。そんなことから、本授業は、学校・企業・社会体育の指導現場等で、羽根つき遊びから、バドミントン競技に至る技術習得の体験を実践しながら、技能向上を目指すとともに、対象に応じた指導方法について実習を行う。また、将来教育実習生として教育実習期間中に課外活動の支援を行う際に、バドミントンの練習方法に関して一応の理解をすることを目標にしておく。

### 【授業における到達目標】

スポーツ技能は、将来職場や地域のスポーツ交流が行えるスキルです。授業によって体験した技能を役立て自己成長できるように研鑽してください。自分や周囲のスキルを正しく把握し、安全に授業が行えるように主体的に行動してください。自分自身のスキルとラリー相手のスキルと役割を理解して、お互いに協同して授業に参加してください。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション（教材、出席管理カードの配布）
- 第2週 授業前の体力測定
- 第3週 技能実習I（シャトル、ラケットに慣れる）
- 第4週 技能実習II（基本ストローク）
- 第5週 技能実習II（ネットプレイ、ド、クリーヤー）
- 第6週 技能実習III（簡易ラリー）
- 第7週 技能実習III（中級ラリー）
- 第8週 技能実習IV（基本ストローク・フライト応用練習）
- 第9週 中間テスト（実技サブ等）
- 第10週 審判法とゲームI（審判の方法とシングルスゲーム）
- 第11週 審判法とゲームII（ダブルスゲーム）
- 第12週 技能実習V（各フライトコンビネーション応用練習）
- 第13週 大会実習（トーナメント・リーグ戦ダブルス）
- 第14週 授業後の体力測定
- 第15週 まとめ（期末レポートの作成と提出）

### 【事前・事後学修】

事前学修として、十分な睡眠と食事をとり集中力が持続する状態で臨めるようにすること。事後学修として、30時間程度自宅等でストレッチなどをして身体の状態について前向きに取り組むこと。

### 【テキスト・教材】

シューズ、靴下、ウェア、汗拭きタオル、給水ボトル、帽子または髪をまとめるゴム等は各自が必ず用意すること。ラケットは貸し出し用はあるが、持参が望ましい。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業時のスキルテスト60%（4点×15）、体力向上点10%、期末レポート30%とする。随時、試技やデータ等のフィードバックを行う。

### 【参考書】

著者：関・藤田・蘭『バドミントン教室』（大修館）

### 【注意事項】

授業の最初と最後に体力測定を行い、体力が維持しているか確認を行う。授業中に不安全行動（ケガが事故の原因）は慎むこと。準備体操、教員の指示等を守ること。なお、就職活動の場合には、証明するものを提出すること。恒例の体力測定は、2週目に行う。

※募集人数は36名です。

## 健康運動実習 b

健康づくり運動とニュースポーツ

我妻 玲

1年～ 後期 1単位

○：研鑽力、協働力

### 【授業のテーマ】

本授業では、健康に関する諸問題、有酸素性運動の意義と実践方法および、体力づくりのためのトレーニングの原理と実践方法について学習する。さらに、今まであまり経験したことのない種目を実践し、ゲームやスポーツを通じたコミュニケーション能力の向上、ルール・エチケット・マナー等を習得し、生涯スポーツを楽しむ知識を身につけることを目標とする。

### 【授業における到達目標】

1. 学生が修得すべき「研鑽力」として、運動前、運動中、運動後の身体の生理的変化を実感し、それを科学的に理解することができる。
2. 学生が修得すべき「研鑽力」として、運動前後の心理的変化を実感し、それを科学的に理解することができる。
3. 学生が修得すべき「行動力」として、自己の健康状態を把握し、運動を日常生活に取り入れる工夫をすることができる。
4. 学生が修得すべき「協働力」として、スポーツによるグループ活動を通してコミュニケーション能力を高めることができる。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 健康づくり運動の理論と実際
- 第3週 体力測定
- 第4週 ウォーキングによるトレーニング方法（基本的フォーム）
- 第5週 ウォーキングによる運動効果と評価（心拍数の測定方法）
- 第6週 ジョギングによるトレーニング方法（基本的フォーム）
- 第7週 ジョギングによる運動効果と評価（心拍数の測定方法）
- 第8週 ソフトボールの基礎（キャッチボール・バッティング）
- 第9週 ソフトボールの応用（チーム練習）・ゲーム
- 第10週 アルティメットの基礎（フリスビーの投げ方）
- 第11週 アルティメットの応用（チーム練習）・ゲーム
- 第12週 サッカーの基礎（パス・ドリブル）・ミニゲーム
- 第13週 グラウンドパターゴルフ（パターの握り方と打ち方）
- 第14週 体力測定
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】運動が健康の維持・増進に及ぼす影響について整理しておくこと。平日頃から十分な睡眠と食事をとり、体調を整えてから授業に参加すること。（学修時間 週1時間）

【事後学修】授業で行った運動を日常生活に取り入れてみる。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。（学修時間 週1時間）

### 【テキスト・教材】

プリントを使用する

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点60%（授業への積極参加）、レポート20%、小テスト20%。小テストは次回授業でフィードバックを行う。

### 【参考書】

『健康運動実践指導者養成用テキスト』健康・体力づくり事業財団『ニュースポーツ100』評言社

### 【注意事項】

天候によっては種目の変更がある。毎回必ず運動着・運動靴・タオルを持参してください。なるべく水分補給を行うためのペットボトルや水筒を持参してください。

第1週目の授業時に、履修カードの作成や第2週以降の体力測定・授業内容に関する諸連絡を行うので、必ず出席すること。

※募集人数は36名です。

## 健康運動実習 b

ソフトボール・ゴルフ・テニス・卓球

島崎 あかね

1年～ 前期・後期 1単位

○：研鑽力、協働力

### 【授業のテーマ】

本授業では、健康的な生活を送るために必要な「健康」に関する知識の習得とともに、身近な運動・スポーツを実施することによって各自の健康・体力の維持増進を図るための方法を学習します。屋外種目としてソフトボールやゴルフおよびテニス、屋内種目の卓球といった種目を通して、コミュニケーション能力の向上、各種スポーツの基本的なルール・マナーなどを習得し、身体を動かすことの重要性や生涯にわたって心身ともに健康的な生活を構築するための知識を身につけることを目標とします。

### 【授業における到達目標】

さまざまなスポーツの実践を通して、基本的な技術を身に付けるとともに、自分の身体の現状を正しく把握し、健康の維持・増進に必要な身体活動を日常生活の中に積極的に取り入れる「行動力」の修得を目指します。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 体力測定
- 第3週 ソフトボール① 基本技術(投・捕・打)
- 第4週 ソフトボール② チーム練習(守備とルールの理解)
- 第5週 ソフトボール③ 試合の実践
- 第6週 ゴルフ① 基本技術(クラブの握り方と打ち方)
- 第7週 ゴルフ② パターゴルフの実践
- 第8週 ゴルフ③ ミニコースのラウンド実践
- 第9週 テニス① 基本ストロークの習得とルールの理解
- 第10週 テニス② ゲームの実践(シングルス戦)
- 第11週 テニス③ ゲームの実践(ダブルス戦①)
- 第12週 テニス④ ゲームの実践(ダブルス戦②)
- 第13週 卓球① 基本ストロークの習得とルールの理解
- 第14週 卓球② ゲームの実践
- 第15週 まとめ 体力測定とまとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】日常生活において運動実施に必要な身体づくりを行いましょう。(学修時間 週1時間)

【事後学修】授業で学んだ知識を日常生活に取り入れられるよう、積極的な運動実践を心掛け健康的な生活習慣の獲得を目指しましょう。(学修時間 週1時間)

### 【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業への積極性など)60%、レポート20%、実技理解度20%で総合的に評価します。

各種目での技術習得について、次回授業時にフィードバックを行います。

### 【参考書】

適宜紹介します。

### 【注意事項】

- ・天候によって種目の順序を変更する場合があります。
  - ・卓球は雨天時を中心に実施します。
  - ・運動実施にふさわしい服装(運動着)・運動靴(屋内・屋外用)を必ず着用し、長い髪は結ぶなど身支度を整えてください。
  - ・水分補給を行うためのペットボトルや水筒、タオルを持参してください。
  - ・第1週目の授業時に、履修カードの作成や第2週以降の体力測定・授業内容に関する諸連絡を行うので、必ず出席すること。
- ※募集人数は36名です。

## 健康運動実習 b

お手玉を使ったリズム体操

河田 美保

1年～ 後期 1単位

○：研鑽力、協働力

### 【授業のテーマ】

人生をよりよく過ごすためには、こころとからだの健康が大切である。この授業では、いろいろな健康運動を通して、自己の身体、健康、体力に関心を持ち、日常生活における積極的な身体活動の必要性を理解するとともに、仲間と安全に楽しく活動するための方法を身につけ、生涯にわたり自分で健康管理ができるようにすることを目標とする。

### 【授業における到達目標】

- ①基本的な動きを身につけることができる。
- ②学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探求し、学問をつづけることができる。
- ③自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる。

### 【授業の内容】

体力測定等の結果から自己の身体、健康、体力の現状を把握し、各自目標を設定してから実習に入る。生きる上で大切な基本の動きから、音楽に合わせて行ういろいろなエクササイズやお手玉を使用した体操など、個人で行う運動をペアやグループで実習し、あらゆるスポーツや運動の基礎となる動きを習得する。

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 姿勢評価システムによる姿勢測定
- 第3週 体力測定、形態計測
- 第4週 基本の動き
- 第5週 ストレッチ、コア・トレーニング
- 第6週 コンディショニング・エクササイズ
- 第7週 エアロビクス、レクリエーション・ダンス
- 第8週 お手玉を使った体操Ⅰ(渡す)
- 第9週 お手玉を使った体操Ⅱ(受ける)
- 第10週 お手玉を使った体操Ⅲ(投げる)
- 第11週 お手玉を使った体操Ⅳ(回す、振る)
- 第12週 お手玉を使った体操Ⅴ(一連の動き)
- 第13週 姿勢評価システムによる姿勢測定
- 第14週 体力測定、形態計測
- 第15週 お手玉体操作品発表会、総括

### 【事前・事後学修】

①自己の身体、健康、体力に関心を持ち、日常生活の中で積極的に身体活動を行う(週6万歩を目標に)。

②授業で行う体操、ストレッチ等を参考に「マイ・エクササイズ」を作成し、一日おきに行う。

①②合わせて週3時間程度

### 【テキスト・教材】

プリントを使用する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度50%、課題達成度(発表)30%、共通レポート15%、課外活動(運動系公式行事)5%で評価する。発表にはコメントで、共通レポートに対しては総括でフィードバックする。

### 【参考書】

春山文子・河田美保『暮らしの中のからだづくり』(ルネッサンス・アイ)、春山文子『日常生活で「導具」を使った健康体操』(文芸社)、春山文子『日常生活で自分のからだを知る・つくる体操』(文芸社)

### 【注意事項】

- ①第1週のガイダンスは、履修カードの作成や受講上の重要事項を説明するので、必ず出席すること。
- ②実習時はアクセサリ類を外し、長い髪は結び、伸縮性に富んだ運動着を着用すること。
- ③受講者が互いに有意義な時間を持てるよう遅刻をしないこと。
- ④睡眠、食生活等に気を配るなど体調管理に努め、毎回出席できる

ようにすること。  
※受講人数制限36名

**健康科学概論**

健康と医療の心理学的側面

塩川 宏郷

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

現代社会において健康に対する関心は非常に高い。健康と医療の問題には心理学的側面の問題が必ず付随している。健康、疾病に関する知識のみならず、問題を心理・社会的な側面からとらえる視点が重要である。本科目においては、健康の科学的なとらえかた、健康維持のしくみ、保健医療システムにくわえ、疾病の心理学的側面についても講述する。

**【授業における到達目標】**

学生の習得すべき行動力のうち、健康を科学的にとらえること、疾病・障害のとらえかた、健康維持のしくみ、保健医療システム、ならびに疾病や医療に関する事項の心理学的な側面について理解し科学的にとらえる力を身につける。また、研鑽力として様々な問題を心理社会的な側面から情報収集し、問題意識を持ち問題解決にあたる力を身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週 健康のとらえかた
- 第2週 環境と健康
- 第3週 遺伝と健康
- 第4週 加齢と健康
- 第5週 ストレスと健康
- 第6週 生活習慣病
- 第7週 悪性腫瘍、ターミナルケア
- 第8週 障害のとらえかた・ICF
- 第9週 健康を守るしくみ・保健医療システム
- 第10週 医療機関と医療関連職種
- 第11週 医療ソーシャルワークと心理
- 第12週 在宅医療・連携
- 第13週 感染症
- 第14週 社会医学と心理
- 第15週 総合討論

**【事前・事後学修】**

- 事前学修  
前回授業を復習し授業に臨むこと（学修時間 週2時間）
- 事後学修  
レポートやアクティブラーニング課題に取り組むこと（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

特に指定しない。資料を配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- 試験70%、平常点（授業態度・課題等）30%
- レポート、アクティブラーニング課題発表評価は授業の中で行う。
- 試験解答基準や講評はmanabaを通じて行う。

**【参考書】**

授業の中で紹介する。

**【注意事項】**

身の回りの健康に関するニュース報道や出版物、インターネット情報などを「批判的に吟味する」姿勢を持つこと。

**健康科学論 a（女性の体と心）**

塩川 宏郷

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

現代社会は男女平等参画社会を目指している。それに伴い女性の生き方も多様化、個別化してきている。女性が生涯を通じて健やかにまた充実した生活を送るために、自分自身の体と心について知識を持ち、家庭・仕事・社会との関わりの中で自分自身の健康を考えることは不可欠である。この授業では、女性のライフステージにおける健康問題を取り上げ、今後の自身の健康と調あるキャリアを築くことを目的とし、産科・婦人科学の概要およびリプロダクティブヘルス、思春期の心身の問題について重点的に講述、必要に応じて演習形式での討論も行う。

**【授業における到達目標】**

学生が習得すべき「行動力」のうち、女性としてその生涯にわたる体と心の変化、その変化に伴う変調を理解し、主体的にその変化に取り組む力を身につける。「研鑽力」として、日常生活にあふれる女性の健康に関する情報を科学的に吟味するリテラシーを身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODダクション
- 第2週 女性の身体構造と機能
- 第3週 女性の心とメンタルヘルス
- 第4週 女性のライフサイクル
- 第5週 ライフステージと健康（思春期）
- 第6週 ライフステージと健康（成熟期）
- 第7週 ライフステージと健康（更年期以降）
- 第8週 妊娠と出産
- 第9週 リプロダクティブヘルス
- 第10週 子育てと子育て支援
- 第11週 子ども虐待
- 第12週 摂食障害
- 第13週 女性に多い疾患1
- 第14週 女性に多い疾患2
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

- 事前学修：前回授業の内容を復習し授業に臨む（学修時間 週2時間）
- 事後学修：レポート、小テストなどの課題に取り組む（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

特に定めない。必要に応じ資料を配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- 試験70%、平常点（授業態度、小テスト、課題）30%
- 小テストや課題のフィードバックはmanabaを通じて行う。

**【参考書】**

「ウーマンズヘルス」 久米美代子、飯島治之編著 医歯薬出版  
「女性の健康と働き方マニュアル」 水沼秀樹監修 サイカス

**【注意事項】**

自分の健康状態、心の状態への気づきを持つこと。新聞やニュース、インターネット情報について常に関心と疑問を持つこと。

**健康科学論 a (女性の体と心)**

塩川 宏郷

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

現代社会は男女平等参画社会を目指している。それに伴い女性の生き方も多様化、個別化してきている。女性が生涯を通じて健やかにまた充実した生活を送るために、自分自身の体と心について知識を持ち、家庭・仕事・社会との関わりの中で自分自身の健康を考えることは不可欠である。この授業では、女性のライフステージにおける健康問題を取り上げ、今後の自身の健康と調和あるキャリアを築くことを目的とし、産科・婦人科学の概要およびプロダクティブヘルス、思春期の心身の問題について重点的に講述、必要に応じて演習形式での討論も行う。

**【授業における到達目標】**

学生が習得すべき「行動力」のうち、女性としてその生涯にわたる体と心の変化、その変化に伴う変調を理解し、主体的にその変化に取り組む力を身につける。「研鑽力」として、日常生活にあふれる女性の健康に関する情報を科学的に吟味するリテラシーを身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 女性の身体構造と機能
- 第3週 女性の心とメンタルヘルス
- 第4週 女性のライフサイクル
- 第5週 ライフステージと健康（思春期）
- 第6週 ライフステージと健康（成熟期）
- 第7週 ライフステージと健康（更年期以降）
- 第8週 妊娠と出産
- 第9週 リプロダクティブヘルス
- 第10週 子育てと子育て支援
- 第11週 子ども虐待
- 第12週 摂食障害
- 第13週 女性に多い疾患1
- 第14週 女性に多い疾患2
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：前回授業の内容を復習し授業に臨む（学修時間 週2時間）

事後学修：レポート、小テストなどの課題に取り組む（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

特に定めない。必要に応じ資料を配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験70%、平常点（授業態度、小テスト、課題）30%

小テストや課題のフィードバックはmanabaを通じて行う。

**【参考書】**

「ウーマンズヘルス」 久米美代子、飯島治之編著 医歯薬出版

「女性の健康と働き方マニュアル」 水沼秀樹監修 サイカス

**【注意事項】**

自分の健康状態、心の状態への気づきを持つこと。新聞やニュース、インターネット情報について常に関心と疑問を持つこと。

**健康科学論 a (女性の体と心)**

塩川 宏郷

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

現代社会は男女平等参画社会を目指している。それに伴い女性の生き方も多様化、個別化してきている。女性が生涯を通じて健やかにまた充実した生活を送るために、自分自身の体と心について知識を持ち、家庭・仕事・社会との関わりの中で自分自身の健康を考えることは不可欠である。この授業では、女性のライフステージにおける健康問題を取り上げ、今後の自身の健康と調和あるキャリアを築くことを目的とし、産科・婦人科学の概要およびプロダクティブヘルス、思春期の心身の問題について重点的に講述、必要に応じて演習形式での討論も行う。

**【授業における到達目標】**

学生が習得すべき「行動力」のうち、女性としてその生涯にわたる体と心の変化、その変化に伴う変調を理解し、主体的にその変化に取り組む力を身につける。「研鑽力」として、日常生活にあふれる女性の健康に関する情報を科学的に吟味するリテラシーを身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODakション
- 第2週 女性の身体構造と機能
- 第3週 女性の心とメンタルヘルス
- 第4週 女性のライフサイクル
- 第5週 ライフステージと健康（思春期）
- 第6週 ライフステージと健康（成熟期）
- 第7週 ライフステージと健康（更年期以降）
- 第8週 妊娠と出産
- 第9週 リプロダクティブヘルス
- 第10週 子育てと子育て支援
- 第11週 子ども虐待
- 第12週 摂食障害
- 第13週 女性に多い疾患1
- 第14週 女性に多い疾患2
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：前回授業の内容を復習し授業に臨む（学修時間 週2時間）

事後学修：レポート、小テストなどの課題に取り組む（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

特に定めない。必要に応じ資料を配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験70%、平常点（授業態度、小テスト、課題）30%

小テストや課題のフィードバックはmanabaを通じて行う。

**【参考書】**

「ウーマンズヘルス」 久米美代子、飯島治之編著 医歯薬出版

「女性の健康と働き方マニュアル」 水沼秀樹監修 サイカス

**【注意事項】**

自分の健康状態、心の状態への気づきを持つこと。新聞やニュース、インターネット情報について常に関心と疑問を持つこと。

**健康科学論 b (疫学から見る健康)**

佐野 堯

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

疫学についての基本を網羅します。

専門的な知識についても少し解説します。

**【授業における到達目標】**

到達目標：疫学についての基本がわかる。用語が理解できる。

・国際的視野・美の探求：特に日米における統計や有名な疫学研究を学ぶことにより、貧困格差、人種格差、年齢層、疾患の違いなど、それぞれの国の実態、抱えている問題を考察し、対処法を発見できる。

・研鑽力・行動力・協働力：疫学・統計情報を活用した学習を通じて、自分自身、もしくは他人との協同で、新聞記事やニュース記事で得られる病気や健康についての情報の吟味を批判的にすることができるようになる。

**【授業の内容】**

- 第1週：疫学 Introduction
- 第2週：感染症
- 第3週：疾病調査
- 第4週：死亡率などの指標
- 第5週：スクリーニング試験
- 第6週：病気の自然歴
- 第7週：ランダム化試験
- 第8週：コホート研究
- 第9週：ケースコントロール研究など
- 第10週：リスク評価
- 第11週：相関と因果関係
- 第12週：遺伝要因と環境要因
- 第13週：保健サービスの評価
- 第14週：疫学と公共政策
- 第15週：まとめ (授業内)

**【事前・事後学修】**

【事前学修】講義の最初に行う小テストの出題範囲に取り組むこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】講義で強調した重要事項、小テスト等を復習すること。

次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。

(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

Leon Gordis「Epidemiology」第5版

(講義で内容を説明するので、買う必要はない)

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

成績評価の方法・基準：平常点(講義への取り組み)30%、小テスト(講義の時に話した基本内容を元に用語記述もしくは選択)30%、試験(各講義の小テストから1問ずつ出す)40%

フィードバック：小テストの全体での正答率に関して、特に低かった問題について再度解説を行う。

**【参考書】**

参考書：中村好一「楽しい疫学」第3版

**健康科学論 c (現代医療の課題)**

精神医療の抱える課題、非行・犯罪・社会精神医学

塩川 宏郷

4年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

現代の医学・医療の発展する速度はめまぐるしく、またインターネットやマスコミを中心にさまざまな情報があふれている。その中において情報の質を見極め生活の中にとりいれていくかを習得することは重要である。本科目においては、現代医療、特に精神医学を中心とした学際的な領域についてその課題や問題についてトピックスごとに講述し討論する。

**【授業における到達目標】**

医学・医療に関するさまざまなテーマについて、特に司法精神医学や犯罪心理学に関する最新の情報を入手し情報の質について正確な知識をもとに科学的・理論的に検討することができる。資料を読み解き批判的に吟味する姿勢を身につける。

学生の習得すべき行動として、常に理論的・科学的姿勢を保つ研鑽力、自ら積極的に情報を収集しそれに基づいて議論する行動力、さらにこれらの課題に対し自らの役割分担を認識し協働して問題解決にあたる能力を身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODクション、批判的視点を持つこと
- 第2週 不登校
- 第3週 大規模災害とトラウマティックストレス
- 第4週 摂食障害
- 第5週 発達障害の治療
- 第6週 発達障害の薬物療法
- 第7週 子ども虐待
- 第8週 事件・事故と司法精神医学
- 第9週 犯罪白書を読む
- 第10週 少年非行
- 第11週 発達障害と少年の非行
- 第12週 精神疾患と犯罪
- 第13週 矯正医療
- 第14週 サイコパス
- 第15週 総合討論

**【事前・事後学修】**

事前学修

トピックスについての情報収集(学修時間2時間)

事後学修

授業内容の振り返り、レポート等(学修時間2時間)

**【テキスト・教材】**

特に定めない。必要に応じ資料を配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験50%。授業中の討論参加・課題等50%

討論・レポートのまとめは最終回に行う。

試験のフィードバックはmanabaを通じて行う。

**【参考書】**

厚生労働統計協会「国民衛生の動向」

法務省法務総合研究所「犯罪白書」

日本発達障害福祉連盟「発達障害医学の進歩」

越智啓太ほか「テキスト司法・犯罪心理学」

**【注意事項】**

本科目では具体的な症例を提示してケースカンファレンス形式で討論する。個人情報の保護に留意し守秘義務を遵守すること。



**健康管理論**

佐々木 溪円

1年 後期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

**【授業のテーマ】**

日本の主要な健康課題の一つである生活習慣病は、胎児期の栄養環境や小児期からの食生活に影響されることが多いことが、近年の研究によって示されてきました。この授業では、胎児期から高齢期までライフステージを通じた健康管理体制を学ぶとともに、現在の日本で喫緊の課題となっている健康格差対策について考えます。

**【授業における到達目標】**

- 1) 健康の概念と保健システムの変遷について説明できる。
- 2) 健康管理を担う施設と専門職について説明できる。
- 3) 各ライフステージの健康管理システムについて概説できる。
- 4) 健康格差対策の必要性和実践について概説できる。

【この授業を履修して身につく態度・能力】

◎：研鑽力 ○：美の探求、行動力、協働力

**【授業の内容】**

- 第1回 健康の概念と保健システムの変遷
- 第2回 日本における健康の概念の変遷と現状
- 第3回 日本の健康管理システム
- 第4回 健康管理を担う施設と専門職
- 第5回 妊婦と胎児の健康管理システムと食育
- 第6回 乳児の健康管理システムと食育
- 第7回 幼児の健康管理システムと食育
- 第8回 児童の健康管理システムと食育
- 第9回 生徒・学生の健康管理システムと食育
- 第10回 成人・高齢者の健康管理システム
- 第11回 健康格差対策1（健康格差対策の必要性）
- 第12回 健康格差対策2（ユニバーサルアプローチ）
- 第13回 健康格差対策3（健康格差対策と目標設定）
- 第14回 健康格差対策3（組織連携）
- 第15回 健康格差対策4（行動変容）

**【事前・事後学修】**

○事前学修：各授業の最後に、次回の予習範囲を示します。授業ではグループ課題を提示しますので、必ず予習をして、グループ活動に参加できるように準備してください。（学修時間 週2時間）

○事後学修：各回の復習課題を示しますので、次回授業前までに提出してください。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

東あかね・關戸啓子・久保加織 編『健康管理概論』（講談社 2017年）2,600円＋税

※第11回以降については、プリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

評価配分：

筆記試験70%＋グループ学習15%＋復習課題15%

※課題の正答・解答例、筆記試験の正答を示しますので、復習に活用してください。

## 健康体力科学演習

島崎 あかね

1年～ 前期・後期 1単位

○：研鑽力、協働力

## 【授業のテーマ】

平成14年に「健康日本21」が提唱されて以来、日常生活に運動・スポーツを取り入れる人も多くなっています。運動やスポーツを実施することにより、その内容や成果を数値化し科学的に捉え、分析していくことは継続的な実施の背景となり、それが健康の維持・増進につながっていくと思われまます。

この授業では、実施する運動の運動強度や運動量についての理解を深めるとともに、各自が設定した目標に向けて継続的に運動を実施し、その成果の分析を通して運動処方の初歩を学習します。各種身体機能の測定、日常生活習慣の記録や心拍数の測定、さらには食生活記録などのデータを集積し、体力や日常活動状況について分析します。その上で各自の目的に合わせた身体づくり（運動不足対策、健康的なダイエット、体力アップなど）、運動生活習慣づくりを目指します。

## 【授業における到達目標】

毎時間の活動により、自分の健康や体力の現状を正しく把握し、各自の目的や状況に合った運動プログラムを作成し、実践する「行動力」の修得を目指します。

## 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 問診・健康生活調査、体力測定
- 第3週 形態測定、身体機能測定
- 第4週 測定結果の評価と目標設定
- 第5週 ノルディックウォーキング① 歩き方の基本
- 第6週 ノルディックウォーキング② 運動強度と運動量
- 第7週 ノルディックウォーキング③ 長距離歩行の実践
- 第8週 リズム体操とストレッチ① 頸部・腕部
- 第9週 リズム体操とストレッチ② 体幹部
- 第10週 リズム体操とストレッチ③ 大腿部・下腿部
- 第11週 リズム体操とトレーニング① 自重トレーニング
- 第12週 リズム体操とトレーニング② ダンベルトレーニング
- 第13週 リズム体操とトレーニング③ チューブトレーニング
- 第14週 運動の効果と評価・考察  
体力測定、形態計測、身体機能測定
- 第15週 まとめ 授業の効果と目標達成度の確認

## 【事前・事後学修】

授業時に行う各自の測定データの分析とまとめが必要となります。

【事前学修】日常における生活習慣の振り返っておくとともに、測定に対する積極的な姿勢を持ちましょう。（学修時間 週1時間）

【事後学修】スポーツを科学的な視点を持ち、授業時の測定結果を分析して翌週の授業に生かしましょう。（学修時間 週1時間）

## 【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業参加態度、理解度、積極性）50%、レポート・達成度50%で総合的に評価します。

各種目における測定結果について、次回授業時にフィードバックを行い、運動量の分析に反映します。

## 【参考書】

適宜紹介します。

## 【注意事項】

授業内容の順序や種目が変更になる場合もあります。種目によっては学外に出ることがあります。実技授業では運動着・運動靴（屋内外用）を必ず着用してください。また、測定によるデータの収集を行いますので、欠席しないように注意しましょう。

第1週目の授業時に、履修カードの作成や第2週以降の体力測定・授業内容に関する諸連絡を行うので、必ず出席すること。

※募集人数は36名です。

**建築・インテリアCAD**

神野 郁也

2年 後期 1単位

◎：行動力 ○：美の探究、研鑽力

**【授業のテーマ】**

本講義では、図面のトレース、ファニチャーのモデリングおよびプランニングを通して、2D-CADによる図面作成能力の育成と、3D-CADの基本的なオペレーティング技術の習得を目的とする。

**【授業における到達目標】**

CAD技術によるデザイン能力の向上とともに、学生が修得すべき「行動力」のうち、デザイン課題の問題点発見と検討力を修得することを目標とする。

**【授業の内容】**

第1週CADを用いた設計手法の特徴  
第2週2次元CADの基本操作1（図面設定とレイヤー）  
第3週2次元CADの基本操作2（図形の作成と編集）  
第4週バルセロナ・パビリオン平面図トレース1（床・水面・柱）

第5週バルセロナ・パビリオン平面図トレース2（壁・ガラス・屋根）

第6週バルセロナ・パビリオン立面図作成（4面）  
第7週3次元CADの基本操作1（モデリング）  
第8週3次元CADの基本操作2（編集・アングル）  
第9週家具から考えるインテリア・プランニング  
第10週家具のモデリング1（椅子1）  
第11週家具のモデリング2（椅子2）  
第12週家具のモデリング3（その他）  
第13週バルセロナ・パビリオンへの配置検討1（プランニング）  
第14週バルセロナ・パビリオンへの配置検討2（カメラアングル）

第15週総括

**【事前・事後学修】**

毎回の授業前に、配布資料の該当箇所を予習しておくこと。（学修時間30分）

授業内に目標とするワークが完了しなかった場合には、必ず授業後に作業を行い、完了させること。（学修時間30分）

**【テキスト・教材】**

教材は適宜プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

2D課題20%、レイアウト課題20%、3D課題40%、平常点（授業態度）20% 提出課題評価については、授業最終回にフィードバックを行う。

**【参考書】**

『MIES VAN DER ROHE BARCELONA PAVILION』（G.G社）

**建築・インテリア構法**

高田 典夫

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

**【授業のテーマ】**

構法とは、建物の実体部分の「仕組み」全体を表わす概念で、単にできあがった状態の仕組みだけでなく造る過程も含んだものです。この授業では建物全体を構成する基本的な構造方式を学んだ上で、造る過程を踏まえた建物の部分の仕組みを学びます。

**【授業における到達目標】**

学生が修得すべき「行動力」のうち、課題を発見する力を修得する。

**【授業の内容】**

1. 構法とは
2. 建物の成り立ち—木質構造
3. 建物の成り立ち—鉄骨構造
4. 建物の成り立ち—鉄筋コンクリート構造・鉄骨鉄筋コンクリート構造
5. 建物の成り立ち—その他の構造
6. 各部構法—屋根
7. 各部構法—床
8. 各部構法—壁
9. 各部構法—天井
10. 各部構法—階段・手摺
11. 各部構法—建具
12. 各部構法—設備部品
13. 工業化住宅
14. 外構
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】テキストに目を通しまとめておく（学修時間2時間）

【事後学修】授業での内容をテキストなどで再確認し、必要に応じて専門用語など調べたことをレポートにまとめる（学修時間2時間）

**【テキスト・教材】**

日本建築学会『構造用教材』（丸善出版）2014年、税別2000円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への積極参加・レポート提出）20%

授業において内容の理解度を確認する為レポートを提出してもらう。レポートは採点し返却することでフィードバックする。

定期試験80%

授業内容把握確認のため、試験を行う。

**【参考書】**

『図解住居学3 住まいの構法・材料』（彰国社）

その他適宜授業の中で紹介します。

**建築デザイン論**

高田 典夫

3年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究、研鑽力

**【授業のテーマ】**

毎日の生活の中で目にし、体験しているいろいろな建築物は、どのようなことを考えてデザインされているのだろうか。いくつかの建築を具体的な例として取り上げ、建築家・構造エンジニア・照明デザイナーなど建築でデザインに関わっているデザイナーの目から見た建築の意味、デザインのポイントを概説することにより、建築デザインとは何かを考えます。

**【授業における到達目標】**

- ・建築デザインに関わるいろいろな分野の専門家の視点を理解し、多様な価値観が存在することを知ることを通して「国際的視野」を修得する。
- ・建築デザインを多様な側面から学ぶことにより「美の探求」を習得する。
- ・毎回行われる質疑応答を通して「研鑽力」を習得する。
- ・外部講師を通して学ぶことにより「協働力」を習得する。

**【授業の内容】**

1. 授業の概要ー建築を見る楽しさ
2. 建築空間を知る 未定 ※外部講師の講義、質疑応答がある
3. 鉄とガラスの建築
4. コンクリートの建築
5. 木の建築
6. 建築とまちづくり 未定 ※外部講師の講義、質疑応答がある
7. 建築と地域性 未定 ※外部講師の講義、質疑応答がある
8. 建築と環境 未定 ※外部講師の講義、質疑応答がある
9. 建築家の考える建築デザイン  
未定 ※外部講師の講義、質疑応答がある
10. 構造エンジニアの考える建築デザイン  
未定 ※外部講師の講義、質疑応答がある
11. 照明デザイナーの考える建築デザイン  
未定 ※外部講師の講義、質疑応答がある
12. 大工の考える建築デザイン  
未定 ※外部講師の講義、質疑応答がある
13. 写真家の考える建築デザイン  
未定 ※外部講師の講義、質疑応答がある
14. 女性と建築 未定 ※外部講師の講義、質疑応答がある
15. まとめー建築デザインとは

**【事前・事後学修】**

**【事前学修】** 授業のテーマ・目標をよく読み、理解して授業に臨むこと。できるだけ多くの文献・資料に接するとともに、数多くの実際の空間を体験することで、建築に親しむこと。（学修時間 2時間/週）

**【事後学修】** 毎回提出するレポートに対するコメントをきちんと読むことで、建築デザインに対する理解を深める。（学修時間 2時間/週）

**【テキスト・教材】**

特定のテキストは使用しない。授業においては、建築のスライド・DVDなどの視覚的な教材を使用しながら解説する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業態度（20%）と提出物（レポート等）（80%）による。毎回提出されるレポートに対するコメントによりフィードバックを行う。

**【参考書】**

授業中に適宜紹介する。

**【注意事項】**

建築は実際に空間を体験することによって、より深い理解が得られます。授業で取り上げる建築空間のうちいくつかは比較的容易に実際に体験できます。それらだけでなく、いくつもの空間を体験し、それらの空間について考える機会を持つことを勧めます。

**建築概論**

ー建築を味わう視点を持つとうー

榎 究

1年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

**【授業のテーマ】**

歴史的・地理的に世界の建築を眺めながら、建築を捉える視点を醸成する。

**【授業における到達目標】**

- ・授業で解説した建築を捉える視点について理解し、建築を多様な視点で捉えることができるようになる。
  - ・建築を体験する面白さを見出し、新しい見方を自ら発見できるようになる。
  - ・授業で出てきた用語について理解し、人に説明できるようになる。
- ー日本・世界の建築文化の多様性を理解し、多角的なものを見方ができるようになる。そのことにより、国際的視野と研鑽力および美を探究する力を身に付ける

**【授業の内容】**

- 第1講 インTRODクシヨン
- 第2講 いろいろな建物を見る その1
- 第3講 いろいろな建物を見る その2
- 第4講 彫刻としての建築
- 第5講 空間を満たす光
- 第6講 ファサード
- 第7講 視線と視点 その1
- 第8講 視線と視点 その2
- 第9講 教会建築の変遷 その1
- 第10講 教会建築の変遷 その2
- 第11講 構造美 その1
- 第12講 構造美 その2
- 第13講 建築の工業化
- 第14講 環境と建築
- 第15講 総括

**【事前・事後学修】**

manabaを利用し、授業に出てくる用語の調べ学修を行う。また、授業後にmanabaの掲示板機能を用いた意見交換、調べ学修を実施する他、授業内容確認のための小テストを実施する。（学修時間 週4時間）

**【テキスト・教材】**

授業の構成に合わせて作成したテキストを購入してもらう。建築スライドなどの視覚教材を呈示しながら解説する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験の成績、manabaへの書き込みで決定する。なお、自主レポートの提出が為された場合には加点する。（試験：80%、manabaへの書き込み20%）manaba小テストについては、授業中に解説を行う。

**【参考書】**

本多友常ら著『建築概論 建築・環境のデザインを学ぶ』（学芸出版社）その他、授業中に関連図書を紹介する。

**【注意事項】**

授業中に紹介した建物を見学したり、本やWebなどを用いて積極的に調べることが望まれる。また、建築関連の展覧会や講演会の情報も提供するので、参加し、見聞を広めて欲しい。

**建築構造**

橋 弘志

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

私たちの生活の器である建築物は、建築構造によって安全にその空間が支えられています。建築構造の基本は力学であり、力の釣り合いと力の流れを理解することが、建築構造の第一歩となります。建築の単純な骨組みである梁・ラーメン・トラスなどの構造を理解し、応力の仕組みを学ぶことによって、建築構造の基本を学んでいきます。

**【授業における到達目標】**

建築の構造および構成部材とその役割を理解すること。  
 <美の探求>「物事の真理を探求することによって、新たな知を創造しようとする態度」、<研鑽力>「学習成果を実感して、自身を創出することができる力」、<行動力>「現状を正しく把握し、課題を発見できる力」を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 住宅の構造・構法
- 第2週 力のベクトル
- 第3週 力の合成と分解
- 第4週 力の釣り合い
- 第5週 力のモーメント
- 第6週 モーメントの釣り合い
- 第7週 梁の支持方法と反力
- 第8週 荷重と反力
- 第9週 部材の応力（軸力、せん断力、曲げモーメント）
- 第10週 応力図1（集中荷重）
- 第11週 応力図2（等分布荷重）
- 第12週 応力度と許容応力度
- 第13週 部材の断面形状と応力度
- 第14週 トラス構造
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

次回のテキストを読んで理解しておくこと。（学修時間 週2時間）  
 復習のためのプリントを配布するので、しっかり復習をして理解しておくこと。次回の授業の冒頭に確認テストを行う。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

高木任之『図解 一番やさしい構造力学』日本実業出版社（2010年）1900円（税抜）

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業冒頭の確認テスト、授業後のフィードバックシート）50%、定期試験50%によって評価します。

**【参考書】**

小野里憲一・西村彰敏『力のつり合いを理解する構造力学』（彰国社）  
 原口秀昭・サノマリナ『マンガでわかる構造力学』（彰国社）

**建築施工**

岡村 珠穂

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

建築施工の概念をはじめ、施工に必要なハードとソフトの習得を目指します。建築資材と工法の変革および選択に柔軟な対応ができるように基本を学びます。

**【授業における到達目標】**

学生が修得すべき「行動力」のうち、課題を発見する力を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 概念・監理・管理と施工計画
- 第2週 仮設工事
- 第3週 測量・土工事・地業工事
- 第4週 現場見学実習①（日野キャンパス周辺にて実施）  
注：日程調整の為、多少授業の入れ替えあります。
- 第5週 木質系工事
- 第6週 鉄骨系工事
- 第7週 鉄筋コンクリート系工事—鉄筋工事
- 第8週 鉄筋コンクリート系工事—型枠工事
- 第9週 鉄筋コンクリート系工事—現場打ち工事
- 第10週 現場見学実習②（日野キャンパス周辺にて実施）  
注：日程調整の為、多少授業の入れ替えあります。
- 第11週 工事種別 内・外装工事（防水・屋根・板金）
- 第12週 工事種別 内・外装工事（左官・塗装・建具）
- 第13週 設備工事・防災
- 第14週 外構・その他の工事
- 第15週 維持管理・まとめ・課題レポート提出

中間で2回の小テストを行います。テスト範囲は授業内で指示します。

**【事前・事後学修】**

【事前学修】テキストに目を通しまとめておく。（学修時間 週2時間）  
 【事後学修】授業内容の確認、専門用語など調べたことをミニレポートにまとめる。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

『【図解】建築の構造と構法』（井上書院2015改訂版）  
 税別3200円。その他、プリント、現場見学、スライド等。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

小テスト45点、現場見学5点、課題レポート25点、平常点（授業意欲、ミニレポート提出）25点。合計100点満点にて評価します。  
 全2回の小テストを行い、内容理解の確認を行う。  
 施工現場を見学し、体験により学ぶ。  
 毎回の授業の理解度を確認する為、ミニレポートを提出。  
 ミニレポートはコメント・返却することでフィードバックする。  
 課題レポートは総合的理解確認のため、最終授業に提出。

**【参考書】**

『建築施工教科書』（彰国社）  
 『わかりやすい建築現場用語辞典』（エクスナレッジムック）  
 その他授業内で紹介します。

**【注意事項】**

沢山の建築用語が出てきます。授業の進度も早いので、専門用語は調べて学修に臨むようにしてください。

**建築法規**

橋 弘志

4年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

私たちの周りの建築は、さまざまな法規に従って建てられています。法規の中には、地震に壊れず、火事に燃えにくく、避難しやすいように、通風・採光・遮音性能が良いように、さらに都市環境に配慮するための、幅広く総合的な知識と技術が含まれています。建築法規の知識は、資格試験対応だけでなく、建物の設計からインテリア改修、住宅を購入する場合にも必要かつ有用なものです。ここでは、建築基準法を中心とした基礎的な法規の知識を、なるべく分かりやすい形で学んでいきます。

**【授業における到達目標】**

<研鑽力>「学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探求し、学問を続けることができる力」、<行動力>「現状を正しく把握し、課題を発見できる力」を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 建築関連法規の概要
- 第2週 敷地と建築物
- 第3週 建ぺい率
- 第4週 容積率
- 第5週 高さの制限～道路斜線
- 第6週 高さの制限～隣地斜線・北側斜線
- 第7週 用途地域
- 第8週 環境の確保～採光
- 第9週 環境の確保～一般構造
- 第10週 耐火建築物・準耐火建築物
- 第11週 耐火建築物の義務
- 第12週 内装制限
- 第13週 防火区画
- 第14週 避難経路
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

事前学修：教材で指示した箇所、配布する資料をよく読んで授業に臨むこと（学修時間 週2時間）

事後学修：学修内容を次の授業までに復習してしっかりと理解しておくこと（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

今村仁美・田中美都『図説 やさしい建築法規』学芸出版社（2007年）3200円（税抜）

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

毎回の小課題3割、定期試験7割により評価します。各回の小課題については次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

**【参考書】**

建築資料研究者・日建学院編『建築基準法関係法令集2018年度版』  
建築資料研究社、または「建築士試験会場持込みが可能」と表示されている他の法令集。  
日本建築学会編『建築法規用教材2017』丸善

**検定英語A**

栗本 孝子

1年 前期 1単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

**【注意事項】**

- ・プレイスメントテストで一定以上の成績が必要です。
- ・受講希望者は、年に複数回実施される学内TOEICテスト（有料）をできるだけ多く受験するようにしてください。
- ・受講人数制限40名（制限人数を超えた場合、抽選）

**【授業のテーマ】**

絶大な知名度と人気のあるTOEICは、英語能力をかなり正確に測定することができるテストです。高得点者は編入学や就職・転職に有利ということもあって、学生、社会人を問わず、受験者数が年々増え続けています。しかし、学習者の多くは「何をどう勉強すればスコアアップできるのかわからない」というのが正直な気持ちのようです。

そこで、本講座ではTOEIC L&Rテストの「性格」を知り、効果的な学習方法を学びます。具体的には前期の学内TOEIC L&R受験に向け、個々の学生の英語力アップを目的とします。独学が難しい「リスニングセクション」の攻略法を体得し、「単語力」を強化し、「不得意な文法」を徹底的にやり直すことで、目標スコア550点突破を目指します。

**【授業における到達目標】**

- ・新形式問題に精通する。
- ・TOEIC L&R攻略に不可欠の語い力を強化するために350センテンスを暗記し、日本語からすぐ英語でアウトプットできる。
- ・特にリスニング問題の効率的な聞き方を体得し、リスニングスコア250点以上を獲得する。
- ・TOEIC L&Rスコアを上げるための努力をすることで修得すべきディプロマ・ポリシーである「研鑽力」を磨くことができる。
- ・勉強すればするほど英語力は上がり、学修の成果を実感できれば、それは自信につながり、さらに力をつけたいというモチベーションを高めることができる。

**【授業の内容】**

テキスト（TEST 1使用）

1. 講座説明 TOEICについて
2. 単語テスト1 Part 1（リスニング／解説）
3. 単語テスト2 Part 2－1（リスニング）
4. 単語テスト3 Part 2－2（解説）
5. 単語テスト4 Part 3－1（リスニング）
6. 単語テスト5 Part 3－2（解説）
7. 単語テスト6 Part 4－1（リスニング）
8. 単語テスト7 Part 4－2（解説）
9. 単語テスト8 Part 5－1（101番－115番）（解説）
10. 単語テスト9 Part 5－2（116番－130番）（解説）
11. 単語テスト10 Part 6（131番－146番）（解説）
12. Part 7－1（147番－160番）（解説）
13. Part 7－2（161番－180番）（解説）
14. Part 7－3（181番－200番）（解説）
15. 総まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：毎週、穴埋め単語テストを実施します。毎回35センテンスをしっかりと暗記すること。（学修時間 毎日30分）

事後学修：毎回クラスで学習した攻略法・文法を必ず復習すること。リスニング問題を繰り返し聞く。（学修時間 週1時間）

**【テキスト・教材】**

1. 『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 3』（TOEIC運営委員会 2017年）2,800円＋税
2. 『TOEIC TEST瞬感英単語600点突破 最初の450語』（誠文堂新光社 2015年）1,000円＋税
3. 『TOEIC TEST瞬感英単語600点突破 必須の450語』（誠文堂新光社 2015年）1,000円＋税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- ・単語テスト（計10回）（50％）
- ・クラス内筆記期末テスト（50％）
- ・単語テストは次週の授業内に、期末テストは授業最終回にフィードバックを行います。

**検定英語B**

栗本 孝子

1年 後期 1単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

く受験するようにしてください。

・受講人数制限40名（制限人数を超えた場合、抽選）

**【授業のテーマ】**

TOEIC関連の授業や学内TOEIC、公開TOEIC受験を経験した学生なら、TOEICとはどんなテストなのかを知っていますね。だからこそ、高得点を取るのがいかに困難なことなのかをわかっているはず。自分の「弱点」を知ることは、英語を学習する上での大きな前進です。なぜなら「自分が何を勉強すべきかわかった」ということだからです。

本講座では、自分の「弱点」を克服し、後期の学内TOEIC L&R テストでスコア650点を突破することを目標とします。

**【授業における到達目標】**

- ・350センテンスを暗記し、日本語を見てすぐに英語でアウトプットできる。
- ・リーディングセクションの攻略法を体得し、パート7の1パッセージを3分で読解できる。
- ・学内TOEIC L&Rでリスニング350点以上、ライティング300点以上、合計スコア650点以上を獲得する。
- ・TOEIC対策を学ぶことで見えてくる自分の英語の弱点を克服するために計画を立て、着実に課題を解決していくことを通して、修得すべきディプロマ・ポリシーの「研鑽力」を磨くことができる。

**【授業の内容】**

テキスト（TEST 2を使用）

1. TOEIC講座説明 Part 1—1（リスニング）
2. 単語テスト11 Part 1—2（解説）
3. 単語テスト12 Part 2—1（リスニング）
4. 単語テスト13 Part 2—2（解説）
5. 単語テスト14 Part 3—1（リスニング）
6. 単語テスト15 Part 3—2（解説）
7. 単語テスト16 Part 4—1（リスニング）
8. 単語テスト17 Part 4—2（解説）
9. 単語テスト18 Part 5—1（101番—115番）（解説）
10. 単語テスト19 Part 5—2（116番—130番）（解説）
11. 単語テスト20 Part 6（131番—146番）（解説）
12. Part 7—1（147番—160番）（解説）
13. Part 7—2（161番—180番）（解説）
14. Part 7—3（181番—200番）（解説）
15. 総まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：毎週単語テストを実施します。は毎週35センテンスをしっかり暗記してください。（学修時間 毎日30分）

事後学修：毎回クラスで学習した文法・単語・熟語を必ずその日のうちに復習してください。（学修時間 週1時間）

**【テキスト・教材】**

1. 『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 3』（TOEIC運営委員会 2017年）2,800円＋税
2. 『TOEIC TEST瞬感英単語600点突破 最初の450語』（誠文堂新光社 2015年）1,000円＋税
3. 『TOEIC TEST瞬感英単語600点突破 必須の450語』（誠文堂新光社 2015年）1,000円＋税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- ・単語テスト（計10回）（50%）
- ・クラス内筆記期末テスト（50%）
- ・単語テストは次週の授業内に、期末テストは授業最終回にフィードバックを行います。

**【注意事項】**

- ・本講座は前期に「検定英語A」を受講していなくても、真剣にTOEICスコアアップを目指す学生なら受講できます。
- ・プレイスメントテストで一定以上の成績が必要です。
- ・年に複数回実施される学内TOEICテスト（有料）をできるだけ多



**献立学**

加藤 チイ

2年 後期 2単位

○：美の探究、研鑽力

**【授業のテーマ】**

栄養士になるためには対象者に適した献立作成の能力が必要です。給食の献立はおいしさだけでなく、栄養素、季節感、安全性、作業量、予算、食文化など多くの条件を満たす必要があります。給食利用者の健康に役立ち、楽しみとなる食事の献立作成について学びます。

**【授業における到達目標】**

献立の基本的なパターンと料理の組み合わせを理解する。  
 食品の常用量、調味料の使い方を理解する。  
 さまざまな料理について「給食」の観点から組み合わせることができる。  
 行事や季節、地域の特徴など「文化」を意識した献立を作ることができる。  
 ライフステージ別の献立の特徴を理解する。  
 美の探究、研鑽力を養う。

**【授業の内容】**

第1週 献立の基礎知識  
 第2週 食事様式と料理の組み合わせ  
 第3週 献立と栄養量  
 第4週 献立と食品の常用量・調味パーセント  
 第5週 献立と季節（1）春、夏  
 第6週 献立と季節（2）秋、冬  
 第7週 まとめ（1）基本食の献立  
 第8週 行事食献立（1）基本  
 第9週 行事食献立（2）応用  
 第10週 対象者別献立（1）幼児・学童  
 第11週 対象者別献立（2）成人  
 第12週 対象者別献立（3）高齢者  
 第13週 対象者別献立（4）傷病者  
 第14週 献立と帳票類  
 第15週 まとめ（2）テーマ別献立

**【事前・事後学修】**

【事前学修】授業予定を確認し、テキスト該当ページを予習する。すでに学んだ調理実習、調理学など関連科目について、献立、材料使用量などを確認する（週2時間）。

【事後学修】配布プリント、講義内容を復習する。授業で行った献立作成、栄養価計算を復習して理解する（週2時間）。

**【テキスト・教材】**

赤羽正之ほか著『給食施設のための献立作成マニュアル』（医歯薬出版株式会社）2500円+税  
 『調理のためのベーシックデータ』（女子栄養大学出版部）1800円+税  
 『日本食品標準成分表』（出版社を問わない）  
 ※いずれも最新版。※1年時の『調理学』のテキストを使います。  
 年度により異なるので授業開始前に掲示等でお知らせします、注意してください。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

小テスト30%、試験50%、平常点（授業への積極参加・提出課題）20%  
 フィードバック：試験得点分布傾向公開、問題解説、レポートは評価し返却。

**【参考書】**

富岡和夫編著『給食の運営 給食計画・実務論』（医歯薬出版株式会社）2800円+税

**【注意事項】**

栄養価計算を行います、電卓を持参してください。関連科目で使った教科書を使う場合があります。連絡事項に注意してください。

**研究方法特殊研究**

美術史学の実践的な研究方法に関する、より高度で専門的な検討

**大学院担当専任教員全員**

美術史学専攻 通年・集通 2単位

**【授業のテーマ】**

博士論文作成に向けて、各自の博論の途中経過をパワーポイントによって口頭発表し、それに対する美術史学専攻の全専任教員より質問やコメントを受ける。また受講生たちは発表に対する質疑応答をおこなう。

**【授業における到達目標】**

発表者は自らの研究状況を確認するとともに、新たな問題点を見出し、研究内容をさらに深化発展させ、より充実した博論作成へ進む。また発表や質疑応答を通じて研究者としての態度を身につける。

**【授業の内容】**

これは、通常の授業とは異なり、集中講義形式となる。

- 1、博論提出予定者は、4月より指導教員と適宜アポイントをとって面談を重ね、発表の構想を練り、各自の研究成果をまとめ、わかりやすく発表するために、パワーポイントや配付資料の準備をする。（授業時間の①～⑧に相当する）
- 2、予備発表で、研究方法や研究内容の吟味を行う。（⑨・⑩）
- 3、美術史学専攻の全専任教員及び全院生の前で、本発表を行う。（⑪～⑬）発表時間は25分、質疑応答を含めて、各自の持ち時間は40分である。その他全体的な講評も行う。第1回目は7月上中旬を、第2回目は1月中旬を予定しているが、詳しい日程については追って公表する。
- 4、指導教員と反省会を行い、問題点を再吟味する。（⑭⑮）

**【事前・事後学修】**

事前：パワーポイント、配付資料の準備や点検など（週平均2時間）

事後：教員からの指導を踏まえて、各自のテーマを再考し、考察を深める。（週平均2時間）

**【テキスト・教材】**

適宜指導する

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

発表（パワーポイントと配付資料の内容も含めて）70%、質疑応答や討論での発言など30%。指導教員から個別にフィードバックする。

**【参考書】**

無し。

**【注意事項】**

担当教員の教員の指示に従い、遅滞無く準備し、積極的に発言すること。

## 研究方法特論

### 大学院担当専任教員全員

人間社会専攻 前期 2単位

#### 【授業のテーマ】

本講義は現代の社会科学に分類される学問領域の中で社会学、心理学、経済学、経営学、教育学、コミュニケーション学などの視点から、現代社会の科学的認識方法およびその元の社会科学的な知識体系を学ぶ。現代社会ほど経験したことのない複雑でグローバルな問題もリージョナルな問題にもなる時代をどのように理解すればよいのであろうか。人間を理解する、社会（企業や組織）を理解する、世界を理解するには社会科学的な方法論を学ぶことによって可能となる。各専門領域の高度な専門知識（理論体系：総合）と調査・研究方法の習得を目指す。

#### 【授業における到達目標】

本講義を通じて、研究の進め方の類型化や研究テーマの設定の仕方、さらには仮説の設定の仕方について大枠を理解することができおようになる。また、合わせて、質問紙の設計やデザインなどについても把握できるようになる。

#### 【授業の内容】

- 第1週 社会科学方法論（全般）
- 第2週 専門領域における研究方法論（総合）1
- 第3週 専門領域における研究方法論（総合）2
- 第4週 専門領域における研究方法論（総合）3
- 第5週 専門領域における研究方法論（総合）4
- 第6週 専門領域における研究方法論（総合）5
- 第7週 専門領域における研究方法論（総合）6
- 第8週 専門領域における分析の方法1
- 第9週 専門領域における分析の方法2
- 第10週 専門領域における分析の方法3
- 第11週 専門領域における実証（調査・実験）分析1
- 第12週 専門領域における実証（調査・実験）分析2
- 第13週 専門領域における実証（調査・実験）分析3
- 第14週 専門領域における実証（調査・実験）分析4
- 第15週 レポートの検討とまとめ

#### 【事前・事後学修】

事前学修：選択した各専門分野での研究方法を学習しておくこと  
事後学修：各専門分野について学習した内容の復習と整理をしておくこと  
事前・事後学修で週4時間以上を要する。

#### 【テキスト・教材】

専門領域の方法論関連の図書

#### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート70%、授業中の発言30%を総合して評価する。  
フィードバックはテーマ毎に適宜行う。

#### 【参考書】

専門領域の方法論関連の図書

**研修ブレップ英語**

デヴェラ, ローナ・V・L

1年 後期 1単位

◎ : 国際的視野、○ : 研鑽力、行動力

**【注意事項】**

The class will be conducted in English. Active participation is valued and encouraged. Please do your best to think in English and speak in English at all times inside the classroom.

**【授業のテーマ】**

The course is an English preparation course intended for students who will be participating in study-abroad programs, particularly the short-term four-week program in Melbourne, Australia. As they will explore different topics related to their overseas stay, they will also be able to acquire linguistic and cultural knowledge needed for their overseas stay. They will be given the opportunity to practice and hone their communicative English skills for both academic and practical settings. Students not participating in the program but wish to brush up their speaking and writing skills are welcome to join the class.

**【授業における到達目標】**

This course is intended to help students develop an international mindset and strengthen their analyzing skills. The goal is to train them to think and respond in English and equip them to be able to adequately function and participate in a variety of situations for daily life in an international setting. They will learn to engage in minor research to gather useful and relevant information about Australia (or the country where they wish to study abroad) and be able to share these through discussion, written reports, and presentations.

**【授業の内容】**

Week 1: Orientation and introduction to the course  
 Week 2: Making a self-introduction  
 Week 3: Introducing your school  
 Week 4: Homestay  
 Week 5: Introduction to the host country (Australia)  
 Week 6: Relationship between Japan and Australia  
 Week 7: Education  
 Week 8: Communication and media  
 Week 9: Getting sick and medical services/ Portfolio check  
 Week 10: Food  
 Week 11: Religion and holiday celebrations  
 Week 12: Etiquette, manners, and taboos  
 Week 13: Recreation and sports  
 Week 14: World heritage sites  
 Week 15: Portfolio check and wrap-up

**【事前・事後学修】**

事前学修 : Students should come to class prepared and complete all role-plays, in-class activities, presentations, and other assigned work on time. (Approximately 1-2 hours a week)

事後学修 : Students must review past lessons and preview lessons for the next meeting. (Approximately 1-2 hours a week)

**【テキスト・教材】**

Class materials and handouts will be provided by the teacher. Have a notebook for taking notes and prepare a file folder to be used as portfolio for keeping handouts and assignments.

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

Class participation and attendance (20%)  
 Discussion and other in-class activities (40%)  
 Written reports (30%)  
 Portfolio (10%)

**原価計算論**

蔣 飛鴻

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

原価計算は、「企業の生産活動において利用・消費された経済価値を費目別、機能別、場所別、製品別等に分類し、測定し、伝達する原価情報システムである」と定義されている。本授業では、その理解を目的とする。理解度を確かめるための計算演習を行う。各回の授業はおおむね①論点の解説→②例題解説→③問題演習という順序で進む予定である。

**【授業における到達目標】**

本授業では、製造業における製品原価等の計算方法ならびに記帳体系について学習する。授業を通じて、計算技術の修得だけでなく、その根底にある考え方を理解し、学問としての原価計算を学んで、考える力を身につけることを目的とする。

ディプロマポリシー：学修を通して自己成長する力（研鑽力）

**【授業の内容】**

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 原価概念とその分類
- 第3回 材料費
- 第4回 労務費と経費
- 第5回 製造間接費
- 第6回 部門別計算
- 第7回 個別原価計算
- 第8回 中間試験
- 第9回 単純総合原価計算
- 第10回 等級別総合原価計算
- 第11回 組別総合原価計算
- 第12回 工程別総合原価計算
- 第13回 標準原価計算
- 第14回 直接原価計算
- 第15回 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：小テストに取り組むこと。（学修時間週2時間）

事後学修：小テスト等の復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。（学修時間週2時間）

**【テキスト・教材】**

授業の1回目指定する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験70%、授業への取り組み（授業中の発言・積極的な参加）30%で評価する。

課題については、次の授業の際にコメントやフィードバックする。試験結果については最終回でフィードバックする予定。

**【参考書】**

必要に応じて資料を配布する。

**【注意事項】**

簿記の基礎知識を習得していることが望ましい。

## 原稿指定入門

居郷 英司

1年 前期 2単位

○：協働力

## 【授業のテーマ】

「原稿指定」は、著者によって執筆された原稿を、組版・校正・印刷・製本という過程を経て、書籍に仕上げるための作業指示をする、いわば「書籍の設計図」をつくることです。印刷所・製本所では、すべての作業を書籍製作者の指定によって進めますので、間違いのない、疑問のない、明確な指示をする必要があります。

この授業では、まず書籍とは何か、印刷文字や組版の基礎を学んだあと、縦組の本文の指定技術を学んでいきます。「印刷文字スケール」の使い方については「印刷製本知識」の授業で、詳しく解説します。併せて選択されると、より理解が深まります。

なお、本文以外の前付・後付の原稿指定は、2年次後期の「書籍製作」で学びます。

## 【授業における到達目標】

一冊の書籍の本文原稿に組版の指定を通じて、学ぶ愉しみを知ることが目標として、学修の成果を実感し、自己成長する研鑽力を修得します。

## 【授業の内容】

- 第1週 書籍と雑誌の違い／書籍のできるまで
- 第2週 書籍の各部名称と内容順序
- 第3週 原稿の種類と造本設計の考え方
- 第4週 印刷文字の基礎知識 (1) 和字
- 第5週 印刷文字の基礎知識 (2) 欧字・約物
- 第6週 組方原則の基礎知識
- 第7週 本文を中心とする書籍の分析
- 第8週 基本版面の考え方と作成
- 第9週 原稿指定票の作成／見出しの考え方
- 第10週 見出しの作成と字割の考え方
- 第11週 見出しの指定／中扉の考え方と指定
- 第12週 引用文・箇条書き・注の考え方と指定
- 第13週 写真の考え方と指定
- 第14週 図版の考え方と指定
- 第15週 実習課題の最終点検と授業のまとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】学修内容をシラバスで確認し、あらかじめテキストの該当箇所を読んで、授業に臨むようにしてください。(学修時間 週2時間)

【事後学修】授業中に仕上がらなかった指定作業を、きちんと完成しておくようにしてください。また学修した内容が、実際に刊行されている書籍ではどのようなになっているか、小売り書店やコンビニ・図書館で確認しながら学修を進めるようにしてください。(学修時間 週2時間)

## 【テキスト・教材】

- 『編集必携 第2版』(日本エディタースクール出版部、2002年) 1980円＋税
- 『本の知識』(日本エディタースクール出版部、2009年) 500円＋税
- 『文字の組方ルールブック タテ組編』(日本エディタースクール出版部、2009年) 500円＋税
- 使用用具：「印刷文字スケール」、赤・青ペン

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

講義中の小テストを含む平常点50%、総合実習課題50%で評価します。小テストは次回の授業でフィードバックします。

## 原稿編集

居郷 英司

1年 後期 2単位

○：美の探究、協働力

## 【授業のテーマ】

著者が執筆した原稿が、そのまま書籍になるわけではありません。原稿は組版される前に、必ず編集者がさまざまな視点から点検をし、より完全な内容にしていきます。これらの点検・整理・修正を「原稿編集」と言います。この作業がきちんと行われることにより、校正作業が軽減され、結果的にミスのない書籍をつくることができます。

この授業では、出版社の「原稿編集」の作業で行う項目ごとに、その考え方とポイントを学んでいきます。

## 【授業における到達目標】

原稿の内容を出版物として世に出すための確認と修正作業を通して、文章を客観的に読む能力を身につけることを目標に、広い視野と本質を見抜く洞察力を修得します。

## 【授業の内容】

- 第1週 原稿編集とは何か
- 第2週 手書き原稿の予備作業
- 第3週 手書き文字の知識
- 第4週 印字原稿の知識
- 第5週 印字原稿の予備作業
- 第6週 事実確認の重要性
- 第7週 法規／著作権／差別表現
- 第8週 約物／数字と単位
- 第9週 漢字の知識 (1) 戦後の漢字政策と常用漢字
- 第10週 漢字の知識 (2) 人名用漢字・拡張新字体・書き換え漢字
- 第11週 用語／かな遣い
- 第12週 送りがな／ルビ
- 第13週 欧字／外来語
- 第14週 引用文と文献表記
- 第15週 授業の補足とまとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】学習内容をシラバスで確認し、あらかじめテキストの該当箇所を読んで、授業に臨むようにしてください。(学修時間 週2時間)

【事後学修】授業中の課題を完成させておくようにしてください。さらに、学習した内容が実際に刊行された書籍ではどのようなになっているか、図書館などで実際の出版物で確認しながら、学修を進めるようにしてください。(学修時間 週2時間)

## 【テキスト・教材】

- 『編集必携 第2版』(日本エディタースクール出版部、2002年) 1980円＋税
- 『校正必携 第8版』(日本エディタースクール出版部、2011年) 2400円＋税
- 『原稿編集ルールブック 第2版』(日本エディタースクール出版部、2012年) 500円＋税
- 『日本語表記ルールブック』(日本エディタースクール出版部、2012年) 500円＋税

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

講義中の課題を含む平常点50%、最終総合実習課題50%で評価します。課題は次回の授業でフィードバックします。

## 【参考書】

「校正」の授業でテキストとして使用している『新編校正技術』全4巻(日本エディタースクール出版部、2012年、5500円＋税)も随時参照して学習するようにしてください。

**原書講読 a**

細江 容子

3年 前期 1単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

ど) 100%

**【参考書】**

授業内で指示する。

**【注意事項】**

第1回目に担当箇所決めを行う。履修を希望する者は、第1回目の授業に必ず出席すること。

**【授業のテーマ】**

新フロイト派、フロイト左派とされるドイツの社会心理学、精神分析、哲学者であるErich Seligmann Frommの“Art of Loving”の購読を行う。本書は、『自由からの逃走』、『人間における自由』の理論を補完する内容である。本講義では、彼の著書『自由からの逃走』、『人間における自由』、『希望の革命』、『生きるということ』など、彼の様々は著作をもとに毎回議論を行う。

授業では、担当箇所について読み、レジュメを作成し、人数配布して発表する。また、発表者以外の履修者も、各回の授業で発表者に質問できるよう、毎回テキストを読むと同時に様々な文献にあたり質問を準備する。発表者は質問に答えられるよう、質問を想定し専門書等にあたるなどして、準備を行う。

本講義は、人間関係と社会構造との関わりについて理解を深めることを目的とする。

**【授業における到達目標】**

- ・人間関係と社会構造との関わりについて理解する。
- ・人間関係がどのようなものを基礎としてなりたっているかを考える。
- ・人間関係と社会構造との関わりについて考える。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス・受講上の注意、担当箇所決め
- 第2週 Chap. I Is Love an Art?
- 第3週 Chap. II The Theory of Love 1. Love, the Answer to the Problem of Human Existence
- 第4週 Chap. II The Theory of Love 1. Love, the Answer to the Problem of Human Existence
- 第5週 Chap. II The Theory of Love 2. Love Between Parent and Child
- 第6週 Chap. II The Theory of Love 3. The Objects of Love Brotherly Love
- 第7週 Chap. II The Theory of Love 3. The Objects of Love Motherly Love
- 第8週 Chap. II The Theory of Love 3. The Objects of Love Exotic Love
- 第9週 Chap. II The Theory of Love 3. The Objects of Love Self-Love
- 第10週 Chap. II The Theory of Love 3. The Objects of Love Love of God
- 第11週 Chap. III Love and Its Disintegration in Contemporary Western Society
- 第12週 Chap. III Love and Its Disintegration in Contemporary Society
- 第13週 Chap. IV The Practice of Love
- 第14週 Chap. IV The Practice of Love
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】発表者は、発表のレジュメの準備だけでなく、質問を想定して準備を行う。発表に際して複数の文献にあたる。発表者以外の履修者は、各回の授業で発表者に質問できるよう、毎回テキストを読んで授業に出席する。(2時間以上)

【事後学修】各回の授業による内容を確認し次回の講義の質問に対応する。(1時間以上)

**【テキスト・教材】**

Erich Seligmann Fromm “Art of Loving” (Harper Perennial Modern Classics 2006) USA \$14,99

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点(担当箇所の発表、発表者でないときも含めた質疑応答な

## 現代の哲学 a

現代哲学は近代哲学の人間中心主義を乗り越えられるか。

岡部 英男

1年～ 前期 2単位

◎：美の探求 ○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

現代哲学を、近代の主観性の哲学・意識の哲学の破綻の結果生じたものという観点から、歴史的展開によりつつ考察する。デカルトに始まる近代哲学が、人間自身をすべての出発点とし、確実性という基準を使ってそれ以外のすべて（自然、他者、身体など）を自分のものとして支配、所有する運動だと言えるとすれば、現代の哲学はそれを批判し乗り越えようとする試みだと言えるだろう。だが、両者は人間自身という出発点を共有し、いわば同じ地平に立っているため、現代哲学の近代哲学に対する批判は単純に成功しているとは言えない。つまり、人間は人間中心主義を脱することができるのか。こうしたことを考察したい。

### 【授業における到達目標】

- 1 物事の真理を探究すること（近代の人間中心的な哲学を理解すること）によって、新たな知（それから脱するための様々な試み）を創造しようとする態度を身につけることができるようになる（行動力）。
- 2 広い視野と深い洞察力を身につけ、本質（人間中心主義の長所と短所）を見抜くことができるようになる（研鑽力）。

### 【授業の内容】

- 第1週 近代以前の哲学（哲学の始まり～古代ギリシアの哲学）
- 第2週 近代以前の哲学（プラトンのイデア論）
- 第3週 近代主観性の哲学1（デカルトの方法的懐疑、コギト）
- 第4週 近代主観性の哲学1（デカルトの心身二元論、相互作用）
- 第5週 近代主観性の哲学2（カントの批判哲学）
- 第6週 近代主観性の哲学3（ヘーゲル、意識の成長）
- 第7週 近代主観性の哲学3（ヘーゲル、理性）
- 第8週 実存哲学（キルケゴールの実存哲学）
- 第9週 実存哲学（実存の三段階）
- 第10週 ニーチェ（芸術による世界の救済、力への意志、解釈）
- 第11週 ニーチェ（ニヒリズム、超人、永遠回帰）
- 第12週 ハイデガー
- 第13週 フッサールの現象学
- 第14週 ポスト・モダンの思想（フーコー）
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】指定した参考書の該当箇所を予め読んでおくこと。あるいは、テレビ・新聞・インターネットなどで見聞きした問題の原因を考え、それを習慣として行うこと（学修時間 週1時間）。

【事後学修】この授業では、予習よりも復習に重点を置いてほしい。毎回ノートを整理して、復習すること。小テストの課題を復習して確認しておくこと（学修時間 週3時間）。

### 【テキスト・教材】

教科書はとくに用いません。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト約30%（1回4点を7回）、試験60%、平常点（授業態度）約10%。授業の始めに前回授業を復習し確認する。小テストを行ったときは、次回授業で再び説明し確認する。定期試験については、最終回の授業で解説し確認する。

### 【参考書】

小坂国継・本郷均（編）『概説 現代の哲学・思想』（ミネルヴァ書房 2012年）3,500円。

## 現代の哲学 b

言語の哲学

岡部 英男

1年～ 後期 2単位

◎：美の探求 ○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

現代の言語と心の哲学。現代哲学の主要な特徴は言語が最大のテーマになったことである。言語とは何か（事物、観念など）の代わりであり、言語以前の思考を伝達するための補助手段にすぎないというのが伝統的な言語観であったのに対して、現代的な言語観では、言語があるからこそ人間は世界を合理的に理解できるのであり、言語は単なるモノの代用品ではなく、貨幣によく似た交換のためのツール・システムであると理解されている。伝統的な言語観はどのように現代の革命的言語観に変わったのか、そしてその結果、言語に相関する心はどのように捉えられるようになったのか、こうしたことを考察し、言語の社会性について理解を深めたい。

### 【授業における到達目標】

- 1 物事の真理を探究すること（言語以前の思考という考え方から、思考は言語によるという考え方への変遷の理解）によって、新たな知を創造しようとする態度を身につけることができるようになる（行動力）。
- 2 広い視野と深い洞察力を身につけ、本質（言語は貨幣と同様に、他者との交換のための道具であること）の理解を見抜くことができるようになる（研鑽力）。

### 【授業の内容】

- 1 伝統的な言語観としての言語代用説
  - 第1週 ソクラテス1（名前の正しさ、言語慣習説とそれへの批判）
  - 第2週 ソクラテス2（言語自然本性説とそれへの批判、イデアを模倣する言語）
  - 第3週 聖書のアダムの言語とバベルの塔の物語
  - 第4週 アリストテレスの言語慣習説（事物と心と言葉の関係、名前と指示対象との関係を安定させるものとしての慣習）
- 2 近代哲学における言語理解
  - 第5週 ロック1（観念の記号としての言語、事物と観念と言葉の関係）
  - 第6週 ロック2（言語の不完全性としての恣意性・私秘性、救済策）
  - 第7週 コンディヤック1（言語と認識の起源、自然的記号と人工的記号）
  - 第8週 コンディヤック2（原初の自然語・身振り言語からの類推によって生じる人工語・言語の優劣）
  - 第9週 フンボルト1（言語の二側面・精神能力・音声、民族の言語）
  - 第10週 フンボルト2（言語の役割、言語と思考の関係、言語の四類型、言語の優劣）
- 3 現代の言語哲学
  - 第11週 ソシュールの構造言語学1（言語構造、ラングとパロール、共時的と通時的）
  - 第12週 ソシュールの構造言語学2（意味と価値、交換、言語代用説の破壊、言語観の革命）
  - 第13週 ウィトゲンシュタイン1（ピクチャー・セオリー）
  - 第14週 ウィトゲンシュタイン2（言語ゲーム、幻想と治療）
  - 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】テレビ・新聞・インターネットなどで見聞きした新しい言葉や新しい用法に注意して、書き留めておくこと（学修時間 週1時間）。

【事後学修】この授業では、予習よりも復習に重点を置いてほしい。毎回配布するプリントを読み返し、ノートを整理して、復習すること。小テストの課題を復習して確認しておくこと（学修時間 週3時間）。

### 【テキスト・教材】



教科書はとくに用いませんが、ほぼ毎回プリントを配布する予定

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

小テスト約30%（1回4点を7回）、試験60%、平常点（授業態度）約10% 授業の始めに前回授業を復習し確認する。小テストを行ったときは、次回授業で再び説明し確認する。定期試験については、最終回の授業で解説し確認する。

## 現代アメリカ文学・文化演習 a

ジェンダー規範の変容

佐々木 真理

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

## 【授業のテーマ】

19世紀に始まり21世紀の現在に続く女性の権利獲得と地位向上を求める運動の中で、多くの女性作家や活動家たちが優れた演説や著作を残してきました。この演習の目標は、19世紀から20世紀の女性作家の代表的な著作にふれながら、アメリカ社会における女性の権利問題とジェンダーに関する規範の変容について考えます。

## 【授業における到達目標】

女性作家の作品を通して、アメリカ社会における女性の地位や権利の問題、ジェンダーに関する問題について理解を深め、分析を行い、自らの考察をまとめることを目標とします。それによって、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる研鑽力、目標を設定して、計画を立案・実行できる行動力を養います。また、文学の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度を育みます。

## 【授業の内容】

19世紀終わりに活躍した女性作家Kate Chopinの作品を、*The Awakening*を中心に読んでいきます。あわせて、19世紀から20前半のさまざまな女性活動家たちの背景・思想をたどります。毎回担当を決め、発表してもらった上で、重要な箇所や問題点について、議論を行います。

第1週 インTRODクシヨン

第2週 19世紀女性参政権運動の背景

第3週 19世紀女性参政権運動の流れ

第4週 19世紀女性参政権運動の思想

第5週 19世紀前半の女性活動家の背景

第6週 19世紀前半の女性活動家の流れ

第7週 19世紀前半の女性活動家の思想

第8週 19世紀後半の女性活動家の背景

第9週 19世紀後半の女性活動家の流れ

第10週 19世紀後半の女性活動家の思想

第11週 20世紀前半の女性活動家の背景

第12週 20世紀前半の女性活動家の流れ

第13週 20世紀前半の女性活動家の思想

第14週 20世紀後半への展開

第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】発表者は担当箇所及び担当トピックについてハンドアウトを作成し、発表の準備をすること。発表者以外も授業で読む箇所を前もってよく読んでくること。(学修時間 週3時間)

【事後学修】その週に扱った箇所を読み直し、期末試験に向けて論点を整理すること。(学修時間 週1時間)

## 【テキスト・教材】

*The Awakening and Other Stories*

(Kate Chopin) (Oxford World's Classics, Oxford University Press)

約1200円

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業態度・発表・課題)50%、期末試験50%。

課題については次回授業にてフィードバックを行います。

## 【参考書】

授業中に適宜指示します。

## 【注意事項】

授業の前に必ず予習を行い、授業には積極的に参加すること。

## 現代アメリカ文学・文化演習 b

女性のライフ・スタイルとアメリカ社会

佐々木 真理

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

## 【授業のテーマ】

19世紀に始まり21世紀の現在に続く女性の権利獲得と地位向上を求める運動の中で、多くの女性作家たちが数々の優れた著作を残してきました。この演習の目標は、20世紀後半の女性作家の代表的な著作にふれながら、アメリカ社会における女性のライフ・スタイルの変遷を学び、21世紀の新たな可能性を探ることにあります。

## 【授業における到達目標】

アメリカ社会における女性のライフ・スタイルの変遷について、女性作家の作品を通して理解を深めることで、女性に関する諸問題の知識を培うことを目指します。それによって、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる研鑽力、目標を設定して、計画を立案・実行できる行動力を養います。また、文学の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度を育みます。

## 【授業の内容】

20世紀後半に発表された女性作家Sylvia Plathの著作を読みます。毎回担当を決め、発表してもらった上で、重要な箇所や問題点について議論を行います。

第1週 インTRODクシヨン

第2週 20世紀女性運動の背景

第3週 20世紀女性運動の流れ

第4週 20世紀女性運動の思想

第5週 20世紀後半の女性活動家の背景

第6週 20世紀後半の女性活動家の流れ

第7週 20世紀後半の女性活動家の思想

第8週 21世紀の女性活動家の背景

第9週 21世紀の女性活動家の流れ

第10週 21世紀の女性活動家の思想

第11週 21世紀の女性活動家の活動

第12週 今後の女性活動家の思想

第13週 今後の女性活動家の展開

第14週 今後の女性活動家の展望

第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】発表者は担当箇所及び担当トピックについてハンドアウトを作成し、発表の準備をすること。発表者以外も授業で読む箇所を前もってよく読んでくること。(学修時間 週3時間)

【事後学修】その週に扱った箇所を読み直し、期末試験に向けて論点を整理すること。(学修時間 週1時間)

## 【テキスト・教材】

*The Bell Jar* (Sylvia Plath) (Harper Perennial) 約1600円

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業態度・発表・課題)50%、期末試験50%。

課題については次回授業にてフィードバックを行います。

## 【参考書】

授業中に適宜指示します。

## 【注意事項】

授業の前に必ず予習を行い、授業には積極的に参加すること。

## 現代アメリカ文学・文化演習 c

Fitzgeraldを読む

植野 達郎

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

## 【授業のテーマ】

Scott Fitzgeraldの“The Great Gatsby”を読むことによって、小説を読むことの面白さを味わう。時代を超えて現代の読者に訴えるものがあるとすれば、それは変わることのない人間性であろう。その人間性とはどのようなものなのかを考える。

## 【授業における到達目標】

アメリカと日本の文化の違いを学ぶことによって国際的視野を広めるとともに、英語の読解力を高めることを目標とする。

## 【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 pp. 3-7
- 第3週 pp. 7-10
- 第4週 pp. 10-15
- 第5週 pp. 15-20
- 第6週 pp. 20-25
- 第7週 Ch. 2
- 第8週 Ch. 3
- 第9週 Ch. 4
- 第10週 Ch. 5
- 第11週 Ch. 6
- 第12週 Ch. 7
- 第13週 Ch. 8
- 第14週 Ch. 9
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

事前学修：テキストを精読し、しっかり調べるとともに、課題をレポートとしてマナバで提出すること。（学修時間 週3時間）

事後学修：その週で扱った内容を確認し、他の人のレポートを参考にして自らの考えを整理すること（学修時間 週1時間）

## 【テキスト・教材】

開講時に指示する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・発表・課題）50%、期末試験50%

## 【参考書】

適宜指示する。

## 【注意事項】

授業の前に必ず予習をし、授業には積極的に参加すること。

## 現代アメリカ文学・文化演習 d

Toni Morrisonの小説Sulaを精読する

深瀬 有希子

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

## 【授業のテーマ】

本授業では、1993年にノーベル文学賞を受賞したToni Morrisonの初期作品*Sula* (1973)を精読する。アフリカン・アメリカンが1920年代から1960年代に至るまでに経験した社会的状況をふまえながら、個人と共同体の関係やアイデンティティの構築性について考察する。

## 【授業における到達目標】

研鑽力：学修を通して自己成長する力を高める。  
美の探究力：知を求め、心の美を育む態度を養う。  
行動力：課題解決のために主体的に行動する力を高める。

## 【授業の内容】

- 1 インTRODクシヨン： トニ・モリスン作品の概観
- 2 「はじまりから1919」の章を精読する：第一次世界大戦
- 3 「1920」の章を精読する： トラウマ
- 4 「1921」の章を精読する： 20年代の北部
- 5 「1921」の章を精読する： 20年代の北部
- 6 「1922」の章を精読する： 20年代の南部
- 7 「1922」の章を精読する： 20年代の南部
- 8 「1923」の章を精読する： ジェンダー
- 9 「1937」の章を精読する： 世界大恐慌後の社会
- 10 「1937」の章を精読する： 世界大恐慌後の社会
- 11 「1939」の章を精読する： 第二次世界大戦
- 12 「1939」の章を精読する： 第二次世界大戦
- 13 「1941」の章を精読する： 第二次世界大戦
- 14 「1945」の章を精読する： レズビアニズム
- 15 「1965」の章を精読する： 公民権運動の時代

## 【事前・事後学修】

事前学修： 発表者は担当箇所についてハンドアウトを作成する。発表者以外にも重要と思われる論点への意見を用意しておくこと。学修時間 週2時間。

事後学修： 発表で提示された問題点を確認しながら、次回の授業範囲の予習を行い、物語の流れを把握しておくこと。学修時間 週2時間。

## 【テキスト・教材】

Toni Morrison *Sula* (Vintage 2004年版) 約 2000円

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・発表・課題）50%、レポート2回 50%で評価する。フィードバックはmanabaまたはレポート返却時に行う。

## 【参考書】

授業中に随時紹介する。

## 【注意事項】

授業の前に必ず予習を行い、授業には積極的に参加すること。また毎回、辞書を持ってくること。

**現代アメリカ文学・文化演習 e**

エスニック文学にみるディアスポラとジェンダー

深瀬 有希子

4年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

**【授業のテーマ】**

かつて公民権運動を経た1970年代にはマイノリティ文学と呼ばれるも、いまはエスニック文学と分類される、アフリカ系、アジア系、インド系アメリカ人作家による（短編）小説（及びそれらをもとにして作られた映画）を取り上げ、ディアスポラとジェンダーとの関わりを理解することを目標とします。

**【授業における到達目標】**

研鑽力： 学修を通して自己成長する力を高める。

美の探究力： 知を求め、心の美を育む態度を養う。

行動力： 問題解決のために主体的に行動する力を高める。

**【授業の内容】**

- 1 インTRODクシヨーン—エスニック文学とは何か
- 2 Amy Tanの『ジョイ・ラック・クラブ』を読む：民族と移動
- 3 Amy Tanの『ジョイ・ラック・クラブ』を読む：母娘の関係
- 4 Amy Tanの『ジョイ・ラック・クラブ』を読む：アメリカ化への渴望と葛藤
- 5 映画『ジョイ・ラック・クラブ』を分析する
- 6 Alice Walkerの短編小説を読む：母娘の関係
- 7 Alice Walkerの短編小説を読む：伝統の継承
- 8 まとめ ①
- 9 Jhumpa Lahiriの短編小説を読む：「ハイフン」の意味
- 12 Jhumpa Lahiriの短編小説を読む：文化の翻訳
- 13 ディアスポラとジェンダーに関する文学文化批評を読む 1
- 14 ディアスポラとジェンダーに関する文学文化批評を読む 2
- 15 まとめ ②

**【事前・事後学修】**

事前学修： 発表者は担当箇所についてハンドアウトを作成する。発表者以外も重要と思われる場面への意見を用意しておくこと。学修時間週2時間。

事後学修： 発表で提示された問題点を確認しながら、次回の授業範囲の予習を行い、物語の流れを把握しておくこと。また、関連する映画を観ておくこと。学修時間週2時間。

**【テキスト・教材】**

Amy Tan, *The Joy Luck Club*, Vintage1991年版（約1400円）

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業態度・発表・課題）50%、試験50%で評価する。フィードバックは、manaba または翌回以降の授業で行う。

**【参考書】**

Alice Walker, *In Search of Our Mothers' Gardens*

Jhumpa Lahiri, *Interpreter of Maladies*

**【注意事項】**

授業の前に必ず予習を行い、授業には積極的に参加すること。また毎回、辞書を持ってくること。教科書については、上に挙げた版以外で、すでに持っているものがあればそれを用いてもよいが、念のため担当者に確認すること。

**現代アメリカ文学・文化演習 f**

アメリカ現代作家を読む

植野 達郎

4年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

**【授業のテーマ】**

William FaulknerおよびErnest Hemingwayの作品を読むことを通して、小説を読むことのおもしろさを味わう。時代を超えて、現代の読者にも訴えるものがあるとすれば、それは変わることのない人間性である。

**【授業における到達目標】**

日本とアメリカの文化の違いを考えることで国際的視野を広めるとともに、英語の読解力を高めることを目標とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 INTRODUCTION
- 第2週 小説の構成
- 第3週 小説の時間
- 第4週 フォークナーの語り
- 第5週 語られる存在
- 第6週 町の人々
- 第7週 エミリーという存在
- 第8週 エミリーにとってのホームー・パロン
- 第9週 南部の女性
- 第10週 ヘミングウェイの語り
- 第11週 男性性
- 第12週 女性性
- 第13週 作品で使われているイメージ
- 第14週 小説の構造
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修： テキストの該当箇所の精読および課題に対するレポートをmanabaで提出。（学修時間 週3時間）

事後学修： 該当箇所を復習するとともに、他の人のレポートを読むことで自分の考えを整理する。（学修時間 週1時間）

**【テキスト・教材】**

授業時に指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業態度・発表・課題）50%、期末試験50%

**【参考書】**

授業中に適宜指示する。

**【注意事項】**

授業の前には必ず予習をし、授業には積極的に参加すること。

## 現代イギリス文学・文化演習 a

戦争文学を読む

新井 紀代

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

## 【授業のテーマ】

過去の大戦を作家独自の視点から捉え直した作品は数多く存在する。Pat Barkerの代表作である第一次世界大戦三部作もその一例である。

この授業では第一作目にあたるRegenerationを精読する。戦争神経症を発症したとみなされ、戦地から病院へ送られてきたSiegfried Sassoonと彼を治療する医師Riversの対話を描くことによって作者がわれわれ読者に問いかけているのは何なのか考えてみたい。

## 【授業における到達目標】

英語で書かれた作品の和訳という作業を通じて、英語の読解力の向上および作品のより深い解釈を目標とする。学生が行うべき「美の探究」のうち、感受性を深めようとする態度を身につける。

## 【授業の内容】

第1週：作者と作品についての説明

第2週：Chapter 1, 2

第3週：Chapter 3, 4

第4週：Chapter 5, 6

第5週：Chapter 7

第6週：Chapter 8

第7週：Chapter 9, 10

第8週：Chapter 11, 12, 13

第9週：Chapter 14

第10週：Chapter 15, 16

第11週：Chapter 17

第12週：Chapter 18, 19

第13週：Chapter 20, 21

第14週：Chapter 22, 23

第15週：まとめ

## 【事前・事後学修】

事前学修：毎週該当箇所を和訳し、小テストや発表の準備をすること。（学修時間 週2時間）

事後学修：小テストを復習し、物語の内容が理解できているか確認すること。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

コピーを配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学期末試験50%、授業態度・課題発表・小テスト50%

小テストは次回授業、学期末試験は授業最終回でフィードバックを実施する。

## 現代イギリス文学・文化演習 b

「新しい伝記」を読む

志渡岡 理恵

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

## 【授業のテーマ】

モダニズムの代表的な女性作家ヴァージニア・ウルフの『灯台へ』をとりあげます。ウルフは、この小説に両親の生を描ききったことで両親の呪縛から解き放たれた、と述べています。ウルフの言う「新しい伝記」としてのこの作品を読みながら、「意識の流れ」をはじめとする実験的手法、「伝記」と「歴史」の関係、女性の生き方、戦争などの問題について考えていきます。

## 【授業における到達目標】

①生の記録＝ライフ・ライティングについてのウルフの考え方を理解する。

②女性が「書く＝自己表現する」ことの意味と困難を理解する。

③19世紀末から20世紀前半の女性の生き方の変化を理解する。

## 【授業の内容】

第1週：イントロダクション

第2週：ウルフの生涯と作品（講義）

第3週：第1部「窓」冒頭

第4週：第1部「窓」前半

第5週：第1部「窓」中盤

第6週：第1部「窓」後半

第7週：第2部「時は過ぎる」冒頭

第8週：第2部「時は過ぎる」前半

第9週：第2部「時は過ぎる」中盤

第10週：第2部「時は過ぎる」後半

第11週：第3部「灯台」冒頭

第12週：第3部「灯台」前半

第13週：第3部「灯台」中盤

第14週：第3部「灯台」後半

第15週：総括

## 【事前・事後学修】

・事前学修

各回を読む部分を精読し、自分の意見をまとめてくること（学修時間 週2時間）

・事後学修

他の受講生と自分の意見を比較し、図書館でリサーチを行って不足していた知識を補い、考察を深めること（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

Virginia Woolf, *To the Lighthouse* (Oxford University Press, 2008) 1075円（洋書のため価格は変動）

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表30%、平常点（リアクションペーパー）30%、定期試験40%。発表へのフィードバックは授業時にその場で、リアクションペーパーへのフィードバックは次回授業で行います。

## 【参考書】

授業時に提示します。

## 【注意事項】

自分なりの問題意識を持って、授業に臨むこと。

**現代イギリス文学・文化演習 c**

クリスティの「オリエント」旅行記を読む

志渡岡 理恵

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

**【授業のテーマ】**

『オリエント急行殺人事件』で有名な世界的ミステリ作家アガサ・クリスティの『さあ、あなたの暮らしぶりを話して』をとりあげます。これは、クリスティが、考古学者である夫マックスと共に、中東の遺跡発掘現場で暮らしたときの様子を記した滞在記です。クリスティの「オリエント」旅行記を読みながら、帝国主義、オリエンタリズム、旅行文化、男女関係の諸問題について考えていきます。

**【授業における到達目標】**

- ①アガサ・クリスティの「オリエント」観の特徴を理解する。
- ②アガサ・クリスティのライフ・ライティングと小説の関係について理解する。
- ③20世紀の世界情勢を踏まえながら、個人の回想録の精読を通して、英国と中東の関係が歴史の現場ではどのようなものであったのかを理解する。

**【授業の内容】**

- 第1週：イントロダクション
- 第2週：クリスティの生涯と作品（講義）
- 第3週：シリアへ
- 第4週：予備調査の旅
- 第5週：ハーブル河とジャフジャーハ河
- 第6週：チャガール・パザールでの最初のシーズン
- 第7週：シーズンの終わり
- 第8週：旅の終わり
- 第9週：チャガール・パザールでの生活
- 第10週：チャガールとブラック
- 第11週：マックの到着
- 第12週：ラッカへの道
- 第13週：ブラックとの別れ
- 第14週：エイン・エル・アルース
- 第15週：総括

**【事前・事後学修】**

- ・事前学修  
各回に読む部分を精読し、自分の意見をまとめてくること（学修時間 週2時間）
- ・事後学修  
他の受講生と自分の意見を比較し、図書館でリサーチを行って不足していた知識を補い、考察を深めること（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

Agatha Christie, *Come, Tell Me How You Live* (HarperCollins, 2015) 1656円（洋書のため、価格は変動）

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

発表30%、平常点（リアクションペーパー）30%、定期試験40%。発表へのフィードバックは授業時にその場で、リアクションペーパーへのフィードバックは次回授業で行います。

**【参考書】**

授業時に提示します。

**【注意事項】**

自分なりの問題意識を持って、授業に臨むこと。

**現代イギリス文学・文化演習 d**

Maeve Binchyの短編集を読む

新井 紀代

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

**【授業のテーマ】**

夫の家族との集いを回避する手立てがないか思索しながら帰路につく会社員。恋人を両親に合わせることにためらいを感じつつ実家へ向かう青年。月一度の「買い物」に出かける万引き常習犯の主婦。様々な人生が交錯するロンドンの地下鉄を利用する人間たちのドラマを描き出した短編集Victoria Line, Circle Lineを精読する。

**【授業における到達目標】**

英語で書かれた作品の和訳という作業を通じて、英語の読解力の向上および作品のより深い解釈を目標とする。学生が行うべき「美の探究」のうち、感受性を深めようとする態度を身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週 作者と作品についての説明
- 第2週 Tottenham Hale pp.3-8
- 第3週 Tottenham Hale pp.9-15
- 第4週 Highbury and Islington pp.45-50
- 第5週 Highbury and Islington pp.51-56
- 第6週 King's Cross pp.57-65
- 第7週 King's Cross pp.65-72
- 第8週 King's Cross pp.73-80
- 第9週 King's Cross pp.81-88
- 第10週 Euston pp.89-94
- 第11週 Euston pp.95-100
- 第12週 Euston pp.101-106
- 第13週 Bond Street pp.346-351
- 第14週 Bond Street pp.352-358
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修  
毎週該当箇所を和訳し、小テストや発表の準備をしてくること。  
（学修時間 週2時間）

**事後学修**

小テストを復習し、物語の内容が理解できているか確認すること。  
（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

コピーを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

学期末試験50%、授業態度・課題発表・小テスト50%  
小テストは次回授業、学期末試験は授業最終回でフィードバックを実施する。

**現代イギリス文学・文化演習 e**

ミュリエル・スパークの『独身者 (The Bachelors)』を読む

西野 方子

4年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

**【授業のテーマ】**

戦後イギリスを代表する作家の一人である、ミュリエル・スパーク (Muriel Spark) の『独身者 (The Bachelors)』 (1960) を読む。この作品はロンドンを舞台とし、降霊術による詐欺事件を巡る裁判とそれに巻き込まれる人々 (独身者たち) の様子を描いたものである。この授業では、『独身者』を語り的手法に注目しながら読むことで、書かれた内容と形式の双方から作品を分析していく。

**【授業における到達目標】**

英語で書かれた文学作品を「何が書かれているか」に加えて「それがどういうふうに表示されているか」に注目しながら読むことで、読解力や分析力を高める。また、発表やディスカッションを通して、相互理解のための対話力や共同作業のための協働力を磨く。

**【授業の内容】**

各回に発表者を割り当て、該当範囲について発表をしてもらい、クラス全体でディスカッションを行う。発表者は担当する箇所について、あらかじめ注目した箇所をまとめたハンドアウトを用意し発表を行う。それ以外の受講者は、疑問点や注目した箇所を事前に準備した上でディスカッションに参加する。ディスカッション後に、自分が重要だと感じたポイントや疑問点を書いて提出する。

第1週 イギリス戦後文学とミュリエル・スパークについての概要

第2週 Chapter 1

第3週 Chapter 2

第4週 Chapter 3

第5週 Chapter 4

第6週 Chapter 5

第7週 Chapter 6

第8週 Chapter 7

第9週 Chapter 8

第10週 Chapter 9

第11週 Chapter 10 (前半)

第12週 Chapter 10 (後半)

第13週 Chapter 11

第14週 Chapter 12

第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：授業範囲となっている箇所を事前に読んでくる。発表担当者はハンドアウトを用意し、それ以外の受講生は疑問点や注目した箇所をピックアップする。(学修時間：週2時間)

事後学修：ディスカッションの内容を復習し、レポートのためのアイデアを練る。余裕があれば、同著者の短編小説を読んでいく。(短編小説については授業内で紹介する。)(学修時間：週2時間)

**【テキスト・教材】**

Muriel Spark, *The Bachelors* (H Canongate Books, 2015, 約1600円)

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

評価：平常点 (発表、ディスカッションへの参加、コメントペーパー) 50%、レポート50%

フィードバック：授業の最後に提出されたペーパーにコメントし、次の授業で返却する。

**【参考書】**

Muriel Spark, *The Complete Short Stories* (Canongate Books, 2011)

ミュリエル・スパーク『パン、パン！ はい死んだ：ミュリエル・スパーク傑作短篇集』(訳：木村 政則、河出書房新社、2013年)

大社淑子『ミュリエル・スパークを読む』(水声社、2013年)

MacKay, M., Stonebridge, L. (Eds.), *British Fiction After Modernism: The Novel at Mid-Century* (Palgrave Macmillan UK, 2007)

**現代企業論**

高橋 意智郎

2年 後期 2単位

◎：研鑽力

**【授業のテーマ】**

今日、国際化した日本企業は、国内市場だけでなく海外市場の様々な課題にも直面している。現代企業論では、将来、実業界で仕事をする皆さんが理解していた方が望ましいビジネスの基礎知識を学習する。トピックとしては、日本の国際企業の貢献、企業の戦略、株式会社の仕組みを扱う。3年生以上のビジネス系科目を学習するための基礎力を養いたい。

**【授業における到達目標】**

企業について考える基礎力が身につく。

ディプロマポリシー：学修を通して自己成長する力【研鑽力】

**【授業の内容】**

1. ガイダンス
2. マーケティング・ミックス
3. ターゲット市場の選定
4. 製品のライフサイクル
5. 市場地位別の戦略
6. グローバリゼーションと日本企業
7. 日本企業と言語
8. 日本企業の投資受入国への貢献
9. 株式会社の仕組み
10. 会社設立：講義
11. 会社設立：グループワーク：作業
12. 会社設立：グループワーク：発表
13. ビジネスゲーム
14. 現代企業のトピック：ゲストスピーカーの講演の予定
15. 総括

**【事前・事後学修】**

事前学修：配布された資料・プリントを次回の授業までに読んでおくこと。(2時間)

事後学修：授業中にとったノート、授業で使った資料・プリントを参考にして授業内容を理解しているか確認すること。(2時間)

**【テキスト・教材】**

テキスト・教材は指定しない。毎回の講義のときに資料を配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

この講義では、個人（または少人数のグループ）で特定の課題に対して報告してもらおう。成績は、期末試験（50%）、課題（30%）、平常点（授業への積極的参加）（20%）を総合して決定する。課題のフィードバックは、課題の解説を行う。

**【参考書】**

沼上幹著『わかりやすいマーケティング戦略』（有斐閣アルマ）  
吉原英樹・岡部曜子・澤木聖子著『英語で経営する時代』（有斐閣選書）

**現代教育論**

現代学校教育の「舞台裏」を考える

村上 純一

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

**【授業のテーマ】**

今日の日本に暮らす大多数の人にとって、学校に通うこと、学校で学ぶことは「ごく当たり前に経験すること」であるといえます。教育が行われる場所としてまず「学校」を思い浮かべる人も、大勢いらっしゃるでしょう。しかし、学校が身近であるが故、ほとんど誰もが学校教育を経験しているが故に、人は学校教育を語る時、無意識のうちに「自らの経験のみに即した語り」をしてしまいがちなものです。一方、それが「当たり前」であるが故に、自らの経験した学校生活の中にある「本当は特別なもの」に気付きにくいこともまた事実であるといえます。

この授業では、とりわけ「学校教育の舞台裏」に焦点を当て、自らの学校教育に関する経験を相対化して捉え、考えられるようになることを目標とします。そして、現代学校教育をみることを通じ、現代社会そのものに対する多角的な視点を養うことを目指します。

**【授業における到達目標】**

到達目標は、現代の学校教育を考えることを通じて、現代社会に対する多角的なものを見方を持てるようになること。

ディプロマ・ポリシーとの関連では、特に「多様性を受容し、多角的な視点を以て世界に望む態度」の養成と、「課題発見・解決のための主体的な行動力」の育成、そして何より「学ぶ楽しみを実感できること」を重視します。

**【授業の内容】**

- 第1回 授業のオリエンテーション
- 第2回 教育課程と今日のカリキュラム改革
- 第3回 「学力」の問題とアクティブ・ラーニング
- 第4回 「教師の仕事」と教員の養成・研修
- 第5回 教員評価・学校評価
- 第6回 スクールリーダーシップ論
- 第7回 教育行政のしくみと教育振興基本計画
- 第8回 「子どもの貧困」と現代学校教育の病理
- 第9回 道徳教育・シティズンシップ教育
- 第10回 学校と社会との接続
- 第11回 地域とともにある学校
- 第12回 学校教育と震災復興
- 第13回 小規模校と学校統廃合
- 第14回 学校教育の「裏方」
- 第15回 授業のまとめ

**【事前・事後学修】**

授業では毎回、時事問題を扱います。事前学修では日々の新聞・ニュース等を通じ、各自で週1時間程度、時事問題の収集に取り組んでください。

また、授業各回ごとにその回の内容に関連した参考文献を紹介いたします。事後学修として、そのうちの1冊以上には必ず目を通すようにしてください（週3時間程度かかると思います）。

**【テキスト・教材】**

特定のテキストは使用しません。各回、レジュメを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業各回の最後にコメントシートの記入をお願いします（コメントシートには簡単な応答コメントを付して翌週の授業で返却します）。成績評価は学期末試験50%、授業各回のコメントシート50%で行います。

**【参考書】**

授業各回のレジュメに、内容に即した文献リストを添付します。

**【注意事項】**

この授業では、安易に「唯一の解答に走る」ことは想定していません。価値観やものの見方・考え方の多様性を尊重する姿勢を大切にして、授業に臨んでいただきたいと思います。



**現代教育論**

現代学校教育の「舞台裏」を考える

村上 純一

2年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

**【授業のテーマ】**

今日の日本に暮らす大多数の人にとって、学校に通うこと、学校で学ぶことは「ごく当たり前を経験すること」であるといえます。教育が行われる場所としてまず「学校」を思い浮かべる人も、大勢いらっしゃるでしょう。しかし、学校が身近であるが故、ほとんど誰もが学校教育を経験しているが故に、人は学校教育を語るとき、無意識のうちに「自らの経験のみに即した語り」をしてしまいがちなものです。一方、それが「当たり前」であるが故に、自らの経験した学校生活の中にある「本当は特別なもの」に気づきにくいこともまた事実であるといえます。

この授業では、とりわけ「学校教育の舞台裏」に焦点を当て、自らの学校教育に関する経験を相対化して捉え、考えられるようになることを目標とします。そして、現代学校教育をみることを通じ、現代社会そのものに対する多角的な視点を養うことを目指します。

**【授業における到達目標】**

到達目標は、現代の学校教育を考えることを通じて、現代社会に対する多角的なものを見方を持つようになること。

ディプロマ・ポリシーとの関連では、特に「多様性を受容し、多角的な視点を以て世界に望む態度」の養成と、「課題発見・解決のための主体的な行動力」の育成、そして何より「学ぶ楽しみを実感できること」を重視します。

**【授業の内容】**

- 第1回 授業のオリエンテーション
- 第2回 教育課程と今日のカリキュラム改革
- 第3回 「学力」の問題とアクティブ・ラーニング
- 第4回 「教師の仕事」と教員の養成・研修
- 第5回 教員評価・学校評価
- 第6回 スクールリーダーシップ論
- 第7回 教育行政のしくみと教育振興基本計画
- 第8回 「子どもの貧困」と現代学校教育の病理
- 第9回 道徳教育・シティズンシップ教育
- 第10回 学校と社会との接続
- 第11回 地域とともにある学校
- 第12回 学校教育と震災復興
- 第13回 小規模校と学校統廃合
- 第14回 学校教育の「裏方」
- 第15回 授業のまとめ

**【事前・事後学修】**

授業では毎回、時事問題を扱います。事前学修では日々の新聞・ニュース等を通じ、各自で週1時間程度、時事問題の収集に取り組んでください。

また、授業各回ごとにその回の内容に関連した参考文献を紹介します。事後学修として、そのうちの1冊以上には必ず目を通すようにしてください（週3時間程度かかると思います）。

**【テキスト・教材】**

特定のテキストは使用しません。各回、レジュメを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業各回の最後にコメントシートの記入をお願いします（コメントシートには簡単な応答コメントを付して翌週の授業で返却します）。成績評価は学期末試験50%、授業各回のコメントシート50%で行います。

**【参考書】**

授業各回のレジュメに、内容に即した文献リストを添付します。

**【注意事項】**

この授業では、安易に「唯一の解答に走る」ことは想定していません。価値観やものの見方・考え方の多様性を尊重する姿勢を大切にして、授業に臨んでいただきたいと思います。

## 現代経営学特論

篠崎 香織

人間社会専攻 前期 2単位

院

人間社会専攻  
(修士)

### 【授業のテーマ】

経営の分野において読み継がれてきた論文を読みといていくことを通して、その中で取り上げられている経営学のキー概念および理論の学習および理解の深耕を図る。

### 【授業における到達目標】

様々な経営学の概念や理論の習得を通して、履修者が持っている問題意識と関連する方向性を明確にし、修士論文のための研究につなげていくことを目標とする。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション（授業の進め方と分担）
- 第2週 「イノベーションのジレンマ」への挑戦
- 第3週 ブルー・オーシャン戦略
- 第4週 自己探求の時代
- 第5週 マネジャーの仕事
- 第6週 バランス・スコアカード導入のインパクト
- 第7週 イノベーションの罫
- 第8週 企業変革の落とし穴
- 第9週 マーケティングの近視眼
- 第10週 戦略の本質
- 第11週 コア・コンピタンス経営
- 第12週 無形資産に関する論文
- 第13週 合併と買収に関する論文
- 第14週 社会科学における方法論に関する論文
- 第15週 総括

### 【事前・事後学修】

事前学修：授業中に指定した文献や資料を読み、その内容を理解しておくこと。また内容に対する自分の考えを用意しておくこと（A4サイズ用の紙1枚程度のメモを準備）。

発表者は、担当箇所の内容をまとめ、発表できるようにしておくこと。

事後学修：各回の参考文献を1冊以上読み概要をまとめること。

学修時間は、週4時間以上。

### 【テキスト・教材】

ハーバード・ビジネス・レビュー編集部編、DIAMONDハーバード・ビジネス・レビュー編集部訳（2014）「ハーバード・ビジネス・レビューBEST10論文」ダイヤモンド社（1800円＋税）を予定。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への貢献度（担当分の発表および発言）50%と課題50%で評価する。

フィードバックは、授業内にコメントやディスカッション等の形式で行う。授業内にできない場合は、主にメールやmanabaを介して行う。

### 【参考書】

講義の中で指示する。

### 【注意事項】

学部で経営学を履修済み、もしくは同等の知識があること。

## 現代社会を読み解く a (政治と経済)

環境を通してみる現代社会の課題

浅井 美香

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

## 【授業のテーマ】

環境学は、現実の問題と向き合い、その問題構造を解きほぐすことから始まりました。本講義では、環境問題の歴史を振り返ることにより、環境をめぐってどのような問題が生じたのか、先達は問題構造をどのように説明してきたのか、環境政策をめぐって何が論点になってきたかを学びます。

## 【授業における到達目標】

到達目標は、①自分たちの生産・消費がどのように環境とつながっているのか、②社会や経済の構造変化が環境にどのような影響を与えたのか、③政府はどのような対応をしてきたのか、等について、文章や口頭で説明し、自分の意見が述べられるようになることです。

これにより、「国際的視野」を広め、「研鑽力」、「行動力」の向上を図ります。

## 【授業の内容】

1. オリエンテーション (授業のねらい)
2. 経済成長と持続可能な発展
3. 水俣病
4. 大気汚染
5. 地域開発
6. 都市と農村
7. 自然保護とアメニティ保全
8. 小テスト及び解説/質疑応答
9. 食料・農業・農村 (1) 農業の近代化と食糧問題
10. 食料・農業・農村 (2) 先進国と発展途上国
11. 食料・農業・農村 (3) 国際貿易
12. 食料・農業・農村 (4) 統計から読み解く日本の現状
13. 森林・林業 (1) 統計から読み解く日本の現状
14. 森林・林業 (2) コモンズ
15. まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】各授業内容の準備と提示された課題をやってくることが求められます (学修時間 週2時間)。

【事後学修】①その日の授業内容を復習し、内容の整理・理解に努めること、②参考資料に目を通すことが求められます (学修時間 週2時間)。

## 【テキスト・教材】

配布資料。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末レポート50%、小テスト30%、平常点20%

平常点は、授業におけるリアクション・ペーパーが対象となります。

小テストやリアクション・ペーパー等のフィードバックは、授業の中で適宜行います。

## 【参考書】

授業の進行に応じ適宜紹介します。

## 【注意事項】

各回の講義内容は、時間の関係で若干前後する場合があります。できるだけ受講者の興味関心や世の中の動きに合わせた講義にしたいため、多少の内容の変更の可能性があります。

授業中の私語は他の受講者にとって迷惑となります。授業の妨げになると判断した場合、席替えや退席を命じます。

## 現代社会を読み解く b (生活と産業)

「仕事」を通して見る、私たちの現在と未来の暮らし

野津 喬

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

## 【授業のテーマ】

皆さんは近い将来、「仕事」について様々な関わり方をするようになります。「仕事」に就職しようとする「わたし」。就職をした後は「職場」という一つの社会で生きていく「わたし」など。この授業では、①個人としての「わたし」がどのように「仕事」に関わるか、②「仕事」がわたしたちの生活に対してどのような影響を与えるかという2つの視点から、生活と産業の関係について学ぶことを目的とします。

## 【授業における到達目標】

- ①自分の将来の「仕事」を考える上で必要となる基本的な知識と判断基準を身につける
  - ②「仕事」がわたしたちの生活 (個人の暮らし、地域、国、地球環境) に及ぼす影響を理解できるようになる
- これにより、学生が習得すべき「研鑽力」のうち広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とします。

## 【授業の内容】

次の各テーマについて、15回の授業を行う予定です。

1. はじめに (講義の進め方及び目標、イントロダクション)
2. わたしと「仕事」① (産業構造の変化、雇用形態の多様化)
3. わたしと「仕事」② (仕事をする組織)
4. わたしと「仕事」③ (会社は誰のものか)
5. グループワーク (将来の仕事について考える)
6. わたしと「仕事」④ (雇用と新規採用)
7. わたしと「仕事」⑤ (仕事の転機 (転職、失業、退職))
8. 「仕事」と社会① (男女共同参画、ワークライフバランス)
9. グループワーク (仕事と家庭について考える)
10. 「仕事」と社会② (企業の倫理と社会的責任)
11. 「仕事」と社会③ (多国籍企業、巨大企業)
12. 「仕事」と社会④ (企業と地域・地球環境)
13. グループワーク (地域社会について考える)
14. まとめ (これまでの授業の総括)
15. 授業の理解度確認

## 【事前・事後学修】

【事前学修】次の授業の参考資料に事前に目を通しておいてください。(学修時間 週2時間)

【事後学修】毎回の講義終了時に実施する小テスト等を復習すること。(学修時間 週2時間)

## 【テキスト・教材】

manabaに講義で使用するプリント等を掲載しますので、各自で事前にプリントアウトして忘れずに授業に持参してください。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験 (50%)、グループワーク (10%)、各回の講義の定着度を確認する小テスト (40%) により評価を行います。フィードバックは、関連する範囲の講義資料を全てmanabaに掲示することにより行います。

## 【参考書】

上林千恵子 (編著) 『よくわかる産業社会学』 (ミネルヴァ書房 2012) 2,808円、梅澤正 (著) 『企業と社会—社会学からのアプローチ—』 (ミネルヴァ書房 2000) 3,780円、三戸浩・池内秀己・勝部伸夫 (著) 『企業論 (第三版)』 (有斐閣 2011) 2,160円 (※参考書の購入の可否については、初回の講義でお伝えします。)

## 【注意事項】

他の受講者の迷惑となる行為 (私語など) を禁止します。講義の妨げになると判断した場合は、成績評価に反映 (減点) し、注意しても改善されない場合は講義からの退室を求める場合があります。講義開始後10分以上経過した後の入室は遅刻、30分以上経過した後の入室は欠席扱いとします。その他の注意事項等の説明は初回の講義で行います。

## 現代社会を読み解く c (文化と市場)

須賀 由紀子

1年 後期 2単位

©: 研鑽力

## 【授業のテーマ】

この授業では、ライフスタイルそのものを文化と捉えていきます。目に見える衣・食・住・遊・学的生活シーンを創りだすのは、人々のニーズや規範意識や価値観ですから、文化を考えると、目に見えるものや現象を通して、目に見えない価値を捉えていくことです。そして、市場（マーケット）は、単に便利なものやサービスを提供するのではなく、それらを通して、人々の暮らしの価値創造に関わる役割を果たしているのです。

では成熟社会と言われる現代は、どのような生活価値が求められている時代なのでしょう。時代によって変わる価値、変わらない価値があるのでしょうか。そのことをスポーツとライフスタイルを事例に捉え、現代のライフスタイルと市場の関わりを考えていきたいと思います。

スポーツは、健康や社会的な楽しみ、また自己実現のためなど、どんな人にとっても身近なものであり、現代はいろいろなレベルで「豊かな生涯スポーツ」が目指されている時代です。スポーツを取り巻く現代の様々な現象を読み解き、社会を見る目を培います。全体を通じて、文化を捉える視点、文化と市場の関わりについての基礎的理解をはかることを授業のねらいとします。

## 【授業における到達目標】

身近なライフスタイルに目を向けて、さまざまなモノやサービスの背後にある意味をとらえる力をつけます。学生が修得すべき「研鑽力」のうち広い視野と洞察力を身につけ、本質を見抜く力を修得します。

## 【授業の内容】

1. オリエンテーション（授業のねらい）
2. スポーツを通してみる人間と文化
3. 民間フィットネスクラブのサービス比較
4. 現代のライフスタイルニーズのとらえ方
5. 子育て支援ビジネスの新潮流
6. 現代の産業構造の捉え方
7. 市民マラソン・ブーム
8. 市民マラソンの経済・社会的効果
9. スポーツとファッション
10. 企業のブランド戦略
11. スポーツとメディア
12. スポーツと地域活性化
13. オリンピック・レガシーの課題
14. 市場とライフスタイル創造
15. まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】提示された課題を行います（学修時間2時間）

【事後学修】学んだことを復習し、内容の整理・理解に努めます（学修時間2時間）

## 【テキスト・教材】

適宜、プリントを配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末レポート50%、平常点（授業におけるアクティビティや小レポート）50%。課題に対するフィードバックは、授業の中で適宜行います。

## 現代社会を読み解く d (科学技術と社会)

既存のエネルギーと再生可能エネルギーの特徴

菅野 元行

1年 後期 2単位

©: 研鑽力 ○: 国際的視野、行動力

## 【授業のテーマ】

現代の科学技術と社会に影響力が高いことの一つにエネルギー問題があります。先進国では豊かな経済発展とともに、多量の温室効果ガスと放射性廃棄物を排出してきました。特に我が国ではエネルギー資源の95%を輸入に依存しているため、国費の流出とともに、大手企業によるエネルギー供給の歴史が長くなりました。地域活性化と再生可能エネルギーは密接に関係し、各種メディアは電気なしには稼働しません。本講義では既存のエネルギーと再生可能エネルギーの特徴について詳しく学習します。

## 【授業における到達目標】

- ①既存のエネルギーと再生可能エネルギーの特徴を理解する。
- ②社会や生活に不可欠である電気、熱、燃料の発生方法や用途を理解する。以上により学生が習得すべき「研鑽力」「行動力」を身につけることを目的とする。

## 【授業の内容】

1. オリエンテーション
  2. エネルギー利用方法の変遷
  3. 国内外のエネルギー需要
  4. エネルギー資源の確認可採埋蔵量、可採年数
  5. 国内外の電力需要
  6. 地球温暖化と温室効果ガス排出量
  7. 太陽光以外の発電の仕組み、各種水力発電
  8. 再生可能エネルギー1: 中小発電、風力発電
  9. 再生可能エネルギー2: 地熱発電、地中熱利用
  10. エネルギー資源1: 石油製品の種類、各種火力発電の技術
  11. エネルギー資源2: 製鉄とエネルギー、天然ガス資源
  12. 再生可能エネルギー3: バイオマスの種類とエネルギー利用
  13. エネルギーに関わる企業の講演聴講
  14. 再生可能エネルギー4: バイオ燃料
  15. 再生可能エネルギー5: 太陽光利用
- ※エネルギー・環境領域に関心があることが必要です。2・3年次「地域エネルギー論」の履修を意図する場合は、この科目の修得が必要です。

## 【事前・事後学修】

【事前学修】授業や課題で分からない言葉は事前に調べる。（学修時間 週2時間）

【事後学修】課題A（各授業日の内容を文章にする）を通して復習する。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回の授業時のポイントの記載で2割、課題A（上記参照）で8割が基本。さらに履修生の希望に応じて、課題B（環境・エネルギーに関する新聞記事調査）、課題C（環境・エネルギーに関する展示の感想文）を提出することも可能。詳細はオリエンテーションで説明。課題Aは毎週、課題B・Cは随時、フィードバックを行う。

## 【参考書】

細川博昭『知っておきたい自然エネルギーの基礎知識』（ソフトバンククリエイティブ 2012年）952円＋税  
一般社団法人Think the Earth『グリーンパワーブッカー再生可能エネルギー入門』（ダイヤモンド社 2013年）1,000円＋税  
『新・有機資源化学 エネルギー・環境問題に対処する』三共出版（すべて指定図書にしておりますので図書館で閲覧可能です。）

## 【注意事項】

※「環境科学概論」と同様に、毎回の授業時に、授業のポイントの記載とともに、質問や意見を記載するコメントペーパーを毎回配布しますので、質問の記入などに役立ててください。

※私語、写真撮影など他の受講者の迷惑となる行為を禁止します。授業の妨げになると判断した場合は、教室からの退席を求めることがあります。

※事前に断りの無い途中退室や、授業開始後30分以上経過した後の入室を禁止します。その他の注意事項等の説明は初回の講義で行います。

## 現代生活学

文化研究の視点と社会・産業の課題

須賀 由紀子

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

### 【授業のテーマ】

人間の生活を支えている自然環境と産業社会の現状を捉え、これからの社会のありようをどのように考え、どのように行動していけばよいのかを考えること、それが現代生活学のテーマです。

授業では、現代の暮らしと社会の全体像を捉える視点を身につけていきます。そのためには、「人の営み」が作り出す「文化」という対象・領域を研究するための基本的な概念や方法について理解することが必要です。文化は多様で、個別の領域ごとに、異なる見方、異なる方法があり、それぞれに対応して、個別の学問（科目）が生まれてきました。しかし今日、文化（人間の活動）を、総体として把握することが必要となっています。

本講では、比較文化学の考え方や理論的方法の基礎を紹介しながら、新たな現代生活学を切り開いてゆくことに取り組みます。自立可能な社会を築くために、環境、メディアの視点を活かして総合的に学ぶ現代生活学。その学び方を知ることによって、自分自身のものの見方の変化をつかみ取ってもらいたいと思います。

### 【授業における到達目標】

自然科学の知見、社会を構造的にとらえる思考、経営の技術、価値・文化の理解、それらを総合する視点を身につけます。「研鑽力」として、広い視野と深い洞察力に基づき本質を見抜く力を育成します。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 文明と人間、環境と社会
- 第3週 文化というとらえ方
- 第4週 文化研究の方法：「昔話」の研究
- 第5週 古代の自然観と科学
- 第6週 基本モデル：コスモスと理性
- 第7週 科学モデル：天体観測と世界観
- 第8週 文化研究の方法
- 第9週 近代的社会モデル：工業化社会
- 第10週 現代への転換：2つの科学革命
- 第11週 今日的認識：科学革命の所産
- 第12週 文化研究の方法
- 第13週 科学・技術・経済と人間・社会
- 第14週 現代生活学の方法
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】提示された課題を行います（学修時間 週2時間）

【事後学修】学んだことを復習し、内容の整理・理解に努めます（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

適宜プリントを配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末レポート50%、平常点（授業におけるアクティビティや小レポート）50%、課題に対するフィードバックは、授業の中で適宜行います。

**現代日本経済論**

角本 伸晃

2年 後期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

現代日本経済について、国・地方政府の仕組み、GDPの大きさと景気変動、日本銀行と金融制度、地価や不動産の現状、日本人の過去から将来、などの題材を通して理解する。最新データを用いて解説するが、その所在も提示する。どこにどのようなデータが存在するかを知っておくことは情報社会において社会人になってから力強いスキルとなるだろう。また、外部講師の方に来ていただいて、日本の税金について講義をしてもらう予定である。

**【授業における到達目標】**

現代日本経済について様々な側面を理解し、このことを通して現状を正しく把握し、課題を発見できる能力を修得することを目標とする。

**【授業の内容】**

1. ガイダンス（講義の概要と進め方）
2. 中央政府の組織と役割
3. 日本の税金（外部講師招聘の予定）
4. 地方の行政と財政
5. 地方公共団体と平成の大合併
6. 国民所得と景気変動
7. 物価水準の測り方
8. 通貨需要と通貨供給
9. 日本銀行と金融政策
10. 現代日本の金融リテラシー
11. 日本の地価
12. 日本の不動産制度
13. 現代日本の都市問題
14. 日本の人口（少子高齢化の進展）
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回の授業範囲を予習し、webサイトを自分で閲覧して最新のデータについて調べておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 授業で紹介されたwebサイトや経済データ以外にも調べて理解を深めること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

テキストは指定せず、配布プリントを用いる。下記の参考書は授業の理解を深めるために活用してほしい。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

成績は、期末試験（80%）、レポート課題（20%）によって総合的に評価する。レポート課題については次回授業で、期末試験については最終回授業で解説と講評を行ってフィードバックする。

**【参考書】**

伊藤元重『ゼミナール現代日本経済入門』（日本経済新聞出版社 2011年）3,456円

**【注意事項】**

配布プリントには経済データがたくさん並んでいるので、難しい印象を持つかもしれないが、日本経済の状況を理解することがこの授業の目的である。数学の授業ではないので、安心してほしい。

**現代日本経済論**

角本 伸晃

2年～ 後期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

現代日本経済について、国・地方政府の仕組み、GDPの大きさと景気変動、日本銀行と金融制度、地価や不動産の現状、日本人の過去から将来、などの題材を通して理解する。最新データを用いて解説するが、その所在も提示する。どこにどのようなデータが存在するかを知っておくことは情報社会において社会人になってから力強いスキルとなるだろう。また、外部講師の方に来ていただいて、日本の税金について講義をしてもらう予定である。

**【授業における到達目標】**

現代日本経済について様々な側面を理解し、このことを通して現状を正しく把握し、課題を発見できる能力を修得することを目標とする。

**【授業の内容】**

1. ガイダンス（講義の概要と進め方）
2. 中央政府の組織と役割
3. 日本の税金（外部講師招聘の予定）
4. 地方の行政と財政
5. 地方公共団体と平成の大合併
6. 国民所得と景気変動
7. 物価水準の測り方
8. 通貨需要と通貨供給
9. 日本銀行と金融政策
10. 現代日本の金融リテラシー
11. 日本の地価
12. 日本の不動産制度
13. 現代日本の都市問題
14. 日本の人口（少子高齢化の進展）
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回の授業範囲を予習し、webサイトを自分で閲覧して最新のデータについて調べておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 授業で紹介されたwebサイトや経済データ以外にも調べて理解を深めること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

テキストは指定せず、配布プリントを用いる。下記の参考書は授業の理解を深めるために活用してほしい。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

成績は、期末試験（80%）、レポート課題（20%）によって総合的に評価する。レポート課題については次回授業で、期末試験については最終回授業で解説と講評を行ってフィードバックする。

**【参考書】**

伊藤元重『ゼミナール現代日本経済入門』（日本経済新聞出版社 2011年）3,456円

**【注意事項】**

配布プリントには経済データがたくさん並んでいるので、難しい印象を持つかもしれないが、日本経済の状況を理解することがこの授業の目的である。数学の授業ではないので、安心してほしい。

**現代美術論**

現代美術を理解するために

**前山 裕司**

2年～ 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

1960年頃から21世紀初めまでに起こった現代美術の動向について、ヨーロッパ・アメリカに加えて日本の状況にも触れながら、概観する。単なる歴史的理解でなく、当時の芸術家が何を考え、このような芸術表現に至ったかを考察する。

**【授業における到達目標】**

現代美術の展覧会の鑑賞に際して戸惑わない歴史的な見取り図を身につける。

【この授業を履修して身に付く態度・能力】◎:美の探究○:国際的視野

**【授業の内容】**

- 第1週 授業の概要と現代美術の前史
- 第2週 プリティッシュ・ポップとヌーヴォー・レアリズム
- 第3週 ポップ・アートとカリフォルニア・ポップ
- 第4週 ミニマル・アート
- 第5週 光と動き
- 第6週 コンセプチュアル・アート
- 第7週 身体による表現
- 第8週 アルテ・ポーヴェラ、アンチ・フォーム
- 第9週 日本の70年代
- 第10週 ネオ・エクスプレッショニズム
- 第11週 80年代の動向
- 第12週 ソ連体制下の芸術とその後
- 第13週 90年代の動向
- 第14週 現代美術を見る
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】レポートなどの課題に取り組むこと。関連する展示を授業中に指示するので、見学してレポートを提出すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】配布したプリントなどを復習すること。授業で触れた作品や作家について、図書館やインターネットなどで調べておくこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

授業時にプリントや資料を配布。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末レポート50%、その他レポート30%、平常点（授業への積極参加）20% レポートは次回授業で、期末レポートは授業最終回でフィードバックを行う。

**【参考書】**

『西洋美術館』（小学館）

**【注意事項】**

展覧会見学を実施する予定。その場合、見学に要する交通費、観覧料等は自費となる。



**現代美術論**

現代美術を理解するために

**前山 裕司**

2年～ 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

1960年頃から21世紀初めまでに起こった現代美術の動向について、ヨーロッパ・アメリカに加えて日本の状況にも触れながら、概観する。単なる歴史的理解でなく、当時の芸術家が何を考え、このような芸術表現に至ったかを考察する。

**【授業における到達目標】**

現代美術の展覧会の鑑賞に際して戸惑わない歴史的な見取り図を身につける。

【この授業を履修して身に付く態度・能力】◎:美の探究○:国際的視野

**【授業の内容】**

- 第1週 授業の概要と現代美術の前史
- 第2週 プリティッシュ・ポップとヌーヴォー・レアリズム
- 第3週 ポップ・アートとカリフォルニア・ポップ
- 第4週 ミニマル・アート
- 第5週 光と動き
- 第6週 コンセプチュアル・アート
- 第7週 身体による表現
- 第8週 アルテ・ポーヴェラ、アンチ・フォーム
- 第9週 日本の70年代
- 第10週 ネオ・エクスプレッショニズム
- 第11週 80年代の動向
- 第12週 ソ連体制下の芸術とその後
- 第13週 90年代の動向
- 第14週 現代美術を見る
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】レポートなどの課題に取り組むこと。関連する展示を授業中に指示するので、見学してレポートを提出すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】配布したプリントなどを復習すること。授業で触れた作品や作家について、図書館やインターネットなどで調べておくこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

授業時にプリントや資料を配布。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末レポート50%、その他レポート30%、平常点（授業への積極参加）20% レポートは次回授業で、期末レポートは授業最終回でフィードバックを行う。

**【参考書】**

『西洋美術館』（小学館）

**【注意事項】**

展覧会見学を実施する予定。その場合、見学に要する交通費、観覧料等は自費となる。

## 現代倫理学 a

安中 隆徳

1年～ 前期 2単位

◎：美の探求 ○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

西欧思想史では、ギリシャ以来の主知主義が、（奴隷ではなく）主人として振る舞うことを目標にしている。これは、現代の民主主義でも基本にもなっているので、まず主知主義を中心に紹介する。

### 【授業における到達目標】

主知主義の意義や位置づけを理解できる。  
 並んで以前のいろいろの倫理を、比較のために紹介する。たとえばイスラム世界や東アジアには、部族（一族、宗族など）の伝統が残っていることを知ることで、国際的な視野で、人々の行動をとらえる態度と能力を身につける。

### 【授業の内容】

1. 倫理とは倫（仲間）をつくる道理という意味である。だが西欧語のethicsは「故郷・習慣」を語源にしている。
2. ギリシャの主義主義の倫理は、現代の民主主義の基本にもなっている。
3. ギリシャの主知主義は、「知って行う主人の自由」である。
4. 主知主義は、現代の民主主義にとっても、国民が知って行う意味で重要であり、ジャーナリズムの問題でもある。
5. 医療現場の告知の主知主義の問題の一つである。告知した方が、医師と患者の信頼が生まれやすいという報告や、治療成績が良いという報告もある。
6. 嘘と主知主義の問題。アンネフランクを嘘で助けるのは善か？
7. 情報の扱い方。嘘と忠告。
8. 古くから現在まで生きていく倫理伝統の例が多くある。
9. 例1. プロテスタントの（法律・律法を超える）エリート倫理。武士道に似ているという。
10. 例2. インドのカースト制。競争を避け、うまく食料や職業を分配していた面もあった。
11. 例3. 日本のチーム（共同体）倫理。
12. 例4. 部族（血縁の一族）による内紛が起きやすい中東世界。
13. 例5. 部族（一族）を超えて、他人がチームを作った西欧や日本との比較。梅竿忠夫「文明の生態史観」の紹介。
14. 資本主義社会の倫理であるイギリスの功利主義の（の予習）。
15. まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修。前の授業のプリントの重要なところを読み直して、内容を確めておこう（週2時間）。

事後学修。当日のうちに、新しい用語や人名を（インターネット上などの）百科事典で調べ、授業の内容を確かめる（週2時間）。

### 【テキスト・教材】

資料・プリントを配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験、80%。平常点（授業態度、課題提出）、20%。  
 教科書・ノート・プリントなどの資料の持ち込みを許可して、理解の記述を行う。  
 テーマは、3、4週間前に、あらかじめ予告しておく。

小テストは次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行い、さらに先への解説を行う。

### 【参考書】

教室で紹介する。

## 現代倫理学 b

安中 隆徳

1年～ 後期 2単位

◎：美の探求 ○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

イギリス系のベンサム功利主義の考え方が、感情や利益の分配に注目していることを紹介して、現代の新自由主義やグローバリズムにつながる流れを紹介する。

### 【授業における到達目標】

一国主義（国民国家）と、（工場や移民や税さえ国境を越えやすい）グローバリズムへの移り行きを理解して、さまざまな現状を、国際的な視野から歴史的にとらえる態度と能力を身につける。

### 【授業の内容】

1. 前期の復習。ベンサムの功利主義の考え方。中産階層を増やす税法（相続税、資産税など）。（産業界に就職する）中産階層を増やすための、安価で良質な公教育。
2. 規範倫理（～するべきだという倫理が無いと、しばしば批判される功利主義の性格、位置づけ）。
3. 西欧の規範倫理の伝統は、聖書（の神）との関連にある。
4. ヘブライ語聖書（旧約聖書）における法律（law、「律法」）の発生。現代の聖書学からの説明。
5. （ヘブライ語聖書の）経典のない時代における、法律や倫理の発生。その聖書の状況が、近代の自然思想（自然神学・自然宗教）における法律や倫理の発生に、やや似ていることについて。
6. 清教徒革命の中で、ホブズは、宗派の違いを超えて、人の本性（nature、生まれつき、自然）に注目して、宗教の違いを越える現世の自然ルールを提案した。
7. ルソーの「森の自然人」。ルソーの伝記と自然宗教。
8. 一種の規範倫理としてのルソーの人権思想。
9. 無神論者（心に神がなかった）らしい（18世紀イギリスの）ヒュームは、倫理の感情面、利益分配の面に注目した。
10. 同時代人として交流があったヒュームとルソー。
11. （ヒュームと親しかった）アダムスミスの道徳感情論。
12. ヒュームの現代性（ハイエクの新自由主義との関連）。
13. 人間（の自由）に戻して、新たに（規範的な）ルールを考える場を作っているカントの倫理学。
13. 日本の規範倫理。（和辻哲郎などの）共同体倫理。
14. （現代の規範倫理の代表）ロールズの正義論。
15. まとめ。

### 【事前・事後学修】

事前学修。先週の配布プリントを、読み返し内容を確認する（週2時間）。

事後学修。当日のうちに、新しい用語や人名を（インターネット上などの）百科事典で調べて、授業内容を確かめる（週2時間）。

### 【テキスト・教材】

資料・プリントを配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験、80%。平常点（授業態度、課題提出）、20%。  
 教科書・ノート・プリントなどの資料の持ち込みを許可して、理解内容の記述を行う。  
 テーマは、3、4週間前に、あらかじめ予告する。

小テストは次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行い、理解の不十分な箇所を補充して、さらに先へ解説する。

### 【参考書】

教室で紹介する。

## 言語コミュニケーション教育論

高木 裕子

2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究、行動力

## 【注意事項】

新しい分野だけに、授業で学んだことを、ご自身で再構成、まとめる必要があります。また、目を海外の教育現場やフィールドに向けて、将来、この分野で何ができるか、ここで学んだことをどう活かせるのかということを考えておくことは重要です。

## 【授業のテーマ】

人間の心のあり方や社会の仕組み、また、教育現場やグローバル社会の動向にも注視しながら、単なる言語教授法や指導法ではない、言語を核としたコミュニケーションのあり方や方法を、これに関連する諸理論や周辺にある学術的な専門的知識と共に、「言語教育・学習支援法」として学んでいきます。また、今日ある、言語に係わる職業（例えば、日本語教師等）や言語を通じた仕事（例えば、ヒューマン・サービス業等）について、それらに携わっていくには、どのような問題や課題があるのか、また、そこで求められる資質や必要な能力とは何かを、「教育言語学」（言語と教育の関係について考える）や「社会言語学」（言語と社会の係わりを考える）からも検討していきたいと思えます。その上で、実際に「言語教育・学習支援」ができるようになるための技術や方法、そのために必要な実践能力を身に付けていきます。本授業から新たな仕事の可能性や自分なりの方法論を見出して行ってください。

## 【授業における到達目標】

言語を通じた新たな仕事の可能性を求め、授業ではまず「言語教育支援」ができようになるための技術や実践能力を身に付けさせます。ここでは、実現、行えるようになるための諸知識の基礎はもとより、心という人の「ウチ」にあるもの、また、「ソト」にある世界へのまなざしといった認識論へも目を向けさせながら、そこで必要な態度、資質・能力等を有させるところを目標とします。

## 【授業の内容】

1. 人間の心と社会の仕組みからみる言葉とは何か
2. 人間関係とコミュニケーション
3. 今、なぜ言語教育支援が必要なのか
4. 言語教育とは一体何だったのか、言語教育支援とは何か
5. 言語教育の現場と実際
6. 言語教育支援の現場と実際
7. 職業として教えるということ、人を支援ということ
8. 社会貢献と社会支援、そして、ソーシャルワーク
9. 社会的活動と動機づけ理論
10. 社会や社会問題・社会現象を、どう認識するのか  
(現象学・解釈学の必要性)
11. 何について、教えるのか、何を支援するのか
12. 何を、どう教えるのか  
(言語教育法・言語指導法・アプローチ)
13. 実践と実際（言語を教える、言語でつながるなど）
14. 実践と実際（青年海外協力隊やソーシャルワークなど）
15. さあ、教えてみよう！

## 【事前・事後学修】

【事前学修】授業では発表したり、ディスカッションしたりすることを基本としますので、その（課題）内容については各自、事前に調べ、理解を深めてください。また、この分野やフィールドで活躍等されている方々を招いた場合は、その分野・領域は広く調べ、授業中に必ず質問できるようにしてください（週2時間）。

【事後学修】毎回授業を踏まえ、問題や課題点、及び、何ができるのかについての小レポートを提出。最後に、模擬実践を課すことがあります。（週2時間）

## 【テキスト・教材】

ハインドアウトはじめ、関係資料や教材はこちらで準備します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

複数課題レポート50%、期末試験30%、模擬実践20%。フィードバックは毎回、授業内で行います。また、各課題等の後には全体に向けて総評も含め、ポイント・留意点等をフィードバックします。

## 【参考書】

授業中に適宜紹介します。

## 言語コミュニケーション教育論

高木 裕子

2年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究、行動力

新しい分野だけに、授業で学んだことを、ご自身で再構成、まとめる必要があります。また、目を海外の教育現場やフィールドに向けて、将来、この分野で何ができるか、ここで学んだことをどう活かせるのかということを考えておくことは重要です。

## 【授業のテーマ】

人間の心のあり方や社会の仕組み、また、教育現場やグローバル社会の動向にも注視しながら、単なる言語教授法や指導法ではない、言語を核としたコミュニケーションのあり方や方法を、これに関連する諸理論や周辺にある学術的な専門的知識と共に、「言語教育・学習支援法」として学んでいきます。また、今日ある、言語に係わる職業（例えば、日本語教師等）や言語を通じた仕事（例えば、ヒューマン・サービス業等）について、それらに携わっていくには、どのような問題や課題があるのか、また、そこで求められる資質や必要な能力とは何かを、「教育言語学」（言語と教育の関係について考える）や「社会言語学」（言語と社会の係わりを考える）からも検討していきたいと思えます。その上で、実際に「言語教育・学習支援」ができるようになるための技術や方法、そのために必要な実践能力を身に付けていきます。本授業から新たな仕事の可能性や自分なりの方法論を見出して行ってください。

## 【授業における到達目標】

言語を通じた新たな仕事の可能性を求め、授業ではまず「言語教育支援」ができようになるための技術や実践能力を身に付けさせます。ここでは、実現、行えるようになるための諸知識の基礎はもとより、心という人の「ウチ」にあるもの、また、「ソト」にある世界へのまなざしといった認識論へも目を向けさせながら、そこで必要な態度、資質・能力等を有させざることを目標とします。

## 【授業の内容】

1. 人間の心と社会の仕組みからみる言葉とは何か
2. 人間関係とコミュニケーション
3. 今、なぜ言語教育支援が必要なのか
4. 言語教育とは一体何だったのか、言語教育支援とは何か
5. 言語教育の現場と実際
6. 言語教育支援の現場と実際
7. 職業として教えるということ、人を支援ということ
8. 社会貢献と社会支援、そして、ソーシャルワーク
9. 社会的活動と動機づけ理論
10. 社会や社会問題・社会現象を、どう認識するのか  
(現象学・解釈学の必要性)
11. 何について、教えるのか、何を支援するのか
12. 何を、どう教えるのか  
(言語教育法・言語指導法・アプローチ)
13. 実践と実際（言語を教える、言語でつながるなど）
14. 実践と実際（青年海外協力隊やソーシャルワークなど）
15. さあ、教えてみよう！

## 【事前・事後学修】

【事前学修】授業では発表したり、ディスカッションしたりすることを基本としますので、その（課題）内容については各自、事前に調べ、理解を深めてください。また、この分野やフィールドで活躍等されている方々を招いた場合は、その分野・領域は広く調べ、授業中に必ず質問できるようにしてください（週2時間）。

【事後学修】毎回授業を踏まえ、問題や課題点、及び、何ができるのかについての小レポートを提出。最後に、模擬実践を課すことがあります。（週2時間）

## 【テキスト・教材】

ハインドアウトはじめ、関係資料や教材はこちらで準備します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

複数課題レポート50%、期末試験30%、模擬実践20%。フィードバックは毎回、授業内で行います。また、各課題等の後には全体に向けて総評も含め、ポイント・留意点等をフィードバックします。

## 【参考書】

授業中に適宜紹介します。

## 【注意事項】

**言語心理学**

ことばの不思議

長崎 勤

3年 後期 2単位

◎：行動力 ○：美の探究、協働力

**【授業のテーマ】**

私たちは、ことばという不思議な手段をもちいてコミュニケーションをしている。ことばは豊かな人間関係や社会を創る一方、ディス・コミュニケーションを生じさせたり、人を傷つけたりもする。こういった、ことばの不思議を、赤ちゃんのことばの誕生のメカニズムを通して見てゆくことで、「ことばの設計図」に迫りたい。そして、ことばの習得に困難を示す子どもや人々が、どのような点でつまづいているのか、またその支援について考え、その実践事例を学びます。

「ことばとは?」という問題意識を持った人の参加を望みます。

**【授業における到達目標】**

- ・意味論、統語論、音韻論、語用論の言語の諸側面を理解することができる。
- ・ことばの発達メカニズムを理解し、説明することができる。
- ・ことばの発達支援の基本を理解することができる。
- ・学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を把握し、課題を発見できる力を修得する。

**【授業の内容】**

1. オリエンテーション
2. ことばの発達1 前言語的コミュニケーションからことばへ
3. ことばの発達2 ことばの獲得における養育者の役割
4. ことばの発達3 生活の知識の獲得とことば
5. 語の意味の獲得 ー意味論ー
6. 文法の発達 ー統語論ー
7. 会話・ナラティブの発達 ー語用論ー
8. 声で伝える・声を聴く ー音韻論ー
8. ことばの獲得と社会、文化
9. ことばの生物学的基盤
10. 第2言語習得と教育
  11. 言語障害のアセスメントと支援
  12. 言語障害の支援の実際1 知的障害
  13. 言語障害の支援の実際2 自閉症
  14. 言語障害の支援の実際3 構音障害
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】小テスト・レポート・発表等の課題に取り組むこと。  
(学修時間 週2時間)

【事後学修】発表・小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

その都度、提示。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験40%、平常点(授業への取り組み、授業内提出物、発表)40%、  
レポート20%

レポートについてのコメントを個別にまた授業において全体にフィードバックする。

**【参考書】**

坂野 登・天野 清2006言語心理学 新読書社

**【注意事項】**

**古典文学を読む**

『小倉百人一首』

佐藤 辰雄

1・2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

**【授業のテーマ】**

競技や遊戯の一として広く知られ、最近では『ちはやふる』でいっそう愛好者を得た「百人一首」を取り上げます。

この授業では『小倉百人一首』の撰者や成立に関わる謎解きを導入として、和歌との対話を深めます。その為にも、和歌の探求や作者の人となりと生涯の探索が柱となりますが、受講生も主体的に取り組まなければなりません。能動的な姿勢を通して本当の対話が適えられるでしょう。具体的な方法は次の通りです。

## ①研究発表（グループ、必須）

- i 和歌篇（詞章の異同・詠作動機など）
- ii 歴史篇（家柄や経歴・業績など）
- iii 伝承篇（人柄・エピソードなど）

## ②愛唱歌鑑賞（個人、必須）

自分が好きな和歌を一首取り上げて、作者・歌の心・技法や特徴などについて語ります。

\*尚、随時かるた大会を行います。

**【授業における到達目標】**

「百人一首」の学修を通して和歌世界の一斑を知り、日本の伝統美のありようや感受性を学びます（美の探究）。また日本人の美意識や文化を理解することで、世界に発信する能力と態度を修得することができます（国際的視野）。能動的に受講し発表することによって、学ぶ楽しさと意欲を身に付けることができます（研鑽力）。

**【授業の内容】**

1. 授業の概要・進め方
2. 『小倉百人一首』の撰者と作者の違い
3. 『小倉百人一首』の成立の謎
4. 『小倉百人一首』発表の為の資料作成の仕方
5. かるた大会（入門篇）
6. 研究発表①－2グループ
7. 研究発表②－2グループ
8. 研究発表③－2グループ
9. 研究発表④－2グループ
10. 『小倉百人一首』の研究史・鑑賞
11. 愛唱歌鑑賞①－10人程度
12. 愛唱歌鑑賞②－10人程度
13. 愛唱歌鑑賞③－10人程度
14. 愛唱歌鑑賞④－10人程度
15. かるた大会（習熟篇）・まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 当日取り上げる範囲の和歌について、配布資料や参考図書を十分読み込んでみます。（週2時間）

【事後学修】 当日学んだ和歌について復習し、発表の為の資料作成に役立てられるよう準備します。（週2時間）

**【テキスト・教材】**

適宜資料を配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

研究発表と愛唱歌鑑賞が60%。提出物評価が40%。研究発表と愛唱歌鑑賞についてはその時間帯にフィードバックし、提出物に関しては次の授業でフィードバックします。

**【参考書】**

- 『解説百人一首』 橋本武 ちくま学芸文庫
- 『百人一首一夕話』 上下 尾崎雅嘉著 古川久校訂 岩波文庫
- 『百人一首一夕話』 上下 尾崎雅嘉著（影印本）臨川書店

**【注意事項】**

「百人一首」をよく知る人も知らない人も、興味があればどうぞ。それを行動で示してもらいます。きついですよ。

## 古典文学基礎講読 a

—efクラス くずし字を読む

林 悠子

1年 前期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

古典文学研究は、自分以外の研究者の手によって読みやすく整えられた活字テキストが間違っている可能性を疑うところから、もしくは、まだ活字になっていないテキストを読み解くところから始まります。そのため「くずし字」の読解能力は古典文学研究に必須の技術と言えます。

授業では毎回、「くずし字」で書かれた作品を解説します。

### 【授業における到達目標】

この授業では、「くずし字」のうち、特にひらがなを読解する力の修得を目標とします。また、「くずし字」の読解練習で、和歌・物語・随筆・日記など様々なジャンルのテキストに触れることを通じ、古典文学の基礎的な事柄を学びます。古典文学研究の基礎的な方法を修得することで、全学DP〔鑽学力〕のうち、生涯学習を続ける力を養うことを目標とします。

### 【授業の内容】

- 1 ガイダンス—なぜ「くずし字」を習得する必要があるのか  
／「字母」とは何か
- 2 「くずし字」入門①—読める字から読んでみよう！
- 3 「くずし字」入門②—『字典かな』を活用しよう！
- 4 和歌を読む①—短い詞書に挑戦！
- 5 和歌を読む②—長い詞書にも挑戦！
- 6 和歌を読む③—さらに長い詞書
- 7 物語を読む①
- 8 物語を読む②
- 9 物語を読む③
- 10 物語を読む④
- 11 随筆を読む
- 12 日記を読む
- 13 読みやすい「テキスト」を作る（解説）
- 14 読みやすい「テキスト」を作る（実践）
- 15 まとめ

### 【事前・事後学修】

「くずし字」をマスターする方法はただ一つ、「たくさん読む」しかありません。

今回の授業までの課題を出しますので、丁寧に取り組んでください（学修時間 週2時間）。

また、不定期に小テストを行いますので毎回の復習も必須です（学修時間 週2時間）。

### 【テキスト・教材】

笠間影印叢刊行会編 『字典かな—写本をよむ楽しみ』（新装版 笠間書院 2003 税込842円）を用意してください。

7回目以降は、古語辞書を使いますので、持参してください。

その他、読解練習のための資料は、受講者のレベルに応じてプリントを作り、毎回配付します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業参加（くずし字の読解に熱心に取り組んだか、課題の提出）20%、不定期に行う小テスト（事前予告あり）30%、期末試験50%で評価します。

小テストは次回授業でフィードバックを行います。期末試験は解答例をmanabaに掲載します。

### 【参考書】

授業内で適宜紹介します。

### 【注意事項】

欠席をしないことが前提の授業です。

古写本などの貴重書を直接見ることがとても大切です。実践女子大学図書館は、多数の貴重書を所蔵しています。学内で展示される機会を逃さず、見に行くようにしてください。

## 古典文学基礎講読 a

—abクラス くずし字を読む—

伊藤 好美

1年 前期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

皆さんは中学・高校で古文の文章を読んだことがあると思います。中高の教科書に使用されている文字は普段から見慣れた活字ですが、実際の古典文学作品は「くずし字」といわれる書体で書かれています。

この授業では、くずし字の中でも特に「変体仮名」と呼ばれるひらがなの読解能力を習得していきます。同時に、古典文学を読解・研究するために必要となる基礎的な知識についても学習します。

基礎的な知識が身につくと古典文学への理解が深まります。そして、変体仮名が読めるようになると、生まれた当時の姿のままの古典文学作品を読むことも可能になります。

この授業を経て、皆さんには古典文学作品を読むことを楽しみのひとつにしてもらいたいと考えています。

### 【授業における到達目標】

- ・くずし字（特に変体仮名）を読解する能力を身につける。
- ・文学作品の中に価値を見出し、感受性を深める。
- ・積極的に課題に取り組む力を養う。
- ・協力して課題に取り組み、互いの能力を伸ばし合う姿勢を身につける。
- ・学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探求し、学問を続ける力を身につける。
- ・学修成果を実感して、自信を創出する。

### 【授業の内容】

- 第1週 授業の進め方の説明
- 第2週 古典文学史の基礎知識
- 第3週 書誌学の基礎知識① 一書籍の形状・内容に関する用語
- 第4週 書誌学の基礎知識② 一本文系統に関する用語
- 第5週 変体仮名読解練習① 一変体仮名の成り立ちと字母を知る
- 第6週 変体仮名読解練習② 一身近な変体仮名に親しむ
- 第7週 変体仮名読解練習③ 一変体仮名の翻字を学ぶ
- 第8週 変体仮名読解練習④ 一変体仮名の翻字（入門）
- 第9週 変体仮名読解練習⑤ 一変体仮名の翻字（初級）
- 第10週 変体仮名読解練習⑥ 一変体仮名の翻字（中級）
- 第11週 変体仮名読解練習⑦ 一変体仮名の翻字（上級）
- 第12週 変体仮名読解練習⑧ 一変体仮名の翻字（応用）
- 第13週 変体仮名読解練習⑨ 一変体仮名の翻字（長文を読む）
- 第14週 変体仮名読解練習⑩ 一変体仮名の翻字（難字を読む）
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

各自の学修の進度に応じて、変体仮名読解練習のための課題を出します。しっかり翻字してから授業に臨んでください。（事前学修 週2時間）

不定期に小テストを実施します。毎回の授業内容をよく復習しておきましょう。（事後学修 週2時間）

### 【テキスト・教材】

『字典かな 新装版』（笠間書院、2003年）780円（税別）

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（小テスト、授業態度等）40%、期末テスト60%で評価します。

小テストは次回授業、期末テストは授業最終回でフィードバックします。

### 【注意事項】

変体仮名の読解力は、読んだ量に比例します。積極的な態度で授業に臨んでください。

**古典文学基礎講読 a**

—cdクラス 変体仮名を読む—

**越後 敬子**

1年 前期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

高校時代までの「国語」あるいは「古文」の授業では、みなさんは活字のテキスト（教科書）を与えられてきました。しかし、国文学科の学生として、特に古典文学を学ぶ際には、活字本だけでは不十分です。

この授業では古典文学作品を読解・研究するために必要な基礎知識を身につけます。作品が生み出された当時の写本・版本に記された文字（変体仮名）を読めるようになることが目標です。

**【授業における到達目標】**

この授業を受けることによって、現在のひらがなとは異なる変体仮名を覚え、古典文学作品を書かれた当時の文字で読むことができるようになります。

変体仮名という文字の価値を見出し、それによって課題にアプローチする力を修得することができます。

**【授業の内容】**

- 第1週 授業の概説
- 第2週 古典文学を学ぶための基礎知識①写本
- 第3週 古典文学を学ぶための基礎知識②版本
- 第4週 変体仮名の解読①「あ」～「さ」行
- 第5週 変体仮名の解読②「た」～「は」行
- 第6週 変体仮名の解読③「ま」～「わ」行
- 第7週 変体仮名の解読④『古今和歌集』
- 第8週 変体仮名の解読⑤『伊勢物語』
- 第9週 変体仮名の解読⑥『枕草子』
- 第10週 変体仮名の解読⑦『和泉式部日記』
- 第11週 変体仮名の解読⑧『百人一首』
- 第12週 変体仮名の解読⑨『伊曾保物語』
- 第13週 変体仮名の解読⑩『詞花和歌集』
- 第14週 変体仮名の解読⑪『竹取物語』
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】各回の授業の終わりに次回分の資料を配付しますので、必ず翻字をして授業に臨んでください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業で読み誤った箇所について復習してきてください。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

『字典かな 新装版』（笠間書院 2003年）780円（税別）  
ほかに資料を配付します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末試験60%、平常点（授業への取り組み・小テスト）40%。小テストは次回授業でフィードバックを行う。

**【参考書】**

児玉幸多『くずし字解読辞典』（東京堂出版）

**【注意事項】**

変体仮名に慣れるためには、たくさん読むしかありません。上記事前学修を怠ると、授業についてこられなくなります。

**古典文学基礎講読 b**

—efクラス 『源氏物語』花宴巻をくずし字で読む—

**林 悠子**

1年 後期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

前期に習得した「くずし字」を読解する技術を使って宮内庁書陵部本『源氏物語』花宴巻を読んでいきます。授業はテキストを一人数行ずつ担当し、演習形式で行います。各自テキストを翻刻し、校訂本文を立て、注釈書や辞書を調べた成果を発表します。発表を受けて、全体で討議を行います。

**【授業における到達目標】**

古典文学を研究する際に、踏むべき基本的な手順（翻刻・校訂作業、注釈書の調べ方、辞書の引き方等）を、「実践」を通じて身につけることを目標とします。演習発表と全体での討論を通じて、全学DPの〔行動力〕のうち課題解決能力の強化と〔研鑽力〕の自信の創出を目指します。

**【授業の内容】**

- 1 『源氏物語』花宴巻について／発表の分担を割り当て
- 2 演習発表のための基礎知識①  
「校訂」ってどんな作業？／発表資料の作り方など
- 3 演習発表のための基礎知識②教員による例示
- 4 受講者による発表と討論①グループA（約5人）
- 5 受講者による発表と討論②グループB（約5人）
- 6 受講者による発表と討論③グループC（約5人）
- 7 受講者による発表と討論④グループD（約5人）
- 8 受講者による発表と討論⑤グループE（約5人）
- 9 受講者による発表と討論⑥グループF（約5人）
- 10 受講者による発表と討論⑦グループG（約5人）
- 11 受講者による発表と討論⑧グループH（約5人）
- 12 受講者による発表と討論⑨グループI（約5人）
- 13 受講者による発表と討論⑩グループJ（約5人）
- 14 受講者による発表と討論⑪グループK（約5人）  
（※受講者による発表と討論①～⑪は、テキストをひとり数行ずつ担当し、全員が発表を行います。初回授業時に発表の分担の割り当てを行います。）
- 15 まとめ

**【事前・事後学修】**

毎回の授業に合わせて、テキストの翻字（2～3ページ）を事前に行ってください（課題として提出してもらるか小テストでの確認を行います・学修時間 週3時間）。討論に参加するためにも、とても重要な作業です。授業後に、間違えた箇所を中心に復習をしてください（学修時間 週1時間）。

**【テキスト・教材】**

上坂信男校注『青表紙本源氏物語 花宴』（新典社 1968 税込540円）、笠間影印叢刊行会編『字典かな一写本をよむ楽しみ』（新装版 笠間書院 2003 税込842円）を用意してください。古語辞書（学習辞典で良い）を持参してもら場合があります。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業参加（討論への参加・課題の提出・小テスト）30%、演習発表30%、期末試験40%で評価します。課題は次週以降に返却します。演習発表と質疑での発言についてはその場で講評を述べます。期末試験は、解答例と全体に対する講評をmanabaに掲載します。

**【参考書】**

授業内で適宜紹介します。

**【注意事項】**

欠席をしないことが前提の授業です。特に発表箇所の割り当てを行う初回授業には必ず出席するようにしてください。30分以上の遅刻は原則欠席扱いになります。

演習発表のための準備をしっかり行うことはもちろん、他の受講者の発表もよく聞いて、積極的に討論に参加してください。



## 古典文学基礎講読 b

—abクラス くずし字で書かれた作品を読む—

伊藤 好美

1年 後期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

古典文学を読解・研究するための基礎的な知識・技術を身につけることを目指します。

前期に習得した変体仮名読解の技術を活かし、『万葉集』全歌の注釈書である、北村季吟の『万葉拾穂抄』を読み進めます。その中で主として、①注釈書や辞書の調べ方、②口頭発表の仕方、③討論の仕方、の三つの事柄を習得していきます。

## 【授業における到達目標】

- ・くずし字で書かれた作品を用いて、研究を進める能力を身につける。
- ・文学作品の中に価値を見出し、感受性を深める。
- ・現状を正しく把握し、課題を発見できる力を身につける。
- ・目標を設定して、計画を立案・実行できる力を身につける。
- ・自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進める力を身につける。
- ・学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探求し、学問を続ける力を身につける。
- ・学修成果を実感して、自信を創出する。

## 【授業の内容】

- 第1週 『万葉拾穂抄』概説
- 第2週 注釈書・辞書の調べ方の説明
- 第3週 資料の作り方の説明
- 第4週 口頭発表・討論の仕方の説明
- 第5週 口頭発表と討論① 一正確な翻字
- 第6週 口頭発表と討論② 一語積（問題の抽出）
- 第7週 口頭発表と討論③ 一語積（問題の整理）
- 第8週 口頭発表と討論④ 一語積（問題の解決方法）
- 第9週 口頭発表と討論⑤ 一作品全体の解釈（研究史）
- 第10週 口頭発表と討論⑥ 一作品全体の解釈（考察）
- 第11週 口頭発表と討論⑦ 一口語訳等のまとめ
- 第12週 口頭発表と討論⑧ 一活発な討論
- 第13週 口頭発表と討論⑨ 一結論
- 第14週 レポートの書き方の説明
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

発表の対象となる作品に関する資料を予め配布します。よく読んで理解してから口頭発表・討論に臨みましょう。（事前学修 週2時間）

期末レポートの作成に向けて、各自、発表を担当した作品について、討論の内容を踏まえ、更に調査を進めてください。（事後学修 週2時間）

## 【テキスト・教材】

『字典かな 新装版』（笠間書院 2003年）780円（税別）

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

口頭発表30%、平常点（討論への参加、授業態度）20%、期末レポート50%で評価します。

口頭発表と討論への参加は当日の授業内、期末レポートは授業最終回でフィードバックします。

## 【参考書】

授業時に紹介します。

## 【注意事項】

他の人の口頭発表を真剣に聴き、自分の考えをまとめて質問することで、自分自身の論理構成力が向上します。積極的な態度で討論に参加してください。

## 古典文学基礎講読 b

—cdクラス 変体仮名で『おくのほそ道』を読む—

越後 敬子

1年 後期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

古典文学作品を読解・研究するために必要な調査方法を身につけることを目標とします。

前期に学んだ変体仮名の解読能力をもとに、『おくのほそ道』の諸本を比較しながら読み、今私たちが手にしている本文がどのように完成していったのかを考察します。

## 【授業における到達目標】

この授業を受けることによって、現在の私たちが読んでいる古典文学作品が、各時代の人々によって書き継がれながら、どのように完成していったのかを学修することができます。

変体仮名という文字の価値を見出し、それをもとに課題にアプローチする力を修得します。

## 【授業の内容】

- 第1週 『おくのほそ道』諸本概説
- 第2週 教員による例示①自筆本1～3行
- 第3週 教員による例示②自筆本4～6行
- 第4週 受講者による発表①自筆本7～36行
- 第5週 受講者による発表②自筆本37～66行
- 第6週 受講者による発表③自筆本67～96行
- 第7週 受講者による発表④自筆本97～126行
- 第8週 受講者による発表⑤自筆本127～156行
- 第9週 受講者による発表⑥自筆本157～186行
- 第10週 受講者による発表⑦自筆本187～216行
- 第11週 受講者による発表⑧自筆本217～246行
- 第12週 受講者による発表⑨自筆本247～276行
- 第13週 受講者による発表⑩自筆本277～306行
- 第14週 受講者による発表⑪自筆本307～336行
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】次回授業範囲分の翻字をしてきてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】発表者のレジュメと各自のノートを見比べ、読み誤りを訂正しておいてください。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

『新版おくのほそ道』（角川ソフィア文庫 2011年）740円

ほかに資料を配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験60%、平常点（授業への取り組み・小テスト）40%。小テストは次回授業でフィードバックを行う。

## 【参考書】

児玉幸多『くずし字解読辞典』（東京堂出版）

## 【注意事項】

『おくのほそ道』本文を数行ずつに分けて、受講者が変体仮名を解読し発表します。上記事前学修を怠ると授業についてこられなくなります。

**公衆栄養学 a**

長谷川 めぐみ

3年 前期 2単位

○：国際的視野、研鑽力、行動力

**【授業のテーマ】**

公衆栄養学を学ぶ目標は、科学的アプローチと多面的なアプローチを駆使して健康の保持・増進をめざして公衆のQOLを高めることである。そのために公衆と個人の両面から計画を立て、その計画にふさわしい公衆栄養活動を行う力を養うことである。

公衆栄養活動の具体的な展開は「食と健康の環境づくり」である。これを理解するために環境のシステムモデルを学び、食生活との関係を考察することが重要である。

また、公衆栄養活動は、ヘルスプロモーション、エンパワメント、ウェルネス、地域づくりなどの方法によって進められ、併せて生態系の保全、疾病予防、高齢社会などの栄養問題を取り上げることが重要である。

公衆栄養学a では公衆栄養学の概念、我が国における公衆栄養活動と栄養問題および栄養政策について学ぶ

**【授業における到達目標】**

わが国のみならず諸外国の健康・栄養問題を取りあげ国際的視野を身につける。また、海外における公衆栄養領域のフィールドワークや栄養調査の実態を紹介し国際感覚を身につけて世界に踏み出して活躍できる栄養士、管理栄養士となるよう目指す。

**【授業の内容】**

- 第1週 公衆栄養の概念
- 第2週 公衆栄養活動
- 第3週 社会環境と健康・栄養問題
- 第4週 健康状態と食事の変化
- 第5週 食生活の変化（食生態、食環境）
- 第7週 諸外国の健康・栄養問題の現状
- 第8週 わが国の公衆栄養政策（1）概要
- 第9週 わが国の公衆栄養政策（2）公衆栄養関連法規
- 第10週 わが国の公衆栄養政策（3）管理栄養士、栄養士養成制度
- 第11週 わが国の公衆栄養政策（4）国民健康・栄養調査
- 第12週 わが国の公衆栄養政策（5）実施に関する指針、ツール
- 第13週 わが国の公衆栄養政策（6）健康増進基本方針と地域計画
- 第14週 わが国の公衆栄養政策（7）食育推進基本計画
- 第15週 総合学習

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

毎回講義のテキスト（該当箇所）を学修し講義内に実施する小試験およびプレゼンテーションの準備をする（学修時間：2時間）

**【事後学修】**

毎回講義で配布する資料を完成させ、レポートを作成し講義終了時に提出する（学修時間：2時間）

**【テキスト・教材】**

『健康・栄養科学シリーズ 公衆栄養学』  
（南江堂：本体3,000円＋税、2017年）

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末試験 50%  
受講態度 50%（講義内課題、小テスト、レポート）  
毎回提出された課題・小試験を確認、返却しフィードバックする

**【参考書】**

『サクセス管理栄養士講座 公衆栄養学』  
（第一出版：本体2,100円＋税、2017年）

**公衆栄養学 a**

森川 希

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

公衆栄養学は、個人または集団の健康の維持・増進および疾病の一次予防を進めることを目的に、人々の食生活に関わる諸問題を組織的活動によって解決しようとする分野である。

公衆栄養学aでは、わが国における公衆栄養活動の歴史と、現在の超高齢社会における栄養問題について知るとともに、それらに対する取り組みの現状を理解することを目標とする。

**【授業における到達目標】**

主に行政の現場において、健康増進のための栄養管理・指導を行うのに必要な基本的知識を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 公衆栄養学の概念
- 第2週 公衆栄養活動
- 第3週 社会環境と健康・栄養問題
- 第4週 食生活の変化①（食事の変化）
- 第5週 食生活の変化②（食環境の変化）
- 第6週 わが国の栄養政策の歴史
- 第7週 管理栄養士・栄養士養成制度
- 第8週 国民健康・栄養調査
- 第9週 実施に関する指針・ツール①  
（食生活指針、身体活動基準）
- 第10週 実施に関する指針・ツール②  
（食事バランスガイド、食育ガイド）
- 第11週 わが国の健康増進基本方針と地方計画
- 第12週 諸外国における健康・栄養問題の現状
- 第13週 諸外国における栄養政策
- 第14週 関連法規
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】毎回、次の授業に必要な予習キーワードを提示するので、教科書の該当範囲を読んでおくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】教科書各章末の練習問題及び管理栄養士国家試験過去問題の該当範囲等を活用して授業の復習をし、単元終了毎に実施する小テストに備えること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

『健康・栄養科学シリーズ 公衆栄養学』  
（南江堂）本体3,000円  
（最新版を購入すること）

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験90%、平常点10%で評価する。

平常点は、授業態度及び小テストの得点を含む。小テストは授業冒頭を実施し、その場で解説、自己採点を行い結果を報告する。

**【参考書】**

『サクセス管理栄養士講座 公衆栄養学』  
（第一出版）本体2,300円  
『食事調査マニュアル はじめの一步から実践・応用まで』  
（南山堂）本体2,800円

## 公衆栄養学b

長谷川 めぐみ

3年 後期 2単位

○：国際的視野、研鑽力、行動力

### 【授業のテーマ】

公衆栄養学を学ぶ目標は科学的アプローチと多面的なアプローチを駆使して健康の保持・増進をめざして公衆のQOLを高めることである。そのために公衆と個人の両面から計画を立て、その計画にふさわしい公衆栄養活動を行う力を養うことである。

公衆栄養活動の具体的な展開は「食と健康の環境づくり」で、これを理解するために環境のシステムモデルを学び食生活との関係を考察することが重要である。

また公衆栄養活動はヘルスプロモーション、エンパワメント、ウェルネス、地域づくりなどの方法によって進められ、併せて生態系の保全、疾病予防、高齢社会などの栄養問題を取り上げることが理解することも重要である。公衆栄養学bでは栄養疫学の概要と公衆栄養マネジメントについて学ぶ。

### 【授業における到達目標】

- ①多様な価値観を持つ国内外の公衆栄養の状況を学び理解と協力を築く態度を身につける
- ②国際感覚を身につけて世界の公衆栄養に踏み出す栄養士となることをめざす
- ③日本の公衆栄養システムについて学び世界に発信する態度を身につける

### 【授業の内容】

- 第1週 栄養疫学の概要
- 第2週 栄養疫学のための食事調査法
- 第3週 食事摂取量の測定方法
- 第4週 食事摂取量の評価方法
- 第5週 公衆栄養マネジメント概論
- 第6週 公衆栄養マネジメントのためのモデル
- 第7週 公衆栄養アセスメント
- 第8週 公衆栄養プログラムの計画と実施
- 第9週 公衆栄養プログラムの展開
- 第10週 地域集団の特特別プログラムの展開 (1)
- 第11週 地域集団の特特別プログラムの展開 (2)
- 第12週 地域集団の特特別プログラムの展開 (3) ライフステージ別
- 第13週 地域集団の特特別プログラムの展開 (4) 先進国
- 第14週 地域集団の特特別プログラムの展開 (5) 開発途上国
- 第15週 総合学習

### 【事前・事後学修】

#### 【事前学修】

毎回講義のテキスト（該当箇所）を学修し講義内に実施する小試験およびプレゼンテーションの準備をする（学修時間：2時間）

#### 【事後学修】

毎回講義で配布する資料を完成させ、レポートを作成し講義終了時に提出する（学修時間：2時間）

### 【テキスト・教材】

『健康・栄養科学シリーズ 公衆栄養学』  
（南江堂：本体3,000円＋税、2017年）

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験 50%

受講態度 50%（講義内課題、小試験、レポート）

毎回提出された課題・小試験を確認、返却しフィードバックする

### 【参考書】

『サクセス管理栄養士講座 公衆栄養学』  
（第一出版：本体2,100円＋税、2017年）

## 公衆栄養学 b

森川 希

3年 前期 2単位

◎：研鑽力

## 【授業のテーマ】

効果的な公衆栄養活動を展開するためには、栄養・食生活と疾病との因果関係を理解し、科学的根拠に基づく情報を活用しながら、適切なプログラムを計画、実施、評価する総合的なマネジメント能力が求められる。本科目では、公衆栄養活動の根拠となる疫学調査や公衆栄養マネジメントの手法を中心に学習する。

## 【授業における到達目標】

主に行政の現場において、健康増進のための栄養管理・指導を行うのに必要な基本的知識を修得する。

## 【授業の内容】

- 第1週 公衆栄養マネジメントの概念  
 第2週 公衆栄養アセスメント①  
 (食事摂取基準の地域集団への活用)  
 第3週 公衆栄養アセスメント②  
 (地域観察の方法と活用)  
 第4週 公衆栄養プログラムの計画  
 第5週 公衆栄養プログラムの実施  
 第6週 公衆栄養プログラムの評価  
 第7週 地域特性に対応した公衆栄養プログラムの展開  
 第8週 食環境づくりプログラムの展開  
 第9週 地域集団の特性別プログラムの展開①  
 (ライフステージ別)  
 第10週 地域集団の特性別プログラムの展開②  
 (生活習慣病ハイリスク者)  
 第11週 栄養疫学①(栄養疫学の概要)  
 第12週 栄養疫学②(栄養疫学のための食事調査法)  
 第13週 栄養疫学③(食事摂取量の測定方法)  
 第14週 栄養疫学④(食事調査と評価方法)  
 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】毎回、次の授業に必要な予習キーワードを提示するので、教科書の該当範囲を読んでおくこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】教科書各章末の練習問題及び管理栄養士国家試験過去問題の該当範囲等を活用して授業の復習をし、単元終了毎に実施する小テストに備えること。(学修時間 週2時間)

## 【テキスト・教材】

『健康・栄養科学シリーズ 公衆栄養学』

(南江堂) 本体3,000円

『食事調査マニュアル はじめの一歩から実践・応用まで』

(南山堂) 本体2,800円

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験90%、平常点10%で評価する。

平常点は、授業態度及び小テストの得点を含む。小テストは授業冒頭を実施し、その場で解説、自己採点を行い結果を報告する。

## 【参考書】

『サクセス管理栄養士講座 公衆栄養学』

(第一出版) 本体2,100円

『日本人の食事摂取基準(2015年版)』(第一出版) 本体2,700円

## 公衆栄養学実習 a

森川 希

3年 後期 1単位 3時限連続 隔週

◎：行動力 ○：協働力

## 【授業のテーマ】

公衆栄養学a・bに引き続き、本実習では地域の健康・栄養上の課題に応じた公衆栄養プログラムの計画・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な事項について理解を深めることを目的とする。特に、集団の健康状態および食事・栄養素摂取状況に関する情報を収集・分析し、活用するための基本的技術を習得するための実習を行う。

## 【授業における到達目標】

管理栄養士として、主に行政の現場において、健康の維持・増進のための栄養管理・指導を行うのに必要な知識・技能・態度を修得する。

## 【授業の内容】

テキストおよび配布資料に基づき説明を受けた後、各回のテーマに関する情報の収集・分析、媒体作成等の作業を個別もしくはグループで進める。

- 第1週 公衆栄養アセスメント①  
 (既存資料を活用した地域の実態把握)  
 都道府県・市町村の基本情報の検索、グラフ作成  
 第2週 公衆栄養アセスメント②(社会調査法)  
 生活習慣、食行動等に関する質問紙調査の設計、集計  
 第3週 公衆栄養アセスメント③(食事調査法)  
 24時間思い出し法、24時間尿中食塩排泄量の測定  
 第4週 公衆栄養プログラム計画①  
 国、都道府県、市町村における既存の健康増進施策  
 および関連事業の調査  
 第5週 公衆栄養プログラム計画②  
 調査結果のまとめと報告書作成、健康課題の整理  
 第6週 公衆栄養事業計画の立案、媒体作成  
 第7週 グループワークと発表  
 第8週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】「公衆栄養学」の学習内容をよく理解した上で実習に臨むこと。また、パソコンを用いた情報収集・作表・作図の作業が多いので、「情報リテラシー基礎」で学習したレベルの操作は問題なくできるようにしておくこと。(学修時間 週1時間)

【事後学修】各回の最後にワークシートを提出するほか、最終的に調査資料を含めた全ての成果物をファイルし提出してもらう。実習時間内に補完しきれなかった情報については、最終日までに各自で整理しておく必要がある。(学修時間 週1時間)

## 【テキスト・教材】

『健康・栄養科学シリーズ 公衆栄養学』

(南江堂) 本体3,000円

『食事調査マニュアル はじめの一歩から実践・応用まで』

(南山堂) 本体2,800円

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出課題70%、平常点(実習態度、プレゼンテーション)30%で評価する。

提出課題については、授業期間内にフィードバックを行う。

## 公衆栄養学実習 b

佐々木 溪円

3年 通年 1単位

○：研鑽力、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

この実習では、保健所、保健センターで実施される地域の公衆栄養活動に参加することで、行政栄養士による地域住民の健康保持・増進の実務や、多職種・他機関との連携について学びます。

### 【授業における到達目標】

- 1) 地域保健における管理栄養士の業務を説明できる。
- 2) 地域の健康課題と対応策について、自分の意見を説明できる。
- 3) 多職種連携による公衆衛生施策における管理栄養士の専門性を説明できる。

【この授業を履修して身につく態度・能力】

◎：行動力 ○：美の探求、研鑽力、協働力

### 【授業の内容】

管理栄養士にとって必要な実務を身につけるため、数人のグループで1週間（45時間）保健所実習を行います。

1. 実習事前指導（大学で行う）
  - ・実習オリエンテーション：実習の概要を学ぶ、注意事項、実習ノートの準備、実習終了後の報告方法について。
  - ・講義：地域保健制度や施設について、自治体や保健所の資料活用方法について。
  - ・課題研究の方法：文献検索、データ分析・表現方法について。
2. 臨地実習（保健所等で行う）
  - ・講義：地域保健業務の実際に関する保健所長、行政栄養士による講義と実習のオリエンテーション。
  - ・実習：行政栄養士の業務に陪席し、業務の実際について学ぶ。
  - ・実習成果報告：実習で学んだ内容を総括した報告会を実習施設で実施する。
  - ・グループ毎の課題研究
3. 事後指導（大学で保健所実習の報告を行う）
  - ・公衆衛生学研究室等で報告する。
  - ・大学校外実習報告会で報告する。

### 【事前・事後学修】

○事前学修：事前配布資料を学修してください。実習施設が管轄する地域の健康課題・施策を把握し、実習施設から提示される課題についてまとめておいてください。（学修時間 週1時間）

○事後学修：実習ノートの記載と公衆衛生学研究室での報告をまとめてください。（学修時間 週1時間）

### 【テキスト・教材】

東京都福祉保健局および保健所からテキストが配布されます。

実習施設のウェブサイトに関連の資料が掲載されています。

事前指導時はプリントを配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実習施設の評価（50%）、実習ノートの記載内容・公衆衛生学研究室での報告の評価・事前・事後指導時の授業態度（50%）、等により評価し、評価結果を提示します。

### 【参考書】

- 1) 柳川洋・尾島俊之 編著『社会・環境と健康 公衆衛生学2018年版』（医歯薬出版株式会社 2018年）
- 2) 『国民衛生の動向2017/2018』（厚生労働統計協会）
- 3) 日本栄養士会 編『管理栄養士・栄養士必携 データ・資料集』（第一出版）

### 【注意事項】

社会人としての常識を踏まえ、実践女子大学の学生に相応しい態度で積極的に臨んでください。

## 公衆衛生学 a

森川 希

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

## 【授業のテーマ】

公衆衛生学は、人間集団を対象として社会全体の健康の維持・増進をめざす領域であり、多くの医療系資格において必須科目となっている。

本科目では、人々の健康づくりを食生活の面から支える栄養士にとって最低限必要な事項として、本邦における健康問題の現状や衛生行政の仕組みについて学び、公衆衛生の全体像を理解するとともに、適切な情報源を活用して対象集団の実情に即した栄養指導・運動指導に繋げる能力を修得することを目指す。

## 【授業における到達目標】

栄養士として、社会福祉施設、事業所、学校、病院などで、集団の健康の維持・増進のための栄養の指導あるいは健康運動の指導を行うのに必要な基本的知識を修得する。

## 【授業の内容】

- 第1週 社会と健康
- 第2週 環境と健康
- 第3週 健康、疾病、行動にかかわる保健統計①  
(人口静態統計・人口動態統計)
- 第4週 健康、疾病、行動にかかわる保健統計②  
(傷病統計、その他)
- 第5週 健康状態・疾病の測定と評価①(疫学概念、疫学指標)
- 第6週 健康状態・疾病の測定と評価②(疫学の方法)
- 第7週 生活習慣(ライフスタイル)の現状と対策①  
(食生活、身体活動)
- 第8週 生活習慣(ライフスタイル)の現状と対策②  
(飲酒、喫煙、他)
- 第9週 主要疾患の疫学と予防対策①(生活習慣病)
- 第10週 主要疾患の疫学と予防対策②(感染症)
- 第11週 保健・医療・福祉の制度
- 第12週 母子保健
- 第13週 成人保健
- 第14週 高齢者保健
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】毎回、次の授業に必要な予習キーワードを提示するので、教科書の該当範囲を読んでおくこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】教科書各章末の練習問題等を活用し、授業の復習をして、単元終了毎に実施する小テストに備えること。(学修時間 週2時間)

## 【テキスト・教材】

『健康・栄養科学シリーズ 社会・環境と健康』  
(南江堂) 本体3,200円  
(最新版を購入すること)

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験90%、平常点10%で評価する。

平常点は、授業態度及び小テストの得点を含む。小テストは授業冒頭を実施し、その場で解説、自己採点を行い結果を報告する。

## 【参考書】

『国民衛生の動向』(厚生労働統計協会)

## 公衆衛生学 a

佐々木 溪円

2年 前期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

## 【授業のテーマ】

すべての人は、健康的に生活する権利をもっています。地域社会の組織的な努力によって、この基本的な権利を守る技術と科学が公衆衛生学です。まず、この授業では、健康を左右する環境要因や生活習慣について考え、これらの関連性の評価方法などについて学びます。

## 【授業における到達目標】

- 1) 公衆衛生の概念について説明できる。
- 2) 健康、疾病に関する主要な統計を概説できる。
- 3) 疫学手法とその留意点について説明できる。
- 4) 主要疾患の疫学と予防対策について説明できる。

## 【この授業を履修して身につく態度・能力】

◎：研鑽力 ○：美の探求、行動力、協働力

## 【授業の内容】

- 第1回 衛生と公衆衛生（公衆衛生の概念、疾病予防と健康管理）
- 第2回 環境と健康1（生態系と環境保全、環境汚染と健康影響）
- 第3回 環境と健康2（環境衛生）
- 第4回 健康、疾病にかかわる統計1（人口動態統計など）
- 第5回 健康、疾病にかかわる統計2（国際疾病分類など）
- 第6回 疫学1（疫学指標、バイアスと交絡の制御）
- 第7回 疫学2（疫学の方法、スクリーニング）
- 第8回 疫学3（因果関係、倫理、リスク・アナリシス）
- 第9回 情報とコミュニケーション  
（エビデンスに基づいた医療と保健、ヘルスリテラシー）
- 第10回 生活習慣の現状と対策1（食生活、身体活動、休養など）
- 第11回 生活習慣の現状と対策2（喫煙、飲酒）
- 第12回 主要疾患の疫学と予防対策1（悪性新生物、循環器疾患）
- 第13回 主要疾患の疫学と予防対策2（代謝疾患、骨・関節疾患）
- 第14回 主要疾患の疫学と予防対策3（アレルギー疾患）
- 第15回 口腔保健（管理栄養士と歯科専門職の連携）  
※学外の歯科専門職からの講義と質疑応答です。

## 【事前・事後学修】

- 事前学修：各授業の最後に、次回の予習範囲を示します。予習範囲について、各回の始めに個人で回答するプレテストを行います。プレテストに続いて、グループ課題を提示しますので、必ず予習をして出席してください。（学修時間 週2時間）
- 事後学修：各回の復習課題を示しますので、次回授業前までに提出してください。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

柳川洋・尾島俊之 編著『社会・環境と健康 公衆衛生学2018年版』（医歯薬出版株式会社 2018年）2,600円＋税

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

評価配分：

筆記試験70%＋プレテスト10%＋グループ学習10%＋復習課題10%

※プレテスト等の正答を示しますので、復習に活用してください。

## 【参考書】

国民衛生の動向2017/2018（厚生労働統計協会）

## 【注意事項】

公衆衛生学は、社会情勢と密接な関連性があります。報道を通じて社会動向を把握するだけでなく、特に重要と考えた議論については複数の報道機関の内容を比較して、自分の意見をもつようにしましょう。



**公衆衛生学 a**

佐々木 溪円

3年 前期 2単位

○：国際的視野、研鑽力、協働力

**【授業のテーマ】**

すべての人は、健康的に生活する権利をもっています。地域社会の組織的な努力によって、この基本的な権利を守る技術と科学が公衆衛生学です。この授業は、健康を左右する要因や課題について考え、実践されている公衆衛生活動について学びます。

**【授業における到達目標】**

- 1) 公衆衛生の概念について説明できる。
- 2) 健康、疾病に関する主要な統計と疫学手法を概説できる。
- 3) 主要疾患の疫学と予防対策について説明できる。
- 4) 保健、医療、福祉制度の概要と概要について説明できる。
- 5) すべての人が健康的に活躍できる社会形成について、自分の意見を説明できる。

**【この授業を履修して身につく態度・能力】**

◎：研鑽力 ○：美の探求、行動力、協働力

**【授業の内容】**

- 第1回 衛生と公衆衛生（公衆衛生の概念、疾病予防と健康管理）
- 第2回 環境と健康1（生態系と環境保全、環境汚染と健康影響）
- 第3回 環境と健康2（環境衛生）
- 第4回 健康、疾病にかかわる統計1（人口静態統計など）
- 第5回 健康、疾病にかかわる統計2（国際疾病分類など）
- 第6回 疫学1（疫学指標、バイアスと交絡の制御）
- 第7回 疫学2（疫学の方法、因果関係、リスク・アナリシス）
- 第8回 疫学3（倫理、情報とコミュニケーション）
- 第9回 生活習慣の現状と対策（食生活、身体活動、喫煙など）
- 第10回 主要疾患の疫学と予防対策（悪性新生物など）
- 第11回 精神保健対策（精神保健、自殺対策、虐待・暴力対策）
- 第12回 保健・医療・福祉のしくみ（日本の制度と関連法規）
- 第13回 地域保健・母子保健（地域保健活動、母子保健事業）
- 第14回 成人保健（生活習慣病の予防、特定保健指導）
- 第15回 産業保健（労働と健康、労働安全衛生対策）

**【事前・事後学修】**

- 事前学修：各授業の最後に、次回の予習範囲を示します。予習範囲について、各回の始めに個人で回答するプレテストを行います。プレテストに続いて、グループ課題を提示しますので、必ず予習をして出席してください。（学修時間 週2時間）
- 事後学修：各回の復習課題を示しますので、次回授業前までに提出してください。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

柳川洋・尾島俊之 編著『社会・環境と健康 公衆衛生学2018年版』  
（医歯薬出版株式会社 2018年）2,600円＋税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

評価配分：  
筆記試験70%＋プレテスト10%＋グループ学習10%＋復習課題10%  
※プレテスト等の正答を示しますので、復習に活用してください。

**【参考書】**

国民衛生の動向2017/2018（厚生労働統計協会）

**【注意事項】**

公衆衛生学は、社会情勢と密接な関連性があります。報道を通じて社会動向を把握するだけでなく、自分の意見をもつようにしましょう。また、社会活動に積極的に参加して、授業で学んだ内容が、自分や周囲の人達の生活にどのように関わっているかを考える機会をもつようにしましょう。

## 公衆衛生学b

佐々木 溪円

2年 後期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

## 【授業のテーマ】

すべての人は、健康的に生活する権利をもっています。地域社会の組織的な努力によって、この基本的な権利を守る技術と科学が公衆衛生学です。この授業は、各分野で実際にどのような課題があるかを考え、実践されている公衆衛生活動について学びます。

## 【授業における到達目標】

- 1) 保健、医療、福祉制度の概要について説明できる。
- 2) 保健、医療、福祉制度の課題について概説できる。
- 3) 各分野で行われている公衆衛生活動について説明できる。
- 4) すべての人が健康的に活躍できる社会形成について、自分の意見を説明できる。

## 【この授業を履修して身につく態度・能力】

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探求、行動力、協働力

## 【授業の内容】

- 第1回 感染症対策（感染症と疫学、予防接種法の概要）
- 第2回 精神保健対策1（精神保健、自殺対策）
- 第3回 精神保健対策2（虐待・暴力対策）
- 第4回 保健・医療・福祉のしくみ  
（社会保障の概念、保健医療福祉に関する法令）
- 第5回 医療制度（日本の医療保健制度、医療法と医療計画）
- 第6回 福祉制度1（社会福祉、障害者福祉、福祉関連法規）
- 第7回 福祉制度2（ダイバーシティ&インクルージョン）  
※障がいがある女性のキャリア形成に取り組んでいる  
学外講師からの講演と質疑応答です。
- 第8回 地域保健（地域保健法、健康危機管理）
- 第9回 母子保健1（母子保健事業）
- 第10回 母子保健2（健やか親子21）
- 第11回 成人保健（生活習慣病の予防、特定保健指導）
- 第12回 高齢者保健（高齢者保健と介護保険）
- 第13回 産業保健（労働と健康、労働安全衛生対策）
- 第14回 学校保健（学校保健安全法、学校保健安全対策）
- 第15回 国際保健（地球規模の健康問題）

## 【事前・事後学修】

○事前学修：各授業の最後に、次回の予習範囲を示します。予習範囲について、各回の始めに個人で回答するプレテストを行います。プレテストに続いて、グループ課題を提示しますので、必ず予習をして出席してください。（学修時間 週2時間）

○事後学修：各回の復習課題を示しますので、次回授業前までに提出してください。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

柳川洋・尾島俊之 編著『社会・環境と健康 公衆衛生学2018年版』  
（医歯薬出版株式会社 2018年）2,600円＋税

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

評価配分：

筆記試験70%＋プレテスト10%＋グループ学習10%＋復習課題10%

※プレテスト等の正答を示しますので、復習に活用してください。

## 【参考書】

国民衛生の動向2017/2018（厚生労働統計協会）

## 【注意事項】

社会活動に積極的に参加して、授業で学んだ内容が、自分や周囲の人達の生活にどのように関わっているかを考える機会をもつようにしましょう。

## 工業デザイン概論

山崎 和彦

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

### 【授業のテーマ】

先ず工業デザインの世界について概説する。次に、本学科においてデザインに取り組む際に有用となる事項について論じる。最後に、人間要素を重視したデザインの評価方法について論じる。

### 【授業における到達目標】

本授業を通じて、工業製品のデザインについて探究する態度を身につける。また国際感覚、広い視野、洞察力等を身につけ、生涯にわたり工業デザインについて探求する態度を身につける。

### 【授業の内容】

- 第1週 工業デザインとは
- 第2週 デザインに関する法令、基準、資格
- 第3週 人類と道具の歴史
- 第4週 デザインのための材料学
- 第5週 デザインのための加工技術
- 第6週 電気に関するデザイン
- 第7週 電子に関するデザイン
- 第8週 音のデザイン
- 第9週 照明のデザイン
- 第10週 水回りのデザイン
- 第11週 安全および高齢者のためのデザイン
- 第12週 人体構造とデザイン
- 第13週 デザインの評価その1（感覚系）
- 第14週 デザインの評価その2（生理系）
- 第15週 総括

### 【事前・事後学修】

毎回の講義において資料を配付する。その中で、事前学修については、講義に臨む前に調べておくべき事項あるいは準備しておくべき事項について示す。また事後学修については、復習のための要領（参考書の提示、定期試験に向けた対策、その他）を示す。なお、これらを口頭で示すこともある。事前および事後の学修には、週あたり、各々2時間以上を充てること。

### 【テキスト・教材】

資料を配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験70%、平常点（授業態度）30%とする。学生へのフィードバックについては、定期試験終了後1週間以内を目処に、学科掲示板に、正答率の低かった設問についての正解例、成績の分布、授業における所感等を掲示する。またマナバに学生が不満や改善事項等を記していたら、同じくマナバ上で回答し、次回に活かす。

### 【参考書】

適宜示す。

**工芸史概論 a**

中国陶磁史

山田 正樹

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

東洋陶磁の基礎的な装飾技術とその発展について学習しながら、中国陶磁史を概観する。あわせて中国陶磁が日本・朝鮮半島・東南アジア・西アジア・ヨーロッパの各地域に対して及ぼした影響についても考察したい。日常の食器などとして、我々の生活のなかでも身近な工芸品である「せともの」「やきもの」とのつながりを感じながら、美術品である中国陶磁についての理解を深め、その鑑賞を楽しんでもらいたい。

**【授業における到達目標】**

中国陶磁史の学習を通じて、東洋における陶磁器の基本的な概念・構造を理解し、美術史における、考古学等の近接した学問分野の成果を応用した研究手法を修得する。学生が修得すべき「研鑽力」を身につけ、生涯にわたり知を探究する力を修得する。

**【授業の内容】**

1. やきものとは何か
2. 中国古代の文化と土器
3. 青磁と鉄釉の発達
4. 白磁の誕生と展開
5. 鉛釉と三彩
6. 白化粧の陶器—磁州窯系の広がり
7. 宋代の名窯①（華北）
8. 宋代の名窯②（華南）
9. 元青花 釉下彩技法の誕生
10. 明代の青花と五彩①（洪武～正徳）
11. 明代の青花と五彩②（嘉靖～崇禎）
12. 清朝の陶磁—粉彩と色釉、「写し」のやきもの
13. 世界へ広がる中国陶磁—アジア、イスラム諸国およびヨーロッパへの影響
14. 美術館見学（日時未定、土曜もしくは日曜に実施予定）
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

陶磁器を含む工芸に対し、積極的な関心を持ち、美術館・博物館等へ足を運ぶこと。日本および世界史（とくに中国史）に関する基礎的知識をもっていることを受講の前提とする。また世界史における横軸の時代観念をもっていることが望ましい。

事前学修としては下記の参考書を読むこと（学修時間 週2時間）。事後学修としては美術館・博物館等で講義中に挙げられた作品やその類品を実見すること（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

授業ごとに適宜資料の提示、プリントの配布を行う。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

毎回授業の最後に、授業内容もしくは授業中に提示した作品等に関する小レポートの提出を求める。この小レポートを授業（受講）態度の評価基準とする。また美術館見学に関するレポートを課題とする。

平常点（授業態度、小レポート）50点、課題（期末レポート）50点

授業ごと小レポートのフィードバックは次回の授業冒頭で行う。

**【参考書】**

- ・『中国の陶磁』1～12巻、平凡社、1995～99年
- ・佐藤雅彦『中国陶磁史』、平凡社、1978年
- ・矢部良明編『やきものの鑑賞基礎知識』、至文堂

**【注意事項】**

受講者には、前期中に実施する美術館見学のほかにも、各自積極的に美術館へ足を運び、実際に様々なジャンルの美術作品を見に行くことを求める。

**工芸史概論 a**

中国陶磁史

山田 正樹

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

東洋陶磁の基礎的な装飾技術とその発展について学習しながら、中国陶磁史を概観する。あわせて中国陶磁が日本・朝鮮半島・東南アジア・西アジア・ヨーロッパの各地域に対して及ぼした影響についても考察したい。日常の食器などとして、我々の生活のなかでも身近な工芸品である「せともの」「やきもの」とのつながりを感じながら、美術品である中国陶磁についての理解を深め、その鑑賞を楽しんでもらいたい。

**【授業における到達目標】**

中国陶磁史の学習を通じて、東洋における陶磁器の基本的な概念・構造を理解し、美術史における、考古学等の近接した学問分野の成果を応用した研究手法を修得する。学生が修得すべき「研鑽力」を身につけ、生涯にわたり知を探究する力を修得する。

**【授業の内容】**

1. やきものとは何か
2. 中国古代の文化と土器
3. 青磁と鉄釉の発達
4. 白磁の誕生と展開
5. 鉛釉と三彩
6. 白化粧の陶器—磁州窯系の広がり
7. 宋代の名窯①（華北）
8. 宋代の名窯②（華南）
9. 元青花 釉下彩技法の誕生
10. 明代の青花と五彩①（洪武～正徳）
11. 明代の青花と五彩②（嘉靖～崇禎）
12. 清朝の陶磁—粉彩と色釉、「写し」のやきもの
13. 世界へ広がる中国陶磁—アジア、イスラム諸国およびヨーロッパへの影響
14. 美術館見学（日時未定、土曜もしくは日曜に実施予定）
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

陶磁器を含む工芸に対し、積極的な関心を持ち、美術館・博物館等へ足を運ぶこと。日本および世界史（とくに中国史）に関する基礎的知識をもっていることを受講の前提とする。また世界史における横軸の時代観をもっていることが望ましい。

事前学修としては下記の参考書を読むこと（学修時間 週2時間）。事後学修としては美術館・博物館等で講義中に挙げられた作品やその類品を実見すること（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

授業ごとに適宜資料の提示、プリントの配布を行う。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

毎回授業の最後に、授業内容もしくは授業中に提示した作品等に関する小レポートの提出を求める。この小レポートを授業（受講）態度の評価基準とする。また美術館見学に関するレポートを課題とする。

平常点（授業態度、小レポート）50点、課題（期末レポート）50点

授業ごと小レポートのフィードバックは次回の授業冒頭で行う。

**【参考書】**

- ・『中国の陶磁』1～12巻、平凡社、1995～99年
- ・佐藤雅彦『中国陶磁史』、平凡社、1978年
- ・矢部良明編『やきものの鑑賞基礎知識』、至文堂

**【注意事項】**

受講者には、前期中に実施する美術館見学のほかにも、各自積極的に美術館へ足を運び、実際に様々なジャンルの美術作品を見に行くことを求める。

**工芸史概論 a**

中国陶磁史

山田 正樹

2年～ 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

東洋陶磁の基礎的な装飾技術とその発展について学習しながら、中国陶磁史を概観する。あわせて中国陶磁が日本・朝鮮半島・東南アジア・西アジア・ヨーロッパの各地域に対して及ぼした影響についても考察したい。日常の食器などとして、我々の生活のなかでも身近な工芸品である「せともの」「やきもの」とのつながりを感じながら、美術品である中国陶磁についての理解を深め、その鑑賞を楽しんでもらいたい。

**【授業における到達目標】**

中国陶磁史の学習を通じて、東洋における陶磁器の基本的な概念・構造を理解し、美術史における、考古学等の近接した学問分野の成果を応用した研究手法を修得する。学生が修得すべき「研鑽力」を身につけ、生涯にわたり知を探究する力を修得する。

**【授業の内容】**

1. やきものとは何か
2. 中国古代の文化と土器
3. 青磁と鉄釉の発達
4. 白磁の誕生と展開
5. 鉛釉と三彩
6. 白化粧の陶器—磁州窯系の広がり
7. 宋代の名窯①（華北）
8. 宋代の名窯②（華南）
9. 元青花 釉下彩技法の誕生
10. 明代の青花と五彩①（洪武～正徳）
11. 明代の青花と五彩②（嘉靖～崇禎）
12. 清朝の陶磁—粉彩と色釉、「写し」のやきもの
13. 世界へ広がる中国陶磁—アジア、イスラム諸国およびヨーロッパへの影響
14. 美術館見学（日時未定、土曜もしくは日曜に実施予定）
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

陶磁器を含む工芸に対し、積極的な関心を持ち、美術館・博物館等へ足を運ぶこと。日本および世界史（とくに中国史）に関する基礎的知識をもっていることを受講の前提とする。また世界史における横軸の時代観をもっていることが望ましい。

事前学修としては下記の参考書を読むこと（学修時間 週2時間）。事後学修としては美術館・博物館等で講義中に挙げられた作品やその類品を実見すること（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

授業ごとに適宜資料の提示、プリントの配布を行う。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

毎回授業の最後に、授業内容もしくは授業中に提示した作品等に関する小レポートの提出を求める。この小レポートを授業（受講）態度の評価基準とする。また美術館見学に関するレポートを課題とする。

平常点（授業態度、小レポート）50点、課題（期末レポート）50点

授業ごとの小レポートのフィードバックは次回の授業冒頭で行う。

**【参考書】**

- ・『中国の陶磁』1～12巻、平凡社、1995～99年
- ・佐藤雅彦『中国陶磁史』、平凡社、1978年
- ・矢部良明編『やきものの鑑賞基礎知識』、至文堂

**【注意事項】**

受講者には、前期中に実施する美術館見学のほかにも、各自積極的に美術館へ足を運び、実際に様々なジャンルの美術作品を見に行くことを求める。

**工芸史概論 b**

日本のやきもの 有田と京焼を中心に

安河内 幸絵

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

日本人は古来より、日本製・海外製にかかわらず、さまざまな生活の場面でそこにふさわしいやきものを見立て、選び、こよなく愛してきました。その中から、17～19世紀の有田と京焼を中心に紹介します。

**【授業における到達目標】**

美の探究、研鑽力について修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 陶磁器とは
- 第2週 有田 (1) 初期伊万里
- 第3週 有田 (2) 初期色絵
- 第4週 有田 (3) 柿右衛門様式
- 第5週 有田 (4) 古伊万里金襴手-1
- 第6週 有田 (5) 古伊万里金襴手-2
- 第7週 有田 (6) 鍋島 (1)
- 第8週 有田 (7) 鍋島 (2)
- 第9週 京焼 (1) 仁清
- 第10週 京焼 (2) 乾山焼
- 第11週 京焼 (3) 仁阿弥道八-1
- 第12週 京焼 (4) 仁阿弥道八-2
- 第13週 京焼 (5) 宮川香山と帝室技芸員-1
- 第14週 京焼 (6) 宮川香山と帝室技芸員-2
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】テキストの講義内容にあたる箇所を読んでおくこと。(学修時間 週1.5時間)

【事後学修】講義の最後に課す「復習課題」に取り組むこと。(学修時間 週3時間)

**【テキスト・教材】**

教材は必要に応じて適宜授業中にプリントで配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

講義の最後に課す宿題を提出すること。  
期末にこちらから指定したレポート課題を1回課す。  
宿題は、次回以降の授業でフィードバックを行なう。  
レポート課題は、最終講義でフィードバックを行なう。

宿題 30% レポート 70%

**【参考書】**

・『やきものの見方』荒川 正明【著】角川学芸出版 2004年

**【注意事項】**

講義の進み具合により、講義内容が前後することがあります。

**工芸史概論 b**

日本のやきもの 有田と京焼を中心に

安河内 幸絵

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

日本人は古来より、日本製・海外製にかかわらず、さまざまな生活の場面でそこにふさわしいやきものを見立て、選び、こよなく愛してきました。その中から、17～19世紀の有田と京焼を中心に紹介します。

**【授業における到達目標】**

美の探究、研鑽力について修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 陶磁器とは
- 第2週 有田 (1) 初期伊万里
- 第3週 有田 (2) 初期色絵
- 第4週 有田 (3) 柿右衛門様式
- 第5週 有田 (4) 古伊万里金襴手-1
- 第6週 有田 (5) 古伊万里金襴手-2
- 第7週 有田 (6) 鍋島 (1)
- 第8週 有田 (7) 鍋島 (2)
- 第9週 京焼 (1) 仁清
- 第10週 京焼 (2) 乾山焼
- 第11週 京焼 (3) 仁阿弥道八-1
- 第12週 京焼 (4) 仁阿弥道八-2
- 第13週 京焼 (5) 宮川香山と帝室技芸員-1
- 第14週 京焼 (6) 宮川香山と帝室技芸員-2
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】テキストの講義内容にあたる箇所を読んでおくこと。(学修時間 週1.5時間)

【事後学修】講義の最後に課す「復習課題」に取り組むこと。(学修時間 週3時間)

**【テキスト・教材】**

教材は必要に応じて適宜授業中にプリントで配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

講義の最後に課す宿題を提出すること。  
 期末にこちらから指定したレポート課題を1回課す。  
 宿題は、次回以降の授業でフィードバックを行なう。  
 レポート課題は、最終講義でフィードバックを行なう。

宿題 30% レポート 70%

**【参考書】**

・『やきものの見方』荒川 正明【著】角川学芸出版 2004年

**【注意事項】**

講義の進み具合により、講義内容が前後することがあります。



**工芸史概論 b**

日本のやきもの 有田と京焼を中心に

安河内 幸絵

2年～ 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

日本人は古来より、日本製・海外製にかかわらず、さまざまな生活の場面でそこにふさわしいやきものを見立て、選び、こよなく愛してきました。その中から、17～19世紀の有田と京焼を中心に紹介します。

**【授業における到達目標】**

美の探究、研鑽力について修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 陶磁器とは  
 第2週 有田 (1) 初期伊万里  
 第3週 有田 (2) 初期色絵  
 第4週 有田 (3) 柿右衛門様式  
 第5週 有田 (4) 古伊万里金襴手-1  
 第6週 有田 (5) 古伊万里金襴手-2  
 第7週 有田 (6) 鍋島 (1)  
 第8週 有田 (7) 鍋島 (2)  
 第9週 京焼 (1) 仁清  
 第10週 京焼 (2) 乾山焼  
 第11週 京焼 (3) 仁阿弥道八-1  
 第12週 京焼 (4) 仁阿弥道八-2  
 第13週 京焼 (5) 宮川香山と帝室技芸員-1  
 第14週 京焼 (6) 宮川香山と帝室技芸員-2  
 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】テキストの講義内容にあたる箇所を読んでおくこと。(学修時間 週1.5時間)

【事後学修】講義の最後に課す「復習課題」に取り組むこと。(学修時間 週3時間)

**【テキスト・教材】**

教材は必要に応じて適宜授業中にプリントで配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

講義の最後に課す宿題を提出すること。  
 期末にこちらから指定したレポート課題を1回課す。  
 宿題は、次回以降の授業でフィードバックを行なう。  
 レポート課題は、最終講義でフィードバックを行なう。

宿題 30% レポート 70%

**【参考書】**

・『やきものの見方』荒川 正明【著】角川学芸出版 2004年

**【注意事項】**

講義の進み具合により、講義内容が前後することがあります。

**工芸実習 a**

陶芸「器を作る」

中田 太陽

2年～ 集前 2単位

**【授業のテーマ】**

縄文土器に始まる日本のやきもの文化は世界に誇れる部分がたくさんある。陶質の物体は現代の生活空間にあらゆる形態で存在するが、ここでは器を中心に用途のある作品を実際に制作しながら、陶土の基本的な扱い方道具の使い方に触れ陶器制作の一連を学び、体感することで習得する。

**【授業における到達目標】**

やきものを通じて日本の文化精神を知り、世界に発信しようとする態度を修得する。

作りたい形を自らが設定することで、計画を立案・実行する力を修得する。

制作工程での共同作業や授業終了後、毎回行う掃除片付け等のグループワークの中で、状況に応じた各自のリーダーシップを発揮する力を修得する。

**【授業の内容】**

- 1回目 ガイダンス  
 玉作りによるうつわの制作 (ごはん茶碗、湯呑み)  
 ひも作りによるうつわの制作 (マグカップorピアカップ)  
 2回目 玉作り、ひも作り作品の削り  
 マグカップorピアカップの取手作り  
 3回目 マグカップorピアカップの取手接着  
 タタラ作り (魚皿、小皿セット)  
 玉作り作品化粧掛け  
 4回目 菊練り・電動ロクロ体験  
 箸置き制作  
 ひも作り及びタタラ作り作品化粧掛け  
 5回目 電動ロクロ作品削り  
 箸置き仕上げ  
 化粧掛けをした作品の修正  
 素焼き窯づめ→焼成  
 6回目 素焼き窯出し  
 下絵付け 釉掛け  
 7回目 釉掛け続き 修正作業  
 本焼き窯づめ→焼成  
 8回目 小テスト  
 窯出し 作品の発表 講評  
 大掃除

**【事前・事後学修】**

美術館や博物館又はギャラリー、百貨店などで様々な陶芸作品を鑑賞し、より高い意識を持って学ぶことが望ましい。作りたい形をアイデアスケッチしてくること。(学修時間 週2時間)

発表・小テスト等を復習すること。授業で実際に使用した道具の使い方、専門用語等を理解しておくこと。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

プリントを使用する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点 (授業への積極参加) 50% 小テスト30% 課題作品20%

小テストは最終回に行いテスト後すぐに解答し解説する。

(小テストの内容は授業内に実際に行った作業工程から出題する)

**【参考書】**

授業の都度、必要に応じて参考作品を提示する。

**【注意事項】**

本授業は日野校地での夏休み集中授業である。

専門的、且つ特殊な道具や材料を使用するにあたって正しい理解が必要な授業である。

教職課程資格取得の授業でもあるため、遅刻・欠席は厳禁。

材料費については別途徴収する。

**工芸実習 b**

銀板を使ったリングの制作・蝋型によるアクセサリー制作など

相武 常雄

2年～ 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

2種類のシルバーリング（蝋型鑄造及び彫金技法による）を制作し、彫金・鍛金・鑄金技法の初歩を習得し、もの作りのおもしろさを体験する。また、制作の体験とともに、現代社会におけるさまざまな金属の使われ方や活用法についてのレクチュアによって、素材としての金属の種類とその特性についての理解を深める。他の工芸素材にも挑戦する。

**【授業における到達目標】**

「美の探求」より、日本の文化・美術を理解し、金属造形を通じて感受性を深める力を修得する。

**【授業の内容】**

1. 金属概論
2. 道具の説明
3. 蝋型のデザイン及び制作①（デザイン）
4. 蝋型のデザイン及び制作②（線による制作）
5. 蝋型のデザイン及び制作③（デザイン）
6. 蝋型のデザイン及び制作④（切削による制作）
7. 銀板によるシルバーリング制作①（デザイン）
8. 銀板によるシルバーリング制作②（透かし）
9. 銀板によるシルバーリング制作③（糸鋸による透かし）
10. 銀板によるシルバーリング制作④（やすりによる直し）
11. 手織りによるテーブルウェア制作①（デザイン）
12. 手織りによるテーブルウェア制作②（制作）
13. 手織りによるテーブルウェア制作③（組み立て）
14. 展覧会見学（工芸関係）
15. 講評

**【事前・事後学修】**

【事前学修】各自、家にて、アイデアスケッチを5枚ほど描いてくること。既製のアクセサリーをよく観察してくる（2時間）

【事後学修】作品の制作意図を文章化する（2時間）

**【テキスト・教材】**

授業時にプリントを配る。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

作品70% 平常点（授業態度・制作への取り組み方）20% 展覧会を見ての感想文10%

制作した作品に関しては、授業の最後の講評によってフィードバックする。感想文は、返却時にフィードバックする。

**【参考書】**

金属造形等の書籍。（授業時に指示する）

**【注意事項】**

制作しやすい服装で参加するように。

材料費は別途徴収する。

**広告・PR論**

文献精読による理論研究

斎藤 明

2年 後期 2単位

◎：研鑽力

**【授業のテーマ】**

## ■テーマ・内容■

(1) マーケティング・コミュニケーション（広告・広報）研究に関する基礎理論の理解する。

(2) マーケティング・コミュニケーション（広告・広報）領域の専門書を輪読することを通じて、理論研究を実施する。

## ■目標■

マーケティング・コミュニケーション（広告・広報）研究または隣接分野であるマーケティング論研究・ブランド論研究分野において、将来、大学院への進学もしくは、専門的職業人をを目指す学生が基礎理論を文献検討を通じて、学習する場としたいと考える。

## ■注意事項■

本講義は専門演習（ゼミ）形式（文献事前精読を前提とした受講生相互の議論形式のため、15名程度）において、精読・輪読を行うため、履修者数に上限を設ける。

尚、精読する文献については、専門基礎書とする。

※本講座は、広告制作実習とは異なる。その点、履修者は注意すること。

**【授業における到達目標】**

## ■到達目標■

マーケティング・コミュニケーション領域における広告・PRに関する基本的なフレームワークおよび概念を理解し、企業・団体におけるマーケティング・コミュニケーション活動を当該フレームワークおよび概念に基づき論理的に理解、説明できる。

## ■ディプロマ・ポリシー（DP）との関連■

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、知の探求力を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 基礎理論輪読（広告・広報基礎概念）
- 第3週 基礎理論輪読（広告基本課題）
- 第4週 基礎理論輪読（広告管理）
- 第5週 基礎理論輪読（購買意思決定過程）
- 第6週 基礎理論輪読（広告計画策定）
- 第5週 基礎理論輪読（広告効果）
- 第6週 基礎理論輪読（広告計画実行管理）
- 第7週 基礎理論輪読（広報基本課題）
- 第8週 基礎理論輪読（広報管理）
- 第9週 基礎理論輪読（利害関係者管理）
- 第10週 基礎理論輪読（広報計画作成）
- 第11週 基礎理論輪読（広報効果）
- 第12週 基礎理論輪読（広報計画実行管理）
- 第13週 個別理論輪読（ブランドとコミュニケーション）
- 第14週 個別理論輪読（非営利組織とコミュニケーション）
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：対象文献資料を精読し、各自毎回レジメを作成し、授業に臨むこと。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業内での履修者相互での議論をもとに作成したノート振り返り、次回対象文献資料を精読し、レジメ作成を行うこと。

（学修時間 週2時間）

以上のプロセスを繰り返し実施すること

**【テキスト・教材】**

## ■共通テキスト■

岸/田中/嶋村『現代広告論 第3版』（有斐閣 2017年）2,400円＋税

日経広告研究所『広告用語辞典』（日本経済新聞社 2005年）900円＋税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

## ■成績評価■

学習活動（文献探究および議論参加）評価：100%

## ■フィードバック■

授業最終回で、精読レジメ等提出された課題へのフィードバックを実施する。

**【参考書】**

清水公一『広告の理論と戦略 第18版』創成社 2014年  
カトリック他・日本広報協会監修『体系 パブリック・リレーションズ』ピアソンエデュケーション 2008年  
日本マーケティング協会編『マーケティングジャーナル』各号  
日経広告研究所編『日経広告研究所報』各号

**【注意事項】**

(1) 履修者には、毎回、相当量の事前での学習（専門文献の精読およびレジメ作成）が要求される。

(2) 演習形式（参加型授業）で、専門文献を精読および輪読を行うため、履修者数に上限（15名程度）を設ける。尚、履修者が上限を超えた場合、これまでの成績（GPA）等により受講者を決定する。

## 広告とメディア

行実 洋一

2・3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

### 【授業のテーマ】

本授業は、私たちの消費生活に欠かせない広告について、その影響や成り立ち、ビジネスモデルに加え、さらにそこに見られる様々な文化的コンテクストについての理解を深めようとするものです。

現在、広告もまた、インターネットの普及などによって大きな変化を余儀なくされていますが、依然として消費者に対する影響は圧倒的です。

そこで、実際のテレビや新聞、インターネット上の広告、あるいは様々な屋外広告や交通広告など、具体的事例を取り扱いつつ、ビジネスや文化的な視点を交えて幅広く解説を行っていきます。

### 【授業における到達目標】

受講者の視野を深め、私たちのこれからのメディア生活における見識や理解力を高めることを目指します。

また今後のビジネスに必要とされる、あるいは生活をより豊かにするような知的素養を培っていきたいと考えています。

こうした作業を通じて、「国際的視野」を広め、「研鑽力」の向上を図ります。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 マスメディアと広告
- 第3週 広告の種類と手法
- 第4週 テレビCMについて
- 第5週 新聞・雑誌広告について
- 第6週 屋外広告・交通広告について
- 第7週 インターネット広告について
- 第8週 広告とビジネスモデル
- 第9週 キャッチコピーとスローガン
- 第10週 映像広告の事例分析①～昭和50年代、60年代
- 第11週 映像広告の事例分析②～平成以降
- 第12週 世界の広告
- 第13週 広告会社の現状
- 第14週 これからの広告の課題
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

＜事前学修＞授業で対象とするCMや広告を指示するので可能な限り事前に見ておいて下さい。（学修時間120分）

＜事後学修＞講義で教えられた内容についてインターネットや書籍を通じて、さらに理解を深めてください。（学修時間120分）

### 【テキスト・教材】

プリント資料を随時配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末課題70%、平常点（授業への積極参加、及び発表）30%。この割合を基準として総合的に評価します。

期末課題等のフィードバックは授業の中で適宜行います。

### 【参考書】

参考資料（図書・DVD等）を授業の進行に応じ随時紹介します。

## 校外給食実習

富重 慶子

3年 通年 1単位

○：行動力

## 【授業のテーマ】

実習では、実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識および技術の統合を図り、給食業務の遂行に必要な食事計画や調理技術・提供（サービス）に関する給食の運営について学習する。

## 【授業における到達目標】

管理栄養士として具備すべき知識および技能全般を習得することを目標とし、課題を発見し問題解決につなげることができるようになる。

## 【授業の内容】

各給食施設における給食管理の実際を円滑に習得するため、実習前に学内で施設ごとの綿密な打ち合わせ・指導を受ける。また、実習終了後に学内で報告会を行い、実習施設以外の状況について理解を深める。

## I. 実習施設（以下の施設にて45時間の実習を行う）

学校  
事業所  
福祉施設

## II. 実習内容

1. 学内事前ガイダンス
2. 実習の実施目標・計画案作成
3. 実習施設での集中講義
4. 給食システムの見学
5. 対象者の把握・アセスメント
6. 献立作成
7. 食数管理
8. 食材料管理
9. 調理・配膳
10. 嗜好調査
11. 栄養教育資料作成
12. 実習報告書作成
13. 実習報告会プレゼンテーション
14. 実習報告会
15. まとめ

## 【事前・事後学修】

事前学修：学外施設での実習に向けて給食経営管理について復習し、実習目標・実習課題作成を行うこと。（学修時間：週30分）

事後学修：実習終了後は、実習内容を振り返り、実習記録を整理しまとめる。実習報告会に向けての資料作成し、プレゼンテーションの準備をすること。（学修時間：週30分）

## 【テキスト・教材】

臨地実習ノート、プリント、資料を配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート40%、作成報告書10%、実習先評価50%により評価する。

レポート返却時にコメントとともにフィードバックする。

## 【参考書】

『日本食品標準成分表（七訂）本表編』（医歯薬出版）本体1300円

『大量調理施設衛生管理のポイント』（中央法規）本体2400円

## 【注意事項】

- 1) 校外給食実習を行うに当たっては基礎調理1・2、食品学a・b、給食経営管理a・bを履修していることを原則とする。これらの単位を修得していない場合は実習を行えないことがある。
- 2) 実習開始初日に細菌検査証を提出していなければ実習できない。実習は体調を整えて、清潔な指定の着衣で行う。
- 3) 実習期間中に本人の不注意による事故や欠席等により、実習時間が規定に満たない場合は原則として再履修となる。
- 4) 単位認定のための実習費が必要となる。

**校正技術 I - a**

—縦組校正の基礎—

**境田 稔信**

1年 前期 1単位

○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

校正の基本である「原稿引き合わせ」（原稿と校正刷りをくれば合わせ、校正刷りの誤りを正す）ができるようになるための実習訓練を行います。

まず、校正記号の使い方、校正作業の流れを覚えます。そして、ひとつおりの縦組校正ができるようになることを目標として、実習課題を繰り返し行います。

**【授業における到達目標】**

縦組の「原稿引き合わせ」の訓練から、学修成果を実感して、自信を創出することができる。

**【授業の内容】**

1. 校正記号の使い方（『校正必携』249・256頁）
2. 実習課題1 字体についての解説（同72頁）
3. 実習課題2 いわゆる拡張新字体（同126頁）
4. 実習課題3 同音の漢字による書きかえ（同142頁）
5. 実習課題4 現代仮名遣い（同180・206頁）
6. 実習課題5 送り仮名の付け方（同193・207頁）
7. 実習課題6 縦組の数詞表記（同216頁）
8. 実習課題7 行頭・行末のきまり（同221頁）
9. 実習課題8 句読点・括弧類・記号類のアキ（同223頁）
10. 実習課題9 見出し・柱・ノンブルの組方（同227頁）
11. 実習課題10 注と引用文の組方（同228頁）
12. 実習課題11 欧字・欧文・数字・数式の組方（同229頁）
13. 実習課題12 調整の方法（同230頁）
14. 実習課題13 ルビの組方および調整（同232頁）
15. 実習課題14 外来語の表記（同283頁）

**【事前・事後学修】**

\*事前 『校正必携』の該当頁を読み、要点をノートにまとめてください。（週30分）

\*事後 実習課題で見落としした誤植や適切に直せなかった箇所をノートにまとめてください。（週30分）

**【テキスト・教材】**

『校正必携 第8版』（2011年）2,400円＋税

『校正練習帳1 タテ組編』（2008年）500円＋税

（以上の発行は日本エディタースクール出版部）

印刷文字スケール

赤ペン（細め〈0.4ミリ程度〉のゲルインク）※消せるペンは不可  
国語辞典

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業中に行う実習課題のうち、最後の2回分の平均点で評価します。

配分基準：期末試験100%

提出課題やテストは、すべて採点して返却します。

**【注意事項】**

実習課題は、実際の仕事を想定しています。次に作業する人（赤字にしたがって訂正する人）のことを考えて、ていねいで確実な作業ができるように、集中して取り組みましょう。

課題には、毎回少しずつ新しい要素が出現し、順を追って上のレベルへと進んでいきます。欠席しないように心がけ、欠席したときの課題は必ず自宅でやってください。

**校正技術 I - b**

—横組校正の基礎—

**境田 稔信**

1年 後期 1単位

○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

書物は縦組ばかりではなく、横組の本もたくさんあります。一般に横組の本では、縦組にはない要素が多く含まれるため、横組の校正には縦組とは異なる知識と技術が必要となります。

ここでは、横組校正の知識と技術を学びます。中級程度の横組校正の課題を通し、基礎から中級に向けた技術の習得を目指します。

横組で気をつけるべきポイントを身につけ、校正技能検定中級の横組課題がひとつおりのできるようにします。

**【授業における到達目標】**

横組の「原稿引き合わせ」から、学修の成果を実感して、自信を創出することができる。

**【授業の内容】**

1. 横組の種類と特性、横組の要素（第17章）
2. 横組の校正記号（第17章）
3. 横組の組方原則と調整（第18章）
4. 実習課題1 横組の数字の表記（第17章）
5. 実習課題2 欧字の立体・イタリック体・ボールド体
6. 実習課題3 コーテーションマーク（シングル、ダブル）
7. 実習課題4 行頭の括弧類の組方
8. 実習課題5 疑問符と感嘆符の組方
9. 実習課題6 %の組方、斜線（スラッシュ）の組方
10. 実習課題7 見出しの組方
11. 実習課題8 図表の置き方
12. 実習課題9 柱の組方—両柱、片柱、省略する場合
13. 実習課題10 単位記号の組方
14. 実習課題11 欧文の組方
15. 実習課題12 まとめ

**【事前・事後学修】**

\*事前 テキスト『校正技術4』の該当箇所を読み、要点をノートにまとめてください。（週30分）

\*事後 実習課題で見落とししたり適切に直せなかったりした箇所はノートにまとめてください。（週30分）

**【テキスト・教材】**

『校正練習帳2 ヨコ組編』（2011年）500円＋税

『校正技術4』（2012年）1,600円＋税

『校正必携 第8版』（2011年）2,400円＋税

（以上の発行は日本エディタースクール出版部）

印刷文字スケール

赤ペン（細め〈0.4ミリ程度〉のゲルインク）※消せるペンは不可

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業中に行う実習課題のうち、最後の2回分の平均点で評価します。また、授業中に行う小テストも加点要素とします。

配分基準：期末試験90%、小テスト10%

提出課題やテストは、すべて採点して返却します。

**【注意事項】**

横組校正は、縦組に比べて注意しなければならないことが多く、最初はむずかしく感じるかもしれません。実習課題は順を追って進んでいきます。欠席しないように心がけ、欠席したときは自宅で必ず実習課題をやってください。

## 校正技術Ⅰ－c

—縦組赤字確認と素読み—

境田 稔信

1年 後期 1単位

○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

前期で学習した理論と技術の基礎をふまえ、縦組校正のより高度な実習を行います。

現在の主流であるテキストデータで入稿された場合の校正は、原稿照合が要りません。原稿指定と原稿整理の赤字の確認をして、その後は読むだけです。

もともと原稿どおりの初校なので、赤字修正のミスや原稿自体のミスを探すことになります。頼りになるのは辞書しかありません。

### 【授業における到達目標】

「赤字確認」と「素読み校正」から、学修成果を実感して、自信を創出することができる。

### 【授業の内容】

1. 実習課題1 素読みの練習
2. 実習課題2 赤字確認のやり方
3. 実習課題3 素読み校正の要点
4. 実習課題4 同音・同訓の変換ミス
5. 実習課題5 用字用語の不統一
6. 実習課題6 禁則処理
7. 実習課題7 約物・記号の種類
8. 実習課題8 行頭の括弧類
9. 実習課題9 ルビの種類
10. 実習課題10 仮名遣い
11. 実習課題11 送り仮名
12. 実習課題12 ひらがなの脱字・衍字
13. 実習課題13 外来語
14. 実習課題14 数字・ローマ字
15. 実習課題15 まとめ

### 【事前・事後学修】

\*事前 繰り返し小テストを行います。予告に従って予習してください。(週30分)

\*事後 見落とししたり適切に直せなかったりした箇所は、ノートにまとめてください。(週30分)

### 【テキスト・教材】

『校正必携 第8版』(2011年) 2,400円＋税

『校正技術1』(2012年) 1,500円＋税

『校正技術2』(2012年) 1,100円＋税

『校正技術3』(2012年) 1,300円＋税

(以上の発行は日本エディタースクール出版部)

印刷文字スケール

赤ペン(細め〈0.4ミリ程度〉のゲルインク) ※消せるペンは不可  
国語辞典

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中に行う実習課題のうち、最後の2回分の平均点で評価します。また、授業中に行う小テストも加点要素とします。

配分基準：期末試験90%、小テスト10%

提出課題やテストは、すべて採点して返却します。

### 【参考書】

西谷裕子著『勘違いことばの辞典』(東京堂出版 2006年) 1,800円＋税

### 【注意事項】

とにかく国語辞典を引いてください。最初は時間がかかっても、経験が蓄積されていけば、徐々に勘所が分かってくるはずですよ。

欠席しないように心がけ、欠席したときは自宅で課題を必ずやってください。

## 校正技術Ⅱ

—校正技能検定合格を目指して—

境田 稔信

2年 前期 1単位

○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

縦組原稿照合と横組原稿照合の実習課題、そして縦組の素読み校正の実習課題と、実技を繰り返して行います。

「校正技術」の授業の総まとめとしてステップ・アップを図り、校正技能検定中級の実技問題合格を目指します。

### 【授業における到達目標】

校正のレベルアップを図り、学修成果を実感して、自信を創出することができる。

### 【授業の内容】

1. 縦組原稿照合1 組版指定
2. 横組原稿照合1 組版指定
3. 素読みの校正1 組版指定
4. 縦組原稿照合2 組方原則
5. 横組原稿照合2 組方原則
6. 素読みの校正2 組方原則
7. 縦組原稿照合3 ルビの付け方
8. 横組原稿照合3 ルビの付け方
9. 素読みの校正3 ルビの付け方
10. 縦組原稿照合4 表記の確認
11. 横組原稿照合4 表記の確認
12. 素読みの校正4 表記の確認
13. 縦組原稿照合5 誤植の種類
14. 横組原稿照合5 誤植の種類
15. 素読みの校正5 誤植の種類

### 【事前・事後学修】

\*事前 1年次にやった実習課題も振り返り、自分がどんなミスをしたのか、把握してください。(30分)

\*事後 見落とししたり適切に直せなかったりした箇所はノートにまとめ、同じミスを繰り返さないようにしてください。(30分)

### 【テキスト・教材】

『校正必携 第8版』(2011年) 2,400円＋税

『校正技術1』(2012年) 1,500円＋税

『校正技術2』(2012年) 1,100円＋税

『校正技術3』(2012年) 1,300円＋税

『校正技術4』(2012年) 1,600円＋税

(以上の発行は日本エディタースクール出版部)

印刷文字スケール

赤ペン(細め〈0.4ミリ程度〉のゲルインク) ※消せるペンは不可  
国語辞典

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中に行う実習課題のうち、最後の2回分の平均点で評価します。

配分基準：期末テスト100%

提出課題やテストは、すべて採点して返却します。

### 【参考書】

大西寿男著『校正のこころ』(創元社 2009年) 2,000円＋税

### 【注意事項】

ふだんから新聞・雑誌・書籍をよく読み、疑問点や不明箇所はすぐに調べたり、質問をしたりして知識を蓄えてください。

**校正理論 I**

—校正者に必要な知識 1—

**境田 稔信**

1年 前期 2単位

○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

校正の基本は原稿と校正刷りを見比べて校正刷りの誤りを正すことです。作業自体は単純ですが、なかなか完璧にできるものではありません。注意力や集中力を保って、地道な努力を重ねることが求められます。そのためには、用具をそろえ、知識を蓄え、さらに体調を万全にする必要があります。

**【授業における到達目標】**

校正の意義と内容を把握し、言葉や漢字・記号の意味・形・組方を正確に理解することにより、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることができる。

**【授業の内容】**

1. 校正とは何か（第1章）、校正記号の使い方（第3章）
2. 校正の順序と方法（第3章）
3. 縦組の組方原則（第10章）
4. ルビの組方（第10章）
5. 肩付きルビ（第10章）
6. 中付きルビ（第10章）
7. 用字用語 1 漢字（第12章）
8. 用字用語 2 仮名遣い（第12章）
9. 用字用語 3 送り仮名（第12章）
10. 用字用語 4 外来語とローマ字（第12章）
11. 用字用語 5 数字と単位（第12章）
12. 学科問題 1 編集・校正の知識
13. 学科問題 2 漢字の読み書き
14. 学科問題 3 誤字訂正
15. まとめ（組方原則・ルビ・用字用語）

**【事前・事後学修】**

- \*事前 テキスト（『校正技術1・2・3』）の該当箇所を読み、要点をノートにまとめてください。（週2時間）
- \*事後 授業でやった問題は次回にテストを行いますので、必ず復習してください。（週2時間）

**【テキスト・教材】**

- 『校正練習帳 1 タテ組編』（2008年）500円＋税
  - 『校正練習帳 2 ヨコ組編』（2011年）500円＋税
  - 『校正必携 第8版』（2011年）2,400円＋税
  - 『校正技術1』（2012年）1,500円＋税
  - 『校正技術2』（2012年）1,100円＋税
  - 『校正技術3』（2012年）1,300円＋税
  - 『校正技術4』（2012年）1,600円＋税
- （以上の発行は日本エディタースクール出版部）

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

最後に行う期末試験で評価します。また、授業中に行う小テストも加点要素にします。

配分基準：期末試験90%、小テスト10%

テストや提出課題は、すべて採点して返却します。

**【参考書】**

- 『校正記号の使い方 第2版』500円＋税
  - 『文字の組方ルールブック タテ組編』500円＋税
- （以上の発行は日本エディタースクール出版部）

**【注意事項】**

これから学ぶ校正のすべての基礎となるものです。この授業の学習が不十分だと、「校正技術I－a・b・c」「校正技術II」の学習に支障がおこります。欠席しないように心がけ、欠席したときは自宅で必ず課題をやってください。

**校正理論 II**

—校正者に必要な知識 2—

**境田 稔信**

2年 前期 2単位

○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

「校正理論I」「校正技術I－a・b・c」でやった縦組と横組の組方原則やルビの組み方を復習します。

さらに、漢字検定の問題を使って読み書き練習を行い、漢字の知識を増やしていきます。

校正技能検定中級で過去に出題された学科問題を使い、編集・校正や日本語の知識を深め、中級試験の学科問題合格を目指します。

**【授業における到達目標】**

校正に必要な知識を蓄えることにより、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることができる。

**【授業の内容】**

1. 基本用語、組方原則
2. 肩付きルビ、中付きルビ
3. 漢字講座 1 漢字の基礎
4. 漢字講座 2 部首
5. 漢字講座 3 音読み・訓読み
6. 漢字講座 4 書き取り
7. 漢字講座 5 類義語・対義語・四字熟語
8. 漢字講座 6 誤字訂正、同音・同訓
9. 漢字講座 7 熟語構成、送り仮名
10. 漢字講座 8 模擬テスト
11. 学科問題 1 計算方法
12. 学科問題 2 専門用語
13. 学科問題 3 漢字の種類
14. 学科問題 4 用字用語
15. まとめ（組方原則、ルビ、漢字講座）

**【事前・事後学修】**

- \*事前 授業で行った問題は次回にテストを行いますので、復習をしてください。（週2時間）
- \*事後 できなかった問題は、ミスを繰り返さないようにノートにまとめてください。（週2時間）

**【テキスト・教材】**

- 『校正必携 第8版』（日本エディタースクール出版部 2011年）2,400円＋税
- 国語辞典

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

最後の授業で期末試験を行います。また、授業中の小テストも加点要素にします。

配分基準：期末試験90%、小テスト10%

提出課題やテストは、すべて採点して返却します。

**【参考書】**

- 北原保雄監修『日本語使い方考え方辞典』（岩波書店 2003年）3,000円＋税

**【注意事項】**

1年次の学習を補い、基礎知識を完璧にします。できなかった問題は、次に同じような問題が出たときに必ずできるようにしてください。



**航空実務**

—航空・航空業界を知ることで「働く」を考える—

**沈 香順**

1年 後期 1単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探求

**【授業のテーマ】****自分自身をプロジェクト！**

LCCの台頭、新規事業や路線展開、空港での新たなサービスなど、航空業界を取り巻く環境は日々変わります。世界・経済情勢の変化が直結している業界でありインフラとしても社会的な責任も担っています。そして東京オリンピック・パラリンピックの開催控え航空会社はさらなる飛躍、展開をしようとしています。航空会社の取り組みや役割を学ぶことは航空業界、航空関連業界に就職を希望する学生に役立つ知識となります。

講義では「覚える」ことよりも自分で自分の将来を「考える」ことを重要視していきます。どんな自分になるために何をすべきかという【自分プロジェクト】を実施していきます。就職活動に直接的に活かせるレポート作りやポイントをアドバイスしていきます。

「働き方は生き方」です。女性が「ライフイベントに対応し続けるスキル」とはどういうことなのか、今がそれを考える時と捉え、自分を振り返り、就職活動に向けた準備・対策も行います。

**【授業における到達目標】**

主体的に考え行動する力

卒業後の進路に向け課題を発見する力をつけ、解決のための方法を考え、具体的な行動に移していくことを目指します。

美の探求

自立した女性を目指し、内面の豊かさを高めていきます。

**【授業の内容】**

- 第1週 航空業界概論
- 第2週 航空業界の今
- 第3週 航空の歴史と航空機の変遷
- 第4週 規制緩和とオープンスカイ
- 第5週 航空業界の国際ルール
- 第6週 LCCの台頭とFSCの役割
- 第7週 航空会社の業務に必要な知識（全般）
- 第8週 航空会社の業務に必要な知識（空港編）
- 第9週 実務—グランドスタッフ
- 第10週 実務—航空業界・各職務について①
- 第11週 実務—航空業界・各職務について②
- 第12週 観光業界との関り
- 第13週 航空業界就職のためのガイダンス
- 第14週 **【校外学習】** 空港見学  
(2019年1月19日羽田空港を予定)
- 第15週 まとめ・総括

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

航空業界に関する報道に関心を持つよう願います。適宜授業内で時事問題に関するグループディスカッションを行います。（学修時間、週1時間）

**【事後学修】**

授業内容の復習、専門用語などの理解を自主的に行うことを勧めます。

**【テキスト・教材】**

必要に応じプリント・教材等を用意します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業態度40%、レポート30%、授業内での小レポート30%

小レポートは個別返却時に、レポートについては最終授業内でフィードバックを行います。

**【注意事項】**

航空業界への就職希望にはこだわらず、「就職」を真剣に考える学生を対象とした講義です。前向きに取り組む熱意と向上心を望みます。2019年1月19日土曜日に校外実習・見学を予定していることを考慮して受講して下さい。

**行政法**

金津 謙

3年 後期 2単位

◎：行動力

**【授業のテーマ】**

国や地方公共団体のおこなう行政行為は、ゴミの問題や年金問題など私たちの日常生活に関するものはもちろん、原発の設置や再稼働、防衛や外交問題など国家全体の利益に関するものまで様々な問題に及んでいる。これら行政活動を行う法的根拠をまとめた法律が行政法である。

企業に勤務すると、頻繁に行政サイドと折衝を行う機会があることと思う。そのような場合、行政のルールを熟知していることが様々な交渉を円滑に進める前提となるのである。

**【授業における到達目標】**

行政法は行政に関わる法律を総称したものであり、「わかりにくい」分野と敬遠されがちであるが、極力具体的事例を用いて基本的概念や制度を解説し、最終的には公務員試験への一助となることを目的とする。すなわち、本学DPにおける学生が修得すべき「行動力」うち、課題を発見する力を修得することとなる。

**【授業の内容】**

1. 行政法とは何か
2. 行政主体とは
3. 行政機関とは
4. 法律による行政のコントロール
5. 手続きによる行政のコントロール
6. 行政処分
7. 行政指導
8. 強制制度
9. 行政不服申立 ①不服申立とは
10. 行政不服申立 ②裁定・決定
11. 行政事件訴訟 ①意義・沿革・訴訟類型
12. 行政事件訴訟 ②提起・審理過程・判決
13. 国家賠償法1条
14. 国家賠償法2条
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】小テスト・レポート・発表等の課題に取り組むこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】発表・小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

石川敏行他著『はじめての行政法 第3版補訂版』（有斐閣アルマ 2015年）1,800円 ※本教科書は頻繁に改訂されるので、開講時に改めて指示します。なお、広大な内容を15回の授業回数に圧縮するので受講の際には教科書が必須です。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業中の小テスト（30%）、中間テスト（30%）、期末テスト（40%）による総合評価。これらの合計点を100点満点とし、60点以上を合格とする。試験の結果は授業最終回にフィードバックする予定である。

**【参考書】**

適宜指示する。

**【注意事項】**

開講時に指示する。

**行動科学**

松浦 常夫

2年 前期 2単位

◎：行動力

**【授業のテーマ】**

行動科学は心理学、社会学、文化人類学等の社会科学と生物科学と統計学を基礎として、人間の行動を理解する学問です。ここでは主として心理学の観点から人間の行動の原因と仕組みについて考えていきます。

**【授業における到達目標】**

人の行動が生じる、きっかけ、プロセス、理由、その影響がどんなものか理解できるようになることを目標とします。

修得すべき「行動力という能力」のうち、課題発見と計画と行動を実践する力を修得する。

**【授業の内容】**

- 1 行動科学と心理学
- 2 動機づけの欲求論的アプローチ
- 3 内発的動機づけ
- 4 動機づけの認知論的アプローチ（目標）
- 5 動機づけの認知論的アプローチ（期待）
- 6 動機づけの情動論的アプローチ（感情）
- 7 感情の行動への影響
- 8 行動の決定因としての性格
- 9 行動の決定因としての態度
- 10 学習心理学（環境と行動）
- 11 学習による行動の習得と維持（条件づけ）
- 12 社会的学習（観察学習と模倣学習）
- 13 ルール志向行動
- 14 望ましくない行動を減らすための方法
- 15 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修 シラバスを見て予習する。(学修時間 週2時間)

事後学修 配布されたプリントを復習する。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

毎回プリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験60%、感想文・授業態度40%で評価します。

授業後の感想文の中に、共通して役立ちそうな質問があれば、それを次回に紹介、解説します。

**【参考書】**

奈須正裕 『やる気はどこから来るのか』（北大路書房 2002年）1,260円

**【注意事項】**

授業開始後10分以降に入室したり、授業に私語をしたりした場合は、原則的に欠席扱いとします。

## 香の文化

小畑 洋子

1・2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

香道は、室町時代の東山文化と共に成立した日本の伝統文化である。香りによって文学の世界を表現するもので、それには一定の作法があり、それに従い香木をたいて、その匂いを観賞するものである。

授業では、香の歴史や文学とのかかわり、香道で使用する香木の解説や、関連する日本の伝統文化について講義をし、演習として、お香をたき、香道を体験することにより、日本の伝統文化の一端を学ぶ。

### 【授業における到達目標】

日本の伝統文化である香道について理解するとともに、香席の心得を修得する。

香道の歴史や香道を通じた国際交流について学ぶことにより、国際的視野をもって美を探究する力を修得する。また、実際に香席を体験し、香席を自分たちで行ってみることによって、研鑽力、行動力及び協働力を修得する。

### 【授業の内容】

- 第1週 香道概説
- 第2週 香の歴史
- 第3週 香木について
- 第4週 文学と香道
- 第5週 源氏物語の香
- 第6週 香道具の説明、組香「三ちゅう小鳥香」
- 第7週 組香での作法、組香「菊合香」
- 第8週 組香での作法、組香「源氏香」
- 第9週 香道具の扱い方、組香「三夕香」
- 第10週 組香を楽しむ(1)、組香「桜香」
- 第11週 組香を楽しむ(2)、組香「星合香」
- 第12週 組香を楽しむ(3)、組香「時雨香」
- 第13週 組香を楽しむ(4)、組香「常磐香」
- 第14週 香席体験「鶴亀香」
- 第15週 「貝合わせ香」と貝合わせ

### 【事前・事後学修】

事前学修：毎回配布する資料を読んで予習する（週2時間程度）

事後学修：授業の内容を理解して当日の講義内容を復習する（週2時間程度）

### 【テキスト・教材】

テキストは、毎回プリントを配布する。

教材費1,500円（香木等消耗品代）。

詳細は、開講時に説明する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回レポート（香の感想等）、期末レポートの提出を求め、授業態度により総合的に評価する。

配点基準：レポート50%、平常点（授業態度）50%

毎回のレポートについては次回の授業において、期末レポートについては授業最終回においてフィードバックを行う。

### 【参考書】

適宜紹介する。

### 【注意事項】

受講人数制限30名（制限人数を超えた場合、抽選）。

演習では、白いソックスを各自用意し、受講にふさわしい服装とすること。香りの強いもの（香水等）は身につけないこと。直前に香辛料の強いものの飲食を避けること。

**高分子化学特論**

山崎 壮

食物栄養学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

生化学系学術論文を読むために必要な基本的タンパク質実験手法の基礎的知識を学ぶ。また、この分野では遺伝子発現解析や遺伝子工学的手法が多用されていることを踏まえ、分子生物学の基礎的知識も学ぶ。さらに、雑誌『実験医学』の記事を毎週ひとつずつ読み、生化学分野のトピックスに触れる。

**【授業における到達目標】**

自分が行っている研究または周辺領域の生化学系学術論文を読むために必要な、基礎レベルの知識を修得することをめざす。

**【授業の内容】**

- (1) タンパク質実験手法の基礎
- 第1回 タンパク質の抽出法  
 第2回 タンパク質の精製法  
 第3回 タンパク質のアミノ酸配列解析法  
 第4回 タンパク質、DNA等の生化学データベースの利用  
 第5回 抗体の利用1：抗体の基礎、抗体の作製法  
 第6回 タンパク質の電気泳動、ウェスタンブロッティング  
 第7回 抗体の利用2：抗体カラム、免疫沈降法、ELISA
- (2) 遺伝情報とその発現調節の基礎
- 第8回～14回は分子生物学に関する教科書の輪読と講義  
 毎回50ページ程度ずつ履修者が教科書の記載内容を要約した後、講義する。
- 第8回 細胞の構造、DNAの特徴  
 第9回 DNAの複製  
 第10回 転写  
 第11回 翻訳  
 第12回 遺伝子の発現制御1：原核生物  
 第13回 遺伝子の発現制御2：真核生物  
 第14回 遺伝子に関する最近の進歩（iPS細胞、ゲノム編集）
- (3) 学術論文紹介
- 第15回 履修者による生化学原著論文紹介

**【事前・事後学修】**

- (1) 前半の講義授業期間：授業後は、授業内容を復習して、疑問点や理解できなかった点を確認し、次回の授業時に質問できるようにする。（学修時間：週2時間）
- (2) 後半の輪読授業期間：担当部分の内容紹介ができるように準備する。（学修時間：週2時間）
- (3) 毎回の宿題：雑誌『実験医学（羊土社）』から履修者が記事の一つ選んで読み、次回の授業の冒頭に、約10分間で記事のポイントを解説する。（学修時間：週2～3時間）

**【テキスト・教材】**

- 第1回～第7回：講義資料を配付する。  
 第8回～第14回：輪読用教科書候補（例示）  
 井出利憲著、よくわかる分子生物学 第2版（秀和システム、2015年）2,500円＋税  
 履修者の希望を踏まえて輪読用教科書を決める。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業への取り組み（学習意欲、質疑応答）50%、宿題・輪読・論文紹介での発表50%  
 履修者の授業中の発表内容は、その場で講評する。

**【参考書】**

- 第1回～第7回の参考書  
 岡田 雅人、宮崎 香 編、タンパク質実験ノート 改訂第4版 上巻 および下巻（羊土社、2011年）、各4,000円＋税 など

**【注意事項】**

生化学系の実験系研究を行う大学院生を対象とした授業内容を予定している。

**国語**

ことば（日本語）の教育と子どもの言語発達・学習

南雲 成二

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

**【授業のテーマ】**

（目的）0歳から12歳までの子どもたちの言語生活に寄り添いながら言語学習を導き、言語力の発達支援を推進する保育士、幼稚園教諭、小学校教諭にふさわしい国語力（＝日本語力）を養うことを目的に、言語と表現・理解に関する諸課題を考察する。

（目標）言語活動に必要な国語力を分析する能力を養い、自らの国語力を内省し、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭にふさわしい国語力を総合的に養うことをめざし、言語と表現、言語と理解に関わる課題を考察する。

1. 国語（＝日本語）に関する基礎的事項について知識を整理する。
2. 言語活動に必要な国語力を分析する。  
（話し言葉＝音声言語、書き言葉＝文字言語の両面から）
3. 言語活動に関する興味・関心を深める。  
（oracy、literacyの両面から）
4. 課題に意欲的に取り組み、主体的な言語学習を深める。
5. 課題に関わる「話すこと・聞くこと・書くこと・読むこと」の言語活動をより確かに、より豊かに展開することができる。

**【授業における到達目標】**

授業のテーマと「到達目標」は深く関連する。①国語（日本語）教育に関する基本的内容について知ることができるようになる。②言語活動に必要な国語力を理解し、その内容を子どもの発達段階的に即してとらえることができるようになる。③言語活動や言語学習への興味・関心、意欲の喚起やその為の支援・指導の要点を掴むことができるようになる。④自分自身の言語能力の実態把握を進め、課題点に取り組むことができるようになる。また、学生が修得すべき「国際的視点」のうち、①日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度を育む。併せて「行動力」のうち特に①現状を正しく把握し、課題を発見できる力を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1回 オリエンテーション「ことば・コトバ・言葉」「言語・日本語・国語」「ことばとこころとわたし」
- 第2回 「言語生活・言語文化・言語体験・言語の学習と発達」  
（グループワーク含む）
- 第3回 『日本語上・下』（I）世界の中の日本語
- 第4回 （II）発音から見た日本語 ①発音の単位、母音・子音
- 第5回 （II）発音から見た日本語 ②拍の種類、旋律とリズム
- 第6回 私の好きな「歌・詩」を窓口に、言語生活文化・言語教育について考える。オノマトペの可能性を探る
- 第7回 （III）語彙から見た日本語①数と体系、語彙の構成、形態
- 第8回 （III）語彙から見た日本語②語彙の5ジャンル
- 第9回 （III）語彙から見た日本語③単語の成立、愛用語句
- 第10回 （IV）表記法から見た日本語
- 第11回 （V）文法から見た日本語（一）日本語の文法とその単位
- 第12回 （VI）文法から見た日本語（二）センテンスとその種類
- 第13回 （VII）日本人の言語表現と『日本語の教室』第二部  
「日本語と日本の文明、その過去と将来」
- 第14回 保育園・幼稚園・小学校と「ことばの教育」について
- 第15回 学習のまとめ（グループワーク&小テスト含む）

**【事前・事後学修】**

【事前学修】授業内容の各回ごとに、小テスト、要約・要点整理、レポート・発表等の課題に取り組む。（学修時間 週2時間）

【事後学修】小テストや発表、レポートやワークシート等の内容を復習すること。次回の授業範囲（テキストと対応）を予習し、子どもと言語発達、日本語（国語）学修と子どもの言語生活について理解を深め、自分なりの見解をまとめておく。

（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

- ・金田一春彦著『日本語 新版（上・下）』（岩波新書第1刷1988

年 上840円＋税、下860円＋税）

- ・岡本夏木著『子どもとことば』『幼児期』（岩波新書 第1刷発行年1982年、2005年 それぞれ778円、842円）
- ・幼稚園教育要領・小学校学習指導要領2008版と2017年版比較対照表（文部科学省HP2017.4）
- ・必要に応じて小学校『国語教科書』等のプリントやワークシート新聞コラム等を用いることもある。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への積極的な参加及び発表・交流学习への参加態度）40%、課題レポートや小テスト等60%、により総合的に評価する。実施した小テストは次回授業、課題レポートや試験は最終授業で解説し、フィードバックを行う。

**【注意事項】**

レポート提出は厳格に厳守してください。お互いに真摯に課題と取り組んだ学習記録が、「手作り学習材・教材」としてグループワーク等に活用されます。

## 国語科教育法（1）

渡邊 重人

2年 後期 2単位

## 【授業のテーマ】

生徒が明確な目的意識を持ち、自ら考え、学ぶための支援となる教育法を身に付けることを目的とする。具体的には、国語科における主体的・能動的な学びを促す基盤となる技術について事例研究をし、その技術の修得を目指す。

## 【授業における到達目標】

- 1 授業構想の基盤となる教材研究ができるようになる。
- 2 学習指導要領に基づく学習指導案を作成し、生徒の主体的・能動的な学びを促す授業ができるようになる。

## 【授業の内容】

- 第1週 学習指導用語についての確認
- 第2週 教材研究の方法についての確認
- 第3週 学習指導要領についての確認
- 第4週 学習指導案作成についてⅠ（『少年の日の思い出』）
- 第5週 学習指導案作成についてⅡ（単元設定について）
- 第6週 学習指導案作成についてⅢ（単元の目標・評価規準）
- 第7週 学習指導案作成についてⅣ（指導および評価の計画）
- 第8週 学習指導案作成についてⅤ（本時の展開）
- 第9週 古典の学習指導（中学・古文）についての研究
- 第10週 古典の学習指導（中学・漢文）についての研究
- 第11週 情報の扱い方の学習指導についての研究
- 第12週 説明的な文章の学習指導についての研究
- 第13週 映像視聴による授業分析（群読『河童と蛙』）
- 第14週 映像視聴による授業分析（ディベート）
- 第15週 映像視聴による授業分析（パネルディスカッション）

## 【事前・事後学修】

【事前学修】テキストの通読、常用漢字の筆順の確認をし、小テストに備えること。全国の教育研究所・センター等から該当教材の実践例を収集し、熟読すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】事例研究を基に授業構想をまとめること。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

- 文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編』（東洋館出版社 2008年）144円
- 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 国語編』（教育出版 2010年）305円

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学習指導案50%、平常点50%（提出物10%・小テスト20%・授業に対する積極性20%）として総合的に評価する。小テストは次回授業、学習指導案は評価後、フィードバックする。

## 【参考書】

文部科学省『言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～中学校版』（教育出版 2012年）605円

文部科学省『言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～高等学校版』（教育出版 2014年）1620円

新学習指導要領解説『国語編』（予定）

## 【注意事項】

小テスト（学習指導要領と筆順）は第12～14週に実施予定。学習指導案の教材は『流れメロス』を予定。また、古典の学習指導（高校）、作文指導については国語科教育法（4）で扱う。新学習指導要領解説は、書籍版刊行までは文部科学省のホームページを参照すること。

## 国語科教育法（2）

新藤 久典

3年 前期 2単位

## 【授業のテーマ】

○国語科教育の現状と課題を理解し、国語科教師に求められる実践的指導力を身に付け、高めることを目標とする。そのため、中央教育審議会答申、学習指導要領の理解の深化、教材研究力・授業展開力等の獲得を目指す。

○自ら課題を見つけ、解決する方策を考え、他者と協働してよりよく解決を図る学習過程を体験することにより、教師に求められる実践的指導力を身に付け、高めることを目指す。

○発表や討議等を通して、学校教育における国語科の果たす意義・役割を理解し、直面する課題を解決するための具体的方策を、協働して考える。

## 【授業における到達目標】

- ①中央教育審議会答申等を研究し、国語教育の課題を分析し、その解決のための具体的な方策を協働して考えられるようになる。
- ②そのため、教材研究の方法を学び、適切な授業を構想できるようにする。
- ③「主体的・対話的で深い学び」を通して、学生が修得すべき「行動力」のうち課題発見力、「協働力」のうち、人間関係形成力、問題解決力を高める。

## 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンスー国語科教育の現状についてフリー・ディスカッション
- 第2週 国語科教育の課題①ー現行学習指導要領の成果と課題
- 第3週 国語科教育の課題②ー新・中学校学習指導要領の理解
- 第4週 国語科教育の課題③ー新・高等学校学習指導要領の理解
- 第5週 指導と評価の一体化①ー理論の理解
- 第6週 指導と評価の一体化②ー実践の課題の理解
- 第7週 教材研究・学習指導案の作成①ー単元の指導計画、言語活動
- 第8週 教材研究・学習指導案の作成②ー評価規準と評価方法
- 第9週 教材研究・学習指導案の作成③ー発問計画と板書計画
- 第10週 指導案作成の実際①ー文学的な文章
- 第11週 指導案作成の実際②ー説明的な文章
- 第12週 指導案作成の実際③ー古典
- 第13週 授業の展開①ー発問の工夫
- 第14週 授業の展開②ー板書の工夫、ワークシートの工夫
- 第15週 まとめー教育実習に向けて準備すること

## 【事前・事後学修】

《事前学修》

・中央教育審議会答申（2016/12/22）及び新学習指導要領を読み込むこと。教科書教材を分析すること。（学修時間 週2時間）

・国立教育政策研究所「教育情報共有ポータルサイト」から全国の優れた実践例を収集し、研究すること。（学修時間 週1時間）

《事後学修》

・授業で配付された資料等を参考にし、学習指導案を作成すること（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

○「中学校学習指導要領解説『国語編』」（文部科学省。東洋館出版147円。2008/9）

○「高等学校学習指導要領解説『国語編』」（文部科学省。教育出版313円。2009/11）

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

○課題レポート30%、学習指導案と模擬授業30%、リアクション・ペーパー20%、発表と討議参加20%

○課題レポート、リアクション・ペーパーは採点、添削し、次時に返却し、解説を行う。

## 【参考書】

○「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料『中学校国語』」（国立教育政策研究所。教育出版372円。2011/11）

○「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料『高等学校国語』」（国立教育政策研究所。教育出版1026円。2012/7）

### 【注意事項】

本講義は、教師を目指す人のための授業である。授業態度については厳しく指摘するとともに、協働学習への積極的参加を強く求める。

## 国語科教育法（3）

新藤 久典

3年 後期 2単位

### 【授業のテーマ】

○新しい学習指導要領が告示され、「主体的・対話的で深い学び」「カリキュラム・マネジメント」など新たな課題が提示され、特に国語科教育に課される課題は大きく、正対して受け止めることが求められている。そうした時代の要請を肌で感じ、実践的指導力を高めるため、討議や模擬授業等を通して、国語科教師に求められる資質・能力の向上を図る。

○発表や討議等を通して、学校教育における国語科の意義、果たす役割を理解し、直面する課題を解決するための具体的方策を協働して練り上げる。

### 【授業における到達目標】

○新しい学習指導要領が求める授業改善の内容を深く理解し、模擬授業等を通して、授業展開力を高める。

○指導と評価の一体化を、模擬授業等を通して実践し、その在り方を理解し、指導計画・評価計画が適切に立案できる力を身に付ける。

○主体的・対話的で深い学びの実践を通して、学生が修得すべき「行動力」のうち課題発見力、「協働力」のうち人間関係形成力、問題解決力を獲得する。

### 【授業の内容】

第1週 ガイダンスー国語科教育に課された課題の解決策についてフリー・ディスカッション

第2週 国語科養育の課題①ー現行の学習指導要領「国語」の成果と課題

第3週 国語科教育の課題②ー中央教育審議会答申が示す国語科の課題

第4週 国語科教育の課題③ー新しい学習指導要領が求める国語科教育の改善

第5週 授業展開力の育成①ー中学校「話すこと・聞くこと」の授業

第6週 授業展開力の育成②ー中学校「書くこと」の授業

第7週 授業展開力の育成③ー中学校「読むこと」の授業

第8週 授業展開力の育成④ー高等学校「国語総合」の授業

第9週 授業展開力の育成⑤ー高等学校「現代文A」の授業

第10週 授業展開力の育成⑥ー高等学校「現代文B」の授業

第11週 授業展開力の育成⑦ー高等学校「古典A」の授業

第12週 授業展開力の育成⑧ー高等学校「古典B」の授業

第13週 授業展開力の育成⑨ー高等学校「国語表現」の授業

第14週 授業展開力の育成⑩ー指導計画・評価計画の作成

第15週 まとめー教育実習に備えて

### 【事前・事後学修】

《事前学修》

・中央教育審議会答申（2016/12/22）及び新学習指導要領を読み込むこと。教科書教材を研究すること。（学修時間 週2時間）

・全国の先進的研究の成果を収集し、研究すること。（学修時間 週1時間）

《事後学修》

・教材研究と学習指導案、教材・教具の作成（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

○「中学校学習指導要領解説『国語編』」（文部科学省。東洋館出版147円。2008/9）

○「高等学校学習指導要領解説『国語編』」（文部科学省。教育出版313円。2009/11）

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

○課題レポート30%、学習指導案と模擬授業30%、リアクション・ペーパー20%、発表と討議参加20%

○課題レポート、リアクション・ペーパーは採点、添削し、次時に返却し、解説を行う。

**【参考書】**

- 「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料『中学校国語』」（国立教育政策研究所。教育出版372円。2011/11）
- 「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料『高等学校国語』」（国立教育政策研究所。教育出版1026円。2012/7）

**【注意事項】**

本講義は、教師を目指す人のための授業である。授業態度については厳しく指導するとともに、協働学習への積極的参加を強く求める。

**国語科教育法（４）**

渡邊 重人

3年 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

本講義は、生徒の主体的・能動的な学びを促すための指導法の修得ならびに国語科の教師を志す者としての意識を高めることを目的とする。なお、教育時事についても適宜扱う。

**【授業における到達目標】**

- 1 計画的な授業構想に基づく授業ができるようになる。
- 2 生徒の主体的・能動的な学びを促す授業ができるようになる。

**【授業の内容】**

- 第1週 授業用台本作成についての確認
- 第2週 授業分析Ⅰ（授業参観のポイント）
- 第3週 授業分析Ⅱ（机間指導と補助的発問の分析）
- 第4週 授業分析Ⅲ（授業構想の分析）
- 第5週 クリティカル・シンキングを用いた授業の組み立て方
- 第6週 評論文の学習指導についての事例研究『水の東西』
- 第7週 コンセンサス・ゲームの実践
- 第8週 パラグラフ・ライティングを用いた作文指導Ⅰ（パラグラフ・ライティングの基本を学ぶ）
- 第9週 パラグラフ・ライティングを用いた作文指導Ⅱ（アクティブ・ラーニングで作文を書く）
- 第10週 パラグラフ・ライティングを用いた作文指導Ⅲ（アクティブ・ラーニングで小論文を書く）
- 第11週 パラグラフ・ライティングを用いた作文指導Ⅳ（小論文カンファレンスを実施する）
- 第12週 古典の学習指導（高校）についての事例研究
- 第13週 ジグソー法についての事例研究『山月記』
- 第14週 詩歌の学習指導についての事例研究『永訣の朝』
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】テキストの通読、常用漢字の筆順の確認をし、小テストに備えること。全国の教育研究所・センター等から該当教材の実践例を収集し、熟読すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】事例研究を基に授業構想をまとめること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編』（東洋館出版社 2008年）144円

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 国語編』（教育出版 2010年）305円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業用台本50%、平常点50%（提出物10%・小テスト20%・授業に対する積極性20%）として総合的に評価する。小テストは次回授業、授業用台本は評価後、フィードバックする。

**【参考書】**

文部科学省『言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～中学校版』（教育出版 2012年）605円

文部科学省『言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～高等学校版』（教育出版 2014年）1620円

新学習指導要領解説『国語編』（予定）

**【注意事項】**

小テスト（学習指導要領と筆順）については第12～14週に実施予定。授業用台本の教材は授業時に指示する。新学習指導要領解説は、書籍版刊行までは文部科学省のホームページを参照。



## 国語学演習 a 1

－話し言葉資料としての『会話篇』の読み方－

湯浅 茂雄

3年～ 前期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

アーネスト・サトウ (Sir Ernest Mason Satow) の『会話篇 (KUAIWA HEN)』(明治6年刊)を取り上げる。本資料は幕末・明治初期の話し言葉資料として第一級の価値を持つ。本資料を受講者各自の興味から読み解くことで、国語学分野の卒業論文作成に向けて、問題意識を豊かにするとともに、先行研究に目を配りながら、テーマの焦点を絞り、関連文献を含めて用例を収集し、分析し考察を加え、結論を導く過程を学ぶ。さらに、口頭発表の資料作成、発表・質疑応答の要領、レポート・論文作成の基本的な技術を身につけることを目的とする。

### 【授業における到達目標】

日本語の歴史に関する演習を通して、問題点を正しく把握し(行動力)、互いに協力して物事を進める能力(協働力)を修得するとともに、物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度(美の探究)を養うことを目的とする。

### 【授業の内容】

- 第1週 導入(演習の進め方)
- 第2週 話し言葉資料としての『会話篇』・EXERCISE 1を例として翻字の方針と着眼点(受講者担当部分の振り分けを含む)
- 第3週 アーネスト・サトウとその業績
- 第4週 西洋人の国語研究(W.G.アストン、B.H.チェンバレンを中心に)
- 第5週 近代語研究の資料
- 第6週 近代語研究の現状と問題点
- 第7週 発表と質疑応答(EXERCISE 2・3・4)
- 第8週 発表と質疑応答(EXERCISE 5・6・7)
- 第9週 発表と質疑応答(EXERCISE 8・9・10)
- 第10週 発表と質疑応答(EXERCISE 11・12・13)
- 第11週 発表と質疑応答(EXERCISE 14・15・16)
- 第12週 発表と質疑応答(EXERCISE 17・18・19)
- 第13週 発表と質疑応答(EXERCISE 20・21・22)
- 第14週 発表と質疑応答(EXERCISE 23・24・25)
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】シラバスを参考にして授業前に配布プリントを読んでおき、疑問点を整理しておく。(学修時間 週2時間)

【事後学修】講義内容を復習し、疑問点が解決したかを確認する。また、次週の授業範囲について配布プリントでの予習、疑問点の整理を行う。(学修時間 週2時間)

### 【テキスト・教材】

プリントを使用する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業数の3分の2以上の出席を前提として、発表30%、授業への取り組み(授業態度・質疑応答・提出物)30%、最終レポート40%で評価する。

### 【参考書】

適宜紹介する。

### 【注意事項】

第1回目の授業に出席しない場合、受講を認めない。

## 国語学演習 a 2

－話し言葉資料としての『会話篇』の研究－

湯浅 茂雄

3年～ 後期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

アーネスト・サトウ (Sir Ernest Mason Satow) の『会話篇 (KUAIWA HEN)』(明治6年刊)を取り上げる。本資料は幕末・明治初期の話し言葉資料として第一級の価値を持つ。本資料を受講者各自の興味から読み解くことで、国語学分野の卒業論文作成に向けて、問題意識を豊かにするとともに、先行研究に目を配りながら、テーマの焦点を絞り、関連文献を含めて用例を収集し、分析し考察を加え、結論を導く過程を学ぶ。さらに、口頭発表の資料作成、発表・質疑応答の要領、レポート・論文作成の基本的な技術を身につけることを目的とする。

### 【授業における到達目標】

日本語の歴史に関する演習を通して、問題点を正しく把握し(行動力)、互いに協力して物事を進める能力(協働力)を修得するとともに、物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度(美の探究)を養うことを目的とする。

### 【授業の内容】

- 第1週 導入(演習の進め方)・話し言葉資料としての『会話篇』・近代語研究の資料と研究の現状
- 第2週 発表と質疑応答(EXERCISE 1・2)
- 第3週 発表と質疑応答(EXERCISE 3・4)
- 第4週 発表と質疑応答(EXERCISE 5・6)
- 第5週 発表と質疑応答(EXERCISE 7・8)
- 第6週 発表と質疑応答(EXERCISE 9・10)
- 第7週 発表と質疑応答(EXERCISE 11・12)
- 第8週 発表と質疑応答(EXERCISE 13・14)
- 第9週 発表と質疑応答(EXERCISE 15・16)
- 第10週 発表と質疑応答(EXERCISE 17・18)
- 第11週 発表と質疑応答(EXERCISE 19・20)
- 第12週 発表と質疑応答(EXERCISE 21・22)
- 第13週 発表と質疑応答(EXERCISE 23・24)
- 第14週 発表と質疑応答(EXERCISE 25)
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】シラバスを参考にして授業前に配布プリントを読んでおき、疑問点を整理しておく。(学修時間 週2時間)

【事後学修】講義内容を復習し、疑問点が解決したかを確認する。また、次週の授業範囲について配布プリントでの予習、疑問点の整理を行う。(学修時間 週2時間)

### 【テキスト・教材】

プリントを使用する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業数の3分の2以上の出席を前提として、発表30%、授業への取り組み(授業態度・質疑応答・提出物)30%、最終レポート40%で評価する。

### 【参考書】

適宜紹介する。

### 【注意事項】

第1回目の授業に出席しない場合、受講を認めない。

**国語学演習 b 1**

「3年次の壁」を乗り越えるためのスキルを身に付ける

福嶋 健伸

3年～ 前期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

3年次では、大学での研究（演習や論文執筆等）が本格化すると同時に、就職活動が始まる。両者をうまく両立させるために、本授業では、次の5つのスキルと知識を身に付ける。

- 1：卒業論文執筆と就職活動を、うまく両立できるスケジュールを組めるようになる。
- 2：卒業論文のテーマを探す方法が分かり、先行研究を探して、入手できるようになる。
- 3：卒業論文の体裁を理解する。
- 4：先行研究を読む際に注意すべき点があり、先行研究では分からないことは何か検討できるようになる。
- 5：卒業論文で行う調査をデザインできるようになる。

**【授業における到達目標】**

この授業の到達目標は、先の目的で述べたとおりである。

次に、ディプロマ・ポリシーとの関連を述べる。本授業では、学生が修得すべき「態度」のうち、「多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度」と「物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度」を修得する。また、学生が修得すべき「能力」のうち、「目標を設定して、計画を立案・実行できる能力」と「プロセスや成果を正しく評価し、問題解決につなげることができる能力」を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 本授業の目標を確認する＋上手な意見交換の方法を学ぶ
- 第2週 実際の卒業論文を読んでイメージをつかむ
- 第3週 有意義な計画の立て方入門：逆算して計画を立てる
- 第4週 卒業論文執筆と就職活動をうまく両立できるスケジュールを考える
- 第5週 堅実で安全な卒業論文執筆計画を立てる
- 第6週 卒業論文のテーマの探し方を学ぶ：多読の実践
- 第7週 先行研究の探し方を学ぶ：検索する際のありがちなミスとは？
- 第8週 先行研究の探し方を実践する：「お得な」検索方法と図書館の利用 ※図書館とのコラボ授業になります。
- 第9週 リサーチリテラシーを学ぶ：信用できるデータと、信用できないデータの見分け方
- 第10週 卒業論文の体裁を学ぶ：どこに何が書いてあるか
- 第11週 先行研究を読解する
- 第12週 先行研究の内容をまとめる
- 第13週 先行研究では分からないことを明らかにするための調査を考える：ブレインストーミング
- 第14週 現実的な調査をデザインする：非現実的な調査とは？
- 第15週 アンケートの取り方を学ぶ＋まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。

（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業の内容を復習し、自分で課題を完成させる（あるいは、実践してみる）こと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

福嶋健伸他著『大学生のための日本語表現トレーニング 実践編』（三省堂、2009年）1900円＋税、適宜、プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業数の3分の2以上の出席を前提とした上で、提出物60％・平常点（積極的参加）40％で判断する。

提出課題は授業中にフィードバックを行う。

**【参考書】**

授業において指示をする。

**【注意事項】**

【重要】前期（国語学演習b1）・後期（国語学演習b2）ともに、授業の内容を論文化する可能性がある。また、それらの結果をまとめて出版する可能性もある。よって、本授業の履修者は、「提出物に関する一切の権利（著作権等を含む）が教員（福嶋）に帰属すること」を了解したものと考え、書類に署名をしてもらうことになる。この点を踏まえた上で、履修登録を行ってほしい。

提出物の比重が大きいため、出席には気をつけること。概ね3～4回の欠席で不可となる。

**国語学演習 b 2**

実践女子大学版『竹取物語』を作成する

福嶋 健伸

3年～ 後期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

目的：古文文法と国語学的な資料に親しみ、資料への理解を深めることで、古典語の体系と近代語の体系の違いを理解する。

概要：『竹取物語』を教材として、履修者全員で、実践女子大学版『竹取物語』を作成する。

**【授業における到達目標】**

この授業の到達目標は、先の目的で述べたとおりである。

次に、ディプロマ・ポリシーとの関連を述べる。本授業では、学生が修得すべき「態度」のうち、「日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度」と「人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度」を修得する。また、学生が修得すべき「能力」のうち、「学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることができる能力」を修得する。

**【授業の内容】**

学生の発表、質疑応答、討論など学生主体の演習を展開する。なお、各学生の発表内容や発表方法等（グループ発表か否か等）は、受講者数を考慮し、適切な方法を選択する。

- 第1週 本授業の目標の確認と授業の説明
- 第2週 資料の読解1（かぐや姫の誕生）
- 第3週 資料の読解2（貴公子の求婚）
- 第4週 資料の読解3（帝登場）
- 第5週 資料の読解4（かぐや姫の憂鬱）
- 第6週 資料の読解5（昇天）
- 第7週 実践女子大学版『竹取物語』の発表1（担当1の発表）
- 第8週 実践女子大学版『竹取物語』の発表2（担当2の発表）
- 第9週 実践女子大学版『竹取物語』の発表3（担当3の発表）
- 第10週 実践女子大学版『竹取物語』の発表4（担当4の発表）
- 第11週 実践女子大学版『竹取物語』の発表5（担当5の発表）
- 第12週 実践女子大学版『竹取物語』の発表6（担当6の発表）
- 第13週 実践女子大学版『竹取物語』の発表7（担当7の発表）
- 第14週 実践女子大学版『竹取物語』の発表8（担当8の発表）
- 第15週 質疑応答とまとめ

※第7週～第14週は、学生の発表である。

**【事前・事後学修】**

【事前学修】担当箇所の現代語訳等を、くずし字の文章にすること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業で指摘されたことを復習し、再度、くずし字の文章を作成すること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを使用する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業数の3分の2以上の出席を前提とした上で、発表の内容・体裁を60%で評価し、平常点（授業への積極的参加・提出課題）を40%として評価する。発表や提出課題は、授業中にフィードバックを行う。

**【参考書】**

授業中に指示をする。

**【注意事項】**

【重要】前期（国語学演習b1）・後期（国語学演習b2）ともに、授業の内容を論文化する可能性がある。また、それらの結果をまとめて出版する可能性もある。よって、本授業の履修者は、「提出物に関する一切の権利（著作権等を含む）が教員（福嶋）に帰属すること」を了解したものと考え、書類に署名をしてもらうことになる。この点を踏まえた上で、履修登録を行ってほしい。

授業では、主に、フォトショップを使用する。

なお、受講生の興味にあわせて、内容を変更する場合がある。

**国語学概論 a**

—efクラス 日本語とはどのような言語か—

湯浅 茂雄

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

**【授業のテーマ】**

この授業は国語（日本語）とはどのような言語であるかを知り、国語を言語として研究するとはどういうことか、何が問題となり、どのような研究分野があるのかを学ぶことを目的とする。

前期は、音声・音韻、文字・表記、方言・共通語を中心に学ぶ。

**【授業における到達目標】**

日本語の姿を学ぶことを通して、学ぶ楽しさを知り、生涯、学び続ける能力（研鑽力）を修得するとともに、物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度（美の探究）を養うことを目的とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 導入 授業の進め方・日本語の研究（国語学）とは
- 第2週 音声・音韻（1）音声と音韻、音声記号
- 第3週 音声・音韻（2）現代日本語の音節、共通語の音声の特徴
- 第4週 音声・音韻（3）現代日本語のアクセント
- 第5週 音声・音韻（4）音韻の変遷
- 第6週 文字・表記（1）文字の種類、現代日本語の表記体系
- 第7週 文字・表記（2）漢字
- 第8週 文字・表記（3）仮名
- 第9週 文字・表記（4）仮名遣いと国語国字問題
- 第10週 方言・共通語（1）方言、共通語とは
- 第11週 方言・共通語（2）方言・共通語を研究する学問
- 第12週 方言・共通語（3）日本語地区
- 第13週 方言・共通語（4）方言区画
- 第14週 方言・共通語（5）諸方言の特徴
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】シラバスを参考にして授業前に教科書で授業範囲相当箇所を読んでおき、疑問点を整理しておく。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義内容を復習し、疑問点が解決したかを確認する。また、次週の授業範囲について教科書での予習、疑問点の整理を行う。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

佐伯哲夫・山内洋一郎編『国語概説』（和泉書院、1983年）  
1700円＋税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業数の3分の2以上の出席を前提として、期末筆記試験60%、授業への取り組み（授業への参加態度・提出物）40%で評価する。最終週に期末テストを返却し、採点結果、評価基準をフィードバックする。

**【参考書】**

授業時に適宜紹介する。

**【注意事項】**

第1回の授業で説明する。

**国語学概論 a**

ーabクラス 言葉を研究するとは、どういうことかー

福嶋 健伸

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

**【授業のテーマ】**

目的：国語学（日本語学）の研究を行う上で必要な基礎知識を修得することである。

概要：言葉とは何か、日本語はどのような言語か、国語学（日本語学）とはどのような学問で、どのような研究分野があるのか等を具体的な例をもとに学んでいく。最初は、言語全般に見られる特徴について講義し、その後、日本語に見られる特徴について講義する。これらの基礎を押さえた上で、国語学の各分野の基礎知識を講義していく。詳しくは、「授業の内容」を参照のこと。

**【授業における到達目標】**

この授業の到達目標は、先の目的で述べたとおり、国語学（日本語学）の研究を行う上で必要な基礎知識を修得することにある。

次に、ディプロマ・ポリシーとの関連を述べる。本授業では、学生が修得するべき「態度」のうち、「人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度」を修得する。また、学生が修得するべき「能力」のうち、「学ぶ楽しみを知り、生涯にわたる知を探究し、学問を続けることができる能力」を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 言語の起源：ワンワン説、ヤッコラサ説とは何か？
- 第2週 言語の平等性と臨界期：狼少女（？）アマラとカマラ、ミッシングリンクの謎
- 第3週 人間言語の特徴1：あなたはサンタクロースを信じますか？
- 第4週 人間言語の特徴2：ベルベットの言葉と人間言語の違い
- 第5週 人間言語の特徴3：オウムの「オハヨウゴザイマス」は人間の挨拶とどう違う？
- 第6週 日本語の特徴1：日本語は特殊な言語なのか、平凡な言語なのか？
- 第7週 日本語の特徴2：日本語を話している人の人数は、世界の言語の中で何番目？
- 第8週 日本語の特徴3：国語学のロマン—日本語の起源を求めて—
- 第9週 国語学と日本語学：第1回国語学会の会場は東京大学でした。第1回日本語学会の会場はどこでしょうか？皆さんのよく知っている大学です。
- 第10週 語彙と表記：「十日（とうか）前、田中（たなか）さんに、稲妻（いなずま）が落ちた」は正しいか？
- 第11週 語彙と役割語：「わしは、博士じゃ」と本当に知っている博士はいるのか？
- 第12週 語彙と古辞書：スクープ！1000年前にも人魚がいた！いや、しかし……
- 第13週 言語生活とその周辺：「お兄さん」と呼びかけるのは大丈夫。「弟」と呼びかけるのは？
- 第14週 拍（モーラ）：サザンオールスターズの歌を聞き取ることができるか？
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】事前に、国語学に関する書籍や辞典などで、シラバスに載っているキーワード等について調べ、考えをまとめておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業の内容を復習すること。プリントやテキストを再読すること。疑問点があったらまとめておくこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

佐伯哲夫・山内洋一郎編『国語概説』（和泉書院、1983年）1700円＋税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業数の3分の2以上の出席を前提とした上で、期末テスト60%・平常点（積極的参加・提出課題）40%で判断する。提出課題は授業中にフィードバックを行う。また、期末テストは、授業の最後にフィードバックを行う。

**【参考書】**

授業において指示をする。

**【注意事項】**

- 1：座席が決まっているので、座席表を見て着席すること。
- 2：遅刻3回で欠席1回の扱いとなる。また、30分以上の遅刻は、欠席扱いとする。
- 3：授業内容・順序は、学生の興味や理解度にあわせて、適宜変更することもある。また、必要に応じて、文献の読み方（くずし字の基礎等）も講義する可能性がある。
- 4：第1回目の授業でその他の注意点を詳しく説明する。
- 5：授業を無断で、撮影・録音・録画することは認められない。

**国語学概論 a**

—cdクラス 国語学の基礎—

鶴橋 俊宏

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

**【授業のテーマ】**

国語学とは何か、どのような研究分野があるのか、そしてそこではどのようなことが問題となり、どのような成果があげられているのかということ学びながら、国語学全般にわたる基礎的な知識を得ることを目標とする。

**【授業における到達目標】**

- ・日本語の構造を知ることにより、日本語と日本の言語文化、ことばを通じた日本人の精神を知ることができる。無形の対象にアプローチする方法を学ぶ事により、新たな知を想像することができる。
- ・【研鑽力】として、母語の構造、特質を理解することにより、言語の本質、物事の本質を見つめる能力を養う。

**【授業の内容】**

- ①言語の特徴と機能、言語の単位と研究分野
- ②日本語の位置と系統
- ③音声と音韻
- ④現代日本語の母音と子音
- ⑤日本語の拍・音節構造
- ⑥アクセント・イントネーション
- ⑦文字の種類
- ⑧正書法
- ⑨文法と文法学説
- ⑩「学校文法」
- ⑪形態論入門
- ⑫構文論入門
- ⑬モダリティ
- ⑭敬語
- ⑮ポライトネス

**【事前・事後学修】**

事前学修：予習プリントを配布し毎回回の授業に関する課題を指示するので、事前に調査などを行っておくこと。（週2時間）

事後学修：単元ごとに配るプリントに記してある「確認事項」の内容を簡潔にまとめること。（週2時間）

**【テキスト・教材】**

山内洋一郎・佐伯哲夫編『国語概説』（和泉書院、1983年）1、700円＋税  
およびプリント

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験60％・レポート20％・平常点（授業への積極参加、発表）20％による

レポートは期間中に返却。試験は後期の授業で返却する。後期科目を受講しない学生には個別に対応。

**【参考書】**

予習プリントに記載。

**【注意事項】**

初回の授業時に指示する。

**国語学概論 b**

—efクラス 日本語とはどのような言語か—

湯浅 茂雄

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

**【授業のテーマ】**

この授業は国語（日本語）とはどのような言語であるかを知り、国語を言語として研究するとはどういうことか、何が問題となり、どのような研究分野があるのかを学ぶことを目的とする。

後期は文法・敬語、語彙、文章・文体を中心に学ぶ。

**【授業における到達目標】**

日本語の姿を学ぶことを通して、学ぶ楽しさを知り、生涯、学び続ける能力（研鑽力）を修得するとともに、物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度（美の探究）を養うことを目的とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 導入 授業の進め方・日本語の研究（国語学）とは
- 第2週 文法（1）文法とは（文法と文法論）
- 第3週 文法（2）単語の種類（品詞論）
- 第4週 文法（3）文の種類
- 第5週 文法（4）ヴォイス・アスペクト・テンス
- 第6週 文法（5）山田文法・橋本文法
- 第7週 文章・文体（1）文章と文章論
- 第8週 文章・文体（2）文体の種類
- 第9週 文章・文体（3）文体の変遷
- 第10週 語彙（1）語彙とは・使用語彙と理解語彙・基本語彙と基礎語彙
- 第11週 語彙（2）語構成
- 第12週 語彙（3）和語・漢語（字音語）・外来語・混種語
- 第13週 語彙（4）語彙の位相
- 第14週 語彙（5）明治期における語彙の更新
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】シラバスを参考にして授業前に教科書で授業範囲相当箇所を読んでおき、疑問点を整理しておく。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義内容を復習し、疑問点が解決したかを確認する。また、次週の授業範囲について教科書での予習、疑問点の整理を行う。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

佐伯哲夫・山内洋一郎編『国語概説』（和泉書院、1983年）1700円＋税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業数の3分2以上の出席を前提として、期末筆記試験60％、授業への取り組み（授業への参加態度・提出物）40％で評価する。最終週に期末テストを返却し、採点結果、評価基準をフィードバックする。

**【参考書】**

授業時に適宜紹介する。

**【注意事項】**

第1回の授業で説明する。

## 国語学概論 b

—abクラス 言葉を研究してみよう—

福嶋 健伸

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

### 【授業のテーマ】

目的：国語学（日本語学）の研究を行う上で必要な知識（知識の応用も含む）を修得することである。

概要：国語学（日本語学）とはどのような学問で、どのような研究分野があるのか等を具体的な例をもとに詳しく学んでいく。詳しくは、「授業の内容」を参照のこと。

### 【授業における到達目標】

この授業の到達目標は、先の目的で述べたとおり、国語学（日本語学）の研究を行う上で必要な知識（知識の応用も含む）を修得することにある。

次に、ディプロマ・ポリシーとの関連を述べる。本授業では、学生が修得すべき「態度」のうち、「人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度」を修得する。また、学生が修得すべき「能力」のうち、「学ぶ楽しみを知り、生涯にわたる知を探究し、学問を続けることができる能力」を修得する。

### 【授業の内容】

- 第1週 導入：国語学の基礎知識の復習
- 第2週 国語史：「象は鼻が長い」の主語は？
- 第3週 談話：「失礼ですが、お名前は？」「わたくしの名前が田中三郎だということは、偽りではありません」
- 第4週 表現：お客さんとまどう「ナマステ」のメニュー、「モンキー5959」って誰だよ？
- 第5週 ラングとパロール：天才言語学者ソシュールの成果とは？
- 第6週 意味論：「あがる」と「のぼる」の違いを考えてみよう
- 第7週 統語論1：無色の緑の考えが猛烈に眠る！ 知られざる知の巨人、チョムスキーとその弟子達の挑戦！
- 第8週 統語論2：一日署長ならぬ、「一日（プチ）チョムスキアン」になりましょう
- 第9週 語用論：「高いし……、それに寒いよ」「両者は無関係だ。相乗効果はない。大丈夫だ」/「それって、励ましてる？」「ミチル、がんばれ」/「わざとらしいなあ」「わざとだ」/「ロイディ、待ってる！」「私は既に待っている」
- 第10週 音声学と音韻論1：「破裂音」はありますが、「爆発音」はありません
- 第11週 音声学と音韻論2：言語学者 vs. 怪人21面相！
- 第12週 音声学と音韻論3：「ガンダム」「ザク」「ドム」「グフ」「ゲルググ」と「カンタム（倒れそう）」「サク（リンゴ？）」「トム（ペンパル？）」「クフ（エジプトの人？）」「ケルクク（カエルの名前？）」
- 第13週 本格的な研究に向けて：万葉仮名遠勉強之麻須 加久古之底！
- 第14週 最新の研究成果を教室に！：「夜ごはん」といいますか？
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】事前に、国語学に関する書籍や辞典などで、シラバスに載っているキーワードについて調べ、考えをまとめておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業の内容を復習すること。プリントやテキストを再読すること。疑問点があったらまとめておくこと。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

佐伯哲夫・山内洋一郎編『国語概説』（和泉書院、1983年）  
1700円+税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業数の3分の2以上の出席を前提とした上で、期末テスト60%・平常点（積極的参加・提出課題）40%で判断する。提出課題は授業中

にフィードバックを行う。また、期末テストは、授業の最後にフィードバックを行う。

### 【参考書】

授業において指示をする。

### 【注意事項】

- 1：座席が決まっているので、座席表を見て着席すること。
- 2：遅刻3回で欠席1回の扱いとなる。また、30分以上の遅刻は、欠席扱いとする。
- 3：授業内容・順序は、学生の興味や理解度にあわせて、適宜変更することもある。また、必要に応じて、文献の読み方（くずし字の基礎等）も講義する可能性がある。
- 4：第1回目の授業でその他の注意点を詳しく説明する。
- 5：授業を無断で、撮影・録音・録画することは認められない。

**国語学概論 b**

—cdクラス 国語学の基礎—

鶴橋 俊宏

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

**【授業のテーマ】**

国語学とは何か、どのような研究分野があるのか、そしてそこではどのようなことが問題となり、どのような成果があげられているのかを学びながら、国語学全般にわたる基礎的な知識を得ることを目標とする。

**【授業における到達目標】**

- ・日本語の構造を知ることにより、日本語と日本の言語文化、ことばを通じた日本人の精神を知り、無形の対象にアプローチする方法を学ぶ事により、新たな知を想像使用とする態度を身につけることができる。
- ・【研鑽力】として、母語の構造、特質を理解することにより、言語の本質、さらには物事の本質を見つめる能力を養う。

**【授業の内容】**

- ①語彙の研究手法
- ②語種
- ③位相
- ④文章とは何か
- ⑤文体
- ⑥現代日本語の文体
- ⑦言語変化のメカニズム
- ⑧国語史の時代区分
- ⑨音韻史
- ⑩文法史Ⅰ（活用体型の変化）
- ⑪文法史Ⅱ（文法化）
- ⑫文章史
- ⑬語彙史
- ⑭共通語と標準語
- ⑮方言区画・新方言

**【事前・事後学修】**

事前学修：予習プリントを配布し毎回回の授業に関する課題を指示するので、事前に調査などを行っておくこと。（週2時間）

事後学修：単元ごとに配布するプリントに示した「確認事項」の内容を自分で簡潔にまとめること。（週2時間）

**【テキスト・教材】**

山内洋一郎・佐伯哲夫編『国語概説』（和泉書院、1983年）1、700円＋税  
およびプリント

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験60％・レポート20％・平常点20％（授業への積極参加、発表）による。

レポートは期間内に返却する。

**【参考書】**

予習プリントに記載。

**【注意事項】**

初回の授業時に指示する。

**国語学基礎演習 1**

『三宝絵詞』講読

柴田 雅生

2年 前期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

国語学の基本的な方法論を学ぶために、第一級の言語資料を丹念によみすすめ、そこからうかがえるさまざまな言語事象（特に文字表記・音韻）について考察する。具体的には、資料にあらわれる言葉の捉え方、調査内容に応じた方法論、参考文献の利用方法などを実践的に学ぶ。

**【授業における到達目標】**

- ・文献資料に基づいて平安時代の日本語のすがたを適切に読み取ることができるようになる。これにより、学生が修得すべき「美の探求」のうち、新たな知を得る態度を育む。
- ・中心となる文献資料だけでなく、関連する資料をも適切に用いて、当時の日本語のしくみを客観的に把握できるようになる。これにより、学生が修得すべき「行動力」のうち、プロセスや成果を正しく評価し、問題解決につなげる力を修得する。
- ・他の学生の発表にも積極的に関わり、課題内容についての理解を一層深めることができるようになる。これにより、学生が修得すべき「協働力」のうち、互いに協力して物事を進める力を修得する。

**【授業の内容】**

『三宝絵詞』（『三宝絵』とも言う）の一本である名古屋市博物館蔵本（1120（保安元）年写、異称：東大寺切、関戸本）の写真版コピーを読み進める。『三宝絵詞』は、源為憲が984（永観二）年に冷泉天皇皇女尊子内親王の仏道入門の手引き書として選述した説話集であり、『今昔物語集』などの後代の説話集にも大きな影響を与えた。表記上の特色を有する三本が伝えられており、演習で読み進める名古屋市博物館蔵本は漢字交じりひらがな文である。演習では、変体仮名および漢字の解説からはじめ、国語学的知見を生かしながら解釈を加え、主として文字表記のさまとその言語的背景を具体的に検討する。

- 第1週 演習の進め方
- 第2週 資料についての解説
- 第3週 担当者の決定、発表の注意点
- 第4週 参考文献の利用法
- 第5週 発表と質疑応答1（変体仮名）
- 第6週 発表と質疑応答2（仮名遣い）
- 第7週 発表と質疑応答3（漢字）
- 第8週 発表と質疑応答4（音韻の無表記）
- 第9週 発表と質疑応答5（清音と濁音）
- 第10週 発表と質疑応答6（発音と音韻）
- 第11週 発表と質疑応答7（漢字と仮名）
- 第12週 発表と質疑応答8（表記と文体）
- 第13週 発表と質疑応答9（語釈）
- 第14週 発表と質疑応答10（本文解釈）
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

〔事前学修〕事前にテキストの該当箇所を読んで把握しておくこと。とりわけ、発表担当者は、担当回に合わせて着実に準備しておくこと。（学修時間 週3時間）

〔事後学修〕その回において理解した内容を復習するとともに、自身の発表に活かすべく必要事項を書き留めるなどしておくこと。発表担当者は、発表後はすみやかに発表内容へ訂正・補充等を施しておくこと。（学修時間 週1時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを使用する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

発表および発表資料（50％）、質疑応答等の授業への参加状況（20％）、最終レポート（30％）の総合評価。

発表および質疑応答等については毎回の授業時に、最終レポートに

については授業最終回でフィードバックを行う。

#### 【参考書】

- ・『名古屋市博物館蔵 三宝絵』（名古屋市博物館）
- ・小泉弘・高橋伸幸編『諸本対照三宝絵集成』（笠間書院）
- ・『新日本古典文学大系31 三宝絵 注好選』（岩波書店）
- ・出雲路修校注『東洋文庫513 三宝絵』（平凡社）
- ・中央大学国語研究会編『三宝絵詞自立語索引』（笠間書院）  
ほかは授業中に適宜紹介する。

#### 【注意事項】

受講生には一言一句をないがしろにしない姿勢を求めるので、よく留意して受講してもらいたい。

## 国語学基礎演習 2

『三宝絵詞』の語彙・語法

柴田 雅生

2年 後期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

#### 【授業のテーマ】

国語学の基本的な方法論を学ぶために、第一級の言語資料を丹念によみすめ、そこからうかがえるさまざまな言語事象（特に語彙・語法）について考察する。具体的には、資料にあらわれる言葉の捉え方、調査内容に応じた方法論、参考文献の利用方法などを実践的に学ぶ。

#### 【授業における到達目標】

- ・文献資料に基づいて平安時代の日本語のすがたを適切に読み取ることができるようになる。これにより、学生が修得すべき「美の探求」のうち、新たな知を得る態度を育む。
- ・中心となる文献資料だけでなく、関連する資料をも適切に用いて、当時の日本語のしくみを客観的に把握できるようになる。これにより、学生が修得すべき「行動力」のうち、プロセスや成果を正しく評価し、問題解決につなげる力を修得する。
- ・他の学生の発表にも積極的に関わり、課題内容についての理解を一層深めることができるようになる。これにより、学生が修得すべき「協働力」のうち、互いに協力して物事を進める力を修得する。

#### 【授業の内容】

『三宝絵詞』（『三宝絵』とも言う）の一本である名古屋市博物館蔵本（1120（保安元）年写、異称：東大寺切、関戸本）の写真版コピーを読み進める。『三宝絵詞』は、源為憲が984（永観二）年に冷泉天皇皇女尊子内親王の仏道入門の手引き書として選述した説話集であり、『今昔物語集』などの後代の説話集にも大きな影響を与えた。表記上の特色を有する三本が伝えられており、演習で読み進める名古屋市博物館蔵本は漢字交じりひらがな文である。演習では、他本や他の説話集の言語・表現とも対比させながら、主として語彙・語法の実態とその言語的背景を具体的に検討する。

第1週 演習の進め方

第2週 資料についての解説

第3週 担当者の決定、発表の注意点

第4週 参考文献の利用法

第5週 発表と質疑応答1（語彙・語法と文体的指標）

第6週 発表と質疑応答2（語彙と文体1－類義語）

第7週 発表と質疑応答3（語彙と文体2－位相語）

第8週 発表と質疑応答4（語彙と文体3－造語法）

第9週 発表と質疑応答5（語彙と文体1－活用）

第10週 発表と質疑応答6（語法と文体2－指示語）

第11週 発表と質疑応答7（語法と文体3－助動詞）

第12週 発表と質疑応答8（語法と文体4－接続詞）

第13週 発表と質疑応答9（語法と文体5－引用表現）

第14週 発表と質疑応答10（語彙・語法と文体の歴史）

第15週 まとめ

#### 【事前・事後学修】

〔事前学修〕事前にテキストの該当箇所を読んで把握しておくこと。とりわけ、発表担当者は、担当回に合わせて着実に準備しておくこと。（学修時間 週3時間）

〔事後学修〕その回において理解した内容を復習するとともに、自身の発表に活かすべく必要事項を書き留めるなどしておくこと。発表担当者は、発表後はすみやかに発表内容へ訂正・補充等を施しておくこと。（学修時間 週1時間）

#### 【テキスト・教材】

プリントを使用する。

#### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表および発表資料（50%）、質疑応答等の授業への参加状況（20%）、最終レポート（30%）の総合評価。

発表および質疑応答等については毎回の授業時に、最終レポートについては授業最終回でフィードバックを行う。



## 【参考書】

- ・『名古屋市博物館蔵 三宝絵』（名古屋市博物館）
- ・小泉弘・高橋伸幸編『諸本対照三宝絵集成』（笠間書院）
- ・『新日本古典文学大系31 三宝絵 注好選』（岩波書店）
- ・出雲路修校注『東洋文庫513 三宝絵』（平凡社）
- ・中央大学国語研究会編『三宝絵詞自立語索引』（笠間書院）  
ほかは授業中に適宜紹介する。

## 【注意事項】

受講生には一言一句をないがしろにしない姿勢を求めるので、よく留意して受講してもらいたい。

## 国語学研究 a

方言学概説

吉田 雅子

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

## 【授業のテーマ】

方言の各分野について、概要・調査・分析方法を学ぶ。

## 【授業における到達目標】

- 方言の調査・分析方法を学び、それを実践できるようになる。
  - 方言の概念・機構・機能を知り、自分で設定した研究課題を調査分析し、その結果をレポートとしてまとめ形にする。
- <ディプロマ・ポリシーとの関連>
- 能力 ◎研鑽力：言語の多様性・多面性を理解する。  
態度 ○美の探究：方言の実態を具体的に知る。

## 【授業の内容】

授業は演習形式をとる。具体的には、テキストの1節もしくは2節分の内容に対し発表者1名を担当として割り当てる。発表者は担当部分の内容を検討し発表することで、受講者全員での討議への牽引役となる。テキスト各章各節のテーマについて、この形式で学んでいく。口頭発表のしかた、質疑応答のしかた、発表レジュメの作成方法などについてもトレーニングする。講義計画は以下の通り。

- 1 ガイダンス
- 2 模擬発表・方言学について
- 3 ゼミ・第1章 方言と方言学の世界(1)1. 方言とは
- 4 ゼミ・第1章 方言と方言学の世界(2)2. 方言の諸相と研究分野
- 5 ゼミ・第1章 方言と方言学の世界(3)
  3. 方言の調べ方～4. 参考文献
- 6 講義・方言の音声資料を聴く
- 7 ゼミ・第2章 音韻(1)1. 方言の音韻～3. 調査の方法
- 8 ゼミ・第2章 音韻(2)4. 分析の方法～7. 参考文献
- 9 ゼミ・第3章 アクセント・イントネーション(1)
  1. 方言のアクセント・イントネーション～2. テーマの設定
- 10 ゼミ・第3章 アクセント・イントネーション(2)
  3. 調査の方法～5. 参考文献
- 11 ゼミ・第4章 語彙(1)1. 方言の語彙～2. テーマの設定
- 12 ゼミ・第4章 語彙(2)3. 調査・分析の方法～4. 参考文献
- 13 ゼミ・第5章 文法(形態)(1)1. 方言の文法～3. 調査の方法
- 14 ゼミ・第5章 文法(形態)(2)4. 分析の方法～6. 参考文献
- 15 総括講義

## 【事前・事後学修】

- 事前学修
  - ・発表担当者：発表準備
  - ・発表担当者以外：テキストの該当箇所を読み予習
- 事後学修
  - ・授業内容の復習
  - ・関連文献の講読
 (以上で、学修時間 週4時間)

## 【テキスト・教材】

小林隆・篠崎晃一編『ガイドブック方言研究』  
(ひつじ書房 2003年) 定価1,800円＋税

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 評価方法基準：発表40%、平常点（授業での質疑応答状況、授業内小レポート）20%、期末レポート40%。
- フィードバック
  - ・発表：毎回の授業時
  - ・授業での質疑応答状況：毎回の授業時
  - ・授業内小レポート：実施の次回授業時
  - ・期末レポート：第15週授業時

## 国語学研究 b

方言調査理論

吉田 雅子

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

## 【授業のテーマ】

方言の各分野について、概要・調査・分析方法を学ぶ。

## 【授業における到達目標】

- 方言の調査・分析方法を学び、それを実践できるようになる。
- 方言の概念・機構・機能を知り、自分で設定した研究課題を調査分析し、その結果をレポートとしてまとめ形にする。
- <ディプロマ・ポリシーとの関連>
- 能力 ◎研鑽力：言語の多様性・多面性を理解する。
- 態度 ○美の探究：方言の実態を具体的に知る。

## 【授業の内容】

授業は演習形式。具体的には、テキストの1節もしくは2節分の内容を担当者が検討し発表する。国語学研究 a の授業と連動しており、国語学研究 a 受講者は方言学について引き続き詳しい内容を学ぶことになろう。また、国語学研究 a の非受講者も理解できるよう授業を進める。講義計画は以下の通り。

- 1 ガイダンス
- 2 模擬発表・方言調査理論について
- 3 ゼミ・第6章 文法（語法・意味）(1)
  1. 方言における種々の文法現象～2. 文法分析の基本的な手順
- 4 ゼミ・第6章 文法（語法・意味）(2)
  3. テーマの設定と分析から～5. 参考文献
- 5 ゼミ・第7章 待遇表現(1)1. 方言の待遇表現～2. テーマの設定
- 6 ゼミ・第7章 待遇表現(2)3. 調査の方法～5. 参考文献
- 7 ゼミ・第8章 方言の分類(1)
  1. さまざまな方言～3. 方言分類の実際
- 8 ゼミ・第8章 方言の分類(2)3. 方言分類の実際～4. 参考文献
- 9 ゼミ・第9章 方言の歴史(1)
  1. 方言史の地理的構造～2. 方言史の方法2.2.(1)
- 10 ゼミ・第9章 方言の歴史(2)
  2. 方言史の方法2.2.(2)～3. 方言史のテーマ
- 11 ゼミ・第9章 方言の歴史(3)4. 方言史の実際～5. 参考文献
- 12 ゼミ・第10章 現代の方言(1)1. 方言の衰退と共通語化
- 13 ゼミ・第10章 現代の方言(2)
  2. 生き残る方言・新しい方言～3. 方言意識
- 14 ゼミ・第10章 現代の方言(3)4. 方言と社会活動～6. 参考文献
- 15 総括講義

## 【事前・事後学修】

- 事前学修 ・発表担当者：発表準備／・発表担当者以外：テキストの該当箇所を読み予習
- 事後学修 ・授業内容の復習／・関連文献の講読  
(以上で、学修時間 週4時間)

## 【テキスト・教材】

小林隆・篠崎晃一編『ガイドブック方言研究』  
(ひつじ書房 2003年) 1,800円＋税

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 評価方法基準：発表40%、平常点（授業での質疑応答状況、授業内小レポート）20%、期末レポート40%
- フィードバック
  - ・発表：毎回の授業時
  - ・授業での質疑応答状況：毎回の授業時
  - ・授業内小レポート：実施の次回授業時
  - ・期末レポート：第15週授業時

## 国語学研究 c

古代日本語表記史

柴田 雅生

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

## 【授業のテーマ】

奈良時代から幕末期までの漢字と仮名の関わりの歴史を辿る。万葉仮名から仮名が生まれ、漢字とともに使用されていく過程は、現代日本語の表記法が確立されるまでの歴史と言える。両者がどのように関わり合い、現代のようなスタイルをもつに至ったのか、具体的な資料を扱いながら、その歴史を見ていくこととする。

## 【授業における到達目標】

- ・時代の異なる複数の文献資料を対比させることで、日本語の文字表記の変遷を具体的に把握できるようになる。これにより、学生が修得すべき「美の探求」のうち、新たな知を発見する態度を育む。
- ・資料に表れている文字表記のすがただけでなく、当時の文化・社会状況等をも視野に入れて、日本語文字表記の変遷の背景を把握できるようになる。これにより、学生が修得すべき「研鑽力」のうち、本質を見抜く力を修得する。

## 【授業の内容】

以下のテーマについて講義しながら、具体的な資料について各自が調査研究を行うかたちで進める。

- 第1週 文字表記を捉える視点
- 第2週 漢字の伝来と受容（1）－文字の認識
- 第3週 漢字の伝来と受容（2）－音訓とその借用
- 第4週 仮名の誕生（1）－万葉仮名と草仮名
- 第5週 仮名の誕生（2）－仮名と片仮名
- 第6週 文書の種類と表記様式（1）－文字の位相
- 第7週 文書の種類と表記様式（2）－文字と言語の対応関係
- 第8週 漢字仮名交じり文の誕生（1）－表記体の系譜
- 第9週 漢字仮名交じり文の誕生（2）－文字表記の機能
- 第10週 識字と文字意識（1）－識字層の広がり
- 第11週 識字と文字意識（2）－正字・異体字・俗字
- 第12週 識字と文字意識（3）－文字認識の変容
- 第13週 文字教育（1）－印刷文化と文字
- 第14週 文字教育（2）－出版と教育制度との関わり
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

- 〔事前学修〕事前にテキストの該当箇所を読んで把握しておくこと。また、原則として履修者全員に異なる資料を割り当て、その調査を作業レポートとして課すので、指示に従って作成しておくこと。（学修時間 週2時間）
- 〔事後学修〕その回において理解した内容を復習するとともに、作業レポートに訂正・不足等があれば欠かさず記載しておくこと。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

プリントを使用する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

最終課題レポート（40%）、作業レポートと受講態度（60%）の総合評価。  
作業レポートについては提出の都度、最終レポートについては授業最終回でフィードバックを行う。

## 【参考書】

- ・今野真二『漢字からみた日本語の歴史』（岩波書店）
- ・沖森卓也『日本古代の表記と文体』（吉川弘文館）
- ・乾喜彦『漢字による日本語書記の史的研究』（塙書房）
- ・今野真二『仮名表記論改』（清文堂）
- ・矢田勉『国語文字・表記史の研究』（汲古書院）  
ほかは授業中に適宜紹介する。

## 国語学研究 d

近代日本語表記史

柴田 雅生

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

## 【授業のテーマ】

明治期以降、現代までの表記の歴史を辿る。

明治初年の学制発布のほか、国語施策のうつりかわりや活版印刷の普及、情報通信網の発達等に多大な影響を受けながら、明治期以降の文字表記は現代日本語の表記法に直結する。その際、どのような議論が沸き起こり、どのように文字表記が移り変わってきたのか、具体的な資料を扱いながら、その歴史を見ていくこととする。

## 【授業における到達目標】

・近現代の文献資料を調査することによって、前近代の日本語文字表記がどのように姿を変えていったかを具体的に把握できるようになる。これにより、学生が修得すべき「美の探求」のうち、新たな知を発見する態度を育む。

・近代以降の日本語文字表記に関する種々の議論とその問題点を把握し、日本語にとっての文字表記の意味を自らの知見によって客観的に考えられるようになる。これにより、学生が修得すべき「研鑽力」のうち、本質を見抜く力を修得する。

## 【授業の内容】

以下のテーマについて講義しながら、具体的な資料について各自が調査研究を行うかたちで進める。

- 第1週 文字表記を捉える視点
- 第2週 前代までの文字表記史の概観
- 第3週 教育と国語施策（1）－学制発布と「国語」の近代化
- 第4週 教育と国語施策（2）－国語施策の対象となったもの
- 第5週 活版印刷の普及と文字表記（1）－手書文字と活字
- 第6週 活版印刷の普及と文字表記（2）－活字と字形の関わり
- 第7週 言文一致と文字表記（1）－かな・ローマ字と文字表記
- 第8週 言文一致と文字表記（2）－漢字表記と振り仮名
- 第9週 国語施策の変遷（1）－漢字をめぐる議論と施策
- 第10週 国語施策の変遷（2）－仮名等をめぐる議論と施策
- 第11週 補助符号の変遷（1）－その実態
- 第12週 補助符号の変遷（2）－補助符号の機能とこれから
- 第13週 情報機器の普及と文字表記（1）－漢字と文字コード
- 第14週 情報機器の普及と文字表記（2）－日本語表記の将来
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】事前にテキストの該当箇所を読んで把握しておくこと。また、原則として履修者全員に異なる資料を割り当て、その調査を作業レポートとして課すので、指示に従って作成しておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】その回において理解した内容を復習するとともに、作業レポートに訂正・不足等があれば欠かさず記載しておくこと。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

プリントを使用する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

最終課題レポート（40%）、作業レポートと受講態度（60%）の総合評価。

作業レポートについては提出の都度、最終レポートについては授業最終回でフィードバックを行う。

## 【参考書】

- ・今野真二『百年前の日本語』（岩波新書）
  - ・笹原宏之『日本の漢字』（岩波新書）
  - ・沖森卓也ほか編『図解日本語の文字』（三省堂）
  - ・文化庁編『国語施策百年史』（ぎょうせい）
  - ・吉田澄夫・井之口有一編『明治以降国語問題諸案集成 上・下』（風間書房）
- ほかは授業中に適宜紹介する。

## 国語学史基礎演習 1

－明治時代以降の辞書史－

湯浅 茂雄

2年 前期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

江戸時代および明治・大正・昭和にかけての辞書史を学ぶ。わが国の近世近代には多様な辞書が作られ、豊かな歴史がある。実際にはどのような目的で、どのような辞書が、どのくらい作られたのか。そして、これらはどのような国語資料として活用できるのか。これらについて具体的な辞書資料を取り上げながら学んでいくことによって、辞書史および辞書の活用について基礎的な知識を身につけることを目指す。今期においては、現代の国語辞書を起点として、大槻文彦『言海』をはじめ、明治・大正・昭和期の代表的な辞書を取り上げる。

## 【授業における到達目標】

日本語の研究史を学ぶことを通して、問題点を正しく把握し（行動力）、互いに協力して物事を進める能力（協働力）を修得するとともに、物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度（美の探究）を養うことを目的とする。

## 【授業の内容】

- 第1回 授業のねらいと進め方
- 第2回 国語資料としての辞書の資料性
- 第3回 『言海』はどのような辞書か。
- 第4回 『言海』と近世辞書
- 第5回 『言海』と「普通語」
- 第6回 『言海』の「語法指南」
- 第7回 国語資料としての『言海』
- 第8回 山田美妙『日本大辞書』
- 第9回 金澤庄三郎『辞林』
- 第10回 幕末、明治期の英和辞典、和英辞典
- 第11回 最初の外来語辞典『日用舶来語便覧』
- 第12回 大正期の外来語辞典
- 第13回 新語辞典
- 第14回 『大言海』『大日本国語辞典』『広辞苑』など
- 第15回 本授業のまとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】シラバスを参考にして授業前に配布プリントを読んでおき、疑問点を整理しておく。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義内容を復習し、疑問点が解決したかを確認する。また、次週の授業範囲について配布プリントでの予習、疑問点の整理を行う。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

プリントを使用する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業数の3分の2以上の出席を前提として、期末テスト60%、授業への取り組み（授業態度・提出物）40%で評価する。

最終週に期末テストを返却し、採点結果、評価基準をフィードバックする。

## 【参考書】

以下の他、各授業で適宜紹介する。

- 湯浅茂雄「江戸時代の辞書」（西崎亨編『日本古辞書を学ぶ人のために』世界思想社 1995.5）
- 湯浅茂雄「『言海』と近世辞書」（『国語学』188 1997.3）
- 湯浅茂雄「生田長江編『文学新語小辞典』と新語辞典類」（『国語学』133 1993.7）
- 湯浅茂雄「節用集の語彙」（『講座日本語学5 現代語彙との史的対照』明治書院 1982.12）

## 【注意事項】

最初の授業で説明する。

## 国語学史基礎演習 2

ー江戸時代を中心とした辞書史ー

湯浅 茂雄

2年 後期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

江戸時代および明治・大正・昭和にかけての辞書史を学ぶ。わが国の近世近代には多様な辞書が作られ、豊かな歴史がある。実際にはどのような目的で、どのような辞書が、どのくらい作られたのか。そして、これらはどのような国語資料として活用できるのか。これらについて具体的な辞書資料を取り上げながら学んでいくことによって、辞書史および辞書の活用について基礎的な知識を身につけることを目指す。今期においては、近世期の各種辞書を取り上げる。

### 【授業における到達目標】

日本語の研究史を学ぶことを通して、問題点を正しく把握し（行動力）、互いに協力して物事を進める能力（協働力）を修得するとともに、物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度（美の探究）を養うことを目的とする。

### 【授業の内容】

- 第1回 授業のねらいと進め方
- 第2回 国語資料としての辞書の資料性
- 第3回 古本節用集と近世開板節用集
- 第4回 節用集の展開（1）
- 第5回 節用集の展開（2）
- 第6回 節用集の展開（3）
- 第7回 国語資料としての節用集
- 第8回 江戸時代の三大辞書（和訓栞）
- 第9回 江戸時代の三大辞書（雅言集覧・俚言集覧）
- 第10回 語源辞書
- 第11回 雅俗対訳辞書
- 第12回 方言辞書
- 第13回 百科事典
- 第14回 唐話辞書
- 第15回 本授業のまとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】シラバスを参考にして授業前に配布プリントを読んでおき、疑問点を整理しておく。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義内容を復習し、疑問点が解決したかを確認する。また、次週の授業範囲について配布プリントでの予習、疑問点の整理を行う。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

プリントを使用する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業数の3分の2以上の出席を前提とし、期末試験60%、授業への取り組み（授業態度・提出物）40%で評価する。

最終週に期末テストを返却し、採点結果、評価基準をフィードバックする。

### 【参考書】

以下の他、各授業で適宜紹介する。

湯浅茂雄「江戸時代の辞書」（西崎亨編『日本古辞書を学ぶ人のために』世界思想社 1995.5）

湯浅茂雄「『言海』と近世辞書」（『国語学』188 1997.3）

湯浅茂雄「生田長江編『文学新語小辞典』と新語辞典類」（『国語語彙史の研究13』所収 和泉書院 1993.7）

湯浅茂雄「節用集の語彙」（『講座日本語学5 現代語彙との史的対照』明治書院 1982.12）

### 【注意事項】

最初の授業で説明する。

## 国語史 a

ーdefクラス 奈良時代から室町時代までの日本語ー

湯浅 茂雄

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

### 【授業のテーマ】

100年前の日本語は現在の日本語とどのように違っていたのか？では200年前の日本語は？さらに源氏物語が書かれた頃や万葉集が編纂された頃の日本語はどのような姿をしていたのか？このようなかつての日本語の姿と、それがどのような変化の過程を経て現代日本語の姿になったのかを学ぶ。また、明治時代以前の日本語の解明は残された文献を調査する以外にはないが、どのような方法によって明らかに出来るのか、その資料と方法についても学んでいく。

### 【授業における到達目標】

日本語の歴史を学ぶことを通して、学ぶ楽しさを知り、生涯、学び続ける能力（研鑽力）を修得するとともに、物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度（美の探究）を養うことを目的とする。

### 【授業の内容】

- 第1週 導入（国語史とは・国語史を学ぶとは）
- 第2週 国語史の時代区分と各時代の言語変化のポイント
- 第3週 奈良時代語を伝える資料
- 第4週 奈良時代語の音韻（上代特殊仮名遣い）
- 第5週 奈良時代における漢字・漢語の受容
- 第6週 奈良時代語の文法
- 第7週 平安時代語を伝える資料
- 第8週 平安時代の音韻（五十音図・いろは歌）
- 第9週 平安時代における平仮名・片仮名の成立
- 第10週 平安時代の語彙
- 第11週 鎌倉・室町時代語を伝える資料
- 第12週 鎌倉・室町時代語の音韻
- 第13週 鎌倉・室町時代語の文法
- 第14週 鎌倉・室町時代語の語彙
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】シラバスを参考にして授業前に教科書で授業範囲相当箇所を読んでおき、疑問点を整理しておく。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義内容を復習し、疑問点が解決したかを確認する。また、次週の授業範囲について教科書での予習、疑問点の整理を行う。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

沖森卓也『はじめて読む日本語の歴史—うつつりゆく音韻・語彙・文法』（ベレ出版 2010年）2,000円＋税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業数の3分の2以上の出席を前提として、期末テスト60%、授業への取り組み（授業態度・提出物）40%で評価する。最終週に期末テストを返却し、採点結果、評価基準をフィードバックする。

### 【参考書】

適宜紹介する。

### 【注意事項】

最初の授業で説明する。

## 国語史 a

—abcクラス テーマ別に日本語の歴史を学ぶ—

福嶋 健伸

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

### 【授業のテーマ】

「私は太郎です」の「は」は、[wa]と発音するのに、どうして「は」と書くのだろうか。「通る（とおる）」は、なぜ「とる」ではなく「とおる」と表記するのだろうか。普段使っている言葉にもよく分からないことがたくさんある。この授業の目的は、国語（日本語）の歴史的な変化について観察と考察を行い、日本語の成り立ちに関する基礎知識を修得することにある。この授業を通して、上記のような疑問をみんなで考えていきたい。

### 【授業における到達目標】

この授業の到達目標は、先の目的で述べたとおり、日本語の成り立ちに関する基礎知識を修得することにある。

次に、ディプロマ・ポリシーとの関連を述べる。本授業では、学生が修得するべき「態度」のうち、「日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度」と「人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度」を修得する。また、学生が修得するべき「能力」のうち、「学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることができる能力」と「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる能力」を修得する。

### 【授業の内容】

時代順ではなく、テーマ別に言葉の歴史について考えていくことにする。

- 第1週 国語史の必要性：「ぜんぜんおいしい！」は言葉の乱れか？
- 第2週 いろは歌：いろは歌に暗号が隠されている？
- 第3週 あめつちの歌：あれ、「え」が二つあるような……、これは……
- 第4週 五十音図：なぜ、「あいうえお」の順なのか？
- 第5週 濁点について：濁点のはじまりは、どんな形だったのか？
- 第6週 濁音と清音：濁音ではじまる言葉を考えてみましょう。何かルールがありませんか？
- 第7週 連濁：「ふでばこ」とはいいませんが、「ばこ」とはいいませんね。
- 第8週 ハ行子音の変遷：昔のなぞなぞに挑戦！「母には二回あうけれど、父には一回もあわない。これ何だ？」
- 第9週 ハ行転呼音：「私は太郎です」の「は」は、[wa]と発音するのに、どうして「は」なのか？
- 第10週 表記：日本語の未来を占う—新言文—致文の出現—
- 第11週 熟字訓：「冷笑ひ」「（ふり落さん、と）焦慮にぞ」は何と読む？
- 第12週 仮名遣い1：爆笑問題で仮名遣いを学ぶ—「通り」は「とおり」か「とうり」か—
- 第13週 仮名遣い2：四つ仮名—「地面」は「ぢめん」か「じめん」か—
- 第14週 ローマ字：「ローマ字ひろめ会」とは？
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】事前に、国語史に関する書籍や辞典などで、シラバスに載っているキーワードについて調べ、考えをまとめておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業の内容を復習すること。プリントやテキストを再読すること。疑問点があったらまとめておくこと。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

半沢幹一ほか編『ケーススタディ 日本語の歴史』（おうふう、2002年）。1800円＋税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業数の3分の2以上の出席を前提とした上で、期末テスト

60%・平常点（積極的参加・提出課題）40%で判断する。

提出課題は授業中にフィードバックを行う。また、期末テストは、授業の最後にフィードバックを行う。

### 【参考書】

授業において指示をする。

### 【注意事項】

- 1：座席が決まっているので、座席表を見て着席すること。
- 2：遅刻3回で欠席1回の扱いとなる。また、30分以上の遅刻は、欠席扱いとする。
- 3：授業内容・順序は、学生の興味や理解度にあわせて、適宜変更することもある。また、必要に応じて、文献の読み方（くずし字の基礎等）も講義する可能性がある。
- 4：第1回目の授業でその他の注意点を詳しく説明する。
- 5：授業を無断で、撮影・録音・録画することは認められない。

## 国語史 b

—defクラス 江戸時代から明治時代までの日本語—

湯浅 茂雄

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

### 【授業のテーマ】

100年前の日本語は現在の日本語とどのように違っていたのか？では200年前の日本語は？さらに源氏物語が書かれた頃や万葉集が編纂された頃の日本語はどのような姿をしていたのか？このようなかつての日本語の姿と、それがどのような変化の過程を経て現代日本語の姿になったのかを学ぶ。また、明治時代以前の日本語の解明は残された文献を調査する以外にはないが、どのような方法によって明らかに出来るのか、その資料と方法についても学んでいく。

### 【授業における到達目標】

日本語の歴史を学ぶことを通して、学ぶ楽しさを知り、生涯、学び続ける能力（研鑽力）を修得するとともに、物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度（美の探究）を養うことを目的とする。

### 【授業の内容】

- 第1週 導入（国語史とは・国語史を学ぶとは・国語史の時代区分）
- 第2週 江戸時代語を伝える資料
- 第3週 江戸時代語の音韻
- 第4週 江戸時代語の文法
- 第5週 江戸時代語の待遇表現
- 第6週 江戸時代語の語彙
- 第7週 明治時代語以降の日本語を伝える資料
- 第8週 明治時代語を伝える音声資料
- 第9週 明治時代語における「語彙の更新」
- 第10週 明治大正期の英和和英辞書の系譜
- 第11週 明治大正期の国語辞典の系譜
- 第12週 明治時代における標準語の成立
- 第13週 明治時代における言文一致体の成立
- 第14週 明治時代の言語生活
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】シラバスを参考にして授業前に教科書で授業範囲相当箇所を読んでおき、疑問点を整理しておく。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義内容を復習し、疑問点が解決したかを確認する。また、次週の授業範囲について教科書での予習、疑問点の整理を行う。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

沖森卓也『はじめて読む日本語の歴史—うつつりゆく音韻・語彙・文法』（ベレ出版 2010年）2,000円＋税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業数の3分の2以上の出席を前提として、期末テスト60%、授業への取り組み（授業態度・提出物）40%で評価する。

最終週に期末テストを返却し、採点結果、評価基準をフィードバックする。

### 【参考書】

適宜紹介する。

### 【注意事項】

最初の授業で説明する。

## 国語史 b

—abcクラス 意外と知らない日本語の歴史—

福嶋 健伸

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

### 【授業のテーマ】

「置く」の過去形は「置いた」だが、どうして「置きた」ではないのだろうか。「観音」は、普通、「かんのん」と読むが、なぜ「かんおん」ではなく「かんのん」なのだろうか。普段使っている言葉にもよく分からないことがたくさんある。この授業の目的は、国語（日本語）の歴史的な変化について観察と考察を行い、日本語の成り立ちについて考え、国語史を研究する上で必要な知識と分析力を修得することにある。

### 【授業における到達目標】

この授業の到達目標は、先の目的で述べたとおり、国語史を研究する上で必要な知識と分析力を修得することにある。

次に、ディプロマ・ポリシーとの関連を述べる。本授業では、学生が修得すべき「態度」のうち、「日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度」と「人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度」を修得する。また、学生が修得すべき「能力」のうち、「学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることができる能力」と「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる能力」を修得する。

### 【授業の内容】

時代順ではなく、テーマ別に言葉の歴史について考えていくことにする。

- 第1週 導入：国語史の基礎知識の復習
- 第2週 活用1：昔の日本人は余情がお好き？—終止形と連体形の合流—
- 第3週 活用2：二段活用の一段化はなぜ起こったのか？
- 第4週 活用と音便：「置く」の過去形は「置いた」で、どうして「置きた」ではない？
- 第5週 形態の変化1：「四月一日」の「一日」は、どうして「ついたち」とよむのか？
- 第6週 形態の変化2：「つねる」の語源は？
- 第7週 形態の変化3：「山茶花」はどうして「さざんか」とよむのか？
- 第8週 連声と入声音1：‘Bat’ ‘Bet’は、英語ではなく日本語なの？
- 第9週 連声と入声音2：「コンニク」ってどういう意味？
- 第10週 訓点と角筆：今から1200年前に、とても話がはやくてノートを取りにくい先生がいたとします。皆さんなら、どうしますか？
- 第11週 反切：「東 徳紅切」で、よめない漢字がよめるようになるのです
- 第12週 上代特殊仮名遣い：キヒミケヘメコソトノモヨロ
- 第13週 紀貫之と藤原定家：平仮名の定着と紀貫之の憂鬱
- 第14週 定家仮名遣いと契沖仮名遣い：どうして仮名遣いが必要になったのか？
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】事前に、国語史に関する書籍や辞典などで、シラバスに載っているキーワードについて調べ、考えをまとめておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業の内容を復習すること。プリントやテキストを再読すること。疑問点があったらまとめておくこと。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

半沢幹一ほか編『ケーススタディ 日本語の歴史』（おうふう、2002年）。1800円＋税 なお、適宜、補助プリントを配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業数の3分の2以上の出席を前提とした上で、期末テスト

60%・平常点（積極的参加・提出課題）40%で判断する。

提出課題は授業中にフィードバックを行う。また、期末テストは、授業の最後にフィードバックを行う。

**【参考書】**

授業において指示をする。

**【注意事項】**

- 1：座席が決まっているので、座席表を見て着席すること。
- 2：遅刻3回で欠席1回の扱いとなる。また、30分以上の遅刻は、欠席扱いとする。
- 3：授業内容・順序は、学生の興味や理解度にあわせて、適宜変更することもある。また、必要に応じて、文献の読み方（くずし字の基礎等）も講義する可能性がある。
- 4：第1回目の授業でその他の注意点を詳しく説明する。
- 5：授業を無断で、撮影・録音・録画することは認められない。

**国際関係概論**

神山 静香

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

本講義では、経済（企業の国際的な経済活動等）に関わる国際的な法やルールについて基本的な知識を修得します。また、ビジネスと人権の問題に関わる実際の事例を題材として、人権に関する国際法についても学びます。

**【授業における到達目標】**

経済や人権に関する国際法規について基本的な知識を修得します。ディプロマ・ポリシーとの関連については、国際感覚を身につけて世界に踏み出し社会を動かそうとする態度を核として、学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く力及び「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を発見する力を修得します。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODクシヨン：講義の目的と概要
- 第2週 国家と国際法
- 第3週 国家の管轄権
- 第4週 国際経済法（1）総論
- 第5週 国際経済法（2）域外適用・米国
- 第6週 国際経済法（3）域外適用・EU
- 第7週 国家安全保障と外資規制
- 第8週 国際ビジネス（1）国際贈収賄に関する条約
- 第9週 国際ビジネス（2）国際贈収賄・外国法の域外適用
- 第10週 国際ビジネス（3）米国証券法と国際法
- 第11週 国際ビジネス（4）人権と国際法
- 第12週 国際ビジネス（5）企業のCSRと国際法
- 第13週 国際ビジネス（6）国際取引と国際訴訟
- 第14週 国際ビジネス（7）仲裁
- 第15週 講義の総括

**【事前・事後学修】**

【事前】授業時にキーワードを提示するので、新聞やインターネット等で情報を収集したり、関連文献を読むなどして、自分の考えをまとめておいてください。（学修時間週2時間）

【事後】講義レジュメやノートを復習し、なにが問題なのか理解するようにしてください。（学修時間週2時間）

**【テキスト・教材】**

テキスト、教材については授業開始後、指示します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

小テスト、課題の提出、授業への積極的な参加等の平常点（40％）と期末試験（60％）に基づいて評価します。小テストは次回授業でフィードバックを行います。

**【参考書】**

授業開始後に適宜、指示します。



## 国際関係論

—あなたの隣にある国際関係—

大島 幸治

1・2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

国際関係論では、国際社会の中の日本、われわれを取り巻く情勢と課題を考える基礎知識を学びます。日米関係を機軸にしながら、流動化、緊迫度を加える東アジア情勢をめぐって議論を進め、ロシアやEU情勢、中東情勢も視野に入れていきます。議論の中で金融経済やグローバリズム、国際政治、資源争奪や軍事問題、サイバー戦争に関する基礎知識について学びます。適宜、最新のニュースも取り上げながら、身近な問題として一緒に考え、議論します。

### 【授業における到達目標】

授業では、経済学の基礎知識、グローバリズムの諸問題、国際政治や地政学的な視点などについても言及するので、国際関係を考えていく必須の概念や専門用語についての基礎知識を修得し、世界に踏み出していくための国際感覚を身につけることを目指します。学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を発見できる力を修得します。これによって協働力を身につけます。

### 【授業の内容】

1. われわれがおかれた現状とは？
2. グローバリズムの終焉
3. 経済学で考える基礎
4. ウォール街の強欲金融資本主義
5. 日本企業を搾取する米国の訴訟ビジネス
6. 中国の軍事的脅威
7. バブル崩壊に向かう中国経済
8. アフリカの資源を食い荒らす中国
9. 韓国経済と外交
10. 北朝鮮の核による瀬戸際外交
11. 現代の主戦場サイバー空間
12. ロシア経済と軍事的野心
13. EUの危機の本質
14. 中東情勢と日本
15. まとめ・総括

### 【事前・事後学修】

事前にシラバス記載の項目について新聞・雑誌など関連記事などを関心を持って情報収集すること（学修時間 週2時間）。

授業後は毎回配付する資料・プリントを読み、専門用語などを理解しておくこと。講義中に紹介した文献について目を通すなどして理解を深め、必要があれば質問すべきことをまとめておくこと（学修時間 週2時間）。

### 【テキスト・教材】

プリントを使用する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（実施小テスト・授業中の参加度）40%、レポート60%  
小テストやリアクション・ペーパーについては次回授業でフィードバックを行う。

### 【参考書】

講義中に関連参考文献を紹介します。

### 【注意事項】

レポートについては、講義の中で書き方に関する注意事項を述べます。

**国際企業論**

高橋 意智郎

3年 後期 2単位

©：研鑽力

**【授業のテーマ】**

今日、多くの企業が国境を越えて複数の国で事業活動を展開している。これら国際企業は様々なビジネスの中心で活躍し、進出先の国の経済・政治・社会に大きな影響を及ぼしている。本講義は、このような国際企業の戦略、組織、機能（生産・研究開発・人事）について理解を深めることを目的とする。実際に活躍している国際企業の事例を盛り込んで、受講した皆さんの興味を引く講義にしたいと考えている。

**【授業における到達目標】**

国際企業を考える基礎力が身につく。

ディプロマポリシー：学修を通して自己成長する力【研鑽力】

**【授業の内容】**

1. ガイダンス：国際企業論について
2. 国際企業のデータ分析
3. 海外参入形態
4. 海外投資の意思決定プロセス
5. グローバル戦略
6. マルチナショナル戦略
7. トランスナショナル戦略
8. 国際戦略提携
9. 国際経営組織
10. 海外子会社のマネジメント
11. BOPビジネス
12. 異文化マネジメント：講義
13. 異文化マネジメント：グループワーク
14. 国際企業のトピック：ゲストスピーカーの講演の予定
15. 総括

**【事前・事後学修】**

事前学修：配布された資料・プリントを次回の授業までに読んでおくこと。（2時間）

事後学修：授業中にとったノート、授業で使った資料・プリントを参考にして授業内容を理解しているか確認すること。（2時間）

**【テキスト・教材】**

テキスト・教材は指定しない。毎回の講義のときに資料を配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

この講義では、講義中に何回か課題を行う。成績は、期末試験（50%）、講義中に行う課題（30%）、平常点（授業への積極的参加）（20%）を総合して決定する。課題のフィードバックは、課題の解説を行う。

**国際企業論**

高橋 意智郎

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力

**【授業のテーマ】**

今日、多くの企業が国境を越えて複数の国で事業活動を展開している。これら国際企業は様々なビジネスの中心で活躍し、進出先の国の経済・政治・社会に大きな影響を及ぼしている。本講義は、このような国際企業の戦略、組織、機能（生産・研究開発・人事）について理解を深めることを目的とする。実際に活躍している国際企業の事例を盛り込んで、受講した皆さんの興味を引く講義にしたいと考えている。

**【授業における到達目標】**

国際企業を考える基礎力が身につく。

ディプロマポリシー：学修を通して自己成長する力【研鑽力】

**【授業の内容】**

1. ガイダンス：国際企業論について
2. 国際企業のデータ分析
3. 海外参入形態
4. 海外投資の意思決定プロセス
5. グローバル戦略
6. マルチナショナル戦略
7. トランスナショナル戦略
8. 国際戦略提携
9. 国際経営組織
10. 海外子会社のマネジメント
11. BOPビジネス
12. 異文化マネジメント：講義
13. 異文化マネジメント：グループワーク
14. 国際企業のトピック：ゲストスピーカーの講演の予定
15. 総括

**【事前・事後学修】**

事前学修：配布された資料・プリントを次回の授業までに読んでおくこと。（2時間）

事後学修：授業中にとったノート、授業で使った資料・プリントを参考にして授業内容を理解しているか確認すること。（2時間）

**【テキスト・教材】**

テキスト・教材は指定しない。毎回の講義のときに資料を配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

この講義では、講義中に何回か課題を行う。成績は、期末試験（50%）、講義中に行う課題（30%）、平常点（授業への積極的参加）（20%）を総合して決定する。課題のフィードバックは、課題の解説を行う。

**国際企業論特論**

高橋 意智郎

人間社会専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

国際企業の戦略、組織、機能（生産・研究開発・人事）について、学界の最先端の研究成果を学習し、現代の国際企業の事例を分析する。

国際企業で事業活動を推進する経営者・管理者が必要な洞察力を高め、ビジネス社会に貢献できる女性リーダーの育成を図る。

**【授業における到達目標】**

国際企業について修士課程の学生レベルの基礎力が身につく

**【授業の内容】**

- 第1回 ガイダンス：国際企業論について
- 第2回 国際企業のデータ分析
- 第3回 海外参入形態
- 第4回 グローバル戦略
- 第5回 マルチナショナル戦略
- 第6回 トランスナショナル戦略
- 第7回 国際戦略提携
- 第8回 国際経営組織
- 第9回 海外子会社のマネジメント
- 第10回 国際技術移転
- 第11回 国際研究開発
- 第12回 国際人的資源管理
- 第13回 日本企業の中国ビジネス①—自動車及び自動車部品メーカーの事例を中心に—
- 第14回 日本企業の中国ビジネス②—化粧品メーカーの事例を中心に—
- 第15回 総括

**【事前・事後学修】**

事前学修：最近の国際企業の動向について書籍、新聞、雑誌などを通じて事前に学修しておくこと（週2時間）

事後学修：授業内容を振り返ること（週2時間）

**【テキスト・教材】**

テキスト・教材は、講義で必要なものを提供する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

課題（50%）、プレゼンテーションとディスカッション（30%）、平常点（20%）の内容で評価する。

課題へのフィードバックについては、課題の解説を行う。

**【参考書】**

以下は参考文献である。さらに開講時及び適宜、参考文献を紹介する。

・江夏健一・長谷川信次・長谷川礼『国際ビジネス理論』（中央経済社 2008年）

**【注意事項】**

学生のレベルにもよるが、上記の「授業の内容」に関連した学術論文や英文ジャーナルの輪読も検討している。

**国際協力論**

グローバル地球社会に介在する様々な諸問題を理解する

小高 泰

3年 後期 2単位

○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

本授業は、「持続可能なグローバル地球社会の構築」を目指すために、現在私たちを取り巻く地球規模の諸問題を認識することから始め、その内容を知り、そして、そこからいかなる解決方法が見いだせるのか、糸口を共に考えたり共有することを目的としています。このことは国際協力に関する基本的知識の習得と問題意識の醸成にもつながります。そのために私達の生活にも直接影響をおよぼすグローバルイゼーション、貧困、性の差別、戦争(子供兵士など)、地球環境破壊等々の問題を具体的に提起し、顕在する地球規模の諸問題を理解し、解決に繋がる思考力、創造力を養います。

**【授業における到達目標】**

現在、世界で発生している地球規模の問題の現状を認識し、そこに息づく人々の政治、経済、社会環境の概観を通じて、自己の問題として向き合う問題意識、社会的視野を醸成します。そこから、問題解決に至る方法を見出す創造力、共同して考える意識を構築します。

**【授業の内容】**

- 第1週 国際協力とは
- 第2週 国際社会の形成「西欧と非西欧」
- 第3週 グローバル・ガバナンスとは
- 第4週 貧困問題を考える
- 第5週 環境問題を考える
- 第6週 環境問題とガバナンス(ベトナムを事例に)
- 第7週 アジアの経済発展① 植民地支配の歴史
- 第8週 アジアの経済発展② 独立後の諸困難
- 第9週 軍隊と平和
- 第10週 難民問題を考える
- 第11週 人権問題① 日本における人権問題
- 第12週 人権問題② アジアの人権問題
- 第13週 日本の国際協力① 戦後日本の国際協力政策とその変化
- 第14週 日本の国際協力② 日本の「技能実習生制度」を事例に
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：その都度変動する国際問題のトピックを提示しますので、事前に資料に目を通して授業に参加して下さい。(週2時間)  
事後学修：また授業後は学んだ内容に関して抱いた疑問点、関連事項で気が付いた点などをノートにまとめ次回の授業で質問をする習慣を整えて下さい。(週2時間)

**【テキスト・教材】**

上村雄彦『グローバル協力論入門：地球政治経済論からの接近』(法律文化社、2014年)2,808円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- (1) 授業態度：50%
- (2) 試験及び課題提出：50%

提出された課題は次回授業でフィードバックします。

私語をする人、携帯電話に熱中する人には向かない授業だと思います。諸事情で欠席する場合は申し出て下さい。

**【参考書】**

広島大学大学院国際協力研究科教育文化専攻平川研究室ホームページ (<http://home.hiroshima-u.ac.jp/hirayuki/greetings2.html>)などを切り口に基本的知識や問題意識を養って下さい。

**【注意事項】**

授業内容の各項目に応じて、自身で関心のあるテーマを文献やネット上で調べるように心がけて下さい。また、試験は筆記形式です。授業や日常生活で会得した知識、知見を自分の言葉を用いて表現して下さい。

**国際経済論**

高橋 意智郎

3年 後期 2単位

◎：研鑽力

**【授業のテーマ】**

ヒト、モノ、カネ、サービスの国際移動が活発な今日、日本経済を始め各国経済は、ますます相互に依存し合っている。国際経済論は、各国経済が相互に依存し合うことに伴う様々な問題を分析して、適切な政策を提言していく学問である。本講義では、国際経済に関する、いくつかのテーマについて基本的な内容を理解し、現実を見るための視野を形成することを目的とする。豊富な事例を盛り込んで、受講した皆さんの興味を引く講義にしたいと考えている。

**【授業における到達目標】**

国際経済を考える基礎力が身につく。

ディプロマポリシー：学修を通して自己成長する力【研鑽力】

**【授業の内容】**

1. ガイダンス：国際経済論について
2. 経済のグローバル化と日本—国境を超えるヒト・モノ・カネ・企業—
3. 外国為替取引と為替レート—為替レートの決定要因と為替レート変動の影響—
4. 外国為替取引と為替レート—変動為替レートと固定為替レート、ドル本位制、ユーロの導入—
5. 経常収支と国際貿易
6. 国際貿易と海外直接投資の理論
7. 国際貿易と貿易政策—国際貿易の恩恵、国際貿易の影響—
8. 国際貿易と貿易政策—保護貿易の不利益、補助金による産業保護—
9. 海外直接投資と企業のグローバル化—海外直接投資の方法、海外子会社の種類—
10. 海外直接投資と企業のグローバル化—多国籍企業の事業活動、移転価格—
11. 経済的地域連携と多国籍企業
12. TPPと企業の動き
13. EUと企業の動き
14. 国際経済のトピック：ゲストスピーカーの講演の予定
15. 総括

**【事前・事後学修】**

事前学修：配布された資料・プリントを次回の授業までに読んでおくこと。(2時間)

事後学修：授業中にとったノート、授業で使った資料・プリントを参考にして授業内容を理解しているか確認すること。(2時間)

**【テキスト・教材】**

テキスト・教材は指定しない。毎回の講義のときに資料を配布する。

参考文献として以下の文献を挙げておく。

井堀利宏著『図解雑学・マクロ経済学』(ナツメ社)

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

本講義では、講義中に何回か課題を行う。成績は、期末試験(50%)、講義中に行う課題(30%)、平常点(授業への積極的参加)(20%)を総合して決定する。課題のフィードバックは、課題の解説を行う。

## 国際交流論

—他者を知り、己を知る—

齋藤 英之

1・2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

グローバル化の進展に伴い、「国際交流」とは異文化の人々による日常的な接触を主に意味するようになりました。異文化接触の増大は、協調や調和、新文化創造などプラス効果を生み出す一方で、摩擦や軋轢、対立といったマイナス現象も引き起こします。

2017年には1789万人の日本人が海外に出かけ、2869万人の外国人が日本を訪れています。日本人にとっても「外国人が隣にいる」風景が日常になる中で、近隣諸国との対立や偏狭で排他的なナショナリズムも出現しています。

プラス面を拡大し、マイナス面を縮小するには、異文化の他者を知り、振り返って己自身を知り、互いを尊重・理解し合いながら、接触に伴う様々な問題に真摯に対処していくことが大切です。

### 【授業における到達目標】

無意識に絶対的なものとみなしている自分や自文化が相対的なものであることを認識し、人間や文化を客観視できる力を養い、グローバル化時代にふさわしい「国際的視野」を獲得し、さらに様々な異文化を原因として生じる問題に異文化の人とともに対処するための「行動力」と「協働力」を養成することを目標とします。

### 【授業の内容】

1. 国際交流とは
2. 異文化摩擦の要因
3. 異文化接触としての国際交流 ①文化とは
4. 異文化接触としての国際交流 ②異文化比較・物質的側面
5. 異文化接触としての国際交流 ③異文化比較・精神的側面
6. 国際交流の過程 ①パターンとプロセス
7. 国際交流の過程 ②現実と問題点
8. 日本で暮らす外国人
9. 海外で暮らす日本人
10. 日本の異文化交流史 ①古代
11. 日本の異文化交流史 ②中世
12. 日本の異文化交流史 ③近現代
13. 多文化社会としての日本 ①古くからの他者
14. 多文化社会としての日本 ②新たな他者
15. まとめ

### 【事前・事後学修】

- ・事前学修：次回の授業項目について、新聞やテレビ、参考図書を用いて自分なりに考えておきましょう（学修時間 週2時間）。
- ・事後学修：授業で学んだ事項を意識して新聞を読み、国際交流に関わる内容のテレビ番組（「クール・ジャパン」「YOUは何しに日本へ？」など）を視聴しましょう（学修時間 週2時間）。

### 【テキスト・教材】

教科書はありません。適宜、プリントを配付し、視聴覚教材を用います。地図帳を持参してもらうこともあります。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（提出物・小テスト・リアクションペーパー）50%と定期試験（実筆ノートと配付資料の持込可）50%により評価します。採点后、manaba で「試験講評と今後の学修」を公表します。

### 【参考書】

- 石井敏他『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』（有斐閣選書 2013年）2100円。  
原沢伊都夫『異文化理解入門』（研究社 2013年）2367円。  
青木保『異文化理解』（岩波新書 2001年）799円。

### 【注意事項】

「講義を聞く」のではなく「授業に参加」して下さい。「作業」もしてもらいます。授業を睡眠時間・談笑時間・内職時間と心得るものは履修を遠慮して下さい。

## 国際社会と宗教

—国際紛争の背後にあるもの—

大島 幸治

1・2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究、研鑽力

### 【授業のテーマ】

世界の主要な宗教についてユダヤ教における一神教の成立から説き起こし、啓典の民としてイスラームに関する基礎知識、宗派対立の現状や歴史的背景を論じて中東問題への理解を深めます。また一神教であるキリスト教について第三世界に影響を持つカトリックと先進国のプロテスタントなど宗派対立の問題について理解します。東洋の宗教としてのヒンドゥー教や仏教、さらには神道やカルト宗教についても概観し、現代における問題性と課題を考えます。

### 【授業における到達目標】

グローバル化が生み出した経済格差や雇用不安から、今日の世界はナショナリズムの復活や民族対立へと動いています。その背景には近代主義と対立する宗教原理主義の問題があり、それに対処する姿勢として民主主義と共和主義、リベラリズムと新保守主義の文化対立も関わっています。授業では多様な価値観を理解する基礎として世界の宗教に関する基礎知識、宗教対立の実情、国際情勢との関係について学びます。国際社会の現状を理解し、宗教に関心が薄い日本人が取り組むべき課題を発見する力を修得します。これにより多様な視点・価値観を学び続ける研鑽力を身につけ、多様な美を受容する「美の探求」を学びます。

### 【授業の内容】

1. 国際社会における宗教の問題性
2. ユダヤ教：一神教の成立
3. 排他的な一神教を純化したイスラーム
4. イスラーム(2)イスラームの宗派対立
5. イスラーム(3)欧米に責任がある中東の混乱
6. キリスト教の基本的な考え方
7. キリスト教(2)ヨーロッパ世界の形成と東西の教会
8. キリスト教(3)宗教改革がもたらした近代への道
9. キリスト教(4)先進国プロテスタントと第三世界カトリック
10. ヒンドゥー教の諸問題
11. 仏教の諸問題
12. 仏教の多様性と現代の問題
13. 神道とエコロジー
14. カルト宗教や過激原理主義
15. まとめ・総括

### 【事前・事後学修】

- ・事前にシラバスで項目を確認し、新聞・雑誌などの関連記事について関心を持って情報収集すること。（学修時間 週2時間）
- ・事後学修としては、毎回配付する資料・プリントを読み、講義中に紹介する関連文献に眼を通す等して理解を深め、専門用語等を理解すること。必要があれば質問すべき内容をまとめておくこと。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

プリントを使用する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（実施小テスト・授業中の参加度）40%、レポート60%  
小テストは次回授業でフィードバックを行う。レポートについてはmanaba 等に総評を記載して学生へのフィードバックとする。

### 【参考書】

講義中に関連参考文献を紹介します。

### 【注意事項】

レポートについては、講義の中で書き方に関する注意事項を述べます。

## 国際政治論

小高 泰

2年 後期 2単位

○：国際的視野

## 【授業のテーマ】

国際社会では日々、様々な事象、問題が発生しています。それらが私達の生活にいかなる関係を持ち影響を与えるのか、授業を通じて共に問題意識を抱き考えてゆきましょう。特に日本との繋がりが深まる東南アジア世界と諸大国との関係に注目しながら授業は展開されます。

## 【授業における到達目標】

国際理解を深める一つの方法は歴史を知ることです。昨今、東南アジア地域は日本の企業進出が目覚ましく、諸分野の交流が益々深まっています。しかし、元々この地域は多くの民族、宗教、言語、そして国家が交錯し、かつては東西交易の中継地でもありました。それが諸大国による植民地支配によって混乱し、分裂から独立運動、そして国家建設を歩んでゆきます。本授業では、これらのプロセスを考察しつつ、幅広い価値観を認め合い理解する国際性を醸成します。

## 【授業の内容】

- 第1週 東南アジア世界とは
- 第2週 近代以前の伝統国家
- 第3週 植民地化による変容① 植民地主義とは
- 第4週 植民地化による変容② ミャンマー、インドネシア等の場合
- 第5週 植民地ナショナリズム① 共産主義とは
- 第6週 植民地ナショナリズム② ベトナム、フィリピン等の場合
- 第7週 東南アジアにとっての「大東亜戦争」
- 第8週 インドネシア、ビルマのナショナリズム運動
- 第9週 冷戦の東南アジアへの拡大（インドシナ）
- 第10週 脱植民地化と東南アジア
- 第11週 ベトナム戦争と東南アジア① ベトナム戦争の背景と国際関係
- 第12週 ベトナム戦争と東南アジア② 東南アジア諸国の対応
- 第13週 独裁体制の成立と展開
- 第14週 南シナ海問題を巡る東南アジア
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

事前学修：その都度変動する国際問題のトピックを提示しますので、事前に資料に目を通して授業に参加して下さい。（週2時間）  
事後学修：授業後は学んだ内容に関して抱いた疑問点、関連事項で気が付いた点などをノートにまとめ次回の授業で質問をする習慣を整えて下さい。（週2時間）

## 【テキスト・教材】

中野亜里『入門東南アジア現代政治史（改訂版）』（福村出版、2016年）2,700円

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- (1) 授業態度：50%
- (2) 試験及び課題提出：50%

提出された課題は次回授業でフィードバックします。

授業中の電子機器の使用と私語は厳禁とします。諸事情で欠席する場合は申し出て下さい。

## 【参考書】

桐山昇・栗原浩英・根本敬『東南アジアの歴史 人・物・文化の交流史』（有斐閣アルマ、2003年）

## 【注意事項】

試験は筆記形式です。授業や日常生活で会得した知識、知見を自分の言葉を用いて表現して下さい。

## 国際理解とキャリア形成

日本を知り、世界を学び、国際感覚あふれる人材を目指して

深澤 晶久・眞鍋 清嗣

2年～ 前期 2単位

○：国際的視野、研鑽力、協働力

レポート

30点

小レポートは適宜代表例を題材にフィードバックし、共有化を図る国内外の動きについての共有課題を題材に意見交換を行い、各人の理解度や問題意識を把握します

グループワーク・ディスカッションを通じ、考え方の相違などについて気づきを与える

### 【注意事項】

○少人数制（15名×2校地）です

○応募者のなかから選考します

【選考方法】4月2日（月）から教務課窓口でエントリーシートを配布します。履修希望者は、あらかじめ記入し、初回授業当日に教員に提出し、選考を受けてください。選考結果は、翌日に掲示およびWeb履修に登録される形で発表します。

※選考の結果、合格した者は『Web履修』に自動登録されます。同一時間に他の科目を履修しないようにすること。

### 【授業のテーマ】

IT社会の急速な発展や深刻化する人口減少・高齢化社会への突入で社会・経済のみならず私たちの日常生活においても今後益々国際的なつながりが求められてきます。

こうしたなか国際感覚溢れる人材を目指し、よき日本人としてまずは改めて日本のことをよく知り、そして世界主要諸国の歴史や直近の動静を学びます。

またリアルに国際感覚を感じるために多くの外部スピーカーを招聘し、自らの国際ビジネス体験などを語ってもらいます。

本講座は過去3年に亘り、「2020東京オリンピック・パラリンピック」を題材に取り上げ、実践力アップのためのアクティブラーニング型の授業を行っています。本年についてもより発信力のある内容にて実施します。

これらを通じて今の時代に求められる日本人・日本女性がどのようにキャリアを築いていくかを共に考えます。

（項目）

- 日本の近現代史とめまぐるしく変化する世界の情勢を学ぶ
- 海外駐在経験者を招き、自らの国際経験を語ってもらう
- 今後のグローバル社会でどう自分を活かしていくかを考える
- オリンピック・パラリンピック連携講座として実施する
- 適宜、日野・渋谷間 テレビ中継授業を実施する

### 【授業における到達目標】

（国際的視野・研鑽力・協働力）

- ◆「よき日本人はよき国際人」とも言われ、まずは日本の近現代の動き、特に先の大戦とその後の経済発展・企業の動きなどを学ぶ
- ◆世界の主要諸国の戦後の動きや直近の保護主義化の動きなどタイムリーな情報を取り入れ、激動の国際情勢の課題や注目を学ぶ
- ◆国際経験溢れるあらゆる立場のゲストスピーカーからの生々しい講話を聞き幅広い知識を身につける
- ◆「2020東京オリンピック・パラリンピック」を課題に国際社会の中で日本を意識したワークをチームで行い、実践力養成を目指す

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション（講義説明・プログラム・自己紹介）
- 第2週 日本の変化を知る（政治・経済）
- 第3週 日本の変化を知る（企業の動き・国際進出）
- 第4週 アメリカの現状と今後（内政・外交・経済）
- 第5週 EUの成り立ちと苦悩と今後
- 第6週 外部講師（欧米のビジネスから学ぶ）
- 第7週 中国の現状と今後（大国としての責任と課題）
- 第8週 外部講師（中国ビジネスに学ぶ）
- 第9週 激動のアジアを知る（アジアビジネス・NPO活動など）
- 第10週 課題研究「2020東京オリンピック・パラリンピックでどうつながる世界と日本（自分たちは何が出来るか?）」
- 第11週 グループワーク①（コンセプトワークなど）
- 第12週 グループワーク②（プレゼン準備など）
- 第13週 プレゼンテーション（日野・渋谷合同TVセッション）
- 第14週 レポート作成・提出
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

○週4時間程度新聞報道や参考図書などで国内外の動きを事前事後学修してください

授業内で適宜国内外の動きについて意見交換をします

○また、2020年東京オリンピック・パラリンピックについてのメディアの動きに注目し、情報収集を心掛けてください

### 【テキスト・教材】

適宜配布します

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（取組姿勢・感想文・小レポートなど） 70点



**国際理解と発達支援**

長崎 勤

1年 通年 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート40%、グループ研究40%、平常点（授業への積極参加・提出課題）20%。レポートについてのコメントを個別に、あるいは授業において全体にフィードバックする。

**【参考書】**

ヘッセ杉山ナオコ(2012)「your world」子どもの未来社 1700円（税抜）

この他、授業内で適宜紹介する。

**【授業のテーマ】**

本講義では、世界の人々の家庭、教育、生活、子育て法、価値観、習慣、行事などを知り、多様なものの見方や考え方があることに気づき、国際理解への理解を深めることを目的としている。前期では、世界の家庭、子育て、教育について理解し、後期では、世界の発達支援プログラムや考え方を知り、国際理解を深めたい。

**【授業における到達目標】**

- ・発達支援に関する国際的な歴史と、現状を理解できる。
- ・発達支援の基本的な考え方と、プログラムが理解できる。
- ・発達支援を必要とする人々を深く理解できる。
- ・学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を把握し、課題を発見できる力を修得する。

**【授業の内容】**

前期

- 第1週 前期オリエンテーション
- 第2週 グローバルゼーションと発達
- 第3週 世界の家族1 アメリカ
- 第4週 世界の家族2 北欧
- 第5週 世界の家族3 ヨーロッパ
- 第6週 世界の家族4 アジア、アフリカ
- 第7週 世界の子育て1 アメリカ
- 第8週 世界の子育て2 ロシア、北欧
- 第9週 世界の子育て3 ヨーロッパ
- 第10週 世界の子育て4 アジア、アフリカ
- 第11週 世界の教育1 アメリカ
- 第12週 世界の教育2 ロシア、北欧
- 第13週 世界の教育3 ヨーロッパ
- 第14週 世界の教育4 アジア、アフリカ
- 第15週 前期のまとめ

後期

- 第1週 後期オリエンテーション
- 第2週 世界の発達支援プログラム1 アメリカ、知的障害
- 第3週 世界の発達支援プログラム2 アメリカ、発達障害
- 第4週 世界の発達支援プログラム3 アメリカ、虐待、子育て支援
- 第5週 世界の発達支援プログラム1 北欧、知的障害
- 第6週 世界の発達支援プログラム1 北欧、発達障害
- 第7週 世界の発達支援プログラム1 北欧、虐待、育て支援
- 第8週 世界の発達支援プログラム2 ヨーロッパ、知的障害
- 第9週 世界の発達支援プログラム2 ヨーロッパ、発達障害
- 第10週 世界の発達支援プログラム2 ヨーロッパ、虐待、子育て支援
- 第11週 世界の発達支援プログラム3 アジア、アフリカ、知的障害
- 第12週 世界の発達支援プログラム3 アジア、アフリカ、発達障害
- 第13週 世界の発達支援の課題 制度
- 第14週 世界の発達支援の課題 プログラム
- 第15週 後期のまとめ

海外の子育て支援・保育・教育・特別支援教育で外部講師を予定。

**【事前・事後学修】**

【事前学修】小テスト・レポート・発表等の課題に取り組むこと。  
(学修時間 週2時間)

【事後学修】発表・小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

牧野カヅコ他(2010)「国際比較にみる世界の家族と子育て」ミネルヴァ書房2500円(税抜き)

**国文学概論 a**

—cdクラス 小説を読む—

棚田 輝嘉

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

**【授業のテーマ】**

文学表現は「散文」と「韻文」に分けることができます。それぞれの表現の「質」や「目的」は同じではありません。

本講義では、「散文」、とくに「小説」というジャンルに注目して、表現の特質や意味について考えていきたいと思えます。

**【授業における到達目標】**

「学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探求し、学問を続けることができる」こと、および、「物事の心理を探求することによって、新たな知を創造しようとする態度」を涵養することを目的とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 語りは騙り1：ドーデ「最後の授業」
- 第2週 小説とはなにか：芥川龍之介「蜜柑」
- 第3週 小説とはなにか：新美南吉「ごん狐」
- 第4週 小説のしかけ：村上春樹「螢」他
- 第5週 小説の背後：村上春樹「羊をめぐる冒険」
- 第6週 何が面白いのか：梶井基次郎「檸檬」
- 第7週 お勧め本について熱く語ろう1：純文学
- 第8週 お勧め本について熱く語ろう2：推理小説・SFなど
- 第9週 主題と意図1：太宰治「走れメロス」
- 第10週 主題と意図2：太宰治「桜桃」
- 第11週 よく読むということ：芥川龍之介「羅生門」
- 第12週 物語の始まり方
- 第13週 物語の終わり方
- 第14週 再び、小説とはなにか
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】週2時間。あらかじめ配布された資料を、必ず読んでから出席すること。

【事後学修】週2時間。授業で出された課題を、翌週までに仕上げ、提出すること。

**【テキスト・教材】**

こちらで用意する

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への取り組み） 50%

課題提出 50%

提出された課題について、次の時間にコメント等のフィードバックを行う。

**【参考書】**

時間中に適宜指示する

**【注意事項】**

ほぼ毎回課題を出すので、欠席すると苦しくなりますよ

**国文学概論 a**

—abクラス「国文学」入門—

林 悠子

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

**【授業のテーマ】**

授業のテーマ・目標

皆さんが新しく始める「国文学」という学問は、高校までの教科としての「国語」とは目的も方法も異なる学問です。国文学研究において他の人を納得させる結論を導くためには、定められたプロセスに従う必要があります。国文学研究とは、いわばさまざまなルールの中でフェアプレーが求められる知的な〈ゲーム〉なのです。

この授業では、皆さんが「国文学研究」という〈ゲーム〉の公平でたくましいプレーヤーになれるよう、研究の基礎的なルールと考え方を学びます。

**【授業における到達目標】**

「国文学研究」のための入門的な知識とルールの修得を通じて、全学DPの「研鑽力」のうち、生涯にわたって学問を続ける力を身につけます。

**【授業の内容】**

- 1 「国語」から「国文学」へ
- 2 「話型」＝「お話のパターン」を理解しよう
- 3 「パターン」で読む国文学作品
  - 「二人のイケメンに愛されちゃったらどうしよう」①『万葉集』
- 4 「パターン」で読む国文学作品
  - 「二人のイケメンに愛されちゃったらどうしよう」②『大和物語』
- 5 「パターン」で読む国文学作品
  - 「二人のイケメンに愛されちゃったらどうしよう」③謡曲〈求塚〉前編（能について）
- 6 「パターン」で読む国文学作品
  - 「二人のイケメンに愛されちゃったらどうしよう」④謡曲〈求塚〉後編（DVD鑑賞）
- 7 本を使いこなそう① 凡例を理解する
- 8 本を使いこなそう② 引用のルール
- 9 本を使いこなそう③ 索引を引いてみよう
- 10 書誌学入門① さまざまな本の形
- 11 書誌学入門② 和綴じの練習
- 12 書誌学入門③ 本から読み取れる情報
- 13 現代語訳を読むだけでは何故ダメなの？
- 14 個別のテキストとしての『源氏物語』と『あさきゆめみし』
- 15 まとめ

**【事前・事後学修】**

次回授業のために、指定された課題に取り組んでください。

（学修時間 週2時間）

不定期に小テストを行うので、毎回の授業後の復習をしてください。また、学期末の最終課題のためにも復習と準備が必要です。

（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

適宜プリントを配付します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

小テストの点数30%、授業参加（課題の提出、リアクションペーパーの記入状況、討議の際の発言）30%、最終課題（授業内小レポート）40%で評価します。小テストは次回授業で、小レポートについてはmanaba上でフィードバックを行います。

**【注意事項】**

欠席をしないことが前提の授業です。30分以上の遅刻は原則欠席扱いとします。

**国文学概論 a**

—efクラス 国文学を学ぶために—

佐藤 悟

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

**【授業のテーマ】**

国文学は高等学校の国語とは違うので、とまどうことも多いかと思  
います。そこで国文学の基礎について概説を行い、国文学とは何か  
を考えていくことにします。最初に国文学の時代区分、ジャンル、  
近代文学と古典文学との違いなどを考えていきます。

近代文学と近世文学の違いが、近代文学は人間の内面を描き、近世  
文学は勧善懲悪を旨とするといった明治以来の誤った概念を皆さん  
はお持ちだと思います。一例として『おくの細道』を読みながら、  
古典文学と近代文学の違いを見ていきます。

大学の基本は考える力をつけることです。「なぜ」このような表現  
がなされたのか、「なぜ」このような虚構が描かれたのかといった  
文学にかかわる諸問題を対話を通して検証していきます。

授業中にはいろいろな質問をします。質問に対する答え、またそれ  
に対する質問を重ねていくことによって思考する力をつけます

**【授業における到達目標】**

国文学とは何かという理解を深める。

国文学研究に必要な研究力（技術、考え方）を身に付ける。

他の学問領域と国文学がどのように関わるかを理解する。

知を求め、心の美を育む態度と学修を通じて自己成長する力を得る  
ことを到達目標とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 国文学の時代区分
- 第2週 各時代概説Ⅰ（文学史と政治・社会史）
- 第3週 各時代概説Ⅱ（古典文学とは何か）
- 第4週 各時代概説Ⅲ（近代文学とは何か）
- 第5週 国文学のジャンルⅠ（小説Ⅰ）
- 第6週 国文学のジャンルⅡ（小説Ⅱ）
- 第7週 国文学のジャンルⅢ（説話）
- 第8週 国文学のジャンルⅣ（和歌）
- 第9週 国文学のジャンルⅤ（その他）
- 第10週 国文学におけるテキストについて
- 第11週 古典文学の価値とは何か。
- 第12週 近代文学の多様性について
- 第13週 国文学を取り巻く諸問題Ⅰ
- 第14週 国文学を取り巻く諸問題Ⅱ
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修として、文学史についての概説書を特に指定はしないが目  
を通しておくこと。また事前学修には最低2時間程度振り当てるこ  
と。

事後学修としてはノートを工夫し、授業中の問題提起を咀嚼し、内  
容を再構成して、次回における質問を考えること。授業中に指示さ  
れた参考書は図書館で見しておくこと。時間としては最低2時間程度  
振り当てること。

**【テキスト・教材】**

萩原恭男編『芭蕉おくのほそ道』（岩波文庫、1957年）819  
円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業中の質疑応答等の平常点が50パーセント、試験が50パーセン  
ト。試験問題は記述式でおこなう。テキスト、自筆ノートの持ち込  
みを可とする。問題はあらかじめ提示するので、それについての解  
答をあらかじめ用意しておくこと。それに対する質問の時間を設定  
する。

**【参考書】**

適宜指示する。

**【注意事項】**

五回以上欠席すると自動的に失格する。

パワーポイントを使用するので、ノートの取り方に注意すること。

**国文学概論 b**

—cdクラス 韻文を読む—

棚田 輝嘉

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

**【授業のテーマ】**

文学のジャンルのうち、「韻文」について考える。具体的には俳  
句・短歌・詩を取り上げ、さらにその周辺の韻文表現として、都々  
逸、言葉遊び、五行歌なども対象として、韻文が持つ表現の意味と  
可能性について、検討したい。

**【授業における到達目標】**

「学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探求し、学問を続けること  
ができる」こと、および、「物事の心理を探求することによって、  
新たな知を創造しようとする態度」を涵養することを目的とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 はじめに：韻文とはなにか
- 第2週 音読するということ：いるかないか
- 第3週 心と言葉：哀歌
- 第4週 散文詩は詩？：姪が生きていた日
- 第5週 短歌の世界1：俵万智、他
- 第6週 短歌の世界2：与謝野晶子、他
- 第7週 五行歌
- 第8週 改行の意味と三行歌：石川啄木、他
- 第9週 都々逸
- 第10週 散文詩再び：あの日もかもしれない
- 第11週 読みの多様性1：ぞうさん
- 第12週 読みの多様性2：少女
- 第13週 歌詞という詩1：雨のように
- 第14週 歌詞という詩2：きづいてよ
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】週2時間。あらかじめ配布された資料を必ず読んでお  
くこと。

【事後学修】週2時間。出された課題を、翌週の授業時に提出でき  
るように、きちんと仕上げしておくこと。

**【テキスト・教材】**

こちらで用意する

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への取り組み） 50%

課題提出 50%

提出された課題等について、次の時間にコメント等のフィードバ  
ックを行う。

**【参考書】**

授業中に適宜指示する

**【注意事項】**

ほぼ毎回課題を出すので、欠席すると苦しくなりますよ

## 国文学概論 b

-abクラス ステップアップ国文学-

横井 孝

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

## 【授業のテーマ】

「国文学」とは何か？

ここではその「基本」をめぐる学びます。「基本」というと退屈な繰り返し、訓練というイメージがありますし、なにやら軽視されるようなところもありますが、スポーツでも芸能でも何でも、技術を要するものはすべて「基本」の上にはか成り立っていません。皆さんにとっても、その重要な基本に取り組んで頂きます。

後期に入って、皆さんたちは、さらにもう一段上の専門の領域に近づきました。エンターテインメント（楽しみ・遊び・娯楽）としての「コクブンガク」から、研究の対象としての「国文学」へ。

ここでは、国文学科で4年間学ぶために、どのような専門領域に進んでも必要不可欠のアイテムやツールを手に入れる方法を調べてゆきましょう。

## 【授業における到達目標】

国語学（日本語学）を除く、国文学の基本的事柄、テクニカルチーム、取り組む方法など、ありとあらゆる国文学の基礎的事項に対する知識を獲得してゆきます。それは、2年生以降の、さらなる専門性への武器になるはずで、この授業を通して、文学の美の探究の方法をみつめ研鑽する力を養います。

## 【授業の内容】

- 第1週 長篇作品の読み方
- 第2週 「小説」と「物語」のちがいを
- 第3週 小説の構造を冒頭から読み取る
- 第4週 物語の構造を冒頭から読み取る
- 第5週 「話型」をきわめる
- 第6週 「話型」、たとえば『竹取物語』
- 第7週 「本」のちがいはどんなことか？
- 第8週 洋装本のかたち
- 第9週 いわゆる「和本」のかたち
- 第10週 文字・書体・フォント
- 第11週 漢字・ひらがな・書体の役割
- 第12週 読み手の立場と書き手の立場
- 第13週 先入観にまどわされるな
- 第14週 研究の対象としての「国文学」
- 第15週 国文学インフォメーション

## 【事前・事後学修】

下の「成績評価の方法・基準」にあるように、ほぼ毎回「小テスト」をおこないます。前回に講義したところが理解できているかどうかを確認するためです。そのテストの対策としても、事後の学修は週2.5時間は必要です。また、事前にも文献を紹介します。その所在を確認し、目を通して理解を深める週1.5時間程度必要です。

## 【テキスト・教材】

毎回、レジュメ（配付資料）を用意します。それに基づいて講義を展開しますので、固定的な教材は使いません。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

最小限10回の「小テスト」をおこない、その累積点を100点に換算して評価します。

「小テスト」はその都度、答え合わせをし、事後学修の資とします。

## 【参考書】

講義中にさまざまな文献を引用してすすめます。その際に指摘、指示してゆきます。

## 【注意事項】

「小テスト」はリアクション・ペーパーでもあります。積極的に活用して、疑問点などを解決する材料にしましょう。

## 国文学概論 b

-efクラス 国文学研究の基礎知識Ⅱ-

佐藤 悟

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

## 【授業のテーマ】

前期にひきつづき、国文学研究の基礎知識を学びます。特に国文学とは何かを古典のテキストがどのようなものであるかということ、『おくのほそ道』を読みながら考えます。また後期は雅と俗について検討を加えます。これにより、従来の伝統的な文学との違い、古典の価値とは何かを考えていきます。

## 【授業における到達目標】

国文学の概念をきちんと理解すること。

授業はディスカッションを重視しますので、自分の考えていることをきちんと説明できる能力を身に付けること。

知を求め心の美を育む態度と自己研鑽力を身に付けることを到達目標とします。

## 【授業の内容】

- 第1週 『おくのほそ道』Ⅰ（凡例の理解）
- 第2週 『おくのほそ道』Ⅱ（雅と俗）
- 第3週 『おくのほそ道』Ⅲ（俳諧とは何か）
- 第4週 『おくのほそ道』Ⅳ（紀行文とは何か）
- 第5週 『おくのほそ道』Ⅴ（講読及び研究方法の提示）
- 第6週 『おくのほそ道』Ⅵ（講読及び研究方法の提示）
- 第7週 『おくのほそ道』Ⅶ（講読及び研究方法の提示）
- 第8週 『おくのほそ道』Ⅷ（講読及び研究方法の提示）
- 第9週 『おくのほそ道』Ⅸ（講読及び研究方法の提示）
- 第10週 『おくのほそ道』Ⅹ（講読及び研究方法の提示）
- 第11週 『おくのほそ道』Ⅺ（講読及び研究方法の提示）
- 第12週 『おくのほそ道』Ⅻ（講読及び研究方法の提示）
- 第13週 芭蕉の生涯Ⅰ
- 第14週 芭蕉の生涯Ⅱ
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

古典文学基礎講読で最低ひらがなの崩し字が読めるようになっていくことが要求される。『おくのほそ道』の翌週部分を前週には2時間以上予習しておくこと。また授業後は2時間程度ノートをきちんと点検すること。

## 【テキスト・教材】

前期と共通。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業中の問題提起に対する発言をすると共に、積極的な質問についても評価する）50%。試験50%。試験の実施方法は前期と同じである。フィードバックはコピーした答案を配布し、質問を受ける。

## 【参考書】

適宜指示する。

## 【注意事項】

欠席が5回になると自動的に失格となる。

## 材料力学

丸川 玲子

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

### 【授業のテーマ】

建物で快適に過ごすためには、建物の構造（骨組み）が安全でなくてはなりません。この安全性確保するために構造設計が必要になります。構造設計では、建物の重さ・地震・風・雪などがどのように建物に「力」としてかかるかを知り、建物の構造を構成する「材料」がどのように安全であるかを「力学」という方法で、読み解きます。これが「材料力学」です。

「材料力学」の理解は、建築を設計する人すべてに求められ、2級建築士の試験科目「建築構造」を学ぶ基本にもなります。受講者の理解度も考慮しながら、構造設計に関わる身近な話題も紹介し、材料力学の初歩を、わかりやすく解説します。

安全でかつ美しい建築構造は、みなさんの身近に多数あります。講義では身近にある美しい建築構造物を材料力学の実例として紹介し、豊かな生活の糧にもなるようにしたいと思います。

### 【授業における到達目標】

『論理的な思考』の実践を行い、材料力学の基礎的な知識を身につけて頂きます。また関連した建築構造物の事例紹介により、『身近にある美しいもの』へ気づきの機会を増すことによって、豊かな生活の糧となることを目指します。

### 【授業の内容】

- 第1週 材料力学とは
- 第2週 力の三要素とモーメント
- 第3週 力の合成と分解
- 第4週 力の釣り合い
- 第5週 構造物の支点と反力
- 第6週 荷重と反力
- 第7週 構造物の安定と不安定
- 第8週 曲げモーメント、せん断力、軸力
- 第9週 単純梁と片持ち梁の応力
- 第10週 応力度と変形
- 第11週 フックの法則とヤング係数
- 第12週 許容応力度、断面係数、断面2次モーメント
- 第13週 不静定構造物
- 第14週 材料力学の実践
- 第15週 復習とまとめ

関連した、建築構造の事例紹介を行うことがあります。

各週の講義内容は、状況により変更する場合があります。

### 【事前・事後学修】

事前学修 テキストで、次回授業の範囲を確認しておきましょう。

事後学修 講義中の課題理解度を確認し、復習をしましょう。

身近にある建築物を観察し、建築物の美しさに触れ、建物の構造を考える機会を増やし、週4時間程度の学修をしましょう。

### 【テキスト・教材】

テキストは配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験 50%、平常点 50%（講義中の課題取り組み状況を評価）

課題は理解を深めるため、解説を行ないフィードバックとします。

### 【参考書】

「建築構造力学入門」藤本盛久・和田章 監修 1999年/実教出版

「構造デザインマップ 東京」久保純子他 2014年/総合資格

### 【注意事項】

各回講義終了時に、復習のための課題を行い、その提出により出席を確認します。わからないことは、遠慮なく質問して下さい。

**財政論**

八木原 大

3年 後期 2単位

◎：行動力

**【授業のテーマ】**

財政とは政府の経済活動のことであり、政府が経済活動を営むにあたっては個人や企業から必要な資源を調達する必要がある。政府による財源調達方法は租税をはじめ、公債、手数料、公共料金などがあるが、最も重要な政府収入は租税である。

私たちは身近に政府が存在していることを確認することができるであろう。警察が治安を守る街に住み、街灯に照らされた道路を利用できるのも政府が存在するからであり、政府はそれらの公共サービスを提供するために租税を徴収するのである。

そこで問題となるのが政府による公共サービスの性質に見合った租税の公平な負担のあり方である。この講義ではまず財政理論を理解し、その上で所得・消費・資産の三つの課税ベースについて現実の制度を考察する。ついで、現在日本で財政にかかわる問題として少子化時代の税制改革の潮流、環境問題について触れ、今後望ましい租税体系のあり方について追及していく。

**【授業における到達目標】**

学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握し課題を発見できる能力を修得する。より具体的には、財政論では日本と他国との租税体系やその価値観の違いを認識することで、日本の租税体系の特徴を把握し、今後どのような方向に進むべきかという財政上の課題を自分の言葉で発言できることを到達目標とする。

**【授業の内容】**

- 第1回 ガイダンス、予算の仕組み
- 第2回 租税の一般理論
- 第3回 所得課税（所得税）
- 第4回 所得課税（法人税）
- 第5回 消費課税
- 第6回 資産課税
- 第7回 公共財の理論（1）—公共財の基本的性質—
- 第8回 公共財の理論（2）—公共財の供給と資源配分—
- 第9回 地方財政（1）—地方財政の理論—
- 第10回 地方財政（2）—地方財政改革の方向性—
- 第11回 所得再分配政策
- 第12回 財政政策の効果
- 第13回 少子化時代の財政
- 第14回 地球環境時代の財政戦略
- 第15回 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：次のテーマに関連する新聞記事などを読んでおく（学修時間 週2時間）。

事後学修：毎回配布する資料を次回授業までに復習（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

八巻節夫編著『改訂新財政学』（文真堂 2011年） 2800円+税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験：90%、平常点（授業への取り組み）：10%。

定期試験の解説は講義最終回で行う予定である。

**【注意事項】**

講義内容は状況に応じて変更することもありえる。

**雑誌編集論**

大野 彰

2年 前期 2単位

○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

- ・出版物、とりわけ雑誌ができるまでの全行程を理解し、その中で編集者の役割と求められる主要なスキルを学修します。
- ・雑誌が書店に並ぶまでの工程を追いながら、編集者がいつ、なにを、どのように行うかを掘り下げて学修することを通して、実践的な雑誌づくりのノウハウを学びます。
- ・メディア環境が多様化する現在、編集作業のなかの普遍的な要素を理解し、応用力ある編集者のスキルを考察します。

**【授業における到達目標】**

- ・雑誌メディアの特性を理解し、与えられた条件の中で簡単な誌面を構想・制作することができる。【行動力】
- ・いろいろなスキルを総合的に結びつける編集作業の学修を通して協働力を高める【協働力】

**【授業の内容】**

- 第1回 はじめに 雑誌の基礎知識
- 第2回 雑誌作りの流れと各工程における編集者の役割・スキル
- 第3回 編集実務の基礎 (1) 企画の立案
- 第4回 編集実務の基礎 (2) 台割とラフ、サムネール
- 第5回 編集実務の基礎 (3) 取材・執筆、インタビュー
- 第6回 編集実務の基礎 (4) 原稿、写真、イラストの依頼
- 第7回 編集実務の基礎 (5) 原稿の整理
- 第8回 編集実務の基礎 (6) 雑誌とデザイン
- 第9回 編集実務の基礎 (7) 校正・印刷
- 第10回 編集実務の基礎 (8) 出版契約書の基礎
- 第11回 実例で見る編集者のスキル事例
- 第12回 デジタル時代と雑誌の変容
- 第13回 より創造的な企画・編集のために ※レポート課題発表
- 第14回 まとめ
- 第15回 講義内で課題レポート作成

**【事前・事後学修】**

- 【事前学習】・教科書、事前配布資料に目を通し、疑問点を整理しておく。(2時間)
- 【事後学習】・学修内容のポイントを整理しノート等にまとめておく。(2時間)

**【テキスト・教材】**

- 『広報・雑誌づくりのらくらく編集術(三訂版)』2016年 日本エディターズスクール出版部 2400円+税
- 『標準 編集必携(第2版)』2002年 日本エディターズスクール出版部 1980円+税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- ・第15回講義の時間内で課題レポートを作成していただきます。課題は2週間前までに発表します。
- ・評価の配分は、平常点(授業態度、感想文提出)40%、レポート60%とします。

**【参考書】**

- 『シナリオの基礎技術』ダヴィッド社 1620円
- 『誰のためのデザイン?』新曜社 3564円
- 『本の知識』日本エディターズスクール出版部 500円+税
- その他、適宜講義内で資料を配布します。

**【注意事項】**

- ・理解度の進捗にあわせて講義内容、回数を変更することがあります。
- ・講義中の携帯・スマホの私的使用(撮影・録音も含む)は不可

**産業経済論**

角本 伸晃

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

企業などの経済主体は産業によってその行動に異なる法則性が見いだされる。特に、原材料や製品の輸送費あるいは消費者の交通費に焦点を当てると、どこに立地するかによって利潤が影響されるので、古くから産業立地論が研究されてきた。本講義では、農業・工業・商業の各産業に関する立地理論について解説し、さらに住宅・オフィスの立地理論や集積の理論についても解説する。また、理解を深めてもらうためのレポート課題を2回ほど提出してもらう。

**【授業における到達目標】**

農業・工業・商業、さらに住宅・オフィスの立地理論や集積の理論について理解する。このことを通して、現代社会における広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とする。

**【授業の内容】**

1. ガイダンス（講義の概要と進め方）
2. 農業の立地
3. 工業の立地（原料産地志向）
4. 工業の立地（市場志向）
5. 工業の立地（港湾立地）
6. 工業の立地（労働費志向・グローバル化）
7. 商業の立地（ホテリング、中位立地の原理）
8. 商業の立地（商圏、中心地理論）
9. 順位規模法則
10. 住宅・オフィスの立地（付け値地代曲線）
11. 住宅・オフィスの立地（都市内の空間構造）
12. 産業集積（地域特化の経済）
13. 産業集積（都市化の経済）
14. 商業集積（ショッピング外部性）
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回の授業範囲を予習し、事前学修の項目も考え、調べておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 授業で板書されたグラフをもう一度自分でノートに書き、数値例も自力で解いて復習すること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

テキストは指定せず、配布プリントを用いる。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

成績は、期末試験（80%）、レポート課題（20%）によって総合的に評価する。レポート課題については次回授業で、期末試験については最終回授業で解説と講評を行ってフィードバックする。

**【参考書】**

佐藤泰裕『都市・地域経済学への招待状』（有斐閣 2014年）1,944円

高橋孝明『都市経済学』（有斐閣ブックス 2012年）2,700円

**【注意事項】**

グラフを自分で書くことで産業経済論の理解はかなり進むので、板書したグラフは大きくノートに書き写してほしい。

**産業心理学**

松浦 常夫

3年 前期 2単位

○：国際的視野、美の探究、研鑽力

**【授業のテーマ】**

卒業して会社等にはいると、様々な新しい出来事を職業人として皆さんは体験します。また、仕事を離れると皆さんは消費者として他の人々が生産した商品やサービスを楽しむ立場となります。この講義では働く者としての個人の行動を中心に、消費者としての行動も交えて、心理学的な観点から産業社会での行動を考えていきます。

**【授業における到達目標】**

会社などに就職してから退職するまでの仕事に関わる心理学的な諸問題を知り、それをある程度理解できるようになることが目標です。

ディプロマ・ポリシーとの関わりでは、「態度」の社会に対する広い視野の獲得、のぞましい価値観の探求ができるようになることを目標とします。

**【授業の内容】**

- 第1回 就職と採用1 キャリアデザインと職業選択
- 第2回 就職と採用2 能力・パーソナリティと職業：職業適性
- 第3回 就職と採用3 企業の採用戦略
- 第4回 働く人の心と行動1 働く意欲
- 第5回 働く人の心と行動2 職務満足
- 第6回 働く人の心と行動3 キャリア発達と組織コミットメント
- 第7回 働く人の心と行動4 職場の人間関係：対人関係の社会心理学
- 第8回 働く人の心と行動5 職場のストレスと対処
- 第9回 働く人の心と行動6 職場の環境とプライバシー
- 第10回 企業と消費者1 広告戦略
- 第11回 企業と消費者2 広告表示
- 第12回 企業と消費者3 商品イメージ（ブランド）
- 第13回 企業と消費者4 消費者心理学（消費行動における心理過程）
- 第14回 企業と消費者5 消費者心理学2（商品・サービスの購入行動）
- 第15回 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修 シラバスを見て予習する。（学修時間 週2時間）

事後学修 毎回のテーマは必ずしも連続したものではありませんが、前回までのプリントを復習して授業にのぞんで下さい。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

毎回プリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験60%、感想文・授業態度40%で評価します。

授業後の感想文の中に、他の学生にも紹介した方がよい質問等があれば、次回に紹介・解説します。

**【注意事項】**

授業開始後10分以降に入室したり、授業に私語をしたりした場合には、欠席扱いとすることがあります。



**産業心理学**

松浦 常夫

3年～ 前期 2単位

○：国際的視野、美の探究、研鑽力

**【授業のテーマ】**

卒業して会社等にはいると、様々な新しい出来事を職業人として皆さんは体験します。また、仕事を離れると皆さんは消費者として他の人々が生産した商品やサービスを楽しむ立場となります。この講義では働く者としての個人の行動を中心に、消費者としての行動も交えて、心理学的な観点から産業社会での行動を考えていきます。

**【授業における到達目標】**

会社などに就職してから退職するまでの仕事に関わる心理学的な諸問題を知り、それをある程度理解できるようになることが目標です。

ディプロマ・ポリシーとの関わりでは、「態度」の社会に対する広い視野の獲得、のぞましい価値観の探求ができるようになることを目標とします。

**【授業の内容】**

- 第1回 就職と採用1 キャリアデザインと職業選択
- 第2回 就職と採用2 能力・パーソナリティと職業：職業適性
- 第3回 就職と採用3 企業の採用戦略
- 第4回 働く人の心と行動1 働く意欲
- 第5回 働く人の心と行動2 職務満足
- 第6回 働く人の心と行動3 キャリア発達と組織コミットメント
- 第7回 働く人の心と行動4 職場の人間関係：対人関係の社会心理学
- 第8回 働く人の心と行動5 職場のストレスと対処
- 第9回 働く人の心と行動6 職場の環境とプライバシー
- 第10回 企業と消費者1 広告戦略
- 第11回 企業と消費者2 広告表示
- 第12回 企業と消費者3 商品イメージ（ブランド）
- 第13回 企業と消費者4 消費者心理学（消費行動における心理過程）
- 第14回 企業と消費者5 消費者心理学2（商品・サービスの購入行動）
- 第15回 まとめ

**【事前・事後学修】**

- 事前学修 シラバスを見て予習する。（学修時間 週2時間）
- 事後学修 毎回のテーマは必ずしも連続したものではありませんが、前回までのプリントを復習して授業にのぞんで下さい。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

毎回プリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- 試験60%、感想文・授業態度40%で評価します。
- 授業後の感想文の中に、他の学生にも紹介した方が  
良い質問等があれば、次回に紹介・解説します。

**【注意事項】**

授業開始後10分以降に入室したり、授業に私語をしたりした場合には、欠席扱いとすることがあります。

**産業組織論**

野呂 純一

3年 後期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

ミクロ経済学の基礎知識を確認しながら、その応用として産業組織論に関する基礎的な理論や概念について学ぶ本授業では、私達の身の回りに存在する企業や産業を例に挙げながら考えていきます。

授業の最後に配布するリアクションペーパーに質問や意見を書いて提出して頂き、次回の授業の最初に解説することによって受講者の関心に合わせて授業を行ない、各種試験対策としてミクロ経済学や産業組織論に関する練習問題も取り入れていきます。

**【授業における到達目標】**

この授業を通して、次の二点を目標とします。

1. 授業中の発言、ディスカッション、リアクションペーパーなどを利用して自分の考えを積極的に述べることで主体的に学ぶこと
2. 私達の身の回りに存在する企業や産業について経済学的視点から正しく把握し、課題を発見できる力を身に付けること

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 産業組織論とは何か
- 第3週 完全競争と不完全競争について知る
- 第4週 消費者行動について考える
- 第5週 企業の行動について考える
- 第6週 諸費用の概念について知る
- 第7週 ゲーム理論について知る
- 第8週 前半のまとめと復習
- 第9週 独占市場の基礎理論について知る
- 第10週 自然独占と規制について考える
- 第11週 参入の経済効果について考える
- 第12週 寡占市場の基礎理論について知る
- 第13週 カルテルについて考える
- 第14週 市場支配力と合併について考える
- 第15週 後半のまとめと復習

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回の授業内容に関連するキーワード等について調べ、授業に臨んで下さい。(学修時間 週2時間)

【事後学修】 授業中に行った練習問題をもう一度解くと同時に授業中に紹介した参考文献や配布資料をよく読んで理解するようにして下さい。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

テキストは特に指定せず、配布資料を使用します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末テスト(40%)、小テスト(20%)及び平常点(40%)で評価する予定です。平常点とは、授業への積極的な参加姿勢、授業後に提出して頂くリアクションペーパーの内容などです。

授業中に行う練習問題については、授業中、もしくは、次回の授業の最初にフィードバックを行い、試験結果については最終回の授業でフィードバックを行います。

**【参考書】**

泉田成美・柳川隆著『プラクティカル産業組織論』(有斐閣アルマ)  
その他の参考書については授業中に適宜紹介します。

**【注意事項】**

受講に際して高度な専門的知識は求めませんが、これまで学んできた経済学についての基本的な理論と考え方について復習をしておいて下さい。また、理解度を高めるために他の経済学に関する授業と併せて受講することをお勧めします。

質問等は授業終了後、またはリアクションペーパー、メールにてお願いします。受講生には開講時に質問用のメールアドレスをお知らせします。

**算数**

幼児・小学生が学ぶ算数の教材研究

**渡辺 敏**

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、協働力

**【授業のテーマ】**

幼児の生活にある数や図形の経験と、その経験が小学校の算数にどのようにつながるかを学ぶ。小学校算数科の各学年の指導内容を算数的活動を通して学び理解する。

**【授業における到達目標】**

世界における算数教育を概観し「国際的視野」を培います。また、算数的な活動を通して対称性に着目した作品作りを行い「美の探求」の態度を培います。学習の中ではグループワークを取り入れ、互いに意見を交流することで、「研鑽力」、「行動力」、「協働力」を高めます。

**【授業の内容】**

- 第1週 幼児の体験する数と図形
- 第2週 幼小連携と1年生の算数的活動
- 第3週 1年生の算数的活動 数に着目して
- 第4週 2年生の算数的活動 かけ算
- 第5週 2年生の算数的活動 箱の形
- 第6週 3年生の算数的活動 ナンバーゲーム
- 第7週 3年生の算数的活動 平面図形の作り方
- 第8週 4年生の算数的活動 展開図の種類
- 第9週 4年生の算数的活動 展開図でアート
- 第10週 5年生の算数的活動 割合でアート
- 第11週 5年生の算数的活動 割合でジュース作り
- 第12週 5年生の算数的活動 敷き詰め模様
- 第13週 6年生の算数的活動 立体の分類
- 第14週 6年生の算数的活動 対称な図形
- 第15週 6年生の算数的活動 立体の体積

**【事前・事後学修】**

【事前学修】自分が算数的学習で作りたい作品について計画を立てておくこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】自分が作った作品を丁寧に仕上げ提出すること。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

講義の中で紹介する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

毎回の授業後のレポート30%、課題作品50%、グループワーク20%等により評価する。レポートについてはコメントを入れてフィードバックします。課題作品については互いに見合い、その良さを評価し合います。

**【参考書】**

講義の中で紹介する。

**【注意事項】**

講義では具体的な操作を行うことが多いので、のり、はさみ、定規、分度器、コンパスはいつも用意しておくこと。

**子どもと英語 a****津田 ひろみ**

1年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

この授業では就学前に限らず、小学校低学年から高学年に渡る児童英語教育の基礎を学んでいきます。児童英語指導の授業で必要となるクラスルームイングリッシュや多種多様なアクティビティを学び、実践的に英語を使う練習をします。また、様々なグループワークやディスカッションを通して、21世紀に必要な能力とされている「コミュニケーション能力」「協働作業能力」「分析思考力」「自己肯定力」なども身につけていきます。コースの終盤では、児童の知的発達に合わせ、児童の思考力を養う指導方法も学び、模擬授業を実践します。

**【授業における到達目標】**

児童英語指導教授法の基礎を学ぶことを通じて、学生が習得すべき国際的視野や国際化社会の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度を修得する。また、模擬授業の実施などを通じて、知への探究心、自ら課題を発見し、解決する「行動力」や他者と協力し物事を進める「協働力」を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 授業概要/レディネスニーズ調査
- 第2週 チャンツを活用した音声教育
- 第3週 フラッシュカードを使った活動
- 第4週 全身反応教授法を使った活動
- 第5週 教科書を使用したアクティビティ
- 第6週 フォニックスの指導
- 第7週 練習模擬授業の計画
- 第8週 練習模擬授業の発表
- 第9週 練習模擬授業の振り返りとフィードバック
- 第10週 絵本を使った指導方
- 第11週 外部講師による講演
- 第12週 模擬授業計画
- 第13週 模擬授業1
- 第14週 模擬授業2
- 第15週 復習とまとめ

**【事前・事後学修】**

クラスルームイングリッシュの予習や模擬授業準備に取り組んでください。(学修時間 週2時間程度)

模擬授業や授業内容の復習をしてください。(学修時間 週2時間程度)

**【テキスト・教材】**

第1回目の授業時に指示をする。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

模擬授業 25% 復習小テスト 25%

平常点(授業活動への参加・課題提出) 20%

期末テスト 30%

復習テストと期末テスト結果は、次の授業または最終授業でフィードバックを行う。

**【参考書】**

授業中に適宜紹介します。

**【注意事項】**

授業の日程が変更することがあります。外部講師による講演を行います。履修人数によっては模擬授業から校外実習へ替わる可能性もあります。後期の「子どもと英語 b」とは、異なる内容であるため、双方を授業することが望ましい。

**子どもと英語 b**

Teaching English for Young Learners

津田 ひろみ

1年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

この授業では就学前に限らず、小学校低学年から高学年に渡る児童英語教育の基礎を学んでいきます。後期では、児童の知的発達、児童心理、認知発達、言語発達といった面からも英語教育を考え、年齢に合った指導法を研修していきます。授業では、前期同様、協同学習を通しグループ内で、意見を出し合い、児童の思考力を深める指導方法を探りながら、授業案作りをします。また、児童英語の授業で必要となるクラスルームイングリッシュやアクティビティを学び、実践的に英語を使い練習します。子どもと英語 a と同様、指導の練習を重ね、そのまとめとして模擬授業を行います。

**【授業における到達目標】**

児童英語指導教授法の基礎を学ぶことを通じて、学生が習得すべき国際的視野や国際化社会の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度を修得する。また、模擬授業の実施などを通じて、知への探究心、自ら課題を発見し、解決する「行動力」や他者と協力し物事を進める「協働力」を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション 児童英語指導の目的と目標
- 第2週 未就学児と就学児の認知発達
- 第3週 未就学児と就学児の言語発達
- 第4週 母語と第二言語習得
- 第5週 アクティビティとイベントの導入
- 第6週 イベント企画と実践
- 第7週 児童英語教授法 1 (student-centered approach)
- 第8週 児童英語教授法 2 (Active Learning)
- 第9週 児童英語教授法 3 (CLIL)
- 第10週 模擬授業 準備 1
- 第11週 模擬授業 準備 2
- 第12週 模擬授業 1
- 第13週 模擬授業フィードバックと児童英語教授法総復習
- 第14週 期末テスト
- 第15週 復習とまとめ

**【事前・事後学修】**

クラスルームイングリッシュの予習や模擬授業準備に取り組んでください。(学修時間 週2時間程度)  
 模擬授業や授業内容の復習をしてください。(学修時間 週2時間程度)

**【テキスト・教材】**

第1回目の授業時に指示をする。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

模擬授業 25% 復習小テスト25%  
 平常点(授業活動への参加・課題提出) 20%  
 期末テスト 30%  
 復習小テストと期末テストは、次回の授業または最終授業でフィードバックを行う。

**【参考書】**

授業中に適宜紹介します。

**【注意事項】**

授業の日程が変更することがあります。外部講師による講演を行います。履修人数によっては模擬授業から校外実習へ替わる可能性もあります。後期の「子どもと英語 a」とは、異なる内容であるため、双方を授業することが望ましい。

## 子どもと学校文化

学校と病院と刑務所は同じもの

大倉 恭輔

1・2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力、行動力

### 【授業のテーマ】

学校文化とは学校をめぐる文化のことです。同時に、学校というものの存在のしかた全体をさします。校舎・教室の備品・制服や校章・校則、さらには運動会や遠足といったイベントもそうです。

この授業では、これらが「無言の教育」となって子どもたちの心をかたちづくることに着目し、学校文化の多様性と影響力について学んでいきます。

### 【授業における到達目標】

学校文化のしくみと機能について理解するとともに、自分たちの学校体験を調べ直し、他の受講生の経験と比較していきます。

そうして、互いの信頼・尊重のもと協力しあい、作業を進められることをめざします。その上で、広い視野と深い洞察力を身につけることが目標です。

### 【授業の内容】

- 01 はじめに：学校文化とは何か
- 02 学校文化にかかわる思い出
- 03 学校と地域社会
- 04 校歌に歌われるもの
- 05 筆記用具の変化
- 06 運動会・遠足・修学旅行
- 07 部活と帰宅部
- 08 学校文化の調べ方
- 09 わたしの母校と学校文化 a 東日本編
- 10 わたしの母校と学校文化 b 関東編
- 11 わたしの母校と学校文化 c 西日本編
- 12 父親の母校と学校文化
- 13 母親の母校と学校文化
- 14 学校を楽しくするためには
- 15 まとめ

注1 上記は授業内容のリストです。

注2 基本的に番号順に講義をしていきますが、学生の理解度や授業の進行状況にあわせて、内容や順番の入れ替えなどの変更がおこなわれる場合があります。

### 【事前・事後学修】

- ・事前学修  
事前配付の資料を熟読し、不明な用語などは調べておくこと。  
また、資料中に設問がある場合は、回答を準備しておくこと。
- ・事後学修  
授業内容を自分で補足し、きちんとしたノート作成をおこなうこと。
- ・事前・事後学修には、それぞれ週に2時間前後をあてること。

### 【テキスト・教材】

- ・教科書は使用しません。
- ・基本的に、manaba 上から資料を事前配付します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

総合評価：レポート60%・平常点/受講態度・ノート作成など 40%  
manaba の設定や利用の状況も平常点の参考とします。

試験結果については manaba 上でフィードバックする予定です。

### 【参考書】

適宜、授業の中で紹介します。

### 【注意事項】

- ・この授業は講義科目ですが、グループワークもおこないます。  
よって、他の受講生との積極的なやりとりが求められます。
- ・視聴覚教材を利用する際も、必ずノートテイクをおこなうこと。
- ・短期大学部標準受講マナーを守ること。  
(manaba上に掲示してあります)

## 子どもの食と栄養

川田 容子

3年 通年 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

### 【授業のテーマ】

食事をおいしく楽しくとることが、心も体も健康に育つ上で基本となる。前期は栄養の基礎を学ぶと共に、子どもの食事の在り方や食生活の問題点について調査発表を通して考察し、食育の重要性を学ぶ。後期は、子どもの成長段階や身体状況に対応した栄養や食物の摂取法とその調理法について、実習を交えながら学ぶ。

### 【授業における到達目標】

学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を発見する力を修得することができる。

- ・子どもの発育、発達と食生活の関連について修得する。
- ・授乳期の栄養、乳児期の栄養、離乳食、幼児の発育、食育を修得し、適切な支援が出来るようになる。
- ・疾病や食物アレルギーなどの疾患に対する対応を取得し、適切な対応ができるようになる。

### 【授業の内容】

- 第1回 子どもの健康と食生活の意義① 体の成長発達と栄養
- 第2回 子どもの健康と食生活の意義② 食生活の現状と課題
- 第3回 妊娠・授乳期の生理と栄養
- 第4回 乳児の発育と栄養
- 第5回 調乳実習 [実習] 調乳法を実習する
- 第6回 離乳食の役割・離乳食の進め方
- 第7.8回 離乳食調理実習
- 第9回 栄養に関する基本的知識① 栄養とは何か
- 第10回 栄養に関する基本的知識② 3大栄養素
- 第11回 栄養に関する基本的知識③ ビタミン・ミネラル
- 第12回 栄養素の消化吸収
- 第13回 日本人の食事摂取基準
- 第14回 生涯発達と食生活
- 第15回 試験
- 第16回 幼児期の心身の発達と食生活①幼児期の成長と発達
- 第17回 幼児期の心身の発達と食生活②演習
- 第18回 幼児期の心身の発達と食生活③幼児期の栄養の特徴
- 第19回 幼児食の調理 献立作成
- 第20回 幼児食の調理
- 第21回 学童期の心身の発達と食生活
- 第22回 幼児期における食育とは
- 第23回 食育計画の作成、評価
- 第24回 子どもへの食育の実際（演習）
- 第25回 家庭への食の支援
- 第26回 児童福祉施設における食事の提供
- 第27回 児童福祉施設における食事の提供 保育所
- 第28回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養①  
障がいのある子どもへの対応
- 第29回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養②  
食物アレルギーのある子どもへの対応
- 第30回 試験

### 【事前・事後学修】

【事前学修】小テスト・レポート・発表等の課題に取り組むこと。  
(学修時間 週2時間)

【事後学修】発表・小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。(学修時間 週2時間)  
実習後は、実習レポート作成し、授業のまとめ振り返りを行うこと。

### 【テキスト・教材】

- 第2版 子どもの食と栄養演習書 医歯薬出版
- 2017年 2400円+税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験 50%

小テスト 20%

平常点(授業への積極参加・提出課題) 30%

小テストは次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

### 【参考書】

- 保育所保育指針
- 幼稚園教育要領
- 授乳離乳の支援ガイド
- 食育計画作成ガイド

### 【注意事項】

保育士必須科目

## 子どもの保健 1 a

草川 功

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

## 【授業のテーマ】

保育の対象の理解に関する科目として以下を目標とする。

1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。
2. 子どもの身体発育や生理機能および運動機能並びに精神機能の発達について理解する。
3. 子どもの疾病とその予防法、適切な対応について理解する。

## 【授業における到達目標】

保育対象である子どもの成長、身体疾患を知り、保育者として適切に子どもに対応できる

## 【授業の内容】

- |      |                            |
|------|----------------------------|
| 第1週  | 1. オリエンテーション、子どもの保健の授業概要   |
| 第2週  | 2. 生物としてのヒトの成り立ち           |
| 第3週  | 3. こどもの発育                  |
| 第4週  | 4. 生理機能の発達                 |
| 第5週  | 5. 子どもの発達（運動機能）            |
| 第6週  | 6. 子どもの発達（精神機能）            |
| 第7週  | 7. 子どもを取り巻く生活環境と健康         |
| 第8週  | 8. 遺伝と健康                   |
| 第9週  | 9. 子どもによく見られる症状            |
| 第10週 | 10. 知っておくべき対処法             |
| 第11週 | 11. 子どもの病気-1（乳幼児によく見られる疾患） |
| 第12週 | 12. 子どもの病気-2（乳幼児の感染性疾患）    |
| 第13週 | 13. 子どもの病気-3（アレルギー疾患）      |
| 第14週 | 14. 子どもの病気の予防              |
| 第15週 | 15. まとめ                    |

## 【事前・事後学修】

事前学修

前回の授業を復習し授業に臨むこと（学修時間 週2時間程度）

事後学修

レポートなどの課題に取り組むこと（学修時間 週2時間程度）

## 【テキスト・教材】

レジメを配布

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート（60%）、平常点（授業態度・出席状況・課題・ショートレポート・小テスト（40%））

レポートは事前に挙げられた課題の中から選択して、時間内に書き上げる。課題毎のポイントの記載状況などで採点する。

ショートレポートは感想・意見などの表出の場であり、小テストは、その場で解説をしてフィードバックを行う。

## 【参考書】

授業の間に適宜紹介

## 【注意事項】

新聞やニュースなどに注目し、世の中の出来事、特に子どもに関する事に対して、自ら興味・関心を深めること

## 子どもの保健 1 b

草川 功

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

## 【授業のテーマ】

保育の対象の理解に関する科目として以下を目標とする。

1. 子どもの発達障害、心の問題について理解する。
2. 保育における環境および衛生管理並びに安全管理について理解する。
3. 施設等における子どもの心身の健康および安全の実施体制について理解する。

## 【授業における到達目標】

保育対象である子どもの精神心理的問題の特性を理解し、保育者として子どもとともに保護者の相談支援ができる

## 【授業の内容】

- |      |                                 |
|------|---------------------------------|
| 第1週  | オリエンテーション                       |
| 第2週  | 子どもの生活環境と精神保健<br>(1) 家族の関係と精神保健 |
| 第3週  | (2) 社会環境と精神保健                   |
| 第4週  | 子どもの心の健康                        |
| 第5週  | 発達障害                            |
| 第6週  | 発達障害の対応                         |
| 第7週  | 児童虐待                            |
| 第8週  | 保育環境整備                          |
| 第9週  | 保育現場における衛生管理                    |
| 第10週 | 子どもの事故防止安全対策                    |
| 第11週 | 集団生活における危機管理                    |
| 第12週 | 小児保健                            |
| 第13週 | 母子保健                            |
| 第14週 | 子育て支援（家庭・地域との連携）                |
| 第15週 | まとめ                             |

## 【事前・事後学修】

事前学修

前回の授業を復習し授業に臨むこと（学修時間 週2時間程度）

事後学修

レポートなどの課題に取り組むこと（学修時間 週2時間程度）

## 【テキスト・教材】

レジメを配布

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート（60%）、平常点（授業態度・出席状況・課題・ショートレポート・小テスト（40%））

レポートは事前に挙げられた課題の中から選択して、時間内に書き上げる。課題毎のポイントの記載状況などで採点する。

ショートレポートは感想・意見などの表出の場であり、小テストは、その場で解説をしてフィードバックを行う。

## 【参考書】

授業の間に適宜紹介

## 【注意事項】

新聞やニュースなどに注目し、世の中の出来事、特に子どもに関する事に対して、自ら興味・関心を深めること

**子どもの保健2**

保育実践における保健医療活動

塩川 宏郷

3年 前期 1単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

保育の実践において、子どもに起こりうる疾患や事故の特徴を理解することは重要である。本科目においては、子どもの保育あるいは育児において発生するさまざまな保健医療に関連する事柄について、基本的な知識を講述し、実際の事例に対して自らがどのように考え行動・実践するかを学ぶ。

**【授業における到達目標】**

子どもの疾病やその予防方法、適切な対応方法について理解する。救急時の対応や事故防止、安全管理について理解する。子どもの心や行動に対するアプローチや保護者との連携について自らプランをたて実践することができる。学生の習得すべき行動として、事例に基づいて情報を収集し自ら考えそれを修正する研鑽力、保育の実践において子どもや保護者に積極的に対応できる行動力、グループで課題に取り組む協働力を身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション、子どもの保健の概要
- 第2週 子どもの発育・発達
- 第3週 ほめ方、叱り方、ことばかけ
- 第4週 自閉症
- 第5週 注意欠如多動症
- 第6週 環境調整、構造化
- 第7週 応用行動分析
- 第8週 保護者とのコミュニケーション
- 第9週 ペアレントプログラム
- 第10週 慢性疾患・アレルギー
- 第11週 アナフィラキシー
- 第12週 子ども虐待
- 第13週 事故
- 第14週 途上国の子ども
- 第15週 まとめと総合討論

**【事前・事後学修】**

事前学修

与えられたテーマ・事例について情報収集し自らの考えをまとめて発表できるよう準備をする（学修時間1時間）

事後学修

授業で得られた自分と異なる考え方・実践について振り返りまとめる（学修時間1時間）

**【テキスト・教材】**

特に定めない。必要に応じ授業の中で紹介する、または資料を配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験50%、授業中の討論参加・課題など50%

討論のまとめは最終回に行う。

試験のフィードバックはmanabaを通じて行う。

**【参考書】**

小林美由紀「子どもの保健演習ノート 子育てパートナーが知っておきたいこと」診断と治療社  
林邦雄ほか「子どもの保健Ⅱ」一藝社

**【注意事項】**

プレゼンテーション、グループ討論に主体的・積極的に参加すること。事前学修は必須である。

**子ども理解とカウンセリング**

塚原 拓馬

4年 後期 2単位

◎：行動力 ○：美の探究、研鑽力

**【授業のテーマ】**

子どもと保護者を理解するために必要な知識と方法を学び、問題を抱える子どもの心理的側面の理解と対応方法や保護者への心理的支援の在り方について学ぶ。また、実際のカウンセリングについて、ロールプレイ等の技法を用いて実践的に習得していく。

**【授業における到達目標】**

発達の問題を抱える子どもの保護者への対応（親支援）や、カウンセリングにおける対象理解（子ども理解）の方法や知見を学修することを目標とします。そして、物事の真理（人間の心理）を探究していく態度により、対象児（者）の問題を正しく把握し、心理的課題の解決に繋げることができる力に対する志向性を持つことを達成目標とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 子どもの理解とカウンセリングについて
- 第2週 教育相談の理解①「ラポール形成」
- 第3週 教育相談の理解②「心理査定」
- 第4週 教育相談の理解③「心理面接」
- 第5週 子どもの理解①「学習障害」
- 第6週 子どもの理解②「注意欠陥多動性障害」
- 第7週 子どもの理解③「広汎性発達障害」
- 第8週 子どもの理解④「愛着障害」
- 第9週 子どもの理解⑤「行動障害」
- 第10週 子どもの理解⑥「その他の障害」
- 第11週 教育相談と技法①「行動療法」
- 第12週 教育相談と技法②「来談者中心療法」
- 第13週 教育相談と技法③「認知療法」
- 第14週 統合型心理療法：特別講座
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】

各回について的小レポート作成およびレジメの作成に取り組むこと（学修時間週2時間）

【事後学修】

各回について的小レポート復習およびレジメの復習に取り組むこと（学修時間週2時間）

**【テキスト・教材】**

詳細は初回授業時に指示する。

- ・氏家寛他 1995「幼児保育とカウンセリングマインド」 ミネルヴァ書房 ¥2600+税
- ・大竹直子 2014「やさしく学べる保育カウンセリング」金子書房 ¥1800+税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート50%

平常点（発表、ロールプレイでの習得度）50%

レポートについては、記述された質問や感想に対して授業内でフィードバックしていく。発表、ロールプレイについては、各回において、テーマの解説を交えて、その都度フィードバックしていく。

**【参考書】**

・橋本 敏 2005（編著）子どもの理解とカウンセリングー子育て支援に向けてー 株式会社みらい ¥2000+税

**【注意事項】**

発表やロールプレイなどの体験学習も取り入れていくため、積極的に授業に参加し、発言することが求められる。また、外部講師による特別講座も取り入れていく。



**思想史研究 a**

—ギリシア神話と芸術—

中村 友代

2年～ 後期 2単位

◎：国際的視野

**【授業のテーマ】**

芸術作品の鑑賞や理解にとって、その作品の宗教的背景についての知識は欠かせません。この授業では、芸術作品に多くの題材を提供した神話や宗教思想のうち、とりわけギリシア神話について基本的な知識を獲得することを目指します。

教材には文献だけでなく、古代の芸術作品や考古資料なども参照し、ギリシア神話が成立してから人々にどのように親しまれ、表現されてきたのかについても考えます。

**【授業における到達目標】**

芸術作品を研究したり鑑賞したりするにあたり、作品の背景にある神話や宗教思想を知り、芸術作品をより深く広い視点から捉えることが出来るようになることを目標とします。

全学ディプロマ・ポリシーとの関連においては、多様性を受容し多角的な視点をもって世界に臨もうとする国際的視野、そして物事の真理を探究して知を求める態度を身につけることが目標です。

**【授業の内容】**

1. イントロダクション
2. 神々の誕生
3. オリュンポスの十二神
4. パンドラ 女性は災いをもたらすのか？
5. アルゴナウタイ 金毛の羊をめぐる冒険
6. ペルセウスの怪物退治
7. ヘラクレスの十二功業
8. オイディプスの悲劇
9. ミノス王の神話
10. テセウスの成長と功業
11. トロイア戦争1 『イリアス』まで
12. トロイア戦争2 『イリアス』以後から帰還まで
13. オデュッセウスの放浪
14. 変身物語
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】授業内で配布する資料や教科書を読んで内容を把握し、分からない点についてあらかじめ調べておく。(学修時間 週2時間)

【事後学修】授業ノートに目を通して講義内容を復習するとともに、理解が不十分な点や疑問に感じた点について調べる。授業内で指示する課題に取り組む。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

高津春繁訳『アポロドーロス ギリシア神話』(岩波文庫)  
720円(税別)。出版年については、1978年の改版以降に出版されたものであれば可。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験60%、平常点(授業態度、リアクション・ペーパー、小課題)40%。フィードバックは授業内で適宜行ないます。

**【参考書】**

松平千秋訳『ホメロス イリアス(上)(下)』(岩波文庫)  
中村善也訳『オウィディウス 変身物語(上)(下)』(岩波文庫)  
上記のほか、授業内で適宜示します。

**【注意事項】**

展覧会の見学を課す場合があります。その場合の費用は全額自己負担となります。

**思想史研究 b**

—聖書と西洋美術史—

久保寺 紀江

2年～ 前期 2単位

◎：国際的視野

**【授業のテーマ】**

西洋美術の絵画や彫刻を見た時、その意味がわからないと思ったことはありませんか。そんなとき、それらの作品は、聖書や神話を基盤とした物語であることも多いものです。本講義は、聖書に登場する主要人物やよく知られたエピソードを学ぶことにより、西洋美術の作品をより深く理解することを目的としています。聖書にそって、旧約から新約へと進み、美術に頻繁に取り上げられる人物やエピソード、シンボルなどに注目しながら知識を増やしてゆきたいと思います。聖書により身近に接すれば、絵画や彫刻のメッセージがはっきり聞こえるようになります。聖書を知ることで西洋美術史は豊かで楽しい学問であると実感していただけることでしょう。

**【授業における到達目標】**

聖書に登場する主要人物やよく知られたエピソードなどについての知識を得ることができる。

聖書に関する絵画や彫刻を目にしたとき、その意味や内容がわかるようになる。

キリスト教の正典である聖書を学ぶことにより、多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通じ、相互の深い理解につなげる能力を身につけられる。

**【授業の内容】**

1. はじめに(聖書の歴史と成り立ち)
2. 旧約聖書(天地創造、アダムとエヴァ、ノアの方舟)
3. 旧約聖書(アブラハム、ヤコブ)
4. 旧約聖書(モーセ、出エジプト)
5. 旧約聖書(ダヴィデ)
6. 旧約聖書(外典より、ユディドなど)
7. 聖母の物語(聖書と外典より)
8. 聖母の図像学
9. 新約聖書(イエスの誕生と幼少時代)
10. 新約聖書(イエスの洗礼、奇跡の数々)
11. 新約聖書(イエスの受難)
12. 新約聖書(イエスの磔刑、復活)
13. イエスと十二使徒たち
14. 聖人と聖女たち(聖カタリナなど)
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】次回の授業内容に関連する聖書の箇所を読んでおいてください。また、疑問点について、出来る範囲で調べてみましょう。(学修時間 週2時間)

【事後学修】講義で紹介した作品について、再度聖書等の該当箇所を読み直してください。テキストと美術表現を比較考察してみてください。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

授業で資料を配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート50%、授業内での確認テストや参加状況(manabaを利用)50%

**【参考書】**

『聖書 新共同訳』(日本聖書協会)  
授業内でも適宜紹介します。

**【注意事項】**

授業で関連のあるテーマの展覧会等の見学を行う場合があります。その際は、観覧料等が必要となります。

**詩歌の世界**

近代詩から現代詩までの歴史

宮木 孝子

1・2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

**【授業のテーマ】**

明治という、日本の新時代に出現した「詩」の歴史の変遷を辿ります。そこで、作者一人一人の「詩」に託した思いや表現を読んで、豊かな言葉の世界を味わい、考察します。詩歌を音読し、よく意味をとらえ、言葉の力を再発見してみましょう。日本語の美しさや多様性に気付くはずですよ。

**【授業における到達目標】**

近代詩の学びを通して、日本語の響き、表現、意味の奥深さを知ること、自国の言葉の力、特徴を知り、「国際的視野」「美の探究」力、を養います。また、日常の言葉のセンスを磨く「研鑽力」の必要性を知って実践すること。

**【授業の内容】**

1. 授業の進め方 「音読」の必要性・調子とリズム
2. 新体詩誕生・和歌の改革・浪漫主義詩の発生
3. 島崎藤村『若菜集』と与謝野晶子短詩集『みだれ髪』
4. 象徴詩の移入 上田敏『海潮音』・文学と美術
5. 蒲原有明・薄田泣菫の象徴詩
6. 北原白秋 『邪宗門』『桐の花』
7. 三木露風 『廃園』 口語自由詩の誕生 石川啄木
8. 高村光太郎 『道程』『道程』以後
9. 萩原朔太郎 『月に吠える』『青猫』
10. 萩原朔太郎『氷島』
11. 宮沢賢治 『春と修羅』
12. 「詩と詩論」近代象徴詩の終焉
13. 昭和の詩人 中野重治・西脇順三郎
14. 昭和の詩人 三好達治・中原中也
15. 昭和の詩人 草野心平・金子光晴

**【事前・事後学修】**

事前学修：毎回指定する詩を必ず、音読し、感想と気付きを記す。

2時間

事後学修：授業内容をノートで確かめ、整理する。

2時間

**【テキスト・教材】**

山田有策編『近代日本の詩歌』（学術図書出版）1999年10月8刷

1900円＋税

\*プリント配布もあり。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験レポート80%。平常点コメントシート・授業内提出物

20%。フィードバックはコメントシートにある質問への回答

をもって行います。

**【参考書】**

授業内で適宜紹介します。

**【注意事項】**

授業で取り上げる作品は事前に分かりますから、音読をして、詩の響き、意味の確認を必ず、行って下さい。そこでの気付きからの質問は大歓迎です。授業中の質問も歓迎します。私語は厳禁です。自作のノートは、レポート作成の時に役立ちます。

## 児童・生徒栄養教育論（1）

白尾 美佳

3年 前期 2単位

### 【授業のテーマ】

児童生徒の食生活の乱れが深刻化していることから、学校における食に関する指導を充実させる必要がある。そこで、児童生徒が望ましい食習慣を身につけられるような専門性と資質を有した栄養教諭の育成を目指す。

### 【授業における到達目標】

栄養教諭としての資質を修得し、学校給食の時間における食に関する指導ができることを到達目標とします。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション、履修カルテについて
- 第2週 栄養教諭の資質について（KJ法）
- 第3週 栄養教諭の職務内容について
- 第4週 児童生徒の食に関する実態、食育基本法、食育推進基本計画について
- 第5週 栄養教諭の指導内容について
- 第6週 学校給食法と食育
- 第7週 食に関する指導体制
- 第8週 学校給食時の食育指導について
- 第9週 教材の種類と作成
- 第10週 教材の作成演習
- 第11週 学校給食時の食育指導
- 第12週 学校給食時の食育指導の相互評価
- 第13週 学校、家庭、地域が連携した食育の推進
- 第14週 食品の生産過程に関する実践演習
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】 一般常識を身につけておくこと  
学校給食時の指導のための学習指導案の作成  
教材の準備  
(学修時間 週2時間)

【事後学修】 自己評価、相互評価の結果をまとめる  
模擬授業以外の学習指導案を作成する  
(学修時間 週2時間)

### 【テキスト・教材】

- ・藤沢良知 他編『よくわかる栄養教諭 第二版』（同文書院）  
2016年発行 2,268円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

模擬授業等40%、提出物20%、授業内試験20%、食育に対する姿勢20%による評価を行う。模擬授業に関するフィードバックは評価表を返却します。

### 【参考書】

- 小学校教科書『わたしたちの家庭科』（開隆堂）2017年発行 274円
- 中学校教科書『技術・家庭（家庭分野）』（開隆堂）2017年発行 646円

### 【注意事項】

- ・本教科が履修できない場合は教育実習を行うことができません。
- ・食育指導ならび「学校・家庭・地域が連携した食育の推進」には授業時間外並びに休み期間に学外にて実施することがあります。
- ・授業内容が前後することがあります。
- ・学校における食育指導時の給食費などについては実費を支払う必要があります。
- ・教材作成費は原則実費です。

## 児童・生徒栄養教育論（2）

白尾 美佳

3年 後期 2単位

### 【授業のテーマ】

栄養教諭が実施する食育指導についての理論や方法を講義や演習を通して学ぶ。特に、栄養教諭が行う食に関する全体指導、教科・特別活動等における教育指導、校内並びに家庭・地域と連携した指導が円滑に行えるような方法を身につける。

### 【授業における到達目標】

栄養教諭としての資質をが向上を目指すとともに、学校における食に関する指導を実施することができる能力を身に付けることを目標とします。

### 【授業の内容】

- 第1週 食育指導の目的と意義
- 第2週 子どもにおける食育の必要性
- 第3週 模擬授業について
- 第4週 学習指導案について
- 第5週 児童生徒の実態調査について
- 第6週 教材について
- 第7週 教材研究
- 第8週 板書計画
- 第9週 ICTを活用した授業の展開
- 第10週 特別活動における模擬授業および相互評価
- 第11週 総合的な学習の時間における模擬授業および相互評価
- 第12週 各教科における模擬授業および相互評価
- 第13週 地域と連携した食育支援
- 第14週 学校と連携した食育支援
- 第15週 食品の生産過程における実践演習

### 【事前・事後学修】

【事前学修】 学習指導案の作成  
教材の準備  
(学修時間 週2時間)

【事後学修】 模擬授業等の自己評価、相互評価の結果を集計してまとめる。指導案の訂正と模擬授業の見直しを行う。  
(学修時間 週2時間)

### 【テキスト・教材】

- ・文部科学省『小学校学習指導要領』東京書籍 217円
- ・文部科学省『中学校学習指導要領』東京書籍 220円
- ・小学校教科書『わたしたちの家庭科』開隆堂 2017年発行 274円
- ・中学校教科書『技術・家庭（家庭分野）』開隆堂 2017年発行 646円
- ・プリント他

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

教材・指導案などの提出物30%、模擬授業40%、試験30%  
各模擬授業時に口頭ならびに評価表を返却することでフィードバックを行う。

### 【参考書】

- ・藤沢良知 他編『よくわかる栄養教諭 第二版』（同文書院）  
2016年発行 2,268円

### 【注意事項】

- ・食品の生産過程における実践演習や食育指導支援は授業時間以外や休み期間中に学外にて実施することがあります。
- ・地域と学校が連携した食育支援においては、学校や地域の食育活動に参加する場合があります。
- ・食育指導時に実費（給食費等）を徴収することがあります。
- ・授業内容が前後することがあります。

**児童サービス論**

児童資料と児童に対する図書館サービス

須賀 千絵

1年 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

子どもにとっての読書の重要性を示したうえで、さまざまな児童資料の種類と特性、図書館の児童サービスの意義とその方法について論じる。本講義では、図書館で長年子どもに手渡されてきた基本的な児童資料を実際に手に取って読むことを通し、資料の特質と評価の観点について学ぶと共に、受講生全員が読み聞かせを行う時間を設定し、実践的な力の習得をめざす。

**【授業における到達目標】**

①図書館で扱われている児童資料の種類とそれぞれの特質について理解する。②児童資料を評価し、図書館が所蔵すべき資料を選んで、その判断の根拠を説明できる。③子どもの読書をめぐる現在の社会状況をふまえたうえで、公共図書館における児童サービスの位置づけを理解し、説明することができる。④公共図書館で実践されている児童サービスの方法や技術について学び、実践することができる。⑤地域社会での子どもの成長に資するために、図書館が外部機関と連携する重要性について理解し、説明することができる。

**【授業の内容】**

- 第1回 講義の目的と内容の解説、子どもにとっての読書
- 第2回 児童資料の種類と特性
- 第3回 絵本(1) 幼い子のための絵本と昔話絵本
- 第4回 絵本(2) 物語絵本
- 第5回 幼年文学
- 第6回 児童文学
- 第7回 口承文芸(神話・伝説・昔話)とわらべうた
- 第8回 ノンフィクション、図書以外の資料(紙芝居、web等)
- 第9回 児童サービスの歴史
- 第10回 カウンターでの日常業務とフロアワーク
- 第11回 読み聞かせとストーリーテリング
- 第12回 ブックトーク、科学あそび、その他のサービス
- 第13回 読み聞かせの実践
- 第14回 地域の関連機関との連携、子どもの読書に関わる政策
- 第15回 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：事前配布資料やテキストの指定箇所を読み、予習する。

(学修時間 週1時間)

事後学修：①配布資料に基づき、講義の内容を復習する。そのうえで課題レポートに向け、個々の関心に応じた関連資料を読む。②授業で紹介した本を中心になるべく多くの本を読む。③読み聞かせの実践のための本を選び、事前に声に出して練習をする。④図書館の児童室を訪問し、児童室の環境整備、日常的なサービスの様子を観察する。(学修時間 週3時間)

**【テキスト・教材】**

赤星隆子・荒井督子編著『児童図書館サービス論』(理想社、2010年)2,160円、また授業の内容に沿って資料を配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

課題レポート(2回)各20%、読み聞かせの発表と小レポート(1回)計40%、授業への貢献度20%を総合的に評価する。レポートは評価を行い返却する。講義のリアクションペーパーの内容は、次の講義で共有し、疑問点については回答する。

**【参考書】**

- リリアン・H・スミス著、石井桃子ほか訳『児童文学論』(岩波書店、2016年)1964年刊行の単行本の文庫化
- 東京子ども図書館編『絵本の庭へ 児童図書館基本蔵書目録1』(東京子ども図書館、2012年)・『物語の森へ 児童図書館基本蔵書目録2』(同館、2017年)
- 東京・学校図書館スタンブラー実行委員会編著『学校図書館の司書が選ぶ小中高生におすすめの本300』(ペリかん社、2017年)
- 脇明子、小幡章子著『自分を育てる読書のために』(岩波書店、2011年)

**児童英語演習**

国際的視野を持ち、児童英語について学ぶ

宮下 いづみ

2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

**【授業のテーマ】**

幼児や小学生への英語の指導方法を学びながら、自分自身の英語力も高めていく講座です。児童英語や英語教育を行う上でのノウハウを、実践的に学んでいきます。

英語圏の文化をよく知ることで、海外でも通用する英語力を養うことができます。授業では海外の祝祭日や風習についても触れながら、実際にどのように4スキルズを教えていくのかを、実践的に年齢別に学んでいきます。

児童英語の指導法を学ぶときに行う発音練習や、指導方法は年代に関わらず適応できるものです。

**【授業における到達目標】**

児童英語を知っていく上で、グループワークやディスカッションを通して、行動力を高め、協働力を身につけます。アクティブラーニングを意識し、受動的な姿勢ではなく、各々がテーマについて考えて研鑽力を磨けるような人材育成を目指します。

シャドーイングなどを通し、発音をブラッシュアップし、英語の発音に自信を持てるようにします。

**【授業の内容】**

- 第1週 児童英語についてのイメージを知る
- 第2週 絵本の読み聞かせ（本の持ち方、見せ方、楽しみ方）
- 第3週 歌の指導法（歌の種類、扱い方、指導法）
- 第4週 フォニックスの指導法  
（自己の発音もブラッシュアップ）
- 第5週 ゲーム・アクティビティー（実際に行いながら学ぶ）
- 第6週 未就園児～園児の英語指導法  
（心構え、授業スタイルについて）
- 第7週 小学生の英語指導法（学校と民間の比較等を含む）
- 第8週 覚えておきたい英語表現（子供にわかる表現とは）
- 第9週 世界の英語（英語の比較）
- 第10週 キッズライティング
- 第11週 キッズの宿題（課題の出し方、作成方法）
- 第12週 小学生のプレゼン（プレゼンの基本を学ぶ）
- 第13週 キッズの英語多読（多読の効果など）
- 第14週 児童英語指導のカリキュラム作り
- 第15週 まとめ（発表を含む）

**【事前・事後学修】**

事前 発表課題に取り組み、調べます。（週2時間程度）  
事後『続・イギリスの小学校教科書で楽しく英語を学ぶ【社会・理科編】』の教科書をシャドーイングします。シャドーイングの方法は授業内で説明します。授業内で学んだ表現を復習します。（週3時間程度）

**【テキスト・教材】**

テキスト 古川昭夫・宮下いづみ著『続・イギリスの小学校教科書で楽しく英語を学ぶ【社会・理科編】』（小学館 2008年）2,160円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業内の積極参加・発表・課題提出 40%  
小テスト（単語チェックを含む）30%  
レポート 30%  
発表は当日、課題、小テストは次回授業、レポートは最終日にフィードバックを行います。

**【参考書】**

「音のある英語絵本ガイド」（コスモビア 2009）

## 児童家庭福祉論

大澤 朋子

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

### 【授業のテーマ】

児童家庭福祉は、すべての子どもが、安全な環境で安心して生きていける社会を作るためにある。子どもはひとりで生きているのではなく、家族や社会に護られて生きている。しかしただ保護の対象であるだけでなく、権利の主体でもある。しかしながら、現実には子どもの権利を侵害し、安心安全な生活を阻害する様々な問題が生じている。児童家庭福祉論では、子どもと家族をとりまく多様な問題を取り上げながら、児童家庭福祉が必要な背景、制度、社会資源、教育相談などについて学ぶ。

### 【授業における到達目標】

子どもと家族をとりまく現状を理解し、児童家庭福祉の制度、社会資源、教育相談等に関する基礎的な知識を修得する。

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、③広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く力、および「行動力」のうち、①現状を正しく把握し、課題を発見する力を修得する。

### 【授業の内容】

- (1) オリエンテーション・児童家庭福祉の理念と概念
- (2) 家庭をとりまく状況
- (3) 児童家庭福祉の歴史
- (4) 児童虐待と社会的養護
- (5) 児童福祉施設の役割と機能
- (6) 保育問題と保育サービス
- (7) 子育て支援と保育相談支援・教育相談
- (8) 児童家庭福祉の法制度と行政のしくみ
- (9) 児童家庭福祉の財政と実施機関
- (10) 児童家庭福祉と教育相談の専門職（外部講師）
- (11) 健全育成サービスと母子保健サービス
- (12) 特別な支援を必要とする子ども①障害児福祉サービス
- (13) 特別な支援を必要とする子ども②非行少年への対応
- (14) 児童家庭福祉分野のソーシャルワーク、カウンセリングとネットワーク
- (15) 世界の児童家庭福祉・まとめ

### 【事前・事後学修】

事前：各回のトピックに合わせた新聞記事等の情報収集、レポート課題等に取り組む（学修時間週2時間）

事後：講義ノートの整理、復習を行う（学修時間週2時間）

### 【テキスト・教材】

福田公教・山縣文治編「新プリマーズ／保育／福祉 児童科低福祉（第5版）」ミネルヴァ書房2017年 1800円（税別）

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極的参加）20%、中間レポート20% 試験60%  
最終回で試験とレポートのフィードバックを行う。

## 児童教育法

子どもを見つめ、学ぶことと教えること、発達と支援を考える

南雲 成二・渡辺 敏・津田 ひろみ

2年 通年 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

（概要）保育者・教育者としての基礎を培い、3年次に行われる小学校教育実習と幼稚園教育実習の基盤となる教師力（児童理解力・児童支援力）を育成することが本講座の目的である。

（目標）保育・療育・教育の三観点から児童を見つめ、教師としての支援・指導の基礎力を養うことが目標である。能力・発達・学習を中心に一人ひとりの児童の実態と成長課題を把握すること。保幼小中連携の実践課題も理解しながら、初等教育において6歳児から13歳児までの学びと成長をどのように守り、支援し、伸ばさせていくのかを追求する。具体的な学習内容の系統や、学習心理に関する基礎的理解を深めながら、児童の発達・成長支援に関わる基礎的な事柄（児童教育法）を学びとることができる。

### 【授業における到達目標】

授業の中で日本の子どもたちの現状を理解する学習を通して「国際的視野」を培います。実際の教育現場の観察やボランティア活動を通して「行動力」を身に付けます。そこで学んだことを発表し、ディスカッションすることで「研鑽力」「協働力」を身に付けます。30回の学習を通して、自分の目指す教師像を考えることで「美の探求」の態度を培います。

### 【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス。シラバスに基づき学習の見直しを持つ
- 第2回 小学校と児童（学びの主体としての子ども）と教師
- 第3回 母校HP訪問：特色ある教育活動と児童の学習の実態
- 第4回 児童観・子ども観の変遷～日本教育史の窓から～
- 第5回 児童観・子ども観の変遷～世界教育史の窓から～
- 第6回 教育法規（教育小六法）と子ども・学校・社会・地域
- 第7回 小学1年生の学びと児童（成長・発達と教育の方法）
- 第8回 小学2年生の学びと児童（成長・発達と教育の方法）
- 第9回 小学3年生の学びと児童（成長・発達と教育の方法）
- 第10回 小学4年生の学びと児童（成長・発達と教育の方法）
- 第11回 小学5年生の学びと児童（成長・発達と教育の方法）
- 第12回 小学6年生の学びと児童（成長・発達と教育の方法）
- 第13回 「総合的な学習」や「体験学習」と児童の学びの実態
- 第14回 学級担任力・学年学校担任力と児童指導・支援力
- 第15回 前期授業（学習）のまとめと、今後の課題レポート
- 第16回 後期ガイダンス（幼保小連関・小中高連関含む）
- 第17回 低学年の児童理解の方法
- 第18回 中学年の児童理解の方法
- 第19回 高学年の児童理解の方法
- 第20回 児童理解の方法（教師の指導に着目して1）
- 第21回 児童理解のための観察（教師の指導に着目して2）
- 第22回 児童理解のための観察（教師の指導に着目して3）
- 第23回 児童理解の方法についての話し合い
- 第24回 児童理解の方法（指導の難しい児童に着目して1）
- 第25回 児童理解のための観察（指導の難しい児童に着目して2）
- 第26回 児童理解のための観察（指導の難しい児童に着目して3）
- 第27回 特別に支援が必要な児童の指導
- 第28回 介護等体験に向けての指導
- 第29回 児童理解と保護者との協力
- 第30回 後期授業（学習）のまとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】小1～小6各学年の学びを教育課程と教育方法との相互関連で探究する。地域社会との関連を押さえながら、「幼保小連関・小中高連関」を視野に考察を深める。レポート・小論文・発表等の課題に取り組むこと。（学修時間週 2時間）

【事後学修】発表・レポート・資料等を復習すること。次回の授業範囲（テーマ）を予習し、教育実践・児童理解支援の見直しを持つようにする。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館 2018年刊行予定）『小学校学習指導要領と各解説編』（東洋館出版 2018年刊行予定）文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター『評価基準の作成、評価方法等の改善のための参考資料』（教育出版 2011年）297円 市川須美子他『教育小六法』（学陽書房 2017年）2916円 全国特別支援学校長会 編著『介護等体験ガイドブック・フィリア』（ジ アース教育新社 2016年）1200円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への積極的参加、課題への取り組み）60%、小学校授業参観や学校教育活動への取組、事前・事後レポート40%で総合的に評価。事前・事後レポートには教員からコメントを伝えフィードバックします。

**【参考書】**

- ☆子ども観・児童観を学習する上で欠かせない文献を適宜紹介。（例：東洋、大村はま、波多野完治、河合隼雄、岡本夏木 等）
- ☆文部科学省「初等中等教育局教育課程企画室」の情報を中心にHPに掲載される主な関連記事をテキストとして活用。
- ☆「初等教育南雲実践35年の歩み」の中から、児童と学級・学年経営、児童と教科指導・教科外指導、児童理解と児童支援等必要に応じて参考資料化。

**【注意事項】**

☆出身小学校HPと文科省HPを月一回視聴し、要所を理解すること。特に「学校便り」「学年便り」「保健室便り」「給食便り」「PTA便り」等を継続的に見聞きし、母校の状況をよく知ることを通して、現在進行形の小学校教育・児童の実態を理解し探究する。

**児童図書館サービス論 a**

児童資料の種類と特性

須賀 千絵

2年 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

公共図書館での児童サービスでは、絵本、物語、知識の本など、多様な資料が用いられる。本講義では、図書館で長年子どもに手渡されてきた基本的な児童資料を、実際に手に取って読むことを通して、さまざまな資料の特質と評価の観点について学ぶ。

**【授業における到達目標】**

①図書館で扱われている児童資料の種類とそれぞれの特質について理解する。②児童資料を評価し、図書館が所蔵すべき資料を選び、その判断の根拠について説明できる。

**【授業の内容】**

- 第 1回 講義の目的と内容の解説、子どもにとっての読書の意義
- 第 2回 子どもの発達段階と読書
- 第 3回 児童資料の種類と特性
- 第 4回 口承文芸（神話・伝説・昔話）とわらべうた
- 第 5回 絵本(1) 昔話絵本、幼い子のための絵本
- 第 6回 絵本(2) 物語絵本
- 第 7回 絵本(3) 絵本の読み比べ
- 第 8回 幼年文学
- 第 9回 児童文学
- 第10回 ヤングアダルト文学
- 第11回 自然科学の本
- 第12回 人文・社会科学の本
- 第13回 ブックリストと展示
- 第14回 図書以外の資料（紙芝居、web等）、障害を持つ子どものための資料
- 第15回 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：事前に配布した資料やテキストの指定箇所を読み、内容を把握したうえで、授業に出席する。（学修時間 週1時間）  
事後学修：①授業時に紹介した本を中心になるべく多くの本を読む。読んだ本をもとに、読み比べやブックリストの作成でとりあげる本の候補を選ぶ。②ブックリスト作成の参考とするため、公共図書館を訪問して、実際に行われている展示やブックリストを見る。（学修時間 週3時間）

**【テキスト・教材】**

松岡享子著『子どもと本』（岩波書店、2015年）886円  
赤星隆子、荒井督子編著『児童図書館サービス論』（理想社、2010年）2,160円  
このほか授業の内容に沿って資料を配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

課題レポート（2回）各25%、子ども向けブックリストの作成30%、授業への貢献度20%を総合的に評価する。レポートは評価を行い返却する。毎回のリアクションペーパーの内容は、次回の講義で共有し、疑問点については回答する。

**【参考書】**

リアン・H・スミス著、石井桃子ほか訳『児童文学論』（岩波書店、2016年）1964年刊行の単行本の文庫化  
東京子ども図書館編『絵本の庭へ 児童図書館基本蔵書目録1』（東京子ども図書館、2012年）  
東京子ども図書館編『物語の森へ 児童図書館基本蔵書目録2』（東京子ども図書館、2017年）  
東京・学校図書館スタンブラー実行委員会編著『学校図書館の司書が選ぶ小中高生におすすめの本300』（ペリかん社、2017年）

**児童図書館サービス論 b**

図書館における児童サービスの活動と運営

須賀 千絵

2年 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

子どもにとっての読書の重要性を示したうえで、子どもに本や情報を提供する公共図書館の児童サービスの意義について論じる。そのうえで、子どもと本を結び付けるために図書館で実践されているさまざまな方法、子どもの読書を推進するための政策と外部機関との連携のあり方などについて学ぶ。また講義と並行して、全員が読み聞かせとストーリーテリングを行う時間を設定し、子どもに本を手渡す実践的な力の習得をめざす。

**【授業における到達目標】**

①子どもの読書をめぐる現在の社会状況をふまえたうえで、公共図書館における児童サービスの位置づけについて理解し、説明することができる。②子どもと本を結び付けるために、公共図書館で実践されている方法や技術について学び、実践することができる。③地域社会での子どもの成長に資するために、図書館が外部機関と連携する重要性について理解し、説明することができる。

**【授業の内容】**

- 第1回 講義の目的と内容の解説、子どもの読書と図書館との関わり
- 第2回 児童サービスの歴史
- 第3回 児童サービスの運営と環境整備
- 第4回 カウンターでの日常業務とフロアワーク
- 第5回 読み聞かせ
- 第6回 ストーリーテリング
- 第7回 読み聞かせの実践
- 第8回 ブックトーク
- 第9回 子どものためのさまざまなプログラム（科学あそびほか）
- 第10回 レファレンスサービス、ストーリーテリングの発表(1)
- 第11回 乳幼児サービス、ストーリーテリングの発表(2)
- 第12回 ヤングアダルトサービス、ストーリーテリングの発表(3)
- 第13回 地域の関連機関との連携、ストーリーテリングの発表(4)
- 第14回 子どもの読書に関わる政策、ストーリーテリングの発表(5)
- 第15回 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：①事前に配布した資料やテキストの指定箇所を読んで予習する。②読み聞かせやストーリーテリングの実践で取り上げたい本やおはなしを選び、事前に声に出して練習をする。（学修時間 週2時間）  
事後学修：①講義の内容を復習すると共に、課題レポートに向け、個々の関心に応じた関連資料を読む。②図書館の児童室を訪問し、児童室の環境整備、日常的なサービスの様子を観察する。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

赤星隆子・荒井督子編著『児童図書館サービス論』（理想社、2010年）2,160円、また授業の内容に沿って資料を配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

課題レポート（2回）各20%、ストーリーテリング発表(1回)と小レポート(4～5回)計 40%、授業への貢献度20%を総合的に評価する。レポートは評価を行い返却する。講義のリアクションペーパーの内容は次回の講義で共有し、疑問点については回答する。

**【参考書】**

脇明子、小幡章子著『自分を育てる読書のために』（岩波書店、2011年）  
東京子ども図書館編『お話のリスト』（東京子ども図書館、2014年）

**【注意事項】**

ストーリーテリングの発表のスケジュールは、履修者数に応じて調整する可能性がある。



## 児童文学

横田 順子

1・2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

がはなはだしい場合には、退出させることもある。良識をもって、楽しく実りある授業にしたい。

### 【授業のテーマ】

寓話、ファンタジー、リアリズム、絵本など児童文学におけるさまざまなジャンルの作品を取り上げる。それぞれの作品の特徴を理解し、児童文学の評価について学ぶことを通して、児童文学とは何かを考える。また読者が作品のどこに魅力を感じるのか、物語が人間のどんな欲求を満たすのかを考え、物語の重要性を認識する。

### 【授業における到達目標】

以下の点から、児童文学作品を楽しむ力を養う。

- 1 児童文学のさまざまなジャンルの特性を理解し、説明できる。
- 2 授業で学んだ各作品の特徴を理解し、説明できる。
- 3 授業で学んだ文学作品の分析と評価の手法を、ほかの作品にも適用できる。
- 4 人間にとっての物語の意義と必要性を理解し、説明できる。
- 5 各作品で取り上げられる諸問題を通して、多様な価値観を学び、国際的な視野をもつ一助とする。

### 【授業の内容】

- 第1週 イン트로ダクション
- 第2週 幼年童話1——寺村輝夫『ぼくは王さま』
- 第3週 寓話——小沢正『たぬきのイソップ』
- 第4週 幼年童話2——いとういろし『おさるのまいにち』
- 第5週 ファンタジー1——ロアルド・ダール『チョコレート工場の秘密』
- 第6週 児童文学の評価——『チョコレート工場の秘密』に対する批判をめぐって
- 第7週 残酷性をめぐる問題——ハインリヒ・ホフマン『もじゃもじゃペーター』
- 第8週 ファンタジー2——トーベ・ヤンソン「ムーミン」シリーズ
- 第9週 ファンタジーを生む現実——「ムーミン」シリーズの多様性
- 第10週 リアリズム1——大石真『チョコレート戦争』
- 第11週 リアリズム2——ウルズラ・ヴェルフエル『灰色の畑と緑の畑』
- 第12週 絵本
- 第13週 子どものためのナンセンス——矢玉四郎「はれぶた」シリーズ
- 第14週 子どものためのエンターテインメント——原ゆたか「かいけつゾロリ」シリーズ
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

（事前学修）授業で取り上げる作品を読むこと。

（事後学修）授業で取り上げる作品を読むこと。授業内容を自分の言葉で説明できるように復習すること。

学修時間はそれぞれ週2時間 計週4時間以上。

### 【テキスト・教材】

プリントを使用する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験 70%

平常点 30%（授業態度、提出課題）

毎回リアクションペーパーを提出してもらい、次回の授業で返却する。

### 【参考書】

日本イギリス児童文学学会編『英語圏諸国の児童文学Ⅰ 物語ジャンルと歴史』（ミネルヴァ書房 2003年）

ほか授業時に随時紹介する。

### 【注意事項】

遅刻、授業中の私語、携帯電話の使用等は厳禁である。授業妨害

## 児童文学論 a

「昔ばなし」から「児童文学」へ

中川 理恵子

1年～ 前期 2単位

○：美の探求、研鑽力

### 【授業のテーマ】

「昔ばなし」「おとぎばなし」「童話」をキーワードに、明治から大正にかけての日本児童文学を概観します。

初めに、耳で聞く文芸である「昔ばなし」についてその特徴を学びます。次に、日本で初めて子どもに向けて物語が創作された時に注目します。

明治期に生まれた「おとぎばなし」は、誰にむかってどのように書かれたものなのでしょう。

作品の背景にある「子ども観」の変遷と社会状況の変化を踏まえ、日本児童文学の発期について考察します。現代の児童文学を考える為に有用な知識を得ることが目的です。

### 【授業における到達目標】

口承文芸である昔ばなしの基礎知識を修得する。

日本児童文学黎明期についての基礎知識を修得する。

これらを修得することにより、児童文学を学ぶ楽しみを知り、学問を続ける事が出来る。また、児童文学についての視野を広め、新たな視点を獲得することが出来る。

児童文学作品や、児童文学に関する資料を読むことを通じ、人文・社会・自然の中に価値を見だし、感受性を深める機会となる。

### 【授業の内容】

- 第1週 児童文学とは何か
- 第2週 子どもと昔ばなし
- 第3週 昔ばなしの特徴
- 第4週 「白雪姫」をめぐる
- 第5週 昔ばなし絵本について
- 第6週 子ども読者の誕生
- 第7週 学校制度と子ども読み物
- 第8週 巖谷小波について
- 第9週 「こがねまる」について
- 第10週 おとぎばなしの特徴
- 第11週 明治期の児童雑誌について
- 第12週 小川未明の登場
- 第13週 作家の子ども観と児童文学
- 第14週 まとめと確認
- 第15週 確認事項解説

### 【事前・事後学修】

【事前学修】教科書を読み進めること。(学修時間 週2時間)

【事後学修】講義の復習を兼ねてノートの整理をする。ノートは試験時に確認する。(学修時間 週2時間)

### 【テキスト・教材】

桑原三郎・千葉俊二編『日本児童文学名作集(上)』(岩波文庫) 1994/2/16 693円  
 随時プリントを配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験(80%) 授業参加状況(試験時にノートで確認)、提出課題(20%)

15回目の授業で試験解答解説を行う。

### 【参考書】

桑原三郎・千葉俊二編『日本児童文学名作集(下)』(岩波文庫) 740円+税  
 小澤俊夫編著『昔話入門』(ぎょうせい) 2400円

### 【注意事項】

昔ばなしについては、映像資料を使用します。

講義内に作品講読の時間をとり、感想等を提出してもらうことがあります。

## 児童文学論 b

「童話」から「児童文学」へ

中川 理恵子

1年～ 後期 2単位

○：美の探求、研鑽力

### 【授業のテーマ】

大正期以降の児童文学作品を、歴史をたどりながら講読します。特に、それぞれの作品において、子どもがどのように描かれているのか、それはなぜか、という点に注目し時代の特徴を捉えていきます。

現代の子ども達にも読み継がれている作品を中心に取り上げ、児童文学の持つ可能性や課題について考えていきたいと思えます。

### 【授業における到達目標】

日本児童文学(大正期から昭和初期)についての基礎知識を修得することにより、児童文学を学ぶ楽しみを知り、学問を続ける事が出来る。また、児童文学についての視野を広め、新たな視点を獲得することが出来る。児童文学作品、または児童文学に関する資料を購読することで、人文・社会・自然の中に価値を見だし、感受性を深める態度を得る機会となる。

### 【授業の内容】

- 第1週 児童文学とはなにか
- 第2週 「お伽噺」から「童話」へ
- 第3週 雑誌「赤い鳥」の発刊～鈴木三重吉の仕事
- 第4週 芥川龍之介の児童文学
- 第5週 芥川龍之介について
- 第6週 有島武郎の児童文学
- 第7週 有島武郎について
- 第8週 雑誌「赤い鳥」まとめ
- 第9週 千葉県三の児童文学
- 第10週 千葉県三について 大衆児童文学の流れ
- 第11週 昭和前期の〈児童文学〉(1) 坪田譲治の作品
- 第12週 昭和前期の〈児童文学〉(1) 坪田譲治について
- 第13週 「童話」から「児童文学」へ
- 第14週 まとめと確認
- 第15週 確認事項解説

### 【事前・事後学修】

【事前学修】教科書を読み進めること。(学修時間 週2時間)

【事後学修】講義の復習を兼ねてノートの整理をする。ノートは試験時に確認する。(学修時間 週2時間)

### 【テキスト・教材】

桑原三郎・千葉俊二編『日本児童文学名作集(下)』(岩波文庫) 1994年) 735円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験 80% 授業参加状況(試験時ノートにより確認)、提出課題 20%

15回目の授業で試験の解答を解説する。

### 【参考書】

桑原三郎・千葉俊二編『日本児童文学名作集(上)』 岩波文庫 693円

### 【注意事項】

講義内に作品講読の時間をとり、感想を提出してもらうことがあります。

**時事英語演習**

国際的な教養と知識

宮上 久仁子

2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

この授業では貿易の仕組みや環境問題、国際社会の出来事といった時事英語におなじみの内容と併せて食文化や文学書評、ならびに地理にも目を向けます。一般の新聞を開くと、さまざまな問題が扱われているように、時事問題とは、実は遠い世界の出来事ではなく、日常生活に関わりのある事柄です。この授業が、世界は多様な価値観から成り立っているとの認識を得て、国際的で多角的な視野を持つ、ひとつの機会となれば幸いです。

**【授業における到達目標】**

実際の英字新聞を読むために、記事の内容そのものにも興味を持ち、関連する語彙群の習得を目標にします。国際情勢に関心を寄せ、異文化や国際問題を積極的に理解しようとする姿勢を持つ意義を認識するためにも、個々の時事問題の背景知識も、可能な限り学習したいと思います。それと同時に、日本の文化や日本ならではの精神性を振り返って、「国際的であること」を自分の言葉で語れるようにして、自ら世界との関わりを持てるようにしたいと思えます。

**【授業の内容】**

- 第1週 教材配布と授業に関するガイダンス
- 第2週 地理と産業：スウェーデン（前半）
- 第3週 地理と産業：スウェーデン（後半）
- 第4週 商業：雇用環境とサービス（前半）
- 第5週 商業：雇用環境とサービス（後半）
- 第6週 第1回単語テスト・国際経済：フェアトレード（前半）
- 第7週 国際経済：フェアトレード（後半）
- 第8週 環境問題：自然破壊と環境保護（前半）
- 第9週 環境問題：自然破壊と環境保護（後半）
- 第10週 第2回単語テスト・食文化：クリスマス（前半）
- 第11週 食文化：クリスマス（後半）
- 第12週 文化と文学：書評（前半）
- 第13週 文化と文学：書評（後半）
- 第14週 第3回単語テスト・国際問題：国連の取り組み（前半）
- 第15週 国際問題：国連の取り組み（後半）とまとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修について：書き込み式の予習プリントを配布しますので、それを行ったのち、指示のあった範囲の英文本文を日本語訳してください。（学修時間：週2時間）

事後学修について：授業で説明された背景知識や重要理解項目を抑えて、再び英文本文をよく読み、内容と単語を結び付けてください。その際に、予習プリントを自分で再確認するとよいでしょう。（学修時間：週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを使用しますので、テキスト購入の必要はありません。教材配布については、初回授業時に説明します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

学期中に行われる複数回の単語テストが80%、平常点（予習プリントの準備・指示のあった範囲の英文の日本語訳・授業への積極的な参加・特別に指示された課題の提示および提出）20%で評価します。予習プリントのフィードバックと確認は毎回の授業時に、単語テストのフィードバックは次回授業時に行います。

**【注意事項】**

授業時に受講生の皆さんに、予習プリントの設問の回答と英文の日本語訳の発表をお願いしますので、皆さんとのやりとりが授業の要です。どうか事前に準備をして参加してください。なお、授業の性質上、受講者数を上限40名とさせていただきますと助かります。

**時事英語演習**

英語で世界のニュースを知る

砂田 緑

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

この授業では、世界のニュースを英語で聞いたり読んだりすることで、英語の運用能力を向上させるとともに、世界のニュースに関心をもち、世界に目を向け、世界を捉える姿勢を養います。テキストを読むだけでなく、自ら英語のニュースを探し、読んだり観たりし、それを人と共有していくことで、深い理解を促します。

**【授業における到達目標】**

英語でニュースを読んだり聴いたりすることで、リスニング力やリーディング力の向上、関連する語彙の習得を目的とします。さらに、ニュースに関心をもち、自ら英語でニュースを読んだりする機会を増やしていき、国際情勢に興味を持ち、国際的な視野を養うことを目標とします。

**【授業の内容】**

- 第1回 インTRODクシヨン・Topic 1・課題①
- 第2回 Topic 2・課題①
- 第3回 Topic 3・課題②
- 第4回 Topic 4・課題②
- 第5回 Topic 5・課題③
- 第6回 Topic 6・課題③
- 第7回 Topic 1～6のまとめ・発表準備
- 第8回 グループ発表
- 第9回 Topic 7・課題④
- 第10回 Topic 8・課題④
- 第11回 Topic 9・課題⑤
- 第12回 Topic 10・課題⑤
- 第13回 Topic 11・課題⑥
- 第14回 Topic 12・課題⑥
- 第15回 グループ発表

**【事前・事後学修】**

授業の前にテキストの予習をしてください。（1時間）  
復習として、本文の復習をしてください。（1時間）

各自で英語のニュースを探し、内容をまとめるという課題を出します。英語でニュースを読む習慣を身につけましょう。（2時間）

**【テキスト・教材】**

村尾純子 編著『世界を読むメディア英語入門 2018』（金星堂、2018年）1,900円＋税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

課題40%（英語でニュースを読み、その内容をまとめます）  
小テスト10%（テキストの内容を復習します）  
発表・グループワーク50%

**自己表現法**

—自己を深く知り、魅力的なPRを目指す—

佐藤 辰雄・大塚 みさ・西脇 智子・高瀬 真理子

1年 後期 1単位

◎：美の探究 ○：研鑽力、行動力

**【授業のテーマ】**

魅力あふれる自己アピールのためには、まずは自分自身を深く知る必要があります。「実践入門セミナー」で習得した課題発見力と問題解決スキルをさらに磨き、多角的な自己分析を行いましょう。そして「日本語表現法a」で培った日本語を用いて、分析結果を魅力的で洗練された文章に仕上げていきましょう。毎回の授業の中で取り組みを重ねることによってさらなるレベルアップを図ります。

**【授業における到達目標】**

- ・自己を深く見つめ、自己を表現するためのことばを磨き上げることで「美の探究」を行います。
- ・自己を客観的・多角的に深く分析することを通して「研鑽力」を培います。
- ・自己分析の結果から課題を見出し、新たな目標に向けて取り組む「行動力」を身につけます。

**【授業の内容】**

- 第1週 自己分析 1 自分を深く知るための自己分析の方法を学ぶ  
 第2週 自己分析 2 自己分析の視点を変えてみる  
 第3週 自己分析 3 他者の目から見た自分に気づく  
 第4週 自己分析 4 現段階での自己分析結果を整理する  
 第5週 問題解決演習 1 各自の進捗を確認する  
 第6週 自己アピール 1 自己分析をもとにした発表演習に挑戦する  
 第7週 自己アピール 2 グループワークで分析結果を点検する  
 第8週 自己アピール 3 分析結果を魅力的なアピール文に仕上げる  
 第9週 自己アピール 4 履歴書・ES・志望理由書を書いてみる  
 第10週 問題解決演習 2 成果を報告し合う  
 第11週 さまざまな表現手段(1) アカデミックな場での自己表現  
 第12週 さまざまな表現手段(2) ビジネスの場での自己表現  
 第13週 さまざまな表現手段(3) 手紙と季節の挨拶状  
 第14週 自己アピール発表演習の自己・相互評価と達成度確認  
 第15週 まとめ
- ※学外講師による講義を行うクラスもあります（日程未定）。

**【事前・事後学修】**

【事前学修】国語辞書を用いて語句の意味をきちんと理解しながら小テストの準備を行うこと。その他、教員に指示された課題に取り組むこと。（学修時間 週1時間）

【事後学修】小テストの復習を徹底的に行うこと。自己分析結果を改めて文章化し、練り上げておくこと。その他、教員に指示された課題に取り組むこと。（学修時間 週1時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを配付します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

発表・提出物・ワーク等70%、授業態度・小テスト等30%  
 発表・小テストは次回授業、提出物は授業最終回または後日個別にフィードバックを行います。

**【注意事項】**

- ・授業内容や扱う順序は、担当教員によって多少異なることがあります。
- ・豊かな語彙力や表現力を身につけるためには、さまざまなジャンルの良い文章に接することが大切です。日頃から新聞や文学作品を読んだり、努めて辞書を引いたりする習慣をつけましょう。

## 自立生活論 a (健康)

須賀 由紀子

2・3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

### 【授業のテーマ】

これからの長寿・高齢化社会においては、「自分の健康は自分で守り、自立した健康な暮らしを主体的に作る」というスタンスが大切です。この授業では、人の一生の健康な暮らしづくりに深く関わるスポーツと自然（アウトドアライフ）の価値に焦点をあてて、健康な暮らしと家族・地域社会の関係性を理解していきます。授業の到達目標は、健康に配慮した生涯生活設計を主体的に考え、暮らしを取り巻く地域資源・自然資源にどのように働きかけをしていけばよいのかの態度・姿勢を作ることにおきます。

生涯スポーツの観点からみると、スポーツは様々なかたちで人々に親しまれ、自分らしさの表現や豊かなコミュニケーションの場、拠り所となるコミュニティを育てるものです。このスポーツを暮らしの中に取り入れ、生涯を豊かに生きるという観点から、人生の各ステージにおけるスポーツの意義を理解し、人間としての豊かな生き方を考えます。一方、自然というフィールドも、人間が全体性を取り戻し、健康に生きる上でなくてはならないものです。そして、日本には、自然を愛する豊かな生活文化の伝統があります。それらの価値を知り、現代に再生することが、これからの家庭生活・地域社会の豊かさに結びつくことを考えます。以上を理解した上で、自分自身を取り巻く生活資源を見わたし、それらを豊かな暮らしのデザインにいかに関わりつけていくかを最終課題として考えます。

### 【授業における到達目標】

超高齢社会のライフスタイルと受け皿となる社会構想の視点を得ることが目標です。学修をとおして自己成長する「研鑽力」のうち、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究する力、および課題解決のための「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を発見できる力を修得します。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 生涯スポーツと子どもの遊び
- 第3週 青年期のヘルスケア
- 第4週 ワークライフバランスと健康
- 第5週 壮年期のスポーツライフ
- 第6週 高齢者の生きがい・健康とスポーツ
- 第7週 健康・スポーツビジネスの動向
- 第8週 スポーツの様々な楽しみ方
- 第9週 自然に寄り添う健康な暮らし
- 第10週 里山文化にみる自然と人間
- 第11週 日本人の自然観の伝統
- 第12週 自然体験活動と地域の魅力の発見
- 第13週 健康な暮らしのデザインへの視点
- 第14週 健康な暮らしのデザインの実践
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】提示された課題を行います（学修時間 週2時間）

【事後学修】学んだことを復習し、内容の整理・理解に努めます（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

適宜、プリントを配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業中のアクティビティおよび小レポート）50%、期末レポート50%。課題に対するフィードバックは、授業の中で適宜行います。

### 【参考書】

杉原隆『生涯スポーツの心理学』（福村出版）、日下裕弘ほか『生涯スポーツの理論と実際』（大修館書店）

**自立生活論 a (健康)**

須賀 由紀子

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

これからの長寿・高齢化社会においては、「自分の健康は自分で守り、自立した健康な暮らしを主体的に作る」というスタンスが大切です。この授業では、人の一生の健康な暮らしづくりに深く関わるスポーツと自然（アウトドアライフ）の価値に焦点をあてて、健康な暮らしと家族・地域社会の関係性を理解していきます。授業の到達目標は、健康に配慮した生涯生活設計を主体的に考え、暮らしを取り巻く地域資源・自然資源にどのように働きかけをしていけばよいのかの態度・姿勢を作ることにおきます。

生涯スポーツの観点からみると、スポーツは様々なかたちで人々に親しまれ、自分らしさの表現や豊かなコミュニケーションの場、拠り所となるコミュニティを育てるものです。このスポーツを暮らしの中に取り入れ、生涯を豊かに生きるという観点から、人生の各ステージにおけるスポーツの意義を理解し、人間としての豊かな生き方を考えます。一方、自然というフィールドも、人間が全体性を取り戻し、健康に生きる上でなくてはならないものです。そして、日本には、自然を愛する豊かな生活文化の伝統があります。それらの価値を知り、現代に再生することが、これからの家庭生活・地域社会の豊かさに結びつくことを考えます。以上を理解した上で、自分自身を取り巻く生活資源を見わたし、それらを豊かな暮らしのデザインにいかに関わりつけていくかを最終課題として考えます。

**【授業における到達目標】**

超高齢社会のライフスタイルと受け皿となる社会構想の視点を得ることが目標です。学修をとおして自己成長する「研鑽力」のうち、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究する力、および課題解決のための「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を発見できる力を修得します。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 生涯スポーツと子どもの遊び
- 第3週 青年期のヘルスケア
- 第4週 ワークライフバランスと健康
- 第5週 壮年期のスポーツライフ
- 第6週 高齢者の生きがい・健康とスポーツ
- 第7週 健康・スポーツビジネスの動向
- 第8週 スポーツの様々な楽しみ方
- 第9週 自然に寄り添う健康な暮らし
- 第10週 里山文化にみる自然と人間
- 第11週 日本人の自然観の伝統
- 第12週 自然体験活動と地域の魅力の発見
- 第13週 健康な暮らしのデザインへの視点
- 第14週 健康な暮らしのデザインの実践
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】提示された課題を行います（学修時間 週2時間）

【事後学修】学んだことを復習し、内容の整理・理解に努めます（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

適宜、プリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業中のアクティビティおよび小レポート）50%、期末レポート50%。課題に対するフィードバックは、授業の中で適宜行います。

**【参考書】**

杉原隆『生涯スポーツの心理学』（福村出版）、日下裕弘ほか『生涯スポーツの理論と実践』（大修館書店）

**自立生活論 a (健康)**

須賀 由紀子

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

これからの長寿・高齢化社会においては、「自分の健康は自分で守り、自立した健康な暮らしを主体的に作る」というスタンスが大切です。この授業では、人の一生の健康な暮らしづくりに深く関わるスポーツと自然（アウトドアライフ）の価値に焦点をあてて、健康な暮らしと家族・地域社会の関係性を理解していきます。授業の到達目標は、健康に配慮した生涯生活設計を主体的に考え、暮らしを取り巻く地域資源・自然資源にどのように働きかけをしていけばよいのかの態度・姿勢を作ることにおきます。

生涯スポーツの観点からみると、スポーツは様々なかたちで人々に親しまれ、自分らしさの表現や豊かなコミュニケーションの場、拠り所となるコミュニティを育てるものです。このスポーツを暮らしの中に取り入れ、生涯を豊かに生きるという観点から、人生の各ステージにおけるスポーツの意義を理解し、人間としての豊かな生き方を考えます。一方、自然というフィールドも、人間が全体性を取り戻し、健康に生きる上でなくてはならないものです。そして、日本には、自然を愛する豊かな生活文化の伝統があります。それらの価値を知り、現代に再生することが、これからの家庭生活・地域社会の豊かさに結びつくことを考えます。以上を理解した上で、自分自身を取り巻く生活資源を見わたし、それらを豊かな暮らしのデザインにいかに関わりつけていくかを最終課題として考えます。

**【授業における到達目標】**

超高齢社会のライフスタイルと受け皿となる社会構想の視点を得ることが目標です。学修をとおして自己成長する「研鑽力」のうち、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究する力、および課題解決のための「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を発見できる力を修得します。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 生涯スポーツと子どもの遊び
- 第3週 青年期のヘルスケア
- 第4週 ワークライフバランスと健康
- 第5週 壮年期のスポーツライフ
- 第6週 高齢者の生きがい・健康とスポーツ
- 第7週 健康・スポーツビジネスの動向
- 第8週 スポーツの様々な楽しみ方
- 第9週 自然に寄り添う健康な暮らし
- 第10週 里山文化にみる自然と人間
- 第11週 日本人の自然観の伝統
- 第12週 自然体験活動と地域の魅力の発見
- 第13週 健康な暮らしのデザインへの視点
- 第14週 健康な暮らしのデザインの実践
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】提示された課題を行います（学修時間 週2時間）

【事後学修】学んだことを復習し、内容の整理・理解に努めます（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

適宜、プリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業中のアクティビティおよび小レポート）50%、期末レポート50%。課題に対するフィードバックは、授業の中で適宜行います。

**【参考書】**

杉原隆『生涯スポーツの心理学』（福村出版）、日下裕弘ほか『生涯スポーツの理論と実際』（大修館書店）

**自立生活論 b (消費者)**

株式会社「わたし」を経営するための基礎知識

野津 喬

2・3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

消費者としての私たちの生活は、企業活動との共通点が多くあります。生計を立てるための労働は企業の営利事業に相当しますし、就職活動は労働者としての「私」を売り込むための営業活動にも例えられます。

この授業では株式会社「わたし」と経済の関係について考えるとともに、株式会社「わたし」を上手に経営していくための視点について考えることを目的とします。

**【授業における到達目標】**

①個人の生活の観点から、暮らしと経済の関わりについて考える上で、必要となる基本的な知識を身につける。

②個人の生活の観点から、望ましい生活を実現するための課題と方向性について自分なりの考えを持てるようになる。

これにより、学生が習得すべき「研鑽力」のうち幅広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とします。

**【授業の内容】**

次の各テーマについて、15回の授業を行う予定です。

1. はじめに（講義の進め方及び目標、イントロダクション）
2. 事業部門①（若年層の雇用の現状）
3. 事業部門②（社会人基礎力）
4. 事業部門③（仕事上のストレス）
5. グループワーク①（仕事について考える）
6. 資料調達部門①（グローバル化と消費）
7. 資料調達部門②（インターネットと消費）
8. 資料調達部門③（悪質商法）
9. グループワーク②（消費について考える）
10. 総務部門①（複雑化する家計管理）
11. 総務部門②（やっぱり気になる隣の家計）
12. 企画部門（ウチかソトか 一家事など）
13. グループワーク③（家計管理について考える）
14. まとめ（これまでの授業の総括）
15. 授業の理解度確認

**【事前・事後学修】**

【事前学修】次の授業の参考資料に事前に目を通してください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】毎回の講義終了時に実施する小テスト等を復習すること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

manabaに講義で使用するプリント等を掲載しますので、各自で事前にプリントアウトして忘れずに授業に持参してください。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末試験（50%）、グループワーク（10%）、各回の講義の定着度を確認する小テスト（40%）により評価を行います。フィードバックは、関連する範囲の講義資料を全てmanabaに掲示することにより行います。

**【参考書】**

伊藤セツ・川島美保（編著）『三訂 消費生活経済学』（光生館 2008）2,160円、上林千恵子（編著）『よくわかる産業社会学』（ミネルヴァ書房 2012）2,808円（※参考書の購入の可否については、初回の講義でお伝えします。）

**【注意事項】**

他の受講者の迷惑となる行為（私語など）を禁止します。講義の妨げになると判断した場合は、成績評価に反映（減点）し、注意しても改善されない場合は講義からの退室を求める場合があります。講義開始後、一定時間を経過した後の入室は遅刻または欠席扱いとします。その他、初回の講義で履修に関する注意事項を説明しますので、遅刻せずに必ず出席してください。

**自立生活論 c (安全と保障)**

不確実な人生における意志決定論

大場 紀章

2・3年 集後 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

**【授業のテーマ】**

人生は不確か（uncertain）だ。しかし、たとえどんなに先のことがわからなくても、日常における購買行動などの小さな選択から、結婚や就職など人生における重大な決断まで、人は常に様々な意志決定を行い続けなければならない。

危険な航海への挑戦、医療の発達、保険サービスの成立、社会保障制度、近代国民国家の枠組み、大規模災害対策、金融工学、イノベーション・・・、人類の歴史を振り返れば、それは「リスク」に対峙する不断の取り組みだったともいえる。予測できないリスクをできるだけ回避し、より安定した生活を送るためには、なにをどのように考えればよいか。そして、その問題は自分がどのように考えたいと思っているのかという問題に深く繋がっている。大事なことがなかなか決められないのはなぜか。なぜ安易な決断をしてしまうのか。

**【授業における到達目標】**

【国際的な視野】に立ち、21世紀を生きる人間として注視すべきグローバルなリスクについて検討する。人類の叡智や最先端の研究を通し、意志決定の真理を探求し、学問としての【美の探究】を行う。多くの知見や他者の意見に触れることで、深く自己を探求し、【研鑽力】を身につける。問題解決の方法論を学ぶことで、状況を把握し計画を実行する【行動力】を身につける。互いに協力して課題に取り組み、【協働力】を身につける。将来をただ漠然と直感や運に任せず、自分がおかれた時代をよく見極め、慎重さと大胆さを併せ持った姿勢を持つことは、運命を引きつけた真に自立した生き方へとつながっていく。

**【授業の内容】**

- 第1回 オリエンテーション ～最も気になるリスクとは何か～
- 第2回 人類のリスク概念とその歴史 ～「リスク」とは意志～
- 第3回 二つの確率 ～頻度確率と主観確率～
- 第4回 戦略とはなにか ～不確実性の源泉～
- 第5回 勘違いの元 ～行動経済学のアプローチ～
- 第6回 ヒューリスティックス演習
- 第7回 集団での意思決定 ～社会選択理論～
- 第8回 4つの意思決定技術
- 第9回 科学的予測はどこまで可能か
- 第10回 リスク回避の方法 ～シンプルか複雑か～
- 第11回 リスクに対する態度の個人差
- 第12回 タカハト戦略演習
- 第13回 シナリオプランニング演習
- 第14回 グローバル化、IT化する世界のリスク
- 第15回 総括 ～あなたの人生にとってのリスクと意思決定～

**【事前・事後学修】**

【事前学修】初回の講義ではあなたの人生において気になる「リスク」、気になる「意思決定」に関して聞きますので、考えておいて下さい。また、講義内容は繋がっていますので、前回の授業内容の復習をすること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】随時レポート課題、発表課題を課します。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

適宜資料を配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

【講義への積極参加（50%）】課題演習やグループワークを授業内で数回行います。

【レポート課題（20%）】ほぼ毎回、講義の内容理解を確認する小レポートを提出してもらいます。レポートは翌週以降に評価とコメントをフィードバックします。

【期末試験（30%）】最終週に、講義の中で扱った重要概念の理解度の確認を中心とした試験を行います。



**【参考書】**

「リスクー神々への反逆」ピーター・L パーンスタイン

**【注意事項】**

数学の「確率」の概念を多用しますが、予備知識はいりません。

**実験心理学**

市原 茂

生活環境学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

人間は環境が発する様々な物理情報を感覚に置き換えてとらえている。その変換の過程で様々な錯覚が生じる。本講義では色彩知覚や空間知覚、運動知覚などの様々な錯覚現象を紹介し、それらの現象がどのようにして生じるのかを明らかにし、人間の感覚や知覚の情報処理メカニズムについて理解を深める。

**【授業における到達目標】**

人間の感覚・知覚知覚研究の研究方法を理解すると共に、その基本的なメカニズムを理解し、同時に、デザイン等へ応用に役立つ柔軟な発想と応用力を身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週 感覚の大きさと精神物理学（1）概論
- 第2週 感覚の大きさと精神物理学（2）応用
- 第3週 視覚系の構造とメカニズム 概論
- 第4週 視覚刺激の特性 概論
- 第5週 色と明るさの知覚とそのメカニズム（1）概論
- 第6週 色と明るさの知覚とそのメカニズム（2）応用、事例研究
- 第7週 形の知覚とそのメカニズム（1）概論
- 第8週 形の知覚とそのメカニズム（2）応用、事例研究
- 第9週 空間の知覚とそのメカニズム（1）概論
- 第10週 空間の知覚とそのメカニズム（2）応用、事例研究
- 第11週 運動の知覚とそのメカニズム（1）概論
- 第12週 運動の知覚とそのメカニズム（2）応用、事例研究
- 第13週 感覚間相互作用とそのメカニズム（1）概論
- 第14週 感覚間相互作用とそのメカニズム（2）応用、事例研究
- 第15週 まとめ レポートのフィードバック

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回の授業範囲を予習し、疑問点があれば整理しておく、授業に備えること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 授業の内容を復習し、専門用語等の理解を深めること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

テキスト・教材は使用しない。必要に応じて資料を配付する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

学期末課題レポート80%と平常点（授業への積極参加、課題提出）20%を総合的に評価する。最後の授業時にレポートのフィードバックを行う。

**【参考書】**

授業中に適宜紹介する。

**【注意事項】**

授業時の積極的な発言を歓迎します。

## 実践キャリアプランニング

社会でたくましく生き抜くために

眞鍋 清嗣・深澤 晶久・植野 誠之・栗原 栄美

2年 前期・後期 2単位

○：美の探究、研鑽力、協働力

### 【授業のテーマ】

人生100年時代と言われる超長寿社会にあつて、どのように人生設計しキャリアを築き、生活していくかが益々問われる時代となつてきています。特に女性の生き方の選択肢は様々であり、単純に方向性を指し示せるものでもありません。

本講座ではこれまでの社会を形成してきた性別役割分担制の推移や実態についての理解を深め、そして将来を見据え、女性にとっての仕事とは、また仕事と家庭の両立などについて考えていきたいと思つています。

大学卒業後、仕事・結婚・子育てなどの女性にとっての大きなライフイベントにどう対応していくか、人生にとって重要な判断をしなければなりません。その判断材料としての事例紹介やロールモデルに登場してもらい、より身近に社会や仕事を実感し、自らのキャリア形成に役立てていく場としていきたいと思つています。

さらには働く場でいま求められている「社会人基礎力」を学び、そのための疑似ビジネス体験のワークを行います。

(項目)

- 「建学の精神」を通し、女性の生き方を学びます
- 「働くこととは」を学びます
- 社会人基礎力の理解と養成、コミュニケーション力アップ
  - ①アクション②シンキング③チームワーク

### 【授業における到達目標】

- 社会・企業の変化を知り、雇用情勢や雇用条件などの理解を深め社会人として生き抜いていくたくましさを身につける
- 世の中の女性の生き方について過去・現在・未来の姿を考え、自らの生き方を想像し、キャリア形成を考える
- 仕事をする場面で、若者が社会・企業から求められる資質・能力要件を学び、自らの弱点を克服すべく、グループワークでのディスカッションやプレゼンテーションを体験し実践力をつける

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション(講義概要説明)
- 第2週 社会を知る・自分を知る①(社会環境の変化・働くこととは)
- 第3週 社会を知る・自分を知る②(働く者と企業との関係)
- 第4週 社会を知る・自分を知る③(女性が働くということ)
- 第5週 DVD鑑賞(何のために働くのかを学ぶ)
- 第6週 社会人基礎力①(若者を待ち受ける社会・企業の現状)
- 第7週 社会人基礎力②(若者に求められる基礎力とは)
- 第8週 実践先輩から学ぶ(OG講演)
- 第9週 課題提示「企画提案(疑似ビジネス体験)」
- 第10週 グループワーク「企画立案実践」とプレゼンを学ぶ
- 第11週 グループワーク「企画立案実践」
- 第12週 企画案プレゼンテーション実践&審査会 1回目
- 第13週 企画案プレゼンテーション実践&審査会 2回目
- 第14週 レポート作成・提出
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

- 事前学修：(週2時間) 翌週への研究課題の提示とその準備  
グループワーク時はグループ内の役割分担に基づき、情報収集やパワーポイント・原稿作成などを準備する
- 事後学修：(週2時間) 授業を通して議論・指摘された課題について、自分なりに論点整理を行う

### 【テキスト・教材】

必要に応じ適宜配布します

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 平常点(取り組み姿勢・小レポート) 70点
- レポート提出 30点

講義内提出の小レポートは翌週代表例をピックアップし、フィードバックする。

また授業内で学内アプリ(Respon)を使ったアンケート実施時はすみやかに結果をフィードバックし、共有を図る

### 【参考書】

深澤晶久『仕事に大切な7つの基礎力』(かんき出版)

### 【注意事項】

- 状況により授業内容・順番が変更する場合があります
- DVDなども活用し、ビジュアルな授業とします
- キャリア教育は社会勉強の場でもあります。ルール・マナーを守り自立した社会人としての言動を求めています

## 実践キャリアプランニング

－社会人への第一歩を踏み出す－

板倉 文彦・大島 雅浩

1年 前期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

### 【授業のテーマ】

キャリアをデザインすること（キャリアデザイン）は、仕事面でのどのような姿を目指すかを構想することで、学生時代に考えるべき重要なテーマの一つといえます。そして、キャリアデザインは、個人々のライフプラン（人生設計）に包含されるものとの見方もできます。

本講義では、初めにこれまでの「自分」を振り返り、自分自身を理解します。そのうえで、卒業後の長い人生を段階に分け、どのようなライフプランを描いていきたいかを自分自身で考え、実現に向けて学生時代にすべきことから、長期的に取り組むべきことまでを明確にしていきます。

本講義を通じ、自分の将来を見つめ、それに向かっていくために必要とされるスキルを修得します。

### 【授業における到達目標】

自身のキャリアとライフプランを考える力を身に付けることで、社会において現状を正しく把握し課題を発見できる「行動力」と、知を探究し学び続ける「研鑽力」を修得することができます。

また、自分の考えをしっかりと持ったうえで、組織において他人と協働する力も身に付けることが可能です。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンスおよびキャリアデザイン、ライフプランの概要
- 第2週 自分を振り返る
- 第3週 自分の将来について考える
- 第4週 将来について考える（グループワーク）
- 第5週 ライフプランの要素
- 第6週 実体験から学ぶ（外部講師）
- 第7週 企業と仕事1（企業についての基礎知識）
- 第8週 企業と仕事2（企業評価）
- 第9週 社会人について考える
- 第10週 企業から求められる人になるには（グループワーク）
- 第11週 キャリアデザインの理論
- 第12週 ライフプランとキャリアデザインを考える
- 第13週 ライフプランとキャリアデザインを実現するために必要なスキル
- 第14週 学生時代にすべきこと（グループワーク）
- 第15週 ライフプランマップの作成、まとめ

### 【事前・事後学修】

- ・事前学修：授業後に課題として指示された事項について、自分自身の考えをまとめておく（週2時間）
- ・事後学修：講義で解説された内容について、自身の想定するキャリアやライフプランに照らし合わせて考える（週2時間）

### 【テキスト・教材】

必要に応じて資料を配付します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

配分基準：レポート40%、平常点（授業態度）40%、提出課題20%

課題は授業内でフィードバックして、各自の再確認を促します。

## 実践プロジェクト

長田 太郎

2年～ 前期 2単位

◎：協働力 ○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

社会・企業と連携したプロジェクトを進めていく中で、情報科目で学んだ文書作成・データ分析・プレゼンテーションやメディアの取り扱いなどのスキルをより高度に、実践的なものとして身に付けることを目指します。

またグループワークやプロジェクトにおいて重要視されているリーダーシップやファシリテーション、リフレクションなどの技法・スキルについても学びます。

### 【授業における到達目標】

①企業からの課題に対し、グループで問題を抽出・分析した上で、課題解決への方策を効果的にプレゼンテーションできるようにする。

②グループワークの意味・個人の強みを理解した上で、グループワークにおいて「権限なきリーダーシップ」を発揮できるようにする。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 グループワークの意味
- 第3週 グループワークにおける「個人」
- 第4週 「権限なきリーダーシップ」について
- 第5週 企業からの課題の提示
- 第6週 データの発見・整理・分析
- 第7週 プレゼンテーションの準備
- 第8週 中間報告
- 第9週 中間報告の振り返り
- 第10週 フィールドワーク①聞き取り調査
- 第11週 フィールドワーク②現地調査
- 第12週 データの整理・分析の精緻化
- 第13週 プレゼンテーション準備
- 第14週 最終報告
- 第15週 振り返り

※ほぼすべての週で企業の方など学外者をゲストに招き、インプット、学習見学、ディスカッション、フィードバックを予定している。

### 【事前・事後学修】

- ・各授業回で提示された個人・グループ課題について次回授業までに行い、オンラインシステムで提出すること（2時間相当）。
- ・各授業回においてグループで設定した進捗に関する具体的な作業に対して、次回授業までに作業・報告準備を行うこと（2時間相当）。

### 【テキスト・教材】

教材をオンラインで配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・プロジェクトへの参加度（50%）
- ・最終報告（50%）

また報告内容について、授業前後、研究室などでフィードバックを行う。

### 【参考書】

適宜、指示する。

### 【注意事項】

- ・社会・企業と連携していく中で授業時間外・グループでの準備活動・学習が求められることが多いので積極的かつ主体的に学ぶことを目指す学生の履修を望みます。
- ・プロジェクト形式で進めるために20名程度の履修制限を行います。履修希望者が多い場合は選考を行う場合があります。
- ・詳細については初回のガイダンスで説明するので必ず出席すること。

## 実践入門セミナー

所属学科専任教員

1年 前期 2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

学生生活を送るうえで必要な知識・技能を身につけるセミナー形式の授業です。積極的に授業に参加し、自分の学習目標、将来計画等を視野に入れながら授業に取り組んでください。

### 【授業における到達目標】

実践女子大学の学生として学んでいく上での必要不可欠な基本的知識や技能を身につけること、また社会について視野を広げて卒業後の将来について考えることを目的としています。特に、生涯にわたり知を探究して学び続ける自己研鑽力、現状を正しく把握して課題を発見する行動力、他者と互いに役割を理解して協力できる協働力の育成を目指します。

### 【授業の内容】

各クラスは所属学科の専任教員が担当し、少人数のセミナー方式で、以下の項目を学んでいきます。

1. 大学とはどのようなところか？
2. 履修指導—4年間で何をどのように学ぶのか
3. 自校教育—「実践」を知ろう
4. 大学生としての常識
5. 図書館ガイダンスを活用しよう—資料検索の方法など
6. 文章の読み方・書き方—レポート作成法など
7. 自己表現の方法—プレゼンテーションの技術を学ぼう
8. キャリア形成の準備—未来に向かって、今やっておくべきこととは？

※授業15回の各内容は、学科ごとに提示されます。具体的な内容と授業の進め方は、担当教員から説明されます。

<国文学科>（以下五十音順）

河野龍也・佐藤悟・棚田輝嘉・福岡健伸・ブルナ,ルカーシュ・横井孝

<英文学科>

植野達郎・大関啓子・佐々木真理・土屋結城・村上まどか

<美学美術史学科>

織田涼子・宮崎法子・武笠朗・六人部昭典

<食生活科学科 管理栄養士専攻>

於保祐子・中村彰男・長谷川めぐみ・森川希

<食生活科学科 食物科学専攻>

数野千恵子・杉山靖正・奈良一寛・山崎壮

<食生活科学科 健康栄養専攻>

阿尻貞三・加藤チイ

<生活環境学科>

加藤木秀章・牛腸ヒロミ・佐藤健・槇究

<生活文化学科>

大澤朋子・越山沙千子・島崎あかね・細江容子

<現代生活学科>

菅野元行・野津喬・行実洋一

<人間社会学部>

織田弥生・数野昌三・金津謙・神山静香・駒谷真美・斎藤明・篠崎香織・竹内光悦・広井多鶴子・山下早代子

### 【事前・事後学修】

「授業の内容」の項目ごとに、次週の準備内容が担当教員より指示されます。指示に従い、必要な準備を行ったうえで授業に出席してください。授業のあとは、その週の内容をよく整理して復習しておきましょう。

（学修時間：週4時間程度）

### 【テキスト・教材】

必要に応じて授業時に担当教員より指示されます。プリント等を用いることもあります。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業に取り組む態度50%。課題の評価50%。

授業への取り組み方（態度）や取り組んだ課題について、担当教員から適時コメントやフィードバックが行われます。

## 実践入門セミナー

### 専任教員

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

短大での2年間の学びに必要な不可欠な知識や技能の修得を目指します。「勉強のしかた」の実践的な基礎を理解し、その上に「学問的な態度」も身につけます。同時に、社会に出てから役立つ「モノゴトの見方・考え方・処理のしかた」を身につけることを目指します。ちょっとしたコツを知ることで、勉強の効果が大きく上がります。そして、短大での2年間を有意義なものにしてください。

### 【授業における到達目標】

短大で勉強していく上で必要な学びの基礎を身につけ、情報の収集、整理、発信が適切にできるようにします。さらに、学生が修得すべき「研鑽力」を身につけ、アクティブラーニングにより「行動力」や「協働力」をも修得します。

### 【授業の内容】

1. 学びの場を知る1…「学び方を学ぶ」とは
2. 学びの場を知る2…大学（短大・四大）とはなにか：学びの意味と方法・マナーと対人関係
3. 学びの場を知る3…学びの道具を知る：ノートのとおり方・本の構成要素の理解
4. 学びの場を知る4…学園創始者に学ぶ
5. 情報の収集1…学びの出発点としての図書館：図書館でできること・やるべきこと
6. 情報の収集2…資料・文献の探索方法を知る
7. 情報の収集3…資料・文献のリストを作る
8. 情報の整理1…ラインと書き込み：内容の骨組みとポイントを理解する
9. 情報の整理2…分類とはなにか：モノサシによって変わる見え方
10. 情報の整理3…構想をかたちづくる：データから見えてくるもの
11. 情報の発信1…書式とレジュメ：わかってもらうための表現とテクニック
12. 情報の発信2…レポートの構成：わかりやすさと筋道
13. 情報の発信3…レポートの作成：文章と図表
14. 情報の発信4…プレゼンテーション：目と耳に訴える
15. 情報の発信5…ディスカッション：全員で考えることから生まれるもの

\*上記は授業内容リストです。授業開講週ではありません。

\*番号順に講義しますが、授業の進捗状況により順番を入れ替えることがあります。また、内容は担当教員により多少異なり、教員によっては渋谷周辺の校外実習を実施する場合があります。

### 【事前・事後学修】

- ・事前学修：各授業で出された課題学習に取り組むこと。（学修時間：週2時間）
- ・事後学修：各授業のテーマを復習して理解を深めること。（学修時間：週2時間）

### 【テキスト・教材】

授業時に資料を配付します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業に取り組む態度50%・課題の評価50%。課題は授業内でフィードバックして、各自の再確認を促します。

### 【注意事項】

学生生活を送るうえで必要な知識・技能を身につけるセミナー形式の授業です。履修者の積極的な参加が求められます。具体的な授業の進め方は、担当教員が説明します。

常に「短期大学部標準受講マナー」を遵守すること。

## 社会

田中 正浩

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

## 【授業のテーマ】

本授業では、小学校社会科の理念と目的、意義と役割について理解し、社会科の学習指導において求められる基礎的な知識、技能、実践力の修得めざす。また、社会科成立の歴史的背景を理解するとともに、学習指導要領における社会科の目標と特質、教育課程における社会科の位置づけについて理解を深める。

## 【授業における到達目標】

本授業では、小学校社会科を学修することの意味や意義を自身の言葉で説明できるようになるとともに、他の教科目との関連をはじめ、社会科の今日的課題について考察、分析できる力を修得することを最終的な目標とする。

## 【授業の内容】

- 第1週 社会科の理念と目的
- 第2週 社会科の意義と役割
- 第3週 社会科の歴史－社会科教育の変遷－
- 第4週 社会科の構造と基本的性格
- 第5週 公民的資質の基礎を養う社会科
- 第6週 社会科の目標と内容（3学年）
- 第7週 社会科の目標と内容（4学年）
- 第8週 社会科の目標と内容（5学年）
- 第9週 社会科の目標と内容（6学年）
- 第10週 小学校社会科と生活科、総合的な学習の時間との関連
- 第11週 小学校社会科と道徳教育、中学校地理的分野との関連
- 第12週 社会科と問題解決学習
- 第13週 社会科教育の諸問題－他教科との関連から－
- 第14週 日本の社会科教育の特質
- 第15週 総括

## 【事前・事後学修】

事前学修…小テスト・レポート・発表等の課題に取り組む。

（学修時間 週2時間）

事後学修…小テストの解答と解説、発表等に対する指摘について振り返り、確認する。テキストや資料プリントの次回授業範囲を読み、専門用語や人物について調べ、自分なりに理解しておく。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

その他、資料プリントを適宜、配付する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト（20％）、試験（60％ ※テキスト、資料プリント、ノートを持ち込みは不可）、平常点〔授業態度・提出課題〕（20％）  
小テストは次回授業、試験は最終授業で解説し、フィードバックを行う。

## 【参考書】

適宜、紹介、指示する。

## 【注意事項】

教職に就く、あるいは教職への関心が高いことを前提に授業を進めていくので、意欲をもって取り組んで欲しい。



## 社会と統計

竹内 光悦

1年 後期 2単位

◎：行動力

### 【授業のテーマ】

社会において現状を測る、知る、行動するためには、様々なデータに基づく意思決定が求められる。実社会においてもこれらのデータを適切に処理する、分析する、表現するスキルは重要視され、ほとんどの部署で、その基礎的な知識を必要とされており、それらの習得は自分を助ける道具といえる。本講義では、企業、団体活動はもちろんのこと、大学4年間における調査・実験系の講義・演習や卒業研究に必要なデータ処理、分析に必要な基礎的なデータ分析を紹介する。特に実社会における実データを活用し、そのデータの適切な処理、分析、表現方法を学ぶ。

### 【授業における到達目標】

ビジネスパーソンの素養とする基礎的なデータ処理、データ分析ができるようになる。多様化する社会問題を客観的に把握する知識や技能を身に着けることにより、課題解決のために主体的に行動する力【行動力】を修得する。

### 【授業の内容】

具体的には以下の内容を予定している

1. 講義ガイダンスと統計科学の導入
2. 社会科学データ（調査データや実験データなど）の利用法と測定尺度
3. 統計グラフを用いたデータ表現
4. 表を用いたデータの整理1（度数分布表）
5. 表を用いたデータの整理2（クロス集計）
6. 代表値を使ったデータ比較
7. 散布度を使ったデータ比較
8. 順位に基づく指標を用いたデータ表現
9. 代表値と散布度を用いたデータ表現
10. 2変量データのグラフ表現、変量間の関係（相関と因果）を探る
11. 量的・質的データのまとめ方
12. 統計的推定、統計的仮説検定の紹介及び利用
13. 多変量解析の紹介及び利用
14. 統計解析ソフトウェアの紹介
15. データ分析の実践—社会におけるデータの活用—

### 【事前・事後学修】

事前学修：授業前に manaba で公開される授業資料を入手し、内容の予習、受講の準備を行うこと。（学修時間 週2時間）／事後学修：授業終了時に manaba 公開される動画スライドを確認し、復習しておくこと。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

講義内で適宜紹介。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

講義内課題（演習・中間テスト・小レポートなど、50%）および学期末レポート試験（50%）で評価。各授業の最初に前回の演習の結果、小レポートや中間テストにおいては manaba を通じて、レポート所見やテスト結果等をフィードバックする。

### 【参考書】

竹内光悦他『アンケート調査とデータ解析の仕組みがよ〜くわかる本【第2版】』（秀和システム 2012年）、G.W. ボーンシュテット・D. ノーキ（監訳：海野道郎・中村隆）『社会統計学—社会調査のためのデータ分析入門』（ハーベスト社 1992年）

### 【注意事項】

本講義では資料は配布しませんので、各自 manaba 等から当日の資料をダウンロードし、印刷・端末保管等を行い、電卓（スマートフォン可）や筆記用具等も持参すること。

## 社会と福祉

勝部 雅史

1年 後期 2単位

○：行動力

### 【授業のテーマ】

栄養士が人間の日常生活の土台を支える職務を遂行していくためには、社会福祉の根幹である人間生活の援助のあり方を優先して学ぶ必要がある。そこで3つの柱（A社会保障の概念、B福祉ニーズ、C福祉・公衆衛生）に照らして社会福祉の基礎的知識、理論、歴史、保健・医療・福祉の位置づけと相互の関係について概説する。

社会福祉の歴史や実践の基本概念の理解を通じて、現代社会と社会福祉の関連、「生活者」という視点から多様な分野の福祉政策について考察することを目的とする。

### 【授業における到達目標】

1. 社会福祉・社会保障・公衆衛生の基礎知識を習得する。
2. 社会福祉における「再分配」や「対人社会サービス」の考え方を理解する。
3. 学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を発見できる。

### 【授業の内容】

- 第1週 社会福祉概念とその範囲
- 第2週 社会福祉と関連諸施策
- 第3週 わが国の社会福祉の歴史的展開①
- 第4週 わが国の社会福祉の歴史的展開②
- 第5週 イギリスの社会福祉の歴史的展開①
- 第6週 イギリスの社会福祉の歴史的展開②
- 第7週 障害観の変遷
- 第8週 障害者福祉と福祉ニーズ
- 第9週 障害者福祉と生活援助
- 第10週 高齢者福祉と福祉ニーズ
- 第11週 高齢者福祉と生活援助
- 第12週 社会福祉援助とスティグマ
- 第13週 社会的排除への対応①
- 第14週 社会的排除への対応②
- 第15週 総括

### 【事前・事後学修】

事前学修：授業内容に照らした配布資料を読んで予習します。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業内容に照らして復習し、授業時に出された課題に取り組みます。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

配布する資料を教材に用います。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

#### 【方法・基準】

定期試験90%、課題レポート10%。

#### 【フィードバック】

定期試験終了後に解答解説を行うことでフィードバックします。

授業最終回時に、課題レポートに関してコメントしフィードバックします。

### 【参考書】

- ・岩松珠美・三谷嘉明編『栄養士・管理栄養士をめざす人の社会福祉』（みらい 2012年）2,200円
- ・稲沢公一・岩崎晋也『社会福祉をつかむ 改訂版』（有斐閣 2014年）2,376円

### 【注意事項】

以下の科目を履修していることが望ましいが、未履修でも問題はありません。

「経済学」「社会学」

## 社会のシステムと環境

—犯罪・天災・ストレスなどから、あなた自身を守る方法—

増田 貴之

1・2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

私たちが暮らす日常生活には、多くのリスク（危険）が潜んでいます。特に最近凶悪なストーカー犯罪が多発するなど、若い女性を狙った犯罪が後を絶ちません。また首都圏直下型地震など天災のリスクが高まっているとの指摘があるのもご存知でしょう。

一方ではストレスや睡眠障害などが原因で、自分が本来持っている能力や才能を十分発揮できずにいる人も多く、これらの悩みもまた充実した人生を送る上で大きなリスクになっています。

このような状況を考えると、皆さん若い女性は犯罪や自然災害など「自分の外にあるリスク」と、心身の不調など「自分の中にあるリスク」から、常に「自分のことは自分で守る」術を身に付け、いざという時に冷静に対応できる知識を備えておくべきではないでしょうか。なぜなら皆さんの進路に関わらず、安全で健康な日々の生活こそが、幸せな人生の基本となるからです。

この授業では、UNHCR（国連の難民支援機関）作成の女性職員向け教材を使用して、特に若い女性が学ぶべき防犯・リスク管理法などを学習、加えて学生諸君のニーズが高いストレス管理、睡眠障害対策についても紹介します。また東日本大震災後「防災士」としても活動しているので、地震や洪水など自然災害への備え・対処法についても詳しく学びます。

### 【授業における到達目標】

履修生にはこの授業を通じ、リスク管理に関する広範な知識を身に回りの危険を見抜いてゆく「研鑽力」、自分の身は自分で守る「行動力」、災害時に周りと協力して生き抜く「協働力」などを身に付けてもらいたいと思います。

また海外渡航時のリスク管理や日本と国連におけるハラスメントの考え方の違いなどを、自身の海外経験を交えて紹介しますので、広い「国際的視野」も獲得してください。

そして優しさと強さを兼ね備え「心の美を探究し続ける」女性になってもらう事。それがこの授業の究極的な目標です。

### 【授業の内容】

- 第1週 防犯・リスク管理「その1 基礎」
- 第2週 防犯・リスク管理「その2 日常生活」
- 第3週 防犯・リスク管理「その3 自宅周辺の危険を知ろう」
- 第4週 防犯・リスク管理「その4 ネット詐欺・悪質訪問への対応」（最新事例紹介とクーリング・オフの手続き）
- 第5週 ストレス管理「ストレスレベルチェックと、タイプ別ストレス解消法」
- 第6週 防犯・リスク管理「その5 外出時」（歩行中、交通機関利用中、海外渡航時など）
- 第7週 天災への備え「その1 日ごろからの地震対策」
- 第8週 天災への備え「その2 地震被災時に身を守る手段と情報の入手、洪水・火山噴火などその他の災害への備え」
- 第9週 ストーカー対策「その1 ストーカーのタイプと手口」
- 第10週 ストーカー対策「その2 ストーカー行為を止める方法」
- 第11週 ハラスメント対策「その1 セクハラとその対策」
- 第12週 ハラスメント対策「その2 パワハラとその対策」
- 第13週 睡眠障害対策「その1 自分の睡眠パターンを知ろう」
- 第14週 睡眠障害対策「その2 睡眠障害の原因と対策」
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

・事前学修：配付資料を毎回よく読んでから出席してください。学修時間 週2時間程度

・事後学修：毎回学習したリスク対策について、自分の生活に当てはめて必要な対策を取ってください。学修時間 週6時間程度

### 【テキスト・教材】

必要に応じて、毎回印刷物等の資料を配付します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度、授業後提出する感想・質問シートの内容）を70%、学期末のレポートを30%の比重とし総合的に評価します。上記質問シートについては、翌週そのレポート全件に対するコメントや質問への回答をプリントにして配布し、皆さんへのフィードバックとしています。履修生が多く授業中に質疑応答の時間を長く取れないので、このプリントで他の人が授業内容のどんな点に注目したのか、どんな質問をしたのかなど、参考にしてください。

### 【参考書】

ストレス対策、進路の考え方などについて、図書館に寄贈してある参考図書を授業の中で紹介します。

**社会ネットワーク論**

千川 剛史

3年 後期 2単位

◎：行動力

千川剛史著『情報化とデジタル・ネットワーキングの展開』（晃洋書房 2009年）2,400円

千川剛史著『現代と社会学』（同友館 2016年）3,000円

**【注意事項】**

教科書を中心に授業を行う。また、必要に応じて、プリント・資料の配布や参考文献の指示をする

**【授業のテーマ】**

この授業では、まず、社会集団や社会組織と対比させながら、「社会ネットワークとは何か」を明らかにする。

次に、都市化や情報化等の社会変容によって人々を取り巻く社会ネットワークが変化することを通じて、いかに家族や地域、学校や職場が変容し、社会の構造転換が生じるのかについて考察する。

さらに、人々が、様々な人々と関わり問題関心を共有しながら、「ソーシャル・キャピタル」（社会関係資本）を活用し、新たに社会ネットワークを作り上げていく「ネットワーキング」によって社会が変わる可能性と課題について学習する。

**【授業における到達目標】**

以上の授業内容を学習することによって、「社会ネットワーク」の概念について、社会学の観点から、具体的な事例に結びつけて理解できるようになる。

また、社会ネットワークの概念を用いて、都市化や情報化から生じる諸社会現象を論理的かつ具体的に説明できるようになる。

そして、学生が習得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を発見できるようになる。

**【授業の内容】**

- 第1週 授業概要と授業予定の説明
- 第2週 社会集団と社会組織
- 第3週 社会組織としての社会ネットワーク
- 第4週 都市化による社会ネットワークと地域社会の変容
- 第5週 都市型社会と社会ネットワークの問題
- 第6週 都市型社会の課題解決へ向けて
- 第7週 情報化による社会ネットワークと社会生活の変容
- 第8週 情報社会と社会ネットワークの問題
- 第9週 情報社会の問題解決に向けて
- 第10週 ソーシャル・キャピタルとは何か
- 第11週 ソーシャル・キャピタルとネットワーキング
- 第12週 デジタルメディアを活用したネットワーキング
- 第13週 デジタル・ネットワーキングの展開、レポート提出
- 第14週 デジタル・ネットワーキングによる社会改革の可能性
- 第15週 レポートの返却と講評

**【事前・事後学修】**

【事前学修】小テストの課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】小テストの内容を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語や概念を理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

千川剛史著『デジタル・ネットワーキングの展開』（晃洋書房 2014年）2,700円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- (1) 成績の評価は、学期末に課するレポートによって行う。
- (2) 毎回、授業内容に関する小テストを課す。それをもって、出欠の確認および授業の理解度を評価する。

なお、成績評価に対するレポート得点と授業の理解度の比率は、7：3である。

- (3) 年明けに提出されたレポートは、個々に内容等についてコメントを記入して採点した上で、最終回の授業で返却し、レポートについての全般的な講評を行う。

**【参考書】**

千川剛史著『公共圏の社会学』（法律文化社 2001年）2,500円

千川剛史著『公共圏とデジタル・ネットワーキング』（法律文化社 2003年）2,700円

千川剛史著『デジタル・ネットワーキングの社会学』（晃洋書房 2006年）2,400円

## 社会科・公民科教育法（１）

大高 皇  
2年 後期 2単位

## 【授業のテーマ】

- ①我が国の社会系教科の成立、学習指導要領の変遷、社会科カリキュラム構成原理等を検討し、社会科の目的、意義、課題を学ぶ。
- ②社会科における教材研究の方法、学習指導の工夫、学習指導案の作成等の学習、すぐれた授業実践の分析等を通して、社会科の授業づくりに必要な知識・技能を習得する。

## 【授業における到達目標】

社会系教科の目的、意義、課題を説明することができる。また、教材研究の方法、学習指導の工夫、学習指導案の作成、授業実践の分析を行うことができる。また、社会科教育の観点から、多様性を受容し、多角的な視点を以って世界に臨む態度と知を求め、心の美を育む態度を身につけ、社会科の教育者として学修を通して自己成長する力、課題解決のために主体的に行動する力、相互を活かして自らの役割を果たす力を身につける。

## 【授業の内容】

- 1) オリエンテーション：「よい授業」を考える
- 2) 社会科の成立と初期社会科の実践
- 3) 学習指導要領の変遷と教科書検定制度
- 4) 社会科カリキュラムの構成原理
- 5) 社会科の授業構成
- 6) 社会科の授業分析
- 7) 社会科の授業研究
- 8) 指導計画と学習指導案
- 9) 地域調査に基づく授業づくり①（実践紹介）
- 10) 地域調査に基づく授業づくり②（模擬授業）
- 11) 人物学習と文化史学習の授業づくり①（実践紹介）
- 12) 人物学習と文化史学習の授業づくり②（模擬授業）
- 13) シティズンシップ教育の授業づくり①（実践紹介）
- 14) シティズンシップ教育の授業づくり②（模擬授業）
- 15) 総括

## 【事前・事後学修】

《事前学修》授業づくりに際し、学習指導案を各自事前に作成してこよう。また模擬授業に際し、学習指導案・板書計画・教材等を各自事前に作成してこよう。様式等は授業内で指示する。指示に沿った様式で作成すること。（学修時間2時間）  
《事後学修》講義後に課題を課す。課題の詳細は授業内で指示する。また模擬授業終了後に生徒役の学生が記入した観察評価票、及び、模擬授業の様態を撮影したDVDを渡すので、それらを活用し振り返りを行うこと。（学修時間2時間）

## 【テキスト・教材】

森茂岳雄・大友秀明・桐谷正信編  
『新社会科教育の世界—歴史・理論・実践』  
（梓出版社 2011年）2, 205円

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度10%、提出物10%、模擬授業20%、学習指導案20%、試験40%の割合で評価する。試験終了後に、解答を発表するとともに口頭で解説を加えフィードバックを行う。

## 【参考書】

文部科学省『中学校学習指導要領』  
文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』  
その他、授業中に適宜紹介する。

## 【注意事項】

本講義は、教職課程の授業であるため、またグループワークが主体となるため、授業態度については厳しく判定する。

## 社会科・公民科教育法（２）

松村 修一  
3年 前期 2単位

## 【授業のテーマ】

社会科・公民科分野の大枠を確認し、教育の実践に近い形を想定した模擬授業形式を取り入れつつ、方法論を学習する。講義と発表の交互の繰り返しのなかから、授業の組み立て方を身につける。

## 【授業における到達目標】

教室の最後列に座る者を意識した授業内容の伝達、周知を徹底する。国の内外の思想を比較することで広い視野をもち、自らの言葉に置き換え、知識の深化を目指す。

## 【授業の内容】

（授業予定）

- 第1回：個と我
- 第2回：社会契約論（1）ホッブズとロック
- 第3回：社会契約論（2）ルソー、ヒューム
- 第4回：非社会契約論 マンデヴィル～スマス
- 第5回：パーク、ペイン：コミュニタリアン
- 第6回：経済社会の比較
- 第7回：スマス以降～限界効用学派
- 第8回：ケインズと反ケインズ
- 第9回：経済計算論争と市場
- 第10回：経済と職業観
- 第11回：ウェーバーと鈴木正三
- 第12回：江戸期の思想 林羅山、山片蟠桃、二宮尊徳など
- 第13回：江戸期の経済政策
- 第14回：吉宗と宗治
- 第15回：総括 社会・経済への視点

## 【事前・事後学修】

テーマに即した資料の読み込みが事前に、配布プリントの整理が事後に必要となる。発表前には「発表時間」の2倍以上の準備が不可欠。様々な質問に答えるための準備でもある。発表後には、疑問点の整理とそれへの回答と同程度の時間を予定しておくこと。「発表時間」はテーマや回数ごとに変わるが、事前：事後の学修時間は3：1が、通常は2：2の配分で、1週、4時間を標準とする。

## 【テキスト・教材】

配布プリント（適宜、中高校の教科書を参照するので、手元に置くことと便利）

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験6割、課題レポート4割の総合評価。試験及びレポートについては評価点を記した上で、期限内に返却することを原則とする。

## 【参考書】

文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校指導要領』  
文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』  
〃 『高等学校指導要領解説 公民編』  
テーマ、またはレポートの課題ごとに、授業で指定

## 【注意事項】

講義内容の消化が目的ではなく、自らの授業組み立てができるように常に意識をもつこと。

## 社会科・公民科教育法（３）

大高 皇  
3年 前期 2単位

## 【授業のテーマ】

「社会科・公民科教育法（１）」で学んだ社会科教育の理論的・実践的基礎の上にたち、社会科における教材研究の方法や多様な学習指導の工夫について学ぶとともに、年間指導計画および学習指導案の作成、模擬授業などの実習を通して社会科授業の実践的授業力を養う。

## 【授業における到達目標】

多様な教材研究の方法や、多様な学習指導の工夫を活用して社会科授業の実践的授業力を身につける。また、社会科教育の観点から、多様性を受容し、多角的な視点を以って世界に臨む態度と知を求め、心の美を育む態度を身につけ、社会科の教育者として学修を通して自己成長する力、課題解決のために主体的に行動する力、相互を活かして自らの役割を果たす力を身につける。

## 【授業の内容】

- 1) オリエンテーション
- 2) 地理的分野の教材研究の方法と実際（校外で地域調査を行う）
- 3) 歴史的分野の教材研究の方法と実際
- 4) 公民的分野の教材研究の方法と実際
- 5) 地理的分野の学習指導
- 6) 歴史的分野の学習指導
- 7) 公民的分野の学習指導
- 8) 学習指導案づくりと検討
- 9) 地理的分野の模擬授業
- 10) 地理的分野の模擬授業の検討
- 11) 歴史的分野の模擬授業
- 12) 歴史的分野の模擬授業の検討
- 13) 公民的分野の模擬授業
- 14) 公民的分野の模擬授業の検討
- 15) 総括

## 【事前・事後学修】

《事前学修》授業づくりに際し、学習指導案を各自事前に作成してくること。また模擬授業に際し、学習指導案・板書計画・教材等を各自事前に作成してくること。様式等は授業内で指示する。指示に沿った様式で作成すること。（学修時間2時間）  
《事後学修》講義後に課題を課す。課題の詳細は授業内で指示する。また模擬授業終了後に生徒役の学生が記入した観察評価票、及び、模擬授業の様態を撮影したDVDを渡すので、それらを活用し振り返りを行うこと。（学修時間2時間）

## 【テキスト・教材】

森茂岳雄・大友秀明・桐谷正信編  
『新社会科教育の世界—歴史・理論・実践』  
（梓出版社 2011年）2,205円

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度10%、提出物10%、模擬授業20%、学習指導案20%、試験40%の割合で評価する。試験終了後に、解答を発表するとともに口頭で解説を加えフィードバックを行う。

## 【参考書】

文部科学省『中学校学習指導要領』  
文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』  
その他、授業中に適宜紹介する。

## 【注意事項】

本講義は、教職課程の授業であるため、またグループワークが主体となるため、授業態度については厳しく判定する。なお、地域調査は調整により前後の週に変更になる場合がある。

## 社会科・公民科教育法（４）

細谷 美明  
3年 後期 2単位

## 【授業のテーマ】

我が国の社会科教育の概略を学習指導要領の変遷を通して理解するとともに、中学校社会科を中心とした教材開発・研究の方法、指導計画・学習指導案の作成の仕方、指導法や学習評価の方法等について、事例や模擬授業を通して習得する。

## 【授業における到達目標】

○社会科・公民科教育の目標を理解することにより、我が国の文化と伝統を尊重する態度を身に付け世界に発信しようとする態度を育てる。【国際的視野】

○社会科・公民科の授業における教材研究の方法、授業実践力、学習指導案の作成方法、学習評価の方法等を習得することにより、広い視野と深い洞察力を身に付け本質を見抜く力を育てるとともに、目標を設定し計画を立案・実行できる行動力を身に付ける。【研鑽力】【行動力】

## 【授業の内容】

- 第1週 社会科の成立と学習指導要領にみる学習内容等の変遷
- 第2週 次期学習指導要領の概要と中学校社会科の特色
- 第3週 担当教員による示範授業及び協議（事前学修①）
- 第4週 教科書を使つての授業実践（模擬授業①）
- 第5週 教科書を使つての授業実践（模擬授業②）
- 第6週 教材開発と教材研究の理論と実践—歴史学習を通して—
- 第7週 学習評価の理論と実践
- 第8週 学習指導案の作成①（教材開発と指導観の設定）
- 第9週 学習指導案の作成②（指導計画・評価計画の作成）
- 第10週 学習指導案の作成③（展開例と評価規準・方法の作成）
- 第11週 グループワークによる学習指導案づくり ※事前学修②
- 第12週 学習指導案による模擬授業及び研究協議①
- 第13週 学習指導案による模擬授業及び研究協議②※事後学修
- 第14週 生徒の「生きる力」を育む指導法の理論と実践①—絵画資料を活用した課題解決学習等—
- 第15週 生徒の「生きる力」を育む指導法の理論と実践②—シミュレーション・ゲームやディベート等—

## 【事前・事後学修】

- ◆中学校社会科の教科書を手し、関心ある単元を1ページ程度まとめておくこと。（事前学修①※1時間）
- ◆国立教育政策研究所等のホームページから、社会科の学習指導案を収集しておくこと。（事前学修②※1時間）
- ◆模擬授業（2回分）後、担当教員の指導・助言とともに自己の省察を記述してレポートとして提出すること。（事後学修※2時間）

## 【テキスト・教材】

◆「中学校学習指導要領解説 社会編」（文部科学省）175円  
（注）2018年4月発行予定

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ◆評価基準  
課題レポート、学習指導案と模擬授業、提出対象の演習用紙等を総合的に評価する。
- ◆評価方法  
課題レポート30% 学習指導案と模擬授業50% 演習用紙20%
- ◆フィードバック  
レポート、演習用紙、学習指導案と模擬授業については、授業後、講評をレシートカードを渡す。

## 【参考書】

現行の中学校社会科（地理、歴史、公民）の教科書

## 【注意事項】

本講義は、教員になることを前提とした学生対象の講義であることから、授業態度や立ち振る舞い等については中学生や高校生の手本となるよう十分留意すること。

## 社会科学データ分析

竹内 光悦

3年 前期 2単位

◎：行動力

## 【授業のテーマ】

ビジネス社会では調査や実験により得られたデータを用いた分析、検証が重要視される。特にこれらは実社会や学術研究など、より高度な分析を必要とする際には、多変量データなどのより情報をもつデータの分析が必要とされる。

本講義では、これらの社会科学データを用いた分析を基礎から応用までの一連の体系を紹介する。なお、卒業研究を踏まえて、データの基礎処理から高度な処理（多変量解析）等まで、実際にPC（Excel や SPSS、R など）を利用した実践的なスキルの習得を目指す。

## 【授業における到達目標】

ビジネスパーソンの素養とする基礎的なデータ処理、データ分析ができるようになる。多様化する社会問題を客観的に把握する知識や技能を身に着けることにより、課題解決のために主体的に行動する力【行動力】を修得する。

## 【授業の内容】

具体的には以下の内容を予定している

1. ガイダンス、社会科学データの紹介
2. 多変量データの測定、多変量データの入力・処理の基本
3. 多変量データの集計処理とデータベースの利用
4. 計量的多変量データ分析の基礎
5. 統計グラフを用いた多変量データの図示化
6. 統計ソフト活用、計量的多変量データ分析のテーマ検討
7. 未来を予測—重回帰分析—
8. 対象の分類—クラスター分析—
9. 潜在的な要因を探す—因子分析—
10. カテゴリカルデータの分析—数量化理論—
11. 様々な多変量解析法
12. PCを利用した多変量解析の紹介
13. 実社会における多変量解析の実例
14. 分析結果の文書化と発表
15. 社会科学データ分析のまとめ

## 【事前・事後学修】

事前学修：授業前に manaba で公開される授業資料を入手し、内容の予習、受講の準備を行うこと。（学修時間 週2時間）／事後学修：授業終了時に manaba で公開される動画スライドを確認し、復習しておくこと。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

教科書は適宜授業内で紹介。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

講義内課題（演習・中間テスト・小レポートなど、50%）および学期末レポート試験（50%）で評価。各授業の最初に前回の演習の結果、小レポートや中間テストにおいては manaba を通じて、レポート所見やテスト結果等をフィードバックする。

## 【参考書】

竹内光悦他『アンケート調査とデータ解析の仕組みがよ〜くわかる本【第2版】』（秀和システム 2012年）竹内光悦・酒折文武『Excelで学ぶ理論と技術多変量解析入門』（ソフトバンククリエイティブ 2006年）、内田治『すぐわかるSPSSによるアンケートの調査・集計・解析 第3版』（東京図書 2007年）、青木繁伸『Rによる統計解析』（オーム社 2009年）

## 【注意事項】

本講義では実践的にデータ分析の演習を行うため、PC教室で行います。教室の都合のため、上限があります。上限を希望者が超した場合には掲示しますので注意して下さい。なお、基礎から応用へ段階的に紹介するため、遅刻、欠席は注意すること。

## 社会学 a

社会学的発想法の展開を学ぶ

氏川 雅典

1年～ 前期 2単位

○：研鑽力、行動力

### 【授業のテーマ】

多様な人びとが共に暮らす現代社会においては、ときに各種の社会問題を、他者たちとの対話を通じて協働的に解決してゆくことが求められます。その際のポイントは、他者たちの声を聴き、共に学ぶことを通じて自分自身を反省的に捉えることができるかどうか、にあります。社会学は、その成立当初から、社会について考えるための「言葉」を生み出してきました。本コースでは、古典から現代に至る社会学の流れを学ぶことを通じて、社会学の基本的な発想法の習得を目指します。

### 【授業における到達目標】

社会学の基本的発想（複眼的思考、情報の視覚化スキルなど）を身につけることで、以下の態度および力の修得を目指します。

「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる。「行動力」のうち、プロセスや成果を正しく評価し、問題解決につなげることができる。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 技法の束としての社会学
- 第3週 社会学の誕生：A. コント 実証主義から人類教へ
- 第4週 比較する：E. デュルケムの『自殺論』
- 第5週 意図せざる結果：宗教と経済の結合（M. ヴェーバー）
- 第6週 予言の自己成就：R. マートン（前編）
- 第7週 アノミーと潜在的機能：R. マートン（後編）
- 第8週 ラベリング論：キャラとスクールカースト
- 第9週 感情労働論：管理される心
- 第10週 弱い紐帯の強さ：社会的ネットワーク論
- 第11週 文化資本：社会環境の個人的継承
- 第12週 フーコーと監視社会
- 第13週 社会問題の構築主義
- 第14週 公共圏と討議倫理：ハーバーマスの近代のプロジェクト
- 第15週 全体のまとめ

※人数や理解度に応じて内容が変更になる場合があります。

### 【事前・事後学修】

【事前学修】授業内容予習のための小レポートに取り組むこと。

（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業内容復習のための小課題に取り組むこと。

（学修時間 週2時間）

※課題提出が締切を過ぎた場合は減点となります。

### 【テキスト・教材】

・教科書については特に定めなし。教材については適宜指示します。授業資料がある場合は、事前にManabaにアップロードするので、各自授業までに入手しておくこと。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・授業毎の小課題提出40%、学期末試験60%で成績評価を行う。
- ・小課題を提出しない場合は欠席とします。
- ・30分を過ぎた遅刻は欠席とし、連続2回の遅刻で1回の欠席とします。列車遅延による遅刻は認めません。
- ・試験は持ち込み不可。
- ・課題は次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックする。

### 【参考書】

奥村隆, 2014, 『社会学の歴史 I—社会という謎の系譜』有斐閣。

### 【注意事項】

- ・他の学生の聴講の妨げとなる迷惑行為（私語など）を行った学生は退出の上、当日は欠席扱いとします。
- ・人数に応じて教室変更や座席指定を行います。
- ・欠席理由を証明する公的文書がない場合は、成績評価の際に配慮を行いません。各自、体調管理には気を付けて下さい。

## 社会学 b

コミュニケーションの社会学：「12人の怒れる男」の議論分析

氏川 雅典

1年～ 後期 2単位

○：研鑽力、行動力

### 【授業のテーマ】

社会の多様性が高まりつつある現代においては、複数の人々の間で対立も多くなります。その結果、対話を通じ集合的問題解決を図る機会が様々な場面で増えてきています。

本コースでは「議論」という問題解決のためのコミュニケーション様式を取り上げ、前期の社会学aで学んだ知見を踏まえ、これを分析するための言葉と方法の習得を目指します。具体的には映画「12人の怒れる男」（1957年）の社会学的な議論分析を行います。

### 【授業における到達目標】

議論分析を通じて、以下の態度および力の修得を目指します。

「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察を身につけ、本質を見抜くことができる。「行動力」のうち、プロセスや成果を正しく評価し、問題解決につなげることができる。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 現代社会と議論
- 第3週 社会学における議論研究
- 第4週 議論の理論：議論とは何か？
- 第5週 議論のプロセス：「12人の怒れる男」
- 第6週 議論における様々なバイアス：情報と評価
- 第7週 議論のレイアウト：S. トゥールミンの議論モデル
- 第8週 批判：分けて他の可能性を探究する
- 第9週 レトリック：意味の層の移動手段
- 第10週 多様性と統一のジレンマ：アイデアと役割分化
- 第11週 議論のデザイン：ルール、決定法、規範
- 第12週 「12人の怒れる男」再訪
- 第13週 可能性の境界線引き（※レポート課題発表）
- 第14週 議論の社会学に向けて
- 第15週 全体のまとめ

※人数や理解度に応じて内容が変更になる場合があります。

### 【事前・事後学修】

【事前学修】授業内容予習のための小レポートに取り組むこと。

（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業内容復習のための小課題に取り組むこと。

（学修時間 週2時間）

※課題提出が締切を過ぎた場合は減点となります。

### 【テキスト・教材】

・教科書については特に定めなし。教材については適宜指示します。授業資料がある場合は、事前にManabaにアップロードするので、各自授業までに入手しておくこと。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・授業毎の小課題提出40%、学期末レポート60%で成績評価を行う。小課題を提出しない場合は欠席とします。
- ・30分を過ぎた遅刻は欠席とし、連続2回の遅刻で1回の欠席とします。列車遅延による遅刻は認めません。
- ・場合に応じて、学期末レポートが試験になることもあります。その場合、試験は持ち込み不可です。
- ・課題は次回授業、レポートは最終回でフィードバックする。

### 【参考書】

・サンスティーンほか, 2015=2016, 『賢い組織は「みんな」で決める——リーダーのための行動科学入門』NTT出版。

### 【注意事項】

- ・他の学生の聴講の妨げとなる迷惑行為（私語など）を行った学生は退出の上、当日は欠席扱いとします。
- ・人数に応じて教室変更や座席指定を行うことがあります。
- ・欠席理由を証明する公的文書がない場合は、成績評価の際に配慮を行いません。各自、体調管理には気を付けてください。
- ・前期「社会学a」と合わせて履修するとより理解が深まります。



## 社会学概論

原田 謙

1年 前期・後期 2単位

◎：行動力

## 【授業のテーマ】

この授業は、家族生活、地域社会、職業生活といった日常生活のトピックを取り上げながら、社会的なものを見方を学ぶ科目である。具体的には、さまざまな社会学理論や実証データにもとづいて、家族の構造と機能、ライフコースとライフスタイル、都市化と地域社会の変容、就業形態の多様化、生産・労働のグローバル化・グローバル化などについて学ぶ。

## 【授業における到達目標】

到達目標は、さまざまなデータから現代社会の諸特性を理解し、研究方法としての社会調査の重要性をふまえながら、社会的な発想を身につけることである。課題解決に向けた「行動力」を高めるために、現状を正しく把握する知識を修得する。

## 【授業の内容】

1. 社会学とはどのような学問か
2. 社会的なものを見方：自殺にみる社会
3. 高度経済成長の光と影
4. ライフスタイルとライフコース
5. 医療技術の進展と現代生活
6. 家族の特質ととらえ方
7. 少子化と家族の多様化
8. 地域社会の歴史の変容
9. 地域集団の現状と課題
10. 産業・職業構造の変化と就業形態の多様化
11. 生産・労働のグローバル化
12. 社会問題の諸相1：社会的排除
13. 社会問題の諸相2：リスク社会
14. 研究方法としての社会調査
15. まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】授業前に、参考書等を用いて該当箇所を予習しておくこと（週2時間）。

【事後学修】授業後に、学習したキーワード、データ等を復習しておくこと（週2時間）。

## 【テキスト・教材】

適宜、プリントを配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中のコメントペーパーの提出（30%）、試験（70%）にもとづいて評価する。コメントに対するリプライは次回授業時に適宜行う。試験結果のフィードバックはmanabaで行う。

## 【参考書】

長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志『社会学』（有斐閣、2007年）

宇都宮京子編『よくわかる社会学』（ミネルヴァ書房、2006年）

吉見俊哉『ポスト戦後社会』（岩波書店、2009年）

## 社会言語学

高木 裕子

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

## 【授業のテーマ】

言語が実際の使用場面でどのように使われ、また、それは人の言語生活や行為・行動、考え方とどう関わっているのか、さらには様々な社会問題や言語現象とどう関連しているのかを、広く「社会」との結びつきから、また、その視点から読み解いていこうとするのがこの分野です。授業では、「言語とは何か」という基本概念から、人間のコミュニケーションの実態やその背景にある諸理論、言語が地域や社会状況によって、どのように変化しているのか、また、いつ、どこで、誰と、どのように話すかで、言語運用は変わること、さらには、聞き手の態度によっても変わってしまうこと等、人が言語を使う時に係わる様々な問題や側面を、単なる文法解釈以上の、でもニュアンスではない、場や人間関係といった、社会・心理的要因から明らかにしていきます。授業では、講義だけでなく、これら人の言語に係わる諸問題や現象について調べたり、インタビューを通じた質的調査をしたりして、実際に理解していきます。そこで必要になる言語をクリティカル（批判的）に読み解くことで、実際に言語調査ができるようにします。

## 【授業における到達目標】

言語をクリティカル（批判的）に読み解くことを通じて、言語調査ができるようになるだけでなく、幾つかの質的調査法や分析（インタビュー調査法、ライフストーリー、映像分析やCM分析、会話分析や談話分析等）ができるようにします。また、そこでの学習を通じて、深い洞察力や本質を見抜く力、背後にある文脈等が捉えられ、事象・現象が分析的に考えられ、新たな課題発見をもできるような総合的な資質、能力を付けさせます。

## 【授業の内容】

1. 社会言語学とは何か
2. 社会言語学（的）能力とコミュニケーション能力、そして、伝達能力
3. 言語学の世界と言葉を見る目
4. クリティカル言語認識
5. ポリテイカリー・コレクトと調査倫理
6. 言語調査と調査方法、そして、言語資料収集と言語記録保存
7. 言葉のマクロ的研究（1） 言語問題と言語政策
8. 言葉のマクロ的研究（2） 国家と言語計画
9. 言葉のマクロ的研究（3） 言葉とパワー
10. 言葉のマクロ的研究（4） 言語行動と社会的メッセージ
11. 言葉のミクロ的研究（1） 人と言葉
12. 言葉のミクロ的研究（2） 言葉の使い分けと言語意識
13. 言葉のミクロ的研究（3） 言語接触・言語変化
14. 言葉のミクロ的研究（4） 言語現象と言語習得
15. 言葉のミクロ的研究（5） 総括と言語の未来

## 【事前・事後学修】

【事前学修】各週での課題についてはまとめ、短いレポートして提出するだけでなく、当該課や指定各章は必ず事前に読み、そこでの課題についても、所定の期限までに必ず提出すること（週1時間）。

【事後学修】複数の調査が課せられるため、そのための分析や調査を行い、中間レポートと期末レポートとして提出すること（週3時間）。

## 【テキスト・教材】

飯野金一・奥村由香子・杉田洋・森吉直子(2003)『新世代の言語学』（くろしお出版）1,800+税別

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題レポート30%、中間レポート30%、期末レポート40%。各課題等提出後に、毎回フィードバックを行い、総合的に内容について再説明、補足等を行います。

**【参考書】**

授業中に適宜紹介します。

**【注意事項】**

言語調査や言語を通じた調査法、質的調査や質的研究法を、広く身に付けるだけでなく、言語を通じた意味概念の世界への認識や現象学・認識論についても学びます。「目からうろこ」。言語研究とはこんなものだったのかと認識を新たにするはずです。言語なくして、どんな調査も研究もできずです。しっかり学んでください。将来、きっと役に立つはずです。

**社会言語学講義**

社会と言語の交差点に着目する

ウンサーシュッツ, ジャンカーラ

3年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

本講義では、具体例を提示しながら社会が言語に及ぼす影響、また言語が社会におよぼす影響について考察します。同じ国に住んでいるのに、なぜか地域によって話し方が違う…、同じ内容の話でも、話者が女性なのか男性なのかによってことばづかいが異なる…、同じ相手なのに、場が変わっては話し方が違って来る…、といったように、様々な社会的な要因（地域やジェンダー、コンテキスト等）が言語の使い方を大きく左右させます。その仕組みに対する理解が深まるよう、最初は具体例を取り上げつつことばづかいに影響をおよぼす諸社会的な要因について勉強します。次に、コンテキストによる差を理解するために、ポライトネスやスピーチ・アコモデーションといった現象を取り上げ、社会的要因の具体的な効果を検討していきます。本講義を通し、社会言語学的な観点からことばを考察する姿勢を身につけ、その分析に必要なスキルを取得します。

**【授業における到達目標】**

社会言語学の基礎的研究に対する理解を活用し、社会言語学な観点から分析を行うことができる。自分の勉学と生活の中で、ことばに意識・関心を持つようになり、データの採取・分析する能力が身につく。

**【授業の内容】**

- 【第1回】社会言語学のはじまり
- 【第2回】社会言語学の諸要因：地域
- 【第3回】社会言語学の諸要因：階層
- 【第4回】社会言語学の諸要因：民族
- 【第5回】社会言語学の諸要因：性差
- 【第6回】社会言語学の諸要因：年齢
- 【第7回】コンテキストと言語：言語選択
- 【第8回】コンテキストと言語：レジスターとスタイル
- 【第9回】コンテキストと言語：ポライトネス
- 【第10回】コンテキストと言語：異文化コミュニケーション
- 【第11回】コンテキストと言語：会話の仕組みとスタイル
- 【第12回】文化と言語：言語人類学
- 【第13回】文化と言語：認知言語学
- 【第14回】メディアと言語
- 【第15回】社会言語学の今後

**【事前・事後学修】**

- 1) 各回指定された教科書の章・授業で配布されたプリントを読むこと（週2時間）
- 2) 各回指定された課題に取り組むこと（週2時間）

**【テキスト・教材】**

岩田祐子・重光由加・村田泰美著『概説 社会言語学』（ひつじ書房 2013年）2,200円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（受講票・授業への積極的な参加）：40%

課題：60%

- 1) 受講票を参考に、各回はいただいた学生の質問や疑問に答える。
- 2) 課題等の評価基準は明確にし、授業内で具体的に解説する。

**【参考書】**

授業中に適宜紹介する。

**【注意事項】**

課題等について質問・相談があった場合、giancarlaunerschut@ris.ac.jpまでお気軽にご連絡いただけます。原則として喜んで手伝うが、~~メ~~切前日以降のメールには必ずしも答えられるとは限りないことをご了承下さい。

**社会言語学特論**

ことばと社会の関係を考える

山下 早代子

人間社会専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

ことばと社会は切っても切れない関係にある。ことばは話し手の属性（年齢、性別、職業など）や話される状況と関連して変化するとともに、その働きは話し手と聞き手の間の人間関係を修復したり変更したりという人間関係の交渉にも関係する。語用論やポライトネス理論の知見を活かしながら、ことばと社会の関係を多角的に考察する。

**【授業における到達目標】**

社会言語学の基本的知識を修得、理解し、自分の研究につなげる。学位授与までに身につけるべき態度・能力のうち、「物事の真理を探究することにより新たな知を創造する」、「現状を正しく把握し、課題を発見できる」力を養う。

**【授業の内容】**

- 第1週 イン트로ダクション
- 第2週 社会言語学とは何を研究する学問か
- 第3週 地域による言語の違い
- 第4週 言語と社会階級
- 第5週 民族と言語
- 第6週 言語とジェンダー
- 第7週 言語と年齢差
- 第8週 言語の適切さとは何か
- 第9週 コミュニケーションスタイル
- 第10週 非言語コミュニケーション
- 第11週 言語は文化とどう係るか
- 第12週 ポライトネス理論
- 第13週 語用論－発話行為
- 第14週 語用論－会話の含意
- 第15週 小論文発表

**【事前・事後学修】**

事前学修：関連の文献を自主的に講読し、内容の理解を深める。  
事後学修：学修した内容を批判的に見直すことができるようにする。

**【テキスト・教材】**

田中春美・田中幸子『社会言語学への招待』ミネルヴァ書房（2006）¥2,500+税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

文献調査（30%）、小規模のデータベースの調査（30%）、小論文（40%）、フィードバックは提出課題にたいして文書で、またクラス内において口頭で行う。

**【参考書】**

適時指示する。

**【注意事項】**

自分の研究課題の添って自主的に研究を進める。

## 社会思想史 a

安中 隆徳

1年～ 前期 2単位

◎：美の探求 ○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

中世人の「荘園」の所属意識を、あらたに一言語圏の「生まれ nationによる国家state」（民族国家・国民国家）に造り替えて産業社会を作った流れを紹介する。また、古代からの部族（一族、宗族など）が現代もあるイスラム圏や中国圏の状況も紹介する。

### 【授業における到達目標】

部族法が、現代のイスラム圏や中国圏（の宗族・華僑）に生きていることや、また、西欧や日本では、部族が壊れていることを理解できて、現代の国際的な問題を理解する態度と能力を身につける。

### 【授業の内容】

1. 初めに。都市国家。大河と乾燥地帯。
2. 都市国家と遊牧社会。
3. 遊牧民・騎馬民族。
4. 中間権力がない遊牧社会。
5. イスラム（神への服従）が習慣・価値意識を共通にさせて、部族抗争が止めさせ、広い中継貿易圏を作った。
6. イスラムの源流のヘブライ語聖書も、社会・礼拝改革の理論書だった。地理上の発見は、イスラム圏のラクダ輸送を圧倒した。
7. 中間のまとめ。
8. 西欧近代には、農村でのものづくりの物流（加工産業）が広がり、人々の所属意識も、一母語圏まで広がり、国民国家ができた。
9. 宗派戦争を越える自然法という思想。
10. ホップズの国家契約説。ロック、ルソー。
11. ベンサムの功利主義。ベンサム、ヒューム、アダム・スミスによる古典的自由主義。
12. 300ほどに分裂していた領邦国家だったドイツにも、「国民国家nation state」を求める運動が起きた。そのドイツを、明治政権が参考にしてきた。後進地域のナショナリズム。
13. 1930年（世界大恐慌）後の計画・管理主義。ケインズ主義。共産主義。世界規模の冷戦。
14. 1980年代より以降の、現代の新自由主義。
15. まとめ。

### 【事前・事後学修】

事前学修。配布プリントの重要なところを、前もって読んで、内容を確かめる（週2時間）。

事後学修。当日のうちに、新しい用語や人名を（インターネット上などの）百科事典などで調べて、授業の内容を確かめる（週2時間）。

### 【テキスト・教材】

資料・プリントを配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験、80%。平常点（授業態度、課題提出）、20%。  
教科書・ノート・プリントなどの資料の持ち込みを許可して、理解内容の記述を行う。  
テーマは、3、4週間前に、あらかじめ予告しておく。

小テストは次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行い、さらに先への解説を行う。

### 【参考書】

教室で指示する。

## 社会思想史 a

「風土」の視点から見る社会思想史

尾形 弘紀

1年～ 後期 2単位

◎：美の探求 ○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

和辻哲郎の『風土』をテキストとし、風土・環境との関わりから、さまざまな民族の社会・文化形態を把握することを試みます。

和辻は日本の近代を代表する思想家・倫理学者ですが、本書は彼の代表作の一つであり、近年でも、風土論者オギュスタン・ベルクが和辻からの強い影響を語っているように、現代でも読む者に賛否さまざまな反応を呼び起こす、知的挑発性に満ちた書物です。その議論の射程は驚くほど広く、世界の各地域の風土に関する比較論だけでなく、洋の東西を通観した優れた比較文化論ともなっており、日本の住居や芸術までもが独創的な視点から分析されています。

この講義では、本書を毎回10数ページずつ丁寧に読んでいくことにより、和辻の文章からできるだけ多くの論点を抽出しつつ、議論を進めていきます。

### 【授業における到達目標】

本書で論じられている風土に関する3つの型を正確に理解することにより、多様性に富む世界の諸地域の特徴を、一つの視点から包括的に把握することを到達目標とします。さらにその上で、本書のこの図式の長所・短所や不足部分を指摘することで、その視点をより精密で強靱なものに鍛え上げられればよいと考えます。

それらの目標を見すえて学修を進めることは、全学ディプロマポリシーに掲げられた、多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度や、物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度を養うことに結びつくはずで

### 【授業の内容】

- 第1週 序言：本書の趣旨
- 第2週 第1章第1節：「風土」という観念
- 第3週 第1章第2節：人間と「風土」との関わり
- 第4週 第2章第1節①：「モンスーン」型の特徴①（湿潤とは）
- 第5週 第2章第1節②：「モンスーン」型の特徴②（印的の思惟）
- 第6週 第2章第2節①：「砂漠」型の特徴①（乾燥とは）
- 第7週 第2章第2節②：「砂漠」型の特徴②（砂漠地域の神観念）
- 第8週 第2章第3節①：「牧場」型の特徴①（湿潤と乾燥の総合）
- 第9週 第2章第3節②：「牧場」型の特徴②（ギリシアの思惟）
- 第10週 第3章第1節：シナ（中国）的の思惟の特徴
- 第11週 第3章第2節①：日本人の個人的性格と「風土」との関わり
- 第12週 第3章第2節②：日本人の社会的性格と「風土」との関わり
- 第13週 第3章第2節③：東西の住居形態の比較
- 第14週 第4章：芸術作品の比較
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】必ず事前に授業範囲分（毎週10数ページほど）を読んでおく必要があります。難解な語句については辞書等で調べて精読し、内容をあらかじめ把握してください。（学修時間：週2時間）

【事後学修】講義後早いうちに、配布されたプリントやノート等を参照しつつ、テキスト読み返して、知識の定着を図ってください。さらに、関心を持った事項については、事典やインターネット等で調べるようにすると、次週の講義の理解が格段に進むはずで

### 【テキスト・教材】

和辻哲郎『風土—人間学的考察』（岩波文庫、1979年）960円＋税を用います。また毎週、プリントで補足資料を配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

60%：平常点（出席回数、授業態度、リアクション・ペーパーの内容などを考慮します）

40%：試験（試験は、プリントとノートの持ち込みを許可します。出題内容については講義内で数週前に予告します）

なお、試験結果は授業最終週にフィードバックを行う予定です。

## 社会思想史 b

安中 隆徳

1年～ 後期 2単位

◎：美の探求 ○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

社会思想史 b は、日本を中心にする近代化をあつかう。

また、近代日本に関わったアメリカと中国の社会史を紹介する。

### 【授業における到達目標】

中国の（宗族や華僑を含む）やアメリカ（社会階層の歴史）との関わりを知って、国際的に近代日本を理解する態度や能力を身につける。

### 【授業の内容】

1. 中国の宗族と華僑。
2. 江戸時代に農村には、税は物納で、村は自治で経営され、若者組が中心に村は中産的だったが、金納の土地税の「地租」のために、明治期には、江戸時代には少なかった小作が増えた。ソ連や中国では、重工業化の時期に農民の餓死があった。
3. 昭和14年（1938年）から、小作優遇税制に転じた。
4. 戦前の地方の産業の明るい面が、養蚕や製糸業だったが、1929年の世界恐慌で、絹織物のアメリカ輸出が途絶え（満州移民などが）始まった。
5. （1929年の世界恐慌からの）アメリカの社会階層の歴史。日米戦争でアメリカの産業が復活した。
6. グローバリズムをめぐるアメリカの社会階層の歴史。1990年ころから、旧来の産業を外国（台湾、中国など）へ移す動きが出てきた。
7. 玄洋社と頭山満。西南戦争の後継者を自任した薩長土肥系統の武士・ジャーナリスト系の右翼。
8. 北一輝の国家改造案。
9. 日本の平等社会が実現したのは、戦後のハイパー・インフレと冷戦期の需要のために、ベトナム戦争期に高度成長した。
11. 冷戦期は、世界的に「大きな政府」（指導者が計画する）の時代で、新しい産業・起業への規制が多く、指導者への疑問が、世界的な学生運動になった。
12. 1980年代から、世界的に「小さな政府」（自由が新産業を生むことを重視する）の新自由主義政策がとられた。
13. 冷戦後、1990年代ころから、古い産業（の工場）が国境を越える）グローバリズムへ展開した。
14. 冷戦以後の世界。新自由主義とグローバリズム。具体例。
15. まとめ。

### 【事前・事後学修】

事前学修。配布プリントの重要らしい箇所を、前もって読んで、概要を確かめる（週2時間）。

事後学修。当日のうちに、新しい用語や人名を（インターネット上などの）百科事典などで調べて、授業内容を確かめる（週2時間）。

### 【テキスト・教材】

資料・プリントを配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験、80%。平常点（授業態度、課題提出）、20%。

教科書・ノート・プリントなどの資料の持ち込みを許可して、理解内容の記述を行う。

テーマは、3、4週間前に、あらかじめ予告しておく。

小テストは次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行い、さらに先への解説を行う。

### 【参考書】

教室で指示する。

## 社会心理学

織田 弥生

2年 前期・後期 2単位

◎：研鑽力

### 【授業のテーマ】

社会心理学は、社会の中における人間の行動や態度を、調査や実験等の科学的な手法で研究する学問です。日常生活で出会うような場面、感じるような疑問を扱うことも多く、非常に興味深い学問です。しかし社会心理学から見た日常現象は、今まで思っていた常識とは異なるかもしれません。本講義では社会心理学の基礎知識を広く学びます。

### 【授業における到達目標】

社会心理学の基礎を身につけ、科学的な視点で社会の中の人間を見る目を養います。目標は①対人関係や、集団における人の意識・行動についての心の過程を説明できるようになる、②人の態度や行動についてさまざまな理論を用いて説明できるようになる、③家族、集団、文化が個人に及ぼす影響について説明できるようになることです。ディプロマ・ポリシーとの関連では、学生が修得すべき「研鑽力」のうち「学ぶ楽しみ」「広い視野と深い洞察力」を修得します。

### 【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 対人認知
- 第3回 社会的認知
- 第4回 態度
- 第5回 感情
- 第6回 自己認知
- 第7回 自己評価
- 第8回 対人行動
- 第9回 人間関係①成立と崩壊
- 第10回 人間関係②様々な関係
- 第11回 集団と個人
- 第12回 健康とストレス
- 第13回 装い
- 第14回 文化・家族
- 第15回 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：各回のテーマについて、【参考書】の欄に挙げた書籍などを参考に予習をしておいてください。（週2時間）。

事後学習修：授業後には必ず資料を読み返し、わからない部分を確認しておいてください。毎回の配布資料の最後にある参考文献を読むのもよいでしょう（週2時間）。

### 【テキスト・教材】

授業中に資料を配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験（100%）。試験結果のフィードバックはmanabaを通じて行います。

### 【参考書】

池上・遠藤共著『グラフィック社会心理学第2版』（サイエンス社）  
湯川・吉田編『スタンダード社会心理学』（サイエンス社、2012年）

### 【注意事項】

どのような学問でも自分の人生に全く関係ないということはありません。はじめから関係ないと思わず、自分と関連付け、知的好奇心をもって授業に臨んでください。心理学系の授業を受講するのが初めての人でも分かるように授業を行うつもりです。そのため、他の心理学系の授業を履修したことのある人は内容が一部重なる可能性があります。授業の進行により、内容が前後したり変更になる可能性があります。

**社会心理学**

織田 弥生

2年～ 前期・後期 2単位

◎：研鑽力

**【授業のテーマ】**

社会心理学は、社会の中における人間の行動や態度を、調査や実験等の科学的な手法で研究する学問です。日常生活で出会うような場面、感じるような疑問を扱うことも多く、非常に興味深い学問です。しかし社会心理学から見た日常現象は、今まで思っていた常識とは異なるかもしれません。本講義では社会心理学の基礎知識を広く学びます。

**【授業における到達目標】**

社会心理学の基礎を身につけ、科学的な視点で社会の中の人間を見る目を養います。目標は①対人関係や、集団における人の意識・行動についての心の過程を説明できるようになる、②人の態度や行動についてさまざまな理論を用いて説明できるようになる、③家族、集団、文化が個人に及ぼす影響について説明できるようになることです。ディプロマ・ポリシーとの関連では、学生が修得すべき「研鑽力」のうち「学ぶ楽しみ」「広い視野と深い洞察力」を修得します。

**【授業の内容】**

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 対人認知
- 第3回 社会的認知
- 第4回 態度
- 第5回 感情
- 第6回 自己認知
- 第7回 自己評価
- 第8回 対人行動
- 第9回 人間関係①成立と崩壊
- 第10回 人間関係②様々な関係
- 第11回 集団と個人
- 第12回 健康とストレス
- 第13回 装い
- 第14回 文化・家族
- 第15回 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：各回のテーマについて、【参考書】の欄に挙げた書籍などを参考に予習をしておいてください。（週2時間）。

事後学習修：授業後には必ず資料を読み返し、わからない部分を確認しておいてください。毎回の配布資料の最後にある参考文献を読むのもよいでしょう（週2時間）。

**【テキスト・教材】**

授業中に資料を配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末試験（100%）。試験結果のフィードバックはmanabaを通じて行います。

**【参考書】**

池上・遠藤共著『グラフィック社会心理学第2版』（サイエンス社）  
湯川・吉田編『スタンダード社会心理学』（サイエンス社、2012年）

**【注意事項】**

どのような学問でも自分の人生に全く関係ないということはありません。はじめから関係ないと思わず、自分と関連付け、知的好奇心をもって授業に臨んでください。心理学系の授業を受講するのが初めての人でも分かるように授業を行うつもりです。そのため、他の心理学系の授業を履修したことのある人は内容が一部重なる可能性があります。授業の進行により、内容が前後したり変更になる可能性があります。



## 社会心理学 1

伊藤 言

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

## 【授業のテーマ】

私たちは何よりもまず動物から進化した生物学的な存在ですが、どのように考えるかに応じて行動を変化させることもできる心理学的な存在であり、また他者の存在や時代・文化などから避けたい影響を受ける社会的な存在でもあります。この講義では私たちの心の社会的な側面——他者とともにある心——に主な焦点を当てます。社会心理学的知見を「家庭」「生活」の中での自らの出来事として体験してもらうためにリアルタイムで参加できる授業中の実験や調査などは随時行いますが、理論的背景の説明を含めてハードな講義を志向しますので、社会心理学を本気で学ぶ意欲がある生徒を歓迎します。

## 【授業における到達目標】

社会心理学的の基本的な知見や理論の内容を理解し自らの経験として体感する（美の探究）。そして、自らの生活、自らの人生における課題を社会心理学の道具立てを通じて捉え直すことができるようになる（研鑽力）。そのことを通じて、自らの生活上の課題をよりよく解決できるようになる（行動力）。

## 【授業の内容】

- 第1回：ガイダンス・受講上の注意
- 第2回：社会心理学の視点
- 第3回：社会的認知
- 第4回：自己
- 第5回：態度と態度変化
- 第6回：社会的影響
- 第7回：個人の心理過程・対人的な過程
- 第8回：魅力と対人関係
- 第9回：援助と攻撃
- 第10回：集団・集合に関する過程
- 第11回：集団と個人
- 第12回：マスコミュニケーション
- 第13回：社会の中の個人、ミクロな視点とマクロな視点
- 第14回：社会神経科学
- 第15回：まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】日頃から、身のまわりの生活と関連させながら、授業の内容について自分なりに考えてみましょう（学修時間 週2時間）。

【事後学修】授業で習った内容は、身の回りの生活にどのようにあてはまるでしょうか。自分なりに考えてみましょう（学修時間 週2時間）。

## 【テキスト・教材】

適宜提示する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み（50%）、定期試験（50%）で評価する。

取り組んでいた点やつまづきがちだった点についてフィードバックを行う。

## 【参考書】

- 社会心理学 (New Liberal Arts Selection) 有斐閣, 2010
- 英語で学ぶ社会心理学 (有斐閣ブックス) 有斐閣, 2017
- よくわかる社会心理学 (やわらかアカデミズム・わかるシリーズ) ミネルヴァ書房, 2007
- 複雑さに挑む社会心理学 改訂版 有斐閣, 2010

## 社会心理学 2

伊藤 言

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

## 【授業のテーマ】

私たちは何よりもまず動物から進化した生物学的な存在ですが、どのように考えるかに応じて行動を変化させることもできる心理学的な存在であり、また他者の存在や時代・文化などから避けたい影響を受ける社会的な存在でもあります。この講義では私たちの心の社会的な側面——他者とともにある心——に主な焦点を当てます。社会心理学的知見を自らの出来事として体験してもらうためにリアルタイムで参加できる授業中の実験や調査などは随時行いますが、理論的背景の説明を含めてハードな講義を志向しますので、社会心理学を本気で学ぶ意欲がある生徒を歓迎します。本講義では社会心理学1で学んだ内容をさらに深めます。

## 【授業における到達目標】

社会心理学的の基本的な知見や理論の内容を理解し自らの経験として体感する（美の探究）。そして、自らの生活、自らの人生における課題を社会心理学の道具立てを通じて捉え直すことができるようになる（研鑽力）。そのことを通じて、自らの生活上の課題をよりよく解決できるようになる（行動力）。

## 【授業の内容】

- 第1回：ガイダンス・受講上の注意
- 第2回：社会心理学の視点：詳しい内容・応用
- 第3回：社会的認知：詳しい内容・応用
- 第4回：自己：詳しい内容・応用
- 第5回：態度と態度変化：詳しい内容・応用
- 第6回：社会的影響：詳しい内容・応用
- 第7回：個人の心理過程・対人的な過程：詳しい内容・応用
- 第8回：魅力と対人関係：詳しい内容・応用
- 第9回：援助と攻撃：詳しい内容・応用
- 第10回：集団・集合に関する過程：詳しい内容・応用
- 第11回：集団と個人：詳しい内容・応用
- 第12回：マスコミュニケーション：詳しい内容・応用
- 第13回：社会の中の個人、ミクロな視点とマクロな視点：詳しい内容・応用
- 第14回：社会神経科学：詳しい内容・応用
- 第15回：まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】日頃から、授業の内容について、身のまわりの生活と関連させながら、自分なりに考えてみましょう（学修時間 週2時間）。

【事後学修】授業で習った内容は、身の回りの生活にどのようにあてはまるでしょうか。自分なりに考えてみましょう（学修時間 週2時間）。

## 【テキスト・教材】

適宜指示する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み（50%）、定期試験（50%）で評価する。

取り組んでいた点やつまづきがちだった点についてフィードバックを行う。

## 【参考書】

- 社会心理学 (New Liberal Arts Selection) 有斐閣, 2010
- 英語で学ぶ社会心理学 (有斐閣ブックス) 有斐閣, 2017
- よくわかる社会心理学 (やわらかアカデミズム・わかるシリーズ) ミネルヴァ書房, 2007
- 複雑さに挑む社会心理学 改訂版 有斐閣, 2010

## 社会心理学調査実習

伊藤 言

3年 後期 2単位 2時限連続

◎：研鑽力 ○：協働力

### 【授業のテーマ】

私たちは他者を必要とし、他者から大きな影響を受けます。他者とともにある「心」を調べる学問である社会心理学には、実験・調査・観察・インタビュー等のさまざまな「調べる」ための技法がありますが、本講義ではその中でも「調査」の手法を学びます。自分たちの興味のあるテーマを選び、問題意識・仮説を設定し、調査票の作成・実施・集計・分析、および成果の報告会を行います。また、ウェブ調査、テキストマイニング、経験サンプリング法、Pythonを利用したSNSデータの自動収集などの最先端の調査技法の習得も、受講生の可能な範囲で目指します。

### 【授業における到達目標】

身の周りを含めた「社会」で起こっていること・行われていることを把握するためのツールとして、社会調査を使えるようになるための知識・技術・自信をつけ、水準の高いITスキルを習得する（研鑽力）。また、自らの感情をコントロールして他者と協力しながら一つの目的（調査）に向けて作業する能力を身につける（協働力）。

### 【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス・「調査」とは何か・サンプリング
- 第2回 HADを用いたデータ分析技術の習得（1）記述統計
- 第3回 HADを用いたデータ分析技術の習得（2）推測統計
- 第4回 ウェブ調査の方法論と調査技術の習得（Googleフォームを用いた演習）
- 第5回 先端調査技術の習得
- 第6回 仮説の構築（1）疑問から仮説へ
- 第7回 仮説の構築（2）先行研究を踏まえた仮説の改良、中間発表会
- 第8回 仮説を質問項目に置き換える・調査倫理
- 第9回 予備調査を踏まえた調査票の改良（1）妥当性と信頼性
- 第10回 予備調査を踏まえた調査票の改良（2）因子分析
- 第11回 調査票の完成
- 第12回 コーディングと統計的处理
- 第13回 調査報告書の作成に向けて
- 第14回 成果報告会（1）
- 第15回 成果報告会（2）、まとめ

### 【事前・事後学修】

- ◆事前学修：指示された文献に目を通しておくこと。（学修時間＝週2時間）
- ◆事後学修：配布資料等をもとに、授業で扱った調査の手続きや分析の方法について復習し、指示された課題を完成させること。（学修時間＝週2時間）
- ◆フィードバックはメーリングリストを通じて行う。

### 【テキスト・教材】

配布資料を主に用いる。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ◆平常点40%：毎回の実習に積極的に取り組んでいるかどうか、課題の提出状況と完成度。
- ◆学期末のレポート（成果報告書）40%：実習によって得られたデータを用いた調査研究の報告書を全員に1本提出してもらう。フィードバックは授業用メーリングリストを通じて行う。
- ◆グループ内での業務担当度20%：各人のグループ内での貢献度を、グループの合計が100になる形で学期末に申告してもらい、それを成績評価に用いる。

### 【参考書】

- 『質問紙調査と心理測定尺度』（サイエンス社）
- 『心理学マニュアル 質問紙法』（北大路書房）
- 『社会調査のための計量テキスト分析』（ナカニシヤ出版）

### 【注意事項】

グループ単位での活動が多いので遅刻せず出席することを求める。

## 社会心理学入門

—わたしと誰かと世の中と—

大倉 恭輔

1・2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

人間の心を研究する心理学という学問があり、社会のことを研究する社会学というものがあるとき、「社会+心理」学とはどんな立場にあるのでしょうか。

この授業では、ビデオ教材を用いながら学び、社会心理学の主要な研究テーマや考え方などについて、自分の問題として実感しながら理解していきます。

### 【授業における到達目標】

「わたし」という存在が社会的なものであることを理解することで、「世の中=社会」を生き抜いていくための視点や手がかりを身につけることをめざします。

そうして、多様性を受容し多角的な視点から社会や他者を理解してもらおうとともに、広い視野と深い洞察力を身につけてもらおうと思っています。

### 【授業の内容】

01. はじめに：心理学と社会学
02. 「わたし」の部分品
03. 「わたし」を知る
04. 「わたし」に自信を持つ
05. 社会的認知：あの人のことを推しはかる
06. 対人関係の成立と崩壊：友達になったわけ・やめたわけ
07. 援助行動：助けられたり助けたり
08. 攻撃と怒り：傷つけたり傷つけられたり
09. 説得と依頼：あの人に頼み込む
10. 集団と人間：そんなつもりじゃなかったのに
11. 組織と人間行動：歯車のひとつとして
12. 集合行動：何気ないひと言から
13. 文化と心理学：医者よりまじない師？
14. ネットという社会
15. まとめ

注1 上記は授業内容のリストです。

注2 基本的に番号順に講義をしていきますが、学生の理解度や授業の進行状況にあわせて、順番の入れ替えなどの変更がこなされる場合があります。

### 【事前・事後学修】

- ・事前学修  
事前配付の資料に目をとおり、設問がある場合、それについて回答を準備しておくこと。
- ・事後学修  
授業内容を自分で補足し、きちんとしたノート作成をおこなうこと。
- ・事前・事後学修には、それぞれ週に2時間前後をあてること。

### 【テキスト・教材】

テキストは使用しません。

基本的に、manaba を利用して資料を配付します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

総合評価：レポート80%・平常点/受講態度・ノート作成など 20%  
manaba の設定や利用の状況も平常点の参考とします。

試験結果については manaba 上でフィードバックする予定です。

### 【参考書】

適宜、授業の中で紹介します。

### 【注意事項】

- ・視聴覚教材を利用する際も、必ずノートテイクをおこなうこと。
- ・短期大学部標準受講マナーを守ること。  
(manaba上に掲示してあります)

**社会政策論**

福祉を巡る政策立案・執行過程を理解する

新名 正弥

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

今日の我が国の社会環境は、少子高齢化の進行と人口減少、巨大震災への対応、グローバル化による多民族共生など著しく変化し、対応を要請されている課題も、福祉、就労、医療、年金等の所得保障に加え、介護、養護・教育、住宅、国際支援、環境、震災など、領域横断的となってきた。その一方で、緊縮財政に対応した制度の持続可能性も論点となっている。そのため、対応する社会サービスも公共部門のみならず、市場やNPO/NGOといった民間部門の役割もその重要性を増している。さらに、多様化する社会ニーズに対応するために、社会政策過程には、国家、自治体、国際機関、NGO、企業、各種利益団体や当事者団体など多様なアクターが関わり複雑性を増している。このような中で現代の社会政策を構想するには、人間の生活を包摂する福祉に関わる複合的課題を、国際的視野を以て地域で解決するための視点が必要不可欠であると言える。そこで本講義では、学生諸子の社会政策リテラシー向上を目的として、国際比較などの方法を用いることによって政策対応の多様性を例示する工夫をしたいと考えている。

**【授業における到達目標】**

1. 社会政策の政策・執行過程の理解を通じて、政策リテラシーを獲得し、広い視野と洞察力を身につけることができる。
2. 各国の社会政策の理解を通じて、社会の多様性を理解できる。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション 福祉について
- 第2週 必用の概念について
- 第3週 必要（ニーズ）と社会政策
- 第4週 必要をどのように、誰が測るのか？
- 第5週 必要を充足するための資源
- 第6週 再分配
- 第7週 専門性と官僚制
- 第8週 社会政策の体系
- 第9週 資源の供給：福祉の分業と福祉多元主義
- 第10週 社会変動と国家
- 第11週 福祉国家とは何か
- 第12週 ジェンダーと社会政策
- 第13週 グローバル化と社会政策
- 第14週 貧困と社会的包摂
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

- 【事前学修】 manabaを用いて事前学修用課題を提出するので、その課題に取り組む（学修時間 週2時間）
- 【事後学修】 メディア資料に対するレスポンスペーパーを作成する中間時に小論文を作成する（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

武川正吾『福祉社会-包摂の社会政策（新版）』（有斐閣アルマ、2011年）2,300円＋税

その他、講義レジュメ及び資料を配付する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

事前・事後学修課題の評点20%、試験80%として評価する。  
事前学修実施にあたっては、講義中に課題解説を通して、重要項目の確認を行い、理解を深める。また、リアクションペーパーを用いて質問を収集し、質問に対する回答を生徒にフィードバックする。

**【注意事項】**

社会政策は、女性の社会参加から障害者福祉や難民問題まで、幅広いテーマを包含する政策領域です。日頃からニュースや雑誌、街角の風景や自らの経験に対して注意を払いながら、関心のあるテーマを探すようにしましょう。

## 社会責任論

倉持 一

2・3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

### 【授業のテーマ】

これまで企業は、より良い製品やサービスを我々に提供することでその責任を果たしてきました。しかし近年、私達の社会が企業に寄せる期待は、これまでの考え方以上に大きくなり、企業が経営推進条配慮すべき責任の範疇も拡大しています。では、企業はこの期待にいかに応え、社会的な責任を果たすべきなのか。CSR（企業の社会的責任）とは、新しい経営課題であると同時に、私達生活者が持続可能な社会を作り上げるためにどうすれば良いのかの問いかけでもあります。ややもすると、「CSRは良いこと」という単純な議論に陥りがちです。しかし、CSRが企業活動である以上、ビジネス的な強みも必要です。この授業は、経営学のエッセンスを豊富に取り入れ、CSRを様々な視点から捉えることで、その本質をより深く探究していきます。

### 【授業における到達目標】

CSRに関する理解や必要性認識を深めるだけでなく、複数の実際のケースを分析することで、CSRの「計画」「実践」「評価・継続」の3プロセスに関する能力（社会感受性、多様な価値観の共有、立案能力など）の涵養や社会における実践性の向上を図ることを目標とします。また、CSRに対する自己の考え方を確立することで、CSRに否定的な意見・主張に対し、自分なりに反論できるようになることも目標の一つです。

### 【授業の内容】

1. イントロ（授業の目的・進め方・評価方法説明など）
2. CSRの理解①：法的アプローチ（企業とは何かを問う）
3. CSRの理解②：経済学的アプローチ（CSR否定論の検討）
4. CSRの理解③：経営学的アプローチ（ビジネス的思考）
5. CSRの計画①：社会課題探知（ステークホルダー対話など）
6. CSRの計画②：戦略分析（マーケティング、5フォース分析）
7. CSRの計画③：コーポレート・ガバナンス（事例：7&i）
8. CSRの実践①：ソーシャルサポート（事例：マクドナルド）
9. CSRの実践②：コラボレーション（事例：Product RED）
10. CSRの実践③：戦略的CSR（事例：住友化学）
11. CSRの評価/継続①：社会的責任投資（SRI）
12. CSRの評価/継続②：コミュニティ活用（事例：ユニリーバ）
13. CSRの評価/継続③：サプライチェーン管理（事例：サラヤ）
14. CSRの課題：CSR先進企業の抱える悩みとは何か？
15. これまでの授業の振り返り・まとめと質疑応答

### 【事前・事後学修】

【事前学修・1.5時間】前回の授業で学んだ用語（概念）・理論・ケースを記したノートを再度読んでください。毎回の授業の冒頭で行う「振り返り」の部分を事前に把握することが可能となり、理解促進に繋がります。

【事後学修・2.5時間】各授業の最後に指示したテーマ（課題）に合わせ、授業で学んだことや新たに知ったこと、頭に浮かんだ疑問などを反映させた上で論点や自分の考える改善計画などを記入し、リアクションペーパーとして提出してください。

### 【テキスト・教材】

必要に応じて授業中に配布、または、指示します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題（リアクションペーパー）40%、授業中の意見発表など20%、期末テスト40%。

### 【参考書】

森撰+オルタナ編集部『未来に選ばれる会社』（学芸出版社 2015年）1,944円。

**社会調査概論**

竹内 光悦

2年 前期 2単位

◎：行動力

**【授業のテーマ】**

社会調査はあらゆる社会現象の解明に利用され、公開されている公的統計、調査票を利用した調査票調査から、インターネットを利用したウェブ調査等、調査法の形態も様々である。これらはそれぞれ利点と欠点があり、これらを把握しながら目的に合わせ利用することが重要である。

社会問題をテーマに、社会情報を集めるプロセス「調べる」「分析する」「まとめる」を体系的に学ぶことが大切である。

本講義では、社会調査を行なう際に実際に展開することになる一連の体系（調査の企画・設計、標本設計、調査票作成、調査実施、データ作成、集計・分析、調査結果の検討・報告書作成等）を踏まえ、卒業研究を踏まえた社会調査の基礎を紹介する。

**【授業における到達目標】**

ビジネスパーソンの素養とする調査力・観察力の修得を目指す。自ら問題設定し、そのことに関連する情報を収集するなど、課題解決のために主体的に行動する力【行動力】を修得する。

**【授業の内容】**

具体的には以下の内容を予定している

1. 授業ガイダンスと社会調査の概要、社会情報の活用
2. 社会調査の意義と目的
3. 社会調査の歴史と現在、統計的調査と事例研究の方法
4. 社会調査のいろいろな方法—量的調査と質的調査
5. 調査対象抽出の考え方
6. 調査倫理と社会調査を実施する際の注意点
7. 国勢調査と官庁統計及び公開データの活用
8. 学術調査の目的と実際
9. 世論調査の目的と実際
10. マーケティング・リサーチの目的と実際
11. フィールドワークとインタビュー調査
12. 調査票調査の目的と実際
13. 社会調査での統計的分析法
14. PCを用いた資料の整理と報告
15. 社会調査のまとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：授業前に manaba で公開される授業資料を入手し、内容の予習、受講の準備を行うこと。（学修時間 週2時間）／事後学修：授業終了時に manaba で公開される動画スライドを確認し、復習しておくこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

講義内で適宜紹介。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

講義内課題（演習・中間テスト・小レポートなど、50%）および学期末レポート試験（50%）で評価。各授業の最初に前回の演習の結果、小レポートや中間テストにおいては manaba を通じて、レポート所見やテスト結果等をフィードバックする。

**【参考書】**

竹内光悦他『アンケート調査とデータ解析の仕組みがよ〜くわかる本【第2版】』（秀和システム 2012年）、谷岡一郎『「社会調査」のウソーリサーチ・リテラシーのすすめ』（文藝春秋 2000年）

**【注意事項】**

本講義では社会調査系の講義の基礎になるため、卒論等で調査を行う人は十分な習得を目指して欲しい。本講義では資料は配布しませんので、各自 manaba 等から当日の資料をダウンロードし、印刷・端末保管等を行い、電卓（スマートフォン可）や筆記用具等も持参すること。

**社会調査概論**

竹内 光悦

2年～ 前期 2単位

◎：行動力

**【授業のテーマ】**

社会調査はあらゆる社会現象の解明に利用され、公開されている公的統計、調査票を利用した調査票調査から、インターネットを利用したウェブ調査等、調査法の形態も様々である。これらはそれぞれ利点と欠点があり、これらを把握しながら目的に合わせ利用することが重要である。

社会問題をテーマに、社会情報を集めるプロセス「調べる」「分析する」「まとめる」を体系的に学ぶことが大切である。

本講義では、社会調査を行なう際に実際に展開することになる一連の体系（調査の企画・設計、標本設計、調査票作成、調査実施、データ作成、集計・分析、調査結果の検討・報告書作成等）を踏まえ、卒業研究を踏まえた社会調査の基礎を紹介する。

**【授業における到達目標】**

ビジネスパーソンの素養とする調査力・観察力の修得を目指す。自ら問題設定し、そのことに関連する情報を収集するなど、課題解決のために主体的に行動する力【行動力】を修得する。

**【授業の内容】**

具体的には以下の内容を予定している

1. 授業ガイダンスと社会調査の概要、社会情報の活用
2. 社会調査の意義と目的
3. 社会調査の歴史と現在、統計的調査と事例研究の方法
4. 社会調査のいろいろな方法—量的調査と質的調査
5. 調査対象抽出の考え方
6. 調査倫理と社会調査を実施する際の注意点
7. 国勢調査と官庁統計及び公開データの活用
8. 学術調査の目的と実際
9. 世論調査の目的と実際
10. マーケティング・リサーチの目的と実際
11. フィールドワークとインタビュー調査
12. 調査票調査の目的と実際
13. 社会調査での統計的分析法
14. PCを用いた資料の整理と報告
15. 社会調査のまとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：授業前に manaba で公開される授業資料を入手し、内容の予習、受講の準備を行うこと。（学修時間 週2時間）／事後学修：授業終了時に manaba で公開される動画スライドを確認し、復習しておくこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

講義内で適宜紹介。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

講義内課題（演習・中間テスト・小レポートなど、50%）および学期末レポート試験（50%）で評価。各授業の最初に前回の演習の結果、小レポートや中間テストにおいては manaba を通じて、レポート所見やテスト結果等をフィードバックする。

**【参考書】**

竹内光悦他『アンケート調査とデータ解析の仕組みがよ〜くわかる本【第2版】』（秀和システム 2012年）、谷岡一郎『「社会調査」のウソーリサーチ・リテラシーのすすめ』（文藝春秋 2000年）

**【注意事項】**

本講義では社会調査系の講義の基礎になるため、卒論等で調査を行う人は十分な習得を目指して欲しい。本講義では資料は配布しませんので、各自 manaba 等から当日の資料をダウンロードし、印刷・端末保管等を行い、電卓（スマートフォン可）や筆記用具等も持参すること。

## 社会調査研究特論

竹内 光悦

人間社会専攻 後期 2単位

### 【授業のテーマ】

社会を測るためには自ら調べたり、他の人が作成した資料から深く探ることが重要である。本講義では、社会を測る方法である社会調査の理論や実践を学ぶ。特に量的データに限らず、質的データの分析法（インタビュー調査や内容分析等）の習得も目指す。

### 【授業における到達目標】

ビジネスパーソンの素養とする調査企画、実査、基礎的なデータ処理、データ分析ができるようになる。多様化する社会問題を客観的に把握する知識や技能を身に着けることにより、課題解決のために主体的に行動する力【行動力】を修得する。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス、社会調査研究の導入
- 第2週 社会における質的データ分析の紹介
- 第3週 質的調査の基本と注意事項
- 第4週 聞き取り調査と事例
- 第5週 参与観察、非参与観察と事例
- 第6週 ドキュメント分析と事例
- 第7週 フィールドワークの仕方
- 第8週 フィールドワークの実践報告
- 第9週 インタビュー調査と事例
- 第10週 ライフストーリー分析と事例
- 第11週 会話分析と事例
- 第12週 内容分析と事例
- 第13週 言語データ分析、テキストマイニングの活用
- 第14週 社会における質的データ分析の事例研究—参与観察の活用
- 第15週 社会調査、質的調査のまとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：授業前に manaba で公開される授業資料を入手し、内容の予習、受講の準備を行うこと。（学修時間 週2時間）／事後学修：授業終了時に manaba 公開される動画スライドを確認し、復習しておくこと。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

manaba にて資料を配布。必要に応じて文献を紹介する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回の演習点（15%）、中間レポート評価（15%）、中間発表評価（20%）、最終レポート試験評価（50%）を踏まえ総合的に評価する。各授業の最初に前回の演習の結果、中間レポートにおいては manaba を通じて、レポートの所見をフィードバックする。

### 【参考書】

篠原清夫他（2010）社会調査の基礎、弘文堂／金井雅之他（2012）社会調査の応用、弘文堂／谷富夫・芦田徹郎（2009）よくわかる質的社会調査技法編、ミネルヴァ書房／谷富夫・山本努（2010）よくわかる質的社会調査プロセス編、ミネルヴァ書房。

その他、講義内で適宜、指示する。

### 【注意事項】

調査系の基礎知識に不安がある人は学部の調査系の授業等にも参加し、知識を深めてください。SPSS や R などの統計ソフトも紹介。



## 社会調査実習Ⅰ

竹内 光悦

3年 前期 2単位

◎：協働力 ○：研鑽力、行動力

## 【授業のテーマ】

情報化社会においては、自ら問題を見つけ、情報を集め、情報を分析し、まとめる力が必要である。そのため本講義では、フィールドワークを行うことで調査設計からデータ収集までを体系的に体験・理解してもらう。グループ単位の演習が基本となる。それぞれが問題意識を立ち上げ、仮説や調査課題を作り、それを解明するに適切な調査手法・調査対象を選定し、実査の方法・心構えなど、一連の検証プロセスをいかに展開していくのかを指導する。調査地点の実態把握やどのような切り口やテーマを持って調査を行うのかといった予備情報の収集・読み込み過程を前半に手厚く配置し、それぞれの問題設定に応じて定量的、定性的調査いずれも体験できるように配慮する形で進行する

## 【授業における到達目標】

ビジネスパーソンの素養とする調査企画、実査、データ処理、データ分析ができるようになる。多様化する社会問題を客観的に把握する知識や技能を身に着けることにより、課題解決のために主体的に行動する力【行動力】、チームで活動する力【協働力】、活動の振り返りによる自己管理能力【研鑽力】を修得する。

## 【授業の内容】

全体の進行スケジュールは以下の通り。

1. オリエンテーション、フィールドワークの仕方
2. 当該フィールドに関する既存データの収集
3. 当該フィールドに関する既存データの分析
4. 当該フィールドに関する一次データの収集法
5. 当該フィールドに関するデータから得られる知見の整理
6. 解明すべき問題の整理
7. 仮説あるいは調査課題作り
8. 調査手法や対象者選定などの調査設計
9. 質問項目の作成
10. 質問項目の作成とディスカッション
11. 質問項目の再検討
12. 調査票・インタビューフローの作成
13. 調査票・インタビューフローの検討・修正
14. 対象者の選び方の検討、サンプリング方法
15. 実査の進め方、心構え、対象者とのラポール形成の重要性、調査計画の発表

1回の構成は、前半で基本的な知識を教員側がレクチャーし、後半ではグループ単位で課題をこなしていく中で実践的なトレーニングを積む。

## 【事前・事後学修】

事前学修：授業時の企画研究計画に従い作業進め、授業時の打合せの準備をする（学修時間 週2時間）／事後学修：授業後に議事録を作成・確認し、各担当作業を進める（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

教科書は特に指定しない

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

個人評価（演習・小レポート・授業中の加点、など60%）およびグループ評価（調査結果発表・調査報告書、など40%）で評価。毎回のグループワークの議事録にフィードバックを行う。

## 【参考書】

テキスト等については適宜紹介する。

## 【注意事項】

本講義では実習を行うため、遅刻、欠席は注意すること。

特にグループワークで調査を行うため、グループ内でのコミュニケーション、協調性を重視する。社会調査実習Ⅱでも同じグループで演習を行うため、原則、続けて社会調査実習Ⅱを受講することを前提とする。また総合的な能力育成を目指すため、他の調査系、分析系、情報系の科目を受講（予定を含む）しておくこと。

## 社会調査実習Ⅱ

竹内 光悦

3年 後期 2単位

◎：協働力 ○：研鑽力、行動力

## 【授業のテーマ】

情報化社会においては、自ら問題を見つけ、情報を集め、情報を分析し、まとめる力が必要である。この講義では、前期に続き、フィールドワークで収集したデータの加工・処理から実際の報告書作成までの過程を主体的に行えるような能力を身に付けることをめざす。定量的・定性的なデータそれぞれの処理について、グループワークを通してデータを加工・分析していくプロセスを体験する。クロス集計・独立性の検定のほか、クラスター分析、因子分析など基礎的な多変量解析までを行う。また最終的なアウトプット（報告会での発表資料、報告書執筆）の仕方の指導も行う。

## 【授業における到達目標】

ビジネスパーソンの素養とする基礎的なデータ処理、データ分析ができるようになる。多様化する社会問題を客観的に把握する知識や技能を身に着けることにより、課題解決のために主体的に行動する力【行動力】、またチームによる課題解決を通じた【協働力】、他者の意見を取り入れ自身の成長を考えるを【研鑽力】を修得する。

## 【授業の内容】

全体のスケジュールは以下の通り。

1. 量的データの加工：調査票の保管方法やデータの入力、データの前処理等の確認
2. 量的データの加工：データのクリーニング、エディティング、コーディング、欠損値処理
3. 量的なデータの集計と知見の取り出し方
4. クロス集計による全体傾向の把握
5. 仮説の検定、多変量解析
6. 知見のまとめ方とプレゼンテーションの仕方
7. 質的データの整理の仕方
8. 質的データの知見の導き出し方
9. 定量、定性データの知見の検討
10. プレゼンテーション資料作り
11. グループごとのプレゼンテーション
12. 報告書の作成オリエンテーションと全体構成の検討
13. フィールド調査全体での知見の確認
14. 報告書における章ごとの知見の確認
15. 報告書全体内容のディスカッション

社会調査実習Ⅰに引き続き、1回の構成は、前半で基本的な知識を教員側がレクチャーし、後半ではグループ単位で課題をこなしていく中で実践的なトレーニングを積む。

## 【事前・事後学修】

事前学修：授業時の企画研究の計画に従い作業進め、授業時の打ち合わせの準備をする（学修時間 週2時間）／事後学修：授業後に議事録を作成・確認し、各担当作業を進める（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

教科書は特に指定しない

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

個人評価（演習・小レポート・授業中の加点、など60%）およびグループ評価（調査結果発表・調査報告書、など40%）で評価。毎回のグループワークの議事録にフィードバックを行う

## 【参考書】

竹内光悦他『アンケート調査とデータ解析の仕組みがよ〜くわかる本【第2版】』（秀和システム 2012年）

## 【注意事項】

本講義では実習を行うため、遅刻、欠席は注意すること。

特にグループワークで調査を行うため、グループ内でのコミュニケーション、協調性を重視する。演習の内容のため、社会調査実習Ⅰを同年に受講していることを前提とする。

## 社会調査方法論

原田 謙

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

### 【授業のテーマ】

この授業は、社会調査によってデータを収集し、分析段階にまで整理していく具体的な方法を学ぶ科目である。自治体の意識調査から、内閣支持率・選挙予測調査、テレビ視聴率調査まで、さまざまな調査結果が日々報告されている。ところが、質問の仕方が不適切な調査、対象者に偏りがみられる調査などが少なくない。社会調査は、その方法がでたらめだと、まったく意味のないものになってしまう。

### 【授業における到達目標】

この授業では、ゼミや卒論で自ら調査を実践できる力を身につけることを目標とする。社会調査の方法論を通じて、「研鑽力」の養成に資する本質を見抜く力、「行動力」に必要な現状を正しく把握する能力を高める。

### 【授業の内容】

1. ガイダンス：社会調査の流れ
2. 社会調査を設計する：記述と説明、独立変数と従属変数、仮説
3. 調査対象者を選ぶ1：全数調査と標本調査、サンプリングの歴史
4. 調査対象者を選ぶ2：無作為抽出、テレビ視聴率にみる標本誤差の意味
5. 調査対象者を選ぶ3：サンプリングの種類と方法、サンプルサイズの決め方
6. 調査票をつくる1：質問文作成の手順、ワーディングの注意点、選択肢の作り方
7. 調査票をつくる2：意識・態度を測定する尺度、全体の構成とレイアウト
8. 習熟度確認テスト
9. 質的調査を実践する1：聞き取り調査、参与観察法、ドキュメント分析
10. 質的調査を実践する2：聞き取り調査の作法、生活史を記録する
11. 調査票調査を実施する：調査票の配布・回収を考える
12. 調査データを整理する：エディティング、コーディング、データクリーニング
13. 調査結果をまとめる：データ分析の基礎、報告書作成の要領
14. 生活史レポートの輪読
15. まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】授業前に、参考書等を用いて該当箇所を予習しておくこと（週2時間）。

【事後学修】授業後に、学習した調査方法、データ等を復習しておくこと（週2時間）。

### 【テキスト・教材】

適宜、プリントを配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業での課題の提出（60%）、確認テスト（40%）にもとづいて評価する。課題およびテスト結果のフィードバックは授業最終回もしくはmanabaで行う。

### 【参考書】

森岡清志編『ガイドブック社会調査（第2版）』（日本評論社、2007年）

社会調査協会編『社会調査事典』（丸善出版、2014年）

原田謙『社会的ネットワークと幸福感——計量社会学でみる人間関係』（勁草書房、2017年）

**社会的養護**

高橋 誠一郎

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

子どもは、家庭で愛情に包まれて育てられるのが望ましいが、いつの時代も家庭の事情により家族と生活できない子どもたちがいる。この授業では、家庭以外による社会の責任としての養育、すなわち「社会的養育」について学ぶ。特に児童養護施設をはじめとする児童福祉施設について、歴史や制度、課題、また児童を取り巻く福祉ニーズなどについて理解を深めることを期待する。現在、制度が大きく変わりゆく中で、児童福祉施設における養育の実際を知り、児童福祉施設における生活の中での保育士の役割や支援について学びを深める。

**【授業における到達目標】**

社会的養護の授業で扱う社会問題等に理解を深め、学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を発見できるようになる。

貧困や虐待など子どもを取り巻く問題に向き合うことで、「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができるようになる。

**【授業の内容】**

- 第1週 授業概要、自己紹介
- 第2週 保育における社会的養護
- 第3週 児童家庭福祉と社会的養護の関係性
- 第4週 児童の権利擁護と社会的養護
- 第5週 社会的養護の制度と法体系
- 第6週 社会的養護の仕組みと実施体制
- 第7週 家庭養護と施設養護、中間まとめ
- 第8週 施設見学（予定）
- 第9週 社会的養護の専門職
- 第10週 施設養護の実際
- 第11週 施設養護とソーシャルワーク
- 第12週 生活単位の小規模化とケア体制
- 第13週 社会的養護の担い手のケアの必要性
- 第14週 社会的養護の展望
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回の範囲のテキストを読み、専門用語等を調べておく。レポート・発表等の課題の準備。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 毎回フィードバックシートにまとめ翌週に提出。発表・小テスト等の復習。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

新保育士養成講座編集委員会 編  
「新保育士養成講座 第5巻 社会的養護」改訂版  
（全国社会福祉協議会出版部）2018年3月刊行  
予価1,900円（税別）

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

毎回の提出物30%、中間のレポート20%、  
授業中レポート50%

毎回の提出物と中間のレポートについては、次回授業時に、授業中レポートについては授業最終回でフィードバックを行う。

**【参考書】**

『子どもの福祉とこころ』（新曜社）  
『この子を受けとめて、育むために 育てる・育ちあういとなみ』（全国児童養護施設協議会）

**社会的養護内容**

高橋 誠一郎

3年 前期 1単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

「社会的養護内容」は、2年次前期の「社会的養護」を受けて、居住型の児童福祉施設でどのような支援が行われているか、施設で働く保育士に求められることを講義と演習によって、さらに理解を深める。授業を通して、支援を要する児童への、子ども観や家族観、養育観を養う。さらに、社会的養護の現場をより理解し、権利擁護に基づいた養育への学びを深め、事例等を通して課題について考察する力を養うことを期待する。

また、児童福祉法の改正を受け、大きく変化している社会的養護の制度についても、理解を深める。

**【授業における到達目標】**

社会的養護内容の授業で扱う児童や家庭の状況に理解を深め、学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を発見できるようになる。

グループディスカッションを通して、「協働力」のうち自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができるようになる。

**【授業の内容】**

以下のテーマについて、教科書を中心にスライドを使ってすすめる。ビデオなどの教材の使用や事例検討や演習も行い理解を深める。

- 第1週 授業概要、権利擁護
- 第2週 保育士等の倫理及び責務
- 第3週 児童養護の体系と児童福祉施設の概要
- 第4週 児童養護の制度
- 第5週 日常生活支援と施設の暮らし
- 第6週 心の傷を癒し、心を育むための援助（保育士の業務）
- 第7週 心の傷を癒し、心を育むための援助（虐待された子どもへの支援、虐待への対応）、中間まとめ
- 第8週 親子関係の調整（子どもと家族への支援）
- 第9週 親子関係の調整（虐待した家族への支援）
- 第10週 ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用 1
- 第11週 ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用 2
- 第12週 記録について
- 第13週 行事等の計画について
- 第14週 今後の課題と展望
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回の範囲のテキストを読み専門用語等を調べる。レポート・発表等の課題の準備をする。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 毎回フィードバックシートにまとめ翌週に提出、発表・小テスト等の復習（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

中山正雄 編著「実践から学ぶ 社会的養護の内容」（保育出版社 2015年）価格1,810円（税抜）

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

毎回の提出物20%、中間レポート20%、発表10%、授業中レポート50%

毎回の提出物と中間のレポートについては、次回授業時に、授業中レポートについては授業最終回でフィードバックを行う。

**【参考書】**

『子どもの福祉とこころ』（新曜社）  
『この子を受けとめて、育むために 育てる・育ちあういとなみ』（全国児童養護施設協議会）

**社会統計特論**

竹内 光悦

人間社会専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

社会においては、統計情報の収集、分析、そこから得られる情報の活用が重要である。本講義では、統計情報や社会調査で得られたデータを社会統計学の基礎を交えながら、紹介する。特に代表的な多変量解析を中心に、計量的データ分析の基礎・応用力の習得を目指す。

**【授業における到達目標】**

ビジネスパーソンの素養とする調査企画、実査、基礎的なデータ処理、データ分析ができるようになる。多様化する社会問題を客観的に把握する知識や技能を身に着けることにより、課題解決のために主体的に行動する力【行動力】を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンスおよび統計ソフトウェアの導入
- 第2週 社会における多変量量的データ分析の紹介
- 第3週 データ分析の基本、多変量記述統計
- 第4週 重回帰分析と変数選択
- 第5週 ロジスティック回帰と判別分析
- 第6週 分散分析と共分散分析
- 第7週 クラスタ分析
- 第8週 公的統計データの分析実践報告
- 第9週 主成分分析
- 第10週 因子分析
- 第11週 多次元尺度構成法
- 第12週 パス解析と共分散構造分析
- 第13週 社会における多次元量的データ分析の事例研究Ⅰ—調査データの活用
- 第14週 社会における多次元量的データ分析の事例研究Ⅱ—二次データ分析
- 第15週 社会統計のまとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：授業前に manaba で公開される授業資料を入手し、内容の予習、受講の準備を行うこと。（学修時間 週2時間）／事後学修：授業終了時に manaba 公開される動画スライドを確認し、復習しておくこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

manaba にて資料を配布。必要に応じて文献を紹介する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

毎回の演習点（15%）、中間レポート評価（15%）、中間発表評価（20%）、最終レポート試験評価（50%）を踏まえ総合的に評価する。各授業の最初に前回の演習の結果、中間レポートにおいては manaba を通じて、レポートの所見をフィードバックする。

**【参考書】**

篠原清夫他（2010）社会調査の基礎、弘文堂／金井雅之他（2012）社会調査の応用、弘文堂／G.W. ボーンシュテット他（1992）社会統計学—社会調査のためのデータ分析入門、ハーベスト社／青木繁伸（2009）R による統計解析、オーム社。

その他、講義内で適宜、指示する。

**【注意事項】**

調査系の基礎知識に不安がある人は学部の調査系の授業等にも参加し、知識を深めてください。SPSS や R などの統計ソフトも紹介。

**社会福祉概論**

現代社会の福祉のあり方を考える

勝部 雅史

2年 後期 2単位

○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

21世紀の社会福祉は、特別な人々のための従来のソーシャル・ウェルフェア (Welfare) から、より幅広くすべての市民のためのソーシャル・ウェルビーイング (well-being) へと、その対象と方法を革新させている。そこで本講義では、現代社会の福祉の諸問題を理解するとともに、多様な福祉ニーズを必要とする人々の生活と福祉を探り、人間理解を深め、社会福祉の根幹である人間生活の援助のあり方を学ぶことを到達目標としている。

社会福祉制度や実践の基本概念および、日本と諸外国の社会福祉の歴史を理解することを通じて、「生活者」としての視点から福祉のあり方について理解することを目的とする。

**【授業における到達目標】**

1. 現代社会における社会福祉・社会保障の概要を理解する。
2. 社会福祉における「再分配」や「対人社会サービス」の考え方を理解する。
3. 学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週 社会福祉概念とその範囲
- 第2週 社会保障体系における社会福祉
- 第3週 わが国の社会福祉の歴史的展開①
- 第4週 わが国の社会福祉の歴史的展開②
- 第5週 イギリスの社会福祉の歴史的展開①
- 第6週 イギリスの社会福祉の歴史的展開②
- 第7週 社会福祉の対象把握
- 第8週 障害者福祉と福祉ニーズ
- 第9週 障害者福祉と生活援助
- 第10週 児童家庭福祉と福祉ニーズ
- 第11週 児童家庭福祉と生活援助
- 第12週 高齢者福祉と福祉ニーズ
- 第13週 社会福祉の思想と哲学①
- 第14週 社会福祉の思想と哲学②
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

事前学修：授業内容に照らした配布資料を読んで予習します。(学修時間 週2時間)

事後学修：授業内容に照らして復習し、授業時に出された課題に取り組みます。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

配布する資料を教材に用います。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】****【方法・基準】**

定期試験90%、課題レポート10%。

**【フィードバック】**

定期試験終了後に解答解説を行うことでフィードバックします。

授業最終回時に、課題レポートに関してコメントしフィードバックします。

**【参考書】**

- ・岩松珠美・三谷嘉明編『栄養士・管理栄養士をめざす人の社会福祉』(みらい 2012年) 2,200円
- ・稲沢公一・岩崎晋也『社会福祉をつかむ 改訂版』(有斐閣 2014年) 2,376円

**【注意事項】**

以下の科目を履修していることが望ましいが、未履修でも問題はありません。

「公衆衛生学」「経済学」「社会学」

**社会福祉概論**

現代社会の福祉のあり方を考える

勝部 雅史

2年 後期 2単位

○：美の探究、行動力

**【授業のテーマ】**

21世紀の社会福祉は、特別な人々のための従来のソーシャル・ウェルフェア (Welfare) から、より幅広くすべての市民のためのソーシャル・ウェルビーイング (well-being) へと、その対象と方法を革新させている。そこで本講義では、現代社会の福祉の諸問題を理解するとともに、多様な福祉ニーズを必要とする人々の生活と福祉を探り、人間理解を深め、社会福祉の根幹である人間生活の援助のあり方を学ぶことを到達目標としている。

社会福祉制度や実践の基本概念および、日本と諸外国の社会福祉の歴史を理解することを通じて、「生活者」としての視点から福祉あり方について理解することを目的とする。

**【授業における到達目標】**

1. 現代社会における社会福祉・社会保障の概要を理解する。
2. 社会福祉における「再分配」や「対人社会サービス」の考え方を理解する。
3. 学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週 社会福祉概念とその範囲
- 第2週 社会保障体系における社会福祉
- 第3週 わが国の社会福祉の歴史的展開①
- 第4週 わが国の社会福祉の歴史的展開②
- 第5週 イギリスの社会福祉の歴史的展開①
- 第6週 イギリスの社会福祉の歴史的展開②
- 第7週 障害観の変遷
- 第8週 障害者福祉と福祉ニーズ
- 第9週 社会福祉援助とスティグマ
- 第10週 児童家庭福祉と福祉ニーズ
- 第11週 児童家庭福祉と生活援助
- 第12週 高齢者福祉と福祉ニーズ
- 第13週 社会福祉の思想と哲学①
- 第14週 社会福祉の思想と哲学②
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

事前学修：授業内容に照らした配布資料を読んで予習します。(学修時間 週2時間)

事後学修：授業内容に照らして復習し、授業時に出された課題に取り組みます。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

配布する資料を教材に用います。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】****【方法・基準】**

定期試験90%、課題レポート10%。

**【フィードバック】**

定期試験終了後に解答解説を行うことでフィードバックします。

授業最終回時に、課題レポートに関してコメントしフィードバックします。

**【参考書】**

- ・岩松珠美・三谷嘉明編『栄養士・管理栄養士をめざす人の社会福祉』(みらい 2012年) 2,200円
- ・稲沢公一・岩崎晋也『社会福祉をつかむ 改訂版』(有斐閣 2014年) 2,376円

**【注意事項】**

以下の科目を履修していることが望ましいが、未履修でも問題はありません。

「公衆衛生学」「経済学」「社会学」

## 社会福祉論

大澤 朋子

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

### 【授業のテーマ】

現代社会に生きる私たちは生活上の様々な問題を抱えるが、その解決の仕組みのひとつに社会福祉がある。本科目では社会福祉学を初めて学ぶ学生に対して、現代社会の具体的な課題を取り上げながら、〈誰が〉〈何を〉〈どのように〉問題だと認識し、それを〈どうやって〉解決しようとしているのかに着目しながら、社会福祉を理解する。今日的な社会福祉の課題を理解し、解決策を考えていくとともに、社会福祉についての基本的な知識を習得する。

### 【授業における到達目標】

保育士として身につけるべき社会福祉の基礎的な知識・ソーシャルワークの視点を修得する。学生が修得すべき「研鑽力」のうち、③広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く力、および「行動力」のうち、①現状を正しく把握し、課題を発見する力を修得する。

### 【授業の内容】

- (1) オリエンテーション・社会福祉ってなんだろう？
- (2) 現代の生活と社会福祉
- (3) 社会福祉の歴史
- (4) 少子高齢化と高齢者福祉
- (5) 加齢と障害を理解する
- (6) 若者問題と対策の展開
- (7) 貧困とホームレス問題
- (8) 社会福祉の手段—社会保障と公的扶助を中心に
- (9) 障害者福祉
- (10) 社会福祉のしくみ—社会福祉の法律・行政・財政
- (11) 社会福祉サービス利用のしくみと社会福祉の機関・施設
- (12) 社会福祉援助技術
- (13) 地域福祉
- (14) 社会福祉の担い手と他分野連携
- (15) まとめ

※学生の興味関心や他科目の進捗と関連して、この予定を前後・変更する可能性もあります。

### 【事前・事後学修】

事前：各回のトピックに合わせた新聞記事等の情報収集、レポート課題等に取り組む（学修時間 週2時間）

事後：講義ノートの整理、復習を行う（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

石田慎二・山縣文治編「新プリマーズ／保育／福祉 社会福祉（第5版）」ミネルヴァ書房2017年 1800円（税別）

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極的参加）20%、中間レポート20%、試験60%

## 社会文化事業論

高木 裕子

3年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

## 【授業のテーマ】

近年、企業は社会的貢献または社会的責任という用語で、環境問題をはじめ世界的な課題まで、グローバルな発想と概念の下、営利目的を超えた次元で貢献しようとしています。また、敢えて利害関係のない立場で、世界の経済格差にも、グローバル・コーポレート・シチズンシップという考えで、その役割を果たそうともしています。企業にあった教育法人や文化事業財団等も、今日一定の組織や機関を設け、社会貢献や文化保護・保存に努める一方、未来に向けた企業の姿や役割を一気に加速化させ、その方向性や基準に向かわせようとしています。本授業では、改めてグローバルな社会的課題や営利目的にある企業に対峙する「文化事業」のあり方をはじめ、各種文化活動や政策、また、そこでの解決法を目指した社会貢献のあり方、そのための人材育成法等について考えます。特に今年度は、日本の国家成長戦略下、どのような「文化政策」や計画が立案できるかを考える中で、「社会・文化（的）なもの」を調査し、それを踏まえ、企画化や事業化、（社会）文化戦略に繋げる方策を考えます。また、それに寄与、係わることができるような能力と考え方ができるようにします。

## 【授業における到達目標】

「社会」と「文化」をキーワード概念とし、これに係わる事業の立案や企画化（例えば「文化資源」の発掘やソフトパワー化など）を目指します。また、2020年東京オリンピック開催を控え、これらを「文化戦略」としても提言できるようにします。授業では、意識調査を含む実態調査や現状分析を基礎に、フィールド調査やフィールド研究を組み込みながら、立案や企画力、そのための流れ（フローチャート化）ができるようにします。

## 【授業の内容】

- 第1週 なぜ社会的貢献が必要なのか。社会的責任とは何か。
- 第2週 なぜ今、「文化」なのか。
- 第3週 「文化」とは何か。「文化政策」とは何か。
- 第4週 企業の社会的貢献と社会的責、そして「文化」。
- 第5週 企業の地域（社会）貢献と個人の社会的責任に「文化」をどう役立てるのか？
- 第6週 文化とコンテンツ、コンテキスト
- 第7週 グローバル下社会での問題と課題に取り組む企業や民間団体、そして、個人
- 第8週 ケーススタディ① アジアの文化政策と世界戦略
- 第9週 ケーススタディ② 文化広報と世界の文化戦略
- 第10週 日本（国内問題）と海外（世界問題）、ローカル・グローバル、リージョン、そして、グローバル
- 第11週 日本の文化戦略と世界の文化戦略① 「文化」コンテンツで、世界的にビジネスするとは？
- 第12週 日本の文化戦略と世界の文化戦略② 「文化」コンテンツで、世界的にビジネスするとは？
- 第13週 今、どのような人材が求められているのか
- 第14週 世界貢献と●●の問題、解決課題、そして、敢えて「文化」を扱う今
- 第15週 総括

## 【事前・事後学修】

【事前学修】前週、課題があります。課題は必ず調べ、それを受け、授業中に発表、ディスカッション、質疑応答をします。課題内容を理解し、回答できるようにし、授業で内容を深めます（週1時間）。【事後学修】フィールドへ出て、調査しながら課題を発見したり、資源を発掘したり、活動にも参加します。その度、結果はレポートとして提出。ゲストスピーカーの講義内容もレポート提出してください（週3時間）。

## 【テキスト・教材】

今年度は資料、プリント他、こちらで準備します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題と発表・ディカッション20%、フィールド調査と企画等50%、ゲストスピーカー内容20%、活動・参加レポート10%。フィードバックは各課題等の後、毎回行うと共に、そこでの視点のあり方やポイント等を示す。

## 【参考書】

授業の中で適宜、指定します。

## 【注意事項】

できるだけ身近な話題やわかりやすい事例をもって、講義は進めていきますが、指定された本や関係する内容については、事前に、広く、深く調べ、内容把握や理解に努めてください。



## 社会保障論

— 社会保障は民主主義の学校 —

福田 幸夫

2年～ 前期 2単位

○：研鑽力

### 【参考書】

『社会保障の手引平成30年改訂版』（中央法規出版）、2018年  
定価2,800円＋税

### 【注意事項】

社会保障制度に興味のある学生の受講を希望します。

### 【授業のテーマ】

私たちの気がつかないところで、社会保障制度は機能している。病気になるって受診する場合、皆さんは保険証を持って病院に行く。医療保険制度は、いちばん身近な社会保障制度である。

また、選挙時には例外なく、社会保障の充実が公約に取り上げられる。

他昨今話題の年金制度、雇用保険、労災保険や介護保険等の社会保障制度は、私たちの日常生活維持にも深く関わっている。

講義ではこれらわが国の社会保障制度を取り上げるとともに、生命保険、損害保険等の民間保険分野との関連性も含め、民主主義社会の根幹をなす制度の一つである社会保障制度を概観していくこととする。

### 【授業における到達目標】

共通教育の教養教育科目の中の社会と歴史に関する科目として、社会保障制度の理解を通じて多様性を受容した国際的視野を持ち、倫理観を持って人格を陶冶しようとする態度を醸成する。幅広い教養の土台として、民主主義社会や福祉国家の基盤となる社会保障制度を学ぶことにより、広い視野と洞察力を身につけ、自己や他者の屋くらの理解の上に協調し、豊かな人間関係を構築できるよう努めための柔軟な思考力・理解力を身につけることを目標とする。具体的には、社会保障制度の理念と歴史的発展を理解し、わが国の現行の社会保障制度について説明することができ、社会人に要求される豊かな教養、専門的知識、優れた実践能力を養う。

### 【授業の内容】

1. 社会保障論の講義の進め方について
2. 社会保障とは何か
3. 社会保障の理論と歴史的発展
4. 社会保険制度と公的扶助制度
5. 生活保護制度と各種手当制度
6. 年金保険制度の概要
7. 年金保険制度の給付内容
8. 医療保険制度の概要
9. 医療保険制度の給付内容
10. 雇用保険制度の概要
11. 労働者災害補償制度の概要
12. 介護保険制度の概要
13. 民間保険の概要
14. 生命保険と損害保険
15. まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修

講義の前に、シラバスの該当項目に関するテキストの内容をよく読んでおくこと。学修時間:週2時間

事後学修

講義で取り上げた内容に関し、板書した内容を記したノートと、テキストの該当箇所の内容をよく読んでおくこと。学修間:週2時間

### 【テキスト・教材】

『社会福祉士シリーズ12. 社会保障第4版』（弘文堂）、2017年  
定価2,625円税別

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

以下の項目について、総合的に評価を行う。

随時実施の小テスト30点

試験・レポート40点

授業への取り組み姿勢～ノート整理、積極的な質問等30点

各回の授業ごとに、前回の内容の重要点を再確認し、リアクションペーパー等の活用により学生の理解度を考察しフィードバックしながら授業を進める。

**住環境・設備学**

—光・音・熱・空気的设计—

川西 縫衣子

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

この授業では、建築環境工学・建築設備と呼ばれる分野の知識をベースに、建築環境を調整・整備していく方法について学んでいく。

**【授業における到達目標】**

・光環境、音環境、熱環境、空気環境の各分野における用語を理解し、整備の方針を立案し、その具体的な方策（設備）のあり方を提案できるようになる。

→生活環境の現状を把握し、その課題を洞察する力を身に付け、実際に課題を解決していく方法について提案できる行動力を身に付けていく

**【授業の内容】**

- 第1講 光環境 1（視感度、測光量など）
- 第2講 光環境 2（均一な照明の計画）
- 第3講 光環境 3（不均一な照明の計画、照明設備）
- 第4講 光環境 4（色彩計画）
- 第5講 光環境 5（昼光照明、照明計画）
- 第6講 音環境 1（音の響きのデザイン）
- 第7講 音環境 2（音の性質）
- 第8講 音環境 3（騒音対策、音の意味）
- 第9講 熱環境 1（温熱感と空気調和）
- 第10講 熱環境 2（断熱と伝熱）
- 第11講 熱環境 3（湿気と結露）
- 第12講 熱環境 4（パッシブな手法）
- 第13講 熱環境 5（気候と日照・日射）
- 第14講 空気環境（換気と通風）
- 第15講 総括

**【事前・事後学修】**

授業範囲について、テキストを事前に読んでおくこと。

授業後に、テキスト巻末の演習問題を解き、manabaに解答を記入すること。

（学修時間 週4時間）

**【テキスト・教材】**

授業で使用するテキストを購入してもらう予定である。その他、「演習問題」プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業中試験、指示した課題の提出状況に基づいて成績を付ける。

（試験：80%、課題：20%）

授業中試験については、結果をmanabaで通知する。

manaba小テストについては、授業中に解説を行う。

**【参考書】**

倉淵隆著『初学者の建築講座』（市ヶ谷出版社）

岩田利枝ら著『生活環境学』（井上書院）

田中毅弘著『ポイントで学ぶ建築環境・設備学読本』（技術書院）

**【注意事項】**

いくつか数式が出てくる分野がある。詳細に解説する予定だが、各自も積極的に演習問題に取り組んで欲しい。

なお、グループで知識を確認する課題を取り入れるので、相互に教え合い、学び合って欲しい。

**住環境デザイン論**

高田 典夫

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究、研鑽力

**【授業のテーマ】**

住空間の中での生活行為に着目し、計画的な視点で住空間を考え、住み続けるための住環境を形成するためにはどうしたらよいかを考えていきます。

**【授業における到達目標】**

住環境の学習を通して、過去と現在の建築家の考えを探求し、社会の移り変わりを各自の視点で感じ取ってみましょう。また日本の住環境も多様化してきています。この授業では住環境の基礎を習得し、多様化している社会を読み解いていくための、知識や感覚を身につけます。「研鑽力<DPより>」のうち、広い視野と深い洞察力を持ち、住環境デザインを通して、社会の本質を見抜く力を習得します。

**【授業の内容】**

1. 住環境とは
2. ヒトの住むところ
3. 敷地を読む
4. 住宅を内部から考える一間取り
5. 家のまわりを考える
6. 建築家の考える住環境 1  
—吉村順三、アントニン・レイモンド、  
フランク・ロイド・ライト
7. 建築家の考える住環境 2  
—前川国男、吉阪隆正、ル・コルビュジェ
8. 建築家の考える住環境 3  
—清家清、池辺陽、芦原義信
9. 建築家の考える住環境 4  
—土浦亀城、増沢洵、菊竹清訓、東孝光
10. 都市に住むということ  
未定 \*外部講師の講義、質疑応答がある
11. 集まって住む  
未定 \*外部講師の講義、質疑応答がある
12. 集合住宅に関わる問題、未来像  
未定 \*外部講師の講義、質疑応答がある
13. 25年経過した集合住宅団地を検証する
14. 映画に見る住環境
15. まとめ/校外実習  
—実際に住んでいる住宅を見学して、  
住環境デザインについて考える

**【事前・事後学修】**

授業のテーマ・目標をよく読み、理解して授業に臨むこと。

身のまわりの住環境を好奇心を持って見直して、気になることを探し出してみましょう。レポート課題と合わせて、授業の後に、授業内でとりあげたポイントをもとにして、改めて身のまわりの住環境を見るとともに、参考図書、授業中に提示した図書などを読むことで理解を深めましょう。

週4時間の事前事後学修が必要です。

**【テキスト・教材】**

適宜プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業態度（20%）と、提出物（レポート・課題等）（80%）による。数回のレポート・課題を実施し、講義内でレポート提出内容を踏まえたフィードバックをします。

**【参考書】**

中山繁信『美しい風景の中の住まい学』（オーム社、2013年）

鈴木敏彦・松下希和・中山繁信『住宅・インテリアの教科書』（エクスナレッジ、2014年）

その他、適宜授業中に紹介する。

## 住環境設計学演習 A

槇 究

生活環境学専攻 後期 1単位

### 【授業のテーマ】

利用者ニーズの把握など、環境形成や環境調査に関わる調査手法や発想法を学ぶ。

### 【授業における到達目標】

- ・人間-環境系の調査手法について、そのメリット・デメリット、適用時の注意事項について理解する。
- ・調査データの解析方法について理解し、解析を実行できるようになる。
- ・学んだ調査手法を実際に使用することで、独自の調査を実施できるようになる。

### 【授業の内容】

調査のデザインを学ぶ

- 第1回 インタビュー調査（1）解説
- 第2回 インタビュー調査（2）サンプルケースによる演習
- 第3回 インタビュー調査（3）応用
- 第4回 インタビュー調査（4）解析
- 第5回 アンケート調査（1）解説
- 第6回 アンケート調査（2）サンプルケースによる演習
- 第7回 アンケート調査（3）応用
- 第8回 アンケート調査（4）解析
- 第9回 多変量解析手法

マルチメソッドによる調査

- 第10回 調査計画
- 第11回 調査準備と実施
- 第12回 調査結果の解析（1）
- 第13回 調査結果の解析（2）
- 第14回 調査結果のまとめ
- 第15回 発表

### 【事前・事後学修】

- テキストを事前に読んでおくこと。
- 演習として取り入れる調査を実施すること。
- 得られたデータの解析を実施し、レポートを執筆すること。
- （学修時間：4時間）

### 【テキスト・教材】

「住まいと街をつくるための調査のデザイン（オーム社）2011、3300円＋税」を使用する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート40%、授業への取り組み（授業中の発言・積極的な参加）30%、課題発表30%

### 【参考書】

適宜、参考文献を紹介する。

### 【注意事項】

- 調査は授業外で実施するものが多くなる。
- 必ず、解析に必要なデータ量を確保すること。

## 住環境設計学演習 B

橋 弘志

生活環境学専攻 後期 1単位

### 【授業のテーマ】

近年の建築計画や都市計画、あるいは環境心理学に関わる文献を輪読し、生活空間の計画・デザイン・実践に関わる現代的なテーマ・理論について理解する。それらの内容を理解した上で、具体的な建築・都市デザインを題材として評価・考察を行う。

### 【授業における到達目標】

以下の能力を修得する。「美の探求」のうち、物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度。「研鑽力」のうち、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続ける力。「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を発見できる力。

### 【授業の内容】

- 第1回 都市の理論～都市のイメージ
- 第2回 都市の理論～経路探索
- 第3回 まちの理論～コミュニティ論
- 第4回 まちの理論～近隣住区論
- 第5回 集合の理論～路地・長屋
- 第6回 集合の理論～共有領域論
- 第7回 行動の理論～アフォーダンス
- 第8回 行動の理論～人の居方
- 第9回 行動の理論～個人的領域形成
- 第10回 住民参加によるデザイン
- 第11回 公共施設の公共性
- 第12回 福祉の住まいづくり・まちづくり
- 第13回 リノベーション・コンバージョン
- 第14回 まちの居場所
- 第15回 まとめ

### 【事前・事後学修】

- 事前学修：各回に配布される資料を熟読するほか、関連する資料を収集し、レポートを作成する（2.5時間）
- 事後学修：授業の内容を復習して身につけておく（1.5時間）。

### 【テキスト・教材】

開講時および授業内で適宜指示する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

各回の課題発表60%、授業への取り組み40%として評価する。

## 住環境設計学演習C

高田 典夫

生活環境学専攻 後期 1単位

### 【授業のテーマ】

住環境の計画は、具体的な条件―敷地、まちなみ、家族構成など―によりそれぞれ異なる。特定の実在する具体的な環境条件を踏まえて、空間構成、環境との関わり方、素材の選択などを考慮し、自分の考える「住み続けるための住環境」をデザインすることで、知見を深めるとともに、自らの考えていることを人に伝えるプレゼンテーション術を学ぶ。

### 【授業における到達目標】

- ・住環境に関わる諸条件を理解することを通して「国際的視野」を修得する。
- ・自分の考えたことを具体化し、可視化することを通して「研鑽力」を修得する。
- ・プレゼンテーションを行うことにより「行動力」「協働力」を修得する。
- ・課題に取組み、事例研究を通して「美の探求」を修得する。

### 【授業の内容】

- 第1週 住み続けるための住環境1：個人住宅／課題説明
- 第2週 個人住宅／敷地の解説
- 第3週 個人住宅／家族構成をプランニング
- 第4週 個人住宅／構造・構法計画
- 第5週 個人住宅／図面による空間表現研究
- 第6週 個人住宅／模型による空間表現研究
- 第7週 個人住宅／プレゼンテーション・講評
- 第8週 住み続けるための住環境2：集合住宅／課題説明
- 第9週 集合住宅／敷地の解説
- 第10週 集合住宅／住民構成とプランニング
- 第11週 集合住宅／集合のシステム
- 第12週 集合住宅／構造・構法計画
- 第13週 集合住宅／図面による空間表現研究
- 第14週 集合住宅／模型による空間表現研究
- 第15週 集合住宅／プレゼンテーション・講評

### 【事前・事後学修】

【事前学修】授業のテーマ・目標をよく読み、理解して授業に臨むこと。課題を解くための資料を収集し、自分なりの「資料集成」を作成しておくこと。それとともに、課題に沿った事例を検索し、事例研究をできるだけ数多く行い、そのうちのいくつかについては空間体験をしておくことが望ましい。(学修時間 2時間/週)

【事後学修】エスキス時の討論やプレゼンテーションによる講評をもとに、自分のデザインを見直すことで、デザインの理解が深まります。(学修時間 2時間/週)

### 【テキスト・教材】

テキストは、特には指定しない。

開講時および講義中に適宜、資料を提示し、配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内での発表(20%)、プレゼンテーション(図面・模型など、60%)、平常点(出席態度、レポートの提出状況など、20%)  
各課題の講評時にフィードバックを行う。

### 【参考書】

参考文献は適宜紹介する。

### 【注意事項】

「住環境設計学特論C」を受講済みであること。  
研究室に適宜掲示する「オープンハウスのお知らせ」を参照して、実際の住環境をできるだけたくさん体験し、その空間について分析し、考察して、授業内で討議できるようにしておくこと。

## 住環境設計学特論A

槇 究

生活環境学専攻 前期 2単位

### 【授業のテーマ】

環境心理学的なデザインについて事例を用いて講述すると共に、デザイン手法や発想法についても触れる。

さらに、文献購読とディスカッションを通じて、環境心理学的なものを見方を涵養する。

### 【授業における到達目標】

- ・環境心理学的な視点から空間・建築・地域の環境を考察し、人間―環境系の枠組みとして把握できるようになる
- ・さらに、その枠組みを利用した環境デザインを構想できるようになる

### 【授業の内容】

建築空間のヒューマナイズ

第1回 事例検討(1) 耳を傾けてみよう

第2回 事例検討(2) 使う人の声を聞こう

第3回 事例検討(3) 心を読む

第4回 事例検討(4) 快適性の先にあるもの

第5回 ディスカッション

パタン・ランゲージと景観形成手法

第6回 パタン・ランゲージについて(1) 概論

第7回 パタン・ランゲージについて(2) 演習

第8回 景観形成手法について

第9回 発想法

文献購読：環境心理学関連の文献を中心に文献を数点選択し、購読する

第10回 文献購読およびディスカッション(1)

第11回 文献購読およびディスカッション(2)

第12回 文献購読およびディスカッション(3)

第13回 文献購読およびディスカッション(4)

第14回 文献購読およびディスカッション(5)

第15回 総括

### 【事前・事後学修】

テキストを事前に読み、内容をまとめておくこと。

授業中にディスカッションしたことについて、復習すること。

(学修時間 週4時間)

### 【テキスト・教材】

「建築空間のヒューマナイズ(彰国社)2001、2400円+税」、「パタン・ランゲージ(鹿島出版会)1984、9800円+税」を使用する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート40%、授業への取り組み(授業中の発言・積極的な参加)30%、課題発表30%

### 【参考書】

適宜、関連する参考文献を紹介する。

### 【注意事項】

日常的に、身の回りの構築環境(Built environment)を観察し、人間―環境間の関連について考察する習慣を身に付けて欲しい。

## 住環境設計学特論B

橋 弘志

生活環境学専攻 前期 2単位

### 【授業のテーマ】

環境行動研究とは、人間生活の質の向上を目指し、環境と人間行動との統合的関連性を理解しようとする学問分野である。「建築理論の創造」をテキストとして、環境行動研究のアプローチからインテリア・建築・都市などの環境デザインについて議論する。

### 【授業における到達目標】

以下の能力を修得する。「美の探求」のうち、物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度。「研鑽力」のうち、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続ける力。「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を発見できる力。

### 【授業の内容】

- 第1回 環境と人間の行動についての基本的な概念
- 第2回 環境の性質
- 第3回 人間行動の基本的プロセス
- 第4回 認知と情動
- 第5回 構築環境と人間の行動
- 第6回 活動パターンと構築環境
- 第7回 行動セッティング
- 第8回 人体計測学と人間工学
- 第9回 認知マップと空間行動
- 第10回 プライバシー
- 第11回 テリトリー意識
- 第12回 プロクセミクス
- 第13回 社会的交流と構築環境
- 第14回 社会組織と構築環境
- 第15回 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：毎回、テキスト（ジョン・ラング著「建築理論の創造」鹿島出版会）の指定箇所を読み、レポートを作成する（2.5時間）。

事後学修：授業の内容を復習して身につけておく（1.5時間）。

### 【テキスト・教材】

授業内で資料を配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

各回の課題発表60%、授業への取り組み40%として評価する。

### 【参考書】

ジョン・ラング著『建築理論の創造』鹿島出版会（1992年）

## 住環境設計学特論C

高田 典夫

生活環境学専攻 前期 2単位

### 【授業のテーマ】

古今東西の著名な住宅作品を文献などを通じて、その空間構成、環境との関わり方、素材の選び方、デザインの手法などについて学ぶとともに、空間を構成する要素について分析し、人が生活し、住み続けられる環境について知見を深める。

### 【授業における到達目標】

- ・住環境に関わる諸条件を理解することを通して「国際的視野」を修得する。
- ・自分の考えたことを具体化し、可視化することを通して「研鑽力」を修得する。
- ・プレゼンテーションを行うことにより「行動力」「協働力」を修得する。
- ・課題に取組み、事例研究を通して「美の探求」を修得する。

### 【授業の内容】

- 第1週 住環境を取り巻く現状
- 第2週 空間とデザイン
- 第3週 住むことと建てること
- 第4週 中心と囲い
- 第5週 囲いと共同体
- 第6週 空間と光
- 第7週 光と闇
- 第8週 開くことと閉じること
- 第9週 地形と記憶
- 第10週 住むことと表すこと
- 第11週 支えることと囲うこと
- 第12週 闘争と一致
- 第13週 還元と狂気
- 第14週 創作と時代性
- 第15週 まとめ：住み続けられる住環境

### 【事前・事後学修】

指定された文献を事前に読んで、まとめてくること。（週2時間）  
それとともに、事後にあらためて読んで復習をし、レポートを作成すること。（週2時間）

### 【テキスト・教材】

テキストは開講時に指定する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

受講レポート（50%）、授業内での発表（30%）、平常点（出席態度、レポートの提出状況など、20%）

### 【参考書】

参考文献は適宜紹介する。

### 【注意事項】

研究室に適宜掲示する「オープンハウスのお知らせ」を参照して、実際の住環境をできるだけたくさん体験し、その空間について分析し、考察して、授業内で討議できるようにしておくこと。

## 住居デザイン論

橋 弘志

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

### 【授業のテーマ】

私たちの生活は一人一人異なる多様なものであり、その生活の容れ物である住居もまた多様なものとなります。ここでは、住居のさまざまな空間や形態、デザインの機能や意味を通して、住居についてより深く理解することを目指します。安全性・快適性・利便性を備えるとともに、現代的な住まい方に対応した住居を計画する上で不可欠な知識と視点を学習していきます。

### 【授業における到達目標】

<美の探求>「物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度」、<研鑽力>「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる力」、<行動力>「現状を正しく把握し、課題を発見できる力」を修得する。

### 【授業の内容】

- 第1週 住居と生活
- 第2週 住居と寸法
- 第3週 人の寸法
- 第4週 行動と寸法
- 第5週 知覚と寸法
- 第6週 人同士の距離と向き
- 第7週 パーソナルスペース
- 第8週 住居とプライバシー
- 第9週 住居内部のテリトリー（領域性）
- 第10週 住居外部のテリトリー（領域性）
- 第11週 室内のプランニング
- 第12週 立地とプランニング
- 第13週 住居の表現（製図）
- 第14週 住居のデザイン（製図）
- 第15週 総括

### 【事前・事後学修】

事前学修：配布する資料・プリントをよく読んで授業に臨むこと（学修時間 週2時間）

事後学修：各回の授業を復習してよく理解しておくこと（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

適宜プリントを配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

評価は、定期試験60%、平常点（各回の小課題、コメント提出）40%とします。各回の小課題については次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

### 【参考書】

『インテリアデザイン教科書』（彰国社）。『住環境の計画2 住居を計画する』（彰国社）ほか、授業の中で追って紹介します。

**住居学**

住まいに関わる全般的な概要を学びます。

平井 充

2・3年 前期 2単位

○：研鑽力

**【注意事項】**

シラバスの週数や内容の変更を行うことがあります。

**【授業のテーマ】**

住居は人の生き方に直接かかわるものですが、あまりにも身近なため問題意識をもって見ることはありません。本講では生活者の視点から、各問題を整理し、よりよい生活を目差してすぐれた知性を養いたいと思います。歴史的視点から現代に至るまでの住まいに関する概説により、時間軸のなかにおける住まいの変遷を学びます。また、近年における高齢社会において、多世代居住など集まって住むことの相互扶助の関係や、エネルギー問題における環境との調和についても学びます。

**【授業における到達目標】**

衣食住の住の部分であり、あらゆる分野との関係性のなかで語ることができます。この授業では、生活者として住む場所に対する基本的な知識を学び、同時に管理者の視点から住居に関するコンディションの判断基準を身に着けます。また、社会人となった後にも、住まいの場が生活そのものに及ぼす影響を考えるうえでも重要であり、広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とします。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 家族と住居  
家族と住居と人間の発達、家族構成と住居内容。
- 第3週 住居の歴史  
歴史を概観し、今後の住居のあり方を考える。
- 第4週 気候と住居  
世界の気候と住居、日本の気候と住居、自然災害。
- 第5週 住居と環境  
自然の環境、社会的環境、環境問題。
- 第6週 住居の管理  
点検と修理、集合住宅の管理。
- 第7週 高齢者と住居 バリアフリー、ノーマライゼーション  
コレクティブハウジング、グループホーム。
- 第8週 省エネルギー  
自然エネルギーの利用、断熱、気密、防露、換気。
- 第9週 欠陥住宅、住居の修理  
欠陥住宅、修理と法規、見積と工事、耐震補強。
- 第10週 集合住宅  
住居の形態、管理組合、法的問題。
- 第11週 住居の設計Ⅰ  
設計とは、設計の流れ、、ゾーニングと動線。
- 第12週 住居の設計Ⅱ  
台所、食堂、居間、寝室等各部の設計。
- 第13週 住居の設計Ⅲ  
設計事例、製図。
- 第14週 住居とまちづくり  
少子化、高齢化社会、環境、住民参加のまちづくり。
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修は、参考書と新聞やニュースにおける住居に関する内容を読む。(週2時間)

事後学修は、配布資料を再読し、講義内容の記録とともにテーマの関係性を理解し、事前学修の参考書を再読する。(週2時間)

**【テキスト・教材】**

講師配布の資料によります。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験40%、レポート30%、授業態度30%

定期試験は記述式にて理解の確認を行います。

最終週に試験のフィードバックを実施します。

**【参考書】**

授業中に紹介します。

## 住居学

## 橋 弘志

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

## 【授業のテーマ】

「住まい」は、私たちのもっとも身近な環境であり、私たちの生活行動や意識にさまざまな影響を与えています。それと同時に、「住まい」は、私たちの社会や文化、歴史や気候風土、材料や技術などと深く関わっています。住居学では、歴史的な住まいの変遷をたどりながら、住まいのもつ意味や役割について学んでいきます。また私たちの住まいに対する体験をもとに、住まいに関わる基礎的な知識を学習します。

## 【授業における到達目標】

<国際的視野>「日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度」、<美の探求>「人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度」、<研鑽力>「学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探求し、学問を続けることができる力」「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる力」を修得する。

## 【授業の内容】

- 第1週 住まいの意味
- 第2週 住まいの果たす役割
- 第3週 住まいの原型
- 第4週 貴族の住まい
- 第5週 武士の住まい
- 第6週 庶民の住まい
- 第7週 住まいの西洋化
- 第8週 中流階級の住まい
- 第9週 接客本位から家族本位へ
- 第10週 集まって住む住まい
- 第11週 戦後の住まい
- 第12週 住まいのnLDK化
- 第13週 住まいの産業化
- 第14週 さまざまな住まい方
- 第15週 総括

## 【事前・事後学修】

事前学修：配布する資料・プリントをよく読んで授業に臨むこと（学修時間 週2時間）

事後学修：各回の授業を復習してよく理解しておくこと（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

適宜プリントを配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

評価は、定期試験60%、平常点（各回の小課題、コメント提出）40%とします。各回の小課題については次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

## 【参考書】

『住まい考今学』（彰国社）、『建築計画』（市ヶ谷出版社）ほか、授業の中で追って紹介します。



**住居学**

住まいに関わる全般的な概要を学びます。

平井 充

2年 前期 2単位

○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

住居は人の生き方に直接かかわるものですが、あまりにも身近なため問題意識をもって見ることはありません。本講では生活者の視点から、各問題を整理し、よりよい生活を目差してすぐれた知性を養いたいと思います。歴史的視点から現代に至るまでの住まいに関する概説により、時間軸のなかにおける住まいの変遷を学びます。また、近年における高齢社会において、多世代居住など集まって住むことの相互扶助の関係や、エネルギー問題における環境との調和についても学びます。

**【授業における到達目標】**

衣食住の住の部分であり、あらゆる分野との関係性のなかで語ることができます。この授業では、生活者として住む場所に対する基本的な知識を学び、同時に管理者の視点から住居に関するコンディションの判断基準を身に着けます。また、社会人となった後にも、住まいの場が生活そのものに及ぼす影響を考えるうえでも重要であり、広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とします。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 家族と住居  
家族と住居と人間の発達、家族構成と住居内容。
- 第3週 住居の歴史  
歴史を概観し、今後の住居のあり方を考える。
- 第4週 気候と住居  
世界の気候と住居、日本の気候と住居、自然災害。
- 第5週 住居と環境  
自然の環境、社会的環境、環境問題。
- 第6週 住居の管理  
点検と修理、集合住宅の管理。
- 第7週 高齢者と住居 バリアフリー、ノーマライゼーション  
コレクティブハウジング、グループホーム。
- 第8週 省エネルギー  
自然エネルギーの利用、断熱、気密、防露、換気。
- 第9週 欠陥住宅、住居の修理  
欠陥住宅、修理と法規、見積と工事、耐震補強。
- 第10週 集合住宅  
住居の形態、管理組合、法的問題。
- 第11週 住居の設計Ⅰ  
設計とは、設計の流れ、、ゾーニングと動線。
- 第12週 住居の設計Ⅱ 台所、食堂、居間、寝室等各部の設計。
- 第13週 住居の設計Ⅲ 設計事例、製図。
- 第14週 住居とまちづくり  
少子化、高齢化社会、環境、住民参加のまちづくり。
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修は、参考書と新聞やニュースにおける住居に関する内容を読む。(週2時間) 事後学修は、配布資料を再読し、講義内容の記録とともにテーマの関係性を理解し、事前学修の参考書を再読する。(週2時間)

**【テキスト・教材】**

講師配布の資料によります。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験40%、レポート30%、授業態度30%。定期試験は記述式にて理解の確認を行います。最終週に試験のフィードバックを実施します。

**【参考書】**

授業中に紹介します。

**【注意事項】**

シラバスの週数や内容の変更を行うことがあります。

**住居学**

住まいに関わる全般的な概要を学びます。

平井 充

3年 前期 2単位

○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

住居は人の生き方に直接かかわるものですが、あまりにも身近なため問題意識をもって見ることはありません。本講では生活者の視点から、各問題を整理し、よりよい生活を目差してすぐれた知性を養いたいと思います。歴史的視点から現代に至るまでの住まいに関する概説により、時間軸のなかにおける住まいの変遷を学びます。また、近年における高齢社会において、多世代居住など集まって住むことの相互扶助の関係や、エネルギー問題における環境との調和についても学びます。

**【授業における到達目標】**

衣食住の住の部分であり、あらゆる分野との関係性のなかで語ることができます。この授業では、生活者として住む場所に対する基本的な知識を学び、同時に管理者の視点から住居に関するコンディションの判断基準を身に着けます。また、社会人となった後にも、住まいの場が生活そのものに及ぼす影響を考えるうえでも重要であり、広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とします。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 家族と住居  
家族と住居と人間の発達、家族構成と住居内容。
- 第3週 住居の歴史  
歴史を概観し、今後の住居のあり方を考える。
- 第4週 気候と住居  
世界の気候と住居、日本の気候と住居、自然災害。
- 第5週 住居と環境  
自然の環境、社会的環境、環境問題。
- 第6週 住居の管理  
点検と修理、集合住宅の管理。
- 第7週 高齢者と住居 バリアフリー、ノーマライゼーション  
コレクティブハウジング、グループホーム。
- 第8週 省エネルギー  
自然エネルギーの利用、断熱、気密、防露、換気。
- 第9週 欠陥住宅、住居の修理  
欠陥住宅、修理と法規、見積と工事、耐震補強。
- 第10週 集合住宅 住居の形態、管理組合、法的問題。
- 第11週 住居の設計Ⅰ  
設計とは、設計の流れ、、ゾーニングと動線。
- 第12週 住居の設計Ⅱ  
台所、食堂、居間、寝室等各部の設計。
- 第13週 住居の設計Ⅲ 設計事例、製図。
- 第14週 住居とまちづくり  
少子化、高齢化社会、環境、住民参加のまちづくり。
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修は、参考書と新聞やニュースにおける住居に関する内容を読む。(週2時間)

事後学修は、配布資料を再読し、講義内容の記録とともにテーマの関係性を理解し、事前学修の参考書を再読する。(週2時間)

**【テキスト・教材】**

講師配布の資料によります。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験40%、レポート30%、授業態度30%

定期試験は記述式にて理解の確認を行います。最終週に試験のフィードバックを実施します。

**【参考書】**

授業中に紹介します。

**【注意事項】**

シラバスの週数や内容の変更を行うことがあります。

**住居学**

住まいに関わる全般的な概要を学びます。

平井 充

2年 前期 2単位

○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

住居は人の生き方に直接かかわるものですが、あまりにも身近なため問題意識をもって見ることはありません。本講では生活者の視点から、各問題を整理し、よりよい生活を目差してすぐれた知性を養いたいと思います。歴史的視点から現代に至るまでの住まいに関する概説により、時間軸のなかにおける住まいの変遷を学びます。また、近年における高齢社会において、多世代居住など集まって住むことの相互扶助の関係や、エネルギー問題における環境との調和についても学びます。

**【授業における到達目標】**

衣食住の住の部分であり、あらゆる分野との関係性のなかで語ることができます。この授業では、生活者として住む場所に対する基本的な知識を学び、同時に管理者の視点から住居に関するコンディションの判断基準を身に着けます。また、社会人となった後にも、住まいの場が生活そのものに及ぼす影響を考えるうえでも重要であり、広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とします。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 家族と住居  
家族と住居と人間の発達、家族構成と住居内容。
- 第3週 住居の歴史  
歴史を概観し、今後の住居のあり方を考える。
- 第4週 気候と住居  
世界の気候と住居、日本の気候と住居、自然災害。
- 第5週 住居と環境  
自然の環境、社会的環境、環境問題。
- 第6週 住居の管理  
点検と修理、集合住宅の管理。
- 第7週 高齢者と住居 バリアフリー、ノーマライゼーション  
コレクティブハウジング、グループホーム。
- 第8週 省エネルギー  
自然エネルギーの利用、断熱、気密、防露、換気。
- 第9週 欠陥住宅、住居の修理  
欠陥住宅、修理と法規、見積と工事、耐震補強。
- 第10週 集合住宅 住居の形態、管理組合、法的問題。
- 第11週 住居の設計Ⅰ  
設計とは、設計の流れ、、ゾーニングと動線。
- 第12週 住居の設計Ⅱ  
台所、食堂、居間、寝室等各部の設計。
- 第13週 住居の設計Ⅲ 設計事例、製図。
- 第14週 住居とまちづくり  
少子化、高齢化社会、環境、住民参加のまちづくり。
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修は、参考書と新聞やニュースにおける住居に関する内容を読む。(週2時間)

事後学修は、配布資料を再読し、講義内容の記録とともにテーマの関係性を理解し、事前学修の参考書を再読する。(週2時間)

**【テキスト・教材】**

講師配布の資料によります。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験40%、レポート30%、授業態度30%  
定期試験は記述式にて理解の確認を行います。  
最終週に試験のフィードバックを実施します。

**【参考書】**

授業中に紹介します。

**【注意事項】**

シラバスの週数や内容の変更を行うことがあります。

**出版概論 a**

「出版」とは何か、表現のさまざまな形態を知る

大友 麻子

1年 前期 2単位

○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

書籍との出会いは時に、その人の人生を一変させます。紙離れが進むといわれる昨今、出版をめぐる環境は劇的に変化をしていますが、しかし、出版の現場での営みの基本は変わりません。ゼロから一つの本や雑誌、あるいはさまざまな紙媒体が作り上げられ世の中に送り出されていくまでの流れを読み解きながら、表現の豊かさを体感しましょう。

**【授業における到達目標】**

出版メディアの概要を学びます。出版メディアに、「企画制作・流通」という両方の側面からアプローチします。総論的に出版メディアの全体像を学ぶことで、そのコンテンツを作る現場への理解を深めます。また、実際に企画を立ててコンテンツを考える作業を通して、思考を言語化していくという、出版メディアに携わる人材に不可欠のスキルを向上させていきます。

**【授業の内容】**

- 第1週 出版メディアの歴史を知る
  - 第2週 取次と書店とネット（書籍流通の現状）について
  - 第3週 表現をする、という仕事について（自己表現と読者）
  - 第4週 雑誌業界の今（時代の変遷、潮流）
  - 第5週 書籍における編集者・著者・ライターの関係（取材や校正などの役割）
  - 第6週 コンテンツを作れるスキルの強み（ウェブや社内報など仕事の多様性）
  - 第7週 サブカルチャーの現場での出版メディア（映画・アキバ文化など）
  - 第8週 中小出版社の可能性（少部数でも特色ある出版へ）
  - 第9週 出版社と読み手の交流の場（書店やブックフェスなど）
  - 第10週 本が作られて書店に並ぶまで（企画・執筆・デザイン・印刷・流通）
  - 第11週 企画の立て方（社会状況や想定読者）
  - 第12週 ムック本という形態について。自分が一番興味を持っているテーマで企画を考えてみる（提出）
  - 第13週 発表：自分を大きく変えた一冊との出会いを紹介する
  - 第14週 本を宣伝すること（広告の切り抜きを持ち寄る）
  - 第15週 発表：自分で作りたい本の企画書（提出）
- ※出版業界の企業人による特別授業を複数回予定しています。

**【事前・事後学修】**

事前学修：次の授業内容について事前に調べておく（毎回、次までに用意すべきもの、調べておくべき内容を伝えます）。120分程度。

事後学修：学んだ内容について自分の言葉で概要をまとめる。理解が不十分なところがないか確認する。120分程度。

**【テキスト・教材】**

- ・特にありません。
- ・毎回、授業のレジュメを配布、関連資料も随時提示します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

発表（3割）と授業態度（3割）と提出物（4割）で評価します。事後学修でまとめたものを次の授業の冒頭で回収し、必要に応じて疑問点などをシェアします。

**出版概論 b**

出版メディアの企画編集の実践

大友 麻子

1年 後期 2単位

○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

実際に自分たちで頭を使い、手を動かしながら、編集の実務に挑戦します。本作りの基本のノウハウを学び、自分のアンテナを張り巡らせて文章を書き、企画を立てて書籍のイメージを作り上げてみましょう。実際の編集作業を通じて、自分自身のインプットの重要性に気づくことでしょう。

**【授業における到達目標】**

媒体によってコンテンツの作り方が違うことを学び、グループに分かれて企画や台割り作成などの具体的な編集作業に取り組みます。現実の書籍作りもさまざまな人たちの協働作業です。コンセンサスを得ながらものを作っていくプロセスを学ぶことで編集者に求められるバランス感覚や実践力を身につけていきます。あるいは、取材依頼書作成やポップ作りなどを通して、コンテンツ作成現場に求められるスキルを習得します。

**【授業の内容】**

- 第1週 本の成り立ち（折、台割とは何か。上製本からブックレットまで）
- 第2週 同じテーマも媒体によって書き方は変わる（新聞・雑誌・書籍）
- 第3週 発表：興味のあるテーマ（時事ネタ）を選んで自分で短いコラム記事にまとめてみる
- 第4週 書籍の企画を立ててみる（グループ）
- 第5週 構成を台割に落とし込む（グループ）
- 第6週 書籍のタイトル発表（類似本のタイトルをチェックしてみる）
- 第7週 表紙と帯のイメージを作ってみる（提出）
- 第8週 ポップを作る（書店で実際にどんなポップがあったか（提出）
- 第9週 本の広告を考えてみる（どのような媒体にどのような内容で）
- 第10週 雑誌の特集企画を考える。（グループ）
- 第11週 企画した特集の見出しとリードを書いてみる（提出）
- 第12週 取材する相手を想定して取材依頼を作成する（提出）
- 第13週 取材の方法論（事前準備／聞きたい内容／録音／メモ）
- 第14週 インタビューの実践。コラムにまとめる
- 第15週 前週に書いたコラムの発表。タイトルつけ

**【事前・事後学修】**

事前学修：次の授業内容について事前に調べておく（毎回、次までに用意すべきもの、調べておくべき内容を伝えます）。120分程度。

事後学修：学んだ内容について自分の言葉で概要をまとめる。理解が不十分なところがないか確認する。120分程度。

**【テキスト・教材】**

- ・特にありません。
- ・毎回、授業のレジュメを配布、関連資料も随時提示します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

発表（3割）と授業態度（3割）と提出物（4割）で評価します。事後学修でまとめたものを次の授業の冒頭で回収し、必要に応じて疑問点などをシェアします。

**出版文化史**

近代日本の出版文化

掛野 剛史

1・2年 後期 2単位

○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

この授業では、現代にまで続く日本の出版文化の展開を歴史的に考察していきます。明治期以降の出版文化を取り巻くトピックを取り上げ、この時期の出版文化についての理解を深めるとともに、具体的な出版社と出版物を取り上げて、より個別の問題を現代につながる問題とからめて考察します。

自分の身近にある物事を歴史的に考えてみることで、新しい発見や気づきがあるはずです。実際のモノを可能な限り用意し、知的好奇心を刺激する授業になることを目指したいと思います

**【授業における到達目標】**

- ・身の回りのことと関連付けながら、出版文化について歴史的に考察する態度を身に付ける。【国際的視野】
- ・さまざまな文献や情報から幅広い視野をもって、出版文化を歴史的に考察することができるようになる。【研鑽力】

**【授業の内容】**

- 第1週 授業の内容、目標確認。受講意識確認。
- 第2週 出版文化の諸相
- 第3週 奥付から見る出版文化① 奥付を解剖する
- 第4週 奥付から見る出版文化② 奥付を比較する
- 第5週 奥付から見る出版文化③ 奥付を分析する
- 第6週 判型から見る出版文化① 「文庫」という書物
- 第7週 判型から見る出版文化② 「新書」という書物
- 第8週 図書館から見る出版文化① 図書館所蔵の本
- 第9週 図書館から見る出版文化② デジタルコレクション
- 第10週 法律と出版文化① 検閲という制度
- 第11週 法律と出版文化② 検閲の実態
- 第12週 著者と出版文化① 原稿から見えるもの
- 第13週 著者と出版文化② 編集について
- 第14週 著者と出版文化③ 印刷について
- 第15週 まとめ（レポートに向けて）

**【事前・事後学修】**

【事前学修】授業内容を振り返りながら、指示された文献などを読んでおき、疑問点などを考えておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業内容を振り返りながら、理解したことや疑問点をまとめ、レポートに備えること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを使用します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート50%、平常点（コメントペーパー）50%  
コメントペーパーは毎回授業の終わりに書く。三段階で評価し、取り上げるべきものは次回授業冒頭で紹介。

**【参考書】**

授業内で適宜指示します。

**【注意事項】**

授業内では、個人でまたはグループで考えて発言してもらったり、コメントを書いてもらったりしますので、主体的な受講態度を求めます。受講者の了解を得た上で、受講人数によって授業の進め方を変える可能性があります。

## 出版文化論 a

テーマから見た印刷出版の歴史

寺本 美奈子

1年～ 前期 2単位

○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

「出版文化」をこれを支える印刷技術とともにその歴史を紐解いてみると、書籍、雑誌に限らず、版画や地図、広告、新聞など様々な印刷・出版物が世に生み出され、私たちは、これらの印刷・出版物から、言語や社会、文化、風俗、科学、芸術など幅広い情報や知識を得る恩恵を受けてきました。それは、「伝えたい」「知りたい」といった欲求と、印刷とが結びつくことで可能となったものです。

この授業では、印刷・出版の歴史を学ぶとともに、これまで我々が培ってきた文字や画像による表現技術や手法、そしてこれらが社会、文化の発展に果たしてきた役割や意義について考察します。

### 【授業における到達目標】

印刷技術と出版活動の結びつきを歴史的視点から理解し、印刷物により広がった知識や思想、洋の東西の交流の例を知ることを通じて、広い視野と深い洞察力を身につけ、柔軟で豊かな思考と本質を見抜く力を育みます。

### 【授業の内容】

1. 日本の印刷・出版の歴史
2. 西洋、中国の印刷・出版の歴史
3. 印刷が支えた江戸時代の出版文化① 古活字版の世界
4. 印刷が支えた江戸時代の出版文化② 出版ジャンルのひろがり
5. 明治・大正の雑誌メディア
6. 西洋における書物の誕生
7. 百科事典・博物誌の世界① 東アジア
8. 百科事典・博物誌の世界② 西洋
9. 異文化交流と印刷・出版
10. 書籍見本市
11. 庶民文化と版画の世界
12. 近代日本の広告出版
13. 報道と印刷・出版
14. 近代教育を支えた教科書
15. まとめ

### 【事前・事後学修】

毎回配布するプリントを次回までに3時間程度復習しておいてください。

授業内で告知する、次回のキーワードを1時間程度予習しておいてください。

### 【テキスト・教材】

レジュメを配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極参加）（30%）

期末レポート（70%）

レポートの結果、特に全般的に理解が不十分な部分についてのまとめをフィードバックします。

## 出版文化論 b

文字と製本：ブックデザインと本の歴史

寺本 美奈子

1年～ 後期 2単位

○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

本を所有する理由の一つに「デザインに惹かれた」ということがあります。このことは、電子書籍が普及しつつある現在、紙の本を所有する理由としてこれまで以上に重要なキーワードになるでしょう。

他分野のデザインと同様に本のデザインもまた、その形にいたるまでの様々な理由が存在しますが、コンピューターと編集ソフトで作業が進められる現代では、なかなかそれが見えないのが実情です。

この授業では、まず、本はどのようにして現在のようなたたずまいを持つようになったのか、タイポグラフィ、印刷、製本の歴史をたどります。そして最終的に現代のブックデザインを考察します。

### 【授業における到達目標】

人間の英知である本が、洋の東西で古からの人々によっていかに形作られてきたかということを知ることを通じ、学ぶ愉しみを知ることを目指します。

### 【授業の内容】

1. 現在日本の本を取り巻く状況
2. 本の構造とデザイン要素
3. 本に記す（西洋のカリグラフィからタイポグラフィ）
4. 文字の印刷と西洋のタイポグラフィ
5. 文字の印刷と日本のタイポグラフィ
6. 図版印刷と表現
7. 製本の歴史①（日本／ヨーロッパ）
8. 製本の歴史②（ヨーロッパ近代）
9. 欧米のブックデザイン①
10. 欧米のブックデザイン② 第二次世界大戦以降
11. 日本のブックデザイン①
12. 日本のブックデザイン② 第二次世界大戦以降
13. ヨーロッパのブックデザインコンクール
14. 日本のブックデザインコンクール
15. まとめ

### 【事前・事後学修】

毎回配布するプリントを次回授業までに3時間程度復習してください。

授業内で告知する、次回のキーワードを1時間程度予習しておいてください。

### 【テキスト・教材】

毎回プリント等の資料を配付します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極参加、課題提出）（40%）

期末レポート（60%）最終授業で総括を行います。

**初等教科教育法（音楽）**

長谷川 恭子・越山 沙千子

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、協働力

指導要領解説（音楽）を文部科学省のサイトからダウンロードし、プリントアウトしておくこと。さらに、『小学校学習指導要領解説 音楽編』（現行、平成29年告示）を読んでおくこと。

**【授業のテーマ】**

小学校教の音楽科を担当するために必要である基礎的な知識と技術を、演習や講義をとおして身につける。

小学校学習指導要領音楽編は、音楽科教育の指針となるものである。この授業では、小学校学習指導要領音楽編の内容を理解し、小学校で扱う教材を知り、指導者に相応しい概念を持つことを目的とする。また、小学校の音楽教育の系統性について理解を深める。

**【授業における到達目標】**

この教科では、全科教員が小学校の音楽科を担当するための概念および実践力を学修することを目的とする。具体的には、初等音楽科教育の指導内容を理解し、自身の教育理念について考えを深めながら、授業計画ができるようにする。

これらの学修をとおして、全学DPの〈態度：知を求め、心の美を育む態度【美の探求】〉—「①人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度」および〈能力：相互を生かして自らの役割を果たす力【行動力】〉—「②目標を設定して、計画を立案・実行できる」が育成されることを目標とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション、音楽教育の今日的課題
- 第2週 小学校学習指導要領音楽編の理解1：目標
- 第3週 小学校学習指導要領音楽編の理解2：内容（1）表現
- 第4週 小学校学習指導要領音楽編の理解3：内容（2）鑑賞
- 第5週 小学校学習指導要領音楽編の理解4：内容（3）共通事項、音楽の指導計画
- 第6週 音楽活動の指導と教材1：歌唱
- 第7週 音楽活動の指導と教材2：器楽
- 第8週 音楽活動の指導と教材3：音楽づくり
- 第9週 音楽活動の指導と教材4：鑑賞
- 第10週 音楽活動の指導と教材5：評価
- 第11週 指導案の検討と作成1：教材の検討
- 第12週 指導案の検討と作成2：授業内容計画、基礎指導の系統性
- 第13週 模擬授業 Aグループ
- 第14週 模擬授業 Bグループ
- 第15週 模擬授業 Cグループ、まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】授業内容に該当する教科書の部分を読んでおくこと。歌唱指導の模擬授業を分担して行うので、指導内容や伴奏を練習しておくこと。分担が当たっていない場合は、楽曲の歌唱練習をしておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業内容をノートにまとめ、指導者を目指す者として考えたことを記すこと。レポートや課題発表準備に取り組み、授業で扱った楽曲の実技練習をすること。（学修時間 週2時間30分）

**【テキスト・教材】**

初等科音楽教育研究会編『最新初等科音楽教育法（改訂版）』（音楽之友社 2011年）2,052円。『小学校学習指導要領解説 音楽編』（文部科学省／教育芸術社 2008年）370円。配布資料。配布資料はノートに貼付けるなどして、ひとまとめにすること。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

成績評価の方法・基準は、提出物（30%）、模擬授業（30%）、実技（20%）、授業態度（20%）とする。課題発表などに対する指導をフィードバックとするが、特に最終の模擬授業については、指導をふまえ、修正指導案を提出すること。

**【参考書】**

小学校音楽科教科書・指導書（教育芸術社、教育出版、東京書籍）  
宮崎新悟・志民一成編著『平成29年版 小学校 新学習指導要領の展開 音楽』（明治図書 2017年）1,800円。

**【注意事項】**

初回までに、平成29年告示の小学校学習指導要領および小学校学習

**初等教科教育法（家庭）**

馬場 由子

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

家庭生活を大切にし、持続可能な社会の担い手となる生活者を育てる家庭科の学習内容を学び、指導方法を考える。時代の変化と今を生きる子ども達のニーズに即した課題を解決する力を養い、実践的態度を育てる学習題材を模索する。実践的・体験的学習を通して、自らの実践力を高める。自分自身の生活を見つめ直し、家庭科を学ぶ意味を考える。家庭科教育について理解を深め、家庭科指導に必要な基礎的知識・技能の習得及び実践力育成のため、調理と裁縫実習、年間指導計画と指導案を作成し模擬授業を行う。班活動を通じ協働の学びを体験する。

**【授業における到達目標】**

- ・実践的・体験的学習を通して、自らの実践力を高める
- ・家庭科教育について理解を深める
- ・家庭科指導に必要な基礎的知識・技能の習得
- ・年間指導計画と指導案作成
- ・班活動を通じ協働の学びを体験する。

**【授業の内容】**

- 第1週 教育課程の変遷と家庭科の学び  
課題①年間指導計画  
課題②生活レポート
- 第2週 家族・家庭生活に関する学習内容と指導法  
課題②生活時間調べ
- 第3週 持続可能な社会の担い手としての観点から住生活を考える  
課題③オリジナル題材
- 第4週 衣生活に関する学習内容と指導法  
課題⑤運針練習
- 第5週 裁縫実習（生活に役立つ物の製作）  
課題⑥制作作品
- 第6週 作品鑑賞会（協働の学びの観点で作品評価）
- 第7週 食生活に関する学習内容と指導法  
課題⑦食事調べ
- 第8週 持続可能な社会の担い手としての観点から食生活を考える  
課題⑧炊飯実習プリント
- 第9週 調理実習（米飯文化に学ぶ）
- 第10週 消費生活・環境に関する学習内容と指導法
- 第11週 指導案の作成方法と評価  
課題⑨指導案作成
- 第12週 模擬授業①指導案作成のための教材研究（情報機器及び教材の活用を含む）  
課題⑩教材製作
- 第13週 模擬授業②模擬授業実践
- 第14週 これからの家庭科教育の課題
- 第15週 まとめと期末定期試験

**【事前・事後学修】**

【事前学修】講義内容に関する指導要領の頁を精読すること。裁縫実習と調理実習の予習課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義内容を復習し、必要な情報を収集すること。出された課題に取り組む期限内に提出こと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

「小学校学習指導要領解説家庭編」東洋出版社、「新しい家庭科5・6」東京書籍、「小学校5・6わたしたちの家庭科」開隆堂  
※これらのテキストに関しては、授業開始時に指示する。  
家庭科ワークノート「身近な消費生活と環境（教師用）」地域教材社 2018年度版 290円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験と課題（55%）、毎回の授業の最後に提出するリアクションペーパーと模擬授業（45%） 課題やリアクションペーパーのフ

ィードバックは次週返却時に、模擬授業は授業時にコメントする。

**【参考書】**

授業中に適宜資料を配布、「作る手が子どもたちを輝かす」地域教材社 2009年3月 2100円、「アクティブラーニングが育てるこれからの家庭科」地域教材社 2017年2月 1500円、「わたしがつくる朝ごはん」地域教材社 300円

**【注意事項】**

- ・指導要領を精読すること。
- ・課題は期限内に必ず提出すること。
- ・授業予定表で課題や持ち物を確認し、忘れ物をしないこと。
- ・調理実習や裁縫実習で使用するエプロン、三角巾、布巾を準備すること。
- ・包丁の使い方と運針の練習をすること。
- ・アンテナをたてて必要な情報を収集すること



**初等教科教育法（国語）**

小学校「ことばの学習室づくり」⇔「国語科の授業創造」

南雲 成二

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

**【授業のテーマ】**

小学校学習指導要領に示される国語科教育の「目標」「内容」「言語活動とその充実」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」等の基本を学ぶ。特に「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」を中心として第1～6学年までの内容と身に付ける力（言語力）を見通し、幼保小連携・小中連携を視野に入れた小学校国語科教育の役割使命を理解する。併せて、自らの言語活動を通して、今求められている指導法の基礎的な素養を習得し、教師として必要な指導観を身につける。

さらに、教師となる上で自分自身の課題を明確にするとともに、国語を適切に表現し、正確に理解する能力をさらに伸長し、伝え合う力をより高めるとともに、思考力や想像力を鍛え、言語感覚をより豊かで確かにしつつ、国語に対する関心を一層深め、国語を尊重する実践力を育む。

**【授業における到達目標】**

小学1年生～6年生までの言語教材（A・B・C領域の国語科単元）を、学び手の学習実態・生活実態に照らして分析することができるようになる。次に教育方法・技術を吟味しながら、一人ひとりがわかる・できる・もっとやりたくなる国語科学習室＝授業＞をどうしたら産み出していくことができるか理解することができる。そして、国語科授業研究（設計・評価・改善）を通して、学生が修得すべき「行動力」①現状を正しく把握し、課題を発見できる力、②目標を設定して、計画を立案・実行できる力、③プロセスや成果を正しく評価し、問題解決につなげることができる力、を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1回：オリエンテーション（授業の目的と内容、進め方）
- 第2回：新学習指導要領に基づく国語科学習指導のデザインと＜言語活動の充実＞＜単元構成の原理と方法＞
- 第3回：「話すこと・聞くこと」の学習指導の展開 ①理論編
- 第4回：「話すこと・聞くこと」の学習指導の展開 ②実践編
- 第5回：「書くこと」の学習指導の展開 ①理論編
- 第6回：「書くこと」の学習指導の展開 ②実践編
- 第7回：「読むこと（文学的文章）」の学習指導 ①理論編
- 第8回：「読むこと（文学的文章）」の学習指導 ②実践編
- 第9回：「読むこと（説明的文章）」の学習指導 ①理論編
- 第10回：「読むこと（説明的文章）」の学習指導 ②実践編
- 第11回：「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の学習指導①（書写・文字に関する事項）
- 第12回：「同上」学習指導②（伝統的な言語文化に関する事項）（言葉の特徴やさまじりに関する事項の学習指導）
- 第13回：国語科学習指導案の作成＜3領域1事項から選択グループワーク＞
- 第14回：模擬授業の展開と授業反省の観点把握（授業記録を基にした学習指導の振り返り、授業分析等）
- 第15回：国語科における評価＜学習評価活動の充実と授業改善＞  
※東京都・神奈川県・埼玉県等の小学校研究発表会「授業参観」を実施する。校内重点研から全国発表会レベルまで幅広く。

**【事前・事後学修】**

- 【事前学修】授業内容の各回ごとに、要点整理・レポート・ワークシート・発表等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）
- 【事後学修】発表やレポート、補助資料・ワークシート等の内容を復習すること。次回の授業範囲を予習し「学び手も教え手も共に納得のいく国語科学習」の要点をつかむこと。学習指導要領（解説・評価改善資料）に立ち返り、教科書指導書や学習指導案を点検し、自分ならこのような「国語科授業創造を試みる」というレポートを積み上げる。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

- ・文科省『小学校学習指導要（国語科編）』（2008年版と2017年版）

- ・文科省『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料小学校 国語編』（2011年版、教育出版 290円＋税）
  - ・現行小学校教科書（光村図書版、東京書籍版、教育出版版等）
  - ・井上一郎・南雲成二・永池啓子編著『豊かな言語活動を図る単元の構想』（東洋館 2010.2刊 税込2160円）他
  - ・「小六教育技術3月号増刊2018指導要録～記入のポイントと文例」（小学館 1620円＋税）
- ※テキスト・教材についての詳細は授業時に説明・指示します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への積極的な参加及び発表・交流学习への参加態度）40%、課題レポート（指導案、授業記録等ポートフォリオ）40%、模擬授業・発表・小テスト等20%により総合的に評価する。実施した小テストは次回授業、課題レポートやポートフォリオはまとめの授業や最終授業で解説し、フィードバックを行う。

**【参考書】**

公開を伴う授業参観体験、小学校の先生方が手塩にかけて制作した「国語科学習指導案」も貴重な学習参考書としていく。

**初等教科教育法（算数）**

小学校の算数の教材研究と、その指導法

渡辺 敏

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

**【授業のテーマ】**

学習指導要領解説に示されている小学校算数科の各学年の指導内容を算数的活動を通して理解する。算数の授業参観を行い、児童が主体的に取り組む授業の進め方を理解する。学習した内容を基に指導案を作成し、模擬授業を行い、実践力を高める。

**【授業における到達目標】**

日本の算数教育を国際的視野から概観し、その良さを考えることで「国際的視野」を培います。学習した教材を、自分で指導案にし、模擬授業を行い、その振り返りを協働で行うことで「研鑽力」、「行動力」、「協働力」を身に付けます。15回の講義を通して、よりよい算数の授業、またその指導法を考えることで「美の探求」の態度を培います。

**【授業の内容】**

第1週	1年生の教材開発	数の合成、たし算とひき算
第2週	2年生の教材開発	かけ算の意味理解
第3週	3年生の教材開発	わり算の意味理解（等分除と包含除）
第4週	4年生の教材開発	数の拡張と筆算
第5週	5年生の教材開発	×小数、÷小数の計算と数直線の利用
第6週	6年生の教材開発	分数のかけ算、わり算の意味理解
第7週	6年生の教材開発	比例
第8週	算数の授業観察	低学年を中心に
第9週	算数の授業観察	高学年を中心に
第10週	指導案の書き方	
第11週	指導案検討	
第12週	模擬授業とその話し合い	数と計算
第13週	模擬授業とその話し合い	図形
第14週	模擬授業とその話し合い	量と測定
第15週	模擬授業とその話し合い	数量関係

**【事前・事後学修】**

【事前学修】各学年の指導内容について学習指導要領解説をよく読んでくること。また、学習指導要領解説に関するテストを行うので予習すること。（事前学修 週2時間）

【事後学修】各学年の指導について児童が主体的に取り組む指導法を考えること。テストを直し、指導内容の理解を深めること。（事後学修 週2時間）

**【テキスト・教材】**

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数科編』（東洋館出版 2018年刊行予定）

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

指導案作成30%、課題レポート30%、グループワーク20%、テスト20%等により評価する。レポートにはコメントを入れてフィードバックします。

**【参考書】**

坪田耕三著『算数的思考法』（岩波新書 2014年）720円 坪田耕三著『算数授業のつくり方』（東洋館出版社 2010年）1500円

**【注意事項】**

講義では具体的な操作を行うことが多いので、のり、はさみ、定規、分度器、コンパスはいつも用意しておくこと。

**初等教科教育法（社会）**

笹川 啓一

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

**【授業のテーマ】**

小学校社会の目標、内容、方法、評価の関連を意識しつつ、公民的資質の基礎を養う教育法の習得を目指します。そのために、年間指導計画、単元指導計画、研究授業を想定した本時案を作成します。また、本授業では、前期に学んだ小学校社会科の理念や特色を踏まえて、児童が興味や意欲を持って取り組める社会科教育法の習得を目指します。

具体的には受講生が自ら作成した学習指導案を基にした模擬授業を行い、その活動を通じて受講生が小学校社会科に対する関心や理解等を一層深め、上記のような授業実践能力を身につけることを目標とします。

**【授業における到達目標】**

本科目はディプロマポリシーの「課題解決のために主体的に行動する力」の習得と関連します。具体的には以下の項目です。

1. 小学校学習指導要領に則って社会科の目標を設定し、それを踏まえた年間指導計画、単元指導計画、本時案の3つの教育計画を作成できるようになる。そして、それらを理解したうえで、児童や地域の実態に即した授業を行うことができるよう力を身につける。
2. 模擬授業で得た反省や課題を踏まえて、よりよい授業を行うために必要な問題解決能力（問題を解決する力と新たな問題を発見する力）を身につける。

**【授業の内容】**

第1週	社会科の特徴と基本的課題
第2週	小学校学習指導要領（社会科）の目標と内容
第3週	指導計画の作成（1）指導計画の種類と書き方
第4週	指導計画の作成（2）年間指導計画の作成
第5週	指導計画の作成（3）単元指導計画の作成と評価規準
第6週	指導計画の作成（4）単元指導計画と本時案の作成
第7週	指導計画の作成（5）本時案の作成
第8週	模擬授業の準備（1）指導計画の提出と模擬授業の準備
第9週	模擬授業の準備（2）授業ビデオ視聴と模擬授業の準備
第10週	模擬授業（1）模擬授業の準備、担当1の模擬授業
第11週	模擬授業（2）担当2、担当3の模擬授業
第12週	模擬授業（3）担当4、担当5の模擬授業
第13週	模擬授業（4）担当6、担当7の模擬授業
第14週	模擬授業の振り返り、授業改善の方法
第15週	まとめ、復習

**【事前・事後学修】**

【事前学修】課題作成や模擬授業等の準備（学修時間 週2時間）

【事後学修】小学校学習指導要領解説（社会編）や指導書等の精読（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』

※平成29年6月に発表された「小学校学習指導要領解説社会編」を使用します。詳細については、改めて指示をします。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末レポート80%、指導計画の提出20%とします。

レポートは、指示した設問に適切に回答しているか、自分の所見について筋道を立てて論じているかを基準とします。レポートは採点后にコメントをつけて返却します。

指導計画については、模擬授業をよりよい内容にするために、添削したうえで返却します。小学校学習指導要領に準拠しているかどうか、一回の授業内容として適切かなどを見ます。

**【参考書】**

適宜、紹介、指示をします。

## 初等教科教育法（図画工作）

小林 貴史

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、協働力

## 【授業のテーマ】

図画工作科の意義と役割について理解を深め、図画工作科教育に関する基礎的知識及び実践的能力を身につけることを目標とする。

## 【授業における到達目標】

図画工作科の教科としての性格、及び学習指導要領における目標・内容、指導計画の作成などについて理解を深めるとともに、教科の指導に必要な基礎的な能力を養い、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる力を修得する。

## 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション 教育の今日的課題と美術教育の意味
- 第2週 図画工作科教育の歴史と理念Ⅰ（戦前）
- 第3週 図画工作科教育の歴史と理念Ⅱ（戦後）
- 第4週 図画工作科教育の歴史と理念Ⅲ（現代）
- 第5週 子どもの成長・発達と造形活動
- 第6週 学習指導要領と指導の実践
- 第7週 図画工作科の内容と方法・造形遊び
- 第8週 図画工作科の内容と方法・絵に表す
- 第9週 図画工作科の内容と方法・立体に表す
- 第10週 図画工作科の内容と方法・工作に表す
- 第11週 図画工作科の内容と方法・鑑賞
- 第12週 指導計画と学習指導案
- 第13週 授業における具体的な手立てと評価
- 第14週 学習指導案の作成
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

事前学修：レポート、発表などの課題に取り組むこと。

（学修時間 週2時間）

事後学修：A4サイズのクリアファイルを用意し、授業で配付した資料や課題をまとめ、理解を深めること。

（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』（日本文教出版 2008年）81円＋税

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み（50%）、課題への取り組み及び内容（50%）を総合的に評価する。

提出された課題やレポートは、その内容を授業の中でも取り上げ、全体における学びの共有化を図る。

## 【参考書】

授業の中で適宜紹介します。

## 【注意事項】

授業への出席を大切にすること。

各自、必要な用具・材料を準備すること。（授業の中で適宜連絡します。）

## 初等教科教育法（生活）

生活科の授業研究

渡辺 敏

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

## 【授業のテーマ】

小学校、生活科設置の背景を理解する。そのうえで実際に自分が生活科の内容を体験し、そこでの子どもの学びとその指導方法を考え、理解する。生活科の各学年の内容の系列を理解したうえで、指導案を作成し模擬授業を行う。模擬授業とその話し合いを通して教師になるための実践力を高める。

## 【授業における到達目標】

小学校生活科の歴史的な変遷を諸外国の教育事情と比較し考えることで「国際的視野」を培います。実際の見学や教材研究、指導案作成、模擬授業とその話し合いを通して「研鑽力」、「行動力」、「協働力」を身に付けます。15回の授業を通してよりよい生活科の授業を考えることで「美の探求」の態度を身に付けます。

## 【授業の内容】

- 第1週 幼児教育と生活科の繋がり
- 第2週 生活科と総合的な学習の時間との関連
- 第3週 生活科の内容
- 第4週 生活科、学校探検の方法
- 第5週 生活科、学校探検のまとめと発表
- 第6週 生活科、町探検の方法
- 第6週 生活科、町探検の実践
- 第7週 生活科、町探検のまとめと発表
- 第8週 生活科の指導案の作成
- 第9週 生活科の指導案の検討
- 第10週 生活科の模擬授業 スタートカリキュラムに関わること
- 第11週 生活科の模擬授業 主に自分と人や社会に関わること
- 第12週 生活科の模擬授業 主に自分と自然に関わること
- 第13週 生活科の模擬授業 主に自分自身に関わること
- 第14週 生活科の模擬授業 主に生活特有の学びに関すること
- 第15週 生活科、まとめのレポート作成と話し合い

## 【事前・事後学修】

【事前学修】生活科の指導内容とそのねらいを学習指導要領解説を読んでよく理解しておくこと。テストに向けて予習をすること。自分が行いたい生活科の授業案を考えること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】テストの復習をすること。模擬授業の振り返りをし、より良い授業について考えること（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

文部科学省『小学校学習指導要領解説 生活編』（東洋館出版 2018年刊行予定）

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

生活科探検のまとめ30%、生活科まとめのレポート30%、グループワーク20%、テスト20%等により評価する。生活科探検のまとめ、生活科まとめのレポートにはコメントを入れてフィードバックします。

## 【参考書】

講義の中で紹介する。

## 【注意事項】

町探検をする時には、新撰組の歴史や日野の地理的役割について理解する事。  
模擬授業では子どもたちが主体的に取り組む学習を考えて指導案を作成すること。

## 初等教科教育法（体育）

島崎 あかね

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

現代社会における小学校体育の意義を理解し、小学校学習指導要領「体育」の内容を的確に踏まえた授業設計の視点を学びます。各領域の内容を演習により体験しながら、「ねらい」と「ねらい」を効果的に習得していくための教材の選び方、指導方法、評価の視点、授業設計のあり方を学習し、児童が運動の本質的な楽しさに触れ、運動に対して肯定的な姿勢を形成することに資する授業の構成力と指導力の育成をテーマとします。

## 【授業における到達目標】

- ・実際に学習指導案を作成し、模擬授業を行うことにより、授業計画・観察方法・学習評価の視点を総合的に学び、体育科における指導方法の修得を目指します。
- ・学習指導要領の内容に基づき、子どもの実情に応じた目標を設定して計画を立案・実行することができる「行動力」の修得を目指します。

## 【授業の内容】

- 第1週 小学校体育の概要と体育科の領域内容
- 第2週 明治以降の体育の変遷と学習指導要領の変遷
- 第3週 運動における「楽しさ」と生涯スポーツ
- 第4週 「体づくり運動」のねらいと授業設計（演習）
- 第5週 「器械運動系」のねらいと授業設計（演習）
- 第6週 「陸上運動系」のねらいと授業設計（演習）
- 第7週 「ボール運動系」のねらいと授業設計（演習）
- 第8週 「表現運動系」のねらいと授業設計（演習）
- 第9週 「水泳系」のねらいと授業設計
- 第10週 保健領域の指導について
- 第11週 授業計画の実際＜学習指導案の作成＞
- 第12週 授業計画の実際＜学習指導案の作成と学習評価の視点＞
- 第13週 体育授業の観察方法、模擬授業と授業観察の実践①
- 第14週 模擬授業と授業観察の実践②
- 第15週 模擬授業と授業観察の振り返り

## 【事前・事後学修】

【事前学修】今までに自分が経験した運動について振り返っておくとともに、自分自身が身体を動かすことについて関心を持っておきましょう。（学修時間 週2時間）

【事後学修】毎回の授業を振り返り、指導計画の立案など翌週に繋げよう体験的な学びを深めましょう。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 体育編』（詳細は授業時に指示する）

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

講義内容の確認レポート30%、学習指導案作成および模擬授業実施60%、授業姿勢（授業への積極性、運動する服装、準備物等含む）10%で総合的に評価します。  
演習授業で修得した内容を模擬授業に反映させ、確認レポートおよび模擬授業の内容について、次回授業時に解説や振り返りによるフィードバックを行います。

## 【参考書】

- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター『評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校 体育】』（2011年 305円+税）教育出版
- ・文部科学省 学校体育実技指導資料 第4集（2014年 1480円+税）株式会社アイフィス
- ・文部科学省 学校体育実技指導資料 第7集（2013年 1300円+税）第8集（2010年 1800円+税）第9集（2015年 1700円+税）第10集（2015年 1800円+税）東洋館出版社

## 【注意事項】

演習授業は、運動着・運動用シューズを必ず着用してください。

## 初等教科教育法（理科）

小島 敏光

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

## 【授業のテーマ】

小学校理科の目標、内容、評価等について改めて学び、具体的な授業実践事例をもとに理科教育法の理解を深める。その上で、子供の自然認識に基づく授業のあり方、教材づくり、予備観察・実験、指導案作成、模擬授業実践、授業検討会等を行い、理科授業を構成する実践力を修得する。

## 【授業における到達目標】

- ・理科教育法の理解を深めるとともに、理科授業を構成する実践力（予備観察・実験、指導案作成、授業展開等）を修得する。
- ・学生が身につけるべき「研鑽力」のうち、学修成果を実感して自信を創出できる力と、「行動力」のうち、目標を設定して計画を立案・実行できる力を特に意識して修得する。

## 【授業の内容】

- 第1回：学力調査の結果と理科の資質・能力
- 第2回：小学校理科が目指す授業
- 第3回：小学校理科で求める授業力
- 第4回：小学校理科の授業1（実習生）
- 第5回：小学校理科の授業2（指導教官）
- 第6回：問題解決の指導過程・子供の見方・考え方
- 第7回：学習指導案の構成内容と教材の作成
- 第8回：教材研究と予備観察・実験
- 第9回：模擬授業と検討会1
- 第10回：模擬授業と検討会2
- 第11回：模擬授業と検討会3
- 第12回：模擬授業と検討会4
- 第13回：現代的課題1（校種間の系統性、他教科との連携、総合的な学習、環境教育）
- 第14回：現代的課題2（次期学習指導要領への取組）
- 第15回：理科授業の評価と評価規準、まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業のまとめ、考察等のレポート課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

文部科学省『小学校学習指導要領解説理科編』（大日本図書2008）65円  
適宜、教材を配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極参加）20%、授業後のレポート40%、提出課題40%により、総合的に判断します。  
授業後のレポートは、次回授業、提出課題は、授業最終回でフィードバックを行う。

## 【参考書】

適宜、授業の中で紹介します。

## 【注意事項】

教職に就くことを前提に授業を進めていきます。意欲をもって、積極的に取り組み、小学校理科の授業実践力を身に付けてほしい。

**書学概論**

～実用書道～

亀田 絵里香

2年～ 前期 2単位

◎：美の探求 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

パソコンやスマートフォンの普及に伴い、文字は書く行為から打つ行為へと変化を遂げる中、一方では「美しい手書き文字」が再評価されています。

講義を中心に演習を通じて、ひらがなや漢字の文字美の基礎基本について学びます。

氏名や住所・履歴書などの実用書から、祝儀・不祝儀などの儀礼の書まで、日本語社会に生きるために必要な書を学びます。文字美や書式のマナーまで学術的に検証し体得する事を目的とします。

**【授業における到達目標】**

国際的視野が不可欠な現代にあって、日本の文化・精神を知り、世界に発信するためには日本語の文字文化に精通することが必要です。手書き文字は機械では表現しえない美しさを持ちます。美しい文字は一朝一夕でその書技を習得できません。文字美の基礎基本を徹底して学び、日本語社会を豊かに生きるためのスキルを身に付けます。皆さんに修得してほしい【研鑽力】のうち、学修成果を実感して、自信を創出することができる人間になってほしいと思います。人一倍の努力を期待します。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 線の練習・ひらがなの練習①
- 第3週 ひらがなの練習②
- 第4週 漢字の基本点画
- 第5週 〈漢字〉字形の整え方①点画の組み立て方
- 第6週 〈漢字〉字形の整え方②部分の組み立て方
- 第7週 〈漢字〉字形の整え方③全体の整え方
- 第8週 名前の練習（楷書と行書）
- 第9週 住所の練習
- 第10週 葉書と封筒の書き方
- 第11週 履歴書の書き方
- 第12週 履歴書の練習
- 第13週 祝儀袋 他
- 第14週 縦書きと横書きの文章の練習
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

【事前学修】上記授業の内容から予想される範囲を予習し練習をしてくること。自分の文字の短所や課題を予め確認しておくこと。確認テストなどの対策に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義終了時に配布する復習プリントに取り組むこと。翌週の講義開始時に提出。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

宮澤正明編『新・字形と筆順』（光村図書出版）1,800円  
筆記用具 サインペン（110円、初回授業で紹介します。）  
ソフト下敷き

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

確認テスト20%、平常点40%（提出課題、書く姿勢、筆記用具の持ち方、書技力）、試験40%。テストや作品のフィードバックは都度行う。

**【注意事項】**

穏やかな気持ちで文字を「書く」行為は、集中力を高め精神的にも満たされます。文字を丁寧に書こう、美しく書こうという気持ちを大切にしてください。

**書学概論**

～実用書道～

亀田 絵里香

2年～ 前期 2単位

◎：美の探求 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

パソコンやスマートフォンの普及に伴い、文字は書く行為から打つ行為へと変化を遂げる中、一方では「美しい手書き文字」が再評価されています。

講義を中心に演習を通じて、ひらがなや漢字の文字美の基礎基本について学びます。

氏名や住所・履歴書などの実用書から、祝儀・不祝儀などの儀礼の書まで、日本語社会に生きるために必要な書を学びます。文字美や書式のマナーまで学術的に検証し体得する事を目的とします。

**【授業における到達目標】**

国際的視野が不可欠な現代にあって、日本の文化・精神を知り、世界に発信するためには日本語の文字文化に精通することが必要です。手書き文字は機械では表現しえない美しさを持ちます。美しい文字は一朝一夕でその書技を習得できません。文字美の基礎基本を徹底して学び、日本語社会を豊かに生きるためのスキルを身に付けます。皆さんに修得してほしい【研鑽力】のうち、学修成果を実感して、自信を創出することができる人間になってほしいと思います。人一倍の努力を期待します。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 線の練習・ひらがなの練習①
- 第3週 ひらがなの練習②
- 第4週 漢字の基本点画
- 第5週 〈漢字〉字形の整え方①点画の組み立て方
- 第6週 〈漢字〉字形の整え方②部分の組み立て方
- 第7週 〈漢字〉字形の整え方③全体の整え方
- 第8週 名前の練習（楷書と行書）
- 第9週 住所の練習
- 第10週 葉書と封筒の書き方
- 第11週 履歴書の書き方
- 第12週 履歴書の練習
- 第13週 祝儀袋 他
- 第14週 縦書きと横書きの文章の練習
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

【事前学修】上記授業の内容から予想される範囲を予習し練習をしてくること。自分の文字の短所や課題を予め確認しておくこと。確認テストなどの対策に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義終了時に配布する復習プリントに取り組むこと。翌週の講義開始時に提出。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

宮澤正明編『新・字形と筆順』（光村図書出版）1,800円  
筆記用具 サインペン（110円、初回授業で紹介します。）  
ソフト下敷き

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

確認テスト20%、平常点40%（提出課題、書く姿勢、筆記用具の持ち方、書技力）、試験40%。テストや作品のフィードバックは都度行う。

**【注意事項】**

穏やかな気持ちで文字を「書く」行為は、集中力を高め精神的にも満たされます。文字を丁寧に書こう、美しく書こうという気持ちを大切にしてください。

**書芸実習 a**

—楷書と行書の秘密—

松尾 光晴

2年～ 前期 1単位

◎：美の探求 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

前期は、楷書行書を研究していきます。将来書に携わることをご職業を希望するにしても、基礎固めが重要です。高等学校芸術科書道では1年生が学ぶ書体ですが、大学では更に理論と実践を深めて参ります。

**【授業における到達目標】**

様々な楷書行書の書風の特徴を身に付ける。

<態度>

日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度。

物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度。

<能力>

学ぶ楽しさを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることができる。

プロセスや成果を正しく評価し、問題解決につなげることができる。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション、前期概要
- 第2週 用具用材、執筆法、腕法の解説
- 第3週 教科書掲載の古典『九成宮醴泉銘』20、21頁の書法研究
- 第4週 教科書掲載の古典『孔子廟堂碑』18、19頁の書法研究
- 第5週 教科書掲載の古典『雁塔聖教序』22、23頁の書法研究
- 第6週 教科書掲載の古典『顔氏家廟碑』26、27頁の書法研究
- 第7週 教科書掲載の古典『牛ケツ造像記』28、29頁の書法研究
- 第8週 教科書掲載の古典『蘭亭序』40～45頁の書法研究
- 第9週 教科書掲載の古典『風信帖』46～51頁の書法研究
- 第10週 唐の四大家の書き分け「永遠」練習日
- 第11週 唐の四大家の書き分け「永遠」提出日
- 第12週 北魏楷書の古典に立脚した「兩儀」作品制作
- 第13週 『蘭亭序』に立脚した「紅葉」作品制作
- 第14週 『風信帖』に立脚した「心華」作品制作
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

【事前学修】各週のテーマを事前にテキストで予習しておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業後の復習をしておくこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

『書I 6 教図書I 3 0 6』（教育図書株式会社 2017年）490円＋税

※平成29年度版を購入して下さい。

※書店注文でも可能ですが、東部教科書供給株式会社 ☎03-3655-0161でも購入できます。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

毎週毎の提出作品80% 授業への参加度20%

提出作品は原則として次回の授業時に返却。

**書芸実習 a**

—楷書と行書の秘密—

松尾 光晴

2年～ 前期 1単位

◎：美の探求 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

前期は、楷書行書を研究していきます。将来書に携わること職業を希望するにしても、基礎固めが重要です。高等学校芸術科書道では1年生が学ぶ書体ですが、大学では更に理論と実践を深めて参ります。

**【授業における到達目標】**

様々な楷書行書の書風の特徴を身に付ける。

<態度>

日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度。

物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度。

<能力>

学ぶ楽しさを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることができる。

プロセスや成果を正しく評価し、問題解決につなげることができる。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション、前期概要
- 第2週 用具用材、執筆法、腕法の解説
- 第3週 教科書掲載の古典『九成宮醴泉銘』20、21頁の書法研究
- 第4週 教科書掲載の古典『孔子廟堂碑』18、19頁の書法研究
- 第5週 教科書掲載の古典『雁塔聖教序』22、23頁の書法研究
- 第6週 教科書掲載の古典『顔氏家廟碑』26、27頁の書法研究
- 第7週 教科書掲載の古典『牛ケツ造像記』28、29頁の書法研究
- 第8週 教科書掲載の古典『蘭亭序』40～45頁の書法研究
- 第9週 教科書掲載の古典『風信帖』46～51頁の書法研究
- 第10週 唐の四大家の書き分け「永遠」練習日
- 第11週 唐の四大家の書き分け「永遠」提出日
- 第12週 北魏楷書の古典に立脚した「兩儀」作品制作
- 第13週 『蘭亭序』に立脚した「紅葉」作品制作
- 第14週 『風信帖』に立脚した「心華」作品制作
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

【事前学修】各週のテーマを事前にテキストで予習しておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業後の復習をしておくこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

『書I 6 教図書I 3 0 6』（教育図書株式会社 2017年）490円＋税

※平成29年度版を購入して下さい。

※書店注文でも可能ですが、東部教科書供給株式会社 ☎03-3655-0161でも購入できます。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

毎週毎の提出作品80% 授業への参加度20%

提出作品は原則として次回の授業時に返却。



**書芸実習 b**

—草書・隸書・篆書の秘密—

松尾 光晴

2年～ 後期 1単位

◎：美の探求 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

後期は、草書隸書篆書を研究していきます。将来書に携わることご職業を希望するにしても、基礎固めが重要です。高等学校芸術科書道では2年生が学ぶ書体ですが、大学では更に理論と実践を深めて参ります。

**【授業における到達目標】**

様々な草書隸書篆書の書風の特徴を身に付ける。

<態度>

日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度。

物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度。

<能力>

学ぶ楽しさを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることができる。

プロセスや成果を正しく評価し、問題解決につなげることができる。

**【授業の内容】**

- 第1週 教科書掲載の古典『十七帖』38頁の書法研究
- 第2週 教科書掲載の古典『十七帖』38頁の書法研究
- 第3週 教科書掲載の古典『書譜』36、37頁の書法研究
- 第4週 教科書掲載の古典『書譜』36、37頁の書法研究
- 第5週 教科書掲載の古典『曹全碑』29頁の書法研究
- 第6週 教科書掲載の古典『曹全碑』29頁の書法研究
- 第7週 教科書掲載の古典『乙瑛碑』28頁の書法研究
- 第8週 教科書掲載の古典『乙瑛碑』28頁の書法研究
- 第9週 教科書掲載の古典『居延漢簡』30、31頁の書法研究
- 第10週 教科書掲載の古典『泰山刻石』7頁の書法研究
- 第11週 教科書掲載の古典『石鼓文』8～10頁の書法研究
- 第12週 『書譜』に立脚した「人間」作品制作
- 第13週 『曹全碑』に立脚した「地球」作品制作
- 第14週 『泰山刻石』に立脚した「銀河」作品制作
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

【事前学修】各週のテーマを事前にテキストで予習をしておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業後の復習をしておくこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

『新編書道Ⅱ 17 教出書Ⅱ 307』（教育出版株式会社 2017年）490円（内税）

※平成30年度版を購入して下さい。

※書店注文でも可能ですが、東部教科書供給株式会社 ☎03-3655-0161でも購入できます。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

毎週毎の提出作品80% 授業への参加度20%

提出作品は原則として次回の授業時に返却。

**書芸実習 b**

—草書・隸書・篆書の秘密—

松尾 光晴

2年～ 後期 1単位

◎：美の探求 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

後期は、草書隸書篆書を研究していきます。将来書に携わることご職業を希望するにしても、基礎固めが重要です。高等学校芸術科書道では2年生が学ぶ書体ですが、大学では更に理論と実践を深めて参ります。

**【授業における到達目標】**

様々な草書隸書篆書の書風の特徴を身に付ける。

<態度>

日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度。

物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度。

<能力>

学ぶ楽しさを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることができる。

プロセスや成果を正しく評価し、問題解決につなげることができる。

**【授業の内容】**

- 第1週 教科書掲載の古典『十七帖』38頁の書法研究
- 第2週 教科書掲載の古典『十七帖』38頁の書法研究
- 第3週 教科書掲載の古典『書譜』36、37頁の書法研究
- 第4週 教科書掲載の古典『書譜』36、37頁の書法研究
- 第5週 教科書掲載の古典『曹全碑』29頁の書法研究
- 第6週 教科書掲載の古典『曹全碑』29頁の書法研究
- 第7週 教科書掲載の古典『乙瑛碑』28頁の書法研究
- 第8週 教科書掲載の古典『乙瑛碑』28頁の書法研究
- 第9週 教科書掲載の古典『居延漢簡』30、31頁の書法研究
- 第10週 教科書掲載の古典『泰山刻石』7頁の書法研究
- 第11週 教科書掲載の古典『石鼓文』8～10頁の書法研究
- 第12週 『書譜』に立脚した「人間」作品制作
- 第13週 『曹全碑』に立脚した「地球」作品制作
- 第14週 『泰山刻石』に立脚した「銀河」作品制作
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

【事前学修】各週のテーマを事前にテキストで予習をしておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業後の復習をしておくこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

『新編書道Ⅱ 17 教出書Ⅱ 307』（教育出版株式会社 2017年）490円（内税）

※平成30年度版を購入して下さい。

※書店注文でも可能ですが、東部教科書供給株式会社 ☎03-3655-0161でも購入できます。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

毎週毎の提出作品80% 授業への参加度20%

提出作品は原則として次回の授業時に返却。

**書籍製作**

居郷 英司

2年 後期 2単位

○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

1年次前期の「原稿指定入門」では「本文」の指定を学びましたが、この授業の前半では引き続き「表組」「前付」「後付」の指定を学びます。

後半では、学生各自が自分の出版してみたい書籍を企画立案し、実際に仕上げていくために必要なことを学んでいきます。原稿という情報を書籍という物体にするためには、原稿の内容・程度、読者対象、判型、ページ数、本文デザイン、装幀などを考える必要があります。この講義では、こうしたさまざまな要素をトータルに考えていきます。

**【授業における到達目標】**

今までの授業で学修した知識と技術をもとに、自ら出版する企画を立て、その書籍を具体的な形に仕上げていく能力を身につけることを目標とします。一つの目標を設定し、計画を立案し、主体的に実行する行動力を修得します。

**【授業の内容】**

- 第1週 「原稿指定入門」の復習
- 第2週 割付用紙と原稿指定票の作成
- 第3週 「表組」の考え方と指定
- 第4週 前付 (1) 「はしがき」の考え方と指定
- 第5週 前付 (2) 「目次」の考え方
- 第6週 前付 (3) 「目次」の指定
- 第7週 後付 (1) 「索引」の作成法と考え方
- 第8週 後付 (2) 「索引」の指定
- 第9週 書籍の企画の考え方と企画書の作成
- 第10週 企画の提案とディスカッション
- 第11週 企画書の修正と再提案
- 第12週 装幀 (1) 装幀材料の知識と考え方
- 第13週 装幀 (2) ジャケットと帯のラフデザイン作成
- 第14週 装幀 (3) ジャケットと帯のデザイン完成
- 第15週 提出課題の仕上げと講評

**【事前・事後学修】**

【事前学修】前半では、1年前期の学修内容を確認して、授業に臨むようにしてください。後半では、各自で出版したい企画に似た書籍がどのような形態で刊行されているか、小売り書店や図書館などで確認しながら授業に臨むようにしてください。(学修時間 週2時間)

【事後学修】授業中に出された課題を、遅れないでするようにしてください。分からなかったところは次の授業で確認するようにしてください。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

『編集必携 第2版』(日本エディタースクール出版部、2002年)  
1980円+税

使用用具：「印刷文字スケール」、赤・青ペン

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点(授業態度)20%、実習課題80%で評価します。実習課題は授業最終日に講評します。

**書道 a**  
 一文字の仕組みを知って、美しい文字を身につける—  
**和田 朱美**  
 1・2年 前期 1単位  
 ◎：美の探究 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

自らの手で人柄の伝わる温かい文字を書くこと。

**【授業における到達目標】**

日常の文字を美しく、丁寧に書き、実用性を重んじた文字の習得を目指す。日本語表記（特になかな文字）の世界的価値を知り、それを温もりのある手書き文字として表現し、書の美しさを探究する態度を身につける。

文字に対する知識を得、硬筆検定にも積極的に取り組む。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス（美しい文字とは・用具の解説）
- 第2週 ひらがな・カタカナの基本 書写テキスト1 p.3-9
- 第3週 ひらがな・カタカナ（行書にも合うひらがな、ひらがなの字母を知る） 書写テキスト2 p.1-5
- 第4週 楷書の基本点画1 書写テキスト1 p.10-15
- 第5週 楷書の基本点画2 書写テキスト1 p.16-21
- 第6週 行書の基本1 書写テキスト2 p.6-13
- 第7週 行書の基本2 書写テキスト2 p.14-21
- 第8週 行書の基本3（部首を中心に） 書写テキスト2 p.26-35
- 第9週 文章を書く（横書き） プリント
- 第10週 文章を書く（縦書き） プリント
- 第11週 ハガキを書く（暑中見舞い状・年賀状・お礼状等の作成） プリント
- 第12週 手紙を書く（封筒・便箋に書く） プリント
- 第13週 表書き（のし袋）を書く プリント
- 第14週 身上書・履歴書・エントリーシート等を書く プリント
- 第15週 硬筆検定に向けて（実際の問題にあたる）

**【事前・事後学修】**

単元終了時、小テストを課す。

**【事前学修】** テキストをよく見て、まず自分の字で書いてみる。  
 （学修時間 2時間）

**【事後学修】** 添削を受けたものについては、何度も繰り返し練習し次回の授業で確実に書けるようする。（学修時間 2時間）

**【テキスト・教材】**

筆記用具：水性ボールペンまたはデスクペン・万年筆、必要に応じて筆ペン

用紙：九宮格用紙（テキスト販売時に同時購入）

テキスト：

『硬筆書写テキスト1』（日本ペン習字研究会 2002年）500円＋税  
 『硬筆書写テキスト2』（日本ペン習字研究会 2001年）500円＋税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

配分基準：課題清書60%、平常点（授業への取り組み姿勢）20%、小テスト20%

課題清書については、添削し返却する。

小テストは次回の授業で詳しく解説する。

**【参考書】**

必要な場合紹介する。

**【注意事項】**

書くことだけでなく、表書き・手紙等に使われる一般常識も合わせて教示するので、しっかり習得すること。

用筆の基礎と字形のポイントを説明するので、きちんと覚えて家庭でも復習を欠かさないと。

授業で習得した表現力を、普段でも発揮できるように進んで練習に励むこと。

欠席した場合も、課題は後日必ず提出のこと。

受講人数制限40名（制限人数を超えた場合、抽選）

**書道 a**  
 一美しい文字を書く—  
**高城 弘一**  
 1・2年 後期 1単位  
 ◎：美の探究 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

わたくしたちの日常生活にパソコンが発達している現状ではあるが、今なお手書き文字が重んじられている。

この授業では、ボールペンまたは万年筆を使用して、硬筆による美しい文字表現を目指していく。あわせて、さまざまな書式を紹介し、実際にそれに書いていきたいと思う。

**【授業における到達目標】**

・ボールペンまたは万年筆による硬筆で、美しい文字表現を目指し、美を探究する態度を身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス 自己紹介 授業方針・計画の説明
- 第2週 楷書の学習Ⅰ（9～10頁）
- 第3週 楷書の学習Ⅱ（11～14頁）
- 第4週 楷書の学習Ⅲ（15～19頁）
- 第5週 行書の学習Ⅰ（24～26頁）
- 第6週 行書の学習Ⅱ（27～29頁）
- 第7週 楷書・行書で実用語句を書く（39～42頁）
- 第8週 仮名の学習Ⅰ（43～48頁）
- 第9週 仮名の学習Ⅱ（49～53頁）
- 第10週 手紙・はがきの文面を書くⅠ（54、55頁）
- 第11週 手紙・はがきの文面を書くⅡ（56、57頁）
- 第12週 罫線用紙に縦書き 原稿用紙に縦書き（22、23頁）
- 第13週 はがき・封筒の表書き のし袋に書く（31頁）
- 第14週 メモ・連絡文を書く ノートに書く（30～32頁）
- 第15週 履歴書用紙に書く 罫線用紙に横書き（63頁）

**【事前・事後学修】**

・事前：実技等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

・事後：授業内で終えられなかった実技等の課題に取り組むこと。また、実技等の課題を復習しておくこと。

（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

テキスト：コピー教材（無料）を使用

用紙：九宮格書道用紙（有料、1冊300円程度）を中心として使用

※随時プリント（無料）も配付して使用

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常課題と期末課題により、総合評価をする。（提出された課題は最終週までにフィードバックする。）

配分基準：

平常課題（添削回数・参加度） 70%

期末課題 30%

**【参考書】**

『美しく書けるかな書道入門』

（高城弘一、ナツメ社、平成23年8月）1,600円＋税

**【注意事項】**

第1回目の授業時には、詳細な授業方針・授業計画等を提示し、ガイダンスを行なうので、極力欠席しないでほしい。筆記用具のみ持参すること。

平常点を重視する。上達するためには、単に授業の出席だけではなく、自宅での学習も肝要である。

美術館や博物館において、書作品の肉筆資料を鑑賞することも重要である。したがって、展覧会情報なども、随時紹介したい。

受講人数制限40名（制限を超えた場合、抽選）

## 書道 b

—小筆による主に実用書を学ぶ—

和田 朱美

1・2年 前期 1単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

### 【授業のテーマ】

毛筆の特性を生かした文字表現を行う。日常生活に即した内容を小筆で極める。美しい文字表現ができるよう、基礎をしっかりと固める。

### 【授業における到達目標】

中国、日本の書の歴史を学び、現代における書の位置付けを理解するとともに、書の美しさを探求する態度を養う。

書表現により日本の文化・精神を知り、日本特有の伝統美を世界に発信する能力を身につける。

### 【授業の内容】

- 第1週 用具の解説、美しい文字を書くための原則とは
- 第2週 筆の持ち方、線の引き方（簡単な漢字を使って）
- 第3週 漢字の基本（楷書1） 書写テキスト p.3-6
- 第4週 漢字の基本（楷書2） 書写テキスト p.9-13
- 第5週 漢字の基本（行書） 書写テキスト p.21-24
- 第6週 かなの基本（単体） 書写テキスト p.17-18
- 第7週 かなの基本（連綿） プリント
- 第8週 漢字かな交じり語句および文章 書写テキスト p.37-38
- 第9週 楷書と行書の違いを知る 書写テキストp.33-34
- 第10週 表書き（のし袋）を書く 書写テキストp.27-28
- 第11週 はがき、封書の表面を書く 書写テキスト p.29-30
- 第12週 季節の便りを書く プリント
- 第13週 中国、日本の書道史より書体の変遷を学ぶ プリント
- 第14週 生活の中の書を調査する
- 第15週 合同発表会 まとめ

### 【事前・事後学修】

#### 【事前学修】

次回課題を、ペン書きでも良いので文字の特徴を捉えておくこと。（学修時間週2時間）

#### 【事後学習】

添削を受けたところをきちんと復習すること。次回授業までに確実に書けるようにしておくこと。（学修時間週2時間）

### 【テキスト・教材】

- ・テキストとプリントを併用する。
- ・用具は授業開始時に説明するが、書道用具一式【硯（皿の代用可）  
小筆、墨（墨液でもよい）、半紙、下敷、文鎮】は必ず用意すること。
- ・テキスト：『硬筆書写テキスト9』（日本ペン習字研究会 2005年）500円+税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題清書70%、平常点（授業への取り組み姿勢）30%の総合評価。  
課題清書はその場で添削し、注意点を説明する。

### 【参考書】

岡本政弘編『毛筆基本字典』（二玄社 2004年）3400円+税

### 【注意事項】

- ・用具はきちんと揃えること。
- ・筆の持ち方、線の引き方から指導するので、毛筆授業の経験がなくてもよい。ただし基礎を身につけるには、授業中の集中鍛錬が必要となる。また家庭での学習も怠らないでほしい。一過性のものにならないよう、毛筆表現が進んでできるように取り組んでほしい。
- ・欠席の場合、後日課題を提出のこと。
- ・受講人数制限40名（制限人数を超えた場合、抽選）

## 書道科教育法（１）

松尾 光晴

3年 前期 2単位

## 【授業のテーマ】

免許状取得に向け、教育実習を次年度に控えた学生の皆様に、現職の高等学校芸術科書道の現場をお伝えします。

前期は主に高校1年生を対象とした模擬授業の下準備期間として研究していきます。

## 【授業における到達目標】

教育実習や卒業後すぐにでも高等学校芸術科書道の教壇に立てる実践力を修得する。

<態度>

日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度。

物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度。

<能力>

学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることができる。

目標を設定して、計画を立案・実行できる。

## 【授業の内容】

第1週 オリエンテーション、前期概要、高校書道の授業の現場状況

第2週 用具用材、執筆法、腕法の解説

第3週 板書の書き方例、授業の展開について

第4週 全体指導と個別指導

第5週 年間授業計画書例

第6週 教科書掲載の古典『九成宮醴泉銘』20、21頁の書法研究

第7週 教科書掲載の古典『孔子廟堂碑』18、19頁の書法研究

第8週 教科書掲載の古典『雁塔聖教序』22、23頁の書法研究

第9週 教科書掲載の古典『顔氏家廟碑』26、27頁の書法研究

第10週 教科書掲載の古典『牛ケツ造像記』28、29頁の書法研究

第11週 教科書掲載の古典『蘭亭序』40～45頁の書法研究

第12週 教科書掲載の古典『風信帖』46～51頁の書法研究

第13週 仮名と変体仮名の単体、古筆原寸臨書の方法論

第14週 漢字仮名交じり書の解説

第15週 総括

## 【事前・事後学修】

【事前学修】各週のテーマを事前にテキストで予習をしておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業の始めに復習小テストを行います。授業後の復習をしておくこと。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

『書Ⅰ 6 教図書Ⅰ 3 0 6』（教育図書株式会社 2017年）

『新編書道Ⅱ 1 7 教出書Ⅱ 3 0 7』（教育出版株式会社 2017年）

※『書Ⅰ』は平成29年度版、『新編書道Ⅱ』は平成30年度版を購入して下さい。共に490円（内税）

※書店注文でも可能ですが、東部教科書供給株式会社 ☎03-3655-0161でも購入できます。

『高等学校学習指導要領解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編』（教育出版株式会社 2009年）本体290円＋税

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート50% 小テスト30% 授業への参加度20%

レポート、小テスト等の提出物は原則として次回授業時に返却。

## 【注意事項】

「高等学校教諭1種免許状」取得に向け、且つ、教育実習の模擬授業や即戦力として教壇にすぐ立てるよう研究していく授業です。

## 書道科教育法（２）

松尾 光晴

3年 後期 2単位

## 【授業のテーマ】

免許状取得に向け、教育実習を次年度に控えた学生の皆様に現職の生の声を伝え、後期は主に高校1年生を対象とした模擬授業の実践と学習指導案の作成を研究していきます。

## 【授業における到達目標】

教育実習や卒業後すぐに高等学校芸術科書道の教壇に立てるよう実践力を修得する。

<態度>

日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度。

物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度。

<能力>

広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる。

プロセスや成果を正しく評価し、問題解決につなげることができる。

## 【授業の内容】

第1週 学習指導案の書き方

第2週 模擬授業（高校で実際に行っている授業展開の解説）

第3週 教科書21頁『九成宮醴泉銘』の中から連続する二文字を選び模擬授業 グループA（約2人）

第4週 教科書19頁『孔子廟堂碑』の中から連続する二文字を選び模擬授業 グループB（約2人）

第5週 教科書23頁『雁塔聖教序』の中から連続する二文字を選び模擬授業 グループC（約2人）

第6週 教科書27頁『顔氏家廟碑』の中から連続する二文字を選び模擬授業 グループD（約2人）

第7週 教科書29頁『牛ケツ造像記』の中から連続する二文字を選び模擬授業（個人）

第8週 教科書41頁『蘭亭序』の「永和九年」の模擬授業（個人）

第9週 教科書40頁『蘭亭序』の「天朗気清」の模擬授業（個人）

第10週 教科書51頁『風信帖』の「風信雲書」の模擬授業（個人）

第11週 教科書46頁『風信帖』の「自天翔臨」の模擬授業（個人）

第12週 教科書94～96頁『高野切第一種』の中から和歌一首を選び模擬授業（個人）

第13週 教科書98頁『寸松庵色紙』の「むめのかを～」の模擬授業（個人）

第14週 漢字仮名交じり書の模擬授業（個人）

第15週 総括

## 【事前・事後学修】

【事前学修】模擬授業前までに当日担当の学生は、学習指導案を制作しておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】模擬授業、小テスト等を復習すること。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

『書Ⅰ 6 教図書Ⅰ 3 0 6』（教育図書株式会社 2017年）

『新編書道Ⅱ 1 7 教出書Ⅱ 3 0 7』（教育図書株式会社 2017年）※『書Ⅰ』は平成29年度版、『新編書道Ⅱ』は平成30年度版があれば、そちらを購入して下さい。共に490円（内税）

※書店注文でも可能ですが、東部教科書供給株式会社 ☎03-3655-0161でも購入できます。

『高等学校学習指導要領解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編』（教育出版株式会社 2009年）本体290円＋税

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート50% 小テスト30% 授業への参加度20%

小テストは次回授業。レポートは総括で。試験結果は最終回の授業でフィードバックを行う。

## 【注意事項】

「高等学校教諭1種免許状」取得に向け、且つ、教育実習や即戦力として教壇にすぐ立てるよう研究していく授業です。

## 書道史

—書道文化の魅力を探る—

小川 博章

2年～ 前期 2単位

◎：美の探求 ○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

古代より唐代までの書道史を概観します。各時代の社会や文化と書道との関係を考察し、書道の特徴を明らかにします。また、近年さかんに報告される考古学的発掘資料についても目を配りながら書道文化を考えます。

### 【授業における到達目標】

- 古典書道資料を各時代の社会や文化と関連させ理解できるようになる。
- 書道の考古学的報告書を読み解くことができるようになる。
- 学生が修得すべき「研鑽力」のうち、学ぶ楽しみを知り、学問を続けることができる。

### 【授業の内容】

- 第1週 授業の進行方法・学習方法について説明
- 第2週 古代の文字 P128の解説
- 第3週 殷周：甲骨文、金文について P8、9の解説
- 第4週 春秋戦国：各国の文字風格について P10、11の解説
- 第5週 秦：文字の統一と通行書体について P12、13の解説
- 第6週 漢：石碑と簡牘について P14～22の解説
- 第7週 三国：書体の成立について P23の解説
- 第8週 晋：王羲之の書法について P24、P37～41の解説
- 第9週 北朝：造像記と墓誌銘について P25～30の解説
- 第10週 南朝：王法の伝統について P130、131の解説
- 第11週 隋：楷書の完成について P132の解説
- 第12週 唐①：初唐三大大家について P31～36の解説
- 第13週 唐②：書譜について P49の解説
- 第14週 日中書道交流史について P128～139の解説
- 第15週 文房四宝について P98の解説

### 【事前・事後学修】

事前学修：毎回の授業前に、テキストおよび配布プリントの該当箇所を通読し、疑問点や不明箇所を確認する。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業にて指示した書家、作品の資料を整理し提出する。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

全国大学書道学会編『書の古典と理論』（光村図書出版株式会社）  
2013年 2000円＋税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験、提出課題・授業態度によって評価します。（評価配分は試験60%、提出課題・授業態度40%）

レスポンスシートの疑問点を次週授業の冒頭で回答することで、学生へのフィードバックを行う。

### 【参考書】

- ・『書道全集』（平凡社）
- ・『書跡名品叢刊』（二玄社）
- ・『中国書論大系』（二玄社）
- ・『書の歴史』（二玄社）

### 【注意事項】

知識としての書道史だけでなく、「書とは何か」「書と文化の関係は」と常に疑問を持って取り組むことが大切です。また、博物館・企画展・展覧会を参観し、目と感性を鍛えることも心がけてください。

**書道史**

—書道文化の魅力を探る—

小川 博章

2年～ 前期 2単位

◎：美の探求 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

古代より唐代までの書道史を概観します。各時代の社会や文化と書道との関係を考察し、書道の特徴を明らかにします。また、近年さかんに報告される考古学的発掘資料についても目を配りながら書道文化を考えます。

**【授業における到達目標】**

- 古典書道資料を各時代の社会や文化と関連させ理解できるようになる。
- 書道の考古学的報告書を読み解くことができるようになる。
- 学生が修得すべき「研鑽力」のうち、学ぶ楽しみを知り、学問を続けることができる。

**【授業の内容】**

- 第1週 授業の進行方法・学習方法について説明
- 第2週 古代の文字 P128の解説
- 第3週 殷周：甲骨文、金文について P8、9の解説
- 第4週 春秋戦国：各国の文字風格について P10、11の解説
- 第5週 秦：文字の統一と通行書体について P12、13の解説
- 第6週 漢：石碑と簡牘について P14～22の解説
- 第7週 三国：書体の成立について P23の解説
- 第8週 晋：王羲之の書法について P24、P37～41の解説
- 第9週 北朝：造像記と墓誌銘について P25～30の解説
- 第10週 南朝：王法の伝統について P130、131の解説
- 第11週 隋：楷書の完成について P132の解説
- 第12週 唐①：初唐三大大家について P31～36の解説
- 第13週 唐②：書譜について P49の解説
- 第14週 日中書道交流史について P128～139の解説
- 第15週 文房四宝について P98の解説

**【事前・事後学修】**

事前学修：毎回の授業前に、テキストおよび配布プリントの該当箇所を通読し、疑問点や不明箇所を確認する。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業にて指示した書家、作品の資料を整理し提出する。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

全国大学書道学会編『書の古典と理論』（光村図書出版株式会社）  
2013年 2000円＋税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験、提出課題・授業態度によって評価します。（評価配分は試験60%、提出課題・授業態度40%）

レスポンスシートの疑問点を次週授業の冒頭で回答することで、学生へのフィードバックを行う。

**【参考書】**

- ・『書道全集』（平凡社）
- ・『書跡名品叢刊』（二玄社）
- ・『中国書論大系』（二玄社）
- ・『書の歴史』（二玄社）

**【注意事項】**

知識としての書道史だけでなく、「書とは何か」「書と文化の関係は」と常に疑問を持って取り組むことが大切です。また、博物館・企画展・展覧会を参観し、目と感性を鍛えることも心がけてください。



## 女性とスポーツ

女性とスポーツ 一生涯にわたる運動一

有賀 暁子

1・2年 前期・後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

### 【授業のテーマ】

科学技術の進歩による便利な日常生活は、知らず知らずのうちに運動不足を引き起こしています。現代社会のなかで運動することはより生き生きとした生活を送り、健康を保持増進するための手段として大きな役割が期待されています。

本授業では年齢に応じた運動のあり方や女性とスポーツのかかわりについて理解を深め、生涯にわたって運動・スポーツに親しむための方法を修得します。

毎時間、テーマに基づいた課題に取り組み、口頭発表を実施します。また教室内でできる手軽な体操・ストレッチ等を経験し、運動に親しむ習慣を身につけましょう。

### 【授業における到達目標】

生涯にわたって適度に運動しながら、心身を健康に保つ大切さを知識と実技により修得し、「研鑽力」を身につける。

また、体の仕組みを学び、美しい姿勢づくりができるよう実践的に身につける。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス、自己紹介
- 第2週 健康の捉え方
- 第3週 食事と健康
- 第4週 運動と健康（柔軟性のチェックとストレッチ）
- 第5週 体力の構成要素（姿勢チェックと骨盤矯正）
- 第6週 休養と健康（脳のメカニズム）
- 第7週 正しいラジオ体操（理論と実技）
- 第8週 年齢に応じた運動・体操のあり方（乳・幼児期）
- 第9週 年齢に応じた運動・体操のあり方（児童期）
- 第10週 年齢に応じた運動・体操のあり方（青年期）
- 第11週 年齢に応じた運動・体操のあり方（壮年期・老年期）
- 第12週 スポーツとのかかわり方 その1（オリンピックについて）
- 第13週 スポーツとのかかわり方 その2（スポーツと経済）
- 第14週 スポーツとのかかわり方 その3（スポーツライフ設計）
- 第15週 まとめ レポート発表

### 【事前・事後学修】

〔事前学修〕

「健康」「運動」「スポーツ」等に関する情報を調べ、口頭発表の準備をしてください。（学修時間週2時間）

〔事後学修〕

授業内容を復習し、ノート整理を心がけてください。（学修時間週2時間）

### 【テキスト・教材】

プリントを配付します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度50%、課題提出20%、口頭発表20%、レポート10%で評価します。

提出された課題は、次回授業時にフィードバックします。

### 【参考書】

適宜、授業内で紹介します。

### 【注意事項】

運動・スポーツ・健康に関心をもち、課題に対して積極的に取り組める学生の履修を歓迎します。

本授業は座学に加えて運動も実施します。体育着は不要ですが、体を動かしやすい服装を心がけてください。

受講人数制限40名（制限人数を超えた場合、抽選）

**女性と英語圏文学 a**

イギリス女性作家の世界

志渡岡 理恵

2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

17世紀から20世紀の間にイギリスおよび旧植民地で文筆活動を行った女性たちの生涯と作品を様々な視点から振り返り、当時の社会との関係や現代との繋がりについて考えながら、多彩な女性作家たちの活動について理解を深めることを目指します。

**【授業における到達目標】**

イギリスの女性作家の多様な活動に触れることにより、女性が「書く＝自己表現する」意味と困難について考察し、女性と社会・文化の関係をより深く理解できるようになることを目指します。

**【授業の内容】**

- 第1週 イン트로ダクション
- 第2週 A. ベーンー初の女性職業作家
- 第3週 M. ウルストンクラフトー女性の権利
- 第4週 J. オースティンー映像化され続ける作品
- 第5週 A. ラドクリフとM. シェリーーゴシック小説の系譜
- 第6週 E. ギャスケルー社会へのまなざし
- 第7週 B. ボターー童話と自然保護運動
- 第8週 O. シュライナーー南アフリカを描く
- 第9週 I. バードー日本への旅
- 第10週 F. バーネットー児童文学におけるインド表象
- 第11週 A. ブラジルースクールガール文化
- 第12週 V. ウルファーモダニズム、フェミニズム
- 第13週 K. マンスフィールドー少女の目線
- 第14週 A. クリスティー推理小説と旅行文化
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】各回でとりあげる女性作家について、図書やインターネットで調べておくこと。(学修時間 週1時間)

【事後学修】各回でとりあげた女性作家の作品を読んで理解を深めること(学修時間 週3時間)

**【テキスト・教材】**

プリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点(リアクションペーパー)50%、定期試験50%。リアクションペーパーへのフィードバックは、次回授業で行います。

**【参考書】**

授業時に提示します。

**【注意事項】**

自分なりの問題意識をもって授業に臨むこと。

**女性と英語圏文学 a**

イギリス女性作家の世界

志渡岡 理恵

2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

17世紀から20世紀の間にイギリスおよび旧植民地で文筆活動を行った女性たちの生涯と作品を様々な視点から振り返り、当時の社会との関係や現代との繋がりについて考えながら、多彩な女性作家たちの活動について理解を深めることを目指します。

**【授業における到達目標】**

イギリスの女性作家の多様な活動に触れることにより、女性が「書く＝自己表現する」意味と困難について考察し、女性と社会・文化の関係をより深く理解できるようになることを目指します。

**【授業の内容】**

- 第1週 イン트로ダクション
- 第2週 A. ベーンー初の女性職業作家
- 第3週 M. ウルストンクラフトー女性の権利
- 第4週 J. オースティンー映像化され続ける作品
- 第5週 A. ラドクリフとM. シェリーーゴシック小説の系譜
- 第6週 E. ギャスケルー社会へのまなざし
- 第7週 B. ボターー童話と自然保護運動
- 第8週 O. シュライナーー南アフリカを描く
- 第9週 I. バードー日本への旅
- 第10週 F. バーネットー児童文学におけるインド表象
- 第11週 A. ブラジルースクールガール文化
- 第12週 V. ウルファーモダニズム、フェミニズム
- 第13週 K. マンスフィールドー少女の目線
- 第14週 A. クリスティー推理小説と旅行文化
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】各回でとりあげる女性作家について、図書やインターネットで調べておくこと。(学修時間 週1時間)

【事後学修】各回でとりあげた女性作家の作品を読んで理解を深めること(学修時間 週3時間)

**【テキスト・教材】**

プリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点(リアクションペーパー)50%、定期試験50%。リアクションペーパーへのフィードバックは、次回授業で行います。

**【参考書】**

授業時に提示します。

**【注意事項】**

自分なりの問題意識をもって授業に臨むこと。

**女性と英語圏文学 a**

イギリス女性作家の世界

志渡岡 理恵

2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

17世紀から20世紀の間にイギリスおよび旧植民地で文筆活動を行った女性たちの生涯と作品を様々な視点から振り返り、当時の社会との関係や現代との繋がりについて考えながら、多彩な女性作家たちの活動について理解を深めることを目指します。

**【授業における到達目標】**

イギリスの女性作家の多様な活動に触れることにより、女性が「書く＝自己表現する」意味と困難について考察し、女性と社会・文化の関係をより深く理解できるようになることを目指します。

**【授業の内容】**

- 第1週 イン트로ダクション
- 第2週 A. ベーンー初の女性職業作家
- 第3週 M. ウルストンクラフトー女性の権利
- 第4週 J. オースティンー映像化され続ける作品
- 第5週 A. ラドクリフとM. シェリーーゴシック小説の系譜
- 第6週 E. ギャスケルー社会へのまなざし
- 第7週 B. ボターー童話と自然保護運動
- 第8週 O. シュライナーー南アフリカを描く
- 第9週 I. バードー日本への旅
- 第10週 F. バーネットー児童文学におけるインド表象
- 第11週 A. ブラジルースクールガール文化
- 第12週 V. ウルファーモダニズム、フェミニズム
- 第13週 K. マンスフィールドー少女の目線
- 第14週 A. クリスティー推理小説と旅行文化
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】各回でとりあげる女性作家について、図書やインターネットで調べておくこと。(学修時間 週1時間)

【事後学修】各回でとりあげた女性作家の作品を読んで理解を深めること(学修時間 週3時間)

**【テキスト・教材】**

プリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点(リアクションペーパー)50%、定期試験50%。リアクションペーパーへのフィードバックは、次回授業で行います。

**【参考書】**

授業時に提示します。

**【注意事項】**

自分なりの問題意識をもって授業に臨むこと。

**女性と英語圏文学 b**

アメリカ女性文学の伝統と変遷

佐々木 真理

2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

18世紀から21世紀にかけて、アメリカ社会の変容と共に変化してきた女性の生き方を検証しながら、アメリカ女性文学の伝統と変遷について、さまざまな作家・作品を通して考察します。

**【授業における到達目標】**

アメリカ女性文学の伝統と変遷に関する知識と理解を深めることを目標とします。それによって、文学の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度を育みます。また、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる研鑽力を養います。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 ビューリタニヰムと女性詩人－Anne Bradstreet
- 第3週 共和国と誘惑小説－Hannah Webster Foster
- 第4週 19世紀の女性－Margaret Fuller
- 第5週 家庭の天使たち－Louisa May Alcott
- 第6週 目覚めの時代－Kate Chopin
- 第7週 新しい女性－Edith Wharton
- 第8週 西部と女性－Willa Cather
- 第9週 女性参政権運動－Charlotte Perkins Gilman
- 第10週 南部貴婦人の神話－Margaret Mitchell
- 第11週 女性らしさの神話－May Sarton
- 第12週 フィーメール・ゴシック－Joyce Carol Oates
- 第13週 移民と母性－Jamaica Kincaid
- 第14週 21世紀の新たな可能性－Kelly Link
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 期末試験の課題図書を読み進めること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 期末試験の課題について、リサーチを行うこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリント配布。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業態度・レスポンスシート）50%、期末試験50%。

レスポンスシートは次回授業でフィードバックを行う。

**【参考書】**

授業中に適宜指示します。

**【注意事項】**

特別な理由のない遅刻、欠席、授業中の私語は平常点より減点されるので注意すること。

**女性と英語圏文学 b**

アメリカ女性文学の伝統と変遷

佐々木 真理

2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

18世紀から21世紀にかけて、アメリカ社会の変容と共に変化してきた女性の生き方を検証しながら、アメリカ女性文学の伝統と変遷について、さまざまな作家・作品を通して考察します。

**【授業における到達目標】**

アメリカ女性文学の伝統と変遷に関する知識と理解を深めることを目標とします。それによって、文学の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度を育みます。また、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる研鑽力を養います。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 ビューリタニズムと女性詩人—Anne Bradstreet
- 第3週 共和国と誘惑小説—Hannah Webster Foster
- 第4週 19世紀の女性—Margaret Fuller
- 第5週 家庭の天使たち—Louisa May Alcott
- 第6週 目覚めの時代—Kate Chopin
- 第7週 新しい女性—Edith Wharton
- 第8週 西部と女性—Willa Cather
- 第9週 女性参政権運動—Charlotte Perkins Gilman
- 第10週 南部貴婦人の神話—Margaret Mitchell
- 第11週 女性らしさの神話—May Sarton
- 第12週 フィーメール・ゴシック—Joyce Carol Oates
- 第13週 移民と母性—Jamaica Kincaid
- 第14週 21世紀の新たな可能性—Kelly Link
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 期末試験の課題図書を読み進めること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 期末試験の課題について、リサーチを行うこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリント配布。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業態度・レスポンスシート）50%、期末試験50%。

レスポンスシートは次回授業でフィードバックを行う。

**【参考書】**

授業中に適宜指示します。

**【注意事項】**

特別な理由のない遅刻、欠席、授業中の私語は平常点より減点されるので注意すること。

**女性と英語圏文学 b**

アメリカ女性文学の伝統と変遷

佐々木 真理

2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

18世紀から21世紀にかけて、アメリカ社会の変容と共に変化してきた女性の生き方を検証しながら、アメリカ女性文学の伝統と変遷について、さまざまな作家・作品を通して考察します。

**【授業における到達目標】**

アメリカ女性文学の伝統と変遷に関する知識と理解を深めることを目標とします。それによって、文学の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度を育みます。また、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる研鑽力を養います。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODakション
- 第2週 ビューリタニズムと女性詩人—Anne Bradstreet
- 第3週 共和国と誘惑小説—Hannah Webster Foster
- 第4週 19世紀の女性—Margaret Fuller
- 第5週 家庭の天使たち—Louisa May Alcott
- 第6週 目覚めの時代—Kate Chopin
- 第7週 新しい女性—Edith Wharton
- 第8週 西部と女性—Willa Cather
- 第9週 女性参政権運動—Charlotte Perkins Gilman
- 第10週 南部貴婦人の神話—Margaret Mitchell
- 第11週 女性らしさの神話—May Sarton
- 第12週 フィーメール・ゴシック—Joyce Carol Oates
- 第13週 移民と母性—Jamaica Kincaid
- 第14週 21世紀の新たな可能性—Kelly Link
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 期末試験の課題図書を読み進めること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 期末試験の課題について、リサーチを行うこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリント配布。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業態度・レスポンスシート）50%、期末試験50%。

レスポンスシートは次回授業でフィードバックを行う。

**【参考書】**

授業中に適宜指示します。

**【注意事項】**

特別な理由のない遅刻、欠席、授業中の私語は平常点より減点されるので注意すること。

## 女性と健康

年の若い乙女は花のようではなくてはいけません

関 登実子

1・2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

### 【授業のテーマ】

これから社会に出る女子学生として、今自らを振り返り、知識を得、健康を推進してゆくためにどのような行動をとればよいかを学び実践します。

### 【授業における到達目標】

健康に関する情報の調べ方を学習し、情報の背景を考えて効率よくまとめて伝えることができるか。広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く能力を身につけます。

健康とあいさつの関連を理解する力をえます。

物事の真理を探究することによって、新たな知を創造する態度を育みます。

### 【授業の内容】

- 第1週 健康でいるための自己評価
- 第2週 生活習慣と疾病
- 第3週 食生活の評価と献立作成
- 第4週 生活リズムと運動
- 第5週 アレルギーと食事 情報検索 1
- 第6週 健康美のためのストレッチとは  
特別講師 初風緑氏の美しい姿勢 立居振る舞いや歩行に関する講義 質疑応答を予定
- 第7週 女性特有の病気 情報検索 2
- 第8週 健康食品・サプリメント 情報検索 3
- 第9週 更年期とは 情報検索 4
- 第10週 女性ホルモンと健康 情報検索 5
- 第11週 肌の健康 情報検索 6
- 第12週 演習（1）課題発表と評価  
研究課題を決め、プレゼンテーションを実施する。また、受講者全員が互いに評価をすることにより、プレゼンテーションの向上をはかる。
- 第13週 演習（2）課題発表と評価
- 第14週 演習（3）課題発表と評価
- 第15週 小テストおよび総括

### 【事前・事後学修】

- ・事前学修：課題の専門用語を理解しておく。レポート作成・発表の準備。（学修時間 週2時間）
- ・事後学修：専門用語の復習確認。発表の復習と評価。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

松村圭子著「女性ホルモンがつくる、キレイの秘密」（永倉書店 2012年）626円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト30%、授業への積極的参加・課題提出20%、提出課題30%、課題発表20%。小テストはテスト終了後、毎回の課題提出は次回授業でフィードバックを行う。

### 【参考書】

- NPO法人女性の健康とメノポーズ協会「女性の健康と働き方マニュアル ワーク・ライフ・バランスとヘルスケア」SCICUS 2012年 2700円
- 高杉友子「子宮を温める健康法」WAVE出版 2012年 1512円
- 下田歌子 現代語訳「女子の修養」－明治の女性学－ NPO法人いわむら一斎塾 700円

### 【注意事項】

一生涯の健康と美貌の維持を考えて、今行動できる意欲を持って講義に参加できる方。

「女性の資質は、純一で自愛に富み、その清らかな徳性とゆたかな情操をもって社会の弊を正し、広く世人に至福をもたらすことにある」の意味するところを考えておくこと。



**女性と言語学**

言語にあらわれる女性性を探る

村上 まどか

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

英語と日本語における女性差別的な表現をさまざまな角度から豊富な実例を挙げて観察することによって、1970年代から現在にいたるまでの女性に関する社会言語学を概観します。

**【授業における到達目標】**

日本語的な文化・精神には女性差別的な負の面もあると知ることになりますが、主に英語圏の多様な言語観を学ぶことによって国際感覚を身に付けます。

性差のない言語はありえないが、性差別のない言語は実現可能であるという信念のもと、そのような言語運用を実践していく女性になることが目標です。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODakションと動画
- 第2週 「女ことば」の歴史
- 第3週 Robin Lakoff (1975) の言語観
- 第4週 Dale Spender (1980) の言語観
- 第5週 Deborah Tannen (1990) の言語観
- 第6週 ポライトネスの理論 (Brown and Levinson 1987)
- 第7週 続・ポライトネス、及び中間確認テスト
- 第8週 メディアにおけるジェンダー
- 第9週 言葉遣いとアイデンティティ
- 第10週 女性と姓 — 諸外国の場合
- 第11週 女性と姓 — 日本の場合
- 第12週 職業生活における女性と言葉
- 第13週 性差別表現をなくすガイドライン
- 第14週 レポート作成について
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

事前学修として、配布された英文を入念に予習してくること (週2時間)。

事後学修として、参考書に指定された本を4冊とも読むこと (週2時間)。

**【テキスト・教材】**

中村桃子・編『ジェンダーで学ぶ言語学』(世界思想社 2010年)  
定価2,200円 \*あると便利だが必ずしも買う必要はない。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業内中間確認テスト40点、学期末レポート60点、合計100点。

- ・中間確認テストは、点数のみを返却する。
- ・学期末レポートは、アポイントメントを得て研究室に取りに来ること。

**【参考書】**

- レイコフ著、れいのるず秋葉訳『言語と性』(有信堂高文社 1985年)
- スペンダー著、れいのるず秋葉訳『ことばは男が支配する』(勁草書房1987年)
- タネン著、田丸美寿々訳『わかりあえる理由(わけ)、わかりあえない理由』(講談社文庫 2003年)
- 滝浦真人『ポライトネス入門』(研究社 2008年)

**【注意事項】**

中間確認テストを受けなかった者は単位修得できなくなるので注意すること。実習による公欠等の場合、追試験を行なう。

**女性と言語学**

言語にあらわれる女性性を探る

村上 まどか

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

英語と日本語における女性差別的な表現をさまざまな角度から豊富な実例を挙げて観察することによって、1970年代から現在にいたるまでの女性に関する社会言語学を概観します。

**【授業における到達目標】**

日本語的な文化・精神には女性差別的な負の面もあると知ることになりますが、主に英語圏の多様な言語観を学ぶことによって国際感覚を身に付けます。

性差のない言語はありえないが、性差別のない言語は実現可能であるという信念のもと、そのような言語運用を実践していく女性になることが目標です。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODクシヨンと動画
- 第2週 「女ことば」の歴史
- 第3週 Robin Lakoff (1975) の言語観
- 第4週 Dale Spender (1980) の言語観
- 第5週 Deborah Tannen (1990) の言語観
- 第6週 ポライトネスの理論 (Brown and Levinson 1987)
- 第7週 続・ポライトネス、及び中間確認テスト
- 第8週 メディアにおけるジェンダー
- 第9週 言葉遣いとアイデンティティ
- 第10週 女性と姓 — 諸外国の場合
- 第11週 女性と姓 — 日本の場合
- 第12週 職業生活における女性と言葉
- 第13週 性差別表現をなくすガイドライン
- 第14週 レポート作成について
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

事前学修として、配布された英文を入念に予習してくること (週2時間)。

事後学修として、参考書に指定された本を4冊とも読むこと (週2時間)。

**【テキスト・教材】**

中村桃子・編『ジェンダーで学ぶ言語学』(世界思想社 2010年)  
定価2,200円 \*あると便利だが必ずしも買う必要はない。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業内中間確認テスト40点、学期末レポート60点、合計100点。  
・中間確認テストは、点数のみを返却する。  
・学期末レポートは、アポイントメントを得て研究室に取りに来ること。

**【参考書】**

レイコフ著、れいのるず秋葉訳『言語と性』(有信堂高文社 1985年)  
スペンダー著、れいのるず秋葉訳『ことばは男が支配する』(勁草書房1987年)  
タネン著、田丸美寿々訳『わかりあえる理由(わけ)、わかりあえない理由』(講談社文庫 2003年)  
滝浦真人『ポライトネス入門』(研究社 2008年)

**【注意事項】**

中間確認テストを受けなかった者は単位修得できなくなるので注意すること。実習による公欠等の場合、追試験を行なう。

**女性と言語学**

言語にあらわれる女性性を探る

村上 まどか

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

英語と日本語における女性差別的な表現をさまざまな角度から豊富な実例を挙げて観察することによって、1970年代から現在にいたるまでの女性に関する社会言語学を概観します。

**【授業における到達目標】**

日本語的な文化・精神には女性差別的な負の面もあると知ることになりますが、主に英語圏の多様な言語観を学ぶことによって国際感覚を身に付けます。

性差のない言語はありえないが、性差別のない言語は実現可能であるという信念のもと、そのような言語運用を実践していく女性になることが目標です。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODクシヨンと動画
- 第2週 「女ことば」の歴史
- 第3週 Robin Lakoff (1975) の言語観
- 第4週 Dale Spender (1980) の言語観
- 第5週 Deborah Tannen (1990) の言語観
- 第6週 ポライトネスの理論 (Brown and Levinson 1987)
- 第7週 続・ポライトネス、及び中間確認テスト
- 第8週 メディアにおけるジェンダー
- 第9週 言葉遣いとアイデンティティ
- 第10週 女性と姓 — 諸外国の場合
- 第11週 女性と姓 — 日本の場合
- 第12週 職業生活における女性と言葉
- 第13週 性差別表現をなくすガイドライン
- 第14週 レポート作成について
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

事前学修として、配布された英文を入念に予習してくること (週2時間)。

事後学修として、参考書に指定された本を4冊とも読むこと (週2時間)。

**【テキスト・教材】**

中村桃子・編『ジェンダーで学ぶ言語学』(世界思想社 2010年)  
定価2,200円 \*あると便利だが必ずしも買う必要はない。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業内中間確認テスト40点、学期末レポート60点、合計100点。

- ・中間確認テストは、点数のみを返却する。
- ・学期末レポートは、アポイントメントを得て研究室に取りに来ること。

**【参考書】**

- レイコフ著、れいのるず秋葉訳『言語と性』(有信堂高文社 1985年)
- スペンダー著、れいのるず秋葉訳『ことばは男が支配する』(勁草書房1987年)
- タネン著、田丸美寿々訳『わかりあえる理由(わけ)、わかりあえない理由』(講談社文庫 2003年)
- 滝浦真人『ポライトネス入門』(研究社 2008年)

**【注意事項】**

中間確認テストを受けなかった者は単位修得できなくなるので注意すること。実習による公欠等の場合、追試験を行なう。

## 女性と古典文学

—知と情と意—

佐藤 辰雄

1・2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

本講では、文学の中で女性がどのようなものとして描かれ、文学をどのように創造したかを考えます。登場する人物は世界的に有名な女性もいれば、反対に全く無名の人もあるし虚構の人ありとさまざまですが、彼女らは皆、各々の美意識や愛情・情念・人生観に基づいて、真剣に生きた人達です。

卑弥呼と三人の尼僧は、別に文学と関わりが深いわけではありませんが、過去の女性観を知る上で貴重な足跡を残した歴史上の人物です。女性に対する当時の社会通念を踏まえなくて「女性と古典文学」を語ることはできませんので、導入として取り上げました。

### 【授業における到達目標】

日本の古典文学を学んで知見を深めるとともに、世界に発信する能力と態度を修得することができます（国際的視野）。

現象の背後に潜む本質を究明する学修を通して、日本の文学の価値と美を知ることができます（美の探求）。また、女性の活躍と努力を再認識することで、感受性を高め、自分の生き方を発見・創造する一助とすることができます（研鑽力）。

### 【授業の内容】

1. 授業内容の説明
2. 大昔人の女性観—卑弥呼と尼僧たち（含む映像鑑賞）
3. 神々を統べる女性神・天照大神
4. 呪的聖性を持つ万葉歌人・額田王
5. 省察に秀でた稀代の才媛・紫式部（1） 総説
6. 省察に秀でた稀代の才媛・紫式部（2） 各説
7. 機知に富む後宮サロンの華・清少納言（1） 総説
8. 機知に富む後宮サロンの華・清少納言（2） 各説
9. 平安時代の貴族女性の修養
10. 『今昔物語集』から—安義橋の鬼女
11. 『平家物語』から—美しい勇士・巴御前
12. 『伽婢子』から—乳児に注いだ亡母の愛情
13. 『さんせう太夫』から—女性原理としての安寿（映像鑑賞を中心に）
14. 『雨月物語』から—嫉妬のあまり怨霊となった磯良
15. まとめ

### 【事前・事後学修】

- ・事前学修：教科書を熟読し、登場人物について調べておきましょう。（週2時間）
- ・事後学修：授業の要点を指定用紙に記入し、翌週提出します。（週2時間）

### 【テキスト・教材】

『女性と文学ノート』（500円）

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内容をまとめた提出物90%と、授業への取組み姿勢10%。提出物の内容は、各回とも授業の要点理解の確認（65字前後のまとめを二つ。最大4点）と、意見や感想（最大2点）の二項目。翌週に成果をフィードバックします。

### 【参考書】

- 直木孝次郎『額田王』（吉川弘文館）  
 角田文衛『紫式部伝』（法蔵館）  
 萩野敦子『清少納言』（勉誠社）  
 酒向伸行『山椒太夫伝説の研究』（名著出版会）など。

### 【注意事項】

私語は許さない。“しゃべらないといられない症候群”の人は受講を遠慮されたい。飲食物の持込み不可。

コツコツ努力する学生ならさほど苦にならないでしょうが、チャライ性格、集中力や持続力・勉強意欲に難のある学生には相当きついでしょう。授業中は静かなので、受講するならそれなりの覚悟が必要です。

**女性と職業**

山谷 真名  
2年～ 前期 2単位  
○：研鑽力、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

女性と職業の問題をさまざまな視点から概観する。その際に、現在の社会の動きに関心を持つことができるよう、法律の改正等「今」のトピックスをより多く取り上げる。また、キャリア・デザインの必要性についても学ぶ。

**【授業における到達目標】**

女性労働関係の法律や特徴およびキャリア・デザインに関連した言葉について理解し、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探索し、学問を続けることができるようになる。

女性労働の問題点やキャリア・デザインの必要性について現状を正しく把握し、課題を発見することができるようになる。

グループワークによって、自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができるようになる。

**【授業の内容】**

- 第1週 働くことの意味、キャリア・デザインの必要性
- 第2週 キャリア・アンカー
- 第3週 ブランドハブスタンス理論
- 第4週 日本の女性の労働力率の変遷
- 第5週 女性の労働力率と政策の国際比較
- 第6週 意識や家事・育児時間の国際比較
- 第7週 男女間賃金格差・昇進格差の要因
- 第8週 就業形態の多様化
- 第9週 非正規雇用と法
- 第10週 税・年金制度と女性の働き方
- 第11週 男女雇用機会均等への取組の歴史
- 第12週 男女雇用機会均等法
- 第13週 女性活躍推進法とデータベース
- 第14週 ダイバーシティ施策
- 第15週 グループワーク、全体のまとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 レポートの課題に取り組むこと。  
(学修時間 週1時間)

【事後学修】 毎回、前回の講義の復習をすること。  
(学修時間 週3時間)

**【テキスト・教材】**

毎回プリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業内感想・意見の提出30% レポート提出20% 試験50%  
授業内課題・レポートは次回授業、試験は、試験後フィードバックを行う。

**【参考書】**

- 川口章『日本のジェンダーを考える』（有斐閣 2013年）
- 阿部正浩・松繁寿和『キャリアのみかた 改訂版』（有斐閣 2014年）
- 岩田喜美枝・菅原千枝著『女性をもっと活躍できる！』（公益財団法人21世紀職業財団 2015年）

**女性と職業**

蟹江 教子  
2年～ 後期 2単位  
○：研鑽力、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

何故、女性の社会進出は進んだのでしょうか。女性を取り巻く環境は、どのように変化しているのでしょうか。出産・育児で仕事を辞める女性が多いのは、何故でしょうか。女性の社会進出が叫ばれているのに、管理職になる女性が少ないのは、何故でしょうか。ライフサイクルに応じて、働き方を変える女性が多いのは何故でしょうか。

これらの疑問について、明らかにするとともに、働く女性を支援する法律や制度、政策について、海外の事例も含めて学びます。

**【授業における到達目標】**

なぜ働くのか、働くことの意味について理解しましょう。女性を支援する法律や制度、政策について、現状を正確に理解し、社会に潜む問題点や矛盾を発見し、解決に向けての方策を考える力を身につけましょう。

**【授業の内容】**

- 第1回 女性の社会進出 —アメリカとの比較—
- 第2回 日本の近代化と女性労働 —女性雇用の歴史—
- 第3回 女性の就労意識の変化 —なぜ、働くのか？—
- 第4回 学校教育から労働市場 —学歴の持つ意味—
- 第5回 高学歴化と労働市場への影響 —短大はなくなる？—
- 第6回 男女の雇用機会均等 —総合職誕生の歴史—
- 第7回 男女間の格差 —賃金格差の原因—
- 第8回 正規雇用と非正規雇用 —非正規労働者が増えた理由—
- 第9回 女性の就業と社会政策 —専業主婦はお得？—
- 第10回 結婚・出産と育児 —セカンドシフトはなくなる？—
- 第11回 イクメンの誕生 —本当に父親は育児をしたい？—
- 第12回 日本のワークライフバランス政策
- 第13回 海外のワークライフバランス政策
- 第14回 企業についての事例研究
- 第15回 全体のまとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：あらかじめ配布した資料に目を通してから、授業に臨みましょう。企業研究では、興味のある企業について、自分なりの視点を持って調べましょう。(週2.5時間程度)

事後学修：授業で取り上げた専門用語、キーワードは、説明できるようにしてください。(週1.5時間程度)

**【テキスト・教材】**

筒井淳也『仕事と家庭』（中央公論社、2015年）、¥780+税。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

コメントシート等の提出（20%）、課題レポート（50%）、課題の報告（30%）で評価します。

課題レポートは、最終回の授業でフィードバックします。

**【参考書】**

- 石井クンツ昌子監修、坂本有芳編著『キャリアデザインと子育て』（お茶の水学術事業会、2016年）、¥500+税。
- 濱口桂一郎『働く女子の運命』（文春新書、2015年）、¥780+税。
- 阿部正浩・松繁寿和編『キャリアのみかた』（有斐閣、2014年）、¥1,900+税。
- 川口章『日本のジェンダーを考える』（有斐閣、2013年）、¥1,900+税。

**【注意事項】**

雇用に関するニュースや新聞、雑誌記事をチェックして、社会の動きに目を向けてください。

## 女性と職業

—働くために学ぶ—

飯野 智子

1・2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

1. 女性と職業についての社会史を理解する。明治時代から、第二次世界大戦を経て、高度経済成長、今日へという歴史の中で、女性はどのように働いてきたのか。求められた役割や就業環境、打開のための戦い等について学ぶ。
2. 今日の女性の就労をめぐる様々な問題について分析する。パートタイム労働や派遣労働など女性に多い就労形態の現状と問題点を学ぶ。さらに、今後女性の力を活かすにはどうすればいいのか考える。
3. 家族責任と職業の両立というテーマを、男女の問題として捉える。男性の育児休業など、男性の働き方の問題について学び、新しい働き方を考える。

### 【授業における到達目標】

明治以降今日までの女性の就労状況から、困難な状況にあっても社会進出への道を切り開いてきた先人達の生き方を学ぶ。現在の女性の就労に関する様々な課題を解決するための方向性を探る。女性も男性も、職業と家庭生活の両方を充実させ、より豊かに生きていくためにはどうすればいいのか、問題意識を持って考えられるようにする。

このような学修を通して、知を求め、心の美を育む「美の探求」を怠らず、自己成長する「研鑽力」を鍛え、自己や他者の役割を理解し、互いに協力する「協働力」を修得する。

### 【授業の内容】

1. ガイダンスー女性と労働を学ぶ意味
2. 明治期の労働状況ー工場労働
3. 大正～昭和期の労働状況ー職業婦人の誕生
4. 戦中の労働状況ー男性に代わって
5. 戦後～高度経済成長期の労働ー変化
6. 現代の女性の労働環境
7. 男女雇用機会均等法
8. セクシュアル・ハラスメントの問題
9. 育児介護休業法
10. 男性の家事、育児
11. 非正規雇用の問題
12. ワーク・ライフ・バランスと新しい働き方
13. 高齢社会における女性の労働
14. 女性の力を社会に活かす
15. まとめ

### 【事前・事後学修】

- ・事前学修：次回の授業で扱う重要用語、法律、必要なデータ、女性の労働をめぐる最近の動向などについて調べる。（週2時間）
- ・事後学修：独自に調べたデータや法律の概要、記事、自分の意見なども盛り込みノートを充実させる。（週2時間）

### 【テキスト・教材】

教科書は使用しない。適宜プリントを配付する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験90%、学習内容についての感想・意見の提出10%（このフィードバックは次回授業で行う）

### 【参考書】

授業開始時に指示する。

## 女性と心理

—心の入り口に立ってみる—

大倉 恭輔

1・2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力、協働力

### 【授業のテーマ】

心理学に興味を持っている人はたくさんいます。けれど、心理学という学問について、きちんと理解している人は多くありません。この授業では、心理学がどのような特色を持った学問であるかを理解するとともに、「女性」であることの意味について考えていきます。

### 【授業における到達目標】

心のしくみを探る心理学という学問について、ビデオ教材を用いながら、基本的な理解にいたることをめざします。同時に、女性であるが故の「心の問題」を、社会的・文化的な背景から理解できるようにすることをめざします。

そして、そうした学びの中から優しさと強さについて考え、それらを自分のものにするとともに、広い視野と深い洞察力を身につけてもらいたいと思っています。

### 【授業の内容】

- 01 はじめに：人はなぜ「こころ」の問題を考えるのか
- 02 感覚と知覚：自分の感覚は正しいか
- 03 学習と理解：「わかる」とはどういうことか
- 04 動機づけと感情：「こころが動く」ことのメカニズム
- 05 発達：こころはいつまで育つのか
- 06 知能：頭がいいって、どういうこと
- 07 性格：そもそもあなたはどんな人
- 08 社会：社会にも「こころ」があるのか
- 09 臨床：「こころ」が風邪をひいたら
- 10 intermission：ジェンダー研究という視点
- 11 事例研究 01：あなたは「太りすぎ」か
- 12 事例研究 02：デートは割り勘であるべきか
- 13 事例研究 03：「母」になるということ
- 14 事例研究 04：なぜ「傷つけ・傷つけられる」のか
- 15 まとめ：心理学化する社会の危険性

注1 上記は授業内容のリストです。

注2 基本的に番号順に講義をしていきますが、学生の理解度や授業の進行状況にあわせて、順番の入れ替えなどの変更がおこなわれる場合があります。

### 【事前・事後学修】

- ・事前学修  
事前配付の資料に目とおし、設問がある場合、それについて回答を準備しておくこと。
- ・事後学修  
授業内容を自分で補足し、きちんとしたノート作成をおこなうこと。
- ・事前・事後学修には、それぞれ週に2時間前後をあてること。

### 【テキスト・教材】

テキストは使用しません。

基本的に、manaba を利用して事前に資料を配付します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

総合評価：レポート80%・平常点/受講態度・ノート作成など 20% manaba の設定や利用の状況も平常点の参考とします。

試験結果については manaba 上でフィードバックする予定です。

### 【参考書】

適宜、授業の中で紹介します。

### 【注意事項】

- ・視聴覚教材を利用する際も、必ずノートテイクをおこなうこと。
- ・短期大学部標準受講マナーを守ること。  
(manaba上に掲示してあります)

**女性と文学**

大石 紗都子  
1年～ 前期 2単位  
○：美の探求、研鑽力

**【授業のテーマ】**

古典文学の時代から現在にいたる「文学史」の流れは、一見すると名作や傑作の連なる自明のものようですが、実は必ずしもそうではありません。たとえば、平安時代の「女流日記文学」は近代に入ってから、その評価や解明がすすんだものでもあり、そこには近代の女性観やジェンダー認識も介在するものと思われます。近代文学における女性像・女流作家について、当時の社会や「文学史」的背景も併せ見ながら、いくつかの作品を読み味わいます。

**【授業における到達目標】**

近現代文学を、表現や時代性などいくつかの視点から読み直し、文学作品に対する読解力や想像力を深めることを目標とします。

**【授業の内容】**

- 第1回：概説
- 第2回：近代に見出された古典文学の女性たち（作家紹介）
- 第3回：近代に見出された古典文学の女性たち（作品読解）
- 第4回：近代に見出された古典文学の女性たち（作品注釈）
- 第5回：近代に見出された古典文学の女性たち（典拠・原典）
- 第6回：近代に見出された古典文学の女性たち（原典比較）
- 第7回：近代に見出された古典文学の女性たち（「女流日記文学」と近代 1）
- 第8回：近代に見出された古典文学の女性たち（「女流日記文学」と近代 2）
- 第9回：女流作家の作品（近代文学 作家紹介）
- 第10回：女流作家の作品（近代文学 読解）
- 第11回：女流作家の作品（近代文学 考察）
- 第12回：女流作家の作品（現代文学 作家紹介）
- 第13回：女流作家の作品（現代文学 読解）
- 第14回：女流作家の作品（現代文学 読解）
- 第15回：まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回の授業範囲となる作品の該当箇所を読み、内容を把握するようにしてください。（週 2時間）

【事後学修】 講義内容や配布資料、他の生徒の意見などと絡めて、各自の作品解釈や考えをさらに進めてもらいます。（週 2時間）

**【テキスト・教材】**

授業内で適宜配布・紹介します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点40%（出席及び毎回の授業内で書いてもらうコメントペーパー）、レポート60%で評価します。前の回の授業で書いてもらったコメントをもとに、適宜教師の方で、紹介や回答などを述べます。

**女性と文学**

桜庭一樹の「少女」小説を読む

梅山 聡  
1年～ 後期 2単位  
○：美の探求、研鑽力

**【授業のテーマ】**

翻訳家・評論家の金原瑞人氏は、桜庭一樹の小説をこんな風に評している。《「赤朽葉家」三代記を皮切りに、たとえば、娘と父親が抱き合い、おたがいのうつろな胸をえぐりながら、人を殺していく『私の男』。たとえば、母親からしじゅう折檻され続けながらも、母親をかばい、守ろうとし、母親にとっての「サンドバッグ」になろうとして、狂気を生き延びる少女を描いた『ファミリーポートレイト』。また最近の『じごくゆきっ』の最初の短編「暴君」と最後の短編「脂肪遊戯」。どれもリアリズム小説とはいえ、狂気との狭間を突っ走るような作品ばかりだ。その容赦のない書きっぷりが、そして考えてみれば、その多くが、ある意味、成長の物語で、苦しく、苦々しい。（中略）そんな若者たちを描く桜庭作品は、いまの日本の小説界にとってかけがえのないものになりつつある。》（文春文庫『ほんとうの花を見せにきた』解説、2017年11月）

「いまの日本の小説界にとってかけがえのないものになりつつある」桜庭作品の中から、出世作「砂糖菓子の弾丸は撃ちぬけない」を中心に代表的な作品をいくつか取り上げて精読し、現代日本文学が女性の生き方をどのように描いているかを考察する。

**【授業における到達目標】**

- 桜庭一樹の作品を読むことを通じて、
- ・現代日本文学への理解を深める。
- ・虚構（フィクション、作り話）の意義を理解する。
- ・人はなぜ生きる上で物語を必要とするのかを理解する。

**【授業の内容】**

- 第1週 授業ガイダンス（桜庭一樹の作品について概説）
- 第2週 嘘のつきかた一虚構化するという技法
- 第3週 逃亡すること（「じごくゆきっ」）
- 第4週 逃走すること（「推定少女」）
- 第5週 桜庭一樹の少女小説を見わたす
- 第6週 桜庭一樹が読んできた本、影響を受けた作家
- 第7週 「砂糖菓子の弾丸は撃ちぬけない」①（内容整理）
- 第8週 「砂糖菓子の弾丸は撃ちぬけない」②（典拠その他）
- 第9週 「砂糖菓子の弾丸は撃ちぬけない」③（虐待のテーマ）
- 第10週 「砂糖菓子の弾丸は撃ちぬけない」④（嘘をつくこと）
- 第11週 「砂糖菓子の弾丸は撃ちぬけない」⑤（メタファー表現）
- 第12週 「私の男」について（前半）
- 第13週 「私の男」について（後半）
- 第14週 「ファミリーポートレイト」について（前半）
- 第15週 「ファミリーポートレイト」について（後半）

**【事前・事後学修】**

事前学修：必読作品をいくつか指定する。指定された作品を事前に読んだ上で授業に出席してもらう。（週 2時間程度）

事後学修：授業であつかった作品以外にもうひとつ作品を読んで貰い、期末レポートを作成する。レポート執筆の時間と、そのための準備調査の時間が必要になる。（週 2時間程度）

**【テキスト・教材】**

桜庭一樹『砂糖菓子の弾丸は撃ちぬけない』（角川文庫 2009年）476円（税別）

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業参加60%、期末レポート40%の割合で総合的に評価する予定。レポートは評価を記して授業最終回に返却する。

**【参考書】**

授業内で適宜指示する。

## 女性と文学

日英の文学に見る女性像

高瀬 真理子

1・2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

近代社会において、女性とはどのような存在であったのか、文学作品に描かれている女性像を、年代を追って、日本の女性作家、男性作家、イギリスの女性作家の作品の中から辿っていきます。

### 【授業における到達目標】

日本とイギリスの文学を、年代を考えながら受容する「国際的視野」と、長編や近代といっても古い文学に挑戦して読み解くことにより「研鑽力」を磨きます。その上で、文学世界の「美の探求」ができればと思います。

### 【授業の内容】

1. オリエンテーション
2. 樋口一葉「十三夜」1・・・作家と作品の背景
3. 樋口一葉「十三夜」2・・・玉の輿と好きな人
4. 徳富蘆花「不如帰」1・・・作家と作品の背景
5. 徳富蘆花「不如帰」2・・・うらやむような結婚と結核
6. 徳富蘆花「不如帰」3・・・家同士の結婚とは
7. 夏目漱石「それから」1・・・作家と作品の背景
8. 夏目漱石「それから」2・・・愛情と友情と女性
9. ジェーン・オースティン「高慢と偏見」1・・・作家と作品の背景
10. ジェーン・オースティン「高慢と偏見」2・・・見た目と本質の違い
11. ジェーン・オースティン「高慢と偏見」3・・・つれあうに必要な身分とは
12. エリザベス・ギャスケル「北と南」1・・・作家と作品の背景
13. エリザベス・ギャスケル「北と南」2・・・イギリスの北部と南部の違いと恋愛
14. 野上弥生子「真知子」1・・・作家と作品の背景
15. 野上弥生子「真知子」2・・・階級闘争と女性の地位

### 【事前・事後学修】

事前学修：配布プリントや参考書の読み込みと問題点の確認（週2時間）。

事後学修：授業ノートのまとめと作品を読み返して気づいたことをまとめる（週2時間）。

### 【テキスト・教材】

配布プリントを中心に用いる。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験扱いのレポート（80%）、コメントペーパー（20%）

フィードバックはコメントペーパーで行う。

### 【参考書】

- 樋口一葉「にごりえ・たけくらべ」新潮文庫、2003年400円  
 徳富蘆花「不如帰」岩波文庫、1938年799円  
 夏目漱石「それから」新潮文庫、1985年497円  
 ジェーン・オースティン「高慢と偏見」阿部知二訳、河出文庫2006年1,026円

### 【注意事項】

短期大学部受講ルール遵守



**女性と労働**

山根 純佳

2年 後期 2単位

◎：研鑽力

**【注意事項】**

レポートを執筆する際には、授業のなかで提示する参考文献リストのなかから3冊を選び、読んだうえでレポートの内容に用いること。

**【授業のテーマ】**

労働市場と家庭における女性の労働の社会的位置づけと課題を、歴史的過程を踏まえながら説明します。

男性を家庭の中心的な稼ぎ手とみなす男性稼ぎ手構造が形成された歴史的背景、また男性稼ぎ手を前提にした雇用関係や社会保障制度が、家庭と労働市場において女性の脆弱な地位をつくりだしているのか、国際的な比較データや各種統計調査を用いて考えます。また保育士や介護職など女性職の雇用問題、福祉労働の市場化が孕む問題点についてもとりあげます。

**【授業における到達目標】**

- 1) 女性の労働にかかわる日本と労働政策、社会保障政策について基礎的な知識を獲得する。
- 2) 国際比較をとおして日本の現状と課題について、主体的に考える力を養成する。
- 3) 広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く「研鑽力」を獲得する。

**【授業の内容】****【第Ⅰ部 労働市場における女性】**

- 第1週 近代社会における公私の分離 自立と依存
- 第2週 「家族賃金」の成立過程
- 第3週 男性稼ぎ手構造と日本型福祉
- 第4週 「女たちは平等をめざす」鑑賞
- 第5週 男女雇用機会均等法～男女共同参画社会基本法

**【第Ⅱ部 家事労働・ケア労働論】**

- 第6週 福祉レジームと脱商品化
- 第7週 福祉レジと脱家族化
- 第8週 福祉国家とケア① 育児の社会化
- 第9週 福祉国家とケア② 介護の社会化
- 第10週 福祉国家とケア労働
- 第11週 グローバリゼーションとケア労働者の国際移動

**【第Ⅲ部 現代の女性雇用の課題】**

- 第12週 両立の困難 マミー・トラックと介護離職
- 第13週 女性管理職比率と賃金格差
- 第14週 非正規雇用と女性の貧困同
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

事前学修：テーマにかかわる新聞記事やメディアの情報を収集し、自分の意見をまとめておくこと。manabaで配布される報告書や統計資料を読んでくること（学修時間週2時間）

事後学修：授業で配布する参考文献リストをもとに、関連する文献の読書をすすめること。不定期に課す課題（8回）を締め切りまでに提出すること。締め切り後の提出は減点とする（学修時間週2時間）。

**【テキスト・教材】**

プリントを使用する

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業期間内の課題の内容40%、期末レポート60%。

フィードバックについては課題の内容を踏まえて、前回の講義の復習と確認をおこなう。

**【参考書】**

- エスピノーアンデルセン『アンデルセン福祉を語る：女性・子ども・高齢者』（NTT出版 2008年）1,944円
- 大沢真理『今こそ考えたい生活保障のしくみ』（岩波ブックレット 2010年）605円
- 春日キスヨ『変わる家族と介護』（講談社現代新書 2010年）778円
- 上野千鶴子『女たちのサバイバル作戦』（文藝春秋 2013年）864円

**女性と労働**

山根 純佳

2年～ 後期 2単位

©：研鑽力

**【注意事項】**

レポートを執筆する際には、授業のなかで提示する参考文献リストのなかから3冊を選び、読んだうえでレポートの内容に用いること。

**【授業のテーマ】**

労働市場と家庭における女性の労働の社会的位置づけと課題を、歴史的過程を踏まえながら説明します。

男性を家庭の中心的な稼ぎ手とみなす男性稼ぎ手構造が形成された歴史的背景、また男性稼ぎ手を前提にした雇用関係や社会保障制度が、家庭と労働市場において女性の脆弱な地位をつくりだしているのか、国際的な比較データや各種統計調査を用いて考えます。また保育士や介護職など女性職の雇用問題、福祉労働の市場化が孕む問題点についてもとりあげます。

**【授業における到達目標】**

- 1) 女性の労働にかかわる日本と労働政策、社会保障政策について基礎的な知識を獲得する。
- 2) 国際比較をとおして日本の現状と課題について、主体的に考える力を養成する。
- 3) 広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く「研鑽力」を獲得する。

**【授業の内容】****【第Ⅰ部 労働市場における女性】**

- 第1週 近代社会における公私の分離 自立と依存
- 第2週 「家族賃金」の成立過程
- 第3週 男性稼ぎ手構造と日本型福祉
- 第4週 「女たちは平等をめざす」鑑賞
- 第5週 男女雇用機会均等法～男女共同参画社会基本法

**【第Ⅱ部 家事労働・ケア労働論】**

- 第6週 福祉レジームと脱商品化
- 第7週 福祉レジと脱家族化
- 第8週 福祉国家とケア① 育児の社会化
- 第9週 福祉国家とケア② 介護の社会化
- 第10週 福祉国家とケア労働
- 第11週 グローバリゼーションとケア労働者の国際移動

**【第Ⅲ部 現代の女性雇用の課題】**

- 第12週 両立の困難 マミー・トラックと介護離職
- 第13週 女性管理職比率と賃金格差
- 第14週 非正規雇用と女性の貧困同
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

事前学修：テーマにかかわる新聞記事やメディアの情報を収集し、自分の意見をまとめておくこと。manabaで配布される報告書や統計資料を読んでくること（学修時間週2時間）

事後学修：授業で配布する参考文献リストをもとに、関連する文献の読書をすすめること。不定期に課す課題（8回）を締め切りまでに提出すること。締め切り後の提出は減点とする（学修時間週2時間）。

**【テキスト・教材】**

プリントを使用する

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業期間内の課題の内容40%、期末レポート60%。

フィードバックについては課題の内容を踏まえて、前回の講義の復習と確認をおこなう。

**【参考書】**

- エスピノーアンデルセン『アンデルセン福祉を語る：女性・子ども・高齢者』（NTT出版 2008年）1,944円
- 大沢真理『今こそ考えたい生活保障のしくみ』（岩波ブックレット 2010年）605円
- 春日キスヨ『変わる家族と介護』（講談社現代新書 2010年）778円
- 上野千鶴子『女たちのサバイバル作戦』（文藝春秋 2013年）864円

## 女性学

—日本女性史 近代から現代へ—

飯野 智子

1・2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

1. 日本の近代化過程で女性はどうのように位置づけられどのような役割を果たしたか、良妻賢母思想や母性主義から理解する。
2. 女性たちが自らの問題をどう捉え解決しようとしていたのかを「婦人運動」の歴史から理解する。
3. 戦争中の女性統制と「銃後の守り」を問い直す。
4. 良妻賢母—軍国の母と表裏であった公娼—従軍慰安婦の問題について学ぶ。
5. 戦後から今日に至る女性の権利や地位の変遷について学ぶ。

### 【授業における到達目標】

女性史という観点から近代を捉え直す。今まで学習してきた歴史とは違った学び方により、歴史のみならず物事を多面的に捉えられるようにする。また、女性として人として、優しく強く堂々と生きていこうとした先人達の生き方や思想を、今日を生きる自分たち自身に引きつけて考えられるようにする。そのような学修を通して、優しさと強さを兼ね備え、倫理観を持って人格を陶冶しようとする態度や広い視野と深い洞察力によって本質を見抜く「研鑽力」を修得する。

### 【授業の内容】

1. ガイダンス—女性学を学ぶ意味と概要
2. 近代家族と国家
3. 良妻賢母教育
4. 母性主義
5. 戦前の婦人運動
6. 戦争と女性①婦人運動の挫折
7. 戦争と女性②国防婦人会
8. 日本における公娼制の歴史
9. 廃娼運動の展開
10. 従軍慰安婦という問題
11. 近代の人口政策の変遷
12. 戦後民主化と女性
13. 高度経済成長とウーマンリブ
14. 現代の女性を取り巻く状況
15. まとめ

### 【事前・事後学修】

- ・事前学修週2時間：重要用語、人物、近現代史について調べる。
- ・事後学修週2時間：授業で扱った問題について、独自に調べた歴史知識や背景、人物さらには自分の意見なども盛り込み充実したノートを作る。

### 【テキスト・教材】

教科書は使用しない。適宜プリントを配付する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験90%。学習内容に対する感想、意見の提出10%（次回の授業でフィードバックする）。

### 【参考書】

授業時に指示する。

### 【注意事項】

女性学の視点から歴史を見直すと、必ず新たな発見があるはずである。今日の課題に取り組むためにも、意欲的に、歴史から多くのことを学んでほしい。

**女性社会論 a**

文化論の視点からのライフスタイル構想

須賀 由紀子

3年 前期 2単位

○：国際的視野、行動力

**女性社会論 b**

「仕事」「家庭」「環境」から考える、女性と社会の関係

野津 喬

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

20世紀産業社会は、便利で豊かな暮らしをもたらしましたが、伝統の中に培われてきた地域や家族の暮らしの姿を変え、地球環境への負荷も大きいものとなりました。そこで失ったものの大きさに人々は気づき始め、「生命」「愛」「家族」「地域」「絆」などをキーワードとして、地球環境に配慮した社会や暮らしが模索されています。

本講義では、このような流れにある現代社会を、「女性性」を特徴とする「女性社会」と捉えて、これからのライフスタイルを考えます。「女性社会」の中心価値とは何か、そこから構想される暮らしのかたちとは何か、そうした暮らしの実現に向けて、われわれは現代の社会環境や自然環境とどのように対峙すべきか、こうした問題意識から、われわれの文化を見つめ直し、新たな時代の女性と暮らし、社会のあり方を検討します。

ライフスタイルを形作るのは、一人ひとりの生活者としての営みです。全体を通して、これからの社会を「女性性」という概念のもとに展望しながら、現代の中心的な価値観をとらえ、それをもとにしたライフスタイルのデザインを、自分の生き方と重ねながら描くことができるようになることを目標とします。

**【授業における到達目標】**

学生が修得すべき「国際的視野」のうち、日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度、課題解決のために主体的に行動する「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を発見できる力の修得をめざします。

**【授業の内容】**

1. オリエンテーション（授業のねらい、構成、すすめ方）
2. 成長の時代から成熟の時代へ
3. エコロジーの時代の価値観
4. 男女共同参画社会の推進
5. 女性性の概念の検討
6. 日本文化にみる女性力の伝統
7. 水と女性の生活文化史から
8. 男性的創造と女性的創造
9. 「生活」という場の復権
10. 「いのち」を育むということ
11. 隣人愛と地域社会
12. 共生時代のワークライフバランス
13. レジャーと生きがい・家族
14. 女性社会のライフスタイル展望
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】提示された課題を行います（学修時間 週2時間）

【事後学修】学んだことを復習し、内容の整理・理解に努めます（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

必要に応じて、プリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末レポート50%、平常点（授業への積極参加・提出課題等）50%。課題に対するフィードバックは、授業の中で適宜行います。

**【参考書】**

天野正子『現代「生活者」論』（有志舎）柳田国男『妹の力』エーリッヒ・フロム『愛と性と母権性』（新評論）

**【授業のテーマ】**

女性が仕事をする上では結婚、出産などのライフイベント、また家族や社会との関わりを考慮する必要があります。

この授業では「仕事」「家庭」「環境」をキーワードとして、女性と社会との関わりがこれまでどのように変化してきたかを理解するとともに、今後の女性と社会のあり方について考えることを目的とします。

**【授業における到達目標】**

- ① 女性と社会の関係の変遷について基礎的な知識を身につける。
- ② 今後の女性と社会のあり方について、自分なりの視点で考えることができるようになる。

これにより、学生が習得すべき「研鑽力」のうち幅広い視野と深い洞察力を身につけることを目的とします。

**【授業の内容】**

次の各テーマについて、15回の授業を行う予定です。

1. はじめに（講義の進め方及び目標、イントロダクション）
2. 女性と「仕事」①（企業と女性）
3. 女性と「仕事」②（女性の起業）
4. 女性と「仕事」③（女性と結婚）
5. グループワーク①（女性と仕事について考える）
6. 女性と「家庭」①（女性と出産）
7. 女性と「家庭」②（女性と育児）
8. 女性と「家庭」③（女性と介護）
9. グループワーク②（女性と結婚について考える）
10. 女性と「環境」①（食の外部位）
11. 女性と「環境」②（女性と地域・農林漁業）
12. 女性と「環境」③（女性の社会進出とエネルギー）
13. グループワーク③（女性と育児について考える）
14. まとめ（これまでの授業の総括）
15. 授業の理解度確認

**【事前・事後学修】**

【事前学修】次の授業の参考資料に事前に目を通しておいてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】毎回の講義終了時に実施する小テスト等を復習すること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

manabaに講義で使用するプリント等を掲載しますので、各自で事前にプリントアウトして忘れずに授業に持参してください。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末試験（50%）、グループワーク（10%）、各回の講義の定着度を確認する小テスト（40%）により評価を行います。フィードバックは、関連する範囲の講義資料を全てmanabaに掲示することにより行います。

**【参考書】**

内閣府男女共同参画局（編）『男女共同参画白書（平成29年度版）』（勝美印刷 2017）2,808円（※参考書の購入の可否については、初回の講義でお伝えします。）

**【注意事項】**

他の受講者の迷惑となる行為（私語など）を禁止します。講義の妨げになると判断した場合は、成績評価に反映（減点）し、注意しても改善されない場合は講義からの退室を求める場合があります。講義開始後、一定時間を経過した後の入室は遅刻または欠席扱いとします。その他、初回の講義で履修に関する注意事項を説明しますので、遅刻せずに必ず出席してください。

**女性心理学**

健康・医療の視点で女性の生き方を考える

竹内 美香

3年 後期 2単位

◎：研鑽力

**【注意事項】**

人の生涯における健康の確保について、担当者と受講者が意識を共有して考察することを切望する。現代社会における健康・医療支援のあり方を常に点検し、「教科書的ではない」生きた取り組みを心がけて欲しい。毎回のワークシートにおけるコメントなどは教員・学生間の情報交換の媒体である。しっかり書いてほしい。

**【授業のテーマ】**

生涯にわたり発達・変化し続ける女性の自己実現、女性が生きて、愛し、働き続けるために必要な健康・医療面での知識とスキルについて学ぶ。社会の中で働く人の一員として、健康・医療面での現状や課題を知る機会とする。そのことにより、受講生自身が女性として、自分自身のライフプランに主体的に向き合い、具体的な見通しに目を向けるキャリア発達と健康心理学的なこころの作業とその価値について、理解を深める。

**【授業における到達目標】**

1. 生物学的な「女性」と社会的な「女性」を捉えなおす。
2. 社会的場面でのストレスと心身の疾患の仕組みを概説できる。
3. 心理社会的課題と保健活動の仕組みについて、女性の立場から説明できる。
4. 災害時の社会における緊急対応・支援について、女性の立場から考えられる。
5. 新たな知識を創造しようとする態度、生涯を通して自己研鑽を続ける力、主体的に他者と協働して課題解決の行動をとる価値を理解する。

**【授業の内容】**

- 第1週 科目の目標の説明 ジェンダーの生涯発達における課題
- 第2週 「わたし」という同一性、健康な自己とは
- 第3週 人の同一性の形成とその背景
- 第4週 人の発達の課題とストレス
- 第5週 ジェンダーの同一性と適応感の獲得
- 第6週 対人関係・社会的関係性の拡大とストレス
- 第7週 ストレスと心身の疾病
- 第8週 ストレス対処と様々な心理療法
- 第9週 レジリエンス研究とワークプレイスへの適用
- 第10週 マインドフルネスとストレス・コーピング
- 第11週 健康と医療1 産後の危機と支援
- 第12週 健康と医療2 老親の介護と家族の役割
- 第13週 健康と医療3 自らの老いと社会的支援資源
- 第14週 災害と医療・心理的支援 社会的弱者の視点
- 第15週 健康危機、心理的介入支援の中で

**【事前・事後学修】**

【事前学修】日頃から、「ジェンダー」「家族」「健康」「医療」に関わる記事や経験的事実を、自分の言葉で説明できるようにしておく。

【事後学修】時宜に応じて小レポート課題を課す。最終レポートと同様に提出を求めることがある。

【学修に必要な時間】事前・事後学修合わせて毎週4時間程度を要するような課題の取り組みを求める予定。

**【テキスト・教材】**

適宜、資料やワークシートを準備して配布する。その他、映像資料を用意する。

時宜に応じて、医師などの外部講師を招き特別講義形式で実施する回がある。特別講義の回も、学生が聴講する形式となる。特別講義の予定は講師との日程すり合わせによる。受講者にはあらかじめ予告する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

最終レポート60%、授業ワークシートの記述も含めて平常の課題への取り組み評価40%

【フィードバックについて】毎回の授業の冒頭に、提出されたワークシートのコメントについて解説する。最終レポート等の後のフィードバックは、manabaの授業評価コメントの場を活用する。

**【参考書】**

伊東暁子、竹内美香、鈴木晶夫 著『食べる・育てる心理学 食育の基礎と臨床』川島書店

**女性文学**

— 円地文子の文学 —

**高瀬 真理子**

1・2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

**【授業のテーマ】**

円地文子は、日本初の言語学者である上田万年の娘として良家に生まれ育ち、双方の祖母の影響を受け、プロレタリア文学の洗礼を受け、理性的な結婚をしました。然るに、父とは違う夫との関係や女性特有の病などに悩まされながら、女性の生理や情念の叫びを芸術化していきました。また一方で、女性の経済的自立を見据える目も持っていました。彼女の作品世界を丹念に読み解きながら、女性なるものを理解すると同時に、男女・夫婦や家族・社会・老いといった円地文学の抱えるテーマを探っていきます。

**【授業における到達目標】**

作品を読み解くところから研鑽力を磨き、男女・夫婦の関係や家族・社会・老いというようなさまざまな作品のテーマを考察することにより、社会人力の一助とするとともに、人生における自己成長力にも結びつくものとなります。また、作家の作品構成の意図を探ることによって、芸術性や美の探究の問題も理解できるようになります。さらに、課題のやりとりによって、コミュニケーション力、日本語力の伸張にもつながります。

**【授業の内容】**

- 第1週 円地文子の生い立ちと生涯
- 第2週 「ひもじい月日」(1) 一夫の正体—
- 第3週 「ひもじい月日」(2) 一結婚への恐怖—
- 第4週 「ひもじい月日」(3) 一守る者を守る—
- 第5週 「ひもじい月日」(4) 一さくの人生—
- 第6週 「妖」(1) 一娘が巣立った後の夫婦関係—
- 第7週 「妖」(2) 一夫婦の歴史—
- 第8週 「妖」(3) 一坂と中二階—
- 第9週 「妖」(4) 一「妖」とは何か—
- 第10週 「二世の縁 拾遺」(1) 一布川先生と秋成と定助—
- 第11週 「二世の縁 拾遺」(2) 一子宮が鳴るとは—
- 第12週 「二世の縁 拾遺」(3) 一古典解釈譚の意味—
- 第13週 「女面」(1) 一嫁と姑の不思議な愛情—
- 第14週 「女面」(2) 一秘められた憎しみと愛の記憶—
- 第15週 円地文学についてのまとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：作品をしっかり読んで講義に参加します。疑問点や分からない語句については、辞書を引いて調べておきます。

(学修時間 週2時間)

事後学修：講義で理解した内容についてノートにまとめ、作品を読み直します。自分で作品分析する課題を設けます。

(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

テキストは講談社文芸文庫版と全集本を底本とし、プリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験扱いのレポートで評価します。配分基準：定期試験70%、平常点30%（課題、リアクションペーパーを含む）内容的に理解できなかったものについては、質問を受ける形で対応します。作品ごとに課題を通知。提出された課題に対し、添削やコメントでフィードバックし、最後に定期試験で仕上げる形をとります。

**【参考書】**

- 富家素子『童女のごとく』海竜社
- 富家素子『母・円地文子』新潮社
- 小林富久子『円地文子』新典社
- 亀井秀雄・小笠原美子『円地文子の世界』創林社
- 野口裕子『円地文子の軌跡』和泉選書
- 古屋照子『円地文子 妖の文学』沖積舎

**【注意事項】**

短期大学部受講ルール厳守

**商業空間デザイン**

食に関する場のしつらえ

平井 充

4年 後期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

**【授業のテーマ】**

現在の日本では、様々な国や文化の異なる食を体験することができます。さらに、日本における伝統的な食文化も独自の展開を遂げ、様々な食空間を生み出しています。外食産業における食空間のしつらえは、その業種や業態に相応しいしつらえによって支えられていると言っていいでしょう。業種や業態における差異を理解し、快適な食空間づくりを学びます。

本講はフードコーディネーター養成講座の1つであり、「フードスペシャリスト」の業務にも関係の深い分野です。

**【授業における到達目標】**

衣食住の食の部分であり、生活におけるコミュニケーションや楽しみの質を得られるときを演出するのが食空間です。この授業では、外食産業における業種と業態の基本的な知識を学び、食空間のしつらえにおける判断基準を身に着けます。また、自身で食空間のコーディネートするための表現技法を習得し、広い視野において考えられる洞察力を身につけることを目標とします。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 食空間デザイン  
外食に求める消費者の意識、労働と余暇と外食の関係、外食産業の概要、食空間デザインのコンセプト。
- 第3週 食の業種と業態  
業種、業態の概要と動向、立地調査と法的問題。
- 第4週 食業態とそれを取り巻く環境  
地球環境、オーガニック、調理方法の技術革新。
- 第5週 店舗設計  
設計の基本事項、業種別設計の基本事項。
- 第6週 食空間、アプローチ、客席、厨房
- 第7週 食空間、照明計画、色彩計画  
照明方式、照明効果、おいしさと色彩。
- 第8週 食空間、厨房計画  
レストランの機能と流れ、厨房の形式、調理機器。
- 第9週 食空間、厨房機器  
機器の仕組み、給水排水設備、厨房の衛生管理。
- 第10週 食空間、家具デザイン  
客席の形式と家具、全体計画と家具デザイン
- 第11週 店舗の設計Ⅰ 業種別設計事例、製図。
- 第12週 店舗の設計Ⅱ 業種別設計事例
- 第13週 店舗の設計と施工  
仕様書、設計図書、見積書、契約書、施工と管理
- 第14週 最近の設計事例  
食の店舗の特徴と今後の問題点。
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修は、参考書と配布テキストを読む。(週2時間)  
事後学修は、配布資料を再読し、講義内容の記録とともにテーマの関係性を理解し、事前学修の参考書を再読する。また製図で行う演習をブラッシュアップして理解を深める。(週2時間)

**【テキスト・教材】**

講師配布の資料によります。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験40%、レポート30%、授業態度30%  
定期試験は記述式にて理解の確認を行います。  
最終週に試験のフィードバックを実施します。

**【参考書】**

授業中に紹介します。

**【注意事項】**

シラバスの週数や内容の変更を行うことがあります。

**商法概論**

神山 静香

2年 後期 2単位

◎：研鑽力

**【授業のテーマ】**

グローバル化が急速に進む現代のビジネス環境で、企業が熾烈な競争に打ち勝ち利益を生み出すためには、ビジネス（商取引）や企業に関わる法律やルールを知り、これらの知識を使いこなしてビジネスを発展させる力が求められます。また、消費者として企業と取引をする時にも、企業の取引や会社に関わる法律やルールを知っておく必要があるでしょう。

企業の取引や会社の組織・経営についての規律を定めているのは商法と称される法分野です。商法と称される法分野には、商法、会社法、手形法、小切手法、保険法といった法律が含まれますが、本講義では、ビジネス（商取引）を規律する「商法」とビジネスの担い手である会社を組織的側面から規律する「会社法」を中心に解説していきます。私法の一般法である民法との違いを意識しながら、商法・会社法の特徴や考え、基本原理を理解し、具体的な法ルールについて学ぶことで、現代のビジネス社会において身につけておくべき商法・会社法の基本的な知識と法的な思考力を修得することを目的とします。

**【授業における到達目標】**

1. 商法（商法総則・商行為法）と会社法の基礎的な知識を修得すること、2. 商法と称される法分野に含まれる法律や商法・会社法と関わりを有する金融商品取引法の概要を理解すること、3. 商法や会社法の条文を解釈して具体的事案に適用し結論を導くことができるようになること、4. ビジネス（商取引）や会社の組織・経営に関する問題に対して、法的な考え方や法律に基づいた判断ができるようになることを目標とします。ディプロマ・ポリシーとの関連については、学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く力及び「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を発見する力を修得します。

**【授業の内容】**

- 第1週 商法総論：商法の意義、特色、適用範囲
- 第2週 商取引と法、契約
- 第3週 会社の設立と登記
- 第4週 商号、知的財産権
- 第5週 企業活動の補助者
- 第6週 商取引法の特徴
- 第7週 会社とは
- 第8週 会社の機関（1）取締役、取締役会、監査役
- 第9週 会社の機関（2）株主総会
- 第10週 会社の役員等の義務と責任
- 第11週 会社の資金調達：株式、社債
- 第12週 会社の決算・情報開示
- 第13週 会社のM&A（合併・買収）・組織再編等
- 第14週 上場株式会社をめぐる法ルール
- 第15週 講義の総括

**【事前・事後学修】**

【事前】テキストや資料の該当箇所を一読しておくこと。授業時にキーワードを提示するので、新聞やインターネット等で情報を収集し、自分の考えをまとめておくこと（学修時間週2時間）。

【事後】六法で条文を確認しながら、テキストやレジュメを復習すること（学修時間週2時間）。

**【テキスト・教材】**

テキスト・教材については授業開始後に指示します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

小テスト、課題の提出、授業への積極的な参加等の平常点（40%）と期末試験（60%）に基づいて評価します。小テストは次回授業でフィードバックを行います。

**【参考書】**

授業開始後に適宜指示します。

**商法概論**

齋藤 雅代

2年 前期 2単位

◎：研鑽力

**【授業のテーマ】**

この授業のテーマは、企業に関するルール全般について、社会に出るにあたって必要な基礎知識を学び、企業がどのようなルールのもとで営業しているのかを学んだうえで、社会で起こる企業にかかわる紛争をどのように解決すればよいのかを考えます。

**【授業における到達目標】**

この授業の到達目標は、企業に関するルールである商法の基礎的な知識を学び、社会で起こるさまざまな紛争を広い視野と深い洞察力によって解決できる力を身につけることです。

**【授業の内容】**

- 第1回目 企業と法
- 第2回目 企業の主体
- 第3回目 商号
- 第4回目 営業・事業とは何か
- 第5回目 企業の倒産処理
- 第6回目 企業取引とは何か
- 第7回目 企業取引のルール①契約の成立
- 第8回目 企業取引のルール②債権の確保
- 第9回目 商事売買
- 第10回目 消費者取引
- 第11回目 企業取引の補助者
- 第12回目 運送営業
- 第13回目 会社とは何か
- 第14回目 会社のしくみ
- 第15回目 総括

**【事前・事後学修】**

事前学習：今回の講義の資料を読み、条文を確認しておくこと。（2時間）

事後学習：確認テストを提出すること。（2時間）

**【テキスト・教材】**

レジュメを配布します。  
六法を持参してください。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（確認テスト）20%および定期試験80%で評価します。

試験後にmanabaを利用して模範解答を示します。



## 小説と戯曲の世界

谷崎潤一郎の初期の作品を中心に

宮木 孝子

1・2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

谷崎潤一郎の初期の代表作「刺青」を丁寧に読み、谷崎文学の基調を成す、美意識の特徴を学ぶ。そのため、授業では作品の背景を解説プリントやパワーポイントなどを使用して説明し、初めて近代文学の作品に出会う学生にも理解しやすい方法を用いている。

小説を読み、戯曲を読むことから、後の谷崎作品に描かれる世界、文体的特色、表現技巧をも理解する基礎力を養う。

### 【授業における到達目標】

谷崎作品を通して、単語と単語、文章と文章の繋がりから、どのようなイメージが生まれ、意味が生じるのかを、言葉の意味を意識して、言葉の感覚を養う。また言葉の生み出す美を知り、感じることで「美の探求」心を育てる。さらに戯曲「信西」では歌舞伎との関係も学ぶことから、文学の見地からの「国際的視野、研鑽力」の基礎を学ぶ。

### 【授業の内容】

1. 授業のすすめ方
2. 小説「刺青」の時代
3. 小説「刺青」P8 時代背景
4. 講読 P8～10 浮世絵
5. 講読 P10～13 清吉の家
6. 講読 P13～15 娘の本性
7. 講読 P16～17 印象派
8. 講読 P18～19 運命の女
9. 講読「信西」戯曲ブーム時代の谷崎
10. 講読「信西」歴史と史劇 ト書き 舞台装置を描く
11. 講読「信西」主人公の特徴とテーマ
12. 歌舞伎と近代劇 講読「お国と五平」
13. 講読「お国と五平」人物設定のまとめ
14. 映画と谷崎 講読「白日夢」モダニズムの受容
15. その後の谷崎文学

### 【事前・事後学修】

事前学修：しっかり、辞書を横において指定の部分を読み込む。

週 2時間以上

事後学修：ノートを作り、自分の理解した内容を整理する。

週 2時間以上

### 【テキスト・教材】

新潮文庫・谷崎潤一郎著『刺青・秘密』新潮社 520円（税別）

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験レポート80%。平常点20%（コメントシート・授業内提出物）

### 【参考書】

新潮日本文学アルバム7『谷崎潤一郎』新潮社 2006年4月  
1200円（税別）

他に授業内で適宜、紹介する。

### 【注意事項】

よく読むこと、何回も読むことが大切。辞書を使うこと。

私語厳禁。質問大歓迎。

## 少子高齢化社会

須賀 由紀子

2・3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

急速にすすむ少子高齢化社会の現状と課題を正しく認識し、これからの家庭・地域生活のあり方、望まれる社会のかたちを考えていきます。大切な社会の一員である子ども、その子どもを取り巻く家族の幸せに資する生活環境を主体的に築くため、子ども理解を深めるとともに、少子高齢化の生活課題を踏まえ、共生社会という発想の中で、社会全体で支え合い、育ちあう社会像のビジョンを得ることを授業の目標とします。

子どもの伸びやかな成長に何よりも欠かせないのは、自由な「遊び」です。授業では、子どもの成長にとっての遊びの意義や現代的な特徴、および日本の伝統的な子育て文化などを学び、子どもと家族・地域のあり方についての視点を習得していきます。また、核家族化や共働き家族の増加など、変化する現代家族の生活状況を踏まえて、子育て支援ニーズの現状と課題を考えます。一方で、進む高齢社会という現状があります。それは、高齢者の生きがいある暮らしを支え、地域社会の充実が求められていく社会でもあります。そこで、高齢者と子育てを結び、豊かな地域社会を形成していく中に、幸福な社会のあり方が展望できることを捉えます。

### 【授業における到達目標】

少子高齢化社会の現状と課題を知り、その受け皿となる地域社会のあり方を構想できるようになることが目標です。課題解決のために主体的に行動する「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を発見できること、および、目標を設定して、計画を立案・実行できること、また、相互を活かして自らの役割を果たす「協働力」のうち、自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進める力を修得します。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 少子高齢化と地域づくりの課題
- 第3週 少子社会の子どもの育ち
- 第4週 現代の子どもの生活と遊び（現状）
- 第5週 現代の子どもの生活と遊び（課題）
- 第6週 少子高齢化社会の受け皿としての地域社会
- 第7週 「甘え」の文化とこれからの共生社会
- 第8週 地域交流の現場（ゲスト講師予定）
- 第9週 高齢社会と生きがいの課題
- 第10週 「老いがい」というとらえ方
- 第11週 「子どもと老人」という組み合わせ
- 第12週 多世代交流プログラムの検討
- 第13週 多世代交流プログラムの発表
- 第14週 少子高齢化社会の今後
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】提示された課題を行います（学修時間 週2時間）

【事後学修】学んだことを復習し、内容の整理・理解に努めます（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

授業で適宜プリントや参考資料を配布してすすめます。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業におけるアクティビティや小レポート）50%、期末レポート50%。課題に対するフィードバックは、授業の中で適宜行います。

### 【参考書】

本田和子『変貌する子ども世界』（中央公論新社）岡本夏木『幼児期』（岩波書店）宮田登『子ども・老人と性』（吉川弘文館）天野正子『老いの近代』（岩波書店）広井良典『持続可能な福祉社会』（筑摩書房）

## 少子高齢化社会

須賀 由紀子

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

急速にすすむ少子高齢化社会の現状と課題を正しく認識し、これからの家庭・地域生活のあり方、望まれる社会のかたちを考えていきます。大切な社会の一員である子ども、その子どもを取り巻く家族の幸せに資する生活環境を主体的に築くため、子ども理解を深めるとともに、少子高齢化の生活課題を踏まえ、共生社会という発想の中で、社会全体で支え合い、育ちあう社会像のビジョンを得ることを授業の目標とします。

子どもの伸びやかな成長に何よりも欠かせないのは、自由な「遊び」です。授業では、子どもの成長にとっての遊びの意義や現代的な特徴、および日本の伝統的な子育て文化などを学び、子どもと家族・地域のあり方についての視点を習得していきます。また、核家族化や共働き家族の増加など、変化する現代家族の生活状況を踏まえて、子育て支援ニーズの現状と課題を考えます。一方で、進む高齢社会という現状があります。それは、高齢者の生きがいある暮らしを支え、地域社会の充実が求められていく社会でもあります。そこで、高齢者と子育てを結び、豊かな地域社会を形成していく中に、幸福な社会のあり方が展望できることを捉えます。

### 【授業における到達目標】

少子高齢化社会の現状と課題を知り、その受け皿となる地域社会のあり方を構想できるようになることが目標です。課題解決のために主体的に行動する「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を発見できること、および、目標を設定して、計画を立案・実行できること、また、相互を活かして自らの役割を果たす「協働力」のうち、自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進める力を修得します。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 少子高齢化と地域づくりの課題
- 第3週 少子社会の子どもの育ち
- 第4週 現代の子どもの生活と遊び（現状）
- 第5週 現代の子どもの生活と遊び（課題）
- 第6週 少子高齢化社会の受け皿としての地域社会
- 第7週 「甘え」の文化とこれからの共生社会
- 第8週 地域交流の現場（ゲスト講師予定）
- 第9週 高齢社会と生きがいの課題
- 第10週 「老いがい」というとらえ方
- 第11週 「子どもと老人」という組み合わせ
- 第12週 多世代交流プログラムの検討
- 第13週 多世代交流プログラムの発表
- 第14週 少子高齢化社会の今後
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】提示された課題を行います（学修時間 週2時間）

【事後学修】学んだことを復習し、内容の整理・理解に努めます（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

授業で適宜プリントや参考資料を配布してすすめます。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業におけるアクティビティや小レポート）50%、期末レポート50%。課題に対するフィードバックは、授業の中で適宜行います。

### 【参考書】

本田和子『変貌する子ども世界』（中央公論新社）岡本夏木『幼児期』（岩波書店）宮田登『子ども・老人と性』（吉川弘文館）天野正子『老いの近代』（岩波書店）広井良典『持続可能な福祉社会』（筑摩書房）

## 少子高齢化社会

須賀 由紀子

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

急速にすすむ少子高齢化社会の現状と課題を正しく認識し、これからの家庭・地域生活のあり方、望まれる社会のかたちを考えていきます。大切な社会の一員である子ども、その子どもを取り巻く家族の幸せに資する生活環境を主体的に築くため、子ども理解を深めるとともに、少子高齢化の生活課題を踏まえ、共生社会という発想の中で、社会全体で支え合い、育ちあう社会像のビジョンを得ることを授業の目標とします。

子どもの伸びやかな成長に何よりも欠かせないのは、自由な「遊び」です。授業では、子どもの成長にとっての遊びの意義や現代的な特徴、および日本の伝統的な子育て文化などを学び、子どもと家族・地域のあり方についての視点を習得していきます。また、核家族化や共働き家族の増加など、変化する現代家族の生活状況を踏まえて、子育て支援ニーズの現状と課題を考えます。一方で、進む高齢社会という現状があります。それは、高齢者の生きがいある暮らしを支え、地域社会の充実が求められていく社会でもあります。そこで、高齢者と子育てを結び、豊かな地域社会を形成していく中に、幸福な社会のあり方が展望できることを捉えます。

### 【授業における到達目標】

少子高齢化社会の現状と課題を知り、その受け皿となる地域社会のあり方を構想できるようになることが目標です。課題解決のために主体的に行動する「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を発見できること、および、目標を設定して、計画を立案・実行できること、また、相互を活かして自らの役割を果たす「協働力」のうち、自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進める力を修得します。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 少子高齢化と地域づくりの課題
- 第3週 少子社会の子どもの育ち
- 第4週 現代の子どもの生活と遊び（現状）
- 第5週 現代の子どもの生活と遊び（課題）
- 第6週 少子高齢化社会の受け皿としての地域社会
- 第7週 「甘え」の文化とこれからの共生社会
- 第8週 地域交流の現場（ゲスト講師予定）
- 第9週 高齢社会と生きがいの課題
- 第10週 「老いがい」というとらえ方
- 第11週 「子どもと老人」という組み合わせ
- 第12週 多世代交流プログラムの検討
- 第13週 多世代交流プログラムの発表
- 第14週 少子高齢化社会の今後
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】提示された課題を行います（学修時間 週2時間）

【事後学修】学んだことを復習し、内容の整理・理解に努めます（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

授業で適宜プリントや参考資料を配布してすすめます。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業におけるアクティビティや小レポート）50%、期末レポート50%。課題に対するフィードバックは、授業の中で適宜行います。

### 【参考書】

本田和子『変貌する子ども世界』（中央公論新社）岡本夏木『幼児期』（岩波書店）宮田登『子ども・老人と性』（吉川弘文館）天野正子『老いの近代』（岩波書店）広井良典『持続可能な福祉社会』（筑摩書房）

## 少子高齢化社会と生活

少子高齢化社会の動向と女性のライフコースの関係を探る

中野 裕美子

2年 前期 2単位

○：国際的視野、研鑽力、協働力

### 【授業のテーマ】

現代日本の状況を説明するのに、「少子化」や「高齢化」という言葉が頻繁に使用されています。少子高齢化社会に関する現状を把握し、それらに関する日常的に報じられているニュースが現在の自分の状態とこれからの自分の将来とどうかかわっているのかを探ります。

また我が国の現状をグローバルな視点から、統計を使いながら考えてみます。具体的には、あらためて意味を説明しようとする、経済学や社会学の専門用語も必要になってきます。それらの専門用語を授業でたくさん紹介して、解説することから始めます。

そしてそれらの用語を使って、社会の問題が自分の今後のライフコースと深く関わっていることを理解し、授業で学んだ知識をベースにして、自分の考えを整理し、説得力を獲得することを目指します。

### 【授業における到達目標】

この授業では、履修者は

1) 社会の問題になっている事柄について基本的な知識を身に付けるための【研鑽力】を高めること、2) 現代社会がもつ問題点を考える上で各国の状況を学び、【国際的視野】を身に付けることができるようになること、(3) 自分自身が安心して生活するための行動力や、他者を理解することができる【協働力】を形作ることを目指しています。

### 【授業の内容】

授業内容は以下の通りです。

- 第1週 ガイダンス・受講上の注意点
- 第2週 人口統計データの見方
- 第3週 日本の少子化の実態とその原因をめぐる議論
- 第4週 世界各国の合計特殊出生率と労働参加率の関係
- 第5週 女性のライフコースと職業
- 第6週 5週目までのまとめ
- 第7週 GDPと女性の労働
- 第8週 家事の国際比較
- 第9週 夫の職業と女性の労働
- 第10週 企業の転勤制度
- 第11週 IT化の進展とワーク・ライフ・バランス
- 第12週 高齢者介護と女性の労働
- 第13週 日本の少子化と外国人労働者
- 第14週 少子高齢化社会における女性の就業継続と家族の

戦略：事例

第15週 7週目からのまとめ

進捗状況によって変更する場合があります。

### 【事前・事後学修】

事前学修：新聞やテレビのニュースに注意を向けること。毎回授業の終わりに次週の内容を予習するためのプリントを配布します。授業の前に2時間の予習、授業の後に2時間の復習をしてください。

事後学修：毎回配布するプリントを読み直し、あいまいな点は調べてください。調べ方は授業で説明します。

### 【テキスト・教材】

プリントを毎回配布します。それに加えて資料として新聞の記事を使います。またインターネットを使って安心して使えるデータにアクセスする方法を学びます。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト (45%)、期末テスト (45%)、リアクション・ペーパーの内容 (10%) 小テストの後の授業で1名ずつにコメントをしながらテストを返却します。期末テストに関しては試験終了後に個別に

コメントします。

### 【参考書】

総務省統計局「世界の統計2017」

神原文子ほか「よくわかる現代家族」ミネルヴァ書房 2015

「OECD幸福度白書」明石書店 2016

「社会保障と社会福祉」医学書院 2017

### 【注意事項】

予習をしてくるのが前提で講義をしますので授業の終わりに配布するプリントの問題の回答を考えてきてください。

**消費科学**

大川 知子

4年 後期 2単位

◎：研鑽力

**【授業のテーマ】**

4年間の学びの集大成として、企業が製品やサービスを生活者に提供する際に、最低限必要な品質に関する知識を体得する。また、国内外の生産拠点から、多くのプロセスを経て生み出された製品を、安心・安全に届ける為に考慮すべきポイントについて、多角的に学ぶ。

**【授業における到達目標】**

1. 繊維製品の品質について、現実に照らし、多角的に分析・検討出来るようになること。
2. 製品購入者である生活者を中心に捉え、安心・安全とは何かを考えること。
3. 上記二点を踏まえ、他事例にも応用出来る力と、問題解決の為に主体的に行動する「研鑽力」を養うこと。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーションー消費科学の歴史と変遷
- 第2週 品質とは何か1 生活者に関わる歴史上の出来事
- 第3週 品質とは何か2 素材／最終製品／店頭における品質
- 第4週 品質とは何か3 品質の評価
- 第5週 繊維製品を巡る今日的課題1 価格と製品価値
- 第6週 (校外学習) アパレル生産／品質管理の実態  
※都内の縫製工場見学 (予定)
- 第7週 工場見学の振り返りーディスカッション
- 第8週 繊維製品を巡る今日的課題2 地球環境とファッション
- 第9週 繊維製品のこれからを考える1 事例研究／メーカーの取り組み ※外部講師 (実務者) を予定
- 第10週 繊維製品のこれからを考える2 事例研究／フェアトレードを考える ※外部講師 (実務者) を予定
- 第11週 事例についての振り返りーディスカッション
- 第12週 製品管理と物流
- 第13週 品質管理の仕事の実際  
※外部講師 (実務者) を予定
- 第14週 これからの繊維製品の展開
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修がある場合、各自準備をして授業に臨むこと (学修時間 3時間)。一回ずつの内容に対して、復習をすること (学修時間 1時間)。

**【テキスト・教材】**

必要に応じてプリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

各種課題80%、授業への取り組み・教室内での発言20%で評価を行う。また、課題は原則的に提出の翌週以降に返却と解説を行う。

**【参考書】**

1. 織研新聞、WWD JAPAN等の業界紙 (図書館とファッションビジネス研究室で購読中)
2. 『被服学辞典』 (朝倉書店、2016年) 18,000円 (税別)
3. 『ファッション辞典』 (文化出版局、1999年) 4,000円 (税別)

**【注意事項】**

欠席が事前に分かっている場合には、その時点で申し出ること。公欠は大学の規定で認められているもののみ、かつ申請書類は必ず事前に提出のこと。

**消費者安全論**

消費者が消費生活をより安全に営むために

米山 眞梨子

3年 後期 2単位

◎：研鑽力

**【授業のテーマ】**

私たちは誰もが消費者である。そして私たちは、事業者が供給するモノやサービスを選択し、購入し、使用し、あるいは廃棄することで消費生活を営んでいる。そこには危なさも潜んでいて、安全に生活するためには、いわゆる生活の知恵が役に立つだけでなく、消費者が自ら学習して知識を得ることも求められている。

この授業では、事例をもとにして自身の暮らしの安全を考えることからはじめ、消費生活の安全を確保するための社会の仕組みを知りそれをいかし、さらには自立した消費者として、よりよい社会の構築に参画することの意義を理解して行動できることを目指す。

特に、消費生活アドバイザー資格の取得、家庭科の教員免許の取得を検討している者、あるいは公務員志望者にとって役立つ内容である。

**【授業における到達目標】**

消費生活に関する知識について、まずは知り、本質を見抜く【研鑽力】を養うとともに、自らが「問題を見つけ、解決できる」【行動力】を得ることと、「周りの人々にも伝えていける」【協働力】の基礎を養うことを目標とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス、『くらしの豆知識』と消費生活相談の現場
- 第2週 映像教材視聴「もしあなたがトラブルにあったら」
- 第3週 消費者問題とは何か/消費者の権利と責任
- 第4週 知っておきたい消費者のための法律1（契約取引の基本）
- 第5週 知っておきたい消費者のための法律2（契約取引個別法）
- 第6週 知っておきたい消費者のための法律3（表示・安全他）
- 第7週 知っておきたい消費者を守る行政の仕組み（国・地方）
- 第8週 消費者を守る法律・制度（行政処分・注意喚起）
- 第9週 消費者安全調査委員会の活動
- 第10週 トラブル事例とその解決に関するレポート発表1
- 第11週 トラブル事例とその解決に関するレポート発表2
- 第12週 消費者教育1（法律・制度解説）
- 第13週 消費者教育2（取組紹介）
- 第14週 消費者教育3（実践・行動のレポート）
- 第15週 消費者市民社会を考える、まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 第2週以降、次回（あるいはそれ以降）の講義概要を提示するので、それに従い事前学修を行うこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 授業で学んだ内容を復習すること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

『くらしの豆知識2019』（国民生活センター） 500円程度  
注 2018年版は476円（税別）、2019年版は2018年8月頃発行予定  
その他については、授業開始時に指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業態度、確認テスト）30% 平常点（提出課題と発表）30% 定期試験レポート40%  
小テストは原則次回授業、提出課題と発表は授業内で適宜講評。第14週に提出したレポートは第15週に評価をフィードバックする。

**【参考書】**

正田彬著『消費者の権利 新版』（岩波書店 2010年）720円（税別）  
その他、講義中に示す。

**消費者安全論演習**

高橋 桂子

4年 前期 1単位

○：国際的視野、研鑽力

**【授業のテーマ】**

「くらしの豆知識」（国民生活センター）を用いて、昨今の消費者問題について報告を行う。報告は各自（もしくはグループで）4回、行う。

**【授業における到達目標】**

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、現状を正しく把握し、課題を解決できる力を修得する。

具体的には以下のようなものである。

消費者トラブル、消費者行政など昨今の消費者関連テーマについて、最新統計を用いた要点を得た報告ができるようになる。

**【授業の内容】**

- 第1回 ガイダンス、テーマの割振り
- 第2回 ネット社会の落とし穴：テーマに関する深掘り
- 第3回 ネット社会の落とし穴：PPT作成
- 第4回 ネット社会の落とし穴：プレゼン
- 第5回 くらしを守る制度いろいろ：テーマに関する深掘り
- 第6回 くらしを守る制度いろいろ：PPT作成
- 第7回 くらしを守る制度いろいろ：プレゼン
- 第8回 DVD視聴
- 第9回 やさしく解説～マネー情報：テーマに関する深掘り
- 第10回 やさしく解説～マネー情報：PPT作成
- 第11回 やさしく解説～マネー情報：プレゼン
- 第12回 長寿時代のリスク管理：テーマに関する深掘り
- 第13回 長寿時代のリスク管理：PPT作成
- 第14回 長寿時代のリスク管理：プレゼン
- 第15回 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回講義テーマに関して、複数箇所からの情報をもとに自習学修を行うこと（学修時間 週2時間）。

【事後学修】 学んだことを図書やネット検索を通して復習する（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

「くらしの豆知識」（国民生活センター） 2018年版（A5判）  
2017年9月発売、定価514円（本体476円＋税8%）  
資料等を必要に応じて配布する。事前に配布された資料は、目を通した上で講義に臨むこと。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

プレゼン・レポート（70%）、平常点（授業への積極参加、グループワークなど30%）から判断する。

なお、レポートはmanabaで提出し、コメントをつけて返却する。

**【参考書】**

適宜、指示します

**【注意事項】**

「出席3分の1ルール」は厳格に適用します。

## 消費者心理学

斎藤 明

3年 後期 2単位

◎：研鑽力

## 【授業のテーマ】

私たちは、日々消費という行動を繰り返しています。しかしながら、こうした毎日繰り返されている消費行動のプロセスは非常に複雑です。本講義では心理学の視点から、私たちの消費行動について基本的な考え方や理論について学習し、理解することを目的とします。また消費者の消費行動への理解は、企業や組織等におけるマーケティング活動を計画・実行していく際にも、非常に重要です。そのため、消費者心理に関する基本的な考え方や理論を理解した上で、マーケティングに関連したテーマとの関連においても学習し、消費者が何を感じ、考え、モノやサービスを選ぶのか、といった消費行動プロセスについて、皆さん自身の買い物行動を見つめ直しながら、考えていきます。

## 【授業における到達目標】

## ■到達目標■

消費行動論における基本的なフレームワークおよび概念を理解し、購買行動プロセスに関して、当該フレームワークおよび概念に基づき論理的に理解、説明できる。

## ■ディプロマ・ポリシーとの関連■

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、深い洞察力を修得する。

## 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション：消費行動研究とは
- 第2週 アイデンティティ
- 第3週 家族
- 第4週 集団
- 第5週 ステイタス
- 第6週 文化
- 第7週 サブカルチャー
- 第8週 知覚
- 第9週 学習
- 第10週 記憶
- 第11週 態度
- 第12週 意思決定
- 第13週 消費行動とマーケティング（1）
- 第14週 消費行動とマーケティング（2）
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

事前学修：前回までの復習を実施し、授業に参加すること。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業内で詳細された概念等に関して整理し、ノートを作成し、理解を促進する。（学修時間 週2時間）

上記プロセスを繰り返すことで、授業内容の理解を獲得し、自律的学修を促進する。

## 【テキスト・教材】

松井・西川編著『1からの消費行動』（碩学舎 2016年）2,400円＋税

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

## ■成績評価■

定期試験：100%

## ■フィードバック■

試験結果は授業最終回でフィードバックを実施する。

## 【参考書】

青木幸弘『消費者行動の知識（日経文庫）』（日本経済新聞出版社、2010年）

杉本徹雄編『新・消費者理解のための心理学』（福村出版、2012年）

## 【注意事項】

事前学修および事後学修において、各自ノートを作成することを徹底すること。

## 消費者保護論

金津 謙

2年 前期 2単位

◎：行動力

## 【授業のテーマ】

日々繰り返している買い物に、「契約」の成立を意識することは少ないが、消費者に莫大な不利益を生じさせるような契約を「そのかす」業者も多く存在している。「しまった！」と気づいて初めて契約の危険性を思い知るのでは遅いのである。近年、社会経験の乏しい学生をターゲットとした、マルチ商法、ネズミ講、アルバイト商法など、また、判断能力の低下した高齢者を対象とした利殖商法、悪質リフォームなどが社会問題化していることは周知の通りで、早急な対策が必要である。

## 【授業における到達目標】

受講者が将来、消費者被害に遭わないようにすることは無論のこと、問題が発生した場合の解決方法、家族、友人などが被害者とならないよう、アドバイスが出来る程度の知識修得を目的とする。すなわち、本学DPにおける学生が修得すべき「行動力」うち、課題を発見する力を修得することとなる。

## 【授業の内容】

1. 消費者保護論とはなにか
2. 消費者教育の重要性
3. クーリングオフ制度／特定商取引法①
4. 訪問販売、キャッチセールス／特定商取引法②
5. マルチ商法／特定商取引法③
6. 英会話教室・エステの中途解約／特定商取引法④
7. アルバイト商法／特定商取引法⑤
8. 消費者契約法
9. 牛肉・衣類などの二重価格、原産地の不当表示／景表法等
10. 製造物（商品）による消費者被害／製造物責任法
11. 製造物（食品）による消費者被害／製造物責任法
12. 消費者金融の問題点／利息制限法等
13. 債務整理の方法／破産法等
14. 金融商品の販売と消費者被害／金融商品販売法等
15. まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】小テスト・レポート・発表等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】発表・小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

長尾治助編著『レクチャー消費法〔第5版〕』（法律文化社 2011年）2,700円 ※教科書については改定の予定があるので開講時に改めて指示する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中の小テスト（30点）、中間テスト（30点）、期末テスト（40点）による総合評価。試験結果については授業最終回でフィードバックを行う予定である。

## 【参考書】

適宜指示する。

## 【注意事項】

本講においては消費者被害を社会問題ととらえ、厳格な法令解釈は行わない。また、必要な条文については適宜プリントを配布するため指示するとき以外は六法の持参は不要である。



**消費者保護論**

金津 謙

2年～ 前期 2単位

◎：行動力

**【授業のテーマ】**

日々繰り返している買い物に、「契約」の成立を意識することは少ないが、消費者に莫大な不利益を生じさせるような契約を「そそのかず」業者も多く存在している。「しまった！」と気づいて初めて契約の危険性を思い知るのでは遅いのである。

近年、社会経験の乏しい学生をターゲットとした、マルチ商法、ネズミ講、アルバイト商法など、また、判断能力の低下した高齢者を対象とした利殖商法、悪質リフォームなどが社会問題化していることは周知の通りで、早急な対策が必要である。

**【授業における到達目標】**

受講者が将来、消費者被害に遭わないようにすることは無論のこと、問題が発生した場合の解決方法、家族、友人などが被害者とならないよう、アドバイスが出来る程度の知識修得を目的とする。すなわち、本学DPにおける学生が修得すべき「行動力」うち、課題を発見する力を修得することとなる。

**【授業の内容】**

1. 消費者保護論とはなにか
2. 消費者教育の重要性
3. クーリングオフ制度／特定商取引法①
4. 訪問販売、キャッチセールス／特定商取引法②
5. マルチ商法／特定商取引法③
6. 英会話教室・エステの中途解約／特定商取引法④
7. アルバイト商法／特定商取引法⑤
8. 消費者契約法
9. 牛肉・衣類などの二重価格、原産地の不当表示／景表法等
10. 製造物（商品）による消費者被害／製造物責任法
11. 製造物（食品）による消費者被害／製造物責任法
12. 消費者金融の問題点／利息制限法等
13. 債務整理の方法／破産法等
14. 金融商品の販売と消費者被害／金融商品販売法等
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】小テスト・レポート・発表等の課題に取り組むこと。  
(学修時間 週2時間)

【事後学修】発表・小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

長尾治助編著『レクチャー消費者法〔第5版〕』（法律文化社 2011年）2,700円 ※教科書については改定の予定があるので開講時に改めて指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業中の小テスト（30点）、中間テスト（30点）、期末テスト（40点）による総合評価。試験結果については授業最終回でフィードバックを行う予定である。

**【参考書】**

適宜指示する。

**【注意事項】**

本講においては消費者被害を社会問題ととらえ、厳格な法令解釈は行わない。また、必要な条文については適宜プリントを配布するため指示するとき以外は六法の持参は不要である。

**消費生活学**

杉本 公枝

2年 後期 2単位

◎：研鑽力

**【授業のテーマ】**

現代社会における消費者問題を理解し、安全・安心な消費生活を営むために必要な法律や制度、企業の責任や役割、消費者行動の在り方を自覚できるようにする。また、具体的な消費者トラブルに対する解決の糸口を見つけられる能力を身につける。

**【授業における到達目標】**

- ・現代社会における様々な消費者問題の現状を理解する力を養う。
- ・消費者問題を合理的に分析し、適切な手続きに沿った問題解決、提言が行える能力を身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週 消費生活学について
- 第2週 消費者問題の基礎
- 第3週 消費者政策
- 第4週 消費者安全の確保－消費者安全法など－
- 第5週 消費者安全の確保－製造物責任法など－
- 第6週 広告・表示の適正化
- 第7週 繊維製品の相談事例
- 第8週 繊維製品に関する法律
- 第9週 消費者を取り巻く社会情勢
- 第10週 消費者相談の現状
- 第11週 消費者契約の適正化
- 第12週 若者の消費者トラブル
- 第13週 企業における消費者対応
- 第14週 消費者教育・啓発
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】新聞やネット報道から消費者トラブルに関する記事を探し出しておいてください。（学修時間週2時間）

【事後学修】配布資料の授業済みの部分を復習し、指定された重要事項が身についているか自己点検してください。（学修時間週2時間）

**【テキスト・教材】**

講義時に適宜指示あるいは資料を配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験（40%）、レポート（30%）、授業態度（30%）の割合で評価します。試験結果は授業でフィードバックを行います。レポートは返却時にプレゼンテーションと講評を行い、学修成果が確認できるようにします。

**【参考書】**

- ・日本衣料管理協会編『衣料管理士養成のための消費生活論』
- ・日本衣料管理協会編『繊維製品の基礎知識シリーズ』
- ・独立行政法人国民生活センター編『くらしの豆知識』（最新年度版）

**【注意事項】**

消費生活専門相談員、消費生活アドバイザーなどの消費者関連資格及び繊維製品品質管理士の資格をめざす人は履修を勧めます。

**障害児保育**

板倉 達哉

3年 通年 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

**【参考書】**

障害児保育 新版(新保育ライブラリ 保育の内容・方法を知る) 編著者：渡部信一・本郷一夫・無藤隆 出版社：北大路書房

**【授業のテーマ】**

障害に関する基本的知識や歴史の変遷を学び、理解を深める。障害児に対する支援は様々な職種との連携が重要であることを鑑み、個人々の発言やグループ討論を重視する。これらのことから、子どもに対する理解をより深め、実践的な知識・技能を身につけることを目的とする。

**【授業における到達目標】**

1. 障害児保育に関する基本的理念や歴史の変遷について理解し、説明できる。2. 様々な障害について理解し、子どもの理解や援助の方法、環境の構成等について説明できる。3. 障害のある子どもも実態把握、個別の支援に関する計画の立案、実践について理解し、説明できる。4. 障害のある子どもを取り巻く多領域支援・専門機関との連携について理解し、説明できる。

**【授業の内容】****【前期】**

1. 授業概要
2. 「障害」とは何か？(障害の定義と概念について)
3. 障害児保育の歴史の変遷
4. 障害と発達(発達の観点の意味と捉え方)
5. 障害の理解と支援①(肢体不自由について)
6. 障害の理解と支援②(視覚障害について)
7. 障害の理解と支援③(聴覚障害について)
8. 障害の理解と支援④(知的障害について)
9. 障害の理解と支援⑤(重度重複障害について)
10. 障害の理解と支援⑥(ASDについて)
11. 障害の理解と支援⑦(AD/HDについて)
12. 障害の理解と支援⑧(LDについて)
13. 実際の事例を通して支援方法を学ぶ(VTR視聴)
14. 実際の事例を通して支援方法を学ぶ(ケース検討)
15. 前期まとめ

**【後期】**

1. 障害児保育の形態
2. 障害児保育の現状と課題
3. インクルーシブ保育について①(合理的配慮について)
4. インクルーシブ保育について②(個の発達を支える)
5. インクルーシブ保育について③(子ども同士の関わり)
6. インクルーシブ保育について④(職員間の連携)
7. 個別支援計画について①(子どもの実態把握)
8. 個別支援計画について②(計画の作成)
9. 個別支援計画について③(評価)
10. 保護者や家族に対する理解と支援
11. 小学校や地域等との連携
12. 障害児保育について① 外部講師の講義、質疑応答
13. 障害児保育について② 外部講師の講義、質疑応答
14. 多領域支援・専門機関との連携
15. 後期まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】毎授業後に次回授業のテーマと概要を発表する。そのテーマに関する文献や論文、参考書を読み用語理解等しておく(週1時間)。

【事後学修】事後学修レポート等の課題への取り組みと提出(週1時間)。

**【テキスト・教材】**

プリントやビデオ等を使用する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業への取り組み(発言やグループ討論への参加)(20%)、レポート等提出物(次回授業時フィードバック:30%)、定期試験(授業最終週にフィードバック:50%)。

## 上代中古文学演習 a 1

—筑紫歌壇（大伴旅人と山上憶良）—

池田 三枝子

3年～ 前期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

わが国最古の歌集である『万葉集』には、日本古来の呪術的な要素と、当時最高の先進国であった中国や朝鮮半島諸国から受けた影響とが複雑に混じり合っています。

この授業では渡来の文学・文化を積極的に取り入れることにより、新しい和歌を作り出していった筑紫歌壇を取り上げます。筑紫歌壇とは、九州の大宰府で大伴旅人や山上憶良を中心に形成された文学圏です。旅人や憶良の作品を読解し、奈良の都を遠く離れた大宰府でどのように新しい和歌が作り出されていったのかを学ぶことにより、古代の和歌についての理解を深めて行きます。

## 【授業における到達目標】

学生が身につけるべき態度・能力のうち、以下の5つを修得します。

- ・国際的視野（日本の文化・精神を知り、世界に発信する態度）
- ・美の探求（感受性を深めようとする態度）
- ・研鑽力（学修成果を実感して自信を創出し、本質を見抜く力）
- ・行動力（課題の発見から計画の立案・実行、問題解決に至る力）
- ・協働力（協力して物事を進める力）

## 【授業の内容】

- |      |           |                 |
|------|-----------|-----------------|
| 第1週  | ガイダンス     |                 |
| 第2週  | 万葉集概説     |                 |
| 第3週  | 筑紫歌壇概説    |                 |
| 第4週  | 研究史の調査と整理 | —先行研究を広く探す      |
| 第5週  | 用例の調査と分析  | —用例により先行研究を検証する |
| 第6週  | 発表の仕方     | —自分なりの視点を持つ     |
| 第7週  | 討論の進め方    | —論理構成力を高める討論をする |
| 第8週  | 発表と討論①    | —問題意識を明確にする     |
| 第9週  | 発表と討論②    | —研究史的に把握する      |
| 第10週 | 発表と討論③    | —用例を分析する        |
| 第11週 | 発表と討論④    | —用例に基づいて考察する    |
| 第12週 | 発表と討論⑤    | —考察から結論へ        |
| 第13週 | 発表と討論⑥    | —問題意識と照応した結論を導く |
| 第14週 | レポートの書き方  |                 |
| 第15週 | まとめ       |                 |

## 【事前・事後学修】

- ・事前学修（週2時間）

発表の後に討論を行います。質問者は当該作品について十分に理解した上で自分の意見を言わなければなりません。発表者はもちろん、発表者以外の人、複数の注釈書等を読む等の下調べをしてから授業に臨みましょう。

- ・事後学修（週2時間）

期末レポートの作成に向けて、各自、担当した作品について、討論の内容を踏まえ、更に調査を進めて下さい。

## 【テキスト・教材】

鶴久ほか編『万葉集』（おうふう 1972年）1,900円  
坂本信幸ほか編『万葉事始』（和泉書院 1995年）700円

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表30%、討論30%、レポート40%で評価します。発表・討論についてはその授業時間に、レポートについては授業最終回にフィードバックします。

## 【参考書】

授業時に紹介します。

## 上代中古文学演習 a 2

—越中歌壇（大伴家持と大伴池主）—

池田 三枝子

3年～ 後期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

わが国最古の歌集である『万葉集』には、日本古来の呪術的な要素と、当時最高の先進国であった中国や朝鮮半島諸国から受けた影響とが複雑に混じり合っています。

この授業では、渡来の文学・文化を積極的に取り入れることにより、新しい和歌を作り出していった越中歌壇を取り上げます。越中歌壇とは、越中国で大伴家持や大伴池主を中心に形成された文学圏です。家持や池主の作品を読解し、奈良の都を遠く離れた越中でどのように新しい和歌が作り出されていったのかを学ぶことにより、古代の和歌についての理解を深めて行きます。

## 【授業における到達目標】

学生が身につけるべき態度・能力のうち、以下の5つを修得します。

- ・国際的視野（日本の文化・精神を知り、世界に発信する態度）
- ・美の探究（感受性を深めようとする態度）
- ・研鑽力（学修成果を実感して、自信を創出し、本質を見抜く力）
- ・行動力（課題の発見から計画の立案・実行、問題解決に至る力）
- ・協働力（協力して物事を進める力）

## 【授業の内容】

- |      |           |                 |
|------|-----------|-----------------|
| 第1週  | ガイダンス     |                 |
| 第2週  | 万葉集概説     |                 |
| 第3週  | 越中歌壇概説    |                 |
| 第4週  | 研究史の調査と整理 | —先行研究を広く探す      |
| 第5週  | 用例の調査と分析  | —用例により先行研究を検証する |
| 第6週  | 発表の仕方     | —自分なりの視点を持つ     |
| 第7週  | 討論の進め方    | —論理構成力を高める討論をする |
| 第8週  | 発表と討論①    | —問題意識を明確にする     |
| 第9週  | 発表と討論②    | —研究史的に把握する      |
| 第10週 | 発表と討論③    | —用例を分析する        |
| 第11週 | 発表と討論④    | —用例に基づいて考察する    |
| 第12週 | 発表と討論⑤    | —考察から結論へ        |
| 第13週 | 発表と討論⑥    | —問題意識と照応した結論を導く |
| 第14週 | レポートの書き方  |                 |
| 第15週 | まとめ       |                 |

## 【事前・事後学修】

- ・事前学修（週2時間）

発表の後に討論を行います。質問者は当該作品について十分に理解した上で自分の意見を言わなければなりません。発表者はもちろん、発表者以外の人、発表の中で扱われる作品について、複数の注釈書を読む等の下調べをしてから授業に臨みましょう。

- ・事後学修（週2時間）

期末レポートの作成に向けて、各自、担当した作品について、討論の内容を踏まえ、更に調査を進めて下さい。

## 【テキスト・教材】

鶴久ほか編『万葉集』（おうふう 1972年）1,900円  
坂本信幸ほか編『万葉事始』（和泉書院 1995年）700円

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表30%、討論30%、レポート40%で評価します。発表・討論についてはその授業時間に、レポートについては授業最終回にフィードバックします。

## 【参考書】

授業時に紹介します。

**上代中古文学演習 b 1**

『源氏物語』作者の青春期・結婚期を読む

横井 孝

3年～ 前期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

**【注意事項】**

レジュメを作成する際に必須の基本文献は、図書館に指定図書が用意されています。それらを使うと同時に、関連資料・文献等を図書館で集めて下さい。

**【授業のテーマ】**

紫式部には『源氏物語』『紫式部日記』だけでなく、生涯の間に詠んだ歌を集めた家集『紫式部集』があります。青春期から結婚、夫との死別を経て、やがて宮仕え生活を送るようになる、一生涯のようすがこの作品のなかに詞書と和歌によって綴られています。

実践女子大学は『紫式部集』の貴重な写本（テキスト）を所蔵しており、紫式部関係のことを研究する学者たちはすべてこのテキストに依拠しています。さいわいなことに、私たちは身近にある貴重な文化財を直接参照することのできる場にいます。このテキストを通して、紫式部の青春期を読み取り、のちに『源氏物語』が生成する基盤を探ってゆきます。

**【授業における到達目標】**

授業の第1回目に参考文献一覧を提供します。第一段階として、それに掲載されているさまざまな文献を、自ら読み解き、操作を加えて演習発表資料（レジュメ）を作成します。第二段階として、自分の作成したレジュメを用いて、自在に口頭発表できるように訓練します。プレゼンテーション能力を少しでも高めるようにしてゆきます。

この演習では、自己の担当部分の探究とともに、他の演習者と協働して一つの作品の理解を深める能力を養います。

**【授業の内容】**

- 第1週 『紫式部集』とは？
- 第2週 紫式部の青春期
- 第3週 紫式部の結婚、その後
- 第4週 演習マニュアルを読む
- 第5週 紫式部集・1～14番歌
- 第6週 紫式部集・15～16番歌の演習
- 第7週 紫式部集・17～18番歌の演習
- 第8週 紫式部集・19～20番歌の演習
- 第9週 紫式部集・21～21番歌の演習
- 第10週 紫式部集・22～23番歌の演習
- 第11週 紫式部集・24～25番歌の演習
- 第12週 紫式部集・26～27番歌の演習
- 第13週 紫式部集・28～29番歌の演習
- 第14週 紫式部集・30～31番歌の演習
- 第15週 紫式部の青春期・まとめ

**【事前・事後学修】**

演習の当番になった人は、配付資料（レジュメ）を受講者分用意します。資料の作成のためには、はじめに「演習マニュアル」を配布し、それに基づいて作成することになります。事前には週3時間を超える学修が必要となるでしょう。

また、当番以外の方は、前回までの資料を持参し、前回までの内容とのつながりをチェックし、当番の人とともに当該和歌の内容を検討してゆきます。これには週1時間程度を要すると思います。

**【テキスト・教材】**

テキストは実践女子大学本『紫式部集』を活字にした資料を配付します。特別に固定的な教材は使用しません。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

個々の演習、またはその配付資料、さらに実際の演習を経て、清書版レジュメを改めて作成する。それらの累積点を100点満点に換算して評価します。また、演習当番でない場合の授業参加の態度（質問など）を評価し、それを含めることにします。

他の演習者の発表とそのリアクションによって事後学修を深める。

**【参考書】**

演習当初に「演習マニュアル」とともに「紫式部集研究文献一覧」を配布し、これを参考にします。

## 上代中古文学演習 b 1

『源氏物語』 桐壺巻を読む

山口 一樹

3年～ 前期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

この授業では、日本の代表的な古典であり、さまざまな文学作品に多大な影響を与えた、平安時代の長篇物語『源氏物語』を読んでいきます。具体的には、主人公光源氏の母桐壺更衣と父桐壺帝の悲恋や、光源氏の出生を描く桐壺巻を扱います。

履修者各自の関心による注釈作業を基に物語を読み解き、長篇物語の始発がどのように拓かれているのか理解することを目指します。

### 【授業における到達目標】

物語の本文をきちんと読み解く能力、発表や質疑応答の基本的な技術を身につけることを目指します。学生が修得すべき「美の探究」の、人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度、「行動力」の、現状を正しく把握し、課題を発見できる力、「協働力」の、互いを尊重し信頼を醸成して、豊かな人間関係を構築することができる力を身につけます。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス（担当範囲の決定、授業の流れの説明）
- 第2週 桐壺巻の予備知識
- 第3週 発表方法の説明①（校異とは）
- 第4週 発表方法の説明②（語釈作業について）
- 第5週 発表方法の説明③（『源氏物語』中の用例の調査方法）
- 第6週 発表と質疑応答①桐壺帝、桐壺更衣を寵愛
- 第7週 発表と質疑応答②光源氏、誕生
- 第8週 発表と質疑応答③桐壺更衣、逝去
- 第9週 発表と質疑応答④桐壺帝、鞍負命婦を弔問に遣わす
- 第10週 発表と質疑応答⑤桐壺帝、桐壺更衣を哀悼
- 第11週 発表と質疑応答⑥光源氏、参内・読書始
- 第12週 発表と質疑応答⑦光源氏、高麗人の観相
- 第13週 発表と質疑応答⑧藤壺、入内
- 第14週 発表と質疑応答⑨光源氏、藤壺を慕う
- 第15週 発表と質疑応答⑩光源氏、元服、藤壺を恋慕

### 【事前・事後学修】

事前に、現代語訳でも構いませんので、桐壺巻を読んで大まかなあらすじを頭に入れておいてください。また、授業前には、発表者以外の人も次回範囲に目を通して予習してきて下さい。場合によっては、授業後に発表者に追加の調査をさせることもあります。

〔事前学修〕発表の準備、次回の範囲の予習（週2時間）

〔事後学修〕発表の復習、発表の追加の調査など（週2時間）

### 【テキスト・教材】

玉上琢弥訳注『源氏物語 第一巻』（角川ソフィア文庫、1964年）864円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表内容60%、平常点（質疑応答など授業への取り組み姿勢）40%。発表内容に関しては講師からのコメントという形でフィードバックを行います。

### 【参考書】

授業冒頭で詳しく紹介します。

### 【注意事項】

演習という授業の性格上、発表するだけでなく、質疑応答にも積極的に参加して下さい。発表は一人一回を予定しています。状況に応じては、一回の授業で複数の人数が発表することになります。

## 上代中古文学演習 b 2

『源氏物語』 作者の後半生を読む

横井 孝

3年～ 後期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

『源氏物語』の作者・紫式部は、青春期・みじかい結婚生活を経て、宮仕え生活を送ります。宮仕え以前から『源氏物語』は書き始められたようですが、その完成は宮仕え後なのです。

『源氏物語』に最終的な磨きをかけ、完成させた宮仕え生活とはどのようなものだったのか。紫式部の家集『紫式部集』を通して、その文学活動の秘密を解き明かしたいと思います。

具体的には、『紫式部集』の後半部分を読んでゆくこととなります。

### 【授業における到達目標】

『紫式部集』演習の過程で、さまざまな文献に当たって、読み込み、分析する必要があります。また、そこで集められた文献を駆使して演習発表資料（レジュメ）にまとめなければなりません。さらに、それを口頭で発表します。こうした、分析能力、資料作成能力、プレゼンテーション能力を涵養します。これは、自己の担当部分の研究能力を高めるとともに、他の演習者と協働して同一の作品の理解のための研鑽能力を養います。

### 【授業の内容】

- 第1週 私家集と『紫式部集』
- 第2週 紫式部の前半生
- 第3週 紫式部の宮仕え時代
- 第4週 紫式部の晩年
- 第5週 『紫式部集』と『源氏物語』
- 第6週 演習マニュアルを読む
- 第7週 紫式部集・66～67番歌の演習
- 第8週 紫式部集・68～69番歌の演習
- 第9週 紫式部集・70～71番歌の演習
- 第10週 紫式部集・72～73番歌の演習
- 第11週 紫式部集・74～75番歌の演習
- 第12週 紫式部集・76～77番歌の演習
- 第13週 紫式部集・78～79番歌の演習
- 第14週 紫式部集・80～81番歌の演習
- 第15週 『源氏物語』以後の紫式部

### 【事前・事後学修】

演習の当番の人は、「演習マニュアル」に従ってレジュメ（配付資料）を作成し、それをもとに演習する。口頭発表の形式なので、予行演習は必須です。事前に週3時間程度の学修が必要でしょう。

当番以外の人は、前回までの内容とのつながりをチェックし、質問の準備をする必要があります。これには週1時間程度の事後学修が必要となります。

### 【テキスト・教材】

授業冒頭に「演習マニュアル」などともに資料を配付する。固定的な教材はもちいません。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

演習の内容、配付資料の内容、さらに演習終了後にレジュメの清書版を提出。それらの累積点を100点満点に換算して評価します。

演習当番でない場合も、授業の参加態度（質問など）を評価し、それを含めることにします。他の演習者の発表とそのリアクションによって事後学習を深めるようにします。

### 【参考書】

授業冒頭に、テキストとなる資料、「演習マニュアル」とともに「紫式部集研究文献一覧」を配布し、そこに指示する。また演習中の最新情報については、その都度インフォメーションを行う。

### 【注意事項】

レジュメ作成に際して必須の文献は図書館に指定図書として設置されています。それを使うと同時に、関連資料等を図書館で集めて下さい。口頭発表をより高度なものにするために、リハーサルは必要です。

## 上代中古文学演習 b 2

『源氏物語』若紫巻を読む

山口 一樹

3年～ 後期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

この授業では、日本の代表的な古典であり、さまざまな文学作品に多大な影響を与えた、平安時代の長篇物語『源氏物語』を読んでいきます。具体的には、光源氏にとって生涯の伴侶となる紫の上との出逢いを語る若紫巻を扱います。

履修者各自の関心による注釈作業を基に物語を読み解き、「紫のゆかり」の恋が、『伊勢物語』等先行する物語の発想を取り入れながらどのように語られているのか理解することを目指します。

### 【授業における到達目標】

物語の本文をきちんと読み解く能力、発表や質疑応答の基本的な技術を身につけることを目指します。学生が修得すべき「美の探究」の、人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度、「行動力」の、現状を正しく把握し、課題を発見できる力、「協働力」の、互いを尊重し信頼を醸成して、豊かな人間関係を構築することができる力を身につけます。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス（担当範囲の決定）
- 第2週 若紫巻の予備知識
- 第3週 発表方法の説明①（他作品の用例の調査方法）
- 第4週 発表方法の説明②（和歌の調査方法）
- 第5週 発表と質疑応答①光源氏、北山を訪れる
- 第6週 発表と質疑応答②光源氏、紫の上を垣間見
- 第7週 発表と質疑応答③光源氏、紫の上の後見を申し出る
- 第8週 発表と質疑応答④光源氏、尼君と和歌の贈答
- 第9週 発表と質疑応答⑤光源氏、葵の上のもとを訪れる
- 第10週 発表と質疑応答⑥光源氏、藤壺と密通
- 第11週 発表と質疑応答⑦藤壺、懐妊
- 第12週 発表と質疑応答⑧光源氏、尼君を見舞う
- 第13週 発表と質疑応答⑨光源氏、紫の上を二条院へ連れ去る
- 第14週 発表と質疑応答⑩光源氏、紫の上の手習を教える
- 第15週 発表と質疑応答 補足とまとめ

### 【事前・事後学修】

事前に、現代語訳でも構いませんので、桐壺巻を読んで大まかなあらすじを頭に入れておいてください。また、授業前には、発表者以外の人も次回範囲に目を通して予習してきて下さい。場合によっては、授業後に発表者に追加の調査をさせることもあります。

〔事前学修〕発表の準備、次回の範囲の予習（週2時間）

〔事後学修〕発表の復習、発表の追加の調査など（週2時間）

### 【テキスト・教材】

玉上琢弥訳注『源氏物語 第一巻』（角川ソフィア文庫、1964年）864円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表内容60%、平常点（質疑応答など授業への取り組み姿勢）40%。発表内容に関しては講師からのコメントという形でフィードバックを行います。

### 【参考書】

授業冒頭で詳しく紹介します。

### 【注意事項】

演習という授業の性格上、発表するだけでなく、質疑応答にも積極的に参加して下さい。発表は一人一回を予定しています。状況に応じては、一回の授業で複数の人数が発表することになります。

## 上代中古文学演習 c 1

平安朝の恋の世界と恋歌

近藤 みゆき

3年～ 前期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

平安時代に成立した最初の勅撰和歌集『古今和歌集』を取り上げます。恋の部の世界がどのように表現されているのか、特に、恋歌特有の「歌ことば」に注目して、表現を分析していきます。『古今和歌集』は、日本の美意識の原点と言って良い作品です。『古今和歌集』が成立したのは、平安遷都から110年を経たことですが、その間に新しい都で形成された貴族文化と美意識がこの和歌集には集約されています。恋の歌にも、作法や美意識があります。背景となっている平安時代の婚姻制度について学び、どのような、ことば・表現・恋する姿勢が理想とされたのか、考察していきます。あわせて、歌ことばの調査方法、先行研究の論文の読み方など、和歌を研究する上で必須のスキルを体得します。

### 【授業における到達目標】

- ◎和歌の「ことば」に表れた王朝の美意識を探求する。
  - ◎和歌の「ことば」の調べ方を修得する。
  - ◎テーマに沿った研究論文の集め方、読み方を学修する。
  - ◎恋歌の「ことば」を通して、王朝時代と現代における感性の共通点や相違点について考察をする。
- これらのことを通して、修得すべき「態度」のうち、日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度、ならびに、人文・社会・自然の中に価値を見だし、感受性を深めようとする態度を修得します。

### 【授業の内容】

- 第1週 古今和歌集の恋歌について
- 第2週 発表資料の作成方法1 和歌の調べ方
- 第3週 発表資料の作成方法2 論文の読み方・まとめ方
- 第4週 この授業で行うブレインストーミングの具体的方法
- 第5週 平安時代の婚姻制度について
- 第6週 受講生の研究発表 涙
- 第7週 受講生の研究発表 夕暮れ
- 第8週 受講生の研究発表 物思う
- 第9週 受講生の研究発表 夢
- 第10週 受講生の研究発表 きぬぎぬ
- 第11週 受講生の研究発表 袖・たもと
- 第12週 受講生の研究発表 待つ
- 第13週 受講生の研究発表 恨む
- 第14週 全体討論・レポート提出
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修 次回発表者の担当する「ことば」に関連する和歌を教科書で通読し、古語・専門用語でわからない点について調べておきましょう。（学修時間 週2.5時間）

事後学修 授業中に行われたブレインストーミングの結果をまとめて下さい。そこから各自の考察を発展させ、期末レポート作成の準備を進めます。（学修時間 週2.5時間）

### 【テキスト・教材】

高田祐彦『新版 古今和歌集』（角川ソフィア文庫 2009年6月）1,124円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表点30% 発表資料点30%、ブレインストーミングへの参加20%、レポート20%で評価します。発表内容については毎時間ごとに、授業内容についてはリフレクションシートにもとづきフィードバックを行います。

### 【参考書】

授業時に紹介します。

## 上代中古文学演習 c 2

花鳥風月の世界と四季歌

近藤 みゆき

3年～ 後期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

上代中古文学演習c1に続いて、このc2では、『古今和歌集』の四季の部立を読み進めます。『古今和歌集』で、恋の部とならび大きな部立を形成しているのは四季歌です。春夏秋冬のそれぞれの巻では、立春・春の雪・鶯・梅・若草・咲く桜・散る桜・藤の花・橘の花・ほととぎす・夏の月・秋風・秋の月・鹿・紅葉、、、などと、花鳥風月の世界が緻密な配列意識のもと、歌で描き出した巻物のように展開しています。背景となった平安時代における貴族の生活と和歌の関係を学び、発表者各自が関心をもった主題の歌群を読み解くことで、王朝の美意識の原点を考察します。また、そうした美意識と現代人の四季感を比較し、日本人の感性についての理解を深めます。

### 【授業における到達目標】

◎四季歌は、花鳥風月のどのような主題・歌群によって構成されているのかを学びます。

◎四季と人間世界がどのように重ね合わせて表現されているのか、擬人化、比喻などの表現技法について学修します。

学生が修得すべき「態度」のうち、日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度ならびに人文・社会・自然の中に価値を見だし、感受性を深めようとする態度を修得します。

### 【授業の内容】

- 第1回 四季歌の部立と配列
- 第2回 発表資料の作例方法1 考察の際の着眼点
- 第3回 発表資料の作成方法2 先行研究の調べ方
- 第4回 貴族の暮らしと年中行事
- 第5回 『古今和歌集』の後代への影響
- 第6回 受講生の研究発表 春のおとづれ
- 第7回 受講生の研究発表 梅の香の世界
- 第8回 受講生の研究発表 咲く花・散る花
- 第9回 受講生の研究発表 ほととぎすの夏
- 第10回 受講生の研究発表 秋の草花
- 第11回 受講生の研究発表 秋風
- 第12回 受講生の研究発表 絢爛たる紅葉
- 第13回 受講生の研究発表 里の雪・山の雪
- 第14回 全体討論・レポート提出
- 第15回 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修 次回発表者の担当する歌群を教科書で通読し、古語・専門用語でわからない点について調べておきましょう（学修時間 週2.5時間）

事後学修 授業中に行われたプレストの結果をまとめて下さい。そこから各自の考察を発展させ、期末レポート作成の準備を進めます（学修時間 週2.5時間）

### 【テキスト・教材】

高田祐彦『新版 古今和歌集』（角川ソフィア文庫 2009年6月）1、124円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表点30%、発表資料点30%、ブレインストーミングへの参加20%、レポート20%で評価します。

発表内容については毎時間ごとに、授業内容については、リフレクションシート（毎回提出）にもとづきフィードバックを行います。

### 【参考書】

授業時に紹介します。

## 上代中古文学研究 a

——『万葉集』の女性歌人の歌を読む——

伊藤 好美

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

### 【授業のテーマ】

この授業では、現存する日本最古の歌集である『万葉集』の中から、特に女性歌人にまつわる作を取り上げて考察を行います。

古典文学作品に登場する女性たちは優美で控えめな印象がありますが、『万葉集』に登場する女性たちはどうなのでしょう。歌をテキストとして、今から1300年以上前に生きた女性たちの姿を感じ取り、古典文学に対する知識や理解を深めましょう。

### 【授業における到達目標】

- ・『万葉集』の作品について理解を深める。
- ・『万葉集』の時代の人々の文化や考え方を知る。
- ・学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探求し、学問を続ける力を身につける。
- ・文学作品の中に価値を見出し、自らの感受性を深める。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 上代文学の基礎知識
- 第3週 石川女郎① 一人物紹介と作歌背景
- 第4週 石川女郎② 一歌の考察
- 第5週 但馬皇女① 一人物紹介と作歌背景
- 第6週 但馬皇女② 一歌の考察
- 第7週 坂上女郎① 一人物紹介と作歌背景
- 第8週 坂上女郎② 一歌の考察
- 第9週 紀女郎① 一人物紹介と作歌背景
- 第10週 紀女郎② 一歌の考察
- 第11週 笠女郎① 一人物紹介と作歌背景
- 第12週 笠女郎② 一歌の考察
- 第13週 狭野弟上娘子① 一人物紹介と作歌背景
- 第14週 狭野弟上娘子② 一歌の考察
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

授業で使用する資料を予め配布するので、内容をよく読んでから授業に臨みましょう。（事前学修 週2時間）

授業後は学修内容を復習し、理解できていない点がないか確認しましょう。（事後学修 週2時間）

### 【テキスト・教材】

プリントを使用します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業内で書くリアクションペーパー、授業態度）40%、期末レポート60%で評価します。

リアクションペーパーは次回授業、期末レポートは授業最終回にフィードバックします。

### 【参考書】

授業時に紹介します。

### 【注意事項】

毎時間、リアクションペーパーを記入してもらいます。授業を聴くだけでなく、自ら考えることを大切にしてください。



**上代中古文学研究 b**

古代の神話を読む

植田 麦

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

**【注意事項】**

- ・初回授業時に、進行にあたっての説明を行います。履修を考えている場合、必ず参加してください。参加しない場合の不利益については、一切考慮しません。
- ・「履修すれば単位が取れる」授業ではありません。
- ・「毎回授業に出ていれば自動的に単位が取れる」授業ではありません。
- ・高難度の授業内容です。
- ・予習復習をしない場合、授業の内容は理解できません。

**【授業のテーマ】**

この授業では、古代において神話とはどのようなものであったのかを考えます。まず、『古事記』を対象として、神話がひとつの作品の中でいかにあるかを読解します。そして、古代の全般で、神話がどのように享受され、変容していくのかを考察します。

**【授業における到達目標】**

- ・古代の神話の在りようについて理解し、説明できる。
- ・日本文学史の中で神話テキストの意味について説明できる。
- ・学生が修得すべき「行動力」のうち、課題を発見する力を修得する。

**【授業の内容】**

- 〈1. 「神話」とはなにか〉  
神話と昔話・おとぎ話とのちがいを考えます。
- 〈2. 『古事記』の周辺〉  
『古事記』の社会状況と成立の背景を確認します。
- 〈3. 並列的な神話〉  
『古事記』『日本書紀』のほか、『萬葉集』等について考えます。
- 〈4. 『古事記』の世界観〉  
様々な世界がどのように描かれているかを考えます。
- 〈5. 『古事記』の神話（1）〉  
「世界はいかに形作られるか」について考えます。
- 〈6. 『古事記』の神話（2）〉  
『古事記』のコスモロジーについて考えます。
- 〈7. 『古事記』の神話（3）〉  
「世界はいかに支配されるか」について考えます。
- 〈8. 『古事記』と『日本書紀』〉  
同時期に成立した二つの神話テキストについて考えます。
- 〈9. 日本紀講読〉  
平安時代における神話の享受について考えます。
- 〈10. 偽書の胎動〉  
平安時代に作られた神話について考えます。
- 〈11. 『源氏物語』の中の「日本紀」〉  
『源氏物語』にみられる日本書紀「的」文脈を考えます。
- 〈12. エビス神の誕生〉  
エビス神がいかに「誕生」したのかについて考えます。
- 〈13. エビス神の発展〉  
エビス神がいかに「発展」したのかについて考えます。
- 〈14. 変転するアマテラス〉  
様々なかたちで神話化するアマテラスについて考えます。
- 〈15. 総論・古代の神話〉  
古代という時代で神話がいかなる意味をもつのかを考えます。

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

事前に指示された範囲について資料を熟読し、要点をまとめておくこと。（学修時間・週2時間）

**【事後学修】**

授業内容について復習し、要点をまとめたレポートを作成すること。（学修時間・週2時間）

**【テキスト・教材】**

- ・岩波文庫『古事記』1,037円（税込）
- ※第75刷以降は、第74刷以前と内容が異なっているため、注意すること。授業は第75刷以降のテキストに従って行います。
- ・その他、授業時に資料を配付します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- ・学期末にレポートを課します（100％）。
- ・毎回の授業時に、ミニレポートを課します。ミニレポートが未提出または無意味な内容等の場合、減点対象とします。ミニレポートについては、提出された次の回でフィードバックを行います。

## 上代中古文学研究 c

『源氏物語』の研究

北原 圭一郎

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

## 【授業のテーマ】

この講義では、『源氏物語』の作品世界を理解するために有効なテーマを毎回設定し、代表的な先行諸説を紹介しつつ、関連する物語の本文を講読していく。前期の授業では主に、物語の構造や表現、登場人物、作中和歌などに着目して物語を読み解く。

## 【授業における到達目標】

作品の全体像や研究状況についての基本知識を得ること、様々な視点から『源氏物語』を読み解く面白さを実感できるようになること、『源氏物語』やその他の古典文学作品について分析する際の基礎的な方法を知ることを目標とする。

「美の探求」のうち、人文の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度、「研鑽力」のうち、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探求する能力を養う。

## 【授業の内容】

- 第1週：ガイダンス・『源氏物語』の概説
- 第2週：『源氏物語』研究史の概説
- 第3週：成立過程
- 第4週：主題と構造①—光源氏の物語を中心に
- 第5週：主題と構造②—女君たちの物語を中心に
- 第6週：作中人物①
- 第7週：作中人物②
- 第8週：作中人物③
- 第9週：物語の「語り」①
- 第10週：物語の「語り」②
- 第11週：物語のことば・表現
- 第12週：作中和歌①
- 第13週：作中和歌②
- 第14週：作中和歌③
- 第15週：総括

## 【事前・事後学修】

事前学修：現代語訳などを通して、各回のテーマに関連する物語のあらすじを把握したうえで授業に臨む。(週2時間程度)

事後学修：授業内容を踏まえて物語の本文を読み直したり、紹介した参考文献を読んだりすることで、理解を深める。(週2時間程度)

## 【テキスト・教材】

毎回プリントを配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学期末試験…70%

授業への参加(コメントペーパー・小課題など)…30%

試験や課題では、授業で扱った物語本文や取り上げたテーマを理解できているか、それについて自分なりの関心に基づいて意見を述べられるかを基準に評価する。コメントペーパーについては次回授業でフィードバックを行う。

## 【参考書】

授業内で適宜指示する。

## 上代中古文学研究 d

『源氏物語』の研究

北原 圭一郎

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

## 【授業のテーマ】

この講義では、『源氏物語』の作品世界を理解するために有効なテーマを毎回設定し、代表的な先行諸説を紹介しつつ、関連する物語の本文を講読していく。後期の授業では主に、引歌・漢詩文・歴史との関連、他作品とのつながりなどの観点から読み解く。

## 【授業における到達目標】

作品の全体像や研究状況についての基本知識を得ること、様々な視点から『源氏物語』を読み解く面白さを実感できるようになること、『源氏物語』やその他の古典文学作品について分析する際の基礎的な方法を知ることを目標とする。

「美の探求」のうち、人文の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度、「研鑽力」のうち、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探求する能力を養う。

## 【授業の内容】

- 第1週：ガイダンス・『源氏物語』研究史の概説
- 第2週：和歌との関連
- 第3週：漢詩文との関連①
- 第4週：漢詩文との関連②
- 第5週：歴史との関連①
- 第6週：歴史との関連②
- 第7週：仏教との関連
- 第8週：『源氏物語』と『伊勢物語』①
- 第9週：『源氏物語』と『伊勢物語』②
- 第10週：『源氏物語』と『竹取物語』
- 第11週：『源氏物語』と『うつほ物語』
- 第12週：『源氏物語』と『蜻蛉日記』
- 第13週：紫式部について①—『紫式部日記』を中心に
- 第14週：紫式部について②—『紫式部集』を中心に
- 第15週：総括

## 【事前・事後学修】

事前学修：現代語訳などを通して、各回のテーマに関連する物語のあらすじを把握したうえで授業に臨む。(週2時間程度)

事後学修：授業内容を踏まえて物語の本文を読み直したり、紹介した参考文献を読んだりすることで、理解を深める。(週2時間程度)

## 【テキスト・教材】

毎回プリントを配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学期末試験…70%

授業への参加(コメントペーパー・小課題など)…30%

試験や課題では、授業で扱った物語本文や取り上げたテーマを理解できているか、それについて自分なりの関心に基づいて意見を述べられるかを基準に評価する。コメントペーパーについては次回授業でフィードバックを行う。

## 【参考書】

授業内で適宜指示する。

**上代中古文学史 a**

『源氏物語』以前と『源氏物語』

横井 孝

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

**【授業のテーマ】**

ここでは8世紀末から11世紀までの、いわゆる平安時代を中心に扱います。特にこの時代が生み出した新しい文学ジャンル「物語」の歴史をたどってゆきます。

平安時代に入って、それまでの表意文字である漢字から「かな」という表音文字が発明されると、単なるストーリー展開から、人物の動き・心理が詳細に描けるようになります。と同時に文学作品も成長して、より深い世界が展開します。『竹取物語』から始まって、『伊勢物語』『大和物語』『うつほ物語』などを経て、もっとも巨大な『源氏物語』に至るまでの軌跡を追いかけてゆきます。

これらの物語は、「上代中古文学」という狭い範囲を超えて、日本の文学全体に大きな影響を残しています。それを分析することは、日本文学の根幹に触れることにもなるはずです。

**【授業における到達目標】**

日本文学のなかでも特に名高い作品の集中する時代。これらを読み解いてゆくことによって、日本文学の底流がどのようなものであったか、個々の作品を読み味わうとともに、大きく時代の流れを歴史をとおして分析してゆきます。

この授業を通して、文学の美の粋を究め、研究する能力、研鑽力を養います。

**【授業の内容】**

- 第1週 「かな」が文学に果たした役割
- 第2週 「物語」というものの読み方『竹取物語』
- 第3週 「話型」を読み取る『竹取物語』
- 第4週 『伊勢物語』歌と話型の複合体
- 第5週 主人公はかならず試練に遭う『伊勢物語』
- 第6週 人事を描く物語『大和物語』
- 第7週 『大和物語』の人びと
- 第8週 「日記」の役割・『土佐日記』『蜻蛉日記』
- 第9週 『蜻蛉日記』と「古物語」の関係
- 第10週 長篇物語の模索『うつほ物語』
- 第11週 『うつほ物語』流離譚と音楽譚
- 第12週 「物語」と呼ばれた女性の日記
- 第13週 『源氏物語』を読むために
- 第14週 『源氏物語』は単純な恋愛ドラマではない
- 第15週 『源氏物語』に至る道

**【事前・事後学修】**

前週の講義資料を再読し、キーワードを確認しておくこと。さまざまなテクニカルターム（専門用語）が出てくるので、それを中心に復習することが必要です。週1.5時間程度の事前学修と、週2.5時間程度の事後学修が必要となります。

**【テキスト・教材】**

毎回、レジュメ（配付資料）を用意する。固定的な教材を使いません。参考書などは講義のなかで指示し、説明します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末に単位レポートを課することとします。「平安時代の物語に関する問題点」が中心課題となります。講義中のキーワードなどを踏まえているか否かについても評価しますが、書式に限定があり、これを遵守して提出しなければならない。それらを100点満点に換算して評価します。講義中に詳しく説明します。

リアクション・ペーパー等によって、各時間の事後学修のための資とする。

**【参考書】**

講義中に指示します。固定的な参考書は用いません。

**【注意事項】**

単なるテクニカルタームを覚えるだけでなく、作品をどう読み味わって行くのか、その方法を探るようにしたい。さらに、文学の時代的な流れ、ジャンル自体の発生・成長もとらえてゆきたい。

**上代中古文学史 a**

—日本神話を読む—

池田 三枝子

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

**【授業のテーマ】**

上代文学には、日本古来の呪術的な要素と、当時最高の先進国であった中国や朝鮮半島諸国から受けた影響とが複雑に混じり合っています。

この授業では、奈良時代に成立したわが国最古の書物である古事記の神話を読むことにより、上代文学に親しみ、上代文学を出発点とする日本文学全体に対する理解を深めることを目的とします。

**【授業における到達目標】**

学生が身につけるべき態度・能力のうち、以下の3つを修得します。

- ・国際的視野  
(日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度)
- ・美の探究  
(人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度)
- ・研鑽力  
(学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることができる)

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 上代文学史概説
- 第3週 古事記概説① 古事記編纂の背景
- 第4週 古事記概説② 古事記と日本書紀
- 第5週 古事記概説③ 古事記と風土記
- 第6週 天地初発の神々
- 第7週 イザナキ・イザナミの結婚と国生み・神生み
- 第8週 イザナキの黄泉国訪問
- 第9週 三貴子（アマテラス・ツクヨミ・スサノヲ）の誕生
- 第10週 アマテラスの天石屋戸隠り
- 第11週 スサノヲのヤマタノヲロチ神話
- 第12週 オホクニヌシの試練
- 第13週 オホクニヌシの国作り・国譲り
- 第14週 天孫降臨
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

・事前学修（週2時間）  
授業であつかう作品のテキスト（プリント）を予め配布し、それぞれの作品の参考資料を提示します。作品および参考資料をよく読んで、作品の内容を理解してから授業に臨みましょう。

・事後学修（週2時間）  
内容のまとめりごとに、意見・感想・質問を記す小レポートを授業中に書いて提出してもらいます。授業の内容を復習し、図書館で関連資料を検索するなどして、理解を深めておきましょう。

**【テキスト・教材】**

プリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

小レポート20%、期末テスト80%で評価します。小レポートは次回授業、期末テストは最終回授業でフィードバックを行います。

## 上代中古文学史 a

—日本神話を読む—

池田 三枝子

2年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

## 【授業のテーマ】

上代文学には、日本古来の呪術的な要素と、当時最高の先進国であった中国や朝鮮半島諸国から受けた影響とが複雑に混じり合っています。

この授業では、奈良時代に成立したわが国最古の書物である古事記の神話を読むことにより、上代文学に親しみ、上代文学を出発点とする日本文学全体に対する理解を深めることを目的とします。

## 【授業における到達目標】

学生が身につけるべき態度・能力のうち、以下の3つを修得します。

- ・国際的視野  
(日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度)
- ・美の探究  
(人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度)
- ・研鑽力  
(学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることができる)

## 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 上代文学史概説
- 第3週 古事記概説① 一古事記編纂の背景
- 第4週 古事記概説② 一古事記と日本書紀
- 第5週 古事記概説③ 一古事記と風土記
- 第6週 天地初発の神々
- 第7週 イザナキ・イザナミの結婚と国生み・神生み
- 第8週 イザナキの黄泉国訪問
- 第9週 三貴子(アマテラス・ツクヨミ・スサノヲ)の誕生
- 第10週 アマテラスの天石屋戸隠り
- 第11週 スサノヲのヤマタノヲロチ神話
- 第12週 オホクニヌシの試練
- 第13週 オホクニヌシの国作り・国譲り
- 第14週 天孫降臨
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

- ・事前学修(週2時間)  
授業であつかう作品のテキスト(プリント)を予め配布し、それぞれの作品の参考資料を提示します。作品および参考資料をよく読んで、作品の内容を理解してから授業に臨みましょう。
- ・事後学修(週2時間)  
内容のまとまりごとに、意見・感想・質問を記す小レポートを授業中に書いて提出してもらいます。授業の内容を復習し、図書館で関連資料を検索するなどして、理解を深めておきましょう。

## 【テキスト・教材】

プリントを配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小レポート20%、期末テスト80%で評価します。小レポートは次回授業、期末テストは最終回授業でフィードバックを行います。

## 上代中古文学史 a

『源氏物語』以前と『源氏物語』

横井 孝

2年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

## 【授業のテーマ】

ここでは8世紀末から11世紀までの、いわゆる平安時代を中心に扱います。特にこの時代が生み出した新しい文学ジャンル「物語」の歴史をたどってゆきます。

平安時代に入って、それまでの表意文字である漢字から「かな」という表音文字が発明されると、単なるストーリー展開から、人物の動き・心理が詳細に描けるようになります。と同時に文学作品も成長して、より深い世界が展開します。『竹取物語』から始まって、『伊勢物語』『大和物語』『うつほ物語』などを経て、もっとも巨大な『源氏物語』に至るまでの軌跡を追いかけてゆきます。

これらの物語は、「上代中古文学」という狭い範囲を超えて、日本の文学全体に大きな影響を残しています。それを分析することは、日本文学の根幹に触れることにもなるはずですが。

## 【授業における到達目標】

日本文学のなかでも特に名高い作品の集中する時代。これらを読み解いてゆくことによって、日本文学の底流がどのようなものであったか、個々の作品を読み味わうとともに、大きく時代の流れを歴史をとおして分析してゆきます。

この授業を通して、文学の美の粋を究め、研究する能力、研鑽力を養います。

## 【授業の内容】

- 第1週 「かな」が文学に果たした役割
- 第2週 「物語」というものの読み方『竹取物語』
- 第3週 「話型」を読み取る『竹取物語』
- 第4週 『伊勢物語』歌と話型の複合体
- 第5週 主人公はかならず試練に遭う『伊勢物語』
- 第6週 人事を描く物語『大和物語』
- 第7週 『大和物語』の人びと
- 第8週 「日記」の役割・『土佐日記』『蜻蛉日記』
- 第9週 『蜻蛉日記』と「古物語」の関係
- 第10週 長篇物語の模索『うつほ物語』
- 第11週 『うつほ物語』流離譚と音楽譚
- 第12週 「物語」と呼ばれた女性の日記
- 第13週 『源氏物語』を読むために
- 第14週 『源氏物語』は単純な恋愛ドラマではない
- 第15週 『源氏物語』に至る道

## 【事前・事後学修】

前週の講義資料を再読し、キーワードを確認しておくこと。さまざまなテクニカルターム(専門用語)が出てくるので、それを中心に復習することが必要です。週1.5時間程度の事前学修と、週2.5時間程度の事後学修が必要となります。

## 【テキスト・教材】

毎回、レジュメ(配付資料)を用意する。固定的な教材を使いません。参考書などは講義のなかで指示し、説明します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末に単位レポートを課することとします。「平安時代の物語に関する問題点」が中心課題となります。講義中のキーワードなどを踏まえているか否かについても評価しますが、書式に限定があり、これを遵守して提出しなければならない。それらを100点満点に換算して評価します。講義中に詳しく説明します。

リアクション・ペーパー等によって、各時間の事後学修のための資とする。

## 【参考書】

講義中に指示します。固定的な参考書は使いません。

## 【注意事項】

単なるテクニカルタームを覚えるだけでなく、作品をどう読み味わって行くのか、その方法を探るようにしたい。さらに、文学の時代的な流れ、ジャンル自体の発生・成長もとらえてゆきたい。

## 上代中古文学史 b

『源氏物語』の世界

横井 孝

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

## 【授業のテーマ】

『源氏物語』は平安時代（8世紀～12世紀）の文学史の最高峰であると同時に、平安時代の文学のエッセンスがそこに込められています。『源氏物語』の全体像を追ってゆくとともに、この巨大な作品を形作る平安時代の文学をも読み取ってゆきます。

## 【授業における到達目標】

『源氏物語』という、日本古代のなかで最も巨大で複雑な散文文学を読み味わうことが出来るようにする。ただ、それだけではなく、それが日本文学全体のなかで、どのような役割を果たしているのか、古代の作品であるそれが、現代あるいは将来どのような意味があるのかを考えて行きます。

この講義をとおして、文学の美の粋の探究心を喚起し、研鑽する能力を養う。

## 【授業の内容】

- 第1週 『源氏物語』はどうして長くなったのか
- 第2週 源氏をとりまく女性たち・桐と藤
- 第3週 源氏をとりまく女性たち・藤と紫
- 第4週 紫の上とは何か
- 第5週 物語主人公の宿命・貴種流離譚
- 第6週 栄花への階梯
- 第7週 大がかりな求婚譚「玉鬘十帖」と『竹取物語』
- 第8週 女三の宮・柏木事件
- 第9週 主人公の死
- 第10週 前編から後編へ
- 第11週 宇治のゆかりの物語
- 第12週 源氏物語は結局何を語ったのか
- 第13週 『源氏物語』とそれ以後の物語
- 第14週 『狭衣物語』
- 第15週 ひとりの女性の物語『夜の寝覚』

## 【事前・事後学修】

講義中にさまざまなテクニカルターム（専門用語）がキーワードとして提供されます。事後には、それを確認しながら、次回の講義の予告に沿って、さらに文献の紹介があります。その所在を検索・確認し、目を通しておく必要があります。

事前には週1.5時間、事後にも週2.5時間程度の学修を要するでしょう。

## 【テキスト・教材】

毎回、レジュメ（配付資料）を用意します。固定的な参考書はもちいない。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末に単位レポートを課する。「源氏物語と平安時代の物語作品」が中心課題になります。講義中のキーワードを踏まえているか否かも評価しますが、書式に限定があり、それを遵守して提出しなければなりません。それらを100点満点に換算して評価します。講義中にその説明を詳細にします。

各時間にリアクション・ペーパー等により、学修状況を把握し、補足等によって事後学修の資とする。

## 【参考書】

特に固定的な参考書はもちいません。参考書が必要な場合は、講義中にその都度指示します。

## 【注意事項】

重要な参考文献はほとんど本学の図書館にあります。その他、必要に応じて、国文学研究資料館・国会図書館などを利用して下さい。これら公共の図書館をどう使うかでスキルが向上します。

## 上代中古文学史 b

—古代の歌を読む—

池田 三枝子

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

## 【授業のテーマ】

上代文学には、日本古来の呪術的な要素と、当時最高の先進国であった中国や朝鮮半島諸国から受けた影響とが複雑に混じり合っています。

この授業では、奈良時代に成立したわが国最古の歌集である万葉集の歌を読むことにより、上代文学に親しみ、上代文学を出発点とする日本文学全体に対する理解を深めることを目標としています。

## 【授業における到達目標】

学生が身につけるべき態度・能力のうち、以下の3つを修得します。

- ・国際的視野  
(日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度)
- ・美の探究  
(人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度)
- ・研鑽力  
(学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることができる)

## 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 上代文学史概説
- 第3週 万葉集概説① 一万葉集の概要と成立
- 第4週 万葉集概説② 一万葉集の表記
- 第5週 呪術的要素の強い歌① 一雄略天皇の歌
- 第6週 呪術的要素の強い歌② 一国見・歌垣・若菜摘み
- 第7週 呪術的要素の強い歌③ 一古代の英雄の〈色ごのみ〉
- 第8週 歴史的要素の強い歌① 一大津皇子関係歌群
- 第9週 歴史的要素の強い歌② 一大津皇子の謀反事件
- 第10週 歴史的要素の強い歌③ 一懐風藻の詩伝
- 第11週 文芸的要素の強い歌① 一後期万葉の〈風流〉
- 第12週 文芸的要素の強い歌② 一大伴旅人と山上憶良
- 第13週 文芸的要素の強い歌③ 一大伴家持の絶唱
- 第14週 地方性の強い歌 一東歌・防人歌
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

- ・事前学修（週2時間）

授業で扱う作品のテキスト（プリント）を予め配布し、それぞれの作品の参考資料を提示します。作品及び参考資料をよく読んで、作品の内容を理解してから授業に臨みましょう。

- ・事後学修（週2時間）

内容のまとめりに、意見・感想・質問を記す小レポートを授業中に書いて提出してもらいます。授業の内容をよく復習し、図書館で関連資料を検索するなどして、理解を深めておきましょう。

## 【テキスト・教材】

プリントを配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小レポート20%、期末テスト80%で評価します。小レポートは次回授業、期末テストは最終回授業でフィードバックを行います。

## 上代中古文学史 b

—古代の歌を読む—

池田 三枝子

2年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

## 【授業のテーマ】

上代文学には、日本古来の呪術的な要素と、当時最高の先進国であった中国や朝鮮半島諸国から受けた影響とが複雑に混じり合っています。

この授業では、奈良時代に成立したわが国最古の歌集である万葉集の歌を読むことにより、上代文学に親しみ、上代文学を出発点とする日本文学全体に対する理解を深めることを目標としています。

## 【授業における到達目標】

学生が身につけるべき態度・能力のうち、以下の3つを修得します。

- ・国際的視野  
(日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度)
- ・美の探究  
(人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度)
- ・研鑽力  
(学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることができる)

## 【授業の内容】

- |      |            |               |
|------|------------|---------------|
| 第1週  | ガイダンス      |               |
| 第2週  | 上代文学史概説    |               |
| 第3週  | 万葉集概説①     | —万葉集の概要と成立    |
| 第4週  | 万葉集概説②     | —万葉集の表記       |
| 第5週  | 呪術的要素の強い歌① | —雄略天皇の歌       |
| 第6週  | 呪術的要素の強い歌② | —国見・歌垣・若菜摘み   |
| 第7週  | 呪術的要素の強い歌③ | —古代の英雄の〈色ごのみ〉 |
| 第8週  | 歴史的要素の強い歌① | —大津皇子関係歌群     |
| 第9週  | 歴史的要素の強い歌② | —大津皇子の謀反事件    |
| 第10週 | 歴史的要素の強い歌③ | —懐風藻の詩伝       |
| 第11週 | 文芸的要素の強い歌① | —後期万葉の〈風流〉    |
| 第12週 | 文芸的要素の強い歌② | —大伴旅人と山上憶良    |
| 第13週 | 文芸的要素の強い歌③ | —大伴家持の絶唱      |
| 第14週 | 地方性の強い歌    | —東歌・防人歌       |
| 第15週 | まとめ        |               |

## 【事前・事後学修】

- ・事前学修 (週2時間)  
授業で扱う作品のテキスト(プリント)を予め配布し、それぞれの作品の参考資料を提示します。作品及び参考資料をよく読んで、作品の内容を理解してから授業に臨みましょう。
- ・事後学修 (週2時間)  
内容のまとめごとに、意見・感想・質問を記す小レポートを授業中に書いて提出してもらいます。授業の内容をよく復習し、図書館で関連資料を検索するなどして、理解を深めておきましょう。

## 【テキスト・教材】

プリントを配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小レポート20%、期末テスト80%で評価します。小レポートは次回授業、期末テストは最終回授業でフィードバックを行います。

## 上代中古文学史 b

『源氏物語』の世界

横井 孝

2年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

## 【授業のテーマ】

『源氏物語』は平安時代(8世紀～12世紀)の文学史の最高峰であると同時に、平安時代の文学のエッセンスがそこに込められています。『源氏物語』の全体像を追ってゆくとともに、この巨大な作品を形作る平安時代の文学をも読み取ってゆきます。

## 【授業における到達目標】

『源氏物語』という、日本古代のなかで最も巨大で複雑な散文文学を読み味わうことが出来るようにする。ただ、それだけではなく、それが日本文学全体のなかで、どのような役割を果たしているのか、古代の作品であるそれが、現代あるいは将来どのような意味があるのかを考えて行きます。

この講義をとおして、文学の美の粋の探究心を喚起し、研鑽する能力を養う。

## 【授業の内容】

- |      |                       |
|------|-----------------------|
| 第1週  | 『源氏物語』はどうして長くなったのか    |
| 第2週  | 源氏をとりまく女性たち・桐と藤       |
| 第3週  | 源氏をとりまく女性たち・藤と紫       |
| 第4週  | 紫の上とは何か               |
| 第5週  | 物語主人公の宿命・貴種流離譚        |
| 第6週  | 栄花への階梯                |
| 第7週  | 大がかりな求婚譚「玉鬘十帖」と『竹取物語』 |
| 第8週  | 女三の宮・柏木事件             |
| 第9週  | 主人公の死                 |
| 第10週 | 前編から後編へ               |
| 第11週 | 宇治のゆかりの物語             |
| 第12週 | 源氏物語は結局何を語ったのか        |
| 第13週 | 『源氏物語』とそれ以後の物語        |
| 第14週 | 『狭衣物語』                |
| 第15週 | ひとりの女性の物語『夜の寝覚』       |

## 【事前・事後学修】

講義中にさまざまなテクニカルターム(専門用語)がキーワードとして提供されます。事後には、それを確認しながら、次回の講義の予告に沿って、さらに文献の紹介があります。その所在を検索・確認し、目を通しておく必要があります。

事前には週1.5時間、事後にも週2.5時間程度の学修を要するでしょう。

## 【テキスト・教材】

毎回、レジュメ(配付資料)を用意します。固定的な参考書はもっていない。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末に単位レポートを課する。「源氏物語と平安時代の物語作品」が中心課題になります。講義中のキーワードを踏まえているか否かも評価しますが、書式に限定があり、それを遵守して提出しなければなりません。それらを100点満点に換算して評価します。講義中にその説明を詳細にします。

各時間にリアクション・ペーパー等により、学修状況を把握し、補足等によって事後学修の資とする。

## 【参考書】

特に固定的な参考書はもちいません。参考書が必要な場合は、講義中にその都度指示します。

## 【注意事項】

重要な参考文献はほとんど本学の図書館にあります。その他、必要に応じて、国文学研究資料館・国会図書館などを利用して下さい。これら公共の図書館をどう使うかでスキルが向上します。

**上代文学演習A**

— 『万葉集』を読む —

池田 三枝子

国文学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

『万葉集』の歌を読み進めることにより、上代文学についての調査・研究方法の基礎を習得し、古代和歌の発想についての理解を深めます。

**【授業における到達目標】**

受講者各自が研究テーマを設定し、習得した調査・研究方法により課題を解決して結論を出すことができるようになることを到達目標とします。

その上で、学生が身につけるべき態度・能力のうち、以下の2つを修得します。

- ・研鑽力（学修成果を実感して自信を創出し、本質を見抜く力）
- ・行動力（課題の発見から計画の立案・実行、問題解決に至る力）

**【授業の内容】**

第1週	ガイダンス	
第2週	『万葉集』概説	— 四期分類について —
第3週	研究テーマの決定	
第4週	本文校訂①	— 諸本概説 —
第5週	本文校訂②	— 『校本万葉集』の使い方—
第6週	先行研究の調査と整理①	— 注釈書・辞書 —
第7週	先行研究の調査と整理②	— 研究書・研究論文 —
第8週	用例の調査と分析①	— 万葉集の用例 —
第9週	用例の調査と分析②	— 上代文献 —
第10週	口頭発表と質疑応答①	— 本文の異同を理解する —
第11週	口頭発表と質疑応答②	— 問題提起の仕方 —
第12週	口頭発表と質疑応答③	— 研究史の把握 —
第13週	口頭発表と質疑応答④	— 用例の博搜 —
第14週	口頭発表と質疑応答⑤	— 考察から結論へ —
第15週	まとめ	

**【事前・事後学修】**

- ・事前学修（週2時間）

上代文学は他分野と比較して先行研究が多いところに特徴があります。自分が設定した研究テーマに関して、事前に調査し、研究史を把握するようにしましょう。

発表に際しては、発表者以外の人も、注釈書を読む等の下調べをして臨んで、自説を展開できるようにして下さい。

- ・事後学修（週2時間）

発表を踏まえ、新たな課題にしっかり取り組んで下さい。

**【テキスト・教材】**

鶴久ほか編『万葉集』（おうふう 1972年）1,900円

坂本信幸ほか編『万葉事始』（和泉書院 1995年）700円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

口頭発表30%、討論30%、期末レポート40%

発表・討論についてはその授業時間に、レポートについては授業最終回にフィードバックします。

**【参考書】**

授業時に指示します。

**上代文学演習B**

— 『万葉集』を読む —

池田 三枝子

国文学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

『万葉集』の歌を読み進めることにより、上代文学についての調査・研究方法を習得し、周辺の文化事象をも視野に入れ、古代和歌とそれを取り巻く環境について理解を深めます。

**【授業における到達目標】**

受講者各自が研究テーマを設定し、習得した調査・研究方法により課題を解決して、学術論文を作成できるようになることを到達目標とします。

その上で、学生が身につけるべき態度・能力のうち、以下の2つを修得します。

- ・研鑽力（学修成果を実感して自信を創出し、本質を見抜く力）
- ・行動力（課題の発見から計画の立案・実行、問題解決に至る力）

**【授業の内容】**

第1週	ガイダンス	
第2週	研究テーマの設定	
第3週	学術論文の書き方①	— 章立て —
第4週	学術論文の書き方②	— 書式・用語 —
第5週	学術論文の書き方③	— 引用・注記 —
第6週	口頭発表と質疑応答①	— 章立て —
第7週	口頭発表と質疑応答②	— 問題提起 —
第8週	口頭発表と質疑応答③	— 研究史の整理 —
第9週	口頭発表と質疑応答④	— 用例の調査・分析 —
第10週	口頭発表と質疑応答⑤	— 考察 —
第11週	口頭発表と質疑応答⑥	— 小結 —
第12週	口頭発表と質疑応答⑦	— 想定される反論への対応 —
第13週	口頭発表と質疑応答⑧	— 結論 —
第14週	口頭発表と質疑応答⑨	— 注記 —
第15週	まとめ	

**【事前・事後学修】**

- ・事前学修（週2時間）

発表の後に質疑を行います。質問者は当該作品について十分に理解した上で自分の意見を言う必要があります。発表者以外の人も発表の中で扱われる研究対象について、注釈書や研究論文を読む等の下調べをしてから授業に臨みましょう。

- ・事後学修（週2時間）

発表を踏まえ、学術論文作成に向けて、新たな課題に取り組みましょう。

**【テキスト・教材】**

鶴久ほか編『万葉集』（おうふう 1972年）1,900円

坂本信幸ほか編『万葉事始』（和泉書院 1995年）700円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

口頭発表30%、討論30%、期末レポート40%

発表・討論についてはその授業時間、レポートについては授業最終回にフィードバックします。

**【参考書】**

授業時に指示します。

**【注意事項】**

『万葉集』に関する学術論文の作成を目的とする授業なので、上代文学に関する基礎知識を習得していることが条件となります。

## 上代文学基礎演習 1

—季節の歌をよむ—

瀧口 翠

2年 前期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

『萬葉集』は、奈良時代に成立した日本最古の歌集です。この授業では、四季によって歌を分類している、巻八の歌を読みます。春夏秋冬、それぞれの歌を読みながら、上代日本の人々が自然とどのように向き合っていたかを考えます。

### 【授業における到達目標】

萬葉集研究の基礎的な方法を身に付ける。  
自らの主張を裏付けるデータを示せるようにする。  
学生が修得すべき「行動力」について、研究状況を正しく把握し、自ら課題を発見する力を修得する。学生が修得すべき「協働力」について、互いの意見を尊重しつつ、新たな知見に到達する議論を通し修得する。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 『萬葉集』概説
- 第3週 巻八について
- 第4週 調査、分析の方法
- 第5週 発表のしかた
- 第6週 発表と質疑応答（1）春雑歌
- 第7週 発表と質疑応答（2）春相聞
- 第8週 発表と質疑応答（3）夏雑歌
- 第9週 発表と質疑応答（4）夏相聞
- 第10週 発表と質疑応答（5）秋雑歌
- 第11週 発表と質疑応答（6）秋相聞
- 第12週 発表と質疑応答（7）冬雑歌
- 第13週 発表と質疑応答（8）冬相聞
- 第14週 レポートの書き方
- 第15週 まとめ—萬葉集の季節詠—

発表者には、語法や用例に即して先行諸説を検討し、主体的に歌を読んでもらいます。その他の人は質問者として、積極的に問題を提起してください。

### 【事前・事後学修】

発表者は、索引やCD-ROM、諸注釈書等を博搜してレジュメを作成し、発表に臨んでください（事前学修 週2時間）。その他の人は、該当する歌について複数の注釈書を読み、比較してきてください（事前学修 週1時間）。演習中に解決しなかった問題について、その都度参考資料を紹介し、次週冒頭で全体討議しますので、各自調べてきてください（事後学修 週1時間）。

### 【テキスト・教材】

- 鶴久ほか編『萬葉集』（おうふう 1972年）1,900円
- 坂本信幸ほか編『万葉事始』（和泉書院 1995年）700円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点70%、レポート等の提出物30%で評価します。平常点は、発表内容、討議への積極性、発言の質などで総合的に評価します。提出物には次回授業でフィードバックを行います。

### 【参考書】

新編日本古典文学全集『萬葉集』（1）～（4）（小学館）

そのほかは授業時に紹介します。

### 【注意事項】

受講人数等の都合により、グループを組んで発表を行ってもらう場合があります。

## 上代文学基礎演習 1

—神話に親しむ—

多田 元

2年 前期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

『古事記』は現存最古の文芸作品です。日本文化の淵源を考える上で重要な文献であるとされます。上代文学に親しみ、「神話」を通して古代人の想像力を理解することで文芸とは何かということを考えてゆきます。

### 【授業における到達目標】

到達目標 文芸の分析を通して日本文化・精神の特質を説明できるようになる。  
DPとの関連 学修を通して自己成長する力・研鑽力のうち、学ぶ楽しみを知り、分析する力を修得する。

### 【授業の内容】

- 1 ガイダンス
- 2 『古事記』概説 —神話について—
- 3 研究史の調査と整理 —基本文献と先行研究—
- 4 用例調査と分析 —用例調査による先行研究の検討—
- 5 発表の仕方 —基礎調査と個人課題—
- 6 質疑応答の進め方 —論理力を高める討論—
- 7 発表と質疑応答（1）  
基礎発表・八岐大蛇神話（前半）
- 8 発表と質疑応答（2）  
基礎発表・八岐大蛇神話（後半）
- 9 調整用指導時間 問題点整理について
- 10 発表と質疑応答（3）  
基礎発表・異類婚姻神話
- 11 発表と質疑応答（4）  
課題発表・八岐大蛇神話（前半）
- 12 発表と質疑応答（5）  
課題発表・八岐大蛇神話（後半）
- 13 発表と質疑応答（6）  
課題発表・異類婚姻神話
- 14 レポートの書き方
- 15 まとめ

### 【事前・事後学修】

「事前学修」演習発表のための基礎文献整理・用例検討、資料作製等の事前準備（学修時間 週2時間）  
「事後学修」発表後の問題点整理、レポートのための追加調査が必須です（学修時間 週2時間）。

### 【テキスト・教材】

中村啓信 訳注『古事記』（角川ソフィア文庫2009年9月刊） 1124円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

口頭発表30%、討論30%、レポート40%で評価します。  
発表・討論毎に毎時間フィードバックをします。

### 【参考書】

授業時に紹介します。

### 【注意事項】

他の人の口頭発表を真剣に聞き、自分の考えをまとめて質問することで、自分自身の論理力がアップします。討論には積極的な態度で臨んでください。



## 上代文学基礎演習 2

— 相聞歌をよむ —

瀧口 翠

2年 後期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

『萬葉集』は、奈良時代に成立した日本最古の歌集です。この授業では、巻二に収められている「相聞」の歌を読みます。

「相聞」の歌は、男女や友人、家族の間で交わされた歌です。それぞれの歌は、どのように働きかけ、また応じているか。作品の読解を通して、上代日本における歌のあり方について考えます。

## 【授業における到達目標】

萬葉集研究の基礎的な方法を身に付ける。

自らの主張を裏付けるデータを示せるようにする。

学生が修得すべき「行動力」について、研究状況を正しく把握し、自ら課題を発見する力を修得する。

学生が修得すべき「協働力」について、互いの意見を尊重しつつ、新たな知見に到達する議論を通し修得する。

## 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 『萬葉集』概説
- 第3週 相聞歌について
- 第4週 調査、分析の方法
- 第5週 発表の仕方
- 第6週 発表と質疑応答（1）天智天皇と鏡王女
- 第7週 発表と質疑応答（2）藤原鎌足と鏡王女
- 第8週 発表と質疑応答（3）久米禪師と石川郎女
- 第9週 発表と質疑応答（4）大伴安麻呂と巨勢郎女
- 第10週 発表と質疑応答（5）天武天皇と藤原夫人
- 第11週 発表と質疑応答（6）大津皇子と石川郎女
- 第12週 発表と質疑応答（7）弓削皇子と額田王
- 第13週 発表と質疑応答（8）舍人皇子と舍人娘子
- 第14週 レポートの書き方
- 第15週 まとめ—巻二相聞歌—

発表者には、語法や用例に即して先行諸説を検討し、主体的に歌を読んでもらいます。その他の人は質問者として、積極的に問題を提起してください。

取り上げる歌は、受講者の希望に応じ変更する場合があります。

## 【事前・事後学修】

発表者は、索引やCD-ROM、諸注釈書等を博搜してレジュメを作成し、発表に臨んでください（事前学修 週2時間）。その他の人は、該当する歌について複数の注釈書を読み、比較してきてください（事前学修 週1時間）。演習中に解決しなかった問題について、その都度参考資料を紹介し、次週冒頭で全体討議しますので、各自調べてきてください（事後学修 週1時間）。

## 【テキスト・教材】

鶴久ほか編『萬葉集』（おうふう 1972年）1,900円  
坂本信幸ほか編『万葉事始』（和泉書院 1995年）700円

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点70%、レポート等の提出物30%で評価します。平常点は、発表内容、討議への積極性、発言の質などで総合的に評価します。提出物には次回授業でフィードバックを行います。

## 【参考書】

新編日本古典文学全集『萬葉集』（1）～（4）（小学館）  
そのほかは授業時に紹介します。

## 【注意事項】

受講人数等の都合により、グループを組んで発表を行ってもらう場合があります。

## 上代文学基礎演習 2

— 地方神話に親しむ —

多田 元

2年 後期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

『風土記』は最古の地方誌としての文芸作品です。日本文化の淵源を考える上で重要な文献であるとされます。今年度は「出雲国風土記」を通して、上代文学に親しみ、文芸を作り出す古代人の想像力を理解することで文芸とは何かということを考えてゆきます。

## 【授業における到達目標】

学修の到達目標 文芸の分析を通して日本文化・精神の特質を説明できるようになる。

DPとの関連 学修を通して自己成長する力・研鑽力のうち、学ぶ楽しみを知り、分析する力を修得する。

## 【授業の内容】

- 1 ガイダンス
- 2 『風土記』概説 — 地方神話について —
- 3 研究史の調査と整理 — 基本文献と先行研究 —
- 4 用例調査と分析 — 用例調査による先行研究の検討 —
- 5 発表の仕方 — 基礎調査と個人課題 —
- 6 質疑応答の進め方 — 論理力を高める討論 —
- 7 発表と質疑応答（1）  
基礎発表・国引き神話
- 8 発表と質疑応答（2）  
基礎発表・語臣とワニの神話
- 9 調整用指導時間 問題点整理について
- 10 発表と質疑応答（3）  
基礎発表・御子神の神話
- 11 発表と質疑応答（4）  
課題発表・国引き神話
- 12 発表と質疑応答（5）  
課題発表・語臣とワニの神話
- 13 発表と質疑応答（6）  
課題発表・御子神の神話
- 14 レポートの書き方
- 15 まとめ

## 【事前・事後学修】

事前学修 演習発表のための基礎文献整理・用例検討、資料作製等の事前準備（学修時間 週2時間）

事後学修 発表後の問題点整理、レポートのための追加調査が必須です（学修時間 週2時間）。

## 【テキスト・教材】

中村啓信監修・訳注『風土記 上』（角川ソフィア文庫 2015年6月刊）1360円

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

口頭発表30%、討論30%、レポート40%で評価します。

発表・討論毎に毎時間フィードバックをします。

## 【参考書】

授業時に紹介します。

## 【注意事項】

他の人の口頭発表を真剣に聞き、自分の考えをまとめて質問することで、自分自身の論理力がアップします。討論には積極的な態度で臨んでください。

**上代文学特殊演習A**

— 『文選』を読む —

池田 三枝子

国文学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

上代文学における比較文学的研究の基礎を習得するため、『万葉集』に多大なる影響を与えた中国・六朝の詞華集『文選』の中から作品を選んで読解します。

**【授業における到達目標】**

中国文学の読解力を身につけることにより、比較文学・比較文化的な考察ができるようになることを到達目標とします。

その上で、学生が身につけるべき態度・能力のうち、以下の3つを修得します。

- ・国際的視野（日本の文化・精神を知り、世界に発信する態度）
- ・研鑽力（学修成果を実感して自信を創出し、本質を見抜く力）
- ・行動力（課題の発見から計画の立案・実行、問題解決に至る力）

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 『万葉集』と漢文学① 一律令官人の教養—
- 第3週 『万葉集』と漢文学② 一万葉歌人への影響—
- 第4週 『文選』概説
- 第5週 『文選』読解① 一李善注を読む—
- 第6週 『文選』読解② 一データベースに拠る出典調査—
- 第7週 『文選』読解③ 一文献に拠る出典調査—
- 第8週 『文選』読解④ 一訓読・口語訳の作成—
- 第9週 口頭発表と質疑応答① 一問題意識のあり方—
- 第10週 口頭発表と質疑応答② 一出典調査—
- 第11週 口頭発表と質疑応答③ 一出典からの考察—
- 第12週 口頭発表と質疑応答④ 一問題解決—
- 第13週 口頭発表と質疑応答⑤ 一まとめ—
- 第14週 レポートの書き方
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

- ・事前学修（週2時間）  
口頭発表の後に質疑を行います。質問者は当該作品について十分に理解した上で自分の意見を言う必要があります。発表者はもちろん、発表者以外の人、発表の中で扱われる研究対象について、注釈書や研究論文を読む等の下調べをして授業に臨んで下さい。
- ・事後学修（週2時間）  
発表後は、討論を踏まえ、次の発表及びレポート作成までに問題点を解決するべく、用例を博搜して新たな論理を構築して下さい。

**【テキスト・教材】**

プリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

口頭発表30%、討論30%、期末レポート40%  
発表・討論についてはその授業時間に、レポートについては授業最終回にフィードバックします。

**【参考書】**

授業時に指示します。

**上代文学特殊演習B**

— 後期万葉の作品を読む —

池田 三枝子

国文学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

上代文学における比較文学的研究に習熟するため、『文選』をはじめとする漢籍から多大なる影響を受けている後期万葉の作品を選んで読解します。

**【授業における到達目標】**

比較文学・比較文学的考察を踏まえて、上代文学に関する学術論文を作成できるようになることを到達目標とします。

その上で、学生が身につけるべき態度・能力のうち、以下の3つを修得します。

- ・国際的視野（日本の文化・精神を知り、世界に発信する態度）
- ・研鑽力（学修成果を実感して自信を創出し、本質を見抜く力）
- ・行動力（課題の発見から計画の立案・実行、問題解決に至る力）

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 後期万葉概説
- 第3週 後期万葉の国際性
- 第4週 研究テーマの設定
- 第5週 学術論文の書き方—底本の選択—
- 第6週 学術論文の書き方—原文・訓点・訓読・訳の使い分け—
- 第7週 口頭発表と質疑応答 (1) 一問題意識を明確化する—
- 第8週 口頭発表と質疑応答 (2) 一研究史を把握する—
- 第9週 口頭発表と質疑応答 (3) 一研究史を批判する—
- 第10週 口頭発表と質疑応答 (4) 一用例を博搜する—
- 第11週 口頭発表と質疑応答 (5) 一用例を分析する—
- 第12週 口頭発表と質疑応答 (6) 一用例に基づき考察する—
- 第13週 口頭発表と質疑応答 (7) 一考察から結論を導き出す—
- 第14週 口頭発表と質疑応答 (8) 一まとめ—
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

- ・事前学修（週2時間）  
口頭発表の後に質疑を行います。質問者は当該作品について十分に理解した上で自分の意見を言う必要があります。発表者はもちろん、発表者以外の人、発表の中で扱われる研究対象について、注釈書や研究論文を読む等の下調べをして授業に臨んで下さい。
- ・事後学修（週2時間）  
討論を踏まえ、研究史の把握と用例の博搜につとめ、次の発表及びレポート作成までに、新たな論理を構築して下さい。

**【テキスト・教材】**

鶴久ほか編『万葉集』（おうふう 1972年）1,900円  
坂本信幸ほか編『万葉事始』（和泉書院 1995年）700円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

口頭発表30%、討論30%、期末レポート40%  
発表・討論についてはその授業時間に、レポートについては授業最終回にフィードバックします。

**【参考書】**

授業時に指示します。

## 情報とマスコミュニケーション

—メディア産業を理解する—

大倉 恭輔

1・2年 前期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

わたしたちの社会は、「複製されたたくさんの情報」を「不特定多数の人々」が利用することで成り立っています。

そこで、そうした情報を作り出し・流通させるメディア産業について学び、そこから私たちの生活がどのように成立しているのかを知り、さらには現代社会全体への理解につなげようと思います。

### 【授業における到達目標】

この授業では、主要なメディア産業を採りあげ、デジタルメディアの発達が各種のメディア産業に与えた影響について理解し、同時に、メディア産業の変化がわたしたちの暮らしに与える影響についても理解できるようになることをめざします。

そして、そうした学びによって、広い視野と深い洞察力を身につけてもらおうと思います。

### 【授業の内容】

- 01 はじめに： 変革期の中のメディア産業
- 02 放送業界 a テレビを中心に
- 03 放送業界 b ラジオを中心に
- 04 新聞業界 a 紙媒体を中心に
- 05 新聞業界 b 配信を中心に
- 06 出版業界 a 書籍を中心に
- 07 出版業界 b マンガを中心に
- 08 映像コンテンツ業界 a 映画を中心に
- 09 映像コンテンツ業界 b 動画を中心に
- 10 音楽業界 a パッケージを中心に
- 11 音楽業界 b 配信を中心に
- 12 インターネット業界・通信業界
- 13 エンターテインメント業界
- 14 技術革新の果てにあるもの
- 15 まとめ

注1 上記は授業内容のリストです。

注2 基本的に番号順に講義をしていきますが、学生の理解度や授業の進行状況にあわせて、順番の入れ替えなどの変更が行われる場合があります。

### 【事前・事後学修】

- ・事前学修  
事前配布の資料に目とおし、設問がある場合、それについて回答を準備しておくこと。
- ・事後学修  
授業内容を自分で補足し、きちんとしたノート作成をおこなうこと。
- ・事前・事後学修には、それぞれ週に2時間をあてること。

### 【テキスト・教材】

- ・教科書は使用しません。
- ・基本的に、manaba 上から資料を事前配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・総合評価：レポート80%・平常点/受講態度・ノート作成など 20% manaba の設定や利用の状況も平常点の参考とします。
- ・試験結果については manaba 上でフィードバックする予定です。

### 【参考書】

適宜、授業の中で紹介します。

### 【注意事項】

- ・視聴覚教材を利用する際も、必ずノートテイクをおこなうこと。
- ・短期大学部標準受講マナーを守ること。  
(manaba上に掲示してあります)

## 情報と社会

—情報社会の仕組みを知る—

板倉 文彦

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

### 【授業のテーマ】

現代の情報社会は、インターネットやメールをはじめとした各種の情報基盤の上に成り立っています。このような社会で我々が生活していくためには、情報リテラシーを持つことが重要となります。また、そこでやり取りされる「情報」は情報社会の中で重要な要素ですが、形ある「もの」ではないためその性質は理解しがたいものとなっています。

この講義では、情報を「もの」として認知した上で、現代社会とどのように関わっているのかを学習することにより、皆さんが生活している情報社会全体の仕組みを理解することができます。

### 【授業における到達目標】

情報社会についての理解が深まることで、今後も発展が見込まれる情報社会の進展に即して、生涯にわたり知を探求して学び続ける「研鑽力」を修得することができます。

また、日々生活していくうえでも既存情報を活用して物事の真理を見極め新たな知を創造していくという、ディプロマ・ポリシーにある「美の探究」の態度と、ネットを通して世界とつながる「国際的視野」を身に付けることもできます。

### 【授業の内容】

1. 人間と情報とのかかわり
2. 情報ネットワーク
3. 情報ツール
4. ユビキタス社会の進展
5. 情報経済の現状
6. 企業活動と情報システム
7. 社会基盤としての情報システム
8. 情報社会におけるコミュニケーション
9. 情報セキュリティ
10. 情報社会における危機管理
11. 情報による社会変化
12. 情報社会の生き方
13. 情報社会の進展
14. 情報の応用事例
15. まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：毎回配付する資料を、次回授業までに読んで予習しておく（週2時間程度）

事後学修：授業の最後に出された課題内容と、当日の講義内容を照らし合わせたうえで復習する（週2時間程度）

### 【テキスト・教材】

プリントを配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験成績および平常点で総合的に評価します。

配分基準：定期試験70%、平常点30%（授業態度）

試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

### 【参考書】

川合慧監修、駒谷昇一編著『IT Text（一般教育シリーズ）情報と社会』（オーム社）

## 情報と職業

菅原 淳史

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

## 【授業のテーマ】

現代社会においてコンピュータやインターネットを活用することは、あらゆる職種において今や不可欠となっています。今までとは全く異なるビジネスモデルが次々と生まれてきており、社会の情報化は急激なスピードで進化してきました。コンピュータやインターネットなどの情報通信技術の発達が社会や既存のビジネスをどう変えてきたか、どのような新しいビジネスが可能となってきたかを学ぶことは、今後の情報社会で生きるために必要不可欠なことです。

また、本授業は普通教科「情報」および専門教科「情報」を担当できる高等学校教諭一種免許状（情報）取得のための「教科に関する科目」として設置されています。そのため、教科「情報」の教員として行うことになる、職業指導に必要な情報通信産業の最新の情報の把握方法についても講義・課題・発表を通して身につけていくこととします。

## 【授業における到達目標】

上記テーマに鑑み本授業では、現代社会、特に生活やビジネスにおける情報通信技術の関わりを光と影の両面から正しく理解するとともに、正しく活用できるようになることを目標とします。

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、本質を見抜く力を修得します。

## 【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 情報社会と情報システム
- 第3回 情報化による生活環境の変化
- 第4回 情報化によるビジネス環境の変化
- 第5回 企業における情報活用（情報活用の実例）
- 第6回 企業における情報活用（情報活用の問題点）
- 第7回 インターネットビジネス1（一般的な事例の紹介）
- 第8回 インターネットビジネス2（トピックス事例の紹介）
- 第9回 情報社会における犯罪と法制度
- 第10回 情報社会におけるリスクマネジメント
- 第11回 働く環境と労働観の変化
- 第12回 多様な働き方（SOHOとe-learning）
- 第13回 明日の情報社会1（高齢社会と情報化）
- 第14回 明日の情報社会2（教育の情報化）
- 第15回 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】コンピュータや情報通信に関する日々のニュースや新聞に目を通し、世の中の動向を把握しておきましょう。簡潔にまとめたものを報告してもらいます。（学修時間 週2時間）

【事後学修】e-learningシステムを活用して様々な課題に取り組んでいただきます。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小課題：30%、課題レポート：40%、発表レポート：30%で評価します。後日授業およびe-learningシステムにてフィードバックします。

## 【参考書】

- 情報と職業 駒谷昇一他 オーム社 ISBN4274132668  
 教科書 情報と職業 木暮仁 日科技連出版社 ISBN9784817192523  
 情報と職業：情報産業で働くための必要知識 山崎信雄 丸善プラットフォーム ISBN4944024924  
 情報と職業 近藤勲 丸善 ISBN4621070916

## 【注意事項】

講義テーマは多岐に渡ります。興味を持てる持てないは様々だと思いますが、興味を持てるテーマであれば特に、授業中に示される関連情報も含めて、より幅広く、また深く学習していきましょう。

## 情報アムニティ論

尾崎 博和

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

## 【授業のテーマ】

ヒト（人間）がつくりだす便利で美しいものは全てが善なのか。アメニティの追及はヒトとは何かを考えること。社会生活における情報・情報技術が果たす役割や影響も含め、我々がさまざまな環境へどのように適応しているのかを理解し、より快適で安全な生活をデザイン・創造する術を考究していきます。

## 【授業における到達目標】

物事を多角的に捉え真理を探究する態度を養います。自ら学び考える能力を修得し生きる術の糧とします。

## 【授業の内容】

- 第1週 情報システムとアメニティ
- 第2週 ヒト（人間）と情報技術
- 第3週 環境
- 第4週 環境への適応1（暑熱・寒冷）
- 第5週 環境への適応2（圧力・加速度）
- 第6週 環境への適応（光・音・振動）
- 第7週 ストレスと人間
- 第8週 機能服と機能美
- 第9週 異常環境でのサバイバル
- 第10週 生活環境でのサバイバル
- 第11週 情報行動
- 第12週 情報活用の人間工学
- 第13週 望ましい情報社会
- 第14週 未来生活をデザインする
- 第15週 総合討論

## 【事前・事後学修】

【事前学修】manabaに掲載する資料及び参考図書等を精読すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】課題・小テスト等を復習すること。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験50%、平常点（小課題/小テスト25%・授業に対する積極性25%）50%として総合的に評価します。

小課題・小テストは次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

## 【参考書】

- 菊池安行他著「生理人類学入門」（南江堂）  
 大塚柳太郎他著「人類生態学」（東京大学出版会）  
 日本生理人類学会居住環境評価研究部会編著「生理人類学からみた環境の科学」（彰国社）  
 浦昭二他編「情報システム学へのいざない（人間活動と情報技術の調和を求めて）改訂版」（培風館）

**情報コミュニケーション**

—最新のICTをキャッチアップしよう—

鈴木 裕信

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

ICT（情報通信技術）は日々進化しています。PCやタブレットだけではなくスマートフォンを操り、SNSを頻繁にアクセスする時代になりました。無線高速ネットワークも整備され、歩きながら世界中に動画を生中継をすることさえも可能になっています。通信インフラやハードウェアの進化に伴いコミュニケーションの種類も質もそして文化も変化します。情報コミュニケーションは、そのサービスの種類や性質、ハードウェアの種類や性質と切り離すことは出来ません。この授業は技術的な知識や技術を習得するだけではなく、グループディスカッションを通してお互いに意見を交わしていくことで一人一人が情報コミュニケーションについて考えます。

**【授業における到達目標】**

現在のICTに対して全体像を把握すること。ネットワーク文化について理解を深めること。コンテンツマネージメントシステムを使い情報発信をすることで研鑽力を高める。ストリーミング放送の企画と実施を通して行動力を示す。グループ討論と発表を通して協働力を高める。

**【授業の内容】**

- 第1週 ARPANETから携帯ネットワークまで歴史と変遷
- 第2週 CompuServeからTwitterまでのコミュニケーション変化
- 第3週 ブログ（CMS技術）と情報発信の実習
- 第4週 情報発信をテーマとしてグループディスカッション
- 第5週 ディスカッションのまとめをグループで発表・質疑応答
- 第6週 ポケベルからAndroidまでハンドヘルドデバイスの変化
- 第7週 IBM PCからiPadまでパーソナルコンピュータの変化
- 第8週 ストリーミング動画配信の実習
- 第9週 パーソナル環境におけるICTをテーマとしてグループディスカッション
- 第10週 ディスカッションのまとめをグループで発表・質疑応答
- 第11週 USENETからアメール・ピグまでユーザの実存性
- 第12週 パソコン通信から2ちゃんねるまでの匿名性
- 第13週 ビデオカンファレンス（サーバー・クラウド技術）の実習
- 第14週 ネットワーク上での実存性・匿名性をテーマとしてグループディスカッション
- 第15週 ディスカッションのまとめをグループで発表・質疑応答

**【事前・事後学修】**

manabaと下記のURLで公開されている教材を利用して予習を行う（週2時間）。受講者に用意されている授業用ブログに授業のまとめや反省点を書くなどの復習を行う（週2時間）。

**【テキスト・教材】**

授業開始時に指示します。授業で使用するテキスト・教材は実践女子学園のGMAILにログイン後アクセスできます。

<https://goo.gl/EfSQgb>

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業中の発表、発言）50%、レポート50%  
グループ発表での論評、ストリーミング番組の論評など随時授業のフィードバックを行います。

**【参考書】**

村井純 著 「角川インターネット講座（1）インターネットの基礎情報革命を支えるインフラストラクチャー」（KADOKAWA/角川学芸出版）

**【注意事項】**

受講人数制限40名（制限人数を超えた場合、抽選）

**情報サービス演習 a**

レファレンスサービスに必要な情報探索力を育成する

竹内 ひとみ

3年 前期 1単位

**【授業のテーマ】**

レファレンスサービスの概念、歴史、機能、プロセス、役割等を明らかにし、レファレンスサービスに必要なツールの特徴を理解し、その使い方に精通する。またインターネット・デジタル情報についても、分析評価しレファレンスツールとして研究し、利用に熟達する。

**【授業における到達目標】**

レファレンスサービスの概略を理解し、レファレンスサービスに必要なツールであるレファレンスブックの特徴を理解し、その使い方に精通する。またインターネット・デジタル情報についても、分析評価しレファレンスツールとして研究し、利用に熟達する。演習では具体的な個々のレファレンス質問にあたり、回答することで、多様な価値観を持つ図書館利用者のレファレンス質問の実際を理解し、コミュニケーション能力やプレゼンテーション力を高めて、レファレンスプロセスやその成果を正しく評価し、問題解決につなげていく能力を育成する。

**【授業の内容】**

- 第1週 レファレンスサービスとは何か
- 第2週 レファレンスサービスの理論と実際
- 第3週 レファレンスサービスの基礎
- 第4週 主なレファレンスツールとその特質 (1) 書誌データ
- 第5週 主なレファレンスツールとその特質 (2) 事実データ
- 第6週 主要な資料検索 (言語・文字等)
- 第7週 主要な資料検索 (歴史・地理等)
- 第8週 レファレンスクエスションに回答 (人物・人名)
- 第9週 レファレンスクエスションに回答 (事物・事象)
- 第10週 レファレンスコレクションの整備
- 第11週 レファレンスインタビューの技法と実際
- 第12週 質問に対する検索と回答
- 第13週 書誌作成と発信型情報サービス
- 第14週 発信型情報サービスの実際
- 第15週 レファレンスサービスの評価

**【事前・事後学修】**

- ・授業で配付した資料で該当箇所を予習・復習しておくこと。(学修時間 週1時間)
- ・身近な公共図書館、大学図書館でのレファレンス業務を良く観察しておくこと。

**【テキスト・教材】**

長澤雅男・石黒祐子『レファレンスブックス 三訂版』(日本図書館協会, 2016) 1,400円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業内課題 80%、授業での質問・発言等、授業への参加を含む平常点 20% (基本的に出席率は80%以上を求めます) 課題について次回授業でフィードバックを行う。

**【参考書】**

- 『まちの図書館でしらべる』(柏書房 2002年)
- 斉藤文男・藤村せつ子『実践型レファレンス・サービス入門』(日本図書館協会 2004年)

**【注意事項】**

授業中の質問を歓迎します。積極的な授業態度を評価します。

**情報サービス演習 a**

林 哲也

2年 後期 1単位

**【授業のテーマ】**

レファレンスサービスは、情報サービスの中でも中心的なサービスです。

「図書館サービス概論」や「図書館情報サービス論」で学んだ理論を踏まえ、情報や文献を調査する場合の実践的で基本的な知識と技術の修得を目指します。

**【授業における到達目標】**

情報に関する知識と理解を深め、情報スキルに通暁する。特に、図書館におけるレファレンス業務の実務的な能力や技能を例題を実習することによって修得する。学生が修得すべき「行動力」のうち、プロセスや成果を正しく評価し、問題解決につなげる能力を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 情報サービスの概念、機能
- 第2週 レファレンスブック・データベースの情報源
- 第3週 言語・文字の情報源
- 第4週 事物・事象の情報源
- 第5週 歴史・日時の情報源
- 第6週 地理・地名の情報源
- 第7週 人物・人名の情報源
- 第8週 図書・叢書の情報源
- 第9週 新聞・雑誌の情報源
- 第10週 新聞情報の探し方
- 第11週 情報リテラシー
- 第12週 オンライン資料
- 第13週 参照文献の書き方
- 第14週 発表と評価の補足
- 第15週 全体の総括

**【事前・事後学修】**

【事前学修】教科書の全問をこなすので、自分の提出ぶん以外も回答を用意すること。キャンパス外の図書館等も積極的に利用すること。（学修時間 週1時間）

【事後学修】授業で解説した内容を良く理解すること。（学修時間 週0.5時間）

**【テキスト・教材】**

長澤雅男 石黒祐子共著『レファレンスブックス 選びかた・使いかた』3訂版（日本図書館協会 2017年）本体価格1,400円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験は実施せず、毎週のレポート（manabaで提出し、同じ内容を紙に印刷したもの併せて提出）によって成績を評価します。レポートは全件を添削し、留意すべき事項を授業中に解説します。

成績評価の配分基準：レポート 100%

**【参考書】**

埜納タオ著『夜明けの図書館』（Jour comics）（双葉社 2011-2017年）

**【注意事項】**

教科書は、必ずしも個人で購入しなくとも差し支えありません。課題を毎週提出していただきます。根拠となる出典を必ず明記すること。書誌事項は正確に。誤字脱字に注意。

**情報サービス演習 b**

情報検索演習

星野 雅英

3年 後期 1単位

**【授業のテーマ】**

様々な情報検索システムを概観しながら、教材のCD「演習用検索システム」を使った情報検索の基本的な演習と、Web上の機関リポジトリ等（学術専門情報）の検索演習を行う。また、各自の研究・調査したいテーマで情報検索等を行ってパスファインダーを作成し、レポートにまとめる。さらにレポート発表と共同討議を行う。

**【授業における到達目標】**

教材のCDを使った演習を通して検索技法の基本と、Webの検索演習によって様々なデータベースへのアクセス手法・その活用方法を身につける。レポート課題（パスファインダー作成と考察）に取り組み、発表・共同討議を行うことでコミュニケーション力を身につける。

また、学生が修得すべき「研鑽力」のうち、求める情報源に的確にアクセスでき、その中から必要な情報を取捨選択できる洞察力を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 情報検索の基礎／CD「演習用検索システム」の使い方  
機関リポジトリ等の検索演習（第12週まで毎回）
- 第2週 論理演算1（2つの検索語）
- 第3週 論理演算2（3つ以上の論理演算）
- 第4週 論理演算3（項目間の演算）
- 第5週 論理演算4（大小比較）／CD「人物略歴情報」基礎演習
- 第6週 論理演算5（生年月日）／CD「人物略歴情報」応用演習
- 第7週 Web人物情報／CD「雑誌記事情報」基礎演習
- 第8週 Web雑誌記事／CD「雑誌記事情報」応用演習
- 第9週 論理演算6（精度と再現率）  
CD「図書内容情報」基礎演習
- 第10週 CD「図書内容情報」応用演習／パスファインダーとは
- 第11週 CiNiシステム（特に電子ジャーナル）／CD「新聞記事原報」／パスファインダー作成1（テーマの決定）
- 第12週 精度を上げる検索技法  
CD「総合演習」／パスファインダー作成2（調査後作成）
- 第13週 機関リポジトリ等の活用（まとめ）  
パスファインダー作成3（完成を目指す）
- 第14週 パスファインダー作成4（見直しと考察）
- 第15週 レポートの発表・共同討議・まとめ

**【事前・事後学修】**

- ・事前：演習課題予定の情報検索システム等を調べる。
- ・事後：返却された演習課題の間違いや不明解な点を復習する。
- ・学修時間：事前・事後学修合わせて毎週1時間。

**【テキスト・教材】**

- ・田中功・齋藤泰則・松山巖編著『CD-ROMに学ぶ情報検索の演習』新訂4版（日外アソシエーツ 2013）」のCD「演習用検索システム」で演習を行う。このシステムは演習室に搭載済み。
- ・講義・解説、演習課題は、毎回プリントで配付する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

成績は演習課題（50%）とレポート（50%）で総合的に評価する。演習課題は次回の授業で（採点后返却）、解説と質問への回答によってフィードバックする。レポートは最終回の授業で、各自の発表と共同討議によってフィードバックする。

**【参考書】**

- ・伊藤民雄『インターネットで文献探索』日本図書館協会 2016

**【注意事項】**

演習課題は毎回課すので、止むを得ず欠席した場合、配付したプリントと解答例を参考に必ず演習すること。



**情報サービス演習 b**

情報検索演習

星野 雅英

2年 後期 1単位

**【授業のテーマ】**

様々な情報検索システムを概観しながら、教材のCD「演習用検索システム」を使った情報検索の基本的な演習と、Web上の機関リポジトリ等（学術専門情報）の検索演習を行う。また、各自の研究・調査したいテーマで情報検索等を行ってパスファインダーを作成し、レポートにまとめる。さらにレポート発表と共同討議を行う。

**【授業における到達目標】**

教材のCDを使った演習を通して検索技法の基本と、Webの検索演習によって様々なデータベースへのアクセス手法・その活用方法を身につける。レポート課題（パスファインダー作成と考察）に取り組み、発表・共同討議を行うことでコミュニケーション力を身につける。

また、学生が修得すべき「研鑽力」のうち、求める情報源に的確にアクセスでき、その中から必要な情報を取捨選択できる洞察力を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 情報検索の基礎／CD「演習用検索システム」の使い方  
機関リポジトリ等の検索演習（第12週まで毎回）
- 第2週 論理演算1（2つの検索語）
- 第3週 論理演算2（3つ以上の論理演算）
- 第4週 論理演算3（項目間の演算）
- 第5週 論理演算4（大小比較）／CD「人物略歴情報」基礎演習
- 第6週 論理演算5（生年月日）／CD「人物略歴情報」応用演習
- 第7週 Web人物情報／CD「雑誌記事情報」基礎演習
- 第8週 Web雑誌記事／CD「雑誌記事情報」応用演習
- 第9週 論理演算6（精度と再現率）  
CD「図書内容情報」基礎演習
- 第10週 CD「図書内容情報」応用演習／パスファインダーとは
- 第11週 CiNiシステム（特に電子ジャーナル）／CD「新聞記事原報」／パスファインダー作成1（テーマの決定）
- 第12週 精度を上げる検索技法  
CD「総合演習」／パスファインダー作成2（調査後作成）
- 第13週 機関リポジトリ等の活用（まとめ）  
パスファインダー作成3（完成を目指す）
- 第14週 パスファインダー作成4（見直しと考察）
- 第15週 レポートの発表・共同討議・まとめ

**【事前・事後学修】**

- ・事前：演習課題予定の情報検索システム等を調べる。
- ・事後：返却された演習課題の間違いや不明解な点を復習する。
- ・学修時間：事前・事後学修合わせて毎週1時間。

**【テキスト・教材】**

- ・田中功・齋藤泰則・松山巖編著『CD-ROMに学ぶ情報検索の演習』新訂4版（日外アソシエーツ 2013）」のCD「演習用検索システム」で演習を行う。このシステムは演習室に搭載済み。
- ・講義・解説、演習課題は、毎回プリントで配付する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

成績は演習課題（50%）とレポート（50%）で総合的に評価する。演習課題は次回の授業で（採点后返却）、解説と質問への回答によってフィードバックする。レポートは最終回の授業で、各自の発表と共同討議によってフィードバックする。

**【参考書】**

- ・伊藤民雄『インターネットで文献探索』日本図書館協会 2016

**【注意事項】**

演習課題は毎回課すので、止むを得ず欠席した場合、配付したプリントと解答例を参考に必ず演習すること。

**情報サービス論**

レファレンスサービスの理論を中心に

安藤 友張

2年 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

図書館における情報サービスの中で、中心となるのがレファレンスサービスである。レファレンスサービスは、図書館員の専門性が要求される高度な利用者サービスである。本科目では、レファレンスサービスの理論を中心に解説する。演習科目「情報サービス演習 a」「情報サービス演習 b」の講義科目が本科目である。

**【授業における到達目標】**

- ・レファレンスサービスのプロセスを理解できる。
- ・レファレンスサービスの学習を通して、図書館における各種の課題解決型サービスの意義を理解できる。
- ・情報サービスの理論と実践を理解し、問題解決能力を獲得する。

**【授業の内容】**

- 第1回 オリエンテーション：情報社会と図書館
- 第2回 図書館による情報サービスの意義と実際
- 第3回 レファレンスサービスの歴史① アメリカ
- 第4回 レファレンスサービスの歴史② 日本
- 第5回 情報探索行動とレファレンスプロセス
- 第6回 レファレンスインタビュー
- 第7回 レファレンスサービスの運営と組織
- 第8回 デジタルレファレンスサービス
- 第9回 情報検索とは何か
- 第10回 発信型情報サービス
- 第11回 利用者教育① 原理と方法
- 第12回 利用者教育② パスファインダー
- 第13回 各種情報源の解説と評価
- 第14回 各種情報源の特徴と利用法
- 第15回 各種情報源の組織化

**【事前・事後学修】**

【事前学修】利用者の立場から、図書館におけるレファレンスサービスを一度体験しておくこと（学修時間 週2時間）。

【事後学修】受講生各自の日常生活における情報探索行動（例 就職活動）を記録し、本科目で学習した内容と照らしながら、検証すること（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

山崎久道編『情報サービス論』（樹村房 2012年）2,160円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

学期末に実施する筆記試験80%、課題（小レポート）20%で総合的に評価する。学生による授業評価アンケートを実施後、成績評価も含めて全体総括し、manabaを通してフィードバックする予定である。

**【参考書】**

小田光宏編著『情報サービス論』（日本図書館協会 2012年）

**【注意事項】**

本科目を履修した後、あるいは同一年度に演習科目「情報サービス演習 a」「情報サービス演習 b」を履修することが望ましい。

**情報サービス論**

—健康医療情報入門—

西脇 智子

1・2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

この授業は、履修者が健康で文化的な生活を構築するために必要な「健康医療情報」を収集し、健康や医療の情報を読み解き、活用できるようになることを目指しています。

現代社会は、疫学やE BMの考え方、NBMの考え方、患者会の役割など、メディアやインターネットをはじめとするさまざまな健康や医療の情報に満ちています。そこで授業は、健康情報の話題から始め、「患者のための医療情報収集ガイド」や「健康情報棚プロジェクト」等の話題も紹介します。健康医療情報を適切に理解し、また利用できるように読み解き、意思決定をするとき、問題を解決するとき、コミュニケーションをとるときに役立てられるよう情報サービスの所在を探求します。

**【授業における到達目標】**

- ・「研鑽力」のうち広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができるようになることをめざします。
- ・物事の真理を探究し「美の探究」を実践できるようになることをめざします。

**【授業の内容】**

- 第1週 健康医療情報とはなにか
- 第2週 健康と不健康
- 第3週 健康と環境
- 第4週 健康と運動
- 第5週 インフォームド・コンセント
- 第6週 セカンドオピニオン
- 第7週 疫学とE BM
- 第8週 患者のための医療情報収集ガイド
- 第9週 患者会の役割
- 第10週 ナラティブ（患者の語り）
- 第11週 NBMという考え方
- 第12週 闘病記文庫
- 第13週 健康情報棚プロジェクト
- 第14週 情報サービスとQOL
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：配布資料を次回授業までに読んで予習します。

（学修時間 週2時間）

事後学修：授業時に取り扱われた内容を復習します。また、内容に関連した諸情報を収集・整理します。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

配布するプリント資料を用います。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

課題レポート40%、平常点（授業中の発言、ドリル）60%。ドリルは次回授業、課題レポートの結果は授業最終回でフィードバックを行います。

**【参考書】**

北澤京子著『患者のための医療情報収集ガイド』（筑摩書房 2009年）720円

**情報セキュリティ社会**

情報社会でプライバシーを守り安全に生活する

藤井 章博

2・3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

技術革新の著しい分野であるため、最新の動向を、継続的に学習できるリテラシーを身につけることをテーマとする。情報化社会における光と影について考える。まず、一般利用者の立場から、サイバー犯罪とは何かを学ぶ。情報セキュリティの基盤技術としての暗号と認証について学ぶ。さらに、社会人として倫理的な考察が必要となったときの考え方を学ぶ。

**【授業における到達目標】**

- ・情報セキュリティの系統的・運用的な課題を理解する。
- ・情報リテラシー教育における情報倫理の課題を理解する。
- ・社会における一利用者として必要な、情報倫理を身につける。

**【授業の内容】**

1. 情報化社会の成り立ち
2. 情報セキュリティとはなにか
3. サイバー犯罪の事例（利用者）
4. サイバー犯罪の事例（子ども）
5. サイバー犯罪の事例（企業）
6. 暗号技術と認証技術
7. セキュリティポリシーと法律
8. 倫理学について
9. 情報倫理の考え方
10. セキュリティと法律
11. プライバシー（概念）
12. プライバシー（教育現場の事例）
13. 職業倫理（フォードピント事件）
14. 職業倫理（スペースシャトル事件）
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】：テキストの次の週の内容を予習してください。

（学修時間 週2時間）

【事後学修】：授業内容の復習として、取り扱われた内容について、新聞記事や週刊誌の記事等を確認し復習してください。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

視聴覚教材を併用する。

山田恒夫「情報のセキュリティと倫理」NHK出版、2700円

2014年出版、ISBN978-4-595-31498-8

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（説明への理解度）40%

試験を実施する予定。（60%）

討論を通じて内容の理解の確認とフィードバックを実施する。

試験は、自筆ノート持ち込み可とする予定。

**【注意事項】**

テキスト教材は購入を推奨します。

**情報ネットワーク**

高度情報社会に生きて、ネットワークでつながる意味を考える

駒谷 真美

3年 後期 2単位

◎：行動力 ○：美の探究、研鑽力

**【授業のテーマ】**

スマートフォンからインターネットへ、ネットワークに接続された世界の中で、我々は生きている。ネットワークについて、技術は日進月歩だが、その一方で、根本的かつ普遍的な知識の理解が求められている。そこで本授業では、インターネットの仕組み・情報セキュリティ・情報倫理についての基礎を学修し、知識の定着に基づいたソーシャルメディアコミュニケーション（SMC）のスキルを促進する。本授業は、ネットワークの基礎知識とSMC技能を体得する、メディア情報リテラシー（MIL）の育成を目的とする。

**【授業における到達目標】**

MIL基礎段階の目標は、① [情報利活用] 適切かつ能動的に情報を検索・収集・選択・分析・表現・伝達・発信できる ② [情報モラル] 情報発信で配慮・遵守すべき点と自己責任の重要性を理解できることである。①②の達成により、本学の学生が修得すべき [行動力] 「現状の正確な把握と課題発見できる力」を研鑽する。

**【授業の内容】**

1. 導入 授業概要とmanabaによる学修法の説明・事前アンケート
2. ネットワーク (1) インターネットの技術について講義・討論  
ネットワーク (2) ネットサービスについて講義・討論
3. ネットワーク (3) マルチメディアとデータについて講義・討論  
ネットワーク (4) コンピュータシステムについて講義・討論
4. 情報セキュリティ (1) ウィルスについて講義・討論  
情報セキュリティ (2) ネット詐欺について講義・討論
5. 情報セキュリティ (3) 情報漏洩と暗号化について講義・討論  
情報セキュリティ (4) パスワード管理について講義・討論
6. 情報セキュリティ (5) ゲームで学ぶワークショップ
7. 情報モラル (1) 情報社会の権利と法律について講義・討論  
情報モラル (2) 著作権の基礎について講義・討論  
情報モラル (3) 著作権のリスクについて講義・討論
8. 情報モラル (4) SNSの落とし穴について講義・討論
9. 情報モラル (5) SMCのマナーについて講義・討論
10. 情報モラル(6) SMCの最新事例と問題点 討論
11. 情報ネットワークの最前線 (1) 検討会
12. 情報ネットワークの最前線 (2) プレゼン・討論・講評
13. 情報ネットワークの最前線 (3) プレゼン・討論・講評
14. 情報ネットワークの最前線 (4) プレゼン・討論・講評
15. 総括 フィードバック・事後アンケート

\*2～6の回は、情報セキュリティ専門家による最新情報提供予定

**【事前・事後学修】**

事前学修（学修時間：週2時間）では、指定テキストやmanabaにある授業資料を熟読し、授業をイメージする。事後学修（学修時間：週2～6時間）では、学修内容をリフレクションシートにまとめ、manabaで期日内に提出し保存する。

**【テキスト・教材】**

- ・『クラウドサービスで学ぶ 最新「情報」ブック 第2版』（日経BP社 2016年）（テキスト580円＋「日経Edu」1年分のライセンス料のセット）
- ・その他、授業資料をmanabaに適宜アップ。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（第1～15回のリフレクションシートNo. 1～No. 10）70%＋活動点（プレゼン）30%の総合的評価。リフレクションシートは次回授業開始時、ポートフォリオは最終回にフィードバック。

**【参考書】**

授業で適宜紹介。

**【注意事項】**

- ・本授業ではEnjoyment・Edutainment・Empowermentを重視しているので、積極的に楽しんで学修してもらいたい。
- ・履修は上限15人を目安とする。超過した場合は初回に抽選する。

**情報メディアの活用**

情報リテラシーの涵養

安藤 友張

3年 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

学校教育において、多種多様な情報メディア（例 電子黒板）を活用した授業が増えている。本科目では、印刷メディアのみならず、電子メディアの特性もふまえながら、授業における情報メディアの活用の在り方を考える。司書教諭に求められる情報検索の専門的知識なども学習する。現在、学校教育への導入が予定されている「デジタル教科書」の長所・短所も考える。

**【授業における到達目標】**

・インターネット時代に求められる情報リテラシーやメディアリテラシーを修得し、物事の本質を見抜く能力を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 情報メディアの発達史
- 第3回 情報メディアの種類とその特性 ①印刷メディア
- 第4回 情報メディアの種類とその特性 ②電子書籍・ウェブ・SNS
- 第5回 情報メディアの種類とその特性 ③教育用ソフトウェア
- 第6回 情報メディアを活用した授業の在り方 ① 反転授業の意義と問題点
- 第7回 情報メディアを活用した授業の在り方 ② グループワーク（課題提示）
- 第8回 情報メディアを活用した授業の在り方 ③ グループワーク（討議など）
- 第9回 情報メディアを活用した授業の在り方 ④ グループワーク（振り返り）
- 第10回 情報検索の理論と実際 ① 論理演算子など
- 第11回 情報検索の理論と実際 ② OPAC・サーチエンジン
- 第12回 インターネットによる情報発信
- 第13回 学校図書館メディアと著作権 ① 著作権法の解説
- 第14回 学校図書館メディアと著作権 ② 学校現場において直面する著作権問題
- 第15回 まとめ

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

サーチエンジンを使いながら、その長所と短所を考えておくこと（学修時間 週2時間）。

**【事後学修】**

授業中に配布したプリントを使って、図書館情報学の専門用語を復習しておくこと（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- ・学期末に実施する筆記試験（80%）、小レポート（20%）で総合的に評価する。
- ・学生による授業評価アンケートを実施後、成績評価も含めて全体総括し、manabaを通してフィードバックする予定である。

**【参考書】**

山本順一編『情報メディアの活用 改訂新版』放送大学教育振興会、2010年

**【注意事項】**

コンピュータを使った演習とグループワークを実施する予定なので、主体的に授業に参加すること。

### 情報リテラシー 1 a

—基本的な知識とスキルを身につける—

青木 聖子・浅原 房夫・飯泉 恵美子・久保 ちづる

1年 前期 1単位

◎：研鑽力 ○：行動力

#### 【授業のテーマ】

本学での学習活動（レポート・資料等の作成）をはじめ、社会生活をする上で欠かすことのできない情報リテラシーを学びます。情報リテラシーとは、コンピュータを使ってさまざまな情報を集めたり、それを役立てたりする能力のことです。

本学に用意されている情報機器とソフトウェアの操作を習得し、インターネットを活用する基本的な知識を身につけてもらいます。

#### 【授業における到達目標】

文書作成の基本となるワープロソフト「Word」を習得し、同ソフトの検定に合格できるレベルを目指します。

そうした能力を身につける過程で、課題解決のために主体的に行動する力も身につけてもらおうと思います。

#### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 コンピュータの基本操作（インターネット、情報倫理）
- 第3週 基本的な文書作成を理解する（基本編）
- 第4週 基本的な文書作成を理解する（応用編）
- 第5週 表の作成操作（基本編）
- 第6週 表の作成操作（応用編）
- 第7週 表を活用した文書作成（基本編）
- 第8週 表を活用した文書作成（応用編）
- 第9週 図の挿入と画像処理
- 第10週 図および画像を活用した文書作成（基本編）
- 第11週 図および画像を活用した文書作成（応用編）
- 第12週 総合課題① ポスター作成
- 第13週 総合課題② 学級新聞作成
- 第14週 総合課題③ チラシ作成
- 第15週 まとめ

#### 【事前・事後学修】

- ・事前学修：前回の講義内容をきちんと復習しておくこと。
- ・事後学修：復習を兼ねた宿題を確実に提出すること。
- ・事前・事後学修ともに、それぞれ週1時間以上をあてること。

#### 【テキスト・教材】

- ・開講時に指示します。
- ・指定の USB メモリ
- ・サブテキストとして、「実践女子大学・実践女子大学短期大学部 情報システム利用ガイド」（電子版・pdf ファイル）を参照・利用します。

#### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・総合評価：定期試験の成績50%・平常点（提出課題等）50%
- ・授業内の課題に対して、適宜、フィードバックします。

#### 【参考書】

授業内で指示します。

#### 【注意事項】

- ・授業内容は基本的に同一だが、クラス（担当者）によって、進行度などが異なる場合があります。
- また、授業内容の順序の変更が行われる場合があります。
- 詳細については、各クラスの授業開始時に説明します。
- ・履修者全員の検定合格を目標としますが、受験は任意です。
- ・レベルに応じたクラス分けを行います。
- ・短期大学部標準受講マナーを守ること。

### 情報リテラシー 1 b

—Excelを自分のものにする—

青木 聖子・浅原 房夫・久保 ちづる

1年 後期 1単位

◎：研鑽力 ○：行動力

#### 【授業のテーマ】

「情報リテラシー 1a」での学びを踏まえ、コンピュータ利用技能をさらに充実させるための科目です。ワープロソフトの「Word」とならんで、学びの場でも社会人となっても必要な表計算ソフト「Excel」を活用できるようになることを目指します。

「情報リテラシー 1a」と同じく、学生の習熟度に合わせて2つのクラスを設置しています。基本的に授業内容は変わりませんが、到達目標のレベルを変えています。

#### 【授業における到達目標】

表計算ソフト「Excel」検定に合格できるレベルを目指します。そうした能力を身につける過程で、課題解決のために主体的に行動する力も身につけてもらいます。

#### 【授業の内容】

- 第1週 「情報リテラシー 1 a」の復習、情報化社会に対応したインターネット活用
- 第2週 ワークシートに関する基本操作の導入
- 第3週 作業環境
- 第4週 セルの書式設定、データ編集
- 第5週 数式の理解
- 第6週 関数の理解
- 第7週 グラフの作成と変更
- 第8週 オブジェクトの作成・書式
- 第9週 データベース機能
- 第10週 入出力
- 第11週 プレゼンテーション等、他ソフトへのデータ活用
- 第12週 総合課題① 海外旅行統計
- 第13週 総合課題② 売上集計
- 第14週 総合課題③ 売上状況分析
- 第15週 まとめ

#### 【事前・事後学修】

- ・事前学修：前回の講義内容をきちんと復習しておくこと。
- ・事後学修：復習を兼ねた宿題を確実に提出すること。
- ・事前・事後学修とも、それぞれ週1時間以上をあてること。

#### 【テキスト・教材】

- ・開講時に指示します。
- ・指定の USB メモリ（「情報リテラシー 1a」で購入したもの）
- ・サブテキストとして、「実践女子大学・実践女子大学短期大学部 情報システム利用ガイド」（電子版・pdf ファイル）を参照・利用します。

#### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・総合評価：定期試験の成績50%・平常点（提出課題等）50%
- ・授業内の課題に対して、適宜、フィードバックします。

#### 【参考書】

授業内で指示します。

#### 【注意事項】

- ・授業内容は基本的に同一だが、クラス（担当者）によって、進行度などが異なる場合があります。また、授業内容の順序の変更が行われる場合があります。
- 詳細については、各クラスの授業開始時に説明します。
- ・受講人数制限40名（制限人数を超えた場合、抽選）
- ・履修者全員の検定合格を目標とするが、受験は任意です。
- ・教員によって担当クラス（基礎・応用）が異なるので、時間割表内の表記を確認した上で受講登録をすること。
- ・短期大学部標準受講マナーを守ること。

## 情報リテラシー応用

—情報社会の仕組みを学ぶ—

久保 ちづる

1・2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

パソコンやインターネットの普及が進み、性能や機能は進化を続けています。この急激な変化にともない、パソコンやネットワークを活用する技術（情報技術）はますます必要とされ、技術の向上も求められています。

企業でもコンピュータシステムを導入し、社内業務の効率化や商品の販売、サービスの提供、宣伝活動などのさまざまな業務に情報技術を利用しています。

この授業では、「情報リテラシー入門」で学んだパソコン・ネットワーク等に関する知識をさらに深め、企業で情報技術を活用する際に必要となる知識・技術について学びます。

### 【授業における到達目標】

- ・情報社会における企業活動について学び、経営マネジメントや問題解決の考え方を自身に活かして主体的に行動する「行動力」を身につけます。
- ・グループワークを通して自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進める「協働力」を身につけることができます。
- ・学修の成果として情報検定（J検）「情報活用試験2級」合格を目指し、目標達成のための「研鑽力」を修得することができます。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス、データと情報
- 第2週 コンピュータにおける情報表現とデータ構造
- 第3週 問題解決処理手順
- 第4週 情報の収集と発信
- 第5週 コンピュータの種類と動作原理
- 第6週 パソコン関連機器とインタフェース
- 第7週 インターネットの利用
- 第8週 問題演習1
- 第9週 企業活動、企業法務
- 第10週 経営マネジメント、システム戦略
- 第11週 プロジェクトマネジメント
- 第12週 アプリケーションソフトの利用と活用
- 第13週 問題演習2
- 第14週 問題演習3
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：テキストの該当ページを予習し、小テストに備えて用語を覚える（学修時間 週2時間程度）

事後学修：授業で指示した関連問題を解く（学修時間 週2時間程度）

### 【テキスト・教材】

『改訂2版 J検情報活用1級・2級完全対策公式テキスト』（日本能率協会マネジメントセンター）2,160円（税込み）

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験：50% 採点結果をmanabaから公開し次の授業で解説する小テスト（カテゴリごとに10回実施）：40% manabaで自動採点した結果をテスト終了後に公開する

授業取り組み態度：10%

### 【注意事項】

情報処理用語は、毎回少しずつ覚えていきましょう。

授業内容は学生の理解度によって多少変更する場合があります。



## 情報リテラシー応用 a

ポストカードの制作を通して学ぶ「情報の編集技術」

光武 智子

1年～ 前期・後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

参考になる資料の紹介は随時行います。

### 【注意事項】

課題制作のためには積極的な姿勢が必要です。

授業時間だけでなく、日常的に制作テーマに関心をもって過ごすよう心がけて下さい。

※募集人数は40名です。

### 【授業のテーマ】

本講義では、「デジタル画像の編集技術」をテーマに学習します。実習には、世界標準の画像加工ソフトのAdobe社のPhotoshopを使用します。このソフトによる「画像編集」スキルの習得は、「資料やレポート作成」、「趣味や学習」、「企業の広報部門や雑誌編集などメディアの仕事」に役立ちます。

制作課題1では、身近な「ポストカード」を制作します。印刷用原稿の制作には、同じAdobe社のIllustratorを使用します。制作課題2では「ブックカバー」を制作します。こちらは、A4サイズの文庫本用のオリジナルブックカバーをデザインし、質感のある用紙に印刷することでアナログのもつ温かみも実感することができます。なお、ここで扱う視覚情報の編集には、カラーユニバーサルデザインの知識として「誰にでも読みやすい背景と文字の色の組み合わせ」について学びます。これは、例えば企業の広報担当には必須のスキルです。また、ファイルの名前の付け方、フォルダを活用したデータの整理や管理も重要です。これらのディレクトリ（フォルダ）管理の基本もデザイン制作と共に学びます。

### 【授業における到達目標】

1. Illustratorのベクター画像、Photoshopのラスター画像の2種類のデジタル画像の特徴と違いを理解し、アイデアを作品にするまでの一連のデザインプロセスを理解します。
2. 視覚情報の編集に際し、誰にでも読みやすい背景と文字の色の組み合わせ等カラーユニバーサルデザインの知識も身に付けます。
3. デザイン制作と共に、データ形式、ファイル名の付け方、これらのディレクトリ（フォルダ）管理の基本も学びます。

以上の学びを通して「美の探求」と「行動力」を養います。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 Photoshopのしくみ
- 第3週 正確な選択範囲
- 第4週 画像の合成 その1 合成する2つの画像を選ぶ
- 第5週 画像の合成 その2 画像サイズの調整—Pixel数を揃える
- 第6週 画像の選択と合成
- 第7週 色調を変える
- 第8週 「ポストカードの制作」 1：Illustratorに画像を配置する
- 第9週 「ポストカードの制作」 2：印刷用原稿に保存する
- 第10週 カラーユニバーサルデザインについて
- 第11週 「ポストカードの制作」 3：印刷と裁断
- 第12週 デジタル画像の基礎：写真の処理と合成
- 第13週 「ブックカバーの制作」 1：アイデアと写真・図形の処理
- 第14週 「ブックカバーの制作」 2：編集レイアウト
- 第15週 「ブックカバーの制作」 3：印刷（完成とレポート）

### 【事前・事後学修】

事前学修：「ポストカード」課題では写真を使います。

画像合成用のデータとして、インターネットで著作権フリーの画像を検索し、画素数を確認する等、必要な情報収集に慣れておいてください。（学修時間 週2時間）

事後学修：前の週で学んだデジタル画像の加工操作を復習しておいてください。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

資料が必要な場合は、授業毎に配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（課題制作への積極的な姿勢）40%、各課題の提出物40%、提出レポート20%を配分基準として成績評価します。

フィードバックについては、授業内で事例を提示しながら適宜行います。

### 【参考書】

## 情報リテラシー応用 a

PhotoshopとIllustratorによる画像制作

盛川 浩志

1年～ 前期・後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

画像の加工処理用ソフトウェアであるPhotoshopとIllustratorを用い、コンピュータにおける画像作成の技術や理論を学修します。アプリケーションの操作方法を習得するだけでなく、コンピュータでの画像データの扱いや、その特性についても学修していきます。

PhotoshopやIllustratorは、コンピュータグラフィックスを扱うソフトウェアとして事実上の標準となっているため、これらのソフトウェアの使用法の体得は自身のキャリアデザインにも寄与します。

また、実習形式で課題を行うことで、効果的なレイアウトデザインのスキルを身につけることも目指します。具体的なテーマとして雑誌記事を模したレイアウトの作成など身近な題材を設定し、画像素材の収集と加工、レイアウトなどを行います。世の中に出回っている出版物や映像コンテンツを観察し、参考にすることで、情報デザインの重要性についての視点を養えることを期待します。

さらに、ユニバーサルデザインや認知心理学の話題にも触れ、単なるアプリケーションソフトの使用法の学修ではなく、これからの社会に役立つ知識として体得することを目指します。

### 【授業における到達目標】

情報を伝達するメディアに対して、制作者としての視点を得ることにより、情報デザインに対する洞察力や、自身で制作を行う行動力を身につけます。

### 【授業の内容】

- 第1週 コンピュータにおける画像の編集
- 第2週 Photoshopの基本操作1（ピクセルとカラー）
- 第3週 Photoshopの基本操作2（選択範囲とレイヤー）
- 第4週 Photoshopの基本操作3（レイヤーによる調整とマスク）
- 第5週 Photoshopの基本操作4（テキストとシェイプ）
- 第6週 課題発表1
- 第7週 情報デザインの理論と実践
- 第8週 Illustratorの基本操作1（テキストの要素）
- 第9週 Illustratorの基本操作2（オブジェクトの配置と整列）
- 第10週 Illustratorの基本操作3（レイアウトの実践）
- 第11週 レイアウトデザイン1（事例収集）
- 第12週 レイアウトデザイン2（素材の配置）
- 第13週 レイアウトデザイン3（理論の実践）
- 第14週 課題発表2
- 第15週 まとめと講評

### 【事前・事後学修】

事前学修（週2時間相当）： 素材の収集、発表課題の作成

事後学修（週2時間相当）： 関連資料の調査

### 【テキスト・教材】

適宜、学習支援システムを用いて、資料や実習素材を配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

制作課題の発表（2回） 80%

レポート 20%

授業内で課題を発表し、ディスカッションも含めたフィードバックを行います。

### 【参考書】

授業内で適宜紹介します。

### 【注意事項】

実習が基本となるため、欠席すると内容についていけなくなる恐れがあります。また、特定のソフトウェアを使用するため、自宅での自習は困難な可能性もあります。毎回の出席を意識してください。

※募集人数は40名です。

## 情報リテラシー応用 b

Web技術の理解と実践

菅原 淳史

2年～ 前期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

ブロードバンドのインターネット接続が情報インフラとして当たり前となり、ブログやSNSの発展によって誰もが手軽にインターネットを利用した情報発信が可能となっています。また、ショッピングやバンキングサービスなどの他、様々なWebサービスの恩恵に、我々は日々預かっています。

こうしたWebサービスを実現している技術について学ぶとともに実際にWebサイトを構築する実習を通して学んでいきます。また、Webサイトを構築・運営するに当たって必要となる事項についても学んでいきます。

### 【授業における到達目標】

上記授業テーマに鑑み本授業では、Web技術を正しく理解して活用し、既存のサービスの枠に囚われない自由度の高い情報発信手法やオリジナリティに富んだサービス構築の礎となるスキルを身につけることを目標とします。さらに、各種情報技術関連資格の取得を目指すきっかけともなってもらいと思います。

学生が修得すべき「行動力」のうち、問題解決につなげる力を修得します。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 Webに関する基礎知識1（インターネットの基礎技術）
- 第3週 Webに関する基礎知識2（ブラウザ）
- 第4週 HTMLの概要
- 第5週 CSSの概要
- 第6週 javascriptの概要
- 第7週 動的ページの生成
- 第8週 Webに関する基礎知識3（セキュリティ）
- 第9週 Webに関する基礎知識4（著作権と肖像権）
- 第10週 Webサイトの構築1（基本構想と仕様検討）
- 第11週 Webサイトの構築2（Web素材の利用）
- 第12週 Webサイトの構築3（コーディング）
- 第13週 Webサイトの構築4（デバッグ）
- 第14週 課題プレゼンと相互評価
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】 毎回のテーマに対応する資料に目を通し、練習試行等に取り組んでいただきます。（学修時間 週1時間）

【事後学修】 課題、小テスト、練習課題に取り組んでいただきます。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

必要に応じて指示、あるいはプリントを配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

教場における小課題：30%、課題レポート：50%、授業態度（質問へのコメントおよび実習取り組み姿勢）：20%で評価します。後日授業およびe-learningシステムにてフィードバックします。

### 【参考書】

授業において紹介します。

### 【注意事項】

一般的なインターネットの利用ができることが前提です。そして学内システムの利用が出来ることも前提です。特に共有フォルダは実習で使用しますので、その使い方を理解しておいてください。

また、履修者数によりですが、Webサイト構築の課題はグループワークとして実施する予定です。グループ間のコミュニケーションを密にして積極的に作業に参加するようにしてください。

※募集人数は40名です。

## 情報リテラシー応用 b

Webページ作成を通してデジタル情報を扱うスキルを身につけよう

鈴木 裕信

2年～ 前期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

インターネット上のサービスの1つであるWorld Wide Web (WWW)での情報発信を考えていきます。Webページを作る過程を通して、デジタル情報の加工や情報を発信する技術の活用を実践的に身に付けます。自分でどのような情報を発信していくかを立案・企画し、作業スケジュールをたててホームページのデザイン・実装を行っていきます。

### 【授業における到達目標】

インターネット技術やウェブ技術の修得し、情報発信力を身につけます。「行動力」のうち目標を設定して計画を立案・実行できる力を身につけます。

### 【授業の内容】

- 第1週 インターネット、HTML、WWWのメカニズムを学ぶ
- 第2週 インターネットの文化や情報を発信する意味
- 第3週 コンテンツデザインとは何か
- 第4週 効果的な情報発信とは何か
- 第5週 マルチメディアコンテンツ(動画・音声・youtube)
- 第6週 アイコンやイラストの効果
- 第7週 情報のリンクについて
- 第8週 デジタルカメラ実習基礎
- 第9週 デジタルカメラ実習応用
- 第10週 デジタル画像加工(gimpによるフォトタッチ)
- 第11週 動的なコンテンツ(Javascriptの概要と使い方)
- 第12週 スタイル・シート (CSSの仕組みと使い方)
- 第13週 問題点の抽出と修正
- 第14週 作品最終チェック
- 第15週 まとめ

すべての週で講義と平行して実習を行っていきます。

### 【事前・事後学修】

学内サーバで公開している過去の受講生作品を閲覧し(<https://goo.gl/5jX52F>)、どのようなものを作るのか把握してください(10時間)。また過去のテキスト・教材などもすべてアクセスできますので学習の準備にお使いください(10時間)。デジタル写真の加工には自由なソフトウェアgimpを利用するので情報ラウンジにあるパソコンや自宅でのパソコンで利用し事前に学修しておくことを推奨します(20時間)。デジタル素材の作成なども行います(20時間)パソコンの基本的スキルがあるものとして授業を進めます。

### 【テキスト・教材】

必要なテキスト及び教材は事前にGoogle Drive (実践Gmailアカウントにログイン時のみ許可 [goo.gl/dzmizC](https://goo.gl/dzmizC)) 及びmanabaに用意しています。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題提出・製作への取り組み60%、授業中の発言・積極的な参加40%として評価します。最終提出作品に対する論評を行う形でフィードバックを行います。

### 【参考書】

manaba及びGoogle Driveに用意しています。内容に関しては随時アップデートされます。

### 【注意事項】

技術実習なので欠席が連続するとキャッチアップするのが大変な授業です。その点を理解した上で受講してください。

※募集人数は40名です。

## 情報リテラシー応用 b

笠原 邦子

1年～ 後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

スマートフォンの普及に伴い、より身近なツールとなったインターネット。情報の検索や動画を楽しむ「消費者」から、自ら情報を発信するユーザーが増えています。

この講座では、インターネットの仕組みを理解するとともに、Webページを作成する学習を通して、基本的な技術であるHTMLやCSSの基礎を習得します。

### 【授業における到達目標】

HTMLやCSSを使い、簡単なサイトが作成できるようになることを目指します。

学生が修得すべき【研鑽力】のうち、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり学問を続ける基礎力を養います。また、サイトの作成はグループで行うので、【協働力】のうち、互いに協力して物事を進める力を修得することができます。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 基礎知識1 (インターネット、WWW、HTML等)
- 第3週 HTML概要
- 第4週 画像の編集
- 第5週 HTMLの利用1 (ページの作成)
- 第6週 HTMLの利用2 (サイトの作成)
- 第7週 CSS概要
- 第8週 JavaScript概要
- 第9週 基礎知識2 (セキュリティ、著作権と肖像権)
- 第10週 サイトの構築
- 第11週 サイトの作成1 (ページの作成)
- 第12週 サイトの作成2 (ページの作成続き)
- 第13週 サイトの作成3 (デバッグ)
- 第14週 プレゼンテーションと相互評価
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

学習したことを念頭に置いてインターネットを利用してください。毎回授業内容を復習し、次回の授業に備えてください。また、サイトの作成やプレゼンテーションなどの課題に積極的に取り組んでください。(学修時間 週4時間)

### 【テキスト・教材】

プリントを使用します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

中間レポート：30%、プレゼンテーション：30%、最終成果物：40%で評価します。プレゼンテーション後にフィードバックを行います。

### 【注意事項】

パソコンの基本操作を習得していることを前提に授業を行います。実習なので欠席するとその後の授業が難しくなります。毎回出席するように心がけてください。

※募集人数は40名です。

## 情報リテラシー応用 b

土屋 陽介

1年～ 後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

「スマホ」や「SNS」の普及によってインターネットの世界は、より身近なモノになりました。みなさんもインターネットを利用して動画を見たり、気になる情報を検索したり、友達とコミュニケーションを取ったりしているかと思います。インターネットは誰かに教えてもらわなくても簡単に利用できてしまう便利な道具です。しかしそれではインターネットをただ消費しているだけに過ぎません。この講義では、インターネットの消費側ではなく、提供側にもなれるようになることを目標とします。そのために、まずはインターネットを流れる情報の収集や編集方法について学習します。そして、無料のホームページ作成サービス「Jimdo」を使って自らの手でホームページを作成していきます。

### 【授業における到達目標】

- ・インターネットを効果的に活用できるようになる
- ・セキュリティや著作権など、安全にインターネットを利用する知識を身につける
- ・インターネットを利用して自ら情報発信ができるようになる

### 【授業の内容】

- 第1週：ガイダンス
- 第2週：インターネットの検索テクニック
- 第3週：Webを活用した情報の収集
- 第4週：インターネットの基礎技術
- 第5週：ホームページの企画
- 第6週：ホームページの構築準備
- 第7週：ページの作成
- 第8週：コンテンツの調整
- 第9週：レイアウトの変更・調整
- 第10週：ブログサイトの作成
- 第11週：SNSとの連携
- 第12週：ホームページの構築
- 第13週：ホームページの更新・運営
- 第14週：プレゼンテーション1
- 第15週：プレゼンテーション2（続き）

### 【事前・事後学修】

日頃のインターネット利用自体が学習の場となります。講義開始後は、講義で学んだことを意識しながら**毎日最低1時間**はインターネットを利用するようにしてください。それが本講義の予習となり復習ともなります。毎日インターネットに触れることが重要です。

### 【テキスト・教材】

特になし。 適宜、資料や参考URLを提示します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

中間課題（30%）  
 プレゼンテーション（30%）  
 最終成果物（ホームページ）（40%）  
 なお、最終成果物は「ホームページの内容」「ホームページの完成度」「見やすさ、デザイン性」の3項目で評価します。  
 また、中間レポートとプレゼンテーションにおいて成果物へのフィードバックを行います。

### 【参考書】

赤間公太郎(著)、株式会社KDDIウェブコミュニケーションズ(監修)「10日で作るかわいーいホームページ Jimdo(ジンドゥー)デザインブック」エムディエヌコーポレーション  
 その他、インターネット業界では日々新しい書籍が発表されていますので、授業内でその時に合った参考書を紹介します。

### 【注意事項】

- ・情報リテラシー基礎aの知識が前提となります。
- ・募集人数は40名です。

## 情報リテラシー応用 c

データベースの理解と実践

菅原 淳史

1年～ 後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

Face book、Twitter等のSNSをはじめとしてインターネット上には様々な便利なサービスが展開されており、我々の生活において必要不可欠なものとなっています。こうしたサービスの背後では実は必ずと言っていいほどデータベースが稼働しており、これらのサービスを土台として支えている場合がほとんどです。また、インターネット上のサービスに限らず、我々の日々の生活や企業活動で利用されるシステムにおいてもデータベースが直接的間接的に稼働しているものは多く、データベース技術について学ぶことは重要です。

本授業では、座学によるデータベースの概要理解とデータベースの基本的な操作実習を通して学んでいきます。実習環境には、MS-Accessを用います。AccessはGUI環境でデータベースを扱える便利なソフトですが、実はその裏側でデータベースを操作するためのSQLが動いており、本講ではそのSQLを直接操作する形でのSQL言語実習を行います。GUI操作とSQL操作の結果を比較することも可能なので、理解の助けになると思われます。

### 【授業における到達目標】

データベースを自ら構築できるだけの基本的な技術を身につけることを目的とします。さらに、各種情報技術関連資格の取得を目指すきっかけともなってほしいと思います。学生が修得すべき「行動力」のうち、問題解決につなげる力を修得します。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 データベースの基礎知識1（データベースとは？）
- 第3週 データベースの基礎知識2（データベースの仕組み）
- 第4週 データベースの基礎知識3（データベースの設計）
- 第5週 データベースの操作1（テーブルの設計と構築）
- 第6週 データベースの操作2（データ入出力と編集）
- 第7週 データベースの操作3（複数テーブルの利用）
- 第8週 データベースの操作4（検索と抽出）
- 第9週 データベースの操作5（計算・集計・分析）
- 第10週 データベースの構築1（基本構想と仕様検討）
- 第11週 データベースの構築2（テーブルと入出力系の作成）
- 第12週 データベースの構築3（ビューの作成）
- 第13週 データベースの構築4（動作確認と修正）
- 第14週 課題プレゼンと相互評価
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】 毎回のテーマに対応する資料に目を通し、練習試行等に取り組んでいただきます。（学修時間 週1時間）

【事後学修】 課題、小テスト、練習課題に取り組んでいただきます。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

必要に応じて指示、あるいはプリントを配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

教場における小課題：30%、課題レポート：50%、授業態度（質問へのコメントおよび実習取り組み姿勢）：20%で評価します。後日授業およびe-learningシステムにてフィードバックします。

### 【参考書】

授業において紹介します。

### 【注意事項】

情報リテラシー基礎aの修得を基本として、学内システムの利用が出来ることが前提です。特に共有フォルダは実習で使用しますので、その使い方を理解しておいてください。データベースについての予備知識は不要です。また、履修者数により異なりますが、データベース構築の課題はグループワークとして実施する予定です。グループ間のコミュニケーションを密にして積極的に作業に参加するようにしてください。※募集人数は40名です。

## 情報リテラシー応用 c

データベースシステムへの理解

佐藤 健

2年～ 前期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

データベース技術は、情報化社会においてさまざまな情報の統合利用を実現するうえでの重要な基盤技術の一つです。データベースシステムがないと情報システムが成立しないとも言えます。本授業は、データベースの基本理論・設計方法を理解することを目標とします。具体的には、1. データベースの概念、世界のデータをコンピュータの中に取り扱うためのデータモデル。2. データベースを一元に管理・操作しやすくするためのデータベース管理システムの機能。3. DataBase Management System が使用するデータベース言語のひとつである SQL 言語について学習します。実際のPC環境では、マイクロソフト社のアクセスを用います。将来的に、データベース関係の資格取得などに興味を持ってもらうことを期待しています。

### 【授業における到達目標】

データベースの仕組みや成り立ちを学修し、広い視野と深い洞察力を身につけ、知識やスキルを「研鑽力(○)」を身につけることを目標としています。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 データベースの概念
- 第3週 データベースの様々なビジネスモデル (マスター系)
- 第4週 データベースの様々なビジネスモデル (在庫管理)
- 第5週 データベースの様々なビジネスモデル (生産管理)
- 第6週 データベースの関係スキーマ
- 第7週 関係スキーマの正規化
- 第8週 SQL概要
- 第9週 SQL CREATE
- 第10週 SQL SELECT
- 第11週 SQL INSERT DELETE
- 第12週 用語の解説 (論理データモデル)
- 第13週 用語の解説 (トランザクション管理機能)
- 第14週 用語の解説 (分散データベース)
- 第15週 自作データベースの発表

### 【事前・事後学修】

manabaで事前に授業内容を確認し、授業時に質問できる準備をしておくこと。授業開始時に用語に関する小テストを実施するため、事前にデータベースに関する用語の学修をおよそ30時間しておく。また、各授業週ごとに、学習の理解を確認する課題を提出するため、事後学修として、積極的に操作を30時間程度行う必要がある。事前・事後と期末レポート等の学修時間は、約60時間程度となる。

### 【テキスト・教材】

教場で配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 出席時の小テスト 2点×15回 30%
- 各授業週ごとの課題提出 3点×15回 45%
- 期末試験 (データベースファイル作成) 25点×1回 25%
- 随時データ・レポート等のフィードバックを行う。

### 【参考書】

教場で指示する

### 【注意事項】

就職活動等で、欠席をする場合には、所定の書類を提出すること。  
※募集人数は40名です。

## 情報リテラシー応用 c

データベース演習

池田 徳正

1年～ 後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

TwitterやLINEで記事を投稿／閲覧するとき、Web上でニュースやメールを閲覧するとき、現代では、コンピュータのほとんどの機能が、データベースによって実現されています。データベースを理解することは、コンピュータ・システムを理解するための鍵となるものです。

さらに、今日では、コンピュータシステムを通して蓄積された大量のデータ (いわゆるビッグデータ) を活用することが、企業経営や企画立案に必須の要件となりつつあります。こういった場面でも中心となるのがデータベースです。

この科目では、1. コンピュータ・システムにおけるデータベースの役割を学ぶ。2. Accessのデータベース操作を通して、データベースへのデータの追加、抽出、集計ができるようになり、データベースの仕組みを理解する。3. データベースを使ったデータ分析の基礎を学ぶ。4. データベースの設計の考え方を理解する、ことを目標として授業を行なっていきます。

社会人として最低限の知識とされるWordやExcelと異なり、Accessなどのデータベースを直接使う機会がある人は多くないかもしれませんが、しかし、将来、企業や組織で、経営・企画・分析などに関わる仕事をしたいと思っている人は少なくないはずです。データベースを通してものごとを見られるようになることは、新しいビジネスの発想や分析の手段を手に入れることであり、さまざまな場面で活かせるのではないかと思います。

### 【授業における到達目標】

データベースの仕組みを理解し、その知識をサービスの設計や、データ分析に活かすことができること。

### 【授業の内容】

- 1. コンピュータ・システムとデータベース
- 2. RDMSの考え方
- 3. RDMSのテーブル設計-1
- 4. RDMSのテーブル設計-2
- 5. RDMSのテーブルの結合と集計-1
- 6. RDMSのテーブルの結合と集計-2
- 7. RDMSのデータベースを用いたデータ分析-1
- 8. RDMSのデータベースを用いたデータ分析-2
- 9. Webデータベースの実際-1
- 10. Webデータベースの実際-2
- 11. Webデータベースの実際-3
- 12. Webデータベースの実際-4
- 13. データベースを用いたビジネスの設計-1
- 14. データベースを用いたビジネスの設計-2
- 15. まとめ

### 【事前・事後学修】

開講前の準備学修は特に必要ありません。

毎回の授業課題について十分に復習し、次回までに完成させて次の授業に備えること。(週4時間)

### 【テキスト・教材】

授業内で指示します

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回の授業で課す課題 100%

### 【注意事項】

募集人数は40名です。

情報リテラシー応用 c

ーデータベース入門ー

久保 ちづる

1年～ 後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

パソコンの普及やインターネットの発展を背景に、データベースシステムの利用は進んでいます。企業や組織は必要な情報をデータベース化して経営や運営に活かす一方で、私たちは、それら企業等が提供する様々なデータベースの恩恵を受けて生活が便利になっています。

この授業では、私たちの生活の基盤を担うデータベースシステムに関する基礎知識や技術を学び、最終的に、自らデータベースを構築します。

データベース構築作業を通してデータベースの仕組みを会得しましょう。

【授業における到達目標】

- ・データベースには世界中のデータが集められ、データベースの操作はSQLという言葉（同じシステムであれば世界共通）で行われることから、「国際的視野」で臨む態度が培われます。
- ・Microsoft AccessとSQLを併用して自らデータベースを構築する過程で、計画を立案し、現状を把握しながら実行できる「行動力」を身につけることができます。
- ・成果物の発表および質疑応答を通して、学修成果を実感し自己成長する「研鑽力」を修得することができます。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 データベースの基礎知識（種類と構造・DBMSの役割）  
リレーショナルデータベースの構成・仕組み
- 第3週 リレーショナルデータベースの設計・正規化
- 第4週 リレーショナルデータベースの設計練習
- 第5週 SQL文の演習1（表の作成）
- 第6週 SQL文の演習2（追加・変更・削除）
- 第7週 SQL文の演習3（基本的な抽出）
- 第8週 SQL文の演習4（さまざまな抽出）
- 第9週 Accessの機能を使用した演習1（表の作成・追加）
- 第10週 Accessの機能を使用した演習2（変更・抽出・削除）
- 第11週 データベース構築演習1（分析～設計）
- 第12週 データベース構築演習2（設計～表の作成）
- 第13週 データベース構築演習3（表の検索）
- 第14週 データベース構築演習4（仕上げ・発表）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：manabaで提供する各回の授業ノートを予習する（学修時間 週1時間程度）

事後学修：授業ノートや実習および小テストの復習をする（学修時間 週3時間程度）

【テキスト・教材】

授業ごとに提供します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

演習課題：50% 成果物をグループ内で発表し合いその場でフィードバックする

小テスト（4回：基礎知識・正規化・SQL・総合）：40% manabaで自動採点した結果をテスト終了後に公開しその場で解説する

授業取り組み態度：10%

【参考書】

必要に応じて指示します。

【注意事項】

データベースの構造や機能を確認するためにMicrosoft Accessを使用しますが、このソフトの操作経験は不要です。

授業内容は学生の理解度によって多少変更する場合があります。

※募集人数は40名です。

情報リテラシー応用 c

土屋 陽介

2年～ 前期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

データベースは、大量の情報（データ）を蓄積・管理し、その中から目的のデータを簡単に検索・分析できるしくみです。現在の社会では、あらゆるところにデータベースが活用されており、私たちが意識しなくとも日常的にデータベースを利用しているはずです。

身近なところでは、インターネットの検索システムや、ネットショップなどでの商品購入システムがあげられます。他にも大量のデータを扱う場面ではほぼデータベースが活用されています。

この授業では、データベースの仕組みから、データベースの基本的な操作、さらにはデータベースを活用したシステムの構築までを学んでいきます。

【授業における到達目標】

- ・データベースの仕組みを理解できる
- ・データベースの基本的な操作ができるようになる
- ・リレーショナルデータベースが構築できるようになる
- ・データベースを活用したシステムが構築できるようになる

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 データベースの基礎、仕組み
- 第3週 データベースの作成
- 第4週 データの入力
- 第5週 クエリでデータを検索（基本的な検索）
- 第6週 クエリでデータを検索（複数条件の検索）
- 第7週 クエリでデータを検索（関数を利用した検索）
- 第8週 リレーショナルデータベース（作成）
- 第9週 リレーショナルデータベース（データ入力）
- 第10週 リレーショナルデータベース（検索）
- 第11週 フォームの作成
- 第12週 レポートの作成
- 第13週 データベースの設計
- 第14週 データベース構築演習
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

毎回の授業内容をよく復習し、次回に備えること。

【テキスト・教材】

特になし。必要資料は授業中に配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中の課題・演習成果 60%

最終試験 40%

【参考書】

立山秀利 著、「今日から使える Accessデータベース 2013/2010/2007対応」、ソシム（2014年）

立山秀利 著、「Accessのデータベースのツボとコツがゼッタイにわかる本—2013/2010対応 最初からそう教えてくれればいいのに!」、秀和システム（2014年）

小野哲 著、「データベースがわかる本（なるほどナットク!）」、オーム社（2004年）

【注意事項】

この授業ではMicrosoftのAccessというデータベース管理ソフトを使います。

募集人数は40名です。

## 情報リテラシー基礎 a

情報化社会における基礎力修得

### 担当教員全員

1年 前期 1単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

#### 【授業のテーマ】

本学での学習活動（レポート・資料等の作成）をはじめ、情報化社会で生活する上で欠かすことのできない情報リテラシーを学びます。情報リテラシーとは、コンピュータを使ってさまざまな情報を集めたり、それを役立てたりする能力のことです。また、日常生活におけるインターネットのセキュリティ・プライバシー、ソーシャルメディアの諸問題を把握することで、情報化社会の倫理を養います。

#### 【授業における到達目標】

本学におけるメールシステム、情報検索システムなど情報環境を理解し、学内・学外を問わずコンピュータ、インターネットを活用できることを目指します。そして、レポート作成においてWord、Excelなどのソフトを活用するために必要な基本スキルを身につけることを目標にします。

それらは、学生として修得すべき【研鑽力】のうち、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり学問を続ける基礎力を養います。また、現状を正しく把握し、課題を発見できる【行動力】の基礎となります。

#### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス（大学の情報環境について）
- 第2週 電子メールの活用、学習管理システムmanaba、responの活用
- 第3週 インターネットによる情報検索（図書館などデータベース活用）
- 第4週 インターネットのセキュリティ・プライバシー、ソーシャルメディアにおける倫理
- 第5週 Wordの活用1（基本、画像の挿入、印刷など）
- 第6週 Wordの活用2（書式的应用、オブジェクトなど）
- 第7週 Wordの活用3（表の作成、編集）
- 第8週 Excelの活用1（表の基本）
- 第9週 Excelの活用2（計算式、関数）
- 第10週 Excelの活用3（関数、グラフ）
- 第11週 Excelの活用4（グラフ、データベース）
- 第12週 Excelの活用5（データベース）
- 第13週 総合課題作成1（WordとExcelを使ったレポート基礎・準備）
- 第14週 総合課題作成2（WordとExcelを使ったレポート作成）
- 第15週 まとめ

#### 【事前・事後学修】

【事前学修】それぞれの項目に関する基本的な操作などテキストを参考に学修しておくこと。（週1時間）

【事後学修】授業内で提示された課題を各自、行うこと。（週1時間）

#### 【テキスト・教材】

定平誠『例題35+演習問題65でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint標準テキストWindows10/Office2016対応版』（2016年、技術評論社）1980円＋税  
『情報センター利用の手引』（実践女子大学情報センター）PDF

#### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験の成績（50％）と、参加態度・授業中での課題（50％）で総合的に判断する。

フィードバックは授業前後およびmanabaにて適宜行う。

#### 【注意事項】

担当教員によって授業内容の順序を変更することがある。

## 情報リテラシー基礎 b

### 担当教員全員

1年 後期 1単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

#### 【授業のテーマ】

本学での学習活動（レポート・資料等の作成）をはじめ、情報化社会で生活する上で欠かすことのできない情報リテラシーを学びます。情報リテラシーとは、コンピュータを使ってさまざまな情報を集めたり、それを役立てたりする能力のことです。本講義は、情報リテラシー基礎 a で学んだ内容をスキルアップし、さらPower Pointの修得を目指します。

#### 【授業における到達目標】

本講義は、情報リテラシー基礎 a で学んだ内容をより深く、高度に行えるように実践的な課題をこなすことでその理解とスキルをブラッシュアップすることを目標とします。

さらに、作成した課題をPower Pointでプレゼンテーションすることにより、プレゼンテーション・スキルの修得を目標とします。

それらは、学生として修得すべき【研鑽力】のうち、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり学問を続ける基礎力を養います。また、現状を正しく把握し、課題を発見できる【行動力】の基礎となります。

#### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 Power Point（スライドの作成、アニメーション）
- 第3週 Power Point（プレゼンテーションの基礎）
- 第4週 プレゼンテーション1（簡易プレゼンテーションと評価：グループ1）
- 第5週 プレゼンテーション2（簡易プレゼンテーションと評価：グループ2）
- 第6週 インターネットによる情報検索（各種データベースの活用）
- 第7週 Excelの応用1（データの整形、前期の復習）
- 第8週 Excelの応用2（関数を用いたデータの整理・分析）
- 第9週 Excelの応用3（グラフによるデータの表現）
- 第10週 Excelの応用4（データベースによるデータの整理）
- 第11週 Wordの応用1（詳細な書式設定）
- 第12週 Wordの応用2（文書のフォーム整形）
- 第13週 プレゼンテーション3（研究プレゼンテーションと評価：グループ1）
- 第14週 プレゼンテーション4（研究プレゼンテーションと評価：グループ2）
- 第15週 プレゼンテーション5（研究プレゼンテーションと評価：グループ3）

#### 【事前・事後学修】

【事前学修】それぞれの項目に関する基本的な操作などテキストを参考に学修しておくこと。（週1時間）

【事後学修】授業内で提示された課題を各自、行うこと。（週1時間）

#### 【テキスト・教材】

定平誠『例題35+演習問題65でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint標準テキストWindows10/Office2016対応版』（2016年、技術評論社）1980円＋税

#### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験の成績（50％）と、参加態度・授業中での課題（50％）で総合的に判断する。

フィードバックは授業前後およびmanabaにて適宜行う。

#### 【注意事項】

担当教員によって授業内容の順序を変更することがある。

※募集人数は40名です。

## 情報リテラシー実践 a

商品、サービスの開発と情報

堀越 敏晴

1年～ 後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

企業はじめ事業体での商品やサービスの開発にあたっては情報の収集やその分析が重要です。商品やサービスの企画、開発におけるプロセスを例にして、課題の発見、その解決策を得るための情報の認識。得るべき情報を収集するためのリサーチ設計、実査、分析、報告というリサーチの基本と、その結果を発信する手法を学び、実務や暮らしに役立てるための演習を行います。

### 【授業における到達目標】

- ①課題（問題）に気づく（発見する）。
- ②解決するための情報ニーズを認識する。
- ③情報を探索するプロセスを作る。【知の探究】
- ④情報にもとづいて新たな理解を生み出す。【研鑽力】
- ⑤情報を発信する。【行動力】

以上の能力を養成します。

### 【授業の内容】

- 第1週 情報リテラシーとその背景  
 第2週 情報の性質・・・情報が持つ特性と注意点  
 第3週 情報の管理・・・権利、個人情報と取扱い  
 第4週 情報の価値・・・商品やサービスの開発と情報  
 第5週 情報の収集-1・・・必要な情報ニーズの把握  
 第6週 情報の収集-2・・・リサーチの目的と種類  
 第7週 リサーチ演習-1・・・気づき、課題の発見  
 課題-1 情報の性質（レポートまたは小テスト）  
 第8週 アンケートの基本  
 課題-2 気付きとテーマ設定  
 第9週 リサーチ演習-2・・・アンケート質問票の設計  
 課題-3 質問票の作成  
 第10週 リサーチ演習-3・・・集計-1  
 第11週 リサーチ演習-4・・・集計-2  
 第12週 リサーチ演習-5・・・分析の基本  
 課題-4 分析の要約  
 第13週 リサーチ演習-6・・・ビジュアル化と報告書  
 課題-5 報告と提案  
 第14週 リサーチ演習-7・・・報告と提案  
 （プレゼンテーション）  
 第15週 講評とまとめ

### 【事前・事後学修】

1. 事前学修：出されたテーマの情報収集（学修時間 週2時間）
2. 事後学修：授業内容の復習と集計や提案作成など次週までの作業（学修時間：週2時間）

### 【テキスト・教材】

- ・テーマ毎にレジュメを配布
- ・ノート、筆記具、フラッシュメモリー（USB）を準備のこと

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 中間レポートまたは小テスト：30点  
 リサーチ報告書、提案：50点  
 課題提出状況、興味、意欲：20点

### 【参考書】

特になし

### 【注意事項】

受講人数は40名以内。  
 テーマについての考察レポート、情報収集、リサーチ結果の集計、分析などの事前学習があります。

## 情報リテラシー実践 a

エクセルを用いたデータ解析の実習

金子 徹治

1年～ 後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

化学実験・生物実験・質問紙調査など、どの研究においても得られたデータの統計処理はととても大切です。比較したいグループ間に有意差があるかどうかは「検定」という手法で判定します。また、病気の診断や治療効果の評価を行う際には、各種検査データを含む様々な要因を解析する必要があり、「多変量解析」という手法が使われます。

本科目では、エクセルによる基本的なデータの取り扱い方から始めて、統計ソフト「エクセル統計」を用いた様々なデータ分析手法を修得します。教材にはできるだけ身近な実例を使って、理解しやすい授業を工夫しています。

### 【授業における到達目標】

卒論のデータ処理、社会に出てから遭遇する様々な場面で役立つデータの取り扱い方や分析手法の習得を目指します。基本的な分析手法を一通り体験することは、国内外の学術研究の論文・学会報告を読み解く力、国際的視野・知的探究心に繋がります。また、データ分析を実践すること、相談・協力して各回の課題を達成することで、研鑽力・行動力・協働力を育成します。

### 【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション  
 第2回 エクセルの使い方（1）-セル参照、関数、IF文-  
 第3回 エクセルの使い方（2）-ピボットテーブル集計-  
 第4回 基本統計量の計算（データ尺度、分布、統計量の理解）  
 第5回 平均の差の検定（t検定）  
 第6回 その他の検定手法（カイ二乗検定、傾向検定）  
 第7回 相関と単回帰分析  
 第8回 多変量解析とは何ができるのか  
 第9回 多変量解析（重回帰分析）  
 第10回 多変量解析（ロジスティック回帰分析）  
 第11回 多変量解析（生存分析）  
 第12回 結果の図形表示（エクセルの図形処理）  
 第13回 多変量解析（因子分析、クラスター分析）  
 第14回 まとめ（その他の市販の統計ソフト）  
 第15回 課題の実施

### 【事前・事後学修】

- 事前学修：前回の「データの一覧表」を一通り見て、どんなことが分かりそうか精一杯想像して書き留めておきましょう。（週2時間程度）今後の新しい分析手法の習得がスムーズになります。
- 事後学修：授業で使用した分析手法をいつでも使用できるように繰り返し復習しましょう。（週2時間程度）授業で使用したデータと異なるデータでも分析できるようになることが大切です。疑問に思ったことは次回の授業で確認しましょう。

### 【テキスト・教材】

manabaコースのレポート機能を用いて、PDFやエクセルファイル等を配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 授業中の課題の達成度：70%  
 平常点：30%（技能習得の積極性、反復練習の実施状況）  
 課題の達成度に応じて復習する内容を次回以降の授業に加えます。

### 【注意事項】

数学の知識は必要としませんが、理系の実験データなども教材として使用します。Excelの基本事項をすでに習得し、ステップアップとして統計を学びたい人にむいています。※募集人数は40名です。



## 情報リテラシー実践 a

—情報スキルの社会的応用—

粟津 俊二・竹内 光悦

1年～ 後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

情報リテラシー基礎、情報リテラシー応用などで涵養した文書作成（Wordなど）、データ処理（Excelなど）、プレゼンテーション（Power Pointなど）について操作スキルあるいは大学での調査・研究に加え、社会・企業などでも活用できるような実践的なものとして習得することが目標となる。またそれを客観的に示すためのMOSなど資格試験も積極的に活用する。

### 【授業における到達目標】

- ・これまで学んできた情報リテラシーのスキルを基礎に、学習計画をデザインし、実施に移すことができる【研鑽力】【行動力】
- ・国際的に利用されているソフトウェアを学修対象とすることで、グローバルスタンダードの情報スキルを身に着けることができる【国際的視野】

### 【授業の内容】

1. ガイダンス
2. ビジネスにおける文書作成基礎
3. ビジネスにおける文書作成応用
4. ビジネスにおけるデータ処理基礎
5. ビジネスにおけるデータ処理応用
6. ビジネスにおけるプレゼンテーション基礎
7. ビジネスにおけるプレゼンテーション応用
8. 中間習熟度確認文書作成
9. 中間習熟度確認データ処理
10. 中間習熟度確認プレゼンテーション
11. 中間習熟度確認フィードバック
12. 最終習熟度確認文書作成
13. 最終習熟度確認データ処理
14. 最終習熟度確認プレゼンテーション
15. 最終習熟度フィードバック

### 【事前・事後学修】

【事前学修】参考テキストで授業の該当箇所の予習と課題、前週に立てた学習計画の進行確認（2時間）

【事後学修】参考テキストで授業該当箇所の復習と次週までの学習計画（2時間）

### 【テキスト・教材】

ガイダンスで指示する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- (1) 提出課題（50%）
- (2) 最終習熟度確認（50%）

(1) について、1ヶ月に1度を目安にmanaba上でフィードバックを行う。

### 【注意事項】

manabaをはじめとしてオンラインにおける教材なども活用することで、授業時間・教室などを柔軟に編成した反転授業形式を積極的に進める。

また学修計画を立てる、実施する、見直すというPDCAサイクルを自分で回すことを意識した学修を期待する。

※募集人数は 80 名です。

## 情報リテラシー実践 b

プレゼンテーション技術の習得

金井 宏水

1年～ 後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

研究内容や作品を多くの人にわかり易く説明するためのプレゼンテーション能力は、デザインの分野では特に重要です。文字は最小限にして、視覚化された情報、画像や動画などのイメージを主体とした効果的なプレゼンテーションを行うには、画像処理や2D、3D・CAD、動画なども含めたアプリケーションの活用が有効になります。

この授業は、パワーポイント、フォトショップ、イラストレーター、スケッチアップ等のアプリケーションを体験し、プレゼンテーション能力を高めます。

### 【授業における到達目標】

この授業では、パワーポイント、フォトショップ、イラストレーター、スケッチアップ等のアプリケーションを基礎から教え、美しく、効果的なプレゼンテーションを創ることができるようになることを目標とします。

ディプロマ・ポリシー（DP）においては、「美の探究」の中の「新たな知を創造しようとする態度」、「研鑽力」の中の「学修成果を実感して、自信を創出することができる」能力を養成することを目指します。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス・プレゼンテーションとは  
動くカードを創ってみる
- 第2週：フォトショップの基本操作  
(1) 写真の各種補正  
(2) フィルタなどを体験  
(3) スキャンイラストへの色刺し
- 第3週：フォトショップの応用操作  
(1) 写真を合成する（切り抜き・合成）  
(2) マスク・さまざまな効果
- 第4週：フォトショップで創作課題
- 第5週：課題の完成と発表、評価
- 第6週：イラストレーターの基本操作-1  
(1) 曲線や図形を描く・着色  
(2) さまざまな変形加工など
- 第7週：イラストレーターの応用操作  
(1) CAD機能で正確な作図  
(2) 包装紙をデザインする
- 第8週：イラストレーターで創作課題
- 第9週：課題の完成と評価
- 第10週：3次元CADの体験 SketchUpの基本操作・家を描く
- 第11週：SketchUpでインテリアを描く
- 第12週：自由課題：SketchUpで住まいを創作する
- 第13週：課題の完成と評価・最終課題（パワーポイント）の説明
- 第14週：パワーポイントでまとめプレゼン制作
- 第15週：発表・評価

### 【事前・事後学修】

事前学修：毎回のように創作課題が出されるので、次の時間までにテーマ内容を理解し、構想を練っておくこと。（週約2時間）  
事後学修：よく理解でなかった部分は質問し、よく復習しておく。  
学内や自宅のPCを使ってソフトの操作練習、および課題制作が提出期限に間に合わない場合は、時間外を活用して期限に間に合わせる。（週最低2時間）

### 【テキスト・教材】

テキストは無し。

教材は必要に応じて配布。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題評価・発表効果 60%

平常点（取り組み姿勢・スキルアップ度）40%  
フィードバックは発表時の口頭評価と作品評価点

#### 【参考書】

やさしく学ぶGoogle Sketch Up  
これからはじめるPhotoshopの本

#### 【注意事項】

4種類のアプリケーションを勉強するが、休むと次の授業以降に影響するので、なるべく休まないこと。特に基本操作の週は重要。  
※募集人数は40名です。

### 情報リテラシー実践b

パワーポイント実践

塚田 美香子

1年～ 後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

#### 【授業のテーマ】

パワーポイントは、プレゼンテーションだけでなく、画像を活用する様々な場面においても、手軽に使える便利なソフトである。この授業では、その特性を生かし、まず、画像処理と調整の基本を学んだ上で、画像をパワーポイント上で活用する課題に取り組む。

具体的には、美術館や博物館でこれまでに開催された展覧会の展示作品を紹介するスライドショーの作成、展覧会ポスターや紹介文等の制作を行う予定である。それを通じて、画像の扱いや調整方法、よい資料を作るためのレイアウトのルールを身に付けて、画像をパワーポイント上で用いて、実際の様々な場面で活用することを学んでいく。

#### 【授業における到達目標】

芸術を通して新たな価値を見出し感受性を深め、知を創造し、パワーポイントの操作技能を高める。

#### 【授業の内容】

- 第1週 パワーポイントに関する基礎知識とオリエンテーション
- 第2週 画像処理の基本1 画像利用と著作権、画像解像度
- 第3週 画像処理の基本2 画像作成、加工
- 第4週 展示品紹介スライドショーの作成1 企画と概要
- 第5週 展示品紹介スライドショーの作成2 画像と解説の構成
- 第6週 展示品紹介スライドショーの作成3 効果、発表手順
- 第7週 スライドショーの合評会
- 第8週 展覧会ポスターの作成1 企画と概要
- 第9週 展覧会ポスターの作成2 内容と構成、調整、印刷
- 第10週 ポスターの合評会
- 第11週 展覧会紹介チラシ・配布物の作成1 企画と概要
- 第12週 展覧会紹介チラシ・配布物の作成2 内容とデザイン
- 第13週 展覧会紹介チラシ・配布物の作成3 レイアウト、印刷
- 第14週 展覧会紹介チラシ・配布物の合評会
- 第15週 まとめ

#### 【事前・事後学修】

事前に課題の展覧会図録を読む。前回の授業の内容や課題を各自、家や情報ラウンジのパソコンで週2時間程度復習すること。課題提出迄に週2時間程度かけて製作をおこなうこと。

#### 【テキスト・教材】

授業中に適宜指示する。課題の展覧会図録は図書館の「指定図書コーナー」にある。

#### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

完成品の評価 70% 授業や作業への積極的取り組み等の平常点 20% 小テスト 10% 課題等は授業の最終回で講評する。

#### 【注意事項】

募集人数は40名です。

## 情報リテラシー実践 c

ネットワーク社会論

伊藤 綾香

1年～ 後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

モバイル社会の進展とともにコミュニケーションが変容している。新たなテクノロジーの進化により学校教育も変化を余儀なくされている。メディア論やリテラシー論を踏まえながら、新たな教育の在り方をワークショップやディスカッション、プレゼンテーションなど実践的な活動を行い、分析していく。

### 【授業における到達目標】

情報社会の進展とともに、誰もがメディアに触れる機会がととも増えている時代となってきた中、新たなテクノロジーがどう社会にデザインされ、コンピュータが使われているかを理解することができるようになることが到達目標である。この到達目標を授業で実践する手段としては、グループワークで調査やディスカッション、プレゼンテーションなど実践的な活動をする。これらの活動を通して、メディアを理解したり精査したりできる情報リテラシーを高める。

### 【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 デジタルネイティブのリテラシーとは
- 第3回 ネットコミュニケーションの特徴
- 第4回 新しいテクノロジーとコミュニケーション
- 第5回 メディア・リテラシー演習1（学校について）
- 第6回 メディア・リテラシー演習2（海外の学校について）
- 第7回 プレゼンテーション1（学校について）
- 第8回 プレゼンテーション2（海外の学校について）
- 第9回 グループディスカッション
- 第10回 メディアリテラシー教育のプログラミング実践
- 第11回 メディアリテラシー・プロジェクトワーク1（実践）
- 第12回 メディア・リテラシー・プロジェクトワーク2（実践）
- 第13回 グループワーク・ディスカッション
- 第14回 グループワーク発表
- 第15回 まとめと考察

### 【事前・事後学修】

事前学修として、毎時間、教科書の該当ページ、または、予習として提示した参考文献のページを1時間以上読むことを内容とし、また、グループワークやプレゼンテーション、ディスカッションなどへの準備を行うこと、また、事後学修としては、発表を自己評価しレポートを事後学修の内容とする。

### 【テキスト・教材】

『小学校にプログラミングがやってきた!』上松恵理子編著（三省堂 2015年）1200円+税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

グループワークへの参加度・レポート提出からの平常点（30点）  
発表内容（30点）  
試験（40点）

### 【参考書】

『大学生のための メディアリテラシー・トレーニング』長谷川一・村田麻里子著（三省堂 2015年）2100円

### 【注意事項】

テキスト教材を使って授業を行うので必ず準備すること。  
※募集人数は80名です。

## 情報リテラシー実践 c

情報技術全体の各要素技術について入門的な解説を行う。

藤井 章博

1年～ 後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

現代社会で生活するためには、情報機器の利活用が不可欠である。情報リテラシーを構成する要素は、情報や情報処理の概念や原理の理解にはじまり、情報機器やソフトウェアを使用する技能の習得にまで及ぶ。本講義では、情報リテラシーの全体像を俯瞰しつつWebシステムの利活用と中心的なテーマとして扱う。

### 【授業における到達目標】

次の3つを目標として設定する。情報技術と産業とのかかわりに関して歴史的な視点で俯瞰できるようになること。簡単なWebアプリケーションを自分で構築できること。プログラミングに触れ、基本的な処理を自ら構築できるようにすること。

### 【授業の内容】

- 1 情報化する社会を生きる、コンピュータの発達
- 2 情報のデジタル表現とマルチメディア、メディアの発達
- 3 コンピュータの構成要素とその機能、組込みシステム
- 4 インターネットの歴史としくみ、通信の普及事例紹介
- 5 インターネットの応用、流通分野の事例紹介
- 6 情報リテラシーと情報倫理
- 7 情報社会のリスク
- 8 情報セキュリティ技術
- 9 情報社会と法律
- 10 プログラミング(1)、スクラッチにふれる
- 11 プログラミング(2)、Pythonにふれる
- 12 ユーザインタフェース、先端的UIの紹介、
- 13 データベースの基礎、クラウドコンピューティング
- 14 ソフトウェアの開発、アプリ開発
- 15 情報通信技術が変える社会、人工知能の今後

### 【事前・事後学修】

事前学修：印刷教材の予習（週2時間）

事後学修：解説した内容のノート整理（週2時間）

### 【テキスト・教材】

加藤浩、大西仁「情報学へのとびら」NHK出版、2800円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内で演習を実施し提出を課す。その学生へのフィードバックは、解説を通じて行う。  
自筆ノート参照可とする試験を実施する予定。  
評価は、課題提出状況と達成度、試験の得点によって評価する。  
課題提出状況50%、試験の得点50%を評価指標とする。

### 【参考書】

森本容介「Webのしくみと応用」NHK出版

### 【注意事項】

募集人数は40名です。

## 情報リテラシー入門

—情報リテラシーの基礎を学ぶ—

久保 ちづる

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、協働力

### 【授業のテーマ】

私たちは学校においても家庭においても日常的にパソコンを使用しています。これらのパソコンの大多数はインターネットという世界規模のネットワークに繋がっています。

このような情報社会でパソコンを利用するには、インターネット検索・メール・文書作成等のソフトウェアの操作技術のほかにセキュリティやモラルなどを含めた「情報リテラシー」を身につけておく必要があります。

この授業では、この情報社会を生きていくために必要な「情報リテラシー」の基礎を学びます。

### 【授業における到達目標】

- ・パソコンやインターネット、およびセキュリティやモラルについて学び、「国際的な視野」に立って情報社会に関わるようになります。
- ・グループワークを通して自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進める「協働力」を身につけることができます。
- ・学修の成果として情報検定（J検）「情報活用試験3級」合格を目指し、目標達成のための「研鑽力」を修得することができます。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 情報表現
- 第3週 処理手順
- 第4週 パソコンの仕組みと構成
- 第5週 パソコンのハードウェア
- 第6週 パソコンのソフトウェア・インタフェース
- 第7週 インターネットの基礎知識
- 第8週 インターネットの利用
- 第9週 アプリケーションソフトの基礎知識
- 第10週 情報社会とコンピュータ
- 第11週 情報モラル
- 第12週 問題演習1（情報表現と処理手順・パソコンの基礎）
- 第13週 問題演習2（インターネットの基礎・情報モラル）
- 第14週 問題演習3（総合）
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：テキストの該当ページを予習し、小テストに備えて用語を覚える（学修時間 週2時間程度）

事後学修：授業で指示した関連問題を解く（学修時間 週2時間程度）

### 【テキスト・教材】

『改訂2版 J検情報活用3級完全対策公式テキスト』（日本能率協会マネジメントセンター）1,512円（税込み）

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験：50% 採点結果をmanabaから公開し次の授業で解説する  
小テスト（カテゴリごとに10回実施）：40% manabaで自動採点した結果をテスト終了後に公開する

授業取り組み態度：10%

### 【注意事項】

情報処理用語は、毎回少しずつ覚えていきましょう。

授業内容は学生の理解度によって多少変更する場合があります。

**情報科教育法（1）**

教職につくための必要な学習

佐藤 健

2年 集後 2単位

**【授業のテーマ】**

高等学校情報科の教員を育成するため、文部科学省が提示する学習指導要領の内容が理解できるよう、情報社会、情報化政策、学校教育の現状を踏まえて講義を行う。まず、戦後日本教育史を踏まえ、日本の情報化政策について解説する。次に、教科「情報」が設立されるまでの経緯を解説し、情報教育の構成と教科「情報」を構成する科目の相違点を詳説する。その後、各科目で取り扱う学習内容について、高等学校の教科書をもとに必要な基礎的な知識や技能を解説する。本講義の到達目標は、(1) 高等学校「情報」の設立の背景となった情報化政策に関する知識を習得する、(2) 教科「情報」を構成する科目の目標並びに相違点を理解する、(3) 高等学校情報科の教員として、教科「情報」で教えるべき内容についての理解を深め、重要な授業テーマについての概要を説明することができる、の3点である。

**【授業における到達目標】**

情報教育の必要性を理解し、関連領域の研鑽力を高め、情報科の教育問題を「協働力（○）」をもって設定し、授業計画立案実行ができる行動力を持てることを目標とします。

**【授業の内容】**

- 第1回 オリエンテーション（情報科設立の背景）
- 第2回 情報科の成立（情報科設立の経緯を解説）
- 第3回 教育の情報化政策（文科省WEBサイトの解説）
- 第4回 情報科の学習指導要領概観
- 第5回 学習環境とネットワーク（学習環境のデザイン）
- 第6回 情報活用の実践力の指導法
- 第7回 情報の科学的な理解の指導法1（情報の表現と画像表現）
- 第8回 情報の科学的な理解の指導法2（シミュレーション）
- 第9回 情報の科学的な理解の指導法3（アルゴリズム）
- 第10回 情報の科学的な理解の指導法4（データベース）
- 第11回 情報社会に参画する態度の指導法1（情報倫理教育）
- 第12回 情報社会に参画する態度の指導法2（著作権）
- 第13回 情報社会に参画する態度の指導法3（コミュニケーション）
- 第14回 情報社会に参画する態度の指導法4（情報システムと社会）
- 第15回 まとめ（自由課題発表）

**【事前・事後学修】**

授業時に指示された内容に関して復習をしておくこと。  
事前に授業内容を確認し、必要な教材等を入手しておく。  
授業後は、学修内容の理解を確認するため、口頭試問を行う。また自由課題として、授業案制作と授業練習において授業時間以外におよそ60時間程度の学修時間が必要となる。

**【テキスト・教材】**

【教科書】文部科学省「高等学校学習指導要領解説」

出版社：開隆堂出版

価格：210円（税別）

ISBN：978-4-304-04165-5

文科省WEBサイトよりダウンロードしてもよい

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート課題40%、平常点評価30%（講義において積極的に発言）、その他30%（期間内に中間課題） レポートや教材制作方法などは、随時フィードバックを行う

**【参考書】**

『高等学校学習指導要領解説 情報編』（文部科学省）

**【注意事項】**

自宅でもインターネットの利用環境を持つこと。

**情報科教育法（2）**

模擬授業のトレーニング

佐藤 健

3年 集前 2単位

**【授業のテーマ】**

本講義では、情報科の授業実践に必要な知識や技能について、実践的に指導を行う。まず、インストラクショナルデザインの手法を用いた単元内容の構造化法を解説し、学生自身による授業設計を指導する。その後、情報科の学習評価、年間指導計画、単元ごとの授業展開、教材等を考慮した学習指導案の作成方法を解説する。それを踏まえ、1授業時間分の学習指導案作成を指導する。最後に、模擬授業を実施し、授業支援システムを使った授業省察会を通じて授業実践における留意点をまとめる。本講義の到達目標は、(1) 授業実践に関する基礎的な知識を習得する、(2) 授業を設計することができる、(3) 学習指導案を作成することができる、(4) 習得した知識と技能を使って模擬授業を実施することができる、の4点である。

**【授業における到達目標】**

学習指導要領を正しく把握し、授業内容と課題を適切に計画立案と実行ができる「行動力（○）」を養うことを目標とします。また、教育実習前のスキルとして、限られた時間内に問題解決を行う「研鑽力（○）」のスキル向上を目標とします。

**【授業の内容】**

- 第1回 本講義の目的と概要を説明する。
- 第2回 授業の設計1 授業と教育実習の相違点
- 第3回 授業の設計2 構造化の手法
- 第4回 学習目標の構造化、目標構造マップの作成
- 第5回 学習内容構造マップの作成方法について
- 第6回 学習内容構造時系列マップ
- 第7回 学習指導案の書き方
- 第8回 授業実践への展開
- 第9回 模擬授業について
- 第10回 模擬授業と授業省察会1（マルチメディア）
- 第11回 模擬授業と授業省察会2（プログラミング）
- 第12回 模擬授業と授業省察会3（情報モラル）
- 第13回 模擬授業と授業省察会4（情報通信ネットワーク）
- 第14回 授業設計と授業技術に関する討議
- 第15回 まとめ

**【事前・事後学修】**

事後学修として、学習内容を確認し、授業案作りの素案を常に検討する時間をもつこと。授業以外の学修時間としておよそ60時間必要です。

**【テキスト・教材】**

【教科書】文部科学省「高等学校学習指導要領解説」を文部科学省のサイトからダウンロードして利用します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

各授業週ごとの課題：4点×15：60%

授業案の提出と模擬授業の実施：40%

レポートや教材制作方法などは、随時フィードバックを行う

**【注意事項】**

教育実習を想定した模擬授業（プレゼンテーション）を行うため、就職活動等の場合は、事前に連絡をすること。

**情報学への招待**

—情報化社会における情報の意味を考える—

板倉 文彦

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

この講義では、多くの人々が活用している情報やそれを取り巻く仕組みについて、基礎から学ぶことを目標とします。

具体的には、情報の意味を知ることからはじまり、情報が与える社会的影響、情報倫理の問題にいたるまで、情報学の基礎を幅広く学びます。

**【授業における到達目標】**

情報学の基礎を学ぶことで、既存情報を活用して物事の真理を見極め新たな知を創造していくという、ディプロマ・ポリシーにある「美の探究」の態度を身に付けることができます。

また、情報社会を生きるにあたり生涯にわたり、知を探求して学び続ける「研鑽力」を修得することができます。

**【授業の内容】**

1. 「情報」とは何か
2. 情報の歴史
3. 情報管理と統制
4. 社会の情報化
5. ユビキタス社会
6. 情報とメディア
7. 情報と企業
8. ニューエコノミー
9. 情報の保存と活用
10. 知的所有権とプライバシー
11. 情報倫理
12. 情報危機管理
13. 情報学の展開
14. 情報学の現状と今後の動向
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：毎回配付する資料を、次回授業までに読んで予習しておく（週2時間程度）

事後学修：授業の最後に出された課題内容と、当日の講義内容を照らし合わせたうえで復習する（週2時間程度）

**【テキスト・教材】**

プリントを配付します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験成績および平常点で総合的に評価します。

配分基準：定期試験70%、平常点30%（授業態度）

試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

## 情報環境論

惟村 直公

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

## 【授業のテーマ】

コンピュータやコンピュータネットワーク環境が発達した現代では、それらを積極的に活用することが社会生活を営む上で重要である。そのためには、コンピュータやその周辺機器、ソフトウェア、ネットワーク等の情報環境に関わる知識が必要になる。本講義では、基礎からハードウェア、ソフトウェアについて解説するとともに、ネットワーク社会で大切な情報倫理についてもふれる

## 【授業における到達目標】

コンピュータをはじめとした情報処理デバイスの基本構成、基本ソフトウェア・ネットワーク等について学び、世界に踏み出し社会を動かそうとする態度、新たなる知を想像しようとする態度を身につける。

また、情報倫理を学び、自己や他者の役割を理解し、豊かな人間関係を構築することができる協働力を高める。また、コミュニケーション能力、情報活用能力を身につけることで、現状を正しく把握し、課題を発見できる行動力、生涯にわたり知を探求して学問を続けることができる研鑽力を身につける。

## 【授業の内容】

- 第1週 情報と情報環境
- 第2週 情報伝達の歴史
- 第3週 コンピュータの歴史
- 第4週 コンピュータの内部構造 (CPU、メモリ等)
- 第5週 周辺機器 (入力装置、出力装置、補助記憶装置等)
- 第6週 情報の単位と演算
- 第7週 オペレーティングシステム (OS)
- 第8週 アプリケーションソフトウェア
- 第9週 プログラム言語
- 第10週 コンピュータ通信
- 第11週 インターネット基礎
- 第12週 データベースの構造基礎
- 第13週 データベースの利用基礎
- 第14週 情報システム基礎
- 第15週 情報倫理

## 【事前・事後学修】

事前学修：配布するプリントを次回授業までに読んでおいて下さい。(学修時間 週2時間)

事後学修：理解度を確認するために、小テスト実施と授業のポイントのまとめを書いてもらいます。講義ノートをもとめておいて下さい。(学修時間 週2時間)

## 【テキスト・教材】

特定のテキストは使用せず、プリントを配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

数回小テストを実施します。また、授業の理解度を確認するために、授業内容のトピックを書かせます。小テスト40%・授業内容のトピックを20%、試験を40%として総合評価します。小テストは次回授業、試験結果は最終授業でフィードバックを行う。

## 【参考書】

文系のための情報処理入門 朝倉書店 金子正光著 1997

## 【注意事項】

数回実施する小テストと授業中に実施するトピックを重視します。定期試験だけを受験しても評価しません。したがって、出席や積極的な授業参加が評価に影響します

**情報検索入門**

的確な情報を得るために

木村 美実子

1年 前期 2単位

○：研鑽力、行動力

**【授業のテーマ】**

ここでは的確な情報を得るために必要な情報検索の基本を学びます。求める情報に応じて、利用すると便利なウェブサイトやデータベースも紹介します。

毎回、講義と検索実習を行います。丁寧に説明しますので、検索の基本を確実に身に付けてください。

**【授業における到達目標】**

信頼性の高い的確な情報検索の基本を修得します。必要に応じて適切なウェブサイトやデータベースが選択できるようにします。

それによって、生涯を通じて自ら知識を吸収し自己成長できるようになることを目指します。

また、日常の検索もレベルアップすることで、課題解決につなげることを目指します。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス：情報検索とは
- 第2週 検索エンジンの活用
- 第3週 情報源とデータベース、検索の準備
- 第4週 実践女子大学・短期大学部図書館OPACの活用
- 第5週 検索質問の分析、情報源の選択
- 第6週 ジャパンナレッジLibの活用
- 第7週 国立国会図書館Webサービスの活用
- 第8週 検索語の決定、検索式の作成
- 第9週 雑誌記事の検索
- 第10週 情報のプロセス、検索結果の評価
- 第11週 学術雑誌記事の検索
- 第12週 検索の網羅性と精度を高める技術
- 第13週 複数の情報源を組み合わせる検索
- 第14週 個別テーマでの検索
- 第15週 まとめ・総評

**【事前・事後学修】**

■毎回課題を出します。次の講義までに取り組んでください。学修時間、週1時間。

■そのほか、講義・実習のプリントを読み返し、実際に繰り返し検索してみてください。学修時間、週3時間。

**【テキスト・教材】**

■プリントを使用します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

■定期試験の成績と平常点（授業態度、コメント用紙、課題）で総合的に評価します。課題と小テストについては、次の講義でフィードバックを行います。

■配分基準：定期試験50%、平常点50%。

**【参考書】**

■藤田節子著『図書館活用術 新訂第3版 ―情報リテラシーを身につけるために』（日外アソシエーツ 2011年）2,800円

■吉井隆明編著、森美由紀、原田智子、時実象一著『情報検索の知識と技術 基礎編』（情報科学技術協会 2015年）1,620円

■その他、講義のなかで紹介いたします。

**【注意事項】**

■遅刻せず、休まずに出席してください。

■理解度を確認するために冒頭で小テストを行うことがあります。

■講義・実習の終わりに、毎回その日の要点と感想などを記入して提出してもらいます。この提出物（コメント用紙）は評価の対象とします。

■講義の資料と課題はmanabaに掲示します。欠席した日の資料はmanabaから入手して必ず自習してください。課題は次の講義までに取り組み、提出してください。



**情報資源組織法 1**

— 目録法と分類法の基礎知識 —

松尾 昇治

1年 通年 2単位

**【授業のテーマ】**

図書館資料は、書誌情報を標準的な規則によって記述し、主題により分類して、組織化することによって、利用者が資料へアクセスすることを容易にする。今日では書誌データをMARC（機械可読式目録）として外部から入手することが可能となっているため、多くの図書館がMARCを利用して、資料の組織化を行っている。司書は、資料組織の意義や目的について理解していて、実際に資料の組織化ができなければならない。従って、この授業は講義および演習から成り立っている。

**【授業における到達目標】**

図書館資料の組織法を学ぶことによって、書誌情報を「日本目録規則」に則って記述すること、資料を主題によって分類することができるようになる。また、図書館を使って知を探究する「研鑽力」を身につける。

**【授業の内容】**

前期	後期
1. 図書館の機能と資料組織	1. 分類法とは
2. 資料組織業務の種類	2. 日本十進分類法の構成
3. 各種メディアと資料組織	3. 分類表の解説
4. 資料アクセスと資料組織	4. 補助表 形式区分
5. 書誌コントロール	5. 補助表 地理区分
6. 目録法の基礎	6. 補助表 言語区分等
7. 日本目録規則 総則	7. 関連索引
8. 日本目録規則 タイトルと責任表示	8. 分類記号の付与
9. 日本目録規則 版・出版等	9. 分類規程
10. 日本目録規則 形態・シリーズ	10. 図書記号等の付与
11. 日本目録規則 注記等	11. 件名法の基礎
12. 目録記入演習（1）	12. 分類法演習（1）
13. 目録記入演習（2）	13. 分類法演習（2）
14. 目録記入演習（3）	14. 分類法演習（3）
15. まとめ	15. まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回の授業のポイントを指示するので下調べをしておくこと。（週1時間程度）

【事後学修】 毎回の授業内容を振り返り、自ら大切と考える事項等をノートに整理しておくこと。（週1時間程度）

**【テキスト・教材】**

和中幹雄等編著『情報資源組織演習 新訂版』（日本図書館協会、JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ 10 2016年）  
本体価格1,900円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験成績と平常点（授業態度、課題提出）で総合的に判断する。

配分基準：定期試験50%、平常点50%。

適宜小テストを行い、授業内でフィードバックし、各自の理解度を再確認する。

**【参考書】**

日本図書館協会目録委員会編『日本目録規則』1987年版改訂3版（日本図書館協会 2006年）

『日本十進分類法』新訂10版（日本図書館協会 2014年）

**【注意事項】**

目録規則および分類法を使って、資料の組織化ができるようになるためには一定の経験が必要であるが、利用者の視点を忘れずに組織化を行ってほしい。

**情報資源組織法 1 a**

日本十進分類法の構成と分類作業

大井 三代子

2年 前期 1単位

**【授業のテーマ】**

図書館資料は、図書、視聴覚資料、電子資料のほかネットワーク情報資源と多様である。日本十進分類法における学問体系や構成を理解し、図書館情報資源を組織化するための主題分析、分類の意義や理論を学ぶ。演習として『日本十進分類法』（新訂10版）を使用し、分類作業を行う。

**【授業における到達目標】**

分類の意義と『日本十進分類法』の構成や補助表を用いた記号の合成の仕方を理解する。分類作業として、テキストの演習問題に取り組み、主題を分析し、関連索引を利用するなどして分類記号を付与することができるようになる。

演習問題の課題には、内容について調査し理解する必要があるものもある。課題についての調査をとおして知識の世界に興味を持ち、自身の調査能力を高めることができるようになり、自信を創出する力を習得する。

**【授業の内容】**

- 第 1 週 主題組織法と主題分析について
- 第 2 週 日本十進分類法の構成－主表・補助表・関連索引
- 第 3 週 一般補助表の使い方 (1) 形式区分
- 第 4 週 一般補助表の使い方 (2) 地理区分・海洋区分・言語区分
- 第 5 週 分類作業と一般分類規程
- 第 6 週 分類記号を付与する (1) 哲学・宗教
- 第 7 週 分類記号を付与する (2) 歴史・伝記・地理
- 第 8 週 分類記号を付与する (3) 社会科学の分類  
(1) 政治・法律・経済・財政
- 第 9 週 分類記号を付与する (4) 社会科学の分類  
(2) 統計・社会・教育・風俗習慣・民俗学・国防
- 第10週 分類記号を付与する (5) 自然科学・技術・産業
- 第11週 分類記号を付与する (6) 芸術
- 第12週 分類記号を付与する (7) 言語・文学
- 第13週 分類記号を付与する (8) 総記  
図書記号・別置記号について
- 第14週 基本件名標目表
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

授業はテキストにそって進めていく。

事前学修：テキストを読み、次週の予習をして専門用語などの理解を深める。(学修時間 週1時間)

事後学修：授業内容を整理し、テキストの演習問題に取り組むこと。課題の演習問題は次週の授業で発表、内容の検討をするので、疑問点があれば整理しておく。(学修時間 週1時間)

**【テキスト・教材】**

- 1 和中幹雄・山中秀夫・横山弘美共著『情報資源組織演習 新訂版』(JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ 10, 日本図書館協会 2016年) 1,900円(税別)
- 2 もり・きよし原編『日本十進分類法』(新訂10版)(日本図書館協会 2014年) \*図書館学課程研究室で準備する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

演習課題のレポート50点、学期末試験50点とする。

レポートの内容は学期末試験の前に授業で解説し、注意する点を書きこんで返す。第15週では、試験で間違った箇所を再確認するなどフィードバックを行う。

**情報資源組織法 1 b**

日本目録規則とNACSIS-CAT

大井 三代子

2年 後期 1単位

**【授業のテーマ】**

図書、雑誌・紀要、視聴覚資料、ネットワーク情報資源など多様な図書館情報資源を組織化するための書誌・目録の理論を理解し、書誌記述法を習得する。この授業では、『日本目録規則』(1987年改訂3版)を中心に、わが国の目録規則を学ぶ。また国立情報学研究所のNACSIS-CAT(教育用)と接続し、書誌作成などの基本操作を習得する。

**【授業における到達目標】**

『日本目録規則』(1987年改訂3版)の内容を理解し、規則に従って書誌記述ができるようになる。NACSIS-CAT(教育用)を使用して、書誌データの作成、所蔵登録、著者リンクなどの操作ができるようになる。資料の記録に必要な記述を整理し、書誌記述の見方を理解することができるようになる。目録作業をとおして、目録規則の理解を深め、よりよい書誌を作成するための研鑽力を習得する。

**【授業の内容】**

- 第 1 週 情報資源の組織化の意義、目録法について
- 第 2 週 日本目録規則とNACSIS-CATについて
- 第 3 週 OPACの管理と運用、書誌コントロール
- 第 4 週 記述総則－記述の情報源、記録順序、記録の方法
- 第 5 週 記述の詳細 1 タイトルと責任表示
- 第 6 週 記述の詳細 2 版、資料の特性、出版・頒布等
- 第 7 週 記述の詳細 3 形態、シリーズ
- 第 8 週 記述の詳細 4 注記、標準番号
- 第 9 週 書誌階層・書誌単位と書誌レベル
- 第10週 書誌階層－2階層と3階層、書誌データの作成
- 第11週 継続資料の記述
- 第12週 各種資料の記述
- 第13週 標目と典拠コントロール
- 第14週 目録とメタデータ
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

授業はテキストにそって進めていく。

事前学修：テキストを読み、次週の予習をして専門用語などの理解を深める。(学修時間 週1時間)

事後学修：授業内容を整理し、テキストの演習問題に取り組むこと。課題の演習問題は、次週の授業で書誌記述の検討をするので、疑問点があれば整理しておく。(学修時間 週1時間)

**【テキスト・教材】**

- 1 和中幹雄・山中秀夫・横谷弘美著『情報資源組織演習 新訂版』(JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ 10, 日本図書館協会 2016年) 1,900円(税別)
- 2 『日本目録規則』(1987年改訂3版, 日本図書館協会 2006年)  
\*図書館学課程研究室で準備する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

演習課題のレポート50点、学期末試験50点とする。

レポートの内容は学期末試験の前に授業で解説し、注意する点を書きこんで返す。第15週では、試験で間違った箇所を再確認するなどフィードバックを行う。

## 情報資源組織法 2

林 哲也

2年 通年 2単位

## 【授業のテーマ】

「情報資源組織法 1」で修得した目録法、分類法を踏まえ、和書および洋書の目録の作り方を具体例に即して演習形式で学びます。

## 【授業における到達目標】

図書館における目録作成業務の実務的な能力を修得する。学生が修得すべき「研鑽力」のうち、生涯にわたり知を探究する力を修得する。

## 【授業の内容】

前期	後期
第1週 参照文献との対比	第1週 洋書の目録
第2週 日本目録規則	第2週 和書の目録
第3週 基本件名標目表	第3週 書誌ユーティリティ
第4週 日本十進分類法	第4週 書誌、文献リスト
第5週 タイトルと責任表示	第5週 英米目録規則 AACR2
第6週 版と刷の違い	第6週 語学マニュアル
第7週 出版者・頒布者	第7週 版と出版事項
第8週 形態的記述エリア	第8週 オンライン書店
第9週 シリーズエリア	第9週 外国の図書館の目録
第10週 注記エリア	第10週 暦の基礎知識
第11週 標準番号と入手条件	第11週 著者名典拠
第12週 逐次刊行物	第12週 分類法
第13週 非図書資料	第13週 世界の人名とその周辺
第14週 読書推進活動	第14週 古典
第15週 まとめ	第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】各週に指示する課題に取り組む（学修時間 週1時間）

【事後学修】授業で解説した内容を良く理解すること。各自の日常生活で出会った本についても目録の記述方法を考えてみること。（学修時間 週0.5時間）

## 【テキスト・教材】

和中幹雄, 山中秀夫, 横谷弘美共著『情報資源組織演習』新訂版 (JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ; 10) (日本図書館協会 2016年) 本体価格1,900円

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験は実施せず、毎週のレポート（manabaで提出し、同じ内容を紙に印刷したものも併せて提出）によって成績を評価します。レポートは全件を添削し、留意すべき事項を授業中に解説します。成績評価の配分基準：レポート 100%

## 【参考書】

和中幹雄, 山中秀夫, 横谷弘美共著『情報資源組織演習』（JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ; 10）（日本図書館協会 2014年）本体価格1,900円

なお、教科書・参考書は、個人で購入しなくとも差し支えありません。『日本目録規則』『日本十進分類法』『基本件名標目表』『日本著者記号表』などの教材図書は人数分、大学側で用意します。

## 【注意事項】

読書日記を作成してください。毎日ではなく跳び跳びでも可。なまの形での提出を求めることはしません。目的は、レポートの素材実例を日常的に蒐集することです。

**情報資源組織法 2 a**

異言語（洋書等）情報資源洋の分類法と演習

今村 成夫

3年 前期 1単位

**【授業のテーマ】**

授業のテーマ：洋書の分類演習

この授業では、「情報資源組織法 1 a」で得た知識と技能をさらに高めるとともに、演習を通じて異言語で記述された情報資源の分類法についての理解向上を目指す。

**【授業における到達目標】**

- 主題分析と分類作業の実際について理解する。
- 「日本十進分類法（第9版）」（NDC）のしくみと運用法を理解する。
- 「日本十進分類法 第9版」（NDC）を運用して、一定のレベルまで資料、とりわけ洋書の分類ができるようになる。
- 主題分析と統制語彙適用の実際を理解する。
- 学生が修得すべき『行動力』のうち、現状を正しく把握し、課題を発見できる。プロセスや成果を正しく評価し、問題解決につなげることができる力を、『研鑽力』のうち、学修成果を実感・自信創出ができる力を修得する。

**【授業の内容】**

1. ガイダンス～授業の概要、授業計画、受講上の注意、達成度試験、課題提示
2. 図書館とは？／図書館における情報資源組織（資料組織）の意義／分類とは？／資料分類の歴史／分類法の種類と特徴／分類法の標準化（復習）
3. 日本十進分類法（NDC）のしくみと分類の手順（復習）
4. 分類の手順（つづき）／日本十進分類法を用いた和書の分類演習（復習）
5. 日本十進分類法を用いた和書の分類演習と解説（復習）
6. 日本十進分類法を用いた洋書の分類演習1-5
7. 日本十進分類法を用いた洋書の分類解説1-5と演習6-10
8. 日本十進分類法を用いた洋書の分類演習11-15
9. 日本十進分類法を用いた洋書の分類演習16-20と解説6-10
10. 日本十進分類法を用いた洋書の分類解説11-15
11. 日本十進分類法を用いた洋書の分類解説16-20
12. 日本十進分類法を用いた洋書の分類演習（応用編）
13. 日本十進分類法を用いた洋書の分類解説／デューイ十進分類法（DDC）および国際十進分類法（UDC）について
14. 図書記号について／分類と主題目録法について
15. 演習の講評とまとめ

**【事前・事後学修】**

1回目：シラバスをよく読む。情報資源組織法2aのノートを読む。  
 ／2回目：配布プリント上の課題を終える。／3～4回目配布プリントをよく読む。予備テストの返却物の採点結果をチェックする。  
 ／5～6回目：NDCの解説部分によく目を通す。／7～11回目：洋書の実例をみる。授業中に終わらなかった演習は、終わらせて提出。／12回目～15回目：配付プリントに目を通す。提示の課題プリントはすべて完成させて提出すること。毎回合計二時間の予習・復習を求める。

**【テキスト・教材】**

1. 情報資源組織法. 第2版. 志保田努ほか編. 第一法規, 2016. 2,730円
2. 日本十進分類法 新訂第10版（日本図書館協会 2015年）  
 （このNDCは、授業時に貸与される予定である。）  
 別途プリントも配布する予定。情報資源組織法 1 b で用いたテキストも持参すること。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業態度、成果物の評価点）および定期試験の点数を総合して評価をおこなう。授業に出席しただけでは、平常点は評価できない。

平常点：定期試験点数＝40％＋60％

提出物中の各課題それぞれについて、個別に議論する形式で問題点

を提起した上で、それらへの正しい処理方法について考察する。

**【参考書】**

『資料分類法及び演習』第二版. 今まど子ほか共著. 樹村房, 1999 (¥1,900)

このほか必要に応じて授業時に紹介する。

**【注意事項】**

・この授業には多数の演習が含まれている。遅刻・欠席を重ねるなどした場合、授業の内容が理解できなくなったり、成果が十分でない可能性もある。欠席しないよう努力すること。また、評価に際して、公欠を除き欠席や遅刻などの考慮はできない。

「情報資源組織法 1 a」を履修した者だけが受講できる。遅刻や早退、欠席は減点の対象となる。授業中に他の作業をおこなった場合には、減点の対象となる。出席日数が不足している者および授業に参加しない者の単位認定はしない。その他評価の方法や受講上の留意点は初回授業時に詳しく説明するので、必ず聴くこと。

**情報資源組織法 2 b**

異言語の情報資源（洋書）の書誌記述の演習

今村 成夫

3年 後期 1単位

**【授業のテーマ】**

授業のテーマ：洋書や非図書資料の目録作成演習

この授業では、「資料資源組織法1b」で得た知識と技能をさらに高めるとともに、演習を通じて異言語で記述された資料（洋書）や非図書資料の目録法についての理解を目指す。

**【授業における到達目標】**

- 「日本目録規則1987年版改訂版」のしくみと運用法を理解する。
- 『日本目録規則1987年版改訂版』を用いて書誌データ作成ができるようになる。
- 集中化・共同化による書誌データ作成の実際を理解する。
- ネットワーク上の情報資源のメタデータ作成の実際について理解する。学生が修得すべき『行動力』のうち、現状を正しく把握し、課題を発見できる。プロセスや成果を正しく評価し、問題解決につなげることができる力を、『研鑽力』のうち、学修成果を実感・自信創出ができる力を修得する。

**【授業の内容】**

1. ガイダンス～授業の概要、授業計画、受講上の注意、達成度試験、課題提示
2. 図書館とは？/図書館における資料組織の意義/目録とは？/目録の歴史/目録の種類と特徴/目録規則の標準化（復習）
3. 日本目録規則1987年版改訂版（NCR）のしくみと記述の手順（復習）
4. 日本目録規則を用いた和書の記述演習（復習）
5. 日本目録規則を用いた和書の記述演習1-5と解説1-5
6. 日本目録規則を用いた和書の記述演習6-10と解説6-10
7. 日本目録規則を用いた洋書の記述演習1-5
8. 日本目録規則を用いた洋書の記述演習6-10と解説1-5
10. 日本目録規則を用いた洋書の記述演習11-15
10. 日本目録規則を用いた洋書の記述演習16-20と解説6-10
11. 日本目録規則を用いた洋書の記述解説11-15
12. 英米目録規則第2版改訂版（AACR II R）を用いた洋書の記述演習1-10と日本目録規則を用いた洋書の記述解説16-20
13. 英米目録規則第2版改訂版（AACR II R）を用いた洋書の記述演習11-20
14. 英米目録規則第2版改訂版（AACR II R）を用いた洋書の記述演習解説 11-20/Copy catalogingについて/主題目録法について/目録編成法について
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

1回目：シラバスをよく読む。/2回目：図書館の意義や資料組織の目的を復習する。/3～4回目：配布プリントのワークを終える。/5回目：テキストおよびNCRの解説部分によく目を通す。/6～11回目：演習課題は、各自で終わらせて次回提出。図書館で洋書の実例をみる。/12回目：AACR II Rに関するプリントおよび、テキストの該当箇所目を通す。/13～15回目：演習課題は、完成させて提出。毎回合計二時間の予習・復習を求める。

**【テキスト・教材】**

1. 『情報資源組織法』. 第2版. 志保田務他編著. 第一法規, 2016 (2,808円)
2. 『日本目録規則1987年版改訂版』（日本図書館協会 1994年）  
（上記2. は、授業中のみ貸出する予定）  
別途プリントも配布する予定。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業態度、成果物の評価点）および定期試験の点数を総合して評価をおこなう。出席しただけでは、平常点の評価はできない。平常点：定期試験点数＝40%＋60%  
提出物中の各課題それぞれについて、個別に添削し、議論する形式で問題点を提起した上で、それらへの正しい処理方法について考察する。

**【参考書】**

- 『基本件名標目表』（日本図書館協会 1999年）
  - 『英米目録規則第二版改訂版』（日本図書館協会 絶版）
- 必要に応じて授業時に紹介する。

**【注意事項】**

- ・この授業には多数の演習が含まれている。遅刻や欠席を重ねるなどした場合、授業の内容が理解できなくなったり、成果が十分でない可能性もある。欠席や遅刻をしないよう努力すること。公欠以外の理由による欠席や遅刻は考慮できない。「情報資源組織法1b」を履修した者だけが受講できる。遅刻や早退は減点の対象となる。出席日数が不足している者および授業に参加しない者の単位認定はしない。なお、初回授業時に、評価の方法や受講上の留意点について、詳しく説明するので、必ず聴くこと。

**情報社会論**

メディアが伝える「現実」を見抜く

駒谷 真美

3年 前期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、美の探究

**【授業のテーマ】**

情報社会において、メディアは様々な思惑でメッセージを伝えている。本授業では「世界で最も影響力のある社会批評家」と言われるチョムスキーの理論を援用し、米国の最新Web教材MIND OVER MEDIAを元にプロパガンダの分析法を学修することで、情報社会が抱える課題について思索していく。本授業の目的は、クリティカル・シンキングの基盤となるメディア情報リテラシー (Media and Information Literacy, MIL) の育成である。

**【授業における到達目標】**

MIL基礎段階の目標は、[批判的思考] ①情報を批判的に読み解き評価できる②情報の信憑性を識別できることである。①②の達成により、本学の学生が修得すべき[行動力]「現状を正しく把握し、課題発見できる力」を会得する。

**【授業の内容】**

1. 導入 授業概要とmanabaの学修法の説明・事前アンケート
2. 情報社会の光と影 (1) チョムスキーとメディア  
—民主主義社会ってよくなくない?
3. 情報社会の光と影 (2) チョムスキーとメディア  
—「合意をデッチあげる」とは?
4. メディア・コントロール (1) チョムスキーのメディア批判  
—プロパガンダ・モデルで明らかになるメディアの姿
5. メディア・コントロール (2) チョムスキーの政治批判  
—政治とメディアの腐れ縁・・・
6. プロパガンダ分析 (1) 定義—いつでもどこでもプロパガンダ!
7. プロパガンダ分析 (2) 手法—プロパガンダのパワー!!!
8. プロパガンダ分析 (3) 文脈—このプロパガンダ、役に立つ?
9. プロパガンダ分析 (4) バイラルメッセージ—ロコミってアリ?
10. プロパガンダ分析 (5) SNSコンテンツ—これって宣伝?
11. プロパガンダ分析 (6) モラル—ホントは何を伝えたい?
12. プロパガンダ発表 (1) プレゼン・ディスカッション・講評
13. プロパガンダ発表 (2) プレゼン・ディスカッション・講評
14. プロパガンダ発表 (3) プレゼン・ディスカッション・講評
15. 総括「情報社会の光と影」フィードバック・事後アンケート  
\*6~11の回では、ジャーナリストが適宜参加し助言予定

**【事前・事後学修】**

事前学修 (学修時間：週2時間) では、指定テキストとmanabaにある授業資料を熟読し、授業をイメージする。事後学修 (学修時間：週2時間) では、学修内容をリフレクションシートにまとめ、manabaで期日内に提出し保存する。授業後半のプレゼンの準備をする。

**【テキスト・教材】**

- ・ノーム・チョムスキー著『メディア・コントロール—正義なき民主主義と国際社会』(集英社新書 2003年) 734円
- ・デイヴィッド・コグズウェル著『FOR BEGINNERSシリーズ97 チョムスキー』(現代書館 2004年) 1296円
- ・その他、授業資料をmanabaに適宜アップ。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点 (第1~15週のリフレクションシートNo. 1~No. 5) 70%+活動点 (プレゼン) 30%の総合的評価。リフレクションシートは次回授業開始時、プレゼンテーションは該当回にフィードバック。

**【参考書】**

授業で適宜紹介。

**【注意事項】**

- ・本授業ではEnjoyment・Edutainment・Empowermentを重視しているので、積極的に楽しんで学修してもらいたい。
- ・「演習ⅢA・B」(駒谷担当)の履修生は、本授業も受講することが望ましい。

## 情報通信ネットワーク概論

小山 裕司

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

### 【授業のテーマ】

これまでどのように情報を記録し、伝達してきたか、さらにこれからの情報伝達はどのように発展していくか等、情報伝達及びコミュニケーションを学びます。特に、情報通信ネットワークが発達している現在、情報通技術及びコミュニケーションの活用を学びます。また、ウィルス等のインシデントに関しても学びます。授業では、インターネット等の情報通信ネットワークの仕組み及び構成を取り扱い、ソーシャルメディア等の情報通信ネットワークの活用が生活環境に及ぼしている影響にも触れます。

### 【授業における到達目標】

この科目では以下の事項を修得することを到達目標にします。

- ・インターネットの仕組み
- ・情報通信・情報技術の歴史
- ・IT関係の基礎知識

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、継続的に学ぶ力を修得します。

### 【授業の内容】

- 第1回：情報伝達の歴史
- 第2回：情報伝達の種類と特性
- 第3回：情報通信ネットワークの歴史
- 第4回：インターネット（TCP/IP）の特徴
- 第5回：インターネットの仕組み
- 第6回：ネットワークインターフェイス
- 第7回：ネットワークアプリケーション
- 第8回：電子メールの仕組み
- 第9回：Webの仕組み
- 第10回：各種のコミュニケーション
- 第11回：各種の検索
- 第12回：ソーシャルメディアの特徴
- 第13回：ソーシャルメディアの活用
- 第14回：ウィルス等のインシデント
- 第15回：総括

### 【事前・事後学修】

（事前）各回の授業の内容を授業前に確認してください。（週1時間程度）

（事後）各回の授業の内容は次回までに復習してください。また、授業で取り扱った内容に関する課題を出しますので、次回までに取り組んでください。（週3時間程度）

### 【テキスト・教材】

講義時に適宜指示あるいはプリント・資料を配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験40点、レポート及び小テスト60点を基本として総合的に評価します。レポート・小テストは当日あるいは次回授業で、試験結果は当日あるいは授業最終回でフィードバックを行う。

### 【参考書】

講義時に適宜指示あるいはプリント・資料を配布します。

## 情報文化論 a

コミュニケーションとしての情報文化

平松 恵一郎

1年～ 前期 2単位

○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

情報化社会と言われる現代において、わたしたちは日々たくさんの「情報」に接しています。ともすれば情報の波にのみこまれてしまいそうな現代社会において、わたしたちはたくさんの「情報」とどうつきあっていったらよいのでしょうか。本講義では、「コミュニケーション」という概念を中心に、その歴史をたどりながら、情報文化の基本をさまざまな角度から考えていきます。

### 【授業における到達目標】

さまざまなコミュニケーションの成り立ちを学ぶことを通じて、立ち止まって自分の頭で考える力を身に付けてほしいと思います。学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く力を修得することを目標とします。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション 情報とは何か
- 第2週 コミュニケーションの歴史
- 第3週 マス・メディアの誕生
- 第4週 夢見ていた「情報化社会」  
(1969年の『少年マガジン』を手がかりとして)
- 第5週 ITとコミュニケーション
- 第6週 モバイル時代のコミュニケーション1  
(携帯メディアの誕生)
- 第7週 モバイル時代のコミュニケーション2  
(携帯メディアがもたらしたもの)
- 第8週 現代社会と個人情報
- 第9週 コミュニケーションとホスピタリティ
- 第10週 情報文化の発信源1 (街を考える)
- 第11週 情報文化の発信源2 (デパートからテーマパークへ)
- 第12週 パブリックリレーションとは何か
- 第13週 異文化コミュニケーションを考える
- 第14週 情報の受け手と送り手～メディアの作り方
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

各授業の最後に次回講義の概要を話すので、参考資料にあたるなどして事前学修をしてください。(学修時間 週2時間)

授業後は、授業で作ったノートをもとに、復習をして理解を深めてください。(学修時間 週2時間)

### 【テキスト・教材】

特定のテキストは使用しません。授業時はスライドを使用しながら講義をしますので、重要と思う点をメモして、自分のノートを作ってください。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験(70%)、平常点(リアクションペーパー等 30%)

毎回提出するリアクションペーパーについては、次回の授業でフィードバックを行います。また、試験に関しては、授業最終回でフィードバックを行います。

### 【参考書】

矢野直明『情報文化論ノート』(知泉書館・2010年)  
 下村健一『10代からの情報キャッチボール』(岩波書店・2015年)  
 吉原敬典(編著)『ホスピタリティマネジメント-活私利他の理論と事例研究-』(白桃書房・2014年)  
 その他、参考文献は適宜紹介します。

### 【注意事項】

授業内容は進捗状況によって、前後する場合があります。  
 「情報文化論b」も連続して受講することが望ましいです。



## 情報文化論 a

—メディアの産みだすもの—

大倉 恭輔

1・2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

今日の社会では、血縁や地縁にもとづく伝統的な文化に代わり、情報文化やメディア文化が大きな影響力を持つようになりました。この授業では、まず文化と情報のかかわりあい方について理解した上で、メディア論の視点から、映画とアニメの社会・文化的な意味について考えていきます。

### 【授業における到達目標】

映画やアニメーションの歴史を映像を見ながらたどり、そうした新しいメディアがどのような文化を生み出したのかについて理解できることをめざします。

そこから、多様な価値の存在に気づきながら感受性を深め、広い視野と深い洞察力を身につけてもらおうと思います。

### 【授業の内容】

- 01 はじめに：文化とは何か
- 02 情報の文化と視覚の文化
- 03 映画の歴史 a リュミエールに始まる
- 04 映画の歴史 b 娯楽としての映像
- 05 映画の歴史 c 芸術としての映像
- 06 映画の歴史 d ハリウッドとあこがれのかたち
- 07 映画の歴史 e 貧しさを描く
- 08 映画の歴史 f 超大作とB級映画
- 09 映画の歴史 g 権威を疑う
- 10 アニメの歴史 a コマ撮りの世界
- 11 アニメの歴史 b ディズニーだけがアニメではない
- 12 アニメの歴史 c ディズニーのすごさとは何か
- 13 アニメの歴史 d 絵を動かすだけがアニメではない
- 14 アニメの歴史 e コンピュータの発達とアニメ
- 15 まとめ

注1 上記は授業内容のリストです。

注2 基本的に番号順に講義をしていきますが、学生の理解度や授業の進行状況にあわせて、順番の入れ替えなどの変更がこなされる場合があります。

### 【事前・事後学修】

- ・事前学修  
事前配付の資料に目とおし、設問がある場合、それについて回答を準備しておくこと。
- ・事後学修  
授業内容を自分で補足し、きちんとしたノート作成をおこなうこと。
- ・事前・事後学修には、それぞれ週に2時間前後をあてること。

### 【テキスト・教材】

- ・テキストは使用しません。
- ・基本的に、manaba を利用して資料を配付します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・総合評価：レポート80%・平常点/受講態度・ノート作成など 20%  
manaba の設定や利用の状況も平常点の参考とします。
- ・試験結果については manaba 上でフィードバックする予定です。

### 【参考書】

適宜、授業の中で紹介します。

### 【注意事項】

- ・他の授業以上に、映像をみて感じ考えることが重要な授業です。視聴覚教材を利用する際も、必ずノートテイクをおこなうこと。
- ・短期大学部標準受講マナーを守ること。  
(manaba上に掲示してあります)

## 情報文化論 b

メディアを通して情報文化を考える

平松 恵一郎

1年～ 後期 2単位

○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

情報化社会と言われる現代において、わたしたちは日々たくさんの「情報」に接していますが、その多くはメディアを通じて得ています。本講義では、わたしたちの生活になくてはならないマス・メディアについて、情報文化という観点から考察し、それぞれのメディアの持つ特性や機能について考えていきます。

### 【授業における到達目標】

「情報文化論a」で学んだコミュニケーションの基礎をもとに、本講義ではさまざまなメディアの成り立ちや特性を学ぶことで、しっかりとメディアリテラシーを身につけることを目標とします。学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く力を修得することを目標とします。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション マス・メディアとは何か
- 第2週 新聞の歴史と現在
- 第3週 出版の歴史と現在
- 第4週 雑誌の歴史と現在
- 第5週 情報誌とは何か
- 第6週 映像メディアの誕生（映画）
- 第7週 放送メディアの誕生1（ラジオ）
- 第8週 放送メディアの誕生2（テレビ）
- 第9週 コミュニケーションとしての広告
- 第10週 メディアとしてのインターネット
- 第11週 情報文化とエンターテインメント
- 第12週 情報文化としての音楽産業
- 第13週 ソーシャル・メディアとマス・メディア
- 第14週 メディア・リテラシーを考える
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

各授業の最後に次回講義の概要を話すので、参考資料にあたるなどして事前学修をしてください。（学修時間 週2時間）

授業後は、授業で作ったノートをもとに、復習をして理解を深めてください。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

特定のテキストは使用しません。授業時はスライドを使用しながら講義をしますので、重要と思う点をメモして、自分のノートを作ってください。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験（70%）、平常点（リアクションペーパー等 30%）

毎回提出するリアクションペーパーは、次回授業でフィードバックを行います。また、試験に関しては、授業最終回でフィードバックを行います。

### 【参考書】

岩崎達也『実践メディア・コンテンツ論入門』（慶應義塾大学出版会・2013年）

池上彰『池上彰のメディア・リテラシー入門』（オクムラ書店・2008年）

森 達也『たったひとつの「真実」なんてない』（筑摩書房・2014年）

その他、参考文献は適宜紹介します。

### 【注意事項】

授業内容は進捗によって、前後する場合があります。

「情報文化論a」から続けて受講することが望ましいです。

**色彩学**

-デザインに役立つ色彩の知識-

**槓 究**

1年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

**【授業のテーマ】**

この授業では、色彩学の分野からカラーデザインに役立つものを選出して講述する。その知識を身に付けると共に、調査や演習を通じて身の回りの色彩環境について考えていく。

**【授業における到達目標】**

- ・デザインやコーディネートに役立つ色彩学の基本的な知識を身に付ける
- ・デザインに役立つ色彩情報を収集する時の注意点、カラーシミュレーション手法、色彩情報の伝達方法について理解する
- ・ファッション、プロダクト、インテリア、街並みそれぞれの分野におけるカラーデザインについて知識を身に付け、整理して説明できるようになる
- 美を生み出すこと、多様な視点からのデザインにアプローチすること、課題解決のために主体的に行動することができる力を身に付ける

**【授業の内容】**

- 第1講 色名
- 第2講 色を表現する体系 演習
- 第3講 色を表現する体系
- 第4講 色の効果
- 第5講 配色
- 第6講 色以外の要因の影響
- 第7講 カラーユニバーサルデザイン
- 第8講 色を測る、色を記録する
- 第9講 カラーシミュレーションとカラーマネジメント
- 第10講 ファッション色彩
- 第11講 プロダクトの色彩
- 第12講 インテリアの色彩 演習
- 第13講 インテリアの色彩
- 第14講 街並みの色彩
- 第15講 総括

**【事前・事後学修】**

身の回りの色彩環境の調査レポート等の演習的要素を盛り込むので、それを授業時間に実施するための準備が必要となる。  
また、確認問題をmanabaで回答し、自身の理解状況を把握する。  
(学修時間 週4時間)

**【テキスト・教材】**

テキストについては、いくつかの形態での配布が可能であるので、初回授業中に指示する。  
また、授業と連動したプリント、確認問題を配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業中テストの成績、課題提出の状況をもとに判断する。

(授業中テスト：70%、課題：30%)

- ・各回的小テストで正答率が低かった設問について、次回授業開始時に解説する。

**【参考書】**

- 千々岩英彰著『色彩学概説』（東京大学出版会）
- 『カラーコーディネーション』（中央経済社）
- 『カラーコーディネーターのための色彩心理入門』（日本色研事業）
- 『建築の色彩設計法』（建築学会）

**【注意事項】**

実際の色彩環境をリサーチしながら色彩学の知識を獲得するという授業形態であるため、授業時間外の作業時間も相応に必要となる。  
また、教科書の順番に講述するというスタイルではないので、授業中テストを受ける時には、授業で学んだ知識を再構成する必要がある。そのことに留意して、受講して欲しい。

**色彩設計演習 a**

-カラーデザインのプロセスを経験する-

**槓 究**

2年 後期 2単位

○：美の探究、研鑽力、行動力

**【授業のテーマ】**

建築室内及び建築外観を対象とした色彩設計を行う。

**【授業における到達目標】**

- ・生活環境のカラーコーディネーションを論理的に行い、説明できるようになる。
- ・Adobe Photoshop, Illustrator, InDesignの基本的な使い方を身に付け、プレゼンテーション資料を作成できるようになる。
- 美を創出し、多様な視点からデザインを検討する深い洞察力を身に付け、建築のカラーデザインをする力を身に付ける

**【授業の内容】**

1. インテリアの色彩設計  
室内模型を作成し、インテリアの配色を行う。囲まれた空間に対する配色手法、質感を考慮する必要性を学ぶ。  
第1週 全体説明、模型切り出し  
第2週 模型切り出し、コンセプト立案、色紙の選択  
第3週 コンセプトボード作成  
第4週 模型組み立て、色紙貼り付け  
第5週 色紙貼り付け、家具製作  
第6週 発表、コメント
2. 建築空間構成要素のカラーデザイン  
建築室内を構成するアイテムのカラーデザインに関する演習を行う。併せて、画像処理ソフトの使用方法を学ぶ。  
第7週 課題紹介、色変換手法の解説  
第8週 色変換領域設定と変換作業
3. エクステリアの色彩設計  
外部空間（街並み）の色彩設計を、画像処理ソフトによるカラーシミュレーションを利用しながら実施する。調査・資料作成・プレゼンテーションを行い、説得のプロセスを経験する。  
第9週 いい建物・街並みの探索  
第10週 カラーパレット作成  
第11週 カラーデザインの探索  
第12週 カラーシミュレーション  
第13週 色彩設計案のパネル作成  
第14週 発表  
第15週 発表

**【事前・事後学修】**

設計対象の色彩調査を実施する。課題作成に使用する画像を撮影する。授業中に実施された発表についてレポートを作成し、提出する。(学修時間 週4時間)

**【テキスト・教材】**

プリントを配布する。授業内容を説明したスライドをmanabaにアップする。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

提出された課題をもとに判定する。

(課題：100% (プレゼンテーションを含む))

相互評価を実施し、他者へのプレゼンテーションについての意見をフィードバックすると共に、自身のプレゼンテーションについて考察する。

**【参考書】**

- 槓 究 著『カラーデザインのための色彩学』（オーム社）
- 仲田玲子著『ゼロからのステップアップ Adobe Photoshop for Macintosh』（ラトルズ）
- 日本建築学会編『建築の色彩設計法』（日本建築学会）

**【注意事項】**

コンピューターを用いた演習課題があるので、情報リテラシー基礎 a をしっかり受講しておくこと。

**色彩設計演習 b**

ーカラーデザインのプロセスを体験するー

**槇 究**

2年 後期 2単位

○：美の探究、研鑽力、行動力

**【授業のテーマ】**

身近な生活環境から対象を選定し、色彩設計を行う。

**【授業における到達目標】**

- ・生活環境のカラーコーディネーションを論理的に行い、説明できるようになる。
- ・Adobe Photoshop, Illustrator, InDesignの基本的な使い方を身に付け、プレゼンテーション資料を作成できるようになる。
- 美を創出し、多様な視点からデザインを検討する深い洞察力を身に付け、建築のカラーデザインをする力を身に付ける

**【授業の内容】**

## 1. カラーデザインの改善

テキスト、ポスター、ブックカバー、プロダクト、衣服、インテリアなどを題材に、色を変更することでデザインを改善する演習を実施する。併せて、画像処理ソフトの使用方法を学ぶ。

第1週 全体説明／色変換練習

第2週 色変換練習

第3週 カラーパレット・平面構成

第4週 雑誌広告

第5週 デザインへの適用

第6週 プロダクトのカラーバリエーション 事例1

第7週 プロダクトのカラーバリエーション 事例2

## 2. 対象物を定めての色彩設計

生活空間、生活用品、衣服から色彩設計の対象を選択し、画像処理ソフトを用いたカラーシミュレーションを利用しながら色彩設計を実施する。現状の色彩調査・資料作成・プレゼンテーションを行い、説得のプロセスを経験する。

第8週 課題設定、写真撮影法

第9週 Webを使った色彩調査、現実の色彩調査

第10週 現状調査、問題点の整理

第11週 色彩調査結果の発表・コンセプト立案

第12週 カラーデザインの探索

第13週 プレゼンボード作成

第14週 発表（前半グループ）

第15週 発表（後半グループ）

**【事前・事後学修】**

色彩設計対象の色彩調査を実施する。また、課題作成に使用する画像を撮影する。

また、授業中に実施された発表について簡単なレポートを提出してもらうことがある。（学修時間 週4時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

提出された課題をもとに判定する。

（課題：100%（プレゼンテーションを含む））

相互評価を実施し、他者へのプレゼンテーションについての意見をフィードバックすると共に、自身のプレゼンテーションについて考察する。

**【参考書】**

槇 究著『カラーデザインのための色彩学』（オーム社）

仲田玲子著『ゼロからのステップアップ Adobe Photoshop for Macintosh』（ラトルズ）

日本建築学会編『建築の色彩設計法』（日本建築学会）

小倉ひろみ著『成功するプロダクトのためのカラーリング講座』（美術出版社）

**【注意事項】**

コンピューターを用いた演習課題があるので、情報リテラシー基礎aをしっかりと受講しておくこと。

## 食と健康

一生の栄養学と健康の意味を考える

### 関 登実子

1・2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

#### 【授業のテーマ】

生涯における食物の選択と健康について考え、自分自身の生活のなかで実践できるようにします。

#### 【授業における到達目標】

日本の食事が社会や自然のなかで成立した現状をとらえ、感受性を深めようとする態度を育てます。

世界の食事と日本食の違いを知り、いろいろな環境下にある人々との交流ができるように食事をとらえます。

#### 【授業の内容】

- 第1週 からだにとって良い食事と栄養とは  
食習慣をチェックし問題点を見つける
- 第2週 健康維持のための適切な食生活とは
- 第3週 栄養素の基礎知識（1）炭水化物、脂質、たんぱく質
- 第4週 栄養素の基礎知識（2）ビタミン、ミネラル
- 第5週 栄養学の基礎知識 栄養素の消化と吸収
- 第6週 美しい体作りと食事 学生が表題にふさわしいと思われる献立をたて評価をする  
特別講師 初風緑氏の講義・質疑を予定
- 第7週 情報検索（1）インターネットを使ってみよう
- 第8週 情報検索（2）情報の信頼性とは
- 第9週 病気を予防する
- 第10週 食事療法とは
- 第11週 情報検索（3）介護食
- 第12週 食の安全
- 第13週 情報検索（4）食品の表示など
- 第14週 美容と健康のためのサプリメント
- 第15週 まとめ 課題発表会

#### 【事前・事後学修】

- ・事前学修：レポート・発表課題への取り組み。（学修時間 週2時間）
- ・事後学修：他の人々の発表を聞いての評価。次回の予習と専門用語の理解をする。質問を準備する。（学修時間 週2時間）

#### 【テキスト・教材】

本多京子監修『図解でわかる体にいい食事と栄養の教科書』（永岡書店、2015年）1728円

#### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト20%、毎回の提出課題40%、課題発表40%  
毎回の課題は次回授業でフィードバックする。小テストは終了後解説を実施。

#### 【参考書】

「食品成分表」に関する図書

#### 【注意事項】

心身ともに健康であり、一生涯の美しさをめざし、より良い食生活を送るための努力をしたいとの情熱をもって授業に臨むこと。  
毎時間のレポート課題および発表あり。

**食のリスク管理**

山崎 壮

4年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

**【授業のテーマ】**

食品の有効性や危険性に関する情報として、科学的に正しい情報も不適切な情報も大量に社会に送り出されています。食の安全をなんとなく風評を基に判断しがちな人々も多いです。そこで、食品のリスクと安全性に関する基本的知識を理解することにより、社会にあふれる食に関する情報を科学的根拠から判断して自分なりの意見をもつ態度を養うことをめざします。それにより、栄養士または食に関わる者として食の安全・安心を説明できるようになることをめざします。

**【授業における到達目標】**

社会にあふれる「にせ科学」にまとわされない、科学的根拠に基づいて考える態度、および「賢い消費者」になろうとする態度を修得することをめざします。

**【授業の内容】**

(1) 食品成分の機能性を考える

第1週 「健康食品」を理解する1:

「健康食品」の機能性と栄養生化学—糖質ダイエットを例にして

第2週 「健康食品」を理解する2:

食品成分の機能を科学的根拠に基づき考える (参考書1、3)

第3週 「健康食品」を理解する3:自分たちはどう考えるか

履修者同士で意見発表と質疑応答

(2) 食のリスクを考える

第4週 序論 食の安全とは何か?

第5週 食品と放射性物質 (教科書の第1章)

第6週 生物から体を守る (教科書の第2章)

第7週 化学物質から体を守る (教科書の第3章)

第8週 思い込みの怖さを知る (教科書の第4章)

第9週 リスクの考え方を知る (教科書の第5章)

第10週 家庭調理における食品のリスクマネジメント

(参考書2の第6章、参考書3の第3章)

(3) 調査結果の発表と質疑応答、小論文の作成

第11週～第15週

毎回の授業では、以下の活動を繰り返します。

(1) グループワークによる話題提供

グループ (2～3名程度。履修者が少ない場合には、ひとり1グループ) で協働して学習・調査をします。食品成分の機能性または食のリスクに関するテーマを自ら選び、調査内容をパワーポイントまたは配付資料を使って発表します。各回2グループ程度。

(2) 話題提供に対する質疑応答と「課題」の設定 (グループ討議)

グループが順番に発表役と質疑応答の司会・進行役を務めます。

話題と質疑応答を踏まえて「課題」を設定します。

(3) 「課題」に対して各自が小論文作成 (宿題)

(4) 提出された小論文について教員が講評

**【事前・事後学修】**

(1)～(2): 講義形式の授業

①授業で取りあげる章の予習 (学修時間 週1時間)

②宿題: 講義で取り上げたテーマに関連した調査レポートの作成 (学修時間 週3時間)

(3): アクティブラーニング形式の授業

①話題提供の準備 (テーマの選定、調査、発表資料の作成など)

②課題に対する小論文の作成 (学修時間 週4時間)

宿題や資料の提出: manaba courseを使用します。

**【テキスト・教材】**

松永和紀著『お母さんのための「食の安全」教室』(女子栄養大学出版部、2012年) 1,500円+税

必要に応じてプリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

講義時期の宿題 (50%)、アクティブラーニング時期の話題提供と質疑応答への積極的参加 (30%)、「課題」の小論文 (20%)

提出された宿題は履修者全員に配布します。提出された宿題および話題提供の発表内容に対しては、授業中に講評します。

**【参考書】**

1. 佐々木敏著『佐々木敏の栄養データはこう読む!』(女子栄養大学出版部、2015年) 2,500円+税

2. 食品の安全を守る賢人会議編『食品を科学する～意外と知らない食品の安全～』(大成出版社、2015年) 1,500円+税

3. 松永和紀著『効かない健康食品 危ない自然・天然』(光文社、2017年) 860円+税

**【注意事項】**

履修者数によって、授業の進め方を変更することがあります。

**食育と調理**

白尾 美佳

4年 前期 1単位 2時限連続 隔週

○：国際的視野、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

子どもから高齢者まであらゆるライフステージにおいて間断ない食育を推進し、食に関する自己管理能力を醸成するためには調理技術を身に着けることが重要である。そこで、自ら調理時における食育実践能力の向上を目指す。

**【授業における到達目標】**

食育実践ができる能力を身に着けることを目標とする。

**【授業の内容】**

1. オリエンテーションと食育実践に関する準備
2. 幼児を対象とした食育と調理
3. 児童生徒を対象とした食育と調理
4. 妊産婦や成人男性を対象とした食育と調理
5. 高齢者を対象とした食育と調理
6. 運動時における食育と調理
7. 地場産農作物を利用した食育と調理
8. 地域と連携した食育

**【事前・事後学修】**

事前学修：それぞれの対象者の特性を把握し、教材等を作成する。  
(学修時間 週1時間)

事後学修：食育を実施した評価と復習を行う。  
(学修時間 週1時間)

**【テキスト・教材】**

プリント等を配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

食育実践に対する意欲30%、提出物40%、食育実践能力30%  
食育実践後の相互評価時にフィードバック行います。

**【参考書】**

- 坂本元子編『子どもの栄養・食教育ガイド』（医歯薬出版）  
山崎文雄著『子どもの食教育』（第一出版）  
田中信監修『食に関する指導の実際1～4』（小学館）

**【注意事項】**

- ・授業は2コマ続きで行います。
- ・日程については掲示を確認してください。
- ・履修者自らが調理を通した食育実践を行います。
- ・地域における食育を実施する場合、通常の授業日以外の日程になることがあります。

**食事計画演習**

加藤 チイ

3年 前期 1単位 2時限連続 隔週

○：研鑽力、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

質のよい給食を提供するためには理論の知識とともに実務能力が必要である。給食管理では大量かつ複雑な情報を取扱い、効率の良い食事計画技術が求められる。この科目では主にコンピュータを活用した給食実務を演習する。

**【授業における到達目標】**

大量調理機器の使用を理解する。  
コンピュータ給食ソフトを使用した給食実務ができる。  
科学的根拠に基づく栄養媒体を作成することができる。  
食事アンケート集計および公表資料が作成できる。  
食費計算、栄養報告書作成など給食事務を理解する。  
研鑽力、行動力、協働力を養う。

**【授業の内容】**

- 第1週 大量調理演習（1）炊飯、焼き物  
第2週 給食管理コンピュータソフトを使う  
第3週 大量調理演習（2）揚げ物、煮物、汁もの  
第4週 給与栄養量と食品構成  
第5週 栄養情報媒体の作成  
第6週 喫食者アンケート  
第7週 給食管理（栄養量評価、食費計算）  
第8週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】エクセル、ワード、パワーポイントなど一般的なコンピュータ操作に慣れておくこと（1時間）。

【事後学修】授業で学んだ内容を情報ラウンジの給食ソフトを使って復習する（1時間）。

**【テキスト・教材】**

- 赤羽正之ほか著『給食施設のための献立作成マニュアル』（医歯薬出版株式会社）2500円+税  
『日本標準食品成分表』（出版社を問わない）  
※いずれも最新版  
必要に応じてプリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への積極参加・提出課題）100%  
フィードバック：レポートは評価し返却。

**【参考書】**

- 鈴木久乃、殿塚婦美子編著 改訂『施設別給食献立集』（建帛社）2700円+税  
宮澤節子ほか編著『メニューコーディネートのための食材別料理集』（同文書院）2900円+税

**【注意事項】**

給食計画論・実務論など関連科目で学んだ知識を活用する。献立作成においては、コンピュータソフトやインターネット、図書類の献立引用は認めない（参考にする可）。必要に応じて献立作成に必要な参考図書を持参する。  
コンピュータを使う演習では USBなどの記録媒体の持参が望ましい。

**食事計画演習**

水上 由紀

1年 後期 1単位

○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

食事計画は、対象者の栄養アセスメントに基づいて目標栄養量を設定し、食品の選択・料理の組み合わせや作業工程を考慮した食事の提供を計画することである。

食事計画を体験することにより、作業の手順と計画立案に必要な知識と技術を理解する。

**【授業における到達目標】**

1. 食事計画の手順について理解する。
2. 管理栄養士の役割、活動分野、関連職種とのかかわりを学ぶことで、栄養専門職としての管理栄養士に関する理解を深める。
3. 食事計画に必要な各教科との関連について理解する。

**【授業の内容】**

- 第1週：オリエンテーション  
 第2週：管理栄養士の職域、役割、業務  
 第3週：対象者の栄養状態の評価1（食生活記録の実践）  
 第4週：対象者の栄養状態の評価2（食品のコーディングほか）  
 第5週：対象者の栄養状態の評価3（栄養素計算ほか）  
 第6週：対象者の栄養状態の評価4（身体計測ほか）  
 第7週：対象者の栄養状態の評価5（評価と食事摂取基準の関連）  
 第8週：献立作成1（食品群別加重平均成分表の作成）  
 第9週：献立作成2（食品構成表の作成）  
 第10週：献立作成3（食事様式、食品や調理方法の組み合わせ）  
 第11週：献立作成4（2日分の献立作成）  
 第12週：献立作成5（栄養素計算等による評価）  
 第13週：献立作成6（調理方法、調理上の注意、作り方の記載）  
 第14週：発表と評価  
 第15週：まとめ

**【事前・事後学修】**

詳細は授業終了時に指示する。

事前学修：次回テーマについて各自で調べ、レポートにまとめる。  
 （学修時間週1時間）

事後学修：授業の課題を完成させる。（学修時間週2時間）  
 課題を用いて授業を進めるので必ず期日までに完成させる。

**【テキスト・教材】**

1. 渡邊智子・渡辺満利子 編著『食べ物と健康 食事設計と栄養・調理』（南江堂 2014年）2500円＋税
2. 松本仲子 監修『調理のためのベーシックデータ第5版』（女子栄養大学出版 2018年）1800円＋税
3. 文部科学省科学技術・学術学術審議会資源調査分科会『日本食品標準成分表 2015年版（七訂）』（全国官報販売協同組合 2014年）1850円＋税
4. 菱田明・佐々木敏 監修『日本人の食事摂取基準（2015年版）』（第一出版 2014年）2700円＋税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート80%（提出期日厳守、課題の完成度）

課題は次回授業で使用し、最終回でフィードバックを行う。

授業態度20%（発言やグループワークなど授業の取り組み状況）

**【注意事項】**

この授業は食事計画に必要な知識や技術を学ぶだけでなく、演習から管理栄養士の業務を捉えていきます。様々な課題を通して4年間の授業でどのような知識や技術が必要かを考える授業です。多くの体験から考える力を身につけてください。



## 食事摂取基準論

長谷川 めぐみ

1年 後期 2単位

○：国際的視野

### 【授業のテーマ】

個人あるいは集団の栄養計画を立案するにあたっては、対象者の栄養アセスメントを行ない、必要と考えられるエネルギー量ならびに栄養素量を設定する。その際、基準として用いられるのが食事摂取基準である。本科目では、エネルギーや各栄養素の必要量がいかにかして策定されたのか、その指標の意義を理解し、科学的根拠に基づく栄養学（evidence-based nutrition：EBN）を実践するための基礎を習得することを目標とする。

### 【授業における到達目標】

わが国の食事摂取基準のみならず、諸外国における食事摂取基準も学び国際的視野を持つ栄養士、管理栄養士をめざす。

### 【授業の内容】

- 第1週 食事摂取基準の概要
- 第2週 策定方針
- 第3週 策定の基本的事項
- 第4週 策定の留意事項
- 第5週 活用に関する基本的事項  
食事摂取状況のアセスメントの方法と留意点
- 第6週 目的に応じた活用上の留意点①（個人の食事改善）
- 第7週 目的に応じた活用上の留意点②（集団の食事改善）
- 第8週 指標の科学的根拠①（エネルギー）
- 第9週 指標の科学的根拠②（推定平均必要量、推奨量）
- 第10週 指標の科学的根拠③（目安量）
- 第11週 指標の科学的根拠④（耐容上限量）
- 第12週 指標の科学的根拠⑤（目標量）
- 第13週 対象特性別の留意事項
- 第14週 諸外国の食事摂取基準
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：講義前に1時間、テキストおよび事前配布資料の該当箇所を読み2時間の事前学修をもって講義内容を把握しておく  
事後学修：講義内容に関する試験を毎回の講義で実施する。この準備のために講義後2時間以上の学修を行うこと。

### 【テキスト・教材】

『日本人の食事摂取基準〔2015年版〕 厚生労働省「日本人の食事摂取基準」策定検討会報告書』（第一出版）本体2,700円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験70%、講義毎に実施する試験30%で評価する  
講義毎の試験結果はA, B, C, Dの4ランクで学生に公表する。評価がA, B, CおよびDだった者に対してそれぞれのレベルに応じて個別指導を実施する。

### 【参考書】

- 『食事摂取基準 - 理論と活用 - 』（医歯薬出版）本体2,000円
- 『食事摂取基準入門 そのことを読む』（同文書院）本体1,500円

## 食事摂取基準論

長谷川 めぐみ

1年 後期 2単位

○：国際的視野

### 【授業のテーマ】

個人あるいは集団の栄養計画を立案するにあたっては、対象者の栄養アセスメントを行ない、必要と考えられるエネルギー量ならびに栄養素量を設定する。その際、基準として用いられるのが食事摂取基準である。本科目では、エネルギーや各栄養素の必要量がいかんにして策定されたのか、その指標の意義を理解し、科学的根拠に基づく栄養学（evidence-based nutrition：EBN）を実践するための基礎を習得することを目標とする。

### 【授業における到達目標】

わが国の食事摂取基準のみならず、諸外国における食事摂取基準も学び国際的視野を持つ栄養士、管理栄養士をめざす。

### 【授業の内容】

- 第1週 食事摂取基準の概要
- 第2週 策定方針
- 第3週 策定の基本的事項
- 第4週 策定の留意事項
- 第5週 活用に関する基本的事項  
食事摂取状況のアセスメントの方法と留意点
- 第6週 目的に応じた活用上の留意点①（個人の食事改善）
- 第7週 目的に応じた活用上の留意点②（集団の食事改善）
- 第8週 指標の科学的根拠①（エネルギー）
- 第9週 指標の科学的根拠②（推定平均必要量、推奨量）
- 第10週 指標の科学的根拠③（目安量）
- 第11週 指標の科学的根拠④（耐容上限量）
- 第12週 指標の科学的根拠⑤（目標量）
- 第13週 対象特特別の留意事項
- 第14週 諸外国の食事摂取基準
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：講義前に1時間、テキストおよび事前配布資料の該当箇所を読み2時間の事前学修をもって講義内容を把握しておく  
事後学修：講義内容に関する試験を毎回の講義で実施する。この準備のために講義後2時間以上の学修を行うこと。

### 【テキスト・教材】

『日本人の食事摂取基準〔2015年版〕 厚生労働省「日本人の食事摂取基準」策定検討会報告書』（第一出版）本体2,700円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験70%、講義毎に実施する試験30%で評価する  
講義毎の試験結果はA, B, C, Dの4ランクで学生に公表する。評価がA, B, CおよびDだった者はそれぞれの段階に応じて個別指導を実施する。

### 【参考書】

- 『食事摂取基準 - 理論と活用 - 』（医歯薬出版）本体2,000円
- 『食事摂取基準入門 そのことを読む』（同文書院）本体1,500円

## 食商品学

松岡 康浩

1年 前期 2単位

○：国際的視野、美の探究、協働力

### 【授業のテーマ】

食品産業における、商品としての食商品について理解します。外食、中食、内食を問わず、現代日本の食品産業における食商品の開発、生産、流通、販売、消費の実際を把握し、あるべき姿を考えることは、将来食品産業に携わる者にとって重要です。事例研究を織り交ぜながら、食商品とは何かを論じます。

### 【授業における到達目標】

フードシステムにおける食商品の知識を得、あり方について考える力を身につけます。

### 【授業の内容】

- 第1週 概論：商品としての食品
- 第2週 事例研究① 外食産業における商品戦略
- 第3週 食商品の分類
- 第4週 食商品の形態
- 第5週 食商品の流通販売
- 第6週 食品の消費の類型
- 第7週 食商品と戦略①マーケティング戦略
- 第8週 食商品と戦略②マーケティングミックス
- 第9週 事例研究② 飲料業界における商品戦略
- 第10週 課題
- 第11週 食品の安全と安心
- 第12週 製品のマネージメント
- 第13週 食品と環境問題
- 第14週 事例研究③ 健康食品業界における商品戦略
- 第15週 総括と考察

### 【事前・事後学修】

事前学修：平常より食品メーカー、小売業、外食産業の動向、新製品についてのニュースに関心を持ち、新聞、ウェブニュースなどをウォッチしておくことを心がける。（学修時間 週2時間）

事後学修：まとめテストの結果を再確認し、解らないところを調べ理解を深める。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

テキストは使用せず、プリント資料を配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験60%、講義内レポート、まとめテストなどの平常点40%  
まとめテストは採点の上、次週返却し答え合わせを行います。

### 【参考書】

梅沢昌太郎、長尾精一 共著『食商品学』  
（日本食糧新聞社 2004年）1200円＋税

## 食生活論

佐藤 幸子

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

### 【授業のテーマ】

科学技術の進歩や発展により、私たちの食生活は豊かな食に恵まれるようになった。しかし、飛躍的な発展と裏腹に、食生活の基盤は、見失われていく傾向にある。本講座では、氾濫する情報と便利な社会において、人として望ましい食生活を営むことについて探求し、消費者として実生活において生きる力を養うための基礎知識を学びます。各自の食生活の現状を把握し、改善すべき食生活について考え、食生活に必要な基礎知識および伝承すべき食文化について、学びます。

### 【授業における到達目標】

学生が学修すべき「国際的視野」「研鑽力」を育成し、専門的な基礎知識および伝統的な食文化として習得すべき「学術的な力」「豊かな教養の力」を取得します。

### 【授業の内容】

- 第1週 食生活の現状
- 第2週 食事摂取基準
- 第3週 健康増進の推進
- 第4週 食物中の栄養成分（1）エネルギー成分
- 第5週 食物中の栄養成分（2）体の構成成分
- 第6週 食物中の栄養成分（3）生理機能を調整する成分
- 第7週 栄養成分の消化・吸収と代謝
- 第8週 日本型食生活の確立
- 第9週 欧米型食生活の定着
- 第10週 外食産業の発展
- 第11週 食品の消費動向
- 第12週 食卓の変化
- 第13週 食事と生活習慣病
- 第14週 食生活の改善
- 第15週 食事カルテ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】：manabaからワークシートを印刷して、授業に必要な食生活に関する情報を予習する。  
（学修時間 週2時間）

【事後学修】：授業における課題をまとめる。（授業後に提出）  
（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

『第2版 食生活 健康に暮らすために』（八千代出版2015年）  
2100円（税別）

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・確認試験60%：第15週授業時に実施し理解度を確認  
（第15週時に評価しフィードバックする）
- ・授業レポート30%：授業内容をまとめてレポートを提出  
（次回授業時にフィードバックする）
- ・平常点評価10%：真剣な授業態度（授業時にフィードバックする）

### 【参考書】

『日本の食文化 和食の継承と教育 新版』江原絢子・石川尚子編  
（アイ・ケイコーポレーション 2016年）2500円（税別）

### 【注意事項】

携帯電話は電源をoffにしておく。授業は私語を慎み、集中して、真摯な態度で受講する。

**食品衛生学 a**

白尾 美佳

2年 後期 2単位

○：国際的視野、研鑽力、行動力

**【授業のテーマ】**

近年、食生活が脅かされるような問題が多いが、これらの食の安全に関する問題点を認識するとともに、食中毒の種類、原因、防止法ならびに飲食物、食器や調理器具、容器包装などによって引き起こされる健康上の危害を未然に防止するための基礎知識を習得することを目標とする。

**【授業における到達目標】**

食品の安全・安心に関する知識を身に着けるとともに、食中毒等を起こさないように注意を払うことができる能力向上を目指します。

**【授業の内容】**

- 第1週 食品衛生学とは何かを知る
- 第2週 食品衛生に係る最近の問題
- 第3週 食品衛生関係法規, 食品と微生物
- 第4週 食品成分の化学的変質
- 第5週 食中毒概論
- 第6週 食中毒の発生状況について調査
- 第7週 食中毒の発生状況について図表作成
- 第8週 細菌性食中毒 (感染型食中毒)
- 第9週 細菌性食中毒 (毒素型食中毒)
- 第10週 細菌性食中毒 (生体内毒素型食中毒)
- 第11週 ウイルス性食中毒
- 第12週 自然毒, 化学性食中毒
- 第13週 食品による感染症・寄生虫
- 第14週 食品中の汚染物質
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：新聞などで食の安全に係る記事などをみておくこと

「学修時間 週2時間」

事後学修：授業で勉強した内容についての課題を行うこと

「学修時間 週2時間」

**【テキスト・教材】**

菅家祐輔・白尾美佳 編著「食べ物と健康—食品衛生学」光生館(2017年発行) 2700円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験 (60%)、提出物 (20%)、授業態度 (20%) により評価する。

提出物や小テストに関するフィードバックはその都度行う。試験に関するフィードバックは試験後に行う。

**【参考書】**

日本薬学会、衛生試験法注解・2015、金原出版

**【注意事項】**

- ・常に新聞などを読んで食品衛生に関わるニュースを意識しておくこと。
- ・授業によってはDVDをみて理解を深めることがあります。
- ・パソコン演習室にて授業を行うことがあります。
- ・内容が前後することがあります。
- ・ルーブリックを用いた自己評価などを行います。

**食品衛生学 a**

井部 明広

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

食品に関する微生物の基礎を学習した後、細菌性食中毒を中心とする食品衛生上の諸問題を理解する。

**【授業における到達目標】**

将来管理栄養士として、社会で活躍できる能力、学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く力を修得する。

**【授業の内容】**

食品の微生物汚染による食中毒や寄生虫汚染等について、また、それらの予防対策について講述する。

第1週 食品衛生とは（食品衛生法と行政組織）

第2週 食品衛生史

第3週 食品と微生物

第4週 食品の変質と防止

第5週 食中毒の概要

第6週 細菌性食中毒の発生要因

第7週 細菌別食中毒の概要-感染型食中毒について

第8週 細菌別食中毒の概要-毒素型食中毒について

第9週 ウイルス性食中毒

第10週 食品と感染症

第11週 寄生虫症

第12週 衛生動物

第13週 食品衛生対策

第14週 総合衛生管理製造過程（HACCP）

第15週 リスクアナリシス

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回の授業範囲を伝えるので、事前にテキスト等を読み予習し、ノートに専門用語類についてまとめ理解しておくこと。質問があれば用意すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 各授業テーマについて理解し、授業内容をノートに整理しておくこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

細貝祐太郎・松本昌雄・廣末トシ子編著『新食品衛生学要説』

（医歯薬出版 2018年）本体2,800円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験（80%）、授業態度（20%）により評価する。試験結果は授業最終回で解答・解説を行いフィードバックする。

**【参考書】**

日本食品衛生学会編『食品安全の事典』朝倉書店 2009年

**【注意事項】**

管理栄養士として就職した時、また、食品衛生監視員任用資格および食品衛生管理者資格を取得するために重要な教科であるので、授業が理解できるよう十分予習、復習すること。

**食品衛生学 a**

井部 明広

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

食物に関する微生物を中心とした食品衛生上の諸問題を科学的に理解する。

**【授業における到達目標】**

将来食の専門家として、社会で活躍できる能力、学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く力を修得する。

**【授業の内容】**

食品の微生物汚染による食中毒や寄生虫汚染等について、また、それらの予防対策について講述する。

第1週 食品衛生とは（食品衛生法と行政組織）

第2週 食品衛生史

第3週 食品と微生物

第4週 食品の変質と防止

第5週 食中毒の概要

第6週 細菌性食中毒の発生要因

第7週 細菌別食中毒の概要-感染型食中毒について

第8週 細菌別食中毒の概要-毒素型食中毒について

第9週 ウイルス性食中毒

第10週 食品と感染症

第11週 寄生虫症

第12週 衛生動物

第13週 食品衛生対策

第14週 総合衛生管理製造過程（HACCP）

第15週 リスクアナリシス

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回の授業範囲を伝えるので、事前にテキスト等を読み予習し、専門用語類をノートにまとめ理解しておくこと。質問があれば用意すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 各授業テーマについて理解し、授業内容をノートに整理しておくこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

細貝祐太郎・松本昌雄・廣末トシ子編著『新食品衛生学要説』

（医歯薬出版 2018年）本体2,800円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験（80%）および授業態度（20%）により評価する。試験結果は授業最終回で解答・解説を行いフィードバックする。

**【参考書】**

日本食品衛生学会編『食品安全の事典』朝倉書店 2009年

**【注意事項】**

食品関連のメーカー、流通、販売会社等に就職した時に非常に重要な事項となるので、授業が理解できるよう十分予習、復習をして欲しい。なお、食品衛生学は食品衛生学aおよびbで完結する。

**食品衛生学b**

白尾 美佳

3年 後期 2単位

○：国際的視野、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

食品の生産から加工・調理ならびに飲食に至る過程における衛生上の留意点について学び、食の安全・安心に関する理解を深める。

**【授業における到達目標】**

自ら食品衛生上の課題を認識し、解決できる方法を提案できることを目標にします。

**【授業の内容】**

- 第1週 食品中の汚染物質
- 第2週 食品添加物概論
- 第3週 食品添加物の表示について
- 第4週 食品添加物の安全性評価
- 第5週 食品添加物の種類1
- 第6週 食品添加物の種類2
- 第7週 食品衛生管理
- 第8週 食品衛生に関する復習
- 第9週 食品衛生に関する発表準備
- 第10週 法規、食品衛生と微生物、食品の変質に関する発表
- 第11週 食中毒関連についての発表
- 第12週 食品添加物、食品衛生対策に関する発表
- 第13週 感染症、寄生虫症、食品中の汚染物質についての発表
- 第14週 食品添加物、食品衛生対策に関する発表
- 第15週 食品工場または食品衛生関連施設見学

**【事前・事後学修】**

事前学修：食品衛生学aで学んだことを復習するとともに、発表用の準備を行う。「学修時間 週2時間」

事後学修：授業にかかわる内容について理解を深める。また、発表した内容についてレポートを書く。「学修時間 週2時間」

**【テキスト・教材】**

菅家祐輔・白尾美佳 編著「食べ物と健康—食品衛生学」光生館(2017年発行)2700円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

提出物(40%)、プレゼンテーション(30%)、授業に対する姿勢(30%)により評価する。

フィードバックは授業時の練習問題や課題ごとに行います。

**【参考書】**

日本薬学会『衛生試験法・注解』金原出版(2015年発行)37,800円

**【注意事項】**

- ・各自が食品表示および食品衛生に関する事項を調べて発表します。
- ・食品工場あるいは食品衛生にかかわる施設等の見学を行う予定です。時間は予備日や授業日以外に訪問する場合があります。
- ・パソコン演習室を使用する場合があります。演習室の利用状況によっては、授業の内容が入れ替わることがあります。

**食品衛生学 b**

井部 明広

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

食品成分、食品添加物および汚染化学物質等を中心とした食品衛生上の諸問題を科学的に理解する。

**【授業における到達目標】**

将来管理栄養士として、社会で活躍できる能力、学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く力を修得する。

**【授業の内容】**

自然毒、化学性食中毒、食品中の汚染物質や残留農薬、食品添加物などについて講述する。

- 第1週 自然毒による食中毒（動物性自然毒-有毒魚）
- 第2週 自然毒による食中毒（動物性自然毒-貝毒）
- 第3週 自然毒による食中毒（植物性自然毒-キノコ）
- 第4週 自然毒による食中毒（植物性自然毒-その他）
- 第5週 化学物質による食中毒（ヒスタミン）
- 第6週 化学物質による食中毒（その他の物質）
- 第7週 食品添加物（概論）
- 第8週 食品添加物（各論）
- 第9週 農薬等とそれらの残留基準
- 第10週 有害物質による食品の汚染（カビ毒）
- 第11週 有害物質による食品の汚染（化学物質）
- 第12週 有害物質による食品の汚染（発がん性物質）
- 第13週 遺伝子組換え食品およびアレルギー食品の安全性と表示
- 第14週 農産・畜産・水産食品の衛生
- 第15週 機器分析と精度

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回の授業範囲を伝えるので、事前にテキスト等を読み予習し、ノートに専門用語類をまとめ理解しておくこと。質問があれば用意すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 各授業のテーマを良く理解し、授業内容をノートに整理しておくこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

細貝祐太郎・松本昌雄・廣末トシ子編著『新食品衛生学要説』  
（医歯薬出版 2018年）本体2,800円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験（80%）および授業態度（20%）により評価する。試験結果は授業最終回で解答・解説を行いフィードバックする。

**【参考書】**

日本食品衛生学会編『食品安全の事典』朝倉書店 2009年

**【注意事項】**

食品衛生学は a、b で完結するので、管理栄養士国家試験を受ける者は受講すること。また、食品衛生監視員任用資格及び食品衛生管理者資格取得に必要である。



**食品衛生学 b**

井部 明広

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

食物に関する化学物質を中心とした食品衛生上の諸問題を科学的に理解する。

**【授業における到達目標】**

将来食の専門家として、社会で活躍できる能力、学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く力を修得する。

**【授業の内容】**

自然毒、化学性食中毒、食品中の汚染物質や残留農薬、食品添加物などについて講述する。

- 第1週 自然毒による食中毒（動物性自然毒-有毒魚）
- 第2週 自然毒による食中毒（動物性自然毒-貝毒）
- 第3週 自然毒による食中毒（植物性自然毒-キノコ）
- 第4週 自然毒による食中毒（植物性自然毒-その他）
- 第5週 化学物質による食中毒（ヒスタミン）
- 第6週 化学物質による食中毒（その他の物質）
- 第7週 食品添加物（概論）
- 第8週 食品添加物（各論）
- 第9週 農薬等とそれらの残留基準
- 第10週 有害物質による食品の汚染（カビ毒）
- 第11週 有害物質による食品の汚染（化学物質）
- 第12週 有害物質による食品の汚染（発がん性物質）
- 第13週 遺伝子組換え食品およびアレルギー食品の安全性と表示
- 第14週 農産・畜産・水産食品の衛生
- 第15週 機器分析と精度

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回の授業範囲を伝えるので、事前にテキスト等を読み予習し、専門用語をノートにまとめ理解しておくこと。質問があれば用意すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 各授業のテーマを良く理解し、授業内容をノートに整理しておくこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

細貝祐太郎・松本昌雄・廣末トシ子編著『新食品衛生学要説』  
（医歯薬出版 2018年）本体2,800円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験（80%）および授業態度（20%）により評価する。試験結果は授業最終回で解答・解説を行いフィードバックする。

**【参考書】**

日本食品衛生学会編『食品安全の事典』朝倉書店 2009年

**【注意事項】**

食品衛生学は食品衛生学aおよびbで完結する。

## 食品衛生学実験

井部 明広

3年 後期 1単位 3時限連続 隔週

◎：行動力 ○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

登録検査機関や地方衛生研究所などで行っている実用的な検査方法を用いて食品の衛生的な実験を行い、実験の楽しさを体験し、食品衛生検査の意味を知ること、食品衛生学をより深く理解する。

### 【授業における到達目標】

将来栄養士として、また、社会人として、社会で活躍できる能力、学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握して、課題を発見できる力を修得する。

### 【授業の内容】

- 第1週 試薬の調製方法、器具の取り扱い方を練習する。  
市販食品中の漂白剤を、調製したヨウ素酸カリウム・デンプン試験紙で定性分析する。
- 第2週 市販食品中の酸性タール色素を薄層クロマトグラフィーで定性分析する。  
市販食品中の保存料を高速液体クロマトグラフィー等の機器分析により定性・定量分析する。
- 第3週 市販ポテトチップスなどの油揚げ食品を種々の条件で保存した後、油脂の劣化度を酸価、過酸化物質値を測定し調査する。
- 第4週 市販の鮮魚について、各保存条件下における変敗度を揮発性塩基窒素を測定することで科学的に検証し、あわせて食中毒の原因となるヒスタミンの生成を薄層クロマトグラフィーで分析する。
- 第5週 微生物実験のための基本操作を習得した後、自家製のおにぎりなどにおける一般生菌数、大腸菌群、黄色ブドウ球菌汚染について菌の有無、菌数を測定し調査する。
- 第6週 第5週に引き続き、各検査項目について判定を行い、検出した菌について、グラム染色後、鏡検および劉反応等による同定・確認を行う。
- 第7週 総括

### 【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲を伝えるので、事前にテキストを読み実験の目的を理解し、使用する器具、試薬類の性状を調べ、操作手順を頭に入れておくこと。質問があれば用意すること。（学修時間 週1時間）

【事後学修】 実験操作を復習し、実験の目的、意味を考えて、結果、考察及び関連調査した事項についてまとめ、レポートを作成し提出すること。（学修時間 週4時間）

### 【テキスト・教材】

西島基弘・宮澤文雄編著『新しい食品衛生学実験』新版第2版（三共出版2016年）本体2,300円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート（60%）および授業態度（40%）により評価する。提出されたレポートは毎回添削して返却し、コメントと共にフィードバックする。

### 【参考書】

一戸正勝、西島基弘、石田裕編著『図解 食品衛生学実験 第3版』（講談社サイエンティフィック 2013年）、『衛生試験法・注解 2015』（金原出版）

### 【注意事項】

白衣、上履きを着用すること。長髪は束ねておくこと。

## 食品衛生学実験

井部 明広

3年 後期 1単位 3時限連続 隔週

◎：行動力 ○：協働力

### 【授業のテーマ】

登録検査機関や地方衛生研究所などで行っている実用的な検査方法を用いて食品の衛生的な実験を行い、実験の楽しさを体験し、食品衛生検査の意味を知ること、食品衛生学をより深く理解する。

### 【授業における到達目標】

将来管理栄養士として、社会で活躍できる能力、学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握して、課題を発見できる力を修得する。

### 【授業の内容】

- 第1週 試薬の調製方法、器具の取り扱い方を練習する。  
市販食品中の漂白剤を、調製したヨウ素酸カリウム・デンプン試験紙で定性分析する。
- 第2週 市販食品中の酸性タール色素を薄層クロマトグラフィーで定性分析する。  
市販食品中の保存料を高速液体クロマトグラフィー等の機器分析により定性・定量分析する。
- 第3週 市販ポテトチップスなどの油揚げ食品を種々の条件で保存した後、油脂の劣化度を酸価、過酸化物質値を測定し調査する。
- 第4週 市販の鮮魚について、各保存条件下における変敗度を揮発性塩基窒素を測定することで科学的に検証し、あわせて食中毒の原因となるヒスタミンの生成を薄層クロマトグラフィーで分析する。
- 第5週 微生物実験のための基本操作を習得した後、自家製のおにぎりなどにおける一般生菌数、大腸菌群、黄色ブドウ球菌汚染について菌の有無、菌数を測定し調査する。
- 第6週 第5週に引き続き、各検査項目について判定を行い、検出した菌について、グラム染色後、鏡検および劉反応等による同定・確認を行う。
- 第7週 総括

### 【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業内容を伝えるので、事前にテキストを読み実験の目的を理解し、使用する器具、試薬類の性状を調べ、操作手順を頭に入れておくこと。質問があれば用意すること。（学修時間 週1時間）

【事後学修】 実験操作を復習し、実験の目的、意味を考え、結果、考察及び関連した事項について調査し、まとめてレポートを作成、提出すること。（学修時間 週4時間）

### 【テキスト・教材】

西島基弘・宮澤文雄編著『新しい食品衛生学実験』新版第2版（三共出版2017年）本体2,300円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート（60%）および授業態度（40%）により評価する。提出されたレポートは毎回添削して返却し、コメントと共にフィードバックする。

### 【参考書】

一戸正勝、西島基弘、石田裕編著『図解 食品衛生学実験 第3版』（講談社サイエンティフィック 2013年）、『衛生試験法・注解 2015』（金原出版）

### 【注意事項】

白衣、上履きを着用すること。長髪は束ねておくこと。

## 食品衛生学実験

井部 明広

3年 前期 1単位 3時限連続 隔週

◎：行動力 ○：協働力

### 【授業のテーマ】

登録検査機関や地方衛生研究所などで行っている実用的な検査方法を用いて食品の衛生的な実験を行い、実験の楽しさを体験し、食品衛生学をより深く理解する。

### 【授業における到達目標】

食の専門家として社会で活躍できる能力、学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握して、課題を発見できる力を修得する。

### 【授業の内容】

- 第1週 試薬の調製方法、器具の取り扱い方を練習する。  
市販食品中の漂白剤を、調製したヨウ素酸カリウム・デンプン試験紙で定性分析する。
- 第2週 市販食品中の酸性タール色素を薄層クロマトグラフィーで定性分析する。  
市販食品中の保存料を高速液体クロマトグラフィー等を用いた機器分析により定性・定量分析する。
- 第3週 市販ポテトチップスなどの油揚げ食品を種々の条件で保存した後、油脂の劣化度を酸価、過酸化物質値を測定し調査する。
- 第4週 市販の鮮魚について各保存条件下における変敗度を揮発性塩基窒素を測定することで科学的に検証し、あわせて食中毒の原因となるヒスタミンの生成を薄層クロマトグラフィーで分析する。
- 第5週 微生物実験のための基本操作を習得した後、自家製のおにぎりなどにおける一般生菌数、大腸菌群、黄色ブドウ球菌汚染について菌の有無、菌数を測定し調査する。
- 第6週 第5週に引き続き、各検査項目について判定を行い、検出した菌についてグラム染色後、鏡検および劉反応等による同定・確認を行う。
- 第7週 総括

### 【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業内容を伝えるので、事前にテキストを読み実験の目的を理解し、使用する器具、試薬類の性状を調べ、操作手順を頭に入れておくこと。質問があれば用意すること。（学修時間 週1時間）

【事後学修】 実験操作を復習し、実験の目的、意味を考えて、結果、考察及び関連調査した事項についてまとめ、レポートを作成し提出すること。（学修時間 週4時間）

### 【テキスト・教材】

一戸正勝、西島基弘、石田裕編著『図解 食品衛生学実験 第3版』（講談社サイエンティフィック 2013年）本体2,000円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート（60%）および授業態度（40%）により評価する。提出されたレポートは毎回添削して返却し、コメントと共にフィードバックする。

### 【参考書】

西島基弘・宮澤文雄編著『新しい食品衛生実験』（三共出版 2016年）、『衛生試験法・注解 2015』（金原出版）

### 【注意事項】

白衣、上履きを着用すること。長髪は束ねておくこと。

**食品衛生学特別演習**

井部 明広

食物栄養学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

食品衛生は我々の食生活を安全にそして安心して営む上で重要である。食品の安全はわが国の法律である食品衛生法により厳しく規制されていることで確保されている。食品衛生法は社会において食品の製造、販売、流通、サービス、消費に至る各場所、各場面で実践されてこそ意味を成す。食品衛生を学ぶものは知識のみならず、これを実践して社会に還元することが大切である。食品衛生学特別演習では、このことをよく理解し、そのために研究手法を学び科学的根拠のもとにデータを扱い、責任の持てる結果を出すことを知って、食の安全を正しく評価、判断できる人材となって社会に貢献することを目標とする。

**【授業における到達目標】**

食に関する高度な専門知識・技術と研究遂行能力を身につけて、将来、研究者として、教員として求められる能力および指導者としての役割を担う能力を修得する。

**【授業の内容】**

各テーマについて調査したことを討論形式で授業を進める。

- 第1週 食品衛生法規の目的と条項の理解
- 第2週 食品衛生に関する歴史的事件の考察
- 第3週 食品の安全を確保する食品衛生行政の仕組み
- 第4週 食品衛生検査の現状
- 第5週 食品添加物分析法・原理と手法
- 第6週 残留農薬分析法・原理と手法
- 第7週 有害化学物質分析法・原理と手法
- 第8週 食品成分規格、食品添加物使用基準、農薬の残留基準
- 第9週 機器分析の理論と実践—高速液体クロマトグラフィー
- 第10週 機器分析の理論と実践—ガスクロマトグラフ・質量分析計
- 第11週 リスクアナリシスの構造
- 第12週 毒性試験及びリスクの評価方法
- 第13週 微生物毒素の作用機序
- 第14週 細菌の同定法
- 第15週 将来のリスク予想と危害防止

**【事前・事後学修】**

【事前学修】各テーマごとに専門書籍、文献等で調査したことをまとめておくこと。（学修時間 週3時間）

【事後学修】討論したことについてまとめてレポートを作成する。（学修時間 週3時間）

**【テキスト・教材】**

適宜、資料プリント等を配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

質疑応答を通しての理解度と積極性50%、課題発表50%

毎回調査・研究した課題の解説をし、問題点等について討論することを通してフィードバックする。

**【参考書】**

適宜紹介する。

**【注意事項】**

受け身の姿勢でなく、自ら積極的に調査、考えることを心掛けてほしい。

## 食品衛生学特論

井部 明広

食物栄養学専攻 後期 2単位

### 【授業のテーマ】

食品の安全・安心に関わる事件や問題が次々に報道され、食品に対して漠然とした不安を持っている消費者は多い。食品の安全と安心については冷静に、科学的に判断しなければならない。現在起きている様々の問題点を通して食のプロフェッショナルとして、安全と安心を科学的に判断できる考え方を学ぶ。

### 【授業における到達目標】

将来、食に関する施設・機関において、指導者として活躍できる専門知識、研究遂行能力を身につけることを目標とする。

### 【授業の内容】

- 第1週 食品衛生を理解する上での数値の取り扱い—濃度と単位
- 第2週 食品の安全・安心の考え方—ハザードとリスク
- 第3週 安全の確保—食品衛生法
- 第4週 リスクアナリシス—ADIと各種の基準
- 第5週 食品の検査・機器分析—クロマトグラフィーの原理
- 第6週 食品の検査・機器分析—各種分析機器の原理
- 第7週 食品の検査方法—食品添加物、残留農薬
- 第8週 食品の検査方法—GLPと分析精度
- 第9週 食品添加物および残留農薬の安全性と必要性
- 第10週 食物アレルギー—表示と検査方法
- 第11週 遺伝子組換え食品およびBSEの安全性
- 第12週 化学性食中毒およびアレルギー様食中毒について
- 第13週 食品中の不揮発性アミン類の安全性
- 第14週 食品中の汚染化学物質等の基準
- 第15週 活性酸素と食生活

### 【事前・事後学修】

【事前学修】事前に各テーマについて学部の教科書及び専門書を良く読んで理解しておくこと。また、必ず質問を用意すること。（学修時間 週3時間）

【事後学修】各授業では、調査テーマを与えるので、考えをまとめて、次の授業で発表、討論の準備をする。（学修時間 週3時間）

### 【テキスト・教材】

適宜、資料を配布および参考文献等を紹介する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業内での質疑内容40%、授業への積極的参加・学習意欲40%、課題発表20%）

毎回授業で疑問点を明らかにして、質問に応え、理解できるよう指導することでフィードバックする。

**食品加工学 a**

松岡 康浩

2年 前期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

**【授業のテーマ】**

食品を保存するための工夫として世界各地で生み出された加工食品は、その地域の伝統食品となっています。さらに、様々な食材と新たな技術の組み合わせによって登場してきた現代の多様な加工食品は、我々の食生活になくしてはならない存在です。

食品の保存法および種々の加工食品の製造法の概要とその製造原理、加工による成分と性状の変化などを学びます。

**【授業における到達目標】**

食品加工学 b と併せて学ぶことにより、食品毎の加工法の原理と多様性を理解します。

**【授業の内容】**

- 第1週 食品加工の意義
- 第2週 食品の保存方法とその原理（1）  
水分調節による保存技術
- 第3週 食品の保存方法とその原理（2）  
pH調節による保存技術
- 第4週 食品の保存方法とその原理（3）  
低温による保存技術
- 第5週 食品の殺菌法とその原理（1）  
加熱殺菌技術とその理論
- 第6週 食品の殺菌法とその原理（2）  
非加熱殺菌技術とその理論
- 第7週 農産物の加工技術（1）  
穀類の加工食品とその製造技術
- 第8週 農産物の加工技術（2）  
いも類、豆類の加工食品とその製造技術
- 第9週 農産物の加工技術（3）  
野菜・果実類の加工食品とその製造技術
- 第10週 水産物の加工技術（1）  
魚介類の加工食品とその製造技術
- 第11週 水産物の加工技術（2）  
藻類の加工食品とその製造技術
- 第12週 畜産物の加工技術（1）  
食肉の加工食品とその製造技術
- 第13週 畜産物の加工技術（2）  
乳の加工食品（乳飲料、発酵乳、バター）
- 第14週 畜産物の製造技術（3）  
チーズの製造技術と卵の加工食品
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

事前学修：テキストの該当箇所を事前に学修し、単元中の重要語句（色刷り語句）について理解を深めておく。（学修時間 2時間）

事後学修：まとめテストを再確認し、解らないところがあれば調べ整理する。（学修時間 2時間）

**【テキスト・教材】**

露木秀男、田島眞 編著『食品加工学—加工から保蔵まで—』  
（共立出版 2007年）2900円＋税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末試験90% 授業毎のまとめテスト10%

まとめテストは採点の上、次週返却し答えあわせを行います。

**食品加工学 a**

秋田 修

3年 前期 2単位

◎：研鑽力

**【授業のテーマ】**

様々な食料を保存するために考案されてきた世界各地の加工食品の多くはその地域の伝統食品となっている。さらに、近年の様々な食材と新たな技術との組合せによって開発された多様な加工食品は我々の食生活においてなくてはならないものとなっている。食品の保存法、種々の加工食品の製造法の概要とその製造原理、加工による成分と性状の変化などを学ぶことにより加工食品の多様性を理解する。食品加工学bも含めた学修を通じて、管理栄養士国家試験の「食べ物と健康」分野における加工食品に関する知識と理解を深める。

**【授業における到達目標】**

日常生活で利用している加工食品の製造原理を科学的に学修し、その理解度を毎回の演習問題により確認していくことで管理栄養士を目指して自己成長する力を養う（研鑽力、行動力の涵養）。

**【授業の内容】**

- 第1週 食品加工の意義
- 第2週 水分調節による保存技術
- 第3週 pH調節による保存技術
- 第4週 低温・冷凍による保存技術
- 第5週 食品の殺菌法とその原理（1）  
加熱殺菌法とその理論
- 第6週 食品の殺菌法とその原理（2）  
非加熱殺菌技術とその理論
- 第7週 農産物の加工技術（1）  
穀類、いも類の加工食品とその製造技術
- 第8週 農産物の加工技術（2）  
豆類の加工食品とその製造技術
- 第9週 農産物の加工技術（3）  
野菜・果実類の加工食品とその製造技術
- 第10週 水産物の加工技術（1）  
魚介類の加工食品とその製造技術
- 第11週 水産物の加工技術（2）  
藻類の加工食品とその製造技術
- 第12週 畜産物の加工技術（1）  
食肉の加工食品とその製造技術
- 第13週 畜産物の加工技術（2）  
乳類の加工食品とその製造技術
- 第14週 総合演習及び講義内容の総復習
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

【事前学修】次週の講義範囲に関する練習問題を事前配布するので、受講時までにその内容について学修し問題を解いておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】採点后返却する練習問題の解答と解説をmanabaに掲載するので必ず復習をすること。成績評価試験は練習問題から出題する。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

露木英男、田島眞編著『食品加工学-加工から保蔵まで-第2版』（共立出版株式会社 2007年）3,132円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

筆記試験80%、講義への取り組み態度と毎回の講義内容と関連する練習問題の成績20%により評価する。筆記試験問題の解答と解説をmanabaに掲載することでフィードバックする。

**【注意事項】**

練習問題は主として国家試験の過去問題から出題する。毎回60%以上の正解率を目指して学修すること。



## 食品加工学 a

秋田 修

4年 前期 2単位

◎：研鑽力

### 【授業のテーマ】

様々な食料を保存するために考案されてきた世界各地の加工食品の多くはその地域の伝統食品となっている。さらに、近年の様々な食材と新たな技術との組合せによって開発された多様な加工食品は我々の食生活になくしてはならないものとなっている。授業では、食品の保存法、種々の加工食品の製造法の概要とその製造原理、加工による成分と性状の変化などを、食品加工学 b とあわせて学ぶことにより加工食品の多様性を理解する。

### 【授業における到達目標】

日常的に利用している加工食品についてその製造原理を科学的に理解する学修を通して自己成長する力（研鑽力）を養うことを目標にする。

### 【授業の内容】

- 第1週 食品加工の意義
- 第2週 食品の保存法とその原理（1）  
水分調節による保存技術
- 第3週 食品の保存法とその原理（2）  
pH調節による保存技術
- 第4週 食品の保存法とその原理（3）  
低温による保存技術
- 第5週 食品の殺菌法とその原理（1）  
加熱殺菌法とその理論
- 第6週 食品の殺菌法とその原理（2）  
非加熱殺菌技術とその理論
- 第7週 農産物の加工技術（1）  
穀類、いも類の加工食品とその製造技術
- 第8週 農産物の加工技術（2）  
豆類の加工食品とその製造技術
- 第9週 農産物の加工技術（3）  
野菜・果実類の加工食品とその製造技術
- 第10週 水産物の加工技術（1）  
魚介類の加工食品とその製造技術
- 第11週 水産物の加工技術（2）  
藻類の加工食品とその製造技術
- 第12週 畜産物の加工技術（1）  
食肉の加工食品とその製造技術
- 第13週 畜産物の加工技術（2）  
乳類の加工食品とその製造技術
- 第14週 総合演習及び講義内容の総復習
- 第15週 総括

### 【事前・事後学修】

【事前学修】毎回、次回で講義する内容に関する小課題を配布するので教科書等を参考に解答し、講義終了に提出すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】前週提出した小課題を採点して返却する。小課題の解説をmanabaに掲載するので毎回復習すること。成績評価試験は小課題の内容から出題する。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

露木英男、田島眞編著『食品加工学-加工から保蔵まで-第2版』（共立出版株式会社 2007年）3,132円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

筆記試験90%、講義への取り組み態度と毎回の講義終了時に行う小テストの内容10%で評価する。試験の参考解答をmanabaに掲載することでフィードバックする。

### 【注意事項】

日頃から加工食品に関する記事や報道に関心を持ち、加工食品の表示に注意を払い、使用されている原材料や食品添加物などについての理解を深めること。

**食品加工学b**

松岡 康浩

2年 後期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

**【授業のテーマ】**

食品を保存するための工夫として世界各地で生み出された加工食品は、その地域の伝統食品となっています。さらに、様々な食材と新たな技術との組み合わせによって登場してきた現代の多様な加工食品は、我々の食生活になくはならない存在です。

食品の保存方法および種々の加工食品の製造法の概要とその製造原理、加工による成分と性状の変化などを学びます。

**【授業における到達目標】**

食品加工aとあわせて学ぶことにより食品毎の加工の原理と多様性を理解します。

**【授業の内容】**

- 第1週 畜産物の加工技術（4）  
乳類の加工食品（粉乳）とその製造技術
- 第2週 調味料  
食塩、甘味料、うまみ調味料とその製造技術
- 第3週 発酵食品  
漬物、納豆
- 第4週 発酵調味料（1）  
味噌、醤油とその製造技術
- 第5週 発酵調味料（2）  
食酢とその製造技術
- 第6週 アルコール飲料（1）  
醸造酒とその製造技術
- 第7週 アルコール飲料（2）  
蒸留酒、その他のアルコール飲料とその製造技術
- 第8週 嗜好品（1）  
清涼飲料とその製造技術
- 第9週 嗜好品（2）  
菓子類とその製造技術
- 第10週 食用油脂とその製造技術
- 第11週 新加工技術とそれを利用した加工食品
- 第12週 食品包装技術
- 第13週 食品添加物
- 第14週、食品の規格と表示
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

事前学修：テキストの該当部分を事前に学修し、単元中の重要語句（色刷り）および製造工程について理解を深めておく。（学修時間 週2時間）

事後学修：まとめテストの内容を再確認し、解らないところは調べ整理する。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

露木秀男、田島眞 編著『食品加工学－加工から保蔵まで－』  
（共立出版 2007年）2900円＋税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末試験90% 授業毎に行なうまとめテスト10%

まとめテストは採点の上、次週返却し答えあわせを行います。

## 食品加工学b

秋田 修

3年 後期 2単位

◎：研鑽力

### 【授業のテーマ】

様々な食料を保存するために考案されてきた世界各地の加工食品の多くはその地域の伝統食品となっている。さらに、近年の様々な食材と新たな技術との組合せによって開発された多様な加工食品は我々の食生活になくしてはならないものとなっている。食品の保存法、種々の加工食品の製造法の概要とその製造原理、加工による成分と性状の変化などを学ぶことにより加工食品の多様性を理解する。食品加工学bも含めた学修を通じて、管理栄養士国家試験の「食べ物と健康」分野における加工食品に関する知識と理解を深める。

### 【授業における到達目標】

日常生活で利用している加工食品の製造原理を科学的に学修し、その理解度を毎回の演習問題により確認していくことで管理栄養士を目指して自己成長する力を養う（研鑽力、行動力の涵養）。

### 【授業の内容】

- 第1週 畜産物の加工技術（3）  
乳類の加工食品（チーズ）とその製造技術
- 第2週 畜産物の加工技術（4）  
卵の加工食品とその製造技術
- 第3週 調味料  
食塩、甘味料、うまみ調味料とその製造技術
- 第4週 発酵調味料（1）  
味噌、醤油とその製造技術
- 第5週 発酵調味料（2）  
食酢とその製造技術
- 第6週 アルコール飲料（1）  
醸造酒とその製造技術
- 第7週 アルコール飲料（2）  
蒸留酒、その他のアルコール飲料とその製造技術
- 第8週 嗜好品（1）  
茶、その他の飲料とその製造技術
- 第9週 嗜好品（2）  
菓子類とその製造技術
- 第10週 食用油脂とその製造技術
- 第11週 新加工技術とそれを利用した加工食品
- 第12週 食品包装技術
- 第13週 食品添加物、食品の規格と表示
- 第14週 総合演習及び講義内容の総復習
- 第15週 総括

### 【事前・事後学修】

【事前学修】次週の講義範囲の練習問題を事前配布するので、受講時までその内容について学修し問題を解いておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】採点后返却する練習問題の解答と解説をmanabaに掲載するので必ず復習をすること。成績評価試験は練習問題から出題する。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

露木英男、田島眞編著『食品加工学-加工から保蔵まで-第2版』（共立出版株式会社 2007年）3,132円

また、テキストとともに毎回配布する講義資料も用いて講義を行う。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

筆記試験80%、講義への取り組み態度と毎回の講義内容と関連する練習問題の成績20%により評価する。筆記試験の解答と解説をmanabaに掲載することでフィードバックする。

### 【注意事項】

練習問題は主として国家試験の過去問題から出題する。毎回60%以上の正解率を目指して学修すること。

## 食品加工学b

秋田 修

4年 後期 2単位

◎：研鑽力

### 【授業のテーマ】

様々な食料を保存するために考案されてきた世界各地の加工食品の多くはその地域の伝統食品となっている。さらに、近年の様々な食材と新たな技術との組合せによって開発された多様な加工食品は我々の食生活になくしてはならないものとなっている。授業では、食品の保存法、種々の加工食品の製造法の概要とその製造原理、加工による成分と性状の変化などを食品加工学aとあわせて学ぶことにより加工食品の多様性を理解することを目標とする。

### 【授業における到達目標】

日常的に利用している加工食品について科学的に理解する学修を通して自己成長する力（研鑽力）を養うことを目標にする。

### 【授業の内容】

- 第1週 畜産品の加工技術（3）  
乳類の加工食品（チーズ）とその製造技術
- 第2週 畜産品の加工技術（4）  
卵の加工食品とその製造技術
- 第3週 調味料  
食塩、甘味料、うまみ調味料とその製造技術
- 第4週 発酵調味料（1）  
味噌、醤油とその製造技術
- 第5週 発酵調味料（2）  
食酢とその製造技術
- 第6週 アルコール飲料（1）  
醸造酒とその製造技術
- 第7週 アルコール飲料（2）  
蒸留酒、その他のアルコール飲料とその製造技術
- 第8週 嗜好品（1）  
茶、その他の飲料とその製造技術
- 第9週 嗜好品（2）  
菓子類とその製造技術
- 第10週 食用油脂とその製造技術
- 第11週 新加工技術とそれを利用した加工食品
- 第12週 食品包装技術
- 第13週 食品添加物、食品の規格と表示
- 第14週 総合演習及び講義内容の総復習
- 第15週 総括

### 【事前・事後学修】

【事前学修】毎回、次回で講義する内容に関する小課題を配布するので教科書等を参考に解答し、講義終了時に提出すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】前週提出した小課題を採点して返却する。小課題の解説をmanabaに掲載するので毎回復習すること。成績評価試験は小課題の内容から出題する。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

露木英男、田島眞編著『食品加工学-加工から保蔵まで-第2版』（共立出版株式会社 2007年）3,132円

また、テキストとともに毎回配布する講義資料も用いて講義を行う。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

筆記試験90%、講義への取り組み態度と毎回の講義終了時に行う小テストの内容10%で評価する。試験の参考解答をmanabaに掲載することでフィードバックする。

### 【注意事項】

日頃から加工食品に関する記事や報道に関心を持ち、加工食品の表示に注意を払い、使用されている原材料や食品添加物などについての理解を深めること。

## 食品加工学実習

秋田 修・阿部 真紀

4年 後期 1単位 3時限連続 隔週

○：研鑽力、協働力

### 【授業のテーマ】

加工食品を自らの手で製造することで、食品加工の原理を理解する。農産物加工食品、水産物加工食品、畜産物加工食品、発酵食品などの加工食品を製造する。それぞれの原料の物性変化や化学変化、微生物の作用などを観察し、加工食品が完成するまでのプロセスを科学的に理解する。

### 【授業における到達目標】

講義で学んだ理論を実体験することで学修成果を実感し自信を創出することを目標とする（研鑽力の涵養）。また、グループ実習では積極的に行動し相互を活かしながら自らの役割を果たす力（協働力）を身につけることを目標とする。

### 【授業の内容】

- 第1週 こんにゃくの製造  
多糖類（グルコマンナン）のゲル化過程を理解する。  
米麴の製造と米みその仕込み  
微生物の発酵と化学反応による熟成を理解する。
- 第2週 さつま揚げの製造  
すり身の加工を通してタンパク質の変性を理解する。  
ところてんの製造  
海藻由来のアガロースのゲル化過程を理解する。
- 第3週 食パンとバターロールの製造  
小麦粉のグルテン形成、酵母の発酵について理解する。
- 第4週 みかんのびん詰めの製造  
化学的加工である酸とアルカリによる剥皮を理解する。  
バターの製造  
相転換によるクリームからバターへの変化を理解する。
- 第5週 乳酸菌飲料の製造  
乳を用いた発酵食品である乳酸菌飲料を製造する。  
官能評価  
官能評価手法と結果の統計的解析法を理解する。
- 第6週 豆腐の製造  
大豆蛋白質の性質を理解する。金属塩と酸による蛋白質の凝固とゲル化過程を理解する。  
みその品質評価  
熟成した米みその品質評価を行う。

### 【事前・事後学修】

【事前学修】実習で製造する加工食品の製造原理等について参考書を読んで確認しておくこと。（学修時間1時間）

【事後学修】実習で製造した加工食品の原材料や配合、加工操作、物性変化、化学的変化、酵素作用、発酵作用などについてまとめてレポートとして提出する。（学修時間2時間）

### 【テキスト・教材】

製造する加工食品の製造原理や製造手順、レポートとしてまとめるべき内容などについてのプリントを配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実習に取り組む態度50点、レポート50点の配点で評価する。毎回のレポートは採点して返却することでフィードバックする。

### 【参考書】

露木英男・田島眞編著『食品加工学-加工から保蔵まで-第2版』共立出版（2010）、宮尾茂雄・高野克己編著『食品加工学実習テキスト』建帛社（2013）、谷口亜樹子編著『食品加工学と実習・実験』光生館（2013）

### 【注意事項】

白衣、帽子、上履きを着用すること。長髪は束ねて毛髪が散逸しないようにする。マニキュアは取ること。その他食品衛生上の指示を遵守すること。

## 食品加工学実習

秋田 修・阿部 真紀

4年 前期 1単位 3時限連続 隔週

○：研鑽力、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

加工食品を自らの手で製造することで、食品加工の原理を理解する。農産物加工食品、水産物加工食品、畜産物加工食品、発酵食品などの加工食品を製造する。それぞれの原料の物性変化や化学変化、微生物の作用などを観察し、加工食品が完成するまでのプロセスを科学的に理解する。

### 【授業における到達目標】

講義で学んだ理論を実体験することで学修成果を実感し自信を創出することを目標とする（研鑽力の涵養）。また、グループ実習では積極的に行動し相互を活かしながら自らの役割を果たす力（協働力）を身につけることを目標とする。

### 【授業の内容】

- 第1週 こんにゃくの製造  
多糖類（グルコマンナン）のゲル化過程を理解する。  
米麴の製造と米みその仕込み  
微生物の発酵と化学反応による熟成を理解する。
- 第2週 さつま揚げの製造  
すり身の加工を通してタンパク質の変性を理解する。  
ところてんの製造  
海藻由来のアガロースのゲル化過程を理解する。
- 第3週 食パンとバターロールの製造  
小麦粉のグルテン形成と酵母の発酵について理解する。
- 第4週 みかんのびん詰めの製造  
化学的加工である酸とアルカリによる剥皮を理解する。  
バターの製造  
相転換によるクリームからバターへの変化を理解する。
- 第5週 乳酸菌飲料の製造  
乳を用いた発酵食品である乳酸菌飲料を製造する。  
官能評価  
官能評価手法と結果の統計的解析法を理解する。
- 第6週 豆腐の製造  
大豆蛋白質の性質を理解する。金属塩と酸による蛋白質の凝固とゲル化過程を理解する。  
みその品質評価  
熟成した米みその品質評価を行う。

### 【事前・事後学修】

【事前学修】実習で製造する加工食品の製造原理等について参考書を読んで確認しておくこと。（学修時間1時間）

【事後学修】実習で製造した加工食品の原材料や配合、加工操作、物性変化、化学的変化、酵素作用、発酵作用などについてまとめレポートとして提出する。（学修時間2時間）

### 【テキスト・教材】

製造する加工食品の製造原理や製造手順、レポートとしてまとめるべき内容などについてのプリントを配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実習に取り組む態度50点、レポート50点の配点で評価する。毎回のレポートは採点して返却することでフィードバックする。

### 【参考書】

露木英男・田島眞編著『食品加工学-加工から保蔵まで-第2版』共立出版（2010）、宮尾茂雄・高野克己編著『食品加工学実習テキスト』建帛社（2013）、谷口亜樹子編著『食品加工学と実習・実験』光生館（2013）

### 【注意事項】

白衣、帽子、上履きを着用すること。長髪は束ねて毛髪が散逸しないようにする。マニキュアは取ること。その他食品衛生上の指示を遵守すること。

## 食品加工学実習

秋田 修・阿部 真紀

3年 後期 1単位 3時限連続 隔週

○：研鑽力、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

加工食品を自らの手で製造することで、食品加工の原理を理解する。農産物加工食品、水産物加工食品、畜産物加工食品、発酵食品などの加工食品を製造する。それぞれの原料の物性変化や化学変化、微生物の作用などを観察し、加工食品が完成するまでのプロセスを科学的に理解する。

### 【授業における到達目標】

講義で学んだ理論を実体験することで学修成果を実感し自信を創出することを目標とする（研鑽力の涵養）。また、グループ実習では積極的に行動し相互を活かしながら自らの役割を果たす力（協働力）を身につけることを目標とする。

### 【授業の内容】

- 第1週 こんにゃくの製造  
多糖類（グルコマンナン）のゲル化過程を理解する。  
米麴の製造と米みその仕込み  
微生物の発酵と化学反応による熟成を理解する。
- 第2週 さつま揚げの製造  
すり身の加工を通してタンパク質の変性を理解する。  
ところてんの製造  
海藻由来の多糖類のゲル化過程を理解する。
- 第3週 食パンとバターロールの製造  
小麦粉のグルテン形成、酵母の発酵について理解する。
- 第4週 みかんのびん詰めの製造  
化学的加工である酸とアルカリによる剥皮を理解する。  
パターの製造  
相転換によるクリームからバターへの変化を理解する。
- 第5週 乳酸菌飲料の製造  
乳を用いた発酵食品である乳酸菌飲料を製造する。  
官能評価  
官能評価手法と結果の統計的解析法を理解する。
- 第6週 豆腐の製造  
大豆蛋白質の性質を理解する。金属塩と酸による蛋白質の凝固とゲル化過程を理解する。  
みその品質評価  
熟成した米みその品質評価を行う。

### 【事前・事後学修】

【事前学修】実習で製造する加工食品の製造原理等について参考書を読んで確認しておくこと。（学修時間 1時間）

【事後学修】実習で製造した加工食品の原材料や配合、加工操作、物性変化、化学的変化、酵素作用、発酵作用などについてまとめレポートとして提出する。（学修時間 2時間）

### 【テキスト・教材】

製造する加工食品の製造原理や製造手順、レポートとしてまとめるべき内容などについてのプリントを配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実習に取り組む態度50点、レポート50点の配点で評価する。毎回のレポートは採点して返却することでフィードバックする。

### 【参考書】

露木英男・田島眞編著『食品加工学-加工から保蔵まで-第2版』共立出版（2010）、宮尾茂雄・高野克己編著『食品加工学実習テキスト』建帛社（2013）、谷口亜樹子編著『食品加工学と実習・実験』光生館（2013）

### 【注意事項】

白衣、帽子、上履きを着用すること。長髪は束ねて毛髪が散逸しないようにする。マニキュアは取ること。その他食品衛生上の指示を遵守すること。

## 食品開発論

松岡 康浩

3年 後期 2単位

◎：協働力 ○：国際的視野、美の探究

### 【授業のテーマ】

将来、食品メーカーや食品小売などの食品産業または食品行政で活躍する際、容器包装された加工食品がどのように開発され、市場に出てくるかを知っておくことは重要です。企業における加工食品開発について実例を交えて学びます。また、食品開発を行うときに何を考えればよいか、小演習を通して、考察・議論していきます。

### 【授業における到達目標】

お客さまに提供する食商品とは何か、および食品開発における各ステージで何が大切かといったポイントを理解し、応用力を習得します。

### 【授業の内容】

- 第1週 食品開発の概要
- 第2週 事例紹介（1）一般食品開発
- 第3週 企画（1）商品企画とは
- 第4週 企画（2）消費者調査
- 第5週 企画（3）コンセプト立案
- 第6週 開発（1）中身設計
- 第7週 小演習 レポートディスカッション（1）
- 第8週 事例紹介（2）美容食品開発
- 第9週 開発（2）容器包装
- 第10週 量産化
- 第11週 広告宣伝（1）訴求情報
- 第12週 広告宣伝（2）プロモーション
- 第13週 小演習 レポートディスカッション（2）
- 第14週 事例紹介（3）調理食品
- 第15週 総括

### 【事前・事後学修】

事前学修：日常の新製品情報をウォッチしておく。レポート課題について調査する。（学修時間 週2週間）

事後学修：まとめテストの内容を再確認し、不明な点を調べ理解を深める。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

テキストは使用せず、プリント資料を配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験60%、小演習レポート20%、まとめテスト及び授業態度20%

まとめテストは採点の上、次週返却し答えあわせを行います。

### 【参考書】

岩田直樹『食品開発の進め方』幸書房 2011年 2300円＋税

**食品学 a**

白尾 美佳

1年 前期 2単位

○：国際的視野、研鑽力、協働力

**【授業のテーマ】**

食品中の栄養成分、嗜好成分、機能性成分等の基礎的な知識を身につけることを目標とします。

**【授業における到達目標】**

食品中の栄養素の基礎的知識を理解し、献立作成などに活用できる能力を身につけることを目標とします。

**【授業の内容】**

- 第1週 食品学概論
- 第2週 食品の分類
- 第3週 食品標準成分表概要
- 第4週 エネルギー換算係数
- 第5週 水分
- 第5週 炭水化物
- 第6週 脂質
- 第7週 アミノ酸
- 第8週 タンパク質
- 第9週 脂溶性ビタミン
- 第10週 水溶性ビタミン（ビタミンB群）
- 第11週 水溶性ビタミン（ビタミンC）
- 第12週 ミネラル
- 第13週 食品の色素、香気成分
- 第14週 食品の呈味成分、物理的性質
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】授業で勉強する内容について事前に予習をする。

（学修時間 週2時間）

【事後学修】勉強した内容についての課題を行う。

（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

・種村安子他著『イラスト食品学総論』（東京教学社）2016年発行

2,100円

・医歯薬出版編『日本食品成分表七訂本表編 2018』（医歯薬出版）2018年発行 1,404円

・医歯薬出版編『日本食品成分表七訂アミノ酸、脂肪酸、炭水化物編』（医歯薬出版）2018年発行 1,620円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験50%、レポート等の提出物30%、平常点（授業に対する意欲）20%で評価します。試験に関するフィードバックは最終事業で行います。

**【参考書】**

杉田浩一 他編『日本食品大辞典 第3版』（医歯薬出版）2013年発行 7,200円

**【注意事項】**

- ・様々な食品を知ることが大切です。日頃から様々な食品を使って調理したり、活用方法を考えたりすることにより、栄養士としての基礎的能力を身につけてください。
- ・教科書代は変動することがあります。



**食品学 a**

奈良 一寛

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

ヒトは食品を介して栄養素を摂取し、正常な生命機能を維持している。したがって、健康で豊かな食生活を送るためには、食品に関する正しい知識の習得が重要である。本授業では、食品の構成成分における特徴および性質について説明するとともに、それら成分の調理・加工中における変化および成分間の反応についても講義する。

**【授業における到達目標】**

食品成分について、特徴や性質を十分に理解し、それら成分の変化やそのメカニズムについても説明できるようになることを目標とする。

**【授業の内容】**

- 第 1 週 人間と食品、食品の分類
- 第 2 週 食品標準成分表
- 第 3 週 食品中の主要成分（1）水
- 第 4 週 食品中の主要成分（2）たんぱく質
- 第 5 週 食品中の主要成分（3）脂質
- 第 6 週 食品中の主要成分（4）糖質
- 第 7 週 食品中の主要成分（5）無機質、  
中間まとめ（確認テスト）
- 第 8 週 食品中の主要成分（6）ビタミン
- 第 9 週 食品中の嗜好成分（1）色素成分
- 第 10 週 食品中の嗜好成分（2）香気成分、呈味成分
- 第 11 週 食品成分の化学変化 油脂、たんぱく質、糖質の変化
- 第 12 週 食品成分の化学変化 褐変、酵素による成分変化
- 第 13 週 食品の機能と表示、食品の物性、官能評価
- 第 14 週 総合演習、確認テスト
- 第 15 週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】教科書を事前によく読んで予習すること。専門用語等は調べておくこと。予習課題がある場合はきちんとやり、期日を守り提出すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】毎回の講義内容・小テスト等の復習をすること。疑問点は解消しておくこと。復習課題がある場合はきちんとやり、期日を守り提出すること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

青柳康夫 著 『標準食品学総論』（医歯薬出版株式会社 2016年）2,808円

『日本食品標準成分表2018七訂』（医歯薬出版株式会社）1,404円

『日本食品標準成分表七訂アミノ酸・脂肪酸・炭水化物編』（医歯薬出版株式会社）1,620円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

理解度の確認テスト70%、小テスト10%、提出課題20%

小テスト、確認テストは次回授業および授業最終回で解説を行う。

**食品学 a**

奈良 一寛

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

ヒトは食品を介して栄養素を摂取し、正常な生命機能を維持している。したがって、健康で豊かな食生活を送るためには、食品に関する正しい知識の習得が重要である。本授業では、食品の構成成分における特徴および性質について説明するとともに、それら成分の調理・加工中における変化および成分間の反応についても講義する。

**【授業における到達目標】**

食品成分について、特徴や性質を十分に理解し、それら成分の変化やそのメカニズムについても説明できるようになることを目標とする。

**【授業の内容】**

- 第 1 週 人間と食品、食品の分類
- 第 2 週 食品標準成分表
- 第 3 週 食品中の主要成分（1）水
- 第 4 週 食品中の主要成分（2）たんぱく質
- 第 5 週 食品中の主要成分（3）脂質
- 第 6 週 食品中の主要成分（4）糖質
- 第 7 週 食品中の主要成分（5）無機質、  
中間まとめ（確認テスト）
- 第 8 週 食品中の主要成分（6）ビタミン
- 第 9 週 食品中の嗜好成分（1）色素成分
- 第 10 週 食品中の嗜好成分（2）香気成分、呈味成分
- 第 11 週 食品成分の化学変化 油脂、たんぱく質、糖質の変化
- 第 12 週 食品成分の化学変化 褐変、酵素による成分変化
- 第 13 週 食品の機能と表示、食品の物性、官能評価
- 第 14 週 総合演習、確認テスト
- 第 15 週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】教科書を事前によく読んで予習すること。専門用語等は調べておくこと。予習課題がある場合はきちんとやり、期日を守り提出すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】毎回の講義内容・小テスト等の復習をすること。疑問点は解消しておくこと。復習課題がある場合はきちんとやり、期日を守り提出すること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

久保田紀久枝 編 『食品学』（東京化学同人 2016年）2,600円＋税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

理解度の確認テスト70%、小テスト10%、提出課題20%

小テスト、確認テストは次回授業および授業最終回で解説を行う。

**食品学b**

白尾 美佳

1年 後期 2単位

○：国際的視野、研鑽力、協働力

**【授業のテーマ】**

食品中の栄養成分や機能性成分等についての知識を習得することを目標とします。本授業では、それぞれの食品から栄養成分や機能性成分を考えていきます。

**【授業における到達目標】**

食品の分類、種類を理解するとともに、それぞれの食品の栄養成分、機能性成分について知識を身に付け、栄養士として献立作成に活用できる能力を向上させることを目標とします。

**【授業の内容】**

- 第1週 食品の分類、食料自給率
- 第2週 米の種類と成分、加工品
- 第3週 小麦等穀類の種類と成分、加工品
- 第4週 イモ類の種類と成分、加工品
- 第5週 種実類の種類と成分、加工品
- 第6週 豆類の種類と成分、加工品
- 第7週 野菜の分類
- 第8週 野菜の種類と成分、加工品
- 第9週 果実の種類と成分、加工品
- 第10週 キノコ、海藻の分類と成分、加工品
- 第11週 食肉類
- 第12週 卵類、乳類
- 第13週 魚介類
- 第14週 調味料、発酵食品、嗜好飲料
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】授業で勉強する食品について調べておくこと。また、各自プレゼンテーション用の資料を作成する。

(学修時間 週2時間)

【事後学修】食品の種類や利用方法、食品標準成分表にて各栄養素の含有量等について把握すること。

(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

- 喜多野宣子他『食べ物と健康Ⅱー知っておきたい食品素材と加工の基礎』（化学同人）2016年発行 2,205円
- 医歯薬出版編『日本食品成分表七訂本表編 2018』医歯薬出版 2018年発行
- 医歯薬出版編『日本食品成分表アミノ酸・脂肪酸・炭水化物編』医歯薬出版 2018年発行 1,620円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート等の提出物30%、プレゼンテーション30%、試験30%、授業に対する意欲10%で評価する。フィードバックはそれぞれの提出物後に行う。

**【参考書】**

- 菅原龍幸、井上四郎編集『新訂原色食品図鑑（学生版）』（建帛社 2008年）3,045円

**【注意事項】**

- ・各自の課題を設定し、それぞれの授業の中で発表する機会を設けます。
- ・積極的に発表に対し、質問等を行い授業に参加してください。

**食品学b**

松岡 康浩

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

我々の食生活と健康に直接かかわる種々の食品について、素材としての特徴や栄養・健康機能に関与する成分を中心に、食品および食材としての特性を総合的に理解します。食品の成分について科学的な視点から考える習慣を身に着けてください。生活習慣病や高齢化社会などをめぐる食の諸問題への理解と解決に役立つ基盤を築くためにも重要です。

**【授業における到達目標】**

管理栄養士資格国家試験「食べ物と健康」における食品に関する知識と応用力を修得します。

**【授業の内容】**

- 第1週 食品成分表
- 第2週 農産食品（1）穀類、いも類
- 第3週 農産食品（2）種実類、豆類
- 第4週 農産食品（3）野菜類
- 第5週 農産食品（4）果実類、きのこ類
- 第6週 畜産食品（1）食肉類
- 第7週 畜産食品（2）乳類
- 第8週 畜産食品（3）卵類
- 第9週 水産食品（1）魚介類
- 第10週 水産食品（2）水産加工品
- 第11週 加工食品（1）油脂、甘味料、調味料
- 第12週 加工食品（2）香辛料 食品表示
- 第13週 加工食品（3）嗜好飲料
- 第14週 微生物加工食品
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

事前学修：テキストの該当箇所を事前に学修し、重要語句などを確認する。（学修時間 週2時間）

事後学修：まとめテストの内容を再確認し、解らないところは調べ理解を深める。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

瀬口正春、八田一 編『食品学各論（第3版）』

（化学同人 2016年）2500円＋税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末試験80%、授業まとめテスト20%

まとめテストは採点の上、次週返却し答え合わせを行います。

## 食品学b

奈良 一寛

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

## 【授業のテーマ】

健康的な食生活を送るためには、適正な食品の選択や扱いが求められる。調理素材としての食品について、正しい知識を得ることが極めて重要である。本授業では、食品とその加工品の基本的性状や特性について説明し、さらに食品の保存法や加工法の原理についても講義する。

## 【授業における到達目標】

植物性食品、動物性食品など私たちの身の回りにある食品について、栄養学的特性などを十分に理解し、食品に対する意識を高め、特徴や調理・加工特性や機能性についても説明できるようになることを目標とする。

## 【授業の内容】

- 第 1 週 食品と環境
- 第 2 週 農産食品（1）穀類
- 第 3 週 農産食品（2）いも類  
(デンプン類、砂糖および甘味料)
- 第 4 週 農産食品（3）種実類、豆類
- 第 5 週 農産食品（4）野菜類
- 第 6 週 農産食品（5）果実類
- 第 7 週 農産食品（6）きのこ類、中間まとめ（確認テスト）
- 第 8 週 畜産食品（1）食肉類
- 第 9 週 畜産食品（2）卵類
- 第 10 週 畜産食品（3）乳類
- 第 11 週 水産食品 魚介類、海藻類
- 第 12 週 その他の食品（1）嗜好飲料類、調味加工食品類
- 第 13 週 その他の食品（2）油脂類、菓子類、  
調味料および香辛料
- 第 14 週 総合演習、確認テスト
- 第 15 週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】教科書を事前によく読んで予習すること。専門用語等は調べておくこと。予習課題がある場合はきちんとやり、期日を守り提出すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】毎回の講義内容・小テスト等の復習をすること。疑問点は解消しておくこと。復習課題がある場合はきちんとやり、期日を守り提出すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

## 【テキスト・教材】

久保田紀久枝 編『食品学』（東京化学同人 2016年）2,600円+税  
(前期食品学a テキスト)

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

理解度の確認テスト70%、小テスト10%、提出課題20%

小テスト、確認テストは次回授業および最終授業で解説を行う。

**食品学実験 a**

白尾 美佳

2年 前期 1単位 3時限連続 隔週

○：研鑽力、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

食品の一般栄養成分や機能性成分等の分離、同定、定量を行うことにより食品や栄養についての知識を広げる。

**【授業における到達目標】**

食品中の栄養成分ならびに機能性成分等の分析法について理解し、質の高い栄養士としての知識の向上をめざします。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション  
実験上に必要なデータベースと文献検索の仕方  
器具、汎用機器ならびに化学薬品（試薬）の取り扱い方
- 第2週 水分の定量  
食品の判別検査
- 第3週 灰分の定量  
食品中の有機酸、pH、糖度の測定  
HPLCを用いた食品成分の分析
- 第4週 粗脂肪の定量  
食品の天然色素に関する実験
- 第5週 食品組織の観察  
野菜、肝臓等からのDNAの抽出  
食品の褐変に関する実験
- 第6週 粗たんぱく質の定量  
食品中のDNAの定量  
GCを用いた食品成分の分析
- 第7週 GC/MSを用いた食品中の香気成分の分析  
抗酸化性に関する実験
- 第8週 食品の物性に関する実験  
官能検査に関する実験

**【事前・事後学修】**

【事前学修】実験に関する栄養成分について調べておくこと  
(学修時間 週1時間)

【事後学修】実験した内容について目的、方法、結果、考察、参考文献等にわけてノートに書いておく  
(学修時間 週1時間)

**【テキスト・教材】**

プリントを使用する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業に対する意欲、グループ等での協力体制）40%、ノートやレポートなどの提出物60%

フィードバックは、それぞれの実験授業の中で実験方法、結果に対するアドバイス、質問等に答えていきます。

**【参考書】**

日本食品化学工学会編『新・食品分析法』（光琳）

井上圭三他編『生化学辞典』（東京化学同人）

日本食品衛生協会「食品衛生検査指針2015（理化学編）」

**【注意事項】**

- ・実験が安全に行えるように十分に注意をする。
- ・実験の内容、日程が変更することがあります。
- ・授業時間が延長することもあります。
- ・実験内容によって授業以外にも測定等を行うことがあります。

**食品学実験 a**

奈良 一寛

3年 後期 1単位 3時限連続 隔週

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

**【授業のテーマ】**

健康で豊かな食生活を送るためには、食品に関する正しい知識の習得が重要である。本授業では、化学実験を行ううえでの注意事項や実験で使用する試薬や器具の取り扱い方法から説明し、定性・定量実験などを通して、食品成分の化学的特性について広く理解できるように講義する。

**【授業における到達目標】**

実験や観察を通して、基礎的な実験操作が正確にできるようになるとともに、実験の目的や理論を理解し、実験方法や結果および考察がきちんとまとめられるようになる。また、実験に使用した食品における特性や成分の化学的特性についても理解を深め、食品に関する正しい知識を説明できるようになることを目標とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス  
実験に関する注意点、実験器具の基本操作
- 第2週 食品の成分分析（1）  
①溶液の調製 ②糖度の測定 ③pHの測定
- 第3週 食品の成分分析（2）  
①糖質の定性 ②アミノ酸・タンパク質の定性
- 第4週 食品の成分分析（3）  
①糖質の定量
- 第5週 食品の成分分析（4）  
①たんぱく質の分離 ②たんぱく質の定量
- 第6週 食品の成分分析（5）  
①有機酸の定量
- 第7週 食品の成分分析（6）  
①酵素の働き ②酵素活性の測定
- 第8週 食品の成分分析（7）  
①飲料中のタンニン定量 ②タンニンの働き

**【事前・事後学修】**

【事前学修】実験内容を理解するために事前に教科書の該当部分をよく読んで予習すること。専門用語等は調べておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】実験の課題レポートはきちんと作成し、期限も守って提出すること。レポート作成の際に、疑問点は教科書で復習すること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

適宜プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

実験の課題レポート50%、実験への取り組み姿勢50%  
課題およびレポートについては次回授業にて解説を行う。

**【注意事項】**

白衣、上履きを着用すること。長髪は束ねておくこと。

**食品学実験 a**

奈良 一寛

2年 前期 1単位 3時限連続

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

**【授業のテーマ】**

健康で豊かな食生活を送るためには、食品に関する正しい知識の習得が重要である。本授業では、化学実験を行ううえでの注意事項や実験で使用する試薬や器具の取り扱い方法から説明し、定性・定量実験などを通して、食品成分の化学的特性について広く理解できるように講義する。

**【授業における到達目標】**

実験や観察を通して、基礎的な実験操作が正確にできるようになるとともに、実験の目的や理論を理解し、実験方法や結果および考察がきちんとまとめられるようになる。また、実験に使用した食品における特性や成分の化学的特性についても理解を深め、食品に関する正しい知識を説明できるようになることを目標とする。

**【授業の内容】**

- 第 1 週 ガイダンス 実験に関する注意点、実験器具の基本操作
- 第 2 週 基礎実験 (1) 溶液の調製、糖度の測定
- 第 3 週 基礎実験 (2) 食品のpH、緩衝液のpH変化
- 第 4 週 基礎実験 (3) 比色分析
- 第 5 週 食品の成分分析 (1) 糖質の定性
- 第 6 週 食品の成分分析 (2) アミノ酸・たんぱく質の定性
- 第 7 週 食品の成分分析 (3) 糖質の定量
- 第 8 週 食品の成分分析 (4) たんぱく質の定量
- 第 9 週 食品の成分分析 (5) 有機酸の定量
- 第 10 週 食品の成分分析 (6) 酵素活性の測定
- 第 11 週 食品の成分分析 (7) 色素成分の抽出と確認
- 第 12 週 食品の成分分析 (8) 食品の褐変反応
- 第 13 週 食品の成分分析 (9) 飲料中のタンニンの定量
- 第 14 週 食品の成分分析 (10) 食品の機能性
- 第 15 週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】実験内容を理解するために事前に教科書の該当部分をよく読んで予習すること。専門用語等は調べておくこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】実験の課題レポートはきちんと作成し、期限も守って提出すること。レポート作成の際に、疑問点は教科書で復習すること。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

適宜プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

実験の課題レポート50%、実験への取り組み姿勢50%  
課題、レポートは次回授業で解説を行う。

**【注意事項】**

白衣、上履きを着用すること。長髪は束ねておくこと。



**食品学実験 b**

杉山 靖正

2年 後期 1単位 3時限連続 隔週

○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

食品は様々な成分で構成されており、その成分量を正しく理解することは健やかな食生活を送る上で重要です。そこで本授業では日常的によく見られる食品を試料とし、各成分の分析方法について学修します。

**【授業における到達目標】**

分析データを解析し結果について考察することを通じて、自己成長する力（研鑽力）のうち特に深い洞察力を養うことを目標とします。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス・定量分析  
①試薬調製 ②中和滴定
- 第2週 食品の成分分析（1）  
タンパク質の定量
- 第3週 食品の成分分析（2）  
直接還元糖の定量
- 第4週 食品の成分分析（3）  
全糖の定量
- 第5週 食品の機能性成分分析  
抗酸化活性の測定
- 第6週 食品の成分分析（4）  
水分、灰分
- 第7週 食品の成分定性

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 予習のための小レポートに取り組むこと。  
(学修時間 週2時間)

【事後学修】 実験レポート作成にあたり、実験原理等についてよく復習すること。  
(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

プリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

実験ノート20%、レポート50%、実験への取り組み姿勢30%  
採点した実験ノートおよびレポートを返却することでフィードバックします。

**【参考書】**

参考資料については、授業中に紹介します。

**食品学実験 b**

杉山 靖正

2年 前期 1単位 3時限連続 隔週

○：研鑽力、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

食品は様々な成分で構成されており、その成分量を正しく理解することは健やかな食生活を送る上で重要です。そこで本授業では日常的によく見られる食品を試料とし、各成分の分析方法について学びます。

**【授業における到達目標】**

分析データを解析し結果について考察することを通じて、自己成長する力（研鑽力）のうち特に深い洞察力を養うことを目標とします。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス・定量分析  
①試薬調製 ②中和滴定
- 第2週 食品の成分分析（1）  
タンパク質の定量
- 第3週 食品の成分分析（2）  
直接還元糖の定量
- 第4週 食品の成分分析（3）  
全糖の定量
- 第5週 食品の機能性成分分析  
抗酸化活性の測定
- 第6週 食品の成分分析（4）  
水分、灰分
- 第7週 食品の成分定性

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 予習のための小レポートに取り組むこと。

（学修時間 週2時間）

【事後学修】 実験レポート作成にあたり、実験原理等についてよく復習すること。

（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

実験ノート20%、レポート50%、実験への取り組み姿勢30%  
採点した実験ノートおよびレポートを返却することでフィードバックします。

**【参考書】**

参考資料については、授業中に紹介します。

## 食品学特別演習B

秋田 修

食物栄養学専攻 後期 2単位

### 【授業のテーマ】

醸造発酵食品は多様な風味を有しており、食生活を豊かにするとともに、多くの機能性を有し健康を支える食品としても注目されている。醸造発酵食品製造に関わる微生物の特性を活かすためには、生化学的、分子生物学的、代謝工学的視点で微生物を理解する必要がある。食品学特別演習Bでは、醸造発酵食品製造に使用される乳酸菌、酵母、麹菌に関する科学論文の読解を行い、自然科学領域における研究手法、研究結果の解析と体系的な理論化について学ぶ。

### 【授業における到達目標】

実践的演習により、学会誌に投稿する科学論文の執筆、学位請求論文の執筆のために必要な資質を身に付けることを目標とする。

### 【授業の内容】

- 第1回 乳酸菌の特性と代謝に関する論文の読解
- 第2回 乳酸菌発酵食品の機能性に関する論文の読解（1）  
プロバイオティクス（整腸効果等）
- 第3回 乳酸菌発酵食品の機能性に関する論文の読解（2）  
プロバイオティクス（アレルギー軽減効果等）
- 第4回 酵母の特性と代謝に関する論文の読解
- 第5回 酵母の代謝工学と育種に関する論文の読解（1）  
香気生成に関する分子育種に関する研究
- 第6回 酵母の代謝工学と育種に関する論文読解（2）  
味覚成分生成に関する分子育種に関する研究
- 第7回 酵母ゲノムと醸造用酵母の特性に関する論文の読解（1）  
実験室酵母との比較解析
- 第8回 酵母ゲノムと醸造用酵母の特性に関する論文の読解（2）  
清酒酵母の特性に関する解析結果
- 第9回 麹菌の代謝工学と育種に関する論文の読解（1）  
酵素生産に関する分子生物学的解析
- 第10回 麹菌の代謝工学と育種に関する論文の読解（2）  
2次代謝産物生産に関する分子生物学的解析
- 第11回 麹菌のゲノム解析による麹菌の特性に関する論文の読解
- 第12回 研究課題に関する文献調査結果の取りまとめ
- 第13回 文献調査結果と研究課題の関連性の考察
- 第14回 研究課題の展望に関する論考
- 第15回 総合討論

### 【事前・事後学修】

【事前学修】 授業で使用する講読用の論文を講義時まで読み、内容を把握し発表資料として取りまとめること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 講義で読解した論文の内容を整理・要約してレポートとして提出すること。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

各回で用いる論文読解用の論文を指定する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

論文読解に対する取組50%、最終レポート50%で評価する。レポートを評価採点して返却する。

### 【参考書】

開講時及び適宜参考文献等を紹介する。

### 【注意事項】

授業の内容は受講者の博士論文研究課題の内容によって適宜変更することがある。

## 食品学特別演習C

山崎 壮

食物栄養学専攻 前期 2単位

### 【授業のテーマ】

食品の機能は、医薬品のような強い生理作用は期待できないが、長期間の食事習慣による健康維持・増強を期待できるので、機能性食品の開発や利用が積極的に進められている。その一方で、消費者側も製造者側も、機能性食品の特性と有効性および利用方法について科学的根拠に基づく理解が必要である。

食品学特別演習Cでは、国が有効性と安全性を確認して許可している特定保健用食品および機能性の作用メカニズムの解析が行われている食品（機能性表示食品など）を題材にして、機能性食品の作用機序、有効性、安全性に関する学術論文の読解を行い、機能性食品の研究手法と解析・実証方法および学術論文執筆の知識を学ぶ。

### 【授業における到達目標】

機能性食品の有効性・安全性に係わる研究を行う大学院生を授業対象とし、機能性食品の研究手法と解析・実証方法を理解できるようになり、この分野の学術論文を読みこなせることをめざす。さらには、機能性食品に関する科学的に正しい情報を消費者に提供できる専門家としての知識と技能を修得することをめざす。

### 【授業の内容】

(1) 主要な保健の用途の機能性食品の科学的根拠となっている学術論文の読解

- 第1週 血圧を保健の用途とする機能性食品の作用機序に関する論文読解（1） 有効成分：オリゴペプチド
- 第2週 血圧を保健の用途とする機能性食品の作用機序に関する論文読解（2） オリゴペプチド以外の有効成分
- 第3週 血圧を保健の用途とする機能性食品のヒトでの有効性・安全性に関する論文読解
- 第4週 血中コレステロールを保健の用途とする機能性食品の作用機序に関する論文読解
- 第5週 血中コレステロールを保健の用途とする機能性食品のヒトでの有効性・安全性に関する論文読解
- 第6週 血中中性脂肪・体脂肪を保健の用途とする機能性食品の作用機序に関する論文読解（1） 有効成分：茶カテキン
- 第7週 血中中性脂肪・体脂肪を保健の用途とする機能性食品の作用機序に関する論文読解（2） 有効成分：多価不飽和脂肪酸
- 第8週 血中中性脂肪・体脂肪を保健の用途とする機能性食品の作用機序に関する論文読解（3） 有効成分：脂肪の吸収を阻害する成分

- 第9週 血中中性脂肪・体脂肪を保健の用途とする機能性食品のヒトでの有効性・安全性に関する論文読解
- 第10週 血糖値を保健の用途とする機能性食品の作用機序に関する論文読解 有効成分：糖の吸収を阻害する成分
- 第11週 血糖値を保健の用途とする機能性食品のヒトでの有効性・安全性に関する論文読解

(2) 履修者による機能性食品の科学的根拠のレビュー（最終レポートの作成）

- 第12週 機能性食品の有効性・安全性に関する文献調査結果の発表
- 第13週 文献調査結果の考察および履修者の研究課題との関連性の考察
- 第14週 研究課題の展開に関する論考
- 第15週 最終レポートに関する総合討論

### 【事前・事後学修】

(1) 授業期間前半：授業で読む論文を事前に読み、授業で質問や討論ができるように準備する。その際、栄養成分の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）に関する基本事項を事前に学習する。（学修時間：週4～5時間）

(2) 授業期間後半：履修者自身が機能性食品の科学的根拠に関して調査を行い、レビューする。授業での議論を踏まえて、必要な追加調査を行う。（学修時間：週4～5時間）

**【テキスト・教材】**

各週で用いる論文解読用の論文を授業時に指定する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

論文解読に対する取組み50%、最終レポート（第15回授業時に提出）50%で総合評価する。最終レポートは、第15回授業内で講評する。

**【参考書】**

開講時および適宜、参考文献等を紹介する。

## 食品学特論A

奈良 一寛

食物栄養学専攻 前期 2単位

### 【授業のテーマ】

日本および世界の食料事情にも目を向けながら、農林水産物の特徴や有用性についても理解を深める。また、有効な利用法についても考えていく。さらに、原著論文の購読やそれについてのプレゼンテーションも行い、研究の組み立てや結果の伝え方についても学習する。

### 【授業における到達目標】

基礎および応用研究に加え、食品の高度利用のための専門知識を身につける。また正しい情報を社会に発信する能力も修得する。

### 【授業の内容】

- 第 1 週 世界の食料事情
- 第 2 週 日本の食料事情
- 第 3 週 農産食品とその利用
- 第 4 週 林産食品とその利用
- 第 5 週 水産食品とその利用
- 第 6 週 畜産食品とその利用
- 第 7 週 食品の加工技術と保蔵技術
- 第 8 週 食品成分の健康機能
- 第 9 週 関連論文の購読・発表・討論（農産食品）
- 第 10 週 関連論文の購読・発表・討論（林産食品）
- 第 11 週 関連論文の購読・発表・討論（水産食品）
- 第 12 週 関連論文の購読・発表・討論（畜産食品）
- 第 13 週 関連論文の購読・発表・討論（食品成分の健康機能）
- 第 14 週 論文紹介・発表・討論
- 第 15 週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】資料や論文、関連する内容や専門用語は事前によく調べておく。論文購読および紹介では、発表資料などの準備をする（学修時間 週2時間）

【事後学修】資料や論文についての内容をよく復習し、課題レポートの作成に取り組む（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

適宜資料は配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み（発表姿勢、質疑応答、理解度）50%、課題レポート50%

提出課題レポートについては、次週までに返却し、疑問点や課題について解説を行う。

## 食品学特論B

秋田 修

食物栄養学専攻 前期 2単位

### 【授業のテーマ】

酵母や麹菌等の微生物を利用して製造される発酵食品は多様な風味を有しており、食生活を豊かにするとともに、多くの機能性を有していることから、健康を支える食品としても注目されている。醸造発酵食品製造に関わる微生物の特性を活かした醸造技術について、さらには各種の醸造発酵食品の特性や機能性について講義する。また、論文講読も行う。

### 【授業における到達目標】

修士として求められる食品学に関する高度な知識と研究遂行能力を身につけることを到達目標とする。

### 【授業の内容】

- 第 1 回 醸造発酵食品概論（1）醸造発酵食品の種類と歴史
- 第 2 回 醸造発酵食品概論（2）伝統技術からバイオテクノロジーへ
- 第 3 回 大豆を原料とした発酵食品の科学（1）納豆製造の科学と機能性
- 第 4 回 大豆を原料とした発酵食品の科学（2）味噌醸造の科学と機能性
- 第 5 回 大豆を原料とした発酵食品の科学（3）醤油醸造の科学と機能性
- 第 6 回 乳酸発酵食品製造の科学と機能性
- 第 7 回 食酢醸造の科学と機能性
- 第 8 回 お茶の発酵の科学と機能性
- 第 9 回 アルコール発酵飲料の科学（1）ワイン醸造の科学と機能性
- 第 10 回 アルコール発酵飲料の科学（2）清酒醸造の科学と機能性
- 第 11 回 アルコール発酵飲料の科学（3）蒸留酒製造の科学と機能性
- 第 12 回 アルコール飲料とヒトの健康
- 第 13 回 酵母を利用したバイオテクノロジー
- 第 14 回 麹菌を利用したバイオテクノロジー
- 第 15 回 総合考察とまとめ

### 【事前・事後学修】

醸造発酵食品に関する解説書や総説を事前に読んでおくこと。

事前学修：次回講義の対象食品について調べておくこと。また、講義内容に関連する論文講読も行うので指定された論文を事前に読んでおくこと（学修時間 2時間30分）。

事後学修：講義内容に関係する課題のレポート提出や論文講読の要約の提出を課すことがある（学修時間 1時間30分）。

### 【テキスト・教材】

テキストは指定しない。講義時に講義内容に関する資料を配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

論文購読への取り組み（25%）、受講レポート（25%）、学期末課題レポート（50%）で評価する。受講レポート、学期末課題レポートは評価採点して返却する。

### 【参考書】

各講義内容を理解するための参考となる図書や論文をその都度紹介する。

### 【注意事項】

発酵食品そのものに興味を持つだけでなく、発酵食品の歴史や食文化との関わりについても関心を持って講義に臨むこと。

## 食品学特論C

白尾 美佳

食物栄養学専攻 前期 2単位

### 【授業のテーマ】

食品成分は生命活動を維持するだけでなく、生体を調節する機能もある。そこで、食品に含有される機能性成分の分析や解析はヒトの健康の維持増進、病気の予防等にも貢献する。本特論においては、近年の食品分析ならびに食品機能性成分について講義、文献調査や講読を通して食品の機能性の評価方法について理解することを目的とする。

### 【授業における到達目標】

本講義を通して食品学の研究領域を理解することを目標とする

### 【授業の内容】

- 第1週 食品成分について
- 第2週 特定保健用食品、特別用途食品、機能性表示食品の実際
- 第3週 食品成分の分析 (HPLC、LC-MS)
- 第4週 食品成分の分析 (GC、GC-MS)
- 第5週 食品成分の分析 (CE、NMR)
- 第6週 食品機能性成分と評価試験 (抗酸化等)
- 第7週 食品機能性成分と評価試験 (血圧上昇抑制等)
- 第8週 食品成分分析、機能性成分に関する文献調査
- 第9週 文献講読1 (食品成分、分析)
- 第10週 文献講読1 プレゼンテーション、ディスカッション
- 第11週 文献講読2 (食品機能性成分)
- 第12週 文献講読2 プレゼンテーション、ディスカッション
- 第13週 食品分析機関の見学
- 第14週 機能性食品関連企業の見学
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】各シラバスの内容について文献、書籍等で調べておくこと (2時間)

【事後学修】各シラバスごとの関連内容について授業後にまとめておくこと (2時間)

### 【テキスト・教材】

- ・プリント
- ・必要に応じて書籍を紹介します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価の方法：提出課題40%、平常点（授業への積極参加）60%  
フィードバック：各授業後に質問の回答をとおしてフィードバックを行う

### 【参考書】

篠原 和毅 他著『食品機能研究法』光琳 2000年発行 5,724円  
日本食品分析センター 編『栄養表示のための成分分析のポイント』中央法規出版 2007年北郊 4,968円

### 【注意事項】

授業の項目、授業の順番を変更する場合があります。

## 食品鑑別論

杉山 靖正

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

### 【授業のテーマ】

食品を評価するには、食品の本質について考える必要があります。食品の品質基準は、安全性、栄養性、嗜好性、生体調節機能性、商品性など多様です。これらの多様な食品の品質を鑑別するためには、化学的・物理的な分析評価法、官能評価法、さらには食品の品質表示制度など、様々な専門知識を身に付けなければなりません。また、食品に関する情報の真偽を見抜く技量も必要です。その上で個別食品についての鑑別方法を修得します。

### 【授業における到達目標】

食品の基礎知識について学修し、現代の食の問題や消費者としての規範を考えることで、現状を正しく把握し課題を解決する力や広い視野と洞察力を身につけることを目標とします。

### 【授業の内容】

- 第1週 食品を取り巻く諸問題
- 第2週 食品の品質と官能評価の概要
- 第3週 官能評価法の基本と実施法
- 第4週 化学的評価法（1）食品成分と品質
- 第5週 化学的評価法（2）様々な化学的品質評価法
- 第6週 物理的評価法
- 第7週 食品の鮮度と劣化
- 第8週 個別食品の鑑別技術 穀類・豆類・野菜類
- 第9週 個別食品の鑑別技術 海藻類・魚介類
- 第10週 個別食品の鑑別技術 肉類・卵
- 第11週 個別食品の鑑別技術 乳と乳製品・油脂
- 第12週 個別食品の鑑別技術 酒類・醸造食品
- 第13週 個別食品の鑑別技術 清涼飲料・茶類・コーヒー・ココア
- 第14週 個別食品の鑑別技術 インスタント食品・冷凍食品・機能性食品
- 第15週 総括

### 【事前・事後学修】

- 事前学修 予習のための小レポートに取り組むこと。  
(学修時間 週2時間)
- 事後学修 配布プリントを利用し、授業内容をよく復習すること。  
(学修時間 週2時間)

### 【テキスト・教材】

(公社) 日本フードスペシャリスト協会編『三訂 食品の官能評価・鑑別演習』(建帛社 2014年) 2,376円  
テキストに加えて、講義時に配布する資料プリントを用いて講義を行います。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験70%、小テスト20%、レポート10%  
小テストおよびレポートは次回の授業、試験は最終回の授業で解説することでフィードバックします。

### 【参考書】

参考資料については、授業中に紹介します。

**食品機能論**

奈良 一寛

4年 前期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

**【授業のテーマ】**

食品には様々な機能があり、それらは一次機能である栄養機能、二次機能である嗜好機能、三次機能である生体調節機能に分けられる。本授業では、食品中に含まれる健康の維持、増進に役立つ各種成分（機能性食品成分）について説明するとともに、その作用機構についても講義する。また機能性食品成分と関連が深い保健機能食品制度についても解説する。

**【授業における到達目標】**

食品に含まれる機能性成分の特徴についての基礎知識を十分に学び、その作用メカニズムについても理解するとともに、食品の表示について関心をもち、保健機能食品制度についても説明できるようになることを目標とする。

**【授業の内容】**

- 第 1 週 食品の機能
- 第 2 週 ミネラルの吸収促進成分
- 第 3 週 血糖上昇抑制成分
- 第 4 週 抗肥満および脂質異常症の予防改善作用成分
- 第 5 週 腸内環境を整える成分
- 第 6 週 骨の健康・骨粗鬆症予防成分
- 第 7 週 歯の健康・う蝕予防成分、中間まとめ
- 第 8 週 抗疲労効果成分
- 第 9 週 活性酸素と抗酸化成分
- 第 10 週 高血圧と高圧作用成分
- 第 11 週 脳・神経系の機能に関する成分
- 第 12 週 免疫と免疫機能活性・調節成分
- 第 13 週 機能性食品の制度
- 第 14 週 総合演習
- 第 15 週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】教科書を事前によく読んで予習すること。専門用語等は調べておくこと。予習課題がある場合はきちんとやり、期日を守り提出すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】毎回の講義内容・小テスト等の復習をすること。疑問点は解消しておくこと。復習課題がある場合はきちんとやり、期日を守り提出すること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

森田英利 編著 『わかりやすい食品機能学』（三共出版 2014年）2,500円+税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

理解度の確認テスト70%、小テスト10%、提出課題20%

小テスト、確認テストは次回授業および最終授業で解説を行う。



**食品機能論**

松岡 康浩

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

食品が持つ3つの機能のうち、3次機能は高次の生命活動を調節する機能として注目されています。管理栄養士には食品の機能性に関する正しい知識が求められます。健康の維持増進など、食品の生体調節機能について、その作用成分および作用機序、学術的根拠について、学術論文の読み方を含め学びます。

**【授業における到達目標】**

管理栄養士資格国家試験「食べ物と健康」に関する知識の習得および我が国の保健機能食品制度における食品機能の位置づけと情報を科学的に見る力を養います。

**【授業の内容】**

- 第1週 食品の機能
- 第2週 食品の表示に関する制度
- 第3週 消化吸収促進機能
- 第4週 血糖値上昇抑制機能
- 第5週 腸内環境調節機能
- 第6週 脂質関連代謝機能
- 第7週 骨・歯その他の機能
- 第8週 科学的根拠について（演習）
- 第9週 抗酸化機能
- 第10週 血圧調節機能
- 第11週 神経系におよぼす機能
- 第12週 免疫系におよぼす機能
- 第13週 安全性と相互作用
- 第14週 機能性研究の紹介と課題 特許
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

事前学修：テキストの該当箇所を通読し、不明な語彙があれば調べておく（学修時間 週2時間）

事後学修：まとめテストの内容を再確認し、分からないところは調べ理解を深める（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

森田英利 田辺創一 編著『わかりやすい食品機能学（第2版）』

（三共出版 2014年）2500円＋税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末試験70%、まとめテストおよび演習30%

まとめテストは採点の上、次週返却し答えあわせを行います。

**【参考書】**

清水俊雄 著 「食品機能の表示と科学」

（同文書院 2015） 3500円＋税

## 食品機能論

奈良 一寛

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

### 【授業のテーマ】

食品には様々な機能があり、それらは一次機能である栄養機能、二次機能である嗜好機能、三次機能である生体調節機能に分けられる。本授業では、食品中に含まれる健康の維持、増進に役立つ各種成分（機能性食品成分）について説明するとともに、その作用機構についても講義する。また機能性食品成分と関連が深い保健機能食品制度についても解説する。

### 【授業における到達目標】

食品に含まれる機能性成分の特徴についての基礎知識を十分に学び、その作用メカニズムについても理解するとともに、食品の表示について関心をもち、保健機能食品制度についても説明できるようになることを目標とする。

### 【授業の内容】

- 第 1 週 食品の機能
- 第 2 週 ミネラルの吸収促進成分
- 第 3 週 血糖上昇抑制成分
- 第 4 週 抗肥満および脂質異常症の予防改善作用成分
- 第 5 週 腸内環境を整える成分
- 第 6 週 骨の健康・骨粗鬆症予防成分
- 第 7 週 歯の健康・う蝕予防成分、中間まとめ（確認テスト）
- 第 8 週 抗疲労効果成分
- 第 9 週 活性酸素と抗酸化成分
- 第 10 週 高血圧と高圧作用成分
- 第 11 週 脳・神経系の機能に関する成分
- 第 12 週 免疫と免疫機能活性・調節成分
- 第 13 週 機能性食品の制度
- 第 14 週 総合演習、確認テスト
- 第 15 週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】教科書を事前によく読んで予習すること。専門用語等は調べておくこと。予習課題がある場合はきちんとやり、期日を守り提出すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】毎回の講義内容・小テスト等の復習をすること。疑問点は解消しておくこと。復習課題がある場合はきちんとやり、期日を守り提出すること。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

森田英利 編著 『わかりやすい食品機能学』（三共出版 2014年）2,500円+税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

理解度の確認テスト70%、小テスト10%、提出課題20%

小テスト、確認テストは次回授業および最終授業で解説を行う。

## 食品物性論

澤山 茂

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

### 【授業のテーマ】

食べ物のおいしさには、味・色・音・温度・テクスチャー（口ざわり）などの様々な化学的性質や物理的性質が影響している。各種食品の調理・加工における変化を食品物性の立場から解説する。

中でも日本の食文化はテクスチャー文化と言われるほど、テクスチャーに敏感である。この講義ではテクスチャーとは何か、テクスチャーをもたらす食品の状態やレオロジー、我々の口中の運動などを説明してテクスチャーについての理解を深め、最後に嚥下困難者食、介護食の解説を行う。

### 【授業における到達目標】

数式を用いなくても食品の物理特性が理解できることを修得する。理解・習得した知識をもとに、学んだ技能が発揮できる応用力を発揮できることを目標にする。フードスペシャリストの資格認定試験の内容に対応した応用力を修得する。学生が習得すべき「研鑽力」のうち広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とする。

### 【授業の内容】

- I. 調理プロセスにおける食品の化学的・物理的变化
  1. 炭水化物を多く含む食品、でん粉類、米
  2. 炭水化物を多く含む食品、小麦粉
  3. 炭水化物を多く含む食品、いも類、豆類
  4. タンパク質を多く含む食品、食肉類
  5. タンパク質を多く含む食品、魚介類
  6. タンパク質を多く含む食品、卵、乳・乳製品
  7. ビタミン・無機質を多く含む食品、野菜類・果実類
- II. 食品物性論
  - 食品の状態とコロイド
    8. コロイドと食品分散系の分類
    9. 乳化とエマルション
    10. ゼルとゲル
  - 食品とレオロジー
    11. 粘性と流動
    12. 弾性および粘弾性体
    13. 大変形の力学的性質
  - 食品のテクスチャー
    14. 食品のテクスチャー
    15. 咀嚼・嚥下困難者食・介護食とテクスチャー

### 【事前・事後学修】

事前学修：講義内容をあらかじめmanabaに掲載するので確認し、予習すること。（学修時間週2時間）

事後学修：理解度を確認する課題を出すので期限までに提出すること。また、授業中に資料を配付するので、必ず受け取る。欠席した場合は、後日必ず受領すること。（学修時間週2時間）

### 【テキスト・教材】

川端晶子著『食品物性学』（建帛社）2,500円+税（1997）

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験およびフードスペシャリスト関連のミニテストを行い、時間内に解説する。別途課題の提出80%、授業態度20%で総合的に評価する。課題は訂正した後再評価を受ける。

### 【参考書】

中濱信子, 大越ひろ, 森高初恵 共著『おいしさのレオロジー』アイ・ケイコーポレーション、『サイコロロジーと咀嚼』建帛社、森友彦、川端晶子編「食品のテクスチャー評価の標準化」光琳磯 直道、水野治夫、小川廣男 共著『食品のレオロジー』成山堂書店

### 【注意事項】

フードスペシャリスト資格認定試験の参考になるのでなるべく受講すること。欠席、遅刻は減点の対象とするが、無遅刻、無欠席は点を加える。

**食品分析学**

杉山 靖正

2年 後期 2単位

○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

日本食品標準成分表は、学校給食、病院給食等の給食管理、食事制限、治療食等の栄養指導に活用されることはもちろん、現代社会の健康志向を背景に一般家庭においても広く利用されるようになってきました。そこで本授業では、日本食品標準成分表に記載されている各成分の分析法について、基礎知識から応用まで学修します。

**【授業における到達目標】**

各成分の分析法の原理を理解し、様々な食品に含まれる成分の分析が行えるようになることを目標としています。また、各分析法の特徴を理解することで、様々な分野への応用についても考察します。本授業では、専門知識の修得のみならず、広い視野と深い洞察力（研鑽力）を身につけることを目標とします。

**【授業の内容】**

- 第1回 食品分析学概論
- 第2回 基礎 (1) 定性分析、定量分析、濃度
- 第3回 基礎 (2) 有効数字、誤差、統計処理
- 第4回 基礎 (3) 比色分析
- 第5回 基礎 (4) クロマトグラフィーの基礎
- 第6回 基礎 (5) クロマトグラフィーの活用（カラム・平板）
- 第7回 基礎 (6) 高速液体クロマトグラフィー
- 第8回 基礎 (7) ガスクロマトグラフィー
- 第9回 水分の分析法
- 第10回 アミノ酸、タンパク質の分析法
- 第11回 脂質の分析法
- 第12回 無機質の分析法
- 第13回 炭水化物、食物繊維の分析法
- 第14回 ビタミンの分析法
- 第15回 まとめと応用

（核磁気共鳴および質量分析等の機器分析について）

**【事前・事後学修】**

事前学修 予習のための小レポートに取り組むこと。

（学修時間 週2時間）

事後学修 配布プリントを利用し、授業内容をよく復習すること。

（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末試験70%、小テスト20%、レポート10%

小テストは次回の授業、試験は最終回の授業で解説することでフィードバックします。

**【参考書】**

参考資料については、授業中に紹介します。

**食品分析学**

杉山 靖正

2年 前期 2単位

○：研鑽力、行動力

**【授業のテーマ】**

日本食品標準成分表は、学校給食、病院給食等の給食管理、食事制限、治療食等の栄養指導に活用されることはもちろん、現代社会の健康志向を背景に一般家庭においても広く利用されるようになっていきました。そこで本授業では、日本食品標準成分表に記載されている各成分の分析法について、基礎知識から応用まで学修します。

**【授業における到達目標】**

各成分の分析法の原理を理解し、様々な食品に含まれる成分の分析が行えるようになることを目標としています。また、各分析法の特徴を理解することで、様々な分野への応用についても考察します。本授業では、専門知識の修得のみならず、広い視野と深い洞察力（研鑽力）を身につけることを目標とします。

**【授業の内容】**

- 第1回 食品分析学概論
- 第2回 基礎 (1) 定性分析、定量分析、濃度
- 第3回 基礎 (2) 有効数字、誤差、統計処理
- 第4回 基礎 (3) 比色分析
- 第5回 基礎 (4) クロマトグラフィーの基礎
- 第6回 基礎 (5) クロマトグラフィーの活用（カラム・平板）
- 第7回 基礎 (6) 高速液体クロマトグラフィー
- 第8回 基礎 (7) ガスクロマトグラフィー
- 第9回 水分の分析法
- 第10回 アミノ酸、タンパク質の分析法
- 第11回 脂質の分析法
- 第12回 無機質の分析法
- 第13回 炭水化物、食物繊維の分析法
- 第14回 ビタミンの分析法
- 第15回 まとめと応用

（核磁気共鳴および質量分析等の機器分析について）

**【事前・事後学修】**

事前学修 予習のための小レポートに取り組むこと。

（学修時間 週2時間）

事後学修 配布プリントを利用し、授業内容をよく復習すること。

（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末試験70%、小テスト20%、レポート10%

小テストは次回の授業、試験は最終回の授業で解説することでフィードバックします。

**【参考書】**

参考資料については、授業中に紹介します。

**食物学**

佐藤 幸子

3年 前期 2単位

○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

食生活を支える食品は、膨大な種類があります。本講座では、食生活の基礎となる「栄養に関する基礎知識」、「食生活を営むための基礎知識」、「日本の食生活の変遷」について、食品の栄養成分、嗜好成分、食品の色素、呈味成分、食品の種類と加工食品等の基礎知識を学び、消費者として実生活で食品を選択できる能力を養います。なお、教職「家庭科」資格を目指す学生の必修科目です。

**【授業における到達目標】**

学生が学修すべき「研鑽力」「行動力」を育成し、専門的な知識および伝統的な食文化として習得すべき「学術的な力」「豊かな教養の力」を取得します。

**【授業の内容】**

- 第1週 食品：種類と分類
- 第2週 食品成分表：五訂増補 日本食品標準成分表
- 第3週 食物中の栄養成分（1）水分、タンパク質
- 第4週 食物中の栄養成分（2）炭水化物、脂質
- 第5週 食物中の栄養成分（3）ビタミン、無機質
- 第6週 食物中の栄養成分（4）嗜好成分、有害成分
- 第7週 食事摂取基準
- 第8週 献立の立て方、調理の基本
- 第9週 食品表示とその購入
- 第10週 日本型食生活
- 第11週 食生活の現状
- 第12週 食生活とライフステージ
- 第13週 食事と生活習慣
- 第14週 食品の機能性
- 第15週 食事カルテ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】manabaからワークシートを印刷して、授業に必要な食に関する情報を予習する。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業における課題をまとめる。（授業後に提出）  
（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

『第2版 食生活 健康に暮らすために』（八千代出版, 2015年）  
2268円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- ・確認試験60%：第15週授業時に理解科度を確認  
（第15週時に評価しフィードバックする）
- ・授業レポート30%授業内容をまとめてレポートを提出  
（次回授業時にフィードバックする）
- ・平常点評価10%真剣な授業態度（授業時にフィードバックする）

**【参考書】**

『新ビジュアル食品成分表 新訂第二版』（㈱大修館出版2016年）  
1000円（税別）

**【注意事項】**

携帯電話は電源をoffにしておく。授業は私語を慎み、集中して、真摯な態度で受講する。

**食物学**

佐藤 幸子

3年 前期 2単位

○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

食生活を支える食品は、膨大な種類があります。本講座では、食生活の基礎となる「栄養に関する基礎知識」、「食生活を営むための基礎知識」、「日本の食生活の変遷」について、食品の栄養成分、嗜好成分、食品の色素、呈味成分、食品の種類と加工食品等の基礎知識を学び、消費者として実生活で食品を選択できる能力を養います。なお、教職「家庭科」資格を目指す学生の必修科目です。

**【授業における到達目標】**

学生が学修すべき「研鑽力」「行動力」を育成し、専門的な知識および伝統的な食文化として習得すべき「学術的な力」「豊かな教養の力」を取得します。

**【授業の内容】**

- 第1週 食品：種類と分類
- 第2週 食品成分表：五訂増補 日本食品標準成分表
- 第3週 食物中の栄養成分（1）水分、タンパク質
- 第4週 食物中の栄養成分（2）炭水化物、脂質
- 第5週 食物中の栄養成分（3）ビタミン、無機質
- 第6週 食物中の栄養成分（4）嗜好成分、有害成分
- 第7週 食事摂取基準
- 第8週 献立の立て方、調理の基本
- 第9週 食品表示とその購入
- 第10週 日本型食生活
- 第11週 食生活の現状
- 第12週 食生活とライフステージ
- 第13週 食事と生活習慣
- 第14週 食品の機能性
- 第15週 食事カルテ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】manabaからワークシートを印刷して、授業に必要な食に関する情報を予習する。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業における課題をまとめる。（授業後に提出）  
（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

『第2版 食生活 健康に暮らすために』（八千代出版, 2015年）  
2268円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- ・確認試験60%：第15週授業時に理解科度を確認  
（第15週時に評価しフィードバックする）
- ・授業レポート30%授業内容をまとめてレポートを提出  
（次回授業時にフィードバックする）
- ・平常点評価10%真剣な授業態度（授業時にフィードバックする）

**【参考書】**

『新ビジュアル食品成分表 新訂第二版』（㈱大修館出版2016年）  
1000円（税別）

**【注意事項】**

携帯電話は電源をoffにしておく。授業は私語を慎み、集中して、真摯な態度で受講する。

**食物学**

佐藤 幸子

3年 前期 2単位

○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

食生活を支える食品は、膨大な種類があります。本講座では、食生活の基礎となる「栄養に関する基礎知識」、「食生活を営むための基礎知識」、「日本の食生活の変遷」について、食品の栄養成分、嗜好成分、食品の色素、呈味成分、食品の種類と加工食品等の基礎知識を学び、消費者として実生活で食品を選択できる能力を養います。なお、教職「家庭科」資格を目指す学生の必修科目です。

**【授業における到達目標】**

学生が学修すべき「研鑽力」「行動力」を育成し、専門的な知識および伝統的な食文化として習得すべき「学術的な力」「豊かな教養の力」を取得します。

**【授業の内容】**

- 第1週 食品：種類と分類
- 第2週 食品成分表：五訂増補 日本食品標準成分表
- 第3週 食物中の栄養成分（1）水分、タンパク質
- 第4週 食物中の栄養成分（2）炭水化物、脂質
- 第5週 食物中の栄養成分（3）ビタミン、無機質
- 第6週 食物中の栄養成分（4）嗜好成分、有害成分
- 第7週 食事摂取基準
- 第8週 献立の立て方、調理の基本
- 第9週 食品表示とその購入
- 第10週 日本型食生活
- 第11週 食生活の現状
- 第12週 食生活とライフステージ
- 第13週 食事と生活習慣
- 第14週 食品の機能性
- 第15週 食事カルテ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】manabaからワークシートを印刷して、授業に必要な食に関する情報を予習する。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業における課題をまとめる。（授業後に提出）  
（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

『第2版 食生活 健康に暮らすために』（八千代出版, 2015年）  
2268円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- ・確認試験60%：第15週授業時に理解科度を確認  
（第15週時に評価しフィードバックする）
- ・授業レポート30%授業内容をまとめてレポートを提出  
（次回授業時にフィードバックする）
- ・平常点評価10%真剣な授業態度（授業時にフィードバックする）

**【参考書】**

『新ビジュアル食品成分表 新訂第二版』（㈱大修館出版2016年）  
1000円（税別）

**【注意事項】**

携帯電話は電源をoffにしておく。授業は私語を慎み、集中して、真摯な態度で受講する。

**食物学**

佐藤 幸子

3年 前期 2単位

○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

食生活を支える食品は、膨大な種類があります。本講座では、食生活の基礎となる「栄養に関する基礎知識」、「食生活を営むための基礎知識」、「日本の食生活の変遷」について、食品の栄養成分、嗜好成分、食品の色素、呈味成分、食品の種類と加工食品等の基礎知識を学び、消費者として実生活で食品を選択できる能力を養います。なお、教職「家庭科」資格を目指す学生の必修科目です。

**【授業における到達目標】**

学生が学修すべき「研鑽力」「行動力」を育成し、専門的な知識および伝統的な食文化として習得すべき「学術的な力」「豊かな教養の力」を取得します。

**【授業の内容】**

- 第1週 食品：種類と分類
- 第2週 食品成分表：五訂増補 日本食品標準成分表
- 第3週 食物中の栄養成分（1）水分、タンパク質
- 第4週 食物中の栄養成分（2）炭水化物、脂質
- 第5週 食物中の栄養成分（3）ビタミン、無機質
- 第6週 食物中の栄養成分（4）嗜好成分、有害成分
- 第7週 食事摂取基準
- 第8週 献立の立て方、調理の基本
- 第9週 食品表示とその購入
- 第10週 日本型食生活
- 第11週 食生活の現状
- 第12週 食生活とライフステージ
- 第13週 食事と生活習慣
- 第14週 食品の機能性
- 第15週 食事カルテ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】manabaからワークシートを印刷して、授業に必要な食に関する情報を予習する。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業における課題をまとめる。（授業後に提出）  
（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

『第2版 食生活 健康に暮らすために』（八千代出版, 2015年）  
2268円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- ・確認試験60%：第15週授業時に理解科度を確認  
（第15週時に評価しフィードバックする）
- ・授業レポート30%授業内容をまとめてレポートを提出  
（次回授業時にフィードバックする）
- ・平常点評価10%真剣な授業態度（授業時にフィードバックする）

**【参考書】**

『新ビジュアル食品成分表 新訂第二版』（㈱大修館出版2016年）  
1000円（税別）

**【注意事項】**

携帯電話は電源をoffにしておく。授業は私語を慎み、集中して、真摯な態度で受講する。



## 食文化と食育

水上 由紀

4年 前期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

ヒトが何をどう食べるのか？を選択する要因には、社会的要因・文化的要因・自然科学的要因など多くの要因がかかっています。

授業では、「ヒトは何を食べてきたか？」「ヒトはどのように食べてきたのか？」について学び、「ヒトは未来では何をどのように食べるのか？」について考えます。そして「次世代に何を伝えるべきか？」について考えます。

### 【授業における到達目標】

1. 食について多角的に捉えることができる。
2. 適切な資料を選択し、活用できる。
3. 自分の考えを論理的に説明できる。

### 【授業の内容】

- 第1週：オリエンテーション、食の機能
- 第2週：何を食べてきたか1（地理）
- 第3週：何を食べてきたか2（宗教・文化）
- 第4週：何を食べてきたか3（歴史）
- 第5週：どのように食べてきたか1（調理道具）
- 第6週：どのように食べてきたか2（環境）
- 第7週：おいしさとはなにか1（感覚器）
- 第8週：おいしさとはなにか2（学習・心理）
- 第9週：おいしさとはなにか3（環境）
- 第10週：食品の付加価値1（健康、美容）
- 第11週：食品の付加価値2（情報）
- 第12週：何をどう食べるのか1（特殊環境）
- 第13週：何をどう食べるのか2（未来）
- 第14週：次世代に何を伝えるべきか
- 第15週：まとめ

### 【事前・事後学修】

授業終了時に詳細を指示します。

事前学修：次回テーマについて資料を作成する。（学修時間週2時間）

事後学修：授業で学んだ内容についてさらに資料を用いて考察し、レポートを作成する。（学修時間週2時間）

### 【テキスト・教材】

プリントおよび参考資料を使用します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート：80%（資料の使い方、論理性 他）

課題は次回授業で使用し、最終回にフィードバックを行う。

授業への取り組み：20%（グループ討論への参加状況 他）

### 【参考書】

授業中に指示します。

### 【注意事項】

食について様々な角度から考えて論理的に結論を導く授業です。日頃から社会問題に関心を持つことで、視野を広げることができます。

## 食文化論

日本の食文化の特徴と魅力

福留 奈美

1年～ 後期 2単位

○：美の探求、研鑽力

### 【授業のテーマ】

2013年12月「和食；日本人の伝統的な食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録され、国内外で日本の食べ物・食文化に対する関心が高まっている。グローバル化が進み異文化交流がますます進む中で、日本の食文化の特徴と独自性は何か、その魅力をどのように他者に伝えることができるのか、再認識する力と自らの言葉で表現し発信する力が次世代に求められている。

### 【授業における到達目標】

本講座では、日本の食文化の特徴と独自性を知り、具体的な事例をあげて、その魅力について自分の言葉で語る力をつけることを目標とする。全学DPのうち、日本の食文化に対する理解を深め多文化比較につなげる「国際的視野」の育成を目指す。また、受動的に解説を聞くだけでなく、自らが学んだことを再認識して再構成するレポート課題に毎回取り組むことで「研鑽力」の能力を高める。

### 【授業の内容】

- 第1週 食文化とは
- 第2週 世界の食文化形成
- 第3週 日本の食文化形成と展開
- 第4週 異文化接触と受容
- 第5週 主食の食文化
- 第6週 副食の食文化
- 第7週 調味料・油脂・香辛料
- 第8週 菓子・茶・酒
- 第9週 和食；日本人の伝統的な食文化について
- 第10週 日本料理の形成と発展
- 第11週 行事と地域の食文化
- 第12週 台所・食器・食卓の文化
- 第13週 日常・非日常の食生活
- 第14週 外食文化の成立と変化
- 第15週 和食文化と食育、まとめ

### 【事前・事後学修】

食文化が関連する分野は非常に多岐にわたるため、準備学修が不可欠となる。テキストを事前に読み、分からない用語や事項について調べ、基礎知識をもって授業にのぞむこと。（週1時間） また各回のテーマについて自分自身の食体験と重ねて考え、毎回提出する感想レポートおよび課題レポートに反映させること。（週3時間）

### 【テキスト・教材】

『日本の食文化 「和食」の継承と食育』  
 編著者 江原絢子 石川尚子  
 著者 大久保洋子、富岡典子、中澤弥子、島崎とみ子、橋爪伸子  
 （アイ・ケイコーポレーション 2016） 2,500円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極参加、感想レポートの提出）60%、課題レポート40%。出席確認をresponで行い、授業に関連する設問を組合わせて結果を授業内で共有する。授業レポートと課題レポートの提出状況と内容を評価する。疑問点や意見抽出のためのアンケートを定期的にmanabaで設定しフィードバックする。

### 【参考書】

『日本料理とは何か』奥村彪生著 農文協 2016  
 『和食と食育—和食のこころを受け継ぎそして次世代へ』熊倉功夫監修、江原絢子編著 2014  
 『伝統食の未来』岩田三代編 ドメス出版 2009  
 『日本料理の歴史』熊倉功夫著 吉川弘文館 2007  
 『和食と日本文化』原田信男著 小学館 2005  
 『講座食の文化 第2巻日本の食事文化』石毛直道監修 農山漁村文化協会 1999

### 【注意事項】

manaba, responで出席確認、各種レポート提出を行う。

## 心理アセスメント法

佐藤 恵美

3年 後期 2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

「こころ」は目に見えず、中に何が入っているか分からないブラックボックスである。この中には、その人間の行動の基礎となる知能、パーソナリティ、態度、適性、モチベーションなどさまざまな要素（個人差）が入っているが、ものさしを当てたり、重さを量ることはできない。このように見えない個人差を測定し、アセスメント（査定、評価）するには、心理測定の方法が必要である。個人差を査定・評価する心理アセスメントは、カウンセリングなどの臨床的場面だけでなく、発達検査、知能検査、職業適性、そして地域、家族におけるアセスメントなど社会の中で多岐に渡って使用されている。本講義では、心理アセスメントの基本的な考え方を理解し、臨床、教育、産業での場面で活用できる実践的なアセスメント方法の習得を通して、客観的な自己分析と自分への理解を深めること、そして他者に対する客観的な能力やパーソナリティの測定から人物理解に対する洞察を深めることを目的とする。

### 【授業における到達目標】

公認心理師に必要とされる心理アセスメントの基本的な考え方と実践的なアセスメント方法の習得から、客観的で多様な視点からの人物理解を行うことができることを目的とする。特に、倫理的観点からアセスメントの目的と原則に基づいてアセスメントの基本的考え方を学ぶ。その後、具体的な実践例として、発達検査、知能検査、職業適性の方法を実践し、理解する。これにより、客観的な自己分析と理解を深めること、社会の中でアセスメント目的に合わせた検査法の立案ができること、さらにアセスメント結果から客観的な他者理解に対する洞察を深めることができることを目的とする。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス：心理アセスメントとは
- 第2週 アセスメントの意義と役割とその歴史
- 第3週 心理アセスメントの目的と倫理規定
- 第4週 心理アセスメントの方法：観察法、面接法、検査法
- 第5週 検査における信頼性と妥当性
- 第6週 心理アセスメントの観点と展開、テストバッテリー
- 第7週 アセスメントにおける記録と報告
- 第8週 知能の理解と知能検査
- 第9週 子どものアセスメント：発達検査と発達の診断
- 第10週 パーソナリティの理解と質問紙法
- 第11週 パーソナリティ検査とアセスメント：投影法、作業検査法
- 第12週 産業場面におけるアセスメントと職業適性
- 第13週 地域、家族におけるアセスメントと危機介入
- 第14週 アセスメントの継続的確認と社会的適応
- 第15週 総括および達成度の確認

### 【事前・事後学習】

事前学習として、授業で指定された章を熟読し、概要と疑問点をまとめること（3時間）。

事後学習として、授業で取り上げたテーマの内容と重要だった点、疑問点を400字程度でまとめ、次回の授業時に提出すること（1時間）。

提出された授業レポートを提出後、授業前に学生の意見や疑問に対し、毎授業で10分程度のフィードバックを行う。

### 【テキスト・教材】

教科書 沼初枝『臨床心理アセスメントの基礎』（ナカニシヤ出版、2009年）2,268円  
適宜プリント配布

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末テスト70%、出席状況と授業態度10%、授業レポート20%  
発表についてはその授業時間に、レポートについては授業最終回にフィードバックします。

心理学 a

菅沼 崇

1年～ 前期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

人の心理現象についての基本メカニズムの解明を目的とする「基礎心理学」に属する各種心理学分野の研究成果を概観し、心理学を学ぶことの意義やその活用方法についての理解を深めます。

【授業における到達目標】

基礎心理学領域の専門知識を身につけます。ディプロマ・ポリシー（DP）との関連：学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質（人間心理の本質）を見抜く力を修得します。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス（授業の流れ）
- 第2週 知覚心理学（視覚特性）
- 第3週 認知心理学1（記憶）
- 第4週 認知心理学2（思考）
- 第5週 学習心理学1（古典的条件づけと道具的条件づけ）
- 第6週 学習心理学2（強化スケジュール、消去、般化）
- 第7週 学習心理学3（社会的学習）
- 第8週 発達心理学1（乳児の発達）
- 第9週 発達心理学2（幼児の発達）
- 第10週 社会心理学1（恋愛観の心理テスト）
- 第11週 社会心理学2（恋愛の心理：錯誤帰属）
- 第12週 社会心理学3（恋愛の心理：コミットメント）
- 第13週 人格心理学1（人格の構造）
- 第14週 人格心理学2（適応機制）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】毎回の授業テーマの内容について、自分なりに調べてまとめておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】毎回の授業後、ノートを振り返って復習しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験（100点満点）の点数より、欠席1回につき5点、遅刻1回につき2点を減じることとします。試験のフィードバックは授業最終回にて行います。

【注意事項】

私語が目立つ者には、評価上のペナルティを課します。

心理学 a

矢野 伸裕

1年～ 前期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

心理学と聞くと、「心の病」「悩みの相談」「心理テスト、性格診断」というようなイメージを抱く人が少なくありません。実際には、学問としての心理学は非常に幅が広く、対象となる研究領域は多岐にわたっています。そのすべてを15回の授業で網羅することは容易ではありません。そこでこの授業では、「心理学入門」として広く浅く心理学を勉強するのではなく、範囲を限定しトピックを絞って少し深く心理学を学びます。

まず、最初の3回では、心理学の基本的な考え方や概念をいくつか学習します。第4回以降では、個人と他者や社会との関わりに関連する心理学のテーマを順次とりあげて、そのような観点から心の働きについて考えていきます。

【授業における到達目標】

心理学の専門用語や概念の知識を習得し、これを用いて人間の行動や社会現象を説明できる。学生が習得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を修得する。

【授業の内容】

- 1 授業全体の説明（ガイダンス）、心理学について
- 2 「情報を処理する人間」という考え方
- 3 頭の中で作り直された世界、進化心理学
- 4 他者がどんな人かを認知する
- 5 他者とのコミュニケーション
- 6 援助行動、攻撃行動
- 7 他者の態度を変える（説得的コミュニケーション）
- 8 自分の態度が変わってしまう（認知的不協和）
- 9 他者や社会からの影響
- 10 集団行動
- 11 他者との関わりと脳
- 12 欲求、欲求不満とストレス
- 13 対人ストレス、第1回小テスト
- 14 社会問題と個人（社会的ジレンマ現象）
- 15 社会問題と個人（社会的ジレンマの対策）、第2回小テスト

授業の進行状況により、上記の各回の内容が一部前後にずれ込むことがあります。番号は取りあげるテーマの順番と考えて下さい。各小テストの実施後、正答の説明を行います。

【事前・事後学修】

事前学修：前回までに学修した専門用語や概念を復習しておくこと（学修時間 週2時間）。

事後学修：学修した概念や理論を、社会の問題や身近な出来事に当てはめて考えながら理解してみる（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

配付資料を使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

2回実施する小テストのうちどちらか、または両方を受験すること。両方受験した場合は高得点のほうをもとに成績を決定する。卒業年次（4年生）の受講者は小テストに替えてレポート課題を選択することも可。小テストは筆記用具以外の持ち込み不可。

第1回小テストの成績は翌週の授業時にフィードバックする。

◎成績評価基準

小テストの得点（100%） または レポート（100%、卒業年次のみ選択可）

【注意事項】

成績評価に関する説明を行うため、初回の授業はできるだけ出席して下さい。

## 心理学 a

日常生活に役立つ心理学入門

岡田 斉

1年～ 前期 2単位

○：研鑽力

## 心理学 b

菅沼 崇

1年～ 後期 2単位

○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

テーマは心理学入門です。心理学とはどういう学問なのか、そして心理学の知識を実際の生活にどう役立てていくのかを考えていきます。心理学の簡単な歴史から始まって、心理学の広がりについて説明します。その次に性格、動機付け、記憶、人間関係、恋愛、カウンセリングなどのトピックスを取り上げ、科学的な方法論に基づく心理学についての理解を深めてもらうだけでなく日常生活にも役立ててもらえることがテーマです。さらに、自己理解に役立ててもらえることを目指し、授業の最初に毎回簡単な心理テストを実施し、皆さん自身に採点してもらい、具体的な研究方法も体験していただきます。授業の最後には皆さんの感想や質問を書いてもらい、必要に応じて適宜フィードバックします。

### 【授業における到達目標】

- 1 心を科学的に研究する方法について理解すること。
- 2 知識として理解するだけでなく自己理解と他者理解にも応用できること。
- 3 全学D Pでは自己や他者の役割を理解し互いに協力して物事を進める能力を伸ばすこと主として関連する。

### 【授業の内容】

- 第1週 心理学とは：心理学の定義
- 第2週 心理学と哲学：デカルトと漫画「ぼのぼの」を通して
- 第3週 心理学にはどのような領域があるのか
- 第4週 性格心理学：あなたの性格を知ろう
- 第5週 性格心理学：性格とはどういうことなのか
- 第6週 動機づけの心理学：ダイエットの心理を通して
- 第7週 記憶の心理学：心理学を生かした上手な勉強法とは？
- 第8週 社会心理学：親しくすることと魅力
- 第9週 社会心理学：好きになることと愛すること
- 第10週 社会心理学：集団心理学、リーダーに従うことと応諾・服従
- 第11週 社会心理学：自己を主張すること、態度変容、偏見
- 第12週 社会的スキル：人とうまく付き合う技能とは
- 第13週 臨床心理学：日常生活に生かすカウンセリングの考え方
- 第14週 臨床心理学：解決志向の心理学とは
- 第15週 全体のまとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：配布された資料・プリントを読み自分なりの見解を考えておいてください。（学修時間 2時間）

事後学修：授業で行ったテストの結果などを見返して次の単元の事前学修に生かしてください。（学修時間 2時間）

### 【テキスト・教材】

こちらで用意したプリントを用います。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末にレポート課題を出します。授業の最初に行う心理テストの結果を提出してもらうことで出席を確認します。レポートの内容70%、平常点30%（授業態度・コメントペーパー）の割合で総合的に評価します。コメントペーパーに関しては全員分ではありませんが皆の役に立ちそうな疑問や意見を抽出しそれに対する私からのコメントを印刷して配布します。

期末のレポートに関してはmanabaによりフィードバックします。

### 【参考書】

授業中に指示します

### 【注意事項】

授業中の教室の静穏な環境を維持するため私語をした場合厳しく注意します。毎回心理テストを行います。これが苦手な人は避けていただいた方がよいです。

### 【授業のテーマ】

基礎心理学において得られた研究成果を現実の諸問題の解決に役立てようとする「応用心理学」に属する各種心理学分野の研究成果を概観し、心理学を学ぶことの意義やその活用方法についての理解を深めます。

### 【授業における到達目標】

応用心理学領域の専門知識を身につけます。ディプロマ・ポリシー（DP）との関連：学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質（人間心理の本質）を見抜く力を修得します。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス（授業の流れ）
- 第2週 臨床心理学1（不適応と精神疾患）
- 第3週 臨床心理学2（心理療法）
- 第4週 健康心理学1（ストレスとは）
- 第5週 健康心理学2（ストレス過程と疾病）
- 第6週 健康心理学3（対人関係と健康）
- 第7週 産業心理学1（リーダーシップとは）
- 第8週 産業心理学2（リーダーシップ：行動論）
- 第9週 産業心理学3（リーダーシップ：状況論）
- 第10週 産業心理学4（消費者の心理）
- 第11週 犯罪心理学1（犯罪の発生過程）
- 第12週 犯罪心理学2（普通の人が悪魔になるとき）
- 第13週 犯罪心理学3（DVD鑑賞）
- 第14週 犯罪心理学4（DVD鑑賞と解説）
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】毎回の授業テーマの内容について、自分なりに調べてまとめておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】毎回の授業後、ノートを振り返って復習しておくこと。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

プリントを使用します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験（100点満点）の点数より、欠席1回につき5点、遅刻1回につき2点を減じることとします。試験のフィードバックは授業最終回にて行います。

### 【注意事項】

私語が目立つ者には、評価上のペナルティを課します。

**心理学 b**

科学としての心理学とは？

**大谷 亮**

1年～ 後期 2単位

○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

レオナルド・ダ・ヴィンチのモナ・リザの絵を思い浮かべて下さい。多くの方は、モナ・リザの顔を思い浮かべることはできて、背景の詳細を思い出すことはできないのではないのでしょうか。また、日本の踏切の遮断機の色は黄と黒なのに対し、海外では、なぜ白と赤が多いのでしょうか。子どもの可能性とは、自分に合った職業や友人とは。これらは全て心理学に係わるトピックスです。

本講義では、心理学で一般的に扱われるテーマについて学習するとともに、科学的な観点から「こころ」を解明することの意味と美しさ、心理学の応用例と問題点について理解することを目標とします。さらに、心理学に関する教養を身に付けることで、受講生皆さんが、より一層人間的な幅を広げ、多角的観点から世界を観るための技量を習得することを目的とします。

**【授業における到達目標】**

- ・心理学を通して、科学の美しさおよび限界を知り、多角的視野と人間的な幅を修得する（美の探求）。
- ・科学の考え方やアプローチを修得し、日常生活において正しく活用する（行動力）。
- ・「無知の知」の重要性を知り、他者を尊重し、豊かな人間関係を構築することができる（研鑽力・協働力）。
- ・科学的観点から、国際化社会の限界を知ることができる（国際的視野）

【この授業を履修して身につく態度・能力】

◎美の探求、行動力 ○研鑽力・協働力、国際的視野

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーションー学問としての心理学ー
- 第2週 心理学史ー哲学から心理学へー
- 第3週 心理学的方法論ー人間解明のアプローチー
- 第4週 感覚・知覚心理学ー五感の不思議ー
- 第5週 認知心理学ー忘却（忘れること）のメカニズムー
- 第6週 学習・教育心理学ー学ぶことの素晴らしさー
- 第7週 発達心理学ー誕生前から青年期ー
- 第8週 発達心理学ー成人期から老年期ー
- 第9週 社会心理学ー集団の影響と魅力的な人間ー
- 第10週 性格心理学ー個人差の素晴らしさー
- 第11週 臨床心理学ー適応と健康の問題ー
- 第12週 産業心理学ー適性と職務満足ー
- 第13週 産業心理学ー安全と安心のための心理学ー
- 第14週 心理学の本質ー心理学は役に立つのか？ー
- 第15週 まとめー学習内容の振り返りー

**【事前・事後学修】**

【事前学修】

毎回提示される課題（社会の問題を心理学的に考える課題）について予習を行って下さい。

（学習時間 週2時間）

【事後学修】

講義で学んだことについて、自分の考えを用紙1枚程度で簡潔にまとめてレポートを提出して下さい。

（学習時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

- ・大谷亮 他編『子どものための交通安全教育入門』（ナカニシヤ出版、2016年出版、定価本体2,000円（税抜））  
→ 講義内の課題に使用します。

・パワーポイント資料をプロジェクターで投影して講義を行います。必要に応じて適宜資料を配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験60%、平常点（授業への積極的参加・レポート提出課題）40

%とします。

受講生皆さんへのフィードバックは、下記の通りとします。

試験：試験後、解答例をmanabaなどに掲載します。

レポート：回収後にコメントをつけて、返答します。

**【参考書】**

講義中に適宜紹介します。

**【注意事項】**

受講生の皆さんと一緒に講義を作り上げたいと思います。正解のない質問をしますので、積極的に発言して下さい。講義の中では、心理学の素材を提供するので、皆さんの手で料理して、心理学を楽しんで下さい。

**心理学 b**  
 臨床心理学と夢見の心理学  
**岡田 斉**  
 1年～ 後期 2単位  
 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

テーマは「夢見と臨床心理学」です。私の研究の専門領域である「夢見」とカウンセリングや精神分析についてのさまざまな最新の心理学的な研究を日常的な体験に照らし合わせながら紹介していきます。前半は臨床心理学について説明します。心の不調の種類とその対応方法について話します。夢見に関しては、睡眠に関わること、夢とは何か、なぜ夢を見るのかといったことを、臨床心理学に関しては精神分析やカウンセリング、心理療法についても簡単に触れます。授業の最初に毎回簡単な心理テストを行います。皆さん自身に採点してもらい、具体的な研究方法も体験していただきます。授業の最後には皆さんの感想や質問を書いてもらい、必要に応じて適宜フィードバックします。全学DPでは協働力、自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めるために必要な人間理解の能力を養う内容になっています。

**【授業における到達目標】**

- 1 心を科学的に研究する方法について理解すること。
- 2 知識として理解するだけでなく自己理解と他者理解にも応用できること。

**【授業の内容】**

- 第1週 臨床心理学とは：定義と歴史
- 第2週 心の不調とは：異常心理学：うつ病、統合失調症など
- 第3週 心の不調とは：異常心理学：その他の精神の不調
- 第4週 心の不調を調べる：心理アセスメント
- 第5週 心の不調を治す：心理療法1 精神分析
- 第6週 心の不調を治す：心理療法2 来談者中心療法
- 第7週 心の不調を治す：心理療法3 認知行動療法
- 第8週 夢の認知心理学1章：夢見とは
- 第9週 夢の認知心理学2章：睡眠時に何が起きているのか？
- 第10週 夢の認知心理学3章：普通の夢はどんな夢？
- 第11週 夢の認知心理学5章：夢を見ている時に名前を呼ぶと？
- 第12週 夢の認知心理学6章：目の見えない方は夢を見るのか？
- 第13週 夢の認知心理学7章：好きな夢を見ることができるようになる？
- 第14週 夢の認知心理学12章：人間性心理学と夢の利用
- 第15週 全体のまとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：前半に関しては初めに配布した資料をよく読み、自らの問題意識を整理しておいてください。後半の夢見に関しては、テキストの授業予定の章を読んでおいてください。（学修時間 週2時間）  
 事後学修：プリントや教科書を見直すこと、授業中に行ったテストの結果などを見直しておいてください。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

岡田斉著『「夢」の認知心理学』（勁草書房）2011年 3132円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末にレポート課題を出します。授業の最初に行う心理テストの結果を提出してもらうことで出席を確認します。レポートの内70%、平常点30%（授業態度・コメントペーパー）の割合で総合的に評価します。コメントペーパーに関しては全員分ではありませんが、皆の役に立ちそうな疑問や意見を抽出しそれに対する私からのコメントを印刷して配布します。  
 期末のレポートに関してはmanabaによりフィードバックします。

**【参考書】**

授業中に指示します。

**【注意事項】**

授業中の教室の静穏な環境を維持するため私語をした場合厳しく注意します。毎回心理テストを行います。これが苦手な人は避けていただいた方がよいです。

## 心理学演習 1

作田 由衣子・佐藤 洋輔

2年 前期 1単位

◎：協働力 ○：国際的視野

## 【授業のテーマ】

臨床心理学・発達心理学・社会心理学など様々な領域の文献を読み、各領域および基本的な論文の構成について学ぶ。さらに、心理学分野で採用されるデータ取得方法や分析方法についての具体的な知識を身に付けることで、学術論文を一通り読めるようになることを目標とする。

## 【授業における到達目標】

自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる。

## 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 臨床心理学概要
- 第3週 発達心理学概要
- 第4週 社会心理学概要
- 第5週 論文の読み方
- 第6週 読んだ論文のまとめ方、資料の作り方
- 第7週 1班目発表
- 第8週 2班目発表
- 第9週 3班目発表
- 第10週 4班目発表
- 第11週 5班目発表
- 第12週 6班目発表
- 第13週 7班目発表
- 第14週 8班目発表
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

事前学修：あらかじめ指定された文献を熟読して授業に臨むこと。

発表する班は、分担を決め、各自の担当する文献の内容をまとめる。(学修時間：週30分)

事後学修：発表で指摘された点を修正する。文献の中でわからなかった用語などを確認する。(学修時間：30分)

## 【テキスト・教材】

資料を配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への積極参加・提出課題 100%

発表の回では、毎回発表後に授業内でフィードバックを行う。

## 心理学演習 2

論文の深い理解を目指す

雨宮 薫

2年 後期 1単位

◎：協働力 ○：国際的視野

## 【授業のテーマ】

論文を理解しながら読むことを目標とする。

文献は心理学についての文献とし、発表班が論文を選定する。

論文の理解として、以下を挙げる。

背景の理解：現在までにわかっていること、まだわかっていないことは何か

実験方法の理解：どのような実験手法・解析手法がありうるのか。

なぜ、この論文ではこの実験手法を使ったのか、

解析方法の理解

結論の理解：結果から何が言えるのか

考察の理解：背景との関連、何が分かって何が未解決であるか。

また、プレゼンテーションをする能力を身に着ける。

背景の理解、実験方法の理解、解析方法の理解、結論の理解、考察の理解を目的とする。

発表班の論文選定については、グループの興味を第一とし、2-6週

の間に、グループで話し合いながら、決定する。選定については、相談は随時行う。

発表班の論文選定については、グループの興味を第一とし、2-6週の間に、グループで話し合いながら、決定する。選定については、相談は随時行う。

## 【授業における到達目標】

論文を理解することを通して、疑問が起こった際に、問題に対する洞察力、問題点の解決に対するプロセスを身に着けることを目標とします。

また、発表を担当することにより、発表までにすべき課題設定と計画力を身に着け、グループワークを通して理解を相互で補完し高めあうすべを身に着けることを目標とします。

発表班の論文選定については、グループの興味を第一とし、2-6週の間に、グループで話し合いながら、決定する。選定については、相談は随時行う。

発表班の論文選定については、グループの興味を第一とし、2-6週の間に、グループで話し合いながら、決定する。選定については、相談は随時行う。

発表班の論文選定については、グループの興味を第一とし、2-6週の間に、グループで話し合いながら、決定する。選定については、相談は随時行う。

発表班の論文選定については、グループの興味を第一とし、2-6週の間に、グループで話し合いながら、決定する。選定については、相談は随時行う。

発表班の論文選定については、グループの興味を第一とし、2-6週の間に、グループで話し合いながら、決定する。選定については、相談は随時行う。

発表班の論文選定については、グループの興味を第一とし、2-6週の間に、グループで話し合いながら、決定する。選定については、相談は随時行う。

発表班の論文選定については、グループの興味を第一とし、2-6週の間に、グループで話し合いながら、決定する。選定については、相談は随時行う。

発表班の論文選定については、グループの興味を第一とし、2-6週の間に、グループで話し合いながら、決定する。選定については、相談は随時行う。

発表班の論文選定については、グループの興味を第一とし、2-6週の間に、グループで話し合いながら、決定する。選定については、相談は随時行う。

発表班の論文選定については、グループの興味を第一とし、2-6週の間に、グループで話し合いながら、決定する。選定については、相談は随時行う。

発表班の論文選定については、グループの興味を第一とし、2-6週の間に、グループで話し合いながら、決定する。選定については、相談は随時行う。

発表班の論文選定については、グループの興味を第一とし、2-6週の間に、グループで話し合いながら、決定する。選定については、相談は随時行う。

発表班の論文選定については、グループの興味を第一とし、2-6週の間に、グループで話し合いながら、決定する。選定については、相談は随時行う。

発表班の論文選定については、グループの興味を第一とし、2-6週の間に、グループで話し合いながら、決定する。選定については、相談は随時行う。

発表班の論文選定については、グループの興味を第一とし、2-6週の間に、グループで話し合いながら、決定する。選定については、相談は随時行う。

発表班の論文選定については、グループの興味を第一とし、2-6週の間に、グループで話し合いながら、決定する。選定については、相談は随時行う。

発表班の論文選定については、グループの興味を第一とし、2-6週の間に、グループで話し合いながら、決定する。選定については、相談は随時行う。

発表班の論文選定については、グループの興味を第一とし、2-6週の間に、グループで話し合いながら、決定する。選定については、相談は随時行う。

発表班の論文選定については、グループの興味を第一とし、2-6週の間に、グループで話し合いながら、決定する。選定については、相談は随時行う。

発表班の論文選定については、グループの興味を第一とし、2-6週の間に、グループで話し合いながら、決定する。選定については、相談は随時行う。



質問内容も評価します。

フィードバックとして、論文の探し方、読み込みについてのアドバイス、現在のトピックの紹介、問題点や疑問についてのアドバイスを適宜行うとともに、最終週にまとめとして発表します。

**【参考書】**

山内 光哉著 「心理・教育のための統計法」 サイエンス社

森 敏昭・吉田 寿夫著 「心理学のためのデータ解析テクニカルブック」 北大路書房

適宜追加する

**【注意事項】**

「心理学演習1」を履修していること。

脳と心を履修していることが望ましい。

**心理学概説**

竹内 美香

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

心理学Psycho・logyは「精神Psyche」を「論理的にlogos」探索することを目的としている。概説では「心理学」の基本すなわち客観的に捉えにくい「心」という対象をどのように科学として扱うべきか知り、変動し続ける人と環境、社会の課題に、主体的に向き合うのに役立つ基本知識を探索する。

**【授業における到達目標】**

1. 客観性や再現可能性が実証的な心理学研究で重視される理由を理解する。
2. 人間が環境との関係性の中で、自己を調整し続ける予測と制御の「生体システム」であることがわかる。
3. 人の心の基本的な仕組みと働きについて概説できる。
4. 新たな知識を創造しようとする態度、生涯を通して自己研鑽し続ける力、人のシステムの美しさを知り、主体的に他者と協働して課題を解決する力を身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週 現代科学と心理学の成り立ち
- 第2週 人の心の基本的な仕組み「感覚の機能」
- 第3週 知覚の心理学
- 第4週 行動の分類 生得性
- 第5週 オペラント型の学習と行動
- 第6週 レスポンデント型の学習と行動
- 第7週 人の記憶機能
- 第8週 認知心理学
- 第9週 動機づけと情動
- 第10週 対人社会心理学1 追従する心
- 第11週 対人社会心理学2 服従する心
- 第12週 対人社会心理学3 説得と好意
- 第13週 臨床発達心理学1 コミュニケーション
- 第14週 臨床発達心理学2 レジリエンスと健康
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】毎回の授業時に「1週間の間に見聞した人間行動に関わる事象」について記述することを求める。メディア情報に目を通してくる。

【事後学修】期日までに書いて提出する形式とする。

【学修に必要な時間】事前・事後学修合わせて毎週4時間程度を要するような課題の取り組みを求める。

**【テキスト・教材】**

鈴木晶夫、竹内美香 共著『心理学入門・快体心書 ～身体と心の基礎と臨床～』川島書店、2,200円(2005年 第3刷以降のもの)

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

最終レポート60%、平常点（提出物や授業ワークシート他でみる取り組み）40%

【フィードバックについて】毎回の授業の冒頭に、前回提出されたシートの中からいくつかの質問や考察を取り上げて解説する。最終レポート後は、manabaの授業評価コメントの場を活用し、今後の学習の方向づけとなるコメントを出す。

**【参考書】**

伊東暁子、竹内美香、鈴木晶夫 著  
『食べる・育てる心理学 食育の基礎と臨床』川島書店

**【注意事項】**

毎回の授業でリアクションシートを提出する。授業を聴いて考えたこと、気がついたことを書く。よい取り組み内容のシートは次の回到教室で紹介し、受講者全員で共有する。

**心理学概説**

松浦 常夫

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

心理学は人間の心や行動を科学的に解き明かそうとしてきましたが、未だにその全貌は明らかになっていません。

この科目では、心理学の基本的な内容について初歩から学び、人間の心の深さ、あいまいさ、複雑さを理解します。

心理学はこころと行動を研究する学問ですが、別の側面からいうと、外界の情報をどう取り入れ、それを脳がどう処理するか、その処理の肉体的な方法がこころや行動と言えます。それを基本にして、様々な種類の心理学を概説していきます。

**【授業における到達目標】**

人間の行動を心理学的に見る目を養い、その背景にある自分自身や他者の心理を少しでも理解できるようになることを目標とします。

ディプロマ・ポリシーとの関連については、知を求める力（態度）、学修を通して自己成長する力（研鑽力）を修得します。

**【授業の内容】**

- 第1週 心理学の分野と考え方—心理学とはどのような学問か。
- 第2週 自己と他者—私たちは自分をどう認知しているでしょうか。また他者とどういう関係にあるのでしょうか。
- 第3週 対人行動—私たちは他者に出会うと、どういった心の働きから他者に対してどういった行動をとるのでしょうか。
- 第4週 性格（パーソナリティ）—私たちは自分や友人の性格を知りたがります。心理検査はその手段の1つです。
- 第5週 ストレスと適応—私たちにストレスはどんな影響を与え、それにどう私たちは適応していくのか。
- 第6週 正常と異常—私たちは社会に適応して生活していますが、不適応になったり、精神障害を発症することもあります。
- 第7週 発達と成長—私たちは一生涯にわたって変化し続けます。その各段階に共通する特徴について学びます。
- 第8週 遺伝と環境—私たちは遺伝と環境の両方の影響を受けています。この2つの力が発達にどう影響するのでしょうか。
- 第9週 刺激と感覚・知覚—私たちは外の世界からの刺激を受け、それを感じることによって様々な情報を得ています。
- 第10週 意識と注意—意識的に注意を払うことによって環境から情報を得ることの意味とメカニズムについて考えます。
- 第11週 記憶と忘却—私たちは学習したことを覚えている一方で、忘れることも多いのです。
- 第12週 知能と能力—知能検査を通じて知能の捉え方、考え方を学びます。
- 第13週 言語と思考—ある課題に出会うと、経験や知識に照らしてみたり、見方を変えたりして、解決を試みますが、これには言語が大きく関わっています。
- 第14週 学習—私たちが色々なことを理解したり、行動したりできるのは、多くの経験を重ねてきたからです。
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修 シラバスを見て予習する（学修時間 週2時間）

事後学修 配布されたプリントを復習する（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

適宜、プリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験60%、平常点（感想文、授業態度）40%

毎授業後の感想文の中に、全員に役立ちそうな質問があれば、それを次回に解説します。

**【参考書】**

できれば心理学の入門書や概論書を1冊買ってください。何でも結構です。例えば、金城辰夫監修 藤岡・山上共編『図説 現代心理学入門 三訂版』（培風館 2006年）2,000円などがあります。

## 心理学概説 1

伊藤 言

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

## 【授業のテーマ】

この授業では、アメリカをはじめ多くの国の心理学概説の講義で標準的に用いられるテキストである『マイヤーズ心理学』にもとづいて、心理学の基礎知識を生き活きと学びます。心理学についての知識や理論をいわゆる「お勉強」として味気なく学ぶのではなく、1. 授業中のミニ実験やリアルタイム調査を通じて心理学的知識を自分自身の生の経験として体感し、2. 心理学の知識や理論が当てはまる日常生活での経験を繰り返し思い出してもらうことを通じて、心理学のレンズを通せば私たちの日常経験や生活を新鮮な形で捉え直せる驚きを伝える授業を目指します。その中で、心理学に関する基礎的な知識を体系的に身につけてください。

## 【授業における到達目標】

私たちが動物から進化した生物学的な存在であること、しかしどのように考えるかに応じて行動を変化させることもできる心理学的な存在であること、また他者の存在や時代・文化などから避けがたい影響を受ける社会的な存在であることを理解し、自らの経験として体感する（美の探究）。そして、自己や他者の「心」について根拠がある形で考えようとしたとき、つねに【生物-心理-社会】の3つの視点から考えられるようになり、自らの人生における課題を心理学の道具立てを通じて捉え直すことができるようになる（研鑽力）。

## 【授業の内容】

- 第1回 心理学概説についてのオリエンテーション
- 第2回 心理学の歴史と方法論
- 第3回 生物学的な存在としての心
- 第4回 脳と心
- 第5回 意識・無意識・注意
- 第6回 心は育ちか？ 遺伝か？（行動遺伝学）
- 第7回 動物から連続する人間の心（進化心理学）
- 第8回 子どもから大人へと発達する人間の心（発達心理学）
- 第9回 一生涯発達し続ける人間の心（生涯発達心理学）
- 第10回 感覚・知覚に共通する原理（感覚・知覚心理学1）
- 第11回 なぜ・どのように見えるのか（感覚・知覚心理学2）
- 第12回 学習はどのように生じるか？1（行動分析学）
- 第13回 学習はどのように生じるか？2（認知と動機づけ）
- 第14回 記憶の仕組み（認知心理学）
- 第15回 まとめ

## 【事前・事後学修】

- ◆事前学修（週2時間）：教科書の熟読（全員）。教科書を発表可能な形でプレゼンテーション形式でまとめ準備すること（指定された発表者）
- ◆事後学修（週2時間）：公開された試験問題を解けるようにする（全員）。小テストのための教科書の復習（全員）。授業時間外に実験や調査への参加、および動画の視聴を求めることがある（全員）

## 【テキスト・教材】

『カラー版マイヤーズ心理学』（マイヤーズ著・村上郁也監訳・西村書店、2015）定価10,260円

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ◆試験70%◆授業への取り組み30%
- （授業内での発表・授業内での発言・提出物や小テストによる予習復習の確認・実験や調査への参加・事前の動画視聴）

## 【注意事項】

毎回その講義の範囲内の試験問題を公開するので必ず復習してください。また指示に従って各回の授業に必要な事前準備・予習を行うよう注意してください。これらを行っているかぎり、単位を取得できるよう配慮します。慣れないうちは大変かもしれませんが、一緒に歩いていきましょう。

## 心理学概説 2

伊藤 言

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

## 【授業のテーマ】

この授業では、アメリカをはじめ多くの国の心理学概説の講義で標準的に用いられるテキストである『マイヤーズ心理学』にもとづいて、心理学の基礎知識を生き活きと学びます。心理学についての知識や理論をいわゆる「お勉強」として味気なく学ぶのではなく、1. 授業中のミニ実験やリアルタイム調査を通じて心理学的知識を自分自身の生の経験として体感し、2. 心理学の知識や理論が当てはまる日常生活での経験を繰り返し思い出してもらうことを通じて、心理学のレンズを通せば私たちの日常経験や生活を新鮮な形で捉え直せる驚きを伝える授業を目指します。その中で、心理学に関する基礎的な知識を体系的に身につけてください。

## 【授業における到達目標】

私たちが動物から進化した生物学的な存在であること、しかしどのように考えるかに応じて行動を変化させることもできる心理学的な存在であること、また他者の存在や時代・文化などから避けがたい影響を受ける社会的な存在であることを理解し、自らの経験として体感する（美の探究）。そして、自己や他者の「心」について根拠がある形で考えようとしたとき、つねに【生物-心理-社会】の3つの視点から考えられるようになり、自らの人生における課題を心理学の道具立てを通じて捉え直すことができるようになる（研鑽力）。

## 【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス・記憶の流動性
- 第2回 思考の仕組み
- 第3回 心と言語
- 第4回 知能
- 第5回 動機づけ1（食に関する動機づけ）
- 第6回 動機づけ2（性に関する動機づけ・動機づけの理論）
- 第7回 感情とはなにか（感情心理学）
- 第8回 幸せになるには？（ポジティブ心理学）
- 第9回 人によって異なる心（パーソナリティ心理学）
- 第10回 性格の正体は？（パーソナリティ心理学2）
- 第11回 他者に左右される心（社会心理学1）
- 第12回 社会に埋め込まれた心（社会心理学2）
- 第13回 メンタルヘルス（臨床心理学1）
- 第14回 精神疾患とセラピー（臨床心理学2）
- 第15回 まとめ

## 【事前・事後学修】

- ◆事前学修（週2時間）：教科書の熟読（全員）。教科書を発表可能な形でプレゼンテーション形式でまとめ準備すること（指定された発表者）
- ◆事後学修（週2時間）：公開された試験問題を解けるようにする（全員）。小テストのための教科書の復習（全員）。授業時間外に実験や調査への参加、および動画の視聴を求めることがある（全員）

## 【テキスト・教材】

『カラー版マイヤーズ心理学』（マイヤーズ著・村上郁也監訳・西村書店、2015）定価10,260円

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 試験70%；授業への取り組み30%（授業内での発表・授業内での発言・提出物や小テストによる予習復習の確認・実験や調査への参加・事前の動画視聴）；フィードバックは後日manabaを通じて行う

## 【注意事項】

毎回その講義の範囲内の試験問題を公開するので必ず復習してください。また指示に従って各回の授業に必要な事前準備・予習を行うよう注意してください。これらを行っているかぎり、単位を取得できるよう配慮します。慣れないうちは大変かもしれませんが、一緒に歩いていきましょう。心理学概説1の履修を必須とします。

## 心理学概論

島崎 敢

1年～ 後期 2単位

○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

人間社会や人間の営みはとても多様で複雑です。そしてその全てに心が関わっているので、心理学には「〇〇心理学」と名がつく様々な分野があります。世の中は解決しなければいけないできごとに溢れていますが、多様な心理学はその殆どに関わることができるとも言えます。

心理学は、心や行動を客観的に捉え、分析し、仕組みを明らかにする学問です。仕組みが明らかになれば、心の問題や、心に起因する問題が解決できるかもしれません。

この授業は「概論」なので、ひとつひとつの〇〇心理学を深く取り上げない代わりに、浅く広く取り上げ、心理学全体の学問体系を俯瞰的に見ることができるように解説を進めます。

「浅く広く」なので、この授業の知識だけでは皆さんがこの先の人生で直面する問題を、心理学の力で解決することはできないかもしれません。でも、どの〇〇心理学を勉強したら良いか、ということはあるようになるはずで。

それぞれのトピックで、抽象的な理論だけではなく、できるだけわかりやすい例をたくさんあげて説明をしようと思っています。

この授業でまずは心理学の入り口のドアを叩いてみて下さい。

### 【授業における到達目標】

多様性の受容や多角的な視点を持つために必要な心理学の各分野の道人的な知識を持ち、自分や社会が抱えている諸問題をどの心理学の知見を使って解決すればよいかわかるようになる。多様な価値観を生成する心のしくみ、相互理解のメカニズムを知ることで、国際的視野を持てるようになる。

自分も含めた人間の感覚や感情や行動の背後にある「物事の真理」を心理学的視点で探究できるようになる。倫理観や人格形成について理解し、その知見を自らの人格形成に役立てることができる。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション 心理学概論の概論
- 第2週 心理学のルーツ 歴史と心理学
- 第3週 感覚・知覚 心の入り口
- 第4週 認知・注意 脳が捉えた世界
- 第5週 記憶 思い出だけじゃない大切な機能
- 第6週 学習 試行錯誤と環境適応
- 第7週 動機づけ やる気のしくみ
- 第8週 感情 喜怒哀楽
- 第9週 発達 赤ちゃんからお年寄りまで
- 第10週 性格 あなたらしさ
- 第11週 臨床 心を救う方法
- 第12週 社会 個人と集団で違う振る舞いをする心
- 第13週 産業・組織 仕事と心理学
- 第14週 心理学研究法 研究事例紹介
- 第15週 まとめとおさらい

### 【事前・事後学修】

事前学修：毎週簡単な「予習課題」を出します。課題内容を書籍やインターネットなどで調べて、まとめてください。

事後学修：毎週簡単な「予習課題」を出します。授業で触れた内容について課題を通じて復習し理解を深めてください。

わからなかったことを積極的に質問して下さい。

事前学修は週2時間、事後学修は週2時間です。

### 【テキスト・教材】

テキストは使わず、スライドを使って進めます。

スライドは紙では配布しませんがダウンロードできるようにします。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

各講義の中で毎回簡単な小テストを実施し、感想や質問も受け付けます。

講義を聞いていればできる問題です。

小テスト40%、宿題（予習課題・復習課題）40%、平常点（授業への積極参加）20%で評価します。

小テストや宿題は正解や良い例を示して、次の週の授業内で解説します。

質問等についても適宜取り上げて解説します。

### 【参考書】

講義中に適宜紹介します。

## 心理学概論

余村 朋樹

1年～ 後期 2単位

○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

心理学が扱う領域は非常に広く、人間に係わるあらゆる分野にわたります。「心理学概論」では、感覚などの人間の基礎的な行動や、集団における人間の相互関係などについて、心理学の主要な基本概念やモデルを概観し、人間と心理学について理解を深めます。単に心理学の知識を習得するだけではなく、心理学的な視点を理解することを目的とします。

### 【授業における到達目標】

学生の皆さんが修得すべき「研鑽力」のうち、人や社会に対して広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる能力を修得することを目標とします。

### 【授業の内容】

- 1 オリエンテーション：心理学とは何か
- 2 視覚
- 3 感覚・知覚
- 4 注意
- 5 記憶
- 6 思考
- 7 感情
- 8 性格
- 9 自己概念
- 10 印象形成
- 11 説得的コミュニケーション
- 12 援助・攻撃行動
- 13 集団
- 14 ケーススタディ
- 15 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：毎回の講義終了時に、次回講義のテーマと内容概略を伝えますので、それに関わる身近な事例（自分の経験や、周囲・社会で起こった出来事など）を探しておいてください。（学修時間：週2時間）

事後学修：授業の内容を振り返り、主な内容を200程度でまとめてください。その際、事前学習で考えた身近な事例について、授業で学んだ心理学の知見を用いて、より深く考察してください。（学修時間：週2時間）

### 【テキスト・教材】

テキストは使用せず、パワーポイントファイルをプロジェクタで投影して授業を行います。その他必要な資料は講義中に適宜配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験80%、平常点（授業への参加態度・授業中の課題提出状況）20%で評価する。

各授業における課題については、次回授業中にフィードバックを行う。

**心理学研究法**

松浦 常夫

3年 前期 2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

心理学は社会科学の1つとして分類されていますが、他の社会科学の分野の学問とは、様々な点で異なっています。研究対象が人の心と行動である点のほかに、研究の方法の違いがあります。この講義では具体的な研究事例を用いながら、あるいは簡単な課題を研究方法を用いて解きながら心理学で用いられる研究方法について概説します。

いくつかの基礎的な心理学の授業を受けた人が、心理学というのはそういった学問であったのかという点を再確認できるような授業を目指します。

**【授業における到達目標】**

心理学、あるいはその背景にある科学に不可欠な研究方法を理解することを目標とします。

この授業では、人や社会の問題を正しく認識するための道具である研究方法を理解し、また実技をすることによって、ある知見の正しさや問題点を探求する態度や、「研鑽力」、「行動力」および「協働力」が養えるようになるはずです。

**【授業の内容】**

- 1 心理学と他の学問分野
- 2 心理学研究の流れと分野
- 3 観察法（実習）
- 4 観察法2（解説）
- 5 質問紙法（実習）
- 6 質問紙法2（解説）
- 7 テスト法（実習）
- 8 テスト法2（解説）
- 9 実験法（実習）
- 10 実験法2（解説）
- 11 面接法
- 12 論文の構成（問題、目的、仮説、方法）と研究倫理
- 13 研究法や論文の目的からみた各種論文の構成・スタイル
- 14 卒業論文
- 15 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修 シラバスを見て予習する。（学修時間 週2時間）

事後学修 配布されたプリントを復習する。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

毎回プリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験50%、小課題20%、感想文・授業態度30%で評価します。

授業後の感想文の中に、皆さんに紹介した方がよい質問等があれば、次回に紹介・回答します。

**【注意事項】**

授業開始後10分以降に入室したり、授業に私語をしたりした場合は、原則的に欠席扱いとします。

## 心理学研究法 1

中山 友則・作田 由衣子

2年 前期 2単位 2時限連続

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

## 【授業のテーマ】

この授業では、心理学の研究法について概観するとともに、統計的データをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学的知識を身につけ、また、基本的な統計資料の読み方やデータの分析に関して理解していく。さらに、心理学の主要な方法の1つである実験計画法について、実習を通して体験的に理解する。

## 【授業における到達目標】

広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる。

## 【授業の内容】

- 第1週 心理学研究法概説  
因果関係を探る一実験室実験法
- 第2週 心を説明するモデルを探る一モデル論的アプローチ
- 第3週 独立変数・従属変数、操作的定義  
信頼性と妥当性
- 第4週 剰余変数の統制と統制群、適切な推論、研究の倫理  
行動から心を探る一観察法①
- 第5週 観察法②：様々な分野での応用例
- 第6週 観察法③：実習
- 第7週 心の特性を探る一心理尺度の構成法  
心の深層を探る一心理検査法
- 第8週 心の脳基盤を探る一生理心理学的研究方法  
動物から人の心を探る一比較心理学的方法  
集団の意見や態度を探る一質問紙調査法
- 第9週 現場から心を探る一エスノメソドロジーと  
グラウンディッド・セオリー  
社会を動かす心を探る一アクションリサーチ
- 第10週 実験計画法とは  
実験計画法実習①：実験の準備①
- 第11週 実験計画法実習②：実験の準備②  
実験計画法実習③：実験の実施①
- 第12週 実験計画法実習④：実験の実施②  
実験計画法実習⑤：実験の解説
- 第13週 統計ソフトの基本操作、データの構成  
データの入力、クリーニング
- 第14週 統計資料の整理①：単純集計  
統計資料の整理②：度数分布、ヒストグラムの作成
- 第15週 主要な記述統計量①ー代表値：平均値、中央値、最頻値  
主要な記述統計量②ー散布度：分散、標準偏差

## 【事前・事後学修】

【事前学修】テキストを熟読して授業に挑むこと（学修時間：週2時間）

【事後学修】その日の授業の復習をすること。授業時間内に提出できなかった課題があれば提出する（学修時間：週2時間）

## 【テキスト・教材】

大山正・岩脇三良・宮埜壽夫著『心理学研究法ーデータ収集・分析から論文作成まで』（サイエンス社 2005年）2,376円

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト・小レポート40%、期末レポート60%  
manabaおよび授業内でフィードバックを行う。

## 【注意事項】

授業の順序を入れ替えることがある。  
演習形式のため、遅刻・欠席のないよう注意すること。  
後期の「心理学研究法2」も履修すること。

## 心理学研究法 2

中山 友則・作田 由衣子

2年 後期 2単位 2時限連続

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

## 【授業のテーマ】

この授業では、心理学の研究法について概観するとともに、統計的データをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学的知識を身につけ、また、基本的な統計資料の読み方やデータの分析に関して理解していく。

## 【授業における到達目標】

広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる。また、学修成果を実感して、自信を創出することができる。

## 【授業の内容】

- 第1週 記述統計量の復習  
無作為抽出、事象の確率
- 第2週 標本から母集団を推測する①：母集団と標本、正規分布  
標本から母集団を推測する②：標本数と誤差
- 第3週 標本から母集団を推測する③：  
検定・推定、不偏性、不偏分散  
統計的仮説検定①：標本と母集団・全数調査と標本調査
- 第4週 統計的仮説検定②：帰無仮説  
統計的仮説検定③：有意水準
- 第5週 区間推定、信頼区間  
クロス集計、平均値の比較
- 第6週 比率の差の検定  
カイ2乗検定（独立性の検定）
- 第7週 t検定①：平均の差の検定  
t検定②：対応のあるt検定
- 第8週 分散分析①：概要  
分散分析②：一要因被験者間
- 第9週 分散分析③：二要因被験者内  
分散分析④：二要因
- 第10週 分散分析⑤：多重比較、交互作用  
主要な記述統計量③：共分散、相関係数
- 第11週 相関係数とその推定・検定  
回帰分析
- 第12週 重回帰分析  
尺度構成（信頼性など）
- 第13週 因子分析  
分析結果のまとめ方、報告の仕方
- 第14週 統計資料の整理①：既存統計資料の収集と読み方  
統計資料の整理②：グラフの読み方
- 第15週 因果関係と相関関係、疑似相関  
心理学研究法と心理学の研究の今後の展開

## 【事前・事後学修】

【事前学修】テキストを熟読して授業に挑むこと（学修時間：週2時間）

【事後学修】その日の授業の復習をすること。授業時間内に提出できなかった課題があれば提出する（学修時間：週2時間）

## 【テキスト・教材】

山田剛史・村井潤一郎著『よくわかる心理統計』（ミネルヴァ書房 2004年）3,024円

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト・小レポート40%、期末レポート60%  
manabaおよび授業内でフィードバックを行う。

## 【注意事項】

授業の順序を入れ替えることがある。  
演習形式のため、遅刻・欠席のないよう注意すること。  
前期の「心理学研究法1」も必ず履修すること。

**心理学実験・実習 1**

中山 友則・未定

2年 後期 2単位 2時限連続

◎：協働力 ○：研鑽力、行動力

**【授業のテーマ】**

心理学は科学であり、客観的な方法を用いてデータを得ることが必要となる。そのため、心理学では研究方法を洗練してきた。実験・実習1では心理学における代表的・古典的な課題（主に、実験法、調査法による課題）を体験し、心理学が開発・洗練してきた方法を、自ら課題を体験することにより学ぶことを目的とする。また、実際に体験した課題における反応をデータとして収集、分析し、その客観的なデータを根拠に、なぜそうした結果が得られたのか、得られた結果から人間のこのころに関して何が言えるのかを考えることを行っていく。それらを課題ごとにレポートとしてまとめることで、データの整理方法、統計処理、科学的な思考能力、情報発信時のルールやマナーについても学ぶことを目的とする。

**【授業における到達目標】**

心理学における研究手法に関する基本的な実験を体験することを通して、研究方法の基礎を修得し、「研鑽力」「行動力」「協働力」を身につける。実習では時には研究者、時には参加者の立場で行い心理学研究における両者の立場の違い、倫理性や留意点を理解する（協働力）。同時に、実験的技法・実証的手法の体系的な知識を得て今後に向けての研究する力を養う（行動力）。さらに、実習で得られたデータを思考やディスカッションを通じて分析・考察し、レポートにまとめる力を身につける（協働力）。そして広く情報を分析する力や、自身の考えを発信する力を修得する（研鑽力）。

**【授業の内容】**

- 第1回 ガイダンス、レポートの書き方
- 第2回 ミュラー・リヤー錯視
- 第3回 触2点閾の測定
- 第4回 重量弁別閾、重さの感覚尺度
- 第5回 大きさの恒常性
- 第6回 仮現運動
- 第7回 一対比較法
- 第8回 レポートの書き方
- 第9回 ポリグラフ
- 第10回 脳波・事象関連電位
- 第11回 反射・反応時間
- 第12回 社会的態度尺度の構成
- 第13回 イメージの測定
- 第14回 行動観察
- 第15回 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 前回の授業で修得した内容を復習して授業に臨むこと（学修時間 週2時間）。

【事後学修】 授業内容をふまえて、また、その回の実習内容に関連する文献を読み、レポートを作成し、提出すること（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

大山正・岩脇三良・宮埜壽夫著『心理学研究法—データ収集・分析から論文作成まで』（サイエンス社 2005年）2,376円

なお、各回の実習内容に関しては主にプリントを配布・使用する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート100%（毎回レポートを提出すること）。第8回を中心にレポートに関するフィードバックを行う。

**【参考書】**

齋藤美穂（編）『事例による認知科学の研究法入門：Rコマンドの活用法と論文の書き方』（東京大学出版会 2013年）3,024円

**【注意事項】**

演習形式のため、遅刻・欠席のないよう注意すること。  
授業の順序を入れ替えることがある。

**心理学実験・実習 2**

中山 友則・未定

3年 前期 2単位 2時限連続

◎：協働力 ○：研鑽力、行動力

**【授業のテーマ】**

実験・実習1に引き続き、心理学における研究手法（実験法・調査法）の基礎を修得する。そのため、心理学における代表的・古典的な課題を経験するとともに、得られたデータを分析・考察してレポートに毎回まとめることを通じて、データの整理方法、統計処理、科学的な思考能力、情報発信時のルールやマナーについて体系的な知識を確実に身につける。

**【授業における到達目標】**

心理学における研究手法（実験法・調査法）の基礎を修得する。そして、「心理学実験・実習1」の学修をふまえて、「研鑽力」「行動力」「協働力」を身につける。具体的には、実験を行い、データを得る際にはグループ単位で動くことが多いこと、データは履修者全体のデータを取りまとめることからデータの取り扱い方を修得する（協働力）。また、実験の基礎を修得することで、自身で研究を探し、読み、理解すること、そこから問題意識を持ち研究計画を立てられる力を身につける（行動力）。さらに、実習で得られたデータを思考やディスカッションを通じて分析・考察し、レポートにまとめる力、情報発信の力を身につける（研鑽力）。

**【授業の内容】**

授業の内容

- 第1回 ガイダンス、レポートの書き方
- 第2回 面接の基礎技法：相談面接
- 第3回 調査面接
- 第4回 事象見本法
- 第5回 短期記憶・系列効果
- 第6回 ストループ効果：認知的葛藤
- 第7回 鏡映描写：学習の転移
- 第8回 レポートの書き方、心理器具の理解
- 第9回 印象形成
- 第10回 社会的手抜き
- 第11回 囚人のジレンマゲーム
- 第12回 性格検査質問紙法：TEG
- 第13回 性格検査作業検査法：内田クレペリン
- 第14回 性格検査投影法：PFスタディ
- 第15回 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 前回の授業で修得した内容を復習して授業に臨むこと（学修時間 週2時間）。

【事後学修】 授業内容をふまえて、また、その回の実習内容に関連する文献を読み、レポートを作成し、提出すること（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

大山正・岩脇三良・宮埜壽夫著『心理学研究法—データ収集・分析から論文作成まで』（サイエンス社 2005年）2,376円

なお、各回の実習内容に関しては主にプリントを配布・使用する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート100%（毎回レポートを提出すること）。また、取り組んでいた点やつまづきがちだった点についてフィードバックを行う。

**【参考書】**

齋藤美穂（編）『事例による認知科学の研究法入門：Rコマンドの活用法と論文の書き方』（東京大学出版会 2013年）3,024円

**【注意事項】**

演習形式のため、遅刻・欠席のないよう注意すること。  
授業の順序を入れ替えることがある。



## 心理学実験実習 I

粟津 俊二・白野 陽子

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

心理学では、調査や実験、観察など様々な方法によってデータを集め、実証的に思考を進めます。この授業では、著名な実験や調査を追試し、心理学における実験や調査の流れを体験してもらいます。具体的には、実験・調査によってデータを収集し、収集したデータを統計的な知識も利用して処理し、その結果を解釈し、実証科学的な報告書を作成するという流れを経験して頂きます。

## 【授業における到達目標】

実際の体験を通して、心理的な事象を扱うための実験・調査を計画・実施し、実証的に報告ができるようになることが目標です。あわせて、関連する心理学的な知識、情報機器の使用、統計に関する基礎的な知識の修得も目指します。

このような活動を通して、学修を続ける自己研鑽力、課題解決のために主体的に行動する行動力、他者と協働する力の育成を目指します。

## 【授業の内容】

1. ガイダンス
2. レポートの書き方
3. 記憶1 短期記憶容量
4. 記憶2 系列位置効果
5. 性格
6. 判断
7. 知覚
8. 錯視
9. 言語の影響
10. 知覚運動学習1 ベースライン測定
11. 知覚運動学習2 学習効果
12. 対人行動
13. 社会的行動
14. 心理学論文の書き方
15. 総括

## 【事前・事後学修】

2週間に1回、半期5本のレポートの提出を求めます。「レポートの書き方」の回をよく見直し、専門用語等も調べて書いて下さい。(学修時間 週4時間程度)

## 【テキスト・教材】

指定しません。関連する文献を適時紹介します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実習への参加態度(10%)、レポートの内容(90%)をもとに評価します。

実験への取り組み方や参加態度は、その都度コメントします。レポートの基準は、「レポートの書き方」の回に説明します。提出されたレポートは担当教員が確認、添削を行った後に、返却します。基準に満たないレポートは再提出を求めます。

## 【参考書】

- ・B.フィンドレイ「心理学実験 研究レポートの書き方」北大路書房
- ・木下是雄「理科系の作文技術」中公新書
- ・心理学実験指導研究会「実験とテスト 心理学 基礎編」「解説編」培風館
- ・無藤隆、森俊昭、遠藤由美、玉瀬耕治「心理学」有斐閣

## 【注意事項】

1クラス上限30名とし、これを超えた場合は抽選を行います。実習ですので、講義科目に比べるとかなりハードですが、終了時には多くのことが身に付いています。

## 心理学実験実習 II

粟津 俊二・白野 陽子

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

心理学では、調査や実験、観察など様々な方法によってデータを集め、実証的に思考を進めます。この授業では心理学実験実習 I をさらに発展させ、古典的、著名な実験や調査を元に、みなさんが実験や調査を企画、設計、実施し、プレゼンテーションとレポートによって報告してもらいます。

## 【授業における到達目標】

心理学実験実習 I で学習した内容をさらに発展させ、自ら実験・調査をデザインし、文献を調べ、結果を分析し、心的事象について考える能力を伸ばすことが目標です。あわせて、関連する心理学的な知識、情報機器の使用、統計に関する基礎的な知識の修得も目指します。このような活動を通して、学修を続ける自己研鑽力、課題解決のために主体的に行動する行動力、他者と協働する力の育成を目指します。

## 【授業の内容】

1. ガイダンス
2. コミュニケーション1 (デモ実験)
3. コミュニケーション2 (実験準備)
4. コミュニケーション3 (実験実施)
5. コミュニケーション4 (発表)
6. 記憶1 (デモ実験)
7. 記憶2 (実験準備)
8. 記憶3 (実験実施)
9. 記憶4 (発表)
10. 自由課題1 (テーマ決定)
11. 自由課題2 (実験時準備)
12. 自由課題3 (実験実施)
13. 自由課題4 (発表)
14. レポートのフィードバック
15. 総括

## 【事前・事後学修】

実験の計画、準備、実施、データ分析、発表準備、レポート執筆を行って下さい。平均して4週間に1回の発表及びレポート提出を求めます。また、基準に満たないレポートは再提出が必要です。学習時間 週4時間程度

## 【テキスト・教材】

指定しません。関連する文献等を、適時紹介します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み方(30%)、発表内容(10%)、レポートの内容(60%)をもとに評価します。取り組み方や発表内容については、その都度コメントを与えます。レポートは、心理学実験実習 I で説明した基準にもとづいて評価とフィードバックを行います。

## 【参考書】

- ・B.フィンドレイ「心理学実験 研究レポートの書き方」北大路書房
- ・木下是雄「理科系の作文技術」中公新書
- ・心理学実験指導研究会「実験とテスト 心理学 基礎編」「解説編」培風館
- ・無藤隆、森俊昭、遠藤由美、玉瀬耕治「心理学」有斐閣

## 【注意事項】

内容的に、心理学実験実習 I を履修済みであることが求められます。1クラス30名を上限として、これを超える場合は抽選を行います。

## 心理学統計法

粟津 俊二

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

心理学は人間の行動や思考、人格などを理解しようとする。しかし心理学を学んでいなくとも、私達は日頃から他者の人柄や行動について考え、理解しようとしている。学問としての心理学と日常的な人間判断との違いは、客観的なデータに基づき、知識があれば誰もが納得できるプロセスで、判断するかどうかにある。このための思考方法の一つが、統計学であり、心理学でも統計学的思考を多用する。この授業では、統計に関する基礎知識、数値として得られたデータを解釈する手法、特に、限られた人数からわかったことをそれ以外の人にも拡大してよいかどうか判断する手法（統計的検定）を扱う。

### 【授業における到達目標】

心理学で用いられる統計手法と、基礎的な統計知識を習得し、心理的な事象についてデータを用いて実証的に考えるられることを目的とする。これにより、人間の多様性を受容する態度や物事の心理を探究しようとする態度、また現状を正しく把握し、本質を見抜く能力の育成にも貢献することを目指す。

### 【授業の内容】

1. ガイダンス-母集団と標本
2. 統計の基礎-基本統計量
3. 標準化1-z値と偏差値
4. 標準化2-標準正規分布
5. 推測統計の基本1-母数の推定と標準誤差
6. 推測統計の基本2-区間推定と検定の導入
7. 検定の原理1-確率と二項検定
8. 検定の原理2-Z検定と両側・片側検定
9. t検定1-原理と使い分け
10. 相関係数の検定
11. t検定2-対応の有無
12. 独立性の検定
13. 分散分析1-原理と使い分け
14. 分散分析2-交互作用
15. 総括

### 【事前・事後学修】

- ・1年次の「社会と統計」、特に平均、分散、標準偏差、相関係数について復習しておくこと。
- ・次回の授業までに、テキストの該当範囲を一読しておくこと。
- ・新しい内容を、以前の授業内容に積み上げて進む。授業時間中に理解するか、次回授業までに復習して理解すること。
- ・復習用にmanaba上に課題を出す。期限までに行うこと。  
(学修時間 週4時間程度)

### 【テキスト・教材】

山田剛史・村井潤一郎『よくわかる心理統計』（ミネルヴァ書房） 2004年 3024円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験（90%）、提出物（10%）

授業中の課題は授業中に、manabaの課題はmanabaで、解答と解説を行います。試験は終了後にmanaba等で解説を行います。

### 【参考書】

授業中に適時紹介する。

### 【注意事項】

心理学的な卒業論文を予定している学生は、履修することを勧める。

## 心理調査・検査法 1

長崎 勤・島崎 敢

3年 前期 2単位 2時限連続

◎：行動力 ○：美の探究、協働力

### 【授業のテーマ】

心理調査法の内容については、前期は、心理調査の設計と実施方法について学ぶ。

心理検査法の内容については、アセスメントは何のために行うのか?から考える。前期は、知能検査（田中ビネーとWISCIV検査）の理論と実施方法を、グループワークによって演習を行う。

### 【授業における到達目標】

心理調査を設計し実施できる。

心理検査を実施できる。

そして、「研鑽力」・「行動力」・「協働力」の基礎を身につける。

### 【授業の内容】

第1週 前期オリエンテーション（心理調査法について） ガイダンス、心理調査法による人間理解：心理調査法の実施方法① 仮説構成

第2週 前期オリエンテーション（心理検査法について）

第3週 心理調査法の実施方法② 調査目的と調査方法 調査方法の決め方：心理調査法の実施方法③ 調査企画と設計 調査企画における心理調査の位置づけ

第4週 心理検査法：アセスメントは何のために行うのか？

第5週 心理調査法の実施方法④ 心理調査での仮説構成：調査票作成の基礎①質問文・調査票の作り方

第6週 心理検査法：知能検査1 田中ビネー検査（説明）

第7週 心理調査法：調査票作成の基礎②③ 量的資料収集のための調査票の作成

第8週 心理検査法：知能検査1 田中ビネー検査（演習）

第9週 心理調査法の実施方法① 調査の実施方法（調査票の配布・回収法、インタビューの仕方など）：心理調査法の実施方法② 全数調査と標本調査

第10週 心理検査法：知能検査2 WISCIV（説明）

第11週 心理調査法の実施方法③ サンプリングの諸方法：心理調査法の実施方法④ 無作為抽出、標本数と誤差

第12週 心理検査法：知能検査2 WISCIV（演習）

第13週 心理調査法：コーディングと入力①② 調査データの整理（エディティング、コーディング、データクリーニング、コードブック作成）

第14週 心理検査法：前期まとめ

第15週 心理調査法：コーディングと入力③ 調査データの整理（エディティング、コーディング、データクリーニング、コードブック作成）：外部講師による講話、前期まとめ

### 【事前・事後学修】

【心理検査法】・事前学修：毎回、事前に配付した資料を読んで、「コメント・カード」を書いてくること。「コメントカード」は、①新たに学んだこと、②疑問、質問、批判を含むこと（学修時間：週1時間）。・事後学修：各回の授業の終了後2日以内に、その授業についての「コメントカード」を提出のこと（学修時間：週1時間）。

【心理調査法】・事前学修：次回授業の準備（学修時間：週1時間）。・事後学修：課題の実施（学修時間：週1時間）。

### 【テキスト・教材】

- ・心理検査法：その都度提示する。
- ・心理調査法：適宜指示する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・心理検査法：平常点（授業への取り組み、発表）50%、レポート50%
- ・心理調査法：平常点（授業への取り組み、課題提出）100%

・取り組んでいた点やつまづきがちだった点についてフィードバックを行う。

### 【参考書】

- ・心理検査法：心理検査の実施の初歩（心理学基礎演習） 願興寺 礼子（編集）、吉住 隆弘（編集）ナカニシヤ出版（2011）
- ・心理調査法：山田剛史・村井潤一郎（2004）『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房

### 【注意事項】

心理調査・検査法2も受講することが望ましい。

外部講師による講話は、日程を変更することがある。

## 心理調査・検査法 2

長崎 勤・島崎 敢

3年 後期 2単位 2時限連続

◎：行動力 ○：美の探究、協働力

### 【授業のテーマ】

心理調査法の内容については、後期は、量的データ解析の方法について学ぶ。

心理検査法の内容については、後期は質問紙法を学ぶ。また行動観察によるアセスメント法も学ぶ。グループワークで検査の演習を行う。

最後に、臨床倫理、研究倫理について学ぶ。

### 【授業における到達目標】

量的データ解析を実施できる。

心理検査を実施できる。

研究倫理について理解する。

そして、「心理調査・検査法1」の学修をふまえて、「研鑽力」「行動力」「協働力」を身につける。

### 【授業の内容】

第1週 後期オリエンテーション（心理検査法について）

第2週 後期オリエンテーション（心理調査法について）仮説検定の復習①②：クロス集計、カイ2乗検定、尺度構成、t検定、相関係数、回帰分析

第3週 心理検査法：質問紙法1 津守式乳幼児精神発達質問紙（説明）

第4週 心理調査法：重回帰分析①（解説）：重回帰分析②（分析）

第5週 心理検査法：質問紙法1 津守式乳幼児精神発達質問紙（演習）

第6週 心理調査法：重回帰分析③（分析・振り返り）：パス解析①（解説）

第7週 心理検査法：質問紙法2 Vineland-II適応行動尺度（説明）

第8週 心理調査法：パス解析②（分析）：分散分析（解説・分析）

第9週 心理検査法：質問紙法2 Vineland-II適応行動尺度（演習）

第10週 心理調査法：因子分析①（解説）：因子分析②（分析）

第11週 心理検査法：行動観察法（説明）

第12週 心理調査法：多変量解析の応用と実践①（レポートフィードバック）：多変量解析の応用と実践②（再分析）

第13週 心理検査法：行動観察法（演習）

第14週 心理調査法：多変量解析の応用と実践③ レジュメでのグループ報告：多変量解析の応用と実践④ まとめ、外部講師による講話

第15週 研究倫理：まとめ（心理検査法）

### 【事前・事後学修】

【心理検査法】・事前学修：毎回、事前に配付した資料を読んで、「コメント・カード」を書いてくること。「コメントカード」は、①新たに学んだこと、②疑問、質問、批判を含むこと（学修時間：週1時間）。・事後学修：各回の授業の終了後2日以内に、その授業についての「コメントカード」を提出のこと（学修時間：週1時間）。

【心理調査法】・事前学修：次回授業の準備（学修時間：週1時間）。・事後学修：課題の実施（学修時間：週1時間）。

### 【テキスト・教材】

・心理検査法：その都度提示する。

・心理調査法：適宜指示する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

・心理検査法：平常点（授業への取り組み、発表）50%、レポート50%

・心理調査法：平常点（授業への取り組み、課題提出）100%

・取り組んでいた点やつまずきがちだった点についてフィードバックを行う。

### 【参考書】

・心理検査法：心理検査の実施の初歩（心理学基礎演習） 願興寺 礼子（編集）、吉住 隆弘（編集）ナカニシヤ出版（2011）

・心理調査法：山田剛史・村井潤一郎（2004）『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房

### 【注意事項】

・心理調査・検査法1を受講しておくこと。

・外部講師による講話は、日程を変更することがある。

身体運動の科学 a

我妻 玲

1年～ 前期・後期 2単位

○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

運動における科学的知識（生理学・社会学・心理学）を理解し、生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための知識を身につけます。特に、女子学生に関心の高いテーマを取り上げ、学生たちが積極的に運動に関わるきっかけとなる授業を目指します。

具体的には、身体の構造を理解し、健康を維持・増進するための運動の種類や内容・計画のたて方、安全で効果的なトレーニングの方法、さらに、運動における心理学的効果や運動を採択・継続・および停止を予防するための行動変容モデルおよび心理的指導方法を解説します。また健康運動だけではなく、さまざまな競技における障害や医学的知識を紹介し、運動を行う現場での実態を例にあげて授業を進めていきます。

【授業における到達目標】

1. 学生が修得すべき「研鑽力」として、運動が健康を維持・増進する仕組みについて修得する。
2. 学生が修得すべき「行動力」として、自己の健康状態を把握し、運動による適切な健康管理を行うことができるようになる。
3. 学生が修得すべき「協働力」として、身近な人の健康状態に配慮することができるようになる。

【授業の内容】

- 第1週 日本人の健康と体力
- 第2週 加齢と身体のしくみ
- 第3週 運動とエネルギー代謝
- 第4週 運動効果のメカニズム（トレーニングの原則、有酸素性トレーニングと無酸素性トレーニング）
- 第5週 健康づくりのための運動プログラム①（目的・強度・時間）
- 第6週 健康づくりのための運動プログラム②（レジスタンストレーニング）
- 第7週 運動における心理的要因（心理的効果の内容とその効果を高める要因）
- 第8週 運動における行動変容（理論・モデルおよび技法、動機づけとカウンセリングの方法）
- 第9週 運動と栄養
- 第10週 健康管理
- 第11週 スポーツ障害・傷害と救急処置法
- 第12週 女性の体力トレーニングの理論
- 第13週 女性の体力トレーニングの実際
- 第14週 身近なスポーツ医学
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】運動が健康の維持・増進に及ぼす影響について整理しておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業内容を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

講義用のテキストは別途指定します。また授業中に資料を配布し、視聴覚教材を用います。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験80% 平常点（授業への積極参加・感想ペーパー）20%。小テストは次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

【参考書】

講義の中で適宜紹介します。

身体運動の科学 a

鈴木 清美

1年～ 後期 2単位

○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

本授業は、運動に対する生体の応答や適応システムについて正しく理解し、身体活動・運動を生活の中にとり入れ、実践できる能力を培うことを目的としている。本授業が、継続的な運動習慣の動機づけの一助となることを期待する。

本授業は『身体を動かすことを身近に感じる』をコンセプトに、わかりやすい言葉と姿勢を心がける。

【授業における到達目標】

- \*自身の身体や生活における運動習慣に関心を持つ。
  - \*身体活動・運動と身体との関わりについて正しく理解する。
  - \*自身に合った運動プログラムを考え、実践できる。
- 以上を通じて、「行動力」の修得を目指す。

【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 骨格筋の機能①：筋線維のタイプ -短距離型・長距離型-
- 第3週 骨格筋の機能②：筋力・筋パワーを高める方法
- 第4週 エネルギー代謝：生体に必要なエネルギーとは何か？
- 第5週 スポーツと栄養・サプリメント：サプリメントは必要か？
- 第6週 減量および体重調節：無理のない減量
- 第7週 呼吸循環機能：持久力は何によって決まるのか？
- 第8週 スポーツとスキル：動作の上手い・下手
- 第9週 骨代謝：強い骨をつくるために必要なこと
- 第10週 運動のプログラム：さあ、運動しよう！
- 第11週 ウォームアップとクールダウン
- 第12週 運動時の水分補給：水分補給は必要か？
- 第13週 私・私たちが考える運動プログラム：発表
- 第14週 スポーツを観て楽しもう：2020年東京オリンピックを考える
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

- ・事前学修（学修時間 週2時間）  
参考図書などを参考に、次週授業内容について読んでおく。  
日頃より、新聞の健康およびスポーツに関する記事に興味をもつ。
- ・事後学修（学修時間 週2時間）  
授業内容の復習、課題が出たときは課題を行う。  
身体を動かすことに関心を持ち、実践する。

【テキスト・教材】

授業の際に、プリントを配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業回数の2/3以上の出席で定期試験を受けることができる。成績は、定期試験50%、課題30%、授業への参加態度・意欲（積極的な発言は加点、私語、携帯は減点）20%で総合的に評価する。フィードバックは随時行う。

【参考書】

村岡 功 編著 『新・スポーツ生理学』（市村出版 2015年）  
3240円  
その他、授業時に紹介する。

【注意事項】

- \*授業時に配布されるプリントを保存するためにファイルを準備すること（安価な物で良い）。
- \*授業時間中、携帯電話は鞆の中に入れておくこと（減点対象となる）。

## 身体運動の科学b

鈴木 清美

1年～ 前期 2単位

○：研鑽力、行動力

### 【授業のテーマ】

本授業は、身体活動と健康との関係について正しく理解し、各ライフステージにおける身体活動・運動の意味について考えることを目的としている。本授業が、健康的な生活習慣の確立、継続的な運動習慣の動機づけの一助となることを期待する。

本授業は『身体を動かすことを身近に感じる』をコンセプトに、わかりやすい言葉と姿勢を心がける。

### 【授業における到達目標】

- \*自身の身体や生活習慣や運動習慣に関心を持つ
- \*身体活動と健康との関わりについて正しく理解する
- \*身体運動を中心とした健康的な生活習慣を実践することができる以上を通じて、「行動力」の修得を目指す。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 日本人の健康・体力：日本人は健康といえるのか？
- 第3週 生活習慣と健康 生活習慣病の機序と予防
- 第4週 身体活動と健康①：座り過ぎ生活の弊害
- 第5週 身体活動と健康②：身体活動基準
- 第6週 体重調節と食事：肥満はどうして起こるのか？
- 第7週 生体リズムと身体活動：24時間闘ってはいけない理由
- 第8週 健康・スポーツとライフスキル：ストレス対処、ストレス対処トレーニング
- 第9週 女性の身体 母子の健康：将来、生まれてくる赤ちゃんの健康のために
- 第10週 子どもの身体と運動：子どもの健やかな育ちのために
- 第11週 脳の発達と子どもの身体：脳も育つ！脳を育てる活動
- 第12週 加齢と身体機能：サルコペニアとは？
- 第13週 私・私たちが興味をもった新聞記事：発表
- 第14週 運動の動機づけと継続：身体を動かしたくなる・歩きたくなる取り組み
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

- ・事前学修（学修時間 週2時間）  
参考図書などを参考に、次週授業内容について読んでおく。  
日頃より、新聞の健康およびスポーツに関する記事に関心をもつ。
- ・事後学修（学修時間 週2時間）  
授業内容の復習、課題が出たときは課題を行う。  
身体を動かすことに関心をもち、実践する。

### 【テキスト・教材】

授業の際に、プリントを配付する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業回数の2/3以上の出席で定期試験を受けることができる。  
成績は、定期試験50%、課題30%、授業への参加態度・意欲（積極的な発言は加点、私語、携帯は減点）20%で総合的に評価する。フィードバックは随時行う。

### 【参考書】

授業時に紹介する。

### 【注意事項】

- \*授業時に配布されるプリントを保存するためにファイルを準備すること（安価な物で良い）。
- \*授業時間中、携帯電話は鞆の中に入れておくこと（減点対象となる）。

**身体文化論**

「泣く/哭く」身体について考えてみましょう。

恩地 元子

2年～ 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

現代において身体をとりまく諸問題は、舞踊のような身体の動きそのものが主要な関心事である芸術だけではなく、様々なジャンルの芸術体験の中で重要な位置を占めるようになった。この授業では、芸術・文化の諸に領域を通常行われている分類にとらわれずに、身体表現としてとらえ直すために、身体をパーツごとに微視的に観察する。

様々な視点からのアプローチが可能だが、表情、とりわけ「泣く/哭く」に焦点を当てる。「泣く」といえば「涙」が連想されるように、顔は最も感情や気分が表れやすいパーツであるが、「背中に泣いている」などというように、身体の一部にサインとして表れることもある。「泣く/哭く」身体表現に、社会、時代、文化がどのように反映されているのか、どのような表現が可能か考える。

**【授業における到達目標】**

芸術・文化を身体表現の視点から捉え、その多様性を観察、分析、記述することによって「国際的視野」を身につける。

身体表現に反映される文化・社会・時代による美の規範の違いから、多様な「美の探求」について理解を深める。

身体感覚に触れるような言語表現を探り当てる。

現代の様々な芸術・文化の、ジャンルによる違いを理解しつつ、感受できるようになる。

**【授業の内容】**

具体的な事例、進行は、受講生の顔ぶれによって、微調整することもある。

- 第1週 「身体とは何か」という問題（イントロダクション）
- 第2週 顔の特権性、顔から頭部へ（20世紀ヨーロッパ美術）
- 第3週 映画（ヨーロッパ、アメリカ）
- 第4週 映画（アジア）、涙のメカニズム
- 第5週 マンガ（グループワーク）
- 第6週 マンガ（事例の分析とその展開）
- 第7週 美術（カリカチュアを含む）
- 第8週 伝統芸能（型による表現、歌舞伎）
- 第9週 伝統芸能（型による表現、歌舞伎、文楽）
- 第10週 伝統芸能（型による表現、能・狂言）
- 第11週 舞踊（決まり事（マイムなど）による表現と自由な表現）
- 第12週 現代演劇（同一作品の演出による比較）
- 第13週 言語表現（グループワーク、文学（詩、短歌、俳句など）、歌詞（クラシック音楽、歌謡曲、J-ポップなど））
- 第14週 言葉、音・音楽（ミュージック・ビデオを含む）
- 第15週 「身体とは何か」という問題（文献紹介）

**【事前・事後学修】**

事前学修 グループワークで採り上げる事例に目を通しておく。小レポートに取り組む（学修時間 週2時間）。

事後学修 授業中に紹介する芸術文化事業、作品を、可能であれば鑑賞し、教師の分析、解説を理解しておく（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

授業中に指示する。聴覚教材やワークシートを用意する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末レポート（50%）、平常点（50%）。平常点とは、授業への取り組み（出席率、コメント用紙の記述内容、小レポート、グループワークへの参加など）のことである。

小レポート、グループワークは、実施後、必要に応じて分析する。期末レポートも締切日を早めに設定し、採り上げられた事例を紹介、簡単な講評をする。

**【参考書】**

授業中に指示する。

**身体文化論**

「泣く/哭く」身体について考えてみましょう。

恩地 元子

2年～ 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

現代において身体をとりまく諸問題は、舞踊のような身体の動きそのものが主要な関心事である芸術だけではなく、様々なジャンルの芸術体験の中で重要な位置を占めるようになった。この授業では、芸術・文化の諸に領域を通常行われている分類にとらわれずに、身体表現としてとらえ直すために、身体をパーツごとに徹視的に観察する。

様々な視点からのアプローチが可能だが、表情、とりわけ「泣く/哭く」に焦点を当てる。「泣く」といえば「涙」が連想されるように、顔は最も感情や気分が表れやすいパーツであるが、「背中に泣いている」などというように、身体の一部にサインとして表れることもある。「泣く/哭く」身体表現に、社会、時代、文化がどのように反映されているのか、どのような表現が可能か考える。

**【授業における到達目標】**

芸術・文化を身体表現の視点から捉え、その多様性を観察、分析、記述することによって「国際的視野」を身につける。  
身体表現に反映される文化・社会・時代による美の規範の違いから、多様な「美の探求」について理解を深める。  
身体感覚に触れるような言語表現を探り当てる。  
現代の様々な芸術・文化の、ジャンルによる違いを理解しつつ、感受できるようになる。

**【授業の内容】**

具体的な事例、進行は、受講生の顔ぶれによって、微調整することもある。

- 第1週 「身体とは何か」という問題（イントロダクション）
- 第2週 顔の特権性、顔から頭部へ（20世紀ヨーロッパ美術）
- 第3週 映画（ヨーロッパ、アメリカ）
- 第4週 映画（アジア）、涙のメカニズム
- 第5週 マンガ（グループワーク）
- 第6週 マンガ（事例の分析とその展開）
- 第7週 美術（カリカチュアを含む）
- 第8週 伝統芸能（型による表現、歌舞伎）
- 第9週 伝統芸能（型による表現、歌舞伎、文楽）
- 第10週 伝統芸能（型による表現、能・狂言）
- 第11週 舞踊（決まり事（マイムなど）による表現と自由な表現）
- 第12週 現代演劇（同一作品の演出による比較）
- 第13週 言語表現（グループワーク、文学（詩、短歌、俳句など）、歌詞（クラシック音楽、歌謡曲、J-ポップなど））
- 第14週 言葉、音・音楽（ミュージック・ビデオを含む）
- 第15週 「身体とは何か」という問題（文献紹介）

**【事前・事後学修】**

事前学修 グループワークで採り上げる事例に目を通しておく。小レポートに取り組む（学修時間 週2時間）。

事後学修 授業中に紹介する芸術文化事業、作品を、可能であれば鑑賞し、教師の分析、解説を理解しておく（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

授業中に指示する。聴覚教材やワークシートを用意する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末レポート（50%）、平常点（50%）。平常点とは、授業への取り組み（出席率、コメント用紙の記述内容、小レポート、グループワークへの参加など）のことである。

小レポート、グループワークは、実施後、必要に応じて分析する。期末レポートも締切日を早めに設定し、採り上げられた事例を紹介、簡単な講評をする。

**【参考書】**

授業中に指示する。



**人格心理学**

人格と感情の心理学

竹内 美香

3年 後期 2単位

◎：研鑽力

いるのか?」自ら疑問とテーマをもって考え、配布される資料やプレゼンテーションを活用して欲しい。考えたこと、気づいたことを毎回リアクション・ペーパーに書いてもらっている。感じたことを「言葉」にすることは、自己分析の第一歩である。

**【授業のテーマ】**

人格とは「人間のあらゆる生活過程の中に生じて来る、あらゆる情動的・意志的反応可能性の総体」であり、「個人的概念というよりは社会心理学的概念」である。アイゼンクは人格を「遺伝と環境により決定される実際の行動パターンや、潜在的行動パターンの総体である」と定義した。人格に関わる研究には共通して「情動」「社会」「経験」「発達」などの言葉が含まれている。本科目では、「人格」と「感情」「行動」に関わる基本的理論を紹介しながら、できるだけ受講者自身が自分の「パーソナリティ」を知る機会も設けたいと考えている。

**【授業における到達目標】**

1. 現代科学としての心理学の視点で、人間の行動特徴をどのようにとらえるか説明できるようになる。
2. 自身の生育史を振り返り、視野の広い自己分析ができるようになる。
3. 感情に関する理論、感情が起こる仕組みについて説明できるようになる。
4. 感情と行動の影響関係について説明できるようになる。
5. 新たな知識を創造し、生涯、自己研鑽を続ける力、主体的に他者と協働して課題解決できる力を身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週 科目の目標と人格心理学の概要 研究史の紹介
- 第2週 パーソナリティ研究と理論1 類型論
- 第3週 パーソナリティ研究と理論2 類型論と精神科診断基準
- 第4週 パーソナリティ研究と理論3 特性論と主要因子
- 第5週 パーソナリティ研究と理論4 生得要因と生育過程
- 第6週 感情と行動1 多様な感情とその記述
- 第7週 感情と行動2 感情喚起の特性と認知
- 第8週 感情と行動3 動機づけ
- 第9週 感情と行動4 精神症状と感情の記述
- 第10週 人格と感情の発達1 愛着形成と幼少時経験
- 第11週 人格と感情の発達2 思春期・青年期の心身の健康
- 第12週 人格と感情の発達3 青年期の危機と多様な精神症状
- 第13週 人格と感情の発達4 比較文化的に形成過程を捉える
- 第14週 こころの健康1 感情コントロールとストレス耐性
- 第15週 こころの健康2 感情とレジリエンスに関わる特性

**【事前・事後学修】**

【事前学修】その週に出遭った「人の社会的行動」や臨床心理学的なトピックスを観察・考察してくる。毎回、記述を求める。

【事後学修】まとめとしての小レポート課題を課すことがある。最終レポートと並ぶ事後学修課題とする。

【学修に必要な時間】事前・事後学修合わせて毎週4時間程度を要するような課題の取り組みを求める予定。

**【テキスト・教材】**

鈴木晶夫、竹内美香 共著『心理学入門・快体心書～身体と心の基礎と臨床』（川島書店）2,200円（2005年 第3刷以降のもの）

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

最終レポート 60%、平常点・授業内ワークシートと課題等の取り組み評価 40%

【フィードバックについて】毎回の授業の冒頭に、提出されたワークシートのコメントについて解説する時間を設ける。最終レポート後のフィードバックは、manabaの授業評価の場を活用する。

**【参考書】**

日本パーソナリティ心理学会 「パーソナリティ研究」に掲載の学術論文、日本感情心理学会「感情心理学研究」、日本発達心理学会「発達心理学研究」に掲載される論文など。

**【注意事項】**

「自分はどのように自分になったのか?」「自分はどこへ向かって

**人格心理学特論**

パーソナリティ研究法

竹内 美香

人間社会専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

人の行動に一定の選択傾向とその一貫性を想定し、その形成と構造を探究しようとするのがパーソナリティすなわち人格研究である。この特論では、パーソナリティ形成の発達の過程を様々な先行研究を辿りながら概観し、人の行動選択と反応可能性の測定と記述、すなわち研究方法について具体的な事例を交えて学ぶ。科学としてのパーソナリティ研究のひとつの手続きを、受講生が自立して企画・立案・実行できるようになることを目指す。

**【授業における到達目標】**

1. 「人格心理学」研究の過去・現在・未来の流れを広く理解できる。
2. 人間社会学の研究者として「人格心理学」における豊富な知識情報を自分の力で、自発的に探索・総合し、正しく適用することができる。
3. ビジネスの現場で必要とされる応用心理学としての「人格」研究の正統なアプローチを自身の力で構成し、他者と協働するための仕組みづくりができるようになる。

**【授業の内容】**

パーソナリティは、心理学研究の中でも広範囲の事象を含む。昨今ではストレス対処や健康プロモーションに深く関わる要因としてのレジリエンスに注目が集まっている。講義でも、個人特性としてのレジリエンスについて、先行研究論文なども参照しながら説明し、受講者の理解を支援する。

- 第1週 パーソナリティ心理学の位置づけ
- 第2週 パーソナリティの代表的な記述法 類型論
- 第3週 パーソナリティの代表的な記述法 特性論
- 第4週 パーソナリティの代表的な記述法 精神分析と分析心理学
- 第5週 パーソナリティの代表的な記述法 ビッグファイブの構造
- 第6週 刺激追求欲求、損害回避性、報酬依存性の個体差
- 第7週 文化とパーソナリティ
- 第8週 内的作業モデル、幼少時の被養育経験、愛着、関係不安
- 第9週 対人関係と自己認知・自己評価
- 第10週 レジリエンスとストレス対処と健康感
- 第11週 主観的幸福感と健康統制感
- 第12週 パーソナリティを臨床的事例で考える
- 第13週 パーソナリティを教育現場で活かす
- 第14週 就業・職業能力・適性としてパーソナリティを考える
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

次週までの課題という形で、その都度指定する。  
日頃から、人間の行動観察を怠らないで頂くと、講義で扱うトピックも現実のものとして、よく理解できると考える。  
修了時には「専門性を持った研究者」となっていることを目指すため、本科目においても、事前・事後の学修時間は過当たりで8時間程度は要すると考える。

**【テキスト・教材】**

特に定めない。  
科学技術振興機構の学術論文検索サイトでダウンロード可能な既刊論文を活用する場合がある。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常の授業への取り組みと課題40%、最終レポート60%  
フィードバックは、個別的な指導を介して伝える。

**【参考書】**

心理学研究、パーソナリティ研究、発達心理学研究などの学会刊行の学術誌に掲載される論文全般を参照して欲しい。最新の有益な研究成果に触れることは大切である。

**【注意事項】**

必要があれば、海外の学術誌掲載の英文論文を参照する場合も想定している。

## 人間教育学概論

広井 多鶴子

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

## 【授業のテーマ】

この授業は、現代の教育問題がテーマである。子どもの成長や発達をめぐる今日の教育問題が、いつどのように登場したのか。その捉え方がどのように変化してきたのか。様々な統計やデータをもとに考えていく。具体的には、親子関係、不登校、少年非行、児童虐待、子どもの貧困問題を取り上げる。

## 【授業における到達目標】

現代の教育問題の歴史や変遷について理解するとともに、様々なデータを分析することによって、新たな知を創造する態度を身につける。

## 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 家庭の教育力は低下したか
- 第3週 親子のコミュニケーションは減少したか
- 第4週 不登校①長期欠席問題の時代;1950年代まで
- 第5週 不登校② 登校拒否の時代;1960年代から80年代
- 第6週 不登校③不登校といじめ自殺問題;1990年代以降
- 第7週 少年非行①少年非行はどう捉えられてきたか
- 第8週 少年非行②少年非行は増加・深刻化しているか
- 第9週 少年非行③少年非行の原因論
- 第10週 児童虐待①児童虐待;児童虐待と育児不安
- 第11週 児童虐待②児童虐待は増加・深刻化しているか
- 第12週 児童虐待③児童虐待の原因論
- 第13週 子どもの貧困①貧困はなぜ忘れられたか
- 第14週 子どもの貧困②現代の子どもの貧困対策
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】 参考文献と資料を読む。2時間

【事後学修】 宿題をする。2時間

## 【テキスト・教材】

プリントを配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験70% 課題提出・授業態度など30%

宿題は次回の授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

## 【参考書】

- 広井多鶴子・小玉亮子『現代の親子問題』（日本図書センター2010年）2,800円
- 落合恵美子著『21世紀家族へ』（ゆうひかく選書 2004年）1,700円
- 広田照幸『日本人のしつけは衰退したか』（講談社現代新書 1999年）640円

## 人間教育学概論

広井 多鶴子

1年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

## 【授業のテーマ】

この授業は、現代の教育問題がテーマである。子どもの成長や発達をめぐる今日の教育問題が、いつどのように登場したのか。その捉え方がどのように変化してきたのか。様々な統計やデータをもとに考えていく。具体的には、親子関係、不登校、少年非行、児童虐待、子どもの貧困問題を取り上げる。

## 【授業における到達目標】

現代の教育問題の歴史や変遷について理解するとともに、様々なデータを分析することによって、新たな知を創造する態度を身につける。

## 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 家庭の教育力は低下したか
- 第3週 親子のコミュニケーションは減少したか
- 第4週 不登校①長期欠席問題の時代;1950年代まで
- 第5週 不登校② 登校拒否の時代;1960年代から80年代
- 第6週 不登校③不登校といじめ自殺問題;1990年代以降
- 第7週 少年非行①少年非行はどう捉えられてきたか
- 第8週 少年非行②少年非行は増加・深刻化しているか
- 第9週 少年非行③少年非行の原因論
- 第10週 児童虐待①児童虐待;児童虐待と育児不安
- 第11週 児童虐待②児童虐待は増加・深刻化しているか
- 第12週 児童虐待③児童虐待の原因論
- 第13週 子どもの貧困①貧困はなぜ忘れられたか
- 第14週 子どもの貧困②現代の子どもの貧困対策
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】 参考文献と資料を読む。2時間

【事後学修】 宿題をする。2時間

## 【テキスト・教材】

プリントを配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験70% 課題提出・授業態度など30%

宿題は次回の授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

## 【参考書】

- 広井多鶴子・小玉亮子『現代の親子問題』（日本図書センター2010年）2,800円
- 落合恵美子著『21世紀家族へ』（ゆうひかく選書 2004年）1,700円
- 広田照幸『日本人のしつけは衰退したか』（講談社現代新書 1999年）640円

## 人間形成論

広井 多鶴子

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

### 【授業のテーマ】

この授業では、現代の若者の人間形成と自立の課題について、種々のデータや文献をもとに考察する。具体的には、経済的な自立、親からの自立、性に関するアイデンティティの形成などの問題を取り上げる。

### 【授業における到達目標】

若者に関する様々な研究やデータを通して、自ら課題を発見し、分析する力をみにつける。

### 【授業の内容】

この授業では、講義を聞くとともに、各自が自分が選んだテーマについて調べ、PowerPointを使って自分の見解をプレゼンテーションする。また、できるだけディスカッションの機会を設ける。

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 講義：若者と仕事：・フリーター
- 第3週 講義：若者と仕事：ニート
- 第4週 プレゼンテーション①若者と仕事
- 第5週 講義：親からの自立
- 第6週 プレゼンテーション②親からの自立
- 第7週 講義：晩婚化・未婚化
- 第8週 プレゼンテーション③晩婚化・未婚化
- 第9週 講義：若者と政治：18歳選挙権を考える
- 第10週 プレゼンテーション④若者と政治
- 第11週 講義：成人年齢について考える
- 第12週 プレゼンテーション⑤成人年齢
- 第13週 講義：青年期：精神的成熟の遅れ？
- 第14週 プレゼンテーション⑥青年期
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】授業のテーマに関するデータや文献を調べる。2時間

【事後学修】宿題を行う。授業で発表するためのレジュメを作成する。2時間

### 【テキスト・教材】

テキストは用いない。授業中にプリントを配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表など、授業への取組み状況（30%）と学期末試験で評価を行なう（70%）。

宿題は次回の授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

### 【参考書】

本田由紀・内藤朝雄・後藤和智子『ニーにとって言うな！』光文社新書、864円

### 【注意事項】

この授業では、発表やディスカッションなど、積極的にアクティブラーニング形式の手法を取り入れる。

## 人間形成論

広井 多鶴子

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

## 【授業のテーマ】

この授業では、現代の若者の人間形成と自立の課題について、種々のデータや文献をもとに考察する。具体的には、経済的な自立、親からの自立、性に関するアイデンティティの形成などの問題を取り上げる。

## 【授業における到達目標】

若者に関する様々な研究やデータを通して、自ら課題を発見し、分析する力をみにつける。

## 【授業の内容】

この授業では、講義を聞くとともに、各自が自分が選んだテーマについて調べ、PowerPointを使って自分の見解をプレゼンテーションする。また、できるだけディスカッションの機会を設ける。

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 講義：若者と仕事：・フリーター
- 第3週 講義：若者と仕事：ニート
- 第4週 プレゼンテーション①若者と仕事
- 第5週 講義：親からの自立
- 第6週 プレゼンテーション②親からの自立
- 第7週 講義：晩婚化・未婚化
- 第8週 プレゼンテーション③晩婚化・未婚化
- 第9週 講義：若者と政治：18歳選挙権を考える
- 第10週 プレゼンテーション④若者と政治
- 第11週 講義：成人年齢について考える
- 第12週 プレゼンテーション⑤成人年齢
- 第13週 講義：青年期：精神的成熟の遅れ？
- 第14週 プレゼンテーション⑥青年期
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】授業のテーマに関するデータや文献を調べる。2時間

【事後学修】宿題を行う。授業で発表するためのレジュメを作成する。2時間

## 【テキスト・教材】

テキストは用いない。授業中にプリントを配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表など、授業への取組み状況（30%）と学期末試験で評価を行なう（70%）。

宿題は次回の授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

## 【参考書】

本田由紀・内藤朝雄・後藤和智子『ニーにとって言うな！』光文社新書、864円

## 【注意事項】

この授業では、発表やディスカッションなど、積極的にアクティブラーニング形式の手法を取り入れる。

## 人間工学

佐藤 健

2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力

## 【授業のテーマ】

建築・都市・インテリアを計画する視点から、生物学的なヒトと文化を背景とした人に適した環境構築の手法を理解する。人間中心のデザインとして、人間のスケール、什器、家具寸法、使いやすさ、わかりやすさ、安全な生活空間のあり方について学ぶ。建築を計画するのに必要な知識を得るため、建物や場所がどのように機能し、意味を持つのか、人間の行動や社会的側面から考察する。

## 【授業における到達目標】

建築と人間の関係を通して、人間行動に合わせた環境構築の手法を理解するために主体的に行動する「行動力（○）」を取得すること。また、多様性を理解し「国際的視野（◎）」を習得することを目標とする。

## 【授業の内容】

- 第1回：建築人間工学とは？
- 第2回：人体寸法・動作寸法
- 第3回：ヒューマンスケール・モジュール
- 第4回：インテリア・人体寸法と空間における人間行動
- 第5回：インテリア・機能空間の計画
- 第6回：インテリア・家族のための空間計画
- 第7回：現代の住まい（日仏の生活行動比較）
- 第8回：現代の住まい（少子高齢化と都市居住生活）
- 第9回：現代の住まい（集合住宅とサステナビリティ都市生活）
- 第10回：現代のオフィス（変化する働き方に適したオフィス）
- 第11回：現代のオフィス（ICTを活用したワークスタイル）
- 第12回：ICTを利用した環境にやさしい街づくり
- 第13回：災害時における人間行動（避難所での生活空間）
- 第14回：住居・都市におけるバリアフリー・ユニバーサルデザイン
- 第15回：授業のまとめ および レポート講評

## 【事前・事後学修】

授業回ごとの小テストと用語問題等をe-ラーニング（manaバ）経由で回答したり、レポートを提出するため、あわせて約60時間相当の事前および事後学修が必要である。

## 【テキスト・教材】

授業中に適宜示す。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業時の小テスト45%（3点×15回分）、授業時の課題レポート25%、期末課題30%とする。レポートやデータの処理方法などは、随時授業回ごとに省察しながらフィードバックを行う。

## 【参考書】

- 日本建築学会編：建築人間工学辞典、彰国社
- 日本建築学会編：「建築計画教科書」彰国社
- Wolfgang F. E Preiser：Universal Design Handbook, The McGraw-Hill Companies Inc.
- Donald A. Norman：The Psychology of Everyday Things, Currency and Doubleday

## 【注意事項】

就職活動で欠席する場合は、事前に連絡をし、事後にキャリアセンターの書式を提出すること。

## 人間工学実験

佐藤 健

3年 前期 2単位 2時限連続

◎：研鑽力 ○：国際的視野

## 【授業のテーマ】

人間工学関係の学習した知識および技術を日常生活へ適用させるためには、その対象となる事例に直接関わり、測定や分析を行いながら、単なる理論から様々な分野への応用力への発展が必要である。この授業では人間工学に関する実験として作業分析や身体負担、精神的負担の測定、身体の構造と機能に関する学習、さらに共通科目の福祉工学等で学習したバリアフリーやユニバーサルデザインに関する評価などを行い、実践力の養成を図ることを目標とします。ただし、受講生の興味とスキルによっては実験内容をアレンジします。

## 【授業における到達目標】

実験中は、「研鑽力（◎）」を高めるために、様々なデータ処理方法を取得することを目標とします。また、多様性を理解する上で、「国際的視野（○）」に関するデータについて検討します。

## 【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ユニバーサルデザイン製品評価
- 第3回 オンデマンド（評価レポートの提出）
- 第4回 人体計測（マルチン式計測法）
- 第5回 人体計測（3次元スキャナー）
- 第6回 3次元データ分析
- 第7回 人体計測課題の発表
- 第8回 注視点分析
- 第9回 注視点分析方法
- 第10回 注視点分析課題の発表
- 第11回 筋電図と床反力計
- 第12回 静止立位の測定
- 第13回 歩行運動時の測定
- 第14回 バイオメカニカルデータの処理
- 第15回 まとめ（期末レポートの作成と提出）

## 【事前・事後学修】

毎回の実験につきレポートを課すためコンピュータの操作に慣れておくことが望ましい。事前学修として、15時間程度、機材の名称、人体部位の名称を復習しておくことが求められる。また、事後学修として、15時間程度、毎回の実験授業後の理解度を確認するレポートを提出してもらう。授業時間内に、終わらないデータ処理は、空き時間に研究室の設備を使っても構わない。事前・事後学修にあわせて約30時間相当が必要である。

## 【テキスト・教材】

プリントを配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業時の実験レポート（5点×15回分）、期末レポート（発表）25%とする。レポートやデータの処理方法などは、随時フィードバックを行う

## 【参考書】

適宜示す。

## 【注意事項】

動きやすい服装、運動靴の準備をしておくこと。

## 人間社会学総論

山根 純佳・広井 多鶴子・竹内 美香・駒谷 真美

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

## 【授業のテーマ】

人間社会学総論は、教育学・情報学・心理学・社会学を専門とする教員によるオムニバス形式で講義を進める。

この授業の第1の目的は、1年生のみなさんが、人間社会学部で学ぶ学問の全体像を大まかに把握し、大学での学びとはどのようなものかを理解することである。

第2の目標は、現代社会におけるさまざまな問題・課題を総合的・学際的・多角的に捉え、現代社会と現代社会に生きる人間に対して、自分なりの問題関心を持つことである。

## 【授業における到達目標】

この授業によって、1年生のみなさんが高校までとは異なる新たな「知」を求める態度と、学修を通じて自己成長する力（研鑽力）を身につけることができるようにする。

## 【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション：人間社会学部での学び（広井）
- 第2回 近代公教育制度の誕生と拡大（広井）
- 第3回 女子教育の誕生と普及（広井）
- 第4回 学校教育と社会的格差・ジェンダー（広井）
- 第5回 高度情報社会と情報セキュリティ（駒谷）
- 第6回 不寛容社会とソーシャルメディア（駒谷）
- 第7回 スマホ社会と青年期の情報意識行動（駒谷）
- 第8回 青年期の就業と自我同一性形成（竹内）
- 第9回 現代の青年：危機と課題（竹内）
- 第10回 「育つ・育てる」心理学：幼少期の被養育経験と心身の健康（竹内）
- 第11回 「女性が働くってどんなこと」ジェンダーと自己実現（竹内）
- 第12回 社会学の視点で社会を見る（山根）
- 第13回 近代家族をめぐる制度と規範（山根）
- 第14回 福祉国家と社会制度（山根）
- 第15回 障害者の社会的包摂（山根）

## 【事前・事後学修】

【事前学修】前回の授業中に提示された宿題を行う。（学修時間2時間）

【事後学修】毎回の授業の内容をふり返り、ポイントをノートにまとめる。（学修時間2時間）

## 【テキスト・教材】

テキストは用いない。プリントを配布する。

ビデオなど視聴覚教材を活用する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

3人の教員がそれぞれレポートまたは試験および平常点（宿題や感想文の提出状況など）によって評価する。

評価の基準は、担当教員によって異なるが、おおむね平常点30%、試験またはレポート70%。

宿題や小テストに関しては次回の授業、レポートと試験については、最終回でフィードバックを行う。

## 【参考書】

授業中に適宜紹介する。

## 【注意事項】

必ずノートをとること。私語は禁止。

さまざまな社会問題を扱うので、新聞をよく読んで、社会の動きを把握しておくこと。

## 人材開発論

谷内 篤博

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

企業は人なりという言葉をよく耳にしますが、その意味するところは企業の存在意義やその良し悪しはそこで働く人々の能力やモチベーションで決まるということを指しています。まさに、企業格差は人材格差で決まるといわれる所以である。

本講義では、こうした企業にとって重要な資源である人材に対する育成のあり方を最新の理論や先進的事例などを踏まえて、わかりやすく具体的に解説をします。

なお、教育訓練技法に関する講義の部分では、企業などで使用されている教育メソッドを実際に使った体験学習を試みたいと考えています。

## 【授業における到達目標】

本講義を通して学生の皆さんは企業における人材育成の実際について理解を深めるとともに、企業の人材に対する考え方や理念といったものまで理解できるようになります。こうして修得した知識は4年生の就職活動において実際に企業選択を行う際に、人材を重要な経営資源として扱う企業であるかどうかを見極めることに大きく役に立ちます。これは本学の本質や真理を探究する態度の修得につながります。

また、実際に研修技法を体験したり、人材育成の事例研究を通じて研鑽力や行動力を身につけられます。さらに、体験学習、議論を通じて協働力も修得できます。

## 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション（企業内教育の動向）
- 第2週 教育訓練/能力開発の歴史的変遷
- 第3週 能力開発の体系
- 第4週 職場内訓練とコーチング
- 第5週 集合教育の特徴と内容
- 第6週 管理職の能力開発
- 第7週 営業職の能力開発
- 第8週 自己啓発の内容と展開の仕方
- 第9週 組織開発とリーダーシップ
- 第10週 長期的/系統的人材育成とキャリア形成
- 第11週 教育担当者の役割
- 第12週 教育訓練技法
- 第13週 教育効果の測定と分析
- 第14週 企業内教育の課題と今後の展望
- 第15週 プロフェッショナル/次世代リーダーの育成

## 【事前・事後学修】

事前学修：講義テーマに関する情報や知識をサーベイする（週2時間）

事後学修：講義の振り返りとノートによるまとめ（知の体系化作業）週2時間

## 【テキスト・教材】

谷内篤博『個性を人材マネジメントー近未来型人事革新のシナリオー』（勁草書房、2016年）2700円

谷内篤博『働く意味とキャリア形成』（勁草書房、2007年）2200円

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価は、試験80%とレポート20%で評価します。

レポートのフィードバックは、優れたレポート作成者を発表するとともに、学生全体にレポートの全体的特徴（良かった点、工夫すべき点）をわかりやすく解説をします。

## 【参考書】

中原淳『職場内学習論』（東京大学出版会、2010年）

## 【注意事項】

本講義は質的連続性が強いので、休まずに授業に出席することを強く望みます。



**人体の構造と機能**

解剖学と病態生理学

塩川 宏郷

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

健康に対する意識の高まりを背景として健康や疾病に関する情報が氾濫している今日にあつては、健康・疾病・障害について正確な知識を持ち理解することが必要である。本科目においては、人体の構造および生命維持のしくみ、ならびにその病態について講述し、健康科学概論、医学概論を履修する基礎的知識とする。

**【授業における到達目標】**

人体の構造と生理機能について概要を理解する。  
臓器別の主要な疾患について、その病態生理や治療法について知る。  
心理学の基礎としての脳の構造と機能について学び、自ら未解決の問題を明らかにするための行動力、研鑽力を身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODakション・恒常性の維持
- 第2週 細胞
- 第3週 血液・免疫
- 第4週 呼吸器
- 第5週 循環器
- 第6週 消化管
- 第7週 肝臓・胆のう・膵臓
- 第8週 内分泌
- 第9週 生殖器、腎・泌尿器
- 第10週 筋・骨・皮膚
- 第11週 感覚器
- 第12週 脳・神経1
- 第13週 脳・神経2
- 第14週 精神
- 第15週 総合討論

**【事前・事後学修】**

- 事前学修  
前回の授業を復習し授業に臨むこと（学修時間 週2時間）
- 事後学修  
簡単な小テスト、アクティブラーニング課題に取り組むこと（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

資料を配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- 試験（70%）、平常点（授業態度・課題等30%）
- 課題のフィードバックは次回の授業で行う。
- 試験の講評等は適宜manabaを通じて行う。

**【参考書】**

カラー版図解人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版改訂第2版全1冊  
（日本医事新報社）

## 人体の構造と疾病

松島 照彦

2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力、行動力

### 【授業のテーマ】

生・老・病・死。正常の細胞、組織、臓器の活動はどの様に保たれ、調節されているのであろうか。それは、どの様なときに調節が崩れ、病気に発展していくのであろうか。その時、細胞や個体ではその様な変化として表れるのであろうか。この教科では、栄養の提供の基本となる疾患を学ぶと共に、病を持つ人の身になって考え、気持ちを理解する心を育成する。

### 【授業における到達目標】

この教科を学修することにより、細胞や組織の様々な障害とそれらが身体症候に結び付き、疾患に至る仕組みを理解し、また、ビタミンやホルモンによる体の調節の仕組みを理解することができるようになる。心臓、消化器、肝臓といった主要な臓器の疾患と栄養の関係を説明できるようになる。

物事の真理を探究する態度、優しさと倫理観をはぐくむ態度、深い洞察力と本質を見抜く力を育てることができる。

### 【授業の内容】

- 第1週 生命とホメオスタシス  
事後学修：タンパク質を列挙して分類し、タンパク質が生体内で営んでいる様々な働きをまとめる
- 第2週 細胞と組織の構造と傷害  
事後学修：変性疾患の例として脂肪肝と動脈硬化についてまとめる
- 第3週 炎症、腫瘍  
事後学修：様々な炎症性疾患を挙げてまとめる
- 第4週 循環障害、浮腫、黄疸
- 第5週 遺伝子とタンパク質と栄養代謝の概論  
事後学修：遺伝子とタンパク質の関連についてまとめる
- 第6週 ホルモン（総論、甲状腺）
- 第7週 ホルモン（副腎）  
事後学修：ホルモンの作用の仕組みについてホルモンの化学構造分類ごとにまとめる
- 第8週 ビタミンと身体の調節  
事後学修：水溶性ビタミンと脂溶性ビタミンの作用の仕組みについてまとめる
- 第9週 諸臓器の概要と疾患
- 第10週 心臓と血圧  
事後学修：血圧を維持する仕組みについてまとめる
- 第11週 消化吸収と消化管ホルモン  
事後学修：消化管ホルモンの情報伝達物質としての働きについてまとめる
- 第12週 消化管の疾患
- 第13週 胆嚢と膵臓の疾患  
事後学修：脂肪の消化の仕組みについてまとめる
- 第14週 肝臓と疾患  
肝臓の機能と肝硬変の症状についてまとめる
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

- ・事前学修：毎回のテーマについて身の回りのことについて考えておくこと。プリントを配布するので授業までに読んでおくこと。週当たり1時間を要する。
- ・事後学修：単元ごとに課題を与える。週当たり3時間を要する。

### 【テキスト・教材】

適宜、プリントを配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期考査60%、平常点40%（授業中の積極的な発言を評価する。遅刻、提出物の遅れ、授業中の不活発な態度は減点する。欠席は大きく減点する。）人体の構造と機能の視点から考察した優秀なレポートは高く評価する。課題とレポートは返却時に優秀な取り組みを紹介

介し、解説を行う。

### 【参考書】

- 全国栄養士養成施設協会監修『人体の構造と機能及び疾病の成り立ちII』（第一出版）  
日野原重明『日野原重明 医学概論』（医学書院）1,600円  
福井次矢ら著『臨床医学概論 第2版』（建帛社）3,360円  
高久文麿ら監修『新臨床内科学』（医学書院）9,975円

### 【注意事項】

教科書は指定しないが、他の解剖、生理系の教科も含めて、「人体の構造と機能」に関する教科書は購入しておくことは、予習や復習、分からないところの理解や学習のまともに必要である。

**人的資源管理**

新しい人材マネジメントのあり方を学ぶ

谷内 篤博

2年 前期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

**【授業のテーマ】**

高度情報化が進んだ現代社会において、「ヒト」が生み出す知（knowledge）が競争優位の源泉となりつつあります。こうした知を生み出す「ヒト」のマネジメントのあり方が、企業経営の成否を左右するといっても決して過言ではありません。このような人材マネジメントの理論的基盤となっているのが人的資源管理（Human Resource Management：略称HRM）であります。

講義の前半では、人的資源管理の基本的フレーム、労働者に対する人間観の変遷、ベース理論などについて解説をし、後半部分では人材の採用、人材の評価、人材の育成、人事システムと給与システムなどについて最新の事例とトピックスを交えながら詳しく解説をしていきたいと考えています。また、最終の講義では、日本の雇用システムの特徴を欧米との比較を通して明らかにするとともに、今後の展望についても解説をしていきます。

**【授業における到達目標】**

本講義を通して企業の人材に対する考え方や人材育成のあり方、自分の給与がどのようにして決定されるかなど、企業の人材マネジメントの仕組みが理解できるとともに、自分が働くにあたってどのような企業を選べばいいのかといった判断ができるようになります。また、HRMの国際比較などから国際的視野も育成されます。

本講義を通してディプロマ・ポリシーの修得すべき行動力のうち、課題を発見し、解決につなげる力を修得することができます。さらに、企業の事例研究やそれをベースにした議論なども含みますので、行動力や自己研鑽力も身につけることができます。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション（人的資源管理の学問的位置づけ）
- 第2週 人的資源管理の概要（定義／目的と体系／ベース理論）
- 第3週 経営戦略と人的資源管理
- 第4週 雇用管理（採用／配置・異動／昇格・昇進／退職）
- 第5週 日本の人事制度の特徴（職能資格制度の効用と限界）
- 第6週 複線型人事制度と専門職制度
- 第7週 人事評価と目標管理制度（MBO）
- 第8週 人材育成の体系と具体的方法
- 第9週 企業内教育の特徴と今後の方向性
- 第10週 賃金の性格と体系
- 第11週 基本給／賞与／退職金の設計と運用
- 第12週 モチベーション管理
- 第13週 多様な雇用形態による人材活用
- 第14週 企業のストレスマネジメントの実際
- 第15週 日本の雇用システムの特徴と今後の展望  
（欧米との比較を通して）

**【事前・事後学修】**

事前学修：レポート課題に取り組むこと（隔週2時間）

事後学修：レポートの振り返り（隔週1時間）と次回の授業範囲の予習（週2時間）

**【テキスト・教材】**

谷内篤博著 『個性を活かす人材マネジメントー近未来型人事革新のシナリオー』（勁草書房 2016年）2,700円

服部治・谷内篤博編『人的資源管理要論』（晃洋書房 2013年）3,000円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

成績評価は、試験80%、レポート20%のウエイトで判定します。なお、授業中の積極的な発言は加点評価の対象とします。

レポートのフィードバックは、優れたレポートの作成者を発表するとともに、全体的な特徴（良かった点、工夫すべき点など）を学生にフィードバックします。

**【参考書】**

谷内篤博『日本の雇用システムの特徴と変容』（泉文堂 2008年）

谷内篤博『働く意味とキャリア形成』（勁草書房 2007年）

**【注意事項】**

本講義は極めて連続性が強い授業となっておりますので、休まず出席することを強く望みます。

なお、本講義は就職活動を控えた学生がエントリーしている会社がよい会社であるかどうかを見極めるのに有益な授業であることを付言しておきます。

**人的資源管理特論**

新しい人材マネジメントのあり方を学ぶ

谷内 篤博

人間社会専攻 後期 2単位

本講義は極めて連続性が強い授業となっており、休まず出席することが求められる。

**【授業のテーマ】**

高度情報化が進んだ現代社会において、「ヒト」が生み出す知（knowledge）が競争優位の源泉となっている。こうした知を生み出す「ヒト」のマネジメントのあり方が、企業経営の成否を左右するといっても決して過言ではない。このような人材マネジメントの理論的基盤となっているのが人的資源管理論で、人材マネジメントやヒューマン・リソース・マネジメントと呼ばれている。

講義の前半では、人的資源管理の基本的フレーム、労働者に対する人間観の変遷、ベースとなる理論などについて解説をし、後半部分では人材の採用、人材の評価、人材の育成、人事システムと給与システムなどについて最新の事例とトピックスを交えながら詳しく解説をしていく。また、最終の講義では、日本的雇用システムの特徴を欧米との比較を通して明らかにするとともに、今後の展望についても解説をする。

この講義を通して、「企業における望ましい人材マネジメントのあり方」を理論と実践の両面から学ぶことができる。

**【授業における到達目標】**

本講義を通して企業の人材に対する考え方や人材育成のあり方など人材マネジメントの本質や仕組みが理解できるとともに、ディプロマ・ポリシーであるビジネスの分野における学際的・専門的な知識や能力を修得することができる。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション（人的資源管理の学問的位置づけ）
- 第2週 人的資源管理の概要（定義／目的と体系／ベース理論）
- 第3週 経営戦略と人的資源管理
- 第4週 雇用管理（採用／配置・異動／昇格・昇進／退職）
- 第5週 日本の人事制度の特徴（職能資格制度の効用と限界）
- 第6週 複線型人事制度と専門職制度
- 第7週 人事評価と目標管理制度（MBO）
- 第8週 人材育成の体系と具体的方法
- 第9週 企業内教育の特徴と今後の方向性
- 第10週 賃金の性格と体系
- 第11週 基本給／賞与／退職金の設計と運用
- 第12週 モチベーション管理
- 第13週 労働の人間化（QWL）とワークシステム
- 第14週 企業のストレスマネジメントの実際
- 第15週 日本の雇用システムの特徴と今後の展望

**【事前・事後学修】**

事前学修：レジュメ作成とそれに必要な周辺学習（学修時間 週2時間）

事後学修：授業内容の振り返りと次週の学習内容の予習・準備（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

谷内篤博著『日本的雇用システムの特徴と変容』

（泉文堂 2008年）3,000円

谷内篤博著『個性を活かす人材マネジメント』（勁草書房 2016年2700円）

服部治・谷内篤博編『人的資源管理要論』（晃洋書房 2015年）3000円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

成績評価は、授業への取り組み（30%）、最終レポート70%のウエイトで判定する。なお、授業内での毎回実施する質疑に関しては、その都度、的確に答え、学習効果を高めるようフィードバックをする。

**【参考書】**

上林憲雄・厨子直之・森田雅也著『経験から学ぶ人的資源管理』

（有斐閣ブックス 2010年）

谷内篤博著『働く意味とキャリア形成』（勁草書房 2008年）

**【注意事項】**

**図画工作**

井口 眞美

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、協働力

**【授業のテーマ】**

子ども主体の図画工作の授業の在り方を学ぶ。そのためにも、本授業を通して、受講者自身が作り出すことの喜びや表現すること、鑑賞することの喜びを感じる感性を育ててほしい。

本授業では、「表現」及び「鑑賞」の二つの活動によって構成される小学校図画工作科の学習における基礎知識を学ぶ。また、造形の面白さや楽しさを受講生自身が経験し、感性を働かせながら情操を養うとはどのようなことかについて学ぶ。

**【授業における到達目標】**

- ・図画工作科学習指導要領における内容の構成（「表現」及び「鑑賞」）を理解する。
- ・図画工作科学習指導要領に示される内容と教材・素材について理解し、指導計画を立案することで「研鑽力」を身につける。
- ・受講生自らが感性を働かせながら「美」を探究し、仲間と互いに協力して活動を進める中で「協働力」を養うと共に、図画工作科の面白さ、楽しさを味わう。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション 授業の目的・内容・授業の進め方  
 第2週 子どもの造形的表現の発達  
 第3週 造形的表現①（平面：クレパス）  
     <外部講師による指導（日程未定）>  
 第4週 造形的表現②（平面：絵具）  
 第5週 学習指導要領について  
 第6週 図画工作科の指導の在り方  
 第7週 造形的表現①（立体：イメージ作成）  
 第8週 造形的表現②（立体：作成）  
 第9週 造形的表現③（立体：作成及び鑑賞）  
 第10週 「表現」と「鑑賞」  
 第11週 総合的表現の実践（作成①：グループでの話し合い）  
 第12週 総合的表現の実践（作成②：作成）  
 第13週 総合的表現の実践（準備）  
 第14週 総合的表現の実践（発表）  
 第15週 図画工作科指導と学習評価

**【事前・事後学修】**

事前学修：事前に小学校学習指導要領（図画工作）を読み、予習をしておくこと。また、美術館に行く、美術に関する書物を読む等、美術・図画工作に関心をもち、自主的に学修を進めること。（学修時間 週2時間）

事後学修：鑑賞課題については、早めの実施しレポートを提出すること。作品や課題は、決められた期日までに必ず提出すること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

適宜プリントを配布するので、ファイリングし保管しておくこと。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業態度（授業への取り組み方）70%、提出物、レポート30%  
 発表や課題に際しては、教員からのコメントを返す等、学修のフィードバックを行う。

**【参考書】**

文部科学省『小学校学習指導要領 図画工作編』平成29年

**【注意事項】**

- ・実習形式の内容も多いので、常に汚れてもよい服装で授業を受けること。
- ・講師の都合等により、日程が変更になることがある。

**図書・図書館史**

歴史からみるメディア・図書館と社会

霜村 光寿

3年 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

多様性が重要なキーワードの一つとなっている現代は、専門性に加え幅広い知識も必要とされる。図書館員に求められるレファレンス能力にも知識の幅広さが不可欠である。本講義では、メディアと図書館の歴史を概観することで歴史的思考を身につけ、図書館の将来像を考える一助とする。特に、現在の図書館サービスの確立された近現代を中心に、視聴覚資料も提示しながら考察したい。

**【授業における到達目標】**

歴史学的な思考方法を修得し、多角的なものの見方ができるようになる。メディア史・図書館史への理解を深める。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス：歴史とは何か、図書館史を学ぶ意義
- 第2週 世界の古代文明と文字
- 第3週 古代ヨーロッパの図書と図書館
- 第4週 中世世界と日本古代の図書と図書館
- 第5週 近世世界と日本中世・近世の図書と図書館
- 第6週 近現代世界の図書館（1）：ヨーロッパ
- 第7週 近現代世界の図書館（2）：アメリカ合衆国
- 第8週 近代日本の図書館（1）：明治・大正期
- 第9週 近代日本の図書館（2）：昭和戦前期
- 第10週 現代日本の図書館：昭和戦後期
- 第11週 情報サービス・レファレンスサービスの歴史
- 第12週 ドキュメンテーション、アーカイブ、印刷・写真技術
- 第13週 計算機の歴史・コンピュータ技術の発展・ネットワーク
- 第14週 これからの図書館：展望
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修・時間：教科書の該当箇所を読んでおく。演習については、報告者は報告の準備を、報告者以外は報告されるテーマについての予習。週2時間（演習回前は加えて2時間）。

事後学修・時間：教科書各章末の演習問題に取り組み、授業内容への理解を深めておく。週2時間。

**【テキスト・教材】**

千錫烈編著『ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望10 図書・図書館史』（学文社、2014年）1,800円＋税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

評価：定期試験（60%）、授業内での報告（25%）、質問等の授業態度（15%）。講義の質問等は出席票の裏に書き、次の回の冒頭でフィードバックする。オフィスアワーは講義終了後30分間、3階講師室にて。試験のフォローは最終回に行う。

**【参考書】**

小黒浩司編・解題『図書館用品カタログ集成戦前編』（金沢文圃閣、2016年）

小田中直樹『歴史学ってなんだ？』（PHP研究所、2004年）

**【注意事項】**

講義形式だが、第6～10週は授業の前半を講義、後半を2～3名による報告とする予定。報告内容は、各自の専攻に近い時代のメディアや図書館に関する内容を選ぶ。報告者は担当の前の回の授業で予告をし、他の受講者は内容に合わせて予習をする。報告時は原則全員1回質問をしてもらう。現在の図書館やメディアなどの動向、ニュースにも関心を持つとなおよい。

私語など他の学生の迷惑となる行為は厳禁。なお、授業計画は一部変更となる場合がある。

**図書・図書館史**

図書館史・メディア史から図書館サービスの源流をさぐる

霜村 光寿

2年 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

我々が利用者として受けている、もしくはこれから図書館員として提供する図書館サービスは、自明のものとして生まれたわけで半句、先人たちの試行錯誤の上に成り立っているものである。本講義では、図書をはじめとしたメディアと、図書館の歴史を探ることにより、図書館の歴史的発展への理解を深め、図書館の目指すべき姿を考察する。その上で、特に現在の図書館サービスが確立された近現代を中心に、視聴覚資料等も提示しながら考察できるようにしたい。

**【授業における到達目標】**

歴史学的な思考方法を習得し、多角的なものの見方ができるようになる。メディア史・図書館史への理解を深める。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス：歴史とは何か、図書館史を学ぶ意義
- 第2週 古代のメディアと図書館
- 第3週 図書館の発生
- 第4週 中世・近世の図書館：世界と日本
- 第5週 印刷の歴史：印刷術の発明・印刷の種類・大量印刷
- 第6週 公共図書館の成立
- 第7週 近代のマスメディア：雑誌・新聞・視聴覚メディア
- 第8週 近代の図書館（1）：アメリカ合衆国を中心に
- 第9週 近代の図書館（2）：戦前期日本の図書館
- 第10週 戦後改革：民主主義と図書館
- 第11週 戦後日本の公共図書館
- 第12週 メディアの多様化と新しいメディア
- 第13週 現代日本の図書館：政策・児童サービス・科学技術
- 第14週 これからの図書館：展望
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修・時間：教科書の該当箇所を読んでおく。演習は、報告者は報告の準備を、報告者以外は報告されるテーマについての予習。  
週2時間（演習回前は加えて2時間）  
事後学修・時間：ノート等を見返し、その回のメディアや図書館の特徴を時代背景と関連づけてまとめる。週2時間

**【テキスト・教材】**

小黒浩司編著『JLA図書館情報学テキストシリーズIII-11 図書・図書館史』（日本図書館協会、2013年）1,300円＋税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

評価：定期試験（60%）、授業内での報告（25%）、質問等の授業態度（15%）。講義の質問等は出席票の裏に書き、次の回の冒頭でフィードバックする。オフィスアワーは講義終了後30分間、3階講師室にて。試験のフォローは最終回に行く。

**【参考書】**

- 北嶋武彦編著『新現代図書館学講座13 図書及び図書館史』（東京書籍、1998年）
- 千錫烈編著『ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望10 図書・図書館史』（学文社、2014年）
- 小田中直樹『歴史学ってなんだ？』（PHP研究所、2004年）

**【注意事項】**

講義形式だが、第8～11週は授業前半を講義、後半を2～3名による報告とする予定。報告内容は各自の専攻に近い時代のメディアや図書館に関する内容を選ぶ。報告者は担当する前の回の授業で予告をし、他の受講者は内容に合わせて予習をすること。報告時は原則全員1回質問をしてもらう。現在の図書館やメディアなどの動向、ニュースにも関心を持つとなおよい。

私語など他の学生の迷惑となる行為は厳禁。なお、授業計画は一部変更となる場合がある。

**図書館サービス概論**

様々な図書館サービスを考える

大井 むつみ

2年 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

図書館における利用者サービスは多種多様である。貸出サービス以外に、レファレンスサービス、ヤングアダルトサービス、ビジネス支援サービスなどがある。本科目では、公共図書館における様々なサービスの種類とその意義についての理解を深める。

**【授業における到達目標】**

- ・図書館サービスの基本を学習し、司書と利用者との良好な人間関係を構築するために、コミュニケーション技術を修得する。
- ・図書館における多文化サービスの学習を通して、国内外の人々の多様な価値観を理解する。

**【授業の内容】**

- 第1回 オリエンテーション：「サービス（service）」とは何か
- 第2回 パブリックサービスとテクニカルサービス
- 第3回 利用者に対する接遇・コミュニケーション・広報
- 第4回 図書館サービスの変遷
- 第5回 図書館サービスの種類
- 第6回 貸出サービス① 原理と方法
- 第7回 貸出サービス② 延滞金徴収の是非
- 第8回 図書館サービスの協力と連携
- 第9回 情報提供の形態と機能
- 第10回 ビジネス支援サービス
- 第11回 健康情報サービス
- 第12回 障害者・高齢者サービス
- 第13回 多文化サービス
- 第14回 図書館サービスと出版・著作権  
(外部講師を予定)
- 第15回 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】各自が利用する図書館（大学図書館や公共図書館）における司書の接遇の場面を観察しておくこと。また、試験・課題等に取り組むこと。

(学修時間 週2時間)

【事後学修】授業中に学修した各種の図書館サービスの実際について、各自で利用する図書館現場で確認すること。また、試験・課題等を復習すること。

(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

宮部頼子編『図書館サービス概論』（樹村房 2017年）2,000円  
(税別)

その他、必要な資料は適宜配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業内試験60%（数回実施予定）、提出課題30%、積極的な受講姿勢10%。授業内試験及び、提出課題については次回授業で解説する予定である。

**【参考書】**

片山善博・糸賀雅児著『地方自治と図書館』（勁草書房 2017年）2,300円（税別）

今まど子・小山憲司編著『図書館情報学基礎資料』（樹村房 2016年）1,000円（税別）

**【注意事項】**

グループ討議（グループワーク）を実施する予定である。受講生全員が積極的に議論に参加すること。



**図書館サービス概論**

松尾 昇治

1年 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

図書館は利用者の求める資料や情報を的確に提供することによって、利用者の知る権利や学習する権利を保障する機関である。司書の専門性のひとつに「利用者と資料を結びつけること」とあるように、資料や情報の提供は図書館の最も基本的な機能であるとの視点から図書館サービスの内容について学ぶ。

**【授業における到達目標】**

上記のことを踏まえ、利用者への各種サービスの意義や特色などを理解できるようにする。また、図書館サービスのために必要な利用者との信頼関係を醸成する「協働力」を身につけることも目標とする。

**【授業の内容】**

1. 図書館サービスの意義
2. 図書館サービスの種類
3. 図書館の資料提供サービス 資料提供の方法
4. 図書館の資料提供サービス 貸出し、返却など
5. 図書館の資料提供サービス リクエスト、相互貸借等
6. 図書館の情報提供サービス 情報システム、OPACなど
7. リクエストサービスの方法と課題
8. 来館者へのサービスとフロア構成
9. 利用対象に応じたサービス 利用者集団の認識
10. 利用対象に応じたサービス 児童、高齢者、障害者などへのサービス
11. 多様な利用者サービス
12. 図書館サービスの管理・評価
13. 図書館利用者との交流
14. 図書館サービスの協力ネットワーク
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回の授業のポイントを指示するので下調べをしておくこと。（週2時間程度）

【事後学修】 毎回の授業内容を振り返り、自ら大切と考える事項等をノートに整理しておくこと。（週2時間程度）

**【テキスト・教材】**

プリントを配付する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験の成績と平常点（授業態度、レポート等も含む）により総合的に判断する。

配分基準：定期試験50%、平常点50%

適宜小テストを行い、授業内でフィードバックし、各自の理解度を再確認する。

**【参考書】**

授業のなかで、紹介する。

**【注意事項】**

『図書館概論』とともに図書館学の基礎科目です。しっかり学ぶことを心掛けましょう。

**図書館概論**

図書館の現状とそれを支える理念

須賀 千絵

2年 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

本講義は図書館学課程の一連の科目を学ぶための導入科目にあたる。公共図書館を中心にさまざまな館種の図書館の現状について知ったうえで、図書館の歴史、図書館の活動を支える基本的理念、現代社会と図書館との関係について学ぶ。

**【授業における到達目標】**

①図書館の種類とその現状について理解し、説明できる。②図書館の歴史をふまえたうえで、図書館の活動を支える基本的理念を理解し、説明できる。③現代社会と図書館との関係についての基本的知識を習得し、図書館の意義と可能性を説明できる。

**【授業の内容】**

- 第1回 本講義についてのオリエンテーション、図書館学課程の科目の構造
- 第2回 図書館の種類と歴史
- 第3回 公共図書館の機能と現状(1) 日本における公共図書館の展開と現状
- 第4回 公共図書館の機能と現状(2) まちづくりと図書館
- 第5回 公共図書館の機能と現状(3) 海外の公共図書館、公共図書館の社会的意義
- 第6回 学校図書館の機能と現状
- 第7回 大学図書館の機能と現状
- 第8回 国立図書館の機能と現状
- 第9回 専門図書館・図書館類縁機関(文書館、博物館、美術館など)の機能と現状
- 第10回 本や情報に関わる諸機関(書店など)との関係、図書館関連団体(図書館協会、図書館情報学に関連する学会など)
- 第11回 図書館行政と法体系
- 第12回 図書館活動を支える理念(図書館の自由、図書館員の倫理綱領など)
- 第13回 図書館の機能と社会的意義
- 第14回 図書館の将来のあり方と可能性
- 第15回 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：普段利用している図書館だけでなく、さまざまな館種・地域の図書館に積極的に足を運び、そこで提供されている資料やサービスについて知る。テキストの事前に指定した箇所や配布資料を読む。(学修時間 週2時間)

事後学修：授業で得た知識をノートに整理すると共に、関連する本やweb情報を調べ、自主的に発展的な学習を行う。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

塩見昇編著『図書館概論』四訂版(日本図書館協会, 2015年)

授業時に毎回資料を配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

小レポート(1回)10%, 小テスト(1回)10%, 授業への貢献度30%, 期末試験50%

小レポートと小テストは評価を行い返却する。毎回のリアクションペーパーの内容は次回の講義で共有し、疑問点については回答する。

**【参考書】**

『図書館年鑑』(日本図書館協会, 年刊)

『図書館ハンドブック』第6版補訂2版(日本図書館協会, 2016年)

上田修一・倉田敬子編著『図書館情報学』第2版(勁草書房, 2017年)

**図書館概論**

松尾 昇治

1年 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

今日、市民生活に不可欠な存在となった図書館はどのような理念で活動し発展してきたのだろうか。公共図書館を中心に、図書館の定義、図書館の種類と機能、図書館関連法規、図書館と地方自治体などを学ぶ中で、図書館の社会的役割を認識する。さらに、現代的課題についても概説する。

**【授業における到達目標】**

図書館の種類やその機能を学ぶことによって、これから図書館学を履修するための基礎的な知識を習得することを目標とし、図書館とは何かを理解できるようにする。また、図書館を使って知の探究ができるような「研鑽力」を身につけることも目標とする。

**【授業の内容】**

1. 図書館の定義
2. 生涯学習社会と図書館
3. 情報社会と図書館
4. 図書館職員
5. 図書館関連法規の基礎（1）図書館法
6. 図書館関連法規の基礎（2）憲法・教育基本法など
7. 図書館政策と行政
8. 図書館の理念
9. 地域社会と図書館
10. 公共図書館の制度と機能
11. 学校図書館の制度と機能  
外部講師（未定）の講義、質疑を予定
12. 国立図書館の制度と機能
13. 図書館の歴史的展開
14. 図書館の現代的課題
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回の授業のポイントを指示するので下調べをしておくこと。（週2時間程度）

【事後学修】 毎回の授業内容を振り返り、自ら大切と考える事項等をノートに整理しておくこと。（週2時間程度）

**【テキスト・教材】**

塩見昇編著『図書館概論 4訂版』（日本図書館協会、JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ 1 2015年）本体価格1,900円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験の成績と平常点（授業態度、小テスト、レポート等も含む）により総合的に判断する。

配分基準：定期試験50%、平常点50%

適宜小テストを行い、授業内にフィードバックし、各自の理解度を再確認する。

**【参考書】**

『市民の図書館』増補版（日本図書館協会 1976年）

前川恒雄、石井敦著『新版図書館の発見』（日本放送出版協会、NHKブックス 2006年）

その他、授業の中で随時紹介する。

**【注意事項】**

図書館学の基礎をしっかりと学ぼうという自覚を持って、授業に臨んでほしい。

**図書館基礎特論**

地域資料

蛭田 廣一

3年 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

地域資料は、地域に関する全ての資料及び地域で発生する全ての資料である。

その地域で発生する情報については、その地域の公共図書館でしかできない仕事であり、その図書館が最終的な責任を持つという認識が一般的になっている。

また、地域資料で扱う資料は図書館情報資源全般にわたり、その利用対象は子どもから研究者まで幅広い年代や多様な階層に及ぶ。

このことから、地域資料は公共図書館サービスの総合ともいえる。

**【授業における到達目標】**

地域資料の基礎的な定義や理論について学び理解を深める。

具体的な実践事例や先進事例等を通して、図書館の仕事の多様性と課題について探求し、必要な技術を身に付ける。

地域資料と地域との係わりについて考察し、市民協働や情報発信の在り方及び地域課題の解決に向けて何ができるか追及する。

**【授業の内容】**

- 第1回 地域資料概論
- 第2回 地域資料の歴史的位置付け
- 第3回 地域資料サービスの実践
- 第4回 地域資料の収集とマニュアル
- 第5回 地域資料の整理とデジタル化
- 第6回 行政の組織と行政資料
- 第7回 地図・新聞記事・写真
- 第8回 古文書・公文書・古記録
- 第9回 コレクションの評価と再編
- 第10回 地域資料実態調査と全国調査
- 第11回 学校図書館システム
- 第12回 レファレンスとパスファインダー
- 第13回 市民協働と情報発信
- 第14回 資料保存 概説編
- 第15回 資料保存 実践編

**【事前・事後学修】**

毎回プリントを配布し、それに沿って授業を進める。

また、随時課題を出し、参考資料を紹介するので、確実に提出すること。事前・事後学修に4時間必要とする。課題については、その都度授業の中で発表してもらおうとともに評価を行う。

**【テキスト・教材】**

- ・使用教科書  
三多摩郷土資料研究会編『地域資料入門』（日本図書館協会 1999年）1,900円
- ・プリントを使用する

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

成績評価の方法は、課題のレポートと定期試験及び課題の発表等日常的な受講姿勢を対象とする。評価基準は課題40%、定期試験40%、受講姿勢20%とする。課題の発表は随時授業の最初に行い、課題の評価とフィードバックを行う。

**【参考書】**

- ①根本彰『情報基盤としての図書館』勁草書房
- ②渡部幹雄『地域と図書館－図書館の未来のために－』慧文社
- ③『地域資料に関する調査研究報告書』
- ④大串夏身編著『課題解決型サービスの創造と展開』青弓社
- ⑤平山恵三・蛭田廣一『現在を生きる地域資料』けやき出版
- ⑥NPO知的資源イニシアティブ編『これからのアーキビスト』勉誠出版

**【注意事項】**

都合がつけば、課外授業として小平市中央図書館を訪問し、地域資料の実情を視察したい。

但し、自由参加で成績評価に含まない。

**図書館基礎特論**

—地域社会と図書館活動—

松尾 昇治

2年 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

公立図書館は地域社会のなかにあり、地域住民への情報提供の拠点として存在している。この授業では「地域」という概念を核にして地方自治についての認識を深めると共に、図書館の地域における活動の事例を学ぶことをテーマとする。特に、多摩地域を中心に図書館活動の具体例を紹介し解説する。

**【授業における到達目標】**

地域社会における公立図書館の役割、地域の資料・情報の重要性が理解できるようになる。また、地域について学ぶ楽しみを知り、地域を理解する「洞察力」を身につける。

**【授業の内容】**

1. 図書館法における地域（郷土）の位置
2. 地域と図書館との関係
3. 地域の歴史的発展と図書館（1）郷土史・地方史
4. 地域の歴史的発展と図書館（2）地域史
5. 図書館の類縁機関としての文書館
6. 地方分権型社会と図書館
7. 情報公開制度と図書館
8. 地域社会における図書館の役割
9. 地域の資料の収集・整理と保存
10. 地域社会への図書館サービス
11. 公立図書館における地域活動の実践例
12. ホームページによる情報の発信事例（1）多摩地域
13. ホームページによる情報の発信事例（2）23区ほか
14. 地方自治体と図書館活動
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回の授業のポイントを指示するので下調べをしておくこと。（週2時間程度）

【事後学修】 毎回の授業内容を振り返り、自ら大切と考える事項等をノートに整理しておくこと。（週2時間程度）

**【テキスト・教材】**

プリントを配付する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

地域と図書館活動に関するレポートおよび平常点により総合的に判断する。

配分基準：レポート50%および平常点（授業への参加態度を重視する）50%

適宜小テストを行い、授業内でフィードバックし、各自の理解度を再確認する。

**【参考書】**

三多摩郷土資料研究会編『地域資料入門』（日本図書館協会、図書館員選書14 1999年）

その他、授業の中で紹介する。

**【注意事項】**

図書館の地域活動は類縁機関である史料館や文書館などと関連があるので見学するとよい。

**図書館施設論**

図書館の建築を通してのサービス全体像の把握

田戸 義彦

3年 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

図書館計画の基礎となる図書館プログラムをベースに、図書館建築の現状課題・歴史・完成までの工程、さらには図書館各部の建築計画を通して、図書館計画を多角的な観点から見直し、図書館と図書館計画の本質的な理解を深めることを目的とする。

**【授業における到達目標】**

図書館建築計画のはたらき（機能）と、それにふさわしい場の関係を理解し、既存の図書館の主として開架室の配架などに対する適切な評価をできるようになること。また図書館全体の機能的なつながりを説明できるようにする。図書館の機能を具体的なはたらきによって理解することで、他の図書館関連科目の学びの意義も再確認し、司書過程全体の意義を理解する。

また、学生が修得すべき『研鑽力』として、どのような図書館においても存在する働きと場の関係に関心を持ち、本質を見抜いて改善策を自ら立案できる能力を身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週 プロローグ・日本の図書館はいま
- 第2週 図書館建築の現状と課題
- 第3週 日本の図書館建築史
- 第4週 図書館建築ができるまで。工程とターニングポイント
- 第5週 図書館プログラム-1 概要・サービス目標
- 第6週 図書館プログラム-2 敷地と施設
- 第7週 図書館プログラム-3 資料と職員
- 第8週 図書館配置計画
- 第9週 図書館建築計画-1 開架室廻り
- 第10週 図書館建築計画-2 児童・青少年開架室廻り
- 第11週 図書館建築計画-3 地域行政資料・視聴覚資料廻り
- 第12週 図書館建築計画-4 事務室・書庫廻り
- 第13週 図書館建築計画-5 集会展示 その他事例研究
- 第14週 図書館建築計画-6 大学図書館計画
- 第15週 全体のまとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 毎回配布する資料を次回授業までに読んでおくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 学習した内容を公共図書館の利用を通して確認し、図書館の基本的な仕組みを再確認すること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

毎回資料を配布するので、特定のテキスト購入は不要。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験80%、小テスト10%、課題提出10%。

小テストは次の授業で取り上げ、最終試験はその場で模範解答と考え方のシートを渡すことでフィードバックする。

**【参考書】**

授業の途中で各内容に対応した資料を紹介する。

**【注意事項】**

既刊の図書や資料でまとめられていない内容が多いので、授業に出席して、内容を理解することが基本となる。授業に出席しない限り合格はほとんど困難なので留意すること。

## 図書館施設論

畠山 秀保

2年 前期 2単位

### 【授業のテーマ】

図書館の施設は、図書館サービスや活動を展開する場として、図書館を構成する視点からも重要な要件である。これまで学んできた内容を発展する立場から、地域計画、建築計画、図書館づくりの流れその他の構成要素について理解を深める。

また、「自分が必要とする図書館」を考える場ともする。

### 【授業における到達目標】

授業では見学、ディスカッションを通し、他者の考えを知る事で多様な価値観を受容し多角的な視点を養う。また、公共図書館施設を学修し、プロセスと結果を学び多様な施設を知ることで、学生が履修して身につく〈態度・能力〉は行動力、研磨力を修得する。

### 【授業の内容】

- 第1週 プロローグ、建築の基本的要件
- 第2週 図書館建築の変遷
- 第3週 図書館建築ができるまでの流れと管理運営
- 第4週 公共図書館の基本計画
- 第5週 公共図書館の地域計画
- 第6週 公共図書館に関する法律、多彩な建築計画（複合、改修）
- 第7週 公共図書館の建築計画の流れ
- 第8週 家具とサイン計画
- 第9週 図書館施設見学（武蔵野プレイスを予定）
- 第10週 見学を題材にワークショップ  
図書館計画-1（複合施設、一般開架室、地域資料など）
- 第11週 図書館施設見学（国際子ども図書館を予定）
- 第12週 見学を題材にワークショップ  
図書館計画-2（施設種類と役割、児童開架室など）
- 第13週 図書館施設見学（日野市立図書館を予定）
- 第14週 見学を題材にワークショップ  
図書館計画-3（図書館システム、開架室の変化など）
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：身近な公共図書館を常にご利用しておくこと。

見学図書館の図書館概要を調べておくこと。

課題への取り組み等を含め学修時間は週2時間とする。

事後学修：授業で配付する資料を読み直しておくこと。

見学後はかならず考察をまとめておくこと。

学修時間は週2時間とする。

### 【テキスト・教材】

随時必要な資料を配付する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題の提出と平常点により総合的に判断する。

配分基準：課題提出（期限、オリジナルな視点）65%

：平常点（授業態度、校外見学への意欲、積極性）35%

成績評価のフィードバックは、提出されたレポートの中から優れたものを紹介する。

### 【参考書】

授業の途中で内容に対応した資料を紹介する。

### 【注意事項】

・図書館施設見学は見学先との調整もあるため、施設や日時（時間延長含め）に変更が生じる場合があるので注意すること。（図書館システムも学ぶ日野市立図書館の見学は長時間となる。）

・講義では校外見学を数回予定、それをもとにワークショップを行い理解を深めていくため、見学に際し前後の授業に影響がある学生は注意すると。

**図書館実習**

実務体験を通しての図書館業務への理解

須賀 千絵

3年 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

これまでに図書館学課程において学んだ知識をふまえ、図書館員の指導の下で実務を体験することを通して図書館業務への理解を深める。実習の事前準備として、校外の図書館を見学し、各地の図書館員の実践記録を読み込む。

**【授業における到達目標】**

図書館員の実践について知り、また図書館サービスの実務を体験することを通し、①図書館員としての心構えと組織における行動のあり方を体得する。②図書館業務のプロセスと実践の中でなされているさまざまな工夫について理解し、説明できる。

**【授業の内容】**

- 第1回 オリエンテーション（図書館実習の目的と授業の進め方）
- 第2回 実習館の選び方と事前調査方法
- 第3回 実習館についての相談と事前調査の実施
- 第4回 実習館の決定と事前調査のまとめ
- 第5回 校外図書館見学の準備（見学館についての事前調査と質問項目の決定）
- 第6回 校外図書館見学（11月初旬金曜日1日）
- 第7回 Jissen Librarianshipの会参加（11月中旬土曜日午後）図書館や読書に関わる活動に携わるゲストの講演を聴講する
- 第8回 校外図書館の見学記録の作成
- 第9回 図書館の現場での利用者とのコミュニケーション
- 第10回 図書館員の実践記録の輪読・話し合い(1)紫波町図書館
- 第11回 図書館員の実践記録の輪読・話し合い(2)東松島市図書館
- 第12回 図書館員の実践記録の輪読・話し合い(3)田原市図書館
- 第13回 図書館員の実践記録の輪読・話し合い(4)東近江市八日市図書館
- 第14回 図書館実習館の事前調査の補足と最終まとめ、実習にあたっての注意
- 第15回 図書館実習と訪問指導をふまえての実習報告会

**【事前・事後学修】**

事前学修：実習館、見学館、実践記録の輪読で取り上げる図書館について、情報を集め、整理する。図書館員の実践記録は事前に読み込み、話し合いに備える。（学修時間 週2時間）

事後学修：①実習や見学の記録をまとめる。②授業で取り上げた以外の図書館員の実践記録を読み、さまざまな図書館の状況を知り、職業人としての図書館員のあり方を考える。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

『地域活性化志向の公共図書館における経営に関する調査研究』（国立国会図書館，2014年） 国立国会図書館のwebサイトより無料でダウンロード可能

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

図書館見学レポート5%、JLSの会参加レポート5%、図書館実践記録の発表と話し合いへの貢献度10%、図書館実習65%、図書館実習記録10%、実習報告5%

**【参考書】**

日本図書館協会図書館調査事業委員会編『日本の図書館：統計と名簿2016』（日本図書館協会，2017年）

調査時に刊行されている最新版を参照すること

**【注意事項】**

図書館員を将来の職業とすることを考えている学生であること。なお履修者の関心に応じて、授業でとりあげる図書館員の実践記録を変更する可能性がある。



**図書館情報サービス論**

松尾 昇治

2年 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

インターネットに代表されるように、現代社会は高度情報通信ネットワーク社会といわれ、情報に対する社会的要求が高まり、図書館における情報サービスもより高度な展開が求められるようになってきている。この授業では、図書館における情報サービスのあり方を学ぶ。

**【授業における到達目標】**

図書館で情報サービスをおこなうための基本的知識や技能が分かるようになる。また、図書館を使って知を探究する「研鑽力」を身につけることも目標とする。

**【授業の内容】**

1. 情報サービス概説とは
2. 図書館の情報サービス
3. 情報サービスの歴史と現状
4. 情報サービスの実際
5. 情報検索の定義と種類
6. 情報検索システムの構成
7. 情報サービスの組織
8. 情報サービスと情報資源
9. 情報サービスの収集と運用
10. レファレンスプロセスの概念
11. レファレンスプロセスの具体化
12. 情報サービスにおける情報源
13. 各種情報サービスの特徴と利用法
14. レファレンスプロセスの実際
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回の授業のポイントを指示するので下調べをしておくこと。（週2時間程度）

【事後学修】 毎回の授業内容を振り返り、自ら大切と考える事項等をノートに整理しておくこと。（週2時間程度）

**【テキスト・教材】**

プリントを配付する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験の成績と平常点（レポート等も含む）により総合的に判断する。

配分基準：定期試験成績50%、平常点50%

適宜小テストを行い、授業内でフィードバックし、各自の理解度を再確認する。

**【参考書】**

斎藤文男・藤村せつ子著『実践型レファレンス・サービス入門 改訂版』（日本図書館協会JLA図書館実践シリーズ1 2014年）  
その他、授業のなかで、紹介する。

**【注意事項】**

「情報サービス演習」 a 及び b の基礎にあたる科目であることを心得て履修すること。

**図書館情報技術論**

図書館の情報技術リテラシーを育成する

竹内 ひとみ

2年 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

図書館業務で使われている情報機器のハード・ソフト両面についての理解を深める。図書館業務システム、コンピュータ等の基礎、データベース、検索エンジン、電子資料等を理解し、図書館員として必要な情報技術リテラシーを育成する。

**【授業における到達目標】**

図書館で使われている情報技術全般についての知識を修得する。具体的には図書館業務システム、コンピュータシステム、データベース、検索エンジン、電子資料等の基礎的な知識を修得する。また実際にホームページ作成等の演習を通して発信型情報技術リテラシーを育成し、それによって多様な価値観を持つ図書館利用者との交流を可能とし、相互理解を深める基盤的知識を修得する。また図書館と情報化社会についての知識を深めることによって、様々な問題を解決するためのプロセスやその成果を正しく評価していく能力を育成する。

**【授業の内容】**

- 第1週 講義の概要、シラバス等の説明
- 第2週 コンピュータとネットワークの基礎
- 第3週 図書館における情報技術活用の現状
- 第4週 図書館業務システムの仕組み
- 第5週 情報技術と社会
- 第6週 データベースの仕組み
- 第7週 検索エンジンの仕組み
- 第8週 電子資料の管理技術
- 第9週 コンピュータシステムの管理
- 第10週 図書館Website (ホームページ作成: HTMLとは)
- 第11週 図書館Website (ホームページ作成: リンク等の作成)
- 第12週 図書館Website (プログラムとは)
- 第13週 デジタルアーカイブ
- 第14週 最新の情報技術と図書館
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】ミニテスト・発表等の課題に取り組むこと。(学修時間 週1時間)

【事後学修】ミニテストやテキスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。毎回、前回学んだ点についてミニテストを行いますので、該当箇所を予習・復習しておくこと。(学修時間 週3時間)

**【テキスト・教材】**

1. 日高昇治『図書館情報技術論』(ライブラリー図書館情報学3)学文社, 2013, 1,900円
  2. 渡邊希久子『HTML&スタイルシートトレーニングブック HTML5+CSS3対応版』ソーテック社, 2014, 2,380円
- その他、適宜必要な資料は、授業で配付する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

提出課題30% 試験50% 積極的な授業態度20%

(基本的に授業への出席率は80%以上であること。次回授業で前回の授業内容についてミニテストを行い、また提出課題についても次回の授業でフィードバックする。)

**【参考書】**

- 河島茂生『図書館情報技術論』(講座・図書館情報学4)京都市: ミネルヴァ書房, 2013. 2,800円
- 杉本重雄『図書館情報技術論』(現代図書館情報学シリーズ3)樹村房, 2014. 2,000円

**【注意事項】**

授業での質問を歓迎します。積極的な受講態度を重視する。

## 図書館情報技術論

松尾 昇治

2年 後期 2単位

## 【授業のテーマ】

現代はさまざまな分野で情報機器を備え、それらを使用して情報の生産、流通（通信）、加工、検索、利用などが行われている社会となったため、「高度情報通信ネットワーク型社会」と言われている。図書館も同様であり、これからの司書は、情報技術に関する知識や活用能力を持つことが不可欠である。

## 【授業における到達目標】

図書館で使われているさまざまな情報機器についての基礎的な知識を身につけるとともに、図書館のコンピュータシステムについて知ることを目標とする。また、図書館を使って知を探索するための「研鑽力」に係わる情報技術を身につけることも目標とする。

## 【授業の内容】

1. 図書館と情報機器の沿革と現状
2. パソコンの機能と周辺機器
3. 図書館利用への情報機器の活用
4. カウンター業務
5. 複写とその周辺機器
6. 図書館のコンピュータシステム
7. データベースシステムと検索エンジン
8. 電子図書館とデジタルアーカイブ
9. 図書館業務への情報機器の活用
10. 発注システム
11. 目録編成システム
12. 図書館貸借システム
13. 図書館システムの管理・保守
14. 図書館システムの最新事情
15. まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業のポイントを指示するので下調べをしておくこと。（週2時間程度）

【事後学修】 毎回の授業内容を振り返り、自ら大切と考える事項等をノートに整理しておくこと。（週2時間程度）

## 【テキスト・教材】

プリントを配付する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート提出と平常点（授業態度、課題提出）で総合的に判断する。

配分基準：レポートの評価50%、平常点50%

適宜小テストを行い、授業内でフィードバックし、各自の理解度を再確認する。

## 【参考書】

授業のなかで、紹介する。

## 【注意事項】

情報科学分野の研究開発は日進月歩で行われており、つぎつぎと新システムや新機種が発表されるので、ニュース報道や雑誌記事などに注意し、関心を持つように心掛けること。

## 図書館情報資源概論

松尾 昇治

1年 後期 2単位

## 【授業のテーマ】

図書館の資料や情報は図書館を構成する重要な要素である。その知識をもっていることは、利用者へ資料・情報の提供を担う司書にとって不可欠のことである。図書館情報資源とは何か、図書、出版流通、知的自由などを中心に図書館情報資源の意義や重要性について学ぶ。現代はICT社会といわれるように、インターネットの普及により誰もが情報の送り手となる時代である。従って、司書として著作権への理解をもっていることは必要な条件である。

## 【授業における到達目標】

図書館が対象とする情報資源の基礎的知識を知ることにより、図書館の各種の資料群を把握できるようにする。また、図書館の情報資源を使って、知を探究する「研鑽力」を身につけることも目標とする。

## 【授業の内容】

1. 図書館情報資源とは
2. 図書の歴史と構造
3. 印刷の歴史
4. 図書以外の情報資源
5. 出版流通と図書館 出版と出版流通
6. 出版流通と図書館 書店からみた図書館  
外部講師（未定）の講義、質疑を予定
7. 資料・情報と知的自由
8. 図書館における知的自由の意義
9. 図書館における知的自由の歴史
10. 著作権法の基礎
11. 著作者の権利と図書館
12. 資料・情報の選択論
13. 収集方針と選択のための資料・情報
14. 図書館情報資源の収集と保存
15. まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業のポイントを指示するので下調べをしておくこと。（週2時間程度）

【事後学修】 毎回の授業内容を振り返り、自ら大切と考える事項等をノートに整理しておくこと。（週2時間程度）

## 【テキスト・教材】

プリントを配付する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験の成績と平常点（レポート等も含む）により総合的に判断する。

配分基準：定期試験50%、平常点50%

適宜小テストを行い、授業内でフィードバックし、各自の理解度を再確認する

## 【参考書】

授業のなかで、紹介する。

## 【注意事項】

日頃から出版状況に関心を持って、新聞の読書欄などを読むように心がけること。

**図書館情報資源概論 a**

図書館におけるさまざまな情報資源の特性と出版・流通のしくみ

須賀 千絵

2年 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

図書館は、本、雑誌、CD・DVDなど、さまざまな形で情報を記録した資源を収集・保存し、利用者に提供している。また近年では、インターネットを介して提供され、モノとしての形を持たないネットワーク情報資源の役割が増大し、図書館においても重要な情報資源となっている。本講義では、これらの図書館情報資源の種類や特性、および出版・流通のしくみについて解説する。合わせて学術情報資源の生産と流通についても取り上げる。

**【授業における到達目標】**

①さまざまな図書館情報資源の種類と特性について理解し、説明できる。②日本における出版・流通のしくみとその課題について理解し、説明できる。③学術情報流通の生産と流通のシステムの現状について理解し、その将来展望を考えるうえで必要な基本的知識を習得する。

**【授業の内容】**

- 第1回 オリエンテーション（本講義の概要と学習方法）
- 第2回 図書館情報資源の歴史
- 第3回 資料各論(1) 図書（官公庁出版物と民間出版物、地域資料等）
- 第4回 資料各論(2) 非図書資料（地図、楽譜、マイクロ資料等）
- 第5回 資料各論(3) 非図書資料（視聴覚資料）
- 第6回 資料各論(4) 障害者サービスのための資料
- 第7回 資料各論(5) 逐次刊行物と更新資料
- 第8回 ネットワーク情報資源(1) ネットワーク情報資源の種類
- 第9回 ネットワーク情報資源(2) ネットワーク情報資源の組織化と提供
- 第10回 一次資料と二次資料（灰色文献を含む）
- 第11回 出版・流通の現状
- 第12回 出版・流通の課題と図書館
- 第13回 学術情報資源(1) 学術コミュニケーション
- 第14回 学術情報資源(2) 学術情報資源をめぐる課題とその対策
- 第15回 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：テキストの指示された箇所を読んで予習する。（学修時間 週1時間）

事後学修：①図書館等において授業で取り上げた情報資源を実際に利用し、その特性を確認する。②授業で配布された関連資料を読み、発展的な学習を行う。（学修時間 週3時間）

**【テキスト・教材】**

伊藤民雄著『図書館情報資源概論』（学文社、2012年）1,944円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート(1回)20%、期末試験50%、授業への貢献度30%。レポートは評価を行い返却する。毎回のリアクションペーパーの内容は、次の講義で共有し、疑問点については回答する。

**【参考書】**

権山紘一編『図説本の歴史』（河出書房新社、2011年）

**図書館情報資源概論 b**

蔵書構築と資料選択

須賀 千絵

2年 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

図書館は、ひとつひとつの資料の選択を通じて、蔵書（コレクション）を構築し、利用者に提供している。本講義では、蔵書構築の概念、および収集から不要資料の選択までの一連のプロセスについて解説し、実際に資料選択の演習を行う。

**【授業における到達目標】**

①蔵書構築に関わる基本的な概念とそのプロセスについて理解し、説明できる。②図書館における資料選択の方法について、基本的な知識を習得する。

**【授業の内容】**

- 第1回 オリエンテーション（本講義の概要と学習方法）
- 第2回 蔵書構成の概念（蔵書の定義、所蔵とアクセス、蔵書に影響を与える要因）
- 第3回 蔵書構成のプロセス(1) 一般的なプロセス、相互貸借とリクエスト制度
- 第4回 蔵書構成のプロセス(2) コミュニティ分析と蔵書構成方針
- 第5回 蔵書構成のプロセス(3) 資料選択の方法
- 第6回 蔵書構成のプロセス(4) 資料選択に用いる情報源
- 第7回 公共図書館の資料選択理論
- 第8回 蔵書構成のプロセス(5) 排架と管理
- 第9回 蔵書構成のプロセス(6) 不要資料の選択と蔵書評価
- 第10回 図書館の自由と蔵書構成
- 第11回 主題分野別の資料の特徴（健康・医療情報を中心に）
- 第12回 資料選択の実践
- 第13回 web情報源の評価
- 第14回 日本の図書館コレクションの現状と課題
- 第15回 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：①テキストの指定箇所を読んで予習する。②資料選択の実践に備えて、健康・医療分野における本の中から、「図書館に置くべきである」と思うものを選ぶ。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業で紹介、配布された関連資料を読み、発展的な学習を行う。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

伊藤民雄著『図書館情報資源概論』（学文社、2012年）1,944円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

資料選択レポート(1回)20%、期末試験50%、授業への貢献度30%。レポートは評価を行い返却する。毎回のリアクションペーパーの内容は、次の講義で共有し、疑問点については回答する。

**【参考書】**

日本図書館情報学会研究委員会編『情報の評価とコレクション形成』（勉誠出版、2015年）

## 図書館情報資源特論

松尾 昇治

2年 前期 2単位

## 【授業のテーマ】

図書館の専門的資料である人文科学、社会科学、自然科学・技術の各分野における知識の構造と資料との関係についての理解を深めるために、それぞれの分野における代表的な資料の特性、情報の生産・流通、書誌コントロール、資料・情報へのアクセスと利用などについて学び、書誌解題の演習を行う。

## 【授業における到達目標】

演習を行うことで、人文科学、社会科学、自然科学・技術の各分野の書誌解題がかけられるようになる。また、図書館を使って知を探究する「研鑽力」を身につけることも目標とする。

## 【授業の内容】

1. 専門資料の定義
2. 専門資料の構造
3. 専門資料の構成と種類
4. 学術コミュニケーションの構造
5. 電子環境下における学術情報
6. 人文科学分野の資料と情報
7. 漢籍の知識（1）漢籍の概要  
特別講師（未定）の講義・質疑を予定
8. 漢籍の知識（2）印刷の歴史  
特別講師（未定）の講義・質疑を予定
9. 人文科学分野の書誌解題（演習）
10. 社会科学分野の資料と情報
11. 社会科学分野の書誌解題（演習）
12. 自然科学・技術分野の資料と情報
13. 自然科学・技術分野の書誌解題（演習）
14. 二次資料活用の実例（演習）
15. まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業のポイントを指示するので下調べをしておくこと。（週2時間程度）

【事後学修】 毎回の授業内容を振り返り、自ら大切と考える事項等をノートに整理しておくこと。（週2時間程度）

## 【テキスト・教材】

プリントを配付する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題の提出と授業態度などの平常点で総合的に判断する。

配分基準：課題提出50%、平常点50%

演習の課題のフィードバックを行って、各自の理解度を再確認する。

## 【参考書】

授業のなかで、紹介する。

## 【注意事項】

演習を行うので、与えられた課題を調べあげて提出すること。

**図書館制度・経営論**

図書館の運営はどのように行われているか

松尾 昇治

3年 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

今日急激に変化する現代社会のなかで、公立図書館も厳しい環境のもとに置かれている。公立図書館は、図書館法にもとづき、地方自治法などの法制度の下に設置される機関である。したがって、公立図書館を経営あるいは運営するためには、図書館に関連する法体系や政策、行政組織の中の図書館の位置などを理解することが不可欠である。さらに、図書館のサービス計画やその評価なども図書館経営の方法として知っておくべきことである。

**【授業における到達目標】**

上記のことを踏まえ、図書館の司書として働くのに必要な図書館の制度・経営の基本的な知識が身につくようにする。また、図書館を使って知を探究する「研鑽力」を身につけることも目標とする。

**【授業の内容】**

1. 図書館経営のあり方・意義
2. 地方行政と図書館
3. 図書館の組織と運営・経営形態
4. 図書館の職員（館長）
5. 図書館の職員（司書、事務職員など）
6. 図書館ボランティア
7. 図書館サービス等に関連する法制
8. 図書館法
9. 国の図書館政策
10. 地方自治体の図書館政策
11. 図書館の整備計画と施設
12. 図書館のサービス計画と評価
13. 地方自治体の予算・決算と図書館
14. 図書館経営の現状と今後の課題
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回の授業のポイントを指示するので下調べをしておくこと。（週2時間程度）

【事後学修】 毎回の授業内容を振り返り、自ら大切と考える事項等をノートに整理しておくこと。（週2時間程度）

**【テキスト・教材】**

プリントを配付する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常の授業態度（50%）、期末試験（50%）の結果を総合的に評価する。

適宜小テストを行い、授業内でフィードバックし、各自の理解度を再確認する。

**【参考書】**

大澤正雄著『公立図書館の経営』補訂版 図書館員選書・21（日本図書館協会 2005年）

手嶋孝典著『図書館制度・経営論』第2版 ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望 5（学文社 2017年）

その他、授業のなかで紹介する。

**【注意事項】**

公立図書館および図書館と関わりのある国や地方自治体の動きについて、テレビ等のニュースや新聞・雑誌記事、図書館webサイトなどを日頃から関心を持って注視しておくこと。

**図書館制度・経営論**

松尾 昇治

1年 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

急激に変化する現代社会のなかで、公立図書館も厳しい環境のもとに置かれている。公立図書館は、図書館法にもとづき、地方自治法などの法制度の下に設置される機関である。したがって、公立図書館を経営あるいは運営するためには、図書館に関連する法体系や政策、行政組織の中の図書館の位置などを理解することが不可欠である。さらに、図書館のサービス計画やその評価なども図書館経営の方法として知っておくべきことである。

**【授業における到達目標】**

上記のことを踏まえ、図書館の司書として働くのに必要な図書館の制度・経営の基本的な知識が身につくようにする。また、図書館を使って知を探究する「研鑽力」を身につけることも目標とする。

**【授業の内容】**

1. 図書館経営のあり方・意義
2. 地方行政と図書館
3. 図書館の組織と運営形態
4. 図書館の職員（館長）
5. 図書館の職員（司書、事務職員など）
6. 図書館ボランティア
7. 図書館に関連する法律
8. 図書館法
9. 国の図書館政策
10. 地方自治体の図書館政策
11. 図書館の整備計画と施設
12. 図書館のサービス計画と評価
13. 地方自治体の予算・決算と図書館
14. 図書館経営の現状と今後の課題
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回の授業のポイントを指示するので下調べをしておくこと。（週2時間程度）

【事後学修】 毎回の授業内容を振り返り、自ら大切と考える事項等をノートに整理しておくこと。（週2時間程度）

**【テキスト・教材】**

プリントを配付する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常の授業態度（50%）、期末試験（50%）の結果を総合的に評価する。

適宜小テストを行い、授業内でフィードバックし、各自の理解度を再確認する。

**【参考書】**

大澤正雄著『公立図書館の経営』補訂版 図書館員選書・21（日本図書館協会 2005年）

その他、授業のなかで紹介する。

**【注意事項】**

公立図書館および図書館と関わりのある国や地方自治体の動きについて、テレビ等のニュースや新聞・雑誌記事、図書館webサイトなどを日頃から関心を持って注視しておくこと。

**図書館総合演習**

研究としての図書館情報学

安藤 友張

3年 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

図書館学課程の総仕上げとして、ゼミ形式の授業を実施する。アカデミック・ライティングの手法を身につけ、レポート・論文を作成する。受講生の興味・関心に応じた研究課題を設定する。

**【授業における到達目標】**

・図書館をテーマとした学術論文の作成を通して、自己肯定感や自信を高める。

**【授業の内容】**

- 第1回 問題意識を抱く
- 第2回 研究テーマの設定
- 第3回 先行研究の調査（文献検索）
- 第4回 先行研究のレビューと課題設定
- 第5回 仮アウトラインの作成
- 第6回 調査方法についての検討
- 第7回 文献調査などの実施
- 第8回 中間報告
- 第9回 本文作成①（アカデミック・ライティングの基本的技法）
- 第10回 本文作成②（序論の書き方）
- 第11回 本文作成③（注・引用文献の書き方）
- 第12回 本文作成④（考察の書き方）
- 第13回 本文作成⑤（結論の書き方）
- 第14回 本文作成⑥（推敲）
- 第15回 最終発表・まとめ・提出

**【事前・事後学修】**

【事前学修】自分の研究テーマ（興味を抱いたテーマ）に関する文献を複数冊、事前に必ず熟読すること（学修時間 週2時間）。

【事後学修】授業中で紹介された図書館情報学の文献以外に、図書館などで文献検索（文献探索）し、関連資料を網羅的に収集すること（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

プリントを授業中に配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- ・口頭による中間発表（50%）、最終レポート（50%）で評価する。
- ・学生による授業評価アンケートを実施後、成績評価も含めて全体総括し、manabaを通してフィードバックする予定である。

**【参考書】**

- 三田図書館・情報学会編『図書館・情報学入門』（勁草書房 2005年）
- 佐渡島紗織編著『レポート・論文をさらによくする書き直しガイド』（大修館書店 2015年）

**【注意事項】**

ゼミ形式で授業を実施するので、受講生の主体的な参加が求められる。教室外（授業外）の時間における入念な準備学習が不可欠である。



## 数学の世界

本田 龍央

1年～ 前期 2単位

○：美の探求、研鑽力

### 【注意事項】

- ・数式を扱いますので、中学数学、数学IAを履修している事を前提とします。不慣れだと演習時に厳しいと感じる問題もあります。了解した上で受講登録して下さい。
- ・数学IIB以上の知識があればより理解しやすいと思います。

### 【授業のテーマ】

この講義は計算や技術の向上といった性質ではなく、数学という学問の文化的な一側面について学習します。特に「入試問題」と「数学史」という二つのテーマを扱います。

前半は入試問題にスポットを当てながら、高校までに学んだ数学を振り返ってみます。「答えは1つ」の数学も、考え方で考慮すれば「答え」は無数にあります。一つの問題を掘り下げながら、数学の学び方、味わい方について考えます。

後半は数学小史。日本に於ける数学の歴史、射影、及び数eにまつわる話題を取り上げます。実用から生まれた数学が如何にして学問体系に昇華したか、その背景から「文化」としての数学を考えていきます。

### 【授業における到達目標】

欧州と比べ、アジアの方の学生に「数学嫌い」が多い。アジアの数学教育は基本的な公式、解法の暗記などの基礎を重視するが、欧州では問題、解法の比較・検討を行うなど、単なる「道具」ではなく、「文化」として考えている所に差が生じたのだろう。

この講義では将来的に（教員だけでなく後輩指導など幅広い意味での）教育に携わる学生を想定し、問題が「解ける」のではなく、問題の性格や解法について論ずる事、すなわち「研鑽力」のうち広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とします。

### 【授業の内容】

- 第 1 週 数学の学び方
- 第 2 週 入試問題を解く（その1：図形の問題）
- 第 3 週 入試問題を解く（その2：2次関数の問題）
- 第 4 週 入試問題を解く（その3：方程式の問題）
- 第 5 週 入試問題を解く（その4：円周率の計算（続き））
- 第 6 週 入試問題を解く（その5：円周率の計算）
- 第 7 週 入試問題を解く（その6：整数の問題）
- 第 8 週 入試問題を解く（その7：数列の問題）
- 第 9 週 射影の幾何（その1：視覚のモデル）
- 第10週 射影の幾何（その2：射影における幾何）
- 第11週 数eについて（その1：計算の歴史）
- 第12週 数eについて（その2：対数）
- 第13週 数eについて（その3：微分積分の発見）
- 第14週 数eについて（その4：微分積分の発見・その後）
- 第15週 総括

### 【事前・事後学修】

【事前学修】講義内で前回の問題についての検討を行う予定です。前回に出題された問題について準備して下さい。  
（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義の内容に関し、興味のあるものについて文献等を調べて纏めて下さい。  
（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

電卓を利用する事があるのでご用意下さい。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

通常の講義内における小テスト、および2回のレポート課題にて評価します。  
（評価比率：小テスト50%、レポート課題50%）  
小テストは次回に返却・解説をします。また、レポートの締め切りを14回以前とし、最終回に結果に対する総括等を行います。

### 【参考書】

- 川本亨二著「江戸の数学文化」（岩波書店1999）
- マオール著「不思議な数eの物語」（岩波書店1999）

**世界の中の日本文学c**

能の世界—鶴亀（つるかめ）

小倉 伸二郎

2年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

能は今から600年以上も前に生まれた舞台芸術で、舞踊や歌謡の要素を取り入れた日本演劇の起源であるといえます。2001年には世界無形遺産に指定されました。

この授業では、能とは何かを解説するとともに、謡（うたい）や仕舞（しまい）の実技を教授します。また、適時に能楽堂へ行って能を鑑賞したり、舞台上で謡や仕舞の稽古をしたりする予定です。

座学では味わえない古典の世界を体感し、日本古来の所作を身につけ、世界に向かって日本の優れた文化を発信しましょう。

**【授業における到達目標】**

能は日本の自然、社会、文学から生まれた総合芸術です。能を学ぶことによって、日本の文化・精神の価値を見だし、日本人としての感受性を深める態度を身につけます。また、自分が学んだことを世界に向けて発信する態度を身につけることを目標とします。

自己や他者の役割を理解し、互いに協力しなければよい舞台になりません。この授業では他の履修者と協力し、物事を進めることのできる能力を身につけることを目標とします。

**【授業の内容】**

- 第1週 能とは何か（ビデオ鑑賞）
  - 第2週 謡と仕舞の実際、「鶴亀」の解説
  - 第3週 「鶴亀」の謡（1） 模範謡を聴こう
  - 第4週 「鶴亀」の謡（2） 一緒に謡いましょう
  - 第5週 「鶴亀」の謡（3） 一人で謡ってみよう
  - 第6週 能の鑑賞（宝生能楽堂）
  - 第7週 「鶴亀」の仕舞（1） 扇の持ち方、開き方
  - 第8週 「鶴亀」の仕舞（2） 姿勢と足の運び方
  - 第9週 舞台にて仕舞の稽古
  - 第10週 「鶴亀」の仕舞（3） 身ヲ入レフミトメ、角トリ
  - 第11週 「鶴亀」の仕舞（4） サン廻シヒラキ、左右、大左右
  - 第12週 「鶴亀」の仕舞（5） 拍子六ツ、ユウケン
  - 第13週 「鶴亀」の仕舞（6） カザシ、打込ミ
  - 第14週 謡「鶴亀」の仕上げ
  - 第15週 仕舞「鶴亀」の仕上げ
- 「能の鑑賞」、「舞台にて仕舞の稽古」は、舞台の都合で日程が変わる場合もあります。

**【事前・事後学修】**

事前学修—謡本を読めるようにしておくこと（週2時間）

事後学修—前回学んだ謡や仕舞を復習しておくこと（週2時間）。

**【テキスト・教材】**

第1回の授業で指示するので、前もって準備する必要はありません。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

受講態度30%、謡と仕舞の実技70%で評価します。毎回、謡いと仕舞の実技を实践させ、それに伴って起きる疑問や質問に答える形でフィードバックを行う。

**【参考書】**

必要なものは授業中に指示します。

**【注意事項】**

欠席が続くと不明な点が多くなるので、休まず受講してください。

**世界の中の日本文学c**

能の世界—鶴亀（つるかめ）

小倉 伸二郎

2年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

能は今から600年以上も前に生まれた舞台芸術で、舞踊や歌謡の要素を取り入れた日本演劇の起源であるといえます。2001年には世界無形遺産に指定されました。

この授業では、能とは何かを解説するとともに、謡（うたい）や仕舞（しまい）の実技を教授します。また、適時に能楽堂へ行って能を鑑賞したり、舞台上で謡や仕舞の稽古をしたりする予定です。

座学では味わえない古典の世界を体感し、日本古来の所作を身につけ、世界に向かって日本の優れた文化を発信しましょう。

**【授業における到達目標】**

能は日本の自然、社会、文学から生まれた総合芸術です。能を学ぶことによって、日本の文化・精神の価値を見だし、日本人としての感受性を深める態度を身につけます。また、自分が学んだことを世界に向けて発信する態度を身につけることを目標とします。

自己や他者の役割を理解し、互いに協力しなければよい舞台になりません。この授業では他の履修者と協力し、物事を進めることのできる能力を身につけることを目標とします。

**【授業の内容】**

- 第1週 能とは何か（ビデオ鑑賞）
  - 第2週 謡と仕舞の実際、「鶴亀」の解説
  - 第3週 「鶴亀」の謡（1） 模範謡を聴こう
  - 第4週 「鶴亀」の謡（2） 一緒に謡いましょう
  - 第5週 「鶴亀」の謡（3） 一人で謡ってみよう
  - 第6週 能の鑑賞（宝生能楽堂）
  - 第7週 「鶴亀」の仕舞（1） 扇の持ち方、開き方
  - 第8週 「鶴亀」の仕舞（2） 姿勢と足の運び方
  - 第9週 舞台にて仕舞の稽古
  - 第10週 「鶴亀」の仕舞（3） 身ヲ入レフミトメ、角トリ
  - 第11週 「鶴亀」の仕舞（4） サン廻シヒラキ、左右、大左右
  - 第12週 「鶴亀」の仕舞（5） 拍子六ツ、ユウケン
  - 第13週 「鶴亀」の仕舞（6） カザシ、打込ミ
  - 第14週 謡「鶴亀」の仕上げ
  - 第15週 仕舞「鶴亀」の仕上げ
- 「能の鑑賞」、「舞台にて仕舞の稽古」は、舞台の都合で日程が変わる場合もあります。

**【事前・事後学修】**

事前学修—謡本を読めるようにしておくこと（週2時間）

事後学修—前回学んだ謡や仕舞を復習しておくこと（週2時間）。

**【テキスト・教材】**

第1回の授業で指示するので、前もって準備する必要はありません。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

受講態度30%、謡と仕舞の実技70%で評価します。毎回、謡いと仕舞の実技を実践させ、それに伴って起きる疑問や質問に答える形でフィードバックを行う。

**【参考書】**

必要なものは授業中に指示します。

**【注意事項】**

欠席が続くと不明な点が多くなるので、休まず受講してください。

**世界の中の日本文学 d**

能の世界—羽衣（はごろも）キリ

小倉 伸二郎

2年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

能は今から600年以上も前に生まれた舞台芸術で、舞踊や歌謡の要素を取り入れた日本演劇の起源であるといえます。2001年には世界無形遺産に指定されました。

この授業では、能とは何かを解説するとともに、謡（うたい）や仕舞（しまい）の実技を教授します。また、適時に能楽堂に行って能を鑑賞したり、舞台上で謡や仕舞の稽古をしたりする予定です。

座学では味わえない古典の世界を体感し、日本古来の所作を身につけ、世界に向かって日本の優れた文化を発信しましょう。

**【授業における到達目標】**

能は日本の自然、社会、文学から生まれた総合芸術です。能を学ぶことによって、日本の文化・精神の価値を見だし、日本人としての感受性を深める態度を身につけます。また、自分が学んだことを世界に向けて発信する態度を身につけることを目標とします。

自己や他者の役割を理解し、互いに協力しなければよい舞台になりません。この授業では他の履修者を協力し、物事を進めることのできる能力を身につけることを目標とします。

**【授業の内容】**

- 第1週 能とは何か（ビデオ鑑賞）
  - 第2週 謡と仕舞の実際、「羽衣」キリの解説
  - 第3週 「羽衣」キリの謡（1） 模範謡を聴こう
  - 第4週 「羽衣」キリの謡（2） 一緒に謡いましょう
  - 第5週 「羽衣」キリの謡（3） 一人で謡ってみよう
  - 第6週 能の鑑賞（宝生能楽堂）
  - 第7週 「羽衣」キリの仕舞（1）扇の持ち方、開き方
  - 第8週 「羽衣」キリの仕舞（2）姿勢と足の運び方
  - 第9週 舞台にて仕舞の稽古
  - 第10週 「羽衣」キリの仕舞（3）右受け、引分ヒラキ
  - 第11週 「羽衣」キリの仕舞（4）扇ニテニツマネキ、フミトメ
  - 第12週 「羽衣」キリの仕舞（5）角トリ、扇ニツハネ
  - 第13週 「羽衣」キリの仕舞（6）行ガカリ、カザシ廻返し
  - 第14週 謡「羽衣」キリの仕上げ
  - 第15週 仕舞「羽衣」キリの仕上げ
- 「能の鑑賞」、「舞台にて仕舞の稽古」は、舞台の都合で日程が変わる場合もあります。

**【事前・事後学修】**

- 事前学修—謡い本を読めるようにしておくこと（週2時間）。
- 事後学修—前回学んだ謡や仕舞を復習しておくこと（週2時間）。

**【テキスト・教材】**

第1回の授業で指示するので、前もって準備する必要はありません。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

受講態度30%、謡と仕舞の実技70%で評価します。毎回、謡と仕舞の実技を实践させ、それに伴って起きる疑問や質問に答える形でフィードバックを行う。

**【参考書】**

必要なものは授業中に指示します。

**【注意事項】**

欠席が続くと不明な点が多くなるので、休まず受講してください。

**世界の中の日本文学 d**

能の世界—羽衣（はごろも）キリ

小倉 伸二郎

2年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

能は今から600年以上も前に生まれた舞台芸術で、舞踊や歌謡の要素を取り入れた日本演劇の起源であるといえます。2001年には世界無形遺産に指定されました。

この授業では、能とは何かを解説するとともに、謡（うたい）や仕舞（しまい）の実技を教授します。また、適時に能楽堂に行って能を鑑賞したり、舞台上で謡や仕舞の稽古をしたりする予定です。

座学では味わえない古典の世界を体感し、日本古来の所作を身につけ、世界に向かって日本の優れた文化を発信しましょう。

**【授業における到達目標】**

能は日本の自然、社会、文学から生まれた総合芸術です。能を学ぶことによって、日本の文化・精神の価値を見だし、日本人としての感受性を深める態度を身につけます。また、自分が学んだことを世界に向けて発信する態度を身につけることを目標とします。

自己や他者の役割を理解し、互いに協力しなければよい舞台になりません。この授業では他の履修者を協力し、物事を進めることのできる能力を身につけることを目標とします。

**【授業の内容】**

- 第1週 能とは何か（ビデオ鑑賞）
  - 第2週 謡と仕舞の実際、「羽衣」キリの解説
  - 第3週 「羽衣」キリの謡（1） 模範謡を聴こう
  - 第4週 「羽衣」キリの謡（2） 一緒に謡いましょう
  - 第5週 「羽衣」キリの謡（3） 一人で謡ってみよう
  - 第6週 能の鑑賞（宝生能楽堂）
  - 第7週 「羽衣」キリの仕舞（1）扇の持ち方、開き方
  - 第8週 「羽衣」キリの仕舞（2）姿勢と足の運び方
  - 第9週 舞台にて仕舞の稽古
  - 第10週 「羽衣」キリの仕舞（3）右受ケ、引分ヒラキ
  - 第11週 「羽衣」キリの仕舞（4）扇ニテニツマネキ、フミトメ
  - 第12週 「羽衣」キリの仕舞（5）角トリ、扇ニツハネ
  - 第13週 「羽衣」キリの仕舞（6）行ガカリ、カザシ廻返し
  - 第14週 謡「羽衣」キリの仕上げ
  - 第15週 仕舞「羽衣」キリの仕上げ
- 「能の鑑賞」、「舞台にて仕舞の稽古」は、舞台の都合で日程が変わる場合もあります。

**【事前・事後学修】**

- 事前学修—謡い本を読めるようにしておくこと（週2時間）。
- 事後学修—前回学んだ謡や仕舞を復習しておくこと（週2時間）。

**【テキスト・教材】**

第1回の授業で指示するので、前もって準備する必要はありません。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

受講態度30%、謡と仕舞の実技70%で評価します。毎回、謡と仕舞の実技を实践させ、それに伴って起きる疑問や質問に答える形でフィードバックを行う。

**【参考書】**

必要なものは授業中に指示します。

**【注意事項】**

欠席が続くと不明な点が多くなるので、休まず受講してください。

## 世界の美術

西洋美術史入門～古代ギリシアから20世紀まで

久保寺 紀江

1年～ 後期 2単位

○：国際的視野、美の探求、研鑽力

### 【授業のテーマ】

西洋の絵画や彫刻をみて、なんとなくわからないなと思ったことはありませんか？本講義では、古代ギリシア美術から時間を追っての西洋美術の流れ中心にを学びます。その結果、西洋の絵画や彫刻、建築を見て楽しいもの、身近な親しみやすいものへ変えてゆく講義です。西洋美術に独自の時代区分や様式、各時代や流派の知っておきたい代表作品を、パワーポイントで鑑賞しながら、その特徴を学びましょう。

また、西洋美術をより深く知るため、ギリシア・ローマ神話や聖書についても学びます。神話や聖書は、西洋美術において多く扱われるテーマやエピソードの源泉であるからです。

ギリシアやイタリア、フランスなど西欧諸国の美術館や教会を実際に訪問するかのよう、西洋美術の世界を一緒に探検しましょう。西洋美術史は、知れば知るほど本当に楽しい学問です。

### 【授業における到達目標】

学生が習得すべき「国際的視野」および「美の追求」において、古代ギリシアから20世紀初頭までの大きな流れや各時代の特徴、西洋美術における重要作品がわかるようになる。西洋文化の基本であるギリシア神話や聖書の初歩的知識を持てるようになる。

### 【授業の内容】

- 1 インTRODakション 授業の進め方、西洋美術史とは？
- 2 古代 ギリシア美術・ローマ美術
- 3 中世1 西欧初期中世美術とビザンティン美術
- 4 中世2 ロマネスク美術とゴシック美術
- 5 ギリシア神話と西洋美術史
- 6 聖書と西洋美術史
- 7 初期ルネサンス美術（マザッチョ、ブルネレスキなど）
- 8 盛期ルネサンス美術（ダ・ヴィンチ、ミケランジェロ、ラファエロなど）
- 9 バロック美術（カラヴァッジョ、レンブラントなど）
- 10 ロココ美術・新古典主義（ブーシェ・ダヴィッドなど）
- 11 ロマン主義・写実主義（ドラクロワ・クールベなど）
- 12 印象主義（マネ・モネ・ルノワールなど）
- 13 新印象主義・ポスト印象主義（スーラ、セザンヌなど）
- 14 20世紀前半の流れ（マティス、ピカソなど）
- 15 総復習

### 【事前・事後学修】

事前学修：気になる展覧会を見つけ、積極的に足を運んでみましょう。また、美術全集等で各時代の代表作品を鑑賞しておいてください（週2時間）

事後学修：授業で配布した資料を参考に、その回で紹介した様式の特徴、代表作品の復習をしておいてください。（週2時間）

### 【テキスト・教材】

毎回資料を配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小レポート60%、試験40%

小レポートの課題として、各自が指定の美術館や展覧会を訪問していただきます。小レポートは提出後の授業でフィードバックを行います。

### 【参考書】

『カラー版 西洋美術史』美術出版社

### 【注意事項】

期末に試験を実施しますが、試験を受験するためには、後期の期間中に課される小レポートを提出している必要があります。

**世界の美術 a**

師弟関係から読み解く江戸・明治時代の美術

池田 美美

1年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

日本の画壇で活躍をした絵師たちのもとからは、師と肩を並べるほどの才能を持った弟子たちが数多く育ちました。弟子たちは師の画風を学びつつ、独自の方向性を模索し、師とは違う新たな個性を發揮しました。また、直接の師弟関係はなくとも、過去の巨匠たちに私淑し、伝統を踏まえた、革新的な作品を生み出した絵師も少なくありません。この授業では、とくに江戸時代から明治時代の美術に焦点を当て、様々な師弟関係から作品を概観します。

**【授業における到達目標】**

学生が修得すべき「美の探究」のうち、感受性を深める力を修得します。

**【授業の内容】**

- 第1週 はじめに
- 第2週 狩野派一変——狩野探幽VS久隅守景
- 第3週 永徳の意思を受け継ぐ者たち——狩野山楽VS狩野山雪
- 第4週 写生と奇想——円山応挙VS長沢芦雪
- 第5週 異端と狂気——高田敬輔VS曾我蕭白
- 第6週 八宗兼学——谷文晁VS渡辺華山
- 第7週 江戸の琳派——酒井抱一VS鈴木其一
- 第8週 見学授業（土日いずれかに実施）
- 第9週 錦絵誕生——鈴木春信VS司馬江漢
- 第10週 真に迫る役者絵と風景画——勝川春章VS葛飾北斎
- 第11週 見学授業（土日いずれかに実施）
- 第12週 絵も漆も天下一品——小川破笠VS柴田是真
- 第13週 江戸を慕う——水野年方VS鏑木清方
- 第14週 奇才と画鬼——歌川国芳VS河鍋暁斎
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回の授業範囲を予習し、基礎情報を確認しておいて下さい。授業の最後に配布するコメントカードについて、記載する内容を準備しておいて下さい。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 毎回配布するプリントで内容を復習し、授業内で提示する参考文献を次の授業までに読んでおいて下さい。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを配布します。参考文献は授業内で提示します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末試験70%、平常点（授業への積極参加・各授業内でのコメントカードの提出）30%の割合で評価します。コメントカードは次回授業でフィードバックを行います。

**【注意事項】**

美術館での見学授業を2回実施します（土曜日または日曜日に行います）。実施時期については、展覧会の開催状況などにより、シラバスで示した週とは異なる場合があります。見学先および集合場所については授業中に説明します。展覧会の観覧料および往復の交通費は自己負担となります。

**世界の美術 a**

師弟関係から読み解く江戸・明治時代の美術

池田 美美

1年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

日本の画壇で活躍をした絵師たちのもとからは、師と肩を並べるほどの才能を持った弟子たちが数多く育ちました。弟子たちは師の画風を学びつつ、独自の方向性を模索し、師とは違う新たな個性を發揮しました。また、直接の師弟関係はなくとも、過去の巨匠たちに私淑し、伝統を踏まえた、革新的な作品を生み出した絵師も少なくありません。この授業では、とくに江戸時代から明治時代の美術に焦点を当て、様々な師弟関係から作品を概観します。

**【授業における到達目標】**

学生が修得すべき「美の探究」のうち、感受性を深める力を修得します。

**【授業の内容】**

- 第1週 はじめに
- 第2週 狩野派一変——狩野探幽VS久隅守景
- 第3週 永徳の意思を受け継ぐ者たち——狩野山楽VS狩野山雪
- 第4週 写生と奇想——円山応挙VS長沢芦雪
- 第5週 異端と狂気——高田敬輔VS曾我蕭白
- 第6週 八宗兼学——谷文晁VS渡辺華山
- 第7週 江戸の琳派——酒井抱一VS鈴木其一
- 第8週 見学授業（土日いずれかに実施）
- 第9週 錦絵誕生——鈴木春信VS司馬江漢
- 第10週 真に迫る役者絵と風景画——勝川春章VS葛飾北斎
- 第11週 見学授業（土日いずれかに実施）
- 第12週 絵も漆も天下一品——小川破笠VS柴田是真
- 第13週 江戸を慕う——水野年方VS鏑木清方
- 第14週 奇才と画鬼——歌川国芳VS河鍋暁斎
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回の授業範囲を予習し、基礎情報を確認しておいて下さい。授業の最後に配布するコメントカードについて、記載する内容を準備しておいて下さい。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 毎回配布するプリントで内容を復習し、授業内で提示する参考文献を次の授業までに読んでおいて下さい。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを配布します。参考文献は授業内で提示します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末試験70%、平常点（授業への積極参加・各授業内でのコメントカードの提出）30%の割合で評価します。コメントカードは次回授業でフィードバックを行います。

**【注意事項】**

美術館での見学授業を2回実施します（土曜日または日曜日に行います）。実施時期については、展覧会の開催状況などにより、シラバスで示した週とは異なる場合があります。見学先および集合場所については授業中に説明します。展覧会の観覧料および往復の交通費は自己負担となります。



**世界の美術 b**

建築芸術史

小倉 康之

1年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

この講義では、古代から現代にいたる西洋建築の歴史を通観し、建築芸術における「意味」と「かたち」の問題について考える。

一般に、建築は抽象的な芸術とみなされ、意味内容の問題は見過ごされることが多い。しかし、神殿や教会堂、城郭、宮殿は、政治上あるいは宗教上の機能を持ち、象徴的な意味を担っていたと推察される。本講義では、まず、建築図像学の方法論に基づいて、建築の「失われた意味」を解読する。

人類は四千年以上の長きにわたり、建築文化を築いてきた。エジプトのピラミッドや古代ギリシアの神殿、中世ヨーロッパの大聖堂など、それぞれの時代の記念碑とも言える建築は、アーチの形や装飾的細部によって、いつの時代のものかを判別することができる。ゴシック様式、ルネサンス様式、バロック様式といった表現形式の変遷をたどる「建築様式史」の方法論、これを第二の視点とする。

以上、二つの方法論に基づいて西洋建築史の講義を行う。

**【授業における到達目標】**

1. 西洋および日本近代の建築について、「建築様式史」および「建築図像学」の基礎的な知識と研究方法を学び、西洋と日本の建築文化に対する理解と洞察力を身につける。
2. 西洋および日本近代の建築に関する学術的興味と敬意を持ち、各自が調べ、考えた内容を文章化して他者に伝えることができる。

**【授業の内容】**

- 第1週 建築の見方1： 建築の構造と工法  
 第2週 建築の見方2： 建築図像学と様式史  
 第3週 西洋建築の歴史1： 古代オリエント、古代ギリシア  
 第4週 西洋建築の歴史2： 古代ローマ、初期キリスト教、ビザンティン  
 第5週 イスラーム建築の歴史  
 第6週 西洋建築の歴史3： 初期中世・ロマネスク建築  
 第7週 西洋建築の歴史4： ゴシック建築  
 第8週 西洋建築の歴史5： ルネサンス建築  
 第9週 西洋建築の歴史6： バロック建築  
 第10週 西洋建築の歴史7： ロココと新古典主義の建築  
 第11週 西洋建築の歴史8： ゴシック復興・歴史主義と日本近代  
 第12週 西洋建築の歴史9： アール・ヌーヴォーの建築  
 第13週 西洋建築の歴史10： ウィーン分離派とパウハウス  
 第14週 西洋建築の歴史11： 表現主義とモダニズムの有機的建築  
 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修としては、美術出版社の『西洋建築様式史』など（下記参考文献を参照）を読み、建築名称や建築家名、建築用語などの基礎知識を身につけておくこと。【学修時間：週1時間】

事後学修については、毎回「課題プリント」を配布するので、次の授業までに記述式の問題2～3題を解いておくこと。試験問題はすべて課題プリントから出題される。【学修時間：週3時間】

**【テキスト・教材】**

教科書指定なし／プリント配付／その他学術論文などの資料を適宜PDFファイルとして配付する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

【課題】50% 【試験】50% 授業時に配付する課題を「課題の提出率×達成度」で評価し、50点満点で採点する。残り50点は論述式の試験による評価。あらかじめ予告された問題の中から6～7問が出題され、そのうちの4問を選択して答える形式。持ち込み不可。課題等成績評価に関するフィードバックは授業時に口頭で行う。課題プリントには質問・意見等を記入する欄を設けるので積極的に活用すること。

**【参考書】**

日本建築学会編 『近代建築史図集』 彰国社、1976年

熊倉洋介他著『カラー版西洋建築様式史』美術出版社、1995年  
 ニコラウス・ベヴスナー 著、小林文次訳『新版ヨーロッパ建築序説』 彰国社、1989年

**【注意事項】**

以下の建築の見学を推奨する。

- 1 旧岩崎邸（ジョイ・コンドル設計）湯島駅下車徒歩5分程度
- 2 ニコライ堂 お茶の水駅下車徒歩10分程度
- 3 明治生命館 土曜日または日曜日のみ見学可 二重橋前駅下車徒歩3分程度
- 4 自由学園明日館（F.L.ライト設計）池袋駅下車徒歩10分程度

**世界の美術 b**

建築芸術史

小倉 康之

1年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

熊倉洋介他著『カラー版西洋建築様式史』美術出版社、1995年  
ニコラウス・ベヴスナー 著、小林文次訳『新版ヨーロッパ建築序説』彰国社、1989年

**【注意事項】**

以下の建築の見学を推奨する。

- 1 旧岩崎邸 (ジョイ・コンドル設計) 湯島駅下車徒歩5分程度
- 2 ニコライ堂 お茶の水駅下車徒歩10分程度
- 3 明治生命館 土曜日または日曜日のみ見学可 二重橋前駅下車徒歩3分程度
- 4 自由学園明日館 (F.L.ライト設計) 池袋駅下車徒歩10分程度

**【授業のテーマ】**

この講義では、古代から現代にいたる西洋建築の歴史を通観し、建築芸術における「意味」と「かたち」の問題について考える。

一般に、建築は抽象的な芸術とみなされ、意味内容の問題は見過ごされることが多い。しかし、神殿や教会堂、城郭、宮殿は、政治上あるいは宗教上の機能を持ち、象徴的な意味を担っていたと推察される。本講義では、まず、建築図像学の方法論に基づいて、建築の「失われた意味」を解読する。

人類は四千年以上の長きにわたり、建築文化を築いてきた。エジプトのピラミッドや古代ギリシアの神殿、中世ヨーロッパの大聖堂など、それぞれの時代の記念碑とも言える建築は、アーチの形や装飾的細部によって、いつの時代のものかを判別することができる。ゴシック様式、ルネサンス様式、バロック様式といった表現形式の変遷をたどる「建築様式史」の方法論、これを第二の視点とする。

以上、二つの方法論に基づいて西洋建築史の講義を行う。

**【授業における到達目標】**

1. 西洋および日本近代の建築について、「建築様式史」および「建築図像学」の基礎的な知識と研究方法を学び、西洋と日本の建築文化に対する理解と洞察力を身につける。
2. 西洋および日本近代の建築に関する学術的興味と敬意を持ち、各自が調べ、考えた内容を文章化して他者に伝えることができる。

**【授業の内容】**

- 第1週 建築の見方1： 建築の構造と工法
- 第2週 建築の見方2： 建築図像学と様式史
- 第3週 西洋建築の歴史1： 古代オリエント、古代ギリシア
- 第4週 西洋建築の歴史2： 古代ローマ、初期キリスト教、ビザンティン
- 第5週 イスラーム建築の歴史
- 第6週 西洋建築の歴史3： 初期中世・ロマネスク建築
- 第7週 西洋建築の歴史4： ゴシック建築
- 第8週 西洋建築の歴史5： ルネサンス建築
- 第9週 西洋建築の歴史6： バロック建築
- 第10週 西洋建築の歴史7： ロココと新古典主義の建築
- 第11週 西洋建築の歴史8： ゴシック復興・歴史主義と日本近代
- 第12週 西洋建築の歴史9： アール・ヌーヴォーの建築
- 第13週 西洋建築の歴史10： ウィーン分離派とバウハウス
- 第14週 西洋建築の歴史11： 表現主義とモダニズムの有機的建築
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修としては、美術出版社の『西洋建築様式史』など（下記参考文献を参照）を読み、建築名称や建築家名、建築用語などの基礎知識を身につけておくこと。【学修時間：週1時間】

事後学修については、毎回「課題プリント」を配布するので、次の授業までに記述式の問題2～3題を解いておくこと。試験問題はすべて課題プリントから出題される。【学修時間：週3時間】

**【テキスト・教材】**

教科書指定なし/プリント配付/その他学術論文などの資料を適宜PDFファイルとして配付する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

【課題】50% 【試験】50% 授業時に配付する課題を「課題の提出率×達成度」で評価し、50点満点で採点する。残り50点は論述式の試験による評価。あらかじめ予告された問題の中から6～7問が出題され、そのうちの4問を選択して答える形式。持ち込み不可。課題等成績評価に関するフィードバックは授業時に口頭で行う。課題プリントには質問・意見等を記入する欄を設けるので積極的に活用すること。

**【参考書】**

日本建築学会編 『近代建築史図集』 彰国社、1976年

## 政治学 a

斎藤 孝

1年～ 前期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

概要：

政治学にかかわる諸事項—たとえば政治体制、選挙制度、政党制、国際政治など—とはなにかについてまなぶ。

目的：

政治学に関する基本的な知識と思考方法を身につける。

### 【授業における到達目標】

到達目標：

政治学に関する基本的知識と思考方法を理解できるようになる。

ディプロマポリシーとの関連：

学生が取得すべき「行動力」のうち、課題を発見する力を習得する。

### 【授業の内容】

政治学のアイデンティティー

- 1 政治学はどんな学問か。
- 2 政治と政治学はどこが違うか。

政治の世界

- 3 政治とはなにか
- 4 政治世界のモデルをみよう。
- 5 政治世界は一樣なのか。

政治体制と変動

- 6 自由民主主義体制とはなにか。
- 7 非自由民主主義体制とはなにか。
- 8 インターナショナルな体制とはなにか。

政治、経済、福祉

- 9 政治は経済とどのように関わるか。
- 10 政治は福祉とどのように関わるか。
- 11 福祉国家はこれからも存続するか。

政治制度と政治過程

- 12 国民代表とはなにか。
- 13 利益代表とはなにか。
- 14 政治過程は変わらないものか。

公共政策と行政

- 14 政治とは公共政策を目的とするのか。
- 15 政策はどのように作られるのか。

※ 上記の項目に関し、できれば新聞記事などを取り上げながら、学んでいく予定です。

### 【事前・事後学修】

事前学修：2時間

毎回、次回の授業に関することを予習してください。

事後学修：2時間

学んだことについて、復習してください。

### 【テキスト・教材】

テキスト・教材：

とくに指定しません。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験（70％）、レポート（30％）

フィードバックは、最終授業日におこなう。

### 【参考書】

加茂・大西ほか『現代政治学』有斐閣 1800円。

そのほかについては、授業においてそのつど推薦したいと思います。

### 【注意事項】

日頃から新聞を読んだり、テレビのニュース（とくに特別番組）を見たりし、政治について考える力を身につけてください。

## 政治学 b

斎藤 孝

1年～ 後期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

概要：

「政治学」にかかわる事項、たとえば政治制度、政党政治、選挙制度、国際政治などについて、まなぶ。

目的：

政治学に関する基本的な知識と思考についてまなぶ。

### 【授業における到達目標】

到達目標：

政治学に関する基本的知識と思考を理解できるようになる。

ディプロマポリシーとの関連：

学生が習得すべき「行動力」のうち、課題を発見する力を習得する。

### 【授業の内容】

政党と政党制

- 1 政党とはなにか。
- 2 政党制とはなにか。
- 3 政党制はこれからも存続するか。

政治意識と政治文化

- 4 政治行動に影響を与えるものはなにか。
- 5 政治意識に影響を与えるものはなにか。
- 6 イデオロギーとはなにか。

集権と分権

- 7 政治権力はなぜ集権するか。
- 8 政治権力はなぜ分権するか。
- 9 国際統合について考えよう。

国際政治

- 10 近代の国際政治はどんなものだったか。
- 11 現代の国際政治はどんなものか。

グローバル・プロブレマティーク

- 12 超国家的な問題について考えよう。

政治学の潮流（歴史）

- 13 伝統的な政治学
- 14 現代の政治学

総括

- 15 総括

### 【事前・事後学修】

事前学修：2時間

毎回、次回の授業に関することを予習しておくこと。

事後学修：2時間

授業で学んだことについて復習しておくこと。

### 【テキスト・教材】

テキスト：

とくに指定しません。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験（70％）、提出物（30％）。

フィードバックは、最終授業日におこなう。

### 【参考書】

加茂・大西ほか『現代政治学』有斐閣 1800円。

そのほかについては、授業において指摘します。

### 【注意事項】

日頃から新聞を読んだり、テレビのニュース（とくに特別番組）を見たりし、政治について考える力を身につけてください。

**正しい文章を書く a**

表現を正確に伝える

手坂 凡子

1年～ 前期 2単位

◎：美の探求 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

日本語の文章を正しく記し、わかりやすく伝える技術を学ぶことをこの授業のテーマとします。

自分の意見を相手に正確に伝えるためには、日本語の文法、表記法、漢字、敬語などのさまざまなきまりを理解することが必要です。日本語の基本的な知識を身につけた上で、読みやすい文章を自ら構成する方法を学んでいきます。また、自ら文章を書く上で不可欠な社会への関心を養い、自分の意見を持つことを目指します。

今後大学で学ぶ際にも、社会に出て生活していく上でも、日本語の表現法は必ず役に立ちます。実際に書くことを通して、力をつけていくことができます。

**【授業における到達目標】**

日本語の基礎知識を身につけ、正しい日本語で文章を書くことを意識できるようになります。学生が修得すべき「研鑽力」のうち、生涯にわたり知を探求する力を修得することができます。

社会の問題に目を向け、自ら意見を述べることにより、学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を発見する力を修得することができます。

他の人の意見を参考にすることで、学生が修得すべき「協働力」のうち、互いを尊重し理解する力を修得することができます。

**【授業の内容】**

- 第1週 この授業で学ぶこと
- 第2週 アカデミックワード・仮名遣い
- 第3週 送り仮名、句読点
- 第4週 事実と意見その1 事実の読み取り
- 第5週 事実と意見その2 新聞記事の要約
- 第6週 データを解釈する
- 第7週 調査課題を設定する
- 第8週 基本的な構成
- 第9週 参考文献・引用の仕方
- 第10週 論文・レポートを書く順序
- 第11週 先行研究について
- 第12週 調査の概要
- 第13週 調査結果と考察
- 第14週 結論の書き方
- 第15週 文章の校正・まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】日本語表現の基礎となる送り仮名や仮名遣い、漢字などの学修をして下さい。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業の復習をし、講義内容に沿って、実際に文章を書く課題を提出して下さい。授業中の指示に従って行って下さい。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

安部朋世・福嶋健伸・橋本修編著『大学生のための日本語表現トレーニング』ドリル編（2010年・三省堂）、1900円＋税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

課題提出状況（60%）と提出作品の内容（40%）によって評価します。

事前学修の課題は毎週確認します。その他文章を書く課題を3回提出してもらい、添削した上で授業の中で返却します。

**【参考書】**

授業中に紹介します。

**【注意事項】**

添削指導のため、受講者数を制限することがあります。

**正しい文章を書く a**

正しく伝える文章を書くために

瀧口 翠

1年～ 前期 2単位

◎：美の探求 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

あるテーマをめぐって意見や考察を記す機会は、在学中も社会に出てからも多いことでしょう。レポート・論文の文章は、それを読む者が理解し、できれば共鳴してくれるものであることが求められます。そのためにはまず、自分の意見を正確に伝える文章を書く力が必要です。具体的にどのようなことに留意すべきなのか、また、文章をどのように構成したら良いかを学んで、論理的な文章を書く方法を身につけることを目指します。

**【授業における到達目標】**

正しく伝わる文を書けるようになる。

論説文のスタイルを身に付ける。

学生が修得すべき「研鑽力」について、日常で接する言葉についても鋭い感覚で観察し、探究する習慣をつける。

**【授業の内容】**

- 第1週 イントロダクション
- 第2週 作文
- 第3週 話し言葉と書き言葉
- 第4週 正しく書く（1）悪文訂正
- 第5週 正しく書く（2）悪文紹介
- 第6週 簡潔に書く（1）悪文訂正
- 第7週 簡潔に書く（2）作文
- 第8週 明確に書く（1）悪文訂正
- 第9週 明確に書く（2）作文
- 第10週 論文作成の手順
- 第11週 論文の集め方・読み取り
- 第12週 要約（1）紹介文
- 第13週 要約（2）論説文
- 第14週 小論文
- 第15週 まとめ

※第4週から第9週は、提示する文例の問題点をグループで話し合った後、配布プリントにより各自練習します。

以上は適宜変更する場合があります。

講義・課題作文・相互批評および添削によって進めます。

**【事前・事後学修】**

配布プリントに目を通し、問題点を考えてきてください（学修時間 週2時間）。作文は添削を踏まえて、ブラッシュアップしてください（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

プリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

提出物の内容と授業への参加態度（70%）、最終レポート（30%）によって評価します。提出物については次回授業、最終レポートについては授業最終回でフィードバックを行います。

**【参考書】**

石原千秋著『大学生のための論文執筆法』（ちくま新書）

小笠原喜康著『新版 大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書）

**【注意事項】**

添削指導のため、受講者数を制限することがあります。

**正しい文章を書く b**

論理的に説明する

手坂 凡子

1年～ 後期 2単位

◎：美の探求 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

説得力のある説明をする方法を学ぶことをテーマとします。

自分の意見を相手に伝えたり、文章にして記す場合、ただ単に自分の感想を述べるだけでは説得力のある表現にはなりません。基本的な日本語表現のきまりを守った上で、根拠を伴った意見を述べるのが大切です。根拠となる客観的な事実を知るためには、新聞を読み、社会への関心を広げることが重要になります。

社会人になると、様々な場面で様々な相手に対して説明する必要が生じます。どのように表現すれば、論理的に伝わるのかを学んでいきます。

**【授業における到達目標】**

自分の意見を客観的な根拠に基づいて述べることを目指します。社会の出来事に関心を持って意見を構築することにより、学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を修得します。自分の意見と他人の意見を比較して意見を醸成することにより、学生が修得すべき「協働力」のうち、自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進める力を修得します。実際に文章を書き、添削結果を踏まえて書き直すことを繰り返すことにより、学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握し課題を発見する力を修得します。

**【授業の内容】**

- 第1週 この授業で学ぶこと
- 第2週 情報を紹介する
- 第3週 本を紹介する
- 第4週 話の要点をまとめる
- 第5週 文章の批評
- 第6週 主張をとらえる
- 第7週 文章の要約
- 第8週 データの解釈
- 第9週 インターネットの利用について
- 第10週 レポートのテーマについて
- 第11週 レポートの体裁
- 第12週 議論を深める
- 第13週 小論文の作成その1・構成を考える
- 第14週 小論文の作成その2・実際に記述する
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】日本語表現の基礎となる送り仮名や仮名遣い、漢字などの学修をして下さい。(学修時間 週2時間)

【事後学修】授業の復習をして下さい。講義内容に沿って、実際に表現課題を提出して下さい。授業中の指示に従って行って下さい。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

福嶋健伸・橋本修・安部朋世編著『大学生のための日本語表現トレーニング』実践編(2009年・三省堂)、1900円＋税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

課題提出状況(60%)と課題内容(40%)で評価します。

事前学修の課題は毎週確認します。その他文章を書く課題を3回提出してもらい、添削した上で授業の中で返却します。

**【参考書】**

授業中に紹介します。

**【注意事項】**

添削指導のため、受講者数を制限することがあります。

**正しい文章を書く b**

論理的な文章を書くために

瀧口 翠

1年～ 後期 2単位

◎：美の探求 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

あるテーマをめぐって意見や考察を記す機会は、在学中も社会に出てからも多いことでしょう。レポート・論文の文章は、それを読む者が理解し、できれば共鳴してくれるものであることが求められます。そのためには自分の意見はもちろん、意見を導き出す論理や依拠した材料(事実・資料)をはっきり示さなくてはなりません。具体的にどのようなことに留意すべきなのか、また、文章をどのように構成したら良いかを学んで、論理的な文章を書く方法を身につけることを目指します。

**【授業における到達目標】**

論文の書き方を身につける。

調査結果の分析から、自分の意見を論理的に述べられるようになる。

学生が修得すべき「行動力」について、データを正しく分析し、問題提起する力をつける。

**【授業の内容】**

- 第1週 イントロダクション
- 第2週 論文・レポートの作法(1) 基本的な形式
- 第3週 論文・レポートの作法(2) 基本的な構成
- 第4週 先行論文に学ぶ(1) 引用の方法
- 第5週 先行論文に学ぶ(2) 注のつけ方
- 第6週 文章の整え方(1) 悪文を読む
- 第7週 文章の整え方(2) 校正する
- 第8週 文章の整え方(3) 書き直す
- 第9週 段落の立て方(1) 立てるべき場所
- 第10週 段落の立て方(2) 練習問題
- 第11週 段落の立て方(3) 実作
- 第12週 論文・レポートの構成(1) 先輩の論文に学ぶ
- 第13週 論文・レポートの構成(2) データ分析と結果の示し方
- 第14週 論文・レポートの構成(3) 論文の相互評価
- 第15週 まとめ

以上は適宜変更する場合があります。

講義・課題作文・相互批評及び添削によって進めます。

**【事前・事後学修】**

配布プリントに目を通し、問題点を考えてきてください(学修時間 週2時間)。作文は添削を踏まえて、ブラッシュアップしてください(学修時間 週2時間)。

**【テキスト・教材】**

プリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

提出物の内容と授業への参加態度(70%)、最終レポート(30%)によって評価します。提出物については次回授業、最終レポートについては授業最終回でフィードバックを行います。

**【参考書】**

石原千秋著『大学生のための論文執筆法』(ちくま新書)

小笠原喜康著『新版 大学生のためのレポート・論文術』(講談社現代新書)

**【注意事項】**

添削指導のため、受講者数を制限することがあります。

## 生化学 a

中村 彰男

1年 前期 2単位

○：美の探究、研鑽力

### 【授業のテーマ】

生化学aでは栄養の意義と栄養素の代謝および生理学的意義を理解する上で重要な生体成分や食品成分について、生物学と化学の目を通して分子レベルで理解を深める事に目標を置く。本講義は幅広い食分野で活躍するための基礎科目であり、生体分子の構造と機能を系統的にかつ興味を持って学べるように、身近な話題を交えて講義を進める。

### 【授業における到達目標】

1. 細胞の基本構造を理解し、細胞小器官や生体膜の役割を通して情報伝達の基本を説明できるようになる。
2. 生体を構成する基本分子（タンパク質・糖質・脂質）の基本構造とその生体機能について説明できるようになる。
3. ゲノムの遺伝情報がどのような仕組みで伝わり、タンパク質に翻訳されるかを説明できるようになる。

自然の中に内在する真理を探究する事により、新たな知を創生し自己成長する力を育み【研鑽力】、さらに自然の中に秘めた価値を見出すことで心の美を育むことができる【美の探求】。

### 【授業の内容】

- 第1週 細胞の構造1（細胞の基本構造と細胞小器官）
- 第2週 細胞の構造2（細胞骨格と細胞運動の仕組み）
- 第3週 細胞の構造3（生体膜と情報伝達の基本）
- 第4週 糖質の構造と機能1（糖質とは）
- 第5週 糖質の構造と機能2（糖質の分類）
- 第6週 脂質の構造と機能1（単純脂質と複合脂質）
- 第7週 脂質の構造と機能2（誘導脂質）
- 第8週 タンパク質の構造と機能1（アミノ酸の種類と性質）
- 第9週 タンパク質の構造と機能2（生理活性ペプチド）
- 第10週 タンパク質の構造と機能3（タンパク質の分類と性質）
- 第11週 酵素の特性と機能（酵素反応とその調節）
- 第12週 核酸の構造と機能（DNA・RNA・遺伝子）
- 第13週 遺伝子と遺伝情報の基本（複製・転写・翻訳）
- 第14週 新しい遺伝情報（ゲノム配列からわかることわからないこと）
- 第15週 ビタミン（ビタミンの構造と生体調節機能）

### 【事前・事後学修】

【事前学修】 予め次回の講義のためにどのような予習をするべきかを教科書の該当ページから課題を出しますので、次の授業までにその課題に関して教科書や参考書等で調べてまとめておくこと（学修時間 週2時間）。

【事後学修】 毎回の配付資料はきちんとノートに整理して復習をすること（学修時間 週2時間）。

### 【テキスト・教材】

栄養科学イラストレイテッド『生化学（第3版）』2017年（羊土社）2,800円（税別）

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（受講態度、課題等の提出物、リアクションペーパー）30%、試験70%で評価します。毎回、講義内容の理解度を確認するための小テストを含むリアクションペーパーを提出して貰います。小テストおよび試験の答えは全て返却します。小テストは次の講義の初めに解説します。

### 【参考書】

『栄養科学シリーズ 栄養生化学』（講談社サイエンティフィク）  
『はじめての生化学 第2版』（化学同人）

### 【注意事項】

講義は主にパワーポイントを用いて行います。わからない事があれば、そのままにせず、オフィスアワーに研究室に質問に来ることを推奨します。

**生化学 a**

中村 彰男

1年 前期 2単位

○：美の探究、研鑽力

**【授業のテーマ】**

生化学aでは「人体の構造と機能」を理解する上で重要な生体成分や食品成分について、生物学と化学の目を通して分子レベルで理解を深める事に目標を置く。本講義は管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラムに従い、身近な話題を交えて講義を進める。

**【授業における到達目標】**

1. 細胞の基本構造を理解し、細胞小器官や生体膜の役割を通して情報伝達の基本を説明できるようになる。
2. 生体を構成する基本分子（タンパク質・糖質・脂質）の基本構造とその生体機能について説明できるようになる。
3. ゲノムの遺伝情報がどのような仕組みで伝わり、タンパク質に翻訳されるかを説明できるようになる。

自然の中に内在する真理を探究する事により、新たな知を創出し自己成長する力を育み【研鑽力】、さらに自然の中に秘めた価値を見出すことで心の美を育むことができる【美の探求】。

**【授業の内容】**

- 第1週 細胞の構造1（細胞の基本構造と細胞小器官）
- 第2週 細胞の構造2（細胞骨格と細胞運動）
- 第3週 細胞の構造3（生体膜と情報伝達の基本）
- 第4週 糖質の構造と機能1（糖質の構造）
- 第5週 糖質の構造と機能2（糖質の分類）
- 第6週 脂質の構造と機能1（単純脂質と複合脂質）
- 第7週 脂質の構造と機能2（誘導脂質）
- 第8週 タンパク質の構造と機能1（アミノ酸の種類と性質）
- 第9週 タンパク質の構造と機能2（生理活性ペプチド）
- 第10週 タンパク質の構造と機能3（タンパク質の分類と性質）
- 第11週 酵素の特性と機能（酵素反応とその調節）
- 第12週 核酸の構造と機能（DNA・RNA・遺伝子）
- 第13週 遺伝子と遺伝情報の基本（複製・転写・翻訳）
- 第14週 新しい遺伝情報（small RNAとエピジェネティクス）
- 第15週 ビタミン（ビタミンの種類と生体調節機能）

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 予め教科書の該当ページに当たる箇所から予習のための課題を出しますので、次の授業までにその課題に関して教科書や参考書等で調べてまとめておくこと（学修時間 週2時間）。講義終了後にリアクションペーパーと共に回収します。

【事後学修】 毎回の配付資料はきちんとノートに整理して復習をすること（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

栄養科学イラストレイテッド『生化学（第3版）』2017年（羊土社）2,800円（税別）

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（受講態度、課題等の提出物、リアクションペーパー）30%、試験70%で評価します。毎回、講義内容に関連した国家試験の過去問題をもとにした小テストを含むリアクションペーパーを提出して貰います。小テストおよび試験の答えは全て返却します。小テストは次の講義の初めに解説します。

**【参考書】**

サクセス管理栄養士講座『人体の構造と機能及び疾病の成り立ち I（第3版）』（第一出版）2,000円（税別）

『栄養科学シリーズ 栄養生化学』（講談社サイエンティフィク）『はじめての生化学 第2版』（化学同人）

**【注意事項】**

講義は主にパワーポイントを用いて行います。わからない事があれば、そのままにせず、オフィスアワーに研究室に質問に来ることを推奨します。

## 生化学 a

山崎 壮

2年 前期 2単位

©：研鑽力

## 【授業のテーマ】

この授業では次の2つの分野を取り上げ、生体で起こっている現象の概要を分子レベル、物質レベルで理解することをめざします。

- (1) 栄養生化学：栄養素・生体成分の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）およびその調節メカニズム
- (2) 遺伝情報とその発現調節：DNA分子の構造と機能および遺伝情報からタンパク質合成までの過程とその調節メカニズム

## 【授業における到達目標】

関連科目の学修において基礎生化学の情報が必要となったときに、教科書の中から関連情報を探し出して記載されている事項を確認・理解できるレベルの知識を修得することをめざします。

## 【授業の内容】

★かっこ内の章番号は、教科書の該当部分を示します。

- 第1週 酵素（第5章）
- 第2週 代謝の概要（第12章、第13章）  
糖質の代謝1 吸収、解糖系（第9章1～4）
- 第3週 糖質の代謝2 クエン酸回路と電子伝達系（第9章5～6）
- 第4週 糖質の代謝3 グルコース以外の糖の代謝と機能、糖新生（第9章7～11）
- 第5週 脂質の代謝1 脂質の吸収と体内動態（第10章7）
- 第6週 脂質の代謝2 脂肪酸の分解と合成（第10章1～2）
- 第7週 脂質の代謝3 脂肪、複合脂質、コレステロールの合成と代謝（第10章6、8～10）
- 第8週 アミノ酸の代謝1 タンパク質の分解、アミノ酸の代謝（第11章1～3）
- 第9週 アミノ酸の代謝2 アミノ酸から合成される生理活性物質（第11章4～5）
- 第10週 核酸、ヌクレオチドの代謝（第14章）
- 第11週 DNAとゲノム（第15章1、8、6）  
DNAの複製と修復（第15章1～2、5）
- 第12週 遺伝子発現：転写と翻訳（第15章2～3）
- 第13週 遺伝子発現の調節（第15章4、7）
- 第14週 生体内の情報伝達システム（第16章）
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

この教科書の第1章～第4章、1年次の「基礎化学」の講義資料、「基礎栄養学」の教科書の関連部分を読んでおいてください。（学修時間 週1時間）

毎回、講義内容に関する宿題（問題形式）を出すので、次回授業時に提出すること。宿題の未提出と期限後提出は減点します。授業プリントだけでなく、教科書の該当部分を読んで知識を整理してください。宿題返却時には解答・解説を配布するので、自分の解答を確認して、復習すること。（学修時間 週3時間）

## 【テキスト・教材】

- (1) 授業プリント：毎回、要点と注目すべき事項をまとめた講義プリントを配布して授業を進めます。詳しい内容と全体的知識は、各自が教科書を読んで理解してください。
- (2) 教科書：菌田勝編、『栄養科学イラストレイテッド 生化学 第3版』（羊土社 2017年）2,800円＋税  
なお、再履修者は、昨年度の教科書（下述）を使用してください。授業と試験で不利益を被ることはありません。  
大塚 譲ほか編、『新スタンダード栄養・食物シリーズ2 生化学』（東京化学同人 2014年）2500円＋税

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回の宿題提出（30％）、期末試験（70％）

毎回の授業では、質問票を兼ねた自己評価票を提出してもらいます。自己評価票に自己申告された授業理解度を教員が見て、必要に応じて次回授業で補足説明します。採点した期末試験は、学期終了

後に解答・解説を添えて返却します。

## 【参考書】

田地陽一編、『栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学 第3版』（羊土社 2016年）、2,800円＋税 [平成30年度「基礎栄養学」教科書]

## 【注意事項】

欠席者課題：欠席者は、欠席した講義の配布プリントを速やかに教員研究室に取りに来て、自習し、その回の宿題を次回授業時（出席者と同じタイミング）に提出すること。



## 生化学b

中村 彰男

1年 後期 2単位

○：美の探究、研鑽力

### 【授業のテーマ】

生化学bでは「人体の構造と機能」を理解する上で重要な臓器・器官機能の調節機構について、生化学aで学修した知識を基盤として三大栄養素の代謝と生体機能調節機構を分子レベルで学ぶ。本講義は幅広い食分野で活躍するための基礎科目であり、生体分子の構造と機能を系統的にかつ興味を持って学べるように、身近な話題を交えて講義を進める。

### 【授業における到達目標】

1. タンパク質、糖質、脂質の三大栄養素の代謝の概要が説明できるようになる。
2. 遺伝子発現とその制御について説明ができるようになる。
3. 生体の恒常性、免疫機構について分子レベルで説明ができるようになる。

自然の中に内在する真理を探究する事により、新たな知を創生し自己成長する力を育み【研鑽力】、さらに自然の中に秘めた価値を見出すことで心の美を育むことができる【美の探求】。

### 【授業の内容】

- 第1週 糖質の代謝1（糖代謝の概要と解糖系）
- 第2週 糖質の代謝2（クエン酸回路と電子伝達系）
- 第3週 糖質の代謝3（糖の貯蔵と相互変換経路）
- 第4週 糖質の代謝4（血糖値の調節と糖尿病）
- 第5週 脂質の代謝1（脂肪酸の生合成と酸化）
- 第6週 脂質の代謝2（不飽和脂肪酸とリン脂質の代謝）
- 第7週 脂質の代謝3（脂質の輸送と蓄積）
- 第8週 脂質の代謝4（コレステロールと脂質代謝異常）
- 第9週 タンパク質の分解（タンパク質分解とアミノ酸プール）
- 第10週 アミノ酸代謝1（アミノ酸の分解経路）
- 第11週 アミノ酸代謝2（アミノ酸から作られる生体分子）
- 第12週 アミノ酸代謝3（アミノ酸の代謝異常）
- 第13週 遺伝子発現の制御（栄養と遺伝子）
- 第14週 情報伝達の機構1（栄養シグナルと生体の恒常性）
- 第15週 情報伝達の機構2（栄養と免疫）

### 【事前・事後学修】

【事前学修】 予め次回の講義のためにどのような予習をするべきかを教科書の該当ページから課題を出しますので、次の授業までにその課題に関して教科書や参考書等で調べてまとめておくこと（学修時間 週2時間）。

【事後学修】 毎回の配付資料はきちんとノートに整理して復習をすること（学修時間 週2時間）。

### 【テキスト・教材】

栄養科学イラストレイテッド『生化学（第3版）』2017年（羊土社）2,800円（税別）

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（受講態度、課題等の提出物、リアクションペーパー）30%、試験70%で評価します。毎回、講義内容の理解度を確認するための小テストを含むリアクションペーパーを提出して貰います。小テストおよび試験の答えは全て返却します。小テストは次の講義の初めに解説します。

### 【参考書】

『栄養科学シリーズ 栄養生化学』（講談社サイエンティフィク）  
『はじめての生化学 第2版』（化学同人）

### 【注意事項】

講義は主にパワーポイントを用いて行います。わからない事があれば、そのままにせず、オフィスアワーに研究室に質問に来ることを推奨します。

## 生化学b

中村 彰男

1年 後期 2単位

○：美の探究、研鑽力

## 【授業のテーマ】

生化学bでは「人体の構造と機能」を理解する上で重要な臓器・器官機能の調節機構について、生化学aで学修した知識を基盤として三大栄養素の代謝と生体機能調節機構を分子レベルで学ぶ。本講義は管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラムに従い、身近な話題を交えて講義を進める。

## 【授業における到達目標】

1. タンパク質、糖質、脂質の三大栄養素の代謝の概要が説明できるようになる。
2. 遺伝子発現とその制御について説明ができるようになる。
3. ホメオスタシス、生体防御機構について分子レベルで説明ができるようになる。

自然の中に内在する真理を探究する事により、新たな知を創出し自己成長する力を育み【研鑽力】、さらに自然の中に秘めた価値を見出すことで心の美を育むことができる【美の探求】。

## 【授業の内容】

- 第1週 糖質の代謝1（糖代謝の概要と解糖系）
- 第2週 糖質の代謝2（クエン酸回路と電子伝達系）
- 第3週 糖質の代謝3（糖の貯蔵と相互変換経路）
- 第4週 糖質の代謝4（血糖値の調節と糖尿病）
- 第5週 脂質の代謝1（脂肪酸の生合成と酸化）
- 第6週 脂質の代謝2（不飽和脂肪酸とリン脂質の代謝）
- 第7週 脂質の代謝3（脂質の輸送と蓄積）
- 第8週 脂質の代謝4（コレステロールと脂質代謝異常）
- 第9週 タンパク質の分解（タンパク質分解とアミノ酸プール）
- 第10週 アミノ酸代謝1（アミノ酸の分解経路）
- 第11週 アミノ酸代謝2（アミノ酸から作られる生体分子）
- 第12週 アミノ酸代謝3（アミノ酸の代謝異常）
- 第13週 遺伝子発現の制御（栄養と遺伝子）
- 第14週 情報伝達の機構1（栄養シグナルとホメオスタシス）
- 第15週 情報伝達の機構2（栄養と生体防御機構）

## 【事前・事後学修】

【事前学修】 予め教科書の該当ページに当たる箇所から予習のための課題を出しますので、次の授業までにその課題に関して教科書や参考書等で調べてまとめておくこと（学修時間 週2時間）。講義終了後にリアクションペーパーと共に回収します。

【事後学修】 毎回の配付資料はきちんとノートに整理して復習をすること（学修時間 週2時間）。

## 【テキスト・教材】

栄養科学イラストレイテッド『生化学（第3版）』2017年（羊土社）2,800円（税別）

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（受講態度、課題等の提出物、リアクションペーパー）30%、試験70%で評価します。毎回、講義内容に関連した、国家試験の過去問をもとにした小テストを含むリアクションペーパーを提出して貰います。小テストおよび試験の答えは全て返却します。小テストは次の講義の初めに解説します。

## 【参考書】

サクセス管理栄養士講座『人体の構造と機能及び疾病の成り立ちⅠ（第3版）』（第一出版）2,000円（税別）  
『栄養科学シリーズ 栄養生化学』（講談社サイエンティフィク）『はじめての生化学 第2版』（化学同人）

## 【注意事項】

講義は主にパワーポイントを用いて行います。わからない事があれば、そのままにせず、オフィスアワーに研究室に質問に来ることを推奨します。

## 生化学実験

中村 彰男

2年 後期 1単位 2時限連続 隔週

○：美の探究、行動力

## 【授業のテーマ】

生化学aおよび基礎栄養学で学習した栄養素の生化学的性質について、食品からのタンパク質・核酸・糖質を単離・精製する実験を通して括学することで、観察力や正確さを養いながら、思考力や判断力を高める。また、最終回に行うプレゼンテーションでは、栄養情報リテラシーを実践するために、決められたテーマについて情報収集を行い、パワーポイントを用いた発表を行ってもらいます。

## 【授業における到達目標】

1. タンパク質の構造や性質について説明できるようになる。
2. グリコーゲンの生化学的な性質を説明できるようになる。
3. 核酸の単離や遺伝子の解析手法を説明できるようになる。
4. カフェインの性質や生体機能を説明できるようになる。

栄養生化学実験を通じて、観察力を養いながら、思考力や判断力を高め【行動力】、さらに自然の中に秘めた価値を見出すことで心の美を育むことができる【美の探求】。

## 【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス
  - ① 安全に実験を行うための注意事項
  - ② 実験の進め方とレポートに関する注意事項
  - ③ 蛋白質の性質とSDS電気泳動の原理
- 第2回 筋肉からのミオグロビンの精製
  - ① 蛋白質の抽出・硫酸分画
  - ② 疎水性クロマトグラフィー・ゲル濾過法
- 第3回 蛋白質の定量と分離
  - ① Bradford法による蛋白質の定量② SDS-PAGEによる蛋白質の分離
- 第4回 肝臓グリコーゲンの分離と定量
  - ① 肝臓からのグリコーゲンの抽出
  - ② グリコーゲンの加水分解と糖の定量
- 第5回 ゲノムの抽出と遺伝子の増幅
  - ① 野菜からのゲノムの抽出
  - ② 口腔粘膜からのゲノムの抽出
  - ③ アルコール代謝関連酵素の遺伝子のPCR法による増幅
- 第6回 ゲノム多型とアルコール代謝体質のDNA検査
  - ① PCR産物の精製② アガロース核酸電気泳動③ 遺伝子多型解析
- 第7回 紅茶からのカフェインの単離と分析
  - ① 紅茶からのカフェインの単離
  - ② 薄層クロマトグラフィーを用いたカフェインの分析
- 第8回 情報収集とプレゼンテーション（演習）

## 【事前・事後学修】

【事前学修】 事前に次回の実験に関するプリントを配布します。実験に使用する器具や試薬に関して十分に予習をして、実験ノートにまとめること。実験プロトコールに関しては実験の流れについてイメージトレーニングを行ってください。（学修時間 2時間/週）。

【事後学修】 毎回の実験に関して、決められた期日までにレポートを作成し提出してください（学修時間 2時間/週）

## 【テキスト・教材】

毎回、実験に関するプリントを配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

受講態度40%、レポート60%で評価します。 毎回の実験の中で、実験テーマに関する原理などについての解説を行います。

## 【参考書】

ガイダンスで紹介します。

## 【注意事項】

必ず実験用の白衣と上履きを着用すること。実験を安全に行うために初回のガイダンスで詳細を説明します。

**生涯学習概論**

近藤 牧子

2年 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

私たちは、学校を卒業し大人になっても、社会のこと、自分自身のこと、職業技能などを、仲間と共に学び続ける機会を必要とします。

地域には学校以外に、図書館・博物館・公民館・青少年施設・大学等の公開講座など、さまざまな学習の場があり、子どもから高齢者まで多様な年齢の人が生涯学習を実践しています。

こうした活動が広がるきっかけになったのは、1960年代半ばに登場した生涯教育という理念でした。生涯教育は、すべての人が生涯にわたって学び、自分らしい人生を作ることができる、そのような社会と教育システムを目指して提唱されました。

この授業では、生涯学習の実際や提唱された背景、成人の学習理論、学習を支える法制度などについての基本を学びます。

なぜ学校以外の学習の場が必要なのか、人々はそこで何を学んでいるのか、授業を通して理解を深めてください。また、生涯学習施設という観点から見た図書館・司書の役割についても考えられるようになることを目指します。

これからのグローバル社会における、権利としての学習の意義などについても考えていきます。

**【授業における到達目標】**

社会教育、生涯学習・教育、成人教育の理解を深める。人が生涯にわたって学び続ける意義を理解する。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODクシヨナーライフステージと学び
- 第2週 学校教育を客観的にふりかえる
- 第3週 学校教育以外の子どもの学びの機会
- 第4週 “おとな”の学びとは何か—アンドラゴジーの視点から
- 第5週 学習者中心の学び—学習方法の視点から
- 第6週 参加型学習を体験してみる
- 第7週 基礎教育・成人の識字問題を考える—夜間中学校から
- 第8週 世界の生涯学習・教育の動向—市民社会と生涯学習
- 第9週 図書館・博物館・公民館の学習施設について
- 第10週 社会教育と生涯学習
- 第11週 女性の学習と男女共同参画
- 第12週 学習することを権利として考える—学習権宣言
- 第13週 持続可能な開発目標と世界の人々の学習の権利
- 第14週 社会形成と学習について
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：次の授業のための配布資料を読んでおくことや、情報収集などの予習をすること（学修時間 週2時間）

事後学修：レビュー等の課題に取り組むこと（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

適宜資料を配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験成績と平常点（授業への参加、提出物等）で判断する。

（配分基準：定期試験70%、平常点30%）

最終授業にて、試験問題の解説を行うことでフィードバックする。

**【参考書】**

- 田中雅文ほか『第3版 テキスト 生涯学習』（学文社、2013年）
- 香川正弘、鈴木真理、永井健夫編『よくわかる生涯学習』（ミネルヴァ書房、2016年）

**【注意事項】**

グループワークやディスカッションなどを授業の内容に即して行う。

**生涯学習概論**

—学習を重ねることの意味を探る—

岡田 純一

3年 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

本講義では、生涯学習及び社会教育の本質と意義の理解を図り、教育に関する法律・自治体行財政・施策、学校教育・家庭教育等との関連、並びに社会教育施設、専門的職員の役割、学習活動への支援等の基本について理解することを主なねらいとする。

この際、とくに下に掲げた講義概要における16項目に触れ、幅広い領域である生涯教育・生涯学習におけるさまざまな視点からの総合的な把握を図るとともに、教育学の視点から学芸員や司書として現場で役立つ知識や考え方を身に付けることを中心に捉えたい。

加えて、講義においてほぼ毎回行うことに、「自己をみつめなおす作業」がある。具体的に述べればB5用紙1枚の分量で20分程度の時間を使い、テーマに沿った内容で自らを捉えなおし、それを書き留めていくことを行う。これは、教育とくに、生涯教育・生涯学習の場ではきわめて重要な点のひとつとされる自主性や、自己主導的学習とも深い関連があるため、これを履修者自らが身に付けることを目的とし、実施するものである。

**【授業における到達目標】**

1. 生涯学習に関する基本的事象についての理解を深める。
2. 多様な考え方を通して、広い視野と深い洞察力を身につける。
3. 得られた知識から、さらにそれを掘り下げようとする態度を身につける。

**【授業の内容】**

指針

1. 生涯学習の起源と当時の情勢
2. 生涯学習の原理と必要性
3. 社会、文化の発展と生涯学習の関係
4. わが国の生涯学習の変遷
5. 発達段階・発達課題と生涯学習
6. 生涯学習態度形成
7. 生涯学習関連施設
8. 資格と生涯学習
9. メディアと生涯学習（広報、学習情報提供、学習相談）
10. ボランティアと生涯学習
11. 障害のある人と生涯学習
12. 学校と生涯学習の関係
13. 企業と生涯学習の関係
14. まちづくりと生涯学習
15. 評価と生涯学習
16. 今後の生涯学習の発展方向

内容

- 第1回 オリエンテーション（講義の目的、課題の提示、内容、すすめ方、評価方法）
- 第2回 自己をみつめなおす作業（以下「自己」と略）1、生涯学習の起源と当時の情勢（講義）1
- 第3回 自己2、生涯学習の起源と当時の情勢2
- 第4回 自己3、生涯学習の原理と必要性1
- 第5回 自己4、生涯学習の原理と必要性2
- 第6回 自己5、社会、文化の発展と生涯学習の関係
- 第7回 自己6、わが国の生涯学習の変遷
- 第8回 自己7、発達段階・発達課題と生涯学習、生涯学習態度形成
- 第9回 自己8、生涯学習関連施設、資格と生涯学習
- 第10回 自己9、メディアと生涯学習（広報、学習情報提供、学習相談）
- 第11回 自己10、ボランティアと生涯学習、障害のある人と生涯学習
- 第12回 自己11、学校と生涯学習の関係、企業と生涯学習の関係、まちづくりと生涯学習
- 第13回 自己12、評価と生涯学習
- 第14回 自己13、今後の生涯学習の発展方向1
- 第15回 今後の生涯学習の発展方向2

**【事前・事後学修】**

事前学修としては、テキストを読むこと。また、生涯学習に関する本を読み理解を深めること。事後学修としては、講義後わからない箇所を放置せず、徹底した復習を心がけること。加えて関連する本を読むこと。（事前学修1時間30分、事後学修2時間30分）

**【テキスト・教材】**

岡田純一『評価の探究 これからの生涯学習社会へ向けて』（樹村房、2011年）1,890円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

基本的に定期考査により評価する。但し、出席については厳しく扱う（学生は勉学が本業であり、講義を大切に受講することが必要と考える。また、講義に出席しなければ定期考査の問題を解くことが困難となる）。このため、1回欠席する毎に-10点とする。講義中の態度が著しく不良と判断する場合、減点することがある。この他レポート課題を設ける。レポートについては20点満点で評価し、これを定期考査の結果に算入する。総合点が60点を超えない場合は不可とする。授業時に実施した用紙は返却する。

**【参考書】**

テキスト以外の図書については講義内で指示する。

**【注意事項】**

授業計画については、履修者の学習深度により、順序等を変更することがある。

**生涯学習概論**

生涯にわたる学びについて考える

近藤 牧子

1年 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

私たちは、学校を卒業し大人になっても、社会のこと、自分自身のこと、職業技能などを、仲間と共に学び続ける機会を必要とします。

地域には学校以外に、図書館・博物館・公民館・青少年施設・大学等の公開講座など、さまざまな学習の場があり、子どもから高齢者まで多様な年齢の人が生涯学習を実践しています。

こうした活動が広がるきっかけになったのは、1960年代半ばに登場した生涯教育という理念でした。生涯教育は、すべての人が生涯にわたって学び、自分らしい人生を作ることができる、そのような社会と教育システムを目指して提唱されました。

この授業では、生涯学習の実際や提唱された背景、成人の学習理論、学習を支える法制度などについての基本を学びます。

なぜ学校以外の学習の場が必要なのか、人々はそこで何を学んでいるのか、授業を通して理解を深めてください。また、生涯学習施設という観点から見た図書館・司書の役割についても考えられるようになることを目指します。

これからのグローバル社会における、権利としての学習の意義などについても考えていきます。

**【授業における到達目標】**

社会教育、生涯学習・教育、成人教育の理解を深める。人が生涯にわたって学び続ける意義を理解する。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODクシヨナーライフステージと学び
- 第2週 学校教育を客観的にふりかえる
- 第3週 学校教育以外の子どもの学びの機会
- 第4週 “おとな”の学びとは何か—アンドラゴジーの視点から
- 第5週 学習者中心の学び—学習方法の視点から
- 第6週 参加型学習を体験してみる
- 第7週 基礎教育・成人の識字問題を考える—夜間中学校から
- 第8週 世界の生涯学習・教育の動向—市民社会と生涯学習
- 第9週 図書館・博物館・公民館の学習施設について
- 第10週 社会教育と生涯学習
- 第11週 女性の学習と男女共同参画
- 第12週 学習することを権利として考える—学習権宣言
- 第13週 持続可能な開発目標と世界の人々の学習の権利
- 第14週 社会形成と学習について
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：次の授業のための配布資料を読んでおくことや、情報収集などの予習をすること（学修時間 週2時間）

事後学修：レビュー等の課題に取り組むこと（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

適宜資料を配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験成績と平常点（授業への参加、提出物等）で判断する。

（配分基準：定期試験70%、平常点30%）

最終授業にて、試験問題の解説を行うことでフィードバックする。

**【参考書】**

- 田中雅文ほか『第3版 テキスト 生涯学習』（学文社、2013年）
- 香川正弘、鈴木真理、永井健夫編『よくわかる生涯学習』（ミネルヴァ書房、2016年）

**【注意事項】**

グループワークやディスカッションなどを授業の内容に即して行う。

**生涯心理学**

人の発達を考える

竹内 美香

2年 前期 2単位

◎：研鑽力

**【授業のテーマ】**

人を「生涯にわたり発達し、変化し続ける存在」としてとらえ、それぞれの年齢・時期に出遭う課題を心身の特性や健康や社会文化的役割の視点で学ぶ。主体的に自身の人生を考える態度を養うことを科目の目標とする。

**【授業における到達目標】**

1. 人の生涯にわたる発達の移行について概説できる。
2. 自己と他者の中で獲得する認知機能、感情・社会性など「そだち」について概説できる。
3. 定型と非定型発達についての考え方を概説できる。
4. 高齢者の心理社会的課題と支援について概説できる。
5. 新たな知識を創造しようとする態度や、生涯を通して自己研鑽を続ける力、他者と協働して課題解決する価値を理解する。

**【授業の内容】**

- 第1週 科目の目標と生涯発達の概要  
 第2週 「胚」から誕生までの「赤ちゃん」  
 第3週 認知機能の発達及び感情・社会性の獲得過程  
 第4週 幼児期の特性と能力、「遊び」の世界  
 第5週 自己と他者の関係の在り方 愛着と心の健康  
 第6週 児童期・思春期の発達と仲間  
 第7週 現代社会の中の思春期、そして「環境と安全」  
 第8週 青年期の発達課題と危機  
 第9週 青年期の自我同一性獲得と心の健康  
 第10週 成人期の自立、仕事とキャリアと家族  
 第11週 社会性とコミュニケーションの力  
 第12週 老年期の特性、危機と自己の集大成  
 第13週 定型発達と非定型発達の概要  
 第14週 発達の過程で出遭う課題・障害・支援  
 第15週 まとめ わたしの「生涯発達」

**【事前・事後学修】**

【事前学修】「こども・青年・成人と仕事・高齢者に関する出来事や自身の経験」について観察し考察してくる。毎回のワークシートに記述する。自分の言葉で書けるようにしておく。

【事後学修】小レポート課題の提出を課すことがある。

【学修に必要な時間】事前・事後学修合わせて毎週4時間程度を要するような課題の取り組みを求める。

**【テキスト・教材】**

適宜、資料やワークシートを準備して配布する。映像資料も用意する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

最終レポート60%、平常点すなわち提出物と授業内のワークシート等でみる取り組み 40%

【フィードバックについて】毎回の授業の冒頭に、提出されたワークシートのコメントについての解説する。最終レポート後は、manabaの授業評価コメントの場を活用する。

**【参考書】**

伊東・竹内・鈴木 編著「食べる・育てる心理学」川島書店

**【注意事項】**

講義で取り扱う発達の事象は、受講者自身が過去現在問わず直面しているはずである。「自我関与」の意識で取り入れて欲しい。受講者と教員の双方向的な「やりとり」が授業コンテンツを方向づける。授業内のワークシートは大切な媒体である。しっかり書いて欲しい。

## 生涯発達心理学 a

塚原 拓馬

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、協働力

## 【授業のテーマ】

保育・教育実践における基礎理論としての発達心理学について学習し、子どもの行動形成の理解を深める。そこでは、生涯発達心理学の視点から幼児・児童についての心身の発達、学習の過程および青年の心理的特性を学び、理解することを目指す。また、保育・教育における心理学と発達各領域について講義し、子どもの社会的発達について考察する。

## 【授業における到達目標】

生涯発達の視点から、幼児期、児童期の心理的特性や発達の主領域について理解し、幼児期・児童期までの心理社会的発達について学修することを目標とします。そして、物事の真理（人間の心理）を探究していく態度により、人間発達に対する広い視野と洞察力を身につける志向性を持つことを到達目標とします。

## 【授業の内容】

- 第1回：保育実践における発達心理学とは
- 第2回：子どもの発達プロセスを理解する
- 第3回：乳幼児発達の各領域の理解（身体運動機能の発達）
- 第4回：乳幼児発達の各領域の理解（情動の発達）
- 第5回：乳幼児発達の各領域の理解（言葉の発達）
- 第6回：乳幼児発達の各領域の理解（認知の発達）
- 第7回：乳幼児発達の各領域の理解（社会性の発達）
- 第8回：社会的発達における基本的信頼感の形成
- 第9回：社会的発達における役割習得
- 第10回：他者とのかかわり（道徳性の発達）
- 第11回：他者とのコミュニケーション（向社会的性の発達）
- 第12回：社会的発達における初期経験の効果
- 第13回：幼児期と児童期の特性（就学支援）
- 第14回：青年期と成人期の特性
- 第15回：まとめ

## 【事前・事後学修】

## 【事前学修】

各回テーマの小レポートの作成に取り組むこと（学修時間週2時間）

## 【事後学修】

各回テーマの小レポートの復習に取り組むこと（学修時間週2時間）

## 【テキスト・教材】

適宜、レジュメを配布する。映像視聴も行う。

・無藤隆・岡本祐子・大坪治彦（編）（2004）「よくわかる発達心理学」ミネルヴァ書房 ¥2400＋税

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験（80％）、レポート（20％）を総合的に評価する。  
レポートについては、記述された内容（質問や感想）に対して授業内でフィードバックする予定である。

## 【参考書】

・無藤 隆・藤崎真知代（編）（2011）「保育の心理学Ⅰ」北大路書房

## 【注意事項】

本講座と関連している「生涯発達心理学b」も必ず履修すること。

## 生涯発達心理学 b

塚原 拓馬

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、協働力

## 【授業のテーマ】

児童、生徒の教育実践の基礎理論として、心身の発達及び学習の過程について理解を深める。また、障がいのある幼児、児童、青年について心身の発達を学び、行動形成の学習過程や支援対応について学習する。そして、生涯発達心理学の視点から、青年・成人・老年の心身の発達を生理的機能、認知機能、社会的行動などの視点から講義する。

## 【授業における到達目標】

生涯発達の視点から、児童期、青年期、成人期、老年期の心理的特性や発達の問題等について理解し、ライフサイクルにおける人の心理社会的発達について学修することを達成目標とします。  
そして、物事の真理（人間の心理）を探究していく態度により、人間発達に対する広い視野と洞察力を身につける志向性を持つことを到達目標とします。

## 【授業の内容】

- 第1回：ライフサイクルと心理的発達
- 第2回：児童期（仲間関係とその影響）
- 第3回：児童期（学校生活と学習動機づけ）
- 第4回：児童期（家族関係とコミュニティ）
- 第5回：児童期における心身の障がいの理解と対応
- 第6回：思春期（二次成長と心理社会的発達）
- 第7回：思春期（自己意識の変化と向社会的行動）
- 第8回：青年期（アイデンティティとは）
- 第9回：青年期（青年期危機の様相）
- 第10回：青年期における心身の障がいの理解と対応
- 第11回：成人期（キャリア発達）
- 第12回：成人期（中年期危機と多重役割論）
- 第13回：老年期（老年期の身体的・認知的変化とその特性）
- 第14回：老年期（サクセスフルエイジング）
- 第15回：まとめ

## 【事前・事後学修】

## 【事前学修】

各回テーマの小レポートの作成に取り組むこと（学修時間週2時間）

## 【事後学修】

各回テーマの小レポートの復習に取り組むこと（学修時間週2時間）

## 【テキスト・教材】

適宜、レジュメを配布する。映像視聴も行う。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験（80％）、レポート（20％）を総合的に評価する。  
レポートについては、記述された内容（質問や感想）に対して授業内でフィードバックする予定である。

## 【参考書】

無藤 隆・岡本祐子・大坪治彦（編）（2004）「よくわかる発達心理学」ミネルヴァ書房 ¥2400＋税

## 【注意事項】

本講座と関連している「生涯発達心理学a」も必ず履修すること。

**生涯発達心理学演習 a**

塚原 拓馬

2年 前期 1単位

◎：協働力 ○：研鑽力、行動力

¥3800+税

**【注意事項】**

本講座と関連する「生涯発達心理学演習b」も必ず履修すること。  
校外実習、外部講師を招いての事例検討なども行う。

**【授業のテーマ】**

幼児、児童教育における基礎理論としての心身の発達及び学習過程についての理解を深め、障がいのある幼児・児童についての理解及びその対応を習得することを目標とする。また、保育・教育における心理学と発達の各領域における障がいのある子どもについて、グループワークを通して理解を深める。その際、質的な分析の方法の一種である「参与観察」についても解説する。

**【授業における到達目標】**

幼児、児童教育における発達の問題の理解とその支援の在り方について学修することを目標とします。そして、そして、物事の真理（人間の心理）を探究していく態度により、心理的支援の場面において役割を理解した協力（連携）関係により支援を行う力に対する志向性を持つことを達成目標とする。

**【授業の内容】**

- 第1回：保育・教育における発達心理学
- 第2回：子どもの発達と個人差
- 第3回：子どもの発達における環境との関わり  
(参与観察に向けて①親子事例など)
- 第4回：仲間関係の形成とつまずき
- 第5回：教師（保育者）と子どもとの関係
- 第6回：メタ認知の発達と自己統制能力
- 第7回：家族・集団における遊びと社会性の発達
- 第8回：学校・地域における生活と遊び
- 第9回：基本的生活習慣の形成と発達支援
- 第10回：障がいのある幼児・児童の理解と対応  
(参与観察に向けて②)
- 第11回：学童期への発達支援（就学・学習支援）：参与観察①
- 第12回：発達支援のネットワークシステム：参与観察②  
特別講義など
- 第13回：地域や専門機関との連携と発達支援：参与観察③
- 第14回：NP0・ボランティアとの連携と発達支援：参与観察④
- 第15回：現代社会における養育者の心理（ニーズ）とその理解

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

各回テーマの発表レジメおよび小レポートの作成に取り組むこと  
(学修時間1時間)

**【事後学修】**

各回テーマの発表レジメおよび小レポートの復習に取り組むこと  
(学修時間1時間)

**【テキスト・教材】**

適宜、レジメを配布する。映像視聴も行う。

詳細は初回授業時に支持する。

- ・無藤 隆・島崎真知代（2011）「保育の心理学Ⅰ」 北大路書房 ¥1700+税
- ・清水益治・無藤 隆（2011）「保育の心理学Ⅱ」 北大路書房 ¥1700+税
- ・柴山真琴（2005）「こどもエスノグラフィー入門 技法の基礎から活用まで」 新曜社 ¥1900+税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート（40%）、発表レジメ・プレゼンテーション（40%）および発言点（20%）を総合的に評価する。レポートについては、記述された質問や感想に対して授業内でフィードバックしていく。発表レジメ・プレゼンについては、各回ごとにテーマの解説を交えてフィードバックしていく。

**【参考書】**

- ・「DSM-IV-TR 精神疾患の診断と統計マニュアル」医学書院 2002



**生涯発達心理学演習 b**

塚原 拓馬

2年 後期 1単位

◎：協働力 ○：研鑽力、行動力

**【授業のテーマ】**

人間のさまざまな生涯について、生涯発達心理学に関する先行研究から考察し、心理的発達変化を理解する。また、生涯発達心理学とその周辺領域におけるテーマについて、ライフヒストリー分析・新聞事例分析などを行い、グループ・ワークを通して質的研究の方法と生涯発達心理学の知見に対する理解を深める。

**【授業における到達目標】**

生涯発達の視点から、児童期、青年期、成人期、老年期の発達の問題の理解と支援の在り方について学修することを達成目標とします。そして、そして、物事の真理（人間の心理）を探究していく態度により、心理的支援の場面において役割を理解した協力（連携）関係により支援を行う力に対する志向性を持つことを達成目標とする。

**【授業の内容】**

- 第1回：生涯発達心理学の視点による研究  
（ライフヒストリー分析・新聞事例分析に向けて①）
- 第2回：生涯発達心理学の研究手法  
（ライフヒストリー分析・新聞事例分析に向けて②）
- 第3回：児童期の研究知見を考察するA（学校生活のつまずき）
- 第4回：児童期の研究知見を考察するB（家族臨床心理学）
- 第5回：障がいのある子ども（児童期）の研究知見を考察する  
（ライフヒストリー分析・新聞事例分析、観察実習など①）
- 第6回：グループ・ディスカッション①（児童期）  
（ライフヒストリー分析・新聞事例分析を用いて②）
- 第7回：青年期の研究知見を考察するC（自我同一性の確立）
- 第8回：青年期の研究知見を考察するD（青年期の心理的疾患）
- 第9回：障がいのある子ども（青年期）の研究知見を考察する  
（ライフヒストリー分析・新聞事例分析など③）
- 第10回：グループ・ディスカッション②（青年期）  
（ライフヒストリー分析・新聞事例分析を用いて④）
- 第11回：成人期の研究知見を考察するE（産業ストレスと適応）
- 第12回：老年期の研究知見を考察するF（老年期の精神疾患）
- 第13回：障がいのある成人・老年期の研究知見を考察する  
（ライフヒストリー分析・新聞事例分析、特別講義など⑤）
- 第14回：グループ・ディスカッション③（成人期・老年期）  
（ライフヒストリー分析・新聞事例分析を用いて⑥）
- 第15回：特別講義：まとめ

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

各回テーマの発表レジメおよび小レポートの作成に取り組むこと（学修時間1時間）

**【事後学修】**

各回テーマの発表レジメおよび小レポートの復習に取り組むこと（学修時間1時間）

**【テキスト・教材】**

適宜、レジメを配布する。映像視聴も行う。

詳細は初回授業時に指示する

- ・無藤 隆・島崎真知代（2011）「保育の心理学Ⅰ」北大路書房 ¥1700＋税
- ・清水益治・無藤 隆（2011）「保育の心理学Ⅱ」北大路書房 ¥1700＋税
- ・柴山真琴（2005）「こどもエスノグラフィー入門 技法の基礎から活用まで」新曜社 ¥1900＋税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート（40％）、発表レジメ・プレゼンテーション（40％）

および発言点（20％）を総合的に評価する。

レポートについては、記述された質問や感想に対して授業内でフィードバックしていく。発表レジメ・プレゼンについては、各回ごとにテーマの解説を交えてフィードバックしていく。

**【参考書】**

- ・「DSM-IV-TR 精神疾患の診断と統計マニュアル」医学書院 ¥3800＋税

**【注意事項】**

本講座と関連する「生涯発達心理学演習a」も必ず履修すること。校外観察実習、外部講師を招いての特別講演なども行う。

## 生活

生活の中での子どもの学び

渡辺 敏・松田 純子

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、協働力

## 【授業のテーマ】

幼児の遊びの中での学びについて考え、理解する。また、幼児教育から小学校低学年の教育への連携について理解し、その中での生活科の役割について考える。自分、社会、自然に関する教材の取り扱い方を具体的な体験を通して考え、その指導法についての理解を深める。また、本講義では公園や動物園での校外学習を通して、実際の指導の在り方を考えるようにする。

## 【授業における到達目標】

幼児保育における日本の生活の中での学びを諸外国と比べ考えることで「国際的視野」を培います。また、実際の幼児との活動を下見や計画、その内容の検討を協働で行うことで「研鑽力」、「行動力」、「協働力」を身に付けます。自分が幼児と共にどのように生活の中に学びを見出すかを考えることで「美の探求」の態度を身に付けます。

## 【授業の内容】

- 第1週 幼児の生活の中での学び
- 第2週 幼児の学校での自然観察とその指導
- 第3週 幼児の公園での遊びとその指導
- 第4週 幼児の公園での遊びとその指導の計画
- 第5週 幼児の公園での遊びとその指導の考察
- 第6週 幼児の動物園の見学の方法
- 第7週 幼児の動物園の見学の実際
- 第8週 幼児の動物園の見学の指導計画の作成と検討
- 第9週 幼児の動物園の見学を生かした遊びの計画
- 第10週 実践動物園の準備 子どもが楽しめる遊びを考える
- 第11週 実践動物園の準備 遊びの材料を考える
- 第12週 実践動物園の準備 遊び方やルールについて考える
- 第13週 実践動物園の実際 幼児を招待して実際に遊ぶ
- 第14週 実践動物園の振り返り
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

## 【事前学修】

幼児の生活の中での学びの姿をよく考えること（学修時間 週2時間）

## 【事後学修】

自分が指導者として幼児の学びを指導する時の内容についてよく考え、文章で表すこと（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

講義の中で紹介する

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回の授業後のレポート30%、課題レポート30%、グループワーク30%、動物園の見学を生かした遊びの取り組み10%等により評価する。授業後のレポート、課題レポートにはコメントを入れてフィードバックします。

## 【参考書】

講義の中で紹介する

## 【注意事項】

具体的な体験をすることが多いので動きやすい服装で参加すること

## 生活の科学

渡辺 敏・大川 知子・白尾 美佳・橋 弘志・榎 究

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

## 【授業のテーマ】

この授業では、人間の生活にとって不可欠な衣食住について、生活科学部他学科の先生方から、ご専門領域について科学的な視点からご講義頂きます。そして、身近な生活のなかに原理や法則を見出す重要性を実感し、大学での勉強内容を身のまわりの事象と関連付けて考える姿勢を養います。そのため、まず、生活科学と各領域の概要について概観します。次に、学科専門科目における心理学領域・保育学領域の位置づけについて、概要を示します。これらをふまえ、まず、環境デザインの視座から、生活の科学的理解とはなにかを考え、生活の営みを主体的に構築することと大学での4年間の学びについて考えます。上記を踏まえ被服学領域・食物学領域・住居学領域について、「人間の生活と衣食住」「衣食住の基礎知識」「ライフステージと衣食住」「衣食住に関する生活の課題と今後の展望」等の4点からご講義頂きます。最後に自分の関心のある領域についてのレポートを書き、みんなで読み合います。

## 【授業における到達目標】

この講義では「衣・食・住」の視点から広く生活文化について学ぶことで「国際的視野」と「美の探求」の態度を身に付けます。また、それぞれの講義ではグループワークやディスカッションを通して学生同士が共に学び合い「研鑽力」「協働力」を育てます。そして実際の生活の中で、どのように「衣・食・住」の学びを生かした活動ができるかを学生同士で考える学びを繰り返すことで「行動力」を身に付けます。

## 【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 「生活」を「科学」する～環境デザインの視座から
- 第3回 被服学領域1 衣服が果たす役割
- 第4回 被服学領域2 衣服はどのように作られるのか  
(1) 商品企画
- 第5回 被服学領域3 衣服はどのように作られるのか  
(2) 生産
- 第6回 被服学領域4 これからの衣服の在り方
- 第7回 食物学領域1 人間の生活と食
- 第8回 食物学領域2 食の基礎知識（食品の分類と種類、栄養）
- 第9回 食物学領域3 ライフステージと食
- 第10回 食物学領域4 食に関する課題と今後の展望
- 第11回 住居学領域1 住まいの役割
- 第12回 住居学領域2 住まいの形態
- 第13回 住居学領域3 住まいと生活
- 第14回 住居学領域4 住まいと文化
- 第15回 まとめ（レポートの読み合い）

## 【事前・事後学修】

あらかじめ各回の授業内容について、自分なりに考えてみましょう。（学修時間 週2時間）授業後も、各回の授業内容について、自分なりに振り返ってみましょう。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

各教員の指示に従うこと。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

受講状況および授業での学習への取り組み（90%）、レポート（10%）で評価する。学習への取り組みについては授業者から講義の中でフィードバックを行う。

## 【参考書】

各教員の指示に従うこと。

## 【注意事項】

各回の講義で学んだ内容について、自分の身のまわりの生活、また他の授業と関連させて考えてみましょう。

## 生活デザイン入門

細江 容子・小野瀬 裕子

1年 後期 2単位

○：美の探究、研鑽力、行動力

### 【授業のテーマ】

本講義は2限続きの授業を想定している。

本講義1限目においては、人の一生を生涯発達の視点でとらえ、各ライフステージの特徴と課題について理解し、家族や家庭生活のあり方やその福祉について考える中で、個々の生活をデザインすることができるようになることをテーマとする。

2限目では、1限目の講義をふまえ、「生活デザイン」に関わる内容の授業を計画し、実践できるようにする。

また、本講義では、専門的テーマで研究を重ねている外部講師を招いたり学外実習をするなどして、生活デザインの視点での考察を深める。

### 【授業における到達目標】

- ・人の一生を生涯発達の視点でとらえ、各ライフステージの特徴と課題について理解できる。
- ・家族や家庭生活のあり方やその福祉について考える中で、個々の生活をデザインすることができる。
- ・生活デザインに関わる内容の授業を計画し、実践できる。
- ・それらの知識や技術を生かし、人間の生涯にわたる発達を理解し、その生活の営みを理解し、多様な人々と協働して他者の生活を支援することができる。

### 【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 人の一生と生涯発達の視点
- 第3回 人の一生と生活課題
- 第4回 家庭と社会（人々の生活と地域の関係）
- 第5回 家族と法  
（個人と家族、家族間の人権侵害、自己決定権）
- 第6回 生活資源と生活デザイン（外部講師による講義等）
- 第7回 家庭経済（貨幣と信用のマネジメント）
- 第8回 家庭管理（人と時間と貨幣の関係）
- 第9回 生活保障（自助・共助・公助の関係、仕事と社会保障）
- 第10回 生活デザイン1（生まれる・育つ・学ぶ）
- 第11回 生活デザイン2（働く・育てる・学ぶ/遊ぶ）
- 第12回 生活デザイン3（老いる・依存・死）
- 第13回 生活設計レポートのための学外実習Ⅰ
- 第14回 生活設計レポート発表Ⅰ
- 第15回 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】配布資料等を基にレポート・発表等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）【事後学修】講義や課題発表等の復習をすること。（学修時間週2時間）

### 【テキスト・教材】

教員の指示に従う。資料等を配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

講義内容に関連したテーマを設定し、レポートを提出（40%）、生活設計の最終レポート提出（60%）。レポート、最終レポートに関しては、全体での講評を行うと同時に、個々への対応を行うなどしている。

### 【参考書】

よくわかる生活設計読本編集委員会編、『よくわかる生活設計』中央法規、2008、小谷良子、『主体形成と生活経営』、ナカニシヤ出版、2007

### 【注意事項】

教材としてプリントを配布する。発展的な学習のための文献等については授業のなかで説明する。外部講師の講義、学外実習は調整により前後に変更の場合もある。

**生活ビジネス a (グリーンビジネス)**

eco検定に準じた温暖化防止や環境保全

菅野 元行

2・3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

**生活ビジネス b (コミュニティビジネス)**

倉持 一

2・3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

生活、業務に関わらず現代の社会では電気や燃料といったエネルギーが不可欠です。それらのエネルギーを無制限に製造、使用すると環境問題を引き起こすため、様々な規則が定められています。しかしながら、それらの規則は国によって異なるため、国際的な取り組みが必要とされています。また、いかなる経営体においても環境基準の遵守が求められるのみならず、環境そのものが国内、国際間問わずビジネスとなっています。本講義では、環境社会形成のための社会科学の基礎について学習します。

**【授業における到達目標】**

- ①温暖化防止や環境保全のための様々な対策を理解する。
  - ②企業活動や市民生活の面から環境対策を考える。
- 以上により学生が習得すべき「研鑽力」「行動力」を身につけることを目的とする。

**【授業の内容】**

- 1 オリエンテーション
- 2 エコビジネスとは、環境配慮社会
- 3 気候変動に対する国際的取り組み
- 4 温暖化抑制に対する国際的取り組み
- 5 生物多様性に対する国際的取り組み
- 6 自然環境保全に対する国際的取り組み
- 7 循環型社会に対する国内の取り組み
- 8 廃棄物処理に対する国際的取り組み
- 9 低炭素社会に関する講演聴講
- 10 エネルギー、自動車に対する環境対策
- 11 化学物質に対する環境対策
- 12 環境社会に対する企業の責任、環境マネジメント
- 13 環境保全と金融の役割
- 14 廃棄物問題に関する講演聴講
- 15 グリーン購入、環境ラベル

※環境領域に関心があることが必要です。3年次の「エコビジネス演習」の履修を意図している場合は、この科目の修得が必要です。

**【事前・事後学修】**

【事前学修】授業や課題で分からない言葉は事前に調べておいてください。(学修時間 週2時間)

【事後学修】課題A(各授業日の内容を文章にする)を設定しますので、復習に役立ててください。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

必要に応じてプリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

毎回の授業時のポイントの記載で2割、課題A(上記参照)で8割が基本です。さらに履修生の希望に応じて、課題B(環境・エネルギーに関する新聞記事調査)、課題C(環境・エネルギーに関する展示の感想文)を提出することも可能です。課題Aは毎週、課題B・Cは随時、フィードバックを行います。

**【参考書】**

藤倉 良『eco検定集中テキスト・問題集』(ナツメ社 2012年)1,500円+税(図書館の指定図書にあります) その他のeco検定テキストも参考になります。

**【注意事項】**

※「環境科学概論」と同様に、毎回の授業時に、授業のポイントの記載とともに、質問や意見を記載するコメントペーパーを毎回配布しますので、質問の記入などに役立ててください。  
 ※私語、写真撮影など他の受講者の迷惑となる行為を禁止します。授業の妨げになると判断した場合は、教室から退席を求めます。  
 ※事前に断りの無い途中退室や、授業開始後30分以上経過した後の入室を禁止します。その他の注意事項等の説明は初回の講義で行います。

**【授業のテーマ】**

科学技術の発展や経済的な豊かさの恩恵を受け、便利な生活を送ることの出来る現代社会ですが、その一方で、環境問題や高齢化社会などといった新たな社会課題が私達の生活の身近な場で生じています。これら社会課題の解決と持続可能なより良い社会づくりは私達にとって重要テーマです。このため現在、国や地方自治体による公共政策に任せるだけではなく、コミュニティの力を活用しビジネスの仕組みを取り入れたコミュニティビジネス(CB)という取り組みが試みられています。本授業は、このCBに焦点を合わせ、私達の生活に密着した地域の社会課題をいかにしてビジネスの考え方や手法で解決していくのかなどを、様々なケースを分析しながら考えていきます。

**【授業における到達目標】**

本授業は、CBに関する理解や必要性認識を理論考察から深めるだけでなく、複数の実際のケースを分析します。CBの実際のプロセスに沿った学修を通じ、皆さんの各種能力の涵養や社会での実践性の向上を図ります。具体的には、「計画」ユニットでは洞察力や分析力の鍛錬を、「実践」ユニットでは多様な価値観の受容や他者尊重・協働能力の修得を、そして「評価・継続」ユニットでは自己研鑽と飽くなき探究心を獲得することで、新しい学問領域であるコミュニティ・ビジネスの先駆者として、他者にコミュニティビジネスの概要や重要性や説明できることが目標です。

**【授業の内容】**

1. イントロ(授業の目的・進め方・評価方法説明など)
2. CBの理解①:CBの役割と必要性
3. CBの理解②:コミュニティとソーシャル・キャピタル
4. CBの理解③:コミュニティ・デザイン(デザイン思考)
5. CBの計画①:現代の社会課題(SDGsなど)
6. CBの計画②:ビジネス視点の導入(市場分析の方法など)
7. CBの計画③:ソーシャル・イノベーションという仕掛け
8. CBの実践①:高齢化対策(事例:株式会社いもどり)
9. CBの実践②:地域産業振興(事例:岡山県倉敷市)
10. CBの実践③:環境保護(事例:小水力発電)
11. CBの実践④:子育て支援(事例:株式会社フローレンス)
12. CBの評価・継続①:信頼とコミュニケーションの作用
13. CBの評価・継続②:消費者行動、投資、SNSの活用
14. CBの未来:クラウドファンディング
15. これまでの授業の振り返り・まとめと質疑応答

**【事前・事後学修】**

【事前学修・1.5時間】前回授業で学んだ用語(概念)・理論・ケースを書いたノートを再度読み、自分なりの意見・主張が出来るようにしてきてください。

【事後学修・2.5時間】各授業の最後に指示した課題に合わせ、授業で学んだことや頭に浮かんだ疑問などを反映させたリアクションペーパーを作成し、次回授業時に提出してください。

**【テキスト・教材】**

・必要に応じて授業中に配布するか、別途指示します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

課題(リアクションペーパー)40%、授業中の意見発表など20%、期末テスト40%。なお、リアクションペーパーに対するフィードバックは、次の授業の冒頭「振り返り」などで行います。

**【参考書】**

風見正三・山口浩平著『コミュニティビジネス入門—地域市民の社会的事業』(学芸出版社 2009年)2,484円。

## 生活ビジネスc (マイクロビジネス)

山崎 泰明

2・3年 後期 2単位

◎：研鑽力

### 【授業のテーマ】

- ・3つの角度（「ベンチャービジネス」「ファミリービジネス」「ネットビジネス」）からビジネスを見ていくことにより、起業や創業を身近なものとして捉え、自立した生き方を考える場合の一つの選択肢とすることを体系的に学習し、修得します。

### 【授業における到達目標】

- ・起業や創業を学ぶことで、企業の本来の役割や機能を知ることができます。
- ・これらのことを知るにより、企業やビジネスの本質的なものを見抜く洞察力を身につけることを目指します。

### 【授業の内容】

- 第 1回 インTRODクシヨン
- 第 2回 ベンチャービジネス①：ベンチャー企業の特徴
- 第 3回 ベンチャービジネス②：スタートアップ期
- 第 4回 ベンチャービジネス③：起業家
- 第 5回 ゲストスピーカー（創業経営者）
- 第 6回 ファミリービジネス①：ファミリービジネスの特徴
- 第 7回 ファミリービジネス②：ファミリービジネス研究
- 第 8回 ネットビジネス①：ネットビジネスの特徴
- 第 9回 ネットビジネス②：フィンテック
- 第10回 ゲストスピーカー（ネットビジネス経営者）
- 第11回 イノベーション戦略①
- 第12回 インダストリー4.0の社会
- 第13回 ケーススタディ読解の練習
- 第14回 ビジネスプランの作成
- 第15回 総括

### 【事前・事後学修】

#### 【事前学修】

- ・次回の授業の資料に目を通し、わからない用語などを事前に調べておくこと。（毎回2時間程度）

#### 【事後学修】

- ・毎回の授業の終了時に、理解力の確認を行いません。それに備えて授業の復習をすること。（毎回2時間程度）

### 【テキスト・教材】

- ・プリントを使用する。（テキストを使用する場合は別途指示する。）

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・理解度テスト30%
- ・ビジネスプランの作成40%
- ・授業関与度30%
- ・フィードバックは適宜授業で行ないます。

### 【参考書】

- ・「ファミリービジネスのイノベーション」（発行予定）

### 【注意事項】

- ・ベンチャービジネスやファミリービジネスを学ぶことにより、企業の存在理由や本質を知ることができます。
- ・また、ベンチャービジネスやイノベーション戦略を学ぶことにより、新たな企業経営に触れることとなります。

**生活学原論**

小野瀬 裕子

1年 前期・後期 2単位

○：国際的視野、美の探究、研鑽力

**【授業のテーマ】**

本講義では、生活学とは何か、生活学の本質について考え、理解することを目的とする。家政学・生活学は、家庭と地域の生活基盤を中心とした人間生活における人間と衣食住を含む生活環境との相互作用について研究をし、よりよい生活と共生社会をめざしている。日本と諸外国の家政学・生活学の歴史をたどると社会の変化の中で、生活学の役割は変化をしている。家政学・生活学の定義、目的と対象、領域と体系、研究内容と方法等について学び、生活に対する視座を高め、大学で学び研究する内容を自分の生活にも社会にも生かし、発展させよう。

**【授業における到達目標】**

地域や家庭の現状と課題の本質を広い視野と深い洞察力から見抜き、今後の生活の向上を目指して、自己や他者の役割を理解し、協力して物事を進める能力を修得する。日本と諸外国の家政学・生活学の歴史と生活思想についての知識と理解を深め、国際的視野を持ち、国内外の人々との相互理解と協力を築く態度を修得する。家政学・生活学と家庭科の目的と内容についての知識と理解を深め、倫理観を以って人格を陶冶し、持続可能な社会構築に貢献する態度を修得する。

**【授業の内容】**

1. ガイダンス
2. 個人の発達と家族のライフサイクル
3. 少子高齢社会における家族と家庭の現状と課題
4. 地域コミュニティと生活
5. 人口減少社会における地域生活の現状と課題
6. 日本家政学の歴史－戦前・下田歌子の家政学－
7. 日本家政学の歴史－戦後・日本国憲法人権制定過程－
8. 生活と人権思想
9. 諸外国の家政学・生活学－ドイツ－
10. 諸外国の家政学・生活学－北欧－
11. 諸外国の家政学・生活学－アメリカ・エレンリチャーズ－
12. 日本家政学会・生活学における目的・方法・領域・体系
13. ライフデザイン－人間発達と人的物的環境の生活システム－
14. ライフデザイン－人生設計・仕事・貢献－
15. 期末レポート提出と意見交換

**【事前・事後学修】**

事前学修

毎回の小テスト・グループワークの課題にむけ、家庭と地域生活に関する時事問題の情報を収集する。学修時間 週2時間

事後学修

生活課題の解決に向けた話し合いの結果を集約し、小レポート・期末レポートの内容に生かす。学修時間 週2時間

**【テキスト・教材】**

教員の指示に従う。資料等を配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

小テストまたはグループワーク30%、期末レポート70%。授業開始時に小テストまたはグループワークの課題の説明をするので、課題の意図をよく理解したうえで講義を聴き、グループワークなどに参加して、その結果を小テストと期末レポートに反映させること。

小テストは次回の授業時、期末レポートは最終回にコメントとともにフィードバックを行う。

**【参考書】**

講義にて紹介。

## 生活学原論

小野瀬 裕子

1年 前期・後期 2単位

○：国際的視野、美の探究、研鑽力

## 【授業のテーマ】

本講義では、生活学とは何か、生活学の本質について考え、理解することを目的とする。家政学・生活学は、家庭と地域の生活基盤を中心とした人間生活における人間と衣食住を含む生活環境との相互作用について研究をし、よりよい生活と共生社会をめざしている。日本と諸外国の家政学・生活学の歴史をたどると社会の変化の中で、生活学の役割は変化をしている。家政学・生活学の定義、目的と対象、領域と体系、研究内容と方法等について学び、生活に対する視座を高め、大学で学び研究する内容を自分の生活にも社会にも生かし、発展させよう。

## 【授業における到達目標】

地域や家庭の現状と課題の本質を広い視野と深い洞察力から見抜き、今後の生活の向上を目指して、自己や他者の役割を理解し、協力して物事を進める能力を修得する。日本と諸外国の家政学・生活学の歴史と生活思想についての知識と理解を深め、国際的視野を持ち、国内外の人々との相互理解と協力を築く態度を修得する。家政学・生活学と家庭科の目的と内容についての知識と理解を深め、倫理観を以って人格を陶冶し、持続可能な社会構築に貢献する態度を修得する。

## 【授業の内容】

1. ガイダンス
2. 個人の発達と家族のライフサイクル
3. 少子高齢社会における家族と家庭の現状と課題
4. 地域コミュニティと生活
5. 人口減少社会における地域生活の現状と課題
6. 日本家政学の歴史－戦前・下田歌子の家政学－
7. 日本家政学の歴史－戦後・日本国憲法人権制定過程－
8. 生活と人権思想
9. 諸外国の家政学・生活学－ドイツ－
10. 諸外国の家政学・生活学－北欧－
11. 諸外国の家政学・生活学－アメリカ・エレンリチャーズ－
12. 日本家政学会・生活学における目的・方法・領域・体系
13. ライフデザイン－人間発達と人的物的環境の生活システム－
14. ライフデザイン－人生設計・仕事・貢献－
15. 期末レポート提出と意見交換

## 【事前・事後学修】

事前学修

毎回の小テスト・グループワークの課題にむけ、家庭と地域生活に関する時事問題の情報を収集する。学修時間 週2時間

事後学修

生活課題の解決に向けた話し合いの結果を集約し、小レポート・期末レポートの内容に生かす。学修時間 週2時間

## 【テキスト・教材】

教員の指示に従う。資料等を配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テストまたはグループワーク30%、期末レポート70%。授業開始時に小テストまたはグループワークの課題の説明をするので、課題の意図をよく理解したうえで講義を聴き、グループワークなどに参加して、その結果を小テストと期末レポートに反映させること。

小テストは次回の授業時、期末レポートは最終回にコメントとともにフィードバックを行う。

## 【参考書】

講義にて紹介。

## 生活学原論

小野瀬 裕子

1年 前期・後期 2単位

○：国際的視野、美の探究、研鑽力

## 【授業のテーマ】

本講義では、生活学とは何か、生活学の本質について考え、理解することを目的とする。家政学・生活学は、家庭と地域の生活基盤を中心とした人間生活における人間と衣食住を含む生活環境との相互作用について研究をし、よりよい生活と共生社会をめざしている。日本と諸外国の家政学・生活学の歴史をたどると社会の変化の中で、生活学の役割は変化をしている。家政学・生活学の定義、目的と対象、領域と体系、研究内容と方法等について学び、生活に対する視座を高め、大学で学び研究する内容を自分の生活にも社会にも生かし、発展させよう。

## 【授業における到達目標】

地域や家庭の現状と課題の本質を広い視野と深い洞察力から見抜き、今後の生活の向上を目指して、自己や他者の役割を理解し、協力して物事を進める能力を修得する。日本と諸外国の家政学・生活学の歴史と生活思想についての知識と理解を深め、国際的視野を持ち、国内外の人々との相互理解と協力を築く態度を修得する。家政学・生活学と家庭科の目的と内容についての知識と理解を深め、倫理観を以って人格を陶冶し、持続可能な社会構築に貢献する態度を修得する。

## 【授業の内容】

1. ガイダンス
2. 個人の発達と家族のライフサイクル
3. 少子高齢社会における家族と家庭の現状と課題
4. 地域コミュニティと生活
5. 人口減少社会における地域生活の現状と課題
6. 日本家政学の歴史－戦前－下田歌子の家政学－
7. 日本家政学の歴史－戦後－日本国憲法人権制定過程－
8. 生活と人権思想
9. 諸外国の家政学・生活学－ドイツ－
10. 諸外国の家政学・生活学－北欧－
11. 諸外国の家政学・生活学－アメリカ－エレンリチャーズ－
12. 日本家政学会・生活学における目的・方法・領域・体系
13. ライフデザイン－人間発達と人的物的環境の生活システム－
14. ライフデザイン－人生設計・仕事・貢献－
15. 期末レポート提出と意見交換

## 【事前・事後学修】

事前学修

毎回の小テスト・グループワークの課題にむけ、家庭と地域生活に関する時事問題の情報を収集する。学修時間 週2時間

事後学修

生活課題の解決に向けた話し合いの結果を集約し、小レポート・期末レポートの内容に生かす。学修時間 週2時間

## 【テキスト・教材】

教員の指示に従う。資料等を配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テストまたはグループワーク30%、期末レポート70%。授業開始時に小テストまたはグループワークの課題の説明をするので、課題の意図をよく理解したうえで講義を聴き、グループワークなどに参加して、その結果を小テストと期末レポートに反映させること。

小テストは次回の授業時、期末レポートは最終回にコメントとともにフィードバックを行う。

## 【参考書】

講義にて紹介。

## 生活環境科学

牛腸 ヒロミ

3年 後期 2単位

◎：研鑽力

## 【授業のテーマ】

総論として、身近な生活環境の中での視覚、聴覚、嗅覚、味覚温度感覚の五感と環境について解説し、各論として衣住環境と大気環境、水環境について論じ、生活廃棄物に関する情報についても学びます。

生活環境の現状を認識し、ホットな情報を解説しつつ、快適な生活環境を保持するために必要なことを考えます。

## 【授業における到達目標】

衣環境、身の周りの環境、住環境、地域環境、地球環境と、身近な環境から地球規模の環境一特に空気、水を中心に取り上げ、歴史の変遷と現状を理解します。研鑽力、行動力を育みます。

## 【授業の内容】

1. 人間と環境
2. 環境中における
3. における分類と測定法
4. における機能
5. 悪臭防止法
6. 衣環境と快適性
7. 室内の空気環境
8. 室内環境の温熱評価
9. 地球温暖化とオゾン層の破壊
10. 酸性雨と黄砂
11. 水資源とその利用
12. 人の暮らしと水質汚濁
13. 安全で良質な水の確保
14. 生活廃棄物の処理方法
15. 廃棄物と生活環境

## 【事前・事後学修】

事前学修としては、毎日、1時間程度は新聞に目を通し、環境問題関係の記事を読んでレポートしておいて下さい。

事後学修としては、1時間程度を使って、授業で扱われたテーマに関して、自分の考えをまとめておいて下さい。

## 【テキスト・教材】

中島利誠編著『生活環境論』（光生館 2008年）2400円  
環境省『環境白書』

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート80%、受講態度20%

授業の中で講評します。

## 【参考書】

適宜紹介

## 【注意事項】

毎回、課題を出しますので、欠席をしないように。欠席をしても課題を提出して下さい。



## 生活環境学セミナー

## 専任教員全員

3年 通年 2単位

◎：協働力 ○：研鑽力、行動力

## 【授業のテーマ】

セミナー（ゼミ・ゼミナール）とは、大学における少人数教育の形式の一つであり、討論や勉強会を通じて学生が相互に学び合う場である。その過程を経ることにより、3年次までに培ってきた基礎力に加え、より専門的な内容に踏み込んだ知識・スキルを身につけることを目標とする。

## 【授業における到達目標】

ゼミ活動を通じて協働力を向上し、研鑽力を養成する。

## 【授業の内容】

授業の内容は各研究室によって異なるが、以下のような活動が含まれる。

- ・論文読解およびその内容発表
- ・各自が設定したテーマについての調べ学習・発表
- ・各自が設定したテーマについての小研究・発表
- ・常磐祭展示の企画、プレゼンテーション、実施
- ・セミナーでの活動をまとめたポートフォリオの作成

その他、セミ合宿等の課外活動、展示会や見学会への参加によって見聞や親睦を深めることもある。

## 【事前・事後学修】

各研究室において適宜指示する。各研究室活動の準備・成果発表などの活動に対して、事前および事後学修の時間としておよそ60時間必要である。

## 【テキスト・教材】

各研究室において適宜指示する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業に臨む態度、発表内容、成果物などを総合的に判定する。各研究室における提出物や成果物の省察は各研究室からフィードバックされます。

## 【参考書】

各研究室において適宜指示する。

## 【注意事項】

2年次における「生活環境学演習」において研究室紹介がある。所属する研究室を決める参考として欲しい。所属以外の研究室における活動に興味のある場合には、授業以外の時間に当該教員と相談するとよい。

## 生活環境学演習

## 専任教員全員

2年 後期 2単位

◎：協働力 ○：研鑽力、行動力

## 【授業のテーマ】

各研究室の専門領域を把握することにより、生活環境学科の内容をより深く理解し、大学生生活の到達目標を見出すことを目的とする。少人数で行う演習であるため、学生同士はもちろんのこと、各教員、及び助教・助手との面識を深める機会となることも目的としている。

## 【授業における到達目標】

ゼミ活動を通じて協働力を向上し、研鑽力を養成することを目的とする。

## 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週～第11週 各研究室における演習
- 1 アパレル管理研究室
  - 2 アパレル企画造形研究室
  - 3 材料科学研究室
  - 4 ファッションビジネス研究室
  - 5 環境デザイン研究室
  - 6 空間デザイン研究室
  - 7 建築デザイン研究室
  - 8 生理人類学研究室
  - 9 人間工学研究室
  - 10 プロダクトデザイン研究室

第12週 総合演習

第13週 今後の専門性についての考察

第14週 今後の専門性についての演習

第15週 総括

## 【事前・事後学修】

前回の授業の復習をし、次回の授業については各自図書館やインターネットなどを利用して調べておくこと。各ゼミ周りを行って、興味のあることなど調べ学修をしたり質問等においておよそ60時間程度の事前と事後の学修時間が必要です。

## 【テキスト・教材】

各教員が必要に応じて配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

演習への取り組みの態度（80%）と課題（20%）で総合的に評価する。細かい内容は、各ゼミで指導されます。ゼミ内での発表会などを積極的に行ってください。提出・成果物の講評やフィードバックは各研究室から行われます。

## 【参考書】

各教員が提供することがある。

## 【注意事項】

それぞれの研究室の特徴、教員の指導方法などをよく理解した上で、自分の方向性を見極め、残りの学生生活の主軸となる研究室を選択すること。なお、遅刻・欠席をしないこと。

## 生活環境基礎 a

ー理解をデザインするー

## 槇 究

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

## 【授業のテーマ】

大学での学びの礎となる数学的なものの考え方、情報の収集と整理の仕方について学ぶ。

## 【授業における到達目標】

- ・大学で使う数学的な知識を身に付け、人に説明できるようになる
- ・情報を収集して解析し、その結果を論理的な文章としてまとめる力を養い、大学での学びで活用できるようになる
- そのことにより、現状を正しく把握し行動する力、多角的な視点から分析する力を養い、継続的に探求する力を身に付ける

## 【授業の内容】

<大学で使う数学>

- 第1講 数学的な考え方 その1
- 第2講 数学的な考え方 その2
- 第3講 割合 その1
- 第4講 割合 その2
- 第5講 割合 その3
- 第6講 三角比
- 第7講 指数と対数 その1
- 第8講 指数と対数 その2
- 第9講 これまでの復習

<情報収集と整理>

- 第10講 情報収集
- 第11講 発見のための整理法
- 第12講 論理的な考え方
- 第13講 レポートの書き方
- 第14講 文章の書き方
- 第15講 総括

## 【事前・事後学修】

<大学で使う数学>においては、授業で説明した内容についてmanabaでの出題に回答することが事前学修となる。次回の授業で復習するが、個人でも復習することで知識の定着を図って欲しい。  
<情報収集と整理>においては、各回内容が変わるため、授業中に指示する。図書館、インターネット等を利用した情報収集と、それらを図示したり文章化したりする課題が提出される。  
(学修時間 週4時間)

## 【テキスト・教材】

授業中にプリントを配布する。  
manabaを利用して、Excel等のファイルを配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

manabaでの小テストへの解答 10%、授業中テスト 60%、提出物 30%で評価する。  
・各回の小テストで正答率が低かった設問について、次回授業開始時に解説する。

## 【参考書】

今村仁美・大谷一翔『図説 やさしい建築数学』（学芸出版社）

## 【注意事項】

- ・コンピューターを使用する。普段から、コンピューターを使用して、使用法に習熟しておくことが望まれる。
- ・Team Learning（数人でTeamを作り、教え合う）を実施する予定である。

## 生活環境基礎 b

## 盛川 浩志

1年 後期 2単位

◎：研鑽力

## 【授業のテーマ】

生活環境学科において、一級建築士、一級衣料管理士の受験資格に関連する講義を理解するためには、数学・物理・化学などの基礎知識が不可欠となります。本講義では、高校時にこれらの理数系科目を履修していない学生にも理解できるように、数学・物理・化学の基礎となる必要事項を解説し、さらに演習課題を行うことによりその理解を深めることを目的とします。

## 【授業における到達目標】

身近な問題を解決するために、数学を道具として用いるという考え方を身につけ、問題を深く洞察するための基礎となる力を習得することを目指します。

## 【授業の内容】

- 第1週 方程式の基礎（関数とグラフ）
- 第2週 指数と対数
- 第3週 統計の基礎1（量的データの扱い）
- 第4週 統計の基礎2（質的データの扱い）
- 第5週 ベクトル
- 第6週 力のつりあい
- 第7週 物体の運動
- 第8週 中間試験
- 第9週 復習と理解度確認
- 第10週 物質の性質
- 第11週 熱と分子運動
- 第12週 微分
- 第13週 積分
- 第14週 身近な物理・化学現象
- 第15週 全体の総括

## 【事前・事後学修】

## 【事前学修（週2時間相当）】

高校までに習った数学・物理・化学に関して、毎回の講義を受ける前に当該箇所を予習しておくとう理解が深まります。

## 【事後学修（週2時間相当）】

講義資料として毎講義でプリントを配布しますので、講義の内容を復習してください。

## 【テキスト・教材】

講義毎に資料をプリントで配布します。また、学習支援システムにて電子版も配付します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験70%、中間テスト、講義内演習等30%で評価します。演習や課題については、随時講義内で講評によるフィードバックを行い、今後の学習に対する理解の一助となるようにします。

## 【参考書】

物理や化学の基礎知識を理解するためには、現象を具体的なイメージとして捉えることが重要です。比較的読み易いもので、数式を多用せずに物理・化学現象を分かり易く丁寧に説明している書籍として以下のものを挙げます。

---

- ◆山本明利、左巻健男：新しい高校物理の教科書、講談社、2006.2
- ◆左巻健男：新しい高校化学の教科書、講談社、2006.1

## 【注意事項】

本講義の実践・応用編として、特に数学的なものの考え方や理論的思考、具体的なデータの処理方法などは他の演習科目で取り上げています。本科目と同時に、他の生活環境基礎を履修することが望ましいです。

## 生活環境基礎 c

牛腸 ヒロミ

1年 後期 2単位

◎：研鑽力

## 【授業のテーマ】

自然科学系実験の基礎知識について学びます。さらに、測定データの処理とその意味するところを理解し、表計算ソフト”エクセル”を使って、図表にする方法を学びます。また、文献の検索方法、見方、利用の仕方などを学び、自然科学の実験レポートを書けるようになります。

## 【授業における到達目標】

自然科学の実験の道具や道具の取り扱い方、実験値の意味を理解し、実験値の正しい整理が出来るようになる。表計算ソフトエクセルを使って、図表が描けるようになる。  
研鑽力を磨くためのツールとする。

## 【授業の内容】

1. 授業の概要
2. 実験に対する注意、器具や装置について
3. ガラス器具の取り扱い方
4. 試薬の取り扱い方
5. 機器、装置の取り扱い方
6. 単位と換算
7. 有効数字と丸め方
8. 誤差、精度、正確さとは
9. 測定値群を表現する
10. 測定値群を数式で表現する
11. データ間の関係
12. 表計算ソフトを使いこなす（図表を作成する）
13. 文献検索について
14. 実験レポートの書き方
15. レポートの評価

## 【事前・事後学修】

毎回の授業の前に配布したプリントまたはテキストの当該箇所を読んで疑問点を抽出しておいて下さい。

授業後は、疑問点の解消を確認して、出題された練習問題を解いておいて下さい。

事前・事後学修時間はともに2時間程度。

## 【テキスト・教材】

化学同人編集部編『実験データを正しく扱うために』（化学同人2011年）1,500円＋税

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

演習課題70%、受講態度30%

出題した練習問題、課題は授業の中で解説します。

## 【参考書】

適宜紹介

## 【注意事項】

練習をすれば必ず技術は向上します。できるだけ予習復習をして下さい。

## 生活機器設計演習

身近な生活道具を設計してみる

塚原 肇

3年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力、行動力

## 【授業のテーマ】

本授業では生活機器設計（デザイン）として、身近な生活道具を身近な材料を使って作成します。材料としては、紙、木材、銀粘度を使用し、実際に使える照明器具の制作にも挑戦します。

## 【授業における到達目標】

- ・この授業では5つの課題に対して、デザイン案、コンセプトの作成、材料の手配、スケジュール立案、制作と一連のデザインプロセスについて修得します。
- ・ディプロマ・ポリシー（DP）においては、学生が修得すべき「能力」のうち、目標を設定して、計画を立案・実行できる【行動力】を修得します。

## 【授業の内容】

1. ガイダンス
2. 紙バンドでの基本を理解する（演習サポート本間一恵氏）
3. 紙バンド編み方を練習する（同上）
4. 紙バンドでバスケットを制作する（同上）
5. 七宝焼きの基本を理解する
6. 七宝焼きを制作する
7. 銀細工の基本を理解する
8. 銀で指輪を制作する
9. 木材の加工法を理解する
10. 木材でおもちゃのデザインをする
11. 木材でおもちゃを制作する
12. 照明器具の基本を理解する
13. 照明器具をデザインする
14. 照明器具を制作する
15. まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】授業時間内に作品を完成させるために、演習テーマのコンセプトやデザインは事前に決定しておいてください。（学修時間 週最低2時間以上）

【事後学修】授業時間内に完成しなかった作品は必ず自宅で作成して次の課題の構想を練っておくようにしましょう。（学修時間 週最低2時間以上）

## 【テキスト・教材】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料を配付します。演習の教材として鉛筆、カッターナイフとマット、定規、スケッチブックなど、別途に提示する演習用具は各自用意してください。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

演習課題の評価（70%）、授業態度（30%）

課題の提出時に即時に評価を行い、コメントを付加して作品を返却する。

## 【注意事項】

研究室の定員、モノづくり工房Aの設備の制限で定員を20名とします。20名以上の場合は抽選とします。2回～4回目の紙バンド制作演習にはサポートとして本間一恵氏（バスケットリー作家）に協力してもらいます。

## 生活気候学

山崎 和彦

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

## 【授業のテーマ】

我々は風土、住居、衣服などが形成する様々な気候の下に暮らしている。本講義では先ず気候学の基礎となる天文学および各種の自然現象について論じる。次に住居にまつわる空調、温度、湿度、換気、風等に関する工学、人体影響、環境基準等について論じる。最後に都市気候はじめ各種の環境問題を扱う。

## 【授業における到達目標】

本授業を通じて、自然現象や文化における真理を探究する態度を身につける。また、広い視野と深い洞察力を身につける。

## 【授業の内容】

- 第1週 天文学の基礎
- 第2週 気候学の基礎
- 第3週 温熱評価指数、気候の人体影響概論
- 第4週 国内国外の住居と気候
- 第5週 空調概論
- 第6週 暖房
- 第7週 冷房
- 第8週 換気
- 第9週 結露
- 第10週 風
- 第11週 日照と照明
- 第12週 衣服内気候
- 第13週 都市気候
- 第14週 気象災害、環境汚染、公害
- 第15週 総括

## 【事前・事後学修】

毎回の講義において資料を配付する。その中で、事前学修については、講義に臨む前に調べておくべき事項あるいは準備しておくべき事項について示す。また事後学修については、復習のための要領（参考書の提示、定期試験に向けた対策、その他）を示す。なお、これらを口頭で示すこともある。事前および事後の学修には、週あたり、各々2時間以上を充てる。

## 【テキスト・教材】

資料を配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験70%、平常点（授業態度）30%とする。学生に対するフィードバックについては、定期試験終了後、1週間以内を目処に、学科掲示板において、正答率が低かった設問についての解説、成績分布、講義を行った所感等について掲示する。また、マナバに記載された学生による不満や改善点については、同じくマナバにて回答し、次回に活かす。

## 【参考書】

適宜示す。

## 生活空間計画

橋 弘志

3年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

## 【授業のテーマ】

私たちの生活に関わる住環境は、住居を中心として街や地域へと広がっており、そこでは住居以外のさまざまな施設が設計・計画の対象となります。住居や施設の計画においては、空間と行為との対応だけでなく、人の心理や地域・社会との関わりなど、多面的な知識が必要となります。ここでは、そのような複合的知識としての建築計画について、なるべく具体的な事例を題材としながら学習していきます。

## 【授業における到達目標】

<国際的視野>「日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度」、<美の探究>「物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度」、<研鑽力>「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる力」、<行動力>「プロセスや成果を正しく評価し、問題解決に繋げることができる力」を修得する。

## 【授業の内容】

- 第1週 生活空間を計画する上での基礎知識
- 第2週 構造と空間
- 第3週 形態と機能
- 第4週 集合住宅の計画 (1) (集合の形態)
- 第5週 集合住宅の計画 (2) (配置と地域計画)
- 第6週 集合住宅の計画 (3) (コミュニティの計画)
- 第7週 集合住宅の計画 (4) (住み手と計画プロセス)
- 第8週 教育施設の計画 (1) (機能と空間)
- 第9週 教育施設の計画 (2) (子供の発達と空間)
- 第10週 教育施設の計画 (3) (教育プログラム)
- 第11週 教育施設の計画 (4) (地域との関係)
- 第12週 図書施設の計画 (1) (図書館建築の流れ)
- 第13週 図書施設の計画 (2) (機能と空間)
- 第14週 その他の施設
- 第15週 総括

## 【事前・事後学修】

事前学修：配布する資料・プリントをよく読んで授業に臨むこと（学修時間 週2時間）

事後学修：各回の授業を復習してよく理解しておくこと（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

適宜プリントを配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

各回の小課題50%、定期試験50%により評価します。各回の小課題については次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

## 【参考書】

日本建築学会編『建築設計資料集成』（丸善）、各種建築・インテリア関連雑誌、その他授業の中で追って紹介します。

## 生活空間設計製図 1

高田 典夫

3年 前期 2単位 2時限連続

◎：行動力 ○：美の探究、研鑽力

## 【授業のテーマ】

設計製図1では、空間を構成する要素を考慮しながら「生活する」ということの意味を考えるための設計課題を行う。住まいという生活に密接した空間について、各部の寸法、生活行為と空間規模、必要機能と空間構成などについて考えながら、具体的な計画・設計を行っていく。各自の空間イメージを建築作品として表現し、プレゼンテーションする。

## 【授業における到達目標】

- ・学生が修得すべき「美の探求」のうち、物事の真理探究と新たな知の創造を修得する。
- ・学生が修得すべき「研鑽力」のうち、本質を見抜く力を修得する
- ・学生が修得すべき「行動力」のうち、課題発見力、計画立案実行力、問題解決力を修得する。

## 【授業の内容】

## ■課題Ⅰ「木造の小住宅」の計画・設計

1. 小さな家での心地よい生活を考える・「小住宅」を調べる
2. 敷地の特性を読む・図面の描き方
3. 生活する空間のイメージをかたちにしていく・模型の作り方
4. エスキス1（平面計画）
5. エスキス2（断面計画・立面計画）
6. エスキス3（模型製作・パース作成）
7. 提出/プレゼンテーション

## ■課題Ⅱ「地域とともに育つみんなのイエ」の計画

8. みんなのイエとは何か一シェアハウスを考える
9. 周辺環境と配置計画
10. エスキス1（平面計画）
11. エスキス2（断面計画・立面計画）
12. 中間チェック（計画案のまとめ）
13. エスキス3（模型製作・パース作成）
14. 提出/プレゼンテーション

## ■まとめ

15. 総合講評

## 【事前・事後学修】

事前学修：日常生活の中で身のまわりの空間のスケール・プロポーションに興味を持ち、自分で確認することにより、自分なりのスケール感、プロポーション感覚を身につけて、アイデアや調べた事をまとめ自分の「資料集成」を作成しましょう。（20時間以上）

事後学修：授業中の指摘、中間チェック事項を検討して、課題作品に生かしていきましょう。（10時間以上）

## 【テキスト・教材】

適宜資料を配付します。製図・模型製作等に必要の用具については、追って指示をします。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度（20%）と提出期限までに提出された全ての課題作品（80%）による。課題作品は、プレゼン時の講評にてフィードバックを行う。

## 【参考書】

『建築設計資料集成』日本建築学会編（丸善）、各種建築・インテリア雑誌、その他適宜授業中に紹介する。

## 【注意事項】

「設計製図基礎」を履修していること。  
授業のテーマをよく読み、理解して授業に臨むこと。  
指定された中間チェックを受けなかったもの、中間チェックを含めて、課題の提出期限に遅れたものは採点の対象としない。  
履修に当り、A4サイズ程度のスケッチブックを準備して、自分のアイデアを描きとめたり、参考になる写真や資料などを貼り込むなどして、自分の「資料集成」をつくとともに、ノートとしても利用することを勧めます。

## 生活空間設計製図 2

橋 弘志

3年 後期 2単位 2時限連続

◎：行動力 ○：美の探究、研鑽力

## 【授業のテーマ】

設計製図2では、より複雑なプログラミングを必要とする様々な設計課題を行う。実際の建築行為においては、敷地条件、周辺環境、地域社会、家族構成員や家族間の関係、コミュニティの形成、現代的なニーズへの対応など、さまざまに絡み合った課題を捉える視点とスキルが重要となる。建築行為の役割や意味を考えながら、そこに一つの解決案としての建築をデザインし、プレゼンテーションする。

## 【授業における到達目標】

＜美の探求＞「物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度」、＜研鑽力＞「学習成果を実感して、自信を創出することができる力」、＜行動力＞「目標を設定して、計画を立案・実行できる力」「プロセスや成果を正しく評価し、問題解決に繋げることができる力」を修得する。

## 【授業の内容】

- 第1週 プレ課題（立体空間の設計・課題の出題）
- 第2週 プレ課題（立体空間の設計・プレゼンテーション）
- 第3週 美術館の設計（課題の出題）
- 第4週 美術館の設計（機能と空間構成の理解）
- 第5週 美術館の設計（敷地特性と配置計画）
- 第6週 美術館の設計（平面・断面計画）
- 第7週 美術館の設計（図面・模型の作成）
- 第8週 美術館の設計（プレゼンテーション）
- 第9週 保育園の設計（課題の出題）
- 第10週 保育園の設計（周辺環境の把握と配置計画）
- 第11週 保育園の設計（機能・動線計画）
- 第12週 保育園の設計（スケールと空間）
- 第13週 保育園の設計（図面・模型の作成）
- 第14週 保育園の設計（プレゼンテーション）
- 第15週 総合講評

## 【事前・事後学修】

事前学修：設計の対象施設について、さまざまな建築資料、文献、雑誌等を参考に、その計画やデザインについて学修する（学修時間 週2時間）。

事後学修：毎回、次の授業までに行うべき課題を指示する。課題に取り組んだ上で授業に臨むこと（学修時間 週4時間）。

## 【テキスト・教材】

適宜プリントを配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小課題・コンセプトボード等の提出：25点  
エスキスチェック：15点  
課題の評価（図面・模型・プレゼンテーション）：60点  
提出された課題については、その都度フィードバックを行います。

## 【参考書】

日本建築学会『建築設計資料集成』（丸善）、各種建築・インテリア関連雑誌

## 【注意事項】

設計製図基礎、生活空間設計製図1を履修していること。提出物をすべて提出し、各課題のプレゼンテーションを行って、はじめて成績評価の対象となる。

## 生活空間設計製図3

一色 ヒロタカ

4年 前期 2単位 2時限連続

◎：行動力 ○：美の探究、協働力

## 【授業のテーマ】

建築を生み出す際の、プログラムづくりや空間のつくり方を演習課題をとおして習得します。より複雑で高度なプログラミングを必要とする生活空間を題材にして、実践的な設計の手法や表現方法を学びます。ここで習得した能力は、建築だけでなく様々なデザインの現場で必要とされる、基礎的な能力となります。卒業研究(論文・制作)だけでなく、社会での実践の場に繋がるデザインの生み出し方を学びます。

## 【授業における到達目標】

卒業研究につながるよう、自身で建築のプログラムを組み立てること。

独創的な企画や建築空間を提案できるようになること。これらは建築設計分野だけでなく、様々な分野でも応用可能な力となります。特に多様化が進む社会においては、自身の探求心や独自の視点の発見など、社会で活躍していくための基礎力が必要です。「行動力<DPより>」として、現状把握と問題発見を行い、計画の立案をし、プロセスや成果を評価して、問題を解決する能力を身につけます。

## 【授業の内容】

第1週オリエンテーション、「第1課題」課題発表 第2週エスキス1\_コンセプト確認 第3週エスキス2\_方向性確認 第4週エスキス3\_最終確認 第5週第1課題講評回、「第2課題」課題発表 第6週エスキス1\_コンセプト確認 第7週エスキス2\_スタディ確認 第8週第2課題講評回、「第3課題」課題発表 第9週エスキス1\_コンセプト 第10週エスキス2\_方向性確認 第11週エスキス3\_スタディ確認 第12週中間発表 第13週エスキス4\_スタディ確認 第14週エスキス5\_最終確認 第15週第3課題講評会

## 【事前・事後学修】

毎回、次の講義までに行うべき事後学修及び事前学修課題を指示します。実習課題ですので、各人の進捗状況に合わせて、個別に検討すべき課題を指示します。事前事後合わせて計週2時間の学修は必要です。

## 【テキスト・教材】

課題および関連資料のプリントを配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(30%授業態度)および、提出された全ての課題作品(70%)による評価とします。課題作品は3課題とし、それぞれ講評会形式にて発表し、各人にフィードバックを行います。

## 【参考書】

日本建築学会編『建築設計資料集成』(丸善)、各種建築・インテリア関連雑誌等を、適宜参照してください。

## 【注意事項】

生活空間設計製図1・2が履修済であること(未履修の場合、各ゼミ教員へ履修可否の相談を行うこと)。「卒業研究」において卒業制作を行う学生は、この授業を履修すること。

## 生活経営論

小野瀬 裕子

2年 集後 2単位

○：行動力

## 【授業のテーマ】

現代の生活は、少子高齢化、情報化、国際化、地球環境問題といった環境変化のなかで、世代間交流、文化間交流、持続可能な社会へと具体的対応を求められている。さまざまな環境の変化を社会統計や法の変遷などから客観的に把握し、家庭や地域生活への影響や問題点を整理し、今後の生活経営における課題を見出す。家庭生活のサポートシステムについて、行政・民間団体など各方面から紹介する。主体的に生活を経営するための視座を高め、生活の諸問題の具体的事例について、よりよい生活経営のための考察を行う。

## 【授業における到達目標】

現代は個人の生き方が尊重されてきているが、自己実現をはかるためには、主体的に生活環境を整えることが大切である。生活課題を具体的に取り上げながら、問題解決への方策を考え、家族・地域社会の一員として自らの生活経営力を高めると共に、社会福祉援助について理解する。「国際的視野」の多様な価値観を持つ者との相互理解と協力する態度、「美の探究」の物事の真理を探究することによって新たな知を創造しようとする態度を修得する。「研鑽力」の広い視野と洞察力から本質を見抜く力、「行動力」の問題解決へのプロセス理解力、「協働力」の協力と状況に応じたリーダーシップ力を修得する。

## 【授業の内容】

1. ガイダンス
2. 人の一生と生涯発達・生活課題
3. 少子高齢社会における家族の現状と課題
4. 人口減少社会における地域生活の現状と課題
5. 生活と人権
6. 家族法の変遷
7. 男女共同参画社会におけるワーク・ライフバランス
8. 家庭と地域生活のロールプレイ
9. 諸外国の家庭と地域生活
10. 生活経済一人・時間・貨幣一
11. 消費生活一収入と支出一
12. 消費者の権利と責任一持続可能な社会の形成一
13. 生活のセーフティネットー地域福祉一
14. 社会のセーフティネットー社会保障一
15. 総括と確認テスト

## 【事前・事後学修】

事前学修

1カ月以上家計簿を記録する。家庭と地域生活に関する時事問題の情報を収集する。学修時間 週2時間

事後学修

小レポート・グループワークの結果を考察し復習する。学修時間 週2時間

## 【テキスト・教材】

教員の指示に従う。資料等を配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小レポート50%、グループワーク50%。提出されたレポートは採点し、コメントとともにフィードバックする。

## 【参考書】

男女共同参画統計研究会、『男女共同参画統計データブック』、きょうせい、2015

金融広報中央委員会、『大学生のための人生とお金の知恵』、日銀情報サービス、2015

**生活経済論**

シミュレーションで学ぶ生活の経済

高橋 桂子

1年 後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

**【授業のテーマ】**

大学卒業後の人生は、どの職種で、いつまで仕事を続けるか、結婚はいつ、誰とするのか、育児の方針は何か、住宅購入の資金をどのように貯めて返済方法は何を選択するのかなど、自分が主体となって選択を行う場面が多い。少子・高齢化、情報化やグローバル化で変動の激しい時代に、自分らしい価値観で安定的な生活を維持するためには、経済社会制度に関する知識に基づいたシミュレーションできる力が必要である。本講義では、前半は金融広報中央委員会（日本銀行）作成の冊子を用いて人生とお金に関して学び、後半はPC演習室でエクセルによる「家庭経営論1」や本講義前半の知識をいかした生活設計シミュレーションを行う。

**【授業における到達目標】**

学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を解決できる力を修得する。具体的には以下のようなものである。(1)人生のデザインとお金の関係を理解することができるようになる。(2)お金の知識について、直接金融を中心に説明することができるようになる。(3)エクセルを用いて生活設計を正しくシミュレーションすることができるようになる。

**【授業の内容】**

- 1 ガイダンス、基礎知識の確認
- 2 日銀「大学生のための人生とお金の知恵」(人生デザイン)
- 3 日銀「大学生のための人生とお金の知恵」(収入、支出)
- 4 日銀「大学生のための人生とお金の知恵」(貯蓄)
- 5 知識確認1と「大学生のための人生とお金の知恵」(運用)
- 6 日銀「大学生のための人生とお金の知恵」(借金)
- 7 日銀「大学生のための人生とお金の知恵」(保険)
- 8 日銀「大学生のための人生とお金の知恵」(意思決定)
- 9 知識確認2とエクセル基礎スキルの確認(情報処理)
- 10 生活設計シミュレーション(職種、推計枠組み入力)
- 11 生活設計シミュレーション(所得税の計算)
- 12 生活設計シミュレーション(社会保険料の計算)
- 13 生活設計シミュレーション(出費と貯蓄)
- 14 生活設計シミュレーション(推計結果のプレゼン)
- 15 理解度の確認、まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】配布テキストについてしっかり予習すること(学修時間 週2時間)。  
【事後学修】学んだことを復習すること。次回の授業内容を予習し、専門用語などは理解しておくこと(学修時間 週2時間)。

**【テキスト・教材】**

金融広報中央委員会(日本銀行)『大学生のための人生とお金の知恵』(無料配布)。その他、必要に応じて配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

知識確認(小テスト、20%×3回)、理解度の確認(期末テスト、口頭試験30%)と平常点(授業への積極的参加など10%)から判断する。理解度の確認はグループ単位で行う。評価はグループ内で同一である。

なお、小テストはその場で、期末テスト結果は授業最終回でフィードバックを行う。

**【参考書】**

馬場紀子・宮本みち子・御船美智子(2002)『生活経済論』有斐閣、橋木俊詔(1997)『ライフサイクルの経済学』筑摩書房、真壁昭夫(2011)『最新・行動経済学入門』朝日新聞出版

**【注意事項】**

「出席3分の1ルール」は厳格に適用します。

**生活経済論**

シミュレーションで学ぶ生活の経済

高橋 桂子

1・2年 後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

**【授業のテーマ】**

大学卒業後の人生は、どの職種で、いつまで仕事を続けるか、結婚はいつ、誰とするのか、育児の方針は何か、住宅購入の資金をどのように貯めて返済方法は何を選択するのかなど、自分が主体となって選択を行う場面が多い。少子・高齢化、情報化やグローバル化で変動の激しい時代に、自分らしい価値観で安定的な生活を維持するためには、経済社会制度に関する知識に基づいたシミュレーションできる力が必要である。本講義では、前半は金融広報中央委員会（日本銀行）作成の冊子を用いて人生とお金に関して学び、後半はPC演習室でエクセルによる「家庭経営論1」や本講義前半の知識をいかした生活設計シミュレーションを行う。

**【授業における到達目標】**

学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を解決できる力を修得する。具体的には以下のようなものである。(1)人生のデザインとお金の関係を理解することができるようになる。(2)お金の知識について、直接金融を中心に説明することができるようになる。(3)エクセルを用いて生活設計を正しくシミュレーションすることができるようになる。

**【授業の内容】**

- 1 ガイダンス、基礎知識の確認
- 2 日銀「大学生のための人生とお金の知恵」(人生デザイン)
- 3 日銀「大学生のための人生とお金の知恵」(収入、支出)
- 4 日銀「大学生のための人生とお金の知恵」(貯蓄)
- 5 知識確認1と「大学生のための人生とお金の知恵」(運用)
- 6 日銀「大学生のための人生とお金の知恵」(借金)
- 7 日銀「大学生のための人生とお金の知恵」(保険)
- 8 日銀「大学生のための人生とお金の知恵」(意思決定)
- 9 知識確認2とエクセル基礎スキルの確認(情報処理)
- 10 生活設計シミュレーション(職種、推計枠組み入力)
- 11 生活設計シミュレーション(所得税の計算)
- 12 生活設計シミュレーション(社会保険料の計算)
- 13 生活設計シミュレーション(出費と貯蓄)
- 14 生活設計シミュレーション(推計結果のプレゼン)
- 15 理解度の確認、まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】配布テキストについてしっかり予習すること(学修時間 週2時間)。  
【事後学修】学んだことを復習すること。次回の授業内容を予習し、専門用語などは理解しておくこと(学修時間 週2時間)。

**【テキスト・教材】**

金融広報中央委員会(日本銀行)『大学生のための人生とお金の知恵』(無料配布)。その他、必要に応じて配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

知識確認(小テスト、20%×3回)、理解度の確認(期末テスト、口頭試験30%)と平常点(授業への積極的参加など10%)から判断する。理解度の確認はグループ単位で行う。評価はグループ内で同一である。

なお、小テストはその場で、期末テスト結果は授業最終回でフィードバックを行う。

**【参考書】**

馬場紀子・宮本みち子・御船美智子(2002)『生活経済論』有斐閣、橋木俊詔(1997)『ライフサイクルの経済学』筑摩書房、真壁昭夫(2011)『最新・行動経済学入門』朝日新聞出版

**【注意事項】**

「出席3分の1ルール」は厳格に適用します。



**生活経済論**

シミュレーションで学ぶ生活の経済

高橋 桂子

1・2年 後期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

**【授業のテーマ】**

大学卒業後の人生は、どの職種で、いつまで仕事を続けるか、結婚はいつ、誰とするのか、育児の方針は何か、住宅購入の資金をどのように貯めて返済方法は何を選択するのかなど、自分が主体となって選択を行う場面が多い。少子・高齢化、情報化やグローバル化で変動の激しい時代に、自分らしい価値観で安定的な生活を維持するためには、経済社会制度に関する知識に基づいたシミュレーションできる力が必要である。本講義では、前半は金融広報中央委員会（日本銀行）作成の冊子を用いて人生とお金に関して学び、後半はPC演習室でエクセルによる「家庭経営論1」や本講義前半の知識をいかした生活設計シミュレーションを行う。

**【授業における到達目標】**

学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を解決できる力を修得する。具体的には以下のようなものである。(1)人生のデザインとお金の関係を理解することができるようになる。(2)お金の知識について、直接金融を中心に説明することができるようになる。(3)エクセルを用いて生活設計を正しくシミュレーションすることができるようになる。

**【授業の内容】**

- 1 ガイダンス、基礎知識の確認
- 2 日銀「大学生のための人生とお金の知恵」（人生デザイン）
- 3 日銀「大学生のための人生とお金の知恵」（収入、支出）
- 4 日銀「大学生のための人生とお金の知恵」（貯蓄）
- 5 知識確認1と「大学生のための人生とお金の知恵」（運用）
- 6 日銀「大学生のための人生とお金の知恵」（借金）
- 7 日銀「大学生のための人生とお金の知恵」（保険）
- 8 日銀「大学生のための人生とお金の知恵」（意思決定）
- 9 知識確認2とエクセル基礎スキルの確認（情報処理）
- 10 生活設計シミュレーション（職種、推計枠組み入力）
- 11 生活設計シミュレーション（所得税の計算）
- 12 生活設計シミュレーション（社会保険料の計算）
- 13 生活設計シミュレーション（出費と貯蓄）
- 14 生活設計シミュレーション（推計結果のプレゼン）
- 15 理解度の確認、まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】配布テキストについてしっかり予習すること（学修時間 週2時間）。【事後学修】学んだことを復習すること。次回の授業内容を予習し、専門用語などは理解しておくこと（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

金融広報中央委員会（日本銀行）『大学生のための人生とお金の知恵』（無料配布）。その他、必要に応じて配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

知識確認（小テスト、20%×3回）、理解度の確認（期末テスト、口頭試験30%）と平常点（授業への積極的参加など10%）から判断する。理解度の確認はグループ単位で行う。評価はグループ内で同一である。

なお、小テストはその場で、期末テスト結果は授業最終回でフィードバックを行う。

**【参考書】**

馬場紀子・宮本みち子・御船美智子（2002）『生活経済論』有斐閣、橋木俊詔（1997）『ライフサイクルの経済学』筑摩書房、真壁昭夫（2011）『最新・行動経済学入門』朝日新聞出版

**【注意事項】**

「出席3分の1ルール」は厳格に適用します。

**生活経済論演習**

企業の女性活用・登用

高橋 桂子

2年 前期 1単位

◎：行動力 ○：国際的視野、研鑽力

**【授業のテーマ】**

2018年度の本講義のテーマは「企業の女性活用・登用」です。外資系企業や履修学生さんの希望業種の3社（予定）について新聞記事やネットで企業サーベイを行い、関心の高い企業を訪問します。候補企業への依頼は教員が、訪問企業への質問は履修生が担当します。訪問後は自分が質問した内容をベースとしたレポートを1枚、提出します（1週間以内）。これまでIKEA（短時間正社員・企業所内保育所）、ベネッセスタイルケア（高齢者介護施設）、ABCクッキング（魅力あるメニューの展開）、キッザニア（子どもと仕事）などを訪問しました。企業訪問時はスーツ着用（インナーは白以外）、交通費は自己負担です。

なお、講義では各自、PCを持参すること。テーマやタイトルに沿った「纏まったプレゼン」を期待しています。

**【授業における到達目標】**

学生が修得すべき「行動力」「研鑽力」や「国際的視野」のうち、現状を正しく把握し、課題を解決できる力を修得する。具体的には、(1)自分の関心を明確にした企業サーベイを行うことができるようになる。(2)訪問時に相手に自分の質問内容をきちんと伝えることができるようになる。(3)帰着後は訪問時の質問内容にプラスアルファしたレポートを作成することができるようになる。

**【授業の内容】**

- 第1回 ガイダンス、女性労働の実態、テーマの説明、PPT見本提示
- 第2回 テーマ1：外資系企業と女性活用、概要説明
- 第3回 1：企業取り組みのサーベイ
- 第4回 2：学生によるPPT成
- 第5回 3：プレゼン、依頼先決定、質問内容検討
- 第6回 《企業訪問1》+レポート提出
- 第7回 テーマ2：空運業と女性活用、概要説明 1：企業取り組みのサーベイ
- 第8回 2：学生によるPPT作成
- 第9回 3：プレゼン、依頼先決定、質問内容検討
- 第10回 《企業訪問2》+レポート提出
- 第11回 テーマ3：履修生企業の業種と女性活用、概要説明 1：企業取り組みのサーベイ
- 第12回 2：学生によるPPT作成
- 第13回 3：プレゼン、依頼先決定、質問内容検討
- 第14回 《企業訪問3》+レポート提出
- 第15回 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】レポートや発表の課題にしっかりと取り組むこと（学修時間 週2時間）。【事後学修】何が自分たちグループの発表のポイント（売り）なのか、常にメンバーで情報を共有し、確認しておくこと（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

資料等を必要に応じて配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

プレゼンと訪問後のレポート課題（80%）、平常点（授業への積極参加、20%）から判断する。試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

**【参考書】**

適宜、紹介します

**【注意事項】**

「出席3分の1ルール」は厳格に適用します。  
本講義は演習スタイルです。積極的・主体的に履修することを期待しています。

## 生活材料科学実験A

加藤木 秀章

生活環境学専攻 後期 1単位

## 【授業のテーマ】

糸と布の構造、力学的特性、温熱的特性を測定し、それらの相互関係を統計処理して解析する。また、これらの物性値をKESにより測定し、風合いなど着心地との関係を探求する。

## 【授業における到達目標】

糸と布の構造と物性値と人の感覚との対応関係を考えることができるようになること。

## 【授業の内容】

- 第1週 概要説明と試料作成
- 第2週 糸の構造
- 第3週 糸の太さと番手
- 第4週 糸の応力-歪曲線
- 第5週 布の構造①（厚さ、目付、組織）
- 第6週 布の構造②（糸密度、組織）
- 第7週 布の強伸度特性
- 第8週 KESによる布の小変形特性
- 第9週 布の回復性
- 第10週 布の形態と外観計測
- 第11週 布の温熱特性
- 第12週 データの整理と解析
- 第13週 布の構造と特性の統計的処理
- 第14週 重回帰分析による解析
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】前期の「生活材料科学特論A」を履修しておくこと。また、シラバスを参考に次回授業予定の学修項目を予め調べておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】実験結果をよく吟味し、考察して、レポートを作成すること。（学修時間 週2時間以上）

## 【テキスト・教材】

適宜資料を配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 平常点（授業態度）20%  
実験の提出レポート 80%

提出されたレポートは、次回授業時にフィードバックを行う。

## 【参考書】

授業中に適宜紹介する。

## 生活材料科学実験C

牛腸 ヒロミ

生活環境学専攻 後期 1単位

## 【授業のテーマ】

洗剤、汚れ、揮発性有機化合物、染料の物性測定や分析などに、機器を用いる方法を修得し、習熟する。

FT-IR分析、紫外・可視吸光分析などの分光分析、ガスクロマトグラフィー（GC）や高速液体クロマトグラフィー（HPLC）などを用いた分離分析などを中心に行う。

## 【授業における到達目標】

1. 汎用機器が一人で使いこなせ、分析結果の考察ができる。
2. 原理を理解し、目的によって機器を使い分けることができる。

## 【授業の内容】

- I. 大気中における物質の分析
  1. におい識別装置、FT-IRの原理
  2. 試料の調製
  3. 測定と結果の整理
  4. 解析と考察
- II. タンパク質および油汚れの測定
  5. GC、HPLCの原理
  6. 試料の調製
  7. 測定と結果の整理
  8. 解析と考察
- III. 天然染料の染着量の測定
  9. 紫外・可視吸光分析法の原理
  10. 試料の調製
  11. 吸光度測定の結果と整理
  12. 染色物の測色と金属元素の定量
  13. 測定結果の整理
  14. 解析と考察
  15. 総括

## 【事前・事後学修】

プリントを事前に読んで準備をする。2時間。事後はデータを整理し、レポートを書く。4時間。

## 【テキスト・教材】

プリントを用意する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度40%、実験レポート60%。授業時間中に解説をする。

## 【参考書】

適宜紹介する。

## 【注意事項】

予習復習を必ず行う。

## 生活材料科学特論A

加藤木 秀章

生活環境学専攻 前期 2単位

### 【授業のテーマ】

繊維の集合体であるテキスタイル材料（布）は組成、構造によって特性が決まる。布の構造と力学的性質・温熱的性質の関係、および、これら物性値と着心地との関係を検討する。

### 【授業における到達目標】

布の物性値と糸・布の構造との関係を推測することができるようになること。

### 【授業の内容】

- 第1週 概要説明
- 第2週 糸の構造、太さと番手
- 第3週 糸の力学特性
- 第4週 布の構造①（厚さ、目付、組織）
- 第5週 布の構造②（糸密度、組織）
- 第6週 織物の力学特性
- 第7週 編物・不織布の力学特性
- 第8週 布の小変形特性
- 第9週 布の回復性
- 第10週 布の形態と外観
- 第11週 布の温熱特性
- 第12週 布の快適性
- 第13週 布の構造と特性の関係
- 第14週 多変量解析による解析
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】学部の「テキスタイル材料学」の内容を復習しておくこと。また、シラバスを参考に次回授業予定の学修項目を予め調べておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業およびレポート課題の内容を復習すること。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

適宜資料を配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート 60%

平常点（授業態度・提出課題）40%

提出されたレポートは、次回授業時にフィードバックを行う。

### 【参考書】

授業中に適宜紹介する。

## 生活材料科学特論C

牛腸 ヒロミ

生活環境学専攻 前期 2単位

### 【授業のテーマ】

被服材料やインテリア・プロダクト材料などの染色・加工を理解する上で必要な素材の構造と物性、染色理論について学び、各素材の実際的な染色方法や染色加工のプロセスを理解する。さらに消費性能についても言及する。

事前にテキストを読んで要約し、授業内で質疑応答により議論を深め、必要なところは講義を行う。

原書を読む力、理解する力、それを説明する力、質疑に答える力などを付ける。

### 【授業における到達目標】

1. 生活材料として有用な性能を持つウールをはじめ各種獣毛繊維の構造と性質を理解する。
2. 獣毛の染色理論を理解する。
3. ウールの染色工程について、深く理解する。
4. 英語での標記を理解する。
5. 自己研鑽力を養う。

### 【授業の内容】

1. 導入
2. The Structure of Wool
3. The Chemical and Physical Basis for Wool Dyeing
4. The Role of Auxiliaries in the Dyeing of Wool and other Keratin Fibers
5. Ancillary Processes in Wool Dyeing
6. Bleaching and Whitening of Wool, Photostability of Whites
7. まとめ
8. Wool-dyeing Machinery
9. Dyeing Wool with Acid and Mordant Dyes
10. Dyeing Wool with Metal-complex Dyes
11. Dyeing Wool with Reactive Dyes
12. Dyeing Wool Blends
13. The Coloration of Human Hair
14. Wool Printing
15. まとめ

### 【事前・事後学修】

事前にテキストを読んで、要約し、分からない言葉や必要な知識を調べておく。最低3時間。事後には事前学修で分からなかったことが理解できているかを確認する。2時間。

### 【テキスト・教材】

David M. Lewis and John A. Rippon, The Coloration of Wool and other Keratin Fibres, John Wiley and Sons, 2013

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

各回の発表態度60%、受講レポート40%

### 【参考書】

適宜紹介する。

## 生活材料学

仲西 正

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

## 【授業のテーマ】

生活材料学とは、住生活、衣生活などにかかわる材料を扱う学問です。この授業では、生活に関係する材料について、どのようなものからできているのか、どのような性質を持っているのかを学んでいきます。また、私たちが安全で快適な生活をおくるために使われる材料に、どのような性質や機能が必要とされるかも考えていきます。この授業を通して、身の回りにある様々な材料が私たちの生活において重要な役割をしていることを、皆さんに理解してほしいと思います。

## 【授業における到達目標】

生活材料の基本的な性質を知り、衣生活や住生活に関わる製品をデザインする時、使う時、そして地球環境を考える時に、材料の適切な選択や使用ができるようにする。

学生が修得すべき「行動力」のうち、問題解決の力を修得する。

## 【授業の内容】

- 第1週 序 授業の進め方と、授業全体の流れを説明する。
- 第2週 基礎1 材料とは何か、どのようなものからできているのかを説明する。
- 第3週 基礎2 材料の性質とは何か、力学的な性質と熱に関する性質をみる。
- 第4週 プラスチック1 身の回りに多く使われている高分子材料についてみる。
- 第5週 プラスチック2 高分子材料の構造と性質を説明する。
- 第6週 繊維1 衣住材料において重要な、綿、絹、羊毛など天然繊維を説明する。
- 第7週 繊維2 ポリエステルを中心にして合成繊維を説明する。
- 第8週 金属材料1 金属材料として最も重要な鉄について説明する。
- 第9週 金属材料2 アルミニウム、銅などの非鉄金属について説明する。
- 第10週 セラミック材料1 建築材料として重要なコンクリートを説明する。
- 第11週 セラミック材料2 ガラスを中心に無機材料を説明する。
- 第12週 木材 住居、家具などにおいて重要な材料である木材を考える。
- 第13週 紙 情報の記録や包装に欠くことのできない紙について考える。
- 第14週 地球環境と材料 材料を使うことが環境に与える影響を考える。また、環境負荷が小さい材料とは何かを考える。
- 第15週 まとめ ー生活と材料ー

## 【事前・事後学修】

【事前学修】毎回の授業前に、教科書の授業範囲を読み予習をして下さい。不明な点や疑問点は、ノートに記しておいて下さい。（学修時間 週2時間）

【事後学修】毎回の授業後に、授業中に新たに説明した専門用語の理解を中心に復習をして下さい。自分で理解や解決ができなかった部分は、ノートに記して次回の授業中に質問して下さい。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

教科書を用います。牛腸ヒロミ監修、仲西 正編著『生活材料学の基礎 ーアパレルから建築までー』（光生館 2014年）1,900円（税別）。また、必要に応じてプリントを配付します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験100%で評価します。試験結果は授業最終回でフィードバックします。

**生活産業史**

「衣」「食」「住」「流通」から考える生活と産業との関係

野津 喬

2・3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

生活に必要なものを自給自足でまかなっていた時代はるか昔となりました。私たちの生活は、自分たちの生活の一部を誰か（産業）に任せることで成立しています。

この授業では代表的な生活産業として「衣」「食」「住」「流通」の4つの分野に焦点を当てて、生活と産業の関係とその変化について考えることを目的とします。

**【授業における到達目標】**

- ①生活と産業に関する基礎的な知識と視点を身につける。
  - ②生活と産業の関係をより良くするために取り組むべき課題と方向性について考えることができるようになる。
- これにより、学生が習得すべき「研鑽力」のうち幅広い視野と深い洞察力を身につけることを目的とします。

**【授業の内容】**

次の各テーマについて、15回の授業を行う予定です。

1. はじめに（講義の進め方及び目標、イントロダクション）
2. 「衣」産業①（衣産業の概要、糸産業）
3. 「衣」産業②（生地産業、アパレル産業）
4. グループワーク（「衣」について）
5. 「食」産業①（食産業の概要、食産業の海外展開）
6. 「食」産業②（高齢化と食産業）
7. グループワーク（「食」について）
8. 「住」産業①（住産業の現状、リフォーム産業）
9. 「住」産業②（住産業と高齢化、地球環境）
10. グループワーク（「住」について）
11. 「流通」産業①（流通産業の現状、流通産業と地域）
12. 「流通」産業②（流通産業とグローバル化）
13. グループワーク（「流通」について）
14. まとめ（これまでの授業の総括）
15. 授業の理解度確認

**【事前・事後学修】**

【事前学修】次の授業の参考資料に事前に目を通しておいてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】毎回の講義終了時に実施する小テスト等を復習すること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

manabaに講義で使用するプリント等を掲載しますので、各自で事前にプリントアウトして忘れずに授業に持参してください。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末試験（40%）、グループワーク（25%）、各回の講義の定着度を確認する小テスト（35%）により評価を行います。フィードバックは、関連する範囲の講義資料を全てmanabaに掲示することにより行います。

**【参考書】**

授業の進行に応じて、講師から適宜指示します。

**【注意事項】**

他の受講者の迷惑となる行為（私語など）を禁止します。講義の妨げになると判断した場合は、成績評価に反映（減点）し、注意しても改善されない場合は講義からの退室を求める場合があります。講義開始後、一定時間を経過した後の入室は遅刻または欠席扱いとします。その他、初回の講義で履修に関する注意事項を説明しますので、遅刻せずに必ず出席してください。

**生活産業創出論**

須賀 由紀子

2年 前期 2単位

◎：研鑽力

**【授業のテーマ】**

近代化、産業化にともなって、社会構造、消費構造、人々の生活意識は大きく変化しました。現代の人々が「面白い」と感じ、「意味ある」と思い、お金をかけたいと思うことがらは何でしょうか。合理的、機能的な新商品を期待する一方で、意味ある時間、意味ある空間、意味ある出来事に価値を求め、生活の質を追求する暮らしづくりを求めている時代ではないでしょうか。健康志向、エコロジーへの関心も高まっています。あらゆるもののサービス産業化がますますすすみ、精神的な充足感をどのように満たしていくかが市場の課題と言えましょう。

そのような成熟した時代にふさわしい商品やサービスを考えるためには、現代の社会状況、人々の価値観を捉えつつ、グローバルを見渡しながら、何に、どう働きかけをしていくのか、しっかりと構造的に考える力を磨くことが必要です。授業では、衣・食・住・遊・学の生活産業諸領域の時流を捉え、そこに現代の人々のニーズを捉えた文化的価値をいかに付与していくか、新しい時代の生活産業創出についての考え方を身につけます。現代のトレンドの背後にある、人間本性と、新しい社会が求めるものと、両方をしっかりと見極めつつ、望まれるライフスタイル形成に関わる生活産業の役割とその可能性を展望します。

**【授業における到達目標】**

授業の到達目標は、現代の様々な商品やサービスの背後にある意味を読み解くことができ、自分が生活産業の担い手となったときの発想力の土台をつかむことです。学生が修得すべき「研鑽力」のうち、学ぶ楽しさを知り、生涯にわたり知を探求する力を修得します。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション（授業のテーマ、ねらい、進め方）
- 第2週 生活産業のとらえ方
- 第3週 コンビニエンスストア分析
- 第4週 新たな成長戦略の視点
- 第5週 ヘルスケア産業
- 第6週 農×レジャーの新産業
- 第7週 農×食の文化価値
- 第8週 農×食のプロデュース
- 第9週 自然に寄り添う日本の文化資源
- 第10週 クールジャパンの新潮流
- 第11週 観光産業最前線
- 第12週 おもてなし経営を考える
- 第13週 ショッピングモールの事象を読む
- 第14週 これからのマーケットリーダー像
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】提示された課題を行います（学修時間 週2時間）

【事後学修】学んだことを復習し、内容の整理・理解に努めます（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

必要なプリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業内のアクティビティ50%、期末レポート50%。課題に対するフィードバックは、授業の中で適宜行います。

## 生活産業創出論

須賀 由紀子

2年 前期 2単位

©：研鑽力

## 【授業のテーマ】

近代化、産業化にともなって、社会構造、消費構造、人々の生活意識は大きく変化しました。現代の人々が「面白い」と感じ、「意味ある」と思い、お金をかけたいと思うことがらは何でしょうか。合理的、機能的な新商品を期待する一方で、意味ある時間、意味ある空間、意味ある出来事に価値を求め、生活の質を追求する暮らしづくりを求めている時代ではないでしょうか。健康志向、エコロジーへの関心も高まっています。あらゆるもののサービス産業化がますますすすみ、精神的な充足感をどのように満たしていくかが市場の課題と言えましょう。

そのような成熟した時代にふさわしい商品やサービスを考えるいくためには、現代の社会状況、人々の価値観を捉えつつ、グローバルを見渡しながら、何に、どう働きかけをしていくのか、しっかりと構造的に考える力を磨くことが必要です。授業では、衣・食・住・遊・学的生活産業諸領域の時流を捉え、そこに現代の人々のニーズを捉えた文化的価値をいかに付与していくか、新しい時代的生活産業創出についての考え方を身につけます。現代のトレンドの背後にある、人間本性と、新しい社会が求めるものと、両方をしっかりと見極めつつ、望まれるライフスタイル形成に関わる生活産業の役割とその可能性を展望します。

## 【授業における到達目標】

授業の到達目標は、現代の様々な商品やサービスの背後にある意味を読み解くことができ、自分が生活産業の担い手となったときの発想力の土台をつかむことです。学生が修得すべき「研鑽力」のうち、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探求する力を修得します。

## 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション（授業のテーマ、ねらい、進め方）
- 第2週 生活産業のとらえ方
- 第3週 コンビニエンスストア分析
- 第4週 新たな成長戦略の視点
- 第5週 ヘルスケア産業
- 第6週 農×レジャーの新産業
- 第7週 農×食の文化価値
- 第8週 農×食のプロデュース
- 第9週 自然に寄り添う日本の文化資源
- 第10週 クールジャパンの新潮流
- 第11週 観光産業最前線
- 第12週 おもてなし経営を考える
- 第13週 ショッピングモールの事象を読む
- 第14週 これからのマーケットリーダー像
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】提示された課題を行います（学修時間 週2時間）

【事後学修】学んだことを復習し、内容の整理・理解に努めます（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

必要なプリントを配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内のアクティビティ50%、期末レポート50%。課題に対するフィードバックは、授業の中で適宜行います。

**生活産業創出論**

須賀 由紀子

2年 前期 2単位

◎：研鑽力

**【授業のテーマ】**

近代化、産業化にともなって、社会構造、消費構造、人々の生活意識は大きく変化しました。現代の人々が「面白い」と感じ、「意味ある」と思い、お金をかけたいと思うことがらは何でしょうか。合理的、機能的な新商品を期待する一方で、意味ある時間、意味ある空間、意味ある出来事に価値を求め、生活の質を追求する暮らしづくりを求めている時代ではないでしょうか。健康志向、エコロジーへの関心も高まっています。あらゆるもののサービス産業化がますますすすみ、精神的な充足感をどのように満たしていかかが市場の課題と言えましょう。

そのような成熟した時代にふさわしい商品やサービスを考えるいくためには、現代の社会状況、人々の価値観を捉えつつ、グローバルを見渡しながら、何に、どう働きかけをしていくのか、しっかりと構造的に考える力を磨くことが必要です。授業では、衣・食・住・遊・学的生活産業諸領域の時流を捉え、そこに現代の人々のニーズを捉えた文化的価値をいかに付与していくか、新しい時代の生活産業創出についての考え方を身につけます。現代のトレンドの背後にある、人間本性と、新しい社会が求めるものと、両方をしっかりと見極めつつ、望まれるライフスタイル形成に関わる生活産業の役割とその可能性を展望します。

**【授業における到達目標】**

授業の到達目標は、現代の様々な商品やサービスの背後にある意味を読み解くことができ、自分が生活産業の担い手となったときの発想力の土台をつかむことです。学生が修得すべき「研鑽力」のうち、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探求する力を修得します。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション（授業のテーマ、ねらい、進め方）
- 第2週 生活産業のとらえ方
- 第3週 コンビニエンスストア分析
- 第4週 新たな成長戦略の視点
- 第5週 ヘルスケア産業
- 第6週 農×レジャーの新産業
- 第7週 農×食の文化価値
- 第8週 農×食のプロデュース
- 第9週 自然に寄り添う日本の文化資源
- 第10週 クールジャパンの新潮流
- 第11週 観光産業最前線
- 第12週 おもてなし経営を考える
- 第13週 ショッピングモールの事象を読む
- 第14週 これからのマーケットリーダー像
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】提示された課題を行います（学修時間 週2時間）

【事後学修】学んだことを復習し、内容の整理・理解に努めます（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

必要なプリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業内のアクティビティ50%、期末レポート50%。課題に対するフィードバックは、授業の中で適宜行います。



**【授業のテーマ】**

データの収集、整理と分析、レポートの作成、プレゼンテーションなどに必要なコンピュータおよびネットワークについて学ぶ。また、データの統計的処理および多変量解析の手法について演習を通して理解する。

**【授業における到達目標】**

情報機器を理解して取り扱い、各人がLANやインターネット環境を整備できる程度の能力を身につける。

調査や実験の結果を統計的にデータ処理ができる能力を身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週 コンピュータのハードウェア
- 第2週 コンピュータのソフトウェア
- 第3週 コンピュータネットワーク
- 第4週 ICT社会
- 第5週 種々の理論式とそのグラフ化 1次関数と2次関数
- 第6週 種々の理論式とそのグラフ化 三角関数
- 第7週 種々の理論式とそのグラフ化 指数関数と対数関数
- 第8週 基本統計処理 平均と分散
- 第9週 基本統計処理 種々の確率密度関数
- 第10週 基本統計処理 検定と推定
- 第11週 多変量解析 重回帰分析
- 第12週 多変量解析 主成分分析
- 第13週 多変量解析 因子分析
- 第14週 データの整理とまとめ方
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】統計学について復習しておくこと。また、シラバスを参考に次回授業予定の学修項目も予め調べておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】配布資料および授業内容を復習すること。理解できていない部分がある場合には、次回の授業中に質問すること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

適宜授業で配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート（中間・期末）50%、平常点 50%。平常点とは、授業への取り組み（授業中の発言・態度）25%、課題発表 25%のことである。

提出されたレポートは、最後の授業時にフィードバックを行う。

**【参考書】**

授業中に適宜紹介する。

**生活心理演習**

細江 容子・高橋 桂子

4年 通年 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

われわれの生活と関わる文化は、芸術や文学など人間が生み出した高度な内容を含むとともに、人間が社会の中で長年にわたって形成してきた慣習や振る舞いの体系をさすものである。この意味では衣・食・住などの日常生活全般に関わる習慣や道徳、宗教、芸術から政治、経済といった社会構造全般までその範疇は非常に広い。

生活文化学科の生活心理演習においては、日本の生活文化を理解すると同時にグローバル化の中、国際的に活躍できる女性として日本が育んだ文化の実践を実習により習得し、実践できることを目的とする。また、国際社会の中に生きていくことができる社会人として基本となるビジネスマナーとコミュニケーション手法、衣・食・住に関わる生活マナーを習得し実践できることを目的とする。さらに、変化のはげしい社会の中で仕事をして生き抜いていくための労働法や福祉制度、医療の実践（選ぶ医療へ）に関してよりよい実際的な学びや、折れない心と関わるレジリエンス手法、情報発信能力のためのウェブページ作成法を習得し、実際に情報が発信できる様にするを目的とする。

本講義では専門領域の外部講師を招いたり、必要に応じて施設等での実習を行うなどして学びを深める。

**【授業における到達目標】**

- ・ビジネスマナーとコミュニケーション手法、衣・食・住に関わる生活マナーを習得し実践できる。
- ・労働法や福祉制度、医療の実践（選ぶ医療へ）、折れない心と関わるレジリエンス手法に関して実際的な学びにより生活に活用できる能力を身につける。
- ・情報発信能力のためのウェブページ作成法を習得し、実際に情報を発信できる。
- ・これらの知識や技術に基づき、人の文化の営みを総合的にとらえその生活課題について、理解・考察し、多様な人々と協働して、生活の向上を図る能力の養成を目的とする。

**【授業の内容】**

1. ガイダンス
2. 3 日本文化の実際a（外部講師等）
4. 5 日本文化の実際b（外部講師等）
6. 7 日本文化の実際c（外部講師等）
8. 9.10 各国の食事のマナーの実践  
（マナーを知り実践しよう  
学外実習予定、プレゼンテーション等）
11. 12 ビジネスのための英語と  
グローバルコミュニケーション能力について  
（外部講師等）
13. 実習のためのマナー日常生活のマナー
- 14.15 交流会の実際と演習（生活心理をキーワードにして）
16. 自分の学びや資格を生かしたキャリアをデザインしよう
17. キャリアと関わる労働法の実際
18. キャリアと関わる福祉制度の実際
19. キャリアと関わる医療の実際
20. キャリアと関わるレジリエンス思考法（外部講師等）
21. プレゼンテーション能力を磨く
22. 学びや資格を基にキャリアデザインを発表しようI
23. 学びや資格を基にキャリアデザインを発表しようII
24. エクセルの実際
25. ウェブサイトの作成手法（講義と実際 外部講師等）
26. ウェブサイトの作成実習（内容の検討）
27. ウェブサイトの作成実習（作成の実際）
28. ウェブサイトの作成実習（全体の修正と立ち上げ等）
29. パーティを主催しよう
30. パーティの実際とまとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】配布資料を基に、レポート・発表、実技の取得等に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義、課題発表、実習等の復習をすること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

教師の指示に従うこと。資料等を配付する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

実習40%、提出課題30%、平常点（授業への積極的参加、授業内課題）30%。実習の評価、提出課題、平常点に関しては、そのつど全体における講評を行うなどと同時に個々への対応を行うなどしている。

**【参考書】**

教員の指示に従うこと。

**【注意事項】**

外部講師等の関係で予定が異なることがある。

履修要項に示す様に、実習費等として別途徴収することがある。

## 生活心理概論

作田 由衣子

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

## 【授業のテーマ】

生活心理では、人の社会生活、家庭生活において、生活の質の充実を目指すために必要な、生活を取り巻く様々な問題の解決を心理学的に探索することをめざしている。そして、これらの諸問題について、社会調査の方法論を重要な基礎の一つとしながら、心理学的手法により理解し、いかに解決するかを探求していく。この授業では、生活心理とその基盤領域群（「生活と社会」領域・「家族と社会」領域・「心身の健康」領域）について概説するとともに、基礎的な方法論の一つである社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を解説する。

## 【授業における到達目標】

生活を取り巻く様々な問題について、心理学的視点から現状を正しく把握し、課題を発見できる。また、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることができる。

## 【授業の内容】

- 第1週 生活心理とは何か
- 第2週 生活と社会
- 第3週 家族と社会
- 第4週 心身の健康
- 第5週 社会の中で生きる心理学①：知覚・認知など
- 第6週 社会の中で生きる心理学②：臨床・発達など
- 第7週 生活の諸問題を理解する方法（社会調査法）：調査方法論
- 第8週 社会調査の目的と意義：国勢調査と公的統計
- 第9週 社会調査の歴史：学術調査、世論調査、マーケティング・リサーチなど
- 第10週 調査の倫理
- 第11週 調査ケース：調査の種類と実例
- 第12週 量的手法による調査法：調査票調査など
- 第13週 質的手法による調査法：フィールドワークなど
- 第14週 社会調査のプロセス：資料・データの収集から分析まで
- 第15週 生活の諸問題と心理学：まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】心理学や社会調査法の入門書を通読しておくこと。

（学修時間：週2時間）

【事後学修】その日の授業の復習を行うこと。

（学修時間：週2時間）

## 【テキスト・教材】

無藤隆・森敏昭・池上知子・福丸由佳（編）2009 よくわかる心理学 ミネルヴァ書房 3,240円

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

40%（授業内レポート）、60%（期末課題）により評価する。

manabaを利用してフィードバックを行う。

## 生活心理研究計画法

長崎 勤

4年 通年 2単位

◎：行動力 ○：美の探究、研鑽力

## 【授業のテーマ】

卒業後の進路として、進学を希望する学生を対象とした授業である。

授業を通して、進学に必要な準備を行っていく。

## 【授業における到達目標】

進学後に必要となる力として、特に、「研鑽力」・「行動力」・「協働力」を身につける。

## 【授業の内容】

1. 全体のオリエンテーション
2. 進路研究：ガイダンス
3. 進路研究：適性を考える
4. 進路研究：具体的な進路の決め方
5. 進路研究：スケジュールの立て方
6. 進路研究：進学後のスケジュール
7. 進路研究：進学先卒業後の進路
8. 進路研究：進学先卒業後の具体的な進路
9. 進路研究：進学後の研究予定
10. 進路研究：卒業論文との関連
11. 進路研究：まとめ
12. 進学に必要な知識：ガイダンス
13. 進学に必要な知識：スケジュールの立て方
14. 進学に必要な知識：具体的な概要
15. 進学に必要な知識：心理学のテキスト
16. 進学に必要な知識：心理学のテキストを読む
17. 進学に必要な知識：心理学のテキストを理解する
18. 進学に必要な知識：英語のテキストを読む
19. 進学に必要な知識：英語のテキストを理解する
20. 進学に必要な知識：まとめ
21. 研究計画書：ガイダンス
22. 研究計画書：スケジュールの立て方
23. 研究計画書：進学先をふまえた検討
24. 研究計画書：執筆：前半
25. 研究計画書：執筆：後半
26. 研究計画書：調整：前半
27. 研究計画書：調整：後半
28. 研究計画書：修正
29. 研究計画書：まとめ
30. 全体のまとめ

## 【事前・事後学修】

事前学修：授業準備（学修時間 週2時間）

事後学修：授業をふまえて課題内容を修正する（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

必修心理学用語編集グループ（編）（1993）「必修1000 心理学基本用語集」 啓明出版 540円

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（取り組み、事前事後の学修など）100%

取り組んでいる点やつまづきがちな点についてフィードバックを行う。

## 【参考書】

授業内で指示する。

## 【注意事項】

自分で勉強したり、準備したりする機会が多くなりますが、がんばりましょう。

卒業論文については、所属研究室の先生のご指導に従ってください。

## 生活心理実習

塚原 拓馬

4年 集通 3単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

人々の生活の場面での、心理支援のための基礎的な方法を観察・体験・考察し、生活における課題の解決のための基本的知識を習得する。また、4年間の生活心理の学びの実践的学びとともに、卒業後の就職・進学の準備とする。

### 【授業における到達目標】

福祉、教育保育、心理等の対人支援の現場において、課題の解決のための基礎的な方法について見学・体験をすることで理解する。

・学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く力を修得する。

### 【授業の内容】

1. オリエンテーション
2. 生活心理実習の意義と目的など
3. 福祉フィールド1：福祉の現在と課題
4. 福祉フィールド2：社会福祉の現場（特別講座）
5. 発達支援フィールド1：発達支援の現在と課題
6. 発達支援フィールド2：発達支援の現場（特別講座）
7. 保育教育フィールド1：保育教育の現在と課題
8. 保育教育フィールド2：保育教育の現場（特別講座）
9. 実習の注意点：倫理など
10. 実習の注意点：準備など
11. 実習日誌の記録方法1：エピソード式
12. 実習日誌の記録方法2：時系列式
13. 事後指導1：学びのまとめと報告；福祉
14. 事後指導2：学びのまとめと報告；心理
15. 事後指導3：学びのまとめと報告；教育

### 【事前・事後学修】

【事前学修】小テスト・レポート・発表等の課題に取り組むこと。  
(学修時間 週2時間)

【事後学修】発表・小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。(学修時間 週2時間)

### 【テキスト・教材】

テキスト等は初回授業時に指示する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実習の評価60%、平常点（授業への取り組み、提出物、発表）20%、実習日誌・レポート20%

レポート課題等は次回以降の授業または授業最終回でフィードバックを行う。詳細は初回授業時に指示する。

### 【参考書】

詳細は初回授業時に指示する。

### 【注意事項】

実習は原則として対人支援の現場で行うものであるため、事前指導の授業内容を習得していることが必須となる。詳細は授業内で説明するのできちんと把握すること。

**生活設計論**

未来を思い描く

飯野 智子

1・2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

1. 自分の生活について思い描き、それを可能とするために経済や社会保障についての知識を身につける。
2. 結婚、出産、育児といったライフイベントに実際にどのくらいのお金がかかるのかを調べたり、どのような制度によって支えられているのかを知り、将来についてより具体的な計画を立てられるようにする。
3. ワーク・ライフ・バランス政策の現状と問題点を知り、将来自分がどのようにクリアしていくか考える。

**【授業における到達目標】**

生活を設計する上で必要な知識を身につけることで、自分の生活と社会問題、社会政策の関連を知る。仕事と家庭の両立という古くて新しいテーマを解決するための分析力と行動力を身につける。自分の生活を設計することで、経済的なことのみならず、個人の幸福とより良い社会の実現について考察する。

以上のような学修を通して、人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度「美の探求」を怠らず、学修成果を実感して自身を創出する「研鑽力」と自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進める「行動力」を修得する。

**【授業の内容】**

1. ガイダンスー生活設計論を学ぶ意味
2. 女性の生活設計
3. ライフイベントー結婚
4. ライフイベントー出産、育児
5. 子供と教育ー子供にはお金がかかるけれど
6. ワークライフバランスー育児支援政策と施設
7. 海外のワーク・ライフ・バランス事情
8. 男らしい仕事・女らしい仕事の変化
9. 女性の起業ー女社長だって沢山いる
10. 専業主夫ー少数者の意見と葛藤
11. 子供の貧困問題
12. リスクー健康、介護、老後
13. 自分らしい生活設計①どんな生活がしたいのか
14. 自分らしい生活設計②何をすればいいのか
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

- ・事前学修 2時間：次の授業で扱う事柄について事前に予習する。小レポートの準備をする。
- ・事後学修 2時間：授業で扱った事柄についてさらに自分で調べまとめる。

**【テキスト・教材】**

使用しない。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート90%、授業内容に関する質問、意見の提出10%（次回授業でフィードバック）

**生活造形**

ーデザイン演習ー

金井 宏水

1・2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

デザインは形や色のことと捉えられがちだが、実は形や色は最後の最後で、それまでに考えることがたくさんある。従来の製品をよく観察することから問題点を発見し、それを解決するというプロセスがデザインであり、そのプロセスを実践してみるのがこの授業のテーマである。

身近にあって何気なく使っている「モノ」をデザインという視点から観察し、より良いものにするために考え、新しいものを創造するというデザイナーの仕事の一部を体験する。

**【授業における到達目標】**

創作演習を通して観察力や表現力を高めると同時に、自分で考え、モノを創り出す行為を体験することによって創造力を養う。ひいては「道具」や「モノ」をデザインという視点から再認識することで、文化的意識レベルを向上させることを目標とする。

ディプロマ・ポリシー（DP）においては、「美の探求」の中の「新たな知を創造しようとする態度」、「研鑽力」の中の「学修成果を実感して、自信を創出することができる」能力を養成することを目指す。

**【授業の内容】**

- 第1週：生活の中にあるデザインについて（講義）、授業の説明
- 第2週：造形とフォルム、視覚化の手法（講義）、スケッチの練習
- 第3週：立体造形演習-1 スチレンボードの加工方法と練習
- 第4週：立体造形演習-2 スチレンボードで立方体と円柱を創る
- 第5週：立体造形演習-3 容器を創る（考えてスケッチを描く）
- 第6週：立体造形演習-4 スチレンボードで容器を創る
- 第7週：作品の完成と発表、評価、次のテーマ説明
- 第8週：デザイン演習-1 ポップアップカードの制作練習（動きを体験）
- 第9週：デザイン演習-2 ポップアップカードを試作して検討する
- 第10週：デザイン演習-3 ポップアップカードを創作する
- 第11週：作品の完成と発表、評価、次のテーマ説明
- 第12週：創造性演習-1 すごろくを考えて概要をまとめる
- 第13週：創造性演習-2 すごろくを考えて試作する
- 第14週：創造性演習-3 すごろくを創作する
- 第15週：作品の完成と発表、評価

**【事前・事後学修】**

- ・事前学修：前の授業でテーマ説明があった時は、次の時間までにテーマ内容を考えておくこと（テーマごとに約180分）。調べたり考えたりすることはなるべく時間外に行い、授業時間では実験や創作に集中できるようにする。
- ・事後学修：課題制作が提出期限に間に合わない時は時間外で進め、期限に間に合わせる。復習のための宿題もある（週120分程度）。

**【テキスト・教材】**

- テキストは無し
- 学生が用意する道具（スケッチブック、鉛筆、カッター、はさみ、のり、スチレンボード、スチのり、色紙等）
- 教材費（500円前後）

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- ペーパーテストは行わない。
- 提出作品の評価・・・・・・・・・・75点
- 平常点（授業態度・取組み姿勢）・・・・25点
- フィードバックは講評時の口頭評価と作品評価点（提出後1週間以内）

**【注意事項】**

受講人数制限30名（制限人数を超えた場合、抽選）

## 生活文化概論

## 担当教員全員

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

## 【授業のテーマ】

生活文化とは、社会の影響を受けて変容する「人の生活のありよう」です。そして、「生活のありよう」に規定されるだけでなく、逆に、「生活のありよう」を形作り、「人が生活している社会」の源ともなるのが、「人の生涯にわたる発達」です。生活の主体者である「人」は、ヒトから人へ生涯発達をとげ、家族を形成し、世代を継承し、生活文化を形作るのです。

現在、「生活のありよう」の大きな要素である家族は多様化し、人間関係、子どもの育ち、生活の安全など、複雑化した社会のなかで様々な問題がみられます。このような課題について心理的側面からとらえ、分析し、主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な力を身につけるため、「生活・家族・保育・教育・心理・健康」に関する知識と技術を4年間かけて総合的に習得します。

以上をふまえ、この授業では生活文化学科各教員の専門領域についてオムニバス形式で概観し、4年間の学びの基本を理解します。

## 【授業における到達目標】

各回の講義を通じて、身近な生活に関心をもち、多角的な視点で物事を見直すことができたか。

各教員の講義から、広い視野と深い洞察力を身につけ、自分の学びたい分野、内容が見つけれられたか。

学ぶ楽しさを知り「研鑽力」を身につけ、「人の生活のありよう」を学ぶ生活文化学科での様々な授業にも、一層関心をもって取り組めるようになったか。

## 【授業の内容】

第1回 ガイダンス「生活文化とは」

第2回 生涯発達心理学

第3回 教育心理学

第4回 認知心理学

第5回 社会福祉学

第6回 保育学

第7回 音楽教育

第8回 国語教育学

第9回 初等教育（算数）

第10回 幼児教育学

第11回 運動生理学

第12回 医学

第13回 生活経済学

第14回 家族関係学

第15回 教育学

まとめ「生活文化史」に向けて

## 【事前・事後学修】

【事前学修】（週2時間）

各領域についての小レポート等に取り組むこと。

【事後学修】（週2時間）

各領域についての小レポート等の復習に取り組むこと。

## 【テキスト・教材】

各担当教員の指示に従うこと。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み（予復習を含む）：期末課題＝8：2とする。

学修内容の発表を行う等の方法で学修のフィードバックを行う。

## 【参考書】

各担当教員の指示に従うこと。

## 【注意事項】

教員の担当回は変更になることがある。

4年間の基本となる内容であり、特に、2年次ゼミ選択の際に重要となる。遅刻・欠席することのないよう、注意すること。

## 生活文化史1

## 細江 容子

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究、研鑽力

## 【授業のテーマ】

本講義をとおして、文化人類学的視点での人や文化の捉え方を身につけると同時に、諸概念と用語の理解ができるようにする。また、世界の様々な地域で暮らす多様な人々の生活を知り、地球的視野と地域的視野でのものごとの見方や諸問題の関わりを理解する。そのことを通じて、自国の人々の生活や文化を客観的に考える能力を養うことを目標とする。

今日の世界を文化人類学がどのように見て、分析しているのか、どのような点に着目しなければならないのか、今日の問題を分析してゆくとしたらどのようなアプローチがあるのかにも言及する。

また、本講義では、専門的テーマで研究を重ねている外部講師を招くなどして、生活文化史的視点での考察を深める。

## 【授業における到達目標】

- ・人や文化の捉え方を身につけることができる。
- ・人や文化と関わる諸概念と用語の理解ができる。
- ・世界の様々な地域で暮らす多様な人々の生活を知り、地球的視野で理解できる。
- ・自国の人々の生活や文化を客観的に考える能力を養う。
- ・これらの知識や技術に基づき、多様な生活の営みを総合的にとらえその生活課題について、考察し、多様な人々と協働し生活の向上を図る能力の養成を目的とする。

## 【授業の内容】

第1週 ガイダンス

第2週 人類の社会性と文化

第3週 「人間」のあり方の多様性

第4週 文化的他者とはどのようにして構築されるか

第5週 「民族」という概念と現代性

第6週 世界を組み立てる超越者と他界

第7週 文化と身体との関係

第8週 ホモ・ルーデンス（「遊ぶヒト」）としての人間

第9週 「もの」からみえる人間世界

第10週 文化とコミュニケーション（外部講師による講義等）

第11週 環境と開発

第12週 「豊かな社会」とは

第13週 争いと平和 から考える人間

第14週 21世紀という時代とその生活文化

第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】配布資料等を基にレポート・発表等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義や課題発表等の復習をすること。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

授業時に資料として配布する。生活文化史1に関する資料・文献等を配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

講義でのレポート、テーマに関する討議等での意見の発表・プレゼンテーション等（50%）と期末試験（50%）の総合的判断による。

レポート、テーマに関する討議等での意見の発表・プレゼンテーション等（50%）に関してはそのつど全体における講評を行うなどし、期末試験（50%）に関しては、個々への対応を行うなどしている。

## 【参考書】

適宜提示する。

## 【注意事項】

教材としてプリントを配布する。発展的な学習のための文献等については授業のなかで説明する。外部講師の講義は調整により前後に変更の場合もある。

## 生活文化史 2

細江 容子

2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究、研鑽力

## 【授業のテーマ】

人間の生活とは、人間が環境と相互作用を営みながら生きていくありさまのことである。人間の生活を全体でとらえると、その特質は他の動物とは本質的に異なり文化を持つ、あるいは文化的なものであるといえる。生活文化史1では、文化人類学的視点で生活文化を読み解いたが、本講義ではそれらの視点に基づき人間のサブ集団に基づき生活文化を分析的に捉える視点を養うことを目的とする。

また、本講義では、専門的テーマで研究・実践等を重ねている外部講師を招き生活文化的視点での考察を深める。

## 【授業における到達目標】

- ・生活文化史 I の視点から多様な生活文化を分析的に捉える能力を養う。
- ・分析的視点に基づき多様な人間のサブ集団の生活文化を分析的にとらえる能力を養う。
- ・これらの知識や技術に基づき、多様な人々の生活の営みと人間の生涯発達を総合的にとらえその生活課題について、理解・考察し、多様な人々と協働して、生活の向上を図る能力の養成を目的とする。

## 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 多様な文化と家族
- 第3週 「子ども」の発見とその文化
- 第4週 子ども文化の変容
- 第5週 男女文化論
- 第6週 男女の差異性と文化
- 第7週 老年文化論
- 第8週 老いの捉え方の文化的差異
- 第9週 家庭文化論
- 第10週 食文化（外部講師による講義等）
- 第11週 衣文化（外部講師による講義等）
- 第12週 住文化（外部講師による講義等）
- 第13週 文化の多様性と生活
- 第14週 グループ報告
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】配布資料等を基にレポート・発表等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義や課題発表等の復習をすること。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

適宜プリントを配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート、テーマ等に関する討議等での意見発表プレゼンテーション等あるいは試験（50%）、平常点（毎回義務付ける授業に関する意見・質問を書いたフィードバックシート等の提出、授業態度（50%）。レポート、テーマに関する討議等での意見の発表・プレゼンテーション、フィードバックシートあるいは試験等に関してはそのつど全体における講評や個別の対応を行うなどしている。

## 【参考書】

教材としてプリントを配布する。発展的な学習のための文献等については授業のなかで説明する。

## 【注意事項】

受講者の人数や関心に合わせて、若干の変更・修正の可能性もある。外部講師の講義は調整により前後に変更の場合もある。

## 生活文化論

飯野 智子

1・2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

この授業では、主に社会学、比較文化論、ジェンダー論の視点から、生活文化を女性に身近な文化と捉えた上で、以下のようなことを学ぶ。

1. 近代化に伴う生活様式の西洋化の中で、日本人の風俗、衛生、健康、美容、身体の所作や慣習にどのような変化が起こったのか学ぶ。
2. 具体的な「モノ」を通して、生活や社会の変化を探る。
3. 美容における男女の意識や行動の違いを通して、女性の文化、男性の文化について考える。

### 【授業における到達目標】

1. 近代化という大きな社会変化が、生活を彩る様々な文化にどのような変化をもたらしたのか考察する。
2. 自分でモノの歴史、人との関わりを調べることによって、一つの文化史をまとめる。
3. なぜ女性に特有の文化、男性に特有の文化ができるのか考察する。

以上のような学修を通して、人文・社会・自然の中に価値を見出し感受性を深めようとする「美の探求」や、日本の文化・精神を知り世界に発信しようとする態度や、目標を設定して、計画を立案・実行する「行動力」を修得する。

### 【授業の内容】

1. ガイダンスー生活文化論を学ぶ意味
2. 文化の社会学ー文化とは何か
3. 生活様式の近代化と西洋化
4. 身体の二重規範ー近代日本の衛生、健康、美容
5. 男女の美とファッションの方向性の違い
6. 生活様式の戦時化
7. 生活とモノ①モノを通して生活様式の変化を考える
8. 生活とモノ②自分自身とモノの関わり
9. 消費社会と流行ー戦後の生活と文化
10. 女性文化①1980年代以降の女性像
11. 女性文化②ファッション、美容の文化
12. 女性文化③美容医療
13. 男性文化
14. 男性の意識の変化
15. まとめ

### 【事前・事後学修】

- ・事前学修 週2時間：次回の授業に関する重要用語や背景を調べる。自分で選択したモノの歴史について調べる。
- ・事後学修 週2時間：授業で扱った問題について詳しく調べる。

### 【テキスト・教材】

使用しない。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- レポート90%、授業内容に関する質問、意見の提出10%。
- レポートは授業最終回で、質問、意見は次回授業でフィードバックを行う。



**生活文化論 a**

現代デザインとライフスタイル

合原 勝之

1年～ 前期 2単位

○：美の探求、研鑽力

**【注意事項】**

授業では、毎回「小レポート」を提出してもらいます。受け身ではなく、積極的な授業参加が求められます。

**【授業のテーマ】**

私たちの暮らしは、産業が生み出した多くの商品に支えられています。これらは、何らかの意図や価値をもちます。そしてデザインは、産業と人々の暮らしの間に存在します。産業のもつ技術ノウハウを、人々の暮らしに役立つ「カタチ」にして、人々に「伝える」ことが、デザインの役割です。デザインは、単なる装飾ではなく、「生活価値の創造」を目指した活動です。

企業や商品のブランドイメージは、人々のライフスタイルに大きな影響を与えます。それは、提供される商品への信頼・共感であったり、ブランドへのあこがれの場合もあるでしょう。ブランドの働きを理解することは、現代企業の理解にもつながります。

現代社会は、様々な問題を抱えています。この問題を解決するために新しいデザインの考え方が必要とされています。これらの新しい考え方は、現代に生きる生活者の意識向上に基づいています。

本講義では、産業を通して提供される様々なモノやコトの意図や価値を、デザインという視点から分かりやすく解説します。これは、現代の企業活動や、新しい生活者像を理解する助けにもなるはずで

す。

**【授業における到達目標】**

企業のWEBサイトや商品から、その企業の特徴や行動を読み取る力を身につけることを到達目標とし、「研鑽力」と「行動力」の向上を図ります。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 デザインとライフスタイルの系譜
- 第3週 現代デザインと企業活動
- 第4週 ブランドとは何か その1（ブランドの機能）
- 第5週 ブランドとは何か その2（ブランドの価値）
- 第6週 ブランドとは何か その3（ブランド経験）
- 第7週 ブランドとは何か その4（ブランディングの手法）
- 第8週 前半のまとめと中間レポート
- 第9週 現代デザインと生活者の意識向上
- 第10週 新しいデザインの視点 その1（バリアフリーとユニバーサルデザイン）
- 第11週 新しいデザインの視点 その2（エコデザインと持続可能デザイン）
- 第12週 新しいデザインの視点 その3（企業コラボレーションとオープンイノベーション）
- 第13週 新しいデザインの視点 その4（ユーザー経験のデザイン）
- 第14週 新しいデザインの視点 その5（人間中心のデザイン）
- 第15週 後半のまとめと期末レポート

**【事前・事後学修】**

【事前学修】日頃から広くデザインやブランドに関心をもって、WEBサイトなどを通して、それらが伝えようとするメッセージを理解するようにして下さい（週2時間）。

【事後学修】授業内容は、広範囲に及びますから、各回の要点をまとめて下さい（週2時間）。

**【テキスト・教材】**

必要な資料は、授業毎に配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への積極的な姿勢）40%、テーマ毎の小レポート40%、中間および期末レポート20%を配分基準として成績評価します。フィードバックは、授業の中で適宜行います。

**【参考書】**

テーマ毎に、参考資料などを指示します。

## 生活文化論 b

デザインと生活文化の多様性

合原 勝之

1年～ 後期 2単位

○：美の探求、研鑽力

## 【参考書】

テーマ毎に、参考資料などを指示します。

## 【注意事項】

受け身ではなく、積極的な授業参加が求められます。

## 【授業のテーマ】

世界には多様なデザインがあります。例えば、「食器」のかたちを見ても、世界各地によって様々です。また食器の使い方は、食事の「マナー」と強く結びついています。歴史的に長い時間を使って、「食事」がデザインされた結果、食器のかたちやマナーが生み出されたと考えられます。これをデザイン的に表現すると、「食事のカタチ」のデザインとすることができます。これには、食器のかたちとマナー（人の振る舞い）の両方が含まれており、よりデザイン的な言い方となります。

デザインの多様性には、それを生み出した地域の気候風土や歴史・文化、政治・宗教、伝統技術、天然資源など多くの要因が関係しています。そしてデザインは、小さな日用品から大きな都市、またサービスなど目に見えないものまで広く対象とします。別の見方をすると、小さな日用品をよく観察することでも、それを生み出した地域の生活文化や価値観が見えてきます。

本講義では、世界各地のデザインを多様な視点から読み解いていきます。これは、デザインを通して表現される多様な生活価値の理解へとつながります。また、現代社会は、「グローバル化」の時代を迎えています。デザインの視点からこの課題を考えることで、画一的ではない、新たな視界の広がりが見えてくるでしょう。

## 【授業における到達目標】

様々な商品デザインから、そのデザインが生み出されたコンテキストを読み解く力を身につけることを到達目標とし、「美の探究」と「研鑽力」の向上を図ります。

## 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 デザインの見方 その1（デザインと造形）
- 第3週 デザインの見方 その2（意図と表現）
- 第4週 スカンジナビアのデザイン その1（フィンランド、ノルウェー）
- 第5週 スカンジナビアのデザイン その2（デンマーク、スウェーデン）
- 第6週 ラテンのデザイン その1（イタリア）
- 第7週 ラテンのデザイン その2（フランス）
- 第8週 イギリスのデザイン
- 第9週 ドイツ語圏のデザイン（ドイツ、スイス）
- 第10週 オランダのデザイン
- 第11週 アメリカ合衆国のデザイン
- 第12週 日本のデザイン
- 第13週 グローバル化とデザイン その1（モダンデザインとグローバル化）
- 第14週 グローバル化とデザイン その2（新たな地域文化へ）
- 第15週 まとめと期末レポート

## 【事前・事後学修】

【事前学修】講義のはじめに解説する「デザインの見方」を参考に、店頭によくある多様なデザイン製品について、よく観察して、そのデザイン背景について考えて下さい（週2時間）。

【事後学修】各回の講義で解説したデザインの背景について、その要点をまとめて下さい（週2時間）。

## 【テキスト・教材】

必要な資料は、授業毎に配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極的な姿勢）40%、テーマ毎の小レポート40%、中間および期末レポート20%を配分基準として成績評価します。フィードバックは、授業の中で適宜行います。

**生徒・進路指導論**

(国文学科、食生活科学科、現代生活学科 対象)

梅澤 秀監

3年 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

生徒指導は、すべての児童生徒の人格の完成を目指して行われる教育活動です。生徒指導というと、児童生徒の問題行動への対応といった、消極的な面を思い浮かべるかもしれませんが。そうではなくて、より積極的な教育活動と捉えてください。

皆さんが、将来教員になったとき、生徒指導の実際の場面で活用できる知識・技能を身に付けることを目標にします。

**【授業における到達目標】**

修得すべき「行動力」のうち、現状を正しく理解し、課題を発見できる力を身に付けることができるようになる。修得すべき「協働力」のうち、互いを尊重し信頼を醸成し、豊かな人間関係を構築する力を身に付けることができるようになる。そして、生徒指導の目的を理解できるようになる。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 生徒指導の理念と歴史
- 第3週 児童生徒理解
- 第4週 学校における生徒指導体制
- 第5週 生徒指導に生かす教育相談
- 第6週 担任の行う生徒指導
- 第7週 問題行動の理解と非行への対応
- 第8週 問題行動①（いじめ、不登校、暴力行為）
- 第9週 問題行動②（飲酒・喫煙・薬物乱用）
- 第10週 少年非行の推移と最近の傾向
- 第11週 海外の生徒指導
- 第12週 進路指導の歴史と展開
- 第13週 担任の行う進路指導
- 第14週 進路指導からキャリア教育へ
- 第15週 まとめ（知識・考え方を確認する小テスト）

**【事前・事後学修】**

【事前学修】教科書を通読して、何を学ぶのか確認してください。また、生徒指導や進路指導に関する報道などにも注目して、意見や感想をまとめておいてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】教科書の各講の最終ページにある「課題演習」と「ワークシート」に記入してください。授業の復習と知識や考え方の定着に役立ちます。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

梅澤・木内・嶋崎編『生徒指導15講』（大学図書出版 2014年）2100円

文部科学省『生徒指導提要』（教育図書 2010年初版）290円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

小テスト50%、レポート（授業中のまとめ課題を含む）30%、平常点（授業への積極参加、学習態度）20%

毎回簡単なレポートを提出してもらいます。皆さんの意見に対してコメントします。このような作業を繰り返すことによって、問題点の整理ができて、知識の定着に役立ちます。

**【参考書】**

日本生徒指導学会編『現代生徒指導論』（学事出版2015年）2800円  
梅澤秀監著『これだけは知っておきたい生徒指導の判例と少年法（電子書籍）』（学事出版 2010年）1800円

澤登俊雄著『少年法入門 [第6版]』（有斐閣 2014年）2600円

**【注意事項】**

生徒指導の理論と実践について、詳しく説明します。皆さんと意見交換をする場面を設定しますので、授業は毎回出席すること。

**生徒・進路指導論**

(英文学科、美学美術史学科、人間社会学部各学科 対象)

羽入田 眞一

3年 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

生徒指導は、一人ひとりの生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動のことです。生徒それぞれの人格のよりよい発達を目指すとともに、学校生活がすべての生徒にとって有意義で興味深く、充実したものになるにはどうしたら良いかを学びます。

進路指導は、将来生徒たちが直面する様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会人・職業人として自立していくために、生徒一人ひとりの勤労観・職業観を育成することにあります。

国際化・多様化の進む日本社会において、生徒に生涯にわたるキャリア形成の力を身に付けさせるためには、学修者自身が多様性を受容し、多角的な視点を以って世界に臨む態度が求められています。

**【授業における到達目標】**

生徒指導、進路指導の学校現場での実際を学び、指導のための基礎的・基本的な知識及び技能を修得します。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 生徒指導とはなにか・生徒指導の意義や目的
- 第3週 生徒指導の歴史
  - ・わが国や他国における生徒指導の歴史
- 第4週 個別の課題を抱える生徒への指導
  - ・喫煙・飲酒・薬物乱用、少年非行、いじめ等
- 第5週 学校における生徒指導体制
  - ・年間指導計画、校務分掌における生徒指導部の役割
- 第6週 新しい生徒指導課題と生徒指導の進め方
  - ・生徒理解の方法や具体的な生徒指導の進め方
- 第7週 生徒指導に関する法制度等・校則、懲戒と体罰、出席停止
- 第8週 学校と家庭・地域・関係機関との連携
  - ・学校と家庭・地域・関係機関との連携の具体例
- 第9週 進路指導とはなにか・進路指導の意義や目的
- 第10週 進路指導の歴史・わが国や他国における進路指導の歴史
- 第11週 学校における進路指導体制
  - ・年間指導計画や校務分掌における進路指導部の役割
- 第12週 キャリア教育と進路指導
  - ・キャリア教育と進路指導との関係
- 第13週 キャリア教育の実際①
  - ・職場体験活動やインターンシップの在り方
- 第14週 キャリア教育の実際②
  - ・系統的なキャリア教育の取組みと育成すべき力
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修では、授業内に紹介する書籍や資料等を読み、次週の授業範囲を予習してください。事後学修では授業中に配布するプリントや資料等を復習してください。合わせて週4時間の学修です。

**【テキスト・教材】**

プリントを使用します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験50%、平常点（授業への積極参加）評価30%、課題20%  
振り返りシートについては次回の授業において、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

**【参考書】**

文部科学省『生徒指導提要』教育図書2014年298円

文部科学省『高等学校キャリア教育の手引き』教育出版2012年940円

文部科学省『中学校キャリア教育の手引き』教育出版2011年780円

**生徒・進路指導論**

生徒指導の理論と方法(生活環境学科、生活文化学科 対象)

道又 紀子

3年 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

生徒指導とは、生徒の個性の伸張をはかり、同時に社会性を育てることを目的とした教育活動である。本講義では、生徒指導にかかわる基礎知識を得るとともに、具体的な指導方法を身につけることを目的とする。近年、生徒をとりまく教育環境は必ずしも良好とは言えず、問題行動は、低年齢から生じる傾向にあり、深刻なケースも増加している。本講義では、これらの現状をふまえ、生徒指導の役割を確認し、様々な指導の在り方を学ぶことを目的とする。生徒がより良い自己実現に向かうために、どのような援助やキャリア支援が可能かを考えていく。

**【授業における到達目標】**

- ①多様な価値観を知り、現在の生徒指導上の問題を正しく理解する深い洞察力を身につけ、目標をもって問題解決をおこなう力を養う
- ②倫理観を以って集団を形成し、互いを尊重し生かす集団作りを指導する
- ③キャリア支援については、国際感覚や状況に応じたリーダーシップ等を育てる

**【授業の内容】**

- 第1週 生徒指導とは何か
- 第2週 生徒指導の歴史
- 第3週 子どもの発達的特徴（1）誕生から学童期
- 第4週 子どもの発達的特徴（2）思春期から青年期
- 第5週 生徒指導の今日的な課題
- 第6週 学級集団のとらえ方と生かし方
- 第7週 集団づくりの実際
- 第8週 事例を基に考える（1）不登校（初期対応・長期対応）
- 第9週 事例を基に考える（2）いじめ問題
- 第10週 事例を基に考える（3）摂食障害（病理の理解・連携）
- 第11週 食事と睡眠に関する指導の工夫
- 第12週 保護者とのコミュニケーション
- 第13週 生徒指導についての各国の取り組み
- 第14週 進路指導
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

<事前学修> 授業は、生徒指導提要に添って進むため、事前に生徒指導提要の指定箇所を読んで授業に臨むことが必要となる（必要時間2時間）

<事後学修>

授業内で配布したプリントを熟読して自分の知識とする必要がある（必要時間2時間）

**【テキスト・教材】**

基本的には、「生徒指導提要」（298円）、「中学校学習指導要領本体」（238円）「高等学校学習指導要領本体」（588円）（文部科学省）「生徒指導上の諸問題の推移とこれからの生徒指導」文部科学省国立教育政策研究所（1,857円）（ぎょうせい）を基礎資料とする。（授業内に必要な箇所を配布する）各授業の必要に応じて、資料プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業課題への参加態度をリアクションペーパー等から判断40% レポート40%（授業最終日に返却） 小課題20%（翌週授業日に返却）

**【参考書】**

- 「生徒指導提要」（文部科学省）
- 「学習指導要領」（文部科学省）
- 「生徒指導上の諸問題の推移とこれからの生徒指導」文部科学省国立教育政策研究所 生徒指導研究センター（ぎょうせい）

**生徒・進路指導論**

宮田 利幸

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

**【授業のテーマ】**

生徒指導と進路指導は、同じベクトル上にある。児童生徒が社会的に自己実現できる自己指導能力の育成や将来の進路について、指導・支援していく理論や方法を具体的な事例を交えながら考察し、実践的に学ぶ。

**【授業における到達目標】**

- ・生徒・進路指導の内容や方法を具体的、実践的に修得する。
- ・生涯にわたり学び、社会に貢献しようとする態度を修得する。
- ・人の生涯にわたる発達を包括的に理解することができる。
- ・多様な人々と協働し、他者の生活を支援することができる。

**【授業の内容】**

- 第1週 生徒・進路指導の意義と原理
- 第2週 生徒・進路指導の前提となる発達観と指導観
- 第3週 児童生徒の心理と児童生徒理解
- 第4週 生徒・進路指導と教育課程
- 第5週 学校における生徒指導体制
- 第6週 児童生徒の問題行動と教職員の向き合い方 その1  
・問題行動のとらえ方と効果的な対応
- 第7週 児童生徒の問題行動と教職員の向き合い方 その2  
・教職員の責務と学級担任の指導
- 第8週 生徒指導の方法－不登校のかかわりを中心に
- 第9週 生徒指導の方法－いじめのかかわりを中心に
- 第10週 生徒指導の方法－非行のかかわりを中心に
- 第11週 生徒指導の方法－学級崩壊のかかわりを中心に
- 第12週 教育相談
- 第13週 家庭・地域・関係諸機関と連携した生徒・進路指導
- 第14週 キャリア教育
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

今回の授業範囲を予習し、小テストや提出課題の準備をしておくこと。（学修時間 週2時間）

**【事後学修】**

ノート、テキスト、配布教材・資料等を整理・まとめ、理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

- ・文部科学省『生徒指導提要』（教育図書株式会社2010年）276円
- ・教材・資料は、毎回プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

・試験60%、小テスト20%、平常点（授業への積極性 提出課題）20%。小テストは、次回授業でフィードバックを行う。

**【参考書】**

- ・文部科学省「生徒指導資料集」
- ・加澤恒雄・広岡義之編著「新しい生徒指導・進路指導－理論と実践」ミネルヴァ書房

**【注意事項】**

双方向的な授業となるように、いろいろと問いを発信していくので、自分の思いや考えを記述や口頭等で積極的に表現し、意欲的に授業に参加してほしい。

## 生徒指導論（栄養）

生徒指導の理論と方法

道又 紀子

3年 前期 2単位

### 【授業のテーマ】

生徒指導とは、児童生徒の個性の伸張を目指すとともに社会性を育てることを目的とした教育活動である。本講義では、生徒指導にかかわる基礎知識を得るとともに、具体的な指導方法を習得することを目的とする。近年、児童生徒をとりまく教育環境は必ずしも良好とは言えず、問題行動は低年齢から生じる傾向にあり、深刻なケースも増加している。本講義では、これらの現状をふまえ、生徒指導の役割を確認し、様々な指導の在り方を学ぶことを目的とする。

さらに生徒がより良い自己実現に向かうために、どのような援助が可能かを考えていく。

### 【授業における到達目標】

- ①多様な価値観を知り、感受性を深め、現在の生徒指導上の問題を正しく理解する深い洞察力を身につける
- ②倫理観を以って集団を形成し、互いを尊重し生かしあえる集団作りを指導することができる
- ③個々の問題行動に対し、現状を把握し、目標を設定し、問題解決に向かう力を養うことができる

### 【授業の内容】

- 第1週 生徒指導とは何か
- 第2週 生徒指導の歴史
- 第3週 子どもの発達的特徴（1）誕生から学童期
- 第4週 子どもの発達的特徴（2）思春期から青年期
- 第5週 生徒指導の今日的課題
- 第6週 学級集団のとらえ方と生かし方
- 第7週 集団づくりの実際
- 第8週 事例を基に考える（1）不登校（初期対応・長期対応）
- 第9週 事例を基に考える（2）いじめ問題
- 第10週 事例を基に考える（3）摂食障害（病理の理解と連携）
- 第11週 食事と睡眠に関する指導の工夫
- 第12週 保護者とのコミュニケーション
- 第13週 生徒指導についての各国の取り組み
- 第14週 これからの生徒指導
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

＜事前学修＞事前に生徒指導提要の指定箇所を読んで、授業に臨むことが必要となる（必要時間2時間）

＜事後学修＞授業で配布したプリントを熟読し、自分の知識とする必要がある（必要時間2時間）

### 【テキスト・教材】

基本的には、「生徒指導提要」（298円）、「小学校学習指導要領本体」（238円）（文部科学省）「生徒指導上の諸問題の推移とこれからの生徒指導」文部科学省国立教育政策研究所（ぎょうせい）（1857円）を基礎資料とする。（授業内に必要な箇所を配布する）各授業の必要に応じて、その他の資料プリントを配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業課題への参加態度をリアクションペーパー等から判断 40%  
レポート40%（後日返却）  
小課題20%（後日返却）

### 【参考書】

「生徒指導提要」（文部科学省）  
「学習指導要領」（文部科学省）  
「生徒指導上の諸問題の推移とこれからの生徒指導」文部科学省国立教育政策研究所 生徒指導研究センター（ぎょうせい）

## 生物の世界

正木 春彦

1年～ 前期 2単位

○：美の探求、研鑽力

### 【授業のテーマ】

すべての生物は、共通な遺伝暗号と普遍的な原理で遺伝子発現を行う。それぞれのしくみは物理や化学で説明でき、その解明には分子生物学が威力を発揮する。しかし、しくみがすべて同じなら生物はみな同じかという、地球上には膨大な種類の生物が生きている。環境が違えば生物が違い、同じ環境でも様々な生物が環境をさらに多様にしている。同じ目的のためにも色々な生体分子やしくみが働いている。このように生物には、原理的な共通性、普遍性という縦軸と、膨大な多様性という横軸の広がりがある。つまり生物は潜在的に多数の正解をもっている。ただしそのすべては進化という一回限りの連続なできごととの結果である。たくさんの可能なしくみを抱える多様性を記述する必要性から、生物は暗記物、という誤解が生じる。生物学は、自分の体と心、そして社会を知るための基盤として必須であるが、ヒト自身が生物であるため、生物学は人間の価値観に強く支配される科学でもある。そこに気づけば、目からウロコの生命観、世界観がえられるかもしれない。

### 【授業における到達目標】

- ・生物における、普遍的な遺伝子発現のしくみを大略理解するとともに、それに従いながらもいろいろなレベルで生物の多様性があることを認識する。とくに、ヒトの対極にありながらヒトに身近でもある、微生物の世界を知る。
- ・テキストは「人間の生命科学」を用いる。これは生物としてのヒトを理解するための本であり、人間中心に記述されているが、そういう流れをときどき相対化しながら、生物の普遍性、多様性、ヒトのしくみを理解する。

### 【授業の内容】

1. 生命の誕生と進化
2. 生物の多様性とヒトの位置づけ
3. 細胞のしくみと細胞増殖
4. 細胞の遺伝と個体の遺伝
5. ヒトの卵子、精子、受精と発生
6. ヒトの出産、成長、分化、加齢
7. アミノ酸、タンパク質、酵素
8. DNA、RNA、遺伝子、ゲノム
9. 遺伝子の転写と翻訳
10. DNAの複製と変異
11. 代謝とエネルギー
12. 正常と異常、健康と病気
13. ヒトと環境の相互作用
14. バイオテクノロジーと食生活
15. まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：テキストの指定された章を読んで背景を知り、出された課題に答える。（学修時間 週2時間）

事後学修：講義内容をノートにまとめ、出された課題も参考にして理解を整理する。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

公益財団法人日本科学協会 編著『人間の生命科学 一現代社会に生きるための基礎知識一』（公益財団法人日本科学協会、2018年）

※ePUB版ですので価格は無料です。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験60%、課題提出を含めた平常点40%とし評価する。

### 【参考書】

東京大学生命科学教科書編集委員会編「現代生命科学」  
高校の生物教科書および各種の生物の図録・資料集は参考になる。  
その他、授業中に適宜紹介する。

### 【注意事項】

ノートを取ることは理解を定着するために必須です。

## 生物の世界

平塚 理恵

1年～ 前期 2単位

○：美の探求、研鑽力

### 【授業のテーマ】

生命が誕生してから約38億年という年月が経ち、地球上には数千万種類にもおよぶ生物が生息している。様々な生物の遺伝情報が次々と解読され、遺伝子組換え生物、遺伝子診断、再生医療が身近な話題となっている現在、生命科学の知見は生命科学分野以外の多くの分野にも影響を与え、どの分野に進む人にもその知識は必要となってきている。本講では、地球上に住む生物の一員であるヒト（自分自身）について、他の生物との共通性と多様性を意識しながら学ぶことで生命や自然への理解を深める。

### 【授業における到達目標】

1. 生物は細胞から成り立っており、そこでは生命活動に必要なエネルギーが作られていることを説明できる。
  2. 生物は遺伝情報をもとに体をつくり、その遺伝情報は親から子と伝わっていくことを説明できる。
  3. 生物は外界からの刺激に応答するとともに、体内環境を一定に保っていることを説明できる。
- 本講では学生が修得すべき「研鑽力」のうち、生涯にわたり知を探求し、学問を続けることができる能力を、「美の探求」のうち、新たな知を創造しようとする態度を修得する。

### 【授業の内容】

- I. 細胞の構造と働き
  1. はじめに（授業概要）
  2. 細胞の構造と働き-1  
（核、小胞体、リボソーム、ミトコンドリア）
  3. 細胞の構造と働き-2  
（ゴルジ体、リソソーム、細胞骨格、細胞膜）
  4. 単細胞生物から多細胞生物へ
- II. 生命体を構成する物質
  5. アミノ酸、タンパク質
  6. 糖質、脂質、核酸
- III. 遺伝子の構造と働き
  7. DNAの構造とセントラルドグマ
  8. DNAの複製
  9. 転写と翻訳
- IV. 生命活動とエネルギー
  10. 呼吸と光合成
- V. 生命の連続性
  11. 細胞の増殖とがん化
  12. 動物の発生
- VI. 生物の体内環境の維持
  13. ホメオスタシス
- VII. 生命科学技術と社会
  14. 遺伝子組換え生物、動物クローン技術
  15. 総括

### 【事前・事後学修】

事前学修 レポート等の課題に取り組む。（学修時間 週2時間）

事後学修 授業内で行った小テスト等を復習する。  
（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

南雲保編『やさしい基礎生物学』（羊土社 2014年）2900円＋税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験70%、平常点（授業態度、課題提出）30%とし評価する。  
小テスト、課題については次回授業でフィードバックする。

### 【参考書】

鈴木孝仁監修『視覚でとらえるフォトサイエンス 生物図説』三訂版（数研 2017年）1130円＋税  
和田勝著『基礎から学ぶ生物学・細胞生物学』第3版（羊土社 2015年）3200円＋税

## 生物科学

生命を営むメカニズム

阿尻 貞三

1・2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

近年の科学技術の進歩により、生命現象の解明は分子レベルで新しい事実が次々と明らかにされ、多くの生命科学の最新情報が専門家以外の人々以外にも次々と紹介されてきております。基礎的理解を踏まえて最新の生命科学情報を理解してください。この授業では生体現象に係わる多くの仕組みについて紹介します。基礎的な化学生物学はすでに習得しているものとして授業をおこないます。他の分野、特に「生化学」などと重複する内容場合があります。

### 【授業における到達目標】

生体を構成している多種多様ではあるが基本的機能メカニズムを理解し、生体はいかに機能しているのかを他の方に説明・伝えられることを目標にします。それぞれの分子の持つ機能を説明していきますが、実際は生体の各分子が複雑に絡み合って生命を営んでいます。多様な分子はつねに新しい機能が発見されています。それを知る喜びをつかんでください。この分子を知ったら終わりというもの、ではなく分子の相互関係がつぎつぎと発見されております。あたらしい知識の習得につねに務めてください。周囲の方たちと相互に協力し、広い柔軟な理解力を養って、当面の課題を主体的に解決する能力を培ってください。

### 【授業の内容】

- 第 1 週 細胞とは
- 第 2 週 細胞内小器官
- 第 3 週 真核生物のとしての細胞の進化
- 第 4 週 身体を構成する物質
- 第 5 週 食べるとは。炭水化物の消化吸収
- 第 6 週 食べるとは。タンパク質の消化吸収
- 第 7 週 生物は運動する。アクチンーミオシン
- 第 8 週 生物の運動。チューブリンーダイニン
- 第 9 週 生物の運動。 フラジェリン
- 第10週 遺伝の仕組み、 DNA
- 第11週 遺伝子発現
- 第12週 遺伝子組み換え
- 第13週 DNAの利用、 PCR
- 第14週 まとめ
- 第15週 総括

### 【事前・事後学修】

高校で学習した生物学あるいは化学などを復習しておいてください。習得しているものとして講義をおこないます。

【事前学修】小テスト・レポート・発表等の課題に取り組んでください。(学修時間 週2時間)

【事後学修】発表・小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておいてください。(学修時間 週2時間)

### 【テキスト・教材】

適宜プリントを配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト、定期テストおよびレポート提出で70%、受講態度などで30%で総合評価します。

小テスト、定期テストは問題を解説して返却しますので、各自自己学習、復習に使って自己研鑽を積んでください。

### 【注意事項】

出席して聞いていても、理解できなければ何もなりません。自分で理解するための工夫を考えてください。



## 生命と環境

水、大気、光と生命

阿尻 貞三

1年～ 後期 2単位

○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

この地球上では生物は単独の種のみであるいは個体のみで生きていくことは不可能です。

多くの生物種の集団の中で、互いに共存しあい、共生しあって初めて生きていくことができます。生命の基本的機能はすべての生物に共通と考え、生命の持つこの基本機能を分子レベルでさぐることで、地球上の生命の尊さを理解できるものと考えます。そしてこれからこの地球で生きていくためにはすべての生物との共存の道を考えなければならないと思われまます。

この講義では生物がもつ基本機能としての、外界つまり環境の要因と交流の仕方を分子レベルで見つめてみます。環境要因として基本的な〔水〕、〔大気〕、〔光〕を取り上げます。

それぞれの環境要因と生物・生命の関係を説明できることを目標とします。随時、小テストを行います。

### 【授業における到達目標】

自分の住む環境と多様な生命形態、多様な生命様式とのつながりを多角的視点で理解し、そして次世代の方に説明できるようにしましょう。また、つねに新しい知識を増やしていくように努めてください。科学的知識は日々新しくなっています。それを理解して、自分自身を新しくリニューアルして行ってください。講義全体を通して得た知識で物事の本質を洞察してください。それにより現在の状況を理解し、問題解決の行動へとつながると思います。またヒトは一人では生きていけませんので、集団の中で他者からの智識を受け入れ、自己の智識を修正していくという柔軟な理解力を養ってください。

### 【授業の内容】

- 第1週 水と生命 水とは何か
- 第2週 水と生体物質 タンパク質、糖類と脂質、核酸および細胞
- 第3週 生命のゆりかごとしての水
- 第4週 細胞内共生による真核生物の細胞進化
- 第5週 大気と生命 酸素の由来
- 第6週 酸素と生命 活性酸素
- 第7週 酸素と生命 ミトコンドリア
- 第8週 酸素と生命 電子伝達系と化学浸透圧機構
- 第9週 光と生命
- 第10週 紫外線と生命 オゾンによる紫外線フィルター
- 第11週 紫外線と生命 ビタミンD
- 第12週 ひかり合成 その1 葉緑体
- 第13週 ひかり合成 その2 明反応
- 第14週 ひかり合成 その3 C3植物、C4植物
- 第15週 全体のまとめ

### 【事前・事後学修】

高校時での理科系教科書で生物系の当該箇所を復習しておいてください。

【事前学修】小テスト・レポート・発表等の課題に取り組んでください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】発表・小テスト等を復習してください。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておいてください。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

適宜プリントを配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験と臨時の小テストおよびレポート提出で（85%）および受講態度（15%）で総合評価します。小テストなどは返却し、フィードバックとして解答を解説しますので、各自自己学習、復習に使用して自己研鑽を積んでください。

### 【注意事項】

出席して聞いても、理解できなければ何なりません。

## 生命と環境

水、大気、光と生命

阿尻 貞三

1・2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

## 【参考書】

講義開始時にプリントを配布します。

## 【注意事項】

出席して聞いても、理解できなければ何なりません。

## 【授業のテーマ】

この地球上では生物は単独の種のみであるいは個体のみで生きていくことは不可能です。

多くの生物種の集団の中で、互いに共存しあい、共生しあって初めて生きていくことができます。生命の基本的機能はすべての生物に共通と考え、生命の持つこの基本機能を分子レベルでさぐるにより、地球上の生命の尊さを理解できるものと考えます。そしてこれからこの地球で生きていくためにはすべての生物との共存の道を考えなければならないと思われまます。

この講義では生物がもつ基本機能としての、外界つまり環境の要因と交流の仕方を分子レベルで見つめてみます。環境要因として基本的な〔水〕、〔大気〕、〔光〕を取り上げます。

それぞれの環境要因と生物・生命の関係を説明できることを目標とします。

随時、小テストを行います

## 【授業における到達目標】

自分の住む環境と多様な生命形態、多様な生命様式とのつながりを多角的視点で理解し、そして次世代の方に説明できるようにしましょう。また、つねに新しい知識を増やしていくように努めてください。

科学的知識は日々新しくなっています。それを理解して、自分自身を新しくリニューアルして行ってください。講義全体を通して得た知識で物事の本質を洞察してください。それにより現在の状況を理解し、問題解決の行動へとつながると思います。またヒトは一人では生きていけませんので、集団の中で他者からの智識を受け入れ、自己の智識を修正していくという柔軟な理解力を養ってください。

## 【授業の内容】

第1週 水と生命 水とは何か

第2週 水と生体物質 タンパク質、糖類と脂質、核酸および細胞

第3週 生命のゆりかごとしての水

第4週 細胞内共生による真核生物の細胞進化

第5週 大気と生命 酸素の由来

第6週 酸素と生命 活性酸素

第7週 酸素と生命 ミトコンドリア

第8週 酸素と生命 電子伝達系と化学浸透圧機構

第9週 光と生命

第10週 紫外線と生命 オゾンによる紫外線フィルター

第11週 紫外線と生命 ビタミンD

第12週 ひかり合成 その1 葉緑体

第13週 ひかり合成 その2 明反応とC3植物、C4植物

第14週 水についてのまとめ

第15週 大気と光についてのまとめ

## 【事前・事後学修】

高校時での理科系教科書で生物系の当該箇所を復習しておいてください。

【事前学修】小テスト・レポート・発表等の課題に取り組んでください。(学修時間 週2時間)

【事後学修】発表・小テスト等を復習してください。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておいてください。(学修時間 週2時間)

## 【テキスト・教材】

適宜プリントを配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価は小テストおよびレポート提出などで70%、および受講態度で30%で総合評価します。

テスト等は解説して返却しますので、各自自己学習、復習に使って自己研鑽を積んでください。

**生理学**

山崎 和彦

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

生理学は人体に関するあらゆる学問の基礎となる。人体の生理機能について理解を深めることは、モノの設計、デザインの評価、健康維持管理、生活設計において極めて有用である。

**【授業における到達目標】**

本授業を通じて、人体の生理機能における真理を探究する態度を身につける。また、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究する能力を身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週 細胞、体組成
- 第2週 骨格、筋
- 第3週 神経
- 第4週 大脳
- 第5週 視覚、聴覚、嗅覚
- 第6週 平衡覚、味覚、深部感覚
- 第7週 皮膚、皮膚感覚
- 第8週 心臓と血管
- 第9週 血液とリンパ
- 第10週 呼吸
- 第11週 消化と吸収
- 第12週 エネルギー代謝
- 第13週 泌尿、内分泌
- 第14週 生殖、免疫
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

毎回の講義において資料を配付する。その中で、事前学修については、講義に臨む前に調べておくべき事項あるいは準備しておくべき事項について示す。また事後学修については、復習のための要領（参考書の提示、定期試験に向けた対策、その他）を示す。なお、これらを口頭で示すこともある。事前および事後学修については、週あたり、各々2時間以上を充てること。

**【テキスト・教材】**

資料を配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験70%、平常点（授業態度）30%とする。学生へのフィードバックについては、定期試験終了後、学科掲示板に、1週間以内を目処に、正答率の低かった設問についての正解例、成績分布、講義における所感等を掲示する。また、マナバに記された学生による希望や改善点については、同じくマナバにて回答し、次回に活かす。

**【参考書】**

適宜示す。

**生理学特別演習**

山田 茂

食物栄養学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

演習授業の目的は慣れるために繰り返し学習することです。

この授業では筋細胞を構成しているタンパク質とその遺伝子発現機構について学習し、骨格筋の可塑性について理解を深めることを目的とします。

**【授業における到達目標】**

上記のテーマに従い、専門的な研究に興味を持ち基礎領域の研究や開発を深め、高度な職業人として社会に貢献できるよう学修する。

**【授業の内容】**

- 第1週 骨格筋とは？（骨格筋の生理・生化学）
- 第2週 骨格筋の機能と形態（運動の生理学）
- 第3週 骨格筋の発達と機能（発育発達）
- 第4週 骨格筋の細胞生物学（筋細胞の生物学）
- 第5週 一般分子生物学（特に骨格筋細胞と分子生物学）
- 第6週 遺伝子と遺伝子発現機構
- 第7週 動物実験（第7回目から第10回目までを集中授業で行います。）  
遺伝子の抽出と解析1 骨格筋の採取（解剖生理）
- 第8週 遺伝子の抽出と解析2 タンパク質の解析  
（電気泳動法）
- 第9週 遺伝子の抽出と解析3 mRNAの抽出
- 第10週 遺伝子の抽出と解析4 RT-PCR法
- 第11週 細胞培養法（第11回目から第14回目までを集中授業で行います。）  
培養の基本操作
- 第12週 タンパク質の定量法（比色法）
- 第13週 タンパク質の解析
- 第14週 遺伝子の解析
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

予習復習を必ず行う。学部で履修した解剖生理学・生化学実験実習のノートを読み返すこと。（学修時間 週4時間）

**【テキスト・教材】**

山田 茂 後藤勝正 共著『運動の分子生物学』（有限会社ナッブ 2000年）4,300円+税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート点 90%、授業参加態度 10%

基本的な事項を学習した後に具体的な実験方法にフィードバックできるように繰り返し指導・学習する。

**【参考書】**

中村桂子・松原謙一監訳 細胞の分子生物学 Newton press

**【注意事項】**

慣れるために繰り返し学習することが目的ですので学部で履修した解剖生理学・生化学実験実習のノートを持参すること。

**生理学特論A**

山田 茂

生活環境学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

この授業では、中村・松原監訳“細胞の分子生物学（第5版）”の輪読を行い、生命の基本的現象を学習する。同時に実験手法を学び実践的な研究を想定できるように理解を深める。

**【授業における到達目標】**

上記のテーマに従い、専門的な研究に興味を持ち基礎領域の研究や開発を深め、高度な職業人として社会に貢献できるよう学修する。

**【授業の内容】**

- 第1週 細胞の化学と生合成
- 第2週 タンパク質
- 第3週 DNA、染色体、ゲノム
- 第4週 DNAの複製、修復、組み換え
- 第5週 ゲノム情報の読み取り
- 第6週 遺伝子発現の調節
- 第7週 タンパク質、DNA、RNAの操作
- 第8週 細胞の観察
- 第9週 エネルギーの変換
- 第10週 細胞の情報伝達
- 第11週 細胞骨格
- 第12週 細胞周期
- 第13週 細胞結合、細胞接着、細胞外マトリックス
- 第14週 多細胞生物における発生
- 第15週 その他

**【事前・事後学修】**

理解を深めるための実験を想定し、実験方法を予習すること。配布プリントを復習すること。（学修時間 週4時間）

**【テキスト・教材】**

配布プリント

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】****【評価方法】**

平常点（予習・復習など授業への態度） 100%

**【フィードバック】**

基本的な事項を学習した後に、具体的な論文作成にフィードバックできるよう繰り返し指導・学習する。

**【参考書】**

中村桂子・松原謙一監訳 『細胞の分子生物学』 第5版 Newton Press

**生理人類学**

山崎 和彦

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

生理人類学は人類学から派生した新しい学問であり、主に現代の都市に暮らす人類を対象とする。本講義では進化、遺伝、文化などを踏まえ、生理学的観点から人類の本質について考える。

**【授業における到達目標】**

本授業を通じて、人類についての多様性を認識し、多角的な視点を以て世界に臨む態度を身につける。また、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探求する能力を身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週 生理人類学の定義、学問の動向
- 第2週 人類の起源、古人類学
- 第3週 感覚概論
- 第4週 感性、快適性
- 第5週 人の自律神経機能
- 第6週 人の内分泌系
- 第7週 脳と神経系
- 第8週 精神機能
- 第9週 人の発育
- 第10週 人の老化
- 第11週 自然環境と人
- 第12週 人工環境と人
- 第13週 遺伝学概論
- 第14週 人類の未来
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

毎回の講義において資料を配付する。その中で、事前学修については、講義に臨む前に調べておくべき事項あるいは準備しておくべき事項について示す。また事後学修については、復習のための要領（参考書の提示、定期試験に向けた対策、その他）を示す。なお、これらを口頭で示すこともある。事前および事後学修には、週あたり、各々2時間以上を充てるようにする。

**【テキスト・教材】**

資料を配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験70%、平常点（授業態度）30%とする。学生へのフィードバックについては、定期試験終了後、1週間以内を目処に、学科掲示板に、正答率が低かった設問の正解例、成績分布、授業における所感等を掲示する。マナバに記された学生による意見や不満点については、同じくマナバにて回答し、次回に活かす。

**【参考書】**

適宜示す。

**生理人類学実験**

山崎 和彦

3年 後期 2単位 2時限連続

◎：国際的視野 ○：協働力

**【授業のテーマ】**

環境要素、人間の生理機能、そして両者の関係について実験を行う。これらを体験し、さらにレポート作成および研究発表を行うことは、環境－モノ－人間系のデザインや研究に取り組む上で有用である。

**【授業における到達目標】**

本授業を通じて、人体の構造や仕組み、生理機能、感覚等について真理を探究することにより、新たな知を創造しようとする態度を身に付ける。また、実験する楽しみを知り、生涯にわたり知を探求する能力を身につける。

**【授業の内容】**

- 第1回 気温、湿度、放射温、気流
- 第2回 騒音、粉塵、有害ガス
- 第3回 動作、歩行、姿勢
- 第4回 筋力、柔軟性、作業域
- 第5回 情報処理能力、反応時間
- 第6回 皮膚性状、皮下脂肪、体組成
- 第7回 発汗、皮膚感覚
- 第8回 生体負担、代謝量、疲労
- 第9回 中間研究発表会
- 第10回 生体電気
- 第11回 暗順応と明順応
- 第12回 被服圧、血流量
- 第13回 温冷感、寒冷血管反応
- 第14回 被服内気候
- 第15回 最終研究発表会

**【事前・事後学修】**

事前学修については、電子メールその他により次回テーマについて提示するので、あらかじめよく思索し、実験のためのアイデアを練って授業に臨むこと。事後学修については、当日の実験についてのレポートを作成すること。なお提出期限は、次回実験が開始される迄とする。事前および事後の学修時間は、毎週あたり、各々1時間以上を充てるようにする。

**【テキスト・教材】**

資料を配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（実験中の態度）50%、レポート50%とする。学生が提出したレポートについては、所感および改善すべき事項等を個々に伝える。また、毎回の授業の冒頭において、受講者全体に向け、前回分の実験レポートについて総評する。

**【参考書】**

適宜示す。

**【注意事項】**

実験に適した服装を心掛けること。

**西洋の美術 a**

近世イタリア美術と美術を解釈する視点

黒田 加奈子

2年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

イタリアを中心として、近世にあたるルネサンスからバロック期の美術作品について学びます。美術作品を見る多角的な視点を学び、個々の作品について掘り下げながら、その美術作品の歴史的・社会的・美術史的な意味を考えていきます。

**【授業における到達目標】**

当時の社会状況と美術作品の制作がどのように関連しているのか、また現代の私たちが美術作品を鑑賞する際に注意すべきことなどを考えながら、さまざまな作品を鑑賞し、その時代と美術の特徴を理解することと、美術作品を解釈するさまざまな視座を知ingことを目標とします。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODクシヨーン—時代区分、様式、方法論について
- 第2週 ルネサンスという時代—思想、社会
- 第3週 ルネサンスの萌芽—ジョットとその後継者
- 第4週 初期～盛期ルネサンス—遠近法の誕生・人文主義
- 第5週 盛期ルネサンス—異教的ルネサンス
- 第6週 北部イタリアのルネサンス—ヴェネト派を中心に
- 第7週 盛期ルネサンス—ローマ
- 第8週 ルネサンスとは何か—これまでのまとめと質疑
- 第9週 マニエリスムとは何か—思想、社会
- 第10週 マニエリスムの美術—絵画を中心に
- 第11週 マニエリスムの美術—その波及と多様性
- 第12週 バロックとは何か—思想、社会
- 第13週 バロック様式の美術—祝祭空間としての教会美術
- 第14週 バロック様式の美術—布教時代の美術
- 第15週 講義のまとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】授業内容を確認し、高等学校で履修した世界史の教科書等で、該当する時代と項目（中世ヨーロッパ世界、ルネサンスと宗教改革）を確認する。また、1年次に「西洋美術史入門」を履修済の場合は、該当時代を復習する（学修時間 週2時間）。

【事後学修】配布物、ノートの内容を整理する。下記参考書、授業内で指示する参考文献等を精読する（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

教科書はありません。参考文献は各回に適宜指示しますので参照してください。また、必要に応じてプリントを配布しますが、板書内容、話した事柄についてはノートを取って各自整理してください。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験およびコメント・ペーパーにより評価します。毎回授業終了時にコメント・ペーパーを提出していただきます。コメント・ペーパーには授業内でフィードバックを行います。

コメント・ペーパー45%、試験55%

**【参考書】**

- ・『世界美術大全集西洋編』第11～17巻、小学館、1992～1995年。
- ・ゴンブリッチ『美術の物語』ファイドン、2007年、186～411頁。
- ・若桑みどり『イメージを読む—美術史入門』（ちくま学芸文庫）筑摩書房、2005年。
- ・パノフスキー『イコノロジー研究』（ちくま学芸文庫）（上・下）筑摩書房、2002年。
- ・ピーターバーク『イタリア・ルネサンスの文化と社会』岩波書店、1992年（新装版 岩波書店、2002年）。
- ・『西洋美術の歴史』第4、6巻、中央公論新社、2016年。

**【注意事項】**

授業で参照したイメージのカラープリントは配布しません。必要に応じて、『世界美術大全集西洋編』（小学館）やインターネットのイメージ検索などで確認してください。

**西洋の美術 b**

戦後のドイツ美術史

長屋 光枝

2年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

ドイツは、つかの間の平和と文化の繁栄を謳歌したヴァイマル共和国の時代を経て、ナチスの台頭を許し、第二次世界大戦へと突入した。そして、1945年の敗戦後は、東西ドイツへの分裂という過酷な時代を引き受けつつ、戦争責任を直視して歴史に向き合ってきた。授業では、こうした歴史を背景に、造形芸術がいかに多様に展開してきたかを検証する。また、日本とドイツは、第二次世界大戦への参戦と敗北、戦後の復興という観点で、似た歴史をたどってきた。美術を超えて、自らの歴史や文化という視点からも、学生の視野を広げていくことを目標とする。

**【授業における到達目標】**

ドイツの現代美術が、政治や社会の激動に呼応して展開してきたことを修得する。特に、前衛美術を弾圧したナチス・ドイツの時代を経て、今や世界中からアーティストが集まる国としても知られるようになるまでの経緯を学ぶとともに、歴史や社会の動向から美術作品を読み解く訓練をする。また、自ら疑問点を導き出し、疑問を解決していく行動力を身に付けるようにする。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODクシヨーン：授業の説明
- 第2週 19世紀から20世紀前半までのドイツ美術
- 第3週 20世紀ドイツにおける戦争と美術
- 第4週 戦争の時代の清算—前衛美術の復権
- 第5週 グループ・ゼロ
- 第6週 ジャーマン・ポップ
- 第7週 ヨーゼフ・ボイス
- 第8週 フルクサス
- 第9週 新表現主義①
- 第10週 新表現主義②
- 第11週 ドイツ写真
- 第12週 ニュー・メディア・アート
- 第13週 表現の拡張
- 第14週 今日のドイツ美術
- 第15週 試験

**【事前・事後学修】**

美術は政治や社会情勢とも深く結びついている。参考文献で挙げた歴史の参考文献等で予習すること。また、授業のなかで、プリントを配布する。事後学修として、それらを参考にして自ら問題を見つけ出し、図書館での自習などを通じて関心を深めること。毎週、事前に1時間程度、事後に3時間程度の学修時間をあてることとする。

**【テキスト・教材】**

授業の最初にプリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

毎回、授業の最後に、疑問点やさらに知識を深めたい点などを記すコメント・ペーパーの提出をもとめる。特に重要と考えられるコメントを中心に、次回の授業でフィードバックする。また、自ら出した課題をさらに調べる小レポートを、半期で2回程度提出してもらう予定である。

試験40%、小レポート提出40%、授業への積極的参加20%

**【参考書】**

授業の内容に関する参考書は、毎回の講義中に紹介する。ドイツ史全般については、下記を参考にすること。  
石田勇治編著『図説ドイツの歴史』河出書房新社

**【注意事項】**

授業に関する展覧会がある場合には、授業を展覧会見学に振り替えることがある。その場合の費用は自己負担とする

**西洋近代美術史演習A**

西洋近代美術史のテーマと考察の方法（基礎）

六人部 昭典

美術史学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

この演習では、学生各自の発表を通して、各々のテーマの方向を確認し、考察を深める。また発表内容についての討議を通して、理解を広げるとともに方法を明確にする。また、見学授業（見学旅行も検討）を通して、美術史の視野を広げることを重視する。

**【授業における到達目標】**

美術史の方法を確かなものにし、自らのテーマを明確にする。

**【授業の内容】**

- 第1週 概要
- 第2週 各自のテーマの確認（博士前期課程2年）
- 第3週 各自のテーマの確認（博士前期課程1年）
- 第4週 西洋近代美術史のアプローチ（1）：文献
- 第5週 西洋近代美術史のアプローチ（2）：読解
- 第6週 西洋近代美術史のアプローチ（3）：考察
- 第7週 西洋近代美術史のアプローチ（4）：論理
- 第8週 見学授業（19世紀）
- 第9週 学生発表（博士前期課程2年）
- 第10週 テーマの明確化（博士前期課程2年）
- 第11週 方法の明確化（博士前期課程2年）
- 第12週 見学授業（20世紀）
- 第13週 学生発表（博士前期課程1年）
- 第14週 テーマと方法の明確化（博士前期課程1年）
- 第15週 まとめ（フィードバック）

\*見学授業（学外）の日時・場所は授業時に指示する。

**【事前・事後学修】**

事前：発表は資料を含め、入念に準備を行う（5時間）

事後：討議の中で提起された意見や助言を消化する（5時間）

**【テキスト・教材】**

テキストは用いない。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

成績評価の方法：発表（50%） 授業への積極参加（50%）

フィードバック：最終回の授業で行う

**【参考書】**

授業時に指示。

**西洋近代美術史演習B**

西洋近代美術史のテーマと考察の方法（展開）

六人部 昭典

美術史学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

この演習では、学生各自の発表と討議を通して、各々のテーマと方法を明確にする。修士論文のテーマの確認（博士前期課程1年）と、修士論文のテーマの完成（博士前期課程2年）へ至るプロセスである。また、見学授業（見学旅行も検討）では、美術史の視野を広げるとともに、作品分析などを深める。

**【授業における到達目標】**

美術史の方法を確かなものにし、自らのテーマに関する考察を深める。

**【授業の内容】**

- 第1週 概要
- 第2週 各自のテーマと方法の確認（博士前期課程2年）
- 第3週 各自のテーマと方法の確認（博士前期課程1年）
- 第4週 西洋近代美術史のアプローチ：文献（展開）
- 第5週 西洋近代美術史のアプローチ：読解（展開 19世紀）
- 第6週 西洋近代美術史のアプローチ：読解（展開 20世紀）
- 第7週 西洋近代美術史のアプローチ：考察（展開）
- 第8週 西洋近代美術史のアプローチ：論理（展開）
- 第9週 学生発表（博士前期課程2年）
- 第10週 テーマと方法（博士前期課程2年）
- 第11週 見学授業（20世紀）
- 第12週 学生発表（博士前期課程1年）
- 第13週 テーマと方法（博士前期課程1年）
- 第14週 修士論文のテーマと考察
- 第15週 まとめ（フィードバック）

\*見学授業（学外）の日時・場所は授業時に指示する。

**【事前・事後学修】**

発表については入念に準備し、討議の中で提起された意見や助言を確認、消化すること（計 週4時間）。

**【テキスト・教材】**

テキストは用いない。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

成績評価の方法：発表（50%） 授業への積極参加（50%）

フィードバック：最終週の授業で、発表内容を中心に討論。

**【参考書】**

授業時に指示。



**西洋近代美術史演習 a**

美術史の方法：「読む」「書く」

六人部 昭典

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

「演習 a」では、19～20世紀の西洋美術について理解を深め、学生一人一人が美術史のアプローチを確かなものにする。まず、美術史の基本が「作品」であることを確認してほしい。そして作品を見る眼、作品を分析的に把握する力を修得してゆく。特に美術史の方法のうち、「読む力」と「書く力」の基本を確かなものにする。

**【授業における到達目標】**

作品を分析的に把握する力を修得し、また日本語力と英語力の伸長を図る。この到達目標は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、特に「研鑽力」と「行動力」に関わる。

**【授業の内容】**

- 第1週 「演習」の概略（授業の進め方、成績評価の確認）  
 第2週 「作品」を分析的に把握する力と「読む」ことの基本  
 第3週 「読む」（1-1）：日本語文献（19世紀）  
 第4週 「読む」（1-2）：日本語文献（20世紀）  
 第5週 「読む」（2-1）：英語文献（リアリズム）  
 第6週 「読む」（2-2）：英語文献（印象主義）  
 第7週 「読む」（2-3）：英語文献（象徴主義）  
 第8週 学外見学授業（19世紀）  
 第9週 「読む」（2-4）：英語文献（フォーヴとキュビズム）  
 第10週 「読む」（2-5）：英語文献  
 （抽象絵画とシュルレアリスム）

- 第11週 学外見学授業（20世紀）  
 第12週 「書く」（1-1）：ディスクリプション  
 第13週 「書く」（1-2）：各自のテーマの確認  
 第14週 まとめ  
 第15週 フィードバック

**【注記】**

「読む」ことのうち、英語文献の講読では、画家の言葉を読む。重要な資料となる画家の言葉をどのように扱うのか、作品分析との関連を踏まえて読み進める（大学院進学も視野に入れて、構文を読むことを重視する）。英語テキストの予習復習、「書く」ことの課題等を提出することが基本となる。見学授業（学外、2回を予定）の内容・日時・場所は授業中に指示し、掲示する。

**【事前・事後学修】**

- 事前：配布する課題（和文英訳・ディスクリプションなど）に取り組み、次の授業時に提出する（週2時間）。  
 事後：授業で扱ったテキストやディスクリプションを確認し、作品のアプローチについて理解する（週2時間）。

**【テキスト・教材】**

テキスト（教科書）は用いない。「読む」のテキスト（日本語・英語）はコピーを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- 成績評価の方法：授業への積極的な参加（発言等 30%）「読む」（30%）、提出物（課題・見学レポート 40%）  
 フィードバック：提出物等の評価に関するフィードバックは最終週に行い、「演習b」と卒論作成の導入を図る。

**【参考書】**

授業時に指示する。

**【注意事項】**

演習は講義系の授業とは異なり、学生自身が主体的に関わるのが重要。また実際の作品を見ること（芸術経験）についても、見学授業で多くのことを吸収することが必要となる。また見学授業以外でも、首都圏で開催される西洋美術の展覧会など、積極的に美術館を訪れることが必要である。

**西洋近代美術史演習 b**

美術史の方法：「書く」「話す」

六人部 昭典

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

「演習 b」の授業では、美術史の方法について、「書く力」と「話す力」（口頭発表）を確かなものとする。各自の視点と方向性を明確にし、4年次の卒論に繋げてゆくことが求められる。発表の形式は、共通テーマについて担当するグループ単位で発表を行い、全員でひとつの展覧会を作ることを想定している。テーマの候補として「女性」や、特講で扱った「音楽」「水」などが挙げられる（2017年度は「女性—描かれる「女性」／描く「女性」—）。

**【授業における到達目標】**

この演習授業では、「聴く」「話す」「書く」の基本的な能力を修得する。これらは卒論作成に不可欠であり、また社会人としての基礎となる。また、グループ発表を行うので、協同して動くことが必要。この到達目標は本学のディプロマ・ポリシーのうち、特に「研鑽力」「行動力」に関わる。

**【授業の内容】**

- 第1週 「演習」の概略（授業の進め方・評価の確認）  
 第2週 「視点」とは？  
 第3週 「書く／話す」（1）：学生発表（絵画の「近代」）  
 第4週 「書く／話す」（2）：学生発表（リアリズム）  
 第5週 「書く／話す」（3）：学生発表（印象主義）  
 第6週 「書く／話す」（4）：学生発表（象徴主義）  
 第7週 「書く／話す」（5）：学生発表（世紀末美術）  
 第8週 学外見学授業（1）：19世紀  
 第9週 「書く／話す」（6）：学生発表（フォーヴ、表現主義）  
 第10週 「書く／話す」（7）：学生発表（キュビズム、未来派）  
 第11週 「書く／話す」（8）：学生発表  
 （抽象絵画、シュルレアリスム）  
 第12週 学外見学授業（2）：20世紀  
 第13週 「視点」と各自のテーマ  
 第14週 まとめ（課題提出）  
 第15週 フィードバック

**【注記】**

見学授業（学外、2回予定）の日時・場所は授業中に指示する。

**【事前・事後学修】**

- 事前：口頭発表の原稿（2000字程度）を作成し、パワーポイントによるプレゼンテーション（画像資料等）と配布資料を準備（週2時間）。  
 事後：発表と議論の内容を整理する（週2時間）。

**【テキスト・教材】**

テキスト（教科書）は用いない。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- 成績評価の方法：授業への積極的な参加（発言・質問等、30%）、発表（30%）、提出物（40%）で行う。  
 フィードバック：最終週に行い、4年次の卒論作成につなげる。

**【参考書】**

授業中に指示する。

**【注意事項】**

「演習 b」では学生一人一人の発表とディスカッションが重要であり、主体的に授業に関わるのが求められる。「書く／話す」に加えて、「聴く力」が大切。また実際に作品を見ること（芸術経験）についても、今まで以上に積極的に美術館を訪れることが必要。

**西洋近代美術史研究指導特殊演習 A**

西洋近代美術史のテーマと考察（基礎）

六人部 昭典

美術史学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

この演習では、学生各自の発表を通して、各々のテーマの方向を確認し、考察を深める。また討議を通して、方法を明確にする。

**【授業における到達目標】**

美術史の方法を確実にし、作品分析と先行研究やドキュメントの検討を通して、テーマを明確にする。

**【授業の内容】**

- 第1週 概要
- 第2週 各自のテーマの確認（博士後期課程1年）
- 第3週 各自のテーマの確認（博士後期課程2年）
- 第4週 西洋近代美術史のアプローチ（1）：文献
- 第5週 西洋近代美術史のアプローチ（2）：読解
- 第6週 西洋近代美術史のアプローチ（3）：考察
- 第7週 西洋近代美術史のアプローチ（4）：論理
- 第8週 見学授業（19世紀）
- 第9週 学生発表（博士後期課程1年）
- 第10週 テーマの明確化（博士前期課程1年）
- 第11週 方法の明確化（博士前期課程1年）
- 第12週 見学授業（20世紀）
- 第13週 学生発表（博士後期課程2年）
- 第14週 テーマと方法の明確化（博士前期課程2年）
- 第15週 まとめ（フィードバック）

\*見学授業（学外）の日時・場所は授業時に指示する。

**【事前・事後学修】**

事前：発表は資料を含め、入念に準備を行う（5時間）  
事後：授業で提起された意見や助言を消化（5時間）

**【テキスト・教材】**

テキストは用いない。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

成績評価の方法：発表（50%） 授業への積極参加（50%）  
フィードバック：最終週の授業で行う

**【参考書】**

授業時に指示。

**西洋近代美術史研究指導特殊演習 B**

西洋近代美術史のテーマと方法（展開）

六人部 昭典

美術史学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

この演習では、学生各自の発表と討議を通して、各々のテーマと方法を明確にする。博士論文のテーマの確立と執筆へ至るプロセスである。

**【授業における到達目標】**

作品の分析、先行研究とドキュメントの検討等を通して、テーマを明確にし、論考を組み立てる。

**【授業の内容】**

- 第1週 概要
- 第2週 各自のテーマと方法の確認（博士後期課程1年）
- 第3週 各自のテーマと方法の確認（博士後期課程2年）
- 第4週 西洋近代美術史のアプローチ：文献（展開）
- 第5週 西洋近代美術史のアプローチ：読解（展開）
- 第6週 西洋近代美術史のアプローチ：考察（展開）
- 第7週 西洋近代美術史のアプローチ：論理（展開）
- 第8週 学生発表（博士後期課程1年）
- 第9週 テーマと方法（博士後期課程1年）
- 第10週 見学授業（20世紀）
- 第11週 学生発表（博士後期課程2年）
- 第12週 テーマと方法（博士後期課程2年）
- 第13週 修士論文のテーマと考察
- 第14週 まとめ

\*見学授業（学外）の日時・場所は授業時に指示する。

**【事前・事後学修】**

発表については入念に準備し、討議の中で提起された意見や助言を確認、消化すること（事前：2時間、事後：2時間）。

**【テキスト・教材】**

テキストは用いない。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

発表：50%、平常点（授業への積極参加）：50%

**【参考書】**

授業時に指示。

**西洋近代美術史特講 a**

モダンアートと水

六人部 昭典

2年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

水は世界を形作る4元素のひとつに数えられる。また地球上の生命は海の混沌から生まれたのであり、人間の生命も羊水という水の中で成長する。また、水は生命の維持に不可欠なものでもある。一方で、水は私たちに死をもたらす場合もある。授業では水の表現に着目することを通して、モダンアートの展開を考察する。

**【授業における到達目標】**

「水」という視点と、西洋近代美術史の展開を理解する。また作品考察の方法を学ぶ。この授業は本学のディプロマポリシーのうち、「美の探究」と「国際的視野」に関わる。

**【授業の内容】**

- 第1週 序（視点の提示、評価の確認など）
- 第2週 クールベ：水と裸婦
- 第3週 ミレー：水と生活
- 第4週 モネ：《睡蓮》連作と水
- 第5週 セザンヌ：二つの水浴図
- 第6週 ミレイ：オフィーリアと水
- 第7週 ルドン：オフィーリアの変容
- 第8週 ウォーターハウス：物語の中の水
- 第9週 ゴーガン：野生と水
- 第10週 ボナール：浴室というユートピア
- 第11週 クノップフ：古都を浸す水
- 第12週 クリムト：ファムファタルと水
- 第13週 デュシャン：機械仕掛けの泉
- 第14週 まとめ
- 第15週 フィードバック

**【事前・事後学修】**

事前：講義で扱う画家について、『世界美術大全集』（図書館蔵）等の参考文献を読み、時代の動きを理解する（計2時間）。  
事後：配布した資料を熟読し、作品の理解を深める（計2時間）。

**【テキスト・教材】**

テキストは用いない。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

成績評価：リアクション・ペーパー（20%） 筆記試験（80%）  
フィードバック：リアクション・ペーパーは授業時、試験は最終回の授業で行う。

**【参考書】**

参考文献は授業中に紹介する。

**【注意事項】**

作品を通して理解することが求められる。また実際に作品を見ることが重要。首都圏で開催される展覧会など、美術館に積極的に出かけることを心がけてほしい。

**西洋近代美術史特講 b**

転換期の美術

六人部 昭典

2年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

20世紀初頭、1900年代から1910年代にかけての美術には、大胆な色彩表現の展開、再現的空間の解体、事物の導入など、美術の在り方が大きく変化してゆくのが見ることができる。授業ではマティスとピカソ、そしてキュビズムと関わりのあった画家たちの作品や、抽象絵画の生成を通して、転換期の美術を考察する。

**【授業における到達目標】**

20世紀前半の絵画の変革について理解を深める。また、作品を見る目を養い、考察の方法を学ぶ。

**【授業の内容】**

- 第1週 序（視点の提示、評価の確認）
- 第2週 マティス（1）：色彩の獲得
- 第3週 マティス（2）：感覚の豊かさ
- 第4週 マティス（3）：アラベスクとシーニュ
- 第5週 ピカソ（1）：自己形成と「青の時代」
- 第6週 ピカソ（2）：作品に隠されたレクイエム
- 第7週 ピカソ（3）：キュビズム再考
- 第8週 ルソー：「異国」への眼差し
- 第9週 シャガール：浮遊する恋人たち
- 第10週 ドローネー：エッフェル塔と「同時的」
- 第11週 クプカ：運動と抽象
- 第12週 カンディンスキー：色彩が生むダイナミズム
- 第13週 マレーヴィッチ：「絶対」のに探求
- 題14週 まとめ
- 第15週 フィードバック

**【事前・事後学修】**

事前：授業で扱う画家について、『世界美術大全集』（図書館蔵）等の参考文献を読み、時代の動きを理解する（計2時間）。  
事後：配布した資料を熟読し、作品の理解を深める（計2時間）。

**【テキスト・教材】**

テキストは使用しない。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

成績評価の方法：リアクション・ペーパー（20%）  
筆記試験（80%）  
フィードバック：リアクションペーパーは授業時、試験は最終回の授業で行う。

**【参考書】**

重要な文献は授業時に紹介する。

**【注意事項】**

授業では提示する作品を通して理解することが求められる。また大切。実際に作品を見ることが大切。所と県で開催される展覧会など、積極的に美術館を訪れることが必要である。

**西洋近代美術史特殊研究A**

モダンアートと「異国」

六人部 昭典

美術史学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

西洋近代美術を「異国」を手がかりに読み解く。画家たちは、近代ヨーロッパが異国（植民地化を伴う）に向けた眼差しをどのように相対化し、美術の変化に結びつけたのだろうか。

**【授業における到達目標】**

視点の意義と西洋近代美術の展開についての理解を深める。

**【授業の内容】**

- 1) 序（視点の提示）
- 2) 「異国」への眼差し
- 3) オリエンタリズムからジャポニスムへ
- 4) 見学授業（19世紀）
- 5) モネ(1)：《ラ・ジャポネーズ》
- 6) モネ(2)：《睡蓮》連作
- 7) ホイッスラー：《ノクタン》連作
- 8) モロー：《ヘロデ王の前で踊るサロメ》
- 9) ゴーガン(1)：《「黄色いキリスト」のある自画像》
- 10) ゴーガン(2)：《水辺にて》
- 11) 見学授業（20世紀）
- 12) ボナール：《室内》
- 13) ファン・ゴッホ：《ボーンズとしての自画像》
- 14) ガレ：《花器「蜚蜉」》
- 15) まとめ（フィードバック）

\*見学授業（学外）の日時・場所は授業時に指示する。

**【事前・事後学修】**

事前：取り上げる作品等の時代背景を把握する（2時間）

事後：提示する画像を踏まえ、配布資料を熟読する（2時間）

**【テキスト・教材】**

テキストは用いない。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

成績評価の方法：レポート（見学・学期末 70%）

授業への積極的な関与（発言等 30%）

フィードバック：最終週の授業で行う

**西洋近代美術史特殊研究B**

日本近代美術と「西洋」

六人部 昭典

美術史学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

日本の近代美術は、フランスなど西洋諸国の美術を受容する中で形成された。受容は技術だけではなく、美術の制度や言葉、芸術観の形成にも及ぶ。授業ではこれらの問題について、印象主義の受容を中心に、主に言説の面から考察したい。

**【授業における到達目標】**

視点の意義と、西洋近代美術の展開、日本における近代美術形成についての理解を深める。

**【授業の内容】**

- 1) 序（視点の提示）
- 2) 学生発表（博士後期課程1年）
- 3) 学生発表（博士後期課程2年）
- 4) 印象主義の受容（概要）
- 5) 印象主義の受容（黒田清輝ら）
- 6) 見学授業（19世紀）
- 7) 高村光太郎『印象主義の思想と藝術』
- 8) 高村光太郎「緑色の太陽」
- 9) 高村光太郎の詩と翻訳
- 10) 『白樺』（西洋美術の紹介）
- 11) 『白樺』（ファン・ゴッホ礼賛）
- 12) 見学授業（20世紀）
- 13 「後期印象派」という語
- 14) 文学（横光利一『旅愁』）
- 15) まとめ

**【事前・事後学修】**

事前：取り上げる作品等の時代背景を把握する（2時間）。

事後：授業で提示する画像を踏まえ、配布資料を熟読（2時間）。

**【テキスト・教材】**

テキストは用いない。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート（見学・学期末）：50%

授業への関与（発表を含む）：50%

**西洋近代美術史特論A**

モダンアートと「異国」

六人部 昭典

美術史学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

西洋近代美術について、「異国」という視点から考察する。近代の西洋は産業革命によって発展し、アジアやアフリカなどの地域を植民地化した。これに伴って、ヨーロッパには多くの異国の文物や人々が流入した。美術もこうした動きと無関係ではなく、オリエンタリズムからジャポニズム、そしてプリミティヴィスムにいたる展開を見せる。画家たちは、ヨーロッパが異国（植民地）に向けた眼差しをどのように相対化し、美術の変革に結びつけたのだろうか。

「異国」という視点を通して、モダンアート史を再考察したい。

**【授業における到達目標】**

「異国」という視点と、西洋近代美術史の関わりについての理解を深める。

**【授業の内容】**

- 1) 序（視点の提示など）
- 2) オリエンタリズムと「異国」への眼差し
- 3) ジャポネズリーとジャポニズム
- 4) 見学授業
- 5) モネ(1)：異国趣味に見られる日本と西洋
- 6) モネ(2)：《睡蓮》連作とジャポニズム
- 7) ホイッスラー：ジャポニズムと音楽
- 8) モロー：サロメ主題とオリエンタリズム
- 9) ゴーガン(1)：内なる「異国」
- 10) ゴーガン(2)：植民地化とタヒチ
- 11) 見学授業
- 12) ボナール：装飾とジャポニズム
- 13) ファン・ゴッホ：「日本」というユートピア
- 14) ガレ：高島北海との交友
- 15) まとめ

\*見学授業（学外）の日時・場所は授業時に指示する。

**【事前・事後学修】**

事前：取り上げる作品等の時代背景を把握する（2時間）。

事後：提示した画像を踏まえて、配布資料を熟読する（2時間）。

**【テキスト・教材】**

テキストは用いない。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

成績評価の方法：レポート（見学・学期末、70%）

授業への積極的な関与（30%）

フィードバック：最終回の授業で行う

**【参考書】**

授業中に指示。

**西洋近代美術史特論B**

西洋近代美術と日本

六人部 昭典

美術史学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

前半は、主に20世紀の西洋美術について、「異国」という視点から考察する。ヨーロッパでは、どのように「異国」と接したのか。また、「エコール・ド・パリ」と呼ばれた異邦人たちにとって、絵画の形成と出自はどう関わったのだろうか。

後半では、主に日本の近代美術形成を扱う。日本の近代美術は、フランスなど西洋諸国の美術を受容する中で形成された。受容は技術だけではなく、美術の制度や言葉、芸術観の形成にも及ぶ。授業ではこれらの問題について、印象主義の受容を中心に、主に言説の側面から考察したい。

**【授業における到達目標】**

西洋近代美術の展開、また、日本の近代美術形成との関わりについて、理解を深める。

**【授業の内容】**

- 1) 序（視点の提示など）
- 2) 学生発表（前期課程2年）
- 3) 学生発表（前期課程1年）
- 4) 学生発表（前期課程1年）
- 5) マティス：アラベスクの2面性
- 6) 見学授業
- 7) ルソー：「異国」という夢
- 8) ピカソ：キュビズムの形成と「異国」
- 9) シャガール：故郷とユダヤ
- 10) 高村光太郎(1)：「緑色の太陽」
- 11) 高村光太郎(2)：『印象主義の思想と藝術』
- 12) 見学授業
- 13) 『白樺』の西洋絵画紹介
- 14) モダンアート史の枠組みと日本
- 15) まとめ（フィードバック）

\*見学授業（学外）の日時・場所は授業時に指示する。

**【事前・事後学修】**

事前：取り上げる作品等の時代背景を把握する（2時間）。

事後：提示する画像を踏まえ、配布資料を熟読する（2時間）。

**【テキスト・教材】**

テキストは用いない。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

成績評価の方法：レポート（見学・学期末 50%）

授業への積極的な関与（発表を含む 50%）

フィードバック：最終回の授業で行う

**西洋近代美術史入門 a**

「作品」を見る

六人部 昭典

1年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

美術史を学ぶ基本は「作品」です。まず、「作品」を見ること、そして「作品」を制作した美術家や、その背後にある社会との関わりを探ることが大切です。この授業では、西洋の近代を中心に、近世から現代にいたる時代の重要な作例を取り上げ、「作品」を見ることを学びます。

**【授業における到達目標】**

西洋近代美術史の流れを把握し、また作品を見る「眼」を養います。この到達目標は、本学ディプロマ・ポリシーのうち、特に「国際的視野」と「美の探究」に関わるものです。

**【授業の内容】**

- 第1週 はじめに（「作品」を見る、評価の確認など）  
ジオット：ルネサンスの予言
- 第2週 ミケランジェロ：《ピエタ》の変貌
- 第3週 カラヴァッジオ：バロック絵画の誕生と展開
- 第4週 ゴヤ：激動の中の画家
- 第5週 ミレー：描かれた「農民」とは？
- 第6週 マネとモネ：絵画の「近代」
- 第7週 スーラとセザンヌ：「構成」の探求
- 第8週 ファン・ゴッホとゴーガン：肖像画の謎
- 第9週 マティスとピカソ：新たな絵画空間
- 第10週 モンドリアン：抽象絵画に何が描かれたか？
- 第11週 ダダとシュルレアリスム：「事物」との出会い
- 第12週 デュシャン：「レディメイド」という便器
- 第13週 ウォーホル：マリリン・モンローのいる場所
- 第14週 まとめ
- 第15週 フィードバック

**【事前・事後学修】**

- 事前：授業で取り上げる画家について、小学館『世界美術大全集』や社会の動きを把握してください（週2時間）。
- 事後：事前学修で得た知識と講義内容を関連付け、作品についての理解を深めてください（週2時間）。

**【テキスト・教材】**

テキスト（教科書）は使いません。作品（画像）を見ることを大切にして、「眼」を通して理解することが大切です。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- 成績評価の方法：授業態度（リアクションペーパーなど 20%）  
筆記試験（80%）
- フィードバック：リアクションペーパーについては授業中に、筆記試験について最終回に解説します。

**【参考書】**

『世界美術全集』『西洋美術館』（小学館）、他は授業時に指示します。

**【注意事項】**

授業はスライドを使って進め、「作品」を見ることを学びます。「眼」を通して理解することを心がけてください。ただ、実際に作品を見ること（芸術経験）が大切です。授業に対する関心を深めるためにも、首都圏で開かれる展覧会など、美術館に積極的に出かけてください（授業の中で展覧会のポイント紹介も取り入れる予定です）。見学授業（学外）を実施する場合があります。

**西洋近代美術史入門 b**

「作品」を読む

六人部 昭典

1年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

印象主義の形成を中心に、19世紀フランス絵画の展開を扱い、「作品」を読むことを学びます。美術史の基本は「作品」です。そして「作品」は制作する美術家だけではなく、受容する人々や背後にある社会や時代など、さまざまな関わりの中で生み出されます。この授業では、作品と社会・時代との関連を軸に、「作品」を読むこと、つまり美術史のアプローチを修得します。

**【授業における到達目標】**

印象主義の形成にいたる西洋近代絵画史の流れを把握し、また作品を見る「眼」を確かなものにします。この到達目標は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、特に「国際的視野」と「美の探究」に関わるものです。

**【授業の内容】**

- 第1週 はじめに（「作品」を読む、評価の確認など）  
ダヴィッド：フランス革命と新古典主義
- 第2週 ジェリコー：歴史画と現実
- 第3週 アングルとドラクロワ：線と色彩
- 第4週 カンスタブルとコロー：近代風景画の「近代」とは？
- 第5週 クールベ：レアリズムと無名の歴史
- 第6週 マネ：絵画の変革と言説
- 第7週 ピサロ：「第1回印象派展」の開催と社会
- 第8週 モネ（1）：印象主義とモデルニテ
- 第9週 モネ（2）：光と主題
- 第10週 モネ（3）：《睡蓮》連作の展開
- 第11週 ルノワール：ルノワールは好き／嫌い？
- 第12週 ドガ：踊り子（主題とフォルム）
- 第13週 モリゾとカサット：印象主義と「女性」
- 第14週 まとめ
- 第15週 フィードバック

**【事前・事後学修】**

- 事前：授業で取り上げる画家について、小学館『世界美術大全集』（図書館で閲覧可能）などの参考文献を読み、関連する美術や社会の動きを把握してください（週2時間）。
- 事後：事前学修で得た知識と講義内容を関連付け、作品についての理解を深めてください（週2時間）。

**【テキスト・教材】**

テキスト（教科書）は使いません。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- 成績評価の方法：リアクション・ペーパー（20%）  
筆記試験（80%）。
- フィードバック：リアクション・ペーパーは授業中に、筆記試験については最終回に解説します。

**【参考書】**

『世界大美術全集』『印象派美術館』（小学館）、他は授業時に指示します。

**【注意事項】**

作品を見ることを通して理解するように心がけてください。また実際に作品を見ること（芸術経験）が大切です。授業に対する理解を深め、美術史の基礎を身につけるためにも、首都圏で開催される西洋美術に関する展覧会など、美術館に積極的に出かけるようにしてください（授業の中で展覧会のポイント紹介も取り入れる予定です）。見学授業（学外）を実施する場合があります。

**西洋古典研究**

ラテン語の世界

堀尾 耕一

3年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

古代ローマ人の言葉であるラテン語は、ギリシア語とともに、近代ヨーロッパにおいて「古典語」としての位置づけを得てきました。ちょうどわれわれ日本人が古代中国の文字（すなわち漢字）をとくにそれと意識することなく用いているのと同様、英語をはじめとする西洋近代語の語彙および文法においては、彼らにとっての「古典語」、とりわけラテン語に由来する要素がじつに大きな役割を演じているのです。この授業では、英語と古典語との関係を概観したうえで、ラテン語の基礎的な文法を学習します。整然としたその文法体系は、むしろ数学の合理性にも通じるところがあるでしょう。英文法がどうも腑に落ちないというみなさんにも、一条の光となるかもしれません。

**【授業における到達目標】**

ラテン語文法の基礎を習得する

**【授業の内容】**

下記教科書の章立てにそってラテン語文法の基礎を習得することが授業の基本となります。また、それに平行して、英語の語彙に関する資料を随時配布し、解説します。

- 第1週 ラテン語の歴史的役割
- 第2週 ラテン語文法の概観
- 第3週 動詞の活用
- 第4週 名詞の変化（1）
- 第5週 名詞の変化（2）
- 第6週 ラテン語から派生した英単語（1）
- 第7週 形容詞の変化
- 第8週 形容詞の用法
- 第9週 文法解析の作法
- 第10週 ラテン語と西洋近代諸語の関係
- 第11週 動詞の時制（1）
- 第12週 動詞の時制（2）
- 第13週 ラテン語から派生した英単語（2）
- 第14週 音楽作品におけるラテン語：ミサ曲ほか
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

予備知識はいっさい前提としません。教科書に付された練習問題の予習を求めますが、毎回の授業時間に集中力をもって臨んでもらうことを第一とします。また、英語を読む際に多少とも語源への眼差しを持つことができれば、それが何よりの事後学修になるものと信じます。

**【テキスト・教材】**

中山恒夫『標準ラテン文法』（白水社 1987年）1,995円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業内の練習問題への取組みを評価し、平常点とします（50%）。  
また定期試験を行います（50%）。

**【参考書】**

大西英文『はじめてのラテン語』（講談社現代新書 1997年）

小林標『ラテン語の世界』（中公新書 2006年）

**【注意事項】**

おそらくは誰にとってもなじみの薄い分野だと思われます。授業の進度はできるだけ受講生の理解力に合わせますので、まずはご安心を。好奇心旺盛な学生諸姉の参加を期待します。

**西洋古典研究**

ラテン語の世界

堀尾 耕一

3年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

古代ローマ人の言葉であるラテン語は、ギリシア語とともに、近代ヨーロッパにおいて「古典語」としての位置づけを得てきました。ちょうどわれわれ日本人が古代中国の文字（すなわち漢字）をとくにそれと意識することなく用いているのと同様、英語をはじめとする西洋近代語の語彙および文法においては、彼らにとっての「古典語」、とりわけラテン語に由来する要素がじつに大きな役割を演じているのです。この授業では、英語と古典語との関係を概観したうえで、ラテン語の基礎的な文法を学習します。整然としたその文法体系は、むしろ数学の合理性にも通じるところがあるでしょう。英文法がどうも腑に落ちないというみなさんにも、一条の光となるかもしれません。

**【授業における到達目標】**

ラテン語文法の基礎を習得する

**【授業の内容】**

下記教科書の章立てにそってラテン語文法の基礎を習得することが授業の基本となります。また、それに平行して、英語の語彙に関する資料を随時配布し、解説します。

- 第1週 ラテン語の歴史的役割
- 第2週 ラテン語文法の概観
- 第3週 動詞の活用
- 第4週 名詞の変化（1）
- 第5週 名詞の変化（2）
- 第6週 ラテン語から派生した英単語（1）
- 第7週 形容詞の変化
- 第8週 形容詞の用法
- 第9週 文法解析の作法
- 第10週 ラテン語と西洋近代諸語の関係
- 第11週 動詞の時制（1）
- 第12週 動詞の時制（2）
- 第13週 ラテン語から派生した英単語（2）
- 第14週 音楽作品におけるラテン語：ミサ曲ほか
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

予備知識はいっさい前提としません。教科書に付された練習問題の予習を求めますが、毎回の授業時間に集中力をもって臨んでもらうことを第一とします。また、英語を読む際に多少とも語源への眼差しを持つことができれば、それが何よりの事後学修になるものと信じます。

**【テキスト・教材】**

中山恒夫『標準ラテン文法』（白水社 1987年）1,995円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業内の練習問題への取組みを評価し、平常点とします（50%）。また定期試験を行います（50%）。

**【参考書】**

大西英文『はじめてのラテン語』（講談社現代新書 1997年）

小林標『ラテン語の世界』（中公新書 2006年）

**【注意事項】**

おそらくは誰にとってもなじみの薄い分野だと思われます。授業の進度はできるだけ受講生の理解力に合わせますので、まずはご安心を。好奇心旺盛な学生諸姉の参加を期待します。



**西洋古典入門**

古代ギリシア・ローマの文学

堀尾 耕一

3年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

古代ギリシアおよびローマの文学は、近代ヨーロッパにおいて「古典」として広く親しまれてきました。その理由のひとつに、今日に生きるわれわれが共有する「市民社会」という考え方の原型を、そこに見いだすことができるという点が挙げられます。たとえば「民主主義」あるいは「裁判員」といった仕組みは、いずれも古代ギリシアをその起源としているに違いありません。二千年の時を経てもまったく色あせることのない作品群に、翻訳および映像資料をとおしてできるだけ多く触れてもらいます。参加者の率直な感想が、考察の出発点となるでしょう。

**【授業における到達目標】**

西洋古典文学の基本的な知識、および翻訳資料等との基本的な接し方を身に付けること。

**【授業の内容】**

翻訳資料をとおして古典そのものに触れることを目指します。また映画などの映像資料をできるかぎり利用して、その理解を深めていきます。

- 第1週 問題の概観および資料紹介
- 第2週 ホメロスとは何者か？
- 第3週 「イリアス」の世界
- 第4週 映画「トロイ」の観賞
- 第5週 ソフォクレス「オイディプス王」
- 第6週 劇場版「オイディプス王」の観賞
- 第7週 プラトン「ソクラテスの弁明」
- 第8週 民主政の功罪について
- 第9週 エウリピデス「メデシア」
- 第10週 劇場版「メデシア」の観賞
- 第11週 ギリシアからローマへ
- 第12週 シェイクスピア「ジュリアス・シーザー」
- 第13週 ウェルギリウスからダンテへ
- 第14週 古典の受容とその再生
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前の知識を前提とするものではありません。日ごろから文学全般に興味を持ち、気の向くままに書物を手に取ってみる習慣を身に付けること、それこそが何よりの予習であり、また復習であると信じます。

**【テキスト・教材】**

こちらでプリント資料を配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

数回ごとに、講義内容のまとめおよび感想を提出してもらい、これを平常点とします（40%）。また学期末にレポートを提出してもらいます（60%）。その際、簡単な口頭発表をしてもらうことも考えています。

**【参考書】**

- 高津春繁・斉藤忍隋『ギリシア・ローマ文学案内』（岩波文庫）
- ホメロス『イリアス』『オデュッセイア』（岩波文庫）
- ソポクレス『オイディプス王』（岩波文庫）
- プラトン『ソクラテスの弁明・クリトン』（講談社学術文庫）
- シェイクスピア『ジュリアス・シーザー』（岩波文庫）

**西洋古典入門**

古代ギリシア・ローマの文学

堀尾 耕一

3年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

古代ギリシアおよびローマの文学は、近代ヨーロッパにおいて「古典」として広く親しまれてきました。その理由のひとつに、今日に生きるわれわれが共有する「市民社会」という考え方の原型を、ここに見いだすことができるという点が挙げられます。たとえば「民主主義」あるいは「裁判員」といった仕組みは、いずれも古代ギリシアをその起源としているに違いありません。二千年の時を経てもまったく色あせることのない作品群に、翻訳および映像資料をとおしてできるだけ多く触れてもらいます。参加者の率直な感想が、考察の出発点となるでしょう。

**【授業における到達目標】**

西洋古典文学の基本的な知識、および翻訳資料等との基本的な接し方を身に付けること。

**【授業の内容】**

翻訳資料をとおして古典そのものに触れることを目指します。また映画などの映像資料をできるかぎり利用して、その理解を深めていきます。

- 第1週 問題の概観および資料紹介
- 第2週 ホメロスとは何者か？
- 第3週 「イリアス」の世界
- 第4週 映画「トロイ」の観賞
- 第5週 ソフォクレス「オイディプス王」
- 第6週 劇場版「オイディプス王」の観賞
- 第7週 プラトン「ソクラテスの弁明」
- 第8週 民主政の功罪について
- 第9週 エウリピデス「メデシア」
- 第10週 劇場版「メデシア」の観賞
- 第11週 ギリシアからローマへ
- 第12週 シェイクスピア「ジュリアス・シーザー」
- 第13週 ウェルギリウスからダンテへ
- 第14週 古典の受容とその再生
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前の知識を前提とするものではありません。日ごろから文学全般に興味を持ち、気の向くままに書物を手に取ってみる習慣を身に付けること、それこそが何よりの予習であり、また復習であると信じます。

**【テキスト・教材】**

こちらでプリント資料を配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

数回ごとに、講義内容のまとめおよび感想を提出してもらい、これを平常点とします（40%）。また学期末にレポートを提出してもらいます（60%）。その際、簡単な口頭発表をしてもらうことも考えています。

**【参考書】**

- 高津春繁・斉藤忍隋『ギリシア・ローマ文学案内』（岩波文庫）
- ホメロス『イリアス』『オデュッセイア』（岩波文庫）
- ソポクレス『オイディプス王』（岩波文庫）
- プラトン『ソクラテスの弁明・クリトン』（講談社学術文庫）
- シェイクスピア『ジュリアス・シーザー』（岩波文庫）

## 西洋史 a

秋山 千恵

1年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

本講義は、西洋世界の歴史についての基礎的知識を得ること、および西洋史の教養を身につけることを目標とします。

### 【授業における到達目標】

多様な価値観を持つ人々と共生し、相互理解を深めるために、国際社会で活躍する際に必要な歴史の知識を身につけます。

### 【授業の内容】

- 第1週 はじめに 近現代のヨーロッパ
- 第2週 前近代のヨーロッパ
- 第3週 ヨーロッパの世紀 1) 国民国家の形成
- 第4週 ヨーロッパの世紀 2) 帝国主義
- 第5週 ヨーロッパの世紀 3) 世界の一体化
- 第6週 第一次世界大戦前夜
- 第7週 第一次世界大戦 1) 欧州大戦から世界大戦へ
- 第8週 第一次世界大戦 2) 秘密外交
- 第9週 第一次世界大戦 3) 大戦のシステム化
- 第10週 第一次世界大戦 4) 各国の総力戦体制
- 第11週 第一次世界大戦 5) イデオロギー戦争
- 第12週 ロシア革命
- 第13週 戦争の終結
- 第14週 大戦間期のヨーロッパ
- 第15週 第二次世界大戦

### 【事前・事後学修】

毎回の授業前に、高校世界史Bの該当箇所を熟読し、専門用語等を理解しておいてください。(週60分)

授業後はプリントをみながら内容を復習してください。(週180分)

### 【テキスト・教材】

特定のテキストは指定しません。必要に応じてプリントを配布し、ビデオ・DVDを使用します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験80%と小テスト20%で評価します。

小テストは翌週授業時に、試験については最終授業日に質問等の時間を設け、解説します。

### 【参考書】

参考書は随時指示します。

### 【注意事項】

授業中は携帯の電源を切り、鞆の中に入れてください。

## 西洋史 b

秋山 千恵

1年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

1920年代から第二次世界大戦、大戦後の冷戦体制が構築されるまでの歴史を概観することによって、ヨーロッパ現代史についての基礎的な知識を修得することを目指します。

### 【授業における到達目標】

多様な価値観を持つ人々と共生し、相互理解を深めるために、国際社会で活躍する際に必要な基本的な知識および思考力を身につけます。

### 【授業の内容】

- 第1週 第一次世界大戦
- 第2週 大戦間期の世界
- 第3週 ヴェルサイユ体制
- 第4週 新興諸国家
- 第5週 アメリカ合衆国の1920年代
- 第6週 現代文化の試み
- 第7週 世界恐慌
- 第8週 ファシズム
- 第9週 ナチス・ドイツ
- 第10週 スペイン内戦
- 第11週 ソ連とドイツ
- 第12週 非ファシズム諸国の動向
- 第13週 第二次世界大戦
- 第14週 ホロコースト
- 第15週 戦後世界

以上の内容を予定していますが、映像を多く使用することと時間的制約から一部変更する場合があります。

### 【事前・事後学修】

授業前に高校の世界史Bの教科書の該当箇所を読み、専門用語等を理解しておいてください。週60分

毎回の授業後にプリントをみながら復習してください。週180分

### 【テキスト・教材】

特定のテキストは使用しません。必要に応じてプリントを配布し、映像資料を使用します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験80%、小テスト20%で評価します。

小テストは次週、試験については最終授業日に質問の時間を設けて解説します。

### 【参考書】

必要に応じて指示します。

### 【注意事項】

授業中は携帯および電子機器の使用を禁止します。

## 西洋思想史 a

哲学的思考の特徴をつかむ

竹中 真也

1年～ 前期 2単位

◎：美の探求 ○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

本講義においては、まず西洋哲学の起源を紹介する。こうすることで、哲学の始まりを見届けつつ、その思考様式の特徴をつかむ。そののち、善について、真理について、神について取り上げる。これらの具体的なテーマは、哲学者によるさまざまな角度からの議論を提供してくれる。こうして、多様な議論を踏まえながら、各自がみずからの思考力を養うことを目指す。

### 【授業における到達目標】

- ①哲学の基本的な用語や発想を使えるようにする。
- ②多様な見方を知る。
- ③自分なりに深く本質的に考える。

全学ディプロマシーとの関連においては、「多様性を受容する態度」や「物事の真理を探究していく知を求める態度」、「広い視野と深い洞察力により本質を見抜く能力」を身に付けることがこの科目の目標になる。

### 【授業の内容】

以下は暫定的な計画であって、受講者からの意見や関心に応じて変更されることがある。

- 第一回 はじめに 授業方針や内容の提示
- 第二回 哲学という言葉の意味
- 第三回 哲学の源流 哲学的思考について
- 第四回 さまざまな哲学者の登場
- 第五回 エレア派における「ある」について
- 第六回 ソクラテスの転換
- 第七回 プラトンのイデア論について
- 第八回 善についての古代の立場
- 第九回 善についての近代的立場
- 第十回 真理について
- 第十一回 真理を疑う立場——懐疑論
- 第十二回 神の存在証明（1）
- 第十三回 神の存在証明（2）
- 第十三回 ルネサンス期の宇宙観
- 第十四回 フィチーノの思想
- 第十五回 まとめ

### 【事前・事後学修】

[事前学修]

予告した次回の授業内容に関連する図書を読む、あるいは、辞書やweb等で調べる。こうして予備知識をもつようにする。（学修時間 週2時間）

[事後学修]

前回の授業でのレジュメを読みなおして、内容を確認しておくこと。不明な言葉は、国語辞典や哲学事典などで調べておくこと。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

こちらでレジュメを用意して配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験70% 出席30%で評価する。

### 【参考書】

ルイス・E・ナヴィア『哲学の冒険』武蔵野美術大学出版。その他の参考文献については、必要に応じてその都度、指示する。

### 【注意事項】

遅刻・途中退室・私語・携帯スマホ使用は厳禁とする。

## 西洋思想史 a

大塚 諒

1年～ 前期 2単位

◎：美の探求 ○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

この講義では、2500年以上にわたる西洋哲学の歴史において問われてきた問いがどのようなものであるかを概観する。哲学史とは、哲学的問題との対決の歴史であり、哲学史を学ぶということは、哲学的な問いの性格、問いへのアプローチの仕方、そこから導かれる解答を検討することである。その検討を通じて、各自が問いを深め、みずから考えていく（＝哲学していく）ための道具・見本を、できるだけ平易な形で提供していきたい。

### 【授業における到達目標】

思考の営みとしての哲学とは、各自が一から思考することである。仮に過去の哲学者が出した結論と同じものに至るとしても、その結論に至る道筋は、自力で辿りなおされなければならない。この講義における問いの歴史の学習を通じて、物事の真理を探究し、新たな知を求める態度や、多様な学説を比較し、広い視野と深い洞察力によって本質を見抜く能力を養うことを目指す。

### 【授業の内容】

1. イントロダクション：哲学・思想史とは何か
2. ベーコン、ポパー：知識・科学はどのようにして進歩するのか
3. ヒューム①：因果関係とは何か
4. アリストテレス、デカルト①：因果関係と〈リアルなもの〉との関係はどのようなものか
5. ミル、大森荘蔵：他人にも心はあるか
6. 行為論：われわれは自分の行為に責任をもつことができるか
7. デカルト②、ロック①、パークリ①：絶対に疑うことのできないものはあるか
8. カント：経験なしに知っている事柄はあるか
9. プラトン、ロック②、パークリ②：普遍・抽象とは何か
10. ソシュール、ウィトゲンシュタイン、サルル：名前の意味、言葉の伝達とは何か
11. ロック③、パークリ③、ヒューム②：ものが見えるとはどういうことか
12. 心の哲学：観念なしの人生は可能か
13. パース、ジェイムズ：真理とは何か
14. アンセルムス、トマス・アクィナス：神は存在するか
15. 総括

### 【事前・事後学修】

事前学修：教科書の指定された箇所を読み、本文の内容や章末の問題について考えてくる。（週2時間）

事後学修：授業で配られた資料やノート、教科書を見返し、必要に応じて参考文献等で調べる。（週2時間）

### 【テキスト・教材】

ブレンダン・ウィルソン『自分で考えてみる哲学』山本史郎訳（東京大学出版会、2004年）2592円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

評価：平常点（リアクションペーパー）60%、期末試験40%  
リアクションペーパーに書かれた質問や考察、感想等は、次回授業の冒頭で取り上げ、受講者全体で共有し、各自の思考の材料とする。

### 【参考書】

野矢茂樹『哲学の謎』（講談社現代新書、1996年）  
熊野純彦『西洋哲学史—古代から中世へ』（岩波新書、2006年）  
同『西洋哲学史—近代から現代へ』（岩波新書、2006年）

## 西洋思想史 b

さまざまな哲学的テーマを学ぶ

竹中 真也

1年～ 後期 2単位

◎：美の探求 ○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

この講義では、現実、私、他者、言語、肉体などに関する、哲学者の議論を紹介する。しかしながらこれは、哲学者の言葉を暗記することを目的としているわけではない。現実、私、他者などの自明のことだと思われていたものに、もう一度目を向けなおして、みずからの考えを深めるとともに、現代社会の多様な現象の本質を見抜く力を養うことが目的である。

### 【授業における到達目標】

- ①哲学の基本的な用語や発想を使えるようにする。
- ②多様な見方を知る。
- ③自分なりに深く本質的に考える。

全学ディプロマシーとの関連においては、「多様性を受容する態度」や「物事の真理を探究していく知を求める態度」、「広い視野と深い洞察力により本質を見抜く能力」を身に付けることがこの科目の目標になる。

### 【授業の内容】

以下は暫定的な計画であって、受講者からの意見や関心に応じて変更されることがある。

- 第一回 哲学の諸問題の紹介
- 第二回 プラトンのイデア論
- 第三回 アリストテレスにおける質料形相論
- 第四回 デカルトの思想——cogito ergo sum
- 第五回 デカルト後の思想の紹介：スピノザ
- 第六回 ロックによる経験論
- 第七回 パークリによる記号的世界
- 第八回 ヒュームによる因果
- 第九回 わたしとは？人格の同一性
- 第十回 カントにおけるコペルニクス的転回
- 第十一回 キルケゴール——苦悩に耐える哲学
- 第十二回 ニーチェ——肉体的な生への眼差し
- 第十三回 ソシュール——言語と認識の相関性
- 第十四回 言語と構造
- 第十五回 まとめ

### 【事前・事後学修】

[事前学修]

予告した次回の授業内容に関連する図書を読む、あるいは、辞書やweb等で調べることによって、予備知識をもつようにする。(学修時間 週2時間)

[事後学修]

前回の授業でのレジュメを読みなおして、内容を確認しておくこと。不明な言葉は、国語辞典や哲学事典などで調べておくこと。(学修時間 週2時間)

### 【テキスト・教材】

こちらでレジュメを用意するので、とくに用意する必要はない。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験70% 出席30%で評価する。

### 【参考書】

ルイス・E・ナヴィア『哲学の冒険』武蔵野美術大学出版。その他の参考文献については必要に応じて紹介する。

### 【注意事項】

遅刻・途中退室・私語・携帯スマホ使用は厳禁とする。

**西洋美術史演習A**

美術史研究の方法論（基礎）

駒田 亜紀子

美術史学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

西洋美術史研究において必要な基礎的方法論と対象に適した調査方法を、実践的に学ぶ。受講生の研究テーマおよび研究計画に沿って、資料収集・調査、資料・史料の読解・分析の方法等を、段階的に修得する。

**【授業における到達目標】**

各自が設定したテーマに適した資料収集・調査を行えるようになる。収集した資料の読解・分析を通じて、研究史を批判的に検討する能力を身につける。

**【授業の内容】**

授業内容に関連する展覧会の学外見学を行う場合があるが、展覧会の会期により、シラバスに示した実施順序が変更される場合がある。

1. 研究テーマを決定し、問題設定の視座を明確にする。
2. 各自のテーマと問題設定の視座に沿った研究計画を作成する。
3. 受講生の発表（1）研究計画：博士前期課程2年の学生は、7月に実施する修士論文中間発表に向けて、修士論文の具体的な章立てを示す。
4. 研究資料の収集（1）：作品目録（美術館・博物館等の所蔵品目録、個人コレクションの目録、その他）、作品来歴に関わる資料について
5. 研究資料の収集（2）：先行研究について
6. 研究方法・視座の検討（1）：先行研究の方法論・視座の分析
7. 研究方法・視座の検討（2）：先行研究を踏まえた問題視座の展開
8. 校外見学授業（1）：宗教画関連作品の見学
9. 受講生の発表（2）：修士論文の議論展開の骨格を示す。
10. 作品コーパス（研究テーマに関わる作品群）の検討①：作家別コーパス
11. 作品コーパスの検討②：作品の主題・図像内容別コーパス
12. 校外見学授業（2）：神話画関連作品の見学
13. 受講生の発表（3）：修士論文中間発表の準備
14. 受講生の発表（4）：修士論文中間発表の予行演習
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：授業のテーマに関連する配布資料を熟読し、疑問点を明確にする。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業で取り上げた方法論を、各自の研究テーマに批判的に応用する。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

教科書は使用しない。文献等は、受講生の研究領域に合わせて、授業中に指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業中の積極的な発言30%、発表40%、期末レポート30%の割合で評価する。発表やレポートにはコメントを付してフィードバックする。

**【参考書】**

授業時に指示する。

**【注意事項】**

校外見学授業に関する一切の費用は受講生の自己負担である。

**西洋美術史演習B**

美術史研究の方法論（応用）

駒田 亜紀子

美術史学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

西洋美術史演習Aに続き、西洋美術史研究において必要な基礎的方法論と対象に適した調査方法を実践的に修得し、将来の研究者としての研究基盤・スタンスの確立をめざす。

**【授業における到達目標】**

各自が設定した研究テーマに即して収集した資料を、資料の形式や内容に適した方法で読解・分析し、批判的に検討する能力を高める。各自の研究テーマに隣接する分野の作品を収集し、発展的に比較考察する方法論を修得する。

**【授業の内容】**

授業内容に関連する展覧会の学外見学を行う場合があるが、展覧会の会期により、シラバスに示した実施順序が変更される場合がある。

1. 演習Aの成果を踏まえて修士論文の問題視座や議論の骨格を再検討し、研究計画を調整する。
2. 文献資料の収集・活用（1）作品主題や図像内容を解明するための典拠や註釈等の収集
3. 文献資料の収集・活用（2）作品主題や図像内容を解明するための典拠や註釈等の読解・分析
4. 文献資料の収集・活用（3）作品主題や図像内容を解明するための典拠や註釈等の批判的検討
5. 文献資料の収集・活用（4）作品・作家に関わる同時代の文献資料の収集
6. 文献資料の収集・活用（5）作品・作家に関わる同時代の文献資料の読解・分析
7. 文献資料の収集・活用（6）作品・作家に関わる同時代の文献資料の批判的検討
8. 校外見学授業（1）風景画関連作品の見学
9. 比較作品の収集・分析（1）作品主題について
10. 比較作品の収集・分析（2）図像プログラムについて
11. 比較作品の収集・分析（3）作品受容について
12. 受講生の研究発表（1）作品主題・図像について
13. 受講生の研究発表（2）作品受容について
14. 校外見学授業（2）静物画・寓意画関連作品の見学
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：授業のテーマに関連する配布資料を熟読し、疑問点を明確にする。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業で収集した資料の整理・解析を通じて、自身の研究視座を修正・拡充する。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

教科書は使用しない。文献等は、受講生の研究領域に合わせて、授業中に指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業中の積極的な発言30%、発表40%、期末レポート30%の割合で評価する。発表やレポートにはコメントを付してフィードバックする。

**【参考書】**

授業時に指示する。

**【注意事項】**

校外見学授業に関する一切の費用は受講生の自己負担である。

**西洋美術史演習 a**

—卒業論文執筆に向けた基礎訓練（1）—

駒田 亜紀子

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

主にバロック期までの西洋美術を対象に、4年次の卒論執筆に向けて、美術史の基本的な方法論を学ぶ。美術史的探求の全ての基礎である言葉によるディスクリプション（作品記述）を出発点とし、作品の美術史的な位置づけに必要な分析方法（様式、主題、図像、制作技法、作品受容など）を実践的に学ぶ。更に、実際の作家や作品について調べるための研究論文・資料の探し方・読み解き方を学ぶ。

**【授業における到達目標】**

作品に表現・造形化されていることを自分の目で見て把握し、それを作品に即して、客観的に、自分の言葉で説明できるようになる。ディスクリプションを通じ、対象作品において検討すべき美術史的課題を発見できるようになる。課題解決に結びつく調査方法を修得する。発表や見学授業の準備を協力して行う力を身につける。

**【授業の内容】**

1. イントロダクション
2. 作品ディスクリプション1：作品に何が表現されているかを、第三者に伝わる言葉によって記述する訓練。形象化されたモチーフや登場人物等をただ漫然と言葉に置き換えるのではなく、ディスクリプションを通じ、その作品を知らない第三者にその作品の特徴や見どころを理解してもらえるような作品記述を目指す。
3. 作品ディスクリプション2→小レポート①：課題作品のディスクリプション作成
4. 小レポート①フィードバック1：ディスクリプションの手順
5. 小レポート①フィードバック2：ディスクリプションの形式
6. 研究文献の講読：課題論文についての解説。→小レポート②
7. 小レポート②フィードバック
8. 展覧会见学1→小レポート③（作品ディスクリプション）
9. 小レポート③フィードバック：作品記述の用語・着眼点
10. 図書館のデータベースを利用した資料検索実習
11. 参考文献一覧の作成方法
12. 夏休みの課題について：指定した作家に関する研究文献を探し、参考文献一覧を作成する→レポート④
13. 展覧会见学2（1）：見学作品・作家に関する予備調査
14. 展覧会见学2（2）：見学現場での作品ディスカッション
15. 総括フィードバック

**【事前・事後学修】**

事前学修：配布プリント記載の次回授業の内容を把握し、他の西洋美術史分野の授業内容と関連付けて理解できるようにする。提出課題の作成に取り組む。（事前学修 週2時間）

事後学修：フィードバックと照らし合わせ、自身の提出課題の問題点を具体的に把握し、改良版を作成する。（事後学修 週2時間）

**【テキスト・教材】**

テキスト（教科書）は使用しない。プリントを配布するが、授業中に各自が講義ノートを作成することが不可欠である。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業への積極的な参加・発表・発言、学期中に複数回課す小レポートを重視する。成績評価は、授業態度と授業における発言・発表（25%）、小レポート（50%）、期末レポート（25%）とする。

**【参考書】**

配布プリントに加え、指定図書・推薦図書を活用する。疑問が生じた場合には、『西洋美術用語辞典』（岩波書店）、『西洋絵画作品名辞典』（三省堂）等でまず調べる習慣を身につける。

**【注意事項】**

本演習は、授業と事前・事後学修に加え、校外で実施する展覧会等の見学を軸に進める（見学にかかる一切の費用は自己負担。見学実施日程は変更する場合がある）。展覧会会期中に見学を行わなかった学生は、原則として失格となる。

**西洋美術史演習 b**

—卒業論文執筆に向けた基礎訓練（2）—

駒田 亜紀子

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

主にバロック期までの西洋美術を対象に、4年次の卒論執筆に向けて、美術史の基本的な方法論を学ぶ。関心のあるテーマや作家・作品について問題設定し、作品ディスクリプション、様式・主題・図像の分析、作品間の比較検討等を行う。作品調査、研究文献・資料の探索・読解などを通じ、美術史学の基本的な方法論を実践的に学ぶ。

**【授業における到達目標】**

ディスクリプション（言葉による作品記述）能力を高める。ディスクリプションを通じ、対象作品において検討すべき美術史的課題を発見する能力、課題解決に向けた調査を行い、その成果を発表する能力を修得する。発表や見学の準備を協力して行う力を修得する。

**【授業の内容】**

1. 夏休みの課題フィードバック
2. 作品データの調査方法：画集や辞典等を活用した作品データの調査方法を学ぶ→小レポート①：指定された作家の生涯の略歴と主要作品について調べ、一覧表を作成する。
3. 小レポート①フィードバック
4. 美術作品の主題・図像分析：作品の主題・図像の同定や比較分析、任意の主題作品のデータ収集方法を学ぶ。
5. 美術作品におけるキリスト伝／ギリシャ神話主題の表現について→小レポート②：指定した主題の作品リストを作成し、異なる作品間で図像を比較する。
6. 小レポート②フィードバック
7. 展覧会见学1→小レポート③
8. 小レポート③フィードバック
9. 卒論執筆に向けたテーマ設定・課題発見：卒論作成は、各自でテーマを決め、それについて問題を設定し、作品の観察・調査と考察を通じてその解決を目指すプロセスである。
10. 期末課題発表1：各自の設定テーマについてパワーポイントと配布用発表レジюмеを作成し、発表→発表後の質疑応答やコメントを踏まえ、レポートを作成（グループA）
11. 期末課題発表2（グループB）
12. 期末課題発表3（グループC）
13. 期末課題発表4（グループD）
14. 展覧会见学2（1）：作品・作家に関する予備調査
15. 展覧会见学2（2）：見学現場での作品ディスカッション

**【事前・事後学修】**

事前学修：配布プリント記載の次回授業の内容を把握し、他の西洋美術史分野の授業内容と関連付けて理解できるようにする。提出課題の作成に取り組む。（事前学修 週2時間）

事後学修：フィードバックと照らし合わせ、自身の提出課題の問題点を具体的に把握し、改良版を作成する。（事後学修 週2時間）

**【テキスト・教材】**

テキスト（教科書）は使用しない。プリントを配布するが、授業中に各自が講義ノートを作成することが不可欠である。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業態度（積極的な参加、発表・発言）（30%）、小レポート（30%）、期末レポート（40%）の比率で評価する。コメントペーパーに対するフィードバックを授業内で行う。

**【参考書】**

配布プリント、指定図書・推薦図書を活用する。疑問が生じたら、『西洋美術用語辞典』（岩波書店）、『西洋絵画作品名辞典』（三省堂）等でまず調べる習慣を身につける。

**【注意事項】**

本演習は、授業と事前・事後学修に加え、校外で実施する展覧会等の見学を軸に進める（見学にかかる一切の費用は自己負担。見学実施日程は変更する場合がある）。展覧会会期中に見学を行わなかった学生は、原則として失格となる。

**西洋美術史研究指導特殊演習A**

より高度な知識と洞察力の獲得を目指して

駒田 亜紀子

美術史学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

研究対象・テーマに適した調査方法を具体的問題に即して指導し、論文作成につなげる。

**【授業における到達目標】**

研究対象・テーマに適した作品および資料の調査方法を修得する。  
収集した資料や作品調書の整理・活用方法を修得する。

**【授業の内容】**

1. 研究計画の作成ならびに指導
2. 研究計画の各段階における調査方法の検討
3. 調査計画の作成ならびに指導
4. 作品調査の実施ならびに指導
5. 作品調査に関する報告
6. 作品調査に基づく論文の中間報告
7. 論文中間報告の問題点の検討と指導（1）作品調査
8. 資料調査の実施ならびに指導
9. 資料調査に関する報告
10. 調査資料の整理・活用に関する指導（1）読解
11. 調査資料の整理・活用に関する指導（2）批判的検討
12. 資料調査に基づく論文の中間報告
13. 論文中間報告の問題点の検討と指導（2）資料調査
14. 研究史に照らした論点の再精査
15. 今後の研究計画の作成指導

**【事前・事後学修】**

事前学修：作品および資料の調査方法・内容を検討する。（学修時間 週2時間）

事後学修：作品および資料の調査方法・内容を検証し、次回の調査計画のブラッシュアップにつなげる。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

特になし。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（綿密な研究計画の作成と実行）100%。研究計画の作成および実行の各段階においてフィードバックを行い、計画の修正につなげる。

**【参考書】**

授業時に指示する。

**【注意事項】**

調査資料・研究文献等の整理・活用を徹底する。

**西洋美術史研究指導特殊演習B**

より独創的な研究を目指して

駒田 亜紀子

美術史学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

これまでの調査・研究を踏まえ、研究対象・テーマに相応しい、より独創的な着眼点を探りつつ、論文作成につなげる。

**【授業における到達目標】**

研究対象・テーマに適した作品および資料の調査方法を工夫し、発展させる。収集した資料や作品調書の整理・活用方法を見直し、論文作成につなげる。

**【授業の内容】**

1. 研究計画書の作成ならびに指導
2. 研究計画の各段階における調査方法の精査
3. これまでの調査を踏まえての調査方法の再検討
4. 作品調査の実施ならびに指導：関連・比較作品
5. 作品調査に関する報告：関連・比較作品
6. 作品調査に基づく論文の中間報告：関連・比較作品
7. 論文中間報告の問題点の検討と指導（1）関連・比較作品
8. 資料調査の実施ならびに指導：同時代資料
9. 資料調査に関する報告：同時代資料
10. 調査資料の整理・活用に関する指導（1）同時代資料の読解
11. 調査資料の整理・活用に関する指導（2）同時代資料の批判的検討
12. 資料調査に基づく論文の中間報告発表：同時代資料
13. 論文中間報告の問題点の検討と指導（2）同時代資料
14. 議論の独創性と妥当性の再検討
15. 今後の研究計画の作成指導

**【事前・事後学修】**

事前学修：作品および資料の調査方法・内容を検討する。（学修時間 週2時間）

事後学修：作品および資料の調査方法・内容を検証し、次回の調査計画のブラッシュアップにつなげる。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

特になし。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（綿密な研究計画の作成と実行）100%。研究計画の作成および実行の各段階においてフィードバックを行い、計画の修正につなげる。

**【参考書】**

授業時に指示する。

**【注意事項】**

調査資料・研究文献等の整理・活用を徹底する。



**西洋美術史特講 a**

地獄と怪物の図像学

木川 弘美

2年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

15世紀の北方ルネサンス絵画を中心に、地獄や魔物・怪物たちがどのように図像として表現されていたのか見ていきます。

**【授業における到達目標】**

キリスト教の地獄世界がどのように描かれていたのか、図像の特徴やモチーフの意味などについて、教義とともに理解することを目標とします。

**【授業の内容】**

- 第1週 15世紀の北方ルネサンス美術を概観する
- 第2週 古典古代の地獄・怪物
- 第3週 中世までの地獄・怪物
- 第4週 悪魔の図像1：アダムとエヴァを誘惑する蛇
- 第5週 悪魔の図像2：キリスト伝に登場する悪魔
- 第6週 悪魔の図像3：聖アントニウスの誘惑
- 第7週 悪魔の図像4：その他の聖人と怪物との関わり
- 第8週 魔女
- 第9週 大天使ミカエル1：魂の計量
- 第10週 大天使ミカエル2：竜退治
- 第11週 ロヒール・ファン・デル・ウェイデンの《ボーン祭壇画》
- 第12週 ヒエロニムス・ボスが描く最後の審判図
- 第13週 ヨハネの黙示録
- 第14週 煉獄
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

事前学習：指示された文献を読み理解すること。（学修時間 週2時間）

事後学修：講義で取り扱った作品に関して美術館のHPなどで確認し、関連する作例などを調べる。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

授業内で指示・配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

リアクションペーパー（40%）、課題や授業内でのテスト（40%）、授業内の発言などを含む授業への参加態度（20%）です。授業内のフィードバックはリアクションペーパーに関しては次回授業で、テストに関しては最終授業で行います。

**【参考書】**

- ジャック・ル・ゴッフ、渡辺香根夫他訳『煉獄の誕生』（法政大学出版局、1993年）
- アリス・ターナー、野崎嘉信訳『地獄の歴史』（法政大学出版局、1995年）
- ロバート・ヒューズ、山下圭一郎訳、『西欧絵画に見る天国と地獄』（大修館書店、1997年）
- ダンテ・アリギエリ、原基晶訳『神曲』（講談社、2014年）

**【注意事項】**

スライドを使った授業を行います。教室が暗いので、適宜補助ランプなどの持参をお勧めします。

授業と関連のあるテーマの展覧会等の見学を行う場合があります。

**西洋美術史特講 b**

楽園と天国の図像学

木川 弘美

2年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

15世紀の北方ルネサンス絵画を中心に、当時の人々が思い描いた楽園や天国がどのように図像として表現されていたのか見ていきます。

**【授業における到達目標】**

キリスト教の楽園や天国がどのように描かれていたのか、図像の特徴やモチーフの意味などについて、教義とともに理解することを目標とします。

**【授業の内容】**

- 第1回 15世紀北方ルネサンス美術を概観する
- 第2回 古典古代の楽園・天国
- 第3回 中世までの楽園・天国
- 第4回 ルネサンスの死生観：天国の意味
- 第5回 黄金時代
- 第6回 エデンの楽園
- 第7回 天使1：天使の階級とその役割
- 第8回 天使2：受胎告知と大天使ガブリエル
- 第9回 閉ざされた庭1：楽園と聖女たち
- 第10回 閉ざされた庭2：一角獣作り
- 第11回 「最後の審判」の天国
- 第12回 天の女王としての聖母マリア：聖母戴冠
- 第13回 万聖節図
- 第14回 地上の楽園
- 第15回 総括

**【事前・事後学修】**

事前学習：指示された文献を読み理解すること。（学修時間 週2時間）

事後学修：講義で取り扱った作品に関して美術館のHPなどで確認し、関連する作例などを調べる。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

授業内で指示・配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

リアクションペーパー（40%）、課題や授業内でのテスト（40%）、授業内の発言などを含む授業への参加態度（20%）です。授業内のフィードバックはリアクションペーパーに関しては次回授業で、テストに関しては最終授業で行います。

**【参考書】**

- ロバート・ヒューズ、山下圭一郎訳、『西欧絵画に見る天国と地獄』（大修館書店、1997年）
- 利倉隆『天使の美術と物語』（美術出版社、1999年）
- 佐々木英也『天使達のルネサンス』（日本放送出版協会、2000年）

**【注意事項】**

スライドを使った授業を行います。教室が暗いので、適宜補助ランプなどの持参をお勧めします。

授業と関連のあるテーマの展覧会等の見学を行う場合があります。

**西洋美術史特殊研究A**

美術史研究の方法論・視座

駒田 亜紀子

美術史学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

西洋美術における歴史画、とくに神話画および宗教画をめぐる問題について、分析・考察する方法論を学ぶ。研究文献の読解を通じて、対象作品に適した研究視座・方法論を修得する。これらを踏まえ、各学生の研究テーマに即した発表を行う。

**【授業における到達目標】**

西洋美術における神話画と宗教画について、同時代の文化的背景との関わりの中で作品を考察する方法論・視座を涵養する。作品画像分析の多様な方法論・視座を批判的に検討し、自身の研究テーマに発展的に応用する能力を高める。

**【授業の内容】**

授業内容に関連する展覧会の学外見学を行う場合があるが、展覧会の会期により、シラバスに示した実施順序が変更される場合がある。

1. イントロダクション：授業のテーマについての説明および授業計画の確認
2. 受講生の研究概要報告：受講生のこれまでの研究と授業のテーマとの接点について考える
3. 歴史画研究の視座および方法論について
4. 神話主題へのアプローチ
5. 宗教主題へのアプローチ
6. 神話画と同時代の文化的背景について：研究文献の読解
7. 宗教画と同時代の文化的背景について：研究文献の読解
8. 校外見学授業（1）神話画関連作品の見学
9. 歴史画画像分析の研究視座および方法論について
10. 歴史画の画像分析に関する研究文献の読解（1）神話画
11. 歴史画の画像分析に関する研究文献の読解（2）宗教画
12. 校外見学授業（2）宗教画関連作品の見学
13. 受講生の研究発表（1）神話画
14. 受講生の研究発表（2）宗教画
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：授業のテーマに関連する配布資料を熟読し、自身の研究テーマに照らして、疑問点を明確にする。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業で読解した資料の解析を進め、自身の研究テーマに照らして、発展的に応用する。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

教科書は使用しない。文献等は受講生の研究領域に合わせて授業中に指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業中の積極的な発言30%、発表40%、期末レポート30%の割合で評価する。発表やレポートに対してコメントを付し、フィードバックする。

**【参考書】**

授業時に指示する。

**【注意事項】**

校外見学授業に関する一切の費用は受講生の自己負担である。

**西洋美術史特殊研究B**

美術史研究の方法論・視座

駒田 亜紀子

美術史学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

西洋美術における風景画・静物画・寓意画をめぐる問題について分析・考察する方法論を学ぶ。研究文献の読解を通じて、対象作品に適した研究視座・方法論を修得する。これらを踏まえ、各学生の研究テーマに即した発表を行う。

**【授業における到達目標】**

西洋美術における風景画・静物画・寓意画について、作品受容との関わりの中で作品を考察する方法論・視座を涵養する。作品受容研究の多様な方法論・視座を批判的に検討し、自身の研究テーマに発展的に応用する能力を高める。

**【授業の内容】**

授業内容に関連する展覧会の学外見学を行う場合があるが、展覧会の会期により、シラバスに示した実施順序が変更される場合がある。

1. イントロダクション：授業のテーマについての説明および授業計画の確認
2. 風景画研究の視座および方法論について
3. 歴史画から風景画へ：研究文献の読解
4. 静物画研究の視座および方法論について
5. 歴史画から静物画へ：研究文献の読解
6. 寓意画研究の視座および方法論について
7. 静物画から寓意画へ：研究文献の読解
8. 校外見学授業（1）風景画関連作品の見学
9. 風景画・静物画・寓意画と作品受容の関わり：研究視座および方法論について
10. 作品受容に関する研究文献の読解：風景画
11. 作品受容に関する研究文献の読解：静物画・寓意画
12. 受講生の研究発表（1）風景画
13. 受講生の研究発表（2）静物画・寓意画
14. 校外見学授業（2）静物画・寓意画関連作品の見学
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：授業のテーマに関連する配布資料を熟読し、自身の研究テーマに照らして、疑問点を明確にする。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業で読解した資料の解析を進め、自身の研究テーマに照らして、発展的に応用する。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

教科書は使用しない。文献等は受講生の研究領域に合わせて授業中に指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業中の積極的な発言30%、発表40%、期末レポート30%の割合で評価する。発表やレポートに対してコメントを付し、フィードバックする。

**【参考書】**

授業時に指示する。

**【注意事項】**

校外見学授業に関する一切の費用は受講生の自己負担である。

**西洋美術史特論A**

西洋美術におけるジャンル：歴史画・肖像画

駒田 亜紀子

美術史学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

ルネサンス以降の西洋絵画には、歴史画・肖像画などの主題を区分する「ジャンル」があり、異なるジャンル間には序列があると考えられていた。中でも、キリスト教やギリシャ神話に関わる主題、あるいは歴史上の出来事などを扱う歴史画は、ジャンルの最高位に位置づけられ、西洋絵画の王道とも言うべき分野であった。王侯貴族等をモデルに当時の一流画家が制作することの多かった肖像画は歴史画に次ぐジャンルとされた。この授業では、西洋の歴史画および肖像画について、作品分析・考察の方法を学ぶ。

**【授業における到達目標】**

西洋美術における歴史画および肖像画の特色と位置づけについて理解を深める。歴史画の中でもとくに宗教画（キリスト教関連）について、主題および図像表現の多様性と、地域・時代の文化的背景との関連について、考察を広げる。これらを踏まえ、各学生の研究テーマに即した発表を行い、問題視座を深化させる。

**【授業の内容】**

授業内容に関連する展覧会の学外見学を行う場合があるが、展覧会の会期により、シラバスに示した実施順序が変更される場合がある。

1. イントロダクション：西洋美術のジャンルについて
2. 受講生の研究概要報告：受講生のこれまでの研究と授業のテーマとの接点について考える
3. 歴史画の定義・特徴について
4. 歴史画 (1) 神話主題（古代～中世）
5. 歴史画 (2) 神話主題（中世～近世）
6. 受講生発表 (1) 神話画について
7. 校外見学授業 (1) 神話画関連作品の見学
8. 歴史画 (3) 宗教画・旧約聖書主題（中世～近世）
9. 歴史画 (4) 宗教画・新約聖書主題（中世）
10. 歴史画 (5) 宗教画・新約聖書主題（近世）
11. 受講生発表 (2) 宗教画について
12. 校外見学授業 (2) 宗教画関連作品の見学
13. 肖像画 (1) 古代～中世
14. 肖像画 (2) 近世
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：授業のテーマに関連する配布資料を熟読し、疑問点を明確にする。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業で扱った視座・方法論を各自の研究テーマにフィードバックさせる。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

教科書は使用しない。文献等は、受講生の研究領域に合わせて、授業中に指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業中の積極的な発言30%、発表40%、期末レポート30%の割合で評価する。発表やレポートにはコメントを付してフィードバックする。

**【参考書】**

授業時に指示する。

**【注意事項】**

校外見学授業に関する一切の費用は受講生の自己負担である。

**西洋美術史特論B**

西洋美術におけるジャンル：風景画・静物画・寓意画

駒田 亜紀子

美術史学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

西洋美術における風景画と静物画が独立したジャンルとして認識されるようになるのは、ルネサンス以降である。その中で、風景画は、歴史画の背景から次第に独立性を高めて成立したジャンルである。一方、静物画は、中世の宗教画の登場人物のアトリビュートに淵源を持ち、15世紀以降、それらが独立性を高める中で成立した。アトリビュートに遡るモチーフは個々に象徴的な意味を担い、それらが組み合わせられることにより、寓意画へと発展した。この授業では、近世の風景画・静物画・寓意画について、作品分析・考察の方法を学ぶ。

**【授業における到達目標】**

西洋美術における風景画・静物画・寓意画の発展過程とその特色について、理解を深める。これらのジャンルと歴史画とのかかわりについて、主題および図像表現の多様性と、地域・時代の文化的背景との関連を軸に、考察を広げる。これらを踏まえ、各学生の研究テーマに即した発表を行い、問題視座を深化させる。

**【授業の内容】**

授業内容に関連する展覧会の学外見学を行う場合があるが、展覧会の会期により、シラバスに示した実施順序が変更される場合がある。

1. イントロダクション：西洋美術のジャンルについて
2. 受講生の研究概要報告：受講生のこれまでの研究と授業のテーマとの接点について考える
3. 西洋美術における風景画の展開について
4. 風景画 (1) 古代美術における風景表現
5. 風景画 (2) 中世キリスト教美術における風景画的表現の展開
6. 風景画 (3) 近世における歴史画と風景画
7. 受講生発表 (1) 風景画について
8. 校外見学授業 (1) 風景画関連作品の見学
9. 静物画 (1) 古代美術における静物表現
10. 静物画 (2) 歴史画におけるアトリビュートと静物画的表現
11. 静物画 (3) 静物画の成立
12. 寓意画：寓意画の展開
13. 受講生発表 (2) 静物画・寓意画について
14. 校外見学授業 (2) 静物画・寓意画関連作品の見学
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：授業のテーマに関連する配布資料を熟読し、疑問点を明確にする。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業で扱った視座・方法論を各自の研究テーマにフィードバックさせる。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

教科書は使用しない。文献等は、受講生の研究領域に合わせて、授業中に指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業中の積極的な発言30%、発表40%、期末レポート30%の割合で評価する。発表やレポートにはコメントを付してフィードバックする。

**【参考書】**

授業時に指示する。

**【注意事項】**

校外見学授業に関する一切の費用は受講生の自己負担である。

**西洋美術史入門 a**

—ヨーロッパ美術の展開：古代から中世へ—

駒田 亜紀子

1年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

西洋美術史入門 a では、西洋美術史の大まかな時代区分について理解した上で、古代ギリシャから中世までの美術の歴史的展開を、各時代の代表的な作品の解説を軸に、時代順に概観する。この授業では、古代から中世までの2000年余に及ぶ美術の歴史を駆け足で概観するため、それらのすべてを汲み尽くすことは難しい。授業で取り上げた作品を通じて、これらの背後に横たわる豊かな広がりを知る端緒として欲しい。

**【授業における到達目標】**

講義で取り上げる美術作品を通じて、同じ時代・地域で制作された作品に共通する特徴を把握し、言葉で説明できるようにする。個々の美術作品の特徴や美意識そのものが、作品の制作された時代や地域の価値観と密接に結びつき変化していることを、理解する。

**【授業の内容】**

1. イントロダクション；西洋美術史の時代区分
2. 古代ギリシャ・アルカイック美術：人体表現の展開
3. 古代ギリシャ・クラシック美術：規範の探求
4. 古代ギリシャ・ヘレニズム美術：地中海世界の拡大
5. エトルリア美術：「古代ローマ」以前のイタリア半島
6. 古代ローマ美術：現実世界の造形
7. 古代美術のまとめ・課題フィードバック
8. 古代末期・初期キリスト教美術：古代地中海世界の「再現」美術から中世の「非再現」美術へ
9. ビザンティン美術：神の国の造形
10. 西欧初期中世の美術（1）：ヨーロッパの多様性（ケルト、アングロ・サクソン、西ゴート、モサラベ）
11. 西欧初期中世の美術（2）：カロリング朝、オットー朝
12. 古代末期～初期中世美術のまとめ・課題フィードバック
13. ロマネスク美術：信仰の造形
14. ロマネスクからゴシックへ
15. 総括フィードバック

**【事前・事後学修】**

事前学修：配布プリントを読み次回授業の内容を予習する。指定図書・推薦図書・参考図書等に目を通し、次回授業で扱う作品の概要を把握する。課題に取り組む。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業で解説した作品の基礎データ（所蔵機関名など）を確認する。作品の制作された時代・文化的背景と作品を関連付けて理解し、作品の特徴を言葉で説明する。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

テキスト（教科書）は使用しない。プリントを配布するが、授業中に各自が講義ノートを作成することが不可欠である。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業態度（授業への積極的参加、課題提出）20%、授業時のコメント・ペーパー（小テストを含む）20%、定期試験60%の比率で評価する。コメント・ペーパーと課題に対するフィードバックは次回授業で、試験に対するフィードバックは授業最終回で行う。

**【参考書】**

『西洋美術館』（小学館 1999年）

E. H. ゴンブリッチ著『美術の物語』（ファイドン 2007年）

指定図書（OPAC参照）

推薦図書（OPAC参照）

**【注意事項】**

授業は、デジタル・スライドで提示する美術作品等の画像に解説を加えながら、進める。講義中に提示する画像のサムネイルのプリントアウトは配布しないので、注意すること。西洋の歴史および地理に関する基礎知識（高校で履修した世界史および地理の知識）を確認しておくこと。普段から美術全般に関心を持ち、西洋美術関連の展覧会等を積極的に見学することが望まれる。

**西洋美術史入門 b**

—ヨーロッパ美術の展開：中世後期からバロックへ—

駒田 亜紀子

1年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

西洋美術史入門 b では、中世末期以降の西洋美術の歴史的展開を、各時代の代表的な作品の解説を軸に、時代順に概観する。この授業では、中世末期以降の400年余に及ぶ西歐美術の歴史を駆け足で概観するため、それらのすべてを汲み尽くすことは難しい。授業で取り上げた作品を通じて、これらの背後に横たわる豊かな広がりを知る端緒として欲しい。

**【授業における到達目標】**

講義で取り上げる美術作品を通じて、同じ時代・地域で制作された作品に共通する特徴を把握し、言葉で説明できるようにする。個々の美術作品の特徴や美意識そのものが、作品の制作された時代や地域の価値観と密接に結びつき変化していることを、理解する。

**【授業の内容】**

1. イントロダクション：西洋美術史の時代区分
2. ゴシック美術：大聖堂の時代
3. アルプス以北の中世末期の美術：宮廷と貴族の美術
4. イタリアの中世末期の美術：都市国家の美術
5. イタリアの初期ルネサンス美術：マザッチョとフラ・アンジェリコ
6. イタリアの盛期ルネサンス美術1：ボッティチェッリとレオナルド
7. イタリアの盛期ルネサンス美術2：ラファエッロとミケランジェロ
8. イタリアの盛期ルネサンス美術3：ヴェネツィア派の絵画
9. アルプス以北のルネサンス美術1：初期ネーデルラント絵画
10. アルプス以北のルネサンス美術2：ドイツ・ルネサンス絵画
11. マニエリスム美術
12. イタリアのバロック美術
13. アルプス以北のバロック美術
14. 中世後期～バロック美術のまとめ・フィードバック
15. 総括フィードバック

**【事前・事後学修】**

事前学修：配布プリントを読み次回授業の内容を予習する。指定図書・推薦図書・参考図書等に目を通し、次回授業で扱う作品の概要を把握する。課題に取り組む。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業で解説した作品の基礎データ（所蔵機関名など）を確認する。作品の制作された時代・文化的背景と作品を関連付けて理解し、作品の特徴を言葉で説明する。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

テキスト（教科書）は使用しない。プリントを配布するが、授業中に各自が講義ノートを作成することが不可欠である。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業態度（授業への積極的参加、課題提出）20%、授業時のコメント・ペーパー（小テストを含む）20%、定期試験60%の比率で評価する。コメント・ペーパーと課題に対するフィードバックは次回授業で、試験に対するフィードバックは授業最終回で行う。

**【参考書】**

『西洋美術館』（小学館 1999年）

E. H. ゴンブリッチ著『美術の物語』（ファイドン 2007年）

指定図書（OPAC参照）

推薦図書（OPAC参照）

**【注意事項】**

授業は、デジタル・スライドで提示する美術作品等の画像に解説を加えながら、進める。講義中に提示する画像のサムネイルのプリントアウトは配布しないので、注意すること。西洋の歴史および地理に関する基礎知識（高校で履修した世界史および地理の知識）を確認しておくこと。普段から美術全般に関心を持ち、西洋美術関連の展覧会等を積極的に見学することが望まれる。

## 西洋料理実習

長澤 美明

4年 後期 1単位 3時限連続 隔週

◎：協働力 ○：国際的視野、美の探究

## 【授業のテーマ】

西洋料理の技術と知識の習得

## 【授業における到達目標】

学生が習得すべき「協働力」を育成し、専門的技術としての習得すべき「学術的な力」となる技能を習得する。

## 【授業の内容】

- ①カナダ産オマール海老のサラダ シェリー酢風味  
マグレ鴨胸肉のロースト ソース ポワヴェルベール  
ポテトのガレット  
フランス産チーズカマンベールチーズ・フルーツセック・パン  
マンゴーフルーツのシャーベット
- ②ミックスサンドウィッチ（ロースハム・プロセスチーズ）  
ポテトの冷製スープ ヴィシソワーズ  
トマトとメスクランのサラダ 王冠仕立て  
フランス産チーズ・サントモールサンドレ・フルーツセック  
ヴァニラのアイスクリューム
- ③スモークサーモンと各種野菜のサラダ  
パスタ・アーリオ・オーリオ・ペペロンチーノ  
フルーツのタルト  
チョコレートの小菓子  
パッションのシャーベット
- ④プレーンオムレツとグリーンサラダ  
ペンのボローニヤ風  
スイス産チーズ・テートドモワンス・フルーツセック・パン  
イチゴのムース・フレッシュフランボワーズ添え  
プティガトー（クッキー）  
フランボワーズのシャーベット
- ⑤フォアグラ・生ハム・野菜・キノコのマリネのサラダ仕立て  
仔羊のロースト・マスタードソース  
グラタンドフィノワーズ  
フランス産チーズ・ロックフォール・フルーツセック・パン  
ババマンガのシャーベット
- ⑥パーティー料理各種  
ズワイガニのサラダ・海の幸のマリネ・カツサンド・  
海老マカロニグラタン・ローストビーフ・お魚のハンバーグ  
ショートケーキ・タルト・イチゴのアイスクリューム
- ⑦授業のまとめ1
- ⑧授業のまとめ2 1クラス135分 A・Bクラス連続

## 【事前・事後学修】

## 【事前学修】

manabaから使用する資料およびレシピを印刷し予習すること。（学修時間 週1時間）

## 【事後学修】

実習内容について考察し、レポートにまとめ提出する。（学修時間 週1時間）

## 【テキスト・教材】

- ・プリント配布

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

・実技試験・筆記試験50%、授業態度20%、レシピ20%、レポート10%（レポートは次回授業時にフィードバックする）

## 【注意事項】

- ・食材の仕入れ状況によりメニューを変更する可能性があります。
- ・1クラス 24名を定員とする。

## 設計製図基礎

橋 弘志

2年 前期 2単位

◎：行動力 ○：美の探究、研鑽力

### 【授業のテーマ】

3次元の空間を2次元にあらわす製図の技術は、建築士やインテリアプランナーに代表される空間を扱う専門家や、プロダクトデザイナーなど3次元の物のデザインに携わる専門家にとって、基本的かつ必須のものです。製図とは、デザインする人、つくる人、利用する人、相互のコミュニケーションの手段であり、そのためには一定のルールを守って図面化することが求められます。ここでは、主に建築図面を題材としてその描き方や読み方を学び、製図の基礎的な技術を習得します。

### 【授業における到達目標】

<美の探求>「人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度」、<研鑽力>「学習成果を実感して、自身を創出することができる力」、<行動力>「目標を設定して、計画を立案・実行できる力」を修得する。

### 【授業の内容】

- 第1週 建築製図の基本的考え方
- 第2週 製図用具の使い方
- 第3週 線の引き方と図面の規則
- 第4週 詳細図
- 第5週 建築記号
- 第6週 木造住宅平面図
- 第7週 RC造住宅平面図
- 第8週 断面図
- 第9週 アイソメ・アクソメ図
- 第10週 透視図の基礎
- 第11週 一点透視図
- 第12週 二点透視図
- 第13週 インテリアの設計
- 第14週 建築模型の作成
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：前回までの製図の描き方を理解した上で授業に臨むこと（学修時間 週2時間）。

事後学修：毎回課題が出題されるので、次回の授業までに作図し、確実に提出すること（学修時間 週2時間）。

### 【テキスト・教材】

教材は適宜プリントを配布します。

製図用具は各自購入して毎回持参してください。必要な用具はオリエンテーション時および授業内で指示します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度）30%、提出されたすべての課題（プレゼンテーション含む）70%によって評価します。（課題がすべて提出されてはじめて評価の対象となります。）

提出課題については、次回授業でフィードバックします。

### 【注意事項】

「生活空間設計製図1～3」を履修する上で、本授業の修得が必須となります。これらを履修しようとする人は、2年次に「設計製図基礎」を確実に修得してください。

**専門演習 I****大学院担当専任教員全員**

人間社会専攻 通年 4単位

進捗状況に応じて、個別にフィードバックする。

**【授業のテーマ】**

専門演習 I は専門性の高度化を目指した研究指導を行う。  
 研究対象とする各専門分野の研究成果から研究上必要とされる先行研究の文献を選択し読み解釈し討議を行い、修士論文の作成に取り掛かるための研究方法（研究計画書の作成など）を習得させる。したがって研究の仕方や事例研究、専門分野によっては現地調査、実験などもあり、演習を通して思考力や分析力が身につくよう指導する。演習の進め方は以下のとおりである。

**【授業における到達目標】**

本演習を通じて研究テーマに関する文献サーベイを終え、研究動向や主要な研究の流れについて概要が把握できるようになる。それらを踏まえ、研究テーマに求められる研究方法や研究デザインを概要がつかめるようになる。

**【授業の内容】**

- 第1週 研究課題と専門分野との整合性について確認する。文献研究の重要性や調査・実験などの意味の説明および専門分野としての学問を述べる、
- 第2週 先行研究の文献をリストアップし、どのような順序で読むか計画を立て、学習の順序及び演習の進め方（発表、レジュメ）を決定する。
- 第3週 最初に読む文献（1～数編）の発表と質疑を行い、内容に関する討議を行う。
- 第4週 さらに最初に取上げ発表した文献を、具体的にポイントを絞り、さらに討議する。
- 第5週 最初に発表した文献を整理し、意図したことは何か、明らかにしたかったことは何かを討議する。分析方法や論理性や証明性を検討する。
- 第6週 次の文献に入り、要約と論点などを整理したものを発表し討議を行い、前回の文献との関連性について言及する。
- 第7週 第5週、第6週で読んだ文献がこれから研究しようと思っている研究に使える情報なのかどうか検討する。
- 第8週 次に読む参考文献の選定や調査、実験が必要かどうかもう一度整理を行い、討議し、決定する。
- 第9週 決められた文献研究や調査などを行い、その結果を発表し、どのように評価すべきか討議し、指導する。
- 第10週 引き続きこれまでの文献研究や調査、実験などから分析の手法や調査の仕方などを整理し、発表させ、評価と指導する。
- 第11週 研究対象を絞りこむ方法を指導する。
- 第12週 具体的に研究目的、研究課題および準備作業（最終論文に仕上げるまでの過程）について指導する（研究計画の立案）
- 第13週 研究計画（研究目的、研究課題、研究の順序、目次、期間、実験、巡検など）の発表と、その評価と問題点を検討し指導する。
- 第14週 研究計画書の加筆・訂正による発表に基づき、意見を述べ、討議し、一応まとめるよう指導する。
- 第15週 修士論文作成のためにまとめた研究計画書の最終評価を行い、研究をスタートするよう指導する。

**【事前・事後学修】**

事前学修：各専門分野で選択した論文、著書の要約、発表のための準備と研究課題（案）を用意しておくこと  
 事後学修：修士論文作成のための研究計画書（案）の加筆・訂正を行うこと  
 事前・事後学修で週4時間以上を要する。

**【テキスト・教材】**

特になし。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

発表と「研究計画書」の提出により評価する。

## 専門演習Ⅱ

### 大学院担当専任教員全員

人間社会専攻 通年 4単位

#### 【授業のテーマ】

専門演習Ⅱは専門演習Ⅰの学習成果をさらに高度な専門研究に発展させるための段階である。各研究計画書に基づき、順序に従って研究論文の進捗報告とそれについての質疑および助言と指導を行う。最終的に修士論文の作成・完成まで指導する。演習の進め方は以下のとおりである。

#### 【授業における到達目標】

本演習を通じて、修士論文の的確な進捗状況を把握できるとともに、その完成に向け、文章の完成度を高めることができる。また、ディスカスを通じて疑問点や問題点の払拭ができるようになる。

#### 【授業の内容】

- 第1週 研究計画書で書かれた論文構成にしたがってどのような順序で執筆するのか、また問題意識と研究課題から研究の意義や先行研究文献の取り上げ方や調査の有無などの確認と進めていく際の指導をする。
- 第2週 再度、研究上の問題点も含め執筆作業に取り掛かるよう指導する。
- 第3週 1回目の発表に対して問題点（先行研究、論理構成、分析方法等）などを指摘し、助言・指導する。
- 第4週 加筆・訂正した1回目の発表論文の内容の評価を行い、可否を決定する。
- 第5週 次章の進捗状況の発表とその助言と指導をする。
- 第6週 2回目の論文発表に対し問題点（先行研究、論理構成、分析方法等）などを指摘し、助言・指導する。
- 第7週 加筆訂正した2回目の発表論文の内容の評価を行い、可否を決定する。
- 第8週 3回目の発表に対する論文の進捗報告とそれに対する助言・指導する。
- 第9週 3回目の論文発表に対し問題点（先行研究、論理構成、分析方法等）などを指摘し、助言・指導する。
- 第10週 加筆訂正した3回目の発表論文の内容の評価を行い、可否を決定する。
- 第11週 4回目の発表論文に対し問題点（先行研究、論理構成、分析方法等）などを指摘し、助言・指導する。
- 第12週 4回目の発表論文の評価と可否および修士論文の取りまとめにかかるよう指導する。
- 第13週 最終発表論文の中間発表とその問題点の指摘および加筆、訂正の検討。
- 第14週 加筆・訂正した最終論文の発表と残された課題の方向付けをする。
- 第15週 修士論文とそのレジュメに基づく発表とその評価および学位（修士）申請書類の作成に向けて助言・指導する。

#### 【事前・事後学修】

研究テーマに応じた専攻研究や論文サーベイを通じて、研究課題を用意する。  
週4時間以上の学修を要する。

#### 【テキスト・教材】

特になし。

#### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

中間報告及び修士論文スケールのできに応じて評価をする。  
中間報告に対し、適宜、フィードバックする。



## 染色加工学

牛腸 ヒロミ

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

## 【授業のテーマ】

色は形とともに衣服にとって重要な要素で、衣服の外観的性能に大きく関わっています。衣服に代表される繊維製品を染めるために使われる染料の種類と特性、なぜ繊維素材が染まるのかといった染色理論やどのように染めるのかといった染色加工技術を学び、衣服や他の繊維製品にとって、実用上重要な染色堅ろう度などについて理解を深めます。また被服の着心地や繊維製品の機能性に関わる加工について、その原理と方法を学びます。

## 【授業における到達目標】

テキスタイルの素材、それを染める染料、染色機構、染色加工技術についてなど、染色加工についての基礎知識を修得します。研鑽力を磨きます。

## 【授業の内容】

1. 染色加工とは
2. 染料と染色の歴史
3. 浸染と捺染
4. 染着の原理
5. 光の吸収と色
6. 色の測定
7. 直接染料と酸性染料とカチオン染料
8. 媒染染料と建て染め染料
9. 分散染料と反応染料
10. 天然繊維の染色
11. 合成繊維の染色
12. 染色物の堅ろう度
13. 堅ろう度試験とその評価
14. 機能加工
15. まとめ

## 【事前・事後学修】

毎回の授業の前にテキストの当該箇所を読んでおき、授業後に内容が理解できたことを確認して下さい。

事前、事後学修はともに2時間程度/週は費やして下さい。

## 【テキスト・教材】

プリント

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験60%、レポート30%、受講態度10%

授業の中で講評します。

## 【参考書】

中島利誠編著『新稿 被服材料学』（光生館 2010年）

その他適宜紹介

## 【注意事項】

授業前に当該箇所を読んでおいて、授業後に、理解できたことを確認して下さい。

## 繊維高分子材料学

加藤木 秀章

1年 後期 2単位

◎：研鑽力

## 【授業のテーマ】

衣服やインテリア用品などは繊維と高分子からできており、これらの性能の多くは構成する高分子と繊維の種類と性質によって決まる。そのため、衣服やインテリア製品の企画・設計・製造や選択・使用では、繊維と高分子の構造と性質を知ることが重要である。

## 【授業における到達目標】

生活環境を物質の面から支えている繊維高分子材料を整理して理解できるように講義する。広い視野と深い洞察力を身につけ繊維高分子の種々の性質を理解する「研鑽力」を養う。選必2単位。

## 【授業の内容】

- 第1週 イントロダクション
- 第2週 高分子（高分子の種類と分類、低分子と高分子）
- 第3週 高分子の構造  
内部構造（分子構造、凝集構造、配向、結晶と非晶）
- 第4週 高分子の性質  
熱的性質（ガラス転移点、融解、分解、燃焼）  
力学的性質（力と変形、応力-歪み曲線、ヤング率、強度、伸度、塑性と弾性）
- 第5週 繊維の種類と分類
- 第6週 繊維の構造  
繊維の形態、太さ（デニール、テックス、番手）
- 第7週 繊維の性質  
力学的性質（強度、伸度、型くずれ、しわ）  
化学的性質（耐薬品性）  
物理化学的性質（吸湿、染色）  
その他の性質（静電気、光沢や光の反射吸収など）  
\*（財）防災協会から講師を招いて防災について講演の予定
- 第8週 天然繊維 1（植物繊維—綿、麻類）
- 第9週 天然繊維 2（動物繊維—毛、絹、鉱物繊維）
- 第10週 化学繊維 1  
化学繊維の歴史と製造（重合、紡糸、延伸、熱処理）
- 第11週 化学繊維 2  
再生繊維（レーヨン、キュブラ、ポリノジック）  
半合成繊維（セルロース系、蛋白質系）
- 第12週 化学繊維 3  
合成繊維（ナイロン、ポリエステル、アクリル）
- 第13週 化学繊維 4  
合成繊維（ビニロン、ポリプロピレン、PE、スパンデックス、塩化ビニル、ビニリデン…）
- 第14週 新しい繊維
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】授業前にテキストおよび事前にmanabaで配布する授業内容を予習しておく。授業の終わりに、15分程度の小テスト（3回）があるので、事前学修しておく。（学修時間 週2時間）

【事後学修】小テストの結果は採点し返却するので、できなかった箇所は十分に復習しておく。（事後学修 週2時間）

## 【テキスト・教材】

城島栄一郎他著『基礎からの被服材料学』（文教出版 1997年）2、700円

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト・中間テスト20%、期末試験60%、平常点（授業への積極的な参加・提出課題）20%を総合して評価する。

テスト結果は採点して次週の授業中に返却する。正解や注意点を伝えることで学生にフィードバックする。

## 【参考書】

宮本武明他著『新繊維材料入門』（日刊工業新聞社）

中島利誠他著『新稿被服材料学』（光生館）

**【注意事項】**

最終試験の前に、採点して返却した小テストの中でできなかったところを繰り返し復習しておくこと。

**繊維高分子材料実験**

牟田 緑

2年 前期・後期 2単位 2時限連続

◎：行動力 ○：協働力

**【授業のテーマ】**

1年後期の繊維高分子材料学で学んだ内容を基礎とし、繊維と高分子の主要な性質を実験を通して理解する。前半は、単一の繊維から成る15種類の標準試験布を用い繊維の形態と理化学的な性質を調べ、後半は、配布する市販混用布を各人で鑑別し混用率測定の実験をおこなう。また、機器を利用した鑑別・分析法、高分子の合成と繊維の製造、吸湿度測定、粘弾性測定などの実験をおこなう。

**【授業における到達目標】**

各種繊維の特徴を理解して、最終的に市販の衣料の繊維鑑別と混用率計測を独力でできるようになることを目標とする。

学生が修得すべき「態度」のうち、実験に対し真理を探究しようとする態度で臨み、実験のプロセスや成果を正しく評価する「行動力」を養う。選択2単位。

**【授業の内容】**

- 1 実験上の注意事項、概要の説明、レポートの書き方
- 2 顕微鏡による繊維の形態観察
- 3 繊維の化学的性質の測定  
耐薬品性、呈色反応
- 4 繊維高分子の密度の測定  
浮沈法、比重ビン法、密度勾配管法による測定
- 5 繊維高分子の熱的性質 燃焼性実験、融点測定
- 6 繊維特性のまとめ
- 7 未知試料鑑別 1  
配布する混用布につき、各自で繊維を鑑別し混用率を求める
- 8 未知試料鑑別 2  
形態観察、溶解性実験、密度測定、燃焼性観察など
- 9 機器による分析 1  
赤外吸収スペクトル、電子顕微鏡、示差走査型熱量計
- 10 機器による分析 2  
赤外吸収スペクトル2、電子顕微鏡2、示差走査型熱量計2
- 11 未知試料鑑別 3 混用率測定
- 12 機器による分析と未知試料鑑別のまとめ
- 13 繊維の吸湿度の測定、繊維の粘弾性測定
- 14 繊維と高分子の製造  
ナイロン66の界面重合、キュプラの製造、ビニロンの製造
- 15 全体のまとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】1年次に学んだ繊維高分子材料学を復習しておくこと。毎回の授業前に、実験テキストで当該箇所を必ず予習し、的確な実験が遂行できるよう準備しておく。（学修時間 週2時間）

【事後学修】実験後は翌週に提出するレポートをまとめることで、実験方法・実験結果の理解を深める。（学修時間 週6時間）

**【テキスト・教材】**

テキストを配布する。白衣を用意し動き易い靴を履くこと。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポートと実験への取り組みから総合的に評価する（レポート80%、取り組み20%）。提出されたレポートは添削して返却し、コメントと共に学生にフィードバックする。

**【参考書】**

①『繊維製品試験（第3版）日本衣料管理協会編』（日本衣料管理協会発行1990）②中島利誠編著、金子、清水、牛腸、牟田『新編被服材料学』（光生館 2010）

**【注意事項】**

半分程度はグループでおこなう実験であり、無断欠席は他のメンバーに迷惑がかかる。止むを得ず欠席する場合は、事前に研究室へ連絡すること。

**相談援助**

大澤 朋子

4年 後期 1単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

保育所保育士は園児の保育はもちろんのこと、保護者への育児相談、入園待機児の保護者や地域の子育て家庭の相談援助を担うことを期待されており、育児不安の軽減や児童虐待の早期発見を担う専門職である。本科目では、相談援助の基本であるソーシャルワークの理論と技術を学び、後半では事例分析やロールプレイを通して、保護者面接の基礎を学ぶ。

**【授業における到達目標】**

保育者として相談援助にあたる際に必要とされる基本的な面接技法・倫理を身につける。他者を理解し、支援する力を身につける。学生が修得すべき「行動力」である、①現状を正しく把握し、課題を発見する力、②目標を設定して、計画を立案・実行する力、③プロセスや成果を正しく評価し、問題解決につなげる力、および「協働力」のうち、①自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進める力、②互いを尊重し信頼を醸成して、豊かな人間関係を構築する力修得する。

**【授業の内容】**

- (1) オリエンテーション・非言語メッセージ①五感を開く
- (2) 非言語メッセージ②距離・配置・空間
- (3) 言語・非言語メッセージを味わう
- (4) 相談援助の理論と意義
- (5) 相談援助の機能
- (6) 相談援助とソーシャルワーク
- (7) 保育とソーシャルワーク
- (8) 相談援助の対象と過程
- (9) 計画・記録・評価
- (10) 関係機関との協働と多様な専門職との連携
- (11) 相談援助の社会資源の活用・調整・開発
- (12) ロールプレイ、フィールドワーク等による事例分析
- (13) 虐待の予防と対応等の事例分析
- (14) 障害のある子どもとその保護者への支援等の事例分析
- (15) まとめ

**【事前・事後学修】**

事前：事例の背景理解のための調べ学修・レポート作成（学修時間週2時間）

事後：授業で学んだ基本的な面接技法の練習、事例分析（学修時間週2時間）

**【テキスト・教材】**

特に指定しない。教材・資料は演習ごとに配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への積極的参加・リアクションペーパー・課題提出）

60%、レポート40%

毎回の授業でグループワークへのフィードバックを行う。

**総合演習**

美術史学の実践的な研究方法の吟味

**大学院担当専任教員全員**

美術史学専攻 集前 2単位

**【授業のテーマ】**

修士論文作成に向けて、博士前期課程2年目以上の院生は、各自の修論の途中経過をパワーポイントによって口頭発表し、それに対する美術史学専攻の全専任教員より質問やコメントを受ける。

**【授業における到達目標】**

発表者は自らの研究状況を確認するとともに、新たな問題点を見出し、研究内容をさらに深化発展させ、より充実した修論作成へ向けて努める。

**【授業の内容】**

これは、通常の授業とは異なり、集中講義形式となる。

- 1、修了予定者は、4月より主副の両指導教員と適宜アポイントをとって面談を重ね、発表の構想を練り、各自の研究成果をまとめ、わかりやすく発表するために、パワーポイントや配付資料の準備をする。（授業時間の①～⑧に相当する）
- 2、主副の指導教員の立ち会いの下、予備発表を重ね、研究方法や研究内容を吟味する（⑨～⑩）
- 3、美術史学専攻の全専任教員及び全院生の前で、本発表を行う。（⑫・⑬・⑭）発表時間は25分、質疑応答を含めて、各自の持ち時間は40分である。その他全体的な講評も行う。7月上旬を予定しているが、詳しい日程については追って公表する。なお、この会は、美術史学専攻の全院生にとっても、学術研究情報の交換の場として、方法論の構築や共有に資するものとなる。
- 4、指導教員とともに反省会を行い、問題点を再吟味する。（⑮）

**【事前・事後学修】**

事前：発表内容、パワーポイントと配付資料の準備。（週平均2時間）

事後：教員の指導をふまえて、各自のテーマを再考し、深める。（週平均2時間）

**【テキスト・教材】**

適宜指導する

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

発表内容（パワーポイントや配付資料の内容も含めて）70%、質疑応答や討論での発言30%。発表後に指導教員から個別にフィードバックする。

**【参考書】**

無し。

**【注意事項】**

担当の教員の指示に従い、遅滞無く準備し、積極的に発言すること。

## 総合演習 a

於保 祐子・中村 彰男

4年 前期 1単位

○：研鑽力

## 【授業のテーマ】

人体の構造と機能および疾病の成り立ちに係る知識・理論を整理・統合し、当該分野の応用問題を解決できる能力を養うことを目標として演習を行ないます。

## 【授業における到達目標】

- ・栄養素の構造と機能、その代謝について理解し、説明できる。
- ・臓器・器官の構造と機能及び疾患について理解し、説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係：

学生が修得すべき「研鑽力」のうち

「学修成果を実感して、自信を創出することができる」と「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる」を修得する。

## 【授業の内容】

第1週 アミノ酸・たんぱく質の構造・機能

第2週 糖質と脂質の構造・機能

第3週 アミノ酸・たんぱく質の代謝

第4週 糖質の代謝

第5週 脂質の代謝

第6週 生体エネルギーと代謝

第7週 肥満と代謝疾患

第8週 消化器系の構造、機能および疾患

第9週 循環器系の構造、機能および疾患

第10週 腎尿路系の構造、機能および疾患

第11週 神経系の構造、機能および疾患

第12週 内分泌疾患と生殖器系の構造、機能および疾患

第13週 呼吸器系、運動器系の構造、機能および疾患

第14週 血液・リンパ系の構造、機能および疾患

第15週 免疫アレルギー疾患と感染症とまとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】受講分野が多岐にわたります。テキストや過去の学習使用した当該分野の教科書、ノート、プリント、参考書などを整理し、受講する上で必要となる知識を整理・確認しておく必要があります（学修時間 週2時間）。

【事後学修】授業内容について、確認テストを行います。復習し理解しておいてください（学修時間 週2時間）。

## 【テキスト・教材】

『クエスチョンバンク、管理栄養士』（メディックメディア）

4,500円（税別）講義開始時に手元にある版を持参する。（最新刊は学期中に発行予定。）

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（小テスト）40%、試験60%で評価します。

小テストや試験の結果については、次回授業でフィードバックします。

## 総合演習 b

松島 照彦

4年 前期 1単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

## 【授業のテーマ】

管理栄養士の職務を遂行する上で必要な知識を統合し応用の能力を身につける。これまでに学んだ専門科目について、縦割り、個別ではなく、体の仕組み、食物・食品の特性、疾病の概要と疾病における栄養の障害と栄養の必要性、栄養管理法から指導戦略の構築までを総合的な流れとして把握する。

症例などを題材にして、人体の構造と機能、生化学、基礎栄養学、食品学、衛生学、臨床栄養学、栄養教育学について横断的に演習を行う。

## 【授業における到達目標】

この教科を学修することにより、社会に出て傷病者に臨んだ時、その病歴、症候、検査所見から病因と病態を正しく把握し、鑑別診断を行い、必要な情報を挙げ、栄養上の問題と、適切な栄養管理の方針を立てることができるようになる。

研鑽力の内、探求力、自信創出力、洞察力を多に養うことができる。行動力の内、課題発見、目標設定、計画立案、改題解決力を大いに培うことができる。現場で実際の症例に臨むにあたっての自信を大きく育てることができるであろう。

## 【授業の内容】

第1回～第3回. 栄養障害等の症例を題材にして、栄養評価法、栄養法の選択、栄養の立案、計画を演習する。

第4回～第7回. 糖尿病、代謝内分泌疾患、血液免疫系疾患などの症例を題材にして、生化学、基礎栄養学、臨床栄養学、栄養教育学などについて総合的に演習を行う。

第8～11回. 循環器、腎泌尿器、呼吸器疾患などの症例を題材にして、構造と機能、臨床栄養学等について総合的に演習を行う。

第12～14回. 上部消化管、下部消化管、肝胆膵疾患などの症例を題材にして、食品、衛生、構造と機能、基礎栄養学、臨床栄養学などについて総合的に演習を行う。

第1回 倦怠感と黄疸がみられた症例

第2回 動悸、息切れとむくみがみられた症例

第3回 みぞおちの痛みと黒色便がみられた症例

第4回 舌の痛みと食後のめまいがみられた症例

第5回 高血圧と脱力感がみられた症例

第6回 尿に糖が出て急に太った症例

第7回 酒飲みを治療中に意識障害に陥った症例

第8回 体重減少と右下腹部の痛みがみられた症例

第9回 痩せた高齢者を治療中に呼吸困難に陥った症例

第10回 糖尿病で足のしびれがみられた症例

第11回 腎臓が悪く倦怠感が強くなった症例

第12回 大量飲酒者で腹痛とやせがみられた症例

第13回 長期喫煙者で息苦しさが増してきた症例

第14回 単身赴任でコレステロールが高くなった症例

第15回 肝臓が悪く吐血した症例

## 【事前・事後学修】

・事前学修：3学年までに履修した全ての専門科目について復習し、整理し、まとめておくこと。あらかじめプリントを配布する。授業では指名して答えさせるので、予定した「症例」について、指定された予習（ワーク）をしておくこと。要する時間は週当たり4時間である。

・事後学修：復習をすること。

## 【テキスト・教材】

プリント（症例集）を配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験60%、その他40%：授業での積極的な発表、症例についての適切な分析、特別講義等連携する他の国家試験対策授業の履修・積極的な参加・到達度を評価し、校内模擬試験の成績も評価の対象とする。期末試験終了後に解説を行う。

## 【参考書】

- 『クエスチョンバンク管理栄養士』（メディックメディア）  
『管理栄養士国家試験過去問解説集』（管理栄養士国試対策研究会編、中央法規）  
『管理栄養士国家試験問題と解答』（日本栄養士会編、第一出版）

## 【注意事項】

特別講義、国試対策講座等連携する他の国家試験対策の授業、講座に参加、履修すること。

## 総合演習 c

於保 祐子・松島 照彦

4年 前期 1単位

◎：研鑽力 ○：行動力

## 【授業のテーマ】

この授業は、生化学・基礎栄養学・応用栄養学・臨床栄養学で学んだ人間栄養学における栄養現象について、各ライフステージに分けて、身体の特徴、栄養特性、栄養管理、疾病について横断的に演習することで知識を深める。また、これらの知識を集団への食事の提供という具体的な形とするために給食経営についても学ぶ。

## 【授業における到達目標】

到達目標：

- ・ライフステージごとの身体的特徴と栄養管理について理解し、説明できる。
- ・給食管理について具体的に説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係：

学生が修得すべき「研鑽力」のうち

「学修成果を実感して、自信を創出することができる」と「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる」を修得する。

## 【授業の内容】

- |      |                                     |
|------|-------------------------------------|
| 第1週  | 妊娠期の生理的変化・特徴と栄養の特性および食事摂取基準         |
| 第2週  | 妊娠期の栄養管理と疾病                         |
| 第3週  | 新生児・乳児期の生理的変化・特徴と栄養の特性および食事摂取基準     |
| 第4週  | 新生児・乳児期の栄養管理と疾病                     |
| 第5週  | 学童期の生理的変化・特徴と栄養管理および食事摂取基準          |
| 第6週  | 思春期の生理的変化・特徴と栄養管理および食事摂取基準          |
| 第7週  | 成人期の栄養アセスメントと栄養管理                   |
| 第8週  | 生活習慣病と食事療法および食事摂取基準                 |
| 第9週  | 高齢期の生理的変化・特徴と栄養                     |
| 第10週 | 高齢期の疾病と栄養管理および食事摂取基準                |
| 第11週 | 栄養関連疾患（欠乏症、過剰症）・運動による生理的変化と運動時の栄養管理 |
| 第12週 | ライフステージごとの給食の計画                     |
| 第13週 | ライフステージごとの給食の運営                     |
| 第14週 | ライフステージごとの給食の評価                     |
| 第15週 | まとめ                                 |

## 【事前・事後学修】

## 【事前学修】

毎回の授業前に課題に取り組むこと。（学修時間1時間/週）

## 【事後学修】

授業で行った課題の復習をすること。（学修時間30分/週）

## 【テキスト・教材】

- 『日本人の食事摂取基準（2015年版）』（第一出版）本体2,700円  
『クエスチョンバンク、管理栄養士』（メディックメディア）  
注：授業開始時に手持ちの版を持参する。最新版は、学期の途中で出版される予定。 本体4,500円  
他に資料を配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験90%、授業態度10%で評価する。  
フィードバックは試験の解説で行う。

**総合演習 d**

長谷川 めぐみ・森川 希

4年 前期 1単位

○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

管理栄養士として必要な知識及び技術のうち、特に疾病の一次予防を中心とした関連教科の重要な項目を系統的に修得することを目的とする。具体的には、個人または集団の食生活改善を介して健康づくりを推進するため、給食経営を含む栄養プログラムのマネジメントに必要な情報収集、現状分析、科学的根拠に基づく計画立案と評価のあり方を科目縦断的に演習する。

**【授業における到達目標】**

管理栄養士として、健康の維持・増進のための栄養管理・指導、あるいは給食の管理運営を行うのに必要な総合的知識を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション  
(健康の維持・増進および疾病の一次予防の重要性と、公衆衛生・公衆栄養・栄養教育・給食経営管理との関わり)
- 第2週 集団や地域における健康状態の判定 (保健統計の活用)
- 第3週 わが国や諸外国の健康・栄養問題の動向
- 第4週 わが国の健康・栄養状態の課題と健康増進関連施策
- 第5週 生活習慣病予防のための公衆栄養プログラム  
(特定健康診査・特定保健指導)
- 第6週 健診データ・レセプトデータ分析からみる生活習慣病管理
- 第7週 疫学研究論文の読み方① (横断研究、地域相関研究)
- 第8週 疫学研究論文の読み方② (コホート研究、症例対照研究)
- 第9週 疫学研究論文の読み方③ (介入研究)
- 第10週 栄養疫学研究と食事摂取基準
- 第11週 集団を対象とした食事摂取基準の活用
- 第12週 対象者の特性を把握した給食マネジメント
- 第13週 健康管理と給食の意義
- 第14週 給食の運営とマネジメント
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

毎回の授業前に課題に取り組むこと。(学修時間1時間/週)

**【事後学修】**

授業で行った課題の復習をすること。(学修時間30分/週)

**【テキスト・教材】**

『健康・栄養科学シリーズ 公衆栄養学』(南江堂) 本体3,000円  
『日本人の食事摂取基準(2015年版)』(第一出版) 本体2,700円  
その他、必要な教科書類についてはその都度指示する。  
他に資料を配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験90%、授業態度10%で評価する。

課題については、次回授業でフィードバックを行う。

**卒業演習A**

個人・対人・集団・異文化におけるコミュニケーション

久保田 佳枝

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

この演習では、外国だけでなく日本の中にも文化の違いがあることを学んだり、また自分の意見の主張や相手との交渉というようなコミュニケーションの技法を体験したりしていきます。さまざまなアクティビティを通じて、自分とは異なる他者とうまくやっていく手がかりとなるコミュニケーション方法を理論と学びながら、後期にはそれを個人またはチームごとに実践していきます。

**【授業における到達目標】**

この演習は、多様な人々とのかかわりにおいて、自分らしさを表現しながら、自らが主体的に考え行動し、自ら成長していくことを目標としています。また、この演習を通じて、国際的視野を養い、行動力、協働力の育成をも目指します。

**【授業の内容】**

1. オリエンテーション（シラバス・授業の進め方などの説明）
  2. アイスブレイク①
  3. アイスブレイク②
  4. アイスブレイク③
  5. アイスブレイク④
  6. 面接練習①
  7. 面接練習②
  8. 価値観①
  9. 価値観②
  11. 価値観③
  12. 思い込み①
  13. 思い込み②
  14. 個人・チーム編成に向けて（後期課題・目標探し）
  15. 個人・チーム編成・後期課題決定・報告書提出
- ※クラスの状況に応じて、順番が変更される場合があります。

**【事前・事後学修】**

【事前学修】前もって配布される教材を読んでおくこと。（学修時間は週2時間）

【事後学修】授業で学んだことや気づいたことをアクティビティ・ログに記録し、理解を深めておくこと（学修時間は週2時間）

**【テキスト・教材】**

必要に応じてプリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への貢献度等含む）40%、報告書（アクティビティ・ログと報告書）60%として総合評価を行なう。各回終了時にフィードバックを行なう。

**【参考書】**

- 諏訪茂樹『コミュニケーション・トレーニング：人と組織を育てる』（経団連出版、2012年）  
高橋真知子『組織を動かすコミュニケーション力』（実務出版、2010年）

**【注意事項】**

この演習は、個人、ペアおよびチームごとに課題や目標を決めて取り組む完全な自律型の演習も含まれますので、各自、ペアおよびチームで決められた役割をきちんと担ってください。その他、履修者は積極的な授業参加が求められる。

**卒業演習A**

萩野 敏

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

「卒業演習A」（前期）「卒業演習B」（後期）を通して、この演習では、さまざまなジャンルの洋楽の曲を材料として取り上げ、歌詞の英語や訳詞を検討して、より正確により深く取り上げた曲を理解していこうと考えています。学生のグループによる発表が中心になりますが、その際には教室で実際に曲を聴いたりビデオクリップを見たりして、歌を聞くだけでは理解できない部分も紹介してもらいます。さらには、それぞれの歌に込められたメッセージ、背景として理解すべき文化や時代、ものの考え方といった事柄も学んでいきます。「卒業演習A」ではテキストを使用し、学生はその中から題材を選びます。

**【授業における到達目標】**

英語圏の曲の歌詞やアーティスト等について詳しく調べ、教室での質疑応答をふまえた上でその成果をまとめあげ、資料を用意して分かりやすく発表する、という一連の活動を通して、国際的視野を高めるとともに、行動力や協働力を養うことを目標としています。

**【授業の内容】**

1. 演習の進め方の確認
  2. 資料の収集、整理、発表の方法に関する指導
  3. 参考図書に関する発表
  4. 進行状況の第1回報告と全般的な個別指導
  5. 進行状況の第2回報告と発表へ向けた個別指導
  6. 第1発表者（グループ）による担当箇所の発表
  7. 第2発表者（グループ）による担当箇所の発表
  8. 第3発表者（グループ）による担当箇所の発表
  9. 第4発表者（グループ）による担当箇所の発表
  10. 第5発表者（グループ）による担当箇所の発表
  11. 第6発表者（グループ）による担当箇所の発表
  12. 第7発表者（グループ）による担当箇所の発表
  13. 第8発表者（グループ）による担当箇所の発表
  14. 第9発表者（グループ）による担当箇所の発表
- ※以上の学生発表は1人最低1回行います。担当箇所はテキストの中から学生が自ら選択しますので、その内容等は第1回授業以降に決まります。
15. 全体のまとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】発表へ向けて十分に時間をかけた準備が必要です。

【事後学修】毎回の演習内容をまとめた個人ノートを作成してもらいます。

（事前・事後学修を合わせて週4時間以上）

**【テキスト・教材】**

津田敦子編著 『The Best of Grammy Winners』（金星堂）2000年 1,100円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

筆記試験形式の定期試験は行いません。

成績は、担当した発表（作成資料・レポートなどを含む）の内容や方法（50%）のほか、質疑応答での発言内容や発言回数などの参加状況（20%）、個人ノートの内容（30%）により総合的に評価します。

各発表後には個別に、最終授業では全体としてのフィードバックを行います。

**【参考書】**

授業時に適宜紹介します。

**【注意事項】**

基本的に学生の発表に基づく演習形式の授業です。



**卒業演習A**

卒業研究（その1）

武内 一良

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

本講座では、観光という場面で発生する様々な現象から自分の好きなテーマを1つ選び、そのテーマについて独自に研究していきます。意味不明の観光案内、分かりづらいレストランのメニュー、日本旅館の業務内容、外国人に人気のスポット、地元の有名なみやげ店の魅力、外国の要人をもてなす晩餐会の料理、飛行機内で出産したときの国籍問題、世界の鉄道と駅など、どんなテーマでもかまいません。

就職活動の面接で、学生時代どんなことに力を入れましたかという問いに応えられる自分を作っていきます。

**【授業における到達目標】**

この科目は以下の点を重視しながら進めていきます。

- 1 観光を通じて世界を体感する行動力を養う。
- 2 クラス発表を通じて発信力と協調性を磨く。
- 3 ゼミ活動を通じて論理的な思考力を鍛える。

ディプロマポリシーとの関係では、国際的視野を高め、行動力と協働力を養う科目と位置づけられます。

**【授業の内容】**

第1週 授業スケジュール、評価方法、授業運営の説明

第2週 作業1：テーマ選択のための準備1

第3週 作業2：テーマ選択のための準備2

第4週 作業3：テーマの選択

第5週 クラス発表1：テーマの紹介

第6週 講義1：研究の目的と方法1

第7週 講義2：研究の目的と方法2

第8週 作業4：研究のフレームワーク1

第9週 作業5：研究のフレームワーク2

第10週 クラス発表2：研究の概要

第11週 作業6：テーマの分析1

第12週 作業7：テーマの分析2

第13週 作業8：テーマの分析3

第14週 作業9：テーマの分析4

第15週 クラス発表3：前期まとめ

**【事前・事後学修】**

授業の前後には、予習・復習のために最低でも2時間ずつの学修時間を設定してください。

**【テキスト・教材】**

観光に関する世界の事象が教材となります。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

毎回指示された課題の進捗状況（25%）と3回にわたるクラス発表（75%）によって評価します。

**【参考書】**

必要に応じて授業で紹介します。

**【注意事項】**

第1回目の授業で、授業スケジュールと成績評価に関する細則を発表しますので、必ず出席してください。

**卒業演習A**

—英語にも敬語があるのでございましょうか？—

藤原 正道

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

英語と日本語の丁寧表現を身につけ、それぞれの文化的背景・習慣の違いなどを演習形式の授業を通して学びます。

**【授業における到達目標】**

短大の学修成果として、多様性を受容し、多角的な視点を持って世界に望む態度や知を求め、心の美を育む態度、学習を通して自己を成長させ、課題解決のために主体的に行動し、他人と協働する力を身につけます。

具体的には、各項目について理解し、知識を増やし、論理的な説明（プレゼンテーション）ができ、的確な質問もできるようになることを到達目標とします。

**【授業の内容】**

1. 日本語の敬語
2. 会話の原理・丁寧さの原理
3. 英語の丁寧表現
4. 依頼する
5. 許可を求める
6. 提案をする
7. 会議を進める
8. 断り方
9. 苦情の言い方
10. 謝り方
11. 悪い知らせ
12. 謙遜表現
13. 名前
14. 婉曲表現
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：担当部分を理解し、資料を作るなど発表の準備をすること。週2時間以上

事後学修：参考書を利用して、授業内容の復習と提出課題に取り組むこと。週2時間以上

**【テキスト・教材】**

参考書の中から何冊かを選んで、使用します。発表時にテキスト以外の別の参考文献から関連箇所を取り上げ、資料に加えることが求めらねんで。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- ・定期試験は行いません。評価基準は、授業時の調査・発表内容
- ・質問の内容50%＋課題30%＋普段の敬語の使用・挨拶など20%とします。
- ・最終授業でフィードバックを行う予定です。

**【参考書】**

東 照二『丁寧な英語・失礼な英語』（研究社）

David A. Thayne（他）『使ってはいけない英語』（河出書房）

井上史雄『敬語は怖くない』（講談社現代新書）

井出祥子（他）『日本人とアメリカ人の敬語行動』（南雲堂）

蒲谷 宏（他）『敬語表現』（大修館）

菊池康人『敬語』（角川書店）

久野揚小（他）『英語の御作法』（DHC）

日本語倶楽部『使ってはいけない日本語』（河出書房）

大杉邦三『英語の敬意表現』（大修館）

**【注意事項】**

演習形式の授業なので、各自が担当カ所の項目を調べ、資料を作って発表することが必要となります。さらに聞き手は、各自の意見や質問などを考えながら聞くことが必要でっせ。

授業への積極的参加が認められない場合は、成績に大いに影響があることを伝えておきまっせ。

**卒業演習 A**

三田 薫

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

折り紙は日本が誇る文化として、今世界から注目されています。このゼミでは、折り紙の折り方と、英語による折り方の説明を習得し、折り紙を通じて日本文化発信や海外との交流をすることを目指します。

まずは自信を持って折れる折り紙のレパートリーを増やします。また折り紙を英語で説明する方法を何度か練習して覚えていきます。その上で、折り紙にまつわる歴史や、有名な出来事、海外で注目されている内容、折り紙を通じた国際交流の様子についてグループで調べて発表してもらいます。前期の最後には、近隣の学校（東京インターハイスクール）の学生を授業に招いて、皆さんが覚えた折り紙の折り方や、折り紙にまつわるエピソードを英語で紹介しましょう。

**【授業における到達目標】**

この科目では折り紙を通じて国際的視野、特に日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度を養います。またグループ活動を通じて行動力、特に目標を設定して、計画を立案・実行できる力、また協働力、特に自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる力を育成します。

**【授業の内容】**

1. オリエンテーション
2. 折り紙の基本
3. 折り紙の英語説明の基本
4. 折り紙の折り方サイトや動画紹介
5. グループAの発表
6. グループBの発表
7. グループCの発表
8. グループDの発表
9. グループEの発表
10. グループFの発表
11. グループGの発表
12. グループHの発表
13. 最終発表準備の模擬発表A～D
14. 最終発表準備の模擬発表E～H
15. 最終発表会（東京インターハイスクールとの交流）  
（順序が変更になることがあります。）

**【事前・事後学修】**

事前学修：自分が決めたテーマについての調査や発表準備をしてください。

事後学修：教員や他のグループから受けた評価を基に発表内容や英文を修正してください。

（事前・事後合わせて週4時間以上）

**【テキスト・教材】**

必要に応じて配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業態度30%、毎週の課題達成度30%、折り紙や発表の完成度40%

グループ発表の後、教員や他のグループからのフィードバックがあります。

**卒業演習 A**

— 面白がる力を身につけよう —

大倉 恭輔

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

卒業演習は、大学（短大・4大）での学びにおいて、とても重要な位置にある科目です。「自ら学ぶ」「ともに学ぶ」という点で、もともと意義深く身になる科目です。

さて、この授業は「英コミ」の科目ですが、受講生が「やってみたい・調べてみたい」というテーマを、あまり英語にこだわらず、コミュニケーションに力点を置いてやっていこうと思います。

音楽・映画・アニメ・ファッション・観光・ネット etc…

こんなことは「学校の勉強のテーマにはならない」などとは考えなくて OK です。

**【授業における到達目標】**

この授業では、各人が選んだテーマについて調べ・考え・議論をすることが中心となります。

そうして、多様性を受容し多角的な視点のもと、それぞれが選んだテーマに関する課題解決のために主体的に行動するとともに、他のゼミ生と一緒に考え活動できるようになることをめざします。

**【授業の内容】**

- 01 インTRODクシヨン
- 02 やりたいことをさがす a：先輩や他大の例をみる
- 03 やりたいことをさがす b：ゼミ生とも相談してみる
- 04 やりたいことをさがす c：ほぼほぼ固めてみる
- 05 やりたいことについて調べる a：文献をさがす
- 06 やりたいことについて調べる b：文献を集める
- 07 やりたいことについて調べる c：文献をまとめる
- 08 他人の意見を聞く a：チェックを受ける
- 09 他人の意見を聞く b：意見交換をする
- 10 他人の意見を聞く c：お互いの着地点を見つける
- 11 プレゼンテーション a：プレゼン資料を作る
- 12 プレゼンテーション b：プレゼンしてみる
- 13 プレゼンテーション c：チェックを受ける
- 14 プレゼンテーションの反省
- 15 まとめ

注1 上記は授業内容のリストです。

注2 基本的に番号順に講義をしていきますが、学生の理解度や授業の進行状況にあわせて、順番の入れ替えなどの変更が行われる場合があります。

**【事前・事後学修】**

・事前学修

事前配付の資料に目をとおし、設問がある場合、それについて回答を準備しておくこと。（週2時間以上）

・事後学修

授業内容を自分で補足し、きちんとしたノート作成をおこなうこと。（週2時間以上）

**【テキスト・教材】**

授業時に提示します。

基本的に、manaba 上から資料を配付します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

総合評価：成果物50%・平常点50%（受講態度・ノート作成）

manaba の設定や利用の状況も平常点の参考とします。

試験結果については manaba 上でフィードバックする予定です。

**【参考書】**

適宜、授業の中で紹介します。

**【注意事項】**

- ・レベルよりも、やる気をまず重視します。
- ・「短期大学部標準授業マナー」を守ることは最低ラインです。（manaba上に掲示してあります）

**卒業演習 B**

久保田 佳枝

2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

この演習（後期）では、個人またはチームを編成し、個人またはチームごとに課題や目標を持って取り組み、最終日にはその成果を授業でプレゼンしてもらいます。課題や目標は、個人・対人・集団・異文化におけるコミュニケーションにかかわることなら何でもよいでしょう。履修者で話をしながら、個人またはチームで方向を決めていきます。この演習は、前期に学んだ理論と技法だけでなく、個人またはチームでのワークを通じて、体で、感覚で多くのことを学んでいきます。

**【授業における到達目標】**

この演習は、多様な人々とのかかわりにおいて、自分らしさを表現しながら、自らが主体的に考え行動し役割を担い、自ら成長していくことを目標としています。また、この演習を通じて、国際的視野を養い、行動力と協働力を養っていくことも目指します。

**【授業の内容】**

1. 個人または各チームによる進捗報告①
  2. 個人またはチーム別作業：先行研究調査①
  3. 個人またはチーム別作業：先行研究調査②
  4. 個人またはチーム別作業：先行研究調査③
  5. 個人またはチーム別作業：先行研究調査④
  6. 個人または各チームによる進捗報告②
  7. 個人またはチーム別作業：調査または実践①
  8. 個人またはチーム別作業：調査または実践②
  9. 個人またはチーム別作業：調査または実践③
  10. 個人またはチーム別作業：調査または実践④
  11. 個人または各チームによる進捗報告③
  12. 個人またはチーム別作業：成果発表会準備①
  13. 個人またはチーム別作業：成果発表会準備②
  14. 個人または各チームによる成果発表会①
  15. 個人または各チームによる成果発表会②
- ※クラスの状況などにより、順番が変更される場合があります。

**【事前・事後学修】**

**【事前学修】** 次回の授業に向けて、個人またはチーム内で決められた自分の分担を必ずこなすこと。（学修時間は週2時間）

**【事後学修】** 個人またはチーム内でのアクティビティをアクティビティログにまとめ、理解を深めておくこと。（学修時間は週2時間）

**【テキスト・教材】**

必要に応じて、プリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（個人課題またはチームへの貢献度等含む）40%、期末課題（アクティビティログ・個人報告書・チーム別成果発表）60%として総合評価を行なう。進捗報告会と成果発表会においてフィードバックを行なう。

**【注意事項】**

この演習は、個人またはチームごとに課題や目標を決めて取り組む完全な自律型の演習となりますので、各自、個人またはチーム内で決められた役割をきちんと担ってください。履修者は積極的な授業参加が求められる。

**卒業演習 B**

卒業研究（その2）

武内 一良

2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

前期に設定したテーマを基に研究を進めていきます。就職活動の面接で、学生時代どんなことに力を入れましたかという問いに応えられる自分を作っていきます。

**【授業における到達目標】**

この科目は以下の点を重視しながら進めていきます。

- 1 観光を通じて世界を体感する行動力を養う。
  - 2 クラス発表を通じて発信力と協調性を磨く。
  - 3 ゼミ活動を通じて論理的な思考力を鍛える。
- ディプロマポリシーとの関係では、国際的視野を高め、行動力と協働力を養う科目と位置づけられます。

**【授業の内容】**

- 第1週 授業スケジュール、評価方法、授業運営の説明
- 第2週 作業1：調査の準備1
- 第3週 作業2：調査の準備2
- 第4週 作業3：調査の準備3
- 第5週 クラス発表1：調査方法と手続き
- 第6週 作業4：フィールドワーク1
- 第7週 作業5：フィールドワーク2
- 第8週 作業6：フィールドワーク3
- 第9週 作業7：フィールドワーク4
- 第10週 クラス発表2：調査結果
- 第11週 作業8：考察1
- 第12週 作業9：考察2
- 第13週 作業10：考察3
- 第14週 作業11：最終発表準備
- 第15週 クラス発表3：最終報告

**【事前・事後学修】**

授業の前後には、予習・復習のために最低でも2時間ずつの学修時間を設定してください。

**【テキスト・教材】**

観光に関する世界の事象が教材となります。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

毎回指示された課題の進捗状況（25%）と3回にわたるクラス発表（75%）によって評価します。

**【参考書】**

必要に応じて授業で紹介します。

**【注意事項】**

第1回目の授業で、授業スケジュールと成績評価に関する細則を発表しますので、必ず出席してください。

**卒業演習 B**

萩野 敏

2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

「卒業演習A」（前期）「卒業演習B」（後期）を通して、この演習では、さまざまなジャンルの洋楽の曲を材料として取り上げ、歌詞の英語や訳詞を検討して、より正確により深く取り上げた曲を理解していこうと考えています。学生のグループによる発表が中心になりますが、その際には教室で実際に曲を聴いたりビデオクリップを見たりして、歌を聞くだけでは理解できない部分も紹介してもらいます。さらには、それぞれの歌に込められたメッセージ、背景として理解すべき文化や時代、ものの考え方といった事柄も学んでいきます。「卒業演習B」では、学生が発表の題材を自由に選びます。

**【授業における到達目標】**

英語圏の曲の歌詞やアーティスト等について詳しく調べ、教室での質疑応答をふまえた上でその成果をまとめあげ、資料を用意して分かりやすく発表する、という一連の活動を通して、国際的視野を高めるとともに、行動力や協働力を養うことを目標としています。

**【授業の内容】**

1. 演習の進め方の確認
2. 資料の収集、整理、発表の方法に関する指導
3. 参考図書に関する発表
4. 進行状況の第1回報告と全般的な個別指導
5. 進行状況の第2回報告と発表へ向けた個別指導
6. 第1発表者（グループ）による発表
7. 第2発表者（グループ）による発表
8. 第3発表者（グループ）による発表
9. 第4発表者（グループ）による発表
10. 第5発表者（グループ）による発表
11. 第6発表者（グループ）による発表
12. 第7発表者（グループ）による発表
13. 第8発表者（グループ）による発表
14. 第9発表者（グループ）による発表

※以上の学生発表は1人最低1回行います。原則として学生が発表の題材を自由に選びますので、その内容等は題材選択後に決まります。

15. 全体のまとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】発表へ向けて十分に時間をかけた準備が必要です。

【事後学修】毎回の演習内容をまとめた個人ノートを作成してもらいます。

（事前・事後学修を合わせて週4時間以上）

**【テキスト・教材】**

プリント資料を多数使用

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

筆記試験形式の定期試験は行いません。

成績は、担当した発表（作成資料・レポートなどを含む）の内容や方法（50%）のほか、質疑応答での発言内容や発言回数などの参加状況（20%）、個人ノートの内容（30%）により総合的に評価します。

各発表後には個別に、最終授業では全体としてのフィードバックを行います。

**【参考書】**

授業時に適宜紹介します。

**【注意事項】**

基本的に学生の発表に基づく演習形式の授業です。

**卒業演習 B**

—失礼ってなんなのでございましょう？—

藤原 正道

2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

英語と日本語の丁寧表現を身につけ、それぞれの文化的背景・習慣の違いなど学び、丁寧さと失礼さについて考えんねん。

**【授業における到達目標】**

多様性を受容し、多角的な視野を持って世界に望み、真理を探究し、学修の成果から自信を創出し、課題解決のために主体的に行動し、他者の役割も理解して協働できるようになること。

具体的には、各項目について理解し、知識を増やし、論理的な説明（プレゼンテーション）ができ、的確な質問もできるようになることを到達目標にします。

**【授業の内容】**

1. 英語の失礼さ
2. 丁寧なつもりが…
3. カタカナ語が失礼に？
4. よく知っている表現の落とし穴
5. 単語の誤用：I was bad
6. 単語の誤用：She is expecting
7. 和製英語？：OL, Yシャツ
8. 和製英語？：ベビーカー, パンク
9. 日本語感覚？：Keep quiet!
10. 日本語感覚？：I cut my hair
11. 女英語、男英語
12. 英語と米語
13. 性別、民族
14. 品の良さ
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：担当箇所を理解し、資料を作成するなど発表の準備を行うこと。週2時間以上

事後学修：参考書を利用して、授業内容の復習と提出課題に取り組むこと。週2時間以上

**【テキスト・教材】**

参考書の中から何冊かを選んで、使用します。担当箇所以外に他の参考文献から2冊以上選び、関連箇所を各1箇所ずつ発表資料に加えなはれ。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- ・定期試験は行いません。評価基準は、授業時の調査・発表内容
- ・質問の内容50%＋課題30%＋普段の敬語の使用・挨拶など20%としまんねん。
- ・最終授業でフィードバックを行う予定です。

**【参考書】**

- 東 照二『丁寧な英語・失礼な英語』研究社  
David A. Thayne (他)『使ってはいけない英語』（河出書房）  
日本語倶楽部『使ってはいけない日本語』（河出書房）  
井上史雄『敬語は怖くない』（講談社現代新書）  
井出祥子 (他)『日本人とアメリカ人の敬語行動』（南雲堂）  
蒲谷 宏 (他)『敬語表現』（大修館）  
菊池康人『敬語』（角川書店）  
久野揚小 (他)『英語の御作法』（DHC）  
大杉邦三『英語の敬意表現』（大修館）

**【注意事項】**

演習形式の授業なので、各自が担当カ所の項目を調べ、資料を作って発表することが必要となります。さらに聞き手は、各自の意見や質問などを考えながら聞くことが必要でございませぬ。

授業への積極的参加が認められない場合は、成績に大いなる影響が及ぼされることになるであろう！

**卒業演習 B**

三田 薫

2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

後期は、前期までに習得した折り紙の折り方と英語での説明法を活かして、さらにクオリティの高い活動をしていきましょう。

折り紙の折り方の上級編に挑戦し、繰り返し追ってみることで習得していきます。また上級編の折り方を英語で説明する方法を、何度か練習して覚えていきます。その上で、海外の折り紙を通じた交流サイトにアクセスし、自分たちの折り方を紹介する動画をアップしたり、海外の人たちの作品や動画にコメントを送ったりしていきましょう。またその中で興味深い内容のものについて、グループでまとめ、上級編の折り紙の紹介とともに、発表していただきます。後期の最後には、近隣の学校（東京インターハイスクール）の学生を授業に招いて、皆さんが覚えた折り紙の折り方や、折り紙にまつわるエピソード、海外での折り紙にまつわる活動の様子を英語で紹介しましょう。

**【授業における到達目標】**

この科目では折り紙を通じて国際的視野、特に日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度を養います。またグループ活動を通じて行動力、特に目標を設定して、計画を立案・実行できる力、また協働力、特に自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる力を育成します。

**【授業の内容】**

1. 後期オリエンテーション
2. 折り紙の折り方上級編
3. 折り紙上級編の英語説明法
4. 折り紙の海外交流サイト紹介
5. グループAの発表
6. グループBの発表
7. グループCの発表
8. グループDの発表
9. グループEの発表
10. グループFの発表
11. グループGの発表
12. グループHの発表
13. 最終発表準備の模擬発表A～D
14. 最終発表準備の模擬発表E～H
15. 最終発表会（地域学生との交流）  
（順序が変更になることがあります。）

**【事前・事後学修】**

事前学修：毎週出される課題を期日を守って提出してください。

事後学修：他のグループから受けた評価を基に作品や英文を修正してください。（事前・事後合わせて週4時間以上）

**【テキスト・教材】**

必要に応じて配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業態度50%、プレゼンテーション50%

グループ発表の後、教師や他のグループからのフィードバックがあります。

**卒業演習 B**

— 面白いことをもっと面白くしよう —

大倉 恭輔

2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

卒業演習は、大学（短大・4大）での学びにおいて、とても重要な位置にある科目です。「自ら学ぶ」「ともに学ぶ」という点で、もっとも意義深く身になる科目です。

さて、この授業は「英コミ」の科目ですが、受講生が「やってみたい・調べてみたい」というテーマを、あまり英語にこだわらず、コミュニケーションに力点を置いてやっていこうと思います。

音楽・映画・アニメ・ファッション・観光・ネット etc…

こんなことは「学校の勉強のテーマにはならない」などと考えることなく OK です。

**【授業における到達目標】**

この授業では、各人が選んだテーマについて調べ・考え・議論をすることが中心となります。

そうして、多様性を受容し多角的な視点のもと、それぞれが選んだテーマに関する課題解決のために主体的に行動するとともに、他のゼミ生と一緒に考え活動できるようになることをめざします。

**【授業の内容】**

- 01 インTRODクシヨン
- 02 やりたいことをさがす 01：先輩や他大の例をみる
- 03 やりたいことをさがす 02：ゼミ生とも相談してみる
- 04 やりたいことをさがす 03：ほぼほぼ固めてみる
- 05 やりたいことについて調べる 01：文献をさがす
- 06 やりたいことについて調べる 02：文献を集める
- 07 やりたいことについて調べる 03：文献をまとめる
- 08 他人の意見を聞く 01：チェックを受ける
- 09 他人の意見を聞く 02：意見交換をする
- 10 他人の意見を聞く 03：お互いの着地点を見つける
- 11 プレゼンテーション 01：プレゼン資料を作る
- 12 プレゼンテーション 02：プレゼンしてみる
- 13 プレゼンテーション 03：チェックを受ける
- 14 プレゼンテーションの反省
- 15 まとめ

注1 上記は授業内容のリストです。

注2 基本的に番号順に講義をしていきますが、学生の理解度や授業の進行状況にあわせて、順番の入れ替えなどの変更が行われる場合があります。

**【事前・事後学修】**

・事前学修

事前配付の資料に目をとおし、設問がある場合、それについて回答を準備しておくこと。（週2時間以上）

・事後学修

授業内容を自分で補足し、きちんとしたノート作成をおこなうこと。（週2時間以上）

**【テキスト・教材】**

授業時に提示します。

基本的に、manaba 上から資料を配付します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

総合評価：成果物80%・平常点20%（受講態度・ノート作成）

manaba の設定や利用の状況も平常点の参考とします。

試験結果については manaba 上でフィードバックする予定です。

**【参考書】**

適宜、授業の中で紹介します。

**【注意事項】**

- ・レベルよりも、やる気をまず重視します。
- ・「短期大学部標準授業マナー」を守ることは最低ラインです。（manaba上に掲示してあります）

**卒業研究****専任教員全員**

4年 集通 6単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

各自が選択した研究室に所属し、各自が選択したテーマに沿って研究もしくは制作を進める。

その途上では、指導教員と打ち合わせるだけでなく、研究室の仲間と意見交換する機会が頻繁にある。また、他の研究室の教員を交えた中間発表会が数回開催される。卒業研究発表会では、各自の成果を発表し、質疑に答える。

**【授業における到達目標】**

大学生活において培われてきた学力、研鑽力を存分に発揮することを目標とする。

**【授業の内容】**

<卒業研究のスケジュール>

4月～12月：テーマを設定し、各自が研究・制作活動を進める。

卒業研究中間発表会での発表・討議

1月：卒業研究発表会要旨の提出

2月：卒業研究発表会

論文もしくはそれに準ずるもの（ポートフォリオ等）を提出

<過去の研究テーマ>

◇アパレル・ファッション分野

アパレル商品のEC購入実態のアンケート調査と考察/香水とファッションの関係性/未利用植物による実用的な緑色染色布を得る/カラー、パーマ、ブリーチ、ドライヤーと髪の傷みについて/児童・生徒の成長に伴う色彩感情と着用希望色の変化/スポーツウェアと素材の進歩の関係

◇プロダクト・インテリア分野

高齢者のための理想の台所～農村の暮らしと食生活から～/メイクアップの感性工学的アプローチ/風雨の体温調整に及ぼす影響/高齢者にも配慮したユニバーサルファッション/風の人体影響に関する衣服衛生学的研究/足裏テープの有効性について

◇住環境デザイン分野

あいまいな境界～つながって、ひろがって、かさなる、人々のくらし～/がいや～みかんと貝の美術館～/物体の見え方の評価/景観構成要素の変化によるイメージ評価について/なぜ施設に植物を置いても効果がなかったか～高齢者施設の環境が高齢者に及ぼす影響～/住宅街における街路照明環境の改善提案

**【事前・事後学修】**

指導教員が指示する。

**【テキスト・教材】**

各研究室から、指示される。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

研究活動への取り組み、中間発表および卒業研究発表会での発表、卒業研究要旨・卒業論文等の提出物の内容を総合的に判断する。

**【参考書】**

各自のテーマに沿ったものを探索する必要がある。

指導教員のアドバイスを参考にする。

**【注意事項】**

主体的に取り組むことが、成果に繋がる。

大学での学習の集大成に相応しい内容となるよう、研鑽に努めて欲しい。

**卒業研究 a**

本の世界

松尾 昇治

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：協働力

**【授業のテーマ】**

本（書物）は、思想や創作を広く伝えるメディアとして長い歴史を持っています。また、表現形式や編集形式も多様で、世界には膨大な数の書物が存在しています。

この科目のテーマは「本の世界」です。皆さんはこれまでの学修や生活を通して、本について関心を持っていることや疑問に思ったこと等の中から、自らの研究課題（テーマ）を決めて下さい。そして、テーマに関する文献を調べ、あるいは調査をして、内容を掘り下げて考え、研究レポートにまとめていきます。その過程で、ゼミの仲間と意見交換をしながら、研究を進めていきます。

**【授業における到達目標】**

全学ディプロマポリシーにあるように、知を求め、心の美を育む態度【美の探求】を基本におき、自らの課題を研究し、その成果をまとめて発表する【行動力】と【協働力】を身につけ、社会人になっても生涯にわたって自覚的に学び続けることのできる【研鑽力】を培います。

**【授業の内容】**

1. ガイダンスー授業の進め方
2. 文章構成の手法を学ぶ
3. 「本」とは何かー討論から探る
4. 「本」とは何かー文献から探る
5. 研究課題を決める
6. 研究計画書の作成（1）構想を組み立てる
7. 研究計画書の作成（2）作成する
8. 文献調査
9. 文献を読む（1）
10. 文献を読む（2）
11. 研究計画書の提出
12. 研究計画書の発表会（1）グループ①
13. 研究計画書の発表会（2）グループ②
14. 研究計画書の発表会（3）グループ③
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】研究課題について、日頃から文献調査、文献の読み込みなどを行い、発表の前にはしっかりと準備をして望むこと。（週2時間程度）

【事後学修】討論や発表で得た成果をノート等に記録し、今後の参考となるように整理しておくこと。（週2時間程度）

**【テキスト・教材】**

適宜プリントを配付します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

評価基準：成果物の提出（70%）、授業への積極的参加（30%）  
最終授業で成果物のフィードバックを行います。

**【注意事項】**

ゼミでの学修は、学生が主人公です。短期大学部受講ルールを守り、積極的に行動しましょう。

**卒業研究 a**

—企画力を身につける—

板倉 文彦

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：協働力

**【授業のテーマ】**

企画として新しい事柄を提案していくには、例えば「過去や現在の状況をしっかり調査したうえで、それを提案することにより将来的にどのような効果、影響が見込めるのか」といったような、多面的な視点での調査、研究が必要となります。

本科目では企画から調査・研究の手法を学んだ上で、グループワークを通して自ら企画立案を行います。

**【授業における到達目標】**

自身で企画を立案し、その成果を発表し人に伝えることで「研鑽力」にある自信を創出することができるようになるとともに、グループワークを経験することで「協働力」を修得することもできます。

**【授業の内容】**

1. ガイダンスー授業の進め方、スケジュールの説明
2. 企画について学ぶ1
3. 企画について学ぶ2
4. フィールドワーク（事例を探る）
5. 調査、研究の方法を学ぶ1
6. 調査、研究の方法を学ぶ2
7. グループワーク1（ガイダンス）
8. グループワーク2（企画を考える）
9. グループワーク3（調査）
10. グループワーク4（まとめ）
11. グループワーク5（発表準備）
12. グループワーク6（発表）
13. テーマ選定1（取り上げてみたい事柄の相談および指導）
14. テーマ選定2（テーマ決定）
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：講義で想定される内容の事前準備を行う（発表会の場合には事前にレジュメ等を準備し、発表の練習を行う：週2時間程度）  
事後学修：講義の内容を自身の研究に反映させる作業を行う（週2時間程度）

**【テキスト・教材】**

必要に応じて資料を配付します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

配分基準：成果物（レポート）70%、平常点（授業への積極参加、課題評価）30%  
成果物（レポート）は授業最終回でフィードバックを行う。

**卒業研究 a**

—ことばとコミュニケーション—

大塚 みさ

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：協働力

**【授業のテーマ】**

各自が「ことば（日本語）」または「コミュニケーション」に関するテーマを自由に選んで、卒業研究に取り組みます。テーマは身の回りから簡単に見つけることができるでしょう。例えば、通学電車の吊り広告、商品のパッケージ、ドラマや映画のシナリオ、JPOPの歌詞、会話の際の声のトーン、SNSでのもやもや感、トーク番組でのタレントの表情や手振り身振りなど、あらゆるものが研究対象となり得ます。

中間発表会は研究の進み具合や成果を報告しながら他のメンバーの意見を聞いたり、自分が抱いた疑問について相談を持ちかけたりする機会です。口頭での活発なディスカッションとコメントシートの交換により、幅広く意見が得られるようにしています。また、中間発表の時期に合わせて個別指導（面談）を行い、各自のペースで研究を進められるようサポートします。

最終授業時には、前期中の成果と夏休み以降の研究計画をまとめた報告レポートを提出します。

**【授業における到達目標】**

- ・研究テーマを多角的に考察する「研鑽力」を修得します。
- ・他のメンバーの研究内容にも理解を深め、互いに刺激を与え合う「協働力」を培います。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 研究計画書作成①構想マップの作成
- 第3週 研究計画書作成②Q & Aの作成
- 第4週 研究計画書作成③文献の収集法
- 第5週 研究計画書作成④参考文献の読み方
- 第6週 テーマ報告会① & 研究計画書提出と点検
- 第7週 テーマ報告会② & 資料・データの収集法
- 第8週 テーマ報告会③ & データの活用法
- 第9週 テーマ報告会④ & データの加工法
- 第10週 中間発表会① & レポート作成の基本復習
- 第11週 中間発表会② & レポート作成の基本演習
- 第12週 中間発表会③ & レポートテーマの確認
- 第13週 中間発表会④ & アウトラインの作成
- 第14週 中間発表会⑤ & アウトラインの点検
- 第15週 研究計画書の見直しと点検・夏休みの研究計画

**【事前・事後学修】**

【事前学修】文献の読み込みとデータ収集を中心として、テーマに沿った研究を進めること。中間発表前には入念に準備を行った上で発表資料を作成すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】発表後は中間発表の振り返りを行うこと。また、レポート作成演習等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

必要に応じてプリントを配付します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末提出物...70%、授業態度・中間発表・ワーク等 30%

提出物・ワークは後日個別に、中間発表については発表当日フィードバックを行います。

**【参考書】**

各自の研究テーマごとに、適宜紹介します。

**【注意事項】**

- ・短期大学部受講ルールを厳守しましょう。
- ・各自が決めた研究テーマに沿って、授業以外の時間を使って研究を進めるため、就職活動や進学準備で忙しい時期にも上手に時間管理を行い、コンスタントに研究を進めていきましょう。

**卒業研究 a**

古典文学・神話・昔話

佐藤 辰雄

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：協働力

**【授業のテーマ】**

初めに研究方法を知るための教材として『方丈記』を読み進め分析をしながら、問題の発見や追究方法、資料の利用法、構想の立て方などを学びます。このようにして研究方法を会得するとともに、自分が興味を持つ分野からテーマを選び、2年間の総仕上げとなるレポート作成の素地を築きます。これらをとおして、文学作品を読む楽しさや研究の面白さの一端を味わってもらえたなら、誠に嬉しい。

尚、本卒業研究 a は以下の領域を範囲としますが、種々相談に応じます。

○中世を主とする日本文学…日本霊異記、今昔物語集、宇治拾遺物語、平家物語、方丈記、徒然草、増鏡、義経記など

○“民族の記憶”神話・伝説…古事記、日本書紀、風土記

○民話と昔話を科学する…舌切り雀、こぶとり爺、浦島太郎、一寸法師、桃太郎など

**【授業における到達目標】**

日本の文学や文化を学んで知見を深めるとともに、世界に発信する能力と態度を修得することができます（国際的視野）。

現象の背後に潜む本質を究明する学修を通して、日本の文学や文化の価値と美を知ることができます（美の探求）。

能動的に研究し発表することで成果を実感し、学ぶ楽しさと持続する意欲を身につけることができます（研鑽力）。

**【授業の内容】**

1. 授業の説明
2. 研究とは何か？—学習や鑑賞・評論との違いはどこ？
3. 連纂の文学の妙味 (1) 『捜神記』281話～285話
4. 連纂の文学の妙味 (2) 『捜神記』286話～291話
5. 連纂の文学の妙味 (3) 『捜神記』292話～296話
6. 『方丈記』の分析 (1) 長明が意図した全体構想
7. 『方丈記』の分析 (2) 文体と修辞 (対句・語調等)
8. 『方丈記』の分析 (3) 異本 (似て非なる『方丈記』像)
9. 五大災厄の発表 (1) 安元の大火
10. 五大災厄の発表 (2) 治承四年の辻風
11. 五大災厄の発表 (3) 臣下越権の都遷り
12. 五大災厄の発表 (4) 養和の飢饉
13. 五大災厄の発表 (5) 最悪の災害—地震
14. 研究状況報告 (1) 受講生の前半分
15. 研究状況報告 (2) 受講生の後半分

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

①自分の発表—たっぷりと時間を使って、内容が充実し聴者が理解し易いレジメを作成しましょう。（週2時間）

②他人の発表—じっくりとレジメを検討して、質問や意見を用意しましょう。（週1時間）

【事後学修】レジメ作成法・発表の仕方の観点から、発表を振り返り、長所を生かし、改善点の対策を考えましょう。（週1時間）

**【テキスト・教材】**

授業内容のテーマに応じて適宜、資料を配付します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

分析力と発表の出来が70%、研究発表および議論に対する姿勢等の平常点が30%。同一時間帯に適宜フィードバックを行います。

**【参考書】**

全員に関わるものとして『方丈記全注釈』（角川書店）。個別には適宜、授業中あるいは個別相談の時に紹介します。

**【注意事項】**

夏休みに2泊3日の予定で京都旅行を考えています。普通の単なる観光旅行とは違う、今が旬の文学旅行です。交通費・宿泊代だけなら3万円で行けるでしょう。



**卒業研究 a**

ークリエイティブ&amp;アカデミック・ライティング

高瀬 真理子

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：協働力

らないようにしてください。

自分のオリジナリティを見つめると共に、一般読者に読んでもらうという客観的視点も意識して下さい。受験生や仲間から、もっと読みたいと思われるようなものを心がけていきましょう。

剽窃やそれに類するものが見つかった場合には、採点対象から外します。短期大学部受講ルール厳守

**【授業のテーマ】**

ゼミ生が自ら主体的に着眼点を発見し、それらについての企画・取材や調査・研究をしながら、それぞれに企画記事の作成、創造性豊かな創作、確かな調査に基づいた作品分析を行い、冊子を造り、合評会を行う形式で展開します。さまざまな雑誌作りにより、企画力や文章力をより実社会に役立つ形でトレーニングしたい人、小説をはじめ、童話や詩などを書いて創造力を高めたい人、作品を詳細に調べて読解・分析し、文学の本質に迫りたい人などを募ります。

企画力、構成力、調査力、創造力、読解力、分析力、人を引きつける表現力などは、実社会に出ても大いに役立つものです。そういう観点から、全体での合評を大切にしつつ、受講生一人一人の能力向上を目指します。

**【授業における到達目標】**

自ら企画や構想を練り、あるいは研究対象を定め、企画書や構想ノート、仮説と文献一覧としてまとめることにより、問題点を自ら見つけてそれらについてまとめる研鑽力が身につく、それらを現実化するために行動力や協働力が刺激され、文章等で表現するところにより、日本語力が鍛えられ、合評においては、それに伴うコミュニケーション力と自己成長力の伸張をそれぞれで実感できるようになります。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション
  - 第2週 記事・創作・作品分析について（いずれか選択決定）
  - 第3週 企画制作・構想・仮説やテーマ設定
  - 第4週 テーマ設定後の執筆準備
  - 第5週 アウトライン作成
  - 第6週 インタビュー、取材、資料収集等
  - 第7週 初期発表会
  - 第8週 記事・創作・分析作業
  - 第9週 冊子編集会議
  - 第10週 表紙・目次・奥付制作
  - 第11週 基本コンテンツ最終確認
  - 第12週 仮印刷・校正・印刷許可
  - 第13週 手直し作業
  - 第14週 本印刷・製本
  - 第15週 記事・作品・レポート完成・提出・相互交換
- 作業進行の合間に合宿や特別授業を予定しています。

**【事前・事後学修】**

事前学修：（記事・創作）見本となる文章や作品をより多く読むこと。ネタ帳やアフォリズム集、イラストも含めたメモ帳のようなものを作り、企画書や構想メモ等の提出時には、資料として添付すること。（作品分析）資料収集を綿密に行い。文献一覧を作成すること。（学修時間 週2時間）

事後学修：合評会用の批評文は、事前に作成し、合評会終了後に提出。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

取材による記事作成系、創作による文芸誌作成系、調査による作品分析系で大きく異なるので、希望に合わせて指示を出します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

着眼点、企画書（構想、アウトライン、台割帳、文献一覧など）、記事・作品・分析レポートの評価、合評会での発表の様子、質疑応答への対応、発表者への質問。すべて作成者のオリジナルなものを評価する。配分基準：提出物70%、合評時や制作態度等30%

合評会や講評等で一人一人にフィードバックをします。

**【参考書】**

制作や調査・研究しているものに合わせて紹介します。

**【注意事項】**

欠席や遅刻等は、他のゼミ生への迷惑になりますので、連絡を怠

**卒業研究 a**

アクセシビリティ

西脇 智子

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：協働力

**卒業研究 b**

本の世界

松尾 昇治

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：協働力

**【授業のテーマ】**

バリアフリー化の推進は現代社会が共有する目標です。バリアフリー化の推進は近年めざましく、だれかの不便さをみんなの使いやすさに変える「モノ、人、サービス」に取り組んでいます。アクセシビリティとは、アクセスのしやすさを表すことばで、情報やサービスがどのくらい利用しやすいのか、とくに障害者や高齢者などが不自由なく実際に使えることが可能な度合いを示しています。そこで、本年度のゼミでは、アクセスの良し悪しに着目した研究を中心に進めていきます。学生は研究テーマを選び、担当教員と十分に意見交換し、研究テーマや研究方法等を決めて、レポートにまとめるための作業を進めていきます。また、中間報告会では、各自でレジュメを作成・配布し、研究経過や研究成果を報告します。報告会では積極的に意見交換を行い、ゼミを通してお互いの研究を支える場を築いていきましょう。

**【授業における到達目標】**

- ・学ぶ楽しみを知り、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる「研鑽力」を修得することをめざします。
- ・お互いを尊重し信頼を醸成して、豊かな人間関係を構築する「協働力」を実践できるようになることをめざします。

**【授業の内容】**

(前期)

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 参考文献の活用法
- 第3週 研究テーマの検討
- 第4週 研究方法の検討
- 第5週 研究計画書の作成方法
- 第6週 研究テーマの選択
- 第7週 文献の収集
- 第8週 文献を読む
- 第9週 テーマの決定
- 第10週 研究計画書の作成
- 第11週 研究計画書の提出
- 第12週 中間報告会 (研究目的)
- 第13週 中間報告会 (研究方法)
- 第14週 中間報告会 (文献一覧)
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：講義の内容に照らして、事前準備をします。とくに、発表担当者は、事前に配布資料(レジュメ等)を作成し、口頭発表ができるように準備します。(学修時間 週2時間)

事後学修：研究の進捗状況を記録します。とくに、各自の研究テーマに関連する情報を収集・整理します。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

プリント(配布資料)を使用します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

課題レポート(提出物)70%、平常点30%(授業中の発言、発表、研究する姿勢、ゼミでの態度)。口頭発表時のレジュメは事前面談時に、課題レポートなどの提出物は授業最終回でフィードバックを行います。

**【注意事項】**

研究テーマに合わせて、個別に指導します。

**【授業のテーマ】**

本(書物)は、思想や創作を広く伝えるメディアとして長い歴史を持っています。また、表現形式や編集形式も多様で、世界には膨大な数の書物が存在しています。

この科目のテーマは「本の世界」です。皆さんはいままでの学修や生活を通して、本について関心を持っていることや疑問に思ったこと等の中から、自らの研究課題(テーマ)を決めて下さい。そして、テーマに関する文献を調べ、あるいは調査をして、内容を掘り下げて考え、研究レポートにまとめていきます。その過程で、ゼミの仲間と意見交換をしながら、研究を進めていきます。

**【授業における到達目標】**

全学ディプロマポリシーにあるように、知を求め、心の美を育む態度【美の探求】を基本におき、自らの課題を研究し、その成果をまとめて発表する【行動力】と【協働力】を身につけ、社会人になっても生涯にわたって自覚的に学び続けることのできる【研鑽力】を培います。

**【授業の内容】**

1. ガイダンスー授業の進め方
2. 論文作成の基本
3. 文献リストの作成方法
4. 研究課題の確認と修正
5. 基本文献の紹介と討論(1) グループ①
6. 基本文献の紹介と討論(2) グループ②
7. 基本文献の紹介と討論(3) グループ③
8. 中間発表会(1) グループ①
9. 中間発表会(2) グループ②
10. 中間発表会(3) グループ③
11. 学科講演会(予定)
12. 研究レポートの発表会(1) グループ①
13. 研究レポートの発表会(2) グループ②
14. 研究レポートの発表会(3) グループ③
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】研究課題について、日頃から文献調査、文献の読み込みなどを行い、発表の前にはしっかりと準備をして望むこと。

(週2時間程度)

【事後学修】討論や発表で得た成果をノート等に記録し、今後の参考となるように整理しておくこと。

(週2時間程度)

**【テキスト・教材】**

適宜プリントを配付します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

評価基準：成果物の提出(70%)、授業への積極的参加(30%)

最終授業で成果物のフィードバックを行います。

**【注意事項】**

ゼミでの学修は、学生が主人公です。短期大学部受講ルールを守り、積極的に行動しましょう。

**卒業研究 b**

—企画力を身につける—

板倉 文彦

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：協働力

**【授業のテーマ】**

このゼミでは、皆さんが基礎教養として学んできた「日本文化、文学、ことば」や各コースで習得してきた知識に基づき、自分の考えやアイデアを加えることにより、最終的に「企画」という形にまとめ上げることを目標とします。

一例としては、  
「映像技術の発展と有効的な活用法」

「子どもの読書離れについて」

といったものが掲げられます。

ここでの経験を通して、自分の考えやアイデアを具体的な形にしていく力を身につけてください。また、ゼミでは数回の発表会が行われます。そのため、自ら積極的に取り組むことが必須条件となります。

なお、卒業研究レポートは個人で作成します。

**【授業における到達目標】**

実際に企画を立案し、その成果を発表し人に伝えることで「研鑽力」にある自信を創出することができるようになるとともに、課題解決のために主体的に行動する力（行動力）を修得することができます。

**【授業の内容】**

1. ガイダンス—授業の進め方、スケジュールの説明
2. 参考書籍報告
3. 論文作成の手法を学ぶ1
4. 論文作成の手法を学ぶ2
5. 研究レポートの構成決定1（概要決定）
6. 研究レポートの構成決定2（詳細決定）
7. 中間発表会1
8. 中間発表会2
9. 中間発表会3
10. 研究レポートの仕上げ1（質疑応答）
11. 研究レポートの仕上げ2（発表・提出準備）
12. 研究レポート発表会1
13. 研究レポート発表会2
14. 研究レポート発表会3
15. まとめ

※12月初旬 学科講演会

**【事前・事後学修】**

事前学修：講義で想定される内容の事前準備を行う（発表会の場合は事前にレジュメ等を準備し、発表の練習を行う：週2時間程度）

事後学修：講義の内容を自身の研究に反映させる作業を行う（週2時間程度）

**【テキスト・教材】**

必要に応じて資料を配付します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

配分基準：成果物（レポート）70%、平常点（授業への積極参加、課題評価）30%

成果物（レポート）は授業最終回でフィードバックを行う。

**卒業研究 b**

—ことばとコミュニケーション—

大塚 みさ

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：協働力

**【授業のテーマ】**

各自が選んだテーマに沿って、卒業研究に取り組みます。

初回授業時には夏休みの成果を報告し合い、各自の研究計画を見直します。その翌週から始まる中間発表と併せて、レポートの書き方の細かな点について、解説や復習、演習を行います。10月以降は草稿添削を実施します。全員で一斉にスタートを切れるよう、授業でのレポート作成演習と連動させながら進めていきます。

中間発表やレポート添削の時期に合わせて個別指導（面談）を行い、各自のペースで研究を進められるようサポートしますので安心してください。

メンバー同士が互いに励まし合い、刺激し合うことによって、それぞれの持つ力がいっそう伸長し、良い卒業研究レポートに仕上がることを期待しています。

**【授業における到達目標】**

- ・研究テーマを多角的に考察する「研鑽力」を修得します。
- ・他のメンバーの研究内容にも理解を深め、互いに刺激を与え合う「協働力」を培います。

**【授業の内容】**

- 第1週 夏休みの成果報告会と研究計画書の見直し
- 第2週 中間発表会① & 文献リスト作成法の復習
- 第3週 中間発表会② & 文献リストの提出と点検
- 第4週 中間発表会③ & 先行研究のまとめ方
- 第5週 中間発表会④ & 引用・参照方法の復習
- 第6週 中間発表会⑤ & 引用・参照方法の演習
- 第7週 中間発表会⑥ & 使用データの説明方法
- 第8週 中間発表会⑦ & 卒業生のレポート集に学ぶ
- 第9週 グラフや図表の作成方法、その説明方法の確認
- 第10週 中間発表会⑧ & 考察・分析部分の書き方
- 第11週 中間発表会⑨ & 添削例の紹介と注意
- 第12週 中間発表会⑩ & 「はじめに」と「おわりに」の書き方
- 第13週 中間発表会⑪ & 全体での最終確認
- 第14週 口頭試問・発表会
- 第15週 レポート集作成準備

※12月初旬に学科講演会を開催します。

**【事前・事後学修】**

【事前学修】各自のテーマに沿って研究を進め、自分の中間発表に際しては、入念に準備を行った上で発表資料を作成すること。

（学修時間 週2時間）

【事後学修】発表後は中間発表の振り返りを行うこと。卒業研究レポートの作成を目指してデータ分析や本文執筆を進めること。

（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

必要に応じてプリントを配付します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末提出物...70%、授業態度・中間発表・ワーク等 30%

提出物・ワークは後日個別に、中間発表については発表当日フィードバックを行います。

**【参考書】**

各自の研究テーマごとに、適宜紹介します。

**【注意事項】**

・就職活動や進学準備で忙しい時期にも上手に時間管理を行い、コンスタントに研究を進めることが肝要です。

・10月以降は草稿の添削を数回ずつ行います。先送りにすると納得のいくレポートに仕上げるのが難しくなるため、計画的に取り組んでいきましょう。

**卒業研究 b**

古典文学・神話・昔話

佐藤 辰雄

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：協働力

**【授業のテーマ】**

前期の卒業研究 b (佐藤) の学修を通して得た知見と研究方法を元に、自分が選んだテーマについてじっくり思考し、調べ、組み立て、発表し、議論し、再考しながら、2年間の勉学の総仕上げとなるレポート作成に結実させていきます。

尚、本卒業研究 b は以下の領域を範囲としますが、種々相談に応じます。

○中世を主とする日本文学…日本霊異記、今昔物語集、宇治拾遺物語、平家物語、方丈記、徒然草、増鏡、義経記など

○“民族の記憶” 神話・伝説…古事記、日本書紀、風土記

○民話と昔話を科学する…舌切り雀、こぶとり爺、浦島太郎、一寸法師、桃太郎など

**【授業における到達目標】**

日本の文学や文化を学んで知見を深めるとともに、世界に発信する能力と態度を修得することができます (国際的視野)。

現象の背後に潜む本質を究明する学修を通して、日本の文学や文化の価値と美を知ることができます (美の探求)。

能動的に研究し発表することで成果を実感し、学ぶ楽しさと持続する意欲を身につけることができます (研鑽力)。

**【授業の内容】**

1. 資料の活用と項目の組立
2. 文章の展開と引用の仕方
3. 注の付け方その他の注意事項
4. 中間発表① (1) 2～3人
5. 中間発表① (2) 2～3人
6. 中間発表① (3) 2～3人
7. 中間発表① (4) 2～3人
8. 中間発表② (1) 2～3人
9. 中間発表② (2) 2～3人
10. 中間発表② (3) 2～3人
11. 中間発表② (4) 2～3人
12. 中間発表② (5) 2～3人
13. 中間発表② (6) 2～3人
14. 卒研レポート紹介 (1) 受講生の前半分
15. 卒研レポート紹介 (2) 受講生の後半分

\*12月頃に学科講演会を開催します。

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

- ①自分の発表—たっぷり時間を使って、内容が充実し聴者が理解し易いレジュメを作成しましょう。(週3時間)
- ②他人の発表—じっくりとレジュメを検討して、質問や意見を用意しましょう。(週1時間)

**【事後学修】**

○レジュメ作成法・発表の仕方の観点から、発表を振り返り、長所を生かし、改善点の対策を考えましょう。(週1時間)

**【テキスト・教材】**

授業内容のテーマに応じて適宜、資料を配付します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

成果としての卒業研究レポートの出来が70%、研究発表および議論に対する姿勢等の平常点が30%。発表毎に長所と改善点を指導します。

**【参考書】**

適宜、授業中あるいは個別相談の時に紹介します。

**【注意事項】**

一段と豊かになった自分を思い描く志向と熱意のある人を求めます。ゼミらしい活力を作り上げて充実した時間を卒研レポートとして結実させましょう。

**卒業研究 b**

—クリエイティブ&amp;アカデミック・ライティング—

高瀬 真理子

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：協働力

**【授業のテーマ】**

ゼミ生が自ら主体的に着眼点を発見し、それらについての企画・取材や調査・研究をしながら、それぞれに企画記事の作成、創造性豊かな創作、確かな調査に基づいた作品分析を行い、冊子を造り、合評会を行う形式で展開します。雑誌作りや創作系は、グループ活動もあります。さまざまな記事やコラムの作成により文章力をより実社会に役立つ形でトレーニングしたい人、小説をはじめ、童話や詩などを書いて創造力を高めたい人、作品を詳細に調べて読解分析し、文学の本質に迫りたい人などを募ります。

企画力、構成力、調査力、創造力、読解力、分析力、人を引きつける表現力などは、実社会に出ても大いに役立つものです。そういう観点から、全体での合評を大切にしつつ、一人一人の能力向上を目指します。原則として「卒業研究a」の上に積み上げる科目となります。

**【授業における到達目標】**

自ら企画や構想を練り、あるいは研究対象を定め、企画書や構想ノート、仮説や文献一覧としてまとめることにより、問題点を自ら見出してそれらについてまとめる研鑽力が身につく、それらを現実化するために行動力や協働力が刺激され、文章等で表現することによる日本語力が鍛えられ、合評においては、それに伴うコミュニケーション力や自己成長力を実感できるようにめざしましょう。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション・合評
- 第2週 「卒業研究a」を踏まえての発展課題
- 第3週 合評を踏まえた作業
- 第4週 本印刷・製本
- 第5週 相互交換・意見交換・講評
- 第6週 企画案・構想・仮説やテーマ設定
- 第7週 基本コンテンツ作成
- 第8週 アウトラインの確認
- 第9週 冊子編集会議
- 第10週 表紙・目次・奥付制作
- 第11週 成果物の中間発表
- 第12週 仮印刷・校正・印刷許可
- 第13週 本印刷・製本
- 第14週 相互交換・反省と成果の確認
- 第15週 合評・講評

このほか、特別授業や12月初旬頃学科講演会を催す予定です。その場合、多少の変更が生じます。

**【事前・事後学修】**

事前学修：(記事・創作) 見本となる文章や作品をより多く読む習慣をつけること。ネタ帳やアフォリズム集、イラストも含めたメモ帳のようなものを作り、企画書や構想メモ等の提出時には、資料として添付すること。(作品分析) 資料収集を綿密に行い、読解とともに、文献資料一覧を付けること。(週2時間)

事後学修：合評会用の批評文は、事前に作成し、合評会終了後に提出となります。時間配分は、それぞれの作業の進度によって異なります。(週2時間)

**【テキスト・教材】**

取材による記事作成系、創作による芸誌作成系読解・調査・考察による作品分析系で大きく異なるので、希望に合わせて指示を出します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

着眼点、企画書(構想、アウトライン、台割帳、文献一覧など)、記事、作品・考察レポート等の評価、合評会での発表の様子、質疑応答への対応、発表者への質問。すべて作成者のオリジナルなものを評価します。配分基準：提出物70%、合評時や制作態度等30% 合評会や講評においてそれぞれにフィードバックします。

**【参考書】**

制作しているものに合わせて紹介します。

**【注意事項】**

欠席や遅刻等は、他のゼミ生への迷惑になりますので、連絡を怠らないようにしてください。

自分のオリジナリティーを見つめると共に、一般読者に読んでもらうという客観的視点も意識して下さい。受験生や仲間から、もっと読みたいと思われるようなものを心がけていきましょう。

剽窃やそれに類するものが見つかった場合は、採点対象から除外します。短期大学部受講ルール厳守

**卒業研究 b**

アクセシビリティ

西脇 智子

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：協働力

**【授業のテーマ】**

バリアフリー化の推進は現代社会が共有する目標です。バリアフリー化の推進は近年めざましく、だれかの不便さをみんなの使いやすさに変える「モノ、人、サービス」に取り組んでいます。アクセシビリティとは、アクセスのしやすさを表すことばで、情報やサービスがどのくらい利用しやすいのか、とくに障害者や高齢者などが不自由なく実際に使えることが可能な度合いを示しています。そこで、本年度のゼミでは、アクセスの良し悪しに着目した研究を中心に進めていきます。学生は研究テーマを選び、担当教員と充分に意見交換し、卒業研究レポートにまとめるための作業を進めていきます。また、中間報告会では、各自でレジュメを作成・配布し、研究経過や研究成果を報告します。報告会では積極的に意見交換を行い、ゼミを通してお互いの研究を支える場を築いていきましょう。

**【授業における到達目標】**

- ・学ぶ楽しみを知り、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる「研鑽力」を修得することをめざします。
- ・お互いを尊重し信頼を醸成して、豊かな人間関係を構築する「協働力」を実践できるようになることをめざします。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 研究テーマの確認
- 第3週 研究計画の確認
- 第4週 文献の収集
- 第5週 文献を読む
- 第6週 文献の整理
- 第7週 プレゼンテーションの方法
- 第8週 作業経過の発表
- 第9週 作業経過の評価
- 第10週 作業経過の修正と課題
- 第11週 書式等の相談
- 第12週 書式等の確認
- 第13週 研究発表会（合評）
- 第14週 研究発表会（講評）
- 第15週 まとめ

- ・学科講演会開催の予定があります。

**【事前・事後学修】**

事前学修：講義の内容に照らして、事前準備をします。とくに、発表担当者は、事前に配布資料（レジュメ等）を作成し、口頭発表ができるように準備します。（学修時間 週2時間）

事後学修：研究の進捗状況を記録します。とくに、各自の研究テーマに関連する情報を収集・整理します。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリント（配布資料）を使用します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

課題レポート（提出物）70%、平常点30%（授業中の発言、発表、研究する姿勢、ゼミでの態度）。口頭発表時のレジュメは事前面談時に、課題レポートなどの提出物は授業最終回でフィードバックを行います。

**【注意事項】**

研究テーマに合わせて、個別に指導します。

**卒業論文****担当教員全員**

4年 集通 6単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

自ら研究計画を立て、その計画に従って調査・研究を行い、それらの結果についての確かな考察ができる能力を身につけることを目標とする。

卒業論文の作成を通して、専門分野における分析、評価、表現能力を養う。

**【授業における到達目標】**

将来栄養士として、また社会人として活躍できる能力、学生が修得すべき「研鑽力」のうち、プロセスや成果を正しく評価し、問題解決できる力を修得する。また、大人の社会人として通用する素養を育成する。

**【授業の内容】**

卒業論文は、自分の研究したい分野を食生活科学科の研究室の中から選び、各研究室にゼミ生として所属し、最終学年の1年間をかけて論文を作成する。12月の卒業論文の発表会においてその成果を発表し、教員や学生からの質問や指導を受ける。

その間、ゼミでは内容の検討や、より完成度を高めるための個別指導および共同討議などを行うが、内容やゼミの進め方については、各研究室によって異なるため、それぞれの教員の指導に従って研究を行うこととなる。

卒業論文はおおむね下記のようなタイムスケジュールで進める。

3年次	7月中旬ころ	所属ゼミの決定
4年次	4月	卒論テーマの決定
	5月～10月	各研究室において随時、教員の指導を受けながら調査・研究を行う。
	11月初旬	論文要旨を提出する
	11月～12月上旬	卒業論文のまとめ、発表会の準備
	12月中旬	卒業論文発表会
	1月下旬	卒業論文提出締め切り

**【事前・事後学修】**

1、2年次から先輩の卒業論文発表会に参加し、各研究室のテーマや発表の様子を見ておく必要がある。また、ゼミの配属希望調査は3年次の春ごろから行われるため、各研究室への訪問等を行い研究内容などをよく理解しておくこと。

ゼミが始まってからは、各研究室の指導教官の指示に従って、調査、実験を計画的に実施する。

学修に要する時間は週当たり6時間である。

**【テキスト・教材】**

各研究室での個別指導になるので共通のテキストはない

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

論文の完成度、研究に対する平常の取組み姿勢等で総合的に評価する。

**【参考書】**

指導教官の指示、助言等に従う。その他各自で研究に必要なと思われるものを用いる。

学術論文等の検索も必要である。図書館の蔵書を十分に活用する。

**卒業論文****担当教員全員**

4年 集通 6単位

○：美の探究、研鑽力、協働力

**【授業のテーマ】**

自ら研究計画を立て、その計画に従って調査・研究を行い、それらの結果についての確かな考察ができる能力を身につけることを目標とする。

卒業論文の作成を通して、専門分野における分析、評価、表現能力を養う。

**【授業における到達目標】**

将来管理栄養士として、また、社会人として活躍できる能力、学生が修得すべき「研鑽力」「協働力」のうち、プロセスや成果を正しく評価し、問題解決できる力を修得する。また、大人の社会人として通用する素養を育成する。

**【授業の内容】**

卒業論文は、自分の研究したい分野を食生活科学科の研究室の中から選び、各研究室にゼミ生として所属し、最終学年の1年間をかけて論文を作成する。2月の卒業論文の発表会においてその成果を発表し、教員や学生からの質問や指導を受ける。

その間、ゼミでは内容の検討や、より完成度を高めるための個別指導および共同討議などを行うが、内容やゼミの進め方については、各研究室によって異なるため、それぞれの教員の指導に従って研究を行うこととなる。

卒業論文はおおむね下記のようなタイムスケジュールで進める。

3年次	7月中旬ころ	所属ゼミの決定
4年次	4月	卒論テーマの決定
	5月～10月	各研究室において随時、教員の指導を受けながら調査・研究を行う。
	11月初旬	論文要旨を提出する
	11月～12月上旬	卒業論文のまとめ、発表会の準備
	12月中旬	卒業論文発表会
	1月下旬	卒業論文提出締め切り

**【事前・事後学修】**

1、2年次から先輩の卒業論文発表会に参加し、各研究室のテーマや発表の様子を見ておく必要がある。また、ゼミの配属希望調査は3年次の春ごろから行われるため、各研究室への訪問等を行い研究内容などをよく理解しておくこと。

ゼミが始まってからは、各研究室の指導教官の指示に従って、調査、実験を計画的に実施する。

週当たりの学修時間は6時間である。

**【テキスト・教材】**

各研究室での個別指導になるので共通のテキストはない。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

論文の完成度、研究に対する平常の取組み姿勢等で総合的に評価する。

**【参考書】**

指導教官の指示、助言等に従う。その他各自で研究に必要なと思われるものを用いる。

学術論文等の検索も必要である。図書館の蔵書を十分に活用する。

**卒業論文****担当教員全員**

4年 集通 6単位

○：国際的視野、研鑽力、行動力

**【授業のテーマ】**

自ら研究計画を立て、その計画に従って調査・研究を行い、それらの結果についての確かな考察ができる能力を身につけることを目標とする。

卒業論文の作成を通して、専門分野における分析、評価、表現能力を養う。

**【授業における到達目標】**

将来社会人として、活躍できる能力、学生が修得すべき「行動力」「研鑽力」のうち、プロセスや成果を正しく評価し、問題解決できる力を修得する。また、大人の社会人として通用する素養を育成する。

**【授業の内容】**

卒業論文は、自分の研究したい分野を食生活科学科の研究室の中から選び、各研究室にゼミ生として所属し、最終学年の1年間をかけて論文を作成する。2月の卒業論文の発表会においてその成果を発表し、教員や学生からの質問や指導を受ける。

その間、ゼミでは内容の検討や、より完成度を高めるための個別指導および共同討議などを行うが、内容やゼミの進め方については、各研究室によって異なるため、それぞれの教員の指導に従って研究を行うこととなる。

卒業論文はおおむね下記のようなタイムスケジュールで進める。

3年次	7月中旬ころ	所属ゼミの決定
4年次	4月	卒論テーマの決定
	5月～12月	各研究室において随時、教員の指導を受けながら調査・研究を行う。
	1月中旬	論文要旨提出する
	1月～2月上旬	卒業論文のまとめ、発表会の準備
	2月上旬	卒業論文発表会
	2月下旬	卒業論文提出締め切り

**【事前・事後学修】**

1、2年次から先輩の卒業論文発表会に参加し、各研究室のテーマや発表の様子を見ておく必要がある。また、ゼミの配属希望調査は3年次の春ごろから行われるため、各研究室への訪問等を行い研究内容などをよく理解しておくこと。

ゼミが始まってからは、各研究室の指導教官の指示に従って、調査、実験を計画的に実施する。

学修に要する時間は週当たり6時間である。

**【テキスト・教材】**

各研究室での個別指導になるので共通のテキストはない

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

論文の完成度、研究に対する平常の取組み姿勢等で総合的に評価する。

**【参考書】**

指導教官の指示、助言等に従う。その他各自で研究に必要なと思われるものを用いる。

学術論文等の検索も必要である。図書館の蔵書を十分に活用する。



**卒業論文****担当教員全員**

4年 集通 6単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

平常点50%（研究テーマ・課題への取り組み、授業内の発表、質疑への参加など）、卒業論文50%

卒業論文を提出する他、中間発表会および卒業論文発表会において発表を行うことが条件となる。

**【参考書】**

各担当教員の指示に従うこと。

**【授業のテーマ】**

各担当教員の研究室において、専攻領域の学問についてより深く学び、各専門領域の特性と研究手法について学修する。そして、卒業研究の計画・実施に取り組み、卒業論文の作成と発表を達成目標とする。なお、具体的な内容は各担当教員による。

**【授業における到達目標】**

卒業論文の作成を通して、物事の真理や美を探究し、新たな知を創造する態度を養うことができたか。

卒業論文の作成にあたり、目標を設定して適切な計画を立案し調査を行うなど、行動力を養うことができたか。

指導教員の指導のもと、研究倫理に則り自分の考えを論文にまとめることができたか。

卒論中間報告会、卒論発表会において、自らの研究課題を適切に発表することができたか。また、質疑には的確に答え、自らの研究のプロセスや成果を評価し、問題解決につながられたか。

**【授業の内容】**

(前期)

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 卒業研究の実施① 文献の収集
- 第3回 卒業研究の実施② 文献の選定
- 第4回 卒業研究の実施③ 目的の設定
- 第5回 卒業研究の実施④ 方法の設定
- 第6回 卒業研究の実施⑤ 構成の確認
- 第7回 中間報告① プレゼンテーションの方法
- 第8回 中間報告② プレゼンテーションの準備
- 第9回 中間報告③ プレゼンテーションの実際
- 第10回 卒業研究の実施と再考① 実施の準備
- 第11回 卒業研究の実施と再考② 実施の確認
- 第12回 卒業研究の実施と再考③ 倫理的配慮
- 第13回 卒業研究の実施と再考④ 要旨の準備
- 第14回 卒業研究の実施と再考⑤ 研究計画の調整
- 第15回 まとめ

(後期)

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 論文の作成① 序論の論述
- 第3回 論文の作成② 目的の論述
- 第4回 論文の作成③ 各章の論述
- 第5回 論文の作成④ 各節の論述
- 第6回 論文の作成⑤ 脚注の記述
- 第7回 中間発表① プレゼンテーションの準備
- 第8回 中間発表② プレゼンテーションの実際
- 第9回 要旨の作成① 研究の背景と目的
- 第10回 要旨の作成② 要旨の推敲
- 第11回 卒業研究の提出に向けて
- 第12回 卒業論文発表会① Aグループ
- 第13回 卒業論文発表会② Bグループ
- 第14回 卒業論文発表会③ Cグループ
- 第15回 まとめ

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

卒業研究の実施を行うこと。（学修時間：週2時間）

**【事後学修】**

卒業論文の作成を行うこと。（学修時間：週2時間）

**【テキスト・教材】**

各担当教員の指示に従うこと。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

## 卒論セミナー a

## 担当教員全員

4年 前期 1単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

## 【授業のテーマ】

各担当教員の指導のもと、卒業論文執筆に必要な研究の方法論や、各学生の研究テーマに基づいた先行研究の収集・考察を進めます。専門分野に関する資料を収集し分析する能力、プレゼンテーションやディスカッションで自分の意見を伝える能力、論理的な文章を書く能力、自ら問題を提起しその問題を解決する能力を養成し、卒業論文完成に向けた素地を固めることを目標とします。

## 【授業における到達目標】

卒業論文にむけて学問的視野を広げ、自律的に研究に取り組む姿勢と手法を身につける。これにより、国際的視野、研鑽力、行動力を伸ばすこととなる。

## 【授業の内容】

イギリス文学・文化

1. 大関ゼミ  
中世英文学とその関連、およびケルト文化、イギリス世紀末文学
2. 島ゼミ  
18・19世紀イギリス小説、ナンセンス文学、ゴシック小説、イギリス文化
3. 志渡岡ゼミ  
18～20世紀イギリスの小説・旅行記・少女文化
4. 土屋ゼミ  
19世紀（ヴィクトリア朝）文学

アメリカ文学・文化

1. 稲垣ゼミ  
19世紀～20世紀初頭のアメリカ小説、アメリカ文化
2. 植野ゼミ  
20世紀小説
3. 佐々木ゼミ  
19～20世紀アメリカ文学、女性文学、フェミニズム批評
4. 難波ゼミ  
17～19世紀アメリカ文学、17世紀～現代アメリカ文化
5. 深瀬ゼミ  
現代アメリカ散文、アフリカ系アメリカ文学文化

英語学

- 村上ゼミ  
英語の動詞に関すること全般  
統語論、英語史、意味論、語用論、英語教育、言語習得

## 【事前・事後学修】

授業の性格上、事前事後学修の時間を数値化することは難しいが、週平均5時間以上の取り組みは必須。担当教員の指示に従い、自身の卒業論文完成にとって必要となる課題を、自立的に、着実に、消化していくこと。

## 【テキスト・教材】

クラスによって異なるので、担当教員の指示に従うこと。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題に取り組む姿勢 50%

課題に対する評価 50%

フィードバックは各授業内、および個別面談を通じて適宜行う。

## 卒論セミナー b

## 担当教員全員

4年 後期 1単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

## 【授業のテーマ】

「卒論セミナーa」の内容を踏まえ、リサーチ、プレゼンテーション、ディスカッション、教員との個別面談などを通して、各自が設定したテーマに基づいて研究を進め、担当教員の指導のもと、卒業論文を執筆します。専門分野に関する資料を収集し分析する能力、プレゼンテーションやディスカッションで自分の意見を伝える能力、論理的な文章を構成し書き上げる能力、自ら問題を提起しその問題を解決する能力を養成し、その集大成として卒業論文を完成させることを目標とします。

## 【授業における到達目標】

卒業論文を完成させる作業を通じて、問題設定からその解決策の提案まで、論理的・効率的に物事に取り組む姿勢と手法を身につける。これにより、国際的視野、研鑽力、行動力を伸ばすこととなる。

## 【授業の内容】

イギリス文学・文化

1. 大関ゼミ  
中世英文学とその関連、およびケルト文化、イギリス世紀末文学
2. 島ゼミ  
18・19世紀イギリス小説、ナンセンス文学、ゴシック小説、イギリス文化
3. 志渡岡ゼミ  
18～20世紀イギリスの小説・旅行記・少女文化
3. 土屋ゼミ  
19世紀（ヴィクトリア朝）文学

アメリカ文学・文化

1. 稲垣ゼミ  
19世紀～20世紀初頭のアメリカ小説、アメリカ文化
2. 植野ゼミ  
20世紀小説
3. 佐々木ゼミ  
19～20世紀アメリカ文学、女性文学、フェミニズム批評
4. 難波ゼミ  
17～19世紀アメリカ文学、17世紀～現代アメリカ文化
5. 深瀬ゼミ  
現代アメリカ散文、アフリカ系アメリカ文学文化

英語学

- 村上ゼミ  
英語の動詞に関すること全般  
統語論、英語史、意味論、語用論、英語教育、言語習得

## 【事前・事後学修】

授業の性格上、事前事後学修の時間を数値化することは難しいが、週平均5時間以上の取り組みは必須。担当教員の指示に従い、自身の卒業論文完成にとって必要となる課題を、自立的に、着実に、消化していくこと。

## 【テキスト・教材】

クラスによって異なるので、担当教員の指示に従うこと。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題に取り組む姿勢 50%

課題に対する評価 50%

フィードバックは各授業内、および個別面談を通じて適宜行う。

**卒論ゼミ a**

4年間の集大成

**担当教員全員**

4年 前期 1単位

◎：美の探究、国際的視野、研鑽力、行動力

**【授業のテーマ】**

卒業論文を完成させるために必要な指導を行う。卒論の成否はテーマの選択、設定に大きく関わるため、適切なテーマを設定し、卒業論文執筆のための計画を立てる。その上で、作品の調査など具体的な作業について、様々な要素を段階的に指導する。

**【授業における到達目標】**

卒論のテーマを確定し、論文作成のプロセスをよく把握する。そのための調査研究や資料の収集、文献の検討について計画を立て、自らの課題と問題点を把握し、その解決の手がかりを見つける。それらに基づいて、論作成のための作業を開始し進める。

**【授業の内容】**

学生は各ゼミに分かれて指導を受ける。具体的な授業の内容や進め方はゼミによって異なる部分もあるが、いずれのゼミも、個別指導やグループ指導を中心に、それぞれの学生に合わせた論文指導を行う。ゼミ合宿や見学授業等を実施することもある。

ゼミ分けは、下記の研究領域にしたがって決められる。

- 仲 町ゼミ：古代～江戸時代までの日本美術史
- 児 島ゼミ：日本の近現代美術史、東アジアの近現代美術史  
美術館、展示、展覧会について
- 宮 崎ゼミ：中国美術史
- 武 笠ゼミ：仏教美術史
- 駒 田ゼミ：西洋古代・中世・近世美術史
- 六人部ゼミ：西洋近現代美術（19～20世紀美術）史
- 椎 原ゼミ：美学・芸術学、現代芸術論
- 下 山ゼミ：デザイン・・・本年度閉講
- 織 田ゼミ：絵画

**【事前・事後学修】**

卒業論文の指導は、基本的に個別指導で行われるが、担当教員の指導を受ける際には、十分な準備を行い指導を受けること。また、指導に基づく事後学修を行い、卒業論文の執筆に取り組むこと。事前事後学修 各週3時間以上。

**【テキスト・教材】**

個別に指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

設定したテーマに基づく調査研究の展開、資料や文献の検討、また各ゼミの指導教員に進行状態を定期的に報告したか、報告に対する教員からの助言や課題にどのように対応できたかについて、総合的に評価し成績を付ける。

**【参考書】**

個別に指示する。

**【注意事項】**

卒論ゼミ、卒業論文の両方に登録すること。  
学科掲示をよく確認すること。

**卒論ゼミ b**

4年間の集大成

**担当教員全員**

4年 後期 1単位

◎：美の探究、国際的視野、研鑽力、行動力

**【授業のテーマ】**

卒業論文を完成させるために必要な指導を行う。論文の構成や形式に関わること、作品の調査方法やまとめ方など、卒論の完成に向けた指導を行う。

最後まで全力で取り組み、よりよい卒論の完成をめざす。

**【授業における到達目標】**

自ら立てた卒業論文作成の計画に沿って、調査研究や資料の収集、文献の検討を進め、考察を深め、論文としてまとめる。  
それによって、形式内容ともに整った卒業論文を完成させる。

**【授業の内容】**

個別指導やグループ指導を中心に、ゼミごとに、それぞれの学生やその進捗状況に合わせた論文指導を行う。

ゼミ合宿や見学授業等を実施することもある。

ゼミは以下の通り

- 仲 町ゼミ：古代～江戸時代までの日本美術史
- 児 島ゼミ：日本の近現代美術、東アジアの近現代美術史  
美術館、展示、展覧会について
- 宮 崎ゼミ：中国美術史
- 武 笠ゼミ：仏教美術史
- 駒 田ゼミ：西洋古代・中世・近世美術史
- 六人部ゼミ：西洋近現代美術（19～20世紀美術）史
- 椎 原ゼミ：美学・芸術学、現代芸術論
- 下 山ゼミ：デザイン・・・本年度閉講
- 織 田ゼミ：絵画

**【事前・事後学修】**

卒業論文の指導は、基本的に個別指導で行われるが、担当教員の指導を受ける際には、十分な準備を行い指導を受けること。また、指導に基づく事後学修を行い、卒業論文の執筆に取り組むこと。

事前事後学修 各週3時間以上。

**【テキスト・教材】**

個別に指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

設定したテーマに基づく調査研究の展開、資料や文献の検討、また各ゼミの指導教員に進行状態を定期的に報告したか、報告に対する教員からの助言や課題にどのように対応できたかについて、総合的に評価し成績を付ける。

卒論提出後に口頭試問を行い、そこで、卒論への取り組みや成果について、学生の自己分析を求め、また質問やコメントすることで、卒論作成についての総括とフィードバックを行う。

**【参考書】**

個別に指示する。

**【注意事項】**

学科で11月頃に行うガイダンスに必ず出席すること。無断欠席は不可。体調不良などの場合は必ず研究室に連絡すること。

その他、掲示をよく確認すること。

**多読演習**

多読を通して速読を身につける

**吉本 真由美**

1年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

**【授業のテーマ】**

この授業では、なるべくたくさんの英語の本に触れることで、日常的に（授業内外で）英文を読むことを習慣づけるとともに、速読のトレーニングをします。日常的にたくさんの本に触れるためには、読書をまず「楽しむ」ということが最も大切です。読書を楽しむことができるように、まずは自分の読みやすい本のレベルを把握し、徐々に難易度の高いものが読むことができるように取り組んでいきます。無理のないようにステップアップし、少しずつでも難易度の高いものをすらすらと読めるようになることを目指しましょう。

**【授業における到達目標】**

できる限り多くの英文に触れ、速読のトレーニングをします。日本語に訳出せずに、書かれた内容を頭で整理しながら理解する力を養います。また、自分のレベルに合わせて、各自徐々に難易度を上げていくことで、授業が終わるころには、以前よりも難しいものが読めるようになったと実感することも目標のひとつです。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODクッション  
多読の効果や目的、注意点を確認
- 第2週 Oxford Reading Treeの紹介
- 第3週 300語レベルの本に触れる
- 第4週 読書記録1
- 第5週 経過報告1
- 第6週 600語レベルの本に触れる
- 第7週 読書記録2
- 第8週 経過報告2
- 第9週 グループワーク（中間プレゼンテーション準備）
- 第10週 中間プレゼンテーション
- 第11週 1000語以上のレベルの本に触れる
- 第12週 読書記録・経過報告3
- 第13週 グループワーク（最終プレゼンテーション準備）
- 第14週 最終プレゼンテーション
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

事前学習として、教員が授業に持ち込んだ本や、学生が各自図書館等で借りた本を読み進めておくこと（学修時間：週2時間）。事後学習としては、授業中に受けた注意などを参考にして、図書の見つけ方や速読の方法などを見直すこと（学修時間：週2時間）。

**【テキスト・教材】**

授業内で指示します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業への参加度・コメントシート：20%

読書量、多読への取り組み：50%

課題・発表：30%

フィードバック：

読んだ本についてコメントを提出してもらいます。そのコメントへのフィードバックを翌週行います。

**【参考書】**

酒井邦秀著『快読100万語！ペーパーバックへの道』（ちくま学芸文庫）

古川昭夫他著『英語多読完全ブックガイド』改定第4版（コスモピア）

**多読演習**

楽しく多読をしてリーディング力を高める

**砂田 緑**

1年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

**【授業のテーマ】**

この授業では、英語の多読を通じてリーディング力を高めていきます。速読のスキルを上げるためのテキストを使用し、より早く正確に読み取る力を育てます。授業時間外にも各自で英語の多読を行い、楽しく継続的に英語を読む習慣を身につけていけるようにしましょう。

**【授業における到達目標】**

授業内外で多くの英文に触れることで、英語を読む習慣を身につけていきたいと思います。英文をより速く正確に理解していく力を育て、英語で多読をする楽しさを共有していきたいと思います。

**【授業の内容】**

- 第1回 INTRODUCTION・多読・速読演習1・課題①
- 第2回 多読・速読演習1・課題①に関するグループワーク
- 第3回 多読・速読演習2・課題②
- 第4回 多読・速読演習2・課題②に関するグループワーク
- 第5回 多読・速読演習3・課題③
- 第6回 多読・速読演習3・課題③に関するグループワーク
- 第7回 演習1～3のまとめ
- 第8回 多読報告会
- 第9回 多読・速読演習4・課題④
- 第10回 多読・速読演習4・課題④に関するグループワーク
- 第11回 多読・速読演習5・課題⑤
- 第12回 多読・速読演習5・課題⑤に関するグループワーク
- 第13回 演習4と5のまとめ
- 第14回 多読報告会
- 第15回 全体のまとめ・多読の振り返り

**【事前・事後学修】**

予習として、テキストの各ユニットの英文を読んでおいてください。（1時間）

授業外で多くの本を読むことを勧めます。図書館などを利用してGraded Readersなど、読みやすい本をたくさん読んでください。（3時間）

**【テキスト・教材】**

町田純子・八木茂那子・アaron・ドッドソン著『Fresh Starts』南雲堂(2013)1,700円＋税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

多読カード・課題40%(授業内外での読書の記録を取ってもらいます。また、各回の課題への取り組みも重視します)

小テスト20%(多読・速読演習に関して、小テストを行います)

発表・グループワーク40%(多読報告会や課題に関するグループワークへの取り組みを評価します)

**多読演習**

たくさん読んで英語の運用能力を高めよう

宮下 いづみ

1年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

**【授業のテーマ】**

英語多読では、日本語で考えずに英語をたくさん読みながら、英語力をアップさせていきます。

どうすると英語のまま理解できるのか、ハウツーを学びます。

英語多読から学べることは、語彙だけではありません。

異文化、ナチュラルな会話、英語での考え方などいろいろな側面から知識を広げることができます。

分野別の本をどのように読んでいくのか、授業の前半で解説し、後半で実践的に読んでいきます。読めば読むほど力がつくので、授業外でも読んでいくことをおすすめします。

**【授業における到達目標】**

多読本から多様性を受容し、多角的な視野を培い、ノンフィクション、フィクションの本いずれも、さらなる知識を求めることを意識します。

多読記録を取りながら読む事で、研鑽力をつけ、目的を設定しながら、積極的に多読をしていきます。グループワークを通じ、リーダーシップに必要な力をつけていきます。

**【授業の内容】**

- 第1週 英語多読 その手法と効果
- 第2週 フィクション読解法
- 第3週 多読で人気のOxford Reading Treeを考察
- 第4週 絵本から学ぶTOEICへの英語表現
- 第5週 ノンフィクション読解法
- 第6週 世界の歌をベースにした本
- 第7週 英語多読本で会話力アップ法
- 第8週 英語での論理構成を見抜くタクティクス
- 第9週 多読本のレベルアップとタイミング
- 第10週 スキャニングとスキミング
- 第11週 多読本をマネをしながらライティング
- 第12週 日本の英語教育現場での多読の実態
- 第13週 英語多読指導法
- 第14週 読解語数と英語力の相関関係を考察
- 第15週 英語多読の進め方、目標設定について

**【事前・事後学修】**

事前「イギリスの小学校教科書で楽しく英語を学ぶ」をシャドーイングしてきます。シャドーイング方法は授業で説明します。声に出して、イントネーションをマネし、発音のブラッシュアップをはかります。

事後 図書館で借りる英語多読本を選書しますので、家庭学習でも読み、多読手帳に記録をして具体的なコメントを書いておきます。

(事前・事後合わせて週約4時間)

**【テキスト・教材】**

古川昭夫・宮下いづみ著『イギリスの小学校教科書で楽しく英語を学ぶ』（小学館 2007年）2,100円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

英語多読の読解量 70 %、小テスト・発表・課題 20%、レポート 10% 英語多読の記録は毎回、小テスト・発表・課題は該当授業にて、レポートは最終日にフィードバックを実施します。

**【参考書】**

古川昭夫他著 『英語多読完全ブックガイド 改定第4版』（コスモピア 2013年）

## 体育

島崎 あかね

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、協働力

### 【授業のテーマ】

幼児期は多様な動きを経験しながら基本的な動き・技能を身に付けていく段階です。本授業では、乳幼児期の「運動あそび」から「体育」への移行がスムーズに展開するよう、幼児体育と小学校体育の連動を踏まえて、小学校学習指導要領「体育」の内容を体験しながら、適切な運動指導の在り方を学びます。また、「運動領域」と「保健領域」の各領域を通して「基礎的な身体能力を身に付け、実生活において運動を豊かに実践していくための資質や能力の基礎を培うとともに、身近な生活における健康・安全に関する内容を実践的に理解」します。さらに各領域の基礎知識と運動技能の習得を自らの生涯にわたるスポーツ活動への実践力に繋がります。

### 【授業における到達目標】

乳幼児期から学童期における運動指導の在り方を理解し、幼稚園や保育所、小学校での実習やボランティアでの運動遊び等の指導に生かすことができる力（「行動力」）の修得を目指します。

また、各領域の実技を通して、自己や他者の役割を理解し、互いに協力して計画を進める「協働力」の修得を目指します。

### 【授業の内容】

- 第1回 授業ガイダンスおよび身体慣らし
- 第2回 子どものからだの発達と運動の関連について
- 第3回 基本動作と体づくり運動・運動あそび
- 第4回 かけっこ遊びと走運動
- 第5回 跳躍遊びと跳運動
- 第6回 器械運動と運動あそび ①マット運動・跳び箱
- 第7回 器械運動と運動あそび ②鉄棒
- 第8回 リズム運動と表現活動
- 第9回 ボールを使った運動とあそび ①つく・転がす
- 第10回 ボールを使った運動とあそび ①投げる・とる
- 第11回 水遊び（水慣れ、浮く・もぐる遊び）
- 第12回 浮く・泳ぐ運動、水泳
- 第13回 グループでの模擬授業①
- 第14回 グループでの模擬授業②
- 第15回 安全教育および授業のまとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】 幼少期の運動遊びについて振り返るとともに子どもにとっての運動とは何か考えておきましょう。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 毎回の授業の振り返りを積み上げ、運動実践の重要性を復習し、翌週の授業に備えましょう。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 体育編』（詳細は授業時に指示します）

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

各運動技能の習熟状況(20%)、指導案作成と模擬授業での発表(60%)、授業への取り組みや態度(20%)で総合的に評価します。運動技能は次回授業時の導入で、指導案作成や模擬授業の発表については解説を通して、それぞれフィードバックを行います。

### 【参考書】

- ・高橋健夫他 『体育の基本』 2011年 1800円+税 (株)学研教育みらい
- ・白石豊他 『どの子どものびる運動神経～幼児編』 2006年 1900円+税, 『どの子どものびる運動神経～小学生編』 2007年 1900円+税 かもがわ出版

### 【注意事項】

実技が主体となるので、自らの身体で体験しながら運動技能の修得とその指導法を理解できるよう、積極的な態度で臨みましょう。また運動に適した服装・身だしなみを準備してください。

なお、通常の開講曜日以外に学外のプールにおいて水泳実習があります（交通費は自己負担となります）。詳細は授業で説明します。

**大衆文化論**

児童・少女文化の展開としての大衆文化

官木 孝子

1・2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

**【授業のテーマ】**

大衆文化が社会に浸透していく、歴史的展開を、大正期に発生した児童・少女の文化を例にたどって行きます。大正から昭和への時代の変化のなかで、どのように大衆の中に吸収され、また、新しい文化を生んでいくか。そして、その文化の担い手たちが、更に大人の大衆文化にも貢献していく様を時代にそって考察を加えつつ、解説します。

**【授業における到達目標】**

大衆文化の発生とその時代背景を知ることで、今後ますます多様化する日本文化を理解する力としてほしい。また、海外の文化を日本がどう受容したかを知り、「国際的視野」「美的探求」の意識付けに役立ててもらいたい。また、授業内で紹介される実践者たちの姿から「研鑽力」を高めることの重要性を理解してもらいたい。

**【授業の内容】**

1. 授業の方法と主題の説明
2. 大正児童文化論の特色・「赤い鳥」
3. 「赤い鳥」の特色・鈴木三重吉の方針
4. 白秋・八十・雨情の児童詩論と作品1
5. 白秋・八十・雨情の児童詩論と作品2
6. 児童劇の発生と「赤い鳥」
7. 児童劇と少女歌劇・山田耕筰と童謡・歌曲
8. 「宝塚少女歌劇」の特色・小林一三の方針
9. 少女歌劇の展開・児童雑誌との接点
10. 流行歌の普及 劇中歌・浅草オペラ
11. 西条八十の流行歌（戦前・戦中・戦後）
12. 野口雨情の流行歌（戦前・戦中・戦後）
13. 少女歌劇の流行歌（戦前・戦中・戦後）
14. レコードと劇場
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：プリントをよく読み、内容を把握する。（2時間）

事後学修：授業内のノートとプリントを照合して、ノート整理を行う。（2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを配布して行う授業です。枚数が増えるので、ファイルなどにまとめて保存して下さい。1週遅れまでしか、用意しませんので注意して下さい。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験レポート80%。平常点は、コメントシート・授業内提出物20%。フィードバックも、コメントシートの質問に対する回答を通して行う。

**【参考書】**

適宜、授業中にプリントで配布します。

**【注意事項】**

授業は講義形式です。1回目の授業から15回目まで、すべて順序立てて話すので、しっかり聴いてください。欠席すると関係が理解しにくくなるので、気を付けて下さい。授業中の質問も大歓迎です。コメントシートは点数で評価します。気付き、感想、疑問、質問を書いて下さい。私語厳禁です。

**第二言語習得研究**

言語習得・言語学習を考える

八木 公子

2年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

第二言語習得に関する基礎的な知識とこれまでの代表的な理論・仮説について学習する。第二言語としての日本語、英語の習得についての実証研究も適宜取り上げていく。

**【授業における到達目標】**

言語習得のメカニズムについて理解を深め、自身の第二言語習得過程を振り返り、効果的な言語学習、言語教育について考察できるようになる。

「学修を通して自己成長する研鑽力」「現状を正しく把握し、課題を発見できる行動力」を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション  
第二言語習得とは
- 第2週 対照分析研究
- 第3週 中間言語研究
- 第4週 文法形態素研究
- 第5週 中間言語の要因
- 第6週 自然順序と発達順序
- 第7週 モニター理論
- 第8週 インターアクション仮説
- 第9週 インプット仮説とアウトプット仮説
- 第10週 ノン・インターフェイス・ポジションと  
インターフェイス・ポジション
- 第11週 フォーカス・オン・フォームとフィードバック研究
- 第12週 言語習得のプロセス
- 第13週 学習者要因－適性
- 第14週 学習者要因－学習スタイル
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

授業後に授業内容の復習をし、指示されたテキスト・参考文献の該当箇所を読んでおくこと。

授業前には、前回の内容を再度確認してから授業に臨むこと。

授業内容に関する小レポートを指定された期日に提出すること。

(以上すべて含め、事前・事後学修 各々週2時間程)

**【テキスト・教材】**

大関浩美『日本語を教えるための第二言語習得論入門』（くろしお出版、2010年）1,944円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末試験、提出課題、平常点（授業態度、コメントシート）を総合して成績評価を行う。

評価配分は、試験60%、提出課題20%、平常点20%。

試験については、授業最終回でフィードバックを行う。

**【参考書】**

授業中に指示する。

**【注意事項】**

積極的な姿勢で授業に参加することを望む。



**第二言語習得研究**

言語習得・言語学習を考える

八木 公子

2年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

第二言語習得に関する基礎的な知識とこれまでの代表的な理論・仮説について学習する。第二言語としての日本語、英語の習得についての実証研究も適宜取り上げていく。

**【授業における到達目標】**

言語習得のメカニズムについて理解を深め、自身の第二言語習得過程を振り返り、効果的な言語学習、言語教育について考察できるようになる。

「学修を通して自己成長する研鑽力」「現状を正しく把握し、課題を発見できる行動力」を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション  
第二言語習得とは
- 第2週 対照分析研究
- 第3週 中間言語研究
- 第4週 文法形態素研究
- 第5週 中間言語の要因
- 第6週 自然順序と発達順序
- 第7週 モニター理論
- 第8週 インターアクション仮説
- 第9週 インプット仮説とアウトプット仮説
- 第10週 ノン・インターフェイス・ポジションと  
インターフェイス・ポジション
- 第11週 フォーカス・オン・フォームとフィードバック研究
- 第12週 言語習得のプロセス
- 第13週 学習者要因ー適性
- 第14週 学習者要因ー学習スタイル
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

授業後に授業内容の復習をし、指示されたテキスト・参考文献の該当箇所を読んでおくこと。

授業前には、前回の内容を再度確認してから授業に臨むこと。

授業内容に関する小レポートを指定された期日に提出すること。

(以上すべて含め、事前・事後学修 各々週2時間程)

**【テキスト・教材】**

大関浩美『日本語を教えるための第二言語習得論入門』（くろしお出版、2010年）1,944円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末試験、提出課題、平常点（授業態度、コメントシート）を総合して成績評価を行う。

評価配分は、試験60%、提出課題20%、平常点20%。

試験については、授業最終回でフィードバックを行う。

**【参考書】**

授業中に指示する。

**【注意事項】**

積極的な姿勢で授業に参加することを望む。

## 男女共同参画社会と生活

細江 容子

1年 後期 2単位

○：国際的視野、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

本講義では、男女共同参画社会とは何か、その社会実現に向けて何が必要かを考える。さらにその中で、将来の就職問題に対峙し女性がどの様にキャリア形成を図っていけばよいのかといった、課題解決を分析的に考察し、受講生一人一人のキャリア形成のための問題解決を図る能力を身につけることを目標とする。

1986年男女雇用機会均等法が施行されたが、日本では、いまだ男性モデル中心のキャリア形成や伝統的な女性職種への配置、女性管理職登用数の少なさ、女性の非正規雇用者の増加など、多くの問題が浮き彫りになっている。1年生を対象とした本講義では、学生の持つ「なぜ？」という疑問を解き明かしながら、男女共同参画社会と生活の問題をわかりやすく解説していく。

また、本講義では、専門的テーマで研究を重ねている外部講師を招くなどにより男女共同参画に関わる視点での考察を深める。

### 【授業における到達目標】

- ・男女共同参画社会とは何か、その社会実現に向けて何が必要かを考えることができる。
- ・将来の就職問題に対峙し女性がどの様にキャリア形成を図っていけばよいのかといった、課題解決策を分析的に考察できる。
- ・キャリア形成のための問題解決を図る能力を習得する。
- ・それらの知識や技術を生かし、人間の生涯にわたる発達を理解し、その生活の営みを理解し、多様な人々と協働して他者の生活を支援することができる。

### 【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 男女共同参画社会とは何か
- 第3回 ジェンダー／セクシュアリティの概念
- 第4回 ジェンダーと性差別
- 第5回 男女共同参画社会の形成1（制度的側面を中心に）
- 第6回 男女共同参画社会の形成2（制度の成立と家族）
- 第7回 労働とジェンダーの諸問題
- 第8回 セクシュアル・ハラスメントと雇用
- 第9回 ジェンダーと家族 夫婦別姓 少子化 離婚
- 第10回 ワーク・ライフ・バランス
- 第11回 女性への暴力 DV デートDV 性被害
- 第12回 ジェンダーと制度・慣行（外部講師による講義等）
- 第13回 アファーマティブ・アクション／  
ポジティブ・アクション
- 第14回 雇用平等への道
- 第15回 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】配布資料等を基にレポート・発表等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義や課題発表等の復習をすること。（学修時間週2時間）

### 【テキスト・教材】

文献リストや資料等を配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験（50%）、発表・コメントペーパー等の提出（50%）の総合的判断による。発表・コメントペーパー等（50%）に関してはそのつど全体における講評を行うなどし、期末試験（50%）に関しては、個々への対応を行うなどしている。

### 【参考書】

高橋準、『ジェンダー学への道案内』（三訂版）、北樹出版 2009  
村みよ子、『ジェンダーと法』、不磨書房 2005、鹿嶋敬、『男女共同参画の時代』、岩波新書 2003、その他、必要に応じて適宜紹介する。

## 男女共同参画社会と生活

細江 容子

1・2年 後期 2単位

○：国際的視野、行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

本講義では、男女共同参画社会とは何か、その社会実現に向けて何が必要かを考える。さらにその中で、将来の就職問題に対峙し女性がどの様にキャリア形成を図っていけばよいのかといった、課題解決を分析的に考察し、受講生一人一人のキャリア形成のための問題解決を図る能力を身につけることを目標とする。

1986年男女雇用機会均等法が施行されたが、日本では、いまだ男性モデル中心のキャリア形成や伝統的な女性職種への配置、女性管理職登用数の少なさ、女性の非正規雇用者の増加など、多くの問題が浮き彫りになっている。1年生を対象とした本講義では、学生の持つ「なぜ？」という疑問を解き明かしながら、男女共同参画社会と生活の問題をわかりやすく解説していく。

また、本講義では、専門的テーマで研究を重ねている外部講師を招くなどにより男女共同参画に関わる視点での考察を深める。

## 【授業における到達目標】

- ・男女共同参画社会とは何か、その社会実現に向けて何が必要かを考えることができる。
- ・将来の就職問題に対峙し女性がどの様にキャリア形成を図っていけばよいのかといった、課題解決策を分析的に考察できる。
- ・キャリア形成のための問題解決を図る能力を習得する。
- ・それらの知識や技術を生かし、人間の生涯にわたる発達を理解し、その生活の営みを理解し、多様な人々と協働して他者の生活を支援することができる。

## 【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 男女共同参画社会とは何か
- 第3回 ジェンダー／セクシュアリティの概念
- 第4回 ジェンダーと性差別
- 第5回 男女共同参画社会の形成1（制度的側面を中心に）
- 第6回 男女共同参画社会の形成2（制度の成立と家族）
- 第7回 労働とジェンダーの諸問題
- 第8回 セクシュアル・ハラスメントと雇用
- 第9回 ジェンダーと家族 夫婦別姓 少子化 離婚
- 第10回 ワーク・ライフ・バランス
- 第11回 女性への暴力 DV デートDV 性被害
- 第12回 ジェンダーと制度・慣行（外部講師による講義等）
- 第13回 アファーマティブ・アクション／  
ポジティブ・アクション
- 第14回 雇用平等への道
- 第15回 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】配布資料等を基にレポート・発表等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義や課題発表等の復習をすること。（学修時間週2時間）

## 【テキスト・教材】

文献リストや資料等を配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験（50%）、発表・コメントペーパー等の提出（50%）の総合的判断による。発表・コメントペーパー等（50%）に関してはそのつど全体における講評を行うなどし、期末試験（50%）に関しては、個々への対応を行うなどしている。

## 【参考書】

高橋準、『ジェンダー学への道案内』（三訂版）、北樹出版 2009  
村みよ子、『ジェンダーと法』、不磨書房 2005、鹿嶋敬、『男女共同参画の時代』、岩波新書 2003、その他、必要に応じて適宜紹介する。

## 男女共同参画社会と生活

細江 容子

1・2年 後期 2単位

○：国際的視野、行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

本講義では、男女共同参画社会とは何か、その社会実現に向けて何が必要かを考える。さらにその中で、将来の就職問題に対峙し女性がどの様にキャリア形成を図っていけばよいのかといった、課題解決を分析的に考察し、受講生一人一人のキャリア形成のための問題解決を図る能力を身につけることを目標とする。

1986年男女雇用機会均等法が施行されたが、日本では、いまだ男性モデル中心のキャリア形成や伝統的な女性職種への配置、女性管理職登用数の少なさ、女性の非正規雇用者の増加など、多くの問題が浮き彫りになっている。1年生を対象とした本講義では、学生の持つ「なぜ？」という疑問を解き明かしながら、男女共同参画社会と生活の問題をわかりやすく解説していく。

また、本講義では、専門的テーマで研究を重ねている外部講師を招くなどにより男女共同参画に関わる視点での考察を深める。

## 【授業における到達目標】

- ・男女共同参画社会とは何か、その社会実現に向けて何が必要かを考えることができる。
- ・将来の就職問題に対峙し女性がどの様にキャリア形成を図っていけばよいのかといった、課題解決策を分析的に考察できる。
- ・キャリア形成のための問題解決を図る能力を習得する。
- ・それらの知識や技術を生かし、人間の生涯にわたる発達を理解し、その生活の営みを理解し、多様な人々と協働して他者の生活を支援することができる。

## 【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 男女共同参画社会とは何か
- 第3回 ジェンダー／セクシュアリティの概念
- 第4回 ジェンダーと性差別
- 第5回 男女共同参画社会の形成1（制度的側面を中心に）
- 第6回 男女共同参画社会の形成2（制度の成立と家族）
- 第7回 労働とジェンダーの諸問題
- 第8回 セクシュアル・ハラスメントと雇用
- 第9回 ジェンダーと家族 夫婦別姓 少子化 離婚
- 第10回 ワーク・ライフ・バランス
- 第11回 女性への暴力 DV デートDV 性被害
- 第12回 ジェンダーと制度・慣行（外部講師による講義等）
- 第13回 アファーマティブ・アクション／  
ポジティブ・アクション
- 第14回 雇用平等への道
- 第15回 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】配布資料等を基にレポート・発表等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義や課題発表等の復習をすること。（学修時間週2時間）

## 【テキスト・教材】

文献リストや資料等を配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験（50%）、発表・コメントペーパー等の提出（50%）の総合的判断による。発表・コメントペーパー等（50%）に関してはそのつど全体における講評を行うなどし、期末試験（50%）に関しては、個々への対応を行うなどしている。

## 【参考書】

高橋準、『ジェンダー学への道案内』（三訂版）、北樹出版 2009  
村みよ子、『ジェンダーと法』、不磨書房 2005、鹿嶋敬、『男女共同参画の時代』、岩波新書 2003、その他、必要に応じて適宜紹介する。

## 知的財産研究

酒井 麻千子

3年～ 後期 2単位

◎：行動力 ○：協働力

### 【授業のテーマ】

現代社会では、知的活動の成果を保護する権利（知的財産権）の重要性が増している。特に文化活動やそれを伝達するメディアなど、人々の表現を取り扱う分野においては、著作権の知識は欠かせない。また日常生活の中でも、デジタル技術やネットワーク技術の発展によって、作品享受・利用において著作権の知識を必要とする場面が増大している。本授業では、知的財産法の基礎的知識を学ぶとともに、コンテンツビジネスと知的財産権との関連についても触れ、知的財産権に関わる幅広い問題を理解することを目的とする。

### 【授業における到達目標】

- ・表現活動へたずさわる際や日常生活での作品利用で生じる知的財産権の問題について、「法的に考える」ための足がかりとなる知識を修得する。
- ・学生が習得すべき「行動力」のうち、課題発見力を修得する。

### 【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン：知的財産権とは何か  
 第2週 著作権（1）著作物とは・作者とは  
 第3週 著作権（2）著作権の内容と権利制限規定：どんな利用行為が権利侵害となるのか  
 第4週 著作権（3）著作権関連裁判例の検討  
 第5週 著作権（4）著作権関連裁判例の検討（2）  
 第6週 著作権（5）パロディ・表現の自由と著作権  
 ＊博物館学芸員経験者の方によるゲスト講義を予定  
 第7週 産業財産権（1）特許権・意匠権の基礎と著作権法との違い  
 第8週 産業財産権（2）産業財産権関連裁判例の検討  
 第9週 インターミッション（1）：質疑応答と授業理解度の促進  
 第10週 インターミッション（2）：質疑応答と授業理解度の促進  
 第11週 デジタル技術と著作権（1）作品創作・発表の技術的变化と著作権  
 第12週 デジタル技術と著作権（2）作品享受・利用の技術的变化と著作権  
 ＊弁護士の方によるゲスト講義を予定  
 第13週 コンテンツビジネスと著作権  
 第14週 小レポート検討、質疑応答  
 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲を予習すること・小レポート等の課題に取り組むこと（学修時間 週2時間）

【事後学修】 配布したプリントを復習し、翌週冒頭（あるいはmanaba上）で行う小問題に解答すること（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

プリントを使用する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験40%、小レポート30%、平常点（コメントシートへの記入及び小問題解答）30%で評価する。

- ・授業中の小問題の正答率は問わない。
- ・小問題は授業中、小レポートは次回授業、試験は最終回でフィードバックを行う。

### 【参考書】

授業内で適宜紹介する。

### 【注意事項】

知的財産権や法律に関する事前知識は特に必要ないが、普段の生活の中で、著作権などの知的財産権関連の話題に関心を持ち、疑問や問題点などを意識しつつ授業に臨むことを推奨する。

## 知的財産研究

酒井 麻千子

3年～ 後期 2単位

### 【授業のテーマ】

現代社会では、知的活動の成果を保護する権利（知的財産権）の重要性が増している。特に文化活動やそれを伝達するメディアなど、人々の表現を取り扱う分野においては、著作権の知識は欠かせない。また日常生活の中でも、デジタル技術やネットワーク技術の発展によって、作品享受・利用において著作権の知識を必要とする場面が増大している。本授業では、知的財産法の基礎的知識を学ぶとともに、コンテンツビジネスと知的財産権との関連についても触れ、知的財産権に関わる幅広い問題を理解することを目的とする。

### 【授業における到達目標】

- ・表現活動へたずさわる際や日常生活での作品利用で生じる知的財産権の問題について、「法的に考える」ための足がかりとなる知識を修得する。
- ・学生が習得すべき「行動力」のうち、課題発見力を修得する。

### 【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン：知的財産権とは何か  
 第2週 著作権（1）著作物とは・著作者とは  
 第3週 著作権（2）著作権の内容と権利制限規定：どんな利用行為が権利侵害となるのか  
 第4週 著作権（3）著作権関連裁判例の検討  
 第5週 著作権（4）著作権関連裁判例の検討（2）  
 第6週 著作権（5）パロディ・表現の自由と著作権  
 ＊博物館学芸員経験者の方によるゲスト講義を予定  
 第7週 産業財産権（1）特許権・意匠権の基礎と著作権法との違い  
 第8週 産業財産権（2）産業財産権関連裁判例の検討  
 第9週 インターミッション（1）：質疑応答と授業理解度の促進  
 第10週 インターミッション（2）：質疑応答と授業理解度の促進  
 第11週 デジタル技術と著作権（1）作品創作・発表の技術的变化と著作権  
 第12週 デジタル技術と著作権（2）作品享受・利用の技術的变化と著作権  
 ＊弁護士の方によるゲスト講義を予定  
 第13週 コンテンツビジネスと著作権  
 第14週 小レポート検討、質疑応答  
 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲を予習すること・小レポート等の課題に取り組むこと（学修時間 週2時間）

【事後学修】 配布したプリントを復習し、翌週冒頭（あるいはmanaba上）で行う小問題に解答すること（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

プリントを使用する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験40%、小レポート30%、平常点（コメントシートへの記入及び小問題解答）30%で評価する。

- ・授業中の小問題の正答率は問わない。
- ・小問題は授業中、小レポートは次回授業、試験は最終回でフィードバックを行う。

### 【参考書】

授業内で適宜紹介する。

### 【注意事項】

知的財産権や法律に関する事前知識は特に必要ないが、普段の生活の中で、著作権などの知的財産権関連の話題に関心を持ち、疑問や問題点などを意識しつつ授業に臨むことを推奨する。

## 知的財産法

須藤 浩

3年 後期 2単位

◎：国際的視野

### 【授業のテーマ】

知的財産法は法律科目の一つであるから、法体系の中での位置づけを意識する必要がある。また、知的財産権は、権利者には強大な利益を与える一方で、第三者や社会全体には大きな制約や不便を強いることになるので、常に私益と公益の調和を考慮しなければならない。こうした法的思考（リーガルマインド）を知的財産を学ぶ中で身に付けたい。

また、知的財産は産業活動の中での重要性が大きい分野であるが、近年では、第4次産業革命と言われるAI（人工知能）やビッグデータの保護が問題となっており、政府機関などで検討が進んでいる。このような最新情報も取り入れた授業内容にしたい。

第2週以降、授業開始後15分間を当てて、前回授業内容から出題する設問を○×で回答する形式の小テストを行う。この回答で出欠確認も行う。

### 【授業における到達目標】

知的財産は資源の乏しい我が国において重要である。近々社会人になるに当たり、特許・実用新案・意匠・商標・著作権などについて基礎的な知識と理解を修得することを目標とする。

特に、知的財産として保護される対象、知的財産権の侵害の態様について修得できるようにする。

また、知的財産権の適切な保護について正しく理解し、課題を発見できるようにする。

### 【授業の内容】

- 第1週 知的財産の概要
- 第2週 特許1（特許取得までの流れ、特許要件など）
- 第3週 特許2（特許権の帰属、身近な発明の紹介など）
- 第4週 特許3（特許権の効力など）
- 第5週 特許と実用新案（共通点と相違点、実用新案の意義など）
- 第6週 意匠1（意匠登録要件、意匠特有の制度など）
- 第7週 意匠2（意匠権の効力、意匠登録例の紹介など）
- 第8週 商標1（特許との本質的相違、商標登録例の紹介など）
- 第9週 商標2（商標登録要件、商標権の効力など）
- 第10週 商標3（地域ブランド、小売サービス商標など）
- 第11週 産業財産権の国際問題
- 第12週 著作権1（概要）
- 第13週 著作権2（紛争事例の紹介など）
- 第14週 著作権3（インターネットとの関連など）
- 第15週 その他の知的財産（不正競争防止法など）

### 【事前・事後学修】

知的財産に関連する新聞記事やTVニュースを目にしたら、積極的に興味を持って接して欲しい。

主テキストによる予習（2時間/回）と復習（2時間/回）をして、講義内容が身につくようにして欲しい。

### 【テキスト・教材】

主テキスト：『知的財産権制度入門』特許庁  
（平成29年度版の必要部分を特許庁サイトからダウンロードして冊子化したものを初回授業時に配布する予定）

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テストの成績80%

試験20%

ただし、授業態度が特に悪い場合は大きくマイナス評価する

小テストおよび試験の採点結果は受講者に知らせる。

## 知的財産法入門

酒井 麻千子

1・2年 後期 2単位

○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

現代社会では、知的活動の成果を保護する権利（知的財産権）の重要性が増している。例えば、表現活動やそれを伝達するメディアにたずさわる者にとって著作権の知識は欠かせない。他方で日常生活の中でも、デジタル・ネットワーク技術の発達により、作品の享受・利用において著作権の知識を必要とする場面が増大している。また発明や意匠といった産業財産権に関わる製品も、日常生活に溢れており、企業内でこのような権利に触れる機会も多くなっている。本授業では、知的財産法の基礎知識を学ぶとともに、特に出版について生じる著作権関連の問題について触れ、知的財産法を手がかりに、日常生活において「法的に考える」ことの土台を作ることを目指す。

### 【授業における到達目標】

- ・知的財産管理技能検定3級を受験するための基礎的知識を獲得することを目標とする。
- ・学生が修得すべき「研鑽力」のうち、法的問題についての本質を見抜く力を修得する。

### 【授業の内容】

- 第1週 インTRODakション：知的財産権とは何か
- 第2週 著作権（1）著作物とは・著作者とは
- 第3週 著作権（2）著作権の内容と権利制限規定：どんな利用行為が権利侵害となるのか
- 第4週 著作権（3）著作権関連裁判例の検討
- 第5週 デジタル技術と著作権：作品創作・享受の技術的変化と著作権
- 第6週 インターミッション（1）：質疑応答と授業理解度の促進
- 第7週 産業財産権（1）特許権・実用新案権の基礎
- 第8週 産業財産権（2）意匠権・商標権の基礎
- 第9週 産業財産権（3）産業財産権関連裁判例の検討
- 第10週 産業財産権（4）その他の知的財産法・条約の基礎
- 第11週 インターミッション（2）：質疑応答と授業理解度の促進
- 第12週 小レポート解説
- 第13週 出版と著作権：電子出版・契約・作品利用など
- 第14週 まとめ（問題解答）
- 第15週 フィードバック

### 【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲を予習すること・小レポート等の課題に取り組むこと（学修時間 週2時間）

【事後学修】 配布したプリントを復習し、翌週冒頭（あるいはmanaba上）で行う小問題に解答すること（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

プリントを使用する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験40%、小レポート30%、平常点（コメントシートへの記入及び小問題解答）30%で評価する。

- ・授業中の小問題の正答率は問わない。
- ・小問題は授業中、小レポートは次回授業、試験は最終回でフィードバックを行う。

### 【参考書】

授業内で適宜紹介する。

### 【注意事項】

知的財産権や法律に関する事前知識は特に必要ないが、普段の生活の中で、著作権などの知的財産権関連の話題に関心を持ち、疑問や問題点などを意識しつつ授業に臨むことを推奨する。



**地域エネルギー論**

再生可能エネルギーによる地域自立

菅野 元行

2・3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

※「現代社会を読み解くd」と同様に、毎回の授業時に、授業のポイントの記載とともに、質問や意見を記載するコメントペーパーを毎回配布しますので、質問の記入などに役立ててください。

※私語、写真撮影など他の受講者の迷惑となる行為を禁止します。授業の妨げになると判断した場合は、教室からの退席を求めることがあります。

※事前に断りの無い途中退室や、授業開始後30分以上経過した後の入室を禁止します。その他の注意事項等の説明は初回の講義で行います。

**【授業のテーマ】**

東日本大震災後の原子力発電の急減にともない、大規模集中型ではない再生可能エネルギー（再エネ）によるエネルギー自給の活動が国内の様々な地域で動き出しています。しかしながら、従来の大規模集中型のエネルギー供給に慣れた生活では、地域自立型の再エネ利用への変遷が容易ではありません。地域自立、環境学、エネルギー学の融合した、現代生活学科の特徴的な科目の一つであり、他大学を見渡しても先端的な科目です。

**【授業における到達目標】**

- ①地域自立型エネルギーの概要を理解し、その事例研究を通して、地域自立エネルギーの実現に向けた構想について修得する。
- ②再生可能エネルギーの仕組みや、その地域の状況を理解しながら地域自立型エネルギーを運用する可能性を議論できる。以上により学生が習得すべき「研鑽力」「行動力」を身につけることを目的とする。

**【授業の内容】**

- 1 オリエンテーション
- 2 地域自立エネルギーとは
- 3 再エネの特徴1：水力、風力
- 4 再エネの特徴2：地熱、地中熱
- 5 大規模発電：火力、原子力
- 6 再エネの特徴3：太陽光、固定価格買取制度
- 7 地域エネルギー実践企業の方の講演聴講
- 8 再エネの特徴4：バイオマスのエネルギー転換
- 9 地域エネルギーの事例研究1
- 10 地域エネルギーの三原則、事例研究2
- 11 地域別再エネのポテンシャル、事例研究3
- 12 再エネの資源量の把握、事例研究4
- 13 再エネ事業と地域活性化、事例研究5
- 14 再エネの社会的・環境的制約条件、事例研究6
- 15 系統連系、地域で資金循環、事例研究7

※再生可能エネルギーの特徴を理解していることが必要なため、「現代社会を読み解くd（科学技術と社会）」を修得していることが必要です。

※3年次「地域エネルギー論演習」の履修を意図している場合は、この科目の修得が必要です。

**【事前・事後学修】**

【事前学修】授業や課題で分からない言葉は事前に調べておいてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】課題A（各授業日の内容を文章にする）を設定しますので、復習に役立ててください。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

後半の授業では参考書の書籍（図書館の指定図書）に沿って進めます。必要に応じてプリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

毎回の授業時のポイントの記載で2割、課題A（上記参照）で8割が基本です。さらに履修生の希望に応じて、課題B（環境・エネルギーに関する新聞記事調査）、課題C（環境・エネルギーに関する展示の感想文）を提出することも可能です。詳細はオリエンテーション時に説明します。課題Aは毎週、課題B・Cは随時、フィードバックを行います。

**【参考書】**

環境エネルギー政策研究所『地域の資源を活かす再生可能エネルギー事業』（きんざい 2014年）2,000円＋税（図書館の指定図書）

地域エネルギー、コミュニティパワーなどの言葉で検索した書籍やwebも役に立ちます。参考となる書籍は授業中に回覧します。

**【注意事項】**

**地域エネルギー論演習**

地域エネルギーの確立に向けたプロジェクトの策定

菅野 元行

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

「地域エネルギー論」修得後の学生に対して、地域エネルギー事業の具現化に向けたプロジェクトの策定を行う授業です。

履修生が希望すれば、地域エネルギー事業に関わる企業の方々との連携によりプロジェクトを策定することも可能です。そのため、環境・エネルギーゼミの取り組みと連動した内容となります。

**【授業における到達目標】**

①地域エネルギーを実践的に理解し、環境や資源に配慮したプロジェクトに主体的に取り組み、効果的な討論手法を習得する姿勢を身につける。

②地域エネルギーの課題に主体的に取り組み、問題抽出や課題解決に至る優れた技能を身につける。

以上により学生が習得すべき「行動力」「研鑽力」を身につけることを目的とする。

**【授業の内容】**

- 1 オリエンテーション
- 2 地域エネルギープロジェクト（PJ）策定の流れ
- 3 地域エネルギーPJの事例研究
- 4 地域エネルギーPJの設定、調査手法
- 5 地域エネルギーPJの調査（1回目）
- 6 地域エネルギーPJの評価検討（1回目）
- 7 地域エネルギーPJの提案発表・討論（1回目）
- 8 地域エネルギーPJの調査（2回目）
- 9 地域エネルギーPJの評価検討（2回目）
- 10 地域エネルギーPJの提案発表・討論（2回目）
- 11 地域エネルギーPJの調査（3回目）
- 12 地域エネルギーPJの評価検討（3回目）
- 13 地域エネルギーPJの提案発表・討論（3回目）
- 14 地域エネルギーPJの評価検討（4回目）
- 15 振り返り・まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】各授業回に応じた準備学修を指示しますので、事前に取り組んでください。その際に分からない言葉は事前に調べておいてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】プロジェクトの発表後には、討論結果を踏まえた事後学修に取り組み、次回の発表時まで精度を上げてください。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

必要に応じてプリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業中のアクティビティ）70%、プロジェクトの発表内容30%。フィードバックはPJ提案発表の次の回に行います。

**【参考書】**

必要に応じて書籍を回覧します。

**【注意事項】**

※「地域エネルギー論」で修得した内容を基に展開する科目のため、「地域エネルギー論」を修得していることが求められます。  
 ※地域エネルギープロジェクトの策定という科目内容に従い、環境・エネルギーゼミの取り組みと連動した専門的な内容となります。  
 ※演習科目のため、履修生の積極性を重視します。演習科目で消極的な授業態度では力を伸ばすことができません。

**地域経済分析特論**

角本 伸晃

人間社会専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

本講義は、地域経済の内で観光地・観光産業に焦点を当てて、それに関するデータや参考文献のネット上での入手方法を修得した上で、観光産業の経済効果や観光地・観光施設の特性などを分析することを目的とする。はじめに観光産業や観光地に関するデータ分析の方法を講義し、その後で観光産業の経済効果や観光地・観光施設の特性などを実証的に分析するという手順で講義を進める。

**【授業における到達目標】**

地域経済の理論的メカニズムを理解し、データ分析においてはExcelや統計解析ソフトを利用して分析ができるようになることを到達目標とする。

**【授業の内容】**

1. イントロダクション（観光地・観光産業の選定）
2. Excelの操作方法の確認
3. 観光地の検出（従業者数の特化係数分析）
4. 観光地の観光産業の検出（経済基盤分析）
5. 観光地の雇用乗数・雇業者数の推定（経済基盤分析）
6. 観光地の誘客圏（商圈分析の応用）
7. 産業連関表
8. 観光産業の経済効果（産業連関分析）
9. 観光産業の経済効果の推定（産業連関分析）
10. 統計解析ソフトの操作方法
11. 観光施設の順位・規模法則（単回帰分析）
12. 観光商品の普及経路（ロジスティック曲線分析）
13. 観光地の入込み客数の決定要因の選定
14. 観光地の入込み客数の決定要因の推定（重回帰分析）
15. 訪日外国人の消費パターンの類型化（クラスター分析）

**【事前・事後学修】**

【事前学修】配付プリントやテキストを読んで理解しておく。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業で行ったデータ分析を違うデータ（授業中に指示する）で行って復習する。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

角本伸晃『観光による地域活性化の経済分析』（成文堂 2011年）  
4,860円

他に、適宜に邦文・外国語文献やデータなどの資料を配付する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

講義中に課すデータ分析のレポート（50%）、授業中の発言・積極的な参加（50%）による。レポートについては次回授業で、授業の取り組みについては最終回授業で講評を行ってフィードバックする。

**【参考書】**

適宜に参考文献を紹介する。

**地域経済論**

角本 伸晃

3年 後期 2単位

◎：協働力 ○：研鑽力、行動力

**【授業のテーマ】**

グローバル化の一方で、日本国内の地域の状況はさまざまに異なり、過疎・過密、産業構造の違い、工場の海外移転、地域格差の拡大などそれに対応した問題を抱えている。本講義では、そのような状況がなぜ発生するのか、そのような問題を解決するためにはどのような政策が考えられるか、の視点に立って、地域経済学の基本メカニズムを学ぶ。地域経済学の理論的なメカニズムや具体的な事例を理解することはもちろんであるが、必要に応じて最新のデータを配布し、データの読み取り方や加工の仕方も学ぶことを目的とする。また、外部講師の方をお呼びして最新の地域経済について講義をしていただき、実際の地域の現状の理解を深めてもらう予定である（どの地域かは未定）。

**【授業における到達目標】**

地域経済学の理論的なメカニズムを理解し、地域の課題を解決する能力を修得する。このことを通して、地域において状況に応じたリーダーシップを発揮できる協働力を修得することを目標とする。

**【授業の内容】**

1. 地域経済学とは何か
2. 地域経済学の基本概念
3. 産業構造の変化(1)
4. 産業構造の変化(2)
5. 地域所得の計測の仕方
6. 地域所得の決定
7. 地域の経済成長（移出基盤理論1）
8. 地域の経済成長（移出基盤理論2）
9. 地域の経済成長（技術進歩と人口増加1）
10. 地域の経済成長（技術進歩と人口増加2）
11. 地域間格差の現状
12. 地域間格差の存続する理由
13. 都市の成長と衰退・消滅
14. 地域経済の現状（外部講師招聘の予定）
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回の授業範囲を予習し、事前学修の項目も考え、調べておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 授業で板書されたグラフをもう一度自分でノートに書き、数値例も自力で解いて復習すること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

テキストは指定せず、配布プリントを用いる。下記の参考書は授業の理解を深めるために利用してほしい。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

成績は、期末試験（80%）、レポート課題（20%）によって総合的に評価する。レポート課題については次回授業で、期末試験については最終回授業で解説と講評を行ってフィードバックする。

**【参考書】**

山田浩之・徳岡一幸編著『地域経済学入門 [新版]』（有斐閣 2007年）2, 484円  
佐藤泰裕『都市・地域経済学への招待状』（有斐閣 2014年）1, 944円

**【注意事項】**

グラフを自分で書くことで理解はかなり進むので、板書したグラフは大きくノートに書き写してほしい。

**地域社会学**

東南アジアの多民族社会論

高橋 美和

2年 後期 2単位

○：国際的視野、行動力

**【授業のテーマ】**

民族的に均質性の高い日本に住んでいると、複数の言語や宗教、生活習慣が混在し複合的にからみあっている地域を肌で理解することは容易ではない。しかし、全世界的に見ると、むしろ多民族社会でない社会は少数派である。現代のグローバル化が進んだ世界を理解するためには多民族社会について学んでおくことは必須と言える。この授業では、日本とも様々な方面で関係が深い、東南アジア地域を主な対象とし、この地域における諸社会の実情を、多民族社会という切り口から概説する。

**【授業における到達目標】**

主として東南アジア地域の諸国家・諸社会の情勢に関する基礎的な知識を身につけ、民族とは何か、多民族国家とは何か、を理解できるようになること。さらに、多民族国家のもつ困難さ・国民統合のために払われている様々な努力、そして多民族複合の生み出すダイナミズムを理解できるようになること。これらを通して、多様な価値観を持つ人々と相互の理解と協力を築こうとする国際的視野を身につけ、現状を正しく把握し、課題を発見できる行動力を身につけること、が総合目標。

**【授業の内容】**

- 第1週 導入：日本人が多民族社会を理解しづらい理由
- 第2週 東南アジア10カ国の政治体制・政治リーダー・情勢概観
- 第3週 「〇〇人」の意味：国民・民族・少数民族
- 第4週 人の名前から見る多文化
- 第5週 多民族国家の類型論
- 第6週 東南アジアの言語系統と民族系統
- 第7週 東南アジアの諸民族①：山岳少数民族
- 第8週 東南アジアの諸民族②：国境を越えて居住する民族
- 第9週 東南アジアの諸民族③：都市部に居住する華人
- 第10週 多民族国家の民族政策①：ベトナム
- 第11週 多民族国家の民族政策②：シンガポール
- 第12週 多民族国家の民族政策③：インドネシア
- 第13週 多民族国家の多文化教育：カンボジア
- 第14週 最新の民族問題
- 第15週 まとめ講義

**【事前・事後学修】**

事前：次回の授業のキーワードを示すので下調べをしてくること。課題を課した週は次回授業時に提出すること（学修時間 週2時間）。

事後：各回の授業の復習をする他、期末試験にむけて、発展的な読書をする（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

適宜資料を配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

毎回のコメントペーパーの内容30%+提出課題20%+期末試験50%  
提出物および試験は授業期間内にフィードバックする。

**【参考書】**

清水 一史/田村 慶子/横山 豪志 編著『東南アジア現代政治入門』（ミネルヴァ書房、2011）  
今井昭夫・東京外国語大学東南アジア課程 編『東南アジアを知るための50章』（明石書店、2014）

**【注意事項】**

新聞やネットのニュースサイトなどで、地域を問わず、「民族」や「外国人住民」に関するニュースをチェックするように心がけてほしい。関心を持つことは、より深い学びにつながる。

**地域社会学**

原田 謙

2年 前期 2単位

○：国際的視野、行動力

**【授業のテーマ】**

この授業は、地域をとらえる理論と方法を理解し、今日の地域社会がかかえている諸問題を検討しながら、住民と自治体の協働（パートナーシップ）について学習することを目的とする。具体的には、郊外社会の理想と現実、インナーシティ問題、グローバリゼーションと世界都市、地方都市の衰退と中心市街地活性化、市町村合併と限界集落などの論点を検討する。

**【授業における到達目標】**

この授業の目標は、大都市から農山漁村まで、それぞれの地域特性に応じた「まちづくり」の現状と今後の課題について考える知識を習得することである。グローバリゼーションと都市に関する「国際的視野」を身につけるとともに、地域社会の現状を正しく把握し問題解決につなげる「行動力」を養成する。

**【授業の内容】**

1. 地域のとらえ方
2. シカゴ学派：都市空間構造のモデル
3. アーバニズム：都市は何をうみだすのか？
4. 都市化と地域社会の変容
5. 郊外社会とサバーバニズム
6. 都市の衰退とインナーシティ問題
7. グローバリゼーションと都市
8. 都市計画とまちづくり
9. 地方の衰退と中心市街地活性化
10. 市町村合併と過疎化
11. 地域開発の構想と帰結
12. 環境問題と地域再生
13. 安全・安心のまちづくり
14. レポート課題について
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】授業前に、参考書等を用いて該当箇所を予習しておくこと（週2時間）。

【事後学習修】授業後に、学習した概念、地域の事例などを復習しておくこと（週2時間）。

**【テキスト・教材】**

適宜、プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業中の課題の提出（40%）、学期末レポート（60%）にもとづいて評価する。課題およびレポート評価のフィードバックは、授業最終回もしくはmanabaで行う。

**【参考書】**

森岡清志編『地域の社会学』（有斐閣、2008年）

松本康編『都市社会学・入門』（有斐閣、2014年）

中筋直哉・五十嵐泰正編『よくわかる都市社会学』（ミネルヴァ書房、2013年）

**地域社会学**

原田 謙

2年～ 前期 2単位

○：国際的視野、行動力

**【授業のテーマ】**

この授業は、地域をとらえる理論と方法を理解し、今日の地域社会がかかえている諸問題を検討しながら、住民と自治体の協働（パートナーシップ）について学習することを目的とする。具体的には、郊外社会の理想と現実、インナーシティ問題、グローバリゼーションと世界都市、地方都市の衰退と中心市街地活性化、市町村合併と限界集落などの論点を検討する。

**【授業における到達目標】**

この授業の目標は、大都市から農山漁村まで、それぞれの地域特性に応じた「まちづくり」の現状と今後の課題について考える知識を習得することである。グローバリゼーションと都市に関する「国際的視野」を身につけるとともに、地域社会の現状を正しく把握し問題解決につなげる「行動力」を養成する。

**【授業の内容】**

1. 地域のとらえ方
2. シカゴ学派：都市空間構造のモデル
3. アーバニズム：都市は何をうみだすのか？
4. 都市化と地域社会の変容
5. 郊外社会とサバーバニズム
6. 都市の衰退とインナーシティ問題
7. グローバリゼーションと都市
8. 都市計画とまちづくり
9. 地方の衰退と中心市街地活性化
10. 市町村合併と過疎化
11. 地域開発の構想と帰結
12. 環境問題と地域再生
13. 安全・安心のまちづくり
14. レポート課題について
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】授業前に、参考書等を用いて該当箇所を予習しておくこと（週2時間）。

【事後学習修】授業後に、学習した概念、地域の事例などを復習しておくこと（週2時間）。

**【テキスト・教材】**

適宜、プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業中の課題の提出（40%）、学期末レポート（60%）にもとづいて評価する。課題およびレポート評価のフィードバックは、授業最終回もしくはmanabaで行う。

**【参考書】**

- 森岡清志編『地域の社会学』（有斐閣、2008年）  
 松本康編『都市社会学・入門』（有斐閣、2014年）  
 中筋直哉・五十嵐泰正編『よくわかる都市社会学』（ミネルヴァ書房、2013年）

**地域社会学**

東南アジアの多民族社会論

高橋 美和

2年～ 後期 2単位

○：国際的視野、行動力

**【授業のテーマ】**

民族的に均質性の高い日本に住んでいると、複数の言語や宗教、生活習慣が混在し複合的にかみあっている地域を肌で理解することは容易ではない。しかし、全世界的に見ると、むしろ多民族社会でない社会は少数派である。現代のグローバル化が進んだ世界を理解するためには多民族社会について学んでおくことは必須と言える。この授業では、日本とも様々な方面で関係が深い、東南アジア地域を主な対象とし、この地域における諸社会の実情を、多民族社会という切り口から概説する。

**【授業における到達目標】**

主として東南アジア地域の諸国家・諸社会の情勢に関する基礎的な知識を身につけ、民族とは何か、多民族国家とは何か、を理解できるようになること。さらに、多民族国家のもつ困難さ・国民統合のために払われている様々な努力、そして多民族複合の生み出すダイナミズムを理解できるようになること。これらを通して、多様な価値観を持つ人々と相互の理解と協力を築こうとする国際的視野を身につけ、現状を正しく把握し、課題を発見できる行動力を身につけること、が総合目標。

**【授業の内容】**

- 第1週 導入：日本人が多民族社会を理解しづらい理由
- 第2週 東南アジア10カ国の政治体制・政治リーダー・情勢概観
- 第3週 「〇〇人」の意味：国民・民族・少数民族
- 第4週 人の名前から見る多文化
- 第5週 多民族国家の類型論
- 第6週 東南アジアの言語系統と民族系統
- 第7週 東南アジアの諸民族①：山岳少数民族
- 第8週 東南アジアの諸民族②：国境を越えて居住する民族
- 第9週 東南アジアの諸民族③：都市部に居住する華人
- 第10週 多民族国家の民族政策①：ベトナム
- 第11週 多民族国家の民族政策②：シンガポール
- 第12週 多民族国家の民族政策③：インドネシア
- 第13週 多民族国家の多文化教育：カンボジア
- 第14週 最新の民族問題
- 第15週 まとめ講義

**【事前・事後学修】**

事前：次回の授業のキーワードを示すので下調べをしてくること。課題を課した週は次回授業時に提出すること（学修時間 週2時間）。

事後：各回の授業の復習をする他、期末試験にむけて、発展的な読書をする（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

適宜資料を配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

毎回のコメントペーパーの内容30%+提出課題20%+期末試験50%  
 提出物および試験は授業期間内にフィードバックする。

**【参考書】**

- 清水 一史/田村 慶子/横山 豪志 編著『東南アジア現代政治入門』（ミネルヴァ書房、2011）  
 今井昭夫・東京外国語大学東南アジア課程 編『東南アジアを知るための50章』（明石書店、2014）

**【注意事項】**

新聞やネットのニュースサイトなどで、地域を問わず、「民族」や「外国人住民」に関するニュースをチェックするように心がけてほしい。関心を持つことは、より深い学びにつながる。

**地域食料論**

フードチェーンから考える食と暮らしの未来

野津 喬

2・3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

私たちは食べなければ生きていくことが出来ません。しかし「食」の産業化が進み、生活との距離が離れている現代では、私たちが「食」について知っていることは意外に多くありません。この授業ではフードチェーン（食料の流れ）を私たちにとって身近な「消費」から逆にたどっていくことによって、食と暮らし、食と産業、食と地域と世界、食と環境の関係について考えることを目的とします。

**【授業における到達目標】**

- ①フードチェーンの観点から、食と暮らし、産業、地域と世界、環境の関係を考える上で必要な基礎的知識を身につける。
  - ②フードチェーンの観点から、食と暮らし、産業、地域と世界、環境の関係をより良くするための方向性について自分なりの考えを持つようになる。
- これにより、学生が習得すべき「研鑽力」のうち広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とします。

**【授業の内容】**

- 次の各テーマについて、15回の授業を行う予定です。
1. はじめに（講義の進め方及び目標、イントロダクション）
  2. ディスカッション、食の「消費」①（食の安全確保）
  3. 食の「消費」②（消費者の信頼）
  4. 食の「消費」③（暮らしと食の変化）
  5. グループワーク（食の「消費」について考える）
  6. 食の「流通」①（食品産業の動向）
  7. 食の「流通」②（食品ロスと食品リサイクル）
  8. 食の「流通」③（食料品アクセス問題）
  9. グループワーク（食の「流通」について考える）
  10. 食の「生産」①（食料安全保障と自給率）
  11. 食の「生産」②（農業の構造改革）
  12. 食の「生産」③（環境保全と農業）
  13. グループワーク（食の「生産」について考える）
  14. まとめ（これまでの授業の総括）
  15. 授業の理解度確認

**【事前・事後学修】**

【事前学修】次の授業の参考資料に事前に目を通しておいてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】毎回の講義終了時に実施する小テスト等を復習すること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

manabaに講義で使用使用するプリント等を掲載しますので、各自で事前にプリントアウトして忘れずに授業に持参してください。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末試験（50%）、グループワーク（10%）、各回の講義の定着度を確認する小テスト（40%）により評価を行います。フィードバックは、関連する範囲の講義資料を全てmanabaに掲示することにより行います。

**【参考書】**

農林水産省（編）『食料・農業・農村白書＜平成29年度版＞』（日経印刷 2017）2,808円（※参考書の購入の可否については、初回の講義でお伝えします。）

**【注意事項】**

他の受講者の迷惑となる行為（私語など）を禁止します。講義の妨げになると判断した場合は、成績評価に反映（減点）し、注意しても改善されない場合は講義からの退室を求める場合があります。講義開始後10分以上経過した後の入室は遅刻、30分以上経過した後の入室は欠席扱いとします。その他の注意事項等の説明は初回の講義で行います。

**地域食料論演習**

「生産」「流通」「消費」から考える地域と食料

野津 喬

3年 後期 2単位

◎：協働力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

この授業では課題解決型授業の形式により、地域、食料、農業などが抱える課題と今後の方向性について各自が考え、自分の言葉で説明できるようになることを目的とします。授業は地域食料論を履修していることを前提として進めます。

**【授業における到達目標】**

- ①地域、食料、農業などが抱える課題と今後の方向性について「生産」「流通」「消費」の3つの視点から、自分の考えを論理的に説明できるようになる。
  - ②情報の収集・分析、グループディスカッション、プレゼンテーションに関する基礎的能力を身につける
- これにより、学生が習得すべき「行動力」「協働力」を身につけることを目的とします。

**【授業の内容】**

次の各テーマについて、15回の授業を行う予定です。

1. はじめに（講義の進め方及び目標、イントロダクション）
  2. フィールドワーク①事前検討
  3. フィールドワーク①（地域関係）
  4. フィールドワーク①振り返り
  5. 企画検討
  6. 授業内発表
  7. プレゼンテーション（地域関係）
  8. プレゼンテーション振り返り
  9. フィールドワーク②事前検討
  10. フィールドワーク②（食関係）
  11. フィールドワーク②振り返り
  12. 企画検討
  13. 授業内発表
  14. プレゼンテーション（食関係）
  15. まとめ（これまでの授業の総括）
- ※フィールドワークの回は調査対象先の状況等によって前後する可能性があります。

**【事前・事後学修】**

【事前学修】次の授業の参考資料に事前に目を通しておいてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義で指摘を受けた事項等について、インターネットや書籍等によって各自に必要な情報を集めてください。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

manabaに講義で使用使用するプリント等を掲載しますので、各自で事前にプリントアウトして忘れずに授業に持参してください。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

グループワーク（80%）、プレゼンテーション（20%）により評価を行います。フィードバックは、プレゼンテーションの次の回に行います。

**【参考書】**

課題に応じて、講師から適宜指示します。

**【注意事項】**

他の受講者の迷惑となる行為（私語など）を禁止します。講義の妨げになると判断した場合は、成績評価に反映（減点）し、注意しても改善されない場合は講義からの退室を求める場合があります。講義開始後、一定時間を経過した後の入室は遅刻または欠席扱いとします。その他、初回の講義で履修に関する注意事項を説明しますので、遅刻せずに必ず出席してください。

## 地域文化形成論

須賀 由紀子

2・3年 後期 2単位

©：研鑽力

### 【授業のテーマ】

少子高齢化、急速な情報化の進展、都市型暮らしによるコミュニティの希薄化などが危惧される現代生活において、日常の暮らしが営まれる「ローカルな場」の価値が高まっています。その土地のよさに主体的に関わり、愛着を持って楽しむ暮らしは、人と自然、自分と他者、そして生産と消費を結び、サステナブルな関係性の自分を感じ取ることのできる、自立的な生き方の要となることでしょう。この授業では、こうした豊かな味わいある地域の暮らし、ローカルズムに根ざした暮らしをデザインし、プロデュースしていくための力を身につけることを目的に学びをすすめます。

それぞれの地域には、その土地ならではの文化、歴史、自然、人的資源が内在しています。そうした地域の価値を発見することの意義やステークホルダーの存在に目をむけます。また、日本人が生来持つ美意識やデザイン力を資源として捉え、地域文化形成のプランニングのあり方を検討します。授業後半では、新たな地域文化を創造していくために、どのような関係性をデザインすればよいのか、具体的事例の中で検討し、地域文化形成の課題を自分自身の暮らしのテーマとして捉えていきます。

### 【授業における到達目標】

それぞれの土地にあるよさを引き出していかす、現代のまちづくりに必要な考え方や方法を身につけます。「研鑽力」のうち、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探求する力、学修成果を実感して自信を創出することができるようになること、および「行動力」のうち、現状を正しく把握して、課題を発見できる力の修得をめざします。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 スローライフの理念
- 第3週 「スローなまち」を構成するもの
- 第4週 地域文化政策の変遷
- 第5週 文化・芸術のまちづくり「創造都市」
- 第6週 「創造都市」の実際①内発性と外発性
- 第7週 「創造都市」の実際②アートという手だて
- 第8週 創造都市論の思想的背景
- 第9週 過疎をクリエイティブにする「創造農村」
- 第10週 生活文化でつなぐ都市と農村
- 第11週 地域文化形成の文脈～創造のまちづくりの視点～
- 第12週 日野市の地域資源を知る
- 第13週 創造のまちを生むストーリーと関係性のデザイン
- 第14週 創造的地域づくりの課題
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】提示された課題を行います（学修時間 週2時間）

【事後学修】学んだことを復習し、内容の整理・理解に努めます（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

適宜、配布プリントをお渡しします。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業内のアクティビティ）50%、期末レポート50%。課題に対するフィードバックは、授業の中で適宜行います。

### 【参考書】

佐々木雅幸『創造都市への挑戦』（岩波書店）、佐々木雅幸編『創造農村』（学芸出版社）、萩原雅也『創造の場から創造のまちへ』（水曜社）、原研哉『日本のデザイン』（岩波書店）、法政大学エコ地域デザイン研究所編『水の郷 日野』（鹿島出版会）



**地理学**

地域のとらえ方

竹林 和彦

1年～ 前期 2単位

○：研鑽力

講義内で適宜指示する。

**【注意事項】**

授業終了後の夏季休業中に希望者がいればフィールドワークを行っている。今年度も「地域の環境と地場産業」をテーマに実施する予定である。

**【授業のテーマ】**

本授業のテーマは「現代社会の地理的な考察と理解」である。グローバル化が進む現代社会において、多様な人間社会は互いに影響を与えあい、地域は多様に変容している。地理学において、その地域をどうとらえるかは重要な課題である。そこで、授業ではまず、地理学の分析のためには地図や地形図の有効性が高いことを確認し、日本を事例にいくつかの主題図の作成を行う。次に「地域」「環境」「景観」をキーワードに地理学の分析に必要な基礎的な地理学の視点・考え方を説明する。事例として、日本や世界各地を取り扱い、多角的な視点を持てるようにして国際的視野を養う。さらにそれら技能をもとに、主題図や統計資料、各自撮影した景観写真などを用いて、現代社会の地理的事象を多角的・多面的に考察し、課題解決のために主体的に行動する力を養う。

**【授業における到達目標】**

目標は、現代社会のさまざまな地理的事象に注目し、①それらの地理的な分布や規則性を考察することができること、②それらをまとまりがある地域としてとらえようとする地理的な見方や考え方を理解すること、③諸事象を人文地理学的に考察する意義や有効性を理解することである。最終的には、ある地域を選択し、景観（景観写真）を読み取り、さまざまな資料をもとに地表面にあらわれた諸事象を地図化して考察し、その地域社会を分析する技能を身につけ課題解決のために主体的に行動する力を養うことを目標とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション（本講義の目的と概要）
- 第2週 地理学と地図（地図の利用と有効性）
- 第3週 身近な地域と地図（メンタルマップ）
- 第4週 地理学における「地域」1（地域とは）
- 第5週 地理学における「地域」2（分析方法）
- 第6週 地理学における「地域」3（分析の発表）
- 第7週 地理学における「環境」1（環境とは）
- 第8週 地理学における「環境」2（分析方法）
- 第9週 地理学における「環境」3（分析の発表）
- 第10週 地理学における「景観」1（景観とは）
- 第11週 地理学における「景観」2（分析方法）
- 第12週 地理学における「景観」3（分析の発表1）
- 第13週 地理学における「景観」4（分析の発表2）
- 第14週 点（position）と面（site）から地域の特徴をとらえる
- 第15週 地域をとらえるということ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】各自作成したレポートに基づいた発表があるので、必ず指示された課題はこなして授業に参加すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業で扱った内容、および他の学生が発表した内容をまとめ内容の理解に努めること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

地図帳（高等学校用のものが使いやすい。中学のものでも可）  
 テキストは特に指定はしないが、必要に応じプリント等を配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート（80%）は半期に3～4回程度課す。それぞれのレポートごとに、①地理的な技法が習得できているか、②内容（の理解度）、③体裁などで評価する。授業中に行った議論をもとに、小レポートまたは感想など（20%）を課し、内容の理解度で評価する。なおプレゼンテーションやレポートにおいて、アドバイスをを行うので各自参考にとすること。

**【参考書】**

**地理学概論**

地域のとらえ方

竹林 和彦

1年 後期 2単位

◎：行動力

**【参考書】**

講義内で適宜指示する。

**【注意事項】**

希望者がいればフィールドワークを行っている。「地域の環境と地場産業」をテーマに実施する予定である。

全学の地理学と重複する内容が多いので、両方を履修する学生は注意すること。

**【授業のテーマ】**

本授業のテーマは「現代社会の地理的な考察と理解」である。グローバル化が進む現代社会において、多様な人間社会は互いに影響を与えあい、地域は多様に変容している。地理学において、その地域をどうとらえるかは重要な課題である。そこで、授業ではまず、地理学の分析のためには地図や地形図の有効性が高いことを確認し、日本を事例にいくつかの主題図の作成を行う。次に「地域」「環境」「景観」をキーワードに地理学の分析に必要な基礎的な地理学の視点・考え方を説明する。事例として、日本や世界各地を取り扱い、多角的な視点を持てるようにして国際的視野を養う。さらにそれら技能をもとに、主題図や統計資料、各自撮影した景観写真などを用いて、現代社会の地理的事象を多角的・多面的に考察し、課題解決のために主体的に行動する力を養う。

**【授業における到達目標】**

目標は、現代社会のさまざまな地理的事象に注目し、①それらの地理的な分布や規則性を考察することができること、②それらをまとまりがある地域としてとらえようとする地理的な見方や考え方を理解すること、③諸事象を人文地理学的に考察する意義や有効性を理解することである。最終的には、ある地域を選択し、景観（景観写真）を読み取り、さまざまな資料をもとに地表面にあらわれた諸事象を地図化して考察し、その地域社会を分析する技能を身につけ課題解決のために主体的に行動する力を養うことを目標とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション（本講義の目的と概要）
- 第2週 地理学と地図（地図の利用と有効性）
- 第3週 身近な地域と地図（メンタルマップ）
- 第4週 地理学における「地域」1（地域とは）
- 第5週 地理学における「地域」2（分析方法）
- 第6週 地理学における「地域」3（分析の発表）
- 第7週 地理学における「環境」1（環境とは）
- 第8週 地理学における「環境」2（分析方法）
- 第9週 地理学における「環境」3（分析の発表）
- 第10週 地理学における「景観」1（景観とは）
- 第11週 地理学における「景観」2（分析方法）
- 第12週 地理学における「景観」3（分析の発表1）
- 第13週 地理学における「景観」4（分析の発表2）
- 第14週 点（position）と面（site）から地域の特徴をとらえる
- 第15週 地域をとらえるということ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】各自作成したレポートに基づいた発表があるので、必ず指示された課題はこなして授業に参加すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業で扱った内容、および他の学生が発表した内容をまとめ内容の理解に努めること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

地図帳（高等学校用のものが使いやすい。中学のものでも可）  
テキストは特に指定はしないが、必要に応じプリント等を配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート（80%）は半期に3～4回程度課す。それぞれのレポートごとに、①地理的な技法が習得できているか、②内容（の理解度）、③体裁などで評価する。授業中に行った議論をもとに、小レポートまたは感想など（20%）を課し、内容の理解度で評価する。なおプレゼンテーションやレポートにおいて、アドバイスをを行うので各自参考にとすること。

**中古文学基礎演習 1**

パソコンで学ぶ中古文学

山口 一樹

2年 前期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

この授業では、中古文学の研究に役立つパソコンのさまざまな基礎的な技能を身につけることを目標とします。具体的には、Wordを中心に使用したレポートやゼミ資料の作成方法を学んでいきます。

**【授業における到達目標】**

Wordのさまざまな機能を用いてレポート・発表資料を作成できるようになることが到達目標です。学生が取得すべき「美の探究」のうち、人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度、「行動力」のうち、目標を設定して、計画を立案・実行できる力、「協働力」のうち、自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる力を修得します。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 Wordによる文書作成①Wordの基礎
- 第3週 Wordによる文書作成②文字入力の基本
- 第4週 Wordによる文書作成③文字の編集
- 第5週 Wordによる文書作成④文書のレイアウト
- 第6週 Wordによる文書作成⑤古文の入力
- 第7週 Wordによる文書作成⑥漢文の入力
- 第8週 Wordによる文書作成⑦図の作成
- 第9週 Wordによる文書作成⑧画像の挿入
- 第10週 Wordによる文書作成⑨表の作成
- 第11週 Wordによる文書作成⑩表の編集
- 第12週 Wordによる文書作成⑪レポート・論文のレイアウト
- 第13週 Wordによる文書作成⑫図表番号のつけ方
- 第14週 Wordによる文書作成⑬脚注・表紙のつけ方
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

〔事前学修〕小テストのための学習など（学修時間 週1時間）

〔事後学修〕毎回の小課題の取り組み、授業内容の復習など（学修時間 週3時間）

**【テキスト・教材】**

毎回プリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業態度）40%、小課題60%

小課題は次回授業でフィードバックを行います。

**【参考書】**

授業内で適宜紹介します。授業中に前回及びその回の授業内容に関する課題を出すことがあります。

**【注意事項】**

パソコンの数に限りがあるため、受講人数に制限があります。受講希望の学生は、必ず初回のガイダンスに出席してください。また、授業の性格上、講師の方で詳しく前の授業内容を振り返るようなことはしませんので、遅刻・欠席は避けてください（原則として課題の再実施は行いません）。パソコン初心者向けの授業内容となっていますので、ゆっくりと授業を進めていくことになります。

**中古文学基礎演習 1**

『百人一首』で学ぶ王朝和歌

近藤 みゆき

2年 前期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

『百人一首』は、珠玉の王朝和歌集です。選ばれた和歌も歌人も特徴ある優れたものばかりであり、平安時代の歌人・和歌、そして王朝和歌特有の世界を学ぶ上で、最適の作品といえます。この授業では『百人一首』を受講生全員で、分担して輪読し、王朝和歌研究の基礎を修得します。

**【授業における到達目標】**

- ◎王朝和歌全般についての知識を深める。
  - ◎名歌の詠まれた背景や、歌人の人生について学ぶ。
  - ◎和歌を各自で現代語訳するスキルを身につける。
  - ◎日本の文化と伝統について学ぶ。
  - ◎『百人一首』の研究方法を学ぶ。
- 学生が修得すべき「態度」のうち、日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度ならびに、人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度を修得します。

**【授業の内容】**

- 第1週 藤原定家と『百人一首』
- 第2週 この授業で行うブレインストーミングの方法について
- 第3週 発表資料の作成方法
- 第4週 口頭発表の手順
- 第5週 受講生の調査報告と研究発表（1～10番）
- 第6週 受講生の調査報告と研究発表（11～20番）
- 第7週 受講生の調査報告と研究発表（21～30番）
- 第8週 受講生の調査報告と研究発表（31～40番）
- 第9週 受講生の調査報告と研究発表（41～50番）
- 第10週 受講生の調査報告と研究発表（51～60番）
- 第11週 受講生の調査報告と研究発表（61～70番）
- 第12週 受講生の調査報告と研究発表（71～80番）
- 第13週 受講生の調査報告と研究発表（81～90番）
- 第14週 全体討論
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修 指定した範囲の和歌について、何種類かの注釈書を読み、わからない言葉などについて調べておいてください。疑問点をピックアップし、授業の際に質問できるようにしておいてください。（学修時間 週2.5時間）

事後学修 授業で学んだ和歌・歌人について、各自でまとめなおし和歌の現代語訳を作成する。（学修時間 週2.5時間）

**【テキスト・教材】**

鈴木日出男『百人一首』（ちくま文庫、1990年12月）734円。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

発表点30%、発表資料点30%、ブレインストーミングへの参加20%、レポート20%で評価する。

発表内容については、毎時間ごとに、レポートについては、第13週に提出したものを、授業最終週にフィードバックを行う。

**【参考書】**

授業時に紹介する。

**【注意事項】**

中古文学基礎演習1と2は、年度内での連続履修を原則とします。連続履修できない場合は、授業の初回到事情を申し出てください。

## 中古文学基礎演習 2

パソコンで学ぶ中古文学

山口 一樹

2年 後期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

この授業では、中古文学の研究に役立つパソコンのさまざまな基礎的な技能を身につけることを目標としています。具体的には、ExcelやPowerPointを使用した資料の作成、データベースを用いたさまざまな検索方法などを学んでいきます。

### 【授業における到達目標】

ExcelやPowerPointを使用した資料の作成、データベースの使用ができるようになることが目標です。学生が取得すべき「美の探究」のうち、人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度、「行動力」のうち、目標を設定して、計画を立案・実行できる力、「協働力」のうち、自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる力を修得します。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス・参考文献の検索①図書の検索
- 第2週 参考文献の検索②論文の検索
- 第3週 参考文献の検索③参考文献一覧の作成
- 第4週 データベースの使用①オンライン上のデータベース
- 第5週 データベースの使用②ジャパンナレッジ
- 第6週 データベースの使用③新編国歌大観
- 第7週 データベースの使用④データベース使用の実習
- 第8週 系図の作成
- 第9週 Excelによる資料作成①Excelの基礎
- 第10週 Excelによる資料作成②簡単な表の作成
- 第11週 Excelによる資料作成③簡単なグラフの作成
- 第12週 Excelによる資料作成④Excelによる参考文献一覧表
- 第13週 PowerPointによる資料作成①PowerPointの基礎
- 第14週 PowerPointによる資料作成②編集とレイアウト
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

〔事前学修〕小テストのための学習など

〔学修時間〕週1時間

〔事後学修〕毎回の小課題の取り組み、授業内容の復習など。

〔学修時間〕週3時間

### 【テキスト・教材】

毎回プリントを配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度）40%、小課題60%。小課題のフィードバックは、次回授業に行います。

### 【参考書】

授業内で適宜紹介します。

### 【注意事項】

パソコンの数に限りがあるため、受講人数に制限があります。受講希望の学生は、必ず初回のガイダンスに出席してください。授業の性格上、講師の方で詳しく前の授業内容を振り返るようなことはしませんので、遅刻・欠席は避けてください（原則として課題の再実施は行いません）。パソコン初心者向けの授業となっていますので、ゆっくりと授業を進めていくことになります。

## 中古文学基礎演習 2

『古今和歌集』恋歌講読

近藤 みゆき

2年 後期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

平安時代に第一番目に成立した勅撰和歌集では、四季の歌と並んで恋の歌が大きな割合を占めています。恋歌一から恋歌五までの五巻には、「合わずに慕う恋」にはじまり「離別」「恨み」にいたるまでの状況と心情の変化が、緻密な配列構成のもとに展開しています。さながら恋物語のように読み解いて行く事ができます。配列構成に注目した注釈書『新釈古今和歌集』（松田武夫）をはじめ、数種類の注釈書を読み合わせ、『古今和歌集』の恋の世界を、各自の自由な観点で読み解いていきましょう。

### 【授業における到達目標】

◎和歌集における配列の効果について学習する。

◎恋歌の表現方法について知識を深める。

◎恋歌の背景にある平安時代の結婚制度や恋愛・結婚における女性のあり方について学習する。

学生が修得すべき「態度」のうち、日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度、ならびに、人文・社会・自然の中に価値を見だし、感受性を深めようとする態度を修得します。

### 【授業の内容】

- 第1週 王朝和歌と『古今和歌集』
- 第2週 古今的美意識とは何か
- 第3週 この授業で行うブレインストーミングの方法について
- 第4週 発表資料の作成方法
- 第5週 受講生の調査報告と研究発表（恋部一）
- 第6週 受講生の調査報告と研究発表（恋部二の前半）
- 第7週 受講生の調査報告と研究発表（恋部二の後半）
- 第8週 受講生の調査報告と研究発表（恋部三の前半）
- 第9週 受講生の調査報告と研究発表（恋部三の後半）
- 第10週 受講生の調査報告と研究発表（恋部四の前半）
- 第11週 受講生の調査報告と研究発表（恋部四の後半）
- 第12週 受講生の調査報告と研究発表（恋部五の前半）
- 第13週 受講生の調査報告と研究発表（恋部五の後半）
- 第14週 全体討論
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修 指定した範囲の歌群について、テキストを読み、わからない古語や専門用語をすべてピックアップし、意味を調べておきます。また歌群の配列からどのようなストーリーを読み取ることが出来るか、各自の考えをまとめましょう。（学修時間 週2.5時間）

事後学修 授業中に行われたブレインストーミングの結果をまとめます。そこから各自の考察を発展させ、期末レポート作成の準備をしてください（学修時間週2.5時間）

### 【テキスト・教材】

高田祐彦訳注『新版 古今和歌集』（角川ソフィア文庫 2009年6月）1,124円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表点30%、発表資料点30%、ブレインストーミングへの参加20%、レポート20%で評価する。

発表内容については、毎時間ごとに、レポートについては、第13週に提出したものを、授業最終週にフィードバックを行う。

### 【参考書】

授業時に紹介する。

### 【注意事項】

中古文学基礎演習1と2は、同一年度内での連続履修を原則とします。連続履修できない場合は、授業の初回到事情を申し出てください。

**中古文学研究A**

『源氏物語』をひろげる

横井 孝

国文学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

『源氏物語』は、成立以後さまざまなジャンルに大きく深い影響を残しました。その後の、特に文学作品に残された影響、受容の痕跡をつぶさに調べることによって、後発の作品の理解が深まります。

まず『源氏物語』とその後の文学の動向を俯瞰した上で、「源氏以後」の個々の作品、ジャンルの解明に迫ってゆきたいと思えます。

**【授業における到達目標】**

『源氏物語』が文学のみならず、ひとつの文化現象としてさまざまな分野に影響を及ぼした点を理解し、その一つ一つの状況の意味するところを考究するようでありたいと思えます。

**【授業の内容】**

- 第1週 『源氏物語』研究方法の概観
- 第2週 紫式部時代の『源氏物語』
- 第3週 紫式部没後の『源氏物語』
- 第4週 平安後期の文学と『源氏物語』
- 第5週 平安後期の物語と『源氏物語』
- 第6週 藤原定家と『源氏物語』
- 第7週 中世評論と『源氏物語』
- 第8週 中世和歌と『源氏物語』
- 第9週 中世物語と『源氏物語』
- 第10週 室町期の『源氏物語』
- 第11週 江戸時代の『源氏物語』
- 第12週 絵画と『源氏物語』
- 第13週 注釈と『源氏物語』
- 第14週 近代文学における『源氏物語』
- 第15週 現代語訳と『源氏物語』

**【事前・事後学修】**

第1週に講義全体の構想について説明します。第2週以降は、その都度、前回に参考文献を紹介しますので、それに眼を通し、不明の点、見解が異なって理解の及ばぬ点などをまとめ、次回に発表する形式になります。

事前・事後にはそれぞれ2～4時間の学修を要するものと考えられます。それについては、学修内容を含め、相談に応じます。

**【テキスト・教材】**

固定的な教科書は使いません。必ずレジュメを用いて進めてゆきます。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への積極参加35%・発表35%）70%・単位レポート30%

ごく少数の授業ですので、出席者全員のなかで、講義内容の理解チェックを図りたいと思えます。

**【参考書】**

発表内容等にあわせ、その都度指示します。

**【注意事項】**

関連する学術論文も併読します。授業前後にそれを読破しておく必要があります。

**中古文学研究B**

『源氏物語』の諸相

横井 孝

国文学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

日本の古典文学の中で『源氏物語』は最も有名な作品の一つです。作品そのものの質・量もその理由ですが、それが後代に受容されるにあたって、広範に拡大したことが挙げられます。さまざまなジャンルにその影響力が浸透したからです。その拡散した様相、諸相を探ることによって、『源氏物語』とは何であったのか、影響の及んだ文学や文化自体の存在解明につながるでしょう。

ここでは、そうした後代の諸相を通して『源氏物語』とは何であったか、「『源氏物語』という現象」を調べてゆきたいと思えます。

**【授業における到達目標】**

上記「『源氏物語』という現象」について理解し、自己の専門範囲に関連した範囲での見解をもつこと。

**【授業の内容】**

- 第1週 『源氏物語』の伝流・概観
- 第2週 『源氏物語』のテキスト
- 第3週 国宝『源氏物語絵巻』を読む
- 第4週 『源氏絵』というジャンル
- 第5週 奈良絵本と挿絵
- 第6週 『源氏物語』という文化
- 第7週 中世の展開（和歌）
- 第8週 中世の展開（演劇）
- 第9週 追体験としての『源氏物語』
- 第10週 『源氏物語』幻想
- 第11週 連歌師たちの『源氏物語』
- 第12週 古筆切の世界
- 第13週 茶道と古筆切と『源氏物語』
- 第14週 近代作家たちの『源氏物語』
- 第15週 現代作家たちの『源氏物語』

**【事前・事後学修】**

半期を通じて、講義全体の構想については第1週に説明します。第2週以降は、前回に必ず参考文献を紹介します。次回までにそれを読み、不明な点、不審な点をまとめて、次回に発表します。

院生であれば事後事前に各週2時間以上の学修時間を設けることは当然のことでしょう。

**【テキスト・教材】**

固定的なテキストは使いません。毎回レジュメを用意します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への積極参加35%・提出課題35%）70%・単位レポート30%

ごく少数の講義ですから、理解の深度は自ずと知れます。到達目標を軽々と超えて考究するよう、出席者同士の切磋琢磨を促します。

**【参考書】**

授業の展開次第で、その都度紹介します。固定的な参考書は使いません。

**【注意事項】**

『源氏物語』そのものへの理解は当然として、それに影響を受けた後代の文学作品も同時に検討材料になります。両方を同時に検討する基礎知識を要します。

**中古文学特殊演習 A**

『源氏物語』本文研究の可能性

横井 孝

国文学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

『源氏物語』は成立して1000年以上経過しました。その間、作者の草稿はもとより、完成稿あるいはその直接の書写本すら失われています。その欠を補うために、現存のさまざまな資料をつかって、作者の執筆時に遡源する試みがなされています。

ここではそうした本文の研究を通して、『源氏物語』とは何か、『源氏物語』の本文を研究するということとはどのような意義があるのかを追ってゆきます。

**【授業における到達目標】**

『源氏物語』本文というものにどのような問題点があるかを把握できるようにすること。

**【授業の内容】**

- 第1週 『源氏物語』本文研究・概観
- 第2週 『源氏物語』本文伝流史
- 第3週 紫式部時代の『源氏物語』写本のゆくえ
- 第4週 紫式部時代直後の『源氏物語』写本のゆくえ
- 第5週 国宝『源氏物語絵巻』詞書の本文
- 第6週 藤原定家の書写
- 第7週 定家本についての疑義
- 第8週 定家本の意義
- 第9週 河内学派とは何か
- 第10週 河内本の意義
- 第11週 現在の河内本
- 第12週 鎌倉期の写本
- 第13週 別本とは何か
- 第14週 別本の意義と再検討
- 第15週 現代における本文研究の可能性

**【事前・事後学修】**

第1週は事前の準備が出来ませんので、今後の授業の展開を説明します。第2週以降はそれぞれ課題を出し、その取り組み方について、その都度説明します。

後期課程の院生にとって、研究は生活そのものはず。したがって、講義に望むにあたって事前事後の学修時間は、各2時間などというものではないはず。

**【テキスト・教材】**

固定的なテキストは使いません。実践女子大学所蔵本の紙焼き写真などを用意します。それによって授業展開や課題を提示します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点(授業への積極参加40%・提出課題40%) 80%・発表20%  
上記の如く、後期課程の院生はすでに研究者です。指導者とともに研鑽しあい、啓発しあい、具体的に論文の形に結晶するよう促します。

**【参考書】**

授業ごとに資料を用意します。

**【注意事項】**

原本を紹介するので、テキストが読めることが必要。ひらがなが中心なので、難読の漢字の読解能力はさほど必要としない。

**中古文学特殊演習 B**

『源氏物語』本文の諸相

横井 孝

国文学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

『源氏物語』は1000年前に成立して以後、さまざまに書写され、伝流してゆきました。書写という行為によって、作者のもたらした物語内容の情報が伝達されていったわけですが、本文は「伝言ゲーム」のようにさまざまな相貌を呈するようになってしまいました。

たとえばテキストの種類も、定家本・河内本・別本と現在では分類されているのですが、そのどれかが紫式部のもたらした原本に匹敵しうなのか、誰も結論づけることはできません。その混沌をきわめる本文の状況、そしてその可能性を見極めるためには、丹念にそれらテキストを読み解いてゆくしかありません。ここでは、そうした本文の諸相を読んでいきたいと思えます。

**【授業における到達目標】**

『源氏物語』のテキスト読解からさらに先に進んで、その読解が作品全体の読みとどう関わるかを検討する。

**【授業の内容】**

- 第1週 『源氏物語』本文の現状
- 第2週 『源氏物語』本文研究の現状
- 第3週 『源氏物語』本文研究の方法・概観
- 第4週 定家本の成立と「青表紙本」
- 第5週 定家本の性質・位況
- 第6週 河内本の成立と河内学派
- 第7週 河内本の性質・位況
- 第8週 鎌倉期以前と以後の状況
- 第9週 鎌倉期の別本
- 第10週 室町期の別本
- 第11週 古筆切を読む(鎌倉初中期)
- 第12週 古筆切を読む(鎌倉期と南北朝期)
- 第13週 古筆切研究の可能性
- 第14週 江戸期の本文
- 第15週 本文研究とは何だったか

**【事前・事後学修】**

固定的なテキストは使いません。その都度レジュメ・紙焼き写真(あるいはそのコピー)を用意します。第1週は事前の準備が出来ないので、そこで提示したものを扱います。第2週以降は、提示した資料を次回までに検討することになります。後期課程においては、学修時間は前後4時間など、軽々と凌駕するはず。

**【テキスト・教材】**

上記のとりの資料を通して展開してゆきます。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点(授業への積極参加40%・提出課題40%) 80%・授業内での発表20%  
後期課程ともなれば、フィードバックを必要とする立場ではなく、すでに研究者として、講義担当者とともに研鑽しあい啓発しあって、論文という形で結晶するように促しあいたいものです。

**【参考書】**

その都度対象が異なっているため、固定的な参考書は使用しません。

**【注意事項】**

古筆切など、実際に資料そのものを読み込んでゆきます。ひらがながなどの簡単なテキスト読解の力が必要です。

## 中国の思想 a

『論語』と孔子の思想

影山 輝國

2年～ 前期 2単位

◎：美の探求 ○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

中国思想の根底を流れているのは儒家思想である。儒家思想は今から2500年ほど前に活躍した孔子が基礎を築き、日本にも多大な影響を与えた。

この授業は、『論語』を中心に読みつつ、孔子の思想を考察するとともに、古代中国の習慣や日本への影響などを講じてゆく。

### 【授業における到達目標】

人類の知的財産である『論語』に親しみ、人としていかに生きるべきかを考えさせる。また、漢文に慣れ、中国の文献や漢文で書かれた日本の文書などを解説する力をつけることを目標とする。

### 【授業の内容】

- 1 『論語』と孔子—導入
- 2 孔子の生きた時代
- 3 孔子とその弟子—顔淵
- 4 孔子とその弟子—子貢
- 5 孔子とその弟子—子路
- 6 孔子とその弟子—宰我その他
- 7 「仁」とは何か—孔子、仁を言う
- 8 「仁」とは何か—弟子、仁を問う
- 9 「仁」とは何か—孔子の認めた仁者
- 10 政治の在り方—弟子たちの問い
- 11 政治の在り方—為政者たちの問い
- 12 「君子」と「小人」—両者の比較
- 13 「君子」と「小人」—弟子「君子」を問う
- 14 「君子」と「小人」—孔子「君子」を語る
- 15 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】配布されたプリントを読んであらかじめ意味を調べておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】テーマごとにリアクション・ペーパーを書くこと。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

プリントを配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

リアクション・ペーパー30%、レポート50%、受講態度20%。テーマごとに書かれたリアクション・ペーパーについてフィードバックを行う。

### 【参考書】

影山輝國『「論語」と孔子の生涯』（中央公論新社、2016年）

### 【注意事項】

5回以上欠席した者には単位を与えません。遅刻3回を欠席1回に数えます。

## 中国の思想 b

『論語』と孔子の思想

影山 輝國

2年～ 後期 2単位

◎：美の探求 ○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

中国思想の根底を流れているのは儒家思想である。儒家思想は今から2500年ほど前に活躍した孔子が基礎を築き、日本にも多大な影響を与えた。

この授業は、『論語』を中心に読みつつ、孔子の思想を考察するとともに、古代中国の習慣や日本への影響などを講じてゆく。

### 【授業における到達目標】

人類の知的財産である『論語』に親しみ、人としていかに生きるべきかを考えさせる。また、漢文に慣れ、中国の文献や漢文で書かれた日本の文書などを解説する力をつけることを目標とする。

### 【授業の内容】

- 1 『論語』と孔子—導入
- 2 孔子の諸国遊歴
- 3 葉公との対話
- 4 隠者との遭遇—接輿
- 5 隠者との遭遇—長沮・桀溺
- 6 孔子の受難—匡での受難・宋での受難
- 7 孔子の受難—蒲での受難・陳蔡の間での受難
- 8 南子の誘惑
- 9 孔子と音楽—礼と楽と
- 10 孔子と音楽—音楽家と孔子
- 11 孔子と音楽—善い音楽と悪い音楽
- 12 曾子のことば
- 13 孔子、曾子を評す
- 14 心に残る孔子のことば
- 15 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】配布されたプリントを読んであらかじめ意味を調べておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】テーマごとにリアクション・ペーパーを書くこと。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

プリントを配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

リアクション・ペーパー30%、レポート50%、受講態度20%。テーマごとに書かれたリアクション・ペーパーについてフィードバックを行う。

### 【参考書】

影山輝國『「論語」と孔子の生涯』（中央公論新社、2016年）

### 【注意事項】

5回以上欠席した者には単位を与えません。遅刻3回を欠席1回に数えます。

## 中国語 1 a

劉 素英

1年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

基礎発音を習得した上、簡単な会話勉強を通じて基礎的な文法を勉強する。毎回、文法ポイントの語彙や慣用句をしっかりと勉強し、会話練習をするほか、短文の読み書きなどの練習もする。それを通じて、中国語の日常的な表現を覚え、中国語の基礎力を身につける。

### 【授業における到達目標】

CEFRのレベルA1を目指す。具体的な語学の学習としては次のことを目指す。1. 中国語の発音文字ピンインを正しく読め、書ける。2. 簡単な日常会話を中国語で言える。3. 中国語1a1bを習得した段階で検定試験準4級以上の語学力を身につけるようにする。

目標達成を目指す過程においては学修を通して自己成長をする「研鑽力」のうち、学修成果を実感して、自信を創出する力を修得する。また、中国語を学びながら背景知識となる中国の現代事情も随時学ぶことができるので、「国際的視野」のうちの国際感覚を身につけて、世界に踏み出し社会を動かそうとする態度をとらせるような授業環境を作る。

### 【授業の内容】

- 第1週 概説、声調（四声、軽声）、単母音、挨拶言葉、
- 第2週 子音、そり舌音、挨拶言葉
- 第3週 複合母音、鼻母音、挨拶言葉
- 第4週 発音知識の復習
- 第5週 自己紹介（本文とポイントの勉強）
- 第6週 自己紹介（会話・ポイントの復習と練習）
- 第7週 わたしの家族（本文とポイントの勉強）
- 第8週 わたしの家族（会話・ポイントの復習と練習）
- 第9週 あしたは土曜日（本文とポイントの勉強）
- 第10週 あしたは土曜日（会話・ポイントの復習と練習）
- 第11週 夏はとても暑い（本文とポイントの勉強）
- 第12週 夏はとても暑い（会話・ポイントの復習と練習）
- 第13週 夏休みの予定（本文とポイントの勉強）
- 第14週 夏休みの予定（会話・ポイントの復習と練習）
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】これから習う授業内容を予習する。会話本文と新出単語を繰り返し清書した上、CDを聞きながら声を出して読む練習をする。学修時間：週2時間以上。

【事後学修】授業で説明したポイント内容を再度確認した上、会話本文を読み書きができるようにし、さらに暗記できるよう繰り返し練習する。課題もしっかり完成する。学修時間：週2時間以上。

### 【テキスト・教材】

王亜新他著『学ぶ中国語』（朝日出版社2013）2.200円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験の成績と平常点（授業に取り組む姿勢、課題の完成度、小テストの成績）などで総合評価します。配分基準：試験60%、平常点40%。

テストや課題など実施後に、正解を公表し、それに基づいて解説を行います。

### 【参考書】

授業中指示する。

### 【注意事項】

中国語1aを履修した上で1bを取るのが望ましい。  
受講人数制限40名（制限人数を超える場合、抽選）

## 中国語 1 b

劉 素英

1年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

中国語1aで習った中国語の基礎知識を踏まえて、日常会話と短文の読み書きなどの練習をしながら、引き続き基礎文法を勉強する。それを通じて中国語の日常的な表現を覚え、中国の基礎力を高める。

### 【授業における到達目標】

CEFRのレベルA1を目指す。具体的な語学の学習としては次のことを目指す。1. 中国語の表音文字ピンインを正しく読め、書ける。2. 簡単な日常会話を中国語で言える。3. 中国語1a1bを習得した段階で検定試験準4級以上の語学力を身につけるようにする。

目標達成を目指す過程においては学修を通して自己成長をする「研鑽力」のうち、学修成果を実感して、自信を創出する力を修得する。また、中国語を学びながら背景知識となる中国の現代事情も随時学ぶことができるので、「国際的視野」のうちの国際感覚を身につけて、世界に踏み出し社会を動かそうとする態度をとらせるような授業環境を作る。

### 【授業の内容】

- 第1週 香港に行きました（本文とポイントの勉強）
- 第2週 香港に行きました（会話・ポイントの復習と練習）
- 第3週 家は学校に近い（本文とポイントの勉強）
- 第4週 家は学校に近い（会話・ポイントの復習と練習）
- 第5週 体の調子は悪い（本文とポイントの勉強）
- 第6週 体の調子は悪い（会話・ポイントの復習と練習）
- 第7週 卓球をする（本文とポイントの勉強）
- 第8週 卓球をする（会話・ポイントの復習と練習）
- 第9週 何をしていますか（本文とポイントの勉強）
- 第10週 何をしていますか（会話・ポイントの復習と練習）
- 第11週 中国語の先生（本文とポイントの勉強）
- 第12週 中国語の先生（会話・ポイントの復習と練習）
- 第13週 中国語を学ぶ（本文とポイントの勉強）
- 第14週 中国語を学ぶ（会話・ポイントの復習と練習）
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】これから習う授業内容を予習する。会話本文と新出単語を繰り返し清書した上、CDを聞きながら声を出して読む練習をする。学修時間：週2時間以上。

【事後学修】授業で説明したポイント内容を再度確認した上、会話本文の読み書きができるようにし、さらに暗記できるよう繰り返し練習する。課題もしっかり完成する。学修時間：週2時間以上。

### 【テキスト・教材】

王亜新他著『学ぶ中国語』（朝日出版社2013）2.200円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験の成績と平常点（授業に取り組む姿勢、課題の完成度、小テストの成績）などで総合評価します。配分基準：試験60%、平常点40%。

テストや課題など実施後に正解を公表し、それに基づいて解説を行います。

### 【参考書】

授業中指示する。

### 【注意事項】

中国語1aを履修した上で1bを取るのがのぞましい。  
受講人数制限40名（制限人数を超える場合、抽選を行う。）



## 中国語 2 a

2年目の中国語

中嶋 諒

2年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

「中国語 1 a」「中国語 1 b」などで、1年間中国語を学んだ学生を対象とする授業です。すでに学習したであろうピンイン（中国語のローマ字表記）や発音の基礎、基本的な文法事項の復習も随時行っていきます。またその過程で、中国の歴史や文化、日本やアジア諸国との関係などについての紹介も行っていきます。ゆっくり丁寧に授業を進めていくつもりですので、これまでの学習に不安の残る学生も、ぜひ思い切って受講してみてください。

### 【授業における到達目標】

すでに初級で学修した内容をもとに、さらなる中国語の表現力と読解力を身につけつつ、卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「問題解決のために主体的に行動する力」を養います。

C E F RのA 2レベルの到達を目指します。

### 【授業の内容】

- 第1週 はじめに
- 第2週 第一課（助動詞「可以」「要」）
- 第3週 第一課（主述述文）
- 第4週 第二課（「的」の用法）
- 第5週 第二課（原因・理由を表す構文）
- 第6週 第三課（連動文）
- 第7週 第三課（「是……的」の文）
- 第8週 第一～三課の復習
- 第9週 第四課（「了」の3つの用法）
- 第10週 第四課（副詞「就」「才」）
- 第11週 第五課（可能性の予測を表す「会」）
- 第12週 第五課（仮定を表す「要是」）
- 第13週 第六課（結果補語〈1〉）
- 第14週 第六課（副詞「有点儿」）
- 第15週 第四～六課の復習・まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】教科書の練習問題や小テストなどの課題に取り組むこと。（学修時間 週1時間）

【事後学修】授業で使った単語、文法事項などの確認をしておくこと。教科書付録のCDで、次回の授業範囲の聞き取り練習をしておくこと。（学修時間 週1時間）

### 【テキスト・教材】

尹景春・竹島毅『中国語 つぎへの一步』（白水社、2010年3月）2,200円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

#### 【成績評価の方法・基準】

- 平常点（授業中の発言・積極的な参加）：20%
- 小テスト（単語テスト・確認テストなど）：30%
- 学期末テスト：50%

#### 【フィードバック】

小テストは毎回添削して返却し、コメントとともにフィードバックする。学期末テストの解答は、manabaに掲載することでフィードバックする。

### 【参考書】

『中日辞典・第2版』（小学館）

：予習復習をするときにありと便利ですが、授業中には使用しません。大学図書館にあるもの（渋谷2F参考図書）を利用してもらうても構いません。

### 【注意事項】

中国語を1年以上学習していること（必ずしも私の授業である必要はありません）が履修の条件です。初めて中国語を学ぶ学生は、「中国語で学ぶ中国語」などを受講して下さい。募集人数は40名です。

## 中国語 2 a

蔡 晓軍

2年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

中国語初級を履修した学生を対象に、基本文法を応用し、長文の読解力を高める。

### 【授業における到達目標】

動詞文と形容詞文などの違いをはっきり区別できる。  
中国語検定4級レベル相当な語彙と文型を暗記できる。  
簡単な会話を交わし、また計画、習慣、学習など日常的なことをはっきり表現できる。  
好きか嫌いかを述べることができる。  
学生が習得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とし、常に語学力を高めて行く。

### 【授業の内容】

- 第1週 第1課 文法 完了表現「了」、仮定条件「要是」
- 第2週 第1課 本文と練習
- 第3週 第2課 文法 副詞「只」
- 第4週 第2課 本文と練習
- 第5週 第3課 文法 助動詞「会、能、可以」
- 第6週 第3課 本文と練習
- 第7週 確認（第1課から第3課まで）
- 第8週 第4課 文法 数量の疑問「多少」
- 第9週 第4課 本文と練習
- 第10週 第5課 文法 方向補語の用法
- 第11週 第5課 本文と練習
- 第12週 第6課 文法 使役表現
- 第13週 第6課 本文と練習
- 第14週 復習（第4課から第6課まで）
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修は単語と文型を事前に予習すること（学修時間 週に1時間）

事後学修は文法と単語を使い、短文を作ること（学修時間 週に1時間）

### 【テキスト・教材】

大滝幸子/蔡 晓軍 著『中国語で読む楽しい四字成語』（同学社1997年）1,600円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度20%、平常点（授業への積極参加・提出課題）20%、テスト60%で評価します。

小テストは次回授業、試験結果は最終回でフィードバックを行う。

### 【注意事項】

募集人数は40名です。

## 中国語 2 a

劉 素英

2年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

この授業では、いままで習得した中国語の基礎知識を踏まえて、簡単な文章の読解と実用的な会話を勉強する。授業での練習を通じて、必要な表現と文法を勉強し、中国語の基礎力を身につけるようにする。

### 【授業における到達目標】

CEFRのレベルA2を目指す。具体的には次のことを目指す。  
1. 簡単な意思表示を中国語で伝えるような能力を身につけ、いざという時（旅行、仕事など）に役に立つようにする。2. 初級から中級程度の中国語を勉強し、中国語2a2bを修得した段階で検定試験4級以上の語学力を身につけるようにする。目的達成を目指す過程においては学修を通して自己成長をする「研鑽力」のうち、学修成果を実感して、自信を創出する力を修得する。また、中国語を学びながら背景知識となる中国の現代事情も随時学ぶことができるので、「国際的視野」のうちの国際感覚を身につけて、世界に踏み出し社会を動かそうとする態度をとらせるような授業環境を作る。

### 【授業の内容】

第1週 第一課 自己紹介（内容の学習）  
第2週 第一課 自己紹介（会話と練習）  
第3週 第二課 私たちの大学（内容の学習）  
第4週 第二課 私たちの大学（会話と練習）  
第5週 第三課 私の家族（内容の学習）  
第6週 第三課 私の家族（会話と練習）  
第7週 第一、二、三課のまとめと復習  
第8週 中国映画など映像資料の観賞  
第9週 第四課 私の家は四国にある（内容の学習）  
第10週 第四課 私の家は四国にある（会話と練習）  
第11週 第五課 日曜日（内容の学習）  
第12週 第五課 日曜日（会話と練習）  
第13週 第六課 私の趣味（内容の学習）  
第14週 第六課 私の趣味（会話と練習）  
第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】授業内容を予習する。本文も会話も意味を調べた上、CDを聞きながら声を出して読む練習をする。学修時間：週2時間以上。

【事後学修】授業で説明したポイント内容を再度確認した上、本文を読み書きできるようにし、会話を暗記できるように練習する。さらに課題をしっかりと完成する。学修時間：週2時間以上。

### 【テキスト・教材】

王亜新他著『学ぶ中国語』（朝日出版社、2016年）2,200円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験の成績と平常点（授業に取り組む姿勢、課題の完成度、テストの成績）などで総合評価します。配分基準：試験60%、平常点40%。

テストや課題など実施後に、正解を公表し、それに基づいて解説を行います。

### 【参考書】

授業中に指示する。

### 【注意事項】

中国語2bも取るのが望ましい。

受講人数制限40名（制限人数を超える場合、抽選を行う）

## 中国語 2 b

2年目の中国語

中嶋 諒

2年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

「中国語1a」「中国語1b」「中国語2a」などで、中国語の基礎を学んだことのある学生を対象とする授業です。すでに学習したであろうピンイン（中国語のローマ字表記）や発音の基礎、基本的な文法事項の復習も随時行っていきます。またその過程で、中国の歴史や文化、日本やアジア諸国との関係などについての紹介も行っていきます。ゆっくり丁寧に授業を進めていくつもりですので、これまでの学習に不安の残る学生も、ぜひ思い切って受講してみてください。

### 【授業における到達目標】

これまで学修した内容をもとに、中国語の表現力と読解力に磨きをかけつつ、卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「問題解決のために主体的に行動する力」を養います。CEFRのA2レベル到達を目指します。

### 【授業の内容】

第1週 はじめに  
第2週 第七課（存現文）  
第3週 第七課（「～了～了」の用法）  
第4週 第八課（状態の持続を表す「着」）  
第5週 第八課（疑問詞の不定用法）  
第6週 第九課（方向補語）  
第7週 第九課（使役を表す構文）  
第8週 第七～九課の復習  
第9週 第十課（可能補語）  
第10週 第十課（強調表現）  
第11週 第十一課（結果補語〈2〉）  
第12週 第十一課（受身を表す構文）  
第13週 第十二課（「快……了」の用法）  
第14週 第十二課（「把」の構文）  
第15週 第十～十二課の復習・まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】教科書の練習問題や小テストなどの課題に取り組むこと。（学修時間 週1時間）

【事後学修】授業で使った単語、文法事項などの確認をしておくこと。教科書付録のCDで、今回の授業範囲の聞き取り練習をしておくこと。（学修時間 週1時間）

### 【テキスト・教材】

尹景春・竹島毅『中国語 つぎへの一步』（白水社、2010年3月）2,200円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

#### 【成績評価の方法・基準】

平常点（授業中の発言・積極的な参加）：20%  
小テスト（単語テスト・確認テストなど）：30%  
学期末テスト：50%

#### 【フィードバック】

小テストは毎回添削して返却し、コメントとともにフィードバックする。学期末テストの解答は、manabaに掲載することでフィードバックする。

### 【参考書】

『中日辞典・第2版』（小学館）

：予習復習をするときにあとと便利ですが、授業中には使用しません。大学図書館にあるもの（渋谷2F参考図書）を利用してもらっても構いません。

### 【注意事項】

中国語を1年以上学習していること（必ずしも私の授業である必要はありません）が履修の条件です。学習歴が1年に満たない学生は、「中国語で学ぶ中国語」などを受講して下さい。

募集人数は40名です。

## 中国語 2 b

蔡 曉軍

2年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

中国語初級を履修した学生を対象に、基本文法を応用し復習し、長文の読解力を高める。

### 【授業における到達目標】

動詞文と形容詞文などの違いをはっきり区別できる。  
中国語検定4級レベル相当な語彙と文型を暗記できる。  
簡単な会話を交わし、また計画、習慣、学習など日常のことをはっきり表現できる。  
好きか嫌いかを述べることができる。  
学生が習得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とし、常に語学力を高めて行く。

### 【授業の内容】

第1週	第7課	文法 形容詞の比較文型
第2週	第7課	本文と練習
第3週	第8課	文法 状態補語7
第4週	第8課	本文と練習
第5週	第9課	文法 方向補語
第6週	第9課	本文と練習
第7週	確認	(第7課から第9課まで)
第8週	第10課	文法 前置詞の用法
第9週	第10課	本文と練習
第10週	第11課	文法 結果補語
第11週	第11課	本文と練習
第12週	第12課	文法 原因と理由
第13週	第12課	本文と練習
第14週	復習	(第10課から第12課まで)
第15週	まとめ	

### 【事前・事後学修】

事前学修は単語と文型を事前に予習すること

(学修時間 週に1時間)

事後学修は文法と単語を使い、短文を作ること

(学修時間 週に1時間)

### 【テキスト・教材】

大滝幸子/蔡 曉軍『中国語で読む楽しい四字成語12』(同学社1997年) 1,600円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度20%、平常点(授業への積極参加・提出課題)20%、テスト60%で評価します。

小テストは次回授業、試験結果は最終回でフィードバックを行う。

### 【注意事項】

募集人数は40名です。

## 中国語 2 b

劉 素英

2年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

この授業では、今まで習得した中国語の基礎を踏まえて、簡単な文章の読解と実用的な会話を勉強する。授業での練習を通じて、必要な表現と文法を勉強し、中国語の基礎力を身につけるようにする。

### 【授業における到達目標】

C E F RのレベルA2を目指す。具体的には次のことを目指す。  
1. 簡単な意思表示を中国語で伝えるような能力を身につけ、いざという時(旅行、仕事など)に役に立つようにする。  
2. 初級から中級程度の中国語を勉強し、中国語2a2bを修得した段階で検定試験4級以上の語学力を身につけるようにする。目標達成を目指す過程においては学修を通して自己成長をする「研鑽力」のうち、学修成果を実感して、自信を創出する力を修得する。また、中国語を学びながら背景知識となる中国の現代事情も随時学ぶことができるので、「国際的視野」のうちの国際感覚を身につけて、世界に踏み出し社会を動かそうとする態度をとらせるような授業環境を作る。

### 【授業の内容】

第1週	第七課	旅行(内容の学習)
第2週	第七課	旅行(会話と練習)
第3週	第八課	アルバイト(内容の学習)
第4週	第八課	アルバイト(会話と練習)
第5週	第九課	買い物(内容の学習)
第6週	第九課	買い物(会話と練習)
第7週	第七、八、九課	のまとめと復習
第8週	第十課	テレビを見る(内容の学習)
第9週	第十課	テレビを見る(会話と練習)
第10週	第十一課	携帯電話(内容の学習)
第11週	第十一課	携帯電話(会話と練習)
第12週	第十二課	留学(内容の学習)
第13週	第十二課	留学(会話と練習)
第14週	第十、十一、十二課	のまとめと復習
第15週	第七課から第十二課	までのまとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】授業内容を予習する。本文も会話も意味を調べた上、CDを聞きながら声を出して読む練習をする。学修時間：週2時間以上。

【事後学修】授業で説明したポイント内容を再度確認した上、本文を読み書きできるようにし、会話を暗記できるよう練習する。さらに課題をしっかりと完成する。学修時間：週2時間以上。

### 【テキスト・教材】

王亜新他著『学ぶ中国語』(朝日出版社、2016年)2,200円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験の成績と平常点(授業に取り組む姿勢、課題の完成度、テストの成績)などで総合評価します。配分基準：試験60%、平常点40%。

テストや課題など実施後に、正解を公表し、それに基づいて解説を解説を行います。

### 【参考書】

授業中指示する。

### 【注意事項】

受講人数制限40名(制限人数を超える場合、抽選を行う)

中国語で学ぶ中国語 a

中嶋 諒

1年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

これまで中国語を学んだことのない学生を対象とする中国語入門の授業です。発音練習や聞き取り、ピンイン（中国語のローマ字表記）の学習を軸に授業を進めていきます。また随時、中国語のあいさつや常套表現の練習を行い、まずは中国語に慣れ親しむことを目指します。

なお授業は基本的に中国語で行う予定ですが、必要最低限の単語、表現を用いるのみですので、とにかく安心して受講してください。履修者は中国語初心者ばかりのはずですので、それほど難しいことはやりません。「中国に旅行に行ってみたい」、「中国人と会話してみたい」といった学生の履修を待っています。

【授業における到達目標】

中国語の基礎を学びつつ、卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「問題解決のために主体的に行動する力」を養います。

CEFRのA1レベルの到達を目指します。

【授業の内容】

- 第1週 はじめに、発音のしくみ（声調）
- 第2週 発音のしくみ（単母音、複母音）
- 第3週 発音のしくみ（子音、声調の変化）
- 第4週 第1課（人称代名詞、「是」を使った文）
- 第5週 第1課・第2課（基本的な疑問文）
- 第6週 第2課（動詞述語文）
- 第7週 第3課（指示代名詞）
- 第8週 第3課・第4課（「有」を使った文）
- 第9週 第4課（数詞）
- 第10週 復習1（第1～4課の復習）
- 第11週 第5課（場所を表わす代名詞）
- 第12週 第5課（いろいろな副詞）
- 第13週 第6課（「在」を使った文）
- 第14週 第6課（動詞の重ね型）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】教科書のドリルや小テストなどの課題に取り組むこと。（学修時間 週1時間）

【事後学修】授業で使った単語の確認をしておくこと。教科書付録のCDで、次回の授業範囲の聞き取り練習をしておくこと。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

喜多山幸子・鄭幸枝『はじめまして！中国語』（白水社、2009年3月）2,300円

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

【成績評価の方法・基準】

- 平常点（授業中の発言・積極的な参加）：30%
- 小テスト（発音テスト・会話テストなど）：30%
- 学期末テスト：40%

【フィードバック】

発音テスト・会話テストは毎回コメントをすることでフィードバックする。学年末テストの解答はmanabaに掲載することでフィードバックする。

【参考書】

『中日辞典・第2版』（小学館）  
：予習復習をするときにありと便利ですが、授業中には使用しません。電子辞書版もあります。

【注意事項】

この授業は、中国語初心者のための授業です。中国語のネイティブや帰国子女、留学経験者を対象としたものではありません。募集人数は40名です。

中国語で学ぶ中国語 a

蔡 曉軍

1年～ 前期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

初心者を対象に、中国語の基本を習得する。  
発音と「四声」の理解  
文法の相違点  
短文の組み合わせ

【授業における到達目標】

前期の授業では、発音に重点を置きながら単語と短い言葉を自分で表現できるようにする。後期の授業では、文の組み合わせを理解し、正確に短文を作れるようになる。簡単な内容であれば、自分の意思を単語あるいはフレーズで伝えられる。学生が習得すべき「行動力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とし、ごく簡単な文と短い文章を理解できるように努力する。

【授業の内容】

- |      |        |                   |
|------|--------|-------------------|
| 第1回  | 中国語の基本 | ピンイン、声調、基本母音、複合母音 |
| 第2回  |        | 子音、子音と母音との組み合わせ   |
| 第3回  | 発音     | 確認                |
| 第4回  | 第1課    | 文法 断定動詞「是」本文の説明   |
| 第5回  | 第2課    | 文法 動詞述語文 本文の説明    |
| 第6回  | 第3課    | 文法 指示代名詞など        |
| 第7回  | 第3課    | 本文と練習             |
| 第8回  |        | 確認 第1～3課          |
| 第9回  | 第4課    | 文法 所有を表す動詞「有」     |
| 第10回 | 第4課    | 本文と練習             |
| 第11回 | 第5課    | 文法 存在を表す動詞「有」     |
| 第12回 | 第5課    | 本文と練習             |
| 第13回 | 第6課    | 文法 居場所を表す動詞「在」    |
| 第14回 | 第6課    | 本文と練習             |
| 第15回 | まとめ    |                   |

【事前・事後学修】

1. 毎回の文法ポイントを事前に予習すること。（学修時間 週に1時間）
2. 漢字（ピンインなし）を正確に読むこと。
3. 短い会話を自分で話すこと。（学修時間 週に1時間）

【テキスト・教材】

喜多山 幸子など『はじめまして！中国語』（白水社 2009年）2,300円（税別）

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

テスト、試験のほかに、授業の態度などを総合的に評価します。配分基準：授業態度30%、テスト70%。

小テストは次回授業、試験結果は最終回でフィードバックを行う。

【注意事項】

中国語1bとセットで履修することが望ましい。募集人数は40名です。

中国語で学ぶ中国語 b

中嶋 諒

1年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

「中国語で学ぶ中国語 a」などで中国語を学んできた学生を対象とする中国語入門の授業です。発音練習や聞き取り、ピンイン（中国語のローマ字表記）の学習を軸に授業を進めていきます。また随時、中国語のあいさつや常套表現の練習を行い、簡単な中国語で、自分の言いたいことが伝えられるようになることを目指します。

なお授業は基本的に全て中国語で行いますが、必要最低限の単語、表現を用いるのみですので、とにかく安心して受講してください。履修者は中国語初心者ばかりのはずですので、それほど難しいことはやりません。「中国に旅行に行ってみたい」、「中国に留学してみたい」といった学生の履修を待っています。

【授業における到達目標】

中国語の基礎を学びつつ、卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「問題解決のために主体的に行動する力」を養います。

CEFRのA1レベルの到達を目指します。

【授業の内容】

- 第1週 前期の復習、第7課（量詞）
- 第2週 第7課（実現・完了を表わす「了」）
- 第3週 第8課（連動文）
- 第4週 第8課（時刻の言い方）
- 第5週 復習2（第5～8課の復習）
- 第6週 第9課（助動詞「会」と「能」）
- 第7週 第9課（主述述語文）
- 第8週 第10課（様態補語）
- 第9週 第10課（比較を表わす「比」）
- 第10週 第11課（進行を表わす「在」）
- 第11週 第11課（方向補語）
- 第12週 第12課（「是……的」の文）
- 第13週 第12課（結果補語）
- 第14週 復習3（第9～12課の復習）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】教科書のドリルや小テストなどの課題に取り組むこと。（学修時間 週1時間）

【事後学修】授業で使った単語の確認をしておくこと。教科書付録のCDで、次回の授業範囲の聞き取り練習をしておくこと。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

喜多山幸子・鄭幸枝『はじめまして！中国語』（白水社、2009年3月）2,300円

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

【成績評価の方法・基準】

- 平常点（授業中の発言・積極的な参加）：30%
- 小テスト（発音テスト・会話テストなど）：30%
- 学期末テスト：40%

【フィードバック】

発音テスト・会話テストは毎回コメントをすることでフィードバックする。学期末テストの解答は、manabaに掲載することでフィードバックする。

【参考書】

『中日辞典・第2版』（小学館）

：予習復習をするときにありと便利ですが、授業中には使用しません。電子辞書版もあります。

【注意事項】

この授業は、中国語初心者のための授業です。中国語のネイティブや帰国子女、留学経験者を対象としたものではありません。

募集人数は40名です。

中国語で学ぶ中国語 b

蔡 曉軍

1年～ 後期 1単位

○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

初心者を対象に、中国語の基本を習得する発音と「四声」の理解  
文法の相違点  
短文の組み合わせ

【授業における到達目標】

前期の授業では、発音に重点を置きながら単語と短い言葉を自分で表現できるようにする。後期の授業では、文の組み合わせを理解し、正確に短文を作れるようになる。簡単な内容であれば、自分の意思を単語あるいはフレーズで伝えられる。学生が習得すべき「行動力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とし、ごく簡単な文と短い文章を理解できるように努力する。

【授業の内容】

- 第1回 第7課 文法 過去、完了などを表す「了」の用法
- 第2回 第7課 本文と練習
- 第3回 第8課 文法 連動文と前置詞の用法
- 第4回 第8課 本文と練習
- 第5回 第9課 文法 助動詞（可能など）
- 第6回 第9課 本文と練習
- 第7回 確認
- 第8回 第10課 文法 様態補語
- 第9回 第10課 本文と練習
- 第10回 第11課 文法 現在進行形
- 第11回 第11課 本文と練習
- 第12回 第12課 文法 結果補語
- 第13回 第12課 本文と練習
- 第14回 第1課～12課 文法の確認
- 第15回 まとめ

【事前・事後学修】

1. 毎回の文法ポイントを事前に予習すること。（学修時間 週に1時間）
2. 漢字（ピンインなし）を正確に読むこと。
3. 短い会話を自分で話すこと。（学習時間 週に1時間）

【テキスト・教材】

喜多山 幸子など『はじめまして！中国語』（白水社 2009年）2,300円

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト、試験のほか授業の態度などを総合的に評価します。配分基準：授業態度30%、テスト70%

小テストは次回授業、試験結果は最終回でフィードバックを行う。

【注意事項】

中国語1 aとセットで履修することが望ましい。募集人数は40名です。

## 中国語コミュニケーションⅠA

中島 諒・董 燕

1年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力

## 【授業のテーマ】

これまで中国語を学んだことのない学生を対象とする、中国語入門の授業です。この授業では、まずは中国語の発音の基礎となるピンインを習得し、その上で簡単な日常会話（50句程度）をマスターすることを目標とします。

履修者はみな中国語の初心者ばかりですから、授業はゆっくり丁寧に進めていきます。中国語や中国文化に少しでも興味があれば、ぜひ思い切って受講してみてください。

## 【授業における到達目標】

中国語の基礎を学びつつ、卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「課題解決のために主体的に行動する力」を養います。

## 【授業の内容】

週に2回の授業を行い、それぞれ日本人教員とネイティブスピーカーがペアで担当します。教科書のほか、独自の教材（音声教材や視覚教材など）を使って、「聞く」と「話す」ことに重点を置いた授業を行っていきます。

文法事項の確認や教科書本文の講読のみならず、基本文型の暗唱や会話文の実演などを繰り返し、学習内容を身体で覚えていくことを目指します。

- 第1週 はじめに・中国語と中国事情
- 第2週 ピンインの読み方（声調・母音）
- 第3週 ピンインの読み方（-nと-ng）
- 第4週 ピンインの読み方（子音）
- 第5週 ピンインの読み方（舌面音とそり舌音）
- 第6週 基本語順・人称代詞
- 第7週 否定文と疑問文
- 第8週 形容詞述語文・主述述語文
- 第9週 名前の聞き方・答え方
- 第10週 二重目的語・選択疑問文
- 第11週 “多少”と“几”・指示代詞
- 第12週 所有・存在を表わす“有”
- 第13週 助動詞“可以”・量詞
- 第14週 動詞の重ね型・動詞と前置詞の“在”
- 第15週 総合復習・まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】教科書の練習問題や小テストなどの課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業で使った単語、文法事項などの確認をしておくこと。教科書付録のCDで、次回の授業範囲の聞き取り練習をしておくこと。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

薫燕・遠藤光暁著『理香と王麗 話す中国語1』（朝日出版社、2004年4月、2,916円）

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への参加度と学期末テストにより総合的に評価します。

授業への参加度 50%

1) 小テスト 30%

2) 発表 20%

学期末試験 50%

なお小テストは次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

## 【注意事項】

後期の「中国語コミュニケーションⅠB」とセットで履修すると、より理解が深まります。

## 中国語コミュニケーションⅠB

中島 諒・董 燕

1年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力

## 【授業のテーマ】

「中国語コミュニケーションⅠA」などで半年間中国語を学んだ学生を対象とする、中国語入門の授業です。

具体的には、常用会話文（50句程度）をマスターすると同時に、やや複雑な表現を学んでいきます。また発音の確認、矯正も随時行っていくしますので、前期の学習に不安の残る学生の履修も歓迎します。

## 【授業における到達目標】

中国語の基礎を学びつつ、卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「課題解決のために主体的に行動する力」を養います。

## 【授業の内容】

週に2回の授業を行い、それぞれ日本人教員とネイティブスピーカーがペアで担当します。教科書のほか、独自の教材（音声教材や視覚教材など）を使って、「聞く」と「話す」ことに重点を置いた授業を行っていきます。

さらに中国語の独得な表現・構造の学習を通じて、日中両国の文化や習慣の違いにも目を向けていきたいと考えています。

- 第1週 はじめに・年齢の言い方
- 第2週 助動詞“会”と“能”
- 第3週 助動詞“想”・数詞述語文
- 第4週 曜日と時刻の言い方・時間詞
- 第5週 助動詞“要”と“不用”
- 第6週 禁止を表わす“不要”と“別”
- 第7週 比較の言い方・“一点儿”と“有点儿”
- 第8週 年月日の言い方・お金の言い方
- 第9週 時点と時間量・動量詞
- 第10週 連動文・進行を表わす“在”
- 第11週 完了の“了”と変化の“了”
- 第12週 未来を表わす“要”や“快要～了”
- 第13週 “更”と“最”・“可能”
- 第14週 仮定・「～するはず」を表わす“会”
- 第15週 総合復習・まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】教科書の練習問題や小テストなどの課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業で使った単語、文法事項などの確認をしておくこと。教科書付録のCDで、次回の授業範囲の聞き取り練習をしておくこと。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

薫燕・遠藤光暁著『理香と王麗 話す中国語1』（朝日出版社、2004年4月、2,916円）

薫燕・遠藤光暁著『理香と王麗 話す中国語2』（朝日出版社、2004年4月、2,916円）

\*その他適宜プリント配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への参加度と学期末テストにより総合的に評価します。

授業への参加度 50%

1) 小テスト 30%

2) 発表 20%

学期末試験 50%

なお小テストは次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

## 【注意事項】

前期の「中国語コミュニケーションⅠA」とセットで履修すると、より理解が深まります。

## 中国語コミュニケーションⅡA

中島 諒・董 燕

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力

## 【授業のテーマ】

「中国語コミュニケーションⅠA・ⅠB」などで一年間中国語を学んだ学生を対象とする、中国語の授業です。これまでに学習してきた初級文法の再確認をしながら、発音とリスニングの強化を行い、さらにこまやかな中国語力を身につけることを目標とします。

具体的には、新たな会話表現（50句程度）をマスターすると同時に、論理的、抽象的な語彙を増やし、より複雑な表現ができるようにしていきます。

## 【授業における到達目標】

中国語を学びつつ、卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「課題解決のために主体的に行動する力」を養います。

## 【授業の内容】

「中国語コミュニケーションⅠA・ⅠB」と同様に、週に2回の授業を行い、それぞれ日本人教員とネイティブスピーカーがペアで担当します。教科書のほか、独自の教材（音声教材や視覚教材など）を使って、「聞く」と「話す」ことに重点を置いた授業を行います。

さらに中国語の独特な表現・構造の学習を通じて、日中両国の文化や習慣の違いにも目を向けていきたいと考えています。

- 第1週 はじめに・存現文
- 第2週 同一・類似を表わす表現
- 第3週 強調を表わす“是”・逆接の文
- 第4週 “着”の用法・“在+動詞”との違い
- 第5週 結果補語・“再”の用法
- 第6週 数量補語・程度補語
- 第7週 方向補語・“別～了”の文
- 第8週 “把”を使った文・“是～的”の文
- 第9週 可能補語・可能を表わす助動詞との違い
- 第10週 使役・“祝～”の文
- 第11週 受身・後置修飾語
- 第12週 疑問詞+“都”・同一の疑問詞の呼称
- 第13週 様態補語・“～多了”の文
- 第14週 さまざまな表現
- 第15週 総合復習・まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】教科書の練習問題や小テストなどの課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業で使った単語、文法事項などの確認をしておくこと。教科書付録のCDで、次回の授業範囲の聞き取り練習をしておくこと。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

董燕・遠藤光暁著『理香と王麗 話す中国語2』（朝日出版社、2004年4月、2,916円）

\*その他 適宜プリントを配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への参加度と学期末テストにより総合的に評価します。

授業への参加度 50%

1) 小テスト 30%

2) 発表 20%

学期末試験 50%

なお小テストは次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

## 【注意事項】

後期の「中国語コミュニケーションⅡB」とセットで履修すると、より理解が深まります。

## 中国語コミュニケーションⅡB

中島 諒・董 燕

2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力

## 【授業のテーマ】

「中国語コミュニケーションⅡA」などで、基礎を習得した学生を対象とする中国語の授業です。これまでに学んできた知識を整理した上で、中国語検定試験を視野に入れて、リスニング力の向上と文法事項の定着を目標とします。

ややハードな内容となりますが、無理なく着実に中国語能力が身につくよう、メリハリのある授業を行っていきます。また受講者の要望に応じて、中国語検定の対策も実施する予定です。

## 【授業における到達目標】

中国語を学びつつ、卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「課題解決のために主体的に行動する力」を養います。

## 【授業の内容】

週に2回の授業を行い、それぞれ日本人教員とネイティブスピーカーがペアで担当します。教科書のほか、独自の教材（音声教材や視覚教材など）を使って、「聞く」と「話す」ことに重点を置いた授業を行います。

さらに中国語の独特な表現・構造の学習を通じて、日中両国の文化や習慣の違いにも目を向けていきたいと考えています。

- 第1週 はじめに・基礎文法の整理
- 第2週 長文（中国の文化について）の精読
- 第3週 長文（中国の文化について）のまとめと問題演習
- 第4週 長文（中国の社会について）の精読
- 第5週 長文（中国の社会について）のまとめと問題演習
- 第6週 中国語検定試験の対策（中検）
- 第7週 長文（中国の歴史について）の精読
- 第8週 長文（中国の歴史について）のまとめと問題演習
- 第9週 長文（中国の政治について）の精読
- 第10週 長文（中国の政治について）のまとめと問題演習
- 第11週 中国語検定試験の対策（HSK）
- 第12週 長文（中国の時事について）の精読
- 第13週 長文（中国の時事について）のまとめと問題演習
- 第14週 リスニングの対策と問題演習
- 第15週 総合復習・全体のまとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】教科書の練習問題や小テストなどの課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業で使った単語、文法事項などの確認をしておくこと。教科書付録のCDで、次回の授業範囲の聞き取り練習をしておくこと。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

適宜プリントを配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への参加度と学期末テストにより総合的に評価します。

授業への参加度 50%

1) 小テスト 30%

2) 発表 20%

学期末試験 50%

なお小テストは次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

## 【注意事項】

前期の「中国語コミュニケーションⅡA」とセットで履修すると、より理解が深まります。

**中国美術史演習 a**

作品をよりよく見ることと特徴を語ること

宮崎 法子

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

一般にほとんどなじみのない中国絵画ですが、それだけに思いがけない魅力的な世界がそこには広がり、紙や絹と墨や顔料が織りなす繊細で強靱な造形に驚かされます。展覧会見学や、原寸大の精巧な複製を見ながら、作品の特徴や印象を、作品の表現に即して語る訓練をします。また、複製を使い作品の取り扱い方も身につけます。

**【授業における到達目標】**

中国絵画に親しむ、それを通じて美術史の基礎である、作品を言葉で描写し作品を読み解く力を身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション 最近の展覧会評など
- 第2週 作品の扱い方について
- 第3週 作品を語る 1 中国画と日本画
- 第4週 作品を語る 2 時代による差異
- 第5週 作品を語る 3 文人画と宮廷絵画
- 第6週 作品を語る 4 画家の個性を言葉にする
- 第7週 作品を語る 5 絵画を語る語彙
- 第8週 作品を語る 6 作品の魅力を言葉にする
- 第9週 展覧会などの見学の準備
- 第10週 見学授業（日時などは別に指定）
- 第11週 見学後の発表 第1グループの学生
- 第12週 見学後の発表 第2グループの学生
- 第13週 香雪記念館の展示実習
- 第14週 香雪記念資料館展示の作品解説を行う
- 第15週 総括とレポートについての指導

**【事前・事後学修】**

事前に、これまでに履修した中国美術史入門abの内容を復習し理解しておくこと。関連する展覧会や東博東洋館の平常展などを見学し作品に触れる機会を増やすよう努力すること。

授業ごとに、その内容や授業内での発言やコメント、自身の意見をまとめ、報告書としてマナバを使って提出す。

学修時間、事前事後、各週2時間ずつ。

**【テキスト・教材】**

マナバ等を通じて、必要な資料や画像は配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への積極的な関わりや発言、毎回授業後に提出するまとめと感想、発表や作品解説）30%と、その成果としての期末レポート70%。

提出物やレポートはコメントを付けて、授業内やマナバを使って返却フィードバックする。

**【参考書】**

- ①『世界美術大全集 東洋編5～8』（小学館）
  - ②宮崎法子『花鳥・山水を読み解く－中国絵画の意味』（角川学芸叢書2003年か、2018年刊のちくま学芸文庫版）。
- テーマごとの関係論文などについては、必要に応じて授業中に示します。

**【注意事項】**

授業では、積極的に発言をすることが求められる。素朴な感想が本質をとらえていることも多いので、気軽に語り合えるようにしたい。

**中国美術史演習 b**

作品の見方を深め、人に伝える力を養う

宮崎 法子

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

自らの関心に沿った作品を取り上げ、その特徴をより深くとらえ、人に伝えることを学びます。それは、美術史に共通する卒業論文執筆に向けての基礎作業となります。また、短い論文の講読を行い、問題の立て方、分析方法、資料の使い方、絵画をどのように描写するかを学ぶとともに、見学授業を行い、実作品がもつ力を実感する機会をもちます。また、香雪記念資料館の中国美術史入門展の展示作業を共同で行います。

**【授業における到達目標】**

作品の特徴を比較を通じて的確に把握し、関連資料を調べてそれらをまとめ、配付資料とパワーポイントを作成し発表することが出来る。その内容を文章として分かりやすく表現する。他の学生の発表を聞き、まとめコメントともに報告できる。展示作業の基本を身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週 前期のレポートの講評。授業の進め方、見学について。
- 第2週 興味ある作品を挙げ、話し合う。発表の順番を決定。
- 第3週 関連論文の講読 1 論文の構成を学ぶ
- 第4週 関連論文の講読 2 絵を表す言葉を学ぶ
- 第5週 関連論文の講読 3 資料の使い方を学ぶ
- 第6週 各自のテーマについて順次発表、互いにコメントする
- 第7週 各自のテーマについて順次発表し、互いにコメントする
- 第8週 見学授業
- 第9週 見学をふまえて発表 第1グループの学生
- 第10週 見学をふまえて発表 第2グループの学生
- 第11週 見学をふまえて発表 第3グループの学生
- 第12週 学内複製展の展示作業の実習
- 第13週 学内展覧会の総評と作品を前にした説明の練習
- 第14週 4年ゼミ生による卒論についての発表と質疑応答
- 第15週 補足とまとめ

研修旅行として、国内（関西方面）或いは台北故宮など海外の見学旅行を行う予定である（行き先は展覧会と学生の希望などを勘案して決定する）。

**【事前・事後学修】**

夏季休暇中に関連する展覧会がある場合は、各自見学すること。学期中も、見学授業以外でも東博東洋館などの見学を行うこと。演習ではプレゼンテーションの準備と事後の見直しが最も重要である。発表者以外も、各回担当を決め、発表内容についての報告書を作成提出する。事前事後学修時間、各週2時間程度。

**【テキスト・教材】**

関連の資料などは、マナバで配布する。また、発表の準備に必要な資料については、個別に指導する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業での積極的な発言、毎回のまとめと感想の提出。発表とディスカッション、報告者としての報告書）30%、それらの成果としての期末レポート（発表内容を深めたもの）70%。提出物やレポートはコメントを付して返却し、授業中やマナバなどでも言及フィードバックを行う。

**【参考書】**

- ①宮崎法子『花鳥・山水を読み解く－中国絵画の意味』（角川学芸叢書2003年か、2018年刊のちくま学芸文庫版）。
  - ②『世界美術大全集 東洋編』（北宋・南宋・元・明）小学館。
- 他、各自のテーマに沿った参考文献は個別に指導する。

**【注意事項】**

連絡は主にマナバを利用するので必ずチェックすること。



**中国美術史特講 a**

女神から仕女図へ 中国美術にみる女性描写とその変遷

官崎 法子

2年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

時代ごとに典型的な女性美を描く美人画は、中国を含む東アジアの美術の一ジャンルとして長く描き継がれてきました。そこには、各時代の思想や宗教、また男性達の女性への眼差しが、表れています。この授業では、各時代の代表的な作品を通じて、その主題と描き方を分析することで、中国の各時代の、理想の女性像や、女性への眼差しなどを考察します。また、日本の女性描写に与えた影響についても触れ、東アジア美術における中国の美人画の影響についても考えます。

**【授業における到達目標】**

各時代の美術における女性像の変遷を見ていくことで、美術作品と社会や時代のかかわりに目を向け、作品をより深く鑑賞し、よりよく味わう力を身につけていきます。

**【授業の内容】**

- 第1週 戦国時代～六朝時代まで 出土品から顧愷之へ
- 第2週 顧愷之から初唐の女性像へ
- 第3週 唐代の美人画と「天平美人」
- 第4週 五代南唐の宮廷美人画 唐代の継承と新しい展開
- 第5週 五代南唐の宮廷絵画 韓熙載夜宴図巻
- 第6週 五代北宋の女性像 皇后と女神たち
- 第7週 南宋の女性像 山水・花鳥との融合
- 第8週 宋元の文人白描画と壁画のなかの天女と女神
- 第9週 明代江南都市における美人画の復興 杜堇
- 第10週 明代蘇州の美人画 唐寅・仇英
- 第11週 明代蘇州の美人画と江戸時代の美人画
- 第12週 明末の新しい表現 陳洪綬と崔子忠
- 第13週 明末清初の版画
- 第14週 いわゆる「清朝美人」について
- 第15週 まとめ

関連する展覧会があれば、見学授業も行います。

授業中に問いかけて、一緒に考えたり、それについて短い文で回答してもらうなどするつもりです。

**【事前・事後学修】**

中国美術入門abのノートや配付資料、画像アルバムに目を通して中国美術の流れをあらかじめ復習し、その都度授業内容を予習復習してください。また、参考図書から関係論文や解説を読んでおくこと、特に①中の官崎「中国の女性描写の展開」を読んでおくこと。事前事後学修あわせて週4時間が求められています。

**【テキスト・教材】**

授業の進行に合わせて、資料をmanaで配付します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業内容にかかわる問いかけの回答提出と、香雪記念資料館での中国美術史入門展見学での課題提出をあわせた平常点が30%、学期末のレポート（あるいは課題をあらかじめ与える形の授業内試験）が70%。その課題と試験結果については、授業中やmanaなどで解説する。

**【参考書】**

- ① 仲町啓子編『仕女図から唐美人へ』 実践女子大学学術叢書17
- ② 『美術とジェンダー1 非対称の視線』（ブリュッケ）
- ③ 『美術とジェンダー2 交差する視線』（ブリュッケ）
- ④ 『世界美術全集 東洋編 3 南北朝～8明』（小学館）

**【注意事項】**

manaを必ずチェックすること。

**中国美術史特講 b**

元代江南都市と文人画

官崎 法子

2年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

中国の絵画は元の時代に大きな転換期を迎えました。蒙古の支配下、江南の都市では、漢民族の伝統文化を受け継ぐ知識人たちが、それ以前の絵画とは大きく異なる、新しい絵画を意識的に追求しました。それは、描かれる対象を再現する絵画ではなく、描く側の画家の思いを表すための絵画でした。その中心的な画家であった趙孟頫や銭選、またそれに続く黄公望、呉鎮、倪瓚、王蒙たち元の四大家と呼ばれる画家たちの活動を、彼らの生きた時代背景との係りのなかで捉え、彼らが何をどのように表現しようとしたのか、その特徴や新しさ、後世に与えた影響などについて、前代の作品や後の文人画とも比較しながら見ていきます。

**【授業における到達目標】**

後の中国絵画に大きな影響を与えた元の文人画家と彼らが生きた時代と作品が生み出された場について、基本的な知識をもち、一般には理解しづらい中国文人画の見方を知って、作品を楽しみ、その表現を的確に言葉にすることが出来る。

**【授業の内容】**

1. 元代の社会と江南都市の文化について
2. 趙孟頫と銭選 故郷湖州と生涯
3. 銭選と趙孟頫の絵画理論と代表作
4. 趙孟頫の新しさとは何か？
5. 銭選の新しさとは何か？
6. 黄公望の生涯と活動圏と代表作
7. 黄公望の新しさとは何か？
8. 呉鎮の生涯と活動圏と代表作品
9. 呉鎮の新しさとは何か？
10. 倪瓚の生涯と活動圏と代表作品
11. 倪瓚の新しさとは何か？
12. 王蒙の生涯と活動圏と代表作
13. 王蒙の新しさとは何か？
14. 元の四大家の相互交流と作品の後世への影響
15. 元の江南都市と文人画について、まとめ

関連する展覧会があれば、見学授業を行います。

授業で問いかけた問題についてその場で一緒に考え、発言を求めたり、短い文を提出してもらうなど、積極的な参加を求めます。

**【事前・事後学修】**

1年の中国美術史入門abのプリントや参考画像などによって復習しておくこと。また、参考文献③のまえがきを読んでおくこと。毎週の授業ごとに、プリントやノート、画像を使って事前と事後の学修を各2時間ずつ行うこと。

**【テキスト・教材】**

中国美術史入門abのプリントのうち、特に南北朝時代から清までの部分。また、新たに必要な資料はmanaで配付する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業中に指示された提出物や、香雪記念資料館で学期末に行う中国美術史入門展を見学しての課題、30%。定期試験（あらかじめ課題を提示する予定）70%。それら課題と試験の結果は、授業中あるいはmanaで事後に解説する。

**【参考書】**

- ① 『世界美術大全集 東洋編 7 元』小学館 2001年
- ② J. ケーヒル、新藤武弘訳『江山四季』明治書院
- ③ 官崎法子『花鳥・山水を読み解くー中国絵画の意味』 「ながい序文」と「第I部 山水画」（角川 学芸叢書 2003年、或いは2018年刊、ちくま学芸文庫版）

**【注意事項】**

連絡等はmanaを通じて行うので、かならずチェックすること。

**中国美術史入門 a**

古代から近世の美術…古代の造形から文人の水墨画まで

宮崎 法子

1年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

現在の日本では中国の美術、特に絵画は、ほとんどなじみのないものです。しかし、中国の文化は、日本人にとって近代に至るまで常に憧れの的であり、その存在なしに日本の文化や美術は存在しえなかったといえます。この授業では、中国の古代から宋元時代までの人々の世界観や価値観を、時代を代表する文物や美術を通じて知り、造形芸術の特徴とそれがどのように変化してきたかを追います。

**【授業における到達目標】**

中国の各時代の人々の世界観と美術作品の関係を理解する。各時代の代表的作品を知り中国美術に親しみ、日本美術との係わりについて考える。

**【授業の内容】**

第1週	オリエンテーション	中国文明の空間と時間
第2週	先史から殷周	祭祀と祭器
第3週	春秋戦国時代	百花齊放 様々な文化の競演
第4週	秦・前漢	始皇帝と古代帝国の美術
第5週	前漢・後漢	日常を映す出土品と漢文化の伝播
第6週	古代美術のまとめ	
第7週	南北朝時代（北朝）	仏教伝来と異民族支配
第8週	南北朝時代（南朝）	芸術としての書画のはじまり
第9週	隋・唐	国際都市長安と華麗な貴族文化
第10週	唐	唐の壁画墓と出土品 伝世品
第11週	五代・北宋	新しい絵画 水墨山水画の発展
第12週	北宋	宮廷美術と文人の文化
第13週	南宋	宮廷絵画と文人画
第14週	南宋	日本に伝わった宋元の絵画
第15週	元	江南の文人画 個性の表出としての山水画

**【事前・事後学修】**

中国の歴代王朝名や主要河川や都市名を地図上で確認する。配付資料やマナバに上げる画像アルバムを活用し予習復習し、ノートを作成させること。香雪記念資料館で開催する中国美術入門展や東博の見学など、日頃から作品に触れる機会を作るよう努力すること。学修時間 事前・事後各週2時間。

**【テキスト・教材】**

マナバにあらかじめ上げる配付資料と画像が主な教材となる。他に、指定図書の世界解説などを各自自習に用いること。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

学期末に定期試験を行う。途中小テストや課題提出を実施する。いずれも、授業中、あるいはマナバなどを使って解説、答え合わせを行う。平常点（出席状態・小テスト・提出物・複製展の感想など）30%、定期試験 70%。

**【参考書】**

- ①『世界美術大全集 東洋編』（1巻～7巻）小学館
- ②『国立故宮博物院と中国美術の至宝』洋泉社 2014年
- ③宮崎法子『花鳥・山水を読み解く—中国絵画の意味』の「ながい序文」（角川学芸叢書、2003年 或いは 2018年刊、ちくま学芸文庫版）

**【注意事項】**

授業はすべてオリジナルな内容であり、毎回新しい内容を扱います。授業に出席しそれを理解することが最も大切です。

**中国美術史入門 b**

元明清の美術 時代を生きる画家たちの多様な個性と創作

宮崎 法子

1年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

前期で学んだ元代までの中国美術の流れを復習した上で、それを継承しつつ、時代の大きな変化のなかで、新たな展開をみせた美術について、宮廷画家と江南都市の個性的な文人画家の作品を中心に学びます。

**【授業における到達目標】**

明清時代の各時期を代表する画家や作品を知る。社会や政治が芸術作品に与えた影響を把握する。中国近世江南都市の文人文化が日本近世美術へ与えた影響を知る。

**【授業の内容】**

第1週	宋代までの絵画史の復習
第2週	元の美術の補遺と元末から明初の美術
第3週	明前期の美術 宮廷の画家と浙派
第4週	蘇州の復興と文人画家 沈周 身辺への眼差し
第5週	蘇州の画家たち 文徵明 江南の春
第6週	蘇州の画家たち 唐寅 江南の風流才子
第7週	蘇州の画家たち 仇英 細部に宿る神
第8週	挫折と芸術 徐渭
第9週	爛熟する都市文化と明末の奇想派
第10週	正統派の復興 董其昌と南北二宗論
第11週	王朝交替と正統の継承 清初六大家 四王呉惲
第12週	亡国と芸術 清初江南都市の画家たち
第13週	清の宮廷美術
第14週	揚州の画家たちから清末へ
第15週	まとめ

**【事前・事後学修】**

事前に中国美術史入門aの復習をする。マナバに開示する授業資料と画像アルバムにより予習復習を行うこと。また、展覧会や東博東洋館の展示を積極的に見学し、作品に触れる機会をつくる。香雪記念資料館の中国美術入門展を必ず見学し、授業内容の理解を深める。学修時間 週4時間程度。

**【テキスト・教材】**

前期と同様、授業の内容をまとめたオリジナル資料と参考画像を、マナバを通じて事前に配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（出席率・複製展の感想などを含む）20%、試験80%。試験のあとマナバなどを通じ、考え方や模範解答、成績結果について周知しフィードバックを行う。

**【参考書】**

- ①『世界美術大全集』（東洋編7元～8明）小学館
- ②宮崎法子構成執筆『故宮博物院 清の絵画』NHK出版 2000
- ③『国立故宮博物院と中国美術の至宝』洋泉社 2014年。
- ③宮崎法子『花鳥山水画を読み解く—中国画の意味』「第1部 山水」（角川学芸叢書 2003年 或いは、2018年刊の、ちくま学芸文庫版）

**【注意事項】**

授業はすべてオリジナルな内容で毎回新しい内容を扱います。授業に出席して理解することが最も重要です。

**中国文学演習 A**

『論語正義』講読

影山 輝國

国文学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

宋代に書かれた『論語』の注釈書である『論語正義』を解説する。  
『論語』とは何か、注とは何か、疏とは何かを解説する。高度な読解力を必要とするので、心して受講されたい。

**【授業における到達目標】**

中国古典の読解力を養成することを目標とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 『論語』とは何か
- 第2週 『論語』の注について
- 第3週 『論語』の疏と『論語正義』
- 第4週 「里仁篇」第1章
- 第5週 「里仁篇」第2章
- 第6週 「里仁篇」第3章
- 第7週 「里仁篇」第4章
- 第8週 「里仁篇」第5章
- 第9週 「里仁篇」第6章
- 第10週 「里仁篇」第7章
- 第11週 「里仁篇」第8章
- 第12週 「里仁篇」第9章
- 第13週 「里仁篇」第10章
- 第14週 「里仁篇」第11章
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修—毎回詳細な下調べが必要である。担当者はレジュメを作成すること。（週4時間）

事後学修—授業中に感じた疑問を図書館などで調べておくこと。（週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントをコピーして配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への積極参加・担当箇所解説の際に示された読解力）100%

作成したレジュメを授業で検討し、誤りなどをフィードバックする。

**【参考書】**

授業中に指示する。

**【注意事項】**

5回欠席した者には単位を与えない。遅刻3回で欠席1回とする。

**中国文学演習 B**

『論語正義』講読

影山 輝國

国文学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

宋代に書かれた『論語』の注釈書である『論語正義』を解説する。  
『論語』とは何か、注とは何か、疏とは何かを解説する。高度な読解力を必要とするので、心して受講されたい。

**【授業における到達目標】**

中国古典の読解力を養成することを目標とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 『論語』とは何か
- 第2週 『論語』の注について
- 第3週 『論語』の疏と『論語正義』
- 第4週 「里仁篇」第12章
- 第5週 「里仁篇」第13章
- 第6週 「里仁篇」第14章
- 第7週 「里仁篇」第15章
- 第8週 「里仁篇」第16章
- 第9週 「里仁篇」第17章
- 第10週 「里仁篇」第18章
- 第11週 「里仁篇」第19章
- 第12週 「里仁篇」第20章
- 第13週 「里仁篇」第21章
- 第14週 「里仁篇」第22章
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修—毎回詳細な下調べが必要である。担当者はレジュメを作成すること。（週4時間）

事後学修—授業中に感じた疑問を図書館などで調べておくこと。（週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への積極参加・担当箇所解説の際に示された読解力）100%

作成したレジュメを授業で検討し、誤りなどをフィードバックする。

**【参考書】**

授業中に指示する。

**【注意事項】**

5回欠席した者には単位を与えない。遅刻3回で欠席1回とする。

## 中国文学哲学演習 a 1

『論語余師』解説

影山 輝國

3年～ 前期 2単位

○：国際的視野、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

『論語』は日本人が大切に読み継いできた中国の古典である。日本人がどのように『論語』を解釈してきたかを知ることは、とりもなおさず日本の学問・文化の展開を知るうえで極めて重要なことである。

本演習は、『論語』を和文で解説した『論語余師』を読み解きつつ、『論語』を味わっていく。

### 【授業における到達目標】

中国文学は日本人の身につけるべき教養として古くから学ばれ、日本人はそれによって人格を陶冶してきた。この授業でも先人に習い、古典を学び人格を陶冶しようとする態度を身につける。また、江戸時代の版本を読むことに慣れ、同時に変体仮名や崩し字に習熟することによって、生涯にわたり知を探求し、学問を続ける基礎を作ることを目標とする。

### 【授業の内容】

第1週 『論語余師』とはなにか。  
第2週 憲問篇 第14章～  
第3週 憲問篇 第17章～  
第4週 憲問篇 第20章～  
第5週 憲問篇 第23章～  
第6週 憲問篇 第26章～  
第7週 憲問篇 第29章～  
第8週 憲問篇 第32章～  
第9週 憲問篇 第35章～  
第10週 憲問篇 第38章～  
第11週 憲問篇 第42章～  
第12週 衛霊公篇 第1章～  
第13週 衛霊公篇 第4章～  
第14週 衛霊公篇 第7章～  
第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修—受講者は必ず全員予習をしてくること。発表担当者はレジュメを作成すること（週2時間）。

事後学修—発表担当者はレジュメの間違いを訂正し、メールに添付して影山まで送ること。担当者以外の者は自分が気がつかなかった点を反省し、記憶することに努めること（週2時間）。

### 【テキスト・教材】

プリント配布。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表を担当した際のレジュメの出来具合（50%）や他人のレジュメの不備を指摘することなど（50%）で評価する。作成したレジュメを授業で検討し、誤りなどをフィードバックする。

### 【参考書】

授業中に指示する。

### 【注意事項】

出席を重視する。5回以上欠席したものには単位は与えない。遅刻3回を欠席1回に数える。

## 中国文学哲学演習 a 2

『論語余師』解説

影山 輝國

3年～ 後期 2単位

○：国際的視野、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

『論語』は日本人が大切に読み継いできた中国の古典である。日本人がどのように『論語』を解釈してきたかを知ることは、とりもなおさず日本の学問・文化の展開を知るうえで極めて重要なことである。

本演習は、『論語』を和文で解説した『論語余師』を読み解きつつ、『論語』を味わっていく。

### 【授業における到達目標】

中国文学は日本人の身につけるべき教養として古くから学ばれ、日本人はそれによって人格を陶冶してきた。この授業でも先人に習い、古典を学び人格を陶冶しようとする態度を身につける。また、江戸時代の版本を読むことに慣れ、同時に変体仮名や崩し字に習熟することによって、生涯にわたり知を探求し、学問を続ける基礎を作ることを目標とする。

### 【授業の内容】

第1週 『論語余師』とは何か。  
第2週 衛霊公篇 第10章～  
第3週 衛霊公篇 第13章～  
第4週 衛霊公篇 第17章～  
第5週 衛霊公篇 第20章～  
第6週 衛霊公篇 第23章～  
第7週 衛霊公篇 第27章～  
第8週 衛霊公篇 第30章～  
第9週 衛霊公篇 第33章～  
第10週 衛霊公篇 第37章～  
第11週 衛霊公篇 第40章～  
第12週 季氏篇 第1章～  
第13週 季氏篇 第4章～  
第14週 季氏篇 第7章～  
第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修—受講者は必ず全員予習してくること。発表担当者はレジュメを作成すること（週2時間）。

事後学修—発表担当者はレジュメの間違いを訂正し、メールに添付して影山まで送ること。担当者以外の者は自分が気がつかなかった点を反省し、記憶することに努めること（週2時間）。

### 【テキスト・教材】

プリント配布

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表を担当した際のレジュメの出来具合（50%）や他人のレジュメの不備を指摘することなど（50%）で評価する。作成したレジュメを授業で検討し、誤りなどをフィードバックする。

### 【参考書】

授業中に指示する。

### 【注意事項】

新しい受講生がいない場合、第1回から演習に入る。出席を重視する。5回以上欠席したものには単位を与えない。遅刻3回を欠席1回に数える。

## 中国文学哲学演習 b 1

— 范曄『後漢書』を読む —

田中 靖彦

3年～ 前期 2単位

○：国際的視野、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

この授業は、范曄『後漢書』を講読します。『後漢書』の講読を通し、漢文の読解力を身につけると同時に、中国における歴史書の書かれ方についても理解を深め、中国史と漢文学に関する知識を広く習得することを目標とします。前期は列伝六十四上下・袁紹劉表列伝上下を読みます。

### 【授業における到達目標】

1. 【知識力】漢文学とその歴史に関する知識を習得し、理解を深める。
2. 【国際的視野】中国の歴史と文化に対する関心を深め、自分の言葉で説明できる。
3. 【協働力】演習への参加を通して、相互理解を深めると同時に、協力して物事を進める力を養う。
4. 【行動力】予習・授業・復習を計画的に行うことを通し、自律的な学修を継続できる力を養う。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス  
 第2週 『後漢書』について（講義）  
 第3週 列伝六十四上 最初から  
 第4週 列伝六十四上 「紹遂領冀州牧」から  
 第5週 列伝六十四上 「魏郡審配」から  
 第6週 列伝六十四上 「建安元年曹操迎天子」  
 第7週 列伝六十四上 「又黄巾十万」から  
 第8週 列伝六十四上 「紹既并四州之地」から  
 第9週 列伝六十四上 「蓋聞明主図危以制変」から  
 第10週 列伝六十四上 「歴観古今書籍」から  
 第11週 列伝六十四上 「初紹聞操擊瓊」から  
 第12週 列伝六十四下 最初から  
 第13週 列伝六十四下 「曹操遂還救譚」から  
 第14週 列伝六十四下 「劉表字景升」から  
 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】事前配布のプリントで、授業範囲をしっかりと予習してください。発表担当者はレジュメを作成してください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業内で使用したプリントをもとに、しっかりと復習し、身につけてください。発表担当者は、当日の発表を振り返り、誤った点は修正してください。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

プリントを用意します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表への取り組み50%、質疑応答への参加50%で評価します。フィードバックは、質疑応答および発表に対する教員よりの指導によって行います。

### 【参考書】

漢和辞典を用意してください（電子辞書も可）。まだお持ちでない方は、ガイダンス時に漢和辞典についても触れますので、それを参考に購入してください。

さらに深く学びたい方のための文献は、授業内で指示いたします。

### 【注意事項】

演習形式の授業ですので、積極的に参加して下さい。なお、授業進度などにより授業内容が一部変更となることがありますが、ご了承下さい。

## 中国文学哲学演習 b 2

— 范曄『後漢書』を読む —

田中 靖彦

3年～ 後期 2単位

○：国際的視野、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

この授業は、范曄『後漢書』を講読します。この『後漢書』の講読を通し、漢文の読解力を身につけると同時に、中国における歴史書の書かれ方についても理解を深め、中国史と漢文学に関する知識を広く習得することを目標とします。後期は列伝六十三・劉虞公孫サン陶謙列伝、列伝六十五・劉焉袁術呂布列伝を読みます。

### 【授業における到達目標】

1. 【知識力】漢文学とその歴史に関する知識を習得し、理解を深める。
2. 【国際的視野】中国の歴史と文化に対する関心を深め、自分の言葉で説明できる。
3. 【協働力】演習への参加を通して、相互理解を深めると同時に、協力して物事を進める力を養う。
4. 【行動力】予習・授業・復習を計画的に行うことを通し、自律的な学修を継続できる力を養う。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス  
 第2週 『後漢書』について（講義）  
 第3週 列伝六十三 最初から  
 第4週 列伝六十三 「公孫サン字伯珪」から  
 第5週 列伝六十三 「是歳サン破禽劉虞」から  
 第6週 列伝六十三 「陶謙字恭祖」から  
 第7週 列伝六十五 最初から  
 第8週 列伝六十五 「備自江陵馳」から  
 第9週 列伝六十五 「袁術字公路」から  
 第10週 列伝六十五 「建安二年」から  
 第11週 列伝六十五 「呂布字奉先」から  
 第12週 列伝六十五 「バク字孟卓」  
 第13週 列伝六十五 「陳珪欲使子登」から  
 第14週 列伝六十五 「建安三年」から  
 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】事前配布のプリントで、授業範囲をしっかりと予習してください。発表担当者はレジュメを作成してください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業内で使用したプリントをもとに、しっかりと復習し、身につけてください。発表担当者は、当日の発表を振り返り、誤った点は修正してください。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

プリントを用意します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表への取り組み50%、質疑応答への参加50%で評価します。フィードバックは、質疑応答および発表に対する教員よりの指導によって行います。

### 【参考書】

漢和辞典を用意してください（電子辞書も可）。まだお持ちでない方は、ガイダンス時に漢和辞典についても触れますので、それを参考に購入してください。

さらに深く学びたい方のための文献は、授業内で指示いたします。

### 【注意事項】

演習形式の授業ですので、積極的に参加して下さい。なお、授業進度などにより授業内容が一部変更となることがありますが、ご了承下さい。

## 中国文学哲学研究 a

—中国史・中国思想の基礎知識—

影山 輝國

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

## 【授業のテーマ】

高等学校の漢文教材には必ず『史記』と『論語』がある。国語科教員になってこれらを教える際の基礎知識を教授する。

## 【授業における到達目標】

漢文学の基礎知識を知ることによって、新たな知を創造しようとする態度を身につけ、生涯にわたり知を探求し、学問を続ける能力をも身につけることを目標とする。

## 【授業の内容】

- 第1回 導入
- 第2回 中国史の基礎知識（1） 中国の歴代王朝
- 第3回 中国史の基礎知識（2） 中国の歴史書
- 第4回 中国史の基礎知識（3） 『史記』と司馬遷（1）
- 第5回 中国史の基礎知識（4） 『史記』と司馬遷（2）
- 第6回 中国哲学の基礎知識（1） 『論語』と孔子
- 第7回 中国哲学の基礎知識（2） 孔子の弟子たち（1）
- 第8回 中国哲学の基礎知識（3） 孔子の弟子たち（2）
- 第9回 中国哲学の基礎知識（4） 孔子の弟子たち（3）
- 第10回 中国哲学の基礎知識（5） 孔子の弟子たち（4）
- 第11回 中国哲学の基礎知識（6） 陰陽五行思想（1）
- 第12回 中国哲学の基礎知識（7） 陰陽五行思想（2）
- 第13回 中国哲学の基礎知識（8） 中国の占いと甲骨文学（1）
- 第14回 中国哲学の基礎知識（9） 中国の占いと甲骨文学（2）
- 第15回 まとめ

## 【事前・事後学修】

事前学修：配布された資料を前もってよく読んでおくこと（週2時間）。

事後学修：授業の内容をよく復習して記憶すること（週2時間）。

## 【テキスト・教材】

コピーして配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

ノートのまとめ（70%）、興味を持ったテーマに関するレポート（20%）、受講態度（10%）を総合して評価する。数回の小テストをくり返し誤った点をフィードバックして、知識を確実なものにしていく。

## 【参考書】

授業中に指示する。

## 【注意事項】

5回以上欠席したのものには単位を与えない。遅刻3回を欠席1回に数える。

## 中国文学哲学研究 b

—漢詩作法講座—

影山 輝國

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

## 【授業のテーマ】

漢詩作法講座。中国文学の精華である唐詩を取り上げ、すぐれた作品を鑑賞するとともに、実際に漢詩を作ってみる。

## 【授業における到達目標】

漢詩の基礎知識を知ることによって、自ら漢詩を作る態度を身につけ、あわせて生涯にわたり知を探求し、学問を続ける能力をも身につけることを目標とする。

## 【授業の内容】

- 第1回 導入
- 第2回 七言絶句（1）
- 第3回 七言絶句（2）
- 第4回 五言絶句
- 第5回 七言絶句と七言律詩
- 第6回 日本人の漢詩
- 第7回 漢詩を作ってみよう（1） 韻について
- 第8回 漢詩を作ってみよう（2） 平仄について
- 第9回 漢詩を作ってみよう（3） 漢語の語順について
- 第10回 漢詩を作ってみよう（4） 作詩の方法
- 第11回 漢詩を作ってみよう（5） 作詩を行う（1）
- 第12回 漢詩を作ってみよう（6） 作詩を行う（2）
- 第13回 漢詩を作ってみよう（7） 作詩を行う（3）
- 第14回 漢詩を作ってみよう（8） 作品の評価
- 第15回 まとめ

## 【事前・事後学修】

事前学修：配布された資料を前もってよく読んでおくこと（週2時間）。

事後学修：授業の内容をよく復習して記憶すること（週2時間）。

## 【テキスト・教材】

コピーして配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学生が自作した漢詩によって評価を行う。何回かの小テストを実施し誤った点をフィードバックすることによって知識を確実なものにしていく。平均点60点以上のものだけが、自作の漢詩を提出できる。

## 【参考書】

授業中に指示する。

## 【注意事項】

5回以上欠席したのものには単位を与えない。遅刻3回を欠席1回に数える。

**中国文学特殊演習 A**

『論語義疏』講読

影山 輝國

国文学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

室町時代に書かれたいわゆる大槻本をテキストとして梁皇侃『論語義疏』を解説する。高度な読解力を必要とするので心して受講されたい。

**【授業における到達目標】**

室町時代の訓点を読み解く作法をマスターし、中国古典の読解力を養成することを目標とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 『論語義疏』とは何か
- 第2週 『論語義疏』の鈔本について
- 第3週 「学而篇」第1章
- 第4週 「学而篇」第2章
- 第5週 「学而篇」第3章
- 第6週 「学而篇」第4章
- 第7週 「学而篇」第5章
- 第8週 「学而篇」第6章
- 第9週 「学而篇」第7章
- 第10週 「学而篇」第8章
- 第11週 「学而篇」第9章
- 第12週 「学而篇」第10章
- 第13週 「学而篇」第11章
- 第14週 「学而篇」第12章
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修—毎回詳細な下調べが必要である。担当者はレジュメを作成すること。（週4時間）

事後学修—授業中に感じた疑問を図書館などで調べておくこと。（週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への積極参加・担当箇所解説の際に示された読解力）100%。作成したレジュメを授業で検討し、誤りなどをフィードバックする。

**【参考書】**

授業中に指示する。

**【注意事項】**

5回欠席した者には単位を与えない。遅刻3回で欠席1回とする。

**中国文学特殊演習 B**

『論語義疏』講読

影山 輝國

国文学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

室町時代に書かれたいわゆる大槻本をテキストとして梁皇侃『論語義疏』を解説する。高度な読解力を必要とするので、心して受講されたい。

**【授業における到達目標】**

室町時代の訓点を読み解く作法をマスターし、中国古典の読解力を養成することを目標とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 『論語義疏』とは何か
- 第2週 『論語義疏』の鈔本について
- 第3週 「学而篇」第13章
- 第4週 「学而篇」第14章
- 第5週 「学而篇」第15章
- 第6週 「学而篇」第16章
- 第7週 「為政篇」第1章
- 第8週 「為政篇」第2章
- 第9週 「為政篇」第3章
- 第10週 「為政篇」第4章
- 第11週 「為政篇」第5章
- 第12週 「為政篇」第6章
- 第13週 「為政篇」第7章
- 第14週 「為政篇」第8章
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修—毎回詳細な下調べが必要である。担当者はレジュメを作成すること。（週4時間）

事後学修—授業中に感じた疑問を図書館などで調べておくこと。（週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への積極参加・担当箇所解説の際に示された読解力）100%。作成したレジュメを授業で検討し、誤りなどをフィードバックする。

**【参考書】**

授業中に指示する。

**【注意事項】**

5回欠席した者には単位を与えない。遅刻3回で欠席1回とする。

## 中国料理実習

高木 秋廣

3年 前期 1単位 3時限連続 隔週

◎：行動力 ○：国際的視野、美の探究

## 【授業のテーマ】

調理を行い総合的な知識や技術を学び、それらの取り扱い方や料理を実際に作り中国料理の食文化を学ぶ。

## 【授業における到達目標】

学生が修得すべき「協働力」を育成し、専門的技術としての修得すべき「学術的な力」となる技能を修得する。

## 【授業の内容】

## 第1週

- 四大料理説明（上海、北京、広東、四川）
- プリント提出
- 湯の説明（上湯、毛湯、火腿湯、清湯、白湯）
- 清湯の取り方、各料理説明
- 切り方の説明（絲、丁、毛、末、塊、片、条）

## 第2週

- 海鮮物の下処理（海老）
- 肉類の下処理
- 海鮮物の下味の入れ方

## 第3週

- 中国料理の揚げ物（衣の作り方）実技で説明
- 春野菜の処理
- 点心（野菜の素材を使用した点心）

## 第4週

- 油の温度
- 麵（手打麵の打ち方）デモ
- グルテンの説明
- 麵のルーツ（東西のシルクロード）
- 炒飯の作り方

## 第5週

- デザート（冷たい物）
- 咸点心、甜点心

## 第6週

- 炒飯の炒め方（油の量、油の使い方）再度説明
- 冷たい主食（冷麵、冷ワンタン）
- 炒麵の作り方

## 第7週

授業のまとめ1

## 第8週：1クラス135分授業（A・Bクラス連続）

授業のまとめ2

## 【事前・事後学修】

【事前学修】配布する中国料理に関する資料をよく読み、理解を深めておくこと。（学修時間 週1時間）

【事後学修】レポート形式を配布しますので、それに従って実習レポートを作成してください。（学修時間 週1時間）

## 【テキスト・教材】

授業資料（レシピ等）はmanabaに掲示します。各自印刷して持参してください。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 実技グループ別評価 20%（授業時にフィードバックする）
- 授業態度 20%（授業時にフィードバックする）
- レポート 30%（次回授業後にフィードバックする）
- 実技試験と筆記試験 30%（実施時に評価する）



## 中世イギリス文学・文化演習 a

—C. S. ルイスを読む—

大関 啓子

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

## 【授業のテーマ】

『ナルニア国物語』で有名なC. S. ルイスについて、中世英文学者としての姿勢、伝承文学研究とそのimageryを読み解きます。

## 【授業における到達目標】

C. S. ルイスの作品と人生を通して、異文化理解と論理的思考力を育みます。

## 【授業の内容】

以下の内容を予定しています。

1. Introduction
2. 中世英文学者C. S. ルイスについて
3. 伝承文学研究について
4. インクリングズの会
5. 作品の背景—『愛のアレゴリー』
6. 作品の背景—『ナルニア国物語』
7. アレゴリーと神話
8. 映画『永遠の愛に生きて』
9. シンボリズムとサクラメンタリズム
10. 喜び
11. 理性と道徳
12. 『ナルニア国物語』1—信仰と懐疑
13. 『ナルニア国物語』2—愛
14. 『ナルニア国物語』3—希望
15. Conclusion

この他、作品の映画・DVD等を用いる予定です。

## 【事前・事後学修】

事前学修として、各回の授業で取り上げる内容について、2時間程度の予習を行い、事後学修として、前回の授業で扱った内容について、2時間程度しっかり復習し、まとめておくこと。

## 【テキスト・教材】

テキストは使用せず、プリントを配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・リアクション・ペーパー・課題等）40%、レポート60%で評価。

平常点については、毎週の授業時における貢献度（作品の理解を深めるような意見や質問、発表など）を、高く評価。

課題は期日と場所を指定して、フィードバックします。

## 中世イギリス文学・文化演習 f

中世ロマンス文学を読む

大関 啓子

4年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

## 【授業のテーマ】

中世ヨーロッパの口承文学の系譜として、アーサー王伝説の一環となる中世騎士物語を読み、その中にあるキリスト教的騎士道精神とケルト文化の影響を考えます。

## 【授業における到達目標】

表のギリシャ・ローマ文化に対し、ヨーロッパ文化の裏を成しているケルト民族の影響を探り、現代ヨーロッパ文化についての理解を深めます。また数少ない登場人物の女性に注目し、当時の女性の生き方についても考えたいと思います。

中世ロマンス作品を通して、異文化理解の力を養います。

## 【授業の内容】

以下の内容を予定しています。

ロマンス作品については、初回授業時に決めます。

- |      |                         |
|------|-------------------------|
| 第1週  | Introduction            |
| 第2週  | 中世ロマンス文学                |
| 第3週  | ケルト民族の歴史と伝統             |
| 第4週  | 古代ケルトの信仰と芸術             |
| 第5週  | ロマンスⅠ—Part 1（宮廷社会）      |
| 第6週  | ロマンスⅠ—Part 2（騎士概念と身分）   |
| 第7週  | ロマンスⅠ—Part 3（騎士道）       |
| 第8週  | ロマンスⅡ—Part 1（馬上槍試合）     |
| 第9週  | ロマンスⅡ—Part 2（貴婦人の掟）     |
| 第10週 | ロマンスⅡ—Part 3（宮廷風恋愛）     |
| 第11週 | ロマンスⅢ—Part 1（恋愛と婚姻）     |
| 第12週 | ロマンスⅢ—Part 2（叙事詩と抒情詩）   |
| 第13週 | ロマンスⅢ—Part 3（口承文学と文字伝承） |
| 第14週 | 現代ヨーロッパにおけるケルト          |
| 第15週 | Conclusion              |

この他、作品の映画・DVD等を用いる予定です。

## 【事前・事後学修】

事前学修として各回の授業で取り上げる作品について、2時間程度しっかり予習し、大意を読み取ること。

事後学修として、前回の授業で扱った作品について、2時間程度復習し、まとめておくこと。

## 【テキスト・教材】

テキストは使用せず、プリントを配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・リアクション・ペーパー・課題等）40%、レポート60%で評価。

平常点については、毎週の授業時における貢献度（作品の理解を深めるような意見や質問、発表など）を高く評価。

課題については、期日と場所を指定してフィードバックします。

## 中世近世文学演習 a 1

日本中世と東アジアにおける「説話」の動き：三蔵法師

牧野 和夫

3年～ 前期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

日本中世に盛んに行われた「説話」の個々を読み、さまざまな世界をうかがう。

本年度は日本における三蔵法師・孫悟空のイメージ（像）の展開を考察する。その近代の受容史や孫悟空・三蔵法師のイメージの展開にふれる。その際に『西遊記』についても、日本近現代における受容を軸に、研究史とその問題点を考えてみる。

### 【授業における到達目標】

「説話」をとりあげて読解する力をつけるようにする。とくに当時の交流に具体的な形で触れ（国際的視野）、そのうえで、新しい資料を提示し、新たな知に基づく新しい視点を導入する糸口をあたえ（価値の発見・知の創造）、質疑応答のなかから、自らの課題を発見し、自らの思考でまとめることができるようにする（自己研鑽）。

中世の書物に触れて、履修者が互いに協議し、具体的な問題を指摘（協働力）できるようにする。

### 【授業の内容】

- 第1週 近年の「説話」研究について
- 第2週 現代における三蔵法師のイメージの受容
- 第3週 近現代における孫悟空のイメージの受容
- 第4週 日本における「宋」代の「説話」の問題：書物を通じて
- 第5週 『今昔物語集』の一話における「猿」のイメージ
- 第6週 「猿」のイメージを日本中世に探す：日本
- 第7週 三蔵法師と猿のイメージを中国に探す：高山寺
- 第8週 舶載書の問題：古書の急騰を中国に探す
- 第9週 三蔵法師のイメージを日本近世説教資料に探る
- 第10週 三蔵法師のイメージを日本中世の説話に探る
- 第11週 受講書による質問
- 第12週 受講者による発表1（テーマ：宋代の説話）
- 第13週 受講者による発表2（テーマ：孔子の説話）
- 第14週 受講者による発表3（テーマ：日宋の交易説話）
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：毎回配布する資料・プリントを次回授業までに読んでおいてください（週2時間程度）。

事後学修：発表などの復習、次回用の配布資料中の難解語句・専門用語など事前に調べる（週2時間程度）。

### 【テキスト・教材】

テキストは随時用意します。参考書に挙げた書物などから抜粋し、配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト20%、試験55%、平常点（授業中の発言、発表）25%  
フィードバックは、小テストを含め、解答とその講評を中心にしたものとなる。

### 【参考書】

- 牧野和夫『中世の説話と学問』（和泉書院 1991年）
- 牧野和夫『日本中世の説話・書物のネットワーク』（和泉書院 2010年）

### 【注意事項】

質問を積極的に行うこと。

## 中世近世文学演習 a 2

説話：本地物という領域・阿弥陀の本地

牧野 和夫

3年～ 後期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

日本中世の説話を、いわゆる本地物という物語から俯瞰し、その展開を考えてみることにしたい。

とくに日本を取り巻くアジアをも視野に入れて、時間軸に沿った展開、空間軸に即した交流を追求する。

本年度は、阿弥陀の本地を採りあげ、考察する。後半には、受講者各自が関連する論文を選び、その内容について発表してもらう。

### 【授業における到達目標】

日本における中世を神と仏という問題から考えること、その重要性に気づかせるようにする（真理などの探求）。そのために、数人でグループを作り、各自が先行する論文の内容・そのもつ意味をまとめ、グループで検討し（自己研鑽・協働力）、プライオリティの重要性に気づかせる（著作権などにも配慮できるようにする）、とくに近年の傾向として海外の論文が増えていることに留意させる（国際的視野）。

### 【授業の内容】

- 第1週 本地物について
- 第2週 本地物の研究史について：昭和
- 第3週 本地物を読む：阿弥陀の本地・前半
- 第4週 本地物を読む：阿弥陀の本地・後半
- 第5週 阿弥陀の本地について一源流をもとめて
- 第6週 『今昔物語集』所収話を読む
- 第7週 阿弥陀の本地と『今昔物語集』所収話の関係：前半
- 第8週 阿弥陀の本地と『今昔物語集』所収話の関係：後半
- 第9週 「大乘毘沙門功德経」類1
- 第10週 「大乘毘沙門功德経」類2
- 第11週 偽疑経
- 第12週 受講者の発表1：本地物について
- 第13週 受講者の発表2：偽疑経について
- 第14週 講評
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：毎回配布する資料・プリント類を次回授業までに読んでおくこと（週約2時間程度）。

事後学修：発表内容の復習。次回用配布資料中の難解語句・専門用語などの事前調査（週約2時間程度）

### 【テキスト・教材】

テキストは、随時用意する。とくに参考書欄に掲出した書物から抜粋したものをプリントし、配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト20%、試験60%、平常点（授業中の発言、発表）20%。  
フィードバック：小テストなどの解答とその講評を中心にしたものとなる。

### 【参考書】

- 随時、指示するので注意するように。
- 牧野和夫『中世の説話と学問』（1991年 和泉書院）
- 同『日本中世の説話・書物のネットワーク』（2009年 和泉書院）

### 【注意事項】

毎回、質疑応答・小テストを行う予定である。授業に臨む積極的な姿勢が大事である。

**中世近世文学演習 b 1**

近松の世話物を読む

**光延 真哉**

3年～ 前期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

発表者以外の履修者であっても、作品をきちんと読んで授業に臨むことが必須となります。近松作品に限らず、文楽や歌舞伎の舞台をなるべく観に行くようにして下さい。

**【授業のテーマ】**

元禄期に人形浄瑠璃や歌舞伎の作者として活躍した近松門左衛門が、日本の演劇史において残した功績の1つに、当時市井で評判になった出来事を題材にした世話物のジャンルを確立したことが指摘できる。人々は心中や殺人、密通といった事件をなぜ引き起こしたのか。その行動の背景にあるものを近松は想像をたくましくして、見事に演劇化することに成功したのである。

本授業ではこうした近松の世話物の作品のうち、前期の作品を採り上げ、近松が、女性キャラクター・男性キャラクターをそれぞれどのように造型していったのか分析する。

**【授業における到達目標】**

(1) 経歴や作品の特徴など近松門左衛門に関する基本的な知見を身につける。

(2) 近松門左衛門の世話物の作品を言葉ひとつひとつに留意しながら読解することができる。

(3) 近松門左衛門の世話物の作品について、先行研究を参考にしながら自分なりの読みを提示しようとする姿勢を養う。

**【授業の内容】**

- 第1週 イン트로ダクション
- 第2週 文楽『曾根崎心中』映像視聴
- 第3週 歌舞伎『曾根崎心中』映像視聴
- 第4週 発表（『曾根崎心中』女性キャラクター）
- 第5週 発表（『曾根崎心中』男性キャラクター）
- 第6週 発表（『卯月紅葉』女性キャラクター）
- 第7週 発表（『卯月紅葉』男性キャラクター）
- 第8週 発表（『堀川波鼓』女性キャラクター）
- 第9週 発表（『堀川波鼓』男性キャラクター）
- 第10週 発表（『心中重井筒』女性キャラクター）
- 第11週 発表（『心中重井筒』男性キャラクター）
- 第12週 発表（『丹波与作待夜の小室節』女性キャラクター）
- 第13週 発表（『丹波与作待夜の小室節』男性キャラクター）
- 第14週 発表（『心中万年草』女性キャラクター）
- 第15週 発表（『心中万年草』男性キャラクター）

**【事前・事後学修】**

事前学修：発表者は発表のための準備を行うこと。発表者以外の履修者は作品を読んで論点を考えておくこと。（学修時間 週2時間）

事後学修：発表を受けて、事前に考えた自分の論点をどのように見直すことができるのか、整理してまとめること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

祐田善雄校注『岩波文庫 曾根崎心中・冥途の飛脚 他五篇』（岩波書店、1977年）1,015円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

発表25%、レポート25%、平常点（リアクションペーパーへの取り組み具合）50%。各回冒頭に、前回分のリアクションペーパーを印刷配布し、教員がコメントすることでフィードバックを図る。

**【参考書】**

大阪市立大学文学研究科「上方文化講座」企画委員会編『上方文化講座 曾根崎心中』（和泉書院、2006年）

近松祭企画・実行委員会編『近松門左衛門三百五十年』（和泉書院、2003年）

鳥居フミ子『近松の女性たち』（武蔵野書院、1999年）

井口洋『近松世話浄瑠璃論』（和泉書院、1986年）

信多純一『近松の世界』（平凡社、1991年）

諏訪春雄『近松世話浄瑠璃の研究』（笠間書院、1974年）

廣末保『近松序説 一近世悲劇の研究』（未来社、1963年）

**【注意事項】**

## 中世近世文学演習 b 2

近松の世話物を読む

光延 真哉

3年～ 後期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

元禄期に人形浄瑠璃や歌舞伎の作者として活躍した近松門左衛門が、日本の演劇史において残した功績の1つに、当時市井で評判になった出来事を題材にした世話物のジャンルを確立したことが指摘できる。人々は心中や殺人、密通といった事件をなぜ引き起こしたのか。その行動の背景にあるものを近松は想像をたくましくして、見事に演劇化することに成功したのである。

本授業ではこうした近松の世話物の作品のうち、後期の作品を採り上げ、近松が、女性キャラクター・男性キャラクターをそれぞれどのように造型していったのか分析する。

### 【授業における到達目標】

(1) 経歴や作品の特徴など近松門左衛門に関する基本的な知見を身につける。

(2) 近松門左衛門の世話物の作品を言葉ひとつひとつに留意しながら読解することができる。

(3) 近松門左衛門の世話物の作品について、先行研究を参考にしながら自分なりの読みを提示しようとする姿勢を養う。

### 【授業の内容】

- 第1週 文楽『冥途に飛脚』映像視聴
- 第2週 歌舞伎『心中天網島』映像視聴
- 第3週 歌舞伎『女殺油地獄』映像視聴
- 第4週 発表（『冥途の飛脚』女性キャラクター）
- 第5週 発表（『冥途の飛脚』男性キャラクター）
- 第6週 発表（『夕霧阿波鳴渡』女性キャラクター）
- 第7週 発表（『夕霧阿波鳴渡』男性キャラクター）
- 第8週 発表（『大経師昔暦』女性キャラクター）
- 第9週 発表（『大経師昔暦』男性キャラクター）
- 第10週 発表（『心中天網島』女性キャラクター）
- 第11週 発表（『心中天網島』男性キャラクター）
- 第12週 発表（『女殺油地獄』女性キャラクター）
- 第13週 発表（『女殺油地獄』男性キャラクター）
- 第14週 発表（『心中宵庚辰』女性キャラクター）
- 第15週 発表（『心中宵庚辰』男性キャラクター）

### 【事前・事後学修】

事前学修：発表者は発表のための準備を行うこと。発表者以外の履修者は作品を読んで論点を考えておくこと。（学修時間 週2時間）

事後学修：発表を受けて、事前に考えた自分の論点をどのように見直すことができるのか、整理してまとめること。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

プリントを配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表25%、レポート25%、平常点（リアクションペーパーへの取り組み具合）50%。各回冒頭に、前回分のリアクションペーパーを印刷配布し、教員がコメントすることでフィードバックを図る。

### 【参考書】

- 近松祭企画・実行委員会編『近松門左衛門三百五十年』（和泉書院、2003年）
- 鳥居フミ子『近松の女性たち』（武蔵野書院、1999年）
- 井口洋『近松世話浄瑠璃論』（和泉書院、1986年）
- 信多純一『近松の世界』（平凡社、1991年）
- 諏訪春雄『近松世話浄瑠璃の研究』（笠間書院、1974年）
- 廣末保『近松序説—近世悲劇の研究』（未来社、1963年）
- 廣末保『古典を読む 心中天網島』（岩波書店、1984年）

### 【注意事項】

発表者以外の履修者であっても、作品をきちんと読んで授業に臨むことが必須となります。近松作品に限らず、文楽や歌舞伎の舞台なるべく観に行くようにして下さい。

## 中世近世文学演習 c 1

『還魂紙料』の研究

佐藤 悟

3年～ 前期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

柳亭種彦『還魂紙料』の注釈を通して、近世文学全般の知識を深める。

『還魂紙料』は文政九年（1826）に刊行された考証随筆である。内容は江戸前期のことがらについて古俳諧、仮名草子、浮世草子等の用例から語彙考証、年代考証を行ったものである。その過程で使用したテキストの書誌学的考察を行い、『柳亭種彦俳書文庫』『好色本目録』『吉原書籍目録』等の優れた書誌研究、作者研究を残している。

授業では種彦の考証を後追いつることにより、その考証技法について考察を行い、近世文学全体に対する知識を深めるものとする。

### 【授業における到達目標】

テキストに対する注釈能力の向上が要求される。そのためには膨大な量の関連資料の調査が必要で、そのための技術や方法論を学ぶ。これらを通じて全学DPが定める二つの態度、三つの能力を獲得し、卒業論文執筆へとつなげる。

### 【授業の内容】

- 第1週 『還魂紙料』概説・発表担当者割当
- 第2週 柳亭種彦について
- 第3週 担当者による発表 下1
- 第4週 担当者による発表 下2
- 第5週 担当者による発表 下3
- 第6週 担当者による発表 下4
- 第7週 担当者による発表 下二1
- 第8週 担当者による発表 下二2
- 第9週 担当者による発表 下二3
- 第10週 担当者による発表 下二4
- 第11週 担当者による発表 下三1
- 第12週 担当者による発表 下三2
- 第13週 担当者による発表 下三3
- 第14週 担当者による発表 下四4
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

一つの項目についてAチームとBチームの二つのチームに分かれて準備を行う。各チームは事前の予習が必要である。

発表後は次の発表に備えて、さらなる準備が必要である。

これらの二つのために、担当教員の佐藤に質問に通うことが必要となる。

事後学修は指摘された問題点を整理しておくこと。それぞれ2時間以上が必要であろう。

### 【テキスト・教材】

コピーを配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表点80%、平常点（授業中の問題提起に対する発言をすると共に、積極的な質問についても評価する）20%。フィードバックは授業中におこなわれる。

### 【参考書】

適宜指示する。

### 【注意事項】

五回欠席すると自動的に失格になる。

## 中世近世文学演習 c 2

『還魂紙料』の研究

佐藤 悟

3年～ 後期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

中世近世文学演習 c 1 に続いて『還魂紙料』の研究を行い、近世文学全体に対する知識、対処能力を高める。

## 【授業における到達目標】

c 1 と同様に調査、解析、評価する能力を目指す。これらを通じて全学DPが定める二つの態度、三つの能力を身に付け、卒業論文の執筆へとつなげる。

## 【授業の内容】

- 第1週 担当者を決定する。
- 第2週 佐藤による概説。
- 第3週 担当者による発表 上一
- 第4週 担当者による発表 上一
- 第5週 担当者による発表 上一
- 第6週 担当者による発表 上一
- 第7週 担当者による発表 上二
- 第8週 担当者による発表 上二
- 第9週 担当者による発表 上二
- 第10週 担当者による発表 上二
- 第11週 担当者による発表 上三
- 第12週 担当者による発表 上三
- 第13週 担当者による発表 上三
- 第14週 担当者による発表 上三
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

事前学修、事後学修のため、指導教員の佐藤に質問に通うことが要求される。特に事後学修では問題点の整理が必要である。それぞれ2時間以上が必要であろう。

## 【テキスト・教材】

コピーを配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表点80%、平常点（授業中の問題提起に対する発言をすると共に、積極的な質問についても評価する）20%。フィードバックは授業中におこなう。

## 【参考書】

適宜指示する。

## 【注意事項】

五回以上欠席すると自動的に失格する。

## 中世近世文学研究 a

日本中世の説話：慶政を軸に

牧野 和夫

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

## 【授業のテーマ】

中世に盛んな展開をみた「説話」について、慶政という僧侶を通して、ひらけてくる国内外の「動き」を考えてみる。

中世の「文化」史的な広がりの中で、慶政という一僧侶の編んだ説話集を生成という過程を踏まえて考えていく。とくに“東アジア”を視野に入れることで、日本中世の新たな見直しが可能になる。

## 【授業における到達目標】

研究史を学ぶということの重要性（プライオリティ）を知る事ができるようにする（著作権などに及ぶ）が、とくに海外文献の扱いなどに触れる（国際的視野）。授業内の質疑応答によってすばやく考えをまとめる力を養成する（行動力・協働力）。

新しい資料を提示することで、従来の枠が破られ、新しい見通しが見えてくること（新しい知の発見・研鑽力）を、なるべく自分で考えることによって、理解するように指導する（真理の探求）。

## 【授業の内容】

- 第1週 「説話」をめぐる問題点
- 第2週 近年の「説話」研究
- 第3週 2017年を軸にして、研究史を遡及する
- 第4週 遁世の転換点
- 第5週 「慶政」をめぐる問題点
- 第6週 神・仏をめぐる：『閑居友』をよむ
- 第7週 寺社の聖教について—談義所など
- 第8週 東大寺（南都）の遁世僧：2010年以後の研究の概観
- 第9週 慶政についての新出資料の紹介
- 第10週 日宋の新しい地平：律
- 第11週 実賢という僧の存在
- 第12週 受講者との質疑応答：小さなまとめ
- 第13週 「無住」から日本中世を考える：（国内）の地域性
- 第14週 「無住」から日本中世を考える：（海外）との緊密性
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

事前学修：毎回配布する資料・プリントを次回授業までに読んでおくこと（週約2時間程度）。

事後学修：毎回、前回講義の内容に関する小テストを行うので、必ず、前回の内容を整理し、まとめておくようにすること（週約2時間程度）。

## 【テキスト・教材】

テキストは随時、用意する。

とくに参考書欄に掲出した書物から抜粋し、プリントし、配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末テスト（60%）、授業態度（20%）、報告・発表（20%）で総合評価。フィードバックは、期末試験・小テストを含め、その解答と講評を中心に行うことになる。

## 【参考書】

牧野和夫『中世の説話と学問』（和泉書院 1991年）

牧野和夫『日本中世の説話・書物のネットワーク』（和泉書院 2010年）

## 【注意事項】

毎回、前回の講義内容についての質疑応答や小テストがあるので、積極的な姿勢で授業に臨むことが大事である。

## 中世近世文学研究 b

日本中世の説話：遁世僧を軸に

牧野 和夫

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

### 【授業のテーマ】

中世に盛んな展開をみた「説話」について、遁世僧という問題を通して、ひらけてくる国内外の「動き」を考えてみる。

中世の「文化」史的な広がりなかで、遁世僧の果たした役割は近年の研究によって益々大きくなって来ている。遁世僧の登場する説話を踏まえて考えていく。とくに「東アジア」を視野に入れることで、日本中世の新たな見直しが可能になる。

### 【授業における到達目標】

研究史を学ぶということの重要性（プライオリティ）を知る事ができるようにする（著作権などに及ぶ）が、とくに海外文献の扱いなどに触れる（国際的視野）。授業内の質疑応答によってすばやく考えをまとめる力を養成する（行動力・協働性）。

新しい資料を提示することで、従来の枠が破られ、新しい見通しが見えてくること（新しい知の発見・研鑽力）を、なるべく自分で考えることによって、理解するように指導する（真理の探求）。

### 【授業の内容】

- 第1週 「説話」をめぐる問題点
- 第2週 近年の「説話」研究
- 第3週 2017年を軸にして、研究史を遡及する
- 第4週 遁世の転換点
- 第5週 「遁世僧」をめぐる問題点
- 第6週 神・仏をめぐる：『沙石集』をよむ
- 第7週 寺社の聖教について一談義所など
- 第8週 東大寺（南都）の遁世僧：2017年の研究の概観
- 第9週 遁世僧についての新出資料の紹介
- 第10週 日宋の新しい地平：律
- 第11週 実賢という僧の存在
- 第12週 受講者との質疑応答：小さなまとめ
- 第13週 「無住」から日本中世を考える：（国内）の地域性
- 第14週 「無住」から日本中世を考える：（海外）との緊密性
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：毎回配布する資料・プリントを次回授業までに読んでおくこと（週約2時間程度）。

事後学修：毎回、前回講義の内容に関する小テストを行うので、必ず、前回の内容を整理し、まとめておくようにすること（週約2時間程度）。

### 【テキスト・教材】

テキストは随時、用意する。

とくに参考書欄に掲出した書物から抜粋し、プリントし、配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末テスト（60%）、授業態度（20%）、報告・発表（20%）で総合評価。フィードバックは、期末試験・小テストを含め、その解答と講評を中心に行うことになる。

### 【参考書】

- 牧野和夫『中世の説話と学問』（和泉書院 1991年）
- 牧野和夫『日本中世の説話・書物のネットワーク』（和泉書院 2010年）

### 【注意事項】

毎回、前回の講義内容についての質疑応答や小テストがあるので、積極的な姿勢で授業に臨むことが大事である。

## 中世近世文学研究 c

歌舞伎十八番「毛抜」「鳴神」を読む

光延 真哉

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

### 【授業のテーマ】

天保3年（1832）に七代目市川団十郎が家の芸として定めた、いわゆる「歌舞伎十八番」のうち、本授業では「毛抜」「鳴神」を扱う。

現行の「毛抜」「鳴神」は、寛保2年（1742）正月、大坂大西の芝居（佐渡嶋長五郎座）で上演された『雷神不動北山桜（なるかみふどうきたやまざくら）』の三幕目・四幕目において、二代目団十郎が勤めたものが元になっている。「毛抜」では衆寺弾正が錦の前の髪が逆立つ奇病の謎を解くというミステリー性、また、「鳴神」では鳴神上人の術を破るための雲の絶間姫の色仕掛け、あるいは怒った上人が見せる荒事芸などが眼目となり、両者ともに古劇としての歌舞伎の魅力に富んでいる。

本授業では、この「毛抜」と「鳴神」について、適宜舞台映像を鑑賞しつつテキストを精読し、近世の芸能や文学についての理解を深めてもらうことを目的とする。

### 【授業における到達目標】

- (1) 歌舞伎という芸能の特徴を理解すること。
- (2) 「毛抜」「鳴神」の内容を把握すること。
- (3) 江戸時代の歌舞伎に関する資料について理解すること。

### 【授業の内容】

- 第1週 イントロダクション（歌舞伎十八番とは）
- 第2週 「毛抜」その1（幕開き）
- 第3週 「毛抜」その2（衆寺弾正と毛抜の怪異）
- 第4週 「毛抜」その3（小原万兵衛の強請り）
- 第5週 「毛抜」その4（謎解き）
- 第6週 「鳴神」その1（幕開き）
- 第7週 「鳴神」その2（雲の絶間姫の色仕掛け）
- 第8週 「鳴神」その3（墮落する鳴神）
- 第9週 「鳴神」その4（鳴神の荒事）
- 第10週 『雷神不動北山桜』序幕を読む
- 第11週 『雷神不動北山桜』二幕目を読む
- 第12週 『雷神不動北山桜』五幕目（「不動」）を読む
- 第13週 資料で見る『雷神不動北山桜』（番付を中心に）
- 第14週 資料で見る『雷神不動北山桜』（評判記を中心に）
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：配布されたテキストや参考書を読んで論点を考えておくこと。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業を受けて、事前に考えた自分の論点をどのように見直すことができるのか、整理してまとめること。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

プリントを配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート70%、平常点（リアクションペーパーへの取り組み具合）30%。毎回冒頭に、前回分のリアクションペーパーを印刷配布し、教員がコメントすることでフィードバックを図る。

### 【参考書】

- 郡司正勝校注『日本古典文学大系98 歌舞伎十八番集』（岩波書店、1965年）
- 河竹登志男ほか監修『名作歌舞伎全集 第18巻 家の芸集』（東京創元新社、1969年）
- 服部幸雄編著『歌舞伎オン・ステージ10 勸進帳』（白水社、1985年）
- 杓名定ほか校訂『歌舞伎台帳集成』第四巻（勉誠社、1984年）

### 【注意事項】

「毛抜」「鳴神」に限らず、歌舞伎の舞台をなるべく観に行くようにして下さい。

## 中世近世文学研究 d

歌舞伎十八番「助六」を読む

光延 真哉

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

## 【授業のテーマ】

天保3年（1832）に七代目市川團十郎が家の芸として定めた、いわゆる「歌舞伎十八番」のうち、本授業では「助六」（現行名題：『助六由縁江戸桜（すけろくゆかりのえどざくら）』）を扱う。二代目団十郎によって現在の形式がほぼ確立した本作は、主人公の助六（実は曾我五郎）が色気を帯びた特殊な荒事で描写されるほか、恋人の揚巻による傾城事、兄の白酒売り（実は曾我十郎）の和事など、多種多様な様式美が絢爛豪華に盛り込まれており、江戸歌舞伎を代表する名作と言える。

本授業では、この「助六」について、適宜舞台映像を鑑賞しつつテキストを精読し、影響作も視野に入れながら、近世の芸能や文学についての理解を深めてもらうことを目的とする。

## 【授業における到達目標】

- (1) 歌舞伎という芸能の特徴を理解すること。
- (2) 「助六」の内容を把握すること。
- (3) 「助六」が近世の文芸にどのような影響を与えたかを理解すること。

## 【授業の内容】

- 第1週 インタロダクション（歌舞伎十八番とは）
- 第2週 揚巻の出
- 第3週 揚巻の悪態
- 第4週 助六の出
- 第5週 助六の悪態
- 第6週 白酒売りの和事
- 第7週 髭の意休の正体
- 第8週 水入り
- 第9週 「助六」の成立まで
- 第10週 資料で見る『江戸紫根元曾我』
- 第11週 「助六」の影響作（黄表紙『新板替道中助六』）
- 第12週 「助六」の影響作（黄表紙『江戸花俳優鼻眞』）
- 第13週 「助六」の影響作（歌舞伎「黒手組の助六」前半）
- 第14週 「助六」の影響作（歌舞伎「黒手組の助六」後半）
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

事前学修：配布されたテキストや参考書を読んで論点を考えておくこと。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業を受けて、事前に考えた自分の論点をどのように見直すことができるのか、整理してまとめること。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

プリントを配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート70%、平常点（リアクションペーパーへの取り組み具合）30%。各回冒頭に、前回のリアクションペーパーを印刷配布し、教員がコメントすることでフィードバックを図る。

## 【参考書】

- 郡司正勝校注『日本古典文学大系98 歌舞伎十八番集』（岩波書店、1965年）  
河竹登志男ほか監修『名作歌舞伎全集 第18巻 家の芸集』（東京創元新社、1969年）  
諏訪春雄編著『歌舞伎オン・ステージ17 助六由縁江戸桜 寿曾我対面』（白水社、1985年）  
赤坂治績著『新潮新書 江戸っ子と助六』（新潮社、2006年）

## 【注意事項】

「助六」に限らず、歌舞伎の舞台をなるべく観に行くようにして下さい。

## 中世近世文学史 a

中世から近世へ

松原 哲子

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

## 【授業のテーマ】

中世から近世までの文学史を、散文を中心とする幾つかの文学作品を取り上げ、編年的に探っていく。

近世中後期には江戸の地を中心とする出版文化が発展したが、個々の作品をみると、その内容の多くは中世期成立の諸文芸に拠るところが大きい。そこで、中世から近世そして現在に至るまで受け継がれてきた文芸を取り上げ、各時代毎の特徴を整理し、享受のあり様を探っていく。

## 【授業における到達目標】

学生が習得すべき「研鑽力」を身につけることを到達目標とする。具体的には、授業中に取り上げる各事例について、全体の授業展開の中でどのような位置づけるべきものかを整理していく。その上で、新たに見えてくる傾向を、従来の常識や自らの認識と照合し、文学の享受についてまとめ直し、評価する力を養うことを目指す。

## 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス（講義の概要と進め方）
- 第2週 中世文学概説 代表作品とその特徴①散文
- 第3週 中世文学概説 代表作品とその特徴②韻文
- 第4週 近世文学概説 代表作品とその特徴①散文
- 第5週 近世文学概説 代表作品とその特徴②韻文
- 第6週 軍記物語① 平家物語
- 第7週 軍記物語② 源平盛衰記
- 第8週 軍記物語③ 太平記
- 第9週 軍記物語④ 曾我物語
- 第10週 軍記と近世文学① 近世前期 その1 仮名草子
- 第11週 軍記と近世文学② 近世前期 その2 演劇
- 第12週 軍記と近世文学③ 近世後期 その1 草双紙
- 第13週 軍記と近世文学④ 近世後期 その2 演劇
- 第14週 文学の享受と出版文化
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前】高等学校の教材で、中世文学・近世文学のページを確認しておくこと（学修時間週2時間）。

【事後】復習を中心とした小テスト・小レポートを実施するので、配布したプリントについて復習すること（学修時間週2時間）。

## 【テキスト・教材】

適宜、プリントを配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験60%、平常点40%

平常点には小テストや小レポートの評価の他に、授業中の発言等、授業への貢献度も含まれる。小テスト・レポートについては毎回、次の授業で返却の上、フィードバックを行う。遅刻・欠席は減点の対象とする。

## 【参考書】

適宜、紹介する。試験受験に際して直接必要な文献については、コピーを配布する。

## 【注意事項】

欠席した場合は、次の授業時に必ず申し出て、プリントを受け取り、小テスト・レポート等についての指示を受けること（配布プリントの残部は2週間しか保管していないので注意すること）。

**中世近世文学史 a**

中世から近世へ

松原 哲子

2年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

**【授業のテーマ】**

中世から近世までの文学史を、散文を中心とする幾つかの文学作品を取り上げ、編年的に探っていく。

近世中後期には江戸の地を中心とする出版文化が発展したが、個々の作品をみても、その内容の多くは中世期成立の諸文芸に拠るところが大きい。そこで、中世から近世そして現在に至るまで受け継がれてきた文芸を取り上げ、各時代毎の特徴を整理し、享受のあり様を探っていく。

**【授業における到達目標】**

学生が習得すべき「研鑽力」を身につけることを到達目標とする。具体的には、授業中に取り上げる各事例について、全体の授業展開の中でどのような位置づけるべきものかを整理していく。その上で、新たに見えてくる傾向を、従来の常識や自らの認識と照合し、文学の享受についてまとめ直し、評価する力を養うことを目指す。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス（講義の概要と進め方）
- 第2週 中世文学概説 代表作品とその特徴①散文
- 第3週 中世文学概説 代表作品とその特徴②韻文
- 第4週 近世文学概説 代表作品とその特徴①散文
- 第5週 近世文学概説 代表作品とその特徴②韻文
- 第6週 軍記物語① 平家物語
- 第7週 軍記物語② 源平盛衰記
- 第8週 軍記物語③ 太平記
- 第9週 軍記物語④ 曾我物語
- 第10週 軍記と近世文学① 近世前期 その1 仮名草子
- 第11週 軍記と近世文学② 近世前期 その2 演劇
- 第12週 軍記と近世文学③ 近世後期 その1 草双紙
- 第13週 軍記と近世文学④ 近世後期 その2 演劇
- 第14週 文学の享受と出版文化
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前】高等学校の教材で、中世文学・近世文学のページを確認しておくこと（学修時間週2時間）。

【事後】復習を中心とした小テスト・小レポートを実施するので、配布したプリントについて復習すること（学修時間週2時間）。

**【テキスト・教材】**

適宜、プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験60%、平常点40%

平常点には小テストや小レポートの評価の他に、授業中の発言等、授業への貢献度も含まれる。小テスト・レポートについては毎回、次の授業で返却の上、フィードバックを行う。遅刻・欠席は減点の対象とする。

**【参考書】**

適宜、紹介する。試験受験に際して直接必要な文献については、コピーを配布する。

**【注意事項】**

欠席した場合は、次の授業時に必ず申し出て、プリントを受け取り、小テスト・レポート等についての指示を受けること（配布プリントの残部は2週間しか保管していないので注意すること）。



**中世近世文学史 b**

中世から近世へ

松原 哲子

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

**【授業のテーマ】**

中世から近世までの文学史を、散文を中心とする幾つかの文学作品を取り上げ、編年的に探っていく。

近世中後期には江戸の地を中心とする出版文化が発展したが、個々の作品をみても、その内容の多くは中世期成立の諸文芸に拠るところが大きい。そこで、中世から近世そして現在に至るまで受け継がれてきた文芸を取り上げ、各時代毎の特徴を整理し、享受のあり様を探っていく。

**【授業における到達目標】**

学生が習得すべき「研鑽力」を身につけることを到達目標とする。具体的には、授業中に取り上げる各事例について、全体の授業展開の中でどのような位置づけるべきものかを整理していく。その上で、新たに見えてくる傾向を、従来の常識や自らの認識と照合し、文学の享受についてまとめ直し、評価する力を養うことを目指す。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス（講義の概要と進め方）
- 第2週 古典文学の享受と近世出版文化
- 第3週 中世文学と近世出版文化
- 第4週 浦島太郎① 中世
- 第5週 浦島太郎② 近世
- 第6週 一寸法師
- 第7週 はちかづき① 中世
- 第8週 はちかづき② 近世
- 第9週 物ぐさ太郎① 中世
- 第10週 物ぐさ太郎② 近世
- 第11週 酒呑童子① 中世
- 第12週 酒呑童子② 近世
- 第13週 中世文学と近世期子ども絵本① 上方
- 第14週 中世文学と近世期子ども絵本② 江戸
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前】高等学校の教材で、中世文学・近世文学のページを確認しておくこと（学修時間週2時間）。

【事後】復習を中心とした小テスト・小レポートを実施するので、配布したプリントについて復習すること（学修時間週2時間）。

**【テキスト・教材】**

適宜、プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験60%、平常点40%

平常点には小テストや小レポートの評価の他に、授業中の発言等、授業への貢献度も含まれる。小テスト・レポートについては毎回、次の授業で返却の上、フィードバックを行う。遅刻・欠席は減点の対象とする。

**【参考書】**

適宜、紹介する。試験受験に直接関係する文献については、適宜プリントを配布する。

**【注意事項】**

欠席した場合は、次の授業時に必ず申し出て、プリントを受け取り、小テスト・レポート等についての指示を受けること（配布プリントの残部は2週間しか保管していないので注意すること）。

**中世近世文学史 b**

中世から近世へ

松原 哲子

2年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探求

**【授業のテーマ】**

中世から近世までの文学史を、散文を中心とする幾つかの文学作品を取り上げ、編年的に探っていく。

近世中後期には江戸の地を中心とする出版文化が発展したが、個々の作品をみても、その内容の多くは中世期成立の諸文芸に拠るところが大きい。そこで、中世から近世そして現在に至るまで受け継がれてきた文芸を取り上げ、各時代毎の特徴を整理し、享受のあり様を探っていく。

**【授業における到達目標】**

学生が習得すべき「研鑽力」を身につけることを到達目標とする。具体的には、授業中に取り上げる各事例について、全体の授業展開の中でどのような位置づけるべきものかを整理していく。その上で、新たに見えてくる傾向を、従来の常識や自らの認識と照合し、文学の享受についてまとめ直し、評価する力を養うことを目指す。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス（講義の概要と進め方）
- 第2週 古典文学の享受と近世出版文化
- 第3週 中世文学と近世出版文化
- 第4週 浦島太郎① 中世
- 第5週 浦島太郎② 近世
- 第6週 一寸法師
- 第7週 はちかづき① 中世
- 第8週 はちかづき② 近世
- 第9週 物ぐさ太郎① 中世
- 第10週 物ぐさ太郎② 近世
- 第11週 酒呑童子① 中世
- 第12週 酒呑童子② 近世
- 第13週 中世文学と近世期子ども絵本① 上方
- 第14週 中世文学と近世期子ども絵本② 江戸
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前】高等学校の教材で、中世文学・近世文学のページを確認しておくこと（学修時間週2時間）。

【事後】復習を中心とした小テスト・小レポートを実施するので、配布したプリントについて復習すること（学修時間週2時間）。

**【テキスト・教材】**

適宜、プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験60%、平常点40%

平常点には小テストや小レポートの評価の他に、授業中の発言等、授業への貢献度も含まれる。小テスト・レポートについては毎回、次の授業で返却の上、フィードバックを行う。遅刻・欠席は減点の対象とする。

**【参考書】**

適宜、紹介する。試験受験に直接関係する文献については、適宜プリントを配布する。

**【注意事項】**

欠席した場合は、次の授業時に必ず申し出て、プリントを受け取り、小テスト・レポート等についての指示を受けること（配布プリントの残部は2週間しか保管していないので注意すること）。

**中世文学演習A**

書物をさぐる

牧野 和夫

国文学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

日本中世の“文学”研究は、近年の膨大な資料としての「もの」の発掘・紹介などによって（明治期の「考古学」的手法を基本とする神社調査など）、従来とは全く局面を異にした“中世”の領域の研究へ展開しつつある。

書誌学を軸とした調査に基づく「具体」に即した知見が齎したものは、「もの」としての書物の新たな課題であった。

この課題について考えていく。

**【授業における到達目標】**

書誌学を軸とした調査研究が、「もの」としての扱いに立脚していることを確認してもらい、従来の知識の枠（例えば、中世の文学）を根底から揺さぶってみようという実験的な試みである。こうした視点を具体的に「もの」に触れ、「もの」に即して考える訓練の繰り返しによって、獲得してもらおう。

**【授業の内容】**

- 第1週 書物を「もの」として観ること：はじめに
- 第2週 伝領識語について
- 第3週 伝領識語の位置について
- 第4週 伝領墨書名の位置について
- 第5週 相承血脈について
- 第6週 師資相承について
- 第7週 書物の「動き」：関東の寺院
- 第8週 書物の「動き」：寺院と地域
- 第9週 新たな“中世”の発掘：書物の動きから
- 第10週 新たな“中世”の発掘：出版の動きから
- 第11週 書誌の採り方について：具体例
- 第12週 受講生の作業
- 第13週 受講生の報告
- 第14週 講評
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

授業を受講するにあたって：現物を扱うので留意すべきことは多いが、第一に手を洗うことである。

なお、毎回、前回講義の内容に関する小テストを行う。事前・事後に各週2時間程度の学修を求めることになる。

**【テキスト・教材】**

用具として鉛筆を必ず用意すること。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

小テスト40%、試験40%、平常点（授業への積極参加・提出課題）20%。小テスト・試験は、詳細な実地指導・解説を以ってフィードバックすることになる。

**中世文学演習B**

説話・説話集と東アジアの課題

牧野 和夫

国文学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

説話・説話集を東アジアの中で読む。とりわけ、閑居友・沙石集・七天狗絵詞などを軸にして日本“中世”の展開を考えていきたい。従来の諸領域に設定された線引きをあえて取り払う、新たな領域としての連関をさぐる。研究史の遡ることで、その傾向の淵源にも及びたい。

**【授業における到達目標】**

説話という領域を通して日本中世の様々な側面を学ぶ。具体的な問題点を研究史に沿って見出し（知の探究）、「昭和」「平成」「現在」という面に即して（参考工具類の進展などを視野に入れる。技術的なことから）分析する。履修者の積極的な研討の機会を設け、各自の「考え」を引き出すようにつとめる。

**【授業の内容】**

- 第1週 説話・説話集の現在という課題 昭和へ遡る
- 第2週 説話・説話集の現在という課題 平成を遡る
- 第3週 説話・説話集の現在という課題 今
- 第4週 日本の“中世”ということ
- 第5週 閑居友の現在という課題 昭和へ遡る
- 第6週 閑居友の現在という課題 平成を遡る
- 第7週 閑居友の現在という課題 今
- 第8週 沙石集の現在という課題 昭和へ遡る
- 第9週 沙石集の現在という課題 平成を遡る
- 第10週 沙石集の現在という課題 今
- 第11週 日本の“中世”の中の東アジア 昭和に遡る
- 第12週 日本の“中世”の中の東アジア 今
- 第13週 受講者の発表準備について
- 第14週 受講者の発表：閑居友
- 第15週 受講者の発表：沙石集

**【事前・事後学修】**

授業を受講するにあたって、近年の歴史学に展開している“中世”についての議論を予習してもらおう。なお、毎回、前回講義の内容に関する小テストを行う。各週の事前・事後にそれぞれ2時間程度の学修を求めることになる。

**【テキスト・教材】**

使用教科書はないが、上川通夫・横内裕人氏の著作・論文を適宜配布するので、必ず読んでおくこと。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

小テスト40%、試験40%、平常点（授業への積極参加・提出課題）20%。小テスト・試験について、詳細な解説を行いフィードバックする。

**【参考書】**

開講時も勿論であるが、適宜、参考文献などを紹介する。

## 中世文学基礎演習 1

—日本中世の「説話」の流動と地域—

牧野 和夫

2年 前期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

中世の「文化」史的な広がりの中で、室町時代物語や説話集を「書物」の流動との関連で考えていく。今年度は『三国伝記』の説話、さらに地域と宗教をめぐる展開する〔書物の移動〕を採り上げる。

後半は受講者各自が具体的な「論文」をとりあげ、注をつけ、解釈を施し、発表してもらう。

### 【授業における到達目標】

個々の説話をういて読解力を養うようにする。そのうえで、関連する他人の論文を読み解き（協働力）、自ら口頭発表することで論理力・説明力をつけるようにする（行動力・研鑽力）。更に、質疑に対する応答能力をたかめ、真理を探究する、新たな知の創造に耐えうる能力（知の探求）を身につけるようにする。

### 【授業の内容】

中世の「文化」史的な広がりの中で、説話を考えていく。

後半には、近年公刊された論文を各々一点とりあげてもらう。その紹介・問題点などについて受講者による発表形式で進めていく予定である。

- 第1週 『三国伝記』の「説話」研究1
- 第2週 『三国伝記』の「説話」研究2
- 第3週 『三国伝記』の孔子1
- 第4週 『三国伝記』の孔子2
- 第5週 説話と地域
- 第6週 “書物”の移動と地域1
- 第7週 “書物”の移動と地域2
- 第8週 遁世僧の移動
- 第9週 遁世僧と説話
- 第10週 中世説話と宗教
- 第11週 受講者発表：グループA（約3人）
- 第12週 受講者発表：グループB（約3人）
- 第13週 受講者発表：グループC（約3人）
- 第14週 受講者発表
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：毎回配布する資料・プリントを次回授業までに読んでおいて下さい（週約2時間程度）。

事後学修：発表資料に即して復習する。次回用の配布資料中の難解語句・専門用語などを事前調査すること（週約2時間程度）。

### 【テキスト・教材】

テキストは随時、用意する。参考書欄に挙げた書物から抜粋し、プリントし、配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末テスト（60%）、授業態度（20%）、報告・発表（20%）で総合評価。フィードバックは、期末試験・小テストを含め、その解答と講評を中心に行う。

### 【参考書】

牧野和夫『中世の説話と学問』（和泉書院 1991年）

牧野和夫『日本中世の説話・書物のネットワーク』（和泉書院 2010年）

### 【注意事項】

受講者には、頻繁に質問をするので、誤っていてもかまわないので、必ず答えること。

## 中世文学基礎演習 2

日本中世の「説話」と東アジアにおける「説話」

牧野 和夫

2年 後期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

日本中世に盛んに行われた「説話」の個々を読み、さまざまな世界をうかがう。

本年度は日本中世における「船頭」という語彙の展開とその近代の受容史を日本の対外交渉の歴史的な展開の中に位置づける。日本の寺院の果たした役割にもふれてみたい。その際に『西遊記』についても、日本近代における受容を軸に、研究史とその問題点を考えてみる。

### 【授業における到達目標】

「説話」をとりあげて読解する力をつけるようにする。とくに当時の交流に具体的な形で触れ（国際的視野）、そのうえで、新しい資料を提示し、新たな知に基づく新しい視点を導入する糸口をあたえ（価値の発見・知の創造）、質疑応答のなかから、自らの課題を発見し、自らの思考でまとめることができるようにする（自己研鑽）。

中世の書物に触れて、履修者が互いに協議し、具体的な問題を指摘（協働力）できるようにする。

### 【授業の内容】

- 第1週 近年の「説話」研究について
- 第2週 日本における「船頭」の語彙の問題点
- 第3週 日本における「船頭」と対外関係
- 第4週 日本における「宋」代の「説話」の問題：書物を通じて
- 第5週 『今昔物語集』の一話における「船頭」のイメージ
- 第6週 「船頭」のイメージを日本中世に探す：日本
- 第7週 高山寺と宋人
- 第8週 法華山寺と宋人
- 第9週 中世軍記物語における「船頭」という語彙のイメージ
- 第10週 三蔵法師のイメージを日本中世の説話を探る
- 第11週 受講書による質問
- 第12週 受講者による発表1（テーマ：法華山寺周辺の説話）
- 第13週 受講者による発表2（テーマ：法華山寺の問題）
- 第14週 受講者による発表3（テーマ：日宋の交易説話）
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：毎回配布する資料・プリントを次回授業までに読んでおいてください（週2時間程度）。

事後学修：発表などの復習、次回用の配布資料中の難解語句・専門用語など事前に調べる（週2時間程度）。

### 【テキスト・教材】

テキストは随時用意します。参考書に挙げた書物などから抜粋し、配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト20%、試験55%、平常点（授業中の発言、発表）25%  
フィードバックは、小テストを含め、解答とその講評を中心にしたものとなる。

### 【参考書】

牧野和夫『中世の説話と学問』（和泉書院 1991年）

牧野和夫『日本中世の説話・書物のネットワーク』（和泉書院 2010年）

### 【注意事項】

質問を積極的に行うこと。

## 中世文学特殊演習 A

—論文作成の準備—

牧野 和夫

国文学専攻 前期 2単位

## 【授業のテーマ】

論文は研究生生活における最終成果の集大成です。

この授業では論文を作成するための準備として、テーマの設定、研究史の整理、用例の分析など、各自の問題意識に即して具体的な研究方法を学びます。

## 【授業における到達目標】

1. 各自の問題意識を明確にする。
2. 研究史を把握する。
3. 注釈能力の向上。
4. 解析能力の向上。
5. 以上を通じて全学DPが定める二つの態度、三つの能力を身に付けることを到達目標とする。

## 【授業の内容】

- 論文テーマの設定
  - 1 ガイダンス
  - 2 問題意識 (1) —対象となる作品・事象は何か—
  - 3 問題意識 (2) —対象をどのような観点から研究するか—
- 研究史の把握
  - 4 研究史の調査・整理 (1) —先行研究を調べる—
  - 5 研究史の調査・整理 (2) —先行研究を的確にまとめる—
- 用例の調査・分析
  - 6 用例の調査・分析 (1) —用例を調べる—
  - 7 用例の調査・分析 (2) —用例を分析する—
- 口頭発表
  - 8 発表と討論 (1)
  - 9 発表と討論 (2)
  - 10 発表と討論 (3)
  - 11 発表と討論 (4)
  - 12 発表と討論 (5)
  - 13 発表と討論 (6)
- まとめ
  - 14 論文の章立て —論理の組み立てを考える—
  - 15 まとめ

## 【事前・事後学修】

論文は各自の問題意識によって執筆するものなので、対象となる作品・事象や参考文献はそれぞれ異なります。各々必要な文献や調査すべき事柄について、あらかじめ考えた上で授業に臨みましょう。事前・事後学習は各2時間、合計週4時間以上を充てること。

## 【テキスト・教材】

必要に応じて授業中に紹介します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業態度)30%、発表30%、提出物40%で評価します。フィードバックは論文の口述試験を通じておこないます。

## 【参考書】

各自が調査して教員に書名、論文名を挙げ、指示を受ける。

## 【注意事項】

論文執筆のための重要な授業であり、自覚を持って授業に臨むこと。

## 中世文学特殊演習 B

—論文の作成—

牧野 和夫

国文学専攻 後期 2単位

## 【授業のテーマ】

論文は学生生活4年間の研究の集大成です。

この授業では論文作成に向けて、章立ての詳細を考えた上で、書式や文体・用語など、各自のテーマに即して具体的な執筆方法を学びます。

## 【授業における到達目標】

特殊演習1に加え、各自のテーマを論理的な文章として具体化することを求める。全学DPに定められた二つの態度、三つの能力を身に付けることを到達目標とします。

## 【授業の内容】

- 論文の章立て
  - 1 ガイダンス
  - 2 章立て (1) —論理の組み立てを考えて章を設定する—
  - 3 章立て (2) —各章の論旨を考えて節を設定する—
- 論文の書式・凡例・施注
  - 4 書式 —テーマに即した書式を確認する—
  - 5 凡例・施注 —凡例・注の書き方を確認する—
- 論文の文体・用語
  - 6 文体 —論にふさわしい文体を確認する—
  - 7 用語 —論にふさわしい用語を確認する—
- 口頭発表
  - 8 発表と討論 (1)
  - 9 発表と討論 (2)
  - 10 発表と討論 (3)
  - 11 発表と討論 (4)
  - 12 発表と討論 (5)
  - 13 発表と討論 (6)
- まとめ
  - 14 論文の見直し —全体を見直す—
  - 15 まとめ

## 【事前・事後学修】

論文は各自のテーマによって執筆するものなので、書式や注の付け方はそれぞれの分野によって異なります。各々必要な文献や調査すべき事柄について、あらかじめ考えた上で授業に臨みましょう。事前・事後学習は各2時間、合計週4時間以上を充てること。

## 【テキスト・教材】

必要に応じて授業中に紹介します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業態度)30%、発表30%、提出物40%で評価します。フィードバックは論文の口述試験によっておこないます。

## 【参考書】

論文の進捗状況に応じて指示する。

## 【注意事項】

論文の論理性に注意すること。

**彫刻実習 a (木彫)**

巻貝を彫る

菱田 波

2年～ 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

彫刻は人間の持つ感情や思想を空間の中に表現することができる。古来から人間は自然素材を使って制作表現してきた。ここでは、巻貝をモチーフとし、彫り込むという作業を中心に学ぶ。自然の造形美を表現する喜びと技法を基礎から体得する。巻貝を制作したことにより修得した方法により発展し、幾何形体の形を作ることを試みる

**【授業における到達目標】**

彫り込む技法（彫造技法）を木材を使い基礎から修得する。自然の中の美を感じるにより研鑽する力をつける。

**【授業の内容】**

- 第1週 木彫についての知識と道具の説明
- 第2週 様々な角度から巻貝をスケッチ、デッサンをし図面や制作資料を作成する
- 第3週 基礎的な彫りの実習（刃の持ち方、木目の見方）
- 第4週 木の大まかな部分をノコギリで切り落とす
- 第5週 切り落とした部分に再度デッサンをする
- 第6週 大きな形を意識して、ノミで粗彫りする
- 第7週 巻貝の形の動きに着目しながらノミと彫刻刀で粗彫り
- 第8週 全体と部分の関係を意識しながら彫り進める
- 第9週 細かな部分（巻貝の螺旋 凹凸など）をさらに彫り進める
- 第10週 巻貝の特徴は出ているか確認し修正する
- 第11週 部分的にヤスリ、サンドペーパーで磨き細部を整えて完成させる
- 第12週 巻貝の形から発展しイメージした幾何形体の形のデッサンをする
- 第13週 軟質材（バルサ）という材料で、形を作っていく
- 第14週 カッターナイフ、ヤスリで形を修正する
- 第15週 作品鑑賞 講評

**【事前・事後学修】**

- 第1週～第4週（事前学修）美術館などで、木彫作品を鑑賞しておくこと。（学修時間 週2時間）  
（事後学修）制作資料を参考にして作品進行目標を考えておくこと。（学修時間 週2時間）
- 第5週～第15週（事前学修）使用する道具の特性を理解しておくこと。（学修時間 週2時間）  
（事後学修）完成に向けて制作方法を計画しておくこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

B4程度の手帳スケッチブック、HB～2Bの鉛筆

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

完成作品（70%） 平常点（授業態度 課題への取り組み方・制作課題）（30%）により評価する  
第15週に完成作品について講評する

**【注意事項】**

服装は作業に適したものを着用すること  
材料費については別途徴収する  
校外実習として美術館見学を行うこともありうる

**彫刻実習 b (彫塑)**

友人をモデルに頭像を作る

菱田 波

2年～ 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

彫塑は粘土を使って芯棒などに肉付けして形を作り出すことである。友人同士でモデルになり頭部の見えのまま、感じたままを形作っていく。骨格形成や動勢（顔の動き）を構成する。物を見る目、感じる心を養い、造形的表現の基礎を学ぶことを目標とする。作品を保存するための石膏型取り技法も習得する（自分の手を型取りする）

**【授業における到達目標】**

造形の基本となる立体表現を修得する。感受性を深めることにより、学ぶ愉しみをを知る。

**【授業の内容】**

- 第1週 塑像についての知識と道具の説明
- 第2週 頭像1 友人同士でスケッチ、デッサンを様々な角度から行う
- 第3週 頭像2 スケッチ、デッサンをもとに図面や制作資料を作成する
- 第4週 頭像3 芯棒を組み立てる。粘土の肉付けを行う
- 第5週 頭像4 頭部の肉付けを行い、頭部に粘土にヘラでデッサンをする。頭部の量感を意識しながら行う
- 第6週 頭像5 頭部と首のつながりを見ながら肉付けをする。
- 第7週 頭像6 細部の制作のためのスケッチ、デッサンを交代で行う
- 第8週 型取り1 石膏型取り技法について知識と道具の説明
- 第9週 型取り2 自分の手の石膏型取りを行う。型を作り石膏を流し込み離型する
- 第10週 頭像7 細部（目、鼻、耳、口など）を作り、頭部との関係を意識して形作る
- 第11週 頭像8 全体のバランスを見ながら形を整えていく
- 第12週 頭像9 モデルの特徴をだすように確認しながら修正する
- 第13週 頭像10 髪の毛などに彫刻を施し、仕上げの作業をする
- 第14週 頭像11 表面を磨き完成させる
- 第15週 作品鑑賞 講評

**【事前・事後学修】**

- 第1週～第7週 第10週～第15週（事前学修）美術館などで、塑像、頭像を鑑賞する。自分や友人をモデルにし、よく観察してデッサンをする（学修時間 週2時間）（事後学修）次回の授業での作品制作進行目標を計画しておくこと（学修時間 週2時間）
- 第8週～第9週（事前学修）石膏素材の特性を調べておくこと（学修時間 週2時間）（事後学修）石膏型取りに使用した道具を復習する（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

B4程度の手帳スケッチブック、HB～2Bの鉛筆

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

完成作品（70%） 平常点（授業態度 課題への取り組み方・課題提出）（30%）により評価する。  
第15週に完成作品について講評する

**【注意事項】**

服装は作業に適したものを着用すること  
材料費については別途徴収する  
校外実習として美術館見学を行うこともありうる

**調査・実験データ処理法**

竹内 光悦

2年 後期 2単位

◎：行動力

**【授業のテーマ】**

知識基盤社会といわれる現在、様々なタイプや大きさのデータを適切に扱える能力は重要である。特に、問題解決を行う際には、調査や実験によるデータの取得、またそのデータの処理・分析は社会人として基礎的であり、必須の知識やスキルといえる。

本講義では表計算ソフト（Microsoft Excel など）を用いて、社会調査や心理実験などで得られるデータを処理、分析する知識やスキルの習得を踏まえ、多様な現場での即戦力育成を目指す。

**【授業における到達目標】**

ビジネスパーソンの素養とする基礎的なデータ処理、データ分析ができるようになる。多様化する社会問題を客観的に把握する知識や技能を身に着けることにより、課題解決のために主体的に行動する力【行動力】を修得する。

**【授業の内容】**

具体的には以下の内容を予定している

1. ガイダンス、データ分析の導入、社会情報の活用
2. 表計算ソフトの導入：数値の入力、表の作成、関数の利用
3. 確率論・標本抽出の理論の基礎
4. データ処理基礎：データ入力・変換・並べ替え・抽出、統計グラフ、簡易データベース
5. データの集計応用：ピボットテーブル、クロス集計、属性相関係数
6. データの要約化：基本統計量（代表値、散布度）
7. データの関係把握：相関関係、相関係数、偏相関係数
8. データの傾向把握：回帰分析の基礎、変数コントロール
9. 統計的推定と統計的仮説検定の理論の導入
10. 統計的仮説検定 I：平均や比率の差の検定
11. 統計的仮説検定 II：独立性の検定
12. 時系列分析入門：時系列分析、変動分解
13. 調査・実習データを用いた報告書作成と社会における表計算ソフトの活用
14. 調査・実習データ処理実習
15. 調査・実習データ処理のまとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：授業前に manaba で公開される授業資料を入手し、内容の予習、受講の準備を行うこと。（学修時間 週2時間）／事後学修：授業終了時に manaba 公開される動画スライドを確認し、復習しておくこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

教科書は適宜授業内で紹介。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

講義内課題（演習・中間テスト・小レポートなど、50%）および学期末レポート試験（50%）で評価。各授業の最初に前回の演習の結果、小レポートや中間テストにおいては manaba を通じて、レポート所見やテスト結果等をフィードバックする。

**【参考書】**

竹内光悦他『実践ワークショップExcel徹底活用統計データ分析基礎編』（秀和システム 2008年）、竹内光悦他『アンケート調査とデータ解析の仕組みがよ〜わかる本【第2版】』（秀和システム 2012年）、内田治『すぐわかるSPSSによるアンケートの調査・集計・解析 第3版』（東京図書 2007年）、青木繁伸『Rによる統計解析』（オーム社 2009年）

**【注意事項】**

本講義では実践的にデータ分析の演習を行うため、PC教室で行います。教室の都合のため、上限があります。上限を希望者が超した場合には掲示しますので注意して下さい。なお、基礎から応用へ段階的に紹介するため、遅刻、欠席は注意すること。なお情報の基礎的な導入に関してはリテラシーの授業を参考にされたい。

## 調査企画特論

原田 謙

人間社会専攻 前期 2単位

### 【授業のテーマ】

本科目は、社会調査を自ら企画・設計、実施し、分析・集計をおこなうために必要な実践的な知識・方法を習得することを目的とする。

調査方法論、調査倫理をふまえた上で、調査方法の決定、調査企画と設計、仮説構成、調査票の作成、サンプリング方法、実査の注意点、調査データの整理の手順といった一連の方法を理解する。さらに簡単な量的・質的分析にもとづく報告ペーパーの作成を行う。

### 【授業における到達目標】

この授業では、修士論文で自ら調査を実践できる力を身につけることを目標とする。社会調査の方法論を通じて、「研鑽力」の養成に資する本質を見抜く力、「行動力」に必要な現状を正しく把握する能力を高める。

### 【授業の内容】

- 第1回 社会調査の目的と意義
- 第2回 社会調査の歴史
- 第3回 社会調査の方法：量的調査と質的調査
- 第4回 理論と検証：仮説構成
- 第5回 調査の企画・設計と調査倫理
- 第6回 サンプリングの考え方と方法
- 第7回 調査票の作成と注意点
- 第8回 尺度開発の方法
- 第9回 調査データの整理：エディティング、コーディング、クリーニング
- 第10回 質的調査の方法（1）：聞き取り調査
- 第11回 質的調査の方法（2）：参与観察法とフィールドノートの作成
- 第12回 統計的分析の基礎（1）：単純集計とクロス集計
- 第13回 統計的分析の基礎（2）：相関と回帰
- 第14回 報告書作成の要領
- 第15回 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】授業前に、参考書等を用いて該当箇所を予習しておくこと（週2時間）。

【事後学修】授業後に、学習した調査方法、データ等を復習しておくこと（週2時間）。

### 【テキスト・教材】

適宜、プリント等を配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内課題（50%）および報告ペーパー（50%）に基づいて評価する。課題の評価などのフィードバックは授業内に行う。

### 【参考書】

森岡清志編（2007）『ガイドブック社会調査 第2版』日本評論社  
盛山和夫（2004）『社会調査法入門』有斐閣  
佐藤郁哉（2002）『フィールドワークの技法』新曜社  
社会調査協会編（2014）『社会調査事典』丸善出版  
その他の参考文献は、授業内に適宜指示する。



## 調理科学特別演習 A

澤山 茂

食物栄養学専攻 後期 2単位

### 【授業のテーマ】

「調理」とは、食材が有する栄養素を効率よく安全に利用し、かつ嗜好性を充足させるために何らかの操作を施して「食べ物」に整えることである。食材の機能性を有効に活用させるために、熱的・力学的変化である複雑な調理現象を食材の組織構造や構成成分の変化から理解し、さらにヒトの咀嚼・嚥下過程における口腔内感覚の解明に関する知識と最新の研究手法の修得を目的として実践的な演習を通じて学術論文執筆のために必要な資質を身につけることを目標とする。

### 【授業における到達目標】

調理科学における最新情報を学修し、自立して研究計画を立案・遂行できるとともに、研究活動および人を指導できる能力を有することを目的とする。

### 【授業の内容】

- 第1週 調理科学の意義、新しい調理科学、調理科学の研究手法
- 第2週 食べ物の機能性と環境に関する論理解読
- 第3週 おいしさの要因および構成する食品成分に関する論理解読
- 第4週 ハイドロコロイドに関する論理解読
- 第5週 分散系、溶液の科学に関する論理解読
- 第6週 熱力学に関する論理解読
- 第7週 冷凍と解凍の科学に関する論理解読
- 第8週 調理エネルギーに関する論理解読
- 第9週 新調理システムに関する論理解読
- 第10週 炭水化物を主体とする調理素材の科学に関する論理解読
- 第11週 たんぱく質を主体とする調理素材に関する論理解読
- 第12週 脂質を主体とする調理素材に関する論理解読
- 第13週 食品のアレルギーと調理科学的取り組みに関する論理解読
- 第14週 食べ物のおいしさと客観的評価に関する論理解読
- 第15週 研究課題に関する関連文献調査法、まとめ方、独自性、将来展望に関する論考

### 【事前・事後学修】

事前学修2時間：調理科学の基礎、身近にあるサイエンスについて常に注視する習慣をつけること。技術の進歩状態に注目し、常に最新の情報を把握することを心がけること。関連性の高い文献を提示するので要点をまとめる。

事後学修2時間：提示された文献の周辺情報を調べ、レポートを提出すること。

### 【テキスト・教材】

各回で用いる論理解読資料をあらかじめ指定する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

論理解読に対する取組み50%、最終報告書50%で評価する。

博士論文審査基準に従って、判定評価する。

授業内の質疑応答においてフィードバックを行う。

### 【参考書】

必要な参考文献等を紹介する。

## 調理科学特別演習 B

数野 千恵子

食物栄養学専攻 前期 2単位

### 【授業のテーマ】

調理は食品素材に調理操作を加え、より好ましい状態で食することができるようにすることである。また、食べ物は単なる味だけでなく食環境により美味しさや吸収率も変わるといわれている。

本講義では、調理操作によって生じる様々な食品の変化にかかわる現象について、水と熱の関連性を踏まえて調理科学の立場から考察する。また、食するときに感じる食べ物のおいしさの機能についても多角的にとらえて講述する。

調理素材の性状、調理操作と、食べ物のおいしさとのかかわりを学修し、その変化を知るための研究方法などを理解することを目標とする。

### 【授業における到達目標】

調理科学における伝統的な情報や最新の情報を整理・学修して、専門的な観点から説明できる知識と技能の向上を目指す。

### 【授業の内容】

- 第1回 新しい調理科学と研究手法
- 第2回 美味しさの要因に関連した学術論文の読解
- 第3回 おいしさの水 水の味 水の構造と性質
- 第4回 食品中の水が調理に及ぼす影響
- 第5回 調理と水に関連した学術論文の読解
- 第6回 食品の色に関する化学
- 第7回 調理による色の化学変化に関連した学術論文の読解
- 第8回 食品の香りに関する化学
- 第9回 調理による香りの化学変化に関連した学術論文の読解論
- 第10回 熱源の種類と調理機器の特徴
- 第11回 加熱調理による食品の変化に関連した学術論文の読解-1
- 第12回 加熱調理による食品の変化に関連した学術論文の読解-2
- 第13回 食器や盛り付けによる食欲に関連した学術論文の読解
- 第14回 調理による安全性の確保
- 第15回 総括

### 【事前・事後学修】

#### 【事前学修】

事前に資料、論文などを配布しますので、学習をしておいてください。(学修時間 週2時間)

#### 【事後学修】

授業内容に関連した課題についてレポートを作成し提出してください。(学修時間 週2時間)

### 【テキスト・教材】

次回に用いる論文、資料を指定します。

また、必要に応じてプリントを配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中の教科に対する取組みと理解度 50%、課題レポート 50%を総合的に評価します。

フィードバックは授業中でのディスカッションおよびレポート返却時に行います。

### 【参考書】

授業内で適宜紹介します。

### 【注意事項】

受講者の研究内容により、適宜、重点とする講義内容を変更する場合があります。

## 調理科学特論A

澤山 茂

食物栄養学専攻 前期 2単位

### 【授業のテーマ】

食べ物の嗜好性と機能性が調理という操作を経て形成される過程を、自然科学的、人文科学的、社会科学的視点から解明することを目的として口述する。食品素材の化学的性質と同次元で品質特性および食味特性を決定する重要な因子である食品物性や機器測定によるレオロジー的側面から評価するとともに、食品を摂取するヒトの側面から計量心理学的測定によって評価する方法の両側面の因果関係を理解し問題解決方法について口述する。

### 【授業における到達目標】

調理科学に関する最新、高度な知識を身につけ、応用力、研究遂行能力を発揮できることを目標とする。

### 【授業の内容】

- 第1週 調理科学の基本課題
- 第2週 食べ物の嗜好性と機能（食べ物の機能と環境）
- 第3週 食べ物の嗜好性と機能（ハイドロコロイドの機能）
- 第4週 おいしさを演出する食品素材のサイエンス（おいしさの要因）
- 第5週 おいしさを演出する食品素材のサイエンス（おいしさを構成する食品成分の科学）
- 第6週 調理操作のサイエンス（調理操作と分散系）
- 第7週 調理操作のサイエンス（溶液の科学、熱化学）
- 第8週 調理機器類のサイエンス（調理設備と調理科学）
- 第9週 調理機器類のサイエンス（新調理システムの科学）
- 第10週 食品素材の調理による変化とサイエンス（糖質性食品）
- 第11週 食品素材の調理による変化とサイエンス（動物性食品）
- 第12週 伝統的な発酵食品の調理科学（微生物と調理科学）
- 第13週 伝統的な発酵食品の調理科学（食品のアレルギート調理科学）
- 第14週 官能評価によるおいしさの客観的評価法
- 第15週 まとめと総合討議

### 【事前・事後学修】

食べ物のおいしさの最終評価に関わる調理科学の理論と実験結果を吟味し、ヒトの心身の健康と幸せに寄与することを心がけてください。食べるという日常生活の中に点在するさまざまな事例をサイエンティストの目で注視する習慣を身につけてください。

事前学修2時間：関連性の高い文献を提示するので、要点をまとめる。

事後学修2時間：与えられた課題の詳細についてレポートを提出する。

### 【テキスト・教材】

特に無いが、必要なものは適宜紹介、配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題レポート50%、授業への取り組み態度50%。

課題レポートは、評点化後に返却する。

### 【参考書】

授業中に参考書、参考文献を紹介する。

## 調理科学特論B

数野 千恵子

食物栄養学専攻 後期 2単位

### 【授業のテーマ】

調理について、「おいしく食べる」という面から考える。食べ物のおいしさは、味、香り、色、テクスチャー等様々な要因により影響される。本講義では調理方法による味覚物質の変化、香り成分の生成、食品の色や変色などの化学変化による嗜好性への影響を中心に理解を深める。また、味覚や食欲に関係するとされる食べ物の外観や食事環境についても合わせて考察し、より良い調理とは何かを討議する。おいしく食べることの意義や手法を理解することを目標とする。

### 【授業における到達目標】

おいしく食べることの意義や手法を理解し、人にその知識を伝達できるだけの能力を養うことを目標とする。

学生が修得すべき「研鑽力」のうち学ぶ楽しみを知り、学修を通して自己成長する力を修得する。

### 【授業の内容】

- 第1週 調理科学の意義
- 第2週 おいしさの要因を考える
- 第3週 調理科学の理解を深めるための基礎知識
- 第4週 調理と水のかかわり
- 第5週 水の種類による調理への影響
- 第6週 食品の調理による変化：色の変化
- 第7週 食品の調理による変化：香り成分の変化
- 第8週 食品の調理による変化：テクスチャーの変化
- 第9週 調味料と香辛料の特徴と利用
- 第10週 おいしさを作る調理操作と理論（加熱機器・鍋）
- 第11週 おいしさを作る調理操作と理論（茹でる、煮る）
- 第12週 おいしさを作る調理操作と理論（焼く、揚げる）
- 第13週 おいしさに関与する環境要因（色、光、盛り付け方法、フードコーディネーター）
- 第14週 課題のプレゼンテーション
- 第15週 全体のまとめと総合討議

### 【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業内容に関連する学習課題を提示するので、取り組んでください。また、授業には、自分の意見を持って参加してください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 課題レポートを作成してください。日常の調理や食べる過程の中での現象を科学的な目でとらえる習慣を持ってください。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

必要なテキストおよび文献については、適宜指定する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題レポート 50%、授業への取り組み態度（授業内での発表・積極的な参加） 50%

フィードバックは授業中でのディスカッションおよびレポート返却時に行う。

### 【参考書】

授業の中で適宜、参考文献等を紹介する。

院

食物栄養学専攻  
博

**調理学**

教野 千恵子

1年 後期 2単位

○：美の探究、研鑽力

**【授業のテーマ】**

調理は食品の栄養性の向上や安全性を配慮し、おいしい食事を作ることを目的とする。そのためには、より良い食事計画を行い調理理論を基礎とした効率的な加工法や調理法を習得する必要がある。本科目では基本的な調理操作および調理過程に伴う食品の科学的・物理的变化を学習する。

**【授業における到達目標】**

食品素材の調理特性、栄養特性などの理論を修得し、実際の調理に応用できるようにする。

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、学修成果を実感して自信を創出する力を養い、栄養士としての必要な学術的な力を修得する。また、見た目にも食慾を増すような料理を意識できる力を養う。

**【授業の内容】**

- 第1週 食べ物のおいしさ  
おいしさを感じる仕組みとおいしさの構成要素
- 第2週 調理操作：調味操作と調味料・香辛料
- 第3週 調理操作：非加熱操作と調理器具  
加熱操作と調理機器
- 第4週 植物性食品の調理性1：米の調理
- 第5週 植物性食品の調理性2：小麦粉と小麦粉製品の調理
- 第6週 植物性食品の調理性3：いも類、豆類の調理
- 第7週 植物性食品の調理性4：野菜、果実類の調理
- 第8週 植物性食品の調理性5：種実類、きのこ類、海藻類の調理
- 第9週 動物性食品の調理性1：食肉類の調理
- 第10週 動物性食品の調理性2：魚介類の調理
- 第11週 動物性食品の調理性3：鶏卵、乳・乳製品の調理
- 第12週 成分抽出素材の調理性：デンプン、ゲル化剤料
- 第13週 嗜好飲料：茶、コーヒー、ココアなど
- 第14週 食品成分表の理解と活用
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回の講義範囲を指示するので、教科書の該当箇所を読んで専門用語、理解できないところをチェックしておいてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 毎回小テストを行いますので、教科書、講義資料を参考にノートを整理して復習してください。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

- ・木戸詔子・池田ひろ編 『新食品・栄養科学シリーズ  
調理学 第3版』（化学同人）2016年発行 2,500円＋税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験70%、小テスト30%で評価します。

小テストについては次回授業で、定期試験については授業最終回でフィードバックします。

**【参考書】**

食品学の教科書が参考になります。  
その他、必要に応じ、授業中に適宜紹介します。

**【注意事項】**

毎回小テストを行います。  
欠席者には課題を課します。指定された期限までに必ず提出してください。期限までに未提出の場合は減点します。

**調理学**

澤山 茂

2年 後期 2単位

○：研鑽力、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

食品学や広義の栄養学分野の中で食べ物に焦点を合わせるなら Why（何故に）、What（何を）、How（如何に）食べるかという三つの観点から考えられる。調理学は、この如何に食べるかを学ぶことを目的としている。調理学の範囲は理論、実験、実習の三本柱から構成されるが、ここでは食べることの意義を起点とし調理学の総論と調理に関する法則性を探り、技術や実践に役立つ理論を構築する。

**【授業における到達目標】**

管理栄養士国家試験に向けて、理論、実験、実習の関わりについて修得し、応用自在な対応が可能になることを目標にする。自ら課題を発見し、理論、実験に裏付けられた論理的な思考を身につける。

**【授業の内容】**

- 1 調理学とは：調理と調理学、学際領域の調理学、ソーシャルニーズ、研究方法
- 2 献立・供食論：献立、食文化を背景とした調理と献立、食事計画、様式別供食
- 3 美味論：食べ物のおいしさ、人間の五感とおいしさ、おいしさの評価
- 4 調理操作論(1)：調理操作の意義、燃料・器具・設備、非加熱操作
- 5 調理操作論(2)：加熱操作論、湿式加熱、乾式加熱、調味論
- 6 食品の調理性(1)：植物性食品の調理性、穀類、いも類、豆類
- 7 食品の調理性(2)：植物性食品の調理性、種実類、野菜類
- 9 食品の調理性(3)：植物性食品の調理性、果実類、藻類、きのこ類
- 9 食品の調理性(4)：動物性食品の調理性、食肉類
- 10 食品の調理性(5)：動物性食品の調理性、魚介類
- 11 食品の調理性(6)：動物性食品の調理性、卵類、乳類
- 12 食品の調理性(7)：成分抽出性食品の調理性、でん粉、油脂類、新食品素材
- 13 食品の調理性(8)：その他の食品の調理性、調味料、香辛料、嗜好飲料
- 14 調理工学論：調理工学、新調理システム、調理環境、食情報
- 15 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：授業内容をあらかじめmanabaに掲載するので予習をすること。配付資料に基づいて授業内容のミニテストを数回行うので、テキスト該当箇所を予習・復習しておくこと。(学修時間週2時間)  
事後学修：課題を提示するので期日までに提出すること。(学修時間週2時間)

**【テキスト・教材】**

川端晶子・大羽和子・森高初恵編『時代とともに歩む新しい調理学』（学建書院）2,700円＋税（2015）

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

ミニテストで重要な課題を提示し、解説するので予習・復習を十分に行い、時間内に問題を解決すること。授業中のミニテスト未提出者は早退扱いとする。課題未提出者は、減点の対象とする。  
試験およびミニテスト80%、授業態度20%で総合的に評価する。出席が授業回数の2/3未満の者は試験を受けられない。

**【参考書】**

図書館で利用できる参考書を授業中に適宜紹介する。『調理学実験』、『基礎調理1および2』、『調理学実習 a および b』の授業と関連がある。

**【注意事項】**

・管理栄養士国家試験の内容補足を4年前期「調理学特別講義b」で行うので、受講すること。欠席、遅刻は減点の対象とするが、無遅刻、無欠席は評価を加算する。

**調理学 a**

澤山 茂

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

**【授業のテーマ】**

調理学は食べ物から食事を設計し、栄養面や安全面への影響を考えて「おいしい食事」を調製することが目的である。

この授業では、調理と環境との関係などについて解説する。

食事設計と健康、食べ物のおいしさや評価法、調理操作方法、また調理と環境との関係などについて解説する。

**【授業における到達目標】**

調理学に関する視点から課題を発見し、論理的な思考を駆使して問題を解決する能力を得ることを目標とする。フードスペシャリスト資格認定試験に対応した調理の理論を口述する。多くの食材の調理性について、基礎的な知識と応用力を修得する。学生が習得すべき「研鑽力」のうち広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とする。

**【授業の内容】**

○食事設計と健康

1. 食事の意義と役割、食品と食品構成
2. 食品成分表の理解、献立作成と栄養

○おいしさと健康

3. おいしさの認知のシステム
4. おいしさの構成要素
5. おいしさの評価方法

○食品の調理特性

6. 植物性食品（穀類、豆類、いも類、豆類）
7. 植物性食品（種実類、野菜類）
8. 植物性食品（果実類、藻類、きのこ類）
9. 動物性食品（食肉類、魚介類）
10. 動物性食品（卵類、乳類）
11. 成分抽出性食品（でん粉、油脂類、新食品素材）
12. その他の食品の調理性（調味料、香辛料、嗜好飲料）

○基本的な調理操作

13. 非加熱操作と調理器具、調味操作と「だし」
14. 加熱操作法の分類（湿式調理操作、乾式調理操作）
15. 新調理システム、電子レンジ、電磁調理器

**【事前・事後学修】**

事前学修：指定した教科書の該当部分を熟読しておくこと。

（学修時間 週2時間）

事後学修：前回の授業内容を確認するための復習小テストを行うので、専用のノート（A4版）に配付資料とともに添付し要点を整理しておくこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

川端晶子・大羽和子・森高初恵編『時代とともに歩む新しい調理学』（学建書院）2,700円＋税（2015）

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

フードスペシャリスト関連の少テストを行い、授業時間内に解説する。試験および小テスト80%、授業態度20%で総合的に評価する。出席が授業回数の2/3未満の者は試験を受けられない。

**【参考書】**

授業中に適宜紹介する。

「調理学実験 a および b」「基礎調理 1 および 2」、「日本料理、中国料理、調理学実習 c」の授業と関連がある。

**【注意事項】**

講義に必要な参考資料をmanabaに掲載するので、事前に確認しておくこと。

質問等はなるべく授業中に積極的に行うようにする習慣を身につけること。

**調理学 b**

佐藤 幸子

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

本講義では、「調理学a」において習得した調理操作方法など関する調理理論に加えて、食品素材の調理科学的現象および食文化的背景からの伝統的な調理操等について学び、調理に対する意識向上を目指します。さらに日本の調理文化の形成過程を学び、伝承すべき食事様式の知識を習得し、調理に関する探究心を養成します。

**【授業における到達目標】**

学生が学修すべき「国際的視野」「研鑽力」を育成し、専門的な基礎知識および伝統的な食文化として習得すべき「豊かな教養力」「学術的な力」を取得します。

**【授業の内容】**

- 第1回 食べ物と調理
- 第2回 米の調理、小麦粉の調理、芋類の調理
- 第3回 豆類の調理、鶏卵の調理 豆類の種類と調理性
- 第4回 獣鶏肉の調理 肉の部位、肉類の調理性、肉類の調理
- 第5回 魚介類の調理 魚の種類、魚類の調理性、魚・魚介の調理
- 第6回 鶏卵の調理 卵の成分、卵の調理性、卵の調理
- 第7回 牛乳・乳製品の調理、野菜・果物の調理
- 第8回 寒天・ゼラチンの調理、乾物・加工品の調理
- 第9回 調理の歴史と文化 I  
縄文・弥生時代、奈良・平安時代、鎌倉・室町時代
- 第10回 調理の歴史と文化 II  
安土桃山・江戸時代、明治・大正・昭和時代
- 第11回 調理の歴史と文化 III  
平成時代、食生活の変化
- 第12回 調味料と美味しさ  
調味料の使いわけ、調味のタイミング、調味料の浸透、調味料の割合、
- 第13回 料理の組み合わせ、香味野菜と美味しさ  
奇数の盛り付け、食品素材の表裏、吸い口、つま、天盛り
- 第14回 料理の器  
材質による分類と特徴
- 第15回 供食形式（西洋料理、中国料理、日本料理）

**【事前・事後学修】**

【事前学修】：manabaから授業時に使用するワークシートに沿って食に関する情報を予習する。

（学修時間 週2時間）

【事後学修】：授業における課題をまとめる。（授業後に提出）

（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

『時代とともに歩む新しい調理学 新版』川端晶子等編（学建書院 2015年）2500円（税別）

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- ・確認試験60%：第15回目授業時に実施し、授業の理解度を確認（第15週授業時に評価しフィードバックする）
- ・授業レポート30%：授業内容をまとめてレポートを提出（次回授業時にフィードバックする）
- ・平常点評価10%：真剣な授業態度（授業時にフィードバックする）

**【参考書】**

『NEW調理と理論』山崎清子等著（同文書院 2015年）2600円（税別）

**【注意事項】**

予習・復習は各自意欲を持って取り組み、授業においては私語を慎み、真摯な態度で受講してください。

**調理学及び実習**

栗原 幸子・佐藤 幸子

3年 後期 2単位

◎：行動力 ○：協働力

**【授業のテーマ】**

本講座では、「食べ物」を対象に調理操作技術の向上や食生活に実践活用できる資質の向上を目標とし、教職を目指す学生を中心とした実習授業です。「食べ物」を料理として食卓の一献立としてとらえ、美味しさの本質を理解し、調理の必要性や調理の楽しさを学び、食事をつくる喜びを育成します。献立形式としては、日本・中国・西洋料理の献立形式に沿って基礎技術を学び、調理に関わる食品の成分変化を調理学実験から理解し、家庭科の授業において重要な教材研究を実践し、食に関する探究心を養成します。

**【授業における到達目標】**

- ・グループワークを通じて、自己や他者の役割を理解し、学生が習得すべき協働力を習得することができる。
- ・実習過程を通じて、プロセスや成果を正しく評価し、問題解決を主体的に出来る力を習得する。
- ・学修成果を実感して、自信を創出し、自己成長できる力を習得する。

**【授業の内容】**

- 第1回 ガイダンス（調理学の基本的な考え方、授業の進め方）  
食事設計（献立論と供食論）食材の切り方、パイ
- 第2回 日本料理1（基本出汁①、炊飯）  
白米、お吸い物、魚の照り焼き
- 第3回 日本料理2（基本出汁②、魚のさばき方）  
栗ごはん、つみれ汁、鯨の南蛮漬け、茶碗蒸し
- 第4回 調理学実験1（小麦の調理性）カレーパン他  
パソコン演習、食事設計、献立の分類、栄養価計算
- 第5回 中国料理1（基本出汁、食材の切り方）  
清湯三絲、炒飯、餃子他
- 第6回 野外料理（炭火料理、大量調理）  
芋煮、ピザ他
- 第7回 中国料理2（でんぷんの調理性）  
乾焼明蝦他
- 第8回 調理学実験2（官能評価、砂糖の調理性）  
キャンディテスト、べっ甲飴
- 第9回 西洋料理1（基本出汁、基本ソース）  
Consomme、Pilaf de crevettes、Pudding au Caramel他
- 第10回 行事食（おもてなし料理：クリスマス）  
Potage、Pilaf、Pulet rotit、Salada他
- 第11回 調理学実験3（食材の調理性）  
野菜の色と調理、食肉の加熱調理性、
- 第12回 調理学実験4（卵の調理性）  
スポンジケーキ、ゲル化食品素材の調理性
- 第13回 行事食（おせち料理）  
雑煮、なます、栗きんとん、伊達巻、筑前煮
- 第14回 日本料理3（すし飯、圧力鍋の使い方）  
ちらし寿司、吸い物、あえ物
- 第15回 まとめ

**【事前・事後学修】**

配付資料およびレシピは事前にmanabaから印刷し、授業に必要な食に関する情報を予習してください（1時間）。

授業後、復習レポートおよび課題に取り組み、manabaの期日までに提出してください（2時間）。

また調理や包丁使いに慣れるよう、日常生活で実習内容の復習または応用調理に取り組みましょう（1時間）。

**【テキスト・教材】**

『五訂増補カラーチャート食品成分表』（教育図書）2014年  
802円 毎回プリントを配布します。食材費は別途徴収します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

調理技術検定20%：胡瓜の薄切りについて毎授業検定

確認試験20%：第15回目授業時に実施し、授業の理解度を確認

提出レポート50%：manaba設定した期日にレポートを提出

平常点評価10%：授業中の活動への参加状況を評価

提出されたレポートは、コメントを添えて次回の授業で返却します。学期末にまとめてファイルして提出する。確認試験およびファイルは学期終了後に返却します。

**【参考書】**

『NEW 調理と理論』（同文書院）2011年 2,808円

『食生活－健康に暮らすために』（八千代出版）2015年 2,268円

**【注意事項】**

各自、専用の白衣、指定作業帽子、上履きを準備します。手指の清潔・身支度を整え、装飾品は外し、授業に必要なものは持ち込みを禁止します。貴重品は各自責任を持って管理してください。食材費は別途徴収します。

## 調理学及び実習

佐藤 幸子

3年 前期 2単位 3時限連続

◎：行動力 ○：協働力

のは持ち込みを禁止する。貴重品は自己管理とする。

### 【授業のテーマ】

本講座では調理操作技術の向上や食生活に実践活用できる資質の向上を目標とし、教職を目指す学生を中心とした授業です。日本・中国・西洋料理の献立形式に沿って基礎技術を学び、食品の成分変化を食農体験および調理学実験から理解し、家庭科の授業において重要な教材研究を実践し、探究心を養成します。

### 【授業における到達目標】

学生が学修すべき「協働力」「行動力」を育成し、専門的な基礎技術および伝統的な食文化として習得すべき「学術的な力」「豊かな教養の力」を取得します。

### 【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス（調理学の基本的な考え方、授業の進め方）  
食事設計（献立論と供食論）食農体験1（畑の整備）
- 第2回 日本料理1（基本出汁①、炊飯）  
白米、お吸い物
- 第3回 日本料理2（基本出汁②、魚のさばき方）  
鰯の南蛮漬け
- 第4回 食農体験2（食材の調理性）開墾、植え付け
- 第5回 献立作成（パソコン演習）  
食事設計、献立の分類、栄養価計算演習
- 第6回 中国料理1（基本出汁、食材の切り方）  
清湯三絲など
- 第7回 中華料理2（小麦粉の調理性）  
餃子、焼売
- 第8回 調理学実験1（食材の調理性）  
基本味・卵の調理性
- 第9回 西洋料理1（基本出汁、基本ソース）  
Consomme、Pilaf de crevettesなど
- 第10回 西洋料理2（ゲル化食品素材の調理性）  
Escalope de porc cordon bleuなど
- 第11回 日本料理3（炊き込み飯、煮物）：茶碗蒸しなど
- 第12回 行事食
- 第13回 調理学実験2（食材の調理性）  
砂糖の調理性、野菜の色と調理、官能評価
- 第14回 食農体験3（食材の調理性）：作物の成り立ち、収穫
- 第15回 まとめ：野外料理

### 【事前・事後学修】

【事前学修】manabaから使用する資料および授業内容を印刷し、予習しておくこと。（学修時間 週1時間）

【事後学修】授業内容について考察し、レポートをmanabaに提出すること。（学修時間 週1時間）

### 【テキスト・教材】

『新ビジュアル食品成分表 新訂第二版』（榊大修館出版2016年）  
1000円（税別）

食材費は別途徴収します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・調理技術検定30%：胡瓜の薄切りについて検定（検定後に評価）
- ・復習レポート確認試験30%：授業復習・課題（manabaに提出）  
（次回授業時にフィードバックします）
- ・授業レポート30%：自己評価（授業時に提出）  
（次回授業時にフィードバックします）
- ・平常点評価10%：真剣な授業態度（授業時にフィードバックします）

### 【参考書】

『NEW 調理と理論』山崎清子等著（同文書院2015年）2600円（税別）

### 【注意事項】

各自専用の白衣、指定作業帽子、上履きを使用する。衛生管理には十分に気をつけ、手指の清潔・身支度を整え、授業に必要なもの

**調理学及び実習**

佐藤 幸子

3年 前期 2単位 3時限連続

◎：行動力 ○：協働力

**【授業のテーマ】**

本講座では調理操作技術の向上や食生活に実践活用できる資質の向上を目標とし、教職を目指す学生を中心とした授業です。日本・中国・西洋料理の献立形式に沿って基礎技術を学び、食品の成分変化を食農体験および調理学実験から理解し、家庭科の授業において重要な教材研究を実践し、探究心を養成します。

**【授業における到達目標】**

学生が学修すべき「協働力」「行動力」を育成し、専門的な基礎技術および伝統的な食文化として習得すべき「学術的な力」「豊かな教養の力」を取得します。

**【授業の内容】**

- 第1回 ガイダンス（調理学の基本的な考え方、授業の進め方）  
食事設計（献立論と供食論）食農体験1（畑の整備）
- 第2回 日本料理1（基本出汁①、炊飯）  
白米、お吸い物
- 第3回 日本料理2（基本出汁②、魚のさばき方）  
鰯の南蛮漬け
- 第4回 食農体験2（食材の調理性）開墾、植え付け
- 第5回 献立作成（パソコン演習）  
食事設計、献立の分類、栄養価計算演習
- 第6回 中国料理1（基本出汁、食材の切り方）清湯三絲など
- 第7回 中華料理2（小麦粉の調理性）餃子、焼売
- 第8回 調理学実験1（食材の調理性）基本味・卵の調理性
- 第9回 西洋料理1（基本出汁、基本ソース）  
Consomme、Pilaf de crevettesなど
- 第10回 西洋料理2（ゲル化食品素材の調理性）  
Escalope de porc cordon bleuなど
- 第11回 日本料理3（炊き込み飯、煮物）：茶碗蒸しなど
- 第12回 行事食
- 第13回 調理学実験2（食材の調理性）  
砂糖の調理性、野菜の色と調理、官能評価
- 第14回 食農体験3（食材の調理性）：作物の成り立ち、収穫
- 第15回 まとめ：野外料理

**【事前・事後学修】**

- 【事前学修】manabaから使用する資料および授業内容を印刷し、予習しておくこと。（学修時間 週1時間）
- 【事後学修】授業内容について考察し、レポートをmanabaに提出すること。（学修時間 週1時間）

**【テキスト・教材】**

『新ビジュアル食品成分表 新訂第二版』（榊大修館出版2016年）1000円（税別）  
食材費は別途徴収します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- ・調理技術検定30%：胡瓜の薄切りについて検定（検定後に評価）
- ・復習レポート確認試験30%：授業復習・課題（manabaに提出）  
（次回授業時にフィードバックします）
- ・授業レポート30%：自己評価（授業時に提出）  
（次回授業時にフィードバックします）
- ・平常点評価10%：真剣な授業態度（授業時にフィードバックします）

**【参考書】**

『NEW 調理と理論』山崎清子等著（同文書院2015年）2600円（税別）

**【注意事項】**

各自専用の白衣、指定作業帽子、上履きを使用する。衛生管理には十分に気をつけ、手指の清潔・身支度を整え、授業に必要なものは持ち込みを禁止する。貴重品は自己管理とする。

**調理学及び実習**

栗原 幸子・佐藤 幸子

3年 後期 2単位 3時限連続

◎：行動力 ○：協働力

**【授業のテーマ】**

本講座では、「食べ物」を対象に調理操作技術の向上や食生活に実践活用できる資質の向上を目標とし、教職を目指す学生を中心とした実習授業です。「食べ物」を料理として食卓の一献立としてとらえ、美味しさの本質を理解し、調理の必要性や調理の楽しさを学び、食事をつくる喜びを育成します。献立形式としては、日本・中国・西洋料理の献立形式に沿って基礎技術を学び、調理に関わる食品の成分変化を調理学実験から理解し、家庭科の授業において重要な教材研究を実践し、食に関する探究心を養成します。

**【授業における到達目標】**

- ・グループワークを通じて、自己や他者の役割を理解し、学生が習得すべき協働力を習得することができる。
- ・実習過程を通じて、プロセスや成果を正しく評価し、問題解決を主体的に出来る力を習得する。
- ・学修成果を実感して、自信を創出し、自己成長できる力を習得する。

**【授業の内容】**

- 第1回 ガイダンス（調理学の基本的な考え方、授業の進め方）  
食事設計（献立論と供食論）食材の切り方、パイ
- 第2回 日本料理1（基本出汁①、炊飯）  
白米、お吸い物、魚の照り焼き
- 第3回 日本料理2（基本出汁②、魚のさばき方）  
栗ごはん、つみれ汁、鰯の南蛮漬け、茶碗蒸し
- 第4回 調理学実験1（小麦の調理性）カレーパン他  
パソコン演習、食事設計、献立の分類、栄養価計算
- 第5回 中国料理1（基本出汁、食材の切り方）  
清湯三絲、炒飯、餃子他
- 第6回 野外料理（炭火料理、大量調理）  
芋煮、ピザ他
- 第7回 中国料理2（でんぷんの調理性）  
乾焼明蝦他
- 第8回 調理学実験2（官能評価、砂糖の調理性）  
キャンディテスト、ペッ甲飴
- 第9回 西洋料理1（基本出汁、基本ソース）  
Consomme、Pilaf de crevettes、Pudding au Caramel他
- 第10回 行事食（おもてなし料理：クリスマス）  
Potage、Pilaf、Pulet rotit、Salada他
- 第11回 調理学実験3（食材の調理性）  
野菜の色と調理、食肉の加熱調理性、
- 第12回 調理学実験4（卵の調理性）  
スポンジケーキ、ゲル化食品素材の調理性
- 第13回 行事食（おせち料理）  
雑煮、なます、栗きんとん、伊達巻、筑前煮
- 第14回 日本料理3（すし飯、圧力鍋の使い方）  
ちらし寿司、吸い物、あえ物
- 第15回 まとめ

**【事前・事後学修】**

- 配付資料およびレシピは事前にmanabaから印刷し、授業に必要な食に関する情報を予習してください（1時間）。
- 授業後、復習レポートおよび課題に取り組み、manabaの期日までに提出してください（2時間）。
- また調理や包丁使いに慣れるよう、日常生活で実習内容の復習または応用調理に取り組みましょう（1時間）。

**【テキスト・教材】**

『五訂増補カラーチャート食品成分表』（教育図書）2014年 802円 毎回プリントを配布します。食材費は別途徴収します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

調理技術検定20%：胡瓜の薄切りについて毎授業検定



確認試験20%：第15回目授業時に実施し、授業の理解度を確認  
提出レポート50%：manaba設定した期日にレポートを提出  
平常点評価10%：授業中の活動への参加状況の評価  
提出されたレポートは、コメントを添えて次回の授業で返却します。学期末にまとめてファイルして提出する。確認試験およびファイルは学期終了後に返却します。

**【参考書】**

『NEW 調理と理論』（同文書院）2011年 2,808円

『食生活－健康に暮らすために』（八千代出版）2015年 2,268円

**【注意事項】**

各自、専用の白衣、指定作業帽子、上履きを準備します。手指の清潔・身支度を整え、装飾品は外し、授業に必要なものは持ち込みを禁止します。貴重品は各自責任を持って管理してください。食材費は別途徴収します。

**調理学及び実習**

栗原 幸子・佐藤 幸子

3年 後期 2単位 3時限連続

◎：行動力 ○：協働力

**【授業のテーマ】**

本講座では、「食べ物」を対象に調理操作技術の向上や食生活に実践活用できる資質の向上を目標とし、教職を目指す学生を中心とした実習授業です。「食べ物」を料理として食卓の一献立としてとらえ、美味しさの本質を理解し、調理の必要性や調理の楽しさを学び、食事をつくる喜びを育成します。献立形式としては、日本・中国・西洋料理の献立形式に沿って基礎技術を学び、調理に関わる食品の成分変化を調理学実験から理解し、家庭科の授業において重要な教材研究を実践し、食に関する探究心を養成します。

**【授業における到達目標】**

- ・グループワークを通じて、自己や他者の役割を理解し、学生が習得すべき協働力を習得することができる。
- ・実習過程を通じて、プロセスや成果を正しく評価し、問題解決を主体的に出来る力を習得する。
- ・学修成果を実感して、自信を創出し、自己成長できる力を習得する。

**【授業の内容】**

- 第1回 ガイダンス（調理学の基本的な考え方、授業の進め方）  
食事設計（献立論と供食論）食材の切り方、パイ
- 第2回 日本料理1（基本出汁①、炊飯）  
白米、お吸い物、魚の照り焼き
- 第3回 日本料理2（基本出汁②、魚のさばき方）  
栗ごはん、つみれ汁、鯨の南蛮漬け、茶碗蒸し
- 第4回 調理学実験1（小麦の調理性）カレーパン他  
パソコン演習、食事設計、献立の分類、栄養価計算
- 第5回 中国料理1（基本出汁、食材の切り方）  
清湯三絲、炒飯、餃子他
- 第6回 野外料理（炭火料理、大量調理）  
芋煮、ピザ他
- 第7回 中国料理2（でんぷんの調理性）  
乾焼明蝦他
- 第8回 調理学実験2（官能評価、砂糖の調理性）  
キャンディテスト、べっ甲飴
- 第9回 西洋料理1（基本出汁、基本ソース）  
Consomme、Pilaf de crevettes、Pudding au Caramel他
- 第10回 行事食（おもてなし料理：クリスマス）  
Potage、Pilaf、Pulet rotit、Salada他
- 第11回 調理学実験3（食材の調理性）  
野菜の色と調理、食肉の加熱調理性、
- 第12回 調理学実験4（卵の調理性）  
スポンジケーキ、ゲル化食品素材の調理性
- 第13回 行事食（おせち料理）  
雑煮、なます、栗きんとん、伊達巻、筑前煮
- 第14回 日本料理3（すし飯、圧力鍋の使い方）  
ちらし寿司、吸い物、あえ物
- 第15回 まとめ

**【事前・事後学修】**

配付資料およびレシピは事前にmanabaから印刷し、授業に必要な食に関する情報を予習してください（1時間）。

授業後、復習レポートおよび課題に取り組み、manabaの期日までに提出してください（2時間）。

また調理や包丁使いに慣れるよう、日常生活で実習内容の復習または応用調理に取り組みましょう（1時間）。

**【テキスト・教材】**

『五訂増補カラーチャート食品成分表』（教育図書）2014年  
802円 毎回プリントを配布します。食材費は別途徴収します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

調理技術検定20%：胡瓜の薄切りについて毎授業検定

確認試験20%：第15回目授業時に実施し、授業の理解度を確認

提出レポート50%：manaba設定した期日にレポートを提出

平常点評価10%：授業中の活動への参加状況を評価

提出されたレポートは、コメントを添えて次回の授業で返却します。学期末にまとめてファイルして提出する。確認試験およびファイルは学期終了後に返却します。

**【参考書】**

『NEW 調理と理論』（同文書院）2011年 2,808円

『食生活－健康に暮らすために』（八千代出版）2015年 2,268円

**【注意事項】**

各自、専用の白衣、指定作業帽子、上履きを準備します。手指の清潔・身支度を整え、装飾品は外し、授業に必要なものは持ち込みを禁止します。貴重品は各自責任を持って管理してください。食材費は別途徴収します。

## 調理学及び実習

佐藤 幸子

3年 前期 2単位 3時限連続

◎：行動力 ○：協働力

## 【授業のテーマ】

本講座では調理操作技術の向上や食生活に実践活用できる資質の向上を目標とし、教職を目指す学生を中心とした授業です。日本・中国・西洋料理の献立形式に沿って基礎技術を学び、食品の成分変化を食農体験および調理学実験から理解し、家庭科の授業において重要な教材研究を実践し、探究心を養成します。

## 【授業における到達目標】

学生が学修すべき「協働力」「行動力」を育成し、専門的な基礎技術および伝統的な食文化として習得すべき「学術的な力」「豊かな教養の力」を取得します。

## 【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス（調理学の基本的な考え方、授業の進め方）  
食事設計（献立論と供食論）食農体験1（畑の整備）
- 第2回 日本料理1（基本出汁①、炊飯）  
白米、お吸い物
- 第3回 日本料理2（基本出汁②、魚のさばき方）  
鰯の南蛮漬け
- 第4回 食農体験2（食材の調理性）開墾、植え付け
- 第5回 献立作成（パソコン演習）  
食事設計、献立の分類、栄養価計算演習
- 第6回 中国料理1（基本出汁、食材の切り方）  
清湯三絲など
- 第7回 中華料理2（小麦粉の調理性）餃子、焼売
- 第8回 調理学実験1（食材の調理性）基本味・卵の調理性
- 第9回 西洋料理1（基本出汁、基本ソース）  
Consomme、Pilaf de crevettesなど
- 第10回 西洋料理2（ゲル化食品素材の調理性）  
Escalope de porc cordon bleuなど
- 第11回 日本料理3（炊き込み飯、煮物）：茶碗蒸しなど
- 第12回 行事食
- 第13回 調理学実験2（食材の調理性）  
砂糖の調理性、野菜の色と調理、官能評価
- 第14回 食農体験3（食材の調理性）：作物の成り立ち、収穫
- 第15回 まとめ：野外料理

## 【事前・事後学修】

【事前学修】manabaから使用する資料および授業内容を印刷し、予習しておくこと。（学修時間 週1時間）

【事後学修】授業内容について考察し、レポートをmanabaに提出すること。（学修時間 週1時間）

## 【テキスト・教材】

『新ビジュアル食品成分表 新訂第二版』（榎大修館出版2016年）  
1000円（税別）  
食材費は別途徴収します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・調理技術検定30%：胡瓜の薄切りについて検定（検定後に評価）
- ・復習レポート確認試験30%：授業復習・課題（manabaに提出）  
（次回授業時にフィードバックします）
- ・授業レポート30%：自己評価（授業時に提出）  
（次回授業時にフィードバックします）
- ・平常点評価10%：真剣な授業態度（授業時にフィードバックします）

## 【参考書】

『NEW 調理と理論』山崎清子等著（同文書院2015年）2600円（税別）

## 【注意事項】

各自専用の白衣、指定作業帽子、上履きを使用する。衛生管理には十分に気をつけ、手指の清潔・身支度を整え、授業に必要なものは持ち込みを禁止する。貴重品は自己管理とする。

## 調理学及び実習

佐藤 幸子

3年 前期 2単位 3時限連続

◎：行動力 ○：協働力

## 【授業のテーマ】

本講座では調理操作技術の向上や食生活に実践活用できる資質の向上を目標とし、教職を目指す学生を中心とした授業です。日本・中国・西洋料理の献立形式に沿って基礎技術を学び、食品の成分変化を食農体験および調理学実験から理解し、家庭科の授業において重要な教材研究を実践し、探究心を養成します。

## 【授業における到達目標】

学生が学修すべき「協働力」「行動力」を育成し、専門的な基礎技術および伝統的な食文化として習得すべき「学術的な力」「豊かな教養の力」を取得します。

## 【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス（調理学の基本的な考え方、授業の進め方）  
食事設計（献立論と供食論）食農体験1（畑の整備）
- 第2回 日本料理1（基本出汁①、炊飯）  
白米、お吸い物
- 第3回 日本料理2（基本出汁②、魚のさばき方）  
鰯の南蛮漬け
- 第4回 食農体験2（食材の調理性）開墾、植え付け
- 第5回 献立作成（パソコン演習）  
食事設計、献立の分類、栄養価計算演習
- 第6回 中国料理1（基本出汁、食材の切り方）  
清湯三絲など
- 第7回 中華料理2（小麦粉の調理性）餃子、焼売
- 第8回 調理学実験1（食材の調理性）基本味・卵の調理性
- 第9回 西洋料理1（基本出汁、基本ソース）  
Consomme、Pilaf de crevettesなど
- 第10回 西洋料理2（ゲル化食品素材の調理性）  
Escalope de porc cordon bleuなど
- 第11回 日本料理3（炊き込み飯、煮物）：茶碗蒸しなど
- 第12回 行事食
- 第13回 調理学実験2（食材の調理性）  
砂糖の調理性、野菜の色と調理、官能評価
- 第14回 食農体験3（食材の調理性）：作物の成り立ち、収穫
- 第15回 まとめ：野外料理

## 【事前・事後学修】

【事前学修】manabaから使用する資料および授業内容を印刷し、予習しておくこと。（学修時間 週1時間）

【事後学修】授業内容について考察し、レポートをmanabaに提出すること。（学修時間 週1時間）

## 【テキスト・教材】

『新ビジュアル食品成分表 新訂第二版』（榎大修館出版2016年）  
1000円（税別）  
食材費は別途徴収します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・調理技術検定30%：胡瓜の薄切りについて検定（検定後に評価）
- ・復習レポート確認試験30%：授業復習・課題（manabaに提出）  
（次回授業時にフィードバックします）
- ・授業レポート30%：自己評価（授業時に提出）  
（次回授業時にフィードバックします）
- ・平常点評価10%：真剣な授業態度（授業時にフィードバックします）

## 【参考書】

『NEW 調理と理論』山崎清子等著（同文書院2015年）2600円（税別）

## 【注意事項】

各自専用の白衣、指定作業帽子、上履きを使用する。衛生管理には十分に気をつけ、手指の清潔・身支度を整え、授業に必要なものは持ち込みを禁止する。貴重品は自己管理とする。

**調理学実験**

数野 千恵子

1年 前期 1単位 2時限連続 隔週

◎：研鑽力 ○：協働力

**【授業のテーマ】**

食品は調理過程を経て食べ物として食卓に載せられる。調理学実験では、その調理過程において、どのように操作するとおいしく仕上がるのかを、実験を通して、よく観察し目で見て触ってみて確かめる。日常的に用いられ食品を対象として、その調理特性について検討し、おいしい食べ物を作ることに役立てることを目標とする。

**【授業における到達目標】**

学生が修得すべき「研鑽力」としての学ぶ楽しみを知り、グループ実習を通して「協働力」としての互いに協力して物事を進める力を修得する。

**【授業の内容】**

## 第1回 授業ガイダンスおよび五味の鑑別

調理室や調理器具・機器の使い方、実験器具の洗い方など  
五基本味を含んだ試料液を味見して味質の差を認知する。

## 第2回 官能検査法

2点比較法と3点比較法を用いて、かつお節だし汁の塩分濃度識別試験を行う。

## 第3回 炊飯に関する実験

うるち米ともち米の浸水時間と吸水量を測定する。  
ピーカーの中で炊飯を行い、米の炊飯特性を観察する。  
こわ飯の振り水の回数と食味の違いを認知する。

## 第4回 卵の熱凝固性に関する実験

卵の熱凝固に対する卵液の希釈倍率や、牛乳、調味料などの副材料の影響を調べる。  
温泉卵を作成し、卵白、卵黄の凝固温度を確認する。

## 第5回 小麦粉生地とグルテン

強力粉と薄力粉による生地の性状の違いを測定する。  
グルテンを取り出し、粉の種類による違いを確認する。

## 第6回 牛乳及び乳製品の調理性

牛乳にレモン汁を加えて、pHを測定しながらカテージチーズを調製する。生クリームの気泡性とバターへの転相を行う。

## 第7回 砂糖の調理特性および高甘度甘味料の扱い

砂糖液を加熱し、温度上昇に伴う性状の変化を調べる。  
高甘度甘味料の調理時のコツを理解し、調理後の味や外観を砂糖と比較する。

## 第8回 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回の実験内容を予習して、全体の流れを把握し、理解できないところをチェックしておいてください。

(学修時間 週1時間)

【事後学修】 実験内容を整理して毎回レポートを作成してください。また、課題を出しますのでレポートと一緒に提出してください。(学修時間 週1時間)

**【テキスト・教材】**

授業の資料はプリントを使用します。1週間前にmanabaに掲載しますので、各自で印刷して、授業時に持参してください。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

実習レポート(毎回提出)70%、実験態度30%で評価します。

レポートは返却時の授業でフィードバックします。

**【参考書】**

『新版・食品の官能評価・鑑別演習 第3版』(建帛社)

『NEW調理と理論』山崎清子ら(同文書院)

その他、食品学や調理学の教科書が参考になります。

**【注意事項】**

授業は調理室で行いますので、調理専用の白衣、及び上履きを着用し、髪の毛は束ね、動きやすい服装を心がけてください。

貴重品は自己管理を徹底してください。

欠席した場合は、欠席者課題を課します。

## 調理学実験 a

澤山 茂

1年 後期 1単位 3時限連続 隔週

◎：研鑽力 ○：協働力

『新版・食品の官能評価・鑑別演習』（第3版）（建帛社）¥2,376  
（2014）

『調理科学実験』（学建書院）¥2,700（2009）

### 【授業のテーマ】

日常の調理でよく用いられる基本的な食品を取り上げ、その調理性を中心に実験を行い、食品の扱い方や調理技術の要点などについて考える。また、食品評価法として官能評価を行う。

### 【授業における到達目標】

日常よく用いられる食品について、実験を通じて調理性に関連する科学的視点を学修し、自ら課題を発見できる力を修得する。フードスペシャリストの資格認定試験に対応できる力を修得する。

### 【授業の内容】

以下の内容で8回の実験を行う。

#### 1. 授業の進め方・官能評価法

実験授業のガイダンスとして、授業の進め方、実験ノートを書き方、調理実習室の使い方、掃除の指導、実験器具の洗浄法などを指導する。

調理学実験で度々行う官能評価の導入として、五味の識別試験を行う。

#### 2. 炊飯特性を修得する。

うるち米ともち米の浸水時間と吸水量を測定する。

ピーカーの中で炊飯を行い、乾物でありでんぷんが主成分である米の炊飯特性を学ぶ。

#### 3. 卵液の熱凝固性について修得する。

鶏卵の鮮度鑑別試験。熱凝固に対する卵液の希釈率や、食塩・砂糖・牛乳添加の影響を調べ、たんぱく質の変性の観点から考察する。

68～70℃加熱で温泉卵を作成する。

#### 4. 加熱時間と肉のうま味やテクスチャーの相違を修得する。

肉を加熱調理する際の軟化作用、肉のかたさやうま味に対する加熱温度と時間の影響を、官能評価の順位法を用いて評価し、検定の仕方を学修する。

#### 5. 小麦粉生地とグルテンの調理特性を修得する。

強力粉と薄力粉による生地の性状の違いを測定し、それぞれの生地からグルテンを取り出す。

中力粉で手打ちうどんを調製する。

#### 6. 牛乳および乳製品の調理特性を修得する。

レモン汁で牛乳のpHを下げ、カッテージチーズを調製する。生クリームの起泡性とバターへの転相実験を行う。

#### 7. 砂糖の調理性として、砂糖溶液の加熱温度とその性質、砂糖の結晶化、砂糖の結晶化防止について修得する。

#### 8. 調理学実験の総まとめとして、重要事項の再確認試験を行う。

### 【事前・事後学修】

事前学修：毎回の授業前に、テキスト該当箇所を予習すること。  
manabaに実験に対する参考資料を掲載するので、あらかじめ熟読しておくこと。（学修時間2時間）

事後学修：配付資料、実験方法、実験結果、考察、HomeWork、課題を専用のノート（A4版）に記述して、実験終了後1週間以内に提出する。（学修時間2時間）

### 【テキスト・教材】

四宮陽子著『クッキングエクスペリメント 4th Edition』（学建書院）1,700円＋税（2015）必要な教材は、プリントして配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実験ノート（毎回提出）50％・確認試験30％・実験態度20％で評価する。実験ノートに記載された訂正事項や、確認事項は必ず確認し、訂正して、再評価を受ける。筆記試験の結果を返却するので訂正したものを再提出し再評価を受ける。

### 【参考書】

**調理学実験 b**

数野 千恵子

2年 前期 1単位 2時限連続 隔週

◎：研鑽力 ○：協働力

**【授業のテーマ】**

調理過程により食品の成分は変化する。出来上がった料理の見た目や味が変わるだけでなく栄養性や機能性、テクスチャーにも影響を及ぼす。本講座では、調理方法や材料の配合による違いなどを検討し、栄養的に嗜好にも適う調理を再現する力を養うことを目標とする。

**【授業における到達目標】**

学生が修得すべき「研鑽力」のうち学ぶ楽しみを知り、グループ実習を通して「協働力」としての互いに協力して物事を進める力を修得する。

**【授業の内容】**

## 第1回 食べ物の適温

温かい汁物の温度低下及び冷たい飲み物の温度上昇を測定し、飲み頃の温度を把握する。食べ物の温度変化を観察し、適温で美味しく食べられる温度と時間の関係を考える。

## 第2回 野菜の色の変化と pH

異なる色素を含んだ野菜を pH の異なる溶液で加熱し、色調や硬さの変化を観察し、野菜の色を活かすための調理法を理解する。

## 第3回 クッキーの性状に及ぼす材料の配合割合

クッキーの性状には用いる材料の配合割合や配合の順序が影響する。バターと砂糖の配合割合がクッキーの色やテクスチャーに及ぼす影響を調べる。

## 第4回 小豆あんの調製と性状

あんの調製方法を学ぶ。また生あんや練りあんの性状について、テクスチャーを調べたり、顕微鏡で観察したりしてあんとでんぷんの関係を理解する。

## 第5回 ハンバーグステーキにおける副材料の役割

玉ねぎ、パン粉、卵、牛乳などの副材料や調味料の役割を実験によって理解し、ジューシーで軟らかいハンバーグステーキを調製するための理論を理解する。

## 第6回 砂糖の調理性および高甘度甘味料の扱い

様々な菓子類などの調理に応用されている砂糖の性質を知る。また、高甘度甘味料の調理時のコツを理解し、調理後の味や外観を砂糖と比較する。

## 第7回 ゼリーの調理性に関する実験

寒天、カラギーナン、ゼラチンのゲルについて、それらの性質やテクスチャーの違いを知る。また、ゲルの物性に及ぼす砂糖や果汁の影響を観察する。

## 第8回 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回の実験内容を予習し実験の目的、手順などを理解しておいてください。（学修時間 週1時間）

【事後学修】 実験内容を整理し、毎回レポートを作成してください。（学修時間 週1時間）

**【テキスト・教材】**

授業資料は、プリントを使用します。授業の1週間前にmanaba に掲載しますので、各自で印刷して授業時に持参してください。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

実習レポート（毎回提出）70%、実験態度30%で評価します。

レポートは次回の授業でフィードバックします。

**【参考書】**

『NEW調理と理論』山崎清子ら（同文書院）

**【注意事項】**

授業は調理室で行いますので、調理専用の白衣、及び上履きを着用し、髪の毛の長い人は束ね、動きやすい服装を心がけてください。

貴重品は自己管理を徹底してください。

欠席した場合は、欠席者課題を課します。

## 調理学実習 a

高木 秋廣

3年 後期 1単位 3時限連続 隔週

○：協働力

## 【授業のテーマ】

管理栄養士として必要な総合的な知識や技術を学び、それらの取り扱い方や料理を実際に作り中国料理の食文化を探る。

## 【授業における到達目標】

学生が修得すべき「協働力」を育成し、専門的技術としての修得すべき「学術的な力」となる技能を修得する。

## 【授業の内容】

## 第1週

- 12大料理説明（プリント）
- 湯の説明（上湯、毛湯、火腿湯、清湯、白湯）
- 清湯の取り方（実技）
- 切り方の説明（糸、丁、毛、末、塊、片、条）

## 第2週

- 海産物の下処理（海老、イカ）
- 下味の入れ方
- 秋野菜の下処理、料理（実技）
- 肉の下味の入れ方（実技）

## 第3週

- 麺のルーツ説明（東西のシルクロード）
- 手打ち麺の実技（デモ）
- 炒飯の作り方（油の温度、油の量）

## 第4週

- 包子の作り方（イースト）肉まん
- デザート（温かいデザート）
- 咸点心（塩味の点心）

## 第5週

- 炒麺の作り方（実技）
- 炒飯の作り方（再度説明）

## 第6週

- 切り方の説明（再度説明、デモ）
- 土鍋料理（実技）
- デザート

## 第7週

授業のまとめ1

第8週：1クラス135分授業（A・Bクラス連続）

授業のまとめ2

## 【事前・事後学修】

【事前学修】配布する中国料理に関する資料をよく読み、理解を深めておくこと。

（学修時間 週1時間）

【事後学修】レポート形式を配布しますので、それに従って実習レポートを作成してください。

（学修時間 週1時間）

## 【テキスト・教材】

授業資料（レシピ等）はmanabaに掲示します。各自印刷して持参してください。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 実技グループ別評価 20%（授業時にフィードバックする）
- 授業態度 20%（授業時にフィードバックする）
- レポート 30%（次回授業後にフィードバックする）
- 実技試験及び筆記試験 30%（実施時に評価）

## 調理学実習 b

長澤 美明

3年 前期 1単位 3時限連続 隔週

○：協働力

## 【授業のテーマ】

西洋料理の技術と知識の習得

## 【授業における到達目標】

学生が習得すべき「協働力」を育成し、専門的技術としての習得すべき「学術的な力」となる技能を習得する。

## 【授業の内容】

- ①カナダ産オマール海老のサラダ プランタニエール  
マグレ鴨胸肉のロースト ソース ポワヴェルパール  
ポテトのガレット  
フランス産チーズ・カマンベール・フルーツセック・パン  
マンゴーフルーツのシャーベット
- ②ミックスサンドウィッチ（ロースハム・プロセスチーズ）  
ポテトの冷製スープ ヴィシソワーズ  
トマトとメスクランのサラダ・王冠仕立て  
フランス産チーズ・サントモールサンドレ・フルーツセック  
ヴァニラのアイスクリーム
- ③スモークサーモンの各種野菜のサラダ  
パスタ・アーリオ・オーリオ・ペペロンチーノ  
赤いフルーツのタルト  
チョコレートの小菓子  
パッションのシャーベット
- ④プレーンオムレツとプティサラダ  
仔羊のロースト・マスタードソース  
グラタンドフィノワーズ  
スイス産チーズ・テートドモアンヌ・フルーツセック・パン  
パマンガのシャーベット
- ⑤フォアグラ・ピクルス・野菜のサラダ仕立て・バルサミコ風味  
真鯛の香草風味パン粉焼き・タルタルソース添え  
クスクスのカレー風味  
フランス産チーズ・ロックフォール・フルーツセック・パン  
いちごのムース・フレッシュフランボワーズ添え  
フランボワーズのシャーベット
- ⑥パーティー料理各種  
ずわい蟹のサラダ・海の幸のマリネ・カツサンド  
海老マカロニグラタン・ローストビーフ・お魚ハンバーグ  
ショートケーキ・タルト・いちごのアイスクリーム
- ⑦授業のまとめ1
- ⑧授業のまとめ2 1クラス135分 A・Bクラス連続

## 【事前・事後学修】

## 【事前学修】

manabaから使用する資料およびレシピを印刷し予習すること。（学修時間 週1時間）

## 【事後学修】

実習内容について考察し、レポートにまとめ提出すること。（学修時間 週1時間）

## 【テキスト・教材】

- ・プリント配布

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・実技試験・筆記試験50%、授業態度20%、レシピ20%、レポート10%（レポートは次回授業時にフィードバックする）

## 【注意事項】

- ・食材の仕入れ状況によりメニューを変更する可能性があります。
- ・1クラス 20名を定員とする。



**調理学特別講義**

澤山 茂

4年 前期 2単位

○：研鑽力、行動力

・古川秀子、上田玲子『続おいしさを測る』（幸書房）¥2,700（2012）

**【注意事項】**

- ・欠席、遅刻は減点の対象とするが、無遅刻、無欠席は点数を加算する。
- ・2年「調理学」の国家試験範囲の内容補足を行うので、できるだけ受講すること。

**【授業のテーマ】**

この授業は、前半は「調理学」の内容補足として、個々の食品の調理性の解説を行い、後半は「食品物性論」の解説を行う。

食べ物のおいしさにはさまざまな物理的性質が影響しているが、中でも日本の食文化はテクスチャー文化と言われるほど、テクスチャーに敏感である。そこでテクスチャーを中心に、関連するコロイド、レオロジー、テクスチャーをもたらす我々の口内の運動、さらにえん下困難者食、介護食などの解説を行う。

**【授業における到達目標】**

管理栄養士国家試験の「食べ物と健康」分野に関わる食品物性論、官能評価との関わりについて、実験例から結果を読み取り、理解度を深めることを目標とする。理解・習得した知識をもとに、健常者はもとより、高齢者の豊かな食生活に寄与できる実践力を身につけることを目標とする。学生が習得すべき「研鑽力」のうち広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とする。

**【授業の内容】**

## I. 調理プロセスでの食品の変化

1. 炭水化物を多く含む食品、でん粉類、米
2. 炭水化物を多く含む食品、小麦粉
3. 炭水化物を多く含む食品、いも類、豆類
4. タンパク質を多く含む食品、食肉類
5. タンパク質を多く含む食品、魚介類
6. タンパク質を多く含む食品、卵、乳・乳製品
7. ビタミン・無機質を多く含む食品、野菜類・果実類

## II. 食品物性論

## ○食品の状態とコロイド

8. コロイドと食品分散系の分類
9. 乳化とエマルション
10. ゼルとゲル

## ○食品とレオロジー

11. 粘性と流動
12. 弾性および年弾性体
13. 大変形の力学的性質

## ○食品のテクスチャー

14. 食品のテクスチャー
15. 咀嚼・嚥下困難者食・介護食とテクスチャー

**【事前・事後学修】**

事前学修：教科書の該当部分を熟読しておくこと。

その他の教材は、授業中に配布するとともにmanabaに掲載するので予習しておくこと。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業中に配付された試料は、紛失しないこと。学外実習、就職活動等で欠席した場合は、申し出て資料を受け取ること。課題を提示するので、指定日に必ず提出すること。（学修時間 週2時間）課題に指示された訂正箇所は、必ず行っておくこと。

**【テキスト・教材】**

川端晶子著『食品物性学』（建帛社）（1989）2,700円＋税

必要な資料は、授業中に配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業内で行う確認テスト70%、課題提出20%、授業態度10%で総合的に評価する。

出席が授業回数の2/3未満の者は試験を受けられない。課題は提出後評価して返却するので、問題点を訂正し再提出する。また、課題を総合的に理解したことをプレゼンテーションで発表し、総合討論に発展させる。

**【参考書】**

・森友彦、川端晶子編『食品のテクスチャー評価の標準化』（光/琳）¥3,240（1997）

・古川秀子『おいしさを測る』（幸書房）¥2,330（2012）

哲学入門 a

安中 隆徳

1年～ 前期 2単位

◎：美の探求 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

西欧哲学には、プラトン主義（理性が上になっていて現実を支配する思想）と、キリスト者の自由思想（人が現実を変えるという人優位の思想）がある。この二つから近代思想が出てくるが、哲学入門 a は、主にギリシャ哲学と聖書思想を紹介し、中世までをあつかう。

【授業における到達目標】

（近代とは違った先入観もある）古代思想が理解できて、現代の思想への動きも、歴史的な視野でとらえる態度と能力を身につける。

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる。

【授業の内容】

1. 人は言葉で世界を造り、そこに生きる。（ハイデッカー）
2. 初期ギリシャ哲学。神話から離して自然を語った自然哲学。
3. ソクラテスが「無知の知」によって、知の発生を説いた。
4. プラトンのイデア論。イデア（魂的な理想）が天界にあるという形で、理性優位を最初に語った。
5. プラトンのイデア論。（不確かな）現象を超えて、知恵を発生させる魂の能力。洞窟の比喩。太陽の比喩。線分の比喩。
6. イデア論の背景に、大工や鍛冶屋が材料を加工するという考え方（制作物モデル）があったようだ。
7. アリストテレスは、個物の中に形相（理想）があるとして、段階世界を語り、生物学の傾向も含んだ世界を語っている。
8. 中間のまとめ。
9. 西欧思想のもう一つの流れのヘブライ語（旧約）聖書。本来は現世で国家独立、社会改革を考えていたが、前2世紀ごろに理想実現が不可能に見えたときに、ユダヤ主義の中へ来世志向が入ったようだ。
10. プラトンやアリストテレスの上下の思想（魂を天界に想定する思考）を変形して、古代・中世の様々な世界観が語られた。
11. プロチノス。魂の浄化の理論。
12. ストア派。エピクロス派。
13. アウグスチヌス。キリスト者の哲学。
14. 近代の現世志向（哲学入門 b の内容）を予告的に紹介する。
15. まとめ。

【事前・事後学修】

事前学修。授業前に、配布したプリントの重要なところを読み直して、内容を確認する（週2時間）。

事後学修。当日のうちに、新しく出てきた用語や人名を（インターネット上など）で調べ、内容を確認する（週2時間）。

【テキスト・教材】

資料としてプリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験、80%。平常点（授業態度、課題提出）、20%。

教科書・ノート・プリントなどの資料の持ち込みを許可して、理解の記述を行う。

テーマは、3、4週間前にあらかじめ予告しておく。

小テストは次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行い、さらに先への解説を行う。

【参考書】

木田元著『反哲学入門』（新潮文庫）、526円。

哲学入門 a

哲学の歴史を学ぶ

小須田 健

1年～ 前期 2単位

◎：美の探求 ○：国際的視野、研鑽力

【授業のテーマ】

哲学は、こんにちでは世界中で広くとりくまれ研究されているが、もともとは古代ギリシアで誕生し、西洋において形成されていった特殊な思考形態である。その特殊性と普遍性とを理解してもらいたい。

【授業における到達目標】

ディプロマ・ポリシーにおける「美の探究」、「研鑽力」、「協働力」の育成をめざしたい。

【授業の内容】

以下のスケジュールはあくまで予定であって、必ずしもこのとおり進行するとはかぎらない。

- |      |              |
|------|--------------|
| 第一回  | ガイダンス        |
| 第二回  | 哲学のはじまり      |
| 第三回  | ソフィストとソクラテス  |
| 第四回  | プラトン         |
| 第五回  | プラトンとアリストテレス |
| 第六回  | ヘレニズム時代      |
| 第七回  | ヘレニズム時代 (2)  |
| 第八回  | ヘブライズム       |
| 第九回  | キリスト教        |
| 第十回  | パウロと原始キリスト教  |
| 第十一回 | アウグスティヌス     |
| 第十二回 | トマス・アキナス     |
| 第十三回 | 宗教改革         |
| 第十四回 | 普遍論争と自然科学    |
| 第十五回 | 整理とまとめ       |

【事前・事後学修】

事前学修：参考書に挙げた著作に眼をとおしておくこと（一回一時間程度）

事後学修：授業のたびに、何冊か本を指示するので、各自でそれを次回までに読む習慣を身につけてもらいたい（一回三時間程度）。

【テキスト・教材】

とくにテキストは指定しない。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学期末の試験（100%）

試験結果は授業最終回でフィードバックをおこなう。

【参考書】

アンドレ・コント＝スポンヴィル『哲学』（白水社、2010年）1050円

## 哲学入門 b

安中 隆徳

1年～ 後期 2単位

◎：美の探求 ○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

古代や中世の上下の（天動説の）宇宙観がほぼ千年ほどかかって疑われて、崩れて、次に、人間を中心として周りの自然を認識・支配する（内・外を軸とする）近代思想が現れる場面を紹介する。

### 【授業における到達目標】

近代の各々の哲学がどのように現代において有効なのかを、理解できて、現代を思想史的にとらえる態度や能力を身につける。

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる。

### 【授業の内容】

1. 古代の上下の思想の確認。古代は、魂の理想が天に実在すると考えていて、理想の問題を天地に投影していたようだ。
2. ヘブライ語聖書は、前7世紀のユダの社会改革・独立運動の書物だったようだ。現代の聖書学がとらえているヘブライ語聖書の発生。
3. 天地の古代思想（天界志向）を千年かけて疑った普遍論争。イデアは、言葉（人の判断）にすぎないと述べた唯名論。近代は、内と外へと、考え方の枠組みを変えていく。
4. 宗教改革と近代。ルターは、キリスト者が内面の理想を外に表現すると、内外を軸に考えた。
5. デカルトの方法的懐疑。確かさを求めるための懐疑。
6. デカルトの「考える私」。身心の二元論。内と外の考え方。
7. ホッブズとピューリタン革命。
8. ホッブズ。現世のルール。時代・宗派を超えようとする自然権思想。新しい国家理論。
9. ルソーとフランス革命。（被害妄想だったらしい）ルソーの伝記。
10. ルソーの自然宗教。
11. 同時代人だったルソーとヒューム。
12. ヒューム。因果律への懐疑。
13. ヒューム（の経験論）がもつ現代への影響（新自由主義のF.ハイエクへの影響）。
14. 先の時代への展望。カント。
15. まとめ。後の思想への展望。

### 【事前・事後学修】

事前学修。配布したプリントの重要なところ（下線でマークしたところ）を中心に読み返して、内容をとらえ直す（週2時間）。

事後学修。当日のうちに、新しい用語や人名を（インターネット上などの）百科事典で調べて、授業の内容を確かめる（週2時間）。

### 【テキスト・教材】

資料としてプリントを配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験、80%。平常点（授業態度、課題提出）、20%。  
教科書・ノート・プリントなど資料持ち込みを許可して、理解の記述を行う。  
テーマは、あらかじめ3、4週間前に予告しておく。

小テストは次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行い、さらに先への解説を行う。

### 【参考書】

木田元著『反哲学入門』（新潮文庫）、562円。

## 哲学入門 b

哲学の歴史を学ぶ

小須田 健

1年～ 後期 2単位

◎：美の探求 ○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

哲学は、こんにちでは世界中でとりくまれ研究されているが、もともとは古代ギリシアで誕生し、ヨーロッパで形成されていった特殊な思考形態である。その特殊性と普遍性とを理解してもらいたい。

### 【授業における到達目標】

ディプロマ・ポリシーにおける「美の探究」、「研鑽力」、「協働力」の育成をめざしたい。

### 【授業の内容】

以下のスケジュールはあくまで予定であって、必ずしもこのとおり進行するとはかぎらない。

- |      |                  |
|------|------------------|
| 第一回  | ガイダンス            |
| 第二回  | 12世紀ルネサンスから普遍論争へ |
| 第三回  | フランシス・ベーコン       |
| 第四回  | デカルト             |
| 第五回  | キリスト教と自然科学       |
| 第六回  | キリスト教と自然科学(2)    |
| 第七回  | デカルトの後継者たち       |
| 第八回  | イギリス経験論          |
| 第九回  | イギリス経験論(2)       |
| 第十回  | カント              |
| 第十一回 | ドイツ観念論           |
| 第十二回 | ヘーゲル             |
| 第十三回 | ショーペンハウアーとキルケゴール |
| 第十四回 | ニーチェ             |
| 第十五回 | まとめと反省           |

### 【事前・事後学修】

事前学修：参考書に挙げた著作に眼をとおしておくこと（一回一時間程度）

事後学修：授業のたびに、何冊か本を指示するので、各自でそれを次回までに読む習慣を身につけてもらいたい（一回三時間程度）。

### 【テキスト・教材】

とくにテキストは指定しない。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学期末におこなう試験（100%）。  
試験結果は授業最終週にフィードバックをおこなう。

### 【参考書】

ウィル・バッキンガム『哲学大図鑑』（三省堂、2012年）3800円

### 【注意事項】

半期の授業ではあるが、前期の哲学入門aを引きつぐかたちで進行するので、年間をつうじての継続的な履修が望ましい。

## 伝統衣服実習

川上 梅

2年 前期 2単位 2時限連続

◎：行動力 ○：美の探究

### 【授業のテーマ】

大裁ち女物ひとえ長着（ゆかた）の製作・着装を通して、日本の民族衣装である和服に関する理解を深め、製作技術を習得する。反物から無駄なく裁断・製作される和服は、製作、着装、保管のすべての過程において、随所に日本の精神文化が観察できる。国際社会においては、特に日本の衣文化に対する理解を深めることも大切である。

### 【授業における到達目標】

和服の構成・縫製・着装を実際に行うことで、洋服のそれらとの違いを理解し、同時に日本文化に触れる。

### 【授業の内容】

- 第1週 平面構成の特徴、採寸と寸法設定
- 第2週 柄合わせ・裁断
- 第3週 袖のしるし付け・袖縫い
- 第4週 前後身頃のしるし付け・衿のしるし付け
- 第5週 背縫い・肩当て付け
- 第6週 居敷き当て付け・衿付け
- 第7週 衿付けの始末・掛け衿の柄合わせ
- 第8週 衿のしるし付け
- 第9週 衿付け
- 第10週 三つ衿芯・衿先の始末・衿くけ
- 第11週 衿付け（衿縫い・衿付けの始末）
- 第12週 脇縫い・脇縫いの始末
- 第13週 裾くけ・袖付け・袖縫い代の始末・仕上げ
- 第14週 着装実習
- 第15週 まとめ（和服の保管・着装の基礎）

### 【事前・事後学修】

〔事前学修〕 次回授業の内容を予習しておくこと。（学修時間 週1時間）

〔事後学修〕 前回授業の課題を完成させ、習得しておくこと。（学修時間 週1時間）

### 【テキスト・教材】

資料を配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出物（70%）と授業への積極参加（30%）で総合的に評価。提出物は返却時にフィードバックを行う。

### 【参考書】

『衣服製作の科学』（建帛社）2,500円

## 伝統文化の理解と実践

ー「伝統文化の精神とマナー」に学ぶー

永井 とも子

2年～ 前期・後期 2単位

○：国際的視野、美の探求

## 【参考書】

適宜紹介する。

## 【注意事項】

受講者数は30名までとする。和室を使用する演習では白いソックスを各自用意し、受講にふさわしい服装とする。

## 【授業のテーマ】

代表的な伝統文化の講義と演習を通し「本物を体で感じ覚える」をテーマに、日本の伝統文化の精神とは何か、そこにつながる儀礼文化・有職故実（古来のきまり事）の年中行事・歳時記を学び、学祖下田歌子先生の「凛とした品格をそなえた女性」をめざし、社会に対応できるマナー・教養を身につけた「大人の女性」の出発点になる事を目標に学習する。

## 【授業における到達目標】

(1) 伝統文化と精神を理解し、今後の実社会の行動に役立つようにする。

(2) 伝統文化の体験を通じて、物事の真理を探究する態度を深め、他者を思いやる態度と伝統を継承する心構えを高め、国内外の人々との交流を通じ世界に発進する力をつける。

## 【授業の内容】

- 第1週 伝統文化、儀礼文化、マナーとは その必要性とはその1（時代の中での変化）
- 第2週 伝統文化、儀礼文化、マナーとは その必要性とはその2（現代のマナー）
- 第3週 人生の通過儀礼について（演習）  
「祝儀袋」・・・奉書紙・水引き使用
- 第4週 毛筆（筆ペン）その1  
（祝儀袋・贈答の表書きと決まり事）
- 第5週 毛筆（筆ペン）その2  
（受付での記帳～慶弔の決まり事）
- 第6週 「源氏物語」から学ぶ有職故実（年中行事・装束～香）
- 第7週 装束（十二単）1/4サイズの実物を見ながら
- 第8週 遊戯文化（百人一首・投扇興）で遊ぶ（演習）
- ※第9週 香道（演習）
- 第10週 華道とは（部屋の室礼・五節供のかざり）
- ※第11週 華道（演習）
- 第12週 茶道とは（和室での決まり事・所作）
- ※第13週 茶道（演習）
- 第14週 総括・「伝統文化の精神とマナー」に学ぶ  
「大人の女性」とは
- 第15週 まとめ・総括  
◎2週～14週まで交代で1分間スピーチも加え、  
人前での立ち姿・所作・話し方までの指導付加  
◎※印は外部講師も共に担当予定  
◎使用教室の都合で授業内容順番の変更あり

## 【事前・事後学修】

事前学修は、毎回の授業前にテキストで該当箇所を読み、予習しておくこと。（30分～1時間）

事後学修は、授業で学修したことを生活に取り入れ実践すること。及び、関連した事柄に着目し、応用力をつけるよう努力すること。（3時間～3時間半）

## 【テキスト・教材】

適宜プリント配布・DVD視聴

テキスト 永井とも子著「儀礼（マナー）は人生を拓（ひら）く」（ヒーロー出版）1800円＋税

教材費 2000円（演習教材実費）

（第3週より教材使用ため、第2週までに納入完了すること）

詳細は開講時に説明

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

【1】実技試験15% 【2】レポート25% 【3】平常点（授業への積極参加・提出課題）60%

レポートは次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

## 都市フィールドワーク

原田 謙

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：協働力

## 【授業のテーマ】

この授業は、さまざまな質的データの収集や分析方法について解説し、実際にインタビュー調査などを実施するアクティブ科目である。具体的には、観察法にもとづく質的データの収集方法や、KJ法／グラウンデッド・セオリー・アプローチといった分析方法を、おもに社会学における研究事例を通して学ぶ。そして自ら設定したリサーチ・クエスチョンに基づいて質的データを収集し、その分析結果をまとめる。

## 【授業における到達目標】

この授業の目標は、ゼミや卒論で自ら質的調査を実践する力を修得することである。フィールドワークを通じて、「研鑽力」にかかわる広い視野と洞察力を身につけ、自己や他者の役割を理解して互いに協力して物事を進めることができる「協働力」を育む。

## 【授業の内容】

1. ガイダンス：質的調査／フィールドワークとは
2. 質的データの収集：インタビュー調査、参与／非参与観察法
3. 質的データの分析：ライフストーリー分析、会話分析、グラウンデッド・セオリー・アプローチなど
4. 質的調査研究の実例1：都市社会学における写真観察法
5. 質的調査研究の実例2：KJ法／グラウンデッド・セオリー・アプローチ
6. 写真観察レポートの発表1
7. 写真観察レポートの発表2
8. オリジナル報告の企画：リサーチ・クエスチョンの設定
9. グループ・インタビューの技法
10. グループ・インタビューでの質問項目の作成
11. グループ・インタビューの実施
12. 質的データの整理：トランスクリプトの作成
13. 質的データ分析の実践：コーディング、結果図・ストーリーラインの作成
14. 分析結果の発表1
15. 分析結果の発表2

## 【事前・事後学修】

【事前学修】授業前に、参考書等を用いて該当箇所を予習しておくこと（週2時間）。

【事後学修】授業後に、学習した調査用語などを復習しておくこと（週2時間）。

## 【テキスト・教材】

適宜、プリントを配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内の成果発表（70%）、レポート（30%）にもとづいて評価する。成果発表およびレポートのフィードバックは授業内に（もしくはmanabaで）行う。

## 【参考書】

- 大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋（2013）『新・社会調査へのアプローチ——論理と方法』ミネルヴァ書房
- 佐藤郁哉（2008）『質的データ分析法——原理・方法・実践』新曜社
- 谷富夫・芦田徹郎編（2009）『よくわかる質的社会調査 技法編』ミネルヴァ書房

## 【注意事項】

グループワークを中心とする「アクティブ科目」のため、受講人数は30人までとする。また授業時間外に資料収集やフィールドワークを実施する。成果発表も複数回実施するので、これらの点を十分に考慮して登録するように。希望者が上限を超過した場合は、抽選の上、履修登録者を決定する。

**都市社会学特論**

原田 謙

人間社会専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

本科目は、都市の空間・社会構造をとらえる理論を理解し、実証研究を進めるために必要な社会地区分析やネットワーク分析などの方法を身につけることを目的とする。さらに地域特性に応じた「まちづくり」の現状と構想について、自治体と住民の協働（パートナーシップ）の視点などから検討する。

**【授業における到達目標】**

この授業の目標は、都市を分析する理論と方法、そして地域特性に応じた「まちづくり」の現状と今後の課題について考える知識を身につけることである。現代日本における地域社会の現状を正しく把握し、問題解決につなげる「行動力」を養成する。

**【授業の内容】**

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 シカゴ学派の都市研究
- 第3回 社会地図と地理情報システム
- 第4回 社会的ネットワークと下位文化
- 第5回 都市化と地域社会の変容
- 第6回 郊外社会とサババニズム
- 第7回 グローバリゼーションと都市エスニシティ
- 第8回 分極化する都市と貧困層
- 第9回 地方の衰退と中心市街地活性化
- 第10回 コミュニティ論とまちづくり
- 第11回 地域振興とまちづくり
- 第12回 福祉・健康とまちづくり
- 第13回 歴史・景観とまちづくり
- 第14回 安全・安心とまちづくり
- 第15回 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】授業前に、参考書等を用いて該当箇所を予習しておくこと（週2時間）。

【事後学修】授業後に、学習した概念、地域の事例などを復習しておくこと（週2時間）。

**【テキスト・教材】**

適宜、プリント等を配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業内課題（50%）および報告ペーパー（50%）に基づいて評価する。課題の評価などのフィードバックは授業内に行う。

**【参考書】**

- 森岡清志編（2008）『地域の社会学』有斐閣
  - 森岡清志編（2012）『都市社会学セレクションⅡ都市空間と都市コミュニティ』日本評論社
  - 似田貝香門ほか編（2008）『まちづくりの百科事典』丸善
  - 原田謙（2017）『社会的ネットワークと幸福感——計量社会学でみる人間関係』勁草書房
- その他の参考文献は、授業内に適宜指示する。

**東京ガイド論**

英語で日本文化事象を説明する

野瀬 元子

1・2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、協働力

**【授業のテーマ】**

本演習は、通訳ガイドとして日本の観光地や日本文化の紹介を行う際、異文化間の媒介者として必要となるスキルを身に付けることを目的とする。授業では日本食や日本文化に関する説明場面が必要となる知識習得、発信練習を行う。

具体的には、スキルの一要素と考えられる外国人の視点や興味に対する察知能力を高め、それらを意識した情報提供を心掛けられるようになるために、日本食や日本文化の説明に必要な知識を身につける。その後、知識に留まらず発信できるようにするため、各自が自分で決めたテーマについてプレゼンテーションを行うことを最終目標とする。

**【授業における到達目標】**

- ・日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度をみにつける。
  - ・目標であるプレゼンテーションを自らに課し、計画を立案・実行できる。
- ◎：国際的視野 ○：研鑽力、協働力
- ・英語による日本文化の説明に関わる基礎的な用語・表現を修得する。

**【授業の内容】**

1. イントロダクション  
外国人の視点からみた日本のインバウンド観光
2. 寿司1 (テキストによる用語説明)
3. 寿司2 (小テスト、聞き取り)
4. 寿司3 (小テスト、発音練習)
5. 寿司4 (ロールプレイング)
6. 懐石料理1 (テキストによる用語説明)
7. 懐石料理2 (小テスト、聞き取り)
8. 懐石料理3 (小テスト、発音練習)
9. 懐石料理4 (ロールプレイング)
10. 明治神宮 (ロールプレイング)
11. テーマ別演習1 (発表テーマ・役割分担の決定)
12. テーマ別演習2 (発表原稿の確定、発音確認)
13. テーマ別演習3 (プレゼンテーション・リハーサル)
14. プレゼンテーション1 1～6グループ
15. プレゼンテーション2 7～12グループ

**【事前・事後学修】**

事前学修：配布プリントの文章のなかで、わからない単語は辞書を引き、発音やアクセントが不明な単語は音声を繰り返し聞き、確認する。何度も声を出して発音練習を行う。(事前学修時間 週2時間)

事後学修：プレゼンテーション原稿の作成に向けて、図書館で文献を探し、定められた時間の中で口頭説明が終えられるように繰り返し声を出して練習する。(事後学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

プリントを使用する

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

配分基準：毎回の授業への取り組みや実技への参加 50%、プレゼンテーション 50%

実技後のフィードバックは授業時に都度、フィードバックを行います。

**【注意事項】**

ガイドは口頭で情報を提供する役割を担います。そのため、必要な情報を調べて、知識を習得する事前準備、聞き手にとってわかりやすい発音、イントネーションを心がけて発話することが重要となります。

**東京文化事情**

野瀬 元子

1・2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

異文化間における国際コミュニケーションでは、他者に対して自己を呈示するスキルが必要となります。そうしたスキルの獲得には、誰かに説明することを前提に、自分自身に関係する事柄について興味を持つということがその第一歩となるといえるでしょう。授業では外国人向けに作成された東京を特集した映像をみて、どういったところに興味を持たれているのか確認します。異なる視点からみた東京を確認後、毎回の授業では、実際に出かけて見に行くことのできる街、建築物、史跡を取り上げ、江戸から東京の変遷、カルチャーの発信地としての東京という切り口から、東京の成り立ちや文化について学びます。

本授業は「東京シティガイド検定試験」(試験はすべて日本語)を目指す学生の受講を想定し、出題範囲(テキスト)について地図・写真・資料・映像の使用による確認作業を行います。

自分が訪ねて確認してみようと思うテーマを見つける意識を持って授業に出席してください。最後に、興味を持ったことについて文献調査、実地調査したことをまとめて、自分の言葉で説明(プレゼンテーション)する機会を持ちます。

**【授業における到達目標】**

- ・日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度をみにつける。
  - ・自己や他者の役割を理解し、互いに協力してグループ・プレゼンテーションを進めることができる。
- ◎：国際的視野 ○：行動力、協働力
- ・教科書の単元ごとのキーワードを説明できるようになる。
  - ・東京の地理・歴史に関する基礎的な知識を修得する。

**【授業の内容】**

1. 授業の進め方の説明
2. メガシティ東京の概略
3. 江戸の変遷1 (成り立ち)
4. 江戸の変遷2 (江戸城造営)
5. 江戸の変遷3 (江戸の文化)
6. 東京の変遷1 (明治期)
7. 東京の変遷2 (大正昭和初期)
8. 東京の変遷3 (東京五輪前後)
9. 東京の変遷4 (70年代～90年代)
10. 東京の変遷5 (2000年代以降)
11. プレゼンテーションテーマの検討
12. プレゼンテーションテーマの発表
13. プレゼンテーション準備
14. プレゼンテーション1 (1～5グループ)
15. プレゼンテーション2 (6～10グループ)

**【事前・事後学修】**

事前学修では、授業各回で指示するテキストの箇所を読み、地図で場所を確認してくる。 (事前学修時間 週2時間)

事後学修では、各単元の小テストに解答すること。また、レポート作成にあたって、図書館での文献調査、対象とする施設や地域を実際に訪れて観察、インタビュー調査、資料収集などのフィールドワークを行う。これらの成果をグループワークで持ち寄り、グループ発表テーマを討議できるように必要な情報・データを収集する。(事後学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

財団法人東京観光財団『江戸東京まち歩きブック』(中央経済社、2017) 2,300円+税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点(授業態度・課題提出)10%、プレゼンテーション30%、レポート60%

毎回の授業で執筆するリアクション・ペーパーの内容や質問につ



いては次回の授業でフィードバックを行います。レポートは提出後の授業でフィードバックを行います。

**【注意事項】**

パワーポイントを使用したグループ発表が課されます。

## 東京文化事情

野瀬 元子

1・2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力、協働力

いては次回の授業でフィードバックを行います。レポートは提出後の授業でフィードバックを行います。

### 【注意事項】

パワーポイントを使用したグループ発表が課されます。

### 【授業のテーマ】

異文化間における国際コミュニケーションでは、他者に対して自己を呈示するスキルが必要となります。そうしたスキルの獲得には、誰かに説明することを前提に、自分自身に関係する事柄について興味を持つということがその第一歩となるといえるでしょう。授業では外国人向けに作成された東京を特集した映像をみて、どういったところに興味を持たれているのか確認します。異なる視点からみた東京を確認後、毎回の授業では、実際に出かけて見に行くことのできる街、建築物、史跡を取り上げ、江戸から東京の変遷、カルチャーの発信地としての東京という切り口から、東京の成り立ちや文化について学びます。

本授業は「東京シティガイド検定試験」（試験はすべて日本語）を目指す学生の受講を想定し、出題範囲（テキスト）について地図・写真・資料・映像の使用による確認作業を行います。

自分が訪ねて確認してみようと思うテーマを見つける意識を持って授業に出席してください。最後に、興味を持ったことについて文献調査、実地調査したことをまとめて、自分の言葉で説明（プレゼンテーション）する機会を持ちます。

### 【授業における到達目標】

- ・日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度をみにつける。
- ・自己や他者の役割を理解し、互いに協力してグループ・プレゼンテーションを進めることができる。
- ◎：国際的視野 ○：行動力、協働力
- ・教科書の單元ごとのキーワードを説明できるようになる。
- ・東京の地理・歴史に関する基礎的な知識を修得する。

### 【授業の内容】

1. 授業の進め方の説明
2. メガシティ東京の概略
3. 江戸の変遷1（成り立ち）
4. 江戸の変遷2（江戸城造営）
5. 江戸の変遷3（江戸の文化）
6. 東京の変遷1（明治期）
7. 東京の変遷2（大正昭和初期）
8. 東京の変遷3（東京五輪前後）
9. 東京の変遷4（70年代～90年代）
10. 東京の変遷5（2000年代以降）
11. プレゼンテーションテーマの検討
12. プレゼンテーションテーマの発表
13. プレゼンテーション準備
14. プレゼンテーション1（1～5グループ）
15. プレゼンテーション2（6～10グループ）

### 【事前・事後学修】

事前学修では、授業各回で指示するテキストの箇所を読み、地図で場所を確認してくること。（事前学修時間 週2時間）

事後学修では、各単元の小テストに解答すること。また、レポート作成にあたって、図書館での文献調査、対象とする施設や地域を実際に訪れて観察、インタビュー調査、資料収集などのフィールドワークを行う。これらの成果をグループワークで持ち寄り、グループ発表テーマを討議できるように必要な情報・データを収集する。（事後学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

財団法人東京観光財団『江戸東京まち歩きブック』（中央経済社、2017）2,300円＋税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・課題提出）10%、プレゼンテーション30%、レポート60%

毎回の授業で執筆するリアクション・ペーパーの内容や質問につ

**東洋の美術 a**

中国仏教彫刻史（2）

萩原 哉

2年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

先史時代から北魏時代までの中国彫刻、とくに仏教彫刻の歴史について、画像、映像等による作品鑑賞をまじえながら概観する。各時代の代表的な作品について、それぞれの造形的特色とその特色の変化を視覚的に理解するとともに、それらを生み出した歴史的要因や造形の基盤となった思想、文化について理解を深める。さらに、中国の仏教彫刻が日本の仏教彫刻に与えた影響についても解説する。

**【授業における到達目標】**

- ①先史時代から北魏時代までの中国彫刻、仏教彫刻の歴史の大きな流れを理解する。
- ②各時代の代表的な作品を知り、それぞれの造形的な特色を理解する。
- ③中国彫刻史の変遷を促した歴史的・文化的な要因を理解する。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 中国美術の萌芽 新石器時代の彫刻的造形
- 第3週 夏・殷・周時代の美術 青銅器文化の世界
- 第4週 秦始皇帝陵の兵馬俑と漢代の石彫像
- 第5週 仏教の伝来と初期の仏教的造形
- 第6週 五胡十六国時代（1） 古式金銅仏と北涼石塔
- 第7週 五胡十六国時代（2） 甘粛省の石窟寺院
- 第8週 敦煌莫高窟（1） 北涼～北魏時代
- 第9週 敦煌莫高窟（2） 北魏時代
- 第10週 雲岡石窟（1） 曇曜五窟
- 第11週 雲岡石窟（2） 第2期の造営
- 第12週 龍門石窟（1） 古陽洞
- 第13週 龍門石窟（2） 賓陽中洞
- 第14週 北魏造像の展開
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修 参考書の授業内容に関連する部分を読んでおくこと（学修時間 週2時間）。

事後学修 配布資料をよく読み、きちんと復習をすること。主要な作品については、美術全集等の大型図版を参照するとともに、図版解説や事典類をよく読み、基本データ（名称、制作年代、材質、寸法、所蔵者・所在地）、制作の目的と経緯、様式的・技法的な特色などについての理解を深めること（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

テキスト（教科書）なし。毎回、プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験70%、平常点30%。

平常点はリアクションペーパー（毎回、授業の感想、質問等を書いて提出してもらう）の内容により評価する。リアクションペーパーについては、次回授業時にフィードバックする。

なお、博物館、展覧会等の見学レポートを課す場合がある。

**【参考書】**

- 朴亨國監修『東洋美術史』（武蔵野美術大学出版局 2016年）  
『世界美術大全集 東洋編』1・2・3（小学館）  
『中国石窟』龍門石窟、敦煌莫高窟、雲岡石窟 他（平凡社）  
松原三郎『中国仏教彫刻史論』（吉川弘文館 1995年）  
石松日奈子『北魏仏教造像史の研究』（ブリュッケ 2005年）

**【注意事項】**

中国美術、仏教美術に関連する展覧会、博物館、美術館等に積極的に足を運び、実際に作品を鑑賞する機会を多くもつよう心がけて欲しい。なお、授業期間中に東京国立博物館東洋館の見学会を実施する予定である。

**東洋の美術 b**

中国の古美術工芸を中心に

徳留 大輔

2年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

中国の新石器時代から明清時代における青銅器、玉器、漆器、彫刻などの美術工芸史を概観する。また数千年の時間軸の中で、それらの作品の造形性やデザインにおける共通性や相違性を見ていくことで、それらの作品が生み出された背景、美に対する価値観の様相や多様性についても考察したい。

**【授業における到達目標】**

中国の美術工芸史の学習を通して、美術史を中心に、さらに考古学・歴史学の研究成果を応用した研究の手法を修得する。またそれらの作品に対する評価・説明する能力を身につけることで「美の探求」の姿勢を修得する。そして日本や韓国の美術とを比較する視点を養い、学生が修得すべき「国際的視野」を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 新石器時代の美術工芸①
- 第3週 新石器時代の美術工芸②
- 第4週 商周時代の美術 青銅器
- 第5週 商周時代の美術 青銅器と文字の歴史
- 第6週 商周時代の美術 玉器
- 第7週 漢時代の美術① 画像石と神話
- 第8週 漢時代の美術② 鏡のはなし
- 第9週 魏晋南北朝の美術工芸
- 第10週 唐・五代の美術工芸
- 第11週 宋～清時代の美術工芸と古典へのまなざし
- 第12週 中国の漆芸史
- 第13週 シルクロード上の東西美術交流
- 第14週 博物館見学（土曜日から日曜日に実施を予定しています。日時未定ですが、見学は前倒して後期の講義期間の前半の週に行う予定です）
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】講義の内容に合わせて、下記の参考書の該当する箇所を読むこと（学修時間 週2時間）

【事後学修】ノート・配布資料を読み直すこと。また積極的に授業で紹介した作品などに関して、類品を含め美術館・博物館で見学したり、文献・図録などで確認すること（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

授業ごとに適宜資料の提示、参考資料の配付等を行う。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点50点（授業態度、リアクションレポート）、期末レポート50点。

リアクションレポート（授業中に紹介する作品等に関するレポート〈短文〉、質問など）のフィードバックは次回の授業時に行う。

**【参考書】**

- 『世界美術大全集 東洋編』（小学館）  
朴亨國監修『東洋美術史』（武蔵野美術大学出版局 2106年）

**【注意事項】**

東洋の美術工芸に関する展覧会、博物館、美術館等に積極的に見学することを望みます。作品を実際に鑑賞することで理解できる質感やスケール感を大切にしたい。なお、授業期間中に東京国立博物館東洋館の見学を予定しています。

東洋史 a

熊谷 滋三

1年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

アジアの歴史について、できるだけ多くの時代・地域・分野の問題をとりあげて講義する。王朝・国家の興亡や社会をゆるがした大事件から、生業や食事のような日常生活上の小さなことまで、東洋史上のさまざまな事象を学ぶことによって、アジアの歴史の多様な側面とその歴史のなかではぐくまれてきた多彩な文化に対する理解を深め視野をひろげることと、さまざまな史料から史実を解明していく東洋史学の研究手法を知ることによって、情報を批判・検証する習慣・能力を養うこと、そして、歴史を知る意義について考える基礎を得ることができるよう、講義をしていく。

【授業における到達目標】

講義を聴いて、アジア史の事象や文化について正確に理解し、その内容を適切な文章で表現する力と、文字や映像等の情報を批判して問題点を発見する力を修得することが、この授業の到達目標である。これらは、学生が修得すべき「国際的視野」のうちの相互の理解と協力を築こうとする態度、また「研鑽力」のうちの本質を見抜く力と、「行動力」のうちの課題を発見する力とを修得することに関連するものである。

【授業の内容】

- 第1週 東洋史序説 1 (アジアの歴史的景観)
- 第2週 東洋史序説 2 (アジアの風土と歴史)
- 第3週 中国 1 (神話と古代史)
- 第4週 中国 2 (古代文明)
- 第5週 中国 3 (戦乱と統一)
- 第6週 中国 4 (「中華」と「蛮夷」)
- 第7週 中国 5 (歴史と記録)
- 第8週 インド 1 (「インド」概観)
- 第9週 インド 2 (古代)
- 第10週 インド 3 (中世)
- 第11週 東南アジア 1 (海洋生活文化圏の「発見」)
- 第12週 東南アジア 2 (インドネシアの歴史的景観)
- 第13週 東南アジア 3 (ジャワの古代遺跡)
- 第14週 東アジアと南アジア・東南アジア
- 第15週 全体のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】配布資料に目を通し、概略を把握するとともに、不明な点についてチェックしておくこと。(学修時間 週1時間)

【事後学修】講義内容について、配布資料とノートの内容をもとに復習し、指示された課題に取り組むことと、興味を持った点について、参考書やインターネットなどを利用して調べてみる。(学修時間 週3時間)

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験90%、平常点(提出課題)10%。課題については次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

松田壽男『アジアの歴史』(岩波同時代ライブラリー)  
 なお、個別のテーマごとの参考書は授業で適宜紹介する。

東洋史 b

熊谷 滋三

1年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

アジアの歴史について、できるだけ多くの時代・地域・分野の問題をとりあげて講義する。王朝・国家の興亡や社会をゆるがした大事件から、生業や食事のような日常生活上の小さなことまで、東洋史上のさまざまな事象を学ぶことによって、アジアの歴史の多様な側面とその歴史によってはぐくまれてきた多彩な文化に対する理解を深め視野をひろげることと、さまざまな史料から史実を解明していく東洋史学の研究手法を知ることによって、情報を批判・検証する習慣・能力を養うこと、そして、歴史を知る意義について考える基礎を得ることができるよう、講義をしていく。

【授業における到達目標】

講義を聴いて、アジア史の事象や文化について正確に理解し、その内容を適切な文章で表現する力と、文字や映像等の情報を批判して問題点を発見する力を修得することが、この授業の到達目標である。これらは、学生が修得すべき「国際的視野」のうちの相互の理解と協力を築こうとする態度、また「研鑽力」のうちの本質を見抜く力と、「行動力」のうちの課題を発見する力とを修得することに関連するものである。

【授業の内容】

- 第1週 東洋史序説 1 (アジアの風土と文化圏)
- 第2週 東洋史序説 2 (アジアの文化圏と交通路)
- 第3週 アジア史とシルクロード 1  
 (「草原の道」と「砂漠の道」)
- 第4週 北アジア 1 (匈奴と漢)
- 第5週 北アジア 2 (鮮卑族の活動)
- 第6週 北アジア 3 (突厥第一帝国)
- 第7週 北アジア 4 (突厥と唐)
- 第8週 アジア史とシルクロード 2 (シルクロード史余話)
- 第9週 アジア史とシルクロード 3 (「海の道」)
- 第10週 東アジア 1 (日本の遣隋使)
- 第11週 東アジア 2 (遣隋使をめぐる諸問題)
- 第12週 東アジア 3 (初期の遣唐使)
- 第13週 東アジア 4 (最後の遣唐使)
- 第14週 アジアの歴史と文化
- 第15週 全体のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】配布資料に目を通し、概略を把握するとともに、不明な点についてチェックしておくこと。(学修時間 週1時間)

【事後学修】講義内容について、配布資料とノートの内容をもとに復習し、指示された課題に取り組むことと、興味を持った点について、参考書やインターネットなどを利用して調べてみる。(学修時間 週3時間)

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験90%、平常点(提出課題)10%。課題は次回授業、試験は授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

松田壽男『アジアの歴史』(岩波同時代ライブラリー)  
 なお、個別のテーマごとの参考書は授業で適宜紹介する。

**東洋美術史演習A**

研究方法の確立

官崎 法子

美術史学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

自らの美術史研究の方法を確立するために、作品について様々な角度から分析考察する力を養うとともに、論文執筆のための具体的な問題について検討する。研究のためのフィールドワークを自主的に進めるようにする。

**【授業における到達目標】**

将来自立した研究者となるための基礎を作ることを目標とする。その一環として調査・研修旅行などを準備し実現するための力を身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週 各自の関心や修士論文作成に関連する研究テーマの決定
- 第2週 テーマに沿った研究計画を立てる
- 第3週 作品の題跋の収集と分析
- 第4週 作品の題跋の考察
- 第5週 作品の伝来に関する資料収集と分析
- 第6週 作品調査
- 第7週 調査結果のまとめ
- 第8週 関連資料の読解
- 第9週 関連資料の分析
- 第10週 受講者Aグループによる研究の第一次報告
- 第11週 受講者Bグループによる研究の第一次報告
- 第12週 問題点の再確認
- 第13週 受講者Aグループによる研究成果の発表
- 第14週 受講者Bグループによる研究成果の発表
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

大学院では、各自の学修が基本になるため、日常的に関連資料や作品の収集を行い、分析し解釈する作業を行う。演習は、その報告と方法にかんする指導の場である。各回、各自の問題点を整理把握し的確に示すことができるようにすること。

事前事後学修 各週3～4時間

**【テキスト・教材】**

必要に応じて、授業中に指示、配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への積極参加・課題への取り組み）30%  
各自の問題意識に基づき、授業中に発表したものをもとに、助言やコメントなどを反映させまとめた期末レポート 70%

**【参考書】**

参考資料や論文は、授業中に指示する。

**【注意事項】**

中国や台湾を含む研修旅行など必要に応じて行う。積極的に参加し、主体的に準備などを行うことが求められる。

**東洋美術史演習B**

研究の深化

官崎 法子

美術史学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

東洋美術史演習Aに引き続き、自らの研究方法の確立と、分析考察の能力の一層の向上を図る。論文執筆のための諸問題についても検討する。

**【授業における到達目標】**

将来自立した研究者となるための基礎を確立することを目標とする。その一環として研修旅行・調査旅行を企画準備する力を身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週 東洋美術史演習Aの課題レポートについての総評
- 第2週 関連資料Aの講読と分析
- 第3週 関連資料Bの講読と分析
- 第4週 関連資料Cの講読と分析
- 第5週 関連資料A～Cの解釈についてまとめ
- 第6週 関連作品の分析 概要
- 第7週 関連作品に分析 詳細
- 第8週 関連作品と文献の総合的考察
- 第9週 作品実地調査
- 第10週 調査結果の分析
- 第11週 受講者による中間報告
- 第12週 受講者Aグループによる研究成果の発表
- 第13週 受講者Bグループによる研究成果の発表
- 第14週 問題点の再確認
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

東洋美術史演習Aの成果を確認し、提出したレポートの内容を自身で見直しておくこと。

基本的に学生各自が資料や作品収集を行い、その読解や分析作業を進めた上で、演習に参加することになる。各自がそのなかで問題点や課題を確認発見し、それを持ち寄り、報告することが求められる。

事前事後学修 各週3～4時間

**【テキスト・教材】**

授業中に指示する。必要があれば配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への積極参加、授業中の成果発表）30% 成果発表を深化させたレポート 70%  
個別に面談し、レポートへの講評と、フィードバックを行う。

**【参考書】**

授業中に指示する。

**【注意事項】**

必要に応じて、中国、台北などへの調査・研修旅行を行うことがある。

**東洋美術史研究指導特殊演習A**

研究方法の確立

宮崎 法子

美術史学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

これまで培った美術史学の方法論を再確認し、中国絵画史の諸問題を具体的作品に即して考察する力を発展させ、作品を適切に位置づけ、作品とそれを取り巻く様々な情報を把握分析する力を養う。また、作品調査を適切に企画実行する方法を学ぶ。

**【授業における到達目標】**

受講者の研究課題に関連する諸問題を適切に把握し、分析考察する力を高める。そのために、作品調査を適切に企画準備実行する能力を身につける。

**【授業の内容】**

1. オリエンテーション
2. 作品様式の分析の再確認
3. 作品様式の言語化
4. 作品上の文字資料の分析と解釈
5. 作品に付随する資料の分析と解釈
6. 作品に関する文献資料の分析
7. 作品に関する著録の分析と解釈
8. 画家に関する文字資料の解釈
9. 同時代画家の作品比較と分析
10. 先行する画家の作品の分析
11. 先行する画家の作品との相互比較と分析
12. 作品調査の企画
13. 作品調査の方法
14. 作品調査の成果のまとめ方について
15. 発表と総括

作品調査のための国内外の旅行を行う場合がある。

**【事前・事後学修】**

各回の課題の検討による事前事後学習を行うことが、最も重要である。事前事後学修 合わせて週6時間程度。

**【テキスト・教材】**

授業内で適宜配付、指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

毎回の準備と授業内での発言など平常点が10%。成果のまとめとしての口頭発表20%。期末レポート70%  
演習Bの初回到レポートの講評と、フィードバックを行う。

**【参考書】**

授業内で指示する。

**【注意事項】**

必要によって調査（国内、国外）を行う場合がある。

**東洋美術史研究指導特殊演習B**

研究成果をまとめる

宮崎 法子

美術史学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

これまで培った研究成果を統合発展させ、よりよい形でまとめるために、高次の研究能力を養う。

**【授業における到達目標】**

博士論文のアウトラインを構築し、そのための基礎資料の全体を確実に把握し、整理する。

**【授業の内容】**

1. 東洋美術史特殊指導演習Aのレポートの検討と新課題の確認。
2. 課題解決に向けての研究方針の検討。
3. 現存作品の再検討と分析。
4. 現存作品に関する新たな関連文献資料の収集と分析。
5. 比較作品と著録に関する新たな関連資料の収集と分析。
6. これまで収集した資料の総合的分析。
7. 作品調査
8. 調査の分析
9. これまでの成果のまとめ方と論述に関する検討。
10. 中間発表。
11. 発表についての総括と新たな検討課題の発見。
12. 新課題解決のための作業。
13. 新課題を含めた成果のまとめ。
14. 最終口頭発表。
15. まとめ。

国内外の調査旅行を行うことがある。

**【事前・事後学修】**

この授業では、履修者の事前事後学修が最も重要である。毎回履修者は、演習のために準備をし、それについて検討する形で演習を行い、その結果をさらに積み重ね発展させながら、次回の演習に備える。事前事後学修は、週8時間以上。

**【テキスト・教材】**

適宜指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業での発言や準備状況などの平常点10%。口頭発表20%。それらの成果として、博士論文につながる形での期末レポート70%。  
個別に面談し、レポートについての講評とフィードバックを行う。

**【参考書】**

適宜指示する。

**【注意事項】**

国内外の調査を行う場合がある。

**東洋美術史特殊研究A**

美術史研究の諸問題

官崎 法子

美術史学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

作品を見る力、読み解く力を養い、同時を取り巻く様々な情報を把握分析する力を養う。

美術史学に共通する様々な方法論を検討し、絵画史の諸問題を中国絵画に即して考察する。

**【授業における到達目標】**

作品分析や資料解釈の力を高めつ、幅広い視野によって各自の課題を考察できる。

**【授業の内容】**

1. 課題の設定
2. 日本における中国美術の受容について
3. 世界の中国美術コレクション
4. 作品上の題跋印章について
5. 工具書や、文献資料の引用や扱い方について
6. 作品を読む ディスクリプション
7. 作品を読む 様式の分析
8. 作品の周辺資料を読む 伝来と著録について
9. 作品の調査方法と成果のまとめ方について
10. 見学授業の事前検討
11. 見学授業
12. 見学授業の総括
13. 発表1次
14. 発表2次
15. 総括

**【事前・事後学修】**

授業中にテキストとして使用するため、受講者各自の興味や問題意識に即した作品や関連漢文資料を受講者が準備すること。

また、毎回、授業のまとめを報告してもらうか必要な課題を課し、次回に提出してもらう。

事前事後学修時間 週5時間

**【テキスト・教材】**

授業中に指示し、必要があれば配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への積極参加・中間発表など）20%

期末レポート80%

特殊研究Bにおいて、Aのレポートについての講評と指導を行う。

**【参考書】**

適宜指示する。

**東洋美術史特殊研究B**

美術史研究の諸問題

官崎 法子

美術史学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

作品を見る力、読み解く力や、作品や画家に関する様々な情報の把握力、分析力をより向上させ、確かなものとする。

具体的な作品を取り上げ、その分析や考察を通じて、美術史学に共通する方法論を深化させ、絵画史の諸問題への総合的な洞察力や解決力を高める。

**【授業における到達目標】**

美術史学の様々な方法論を適切に応用し、幅広い視野に立って個別の課題を解決することが出来る。

**【授業の内容】**

1. 東洋美術史特殊研究Aの課題レポートの検討。
2. 新たな問題点の発見と、課題の設定。
3. 関連作品の概要把握。
4. 関連文献資料の概要把握。
5. 作品の分析とその深化。
6. 題跋の読解とその分析。
7. 著録の読解とその分析。
8. 画家資料の読解とその分析。
9. 絵画作品と文献資料の総合的分析。
10. 見学授業。
11. 見学の総括。
12. 中間発表。
13. 中間発表の総括と課題の再確認。
14. 最終発表。
15. 総括

**【事前・事後学修】**

東洋美術史特殊研究Aのレポートを検討しておくこと。

毎回の授業内容のまとめ或いは授業内で指示した課題を毎回提出してもらう。学修時間 週5時間

**【テキスト・教材】**

授業中に指示し、必要があれば配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への積極参加・中間発表など）20%

期末レポート80%

個別に面談し、レポートの講評と指導を行う。

**【参考書】**

適宜指示する。

**東洋美術史特論A**

中国美術史研究の諸問題

宮崎 法子

美術史学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

作品を見ること、作品とそれを取り巻く様々な情報を把握分析する力を養う。

美術史学の方法論を検討しつつ、中国絵画史の諸問題を具体的作品や事例に即して考察する。

**【授業における到達目標】**

研究上の課題を解決する力を身につける。

**【授業の内容】**

まず、数回、中国美術コレクションの現状や中国絵画の特色と日本との関係などについて、東アジア美術全体との関係を展望する視点から講義を行う。後半は、受講者による発表形式をとる。

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 日本における中国画受容史
- 第3週 世界の中国画コレクション
- 第4週 中国文化の基礎知識
- 第5週 中国美術史研究の基礎知識と工具書
- 第6週 漢文資料の基礎知識と引用方法
- 第7週 漢文資料の読解
- 第8週 作品を読む 主題について
- 第9週 作品を読む 構図・筆墨法など
- 第10週 作品を読む 様式分析
- 第11週 周辺の情報 伝来と著録について
- 第12週 見学授業
- 第13週 受講学生による発表 2年次生
- 第14週 受講学生による発表 1年次生
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

学部の中国美術史入門abの内容を復習しておくこと。

関連の展覧会を積極的に見学すること。

授業ごとに内容を各自まとめ、報告書として提出する。

事前事後学修 各週2時間以上

**【テキスト・教材】**

漢和辞典『新字源』（角川書店）を使用する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業内の発表30%。発表の際に指摘された点などを考慮し、まとめたレポート70%。

原則として東洋美術史特論Bを続けて受講すること。

マナバにて、レポートについての講評を行い、また東洋美術史特論Bの初回で、添削したレポートを返却する。

**【参考書】**

宮崎法子『花鳥・山水を読み解くー中国絵画の意味』（角川学芸叢書 2003年刊、或いは2018年刊のちくま学芸文庫版）を読んでおくこと。

その他は授業中に適宜指示する。

**東洋美術史特論B**

中国絵画分析の深化

宮崎 法子

美術史学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

作品の様式分析や、主題、題詩や印章など作品上の様々な情報を把握し、また文献資料の読解や分析方法を学ぶ。

関連する展覧会や作品調査の機会を設け見学授業を行う予定。

**【授業における到達目標】**

作品分析や関連資料の分析力、理解力を深め、研究を深化させる。

**【授業の内容】**

具体的な作品に即して、画家、作品の主題、描写などの情報や周辺資料に関する講義を行い、後半は、それに基づき受講者が考察した成果を発表し、さらに発表時の討論やコメントを反映し修正し、再度発表を行う。

- 第1週 東洋美術史特論Aの課題レポートについての講評と分析
- 第2週 画家の伝記など文献資料の収集について
- 第3週 文献資料の読解について
- 第4週 文献資料の分析について
- 第5週 作品上の情報（款識、題跋、印章）について
- 第6週 作品上の情報を読む（款識）
- 第7週 作品上の情報を読む（題跋）
- 第8週 作品上の情報を読む（印章）
- 第9週 作品の伝来に関する資料について
- 第10週 見学授業
- 第11週 宋～元絵画をテーマとした履修者の発表
- 第12週 明～清絵画をテーマとした履修者の発表
- 第13週 宋～元絵画をテーマとした履修者の改訂内容の発表
- 第14週 明～清絵画をテーマとした履修者の改訂内容の発表
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

自身の前期のレポートを読み直し、総括しておくこと。

見学授業以外でも、日常的に展覧会を見学すること。

課題となっている資料を事前に読み、復習する。

各回の授業や発表について、内容をその都度確認し毎回報告書としてまとめ提出する。

事前事後学修、3時間程度。

**【テキスト・教材】**

漢和辞典『新字源』角川書店 を使用する。

他は、授業内で指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への積極参加・授業内の発表）30%

授業内での発表の際に指摘された点を考慮しまとめた期末レポート70%

マナバや個別面談で添削したレポートを返却し、フィードバックする。

**【参考書】**

宮崎法子『花鳥・山水を読み解くー中国絵画の意味』（ちくま学芸文庫 2018年）。

他、参考文献、資料は授業内で適宜指示する。



## 統計とモデリング

高橋 徹

1年 後期 2単位

○：行動力

### 【授業のテーマ】

世の中には多くの情報がありますがこの中には正しいものもあれば間違っているものも多くあります。その正否を決める一つの根拠となり得るのが量です。ただ、この量がどれだけ多ければよいか、何に対してどの量なら正しいといえるのかを決める必要があります。これらを扱うのが統計です。統計を知れば情報の正否の判断が行えるようになります。この授業では統計の基礎を学びながら、インターネットなどにある情報の正否について考えていきます。

また、現象を説明・予測するための方法としてモデリングがあります。統計を使うことでモデリングすることもできます。一方で、統計を使わずボトムアップにモデリングをする方法もあります。これらの差について、統計やプログラミングを通して学んでもらいます。

### 【授業における到達目標】

1. 数理的な基礎を身につけ情報の正否を決める能力を身につける
2. 「行動力」を社会現象の理解から問題を見つけることを通して身につける

### 【授業の内容】

1. オリエンテーション
2. 表計算の基礎
3. 様々な統計量
4. ニュースと統計
5. 統計を使った情報の分析（導入）
6. 統計を使った情報の分析（調査）
7. 統計を使った情報の分析（発表）
8. オープンデータの統計処理（導入）
9. オープンデータの統計処理（仮説生成）
10. オープンデータの統計処理（仮説検証）
11. オープンデータの統計処理（発表）
12. プログラミングの説明
13. プログラミングの実践
14. プログラミングの成果発表
15. まとめ

### 【事前・事後学修】

〈事前学修〉

毎回、次回の内容を予告するので、それについて調べてきて自分なりの解釈を行う。（週2時間）

〈事後学修〉

授業の内容を再度確認し、レポートが課されている場合はこれを行う。（週2時間）

### 【テキスト・教材】

必要に応じて参考となる資料を配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

それぞれの成果物で評価を行います。内容の論理性と完成度を重視して評価します。フィードバックは発表に関しては、そのたびに行っていきます。（成果物：70%、授業への積極的参加度30%）

### 【参考書】

特にはありませんが、質問などがあればその参考になる書籍を紹介することがあります。

## 統計の応用

赤坂 修一

3年 前期 2単位

◎：研鑽力

## 【授業のテーマ】

研究を進める際には、実験や調査（アンケートなど）を行い、得られたデータを整理、考察することにより、結論を導く。その上で重要となるのが、バラつきを含むデータから真のデータ、対象とする集団（母集団）の特徴を見つけることである。また、より少ない実験数で現象の要因を特定するのに、実験計画法は非常に有用な方法である。

本講義では、Excelを用いて、データ整理、検定と推定、実験計画法について、演習問題を解きながら習得する。

## 【授業における到達目標】

Excelを用いた統計的解析（代表値、グラフ化、推定、仮説検定、実験計画法）ができるようになる。これにより、研鑽力、行動力を発揮する手法を身につけ、真理を導き、新たな知を生み出そうとする態度【美の探求】を促進する。

## 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 データの整理と代表値
- 第3週 相関と回帰
- 第4週 二項分布と正規分布
- 第5週 母数の推定1
- 第6週 母数の推定2
- 第7週 仮説検定1
- 第8週 仮説検定2
- 第9週 実験計画法の考え方（一元配置）
- 第10週 二因子要因実験（二元配置）のデータ解析
- 第11週 多因子要因実験（多元配置）のデータ解析
- 第12週 直交表による実験計画（二水準の場合）
- 第13週 直交表による実験計画（繰返し実験）
- 第14週 直交表による実験計画（三水準の場合）
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

「統計の基礎」の知識が必要となるので、復習しておくこと。

事前学修：講義前に、講義スライドの予習、前回の講義内容の復習をしておくこと（2時間）

事後学修：分からなかった箇所を復習しておくこと（2時間）。

## 【テキスト・教材】

講義のスライドを毎回授業前にmanabaにアップしておくので、事前にダウンロード、もしくは印刷しておくこと。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（出席点）：40%

レポート：60%

レポートについては授業最終回でフィードバックする。

## 【注意事項】

「統計の基礎」を履修していることを前提に授業を進めるため、履修していることが望ましいが、未履修者でも受講可能とする。

## 統計の基礎

赤坂 修一

2年 前期 2単位

◎：研鑽力

## 【授業のテーマ】

実験や調査のデータは多かれ少なかれ、必ずバラつきを含んでいる。例えば、10回測定して毎回同じ値が得られることはないだろうし、100人にアンケートをとっても、別の100人では必ずしも同じ値にならない。また、対象とする全ての物、人に実験や調査ができない場合、バラつきを含む、限られたデータの中から集団（母集団）の特徴（平均やバラつき）を導くことが重要である。その手法を提供するのが、統計学である。

本講義では、統計学の基本的な考え方を学ぶとともに、基本的な統計的手法について、例題を通して習得する。

## 【授業における到達目標】

実験やアンケート調査などのデータを扱う上で重要となる、実験結果や調査結果をまとめる方法、データから集団の本質的な特徴（平均やバラつき）を導く手法を学修する。これにより、研鑽力、行動力を発揮する基礎を身につけ、真理を導き、新たな知を生み出そうとする態度【美の探究】を促進する。

## 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 データの種類と整理（グラフ）
- 第3週 集団の性質を表す代表値（平均や分散など）
- 第4週 二つの集団の関係（相関）
- 第5週 確率変数と期待値
- 第6週 同時確率分布と二項分布
- 第7週 正規分布
- 第8週 母数の推定1（母平均（母分散既知））
- 第9週 母数の推定2（母平均（母分散未知）、母分散、母比率）
- 第10週 仮説検定の考え方
- 第11週 仮説検定（二つの母集団の比較）
- 第12週 仮説検定（適合度検定と分割表）
- 第13週 問題演習
- 第14週 実験計画法の考え方
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

事前学修：授業前に講義スライドの予習、前回の授業の復習をしておくこと（2時間）

事後学修：授業内容、小テストで分からなかった箇所を復習しておくこと（2時間）

## 【テキスト・教材】

講義のスライドを毎回授業前にmanabaにアップしておくので、事前にダウンロード、もしくは印刷しておくこと。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験：60%

平常点（小テスト）：40%

毎回授業の最後に小テストを実施し、次の授業で解説する。

定期試験については、終了後、解説・解答をManabaにアップする。

## 【参考書】

「ゼロから学ぶ統計解析」小寺平治著（講談社）2500円（税別）

「スバラシク実力がつくと評判の統計学キャンパスゼミ」（マセマ出版社）2200円（税別）

「まずはこの一冊から 意味が分かる統計解析」涌井貞美著（ベレ出版）2000円（税別）

## 統計の世界

—統計の基礎—

勝野 恵子

1年～ 後期 2単位

○：研鑽力、行動力

### 【授業のテーマ】

統計学の基礎を中心に、日常生活で経験する具体例を通じて、エクセルの利用方法と統計の考え方に親しむ。

### 【授業における到達目標】

エクセルを使い統計の基礎的な処理ができるようになる。統計の考え方の基礎を修得する。

学生が修得すべき「美の研究」のうち、物事の真理を探求することによって、新たな知を創造しようとする態度と「行動力」のうち現状を正しく把握し、課題を発見する力を修得する。

### 【授業の内容】

数式にとらわれず、日常生活と関連の深い例を取り扱う。データの処理等には、エクセルを活用する。（予備知識は不要です。）

1. 確率  
加法定理と乗法定理
2. ベルヌイ試行の法則
3. 確率分布  
確率変数と確率分布（平均、分散）
4. 2項分布とその平均と分散
5. 資料の整理（エクセルの利用方法）  
絶対座標と相対座標の違い（合計、平均の計算）
6. 度数分布表の作成（資料の整理）  
度数分布表の平均、分散の計算
7. ヒストグラムの作成  
二項分布のヒストグラム
8. 相関（散布図・共分散・相関係数・回帰直線）
9. 2項分布の正規近似
10. 推定、母平均の区間推定
11. 母比率の区間推定
12. 検定、平均・比率の差の検定
13. 独立性の検定
14. 演習
15. まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：毎回の授業前に、テキストの該当箇所を予習しておくこと。（学修時間 週2時間）

事後学修：毎回の授業後に、講義と練習課題のプリントを復習し、間違えているところは訂正して理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

勝野恵子著『確率・統計学入門』（八千代出版、2003年）2,500円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

テキストおよび電卓持込みによる試験と練習課題等を総合して評価する。

試験60%、練習課題（授業への積極参加を含む）40%の配点です。演習課題は次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

### 【参考書】

『Excelによるメディカル・コメディカル統計入門』（共立出版）2,600円、勝野恵子・井川俊彦著 2016年

### 【注意事項】

募集人数は60名です。

**道徳の指導法**

小学校道徳の教材研究と指導法

渡辺 敏

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、協働力

**【授業のテーマ】**

道徳教育の現状と問題点を理解する。学習指導要領解説に示されている小学校道徳の目標と各学年の指導内容を理解すると共に、内容構成の4つの視点からの授業作りについて理解する。6年間の児童の道徳性の発達段階を理解し、それぞれの学年での授業について考える。また、小学校での道徳の授業を参観し、授業の進め方を学ぶ。このほかにユニセフハウスを見学し、世界の子供の人権について学ぶ。これらの理解の上で学習指導案を作成し模擬授業を行う。模擬授業とその話し合いを通して教師になるための実践力を高める。

**【授業における到達目標】**

日本の道徳教育の特徴を歴史的な観点から学ぶことで「国際的視野」を培います。また、道徳的な内容である日本の伝統文化や自然について考えることで「美の探求」の態度を培います。実際に教材研究を行い、指導案を作成し、模擬授業を行い、その内容について協働で話し合うことで「研鑽力」、「行動力」、「協働力」を身に付けます。

**【授業の内容】**

- 第1週 道徳教育の現状と問題点について
- 第2週 道徳の学習の教材開発について
- 第3週 モラルジレンマを扱った道徳の授業について
- 第4週 ユニセフハウスの見学
- 第5週 ユニセフハウスで学んだことを話し合う
- 第6週 小学校の道徳の授業参観
- 第7週 授業参観で学んだことを話し合う
- 第8週 道徳の指導案の書き方
- 第9週 道徳の指導案検討
- 第10週 模擬授業とその話し合い（1回目）
- 第11週 模擬授業とその話し合い（2回目）
- 第12週 模擬授業とその話し合い（3回目）
- 第13週 模擬授業とその話し合い（4回目）
- 第14週 参考図書のリポートの内容について検討する
- 第15週 これまでの学びを振り返る（テスト）

**【事前・事後学修】**

【事前学修】学習指導要領解説の小テストを行うので、予習を行うこと。また、授業の中で指定する書籍を読んで自分の道徳観を引用し課題レポートを書くこと。レポートに書いた内容を何度も読み直し、自分が伝えたいことが文章に表わされているかを事前に推敲し提出すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】添削されたレポートを修正し書き直すこと。採点されたテスト直しを行い再提出すること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

文部科学省『小学校学習指導要領解説 道徳編』（東洋館出版 2018年刊行予定）

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

指導案作成30%、課題レポート30%、グループワーク20%、テスト20%等により評価する。課題レポートについてはコメントを入れてフィードバックします。

**【参考書】**

講義の中で紹介する。

**【注意事項】**

自分が大事にしている道徳的な価値観について考える態度を持って講義にのぞむこと。

**道徳教育指導論**

道徳の授業を実践する力を育てる(文学部、生活科学部 対象)

山田 佳子

3年 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

より人間性豊かな生徒を育てることを目指して、中学校では平成31年度から道徳を教科として実施します。学校では生徒主体に、話し合い、議論し合う道徳の授業を行うことが求められています。そこで、この講義を、学校における道徳教育や道徳の授業のあり方や指導方法を理解する時間にしたと思います。そして、学校で道徳教育、道徳の授業を実践できる力を身に付けます。そのために、学校で行われている道徳の授業の教材や内容に多く接しながら、学習指導要領の基礎的な理論を理解し、学習指導案を作成し実践できる力を身に付けることを目指します。

**【授業における到達目標】**

- ・以下の視点を踏まえた道徳の授業を実践できるようになる。
  - ①道徳の授業を通して、多様性を受容し、多角的な視点を持って様々な課題について考えることができる。  
(国際的態度)
  - ②生きる上での課題について、考え、判断し、よりよい生き方を求めて問題を解決することができる。(行動力)

**【授業の内容】**

毎時間、道徳の時間に関する教材を配布し、活用方法を考えます。

- |      |                                       |
|------|---------------------------------------|
| 第1週  | はじめに(これからの進め方、道徳の時間の概要、本講義での学習目標を立てる) |
| 第2週  | 道徳教育と道徳の時間                            |
| 第3週  | 道徳の指導内容                               |
| 第4週  | 道徳教育の歴史と考え方                           |
| 第5週  | 学習指導要領「道徳」の概要(道徳の目標 道徳の内容)            |
| 第6週  | 学習指導要領「道徳」の概要(指導計画の作成と内容の取扱い)         |
| 第7週  | 道徳教育の具体例と全体計画                         |
| 第8週  | 道徳授業の具体例と年間指導計画                       |
| 第9週  | 道徳授業の特性を踏まえた指導                        |
| 第10週 | 道徳の学習指導案作成の実際                         |
| 第11週 | 模擬授業に向けての準備・協議                        |
| 第12週 | 模擬授業および協議(班で発表する ①1班②2班③3班)           |
| 第13週 | 模擬授業および協議(④4班⑤5班⑥6班)                  |
| 第14週 | 模擬授業および協議(⑦7班⑧8班⑨9班)                  |
| 第15週 | まとめ                                   |

**【事前・事後学修】**

事前学修(学修時間 週2時間)

- ・テキストを読み、予習をする。
- ・課題に取り組む。

事後学修(学修時間 週2時間)

- ・授業で配布された教材やテキストで復習をする。

**【テキスト・教材】**

「中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編」  
(平成27年7月改訂文部科学省 出版平成30年 価格未定)

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

受講態度20%、時間内に書くワークシート、レポート40%、模擬授業のための学習指導案の内容40%により総合的に評価します。

レポートは、講評し、後日返却します。

**【参考書】**

講義の中で、必要な書籍や資料等について紹介します。

**道徳教育指導論**

(人間社会学部 対象)

福田 鉄雄

3年 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

生きる力の核となる「豊かな人間性」を育むためには、学校教育全体を通じて道徳教育を推進し、道徳授業を充実する必要があります。そこで、本講座においては、道徳教育の意義や役割等を理解し、自らが教員として道徳教育を担う重要性を認識し、実際に指導をするに当たって必要な基礎的な知識と有効な指導法を身に付けることをねらいとします。そのために、学習指導要領における道徳教育の目標、内容及びその取扱い等を学びます。さらに、道徳授業の多様な教材の生かし方を理解していきます。さらに、道徳授業の構想と学習指導案の作成及び模擬授業を通して、教員としての実践的な指導力・授業力を身に付けることを目標とします。

**【授業における到達目標】**

- 1 道徳教育、道徳科の目標について理解できるようになる。
- 2 道徳の内容が理解できるようになる。
- 3 道徳科の教材の分析の方法が理解できるようになる。
- 4 道徳の授業展開力について習得する。
- 5 道徳の評価のしかたについて習得する。

**【授業の内容】**

- 1 ガイダンスとプロローグ ①履修上の留意点②道徳の教科化の概要③現代の子供の実態
- 2 道徳教育と道徳の時間 ①道徳教育と道徳の時間のちがい②道徳教育の目標③道徳の時間の目標と特質
- 3 道徳教育の歴史と現状 ①道徳の時間の特設から教科化までの歴史②道徳教育推進状況
- 4 道徳の内容、指導計画、推進体制 ①指導内容の構成と取扱い②指導計画③推進体制の確立
- 5 道徳科の指導 ①指導の基本方針②特質を生かした指導③指導方法
- 6 道徳科の指導の構想 ①教材の生かし方②教材の分析③発問
- 7 道徳科の展開 ①指導方法の工夫に視聴覚教材の活用
- 8 学習指導案の作成 ①盛り込むべき内容②作成の手順
- 9 指導案作成と多様な指導方法の工夫 ①導入における工夫②展開における工夫③終末における工夫
- 10 指導案作成と指導上の留意事項 ①問題解決的な学習②情報モラル等現代的な課題③家庭や地域との連携
- 11 指導案作成と道徳の評価 ①評価の基本的な態度②道徳性の評価③道徳科に関する評価
- 12 模擬授業の展開とその考察1(グループ1の授業実施) ①模擬授業を実施してよかった点、改善すべき点について討議する
- 13 模擬授業の展開とその考察2(グループ2の授業実施) ①模擬授業を実施してよかった点、改善すべき点について討議する
- 14 模擬授業の展開とその考察3(グループ3の授業実施) ①模擬授業を実施してよかった点、改善すべき点について討議する
- 15 まとめ ①模擬授業より学んだこと②これからの道徳教育と教員の役割・責務③この講座で学んだことの定着確認

**【事前・事後学修】**

1 事前学修 道徳教育や道徳科にかかわる新聞記事やニュースに対して関心をもち、まとめること。

小テスト、毎時間提出のレポート等の課題に取り組むこと。(学修時間 週2時間)

2 事後学修

レポート、小テストの復習をすること。次回の授業範囲を予習し、教材の吟味や指導案の作成の下準備をすること。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

- 1 中学校学習指導要領解説 道徳編 平成20年9月 日本文教出版 132円+税
- 2 中学校学習指導要領解説 道徳編 平成29年9月 30年02月段階で市場で販売されていないが、上記テキストとほぼ同

価格と推測される。

#### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

全15回のうち、3分の2（10回）以上の出席を満たした場合に限り、評価を行います。

- 1 授業への取組状況（意欲・態度）（20%）
- 2 小テスト（20%）、
- 3 毎時間に作成、提出するレポート（20%）
- 4 作成、提出する学習指導案の内容と模擬授業の授業展開力（20%）
- 5 講義の最後に行うまとめの確認テスト（20%）により、総合的に評価をします。小テストは次回授業でフィードバックを行います。試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

#### 【参考書】

講義の中で、必要な書籍や参考資料等は紹介をします。

#### 【注意事項】

- 1 教師として必要とされる資質・能力の育成を目指します。授業に対して、意欲的、積極的に取り組む姿勢を求めます。
- 2 演習、模擬授業の実施のため、受講希望者が15名を超えた場合は、「授業の内容」を変更する場合があります。

## 道徳教育指導論（栄養）

道徳授業を実践する力を育てる

山田 佳子

3年 後期 2単位

### 【授業のテーマ】

より人間性豊かな生徒を育てることを目指して、中学校では平成31年度から道徳を教科として実施することになっています。そこで、この講義をまず学校における道徳教育や道徳の授業のあり方、指導方法等を理解する時間にしたいと思います。

また、食育の推進もますます大切になっていますので、道徳の授業の中で食育をどう進めていくかを考える必要があります。そのために、学校で行われている道徳の授業の教材や内容、食育の授業に接しながら、学習指導要領の基礎的な理論を理解し、学習指導案を作成し実践できる力を身に付けることを目指します。

### 【授業における到達目標】

- ・以下の視点を踏まえた道徳の授業を実践できるようになる。
- ①道徳の授業を通して、多様性を受容し、多角的な視点をもって様々な課題について考えることができる。（国際的態度）
- ②生きる上での課題について、考え、判断し、よりよい生き方を求めて問題を解決することができる。（行動力）
- ③栄養教諭として、どのような道徳の授業を行い、食育を推進するかを理解できる。

### 【授業の内容】

毎時間、道徳に関する教材を配布し、活用方法を考えます。

第1週 はじめに（これからの進め方、道徳の時間の概要、本講義での学習目標を立てる）

第2週 道徳教育と道徳の時間

第3週 道徳の指導内容

第4週 道徳教育の歴史と考え方

第5週 学習指導要領「道徳」の概要（指導の目標 道徳の内容）

第6週 学習指導要領「道徳」の概要（指導計画の作成と内容の取扱い）

第7週 道徳教育の具体例と全体計画

第8週 道徳授業の具体例と年間指導計画

第9週 道徳授業の特性を踏まえた指導

第10週 道徳の学習指導案作成の実際

第11週 模擬授業にむけての準備・協議

第12週 模擬授業及び協議（班で発表する ①1班②2班③3班

）

第13週 模擬授業及び協議（④4班⑤5班⑥6班）

第14週 模擬授業及び協議（⑦7班⑧8班⑨9班）

第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修（学修時間 週2時間）

- ・テキストを読み、予習をする。・課題に取り組む。

事後学修（学修時間 週2時間）

- ・授業で配布された教材の指導案を考える。
- ・テキストで復習する。

### 【テキスト・教材】

「中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編」

（平成27年7月改訂文部科学省 出版平成30年 価格未定）

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

受講態度20%、時間内に書くワークシート、レポート40%、模擬授業の指導案、指導の様子等40%により総合的に評価します。

レポートは、講評し、後日返却します。

### 【参考書】

講義の中で、必要な書籍や資料等について紹介します。

### 特殊演習 1

—卒業論文作成の準備—

池田三枝子・影山輝國・河野龍也・近藤みゆき・佐藤悟・棚田輝  
嘉・福嶋健伸・牧野和夫・山内博之・湯浅茂雄・横井孝

4年 前期 1単位

○：美の探求、行動力、協働力

#### 【授業のテーマ】

卒業論文は学生生活4年間の研究の集大成です。

この授業では卒業論文を作成するための準備として、テーマの設定、研究史の整理、用例の分析など、各自の問題意識に即して具体的な研究方法を学びます。

#### 【授業における到達目標】

1. 各自の問題意識を明確にする。
2. 研究史を把握する。
3. 注釈能力の向上。
4. 解析能力の向上。
5. 以上を通じて「美の探求」という態度、及び「行動力」「協働力」という能力を身に付けることを到達目標とする。

#### 【授業の内容】

- 卒論テーマの設定
  - 1 ガイダンス
  - 2 問題意識（1）—対象となる作品・事象は何か—
  - 3 問題意識（2）—対象をどのような観点から研究するか—
- 研究史の把握
  - 4 研究史の調査・整理（1）—先行研究を調べる—
  - 5 研究史の調査・整理（2）—先行研究を的確にまとめる—
- 用例の調査・分析
  - 6 用例の調査・分析（1）—用例を調べる—
  - 7 用例の調査・分析（2）—用例を分析する—
- 口頭発表
  - 8 発表と討論（1）
  - 9 発表と討論（2）
  - 10 発表と討論（3）
  - 11 発表と討論（4）
  - 12 発表と討論（5）
  - 13 発表と討論（6）
- まとめ
  - 14 卒論の章立て —論理の組み立てを考える—
  - 15 まとめ

#### 【事前・事後学修】

卒業論文は各自の問題意識によって執筆するものなので、対象となる作品・事象や参考文献はそれぞれ異なります。各々必要な文献や調査すべき事柄について、あらかじめ考えた上で授業に臨みましょう。事前・事後学習は週一時間以上を充てること。

#### 【テキスト・教材】

必要に応じて授業中に紹介します。

#### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度）30%、発表30%、提出物40%で評価します。フィードバックは卒業論文の口述試験を通じておこないます。

#### 【参考書】

各自が調査して教員に書名、論文名を挙げ、指示を受ける。

#### 【注意事項】

卒業論文執筆のための重要な授業であり、自覚を持って授業に臨むこと。

### 特殊演習 2

—卒業論文の作成—

池田三枝子・影山輝國・河野龍也・近藤みゆき・佐藤悟・棚田輝  
嘉・福嶋健伸・牧野和夫・山内博之・湯浅茂雄・横井孝

4年 後期 1単位

○：美の探求、行動力、協働力

#### 【授業のテーマ】

卒業論文は学生生活4年間の研究の集大成です。

この授業では卒業論文作成に向けて、章立ての詳細を考えた上で、書式や文体・用語など、各自のテーマに即して具体的な執筆方法を学びます。

#### 【授業における到達目標】

特殊演習1に加え、各自のテーマを論理的な文章として具体化することを求める。そのようなプロセスを通して「美の探求」という態度、及び「行動力」「協働力」という能力を身に付けることを到達目標とする。

#### 【授業の内容】

- 卒論の章立て
  - 1 ガイダンス
  - 2 章立て（1）—論理の組み立てを考えて章を設定する—
  - 3 章立て（2）—各章の論旨を考えて節を設定する—
- 卒論の書式・凡例・施注
  - 4 書式 —テーマに即した書式を確認する—
  - 5 凡例・施注 —凡例・注の書き方を確認する—
- 卒論の文体・用語
  - 6 文体 —卒論にふさわしい文体を確認する—
  - 7 用語 —卒論にふさわしい用語を確認する—
- 口頭発表
  - 8 発表と討論（1）
  - 9 発表と討論（2）
  - 10 発表と討論（3）
  - 11 発表と討論（4）
  - 12 発表と討論（5）
  - 13 発表と討論（6）
- まとめ
  - 14 卒論の見直し —全体を見直す—
  - 15 まとめ

#### 【事前・事後学修】

卒業論文は各自のテーマによって執筆するものなので、書式や注の付け方はそれぞれの分野によって異なります。各々必要な文献や調査すべき事柄について、あらかじめ考えた上で授業に臨みましょう。事前・事後学習は週一時間以上を当てましょう。

#### 【テキスト・教材】

必要に応じて授業中に紹介します。

#### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度）30%、発表30%、提出物40%で評価します。フィードバックは卒業論文の口述試験によっておこないます。

#### 【参考書】

卒業論文の進捗状況に応じて指示する。

#### 【注意事項】

卒業論文の論理性に注意すること。



**特別活動の指導法**

小学校「特別活動」の目標・学習活動内容理解と授業づくり

南雲 成二

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、協働力

**【授業のテーマ】**

本授業では、特別活動の成立と発展等の史的变化遷、そして特別活動の学習指導要領における指導内容の構成、それを踏まえて特別活動の学習指導案の作成の方途とその実践の具体的な手順や方法について理解することを目標とする。

授業内容としては、まず、特別活動の成立と発展、特別活動の目標や内容、特別活動の指導法等について確認する。そして、それらを基に特別活動の学習指導案を作成したり、発問計画や板書計画を作成したりして授業を設計し、それを基に模擬授業を試みる。模擬授業における授業記録を基に授業設計や授業実践を振り返り、教員としての実践的指導力の基礎について分析し、考察を加える。

**【授業における到達目標】**

到達目標①小学校教育における「特別活動」の目的と内容、その歴史と学習領域を理解することができる。②「特別活動」と学級・学年経営の関わりを理解し、「児童教育法」の実践演習と連動しながら「学級(含学年)経営案」をデザインすることができるようになる。③学級活動(1&2)、児童会活動、クラブ活動、学校行事の授業実践をイメージし、「学習指導案」を作成し模擬授業を展開することができるようになる。併せて学生が修得すべき「美の探究」③優しさと強さを兼ね備え、倫理観を持って陶冶しようとする態度(=教師の主体性として、人間学習の根幹として、特別活動で育む人間力の本質として)を修得する(深める)。

**【授業の内容】**

- 第1回 特別活動とは何か。特別活動の成立と発展 ①昭和22年、26年、33年、43年、52年を中心に。
- 第2回 特別活動の成立と発展②平成元年、10年、20年、29年。教育課程と特別活動、学級学年経営・学校経営と特別活動について。
- 第3回 特別活動の内容構成と実践①：平成20年改定学習指導要領における「特別活動の目標と基本的な役割」について。
- 第4回 特別活動の内容構成と実践②〈学級活動、クラブ活動、児童会活動、学校行事〉で構成されるカリキュラム内容。
- 第5回 特別活動の授業創造と評価・改善について。
- 第6回 学校経営と特別活動、学年・学級経営と特別活動の実際。(出身小学校の特別活動をレポートすることを通して)
- 第7回 保幼小、小中連携と特別活動。低・中・高各学年の課題。
- 第8回 特別活動の指導(学習指導案の形式と構成内容の理解)。本時展開例の分析と学習展開における「主な活動と教師の支援」のおさえ。
- 第9回：模擬授業の準備① 学習指導案の作成と協議
- 第10回：模擬授業の準備② 「発問・板書計画と話し合い活動」を中心に、1時間の学習内容とその構成の適否を検討。
- 第11回：模擬授業の実施に当たって留意点の確認と役割分担。(授業記録のとり方、授業研究観点の明確化等)
- 第12回 第1回模擬授業(授業記録をとる。授業分析①)
- 第13回：第2回模擬授業(授業記録をとる。授業分析②)
- 第14回：授業記録を基に特別活動模擬授業における学習指導を振り返り、成果と課題(問題点も含め)を分析、考察する。
- 第15回：授業のまとめ、ポートフォリオの作成

**【事前・事後学修】**

【事前学修】レポート・発表等の課題に取り組むこと。資料は次の授業までに読み進め要点・論点整理を行う。課題レポートは随時「手作り教材化」し、互いに共有。(学修時間 週2時間)

【事後学修】発表内容・レポート等は、「特活授業づくりの要点」としてポートフォリオ化し、積み上げる。次の授業範囲を予習し実践課題を明確にすること。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

・文部科学省『小学校学習指導要領』(2008年版と2017年版)『指

導要領解説 特別活動編』(新版が刊行されるまで2009.8版活用)  
・文科省『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料—小学校特別活動—』(教育出版2011.8 265円+税)  
その他：文科省『月刊初等教育資料』文部科学省教育課程課・幼児教育課編(基本各月500円+税)

※学習指導要領移行期間の為、教材・テキストについての詳細は授業時に説明・指示します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点(授業への積極的な参加及び発表・交流学习への参加態度)40%、課題レポート(指導案、授業記録等)30%、模擬授業・ポートフォリオ30%により総合的に評価する。実施した小テストは次回授業、課題レポートやポートフォリオは、まとめの授業や最終授業で解説し、フィードバックを行う。

**【参考書】**

本学生活文化学科幼児保育専攻幼小コースI期生～VI期生(先輩方が残してくれた貴重な学習財産)の教育実習実践記録やレポート、卒業論文、「特別活動指導案集」等を積極的に活用し、研鑽を深める。

**【注意事項】**

授業研究会の参観体験や、小学校の先生方が手作りした「特別活動学習指導案」は、大切な教材・参考書として蓄積していきます。

**特別研究****専任教員**

食物栄養学専攻 通年 12単位

**【授業のテーマ】**

指導教員の下で、独自の研究テーマを選択・決定し、研究計画とアプローチ方法を定めて研究を遂行する。得られた研究データを解析するとともに、体系的な理論化に取り組み、研究成果の発表・論文作成方法を学修し、修士論文の完成を目指します。

**【授業における到達目標】**

研究データの解析と体系的な理論化を通じて、栄養学、食品学、調理学あるいは生理学に関する体系的かつ高度な学識を修得し、研究を遂行する能力を身につけることを目標とします。

**【授業の内容】**

1. 研究倫理教育、安全教育
2. 研究課題に関する情報収集と調査 (1)  
研究課題に関わる関連文献の収集について指導する
3. 研究課題に関する情報収集と調査 (2)  
関連文献の整理と先行研究をまとめる
4. 研究課題に関する情報収集と調査 (3)  
先行研究を踏まえて研究課題を決定する
5. 研究計画立案 (1)  
研究の意義、研究方法、予測される結果を検討しながら研究計画を立案する
6. 研究計画立案 (2)  
具体的な研究計画書の作成を指導する
7. 研究の遂行 (1)  
研究計画に基づく研究の遂行を指導する
8. 研究の遂行 (2)  
研究結果の解析と解析結果に基づく研究計画の修正・追加について指導する
9. 研究の遂行 (3)  
修正・追加した研究計画に基づいて研究を遂行する
10. 研究結果の中間発表  
研究結果を取りまとめ中間発表を行う
11. 中間発表の評価結果に基づく研究計画の追加修正の指導
12. 研究の遂行 (4)  
中間発表結果により修正した研究計画に基づく研究の指導
13. 修士論文作成  
修士論文の構想と執筆を指導
14. 研究結果の最終発表  
修士論文内容の発表と口頭試問による審査
15. 研究論文の完成  
修士論文作成の指導

**【事前・事後学修】**

【事前学修】先行研究の事前調査、関連論文の査読と理解、研究計画の立案、結果のまとめと考察、論文草稿の作成などについて、指導を受ける前に準備しておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】指導を受けた点について速やかに対応して研究が滞らないようにする。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

必要なテキスト・論文について適宜指定する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

修士論文審査基準により判定評価する。

**特別研究****専任教員全員**

生活環境学専攻 通年 10単位

**【授業のテーマ】**

環境人間工学、生活材料科学、衣環境設計学、住環境設計学、環境文化学の各分野において、情報を収集し、文献を検索し、先行研究を調べ、自ら研究テーマを決定する。さらに研究の方法を探り、研究計画を立案、遂行する。

**【授業における到達目標】**

従来の研究を検討しながら、自らの研究課題を決定し、研究の方法、研究計画を立案、遂行する能力を養う。課題を自ら考え、行動し、解決することが出来る能力を育む。

関連学会での発表を義務付け、自分の研究を社会に還元する意味を考えさせ、社会に通用するプレゼンテーション能力を身に付けさせる。

関係分野で技術者として、指導者として自立できるようにする。

**【授業の内容】**

1. 概要説明
2. 研究課題決定のための情報収集
3. 情報収集により得た文献の解析
4. 情報収集により得た文献の整理
5. 研究課題に対する議論と修正
6. 研究課題の決定
7. 研究計画の立案
8. 研究計画に対する議論と修正
9. 研究方法の検討
10. 研究方法に関する議論と修正
11. 研究の遂行
12. 研究結果に関する議論
13. 議論に基づく研究の遂行
14. 修士論文執筆に関する議論
15. 修士論文完成

**【事前・事後学修】**

事前学修に関しては、特別研究を推進していくために必要な、情報収集、文献検索などによる先行研究の調査、理解、研究方法の検討、研究計画立案、研究の実施などを、自ら考え実行する。週3時間以上。

事後学修に関しては、指導教員との議論の後に、内容を深め、理解し、速やかなる修正を行う。週3時間以上。

**【テキスト・教材】**

適宜紹介する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

題目発表、中間発表、修士論文発表会のプレゼンテーションと修士論文の内容により評価する。

**【注意事項】**

適宜紹介する。

**特別講義**

アメリカという国と消費社会の発達

稲垣 伸一

1年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

前半では二つの視点（政治、地理）からアメリカ合衆国という国家について考え、この国についての理解を深める。後半では、19世紀後半から20世紀初頭にかけてヨーロッパやアメリカで発達した消費社会がどのように発展し、背景にはその時代のどのような特色や人々の欲求があったのかを考察する。

**【授業における到達目標】**

アメリカ合衆国の政治システムや地理について知り、そして19世紀ヨーロッパやアメリカにおいて発達した消費社会について多面的に考察する。また、考察した内容を整理して、論理的に叙述する能力を養成する。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODakション
- 第2週 アメリカを知る－権力分立、連邦制
- 第3週 アメリカを知る－大統領制
- 第4週 アメリカを知る－大きな政府と小さな政府
- 第5週 アメリカを知る－地理
- 第6週 小テスト、消費社会の発達－INTRODUCTION
- 第7週 消費社会の発達－欲望喚起装置
- 第8週 消費社会の発達－デパート・通信販売
- 第9週 消費社会の発達－人々を集め、衝動買いを誘う
- 第10週 消費社会の発達－万国博覧会とデパート
- 第11週 消費社会の発達－ロンドン、パリ万国博覧会
- 第12週 消費社会の発達－万国博覧会にみる帝国主義的なまなざし
- 第13週 消費社会の発達－文学（自然主義小説）
- 第14週 消費社会の発達－映画（ジャズ・エイジ）
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】毎回数回行う範囲のプリント資料を配付するので、その内容を予習するとともに、必要な事項については各自が下調べをしておくこと。（学修時間 週1.5時間）

【事後学修】第6週に小テスト、最終週に試験を行うので、そのための準備に積極的に取り組むこと。授業各回でキーワードを提示するので、その言葉について理解を深められるよう授業の復習を各回行うこと。（学修時間 週2.5時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを使用する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（コメントペーパー）40%、試験60%（小テスト20点、最終回の試験40点）で評価する。

小テストとコメントペーパーについては次回授業でフィードバックを行う。

**【参考書】**

授業中に提示する。

**【注意事項】**

アメリカという国について理解を深めたい学生、文化研究に関心がある学生の参加を歓迎する。

**特別講義A**

カンボジアと日本の比較文化論

高橋 美和

3年 前期 2単位

◎：国際的視野

**【授業のテーマ】**

世界遺産アンコール・ワット遺跡群で有名な東南アジアの一国カンボジアは、インドシナ半島部で最も歴史の長い国の一つであり、日本との関わりも古くからある。どのような人々が住み、どのような言葉話し、どのような暮らしが営まれているのだろうか。この授業では、この国の文化と日本の文化とを比較しながら論じる。普段当たり前と思い、その中で暮らしている日本の文化を、違った視点で見つめ直してみよう。

**【授業における到達目標】**

この授業では、表題の通り、カンボジアの社会・文化に関する基礎知識を学ぶが、このカンボジアのケース・スタディを通して、異文化を自文化との比較を通して文化理解を深める方法を学ぶ。国際感覚を身につけると同時に、日本の文化を世界に発信しようとする態度を養うことを最終目標とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 導入：カンボジアの自然地理
- 第2週 国家情勢
- 第3週 食：米と魚の重要性
- 第4週 民族構成・宗教分布
- 第5週 近現代史概説
- 第6週 カンボジア語とは
- 第7週 日常生活・人生と仏教
- 第8週 家族・親族①：誰をどう呼ぶか
- 第9週 家族・親族②：どこまでが家族？
- 第10週 民族衣装
- 第11週 伝統舞踊・音楽、C-pop/J-pop
- 第12週 伝統的な出産
- 第13週 暦と年中行事
- 第14週 結婚式・葬式
- 第15週 まとめ講義

**【事前・事後学修】**

事前：次回のテーマに関連するテキストの箇所に目を通してること。予習としての調べ物課題を課した週はそれを次回提出すること（学修時間 週2時間）。

事後：期末試験の論述問題に役立つような発展的な読書や資料収集をすること（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

上田広美・岡田知子編『カンボジアを知るための62章』明石書店 2012年）2,160円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

課題20%＋リアクションペーパー20%＋期末試験60%  
提出物および期末試験は授業期間内にフィードバックする。

**【参考書】**

授業で紹介する。

**【注意事項】**

「アジア文化論」既習・同時履修が望ましいが必須ではない。東南アジアに関する予備知識が無くても受講できる。

**特別講義B**

ジェンダーから見る東南アジア

高橋 美和

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

東南アジアの国々のほとんどがいわゆる開発途上国であることから、日本人の東南アジア地域へのまなざしは一般に先進国からの目線にやや偏っているのではないだろうか。実際には、東南アジアには女性の社会進出が日本以上に進み、シングル・マザーであっても貧困に陥らないような社会システムを有する国々もある。日本と東南アジアとは、経済発展の度合いも基層文化も異なるとはいえ、今や多くの共通課題を持つ隣人同士として学ぶ点も数多い。この授業では、日本との相違点・共通点を意識しつつ、ジェンダーという切り口から東南アジアの社会・文化を見直していく。

**【授業における到達目標】**

東南アジア社会の基礎知識を身につけるとともに、ジェンダーという視点の重要性を理解し、その視点から異文化社会を自文化社会との連続性を意識しながら考察ができるようになることを目標とする。これらをとおして、国際的視野および学修を通して自己成長する力すなわち研鑽力とを養成する。

**【授業の内容】**

- 第1週 導入：東南アジアのイメージとジェンダー
- 第2週 ジェンダー的視点とは何か
- 第3週 「女性の地位が高い」とはどういう意味か
- 第4週 親族組織とジェンダー① 単系制と双系制
- 第5週 親族組織とジェンダー② 婚姻と世帯
- 第6週 イスラム社会とジェンダー
- 第7週 仏教徒社会とジェンダー
- 第8週 比丘尼復興運動
- 第9週 エスニシティとジェンダー
- 第10週 東南アジアにおける性的多様性
- 第11週 健康・寿命とジェンダー
- 第12週 人々の移動とジェンダー① 国際労働移動
- 第13週 人々の移動とジェンダー② 国際結婚と養子
- 第14週 開発とジェンダー
- 第15週 まとめ講義

**【事前・事後学修】**

事前：次回授業のキーワードの下調べ、もしくは課題文献に目を通してから授業に臨むこと。課題提出が課せられた週は、次回授業時に提出すること（学修時間 週2時間）。

事後：ミニテストに備えて復習すること。また、期末レポート執筆に向けて、関連文献を検索し読むこと（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

適宜資料を配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

課題提出20%・ミニテスト20%・期末レポート60%  
提出物・テスト・レポートは授業期間内にフィードバックする。

**【参考書】**

宇田川妙子・中谷文美 編『ジェンダー人類学を読む―地域別・テーマ別基本文献レビュー』（世界思想社、2007）3,240円

この他の文献は授業で紹介する。

**【注意事項】**

「アジア文化論」既習もしくは同時履修が望ましいが、必須ではない。東南アジア社会の予備知識が無くても受講可能。

**特別講義 a**

於保 祐子・中村 彰男

4年 後期 1単位

○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

人体の構造と機能および疾病の成り立ち、基礎栄養学に係る知識を整理し、管理栄養士国家試験に対応できる能力を養うことを目標として当該分野の演習を行ないます。

**【授業における到達目標】**

到達目標：

- ・栄養素の構造と機能、その代謝について理解し、説明できる。
- ・臓器・器官の構造と機能及び疾患について理解し、説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係：

学生が修得すべき「研鑽力」のうち「学修成果を実感して、自信を創出することができる」と「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる」を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 アミノ酸・たんぱく質の栄養と代謝
- 第2週 糖質の栄養と代謝
- 第3週 脂質の栄養と代謝
- 第4週 ビタミンの栄養と疾病
- 第5週 ミネラルの栄養
- 第6週 主な症候
- 第7週 肥満と代謝疾患
- 第8週 消化器系の構造、機能および疾患
- 第9週 循環器系の構造、機能および疾患
- 第10週 腎尿路系の構造、機能および疾患
- 第11週 神経系の構造、機能および疾患
- 第12週 内分泌疾患と生殖器系の構造、機能および疾患
- 第13週 呼吸器系、運動器系の構造、機能および疾患
- 第14週 血液・リンパ系の構造、機能および疾患
- 第15週 免疫アレルギー疾患と感染症とまとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】受講分野が多岐にわたります。テキストや過去の学習で使用した当該分野のテキスト、ノート、プリント、参考書などを整理し、受講する上で必要となる知識を整理・確認しておく必要があります（学修時間 週2時間）。

【事後学修】授業内容について、確認テストを行います。復習し理解しておいてください（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

『クエスチョンバンク、管理栄養士』（メディックメディア）

4,500円（税別）

『管理栄養士国家試験過去問解説集5年分徹底解説』（中央法規）

3,000円（税別）

注：テキストはそれぞれ、授業開始時に出版されている最新版

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

受講態度（小テスト等含む）30%、試験70%で評価します。

小テストや試験の結果については、次回授業でフィードバックします。

**特別講義 b**

澤山 茂・井部 明広・杉山 靖正

4年 後期 1単位

○：国際的視野、研鑽力、行動力

**【授業のテーマ】**

食べ物と健康に係わる食品学、食品加工学、食品衛生学、調理学分野の知識、理論を整理し、当該分野で発生する応用問題を解決できる能力を養う。

**【授業における到達目標】**

管理栄養士としての技量や知識を習得することで、「国際的視野」を持ちつつ、学生が修得すべき「行動力」「研鑽力」のうち、現状を正しく把握し、課題を発見できる力を修得する。

**【授業の内容】**

1. 人間と食品（食文化と食生活、食生活と栄養、食料と環境問題）
2. 食品の分類と食品の成分（分類の種類、植物性食品）
3. 食品の分類と食品の成分（動物性食品、油脂、調味料、香辛料、嗜好飲料）
4. 食品の分類と食品の成分（微生物利用食品、食品成分表）
5. 食品の安全性（食品衛生と法規、食品の変質、食中毒）
6. 食品の安全性（食品による感染症・寄生虫症）
7. 食品の安全性（食品中の汚染物質、食品添加物、食品衛生管理）
8. 食品の表示と規格基準（表示の種類、健康や栄養に関する表示制度）
9. 食品の表示と規格基準（基準）
10. 食品の機能（一次、二次、三次機能）
11. 食品の生産・加工・保存・流通と栄養（食料生産と栄養、食品加工と栄養、加工食品とその利用）
12. 食品の生産・加工・保存・流通と栄養（食品流通・保存と栄養、器具と容器包装）
13. 食事設計と栄養・調理（食事設計の基礎、調理の基本）
14. 食事設計と栄養・調理（調理操作と栄養）
15. 模擬試験とまとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】各授業についてそれぞれ食品学、食品加工学、食品衛生学、調理学の教科書をよく読んでおくこと。（学修時間 週1時間）

【事後学修】授業範囲について、過去の試験問題を解いて理解し、応用力につなげること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

医療情報科学研究所編集『クエスチョンバンク管理栄養士国家試験問題解説2019』（メディックメディア）及び 適宜プリント等を配布。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業態度60%、小テスト、模擬試験成績等40%から総合評価する。試験結果及び解答は授業最終日にフィードバックする。

**特別講義 c**

辛島 順子

4年 後期 1単位

○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

特別講義Cでは、管理栄養士として必要な知識及び技術のうち、特に一次予防・二次予防・三次予防に関連する教科の重要な項目を系統的に習得するように組み合わせている。これにより、総合的な視野の形成が強化され、高度な専門知識及び技術を持った資質の高い管理栄養士を目指す。具体的には、一次予防と二次予防に必要な理論やモデルを実際の栄養教育に応用する能力を培う。また、臨床栄養の場において、二次予防と三次予防に必要な傷病者の栄養管理プロセスの応用能力を高める。

**【授業における到達目標】**

学修成果を実感し、将来管理栄養士として社会に出るための自信を創出する。また、管理栄養士として生涯学び、自己成長する態度や力を身につける。

**【授業の内容】**

1. 栄養教育の意義と特性
2. 栄養教育に関わる理論とモデル・個人
3. 栄養教育に関わる理論とモデル・集団
4. 行動変容概念と技法
5. カウンセリングの基本と栄養教育への応用
6. 栄養教育プログラム評価の理論
7. 栄養教育プログラム評価の方法
8. 医療・介護・福祉における栄養管理
9. チーム医療における管理栄養士の役割
10. 疾病・身体状況に応じた栄養補給法
11. 臨床症候と栄養障害の評価
12. 臨床における栄養評価
13. 臨床における栄養診断
14. 栄養介入計画の作成
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】1～3年次に使用したテキストや配布資料の該当箇所をよく読むこと。（学修時間：週2時間）

【事後学修】指定した課題を提出すること。（学修時間：週2時間）

**【テキスト・教材】**

『サクセス管理栄養士講座 栄養教育論』  
（第一出版 2016年：本体2,200円＋税）

『サクセス管理栄養士講座 臨床栄養学Ⅰ』  
（第一出版 2017年：本体1,900円＋税）

『サクセス管理栄養士講座 臨床栄養学Ⅱ』  
（第一出版 2016年：本体2,200円＋税）

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験50%、平常点（受講態度・課題）40%、小テスト10%で評価する。提出された課題を確認し、返却して授業内で解説する。

**特別講義 d**

森川 希・佐々木 溪円

4年 後期 1単位

○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

「社会・環境と健康」「公衆栄養学」の各分野について、テーマの概念や目的・根拠、方法、評価等を整理し、知識と応用力を確かなものとする。

**【授業における到達目標】**

当該分野の演習を行い、国家試験問題の解答能力を高める。

**【授業の内容】**

1. 公衆衛生学・予防医学の概念と歴史、健康の概念と歴史的変遷・公衆衛生活動、環境と健康、環境衛生
2. 保健統計・人口統計・各種統計、疫学の基礎
3. 疫学（スクリーニング、倫理）、食環境・行動と疾病リスク、生物心理社会モデル、身体活動・運動、喫煙、飲酒、睡眠・休養
4. 歯科保健、健康日本21、社会保障制度、地方公共団体、医療制度、介護保険制度
5. 地域保健、母子保健、成人保健、高齢者保健、特定健診・特定保健指導、産業保健、学校保健、国際保健
6. 主要疾患の疫学
7. 応用力問題（社会・環境と健康分野）
8. 公衆栄養学の概念、公衆栄養活動
9. 健康・栄養問題の現状と課題
10. 公衆栄養関連法規
11. 栄養政策の歴史と課題
12. 栄養疫学
13. 公衆栄養マネジメント
14. 応用力試験問題（公衆栄養学分野）
15. 全体的総括

**【事前・事後学修】**

事前学修 公衆衛生学の教科書や、授業で使用した配布資料、小テスト、国家試験過去問題、期末テスト問題を整理し、よく復習しておいてください。（学修時間 週2時間）

事後学修 講義内容について必ず復習してください。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

クエスチョン・バンク管理栄養士国家試験問題解説（メディックメディア 4500円＋税）

古野・辻・吉池（編）「社会・環境と健康」（南江堂）改訂第5版（3200円＋税）

古野・伊達・吉池（編）「公衆栄養学」（南江堂）改訂第5版（3000円＋税）

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験（80%）、授業態度（20%）で講義内容の理解度を評価する。評価結果を提示し、また、試験問題は、復習のために試験後正答を示す。

**毒性学**

井部 明広

4年 前期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

食品中に含有される化学物質は、毒性の強さと摂取量により評価される。食品の安全を確保するためには、摂取する可能性のある毒性物質や過去において事故を起こした物質について検証し、毒性発現のメカニズムを知ることが再発防止に役立つ。

本講義では、食品に含有される可能性のある化学物質や自然毒による中毒・発病事例をもとに、その社会背景やメカニズム等を解説する。食品の安全性を毒性の予見、人への危害防止といった毒性学の観点から考えられるようになることを目標とする。

**【授業における到達目標】**

食品衛生を実践する上で必要な基礎的知識、考え方を学び、社会で活躍できる能力、学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握し、正しい判断が下せる力を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 歴史の中での毒
- 第2週 毒を形成する要因
- 第3週 食品における毒
- 第4週 毒性の評価方法
- 第5週 食品中の化学物質と安全性試験
- 第6週 安全性の考え方
- 第7週 新しい食品の安全性
- 第8週 食物アレルギー
- 第9週 薬物代謝
- 第10週 食品と医薬品の相互作用
- 第11週 変異原性と発がん性
- 第12週 食品と発がん
- 第13週 活性酸素と過酸化脂質
- 第14週 食品と放射能
- 第15週 抗生物質

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回の授業範囲を伝えるので、事前に下記参考書等を読み、各テーマについてポイントをまとめ、理解に努める。また、質問があれば用意すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 毎回授業内容のプリント資料を配布するので、内容を復習し、事前学修で作成した資料に加えてまとめ理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

毎回プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験（70%）および授業態度（30%）により評価する。試験結果は授業最終回に解説を行いフィードバックする。

**【参考書】**

- 菅家祐輔・坂本義光編著『食安全の科学』（三共出版 2009年）  
本体2,800円
- 中村好志・西島基弘編著『食品安全学 第2版』（同文書院  
2010年）本体2,500円

**【注意事項】**

特にテキストは指定しませんが、ノートテイクをしっかりとって、参考書を大いに利用してください。



**毒性学**

井部 明広

4年 前期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

食品中に含有される化学物質は、毒性の強さと摂取量により評価される。食品の安全を確保するためには、摂取する可能性のある毒性物質や過去において事故を起こした物質について検証し、毒性発現のメカニズムを知ることが再発防止に役立つ。

本講義では、食品に含有される可能性のある化学物質や自然毒による中毒・発病事例をもとに、その社会背景やメカニズム等を解説する。食品の安全性を毒性の予見、人への危害防止といった毒性学の観点から考えられるようになることを目標とする。

**【授業における到達目標】**

食品衛生を実践する上で必要な基礎的知識、考え方を学び、社会で活躍できる能力、学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握し、正しい判断が下せる力を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 歴史の中での毒
- 第2週 毒を形成する要因
- 第3週 食品における毒
- 第4週 毒性の評価方法
- 第5週 食品中の化学物質と安全性試験
- 第6週 安全性の考え方
- 第7週 新しい食品の安全性
- 第8週 食物アレルギー
- 第9週 薬物代謝
- 第10週 食品と医薬品の相互作用
- 第11週 変異原性と発がん性
- 第12週 食品と発がん
- 第13週 活性酸素と過酸化脂質
- 第14週 食品と放射能
- 第15週 抗生物質

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回の授業範囲を伝えるので、事前に下記参考書等を読み、各テーマについてポイントをまとめ、理解に努める。また、質問があれば用意すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 毎回授業内容のプリント資料を配布するので、内容を復習し、事前学修で作成した資料に加えてまとめ理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

毎回プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験（70%）および授業態度（30%）により評価する。試験結果は授業最終回に解説を行いフィードバックする。

**【参考書】**

- 菅家祐輔・坂本義光編著『食安全の科学』（三共出版 2009年）  
本体2,800円
- 中村好志・西島基弘編著『食品安全学 第2版』（同文書院  
2010年）本体2,500円

**【注意事項】**

特にテキストは指定しませんが、ノートテイクをしっかりとって、参考書を大いに利用してください。

**毒性学**

井部 明広

4年 前期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

食品中に含有される化学物質は、毒性の強さと摂取量により評価される。食品の安全を確保するためには、摂取する可能性のある毒性物質や過去において事故を起こした物質について検証し、毒性発現のメカニズムを知ることが再発防止に役立つ。

本講義では、食品に含有される可能性のある化学物質や自然毒による中毒・発病事例をもとに、その社会背景やメカニズム等を解説する。食品の安全性を毒性の予見、人への危害防止といった毒性学の観点から考えられるようになることを目標とする。

**【授業における到達目標】**

食品衛生を実践する上で必要な基礎的知識、考え方を学び、社会で活躍できる能力、学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握し、正しい判断が下せる力を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 歴史の中での毒
- 第2週 毒を形成する要因
- 第3週 食品における毒
- 第4週 毒性の評価方法
- 第5週 食品中の化学物質と安全性試験
- 第6週 安全性の考え方
- 第7週 新しい食品の安全性
- 第8週 食物アレルギー
- 第9週 薬物代謝
- 第10週 食品と医薬品の相互作用
- 第11週 変異原性と発がん性
- 第12週 食品と発がん
- 第13週 活性酸素と過酸化脂質
- 第14週 食品と放射能
- 第15週 抗生物質

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回の授業範囲を伝えるので、事前に下記参考書等を読み、各テーマについてポイントをまとめ、理解に努める。また、質問があれば用意すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 毎回授業内容のプリント資料を配布するので、内容を復習し、事前学修で作成した資料に加えてまとめ理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

毎回プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験（70%）および授業態度（30%）により評価する。試験結果は授業最終回に解説を行いフィードバックする。

**【参考書】**

- 菅家祐輔・坂本義光編著『食安全の科学』（三共出版 2009年）  
本体2,800円
- 中村好志・西島基弘編著『食品安全学 第2版』（同文書院  
2010年）本体2,500円

**【注意事項】**

特にテキストは指定しませんが、ノートテイクをしっかりと、参考書を大いに利用してください。

**毒性学**

井部 明広

4年 前期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

食品中に含有される化学物質は、毒性の強さと摂取量により評価される。食品の安全を確保するためには、摂取する可能性のある毒性物質や過去において事故を起こした物質について検証し、毒性発現のメカニズムを知ることが再発防止に役立つ。

本講義では、食品に含有される可能性のある化学物質や自然毒による中毒・発病事例をもとに、その社会背景やメカニズム等を解説する。食品の安全性を毒性の予見、人への危害防止といった毒性学の観点から考えられるようになることを目標とする。

**【授業における到達目標】**

食品衛生を実践する上で必要な基礎的知識、考え方を学び、社会で活躍できる能力、学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握し、正しい判断が下せる力を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 歴史の中での毒
- 第2週 毒を形成する要因
- 第3週 食品における毒
- 第4週 毒性の評価方法
- 第5週 食品中の化学物質と安全性試験
- 第6週 安全性の考え方
- 第7週 新しい食品の安全性
- 第8週 食物アレルギー
- 第9週 薬物代謝
- 第10週 食品と医薬品の相互作用
- 第11週 変異原性と発がん性
- 第12週 食品と発がん
- 第13週 活性酸素と過酸化脂質
- 第14週 食品と放射能
- 第15週 抗生物質

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回の授業範囲を伝えるので、事前に下記参考書等を読み、各テーマについてポイントをまとめ、理解に努める。また、質問があれば用意すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 毎回授業内容のプリント資料を配布するので、内容を復習し、事前学修で作成した資料に加えてまとめ理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

毎回プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験（70%）および授業態度（30%）により評価する。試験結果は授業最終回に解説を行いフィードバックする。

**【参考書】**

- 菅家祐輔・坂本義光編著『食安全の科学』（三共出版 2009年）  
本体2,800円
- 中村好志・西島基弘編著『食品安全学 第2版』（同文書院  
2010年）本体2,500円

**【注意事項】**

（管理栄養士専攻、健康栄養専攻 対象）

**読書と豊かな人間性**

読書活動と児童生徒の学力・人格形成

安藤 友張

2年 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

児童生徒の学力形成のみならず、人格形成にも寄与する読書活動の在り方について検討する。さらに、児童生徒を取り巻く社会環境（情報環境）の現状を分析しつつ、学校教育における読書指導の在り方を考える。地域・家庭との連携を視野に入れた読書推進活動も考える。

**【授業における到達目標】**

- ・受講生自身の主体的な読書活動を通して、広い視野と洞察力を身につける。
- ・児童生徒に対する多種多様な読書指導（読書推進）の方法を理解する。

**【授業の内容】**

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 読書の意義と目的
- 第3回 学校教育における言語活動と読書
- 第4回 読書と人格形成：児童生徒の心の教育
- 第5回 児童生徒の発達段階と読書：発達心理学の視点から
- 第6回 児童生徒向け図書の種類と活用
- 第7回 多様な読書資料の選択・収集・提供
- 第8回 読書指導とは何か
- 第9回 読書指導の実践（1）ブックトーク、ストーリーテリング
- 第10回 読書指導の実践（2）読書のアニメーション
- 第11回 読書指導の実践（3）ビブリオバトル
- 第12回 読書指導の実践（4）リテラチャーサークル
- 第13回 個々の児童生徒に応じた読書支援：特別なニーズをもつ子どもに対する支援
- 第14回 児童生徒をとりまく読書環境
- 第15回 地域・家庭との連携による読書活動の推進

**【事前・事後学修】**

【事前学修】地方自治体が作成した「子ども読書活動推進計画」を探し、その中で一つ選び、通読しておくこと（学修時間 週2時間）。都道府県又は市町村のどちらの推進計画でもよい。

【事後学修】授業中に配付した各種のプリントを読み返し、復習しておくこと（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

プリントを配付する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

学期末レポート50%、小レポート30%、口頭発表（ブックトークなど）20%で総合的に評価する。学生による授業アンケートを実施後、成績評価を含めて全体総括し、manabaを通してフィードバックする予定である。

**【参考書】**

山本隆春編『読書教育を学ぶ人のために』（世界思想社、2015年）

**【注意事項】**

本科目の履修期間中に、文部科学省「子供の読書活動推進に関する有識者会議」の議事録を同省の公式サイトで閲覧しておくこと。

**日本の芸能**

井上 愛

1・2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

**【授業のテーマ】**

本講義は、足利将軍のもとで花開いた室町文化について探究することを目的とする。それを基にして、受講者の現代の芸能・文化への関心を高め、どのように繋がっているのか、異なっているのかを考察することを中心に進めていく。室町時代は、私たちの日常の中で親しんでいる様々な「伝統芸能」「伝統文化」の土台が作られた時代である。それらの文化は、何代にもわたって足利将軍たちが愛した文化であり、彼らの強力なバックアップによって、多くの人々の心をつかんだものである。本講義では、①三代将軍足利義満と猿楽（能楽）、②四代将軍足利義持と田楽、③八代将軍足利義政と茶道の三つを柱とする。DVDなどの視聴教材を用いて、目・耳の感性を磨きながら、古典芸能をはじめとする室町文化に関する知識を得る。

**【授業における到達目標】**

- 1、室町文化の特質と歴史を考察することで、自己の感性の幅を広げ、また深めることができる（美の探究）。
- 2、足利将軍と室町文化の知識を得ることで、日本の伝統文化を世界に発信できる（国際的視野）。
- 3、室町文化を通して、現代の芸能が持っている奥行きへの関心を高められ、継続的に知を探究する研鑽力を身に付けることができるようになる（研鑽力）。

**【授業の内容】**

- 1 ガイダンス 授業の紹介
- 2 猿楽（能楽）の芸能について学ぶ
- 3 室町時代の猿楽（能楽）の歴史
- 4 三代将軍・足利義満の事績
- 5 足利義満と猿楽（能楽）の大成者・世阿弥の関わり
- 6 世阿弥の業績を学ぶ
- 7 田楽の芸能について学ぶ
- 8 四代将軍・足利義持の事績
- 9 足利義持と田楽者・増阿弥の関わり
- 10 増阿弥の芸能の特色
- 11 八代将軍・足利義政と茶道
- 12 室町時代の「茶」1 茶の伝来
- 13 室町時代の「茶」2 闘茶について
- 14 村田珠光の「茶」の思想
- 15 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修 次回の授業範囲を予習しておく。指定した専門用語を調べる（2時間）。

事後学修 毎時間の提出物に「授業のまとめ」を記述する。翌週返却するので復習すること（2時間）。

**【テキスト・教材】**

教科書は指定しない。授業時に適宜プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

テスト…45%（一部持ち込み可）

各授業の提出物（毎時間、授業のまとめ・感想・質問等を記入）提出物は次回の授業でフィードバックする…40%

授業態度…15%

**【注意事項】**

授業中の私語禁止。

毎週の提出物に授業内容の質問事項を設けている。翌週の授業で質問に答えることで、学生の皆さんとともに授業の内容をより掘りさげていきたいので、是非積極的に書いてほしい。

## 日本の美術 a

18世紀の京都の絵画史

野口 剛

2年～ 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

### 【授業のテーマ】

18世紀後半の京都画壇が、円山応挙や伊藤若冲、曾我蕭白、池大雅、与謝蕪村など、日本の美術史に大きな足跡を残す優れた画家を多数輩出したことはよく知られています。しかし、特筆される偉大な「個」が多いゆえに、それらの画家たちが共有する文化的な土壌や、世紀の前半を含めた歴史的連続性が等閑に付される傾向も指摘できるようです。

この授業では、17世紀の京都文化をバックボーンにして生まれた尾形光琳から、18世紀に胚胎して次の19世紀に繁栄を極める円山派・四条派の画家たちまでを範囲として、今日では一般にあまり知られることのない画家も含め、それぞれの作品の魅力や歴史的意義を把握しながら、18世紀の京都の絵画を一続きのものとして捉えることを試みます。

### 【授業における到達目標】

日本の近世絵画に対する深い理解や多様な観点を獲得します。学生が修得すべき「美の探究」のうち、美術史的な感受性を深めようとする態度を修得します。

### 【授業の内容】

- 第1週 尾形光琳 町衆美術から琳派へ
- 第2週 校外実習（根津美術館「光琳と乾山」）
- 第3週 鶴澤探山と探鯨 京都の狩野派の先進性
- 第4週 渡辺始興 琳派と狩野派、写生派の結節点
- 第5週 望月玉蟾と大西酔月 18世紀中葉の京都の唐絵
- 第6週 円山応挙 写生派の祖の実像
- 第7週 伊藤若冲 唐絵から奇想へ
- 第8週 曾我蕭白 新奇なアナクロニズム
- 第9週 池大雅 中国文化の申し子・文人画の巨匠
- 第10週 与謝蕪村 和と漢が交錯する文人画
- 第11週 校外実習（実習場所未定）
- 第12週 長沢芦雪 「型破り」の画家
- 第13週 円山派と四条派 「京派工房」という幻想
- 第14週 御所の障壁画と近世京都画壇
- 第15週 総括

### 【事前・事後学修】

#### 【事前学修】

前回授業中に配布したプリントに掲げる参考文献を読み、予習すること（2時間）。

#### 【事後学修】

配布したプリントを復習すること。指示に従い小レポートを提出すること（2時間）。

### 【テキスト・教材】

毎回プリントを配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小レポート20点、期末試験50点、平常点（授業態度）30点で評価します。小レポートは次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

### 【参考書】

参考図書や文献は、授業において示します。

### 【注意事項】

美術館・博物館での校外実習（見学授業）を2回程度行う予定にしています。土曜日もしくは日曜日に実施します。見学は、上記の順番とは異なる場合があります（詳細は授業中にお知らせします）。見学に関わる費用は自費とします。

## 日本の美術 b

日本古代～中世仏教絵画の諸相と展開—図像と表現—

白原 由起子

2年～ 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

### 【授業のテーマ】

飛鳥時代から南北朝時代に制作された仏教絵画の諸相と展開を論じる。

毎回、奈良仏教、密教、浄土信仰、神仏習合、説話画などのテーマを設け、その思想や教義に基づいて制作された絵画の代表作例をとりあげる。それら作品を、図像や表現技法の視点から解説し、研究の現状や課題を考察する。

### 【授業における到達目標】

仏教絵画への基本的知識と歴史文化環境に対する理解を深めること、また仏画を理解するための様々な研究アプローチを実践的態度で学ぶことを目標とする。それにより、美術作品を学ぶ能力を身につけ、日本美術に対する感性を深めることを目標とする。

受講者にとっての具体的な到達目標は、受講による知識の理解だけでなく、実際に作品を観察し、講義中に行う口頭発表や小テストを経ることで、最終的に研究レポートを作成することにある。

### 【授業の内容】

- 第1週 イントロダクション：インド～シルクロード～飛鳥
- 第2週 奈良時代の仏教絵画：玉虫厨子
- 第3週 奈良時代の仏教絵画：法隆寺金堂壁画・刺繍釈迦説法図
- 第4週 仏教尊の図像・素材と技法
- 第5週 密教絵画：両界曼荼羅
- 第6週 密教絵画：別尊曼荼羅・独尊像
- 第7週 浄土信仰の絵画：当麻曼荼羅・浄土図・来迎図
- 第8週 浄土信仰の絵画：平等院鳳凰堂の扉絵・壁画
- 第9週 浄土信仰の絵画：六道絵
- 第10週 院政期の仏画：仏涅槃図・釈迦金棺出現図
- 第11週 院政期の仏画：裝飾経・中尊寺の絵画
- 第12週 神仏習合の絵画：熊野信仰
- 第13週 神仏習合の絵画：春日信仰
- 第14週 仏教説話画と絵説き：聖徳太子絵伝・善光寺縁起絵
- 第15週 展覧会见学（日時は受講者と相談の上決定する）

### 【事前・事後学修】

1次に受講した「仏教美術史入門」の内容を復習しておくこと。  
事前学修：各回の講義の際、次回の講義のための参考文献を告知し、必要に応じてコピーを配布するので、それにより予備知識を得る。（学修時間 週1時間）。

事後学修：各回の講義で指定した参考書や展覧会図録の参照と読解により理解を深め、口頭発表やレポート作成に役立てる。（学修時間 週3時間）

### 【テキスト・教材】

テキストは使用しない。  
それぞれのジャンルや作品に関する参考書や展覧会図録を、講義中に適宜紹介する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- 講義中に事前告知なしで実施する小テスト（2～3回） 10%
  - 講義中に事前告知をしたうえで実施する口頭発表（1回） 20%
  - 研究レポート 70%
- 小テストは、その都度フィードバックを行う。

### 【参考書】

講義中に適宜紹介する。

### 【注意事項】

受講者には、仏教美術展で作品を実見ことが求められる。展覧会は、東京国立博物館および都内の美術館（1または2館）の予定。東京国立博物館（本館・法隆寺宝物館）は無料で観覧できるが、その他の美術館・博物館の見学の場合、入館料は受講者の負担となる。

## 日本の文学 a

神話の世界

森 陽香

1年～ 前期 2単位

○：国際的視野、美の探求、研鑽力

### 【授業のテーマ】

現在、天皇陛下の退位や新元号についてのニュースを、多く目にしていることと思います。そこでこの授業では、『古事記』上巻を取り上げ、天皇制が確立したまさに最初の時期に、古代の日本人が、天皇制に関わってどのような神話を創造したのかを学びます。『古事記』は712年に成立した、現存する日本最古の書物で、そのうちの上巻に、天と地の始まりから、天上・地上それぞれで神々が活躍し、最終的に初代の神武天皇へと続いてゆく、スケールの大きな神話が記録されています。半期の授業を通じて、その神話を通読し、日本的な思考や信仰についての基礎的な知識を獲得することをめざします。

### 【授業における到達目標】

- ・『古事記』上巻の神話について、その概要を理解する。
- ・『古事記』上巻に見る、古代的な発想の形（天皇の位置づけや、高天原・黄泉国・葦原中国といった神話的世界観についてなど）を、具体的に理解する。

### 【授業の内容】

- 1週 授業の概要の説明、上代文学全般についての説明
- 2週 『古事記』の概要の説明
- 3週 神話を読む 天地初発
- 4週 神話を読む イザナキ・イザナミ
- 5週 神話を読む 黄泉の国
- 6週 神話を読む アマテラスとスサノヲ
- 7週 神話を読む ヤマトノフクロ
- 8週 神話を読む オオクニヌシ
- 9週 神話を読む オオクニヌシとスクナヒコナ
- 10週 神話を読む 国譲りの神話1 天若日子など
- 11週 神話を読む 国譲りの神話2 天孫降臨
- 12週 神話を読む ニニギノミコトの結婚
- 13週 神話を読む ウミサチ・ヤマサチ
- 14週 神話を読む 全体の振り返り
- 15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：およそ次回に読む神話の範囲を指定しておくので、予め目を通しておく。十分に意味内容を理解しておく必要はないが、「ここの意味がわからない」など、わからない箇所をはっきりさせておくことができれば良い。（約2～3時間）

事後学修：半期のうちに3回程度、簡単なレポートを課し、それを成績評価の対象にする（下記参照）。約3～4週の授業を一周くりとして、レポート課題を発表するので、課題が発表されたあとそのレポート作成に取り組む。（1回のレポートに6～7時間程度か）

### 【テキスト・教材】

教科書購入は必須ではありませんが、授業では次の本を使用して読み進めます。すでに別の本で『古事記』をお持ちの場合、新たに購入する必要はありません。

中村啓信『新版古事記 現代語訳付き』（角川ソフィア文庫2009年）1253円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

3～4回のレポート課題で評価（100%）。各回のレポート提出後、次回作成するレポートがより良いものとなるよう、必要に応じてフィードバックを行う。

### 【参考書】

講義内で指示。

## 日本の文学 a

『源氏物語』第一部を読む

林 悠子

1年～ 前期 2単位

○：国際的視野、美の探求、研鑽力

### 【授業のテーマ】

54の巻々からなる長大な物語である『源氏物語』は、冒頭の桐壺巻から第33巻・藤裏葉巻までの第一部、第34巻・若菜上巻から第41巻・幻巻までの第二部、第45巻・橘姫から最終巻夢浮橋までの第三部の、三部で構成されていると考えるのが通説となっています。

この授業では、物語の第一部から主要な巻・場面を選んで読んでいきます。『源氏物語』の第一部は、主人公光源氏の誕生から、「准太上天皇」の位を授けられて栄華を極めるまでの前半生が描かれます。桐壺帝と桐壺更衣の悲恋、若紫の登場、葵上と六条御息所の車争いなど、なじみ深い場面やエピソードが多いことも第一部の特徴です。

### 【授業における到達目標】

授業では『源氏物語』第一部の主要な場面とエピソードに通じることをまずは重視します。また、それらに関わる先行研究を紹介することで、物語の「国文学研究的」な読み方に触れ、受講者が物語の構成や表現について独自の分析できるようになることを目標とします。全学DPの【研鑽力】のうち学ぶ楽しみを知り、生涯にわたって学問を続ける力の習得を目指します。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 桐壺巻
- 第3週 夕顔巻
- 第4週 若紫巻
- 第5週 末摘花巻
- 第6週 紅葉賀巻
- 第7週 花宴巻
- 第8週 葵巻
- 第9週 賢木巻
- 第10週 須磨巻
- 第11週 明石巻
- 第12週 薄雲巻
- 第13週 玉鬘巻
- 第14週 藤裏葉巻
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

次の週の授業に関連するテキストの箇所を、前の週の授業で示します。現代語訳の助けを借りながら、内容を把握して来てください（学修時間・週3時間）。授業時間内に、教員が解説を加えられる箇所は限られていますので、あらかじめ各自で通読して来たことを前提に授業を行います。ほぼ毎回予習確認の豆テストがあります。不定期で復習の豆テストを行うので、前回の授業の復習をしてきて下さい（学修時間・週1時間）。

### 【テキスト・教材】

秋山虔・桑名靖治・鈴木日出男編『源氏物語読本』（筑摩書房

1996 税込1080円）を主に用います。

その他、適宜プリントを配付します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中に行う作業（リアクションペーパー・ワークシートの記入、授業内で行う豆テスト）40%、学期末レポート60%で評価します。リアクションペーパー・ワークシート・豆テストのフィードバックは次週の授業時に行います。レポートは希望者に限って後期に返却します。

### 【参考書】

鈴木日出男・多田一臣・藤原克己『日本の古典—古代編』放送大学教育振興会、2005

高木和子『平安文学でわかる恋の法則』ちくまプリマー新書、2011  
その他、授業中に適宜紹介します

日本の文学b

『源氏物語』第二部・第三部を読む

林 悠子

1年～ 後期 2単位

○：国際的視野、美の探求、研鑽力

【授業のテーマ】

54の巻々からなる長大な物語である『源氏物語』は、冒頭の桐壺巻から第33巻・藤裏葉巻までの第一部、第34巻・若菜上巻から第41巻・幻巻までの第二部、第45巻・橋姫から最終巻夢浮橋までの第三部の、三部で構成されていると考えるのが通説となっています。この授業では、物語の第二部・第三部を扱います。『源氏物語』第二部は、初老を迎えた光源氏が若い皇女・女三宮を妻に迎えるところから始まり、最愛の妻・紫上を喪うまでの光源氏の後半生の物語です。光源氏没後の世界を描く第三部は、光源氏の血のつながらない息子・薫の恋愛が描かれます。

【授業における到達目標】

授業では『源氏物語』第二部・第三部の主要な場面とエピソードに通じることをまずは重視します。また、それらに関わる先行研究を紹介することで、物語の「国文学研究的」な読み方に触れ、受講者が物語の構成や表現について独自の分析できるようになることを目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 若菜上巻 ①女三宮降嫁
- 第3週 若菜上巻 ②蹴鞠の日の垣間見
- 第4週 若菜下巻 ①六条院女楽
- 第5週 若菜下巻 ②柏木と女三宮の密通
- 第6週 若菜下巻 ③密通の露見
- 第7週 柏木巻
- 第8週 御法巻
- 第9週 幻巻
- 第10週 橋姫巻
- 第11週 総角巻
- 第12週 浮舟巻 ①匂宮と浮舟の密通
- 第13週 浮舟巻 ②密通の露見
- 第14週 手習巻・夢浮橋巻
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

次の週の授業に関連するテキストの箇所を、前の週の授業で示します。現代語訳の助けを借りながら、内容を把握して来てください（学修時間・週3時間）。授業時間内に、教員が解説を加えられる箇所は限られていますので、あらかじめ各自で通読して来たことを前提に授業を行います。ほぼ毎回予習確認の豆テストがあります。不定期で復習の豆テストを行うので、前回の授業の復習をしてきて下さい（学修時間・週1時間）。

【テキスト・教材】

秋山虔・桑名靖治・鈴木日出男編『源氏物語読本』（筑摩書房 1996 税込1080円）を主に用います。その他、適宜プリントを配付します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中に行う作業（リアクションペーパー・ワークシートの記入、不定期に行う豆テスト）40%、学期末レポート60%で評価します。

リアクションペーパー・ワークシート・豆テストのフィードバックは次週の授業時に行います。レポートは、全体に対する講評をmanaba上に掲載します。

【参考書】

鈴木日出男・多田一臣・藤原克己『日本の古典—古代編』放送大学教育振興会、2005  
高木和子『平安文学でわかる恋の法則』ちくまプリマー新書、2011  
その他、授業中に適宜紹介します。

日本の文学b

歌の世界

森 陽香

1年～ 後期 2単位

○：国際的視野、美の探求、研鑽力

【授業のテーマ】

現在、天皇陛下の退位や新元号についてのニュースを、多く目にしていると思います。そこでこの授業では、天皇制や元号など、現代の仕組みの基礎が作られた古代日本について、当時生きていた人々の暮らしと、心のありようを知ることを目的に、『万葉集』の歌々を読みます。映像資料も用いながら、古代の人々がどのような心を持ちながらどのように生きていたのか、信仰・子育て・恋愛・死・遊びといったテーマをもうけて、具体的に考察します。

【授業における到達目標】

- ・『万葉集』の有名な歌々に触れ、鑑賞する能力を養う。
- ・『万葉集』を通して、古代的な暮らしと心のありようを知り、現代の自分と比較して、似ているところ、違うところを見つけ、日本人として自分が今どのような位置にあるのか考えるきっかけを手に入れる。

【授業の内容】

- 1週 授業の概要の説明、上代文学全般についての説明
- 2週 『万葉集』の概要について
- 3週 信仰1 かみ・たま・もの
- 4週 信仰2 『万葉集』を中心に
- 5週 信仰3 『万葉集』と『古事記』の比較
- 6週 子育て1 子の呼び方、育て方
- 7週 子育て2 親子の関係性について
- 8週 恋1 恋のはじまり
- 9週 恋2 恋の展開
- 10週 恋3 恋の行方
- 11週 死1 死の概念について
- 12週 死2 死者の行方
- 13週 遊び1 歌に詠まれた遊び
- 14週 遊び2 「遊ぶ」ことの意義
- 15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：次回分のプリントを配布しておくので、目を通し、歌の内容などについておおよそ理解しておく。（週1～2時間程度か）  
事後学修：2～4週を一区切りとし、いくつかのテーマを設けて講義を行うので、それぞれのテーマについて論じ終わるごとに、講義内容を復習し内容をまとめるレポートを課します。半期で3～4回程度、レポートを提出することになります。（1回のレポート作成に4～5時間程度を要するか）

【テキスト・教材】

プリントを使用し、特定の教科書は定めません。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

「事後学修」の項に記したレポートによって評価（100%）。レポート提出は随時受け付けますので、必要と判断した際、より良いレポートの書き方や注意点について授業内で指示します。

【参考書】

授業内で指示。



## 日本の文学 c

—井原西鶴『西鶴諸国ばなし』を読む—

越後 敬子

1年～ 前期 2単位

○：国際的視野、美の探求、研鑽力

### 【授業のテーマ】

江戸時代の代表的作家、井原西鶴の『西鶴諸国ばなし』を読みます。本書には狐の復讐話、死んだ娘が生き返る話、天狗の話など、諸国の奇談全35話が収められています。西鶴作品の世界を楽しみながら読んでみましょう。

教材には現代語訳付きの資料を配付しますので、古語・古典文法等の知識は問いません。古典文学作品の世界に触れることを目標にします。

### 【授業における到達目標】

この授業で江戸時代の文学作品を読むことによって、現在とは異なる社会制度や時代思潮、そして庶民生活の有様を学習することができます。

日本の文化を知り、学ぶことの楽しみを知り、生涯にわたり知を探究する力を修得します。

### 【授業の内容】

- 第1週 井原西鶴と『西鶴諸国ばなし』序文
- 第2週 「公事は破らずに勝」（裁判の話）
- 第3週 「不思議のあし音」（足音を聞き分ける盲人の話）
- 第4週 「狐四天王」（狐の復讐の話）
- 第5週 「水筋のぬけ道」（地下水脈に女の死体が流れる話）
- 第6週 「残る物とて金の鍋」（仙人の話）
- 第7週 「夢路の風車」（隠れ里の話）
- 第8週 「面影の焼残り」（死んだ娘が生き返る話）
- 第9週 「行く末の宝舟」（竜宮へ行った者が戻らなかった話）
- 第10週 「忍び扇の長歌」（身分違いの恋の話）
- 第11週 「大晦日はあはぬ算用」（武士の交際の話）
- 第12週 「傘の御託宣」（傘が神様として祀られた話）
- 第13週 「神鳴の病中」（兄弟の遺産相続争いの話）
- 第14週 「銀が落としてある」（正直者が成功する話）
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】各回授業の終わりに配布する次回分プリントを音読してきてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業終了後、もう一度読んで復習してください。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

資料を配付します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験60%、授業内フィードバックシートの提出40%。フィードバックシートに寄せられた質問・感想等は、次回授業時に回答します。

### 【参考書】

『好色二代男 西鶴諸国ばなし 本朝二十不孝』（新日本古典文学大系76 岩波書店）

## 日本の文学 d

—井原西鶴『好色五人女』を読む—

越後 敬子

1年～ 後期 2単位

○：国際的視野、美の探求、研鑽力

### 【授業のテーマ】

江戸時代の代表的作家、井原西鶴の『好色五人女』を読みます。本書は、但馬屋お夏と手代清十郎との密通、八百屋の娘お七と寺小姓吉三郎との恋など、当時よく知られていた五つの恋愛事件を題材に、西鶴が五人の女の運命を描いた作品です。西鶴作品の世界を楽しみながら読んでみましょう。

テキストには現代語訳付きのものを用いますので、古語や古典文法等の知識は問いません。古典文学作品の世界に触れることを目標にします。

### 【授業における到達目標】

この授業で江戸時代の文学作品を読むことによって、現在とは異なる社会制度や時代思潮、そして庶民生活の有様などについて学習することができます。

日本の文化を知り、学ぶことの楽しみを知り、生涯にわたり知を探究する力を修得します。

### 【授業の内容】

- 第1週 井原西鶴と『好色五人女』
- 第2週 巻一「姿姫路清十郎物語」① P166～176
- 第3週 巻一「姿姫路清十郎物語」② P177～184
- 第4週 巻一「姿姫路清十郎物語」③ P185～188
- 第5週 巻二「情を入れし樽屋物語」① P190～200
- 第6週 巻二「情を入れし樽屋物語」② P201～212
- 第7週 巻二「情を入れし樽屋物語」③ P213～217
- 第8週 巻三「中段に見る曆屋物語」① P220～234
- 第9週 巻三「中段に見る曆屋物語」② P235～243
- 第10週 巻三「中段に見る曆屋物語」③ P244～248
- 第11週 巻四「恋草からげし八百屋物語」① P250～268
- 第12週 巻四「恋草からげし八百屋物語」② P269～275
- 第13週 巻五「恋の山源五兵衛物語」① P278～293
- 第14週 巻五「恋の山源五兵衛物語」② P294～301
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】テキストの次回分の該当箇所を音読してきてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】毎週読み終わった範囲をもう一度読んで復習してください。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

資料を配付します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験60%、授業内フィードバックシートの提出40%。フィードバックシートに寄せられた質問・感想等は、次回の授業時に回答します。

### 【参考書】

前田金五郎『好色五人女全注釈』（勉誠社 1992年）

**日本近代美術史演習A**

修士論文の作成

児島 薫

美術史学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

自分の研究テーマに関連する実作品にできるだけ接し、それらを的確に記述していく訓練をする。また文献の収集、読解、整理について実際の作業を通じて学ぶ。

**【授業における到達目標】**

作品・文献に関する情を積極的に収集し、精査する力を養う。アカデミックな研究論文を読み、理解する力を養う。

**【授業の内容】**

1. 研究テーマについて考察
2. テーマに即した文献リスト作成
3. 重要な文献を選び入手する
4. 特に今後の研究の手がかりとなる研究論文を読む
5. 様々な文献を整理する
6. テーマに即して先行研究について考える
7. 先行研究をまとめる
8. 作品調査の方法を考える
9. 作品調査の記録の仕方考える
10. 作品についてディスクリプション
11. 展覧会見学
12. レジュメの作り方
13. パワーポイントのチェック
14. 発表の練習
15. まとめ

\*展覧会の開催時期によって順番を入れ替えることがある。

**【事前・事後学修】**

事前学修：自分の課題のための資料、論文などを読み、わからないことを調べる（週2時間）。

事後学修：指導を受けた内容を踏まえて、進行中の論文、レポートなどを書き直す（週2時間）。

**【テキスト・教材】**

その都度指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への積極的参加50%・提出課題50%）。毎回課題を出すので、それについて書いたものを持ってくる。それに対し、そのつど、あるいは次回の授業時にフィードバックをおこなう。

**【参考書】**

適宜指示する。

**【注意事項】**

自分から積極的に展覧会情報を探して見に行くこと。また積極的に外部の図書館も利用して調査をすること。

**日本近代美術史演習B**

修士論文の作成、発表、まとめ

児島 薫

美術史学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

「日本美術史演習A」を受講した学生を対象に、各自の研究対象に応じて、さらに専門的な研究を進める方法を学ぶ。各自の研究対象に関連する作品や資料の調査をおこない、既存の作家像、作品像にとらわれずに自分の目で見て考える力をつける。研究テーマをより明確にし、修士論文としてまとめていく。

**【授業における到達目標】**

パワーポイントやレジュメの制作など発表するために必要なスキルを身につける。修士論文を執筆する。修了年次の場合には修士論文を提出する。

**【授業の内容】**

1. 研究の進捗状況の確認
2. 今後の研究計画の検討
3. 研究上の問題点の確認
4. 問題点を改善するために必要な調査を確認
5. 研究計画の再検討
6. 先行研究、文献リストのアップデート
7. 作品調査（1）ディスクリプション
8. 調査のまとめ（1）記述の推敲
9. 作品調査（2）作品データの取得
10. 調査のまとめ（2）画像の整理
11. 発表レジュメを整える
12. 参考資料の整理
13. 各自の成果の発表
14. 成果の発表とディスカッション
15. 展覧会見学とまとめ

\*展覧会の開催時期によって順番が前後することがある。

**【事前・事後学修】**

事前学修：自分の課題のための資料、論文などを読み、わからないことを調べる（週2時間）。事後学修：指導を受けた内容を踏まえて、進行中の論文、レポートなどを書き直す（週2時間）。

**【テキスト・教材】**

適宜指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への積極参加50%・提出課題50%）。面談形式でおこなうので、その都度課題を提出し、それに対してフィードバックをおこなう。

**【参考書】**

適宜指示する。

**【注意事項】**

自分から積極的に展覧会情報を調べて見に行くこと。また積極的に外部の図書館も利用して調査をすること。

**日本近代美術史演習 a**

—作品を言葉で表そう—

児島 薫

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

日本近代、現代の美術についてより深く知り、自主的に研究に取り組むことをめざす。美術館活動や展示も対象に含める。美術史研究の基本態度を身につけるために、実際に作品を見て、言葉で作品を書き表すこと（ディスクリプション）の練習をする。言葉にすることで自分が作品をどう見ているかを確認し、互いの発表を通して他の人との見方の違いを知る。また作者や作品について文献を調べることによって、作者の制作意図を考える。正しい日本語、書き言葉としてふさわしい表現を身につける。

**【授業における到達目標】**

正しい日本語で的確に作品について述べるができるよう、努力する。自ら問題意識を持って作品に向かい、積極的に文献を調査しようとする姿勢を身につける。

**【授業の内容】**

1. イントロダクション
  2. 画像を見て作品をディスクリプションする。
  3. ディスクリプションをよりブラッシュアップする。
  4. 見学の予習。
  5. 美術館見学。実際の作品を見てディスクリプションを記し、見学後に提出。
  6. 添削された自分の文章を点検し改善する。
  7. 文献の種類を学ぶ。インターネット検索の活用方法と注意。
  8. 作家略歴などの探し方を学ぶ。
  9. 作品研究発表（1）Aグループ
  10. 作品研究発表（2）Bグループ
  11. 作品研究発表（3）Cグループ
  12. 作品研究発表（4）Dグループ
  13. 作品研究発表（5）Eグループ
- \*発表は1回につき3人から4人として。人数があまり多すぎなければグループ発表ではなく、個別に発表を行う予定だが、シラバスでは便宜的にこのように記す。また人数が多い場合には発表の回数が増える可能性がある。
14. 展覧会見学（展覧会の時期によって実施は前後する。）
  15. まとめと今後の課題の確認

**【事前・事後学修】**

事前学修 授業中に指示する文献などを読み画集などを参照する。また適宜展覧会を見に行く。（週2時間）  
事後学修 課題の復習と予習。また画集や展覧会を見て作品について理解を深める。manabaで意見や感想を募集するので、それについて記述する。（週2時間）

**【テキスト・教材】**

「指定図書」を参照のこと。その他は適宜指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（manabaでの小レポート提出など授業への積極的な取り組み）40%、提出物60%、として総合的に判断する。授業最終回、またはmanabaにおいて講評を示す。

**【参考書】**

授業中に指示する。

**【注意事項】**

「日本近代美術史特講」の授業をまだ受講していない場合には受講すること。展覧会見学はできるだけ休日や夜間開館時間におこなうが、他の授業と重なったなどやむをえず参加できない場合には必ず事前に申し出て、自己都合で欠席しないこと。見学の費用は各自の負担となる。

**日本近代美術史演習 b**

作品の制作の背景に資料で迫る

児島 薫

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

卒業論文を視野に入れつつ、日本近代、現代の美術についてより深く知り、自主的に研究に取り組むことをめざす。美術館活動や展示も対象に含める。自主的に個別の作家やその作品などについて課題を見つけ、発表する。また発表について意見を述べ合う。日本の近・現代美術の作品を積極的に見に行き、様々な展示に触れてほしい。発表には積極的に取り組み、他の人の発表についても意見を述べること。4年生のゼミ分けの前提となるので、意欲的に取り組むこと。

**【授業における到達目標】**

自ら研究テーマを考え、パワーポイントや配付資料を作成して発表することができる。正しい日本語を身につけ、レポートを書く力、話す力、質問する力を身につける。

**【授業の内容】**

1. イントロダクション
  2. 参考文献や資料の種類
  3. 展覧会カタログについて
  4. 学術論文について
  5. 展覧会見学①
  6. 発表のためのレポートの作成。人数に応じて発表の順番、発表方法などを決め、次週から個々に発表をおこなう。
  7. 作品研究発表（1）Aグループ
  8. 作品研究発表（2）Bグループ
  9. 作品研究発表（3）Cグループ
  10. 展覧会見学②
  11. 作品研究発表（4）Dグループ
  12. 作品研究発表（5）Eグループ
  13. 作品研究発表（6）Fグループ
  14. 作品研究発表（7）Gグループ
- \*受講生の人数によって発表予定を変更することがある。展覧会の見学は展覧会の会期によって前後する。
15. まとめと講評

**【事前・事後学修】**

事前学修 関心を持つ対象について文献、資料などを集めて読む。画集などを参照する。適宜展覧会を見る。（週2時間）  
事後学修 他の人の発表を聞いて良かった点などを考える。よくわからなかったことやもっと知りたい内容について本などで調べ、理解を深める。manabaで意見や感想を募集する場合、それについて記述する。（週2時間）

**【テキスト・教材】**

「指定図書」を参照のこと。その他は適宜指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への積極的な参加）40%、レポートなどの提出物60%、として総合的に判断する。授業最終回、またはmanabaにおいて講評を示す。

**【参考書】**

授業中に指示する。

**【注意事項】**

「演習a」を履修した上で履修すること。見学授業はなるべく休日や夜間開館時間におこなうが、「日本近代美術史特講」の授業をまだ受講していない場合には受講すること。展覧会見学はできるだけ休日や夜間開館時間におこなうが、やむをえず参加できない場合には必ず事前に申し出ること。見学の費用は各自の負担となる。受講生の人数や展覧会の開催状況によって、シラバスの順番を変更することがある。

**日本近代美術史研究指導特殊演習A**

美術史研究の実践1

児島 薫

美術史学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

各自、実作品に基づき主体的に研究テーマを考え、文献を集め、読む。

**【授業における到達目標】**

作品・文献に関する情を積極的に収集し、精査する力を養う。  
アカデミックな研究論文を読み、理解する力を養う。

**【授業の内容】**

1. 研究テーマの設定
2. テーマに即した文献リスト作成
3. 基礎研究の論文を読む
4. 重要な論文を読む
5. 研究史の整理
6. 作品調査計画の作成
7. 作品調査（1）
8. 作品調査のまとめ（1）
9. 作品調査（2）記録
10. 作品調査のまとめ（2）
11. 展覧会見学
12. 発表の準備（1）レジュメの検討
13. 発表の準備（2）パワーポイントの検討
14. 発表の予行演習
15. まとめ

\*展覧会の開催時期によって順番を入れ替えることがある。

**【事前・事後学修】**

事前学修：自分の課題のための資料、論文などを読み、わからないことを調べる（週2時間）。

事後学修：指導を受けた内容を踏まえて、進行中の論文、レポートなどを書き直す（週2時間）。

**【テキスト・教材】**

その都度指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への積極的参加50%・提出課題50%）。毎回課題を出すので、それについて書いたものを持ってくる。それに対し、そのつど、あるいは次回の授業時にフィードバックをおこなう。

**【参考書】**

その都度指示する。

**【注意事項】**

自分から積極的に展覧会情報を探して見に行くこと。また積極的に外部の図書館も利用して調査をすること。

**日本近代美術史研究指導特殊演習B**

美術史研究の実践2

児島 薫

美術史学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

実作品に基づき研究を主体的に進める。文献を読解し、先行研究について学び、自分の研究について考えを深める。

**【授業における到達目標】**

研究目的を明確に意識し、意欲的に作品調査、文献検索、資料調査に取り組む態度を身につける。

**【授業の内容】**

1. 研究テーマの確認
2. 文献リストの再検討
3. 必要な論文を読む
4. 論文を批判的に読む
5. 先行研究のまとめ
6. 作品調査計画の作成
7. 作品調査（1）
8. 作品調査のまとめ（1）
9. 作品調査（2）記録
10. 作品調査のまとめ（2）
11. 展覧会見学
12. 発表の準備（1）レジュメの制作
13. 発表の準備（2）パワーポイントの制作
14. 発表の予行演習
15. まとめ

\*展覧会の開催時期によって順番を入れ替えることがある。

**【事前・事後学修】**

事前学修：自分の課題のための資料、論文などを読み、わからないことを調べる（週2時間）。事後学修：指導を受けた内容を踏まえて、進行中の論文、レポートなどを書き直す（週2時間）。

**【テキスト・教材】**

その都度指示する。

**【テキスト・教材】**

その都度指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への積極的参加50%・提出課題50%）。毎回課題を出すので、それについて書いたものを持ってくる。それに対し、そのつど、あるいは次回の授業時にフィードバックをおこなう。

**【参考書】**

その都度指示する。

**【注意事項】**

自分から積極的に展覧会等の作品情報を探して見に行くこと。また積極的に外部の図書館も利用して調査をすること。

## 日本近代美術史特講 a

ジャポニズムの時代

児島 薫

2年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

## 日本近代美術史特講 b

女性とファッション

児島 薫

2年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

## 【授業のテーマ】

西洋から日本やアジアを見るまなざしについて考察し、近代化の中で日本人がいかにそれを内在化していったかについて様々な作例をもとに検証する。実例としてとりあげるのはやや特殊な例である。まず、明治期にイタリアに渡り、現地で画家、教育者として活動した清原玉という女性。次に幼少期からフランス語の英才教育を受け特別に海外文化に親しむ機会があった原田直次郎という人物をなどとりあげる。こうした海外に開かれた時代の後、日本ではどのように「日本」美術を構築しようとしたのかを考える。

## 【授業における到達目標】

東西の美術と比較して日本美術を考える国際的な視野を身につける。自発的に実作品を見に出かけたり画集で探したりし、作者や作品について知ろうとする姿勢を身につける。

## 【授業の内容】

1. ジャポニズムの時代
2. 西洋美術の日本への導入
3. 工部美術学校の人々
4. 清原玉の日本での活動と評価
5. 原田直次郎をとりまく人々
6. 原田直次郎の作品
7. 明治美術会の活動
8. 第三回内国勧業博覧会
9. シカゴ・コロンプス博覧会の日本展示
10. 1900年パリ万国博覧会の留学生
11. 『稿本日本帝国美術略史』
12. アール・ヌーボーと日本美術
13. 展覧会見学
14. まとめ
15. 講評

## 【事前・事後学修】

事前学修：指定図書や授業中に紹介した関連図書、展覧会カタログを読む。東京国立近代美術館などの所蔵品展示や、授業中に指示する美術館などの展覧会を見る。（週2時間）

事後学修：授業で取り上げた作者、作品について図書館の画集などで確認したり調べたりする。（週2時間）

適宜、授業中に指示した展覧会を見に行く。（週2時間）

## 【テキスト・教材】

授業中に指示する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験（80%）、中間レポート（10%）、授業への積極的参加（manabaでのリアクションや出席で判断する）（10%）で総合評価。

授業の最終回またはmanabaで講評をする。

## 【参考書】

授業中に指示する。

## 【注意事項】

展覧会のスケジュールによって、シラバスが前後することがある。見学は授業とは別の日時におこなうことが想定されるが、特別な理由がないかぎりできるだけ参加すること。その交通費、費用は個人負担である。また課題でなくとも、授業の中で展覧会を紹介するので、できるだけ展覧会には足を運んでほしい。「日本近代美術史演習」を受講しようと考えている2年生は必ず履修すること。3年生以上で特講c、dを受講した人でも、日本近代に関心がある人は受講してほしい。

## 【授業のテーマ】

絵を描くこと、評価すること、購入することが基本的に男性によっておこなわれていた時代には、描かれた女性像には男性中心の価値観が投影されていた。たとえ女性画家が描いた場合にも、そうした枠組みを踏まえて考える必要がある。前半は、大正期から昭和戦前期を取り上げる。この時期には多くの日本人が国境を越えて移動した。そのような国際化の時代において、また帝国主義の時代において、描かれた女性像を中心に考察する。後半では戦中、戦後の女性画家を取り上げる。

## 【授業における到達目標】

20世紀前半の日本を取り巻く世界情勢について一定の知識を持ち、そのなかで日本の美術を考えることができるようにする。

## 【授業の内容】

1. 中国服の諸相
2. 画家たちのアジア旅行
3. 画家たちの東洋趣味
4. 描かれた中国服女性
5. 帝展に出品された中国服女性の作品
6. 日本人が描いた韓国伝統服の女性
7. 日本人が描いた台湾の女性
9. 伝統服の女性像についてのまとめ
10. 女性画家が描いた中国服女性
11. 女性画家たちの活動（戦前・洋画家）
12. 女性画家たちの活動（戦前・日本画家）
13. 女性画家たちの活動（戦後・50年代）
14. 展覧会見学
15. まとめ

## 【事前・事後学修】

事前学修：東京国立近代美術館、山種美術館、その他授業中に指示する美術館などの展覧会を見る。または図書館で画集の図版を見たりテレビの美術番組を見たりして作品に親しむ。（週2時間）

事後学修：授業で取り上げた作者、作品について図書館の画集などで確認したり調べたりする。（週2時間）

## 【テキスト・教材】

授業中に指示する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験（80%）、中間レポート（10%）、授業への積極的参加（manabaでのリアクションや出席で判断する）（10%）で総合評価。

授業の最終回またはmanabaで講評をする。

## 【参考書】

授業中に適宜指示する。

## 【注意事項】

展覧会のスケジュールによって、シラバスが前後することがある。見学は授業とは別の日時におこなうことが想定されるが、特別な理由がないかぎりできるだけ参加すること。その交通費、費用は個人負担である。また課題でなくとも、授業の中で展覧会を紹介するので、できるだけ展覧会には足を運んでほしい。「日本近代美術史演習」を受講しようと考えている2年生は必ず履修すること。3年生以上で特講c、dを受講した人でも、日本近代に関心がある人は受講してほしい。

**日本近代美術史特殊研究A**

作品研究を深める1

児島 薫

美術史学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

展覧会见学を通して作品を実地調査する。作品をより深く理解するために、作品が制作された背景について知識を深める。また技法、材料についても一定の知識を得る。

**【授業における到達目標】**

実作品にできるだけ多く接し、多くの文献を積極的に集め、必要な知識を蓄えつつ、的確に記述する力を身につける。

**【授業の内容】**

1. インTRODククション
2. 展覧会见学の準備（1）作家について
3. 展覧会见学の準備（2）展示作品について
4. カタログ論文を読む（1）
5. カタログ論文を読む（2）
6. 展覧会见学（1）
7. ディスクリプションの発表・討議
8. カタログ解説などとの比較
9. 作品解説文の執筆
10. 関連作家、関連作品の検討
11. 関係する文献の調査
12. 比較すべき作品の選定と比較
13. 展覧会见学（2）
14. 報告と意見交換
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：研究に必要な資料の収集、読解など（週2時間）

事後学修：指導を受けた内容を自分の文章に反映する（週2時間）

**【テキスト・教材】**

その都度指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への積極参加50％・提出課題50％）。毎回課題を出すので、それについて書いたものを持ってくる。それに対し、そのつど、あるいは次回の授業時にフィードバックをおこなう。

**【参考書】**

その都度指示する。

**【注意事項】**

自分の研究分野に限らず、積極的に多くの展覧会を見て歩き、美術館などが開く講演会などにも参加して知識を広めること。

**日本近代美術史特殊研究B**

作品研究を深める2

児島 薫

美術史学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

展覧会见学を利用して引き続き作品調査をおこない、作品についてより深く理解することをめざす。また画家の手紙や日記類を読み、より具体的な作家像を構築し、制作の背景について考える。

**【授業における到達目標】**

明治、大正時代の文字史料を読解する力をつける。作品についての確かな文章で述べるができるようになる。

**【授業の内容】**

1. 画家の手紙について
2. いくつかの作例
3. 黒田清輝と関連する手紙について
4. 翻刻作業の注意点
5. 黒田清輝宛書簡（1）友人
6. 黒田清輝宛書簡（2）友人
7. 黒田清輝宛書簡（3）家族
8. 黒田清輝宛書簡（4）家族
9. 展覧会见学
10. 作品研究（1）ディスクリプション
11. 作品研究（2）技法について
12. 作品研究（3）文献調査
13. 作品研究（4）文献の比較、読み込み
14. 作品研究（5）作家の言葉
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：研究に必要な資料の収集、読解など（週2時間）

事後学修：指導を受けた内容を復習し、さらに関連する事柄について調べる。（週2時間）

**【テキスト・教材】**

その都度指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への積極参加50％・提出課題50％）。毎回課題を出すので、それについて書いたものを持ってくる。れに対し、そのつど、あるいは次回の授業時にフィードバックをおこなう。

**【参考書】**

適宜指示する。

**【注意事項】**

何事にも積極的に関心を持ち、展覧会だけでなく美術館の行う講演会などにも参加して知識を広めること。

**日本近代美術史特論A**

日本近代美術について深く学ぶ

児島 薫

美術史学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

日本近代の作品をより深く知り、専門的な研究とはどのようなものかを学ぶ。女性画家の作品を取り上げ、女性画家の置かれた社会状況などについて考察する。また開催中の展覧会を活用し、実作品をよく見て調査する。展覧会カタログの論文や解説文を読むことによって作品調査に基づく研究的な文章の書き方を学ぶ。

**【授業における到達目標】**

作品調査に基づく研究的な文章の書き方を身につける。日本近代美術の研究方法について理解を深める。

**【授業の内容】**

1. ガイダンス
2. 見学予定の展覧会についての概略
3. 展覧会図録の論文を読む（1）全体の読解
4. 展覧会図録の論文を読む（2）用語などを調べる
5. 展覧会見学（1）明治～大正時代
6. 各自自分の関心に応じて作品を選びディスクリプション
7. 関連する文献を集める
8. 作者について学ぶ
9. 発表とディスカッション（1）以下学生の人数によって調整
10. 発表とディスカッション（2）
11. 発表とディスカッション（3）
12. 発表とディスカッション（4）
13. 発表のまとめと反省
14. 展覧会見学（2）昭和時代
15. まとめ

\*展覧会の開催時期によって順番を入れ替えることがある。

**【事前・事後学修】**

事前学修：授業中の課題のための資料、論文などを読む（週2時間）。

事後学修：授業中にわからなかった人名、事項などについて、ノートなどをもとに復習する（週2時間）。

授業に関連する展覧会を自主見学する（随時）。

**【テキスト・教材】**

適宜授業中に指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業内課題の提出40%、授業への積極的な取り組み20%、期末レポート40%。課題やレポートはコメントして返却する。

**【参考書】**

適宜指示する。

**【注意事項】**

「日本近代美術史特論B」と合わせて受講してほしい。展覧会の開催状況によって展覧会見学の時期が前後したり見学の内容が変更になることがある。

**日本近代美術史特論B**

日本近代美術について深く考える

児島 薫

美術史学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

日本近代の作品をより深く知り、専門的な研究とはどのようなものかを学ぶ。開催中の展覧会を活用し、実作品をよく見て調査する。またアカデミックな研究論文を読みながら、日本の近代美術について知識を深める。さらに美術作品を通して「日本」の「近代」とは何かを考え、ナショナリズム、コロニアリズム、ジェンダー論などの観点から考察する。

**【授業における到達目標】**

的確な言葉で作品について述べる力を身につける。研究対象について客観的に分析し、議論する力を身につける。

**【授業の内容】**

1. ガイダンス
2. 学術論文を読む（1）論述形式を学ぶ
3. 学術論文を読む（2）資料の扱いを学ぶ
4. 学術論文を読む（3）論述方法を学ぶ
5. 展覧会見学（1）
6. 各自自分の関心に応じて作品を選びディスクリプション
7. それに関連する文献を集める
8. 作品研究を深めつつ自分のテーマと比較する
9. 発表とディスカッション（1）以下学生の人数によって調整
10. 発表とディスカッション（2）
11. 発表とディスカッション（3）
12. 発表とディスカッション（4）
13. 発表方法などの反省と課題を見つける
14. 展覧会見学（2）
15. まとめ

\*展覧会の開催時期によって順番を入れ替えることがある。

**【事前・事後学修】**

事前学修：授業中の課題のための資料、論文などを読む（週2時間）。

事後学修：授業中にわからなかった人名、事項などについて、ノートなどをもとに復習する（週2時間）。

授業に関連する展覧会を自主見学する（随時）。

**【テキスト・教材】**

授業中に適宜指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業内課題の提出40%、授業に対する積極的な態度20%、期末レポート40%。課題については随時フィードバックをおこなう。期末レポートについてはmanabaでコメントする。

**【参考書】**

適宜指示する。

**【注意事項】**

「日本近代美術史特論A」と合わせて受講してほしい。展覧会の開催状況によって展覧会見学の時期は前後したり見学の回数が増えることがある。

**日本近代美術史入門 a**

幕末から大正期までの日本の美術

児島 薫

1年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

**日本近代美術史入門 b**

大正期末の美術から現代アートまで

児島 薫

1年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

「日本近代美術史入門b」とあわせて、日本の近代から現代までの美術の歴史を、絵画作品を中心にたどります。日本の近現代の作品は、本来私たちにとって一番身近なものであり、美術館で見る機会も多くあります。時代背景とともに主な作品をたどりながら、日本がどのような社会的な変化のなかで美術に向き合ってきたのかを考えていきます。

古い時代と異なり、これこそが重要作品というような評価があまりまっていないので、授業ではなるべく皆さんが画集や美術館で見る機会の多い作品をとりあげます。

**【授業における到達目標】**

明治以後の日本の歴史について正しい知識を持ち、多くの美術作品がどのような時代背景のなかで制作されてきたかを考えることができるようになる。日本の近代美術が多様な文化を学んで形成されていたことを理解できるようになる。

**【授業の内容】**

1. 幕末・西洋文化との出会い
2. 西洋美術教育の始まり
3. 初期の留学生 イタリア・ドイツ
4. 初期の留学生 フランス
5. 日本画の誕生 芳崖・雅邦
6. 日本画の形成 東京美術学校
7. 黒田清輝と白馬会
8. 「彫刻」の誕生
9. 版画、ポスター、デザイン
10. 水彩画の普及
11. 大正期の日本画 東京
12. 大正期の日本画 京都
13. 大正期の洋画
14. 全体の復習
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：東京国立近代美術館、東京国立博物館、東京芸術大学美術館、山種美術館などで日頃から心がけて実際に作品を見る。図書館で美術全集や指定図書の図版を見たりして作品に親しむ。（週2時間）

事後学修：図書館の画集などで、授業で取り上げた作者、作品について確認したり調べたりする。manaba で感想などを求めることができるので、積極的に書き込む。（週2時間）

**【テキスト・教材】**

授業中に指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験と授業への積極的な参加によって評価する。試験の成績80%。授業への参加度20%。授業への参加度は、manabaでおこなうアンケートや小テストの提出状況と出席状況によって判断する。講評は、最終回の授業中、またはmanabaを利用しておこなう。

**【参考書】**

『日本美術館』（小学館）。「独立行政法人国立美術館 所蔵作品総合目録検索システム」のサイト。その他、授業中に指示する。

**【注意事項】**

「日本近代美術史入門a」は半期で構成されているが、「日本近代美術史入門b」と併せて受講することが望ましい。また不明な点については、授業後等に質問をしてください。授業を別の日の美術館見学授業にふりかえる場合があるが、その場合、見学に要する交通費、観覧料等は自費となる。

**【授業のテーマ】**

この授業では「日本近代美術史入門a」に続いて大正末（関東大震災後）から現代までの作品を取り上げる。日本が戦争に向かい、大きな犠牲のもとに戦後を迎え、その後の困難な時代を経て今日まで、どのような社会状況のもとに作家たちが作品を制作してきたのかを考える。現代美術まで扱うので、幅広い関心を持って美術館を訪れ、実作品をなるべく多く見てほしい。

**【授業における到達目標】**

日本の近代史上の重要な事柄について一定の知識を身につけ、多くの美術作品がどのような時代背景のなかで制作されてきたかを探求する姿勢を身につける。日本の近現代の美術作品についてどのような世界情勢の中で制作されたのかについて考える力を身につける。

**【授業の内容】**

1. 大正末～昭和初期の日本画
2. 大正末～昭和初期の洋画
3. 女性画家の活躍
4. 新興美術の展開
5. 帝国の時代1 洋画
6. 帝国の時代2 日本画
7. 戦争の時代1 作戦記録画
8. 戦争の時代2 戦時下の人々
9. 50年代 戦争の記憶
10. 近代美術館の誕生
11. 60年代～70年代 反芸術、「もの派」など
12. 70年代～80年代 世界の中の日本美術
13. 90年代以降の現代美術
14. 全体の復習
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：東京国立近代美術館、その他授業中に紹介する美術館などの展覧会を見に行く。また図書館で画集の図版を見て作品に親しむ。（週2時間）

事後学修：授業で取り上げた作者、作品について図書館の画集などで確認したり調べたりする。manabaで感想などを求めることができるので、それに答える。（週2時間）

**【テキスト・教材】**

授業中に指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験と授業への積極的な参加によって評価する。試験の成績80%。授業への参加度20%。授業への参加度は、manabaでおこなうアンケートや小テストの提出状況と出席状況によって判断する。講評は、最終回の授業中、またはmanabaを利用しておこなう。

**【参考書】**

『日本美術館』（小学館）。「指定図書」を参照のこと。「独立行政法人国立美術館 所蔵作品総合目録検索システム」のサイトや美術館、博物館などの公式サイトの所蔵品データベース。（ネット上の個人のサイトは参照しないこと。）その他適宜指示する。

**【注意事項】**

授業中に展覧会を紹介するのでなるべく見に行くこと。また不明な点については、授業後等に質問をしてほしい。授業を別の日の美術館見学授業にふりかえる場合がある。その場合、見学に要する交通費、観覧料等は自費となる。



## 日本経済論 a

自立した生活者になるためのパーソナル・ファイナンス

高橋 桂子

1年～ 前期 2単位

○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

経済がグローバル化している今日、パーソナル・ファイナンスに関する高い知識を持つことは重要である。社会人になれば自分の夢や希望を達成するため、必要に応じてローンを組み、クレジットを利用する。主体的に金融機関や金融商品を取捨選択できる高いパーソナル・ファイナンス力をもった生活者になることを目標に、本講義では、全国銀行協会や日本証券業会の作成した冊子（予定では4冊）を用いて幅広く金融知識について学ぶ。なお、馴染みの薄い知識の定着を確実なものにするため、冊子が終了するごとに理解度確認を行う。また、本講義は「FP3級」の一部をカバーしている。興味を持った方は是非、積極的にチャレンジしてほしい。

### 【授業における到達目標】

学生が修得すべき「行動力」や「研鑽力」を高め、現状を正しく把握して自分で課題解決できる力を養う。具体的な到達目標は次のようである。(1) パーソナルファイナンスの基礎がわかるようになる。(2) ローンやクレジットに関する基礎的知識をもつことができる。(3) 外貨預金の計算をすることができるようになる。(4) 直接金融に関して概要を把握することができる。

### 【授業の内容】

- 1 ガイダンス：基礎知識の確認・金融教育の必要性
- 2 日本FP協会『10代から学ぶパーソナル・ファイナンス』L4
- 3 日本FP協会『10代から学ぶパーソナル・ファイナンス』L5
- 4 日本FP協会『10代から学ぶパーソナル・ファイナンス』L6+契約・クーリングオフ、契約自由の原則、未成年者取消
- 5 理解度確認1：『10代から学ぶパーソナル・ファイナンス』
- 6 全国銀行協会『ローンとクレジット』L7
- 7 全国銀行協会『ローンとクレジット』L8
- 8 理解度確認2：『ローンとクレジット』
- 9 全国銀行協会『かんたんレシピ』ローン、契約、金利
- 10 全国銀行協会『かんたんレシピ』返済、多重債務
- 11 理解度確認3：『かんたんレシピ』
- 12 日本証券業協会『資産運用』株式
- 13 日本証券業協会『資産運用』債券
- 14 日本証券業協会『資産運用』投資信託
- 15 理解度確認4、まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】ミニテスト、レポートや発表の課題に取り組むこと（学修時間 週2時間）。【事後学修】学んだことを復習すること。次回の授業内容を予習し、専門用語などは理解しておくこと（学修時間 週2時間）。

### 【テキスト・教材】

使用テキストは無料配布のものを活用する。資料等は必要に応じて配布/添付送信する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

理解度確認（小テスト、試験）70%、平常点（授業への積極参加・提出課題）30%から判断する。なお、理解度確認のうち、小テストはその場で、試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

### 【参考書】

適宜、紹介します。

### 【注意事項】

「出席3分の1ルール」は厳格に適用する。  
 毎回、SPIや時事問題に関する簡単なミニテストを実施する。  
 外部講師を招聘する予定です（2017年度実績 日本証券業協会）

## 日本経済論 b

内外の社会経済問題から日本経済を捉える

猪瀬 武則

1年～ 後期 2単位

○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

現在の社会経済問題から日本経済の姿をとらえることを目的とします。環境・グローバル化・労働・生命・社会保障・企業倫理などです。そこから日本経済の在り方をとらえ直します。キーワードは、持続可能性、稀少性、限定合理性、効率、正義、幸福などです。

### 【授業における到達目標】

態度目標 国際的視野：人々が保持する多様な価値観を多面的に把握し、相互の理解と協力を築くことができるようになる。「美の探究」：物事の真理を探究することにより、新たな知を創造しよとすることができる。

能力目標 研鑽力：広い視野と洞察力を身につけ、本質に迫ろうとすることができる。行動力：課題に手順を踏んで問題解決することができる。協働力：自己や他者の役割を理解し、協力して議論を進めることができる。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス、グループ分けなど
- 第2週 消費行動と効用・倫理「幸せ（効用）の消費、エシカルな消費」
- 第3週 消費行動とグローバル化「フェアトレードは途上国に寄与するか？」
- 第4週 経済社会意識の変容1「キューボラのある街」で吉永が演じた時代
- 第5週 経済社会意識の変容2「子どもはお金をどのように考えているかー駄菓子屋からコンビニへ」
- 第6週 税制と社会保障の狭間「寄附は偽善か？」功利主義と幸福の王子
- 第7週 税制と地方自治「ふるさと納税の功罪」
- 第8週 日本と海外の税制の課題「タックスヘイブン・パナマ文書の示唆するもの」
- 第9週 企業の目的と倫理「会社はだれのもの？フリードマンへの手紙」
- 第10週 企業統治と環境・労働「バーゼル条約と汚染企業移動説」
- 第11週 環境問題への日本の取り組み「パリ協定で日本経済は変わるか」
- 第12週 医療の高度化と社会保障の範囲1・・・高額抗がん剤の保険治療
- 第13週 医療の高度化と社会保障の範囲2・・・トリアージと臓器移植
- 第14週 格差と貧困・・・格差原理、無知のヴェールは可能か？
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前：配付された資料を読み、課題映像を視聴 学修時間 週2時間  
 事後：専門用語の確認。関連新聞・ネット記事収集 学修時間 週2時間

### 【テキスト・教材】

資料等を必要に応じて配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験70%、平常点30%（授業参加・シャトルカード記述=質問・感想・意見）。シャトルカードには、毎回、返信・コメントし、試験の解答をmanabaに掲載することでフィードバックする。

### 【参考書】

特になし

### 【注意事項】

政治経済に関連する人文・社会科学概念を学修する上で、視聴覚資料や多様な文字資料を活用し、グループでの討論を通して、知識の共有化、それぞれのもつ価値・価値観の明確化・対象化します。

## 日本語 a

鈴木 美恵子

1年 前期 2単位

## 【授業のテーマ】

この授業では、日本語で話す能力を高めるための学習・練習を行います。

## 【授業における到達目標】

この授業では、色々な話題について日本語で詳しく説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修して身につく態度・能力】◎：研鑽力 ○：協働能力

## 【授業の内容】

- 第1週 「年中行事」トライ、語・表現の学習
- 第2週 「年中行事」練習
- 第3週 「年中行事」まとめ
- 第4週 「スポーツ」トライ、語・表現の学習
- 第5週 「スポーツ」練習
- 第6週 「スポーツ」まとめ
- 第7週 「健康」トライ、語・表現の学習
- 第8週 「健康」練習
- 第9週 「健康」まとめ
- 第10週 「学校教育」トライ、語・表現の学習
- 第11週 「学校教育」練習
- 第12週 「学校教育」まとめ
- 第13週 発表準備
- 第14週 発表
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】新しく学ぶ語や表現等に関する課題に取り組む。（学修時間 週2時間）

【事後学修】新しく学んだ語や表現の復習や、よりスムーズに話すための練習等を行う。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

プリントを使用します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題提出（70%）、授業への取り組み（30%）で総合的に評価します。提出された課題へのフィードバックは、次回授業で行います。

## 日本語 b

鈴木 美恵子

1年 後期 2単位

## 【授業のテーマ】

この授業では、日本語で話す能力を高めるための学習・練習を行います。

## 【授業における到達目標】

この授業では、色々な話題について日本語で詳しく説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修して身につく態度・能力】◎：研鑽力 ○：協働能力

## 【授業の内容】

- 第1週 「私の出身地」トライ、語・表現の学習
- 第2週 「私の出身地」練習
- 第3週 「私の出身地」まとめ
- 第4週 「料理の作り方」トライ、語・表現の学習
- 第5週 「料理の作り方」練習
- 第6週 「料理の作り方」まとめ
- 第7週 「有名人」トライ、語・表現の学習
- 第8週 「有名人」練習
- 第9週 「有名人」まとめ
- 第10週 「映画・ドラマのストーリー」トライ、語・表現の学習
- 第11週 「映画・ドラマのストーリー」練習
- 第12週 「映画・ドラマのストーリー」まとめ
- 第13週 「ニュース」トライ、語・表現の学習
- 第14週 「ニュース」練習
- 第15週 「ニュース」まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】新しく学ぶ語や表現等に関する課題に取り組む。（学修時間 週2時間）

【事後学修】新しく学んだ語や表現の復習や、よりスムーズに話すための練習等を行う。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

プリントを使用します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題提出（70%）、授業への取り組み（30%）で総合的に評価します。提出された課題へのフィードバックは、次回授業で行います。

## 日本語 c

鈴木 美恵子

1年 前期 2単位

## 【授業のテーマ】

この授業では、様々なトピックのドキュメンタリーやニュースなどの映像を視聴します。

## 【授業における到達目標】

様々な分野の言葉や表現を理解し、感想や意見を述べられるようになることを目指します。

【この授業を履修して身につく態度・能力】◎：研鑽力 ○：協働能力

## 【授業の内容】

- 第1週 「科学技術」 視聴、内容理解
- 第2週 「科学技術」 語・表現の学習
- 第3週 「科学技術」 ディスカッション
- 第4週 「ビジネス」 視聴、内容理解
- 第5週 「ビジネス」 語・表現の学習
- 第6週 「ビジネス」 ディスカッション
- 第7週 「労働」 視聴、内容理解
- 第8週 「労働」 語・表現の学習
- 第9週 「労働」 ディスカッション
- 第10週 「福祉」 視聴、内容理解
- 第11週 「福祉」 語・表現の学習
- 第12週 「福祉」 ディスカッション
- 第13週 「経済」 視聴、内容理解
- 第14週 「経済」 語・表現の学習
- 第15週 「経済」 ディスカッション

## 【事前・事後学修】

【事前学修】授業で見るニュースやドキュメンタリーの理解に必要な基礎的な知識を得るために、配布プリント等を読む。(学修時間 週2時間)

【事後学修】新しく学んだ語や表現を復習する。また、授業で見たニュースやドキュメンタリーに対する自分の感想や意見をまとめる。(学修時間 週2時間)

## 【テキスト・教材】

プリントを使用します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題提出(70%)、授業への取り組み(30%)で総合的に評価します。提出された課題へのフィードバックは、次回授業で行います。

## 日本語 d

鈴木 美恵子

1年 後期 2単位

## 【授業のテーマ】

この授業では、様々なトピックのドキュメンタリーやニュースなどの映像を視聴します。

## 【授業における到達目標】

様々な分野の言葉や表現を理解し、感想や意見を述べられるようになることを目指します。

【この授業を履修して身につく態度・能力】◎：研鑽力 ○：協働能力

## 【授業の内容】

- 第1週 「食品」 視聴、内容理解
- 第2週 「食品」 語・表現の学習
- 第3週 「食品」 ディスカッション
- 第4週 「自然環境」 視聴、内容理解
- 第5週 「自然環境」 語・表現の学習
- 第6週 「自然環境」 ディスカッション
- 第7週 「教育」 視聴、内容理解
- 第8週 「教育」 語・表現の学習
- 第9週 「教育」 ディスカッション
- 第10週 「スポーツ」 視聴、内容理解
- 第11週 「スポーツ」 語・表現の学習
- 第12週 「スポーツ」 ディスカッション
- 第13週 「共生社会」 視聴、内容理解
- 第14週 「共生社会」 語・表現の学習
- 第15週 「共生社会」 ディスカッション

## 【事前・事後学修】

【事前学修】授業で見るニュースやドキュメンタリーの理解に必要な基礎的な知識を得るために、配布プリント等を読む。(学修時間 週2時間)

【事後学修】新しく学んだ語や表現を復習する。また、授業で見たニュースやドキュメンタリーに対する自分の感想や意見をまとめる。(学修時間 週2時間)

## 【テキスト・教材】

プリントを使用します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題提出(70%)、授業への取り組み(30%)で総合的に評価します。提出された課題へのフィードバックは、次回授業で行います。

**日本語のしくみ**

— 外来語への理解を深めよう —

**大塚 みさ**

1・2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

今や外来語を見聞きしない日はありません。ファッション雑誌やネットには外来語があふれており、実際には意味のよかつかめないことばもあることでしょう。一方で、若い世代がよく使う外来語が性別や世代によっては馴染みのないことばであることも珍しくありません。また、同じような意味の和語や漢語が存在することも多いのに、外来語を選ぶのはなぜでしょうか。それがコミュニケーション上障害となることもあれば、逆に効果を発揮することもある理由は何でしょうか。こうした疑問を解消するために、外来語について多角的にアプローチしていきます。

外来語への接触度や理解度には個人差があります。本科目は2学科の全学生が受講できる点を生かして、教育支援ツールresponを用いた積極的な意見交換の場を設けます。これまで何気なく目にしてきた外来語について、多角的な理解と関心を深めてほしいと願っています。

**【授業における到達目標】**

- ・ 外来語をキーとして日本語を外から観察し、「国際的視野」を広げられるようになります。
- ・ 日本語における外来語の本質を正しくとらえることで、ことばに対する感性を磨き、「美の探究」を実践します。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODakション—外来語とは？
- 第2週 言語文化論から見た外来語—雑種文化と外来語
- 第3週 衣食住にみる外来語 1 ファッション誌の中の外来語
- 第4週 衣食住にみる外来語 2 食文化と外来語
- 第5週 語彙調査にみる外来語 1 外来語は本当に多いのか
- 第6週 語彙調査にみる外来語 2 外来語がどこに多いのか
- 第7週 文化・娯楽場面の外来語 1 近現代小説の中の外来語
- 第8週 文化・娯楽場面の外来語 2 JPOP・映画と外来語
- 第9週 文化・娯楽場面の外来語 3 テレビ番組名の中の外来語
- 第10週 意識調査に見る外来語 1 世論調査結果を分析しよう
- 第11週 意識調査に見る外来語 2 新聞の投書から考えよう
- 第12週 外来語意識の実際—和製外来語とその構造
- 第13週 外来語と言語政策 1 言い換えのメリット・デメリット
- 第14週 外来語と言語政策 2 海外との比較
- 第15週 まとめと学びの振り返り

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回の授業内容に関する課題に取り組み、responで他の受講生と意見交換を行うことにより関心を深めること。

(学修時間 週2時間)

【事後学修】 授業内容をさらに発展させる課題に取り組み、その成果をresponで共有して理解を深めること。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

ワークシートやプリントを配付します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- 小規模のレポート課題 (10月・11月・1月の3回) …70%
  - 授業への積極的参加、事前・事後学修課題 …30%
- レポート課題は数回後の授業時にルーブリック形式でフィードバックを行います。事前・事後学修課題には、翌週授業時にフィードバックを行います。

**【参考書】**

- 陣内正敬『外来語研究の新展開』（おうふう 2012年）2,080円
  - 沖森卓也・阿久津智（編著）『ことばの借用』（朝倉書店 2015年）2,808円
- そのほか、授業中に適宜紹介する予定です。

**【注意事項】**

- ・ 短期大学部受講ルールを厳守しましょう。

**日本語のしくみ**

— 外来語への理解を深めよう —

**大塚 みさ**

1年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

今や外来語を見聞きしない日はありません。ファッション雑誌やネットには外来語があふれており、実際には意味のよかつかめないことばもあることでしょう。一方で、若い世代がよく使う外来語が性別や世代によっては馴染みのないことばであることも珍しくありません。また、同じような意味の和語や漢語が存在することも多いのに、外来語を選ぶのはなぜでしょうか。それがコミュニケーション上障害となることもあれば、逆に効果を発揮することもある理由は何でしょうか。こうした疑問を解消するために、外来語について多角的にアプローチしていきます。

外来語への接触度や理解度には個人差があります。本科目は2学科の全学生が受講できる点を生かして、教育支援ツールresponを用いた積極的な意見交換の場を設けます。これまで何気なく目にしてきた外来語について、多角的な理解と関心を深めてほしいと願っています。

**【授業における到達目標】**

- ・ 外来語をキーとして日本語を外から観察し、「国際的視野」を広げられるようになります。
- ・ 日本語における外来語の本質を正しくとらえることで、ことばに対する感性を磨き、「美の探究」を実践します。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODakション—外来語とは？
- 第2週 言語文化論から見た外来語—雑種文化と外来語
- 第3週 衣食住にみる外来語 1 ファッション誌の中の外来語
- 第4週 衣食住にみる外来語 2 食文化と外来語
- 第5週 語彙調査にみる外来語 1 外来語は本当に多いのか
- 第6週 語彙調査にみる外来語 2 外来語がどこに多いのか
- 第7週 文化・娯楽場面の外来語 1 近現代小説の中の外来語
- 第8週 文化・娯楽場面の外来語 2 JPOP・映画と外来語
- 第9週 文化・娯楽場面の外来語 3 テレビ番組名の中の外来語
- 第10週 意識調査に見る外来語 1 世論調査結果を分析しよう
- 第11週 意識調査に見る外来語 2 新聞の投書から考えよう
- 第12週 外来語意識の実際—和製外来語とその構造
- 第13週 外来語と言語政策 1 言い換えのメリット・デメリット
- 第14週 外来語と言語政策 2 海外との比較
- 第15週 まとめと学びの振り返り

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回の授業内容に関する課題に取り組み、responで他の受講生と意見交換を行うことにより関心を深めること。

(学修時間 週2時間)

【事後学修】 授業内容をさらに発展させる課題に取り組み、その成果をresponで共有して理解を深めること。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

ワークシートやプリントを配付します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

小規模のレポート課題(10月・11月・1月の3回) …70%

授業への積極的参加、事前・事後学修課題 …30%

レポート課題は数回後の授業時にルーブリック形式でフィードバックを行います。事前・事後学修課題には、翌週授業時にフィードバックを行います。

**【参考書】**

陣内正敬『外来語研究の新展開』(おうふう 2012年) 2,080円

沖森卓也・阿久津智(編著)『ことばの借用』

(朝倉書店 2015年) 2,808円

そのほか、授業中に適宜紹介する予定です。

**【注意事項】**

- ・ 短期大学部受講ルールを厳守しましょう。

**日本語のバリエーション**

日本語の多様性を探る

八木 公子

2年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

「ってか、それやばくね？」

「おいしゅうございました」

「ほんまによう言わんわ」

あなたは自分で言いますか。あるいは、言わないと思いますか。

私たちが日々使っている日本語には様々なバリエーションがある。  
この授業では、時に英語の比較例などもまじえながら、日本語にど  
のようなバリエーションがあるのか、日本語の多様性を探る。

**【授業における到達目標】**

身近な「日本語」には実は様々なバリエーションがあることを研究例  
を通して学び、日本語についての理解を深める。

また、身近な言語をデータとして分析し、隠れているルールを考察  
する愉しみを、研究例や自身の分析レポートを通して学ぶ。

「学修を通して自己成長する研鑽力」「物事の真理を探究し、新た  
な知を創造しようとする態度」を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション  
ことばのバリエーションとは
- 第2週 社会言語学とは
- 第3週 地域方言
- 第4週 地域方言のイメージ
- 第5週 地域方言と標準語
- 第6週 社会方言
- 第7週 社会方言－年齢とことば
- 第8週 言語変化
- 第9週 社会方言－若者ことば
- 第10週 社会方言－性差とことば
- 第11週 役割語
- 第12週 社会方言－階層とことば
- 第13週 スタイル
- 第14週 バリエーションとしての敬語
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

授業後に授業内容の復習をし、配布プリントを読んでおくこと。

指示された参考文献の該当箇所を読んでおくこと。

授業前には前回の授業の内容を再度確認してから授業に臨むこと。

授業内容に関する課題を指定された期日に提出すること。

(以上すべてを含め、事前・事後学修 各々週2時間程)

**【テキスト・教材】**

授業開始時に指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末試験、提出課題、平常点（授業態度、コメントシート）を総合  
して成績評価を行う。

評価配分は、試験50%、提出課題30%、平常点20%。

試験については、授業最終回でフィードバックを行う。

**【参考書】**

授業中に指示する。

**【注意事項】**

積極的な姿勢で授業に参加することを望む。

**日本語のバリエーション**

日本語の多様性を探る

八木 公子

2年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

「ってか、それやばくね？」

「おいしゅうございました」

「ほんまによう言わんわ」

あなたは自分で言いますか。あるいは、言わないと思いますか。

私たちが日々使っている日本語には様々なバリエーションがある。この授業では、時に英語の比較例などもまじえながら、日本語にどのようなバリエーションがあるのか、日本語の多様性を探る。

**【授業における到達目標】**

身近な「日本語」に実は様々なバリエーションがあることを研究例を通して学び、日本語についての理解を深める。

また、身近な言語をデータとして分析し、隠れているルールを考察する愉しみを、研究例や自身の分析レポートを通して学ぶ。

「学修を通して自己成長する研鑽力」「物事の真理を探究し、新たな知を創造しようとする態度」を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション  
ことばのバリエーションとは
- 第2週 社会言語学とは
- 第3週 地域方言
- 第4週 地域方言のイメージ
- 第5週 地域方言と標準語
- 第6週 社会方言
- 第7週 社会方言－年齢とことば
- 第8週 言語変化
- 第9週 社会方言－若者ことば
- 第10週 社会方言－性差とことば
- 第11週 役割語
- 第12週 社会方言－階層とことば
- 第13週 スタイル
- 第14週 バリエーションとしての敬語
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

授業後に授業内容の復習をし、配布プリントを読んでおくこと。

指示された参考文献の該当箇所を読んでおくこと。

授業前には前回の授業の内容を再度確認してから授業に臨むこと。

授業内容に関する課題を指定された期日に提出すること。

(以上すべてを含め、事前・事後学修 各々週2時間程)

**【テキスト・教材】**

授業開始時に指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末試験、提出課題、平常点（授業態度、コメントシート）を総合して成績評価を行う。

評価配分は、試験50%、提出課題30%、平常点20%。

試験については、授業最終回でフィードバックを行う。

**【参考書】**

授業中に指示する。

**【注意事項】**

積極的な姿勢で授業に参加することを望む。

**日本語の音声**

日本語の音のルールを学ぶ

山内 博之

2年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

この授業では、言語学の中で最も基本的な分野であると思われる音声学・音韻論に関する講義を行なう。日本語教育の現場で生かせるような音声学・音韻論の知識を身につけることが、この授業の目標である。

**【授業における到達目標】**

外国人に日本語を教えることを前提とし、その際に必要となる、日本語の音声に関する知識を身につける。

外国語を話す際、母語の影響が最も強く現れるのが音声である。音声について学ぶことによって、多様性を受容し、多角的な視点を以って世界に臨む態度を養う。

**【授業の内容】**

- 第1週 言語の単位
- 第2週 日本語のアクセント
- 第3週 アクセントのルールと傾向
- 第4週 固有名詞のアクセント
- 第5週 複合語のアクセント
- 第6週 平板化
- 第7週 促音化のルール
- 第8週 音節と拍
- 第9週 音節構造
- 第10週 音声と音韻
- 第11週 日本語の標準的な音声（子音：鼻音・破裂音）
- 第12週 日本語の標準的な音声（子音：摩擦音・破擦音）
- 第13週 日本語の標準的な音声（母音）
- 第14週 音声に関する身近な疑問
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】毎回、次回の授業に関する課題を指示するので考えてくる。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業のノートを自分なりにまとめ直す。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

特に指定はしない。適宜、プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験100%。

試験結果については授業最終回でフィードバックを行なう。

**【参考書】**

必要があれば、授業中に指示する。

**【注意事項】**

授業はすべて英語で行なう。ただし、板書は日本語とする。また、定期試験も日本語で行なう。つまり、教師が授業中に話す言葉のみが、英語であるということである。

できる限り易しい英語で話し、また、話した英語を日本語で板書し、その後、もう一度英語で話すようにする。英検2級程度の実力があれば、授業の英語自体は容易に理解できるものと思われる。



**日本語の音声**

日本語の音のルールを学ぶ

山内 博之

2年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

この授業では、言語学の中で最も基本的な分野であると思われる音声学・音韻論に関する講義を行なう。日本語教育の現場で生かせるような音声学・音韻論の知識を身につけることが、この授業の目標である。

**【授業における到達目標】**

外国人に日本語を教えることを前提とし、その際に必要となる、日本語の音声に関する知識を身につける。

外国語を話す際、母語の影響が最も強く現れるのが音声である。音声について学ぶことによって、多様性を受容し、多角的な視点を以って世界に臨む態度を養う。

**【授業の内容】**

- 第1週 言語の単位
- 第2週 日本語のアクセント
- 第3週 アクセントのルールと傾向
- 第4週 固有名詞のアクセント
- 第5週 複合語のアクセント
- 第6週 平板化
- 第7週 促音化のルール
- 第8週 音節と拍
- 第9週 音節構造
- 第10週 音声と音韻
- 第11週 日本語の標準的な音声（子音：鼻音・破裂音）
- 第12週 日本語の標準的な音声（子音：摩擦音・破擦音）
- 第13週 日本語の標準的な音声（母音）
- 第14週 音声に関する身近な疑問
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】毎回、次回の授業に関する課題を指示するので考えてくる。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業のノートを自分なりにまとめ直す。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

特に指定はしない。適宜、プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験100%。

試験結果については授業最終回でフィードバックを行なう。

**【参考書】**

必要があれば、授業中に指示する。

**【注意事項】**

授業はすべて英語で行なう。ただし、板書は日本語とする。また、定期試験も日本語で行なう。つまり、教師が授業中に話す言葉のみが、英語であるということである。

できる限り易しい英語で話し、また、話した英語を日本語で板書し、その後、もう一度英語で話すようにする。英検2級程度の実力があれば、授業の英語自体は容易に理解できるものと思われる。

**日本語の発見**

奥村 大志

1・2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

日本語のネイティブスピーカーの場合、日本語は無意識のうちに使えるので、それについて深く考えることはあまりありません。しかし、立ち止まって考えてみると、思いも寄らぬ規則があったり、知らないことがあったりします。自分であれこれ考えてみて、「わあ！そうなのか」、「へえ〜」、「知らなかった！」などと思う体験をしてもらいたいと思います。日本語について、いろいろなことを発見していきましょう。

**【授業における到達目標】**

- ・規則を見つけたり、言語現象の背景を考えたりすることを通じて「美の探究」を実践します。
- ・外国語と比較しながら日本語について深く考えることにより、自分が持っている文化的な素地に気付き、自分の位置づけが行えるような「国際的視野」を獲得します。
- ・言葉という切り口でさまざまなテーマを扱うことにより、新たな可能性に気づき、当たり前のことを当たり前だと思わずに、自分で新しいことを追い求めていく「研鑽力」を身に付けます。

**【授業の内容】**

1. 数量詞—日本語の数の数え方はどうなっているか—
2. 擬音語・擬態語—その特徴について考えてみる—
3. 言葉遊び—日本ではどのような言葉遊びをしてきたか—
4. ジョークと冗談—日英語の比較、日本語の冗談の特徴を探る—
5. 金融商品の説明文—用語や説明が難しい文章をどう読むか—
6. 法や行政の言葉—その特徴と読解について—
7. 固有名詞が持つ情報—人名・地名について考える—
8. 歌詞を読む—書かれた内容から書かれていない内容を読む—
9. 死語の世界—使われなくなった言葉たち—
10. 翻訳の比較—同じ作品でも翻訳が違ふと感じが違う？—
11. 会話分析—会話を研究して何がわかるか—
12. 各地の言い方—各地の言い方を地図にしたものがある！—
13. 表現研究—同内容でも言い方が違ふと受け取られ方が違う？—
14. うその考察—言葉を使って本当ではないことを言うこと—
15. 日本語Q&A—外国人の質問は「日本語の発見」の宝箱？—

**【事前・事後学修】**

キーワードを検索して授業に備えてください。また、表題テーマから自分が考えたサブテーマや、テーマに関連して自分が知りたいことなどをメモしておいてください。（事前学修として週2時間）

授業内容に関して、その日学んだこと、印象に残ったことをまとめておきましょう。（それを次の時間に提出してもらおうことがあります。）さらに、興味を持った事例について自分で調べたり考えたりしてみてください。（この授業の場合、この作業が成績認定のためのレポートにつながります。）（事後学修として週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポートにより評価します。また、授業での取り組み（提出物等を含む）を平常点として加味します。（レポート70%、平常点30%の配分）

フィードバックについては、授業内のやりとりやコメント、あるいはピア活動によって行います。

**日本語を教える a**

——日本語教育の基礎知識と教授法——

久池井 紀子

1・2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

最近では町で外国人を見かけることはあたりまえになりました。では、話したことはありますか。アルバイト先のお客さんですか。友達はいりませんか。みなさんの中には、興味はあるけれどもどのように接したらいいかわからないと思っている人もいないでしょうか。一体、どのような人たちがどのような目的でどのように日本語を学んでいるのでしょうか。

この授業では、日本語学習者の実態や特徴的な文化背景、考え方を紹介します。また、日本語教育の特徴、教授法などの基礎知識を学び、さらに、学習者が受験する試験問題を解く、日本語教育用教科書・教具などに触れるなどの機会も設けたいと思います。

**【授業における到達目標】**

学生が修得すべき「国際的視野」に関して、異文化と接した場合にどのようにすればいいのかを自分で考えて行動するための基礎力を養います。

また、「美の探究」については、日本語教育の概要を学ぶことにより、日本語学習者・教育への理解を深めるとともに、自分自身や日本・日本語についても深く考えるための基礎力を養成します。

**【授業の内容】**

- 第1週 世界の中の日本——海外で日本語を教えるには
- 第2週 日本語学習者の実態——多様な学習者
- 第3週 日本語教育の特徴——国語教育・英語教育との比較
- 第4週 学習目的とレベル——日本語学習者のための試験
- 第5週 日本語教育の現状——日本語を日本語で教える直接法
- 第6週 初級用教科書  
——連体修飾「これは私が作ったケーキです」を教える
- 第7週 中級用教科書——中級教科書の第1課を教える
- 第8週 副教材・教具と指導例①——聴解力や会話力を養成する
- 第9週 副教材・教具と指導例②——読解力や文章力を養成する
- 第10週 異文化理解①——異文化とは
- 第11週 異文化理解②——社会における異文化理解
- 第12週 異文化理解③——教室における異文化理解
- 第13週 異文化理解④——日本へ来て驚いたこと  
※学外の日本語学習者の体験談、質疑応答（時期未定）
- 第14週 日本事情——日本の何を教えるか
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：小テストの準備をし、課題を考えておいてください。課題を考えることが、授業の理解につながります。（学修時間 週2時間）

事後学修：小テスト・配付資料の復習と資料の空白の下線部分の再確認をしてください。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを使用します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

成績評価は、定期試験70%、平常点30%（提出課題15%、授業態度15%）です。

課題・小テストはその授業時間内に確認するか、翌週の授業時にコメントを書いたものを返却する形で、フィードバックします。

**【参考書】**

授業中に適宜紹介します。

**【注意事項】**

この授業は、日本語の力をつけるための授業ではなく、日本語の力をつけてもらうにはどうすればいいかということを考える授業です。なお、この授業に英語の力は特に必要ありません。

## 日本語を教える b

—日本語の分析—

久池井 紀子

1・2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

## 【授業のテーマ】

私たちは物心ついたときには、もうすでに日本語を話していました。文字や文法規則などを学校で習ってから使い始めたわけではありません。母語として自然に身につけたこの日本語を他言語話者に教える場合は、日本語を外国語として客観的にとらえ直し、分析・整理してから提示していく必要があります。もし、日本語学習者に「『やっと』と『とうとう』『ついに』の違いは何か」と聞かれたら、どのように答えればいいでしょうか。また、どうすればこれらの違いが明らかにできるのでしょうか。

この授業では、各自の言語生活を内省しながら、日本語を他言語話者の視点から客観的にとらえ直すことを試みます。日本語を意識的に分析・整理することによって日本語に対する理解を深め、さらには語感を少しでも磨いてもらえればと思います。

## 【授業における到達目標】

学生が修得すべき「国際的視野」について、日本や日本語についての知識を世界に伝える際の、基礎的な考え方や態度を養います。

また、「美の探究」については、日常生活において自分から日本語の感性を深めようとする態度を修得します。

## 【授業の内容】

- 第1週 音声①—特徴
- 第2週 音声②—拍、母音・半母音・子音、調音法など
- 第3週 音声③—アクセント
- 第4週 文字①—平仮名と片仮名
- 第5週 文字②—中国、台湾、日本の漢字
- 第6週 語彙—媒介語を使わない教え方
- 第7週 初級の語彙—「うれしい」と「楽しい」
- 第8週 中級の語彙—「やっと」と「とうとう」と「ついに」
- 第9週 文法①（品詞）—国文法との違い
- 第10週 文法②（助詞）  
—「机の上に本がある」と「本は机の上にある」
- 第11週 文法③（形容詞）  
—イ形容詞「忙しい」とナ形容詞「暇な」
- 第12週 文法④（動詞）—「書く」を「書いて」に変える規則
- 第13週 日本語の勉強—難しさと勉強法  
※学外の日本語学習者の体験談、質疑応答（時期未定）
- 第14週 初級・中級の語法  
—自動詞と他動詞、「～わけにはいかない」の意味
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

事前学修：小テストの準備をし、課題を考えておいてください。課題を考えることが、授業の理解につながります。（学修時間 週2時間）

事後学修：小テスト・配付資料の復習と資料の空白の下線部分の再確認をしてください。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

プリントを使用します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価は、定期試験70%、平常点30%（提出課題15%、授業態度15%）です。

課題・小テストはその授業時間内に確認するか、翌週の授業時にコメントを書いたものを返却する形で、フィードバックします。

## 【参考書】

授業中に適宜紹介します。

## 【注意事項】

この授業では、各自の言語生活を内省しながら日本語を見つめ直します。自分で考えることで語感が磨かれるということを意識して、日頃から言葉遣いに注意を向けるよう心掛けてください。

## 日本語コミュニケーション基礎

有賀 千佳子

1年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、協働力

## 【授業のテーマ】

日本を生活の場とする我々は、普段日本語を使ってコミュニケーションをしています。多くの場合、自分がコミュニケーションの場をどう認識し、どうふるまっているかを意識的に考えることはありません。

この授業では、普段の自分の言語行動、および、自文化を形成しているものを意識化し、同時に、自分と異なるコミュニケーションパターンを持つ人を理解し、さまざまな場面にうまく対処できるような「頭作り」をします。

## 【授業における到達目標】

普段無意識に使用している日本語とそのコミュニケーションについて、さまざまな観点から意識化することにより、学生が修得すべき「国際的視野」のうち「日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度」、「研鑽力」のうち「本質を見抜くことができる能力」、および、「協働力」のうち「互いに協力して物事を進めることができる能力」を身につけることを目標とします。

## 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス 受講者アンケート 自己紹介
- 第2週 自分の言語生活を振り返る
- 第3週 自分の日本語力を意識してみる。
- 第4週 なぜ伝わるのか／伝わらないのか 1  
短くても伝わるもの／ジョーク
- 第5週 なぜ伝わるのか／伝わらないのか 2 誤解、二義文
- 第6週 なぜ伝わるのか／伝わらないのか 3  
規範とずれ 言語知識と背景知識
- 第7週 日本語／日本語使用者のバリエーション 1  
一どのようなバリエーションがあるのかー
- 第8週 日本語／日本語使用者のバリエーション 2  
一どのようなコミュニケーションが求められるのかー
- 第9週 日本語／日本語使用者のバリエーション 3  
一どのように行動すればよいのかー
- 第10週 ここまでのふりかえり
- 第11週 待遇表現（敬語）の基礎知識
- 第12週 「感じのよい／感じの悪い」コミュニケーションとは  
一話しことばー
- 第13週 「感じのよい／感じの悪い」コミュニケーションとは  
一書きことばー
- 第14週 コミュニケーションを「成功」させるために何を考えるべきか
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

授業で扱った内容はしっかり理解して、次回の授業に臨むようにしてください。また、常に身の回りの日本語を観察して気になる日本語をピックアップし、自分なりの分析をまとめます。不定期に、授業開始時に小テスト／小発表を行います。

（事前・事後学修合わせて週4時間）

## 【テキスト・教材】

テキストは指定しません。授業中に資料を配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

出席日程基準を満たした学生について、以下の基準で評価を行います。平常点（授業への参加度、授業時提出物）80%、自宅学習成果物20%

提出物については、提出日以降の授業時に全員で内容を共有し、どのような内容が好ましかったかを評価し、個々の学生が自身の思考を深める作業を行います。

## 【参考書】

大島弥生他『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション』2012（ひつじ書房）

定延利之編著『私たちの日本語』2012（朝倉書店）

野田・森口『日本語を話すトレーニング』2004（ひつじ書房）

原沢伊都夫『異文化理解入門』2013（研究社）

## 【注意事項】

授業中は、さまざまなコミュニケーションサンプルを観察し、分析してもらいます。

また、講義だけでなく、ペアワークやグループワークを行い、お互いのコミュニケーションの中で、自らの言語行動を意識化していきますので、積極的な参加を希望します。

初回の人数によっては履修者の数を調整する可能性もあります。

## 日本語コミュニケーション実践

有賀 千佳子

1年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、協働力

## 【授業のテーマ】

さまざまなコミュニケーションの場を想定し、それぞれの場面でのようにふるまうのが望ましいのかを考えます。さまざまな場面での困難点・問題点を意識しつつ、よりよい方法を実践と観察を通して考えていきます。

## 【授業における到達目標】

学生一人一人が自身の言語行動を振り返り、授業時にお互いの言語行動を評価し合うことにより、学生が修得すべき「国際的視野」のうち「日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度」、「研鑽力」のうち「本質を見抜くことができる能力」、および、「協働力」のうち「互いに協力して物事を進めることができる能力」を身につけることを目標とします。

## 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス 受講者アンケート 「他己」紹介
- 第2週 コミュニケーション上の困難点を意識化する
- 第3週 自分自身の挨拶行動を観察する
- 第4週 日常会話における自分の話し方／聞き方を意識してみる  
1
- 第5週 日常会話における自分の話し方／聞き方を意識してみる  
2
- 第6週 「相手の面子にかかわる」否定的な言語行動をしなければ  
ならないとき
- 第7週 わかりやすい／わかりにくい伝え方とは
- 第8週 発表練習 1 話しことば
- 第9週 発表練習 2 書きことば
- 第10週 グループワークでのふるまい方
- 第11週 SNS／メールのコミュニケーション
- 第12週 日本語学習者が接する日本語
- 第13週 「やさしい日本語」について
- 第14週 敬語やマナーのマニュアル本を評価する
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】講師が提示したテーマに沿って、各自下調べをしてくる。（学修時間2時間）

【事後学修】授業で扱った内容はしっかり理解して次回の授業に臨むこと。（学修時間2時間）

## 【テキスト・教材】

テキストは指定しません。授業中に資料を配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

出席日程基準を満たした学生について、以下の基準で評価を行います。

平常点（授業への参加度、授業時提出物）70%、下調べ・事前準備30%

提出物や授業中の活動については、実施日以降の授業時に全員で内容を共有し、どのような内容・活動が好ましかったかを評価し、個々の学生が自身の思考を深める作業を行います。

## 【参考書】

大島弥生他『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション』2012（ひつじ書房）

定延利之編著『私たちの日本語』2012（朝倉書店）

野田尚史・森口稔『日本語を話すトレーニング』2004（ひつじ書房）

原沢伊都夫『異文化理解入門』2013（研究社）

## 【注意事項】

授業中は、発表や、ペアワーク・グループワークを行い、お互いのコミュニケーションの中で、自分の言語行動を意識化し、スキルアップを目指します。積極的な参加を希望します。

初回の人数によっては履修者の数を調整する可能性もあります。

**日本語コミュニケーション入門**

—コミュニケーションについて幅広く学ぶ—

**大塚 みさ**

1年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

**【授業のテーマ】**

みなさんは物心ついたころから「コミュニケーション」ということばを耳にしてきたことと思います。実は「コミュニケーション」には言語や文化をはじめ、社会や技術あるいは身体など、さまざまな側面があります。その側面の一つ一つに焦点を当てながら、コミュニケーションについて幅広く学んでいきましょう。

半期間の授業を通して、コミュニケーションに対する関心がますます深まることを期待しています。

**【授業における到達目標】**

- ・コミュニケーションの本質を探究することによって「美の探究」を実践します。
- ・異なる文化的背景を持つ相手とのコミュニケーションについての理解を深め、「国際的視野」を広げます。
- ・コミュニケーションについて多角的に学ぶことを楽しみ、学び続けられる「研鑽力」を習得します。

**【授業の内容】**

- 第1週 コミュニケーションの定義と本質
- 第2週 生物学的に見たコミュニケーション
- 第3週 言語的コミュニケーションと思考様式
- 第4週 認知科学的にみたコミュニケーション
- 第5週 ことばの意味と力 1 暗号解読とことばの魔力
- 第6週 ことばの意味と力 2 言外の意味を理解できる理由
- 第7週 動物のコミュニケーション
- 第8週 ノンバーバル・コミュニケーション 1 種類と分類
- 第9週 ノンバーバル・コミュニケーション 2 印象と文化差
- 第10週 異文化コミュニケーション 1  
日本のコミュニケーションの特色
- 第11週 異文化コミュニケーション 2 さまざまなモデル
- 第12週 説得的コミュニケーション
- 第13週 広告のコミュニケーション
- 第14週 その他のさまざまなコミュニケーション
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：教員から指示された課題に取り組むこと。

(学修時間 週2時間)

事後学修：プリントと授業中に実施したrespon課題をもとに授業を振り返ること。さらに、教員から指示された課題に取り組むこと。

(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

毎回ワークシートを配付します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

評価基準：期末試験…70%、事前・事後課題提出…20%、授業への積極的参加…10%

期末試験は、授業最終回または後日フィードバックを行います。事前・事後学修課題は、翌週授業時にフィードバックを行います。

**【参考書】**

橋元良明編著『コミュニケーション学への招待』

(大修館書店 1997年) 2,268円

岡野雅雄編著『わかりやすいコミュニケーション学(改訂版)』

(三和書籍 2008年) 2,592円

その他、授業内でトピックごとに紹介します。

**【注意事項】**

- ・みなさんの関心に合わせて、授業内容を多少入れ替える場合があります。
- ・短期大学部受講ルールを厳守しましょう。

## 日本語学演習A

違和感を伴う表現の研究

湯浅 茂雄

国文学専攻 前期 2単位

### 【授業のテーマ】

我々の言語生活（読み・書き・話し・聞く）の中では、違和感を伴う（世代差もある）語形や表現、表記に出会うことが少なくない。目を通していたチラシや、町の看板、ポスター、掲示の中に、また、知人や学生との会話やテレビで交わされる談話の中などにおいてである。それらの表現の中には、明らかに不正表現と見られるものもあるが、そうとは決め付けられないものもある。これらの違和感を伴う表現はどのようにして生じたのであろうか。それを見極めることは言葉の変化の要因にせまることでもある。この観点から違和感を伴う表現を取り上げる。受講生の収集した表現も適宜取り上げる。

### 【授業における到達目標】

現代語の言語現象を鋭く捉え、類例を収集し、さまざまな角度から分析し、論文を仕上げることができるようになることを目指す。

### 【授業の内容】

- 第1週 導入（違和感が伴う表現研究の意義）
- 第2週 「夜ごはん」の言い方
- 第3週 「満車中」
- 第4週 「危ないですか」
- 第5週 「荷物挟まり」
- 第6週 「立ち入りません」
- 第7週 「入市」（臨時一語）
- 第8週 「視線」と「目線」
- 第9週 「答えられる」
- 第10週 「リフトをゆらないでください」（方言景観）
- 第11週 「フィンキ（雰囲気）」
- 第12週 「割り込み」「横入り」「ずる込み」
- 第13週 「を」の呼び名
- 第14週 「ン」と「ソ」、「ツ」と「シ」、「ア」の書き方
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】シラバスを参考にして授業前に配布プリントを読んでおき、疑問点を整理しておく。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義内容を復習し、疑問点が解決したかを確認する。また、次週の授業範囲について配布プリントでの予習、疑問点の整理を行う。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

すべてプリントによる。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み（授業中の発言・積極的な態度）25%、課題発表25%、最終レポート50%で評価する。

最終週にレポート提出の条件を細かく説明し、成績評価の基準をフィードバックする。

### 【参考書】

最初の授業および各回の授業で適宜紹介する。

### 【注意事項】

初回の授業で指示する。

## 日本語学演習B

違和感を伴う表現の研究

湯浅 茂雄

国文学専攻 後期 2単位

### 【授業のテーマ】

我々の言語生活（読み・書き・話し・聞く）の中では、違和感を伴う（世代差もある）語形や表現、表記に出会うことが少なくない。目を通していたチラシや、町の看板、ポスター、掲示の中に、また、知人や学生との会話やテレビで交わされる談話の中などにおいてである。それらの表現の中には、明らかに不正表現と見られるものもあるが、そうとは決め付けられないものもある。これらの違和感を伴う表現はどのようにして生じたのであろうか。それを見極めることは言葉の変化の要因にせまることでもある。この観点から違和感を伴う表現を取り上げる。受講生の収集した表現も適宜取り上げる。

### 【授業における到達目標】

現代語の言語現象を鋭く捉え、類例を収集し、さまざまな角度から分析し、論文を仕上げることができるようになることを目指す。

### 【授業の内容】

- 第1週 導入（違和感が伴う表現研究の意義）
- 第2週 「体育」の発音「タイク」「タイイク」「タイーク」
- 第3週 「シュミレーション」と「シミュレーション」
- 第4週 「ビルディング」「ビルディング」「ビルデング」
- 第5週 「むくもり（温もり）」
- 第6週 「役不足」
- 第7週 「全然大丈夫」
- 第8週 「行かんくなる」
- 第9週 「違かった」
- 第10週 漢字の嘘字
- 第11週 「許可無く撮影を禁ずる」
- 第12週 「こちらパスタになります」
- 第13週 「無断駐車1万円申し受けます」
- 第14週 「月にやるせぬ我が想い」
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】シラバスを参考にして授業前に配布プリントを読んでおき、疑問点を整理しておく。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義内容を復習し、疑問点が解決したかを確認する。また、次週の授業範囲について配布プリントでの予習、疑問点の整理を行う。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

全てプリントによる。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み（授業中の発言・積極的な態度）25%、課題発表25%、最終レポート50%で評価する。

最終週にレポート提出の条件を細かく説明し、成績評価の基準をフィードバックする。

### 【参考書】

最初の授業および各回の授業で適宜紹介する。

### 【注意事項】

初回の授業で指示する。

**日本語学特殊演習A**

幕末・明治時代語研究の課題

湯浅 茂雄

国文学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

幕末・明治時代語の様相を明らかにしようとする時、そこには膨大な研究資料群が存在する。未開拓な研究資料もあり、具体的なテーマ研究と平行して、研究資料の全貌に関する見通しと、各資料群の性格を明らかにしておく必要がある。この授業は、幕末・明治時代語研究の問題点を明らかにするとともに、研究資料の全体像の見通しとその性格を明らかにすることを目標とする。

**【授業における到達目標】**

日本語の歴史を学ぶことを通して、学ぶ楽しさを知り、生涯、学び続ける能力(研鑽力)を修得するとともに、物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度(美の探究)を養うことを目的とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 導入(授業の目標と進め方)
- 第2週 幕末・明治時代語研究の課題 概説
- 第3週 幕末・明治時代語研究の課題 各論(音韻)
- 第4週 幕末・明治時代語研究の課題 各論(文法)
- 第5週 幕末・明治時代語研究の課題 各論(語彙)
- 第6週 幕末・明治時代語研究の課題 各論(文体)
- 第7週 幕末・明治時代語研究の課題 各論(言語生活)
- 第8週 幕末・明治時代語研究の資料 概説
- 第9週 飛田良文「近代語研究の資料」を読む
- 第10週 研究資料の分類
- 第11週 人情本資料
- 第12週 幕末蘭学資料
- 第13週 蘭和・英和辞書資料
- 第14週 幕末新聞資料
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

【事前学修】シラバスを参考にして授業前に教科書で授業範囲相当箇所を読んでおき、疑問点を整理しておく。(学修時間 週2時間)

【事後学修】講義内容を復習し、疑問点が解決したかを確認する。また、次週の授業範囲について教科書での予習、疑問点の整理を行う。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

全てプリントによる。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業への取り組み(授業中の発言・積極的な参加) 25%、課題発表25%、最終レポート50%で評価する。

**【参考書】**

最初の授業及び各回の授業で適宜紹介する。

**【注意事項】**

初回の授業で指示する。

**日本語学特殊演習B**

幕末・明治時代語研究の課題

湯浅 茂雄

国文学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

幕末・明治時代語の様相を明らかにしようとする時、そこには膨大な研究資料群が存在する。未開拓な研究資料もあり、具体的なテーマ研究と平行して、研究資料の全貌に関する見通しと、各資料群の性格を明らかにしておく必要がある。この授業は、幕末・明治時代語研究の問題点を明らかにするとともに、研究資料の全体像の見通しとその性格を明らかにすることを目標とする。

**【授業における到達目標】**

日本語の歴史を学ぶことを通して、学ぶ楽しさを知り、生涯、学び続ける能力(研鑽力)を修得するとともに、物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度(美の探究)を養うことを目的とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 導入(授業の目標と進め方)
- 第2週 幕末・明治時代語研究の課題
- 第3週 幕末・明治時代語研究の資料
- 第4週 西洋人による日本語研究資料
- 第5週 会話書資料・英学資料
- 第6週 『新令字解』他漢語辞書資料
- 第7週 明治期英和・和英辞書資料
- 第8週 『言海』他近代国語辞書資料概説
- 第9週 大槻文彦『言海』を読む
- 第10週 言文一致体資料
- 第11週 文語・口語文典資料
- 第12週 標準語成立関係資料
- 第13週 教科書資料
- 第14週 録音資料
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

【事前学修】シラバスを参考にして授業前に教科書で授業範囲相当箇所を読んでおき、疑問点を整理しておく。(学修時間 週2時間)

【事後学修】講義内容を復習し、疑問点が解決したかを確認する。また、次週の授業範囲について教科書での予習、疑問点の整理を行う。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

全てプリントによる。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業への取り組み(授業中の発言・積極的な参加) 25%、課題発表25%、最終レポート50%で評価する。

**【参考書】**

最初の授業及び各回の授業で適宜紹介する。

**【注意事項】**

初回の授業で指示する。



**日本語学特別研究A**

博士論文の執筆 1

福嶋 健伸

国文学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

本授業では、博士論文執筆計画を立ててもらい、その後、博士論文の最も中心となる部分に磨きをかけ、投稿論文に仕上げるという作業を行う。実際に、学術雑誌に投稿してもらうことが、本授業の特徴である。

なお、授業内容・順序は、学生の興味や理解度にあわせて、適宜変更することがある。また、郊外実習を行う可能性もある。

**【授業における到達目標】**

- 1：博士論文執筆の全体流れを理解する。
- 2：各章の内容を踏まえ、この後のスケジュールを決定する。
- 3：学内外の学術雑誌に投稿する。

**【授業の内容】**

各学生の発表内容や発表方法等は、受講者数や受講者の興味を考慮し、適切な方法を選択する。

- 第1週 博士論文執筆計画 1：大まかな構想
- 第2週 博士論文執筆計画 2：具体的なスケジュール
- 第3週 どの部分を投稿するべきか
- 第4週 どの雑誌に投稿するべきか—各雑誌の特徴
- 第5週 院生の発表 1
- 第6週 院生の発表 2
- 第7週 院生の発表 3
- 第8週 院生の発表 4
- 第9週 院生の発表 5
- 第10週 カバーレターの書き方
- 第11週 要旨の書き方
- 第12週 院生の発表 6
- 第13週 院生の発表 7
- 第14週 院生の発表 8
- 第15週 学会誌への投稿

**【事前・事後学修】**

【事前学修】配布プリントを事前に読んでおくこと。または、発表の場合は、事前に、資料を作成しリハーサルをしておくこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】授業の内容を復習し、計画書(もしくは原稿)を修正すること。かつ、計画の実践をすること。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

授業中にプリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

発表70%、授業への積極参加・提出課題 30%

授業中に、各院生にあわせたフィードバックを丁寧に行う。

**【参考書】**

必要に応じて指示をする。

**【注意事項】**

授業中に指示をする。

**日本語学特別研究B**

博士論文の執筆 2

福嶋 健伸

国文学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

本授業では、実際に博士論文を執筆してもらう。具体的には、「はじめに」から「引用文献」までを執筆していく。

なお、授業内容・順序は、学生の興味や理解度にあわせて、適宜変更することがある。また、郊外実習を行う可能性もある。

**【授業における到達目標】**

- 1：博士論文の全体的な構成を理解する。
- 2：実際に、博士論文の一部を執筆する。
- 3：研究発表会で、博士論文の一部を発表する。

**【授業の内容】**

- 第1週 博士論文を書く順序—「はじめに」は最後に書く—
- 第2週 「先行研究のまとめ」の書き方 1  
—明らかにされていることは何か—
- 第3週 「先行研究のまとめ」の書き方 2  
—明らかにされていないことは何か—
- 第4週 「本研究の位置づけ」の書き方 1—研究の意義—
- 第5週 「本研究の位置づけ」の書き方 2—研究の広がり—
- 第6週 「調査概要」の書き方 1—なぜその資料を選んだのか—
- 第7週 「調査概要」の書き方 2—第三者が再現できるように書く—
- 第8週 「調査結果」の書き方—表や図にまとめる
- 第9週 「考察」の書き方 1—考察対象から独立した現象が必要—
- 第10週 「考察」の書き方 2—再度の調査—
- 第11週 各章の関係—効果的な順序とは—
- 第12週 注の書き方
- 第13週 引用文献の書き方
- 第14週 「はじめに」「おわりに」の書き方
- 第15週 総括及びまとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】配布プリントを事前に読んでおくこと。または、発表の場合は、事前に、資料を作成しリハーサルをしておくこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】授業の内容を復習し、計画書(もしくは原稿)を修正すること。かつ、計画の実践をすること。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

適宜、プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート70%、授業への積極参加・提出課題 30%

授業中に、各院生にあわせたフィードバックを丁寧に行う。

**【参考書】**

授業中に指示する。

**【注意事項】**

授業中に指示する。



**日本語教育演習A**

類似表現研究

山内 博之

国文学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

類似表現研究の方法を習得する。授業では、まず、類似表現の使い分けに関する先行研究を読み、類似表現を分析する際の切り口を学ぶ。その後、毎週一人ずつ、類似表現の使い分けに関する発表を行なう。

**【授業における到達目標】**

類似表現の使い分けのルールを自力で見つけられるようになることが、この授業の目標である。

**【授業の内容】**

- 第1週 類似表現研究の方法を学ぶ。  
 第2週 「せっかく・わざわざ」の分析の切り口を学ぶ。  
 第3週 「うっかり・つい」の分析の切り口を学ぶ。  
 第4週 「やと・ようやく」の分析の切り口を学ぶ。  
 第5週 「かえって・むしろ」の分析の切り口を学ぶ。  
 第6週 「いちおう・とりあえず」の分析の切り口を学ぶ。  
 第7週 「すぐ・もうすぐ」の分析の基地口を学ぶ。  
 第8週 「さっさと・すぐ」の分析の切り口を学ぶ。  
 第9週 「まもなく・やがて」の分析の切り口を学ぶ。  
 第10週 「大変・とても」の分析の切り口を学ぶ。  
 第11週 「かなり・けっこう」の分析の切り口を学ぶ。  
 第12週 「けっこう・なかなか」の分析の切り口を学ぶ。  
 第13週 「さらに・もっと」の分析の切り口を学ぶ。  
 第14週 「あまり・そんなに」の分析の切り口を学ぶ。  
 第15週 まとめ

(第2週～第14週の授業では、毎週一人ずつ、それぞれが選んだ類似表現についての発表も行なう。)

**【事前・事後学修】**

【事前学修】①指定された先行研究を読む。②各自が自分で設定したテーマについて、発表の準備を行なう。(学修時間 週6時間)

【事後学修】発表者は、授業でのコメントの内容に基づいて、発表原稿を作り直す。その他の学生は、発表で理解できなかった点について復習する。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

山内博之(2013)「日本語教師の能力を高めるための類似表現研究」『日本語/日本語教育研究』第4号

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

受講態度(50%)、発表内容(50%)により総合的に評価。

**日本語教育演習B**

類似表現研究

山内 博之

国文学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

類似表現の使い分けに関する指導書の試案を作成する。授業では、まず、類似表現の使い分けに関する先行研究を読み、類似表現を分析する際の切り口と、その指導書の書き方を学ぶ。その後、毎週一人ずつ、類似表現の使い分けに関する指導書案について発表を行なう。

**【授業における到達目標】**

類似表現の使い分けのルールを自ら探り当て、その指導書案を書けるようになることが、この授業の目標である。

**【授業の内容】**

- 第1週 類似表現研究の方法を学ぶ。  
 第2週 「ほとんど・めったに」の分析の切り口を学ぶ。  
 第3週 「全然・決して」の分析の切り口を学ぶ。  
 第4週 「しばしば・よく」の分析の切り口を学ぶ。  
 第5週 「いきなり・突然」の分析の切り口を学ぶ。  
 第6週 「急に・突然」の分析の切り口を学ぶ。  
 第7週 「～まで・～さえ」の分析の切り口を学ぶ。  
 第8週 「～だけ・～のみ」の分析の切り口を学ぶ。  
 第9週 「～こそ・～が」の分析の切り口を学ぶ。  
 第10週 「～まで・～までに」の分析の切り口を学ぶ。  
 第11週 「～にくい・～づらい」の分析の切り口を学ぶ。  
 第12週 「～ために・～ように」の分析の切り口を学ぶ。  
 第13週 「～ず・～ずに」の分析の切り口を学ぶ。  
 第14週 「～なくて・～ないで」の分析の切り口を学ぶ。  
 第15週 まとめ

(第2週～第14週の授業では、毎週一人ずつ、それぞれが選んだ類似表現についての発表も行なう。)

**【事前・事後学修】**

【事前学修】①指定された先行研究を読む。②各自が自分で設定したテーマについて、発表の準備を行なう。(学修時間 週6時間)

【事後学修】発表者は、授業でのコメントの内容に基づいて、発表原稿を作り直す。その他の学生は、発表で理解できなかった点について復習する。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

山内博之(2013)「日本語教師の能力を高めるための類似表現研究」『日本語/日本語教育研究』第4号

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

受講態度(50%)、発表内容(50%)により総合的に評価。

日本語教育学演習 b 1

類似表現研究

山内 博之

3年～ 前期 2単位

○：国際的視野、行動力、協働力

【授業のテーマ】

卒業論文などのテーマとして取り上げられることの多い「類似表現研究」に焦点を絞り、その研究方法を身につけることを目標とする。

【授業における到達目標】

外国人が日本語を眺めるように、客観的に日本語を眺められるようになること、また、外国人に説明するために日本語の類似表現を分析できるようになることが、この授業の目標である。これらのことを通して、多様性を受容し、多角的な視点を以って世界に臨む態度を身につける。

【授業の内容】

その日に指定する類似表現の共通点と相違点について、受講者全員で考えながら、類似表現研究の方法を学んでいく。

- 第1週 類似表現研究の方法
- 第2週 「～焼き」「焼き～」
- 第3週 「さける」「よける」
- 第4週 「かわかす」「ほす」
- 第5週 「ふれる」「さわる」
- 第6週 「上げる」「高める」
- 第7週 「育てる」「育む」
- 第8週 「かえる」「もどる」
- 第9週 「～が上手だ」「～が得意だ」
- 第10週 「将来」「未来」
- 第11週 「つい」「うっかり」
- 第12週 「かなり」「けっこう」
- 第13週 「すぐ」「もうすぐ」
- 第14週 「全然」「決して」
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】二義文（2つの意味を持つ文）に関する宿題を毎週出すので、答えを考えてくる。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業で扱った類似表現の使い分けについて、自分なりのまとめを行なう。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

特に指定はしない。適宜、プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極参加）50%、レポート50%  
授業中にはレポートへのフィードバックは行なわない。  
フィードバックを希望する学生には、オフィスアワー等に個別にフィードバックを行なう。

【参考書】

日本語教育 誤用例研究会『類似表現の使い分けと指導法』（アルク）  
森田良行『基礎日本語辞典』（角川書店）  
柴田武他『ことばの意味Ⅰ～Ⅲ』（平凡社）

日本語教育学演習 b 2

誤用例研究

山内 博之

3年～ 後期 2単位

○：国際的視野、行動力、協働力

【授業のテーマ】

卒業論文などのテーマとして取り上げられることの多い「誤用例研究」に焦点を絞り、その研究方法を身につけることを目標とする。

【授業における到達目標】

外国人が日本語を眺めるように、客観的に日本語を眺められるようになること、また、外国人に説明するために日本語の誤用例を分析できるようになることが、この授業の目標である。これらのことを通して、多様性を受容し、多角的な視点を以って世界に臨む態度を身につける。

【授業の内容】

その日に指示する学習者の作文を資料として用い、誤用例研究を行なう。誤用を訂正する方法と、その理由づけについて、受講者全員で考えながら、誤用例研究の方法を学んでいく。

- 第1週 誤用例研究の方法
- 第2週 誤用例の検討1（人魚姫は人間の少年にほれます）
- 第3週 誤用例の検討2（私は新しい大学を気に入りません）
- 第4週 誤用例の検討3（先生は恥ずかしくて若い人です）
- 第5週 誤用例の検討4（私の国の結婚は日本のと違います）
- 第6週 誤用例の検討5（男の学生が1人まざっている）
- 第7週 誤用例の検討6（若者たちは歩きながら手を触ります）
- 第8週 誤用例の検討7（日本の文化がかわっています）
- 第9週 誤用例の検討8（この3日間に一生懸命勉強した）
- 第10週 誤用例の検討9（彼は明白に日本の料理が嫌です）
- 第11週 誤用例の検討10（先生に怒られて気持ちが悪かった）
- 第12週 誤用例の検討11（法律をよく守りたいです）
- 第13週 誤用例の検討12（私は意見を言おうとしています）
- 第14週 誤用例の検討13（昨日私はスーパーまで行ってきた）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】二義文（2つの意味を持つ文）に関する宿題を毎週出すので、答えを考えてくる。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業で扱った誤用例について、修正方法と修正する理由を自分なりにまとめる。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

特に指定はしない。適宜、プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極参加）50%、レポート50%  
授業中にはレポートへのフィードバックは行なわない。  
フィードバックを希望する学生には、オフィスアワー等に個別にフィードバックを行なう。

【参考書】

日本語教育 誤用例研究会『類似表現の使い分けと指導法』（アルク）  
森田良行『基礎日本語辞典』（角川書店）  
柴田武他『ことばの意味Ⅰ～Ⅲ』（平凡社）

**日本語教育学特殊演習A**

教材研究

山内 博之

国文学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

初級日本語教科書『みんなの日本語 初級Ⅰ』を題材とし、そこで扱われている文型と、その背後にあるシラバスとを批判的に分析する。

**【授業における到達目標】**

既存の教科書の文型とシラバスを客観的に眺めることにより、自分なりの初級シラバスが作成できるようになることが、この授業の到達目標である。

**【授業の内容】**

第1週 教材分析の方法を解説する。  
 第2週 第1課・第2課の分析を行なう。  
 第3週 第3課・第4課の分析を行なう。  
 第4週 第5課・第6課の分析を行なう。  
 第5週 第7課・第8課の分析を行なう。  
 第6週 第9課・第10課の分析を行なう。  
 第7週 第11課・第12課の分析を行なう。  
 第8週 第13課・第14課の分析を行なう。  
 第9週 第15課・第16課の分析を行なう。  
 第10週 第17課・第18課の分析を行なう。  
 第11週 第19課・第20課の分析を行なう。  
 第12週 第21課・第22課の分析を行なう。  
 第13週 第23課・第24課の分析を行なう。  
 第14週 第25課の分析を行なう。  
 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】発表の準備を行なう。(学修時間 週6時間)

【事後学修】発表者は、授業でのコメントの内容に基づいて、発表原稿を作り直す。その他の学生は、発表で理解できなかった点について復習する。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

スリーエーネットワーク『みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版』(スリーエーネットワーク 2012年) 2,500円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

受講態度 (50%)、発表内容 (50%) により総合的に評価。

**日本語教育学特殊演習B**

教材研究

山内 博之

国文学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

初級日本語教科書『みんなの日本語 初級Ⅱ』を題材とし、そこで扱われている文型と、その背後にあるシラバスとを批判的に分析する。

**【授業における到達目標】**

既存の教科書の文型とシラバスを客観的に眺めることにより、自分なりの初級シラバスが作成できるようになることが、この授業の到達目標である。

**【授業の内容】**

第1週 教材分析の方法を解説する。  
 第2週 第26課・第27課の分析を行なう。  
 第3週 第28課・第29課の分析を行なう。  
 第4週 第30課・第31課の分析を行なう。  
 第5週 第32課・第33課の分析を行なう。  
 第6週 第34課・第35課の分析を行なう。  
 第7週 第36課・第37課の分析を行なう。  
 第8週 第38課・第39課の分析を行なう。  
 第9週 第40課・第41課の分析を行なう。  
 第10週 第42課・第43課の分析を行なう。  
 第11週 第44課・第45課の分析を行なう。  
 第12週 第46課・第47課の分析を行なう。  
 第13週 第48課・第49課の分析を行なう。  
 第14週 第50課の分析を行なう。  
 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】発表の準備を行なう。(学修時間 週6時間)

【事後学修】発表者は、授業でのコメントの内容に基づいて、発表原稿を作り直す。その他の学生は、発表で理解できなかった点について復習する。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

スリーエーネットワーク『みんなの日本語 初級Ⅱ 第2版』【スリーエーネットワーク 2013年) 2,500円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

受講態度 (50%)、発表内容 (50%) により総合的に評価。

**日本語教育文法—初級—**

初級学習者のための文法

山内 博之

1年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

初級レベルの日本語教育を行なう際に必要となる文法項目について、解説を行なう。初級学習者の日本語教育のために必要となる文法を理解することが、この授業の目標である。

**【授業における到達目標】**

外国人が日本語を眺めるように、客観的に日本語を眺められるようになること、そして、外国人に日本語を教えるための初級文法を身につけることが、この授業の目標である。

**【授業の内容】**

11課で構成された、以下のような日本語テキストで初級日本語の授業を行なうことを想定し、( )内の文法項目について、順次説明していく。

- 第1週 第1課「自己紹介」1 (普通名詞と固有名詞)
- 第2週 第1課「自己紹介」2 (名詞文、名詞の複数形)
- 第3週 第2課「家族紹介」1 (品詞分類)
- 第4週 第2課「家族紹介」2 (プロトタイプ論)
- 第5週 第3課「学校案内」(指示詞)
- 第6週 第4課「私の一日」1 (動詞と助詞の関係)
- 第7週 第4課「私の一日」2 (日本語の主な文型)
- 第8週 第5課「楽しい日曜日」(テンス)
- 第9週 第6課「楽しいパーティー」(希望文)
- 第10週 第7課「パーティーに招待」(とりたて助詞、並立助詞)
- 第11週 第8課「パーティーの翌日」(終助詞)
- 第12週 第9課「お願い！」(テ形、フィラー)
- 第13週 第10課「私の部屋」(存在動詞、ハとガ)
- 第14週 第11課「教室の中」(アスペクト)
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】毎回、次回の授業に関する課題を指示するので考えてくる。(学修時間 週2時間)

【事後学修】授業のノートを自分なりにまとめ直す。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

特に指定はしない。適宜、プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験100%。

試験結果については授業最終回でフィードバックを行なう。

**【参考書】**

必要があれば、授業中に指示する。

**日本語教育文法—初級—**

初級学習者のための文法

山内 博之

1年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

初級レベルの日本語教育を行なう際に必要となる文法項目について、解説を行なう。初級学習者の日本語教育のために必要となる文法を理解することが、この授業の目標である。

**【授業における到達目標】**

外国人が日本語を眺めるように、客観的に日本語を眺められるようになること、そして、外国人に日本語を教えるための初級文法を身につけることが、この授業の目標である。

**【授業の内容】**

11課で構成された、以下のような日本語テキストで初級日本語の授業を行なうことを想定し、( )内の文法項目について、順次説明していく。

- 第1週 第1課「自己紹介」1 (普通名詞と固有名詞)
- 第2週 第1課「自己紹介」2 (名詞文、名詞の複数形)
- 第3週 第2課「家族紹介」1 (品詞分類)
- 第4週 第2課「家族紹介」2 (プロトタイプ論)
- 第5週 第3課「学校案内」(指示詞)
- 第6週 第4課「私の一日」1 (動詞と助詞の関係)
- 第7週 第4課「私の一日」2 (日本語の主な文型)
- 第8週 第5課「楽しい日曜日」(テンス)
- 第9週 第6課「楽しいパーティー」(希望文)
- 第10週 第7課「パーティーに招待」(とりたて助詞、並立助詞)
- 第11週 第8課「パーティーの翌日」(終助詞)
- 第12週 第9課「お願い！」(テ形、フィラー)
- 第13週 第10課「私の部屋」(存在動詞、ハとガ)
- 第14週 第11課「教室の中」(アスペクト)
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】毎回、次回の授業に関する課題を指示するので考えてくる。(学修時間 週2時間)

【事後学修】授業のノートを自分なりにまとめ直す。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

特に指定はしない。適宜、プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験100%。

試験結果については授業最終回でフィードバックを行なう。

**【参考書】**

必要があれば、授業中に指示する。

**日本語教育文法—中級—**

中級学習者のための文法

山内 博之

1年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

中級レベルの日本語教育を行なう際に必要となる文法項目について、解説を行なう。中級学習者の日本語教育のために必要となる文法を理解することが、この授業の目標である。

**【授業における到達目標】**

外国人が日本語を眺めるように、客観的に日本語を眺められるようになること、そして、外国人に教えるための中級文法を身につけることが、この授業の目標である。

**【授業の内容】**

9課で構成された、以下のような日本語テキストで中級日本語の授業を行なうことを想定し、( )内の文法項目について、順次説明していく。

- 第1週 第1課「友だち100人」1 (普通体と丁寧体)
- 第2週 第1課「友だち100人」2 (動詞の活用)
- 第3週 第1課「友だち100人」3 (ストラテジー)
- 第4週 第2課「どう違う？」1 (主題のハと対比のハ)
- 第5週 第2課「どう違う？」2 (複文)
- 第6週 第3課「施設案内」(可能)
- 第7週 第4課「事情説明(1)」(ヨウダ・ソウダ・ラシイ)
- 第8週 第5課「事情説明(2)」(ノダ)
- 第9週 第6課「困ったなあ…」1 (英語と日本語の受身文)
- 第10週 第6課「困ったなあ…」2 (日本語の受身文の特徴)
- 第11週 第7課「うれしかった！」(授受表現)
- 第12週 第8課「料理の作り方」(ト・バ・タラ・ナラ)
- 第13週 第9課「交通事故目撃」1 (内の関係と外の関係)
- 第14週 第9課「交通事故目撃」2 (被修飾名詞の格)
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】毎回、次回の授業に関する課題を指示するので考えてくる。(学修時間 週2時間)

【事後学修】授業のノートを自分なりにまとめ直す。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

特に指定はしない。適宜、プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験100%。

試験結果については授業最終回でフィードバックを行なう。

**【参考書】**

必要があれば、授業中に指示する。



## 日本語教育文法—中級—

中級学習者のための文法

山内 博之

1年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

中級レベルの日本語教育を行なう際に必要となる文法項目について、解説を行なう。中級学習者の日本語教育のために必要となる文法を理解することが、この授業の目標である。

### 【授業における到達目標】

外国人が日本語を眺めるように、客観的に日本語を眺められるようになること、そして、外国人に教えるための中級文法を身につけることが、この授業の目標である。

### 【授業の内容】

9課で構成された、以下のような日本語テキストで中級日本語の授業を行なうことを想定し、( )内の文法項目について、順次説明していく。

- 第1週 第1課「友だち100人」1 (普通体と丁寧体)
- 第2週 第1課「友だち100人」2 (動詞の活用)
- 第3週 第1課「友だち100人」3 (ストラテジー)
- 第4週 第2課「どう違う？」1 (主題のハと対比のハ)
- 第5週 第2課「どう違う？」2 (複文)
- 第6週 第3課「施設案内」(可能)
- 第7週 第4課「事情説明(1)」(ヨウダ・ソウダ・ラシイ)
- 第8週 第5課「事情説明(2)」(ノダ)
- 第9週 第6課「困ったなあ…」1 (英語と日本語の受身文)
- 第10週 第6課「困ったなあ…」2 (日本語の受身文の特徴)
- 第11週 第7課「うれしかった！」(授受表現)
- 第12週 第8課「料理の作り方」(ト・バ・タラ・ナラ)
- 第13週 第9課「交通事故目撃」1 (内の関係と外の関係)
- 第14週 第9課「交通事故目撃」2 (被修飾名詞の格)
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】毎回、次回の授業に関する課題を指示するので考えてくる。(学修時間 週2時間)

【事後学修】授業のノートを自分なりにまとめ直す。(学修時間 週2時間)

### 【テキスト・教材】

特に指定はしない。適宜、プリントを配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験100%。

試験結果については授業最終回でフィードバックを行なう。

### 【参考書】

必要があれば、授業中に指示する。

**日本語教授法—初級—**

会話教育・聴解教育

金庭 久美子

1年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

外国語教育としての日本語教育とはどのようなものか、初級における日本語教育の指導方法について、会話教育、聴解教育を中心に学ぶ。

**【授業における到達目標】**

1. 日本語教育における初級レベルの位置付けが理解できる。
2. 初級レベルで扱う指導項目が理解できる。
3. 初級レベルにおける会話教育の指導方法が理解できる。
4. 初級レベルにおける聴解教育の指導方法が理解できる。

・学生が修得すべき「国際的視野」のうち、日本語教育を学ぶことで、多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度を修得する。

・学生が修得すべき「行動力」のうち、日本語教育における現状を正しく把握し、課題を発見する力を修得する。

**【授業の内容】**

1. 日本語教育とは
2. コースデザイン1（ニーズ分析・目標言語調査）
3. コースデザイン2（シラバス・カリキュラム）
4. 教室活動と教材教具
5. 外国語教授法：文法翻訳法、直接法
6. 外国語教授法：ASTP、AL法
7. 文法教育1（辞書形を使った文型）
8. 文法教育2（て形を使った文型）
9. 会話教育とは
10. 外国語教授法：コミュニカティブ・アプローチ
11. 「話す」ことを中心とした教室活動
12. 聴解教育とは
13. 外国語教授法：TPR、ナチュラル・アプローチ
14. 総合演習
15. 前期のまとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】参考資料をmanabaに置くので読んでおくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義に関する練習問題をmanabaに置くので各自問題を解き、復習を行うこと（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリント配布。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験80%、平常点20%（リアクションペーパー・manabaの練習問題）で評価する。

リアクションペーパーに対するフィードバックは次の回の授業で行い、ペーパーはまとめて返却する。

14回めの総合演習で試験を実施し、授業最終回でフィードバックを行う。試験は持ち込み不可。

**【参考書】**

姫野昌子他著『ここからはじまる日本語教育』（ひつじ書房 1998年）

小林ミナ著『日本語教育能力検定試験に合格するための教授法37』（アルク 2010年）

**【注意事項】**

授業の資料はmanabaに置く。

**日本語教授法—初級—**

会話教育・聴解教育

**金庭 久美子**

1年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

外国語教育としての日本語教育とはどのようなものか、初級における日本語教育の指導方法について、会話教育、聴解教育を中心に学ぶ。

**【授業における到達目標】**

1. 日本語教育における初級レベルの位置付けが理解できる。
2. 初級レベルで扱う指導項目が理解できる。
3. 初級レベルにおける会話教育の指導方法が理解できる。
4. 初級レベルにおける聴解教育の指導方法が理解できる。

・学生が修得すべき「国際的視野」のうち、日本語教育を学ぶことで、多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度を修得する。

・学生が修得すべき「行動力」のうち、日本語教育における現状を正しく把握し、課題を発見する力を修得する。

**【授業の内容】**

1. 日本語教育とは
2. コースデザイン1（ニーズ分析・目標言語調査）
3. コースデザイン2（シラバス・カリキュラム）
4. 教室活動と教材教具
5. 外国語教授法：文法翻訳法、直接法
6. 外国語教授法：ASTP、AL法
7. 文法教育1（辞書形を使った文型）
8. 文法教育2（て形を使った文型）
9. 会話教育とは
10. 外国語教授法：コミュニカティブ・アプローチ
11. 「話す」ことを中心とした教室活動
12. 聴解教育とは
13. 外国語教授法：TPR、ナチュラル・アプローチ
14. 総合演習
15. 前期のまとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】参考資料をmanabaに置くので読んでおくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義に関する練習問題をmanabaに置くので各自問題を解き、復習を行うこと（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリント配布。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験80%、平常点20%（リアクションペーパー・manabaの練習問題）で評価する。

リアクションペーパーに対するフィードバックは次の回の授業で行い、ペーパーはまとめて返却する。

14回めの総合演習で試験を実施し、授業最終回でフィードバックを行う。試験は持ち込み不可。

**【参考書】**

姫野昌子他著『ここからはじまる日本語教育』（ひつじ書房 1998年）

小林ミナ著『日本語教育能力検定試験に合格するための教授法37』（アルク 2010年）

**【注意事項】**

授業の資料はmanabaに置く。

**日本語教授法—中級—**

読解教育・作文教育

**金庭 久美子**

1年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

外国語教育としての日本語教育とはどのようなものか、中級における日本語教育の指導方法について、読解教育、作文教育を中心に学ぶ。

**【授業における到達目標】**

1. 日本語教育における中級レベルの位置付けが理解できる。
2. 日本語教育における中級レベルで扱う指導項目が理解できる。
3. 中級レベルにおける読解教育の指導方法が理解できる。
4. 中級レベルにおける作文教育の指導方法が理解できる。

・学生が修得すべき「国際的視野」のうち、日本語教育を学ぶことで、多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度を修得する。

・学生が修得すべき「行動力」のうち、日本語教育における現状を正しく把握し、課題を発見する力を修得する。

**【授業の内容】**

1. 日本語教育とは
2. 読解教育とは
3. 外国語教授法：読解教育のための様々なアプローチ
4. 読解発問・読解ストラテジー
5. 「読む」ことを中心とした教室活動
6. 語彙教育1（中級の語彙）
7. 語彙教育2（語彙の指導法）
8. 文法教育1（中級の文法）
9. 文法教育2（文法の指導法）
10. 作文教育とは
11. 外国語教授法：作文教育のための様々なアプローチ
12. 「書く」ことを中心とした教室活動
13. 作文の評価
14. 総合演習
15. 後期のまとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】参考資料をmanabaに置くので読んでおくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義に関する練習問題をmanabaに置くので各自問題を解き、復習を行うこと（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリント配布。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験80%、平常点20%（リアクションペーパー・manabaの練習問題）で評価する。

リアクションペーパーに対するフィードバックは次の回の授業で行い、ペーパーはまとめて返却する。

14回めの総合演習で試験を実施し、授業最終回でフィードバックを行う。試験は持ち込み不可。

**【参考書】**

姫野昌子他著『ここからはじまる日本語教育』（ひつじ書房 1998年）

**【注意事項】**

授業の資料はmanabaに置く。

**日本語教授法—中級—**

読解教育・作文教育

金庭 久美子

1年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

外国語教育としての日本語教育とはどのようなものか、中級における日本語教育の指導方法について、読解教育、作文教育を中心に学ぶ。

**【授業における到達目標】**

1. 日本語教育における中級レベルの位置付けが理解できる。
2. 日本語教育における中級レベルで扱う指導項目が理解できる。
3. 中級レベルにおける読解教育の指導方法が理解できる。
4. 中級レベルにおける作文教育の指導方法が理解できる。

・学生が修得すべき「国際的視野」のうち、日本語教育を学ぶことで、多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度を修得する。

・学生が修得すべき「行動力」のうち、日本語教育における現状を正しく把握し、課題を発見する力を修得する。

**【授業の内容】**

1. 日本語教育とは
2. 読解教育とは
3. 外国語教授法：読解教育のための様々なアプローチ
4. 読解発問・読解ストラテジー
5. 「読む」ことを中心とした教室活動
6. 語彙教育1（中級の語彙）
7. 語彙教育2（語彙の指導法）
8. 文法教育1（中級の文法）
9. 文法教育2（文法の指導法）
10. 作文教育とは
11. 外国語教授法：作文教育のための様々なアプローチ
12. 「書く」ことを中心とした教室活動
13. 作文の評価
14. 総合演習
15. 後期のまとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】参考資料をmanabaに置くので読んでおくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】講義に関する練習問題をmanabaに置くので各自問題を解き、復習を行うこと（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリント配布。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験80%、平常点20%（リアクションペーパー・manabaの練習問題）で評価する。

リアクションペーパーに対するフィードバックは次の回の授業で行い、ペーパーはまとめて返却する。

14回めの総合演習で試験を実施し、授業最終回でフィードバックを行う。試験は持ち込み不可。

**【参考書】**

姫野昌子他著『ここからはじまる日本語教育』（ひつじ書房 1998年）

**【注意事項】**

授業の資料はmanabaに置く。

**日本語教授法演習 a**

初級日本語を教えるということ

八木 公子

2年～ 前期 2単位

○：国際的視野、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

初級日本語を教えるとはどういうことか。

この授業では、初級日本語テキストを用いて実際に学習項目を分析し、授業計画を立て、それに基づいた模擬授業を行う。

**【授業における到達目標】**

少人数のグループで授業計画を立て、それに基づいた模擬授業を行う実践を通して、初級日本語を教えるための基礎的知識と技術を修得する。

その一連の活動・学習を通して「日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度」を育成し、同時にグループで協働し一つの授業を作り上げる活動を通して「相互を活かし自らの役割を果たす協働力」を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション  
日本語教育の基本的知識
- 第2週 初級日本語教科書分析
- 第3週 模擬授業担当課決定  
学習項目の分析とは
- 第4週 担当課の学習項目分析
- 第5週 教案とモデル授業
- 第6週 授業例
- 第7週 正確さのための教室活動
- 第8週 なめらかさのための教室活動
- 第9週 模擬授業準備
- 第10週 模擬授業
- 第11週 模擬授業
- 第12週 模擬授業
- 第13週 模擬授業
- 第14週 模擬授業
- 第15週 まとめ

\*模擬授業は、グループごとに『みんなの日本語 初級I 第2版』の一つの課を担当し実施する。グループ分けと担当課の決定は、第3週に行う。

**【事前・事後学修】**

担当課の学習項目の分析、模擬授業の準備など、授業外における作業・準備が要求される。

また、模擬授業後には自身の模擬授業を振り返り、小レポートを提出する。

(以上全てを含め、事前・事後学修 各々週2時間程)

**【テキスト・教材】**

スリーエーネットワーク (2012) 『みんなの日本語 初級I 第2版 本冊』2,700円

スリーエーネットワーク (2012) 『みんなの日本語 初級I 第2版 翻訳・文法解説英語版』2,160円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

模擬授業、学期末レポート、提出課題、平常点（授業への取り組み）などを総合して成績評価を行う。

評価配分は、模擬授業30%、学期末レポート30%、提出課題30%、平常点10%。

レポート回収後に解答例について説明し、フィードバックとする。

**【参考書】**

授業中に指示する。

**【注意事項】**

発表に際しては十分に準備をし、積極的に質疑応答・ディスカッション等に参加することを望む。

## 日本語教授法演習 a

初級日本語を教えるということ

八木 公子

2年～ 前期 2単位

○：国際的視野、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

初級日本語を教えるとはどういうことか。

この授業では、初級日本語テキストを用いて実際に学習項目を分析し、授業計画を立て、それに基づいた模擬授業を行う。

### 【授業における到達目標】

少人数のグループで授業計画を立て、それに基づいた模擬授業を行う実践を通して、初級日本語を教えるための基礎的知識と技術を修得する。

その一連の活動・学習を通して「日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度」を育成し、同時にグループで協働し一つの授業を作り上げる活動を通して「相互を活かし自らの役割を果たす協働力」を修得する。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション  
日本語教育の基本的知識
- 第2週 初級日本語教科書分析
- 第3週 模擬授業担当課決定  
学習項目の分析とは
- 第4週 担当課の学習項目分析
- 第5週 教案とモデル授業
- 第6週 授業例
- 第7週 正確さのための教室活動
- 第8週 なめらかさのための教室活動
- 第9週 模擬授業準備
- 第10週 模擬授業
- 第11週 模擬授業
- 第12週 模擬授業
- 第13週 模擬授業
- 第14週 模擬授業
- 第15週 まとめ

\*模擬授業は、グループごとに『みんなの日本語 初級I 第2版』の一つの課を担当し実施する。グループ分けと担当課の決定は、第3週に行う。

### 【事前・事後学修】

担当課の学習項目の分析、模擬授業の準備など、授業外における作業・準備が要求される。

また、模擬授業後には自身の模擬授業を振り返り、小レポートを提出する。

(以上全てを含め、事前・事後学修 各々週2時間程)

### 【テキスト・教材】

スリーエーネットワーク (2012) 『みんなの日本語 初級I 第2版 本冊』2,700円

スリーエーネットワーク (2012) 『みんなの日本語 初級I 第2版 翻訳・文法解説英語版』2,160円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

模擬授業、学期末レポート、提出課題、平常点（授業への取り組み）などを総合して成績評価を行う。

評価配分は、模擬授業30%、学期末レポート30%、提出課題30%、平常点10%。

レポート回収後に解答例について説明し、フィードバックとする。

### 【参考書】

授業中に指示する。

### 【注意事項】

発表に際しては十分に準備をし、積極的に質疑応答・ディスカッション等に参加することを望む。

**日本語教授法演習 b**

中上級レベルの学習者に対する聴解および会話の指導

金庭 久美子

2年～ 後期 2単位

○：国際的視野、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

日本語教育における中上級レベルの学習者を対象とした聴解教育および会話教育の指導方法を学び、実習を行う。

教科書として『生きた会話を学ぶ中級から上級への日本語なりきりリスニング』を使用し、その教科書を用いて、模擬授業を行う。

1週目は前の週のフィードバックを行ったのち、グループで教案を作成し、模擬授業の準備を行う。2週目は実際に教壇に立ち、模擬授業の実習を行う。

**【授業における到達目標】**

1. 日本語教育における中上級レベルの位置付けが理解できる。
2. 中上級レベルで扱う指導項目が理解できる。
3. 中上級レベルにおける聴解教育の指導方法を学び実践できる。
4. 中上級レベルにおける会話教育の指導方法を学び実践できる。

・学生が修得すべき「行動力」のうち、日本語教育の中上級レベルの学習者に対する目標を設定して、計画を立案・実行できる。

**【授業の内容】**

1. 中上級レベルの学習者を対象とした日本語教育とは
2. ユニット2 食べる楽しみ
3. ユニット2 実習
4. ユニット3 バイト体験
5. ユニット3 実習
6. ユニット4 結婚のお祝い
7. ユニット4 実習
8. ユニット6 旅をする楽しみ
9. ユニット6 実習
10. ユニット7 会社の話を聞く
11. ユニット7 実習
12. ユニット8 恋の話
13. ユニット8 実習
14. 教材作成
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】実習のための準備を行う（学修時間 週3時間）

【事後学修】実習後の振り返りレポートを書く（学修時間 週1時間）

**【テキスト・教材】**

鎌田修監修 奥野由紀子・金庭久美子・山森理恵『生きた会話を学ぶ中級から上級への日本語なりきりリスニング』（ジャパントイムズ 2016年） 3,240円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

実習（教案、模擬授業、教材作成、最終レポート）80%、平常点（授業への積極的参加・実習レポート）20%

**【参考書】**

授業時に指示する

**【注意事項】**

グループワークを行うので、互いに協力して進めること。

担当日以外の実習は認めない。

レポート等はmanabaに提出する。



## 日本語教授法演習 b

中上級レベルの学習者に対する聴解および会話の指導

金庭 久美子

2年～ 後期 2単位

○：国際的視野、行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

日本語教育における中上級レベルの学習者を対象とした聴解教育および会話教育の指導方法を学び、実習を行う。

教科書として『生きた会話を学ぶ中級から上級への日本語なりきりリスニング』を使用し、その教科書を用いて、模擬授業を行う。

1週目は前の週のフィードバックを行ったのち、グループで教案を作成し、模擬授業の準備を行う。2週目は実際に教壇に立ち、模擬授業の実習を行う。

### 【授業における到達目標】

1. 日本語教育における中上級レベルの位置付けが理解できる。
2. 中上級レベルで扱う指導項目が理解できる。
3. 中上級レベルにおける聴解教育の指導方法を学び実践できる。
4. 中上級レベルにおける会話教育の指導方法を学び実践できる。

・学生が修得すべき「行動力」のうち、日本語教育の中上級レベルの学習者に対する目標を設定して、計画を立案・実行できる。

### 【授業の内容】

1. 中上級レベルの学習者を対象とした日本語教育とは
2. ユニット2 食べる楽しみ
3. ユニット2 実習
4. ユニット3 バイト体験
5. ユニット3 実習
6. ユニット4 結婚のお祝い
7. ユニット4 実習
8. ユニット6 旅をする楽しみ
9. ユニット6 実習
10. ユニット7 会社の話を聞く
11. ユニット7 実習
12. ユニット8 恋の話
13. ユニット8 実習
14. 教材作成
15. まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】実習のための準備を行う（学修時間 週3時間）

【事後学修】実習後の振り返りレポートを書く（学修時間 週1時間）

### 【テキスト・教材】

鎌田修監修 奥野由紀子・金庭久美子・山森理恵『生きた会話を学ぶ中級から上級への日本語なりきりリスニング』（ジャパントイムズ 2016年） 3,240円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実習（教案、模擬授業、教材作成、最終レポート）80%、平常点（授業への積極的参加・実習レポート）20%

### 【参考書】

授業時に指示する

### 【注意事項】

グループワークを行うので、互いに協力して進めること。

担当日以外の実習は認めない。

レポート等はmanabaに提出する。

## 日本語研究とコンピュータ c

—コンピュータにはこんな使い方もある—

鶴橋 俊宏

2年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

## 【授業のテーマ】

データの収集と整理が大きな割合をしめる国語学において、コンピュータは極めて役に立つツールである。本講義では、レポート作成の初期段階を想定してためのフリー・ソフト活用を中心に進める。

日本語研究をターゲットとしているが、国文学科の学生全般に必要な基礎的な知識を扱う。自分の研究にインターネット、種々のアプリケーションがいかに活用できるか、そのヒントを各自が得ることを目的とする。

前期科目では、コンピュータの基盤的知識に触れつつ、各自がこれまで使ってきたアプリケーションに「ひと味加える」方法を身につけるのを目標とする。

## 【授業における到達目標】

- ・ I T の言語研究への応用により、言語に対する多様なアプローチ方法を学び、新たな知を創造する態度を身につけることができる。
- ・ 【行動力】として、I T 技術の利用を通して、問題解決のためのプロセスの設定とそれを評価する能力を養う。

## 【授業の内容】

- 一 文献学のための情報リテラシー
  - ①ワープロはWordだけではない
  - ②ワープロ・ソフトにはこんな使い方もある
  - ③ワープロより簡単なテキスト・エディタ
  - ④エディタで「考え」をまとめる
  - ⑤参考文献の探し方
  - ⑥インターネットを安全に使う
  - ⑦Excelにはこんな機能も
- 二 データの扱い方
  - ⑧データとは何か
  - ⑨目的に合ったデータの集め方
  - ⑩データの中から自動的に必要なものを抜き出す
  - ⑪データを並び替える
  - ⑫データに変更を加える
  - ⑬文学作品をデータとしてどう使うかー用例の探し方
  - ⑭文学作品をデータとしてどう使うかー効率を高めるには
  - ⑮古典文学を使うときの工夫

## 【事前・事後学修】

事前学修：テキストの中にある課題の中から、毎回次回の授業に関するものを指定するので、事前に調査などを行っておくこと。（週2時間）

事後学修：授業時に説明したことを再確認しノートにまとめておくこと。（週2時間）

## 【テキスト・教材】

『日本語研究とコンピュータ』（私家版、webで公開）

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート（前期学習内容をまとめた文書ファイルを作成する）70%、平常点（授業への積極参加、課題提出）30%

課題に対しては、当該時間中にフィードバックを行う。

## 【参考書】

授業中に指示

## 【注意事項】

段階を追って説明するので、続けて出席すること。  
256MB以上の空き容量のあるUSBメモリを用意すること。  
コンピュータの専門知識がないことを想定して進めるが、受講者の希望や習熟度によって柔軟に対応する。

## 日本語研究とコンピュータ d

—コーパス言語学—

鶴橋 俊宏

2年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

## 【授業のテーマ】

国語学や国文学では、データをどう集めどう整理するのが大事である。本講義では、日本語研究を中心に文献学的研究方法の一つとしてコーパス（コンピュータで読める大規模な言語資料）など、ネットに蓄積された膨大なデータをどう利用するか、その方法を紹介する。それによって、自分の研究にインターネット、種々のアプリケーションをどう使うか、そのヒントを各自が得ることを目的とする。

後期科目では、具体的な実例をもとに、フリーのアプリケーションを各自の研究テーマに応用することを目指す。内容は受講者の研究テーマによって変更することがあり得る。

## 【授業における到達目標】

- ・ I T の言語研究への応用により、新たな方法論の開拓と、知の創造を目指す態度を身につけることができる。
- ・ 【行動力】として、I T 技術の言語研究への応用を通して、問題解決のためのプロセスの設定とそれを評価する能力を養う。

## 【授業の内容】

- 一 コーパスを使う
  - ①コーパスとは何か、どういうものか、何の役に立つのか
  - ②コンピュータ用語の「テキスト」はこんなもの
  - ③ことばを探してデータにする方法 ー探し方
  - ④ことばを探してデータにする方法 ー見つけた後どうするか
- 二 レポート作成シミュレーション
  - ⑤どんなアプリケーションを用意するか
  - ⑥構想を練るためのアイデアプロセッサ
  - ⑦レポートはどんな形で何を書くか
  - ⑧アウトラインの作り方
  - ⑨用例とは何、何のために必要か
  - ⑩参考文献の「作法」
  - ⑪実例 ーことばの性差（位相）を探る
  - ⑫実例 ー似たことばはどう区別するか
  - ⑬実例 ーコロケーションとは
  - ⑭実例 ー「古今集」のことばを調べる
  - ⑮縦書き論文を書く時には

## 【事前・事後学修】

事前学修：テキストの中にある課題の中から、毎回次回の授業に関するものを指定するので、事前に調査などを行っておくこと。（週2時間）

事後学修：授業時に説明した事項をワープロやエディタを用いて文章化すること。（週2時間）

## 【テキスト・教材】

『日本語研究とコンピュータ』（私家版、webで公開）

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート（学習内容をまとめたファイル）70%、平常点（授業への積極参加、課題提出）30%

課題に対しては当該時間中または次回にフィードバックを行う。

## 【参考書】

授業中に指示

## 【注意事項】

段階を追って説明するので、続けて出席すること。  
256MB以上の空き容量のあるUSBメモリを用意すること。  
前期科目の受講を前提とするが、受講者の希望、習熟度によって柔軟に対応する。

**日本語日本文学演習C**

〈明治39年〉を読み解く

ブルナ, ルカーシュ

国文学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

日本近代史において一大事件となり、日本の政治や社会、文化などに深甚な影響を及ぼした日露戦争は明治38（1905）年に終結したが、翌年にあたる明治39（1906）年も様々な意味で重要な一年となる。来るべき日本近代文学の大きな変動を逸早く告げた島崎藤村の『破壊』が刊行されたのはこの年のことである。

この授業では、同時代の社会的状況と思想的風潮を視野に入れながら、明治39年1月から12月まで文芸雑誌に発表された短編小説を読み、この一年の日本文学と日本文壇のあり方についてさまざまな観点から考えてみたい。なお、この授業はプレゼンテーション形式ではなくて、ディスカッションを中心とした授業である。先行研究と同時代評を確認した上で、対象作品がはらむ諸問題について語り合う。受講生にはディスカッションへの積極的な参加を求める。

**【授業における到達目標】**

明治39年の短編小説を発表された順に読み進め、日露戦後の日本文学について学ぶことを目的としたい。

**【授業の内容】**

1. オリエンテーション
2. 日露戦後の日本文学
3. 1月—伊藤左千夫「野菊の墓」①
4. 1月—伊藤左千夫「野菊の墓」②
5. 2月—正宗白鳥「破調平調」①
6. 2月—正宗白鳥「破調平調」②
7. 3月—小川未明「兄弟」①
8. 3月—小川未明「兄弟」②
9. 4月—高浜虚子「畑打」①
10. 4月—高浜虚子「畑打」②
11. 5月—鈴木三重吉「千鳥」①
12. 5月—鈴木三重吉「千鳥」②
13. 6月—柳川春葉「二おもて」①
14. 6月—柳川春葉「二おもて」②
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修 = 指定されたテキストには事前に目を通しておくこと。（週2時間）

事後学修 = 授業中のディスカッションで指摘されたことについて考え、問題点を整理すること。テキストを再読すること。（週2時間）

**【テキスト・教材】**

とくになし。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業態度50%、レポート50%

フィードバック

最終回ではレポートの内容についてコメントをし、疑問点や質問があれば、それに答える。

**【参考書】**

とくになし。

**日本語日本文学演習D**

〈明治39年〉を読み解く

ブルナ, ルカーシュ

国文学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

日本近代史において一大事件となり、日本の政治や社会、文化などに深甚な影響を及ぼした日露戦争は明治38（1905）年に終結したが、翌年にあたる明治39（1906）年も様々な意味で重要な一年となる。来るべき日本近代文学の大きな変動を逸早く告げた島崎藤村の『破壊』が刊行されたのはこの年のことである。

この授業では、同時代の社会的状況と思想的風潮を視野に入れながら、明治39年1月から12月まで文芸雑誌に発表された短編小説を読み、この一年の日本文学と日本文壇のあり方についてさまざまな観点から考えてみたい。なお、この授業はプレゼンテーション形式ではなくて、ディスカッションを中心とした授業である。先行研究と同時代評を確認した上で、対象作品がはらむ諸問題について語り合う。受講生にはディスカッションへの積極的な参加を求める。

**【授業における到達目標】**

明治39年の短編小説を発表された順に読み進め、日露戦後の日本文学について学ぶことを目的としたい。

**【授業の内容】**

1. オリエンテーション
2. 日露戦後の日本文学
3. 7月—徳田秋声「老骨」①
4. 7月—徳田秋声「老骨」②
5. 8月—国木田独歩「号外」①
6. 8月—国木田独歩「号外」②
7. 9月—近松秋江「寿命」①
8. 9月—近松秋江「寿命」②
9. 10月—島崎藤村「家畜」①
10. 10月—島崎藤村「家畜」②
11. 11月—泉鏡花「春昼」①
12. 11月—泉鏡花「春昼」②
13. 12月—田山花袋「アリウウシヤ」①
14. 12月—田山花袋「アリウウシヤ」②
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修 = 指定されたテキストには事前に目を通しておくこと。（週2時間）

事後学修 = 授業中のディスカッションで指摘されたことについて考え、問題点を整理すること。テキストを再読すること。（週2時間）

**【テキスト・教材】**

とくになし。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業態度50%、レポート50%

フィードバック

最終回ではレポートの内容についてコメントをし、疑問点や質問があれば、それに答える。

**【参考書】**

とくになし。

## 日本語日本文学研究A

『一葉日記』を読む

河野 龍也

国文学専攻 前期 2単位

## 【授業のテーマ】

24歳で夭折した樋口一葉の生涯に日記から迫ります。小説の師・半井桃水への淡い思い。遊廓裏手の駄菓子屋で見た社会の表と裏。これらの経験が「奇蹟の14ヶ月」と呼ばれる名作連発の時期へと繋がる経緯を追いながら、明治の庶民生活の一端を垣間見ます。

## 【授業における到達目標】

明治文語文の表現に慣れ、意味を正確に理解する。  
先行研究、時代資料の調査方法を修得する。  
生活の記述から、近代社会のシステムを考察するいとぐちを掴む。

## 【授業の内容】

- 第1週 樋口一葉概説
- 第2週 一葉小説の世界①—「にごりえ」
- 第3週 一葉小説の世界②—「たけくらべ」
- 第4週 一葉日記概説
- 第5週 日記「若葉かげ」（明治24年～23年11月）
- 第6週 日記「わか艸」（明治24年4月～6月）
- 第7週 日記「にっ記一」（明治25年1月～2月）
- 第8週 日記「日記」（明治25年3月～4月）
- 第9週 日記「しのぶぐさ」（明治25年6月～8月）
- 第10週 日記「よもぎふにつ記」（明治25年12月～26年2月）
- 第11週 日記「よもぎふにつ記」（明治26年3月～4月）
- 第12週 日記「蓬生日記」（明治26年5月）
- 第13週 日記「塵之中」（明治26年7月～8月）
- 第14週 日記「日記 ちりの中」（明治27年2月～3月）
- 第15週 日記「塵につ記」（明治27年3月～5月）

## 【事前・事後学修】

事前学修（週2時間）：各回で取り上げる範囲につき読解し、疑問点をマークする。  
事後学修（週2時間）：授業中に提示された語彙や事項につき調査する。

## 【テキスト・教材】

こちらでプリントを用意します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業時の積極性（授業内での調査）50%、考察に基づく発言と内容理解50%で総合評価します。

フィードバック：毎時間、全員交替でテキストを音読しながら、難読箇所や疑問点を確認し、授業時間内に調査を積み重ねます。読み方、調査の結果につき、その場でコメントします。

## 【参考書】

授業では、鈴木淳・樋口智子・越後敬子編『一葉日記』（2002岩波書店）の翻刻版を併用します。参考として、関礼子注「日記」抄（新日本古典文学大系明治編『樋口一葉集』2001岩波書店）。明治の生活については平出鏗二郎『東京風俗志』（2000ちくま学芸文庫）を活用します。

## 【注意事項】

各回の日記には前もって目を通し、疑問点をマークしておいてください。読解の進み具合により、各回で扱う内容が変わる可能性があります。

## 日本語日本文学研究B

『一葉日記』を読む

河野 龍也

国文学専攻 後期 2単位

## 【授業のテーマ】

24歳で夭折した樋口一葉の生涯に日記から迫ります。小説の師・半井桃水への淡い思い。遊廓裏手の駄菓子屋で見た社会の表と裏。これらの経験が「奇蹟の14ヶ月」と呼ばれる名作連発の時期へと繋がる経緯を追いながら、明治の庶民生活の一端を垣間見ます。

## 【授業における到達目標】

・明治文語文の表現に慣れ、意味を正確に理解する。  
・先行研究、時代資料の調査方法を修得する。  
・生活の記述から近代社会のシステムを考察するいとぐちを掴む。

## 【授業の内容】

- 第1週 樋口一葉概説
- 第2週 一葉小説の世界①—「十三夜」
- 第3週 一葉小説の世界②—「大つごもり」
- 第4週 一葉日記概説
- 第5週 日記「水の上日記」（明治27年6月～7月）
- 第6週 日記「水の上」（明治27年11月）
- 第7週 日記「水の上につ記」（明治28年5月）
- 第8週 日記「みづのうへ」（明治28年5月）
- 第9週 日記「水の上」（明治28年5月～6月）
- 第10週 日記「水のうへ日記」（明治28年10月～11月）
- 第11週 日記「水のうへ」（明治28年12月～29年1月）
- 第12週 日記「みづの上」（明治29年2月）
- 第13週 日記「みづの上日記」（明治29年5月～6月）
- 第14週 日記「みづの上日記」（明治29年6月～7月）
- 第15週 まとめ・討論

## 【事前・事後学修】

事前学修（週2時間）：各回で取り上げる範囲につき読解し、疑問点をマークする。  
事後学修（週2時間）：授業中に提示された語彙や事項につき調査する。

## 【テキスト・教材】

こちらでプリントを用意します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業時の積極性（授業内での調査）50%、考察に基づく発言と内容理解50%で総合評価します。

フィードバック：毎時間、全員交替でテキストを音読しながら、難読箇所や疑問点を確認し、授業時間内に調査を積み重ねます。読み方、調査の結果につき、その場でコメントします。

## 【参考書】

授業では、鈴木淳・樋口智子・越後敬子編『一葉日記』（2002岩波書店）の翻刻版を併用します。参考として、関礼子注「日記」抄（新日本古典文学大系明治編『樋口一葉集』2001岩波書店）。明治の生活については平出鏗二郎『東京風俗志』（2000ちくま学芸文庫）を活用します。

## 【注意事項】

各回の日記には前もって目を通し、疑問点をマークしておいてください。読解の進み具合により、各回で扱う内容が変わる可能性があります。

**日本語日本文学研究C**

黒川本『和泉式部物語』でデジタル教科書を作る

近藤 みゆき

国文学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

実践女子大学の特殊コレクションのひとつ、黒川文庫本の『和泉式部物語』を用いてデジタル教科書を作成します。

この授業は富士ゼロックス社と我が校との産学共同研究の一環で、デジタル化のツールなどはゼロックス社が担当します。

授業では、いかに楽しく、古典文学やくずし字を学習することができるか、アイデアをたくさん盛り込んだテキスト作りを目指します。

初歩から指導しますので、日本文化の中でも平安時代の王朝文化について、知識を深めたい方にお勧めします。

**【授業における到達目標】**

\*平安時代の文化と生活、文学について知識を修得します。またくずし字のうち平仮名については、ある程度読めるようになることを目的とします。

**【授業の内容】**

- 第一回 教科書作りの方針
- 第二回 平安時代の生活と文化
- 第三回 言語生活としての和歌生活
- 第四回 良いプレストとは
- 第五回 くずし字指導
- 第六回 デジタルテキストの作成(4～5丁)
- 第七回 同上(6～7丁)
- 第八回 同上(8～9丁)
- 第九回 同上(10～11丁)
- 第十回 同上(11～12丁)
- 第十一回 同上(13～14丁)
- 第十二回 同上(15～16丁)
- 第十三回 同上(17～18丁)
- 第十四回 同上(19～20丁)
- 第十五回 まとめ

**【事前・事後学修】**

授業の進捗状況に応じて毎回課題を出します。事前学修週2時間。次回授業時に、レポーターの発表以外に、全員に課題発表を行っていただきます。事後学修週2時間

**【テキスト・教材】**

授業時に配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート発表50分、課題発表25分、プレストへの参加25分。  
発表内容・毎回の課題については、その授業時間に、総合的な内容については、授業最終回にフィードバックします。

**【参考書】**

授業時に適宜紹介します。

**日本語日本文学研究D**

黒川本『和泉式部物語』でデジタル教科書を作る

近藤 みゆき

国文学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

実践女子大学の特殊コレクションのひとつ、黒川文庫本の『和泉式部物語』を用いてデジタル教科書を作成します。

『和泉式部物語』は、『物語』とありますが、実際には『和泉式部日記』の江戸時代版本です。本文の質はあまりよくありませんが、挿絵を多く載せる点に特色があります。その挿絵にどのようなデジタルデータを取り入れて、見て楽しめる教科書が作成できるかを念頭におき、作品を読み進めていきます。授業では、アイデアを多く出すことが目的であり、デジタル化のツールについては、富士ゼロックス社が担当します。

**【授業における到達目標】**

平安時代の文化と生活、美意識等について知識を修得します。また、テキストにどのような仕掛けを加えていけば、楽しく作品を読解していくことができるようになるか、発想力を鍛えます。

**【授業の内容】**

- 第一回 挿絵の確認
- 第二回 挿絵の利用方法についてのプレスト
- 第三回 デジタルテキストの作成(21～22丁)
- 第四回 同上(23～24丁)
- 第五回 同上(25～26丁)
- 第六回 同上(27～28丁)
- 第七回 同上(29～30丁)
- 第八回 同上(31～32丁)
- 第九回 同上(33～34丁)
- 第十回 同上(35～36丁)
- 第十一回 同上(37～38丁)
- 第十二回 同上(38～39丁)
- 第十三回 同上(40丁)
- 第十四回 全体の見直し
- 第十五回 まとめ

**【事前・事後学修】**

授業の進捗状況に応じて毎回課題を出します。事前学修週2時間。次回授業時に、レポーターの発表以外に、全員に課題発表を行っていただきます。事後学修週2時間。

**【テキスト・教材】**

授業時に配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート発表50分、課題発表25分、プレストへの参加25分。  
発表内容・毎回の課題については、その授業時間に、総合的な内容については、授業最終回にフィードバックします。

**【参考書】**

授業時に適宜紹介します。

## 日本語日本文学研究E

修士論文の執筆1

福嶋 健伸

国文学専攻 前期 2単位

### 【授業のテーマ】

本授業では、修士論文執筆計画を立ててもらい、その後、修士論文の最も中心となる部分に磨きをかけ、研究発表をし、その後、投稿論文に仕上げるという作業を行う。実際に、研究会で発表し、学術雑誌（『実践国文学』等）に投稿してもらうことが、本授業の特徴である。

なお、授業内容・順序は、学生の興味や理解度にあわせて、適宜変更することがある。また、郊外実習を行う可能性もある。

### 【授業における到達目標】

- 1：修士論文のテーマを決定する。
- 2：テーマに沿って先行研究を収集し、先行研究では明らかになっていないことは何かを指摘する。
- 3：上記2を解決するための、適切な調査計画をたて、調査を行う。

### 【授業の内容】

各学生の発表内容や発表方法等は、受講者数や受講者の興味を考慮し、適切な方法を選択する。

- 第1週 修士論文執筆計画 1：大まかな構想
- 第2週 修士論文執筆計画 2：具体的なスケジュール
- 第3週 どの部分を投稿するべきか
- 第4週 どの雑誌に投稿するべきか—各雑誌の特徴
- 第5週 院生の発表 1
- 第6週 院生の発表 2
- 第7週 院生の発表 3
- 第8週 院生の発表 4
- 第9週 院生の発表 5
- 第10週 校正の仕方
- 第11週 要旨の書き方
- 第12週 院生の発表 6
- 第13週 院生の発表 7
- 第14週 院生の発表 8
- 第15週 投稿

### 【事前・事後学修】

【事前学修】配布プリントを事前に読んでおくこと。または、発表資料を作成し、事前にリハーサルをしておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業の内容を復習し、計画書（もしくは原稿）を修正すること。かつ、計画の実践をすること。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

授業中にプリントを配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表70%、授業への積極的参加・提出課題 30%  
授業中に、各院生にあわせたフィードバックを丁寧に行う。

### 【参考書】

授業中に指示する。

### 【注意事項】

授業中に指示する。

## 日本語日本文学研究F

修士論文の執筆2

福嶋 健伸

国文学専攻 後期 2単位

### 【授業のテーマ】

本授業では、実際に修士論文を執筆してもらう。具体的には、「はじめに」から「引用文献」までを執筆していく。

なお、授業内容・順序は、学生の興味や理解度にあわせて、適宜変更することがある。また、郊外実習を行う可能性もある。

### 【授業における到達目標】

- 1：修士論文の全体の構成を理解する。
- 2：実際に、修士論文の一部を執筆する。

### 【授業の内容】

- 第1週 修士論文を書く順序—「はじめに」は最後に書く—
- 第2週 「先行研究のまとめ」の書き方 1  
—明らかにされていることは何か—
- 第3週 「先行研究のまとめ」の書き方 2  
—明らかにされていないことは何か—
- 第4週 「本研究の位置づけ」の書き方 1—研究の意義—
- 第5週 「本研究の位置づけ」の書き方 2—研究の広がり—
- 第6週 「調査概要」の書き方 1—なぜその資料を選んだのか—
- 第7週 「調査概要」の書き方 2—第三者が再現できるように書く—
- 第8週 「調査結果」の書き方—表や図にまとめる
- 第9週 「考察」の書き方 1—考察対象から独立した現象が必要—
- 第10週 「考察」の書き方 2—再度の調査—
- 第11週 各章の関係—効果的な順序とは—
- 第12週 注の書き方
- 第13週 引用文献の書き方
- 第14週 「はじめに」「おわりに」の書き方
- 第15週 総括及びまとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】配布プリントを事前に読んでおくこと。または、発表の場合は、事前に、資料を作成しリハーサルをしておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業の内容を復習し、計画書（もしくは原稿）を修正すること。かつ、計画の実践をすること。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

適宜、プリントを配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート70%、授業への積極的参加・提出課題 30%  
授業中に、各院生にあわせたフィードバックを丁寧に行う。

### 【参考書】

授業中に指示する。

### 【注意事項】

授業中に指示する。

## 日本語表現法 a

—正しく理解し、表現する力を磨く—

大塚 みさ・佐藤 辰雄・高瀬 真理子・西脇 智子・久池井 紀子

1年 前期・後期 1単位

◎：研鑽力

### 【授業のテーマ】

日常の多様な場面で円滑なコミュニケーションをとるためには、文章や話の内容を正確に理解した上で、自分の思考したことを論理的に組み立てて明快な日本語で表現する能力が不可欠です。

この授業では、文章の要約力養成を目指した演習を積み重ねるとともに、学業上必要なアカデミック・ライティングの基礎力と敬語の運用能力の養成を行います。また、毎授業時には表記能力とボキャブラリーの増強を目指した小テストを実施します。

### 【授業における到達目標】

・学びの成果を客観的かつ定期的に点検し、到達度を実感することによって「研鑽力」を修得します。

### 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション・プレテストによる力試し
- 第2週 読解・要約力をつける 1 段落構成と接続語に注目する
- 第3週 読解・要約力をつける 2 話題同士のつながりに注目する
- 第4週 読解・要約力をつける 3 話題や主張を押さえて要約する
- 第5週 読解・要約力をつける 4 論旨展開構造を意識して要約する
- 第6週 アカデミック・ライティング 1 語句・表現を適切に用いる
- 第7週 アカデミック・ライティング 2 説得力のある文を書く
- 第8週 アカデミック・ライティング 3 文章の論理展開を確認する
- 第9週 表現力を磨く 1 日本語を正しく書く
- 第10週 表現力を磨く 2 語彙力・表現力を駆使して書く
- 第11週 表現力を磨く 3 味わい深い文章を書く
- 第12週 ポストテストで要約力の到達度を確認する
- 第13週 敬語の復習と実践演習 1 ビジネス会話に慣れる
- 第14週 敬語の復習と実践演習 2 手紙・季節の挨拶文を書く
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】 国語辞書を用いて語句の意味をきちんと理解しながら小テストの準備を行うこと。その他、教員に指示された課題に取り組むこと。（学修時間 週1時間）

【事後学修】：小テストおよび要約演習の徹底的な復習を行うこと。その他、教員に指示された課題に取り組むこと。（学修時間 週1時間）

### 【テキスト・教材】

『現代文100字要約ドリル 基礎編』（駿台文庫）を使用し、授業中に数回の要約演習（うち5回は添削指導付き）を行います。毎回の使用分を授業で配布しますので、購入の必要はありません。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

演習課題・提出物・ワーク等70%、授業態度・小テスト等30%。小テストはその日の授業、演習課題は原則として2週間後の授業でフィードバックを行います。

### 【注意事項】

- ・授業内容や扱う順序は、担当教員によって多少異なることがあります。
- ・国語辞書（電子媒体も可）を用意して、事前・事後学修で活用する習慣を身につけましょう。
- ・語彙力・表現力を磨くために、優れた文章に触れる機会を多く持ちましょう。また、新聞を読み、考える習慣をつけましょう。
- ・アカデミック・ライティングについては「実践入門セミナー」で取り扱う授業内容とも関連するので、図書館の利用方法やレポートの書き方なども含めて十分に理解できるよう努めましょう。

## 日本語表現法 b

—実社会で役立つ表現能力を身につける—

佐藤 辰雄・福島 史子

1年 後期 1単位

◎：研鑽力

### 【授業のテーマ】

情報化の時代といわれる現在、積極的に正しく情報発信を行うためには、明快かつ簡潔で曖昧さのない表現能力が不可欠です。

この科目は、「実践入門セミナー」で培った基礎力をもとに、日本語力のいっそうの向上と、実習や添削指導を通して実社会で役に立つ表現能力を確実に身につけることを目標とします。

### 【授業における到達目標】

日本語を的確に読み・書き・話し・聞く能力を高める過程を通して成果を実感し、更なる目標に向けて努力することができます（研鑽力と行動力）。

日本語や日本語の特徴を理解し、それに対応した学修を反復することで、若い女性としての感性やマナーを修得することができます（美の探求）。

履歴書やエントリーシート・志望理由書の作成を通して、社会人になるための基本的な知識と対策を学修できます。

### 【授業の内容】

1. オリエンテーション—授業の進め方
2. 日本語力をみがく (1) —慣用句・四字熟語・定型表現
3. 日本語力をみがく (2) —類義語・対義語の使い方
4. 日本語力をみがく (3) —ことわざ・故事成語
5. 文章表現能力をみがく (1) —文の組み立て
6. 文章表現能力をみがく (2) —文のつながり
7. 文章表現能力をみがく (3) —意味の限定・言葉の順序
8. 文章表現能力をみがく (4) —曖昧文を直す
9. 文章表現能力をみがく (5) —補助記号を上手に使う
10. 敬語の運用能力をみがく (1) —敬語の種類を理解する
11. 敬語の運用能力をみがく (2) —敬語を書く
12. 敬語の運用能力をみがく (3) —敬語を話す
13. 敬語の運用能力をみがく (4) —実践敬語を磨く
14. 社会におけるコミュニケーションの方法を身につける
15. まとめ

\*内容は教員によって多少異なる場合もあります。

### 【事前・事後学修】

#### 【事前学修】

プリントや教科書をよく読んで、授業内容を把握しておきましょう。また、前回の復習を行って小テストに備えましょう。（学修時間 週1時間）

#### 【事後学修】

授業内容をしっかり復習するとともに、授業中に実施した漢字書き取りを中心とする小テストを、100%解けるように努力しましょう。（学修時間 週1時間）

### 【テキスト・教材】

佐藤辰雄：『日本語表現ノート』（500円）を使用します。

福島史子：随時プリントを配布します。

補助教材として、日本漢字能力検定協会編

『漢検準2級分野別問題集改訂版』（日本漢字能力検定協会発行）定価（税込）972円を使用します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出物（70%）、小テスト（30%）で評価します。

翌週に小テスト・提出物を返却してフィードバックします。

### 【参考書】

適宜紹介します。

### 【注意事項】

- ・毎授業時に、漢字やことわざ・慣用句・四字熟語等の小テストを行います。
- ・意欲に応じてさまざまな課題に挑戦できます。
- ・受講マナーをしっかり守る人こそ受講するに相応しい。
- ・受講人数制限40名（制限人数を超えた場合、抽選）

**日本語文法論 a**

歴史的変化から日本語を考える

手坂 凡子

1年～ 前期 2単位

◎：美の探求 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

この講義では、現代日本語の文法を歴史的な変化から理解することをテーマとします。現代に生きる我々が用いている日本語は、古代語から近代語へと連綿と続く言語の変遷の中にあります。その変化の様相を知らなければ、今使っている言葉がどのようなものであるかを理解することはできません。実際の用例を通して日本語の文法の様相を知り、これから様々な場面で文法について考える力を養うことが大切です。

**【授業における到達目標】**

日本語の歴史的な変化を理解することで、学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につける力を修得します。現在用いている自分の日本語を見直すことで、学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握し課題を発見する力を修得します。

**【授業の内容】**

- 第1週 文法の単位
- 第2週 学校文法における品詞
- 第3週 現代語の動詞
- 第4週 動詞の歴史的な変化
- 第5週 動詞の活用と混乱
- 第6週 現代語の形容詞
- 第7週 形容詞の歴史的な変化
- 第8週 現代語の形容動詞
- 第9週 形容動詞の歴史的な変化
- 第10週 現代語の名詞
- 第11週 名詞の歴史的な変化
- 第12週 副詞
- 第13週 連体詞
- 第14週 接続詞・感動詞
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】教科書の該当箇所を読み、分からない言葉を調べてください。(学修時間 週2時間)

【事後学修】復習が中心となります。小テストへ向けて授業内容を確認してください。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

浅川哲也、竹部歩美著『歴史的変化から理解する現代日本語文法』(おうふう、2014年10月)定価3500円+税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

小テスト40%、試験40%、平常点(授業への積極参加)20%。

小テストは、基本的に次回授業で返却します。試験結果は最終授業でフィードバックを行います。

**【参考書】**

適宜授業で紹介いたします。

**日本語文法論 b**

教壇に立つことのできる古文文法力の育成

福嶋 健伸

1年～ 後期 2単位

◎：美の探求 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

この授業の目標は次の二つである。

- 1 高校までの古文文法の徹底。
- 2 上記1を踏まえた上で、古文文法の何が研究対象となるかを押さえる。

大学の授業は、高校までの古文文法の知識があることを前提としている。しかし、高校のカリキュラムによっては古文文法に時間を割かないこともあるのが実状である。古文文法が苦手であれば、古文を読むことが難しいのは言うまでもなく、特に、教員免許を取得する学生は、教育実習で古文を教える立場になる可能性があり、問題は深刻である。

このような状況を踏まえ、この授業では、古文文法を基礎から学び、その後、大学の研究レベルから、高校レベルの古文文法を見直すことにする。

**【授業における到達目標】**

この授業の到達目標は、先の目的で述べたとおりである。

次に、ディプロマ・ポリシーとの関連を述べる。本授業では、学生が修得すべき「態度」のうち、「日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度」と「人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度」を修得する。また、学生が修得すべき「能力」のうち、「学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることができる能力」と「学修成果を実感して、自信を創出することができる能力」を修得する。

**【授業の内容】**

大学入試用に作られたテキストの問題を解いてもらい、解答の解説を行う。高校までの古文文法の基礎ができた段階で、何故そのような入試問題が作られたのかを考え、大学の研究レベルから高校までの古文文法を見直す。

- 第1週 何故、古文文法を学ぶのか
- 第2週 歴史的仮名遣い
- 第3週 文の成分
- 第4週 文節と単語と品詞
- 第5週 動詞の活用1―四段、上二段、上一段、下二段、下一段―
- 第6週 動詞の活用2―ラ変、カ変、ナ変、サ変―
- 第7週 形容詞の活用
- 第8週 形容動詞の活用
- 第9週 助動詞のポイント
- 第10週 助動詞の接続
- 第11週 助動詞1―キとケリ―
- 第12週 助動詞2―ツ・ヌ・タリ・リ―
- 第13週 助動詞3―ル・ラル―
- 第14週 助動詞4―ス・サス・シム―
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】事前に、古文文法に関する書籍や辞典などで、シラバスに載っているキーワードについて調べ考えをまとめておくこと。また、指定された問題を解いておくこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】授業の内容を復習すること。プリントやテキストを再読すること。疑問点があったらまとめておくこと。

(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

望月光著『基礎から学べる 入試古文文法』(代々木ライブラリー)900円+税 2003年初版

高校国語教育研究会編『古文単語300 すいすい暗記』(受験研究社)670円+税 1996年初版

なお、適宜、補助プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**



授業数の3分の2以上の出席を前提とした上で、持ち込み不可の期末テスト80%・平常点（積極的参加・提出課題）20%で判断する。提出課題は授業中にフィードバックを行う。また、期末テストは、授業の最後にフィードバックを行う。

**【参考書】**

学生の理解度にあわせて授業中に紹介する。

**【注意事項】**

- 1：遅刻3回で欠席1回の扱いとなる。また、30分以上の遅刻は、欠席扱いとする。
- 2：授業内容・順序は、学生の興味や理解度にあわせて、適宜変更することもある。半期で教科書を終わらせる可能性がある（「授業の内容」よりもはやく授業が進む可能性がある）ことを予め述べておく。
- 3：第1回目の授業でその他の注意点を詳しく説明する。
- 4：授業を無断で、撮影・録音・録画することは認められない。

## 日本国憲法

日本国憲法により国民に保障された「権利」について学ぶ

斎藤 孝

1年～ 前期・後期 2単位

○：研鑽力、行動力

### 【授業のテーマ】

概要：

憲法により国民に保障されたさまざまな「権利」（憲法上の権利）—たとえば自由権・社会権・参政権など—とはいかなるものかについて学ぶ。

目的：

「憲法上の権利」とは、具体的にどのようなものかについて学ぶ。

### 【授業における到達目標】

到達目標：

憲法上の権利を学ぶことについて理解できるようになる。

ディプロマポリシーとの関連：

、学生が習得すべき「行動力」のうち、課題を発見する力を習得する。

### 【授業の内容】

第1週 序 —日本国憲法はどのように制定されたか—

第2週 「権利」はどのように分類（体系化）されるか

第3週 「権利」はすべての人に保障されるか

第4週 「権利」は私人間の契約に適用されるか

第5週 「幸福追求権」により何が保障されるか

第6週 「法の下での平等」により何が保障されるか

第7週 「表現の自由」により何が保障されるか

第8週 「職業選択の自由」により何が保障されるか

第9週 「生存権」により何が保障されるか

第10週 「適正手続きの保障」により何が保障されるか

第11週 「参政権」により何が保障されるか

第12週 「司法権」により何が保障されるか

第13週 「違憲審査権」とはどのようなものか

第14週 「労働基本権」の特異性について

第15週 総括

### 【事前・事後学修】

事前学修：2時間

毎回の授業前に、テキストで該当箇所を予習しておくこと。

事後学修：2時間

毎回の授業後に、学んだことを復習したり、関係する事例について考えたりすること。

### 【テキスト・教材】

テキスト：

古野豊秋・畑尻剛編『新・スタンダード憲法〔第4版〕』（尚学社 2015年）3000円。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験（70%）、レポート（30%）。

フィードバックは、授業最終日におこなう。

### 【参考書】

六法（『ポケット六法』有斐閣 1800円、『法学六法』信山社 1000円など）。

### 【注意事項】

試験は事例問題を予定しております。憲法の視点から考えて問題を解決する力（リーガル・マインド）を身につけてもらいたと思います。そのためには、つねに、テレビや新聞のニュースに関心をもち、自分の考え（問題を解決する方法）を持つように心がけてください。

※募集人数は140名です。

## 日本国憲法

金津 謙

1年～ 前期・後期 2単位

○：研鑽力、行動力

### 【授業のテーマ】

日本国憲法が保障する基本原理（国民主権・基本的人権の尊重・平和主義）とはどのようなものか。本講義では、とりわけ、基本的人権を中心に学んでいきたい。また、ビデオを鑑賞して憲法について考えてもらいたと思います。

### 【授業における到達目標】

基本的人権について理解し、さまざま社会問題を人権規定から考察し課題を発見する力を修得する。

### 【授業の内容】

1. 日本国憲法の基本原理
2. 基本的人権総論（私人間効力など）
3. 幸福追求権
4. 法の下での平等
5. 精神的自由（表現の自由など）
6. 経済的自由（職業選択の自由など）
7. 人身の自由（適正手続きの保障など）
8. 社会権（生存権など）
9. 参政権（選挙制度など）
10. 国会
11. 内閣
12. 裁判所
13. 違憲審査制
14. 地方自治
15. その他

### 【事前・事後学修】

【事前学修】小テスト・レポート・発表等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】発表・小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

伊藤正己著『憲法入門〔第4版補訂版〕』有斐閣、1,600円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末テストの結果、出席状況・授業内レポートによって総合的に評価します。テスト80点、授業内提出物20点の配点です。試験結果については最終回でフィードバックの予定です。

### 【参考書】

授業時に指示。

### 【注意事項】

授業時に指示。

※募集人数は200名です。

## 日本史 a

千本 秀樹

1年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

日本列島には地域によってさまざまな文化が存在し、それゆえに豊かであった。しかし「日本」とはどの地域をさすのか、わたしたちが「日本文化」と認識しているものは何なのか。日本の範囲は時代によって異なつたし、観念的に考えられている「日本文化」とは明治維新以降、文化の均質化によって政治的に作られたものである。地域文化の差異性こそが重要なのだということに気がついてもらいたい。原始時代からの日本列島の歴史を概観しつつ、日本人とは何か、「日本文化」とは何かを考える。

### 【授業における到達目標】

現在の自己と社会が過去の人間と自然の営みの蓄積のうえにあることを理解し、現在の自己と歴史が接続していることを体感できるようにする。

歴史を通して、現在と未来の生き方を考えられるようになる。

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、国際的な視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜き、行動力のうち、課題を発見し問題解決につなげる力を獲得する。

### 【授業の内容】

1. 「日本」とはどこか
2. 縄文人と弥生人
3. 大和と蝦夷
4. 二重政権の鎌倉時代
5. 命が危険で自由な中世
6. 平和で不自由な江戸時代
7. 開国か攘夷か
8. 日本的近代化か西洋的近代化か
9. 自由民権運動と日清・日露戦争
10. 大正デモクラシーからアジア・太平洋戦争へ
11. 「戦後民主主義」とは
12. 明治維新後に作られた「国語」
13. 明治民法で作られた家制度
14. 国家神道とは何か
15. 「日本人」とは何か

### 【事前・事後学修】

事前学修 テキストと配布プリントを熟読し、関連する事項について調べておくこと。(学修時間 週2時間)

事後学修 授業時間内に興味を持ったことについて、さらに深めるような学修をすること。(学修時間 週2時間)

### 【テキスト・教材】

千本秀樹他著『「伝統・文化」のタネあかし』（アドバンテージ・サーバー）2007年、540円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回のリアクション・ペーパー（感想文）によって、教員との間でどの程度のコミュニケーションが成り立っているかという点を重視する。

毎回のリアクション・ペーパーの提出は必須とする。その内容評価を50%とし、最終週の課題文作成を50%とする。

リアクション・ペーパーについては、翌週配布してコメントし、最終週の課題文については、実施後に課題について講評する。

## 日本史 b

千本 秀樹

1年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

差別はこれまでの日本文化を特徴づける重要な要素である。この講義では、いわゆる「賤民」とされてきた人々の歴史と、差別に反対する運動の歴史をとりあげる。部落「間」差別は、過去の問題でも西日本だけに存在するものでもない。また差別されている人々にとってだけの問題ではなく、内閣同和対策審議会の答申のように、その差別の解消は「国の責務であり、国民的課題」である。差別する側、差別の存続を許している側の問題なのである。現在の差別の実態はどうか、芸能にたずさわったり、社会にとって不可欠な技術を持っている人々がなぜ差別されるようになったのかという歴史をふまえて、差別撤廃の展望をさぐる。

### 【授業における到達目標】

隠されている日本社会の現実を知り、それが自分と無関係でないことを自覚する。

日本社会の差別構造が、日本列島の文化史、日本人の精神史のうえに成り立っていることを理解する。

弱者、被差別者を憐れむのではなく、すべての他者と互いに尊敬しあえる関係をめざす生き方を追求できるようにする。

学生が修得すべき協働力のうち、互いを尊重・尊敬し信頼を醸成して豊かな人間関係と社会を構築する力を獲得する。

世界の様々な差別と比較して考えることによって、日本社会を相対化して把握する力を身につける。

### 【授業の内容】

1. 「誇りうる部落の歴史」
2. 就職差別の実像
3. 結婚差別の実像
4. 日本の資本制はなぜ差別を必要としたか。
5. 狭山事件
6. 「造花の判決」
7. 石川一雄さんのおいたち
8. 石川一雄さんはなぜ自白を維持したか
9. 読み書きができる、できないとはどういうことか
10. 古代国家と身分
11. 中世における技術と芸能
12. 近世身分制度
13. 賤民制廃止令
14. 全国水平社の創立
15. 差別行政と解放運動

### 【事前・事後学修】

事前学修 毎回配布するプリントを読んでおくこと。(学修時間 週2時間)

事後学修 授業内で興味を持ったテーマについて、さらに学修を深める。(学修時間 週2時間)

### 【テキスト・教材】

資料を印刷して配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回のリアクション・ペーパー（感想文）によって、教員との間でどの程度のコミュニケーションが成り立っているかを重視する。

毎回のリアクション・ペーパーの提出は必須とする。その内容評価を50%とし、学期末レポートを50%とする。

リアクション・ペーパーについては翌週コメントし、レポートについては最終週に課題について講評する。

### 【参考書】

『部落問題・人権事典』（解放出版社）

『部落問題論への招待』（解放出版社）

『同和教育への招待』（解放出版社）

そのほか、随時紹介する。

**日本事情**

日本語教育を取り囲むもの

八木 公子

2年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

日本語教育に関わる上で必要とされる事柄について学び、考えることを目標とする。

日本語教育の歴史と現状を社会との関係の中で見ていく。関連する言語政策、移民政策についても扱う。

多文化共生のために必要な事柄について学ぶ。

**【授業における到達目標】**

多様化が進む日本社会あるいは世界において、様々な人々と互いの価値を認め合い共生することの意味を学ぶ。

これからの日本社会のあり方に関心を持ち、一人ひとりが自分の考えを持つ。

グループで協働して課題に取り組むことを通し「協働力」を磨き、また授業全般を通して「国際的視野」を養う。

**【授業の内容】**

受講生は、いくつかのグループに分かれ、授業テーマに係る課題を分担し調べ発表する。発表後に質疑応答をする。

第1週 オリエンテーション

第2週 日本語教育の歴史と現状

レポーター担当決定

第3週 多文化社会日本の現状と移民政策

第4週 多文化社会日本の現状

ーレポーター発表① ブラジル人 保見団地の場合など

第5週 多文化社会日本の現状

ーレポーター発表② 農村の国際結婚 新潟の場合など

第6週 日本の言語政策

第7週 多文化共生社会とは

第8週 多文化共生への実践

ーレポーター発表③ 「とよた日本語支援システム」など

第9週 多文化共生への実践

ーレポーター発表④ 「やさしい日本語」など

第10週 年少者日本語教育の現状と問題

第11週 年少者日本語教育 実践例

第12週 異文化接触と異文化適応

第13週 異文化摩擦と異文化理解

第14週 異文化トレーニング

第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

授業後、配布資料と授業ノートを読み返し、復習しておくこと。

授業前には前回の授業の内容を再度確認してから授業に臨むこと。

レポーター発表の際は、授業外にグループメンバーで集まり十全の準備を進めること。

レポーター発表を聞いた後、発表内容についての小レポートを翌週提出することもある。

(以上全てを含め、事前・事後学修時間 各々週2時間程)

**【テキスト・教材】**

特に使用しない。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

提出物30%、レポーター発表30%、学期末試験30%、平常点（授業への取り組み）10%により、総合的に評価する。

試験については、授業最終回でフィードバックを行う。

**【参考書】**

授業中に指示する。

**【注意事項】**

積極的な姿勢で授業に参加することを望む。

**日本事情**

日本語教育を取り囲むもの

八木 公子

2年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

日本語教育に関わる上で必要とされる事柄について学び、考えることを目標とする。

日本語教育の歴史と現状を社会との関係の中で見ていく。関連する言語政策、移民政策についても扱う。

多文化共生のために必要な事柄について学ぶ。

**【授業における到達目標】**

多様化が進む日本社会あるいは世界において、様々な人々と互いの価値を認め合い共生することの意味を学ぶ。

これからの日本社会のあり方に関心を持ち、一人ひとりが自分の考えを持つ。

グループで協働して課題に取り組むことを通し「協働力」を磨き、また授業全般を通して「国際的視野」を養う。

**【授業の内容】**

受講生は、いくつかのグループに分かれ、授業テーマに係る課題を分担し調べ発表する。発表後に質疑応答をする。

第1週 オリエンテーション

第2週 日本語教育の歴史と現状

レポーター担当決定

第3週 多文化社会日本の現状と移民政策

第4週 多文化社会日本の現状

ーレポーター発表① ブラジル人 保見団地の場合など

第5週 多文化社会日本の現状

ーレポーター発表② 農村の国際結婚 新潟の場合など

第6週 日本の言語政策

第7週 多文化共生社会とは

第8週 多文化共生への実践

ーレポーター発表③ 「とよた日本語支援システム」など

第9週 多文化共生への実践

ーレポーター発表④ 「やさしい日本語」など

第10週 年少者日本語教育の現状と問題

第11週 年少者日本語教育 実践例

第12週 異文化接触と異文化適応

第13週 異文化摩擦と異文化理解

第14週 異文化トレーニング

第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

授業後、配布資料と授業ノートを読み返し、復習しておくこと。

授業前には前回の授業の内容を再度確認してから授業に臨むこと。

レポーター発表の際は、授業外にグループメンバーで集まり十全の準備を進めること。

レポーター発表を聞いた後、発表内容についての小レポートを翌週提出することもある。

(以上全てを含め、事前・事後学修時間 各々週2時間程)

**【テキスト・教材】**

特に使用しない。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

提出物30%、レポーター発表30%、学期末試験30%、平常点（授業への取り組み）10%により、総合的に評価する。

試験については、授業最終回でフィードバックを行う。

**【参考書】**

授業中に指示する。

**【注意事項】**

積極的な姿勢で授業に参加することを望む。

## 日本社会論

「今」の問題をつかまえる

飯野 智子

1・2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

1. 現代の日本社会を分析するための基本的な概念や知識について学び、主に社会学の観点から分析する。
2. 現代社会の様々な分野で今起こっていることを取り上げ、構造を理解する。
3. 流布する「常識」・俗説と実際の違いを明らかにし、日本社会について正しい認識を持つ。普段自分で疑問に思っていることを追求する。

### 【授業における到達目標】

自分たちの生きる日本社会についての正しい知識を得た上で、現状の問題を分析できるようにする。自分の身近なことが実は社会全体につながっているということを知り、常に社会全体を考える視点を持つ。日本社会の変化に敏感になり、多様性を受け入れ、より良い社会の建設のために自分に何ができるのか考える。このような学修を通して日本社会について学ぶことにより、「国際的視野」や深い洞察力を身につけ、人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度や、本質を見抜く「研鑽力」を修得する。

### 【授業の内容】

1. ガイダンスー日本社会論を学ぶ意味
2. 日本文化論、日本人論の系譜
3. 日本の政治ー民主主義とは何だろう？
4. 社会階層ー格差、差別、平等、公正とは何だろう？
5. 教育ー公教育の意義、現代の学校における諸問題
6. メディアとコミュニケーションーマスコミの機能
7. 犯罪ー日本の犯罪の現状
8. 宗教ー日本人の宗教観と新宗教
9. 日本のエスノシティー日本におけるマイノリティと多様化
10. 日本の環境問題ー公害から地球環境問題へ
11. 現代日本の恋愛・結婚事情
12. 現代日本の家族ー多様化する家族
13. 労働ーなぜ働き過ぎるのか
14. これからの日本社会
15. まとめ

### 【事前・事後学修】

- ・事前学修 2時間：次回の授業で扱う分野に関して新聞や雑誌で調べる。
- ・事後学修 2時間：授業で扱った内容に関して、さらに自分で詳しく調べる。

### 【テキスト・教材】

使用しない。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験90%。授業内容に関する質問、意見の提出10%（次回授業でフィードバックする。）

**日本美術史演習A**

美術史学の方法と実践

仲町 啓子

美術史学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

美術史研究に関する、より高度な専門的知識及びその研究方法を学ぶ。将来専門職に就いて、自立した研究者として活躍できるようになることを目指す。

**【授業における到達目標】**

高度な知識に基づく研究成果を論文としてまとめる

**【授業の内容】**

受講者の修士論文作成に関連した問題の中から、この演習で取り組む研究テーマを決め、研究計画を立てて、途中経過を順次発表する。発表後は教師や他の受講者の意見やコメントを踏まえて、引き続きテーマを展開してゆく。必要に応じて、作品の実地調査を行う。日程は受講者や先方研究機関等と相談の上決めるので、下記の順番は入れ替わることがある。作品調査の方法全般（所蔵者との交渉段階から、調書の取り方、撮影など）についても指導する。

- 第1週、イントロダクション（テーマ設定と授業計画の確認）
- 第2週、発表（1）研究テーマの決定・方法の確認
- 第3週、発表（2）これまでの成果と今後の方針を発表
- 第4週、発表（3）（2）を踏まえて、問題点の指摘と討論
- 第5週、作品調査—方法と実演（1）浮世絵
- 第6週、作品調査—方法と実演（2）近世絵画
- 第7週、美術史学会全国大会に参加
- 第8週、美術史学会全国大会にて、他大学の院生と交流
- 第9週、学会発表へのコメントと討論
- 第10週、史料操作（1）古文書の解説
- 第11週、史料操作（2）手紙の解説
- 第12週、発表（4）成果を報告、疑問点の提示
- 第13週、発表（5）論文の中間発表
- 第14週、展覧会の見学
- 第15週、作品の実地調査

**【事前・事後学修】**

【事前学修】学部の基礎演習で配布された資料を読み返す。研究計画をたて、文章化するとともに、研究の進展具合と問題点などをもその都度文章で書く。（週4時間）

【事後学修】発表後には、教師や他の院生のコメントや感想などを考慮しつつ、テーマを再考する（週4時間）

**【テキスト・教材】**

特になし

テーマごとに示す

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業時の発表と発言）80% レポート20%

授業時の発表と発言については、その都度フィードバックする。

**日本美術史演習B**

作品研究の方法と実践

仲町 啓子

美術史学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

美術史研究に関する、より高度な専門的知識及びその研究方法を学ぶ。将来専門職に就いて、自立した研究者として活躍できるようになることを目指す。

**【授業における到達目標】**

九度名知識に基づく研究成果を論文としてまとめる。

**【授業の内容】**

受講者は修士論文作成に関連した問題の中から、この演習で取り組むべき研究テーマを決める。日本美術史演習Aの受講を踏まえ、継続的かつ発展的なテーマを選ぶことが肝要である。研究計画を立てて、途中経過（成果）を順次発表する。発表後、教師や他の受講者の意見やコメント等を踏まえて、引き続きそのテーマを発展させる。必要に応じて作品の実地調査や他の研究機関での資料調査等を行う。日程は、受講者や先方研究機関との相談の上決める。そのため下記の順番は入れ替わることがある。

- 第1週、イントロダクション（研究計画と研究方法の確認）
- 第2週、発表（1）テーマと研究方法の確認
- 第3週、発表（2）これまでの成果を報告
- 第4週、発表（3）（2）を踏まえて、問題点を指摘、討論
- 第5週、作品調査の計画
- 第6週、作品の実地調査の準備（先方への連絡他）
- 第7週、作品の実地調査（1）浮世絵
- 第8週、作品の実地調査（2）近世絵画
- 第9週、京都方面への研究旅行（京博ほか）
- 第10週、京都方面への研究旅行（大和文華館ほか）
- 第11週、研修旅行の反省と問題点（討論）
- 第12週、発表（4）現在の問題点と今後の計画
- 第13週、発表（5）論文のまとめ方指導
- 第14週、展覧会の見学
- 第15週、まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】各自の研究計画をまとめる（週4時間）

【事後学修】発表後には、教師や他の院生のコメントや感想を考慮しつつ、テーマについて再考する（週4時間）

**【テキスト・教材】**

特になし

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート40%、平常点（授業への積極参加による発言・発表）60%  
授業時の発言・発表については、その都度フィードバックする。

**日本美術史演習 a**

—日本美術を読む・語る・考える—

仲町 啓子

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

絵画作品を言葉で説明し、その表現について語ることは必ずしも容易なことではない。「見えること」と「見ること」には大きな違いがある。授業では作品を見ながら分析し、そこに潜む多様なメッセージをどのようにしたら読み解けるかについて、具体的な作品に沿いながら考えて行く。

**【授業における到達目標】**

テーマを設定し、それに対して、適切な研究方法を考え、研究を遂行し、効果的なプレゼンテーションを行えるようにする。作品や資料を適切に分析して、それが生み出された社会を深く洞察し、かつその分析内容を他者に的確に伝える力を養う。

**【授業の内容】**

1. イントロダクション。  
各自、発表する作品を選ぶ。
2. 分析方法について、教師と相談して発表の方針を決める。
3. ワーポイントを作成し、発表の準備をする。
4. 研究発表 1 (Aグループ)
5. 研究発表 2 (Bグループ)
6. 研究発表 3 (Cグループ)
7. 研究発表 4 (Dグループ)
8. 研究発表 5 (Eグループ)
9. 研究発表 6 (Fグループ)
10. 研究発表 7 (Gグループ)
11. 研究発表 8 (Hグループ)
12. 研究発表 9 (Iグループ)

**【発表時の留意点】**

作品のディスクリプションを丁寧に行う  
適切な比較作品を選ぶ

13. 研究論文の講読 1
14. 研究論文の講読 2  
異なった研究方法の論文を読み進める。  
各自、担当箇所の内容を要約して発表する。  
関連事項を調べ、かつ自らの意見や感想等も加える。
15. 展覧会の見学。

**【事前・事後学修】**

**【事前学修】** 図書館の美術図版集や東京国立博物館・京都国立博物館のホームページ上で公開されている収蔵品を見て、研究してみたい作品を選ぶ。作品研究上の比較作品を教員と相談しつつ決定して、参考論文などを集める。(週2時間)

**【事後学修】** 授業時の教師や他の学生からのコメント・感想を吟味し、研究を発展させる。(週2時間)

**【テキスト・教材】**

各自のテーマごとに教師が指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

自ら問題点・疑問点を見つけるとともに、興味を抱いた問題についてはどんどん掘り下げて行く積極性を期待している。レポートは発表内容を発展させたものとする。なお、展覧会見学の後は、作品のディスクリプションや感想(ミニレポート)を提出してもらう。授業時の発表や発言が50点、学期末のレポートが40点。途中のミニレポートは10点。授業時の発表や発言及びレポート類はフィードバックする。

**【注意事項】**

授業時の発表・発言を重視する。

**日本美術史演習 b**

—日本美術を体験する・語る・研究する—

仲町 啓子

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

絵画作品を言葉で説明し、その表現について語ることは必ずしも容易なことではない。「見えること」と「見ること」には大きな違いがある。授業では作品を見ながら分析し、そこに潜む多様なメッセージをどのようにしたら読み解けるかについて、具体的な作品に沿いながら考えて行く。

**【授業における到達目標】**

実見した作品から問題を設定し、適切な研究方法によって、研究を遂行し、最後にわかりやすいプレゼンテーションを行う力を養う。日本の文化・美術を理解し、感受性を深める力を修得するとともに、作品や資料を適切に分析して、それが生み出された社会を深く洞察し、かつその分析内容を他者に的確に伝える力を養う。

**【授業の内容】**

1. イントロダクション。  
関西方面への研修旅行の日程・見学場所等を決定する。
2. 見学する場所・作品などを分担して調べる。
3. 研究調査内容の発表 1 (角屋の襖絵を中心に)  
パワーポイントで、作品の特徴を具体的に指摘すること
4. 研究調査内容の発表 2 (展覧会を中心に)
5. 研究調査内容の発表 3 (寺院の襖絵を中心に)
6. 研修旅行 (角屋ほか)
7. 研修旅行 (京都国立博物館ほか)
8. 研修旅行 (寺院の襖絵ほか)
9. 研修旅行 (大和文華館ほか)  
10月末から11月初めの時期を予定している。  
二泊三日の日程なので4回分の授業とする。  
展覧会や特別公開などの日程を見て決める。  
直に作品を見て、存在感、質感、スケールに触れる。  
実際に使用された場と作品の関係も、現場で確かめる。  
このような体験は美術史研究の出発点である。  
じっくり見ることを心がけて欲しい。
10. 実見に基づく調査内容の発表 1 (京博の展覧会)  
旅行後の感想や意見を話し合う。  
パワーポイントに整理して順次発表する。
11. 実見に基づく調査内容の発表 1 (京博の展覧会)
12. 実見に基づく調査内容の発表 2 (その他の展覧会)
13. 実見に基づく調査内容の発表 3 (寺院の襖絵など)
14. 実見に基づく調査内容の発表 4 (西本願寺ほか)
15. 展覧会の見学。

授業時間内の見学は困難ではあるが、受講者のみなさんの都合をできるかぎり考慮しながら日程を決める。

**【事前・事後学修】**

**【事前学修】** 京都・奈良・大阪の今秋の特別展、及び公開されている寺社(特別公開も含めて)を確認し、出品作について調べる。発表テーマを決め、発表の準備をする。(週2時間)

**【事後学修】** 発表後には、教員や他の学生からのコメントや感想を考慮しつつ、発表内容を再考してレポートにまとめる。(週2時間)

**【テキスト・教材】**

各自のテーマに合わせて、その都度、教員が指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業時の発表・発言を重視する。自ら問題点・疑問点を見つけるとともに、興味を抱いた問題についてはどんどん自分で掘り下げて行く積極性を期待している。授業時の発表が50点、研修旅行後のレポート10点、学期末のレポート40点。授業時の発表や発言及びレポート類はフィードバックする。

**【注意事項】**

研修旅行への欠席は原則として認めない。



## 日本美術史研究指導特殊演習A

独創的な研究論文の作成

仲町 啓子

美術史学専攻 前期 2単位

### 【授業のテーマ】

研究史を踏まえて適切な研究テーマを設定し、実証的な調査研究を重ね、オリジナリティの高い研究論文を完成させる。また将来、専門家として活躍できる能力を身につける。

### 【授業における到達目標】

研究成果を段階的に発展させ、博士論文にする。

### 【授業の内容】

原則として以下の順を追うが、作品調査等は先方の都合で変更することがある。

- 第1週、イントロダクション（テーマと研究計画の確認）
- 第2週、作品調査の計画を立て、手配の方法等の指導
- 第3週、作品調査に必要な情報の収集方法の指導
- 第4週、作品調査に関連した資料の教示
- 第5週、作品調査
- 第6週、作品調査資料の整理と反省
- 第7週、美術史学会全国大会に参加（3年目の院生は発表）
- 第8週、美術史学会全国大会にて、他大学の院生と交流
- 第9週、学会発表へのコメントと討論
- 第10週、これまでの研究成果の発表
- 第11週、前回のコメントを踏まえて発表内容を修正して発表
- 第12週、手紙等の原資料の読解
- 第13週、関連資料の読解
- 第14週、これまでの成果を発表
- 第15週、展覧会の見学

### 【事前・事後学修】

【事前学修】次週の学習内容を確認し、質問・意見・感想などの発言が出来るように準備する（週4時間）

【事後学修】授業の内容を踏まえて、自分の研究テーマを進展あるいは修正する。（週4時間）

### 【テキスト・教材】

授業時に指示する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業時の発表と発言80%、レポート20%

授業時の発表と発言に関しては、その都度フィードバックする。

レポートは返却時にフィードバックする。

### 【参考書】

授業時に指示する。

## 日本美術史研究指導特殊演習B

より高度な作品研究と資料分析方法の研究（2）

仲町 啓子

美術史学専攻 後期 2単位

### 【授業のテーマ】

より高度でオリジナルな美術史研究を目指すため、未紹介の実作品を調査し、的確なディスクリプションをもとに、その造形表現を分析し、作品が有する固有の歴史的な特性を洞察する力を磨く。また原典や一次資料の講読し分析する能力を養う。

### 【授業における到達目標】

未紹介の作品を調査し、多角的に検討することによって、オリジナルな作品解説を完成させる。

### 【授業の内容】

- 第1週、イントロダクション（授業方法と授業計画の確認）
- 第2週、作品研究（Aで扱った作品とは異なる調査作品を選定）
- 第3週、作品研究（実地調査）
- 第4週、作品研究（比較資料の収集とディスクリプション）
- 第5週、作品研究（参考文献の収集と研究史を調査）
- 第6週、作品研究（伝記の確認）
- 第7週、作品研究（より広範囲の比較資料の収集）
- 第8週、作品研究（落款・印章の比較検証）
- 第9週、作品研究（図版解説の完成）
- 第10週、文献研究（古文書の読み方）
- 第11週、文献研究（海外の文献の収集）
- 第12週、文献研究（賛や詞書の解説）
- 第13週、文献研究（手紙の解説）
- 第14週、文献研究（模写・縮図の解説）
- 第15週、まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】次回の予習を徹底する（週4時間）

【事後学修】学習内容を確認するとともに、改善策を考え、事前学修の内容を改善する（週4時間）

### 【テキスト・教材】

授業時に指示する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

事前学修40%、授業時での取り組み60%。

各授業では、発言・リアクションを求め、その都度フィードバックする。

### 【参考書】

その都度授業時に指示する。

**日本美術史特講 a**

伝記と造形の総合的な研究

仲町 啓子

2年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

尾形光琳・乾山研究

**【授業における到達目標】**

光琳・乾山が生み出した作品の造形的な特徴を理解するとともに、それが生み出された社会についての洞察力を養う。日本の文化・美術の特質を、広く世界史的視野に立って把握する力を養う。

**【授業の内容】**

光琳の作品と伝記について年代を追って講じる。

- 1、尾形家の家系と光琳初期の習作
- 2、公家社会と光琳初期の作品
- 3、法橋叙任と燕子花図屏風
- 4、江戸下りと多様な画風
- 5、晩年期の大作①
- 6、晩年期の大作②
- 7、工芸作品
- 8、乾山の生涯と作品①
- 9、乾山の生涯と作品②
- 10、乾山の絵画と江戸での弟子
- 11、光林模様・「成乙」印・深江芦舟・南画家たちの光琳観
- 12、渡辺始興
- 13、18世紀後半～19世紀初頭の江戸での光琳継承
- 14、展覧会の見学
- 15、総括

**【事前・事後学修】**

【事前学修】授業の進展に沿って下記の概説書を読む（週1時間）

仲町啓子監修『琳派の美術』東京美術

【事後学修】授業時に配布したプリントで授業内容を確認するとともに、授業時に示した参考文献を読む（週3時間）

**【テキスト・教材】**

授業時にプリントを配布する

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験（80%）、展覧会報告（15%）、授業時の態度（遅刻・無断欠席・私語などをしない、5%）

レポートと展覧会報告は、コメントを入れてフィードバックする。

**【参考書】**

授業時にテーマごとに指示する

**日本美術史特講 b**

中国からの影響と日本における展開

仲町 啓子

2年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

花鳥画の研究

**【授業における到達目標】**

日本の古代から江戸時代に至る花鳥画の代表的な作品の史的位置と特徴を理解する。作品や資料を適切に分析し、それが生み出された社会についての洞察力を養う。また、日本の文化・美術の特質を、広く世界史的視野に立って把握する力を養う。

**【授業の内容】**

日本の花鳥画の歴史的展開を講じる。

- 1、唐の花鳥画の請来
- 2、大和絵の花鳥画の誕生
- 3、宋の花鳥画の請来と展開
- 4、牧谿系花鳥画の請来と展開
- 5、南宋院体花鳥画の請来と展開
- 6、明の院体花鳥画の請来と展開
- 7、桃山時代の障屏画に描かれた花鳥画
- 8、草中画の請来と展開
- 9、明の花卉雑画卷の請来と展開
- 10、沈南蘋画の請来と展開
- 11、18世紀京都の花鳥画
- 12、惲寿平画の請来と展開
- 13、浮世絵の花鳥版画
- 14、展覧会の見学
- 15、総括

**【事前・事後学修】**

【事前学修】授業の進展に沿って下記の入門書を読む（週1時間）

辻惟雄監修『カラー版日本美術史』美術出版社

【事後学修】授業時に配布したプリントで授業内容を確認する授業時に示した参考文献を読む（週3時間）

**【テキスト・教材】**

授業時にプリントを配布する

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験（80%）、展覧会報告（15%）、授業時の態度（遅刻・無断欠席・私語などをしない、5%）

レポートと展覧会報告は、コメントを入れてフィードバックする。

**【参考書】**

授業時にテーマごとに指示する

**日本美術史特殊研究A**

より高度な作品研究と資料分析方法の研究

仲町 啓子

美術史学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

より高度でオリジナルな美術史研究を目指すため、実作品を調査し、的確なディスクリプションをもとに、その造形表現を分析し、作品が有する固有の歴史的な特性を洞察する力を磨く。また原典や一次資料の講読と分析の能力を養う。

**【授業における到達目標】**

未紹介の作品を調査し、多角的に検討することによって、オリジナルな作品解説を完成させる。

**【授業の内容】**

下記の順に進めるが、一部順番が入れ替わることもある。

- 第1週、イントロダクション（授業方法と授業計画の確認）
- 第2週、作品研究（調査計画の作成、交渉、調査方法の確認）
- 第3週、作品研究（実地調査）
- 第4週、作品研究（比較資料の収集とディスクリプション）
- 第5週、作品研究（参考文献の収集と研究史）
- 第6週、作品研究（伝記の確認）
- 第7週、作品研究（より広範囲の比較資料の収集）
- 第8週、作品研究（落款・印章の比較検証）
- 第9週、作品研究（図版解説の完成）
- 第10週、文献研究（賛などの画中記載の解説）
- 第11週、文献研究（関係文書の解説）
- 第12週、文献研究（手紙の解説）
- 第13週、文献研究（画史の講読）
- 第14週、文献研究（画論の講読）
- 第15週、まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】調査作品を決定し、次回の学習内容を確認し、十全に予習する（週4時間）

【事後学修】学習内容を確認するとともに、反省点をまとめ、改善策を考える（週4時間）

**【テキスト・教材】**

授業時に指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

事前事後学修50%、授業時での考察内容50%。

各授業では、発言・リアクションをもとめ、その都度フィードバックする。

**日本美術史特殊研究B**

より高度な作品研究と資料分析方法の研究（2）

仲町 啓子

美術史学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

より高度でオリジナルな美術史研究を目指すため、未紹介の実作品を調査し、的確なディスクリプションをもとに、その造形表現を分析し、作品が有する固有の歴史的な特性を洞察する力を磨く。また原典や一次資料の講読し分析する能力を養う。

**【授業における到達目標】**

未紹介の作品を調査し、多角的に検討することによって、オリジナルな作品解説を完成させる。

**【授業の内容】**

- 第1週、イントロダクション（授業方法と授業計画の確認）
- 第2週、作品研究（Aで扱った作品とは異なる調査作品を選定）
- 第3週、作品研究（実地調査）
- 第4週、作品研究（比較資料の収集とディスクリプション）
- 第5週、作品研究（参考文献の収集と研究史を調査）
- 第6週、作品研究（伝記の確認）
- 第7週、作品研究（より広範囲の比較資料の収集）
- 第8週、作品研究（落款・印章の比較検証）
- 第9週、作品研究（図版解説の完成）
- 第10週、文献研究（古文書の読み方）
- 第11週、文献研究（海外の文献の収集）
- 第12週、文献研究（賛や詞書の解説）
- 第13週、文献研究（手紙の解説）
- 第14週、文献研究（模写・縮図の解説）
- 第15週、まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】次回の予習を徹底する（週4時間）

【事後学修】学習内容を確認するとともに、改善策を考え、事前学修の内容を改善する（週4時間）

**【テキスト・教材】**

授業時に指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

事前学修40%、授業時での取り組み60%。

各授業では、発言・リアクションを求め、その都度フィードバックする。

**【参考書】**

その都度授業時に指示する。

**日本美術史特論A**

江戸時代の画家研究

仲町 啓子

美術史学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

画家研究の問題点と可能性を多角的に考察する。作品研究の方法や文献資料の解読法を、具体的な例に則して検討するとともに、歴史的存在としての画家のあり方についての洞察を深める。

**【授業における到達目標】**

江戸時代の美術や文化について深く理解し、作品や資料を適切に分析する能力を養うとともに、それを適切に言葉や文章によって伝える力を身につける。

**【授業の内容】**

江戸時代の女性画家について、下記のテーマごとに、講義と討論を行う。

- 第1週、イントロダクション（授業方法と授業計画の確認）
- 第2週、円山応挙研究（1）
- 第3週、円山応挙研究（2）
- 第4週、円山応挙研究（3）
- 第5週、円山応挙研究（4）
- 第6週、酒井抱一研究（1）
- 第7週、酒井抱一研究（2）
- 第8週、酒井抱一研究（3）
- 第9週、酒井抱一研究（4）
- 第10週、葛飾北斎研究（1）
- 第11週、葛飾北斎研究（2）
- 第12週、葛飾北斎研究（3）
- 第13週、葛飾北斎研究（4）
- 第14週、展覧会見学
- 第15週、まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】各画家についての参考文献を集め、代表作についての研究史を把握する。（週2時間）

【事後学修】作品と資料を再検討し、授業内容を確実なものとするとともに、問題点を再検討して掘り下げる。（週3時間）

**【テキスト・教材】**

授業時に示す。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート60%、平常点（授業中での発言と発表）40%

授業時の発言と発表はその都度、レポートは返却時にフィードバックする

**【参考書】**

授業時に指示する。

**日本美術史特論B**

江戸時代の画家研究

仲町 啓子

美術史学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

画家研究の問題点と可能性を多角的に検討する。作品研究の方法や文献資料の解読法を、具体的な例に則して検討し、歴史的存在としての画家のあり方についての洞察を深める。

**【授業における到達目標】**

江戸時代の美術や文化について深く理解し、作品や資料を適切に分析する能力を養うとともに、それを的確な言葉や文章によって伝える力を身につける。

**【授業の内容】**

画家研究は、下記のテーマごとに講義、院生による発表、及び討論を行う。なお展覧会の見学は、順番が入れ替わることがある。

- 第1週、イントロダクション（授業方法と授業計画を確認）
- 第2週、円山四条派の画家研究（1）
- 第3週、円山四条派の画家研究（2）
- 第4週、円山四条派の画家研究（3）
- 第5週、円山四条派の画家研究（4）
- 第6週、江戸琳派の画家研究（1）
- 第7週、江戸琳派の画家研究（2）
- 第8週、江戸琳派の画家研究（3）
- 第9週、江戸琳派の画家研究（4）
- 第10週、葛飾派の画家研究（1）
- 第11週、葛飾派の画家研究（2）
- 第12週、葛飾派の画家研究（3）
- 第13週、葛飾派の画家研究（4）
- 第14週、展覧会の見学
- 第15週、まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】各画派に関する概説書を読むと同時に、参考文献を集める。（週3時間）

【事後学修】比較資料を集め、授業の内容を確実なものとするとともに、作品研究をより深める。（週3時間）

**【テキスト・教材】**

特になし

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート60%、平常点（授業への積極参加・発表・発言）40%

授業時の発表や発言はその都度、レポートは返却時にフィードバックする。

**【参考書】**

授業時に指示する。

**日本美術史入門 a**

—日本の美術に親しむ—

仲町 啓子

1年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

代表的な作品を中心に、古代から室町時代半ば頃までの日本美術の歴史を概観する。作品名・制作者名・制作年代などの基礎的な知識を習得するとともに、作品の表現内容を考える。また、作品の魅力を味わい、鑑賞する楽しさを体験する。文化史・社会史背景も踏まえながら、ひとつの作品が歴史的にどのような意味を有しているか、あるいは有してきたかについて考える。

**【授業における到達目標】**

室町時代末までの日本美術史の流れを理解し、各時代の美術の特徴を把握する。代表的な作品の画像を見て、作品名（ある場合は制作者名）を漢字で書けるようになる。重要事項について簡単に説明ができるようになる。学生が修得すべき「美の探求」のうち、日本の文化・美術への理解を深め、感受性を深める力を修得します。

**【授業の内容】**

下記のような順に行う。

1. 日本文化の黎明と仏教東漸
2. 東アジア文化圏のなかの日本美術
3. 平安時代の仏画
4. 平安時代の唐絵と大和絵・絵巻Ⅰ（源氏物語絵巻など）
5. 平安時代の絵巻Ⅱ（鳥獣戯画など）
6. 平安時代の書・料紙装飾・工芸・鎌倉時代の仏画
7. 鎌倉時代の神道美術・大和絵・絵巻
8. 鎌倉時代後半から南北朝の美術—新たな唐絵・大和絵の変化
9. 室町時代の大和絵Ⅰ—宮廷絵所・絵巻・屏風絵の変化
10. 室町時代の大和絵Ⅱ—金屏風
11. 室町時代の唐物の輸入と鑑賞・将軍周辺の文化と造形
12. 室町時代後半の美術Ⅰ—狩野派の登場
13. 室町時代後半の美術Ⅱ—中央（京都）と地方（小京都）
14. 展覧会見学
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】辻惟雄・泉武夫編『日本美術史ハンドブック』（新書館2009年）のpp. 12-94を授業の流れに沿って関係箇所を読む。（週1時間）

【事後学修】manaba上に公開している画像及びプリントを見て、授業内容を確認するとともに、関連作品を図版集などで確認する。（週3時間）

**【テキスト・教材】**

授業時に基本的な作者名・作品名・用語等を書いたプリントを配布する。そのうち、特に重要な項目には\*マークがついているので、最低限それらに関しては正確な漢字で書けるようにすること。テキストは特に指定しないので、配布されたプリントをもとに、授業時の説明を各自ノートに書き留める必要がある。授業はすべてデジタル画像を使って行われる。また、\*マークがついた重要作品の画像は、Web上で公開しているので（パスワードは授業時に配布）、家のパソコン等からもアクセスすることができる。上記のプリントとデジタル画像が、実質上の教科書となる。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

学期末の試験（90%）、授業への取り組み（10%）（私語・遅刻・居眠りなどなく、授業に取り組めたかどうか）

試験結果は、最終回の授業でフィードバックする。

**【参考書】**

『日本美術館』（小学館 1997年）

**日本美術史入門 b**

—日本の美術に親しむ—

仲町 啓子

1年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

絵画史を中心に室町時代末より江戸時代終りまでの日本美術の歴史を概観する。代表的な作品を取り上げ、作品名・制作者名・制作年代などの基礎的な知識を習得するとともに、作品の表現内容を考える。また、作品の魅力を味わい、鑑賞する楽しさを体験する。文化史・社会史背景も踏まえながら、ひとつの作品が歴史的にどのような意味を有しているか、あるいは有してきたかについて考える。なお、工芸作品（特にその意匠）も適宜取り上げる。

**【授業における到達目標】**

室町時代末より江戸時代末に至る日本美術史の流れを理解し、その特色を理解する。同時代の代表的作品の題名と制作者名を漢字で書けるようになる。重要事項について簡単に説明ができるようになる。学生が修得すべき「美の探求」のうち、日本の文化・美術への理解を深め、感受性を深める力を修得する。

**【授業の内容】**

下記のような順に行う。

1. 桃山時代の美術Ⅰ—城と襖絵
2. 桃山時代の美術Ⅱ—長谷川等伯・海北友松ほか
3. 桃山時代の美術Ⅲ—風俗画の隆盛
4. 桃山から江戸時代の工芸
5. 桃山から江戸初期の美術Ⅰ—俵屋宗達と江戸初期京都の文化
6. 桃山から江戸初期の美術Ⅱ—狩野探幽・岩佐又兵衛など
7. 桃山から江戸初期の美術Ⅲ—風俗画の変容と浮世絵の誕生
8. 江戸時代の美術Ⅰ—明清文化と南画の隆盛（池大雅ほか）
9. 江戸時代の美術Ⅱ—18世紀京都のユニークな絵師たち（伊藤若沖・曾我蕭白・与謝蕪村ほか）
10. 江戸時代の美術Ⅲ—18世紀京都・江戸の多彩な絵師たち（円山応挙・小田野直武・司馬江漢ほか）
11. 江戸時代の美術Ⅳ—浮世絵の盛期（錦絵の展開）（春信・春章・清長・歌麿・写楽）
12. 江戸時代の美術Ⅴ—19世紀前半の絵師たち—江戸と上方（渡辺崋山・浦上玉堂・田能村竹田ほか）
13. 江戸時代の美術Ⅵ—幕末期の琳派と浮世絵（酒井抱一・北斎・広重・国芳など）
14. 展覧会見学
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】辻惟雄・泉武夫編『日本美術史ハンドブック』（新書館2009年）のpp. 96-141を、授業の進展に沿って読む。（週1時間）

【事後学修】WEB上に公開している画像及びプリントで、授業内容を確認するとともに、関連図版などを探して、授業内容をより深める。（週3時間）

**【テキスト・教材】**

授業時に基本的な作者名・作品名・用語等を書いたプリントを配布する。そのうち、特に重要な項目には\*マークがついているので、最低限それらに関しては正確な漢字で書けるようにすること。テキストは特に指定しないので、配布されたプリントをもとに、授業時の説明を各自ノートに書き留める必要がある。授業はすべてデジタル画像を使って行なう。\*マークがついた重要作品の画像は、Web上でも公開しているので（パスワードは授業時に配布する）、家のパソコン等からもアクセスすることができる。上記のプリントとデジタル画像が、実質上の教科書となる。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

学期末の試験（90%）、授業態度（10%）遅刻・無断欠席・私語をしない。最終回の授業で、試験内容をフィードバックする。

**【参考書】**

『日本美術館』（小学館 1997年）

## 日本文化事情 a

政井 美穂

1年 前期 2単位

## 【授業のテーマ】

この授業では、日本の文化や社会に関する文章を読みます。文章を読んで、日本の文化や社会について学び、日本への理解を深めます。また、文章を読むために必要な言葉や表現を勉強します。

## 【授業における到達目標】

この授業の目標は、日本の文化や社会に関する文章を読み、日本に関する様々な知識をつけることです。

日本のことをよく知ることによって、多様性を受容し、多角的な視点を持って世界に臨む態度を養います。

## 【授業の内容】

第 1週 印象に残る自己紹介を考えよう！

日本の食①

第 2週 日本の食②

第 3週 旅行とお土産

第 4週 贈答の習慣

第 5週 結婚

第 6週 子育て

第 7週 日本の地理

第 8週 日本の家

第 9週 日本の学校

第10週 人間関係

第11週 映画

第12週 アニメとマンガ

第13週 年中行事

第14週 日本の歴史

第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学習】次回の授業で読む文章を読んでおく。分からない言葉の意味を調べておく。(学修時間 2時間)

【事後学習】新しく学んだ言葉や表現を復習する。自国と比べて意見をまとめる。(学修時間 2時間)

## 【テキスト・教材】

プリントを配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み(70%)、レポート(30%)で総合的に評価します。レポートへのフィードバックは、返却時に行いません。

## 日本文化事情 b

政井 美穂

1年 後期 2単位

## 【授業のテーマ】

この授業では、日本の文化や社会に関する文章を読みます。文章を読んで、日本の文化や社会について学び、日本への理解を深めます。また、文章を読むために必要な言葉や表現を勉強します。

## 【授業における到達目標】

この授業の目標は、日本の文化や社会に関する文章を読み、日本に関する様々な知識をつけることです。

日本のことをよく知ることによって、多様性を受容し、多角的な視点を持って世界に臨む態度を養います。

## 【授業の内容】

第 1週 日本人の県民性

第 2週 関東と関西

第 3週 落語

第 4週 歌舞伎

第 5週 出版技術の進歩と本

第 6週 電子書籍

第 7週 雑誌の廃刊とスマートフォン

第 8週 流行ファッション

第 9週 コンピュータとタッチパネル

第10週 IT断食

第11週 日本の金融・経済

第12週 日本の政治

第13週 社会問題

第14週 少子高齢化社会

第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】次回の授業で読む文章を読んでおく。分からない言葉は意味を調べておく。(学修時間 2時間)

【事後学修】新しく学んだ言葉や表現を復習する。自国と比べて、意見をまとめる。(学修時間 2時間)

## 【テキスト・教材】

プリントを配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み(70%)、レポート(30%)で総合的に評価します。

レポートへのフィードバックは、返却時に行いません。

## 日本文学の歴史 a 古代

佐藤 辰雄

1・2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

## 【授業のテーマ】

古い時代の作品ほど創作の動機は公的な意味合いが強く、その影響は作品の構想や文学性ばかりかジャンルの問題にまで及びます。私的で娯楽的に見える作品群にあっても事情は同様で、本講ではこの点を基軸に据えて諸作品の意義とありようを考えていきます。

授業では、文学の黎明から奈良時代までを取り上げます。

## 【授業における到達目標】

日本の古典文学を学んで知見を深めるとともに、世界に発信する能力と態度を修得することができます（国際的視野）。

現象の背後に潜む本質を究明する学修を通して、日本文学の価値と美意識を知ることができます（美の探求）。

## 【授業の内容】

1. 授業の説明
2. 文学の発生と呪術文学
3. 神話と伝説 (1) 総説
4. 神話と伝説 (2) 各説
5. 『古事記』 (1) 総説
6. 『古事記』 (2) 各説
7. 『日本書紀』
8. 『風土記』
9. 氏族伝承『高橋氏文』
10. 氏族伝承『古語拾遺』
11. 『日本霊異記』 (1) 総説
12. 『日本霊異記』 (2) 各説
13. 『万葉集』 (1) 総説
14. 『万葉集』 (2) 各説
15. まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】教科書を熟読して、登場人物や当時の通念と慣習を調べておきましょう。（週2時間）

【事後学修】授業内容をよく整理し、要点を指定用紙に記入して、翌週提出します。（週2時間）

## 【テキスト・教材】

『上代文学史ノート』（600円）

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内容をまとめた提出物90%と、授業への取組み姿勢10%。

提出物の内容は、各回とも授業の要点理解の確認（65字前後のまとめを二つ。最大4点）と、意見や感想（最大2点）の二項目。

翌週にその成果をフィードバックします。

## 【参考書】

『日本文学の歴史』（角川書店）、『岩波講座日本文学史』（岩波書店）

## 【注意事項】

私語は許さない。“しゃべらないといられない症候群”の人は受講を遠慮されたい。飲食物の持込不可。

コツコツ努力する学生ならさほど苦にならないでしょうが、浮ついた性格、集中力や持続力・勉強意欲に難のある学生には相当きついでしょう。授業中は静かなので、受講するならそれなりの覚悟を持ちましょう。

## 日本文学の歴史 b 中近世

中世文学

佐藤 辰雄

1・2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

## 【授業のテーマ】

中世文学の流れをジャンル交代の視点から考えます。ジャンルの交代は流行の推移でもあります。何が、どの点が、どうして、誰に求められ飽きられたのか、を作品に具体的に即して究明して行きます。なお、対象は中世散文に限って講じます。

## 【授業における到達目標】

日本の古典文学を学んで知見を深めるとともに、世界に発信する能力と態度を修得することができます（国際的視野）。

現象の背後に潜む本質を究明する学修を通して、日本の文学の価値と美意識を知ることができます（美の探求）。

## 【授業の内容】

1. 授業の説明
2. 『方丈記』 (1) 総説
3. 『方丈記』 (2) 各説
4. 『徒然草』 (1) 総説
5. 『徒然草』 (2) 各説
6. 『保元物語』『平治物語』
7. 『平家物語』 (1) 総説
8. 『平家物語』 (2) 各説
9. 『太平記』『曾我物語』『義経記』
10. 説話文学 『宇治拾遺物語』『十訓抄』『古今著聞集』
11. 歴史物語 『水鏡』『増鏡』
12. 史論 『愚管抄』『神皇正統記』
13. 擬古物語総説
14. 『松浦宮物語』 (1) 総説
15. 『松浦宮物語』 (2) 各説

## 【事前・事後学修】

【事前学修】教科書を熟読して、講義内容に関わる文学・歴史の概略を調べておきましょう。（週2時間）

【事後学修】授業内容をよく整理した上で、要点を指定用紙に記入し、翌週提出します。（週2時間）

## 【テキスト・教材】

『中世文学史ノート』（500円）

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回の提出物90%と、授業への取組み姿勢10%。

提出物の内容は、各回とも授業の要点理解の確認（65字前後のまとめを二つ。最大4点）と、意見や感想（最大2点）の二項目。

翌週にその成果をフィードバックします。

## 【参考書】

『日本文学の歴史』（角川書店）、『岩波講座日本文学史』（岩波書店）

## 【注意事項】

私語は許さない。“しゃべらないといられない症候群”の人は受講を遠慮されたい。飲食物の持込不可。

コツコツ努力する学生ならさほど苦にならないでしょうが、集中力や持続力・勉強意欲に難のある学生にとっては相当きついでしょう。授業中は静かなので、受講するならそれなりの覚悟を持ちましょう。

**日本文学の歴史 c 近代**

明治大正の文学

官木 孝子

1・2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

**【授業のテーマ】**

近代日本の誕生とともに、近代化の必要として文学は生まれます。そのため、西欧の文学基準が日本に移入され、常に近代以前の日本文の継承と否定という矛盾に満ちた展開があります。しかし、今、私たちが親しむ小説も、この歴史の中でれた形態です。何より、日常使っている文章表現（口語文体）が一般化されるのもこの文学の歴史の中で行われます。この授業では、こうした文学の歴史をそれぞれの思想的特徴と代表作品の紹介を通じて解説します。

**【授業における到達目標】**

近代文学は社会の歴史的状況と密接な繋がりがあります。近代の歴史の側面を文学を通して知ることで「国際的視野」に必要な歴史観の必要を感じる。また、各小説の背景にある文芸思潮は国内外の芸術からの影響があり、文体を通して「美的探求」の具体的な成果を知ることになります。何より、作品や作家を知ることで、自身にも必要な「研鑽力」を意識してもらうことに目標をおいています。

**【授業の内容】**

1. 日本文学と近代
2. 写実主義の文学 理論と実際
3. 写実主義の文学 小説の文体
4. 擬古典主義の時代
5. 擬古典主義の展開
6. ロマン主義の誕生と展開
7. 前期自然主義 ゾラの移入と受容
8. 自然主義文学1 理論と実際
9. 自然主義文学2 私小説・心境小説
10. 耽美主義 「スバル」「三田文学」を中心に
  11. 理知派と「奇跡」の人々
  12. 「種蒔く人」・プロレタリア文学
  13. 新感覚派の登場
  14. 森鴎外の作品とその影響
  15. 夏目漱石の作品とその影響

**【事前・事後学修】**

事前学修：その時代の作品（短編）を読む。 2～3時間

事後学修：テキスト、プリントを参照し、授業内でとったノートを整理する。 2時間

**【テキスト・教材】**

岡保生 大久保典夫共著『現代日本文学史』（おうふう）平成9年12月重版刊行 1500円＋税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験レポート80%。平常点コメントシート・授業内提出物20%。フィードバックはコメントシートにある質問に回答する方法で行う。

**【参考書】**

- ・図書館にある『現代日本文学全集』（各社）、角川書店『日本近代文学大系』や、文庫本で、作品を読んでみる。
- ・川西政明著『新・日本文壇史』岩波書店（図書館に有り）でより詳しく知る。
- ・岩波書店『岩波文化総合年表』政治・教育・文化・文学を広く知ることが出来る。

**【注意事項】**

文学史はノート作成をしておく、レポート作成の時、役立ちます。授業中の質問歓迎します。私語は厳禁。

**日本文学の歴史 d 現代**

昭和の文学

官木 孝子

1・2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

**【授業のテーマ】**

関東大震災以降、日本は軍国主義が台頭し、ついに昭和に入ると第二次世界大戦へ突入し、そして敗戦という歴史的転換を日本は迫られます。

この授業では、そうした激動の時代における、文学の様々な形をそれぞれの文学的思潮と作品の特徴を通して学びます。「モダニズム」「大衆文化」「メディアの発達と文壇」「思想統制」などの文学作品を生む状況の変化にも言及します。文学には何が書き込まれたのか、を知って下さい。

**【授業における到達目標】**

日本文学の歴史的展開を知ることで、「国際的視野」を形成する助けとなります。また、海外文学や文学理論、芸術表現からの影響の多い時期なので「美的探求」の意識をそれぞれの作品から読み取ることによって学び、その結果として、自己の「研鑽力」の必要性に気づくことを目標とします。

**【授業の内容】**

1. 関東大震災前後の文学
2. 昭和10年代の小説
3. モダニズム芸術と文学
4. 昭和10年代の評論
5. 転向文学・大衆小説
6. 大衆文化とメディアの変化
7. 国策文学・戦時下の文学状況
8. 戦争小説・無頼派など
9. 女流文学の戦前と戦中
10. 女流文学の戦後
11. 戦後派・第二の新人
12. 第三の新人 「戦後は終わった」
13. 戦後の評論
14. 昭和50年代の文学状況 芥川賞を中心に
15. 昭和60年代の文学状況 純文学とは

**【事前・事後学修】**

事前学修：授業で取り上げた作家の小説（短編）を読む。 2～3時間

事後学修：授業内のノートと配布プリントを参照しながら、ノートを整理する。 2時間

**【テキスト・教材】**

岡保生 大久保典夫共著『現代日本文学史』（おうふう）平成9年12月重版 1500円＋税

\*前期の「日本文学の歴史c近代」と同じ。

授業内配布プリントも有り。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験レポート80%。平常点コメントシート・授業内提出物20%。フィードバックは毎回提出するコメントシートにある質問に回答する方法で行う。

**【参考書】**

- ・図書館にある各社『現代文学全集』、川西政明著『新・日本文壇史』岩波書店で、より詳しく知る。
- ・時代の概況を知る：岩波書店『岩波文化総合年表』（図書館）

**【注意事項】**

自作ノートをとることは、レポート提出時に役立ちますし、記憶の定着にも効果があります。文学の知識を教養として身につけたい方は実践して下さい。質問は大歓迎ですが、私語は厳禁です。



**日本文学特別研究A**

近代文学、詩をよむ

棚田 輝嘉

国文学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

いわゆる「文学者」の詩、だけでなく、広く「詩的」なるものについて、収集し、分析研究する。

**【授業における到達目標】**

詩とは何かという根本的な問題について検討し、理解を深めると共に、より深い技能と知識を獲得する。

DPの「学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることが出来る。」に対応しています。

**【授業の内容】**

- 第1週 本研究の進め方と手順
- 第2週 詩とは何か
- 第3週 詞とは何か
- 第4週 散文・韻文という区分けとジャンル意識
- 第5週 教科書的な詩1 小学校教科書
- 第6週 教科書的な詩2 中学校教科書
- 第7週 教科書的な詩3 高等学校
- 第8週 歌詞1 演歌 70年代まで
- 第9週 歌詞2 演歌 現在まで
- 第10週 歌詞3 歌謡曲 50～60年代
- 第11週 歌詞4 歌謡曲 70～80年代
- 第12週 歌詞5 歌謡曲 90～0年代
- 第13週 歌詞6 歌謡曲 ～現在
- 第14週 歌詞という詩、普遍性と流行り廃り
- 第15週 詩の本質について

**【事前・事後学修】**

【事前学修】週2時間。予め草稿本文の翻刻作業を行っておくこと。

【事後学修】週2時間。講義で行った作業を再整理すること。

**【テキスト・教材】**

こちらで用意する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への取り組み 課題・質疑など）80%

提出物 20%

毎時間、行った作業内容を確認し、コメント等のフィードバックを行う。

**【参考書】**

適宜指示する。

**【注意事項】**

積極的に参加すること。

**日本文学特別研究B**

近代文学、詩を読む

棚田 輝嘉

国文学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

詩作品、さらにその周辺に位置するとされる、詩的な営為について検討し、その意義、問題点などについて考察する。

**【授業における到達目標】**

詩について、理解を深めると共に、より深い技能と知識を獲得する。

DPの「学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることが出来る。」に対応しています。

**【授業の内容】**

- 第1週 授業の進め方と手順
- 第2週 歌詞の可能性・韻文の意味
- 第3週 フォークソング
- 第4週 アイドル歌謡1 70～90年代
- 第5週 アイドル歌謡2 0～現在
- 第6週 J-pop1 80～90年代
- 第7週 J-pop2 0～現在
- 第8週 ロック的なもの1 アメリカロックの歴史
- 第9週 ロック的なもの2 アメリカロックの歌詞
- 第10週 ロック的なもの3 日本での受容
- 第11週 ロック的なもの4 GS
- 第12週 ロック的なもの5 80年代まで
- 第13週 ロック的なもの6 インディーズロック
- 第14週 様々な詩表現
- 第15週 詩を読むということ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】週2時間。予め与えられた課題を行っておくこと。

【事後学修】週2時間。講義で検討した内容を再整理すること。

**【テキスト・教材】**

こちらで用意する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への取り組み 課題・質疑など）80%

提出物 20%

毎時間、行った作業内容を確認し、コメント等のフィードバックを行う。

**【参考書】**

適宜指示する。

**【注意事項】**

積極的に参加すること。

## 日本料理実習

武田 裕

3年 前期 1単位 3時限連続 隔週

◎：行動力 ○：美の探究、協働力

## 【授業のテーマ】

日本料理の基本的な知識、調理法と技術を習得する。食文化についても考慮しながら、日本料理の特色を生かした献立作成ができる実践力を養い、日常食への応用意欲を高めたい。

## 【授業における到達目標】

学生が修得すべき「協働力」を育成し、専門的技術としての修得すべき「学術的な力」となる技能を修得する。

## 【授業の内容】

おいしい料理を合理的に作る為に食品学、栄養学、基礎調理で学んだことを生かしながら、下記の項目を日本料理の献立様式によって講義（デモンストレーション）後、グループ実習する。

1. 食品の選び方と下処理、用途別の切り方、調理法
2. 各調理法と主な献立名
  - 第1回目…だし汁の取り方、揚げ物（松花堂弁当）  
（菜種和え、ふきのとう甘辛煮、豚ヒレ肉磯巻き、さくらご飯、けんちん汁）
  - 第2回目…炊飯、筍・青菜の扱い方、煮物、和え物  
（さわ煮碗、鶏丸取り、たけのこ土佐煮、春野菜のごまひたし、青豆ご飯）
  - 第3回目…魚の調理  
（鯛そぼろ碗、鯖の味噌煮、茄子のごまネーズかけ、うど・みつば・椎茸・若布・吉野酢、菜飯）
  - 第4回目…魚・味噌の調理、蒸し物、焼き物（茶懐石）  
（長芋とまぐろのわさび正油、鮭の素焼き、あゆみちん粉揚げ、枝豆の塩ゆで、えびしんじょう、生姜ご飯、合わせ味噌汁）
  - 第5回目…寿司のいろいろ  
（魚の風味包み焼、鶏肉の揚げ煮、南禅寺蒸し、太巻きずし、あじの棒寿司、いなり寿司）
  - 第6回目…魚の煮方、麺  
（胡麻豆腐、五目卵焼、冷やし素麺、くずきり）
  - 第7回目…まとめ1
  - 第8回目…まとめ2 1クラス135分 A・Bクラス連続
3. 食卓法
4. 食器の選び方、扱い方
5. 食事作法
6. 日本料理の特徴

## 【事前・事後学修】

【事前学修】manabaに掲載された資料をよく読んで、実習内容を把握しておいてください。（学修時間 週1時間）

【事後学修】レポート形式を配布しますので、それに従って実習レポートを作成してください。（学修時間 週1時間）

## 【テキスト・教材】

プリント使用。

各自の包丁を使用する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

実習への取り組み（20%）（授業時にフィードバックする）

記録ノート（40%）（次回授業後にフィードバックする）

定期試験（40%）（実施時に評価する）

3項目での総合評価。

## 【参考書】

調理学全般

## 【注意事項】

専用の白衣着用、髪を束ね、白調理帽で覆う。上履き使用、爪を短く切り、マニキュアをとる等、各自で清潔と安全に十分留意する。

なお、上記の献立は変更の可能性がある。

## 乳児保育

乳児の発達、乳児保育の方法と内容

山下 晶子

3年 通年 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

## 【参考書】

保育所保育指針

幼保連携型認定こども園教育・保育要領

適宜紹介します。

## 【注意事項】

授業では、グループ討議を多く設定する。互いを尊重する活発な意見交流を通して、プレゼン能力とともに、物事を広く深くとらえる力を養う機会としたい。

## 【授業のテーマ】

乳児期は、人間として生きていく力の基礎を築く時代である。

授業では、①乳児期の発育や発達とその援助 ②「人・物・こと」とのかかわりが支えるこの時期のまなび ③保護者や家庭、地域の子育てを多面的・構造的にとらえた支援 について学ぶ。

乳児保育は、家族や労働、社会のありようと深くつながり、発展してきた。近年、乳児～3歳未満児の保育への社会的な期待が高まり、一層の充実と向上が求められる。保育の歩みと実践研究の成果に学び、専門的力量的構築をめざす。

## 【授業における到達目標】

- ①乳児の発育および発達と援助やかかわり方がわかる。
  - ②子育てや保護者の状況が理解でき、支援のあり方がわかる。
  - ③事例を検討し、広い視野と深い洞察力を身につける。
  - ④グループワークに主体的に参加し、協働して課題設定や問題解決を図ることができる。
- ※③④は、学生が修得すべき「能力」としての「研鑽力」「行動力」「協働力」の達成を指す。

## 【授業の内容】

### 【前期】

第1週 授業概要	第16週 保育の質
第2週 0歳前半の発達	第17週 育てにくい子と子育て
第3週 0歳前半の保育	第18週 要支援の子どもと保育
第4週 0歳後半の発達	第19週 保護者支援
第5週 0歳後半の保育	第20週 支援の連携・協働
第6週 1歳前半の発達	第21週 親としての発達
第7週 1歳前半の保育	第22週 虐待の防止・対応
第8週 1歳後半の発達	第23週 子育て支援（講師予定）
第9週 1歳後半の保育	第24週 保育制度
第10週 2歳児の発達	第25週 保育課程・指導計画
第11週 2歳児の保育	第26週 0歳指導計画
第12週 乳児保育の現状と課題 (特別講師予定)	第27週 1歳指導計画
第13週 事例研究	第28週 2歳指導計画
第14週 乳児保育の歩み	第29週 乳児保育の課題
第15週 中間のまとめ	第30週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】テキストを予習し、発表や提出課題に取り組むこと。  
(学修時間 週2時間)

【事後学修】発表や提出課題を復習すること。次回の授業に関連する文献や論文を読み、専門用語等を理解しておくこと。  
(学修時間週2時間)。

## 【テキスト・教材】

テキストについては検討中

資料は必要に応じて配布予定

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験60点、平常点（授業への積極的取組み・提出課題）40点  
提出課題は次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックをおこなう。

**入門演習**

スキルを学ぶレポート作成トレーニング

串田 紀代美・加藤 陽子

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

大学の授業では、さまざまなタイプのレポートを書くことが要求されます。大学のレポートでは、自分で問いを立て、情報を集めて整理し、論理的に考えた結果を文章にする技術が必要です。授業では、アカデミック・スキルズのうち、特に「読む」「書く」行為に焦点を当て、大学でのレポート作成スキルを段階的に身につけます。同時に自ら課題を発見し、自分で考える力を養い、問題解決力を鍛えます。

**【授業における到達目標】**

- ・レポートの形式や構成を知り、自ら問いが立てられる。
- ・論点を絞り、意見や主張が明確に文章化できる。
- ・自分の主張を支える論拠が具体的に示せる。
- ・レポートの文章にふさわしい定型表現で書くことができる。
- ・引用や参考文献表記のルールを理解している。
- ・振り返り学習やフィードバックをもとに、書いた文章を推敲し修正ができる。

**【授業の内容】**

- 第1週 作文・感想文との違いを知る、「報告型レポート」を読む
- 第2週 形式や構成を知る、「意見文」を批判的に読む
- 第3週 レポートに必要な発想力をつける（mappingとbrainstorming）
- 第4週 批判的思考力でレポートの主張を考える
- 第5週 課題発見力で論点を考える
- 第6週 論点を絞る、論理的に意見をまとめる
- 第7週 ピア活動でアウトラインを検討する①、パラグラフを書く
- 第8週 ピア活動でアウトラインを検討する②、パラグラフを読む
- 第9週 情報を検索する、読解ストラテジーで必要な情報を選ぶ
- 第10週 情報検索力を活用しレポート執筆をスタートする
- 第11週 引用のルールに従い引用箇所を明示する
- 第12週 参考文献表記や脚注のルールに従い記述する
- 第13週 文章・表現・形式を点検し文章を推敲する
- 第14週 フィードバックをもとに修正する、学習プロセスを振り返る
- 第15週 まとめ、教員のレポート評価観点を知る

**【事前・事後学修】**

【事前学修】次週の授業で扱うテキストや論文は、必ず精読してください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業後にテキストを必ず復習し、授業で配付した資料はノートと合わせて必ず見直してください。また授業内容を反芻しながら要点を整理してください。ライティング等の課題は余裕を持って準備し、提出前に必ず点検し修正してください。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

桑田てるみ編『学生のレポート・論文作成トレーニング』改定版（実教出版、2015）税込1296円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業参加（リアクション・ペーパー、ピア・レスポンスやグループでの話し合い等）30%、提出物（クイズ、課題提出）20%、期末レポート50%を総合的に判断し成績評価を行います。フィードバックは、必要に応じて授業内で適宜行います。

**【参考書】**

授業で適宜紹介します。

**【注意事項】**

授業は、学生を主体とするアクティブ・ラーニングの学習方法に従い、グループでの話し合いやピア活動を中心に協働的に進めます。そのため出席を重視します。

**認知心理学**

粟津 俊二

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、美の探究

**【授業のテーマ】**

この授業では、ヒトが何かを見聞きし、判断し、理解し、記憶し、考える仕組みを扱います。ヒトの基本的な仕組みに関わる内容ですので、現在の様々な心理学の根幹となっています。また、用語や考え方は他の心理学や他の学問でも利用されています。

**【授業における到達目標】**

人の感覚・知覚、認知、思考、記憶等の仕組みと障害について理解し、概説できるようになることを目標とします。また、これを応用して、よりよく認知、記憶、思考する方法などが提案できるようになることも目指します。これらは、多様な人間を受容する態度、新たな知を創造しようとする態度、心理的な問題を把握し計画を立案できる行動力などへ繋がります。

**【授業の内容】**

1. ガイダンス
2. 認知心理学とは何か
3. 知覚と認知1-見るとはどういうことか
4. 知覚と認知2-知覚の特性
5. 知覚と認知3-知覚認知の仕組みと障害
6. 記憶1-記憶の分類
7. 記憶2-記銘と保持の仕組みと障害
8. 記憶3-再生と忘却の仕組みと障害
9. 記憶4-忘却と想起の仕組みと障害
10. 知識の構造
11. 理解と思考1-理解とはどういうことか
12. 理解と思考2-単語理解の仕組みと障害
13. 理解と思考3-文理解の仕組みと障害
14. 理解と思考4-文章理解の仕組みと障害
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

- ・授業内容について参考書等を見直したり、わからなかった専門用語等を調べて理解しておくこと。
- ・授業内容にあう事例を、自らの体験等に照らし合わせて考えておくこと。

学修時間 週4時間程度。

**【テキスト・教材】**

無藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治『心理学』（有斐閣、2004年）3,700円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験（100％）

試験終了後、教室やmanabaで問題や解答の解説を行います。

**【参考書】**

「認知心理学」というタイトルの本は多く出版されています。比較的最近（2000年以降程度）であれば、どれを見ても参考になるでしょう。

**認知心理学 a**

作田 由衣子

1年 後期 2単位

◎：研鑽力

**【授業のテーマ】**

「認知心理学」は、人間を情報処理装置ととらえて理解しようとする学問である。この授業では、認知心理学の様々な研究分野について紹介する。特に、ここでは知覚や感性など、視覚的な情報処理に焦点を当てる。

**【授業における到達目標】**

認知心理学の基本的な考え方を理解できる。さらに、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 感覚と知覚
- 第3週 色の知覚
- 第4週 多感覚知覚
- 第5週 知覚から認知へ
- 第6週 注意
- 第7週 感性1：感性と認知
- 第8週 感性2：感性とデザイン
- 第9週 記憶1：記憶のしくみ
- 第10週 記憶2：日常の記憶
- 第11週 記憶3：目撃証言
- 第12週 顔の認知1：顔を見るしくみ
- 第13週 顔の認知2：顔と社会
- 第14週 社会的認知
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】テキストあるいは参考書の該当箇所を通読しておくこと。（学修時間：週2時間）

【事後学修】その日の授業の復習を行うこと。（学修時間：週2時間）

**【テキスト・教材】**

服部雅史・小島治幸・北神慎司、2015、基礎から学ぶ認知心理学－人間の認識の不思議、有斐閣、1944円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への積極参加・提出課題）20%、期末試験80%  
manabaを利用してフィードバックを行う。

**【参考書】**

金沢創・市川寛子・作田由衣子、2015、ゼロから始める心理学・入門－人の心を知る科学、有斐閣、1944円  
その他授業内で指示します。

**認知心理学 b**

作田 由衣子

2年 前期 2単位

◎：研鑽力

**【授業のテーマ】**

「認知心理学」は、人間を情報処理装置ととらえて理解しようとする学問である。この授業では、認知心理学の様々な研究分野について紹介する。特に、ここでは言語や意思決定などの認知過程に焦点を当てる。

**【授業における到達目標】**

認知心理学の歴史と重要な研究事例について知識を深めることができる。さらに、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続けることができる。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 認知の発達1：色と形の知覚
- 第3週 認知の発達2：顔の認知
- 第4週 言語
- 第5週 概念と知識
- 第6週 問題解決と推論
- 第7週 確率の判断
- 第8週 意思決定
- 第9週 潜在認知
- 第10週 感情と情報処理
- 第11週 脳と心
- 第12週 障害と認知
- 第13週 心の文化差
- 第14週 認知心理学の歩み
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】テキストあるいは参考書の該当箇所を通読しておくこと。（学修時間：週2時間）

【事後学修】その日の授業の復習を行うこと。（学修時間：週2時間）

**【テキスト・教材】**

服部雅史・小島治幸・北神慎司 2015年『基礎から学ぶ認知心理学－人間の認識の不思議』（有斐閣） 1944円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への積極参加・提出課題）20%、期末試験80%  
manabaを利用してフィードバックを行う。

**【参考書】**

金沢創・市川寛子・作田由衣子、2015、ゼロから始める心理学・入門－人の心を知る科学、有斐閣、1944円  
その他、授業内で指示します。

**認知心理学特論**

粟津 俊二

人間社会専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

文章を用いた他者とのコミュニケーションでは、口頭でのコミュニケーション同様に、相手が理解できるように伝えることが根本となる。しかし、文章には表情や身振りなどの非言語的コミュニケーションが使えないため、特別な工夫をしなくては情報の伝達精度が低下する。講義では、文章理解の認知過程と、図解による理解支援について扱う。

**【授業における到達目標】**

どのような文章が、なぜわかりにくいのか、理解を補助するためにはどうしたら良いのかについて、認知心理学の理論にもとづいて考えられ、提案できるようになることを目標とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 認知心理学の位置づけ
- 第2週 認知心理学における記憶のモデル
- 第3週 文章理解とワーキングメモリ、外的資源
- 第4週 言語理解における単語処理
- 第5週 言語理解における統語処理
- 第6週 言語理解における意味処理
- 第7週 言語理解におけるメンタルモデル
- 第8週 文章理解とメンタルモデル
- 第9週 外国語と母語の理解過程の比較
- 第10週 様々な理解支援方法
- 第11週 情報探索の補助としての図解
- 第12週 メンタルモデル構築の補助としての図解
- 第13週 図解と協同学習
- 第14週 図解の作成過程
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

次週までの課題という形で、その都度指定します。

学修時間：週4時間程度

**【テキスト・教材】**

指定しない

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業中の質問、議論への参加等の平常点20%とレポート80%によって評価する。事前学修の程度、授業中のコメント等については、その都度フィードバックを行う。提出物については、次回授業を目途として、できるだけ速やかにフィードバックを行う。

**【参考書】**

授業中に適時紹介する

**【注意事項】**

学部科目「認知心理学」あるいは相当する科目を履修していることが望ましい。

**脳と心**

脳からヒトの知覚・認知・こころを探る

**雨宮 薫**

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

Biology of the mind」(W W Norton and Co Inc. 2013)

日本語にしてレジュメに使用します。

**【注意事項】**

興味を持ち積極的に授業に参加すること。

知りたい心と脳のかかわりがあれば、随時希望は受け付けます。

疑問点はその場で聞いてもらっても可能ですが、履修生同士の私語・飲食など授業聴講にあまりに不適切かつ他の履修生に迷惑をかける行為が目には余る場合、退席していただくことがあります。その場合、出席点は加味できません。

**【授業のテーマ】**

先端的な神経科学の視点から、ヒトの心についての理解を深め、またさらには、ヒトとは何か、心とは何かという大きな命題を考えます。

認知神経科学とは、脳がどのように心を有効に働かせているかを研究する、比較的新しい研究分野です。

ヒトの知覚から認知、そして行動、思考、そして感情、意思決定などが脳とどのように関係するかを理解し、その根底となるヒトの概念の構成の仕方、言語、記憶、学習や運動といったところから、ヒトが認知する世界を考え、その上で「こころ」とは何かを考えます。

また、ヒトの認知を検証するためには、どのような実験がありうるのか、どのような実験的手法があるのかを理解し、そこから得られる知識がどういったものなのかを理解・把握できるようにします。

**【授業における到達目標】**

授業では以下を到達目標とします：学習がいかに脳にとって重要かという視点を学び取ることで、自ら研鑽力を磨く契機とすること。実験的に検証する視点を学ぶことで、問題解決に至る道程を理解すること。他者の理解が自己の研鑽の上に成り立っていることを理解することで、相互の役割を理解し、協力関係に生かすこと。

**【授業の内容】**

第1週 脳の解剖と研究法について知る

第2週 視覚・概念

第3週 視覚失認

第4週 聴覚

第5週 注意

第6週 記憶

第7週 記憶の障害

第8週 運動

第9週 運動の障害

第10週 言語・音楽

第11週 情動

第12週 認知的制御・意思決定

第13週 社会的認知

第14週 意識・自由意志

第15週 新たな知見

出席者の興味により、変更可能とします。

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

小中高の理科・生物の教科書、

他の心理学で学修した内容などを復習すること。

(週2時間)

**【事後学修】**

学修した内容を復習すること。(週2時間)

**【テキスト・教材】**

プリントを使用する

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点(授業への積極参加・授業内レポート・授業内小テスト) 100%

レポートや小テスト、受講者の興味対象などから、適宜授業内容を修正する。

またレポートなどの疑問点や間違えた把握などは、次週以降に追加で講義する。

**【参考書】**

Michel S. Gazzanigaら(著), 「Cognitive Neuroscience: The



**博士特別研究****専任教員**

食物栄養学専攻 通年 8単位

**【授業のテーマ】**

指導教員の下で、自ら研究テーマを定め、研究の計画・進め方を構築する。さらに、得られた研究データの解析と体系的な理論化に実践的に取り組み、研究成果の学会発表、学会誌への投稿、博士学位論文の執筆に必要な能力を身に付ける。

**【授業における到達目標】**

博士特別研究を通して得られたデータから、自ら課題を発見しそれを解決することにより新規性のある研究成果を挙げ、学問的価値の高い博士学位論文を完成させることを目標とします。

**【授業の内容】**

1. 研究倫理教育、安全教育
2. 研究課題に関する情報収集と調査  
研究課題に関わる関連文献の収集と整理、調査結果の集約
3. 研究課題の決定  
先行研究を踏まえ未解明の問題を博士論文課題として設定
4. 研究計画立案（1）  
研究方法、予測される結果と研究の意義を検討しながら研究計画を立案
5. 研究計画立案（2）  
研究計画書の作成
6. 研究の遂行（1）  
研究計画に基づいて研究を進める
7. 研究結果の報告と評価  
研究結果を発表し評価を受け、評価に基づき研究計画を修正する
8. 研究の遂行（2）  
修正した研究計画に基づいて研究を継続する
9. 研究結果の中間発表と評価  
研究結果を発表し評価を受け、評価に基づき研究計画を修正する
10. 研究の遂行（3）  
中間発表の審査結果に基づいて研究計画を修正し予備審査に備えた研究を進める
11. 学会誌への投稿と掲載  
研究成果を取りまとめ、査読付き学会誌に発表する
12. 予備審査会  
学位論文とする研究成果を発表し審査を受ける
13. 博士学位論文の最終構成  
予備審査会での評価・助言を加味して博士学位論文の完成を目指す
14. 博士学位論文の提出
15. 博士学位論文の審査と学位認定

**【事前・事後学修】**

【事前学修】先行研究の事前調査、関連論文の査読と理解、研究計画の立案、結果のまとめと考察、論文草稿の作成などについて、自ら積極的に取り組んで指導を受けること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】指導を受けた点について、その都度速やかに対応して研究が滞らないようにする。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

研究遂行に必要な専門書・学術論文について適宜指定する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

博士学位論文審査基準により判定評価する。

**博物館学入門**

ミュージアムとはなにか

村田 真

3年 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

ミュージアム（美術館・博物館など）に関する基礎知識を修得し、なぜミュージアムが必要なのか、いかにミュージアムはあるべきかを理解する。最初はミュージアムの語源・起源をたどりながらその成り立ちを探り、次にそれがいかに日本に伝わり、定着したかを学び、ミュージアムの役割と学芸員の仕事についての理解を深める。最後はミュージアムを超えた活動にも触れ、今後のミュージアムのあり方を考える。また、そのつどミュージアムに関する新鮮な話題や重要な情報があれば採り入れていく。

**【授業における到達目標】**

〈態度〉国内外のさまざまなミュージアムについて学ぶことで、多様な価値観と国際感覚を身につける。

〈能力〉広い視野と深い洞察力を身につけ、芸術と文化の本質を見抜くことができるようになる。

**【授業の内容】**

- 第1週 博物館学とはなにか、博物館法について
- 第2週 ミュージアムの歴史①その語源と起源
- 第3週 ミュージアムの歴史②コレクションの形成
- 第4週 ミュージアムの歴史③ルーヴル美術館誕生
- 第5週 ミュージアムの歴史④万博と博物館
- 第6週 ミュージアムの歴史⑤美学・美術史の発展
- 第7週 ミュージアムの歴史⑥MoMAの功績
- 第8週 学芸員の役割
- 第9週 日本のミュージアム①東京国立博物館の成り立ち
- 第10週 日本のミュージアム②東京都美術館の功罪
- 第11週 日本のミュージアム③私立美術館と百貨店
- 第12週 日本のミュージアム④パブル以降の美術館
- 第13週 日本のミュージアム⑤美術館建築の移り変わり
- 第14週 アートツーリズム
- 第15週 ミュージアムの未来

なお、授業を見学に振り替えることがある。

**【事前・事後学修】**

〈事前学修〉美術館（展覧会）を訪れる（週2時間）。

〈事後学修〉訪れた美術館（展覧会）について、授業で学んだ点を中心に小レポートを作成する（週2時間）。

**【テキスト・教材】**

とくにない。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験50%、平常点（小レポート、授業中の発言・発表など）50%。

小レポートは毎回、試験は最終回にフィードバックを行う。

**【参考書】**

そのつど紹介する。

**【注意事項】**

多くの美術館・博物館に足を運んでほしい。

**博物館教育論**

社会教育機関としての博物館

小勝 禮子

3年 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

博物館（美術館）が社会教育機関であることを前提として理解し、博物館の教育的役割の歴史や博物館教育の目的などの理念を学ぶ。その上で、博物館教育の方法について実践的な取り組みを含めて理解を深め、学校教育との連携や教育目標の達成、博物館教育の課題と展望について総合的に理解する基礎的能力を養う。

**【授業における到達目標】**

- ・博物館教育史を日本だけではなく、世界の博物館について学ぶことにより、学生が身につけるべき「国際的視野」を修得する。
- ・博物館（美術館）教育の目的や理念を学ぶことにより、知を求め心の美を育む態度「美の探究」を身につける。
- ・博物館の生涯教育の役割を学ぶことにより、生涯にわたり、知を探究する「研鑽力」を習得する。
- ・博物館教育の企画と実践を経験することにより、より良い教育プログラムを考え、提案する「行動力」と、仲間とともに相談・協力する「協働力」を習得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 授業の目的・ガイダンス
- 第2週 博物館教育史 近代教育史における博物館
- 第3週 世界の博物館教育
- 第4週 博物館教育 学芸員の教育的役割
- 第5週 博物館教育の目的 博学連携と生涯学習
- 第6週 博物館利用の促進 ボランティア養成
- 第7週 博物館教育の方法 ①展示と展示解説
- 第8週 博物館教育の方法 ②ワークショップ
- 第9週 博物館教育の方法 ③アウトリーチ活動
- 第10週 博物館教育の方法 対話型鑑賞教育について
- 第11週 博物館教育の方法 対話型鑑賞教育について②
- 第12週 博物館教育の企画 ①教育プログラムの作成
- 第13週 博物館教育の企画 ②教育プログラムの実践
- 第14週 博物館見学（校外実習）
- 第15週 博物館教育の課題と展望 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】事前に次回の授業の課題を出すので、レポート、発表等の課題に取り組むこと（学修時間 週2時間）

【事後学修】レポート、発表等の内容を復習すること。次回の授業範囲を予習し、問題点を考え、専門用語等を理解しておくこと（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

授業において適宜、必要なプリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

小レポート（20%）、試験（50%）、平常点（授業への積極的参加、提出課題）（30%） 小レポートは次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

**【参考書】**

全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版）、2012年

その他、授業で随時、参考文献を指示する。

**【注意事項】**

博物館見学は通常の授業と別の日時で実施することもある。授業を見学に振り替えることがある。見学の都合によりシラバスが変更になることがある。

特別な事情が無い限り、授業も見学も自己都合で欠席しないようにすること。3回以上の欠席は減点の対象とする。

**博物館経営論**

博物館運営の理念とミュージアム・マネジメントの実践

小勝 禮子

3年 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

博物館は社会に対して開かれており、社会とのコミュニケーションが取られている社会的存在であることをまず前提として理解する。そのために博物館の経営は、基本的には営利を目的とするものではなく、ミュージアム・マネジメントの考え方によって行われるべきであることを理解する。ミュージアム・マネジメントとは、「社会環境の変化を予測して、博物館の持つ経営資源を組み合わせ、環境に適応し、利用者の満足を生み出し、市民生活の豊かさに資することを目的とする科学」である。今後ますます多様な変化を遂げる現代社会において、博物館が地域や市民にとって必要不可欠な存在であり続けるための運営について考え、提言する能力を養う。

**【授業における到達目標】**

- ・日本国内ばかりではなく、海外の博物館の制度と組織を学ぶことにより、学生の身につける態度のうち「国際的視野」を修得する。
- ・博物館経営の運営と管理を学ぶことにより、学生が修得すべき「行動力」のうち、「課題を発見する力」を修得する。
- ・博物館経営の実際と課題を学んで考えることにより、「行動力」のうち、「プロセスや成果を正しく評価し、問題解決につなげる」力を修得する。
- ・博物館と社会連携を学ぶことにより、相互を活かして自らの役割を果たす「協働力」を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 授業の目的・ガイダンス
- 第2週 博物館経営の意義、ミュージアム・マネジメント
- 第3週 博物館運営方法の制度的な変化（海外と国内）
- 第4週 ミュージアム・マーケティングと博物館評価
- 第5週 博物館の制度と組織
- 第6週 博物館行政と運営組織
- 第7週 博物館の行動規範（倫理規定）
- 第8週 博物館と社会連携① 広報活動
- 第9週 博物館と社会連携② 学習支援
- 第10週 博物館と社会連携③ ネットワーク活動
- 第11週 博物館と社会連携④ ホスピタリティとボランティア
- 第12週 博物館見学（校外実習）
- 第13週 博物館経営の実際
- 第14週 博物館経営の課題
- 第15週 博物館の未来・まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】事前に次回の授業の課題を出すので、レポート、発表等の課題に取り組むこと（学修時間 週2時間）

【事後学修】レポート、発表等の内容を復習すること。次回の授業範囲を予習し、問題点を考え、専門用語等を理解しておくこと（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

授業において適宜、必要なプリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

小レポート（20%）、試験（50%）、平常点（授業の積極的参加、提出課題）（30%） 小レポートは次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

**【参考書】**

今村信隆編『博物館の歴史・理論・実践2—博物館を動かす』（藝術学舎）、2017年

その他、授業で随時、参考文献を指示する。

**【注意事項】**

博物館見学は通常の授業と別の日時で実施する場合がある。授業を見学に振り替えることがある。見学の都合によりシラバスが変更になることがある。

特別な事情が無い限り、授業も見学も自己都合で欠席しないようにすること。3回以上の欠席は減点の対象とする。

**博物館資料保存論**

山盛 弥生

3年 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

美術館や博物館には、大切に守り伝えられてきたさまざまな種類の資料が収蔵されています。それらの資料を、良好な状態で保存し次世代に伝えていくことは、美術館・博物館の大きな役割の一つです。しかし、資料は時間とともに劣化していくものでもあります。資料の劣化を最小限にとどめるためには、資料保存に関する基本的な知識が必要とされます。本講義では、資料保存の意義、資料の修理、資料の劣化要因とその対策、資料に適した保存環境、保存と公開の両立の問題点などについて学び、資料保存に関する基本的な知識と技術についての理解を深めることを目標とします。

**【授業における到達目標】**

博物館における資料保存及びその保存・展示環境、収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を修得することを通じて、資料の保存に関する基礎的能力を身につけられるようになります。

博物館見学時には、授業で学んだことを活用して、各自で、資料保存対策の現状や問題点を見つけ、問題解決の方法等についてレポートし、提出してもらいます。

**【授業の内容】**

- 第1週 授業の目的・内容・進め方
- 第2週 資料保存の意義
- 第3週 資料の状態調査
- 第4週 資料の修理① 修理の目的
- 第5週 資料の修理② 修理の方法
- 第6週 資料の劣化の要因と対策① 温湿度・光
- 第7週 資料の劣化の要因と対策② 大気
- 第8週 資料の劣化の要因と対策③ 生物被害
- 第9週 資料の劣化の要因と対策④ 災害
- 第10週 資料の劣化の要因と対策⑤ 衝撃、振動
- 第11週 資料の保存と活用① 収蔵庫、展示室、展示ケース
- 第12週 資料の保存と活用② 伝統的保存方法
- 第13週 美術館・博物館見学 資料保存対策とその効果、問題点
- 第14週 資料の保存と活用③ 資料の科学調査
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】講義内容の理解をより深めるため、博物館、美術館、文化財、保存、修復などをキーワードに、新聞やニュース、インターネット等で資料保存に関する情報を収集し、資料保存に関する最新の考え方や問題点を理解しておくこと（学修時間：週2時間）。

【事後学修】前回の授業ノート・配布プリントを次回授業までによく読んで復習しておくこと（学修時間：週2時間）。

**【テキスト・教材】**

プリントを使用します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート70%、平常点（授業態度、課題提出）30%で評価します。小レポート等の授業内提出課題については次回授業でフィードバックを行います。

**【参考書】**

授業中に適宜指示します。

**【注意事項】**

美術館・博物館見学授業は、土曜、日曜、祝日のいずれかに振り替えて実施します。特別な事情がない限り欠席しないこと。見学のための交通費、入館料は、各自負担となります。特別な理由で見学実習を欠席する場合は、必ず事前に申し出て、別の日に見学をすること。

**博物館資料論**

博物館における「資料」

安井 裕雄

3年 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

博物館・美術館資料の種類を理解し、収集、分類、整理と保管等、資料の取扱いの基本的な知識や技術を修得する。また資料公開のために必要な博物館の調査研究について理解を深める。

博物館資料は多岐に渡り、扱う資料に応じて公開施設（博物館、美術館、資料館等）の性質も多様である。博物館資料の基礎的な知識や技術を身につけるために、授業は配布プリントを用いる。また具体例の紹介にパワーポイントを使うが、授業内容の偏りを防ぎ、多角的な「資料」の価値を理解するために、適宜映像資料も用いる。

**【授業における到達目標】**

博物館における資料の位置づけと重要性を理解する。資料に関する基礎的な知識を学び、資料を扱う能力を身につける。博物館資料を調査研究、公開する際の基礎理念を修得する。

**【授業の内容】**

第1週	ガイダンス	授業目的の説明・課題
第2週	資料の概念	博物館資料の意義と価値
第3週	資料の収集	購入、寄贈、遺贈と寄託 資料化、収集理念と倫理、法規定
第4週	資料の種類	一次資料、二次資料、史料、その他資料
第5週	資料の整理	分類、管理、目録化、保存、修復
第6週	資料の公開	公開の理念と方法 (校外見学：ルドン展を予定)
第7週	資料の研究	研究の手法、成果の還元
第8週	資料の研究	映像の使用（可視光・赤外線・紫外線写真）
第9週	地域の資料	地域と資料
第10週	資料の公開	公開と保存・展示環境、研究成果の還元 (校外見学：ショーメ展を予定)
第11週	研究課題①	台帳の作成
第12週	研究課題①	発表
第13週	研究課題②	公開と研究成果の還元
第14週	研究課題②	発表
第15週	まとめ	

**【事前・事後学修】**

## 1 事前学修

- ・第1週から第5週：週2時間程度、参考文献の指定箇所を読む。
  - ・第6週から第15週：研究課題①の準備として、博物館資料について週2時間程度、紙媒体やWeb上のデータベースにより調べる。また研究課題②の準備として会場配布物、会場解説について調べる。
- 2 事後学修として、週2時間程度、配布資料とノートを読み返し、疑念点をまとめる。あるいは研究課題①②の準備をおこなう。

**【テキスト・教材】**

授業において、必要なプリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験60%、研究課題30%、小レポート10%。

研究課題の発表はグループ形式で行い、その都度フィードバックする。小レポートは、次回授業でフィードバックする。試験は最終回に、フィードバックする。なお度重なる遅刻は、減点対象とする。

**【参考書】**

青木豊編『人文系博物館資料論』、雄山閣（2012年）。

その他、授業で随時、参考文献を示す。

**【注意事項】**

第8週の授業は「ルドン展」の見学（5月前半の土日）、第12週の授業は「ショーメ展」の見学（7月中の土日）に振替予定。見学の都合により、シラバスが変更になることがある。特別な事情がない限り、見学も授業と同様に、自己都合で欠席しないようにすること。

**博物館実習 1 a**

作品の取り扱いと学芸員の実務について学ぶ

佐々木 英理子・廣海 伸彦・水田 至摩子

3年 前期・後期 1単位

**【授業のテーマ】**

前、後期各2クラス、全4クラスに分かれ、少人数で学芸員の仕事や倫理などについて学び、作品の取り扱いの実習をおこなう。「博物館実習1b」と併せて「学内実習」とする。

作品に対する敬意をもって安全、丁寧に扱うこと、礼儀正しくふるまうこと、間違いなく正確に物事を理解すること、互いにコミュニケーションを取りグループで行動することなど、学芸員に必要な態度について理解を深める。

クラス分けは博物館学課程が決定するが、合同でおこなうこともあるのでこの時間帯に他の授業を登録することはできない。

**【授業における到達目標】**

日本に伝わる美術作品の成り立ちを考えながらそれぞれの特徴を知り、適切に扱えるようになる。互いにコミュニケーションを取り適切な行動をとることができるようになる。

**【授業の内容】**

1. イントロダクション 美術館の活動と施設について
  2. 美術館の活動と施設について（見学実習1）
  3. 美術工芸品を扱う心構えと注意事項
  4. 掛軸・箱の取り扱い（1）各部の名称と機能、構造
  5. 掛軸・箱の取り扱い（2）取り扱い練習
  6. 巻子の取り扱い（1）各部の名称と機能、構造
  7. 巻子の取り扱い（2）取り扱い練習
  8. 屏風の取り扱い（1）各部の名称と機能、構造
  9. 屏風の取り扱い（2）取り扱い練習
  10. 美術館の展示について（見学実習2）
  11. 展覧会の作り方（1）展示プランの作成
  12. 展覧会の作り方（2）図録の作成
  13. 冊子・帖の取り扱い
  14. 茶碗・茶器の取り扱い
  15. まとめ、ノートの作成
- \*授業内容は見学館、教材使用の都合等からクラスによって順番が異なる。クラスごとの授業内容は、最初の授業時に配布する。

**【事前・事後学修】**

事前学修：自主的に美術館、博物館見学をおこない適切な展示方法・展示什器・器具などを観察しておくこと。取り扱い実習の前週にこれから触れる作品の形態について解説するので、どのような動作をすればスムーズで安全に扱えるかをよくシミュレーションしておくこと。（1時間）

事後学修：授業後に学んだことを整理してノートに記すこと。また実習後は自分の作業を客観的に振り返り、動作の内容をよく覚えておくこと。（1時間）

**【テキスト・教材】**

授業中に指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への積極的な取り組み、実習への熱心な参加、実習内容の習熟度）70%、レポート30%。授業の最終回に実習ノートなどをもとにフィードバックをおこなう。

**【参考書】**

授業中に適宜指示する。

**【注意事項】**

授業中の指示に従い、服装や持ち物など、実習にふさわしい身だしなみに気を配ること。

やむをえない事情以外の遅刻、欠席は認めない。実習には見学実習も含まれ、日曜、祝日に振り替えることがあるが、特別な事情が無いかぎり欠席は認めない。万一欠席する場合は、事前に申し出て指示に従うこと。見学のための交通費等は自費となる。

**博物館実習 1 b**

学外実習をおこなうための予備学習

児島 薫・中村 玲・糸 和沙

3年 集通 1単位

**【授業のテーマ】**

通年集中授業形式で実施する（登録時に時間割には表示されない  
ので注意が必要）。4年次に履修する学外実習のために必要な心が  
まえ、社会人としてのルール、作品の取り扱いなどを総合的に学  
ぶ。「博物館実習1a」とともに、学外実習のための予備学習をおこ  
なう必修授業であるため、両方を受講した上で4年次の学外実習に  
進むことができる。香雪記念資料館および学外の美術館の見学実習  
をおこない、多様な施設、活動についても理解を広げる。外部講師  
を招いての梱包実習も含む。

また随時、学外実習館に応募するための個別指導も行い、4年次  
に学外実習に主体的に参加できるよう準備する。

**【授業における到達目標】**

必要な書類手続き、課題提出などについてよく確認し、遅延なく  
実行できるように自己管理することができる。学修成果を実感して  
自信を創出する。目標を設定して、計画を立案・実行できる。自己  
や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができ  
る。

**【授業の内容】**

1. ガイダンス 履修登録、履修の注意、日程表配布（集中授業のため、時間割表に表示されない授業なので、充分注意すること）
  2. 事前指導：身上書など書類の記入方法、manabaでのレポート提出方法について。
  3. 事前指導：受講手続きの注意と自己点検
  4. 来年度実習を希望する博物館、美術館の事前調査
  5. 実習希望館についての調査レポート作成
  6. 実習を希望する理由についてレポート作成
  7. 香雪記念資料館見学実習（収藏品、展示方法、設備など）
  8. 実習ノートの使い方・書き方
  9. 履歴書の作成
  10. 作品の取り扱いと梱包：作品の種類と運搬、梱包、輸送の注意
  11. 梱包実習（外部講師を招聘する）
  12. 梱包実習の復習、まとめ
  13. 見学実習①東京の美術館（収藏品、展示方法、設備など）
  14. 見学実習②近隣の美術館（収藏品、展示方法、設備など）
  15. 来年度の実習に向けてのまとめ
- \*シラバスの順番は前後することがある。

**【事前・事後学修】**

事前学修：キャンパス・メンバーズや「ぐるっとパス」を活用し、  
自主的にできるだけ多くの美術館、博物館を見学し展示や活動につ  
いて調査する（週平均1時間）。

事後学修：授業内で指示された提出物を準備する。実習ノートや配  
布物を読み返す。（週平均1時間）

**【テキスト・教材】**

授業中に配布するプリント、実習ノート。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業への積極的な参加態度50%。遅刻は欠席とみなす。無断欠席は  
認めない。課題に対する提出物50%。期日に遅れた提出物は受理し  
ない。課題に対するフィードバックは授業内で随時おこなう。

**【参考書】**

指定図書コーナーに指定図書として配架する。

**【注意事項】**

不定期に集中形式でおこなう授業のため、時間割内に表示されない  
ため、受講の登録には充分注意すること。掲示で日時を周知するの  
で掲示に注意すること。授業は5時限後などにおこなうことが多く  
休日に見学をおこなう場合もある。絶対に自己都合で欠席しないこ  
と。期限内に提出できなかった提出物は原則として受理しない。博  
物館学課程の掲示板やmanabaに注意し、呼び出しには速やかに対応  
すること。観覧会見学にかかる交通費等は学生の自己負担である。

**博物館実習 2**

—学外で美術館活動を体験する—

児島 薫・中村 玲・宮崎 法子・糸 和沙

4年 集通 1単位

**【授業のテーマ】**

学芸員資格取得希望者の「学外実習」に相当する授業。各自学外  
の博物館、美術館、香雪記念資料館などの実習先に決められた期間  
通い、実習先の指示にしたがって実際に美術館や博物館などの学芸  
員やその他の館員がどのような仕事をしているか学ぶ。事前指導と  
して、実習に関する注意事項や心構えなどについて講義し、提出書  
類については適宜個別指導もおこなう。実習後には、実習ノート・  
レポートを作成し提出する。

博物館・美術館の仕事の内容は館によって異なり、実習先の機関  
によって学ぶ内容は様々である。実習先では実際に仕事をしている  
方々のなかで行動するので、周囲に迷惑をかけないように、責任をも  
って自ら考える力を身につけてほしい。博物館学課程の総仕上げと  
もいべき貴重な機会なので、社会人になったつもりで積極的に取  
り組んでほしい。

**【授業における到達目標】**

実習中は適宜自分がおこなうべき行動を考えて主体的に行動する  
ことができる。挨拶に始まり礼儀正しい態度で臨み、自己や他者の  
役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる。互いを  
尊重し、信頼関係を構築することができる。

**【授業の内容】**

1. 博物館実習の目的と意義
2. 事前見学とアクセス方法、緊急時の対応などについて確認
3. 事前レポート、履歴書の作成
4. 実習についての注意事項、心構え、マナー等の確認
5. 実習ノートの配布と記入方法の確認
- 6～13. 各自の実習先（学外の博物館・美術館・香雪記念資料館など）で学外実習  
\*実習先の指示に従い、積極的に参加すること。
14. 実習ノートの整理と提出
15. レポートの作成および報告

**【事前・事後学修】**

事前学修：実習館への経路、所要時間、緊急の場合の連絡方法、迂  
回経路を確認。ガイダンスなどでの配布プリントをよく読み、注意  
事項を確認する。実習ノートにあらかじめ必要な事項を記入する。  
実習予定先の館へ随時繰り返し訪問する。（週平均2時間）  
事後学修：実習ノートを清書し、実習で学んだことをよく復習す  
る。（週平均2時間）

**【テキスト・教材】**

ガイダンス授業で適宜プリントを配布する。また、実習ノートを  
配布する。その他は実習先の指示に従うこと。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

実習先での評価50%、ガイダンス授業の出欠状況等の平常点  
20%、実習ノート・レポート30%とし、総合的に評価する。実習の  
遅刻欠席はいかなる理由でも原則認めない。万一そのような場合に  
は失格とする可能性がある。提出物の遅延は大幅な減点となる。

実習後に提出するレポート、実習ノートを提出後チェックし、コ  
メントとともに返却する。

**【参考書】**

無し。

**【注意事項】**

ガイダンス授業の無断欠席・遅刻は認めない。実習中の遅刻・欠  
席は絶対に許されない。実習先ではふさわしい身だしなみに注意  
し、実習先の指示を厳守すること。実習先では課題に積極的に取り  
組むこと。体調管理に気をつけること。その他、ガイダンスでの注  
意をよく守ること。

実習終了後は、すみやかに報告し、レポート、実習ノートを指示  
にしたがって提出すること。提出物は締切り厳守。

**博物館情報・メディア論**

情報化社会における博物館の活動

西川 美穂子

3年 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

博物館・美術館が取り扱う資料・作品そのものが、「メディア」の一種であり、広い意味で「情報」です。博物館・美術館は、それらを記録・保管し、広く伝える役割を持ち、学芸員は、情報を扱う専門家です。展覧会は情報を伝える一つの方法ですが、それにとまなうカタログ作成や広報など、二次的な情報発信も同時におこなわれます。また、資料・作品にまつわる基本情報のデータベース化をおこない、アーカイブすることも博物館・美術館の大切な仕事です。本講義では、博物館・美術館における多岐にわたる情報の種類とその扱い方を正しく理解するために、実際の事例にもとづきながら学びます。

**【授業における到達目標】**

博物館情報の提供、活用に関する基礎的能力を養います。学生が修得すべき「行動力」のうち、課題を発見する力を修得します。

**【授業の内容】**

- 第1週 はじめに（授業内容の確認と講師紹介）
- 第2週 博物館における情報とメディアの意義
- 第3週 メディアとしての博物館
- 第4週 メディアとしての展覧会と展覧会カタログ
- 第5週 メディアを活用した展示方法
- 第6週 校外実習 博物館・美術館見学1
- 第7週 校外実習のまとめ（ディスカッションと質疑応答）
- 第8週 アーカイブとしての博物館  
（資料のドキュメンテーションとデータベース化）
- 第9週 デジタルアーカイブの現状と課題
- 第10週 作品形態の多様化に伴う情報の変遷と博物館の課題
- 第11週 校外実習 博物館・美術館見学2
- 第12週 校外実習のまとめ（ディスカッションと質疑応答）
- 第13週 博物館における情報発信
- 第14週 著作権と博物館
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

自ら博物館・美術館に積極的に出かけ、課題をみつけながら見学すること。（学修時間：2時間）

**【事後学修】**

レポートなどの課題に取り組むこと。また、自ら博物館・美術館に積極的に出かけ、授業内容を踏まえながら見学すること。（学修時間：2時間）

**【テキスト・教材】**

授業において、適宜、必要なプリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末レポート（50%）、授業内提出物および授業への積極的な取り組み（50%）。

授業内提出物は、正解を求めるものではなく、授業への積極的な取り組みを評価します。期末レポートは、最終授業でフィードバックをおこないます。

**【参考書】**

参考図書や文献は、授業において示します。

**【注意事項】**

美術館・博物館での校外実習（見学授業）を2回程度おこなう予定です。見学は、授業内容に記載した順とは異なる場合があります、土曜日もしくは日曜日に実施します。（日時や行き先等、詳細は授業中にお知らせします。）特別な事情が無いかぎり欠席は認めません。万一欠席する場合は、事前に申し出て指示に従うこと。見学のための交通費等は自費となります。

**博物館展示論**

「展示」の理論と実践

前山 裕司

3年 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

美術館・博物館における展示という機能について多角的に検証し、理論および方法に関する基礎的な知識・技術を習得することを目標とする。日本の美術館で行われる一般的な巡回展や現代美術の展示をモデルに、美術館における展示の重要性を学び、展示を実現するためのさまざまな実務や感性について具体的な事例をもとに考察する。

**【授業における到達目標】**

展覧会の背景にある企画者の意図や工夫を読み解く能力を身につけ、展示の重要性を学ぶことができる。

**【授業の内容】**

- 第1週 はじめに（授業内容の確認、注意事項など）
- 第2週 美術館・博物館における展示の役割と意義
- 第3週 展示の歴史の変遷
- 第4週 展覧会調査 1（展覧会構成要素の確認）
- 第5週 展覧会調査内容の検証（発表、討議）
- 第6週 展示の実際① 展覧会の実務の概要
- 第7週 展示の実際② 出品条件、作品の扱い
- 第8週 展示の実際③ 作品管理と保存
- 第9週 展示の実際④ コンディション・チェック
- 第10週 展示の実際⑤ 空間構成としての展示
- 第11週 展示の実際⑥ 展示解説と関連印刷物
- 第12週 展示の実際⑦ 照明と展示用具
- 第13週 展示と社会
- 第14週 展覧会調査 2（総合的検証）
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】小テスト、レポートなどの課題に取り組むこと。また配布するチェックリストに基づいて、美術館・博物館の展示を見ること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】配布したプリントの内容を復習すること。展覧会カタログを手に取り、デザインの工夫、前／後付け部分の文字情報などにも留意して目を通す。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

・テキストは使用せず、プリントや資料を配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

・期末レポート（50%）、その他レポート（40%）、平常点（10%）。平常点は毎回の授業に対する積極的な取り組み、および授業内提出物において評価する。レポートや課題は次回授業で、期末レポートは最終授業でフィードバックを行う。

**【参考書】**

- ・日本展示学会編『展示論—博物館の展示をつくる—』（雄山閣、2010年）
- ・大堀哲・水嶋英治編著『博物館学II 博物館展示論・博物館教育論』（学文社、2012年）
- ・黒沢浩編著『博物館展示論』（講談社、2014年）

**【注意事項】**

・展示論を学ぶにあたり、実際の展示を検証することが不可欠となるため、期間中に都内で開催されている展覧会見学を1回行う予定（授業の振り替えとする）。なお見学のための費用は自費とする。

・見学する展覧会の会期の関係上、講義の順番が記載されたものに変更になる場合がある。

**発音演習A**

—ネイティブみたく発音するぜえ♪—

藤原 正道

1年 前期 1単位

○：国際的視野、研鑽力

**【授業のテーマ】**

英語のネイティブスピーカーの発音を聞いて、まねをしようとしても上手くいかない。そんなときには、日本語の音と比べて英語はどこが違う、その違いはどのくらいなのかを学ぶことが、英語の発音上達への近道です。

英語と日本語の音を比較しながら、舌の位置や唇の形などの特徴を理解しながら、発音練習や聞き取り練習も行います。英語の子音を身につけましょう。

**【授業における到達目標】**

日本語の発音を知り、英語の発音を磨き、世界に発信していく態度を身につけること、学修成果を実感して、自信を創出すること、コミュニケーション能力を向上し、英語圏の言語と社会・文化を理解できるようになることを目標とします。

**【授業の内容】**

- はじめに
- 破裂音1 Part, aBoutなど
- 破裂音2 Top, Deskなど
- 摩擦音1 Face, Violinなど
- 摩擦音2 THink, THenなど
- 摩擦音3 Son, waSなど
- 摩擦音4 SHoe, viSIonなど
- 破裂音 Change, adJustなど
- 鼻音1 hoMe, Milkなど
- 鼻音2 aNgel, aNgleなど
- 側音 appLe, Lateなど
- 半母音1 bRown, fRiendなど
- 半母音2 beYond, aWakeなど
- 氣息音 Hot, Howなど
- まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：英語の歌の課題に取り組むこと。週1時間以上

事後学修：授業内容の復習など各自が発音の上達に取り組むこと。週1時間以上

**【テキスト・教材】**

資料を配付します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- ・定期試験は行いません。評価基準は、歌のテスト40%＋発音のテスト50%＋授業への積極的参加度10%。
- ・毎回の授業でフィードバックを行う予定です。

**【参考書】**

今井邦彦『新しい発想による英語発音指導』（大修館）  
川越いつえ『英語の音声を科学する』（大修館）  
松澤喜好『英語耳』（ASCII）  
小川貴宏『Sound Right!』（The Japan Times）  
小野昭一『英語音声学概論』（リーベル出版）  
竹林滋他『英語音声学入門』（大修館）  
安井 泉『音声学：現代の英語学シリーズ』（開拓社）

**【注意事項】**

受講人数制限35名です。（制限人数を超えた場合、抽選です。）英語の「歌」を歌う小テストも行います。

私語などの授業の妨害があった場合は、退室してもらいます。また、居眠りや携帯電話の使用などによって、授業への積極的参加が認められない場合、成績に大いに影響があることはわかるわね。

**発音演習B**

—ネイティブみたく発音したいのお♪—

藤原 正道

1年 後期 1単位

○：国際的視野、研鑽力

**【授業のテーマ】**

英語のネイティブスピーカーの発音を聞いて、まねをしようとしても上手くいかない。そんなときには、日本語の音と比べて英語はどこが違う、その違いはどのくらいなのかを学ぶことが、英語の発音上達への近道でっせ。

英語と日本語の音を比較しながら、舌の位置や唇の形などの特徴を理解しながら、発音練習や聞き取り練習も行います。英語の母音を身につけましょう。

**【授業における到達目標】**

日本語の発音を知り、英語の発音を磨き、世界に発信していく態度を身につけること、学修成果を実感して自信を創出すること、コミュニケーション能力を向上し、英語圏の言語と社会・文化を理解できるようになることを到達目標とします。

**【授業の内容】**

- はじめに
- 前舌母音1 bE, Itなど
- 前舌母音2 vAcation, pEnなど
- 前舌母音3 hAt, Addなど
- 後舌母音1 hOt, dOOrなど
- 後舌母音2 dOOr, Obeyなど
- 後舌母音3 bOOk, blUEなど
- 中央母音1 cUt, Applyなど
- 中央母音2 wORld, EARlyなど
- 二重母音1 bAy, kItEなど
- 二重母音2 Oilなど
- 二重母音3 Oldなど
- 二重母音4 nOWなど
- 二重母音5 dOORなど
- まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：歌の課題に取り組むこと。週1時間以上

事後学修：授業内容の復習や各自が音読などに取り組むこと。週1時間以上

**【テキスト・教材】**

こちらで用意したプリントを使用します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- ・定期試験は行いません。評価基準は、歌のテスト40%＋発音のテスト50%＋積極的に授業に参加しているかなど10%。
- ・毎回の授業でフィードバックを行う予定です。

**【参考書】**

今井邦彦『新しい発想による英語発音指導』（大修館）  
川越いつえ『英語の音声を科学する』（大修館）  
松澤喜好『英語耳』（ASCII）  
小川貴宏『Sound Right!』（The Japan Times）  
小野昭一『英語音声学概論』（リーベル出版）  
竹林滋他『英語音声学入門』（大修館）  
安井 泉『音声学：現代の英語学シリーズ』（開拓社）

**【注意事項】**

受講人数制限35名です。（制限人数を超えた場合、抽選です。）英語の「歌」を歌う小テストも行います。

私語などの授業の妨害があった場合は、退室してもらいます。また、居眠りや携帯電話の使用などによって、授業への積極的参加が認められない場合、成績に大いに影響があることはわかってるわね。

**発達・学習理論**

(国文学科、美学美術史学科、生活科学部各学科 対象)

柏崎 秀子

2年 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

より良い教師になる基礎力を修得するために、ここでは、学習者の発達と学習に関する様々な理論を学ぶ。

なぜなら、具体的な教育指導や働きかけを行うには、教師は学習者がいかに物事を認識しているかを把握し、発達の状況を考慮することが必要だからである。学習者の年齢・発達段階によって、どのような特徴があるかを、諸理論から学び取る。また、学習や教育という行動はいかに行なわれているのか、学ぶこと・覚えること・意欲的になることなどに関する基本原則についても、諸理論から学び取る。さらに、教師を目指す者として、知っておくべき様々な障害の基礎についても理解を深める。

**【授業における到達目標】**

- ・子供の発達の道筋を説明でき、子供との接し方に配慮できるようになる。
- ・学習と記憶の仕組みがわかり、教育場面に応用できる。
- ・特別支援教育および発達障害の特徴、および指導のポイントを説明できるようになる。

**【授業の内容】**

1. 教育の心理学とは
2. 発達の原理（発達の可能性、遺伝と環境、発達段階）
3. 乳児期の発達
4. 幼児期の発達
5. 児童期の発達
6. 青年期の発達
7. 発達と教育（発達の最近接領域、文化と発達等）
8. 学習の理論1：連合説
9. 学習の理論2：認知説
10. 学習と記憶
11. 動機づけ—やる気を育てる—
12. 特別支援教育
13. 障害のある生徒の心身の発達
14. 障害のある生徒の学習の過程
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】テキストで該当箇所を読み、内容の理解に重要だと思われるキーワードを複数、挙げておく。加えて、考えておくべき項目を指示する場合もある。（学修時間：2時間）

【事後学修】学修した箇所のテキストの「まとめ」を実施して復習し、扱った内容を自分の経験と関連付けて文章化する。（学修時間：2時間）

**【テキスト・教材】**

『教職ベーシック 発達・学習の心理学（改訂版）』柏崎秀子（北樹出版 2017年）1,900円＋税

および、プリント資料

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験80%、平常点（小課題・授業への積極的参加）20%

小課題は基本的に翌週に返却してフィードバックする。

**【参考書】**

授業中に適宜紹介する。

**【注意事項】**

各自がこれまでに経験してきた教育・学習を思い出し、その背後にある理論との関連性を具体的に考えるようにしてほしい。



## 発達・学習理論

柏崎 秀子

2年 前期 2単位

### 【授業のテーマ】

より良い教師になる基礎力を修得するために、ここでは、学習者の発達と学習に関する様々な理論を学ぶ。

なぜなら、具体的な教育指導や働きかけを行うには、教師は学習者がいかに物事を認識しているかを把握し、発達の状況を考慮することが必要だからである。学習者の年齢・発達段階によって、どのような特徴があるかを、諸理論から学び取る。また、学習や教育という行動はいかに行なわれているのか、学ぶこと・覚えること・意欲的になることなどに関する基本原則についても、諸理論から学び取る。さらに、教師を目指す者として、知っておくべき様々な障害の基礎についても理解を深める。

### 【授業における到達目標】

- ・子供の発達の道筋を説明でき、子供との接し方に配慮できるようになる。
- ・学習と記憶の仕組みがわかり、教育場面に応用できる。
- ・特別支援教育および発達障害の特徴、および指導のポイントを説明できるようになる。

### 【授業の内容】

1. 教育の心理学とは
2. 発達の原理（発達の可能性、遺伝と環境、発達段階）
3. 乳児期の発達
4. 幼児期の発達
5. 児童期の発達
6. 青年期の発達
7. 発達と教育（発達の最近接領域、文化と発達等）
8. 学習の理論1：連合説
9. 学習の理論2：認知説
10. 学習と記憶
11. 動機づけ—やる気を育てる—
12. 特別支援教育
13. 障害のある生徒の心身の発達
14. 障害のある生徒の学習の過程
15. まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】テキストで該当箇所を読み、内容の理解に重要だと思われるキーワードを複数、挙げておく。加えて、考えておくべき項目を指示する場合もある。（学修時間：2時間）

【事後学修】学修した内容のテキストの「まとめ」を実施して復習し、扱った内容を自分の経験と関連付けて文章化する。（学修時間：2時間）

### 【テキスト・教材】

『教職ベーシック 発達・学習の心理学（改訂版）』柏崎秀子（北樹出版 2017年）1,900円＋税

およびプリント資料

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験80%、平常点（小課題・授業への積極的参加）20%

小課題は基本的に翌週に返却してフィードバックする。

### 【参考書】

授業中に適宜紹介する。

### 【注意事項】

各自がこれまでに経験してきた教育・学習を思い出し、その背後にある理論との関連性を具体的に考えるようにしてほしい。

**発達・学習理論**

教育に生かす心理学（英文学科、人間社会学部各学科 対象）

官脇 郁

2年 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

効果的な教育を行うためには、子供の発達の流れや学習・記憶の仕組みを理解し、児童・生徒の状態に合わせて教えていく必要がある。そこでこの授業では、発達と学習・記憶について基礎的な知識を身に付け、さらに教育場面への応用を考えていく。また、障害を持つ児童・生徒に対する教育についても学ぶ。

**【授業における到達目標】**

- ・子供の発達の道筋を説明でき（研鑽力）、子供との接し方に配慮できるようになる（美の探求のうち、人格の陶冶）。
- ・学習と記憶の仕組みがわかり（研鑽力）、教育場面に応用できる（行動力）。
- ・発達障害の特徴、および指導のポイントを説明できるようになる（研鑽力と行動力）。

**【授業の内容】**

## 1. インTRODクシヨン

## 発達

2. 乳児期の発達の特徴
3. 幼児期の発達の特徴
4. 児童期の発達の特徴
5. 青年期の発達の特徴
6. 発達の理論、発達と教育

## 学習と記憶

7. 古典的条件づけ
8. オペラント条件づけ
9. 認知的な学習、技能学習
10. 短期記憶と長期記憶

## 学習意欲

11. 内発的動機づけと外発的動機づけ
12. 学習意欲を高めるには

## 障害をもつ子どもの理解

13. 概論、発達障害の種類
14. 特別支援教育
15. まとめと振り返り

**【事前・事後学修】**

【事前学修】各回の授業は教科書の各章に対応しているので、事前に対応する章を読んで予習すること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】教科書の対応する章の穴埋め問題をやること。また、課題が出た場合は次回の授業時までにはやってくるように。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

柏崎秀子編著『教職ベーシック 発達・学習の心理学 [改訂版]』（北樹出版 2017年）2,052円  
また、適宜プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験70%、授業時の課題25%、平常点（授業への積極的参加度）5%で評価する。課題については添削の上、次回授業時に返却する。

**【注意事項】**

講義を受動的に聞くのではなく、積極的に自分の頭で考えることが必要である。このため、時々課題の提出を求める。

発達心理学 a

前川 真奈美

1年～ 前期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

人間の心身は、受精による個体の発生から死に至るまで、常に発達しています。特に乳幼児期は生涯のなかでも心身の変化が大きく、その後の対人関係や物事の捉え方にも影響を与えていると言われています。本講義では、胎生期から幼児期までの各段階について、心身の発達に関する理解を深めることを目的とします。

【授業における到達目標】

胎生期から幼児期にみられる心理的・身体的発達の特徴について修得します。心理的発達については、情動（気持ち、感情）や認知（物事のとらえ方）、対人関係（親子、友人）がどのように変化していくのかに着目して理解を深めます。さらに、発達障害を持つ子どもにみられる特徴や求められる対応についても学びます。本講義を通じて、学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、「協働力」のうち、自己と他者の役割を理解し、互いに尊重し合って豊かな人間関係を築く力を修得します。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス：発達心理学とは？
- 第2週 発達の規定要因：遺伝？環境？
- 第3週 胎生期から新生児期へ
- 第4週 新生児の認知・運動能力
- 第5週 愛着の形成：アタッチメント、基本的信頼感
- 第6週 感情の発達：心の理論、共同注意
- 第7週 自律性の発達：生活習慣の獲得
- 第8週 自我の発達：第一次反抗期
- 第9週 ことばの発達：喃語、一語文、二語文、外言、内言
- 第10週 遊びの意義と発達：象徴遊び、一人遊び～協同遊び
- 第11週 認知機能の発達：感覚運動期～前操作期
- 第12週 対人関係の発達：仲間関係のはじまり、けんかの役割
- 第13週 発達障害の理解
- 第14週 発達障害を持つ子どもへの支援
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】「授業の内容」に書かれた用語について、自分なりにインターネット等で調べてみましょう。（学修時間 週2時間）

【事後学修】日常生活で見かける子どもの様子を、授業で習得した知識と結び付けて観察する心がけましょう。あわせて、授業の内容をもとに、いま現在の自分に至るまでにどのような発達過程を経てきたのかを振り返る機会を作りましょう。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

テキストは使用せず、スライドを用いて授業を進めます。穴埋めプリントを授業時に配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験80%、平常点（授業態度、コメントペーパーの提出）20%  
期末試験終了後に、問題に関する解説します。

【注意事項】

毎授業後に感想や疑問点等をコメントペーパーに記入していただきます。必要に応じ、次回の授業開始時にいただいた疑問等にお答えします。  
他の受講生の迷惑となる行為（私語、スライドを携帯電話等で撮影する、など）は固く禁じます。

発達心理学 a

電車の騒がしい子供はいつから静かになるか

羽澄 恵

1年～ 前期 2単位

○：研鑽力

【授業のテーマ】

人間の発達とは、生まれてから死に至るまで生涯続く変化をさします。本授業では、特に就学前までの期間に焦点を当て、人間の心や頭が発達していく過程やメカニズムについて理解することを目的としています。そのために、まずは発達心理学の基本的理論と枠組みを学んだうえで、様々な能力の発達メカニズムや特徴をを学習し、最後に子供の発達にかかわる諸問題について学びます。

【授業における到達目標】

以下の3点を修得することを目標としています。  
①ある能力の発達過程、特徴と子供の年代を結び付けられる  
②ある能力の発達が生じるメカニズムを説明できる  
③乳幼児の事例をみて、発達時期の特定や行動の背景を①②に基づいて解説できる

【授業の内容】

配布プリントや映像、日常生活場面での子供の観察を利用しながらの講義形式が中心ですが、適宜リアクションペーパーを利用した事例の検討、理解の定着を目的とした確認テスト等も行います。本授業により日常生活での乳幼児との触れ合いが一層奥深いものとなることを期待しています。

- 第1週 ガイダンス：発達心理学とは何か
- 第2週 どのように人間は発達するか：発達心理学の理論と枠組み
- 第3週 産まれる前から発達は始まる：胎児期・周産期の発達
- 第4週 新生児は本当にママを見分けられるか：身体と知覚の発達
- 第5週 赤ちゃんの夜泣きはいつまで続く：睡眠の発達
- 第6週 プリキュアごっこが流行る理由：思考と記憶の発達
- 第7週 我が子の初語を“ママ”にするコツ：言葉の発達
- 第8週 喜びを知るのはいつ：情緒と自己の発達
- 第9週 愛する心はどう育つ：愛着の発達
- 第10週 子供が「先生に言うよ」に怯える理由：社会性の発達
- 第11週 子供は勝手に育つわけではない：環境と周囲の関わり
- 第12週 変わり者の境界線はどこ：発達障害の理解と対応
- 第13週 母親は神様ではない：養育者の抱える問題と対応
- 第14週 全体のまとめ
- 第15週 試験

【事前・事後学修】

事前学修として、日常生活場面での子供の観察や、メディアでの注目、ご自分の過去の発達過程に関する体験の振り返りをお願いします（所要時間 計2時間）

事後学修として、授業で学んだ内容および配布プリントの復習、日常生活場面での子供の行動との照らし合わせをお願いします（所要時間 計2時間）

【テキスト・教材】

配布プリントを使用

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験70%、平常点（授業への積極的参加、課題提出）30%  
授業の取り組み状況の点数、期末試験の得点との合計点により成績を評価します。100点満点中91点以上を+A、81点以上をA、71点以上をB、61点以上をCとし、60点以下はD（不合格）となります。なお、無断の遅刻や欠席は平常点の減点対象となります。やむを得ない事情がある場合には、該当書類を提出するか、事前にメールにて教員に連絡してください。試験のフィードバックとして、試験の模範回答および要点を配布します。

## 発達心理学 a

佐藤 恵美

1年～ 前期 2単位

○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

人間の発達、受精から死に至るまでの身体的・精神的変化の過程である。成人すると成長は終わりではなく、身体や心は一生を通じて変化し続け、絶えず発達している。本講義では、乳幼児期の発達について、身体的、心理的变化に関する基礎知識を学ぶことを目的とします。特に、発達初期の重要性に重点を置き、胎児期から乳児期の身体的発達と成長、そして幼児期の社会的環境に伴う心理的発達に関する過程から発達初期の重要性を学びます。さらに、発達初期の自己と他者の精神的発達の理解を重視し、豊かな対人関係構築のためのソーシャルスキルの発達過程と発達障がい児に関する理解も深めることを目的とします。

### 【授業における到達目標】

本講義では、発達の初期である胎児期から乳幼児期の発達について、身体的、心理的变化に関する基礎知識を学ぶことを目的とします。特に、発達初期の重要性に重点を置き、胎児期の脳と身体の形成、乳児期の身体的発達、そして幼児期の社会的環境に伴う心理的発達を学びます。さらに、発達初期の環境的側面で最も重要な愛着（アタッチメント）の理解と、豊かな対人関係構築のためのソーシャルスキルの発達過程を深めることを目的とします。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス：発達とは、発達心理学について
- 第2週 発達の規定要因と発達課題
- 第3週 胎児期から周産期：ヒトから人へ
- 第4週 新生児期：新生児の運動能力と認知
- 第5週 乳児期：アタッチメントと基本的信頼感
- 第6週 乳児期：知能の発達
- 第7週 幼児期Ⅰ：環境への適応と身体発達の分化
- 第8週 幼児期Ⅱ：自我の発達と第一反抗期
- 第9週 幼児期Ⅲ：感情の発達
- 第10週 幼児期Ⅳ：遊びの展開
- 第11週 幼児期Ⅴ：ことばの発達
- 第12週 幼児期Ⅵ：生活習慣の確立と自律性
- 第13週 認知機能の発達と分化
- 第14週 発達障害の理解：広汎性発達障がいについて
- 第15週 総括および達成度の確認

### 【事前・事後学修】

事前学習として、授業で指定された章を熟読し、概要と疑問点をまとめること（3時間）。  
事後学習として、授業で取り上げたテーマの内容と重要だった点、疑問点を400字程度でまとめ、次回の授業時に提出すること（1時間）。  
提出された授業レポートを提出後、授業前に学生の意見や疑問に対し、毎授業で10分程度のフィードバックを行う。

### 【テキスト・教材】

教科書『よくわかる発達心理学』 無藤 隆・岡本祐子・大坪治彦編（ミネルヴァ書房2004年）2500円＋税

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末テスト70%、授業レポート30%  
発表についてはその授業時間に、レポートについては授業最終回にフィードバックします。等

## 発達心理学 b

前川 真奈美

1年～ 後期 2単位

○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

“発達の終わり”を迎えるのはいつ頃だと思いますか？身長伸びが止まったときでしょうか？二十歳を迎えたときでしょうか？就職して社会人になったときでしょうか？人間の身体や心は、一生を通じて変化し続け、絶えず発達しています。“大人になること”が発達のゴールではないのです。本講義では、児童期から老年期までの各段階について、心身の発達に関する理解を深めることを目的とします。

### 【授業における到達目標】

児童期および思春期は学校教育現場に、青年期以降は家庭や職場といった場に焦点を当て、そこでどのような成長・発達を遂げるのかについて修得します。また、「女性のライフスタイルの変化」にも焦点を当て、現代社会において、個人がより適応的に生きるために必要な要因についても学びます。  
本講義を通じて、学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、「協働力」のうち、自己と他者の役割を理解し、互いに尊重し合って豊かな人間関係を築く力を修得します。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス：生涯発達という視点
- 第2週 児童期の認知機能：具体的操作期、メタ認知
- 第3週 児童期の対人関係：ギャンググループ、二次的信念
- 第4週 児童期の道徳性：向社会的道徳判断、役割取得能力、共感
- 第5週 学校教育と発達：いじめ、不登校、発達障害
- 第6週 思春期：第二次性徴、性役割
- 第7週 青年期：アイデンティティの確立
- 第8週 青年期の対人関係：心理的離乳、チャム／ピアグループ
- 第9週 キャリア選択：女性のライフスタイルの変化
- 第10週 働く意味：仕事と家庭の両立
- 第11週 結婚と出産：子育ての楽しさ・つらさ
- 第12週 成人期：中年期危機
- 第13週 老年期：身体の変化、こころの変化、認知症
- 第14週 成人期以降の危機への対処
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】「授業の内容」に書かれた用語について、自分なりにインターネット等で調べてみましょう。（学修時間 週2時間）  
【事後学修】授業の内容を実生活と結び付けて理解するよう心がけましょう。いま現在の自分に至るまでにどのような発達過程を経てきたのか、いまの自分はどのような状態なのか、今後自分はどう生きていきたいかを考える機会を作りましょう。（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

テキストは使用せず、スライドを用いて授業を進めます。  
穴埋めプリントを授業時に配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験80%、平常点（授業態度、コメントペーパーの提出）20%  
期末試験終了後に、問題に関する解説します。

### 【注意事項】

毎授業後に感想や疑問点等をコメントペーパーに記入していただきます。必要に応じ、次回の授業開始時にいただいた疑問等にお答えします。  
他の受講生の迷惑になる行為（私語、スライドを携帯電話等で撮影する、など）は固く禁じます。

## 発達心理学 b

佐藤 恵美

1年～ 後期 2単位

○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

人間の身体的、心理的变化による発達過程に関する生涯発達の基礎知識を学ぶことを目的とします。成人すると成長は終わりではなく、身体や心は一生を通じて変化し続け、絶えず発達しています。本講義では、児童期から高齢期までの発達の基礎的な知識と心理的側面に関する理解を深めることを目的とします。社会的役割における自己と他者の重要性を理解し、尊重することで、多様な価値観を持つ人々と共生し、理解し合うことで、社会へのより良い適応を目指します。青年期以降は身体的発達よりも心理的発達に焦点を置き、アイデンティティ獲得から職業生活、恋愛と結婚、親になることなど環境の変化に適応する人間の心理的变化の発達過程について知識を習得するようにする。

### 【授業における到達目標】

本講義では、児童期から高齢期までの発達の基礎的な知識と心理的側面に関する理解を深めることを目的とします。特に、学校、家庭、職場などさまざまな社会的環境の適応の視点から、身体的発達と心理的な発達課題の知識を習得する。これにより、さまざまな社会的環境の適応に重要なライフイベントを取り上げ、多様な環境の人々と共生し、より良く生きていくための方略を考えていくことができるようにする。さらに、自分自身と自分を取り巻く人々との将来的な精神的成長を考えながら現在の生き方の目標を生涯発達の観点から設定できることを目的とします。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス：児童期から高齢期の発達の特徴について
- 第2週 児童期：身体発達と発達加速現象
- 第3週 児童期：学校教育と発達（集団生活と自己効力感について）
- 第4週 児童期：自己意識と知能・認知の質的变化について
- 第5週 道徳性の発達と社会的立場
- 第6週 思春期：第二性徴と性役割について
- 第7週 青年期：アイデンティティの獲得と危機
- 第8週 青年期：時間的展望と将来計画
- 第9週 成人前期：職業選択とキャリア発達
- 第10週 成人期：恋愛と結婚
- 第11週 成人期：親になること
- 第12週 中年期：身体的変化と心理・社会的発達
- 第13週 高齢期：高齢期の身体と心理的機能
- 第14週 高齢期：痴呆と介護、死の受容
- 第15週 総括および達成度の確認

### 【事前・事後学修】

事前学習として、授業で指定された章を熟読し、概要と疑問点をまとめること（3時間）。

事後学習として、授業で取り上げたテーマの内容と重要だった点、疑問点を400字程度でまとめ、次回の授業時に提出すること（1時間）。

提出された授業レポートを提出後、授業前に学生の意見や疑問に対し、毎授業で10分程度のフィードバックを行う。

### 【テキスト・教材】

教科書 無藤 隆・岡本祐子・大坪治彦編『よくわかる発達心理学』（ミネルヴァ書房、2004年）2,500円＋税

適宜プリント配布

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末テスト70%、授業レポート30%

発表についてはその授業時間に、レポートについては授業最終回にフィードバックします。等

## 発達臨床心理学

佐藤 恵美

3年 前期 2単位

○：研鑽力、行動力

## 【授業のテーマ】

発達とは、受精から死に至るまでの時間的変化に伴う身体的・精神的变化の過程である。人は生きる上で、遺伝や環境などの要因によって生じるさまざまな臨床的問題があります。人がより良く生きていくためには、発達上生じる身体的、精神的障害などの臨床的な問題に対する基礎的知識を身につけ、心理的課題を発見し、周囲との連携を保ちながら問題に対処することが重要です。この授業では、受精から誕生、乳幼児期から高齢期までの発達上の先天的・後天的要因における臨床的問題を学び、日常生活でケアを必要とする人々を見極め、その人々に対する日常生活上の課題発見、家族など周囲との調整を行う能力を身につけるための実践的な支援活動の知識を獲得することを目的とします。

## 【授業における到達目標】

この授業では、発達上の先天的・後天的要因における臨床的問題を学び、環境に適応しながらより良く生きていくための知識と支援の方法を習得し、社会におけるさまざまな身体的障害、発達障害、精神的疾患に対する理解を深める。特に、教育、介護、保育現場など発達上心理的支援が必要な人々に対し、誰がケアを必要とする人かを見極め、本人とその周囲の人々に対する課題発見を行うための実践的な支援活動の知識の獲得と、家族や行政など周囲との調整を行いながら問題解決を図る協働力の向上を図ることを目的とします。

## 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス：心理学、発達心理学、発達臨床心理学の関連性
- 第2週 身体的・精神的発達における心理・社会的課題とその支援
- 第3週 ケアを必要とする人と問題行動の捉え方：正常と異常について
- 第4週 胎児期：身体障害・知的障害など先天的異常について
- 第5週 乳幼児期：知的障害と発達の支援
- 第6週 広汎性発達障害：自閉症、注意欠陥・多動性障害、学習障害
- 第7週 愛着障害：アタッチメントとマザリング、虐待について
- 第8週 学校生活の適応と不適応：不登校・いじめ、情緒障害
- 第9週 気分障害
- 第10週 統合失調症、パーソナリティ障害
- 第11週 神経症・心身症・小児心身症
- 第12週 摂食障害
- 第13週 認知行動療法、精神分析療法などの治療概要とその支援
- 第14週 高齢期の精神障害と認知症
- 第15週 総括および達成度の確認

## 【事前・事後学修】

事前学習として、授業で指定された章を熟読し、概要と疑問点をまとめること（3時間）。

事後学習として、授業で取り上げたテーマの内容と重要だった点、疑問点を400字程度でまとめ、次回の授業時に提出すること（1時間）。

提出された授業レポートを提出後、授業前に学生の意見や疑問に対し、毎授業で10分程度のフィードバックを行う。

## 【テキスト・教材】

教科書 大石史博・西川隆蔵・中村義行 編『発達臨床心理学ハンドブック』（ナカニシヤ出版、2008年）2600円  
適宜プリント配布

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

期末試験 70%、授業レポート30%

発表についてはその授業時間に、レポートについては授業最終回にフィードバックします。

**比較文化 a**

宮廷装束から見る日本の伝統文化とその意義

高倉 永佳

2年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

平安時代後期から現代までの約800年間継承されてきた宮廷装束。現在も執り行われている三勅祭（春日祭・賀茂祭・石清水祭）、神宮式年遷宮などの儀式で用いられる宮廷装束とその着装の技術と精神である「衣紋道」の観点から、現代における日本の伝統文化の意義について学んでゆく。

**【授業における到達目標】**

日本の伝統文化への理解と意識の向上を目標とし、日本古来の精神性や美の価値を見出し、感受性を向上させる態度を身につける。また、それらを世界に発信しようとする態度を身につける。日本の伝統文化やその継承の意義について考察することにより、自ら課題を発見し解決するための行動力を身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 日常の中の和様とは？
- 第3週 日本の宮廷装束とは？
- 第4週 衣紋道について① 歴史
- 第5週 衣紋道について② 概要
- 第6週 様々な装束について
- 第7週 三勅祭について① 春日祭
- 第8週 三勅祭について② 賀茂祭
- 第9週 三勅祭について③ 石清水祭
- 第10週 神宮式年遷宮について① 歴史
- 第11週 神宮式年遷宮について② 概要
- 第12週 神宮式年遷宮について③ 趣旨
- 第13週 宮中祭祀について
- 第14週 年中行事について
- 第15週 まとめ 日本の伝統文化について

校外実習 [装束の着装見学]

日時：平成30年6月中の土曜日を予定 日程調整中

場所：國學院大學渋谷キャンパス 120周年記念2号館 2階 祭式教室

内容：束帯と十二単の着装と解説

備考：現地集合・解散 開催日時など詳細については授業内で説明する

**【事前・事後学修】**

〔事前学修〕各授業で次回の課題を提示するので、調べたことをノートにまとめ、次回授業内容のキーワードについて予習しておくこと。適宜、課題の提出を指示する。（学修時間：週2時間）

〔事後学修〕授業で説明した内容を整理し、日常における身近な伝統行事などを取り上げ、それぞれの文化の歴史・概念・意義について自身の考えとその理由をまとめておくこと。（学修時間：週2時間）

**【テキスト・教材】**

基本的に映像資料などを活用するため、テキストなどの準備は必要ありません。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への積極参加・発表内容・授業態度）60%、課題提出・期末レポート40%。  
提出課題は次回授業、期末レポート結果は授業最終回にフィードバックを行う。

**【参考書】**

適宜、授業中に提示する。

**【注意事項】**

第1週目の授業で具体的な注意事項を説明するので、くれぐれも欠席・遅刻のないように留意すること。授業内容や順序は、受講者の興味や理解度にあわせて、適宜変更することがあります。

**比較文化 a**

宮廷装束から見る日本の伝統文化とその意義

高倉 永佳

2年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

平安時代後期から現代までの約800年間継承されてきた宮廷装束。現在も執り行われている三勅祭（春日祭・賀茂祭・石清水祭）、神宮式年遷宮などの儀式で用いられる宮廷装束とその着装の技術と精神である「衣紋道」の観点から、現代における日本の伝統文化の意義について学んでゆく。

**【授業における到達目標】**

日本の伝統文化への理解と意識の向上を目標とし、日本古来の精神性や美の価値を見出し、感受性を向上させる態度を身につける。また、それらを世界に発信しようとする態度を身につける。日本の伝統文化やその継承の意義について考察することにより、自ら課題を発見し解決するための行動力を身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 日常の中の和様とは？
- 第3週 日本の宮廷装束とは？
- 第4週 衣紋道について① 歴史
- 第5週 衣紋道について② 概要
- 第6週 様々な装束について
- 第7週 三勅祭について① 春日祭
- 第8週 三勅祭について② 賀茂祭
- 第9週 三勅祭について③ 石清水祭
- 第10週 神宮式年遷宮について① 歴史
- 第11週 神宮式年遷宮について② 概要
- 第12週 神宮式年遷宮について③ 趣旨
- 第13週 宮中祭祀について
- 第14週 年中行事について
- 第15週 まとめ 日本の伝統文化について

校外実習 [装束の着装見学]

日時：平成30年6月中の土曜日を予定 日程調整中

場所：國學院大學渋谷キャンパス 120周年記念2号館 2階 祭式教室

内容：束帯と十二単の着装と解説

備考：現地集合・解散 開催日時など詳細については授業内で説明する

**【事前・事後学修】**

〔事前学修〕各授業で次回の課題を提示するので、調べたことをノートにまとめ、次回授業内容のキーワードについて予習しておくこと。適宜、課題の提出を指示する。（学修時間：週2時間）

〔事後学修〕授業で説明した内容を整理し、日常における身近な伝統行事などを取り上げ、それぞれの文化の歴史・概念・意義について自身の考えとその理由をまとめておくこと。（学修時間：週2時間）

**【テキスト・教材】**

基本的に映像資料などを活用するため、テキストなどの準備は必要ありません。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への積極参加・発表内容・授業態度）60%、課題提出・期末レポート40%。  
提出課題は次回授業、期末レポート結果は授業最終回にフィードバックを行う。

**【参考書】**

適宜、授業中に提示する。

**【注意事項】**

第1週目の授業で具体的な注意事項を説明するので、くれぐれも欠席・遅刻のないように留意すること。授業内容や順序は、受講者の興味や理解度にあわせて、適宜変更することがあります。



## 比較文化 b

—日本の礼法と国際儀礼（プロトコール）—

永井 とも子

2年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

日本の礼法と国際儀礼（プロトコール）を比較しながら「凛とした品格をそなえた女性」をめざし、グローバル化された社会生活に対応できる基礎的マナー（エチケット）力をつける、キャリア形成に役立てる、を目標にする。

この講座は、ASSOCIATION JAPONAISE DE PROTOCOLE スペシャリスト育成初級に準じた内容で学習する。

### 【授業における到達目標】

(1) 日本と世界の儀礼を比較、理解し、今後の実社会の行動に役立つようにする。

(2) 伝統文化とプロトコールの体験を通じて、物事の真理を探究する態度・国際感覚を深め、互いの国を尊重・信頼することを育成して、豊かな人間関係を構築し、協力して物事が進められるようにする。

### 【授業の内容】

- 第1週 日本の礼法・国際儀礼（プロトコール）とは
- 第2週 日本の礼法と国際儀礼（プロトコール）の違い
- 第3週 礼法（作法）・プロトコールの必要性和表現方法
- 第4週 紹介の意義
- 第5週 自己紹介
- 第6週 名刺とは
- 第7週 乗り物の注意点
- 第8週 テーブルプランとは
- 第9週 テーブルプランの実践
- 第10週 日本の和室の決まり
- 第11週 テーブルセッティング
- 第12週 和食器のセッティング
- 第13週 ビジネスにおける食事
- 第14週 総括・プロトコールチェックポイント
- 第15週 まとめ・総括

◎2週～14週まで人前での立ち姿・所作

話し方までの指導付加

◎使用教室の都合で授業内容順番の変更あり

### 【事前・事後学修】

〈事前学修〉

毎回の授業前にテキストで該当箇所を読み、予習をしておくこと。

(30分～1時間)

〈事後学修〉

授業で学修したことを生活に取り入れ、実践をすること。及び、関連した事柄に着目し、応用力をつけるよう努力すること。

(3時間～3時間半)

### 【テキスト・教材】

適宜プリント配布、DVD視聴

テキスト 仙石宗久著「NIVEAU ELEMENTAIRE

DETIQUETTE ET DE PROTOCOLE」2000円

永井とも子著「儀礼（マナー）は人生を拓（ひら）く」

（ヒーロー出版）1800円＋税

詳細は開講時に説明

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

【1】実技試験15% 【2】レポート25% 【3】平常点（授業への積極参加・提出課題）60%

レポートは次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

### 【参考書】

適宜紹介する。

### 【注意事項】

受講者数は30名までとする。和室を使用する演習では白いソックスを各自用意し、受講にふさわしい服装とする。

**比較文化 b**

—日本の礼法と国際儀礼（プロトコール）—

永井 とも子

2年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

日本の礼法と国際儀礼（プロトコール）を比較しながら「凛とした品格をそなえた女性」をめざし、グローバル化された社会生活に対応できる基礎的マナー（エチケット）力をつける、キャリア形成に役立てる、を目標にする。

この講座は、ASSOCIATION JAPONAISE DE PROTOCOLE スペシャリスト育成初級に準じた内容で学習する。

**【授業における到達目標】**

（1）日本と世界の儀礼を比較、理解し、今後の実社会の行動に役立つようにする。

（2）伝統文化とプロトコールの体験を通じて、物事の真理を探究する態度・国際感覚を深め、互いの国を尊重・信頼することを育成して、豊かな人間関係を構築し、協力して物事が進められるようにする。

**【授業の内容】**

- 第1週 日本の礼法・国際儀礼（プロトコール）とは
- 第2週 日本の礼法と国際儀礼（プロトコール）の違い
- 第3週 礼法（作法）・プロトコールの必要性と表現方法
- 第4週 紹介の意義
- 第5週 自己紹介
- 第6週 名刺とは
- 第7週 乗り物の注意点
- 第8週 テーブルプランとは
- 第9週 テーブルプランの実践
- 第10週 日本の和室の決まり
- 第11週 テーブルセッティング
- 第12週 和食器のセッティング
- 第13週 ビジネスにおける食事
- 第14週 総括・プロトコールチェックポイント
- 第15週 まとめ・総括

◎2週～14週まで人前での立ち姿・所作

話し方までの指導付加

◎使用教室の都合で授業内容順番の変更あり

**【事前・事後学修】**

〈事前学修〉

毎回の授業前にテキストで該当箇所を読み、予習をしておくこと。

（30分～1時間）

〈事後学修〉

授業で学修したことを生活に取り入れ、実践をすること。及び、関連した事柄に着目し、応用力をつけるよう努力すること。

（3時間～3時間半）

**【テキスト・教材】**

適宜プリント配布、DVD視聴

テキスト 仙石宗久著「NIVEAU ELEMENTAIRE

DETIQUETTE ET DE PROTOCOLE」2000円

永井とも子著「儀礼（マナー）は人生を拓（ひら）く」

（ヒーロー出版）1800円＋税

詳細は開講時に説明

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

【1】実技試験15% 【2】レポート25% 【3】平常点（授業への積極参加・提出課題）60%

レポートは次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行う。

**【参考書】**

適宜紹介する。

**【注意事項】**

受講者数は30名までとする。和室を使用する演習では白いソックスを各自用意し、受講にふさわしい服装とする。

## 比較文化論A

久保田 佳枝

1・2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探求、研鑽力

## 【授業のテーマ】

この授業は、目では見えない境界線を考慮するために、文化を学習しながら、日本だけでなく、さまざまな国における文化の相違を見ていきます。前半は文化に関する理論を主に学習し、また後半には実際の調査データなどを通して、世界の中での日本を見ていきます。

## 【授業における到達目標】

この授業の到達目標は、多様な文化の共生・共存を目指す現代社会を理解しながら、多様な物の見方や考え方を養うことです。また、文化への理解を深めることで、国際的視野をも養いながら、美の探求および研鑽力の育成も目指します。

## 【授業の内容】

1. オリエンテーション（シラバス・授業の進め方等の説明）
2. コミュニケーションは文化を語る（言語・非言語）
3. 異質な他者（自文化中心主義・文化相対主義）
4. 外国から見た日本社会
5. 文化を比較するということ
6. 文化とは①
7. 文化とは②
8. Hofstedeによる文化的指標
9. データから読み取る文化比較①
10. データから読み取る文化比較②
11. 事例：映像で見る文化比較①
12. 事例：映像で見る文化比較②
13. 期末課題プレゼンテーション①
14. 期末課題プレゼンテーション②
15. まとめ

※学外講師による講義を予定しています（日程は未定）。

※クラスの状況により、順番が変更される場合があります。

## 【事前・事後学修】

【事前学修】前もって配布される教材をよく読む。

（学修時間は週2時間）

【事後学修】プリントを復習すること。授業で扱ったテーマに関連する文献等を読んで、理解を深めておくこと。（学修時間は週2時間）

## 【テキスト・教材】

教材は、適宜プリントを配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への積極的な参加および貢献・エクストラクレジット等含む）40%、期末課題60%として総合評価を行なう。リアクションシートは次回授業においてフィードバックを行なう。

## 【注意事項】

この授業では、講師と学生のインタラクションのスタイルをとって質疑応答、グループディスカッションなどを行っていきます。

## 比較文化論B

久保田 佳枝

1・2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探求、研鑽力

## 【授業のテーマ】

グローバル社会になってきた現代において、多様な人々とうまくやっていくためには多様な文化を理解し、それらを柔軟に対応することが求められるようになってきました。この授業では、比較文化論Aに続き、目では見えない文化による境界を学びながら、さまざまな国における文化の相違をみていきます。

## 【授業における到達目標】

この授業は、多様な文化に共生・共存を目指す現代社会を理解しながら、多様な物の見方や考え方を養うことを目標としています。また文化の違いに対する理解を深めながら国際的視野を養い、美の探求、研鑽力の育成を目指します。

## 【授業の内容】

1. オリエンテーション（シラバス・テキスト・授業の進め方等の説明）
2. 文化とは（比較文化論Aの復習）
3. 文化を比較するとは（比較文化論Aの復習）
4. 文化心理学①
5. 文化心理学②
6. 文化心理学③
7. 中間クイズ
8. 世界価値観調査（第1章）①
9. 世界価値観調査（第1章）②
10. 世界価値観調査2.1人生・ライフスタイルに関する意識
11. 世界価値観調査2.2ジェンダー・家族に関する意識
12. 世界価値観調査2.3宗教に関する意識
13. 世界価値観調査2.4生活様式の変化
14. まとめ
15. 期末課題提出

※学外講師による講義を予定しています（日程は未定）。

※クラスの状況などにより、順番が変更される場合があります。

## 【事前・事後学修】

【事前学修】指定教科書の該当範囲を読んでおくこと。（学修時間は2時間）

【事後学修】

理解を深めるために、授業で学んだ内容と専門用語の理解を深めておくこと。（学修時間は2時間）

## 【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配布します。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点40%（授業への積極的な参加・貢献等含む）、中間クイズ30%、期末課題30%として総合評価を行う。リアクションシートは次回授業また個人発表については各回授業でフィードバックを行う。

## 【参考書】

池田謙一『日本人の考え方世界の人の考え方：世界価値観調査から見えるもの』（勁草書房、2016）

山岸俊男『文化を実験する：社会行動の文化・制度的基盤』（勁草書房、2014）

## 比較文化論 a

マルチェフ, ミレン・アングロフ

1年～ 前期・後期 2単位

○: 国際的視野、美の探求、研鑽力

### 【授業のテーマ】

特定の国や社会の文化に「どのような特徴があるか」を知るための不可欠な要素の一つは、どのような特徴がないか」を同時に知ることです。文化と文化の比較からこそ、それぞれの社会の行動様式や考え方がより明瞭に見えてきます。この授業では、日本と西洋の国、また西洋国同士の文化を「音」、「言語文化」、「時空間」、「物語」等の幅広い観点から対照し、マルチメディアの教材を使用しながら考えていきます。

### 【授業における到達目標】

国際コミュニティの中の様々な社会について知識や洞察を重ねることにより、自らが属する社会の特徴と位置づけに対する理解を深める（国際的視野）。学生が習得すべき「研鑽力」のうち、特に「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる」能力を身につける。

### 【授業の内容】

- 第1週 文化とは 導入
- 第2週 文化とは 事例
- 第3週 挨拶から見た文化 導入
- 第4週 挨拶から見た文化 事例
- 第5週 入浴とパーニャ
- 第6週 「音」から見た文化 導入
- 第7週 「音」から見た文化 事例
- 第8週 「選択」の文化
- 第9週 「訳」で失われるものと得られるもの：ウナギと残心
- 第10週 外国人から見た日本文化 導入
- 第11週 外国人から見た日本文化 事例
- 第12週 クジラ類に対する価値観とイデオロギー：英語圏と日本
- 第13週 映画「Baraka」の世界
- 第14週 インターネット文化の比較：オンライン談話・ウェブサイトの構築
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

毎回、次回のテーマを発表しますので、それについての予備知識・問題意識を備えた上で講義を聞いて下さい（事前学修時間 週1時間半）。さらに、授業中に紹介された文献・資料などを読み理解を深めること（事後学修時間 週2時間半）。

### 【テキスト・教材】

教材は適宜プリントにて配布します。オンラインでアクセスできる関連情報がある場合、授業中に案内します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内容に対する理解度（60%）と学生独自の考え方（40%）をはかる期末クイズで評価します。期末クイズの解答をmanabaに掲載することでフィードバックする。

## 比較文化論 b

マルチェフ, ミレン・アングロフ

1年～ 後期 2単位

○: 国際的視野、美の探求、研鑽力

### 【授業のテーマ】

異文化と接したり、異文化を考えることは、他の社会や人間集団の行動・思考様式に関する知識が増えるとともに、自らの文化をより深く知る大きなきっかけにもなります。この授業では、日本と西洋の国、また西洋国同士の文化を「音楽」、「スポーツ」、「生活環境」、「コミュニケーション媒体」、「宗教やスピリチュアリティ」、「ことわざ」等の幅広い観点から対照し、マルチメディアの教材使用しながら考えていきます。

### 【授業における到達目標】

国際コミュニティの中の様々な社会について知識や洞察を重ねることにより、自らが属する社会の特徴と位置づけに対する理解を深める（国際的視野）。学生が習得すべき「研鑽力」のうち、特に「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる」能力を身につける。

### 【授業の内容】

- 第1週 授業イントロダクション
- 第2週 異文化を考えるときの気を付けること
- 第3週 異文化の「異」が生み出す価値
- 第4週 楽器音楽の文化比較 導入
- 第5週 楽器音楽の文化比 事例
- 第6週 「住まい」の文化比較
- 第7週 スポーツから見た文化比較
- 第8週 ドッキリ！隠しカメラから見た文化の比較
- 第9週 「諺」から見た文化
- 第10週 コミュニケーションの媒体と文化
- 第11週 臨死体験の文化比較
- 第12週 スピリチュアリティの文化比較
- 第13週 戦争と平和の文化
- 第14週 映画「Samsara」の世界
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

毎回、次回のテーマを発表しますので、それについての予備知識・問題意識を備えた上で講義を聞いて下さい（事前学修時間 週1時間半）。さらに、授業中に紹介された文献・資料などを読み理解を深めること（事後学修時間 週2時間半）。

### 【テキスト・教材】

教材は適宜プリントにて配布します。オンラインでアクセスできる関連情報がある場合、授業中に案内します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内容に対する理解度（60%）と学生独自の考え方（40%）をはかる期末クイズで評価します。期末クイズの解答をmanabaに掲載することでフィードバックする。

## 比較文学 a

世界文学の解釈と理論

小林 真知子

1年～ 前期 2単位

○：国際的視野、美の探求、研鑽力

### 【授業のテーマ】

比較文学は文芸学の発展にともない、文学過程をより広範な文学間のなかで認識することを求めることから生まれてきた。世界文学の脈絡のなかで、もろもろの関係や類似性を明らかにすることにより、文芸現象の生成と本質を理解することにつとめる。ミメシス、曖昧の問題、解釈学、古典、作の意図、叙事詩、詩型、小説、物語論、ミリュエなど文学の発生論上、または類型論上の関係を認識するための基本的な方法技法、言語芸術の美的構造、定説および学術用語を概説する。作品間に共通なもの、普遍的なものを見ようとする文学批評の原理は比較文学の実践であり、作品解釈をする上で必須となる体系的知識を通時的かつ共時的に例証を通して学んでいく。

### 【授業における到達目標】

普遍性と共通性を求める比較文学の方法論と言語芸術への批評的アプローチの技法を学び、言語のもつ比喩的な喚起力、論証的な思考力、感受性、審美眼、想像力、読解力、表現力を養い、主体的に作品研究に取り組むことを目標とする。

### 【授業の内容】

- 1 比較文学とは何か？ 定義、定説、学問の成立過程
- 2 表現の比較ーアウエルバッハ『ミメシス』
- 3 曖昧の問題ーウィリアム・エンブソン『曖昧の七つの型』
- 4 解釈学ーバルトのバルザック、カーモード『秘義の発生』
- 5 古典とはなにかーアーノルド、T. S. エリオット、
- 6 作家の意図ー ポープ、ゲーテ、ロラン・バルト
- 7 カタルシスとしての芸術ーアリストテレス、フロイド
- 8 Narrative Story 物語論ー行為の統一
- 9 叙事詩 ホメロス、ヴェルギリウス、ダンテ、ミルトン
- 10 叙情詩、イメージ論ーワーズワス、コールリッジ、イェイツ、
- 11 ゴシック ジェイン・オースティン、シェレイ、ブロンテ
- 12 文芸翻訳特有の問題 Translation
- 13 象徴主義の文学運動とニュークリティシズム
- 14 自伝と告白文学 ルソー、フランクリン
- 15 比較文学のシェイクスピア

### 【事前・事後学修】

事前学修として講義のテーマを確認し、問題提起をする。

(週1時間程度)

事後学修として講義の復習ノートを作成し、要点を整理し、文献表を参考に関連書籍を読み、研究課題に取り組む。(週3時間程度)

### 【テキスト・教材】

資料配布

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中の小テスト 20% manabaで答え合わせをする

毎月の課題 40% 課題文の論評を通して問題意識を確認する

期末レポート 40%

### 【参考書】

イヴ・シュヴレル著 福田隆太郎訳『比較文学』(白水社 2001年)

ディオニーズ・デュリシ 谷口勇訳『比較文学』(而立書房 2003年)

その他、文献情報をプリント配布

## 比較文学 b

文学のトポグラフィー

小林 真知子

1年～ 後期 2単位

○：国際的視野、美の探求、研鑽力

### 【授業のテーマ】

景観(Landscape)と内観(Innerscape)の描写による現実の土地と心の土地(内的空間、文学空間)、心象風景と記憶により想起される出来事、文化上、歴史上の背景の確立を通して状況の詳細により明らかになる人物像の開示などを諸作品の中に辿る。パリ、ロンドン、ダブリン、ウィーンなどの都市を舞台とした作品世界の登場人物の空間移動とそこに内包される社会的要素との関係で構成される「場」の構造から生活情景と人間関係を解釈することを試みる。

### 【授業における到達目標】

読解力、表現力を養い、解釈学と文学批評の方法論を身につける。都市生活者の生活様式的具体相が人間関係や人の心とどのように連結しているのかを社会成層と人間生活を念入りに解釈して構築された作品世界の理解により読解力を養う。心象風景と記憶が現実の選択や行動また美意識に深く結びついている関係性を作品がどのような手法を用いて表現しているのかを考察する。

### 【授業の内容】

- 1) 文学のトポグラフィー、バルザックのパリ
- 2) フローベルのパリ
- 3) ゴラのバリの社会成層
- 4) マルセル・ブルーストのパリ 土地の名前の独自性
- 5) ディケンズ『二都物語』のパリとロンドン
- 6) スペンサー、ミルトンのロンドン
- 7) ワーズワス、ブレイク、詩人たちのロンドン
- 8) T・S・エリオットのロンドン
- 9) ヴァージニア・ウルフ 『ダロウェイ夫人』のロンドン
- 10) ジェイムズ・ジョイス 『ダブリン市民』『ユリシーズ』
- 11) グレアム・グリーン 『第三の男』のウィーン
- 12) ヴォネガット 『スローターハウス5』のドレスデン
- 13) アルベール・カミュ『ペスト』のオラン
- 14) ウィリアム・フォークナー『八月の光』のヨクナパトーファ郡
- 15) ポストコロニアル文学 ジェーン・エアと『サルガッソーの青い海』

### 【事前・事後学修】

事前学修として講義のテーマを確認し、問題提起をする。(週1時間程度)

事後学修として講義の復習ノートを作成し、要点を整理し、文献表を参考に関連書籍を読み、研究課題に取り組む。(週3時間程度)

### 【テキスト・教材】

資料配布。

講義で扱う文学作品

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業中の小テスト 20% manabaで答え合わせをする

毎月の課題 40% 課題文の論評を通して問題意識を確認する

期末レポート 40%

### 【参考書】

資料配布

**被服衛生学**

齊藤 秀子

4年 前期 2単位

◎：研鑽力

**【授業のテーマ】**

生活環境に関わる被服に着目して、その着心地や快適性をテーマに学ぶ。主に被服の体温調節との関わりについて学び、被服設計、被服選択の基礎となる理論を理解する。さらに、被服の運動快適性と衣服圧について、安全との関わりについて学ぶ。

**【授業における到達目標】**

被服気候、クロー値や衣服圧をはじめとする被服衛生学の基本的事項を説明でき、被服衛生学の理論を用いて、被服の快適性について議論できることを到達目標とする。

**【授業の内容】**

- 第1週 被服衛生学の定義、歴史、方法論
- 第2週 温熱環境条件とその測定法
- 第3週 温熱環境の快適性評価と日本の衣生活
- 第4週 人の体温と皮膚温
- 第5週 人の体温調節と体熱の産生
- 第6週 人と環境間の熱移動
- 第7週 不感蒸泄と発汗
- 第8週 衣服素材の熱的特性、水分特性
- 第9週 衣服気候とクロー値
- 第10週 着衣の熱抵抗を左右する要因
- 第11週 運動の側面からみた衣服の機能性と評価
- 第12週 衣服圧、その測定と人体への影響
- 第13週 衣服と安全、高齢者の衣服
- 第14週 衣環境に関する研究例
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

配付プリントを読み、次回授業の内容を把握して授業に臨むことまたは、調べ学修の課題を作成すること。（学修時間 週2時間）

**【事後学修】**

授業後はノートを見て、理解できてない点をプリント、参考書等で確認すること。課題がある場合は、課題を作成し提出すること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

各授業の内容、また、演習のための説明プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

受講態度20%、授業時レポート15%、試験65%

レポートについては、データ、レポート内容をパワーポイントに集約し、コメントすることでフィードバックする。

試験の解答、採点方法等を試験終了時にパワーポイントを用いて説明する。

**【参考書】**

- 齊藤秀子、呑山委佐子編著『快適服の時代』おうふう（2006）
- 日本家政学会編『環境として衣服』朝倉書店（1991）
- 田村照子著『基礎衣服衛生学』文化出版局（1985）
- 田村照子編著『衣環境の科学』建帛社（2004）
- 日本家政学会被服衛生学部会編『アパレルと健康-基礎から進化する衣服まで-』井上書院（2012）

**【注意事項】**

授業時に必ず配布プリントを持参すること。

**微生物学**

地球の生態系と微生物・ヒトの暮らしと微生物

秋田 修

4年 後期 2単位

○：美の探究、研鑽力

**【授業のテーマ】**

微生物は目に見えない多種多様な生物の総称です。微生物とはどのような生物たちなのか、どのような生き方をしているのかを学ぶことで生物（生命）の多様性についての理解を深めます。さらに生物進化と微生物との関わりについても学びます。

また、現在の地球生態系は微生物なしでは維持できません。地球生態系においてどのような役割を担っているのか、我々の生活とどのように関わっているのか、さらには、食品産業やバイオテクノロジー分野も含めた様々な産業においてどのように利用されているのかについて学びます。

**【授業における到達目標】**

地球上の現生生物の全てが微生物に由来することを学び生命の神秘や自然の真理を理解することで、学ぶ楽しみを知り「知」を探究する研鑽力を養うことを目標とします。

**【授業の内容】**

- 第1週 微生物と微生物利用技術の概要
- 第2週 生命の誕生と生物が生きる仕組み
- 第3週 ウイルスは生物なのか（ヒトへの感染の仕組み）
- 第4週 微生物研究の歴史、微生物の増殖と環境要因
- 第5週 食中毒菌の特徴と食中毒予防法
- 第6週 光合成細菌の出現と大気中酸素濃度の上昇が招いたもの
- 第7週 独立栄養微生物と従属栄養微生物
- 第8週 地球の物質循環に貢献している微生物群
- 第9週 微生物とバイオテクノロジー
- 第10週 乳酸菌とヒトとの共生（乳酸発酵食品）
- 第11週 微生物発酵技術が利用されている発酵産業
- 第12週 酵母：ヒトの暮らしに深く関わる酵母
- 第13週 カビ：ヒトの暮らしに深く関わるカビ
- 第14週 麹菌：ヒトの暮らしに深く関わる麹菌
- 第15週 講義内容の総括と総合演習

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回の講義内容に関する課題を配布するので参考書等により自己学修して授業に臨むこと。課題は講義終了後に提出してもらいます。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 課題は採点して翌週返却します。課題の解説をmanabaに掲載するのでそれを読んで必ず復習をすること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

特定のテキストは使用せず、毎回の講義時にプリント資料を配布します。毎回の講義で学ぶべき重要事項を課題として出題します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

筆記試験80%、授業への取り組み態度（課題の提出率等）と課題の評価20%により成績評価します。試験は課題から出題します。

試験の参考解答をmanabaに掲載することでフィードバックします。

**【参考書】**

- 『食品微生物の基礎』（講談社）『暮らしと微生物』（培風館）
- 『トコトンやさしい発酵の本』（日刊工業新聞社）
- 『微生物ってなに？』（日科技連）
- 『知りたいサイエンス 人を助ける へんな細菌 すごい細菌』（技術評論社）『微生物の驚異』（別冊日経サイエンスno. 221）

**【注意事項】**

参考書は微生物についてやさしく解説している入門書です。事前に読んでおくと微生物に関する知識が得られるので講義が理解しやすくなります。

**微生物学**

地球の生態系と微生物・ヒトの暮らしと微生物

**秋田 修**

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

微生物は目に見えない多種多様な生物の総称です。微生物とはどのような生物たちなのか、どのような生き方をしているのかを学ぶことで生物（生命）の多様性についての理解を深めます。さらに生物進化と微生物との関わりについても学びます。

また、現在の地球生態系は微生物なしでは維持できません。地球生態系においてどのような役割を担っているのか、我々の生活とどのように関わっているのか、さらには、食品産業やバイオテクノロジー分野も含めた様々な産業においてどのように利用されているのかについて学びます。

**【授業における到達目標】**

地球上の現生生物の全てが微生物に由来することを学び生命の神秘や自然の真理を理解することで、学ぶ楽しみを知り「知」を探究する研鑽力を養うことを目標とします。

**【授業の内容】**

- 第1週 微生物の概要と微生物利用技術の概要
- 第2週 原核微生物と真核微生物（細胞の構造と機能）
- 第3週 ウイルスの世界とヒトとの関わり
- 第4週 微生物研究の歴史、微生物の性質とその取り扱い方法
- 第5週 微生物の増殖と環境要因
- 第6週 光合成細菌の出現と大気中酸素濃度の上昇が招いたもの
- 第7週 地球の物質循環に貢献している微生物群
- 第8週 極限環境に生きる微生物とバイオテクノロジー
- 第9週 共生により生きている微生物
- 第10週 狭義の発酵：酸素を利用しないエネルギー獲得方法
- 第11週 広義の発酵技術が利用されている発酵産業
- 第12週 酵母の世界：ヒトの暮らしに深く関わる酵母たち
- 第13週 カビの世界：ヒトの暮らしに深く関わるカビたち
- 第14週 微生物利用技術の将来とその可能性
- 第15週 講義内容の総括と総合演習

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回の講義内容に関する課題を配布するので参考書等により自己学修して授業に臨むこと。課題は講義終了後に提出してもらいます。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 課題を採点して翌週返却します。課題の解説をmanabaに掲載するのでそれを読んで必ず復習しておくこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

特定のテキストは使用せず、毎回の講義時にプリント資料を配布します。毎回の講義で学ぶべき重要事項を課題として出題します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

筆記試験80%、授業への取り組み態度（課題の提出率等）と課題の評価20%により成績評価します。試験は課題から出題します。

試験の参考解答をmanabaに掲載することでフィードバックします。

**【参考書】**

- 『食品微生物学の基礎』（講談社）『くらしと微生物』（培風館）
- 『トコトンやさしい発酵の本』（日刊工業新聞社）
- 『微生物ってなに？』（日科技連）
- 『知りたいサイエンス 人を助けるへんな細菌すごい細菌』（技術評論社）『微生物の驚異』（別冊日経サイエンスno. 221）

**【注意事項】**

参考書は微生物についてやさしく解説している入門書です。事前に読んでおくと微生物に関する知識が得られるので講義が理解しやすくなります。



**微生物学**

地球の生態系と微生物・ヒトの暮らしと微生物

秋田 修

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

微生物は目に見えない多種多様な生物の総称です。微生物とはどのような生物たちなのか、どのような生き方をしているのかを学ぶことで生物（生命）の多様性についての理解を深めます。さらに生物進化と微生物との関わりについても学びます。

また、現在の地球生態系は微生物なしでは維持できません。地球生態系においてどのような役割を担っているのか、我々の生活とどのように関わっているのか、さらには、食品産業やバイオテクノロジー分野も含めた様々な産業においてどのように利用されているのかについて学びます。

**【授業における到達目標】**

地球上の現生生物の全てが微生物に由来することを学び生命の神秘や自然の真理を理解することで、学ぶ楽しみを知り「知」を探究する研鑽力を養うことを目標とします。

**【授業の内容】**

- 第1週 微生物の概要と微生物利用技術の概要
- 第2週 原核微生物と真核微生物（細胞の構造と機能）
- 第3週 ウイルスの世界とヒトとの関わり
- 第4週 微生物研究の歴史、微生物の性質とその取り扱い方法
- 第5週 微生物の増殖と環境要因
- 第6週 光合成細菌の出現と大気中酸素濃度の上昇が招いたもの
- 第7週 地球の物質循環に貢献している微生物群
- 第8週 極限環境に生きる微生物とバイオテクノロジー
- 第9週 共生により生きていく微生物
- 第10週 狭義の発酵：酸素を利用しないエネルギー獲得方法
- 第11週 広義の発酵技術が利用されている発酵産業
- 第12週 酵母の世界：ヒトの暮らしに深く関わる酵母たち
- 第13週 カビの世界：ヒトの暮らしに深く関わるカビたち
- 第14週 微生物利用技術の将来とその可能性
- 第15週 講義内容の総括と総合演習

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回の講義内容に関する課題を配布するので参考書等により自己学修して授業に臨むこと。課題は講義終了後に提出してもらいます。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 課題は採点して翌週返却します。課題の解説をmanabaに掲載するのでそれを読んで必ず復習をすること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

特定のテキストは使用せず、毎回の講義時にプリント資料を配布します。毎回の講義での重要事項を課題として出題します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

筆記試験80%、授業への取り組み態度（課題の提出率等）と課題の評価20%により成績評価します。試験は課題から出題します。

試験の参考解答をmanabaに掲載することでフィードバックします。

**【参考書】**

- 『食品微生物の基礎』（講談社）『暮らしと微生物』（培風館）
- 『トコトンやさしい発酵の本』（日刊工業新聞社）
- 『微生物ってなに？』（日科技連）
- 『知りたいサイエンス 人を助けるへんな細菌すごい細菌』（技術評論社）『微生物の驚異』（別冊日経サイエンスno. 221）

**【注意事項】**

参考書は微生物についてやさしく解説している入門書です。事前に読んでおくと微生物に関する知識が得られるので講義が理解しやすくなります。

## 美しい文字を書く a

硬筆と毛筆によって、美しい文字を書く

高城 弘一

1年～ 前期 1単位

◎：美の探求 ○：行動力

### 【授業のテーマ】

今日、パソコンが発達したとはいえ、わたくしたちの日常生活では、手書き文字がなお重んじられる。

本講座では、硬筆と毛筆によって、楷書と行書の基礎を学び、実用書法へとつなげていきたい。

あわせて、書道に関する基礎的な知識や展覧会情報なども発信したいと思う。

### 【授業における到達目標】

- ・硬筆の楷書と行書によって、美しい文字を書けるようにする。
- ・毛筆の楷書によって、美しい文字を書けるようにする。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス 自己紹介 授業方針 授業計画
- 第2週 硬筆 楷書1 書道の用具用材
- 第3週 硬筆 楷書2
- 第4週 硬筆 楷書3
- 第5週 毛筆 楷書1
- 第6週 毛筆 楷書2
- 第7週 毛筆 楷書3
- 第8週 毛筆 楷書4
- 第9週 毛筆 楷書5
- 第10週 毛筆 楷書6
- 第11週 毛筆 楷書7
- 第12週 硬筆 行書1
- 第13週 硬筆 行書2
- 第14週 硬筆 楷書・行書による実用語句1
- 第15週 硬筆 楷書・行書による実用語句2

### 【事前・事後学修】

【事前】実技等の課題に取り組むこと。(学修時間 週2時間)

【事後】授業内で終えられなかった実技等の課題に取り組むこと。

また、実技等の課題を復習しておくこと。

(学修時間 週2時間)

### 【テキスト・教材】

テキスト：コピー教材（無料）を使用

用紙：九宮格書道用紙（有料、1冊300円程度）を中心として使用

※随時プリント（無料）も配付して使用

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート 20%

期末の提出物 50%

平常点（授業中添削回数、参加度） 30%

### 【参考書】

高城弘一著『美しく書けるかな書道入門』（ナツメ社）

### 【注意事項】

第1回目の授業時には、詳細な授業方針・授業計画等を提示し、ガイダンスを行なうので、極力欠席しないでほしい。筆記用具のみ持参のこと。

平常点を重視する。上達するためには、単に授業の出席だけではなく、自宅での学習も肝要である。

美術館や博物館において、書作品の肉筆資料を鑑賞することも重要である。したがって、展覧会情報なども、随時紹介したい。

**美しい文字を書く a**

硬筆と毛筆によって、美しい文字を書く

高城 弘一

1年～ 前期 1単位

◎：美の探求 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

今日、パソコンが発達したとはいえ、わたくしたちの日常生活では、手書き文字がなお重んじられる。

本講座では、硬筆と毛筆によって、楷書と行書の基礎を学び、実用書法へとつなげていきたい。

あわせて、書道に関する基礎的な知識や展覧会情報なども発信したいと思う。

**【授業における到達目標】**

- ・硬筆の楷書と行書によって、美しい文字を書けるようにする。
- ・毛筆の楷書によって、美しい文字を書けるようにする。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス 自己紹介 授業方針 授業計画
- 第2週 硬筆 楷書1 書道の用具用材
- 第3週 硬筆 楷書2
- 第4週 硬筆 楷書3
- 第5週 毛筆 楷書1
- 第6週 毛筆 楷書2
- 第7週 毛筆 楷書3
- 第8週 毛筆 楷書4
- 第9週 毛筆 楷書5
- 第10週 毛筆 楷書6
- 第11週 毛筆 楷書7
- 第12週 硬筆 行書1
- 第13週 硬筆 行書2
- 第14週 硬筆 楷書・行書による実用語句1
- 第15週 硬筆 楷書・行書による実用語句2

**【事前・事後学修】**

【事前】実技等の課題に取り組むこと。(学修時間 週2時間)

【事後】授業内で終えられなかった実技等の課題に取り組むこと。

また、実技等の課題を復習しておくこと。

(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

テキスト：コピー教材（無料）を使用

用紙：九宮格書道用紙（有料、1冊300円程度）を中心として使用

※随時プリント（無料）も配付して使用

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート 20%

期末の提出物 50%

平常点（授業中添削回数、参加度） 30%

**【参考書】**

高城弘一著『美しく書けるかな書道入門』（ナツメ社）

**【注意事項】**

第1回目の授業時には、詳細な授業方針・授業計画等を提示し、ガイダンスを行なうので、極力欠席しないでほしい。筆記用具のみ持参のこと。

平常点を重視する。上達するためには、単に授業の出席だけではなく、自宅での学習も肝要である。

美術館や博物館において、書作品の肉筆資料を鑑賞することも重要である。したがって、展覧会情報なども、随時紹介したい。

## 美しい文字を書く b

硬筆と毛筆によって、美しい文字を書く

高城 弘一

1年～ 後期 1単位

◎：美の探求 ○：行動力

### 【授業のテーマ】

毛筆によって行書の基礎を学び、実用語句を楷書と行書で書けるようにする。

仮名を硬筆によって学び、引き続き、毛筆でも学ぶ。また、漢字と仮名を調和させることによって、美しく詩歌や文章を書けるようにしたいと思う。

### 【授業における到達目標】

- ・毛筆の楷書と行書によって、実用語句を美しく書けるようになる。
- ・硬筆と毛筆の仮名によって、美しい文字を書けるようになる。
- ・漢字と仮名を調和させることによって、美しく詩歌や文章を書けるようになる。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス 授業方針 授業計画 書道用具用材
- 第2週 毛筆 行書1
- 第3週 毛筆 行書2
- 第4週 毛筆 行書3
- 第5週 毛筆 実用語句1
- 第6週 毛筆 実用語句2
- 第7週 硬筆 仮名1
- 第8週 硬筆 仮名2
- 第9週 硬筆 漢字仮名交じり文
- 第10週 毛筆 仮名1
- 第11週 毛筆 仮名2
- 第12週 毛筆 仮名3
- 第13週 毛筆 仮名4
- 第14週 毛筆 漢字仮名交じり文1
- 第15週 毛筆 漢字仮名交じり文2

### 【事前・事後学修】

【事前】実技等の課題に取り組むこと。(学修時間 週2時間)

【事後】授業内で終えられなかった実技等の課題に取り組むこと。

また、実技等の課題を復習しておくこと。

(学修時間 週2時間)

### 【テキスト・教材】

テキスト：高城弘一著『美しく書けるかな書道入門』（ナツメ社、2011年）1,728円

その他、コピー教材（無料）を使用

用紙：九宮格書道用紙（有料、1冊300円程度）を中心として使用

※随時プリント（無料）も配付して使用

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート 20%

期末の提出物 50%

平常点（授業の添削回数、参加度） 30%

### 【参考書】

高城弘一編『平安かなの美』（二玄社、2004年）2,808円

その他、授業内で随時紹介

### 【注意事項】

第1回目の授業時には、詳細な授業方針・授業計画等を提示し、ガイダンスを行なうので、極力欠席しないでほしい。筆記用具のみ持参のこと。

平常点を重視する。上達するためには、単に授業の出席だけではなく、自宅での学習も肝要である。

美術館や博物館において、書作品の肉筆資料を鑑賞することも重要である。

できるだけ、実用書法aを受講していることが望ましい。

**美しい文字を書く b**

硬筆と毛筆によって、美しい文字を書く

高城 弘一

1年～ 後期 1単位

◎：美の探求 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

毛筆によって行書の基礎を学び、実用語句を楷書と行書で書けるようにする。

仮名を硬筆によって学び、引き続き、毛筆でも学ぶ。また、漢字と仮名を調和させることによって、美しく詩歌や文章を書けるようにしたいと思う。

**【授業における到達目標】**

- ・毛筆の楷書と行書によって、実用語句を美しく書けるようになる。
- ・硬筆と毛筆の仮名によって、美しい文字を書けるようになる。
- ・漢字と仮名を調和させることによって、美しく詩歌や文章を書けるようになる。

**【授業の内容】**

- |      |       |           |      |        |
|------|-------|-----------|------|--------|
| 第1週  | ガイダンス | 授業方針      | 授業計画 | 書道用具用材 |
| 第2週  | 毛筆    | 行書1       |      |        |
| 第3週  | 毛筆    | 行書2       |      |        |
| 第4週  | 毛筆    | 行書3       |      |        |
| 第5週  | 毛筆    | 実用語句1     |      |        |
| 第6週  | 毛筆    | 実用語句2     |      |        |
| 第7週  | 硬筆    | 仮名1       |      |        |
| 第8週  | 硬筆    | 仮名2       |      |        |
| 第9週  | 硬筆    | 漢字仮名交じり文  |      |        |
| 第10週 | 毛筆    | 仮名1       |      |        |
| 第11週 | 毛筆    | 仮名2       |      |        |
| 第12週 | 毛筆    | 仮名3       |      |        |
| 第13週 | 毛筆    | 仮名4       |      |        |
| 第14週 | 毛筆    | 漢字仮名交じり文1 |      |        |
| 第15週 | 毛筆    | 漢字仮名交じり文2 |      |        |

**【事前・事後学修】**

【事前】実技等の課題に取り組むこと。(学修時間 週2時間)

【事後】授業内で終えられなかった実技等の課題に取り組むこと。

また、実技等の課題を復習しておくこと。

(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

テキスト：高城弘一著『美しく書けるかな書道入門』（ナツメ社、2011年）1,728円

その他、コピー教材（無料）を使用

用紙：九宮格書道用紙（有料、1冊300円程度）を中心として使用

※随時プリント（無料）も配付して使用

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート 20%

期末の提出物 50%

平常点（授業の添削回数、参加度） 30%

**【参考書】**

高城弘一編『平安かなの美』（二玄社、2004年）2,808円

その他、授業内で随時紹介

**【注意事項】**

第1回目の授業時には、詳細な授業方針・授業計画等を提示し、ガイダンスを行なうので、極力欠席しないでほしい。筆記用具のみ持参のこと。

平常点を重視する。上達するためには、単に授業の出席だけではなく、自宅での学習も肝要である。

美術館や博物館において、書作品の肉筆資料を鑑賞することも重要である。

できるだけ、実用書法aを受講していることが望ましい。

## 美学 a

「美の哲学」としての美学

樋笠 勝士

1年～ 前期 2単位

◎：美の探求 ○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

「美学」とはどのような学的探求なのかを学ぶ。「美学」の名称そのものを見れば、我々は「美」が主題化されている学問であると想定してしまうが、しかし他方で、名称を意識しない限りでは「芸術」を思い浮かべてもいるであろう。はたして「美」と「芸術」は繋がるものであるのだろうか、さらには「美学」という邦訳となった元の言葉 Aesthetics が「感性」の意味をもつことを知れば、かなり錯綜してくるのではないだろうか。本講義では「美学」について一般的に総括的に、その「何であるか」について論じ、「美学」の学的探求自体を歴史的にも体系的にも吟味してゆきたい。

前期は上記の体系的な説明の後、「美の哲学」としての美学を論究することとしたい。その内容は「美とは何か」という根本的な問いを徹底的に洞察することにある。それは自然美もあれば芸術美もある。また精神的な美もあれば身体的な美もある。更には、儂さや悲壮などのように「美的なもの」「美意識」など感性的領域にも展開してゆく概念である。これを考えていきたい。

### 【授業における到達目標】

「美学」の学問の理解と共に、前期は「美」に関する問題意識をもつことを目指します。「研鑽力」のうち広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とします。

### 【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン：「美とは何か」の問い
- 第2週 学問としての美学の始まり…西洋近代
- 第3週 美学的探求の始まり…西洋古代
- 第4週 西洋哲学史における「真・善・美」について
- 第5週 西洋思想の二つの源流…ギリシャ思想とキリスト教
- 第6週 美学のテーマ：「美・芸術・感性」
- 第7週 「美の哲学」の源流としてのプラトン哲学
- 第8週 プラトンの「美」の思想
- 第9週 プラトンにおける芸術論の両義性
- 第10週 「美」と「恋」の本質的な関係
- 第11週 「恋」と「哲学」の本質的な関係
- 第12週 「美とは何か」の問いの意義
- 第13週 「美」の拡張：「美的なもの」
- 第14週 「美」と「芸術・感性」との関係
- 第15週 総括

### 【事前・事後学修】

美学について特に予備知識は不要です。事前に必要なのは、「美学」に対して予断することなく問題意識をもつことです。可能な範囲で、自ら「美」を定義する試みをしてください。事後に大切なのは、講義前の自己の認識との比較によって、学問の意義や教育の効果を評価して下さい。これらに全部で週4時間程度かけることを勧めます。

### 【テキスト・教材】

教材は適宜配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度、リアクションペーパー提出）（30%）と試験（70%）にて総合的に判断します。評価基準について質問があれば必要に応じて回答します。

### 【参考書】

今道友信編『講座美学』（全五巻、東大出版会）、竹内敏雄編『美学事典』（弘文堂）、木幡順三『美と芸術の論理』（勁草書房）、ドニ・ユイスマン『美学』（白水社クセジュ文庫）、今道友信『美について』（講談社現代新書）

## 美学 b

「芸術哲学」としての美学

樋笠 勝士

1年～ 後期 2単位

◎：美の探求 ○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

前期では「美学」とはどのような学的探求なのかを、その古典的規範的視点から学んだ。後期では更に発展的に「美学」の学的探求の内実を洞察し、現代的な課題をも考慮しつつ、「美学」の学問的可能性を論じてみたい。

西洋近代は「美学」における探求を「芸術」に集中させてきた。そこから「芸術は美しい」という言説が規範化してきたが、しかし、大戦前後からその考え方は崩れ、今や、芸術は美と無縁であり、むしろ一般的に感性を刺激する事象であるという考え方が学究的な場に浸透してきた。このような状況において「美学」の学問的可能性はどのようなものとなるのであろうか。「美学」は、もはや「美しき芸術」や「（芸術の起源としての）宗教」から一層離れた学的探求へと進んでいくのであろうか。それとも別の考え方もありうると見るべきであらうか。このあたりを具体的な作品事象を紹介しつつ考えてみたい。

後期は近代的な「芸術」の概念を出発点にしつつ現代的な課題にも応える内容を提供していきたい。

### 【授業における到達目標】

「芸術」と「文化」の共通点と相違点、或る事物を「芸術」と見做す行為の意義、芸術における古典と現代の相違と（しかし）連続性、といった事柄についての理解を目指します。「研鑽力」のうち広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とします。

### 【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン：規範としての古典美学
- 第2週 芸術哲学の源流…アリストテレス
- 第3週 アリストテレスの美学
- 第4週 アリストテレスの芸術哲学
- 第5週 近代美学の基礎…バウムガルテン美学（感性学）
- 第6週 近代美学の展開…カント批判哲学からドイツ観念論へ
- 第7週 近代美学の終焉…ロマン主義の意義
- 第8週 近代美学の超克…ニーチェ（生の美学）
- 第9週 現代芸術の始まりとしてのダダイズム
- 第10週 「芸術とは何か」の問い
- 第11週 現代の美学の諸相：実存主義の美学
- 第12週 現代の美学の諸相：現象学と分析哲学
- 第13週 現代の美学の諸相：感性学
- 第14週 文化相対主義と芸術
- 第15週 新たな感性学

### 【事前・事後学修】

事前学修として、前期の科目を受講済みであることが望ましいです。そうでない場合は、下記の任意の参考文献を事前に読んでおいてください。事後に大切なのは、講義前の自己の認識との比較によって、学問の意義や教育の効果を評価して下さい。これらについて通算週4時間程度の時間をかけることをお勧めします。

### 【テキスト・教材】

教材は授業中に配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度、リアクションペーパー提出）（30%）、試験（70%）とにより総合的に判断します。評価基準について質問があれば必要に応じて回答します。

### 【参考書】

今道友信編『講座美学』（全五巻、東大出版会）、竹内敏雄編『美学事典』（弘文堂）、木幡順三『美と芸術の論理』（勁草書房）、ドニ・ユイスマン『美学』（白水社クセジュ文庫）、今道友信『美について』（講談社現代新書）

**美学演習 a**

美学の基礎概念

椎原 伸博

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

佐々木健一『美学辞典』（東京大学出版会、1995）における、「基礎的な諸理念」を題材にして、ペアワークやグループワーク等のアクティブラーニングの手法をもちいて、美と芸術についての基本的知識を習得する。前期では、卒業論文のテーマ設定の準備を行う。

**【授業における到達目標】**

基本的知識の修得と思考能力を身につける。修得すべき【研鑽力】のうち、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり学問を続ける基礎力を養う。また、アクティブラーニングの手法により、プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を身につける。修得すべき【行動力】のうち、目標設定と計画立案・実行能力を身につけます。

**【授業の内容】**

第1週 オリエンテーション  
 第2週 美学① 読解とペアワーク+グループワークによる問題設定  
 第3週 美学② グループ学習  
 第4週 美学③ グループ発表  
 第5週 美① 読解とペアワーク+グループワークによる問題設定  
 第6週 美② グループ学習  
 第7週 美③ グループ発表  
 第8週 学外見学 現代美術関連施設  
 第9週 自然美① 読解とペアワーク+グループワークによる問題設定  
 第10週 自然美② グループ学習  
 第11週 自然美③ グループ発表  
 第12週 芸術① 読解とペアワークによる問題設定  
 第13週 芸術② グループ学習  
 第14週 芸術③ グループ発表  
 第15週 全体振り返りと個別研究テーマ発表（卒論を見据えて）

**【事前・事後学修】**

事前学修：教科書の「I：基礎的な諸理念」を課題とする。授業時に該当する章は、必ず前もって良く読み、必ずノートに要点をまとめておくこと。また、該当箇所にある参考文献等も、図書館等で確認しておくこと。グループ学習時は、それぞれ与えられたテーマに関する学習に基づいて行われるので、予習を怠らないようにすること。（学修時間：週2時間）事後学修：グループ発表後に他の学生や教員の意見を参考にして、グループ毎にレポート作成する。（学修時間：週2時間）

**【テキスト・教材】**

佐々木健一『美学辞典』（東京大学出版会 1995年）3990円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業内の発表50%、レポート50%

提出されたレポートのうち優れているものは、授業内で紹介しフィードバックします。

**【参考書】**

小田部胤久『西洋美学史』（東京大学出版会 2009年）2940円

竹内敏雄編『美学事典 増補版』（弘文堂）

W.ヘンクマン、K.ロッター〔後藤 狷士 他訳〕『美学のキーワード』（勁草書房 2001年）4200円

**【注意事項】**

理論的考察の理解を深める為に、現代美術作品の見学授業を行います。グループ学習を行いますので安易な欠席は、他の学生に迷惑になるため厳禁です。レポート等の指示は全てmanabaで行うので、必ずリマインダー設定して、告知を見逃さないようにしてください。

**美学演習 b**

美学の基礎概念

椎原 伸博

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

佐々木健一『美学辞典』（東京大学出版会、1995）における、「再生産に関する諸概念」を題材にして、ペアワークやグループワーク等のアクティブラーニングの手法をもちいて、美と芸術についての基本的知識の習得と、基本的な問題に対する思考能力を養成することを目標とする。また、最終週には卒論の研究計画の準備を行う。

**【授業における到達目標】**

基本的知識の修得と思考能力を身につける。修得すべき【研鑽力】のうち、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり学問を続ける基礎力を養う。また、アクティブラーニングの手法により、プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を身につける。修得すべき【行動力】のうち、目標設定と計画立案・実行能力を身につける。

**【授業の内容】**

第1週 オリエンテーション  
 第2週 趣味① 読解とペアワーク+グループワーク：問題設定  
 第3週 趣味② グループ学習  
 第4週 趣味③ グループ発表  
 第5週 解釈① 読解とペアワーク+グループワーク：問題設定  
 第6週 解釈② グループ学習  
 第7週 解釈③ グループ発表  
 第8週 批評① 読解とペアワーク+グループワーク：問題設定  
 第9週 批評② グループ学習  
 第10週 批評③ グループ発表  
 第11週 コミュニケーション① 読解とペアワーク：問題設定  
 第12週 コミュニケーション② グループ学習  
 第13週 コミュニケーション③ グループ発表  
 第14週 学外実地研究 金沢21世紀美術館  
 第15週 学外実地研究 富山県美術館

**【事前・事後学修】**

事前学修：教科書の「消費と再生産に関する諸概念」を課題とする」を課題とする。授業時に該当する章は、必ず前もって良く読み、必ずノートに要点をまとめておくこと。また、該当箇所にある参考文献等も、図書館等で確認しておくこと。グループ学習時は、それぞれ与えられたテーマに関する学習に基づいて行われるので、予習を怠らないようにすること。（学修時間：週2時間）事後学修：グループ発表後に他の学生や教員の意見を参考にして、グループ毎にレポート作成する。（学修時間：週2時間）

**【テキスト・教材】**

佐々木健一『美学辞典』（東京大学出版会 1995年）3990円

カルロス・タロン＝ユゴン（上村博訳）『美学への手引き』（文庫クセジュ、白水社）1200円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業内の発表50%、レポート50%

提出されたレポートのうち優れているものは、授業内で紹介しフィードバックします。

**【参考書】**

小田部胤久『西洋美学史』（東京大学出版会 2009年）2940円

竹内敏雄編『美学事典 増補版』（弘文堂）カルロス・タロン＝ユゴン（上村博訳）『美学への手引き』（文庫クセジュ、白水社）

1200円

**【注意事項】**

理論的考察の理解を深める為に、金沢21世紀美術館、富山県美術館など北陸の実地見学を行う予定です。グループ学習を行いますので、安易な欠席は、他の学生に迷惑になるため厳禁です。レポート等の指示は全てmanabaで行うので、必ずリマインダー設定して、告知を見逃さないようにしてください。

**美学特講 a**

アートと音楽

椎原 伸博

2年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

「美学」とは、人間の感性的な関心全般に関わり、それらを理論的に考えようとする学問です。この講義では、そういった人間の感性的な関心のうち、「現代音楽」に注目し、そこから「美学」の問題を抽出することを目的とします。授業は「現代音楽」の歴史と理論について概観し、それと同時代の造形芸術との関係性を考察します。その際、ポピュラーアートやサブカルチャーにおける表現との関連も視野に入れます。

**【授業における到達目標】**

「現代音楽」の歴史と理論について概観し、それと同時代の造形芸術との関係性を美学・芸術学の視点から考察します。それにより、現在のさまざまなアートを総合的に分析できるようになることを目指します。修得すべき修得すべき【国際的視野】により、国際感覚を身につけて、世界に踏み出し社会を動かそうとする態度を身につけます。また、修得すべき【美の探究】のうち、芸術作品の鑑賞を通して感受性を深めるようとする態度を身につけます。

**【授業の内容】**

- 1：イントロダクション 音の映像的イメージ「ファンタジア」
- 2：音と色彩 ワグナーとボードレール
- 3：無対象の抽象と音楽 カンディンスキーとシェーンベルク
- 4：反復の音楽① ヴェクサシオンからアンビエントミュージックへ
- 5：反復の音楽② スティーブ・ライヒ「ケイブ」について
- 6：ノイズの世界① 未来派の音楽について
- 7：ノイズの世界② ミュージックコンクレートについて
- 8：ノイズの世界③ 実験的ポップミュージックについて
- 9：電子音楽と建築：ル・コルビュジェとクセナキス
- 10：偶然の音① ジョン・ケージについて
- 11：偶然の音② ビエール・ブーレーズにおける偶然
- 12：音楽と時間 ジル・ドゥルーズの音楽論
- 13：声について 初音ミクと声の現在
- 14：関係性の音楽 野村誠と大友良英の音楽的営為
- 15：まとめ

**【事前・事後学修】**

事前に資料をmanabaで提示することがありますので、授業前に必ずプリントして、良く読んでおいて授業の準備をしてください。（学修時間：週2時間）また、授業時には基本的にハンドアウトは配布しません。必ず、授業のノートをとってください。授業のまとめは、授業後にmanabaで公開しますが、必ずプリントアウトした上で、自分のノートと比較して、復習に努めてください。（学修時間：週2時間）

**【テキスト・教材】**

適宜プリントを配布

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

小テスト30% レポート70%

**【参考書】**

授業中に指示する。

**【注意事項】**

小テストとレポートは、manabaを利用して行うので、各自必ずリマインダー設定して、告知を見逃さないようにしてください。

**美学特講 b**

モダンアートの美学

椎原 伸博

2年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

西洋のモダンアートの歴史の流れを理解し、作品の特徴、表現形式や様式、さらには主題と意味に関して多面的に考察し、アート作品が有する多様なメッセージを読み解く。さらに、モダンアートから導かれる「美」の問題について考察する。講義で扱うアートのジャンルは、造形芸術に限定せず、音楽、演劇、舞踊、映画、写真等横断的なものとする。また、モダンアートが主として都市で展開したことを考慮し、都市計画、建築、デザインといった視点からも、モダンアートを位置づけることにする。

**【授業における到達目標】**

モダンアート作品について、美学芸術学の視点から分析出来るようになることを目指します。また、それらの特徴、表現形式や様式、さらには主題と意味に関して多面的に理解することを目指します。それにより、修得すべき修得すべき【国際的視野】により、国際感覚を身につけて、世界に踏み出し社会を動かそうとする態度を身につけます。また、修得すべき【美の探究】のうち、芸術作品の鑑賞を通して感受性を深めるようとする態度を身につけます。

**【授業の内容】**

- 1：モダンとは何か ボードレールとモダニズム 19世紀のアート
- 2：世紀末のアート パリ万国博覧会とアール・ヌーヴォー
- 3：ウィーンの都市芸術と「装飾」について
- 4：第一次世界大戦後のアート ダダとレディメイド
- 5：無意識とアート シュルレアリスムについて
- 6：モダニズム建築と都市計画について
- 7：アール・デコとファッション
- 8：第二次世界大戦とアート
- 9：抽象表現主義とモダニズム芸術理論
- 10：アンドレ・バザン「映画とは何か」について
- 11：芸術と広告 ポップアートと消費文明
- 12：ポスト・モダンとシミュレーションイズム
- 13：インターネット時代のアート
- 14：関係性の美学とアート
- 15：学外見学：東京の建築調査

**【事前・事後学修】**

事前に資料をmanabaで提示することがありますので、授業前に必ずプリントして、良く読んでおいて授業の準備をしてください。（週2時間）また、授業時には基本的にハンドアウトは配布しません。必ず、授業のノートをとってください。授業のまとめは、授業後にmanabaで公開しますが、必ずプリントアウトした上で、自分のノートと比較して、復習に努めてください。（週2時間）

**【テキスト・教材】**

テキストは使用しません。適宜資料を配付する。また、授業のレジュメは事後学習用に、授業終了後にmanabaにて配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

実地見学に基づくレポート30%、理論的レポート70%

**【参考書】**

授業中に適宜指示します。

**【注意事項】**

資料の配付や連絡は、全てmanabaにて行うため、必ずリマインダー設定して、告知を見逃さないこと。東京のモダニズム、ポストモダニズム建築の見学を行う。見学については、授業中に指示する。



**美学入門 a**

—美学の歴史 古代から近世まで—

椎原 伸博

1年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

この講義は、古代ギリシア哲学の中に生まれた「美」に関する思想や理論が、中世キリスト教社会、ルネサンス文明を経て、18世紀の啓蒙主義の時代に至り、どのように進展していったかを学ぶ。また、それぞれの時代に特徴的な芸術作品の具体的な事例を通して「芸術」概念がどのように形成されていったのかを確認する。

**【授業における到達目標】**

古代ギリシアから18世紀啓蒙主義まで「芸術」に関する概念がどのように変化していったかを理解する。修得すべき【国際的視野】により、国際感覚を身につけて、世界に踏み出し社会を動かそうとする態度を身につけます。また、修得すべき【美の探究】のうち、芸術作品の鑑賞を通して感受性を深めようとする態度を身につけます。

**【授業の内容】**

- 1：はじめに 学習方法についてオリエンテーション
- 2：美の形而上学 プラトン
- 3：古代ギリシアの芸術観①プラトン 詩人追放論について
- 4：芸術の諸相「ギリシア悲劇」ソポクレス「オイディプス王」
- 5：古代ギリシアの芸術観②アリストテレス「詩学」1～8章
- 6：古代ギリシアの芸術観③アリストテレス「詩学」9章以降
- 7：古代ローマの芸術観 ホラティウス「詩法」
- 8：芸術の諸相「キリスト教中世芸術」と美意識
- 9：ルネサンスの芸術観 レオナルド・ダ・ヴィンチの芸術論
- 10：ル・シッド論争とフランス古典主義
- 11：芸術の諸相：演劇 モリエール「才女気取り」について
- 12：バロックの美学 オペラの誕生
- 13：近代的芸術の成立と新旧論争
- 14：理想的人間をめぐる美学と趣味論
- 15：振り返りとまとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：指示された教科書の該当箇所を読んでおいてください。事前に資料をmanabaで提示することがありますので、授業前に必ずプリントして良く読んでおいてください。（学修時間 週2時間）また、授業時には基本的にハンドアウトは配布しません。必ず、授業のノートをとってください。事後学習：授業のまとめは、授業後にmanabaで公開しますが、必ずプリントアウトした上で、自分のノートと比較して、復習に努めてください。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

カルロス・タロン＝ユゴン（上村博訳）『美学への手引き』（文庫クセジュ、白水社）1200円＋税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

小テスト20%、レポート30%、定期試験50%で評価します。授業のフィードバックはmanabaにて提示される授業のまとめで行うので、必ずプリントアウトファイル化しておくこと。また、小テストやリアクションペーパーの優れた回答は、授業内で紹介しフィードバックします。

**【参考書】**

竹内敏雄編『美学事典 増補版』（弘文堂）佐々木健一『美学辞典』（東京大学出版会）W.ヘンクマン、K.ロッター（後藤狷士監訳）『美学のキーワード』（勁草書房）小田部胤久『西洋美学史』（東京大学出版会）アリストテレス『詩学』、ホラティウス『詩論』[松本仁助、岡道男訳]

**【注意事項】**

小テスト、レポート等の指示は全てmanabaで行うので、必ずリマインダー設定して、告知を見逃さないようにしてください。

**美学入門 b**

—美学の歴史 啓蒙主義時代から現代へ—

椎原 伸博

1年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

この講義は、前期の「美学入門a」に引き続き、「美」に関する思想や理論について、18世紀の啓蒙主義時代から現代へどのように進展していったのかを学ぶ。また、それぞれの時代に特徴的な芸術作品の具体的な事例を通して「芸術」概念がどのように変化していったのかも確認する。

**【授業における到達目標】**

18世紀に「美学」という学問は成立するが、その思想的背景を理解する。また、カントからヘーゲルを経て、現在に至るまでの「美学」的思想の流れを理解する。学生が修得すべき【国際的視野】により、国際感覚を身につけて、世界に踏み出し社会を動かそうとする態度を身につけます。また、修得すべき【美の探究】のうち、芸術作品の鑑賞を通して感受性を深めようとする態度を身につけます。

**【授業の内容】**

- 1：イントロダクション 前期の再確認
- 2：味覚と趣味 プリア・サヴァランの『味覚の生理学』
- 3：芸術の諸相：演劇 モリエール「ヴェルサイユ即興劇」
- 4：「美学」の成立について①ライプニッツの影響
- 5：「美学」の成立について②バウムガルテンの『美学』
- 6：カント『純粋理性批判』と超越論的感性論
- 7：カント『判断力批判』について
- 8：芸術の諸相：音楽 モーツァルトと18世紀：グループワーク
- 9：美的範疇としての崇高とピクチャレスク
- 10：ロマン主義の美学 シェリングと模倣
- 11：ヘーゲル『美学講義』芸術の終焉について
- 12：芸術の諸相：総合芸術の夢 ワグナー
- 13：芸術の終焉の後の芸術について
- 14：わからなさの美学 現代芸術の問題
- 15：感性に再び向かい合う美学 振り返りとまとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：指示された教科書の該当箇所を読んでおいてください。また、事前に資料をmanabaで提示することがありますので、授業前に必ずプリントして、事前に良く読んでおいてください。（学修時間 週2時間）また、授業時には基本的にハンドアウトは配布しません。必ず、授業のノートをとってください。事後学習：授業のまとめは、授業後にmanabaで公開しますが、必ずプリントアウトした上で、自分のノートと比較して、復習に努めてください。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

カルロス・タロン＝ユゴン（上村博訳）『美学への手引き』（2015年、文庫クセジュ、白水社）1200円＋税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

小テスト20%、レポート30%、定期試験50%で評価します。授業のフィードバックはmanabaにて提示される授業のまとめで行うので、必ずプリントアウトファイル化しておくこと。また、小テストやリアクションペーパーの優れた回答は、授業内で紹介しフィードバックします。

**【参考書】**

竹内敏雄編『美学事典 増補版』（1974年、弘文堂）佐々木健一『美学辞典』（1995年、東京大学出版会）W.ヘンクマン、K.ロッター（後藤狷士監訳）『美学のキーワード』（2001年、勁草書房）小田部胤久『西洋美学史』（2009年、東京大学出版会）

**【注意事項】**

資料とハンドアウトの提示、小テスト、レポートの指示は全てmanabaで行うので、各自リマインダー設定すること。

**美術と社会 a**

近現代日本における女性の作り手とジェンダー

吉良 智子

2年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

日本の美術家の名前を思い浮かべるとき、そこに「女性」はいるでしょうか。もし、名前や作品を挙げることができなかつたら、どのような理由があるのでしょうか。この授業では、日本の女性美術家の歴史や一部の著名な人物を紹介するのではなく、近現代日本の「女性の作り手」を取り巻く問題や社会的状況を、ジェンダーの視点を用いつつ、制度、教育、パートナーシップ、戦争などの切り口から、分析していきます。

**【授業における到達目標】**

女性の作り手による作品や、表現された女性像を、ジェンダーの視点から分析・考察できるようになることが目標です。

学生が修得すべき態度のうち、多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度、物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度を養います。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 「美術」の成立と女性の作り手
- 第3週 前近代における女性の作り手
- 第4週 「美術」教育と女性
- 第5週 教育者としての女性
- 第6週 女性と「手芸」
- 第7週 女性の作り手と「ネットワーク」
- 第8週 女性の作り手と「モチーフ」
- 第9週 アヴァンギャルドと女性
- 第10週 戦争と女性の作り手1（戦争美術における「銃後」）
- 第11週 戦争と女性の作り手2（戦争と女性美術家）
- 第12週 戦後の女性アーティストの作品と評価
- 第13週 現代の女性アーティストの作品と評価
- 第14週 現代における女性の作り手
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

全国の美術館・博物館では、一年を通してさまざまな展覧会が開催されていますが、女性の作り手に関するものは多いとはいえません。事前・事後学修ともに、授業に使用するプリントを参照しながら、洋画・日本画・彫刻・工芸などの従来の美術ジャンルにとらわれずに、広く女性の作り手の作品を見てください。また授業では事前学習用のプリントを配布します。次回の授業までに熟読してください（事前・事後学修時間 各週2時間）。

**【テキスト・教材】**

プリントを使用する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末レポート70%、授業内小レポート30%とし、小レポートは次回授業時に、期末レポートは授業の最終回でフィードバックを行う。

**【参考書】**

- 若桑みどり『女性画家列伝』岩波新書、1985
- パトリシア・フィスター『近世の女性画家たち』思文閣出版、1994
- 小勝禮子他編『奔（はし）る女たち 女性画家の戦前・戦後 1930-1950年代』栃木県立美術館、2001
- 草薙奈津子監修『女性画家の全貌。』美術年鑑社、2003
- 山崎明子『近代日本の「手芸」とジェンダー』世織書房、2005
- 吉良智子『戦争と女性画家』ブリュッケ、2013
- 吉良智子『女性画家たちの戦争』平凡社新書、2015

**美術と社会 b**

美術における公共性

工藤 安代

2年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

本講義は、美術と社会の関係について、公共性を軸として学んでいく。美術と社会の関係は20世紀に入り、市民社会の台頭にとともに、多様なアクター（行政、市民、企業、芸術団体、アーティストなど）との相互関係で大きく変化していった。また、芸術表現もまた様々なイノベーションをしつつ拡張していったが、その背景となる社会や政治情勢がアーティストに影響を及ぼした。本講義を通して、人びとや地域社会と密接な関わりを築きはじめた芸術活動の諸相やその意義について、米国やヨーロッパ諸国などの事例を取り上げ、国際的な視点から捉えていく。社会、人びとに深く関わろうとする芸術が担う公共性とは何か、現代社会における展望と課題を理解し、その背景となった社会や思想など、歴史な流れを追いつつ幅広い観点から学んでいく。

**【授業における到達目標】**

- ・戦後から現代まで、美術と社会の関係が変化してきたことを歴史的に把握することができる。
- ・それぞれの変化時、ターニング・ポイントとなった代表的美術家／作品を理解し、その特色をあげることができる。

**【授業の内容】**

- 第1回 ガイダンス&芸術と公共性について（シラバス説明、参考書説明など）
- 第2回 社会的コンテクストに関わる美術Ⅰ（1930年代～ 銅像、記念碑、公共空間の彫刻）
- 第3回 社会的コンテクストに関わるアートⅡ（1960年代～ パブリックアートのはじまり）
- 第4回 国家と芸術Ⅰ—芸術とデモクラシー（芸術家支援と芸術による国家統治）
- 第5回 国家と芸術Ⅱ—変わりゆく公共性（アースワークの現れによる場と美術の変化）
- 第6回 社会的コンテクストに関わるアートⅢ（芸術の表現拡張と制度批判）
- 第7回 国家と芸術Ⅲ—芸術の公共性を見直し（芸術の社会的価値への問い）
- 第8回 芸術と社会の新たな関わり の模索Ⅰ（アート・アクティビズム）
- 第9回 芸術と社会の新たな関わり の模索Ⅱ（社会化するアーティストとソーシャル・アクション）
- 第10回 社会に関わるアート 今日の流れⅠ（アーティストの活動とその実践）
- 第11回 社会に関わるアート 今日の流れⅡ（理論と手法）
- 第12回 アートと関係性のワークショップⅠ
- 第13回 アートと関係性のワークショップⅡ
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 フォローアップ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】小レポート・発表等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】小レポート・発表等を復習すること。授業で学んだ専門用語等を理解し、次回の授業範囲を予習すること。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

随時配布。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

小レポート2回〔40%〕、プレゼンテーション〔30%〕、平常点（授業への積極参加・提出課題）30%。  
小レポートは次回授業にて、プレゼンテーションの結果は授業最終回でフィードバックを行う。

**【参考書】**

- ・『ソーシャル・エンゲイジド・アート入門』  
(フィルムアート社)
- ・『パブリックアート政策』(勁草書房)
- ・『アーツ・マネジメント概論』(水曜社)
- ・『ソーシャル・エンゲイジド・アートとは？(仮)』  
(フィルムアート社) 2018年6月刊行

**【注意事項】**

第12、13回での「アートと関係性のワークショップⅠ、Ⅱ」では、必要に応じて見学学習や屋外学習を行う。  
その場合、第14回では学生による見学学習へのフィードバックをワークショップ形式により行なう。

## 美術科教育法（１）

清水 満久

2年 後期 2単位

## 【授業のテーマ】

学校教育における造形・美術教育の意義や目的について理解を深めるとともに、中・高等学校美術の目標、内容、指導計画及び評価等を学び、美術科教師として必要な基礎的な知識と技術の習得を図る。表現の内容に則した題材の開発や授業づくりに関する実践力を身に付ける。

## 【授業における到達目標】

中・高等学校の美術科の教師としての基礎的な資質能力（美術科の内容、指導方法、授業実践上の能力等）及び今日的な多様な価値観に対応する授業展開への意欲や態度を身に付ける学修を通して、「美の探求」倫理観を以て人格を陶冶する態度を醸成する。美術科の変遷や美術科の授業実施に係る知識や授業の計画実施の方法について理解する中で、学生が修得すべき「行動力」について計画を立案し実行できる能力を修得する。

## 【授業の内容】

- 第1週 美術教育の目的と意義
- 第2週 美術教育の歴史と子供の造形的発達の特性について
- 第3週 児童生徒の造形表現の実際に学ぶ
- 第4週 学習指導要領の目標と内容について
- 第5週 美術の学習活動と学習指導計画の作成について
- 第6週 学習指導案の作成方法と学習の評価の在り方
- 第7週 教材研究1（絵に表現する活動の授業）
- 第8週 教材研究2（彫刻に表現する活動の授業）
- 第9週 教材研究3（デザインに表現する活動の授業）
- 第10週 教材研究4（工芸に表現する活動の授業）
- 第11週 教材研究5（鑑賞活動の授業）
- 第12週 学習指導案の作成と分析評価
- 第13週 年間指導計画の作成と学習環境の整備
- 第14週 美術の学習指導の実践
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】中学校学習指導要領第2章第6節美術及び学習指導要領解説美術編を一読しておく。レポート・発表等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】レポート・発表等に関して復習及び修正補充をする。（週2時間）

## 【テキスト・教材】

『中学校学習指導要領解説 美術編』（文部科学省平成20年9月）

日本文教出版 910円＋税

『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 美術】』（文部科学省国立教育政策研究所平成23年11月）教育出版3200円＋税

『美術科教育の基礎知識』（建帛社2010年10月）2916円

その他、資料プリント

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験60％，平常点（提出課題、授業態度等）40％  
提出課題（レポート等）に関しては、講評し、後日返却する。  
試験に関しては、最終回に講評する。

## 【参考書】

『アート教育を学ぶ人のために』竹内博 他編（世界思想社）  
2005年4月30日 1900円＋税

## 【注意事項】

日常生活の中で美術が生かされている事象を確認しましょう。  
児童生徒の造形的な作品を鑑賞する機会をもちましょう。児童生徒とのかかわりをもつことを望みます。

## 美術科教育法（２）

織田 涼子

3年 前期 2単位

## 【授業のテーマ】

学習指導要領に基づき、教材の研究、学習指導案の作成演習を行う。中・高等学校美術の目標と内容、指導計画及び学習評価等を理解し、表現・鑑賞領域の授業プランを考える。特に、中学校美術科の学習指導要領改定の内容や、高等学校芸術科美術の各分野における指導法等を学修し、実際に指導案を作成し、模擬授業を行う。教材研究や発表を通して実践的指導力を養うことを目標とする。

## 【授業における到達目標】

学習指導要領に基づいて美術科の題材を設定し、指導内容を考えることができるようになる。教材研究に取り組み、材料の特性や用具の取り扱いについても理解を深め、指導案を作成することができるようになる。

## 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス・美術科、芸術科(美術)の教材研究について  
中学校新学習指導要領について
- 第2週 絵画的表現活動を題材にした指導
- 第3週 立体的表現活動を題材にした指導
- 第4週 デザイン的表現を題材にした指導
- 第5週 工芸的表現活動を題材にした指導
- 第6週 各領域を関連づけて一体化した教材の研究
- 第7週 鑑賞授業の指導
- 第8週 観点別評価基準を含んだ学習指導案
- 第9週 教材の選択、題材設定の在り方
- 第10週 研究発表1
- 第11週 研究発表2
- 第12週 研究発表3
- 第13週 研究発表4  
※1から4では履修者が4つのグループに分かれ、第9週目までの実践的内容を踏まえて模擬授業を行う。その後指導案を作成する。
- 第14週 表現活動における設備と安全指導
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】発表、模擬授業等の課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】参考資料や指導案を多く配布する。実践の場で使えるように整理すること。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

授業内で指示する。授業で使用する参考資料やワークシートは適宜配布する。また、実技使用教材は担当者が事前に指示する。教材研究のため、各自で材料を購入する場合もある。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート・学習指導案・小実技（50％）、研究発表等授業への参加態度（50％）で評価する。研究発表は必ず出席すること。  
レポートは次回授業で、学習指導案や研究発表は最終授業でフィードバックを行う。

## 【参考書】

福本謹一・村上尚徳編著『平成29年版 中学校新学習指導要領の展開 美術編』（明治図書出版）

『高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽 美術 工芸 書道)編 音楽編 美術編』（教育出版）

竹内博 他『アート教育を学ぶ人のために』（世界思想社）

三澤一実監修『美術教育の題材開発』（武蔵野美術大学出版局）

## 【注意事項】

美術科教育はさまざまな用具を使用する。それらの取り扱いについての授業もあるため、毎回出席すること。

## 美術科教育法（3）

島田 佳枝

3年 前期 2単位

## 【授業のテーマ】

中学校美術科における鑑賞活動の意義や目的の理解に立って、具体的な活動方法について実践的に研究し、授業の組み立て方や、学習支援のあり方について学ぶ。

## 【授業における到達目標】

中学校美術科における鑑賞活動の意義と目的を理解することができる。

対話型の美術鑑賞の背景にある作品観や観衆観の理解に立って、生徒の参加を促す授業づくりができる。

表現活動とのつながりを視野に入れた鑑賞授業の必要性を理解し、授業を構築することができる。

学生が修得すべき「行動力」のうち、計画を立案・実行できる力を身につける。

## 【授業の内容】

第1週 授業ガイダンス

第2週 学習指導要領における鑑賞活動

第3週 対話型の美術鑑賞について（1）対話型の美術鑑賞とは？

第4週 対話型の美術鑑賞について（2）対話型美術鑑賞における作品の捉え方について

第5週 授業案の作成

第6週 模擬授業（1）A, B, C班

第7週 模擬授業（2）D, E, F班

第8週 模擬授業（3）G, H, I班

第9週 模擬授業（4）J, K班

第10週 表現活動とのつながりを意識した鑑賞題材について

第11週 授業案の作成

第12週 授業案のプレゼンテーション（1）A, B, C班

第13週 授業案のプレゼンテーション（2）D, E, F班

第14週 授業案のプレゼンテーション（3）G, H, I班

第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】配布プリントに目を通し予習すること。学習指導案作成及び模擬授業やプレゼンテーション実施に向けた準備を行うこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】配布されたプリントを活用し授業内容を復習すること。模擬授業やプレゼンテーションを実施した際には、自らの得た成果と課題を文章化すること。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

『中学校学習指導要領解説—美術編』（平成20年9月、文部科学省）96円

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出物および模擬授業60%、期末レポート40%の割合で評価する。

提出物については最終提出日の翌週に、期末レポートについては授業最終回にフィードバックを行う。

## 【参考書】

参考書は授業時に紹介する。

また参考資料は授業時にプリントで配布するほか、ビデオ等で提示する。

## 【注意事項】

・原則として出席確認時（授業開始時）に教室にいない場合は遅刻とみなす。

・30分以上の遅刻は出席扱いとはできないので注意すること。

・遅刻3回で欠席1回とみなす。

・授業への積極的な参加を期待する。

## 美術科教育法（4）

中村 一哉

3年 後期 2単位

## 【授業のテーマ】

平成33年度から完全実施となる新学習指導要領に基づき、これからの美術教育が目指す目標や内容を理解し、その趣旨を実現する美術の授業を構想して実際に指導できる実践力を学修する。

本授業では、これからの美術科教員に求められる授業力を身につけることをねらいとする。内容としては、指導計画や学習指導案を実際に作成をすることや、模擬授業を通して相互に学び合う内容を積極的に取り入れることによって、新学習指導要領の授業改善の視点である「主体的・対話的で深い学び」を自ら体験しながら、授業で活用できる力を身につけられるようにする。従って、自ら考え、進めていく主体性が求められる授業である。

## 【授業における到達目標】

新学習指導要領の改訂の概要を正しく理解し、その趣旨に基づく美術科の指導計画の作成や題材の設定、授業の構想に基づく学習指導案の作成が自らできるようになるとともに、実際に授業で指導・評価方法を活用していく実践的な指導力を身につける。

## 【授業の内容】

第1週 オリエンテーション 中学校美術科の授業の現状と課題

第2週 新学習指導要領の趣旨の理解（美術の教科目標と指導内容等に関する理解）

第3週 学年ごとの題材配列の考え方（美術の指導内容と題材設定に関する理解）

第4週 指導・評価計画の作成（各題材の指導ねらいと学習活動に関する理解）

第5週 授業構想の立案（美術で育成する資質・能力と学習評価に関する理解）

第6週 指導案の作成（美術の授業構想の具体化に関する理解）

第7週 指導案に基づく授業の実践（美術の指導上の留意点に関する理解）

第8週 模擬授業（テーマ：材料や用具）

第9週 模擬授業（テーマ：視聴覚機器の活用）

第10週 模擬授業（テーマ：表現題材）

第11週 模擬授業（テーマ：鑑賞題材）

第12週 模擬授業（テーマ：表現と鑑賞の相互の関連題材）

第13週 模擬授業（テーマ：評価の方法）

第14週 美術館等と連携した授業の工夫（学芸員等との連携等に関する理解）

第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】指導計画や学習指導案等を予め作成して授業に臨むこと。模擬授業やその他の発表等に当たって必要な準備を事前に行うことがある。（学修時間：週2時間）

【事後学修】授業内容を確実に復習すると同時に、作成した資料の修正等や作り替え等を課題として課すことがある。（学修時間：週2時間）

## 【テキスト・教材】

中学校学習指導要領解説 美術編 平成20年9月（日本文教出版91円）

中学校学習指導要領解説 美術編 平成30年3月 予定

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験40%、平常点（提出課題、授業態度等）60%。

提出課題は、毎回の授業で学修したことの振り返り等を行うワークシート、年間指導計画や学習指導案等。提出した課題については、後日、講評して返却しフィードバックする。授業態度は、主として模擬授業やその他の発表、プレゼンテーション等で、原則として授業で講評する。

## 【参考書】

美術教育を学ぶ人のために 世界思想社 1,900円

美術科教育の基礎知識 建帛社 2,916円

**【注意事項】**

美術科教育法（１）から（３）のまとめであり、教育法の出口となる授業であることから、これまで学修してきた成果を活用しながら、美術教育の担い手となる自覚をもって授業に臨むことが求められる。

これからの美術教育の方向性を踏まえて、美術を自らの経験の中だけで捉えるのではなく、生活や社会との関わりなど、開かれたものとして捉えていく視点が重要となる。

**美術史概論 a**

「国宝」でたどる 日本美術史

三戸 信恵

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

展覧会で一人でも多くの来場者を迎えるためには、どんな作品が鑑賞できるのか、見どころは何かなど、アピールポイントを明確にすることが重要です。日本美術を対象とした場合、時代やジャンルを問わず、有効な告知効果を持つ手段の一つとして、「国宝」というキーワードが挙げられます。本授業では、古代から近世までを対象に、国宝に指定された作品を中心に据えながら、日本美術の歴史を概観します。また、「国宝」という切り口を通じて、日本美術に対するアプローチの方法や、社会と美術史のつながり、ミュージアムの社会的役割についての理解も深めてゆきたいと考えています。

**【授業における到達目標】**

日本美術を専門とする学芸員にとって必要な基礎知識（日本美術の流れ、各時代を代表する作品）、および国宝に関する知識を習得すること。また、広い視野と深い洞察力、および美術や歴史の中に価値を見出し感受性を深める態度を身に付けること。

**【授業の内容】**

- 第1週 はじめに：授業内容の確認、教材の説明など
- 第2週 「国宝」とは何か
- 第3週 縄文時代：火焰型土器と縄文のヴィーナス
- 第4週 弥生・古墳時代：銅鐸と副葬品に見る国際交流
- 第5週 古墳～奈良時代：装飾古墳と高松塚古墳壁画
- 第6週 奈良時代：仏教美術と正倉院宝物
- 第7週 平安時代（1）：密教美術と浄土教美術
- 第8週 平安時代（2）：世俗画と絵巻
- 第9週 鎌倉～南北朝時代：ゆらぐ像主、「伝源頼朝像」
- 第10週 室町時代（1）：東山御物と座敷飾り
- 第11週 室町時代（2）：漢画とやまと絵
- 第12週 桃山時代：狩野永徳「洛中洛外図屏風」と長谷川等伯「松林図屏風」
- 第13週 江戸時代（1）：17世紀を中心に
- 第14週 江戸時代（2）：18～19世紀の様相
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】レポート、宿題等の課題に取り組むこと（学修時間 週2時間）

【事後学修】前回の授業のノートを読み直し、専門用語等は調べて次回までに理解しておくこと（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

教科書は特にさだめず、授業中にプリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業態度、コメントペーパー、宿題）25%、中間レポート25%、期末試験50%で評価します。

レポートは課題発表時に提示した条件を満たしているかをみます。また、期末試験は授業の内容の理解度に応じて評価します。フィードバックについては、受講生の到達度に応じて、実施後の授業時に適宜解説を補い、問題点、課題が見つかった場合はアドヴァイスを行います。

**【参考書】**

各講義内容にあわせて授業中に紹介します。

**【注意事項】**

普段から美術館、博物館などで開催される展覧会に足を運び、実際の作品世界に触れる機会をできるだけ多く作るように心がけてください。

**美術史概論 a**

「国宝」でたどる 日本美術史

三戸 信恵

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

展覧会で一人でも多くの来場者を迎えるためには、どんな作品が鑑賞できるのか、見どころは何かなど、アピールポイントを明確にすることが重要です。日本美術を対象とした場合、時代やジャンルを問わず、有効な告知効果を持つ手段の一つとして、「国宝」というキーワードが挙げられます。本授業では、古代から近世までを対象に、国宝に指定された作品を中心に据えながら、日本美術の歴史を概観します。また、「国宝」という切り口を通じて、日本美術に対するアプローチの方法や、社会と美術史のつながり、ミュージアムの社会的役割についての理解も深めてゆきたいと考えています。

**【授業における到達目標】**

日本美術を専門とする学芸員にとって必要な基礎知識（日本美術の流れ、各時代を代表する作品）、および国宝に関する知識を習得すること。また、広い視野と深い洞察力、および美術や歴史の中に価値を見出し感受性を深める態度を身に付けること。

**【授業の内容】**

- 第1週 はじめに：授業内容の確認、教材の説明など
- 第2週 「国宝」とは何か
- 第3週 縄文時代：火焰型土器と縄文のヴィーナス
- 第4週 弥生・古墳時代：銅鐸と副葬品に見る国際交流
- 第5週 古墳～奈良時代：装飾古墳と高松塚古墳壁画
- 第6週 奈良時代：仏教美術と正倉院宝物
- 第7週 平安時代（1）：密教美術と浄土教美術
- 第8週 平安時代（2）：世俗画と絵巻
- 第9週 鎌倉～南北朝時代：ゆらぐ像主、「伝源頼朝像」
- 第10週 室町時代（1）：東山御物と座敷飾り
- 第11週 室町時代（2）：漢画とやまと絵
- 第12週 桃山時代：狩野永徳「洛中洛外図屏風」と長谷川等伯「松林図屏風」
- 第13週 江戸時代（1）：17世紀を中心に
- 第14週 江戸時代（2）：18～19世紀の様相
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】レポート、宿題等の課題に取り組むこと（学修時間 週2時間）

【事後学修】前回の授業のノートを読み直し、専門用語等は調べて次回までに理解しておくこと（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

教科書は特にさだめず、授業中にプリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業態度、コメントペーパー、宿題）25%、中間レポート25%、期末試験50%で評価します。

レポートは課題発表時に提示した条件を満たしているかをみます。また、期末試験は授業の内容の理解度に応じて評価します。フィードバックについては、受講生の到達度に応じて、実施後の授業時に適宜解説を補い、問題点、課題が見つかった場合はアドヴァイスを行います。

**【参考書】**

各講義内容にあわせて授業中に紹介します。

**【注意事項】**

普段から美術館、博物館などで開催される展覧会に足を運び、実際の作品世界に触れる機会をできるだけ多く作るように心がけてください。



**美術史概論 a**

「国宝」でたどる 日本美術史

三戸 信恵

2年～ 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

展覧会で一人でも多くの来場者を迎えるためには、どんな作品が鑑賞できるのか、見どころは何かなど、アピールポイントを明確にすることが重要です。日本美術を対象とした場合、時代やジャンルを問わず、有効な告知効果を持つ手段の一つとして、「国宝」というキーワードが挙げられます。本授業では、古代から近世までを対象に、国宝に指定された作品を中心に据えながら、日本美術の歴史を概観します。また、「国宝」という切り口を通じて、日本美術に対するアプローチの方法や、社会と美術史のつながり、ミュージアムの社会的役割についての理解も深めてゆきたいと考えています。

**【授業における到達目標】**

日本美術を専門とする学芸員にとって必要な基礎知識（日本美術の流れ、各時代を代表する作品）、および国宝に関する知識を習得すること。また、広い視野と深い洞察力、および美術や歴史の中に価値を見出し感受性を深める態度を身に付けること。

**【授業の内容】**

- 第1週 はじめに：授業内容の確認、教材の説明など
- 第2週 「国宝」とは何か
- 第3週 縄文時代：火焰型土器と縄文のヴィーナス
- 第4週 弥生・古墳時代：銅鐸と副葬品に見る国際交流
- 第5週 古墳～奈良時代：装飾古墳と高松塚古墳壁画
- 第6週 奈良時代：仏教美術と正倉院宝物
- 第7週 平安時代（1）：密教美術と浄土教美術
- 第8週 平安時代（2）：世俗画と絵巻
- 第9週 鎌倉～南北朝時代：ゆらぐ像主、「伝源頼朝像」
- 第10週 室町時代（1）：東山御物と座敷飾り
- 第11週 室町時代（2）：漢画とやまと絵
- 第12週 桃山時代：狩野永徳「洛中洛外図屏風」と長谷川等伯「松林図屏風」
- 第13週 江戸時代（1）：17世紀を中心に
- 第14週 江戸時代（2）：18～19世紀の様相
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】レポート、宿題等の課題に取り組むこと（学修時間 週2時間）

【事後学修】前回の授業のノートを読み直し、専門用語等は調べて次回までに理解しておくこと（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

教科書は特にさだめず、授業中にプリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業態度、コメントペーパー、宿題）25%、中間レポート25%、期末試験50%で評価します。

レポートは課題発表時に提示した条件を満たしているかをみます。また、期末試験は授業の内容の理解度に応じて評価します。フィードバックについては、受講生の到達度に応じて、実施後の授業時に適宜解説を補い、問題点、課題が見つかった場合はアドヴァイスを行います。

**【参考書】**

各講義内容にあわせて授業中に紹介します。

**【注意事項】**

普段から美術館、博物館などで開催される展覧会に足を運び、実際の作品世界に触れる機会をできるだけ多く作るように心がけてください。

**美術史概論 b**

日本の近代・戦後美術

喜寿 孝臣

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

日本の幕末から現代までを対象に、時代ごとに具体的なテーマを設定し、多くの作品に触れることで、その作品を作り出し鑑賞した人々、またそれを可能にした社会や思想について多角的に考察していく。

**【授業における到達目標】**

日本の幕末から現代にいたる美術の流れをつかみ、それを支えた文化や思想、社会について理解する。そのうえで、自ら新たな切り口をみつけて、展覧会を企画できる力を養う。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODakション
- 第2週 江戸から明治へ 見世物と美術
- 第3週 明治 工部美術学校と国家有用の美術
- 第4週 明治 アカデミズムと裸体画論争
- 第5週 明治 美術趣味のひろがり
- 第6週 大正 大正生命主義
- 第7週 大正 関東大震災と都市文化
- 第8週 大正末から昭和へ 新興美術運動
- 第9週 昭和 古代憧憬と東洋回帰
- 第10週 昭和 戦争と美術
- 第11週 昭和 戦後美術の出發
- 第12週 展覧会见学
- 第13週 展覧会 作品分析
- 第14週 展覧会 テーマ分析
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

授業中に紹介した関連図書や展覧会カタログを読む。(学修時間週2時間)

**【事後学修】** 取り上げる時代やテーマに関連する作品を、実際に足を運んで見に行くこと。(学修時間週2時間)

**【テキスト・教材】**

授業中に適宜プリントを配布する。その他は授業中に指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート(50%) 平常点(授業でのリアクションペーパーや参加状況を総合的に判断)(50%)

**【参考書】**

授業中に指示する。

**【注意事項】**

授業を別の日の美術館見学にふりかえる場合がある。その際、交通費・観覧料は個人負担となる。また、自分の興味関心にしたがって、できるだけ多くの美術館や博物館を訪れてほしい。そうした予習復習が、学期末レポートのための調査へと結実することをのぞむ。

**美術史概論 b**

日本の近代・戦後美術

喜寿 孝臣

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

日本の幕末から現代までを対象に、時代ごとに具体的なテーマを設定し、多くの作品に触れることで、その作品を作り出し鑑賞した人々、またそれを可能にした社会や思想について多角的に考察していく。

**【授業における到達目標】**

日本の幕末から現代にいたる美術の流れをつかみ、それを支えた文化や思想、社会について理解する。そのうえで、自ら新たな切り口をみつけて、展覧会を企画できる力を養う。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 江戸から明治へ 見世物と美術
- 第3週 明治 工部美術学校と国家有用の美術
- 第4週 明治 アカデミズムと裸体画論争
- 第5週 明治 美術趣味のひろがり
- 第6週 大正 大正生命主義
- 第7週 大正 関東大震災と都市文化
- 第8週 大正末から昭和へ 新興美術運動
- 第9週 昭和 古代憧憬と東洋回帰
- 第10週 昭和 戦争と美術
- 第11週 昭和 戦後美術の出發
- 第12週 展覧会见学
- 第13週 展覧会 作品分析
- 第14週 展覧会 テーマ分析
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

授業中に紹介した関連図書や展覧会カタログを読む。(学修時間週2時間)

【事後学修】取り上げる時代やテーマに関連する作品を、実際に足を運んで見に行くこと。(学修時間週2時間)

**【テキスト・教材】**

授業中に適宜プリントを配布する。その他は授業中に指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート(50%) 平常点(授業でのリアクションペーパーや参加状況を総合的に判断)(50%)

**【参考書】**

授業中に指示する。

**【注意事項】**

授業を別の日の美術館見学にふりかえる場合がある。その際、交通費・観覧料は個人負担となる。また、自分の興味関心にしたがって、できるだけ多くの美術館や博物館を訪れてほしい。そうした予習復習が、学期末レポートのための調査へと結実することをのぞむ。

**美術史概論 b**

日本の近代・戦後美術

喜寿 孝臣

2年～ 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

日本の幕末から現代までを対象に、時代ごとに具体的なテーマを設定し、多くの作品に触れることで、その作品を作り出し鑑賞した人々、またそれを可能にした社会や思想について多角的に考察していく。

**【授業における到達目標】**

日本の幕末から現代にいたる美術の流れをつかみ、それを支えた文化や思想、社会について理解する。そのうえで、自ら新たな切り口をみつけて、展覧会を企画できる力を養う。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 江戸から明治へ 見世物と美術
- 第3週 明治 工部美術学校と国家有用の美術
- 第4週 明治 アカデミズムと裸体画論争
- 第5週 明治 美術趣味のひろがり
- 第6週 大正 大正生命主義
- 第7週 大正 関東大震災と都市文化
- 第8週 大正末から昭和へ 新興美術運動
- 第9週 昭和 古代憧憬と東洋回帰
- 第10週 昭和 戦争と美術
- 第11週 昭和 戦後美術の出發
- 第12週 展覧会见学
- 第13週 展覧会 作品分析
- 第14週 展覧会 テーマ分析
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

授業中に紹介した関連図書や展覧会カタログを読む。(学修時間週2時間)

**【事後学修】** 取り上げる時代やテーマに関連する作品を、実際に足を運んで見に行くこと。(学修時間週2時間)

**【テキスト・教材】**

授業中に適宜プリントを配布する。その他は授業中に指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート(50%) 平常点(授業でのリアクションペーパーや参加状況を総合的に判断)(50%)

**【参考書】**

授業中に指示する。

**【注意事項】**

授業を別の日の美術館見学にふりかえる場合がある。その際、交通費・観覧料は個人負担となる。また、自分の興味関心にしたがって、できるだけ多くの美術館や博物館を訪れてほしい。そうした予習復習が、学期末レポートのための調査へと結実することをのぞむ。

**美術史実地研究 a**

仏像や襖絵の実物を見る

武笠 朗・桑 和沙

2年～ 集前 1単位

◎：行動力 ○：協働力

**【授業のテーマ】**

美術史を学ぶ上で作品の実物を見ることは何よりも重要である。実際にお寺などに行って、画像で見た作品が、どのような状況に置かれ、そこでどのように見えるのか、それを実感することが大切であり、その時の感動こそが美術史の醍醐味である。この授業は日本・東洋の古美術の実地見学として、7月初め頃に、奈良・京都方面へ2泊3日の見学旅行を実施する。入門で出る基本作品を見学する。実物を見ることで作品の理解を深めよう。

**【授業における到達目標】**

現地で実際に作品を見ることによって、作品を見る目を養う。またグループ行動の中で、作品についてお互いの意見を交換し話し合うことも重要である。

**【授業の内容】**

この授業は実習形式の授業で、毎週授業があるわけではないので注意。授業の展開は次の通り。

- 1、ガイダンス
- 2、見学旅行に行く。旅行中に「今日の一品」(その日の各自のベスト作品)について意見交換する。
- 3、旅行後、感想レポートを提出する

4月の履修登録前に旅行日程(予定)、費用(概算)等を提示する。費用は6.3万円ぐらいとみておくこと。

主な見学先は次の通り(予定)。

奈良＝興福寺、東大寺、奈良国立博物館、法隆寺、中宮寺  
京都＝東寺、正伝寺、三十三間堂、京都国立博物館、養源院、智積院

**【事前・事後学修】**

**事前学修** 日本美術史、仏教美術史などの入門の授業資料、参考文献等で見学作例の勉強しておくこと。何をメインに見に行くのかはっきり目標を立てること。(学修時間4時間)

**事後学修** 課題レポートをしっかり書くこと。(学修時間4時間)

**【テキスト・教材】**

なし。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

見学旅行への参加90%(意見交換の時の発言、見学の際の態度を重視する)、旅行後提出のレポート10%で成績を付ける。見学の際に、具体的な見方を指導し、質問意見等に対応する。レポートについては後日MANABAで対応する。

**【参考書】**

なし。

**【注意事項】**

この授業は、団体旅行による旅行費用算出の関係等で、直前の旅行中止(履修取り止め)は原則として認めない(やむをえない事情の場合はこの限りにあらず)。日程の都合、旅行費用の捻出等を考えた上で、履修するかどうかを決定すること。ただし、履修するかどうか(つまり旅行に行くか行かないか)の最終決定日を別に設ける予定なので、悩んでいる人は、履修登録をした上で考えること。旅行費用は参加人数が多いほど安くなるので、なるべく多くの人が参加することを希望する。

**美術史実地研究 b**

芸術経験を通して学ぶ

六人部 昭典

2年～ 集後 1単位

◎：行動力 ○：協働力

**【授業のテーマ】**

美術史を学ぶためには、実際に「作品」を見ること（芸術経験）が何より大切である。この授業では、美術館や画廊で、実際に作品を前にして、「作品」を見ること、そして「作品」を記述することを学ぶ。

**【授業における到達目標】**

現地で作品を見ることを通して、作品を見る目を養う。この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、「行動力」と「協働力」を身につける。

**【授業の内容】**

## 1. ガイダンス

大学で実施（10月を予定、日時・場所は掲示するので注意）、授業の進め方（日程と注意事項）を確認する。

## 2. 見学授業

見学授業は10～1月の日曜日を2日（終日）使って、現地で行う。内容は主に近・現代の西洋美術を見学する。

川村記念美術館（千葉県）やポーラ美術館（神奈川県）など、近郊の美術館の所蔵品を見学する予定だが、特別展（優れた展覧会で混雑が予想されない場合）も考たい。

見学日程（日時と場所）は、第1回目のガイダンスで発表するので、必ず出席すること。

**【事前・事後学修】**

事前：ガイダンス時に配布するプリントを熟読して、当日の見学に備える。また、当日は作品についてコメントを求めるので、基礎演習等の授業で学んだ内容を再確認する（計2時間）。

事後：見学内容を整理し、レポートを作成する（計4時間）。

**【テキスト・教材】**

テキスト（教科書）は使用しない。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

成績評価の方法：平常点（ガイダンスを含む授業への積極的参加、見学態度 50% レポート（50%）

フィードバック：レポート提出時に行う

**【参考書】**

授業時に指示。

**【注意事項】**

見学授業は、「授業」であることを自覚して参加する。

一般の来館者も鑑賞しておられることに留意すること。

遅刻や私語は厳禁。

美術館の観覧料、現地までの往復交通費等は、自己負担。

**美術史実地研究 c**

総合芸術としての舞台

椎原 伸博

2年～ 集前 1単位

◎：行動力 ○：協働力

**【授業のテーマ】**

東京は世界でも有数の舞台芸術が盛んな都市である。歌舞伎や文楽のような伝統芸能から、新劇、ミュージカル、バレエ、オペラ、ダンス等々様々な舞台が毎日のようにかかっている。また、神奈川、埼玉、静岡といった地方公共団体も、公共財としての芸術という意識の下で、舞台芸術に対する支援をおこなっている。この授業は、このような舞台芸術の実際に立ち会い、その鑑賞体験に基づいて、舞台芸術作品に関する記述を行うことを学ぶ。舞台芸術は、様々な芸術のジャンルの複合体であり、そこには当然美術史的視点、芸術学的視点、美学的視点も含まれており、それらを総合的に考察する力を養うことを目指す。また、地方公共団体が主催する演劇公演が、都市の創造性を高めていることを確認し、アートマネジメント、文化政策の視点から舞台芸術の意味を再考察することを目指す。

**【授業における到達目標】**

舞台芸術作品が総合芸術であることを理解する。学生が修得すべき修得すべき【行動力】のうち、目標設定と計画立案・実行能力を身につける。また、【協働力】のうち、自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができるようになる。

**【授業の内容】**

この授業は実習形式の授業であり、毎週授業があるわけではない。授業の流れは以下の通りである。

1：ガイダンス 4月上旬

2：舞台の鑑賞（4作品）

3：実際に見た演劇毎にレポートを提出

4：見た作品に関するディスカッション

5：7月中旬 ディスカッションに基づく発表会

鑑賞する舞台芸術は静岡芸術劇場を中心として、ゴールデンウィーク中に開催される「ふじのくに 世界演劇祭」から2作品と、神奈川芸術劇場、彩の国さいたま劇場、世田谷パブリックシアターなど、地方公共団体が運営する劇場から2作品を予定している。

**【事前・事後学修】**

この授業では四本の舞台芸術作品を鑑賞します。事前学修として上演作品に関する資料（脚本、映像資料等）を提示しますので、鑑賞前に確認しておいて下さい。（学修時間：一作品につき4時間 全体で16時間）鑑賞後に、事後学修として当該作品の批評文や研究論文を提示しますので、それらを参考にして事後学修として鑑賞した舞台芸術に関するレポートを作成します。（学修時間：一作品につき4時間 全体で16時間）

**【テキスト・教材】**

上演作品の台本等、適宜指示します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート50%、ディスカッションおよび発表50%

7月に行うディスカッションに基づく発表会にて、全体のフィードバックを行います。また、優れレポートは授業内で紹介しフィードバックします。

**【参考書】**

適宜指示します。

**【注意事項】**

チケットを手配する関係から、この授業の定員は20名とします。また、静岡県静岡市への旅費、滞在費、チケット代が別途（2万円程度）かかります。

## 品質管理統計演習

松岡 康浩

2年 後期 1単位

○：研鑽力、行動力

### 【授業のテーマ】

食品開発および食品製造において必要な品質管理の手法について学びます。品質管理の基本となる統計の基礎演習および製品製造における品質規格・品質保証についての講義と演習、さらに食品の官能評価の検定演習を行います。PCを使用し、例題を授業の中で解く演習で学び、問題を自分の力で解く課題で理解度を確認します。

### 【授業における到達目標】

マイクロソフトエクセルおよびSPSSを用いた演習と課題を通じ、基本的な統計解析についての理解および食品の品質管理の方法を修得することが目標です。

### 【授業の内容】

- 第1週 食品の品質管理および品質保証
- 第2週 基本統計①平均、分散、標準偏差
- 第3週 基本統計②PCによる基本操作演習
- 第4週 基本統計③確率分布
- 第5週 基本統計④検定
- 第6週 基本統計⑤課題 1
- 第7週 食品の品質管理①品質規格と品質評価法
- 第8週 食品の品質管理②工程検査と出荷判定
- 第9週 食品の品質管理③課題 2
- 第10週 食品の官能評価①食品のおいしさとは
- 第11週 食品の官能評価②官能評価パネル
- 第12週 食品の官能評価③課題 3
- 第13週 食品の官能評価④平均値の検定
- 第14週 食品の官能評価⑤順位法
- 第15週 食品の官能評価⑥課題 4

### 【事前・事後学修】

事前学修：前回の演習内容を復習することによって、次回講義の内容理解が増します。できればマイクロソフトエクセルを用いた簡単な計算ができることが望ましい。（学修時間 2時間）

事後学修：授業で行った演習をもう一度繰り返して行い、PCの操作だけでなく、処理の意味を理解する。（学修時間 2時間）

### 【テキスト・教材】

テキストは使用せず、プリント資料を配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題レポート 90%、演習での積極的参加10%  
演習および課題はmanabaにて解を提示します。

### 【参考書】

- 石村貞夫 著『入門はじめての統計解析』  
（東京図書 2014年）2400円＋税
- 鐵 健司 著『品質管理のための統計的方法入門』  
（日科技連 2014年）3000円＋税
- 大越ひろ、神宮英夫 編著『食の官能評価入門』  
（光生館 2009年）1800円＋税
- 内田治、平野綾子 著『官能評価の統計解析』  
（日科技連 2012年）2800円＋税

## 福祉社会論

—バリアフリー社会の創造—

西脇 智子

1・2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

だれかの不便さをみんなの使いやすさに変える社会を目指したわが国のアイディアは世界をリードしています。この授業では、バリアフリー化を推進してきた「モノ・ひと・サービス」の事例に照らして、これまで他者に対してどのような工夫や配慮をしてきたのかを学んでいきます。福祉社会の創造にむけて、バリアフリー化を啓発する諸活動の意義を探っていきましょう。

### 【授業における到達目標】

- ・学生が修得すべき「研鑽力」を修得し、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができるようになることをめざします。
- ・物事の真理を探究し「美の探究」を実践できるようになることをめざします。

### 【授業の内容】

1. 福祉社会とはなにか
2. だれかの不便さとはなにか
3. 共用品推進機構の試み
4. 共用品と配慮点を学ぶ
5. 視覚障害の不便さを知る
6. 聴覚障害の不便さを知る
7. 肢体不自由の不便さを知る
8. 高齢者の不便さを知る
9. 色覚障害の不便さを知る
10. 共遊玩具とはなにか
11. 音カタログとはなにか
12. てんやく絵本とはなにか
13. 点字を読む
14. 点字を書く
15. まとめ

### 【事前・事後学修】

- ・事前学修：授業内容に照らした配布資料を読んで予習します。  
(学修時間 週2時間)
- ・事後学修：授業内容に照らして復習し、授業時に出された課題に取り組めます。(学修時間 週2時間)

### 【テキスト・教材】

教材は資料を配付します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題レポート40%、平常点（授業中の発言、ドリル、作業）60%。  
ドリルは次回授業、課題レポートの結果は授業最終回でフィードバックを行います。

### 【参考書】

光野有次『みんなでつくるバリアフリー』（岩波書店 2005年）820円、本間一夫『指と耳で読む』（岩波書店 1980年）700円、松森果林『音のない世界と音のある世界をつなぐ』（岩波書店 2014年）860円、田中徹二『不可能を可能に 点字の世界を駆け抜ける』（岩波書店 2015年）780円

## 福祉住環境論

橋 弘志

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

### 【授業のテーマ】

少子高齢社会を迎えるにあたり、「福祉」の考え方は大きく変容しており、住まいや地域の役割はますます重要になっています。高齢者や障害者にとっての住環境のあり方を学ぶことは、私たち自身の生活と環境との関わり方を見直す上でも有用です。ここでは、福祉の概念の変化を背景に、高齢者や障害者のための制度や住まい、環境整備のあり方などについて、幅広く学んでいきます。

### 【授業における到達目標】

<美の探求>「物事の真理を探究することによって、新たな知を創造市長とする態度」「優しさと強さを兼ね備え、倫理観を以て人格を陶冶使用とする態度」、<研鑽力>「広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる力」、<行動力>「プロセスや成果を正しく評価し、問題解決に繋げることができる力」を学修する。

### 【授業の内容】

- 第1週 福祉の意味
- 第2週 障害の捉え方
- 第3週 高齢者と高齢社会
- 第4週 高齢者・障害者の特性
- 第5週 福祉の制度
- 第6週 高齢者と住まい
- 第7週 在宅高齢者の生活と住宅環境
- 第8週 在宅高齢者の生活と地域環境
- 第9週 まちの居場所
- 第10週 高齢者施設における生活
- 第11週 身の置き処をつくる
- 第12週 居場所をつくる
- 第13週 生活のかたちをつくる
- 第14週 さまざまな高齢者施設
- 第15週 総括

### 【事前・事後学修】

事前学修：配布する資料・プリントをよく読んで授業に臨むこと（学修時間 週2時間）

事後学修：各回の授業を復習してよく理解しておくこと（学修時間 週2時間）

### 【テキスト・教材】

適宜プリントを配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回の小課題40%、定期試験60%とします。小課題については次回授業、試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

### 【参考書】

『福祉住環境コーディネーター2級テキスト』（東京商工会議所）  
 その他授業の中で追って紹介します。



## 仏教思想史 a

水上 文義

2年～ 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

世界的に広まった宗教は、伝わった地域と民族の文化や特性により変容されて受容され、多くの人々のアイデンティティとなってきた。古代インドでゴータマ・ブッダ(釈迦)により始められた仏教は、「神」を中心とせず、「人」を中心に考える、ある意味で特異な宗教である。その仏教がどのように変容して形成され、各地に伝わってきたかを探る。

前期ではブッダの生涯と思惟、そして日本にも伝わった大乘仏教の発達と考え方を中心に、その思想的特色を概観する。

### 【授業における到達目標】

宗教思想は一見難解に見えるが、可能な限り分かりやすく説明するので、仏教を無批判に受け入れたり拒絶するのではなく、自分なりに考え、評価し批判する判断力を養いたい。そして他者とのかかわりや協調性を改めて見直し、仏教美術や文化や思考方法を世界の人々にも多少の説明ができるなど、広い視野に立つ考察ができるようになることを目標とする。

### 【授業の内容】

- 第1週 Introduction ブッダと「神」はどう違うか
- 第2週 インドの宗教哲学と仏教
- 第3週 ゴータマ・ブッダの歩んだ道
- 第4週 原始仏教と上座部仏教
- 第5週 大乘仏教の誕生～菩薩の変容
- 第6週 さとりの智慧と空～般若思想
- 第7週 異世界の仏～極楽浄土へのいざない
- 第8週 人は誰でも仏になれる～『法華経』の教え
- 第9週 さとりの宇宙と現世のつながり～『華嚴経』の世界観
- 第10週 人の心にある仏～如来蔵思想
- 第11週 仏と一体になる～ヨーガと密教思想
- 第12週 仏教東漸～ガンダーラからパミールを越えて
- 第13週 中国仏教の開花
- 第14週 東アジア仏教の特色
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：次週該当部分と関連する事柄を予め図書館などで調べておく。授業で示した参考書や高校倫理や世界史の教科書などに目を通しておくことも一方法。学修時間：週2時間

事後学修：ノートや授業ごとに配布するプリントなどを読み返し、専門用語の理解につとめ、疑問点などを整理しておくこと。学修時間 週2時間

### 【テキスト・教材】

授業の進行に合わせて要点を要約したプリントを配布する。特定の教科書は用いない。場合によりビデオなども使用する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小レポート（とくにビデオ鑑賞後の感想など）30%、試験50%、授業への取り組み（積極的な質問や意見など）20%。小レポートには次回授業で、質問等にはできるだけその場でフィードバックする。

### 【参考書】

- 平川彰『インド・中国・日本、仏教通史』（春秋社）
- 三枝充恵『仏教入門』（岩波新書）
- 中村元『ブッダ伝―生涯と思想』（角川ソフィア文庫）、『ブッダ物語』（岩波ジュニア新書）

### 【注意事項】

宗教も独自には成り立たず、必ず地域や民族の政治・経済・文化や時代などに影響される。物事を一つの視点からだけ見るのではなく、広い視野からの意見・評価・判断力を持てるよう心がけたい。

## 仏教思想史 b

水上 文義

2年～ 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

古代インドで成立した仏教は東アジアに伝わると中国仏教として大きく変容し、それを基盤とした日本仏教はさらに独自に変容した。後期は日本への仏教公伝からはじめ、今日の日本仏教を形成した主要各派の思想と変遷を、歴史的な流れにそって概観する。

### 【授業における到達目標】

仏教の日本文化と宗教への影響と形成を視点に、日本人にとっての仏教あるいは宗教とはなにかを考える。それにより、日本の文化や芸術まで含めた広い視野に立つ考察力と、自分なりの判断力を養い、外国の人にも簡単な説明ができる知識を身につけることを目標とする。

### 【授業の内容】

- 第1週 Introduction 中国仏教と日本仏教  
一漢訳仏典の功罪～本当は怖い読み下し漢文
- 第2週 仏教公伝～日本人は仏教をどのように受けとめたか
- 第3週 聖徳太子～スーパーヒーローは実在したか
- 第4週 聖武天皇の理想国家～大仏開眼と鑑真招聘
- 第5週 日本仏教の確立～すべての人を仏に～最澄の願い
- 第6週 総合仏教の成立～比叡山の天台仏教
- 第7週 天才空海の登場～真言密教1
- 第8週 華麗なる曼荼羅の宇宙～真言密教2
- 第9週 鎌倉新仏教は本当に「新」仏教か～末法思想の影響
- 第10週 極楽往生を祈る～法然と親鸞
- 第11週 座禅こそ悟りへの道～栄西と道元
- 第12週 われ日本の柱とならん～日蓮と蒙古襲来
- 第13週 神と仏のコスモロジー～神仏習合
- 第14週 日本人の神仏観と自然～日本文化への仏教の影響
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：授業で示した参考書や高校教科書レベルでの倫理や日本史などに目を通し、授業を理解する助けとしたい。週2時間

事後学修：授業で配布したプリントやノートをみて、内容の概要や専門用語を確認し、疑問点などを整理する。週2時間

### 【テキスト・教材】

各週のテーマにそったプリントを配布する。特定の教科書は用いない。ビデオを使う場合もある。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小レポート（とくにビデオ鑑賞後の感想など）30%、試験50%、授業への取り組み（積極的な質問や意見など）20%。小レポートには次回授業で、質問等にはできるだけその場でフィードバックする

### 【参考書】

- 前期のものに加えて  
末木文美士『日本仏教史』（新潮文庫）、『日本仏教入門』（角川選書）
- 立川武蔵『最澄と空海―日本仏教思想の誕生』（角川ソフィア文庫）
- ポール・L・スワンソン『異文化から見た日本宗教の世界』（法蔵館 叢書現代世界と宗教2）

### 【注意事項】

後期のみ受講する方へ。後期では、前期で学んだことを前提に進めることがあるので、可能なら通年で受講した方が理解しやすい。

**仏教美術史演習A**

研究方法基礎編

武笠 朗

美術史学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

日本・東洋の仏教美術史及び彫刻史を研究する際の具体的な研究方法、調査方法を知った上で、各自の研究テーマに即した具体的な問題を検討する。

**【授業における到達目標】**

各自が研究テーマを設定し、それに即した作品調査・資料収集を行えるようになる。資料の読解・分析を通じて研究史を批判的に検証する能力を身につける。研究テーマに対するアプローチの仕方を複数見出すことができるようになる。

**【授業の内容】**

研究の具体的方法として、評価史・研究史の意義とその方法、古記録・古文書の読み方などを身につける。基礎編。また各自の研究テーマ（修士論文研究に向けての）を設定し、研究過程で生じた具体的な問題を検討し、それを総合して研究の中間発表を行なう。

第1週 ガイダンス

第2週 研究テーマの検討1 対象作品の選択

第3週 研究テーマの検討2 アプローチの仕方

第4週 研究テーマの検討3 分析事項の整理

第5週 評価史・研究史の意義とその方法1 見出され方

第6週 評価史・研究史の意義とその方法2 文化財的な評価

第7週 評価史・研究史の意義とその方法3 美術史的な評価

第8週 研究テーマに関する具体的問題の検討1 文献の指導

第9週 古記録・古文書の読み方1 資財帳など

第10週 古記録・古文書の読み方2 公卿日記・古文書

第11週 造像銘記の研究

第12週 研究テーマに関する具体的問題の検討2 作品研究の実際

第13週 学生の研究発表1 造像銘記について

第14週 学生の研究発表2 研究テーマ

第15週 まとめ

展覧会等の見学を行なう場合がある。

**【事前・事後学修】**

事前学修 それぞれのテーマについて、自分の研究課題に即して十分に予習しておくこと（週2時間）。

事後学修 授業の内容を自分の研究課題に反映させること（週2時間）。

**【テキスト・教材】**

授業時に資料・文献を配付する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業への参加の仕方30%、課題への取り組み方20%、研究発表50%を総合して評価する。課題や研究発表へのコメント等フィードバックは授業内で行なう。

**【参考書】**

授業中に適宜参考文献を示す。

**【注意事項】**

特になし。

**仏教美術史演習B**

研究方法応用編

武笠 朗

美術史学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

日本・東洋の仏教美術史及び彫刻史を研究する際の具体的な研究方法、調査方法を知った上で、各自の研究テーマに即した具体的な問題を検討する。自分の研究テーマに対するアプローチの仕方を固めていく。応用編。

**【授業における到達目標】**

さまざまな研究方法を踏まえて各自が研究テーマを設定し、それに即した作品調査・資料収集を行なえるようになる。関連諸学の文献や史料の読解、作品調査、調書の作成ができるようになる。

**【授業の内容】**

研究の具体的方法として、関連諸学との関わり、経典等仏教文献の読み方、作品の現地調査・見学の仕方、作品の調書の書き方などを身につける。応用編。また各自の研究テーマについて、研究過程で生じた具体的な問題を検討し、それを総合して研究発表を行なう。

第1週 ガイダンス

第2週 関連諸学と美術史

第3週 仏教系諸学と美術史

第4週 経典の講読1 『法華経』

第5週 経典の講読2 『金光明最勝王経』

第6週 『往生要集』の講読

第7週 作品テーマに関する具体的問題の検討1 分析事項の絞込み

第8週 作品の見学の仕方

第9週 作品の調査の仕方

第10週 作品の調書の書き方

第11週 作品の写真の撮り方

第12週 作品テーマに関する具体的問題の検討2 分析結果の検討

第13週 学生の研究発表1 経典関係

第14週 学生の研究発表2 研究テーマ

第15週 まとめ

展覧会等の見学授業をすることがある。

**【事前・事後学修】**

事前学修 講読の場合は予習を、発表の場合はその準備を、調査の場合は事前の作品研究を求める（週2時間）。

事後学修 授業内容を自分の研究課題に反映させることが重要（週2時間）。

**【テキスト・教材】**

授業時に資料を配付する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業への参加の仕方30%、課題への取り組み方20%、研究発表50%を総合して評価する。フィードバックはすべて授業内に行なう。

**【参考書】**

授業内に適宜参考文献を示す。

**【注意事項】**

特になし。

**仏教美術史演習 a**

仏教美術の研究方法を知る

武笠 朗

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

仏教美術史（あるいは日本・東洋の彫刻史）を研究する上での基本事項や文献の読み方など研究方法全般を学び、その方法を踏まえて各自作品や作家についての研究発表を行なう。

**【授業における到達目標】**

- 1、仏像の名前がわかるようになり、仏像関係の論文が読めるようになる。
- 2、研究発表の方法がわかるようになる。
- 3、1、2を通じて、学ぶ喜びを知り、生涯にわたって知を探究する力を身につける。
- 4、1、2を通じて、日本の文化を世界に発信する意識、感受性を高め真理を探究する能力、そして課題を見出して問題解決につなげる力を身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス  
 第2週 仏教美術の研究方法  
 第3週 彫刻史の研究手法  
 第4週 尊像の姿形とその信仰（1）如来・菩薩  
 第5週 尊像の姿形とその信仰（2）明王・天  
 第6週 尊像の姿形とその信仰（3）その他、小テスト  
 第7週 研究発表テーマ個別指導  
 第8週 作品を記述する（1）形状  
 第9週 作品を記述する（2）作風  
 第10週 作品を記述する（3）比較  
 第11週 研究発表（1）インド・中国  
 第12週 研究発表（2）飛鳥～奈良  
 第13週 研究発表（3）平安～鎌倉  
 第14週 研究発表（4）その他  
 第15週 まとめ

研究発表は、各自が関心のある作品や作家、テーマを選び、それについて研究発表を行なう。テーマは相談の上決定する。発表は口頭で20分程度。発表原稿を書き、パワーポイント等で画像を提示し、かつ資料を作成して発表を行なう。

授業時間内に展覧会見学を行なう場合がある。

**【事前・事後学修】**

事前学修 配付資料等で予習し、小テスト、研究発表に際しては十分な準備をすること（学修時間 週2時間）。

事後学修 授業で出た作品について勉強すること。発表後はその反省を十分にすること（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

適宜資料を配付する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

研究発表を60%、小テスト20%、授業への取り組み方20%で成績を付ける。レポートとして研究発表原稿の訂正版の提出を求められることがある（成績に加算する）。研究発表や小テストの講評は授業時に行なう。

**【参考書】**

研究発表の際は、個別に面接し参考文献を指導する。

**【注意事項】**

授業時間外で展覧会見学を課すことがある。

**仏教美術史演習 b**

見学旅行に行つて実物を見る

武笠 朗

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

仏教美術史（あるいは日本・東洋の彫刻史）を研究する上での基本事項や文献の読み方など研究方法全般を学ぶ。また関西方面への見学旅行を実施する。見学作品の研究発表とその実地見学により作品の理解を深める。

**【授業における到達目標】**

- 1、仏像の具体的な研究方法や、実地見学の仕方を理解する。
- 2、研究発表のテーマ設定や効果的な発表の仕方を身につける。
- 3、1、2を通じて、学ぶ喜びを知り、生涯にわたって知を探究する意識を身につける。
- 4、1、2を通じて、日本の文化を世界に発信する積極的意識、感受性を高め真理を探究する能力、そして課題を見出して問題解決につなげる力を身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス  
 第2週 見学作品研究発表テーマ決定個人相談  
 第3週 見学作品研究発表（1）飛鳥・奈良時代  
 第4週 見学作品研究発表（2）平安時代  
 第5週 見学作品研究発表（3）鎌倉時代  
 第6週 素材技法（1）石仏・金銅仏・塑像  
 第7週 素材技法（2）乾漆像・木彫像、表面仕上げ  
 第8週 様式について考える（1）形式論  
 第9週 様式について考える（2）様式論（作風）  
 第10週 基本文献を読む（1）『奈良六大寺大観』  
 第11週 基本文献を読む（2）『日本彫刻史基礎資料集成』  
 第12週 古文書・古記録などを読む  
 第13週 作品の調査・見学の仕方  
 第14週 期末レポート個人指導  
 第15週 まとめ

見学旅行は関西方面へ2泊3日を予定している。時期は未定だが、11月中旬を予定している。見学先は、美術史実地研究aの旅行で行ったところ以外で、重要作例のある寺社などを中心に、受講者の希望を取り入れて決める予定である。

見学作品研究発表は、見学する作例をテーマに発表する。テーマは個人相談を経て決定する。発表は口頭で20分程度。

授業時間内あるいは時間外に展覧会等見学を課す場合がある。

期末レポートは、仏教美術系で卒論執筆希望者は卒論を見据えたテーマで、そうでない者は見学作例などをテーマとする。個人指導で決定する。

**【事前・事後学修】**

事前学修 配付資料等で授業の予習をすること。発表の際は準備を十分に行なうこと（学修時間 週2時間）。

事後学修 授業で出た作品見直すこと。専門用語をしっかりと覚えること（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

適宜資料を配付する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

研究発表40%、期末レポート40%、授業への取り組み方20%で成績を付ける。研究発表については、授業内で講評し、作品見学の際にさらに指導する。期末レポートについては最終授業時に講評する。

**【参考書】**

研究発表の際は、個別に参考文献を指示する。

**【注意事項】**

経済的事情等で見学旅行には行けないのだが、この演習を取りたいという人は事前に相談すること。

## 仏教美術史研究指導特殊演習A

調査の仕方

武笠 朗

美術史学専攻 前期 2単位

### 【授業のテーマ】

仏教美術及び彫刻作例の調査の仕方を知る。作品の調査は、研究上必須である。作品データや写真のない作例の場合、自分で調査をしてそれを得る他ない。その方法を具体的に学ぶ。

### 【授業における到達目標】

作品の調査（調査ノート作成、写真撮影）ができるようになる。

### 【授業の内容】

教室内で講義と実習を交えて授業をするが、最後に実際に作品調査を実施し、その調査報告を発表の形で行なう。

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 仏像の調査の実際
- 第3週 調査依頼の仕方
- 第4週 法量を取る
- 第5週 形状を見る
- 第6週 品質構造を見る
- 第7週 伝来を調べる
- 第8週 保存状態を確かめる
- 第9週 備考を考える
- 第10週 写真撮影 ライティング
- 第11週 写真撮影 フレーミング
- 第12週 調査に行く
- 第13週 調査報告 木彫像
- 第14週 調査報告 金銅仏
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修 調査の前、及び研究発表の前にその準備を十分にしておくこと（週2時間）。

事後学修 ノートの補完等を十分にすること（週2時間）。

### 【テキスト・教材】

適宜資料を配付する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度30%、研究発表40%、レポート30%で成績を付ける。フィードバックは授業内で、あるいは見学・調査時に行なう。

### 【参考書】

適宜文献を紹介する。

### 【注意事項】

土・日・祝日などに見学・調査を行なう予定である。関東地方の寺院など。

## 仏教美術史研究指導特殊演習B

調書の書き方

武笠 朗

美術史学専攻 後期 2単位

### 【授業のテーマ】

仏教美術及び彫刻作例の調書の書き方を知る。作品の調査報告としての調書をまとめることは、研究上また美術館等での実践においても必須の作業である。各自の研究の総合力がそこに反映される。どのようにしてその作品の特徴を浮かび上がらせるか、そのまとめ方を理解する。

### 【授業における到達目標】

作品の調書をまとめることができるようになる。さまざまなアプローチから取捨選択して、一つの作品の性格をまとめることができるようになる。

### 【授業の内容】

授業を通じて専門用語を習得し、最終的に実際に調書を書いてみる。

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 正しい調書のあり方を学ぶ
- 第3週 『日本彫刻史基礎資料集成』という本
- 第4週 『平安時代重要作品篇』を読む
- 第5週 『平安時代造像銘記篇』を読む
- 第6週 『鎌倉時代造像銘記篇』を読む
- 第7週 「形状」を記述する
- 第8週 「法量」を記述する
- 第9週 「品質構造」を記述する
- 第10週 「伝来」を記述する
- 第11週 「保存状態」を記述する
- 第12週 「備考」を記述する
- 第13週 調書を書く 木彫像の場合
- 第14週 調書を書く 金銅仏の場合
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修 授業の対象になる文献を読んでおくこと（週2時間）。

事後学修 それぞれの項目の記述のまとめをすること（週2時間）。

### 【テキスト・教材】

適宜資料を配付する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度30%、調書作成70%で成績を付ける。フィードバックは授業内に行なう。

### 【参考書】

『日本彫刻史基礎資料集成』中央公論美術出版

### 【注意事項】

特になし。

**仏教美術史特講 a**

密教美術から和様美術の萌芽へ

**武笠 朗**

2年～ 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

平安時代前期と平安時代後期（康尚まで）の仏教美術史・彫刻史を、主要作例や重要課題を中心に詳しく検討する。作品やテーマへのさまざまなアプローチのあり方を知り、それとともに社会や信仰と作品の多様な絡み方を理解する。重要作例の現状を詳細に見た上で、研究史の問題点を指摘し、今後のアプローチのあり方を示していく。それに則って各自研究レポートを提出する。

**【授業における到達目標】**

- ①平安前期の密教美術、及び平安後期の和様彫刻の成立における中国仏教・美術の影響を学ぶことで、東アジア的な視野に立って日本文化を理解しようとする態度を身につける。
- ②平安前期・後期の仏教美術へのさまざまなアプローチのあり方を知ることで、知の探求と感受性を深める態度と、併せて学修を通して自己成長し、課題解決に向けて主体的に行動する力を身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週 はじめに
  - 第2週 仏教美術の研究方法
  - 第3週 比べてみる
  - 第4週 平安前期から後期へ
  - 第5週 神護寺と新薬師寺の薬師如来像
  - 第6週 両界曼荼羅
  - 第7週 東寺講堂諸尊
  - 第8週 観心寺如意輪観音像
  - 第9週 法華寺十一面観音像
  - 第10週 仁和寺と清凉寺の阿弥陀三尊像
  - 第11週 室生寺と醍醐寺
  - 第12週 神仏習合の造形
  - 第13週 六波羅蜜寺諸像と10世紀の造像
  - 第14週 康尚と同聚院不動明王像
  - 第15週 まとめ
- 寺社あるいは展覧会の見学を行なう予定。

**【事前・事後学修】**

- 事前学修 配付資料及び入門bの配付資料などを見て、授業内容をイメージしておくこと（学修時間 週2時間）。
- 事後学修 配付資料の見直し及び関連参考文献を読んでみること（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

テーマごとに資料を配付する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末レポート60%、課題レポート（展覧会見学など）30%、授業態度10%で成績を付ける。レポートは授業時間内で講評する。

**【参考書】**

- ・『日本美術全集』5・6（講談社）
- ・『日本美術全集』4（小学館）
- ・『日本彫刻史基礎資料集成 平安時代 重要作品篇』（中央公論美術出版）

**【注意事項】**

講義を聴く中で、専門用語に対する基礎知識（読み、意味、使い方）を吸収し、また自分の好きな作品を見出してほしい。事前・事後学修はもちろん大事だが、まずは授業に集中すること。

**仏教美術史特講 b**

定朝から運慶・快慶へ

**武笠 朗**

2年～ 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

和様彫刻の成立から院政期を経て鎌倉時代前期までの仏教美術史・彫刻史を、主要な作例や仏師、重要課題を中心に詳しく検討する。作品やテーマへのさまざまなアプローチのあり方を知り、それとともに社会や信仰と作品の多様な絡み方を理解する。重要作例や仏師研究の現状を詳細に見た上で、研究史の問題点を指摘し、今後のアプローチのあり方を示していく。それに則って各自研究レポートを提出する。

**【授業における到達目標】**

- ①院政期の和様の変容と鎌倉様式における中国宋代仏教・美術の影響を学ぶことで、東アジア的視野に立って日本文化を理解しようとする態度を身につける。
- ②平安後期・鎌倉期の仏教美術へのさまざまなアプローチのあり方を知ることで、知の探求と感受性を高める態度と、併せて学修を通して自己成長し、課題解決に向けて主体的に行動する力を身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週 はじめに
  - 第2週 仏教美術の研究方法
  - 第3週 平安後期から鎌倉期の概要（美麗と生身と）
  - 第4週 定朝の事績
  - 第5週 平等院鳳凰堂1 阿弥陀如来像
  - 第6週 平等院鳳凰堂2 雲中供養菩薩像と扉壁画来迎図
  - 第7週 白河・鳥羽上皇期の仏事と造像
  - 第8週 蓮華王院（三十三間堂）
  - 第9週 康慶と興福寺南円堂造像
  - 第10週 運慶の事績
  - 第11週 興福寺北円堂諸像
  - 第12週 東大寺南大門二王像
  - 第13週 快慶の事績
  - 第14週 快慶の来迎印阿弥陀如来立像
  - 第15週 まとめ
- 寺社あるいは展覧会の見学を行なう予定。

**【事前・事後学修】**

- 事前学修 配付資料及び入門bの配付資料などを見て、授業内容をイメージしておくこと（学修時間 週2時間）。
- 事後学修 配付資料の見直し及び関連参考文献を読んでみること（学修時間 週2時間）。

**【テキスト・教材】**

テーマごとに資料を配付する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末レポート60%、課題レポート（展覧会見学など）30%、授業態度10%で成績を付ける。レポートは授業内で講評する。

**【参考書】**

- ・『日本美術全集』6・7・8・10（講談社）
- ・『日本美術全集』4・7（小学館）
- ・『院政期の仏像』（岩波書店）
- ・『日本彫刻史基礎資料集成 平安時代造像銘記篇』（中央公論美術出版）
- ・『日本彫刻史基礎資料集成 鎌倉時代造像銘記篇』（中央公論美術出版）

**【注意事項】**

講義を聴く中で、専門用語の基礎知識（読み、意味、使い方）を吸収し、また自分の好きな作品を見出してほしい。事前・事後学修はもちろん重要だが、まずは授業に集中すること。

**仏教美術史特殊研究A**

仏教美術史研究の諸問題（作品に即して）

武笠 朗

美術史学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

日本の飛鳥時代から鎌倉時代までの仏教美術（主に仏像彫刻）の展開についての具体的な個別作例研究を通じ、作例に対するさまざまな研究方法・視座を理解する。その方法を応用して各自作品研究に取り組む。

**【授業における到達目標】**

多様な研究スタンスの実際とその長所短所を理解し、個々の作品に即して研究方法を選択することができるようになる。

**【授業の内容】**

この授業では、様式論、形式論、素材技法論について考える。いずれかの方法による作品研究を行なう。

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 様式論（国や地域）
- 第3週 様式論（時代）
- 第4週 様式論（作家論）
- 第5週 形式論（着衣及びその形式）
- 第6週 形式論（その他部分形式）
- 第7週 形式論（荘厳具）
- 第8週 素材論（金銅仏の場合）
- 第9週 素材論（木彫像の場合）
- 第10週 技法論（金銅仏の場合）
- 第11週 技法論（乾漆像、塑像の場合）
- 第12週 技法論（木彫像の場合）
- 第13週 学生の研究発表1 様式論、形式論
- 第14週 学生の研究発表2 素材技法論
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

各回のテーマについて事前学修をしておくこと（週2時間）。事後学修としては、自分の研究に照らしてどの方法がふさわしいかその都度考えてみる（週2時間）。

**【テキスト・教材】**

授業時に資料を配付する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業への取り組み方30%、研究発表40%、期末レポート30%を総合して評価する。フィードバックは授業内に行なう。

**【参考書】**

授業内に適宜文献を紹介する。

**【注意事項】**

特になし。

**仏教美術史特殊研究B**

仏教美術史研究の諸問題（作品の周囲）

武笠 朗

美術史学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

日本の飛鳥時代から鎌倉時代までの仏教美術（主に仏像彫刻）の展開についての具体的な個別作例研究を通じ、作例に対するさまざまな研究方法・視座を理解する。その方法を応用して各自作品研究に取り組む。

**【授業における到達目標】**

図像研究や作品の制作背景全般に対する方法論の実際を理解し、それを自らの研究に応用することができるようになる。

**【授業の内容】**

この授業では、図像検討から願意・発願主の問題に及ぶ。いずれかのアプローチに従って作品研究及び発表を行う。

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 像の姿かたち
- 第3週 図像のこと
- 第4週 経典、注釈書、図像類
- 第5週 図像的考察
- 第6週 経典との関係
- 第7週 教義との関係
- 第8週 願意の問題
- 第9週 発願主の問題
- 第10週 プロデューサーとしての僧
- 第11週 造像銘記の意義
- 第12週 新しい方法論
- 第13週 学生の研究発表1 古代
- 第14週 学生の研究発表2 中世
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

各回のテーマについて事前研究し、テーマに対する認識を作っておくこと（週2時間）。事後は、自分のテーマに照らしてその方法の適否を考えてみる（週2時間）。

**【テキスト・教材】**

授業時に資料を配付する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業への取り組み方30%、研究発表40%、期末レポート30%を総合して評価する。フィードバックは授業内に行なう。

**【参考書】**

授業内に適宜文献を紹介する。

**【注意事項】**

特になし。

**仏教美術史特論A**

女性と仏教・仏教美術

武笠 朗

美術史学専攻 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

日本・東洋の仏教美術史及び彫刻史の諸問題を検討する。修士論文研究に向けて、さまざまな方法論を理解し、作品へのアプローチの仕方を考える。

**【授業における到達目標】**

仏教美術を女性の側から見た場合に何が見えてくるのか。アプローチの仕方によっての見え方が大きく変わってくることを理解し、自らの研究のテーマ設定に活かすことができる。

**【授業の内容】**

仏教美術と女性。女性の発願した仏教美術を中心に、日本の仏教信仰・仏教美術における女性の果たした役割を具体的に検証し、その大きさを理解する。まず講義形式で飛鳥から鎌倉までの各時代の様相を検討した上で、各自関連のテーマについて研究発表を行なう。

第1週 ガイダンス

第2週 仏教美術と女性総論

第3週 女性と仏教・仏教美術1 飛鳥時代

第4週 女性と仏教・仏教美術2 奈良時代

第5週 光明皇后－興福寺と阿弥陀浄土院

第6週 女性と仏教・仏教美術3 平安前期

第7週 橘嘉智子－観心寺と法華寺

第8週 女性と仏教・仏教美術4 摂関期

第9週 女性と仏教・仏教美術5 院政期

第10週 女院の信仰と造像

第11週 女性と仏教・仏教美術6 鎌倉期

第12週 学生の研究発表1 飛鳥・奈良時代

第13週 学生の研究発表2 平安前期・後期

第14週 学生の研究発表3 鎌倉時代

第15週 まとめ

授業内に展覧会等見学を行なうことがある。

**【事前・事後学修】**

事前学修 配付資料、関連論文で予習をすること（週2時間）。

事後学修 授業内容を自分の研究対象に照らしあわせて、どのような方法論が有効か常に考えること（週2時間）。

**【テキスト・教材】**

適宜資料や関連論文を配付する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業への関わり方50%、研究発表50%を総合して成績を付ける。フィードバックは授業内で行なう。

**【参考書】**

関連文献を授業中に指示する。

**【注意事項】**

特になし。

**仏教美術史特論B**

仏像の近代

武笠 朗

美術史学専攻 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

日本・東洋の仏教美術史及び彫刻史の諸問題を検討する。修士論文研究に向けて、さまざまな方法論を理解し、作品へのアプローチの仕方を考える。

**【授業における到達目標】**

研究史・評価史の意義を正しく理解し、それを批判的に検討し、そこから課題を見出すことができるようになる。

**【授業の内容】**

「仏像が文化財になり美術になる」。近代において、それまで信仰の対象に他ならなかった仏像が、文化財として、美術として評価されていく。その過程について考えながら、研究史、評価史の意義を理解する。興福寺阿修羅像、平等院鳳凰堂阿弥陀如来像などを取り上げてそれを検討する。各自関連のテーマについて、研究史、評価史の研究発表をする。

第1回 ガイダンス

第2回 近代の文化財行政と美術史研究の展開

第3回 廃仏毀釈と仏像

第4回 仏像が文化財になる

第5回 仏像が美術になる

第6回 興福寺阿修羅像の場合 1 現在の語られ方

第7回 興福寺阿修羅像の場合 2 見出され方

第8回 興福寺阿修羅像の場合 3 研究と評価の履歴

第9回 平等院鳳凰堂阿弥陀如来像の場合 1 現在の語られ方

第10回 平等院鳳凰堂阿弥陀如来像の場合 2 見出され方

第11回 平等院鳳凰堂阿弥陀如来像の場合 3 研究と評価の履歴

第12回 学生の研究発表 1 飛鳥奈良時代の作例

第13回 学生の研究発表 2 平安鎌倉時代の作例

第14回 学生の研究発表 3 その他の作例

第15回 まとめ

展覧会等の見学授業をすることがある。

**【事前・事後学修】**

事前学修 配付資料等で予習をすること。自分の研究対象の作品の研究史について十分に把握しておくこと（週2時間）。

事後学修 授業内容を自分の研究対象に照らして考えてみること（週2時間）。

**【テキスト・教材】**

適宜資料や関連論文を配付する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業への関わり方50%、研究発表50%を総合して成績を付ける。

**【参考書】**

授業中に指示する。

**【注意事項】**

特になし。

**仏教美術史入門 a**

中国と日本の飛鳥奈良時代の仏像

武笠 朗

1年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

中国の秦から唐代までと、朝鮮半島及び日本の飛鳥・奈良時代の仏教美術（特に彫刻＝仏像）について考える。国、時代を追って代表的な作品を見ながら、仏教美術や立体造形としての彫刻の見方の基礎を学び、国や時代による作品の表現の違いを理解する。

**【授業における到達目標】**

- ① 仏教美術の基本的な見方・考え方を学ぶことにより、「美の探求」に取り組み、感受性を深めようとする態度を身につける。
- ② 国や時代による表現のちがいを学ぶことにより、「国際的視野」に立ち、多様な価値観を理解しようとする態度を身につける。
- ③ 日本の飛鳥から奈良時代の仏教美術における中国や朝鮮半島からの影響のあり方を学ぶことにより、「国際的視野」に立って日本文化を理解しようとする態度を身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 仏教美術・彫刻の見方・考え方
- 第3週 中国1 兵馬俑と最初の仏像
- 第4週 中国2 敦煌莫高窟の塑像
- 第5週 中国3 敦煌莫高窟の壁画
- 第6週 中国4 雲岡石窟
- 第7週 中国5 龍門石窟
- 第8週 朝鮮半島 三国時代の仏像
- 第9週 日本1 飛鳥前期1 金銅仏
- 第10週 日本2 飛鳥前期2 木彫像
- 第11週 日本3 飛鳥後期（白鳳）
- 第12週 日本4 奈良1 大仏以前
- 第13週 日本5 奈良2 大仏以後
- 第14週 日本6 飛鳥奈良時代の仏教絵画
- 第15週 まとめ

授業時間外に、展覧会あるいは美術館博物館の見学を課す予定。

**【事前・事後学修】**

事前学修 配付資料を読み、さらに参考図書の該当部分をよく読んでおくこと（週2時間）。

事後学修 配付資料や参考図書の該当部分を読み返し、授業中に「これ重要です」と言った作例の名称とイメージをしっかりと覚え、授業で見た作品を図書館等で見直すこと（週2時間）。

**【テキスト・教材】**

授業内容に沿った資料（文字資料と図版資料）を配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験80%、授業態度20%。見学レポートを課す予定である（成績評価の対象となる）。試験の講評は最終回授業時に、レポートの講評はその授業内で行なう。

**【参考書】**

- ・『世界美術全集 東洋編』2・3・4以上中国、10朝鮮半島（小学館）
- ・『日本美術全集』2・4（講談社）
- ・『日本美術全集』2・3（小学館）
- ・『東洋美術史』（武蔵野美術大学出版局）
- ・『カラー版日本仏像史』（美術出版社）

**【注意事項】**

- ・授業で出てくる作品を楽しむこと。
- ・授業中に「これ重要です」と言った作品は覚えること。
- ・授業時間外に展覧会あるいは美術館博物館の見学を課す予定である。

**仏教美術史入門 b**

日本の平安鎌倉時代とインドの仏像

武笠 朗

1年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

仏教美術（あるいは彫刻）の研究方法の基礎を学び、その上で日本の平安・鎌倉時代と、インドの初期仏教美術の代表的作品を見る。平安時代の密教美術や和様美術、鎌倉時代の運慶・快慶の仏像、そしてさかのぼってインドにおける仏像の出現、ガンダーラ仏・マトゥラー仏などを理解する。

**【授業における到達目標】**

- ① 仏教美術の基本的な見方・考え方を学ぶことにより、「美の探求」に取り組み、感受性を深めようとする態度を身につける。
- ② 国や時代による表現のちがいを学ぶことにより、「国際的視野」に立ち、多様な価値観を理解しようとする態度を身につける。
- ③ 日本の平安前期や鎌倉時代における中国美術の影響を知ることにより、「国際的視野」に立って日本文化を理解する態度を身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 仏教美術・彫刻の研究基礎知識
- 第3週 日本1 平安前期 密教美術
- 第4週 日本2 平安後期 和様美術
- 第5週 日本3 院政期 美麗と生身と
- 第6週 日本4 鎌倉1 運慶
- 第7週 日本5 鎌倉2 快慶
- 第8週 日本6 平安鎌倉仏画と仏教工芸
- 第9週 インド1 パールフトとサーンチャー
- 第10週 インド2 仏像の出現
- 第11週 インド3 ガンダーラ仏
- 第12週 インド4 マトゥラー仏
- 第13週 インド5 石窟寺院 アジャンター
- 第14週 インド・中国 本生図と仏伝図
- 第15週 まとめ

授業時間外に展覧会あるいは美術館博物館の見学を課す予定。

**【事前・事後学修】**

事前学修 配付資料を読み、さらに参考図書の該当部分をよく読んでおくこと（週2時間）。

事後学修 配付資料や参考図書の該当部分を読み返し、授業中に「これ重要です」と言った作品の名称とイメージをしっかりと覚え、授業で見た作品を図書館等で見直すこと（週2時間）。

**【テキスト・教材】**

授業内容に沿った資料（文字資料・画像資料）を配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末試験80%、授業態度20%。見学レポートを課す予定（成績評価に反映する）。試験の講評は授業最終回で、レポート講評は授業内で行なう。

**【参考書】**

- ・『カラー版日本仏像史』美術出版社
- ・『日本美術全集』5・6・7・10（講談社）
- ・『日本美術全集』4・7
- ・『世界美術全集 東洋編』13・14・15（小学館）
- ・『東洋美術史』（武蔵野美術大学出版局）
- ・宮治昭『インド美術史』（吉川弘文館）

**【注意事項】**

- ・授業に出てくる作品を楽しむこと。
- ・これ重要、と聞いた作品は覚えること。
- ・授業時間外に展覧会あるいは美術館博物館の見学を課す予定。



**物語の世界 a**

大正～昭和期の短篇小説を読む

能地 克宣

1・2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

**【授業のテーマ】**

日本の近代文学の中で、特に大正末期から昭和初年代にかけて発表された小説には、それまでに物語られてきたものとは異なるものを物語ろうとするさまを読み取ることができます。私たち人間が「物語る欲望」に取り憑かれた動物（野家啓一）であるなら、この変容は人間の欲望が次第に複雑になっていくことと連動しているとも言えるでしょう。この授業では大正から昭和初期に発表された短篇小説を対象とし、それらの欲望がどのように語られていくのか、また、この時期の文学の語りの特徴とは何かについて検討していきます。また、そこで物語られた欲望が、今日の私たちにとってどのような意味を持つのかについても検討を加えていきます。

**【授業における到達目標】**

- ・大正から昭和初期の近代文学における物語の特徴をそれぞれの小説ごとに説明することができる。
- ・大正から昭和初期の近代文学の特徴を概観し、それを説明することができる。
- ・近代文学の物語が持つ現代的意義を説明することができる。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 谷崎潤一郎「人面疽」
- 第3週 室生犀星「香爐を盗む」
- 第4週 徳田秋声「フアイヤガン」
- 第5週 梶井基次郎「檸檬」
- 第6週 葉山嘉樹「淫売婦」
- 第7週 江戸川乱歩「鏡地獄」
- 第8週 夢野久作「瓶詰の地獄」
- 第9週 堀辰雄「水族館」
- 第10週 横光利一「機械」
- 第11週 坂口安吾「風博士」
- 第12週 武田麟太郎「日本三文オペラ」
- 第13週 太宰治「ダス・ゲマイネ」
- 第14週 中島敦「文字禍」
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：第1週はシラバスを熟読し、関心を持った小説や作家について調べておくこと。また、第2週以降は、次回扱う小説を熟読の上、各自の関心に沿って疑問点や問題点をまとめておくこと。

（学修時間 2時間）

事後学修：授業で扱った小説や配付された資料等を再読し、授業内容をふまえてそれぞれの小説の特徴や要点をまとめておくこと。

（学修時間 2時間）

**【テキスト・教材】**

テキストはプリントを使用する予定です。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート80%、平常点（コメントペーパー）20%  
提出されたコメントペーパーのうち、教室全体で共有しうる読み方や枠組み、着眼点などが示されたものは、次回プリントで配付し、解説します。

**【参考書】**

必要に応じて授業時に指示します。

**【注意事項】**

毎回授業の最後にコメントを書いてもらいます。また、授業の最初に読後の感想を受講者から求める場合がありますので、それぞれの小説に対する自分なりの意見をまとめておくようにしてください。なお、受講の際はマナーを守って積極的な姿勢で参加することを心がけてください。

**物語の世界 b**

—平家物語—

佐藤 辰雄

1・2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

**【授業のテーマ】**

物語の全体像を把握すると共に、主要人物に焦点を当てつつ人物造型の方法や作品の特質を探る。取り上げる人物は、ダーティヒーローとして描かれる平清盛と、神仏の意志を見た平知盛、戦場の英雄源義経である。

**【授業における到達目標】**

日本の古典文学を学んで知見を深めるとともに、世界に発信する能力と態度を修得することができます（国際的視野）。

現象の背後に潜む本質を究明する学修をとおして、日本の文学の価値と美意識を知ることができます（美の探究）。

**【授業の内容】**

1. 授業の説明
2. 作者と成立および諸本の説明
3. 物語の結構と構想 (1) 総説
4. 物語の結構と構想 (2) 序章の構造
5. 平清盛論 (1) 一栄華の道のり
6. 平清盛論 (2) 一地獄行きの悪行① 殿下の乗合事件
7. 平清盛論 (3) 一地獄行きの悪行② 南都炎上
8. 平清盛論 (4) 一死と人柄
9. 平知盛論 (1) 一智略の武将
10. 平知盛論 (2) 一温情の武将
11. 平知盛論 (3) 一運命の洞察者
12. 源義経論 (1) 一出自
13. 源義経論 (2) 一戦の名将
14. 源義経論 (3) 一勇者の泣き所・風貌と人柄
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】教科書を熟読して、登場人物と事件の歴史的背景を調べておきましょう。（週2時間）

【事後学修】授業内容をよく整理し、要点を指定用紙に記入して、翌週提出します。（週2時間）

**【テキスト・教材】**

『平家物語研究ノート』（600円）

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業内容をまとめた提出物90%と、授業への取組み姿勢10%。  
提出物の内容は、各回とも授業の要点理解の確認（65字前後のまとめを二つ。最大4点）と、意見や感想（最大2点）の二項目。  
翌週に成果をフィードバックします。

**【参考書】**

- 新日本古典文学大系『平家物語』上・下 梶原正昭・山下宏明（岩波書店）
- 新編日本古典文学全集『平家物語』1・2 市古貞次（小学館）
- 『平家物語全注釈』全4巻 富倉徳次郎（角川書店）

**【注意事項】**

私語は許さない。“しゃべらないといられない症候群”の人は受講を遠慮されたい。飲食物の持込不可。  
コツコツ努力する学生ならさほど苦にならないでしょうが、浮ついた性格、集中力や持続力・勉強意欲に難のある学生には相当きついでしょう。授業中は静かなので、有名な作品だから、といったお気楽な動機で受講することがないよう、強く戒めます。

## 物理の世界

天文学を通じて知る科学の進歩

山岡 均

1年～ 前期 2単位

○：美の探求、研鑽力

### 【授業のテーマ】

物理学と聞くと、日常生活や自分の成り立ちとは無関係なものと思いがちです。しかし、それは早計です。物理学は、私たちが住んでいる世界を理解するために必須なものなのです。

天文学は最古の学問と呼ばれ、また私たちの住む世界を取扱い、宇宙観を醸成する学問です。天文学の知見から、物理学も誕生し育っていきました。この授業では、天文学のさまざまなトピックスに触れ、天文学がどのように進歩してきたか、私たちはどのような世界に住んでいるかを概観します。

### 【授業における到達目標】

宇宙や天体で起きていることを知り、物理的に理解する。  
学んだ内容を基に、自分の世界観・宇宙観を構築する。  
天文学に関して、自分の考えを文章などを通じて表現する。

### 【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン：天文学が扱う範囲とスケール
- 第2週 暦と時間：天文学の始まり
- 第3週 日食と月食：暦の応用
- 第4週 星座と天球座標：星空の表し方
- 第5週 太陽系の惑星とその定義：冥王星の取り扱い
- 第6週 太陽系小天体：小惑星、彗星、衛星
- 第7週 天体の衝突：隕石とスペースガード
- 第8週 天体の距離を測る（1）惑星の軌道
- 第9週 天体の距離を測る（2）太陽系内の距離と最近の恒星
- 第10週 天体の距離を測る（3）遠い天体の距離
- 第11週 太陽と恒星：構造と進化
- 第12週 宇宙の構造：星雲・星団・銀河
- 第13週 宇宙論：私たちの宇宙の理解
- 第14週 天体の発見について
- 第15週 系外惑星と生命

各時間の最後に、毎回小レポートを実施します。次週の冒頭に返却、解説します。

### 【事前・事後学修】

事前学修：レポート課題に取り組むこと（学修時間 週2時間）  
事後学修：小レポート等を復習すること（学修時間 週2時間）  
レポート課題については授業内で指示します。

初回授業の事前課題として、「最近の報道などで接した、天文学に関係する記事について、タイトルと簡単な内容を紹介できるようにしてくる」ことを要望します。

### 【テキスト・教材】

教科書は特に設けず、プレゼンテーションおよび配布資料によって授業を進めます。定規・コンパス・分度器が必要になる週があります（前もって指示します）。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小レポート・レポート課題：40%  
学期末に実施するテスト：40%  
平常点（授業中の発言）：20%

各時間の最後に、毎回小テストを実施します。次週の冒頭に返却、解説します。期末テストについても授業最終週で解説します。

### 【参考書】

山岡均著『大宇宙101の謎』（河出書房新社）は網羅的です。

### 【注意事項】

毎週の内容はかなり独立していますが、それまでの週に扱った内容は既知のものとして授業を進めますので、やむを得ない場合以外の欠席はしないでください。

## 物理の世界

世界は不思議なことに包まれている

森 弘之

1年～ 前期 2単位

○：美の探求、研鑽力

### 【授業のテーマ】

普段は気づいていなくても、よく考えると不思議なことがこの世の中にはたくさんあります。この授業では身の回りのことを取り上げ、それがどうして起こるのか、考えながら背景にある物理の原理を説明していきます。

周囲で起きていることには必ず理由があります。物が落ちるのはなぜか、ドライヤーでなぜ髪は乾くのか、味噌汁の蓋が取れなくなることがあるのはどうしてかなど、当たり前と思っていることにも深い物理的理由が潜んでいます。その理由を考えることの大切さを学び、他の現象との共通性や物理的概念の汎用性について考えていきます。

### 【授業における到達目標】

不思議なことを不思議と気づくことの大切さ、当たり前のことを本当に当たり前なのかと疑うことの大切さを学びます。さらに一歩進んで、不思議なこと、当たり前と思っていたことが実は当たり前じゃなかったなど、世の中のいろいろな現象についてどのように理解すればよいのか、その背景には何があるのか、物理学的視点で考える術を身につけます。

### 【授業の内容】

- 第1週 物が落ちる－重力の話－
- 第2週 テーブルクロス引き－慣性の話－
- 第3週 ビリッとくる静電気－電気の話－
- 第4週 電磁調理器で鍋が熱くなる－電磁気学－
- 第5週 ドライヤーでなぜ髪が乾く－分子運動の話－
- 第6週 味噌汁の蓋が取れない－圧力の話－
- 第7週 部屋の空気はなぜ偏らない－確率の話－
- 第8週 永遠に動き続ける永久機関－熱力学の法則－
- 第9週 世の中の元素－ニホニウム誕生－
- 第10週 究極の粒子－素粒子の話－
- 第11週 粒子と波－量子の不思議－
- 第12週 究極のドロドロ物質とサラサラ物質－粘性の話－
- 第13週 アインシュタインのすごさ－相対性理論だけ－
- 第14週 物理と医療機器－CT、MRI、X線－
- 第15週 ニセ科学にだまされない－客観的視点の重要性－

### 【事前・事後学修】

各回のテーマに沿って、週4時間程度を費やし、書籍やインターネットで情報をあらかじめ収集して予習したり、授業後に習った内容を復習したり、レポート課題に取り組んだりすることが大切です。

### 【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業で出すレポート課題（50%）と平常点（授業への積極参加）（50%）で成績を評価します。各テーマに関する質問について自分の考えを紙に書いて提出してもらい、それをもとにさらに授業を展開していきますが、このプロセスへの関与の程度から平常点を評価します。

### 【参考書】

特に指定しませんが、必要に応じて授業中に紹介します。

### 【注意事項】

つまらない質問でも突飛な疑問でも、何でもぶつけてください。授業中の質問、授業後の質問、メールでの質問（メールアドレスは初回の授業でお伝えします）のいずれも歓迎します。

**分子生物学**

生命を営む分子

阿尻 貞三

4年 後期 2単位

○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

近年の科学技術の進歩により、生命現象の解明は分子レベルで新しい事実が次々と明らかにされ、多くの生命科学の最新情報が専門家以外の人々以外にも次々と紹介されてきております。基礎的理解を踏まえて最新の生命科学情報を理解してください。この授業では生体現象に係わる多くの分子とその仕組みについて紹介します。基礎的な化学、生物学はすでに習得しているものとして授業をおこないます。他の分野、特に「生化学」などと重複する内容の場合があります。

**【授業における到達目標】**

生体を構成している多種多様な分子の機能を理解し、生体の中でいかに機能しているのかを他の方に説明・伝えられることを目標にします。それぞれの分子の持つ機能を説明していきますが、実際は各分子が複雑に絡み合っただけで生命を営んでいます。多様な分子はつねに新しい機能が発見されています。それを知る喜びをつかんでください。この分子を知ったら終わりというのではなく、分子の相互関係が少しずつと発見されております。新しい知識の習得につねに務めてください。周囲の方たちと相互に協力し、広い柔軟な理解力を養って、当面の課題を主体的に解決する能力を培ってください。

**【授業の内容】**

- 第1週 細胞
- 第2週 細胞膜の構造、膜タンパク質、リセプター、チャネル
- 第3週 細胞質 細胞骨格分子、物質輸送分子
- 第4週 タンパク質 酵素、ホルモン、収縮性タンパク質
- 第5週 免疫関連物質 免疫とは、免疫臓器
- 第6週 リンパ球と抗原提示（マクロファージ、樹状細胞など）
- 第7週 抗体と形質細胞
- 第8週 アレルギー
- 第9週 糖類と脂質 血液型物質と脂肪酸～プロスタグランジン
- 第10週 核酸 DNAとRNA、その構造、塩基の相補性、DNA複製
- 第11週 免疫臓器と免疫に関与する細胞と分泌する分子
- 第12週 抗原と抗体
- 第13週 アレルギーとは
- 第14週 まとめ
- 第15週 解説

**【事前・事後学修】**

1年次で学習した生化学、有機化学などを復習しておいてください。習得しているものとして講義をおこないます。テキストの当該箇所をあらかじめ読んでおいてください。

【事前学修】小テスト・レポート・発表等の課題に取り組んでください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】発表・小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておいてください。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

テキストは適宜プリントを配布します。参考図書は中村桂子監訳『Essential細胞生物学 原書第2版』（南江堂 2005年）石崎他監訳『アメリカ版 大学生物学の教科書 第3巻 分子生物学』（講談社BLUR BACKS 2013年版）

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験と臨時的試験およびレポート提出、受講態度などで総合評価します。試験及びレポート6割、受講態度4割で判定します。小テストなどは返却しフィードバックとして問題を解説しますので、各自自己学習、復習に使って自己研鑽を積んでください。

**【注意事項】**

出席して聞いていても、理解できなければ何なりません。自分で理解するための工夫を考えてください。

**分子生物学**

生命を営む分子

阿尻 貞三

2年 前期 2単位

◎：研鑽力

2005年)

石崎ほか監訳『アメリカ版 大学生物学の教科書 第3巻 分子生物学』（講談社BLUR BACKS 2013年版）

適宜プリントを配布します。

**【注意事項】**

出席して聞いていても、理解できなければ何もなりません。  
自分で理解するための工夫を考えてください。

**【授業のテーマ】**

近年の科学技術の進歩により、生命現象の解明は分子レベルで新しい事実が次々と明らかにされ、多くの生命科学の最新情報が専門家以外の人々以外にも次々と紹介されてきております。基礎的理解を踏まえて最新の生命科学情報を理解してください。この授業では生体現象に係わる多くの分子とその仕組みについて紹介します。基礎的な化学、生物学はすでに習得しているものとして授業をおこないます。他の分野、特に「生化学」などと重複する場合があります。

**【授業における到達目標】**

生体を構成している多種多様な分子の機能を理解し、生体の中でいかに機能しているのかを他の方に説明・伝えられることを目標にします。それぞれの分子の持つ機能を説明していきますが、実際は各分子が複雑に絡み合って生命を営んでいます。多様な分子はつねに新しい機能が発見されています。それを知る喜びをつかんでください。この分子を知ったら終わりというのではなく、分子の相互関係がつつぎと発見されております。あたらしい知識の習得につねに務めてください。周囲の方たちと相互に協力し、広い柔軟な理解力を養って、当面の課題を主体的に解決する能力を培ってください。

**【授業の内容】**

- 第1週 細胞
- 第2週 細胞膜の構造、膜タンパク質、リセプター、チャネル
- 第3週 細胞質 細胞骨格分子、物質輸送分子
- 第4週 タンパク質 酵素、ホルモン、収縮性タンパク質
- 第5週 免疫関連物質 免疫とは、免疫臓器
- 第6週 リンパ球と抗原提示（マクロファージ、樹状細胞など）
- 第7週 抗体と形質細胞
- 第8週 アレルギー
- 第9週 糖類と脂質 血液型物質と脂肪酸～プロスタグランジン
- 第10週 核酸 DNAとRNA、その構造、塩基の相補性、DNA複製
- 第11週 免疫臓器と免疫に関与する細胞と分泌する分子
- 第12週 抗原と抗体
- 第13週 アレルギーとは
- 第14週 まとめ
- 第15週 全体の解説

**【事前・事後学修】**

1年次で学習した生化学、有機化学などを復習しておいてください。習得しているものとして講義をおこないます。

【事前学修】小テスト・レポート・発表等の課題に取り組んでください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】発表・小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておいてください。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

前野・磯川著『改定第3版はじめの一步のイラスト生化学・分子生物学』2016 4,104円（羊土社）

適宜プリントを配布します

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験と臨時の試験およびレポート提出、受講態度などで総合評価します。試験及びレポート6割、受講態度4割で判定します。

小テスト等は採点のうえ返却し解説しますので、各自自己学習、復習に使って自己研鑽を積んでください

**【参考書】**

中村桂子監訳『Essential細胞生物学 原書第2版』（南江堂

**文化史概論 a**

西アジアの歴史と文化を美術作品から読み解く

宮下 佐江子

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

現代社会の基本的枠組みは、古代オリエント世界から始まったと言っても過言ではない。しかしながら、我々には西アジア世界はなじみが薄く、紛争地帯、石油産出国といった現在の姿にしか思いが及ばないことが多いかもしれない。これは大学で学ぶものにとって誠に惜しい。本講座では、この地に育まれた造形芸術を通して、その豊かな歴史と文化を知り、理解することを目標とする。授業では様々な映像を見ながら、古代芸術のおもしろさと奥深さを理解し、現代に及ぼしている影響に思いをはせて欲しいと考えている。この地域の地形や現在の区分（国境）を明確に認識し、歴史理解の一助とする。学生が修得すべき「国際的視野」のうち、多様な価値観を持つ人を知り、そこで育まれた「美の探究」をできる力をやしなう。また、実物に多くふれる機会をもつために、積極的な博物館・美術館見学を勧める。

**【授業における到達目標】**

西アジア古代美術にこめられた、当時の人々の祈りや畏れを知り、それらの生まれた風土や歴史を理解する。現代の西アジア地域を地理的、時間的に立体的にイメージできる力を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 西アジアの風土 エジプトとメソポタミア
- 第2週 契約と印章 文字の始まり
- 第3週 都市の発達I ウルク 大杯と神官王
- 第4週 都市の発達II ウル 王墓からの出土品
- 第5週 メソポタミアの暮らしI古代の金属加工 IIゲームの起源
- 第6週 ハンムラビ法典の意義
- 第7週 帝国の発達 アッカド王国～バビロニア～アッシリア
- 第8週 新アッシリア帝国の宮廷美術
- 第9週 新バビロニア王国のイシュタル門
- 第10週 アケメネス朝ペルシアの新年祭の都
- 第11週 アレクサンドロス大王の進出
- 第12週 アレクサンドロス大王の遺産
- 第13週 隊商都市パルミラ
- 第14週 古代の香りと化粧
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

事前学修：地形図・国名白地図を繰り返し確認する。（週1.5時間）

事後学修：配布資料は必ず眼を通し書き込み欄を完成させる。授業中に提示した参考文献の関連項目を確認する。（週2.5時間）

**【テキスト・教材】**

参考文献は適宜提示。毎回、書き込み欄のある授業概要のプリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

展覧会見学レポート（400字2枚、スケッチあり）20%、定期試験70%、平常点（授業への積極的参加 小テスト）10%  
 見学レポート、小テストは次回授業、試験結果は最終授業フィードバックする。

**【参考書】**

田辺勝美他『世界の美術 西アジア編』小学館  
 古代オリエント博物館篇『古代オリエントの世界』山川出版社

**【注意事項】**

授業に積極的に取り組む姿勢を求めます。資格取得のための単位だから、楽に単位を取りたいという安易な気持ちで、漫然と出席してほしくありません。

**文化史概論 a**

西アジアの歴史と文化を美術作品から読み解く

宮下 佐江子

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

現代社会の基本的枠組みは、古代オリエント世界から始まったと言っても過言ではない。しかしながら、我々には西アジア世界はなじみが薄く、紛争地帯、石油産出国といった現在の姿にしか思いが及ばないことが多いかもしれない。これは大学で学ぶものにとって誠に惜しい。本講座では、この地に育まれた造形芸術を通して、その豊かな歴史と文化を知り、理解することを目標とする。授業では様々な映像を見ながら、古代芸術のおもしろさと奥深さを理解し、現代に及ぼしている影響に思いをはせて欲しいと考えている。この地域の地形や現在の区分（国境）を明確に認識し、歴史理解の一助とする。学生が修得すべき「国際的視野」のうち、多様な価値観を持つ人を知り、そこで育まれた「美の探究」をできる力をやしなう。また、実物に多くふれる機会をもつために、積極的な博物館・美術館見学を勧める。

**【授業における到達目標】**

西アジア古代美術にこめられた、当時の人々の祈りや畏れを知り、それらの生まれた風土や歴史を理解する。現代の西アジア地域を地理的、時間的に立体的にイメージできる力を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 西アジアの風土 エジプトとメソポタミア
- 第2週 契約と印章 文字の始まり
- 第3週 都市の発達I ウルク 大杯と神官王
- 第4週 都市の発達II ウル 王墓からの出土品
- 第5週 メソポタミアの暮らしI古代の金属加工 IIゲームの起源
- 第6週 ハンムラビ法典の意義
- 第7週 帝国の発達 アッカド王国～バビロニア～アッシリア
- 第8週 新アッシリア帝国の宮廷美術
- 第9週 新バビロニア王国のイシュタル門
- 第10週 アケメネス朝ペルシアの新年祭の都
- 第11週 アレクサンドロス大王の進出
- 第12週 アレクサンドロス大王の遺産
- 第13週 隊商都市パルミラ
- 第14週 古代の香りと化粧
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

事前学修：地形図・国名白地図を繰り返し確認する。（週1.5時間）

事後学修：配布資料は必ず眼を通し書き込み欄を完成させる。授業中に提示した参考文献の関連項目を確認する。（週2.5時間）

**【テキスト・教材】**

参考文献は適宜提示。毎回、書き込み欄のある授業概要のプリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

展覧会見学レポート（400字2枚、スケッチあり）20%、定期試験70%、平常点（授業への積極的参加 小テスト）10%

見学レポート、小テストは次回授業、試験結果は最終授業フィードバックする。

**【参考書】**

田辺勝美他『世界の美術 西アジア編』小学館  
古代オリエント博物館篇『古代オリエントの世界』山川出版社

**【注意事項】**

授業に積極的に取り組む姿勢を求めます。資格取得のための単位だから、楽に単位を取りたいという安易な気持ちで、漫然と出席してほしくありません。

**文化史概論 a**

西アジアの歴史と文化を美術作品から読み解く

宮下 佐江子

2年～ 前期 2単位

**【授業のテーマ】**

現代社会の基本的枠組みは、古代オリエント世界から始まったと言っても過言ではない。しかしながら、我々には西アジア世界はなじみが薄く、紛争地帯、石油産出国といった現在の姿にしか思いが及ばないことが多いかもしれない。これは大学で学ぶものにとって誠に惜しい。本講座では、この地に育まれた造形芸術を通して、その豊かな歴史と文化を知り、理解することを目標とする。授業では様々な映像を見ながら、古代芸術のおもしろさと奥深さを理解し、現代に及ぼしている影響に思いをはせて欲しいと考えている。この地域の地形や現在の区分（国境）を明確に認識し、歴史理解の一助とする。学生が修得すべき「国際的視野」のうち、多様な価値観を持つ人を知り、そこで育まれた「美の探究」をできる力をやしなう。また、実物に多くふれる機会をもつために、積極的な博物館・美術館見学を勧める。

**【授業における到達目標】**

西アジア古代美術にこめられた、当時の人々の祈りや畏れを知り、それらの生まれた風土や歴史を理解する。現代の西アジア地域を地理的、時間的に立体的にイメージできる力を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 西アジアの風土 エジプトとメソポタミア
- 第2週 契約と印章 文字の始まり
- 第3週 都市の発達I ウルク 大杯と神官王
- 第4週 都市の発達II ウル 王墓からの出土品
- 第5週 メソポタミアの暮らしI古代の金属加工 IIゲームの起源
- 第6週 ハンムラビ法典の意義
- 第7週 帝国の発達 アッカド王国～バビロニア～アッシリア
- 第8週 新アッシリア帝国の宮廷美術
- 第9週 新バビロニア王国のイシュタル門
- 第10週 アケメネス朝ペルシアの新年祭の都
- 第11週 アレクサンドロス大王の進出
- 第12週 アレクサンドロス大王の遺産
- 第13週 隊商都市パルミラ
- 第14週 古代の香りと化粧
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

事前学修：地形図・国名白地図を繰り返し確認する。（週1.5時間）

事後学修：配布資料は必ず眼を通し書き込み欄を完成させる。授業中に提示した参考文献の関連項目を確認する。（週2.5時間）

**【テキスト・教材】**

参考文献は適宜提示。毎回、書き込み欄のある授業概要のプリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

展覧会見学レポート（400字2枚、スケッチあり）20%、定期試験70%、平常点（授業への積極的参加 小テスト）10%  
見学レポート、小テストは次回授業、試験結果は最終授業フィードバックする。

**【参考書】**

田辺勝美他『世界の美術 西アジア編』小学館  
古代オリエント博物館篇『古代オリエントの世界』山川出版社

**【注意事項】**

授業に積極的に取り組む姿勢を求めます。資格取得のための単位だから、楽に単位を取りたいという安易な気持ちで、漫然と出席してほしくありません。

**文化史概論 b**

西洋工芸史 アール・ヌーヴォー、アール・デコを中心に

高波 眞知子

3年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

西洋の工芸について、特にアール・ヌーヴォー、アール・デコの時代に焦点をあて講義を進めます。

日本でもよく知られているマイセン、セーヴルといった西洋陶磁器、ガレ、ラリック、ドームなどのガラス工芸、カルティエ、ティファニーなど宝飾工芸について知識を深めます。

みなさんにとっては人気の高級ブランドというイメージが先行するかとおもいますが、歴史に裏付けされた確かな技術と高い芸術性を示す作品を通して、各工房の独自性を理解していただきます。各工房を支えた時代背景やパトロン（庇護者や顧客）についてもみていきます。またこれらの西洋工芸と日本美術との関わりについても触れ、知見を広めます。

**【授業における到達目標】**

物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度を修得します。

**【授業の内容】**

- 第1週 イン트로ダクション、西洋工芸史の流れ
- 第2週 アール・ヌーヴォーとその時代
- 第3週 アール・デコとその時代
- 第4週 西洋陶磁器 マイセン、セーヴル他
- 第5週 ガラス工芸 エミール・ガレとドーム兄弟
- 第6週 ルネ・ラリック 宝飾工芸とガラス工芸、両分野の成功
- 第7週 ティファニー 宝飾工芸とL.C.ティファニーのガラス工芸
- 第8週 カルティエ 宝飾工芸とデザイン画
- 第9週 アール・デコ建築、朝香宮邸（東京都庭園美術館）の室内装飾（輸入品と国産品）
- 第10週 東京都庭園美術館の建築と展覧会見学
- 第11週 香水瓶の歴史ー古代からファッションブランドの時代まで
- 第12週 宝飾工芸展の開催までーカルティエ展、ティファニー展
- 第13週 松濤美術館の建築及び家具調度品の見学
- 第14週 ジャポニスムー日本美術が西洋工芸に与えた影響
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】授業に関する内容について、事前に学内図書室や国立新美術館等の美術館図書室などで検索をして、関連する書籍や展覧会カタログに目を通すことを勧めます。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業で配布した資料コピーを授業後もよく読んで知識と関心を深め、講義全体の流れを理解するように努めてください。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

授業ごとに資料コピーを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート60% 平常点（授業への積極的参加、課題提出）40%  
2回のレポート提出後、適当な時期の授業時間中に優秀レポートの発表を行い、その内容について全員でディスカッションを行う。

**【参考書】**

授業時に指示します。

**【注意事項】**

授業を別の日の展覧会見学授業に振りかえる場合があります。その場合、見学に要する交通費、入館料は自費となります。展覧会見学日程により、授業内容の順番を入れ替えることがあります。



**文化史概論 b**

西洋工芸史 アール・ヌーヴォー、アール・デコを中心に

高波 眞知子

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

**【授業のテーマ】**

西洋の工芸について、特にアール・ヌーヴォー、アール・デコの時代に焦点をあて講義を進めます。

日本でもよく知られているマイセン、セーヴルといった西洋陶磁器、ガレ、ラリック、ドームなどのガラス工芸、カルティエ、ティファニーなど宝飾工芸について知識を深めます。

みなさんにとっては人気の高級ブランドというイメージが先行するかとおもいますが、歴史に裏付けされた確かな技術と高い芸術性を示す作品を通して、各工房の独自性を理解していただきます。各工房を支えた時代背景やパトロン（庇護者や顧客）についてもみていきます。またこれらの西洋工芸と日本美術との関わりについても触れ、知見を広めます。

**【授業における到達目標】**

物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度を修得します。

**【授業の内容】**

- 第1週 イン트로ダクション、西洋工芸史の流れ
- 第2週 アール・ヌーヴォーとその時代
- 第3週 アール・デコとその時代
- 第4週 西洋陶磁器 マイセン、セーヴル他
- 第5週 ガラス工芸 エミール・ガレとドーム兄弟
- 第6週 ルネ・ラリック 宝飾工芸とガラス工芸、両分野の成功
- 第7週 ティファニー 宝飾工芸とL.C.ティファニーのガラス工芸
- 第8週 カルティエ 宝飾工芸とデザイン画
- 第9週 アール・デコ建築、朝香宮邸（東京都庭園美術館）の室内装飾（輸入品と国産品）
- 第10週 東京都庭園美術館の建築と展覧会見学
- 第11週 香水瓶の歴史ー古代からファッションブランドの時代まで
- 第12週 宝飾工芸展の開催までーカルティエ展、ティファニー展
- 第13週 松濤美術館の建築及び家具調度品の見学
- 第14週 ジャポニスムー日本美術が西洋工芸に与えた影響
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】授業に関する内容について、事前に学内図書室や国立新美術館等の美術館図書室などで検索をして、関連する書籍や展覧会カタログに目を通すことを勧めます。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業で配布した資料コピーを授業後もよく読んで知識と関心を深め、講義全体の流れを理解するように努めてください。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

授業ごとに資料コピーを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート60% 平常点（授業への積極的参加、課題提出）40%  
2回のレポート提出後、適当な時期の授業時間中に優秀レポートの発表を行い、その内容について全員でディスカッションを行う。

**【参考書】**

授業時に指示します。

**【注意事項】**

授業を別の日の展覧会見学授業に振りかえる場合があります。その場合、見学に要する交通費、入館料は自費となります。展覧会見学日程により、授業内容の順番を入れ替えることがあります。

**文化史概論 b**

西洋工芸史 アール・ヌーヴォー、アール・デコを中心に

高波 眞知子

2年～ 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

西洋の工芸について、特にアール・ヌーヴォー、アール・デコの時代に焦点をあて講義を進めます。

日本でもよく知られているマイセン、セーヴルといった西洋陶磁器、ガレ、ラリック、ドームなどのガラス工芸、カルティエ、ティファニーなど宝飾工芸について知識を深めます。

みなさんにとっては人気の高級ブランドというイメージが先行するかとおもいますが、歴史に裏付けされた確かな技術と高い芸術性を示す作品を通して、各工房の独自性を理解していただきます。各工房を支えた時代背景やパトロン（庇護者や顧客）についてもみていきます。またこれらの西洋工芸と日本美術との関わりについても触れ、知見を広めます。

**【授業における到達目標】**

物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度を修得します。

**【授業の内容】**

- 第1週 イントロダクション、西洋工芸史の流れ
- 第2週 アール・ヌーヴォーとその時代
- 第3週 アール・デコとその時代
- 第4週 西洋陶磁器 マイセン、セーヴル他
- 第5週 ガラス工芸 エミール・ガレとドーム兄弟
- 第6週 ルネ・ラリック 宝飾工芸とガラス工芸、両分野の成功
- 第7週 ティファニー 宝飾工芸とL.C.ティファニーのガラス工芸
- 第8週 カルティエ 宝飾工芸とデザイン画
- 第9週 アール・デコ建築、朝香宮邸（東京都庭園美術館）の室内装飾（輸入品と国産品）
- 第10週 東京都庭園美術館の建築と展覧会見学
- 第11週 香水瓶の歴史ー古代からファッションブランドの時代まで
- 第12週 宝飾工芸展の開催までーカルティエ展、ティファニー展
- 第13週 松濤美術館の建築及び家具調度品の見学
- 第14週 ジャポニスムー日本美術が西洋工芸に与えた影響
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】授業に関する内容について、事前に学内図書室や国立新美術館等の美術館図書室などで検索をして、関連する書籍や展覧会カタログに目を通すことを勧めます。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業で配布した資料コピーを授業後もよく読んで知識と関心を深め、講義全体の流れを理解するように努めてください。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

授業ごとに資料コピーを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート60% 平常点（授業への積極的参加、課題提出）40%  
2回のレポート提出後、適当な時期の授業時間中に優秀レポートの発表を行い、その内容について全員でディスカッションを行う。

**【参考書】**

授業時に指示します。

**【注意事項】**

授業を別の日の展覧会見学授業に振りかえる場合があります。その場合、見学に要する交通費、入館料は自費となります。展覧会見学日程により、授業内容の順番を入れ替えることがあります。

## 文化人類学 a

多様な角度からとらえる文化：自文化の再考

島崎 裕子

1年～ 前期 2単位

○：国際的視野、美の探求、研鑽力

### 【授業のテーマ】

文化人類学は、私たちの属している社会とは異なる文化をもった社会との比較研究を通して、「文化とは何か」という問題に迫ろうとする学問である。本講義では写真や映像、様々な資料を使用し、文化を多様な角度からとらえ「文化とは何か」を考察する。またこれらの作業を通して、私たちの文化像を再考するとともに、世界を多様な側面から捉える視点を養うことを目的とする。

### 【授業における到達目標】

- 1) 【態度：国際的視野を養う】  
多様な価値観や文化が世界には存在していること知る
- 2) 【態度：知的好奇心をもって人間成長を育む／美の探求】  
多角的な視野をもって世界を捉え、理解する
- 3) 【能力：研鑽力／協働力】  
上記を踏まえ、自文化を捉えなおし、国際感覚を身につける
- 4) 【能力：研鑽力／協働力】  
深い洞察力、好奇心をもって向きあい、学びを深化させる

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス：文化人類学を学ぶにあたって
- 第2週 文化人類学への誘い
- 第3週 文化を比較すること① 理論
- 第4週 文化を比較すること② 事例
- 第5週 言語と文化① 導入
- 第6週 言語と文化② 事例
- 第7週 創り出されるイメージ① 異文化
- 第8週 創り出されるイメージ② 自文化
- 第9週 社会規範と文化
- 第10週 言語と文化① 理論
- 第11週 言語と文化② 事例
- 第12週 民族とは何か
- 第13週 エスニシティとアイデンティティ
- 第14週 ジェンダー
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：講義で提示した資料・主要文献を熟読し、次回の授業へ備える（2時間）。  
事後学修：各回の講義内容を要約し、興味関心をもった点をまとめ、より学習を深める（2時間）。

### 【テキスト・教材】

なし

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

最終試験/レポート（50%）、課題（10%）、平常点（授業への積極的参加・フィードバックシート 40%）。  
質問内容や、課題への着眼点などに対して、授業内やmanabaを通じて全体ならびに個別にフィードバックを行う。

### 【参考書】

講義のテーマに合わせて随時、参考図書を提示する。  
文化人類学の入門書・辞典  
・波平恵美子著『文化人類学（カレッジ版）』（医学書院）  
・クラック・ホーン、C『文化人類学入門』（講談社）  
・『文化人類学事典』弘文堂

### 【注意事項】

本講義では、テーマごとに、アンケート（質疑応答）、ディスカッション、グループワーク、授業内課題を求め、進行させる。授業中に各自、課題に対して作業や考察を行い、発言やリアクションを求める。よって積極的な態度で出席して欲しい。

## 文化人類学 a

岸 清香

1年～ 前期 2単位

○：国際的視野、美の探求、研鑽力

### 【授業のテーマ】

世界情勢が複雑化する中、地域における問題は多発し、その全容を把握することは困難を極めるものとなっている。グローバリゼーションとローカリゼーションが交錯する中、地球規模への変化や多様性を理解する上で、人類史における各地域の総合的な文化を再解釈する必要に迫られている。

本授業では、その一助となる文化人類学の基礎を学ぶことを通じて、現在の世界情勢を多角的に分析し、学術的な解釈を自ら行う素養を身に付け、国際的視野を広げることを目的とする。

### 【授業における到達目標】

- ・文化人類学の概要を理解し、理論的概念と実践的事例を結びつける力を修得する。
- ・文化人類学研究に重要な基礎的専門用語を理解する。
- ・フィールドワークに必要な素養を身につける。

### 【授業の内容】

- 第一週：イントロダクション（文化人類学とは何か？）
- 第二週：生物としての人間の成立と「人種」
- 第三週：性・生殖・婚姻
- 第四週：家族と親族
- 第五週：ジェンダーとセクシャリティー
- 第六週：言語と文化
- 第七週：「ヒト」と「モノ」の関係
- 第八週：「民族」の形成と発展
- 第九週：政治と権力
- 第十週：戦争の起源と地域紛争
- 第十一週：開発をめぐる諸問題
- 第一二週：病と癒し
- 第一三週：宗教的儀礼と信仰の世界
- 第一四週：フィールドワークの方法論
- 第一五週：総括

### 【事前・事後学修】

事前学修：各回の課題に取り組むこと（学修時間2時間）  
事後学修：授業内容を復習し、専門用語等を理解しておくこと（学修時間2時間）

### 【テキスト・教材】

プリントを使用する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験 50%  
課題の提出 30%  
平常点（出席点・授業への積極的参加）20%

### 【参考書】

綾部恒雄・桑山敬己編『よくわかる文化人類学 第2版』（ミネルヴァ書房 2017）2700円  
山下 晋司・船曳 建夫編『文化人類学キーワード 改訂版』（有斐閣双書 2008）1836円

### 【注意事項】

文化人類学を学ぶためには、理論面と実践面の基礎的素養が必要不可欠である。各回授業や課題については真摯に取り組むことが望ましい。

## 文化人類学b

多様な角度からとらえる世界観と社会のあり方

島崎 裕子

1年～ 後期 2単位

○：国際的視野、美の探求、研鑽力

### 【授業のテーマ】

文化人類学は、私たちの属している社会とは異なる文化をもった社会との比較研究を通して、「文化とは何か」という問題に迫ろうとする学問である。本講義では写真や映像、様々な資料を使用し具体的な事例を通じて多様に存在する「世界観」や「社会のあり方」を考察する。これらの作業を通して、私たちの文化像を再考するとともに世界を多様な側面から捉える視点を養うことを目的とする。

### 【授業における到達目標】

- 1) 【態度：国際的視野を養う】  
多様な価値観や文化が世界には存在していること知る
- 2) 【態度：知的好奇心をもって人間成長を育む／美の探求】  
多角的な視野をもって世界を捉え、理解する
- 3) 【能力：研鑽力／協働力】  
上記を踏まえ、自文化を捉えなおし、国際感覚を身につける
- 4) 【能力：研鑽力／協働力】  
深い洞察力、好奇心をもって向きあい、学びを深化させる

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス：文化人類学を学ぶにあたって
- 第2週 世界を説明する方法
- 第3週 グローバリゼーションと文化
- 第4週 文化と経済① 交換と互酬性
- 第5週 文化と経済② 互酬性とコミュニティ
- 第6週 文化と経済③ 事例
- 第7週 家族と親族
- 第8週 家族と婚姻
- 第9週 規範とコミュニティ
- 第10週 宗教と世界観① 導入
- 第11週 宗教と世界観② 事例
- 第12週 境界
- 第13週 儀礼①葬送儀礼
- 第14週 儀礼②通過儀礼
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

事前学修：講義で提示した資料・主要文献を熟読し、次回の授業へ備える（2時間）。

事後学修：各回の講義内容を要約し、興味関心をもった点をまとめ、より学習を深める（2時間）。

### 【テキスト・教材】

なし（随時プリントを配布）。

授業内にて参考文献および必読書を提示。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験/レポート（50%）、授業内課題（10%）、平常点（積極的な参加や貢献度・フィードバックシート 40%）。

質問内容や、課題への着眼点などに対して、授業内やmanabaを通じて全体ならびに個別にフィードバックを行う。

### 【参考書】

講義のテーマに合わせて随時、参考図書を提示する。

文化人類学の入門書・辞典

- ・波平恵美子著『文化人類学（カレッジ版）』（医学書院）
- ・クラック・ホーン、C『文化人類学入門』（講談社）
- ・『文化人類学事典』（弘文堂）

### 【注意事項】

本講義では、テーマごとに、アンケート（質疑応答）、ディスカッション、グループワーク、授業内課題を求め、進行させる。授業中に各自、課題に対して作業や考察を行い、発言やリアクションを求める。よって積極的な態度で出席して欲しい。

## 文学とコミュニケーション

—短編小説から読み取るコミュニケーションの姿—

高瀬 真理子

1・2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

私たちが日常何気なく行っているコミュニケーションとはどのようなものなのでしょうか。

私たちは、言葉だけでコミュニケーションをとっているわけでもありませんし、また、他者とのみコミュニケーションをとっているわけでもありません。

そのように、間口も奥行きも広くて深いコミュニケーションというもののさまざまな様態を日本の近現代小説に求め、作品講読を通して内容を理解していくと同時に、登場人物の行動や心情を理解しながら、そのようなコミュニケーションの有り様を追体験できればと思います。それらの作業の中から、私たちそれぞれの内界を豊かに育み、多様なコミュニケーションについて考えられるようになることを目指します。How toではないコミュニケーションの姿を捉えるところに主眼があります。

### 【授業における到達目標】

具体的な作品をコミュニケーションという視点から作品分析を行うことによって、日本語力はもちろん、コミュニケーション力、読み解く努力において、研鑽力を培い、コミュニケーションの有り様を把握することによってそれらが社会人として身につくことを目標としています。

### 【授業の内容】

- 第1週 コミュニケーションとは何か……授業の進め方
- 第2週 川端康成「伊豆の踊子」(1)……学生と踊り子の身分
- 第3週 川端康成「伊豆の踊子」(2)……二人の交流
- 第4週 川端康成「伊豆の踊子」(3)  
……コミュニケーションのあり様
- 第5週 横光利一「春は馬車に乗って」(1)……病妻との会話
- 第6週 横光利一「春は馬車に乗って」(2)  
……「檻の中の理論」との格闘
- 第7週 横光利一「春は馬車に乗って」(3)  
……夫婦のコミュニケーションの姿
- 第8週 樋口一葉「にぎりえ」(1)……括弧のない会話文
- 第9週 樋口一葉「にぎりえ」(2)  
……お力と朝之助、お初と源七
- 第10週 樋口一葉「にぎりえ」(3)  
……コミュニケーションと真意
- 第11週 三島由紀夫「班女」(1)……観念の愛とエゴイズム
- 第12週 三島由紀夫「班女」(2)  
……パラレルなコミュニケーション
- 第13週 深沢七郎「楢山節考」(1)……村社会の成り立ちと食
- 第14週 深沢七郎「楢山節考」(2)……村社会の秩序構成
- 第15週 深沢七郎「楢山節考」(3)  
……村におけるコミュニケーションとは

### 【事前・事後学修】

事前学修：テキストを前もって読んで授業に参加し、分からない語句などはあらかじめ調べておくこと。(学修時間 週2時間)

事後学修：授業で理解したコミュニケーションの有り様をノートにまとめること。作品ごとにコミュニケーションの立場から見た作品レポートをまとめます。(学修時間 週2時間)

### 【テキスト・教材】

あらかじめテキストになる作品をプリント配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験扱いのレポート実施

レポートは、授業内容を理解の上でまとめ、調査を行った場合は、その根拠や引用を明示して作成して下さい。

レポート 70% 平常点 30% (毎回のリアクションペーパーを含む)

課題レポートを作品ごとに提出してもらい、そこに講評を書き込む

ことによって理解の不足を補い、その積み上げの上に最終のレポートをまとめてもらう形でのフィードバックを行います。

### 【参考書】

作家が複数に及び煩瑣なので、授業中に説明を加えながら紹介します。

### 【注意事項】

「文学」分野と「コミュニケーション」の分野をつなぐような科目ですので、その点に留意しながらしっかり授業を聴いて下さい。ノートなどは、各自で自分の参考になるように工夫して下さい。

短期大学部受講ルール厳守

## 文学概論

〈教養としての古典の森〉へようこそ

上野 英子

1年～ 前期・後期 2単位

○：美の探求、研鑽力

### 【授業のテーマ】

この講義では、毎回さまざまなジャンルから、古来（名文）と言われてきた古典作品をとりあげていきます。

それぞれの作品が誕生した背景を探りながら、文章を分析し、朗読して、よく味わっていききたいと思います。そして「こうした作品を生み出してきた日本人の、根っこにあるものは何だろう…」といった問題についても、皆で考えていききたいと思います。

講義はパワーポイントを用いて説明し、朗読を重視し時には群読や分担読みも試みます。

また毎回宿題として、講師が提示したテーマについて簡単なレポートを書いていただき、これが平常点となります。

皆さんのなかには、古典文学というと気後れしてしまう方がおいでかもしれませんね。でも分かりやすく解説していきますので、大丈夫。大学生ならこれくらいは知っておいてほしいと思う作品を取り上げていきますので、よかったら一緒に〈古典の森〉の散策を楽しんでいきましょう。

### 【授業における到達目標】

- ・古文を朗読できること。
- ・成立背景や内容を理解し、感受性を深めること。
- ・講師が提示したテーマについて、自分なりの意見をまとめられること。

・国際社会のなかでの日本文化や日本文学の特徴について、自分なりの意見を持てるようになること。

以上が目標です。本学DPとの関連で言えば【美の探求】【研鑽力】、また自分たちの根っこを理解することこそ、国際化にむけての第一歩であるという意味で【国際的視野】を養うことを目標としています。

### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス〈文学って何だろう〉…錦絵新聞
- 第2週 儒教文化圏の考え方…論語
- 第3週 唐代漢詩と科挙試験
- 第4週 世界の神話と日本の神話…古事記
- 第5週 万葉の恋歌…万葉集
- 第6週 継子いじめの世界…落窪物語
- 第7週 紫式部といふ人…紫式部日記・紫式部歌集
- 第8週 源氏物語の世界
- 第9週 英雄の死…平家物語
- 第10週 演劇化された平家物語…謡曲・歌舞伎
- 第11週 中世の狂気…方丈記
- 第12週 江戸を旅する…奥の細道
- 第13週 華麗なる詞章…曾根崎心中
- 第14週 怖いお話…雨月物語
- 第15週 総括

### 【事前・事後学修】

毎回宿題代わりの簡易レポートを出します。予め次週のプリントを配布しますので、朗読ができるよう予習してきてください。予習復習併せて週4時間の学修を目標とします。

### 【テキスト・教材】

毎回プリントを配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ①平常点60%  
毎回提出する簡易レポートで、皆さんの理解度をはかります。優秀なレポートは読み上げて全員に紹介し、逆に誤解が目立った箇所については補足説明をします。
- ②定期試験か、試験代わりのレポート40%  
①②の合計点で判定します。

### 【参考書】

取り上げる作品に応じて、講義の中でその都度紹介します。

**文学散歩プロジェクト**

文学の時間と空間を歩く

棚田 輝嘉

1年 前期 2単位

○：美の探求、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

文学作品は、白い紙の上にかかれるものです。しかし、それを書いた文学者は、ある「時代」のある「場所」で確かに生きていました。そうした作品の背景となる「時空（時間と空間）」を、実際に歩いて、体験することで、立体的に作品の意味を探って行きたいと思います。

具体的には、本年度は、本郷から池之端・湯島・御茶ノ水・神田方面を歩いてみたいと思います。

**【授業における到達目標】**

文学作品を、立体的に読み解く。

特にPDの「人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深める」ことを目標とし、さらに「目標を設定して、計画を立案・実行する」能力、及び「自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進める」能力の獲得を、基本的な目標とする。

**【授業の内容】**

第1週 授業の目的と方法

第2週 演習の手順と方法

第3週 本郷という場所：かねやす・藤村・赤門・金魚坂、他

第4週 東大：梶井基次郎・上野英三郎、他

第5週 本郷と文学者1：樋口一葉・石川啄木・尾崎紅葉、他

第6週 本郷と文学者2：菊富士ホテル・宮沢賢治、織田作之助、他

第7週 弥生町～湯島聖堂まで

第8週 お茶の水・神田：古書街を歩く

第9週 （実地踏査に替える）

第10週 （実地踏査に替える）

第11週 以上の3回を実地踏査に替える（下の注意事項を必ず読むこと）

第12週 報告パネルの作成1：前半部

第13週 報告パネルの作成2：後半部

第14週 報告パネルの完成

第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学習】発表者は、必ず相談に来ること。

他の学生は、予め配布されたレジュメを十分読み、疑問点を明らかにしておくこと。（週2時間）

【事後学習】改めてレジュメを読み直し、実地踏査や報告パネルの作成に備えること。（週2時間）

**【テキスト・教材】**

こちらから配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への取り組み、課題・質疑など）65%

発表した学生は発表内容、発表を行わなかった学生はレポート、35%

提出された課題、レジュメ等については、授業中などにフィードバックを行う。

**【参考書】**

発表者へは、事前相談の時に指示する。

その他、授業中に適宜指示する。

**【注意事項】**

① 受講者が25名を超える場合には、抽選とする。

② 実地踏査（文学散歩）は、6月24日（日）13:00～18:00頃、雨天の場合には

7月1日（日）13:00～18:00頃（この日は、雨天でも行う）

③ 上記の日程の文学散歩に参加できない学生は受講しない事。（ただし、公式の理由で、急に参加できなくなった場合には、レポート等で対処する）

**文献研究 a**

絵巻の詞書を読む

中村 ひの

2年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

「卷子」は縦に対し画面の横の長さが極端に長い、特殊な画面形態です。詞書と絵で構成され、物語を可視化する絵巻は、こうした卷子の画面を生かし日本独自の展開をした作品のかたちです。

また、絵巻の構成要素である詞書と絵は展開をわかりやすく示すためだけのものではなく、相互に補充し合い、物語世界をより豊かなイメージとして、鑑賞者に享受させるものです。この授業では、「変体かな」を学び、実際に詞書として読んでみることを通じて、より深く絵巻作品を理解することを試みます。

絵巻の代表的な作品を取り上げ、「内容」と「文字」に親しみ、時には作品についての研究論文の内容読解なども行う予定です。

**【授業における到達目標】**

- ・変体かなと日本美術に関する学習を通じ、日本の文化・精神を知流とともに、それを世界に発信しようとする「国際的視野」を高める
- ・絵巻の詞書を読むことを通じ、学生が習得すべき「研鑽力」のうち、学ぶ楽しみを知ること、生涯にわたり知を探索し学問を続けることができる力を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODクシヨン 絵巻物とは 成り立ちと作品形態
- 第2週 インTRODクシヨン2 絵巻物とは 詞書と変体かな
- 第3週 変体かなの学びかた
- 第4週 絵巻を読む(1) 「地獄草子」概説
- 第5週 絵巻を読む(2) 「地獄草子」東京国立博物館本
- 第6週 絵巻を読む(3) 「地獄草子」奈良国立博物館本
- 第7週 絵巻とその研究を知る(1) 研究論文を読んでみる
- 第8週 絵巻を読む(4) 「病草子」概説
- 第9週 絵巻を読む(5) 「病草子」京都国立博物館ほか
- 第10週 絵巻とその研究を知る(2) 絵巻の情報とアーカイブ
- 第11週 絵巻を読む(6) 「長谷雄草子」概説
- 第12週 絵巻を読む(7) 「長谷雄草子」
- 第13週 絵巻とその研究を知る(3) 研究の視座と詞書
- 第14週 習熟状況についての確認
- 第15週 まとめ 詞書から絵巻について考える

**【事前・事後学修】**

《事前学修》授業で取り扱う作品の基礎的な情報を知ることができる文献等を読み、内容や図版を確認する(学修時間 週2時間)。  
《事後学修》くずし字を復習し、自身で楷書してみる、変体仮名を読んでみるなどして覚える。課題が出る場合もある(学修時間 週2時間目安。課題内容によって変動あり)。

**【テキスト・教材】**

児玉幸多編「くずし字解読辞典 普及版」(株式会社東京堂出版、1970年)税込2376円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

概ね試験結果50%、出席点20%、平常点(授業への積極参加と、課題提出状況)30%、ただし出席が全体の半分に満たない場合、参加意欲の評価について影響を与える可能性がある。  
提出課題は次ないし次々週で内容についてのフィードバックを行う。

**【参考書】**

小松茂美編『日本絵巻大成』各巻(中央公論社、1979-1979年)など

**【注意事項】**

課題として、美術館等の展示見学とそのミニレポートを設定する可能性があります(見学に係る費用が発生する時は履修者の自己負担となります)

**文献研究 b**

オルセー美術館の作品を読む

五十嵐 ジャンヌ

2年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

オルセー美術館と所蔵作品に関するテキストをもとに、19世紀フランスの美術史、社会、歴史、都市文化を学びます。フランス語初級文法も学びながら、フランス語文献を読むための基礎の習得を目指します。

**【授業における到達目標】**

フランス語の基本的な文法を修得することができます。  
辞書を使えば、フランス語文献を理解することができるようになります。外国語を読むという実感を通して、自信を創出することができます。  
フランス語文献の講読という実践を通して、国外の人々の考え方を理解することで、国際的視野を養うことができるようになります。

**【授業の内容】**

- 第1週 インTRODクシヨン(発音と基本)
- 第2週 p.1-3:第1課文法(名詞・形容詞の性と数 不定冠詞と定冠詞 直説法現在形)
- 第3週 pp.6-7:第2課文法(第1群規則動詞の直説法現在形 否定文 疑問文 前置詞と定冠詞の縮約 基数形容詞)
- 第4週 p.5:第2課テキスト「ヨンキント」講読
- 第5週 pp.10-12:第3課文法(不規則動詞の直説法現在形 所有形容詞 指示形容詞 命令形 感嘆文 主語代名詞on 形容詞tout)
- 第6週 p.9:第3課テキスト「シスレー」講読
- 第7週 pp.14-15:第4課文法(不規則動詞の直説法現在形 近接未来 近接過去 部分冠詞 人称代名詞強勢形 非人称構文)
- 第8週 p.13:第4課テキスト「アングル」講読
- 第9週 中間テスト、まとめ、発音応用編
- 第10週 pp.18-20:第5課文法(不規則動詞の直説法現在形 形容詞と副詞の比較級・最上級 関係代名詞 強調構文)
- 第11週 p.17:第5課テキスト「ルノワール」講読
- 第12週 pp.23-25:第6課文法(第2群規則動詞と不規則動詞の直説法現在形 疑問形容詞 疑問代名詞 序数形容詞)
- 第13週 p.22第6課テキスト「セザンヌ」講読
- 第14週 講評
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

テキストの予習を前提とします。  
【事前学修】テキスト内の単語を調べてください。毎回、授業ははじめに行われる小テストに向けて、動詞の活用などを暗記してきてください。(学修時間 週2時間)  
【事後学修】小テストの復習、新たに学んだ文法を復習、テキスト講読の予習をしておいてください。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

中山真彦『オルセー美術館にて一初級フランス語総合教本』(朝日出版社)2003年。  
2500円+税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期試験70%、平常点(授業への積極参加、予習、復習、宿題)30%で評価します。第9週目に、第4課までに学ぶ文法の間テストを行います。小テストや中間テスト採点后、テスト用紙を返却し、復習に役立ちます。

**【参考書】**

適宜紹介します。

**【注意事項】**

テキスト講読を中心にします。



**文献研究 c**

はじめてのイタリア語

**久保寺 紀江**

2年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

この授業は、はじめてイタリア語を学習する方が対象です。イタリアの美術を本当に知るためには、イタリアで使われている言葉を知ることが大変重要です。本授業で、イタリア語の基本文法や、初歩の会話などを学んでゆきましょう。イタリアは、美術史において重要な役割を果たしてきただけでなく、現在も多くの美術館や遺跡を保存しているため、直接旅する機会も多い国です。旅行の際、実際に役立つ会話も覚えましょう。イタリアをイタリア語で旅し、美術館の解説やレオナルド・ダ・ヴィンチの残した言葉をイタリア語で味わう、いつかそんな経験を実現するために、一歩踏み出してみませんか。ミラノ、ヴェネツィア、フィレンツェ、ヴァチカン、ローマなど、町の魅力や文化も紹介します。イタリアの様々な側面を知り、生きた言葉としてのイタリア語を楽しく習得しましょう。

**【授業における到達目標】**

学生が修得すべき国際的視野において、国際感覚を身に着ける一助となる、イタリア語の初歩文法や基本会話力を修得し、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探索する力を身に着けることができる。

**【授業の内容】**

- 1 イントロダクション、イタリア語の特徴
- 2 アルファベットと発音、あいさつ
- 3 ミラノ（1）ユースホステルで：essereとavere
- 4 疑問文と否定文
- 5 ミラノ（2）ミラノを散歩：冠詞、「～がある、～がいる」
- 6 avereを使ったいろいろな表現「おなかがすきました」
- 7 ヴェネツィア（1）パルで：規則動詞
- 8 基本的な前置詞「マリアはローマに住んでいます」
- 9 ヴェネツィア（2）お店で：冠詞前置詞、形容詞
- 10 所有形容詞「私の本」、指示詞questoとquello
- 11 フィレンツェ（1）トラットリアで：従属動詞
- 12 直接目的語代名詞「それをいただきます」
- 13 フィレンツェ（2）美術館訪問：不規則動詞
- 14 動詞piacere「私は～が好き」
- 15 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：付属CDに録音された本文を繰り返し聞き、発音練習をしてみてください（週2時間）

事後学修：文法事項を確認し、CDを繰り返し聞き、発音練習をしてみてください（週2時間）

**【テキスト・教材】**

一ノ瀬俊和監著 中矢慎子・入江たまよ著『私のイタリア—Lamia italia— 改定新版』朝日出版社 2016年（2300円＋税、CD付）

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験25%、ミニレポート25%、授業内の練習と実践50%

・「ミニレポート」とは、自宅で行って提出していただく復習レポートです。「授業内で行う練習と実践」とは、授業の中で会話の練習や文法問題に挑戦していただくことです。試験結果は、最終授業、授業内練習等は、授業内でフィードバックを行います。

**【参考書】**

補足として、日本語訳や解説をプリントで配布します。

**【注意事項】**

言葉と文化には深いつながりがあります。イタリア語が少しでもわかる、話せるだけで、イタリア美術もイタリア旅行も何十倍も楽しくなります。内容や授業速度は受講者の理解度や興味によって変更となることがあります。

**文献研究 d**

文献史料を通して見る中国の歴史と文化

**新井 崇之**

2年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

この授業は、中国の文献史料（漢文などの歴史的な文書のこと）の基本的な読解方法を学び、中国の歴史や文化について理解を深めることを目的とします。中国には、文字で物事を記録する長い歴史があり、各時代の多種多様な文献史料が現存しています。そこで、中国の美術や文化を研究する上で有用な文献史料をいくつか選び、それぞれが成立した歴史的背景を踏まえつつ、内容の読解方法を修得します。また、授業中に現代中国語を取り上げ、簡単な会話や文章の読解方法についても学びます。

**【授業における到達目標】**

中国の文献史料は、漢文が基本となります。そこでこの授業では、主に漢文の文法構造や語句の調べ方を把握し、基本的な書き下しと日本語訳をできるようにします。また、それらの文献史料からどのような事象を読み解くのか、歴史研究の基本的な方法を理解します。さらに、現代中国語に関する基礎を学び、簡単な会話や、研究を進める上での文章の読解方法を修得します。以上、中国の文献史料の読解を通じて、研鑽力を養うとともに、東アジアという視点から日本を見つめる国際的視野を身につけます。

**【授業の内容】**

1. Introduction 授業の概要について
2. 史料読解の基礎① 漢文の基本構造と語意の調べ方
3. 史料読解の基礎② 書き下しと現代日本語訳の方法
4. 正史を読む① 正史二十四書について
5. 正史を読む② 四字熟語のもとになった故事
6. 唐詩を読む① 唐詩の概要
7. 唐詩を読む② 唐詩から見る唐代の文化
8. 茶書を読む① 『茶経』と『茶疏』に見る中国の喫茶
9. 茶書を読む② 中国と日本の茶書に見る喫茶方法の違い
10. 地理書を読む① 地理書の概要
11. 地理書を読む② 『諸蕃志』に見る特産品
12. 美術鑑賞書を読む① 文人文化と工芸品
13. 美術鑑賞書を読む② 『長物志』に見る鑑賞の方法
14. 中国語のキャプションと図録を読む
15. 授業のまとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：毎回授業の最後に、次週の授業で読む文献史料に関する宿題を出します。その内容は、主に以下の3点です。①文献史料の作者や成立年代など、基本的な情報を調べます。②文献史料から短い文章（10～20文字程度）をピックアップするので、その漢字の意味を漢和辞典で調べます。③可能であれば、書き下しや現代日本語訳に挑戦してください。（学修時間 週3時間）

事後学修：毎回提出して頂いた宿題を添削するので、その内容を再確認してください。（学修時間 週1時間）

**【テキスト・教材】**

毎回の授業では、担当教員が準備するパワーポイントとプリントを使用します。

文献史料を読解するには、各自で漢和辞典を引く必要があります。使用する漢和辞典は、2017年に改訂された『角川 新字源』（角川出版、定価3000円）をおすすめします。図書館で閲覧してもかまいませんが、余裕があればぜひ購入してください。

その他、参考書籍があれば、授業中に紹介します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（宿題・授業への積極的な参加）70%。文献史料を読解するためには、事前に辞書を引くことが重要です。また、読解の方法は一通りではなく、複数の読み方が存在するため、授業中にどの読み方が妥当か討論したいと思います。そこで本授業では、事前に課す宿題と、授業への積極的な参加に重きを置きます。

期末レポート30%。本授業ではテストを行わず、学期末にレポー

トを1回課します。なお期末レポートの内容については、最終授業の際にフィードバックを行います。

#### 【参考書】

授業中に随時紹介します。

#### 【注意事項】

漢文の読解というと、難しく感じる人が多いと思います。そこで本授業では、前提知識を問わず、基本的な内容から講義します。漢文に苦手意識のある学生でも積極的に受講してください。

#### 文献研究 e

芸術理論を読む

横山 奈那

2年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

#### 【授業のテーマ】

Art in Theory, 1900-2000: An Anthology of Changing Ideas (2003)に収められた芸術理論を読み、20世紀の芸術や美術批評の動向を学び、国際的視野を養う。テキストを英語で精読することにより、語学力の向上、文献を読解する能力の養成、芸術の基礎的な専門用語や知識の修得、研鑽力の育成を目指す。授業は担当者による発表形式で行う。発表担当者は、該当箇所の訳文・要約を事前に作成するだけでなく、関連事項についても調査し、報告する。さらにテキストの内容について、出席者全員で話し合う。担当者以外も必ず予習したうえで授業に臨むこと。

#### 【授業における到達目標】

- (1) 英語の文献を自らの手で読み解く力を獲得する。
- (2) 芸術の文献を読む際に必要な専門用語や知識を修得する。
- (3) 欧米の芸術理論を学び、国際的視野を身につける。
- (4) 多角的視点と深い洞察を可能にする研鑽力を育成する。

#### 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 講読① Michael Fried, 'Art and Objecthood' 導入
- 第3週 講読② 同上、第1章
- 第4週 講読③ 同上、第2章
- 第5週 講読④ 同上、第3章
- 第6週 講読⑤ 同上、第4章
- 第7週 講読⑥ 同上、第5章
- 第8週 講読⑦ 同上、第6章
- 第9週 講読⑧ 同上、第7章
- 第10週 講読⑨ 同上、第8章・まとめ
- 第11週 講読⑩ Robert Morris, 'Notes on Sculpture' 導入
- 第12週 講読⑪ 同上、第1部
- 第13週 講読⑫ 同上、第2部
- 第14週 講読⑬ 同上、第3部・まとめ
- 第15週 総括 全体のまとめ

#### 【事前・事後学修】

【事前学修】発表、レポート等の課題に取り組むこと。発表担当者は、訳文と段落の要約を記したレジメを作成すること。その際、関連事項（登場する芸術作品や芸術家等）についても図書館の文献を用いて調べる。担当者以外も単語や文法を精査し、内容の理解に努め、疑問点を挙げておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業で扱った内容、専門用語等を復習し、担当箇所以外の段落の要約を作成すること。（学修時間 週2時間）

#### 【テキスト・教材】

授業開始時に指示する。

#### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（発表とレジメの内容、授業への貢献度）40%、平常点（課題の提出）30%、レポート30%

課題は次回授業時、レポートはmanabaを通じてフィードバックを行う。

#### 【参考書】

授業中に適宜紹介する。

#### 【注意事項】

授業の進度や受講者の要望により、内容が変更になる場合がある。授業内での積極的な発言を歓迎する。発表の担当になっている日にやむを得ない事情で欠席する場合は、事前に必ず連絡し、発表分のレジメをあらかじめ提出すること。授業には辞書（電子辞書可）を持参することが望ましい。

**文献研究 f**

批判的思考で学ぶレポート・論文の作成技術

串田 紀代美

2年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野

**【参考書】**

授業で適宜紹介します。

**【注意事項】**

本授業は、学生を主体とするアクティブ・ラーニングの学習方法に従い、ピア活動やグループでの話し合いを中心に協働的に進めません。そのため出席を重視します。

**【授業のテーマ】**

大学の授業で扱う学術的な文章を読み、レポート・論文を書くための実践的な技術を身につけます。この授業では、論理的に考え表現するスキルをトレーニングします。テーマを発見し、集めた情報を整理しながら、レポート・論文の中心となる論点を考えます。文章を批判的に読む技術は、物事を論理的に考え文章化する行為と深く関わっています。自分の考えを明確に表現することは、学術的文章を書く技術だけでなく、ゼミでの口頭発表や就職活動にも役立ちます。この授業では、アクティブ・ラーニングに基づいた協働学習を通して多様な価値観を身につけます。同時に、自ら考え、現状を正しく把握し、自ら課題を発見し解決へと導くことができる行動力を修得します。

**【授業における到達目標】**

- ・文章を正確に把握し、批判的に読むストラテジーを身につける。
- ・レポート・論文の形式や構成を知り、自ら問いが立てられる。
- ・論点を絞り、根拠を示し、自分の意見や主張が明確に表現できる。
- ・パラグラフの構造を理解し、適切な中心文と支持文が書ける
- ・レポート・論文の文章にふさわしい定型表現で書くことができる。
- ・引用や参考文献表記のルールに従ってレポート・論文が書ける。
- ・提出前に自己点検ができ、客観的に読み直し適切に修正ができる。

**【授業の内容】**

- 第1週 アカデミックリテラシーとは何か、言葉と思考の関係性を知る
- 第2週 レポート・論文の構成を知る、思考をアウトプットする、口頭発表の文体と比較する
- 第3週 パラグラフ・ライティング、中心文と支持文を書く
- 第4週 レポート・論文の定型表現を身につける、論理的な文章を知る
- 第5週 作成プロセスを知る、問いを立てる、主張を明確化する
- 第6週 構成を練る、主題を決める
- 第7週 アウトラインを組み立てる、論点を絞る
- 第8週 主題・主張を熟考しアウトラインを再検討する
- 第9週 文例①「要約」「対比」「因果関係」「歴史的経緯の説明」
- 第10週 文例②「定義」、専門用語を定義する、情報を検索する
- 第11週 序論・結論を執筆する、展開の3段階を知る
- 第12週 全体の構成を口頭で説明する（ピア活動）、文献表記のルールを知る、レポートの評価観点を知る
- 第13週 文献から引用する、推敲し修正する
- 第14週 剽窃とは何か、学習を振り返り自己点検する
- 第15週 完成レポートのフィードバック

**【事前・事後学修】**

【事前学修】次週の授業で扱う論文は、必ず精読してください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業で配付した資料は、ノートと合わせて必ず見直し、授業内容を反芻しながら要点を整理してください。読解の要約やパラフレーズ、ライティングの課題は、必ず提出日までに準備してください。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

特定のテキストは使用しませんが、資料は毎回配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（リアクション・ペーパー、グループワークや議論への参加等）50%、提出物（クイズ、課題等）30%、期末レポート20%を総合的に判断し成績評価を行います。フィードバックは、必要に応じて授業内で適宜行います。

**編集・校正インターンシップ**

毎日新聞社でのインターンシップ

1年 集中 1単位

○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

学生が在学中に出版編集コースでの学びに関連した就業体験を行う。

**【授業における到達目標】**

学科教育において身につけた日本語力・コミュニケーション力を基礎とし、出版編集コースにおける授業、特に校正技能等の授業を通じて学んだものを現場での体験を通じて、実践的な能力に高めることを目標とする。

**【授業の内容】****I. 実習期間及び時間数**

毎日新聞社大学センターとそこに関連、あるいは連携する現場において、5日間以上、各日7時間（総計35時間）を目安とした実習を終了することにより単位を認定する。

履修している授業に支障がないよう、原則として夏期休暇中などの授業期間外の日程を設定すること。

実習のための欠席は公欠扱いにならない。

**II. 実習内容**

- ・社内見学により新聞社の仕事内容全般を掌握する。
- ・取材体験
- ・記事執筆体験
- ・校閲体験
- ・教育事業（イベント関連）の補助体験

就業体験のため無報酬、食費・交通費等は自費負担

その他、本学とのインターンシップ協定書に基づく。

**【事前・事後学修】**

事前学修：毎日新聞社大学センターについての情報収集、調査を行うこと（2時間程度）。

各日ごとの実習内容を意識して、当日の目標設定を行うこと。また実習日ごとに目標に照らした振り返りと反省とそこからの学びについて書き留めておくこと（各日1時間程度）。

事後学修：インターンシップの報告書を作成し、事前学修の作成書類と合せて冊子を作成すること（報告書について3時間程度、冊子作成時間含まず）。

**【テキスト・教材】**

インターンシップについて、本学、並びに毎日新聞社の受け入れ部署から配付される資料

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

事前事後学修で製作された冊子と口頭発表をもとに単位を認定する。

**【注意事項】**

実習で体験した内容を的確にまとめ、報告書を作成すること。報告書については、毎日新聞社の受け入れ部署から評価の記入・印をいただくこと。印のないものは無効となる。

単位認定を希望する者は、所定の期間に日本語コミュニケーション学科に申請すること。

**保育・教育指導の基礎**

松田 純子・大澤 朋子・渡辺 敏・井口 眞美

1年 通年 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

**【授業のテーマ】**

保育、幼児教育及び小学校教育の基本と目標をよく理解した上で、実際に幼稚園（認定こども園）や小学校や保育所の現場で見学観察実習を行い、子どもの生活や学びの様子を知る。また、教育実習と保育実習の基本についても学ぶ。さらに児童館の見学や地域のこどもまつりへの参加、外部講師の講話等を通して、子どもの健やかな成長・発達を保障するためには、どのようなことが必要となるのか、具体的に様々な視点から考えていく。

**【授業における到達目標】**

- ・保育、幼児教育及び小学校教育の基本と目標を理解する。
- ・実際の子どもの生活や学びについて具体的に理解する。
- ・実習の基本を身につけ、実践できるようになる。
- ・実習（準備や振り返りの過程を含む）を通して、問題解決に向け主体的に行動する力を身につける。
- ・実習（準備や振り返りの過程を含む）を通して、広い視野と洞察力を身につける。
- ・実習（準備や振り返りの過程を含む）を通して、他者と協働する力を身につける。

**【授業の内容】**

1. オリエンテーション
2. 実習の心構えとマナー（外部講師）
3. 幼稚園見学観察実習事前指導（1）子どもの生活
4. 幼稚園見学観察実習事前指導（2）子どもの活動
5. 幼稚園見学観察実習事前指導（3）実習記録
6. 幼稚園見学観察実習
7. 幼稚園見学観察実習事後指導（1）グループ討議
8. 幼稚園見学観察実習事後指導（2）発表
9. 幼稚園見学観察実習事後指導（3）まとめ
10. 小学校見学観察実習事前指導（1年生①）
11. 小学校見学観察実習（1年生①）
12. 小学校見学観察実習事後指導（1年生①）
13. 児童館見学実習事前指導
14. 児童館見学実習
15. 児童館見学実習事後指導
16. 地域の中の保育・教育（外部講師）
17. 「手をつなごう・こどもまつり」準備
18. 「手をつなごう・こどもまつり」参加
19. 「手をつなごう・こどもまつり」振り返り
20. 保育所見学観察実習事前指導（1）子どもの生活  
小学校見学観察実習事前指導（1年生②）
21. 保育所見学観察実習事前指導（2）子どもの活動  
小学校見学観察実習（1年生②）
22. 保育所見学観察実習事前指導（3）実習記録  
小学校見学観察実習事後指導（1年生②）
23. 保育所見学観察実習  
小学校見学観察実習事前指導（6年生）
24. 保育所見学観察実習事後指導（1）グループ討議  
小学校見学観察実習（6年生）
25. 保育所見学観察実習事後指導（2）発表  
小学校見学観察実習事後指導（6年生）
26. 保育所見学観察実習事後指導（3）事例と考察  
小学校PTA主催子ども祭り参加
27. 保育所見学観察実習事後指導（4）まとめ
28. ボランティア活動振り返り
29. 保育・教育と儀礼文化（外部講師）
30. 総括

**【事前・事後学修】**

- ・授業時に出される課題に取り組む（学修時間 週1時間）
- ・授業内容について復習を行う（学修時間 週1時間）
- ・実習先の調査・学修（学修時間 各実習2時間）
- ・見学観察記録の作成（学修時間 各実習3時間）
- ・児童福祉施設の調査・学修（学修時間 3時間×3施設）
- ・児童福祉施設にてボランティア活動を行う（学修時間 8時間×3日間）

**【テキスト・教材】**

- ・『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）』（チャイルド本社 2017年）500円（税別）

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- ・レポート課題30%、平常点（授業への積極参加・課題提出）40%  
実習報告30%
- ・課題の評価のフィードバックは、授業評価のコメントにて行う。

**【参考書】**

- ・授業時に適宜紹介、指示する。

**【注意事項】**

- ・実習日は、実習先の都合により変更になる場合がある。
- ・外部講師による特別講義日は、講師の都合により変更になる場合がある。

**保育・教育指導の実際**

井口 眞美・大澤 朋子・山下 晶子・渡辺 敏

2年 通年 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

**【授業のテーマ】**

保育者・教師としての基礎を培い、3、4年次に行われる保育実習（保育所・児童福祉施設）および教育実習、介護等体験に備えるとともに、さまざまな経験を積みながら幅広い実践力を身につける。

保育所や幼稚園、小学校での見学観察実習を行い、子どもの発達や学びの実際を理解し、保育・教育の場の機能や役割について現実的な認識を深めたり、先輩の実習報告や外部講師の講話を聞いたりして見聞を広める。また地域の子育て支援行事「手をつなごう こどもまつり」への参加を通して、行事等の企画・運営の体験をすると同時に、子どもをめぐる地域活動の意義や取り組みの実際を理解する。

**【授業における到達目標】**

- ・保育所、幼稚園、小学校の見学観察実習を通して、子どもの発達や保育者・教師の役割を理解する。また、実際に子どもに関わる経験を通して、保育・教育技術を身につける。【研鑽力】
- ・日野市の「手をつなごう・子どもまつり」の準備、参加を行うことを通して、仲間と協力して作業を行い、自らの役割を果たす。また、行事への参加を通して、地域における子育て支援の在り方を学ぶ。【協働力】
- ・3、4年次の実習に向け自己課題を見つけ、保育・教育の実際についての理解を深める。【行動力】

**【授業の内容】**

- <前期>第1週 2年次実習ガイダンス  
 第2週 礼法の学習<外部講師による指導（日程未定）>  
 第3週 保育所・小学校の一日  
 第4週 保育所・小学校観察の事前指導①（手続き）  
 第5週 保育所・小学校観察の事前指導②（観察の視点）  
 第6週 保育所・小学校観察の事前指導③（日誌の書式）  
 第7週 保育所・小学校観察実習  
 <学外実習（日程未定）>  
 第8週 実習事後指導①（お礼状作成、ふり返りの発表）  
 第9週 実習事後指導②（日誌の記録）  
 第10週 実習事後指導③（事例と考察）  
 第11週 児童福祉施設・介護等体験について（概要）  
 第12週 福祉施設ボランティアについて（心得等）  
 第13週 夏休み課題について  
 第14週 保育・教育の現状①  
 （保育所の実態・教科教育の実際）  
 第15週 保育・教育の現状②  
 （待機児童問題・子どもの問題行動）
- <後期>第1週 地域の子育て支援<外部講師による指導>  
 第2週 こどもまつりの概要  
 第3週 こどもまつり準備  
 第4週 こどもまつり参加<学外実習（日程未定）>  
 第5週 こどもまつりのふり返り  
 第6週 実習事前指導①（手続き）  
 第7週 実習事前指導②（夏休み課題の発表）  
 第8週 実習事前指導③（日誌の書き方）  
 第9週 幼稚園観察実習<学外実習（日程未定）>  
 第10週 実習事後指導①（実習のふり返り）  
 第11週 実習事後指導②（指導案の作成）  
 第12週 保育所・幼稚園実習開拓について  
 第13週 施設実習・介護等体験について  
 （種別ごとの学習内容）  
 第14週 施設実習・介護等体験の心得  
 第15週 施設実習・介護等体験で身につけておくこと

**【事前・事後学修】**

**【事前学修】**

観察実習、こどもまつりへの参加、外部講師による指導等が出された課題は（基本的に）次週までに提出すること。日頃からボランティア活動にも自主的に取り組むこと。（週1時間）

**【事後学修】**

施設ボランティアの課題、夏休み課題については早めに実施し、期日までに必ず提出すること。（週1時間）

**【テキスト・教材】**

『幼保連携型認定こども園保育・教育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』内閣府・文部科学省・厚生労働省 チャイルド社 2017年（540円）

『小学校学習指導要領』文部科学省 2017年（詳細は授業時に指示する）

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

受講態度（授業への取り組み方等）30%、授業内課題40%、実習30%

実習内容の発表や課題の提出の機会には、指導教員からのコメントをつけ、学修のフィードバックを行う。

**【参考書】**

『介護等体験ガイドブック フィリア』全国特別支援学校校長会編 ジアース教育新社 2014年（933円＋税）

『よくわかる社会福祉施設』全国社会福祉協議会編 全国社会福祉協議会 2015年（600円＋税）

**【注意事項】**

- ・実習関連科目であるため、実践的な内容が中心となる。こどもまつりや観察実習、ボランティア等にも意欲的に参加すること。
- ・外部講師による指導や観察実習については、先方の都合により日程が変更になる可能性がある。
- ・幼保コースと幼小コースが合同で学習する日もある。担当教員に日程や教室を確認して受講すること。

## 保育・教職実践演習（幼稚園）

井口 眞美・南雲 成二

4年 後期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

### 【授業のテーマ】

この授業では、指導案の作成、現職幼稚園教諭、保育士からの指導（求められる保育者像、資質、技能について）等から、4年間の学びを振り返る。また、グループ討議や実地観察を行い、「専門的知識・技術を備え、実践力を発揮できる保育者」を育てることを最終目的とする。

### 【授業における到達目標】

- ・学生が修得すべき「行動力」のうち、保育者になるにあたっての自己課題を明らかにし、主体的に解決できる力を身につける。
- ・保育者としての専門的知識・技術を身につけ、実践力を高めて、「研鑽力」「協働力」を身につける。
- ・外部講師の話や実地見学を通して、保育者としての将来に期待と自信をもつことができる。

### 【授業の内容】

- 第1週 実践演習カルテについて
- 第2週 自己課題解決に向けてのディスカッション
- 第3週 前週の内容に関するグループ発表
- 第4週 園長講話…現職幼稚園園長を招く  
 <講師の都合により、日程を変更することがある>
- 第5週 自己の学びの振り返り（文章化）
- 第6週 幼小の接続において大切にしたいこと
- 第7週 先輩保育者の話…卒業生である保育者6名程度を招く  
 <講師の都合により、日程を変更することがある>
- 第8、9週 幼稚園、保育所での観察  
 <日野市内の園でのフィールドワーク：日程未定>
- 第10週 園見学の発表①（遊びの記録についての発表）
- 第11週 園見学の発表②（環境構成の工夫についての発表）
- 第12週 子育て支援活動の話…NPO活動団体の方を招く  
 <講師の都合により、日程を変更することがある>
- 第13週 実践力の育成（自己紹介）
- 第14週 実践力の育成（伝承遊び）
- 第15週 カルテ作成、まとめ

### 【事前・事後学修】

#### 【事前学修】

これまでに記入したカルテを見直し、不備がないか確認しておくこと。カルテにより自己課題と考えられる内容に関しては、補完的に学修を進めておくこと。（週1時間）

#### 【事後学修】

授業で配布されたプリント等は、翌週までによく読んでおくこと。（週1時間）

### 【テキスト・教材】

生野金三他『保育・教職実践演習』（萌文書林）2016年、2000円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業態度（授業への取り組み）50%、提出物やレポート50%

- ・教職カルテは返却し、学修成果の自己評価を行う場を設ける。
- ・各回の課題は振り返りの機会を設ける。

### 【参考書】

文部科学省『幼稚園教育要領』（平成29年）

厚生労働省『保育所保育指針』（平成29年）

内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年）

### 【注意事項】

授業への積極的な参加が求められる。成績評価は、授業への取り組み方や授業態度を重視する。

**保育学**

井口 眞美  
3年 後期 2単位  
○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

日本は、子どもたちを大事に育ててきた民族的な文化を持つ国である。子どもたちが健やかに育っていくように、保育者は日々努力をしてきた。今日の日本社会の保育が抱える課題を知り、どんな時代であろうと、子どもを保（まも）り育てる保育学が見失ってはいけないことは何なのか、共に学び合う場としたい。

**【授業における到達目標】**

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につける。また、ここでの学びを自らの生活に生かし、自己成長する力を修得する。

**【授業の内容】**

- 1 保育学ガイダンス
- 2 乳児保育（0歳児）
- 3 乳幼児保育機関・児童福祉施設・子育て支援機関
- 4 保育所の生活
- 5 幼稚園の生活
- 6 幼児保育の実際1（人間関係の視点から）
- 7 幼児保育の実際2（保育者の役割）
- 8 幼児保育の実際3（指導計画）
- 9 保育観察実習について
- 10 保育観察実習 ＜日程は未定＞
- 11 保育観察実習のふり返り
- 12 保育所・幼稚園の新しい動き
- 13 保育の今日的課題1（子ども虐待・子どもの貧困）
- 14 保育の今日的課題2（インクルーシブ保育）
- 15 まとめ

**【事前・事後学修】**

**【事前学修】**

次回テーマについて下調べをし、関心を深め、自分の考えを持って授業に臨むこと（学修時間週2時間）

**【事後学修】**

レポート・小テストに向けて復習すること（学修時間週2時間）

**【テキスト・教材】**

- ・プリントを使用する。  
（配布プリントはファイリングし、よく読んでおくこと）
- ・実際の保育のイメージがもてるように、視聴覚教材を使用する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- 授業への取り組み（リアクションペーパー等） 40%  
保育観察実習レポート 30%  
期末課題 30%

・レポートは返却する際に、評価のコメントを伝えたり、クラスで各自のレポート内容を発表し合ったりして学修成果が確認できるようにする。

**【参考書】**

適宜紹介する。

**【注意事項】**

- ・保育観察実習に行き、レポートを作成する課題がある。  
（保育観察実習の詳細については、授業内で伝える）
- ・子どもに関する社会の動き、報道に敏感でいること。

**保育学**

井口 眞美  
3年 前期 2単位  
○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

日本は、子どもたちを大事に育ててきた民族的な文化を持つ国である。子どもたちが健やかに育っていくように、保育者は日々努力をしてきた。今日の日本社会の保育が抱える課題を知り、どんな時代であろうと、子どもを保（まも）り育てる保育学が見失ってはいけないことは何なのか、共に学び合う場としたい。

**【授業における到達目標】**

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につける。また、ここでの学びを自らの生活に生かし、自己成長する力を修得する。

**【授業の内容】**

- 1 保育学ガイダンス
- 2 乳児保育（0歳児）
- 3 乳幼児保育機関・児童福祉施設・子育て支援施設
- 4 保育所の生活
- 5 幼稚園の生活
- 6 幼児保育の実際1（人間関係の視点から）
- 7 幼児保育の実際2（保育者の役割）
- 8 幼児保育の実際3（指導計画）
- 9 保育観察実習について
- 10 保育観察実習 ＜日程は未定＞
- 11 保育観察実習のふり返り
- 12 保育所・幼稚園の新しい動き
- 13 保育の今日的課題1（子ども虐待・子どもの貧困）
- 14 保育の今日的課題2（インクルーシブ保育）
- 15 まとめ

**【事前・事後学修】**

**【事前学修】**

次回テーマについて下調べをし、関心を深め、自分の考えを持って授業に臨むこと（学修時間週2時間）

**【事後学修】**

レポート等に向けて復習すること（学修時間週2時間）

**【テキスト・教材】**

- ・プリントを使用する。  
（配布プリントはファイリングし、よく読んでおくこと）
- ・実際の保育のイメージがもてるように、視聴覚教材を使用する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- 授業への取り組み（リアクションペーパー等） 40%  
保育観察実習レポート 30%  
期末課題 30%

・レポートは返却する際に、評価のコメントを伝えたり、クラスで各自のレポート内容を発表し合ったりして学修成果が確認できるようにする。

**【参考書】**

適宜紹介する。

**【注意事項】**

- ・保育観察実習に行き、レポートを作成する課題がある。  
（保育観察実習の詳細については、授業内で伝える）
- ・子どもに関する社会の動き、報道に敏感でいること。



**保育学**

井口 眞美

3年 前期・後期 2単位

○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

日本は、子どもたちを大事に育ててきた民族的な文化を持つ国である。子どもたちが健やかに育っていくように、保育者は日々努力をしてきた。今日の日本社会の保育が抱える課題を知り、どんな時代であろうと、子どもを保（まも）り育てる保育学が見失ってはいけないことは何なのか、共に学び合う場としたい。

**【授業における到達目標】**

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につける。また、ここでの学びを自らの生活に生かし、自己成長する力を修得する。

**【授業の内容】**

- 1 保育学ガイダンス
- 2 乳児保育（0歳児）
- 3 乳幼児保育機関・児童福祉施設・子育て支援機関
- 4 保育所の生活
- 5 幼稚園の生活
- 6 幼児保育の実際1（人間関係の視点から）
- 7 幼児保育の実際2（保育者の役割）
- 8 幼児保育の実際3（指導計画）
- 9 保育観察実習について
- 10 保育観察実習＜日程は未定＞
- 11 保育観察実習のふり返り
- 12 保育所・幼稚園の新しい動き
- 13 保育の今日的課題1（子ども虐待・子どもの貧困）
- 14 保育の今日的課題2（インクルーシブ保育）
- 15 まとめ

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

次回テーマについて下調べをし、関心を深め、自分の考えを持って授業に臨むこと（学修時間週2時間）

**【事後学修】**

レポート・小テストに向けて復習すること（学修時間週2時間）

**【テキスト・教材】**

- ・プリントを使用する。  
（配布プリントはファイリングし、よく読んでおくこと）
- ・実際の保育のイメージがもてるように、視聴覚教材を使用する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業への取り組み（リアクションペーパー等） 40%

保育観察実習レポート 30%

期末課題 30%

- ・レポートは返却する際に、評価のコメントを伝えたり、クラスで各自のレポート内容を発表し合ったりして学修成果が確認できるようにする。

**【参考書】**

適宜紹介する。

**【注意事項】**

- ・保育観察実習に行き、レポートを作成する課題がある。  
（保育観察実習の詳細については、授業内で伝える）
- ・子どもに関する社会の動き、報道に敏感でいること。

**保育学**

井口 眞美

3年 前期・後期 2単位

○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

日本は、子どもたちを大事に育ててきた民族的な文化を持つ国である。子どもたちが健やかに育っていくように、保育者は日々努力をしてきた。今日の日本社会の保育が抱える課題を知り、どんな時代であろうと、子どもを保（まも）り育てる保育学が見失ってはいけないことは何なのか、共に学び合う場としたい。

**【授業における到達目標】**

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につける。また、ここでの学びを自らの生活に生かし、自己成長する力を修得する。

**【授業の内容】**

- 1 保育学ガイダンス
- 2 乳児保育（0歳児）
- 3 乳幼児保育機関・児童福祉施設・子育て支援機関
- 4 保育所の生活
- 5 幼稚園の生活
- 6 幼児保育の実際1（人間関係の視点から）
- 7 幼児保育の実際2（保育者の役割）
- 8 幼児保育の実際3（指導計画）
- 9 保育観察実習について
- 10 保育観察実習 ＜日程は未定＞
- 11 保育観察実習のふり返り
- 12 保育所・幼稚園の新しい動き
- 13 保育の今日的課題1（子ども虐待・子どもの貧困）
- 14 保育の今日的課題2（インクルーシブ保育）
- 15 まとめ

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

次回テーマについて下調べをし、関心を深め、自分の考えを持って授業に臨むこと（学修時間週2時間）

**【事後学修】**

レポート・小テストに向けて復習すること（学修時間週2時間）

**【テキスト・教材】**

- ・プリントを使用する。  
（配布プリントはファイリングし、よく読んでおくこと）
- ・実際の保育のイメージがもてるように、視聴覚教材を使用する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業への取り組み（リアクションペーパー等） 40%

保育観察実習レポート 30%

期末課題 30%

- ・レポートは返却する際に、評価のコメントを伝えたり、クラスで各自のレポート内容を発表し合ったりして学修成果が確認できるようにする。

**【参考書】**

適宜紹介する。

**【注意事項】**

- ・保育観察実習に行き、レポートを作成する課題がある。  
（保育観察実習の詳細については、授業内で伝える）
- ・子どもに関する社会の動き、報道に敏感でいること。

## 保育学

井口 眞美

3年 前期・後期 2単位

○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

日本は、子どもたちを大事に育ててきた民族的な文化を持つ国である。子どもたちが健やかに育っていくように、保育者は日々努力をしてきた。今日の日本社会の保育が抱える課題を知り、どんな時代であろうと、子どもを保（まも）り育てる保育学が見失ってはいけないことは何なのか、共に学び合う場としたい。

### 【授業における到達目標】

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につける。また、ここでの学びを自らの生活に生かし、自己成長する力を修得する。

### 【授業の内容】

- 1 保育学ガイダンス
- 2 乳児保育（0歳児）
- 3 乳幼児保育機関・児童福祉施設・子育て支援機関
- 4 保育所の生活
- 5 幼稚園の生活
- 6 幼児保育の実際1（人間関係の視点から）
- 7 幼児保育の実際2（保育者の役割）
- 8 幼児保育の実際3（指導計画）
- 9 保育観察実習について
- 10 保育観察実習＜日程は未定＞
- 11 保育観察実習のふり返り
- 12 保育所・幼稚園の新しい動き
- 13 保育の今日的課題1（子ども虐待・子どもの貧困）
- 14 保育の今日的課題2（インクルーシブ保育）
- 15 まとめ

### 【事前・事後学修】

#### 【事前学修】

次回テーマについて下調べをし、関心を深め、自分の考えを持って授業に臨むこと（学修時間週2時間）

#### 【事後学修】

レポート・小テストに向けて復習すること（学修時間週2時間）

### 【テキスト・教材】

- ・プリントを使用する。  
（配布プリントはファイリングし、よく読んでおくこと）
- ・実際の保育のイメージがもてるように、視聴覚教材を使用する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への取り組み（リアクションペーパー等） 40%

保育観察実習レポート 30%

期末課題 30%

- ・レポートは返却する際に、評価のコメントを伝えたり、クラスで各自のレポート内容を発表し合ったりして学修成果が確認できるようにする。

### 【参考書】

適宜紹介する。

### 【注意事項】

- ・保育観察実習に行き、レポートを作成する課題がある。  
（保育観察実習の詳細については、授業内で伝える）
- ・子どもに関する社会の動き、報道に敏感でいること。

**保育学**

井口 眞美

3年 前期・後期 2単位

○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

日本は、子どもたちを大事に育ててきた民族的な文化を持つ国である。子どもたちが健やかに育っていくように、保育者は日々努力をしてきた。今日の日本社会の保育が抱える課題を知り、どんな時代であろうと、子どもを保（まも）り育てる保育学が見失ってはいけないことは何なのか、共に学び合う場としたい。

**【授業における到達目標】**

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につける。また、ここでの学びを自らの生活に生かし、自己成長する力を修得する。

**【授業の内容】**

- 1 保育学ガイダンス
- 2 乳児保育（0歳児）
- 3 乳幼児保育機関・児童福祉施設・子育て支援機関
- 4 保育所の生活
- 5 幼稚園の生活
- 6 幼児保育の実際1（人間関係の視点から）
- 7 幼児保育の実際2（保育者の役割）
- 8 幼児保育の実際3（指導計画）
- 9 保育観察実習について
- 10 保育観察実習 ＜日程は未定＞
- 11 保育観察実習のふり返り
- 12 保育所・幼稚園の新しい動き
- 13 保育の今日的課題1（子ども虐待・子どもの貧困）
- 14 保育の今日的課題2（インクルーシブ保育）
- 15 まとめ

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

次回テーマについて下調べをし、関心を深め、自分の考えを持って授業に臨むこと（学修時間週2時間）

**【事後学修】**

レポート・小テストに向けて復習すること（学修時間週2時間）

**【テキスト・教材】**

- ・プリントを使用する。  
（配布プリントはファイリングし、よく読んでおくこと）
- ・実際の保育のイメージがもてるように、視聴覚教材を使用する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業への取り組み（リアクションペーパー等） 40%

保育観察実習レポート 30%

期末課題 30%

- ・レポートは返却する際に、評価のコメントを伝えたり、クラスで各自のレポート内容を発表し合ったりして学修成果が確認できるようにする。

**【参考書】**

適宜紹介する。

**【注意事項】**

（英文学科 対象）

**保育学演習**

松田 純子

2年 後期 1単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

**【授業のテーマ】**

「保育」とは、幼い子どもの生命を保護する養護（care）的側面と、心身の健全な成長・発達を促す教育（education）的側面とを併せ持つ営みである。その意味では「子育て」も広義の「保育」と捉えることができるだろう。しかし、家庭や地域での「子育て」が経験的で無意図的に行われる場合が多いのに対して、保育施設では専門の保育者によって意図的・計画的に保育が行われている。子育てを社会全体で支援しようという「子ども・子育て支援新制度」時代を迎え、保育の場（保育施設等）における保育の専門家による子育て支援は、今後ますます重要性を増すと考えられる。

本授業では、さまざまな子育て支援の在り方を国内外の例に学びながら、地域での実地見学の体験も交え、改めて保育者の専門性を基盤とする子育て支援について考察する。

**【授業における到達目標】**

- ・保育者の専門性への理解を深める。
- ・多様な子育て支援の在り方について理解する。
- ・子育て支援の現状と課題について理解し、広い視野で多面的に考え、本質を見抜くことができるようになる。
- ・保育の専門性を基盤とした子育て支援についての理解を深め、改めて保育者の役割と責任について自覚を持ち、自らの人間性を高めようとする態度を身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス（授業の概要と進め方）
- 第2週 「子育て」と「保育」
- 第3週 日本の保育と子育て支援
- 第4週 デンマークの保育と子育て支援
- 第5週 スウェーデンの保育と子育て支援
- 第6週 フランスの保育と子育て支援
- 第7週 ニュージーランドの保育と子育て支援
- 第8週 カナダの保育と子育て支援
- 第9週 アメリカの保育と子育て支援
- 第10週 実地見学事前指導
- 第11週 実地見学（地域の子育て支援の場）
- 第12週 実地見学振り返り①グループ討議
- 第13週 実地見学振り返り②発表
- 第14週 子育て支援と保育の専門性
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

- ・次回の授業内容について、資料を読み、疑問点をまとめておくこと。発表担当者は、レジュメを準備する。（学修時間 週2時間、発表準備5時間）

**【事後学修】**

- ・授業内容について、ノート・資料をもとに復習し、理解を確実にしておくこと。（学修時間 週1時間）

**【テキスト・教材】**

- ・プリントを使用する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- ・レポート 30%、平常点（授業への積極参加・課題提出）40%、実地見学報告 30%
- ・レポート、課題の評価のフィードバックは、授業評価のコメントにて行う。

**【参考書】**

- ・汐見稔幸編著  
『世界に学ぼう！子育て支援—デンマーク・スウェーデン・フランス・ニュージーランド・カナダ・アメリカに見る子育て環境』（フレーベル館 2003年）1,800円
- ・子育て支援者コンピテンシー研究会編著  
『育つ・つながる子育て支援—具体的な技術・態度を身につける32のリスト』（チャイルド社 2009年）1,800円
- ・『発達』第140号 [子育て支援のこれから]（ミネルヴァ書房 2014年10月25日）1,500円

**【注意事項】**

- ・実地見学日は、見学先の都合により変更になる場合がある。

**保育原理 1**

松田 純子

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

**【授業のテーマ】**

保育とは、幼い子どもの生命を保護し、その心身の健全な成長・発達を促す養護 (care) と教育 (education) とが一体となった営みである。「保育原理」の授業では、保育に関する基本的な内容について総合的に学習する。

「保育原理1」では、保育の対象となる「子ども」への理解を深め、保育の意義について考える。また、乳幼児期の子どもの保育の基本について、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領等に学び、保育の内容と方法の基本を理解する。さらに、西洋や日本の保育の思想や歴史、保育制度について学び、保育の現状と課題を考察する。

**【授業における到達目標】**

- ・「子ども」の概念や存在そのものについての理解を深める。
- ・保育の意義について理解する。
- ・乳幼児期の保育の基本について理解する。
- ・保育の現状と課題について理解し、広い視野で多面的に考え、本質を見抜くことができるようになる。
- ・保育者（次世代を育てる者）としての自覚を持ち、人間性を高めようとする態度を身につける。

**【授業の内容】**

1. 保育原理とは
2. 子ども観の変遷
3. 子どもの理解
4. 保育と教育
5. 幼稚園教育要領と保育所保育指針
6. 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
7. 保育の内容・方法
8. 保育の計画・記録と評価
9. 西洋の保育の歴史 (1) 18～19世紀
10. 西洋の保育の歴史 (2) 20世紀～
11. 日本の保育の歴史 (1) 明治期
12. 日本の保育の歴史 (2) 大正・昭和期～
13. 日本の保育制度
14. 保育の現状と課題
15. 総括

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回の授業範囲のテキスト・資料を読み、専門用語等を調べておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 授業内容について、ノート・テキスト・資料をもとに復習し、まとめておくこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

- ・乙訓稔 監修『保育原理—保育士と幼稚園教諭を志す人に—』（東信堂 2014年）2,200円
- ・『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉』（チャイルド本社 2017年）500円（税別）

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- ・試験60%、平常点（授業への積極参加・授業内課題）40%
- ・試験結果のフィードバックは、授業評価へのコメントにて行う。

**【参考書】**

- ・授業時に適宜紹介、指示する。

**保育原理 2**

松田 純子

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

**【授業のテーマ】**

保育とは、幼い子どもの生命を保護し、その心身の健全な成長・発達を促す養護 (care) と教育 (education) とが一体となった営みである。「保育原理」の授業では、保育に関する基本的な内容について総合的に学習する。

「保育原理2」では、「保育原理1」に引き続き、子どもの発達や子どもにとっての遊びの重要性、望ましい保育の環境や保育者の専門性等について理解する。また、現在ある多様な保育の方法や考え方を概観しながら、子どもにとって真に望ましい保育の内容と方法について考察し、保育に対する理解を深めていく。

**【授業における到達目標】**

- ・子どもの発達について理解する。
- ・子どもの遊びについて理解する。
- ・保育の環境について理解する。
- ・保育者の専門性について理解すると共に、保育者（次世代を育てる者）としての自覚を持ち、人間性を高めようとする態度を身につける。
- ・多様な保育の在り方について理解し、広い視野で多面的に考え、本質を見抜くことができるようになる。

**【授業の内容】**

1. 子どもの発達と保育
2. 子どもの発達特性 (1) 乳児期
3. 子どもの発達特性 (2) 幼児期
4. 発達の理解と援助
5. 遊びの意義
6. 遊びの理論と発達
7. 遊びを通しての指導・援助
8. 保育の環境 (1) 自然／物／人
9. 保育の環境 (2) 時間・空間／社会・文化
10. 保育者の専門性 (1) 保育者の資質
11. 保育者の専門性 (2) 保育者の研究と研修
12. 海外の保育 (1) アメリカ
13. 海外の保育 (2) ヨーロッパ
14. 多様な保育の在り方（外部講師）
15. 総括

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 次回の授業範囲のテキスト・資料を読み、専門用語等を調べておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 授業内容について、ノート・テキスト・資料をもとに復習し、まとめておくこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

- ・乙訓稔 監修『保育原理—保育士と幼稚園教諭を志す人に—』（東信堂 2014年）2,200円・『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉』（チャイルド本社 2017年）500円（税別）

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- ・試験60%、平常点（授業への積極参加・授業内課題）40%
- ・試験結果のフィードバックは、授業評価へのコメントで行う。

**【参考書】**

- ・授業時に適宜紹介、指示する。

**【注意事項】**

- ・受講者は必ず「保育原理1」を履修しておくこと。・外部講師の特別講義日は講師の都合により変更になる場合がある。

**保育実習 1 a (保育園)**

松田 純子・山下 晶子

3年 集通 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

**【授業のテーマ】**

保育士資格を取得するためには、保育所での実習及び保育所以外の児童福祉施設等での実習が必修となる。

「保育実習 1 a」では、保育所において実習を行い、保育所保育の現状を把握し、保育士の仕事や役割について具体的に学ぶとともに、子どもとの実際のふれあいを通して、乳幼児理解を深める。また、これまで大学で学んできた知識や技能を基礎としながら、保育の場において、これらを総合的に実践する応用能力を養う。保育の理論と実践の有機的なつながりを理解し、自己課題を明確化して次の学びにつなげたい。

**【授業における到達目標】**

- ・保育所保育の現状を理解する。
- ・保育士の実際の仕事や役割を理解する。
- ・乳幼児への理解を深める。
- ・保育実践力を身につける。
- ・目標を設定して計画・実行できる「行動力」を身につける。
- ・実習を通して自己成長する「研鑽力」を身につける。
- ・実際の保育現場で自らの役割を果たす「協働力」を身につける。

**【授業の内容】**

- ・事前指導 ※「保育実習指導 1」の授業において行う
- ・実習
  - 実習時期： 6月(予定)
  - 実習期間： 2週間
  - 実習園： 日野市立保育園 他
- ・事後指導 ※「保育実習指導 1」の授業と個人面談指導にて行う
  - 実習のまとめ及び反省
  - 実習報告会
  - 実習の評価及び今後の課題の明確化(個人面談指導)

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

- ・実習園によるオリエンテーションを受ける(1時間)
- ・実習の手引きやテキストを読み直す(5時間)
- ・保育教材の準備や実技練習〔実習期間〕(1時間×11日間)

**【事後学修】**

- ・実習日誌を書く〔実習期間〕(3時間×11日間)
- ・実習報告書を作成する(3時間)
- ・自己評価シートで課題を明確にする(1時間)

**【テキスト・教材】**

- ・「保育実習 1 a (保育園)の手引き」(『保育実習 1 a日誌』)
- ・『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(原本)』(チャイルド本社 2017年) 500円(税別)
- ・『基本保育シリーズ②0 保育実習』(中央法規 2016年) 2,400円(税別)

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- ・実習園による評価50%、実習日誌・実習報告・個人面談等に基づく評価50%
- ・実習評価のフィードバックは、個人面談にて行う。

**【参考書】**

- ・適宜紹介、指示する。

**【注意事項】**

- ・必修科目の単位を修得しておくこと。
- ・原則として遅刻や欠席は認めない。

**保育実習 1 b (児童福祉施設)**

大澤 朋子・松井 利恵

3年 集通 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

**【授業のテーマ】**

保育士資格を取得するためには、保育所での実習及び保育所以外の児童福祉施設での実習が必要となる。実習は、これまで学んできた教科全体の知識・技術を基礎として、これらを総合的に実践する応用能力を養うことをねらいとする。また、実習後の振り返りや評価を通じて、次の学びに向けた課題を明らかにすることも重要である。

保育実習 1 bは、厚生労働省が保育実習実施基準で指定する種別の施設(乳児院、母子生活支援施設、障害児入所施設、児童発達支援センター、障害者支援施設、児童養護施設、児童相談所一時保護施設など)における実習を行い、施設保育の現状を理解し、利用児・者との実際のふれあいを通して、児童福祉についての理解を深める。

**【授業における到達目標】**

- ・施設保育の現状を理解する。
- ・施設保育士の実際の仕事や役割を理解する。
- ・保育者としての倫理を学び、修得すべき「美の探求」の内、人格を陶冶しようとする態度を身につける。
- ・修得すべき「行動力」の内、現状を正しく把握し、課題を発見できる力を身につける。
- ・実際の福祉現場で総合的な「協働力」を身につける。

**【授業の内容】**

- ・事前指導 ※「保育実習指導 1」の授業において行う
- ・実習
  - 実習期間：原則9月～12月
  - 実習期間：実働11日以上(2週間程度)
  - 実習施設：東京都、埼玉県、山梨県、神奈川県乳児院、母子生活支援施設、障害児入所施設、児童発達支援センター、障害者支援施設、児童養護施設、児童相談所一時保護施設等のいずれか1施設
- ・事後指導 ※「保育実習指導 1」の授業と連携して行う
  - 実習のまとめ及び反省
  - 実習報告会
  - 実習の評価及び今後の課題の明確化(個人面談指導)

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

- ・実習施設によるオリエンテーションを受ける(1時間)
- ・実習施設についての学修(3時間)
- ・実習の手引きやテキストを読み直す(5時間)

**【事後学修】**

- ・実習日誌を書く〔実習期間〕(3時間×11日間)
- ・実習報告書を作成する(3時間)
- ・自己評価シートで課題を明確にする(1時間)

**【テキスト・教材】**

- ・『基本保育シリーズ20 保育実習』(中央法規 2016年) 2,592円(税込)
- ・資料プリントを配付する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- ・実習施設による評価50%、実習日誌、実習報告、個人面談等に基づいた評価50%。
- ・実習評価のフィードバックは、個人面談にて行う。

**【参考書】**

- ・施設の種別にあわせて紹介する。

**【注意事項】**

- ・実習の実施には、必修科目の単位取得を要する。
- ・原則として、遅刻や欠席は認めない。

## 保育実習 2 a (保育園)

松田 純子・山下 晶子

4年 集通 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

### 【授業のテーマ】

保育士資格を取得するためには、保育所での実習および保育所以外の児童福祉施設での実習が必修となる。

「保育実習 2 a」では、「保育実習 1 a」での経験と学びを基に、保育所保育についてさらに実際的な理解を深め、保育者としての総合的な実践力を養う。自ら指導計画案を立案して実施する責任実習等の経験を通して、乳幼児理解をさらに深めると同時に、保育の実践的スキルや指導力の向上を図り、保育者としての資質を高めることを目標とする。

### 【授業における到達目標】

- ・保育所の機能について理解を深める。
- ・保育士の役割について理解を深める。
- ・乳幼児への理解を深め、適切な援助を考え実践できる総合的な保育実践力を高める。
- ・目標を設定して計画・実行できる「行動力」をより確かなものにする。
- ・実習を通して自己成長する「研鑽力」を身につける。
- ・実際の保育現場で、他者と協力して自らの役割を果たす「協働力」を身につける。

### 【授業の内容】

- ・事前指導 ※「保育実習指導 2」の授業において行う
- ・実習
  - 実習時期： 9月 (予定)
  - 実習期間： 2週間
  - 実習園： 日野市立保育園 他
- ・事後指導 ※「保育実習指導 2」の授業と個人面談指導にて行う
  - 実習のまとめおよび反省
  - 実習報告会
  - 実習の評価および今後の課題の明確化 (個人面談指導)

### 【事前・事後学修】

#### 【事前学修】

- ・実習園によるオリエンテーションを受ける (1時間)
- ・乳幼児に関わるボランティア活動を行う (任意)
- ・保育教材の準備や実技練習 [実習期間] (1時間×11日間)

#### 【事後学修】

- ・実習日誌を書く [実習期間] (3時間×11日間)
- ・実習報告書を作成する (3時間)
- ・自己評価シートで課題を明確にする (1時間)

### 【テキスト・教材】

- ・「保育実習 2 a (保育園) の手引き」 (『保育実習 2 a 日誌』)
- ・『平成 29 年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (原本)』 (チャイルド本社 2017 年) 500 円 (税別)
- ・『基本保育シリーズ② 保育実習』 (中央法規 2016 年) 2,400 円 (税別)

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・実習園による評価 50%、実習日誌・実習報告・個人面談等に基づいた評価 50%
- ・実習評価のフィードバックは個人面談にて行う。

### 【参考書】

- ・適宜紹介、指示する。

### 【注意事項】

- ・「保育実習 1 a」「保育実習 1 b」と必修科目の単位を修得しておくこと。
- ・原則として遅刻・欠席は認めない。

## 保育実習 2 b (児童福祉施設)

松井 利恵・大澤 朋子

4年 集通 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

### 【授業のテーマ】

保育士の資格を取得するためには、保育所での実習及び保育所以外の児童福祉施設での実習が必要となる。

保育実習 2 b は、保育実習 1 b で実施した保育所以外の児童福祉施設等における実習の内容をより深め、施設利用児・者に対する直接的援助に加え、児童福祉施設の持つ社会的機能や、児童の家庭や地域社会における支援など、児童を取り巻く社会環境にも視野を広げた実習を行う。また、これまで大学で学んできた知識や技能を、施設の現場において総合的に実践する応用能力を高める。

### 【授業における到達目標】

- ・児童福祉施設の機能や保育士の役割について理解を深める。
- ・施設利用児・者への理解を深め、支援の基本を身につける。
- ・修得すべき「美の探究」の内、保育者としての倫理観を高め、人格を陶冶しようとする態度を身につける。
- ・修得すべき「行動力」の内、現状を正しく把握し、課題を発見できる力をより確かなものにする。
- ・実際の福祉現場で総合的な「協働力」を修得する。

### 【授業の内容】

- ・事前指導 ※「保育実習指導 2」の授業において行う
- ・実習
  - 実習期間： 9月 (予定)
  - 実習期間： 実働 11 日以上 (2 週間程度)
  - 実習施設： 乳児院、母子生活支援施設、障害児入所施設、児童発達支援センター、障害者支援施設、児童養護施設、児童相談所一時保護施設、児童厚生施設 等のいずれか 1 施設
- ・事後指導 ※「保育実習指導 2」の授業と連携して行う
  - 実習のまとめ及び反省
  - 実習報告会
  - 実習の評価及び今後の課題の明確化 (個人面談指導)

### 【事前・事後学修】

#### 【事前学修】

- ・実習施設によるオリエンテーションを受ける (1時間)
- ・実習施設についての学修 (3時間)
- ・実習の手引きやテキストを読み直す (5時間)

#### 【事後学修】

- ・実習日誌を書く [実習期間] (3時間×11日間)
- ・実習報告書を作成する (3時間)
- ・自己評価シートで課題を明確にする (1時間)

### 【テキスト・教材】

- ・『基本保育シリーズ 20 保育実習』 (中央法規 2016 年) 2,592 円 (税込)
- ・資料プリントを配付する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・実習施設による評価 (50%)、実習日誌、実習報告、個人面接等に基づいた評価 (50%)
- ・実習評価のフィードバックは、個人面談にて行う。

### 【参考書】

- ・適宜紹介、指示する。

### 【注意事項】

- ・実習の実施には、必修科目の単位取得を要する。
- ・原則として、遅刻や欠席は認めない。



**保育実習指導 1**

松田 純子・松井 利恵・大澤 朋子

3年 通年 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

**【授業のテーマ】**

保育士資格を取得するためには、保育所での実習および保育所以外の児童福祉施設での実習が必修となる。

「保育実習指導1」では、保育実習1a(保育園)および保育実習1b(児童福祉施設)のための事前・事後指導を行う。保育所保育・施設保育の現状を把握し、利用児・者の発達や保育者の役割についての理解を深めるとともに、先輩の実習報告や外部講師の講話を聞くなどして、これまでに学んできた知識や技能を実際の保育の現場において総合的に実践する応用能力と心構えを養う。また自らの実習体験を省察する力を身につける。

**【授業における到達目標】**

- ・保育所保育・施設保育の目的を理解する。
- ・保育所/施設の利用児・者の発達を理解する。
- ・保育士の役割について理解する。
- ・これまでの授業で修得してきた知識や技能を実践する応用能力を身につける。
- ・実習に臨むための心構えと実際のマナーを身につける。
- ・目標を設定して計画・実行できる「行動力」を身につける。
- ・実習を通して自己成長する「研鑽力」を身につける。
- ・互いに協力して物事を進める「協働力」を身につける。

**【授業の内容】**

1. 保育実習1a・保育実習1bの意義・目的
2. 実習園(施設)オリエンテーションについて
3. 実習の心構えとマナー(外部講師)
4. 実習課題の明確化【保育実習1a】
5. 実習記録の書き方【保育実習1a】
6. 保育指導案の作成
7. 実技指導(乳幼児の保育)
8. 実習に向けて諸注意【保育実習1a】
9. 保育所保育の実践(1)子どもの発達と保育
10. 保育所保育の実践(2)保育者の役割
11. 保育実習1a振り返り(グループ・ディスカッション)
12. 実習報告【1a】①/実習課題の明確化【1b】
13. 実習報告【1a】②/実習施設の種別と概要【1b】
14. 実習報告【1a】③/職員の仕事と実習生の取り組み【1b】
15. 実習報告【1a】④/実習記録の書き方【1b】
16. 前期の総括と実習に向けての諸注意【保育実習1b】
17. 実習報告【保育実習1b】①グループ
18. 実習報告【保育実習1b】②グループ
19. 実習報告【保育実習1b】③グループ
20. 実習報告【保育実習1b】④グループ
21. 保育実習2実習園(施設)選択について
22. 児童福祉施設で働く(1)保育所(外部講師※)
23. 児童福祉施設で働く(2)障害児・者系施設(外部講師※)
24. 児童福祉施設で働く(3)養護系施設(外部講師※)
25. 児童福祉施設で働く(4)児童厚生施設(外部講師※)
26. 保育と儀礼文化(外部講師)
27. 障害児の家族の支援
28. 児童虐待と施設養護
29. 保育実習2に向けて
30. 総括

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

- ・保育所や施設でのボランティア等の経験(8時間×3日間)
- ・保育教材の準備や実技練習(週6時間×8週)
- ・実習先の調査・学修(5時間×2実習分)

**【事後学修】**

- ・授業の内容についての復習(週1時間)

- ・「保育実習1a/1b報告書」作成(3時間×2実習分)

**【テキスト・教材】**

- ・「保育実習1a(保育園)の手引き」(『保育実習1a日誌』)
- ・「保育実習1b(児童福祉施設)の手引き」(『保育実習1b日誌』)
- ・『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(原本)』(チャイルド本社 2017年) 500円(税別)
- ・『基本保育シリーズ⑩ 保育実習』(中央法規 2016年) 2,400円(税別)

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- ・レポート課題30%、平常点(授業への積極参加・提出課題)40% 実習報告30%
- ・課題の評価のフィードバックは、授業評価のコメントにて行う。

**【参考書】**

- ・授業時に適宜紹介、指示する。

**【注意事項】**

- ・原則として遅刻や欠席は認めない。
- ・外部講師による特別講義は、講師の都合により日時を変更する場合がある。
- ・外部講師※は、いずれかの種別より2名を招聘する予定。

**保育実習指導 2**

松田 純子・松井 利恵・大澤 朋子

4年 通年隔週 1単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

実習報告30%

・課題の評価のフィードバックは、授業評価のコメントにて行う。

**【参考書】**

・授業時に適宜紹介、指示する。

**【注意事項】**

・原則として遅刻や欠席は認めない。

・外部講師による特別講義は、講師の都合により日時を変更する場合があります。

**【授業のテーマ】**

保育士資格を取得するためには、保育所での実習および保育所以外の児童福祉施設での実習が必修となる。

「保育実習指導2」では、「保育実習2a（保育園）」「保育実習2b（児童福祉施設）」のための事前・事後指導を行う。「保育実習1a（保育園）」「保育実習1b（児童福祉施設）」での経験と学びを基に、保育所保育・施設保育について、さらに実践的な学びを深める。また自ら指導案/個別支援計画を作成して実施する責任実習等の事前準備や振り返りを通して、子ども理解の深化と保育の実践的スキルや指導力の向上を図ると同時に、外部講師の講話を聞くなどして、保育者としての資質を高めることを目標とする。

**【授業における到達目標】**

- ・保育所や児童福祉施設の社会的機能を理解する。
- ・保育所保育士や施設保育士の役割について理解を深める。
- ・保育を構想、立案して実践する力を身につける。
- ・目標を設定して計画・実行できる「行動力」をより確かなものにする。
- ・実習（準備や振り返りの過程を含む）を通して、自己成長する「研鑽力」を身につける。
- ・互いに協力して物事を進める「協働力」を身につける。

**【授業の内容】**

1. 「保育実習2」ガイダンス
2. 実習の心構えとマナー（外部講師）
3. 保育記録（日課）
4. 保育記録（事例と考察）
5. 指導案/個別支援計画
6. 教材研究
7. 乳児の発達と援助
8. 気になる子ども・障害を持つ子どもの保育
9. 保育士資格手続きと就職
10. 「保育実習2」振り返り①グループ討議
11. 「保育実習2」振り返り②グループ発表
12. 保育と儀礼文化（外部講師）
13. 保育の現場から（1）子ども理解（外部講師）
14. 保育の現場から（2）子育て支援（外部講師）
15. 実習報告会
16. 総括

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

- ・実習先の調査・学修（3時間）
- ・保育教材の準備や実技練習（週5時間×8週）
- ・指導案作成（10時間）
- ・保育所や施設でのボランティア等の経験（任意）

**【事後学修】**

- ・授業内容についての復習（週1時間）
- ・「保育実習2報告書」作成（3時間）

**【テキスト・教材】**

- ・「保育実習2a（保育園）の手引き」（『保育実習2a日誌』）
- ・「保育実習2b（児童福祉施設）の手引き」（『保育実習2b日誌』）
- ・『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）』（チャイルド本社 2017年）500円（税別）
- ・『基本保育シリーズ㉔ 保育実習』（中央法規 2016年）2,400円（税別）

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- ・レポート課題30%、平常点（授業への積極参加・課題提出）40%

**保育者論****別府 愛**

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

**【授業のテーマ】**

## テーマ

保育者は保育の現場で直面する多様な課題に適切に対応し、子どもの保育と保護者支援をになっていくことが求められている。

本授業では保育者をめざして学んでいる人たちが、「保育者になること」、「保育者であること」において必要であり、かつ考えなくてはならないことについて考え、学び、理解することをめざしている。

**【授業における到達目標】**

- ・保育職の意義と保育者の役割と使命について理解する。
- ・保育者の制度的位置づけを理解する。
- ・保育者の専門性について理解する。
- ・保育者の協働について理解する。
- ・保育者の専門的成長について理解する。
- ・保育者の職をとりまく現状と課題について考える。
- ・グループで発表にとりくむことにより協働力を高める。

**【授業の内容】**

- 第1週 はじめに 授業の進め方と内容について
- 第2週 保育者をめざす 保育者のイメージ
- 第3週 保育者の資格・要件・責務
- 第4週 保育者の仕事と役割～保育者の一日から考える
- 第5週 保育者の専門性～子ども理解と子どもへの関わり方
- 第6週 保育者の専門性～環境構成
- 第7週 保育者がおこなう子育て支援・保護者支援・家庭支援
- 第8週 保育の場における保育者の成長と職場での協働
- 第9週 子どもの権利を守る保育者
- 第10週 保育者の職業生活と働く者としての権利と義務
- 第11週 保育の先駆者たちから学ぶ～欧米の思想家実践家から学ぶ
- 第12週 保育の先駆者たちから学ぶ～日本の思想家実践家から学ぶ
- 第13週 保育者と子ども文化～絵本の紹介(奇数番号グループ)
- 第14週 保育者と子ども文化～絵本の紹介(偶数番号グループ)
- 第15週 まとめと総括

**【事前・事後学修】**

事前学修 テキストの相当箇所、配布資料などを読んでくる。不明点、疑問点をあげる。グループで発表の課題に取り組む。(学修時間 週2時間)

事後学修 学修を振り返り、内容を理解できたか確認する。授業中のワークを完成させる。学んだことをもとに、より発展的な課題に取り組む。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

汐見稔幸・大豆生田啓友編『最新保育講座2 第2版 保育者論』(2016)ミネルヴァ書房 定価2,200円+税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点(授業への積極的参加)20%、レポートなど提出物20%、試験60%

レポートなど提出物は随時、添削、評価して返還、また講義の中で補足する。

**【参考書】**

授業の中で適宜紹介する

**保育相談支援****松井 利恵**

4年 後期 1単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

保育所保育指針が改正され、保育相談支援は保育士の大きな役割として位置づけられている。保育士の保育に関する専門的知識・技術をもって保護者の相談を受け、保護者・地域と共に課題に向けた支援を目指す。保育相談支援では、保育相談支援の意義、保護者支援の基本を学び、保護者への支援が保育現場で実践できることを目指す。

**【授業における到達目標】**

保育相談支援では、自ら積極的に学修し考える力と、他者と話し合い協働して目標を修得する。

1. 保育相談支援の意義と原則について理解する。
2. 保護者支援の基本を理解する。
3. 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。
4. 保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。

**【授業の内容】**

- 第1週 保護者に対する保育相談支援の意義
- 第2週 保育の特性と保育士の専門性を生かした支援
- 第3週 保護者と子どもの成長の喜びを共有する支援
- 第4週 保護者の養育力の向上に資する支援
- 第5週 支援の基本原則
- 第6週 地域資源の活用と関係機関の連携と協働
- 第7週 保育に関する保護者への指導・助言
- 第8週 保護者支援の内容と方法
- 第9週 保護者支援の方法と技術
- 第10週 保護者支援の計画、評価、記録
- 第11週 保育所における保育相談支援
- 第12週 保育所における特別な対応を要する家庭への支援
- 第13週 児童養護施設の要保護児童の家庭への支援
- 第14週 障害児施設、母子生活支援施設等における支援
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修 関連の新聞記事や関連書籍を読み情報収集、レポート、課題の取り組み(学修時間 週2時間)

事後学修 講義プリントの整理、復習を行う(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点(授業の積極的参加・発言、リアクションペーパー)50%  
レポート50%

リアクションペーパーのフィードバックは授業内で適宜行う。レポートのフィードバックは授業最終回で行う。

**【参考書】**

西村重稀・青井夕貴編集「保育相談支援」中央法規 2000円

**【注意事項】**

演習科目のため、主体的に学ぶ姿勢を期待する。

**保育内容 a (総論)**

井口 眞美

2年 前期 1単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

意欲的に授業に参加し、保育に対する自分の見解を記述や口頭で発表できるようになってほしい。なお、受講生の実態やニーズに即して履修内容を若干変更することがある。

**【授業のテーマ】**

ここでは、下記の4点をテーマに授業を進める。

1. 保育所・幼稚園の実際に関心を持ち、発達・生活についての専門的知識を身につける。
2. 保育所保育指針・幼稚園教育要領における保育の目標、子どもの発達、保育内容の基本を学ぶ。
3. 保育内容と保育計画の基本を学び、保育者の役割や現代の保育課題を学ぶ。
4. 保育の多様な展開について関心を持ち、学ぶ。

授業では、保育所保育指針・幼稚園教育要領に基づき保育内容に関する基本的理解がすすめられるよう、DVD視聴等、具体的な実例をもとに解説する。また、課題レポートやリアクションペーパーを作成し、受講生が自分の意見を記述する機会を大切にしたい。

**【授業における到達目標】**

- ・保育所・幼稚園の実際に関心を持ち、発達・生活についての専門的知識を身につける。
- ・保育所保育指針・幼稚園教育要領における保育の目標、子どもの発達、保育内容の基本を学ぶ。
- ・保育内容と保育計画の基本を正しく把握し、保育者の役割や現代の保育課題を発見し考察する「研鑽力」を身につける。
- ・保育の多様な展開について関心を持ち、広い視野と洞察力をもって学習を深めると共に、保育者に求められる「行動力」「協働力」を身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション(幼稚園、保育所の保育とは)
- 第2週 幼稚園の保育内容(遊びを中心とした保育)
- 第3週 保育所保育指針・幼稚園教育要領
- 第4週 子どもの発達
- 第5週 基本的生活習慣について
- 第6週 保育・教育課程の作成①(短期指導計画)
- 第7週 保育・教育課程の作成②(長期指導計画、教育課程)
- 第8週 特色ある保育内容①(豊かな環境の下での保育)
- 第9週 特色ある保育内容②(個の思いを大切にされた保育)
- 第10週 特色ある保育内容③(自然体験を重視した保育)
- 第11週 保育の現代的課題①(幼小の接続)
- 第12週 保育の現代的課題②(保育施設の運営)
- 第13週 保育の現代的課題③(地域、保護者との連携)
- 第14週 これからの保育に求められるもの
- 第15週 まとめ(保育内容の総合性とは)

**【事前・事後学修】**

【事前学修】保育に関する文献を読んだ上で、保育現場に足を運び、レポートや課題の作成を行うこと。(学修時間 週1時間)

【事後学修】配布されたプリントは、翌週までに読み、復習をしておくこと。(学修時間 週1時間)

**【テキスト・教材】**

『幼保連携型認定こども園保育・教育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』内閣府・文部科学省・厚生労働省 チャイルド社 2017年(540円)

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業態度(授業への取り組み方等) 50%、提出物(レポートや課題) 50%

学修内容の振り返りレポート等を返却し、フィードバックを行う。

**【参考書】**

『事例で学ぶ保育内容 環境』無藤隆監修 萌文書林 2018年(2100円)

**【注意事項】**

**保育内容 b (健康)**

森田 陽子

2年 後期 1単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

子どもと保育者が未来をつくっていく「健康」とは「生きる力」の源であり、未来をつくる原動力である。

幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領「健康」領域に対する理解を深める。

**【授業における到達目標】**

健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うことについて学習する。

この領域のねらいである (1) 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう (2) 自分の体を十分に動かし、進んで行動しようとする (3) 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付けるを具体的に学習する。

乳幼児の発達過程を即して理解し、総合的に援助する力を培う。また、併せて「協働力」を習得することで保育者としての学びに繋げる。

**【授業の内容】**

第1回近年の子どもたちの状況

第2回幼稚園教育要領・保育所保育指針「健康」の意味

第3回保育士等や友達と触れ合い、安心感を持って生活するとは

第4回いろいろな遊びの中で、十分に体を動かすとは (1)

第5回いろいろな遊びの中で、十分に体を動かすとは (2)

第6回いろいろな遊びの中で、十分に体を動かすとは (3)

第7回進んで戸外で遊ぶ・自然で遊ぶとは

第8回様々な活動に親しみ、楽しんで取り組むとは

第9回健康な生活リズムを身に付け、楽しんで食事をするとは

第10回身の回りを清潔にし、衣服の着脱、排泄などの生活に必要な活動を自分でするとは

第11回幼稚園や保育所における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しを持って行動するとは

第12回自分の健康に関心を持ち、病気の予防などに必要な活動を進んで行うとは

第13回危険な場所や災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気をつけて行動するとは (1)

第14回危険な場所や災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気をつけて行動するとは (2)

第15回家庭との連携、保護者理解と支援とは

**【事前・事後学修】**

事前学修

「健康」の指導ができるよう、自らの心と体の健康管理はもちろん、基本的な生活習慣を身に付ける。次の時間の予習をする。(学修時間 週2時間)

事後学修

テキストや配布した資料を、将来活用しやすいようにファイルすること。授業での学びをレポートにする。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

「幼稚園教諭・保育士を目指す 保育内容「健康」」圭文社、

2013.2 ¥2,700(税込)をテキストとして使用する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業内レポート50%、課題レポート50%。授業内レポートについては、毎回実施し、次の授業にてフィードバックを行う。

**【参考書】**

「幼稚園教育要領解説」文部科学省、「保育所保育指針」厚生労働省を参考書として使用する。

**保育内容 c (人間関係)**

井上 宏子

2年 後期 1単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

この科目は、幼稚園教諭免許と保育士資格の取得のための必修科目です。「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」の中の領域「人間関係」の指導・援助方法について学びます。保育所保育指針・幼稚園教育要領の領域「人間関係」のねらいと内容を理解し、乳幼児期の人間関係の発達の特徴をふまえ、保育における人とのかかわりを育むための保育者の援助のあり方を、具体的な事例を通して学びます。

**【授業における到達目標】**

○領域「人間関係」のねらいと内容及び乳幼児期の人間関係の発達を理解し、さまざまな場面における子どもの人間関係、人とのかかわりを援助する保育者の役割について修得する。

○学生が修得すべき「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を発見する力を修得する。

**【授業の内容】**

第一週 幼児教育の特徴、保育所保育指針・幼稚園教育要領における5領域

第二週 領域「人間関係」のねらい、内容、内容の取扱い

第三週 乳児期の発達と人間関係

第四週 幼児期の発達と人間関係(幼児期前半)

第五週 幼児期の発達と人間関係(幼児期後半)

第六週 個と集団の育ち

第七週 遊びの中で育まれる人と関わる力

第八週 ごっこ遊びとは(事例検討)

第九週 ごっこ遊びの中の役割分担(事例検討)

第十週 ごっこ遊びをしてみよう(ロールプレイ)

第十一週 子ども同士のいざこざとその援助(事例検討)

第十二週 協同する姿を育む保育者の役割(事例検討)

第十三週 人との関わりが生まれやすい保育環境

第十四週 人と関わる力を育む保育者の働きかけ

第十五週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前準備】事前には配布されたプリントを読み、自分なりの考えをもって授業に参加する。発表する場合は、その準備をしておく。(学修時間 週2時間)

【事後学修】事例を通して学んだときは、子ども同士のかかわりや保育者の援助についてどのように受け止めたか、また、自分が保育者の立場だったらどう援助するかなどについて考えをまとめておく。(学修時間 週2時間)

**【テキスト・教材】**

テキストについては検討中

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業及び発表態度(20%)、レポート課題・提出物(40%)、小テスト(40%)、小テスト及びレポート課題については、次回授業で解説しフィードバックする。

**【参考書】**

【教科書】幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定子ども園教育・保育要領

【推薦書】【参考図書】授業の中で、図書の紹介や資料の配布を行います。

## 保育内容 d (ことば)

松田 純子

2年 前期 1単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示される五領域の中の「言葉の獲得に関する領域」「言葉」の内容・方法について、保育の実践に即して学ぶ。

子どもの言葉は、保育者（養育者）や仲間との豊かな心の通じ合いを通して生まれるものである。また領域「言葉」は、子どもの生活や遊びの中で他の領域とも密接に関連している。乳幼児期の言葉の習得や発達に関する理論を知り、保育者として日々子どもと生活を共にする中で、言葉を育てる機会や素材を見つけ、それを保育の実践へと結びつけていく力や、言葉に対する感性を身につけたい。

## 【授業における到達目標】

- ・乳幼児期の言葉の習得や発達を理解する。
- ・領域「言葉」のねらい及び内容について理解する。
- ・言葉を育む児童文化財の特質を知り、活用のための知識と技能を身につける。
- ・子どもを取り巻く言語環境に関心を持ち、課題を発見したり、質を見極められるようになる。
- ・言葉を育む保育者の役割や専門性について理解し、他者と協働する力を身につける。

## 【授業の内容】

1. 言葉とは何か
2. 領域「言葉」のねらいと内容
3. 子どもの発達と言葉の獲得 (1) 乳児期・幼児期前期
4. 子どもの発達と言葉の獲得 (2) 幼児期後期
5. 言葉の発達と環境
6. 保育者の役割と援助 (1) 乳児期・幼児期前期
7. 保育者の役割と援助 (2) 幼児期後期
8. 言葉に表れる問題の理解
9. 保育者の言葉
10. 言葉を育てる児童文化財 (1) お話・絵本・紙芝居
11. 言葉を育てる児童文化財 (2) 言葉遊び
12. 言葉を育てる児童文化財 (3) 劇遊び
13. 領域「言葉」と指導計画
14. 領域「言葉」と国語教育
15. 総括

## 【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲のテキスト・資料を読み、専門用語等を調べておくこと。絵本、紙芝居、素話などの練習をすること。（学修時間 週3時間）

【事後学修】 授業内容について、ノート・テキスト・資料をもとに復習し、まとめておくこと。（学修時間 週1時間）

## 【テキスト・教材】

- ・駒井美智子編『保育者をめざす人の保育内容「言葉」』第2版（みらい 2018年）2,000円（税別）
- ・『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）』（ファイルド本社2017年）500円（税別）

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・受講態度30%、授業内課題30%、試験40%
- ・試験結果のフィードバックは、授業評価へのコメントにて行う。

## 【参考書】

- ・授業時に適宜紹介・指示する。

## 保育内容 e (環境)

井上 宏子

2年 前期 1単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、それは環境を通して行われる。幼児が様々な環境にかかわりながら遊びを展開し、次第に周囲の世界に好奇心を抱き、その意味や操作の仕方に関心を持ち、物事の法則性に気付き、自分なりに考えることができるようになる。その過程をつくり出すのが保育者の役割であり、保育者自身が新しい考えを生み出す喜びや楽しさを味わい、自ら考えようとする力を身に付けることが大切である。学生自身も持続可能な社会の担い手となる幼児を育成するために感覚を研ぎ澄まししながら、自らを高めていくことが望まれる。

## 【授業における到達目標】

- 領域「環境」についての理解を深め、身近な自然と子どものかかわりを通して、子どもに育つ力について修得する。
- 身近な自然や物とのかかわりを体験し、領域「環境」について修得する。
- 学生が修得すべき「行動力」のうち、目標を設定して、計画を立案・実行できる力を修得する。

## 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション・領域について
- 第2週 領域「環境」のねらい、内容、内容の取扱い 及び 他領域との関連
- 第3週 領域「環境」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」
- 第4週 身近な自然との関わり
- 第5週 好奇心・探究心を育てる
- 第6週 思考力の芽生えを育む
- 第7週 文字や標識、数量や図形に関心を持つ
- 第8週 自然環境としての動植物  
獣医師さんの講義と体験学習 講師の都合により変更あり
- 第9週 物的環境としての遊具・素材
- 第10週 遊びに活かせる素材を考える
- 第11週 遊びに活かせるものを作る
- 第12週 社会・地域の中での園行事について
- 第13週 子どもをとりまく現代社会と環境
- 第14週 幼児期からの環境教育
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】 授業に向けて、レポート・観察記録などの課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 レポート・観察記録などの復習をすること。次回の授業範囲を予習し、参考図書・幼稚園教育要領などを理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

テキストについては検討中

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業参加及び態度（20%）レポート・発表・提出物（40%）筆記試験（40%）とし、レポート及び小テストは次回授業で解説しフィードバックする。

## 【参考書】

田宮縁『領域「環境」』（萌文書林）2,000円

## 保育内容 f (表現)

羽岡 佳子

2年 後期 1単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

子どもは、日常のあらゆる場面で思ったり感じたりしたことを様々な方法で表現している。子どもの表現する力が豊かになるためには、豊かな感性を育てることが重要であり、保育者自身が子どもの表現を受け止め、共感できる感性を養う必要がある。

本授業では、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」における領域「表現」について学び、子どもの表現について考える。特に、音楽・身体・言語活動を体験したり、実際にグループ毎に劇を創作し発表したりすることを通して、子どもが様々な表現を楽しみ、表現力を育成できるよう、保育者としての知識や技術習得を目的とする。

## 【授業における到達目標】

- ・学生が修得すべき「行動力」のうち、計画を立てて実行する力を身に付けることができるようになる。
- ・学生が修得すべき「協働力」のうち、互いに協力して物事を進め、豊かな人間関係を構築することができるようになる。

## 【授業の内容】

- 第1週：オリエンテーション、「表現」とは
- 第2週：領域「表現」
- 第3週：子どもの発達と表現
- 第4週：ごっこ遊び、劇的表現
- 第5週：ボディパーカッション、劇の創作・発表方法について
- 第6週：物語と音楽、効果音作り
- 第7週：音楽と身体表現
- 第8週：劇の創作活動① 配役、脚本読み合わせ
- 第9週：劇の創作活動② 台詞・動きの練習
- 第10週：劇の創作活動③ 台詞・動き・振付の練習
- 第11週：劇の創作活動④ 効果音・衣装・大道具・小道具制作
- 第12週：劇の創作活動⑤ 通し練習
- 第13週：劇の創作活動⑥ゲネプロ
- 第14週：劇の発表
- 第15週：まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】自身の感性を磨くために、日頃から心が動いた状況を書き留めておくこと。また、ピアノなどの楽器練習に日頃から取り組むこと。特に第8週以降は役の練習、衣装・小道具づくりに取り組むこと。(学修時間 週1時間)

【事後学修】毎回の授業の振り返りを行い、記録しておく。(学修時間 週1時間)

## 【テキスト・教材】

- ・文部科学省『幼稚園教育要領<平成29年告示>』(フレーベル館 2017年)定価 本体149円+税
- ・厚生労働省『保育所保育指針<平成29年告示>』(フレーベル館 2017年)定価 本体149円+税
- ・内閣府、文部科学省、厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領<平成29年告示>』(フレーベル館 2017年)定価 本体149円+税

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題提出60%(授業記録シート、レポート)、劇発表20%、授業姿勢(授業への積極参加、準備物含む)20%にて評点を行う。授業記録シートは目を通したうえで返却し、劇発表に関しては授業最終回でフィードバックを行う。

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【注意事項】

- ・身体表現を伴う授業であるため、動きやすい服装で受講してください。
- ・劇発表に向けて、授業外での活動も積極的に行ってください。
- ・グループワークでは、意欲的・積極的な態度で臨んでください。

## 保育表現技術 a (音楽表現)

前田 智子・越山 沙千子

1年 通年隔週 1単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

## 【授業のテーマ】

保育者は保育実践の場において、子どもの音楽活動を豊かにするために音楽活動を支える音楽的技術を習得しておかなければならない。この授業では、日本の保育現場に必要な音楽的スキルのひとつであるピアノの弾き歌いを通して実践力の向上、そして音楽の基礎知識の修得を図る。また、さまざまな音楽活動を通して、音楽的感性や表現力を養い、子どもと音楽の楽しみを共有するための保育者の基礎を固める。

## 【授業における到達目標】

ピアノの実技に関しては各クラスで示される実技課題を授業時に教員からチェックを受ける。また、演奏の基礎知識や音楽表現について学び、自己の音楽的感性を養い子どもに音楽を提供する術を修得する。これらの学修をとおして、全学DPの〈態度：知を求め、心の美を育む態度【美の探究】〉—「①人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度」および〈能力：学修を通して自己成長する力【研鑽力】〉—「②学修成果を実感して、自信を創出することができる」、〈課題解決のために主体的に行動する力【行動力】〉—「②目標を設定して、計画を立案・実行できる」が修得されることを目標とする。

## 【授業の内容】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 ピアノの演奏法と音楽の基礎知識1：導入
- 第3週 ピアノの演奏法と音楽の基礎知識2：基礎
- 第4週 ピアノの演奏法と音楽の基礎知識3：応用
- 第5週 弾き歌い1・伴奏法1：コードの基礎 (1) 調と主要三和音
- 第6週 弾き歌い2・伴奏法2：コードの基礎 (2) 転回形による伴奏
- 第7週 弾き歌い3・伴奏法3：コードの応用 (1) 副次的な和音
- 第8週 弾き歌い4・伴奏法4：コードネームの応用 (2) 伴奏型
- 第9週 弾き歌い5・子どものための音楽表現1：リズム
- 第10週 弾き歌い6・子どものための音楽表現2：身体表現
- 第11週 弾き歌い7・子どものための音楽表現3：ことばと音楽
- 第12週 弾き歌い8・音楽づくり1：編曲
- 第13週 弾き歌い9・音楽づくり2：創作 (1)
- 第14週 弾き歌い10・音楽づくり3：創作 (2)
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】ピアノの課題等は、必ず練習をしておくこと。毎日継続することが望ましい。(学修時間 週2時間30分)

【事後学修】授業の内容をノートにまとめておくこと。授業で課した課題に取り組むこと。楽語や演奏記号は必ず復習すること。(学修時間 週1時間30分)

## 【テキスト・教材】

小島エマ・櫻井知子編著：長谷川恭子執筆『よくばりな弾き歌いステップ36：幼稚園教諭・保育士養成課程』(大学図書出版、2015年初版、1700円+税)五線のページがあるノート(五線は10~12段)。その他楽譜は、授業前に掲示で指示する。初回授業までに購入しておくこと。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

成績評価の方法・基準は、実技試験(40%)、課題発表(30%)、授業態度(30%)とする。課題は毎授業ごとに個人発表し、都度教員が指導することでフィードバックとする。

## 【注意事項】

楽器を扱うため、爪を伸ばした状態で受講することを禁止する(指より爪がはみ出さない程度)。ピアノを演奏したり、身体表現を伴う活動も行うので、動きにくい服装は避けること。配布した楽譜などは、A4のノートやスケッチブックに貼付けること。

**保育表現技術 b (造形表現)**

宮野 周

1年 前期 1単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

**【注意事項】**

実技も含めた授業内容となるため、各自、必要な道具・材料を準備すること（適宜・指示します）。

素材体験、造形あそび等、実技を中心とした授業内容のため、活動しやすく汚れても良い服装で受講すること。

**【授業のテーマ】**

身近な素材やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験や具体的な活動を通して造形表現の楽しさや喜びを味わい、造形表現に関する知識・技術を習得し将来、保育者として必要な感性や実践的な力をつけることを目的とします。様々な表現や材料体験を通して、指導者となるための幅広い造形的な能力や造形を通して子どもたちが育つ環境について考え実践できる力を身につけてほしい。

**【授業における到達目標】**

子どもの造形表現を理解するために学生が育むべき「美の探究」のうち、感受性を深めようとする態度を育むとともに、修得すべき「研鑽力」「行動力」「協働力」のうち、とくに学修成果を実感して自信を創出することや互いを尊重しながら自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 身近にある材料を使った表現 新聞紙①（活動）
- 第3週 身近にある材料を使った表現 新聞紙②（ふりかえり）
- 第4週 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について 指絵の具
- 第5週 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について 絵の具
- 第6週 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について クレヨン
- 第7週 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について マーカー
- 第8週 身近にある材料を使った表現（粘土）①（活動）
- 第9週 身近にある材料を使った表現（粘土）②（ふりかえり）
- 第10週 身近にある材料を使った表現（色画用紙）
- 第11週 身近にある材料を使った表現（空き箱）
- 第12週 身近な材料でつくって遊ぶ（かく）
- 第13週 身近な材料でつくって遊ぶ（つくる）
- 第14週 幼児の造形表現
- 第15週 子どもの発達と描画表現

**【事前・事後学修】**

（事前学修）必要に応じて授業で使用する材料・用具を準備すること。（学修時間週60分）

（事後学修）教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用スケッチブックにまとめ理解を深めること。（学修時間週60分）

**【テキスト・教材】**

磯部錦司『造形表現・図画工作』（建帛社 2014年）  
2592円（本体価格2400円）

その他、適宜授業の中で紹介する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60%）。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40%）により総合的に判断します。総合評価60点以上を合格とする。フィードバックは毎授業時間内の活動の課題後に行う。

**【参考書】**

- ・平田智久監修・小野和・宮野周『みんないきいき絵の具で描こう!0歳児～5歳児』サクラクレパス出版部
- ・東山明『絵画・製作・造形あそび指導百科』ひかりのくに
- ・阿部寿文・舟井賀世子『0・1・2歳児の造形あそび百科』ひかりのくに
- ・平田智久・小野和編著『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』保育出版社



## 保育表現技術 c (身体表現)

本永 直子・森田 陽子

1年 後期 1単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

び仲間と協力して取り組む姿勢が大事です。欠席をすると授業内容から遅れてしまうので、体調を整えて元気に出席できるよう心がけましょう。

### 【授業のテーマ】

乳幼児期の子どもの運動発達の重要性を理解し、楽しい運動遊びや身体表現遊びの展開に必要な知識や技術を習得する。いろいろな運動遊びや身体表現遊びで実際に身体を動かし、身体を使った遊びが、子どもの表現世界をいかに拓くかを考える。

### 【授業における到達目標】

運動遊びについては、保育に必須のいろいろな遊具の特性や活用方法および保育環境の留意点を学び、運動遊びを楽しく展開するための技術を身につける。身体表現遊びでは、リズム遊び、および子どもの生活やイメージと身体表現遊びをつなぐ基本をとらえ、身体表現遊びを通して子どもの想像性を引き出す工夫を知る。

全体を通じて、運動遊び・表現遊びの展開に必要な視点を学び、自ら身体を動かし、子どもの発育発達に即した身体活動を活発に展開できる態度・構えを養う。また、学生の習得すべき「協働性」の中から状況に応じたリーダーシップを発揮できる力を習得する。

### 【授業の内容】

#### 1. オリエンテーション

<森田担当>

2. からだを使った運動遊び
3. 手具を使った運動遊び
4. 布を使った運動遊び
5. ボールを使った運動遊び
6. 移動遊具を使った運動遊び
7. 運動会種目
8. レクリエーション種目

<本永担当>

2. 新聞紙を使った運動遊びから身体表現遊び
3. 歌遊び、手遊びを用いた身体表現遊び
4. 見立て遊びを用いた身体表現遊び
5. リズム遊びを用いた身体表現遊び
6. なりきり遊びを用いた身体表現遊び
7. 表現遊びからお遊戯会への展開
8. 振り返り、まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前】子どもが運動遊び、身体表現遊びを展開する様子を観察する。自らの身体を動かし、活発な活動が展開できるような体づくりをする。(学修時間週60分)

【事後】森田担当の授業では、毎回の授業の学び、指導のポイントなどをレポートし、提出する。また、本永担当の授業では、毎回の授業の学びをふり返り、授業内課題、レポートなどに取り組むようにする。(学修時間週60分)

### 【テキスト・教材】

適宜指示する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

森田担当、本永担当の授業の総合評価とする。レポート提出25%、授業内実技試験50%、授業態度25%。森田担当では毎回のレポート・実技試験においては授業内でフィードバックを行う。本永担当ではレポート・実技試験共に、授業内でのフィードバックを行う。授業態度の評価としては、積極的な取り組みを評価する。

### 【参考書】

岩崎洋子編著『保育と幼児期の運動あそび』（萌文書林2008年）

2,000円

西洋子・本山益子編著『子どもの身体表現』（市村出版2009年）

2,400円

### 【注意事項】

運動着用・運動用シューズを持参すること。屋外で活動することもあるので指示に気をつけること。自ら意欲的に取り組む姿勢およ

## 保育表現技術 d (言語表現)

浅見 均

1年 後期 1単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

## 【授業のテーマ】

子どもが経験した事や考えたこと等を自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や、言葉で表現する力を養うためには、保育者はどのように関わることが望まれるのか、具体的、実践的な活動を通して学んでいくことを目標とします。

## 【授業における到達目標】

- 1、絵本、紙芝居、素話などの児童文化を発達段階に応じて、どのように活用したら良いかが理解でき、児童文化の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度を修得する。
- 2、絵本、紙芝居、素話、劇遊びなどを実際に演じて、どのように演じることが効果的か理解、体得することを通して、相互を活かして自らの役割を果たす力【協働力】を修得する。

## 【授業の内容】

- 第1回 オリエンテーション 授業の目的と内容、進め方、評価等  
 第2回 絵本読み聞かせの方法と実際 絵本  
 第3回 絵本読み聞かせの実際 絵本  
 第4回 本読み聞かせの方法と実際 絵のない本  
 第5回 紙芝居の演じ方と実際 ① 低年齢児向け紙芝居  
 第6回 紙芝居の演じ方と実際 ② 幼児向け紙芝居  
 第7回 素話の演じ方と実際 ① 話し合い及び準備  
 第8回 素話の演じ方と実際 ② 発表及び評価  
 第9回 子どもの言葉を引き出す手袋人形 製作  
 第10回 劇遊びの実際 ① 話し合い及び準備  
 第12回 劇遊びの実際 ② 準備及び発表  
 第13回 劇遊びの実際 ③ 発表及び振り返り  
 第14回 まとめ及びレポート作成  
 第15回 レポートに対してのフィードバック

## 【事前・事後学修】

事前学修：次週の授業内容に対しての教材研究、及び教材準備、発表に向けての準備学修があります。(学修時間週60分)

事後学修：授業終了時に出题する学修成果レポートの提出がありません。(学修時間週60分)

## 【テキスト・教材】

特に定めません。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

ミニ・レポート30%、発表30%、まとめのレポート40%の総合評価です。

ミニレポートは、次の授業にてフィードバックし、解説していきま。発表については発表後皆で振り返りをする中でフィードバックしていきま。まとめのレポートについても次の授業でフィードバックします。

## 【参考書】

逐次参考書の紹介をします。

## 保育方法論

松田 純子

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力

## 【授業のテーマ】

幼稚園や保育園、幼保連携型認定こども園等の保育の現場では、日々さまざまな保育が展開されている。わが国では、国の基準として幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領等で保育の内容や方法を規定しているが、保育の方法に関しては基本原則が示されているだけで、実際の保育方法についてはそれぞれの園に委ねられている。

本授業では、さまざまな保育現場の実践を視野に入れ、具体的な事例を取り上げながら、乳幼児期にふさわしい生活を展開していくための適切な保育方法の在り方について考察する。

## 【授業における到達目標】

- ・乳幼児期にふさわしい保育方法への理解を深める。
- ・子どもの視点から保育を構想する力の基礎を身につける。
- ・修得すべき「研鑽力」の内、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができるようになる。
- ・修得すべき「行動力」の内、現状を正しく把握し、課題を発見できるようになる。

## 【授業の内容】

- 第1週 保育方法とは  
 第2週 子ども理解とその方法  
 第3週 環境構成と保育の展開  
 第4週 遊びを通しての総合的指導  
 第5週 生活の指導と行事  
 第6週 個と集団を生かした保育  
 第7週 さまざまな保育形態  
 第8週 発達の時期に応じた保育方法(0・1・2歳児)  
 第9週 発達の時期に応じた保育方法(3・4・5歳児)  
 第10週 保育の計画・実践・評価  
 第11週 家庭・地域との連携と子育て支援  
 第12週 小学校との連携  
 第13週 配慮を必要とする子どもへの保育  
 第14週 保育における情報機器及び教材  
 第15週 総括

## 【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業範囲のテキスト・資料を読み、専門用語等を調べておくこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】 授業内容について、ノート・テキスト・資料をもとに復習し、まとめておくこと。(学修時間 週2時間)

## 【テキスト・教材】

- ・大豆生田啓友・渡辺英則・森上史朗 編『保育方法・指導法』(ミネルヴァ書房 2014年) 2,200円
- ・適宜資料プリントを配付する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・試験 60%、平常点(授業への積極参加・授業内課題) 40%
- ・試験結果のフィードバックは、授業評価へのコメントにて行う。

## 【参考書】

- ・適宜参考書を紹介します。

**保険論**

中居 芳紀

3年 前期 2単位

◎：行動力

**【授業のテーマ】**

私達は人生で様々なリスクに遭遇します。リスクに備える経済的処理手段として保険が誕生し、現在広く普及しています。しかし、目に見えない商品のため「内容が分かりにくい」と、消費者から指摘されてきました。

この講義では、保険の歴史・理論の基礎から学び始め、家庭生活で利用する機会の多い主要保険の内容までを概観します。また、現職の損害保険会社女性社員を授業に招き、女性社員の日々の仕事について話してもらう機会を設けたいと思います。

**【授業における到達目標】**

将来、家計の主体として保険を利用する際に必要な、基礎的知識の習得を目指します。それによって家庭のリスクを正しく把握し、リスク処理のため、各種保険を有効活用できる力を養います。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス～人生のリスクとリスク対策
- 第2週 リスクへの社会的備え～社会保険制度
- 第3週 高齢社会と年金・健康保険制度
- 第4週 保険の原理と保険の歴史
- 第5週 保険の仕組みと保険料
- 第6週 生命保険の仕組み
- 第7週 ライフステージと生命保険
- 第8週 ケーススタディ～ライフプランと必要保障額
- 第9週 保険約款とアンダーライティング
- 第10週 保険会社経営・資産運用・保険流通
- 第11週 損害保険（1）火災保険と地震保険
- 第12週 損害保険（2）自動車保険
- 第13週 損害保険（3）その他各種保険
- 第14週 保険業界の課題と展望
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：難しい専門用語が授業に出てきます。下記参考書で事前に目を通しておくと理解が容易です。（学修時間 週2時間）

事後学修：配布プリント・ノートをもとに復習してください。各家庭で加入している保険の証券を、授業で学んだ視点でチェックすると一層理解が深まります。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

教科書は使いません。各回の授業でプリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（ミニレポート・ミニテストなど）40%、定期試験60%で評価します。ミニレポート・ミニテストについて、次回授業の中で振り返りを行い、次のステップに進む力を養います。

**【参考書】**

- ・家森信義（編著）『はじめて学ぶ保険のしくみ（第2版）』（中央経済社 2015年）
- ・近見正彦、堀田一吉、江澤雅彦 『保険学』（有斐閣 2011年）ほか、適宜講義の中で紹介します。

**【注意事項】**

教科書を使用しないため、試験は、講義で話した内容・板書・配布プリント等から出題します。配布プリントは要点をまとめたものですから、授業の際は、ノートを取り整理・補充してください。

**保存修復 a**

油彩画を中心とした技法と材料、及び保存・修復について

村松 裕美

3年～ 後期 2単位

◎：行動力 ○：協働力

**【授業のテーマ】**

近年、博物館・美術館では作品の研究調査のみならず、その保存管理の重要性が益々強く求められている。伝統的な技法・材料によって構成された作品は、その保存や修復など比較的幅をもって対処可能であるが、現代においては、多様な材料の存在がかえって構造を複雑化させ、保存や修復が困難な状況となっていることも事実である。この授業では、保存・修復という表には現れにくい工程を通して、技法・材料の見識を深め、さらに良好な状態で作品を保存するための知識を習得することを目的とする。

**【授業における到達目標】**

- 絵画の歴史、主に技法材料の歴史を踏まえ、作品がどのようにして現代まで残されてきたのかを理解する。
- 作品が構成されている材料の知識を習得する。
- ◎劣化の原因物質を確認し、保存に対する知識を習得する。
- ◎実際の作品を調査し保存のあり方を判断する能力を習得する。

以上を習得することにより、安全に作品を取り扱う態度を身に着ける。さらに作品の状態を正しく把握し、保存に対する問題点を早期に発見し解決することができる。

**【授業の内容】**

- 第1週 授業の概要説明
- 第2週 作品を構成している材料について、様々な素材から成り立っていることを確認する。
- 第3週 技法・材料の概略：絵画中心となるが、技法・材料の問題を考える。
- 第4週 経年による劣化と二次的劣化の違いを確認する。
- 第5週 劣化の要因を構成する材質と環境の問題から、原因物質を考える。
- 第6週 劣化の要因となっている諸因子について、どのような工程を経て現在に至ったのか、その影響を考える。
- 第7週 劣化事例1：画像を中心に、支持体の劣化を紹介する。
- 第8週 劣化事例2：画像を中心に、絵具の劣化を紹介する。
- 第9週 劣化事例3：画像を中心に、損傷への対処を紹介する。
- 第10週 作品の調査と記録方法について説明する。
- 第11週 調査1：実際の作品などをもとに、油彩画作品（画布）の損傷状態を確認する。
- 第12週 調査2：実際の作品などをもとに、油彩画作品（板）の損傷状態を確認する。
- 第13週 各自の調査書をもとに、作品の状態を発表し全体で討議する。
- 第14週 修復事例：画像を中心に、修復の事例を紹介する。
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

多くの作品を見ること（展覧会見学など）。ここでいう見ることは、鑑賞することだけでなく、観察するということを示している。実際の作品を観察することで、見えにくい材質や状態が見えてくる（レポート作成含む事前事後学修3時間）。この授業では材料と技法が全体のキーワードとなるため、材料についての知識が求められる。油彩画の材料について、画材店などで実際の材料を確認しておくこと、また技法についても事前に技法書などで予備学習しておくこと（事前学修1時間）。調査書を作成する（事後学修2時間）。

**【テキスト・教材】**

テキストは使用しない。授業中にプリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

- ・授業内で小テストを行う。授業中に配布したプリント、自作のノートの持ち込みは可。1/3以上の欠席の場合受験資格はない。
- ・展覧会を鑑賞して展示、保存についてのレポートの提出。
- ・授業内で行った作品調査書の提出。

- ・作品調査後、調査書をもとにフィードバックを行う。
- 授業への積極的な参加態度及びレポート提出40%、調査書30%、小テスト30%などをもとに、総合的に評価する。

**【参考書】**

なし

**【注意事項】**

- 遅刻厳禁、遅刻した場合は欠席となる。
- 途中退室不可、撮影及び録音不可、授業中のパソコン、タブレットなどの使用は許可を得ること。
- 作品調査用に各自で以下の道具を用意すること。
- 筆記用具（鉛筆）、色鉛筆（12色程度）、メジャー（布製）、小型ライト

## 保存修復 a

油彩画を中心とした技法と材料、及び保存・修復について

村松 裕美

3年～ 後期 2単位

### 【授業のテーマ】

近年、博物館・美術館では作品の研究調査のみならず、その保存管理の重要性が益々強く求められている。伝統的な技法・材料によって構成された作品は、その保存や修復など比較的幅をもって対処可能であるが、現代においては、多様な材料の存在がかえって構造を複雑化させ、保存や修復が困難な状況となっていることも事実である。この授業では、保存・修復という表には現れにくい工程を通して、技法・材料の見識を深め、さらに良好な状態で作品を保存するための知識を習得することを目的とする。

### 【授業における到達目標】

- 絵画の歴史、主に技法材料の歴史を踏まえ、作品がどのようにして現代まで残されてきたのかを理解する。
- 作品が構成されている材料の知識を習得する。
- ◎劣化の原因物質を確認し、保存に対する知識を習得する。
- ◎実際の作品を調査し保存のあり方を判断する能力を習得する。

以上を習得することにより、安全に作品を取り扱う態度を身に付ける。さらに作品の状態を正しく把握し、保存に対する問題点を早期に発見し解決することができる。

### 【授業の内容】

- 第1週 授業の概要説明
- 第2週 作品を構成している材料について、様々な素材から成り立っていることを確認する。
- 第3週 技法・材料の概略：絵画中心となるが、技法・材料の問題を考える。
- 第4週 経年による劣化と二次的劣化の違いを確認する。
- 第5週 劣化の要因を構成する材質と環境の問題から、原因物質を考える。
- 第6週 劣化の要因となっている諸因子について、どのような工程を経て現在に至ったのか、その影響を考える。
- 第7週 劣化事例1：画像を中心に、支持体の劣化を紹介する。
- 第8週 劣化事例2：画像を中心に、絵具の劣化を紹介する。
- 第9週 劣化事例3：画像を中心に、損傷への対処を紹介する。
- 第10週 作品の調査と記録方法について説明する。
- 第11週 調査1：実際の作品などをもとに、油彩画作品（画布）の損傷状態を確認する。
- 第12週 調査2：実際の作品などをもとに、油彩画作品（板）の損傷状態を確認する。
- 第13週 各自の調査書をもとに、作品の状態を発表し全体で討議する。
- 第14週 修復事例：画像を中心に、修復の事例を紹介する。
- 第15週 総括

### 【事前・事後学修】

多くの作品を見ること（展覧会見学など）。ここでいう見ることとは、鑑賞することだけでなく、観察するということを示している。実際の作品を観察することで、見えにくい材質や状態が見えてくる（レポート作成含む事前事後学修3時間）。この授業では材料と技法が全体のキーワードとなるため、材料についての知識が求められる。油彩画の材料について、画材店などで実際の材料を確認しておくこと、また技法についても事前に技法書などで予備学習しておくこと（事前学修1時間）。調査書を作成する（事後学修2時間）。

### 【テキスト・教材】

テキストは使用しない。授業中にプリントを配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- ・授業内で小テストを行う。授業中に配布したプリント、自作のノートの持ち込みは可。1/3以上の欠席の場合受験資格はない。
- ・展覧会を鑑賞して展示、保存についてのレポートの提出。
- ・授業内で行った作品調査書の提出。
- ・作品調査後、調査書をもとにフィードバックを行う。

授業への積極的な参加態度及びレポート提出40%、調査書30%、小テスト30%などをもとに、総合的に評価する。

### 【参考書】

なし

### 【注意事項】

遅刻厳禁、遅刻した場合は欠席となる。

途中退室不可、撮影及び録音不可、授業中のパソコン、タブレットなどの使用は許可を得ること。

作品調査用に各自で以下の道具を用意すること。

筆記用具（鉛筆）、色鉛筆（12色程度）、メジャー（布製）、小型ライト

**保存修復 b**

古代仏像の保存修理

明珍 素也

3年～ 後期 2単位

◎：行動力 ○：協働力

**【授業のテーマ】**

仏教が日本へ伝わり現代にいたるおよそ1500年もの間、たくさんの仏像が生まれている。現在まで大切に守られてきたこれらの仏像は世界中の彫像と比べ質・量ともにハイレベルにあるといえよう。その作り方（造像技法）はプリミティブなものから、様々な造像環境に合わせるために高度な技術を要する技法へと進化し、日本固有のものとして発展していった。

仏像は造像から長い年月を経てさまざまな損傷を抱えているのが現状である。現代まで信仰され伝世する像を後世に伝えるためにどのような保存処置および修理が必要であるのか。

仏像を宗教と文化財、双方の視点からとらえ、多数の写真による実例を挙げながら授業を進める。はじめに造像技法を概観し、保存状態に応じた修理工程を解説する。そして修理を進めるうえでの問題点を指摘しながら最新の修理方針を考察する。また、文化財を対象とする科学的な分析法をやさしく概説し、理系のものの見方を紹介する。

**【授業における到達目標】**

通常は見ることのできない内部構造の画像を多数みていくことで、様々な視点から文化財修理の概念を修得することが本講座の目標である。

**【授業の内容】**

- 第1週 授業の進め方と概略
- 第2週 仏像の造像技法1（鋳造・塑造・乾漆）
- 第3週 仏像の造像技法2（木造とその進化過程）
- 第4週 近代までの修理
- 第5週 修理前の処置
- 第6週 構造の修理例1（補強の必要性）
- 第7週 構造の修理例2（造像時と後補時における改変事例）
- 第8週 荘厳の修理例1（クリーニングと剥落止め）
- 第9週 荘厳の修理例2（補修と補彩）
- 第10週 欠損部位の修理例
- 第11週 虫蝕部位の修理例
- 第12週 科学の眼から見た美術
- 第13週 文化財における科学分析結果のみかた
- 第14週 修理の問題点
- 第15週 後期のまとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：授業内容および配布プリントを予習すること。（学修時間 週2時間）

事後学修：次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを配布し、その他は適宜指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験（70%）、平常点（授業態度30%）

**保存修復 b**

古代仏像の保存修理

明珍 素也

3年～ 後期 2単位

**【授業のテーマ】**

仏教が日本へ伝わり現代にいたるおよそ1500年もの間、たくさんの仏像が生まれている。現在まで大切に守られてきたこれらの仏像は世界中の彫像と比べ質・量ともにハイレベルにあるといえよう。その作り方（造像技法）はプリミティブなものから、様々な造像環境に合わせるために高度な技術を要する技法へと進化し、日本固有のものとして発展していった。

仏像は造像から長い年月を経てさまざまな損傷を抱えているのが現状である。現代まで信仰され伝世する像を後世に伝えるためにどのような保存処置および修理が必要であるのか。

仏像を宗教と文化財、双方の視点からとらえ、多数の写真による実例を挙げながら授業を進める。はじめに造像技法を概観し、保存状態に応じた修理工程を解説する。そして修理を進めるうえでの問題点を指摘しながら最新の修理方針を考察する。また、文化財を対象とする科学的な分析法をやさしく概説し、理系のものの方を見方を紹介する。

**【授業における到達目標】**

通常は見ることのできない内部構造の画像を多数みていくことで、様々な視点から文化財修理の概念を修得することが本講座の目標である。

**【授業の内容】**

- 第1週 授業の進め方と概略
- 第2週 仏像の造像技法1（鋳造・塑造・乾漆）
- 第3週 仏像の造像技法2（木造とその進化過程）
- 第4週 近代までの修理
- 第5週 修理前の処置
- 第6週 構造の修理例1（補強の必要性）
- 第7週 構造の修理例2（造像時と後補時における改変事例）
- 第8週 荘厳の修理例1（クリーニングと剥落止め）
- 第9週 荘厳の修理例2（補修と補彩）
- 第10週 欠損部位の修理例
- 第11週 虫蝕部位の修理例
- 第12週 科学の眼から見た美術
- 第13週 文化財における科学分析結果のみかた
- 第14週 修理の問題点
- 第15週 後期のまとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：授業内容および配布プリントを予習すること。（学修時間 週2時間）

事後学修：次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

プリントを配布し、その他は適宜指示する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験（70%）、平常点（授業態度30%）

## 簿記論 I

小澤 康裕

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

簿記は、家計や企業の活動を「お金」の流れという側面からとらえるための技術です。家計の簿記が「家計簿」で、企業の簿記が本講義で学ぶ「複式簿記」です。「家計簿」は、家のお金を管理（やりくり）するため、一方、本講義で学ぶ複式簿記は、企業のお金を管理（やりくり）し、企業の活動を「お金」という測定単位を使って（一般に決算書と呼ばれるもので）表現するための技術です。

本講義では、複式簿記の基本的なルール、つまり、将棋やチェスで例えれば、コマの動かし方を覚えていくレベルを扱います。

## 【授業における到達目標】

一応の目安として、日商簿記検定3級レベルの実力を身につけることを目標とします。

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、1. 学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続ける力を修得します。また、同様に、2 学修成果を実感して、自信を創出する力を身につけます。

さらに、学生が修得すべき「行動力」のうち、目標を設定して、計画を立案・実行する力、「協働力」のうち、自己や他者の役割を理解し、互いに強毒して物事を進める力を修得します。

## 【授業の内容】

- 第1週 簿記とは（なぜ簿記が必要か）
- 第2週 取引と仕訳
- 第3週 取引の分類と仕訳帳
- 第4週 決算全体の流れ
- 第5週 決算と簿記一巡の手続
- 第6週 精算表
- 第7週 勘定の締切
- 第8週 現金・預金
- 第9週 商品・売掛金・買掛金
- 第10週 手形
- 第11週 未収金・未払金・前払金・前受金
- 第12週 立替金・預り金など
- 第13週 手形の取り立て・不渡・裏書譲渡等
- 第14週 演習問題
- 第15週 振り返り

なお、可能であれば反転授業も試みる予定である。

## 【事前・事後学修】

本講義では、毎回、はじめの15分ほどでQuiz（小テスト）を実施します。内容は前回講義の理解度の確認です。したがって、事後学修として、講義当日にその日のQuizと講義内容の演習問題を復習してください（所要時間120分程度）。事前学修として、Quizの準備をしてください（所要時間120分程度）。

## 【テキスト・教材】

教材（パワーポイント資料）や補足資料は毎回配布しますが、予習や復習のために『検定簿記講義／3級商簿記』（中央経済社）（756円程度）の最新版の活用をおすすめします。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Quiz（小テスト）30%、試験65%、授業への取り組み（授業中の発言・積極的な参加）5%で評価する。Quizについては、終了直後にバズ学習の時間をとったり、簡単な解説・フィードバックを行う。

## 【参考書】

苦手意識がある人は、ネットスクール出版の「すいすいシリーズ」「とおる簿記シリーズ」などを参考にしてください。

## 簿記論 I

蔣 飛鴻

1年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

簿記は企業の経済活動を貨幣数値によって組織的に記録、計算、報告する技術を用いることにより、企業の状況を日常的に把握できるばかりでなく、損益計算書や貸借対照表などの財務諸表により、企業の経営成績や財務状況を明らかにすることができる。

## 【授業における到達目標】

簿記の基礎知識を修得し、考える力を身につく。

ディプロマポリシー：学修を通して自己成長する力（研鑽力）

## 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 簿記の目的と種類
- 第3週 簿記の基礎概念
- 第4週 取引、仕訳と転記
- 第5週 決算と6桁精算表
- 第6週 損益計算書と貸借対照表
- 第7週 現金、預金
- 第8週 現金過不足、小口現金
- 第9週 商品の売買
- 第10週 商品の払出単価
- 第11週 商品の棚卸と評価
- 第12週 仕入帳と売上帳
- 第13週 売掛金
- 第14週 買掛金
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

事前学修：小テスト・レポート・発表等の課題に取り組むこと（学修時間週2時間）

事後学修：小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を学習し、専門用語等を理解しておくこと。（学修時間週2時間）

## 【テキスト・教材】

授業の1回目に指定する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験70%、授業への取り組み（課題、授業中の発言・積極的な参加）30%で評価する。

課題については、次の授業の際にコメントやフィードバックする。試験結果については最終回でフィードバックする予定。

## 【参考書】

参考書や問題集については適時紹介する。

## 【注意事項】

簿記は学習の積み重ねが必要な科目であるため、授業には毎回出席すること。出席できない場合は、次回の講義までに、前回の内容を学習しておくこと。会計学の分野に関心を抱いた学生、3年次の演習で「会計学」を選択予定の学生は、2年次に開講されている「会計学総論」、「原価計算論」の受講を勧める。



## 簿記論 I

小澤 康裕

1年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

簿記は、家計や企業の活動を「お金」の流れという側面からとらえるための技術です。家計の簿記が「家計簿」で、企業の簿記が本講義で学ぶ「複式簿記」です。「家計簿」は、家のお金を管理（やりくり）するため、一方、本講義で学ぶ複式簿記は、企業のお金を管理（やりくり）し、企業の活動を「お金」という測定単位を使って（一般に決算書と呼ばれるもので）表現するための技術です。

本講義では、複式簿記の基本的なルール、つまり、将棋やチェスで例えれば、コマの動かし方を覚えていくレベルを扱います。

## 【授業における到達目標】

一応の目安として、日商簿記検定3級レベルの実力を身につけることを目標とします。

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、1. 学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続ける力を修得します。また、同様に、2 学修成果を実感して、自信を創出する力を身につけます。

さらに、学生が修得すべき「行動力」のうち、目標を設定して、計画を立案・実行する力、「協働力」のうち、自己や他者の役割を理解し、互いに強毒して物事を進める力を修得します。

## 【授業の内容】

- 第1週 簿記とは（なぜ簿記が必要か）
- 第2週 取引と仕訳
- 第3週 取引の分類と仕訳帳
- 第4週 決算全体の流れ
- 第5週 決算と簿記一巡の手続
- 第6週 精算表
- 第7週 勘定の締切
- 第8週 現金・預金
- 第9週 商品・売掛金・買掛金
- 第10週 手形
- 第11週 未収金・未払金・前払金・前受金
- 第12週 立替金・預り金など
- 第13週 手形の取り立て・不渡・裏書譲渡等
- 第14週 演習問題
- 第15週 振り返り

なお、可能であれば反転授業も試みる予定である。

## 【事前・事後学修】

本講義では、毎回、はじめの15分ほどでQuiz（小テスト）を実施します。内容は前回講義の理解度の確認です。したがって、事後学修として、講義当日にその日のQuizと講義内容の演習問題を復習してください（所要時間120分程度）。事前学修として、Quizの準備をしてください（所要時間120分程度）。

## 【テキスト・教材】

教材（パワーポイント資料）や補足資料は毎回配布しますが、予習や復習のために『検定簿記講義／3級商簿記』（中央経済社）（756円程度）の最新版の活用をおすすめします。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Quiz（小テスト）30%、試験65%、授業への取り組み（授業中の発言・積極的な参加）5%で評価する。Quizについては、終了直後にバズ学習の時間をとったり、簡単な解説・フィードバックを行う。

## 【参考書】

苦手意識がある人は、ネットスクール出版の「すいすいシリーズ」「とおる簿記シリーズ」などを参考にしてください。

## 簿記論 I

蔣 飛鴻

1年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

簿記は企業の経済活動を貨幣数値によって組織的に記録、計算、報告する技術を用いることにより、企業の状況を日常的に把握できるばかりでなく、損益計算書や貸借対照表などの財務諸表により、企業の経営成績や財務状況を明らかにすることができる。

## 【授業における到達目標】

簿記の基礎知識を修得し、考える力を身につく。

ディプロマポリシー：学修を通して自己成長する力（研鑽力）

## 【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 簿記の目的と種類
- 第3週 簿記の基礎概念
- 第4週 取引、仕訳と転記
- 第5週 決算と6桁精算表
- 第6週 損益計算書と貸借対照表
- 第7週 現金、預金
- 第8週 現金過不足、小口現金
- 第9週 商品の売買
- 第10週 商品の払出単価
- 第11週 商品の棚卸と評価
- 第12週 仕入帳と売上帳
- 第13週 売掛金
- 第14週 買掛金
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

事前学修：小テスト・レポート・発表等の課題に取り組むこと（学修時間週2時間）

事後学修：小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を学習し、専門用語等を理解しておくこと。（学修時間週2時間）

## 【テキスト・教材】

授業の1回目に指定する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験70%、授業への取り組み（課題、授業中の発言・積極的な参加）30%で評価する。

課題については、次の授業の際にコメントやフィードバックする。試験結果については最終回でフィードバックする予定。

## 【参考書】

参考書や問題集については適時紹介する。

## 【注意事項】

簿記は学習の積み重ねが必要な科目であるため、授業には毎回出席すること。出席できない場合は、次回の講義までに、前回の内容を学習しておくこと。会計学の分野に関心を抱いた学生、3年次の演習で「会計学」を選択予定の学生は、2年次に開講されている「会計学総論」、「原価計算論」の受講を勧める。

## 簿記論Ⅱ

小澤 康裕

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

本講義では、簿記論Ⅰにひきつづいて、複式簿記の基本的なルールを学習していきます。特に、個別論点をより詳細に取扱い、最終的に総合問題にも対応できるようにします。

## 【授業における到達目標】

簿記論Ⅰと本講義を合わせて、日商簿記検定3級に合格するレベルの実力を身につけることを目標とします。

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、1. 学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続ける力を修得します。また、同様に、2 学修成果を実感して、自信を創出する力を身につけます。

さらに、学生が修得すべき「行動力」のうち、目標を設定して、計画を立案・実行する力、また「協働力」のうち、自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる力を修得します。

## 【授業の内容】

- 第1週 簿記論Ⅰの復習と手形
- 第2週 手形貸付金と有価証券
- 第3週 有形固定資産の取得
- 第4週 有形固定資産の売却
- 第5週 減価償却
- 第6週 資本金と引出金
- 第7週 収益と費用の見越し・繰延べ
- 第8週 消耗品・税金
- 第9週 3伝票制
- 第10週 現金出納帳・小口現金出納帳
- 第11週 仕入帳・受取手形記入帳など
- 第12週 売掛金元帳・商品有高帳など
- 第13週 貸倒引当金
- 第14週 演習問題
- 第15週 振り返り

なお、可能であれば反転授業も試みる予定である。

## 【事前・事後学修】

本講義では、毎回、はじめの15分ほどでQuiz（小テスト）を実施します。内容は前回講義の理解度の確認です。したがって、事後学修として、講義当日にその日のQuizと講義内容の演習問題を復習してください（所要時間120分程度）。事前学修として、Quizの準備をしてください（所要時間120分程度）。

## 【テキスト・教材】

教材（パワーポイント資料）や補足資料は毎回配布しますが、予習や復習のために『検定簿記講義／3級商簿記』（中央経済社）（756円程度）の最新版の活用をおすすめします。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Quiz（小テスト）30%、試験60%、授業への取り組み（授業中の発言・積極的な参加）10%で評価する。Quizについては、終了直後にバズ学習の時間をとったり、簡単な解説・フィードバックを行う。

## 【参考書】

苦手意識がある人は、ネットスクール出版の「すいすいシリーズ」「とる簿記シリーズ」などを参考にしてください。

## 簿記論Ⅱ

蔣 飛鴻

1年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

会計諸科目では、簿記という技術を前提として論じる。また、組織の管理や活動を担うものにとって、簿記・会計に関する知識や理解は不可欠のものであり、それらは将来必ず必要とされる。この授業は簿記論Ⅰを踏まえてより複雑な取引を取り上げ、その簿記上の処理について学習するとともに、財務諸表の作成についても学ぶことにする。

## 【授業における到達目標】

この授業は簿記論Ⅰと併せて学習することによって、簿記の応用知識を修得し、考える力を身につく。

ディプロマポリシー：学修を通して自己成長する力（研鑽力）

## 【授業の内容】

- 第1週 手形の振出、受入、引受
- 第2週 手形の取立と支払
- 第3週 手形の裏書譲渡と割引
- 第4週 有形固定資産の取得と売却
- 第5週 有価証券
- 第6週 その他の債権、債務
- 第7週 資本金と引出金
- 第8週 貸倒れと貸倒引当金
- 第9週 訂正仕訳
- 第10週 決算の手続きⅠ 消耗品、税金
- 第11週 決算の手続きⅡ 収益と費用の見越しと繰延
- 第12週 決算の手続きⅢ 現金過不足、売上原価
- 第13週 決算の手続きⅣ 8桁精算表
- 第14週 伝票式会計
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

事前学修：小テスト・レポート・発表等の課題に取り組むこと。  
（学修時間週2時間）

事後学修：小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。  
（学修時間週2時間）

## 【テキスト・教材】

授業の1回目に指定する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験70%、授業への取り組み（課題、授業中の発言・積極的な参加）30%で評価する。

課題については、次の授業の際にコメントやフィードバックする。試験結果については最終回でフィードバックする予定。

## 【参考書】

参考書や問題集については適時紹介する。

## 【注意事項】

簿記は学習の積み重ねが必要な科目であるため、授業には毎回出席すること。出席できない場合は、次回の講義までに、前回の内容を学習しておくこと。会計学の分野に関心を抱いた学生、3年次の演習で「会計学」を選択予定の学生は、2年次に開講されている「会計学総論」、「原価計算論」の受講を勧める。

## 簿記論Ⅱ

小澤 康裕

1年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

本講義では、簿記論Ⅰにひきつづいて、複式簿記の基本的なルールを学習していきます。特に、個別論点をより詳細に取扱い、最終的に総合問題にも対応できるようにします。

## 【授業における到達目標】

簿記論Ⅰと本講義を合わせて、日商簿記検定3級に合格するレベルの実力を身につけることを目標とします。

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、1. 学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続ける力を修得します。また、同様に、2 学修成果を実感して、自信を創出する力を身につけます。

さらに、学生が修得すべき「行動力」のうち、目標を設定して、計画を立案・実行する力、また「協働力」のうち、自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる力を修得します。

## 【授業の内容】

- 第1週 簿記論Ⅰの復習と手形
- 第2週 手形貸付金と有価証券
- 第3週 有形固定資産の取得
- 第4週 有形固定資産の売却
- 第5週 減価償却
- 第6週 資本金と引出金
- 第7週 収益と費用の見越し・繰延べ
- 第8週 消耗品・税金
- 第9週 3伝票制
- 第10週 現金出納帳・小口現金出納帳
- 第11週 仕入帳・受取手形記入帳など
- 第12週 売掛金元帳・商品有高帳など
- 第13週 貸倒引当金
- 第14週 演習問題
- 第15週 振り返り

なお、可能であれば反転授業も試みる予定である。

## 【事前・事後学修】

本講義では、毎回、はじめの15分ほどでQuiz（小テスト）を実施します。内容は前回講義の理解度の確認です。したがって、事後学修として、講義当日にその日のQuizと講義内容の演習問題を復習してください（所要時間120分程度）。事前学修として、Quizの準備をしてください（所要時間120分程度）。

## 【テキスト・教材】

教材（パワーポイント資料）や補足資料は毎回配布しますが、予習や復習のために『検定簿記講義／3級商簿記』（中央経済社）（756円程度）の最新版の活用をおすすめします。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Quiz（小テスト）30%、試験60%、授業への取り組み（授業中の発言・積極的な参加）10%で評価する。Quizについては、終了直後にバズ学習の時間をとったり、簡単な解説・フィードバックを行う。

## 【参考書】

苦手意識がある人は、ネットスクール出版の「すいすいシリーズ」「とる簿記シリーズ」などを参考にしてください。

## 簿記論Ⅱ

蔣 飛鴻

1年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

## 【授業のテーマ】

会計諸科目では、簿記という技術を前提として論じる。また、組織の管理や活動を担うものにとって、簿記・会計に関する知識や理解は不可欠のものであり、それらは将来必ず必要とされる。この授業は簿記論Ⅰを踏まえてより複雑な取引を取り上げ、その簿記上の処理について学習するとともに、財務諸表の作成についても学ぶことにする。

## 【授業における到達目標】

この授業は簿記論Ⅰと併せて学習することによって、簿記の応用知識を修得し、考える力を身につく。

ディプロマポリシー：学修を通して自己成長する力（研鑽力）

## 【授業の内容】

- 第1週 手形の振出、受入、引受
- 第2週 手形の取立と支払
- 第3週 手形の裏書譲渡と割引
- 第4週 有形固定資産の取得と売却
- 第5週 有価証券
- 第6週 その他の債権、債務
- 第7週 資本金と引出金
- 第8週 貸倒れと貸倒引当金
- 第9週 訂正仕訳
- 第10週 決算の手続きⅠ 消耗品、税金
- 第11週 決算の手続きⅡ 収益と費用の見越しと繰延
- 第12週 決算の手続きⅢ 現金過不足、売上原価
- 第13週 決算の手続きⅣ 8桁精算表
- 第14週 伝票式会計
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

事前学修：小テスト・レポート・発表等の課題に取り組むこと。  
（学修時間週2時間）

事後学修：小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。  
（学修時間週2時間）

## 【テキスト・教材】

授業の1回目に指定する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験70%、授業への取り組み（課題、授業中の発言・積極的な参加）30%で評価する。

課題については、次の授業の際にコメントやフィードバックする。試験結果については最終回でフィードバックする予定。

## 【参考書】

参考書や問題集については適時紹介する。

## 【注意事項】

簿記は学習の積み重ねが必要な科目であるため、授業には毎回出席すること。出席できない場合は、次回の講義までに、前回の内容を学習しておくこと。会計学の分野に関心を抱いた学生、3年次の演習で「会計学」を選択予定の学生は、2年次に開講されている「会計学総論」、「原価計算論」の受講を勧める。

## 法と生活

清水 弥生

2年～ 前期・後期 2単位

○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

この講義では、私たちの生活に法がどのようにかかわり、どのように法で守られているのかを学び知識を習得します。

まず、セーフティネットとしての社会保障のなかでも社会保険の仕組みと実際について学びます。つぎに、私人間の紛争を避けるために備えとして知っておくべき民法の基礎知識を、家族や財産という観点から学びます。また、アルバイトを含めて気持ち良く働き続けるための基礎知識を労働法を通じて学びます。

全体を通じて、必要に応じて「女性」という観点から法をみることによって、現状を正しく把握し、課題を発見し、どのようにその問題を克服すべきなのかについて考えましょう。個々のテーマの中で、刑法上の罪とは何か、刑罰の意味についても触れる予定です。

### 【授業における到達目標】

- ①現状を正しく把握し、課題を発見できるようになる。
- ②広い視野と深い洞察力を身に付け、トラブルの本質を法的に見抜くことができるようになる。
- ③互いを尊重し、豊かな人間関係を築くことができるようになる。

### 【授業の内容】

- 第1回 はじめに（講義で学ぶ内容の説明。法についての説明）
- 第2回 社会のセーフティネット①（社会権と様々な社会保障）
- 第3回 社会のセーフティネット②（生活困難にかかわる法）
- 第4回 社会のセーフティネット③（給与明細と所得再分配）
- 第5回 人と人のルール（民法①共通ルール）
- 第6回 人と人のルールの例外（民法②意思表示、行為能力）
- 第7回 大切な人と家族（民法③婚約と婚約破棄）
- 第8回 家族①（民法④婚姻と事実婚）
- 第9回 家族②（民法⑤夫婦間の義務とお金）
- 第10回 家族③（民法⑥親子について）
- 第11回 気持ちよく働き続けるために①（労働法①労働者とは）
- 第12回 気持ちよく働き続けるために②（労働法②労働条件）
- 第13回 気持ちよく働き続けるために③（労働法③時間）
- 第14回 気持ちよく働き続けるために④（セクハラ）
- 第15回 学び残したこと、および全体のまとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】小テストの課題に取り組むこと（学修時間2時間）

【事後学修】小テスト等を復習すること、次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと（学修時間2時間）

### 【テキスト・教材】

レジメプリントを使用する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

テーマごとの理解度を確認するmanabaを通じた小テスト30%。小テストは受験後フィードバックされる。期末試験50%。平常点（フィードバックシートの提出）20%。フィードバックシートの内容のうち、共通する不確かな知識と思われる点につき、翌回授業内でフィードバックする。

### 【参考書】

白書などを、必要がある場合に授業内でその都度適宜紹介します。

### 【注意事項】

- ①公欠以外の欠席は減点対象となります。
- ②社会のさまざまな出来事、ニュースに敏感になってください。また、日本国内だけでなく、諸外国で起きている問題についても、日本と比較しながらの関心をもつようになしてください
- ③皆さんの理解度に応じて、講義内容の順序や範囲を変更する場合があります。

## 法学

斎藤 孝

1年～ 後期 2単位

○：研鑽力、行動力

### 【授業のテーマ】

概要：

「法」の特質・目的・形式・効力・解釈・運用などについてまなぶ。

目的：

国民の生活を規律する「法」について学ぶ。

### 【授業における到達目標】

到達目標：

国民の生活を規律する「法」について理解できるようになる。

ディプロマポリシーとの関連：

学生が取得すべき「行動力」のうち、課題を発見する力をまなぶ。

### 【授業の内容】

- 第1回 私たちはどんな社会規範に拘束されるか
- 第2回 法と道徳はどこが違うか
- 第3回 法と道徳はどんな関わりをもっているか
- 第4回 法の目的である「法的安定性」とはなにか
- 第5回 法の目的である「正義」とはなにか
- 第6回 裁判の根拠となる「成文法」とはなにか
- 第7回 裁判の根拠となる「不文法」とはなにか
- 第8回 法の効力とはなにか
- 第9回 法の効力はどこまでおよぶか
- 第10回 法の解釈とはなにか
- 第11回 法の解釈は、どんな種類（方法）があるか
- 第12回 法の解釈は、正しくなければならないか
- 第13回 法はどのように運用されるか
- 第14回 働く人の権利は、どのように保障されるか
- 第15回 総括

\*ビデオを利用した授業も予定しています。

### 【事前・事後学修】

事前学修：2時間

毎回、授業でまなぶ項目について予習しておくこと。

事後学修：2時間

授業で学んだ項目について、身の回りで起きる事例を参考に、復習すること。

### 【テキスト・教材】

テキスト：

とくに指定しません。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験（70%）、レポート（30%）

フィードバックは、最終授業日におこなう。

### 【参考書】

参考書：

六法（『ポケット六法』有斐閣11800円、『法学六法』信山社1000円など）。

その他、授業において指摘します。

### 【注意事項】

日頃から、新聞を読んだり、テレビのニュース（とくに特別番組）を見たりして、法的に思考する能力を身につけてください。

## 法学

### 金津 謙

1年～ 後期 2単位

○：研鑽力、行動力

#### 【授業のテーマ】

昨今の法律ブーム(?)により、専門家が参加したテレビ番組や法廷ドラマが放送されているが、法律を身近なものとして紹介する一方で、その難解さ矛盾点が強調された企画も多く、逆に法律は「むずかしい」という印象を与えていることも否定できない。また学生の意識としても、卒業すれば自分の進路に法律は直接関係ないと考えることもあると想像する。しかし、法律は「社会規範(社会のルール)」として我々の権利・義務を確定する重要な役割を果たしており、身につけておかなければならない必要不可欠な知識である。

#### 【授業における到達目標】

法律の基礎を学び、日本の法システム全体を概観することを通じて、社会に生じるさまざまな課題について法的側面から考察する能力を修得する。すなわち、本学DPにおける学生が習得すべき「行動力」うち、課題を発見する力を習得することとなる。

#### 【授業の内容】

- 第1週 罪を犯すと処罰される理由(刑法概論)
- 第2週 犯罪と裁判(刑事訴訟法①)
- 第3週 交通事故により生じる責任(刑事的責任)
- 第4週 公判手続の概要(刑事訴訟法②)
- 第5週 少年事件における裁判制度
- 第6週 裁判員制度の概要
- 第7週 交通事故により生じる責任(民事的責任)
- 第8週 損害賠償請求制度の概要
- 第9週 パッケージ旅行と事故(契約法①)
- 第10週 医療過誤と法的責任(契約法②)
- 第11週 親子の法律関係(家族法①)
- 第12週 結婚と離婚(家族法②)
- 第13週 安楽死・尊厳死(基本的人権、憲法①)
- 第14週 法律の制定(統治機構、憲法②)
- 第15週 まとめ

#### 【事前・事後学修】

【事前学修】小テスト・レポート・発表等の課題に取り組むこと。  
(学修時間 週2時間)

【事後学修】発表・小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。(学修時間 週2時間)

#### 【テキスト・教材】

松井茂記 他著『はじめての法律学(第4版)』(有斐閣アルマ)  
1,700円

#### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト30点、期末試験70点。試験結果は授業最終回でフィードバックを行う予定である。

#### 【参考書】

「六法」(指定なし。持参任意)

但し、人間社会学部の学生は「法律学」指定六法を持参のこと。

#### 【注意事項】

人間社会学部の必修科目「法律学」とは異なる視点から授業を行う予定である。同学部の学生も積極的に履修して頂きたい。

## 法律学

金津 謙

1年 前期 2単位

◎：行動力

## 【授業のテーマ】

法律は、堅苦しい、冷たい、そして縁遠いなどと思われ、また自由を奪うものと非難されることもある。しかし、社会生活の秩序を維持するためには必須のものであり、身近に存在しているのである。

「社会あるところ法あり」という言葉で表現される法律について理解を深める。

## 【授業における到達目標】

法制度の概要について理解し、さまざまな社会課題を法律的側面から考察する能力を修得する。すなわち、本学DPにおける学生が修得すべき「行動力」うち、課題を発見する力を修得することを目的とする。

## 【授業の内容】

社会問題および裁判例等を通し法的なものの考え方について具体的に概説する。

第1回：法は身近な存在

第2回：法とは何か① 一六法の使用法一

第3回：法とは何か② 一法と他の社会規範一

第4回：国家と法

第5回：家族と法① 一親族法一

第6回：家族と法② 一相続法一

第7回：財産と法① 一物権法一

第8回：財産と法② 一債権法一

第9回：契約と法① 一売買契約一

第10回：契約と法② 一賃貸借契約一

第11回：企業と法

第12回：犯罪と法

第13回：裁判と法

第14回：国際社会と法

第15回：総括

## 【事前・事後学修】

【事前学修】法律学として初めて法を学ぶので、各回の授業内容を参考書の該当箇所ですべて予習しておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】発表・小テスト等を復習すること。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

## 【テキスト・教材】

テキストは特に指定せず、適宜プリントを配布する。教材として六法を必ず持参すること。

池田真朗他編『法学六法'18』（信山社）本体1,000+税

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験80点、小テスト10点、平常点（授業に関する質問等授業態度）10点とする。試験結果は授業最終回でフィードバックする予定である。

## 【参考書】

適宜指示する。

## 【注意事項】

授業開講時指示する。

## 法律学

数野 昌三

1年 後期 2単位

◎：行動力

## 【授業のテーマ】

法律は、堅苦しい、冷たい、そして縁遠いなどと思われ、また自由を奪うものと非難されることもある。しかし、社会生活において秩序を維持するためには必須のものであり、身近に存在しているのである。法律は、社会の扇の要とも表現される。その法律に関して、社会問題および裁判例を通し、法的なものの考え方について具体的に概観する。

## 【授業における到達目標】

基本的な法制度を学修し、社会において発生する様々な問題につき、法的視点から捉えるとどのような内容が問題となるのかを発見し、それら諸問題解決への糸口につなげる行動力を培うことができるようになる。

## 【授業の内容】

第1週 法は身近な存在

第2週 法とは何か①一六法の使用法一

第3週 法とは何か②一法とその他の社会規範一

第4週 国家と法

第5週 家族と法①一親族法一

第6週 家族と法②一相続法一

第7週 財産と法①一物権法一

第8週 財産と法②一債権法一

第9週 契約と法①一売買契約一

第10週 契約と法②一賃貸借契約一

第11週 企業と法

第12週 犯罪と法

第13週 裁判と法

第14週 国際社会と法

第15週 総括

## 【事前・事後学修】

## 【事前学修】

法律学として初めて法を学ぶので、各週の授業内容を参考書の該当箇所ですべて予習しておくこと。（学修時間 週2時間）

## 【事後学修】

授業時間帯に表現されたテクニカルタームを調べなおし、理解しておくこと。そして、小テストのため、何回もノートを読み直し、理解できていない箇所をなくしておくこと。（学修時間 2時間）

## 【テキスト・教材】

## 【テキスト】

とくに指定せず、適宜プリントを配布する。

## 【教材】

下記六法を持参すること。

池田真朗他編『法学六法'18』（信山社）本体1,000+税

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

## 【成績評価の方法・基準】

期末試験80%、小テスト10%、平常点（授業に関する質問等授業態度）10%とする。

## 【フィードバック】

総括の中でフィードバックする予定である。

**翻訳演習**

英文解釈と日本語表現

宮上 久仁子

2年 前期・後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

**【授業のテーマ】**

この授業では、英文の小説を適切で自然な日本語に翻訳することを目標とします。小説の登場人物、また小説で描かれている状況も吟味したうえで、それにふさわしい日本語表現を検討したいと思います。テキストにシャーロック・ホームズの「シルバープレイズ」を選び、翻訳をしていきます。テキストとして使用するのはリトル版です。一回の授業につき、2、3ページを目安に進めますが、その都度の進行状況によって多少は前後します。

**【授業における到達目標】**

はじめは原文にほぼ忠実な直訳に近い訳であっても、解釈を重ねて、表現の可能性を検討していくと、最終的には自然な日本語に訳出できるようになることを目標とします。自ら翻訳に取り組むことで、訳すという仕事が、実に創造的であることを実感し、学び続ける意思を養う機会となれば幸いです。翻訳という二言語を操る作業を通じて、日本や英語圏の文化への洞察を深めます。「人とは・社会とは・文化とは何か」という普遍的な問いに対して、自分の意見を構築する機会となるように、古典小説を読みたいと思います。

**【授業の内容】**

- 第1週 翻訳と授業に関するガイダンス
- 第2週 「シルバープレイズ」第1章：pp. 1-3
- 第3週 同上 第1章：pp. 4-6
- 第4週 同上 第2章：pp. 7-9
- 第5週 同上 第2章：pp. 10-11
- 第6週 同上 第2章：pp. 12-13
- 第7週 同上 第3章：pp. 14-16
- 第8週 同上 第3章：pp. 17-19
- 第9週 同上 第3章：pp. 20-21
- 第10週 同上 第4章：pp. 22-24
- 第11週 同上 第4章：pp. 25-27
- 第12週 同上 第4章：p. 28・第5章：p.29
- 第13週 レポート課題のフィードバック（予定）
- 第14週 同上 第5章：pp. 31-33
- 第15週 同上 第6章：pp. 34-36とまとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修について：この授業のために一冊ノートを用意していただき、予習として指示のあった範囲の英文を日本語に訳してください。（学修時間：週2時間）

事後学修について：授業中に学習した訳例を参考にしながら、再び英文を読み、訳を検討すると、小説への理解が深まります。これによって訳の技術もさらに高まります。（学修時間：週2時間）

**【テキスト・教材】**

テキストについては、開講後に授業時に指示します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート80%、平常点（指示のあった範囲の英文の日本語訳作成・授業への積極的な参加・レポート以外に特別に指示があった課題の提出および提示）20%で評価します。予習に関するフィードバックは毎回の授業時に、レポート課題については最終提出日の次回授業時に行います。

**【注意事項】**

授業時に個々の受講生の方々に訳の発表をお願いしますので、必ず準備をしようとして参加してください。訳出技術は繰り返すことで向上します。原文の意に沿いながら、実に見事な日本語表現がきっとひらめきます。積極的に取り組みながら訳す楽しさを、どうか実感してください。なお、授業の性質上、受講者数の上限を40名とさせていただきますと助かります。

**翻訳演習**

「良い翻訳」をめざして

多比羅 真理子

2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

**【授業のテーマ】**

国際言語の英語で書かれた様々なジャンルの英文を、その目的に応じて、直訳ではなく分かりやすい日本語に翻訳する力を高めることを目的とします。翻訳に必要な文法、また、英文の背後にある異文化を知り、作家の感性を考察しながら「良い翻訳」をする能力を修得していきます。

**【授業における到達目標】**

「翻訳」は誤訳をしてはなりません。従って正しく翻訳する力を育成することを第一目標とします。また、翻訳は、それぞれの言語領域の中でその人の感性が最も出る分野です。本授業の総括として、自分の好きな絵本、児童書、広告などを翻訳し、クラスで紹介するプレゼンテーションタイムを持ちます。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 翻訳入門文法（1） 主語を中心に
- 第3週 同上（2） 動詞と時制
- 第4週 同上（3） 無生物主語
- 第5週 同上（4） 注意する表現
- 第6週 文法復習テスト 広告の説明
- 第7週 前回課題の発表（6週分） マニュアル・カタログの説明
- 第8週 同上（7週分） 小説の説明
- 第9週 同上（8週分） 児童書の説明
- 第10週 同上（9週分） 童話の説明
- 第11週 同上（10週分） コミックの説明
- 第12週 同上（11週分） 映画字幕（一回目）
- 第13週 映画字幕（2回目）
- 第14週 まとめ
- 第15週 プレゼンテーション

**【事前・事後学修】**

【事前学修】 各回の課題の翻訳（週2時間）

【事後学習】 授業中の発表を参考に自分の翻訳を修正する。最終課題作品の選択、その準備、作成（週2時間）

**【テキスト・教材】**

第一回目のオリエンテーション、第5回目の授業時に担当教員がプリントして配布します

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

復習テスト30% 平常点（各回課題、授業への積極的な参加度）30% 最終課題作品 40%

**【注意事項】**

- ・ 必ず課題をすること、またその提出が多くなります。
- ・ 辞書を忘れずに持参してください

**民俗学**

語りの伝承と絵解き

**久野 俊彦**

2年～ 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

人間のいとなみの中で伝承されてきて現在に至る生活文化を明らかにするのが民俗学です。柳田國男は「今にある昔」と言いました。今にあることがらの中に、昔のことがらが含まれているのです。生活文化の歴史の変遷を明らかにし、それを通じて現在の生活文化を明らかにしようとするのが民俗学です。この授業では、民俗学の諸分野うちの口承文芸と芸能の分野から、「語りの伝承」として、前半は「昔話・伝説・世間話」、後半は「絵解き」をとりあげます。「絵解き」とは、物語や仏教の教えを絵にあらわして、その絵を指し示しながら、絵の場面を解き（説き）語ることです。物語と絵と語りが出会うところに絵解きが成立しました。紙芝居やアニメーションの源流です。絵解きの世界が、美術史研究と交渉する可能性を考えます。

**【授業における到達目標】**

伝承文化が身近に存在していることを認識し、民俗学を学ぶことで、多角的な視点をもって学際的な研究の視座を持つことをことを目標とします。学生が修得すべき「国際的視野」のうち、日本文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度を修得します。

**【授業の内容】**

- 第1週 柳田國男の生涯と日本民俗学
- 第2週 『遠野物語』を読む
- 第3週 〈私の遠野物語〉を語る 口承文芸1 世間話
- 第4週 伝説の地を歩く 口承文芸2 伝説
- 第5週 昔話の芸態 口承文芸3 昔話
- 第6週 生活における昔話の機能
- 第7週 昔話と方言 〈私が昔話を語る〉
- 第8週 絵を語る芸能 絵解き
- 第9週 寺社縁起絵と絵解き 道成寺縁起
- 第10週 高僧伝記絵の絵解き 親鸞絵伝
- 第11週 絵解きの成立過程 高野山荊堂 磔茂左衛門
- 第12週 絵解きの復活と継承 荊萱道心石童丸親子絵伝
- 第13週 地獄極楽の儀礼 盆行事と施餓鬼
- 第14週 地獄極楽の絵解き 観心十界曼荼羅 地獄巡り
- 第15週 絵解きと美術史

**【事前・事後学修】**

【事前学修】（学修時間 週2時間）

- ・配布した教材を事前に読んでおいてください。
- ・授業で指示した課題に取り組んでください。

【事後学修】（学修時間 週2時間）

- ・小テストについて復習してください。
- ・自分の身近な民俗事象について想起し、関連性について考察してください。

**【テキスト・教材】**

柳田國男『新版遠野物語 付・遠野物語拾遺』（角川ソフィア文庫 角川学芸出版、2004年）562円  
ほかにプリントを配布します。

**【参考書】**

聖和学園短期大学国文学科学生著・久野俊彦・錦仁（編）『1976年夏 東北の昔ばなし 聖和短期大学生のレポートから』（笠間書院 2014年）  
久野俊彦『縁起と絵解きのフォークロア』（森話社 2008年）  
林 雅彦『増補 日本の絵解き』（三弥井書店 1982年）  
赤井達郎『絵解きの系譜』（教育社 1989年）  
徳田和夫『絵語りと物語り』（平凡社 1990年）

**【注意事項】**

- ・現代の都市社会のあたりりまえのところに、伝承文化が存在しています。そこからの発見に心がけてください。



**民俗学**

語りの伝承と絵解き

**久野 俊彦**

2年～ 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

人間のいとなみの中で伝承されてきて現在に至る生活文化を明らかにするのが民俗学です。柳田國男は「今にある昔」と言いました。今にあることがらの中に、昔のことがらが含まれているのです。生活文化の歴史の変遷を明らかにし、それを通じて現在の生活文化を明らかにしようとするのが民俗学です。この授業では、民俗学の諸分野うちの口承文芸と芸能の分野から、「語りの伝承」として、前半は「昔話・伝説・世間話」、後半は「絵解き」をとりあげます。「絵解き」とは、物語や仏教の教えを絵にあらわして、その絵を指し示しながら、絵の場面を解き（説き）語ることです。物語と絵と語りが出会うところに絵解きが成立しました。紙芝居やアニメーションの源流です。絵解きの世界が、美術史研究と交渉する可能性を考えます。

**【授業における到達目標】**

伝承文化が身近に存在していることを認識し、民俗学を学ぶことで、多角的な視点をもって学際的な研究の視座を持つことをことを目標とします。学生が修得すべき「国際的視野」のうち、日本文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度を修得します。

**【授業の内容】**

- 第1週 柳田國男の生涯と日本民俗学
- 第2週 『遠野物語』を読む
- 第3週 〈私の遠野物語〉を語る 口承文芸1 世間話
- 第4週 伝説の地を歩く 口承文芸2 伝説
- 第5週 昔話の芸態 口承文芸3 昔話
- 第6週 生活における昔話の機能
- 第7週 昔話と方言 〈私が昔話を語る〉
- 第8週 絵を語る芸能 絵解き
- 第9週 寺社縁起絵と絵解き 道成寺縁起
- 第10週 高僧伝記絵の絵解き 親鸞絵伝
- 第11週 絵解きの成立過程 高野山荊菫堂 磔茂左衛門
- 第12週 絵解きの復活と継承 荊菫道心石童丸親子絵伝
- 第13週 地獄極楽の儀礼 盆行事と施餓鬼
- 第14週 地獄極楽の絵解き 観心十界曼荼羅 地獄巡り
- 第15週 絵解きと美術史

**【事前・事後学修】**

【事前学修】（学修時間 週2時間）

- ・配布した教材を事前に読んでおいてください。
- ・授業で指示した課題に取り組んでください。

【事後学修】（学修時間 週2時間）

- ・小テストについて復習してください。
- ・自分の身近な民俗事象について想起し、関連性について考察してください。

**【テキスト・教材】**

柳田國男『新版遠野物語 付・遠野物語拾遺』（角川ソフィア文庫 角川学芸出版、2004年）562円  
ほかにプリントを配布します。

**【参考書】**

- 聖和学園短期大学国文学科学生著・久野俊彦・錦仁（編）『1976年夏 東北の昔ばなし 聖和短期大学生のレポートから』（笠間書院 2014年）
- 久野俊彦『縁起と絵解きのフォークロア』（森話社 2008年）
- 林 雅彦『増補 日本の絵解き』（三弥井書店 1982年）
- 赤井達郎『絵解きの系譜』（教育社 1989年）
- 徳田和夫『絵語りと物語り』（平凡社 1990年）

**【注意事項】**

- ・現代の都市社会のあたりりまえのところに、伝承文化が存在しています。そこからの発見に心がけてください。

**民俗芸能 a**

民俗芸能の魅力を探る

吉田 純子

2年～ 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

民俗芸能は、祭礼や年中行事の折などに、地域の人々によって演じられる歌や踊りです。伝統的な盆踊や獅子舞などがその一例ですが、日本中でその数、3万とも4万とも言われています。これら民俗芸能は一個人の創作といったものではありません。民衆が地域の歴史や風土の中で育み、世代から世代へと受け継ぎ、繰り返し行ってきた芸能です。

授業では、全国各地の民俗芸能の中から「神楽（かぐら）」を取り上げ、その魅力、すなわち民衆が創り上げた美のかたちと民俗芸能に関わる人々が芸能に託す祈り、想いを探っていきます。

授業では毎回、映像を使用します。

**【授業における到達目標】**

- ・日本の伝統文化についての豊かな知見を得ることができる
- ・学生が修得すべき「国際的視野」のうち、日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度を修得する

**【授業の内容】**

- 第1週 イン트로ダクション
- 第2週 民俗芸能とは
- 第3週 祭りと芸能 神座について
- 第4週 祭りと芸能 神迎えのわざについて
- 第5週 宮中の御神楽と里神楽
- 第6週 神楽の諸相 ー巫女神楽ー
- 第7週 神楽の諸相 ー採物神楽ー
- 第8週 神楽の諸相 ー湯立神楽ー
- 第9週 神楽の諸相 ー獅子神楽・山伏神楽ー
- 第10週 神楽の諸相 ー獅子神楽・伊勢太神楽ー
- 第11週 神楽にみる神話の世界
- 第12週 神楽にみる呪術的所作
- 第13週 特論 球磨神楽（熊本県人吉・球磨地方）
- 第14週 特論 松前神楽（北海道）
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】（学修時間 週2時間）

- ・配布資料を次回授業までに読んでおくこと
- ・授業で示した課題に取り組むこと

【事後学修】（学修時間 週2時間）

- ・小テスト等について復習をすること
- ・故郷や居住地などの民俗芸能を実際に見たり、調べたりすること

**【テキスト・教材】**

適宜プリントを配布します

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末レポート40%、小テスト40%、平常点（授業への積極参加・リアクションペーパー・提出課題）20%

小テスト、提出課題については、授業中にフィードバックを行うリアクションペーパー等に寄せられた質問等については、できる限り授業で回答等を行う

**【参考書】**

授業中に適宜示します

**【注意事項】**

- ・受講生は不明な点などについて積極的に質問してください
- ・民俗芸能はもとより能・狂言、人形浄瑠璃文楽、歌舞伎など、日本の伝統芸能を実際に見る機会を作る努力をしてください

**民俗芸能 a**

民俗芸能の魅力を探る

吉田 純子

2年～ 前期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

民俗芸能は、祭礼や年中行事の折などに、地域の人々によって演じられる歌や踊りです。伝統的な盆踊や獅子舞などがその一例ですが、日本中でその数、3万とも4万とも言われています。これら民俗芸能は一個人の創作といったものではありません。民衆が地域の歴史や風土の中で育み、世代から世代へと受け継ぎ、繰り返し行ってきた芸能です。

授業では、全国各地の民俗芸能の中から「神楽（かぐら）」を取り上げ、その魅力、すなわち民衆が創り上げた美のかたちと民俗芸能に関わる人々が芸能に託す祈り、想いを探っていきます。

授業では毎回、映像を使用します。

**【授業における到達目標】**

- ・日本の伝統文化についての豊かな知見を得ることができる
- ・学生が修得すべき「国際的視野」のうち、日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度を修得する

**【授業の内容】**

- 第1週 イン트로ダクション
- 第2週 民俗芸能とは
- 第3週 祭りと言能 神座について
- 第4週 祭りと言能 神迎へのわざについて
- 第5週 宮中の御神楽と里神楽
- 第6週 神楽の諸相 ー巫女神楽ー
- 第7週 神楽の諸相 ー採物神楽ー
- 第8週 神楽の諸相 ー湯立神楽ー
- 第9週 神楽の諸相 ー獅子神楽・山伏神楽ー
- 第10週 神楽の諸相 ー獅子神楽・伊勢太神楽ー
- 第11週 神楽にみる神話の世界
- 第12週 神楽にみる呪術的所作
- 第13週 特論 球磨神楽（熊本県人吉・球磨地方）
- 第14週 特論 松前神楽（北海道）
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】（学修時間 週2時間）

- ・配布資料を次回授業までに読んでおくこと
- ・授業で示した課題に取り組むこと

【事後学修】（学修時間 週2時間）

- ・小テスト等について復習をすること
- ・故郷や居住地などの民俗芸能を実際に見たり、調べたりすること

**【テキスト・教材】**

適宜プリントを配布します

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末レポート40%、小テスト40%、平常点（授業への積極参加・リアクションペーパー・提出課題）20%

小テスト、提出課題については、授業中にフィードバックを行うリアクションペーパー等に寄せられた質問等については、できる限り授業で回答等を行う

**【参考書】**

授業中に適宜示します

**【注意事項】**

- ・受講生は不明な点などについて積極的に質問してください
- ・民俗芸能はもとより能・狂言、人形浄瑠璃文楽、歌舞伎など、日本の伝統芸能を実際に見る機会を作る努力をしてください

**民俗芸能 b**

民俗芸能の継承について考える

吉田 純子

2年～ 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

民俗芸能は、名も無き民衆がみずから演じ世代から世代へと伝えてきた芸能です。民俗芸能を伝承する地域社会は、少子高齢化や過疎化など、さまざまな変化に直面し、民俗芸能を継承していくことが難しくなっています。しかし、そのような状況にあってもなお、必死に演じ、次世代へと伝えようとする人々の姿があります。東日本大震災の被災地においては、地域の祭りや芸能が人々を繋ぎ、復興への大きな力となっていることが、多数報告されています。

ここでは、各地の民俗芸能の継承の取り組みをとおして、民俗芸能が地域社会に果たす役割、私たち日本人にとって民俗芸能はどのような意味を持つのかについて考えていきます。

**【授業における到達目標】**

- ・国内及び国際的な文化財（文化遺産）保護の仕組みを理解する
- ・地域社会と民俗芸能の関わりについて検討し、考察できるようになる

**【授業の内容】**

- 第1週 民俗芸能とは ー民俗と芸能ー
- 第2週 日本の文化財保護の制度
- 第3週 文化財としての民俗芸能  
ー民俗芸能の保護とは、守るべきものは何かー
- 第4週 国際的な無形文化遺産の保護の取り組み①  
「無形文化遺産の保護に関する条約」を理解する
- 第5週 国際的な無形文化遺産の保護の取り組み②  
世界遺産と無形文化遺産の制度の違いを理解する
- 第6週 民俗芸能の保護制度の課題を考える
- 第7週 民俗芸能を舞台で見せることについて
- 第8週 校外授業 詳細は下記参照
- 第9週 民俗芸能継承のための各地の取り組み①  
南部切田神楽（青森県十和田市）を事例に
- 第10週 民俗芸能継承のための各地の取り組み②  
五島神楽（長崎県）を事例に
- 第11週 学校教育と郷土芸能
- 第12週 限界集落における民俗芸能の継承
- 第13週 民俗芸能と地域おこし、観光振興
- 第14週 東日本大震災と民俗芸能
- 第15週 民俗芸能を継承する意義

校外授業について「全国民俗芸能大会」実見

日時（予定）平成30年11月24日（土）13時～17時

場所 日本青年館（東京都新宿区霞ヶ丘町7-1）

他の授業で参加できない場合は相談に応じます

**【事前・事後学修】**

【事前学修】配布資料を次回授業までに読んでおくこと。授業で示した課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】小テストなどについて復習すること。故郷や居住地などの民俗芸能を実際に見たり調べたりすること。

（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

適宜プリントを配布します

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末レポート40%、小テスト40%、平常点（授業への積極参加・リアクションペーパー・提出課題）20%

小テスト、提出課題については、授業中にフィードバックを行うリアクションペーパー等に寄せられた質問等については、できる限り授業で回答等を行う

**【参考書】**

授業中に適宜示します

**【注意事項】**

- ・受講生は不明な点などについて積極的に質問してください

**民俗芸能 b**

民俗芸能の継承について考える

吉田 純

2年～ 後期 2単位

◎：美の探究 ○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

民俗芸能は、名も無き民衆がみずから演じ世代から世代へと伝えてきた芸能です。民俗芸能を伝承する地域社会は、少子高齢化や過疎化など、さまざまな変化に直面し、民俗芸能を継承していくことが難しくなっています。しかし、そのような状況にあってもなお、必死に演じ、次世代へと伝えようとする人々の姿があります。東日本大震災の被災地においては、地域の祭りや芸能が人々を繋ぎ、復興への大きな力となっていることが、多数報告されています。

ここでは、各地の民俗芸能の継承の取り組みをとおして、民俗芸能が地域社会に果たす役割、私たち日本人にとって民俗芸能はどのような意味を持つのかについて考えていきます。

**【授業における到達目標】**

- ・国内及び国際的な文化財（文化遺産）保護の仕組みを理解する
- ・地域社会と民俗芸能の関わりについて検討し、考察できるようになる

**【授業の内容】**

- 第1週 民俗芸能とは ー民俗と芸能ー
- 第2週 日本の文化財保護の制度
- 第3週 文化財としての民俗芸能  
ー民俗芸能の保護とは、守るべきものは何かー
- 第4週 国際的な無形文化遺産の保護の取り組み①  
「無形文化遺産の保護に関する条約」を理解する
- 第5週 国際的な無形文化遺産の保護の取り組み②  
世界遺産と無形文化遺産の制度の違いを理解する
- 第6週 民俗芸能の保護制度の課題を考える
- 第7週 民俗芸能を舞台で見せることについて
- 第8週 校外授業 詳細は下記参照
- 第9週 民俗芸能継承のための各地の取り組み①  
南部切田神楽（青森県十和田市）を事例に
- 第10週 民俗芸能継承のための各地の取り組み②  
五島神楽（長崎県）を事例に
- 第11週 学校教育と郷土芸能
- 第12週 限界集落における民俗芸能の継承
- 第13週 民俗芸能と地域おこし、観光振興
- 第14週 東日本大震災と民俗芸能
- 第15週 民俗芸能を継承する意義

校外授業について「全国民俗芸能大会」実見

日時（予定）平成30年11月24日（土）13時～17時

場所 日本青年館（東京都新宿区霞ヶ丘町7-1）

他の授業で参加できない場合は相談に応じます

**【事前・事後学修】**

【事前学修】配布資料を次回授業までに読んでおくこと。授業で示した課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】小テストなどについて復習すること。故郷や居住地などの民俗芸能を実際に見たり調べたりすること。

（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

適宜プリントを配布します

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

期末レポート40%、小テスト40%、平常点（授業への積極参加・リアクションペーパー・提出課題）20%

小テスト、提出課題については、授業中にフィードバックを行うリアクションペーパー等に寄せられた質問等については、できる限り授業で回答等を行う

**【参考書】**

授業中に適宜示します

**【注意事項】**

- ・受講生は不明な点などについて積極的に質問してください

**民法概論**

成瀬 敏郎

2年 前期 2単位

○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

本講義は民法の基本的な知識習得を目的とする。

私法の一般法である民法は日常生活に最も関りが深い法律である。

本講義では、民法の基本的な思考方法を学び、民法典に規定されている諸制度を広く概観する。

**【授業における到達目標】**

民法の歴史・法システムを学ぶことにより次を習得する。

- ①社会には多様な価値観を持つ者が存在することの認識・受容力
- ②民事紛争における法的問題解決プロセス

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス、民法概論
- 第2週 民法と民法典（構造、歴史、基本原理等）
- 第3週 権利と義務（権利と義務、物権と債権、権利の濫用）
- 第4週 法律行為（契約、法律行為、意思表示等）
- 第5週 代理（意義、無権代理、表見代理）
- 第6週 時効（時効制度・取得時効・消滅時効）、期間
- 第7週 所有権（物権の種類、所有権、物権的請求権等）
- 第8週 総則・物権の論点
- 第9週 契約の種類・成立・効果、双務契約上の2債務の関係
- 第10週 権利移転型契約、貸借型契約
- 第11週 債務不履行、人的担保
- 第12週 物的担保（抵当権等）
- 第13週 不法行為（損害賠償）
- 第14週 親族・相続
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

【事前学修】前回までの復習及び事前課題の整理をすること。  
（学修時間 週2時間）

【事後学修】課題及び提示した専門用語を調べること。  
（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

野村豊弘著『民事法入門 第7版（有斐閣アルマ）』（有斐閣 2017年）1,944円  
ISBN：978-4-641-22105-5

※教材として必ず「六法」を持参すること。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

成績：試験 80%、小テスト又はリアクションペーパー 20%  
フィードバック：小テスト等は次週、試験は最終週に行う。

**【参考書】**

随時紹介する。

**民法概論**

成瀬 敏郎

2年～ 前期 2単位

○：国際的視野

**【授業のテーマ】**

本講義は民法の基本的な知識習得を目的とする。

私法の一般法である民法は日常生活に最も関りが深い法律である。

本講義では、民法の基本的な思考方法を学び、民法典に規定されている諸制度を広く概観する。

**【授業における到達目標】**

民法の歴史・法システムを学ぶことにより次を習得する。

- ①社会には多様な価値観を持つ者が存在することの認識・受容力
- ②民事紛争における法的問題解決プロセス

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス、民法概論
- 第2週 民法と民法典（構造、歴史、基本原理等）
- 第3週 権利と義務（権利と義務、物権と債権、権利の濫用）
- 第4週 法律行為（契約、法律行為、意思表示等）
- 第5週 代理（意義、無権代理、表見代理）
- 第6週 時効（時効制度・取得時効・消滅時効）、期間
- 第7週 所有権（物権の種類、所有権、物権的請求権等）
- 第8週 総則・物権の論点
- 第9週 契約の種類・成立・効果、双務契約上の2債務の関係
- 第10週 権利移転型契約、貸借型契約
- 第11週 債務不履行、人的担保
- 第12週 物的担保（抵当権等）
- 第13週 不法行為（損害賠償）
- 第14週 親族・相続
- 第15週 総括

**【事前・事後学修】**

【事前学修】前回までの復習及び事前課題の整理をすること。  
（学修時間 週2時間）

【事後学修】課題及び提示した専門用語を調べること。  
（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

野村豊弘著『民事法入門 第7版（有斐閣アルマ）』（有斐閣 2017年）1,944円  
ISBN：978-4-641-22105-5

※教材として必ず「六法」を持参すること。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

成績：試験 80%、小テスト又はリアクションペーパー 20%  
フィードバック：小テスト等は次週、試験は最終週に行う。

**【参考書】**

随時紹介する。

## 余暇生活論

—自由な時間の個人的・社会的意味—

西脇 智子

1・2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

余暇という領域は誰もが自由に、主体的に生きることのできる場所です。「何をしてもいい、何もしなくていい」時間であるからこそ、そこには人の個性や価値観が強く現れてきます。また余暇は単に個人の問題であるばかりでなく、社会にとっても重要な「資源」なのです。この授業では、暮らしの中の余暇の姿を確かめ、余暇と社会との関わりを考え、余暇生活の歴史を振り返り、さらに余暇を人権と福祉の視点から検討していきます。

### 【授業における到達目標】

- ・学ぶ愉しみを知り、生涯にわたり知を探究する「研鑽力」を身につけることをめざします。
- ・物事の真理を探究し「美の探究」を実践できるようになることをめざします。

### 【授業の内容】

- 第1週 余暇の定義
- 第2週 日本人の余暇生活
- 第3週 余暇のさまざまなかたち
- 第4週 余暇から見た時代の動き
- 第5週 『モモ』に学ぶ時間
- 第6週 生活の中の余暇時間を計る
- 第7週 年中行事と歳時記
- 第8週 スローライフのすすめ
- 第9週 高齢社会の余暇
- 第10週 情報社会の余暇
- 第11週 園芸と余暇
- 第12週 人権としての余暇
- 第13週 余暇と福祉
- 第14週 余暇学への招待
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

- ・事前学修：授業内容に照らした配布資料を読んで予習します。  
(学修時間 週2時間)
- ・事後学修：授業内容に照らして復習し、授業時に出された課題に取り組みます。(学修時間 週2時間)

### 【テキスト・教材】

配付するプリント資料を使用します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

配分基準：レポート60%、平常点（授業中の発言、ドリル）40%です。ドリルは次回授業、課題レポートの結果は授業最終回でフィードバックを行います。

### 【参考書】

子安美知子『「モモ」を読む』朝日文庫、1991年初版 580円



## 幼児教育法

井口 眞美・長谷川 恭子

3年 通年 2単位

◎：研鑽力 ○：行動力、協働力

### 【授業のテーマ】

この授業では、教育実習を行うにあたっての事前指導を中心に進め、教育実習（幼小コースは3年2月、幼保コースは4年6月）の準備を行う。具体的には、教育実習に関する諸手続き、意義・心得について学ぶ。また、教材研究を行い、日野市のこどもまつりに参加したり、指導案（部分実習）を作成し模擬保育を行ったりする。

### 【授業における到達目標】

教育実習に向けて、諸手続きや実習の意義・心得について理解し、主体的に教育実習に臨む姿勢を養い、「研鑽力」を育む。

「手をつなごう こどもまつり」へ主体的に参加したり、模擬保育を実施したりすることを通して、学生が修得すべき「行動力」「協働力」のうち、問題解決力を身につけ、実践的な能力を高める。

### 【授業の内容】

（前期）

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 保育における表現とは1（表現能力の発達）
- 第3週 保育における表現とは2（感受と表現）
- 第4週 保育における表現とは3（体験）
- 第5週 遊びの展開
- 第6週 歌唱と鑑賞（第1グループの発表と鑑賞）
- 第7週 歌唱と鑑賞（第2グループの発表と鑑賞）
- 第8週 総合的な表現1（基礎）
- 第9週 総合的な表現2（展開）
- 第10週 保育者の役割（外部講師）
- 第11週 保育における表現の実際1（わらべうたによる保育の基礎）
- 第12週 保育における表現の実際2（わらべうたによる保育の展開）
- 第13週 実習園の開拓について
- 第14週 教材研究1（第1グループの発表と鑑賞）
- 第15週 教材研究2（第2グループの発表と鑑賞）、前期のまとめ

（後期）

- 第1週 夏休みの課題発表
- 第2週 こどもまつりの準備1（活動内容の話し合い、準備）
- 第3週 こどもまつりの準備2（用具の作成、当日の打ち合わせ）
- 第4週 こどもまつり当日の運営
- 第5週 こどもまつりのふり返り
- 第6週 実習の心得＜外部講師による講話＞
- 第7週 指導案の書き方
- 第8週 指導案の作成
- 第9週 模擬保育（第1グループによる模擬保育）
- 第10週 模擬保育（第2グループによる模擬保育）
- 第11週 模擬保育（第3グループによる模擬保育）
- 第12週 模擬保育（第4グループによる模擬保育）
- 第13週 教育実習事前指導（幼小コース）
- 第14週 子育て支援の実際＜外部講師による講話＞
- 第15週 教育実習に向けて、壮行式

### 【事前・事後学修】

【事前学修】週2時間

教材研究、模擬保育、こどもまつりにおいては、事前に周到な準備を行い当日を迎えること。

【事後学修】週2時間

授業を踏まえ、子どもと関わる機会を設けたり、保育に関する文献を読んだりして知識を確実にすること。

### 【テキスト・教材】

なし。必要に応じてプリント等の資料を配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

受講態度（授業への取り組み方）30%、授業内課題（指導案等）40%、模擬保育30%

課題については振り返りの場をもち、観察学習での学びを定着させ

る。また、模擬保育に関しては、個別にフィードバックを行い、再度自分の保育を見直す機会を設ける。

### 【参考書】

文部科学省『幼稚園教育要領』（平成29年）

### 【注意事項】

実習に向けての手続きなども含まれる授業である。やむなく欠席した場合は、必ず井口研究室を訪問し、授業内容を確認し資料を受け取ること。

外部講師による講話は、講師の都合により、日程が変更になることがある。

**理化学実験**

山崎 壮

1年 前期 1単位 2時限連続 隔週

◎：研鑽力 ○：行動力

**【授業のテーマ】**

物質の化学的性状や変化を理解し、化学的なものの見方、考え方を修得するためには、実験は大変有効です。この授業では、化学実験の基本的操作、化学反応式で示される量的関係に基づく定量分析、実験データのまとめ方などを学修します。

**【授業における到達目標】**

実験の基礎的操作手法と実験態度、さらには実験レポートの書き方の基礎を修得することをめざします。

**【授業の内容】**

## 第1週 ガイダンス

- ①実験に関する安全上の注意
- ②実験レポートの書き方
- ③基本的な実験器具類の取り扱い方

## 第2週 定性分析

- ①食品中のタンパク質、でんぷん、塩分の検出
- ②炎色反応による金属イオンの検出

## 第3週 溶液の調製法と希釈法、液性測定

## 第4週 中和滴定

- ①中和滴定曲線の作成
- ②食酢中の酢酸の定量

## 第5週 酸化・還元滴定 アスコルビン酸（還元型）の定量

## 第6週 物質の分離

- ①ペーパークロマトグラフィーによる水溶性色素の分離
- ②薄層クロマトグラフィー（TLC）によるアントシアニン系色素の分離

## 第7週 有機合成

- ①香りをもつエステル合成
- ②ナイロンの合成

## 第8週 Excelで実験データを整理する（PC演習室で実施）

**【事前・事後学修】****【事前学修】**

毎回、実験操作手順を予習する。（学修時間 週1時間）

**【事後学修】**

実験結果を実験レポートにまとめる。（学修時間 週3時間）  
提出期限は、原則として授業の1週間後。未提出と期限後提出は減点します。

**【テキスト・教材】**

実験テキストを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

毎回の授業ごとに提出する実験レポート（90%）と実験への取り組み態度（10%）で評価します。

実験レポートは採点し、コメントをつけて返却します。実験結果の解釈やレポート課題を解説した文書も、必要に応じて返却レポートに添えて渡します。

**【参考書】**

『サイエンスビュー化学総合資料』（実教出版）や『フォトサイエンス化学図録』（数研出版）などの高校化学副教材の図録集。800円程度。

Excelの操作法解説書

**【注意事項】**

薬品や実験器具による災害防止のため、白衣（ダブル仕立て）を着用する、長髪は束ねる、マニキュアはとるなど、実験授業のルールを守ること。実験室内は飲食禁止。詳しくは第1回授業「ガイダンス」の中で説明します。

## 理化学実験

山崎 壮

1年 後期 1単位 2時限連続 隔週

◎：研鑽力 ○：美の探究

### 【授業のテーマ】

物質の化学的性状や変化を理解し、化学的なものの見方、考え方を修得するためには、実験は大変有効です。この授業では、化学実験の基本的操作、化学反応式で示される量的関係に基づく定量分析、実験データのまとめ方などを学修します。

### 【授業における到達目標】

実験の基礎的操作手法と実験態度、さらには実験レポートの書き方の基礎を修得することをめざします。

### 【授業の内容】

第1週 ガイダンス

- ①実験に関する安全上の注意
- ②実験レポートの書き方
- ③基本的な実験器具類の取り扱い方

第2週 定性分析

- ①食品中のタンパク質、でんぷん、塩分の検出
- ②炎色反応による金属イオンの検出

第3週 溶液の調製法と希釈法、液性測定

第4週 中和滴定

- ①中和滴定曲線の作成
- ②食酢中の酢酸の定量

第5週 酸化・還元滴定 アスコルビン酸(還元型)の定量

第6週 物質の分離

- ①ペーパークロマトグラフィーによる水溶性色素の分離
- ②薄層クロマトグラフィー (TLC) によるアントシアニン系色素の分離

第7週 有機合成

- ①香りをもつエステル合成
- ②ナイロンの合成

第8週 Excelで実験データを整理する (PC演習室で実施)

### 【事前・事後学修】

#### 【事前学修】

毎回、実験操作手順を予習する。(学修時間 週1時間)

#### 【事後学修】

実験結果を実験レポートにまとめる。(学修時間 週3時間)  
提出期限は、原則として授業の1週間後。未提出と期限後提出は減点します。

### 【テキスト・教材】

実験テキストを配布します。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

毎回の授業ごとに提出する実験レポート(90%)と実験への取り組み態度(10%)で評価します。

実験レポートは採点し、コメントをつけて返却します。実験結果の解釈やレポート課題を解説した文書も、必要に応じて返却レポートに添えて渡します。

### 【参考書】

『サイエンスビュー化学総合資料』(実教出版)や『フォトサイエンス化学図録』(数研出版)などの高校化学副教材の図録集。800円程度。

Excelの操作法解説書

### 【注意事項】

薬品や実験器具による災害防止のため、白衣(ダブル仕立て)を着用する、長髪は束ねる、マニキュアはとるなど、実験授業のルールを守ること。実験室内は飲食禁止。詳しくは第1回授業「ガイダンス」の中で説明します。

**理科**

小島 敏光

3年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、協働力

**【授業のテーマ】**

小学校理科の目標および各学年・各区分における基礎的な指導内容の理解を目指します。

小学校理科における各学年の目標と内容構成の考え方を理解するとともに、各学年に系統性を踏まえた指導、小学校理科で取り扱う観察・実験の基本的な操作、安全指導、観察・実験の準備における留意点などを修得する。

**【授業における到達目標】**

・小学校理科の目標や各学年・各区分における内容の構成について修得する。また、各学年の系統性を踏まえた指導、取り扱う観察・実験の基本的な操作、安全指導、観察・実験の準備における留意点などを修得する。

・学生が身につけるべき「行動力」のうち、目標を設定して計画を立案・実行できる力と、「協働力」のうち、互いに協力して物事を進める力、「美の探究」のうち、新たな知を創造しようとする態度を特に意識して修得する。

**【授業の内容】**

第1回：小学校教員の理科指導に求められる科学リテラシー

第2回：理科教育の目標と内容の系統性

第3回：理科の学年目標と内容の構成

第4回：理科指導と問題解決

第5回：理科教育における観察・実験の意義

第6回：実験器具の取り扱いと安全指導

第7回：B区分「生命」（動物の活動、植物の成長）

第8回：B区分「生命」（生命の連続性、生物と環境）

第9回：A区分「エネルギー」（光、磁石、電気の働き）

第10回：A区分「エネルギー」（物質の運動）

第11回：A区分「粒子」（物質の変化）

第12回：A区分「粒子」（物質の性質、燃焼）

第13回：B区分「地球」（流水の働き、土地のつくりと働き）

第14回：B区分「地球」（天気の変化、月と太陽）

第15回：まとめと各自の課題

**【事前・事後学修】**

【事前学修】次回の授業範囲について予習し、専門用語や内容の概要を理解しておくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】レポートの課題の取り組みこと。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

文部科学省『小学校学習指導要領解説理科編』（大日本図書2008）

65円

適宜、教材を配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業への積極参加）20%、授業後のレポート40%、提出課題40%により、総合的に評価します。

レポートは、次回授業で、提出課題は、授業最終回でフィードバックを行う。

**【参考書】**

適宜、授業の中で紹介します。

**【注意事項】**

教職に就くことを前提に授業を進めていきます。意欲をもって、積極的に講義に臨んでほしい。

**流通サービス論**

斎藤 明

3年 前期 2単位

©：研鑽力

**【授業のテーマ】**

流通サービスは、生産と消費を結びつけ、私たちの豊かで質の高い消費生活を支える役割を果たしています。

私たちは、一日としてかかわることなく生活できないほど、様々な形態の流通サービスとかがかかわっています。

本講義では、特に私たちに身近な小売業における様々な業態を事例に、流通サービスの基本的な考え方と役割を中心に学習します。身近な流通サービスの事例を通じて、体系的に流通サービスの役割と仕組みを理解することを目標とします。

**【授業における到達目標】****■到達目標■**

流通論における基本的なフレームワークおよび視点を理解し、流通業の企業活動や社会活動を当該フレームワークに基づき論理的に理解、説明できる。

**■ディプロマ・ポリシー（DP）との関連■**

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、深い洞察力を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション：流通とは
- 第2週 流通サービス業の発展と役割
- 第3週 百貨店
- 第4週 総合スーパー・食品スーパー
- 第5週 コンビニエンスストア
- 第6週 ディスカウントストア
- 第7週 ショッピングセンター
- 第8週 SPA
- 第9週 インターネットを介した流通サービス
- 第10週 流通サービス業のグローバル化
- 第11週 流通サービス業のマーケティング
- 第12週 流通サービス業と商品開発：プライベートブランド商品
- 第13週 流通サービス業と顧客情報
- 第14週 流通サービス業と立地
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：前回までの復習を実施し、授業に参加すること。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業内で詳細された概念等に関して整理し、ノートを作成し、理解を促進する。（学修時間 週2時間）

上記プロセスを繰り返すことで、授業内容の理解を獲得し、自律的学修を促進する。

**【テキスト・教材】**

石原・竹村『1からの流通論』（碩学舎、2008年）2,400円＋税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】****■成績評価■**

定期試験：100%

**■フィードバック■**

試験結果は授業最終回でフィードバックを実施する。

**【参考書】**

田村正紀『流通原理』千倉書房2001年

原田・向山・渡辺『ベーシック流通と商業 新版 -現実から学ぶ理論と仕組み』有斐閣アルマ2010年

青木・石川『新流通論（改訂版）』創成社2014年

**【注意事項】**

事前学習および事後学習において、各自ノートを作成することを徹底すること。

**流通サービス論**

斎藤 明

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力

**【授業のテーマ】**

流通サービスは、生産と消費を結びつけ、私たちの豊かで質の高い消費生活を支える役割を果たしています。

私たちは、一日としてかかわることなく生活できないほど、様々な形態の流通サービスとかがわっています。

本講義では、特に私たちに身近な小売業における様々な業態を事例に、流通サービスの基本的な考え方と役割を中心に学習します。身近な流通サービスの事例を通じて、体系的に流通サービスの役割と仕組みを理解することを目標とします。

**【授業における到達目標】****■到達目標■**

流通論における基本的なフレームワークおよび視点を理解し、流通業の企業活動や社会活動を当該フレームワークに基づき論理的に理解、説明できる。

**■ディプロマ・ポリシー（DP）との関連■**

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、深い洞察力を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション：流通とは
- 第2週 流通サービス業の発展と役割
- 第3週 百貨店
- 第4週 総合スーパー・食品スーパー
- 第5週 コンビニエンスストア
- 第6週 ディスカウントストア
- 第7週 ショッピングセンター
- 第8週 SPA
- 第9週 インターネットを介した流通サービス
- 第10週 流通サービス業のグローバル化
- 第11週 流通サービス業のマーケティング
- 第12週 流通サービス業と商品開発：プライベートブランド商品
- 第13週 流通サービス業と顧客情報
- 第14週 流通サービス業と立地
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：前回までの復習を実施し、授業に参加すること。（学修時間 週2時間）

事後学修：授業内で詳細された概念等に関して整理し、ノートを作成し、理解を促進する。（学修時間 週2時間）

上記プロセスを繰り返すことで、授業内容の理解を獲得し、自律的学修を促進する。

**【テキスト・教材】**

石原・竹村『1からの流通論』（碩学舎、2008年）2,400円＋税

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】****■成績評価■**

定期試験：100%

**■フィードバック■**

試験結果は授業最終回でフィードバックを実施する。

**【参考書】**

田村正紀『流通原理』千倉書房2001年

原田・向山・渡辺『ベーシック流通と商業 新版 -現実から学ぶ理論と仕組み』有斐閣アルマ2010年

青木・石川『新流通論（改訂版）』創成社2014年

**【注意事項】**

事前学習および事後学習において、各自ノートを作成することを徹底すること。

留学英語 a

ミラー, ブルース

1・2年 前期 1単位

◎: 国際的視野 ○: 研鑽力

presentations and feedback will be given to students individually in the middle and end of the semester.

【注意事項】

The class will be conducted in English. Active participation is valued and encouraged. Please do your best to think in English and speak in English at all times inside the classroom.

受講人数制限40名（制限人数を超えた場合、抽選）

【授業のテーマ】

Students will gain an understanding of the parts of a paragraph and an essay as well as study the writing process from pre-writing and doing minor research to writing drafts and revising. While learning what each stage of the process involves, they get to improve their personal technique and confidence in writing as they tackle different writing assignments on topics of their choice. The course will also give students a chance to practice editing their own work and others' writing. It is a helpful course for students who wish to equip themselves for study abroad or need to hone their writing skills for test-taking or other academic endeavors.

【授業における到達目標】

The course aims to help students express their ideas through writing with a focus on developing academic writing skills by learning to write paragraphs and essays. In doing so, students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem-solving skills to gain deeper insights into the course content.

【授業の内容】

- Week 1 Orientation and introduction to the course
- Week 2 Writing assessment
- Week 3 Formatting and layout
- Week 4 Features of a paragraph :  
Topic sentence & supporting sentences
- Week 5 Features of a paragraph :  
Concluding sentence & transitional sentence
- Week 6 Paragraph unity and signal words
- Week 7 Using different types of support
- Week 8 Submission of midterm composition
- Week 9 Features of an essay :  
Introduction paragraph & thesis statement
- Week 10 Features of an essay :  
Body paragraphs & concluding paragraph
- Week 11 Making an outline
- Week 12 Writing persuasive essays
- Week 13 Individual consultations
- Week 14 Writing letters and other types of writing
- Week 15 Submission of final composition and wrap-up

【事前・事後学修】

事前学修 : Students should come to class prepared and complete all compositions, in-class work and homework on time. (Approximately 1-2 hours a week)

事後学修 : Students must review past lessons and preview lessons for the next meeting. (Approximately 1-2 hours a week)

【テキスト・教材】

Class materials to be provided by the teacher. Have a notebook for taking notes and also prepare a file folder for keeping all printouts and assignments.

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- Class participation and attendance (20%)
- Midterm composition (20%)
- In-class exercises and homework (40%)
- Final composition (20%)

There will be peer and teacher evaluation during

留学英語 b

ミラー, ブルース

1・2年 前期 1単位

◎: 国際的視野 ○: 研鑽力

【授業のテーマ】

In this course, students will develop and strengthen their English skills in preparation for study abroad. The course involves an integrated approach that allows students to gain confidence and to strengthen reading, writing, listening, speaking as well as other skills such as organizing presentations, engaging in discussions, note-taking, and information gathering. It is hoped that strengthening these abilities will help students in their academic activities such as attending lectures, research work, and test-taking.

【授業における到達目標】

Students have sufficient confidence and competence in their English skills and are prepared for the rigors of overseas study. In doing so, students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem-solving skills to gain deeper insights into the course content.

【授業の内容】

- Week 1 Orientation and introduction to the course
- Week 2 Organizing group discussions
- Week 3 Organizing a presentation
- Week 4 Individual presentations
- Week 5 Brainstorming
- Week 6 Using library resources and information gathering
- Week 7 Review
- Week 8 Note-taking
- Week 9 Understanding research
- Week 10 Making citations
- Week 11 Making an outline
- Week 12 Understanding the TOEIC and TOEFL
- Week 13 Test-taking techniques
- Week 14 Submission of mini research/project
- Week 15 Final presentations and wrap-up

【事前・事後学修】

事前学修: Students should come to class prepared and complete all in-class tasks, papers, and assignments on time. (Approximately 1-2 hours a week)

事後学修: Students must review past lessons and preview lessons for the next meeting. (Approximately 1-2 hours a week)

【テキスト・教材】

Class materials to be provided by the teacher. Have a notebook for taking notes and also prepare a file folder for keeping all printouts and assignments.

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

- Class participation (20%)、In-class activities (30%)
- Mini research/project (20%)
- Final presentation (20%)
- Note-taking notebook (10%)

There will be peer and teacher evaluation during presentations and feedback will be given to students individually in the middle and end of the semester.

【注意事項】

The class will be conducted in English. Active participation is valued and encouraged. Please do your best to think in English and speak in English at all times inside the classroom.

受講人数制限40名（制限人数を超えた場合、抽選）



**旅行実務**

旅行業務の基礎知識

古谷 昌重

1年 前期 1単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

**【授業のテーマ】**

旅行は、私たちにとって身近なものであると同時に、産業としても重要性を増しています。その旅行を取り巻く現状と旅行業界の仕組みや仕事について幅広く学びます。

添乗員の役割とマナーを理解し、添乗員として知っておかねばならない旅行業務（国内・海外）に関する基本的な知識を修得してゆきます。

**【授業における到達目標】**

- 1 旅行業務（国内・海外）に関する基礎的な知識を修得する。
- 2 国内旅程管理主任者（国内添乗員）の資格取得の一助となる基礎知識を修得する。
- 3 旅行に関する情報収集方法と基礎知識を身に付け、実生活に役立てられるようにする。

ディプロマポリシーとの関連:旅行業務で大切となる「協働力」や、添乗員に求められる「国際的視野」と「行動力」の重要性について学びます。そして、学ぶ楽しさを知り、学修を通して自己成長する「研鑽力」を身に着けます。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス（授業の進め方と旅行の現状について）
- 第2週 旅行業のあらし
- 第3週 添乗員と添乗業務の基礎
- 第4週 国内旅行の基礎知識（主要観光地と観光スポット）
- 第5週 国内旅行の基礎知識（JR、鉄道）
- 第6週 国内旅行の基礎知識（航空、その他の運送機関）
- 第7週 国内旅行の基礎知識（観光情報、宿泊、食事）
- 第8週 国内旅行の基礎知識（パッケージツアーと団体旅行）
- 第9週 海外旅行の基礎知識（主要観光地と観光スポット）
- 第10週 海外旅行の基礎知識（運送機関）
- 第11週 海外旅行の基礎知識（宿泊機関）
- 第12週 海外旅行の基礎知識（渡航手続と出入国手続）
- 第13週 業法・約款
- 第14週 外部講師による特別講演（空港送迎・旅程管理：㈱TEI）
- 第15週 復習テスト

**【事前・事後学修】**

事前学修：旅番組や雑誌、ガイドブックや旅行パンフレットなどを見て、旅への興味と関心を深めてください。テキストに出てくるわからない業界用語や観光施設、宿泊先、食事場所などについての下調べや情報収集を行ってください。

事後学修：テキストや教材の内容を復習し、用語や意味を確実に理解してください。

事前・事後学修合わせて週2時間以上の学修を行なってください。

**【テキスト・教材】**

『旅行業務入門』（JTB総合研究所 2017年） 1,950円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

復習テスト40%、小レポート30%、平常点（授業への積極参加）30%を基準に評価します。小レポートは次回授業で、復習テストは最終授業でフィードバックを行います。

**【参考書】**

原 好正『「日本一の添乗員」が大切にする接客の作法』2015 朝日新聞出版

その他、必要に応じて授業で紹介します。

**【注意事項】**

第一回目の授業で、授業の進め方と成績評価に関する説明を行いますので必ず出席してください。また、羽田空港でのインターンシップを希望する学生は、この授業を履修することを勧めます。

受講人数制限40名（制限を超えた場合は抽選）

## 倫理学入門 a

生命倫理と環境倫理

岡部 英男

1年～ 前期 2単位

◎：美の探求 ○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

こんにち従来の価値観が崩壊し、対人関係の希薄化とともにモラルの低下が顕在化しつつある。昨今の様々な事件はそれを如実に表している。どうすれば社会の成員すべてに妥当する倫理を見出し創出することができるのか。本講義のねらいは、そうした価値について考察しそれを自らの行動に活かすこと、つまり損得だけではない「よく生きる」ことの意味を学ぶことです。まずは何が問題なのかを知ることが最初の目的であり、それをどう解決すべきかを自ら考えることが次の目的です。まず前期では現在の諸問題（生命倫理、環境倫理）を概説します。

### 【授業における到達目標】

1 自己中心ではなく他者を尊重したいわゆる態度、優しさと強さを兼ね備え、倫理観をもって人格を陶冶しようとする態度を身につける（協働力）。2 体外受精・臓器移植・安楽死などの生命倫理の諸問題について広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる（研鑽力）。

### 【授業の内容】

- 第1週 一年間の予定。倫理学（ethics）の語義・対象・課題。道徳との異同。
- 第2週 学問全体における倫理学の位置づけ。実践的学問としての倫理学。生命倫理学の誕生。
- 第3週 生命倫理（体外受精、代理母、精子バンク）
- 第4週 生命倫理（体外受精の問題点、余剰胚、臓器製造）
- 第5週 生命倫理（人工妊娠中絶、三期説）
- 第6週 生命倫理（出生前診断、着床前診断、遺伝子操作への賛成論と反対論）
- 第7週 生命倫理（優生思想）
- 第8週 生命倫理（脳死、臓器移植、臓器移植の問題点）
- 第9週 生命倫理（安楽死）
- 第10週 生命倫理（生命の尊厳と生命の質、パーソン論）
- 第11週 生命倫理（医療の倫理、パターンリズムからインフォームド・コンセントへ）
- 第12週 生命倫理（医療と正義、医療資源の配分、四つの原則）
- 第13週 環境倫理（倫理学の対象の拡大、環境倫理の三つの主張、自然の生存権、自然保護の諸段階）
- 第14週 環境倫理（世代間倫理、未来に対する責任、人口問題と南北問題）
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】教科書の該当箇所を予め読んでおくこと。関連する諸テーマについてテレビ・新聞・インターネットなどで報道されるものを積極的に見て、関心をもつこと（学修時間 週1時間）。

【事後学修】この授業では、予習よりも復習に重点を置いてほしい。毎回ノートを整理して、教科書の該当箇所を読み返し、復習すること。小テストの課題を復習して確認しておくこと（学修時間 週3時間）。

### 【テキスト・教材】

小坂国継・岡部英男（編）『倫理学概説』（ミネルヴァ書房）3,000円

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト約30%（1回4点を7回）、試験60%、平常点（授業態度）約10% 授業の始めに前回授業を復習し確認する。小テストを行ったときは、次回授業で再び説明し確認する。定期試験については、最終回の授業で解説し確認する。

### 【参考書】

小坂国継・本郷均（編）『概説 現代の哲学思想』（ミネルヴァ書房 2012年）3,500円。該当箇所についてはコピーして配布する予定。

## 倫理学入門 a

「感受性」の視点から見る倫理学史（古代～中世）

尾形 弘紀

1年～ 前期 2単位

◎：美の探求 ○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

倫理学者と辻哲郎は、「倫理」とは人間社会を根底から支える「すじ道」のようなものと捉えています。ただこの定義では、倫理は人と人の間柄の問題に落ち着いてしまい、似た者同士の集団が存続するための作法という意味を持ってしまいます。私とは異質な他者、あるいは畏怖すべき何者か、つまりカミと呼ぶべき存在への配慮は二の次となってしまわずです。しかし、日本人の心の歴史を振り返ると、倫理とは人間社会に通用する規範意識というだけでなく、神や仏などの超越的存在をも常に考慮したものだったことがよくわかります。

そこで本講義では、日本人の「感受性」の歴史における古代～中世の時代を対象にして、過去の人びとがそうした超越的存在をどのように考えてきたかを捉え、倫理的思考の基礎を形成する作業をしたいと考えています。

### 【授業における到達目標】

古代から中世までの日本人の「感受性」の推移に焦点を当て、この国の人びとが神や仏とどのように交渉を持ちつつ、社会を営んできたかを明確に理解することを到達目標とします。そしてこの歴史的考察を通じ、現代における倫理学上のさまざまな問題に斬り込む新たな視点を多く身に付けることができたらよいと考えます。

それらの目標を見すえて学修を進めることは、全学ディプロマポリシーに掲げられた、日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度や、人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度を養うことに結びつくはずで

### 【授業の内容】

- 第1週 イントロダクション：「感受性」の学とはなにか
- 第2週 カミとはなにか：神の語の定義について
- 第3週 日本神話にみる世界観：天地開闢神話
- 第4週 日本神話にみる死生観：国生み神話、黄泉国訪問神話
- 第5週 日本神話にみる性の観念：女神の死と世界の生成力
- 第6週 「聖性地形」について：神出現の形態学
- 第7週 古代的視覚の特質①：人と世界との密着
- 第8週 古代的視覚の特質②：世界との隔たりの意識の発生
- 第9週 仏教の受容①：新しいカタチとしての仏教
- 第10週 仏教の受容②：「個」の意識の発生
- 第11週 仏教者の視覚の特質：古代の「夢分析」
- 第12週 仏教者の現実否定①：浄土信仰の特質
- 第13週 仏教者の現実否定②：「脱色」された美の発見
- 第14週 仏教者の現実肯定：「山は山か？」
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

【事前学修】問われていることが日本人の心の問題であるため、日頃の自身の常識を疑う心構えが必要です。また、講義前には、前回に配布されたプリントを読み直し、不明の語を調べるなどしてから、講義に臨んでください。（学修時間：週2時間）

【事後学修】講義後早いうちに、配布されたプリントを読み直し、知識の定着を図ってください。さらに、関心を持った事項については、事典やインターネット等で調べるようにすると、次週の講義の理解が格段に進むはずで

### 【テキスト・教材】

毎週、プリントを配布しますので、特定の教科書は用いません。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

60%：平常点（出席回数、授業態度、リアクション・ペーパーの内容などを考慮します）

40%：試験（試験は、プリントとノートの持ち込みを許可します。出題内容については講義内で数週前に予告します）

なお、試験結果は授業最終週にフィードバックを行う予定です。

## 倫理学入門 b

倫理学史と現代の正義論

岡部 英男

1年～ 後期 2単位

◎：美の探求 ○：国際的視野、研鑽力

## 【参考書】

必要に応じて指示します。

## 【授業のテーマ】

こんにち従来の価値観が崩壊し、対人関係の希薄化とともにモラルの低下が顕在化しつつある。昨今の様々な事件はそれを如実に表している。どうすれば社会の成員すべてに妥当する倫理を見出し創出することができるのか。本講義のねらいは、そうした価値について考察しそれを自らの行動に活かすこと、つまり損得だけではない「よく生きる」ことの意味を学ぶことです。まずは何が問題なのかを知ることが最初の目的であり、それをどう解決すべきかを自ら考えることが次の目的です。後期では過去の代表的思想を解説し、最後に再び現代の問題（正義論）を考え、格差社会と公正な社会について考察します。

## 【授業における到達目標】

- 1 さまざまな価値観があることを理解し、自分の価値観を他者に強制しない態度、優しさと強さを兼ね備え、倫理観をもって人格を陶冶しようとする態度を身につけることができる（協働力）。
- 2 格差や不正といった現在の社会の問題点について、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる（研鑽力）。

## 【授業の内容】

- 第1週 倫理学 (ethics) の語義・対象・課題。道徳との異同。過去の倫理学史を学ぶことにどんな意味があるのかを現代の経営倫理との比較で考える。人間の自己理解の変遷、近代主体性、習俗、道徳性、人倫。
- 第2週 古代ギリシアの正義観の変遷、ノモス観の変遷
- 第3週 ソフィスト 対 ソクラテス
- 第4週 プラトンの理想国家、アリストテレスの現実的倫理学
- 第5週 ユダヤ教（契約、律法、メシア思想）、キリスト教（イエスの教え、パウロ、十字架による贖罪、アガペー）
- 第6週 ルネッサンスのユマニスム、教養概念の成立、宗教改革と禁欲的職業倫理。
- 第7週 社会契約説1（ホッブズ）
- 第8週 社会契約説2（ロック、ルソー）
- 第9週 カントの倫理学1（条件付きの善と無条件の善、善い意志）
- 第10週 カントの倫理学2（道徳法則、意志の自律としての自由、カントへの批判）
- 第11週 ヘーゲルの市民社会論（家族、市民社会、国家）
- 第12週 功利主義（快樂、最大多数の最大幸福、制裁）
- 第13週 ニーチェの道徳批判（力への意志、ルサンチマン）
- 第14週 正義論（公正な社会と自由な社会、ロールズの正義論とそれへの批判）
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

【事前学修】教科書の該当箇所を予め読んでおくこと。関連する諸テーマ（とりわけ正義論）について、テレビ・新聞・インターネットなどで報道されるものを積極的に見て、関心をもつこと（学修時間 週1時間）。

【事後学修】この授業では、予習よりも復習に重点を置いてほしい。毎回ノートを整理して、教科書の該当箇所を読み返し、復習すること。小テストの課題を復習して確認しておくこと（学修時間 週3時間）。

## 【テキスト・教材】

小坂国継・岡部英男（編）『倫理学概説』（ミネルヴァ書房）  
3,000円

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト約30%（1回4点を7回）、試験60%、平常点（授業態度）約10% 授業の始めに前回授業を復習し確認する。小テストを行ったときは、次回授業で再び説明し確認する。定期試験については、最終回の授業で解説し確認する。

## 倫理学入門 b

「感受性」の視点から見る倫理学史（近世～近現代）

尾形 弘紀

1年～ 後期 2単位

◎：美の探求 ○：国際的視野、研鑽力

### 【授業のテーマ】

倫理学者和辻哲郎は、「倫理」とは人間社会を根底から支える「すじ道」のようなものと捉えています。ただこの定義では、倫理は人と人との間柄の問題に落ちてしまい、似た者同士の集団が存続するための作法という意味を持ってしまいます。私とは異質な他者、あるいは畏怖すべき何者か、つまりカミと呼ぶべき存在への配慮は二の次になってしまうはずで。しかし、日本人の心の歴史を振り返ると、倫理とは人間社会に通用する規範意識というだけでなく、神や仏などの超越的存在をも常に考慮したものだだったことがよくわかります。

そこで本講義では、日本人の「感受性」の歴史における近世～近現代の時代を対象にして、過去の人びとがそうした超越的存在をどのように考えてきたかを捉え、倫理的思考の基礎を形成する作業をしたいと考えています。

### 【授業における到達目標】

近世から近現代までの日本人の「感受性」の推移に焦点を当て、この国の人びとが神や仏とどのように交渉を持ちつつ、社会を営んできたかを明確に理解することを到達目標とします。そしてこの歴史的考察を通じ、現代における倫理学上のさまざまな問題に斬り込む新たな視点を多く身に付けることができればよいと考えます。

それらの目標を見すえて学修を進めることは、全学ディプロマポリシーに掲げられた、日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度や、人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度を養うことに結びつくはずで。

### 【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン：付喪神と幽霊について
- 第2週 日本人の心とは①：心の「透明」
- 第3週 日本人の心とは②：心の「不透明」
- 第4週 朱子学の思想：欲望の肯定と否定
- 第5週 国学の思想①：秘め隠された心
- 第6週 国学の思想②：「顕」の世界と「幽」の世界
- 第7週 国学の思想③：二種の他界観念
- 第8週 蘭学の思想：もう一つの他界観念
- 第9週 明治期前半の啓蒙思想：「写生」の観念について
- 第10週 明治期後半・大正期の思想：“不機嫌”な心と「大正生命主義」
- 第11週 民俗学の成立①：近代人にとって「神」
- 第12週 民俗学の成立②：近代人にとって「他界」
- 第13週 推理小説の倫理学：近代の“恐怖”観念
- 第14週 「断片」の時代：現代の「感受性」
- 第15週 まとめ

### 【事前・事後学修】

〔事前学修〕問われていることが日本人の心の問題であるため、日頃の自身の常識を疑う心構えが必要です。また、講義前には、前回に配布されたプリントを読み直し、不明の語を調べるなどしてから、講義に臨んでください。（学修時間：週2時間）

〔事後学修〕講義後早いうちに、配布されたプリントを読み直し、知識の定着を図ってください。さらに、関心を持った事項については、事典やインターネット等で調べるようにすると、次週の講義の理解が格段に進むはずで。（学修時間：週2時間）

### 【テキスト・教材】

毎週、プリントを配布しますので、特定の教科書は使いません。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

60%：平常点（出席回数、授業態度、リアクション・ペーパーの内容などを考慮します）

40%：試験（試験は、プリントとノートの持ち込みを許可します。出題内容については講義内で数週前に予告します）

なお、試験結果は授業最終週にフィードバックを行う予定です。

## 臨床医学概論

松島 照彦

1年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

### 【授業のテーマ】

人体を含む生命、生物はその進化の過程において極めて精緻な適応の仕組みと、様々な内部や環境の変化に対して「元の状態に戻る」恒常性（ホメオスタシス）を維持する性質を備えてきた。その元に戻る仕組みに障害が起きた状態が疾病であり、個体全体の恒常性を維持できなくなった状態が死である。

人にとって避けがたい病気はどの様に起こるのであろうか。病気の原因、その時、体の中でどのような変化が起こり、どの様に現れてくるか。それをどの様に把握、評価し、対応するか。種々の疾患において現れる細胞、組織の変化、また全身の変化、さらに、個々の臓器、器官の障害としての疾病について学ぶ。

この教科では、今日の医学の概観を展望することを通じ、生命と死、細胞と組織の傷害、症候と診断と治療について学修する。主な疾患として、貧血、高血圧、内分泌疾患、免疫疾患について学修する。

### 【授業における到達目標】

病を持つ人の身になって考え、気持ちを理解する心を養うことができる。病気の時に、体全体、組織、細胞の中で何が起きているかを理解することができる。貧血、高血圧などのいくつかの疾患について、原因、診断、治療の方針を理解し、栄養学的な対応を行うことができるようになる。

知を求め、心の美を育む態度として、①人文・社会・自然の中に価値を見出す態度。②物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度。③優しさと強さを兼ね備え、倫理観を以って人格を陶冶しようとする態度を養うことにつながる。

### 【授業の内容】

- 第1週 生命と個体の死
- 第2週 細胞の障害  
事後学修：変性を主体とする病態についてのレポート
- 第3週 組織の障害  
事後学修：組織の障害についての課題
- 第4週 診断の手順
- 第5週 全身徴候  
事後学修：全身徴候についての課題
- 第6週 身体の症状  
事後学修：浮腫、黄疸を中心とした課題
- 第7週 臨床検査  
事後学修：臨床検査についての課題
- 第8週 造血、鉄代謝、赤血球の産生と代謝  
事後学修：鉄代謝と赤血球産生を中心とした課題
- 第9週 種々の貧血  
事後学修：貧血についての課題
- 第10週 白血球と自己免疫疾患  
事後学修：免疫とアレルギーについての課題
- 第11週 内分泌とホメオスタシス  
事後学修：甲状腺を中心とした課題
- 第12週 内分泌疾患  
事後学修：副腎皮質を中心とした課題
- 第13週 循環器と血圧の調節  
事後学修：血圧調節を中心とした課題
- 第14週 高血圧症  
事後学修：高血圧についての課題
- 第15週 治療法の概要  
事後学修：治療法についての課題

### 【事前・事後学修】

事前学修：毎回のテーマについて身の回りのことについて考えておくこと。プリントを配布するので授業までに読んでおくこと。週当たり1時間を要する。

事後学修：単元ごとに国家試験の過去問を中心とした課題を与える。翌週に答え合わせをして提出すること。正解を選ぶだけではなく、正誤の理由を挙げ、問いに関する項目について調べて自分なりにまとめをして記載すること。週当たり3時間を要する。

### 【テキスト・教材】

適宜、プリントを配布する。

### 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期考査60%、平常点40%（授業中の積極的な発言を評価する。遅刻、提出物の遅れ、授業中の不活発な態度は減点する。欠席と課題の不提出は大きく減点する。1回欠席につき8%の減点となる）課題は答え合わせと解説を行う。

### 【参考書】

全国栄養士養成施設協会監修『人体の構造と機能及び疾病の成り立ちⅡ』（第一出版）  
日野原重明『日野原重明 医学概論』（医学書院）1,600円  
福井次矢ら著『臨床医学概論 第2版』（建帛社）3,360円  
高久文麿ら監修『新臨床内科学』（医学書院）9,975円

### 【注意事項】

教科書は指定しないが、他の解剖、生理系の教科も含めて、「人体の構造と機能」に関する教科書を購入しておくことは管理栄養士の国家試験を受ける上で必須である。貧血、高血圧などの単元もあるので、臨床栄養学の教科書も参考になる。参考書を含めそれらの書物は随時、予習、復習に用いること。

**臨床栄養学 a**

松島 照彦

2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力、行動力

**【授業のテーマ】**

様々な病気や身体上の障害をもつ人々に対し、どのような栄養が行われるのがよいのであろうか。この科目では栄養が原因で起こる疾患、栄養を障害する疾患、栄養が経過に影響を与える疾患をはじめ、日常よく遭遇する傷病について、その病態と症候および栄養との関係を学修する。個人々々の病状、栄養状態を理解し、その問題点を見いだし、行うべき栄養について提示し、また医療福祉チームの一員として役割を受け持つ能力を習得することを目標とする。

**【授業における到達目標】**

この教科を学修することにより、糖尿病、肥満、脂質代謝異常、痛風、腎疾患、貧血、呼吸器疾患、老年性疾患についてその発症の仕組みと疾患による栄養の障害を理解し、それらに対する基本的な栄養管理ができるようになる。

物事の真理を探究する態度、深い洞察力と本質を見抜く力を育てることができる。学修成果を通じて自信を創出し、課題発見、課題解決力を育てることができる。

**【授業の内容】**

- 第1週 糖尿病の病態と症候  
 第2週 糖尿病の診断と合併症  
 第3週 糖尿病の治療と栄養管理  
 事後学修：糖尿病に良い、血糖の上昇を抑えるといわれる食材、食品成分についてその根拠と証拠を調査する。確からしい候補を用いた献立を開発する。
- 第4週 脂質代謝と栄養  
 第5週 脂質代謝異常と栄養  
 第6週 動脈硬化と栄養  
 事後学修：動脈硬化に良い、コレステロールを低下させるといわれる食材、食品成分についてその根拠と証拠を調査する。確からしい候補を用いた献立を開発する。
- 第7週 痛風と高尿酸血症  
 事後学修：アルコールと健康の関係について調査する。アルコールが体に有益な作用を及ぼしうるか調査する。
- 第8週 腎臓の構造と機能  
 第9週 腎疾患と栄養  
 第10週 肥満とメタボリック症候群  
 事後学修：肥満に良い、体重の増加を抑えるといわれる食材、食品成分についてその根拠と証拠を調査する。確からしい候補を用いた献立を開発する。
- 第11週 血液と栄養  
 第12週 貧血とアレルギーと栄養  
 事後学修：アレルギーを起こしやすい食材を除いた献立、食品を開発する。
- 第13週 呼吸器疾患と栄養  
 第14週 老年症候群と栄養  
 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：毎回のテーマについて身の回りのことについて考えておくこと。プリントを配布するので授業までに読んでおくこと。週当たり1時間を要する。

事後学修：單元ごとに課題を与える。週当たり3時間程度の取り組みを要する。

**【テキスト・教材】**

栄養ケアマネジメント「新臨床栄養学第3版」（医師薬出版, 2016年）3996円

適宜、プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期考査60%、平常点40%：授業での積極的な態度、課題の内容を評価する。遅刻、宿題・課題の遅れは減点する。欠席、宿題・課題

の未提出は大きく減点する。十分な調査と深い考察を行った優秀なレポートは高く評価する。

課題とレポートは返却時に優秀な取り組みを紹介し、解説を行う。

**【参考書】**

『栄養科学NEXT 新・臨床栄養学』（竹谷豊ら監修, 講談社サイエンティフィック, 2016）

4, 104円

『わかりやすい内科学』（井村裕夫ら監修, 文光堂, 2014）9, 720円

**【注意事項】**

講義中はプリントを用い、教科書は用いないが、教科書は予習復習や分からなかったところを調べるのに必要である。教科書に書いてあることは試験の出題範囲となる。もちろん、分からないことについて、研究室に来ることは歓迎する。

**臨床栄養学 a**

松島 照彦

2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

様々な病気や身体上の障害をもつ人々に対し、どの様な栄養が行われるのがよいのであろうか。この科目では（a、bを通じ）栄養が原因で起こる疾患、栄養を障害する疾患、栄養が経過に影響を与える疾患をはじめ、日常よく遭遇する傷病について、その病態と症候および栄養との関係を学習する。個人々々の病状、栄養状態を理解し、その問題点を見だして、行うべき栄養について提示し、また医療福祉チームの一員として役割を受け持つ能力を修得することを目標とする。

**【授業における到達目標】**

この教科を学修することにより、ビタミン関連疾患、糖尿病、消化管疾患および肝胆膵疾患の病態を理解し、基本的な栄養管理を行うことができるようになる。

物事の真理を探究する態度をはぐくむことができる。研鑽力の内、自信を創出力、広い視野と深い洞察力を培うことができる。行動力の内、課題発見力、計画立案力、問題解決力を養うことができる。

病をもつ人の心や体のつらさや苦しみを理解し、栄養管理を行うに当たってもその人の立場になって考える優しさを身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週 水溶性ビタミンと栄養管理  
事後学修：水溶性ビタミンの課題
- 第2週 脂溶性ビタミンと栄養管理  
事後学修：脂溶性ビタミンの課題
- 第3週 糖質、エネルギー代謝の調節  
事後学修：糖質と糖質代謝の課題
- 第4週 糖尿病の病態  
事後学修：糖尿病の病態の課題
- 第5週 糖尿病の症候と診断  
事後学修：糖尿病の診断の課題
- 第6週 糖尿病の合併症と栄養管理  
事後学修：糖尿病の治療の課題
- 第7週 消化吸収の仕組みと消化管ホルモン  
事後学修：消化と吸収の課題
- 第8週 上部消化管と栄養  
事後学修：上部消化管疾患と栄養管理の課題
- 第9週 肝臓における栄養の代謝  
事後学修：肝臓の構造と機能の課題
- 第10週 肝炎、脂肪肝と栄養  
事後学修：肝炎・脂肪肝と栄養管理の課題
- 第11週 肝硬変と栄養  
事後学修：肝硬変と栄養管理の課題
- 第12週 胆嚢の疾患と栄養  
事後学修：胆嚢疾患と栄養管理の課題
- 第13週 膵臓の疾患と栄養  
事後学修：膵臓疾患と栄養管理の課題
- 第14週 下部消化管と栄養①炎症性腸疾患  
事後学修：炎症性腸疾患と栄養管理の課題
- 第15週 下部消化管と栄養②腸閉塞など  
事後学修：腸閉塞などと栄養管理の課題

**【事前・事後学修】**

事前学修：毎回のテーマについて身の回りのことについて考えておくこと。プリントを配布するので授業までに読んでおくこと。過当たり1時間を要する。

事後学修：単元ごとに国家試験の過去問を中心とした課題を与える。翌週に答え合わせをして提出すること。正解を選ぶだけでなく、正誤の理由を挙げ、問いに関する項目について調べて自分なりにまとめをして記載すること。過当たり3時間を要する。

**【テキスト・教材】**

適宜、プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期考査60%、平常点40%（課題への取り組み、授業での積極的な態度を評価する。遅刻、宿題・課題の遅れは減点する。欠席、宿題・課題の未提出は大きく減点する）。

課題は答え合わせと解説を行う。

**【参考書】**

『管理栄養士講座 臨床栄養学Ⅱ第2版』鈴木博ら編（建帛社）3,990円

『栄養科学NEXT臨床栄養学（講談社サイエンティフィック）2,730円

『管理栄養士受験講座 臨床栄養学Ⅰ』（第一出版）1,575円

『管理栄養士受験講座 臨床栄養学Ⅱ』（第一出版）1,995円

岡田正ら著『新臨床栄養学』（医学書院）9,975円

高久文麿ら監修『新臨床内科学』（医学書院）9,975円

**【注意事項】**

教科書は指定しないが、使いやすいものを購入しておくこと。講義中には用いないが予習復習や分からなかったところを調べるのに必要である。教科書に書いてあることは試験の出題範囲となる。もちろん、分からないことについて、研究室に来ることは歓迎する。過去問を用いた宿題はその日のうちに挑戦して解くことが、実力を付ける上でとても有用である。

**臨床栄養学 b**

加藤 チイ

3年 前期 2単位

○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

疾患と栄養・食事の摂りかたには深いかかわりがあります。傷病者に対してどのような食事を提供したらよいか、病態の改善にはどのような栄養・食事療法が適応となるのかについて学びます。内科・外科疾患と栄養・食事療法、小児や高齢者などライフステージを視野にいたした栄養・食事療法、薬と食品成分の相互作用や臨床における栄養管理の方法論、チーム医療の仕組みなどを学びます。

**【授業における到達目標】**

病気の時では身体の仕組みが健常時と異なることを理解する。身体の仕組みと栄養の利用について理解し、病態に合わせた栄養の摂り方を考えることができる。病態を考慮して食品や調理法を適切に選び、おいしい食事を考えることができる。チーム医療における栄養士の役割を理解する。研鑽力を養う。

**【授業の内容】**

- 第1週 栄養評価 (1) 摂取栄養量を把握する
- 第2週 胃腸など消化管疾患の栄養
- 第3週 肝臓・胆嚢・膵臓疾患の栄養
- 第4週 糖尿病・肥満症の栄養
- 第5週 循環器疾患の栄養
- 第6週 腎疾患の栄養
- 第7週 脂質異常症・高尿酸血症の栄養
- 第8週 外傷（熱傷、褥瘡、外科手術後を含む）の栄養
- 第9週 呼吸器疾患・血液疾患の栄養
- 第10週 摂食嚥下障害、歯科・骨関節疾患の栄養
- 第11週 妊産婦・小児領域の疾患と栄養
- 第12週 緩和ケアと食援助
- 第13週 臨床データと栄養ケア
- 第14週 栄養評価 (2) 身体構成、血液・生化学
- 第15週 チーム医療と記録の書き方

**【事前・事後学修】**

【事前学修】授業予定を確認しテキスト該当ページ、関連図書にて予習する。わからない語句は調べておく（週2時間）。

【事後学修】配布プリント、講義内容を復習する。小テストを実施した際には誤った箇所を直して、学習内容を理解する（週2時間）

**【テキスト・教材】**

佐藤和人ほか編『エッセンシャル臨床栄養学』（医歯薬出版株式会社）3700円＋税

日本糖尿病学会編著『糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版』（文光堂）900円＋税

黒川清監修『腎臓病食品交換表 第9版』（医歯薬出版株式会社）1300円＋税

※いずれも最新版

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

小テスト30%、試験50%、平常点（授業への積極参加・提出課題）20%

フィードバック：試験得点分布傾向公開、問題解説、レポートは評価し返却。

**【参考書】**

川崎英二ほか監修『症例から学ぶ臨床栄養教育テキスト 増補』（医歯薬出版株式会社）2300円＋税

奈良信雄著『栄養アセスメントに役立つ臨床検査値の読み方、考え方、ケーススタディ』（医歯薬出版株式会社）2500円＋税

日本糖尿病学会編著『糖尿病食事療法のための食品交換表 活用編 献立例とその実践』（文光堂）1200円＋税

**【注意事項】**

食事療法に関して、病態と食品選択、調理法を関連づけて理解してください。



**臨床栄養学 b**

松島 照彦

2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

**【授業のテーマ】**

様々な病気や身体上の障害をもつ人々に対し、どのような栄養が行われるのがよいのであろうか。この科目では（a、bを通じ）栄養が原因で起こる疾患、栄養を障害する疾患、栄養が経過に影響を与える疾患をはじめ、日常よく遭遇する傷病について、その病態と症候および栄養との関係を学習する。個人々々の病状、栄養状態を理解し、その問題点を見いだして、行うべき栄養について提示し、また医療福祉チームの一員として役割を受け持つ能力を修得することを目標とする。

**【授業における到達目標】**

この教科を学修することにより、ミネラルに関連した疾患、水・酸塩基平衡に関連した疾患、腎疾患、呼吸器疾患、術前術後とクリティカルケア、痛風、脂質代謝異常と動脈硬化について理解し、基本的な栄養管理を行うことができるようになる。

物事の真理を探究する態度をはぐくむことができる。研鑽力の内、自信創出力、深い洞察力を培うことができる。行動力の内、課題発見力、計画立案力、問題解決力を養うことができる。

病をもつ人の心や体のつらさや苦しみを理解し、栄養管理を行うに当たってもその人の立場になって考える優しさを身につける。

**【授業の内容】**

- 第1週 急性糸球体腎炎と栄養  
事後学修：腎臓の構造と機能に関する課題
- 第2週 ネフローゼ症候群と栄養  
事後学修：ネフローゼ症候群と栄養管理に関する課題
- 第3週 ミネラルと骨粗鬆症①カルシウムとビタミンD  
事後学修：カルシウムとビタミンDに関する課題
- 第4週 ミネラルと骨粗鬆症②骨代謝と骨粗鬆症  
事後学修：骨粗鬆症と栄養管理に関する課題
- 第5週 水電解質代謝と酸塩基平衡①水電解質代謝  
事後学修：脱水に関する課題
- 第6週 水電解質代謝と酸塩基平衡②酸塩基平衡  
事後学修：酸塩基平衡に関する課題
- 第7週 慢性腎疾患と栄養  
事後学修：CKD・糖尿病腎症と栄養管理に関する課題
- 第8週 腎不全・人工透析と栄養  
事後学修：腎不全・人工透析と栄養管理に関する課題
- 第9週 呼吸器疾患と栄養①COPD  
事後学修：COPDと栄養管理に関する課題
- 第10週 呼吸器疾患と栄養②拘束性肺疾患など  
事後学修：拘束性肺疾患と栄養管理に関する課題
- 第11週 術前術後とクリティカルケア①術前術後  
事後学修：術前術後の栄養管理に関する課題
- 第12週 術前術後とクリティカルケア②クリティカルケア  
事後学修：クリティカルケアに関する課題
- 第13週 アルコールと痛風  
事後学修：痛風と栄養管理に関する課題
- 第14週 脂質代謝と動脈硬化①脂質異常症  
事後学修：脂質代謝異常と栄養管理に関する課題
- 第15週 脂質代謝と動脈硬化②動脈硬化  
事後学修：動脈硬化と栄養管理に関する課題

**【事前・事後学修】**

・事前学修：毎回のテーマについて身の回りのことについて考えておくこと。プリントを配布するので授業までに読んでおくこと。週当たり1時間を要する。

・事後学修：単元ごとに国家試験の過去問を中心とした課題を与える。翌週に答え合わせをして提出すること。正解を選ぶだけでなく、正誤の理由を挙げ、問いに関する項目について調べて自分なりにまとめをして記載すること。週当たり3時間を要する。

**【テキスト・教材】**

適宜、プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

定期考査60%、平常点40%（授業での積極的な態度、課題の内容を評価する。遅刻、宿題・課題の遅れは減点する。欠席、宿題・課題の未提出は大きく減点する）

課題は答え合わせと解説を行う。

**【参考書】**

『管理栄養士講座 臨床栄養学Ⅱ第2版』鈴木博ら編（建帛社）3,990円

『栄養科学NEXT臨床栄養学（講談社サイエンティフィック）2,730円

『管理栄養士受験講座 臨床栄養学Ⅰ』（第一出版）1,575円

『管理栄養士受験講座 臨床栄養学Ⅱ』（第一出版）1,995円

『新臨床栄養学』岡田正ら著（医学書院）9,975円

『新臨床内科学』高久文麿ら監修（医学書院）9,975円

**【注意事項】**

教科書は指定しないが、使いやすいものを購入しておくこと。講義中には用いないが予習復習や分からなかったところを調べるのに必要である。教科書に書いてあることは試験の出題範囲となる。もちろん、分からないことについて、研究室に来ることは歓迎する。過去問を用いた宿題はその日のうちに挑戦して解くことが、実力を付ける上でとても有用である。

**臨床栄養学実習 a**

加藤 ティ

3年 前期 1単位 3時限連続 隔週

○：研鑽力、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

講義で学んだ臨床栄養学の知識をもとに、実際に治療食を調整して理解を深める。病気にかかったときのからだの状態を理解し、その状態に合わせた食事、病態を改善する食事について学ぶ。また、患者さんの心理を考慮した食事支援についても考える。

**【授業における到達目標】**

身体の仕組みと栄養の利用について理解し、病気の状態に合わせた栄養を補給する献立を作成し、調理する。

病気の回復を促進する食事を調整する。

栄養素を調整した治療用特殊食品の上手な利用のしかたを知る。

また、病状の回復が見込めない病態において、患者さんや家族のQOLを考慮した食事提供について考えることができる。

見た目に食欲を促し、おいしい治療食をつくることができる。

研鑽力、行動力、協働力を養う。

**【授業の内容】**

第1週 易消化食（胃腸疾患、術後）

第2週 エネルギーコントロール食

第3週 たんぱく質コントロール食

第4週 外傷の食事療法（褥瘡・熱傷含む）

第5週 嚥下・咀嚼障害に対応した食事

第6週 緩和ケアに対応した食事

第7週 たんぱく質・エネルギーコントロール食

第8週 アレルギーに対応した食事

**【事前・事後学修】**

【事前学修】各回のテーマとなる疾患や病態について調べて理解しておく。

【事後学修】レポートを作成し、指示された形式で提出する。

**【テキスト・教材】**

本田佳子編『トレーナーガイド栄養食事療法の実習』（医歯薬出版株式会社）2600円＋税

日本糖尿病学会編著『糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版』（文光堂）900円＋税

黒川清監修『腎臓病食品交換表 第8版』（医歯薬出版株式会社）1300円＋税

『日本標準食品成分表』（出版社を問わない）

※いずれも最新版

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

授業内試験50%、平常点（授業への積極参加・提出課題）50%

フィードバック：試験は事後に解説、レポートは評価し返却。

**【参考書】**

宗像伸子ほか編集『カラー版 ビジュアル治療食300 栄養成分別・病態別栄養食事療法』（医歯薬出版株式会社）4800円＋税

宗像伸子編著『カラー版 一品料理500選 治療食への展開』（医歯薬出版株式会社）4800円＋税

手嶋登志子・大越ひろ編著『おいしく食べてQOLを高める高齢者の食介護ハンドブック』（医歯薬出版株式会社）3000円＋税

佐藤和人ほか編『エッセンシャル臨床栄養学』（医歯薬出版株式会社）3700円＋税

**【注意事項】**

実習に必要な物（テキスト、清潔な実習着、履物、電卓、その他）を忘れた場合、体調不良、化膿創がある場合は実習ができません。忘れ物に関して、研究室の貸し出しはありません。頭髮、化粧など実習にふさわしい身だしなみとする。実習着は指定されたものを着用する。

**臨床栄養学実習 a**

佐々木 溪円・松島 照彦

2年 後期 1単位 3時限連続 隔週

◎：美の探究 ○：研鑽力、協働力

**【授業のテーマ】**

傷病者に対する栄養の評価と対応はどの様に行われるのであろうか。この科目では、適切な栄養管理を行うために、実習を通じて、人体の構造、臨床診査、診察の方法と評価、栄養状態の実施方法と評価、生理機能の反応の測定と評価、栄養剤と栄養の補給法、試験食、血球の観察、血糖や尿糖などの簡易的な臨床検体検査の方法と評価を学修し、栄養の評価と管理の基礎的な知識と技術を身につける。

**【授業における到達目標】**

この教科を学修することにより、傷病者の病態と栄養状態を把握、評価し、適切な栄養補給法を選択し、栄養管理を実施できるようになる。

研鑽力の内、探求力、自信創出力、洞察力を身に着けることができる。行動力の内、把握力、課題発見力、計画立案力、課題解決力を身に着けることができる。協働力の内、役割分担、信頼醸成、人間関係を構築する力の醸成に寄与することができる。

**【授業の内容】**

第1回 1) 心音・呼吸音の聴取、血圧測定、脈拍測定  
2) 運動による血圧および心拍数の変化の測定

事後学修：実習のレポート、課題：①脈拍の異常をきたす疾患についてまとめて、鑑別できるように記載すること。②血圧の異常をきたす疾患についてまとめて、鑑別できるように記載すること。③身体運動についての事後学修は全体が終了してから行う。

第2回 1) 介護用品を用いた要介護者の給食の方法の理解  
2) 経腸・経静脈栄養器具の使用法の理解

事後学修：実習のレポート、課題①栄養剤、②種々の栄養補給法の方法と適応、③種々の栄養剤法の利点と注意点

第3回 1) 尿検査  
2) 血糖測定

事後学修：実習のレポート、課題①血糖値と尿糖の関係、②蛋白尿が現れる仕組みと疾患、③浸透圧とは(例を挙げて)、④酸化還元とNADの役割

第4回 末梢血中の血球数の測定および血液像の観察

事後学修：実習のレポート、課題①貧血の分類と特徴。特にヘマトクリットとの関係、②白血球の分類とそれぞれの働き、③白血球の増減および白血球分画の増減

第5回 皮下脂肪厚、上腕筋肉量、体脂肪率の測定

事後学修：実習のレポート、課題：①るいそうと肥満をきたす病態と原因、②栄養状態の把握法

第6回 HbA1cの測定

事後学修：実習のレポート、課題①糖尿病の検査と診断基準（GTT、GA、1・5AG含む）、②HbA1cについて（原理、管理基準（目標値）、血糖以外の変動要因、血糖値との解離等）

第7回 まとめ

身体測定結果についての分析と相関の解析：集計したデータの一覧はmanabaに掲載するので、それを用いて解析すること。

①V02maxと階段昇降のデータの比較と考察、②皮下脂肪厚、体組成計、および超音波Bモードのそれぞれデータから得られた体脂肪率についての比較と考察、③実身長・体重と推定身長・体重の比較と考察

**【事前・事後学修】**

・事前学修：履修した臨床栄養学について、栄養の評価法、補給法、管理法を復習しておくこと。

・事後学修：実習した内容について目的、方法、結果を記載して考察しレポートを作成する。考察では結果を述べるだけではなく、実験にあたっての仮説（予想）を立て、なぜその様な仮説を立てたか、結果は仮説と合致していたか、異なったならなぜそのような結果が出たのか考察すること。また、示された課題について調査し考

察すること。合わせて、1回当たり3時間を要する。

**【テキスト・教材】**

適宜、資料を配付する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点50%（授業中の質疑応答、技術の習得、レポートおよび課題への取り組み）、試験50%。授業中のの質疑について解説を行う。課題とレポートは評価を付して返却する。

**【参考書】**

栄養科学シリーズNEXT『臨床栄養管理学総論』（中坊幸弘ら編、講談社）2600円

栄養科学シリーズNEXT『臨床栄養管理学各論』（寺本房子ら編、講談社）2600円

**臨床栄養学実習 b**

加藤 チイ

3年 後期 1単位 3時限連続 隔週

○：研鑽力、行動力、協働力

**【授業のテーマ】**

講義で学んだ臨床栄養学の知識をもとに、実際に治療食を調整して理解を深める。病気にかかったときのからだの状態を理解し、その状態に合わせた食事、病気の回復を促進する食事について学ぶ。食品交換表の使い方、約束食事箋基準の考え方など臨床栄養を実践するために必要な内容を実習する。小児病態食、経腸栄養食品、栄養評価など応用的な臨床栄養についても実習する。

**【授業における到達目標】**

栄養評価に基づく栄養ケアプランの作成を理解する。  
 代表的な病態食の約束食事箋基準を作成する。  
 模擬患者面接を実習し、対象者の食事内容の聞き取り、栄養価計算により栄養評価ができる。  
 理解を深めたい病態を選択し、提示された症例にふさわしい献立を作成し、調理ができる。  
 研鑽力、行動力、協働力を養う。

**【授業の内容】**

- 第1週 栄養ケアと栄養評価（交換表による栄養計算含む）
- 第2週 食事療法と約束食事箋基準
- 第3週 食事の聞き取り・摂取栄養量評価
- 第4週 小児病態食（エネルギーたんぱくコントロール食）
- 第5週 テーマ別治療食の調理
- 第6週 献立作成（エネルギーナトリウムコントロール食）
- 第7週 調理実習（エネルギーナトリウムコントロール食）
- 第8週 経腸栄養食品、治療用特殊食品について

**【事前・事後学修】**

【事前学修】各回のテーマとなる疾患や病態、栄養法について調べて理解しておく。

【事後学修】レポートを作成し、指示された形式で提出する。

**【テキスト・教材】**

- 本田佳子編『トレーナーガイド栄養食事療法の実習』（医歯薬出版株式会社）2600円＋税  
 日本糖尿病学会編著『糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版』（文光堂）900円＋税  
 黒川清監修『腎臓病食品交換表 第8版』（医歯薬出版株式会社）1300円＋税  
 『日本標準食品成分表』（出版社を問わない）  
 ※いずれも最新版

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

小テスト30%、試験50%、平常点（授業への積極参加・提出課題）20%。フィードバック：試験は事後に解説、レポートは評価し返却。

**【参考書】**

- 宗像伸子ほか編集『カラー版 ビジュアル治療食300 栄養成分別・病態別栄養食事療法』（医歯薬出版株式会社）4800円＋税  
 宗像伸子編著『カラー版 一品料理500選 治療食への展開』（医歯薬出版株式会社）4800円＋税  
 佐藤和人ほか編『エッセンシャル臨床栄養学』（医歯薬出版株式会社）3700円＋税

**【注意事項】**

実習に必要な物（テキスト、清潔な実習着、履物、電卓、その他）を忘れた場合、体調不良、化膿創がある場合は実習ができません。忘れ物に関して、研究室の貸し出しはありません。頭髮、化粧など実習にふさわしい身だしなみとする。実習着は指定されたものを着用する。

**臨床栄養学実習 b**

松島 照彦・辛島 順子

3年 通年 2単位

○：研鑽力、行動力

**【授業のテーマ】**

病院において実習を行い、実際の傷病者やそのデータに基づいて、病期・病態や栄養状態の把握と診断、特徴に応じた適正な栄養管理について学び、栄養スクリーニング・栄養アセスメントに基づいた栄養治療実施計画の作成・実践・実施・栄養評価などの総合的マネジメントの手法、考え方を学ぶ。病院における管理栄養士の役割、医療チームの中での管理栄養士の役割について学ぶ。

**【授業における到達目標】**

実践活動での課題発見・解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図る。管理栄養士に課せられている多種多様な専門分野の基本的能力を養い、チーム医療の必要性、管理栄養士と他職種との連携、患者とのコミュニケーションのとり方など実践的能力を養う。

自ら学ぶ力、実行に移す力とともに、「協働力」のうち、互いを尊重して信頼を醸成することや状況に応じてリーダーシップを発揮する力を身につけることを目標とする。

**【授業の内容】**

1. 実習前学習
  - 1) 概要説明
  - 2) 心構え・諸注意・患者接遇
  - 3) 実習ノート作成の諸注意
  - 4) 実習目的の作成
  - 5) 個人課題の検討
  - 6) 医療機関における管理栄養士の使命と役割
  - 7) 診療報酬制度
  - 8) 傷病者の栄養ケアマネジメント
  - 9) チーム医療・多職種協働
  - 10) 傷病者への栄養教育①指導案作成
  - 11) 傷病者への栄養教育②媒体作成
  - 12) 傷病者への栄養教育③グループ発表
  - 13) 栄養・食事療法と栄養補給法
  - 14) 栄養ケアの記録
  - 15) まとめ
2. 臨地実習（医療機関・90時間）
  - 1) 傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいた栄養管理
  - 2) チーム医療・多職種協働
  - 3) 栄養ケアプランの作成
  - 4) 栄養教育・栄養食事指導
  - 5) 栄養ケア記録の作成
  - 6) 栄養部門業務の全体把握
3. 実習後学習
  - 1) 臨地実習の振り返り
  - 2) 実習報告書の作成
  - 3) テーマ別学習①栄養食事指導
  - 4) テーマ別学習②入院患者の栄養管理
  - 5) テーマ別学習③栄養・食事療法と給食経営管理
  - 6) 実習報告会準備
  - 7) 実習報告会

**【事前・事後学修】**

**【事前学修】** 臨床栄養学、栄養教育論、給食経営管理について十分復習し、実習に臨む目的を明確にすること。また、実習中に取り組むべき課題を設定すること。（学修時間：週1時間）

**【事後学修】** 実習終了後は、実習内容を振り返り、実習報告会へ向けて資料作成を行うとともに、プレゼンテーションの方法について検討すること。（学修時間：週1時間）

**【テキスト・教材】**

臨地実習ノート・プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

実習先施設からの評価60%、実習報告書20%、平常点（授業態度・課題）20%

実習目的等の課題を添削し、コメントと共にフィードバックする。

**【注意事項】**

事前学習の状況（授業態度・課題等）によっては、病院実習を実施できないことがあります。

**臨床栄養学実習 c**

辛島 順子

3年 通年 1単位

◎：行動力 ○：協働力

**【授業のテーマ】**

臨床栄養学実習 c では、臨床栄養学実習 b に続き、医療機関における臨地実習（45時間）を行う。

実践活動での課題発見・解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図る。管理栄養士に課せられている多種多様な専門分野の基本的能力を養い、チーム医療の必要性、管理栄養士と多職種との連携、患者とのコミュニケーションのとり方など実践的能力を養う。栄養の側面から、傷病者の病期・病態や栄養状態の特徴に応じた適正な栄養管理について学び、栄養スクリーニング・栄養アセスメントに基づいた栄養治療実施計画の作成・実践・実施・栄養評価などの総合的マネジメントの手法、考え方を学ぶ。

**【授業における到達目標】**

互いを尊重して信頼を醸成することや状況に応じてリーダーシップを発揮する力を身につける。

**【授業の内容】**

1. 実習前指導
  - 1) 実習施設別オリエンテーション
  - 2) 実習目的の作成
  - 3) 個人実習課題の検討
2. 臨地実習（医療機関・45時間）
  - 1) 傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいた栄養管理
  - 2) チーム医療・多職種協働
  - 3) 栄養ケアプランの作成
  - 4) 栄養教育・栄養食事指導
  - 5) 栄養ケア記録の作成
  - 6) 栄養部門業務の全体把握
3. 実習後指導
  - 1) 実習報告書の作成
  - 2) 実習報告会

**【事前・事後学修】**

【事前学修】臨床栄養学、栄養教育論、給食経営管理について十分復習し、実習に臨む目的を明確にすること。また、実習中に取り組むべき課題を設定すること。（学修時間：週1時間）

【事後学修】実習終了後は、実習内容を振り返り、実習報告会へ向けて資料作成を行うとともに、プレゼンテーションの方法について検討すること。（学修時間：週1時間）

**【テキスト・教材】**

臨地実習ノート・プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

実習先施設からの評価60%、実習報告書20%、平常点（授業態度・課題）20%

実習目的等の課題を添削し、コメントと共にフィードバックする。

**【参考書】**

- 『糖尿病食事療法のための食品交換表』（文光堂）
- 『腎臓病食品交換表』（医歯薬出版）
- 『臨床検査ハンドブック』（医歯薬出版）
- 『臨床栄養学実習—フローチャートで学ぶ臨床栄養管理』（建帛社）
- 『すぐに使える栄養管理事例50疾病別栄養管理計画書の作り方』（日本医療企画）
- 『実践栄養管理パーフェクトマスター』（学研メディカル秀潤社）
- 『実践クリニカルニュートリション全身状態からみる栄養管理』（日本医療企画）

**【注意事項】**

事前学習の状況（授業態度・課題等）によっては、病院実習を実施できないことがあります。

**臨床栄養管理学**

加藤 ティ

4年 前期 2単位

◎：研鑽力

**【授業のテーマ】**

症例（テキストの事例）を通して臨床栄養の実際を学ぶ。各症例の体格、臨床データ、病態などの条件を考慮して算出した栄養量を食品として具体化し、実際に喫食できる献立を作成することを学習する

**【授業における到達目標】**

代表的な疾患と症例を通して「患者さんの身体はどのような栄養代謝状態であるか」について考えることができる。

各診療ガイドラインに沿った必要栄養量が算出できる。

各病態に応じた投与目標栄養量を満たす食品構成、献立が作成できる。

臨床栄養に関する情報をまとめ、他者に伝えることができる。研鑽力を養う。

**【授業の内容】**

- 第1週 食事評価（1）糖尿病食品交換表の活用
- 第2週 食事評価（2）腎臓病食品交換表の活用
- 第3週 食事評価 摂取栄養量の評価と栄養計画
- 第4週 消化器疾患の栄養管理（1）栄養量算出と食品構成、
- 第5週 消化器疾患の栄養管理（2）献立作成
- 第6週 糖尿病の栄養管理（1）栄養量算出と食品構成
- 第7週 糖尿病の栄養管理（2）献立作成
- 第8週 循環器疾患の栄養管理（1）栄養量算出と食品構成
- 第9週 循環器疾患の栄養管理（2）献立作成
- 第10週 腎疾患の栄養管理（1）栄養量算出と食品構成
- 第11週 腎疾患の栄養管理（2）献立作成
- 第12週 外傷・術後の栄養管理（1）栄養量算出と食品構成
- 第13週 外傷・術後の栄養管理（2）献立作成
- 第14週 食生活支援の実際
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】すでに学習した臨床栄養学関連科目を復習しておく。学習予定を確認し、テキスト該当ページを予習する。特に食品交換表（糖尿病、腎臓病）を使えるようにしておく（週2時間）。

【事後学修】各病態の栄養基準に合わせた栄養量の算出と食品構成、献立作成について復習する（週2時間）。

**【テキスト・教材】**

症例プリントを配布します。

2、3年次に使用した臨床栄養学のテキスト、食品交換表、食品成分表（必要時に指示します）。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（授業態度・課題提出）30%、小テスト20%、試験50%。フィードバック：試験得点分布傾向公開、問題解説、レポートは評価し返却。

**【参考書】**

宗像伸子ほか編集『カラー版 ビジュアル治療食300 栄養成分別・病態別栄養食事療法』（医歯薬出版株式会社）4800円+税  
月刊誌『Nutrition Care』（メディカ出版）1800円+税

**【注意事項】**

受け身でなく能動的に授業に臨んで下さい。臨床栄養管理の対象は「患者さん」であることを認識し、授業に参加すること。ディスカッション、発表など能動的な学習を取り入れる。学習の進行によって、内容を入れ替える場合があります。計算が必須のため、電卓を持参する。

**臨床栄養管理学各論**

高橋 加代子

2年 後期 2単位

◎：研鑽力

**【授業のテーマ】**

臨床栄養管理学各論では、傷病者や要支援者・要介護者を対象とした適切な栄養管理を理解し、疾患・病態や心身機能の特徴に基づいた具体的なマネジメント能力の習得を目標とする。

疾患別・ライフステージ別に適切な栄養管理や栄養・食事支援を行うためには、身体状況や栄養状態に応じた具体的な栄養管理について学ぶことが必要である。それらを踏まえて、チーム医療での役割を理解し、臨床における栄養管理能力を培う。

**【授業における到達目標】**

学生が習得すべき「研鑽力」のうち、目標設定・計画立案を行う力を身につけることを目標とする。

**【授業の内容】**

1. 栄養ケアマネジメント
2. 栄養障害
3. 代謝疾患
4. 消化器疾患1（炎症性腸疾患）
5. 消化器疾患2（胆・肝・膵疾患）
6. 循環器疾患
7. 腎・尿路疾患
8. 感覚器・神経疾患
9. 血液系の疾患
10. がん
11. クリティカルケア
12. 摂食機能の障害
13. 口腔の状態とケア
14. ライフステージ別栄養管理
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

**【事前学修】** テキストの該当箇所をよく読むこと。各回に指定する予習課題に取り組み提出すること。  
(学修時間：週2時間)

**【事後学修】** 授業内で実施した問題や小テスト等を復習すること。指定した課題を提出すること。  
(学修時間：週2時間)

**【テキスト・教材】**

『サクセス管理栄養士講座 臨床栄養学Ⅱ—疾患・病態別—』（第一出版 2016年）本体2,100円

『糖尿病食事療法のための食品交換表』（文光堂 2013年）本体900円

『腎臓病食品交換表』（医歯薬出版 2016年）本体1,500円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験60%、平常点（受講態度・課題）30%、小テスト10%で評価する。課題や小テストを確認し、授業内で解説を行う。

**【参考書】**

『サクセス管理栄養士講座 臨床栄養学Ⅰ』（第一出版）

『サクセス管理栄養士講座 人体の構造と機能及び疾病の成り立ちⅡ解剖生理学・病理学』（第一出版）

**臨床栄養管理学総論**

高橋 加代子

2年 前期 2単位

◎：研鑽力

**【授業のテーマ】**

臨床栄養管理学総論では、傷病者や要支援者・要介護者の適切な栄養管理（栄養ケア・マネジメント）を理解し、臨床における総合的なマネジメント能力の習得を目標とする。

傷病者や要支援者・要介護者の栄養管理や栄養・食事支援を行うためには、医療・介護制度、栄養状態の具体的な評価・判定の方法、栄養補給方法、臨床における栄養教育、食品と医薬品の相互作用について学ぶことが必要である。それらを踏まえて、臨床における管理栄養士業務をとらえ、他の医療職種と連携できる能力を培う。

**【授業における到達目標】**

学生が習得すべき「研鑽力」のうち、目標設定・計画立案を行う力を身につけることを目標とする。

**【授業の内容】**

1. 職業倫理
2. 臨床栄養の概念1（意義と目的）
3. 臨床栄養の概念2（医療・介護制度、医療と臨床栄養）
4. 臨床検査
5. 傷病者の栄養スクリーニングと栄養アセスメント
6. 栄養アセスメントによる栄養必要量の算定
7. 栄養・食事療法と栄養補給法
8. 経口栄養補給法
9. 経腸栄養補給法
10. 静脈栄養補給法
11. 傷病者・要介護者への栄養教育
12. 臨床経過のモニタリングと再評価
13. 薬と栄養・食事の相互作用
14. 栄養ケアの記録
15. まとめ

**【事前・事後学修】**

**【事前学修】** テキストの該当箇所をよく読むこと。各回に指定する予習課題に取り組み提出すること。  
(学修時間：週2時間)

**【事後学修】** 授業内で実施した問題や小テスト等を復習すること。指定した課題を提出すること（学修時間：週2時間）

**【テキスト・教材】**

『サクセス管理栄養士講座 臨床栄養学Ⅰ—総論—』（第一出版 2017年）本体1,900円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験60%、平常点（受講態度・課題）30%、小テスト10%で評価する。課題や小テストを確認し、授業内で解説を行う。

**【参考書】**

『サクセス管理栄養士講座 臨床栄養学Ⅱ』（第一出版）

『臨床栄養学Ⅰ基礎編』（第一出版）

『栄養科学シリーズNEXT 臨床栄養管理学総論』

（講談社サイエンティフィク）



**臨床栄養管理実習**

高橋 加代子

3年 前期 1単位 3時限連続 隔週

◎：行動力 ○：協働力

**【授業のテーマ】**

臨床栄養管理実習では、傷病者や要支援者・要介護者の病態や栄養状態、摂食・嚥下機能に基づいた適正な栄養管理が実践できる能力を養う。適切な栄養・食事管理の実際を理解し、食事療法のための栄養成分コントロール食や摂食・嚥下機能に応じた食事形態の献立作成・管理のあり方について実習を通して習得する。また、関連職種と連携した栄養管理を行うための技術を培う。

**【授業における到達目標】**

学生が習得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とする。

**【授業の内容】**

1. 栄養管理計画と経口栄養補給法
  - 1) 栄養補給法の選択
  - 2) 一般治療食・特別治療食
2. エネルギーコントロール食
  - 1) 適応疾患
  - 2) 栄養管理計画
  - 3) 献立作成・展開と調製
3. たんぱく質コントロール食
  - 1) 適応疾患
  - 2) 栄養管理計画
  - 3) 献立作成・展開と調製
  - 4) 治療用特殊食品
4. 脂質コントロール食
  - 1) 適応疾患
  - 2) 栄養管理計画
  - 3) 献立作成・展開と調製
5. 嚥下食
  - 1) 適応疾患
  - 2) 栄養管理計画
  - 3) 調製・嚥下訓練・食事介助
6. 症例に基づく栄養管理プロセス
  - 1) 栄養管理プロセスの記録
  - 2) チーム医療におけるコミュニケーションスキル
  - 3) カンファレンスにおけるプレゼンテーション
7. 総合実習（まとめ）

**【事前・事後学修】**

【事前学修】テキストの該当箇所をよく読むこと。事前に提示する課題を提出すること。（学修時間：週2時間）

【事後学修】指定した課題を提出すること。実習レポートを作成すること。（学修時間：週2時間）

**【テキスト・教材】**

- 『サクセス管理栄養士講座 臨床栄養学Ⅰ—総論—』（第一出版 2017年）本体1,900円
- 『サクセス管理栄養士講座 臨床栄養学Ⅱ—疾患・病態別—』（第一出版 2016年）本体2,100円
- 『糖尿病食事療法のための食品交換表』（文光堂 2013年）本体900円
- 『腎臓病食品交換表』（医歯薬出版 2016年）本体1,500円

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

レポート・課題70%、実習態度30%  
課題を添削し、コメントと共にフィードバックする。

**【参考書】**

- 『臨床栄養管理学実習』（講談社サイエンティフィク）
- 『臨床栄養学実習書』（医歯薬出版）
- 『臨床栄養学実習』（化学同人）
- 『摂食・嚥下障害患者のリスクマネジメント』（中山書店）

**臨床心理学**

齋藤 順一

3年 前期 2単位

◎：研鑽力

**【授業のテーマ】**

臨床心理学とは、心理的に不適応、不健康な状態について理解を深め、より適応的、健康な状態をもたらすための効果的な援助を目指して、科学的な研究、実践を行なっている学問です。心の問題を抱えた人への適切な援助のためには、様々な援助技法について知っているだけでなく、不適応的な臨床像についての知識を持つておくことも求められます。本講義では、臨床心理学における対象理解と援助の視点を養うことを目指します。

**【授業における到達目標】**

- ・心の状態について、正常と異常の基準について説明できる。
- ・様々な心の問題について概要を説明できる。
- ・臨床心理学における心の査定法や援助手法を理解している。

心の問題についての理解を深めることで、学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス：臨床心理学とは
- 第2週 正常と異常の判断基準
- 第3週 様々な心理アセスメント
- 第4週 心理アセスメントの体験
- 第5週 心の発達
- 第6週 心の問題の理解① うつ病
- 第7週 心の問題の理解② 統合失調症
- 第8週 心の問題の理解③ 不安症
- 第9週 心の問題の理解④ 心身症
- 第10週 心の問題の理解⑤ パーソナリティ障害
- 第11週 心の問題の理解⑥ 発達障害
- 第12週 心理的援助の理論① 精神分析
- 第13週 心理的援助の理論② クライアント中心療法
- 第14週 心理的援助の理論③ 認知行動療法
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：次の授業で扱うテーマについて、映像資料や関連書籍などにあたり、問題意識をもって授業に臨めるようにしておいてください。（学修時間 週2時間）

事後学修：各回の授業内容および小テストを復習し、自分の言葉で説明できるように、内容の理解を深めておいてください。（学修時間 週2時間）

**【テキスト・教材】**

テキストの指定はありません。

必要な資料については授業中にプリントを配布します。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

平常点（小テスト・小レポートなど）30%

定期試験 70%

小テスト、小レポートは次回授業時にフィードバックします。

**【参考書】**

下山晴彦（編）（2009）よくわかる臨床心理学（改定新版）ミネルヴァ書房

**臨床心理学 1**

五味 美奈子

2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力、行動力

**【授業のテーマ】**

臨床心理学の成り立ち、歴史、実践の領域と内容を学んだ上で臨床心理学的支援を必要とする様々な心の問題・病気について学ぶことを目的とする。また、各発達段階における心の特徴と心の課題・問題について臨床心理学的な視点から学ぶことも目的とする。

**【授業における到達目標】**

臨床心理学で取り扱う心の問題、病気を正しく理解することを通して自己理解、他者理解を深め、周囲の人と共同し、豊かな人間関係を構築することができる。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス 臨床心理学とは何か（理論と方法）
- 第2週 臨床心理学の実践の領域と内容
- 第3週 臨床心理学の歴史（米国における創始・日本における臨床心理学の歴史）
- 第4週 臨床心理学と主な心理学諸領域とのつながり
- 第5週 こころの問題・病気（1）不安障害
- 第6週 こころの問題・病気（2）統合失調症
- 第7週 こころの問題・病気（3）気分障害
- 第8週 こころの問題・病気（4）パーソナリティ障害
- 第9週 こころの問題・病気（5）物質関連障害
- 第10週 発達段階と心の課題・問題（1）乳幼児期
- 第11週 発達段階と心の課題・問題（2）学童期
- 第12週 発達段階と心の課題・問題（3）思春期・青年期
- 第13週 発達段階と心の課題・問題（4）成人期（外部講師を予定）
- 第14週 発達段階と心の課題・問題（5）老年期
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：授業開始時に前回の授業の振り返りを行うため、それまでに前回授業箇所のテキスト・ノート・配布プリント等を一読しておくこと（学修時間週2時間）。

事後学修：授業終了時に授業内容を振り返り考察、質問等をリアクションペーパーにまとめることを行う。他、授業で取り扱った内容で深めたいことを各自調べる（学修時間週2時間）。

**【テキスト・教材】**

適宜、プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

試験（60%）、平常点（授業への取り組み・提出物等）（40%）

フィードバック 次回授業時に学生からのリアクションペーパーへの質問、感想、提出物に答える。

**【参考書】**

改訂版臨床心理学概説 馬場禮子著（財団法人放送大学教育振興会）

これからの心理臨床 杉山崇・前田泰宏・坂本真士（ナカニシヤ出版）

**【注意事項】**

外部から講師を招き講演を行うことを予定している（第13回）。

**臨床心理学 2**

五味 美奈子

2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力、行動力

**【授業のテーマ】**

臨床心理学的援助の実際、様々な心理療法、臨床心理アセスメント等、心のケアの基本を学ぶことを目的とする。また、基本的な心理検査と使い方について体験を通して理解することにより、理論と実践を結びつける力を養う。

**【授業における到達目標】**

学生が修得すべき「研鑽力」のうち、学ぶ楽しみを知り、知を探究し、学問を続けることを目標とする。学びを通して心の問題に対する様々な援助の方法を理解し、ひとりひとりに応じた援助の提供について探究し続ける力を修得する。

**【授業の内容】**

- 第1週 ガイダンス 臨床心理学的援助とは
- 第2週 心理療法の実際（心理療法の構造等）
- 第3週 精神分析的心理療法
- 第4週 ユング派の心理療法
- 第5週 クライエント中心療法
- 第6週 行動療法
- 第7週 認知療法
- 第8週 遊戯療法
- 第9週 統合的心理療法
- 第10週 臨床心理アセスメント（1）アセスメント面接
- 第11週 臨床心理アセスメント（2）アセスメントのまとめ方・伝え方
- 第12週 臨床心理アセスメント（3）知能検査・質問紙法・作業検査法
- 第13週 臨床心理アセスメント（4）投映法（1）（ロールシャッハ・TAT・SCT）
- 第14週 臨床心理アセスメント（5）投映法（2）（描画法など）
- 第15週 まとめ

**【事前・事後学修】**

事前学修：授業開始時に前回の授業内容の振り返りを行うため、それまでに前回授業箇所のテキスト・ノート・配布プリント等を一読しておくこと（学修時間週2時間）。

事後学修：授業終了時に授業内容の考察、質問等をリアクションペーパーに記入し、関連文献等を用いて調べる（学修時間週2時間）。

**【テキスト・教材】**

適宜、プリントを配布する。

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

成績評価の方法・基準 試験（60%）、平常点（出席への取り組み・提出物等）（40%）

フィードバック 次回授業時に学生からのリアクションペーパーへの質問に答える。

**【参考書】**

改訂版臨床心理学概説 馬場禮子著（財団法人放送大学教育振興会）

これからの心理臨床 杉山崇・前田泰宏・坂本真士（ナカニシヤ出版）

**【注意事項】**

外部講師による講演を予定している（第13回）。

## 臨床発達心理学 1

五味 美奈子

3年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力、行動力

## 【授業のテーマ】

臨床発達心理学は「発達の観点を持ち、人や人を取り巻く環境と関わることを通して、人々が抱える問題にアプローチし、人の健やかな育ちを支援する」学問である。本科目では発達の基礎を踏まえた上でその多様性を理解し、さらに客観的な視点を持ち発達支援のニーズがある人に向き合う姿勢を学ぶ。

## 【授業における到達目標】

人について発達の観点から広い視野と洞察力を身に付けて本質を見つめる目を養う。授業のテーマを土台に、人の発達の各ステージにおいて求められる支援について現状を正しく把握し、課題を発見できる。

## 【授業の内容】

- 第1週 臨床発達心理学とは 臨床発達心理学における臨床の意味
- 第2週 臨床発達心理学における専門性、実践性、学際性
- 第3週 生涯発達 生まれて死ぬまでの人間の多様性
- 第4週 子どもが生まれるまで 胎生期、周産期
- 第5週 新生児期
- 第6週 発達アセスメントとは何か
- 第7週 乳児期前半の発達の特徴と実践上の留意点
- 第8週 乳児期後半の発達の特徴と実践上の留意点
- 第9週 幼児期前期の発達の特徴と実践上の留意点
- 第10週 幼児期中期の発達の特徴と実践上の留意点
- 第11週 幼児期後期の発達の特徴と実践上の留意点
- 第12週 乳幼児期の発達の特徴と障害
- 第13週 児童期(小学校低学年)の特徴と発達障害
- 第14週 児童期(小学校中学年、高学年)から思春期へ
- 第15週 まとめ

## 【事前・事後学修】

事前学修:授業開始時に前回の授業の振り返りを行うため、それまでに前回授業箇所のノート、配布物等を一読しておくこと(学修時間2時間)

事後学修:授業終了時に授業内容を振り返り、考察や質問等をリアクションペーパーにまとめることを行う。他、授業で取り扱った内容で深めたいことを各自調べる(学修時間2時間)

## 【テキスト・教材】

適宜、プリントを配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験(60%)、平常点(授業への取り組み、提出物等)(40%)

フィードバック 次回授業時に学生からのリアクションペーパーへの質問、感想、提出物に答える。

## 【参考書】

臨床発達心理学の基礎 山崎昇・藤崎春代(ミネルヴァ書房)

## 【注意事項】

外部から講師を招き講演を行うことを予定している。

## 臨床発達心理学 2

五味 美奈子

3年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力、行動力

## 【授業のテーマ】

臨床発達心理学 I で学んだことを踏まえ、臨床発達心理学と発達心理学の関係を理解し、臨床発達心理学の知見が保育・教育現場にどのように影響を与えているか具体的に学ぶ。特別な支援を必要とする人の現状を把握し、問題解決に向けたアセスメント、支援について理解を深める。

## 【授業における到達目標】

臨床発達心理学的支援のプロセスや成果を正しく評価し、問題解決につなげることができるよう努める。臨床発達心理学的支援を必要とする側、支援する側、さらにその周囲の人や環境も含めて捉えることができるよう、広い視野と深い洞察力を身に付け、本質を見抜くことができる。

## 【授業の内容】

- 第1週 臨床発達心理学と発達心理学の関係
- 第2週 発達アセスメントと支援を考える 乳幼児期
- 第3週 発達アセスメントと支援を考える 学童期
- 第4週 特別支援が必要な子ども達の発達とアセスメント
- 第5週 発達障害 知的障害がある子ども達の発達
- 第6週 発達障害 知的障害があることも達の支援
- 第7週 発達障害 自閉症スペクトラム症の発達
- 第8週 発達障害 自閉症スペクトラム症の支援
- 第9週 発達障害 注意欠陥多動性症の発達
- 第10週 発達障害 注意欠陥多動性症の支援
- 第11週 限局性学習症の発達と支援
- 第12章 コミュニケーション、心の理解の発達と支援
- 第13章 育児・保育現場における支援(親の心理を理解する)
- 第14章 育児・保育現場における支援(幼稚園・保育所への支援)
- 第15章 まとめ

## 【事前・事後学修】

事前学修:授業開始時に前回の授業の振り返りを行うため、それまでに前回授業箇所のノート、配布資料等を一読しておくこと(学修時間2時間)

事後学修:授業終了時に授業内容を振り返り、考察、質問等をリアクションペーパーにまとめることを行う。他、授業で取り扱った内容で深めたいことを各自調べる(学修時間2時間)

## 【テキスト・教材】

適宜、プリントを配布する。

## 【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験(60%)、平常点(授業への取り組み、提出物等)(40%)

フィードバック 次回授業時に学生からのリアクションペーパーへの質問、感想、提出物に答える。

## 【参考書】

シリーズ臨床発達心理学・実践と理論(全5巻)日本臨床発達心理士会 企画/監修 ミネルヴァ書房

杉山崇『子どもの行動が気になり始めたら読む本』誠信書房

## 【注意事項】

外部からの講師を招き講演を行うことを予定している。

**労働法**

清水 弥生

2年 後期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

**【授業のテーマ】**

みなさんのなかには、アルバイト経験のあるひとがいるかもしれませんが、社会人となって以降は、生活のなかで「仕事」の占める割合がかなり大きなものになるとも思われます。

この講義では、ワークライフバランス政策などの雇用政策の動きや少子高齢社会の雇用に与える影響を把握しつつ、労働法の基本的な知識を身につけます。

**【授業における到達目標】**

- ①現状を正しく把握し、課題を発見できるようになる。
- ②広い視野と深い洞察力を身につけ、トラブルの本質を法的に見抜くことができるようになる。
- ③互いを尊重し、豊かな人間関係を構築することができるようになる。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション：講義内容、その他の留意事項
- 第2週 労働をめぐる日本の状況と労働法の意義
- 第3週 労働者とは？使用者とは？
- 第4週 労働条件の決定方法①：労働契約について
- 第5週 労働条件の決定方法②：就業規則や労働協約について
- 第6週 募集・応募・採用内定・試用期間について
- 第7週 懲戒処分
- 第8週 賃金①：賃金をめぐる原則、最低賃金
- 第9週 賃金②：時間外労働の賃金、賃金制度の変容
- 第10週 労働時間①法定労働時間
- 第11週 労働時間②法定外労働と賃金
- 第12週 労働契約の不利益変更
- 第13週 非正規雇用
- 第14週 解雇
- 第15週 学び残したこと、および、全体のまとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】小テストの課題に取り組むこと（学修時間2時間）

【事後学修】小テスト等を復習すること。次回の範囲を教科書で予習し、専門用語を理解しておくこと（学修時間2時間）

**【テキスト・教材】**

角田邦重・山田省三編『労働法解体新書 第4版』

（法律文化社、2015年）2,100円＋税

ISBN:9784589036872

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

テーマごとの理解度を確認するmanaba小テスト30%。解答はフィードバックされる。期末試験50%。平常点（フィードバックシート）20%。フィードバックシートの内容のうち共通する不確かな知識と思われる点につき、翌回授業内でフィードバックする。

**【注意事項】**

- ①公欠以外の欠席、および遅刻は減点の対象となりますので注意してください。
- ②労働法は経済や社会全体の動きと密接にかかわります。ですので、国外を含む社会全体のニュースや、労働をめぐる出来事やニュースに敏感になってください。
- ③皆さんの理解度に応じて、講義の順序や範囲が変わることがあります。

**労働法**

清水 弥生

2年 後期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

**【授業のテーマ】**

みなさんのなかには、アルバイト経験のあるひとがいるかもしれませんが、社会人となって以降は、生活のなかで「仕事」の占める割合がかなり大きなものになるとも思われます。

この講義では、ワークライフバランス政策などの雇用政策の動きや少子高齢社会の雇用に与える影響を把握しつつ、労働法の基本的な知識を身につけます。

**【授業における到達目標】**

- ①現状を正しく把握し、課題を発見できるようになる。
- ②広い視野と深い洞察力を身につけ、トラブルの本質を法的に見抜くことができるようになる。
- ③互いを尊重し、豊かな人間関係を構築することができるようになる。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション：講義内容、その他の留意事項
- 第2週 労働をめぐる日本の状況と労働法の意義
- 第3週 労働者とは？使用者とは？
- 第4週 労働条件の決定方法①：労働契約について
- 第5週 労働条件の決定方法②：就業規則や労働協約について
- 第6週 募集・応募・採用内定・試用期間について
- 第7週 懲戒処分
- 第8週 賃金①：賃金をめぐる原則、最低賃金
- 第9週 賃金②：時間外労働の賃金、賃金制度の変容
- 第10週 労働時間①法定労働時間
- 第11週 労働時間②法定外労働と賃金
- 第12週 労働契約の不利益変更
- 第13週 非正規雇用
- 第14週 解雇
- 第15週 学び残したこと、および、全体のまとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】小テストの課題に取り組むこと（学修時間2時間）

【事後学修】小テスト等を復習すること。次回の範囲を教科書で予習し、専門用語を理解しておくこと（学修時間2時間）

**【テキスト・教材】**

角田邦重・山田省三編『労働法解体新書 第4版』

（法律文化社、2015年）2,100円＋税

ISBN:9784589036872

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

テーマごとの理解度を確認するmanaba小テスト30%。解答はフィードバックされる。期末試験50%。平常点（フィードバックシート）20%。フィードバックシートの内容のうち共通する不確かな知識と思われる点につき、翌回授業内でフィードバックする。

**【注意事項】**

- ①公欠以外の欠席、および遅刻は減点の対象となりますので注意してください。
- ②労働法は経済や社会全体の動きと密接にかかわります。ですので、国外を含む社会全体のニュースや、労働をめぐる出来事やニュースに敏感になってください。
- ③皆さんの理解度に応じて、講義の順序や範囲が変わることがあります。

**労働法**

清水 弥生

2年 後期 2単位

◎：行動力 ○：研鑽力、協働力

**【授業のテーマ】**

みなさんのなかには、アルバイト経験のあるひとがいるかもしれませんが、社会人となって以降は、生活のなかで「仕事」の占める割合がかなり大きなものになるとも思われます。

この講義では、ワークライフバランス政策などの雇用政策の動きや少子高齢社会の雇用に与える影響を把握しつつ、労働法の基本的な知識を身につけます。

**【授業における到達目標】**

- ①現状を正しく把握し、課題を発見できるようになる。
- ②広い視野と深い洞察力を身につけ、トラブルの本質を法的に見抜くことができるようになる。
- ③互いを尊重し、豊かな人間関係を構築することができるようになる。

**【授業の内容】**

- 第1週 オリエンテーション：講義内容、その他の留意事項
- 第2週 労働をめぐる日本の状況と労働法の意義
- 第3週 労働者とは？使用者とは？
- 第4週 労働条件の決定方法①：労働契約について
- 第5週 労働条件の決定方法②：就業規則や労働協約について
- 第6週 募集・応募・採用内定・試用期間について
- 第7週 懲戒処分
- 第8週 賃金①：賃金をめぐる原則、最低賃金
- 第9週 賃金②：時間外労働の賃金、賃金制度の変容
- 第10週 労働時間①法定労働時間
- 第11週 労働時間②法定外労働と賃金
- 第12週 労働契約の不利益変更
- 第13週 非正規雇用
- 第14週 解雇
- 第15週 学び残したこと、および、全体のまとめ

**【事前・事後学修】**

【事前学修】小テストの課題に取り組むこと（学修時間2時間）

【事後学修】小テスト等を復習すること。次回の範囲を教科書で予習し、専門用語を理解しておくこと（学修時間2時間）

**【テキスト・教材】**

角田邦重・山田省三編『労働法解体新書 第4版』

（法律文化社、2015年）2,100円＋税

ISBN:9784589036872

**【成績評価の方法・基準とフィードバック】**

テーマごとの理解度を確認するmanaba小テスト30%。解答はフィードバックされる。期末試験50%。平常点（フィードバックシート）20%。フィードバックシートの内容のうち共通する不確かな知識と思われる点につき、翌回授業内でフィードバックする。

**【注意事項】**

- ①公欠以外の欠席、および遅刻は減点の対象となりますので注意してください。
- ②労働法は経済や社会全体の動きと密接にかかわります。ですので、国外を含む社会全体のニュースや、労働をめぐる出来事やニュースに敏感になってください。
- ③皆さんの理解度に応じて、講義の順序や範囲が変わることがあります。